ENCYCLOPAEDIA
JÚPITER



世界文化大百科事典

ENCYCLOPAEDIA JUPITER

10

ホク－ラヒユ



世界文化社



世界文化大百科事典 《ジュピター》

10

セット商品につき分冊販売不可

発行所　株式会社世界文化社
東京都千代田区九段北4-2-29
Tel(262)5111(代表)　〒102

発行者　鈴　木　勤
編　集　株式会社 世界文化社
株式会社
日本アートセンター

印　刷　株式会社東京印書館
製　本　中央精版印刷株式会社
製　函　文京紙器株式会社
用　紙　神崎製紙株式会社
王子製紙株式会社
駿河製紙株式会社

表　紙　ダイニック株式会社

Printed in Japan　8211

凡　　例

この《世界文化大百科事典　ジュピター》は，現代生活のあらゆる分野にわたって必要な項目約70,000を収録した。そして，項目の解説は，その記述内容が的確・敏速に把握できるよう，つとめて簡明・平易なものとしたが，各分野の基本的事項や現代社会における重要問題については特に約300の〈特別大項目〉を設け，一般項目との関連を保ちながら歴史的・体系的に解説し，総括的な理解が得られるようにしてある。また，カラー版による写真・図版約16,000点を全ページにわたって掲載し，内容の端的な理解に役だつようにした。

項目の見出し

1　各ページに収録されている項目を，そのページの上方欄外に示してある。偶数ページには最初の項目，奇数ページには最後の項目の，それぞれ第4音節めまでをかたかなで示した。ただし，促音〈っ〉・拗音〈ゃ〉〈ゅ〉〈ょ〉などの小字および濁音・半濁音は正音で示し，長音〈ー〉は除いた。

東　　京──→**トウキヨ**
ヨーロッパ──→**ヨロツハ**

2　項目の見出しは，〈かな見出し〉と〈本見出し〉とを示した。

かな見出し　　本見出し
げんじものがたり　【源氏物語】
エヌエイチケー　〔NHK〕
インキ　〔ink〕

1）国語読みおよびそれに準ずるものは，現代かなづかいによってひらがなの太字で示した。ただし，現代かなづかいの理解のうえで困難が予想される一部のものについては，〈見よ項目〉を立てて検索の便を図った。

ぬまず　【沼津】　⇨ぬまづ

2）外国語・外来語はかたかなの太字で示した。長音は〈ー〉で示し，〈ヴァ〉〈ヴィ〉〈ヴ〉〈ヴェ〉〈ヴォ〉〈ヂ〉〈ヅ〉は用いない。

ベートーベン　（ベートーヴェンとはしない）
ベネチア　（ヴェネチアとはしない）

ただし，外来語の意識が薄れて国語化されたものはひらがなで示した。

らしゃ　【羅紗】
らっぱ　【喇叭】

3）地名で，日本の行政区画および外国の国名・地域名，山・川・湖・砂漠などの名称のかな見出しは，検索の便を図って関連する項目を近くに集めるために固有名詞部分のみを示した。

おおさか　【大阪(府)】
おおさか　【大阪(市)】
ミシシッピ(州)
ミシシッピ(川)

4）中国・朝鮮の地名・人名は，原則として日本で慣用されている国語読みで示し，現地読みを本見出しのあとに併記した。

かほくしょう　【河北省】　ホーペイ省
ふざん　【釜山】　プサン
もうたくとう　【毛沢東】　マオツォートン

ただし，国内で現地読みが慣用されているものおよび国際慣用読みのものはそれに従った。

シャンハイ　【上海】
ペキン　【北京】
メイランファン　【梅蘭芳】

5）本見出しでは，かな見出しのひらがなの部分を代表的な漢字または漢字かな混じりで示し，外国語・外来語は原語のつづりを示した。

いれずみ　【入れ墨】　刺青・文身とも書く。
ウイスキー　〔whisky〕

ただし，原語のつづりでイタリック体は，植物を属名として取り上げた場合を示す。

アロエ　〔*Aloe*〕

項目の配列

1　かな見出しの五十音順に配列し，清音➔濁音➔半濁音の順とした。

しんくう　【真空】
しんぐう　【新宮(市)】
じんぐう　【神宮】

はい　【肺】
ばい　【蛽】
パイ　〔pie〕

2　促音・拗音などの小字は直音より前に配列した。

じゅう　【銃】
じゆう　【自由】

3　長音の〈ー〉は音順から除外したが，同格の場合は長音のあるほうをあとにした。

あへん　【阿片】
アーヘン　［Aachen］

4　同音のものは次の順とした。

a）見よ項目➔解説のある項目

あか　【赤】　⇨色
あか　【垢】

b）普通名詞➔固有名詞

じゅんし　【殉死】
じゅんし　【荀子】

c）固有名詞では地名➔人名

d）町名などで同音の場合は北から南への順

e）人名などで同音の場合は生年の早い順

特別大項目

〈特別大項目〉はページを改め，各ページの上下にけい線を入れて一般項目と区別した。したがって，五十音順による項目配列の当該の位置には，その特別大項目のあるページ数を示した。

大項目の例

うちゅう

宇　　宙

すべての天体とそれを含む全空間，いいかえれば物質・エネルギーが存在する……

用字用語

1　かなづかいは，歴史的かなづかいで示す必要のある場合を除き，すべて現代かなづかいを用いた。

2　送りがなは，原則として《送りがなのつけ方》(1959年内閣告示)によった。

3　漢字は，原則として《当用漢字音訓表》の範囲で用いた。ただし，固有名詞・歴史的用語・術語などは当用漢字以外のものも用い，(　)の中にその読み方をひらがなで示した。

4　生物の科名・種名および岩石・鉱物・元素・化合物などのうち，教科書・専門書でかたかなの表記が慣用になっているものは，それにならった。ただし，生活語として成語化されている語はかたかなの表記を用いない。

5　年代は，原則として西暦で示した。ただし，国内に関する記述の場合は，その項目の初出の箇所に年号を併記した。

6　外国地名の表記は，原則として文部省編《地名の呼び方と書き方》によった。人名も地名に準じた。

7　外国語・外来語の表記については，〈項目の見出し〉に準じた。

人口統計の数値

1　日本の都道府県市町村の人口は，自治省行政局編《昭和55年版住民基本台帳に基づく全国人口世帯数表》によった。ただし，10,000以上の場合は100位で，10,000以下の場合は10の位で四捨五入した。

2　都道府県市の産業三大別人口比(農林水産業などの第1次産業，鉱業・建設業・製造業などの第2次産業，商業・金融業・運輸業・サービス業などの第3次産業の人口の割合)は，総理府統計局編《昭和50年国勢調査報告》によった。

3　外国およびその地域・主要都市の人口は，主として国際連合編《人口統計年鑑1976年版》によったが，他の資料によって補ったところも多い。

地　　図

1　日本の都道府県と8地方，世界の独立国と6大州には多色刷り地図を設け，また日本の大都市や国立公園などには観光の便などを図って考案した地図が設けてある。

2　地図の記号は一般の地図記号に準じているが，都市記号の人口による段階は各図に凡例がつけてある。

3　都道府県と独立国の地図の地貌表現は，等高線段彩で示した。しかし，全貌をとらえやすくするために等高線示度を図によって変えてあり，その数値は各図中の等高線上に記入してある。

4　地図中の地名の表記は，本文の地名表記の基準に従っ

た。

符号・記号

解説文中に用いた，おもな符号・記号は次のとおりである。

⇨　指示した項目にこの項目の解説があることを示す。

かんさいべん　【関西弁】 ⇨方言
しょせき　【書籍】 ⇨図書
サイン　⇨正弦
ジンフイズ　⇨カクテル

⇀ ➔ 解説文中または末尾につけて，参照・関連項目を示す。

抽象主義(⇀アブストラクト-アート)は，
従来の漢方(⇀東洋医学)を背景としたもの
あいいろ　【藍色】 ……(解説)……。➔色

*　解説文中の用語の右肩につけて，その語が項目として別に立てられていることを示す。

あんざんがん　【安山岩】 中性の火山岩*。
いほうじん　【異邦人】 カミュ*の小説。

〔 〕〈 〉解説文中に中見出し・小見出しを施し，解説内容の整理を図ったことを示す。

アイヌの場合
〔名称・歴史〕
〔生活〕
〔衣食〕
〔住居〕
〔風俗習慣〕
〔音楽〕
貨幣の場合
〔種類〕
〔制度〕
〔歴史〕〈西洋〉〈中国〉〈日本〉

〈 〉 引用文または強調する語であることを示す。

日本国憲法第９条に〈日本国民は，正義と ……
戦没者の塔や〈ひめゆりの塔〉などがあり， ……

《 》 書名・曲名・題名を示す。

《日本書紀》
《カルメン》

( ) 語句の言い替え・補足説明や，年号の併記などを示す。

病変米(黄変米)
燃料ガス(都市ガス)
慶長年間(1596～1614)
1872年(明治５)

( ) 読みがなであることを示す。

石川啄木(たくぼく)
伊豆(いず)半島
香港(ホンコン)

科学記号・略符号

本事典では，次の範囲で単位記号・略符号を用いた。ただし，必要に応じてこれら以外のものも用いた。

mμ	ミリミクロン	cal	カロリー
μ	ミクロン	Cal	大カロリー(栄養学で)
mm	ミリメートル	℃	セ氏温度
cm	センチメートル	°K	絶対温度
m	メートル	A	アンペア
km	キロメートル	V	ボルト
cm^2	平方センチメートル	W	ワット
m^2	平方メートル	kW	キロワット
km^2	平方キロメートル	kWh	キロワット時
cm^3	立方センチメートル	km/秒(分，時)	速さ
m^3	立方メートル	%	パーセント
cc	1/1000リットル	‰	パーミル
ml	ミリリットル	ppm	ピーピーエム
l	リットル	mmHg	水銀柱ミリメートル
g	グラム	pH	ピーエイチ
kg	キログラム	°′″	度・分・秒(角度・緯度・経度)
t	トン		

装丁　田中一光

特別大項目目次　第10巻

ほく

ホーク ［Hawk］ アメリカ製の地対空誘導弾。自衛隊でも装備している。移動可能の三連装ランチャーに乗った中低空目標用の野戦型ミサイルで，NATO軍でも使用している。誘導はレーダー-ホーミング装置を内蔵する自己誘導方式。

ボーグ ［Vogue］ フランスの服飾流行雑誌。アメリカ版（年間20回発行）・フランス版（10回）・イギリス版（16回）・イタリア版（11回）などがある。それぞれの国に合わせて個性的な編集を行ない，最新のファッションの動向を知るのに好適である。

ポーク ［James Knox Polk］（1795～1849） アメリカ合衆国の政治家。第11代大統領。在任1845～1849年。ノースカロライナの生まれ。テネシーに移り弁護士を開業。州議会議員から1825年連邦下院議員となり，ジャクソン派民主党員として活躍。1839年テネシー州知事。1844年大統領選挙にダークホースとして指名され，マニフェスト-デスティニー*による領土拡張を説いて当選。すでに独立していたテキサスを併合，これに続くアメリカ-メキシコ戦争*でカリフォルニア・ユタ・ニューメキシコを獲得する一方，その全土の領有を主張した。オレゴンでは北緯49度線を国境とすることでイギリスと妥協した。ここにアメリカは大西洋から太平洋に至る大陸国家をほぼ完成させた。ポークはその他，関税引き下げ，独立国庫制度の再建にも努めた。 〔折井一彦〕

ぼくえいこう 【朴泳孝】（1861～1939） 朝鮮，李朝（りちょう）末期の親日的な政治家。号は瓠船（こせん）。1882年，壬午（じんご）の変（→京城事件）後の修信使として金玉均*らとともに日本に派遣され，開化思想の影響を受けた。帰国ののち，事大党*と争い，1884年甲申の変*を起こして失敗，日本に亡命した。1894年日清（にっしん）戦争*勃発（ぼっぱつ）とともに内務大臣として返り咲いたが，翌年の三国干渉*を契機として失脚，再び日本に亡命し，日韓（にっかん）併合後侯爵になった。 〔勝村哲也〕

ほくえつせっぷ 【北越雪譜】 鈴木牧之（ぼくし）による雪の博物誌。全7巻。1835～1842年（天保6～13）刊。雪の性質・形状，雪国の風俗・習慣など越後（えちご）（新潟県）の雪に関するすべてを詳説し図示したもの。牧之は越後の豪雪地塩沢の人で，文雅を愛好し遠近の文学者と交渉があったが，本書出版に際しても山東京伝・蜀山人（しょくさんじん）・滝沢馬琴・岡田玉山・十返舎一九らに助力を求め，京伝の弟京山によって公刊されるに至った。その間30余年を費やしている。 〔渡辺守邦〕

ほくえん 【北燕】 中国，五胡（ごこ）十六国*の一。409年，漢人の馮跋（ようばつ）が，後燕を滅ぼして遼寧（りょうねい）省の龍城（りゅうじょう）に建てた国。黄龍国ともいう。第2代皇帝馮弘（ようこう）（跋の弟）は，436年，北魏（ほくぎ）の攻撃を受けて高句麗（こうくり）にのがれたが，438年高句麗王に殺された。

ボー-グエン-ザップ ［Vo Nguyen Giap］（1912～　） ベトナム民主共和国（北ベトナム）の政治家。クアンビン省の生まれ。ハノイ大学卒業。1930年インドシナ共産党創立に参画。第2次世界大戦中に抗日ゲリラを組織。1945年ベトナム民主共和国独立とともに内相となり，1946年国防相，1947年人民解放軍最高司令官，1951年党政治局員となる。1955年副首相兼国防相となり，その現代ゲリラ戦の理論と実践は毛沢東*・ゲバラ*と並ぶものとして有名。

ほくおうがくは 【北欧学派】 スウェーデンにおいて形成された経済学説をさし，スウェーデン学派ともいう。動態経済学の創始者としてのスウェーデンの経済学者ウィクセル*に始まり，ダビットソン・ミュルダール*・オリーン・ルンドベルクらがその代表者である。この学派の特質はウィクセルの理論を動態的に発展させたことにあり，さらにその中に実践的理論の展開が含まれていることで，理論の中に価値判断を含むのではなく，実践的目的を達成するために有用な理論を樹立することを目的としていた。これは，その後の経済理論のあり方に一つの重要な方向を示唆するものとして，学説史的に意義を有している。〔藤枝省人〕

ほくおうご 【北欧語】 インド-ヨーロッパ語族ゲルマン語派北ゲルマン語群に属する言語。狭義には，北欧3国の国語をさす。スウェーデン人850万，デンマーク人450万，ノルウェー人400万によって話されるばかりでなく，フィンランドでもスウェーデン語を母国語にする者があり，グリーンランド・フェール諸島では公用語としてデンマーク語を用いる。ノルマンジーやイギリスに残る人名・地名はバイキング時代の北欧語地域を示しているが，今日では南スレスビーの3,000に近い人々はドイツ語・デンマーク語の両語を話す。北欧語は古代共通北欧語にさかのぼり，それはルーナ刻文にみられ，また最古の文学はアイスランドで書かれている。のち東西に分かれ，前者にスウェーデン-デンマーク語，後者にノルウェー語が属していたが，さらに1200年ごろデンマーク語はスウェーデン語より分かれた。

現代のスウェーデン語やノルウェー語はその音楽的な語調と明瞭（めいりょう）な発音をもつ美しいことばであるのに反し，デンマーク語は多くの不明瞭な子音と閉鎖音をもち，語の後半は口中に飲み込まれて聞きにくいうえに，発音と綴字（てつじ）の極度の不一致となった。北ヨーロッパの人々は自国語をそれぞれ用いれば相互の了解は可能であるが，1814年デンマークはノルウェーを喪失し，ノルウェーでは19世紀半ばからこれまでの公式書きことばデンマーク語に代わるべき新国語への運動が起こり，二つの国語となって対立した。

一般に，ドイツ語の影響を最も受けているが，その特徴を2～3あげれば次のようである。アルファベットには英語のそれ以外にスウェーデン語にå・ä・öが，デンマーク語・ノルウェー語にå・æ・φが加わる。名詞には共通性と中性があり，定冠詞は語尾に置かれ（—en —n，—et —t），受動態は動詞に—sを加えて表わすこともできる。人称や数による動詞の語尾変化はデンマーク語・ノルウェー語およびスウェーデン語の口語にはない。語順は重要で，一文中，文頭に主語以外の部分が置かれると主語は動詞のあとに来る。また，否定語の位置は一定せず，主文か従文かにより，またほかの理由で異なる。 〔岡田令子〕

ほくおうしんわ 【北欧神話】 北欧を中心に伝わるゲルマン民族の神話。ギリシア神話*とともにヨーロッパの二大神話とされる。古代ゲルマン民族に共通の多神教的信仰に基づく神話は，キリスト教の伝播（でんぱ）とともに，ドイツ・イギリスにおいては歪曲（わいきょく）されて原形をとどめなくなったが，孤島アイスランドの北方ゲルマン（ノルマン）の間では，キリスト教流布後も異教神が栄え，《エッダ*》などの古代北欧の詩集によって忠実に保存された。

【世界の形態】世界は8または9の部分からなり，特に重要なのは天にある神々の国〈アスガルド〉，世界の中心にある人間界〈ミッドガルド〉，その外側の巨人の国〈ヨトウンヘイム〉，地下の冥府（めいふ）〈ヘル〉などで，天と地をつなぐ虹（にじ）の橋ビフロストがある。

【おもな神々】アサ神族とバナ神族の2系列があり，前者は動的で侵入民族を，後者は静的で原住民族を，また巨人は自然の暴力を象徴するものと考えられる。アサ神族には主神のオーディン，その妻で結婚の女神フリッグ，雷神トール，軍神ティールが属し，バナ神族には航海と富の神ニョルド，そのむすこで大地の豊饒（ほうじょう）と平和の神フロイ，また娘で愛の女神フレイが属する。このほか，神と巨人の混血で二重性格をもつ神ロキが特異な役割を占めている。

【天地創生・没落・再生】《古エッダ》の巻頭の〈巫女（みこ）の予言〉には，天地創生から神々の没落と再生に至る北欧神話の全容が語られている。大昔，世界はなにもないがらんどうであったが，巨大な深淵（しんえん）ギヌンガ-ガップの中から人間の形をした霜の巨人イミールが生まれ，そのわきの下や股（また）の間からむすこ・娘が生まれたが，みな邪悪であった。イミールが乳を飲んで育った巨大な雌牛アウドムラのなめていた岩から，ある日美しくたくましい神がひとり生

まれた。彼のむすこガボルは巨人の娘ベストラをめとって3人のむすこを生んだ。これがオーディン・ヘニール・ロウドルの3兄弟の神で，力を合わせてイミールを殺す。その血におぼれて巨人はみな死ぬが，ベルゲミルという巨人夫妻だけが石臼(いしうす)の上に上がって助かり，この夫妻が始祖となり再び巨人の一族が生まれ，神々への復讐(ふくしゅう)を期す。3人の神は，イミールの屍(かばね)を深淵の中央にすえて大地とし，頭蓋骨(ずがいこつ)を天とし，南の炎熱の国から飛んでくる火花をとって日・月・星とした。彼らはまた海べに漂ってきたニレとトネリコの木から人間の男女をつくった。もと巨人の一族だった神ロキは巨人の女と契って，大女とヘビとオオカミを生むが，オーディンは大女を地中深くうずめ，ヘビを海中に投げ込み，オオカミを魔法の紐(ひも)でつなぐ。ロキはこれを恨み，オーディンの愛児である光明の神バンドルを術策を弄(ろう)して殺す。神々は怒り，光明を失った世界は寒気と不信に閉ざされて最後の日が迫る。やがて神々は魔軍をイダの野に迎え撃つが，神神は倒れ，大地は海中に没する。しかし再び海から新しい緑の大地が浮かび上がり，滅びの火をのがれた少数の神とヘルからもどったバルドルがそこに住み，日も月も新しく生まれ，生き残ったふたりの人間は再び人類の祖となり，幸福と平和の年が訪れる。〔鈴木徹郎〕

ほくおうぶんがく【北欧文学】 スウェーデン・デンマーク・ノルウェー・フィンランド・アイスランドの文学を一括した総称。ゲルマンの神話・伝説をもとにした古代・中世の《エッダ*》〈スカルド詩*〉〈サガ*〉などの文学が，アイスランドを中心に14世紀ごろまで栄えたが，1000年ごろにイギリス・ドイツから伝播(でんぱ)したキリスト教の勢いが増すにつれて衰え，古代北欧語の言語分裂から宗教改革後の文学語が確立されるまでは，スウェーデンの聖ビルギッタの《天の啓示》を除いて，みるべきものがなかった。15世紀ごろから新教布教のためにスウェーデンのペトリ，デンマークのペーデルセン，フィンランドのアグリコラらが《新約聖書》を北欧語に訳し，いずれも自国の文学語の基礎を築くのに役だった。ただしノルウェーのみは宗教改革から〈400年の暗黒〉時代を迎え，19世紀後半にオーセンらによってノルウェー語が復興するまで文学語は生まれなかった。19世紀のデンマークのホルベア*に始まる近代文学はドイツ浪漫派の影響を受けた浪漫主義時代にはいるに及んで，いわゆる〈黄金時代〉が開幕する。デンマークのエーレンシュレーガー*・インゲマン・ハイベア・アンデルセン*，スウェーデンのテグネール*・アッテルボルム・アルムクビスト*・リュドベルイ*らがこの時期の作家として記憶される。続いてストリンドベルイ*・ブランデス*・イプセン*らによる自然主義時代，さらにその反動の新浪漫主義時代にはいり，スウェーデンのヘイデンスタム*・ラーゲルレーブ*，デンマークのヨハネス-エワル・イェンセン*・ポントービダン・ハムスン*らが現われた。暗黒時代のノルウェーでは，ホルベアをはじめ多くの作家がデンマークに移住してデンマーク語で文壇に活躍し，やがて〈ノルウェー会〉を結成，ノルウェー文学復興の布石となった。フィンランドでは，レンロート*の《カレワラ*》編纂(へんさん)よりしだいにフィンランド語の文学が勃興(ぼっこう)し，アレクシス-キビが出るに及んでその基礎が定まった。アイスランドは，1944年独立以来ようやく文学活動が始まり，トウロッドセン・ラックスネス*・ベネディクトソンらが出た。その他20世紀にはいってからの著名な作家として，スウェーデンにラーゲルクビスト*・ダーゲルマン・リドマン，デンマークにネクセ・カレン-ブリクセン，ノルウェーにキンク・ドゥーン・ファンゲン・サンデムーゼ，フィンランドにシランペー*らがいる。〔鈴木徹郎〕

ホークオツ【火鍋子】 中国で冬の季節料理として愛好される五目寄せなべ。わが国でも広く知られる。地方によって多少の差があるが，肉・野菜・海産物など各種の材料をすき焼き*のように追加しながら，大ぜいで食べる。なおこの料理をつくるなべも火鍋またはこの名でよばれる。中央に筒状の煙突があり，その中に炭火を入れてまわりの材料を煮るようになっていて，真鍮(しんちゅう)・アルマイト・銀などでつくられる。➔中国料理(図)〔曾根喜和子〕

ぼくか【墨家】 ⇨墨子

ほくかん【北漢】 中国，五代十国中の一国(951〜979)。劉崇(りゅうすう)・承鈞(しょうきん)・継恩・継元の4世。太原を根拠地とし山西中部以北を領有。五代の後漢が後周に滅ぼされると，その一族劉崇は契丹(きったん)の後援で独立政権を建てた。10国中最も弱少な傀儡(かいらい)政府であったが，宋(そう)はこれを対契丹の緩衝地帯として利用。他の9国を統一してはじめて滅んだ。

ほくぎ【北魏】 鮮卑族拓跋(たくばつ)部が華北に建てた王朝。3世紀半ば内モンゴルの和林格爾(ほりんごる)地方に勢力を張っていた拓跋部は，当時彼らを利用して北辺の安寧を図ろうとした西晋(せいしん)から山西北部の地を与えられ，君長拓跋猗盧(いろ)は代王に封ぜられた。西晋が滅ぶと，386年代王拓跋珪(けい)は建元して登国元年と称し，国号を魏と定めた。史上，これを北魏または後魏・元魏とよぶ。珪(道武帝)は後燕(こうえん)を破って河北省一帯をとると，都を平城(山西省大同)に定め皇帝を称した。そののち北魏は宋(そう)を攻めて河南の地をとり，五胡(ごこ)諸国を滅ぼし，439年江北を統一した。494年孝文帝は都を洛陽(らくよう)に移し，胡服胡語を禁じ，胡姓を漢風に改め，帝室も拓跋氏を元氏と改め，北族と中国名族の通婚を勧めた。これより北魏の学術文化は大いに発達したが，一面素朴尚武(そぼくしょうぶ)の風はすたれ，下層北族出身者の不遇賤民(せんみん)化が増大した。523年北鎮の北族下級武官らの不満が爆発，騒乱が継起し，北魏は鄴(ぎょう)を都とするいわゆる東魏と，長安を都とするいわゆる西魏に分裂，その実権はそれぞれ宰相高歓・宇文泰*に帰し，やがて550年高氏の斉朝(せいちょう)(北斉)が，556年宇文氏の周朝(北周)が成立し，東西両魏は滅んだ。北魏が，全国の民を，5家を1隣，5隣を1里，5里を1党に組織し，隣長・里長・党長に戸籍作成・租税徴収などを行なわせた三長制，またこれを基礎として人民に田土を収授した均田法は史上有名である。〔内田吟風〕

ほくげん【北元】 中国，明(みん)初にモンゴルの開平(上都)地方に退いた元の残存勢力(1368〜1388)。元の末帝順帝の子アユルシリダラ(昭宗)とその子トグス-チムールは宣光・天元の年号を建て，勢力回復を図ったが，明の攻撃と離間策によって朝政は崩壊し，1388年トグス-チムールが臣下に殺されて滅びた。

ボクサー［boxer］ イヌの一品種。ドイツ産の短毛の中形犬で，軍用・警察・番犬などに用いられる。吻(ふん)は角張り，鼻は後退していかめしい。体高は53.3〜61cmほど。顔貌(がんぼう)が拳闘家(けんとうか)に似るところからこの名があるという。

ぼくし【牧師】 プロテスタント教会における教職者。カトリック教会の神父に対する。按手礼(あんしゅれい)(カトリックの叙品に相当)をもって任職された正教師のうち，教会の牧会または伝道の責任者に任ぜられたものをいい，宣教教師・神学教師・教務教師・巡回教師とは区別される。なお，この名は《新約聖書》の〈エペソ人への手紙〉(4の11)に由来し，ギリシア語で〈ヒツジ飼い〉の意。信者をヒツジの群れにたとえているのに対応している。〔石井忠厚〕

ぼくし【墨子】(BC480？〜BC390？) 中国，戦国時代の思想家。名は翟(てき)。宋(そう)の人。また，彼と彼の学派の論集を《墨子》とよび，現存53編。墨翟は血縁に基づく利己的団結や権力による侵略的支配を，一般人民の立場から否定して，〈兼愛(無差別の愛・利)〉と〈非攻(侵略反対)〉を主張し，平等な万人の質素な生活と勤労，賢者のもとにおける規律ある団結を説いた。墨翟は実際の侵略戦に対抗する集団をもち，彼自身は〈巨子〉とよぶ団長で，仲間は〈侠(きょう)〉によって結ばれた，と伝えられる。この戦闘的な学派集団を〈墨家〉とよび，諸子百家の一つである。《墨子》によれば，彼らは侵略抵抗戦や労働に必要な技術を開発・学習し，また，初歩的な物理学や論理学をもつ〈別墨〉とよぶグループをもっていた。墨家の兼愛主義は当時儒家の家族中心主義と対決したが，また道家の楊朱*(ようしゅ)の〈為我

〈自己中心)〉説と対立した。秦(しん)・漢帝国権力の成立後も，墨家の侠の精神はむしろ民間に伝わっていった。〔西　順蔵〕

ホクシャ　⇒フクシャ

ほくしゅう　【北周】　中国南北朝の一王朝(556～581)。北魏(ほくぎ)が東西両魏に分裂すると，西魏の実権は宰相の宇文泰に帰し，その子覚(孝閔帝(こうびんてい))は西魏の譲りを受けて周朝(北周・後周)を建てた(556)。国都は長安。宇文氏は鮮卑化した匈奴(きょうど)の出身で，重臣層にも匈奴・鮮卑出身者が多く，朝廷で胡俗(こぞく)・鮮卑語が行なわれる場合もあったが，一面古(いにしえ)の周朝を重んじて《周礼(しゅらい)》によって官制を立て，さらに法令(大律)を定め，府兵制度などの新制度も施行して国力を養い，577年北斉(ほくせい)を併合した。しかし，外戚(がいせき)の楊堅(ようけん)(隋(ずい)の文帝)に国を奪われ，5主26年で滅んだ。〔内田吟風〕

ほくしゅう　【北州】　清元の曲名。正式には《北州千歳寿(ほくしゅうせんねんのことぶき)》という。演奏専門曲(お座敷浄瑠璃(じょうるり))。川口お直作曲，蜀山人(しょくさんじん)作詞。1818年(文政1)開曲。遊里吉原(よしわら)(北州)をたたえためでたい曲で，三下がりでさえ明るい表現となっている。のちに踊りもつけられ，素踊りとして演じられることも多い。

ぼくじゅう　【墨汁】　多量の墨の汁(しる)を容器に入れるなどして使用するもの。前日にすった墨は宿墨といって，書家はこれをきらう。しかし，中国宋(そう)代から拓本が行なわれるようになると，一時に多量の墨を用いるので，拓工は破片になった墨を水につけておいて使った。清朝(しんちょう)になると墨盒(モーホー)という白銅の小さな方形や円形の容器をつくり，綿を入れてこれに墨をしみこませて使用した。これは現在でも墨つぼや矢立てとして一部に用いられている。わが国でも手習い用の開明墨という墨汁が一般に流行しているが，黄色の油がにじみ出るので使いよくない。〔杉村勇造〕

ほくしゅうが　【北宗画】　南宗画に対する中国絵画の画風概念。的確な鉤勒(こうろく)と硬質な筆墨法によって寒厳な北方の風土を写す山水画に代表され，歴代の画院の主流を占めた。唐の李(り)思訓らを祖とし，北宋(ほくそう)の李成・郭熙(かくき)らが大観的で自然の驚異的な大きさを写そうとする大画面や画巻形式の中に典例を打ち出した。南宋になると，馬遠・夏珪(かけい)・梁楷(りょうかい)ら画院の画家たちが，自然の截辺(せっぺん)をとる小画面形式の中に象徴的で詩意や禅機を含む空間をつくりだし，わが国の鎌倉・室町以降の漢画画風に決定的な影響を及ぼした。わが国で最も重視された〈宋元画〉は，主として南宋・元の北宗画ふうのものであったが，牧谿(もっけい)や玉澗(ぎょくかん)らは北宗画に南宗画風を合わせた理想的な画風であった。〔中島純司〕

ぼくしょう　【墨象】　書を書く用具・用材を用いて，自由に造形された形象を書くこと。書は文字を書くことである。文字を書くという制約があると，それに縛られて自由な表現ができない。また，毛筆を用いて文字を書くことは現代人の日常生活とはかけ離れてしまっている。それで，自由な芸術的造形として墨象が生まれたのである。墨象の歴史は浅いので，その限界ははっきりしていない。新しい書法によって文字を書くのを前衛書道といい，文字を書かない，文字以外の形象を書くのを墨象といって，両者を区別する人もあり，また墨象も前衛書道と考えている人もいる。墨象は第2次世界大戦後から盛んになり，年とともに盛んになっている。それにいろいろな新しい用具・用材を用いて自由に書くようになり，一部では絵の具を用いて抽象絵画に接近しているものもある。➔前衛書道〔春名好重〕

ボクシング　［boxing］　格闘技の一種。所定の競技台(リング)の上で，2人の競技者が皮製のグローブをはめた拳(こぶし)で打ち合い，勝敗を競う。拳闘(けんとう)ともいう。

【歴史】ボクシングはこの世に人類が出現したのと同時に発生した。外敵に対する自己防衛の手段として拳を武器に戦う方法が考えられ，これを基本にして進展したのがスポーツとしてのボクシングである。ギリシア神話の中にアゼンスの王子セーセアスがボクシング術を行なったと伝えられているのが最古の資料とされている。しかし，その後メソポタミアの発掘調査でBC1700年のものと思われるボクシング競技場面の碑が発見されている。ボクシングが古代オリンピックの参加種目となったのは第23回大会(BC688)からである。当時は体重別のクラスもなく，素手に皮ひもを巻くだけのそまつなものだった。試合は一方が闘争力を失うか試合放棄の意志表示をするまで続けられた。古代オリンピックにおいてのボクシングは，中期までアマチュアリズムに立脚した人間性のあるものだったが，後期にはいると奴隷が主人の命令で強制参加させられ，その勝者に賞金がかけられるようにプロ化してきた。このためキリスト教徒からの突き上げで404年ローマ皇帝のホノラスがボクシング禁止令を公布した。その後約1,200年間ボクシング競技は中絶されたが，実際には武器を持たない素手の護身術としてひそかに伝えられ，16世紀にゲルマン人の手によってイギリスに移入され，ここで再び息を吹き返した。イギリスではプライズ-ファイト(懸賞拳闘)として発展し，1719年初代チャンピオンのフィッグが世界初の拳闘学校を創設し，現代へのスタートを切った。当時も素手で相手が立てなくなるまで戦ったが，1743年に5代めチャンピオンのブロートンが7か条のルールとリングを規定し，現代ボクシングに一歩近づいた。

スポーツの形態を備えて発達したイギリスのボクシングは，植民地アメリカ大陸に伝えられ，やがてイギリスを追い抜いてボクシング王国を築くことになる。当時はまだ素手の拳闘(ベアナックル)だったが，1865年にイギリスのクインズベリー侯がアマチュア体育クラブを創立し，同時に12か条のルールを設けてともすればスポーツの域から脱しやすいボクシングの欠点を改めた。これをクインズベリー-ルールといい，現在全世界で実施されているボクシングルールの原典となっている。近代ボクシングが発達するとともにアメリカ合衆国がイギリスにとってかわって世界のボクシング界をリードしたが，第2次世界大戦後は中央アメリカ・南アメリカ・東洋などの台頭が著しい。

わが国において最初のボクサーは元幕内力士の浜田庄吉(しょうきち)である。1884年(明治17)アメリカ合衆国に渡ってボクシングやレスリングを学び，帰国後，1888年浅草で日米対抗試合を行なった。1896年斎藤虎之助(とらのすけ)が横浜で拳闘術指南の看板を掲げたり，1900年桜田幸次郎が《攻防自在西洋拳術》という初の拳闘書を出版したりしたが，いずれも一般に受け入れられるところまではいかなかった。その後1907年ごろ柔道と拳闘の対抗試合が行なわれている。1914年(大正3)アメリカでボクサーとして活躍した渡辺(わたなべ)勇次郎が帰国してボクシングの普及に乗り出し，同年12月25日東京目黒に日本拳闘倶楽部(クラブ)を創立するに至っ

ボクシングの階級と体重

アマチュア	単位 kg	プロ	単位ポンド(kg)
モスキート級(ジュニアのみ)	45以下	フライ級	112(50.80)以下
ライト-フライ級	48 〃	バンタム級	118(53.52) 〃
フライ級	51 〃	ジュニア-フェザー級	122(55.34) 〃
バンタム級	54 〃	フェザー級	126(57.15) 〃
フェザー級	57 〃	ジュニア-ライト級	130(58.97) 〃
ライト級	60 〃	ライト級	135(61.23) 〃
ライト-ウェルター級	63.5 〃	ジュニア-ウェルター級	140(63.50) 〃
ウェルター級	67 〃	ウェルター級	147(66.68) 〃
ライト-ミドル級	71 〃	ジュニア-ミドル級	154(69.85) 〃
ミドル級	75 〃	ミドル級	160(72.57) 〃
ライト-ヘビー級	81 〃	ライト-ヘビー級	175(79.38) 〃
ヘビー級	81以上	ヘビー級	175(79.38)以上

て日本ボクシング界が正式に発足した。1952年(昭和27)に日本ボクシングコミッションが創設され，同年フライ級の白井義男*(よしお)が日本人初の世界チャンピオンの座につく偉業を成し遂げた。現在では軽・中量級に幾人もの世界チャンピオンを輩出し，選手層も世界的レベルに達して厚い。

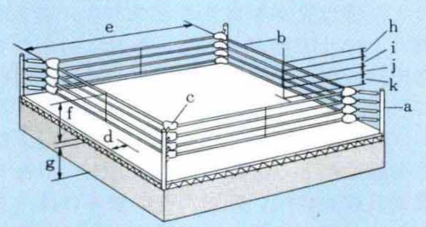
アマチュアは大正末期までに日本アマチュアボクシング連盟と日本学生ボクシング連盟が結成され，1928年の第9回オリンピックアムステルダム大会にはじめて選手を派遣した。1950年には世界アマチュアボクシング連盟(AIBA)に加盟。1960年の第17回ローマ大会にはフライ級の田辺清が日本初の銅メダルを，1964年第18回東京大会では桜井孝雄(たかお)がバンタム級で金メダルを獲得している。

【競技方法】ボクシングは体重別によって各クラスに分けられ，これは世界共通である。プロの場合は11階級(日本・東洋はジュニア-フェザー級が加わり12階級)，アマチュアは10階級(日本ではライト-フライ級が加わり，ジュニアの部はさらにモスキート級が加わる)に分かれている。試合は同じクラスに属するボクサーどうしによって行なうことを原則とし，計量はプロ・アマチュアとも試合の8時間以前に行なう。

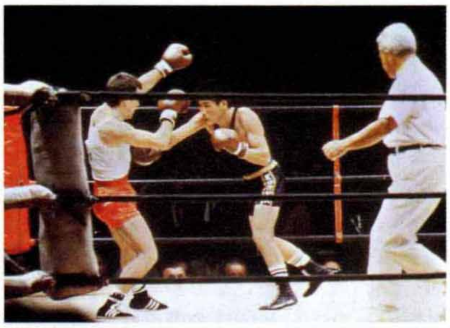
試合の1ラウンドは3分間とし，各ラウンドの間に1分間の休憩を置く。アマチュアは3回戦(ジュニアは1ラウンド2分)だけだが，プロは4・6・8・10・12・15回の6種類があり，日本タイトル戦は10回戦，東洋タイトル戦は12回または15回戦，世界タイトル戦は15回戦と決めている。

審判員の構成はプロは1人のレフェリーと2人のジャッジからなるが，アマチュアは1人のレフェリーに5人または3人のジャッジで行なう。ただしアマチュアの場合レフェリーは採点しない。採点はプロが5点法ないし10点法で，アマチュアは20点法で統一している。また採点基準ではプロの場合ダウンを重要視するが，アマチュアでは単なる有効打としてしか評価しない。試合判定の分類は，①判定(審判員の採点で勝敗が決定した場合)，②引き分け(採点結果で勝敗がつかない場合)，③ノックアウト(KO)(有効な加撃によるダウンで試合続行ができないとき，あるいは1ラウンド中に3度のダウンがあったとき)，④テクニカルノックアウト(TKO)(負傷のため試合続行が不可能とレフェリーが判断した場合)，⑤反則(故意のファウルでレフェリーが失格を宣した場合)，⑥無効試合(天変地異・八百長(やおちょう)・双方失格となった場合)などがあるが，アマチュアではテクニカルノックアウトをRSC(レフェリーストップコンテスト)とよぶほか，棄権・失格など独得なものがある。また反則行為に対してはプロの場合，警告または減点となるが，アマチュアは警告3回で失格となる。

プロ-ボクシングのリング



a：支柱 b：ロープ c：パット d：プラットホーム(0.61m) e：4.88m～6.10m f：1.32m g：1.22m h：0.28m i：0.30m j：0.28m k：0.46m
フロアは水平で厚さ2.5cmのフェルト(畳)を置き，その上をカンバスで覆う





ボクシング　(上)アマチュアの試合　第19回オリンピック-メキシコ大会バンタム級の韓国(右)対ソ連戦　1968　(下)プロの試合　世界ヘビー級タイトルマッチのクレー(赤色のトランクス)対フレーザー戦　1971



朴 正 熙

【競技施設と用具】リングの規定は，別図参照。照明は4kW以上であること。ロープはプロが4本，アマチュアが3本。グローブは，プロが6オンス(ウェルター級まで)，8オンス(ミドル級以上)で，皮革の部分の重さは，内部の詰め物の重さより軽くなくてはならない。アマチュアは8オンスだが，ジュニアの場合12オンスのグローブを使用。バンデージはプロでは幅5cm，長さ9.14m(アマチュアでは2.5m)以下の柔らかい布を巻き，粘着性テープ(アマチュアはばんそうこう)で安定させることができる。スパイクのないじょうぶな柔らかいくつをはき，股下(またした)15cm以上のトランクスを着用する。また，下腹部保護のためにノーファウルカップをつけ，マウスピースも使用(アマチュアは自由)する。上半身はプロは裸だが，アマチュアはランニングシャツを着用しなければならない。　〔細谷正勝〕

ほくしんじへん　【北清事変】 ⇨義和団の乱

ほくしんろん　【北進論】 朝鮮・満州・蒙古(もうこ)・シベリアなど北方大陸への進出の主張。古くは征韓論*(せいかんろん)に始まる。経済的侵略を主とする南進論*に比し軍事的色彩が濃い。日清(にっしん)・日露両戦争により大陸に足場を得たのちは，満洲・蒙古の権益強化を主張。第1次世界大戦後はしだいに反ソ・反共イデオロギーと結びつくが，やがて資源獲得の意味を強調する南進論におされていった。

ほくせい　【北斉】 中国，南北朝の一王朝(550～577)。北魏(ほくぎ)が東西両魏に分裂すると，東魏の政権はその宰相高歓の手に帰した。歓の子高洋のとき，東魏の孝静帝に迫って国を譲らせ，斉朝を建てた。史上，北斉あるいは高斉という。国都は鄴(ぎょう)(河北省磁県)。高氏は鮮卑(または鮮卑化した漢族)の出で，重臣層にも北族軍人の出身が多かったが，法制などはほとんど北魏のそれを踏襲した。国土は河北平野を中心に華北に広がり，一時北周・陳を圧したが，のち暗主が続いたため政治が乱れ，北周に攻滅された(577)。6主28年。〔内田吟風〕

ぼくせいき　【朴正熙】 パクチョンヒ　(1917～1979)　韓国(かんこく)の大統領。陸軍大将。慶尚北道(けいしょうほくどう)の人。満州軍官学校卒業後，日本の陸軍士官学校を卒業(1944)し，関東軍に編入された。以後，韓国国防軍にいて，1961年5月，軍部クーデターを指導し，7月に最高会議議長。1963年民政移管に際して民主共和党総裁となり，大統領に選出され，1967年再選，1971年三選された。

ぼくせき　【墨跡】 中国の宋(そう)・元およびわが国の鎌倉時代から江戸初期までの禅宗の高僧の筆跡。主として法語・偈頌(げじゅ)・印可状・道号・書状などで，書跡としてもすぐれているが，むしろ高僧の筆跡であるから尊重され，とりわけ茶室の床の掛け物として愛用されている。宋の圜悟克勤(えんごこくごん)・大恵宗杲(だいえそうこう)・虚堂智愚(きどうちぐ)，元の古林清茂(くりんせいむ)・月江正印・中峰明本(みんぽん)・了庵(りょうあん)清欲，来朝僧の蘭渓(らんけい)道隆・無学祖元・一山一寧，わが国の宗峰妙超(大燈国師)・一休宗純らの墨跡は特に尊重されている。〔春名好重〕

ぼくそう　【牧草】 茎や葉を飼料とする目的で栽培する草類。元来家畜の飼料に用いられた野草のうちから，家畜の好みに適し，また栄養価や収量の高いものを選んで

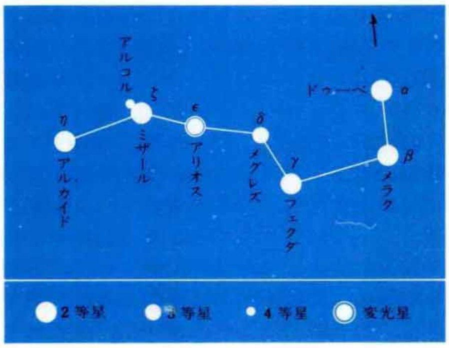
改良したものである。牧草となる条件は，葉がよく繁茂すること，栄養価が高く，家畜の嗜好(しこう)に適すること，種子を多く採取できること，植物体の再生力が強く不良な環境でも強健であることなどである。牧草の種類はきわめて多いが，その大部分はイネ科とマメ科である。牧草は生存期間により，一年生のもの，数年～10数年にわたって生育する多年生のもの，およびこの両者の中間にあたる2～3年間生育する短年生のものなどに区別される。利用上からは刈り取りに適する種類と放牧に適するものとに分かれる。〔勝木辰男〕

ほくちょう【北朝】南北朝時代，吉野(よしの)(奈良県)にあった大覚寺統*の南朝*に対し，京都にあって室町幕府に擁立された持明院統*の朝廷。光明・崇光(すこう)・後光厳(ごこうごん)・後円融の歴代天皇を経て，1392年(元中9・明徳3)後小松天皇のとき，南北朝合一が行なわれ，以後北朝系の皇統が継承して現在の皇室に至っている。

ぼくとうが【木蠹蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ボクトウガ科の一種および科の総称。体長40mm内外で，翅(はね)を広げた長さ34～74mm。黒かっ色のじみなガで，雄の触角は扁平(へんぺい)。成虫は6～9月に燈火に飛来し，幼虫はナラ・クヌギなどの幹にはいって食害する。北海道・本州・九州に分布する。ボクトウガ科は翅を広げた長さ35～180mmの中形ないし大形のガで，灰色またはかっ色。ほぼ世界じゅうに分布しているが，熱帯・亜熱帯に特に多く日本に4種を産する。成虫は口吻(こうふん)を欠き，夜行性で燈火に飛来する。翅は原始的翅脈をもち，静止時には背部にたたまれる。幼虫は樹木の害虫で，木の幹内にトンネルを掘って生活する。〔多々内修〕

ぼくとうきたん【濹東綺譚】永井(ながい)荷風*の長編小説。1937年(昭和12)《朝日新聞》に連載。老作家大江匡(ただす)は小説執筆の下調べを兼ねて玉之井私娼窟(ししょうくつ)を散策，偶然会ったお雪に昔日の花柳界のおもかげをみるが，自分にひかれていくお雪の心の変化を知り，ひそかに別れる。軍国的風潮への鋭い批判や克明な調査に基づく詩情豊かな風俗描写にささえられた随筆ふうの傑作。

ほくとしちせい【北斗七星】おおくま座のうちひしゃく形に並んだ七つの星。柄に近い側のますの部分にあたるδ星(3等)を除いて他はみな2等星である。ますの外側にあたるβ星とα星を結んで延長すると，約5倍の距離に北極星があり，昔から北極星を捜すのに用いられている。



北 斗 七 星

ぼくとつぜんう【冒頓単于】(?～BC174) 匈奴(きょうど)第2代の単于(王)。父の頭曼(とうまん)単于を殺して即位，東胡(とうこ)・月氏を撃破し，ゴビ砂漠(さばく)以北のチュルク・キルギスなどの諸族をも従えて，北アジアに遊牧民族最初の大帝国を建設した。漢の高祖を平城(山西省大同付近)に包囲して屈辱的和議を結ばせ，西域を支配し，匈奴の全盛期を開いた。

ほくばつ【北伐】中国国民党*による統一を完成するために行なわれた北洋軍閥*打倒の戦争。1926年国民党の蔣介石*(しょうかいせき)が国民革命軍総司令となって，広東(カントン)を出発し，短期間で揚子江流域まで進出した。その後国共分裂とともに蔣は共産党を弾圧した。1928年国民党に入党した閻錫山(えんしゃくざん)・馮玉祥(ふうぎょくしょう)らの協力を得て奉天派の張作霖(ちょうさくりん)を破り，北京(ペキン)を占領して北伐を完成した。

ほくめんのぶし【北面の武士】平安後期，院*の北面で警備にあたった武士。〈院の北面〉〈北のおもて〉ともいう。1095年(嘉保2)白河(しらかわ)上皇により創設され，院中の警備のほか上皇の御幸に弓矢を帯して従った。平安後期に上北面と下北面に分かれ，上北面は四位，下北面は五・六位の者に任じた。院政*をささえる重要な武力となった。なお，鎌倉時代には後鳥羽(ごとば)上皇が西面武士*を設置した。

ほくようぎょぎょう【北洋漁業】オホーツク海やベーリング海などの，北太平洋北部の海域で操業する漁業の総称。母船式サケ－マス漁業，母船式カニ漁業，母船式引き網漁業のほか，北洋捕鯨などがあり，それらによる漁獲高は，スケトウダラをはじめとして日本の総漁獲に占める割合は高く，また商品価値も高いことから，日本漁業経済を支える主幹漁業となっている。

この海域は漁業生物が豊富で，アメリカ・ソ連・カナダなどの沿岸国では，自国の漁民の権益を守るため，また資源保護の立場から，旧海洋法時代の公海における漁獲規制も強く打ち出されていて，それらの国々との間には単独あるいは合同の漁業条約や漁業協定が結ばれ，その制限の下で漁業がなされてきた。新海洋法の論議の進展の中で，沿岸国は相次いで排他的な経済水域200海里を宣言，そのためいわゆる公海は極度に狭められ，したがって1977年以降の北洋漁業は，その姿を全く一変してしまった。日本では自らが開拓したこの漁場で，伝統的に続けてきた漁業と漁民を守るため，それぞれの国との新しい漁業協定を積極的に推進させ，従来からの漁業を続けてきている。しかし，漁獲割当量は大幅に縮小され，過去の実績を大きく下回っているのが実情である。今後の資源状態の変化によっては，さらにその量は減少を余儀なくされることになろう。一部水域では漁船の大きさに応じた入漁料の支払いもなされている。〔石野 誠〕

ほくようぐんばつ【北洋軍閥】中国，中華民国初期の最大の軍閥。清(しん)末に袁世凱*(えんせいがい)が育成した北洋新軍が私的軍団化し，辛亥(しんがい)革命*の際，袁はその武力を背景に独裁政権を樹立して北洋軍閥が形成された。1916年袁の死後，安徽(あんき)・直隷両派に分裂，前者は日本と，後者はイギリス・アメリカと結んで互いに政権を争ったが，1924年の奉直戦争*の結果政権は奉天派に移り，北洋軍閥時代も終わった。

ほくりくじどうしゃどう【北陸自動車道】国土開発幹線自動車道の一つとして計画中の高速道路。新潟市～米原(まいばら)市間約480kmで，北陸地方を縦断する。このうち1966年(昭和41)以降黒崎(新潟市西郊)～上越市および富山市～米原市間が日本道路公団によって工事施行中である。

ほくりくどう【北陸道】五畿(ごき)七道*の一。〈くぬがのみち〉と読む。若狭(わかさ)・越前(えちぜん)(以上福井県)，加賀・能登(のと)(以上石川県)，越中(富山県)，越後・佐渡(以上新潟県)の7か国がこれに属する。

ほくりくほんせん【北陸本線】米原(まいばら)～直江津間の国鉄路線。営業キロ数353.9。ほかに，敦賀(つるが)～敦賀港間2.7kmの貨物支線1本がある。1884～1913年(明治17～大正2)開業。福井・石川・富山・新潟の諸県を縦断し，日本海岸沿いの裏日本縦貫幹線鉄道の一部を形成する。糸魚川(いといがわ)から大糸線，富山から富山港線・高山本線，高岡から氷見(ひみ)線・城端(じょうはな)線，津幡(つばた)から七尾線，金津から三国線，福井から越美北線，敦賀から小浜線などが分岐する。糸魚川以西の区間は交流，以東区間は直流電化されている。1955年(昭和30)以降この線の輸送力を強化するため，急勾配(こうばい)区間の解消と複線化・電化が推進され，柳ケ瀬(やながせ)越え，杉津(すいづ)峠・倶利伽羅(くりから)峠などの急勾配区間はいずれも長大なトンネル(深坂・北陸・新倶利伽羅トンネルなど)を含む別線建設が行なわれた。また親不知(おやしらず)の難所も地すべりの災害を避けるため頸城(くびき)トンネルなどの一連のトンネルが設けられた。〔青木栄一〕

ほくりょう【北涼】中国，五胡(ごこ)十六国*の一。397年，匈奴(きょうど)の沮渠蒙遜(そきょもうそん)が，漢人の段業を推戴(すいたい)して甘粛省の張掖(ちょうえき)に建てた国。沮渠蒙遜は401年段業を殺して帝位につき，南涼を滅ぼして412年姑蔵(こぞう)に遷都，421年敦煌

(とんこう)を攻めて西涼を滅ぼし，西域諸国との交通路を開いた。439年，第3代皇帝沮渠牧犍(ぼくけん)のとき北魏(ほくぎ)に征服された。

ほくろ 【黒子】 ⇨春蘭(しゅんらん)

ほくろ 【黒子】 〈こくし〉ともいう。皮膚に点在する豆粒大ぐらいまでの限局性色素斑(はん)。色は暗かっ色から黒かっ色で，大きなものは黒あざといわれる。色素細胞の異常によって，メラニン色素がたまるために生じ，周囲の皮膚面より多少隆起していることが多く，硬毛が密生していることもある。ほとんどの人に見られ，普通は幼児のうちに発生するが，遅れて発生したり，消失したりすることもある。まれに，ほくろから悪性黒色腫(しゅ)という悪性腫瘍(しゅよう)が生じる場合がある。

ぼけ 【木瓜】 双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉低木で，日本には古く渡来し，観賞用に庭園に植えられる。茎は叢生(そうせい)して高さ1～3mになり，よく分枝し，短枝はときに棘状(とげじょう)になる。葉は有柄で互生し，長さ4～8cm，幅2～3cmの長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，縁に細歯がある。春に短枝上に径3cmほどの5弁花を単生または数個束生する。雄花と両性花があり，雄花はがく筒が広く，花柱は短く，子房は退化している。両性花はがく筒が細長くつぼ形で，花柱は長く，子房は肥厚している。多くの花が雄花で，そのため結実するものは少ない。果実は洋ナシ状で10月ごろに黄熟し，芳香があるが渋くて食用とならない。花色は変化に富み，鮮紅色のヒボケ，白色のシロボケ，紅白絞りのサラサボケなどがある。〔横井朝子〕



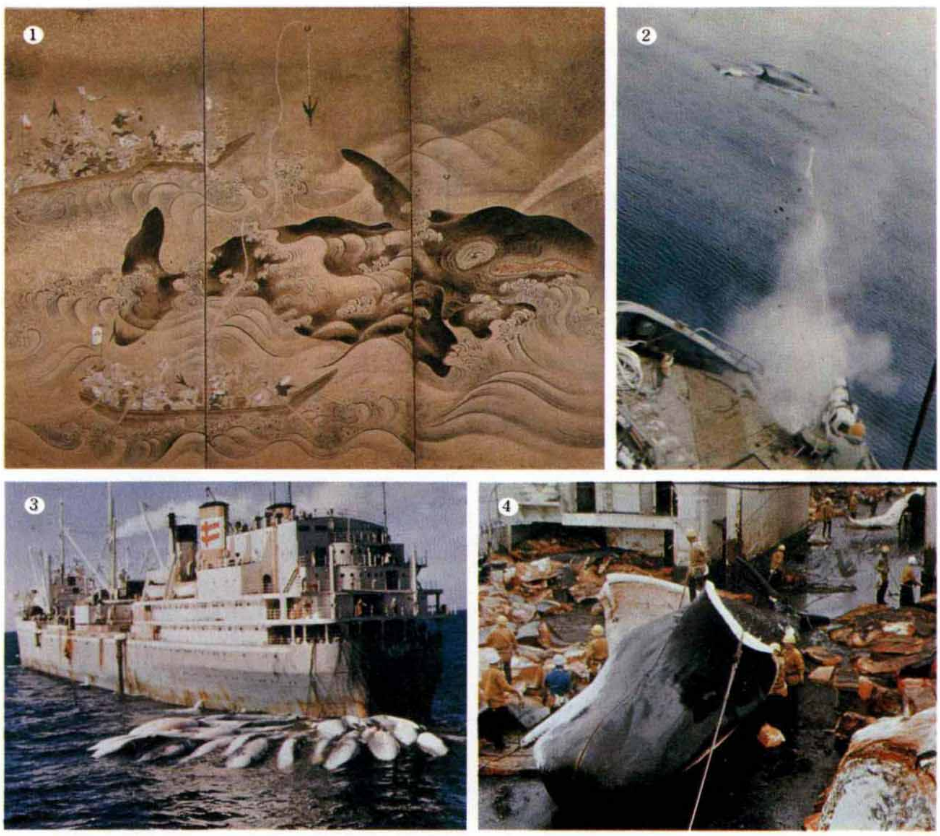
ボ　ケ

ほげい 【捕鯨】 クジラ類を捕獲する水産業のこと。古くからわが国水産業の重要な部門を占める。操業形態からは2種類があり，一つは基地を中心とした行動半径内で操業する陸上基地捕鯨，他の一つは母船を中心に，漁場を求めて移動できる形態である。わが国ではこれとは別に，前者を大形捕鯨・小形捕鯨・外国基地捕鯨に，後者を北洋母船式捕鯨と南氷洋母船式捕鯨に分けている。対象となるクジラ*には，次の種類がある。①ヒゲクジラ類：シロナガスクジラ(捕獲禁止)・ニタリクジラ・ナガスクジラ(1973年以降，段階的禁止)・イワシクジラ・ザトウクジラ(1963年以降南氷洋では捕獲禁止)・コイワシクジラ(ミンククジラ)。②ハクジラ類：マッコウクジラ・ゴンドウクジラ・ツチクジラ・シャチなど。

〔歴史〕 クジラと人類とのつながりは古く，その記録は，北欧や地中海地方の壁画に残されているが，これらはおよそBC2000年前といわれる。またアラスカ地方の原始人(BC1500年ごろ)の部落跡からは，クジラの骨が発見されている。以来捕鯨は最も大規模な漁業として，世界各地で行なわれてきた。当初は食肉用として，やがてその油をランプ用に，ヒゲクジラのひげは装身具などの貴重な材料として利用された。中世の北欧の捕鯨は，ノルウェーからフランス沿岸へ，さらにスペイン・ポルトガルへと拡大され，やがてイギリスに伝達されたらしい。また，グリーンランド方面に群生していたホッキョククジラの捕鯨も，同じ16世紀ごろ盛んであった。当時の捕鯨法は，1隻の舟に数十人の捕鯨夫が乗り組み，手投げ銛(もり)でクジラを射止めた。北大西洋の捕鯨は18世紀が最盛期で，このころセミクジラ・ホッキョククジラが大量に捕獲され，その資源は極度に減少した。わが国でも古くから捕鯨が行なわれていたと推定され，1606年(慶長11)以降の捕鯨の記録は明確に残っている。はじめは槍(やり)や手投げ銛を用いて捕獲したが，その後1674年に紀州(和歌山県)で網による捕鯨が始められた。すなわち，網の中に追い込んだクジラを槍や銛で攻撃し，クジラが弱ったころによじ登って心臓を槍で突いてしとめる方法であった。近代的な捕鯨は，1864年にノルウェーで始まった。それは汽船に捕鯨砲をすえつけ，銛を打ち込む方法で，このノルウェー式捕鯨の開発によって，大形で遊泳力のすぐれたナガスクジラなどの大形クジラの捕獲が可能となり，全世界に普及した。

〔捕鯨船と捕鯨母船〕 捕鯨船*の行動半径は，通常200マイル程度である。マスト上部に立つ見張りと超短波を利用した鯨探機でクジラを探し，ほぼ50m以内の距離に浮上したとき船首にすえつけた捕鯨砲で銛を発射する。しとめたクジラには音波発信装置を備えたブイと標識旗を付けて海上に放置し，一定数を捕獲したのちに回収する。捕鯨母船の大きさは一定しないが，現在は平均20,000トン程度で，船尾のスリップウエーから続く上部甲板は解体場となり，皮をはぎ，肉や骨などの分離作業ののち，次甲板の処理工場に送り込まれる。母船式捕鯨では，1母船に約10隻の捕鯨船，大形タンカー1隻，冷凍船1隻，冷凍運搬船2～3隻が付随する。従業人員は約1,500人に達する。

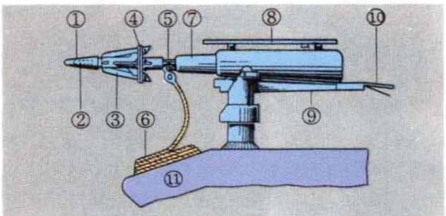
〔クジラの用途と捕獲〕 クジラは脂肪・タンパク質その他の貴重な資源である。ヒゲクジラの肉は食用に，油は食用油脂(マーガリンなど)に加工され，植物油や魚油と同様の目的に使用される。マッコウクジラの油



捕　鯨　①江戸中期の捕鯨風景《捕鯨図屏風》大阪市立博物館蔵　②銛の発射　③母船に集められたクジラ(母船は第3極洋丸　23,086総トン)　④母船の甲板における解体作業

は蠟質(ろうしつ)で，工業用油脂として用いられる。一般にクジラからは種々のビタミンや薬品類，動物の飼料，肉エキス，鯨蠟などがつくられ，鯨体はほとんど完全に利用される。なお，毎年の漁期・漁区・捕獲頭数などは，国際捕鯨会議(→国際捕鯨取締条約)で定められる。捕獲頭数はマッコウクジラを除いて，油の産出量に基礎をおいたシロナガス換算(BWU)を用いてきたが，1972年以降は廃止され，鯨種別に捕獲頭数が決められるようになった。(BWUとはナガスクジラ２頭が，またザトウクジラ2.5頭，イワシクジラ６頭分がそれぞれシロナガスクジラ１頭分に相当するというものである。)1972年(昭和47)の国連環境会議では10年間捕鯨禁止の勧告が採択されたが，その直後の国際捕鯨委員会では，同年の捕獲頭数を前年の33％減とすることで，捕鯨の存続が認められた。しかしクジラを保護しようとする国際世論の高まりによって，今後捕鯨規制の動きはさらに強まるであろう。

【わが国の現況】①南氷洋捕鯨：南氷洋はヒゲクジラのえさとなる生物も豊富で，一般に肥沃(ひよく)であり，夏季にクジラが集中する。1904年にノルウェーが開始して以来近代捕鯨の中心地であったが，現在は捕獲数のわくもせばめられ，1977年～78年の漁期には，南氷洋捕鯨船団は１船団だけになる可能性が強い。②北洋捕鯨：北太平洋海域で夏季に操業する。捕獲頭数枠は年々縮小され，1978年には763頭のマッコウクジラと，524頭のニタリクジラが捕獲可能になるに過ぎない。南氷洋捕鯨と同じく，操業はソ連及び日本だけが行なっており，日本枠はソ連枠よりやや少ない。捕獲頭数枠（国際捕鯨委員会による）の縮小のため北洋捕鯨そのものの消滅も憂慮されている。③日本沿岸捕鯨：1899年(明治32)にノルウェー式捕鯨法を導入して以後，急速に発達した。現在はコイワシクジラを除くヒゲクジラとマッコウクジラを対象とし，三陸沿岸と北海道太平洋岸沖を主漁場として操業されている。捕鯨基地には，鯨体解体施設と加工処理施設があり，鯨体の鮮度が低下しないように，捕鯨船は基地を中心とした約200マイル圏内で活動する。しかし，②項で述べた捕獲枠を，母船式と配分するためその頭数は極めて少数になりつつある。④小形捕鯨：北海道・宮城・千葉・和歌山に根拠地を置いて，コイワシクジラ・ゴンドウクジラ・ツチクジラを捕獲している。小形捕鯨の歴史は日本の捕鯨の歴史でもあるが，近年では捕鯨船の数も数隻に減少してしまった。　〔石野　誠〕



捕鯨砲の構造
①銛先　②火薬　③銛つめ　④ひも
⑤銛柄　⑥先綱　⑦砲身　⑧照準器
⑨後退制動装置　⑩取っ手　⑪綱台



捕鯨船　クジラを引いて母船へ向かう捕鯨船(第15京丸　738総トン)

ぼけいせい【母系制】　個人の血縁集団への帰属がつねに母の系統をたどって決定される制度。母と子の緊密な結びつきにより，強固な母系リネージ(血縁集団)・母系氏族が社会の基礎をなし，経済的・社会的共同体の機能を果たす。婚姻は，妻方居住婚，あるいは，おじ方居住婚(新夫婦が母方のおじの家またはその近くに住む)をとり，他方政治的あるいは公的地位には男性がつき，それらは，おじ(母の兄弟)から甥(おい)(姉妹のむすこ)に継承されるのが原則である。しかし，集団帰属・相続・継承その他，社会制度の側面のすべてにおいて一貫して母系原理しか認めない民族は少なく，多くの母系制をとる民族でもある程度，父系と母系の双方のしかたが並存している。なお，母系制をもつ民族として，スマトラのミナンカバウ・マレー人が代表的である。　〔森部　一〕

ほげいせん【捕鯨船】　クジラを捕獲する船で，キャッチャーボート*の代表的なもの。母船式捕鯨業では，１船団に10数隻の捕鯨船が組み込まれるが，基地捕鯨では，沿岸基地から出漁して単独に行動する。他の漁船と比較して，速力が大きく，捕鯨砲を備えていることが大きな特徴で，復原力も大きく，凌波(りょうは)性にもすぐれている。大きさは数百トンのものが多く，捕鯨砲を備える船首楼が著しく高く，船橋とはガンナーブリッジで直接結ばれていて，クジラを発見した際に砲手が砲座に直行できるようになっている。また，船橋前部のマストには，見張り台(クロスネスト)がある。捕鯨砲の下側前方には円形の綱台があって，銛(もり)に連結された捕鯨綱(直径約35mm,全長約1,200ｍ)がコイルされている。銛の長さは約1.5ｍ，重さ約70kgで，頭部には４本のつめがあり，先端には爆薬が詰められている。前甲板には命中したクジラを引き寄せるウインチがあり，前部舷側(げんそく)にはしとめたクジラを母船や基地まで曳鯨(えいげい)するための曳鯨孔が設けられている。乗り組み員は，ふつう砲手・船長以下約20名である。　〔石野　誠〕

ほけきょう【法華経】　大乗経典の一。原名をSaddharmapuṇḍarīka-sūtra(サッダルマプンダリーカースートラ)といい，３種の漢訳本が現存する。鳩摩羅什(くまらじゅう)訳(406)の《妙法蓮華経(みょうほうれんげきょう)》が広く流布している。《法華経》は一乗(仏乗)の開顕を説き，三乗(菩薩(ぼさつ)乗・縁覚乗・声聞(しょうもん)乗)の教えを方便とする。《法華経》以前の大乗経典は自利・利他の菩薩行を強調して，菩薩乗を声聞・縁覚の二乗と対立的に把握(はあく)していたが，仏の慈悲の立場からすれば差別を立てるべきではなく，三乗のそれぞれに存在価値を認めるとともに，一仏乗に包括すべきであると主張する。また，仏が入滅したとするのは方便であって，仏はすでに久遠の昔に悟りを開いて仏となった(久遠実成の本仏)もので永遠不滅であると説く。　〔塚本啓祥〕

ポケットベル　[pocket bell]　ポケット形無線受信機。電話と同じく特定番号がつけられ，一般の加入電話からその番号にダイヤル呼び出しがあると，無線基地局を経由した電波によってブザーが鳴り出すしくみになっている。重量約200ｇ。セールスマン・巡回技術者，往診中の医師など，移動中の人に対し至急連絡をとらせたい場合の信号手段として考えられたもので，信号を受けた側は直ちに手近の公衆電話などからあらかじめ指定された所に連絡をとればよい。1968年(昭和43)７月に東京23区内でサービス開始，次いで1969年大阪地区でも実施された。東京では開始後約１年間で需要が15,000をこえ，移動通信の必要性を物語っている。　〔滝　　誠〕

ポケットモンキー　⇨キヌザル　⇨カニクイザル

ほけん【保険】　⇨次ページ

ボーゲン　⇨スキー

ほこ【鉾】　両刃の剣に長い柄をつけた武器。古くは，神は祭りに際して天から降臨すると考えられており，鉾は神の依代*(よりしろ)としたため，宗教的な儀礼に用いられることが多く，しだいに実用的な機能を失って，傘鉾(かさほこ)・山鉾のように祭礼の中にその名称と形態をとどめるに至った。傘鉾・山鉾は山車*(だし)の一種で，傘鉾は大きな傘の上に鉾を立てたもの，山鉾は台の上の大嘗会(だいじょうえ)の標山(しめやま)を模した山に鉾を立てたものであり，京都祇園会(ぎおんえ)の山鉾が特に有名である。〔中山和芳〕

ほご【補語】　文の成分の一種。〈湯が水に　なる〉〈町が　寂しく　なる〉〈Ｋ氏を先生と　みなす〉のような文節を，修飾語*と区別して補語とよぶことがある。補語は必要な成分で，それを欠いては表現が不十分なものになるとされる。一般には，補語は連用修飾語に含めて考える。

ほこうしゃてんごく【歩行者天国】　交

→13ページ

保険

〔保険の意義と効用〕現代のような個人主義の経済社会では，いっさいの経済的行為は自由である代わりに，その結果に対しては自己責任で処理しなければならない。しかも個人の家庭生活も企業活動も多くの危険に取り巻かれていて，いついかなる偶然の災害に遭遇するかは，個人的にはまったく予想することができない。かかる不測の事故の発生に備え，人々は予防したり，またひとたび発生した災害や事故を鎮圧するよう努力するが，それでも十分の効果が上げられず，さらに予防や鎮圧にはあまりに費用がかかりすぎる場合には，事後処理のための用意を事前に行なっておかなければならなくなる。そして偶然の災害や事故または不幸な事態の発生したときには，それによる家庭生活や企業活動の経済的な破壊を克服して，それらの永続を確保しようとするのである。かかる行為を経済的保障の達成というが，それにはまず貯蓄が考えられる。しかし貯蓄では，目標額が達成されないうちに偶然の災害や事故が発生してしまえば，不足をきたすことは免れないし，目標額を達成したあとでも偶然の災害や事故が発生しなければ不経済となる。このような弱点のある貯蓄に対して，より合理的な経済制度として考案せられたのが保険である。

保険は，偶然の災害や事故ならびに不幸な事態の発生に備えて，あらかじめ保険料と名づけられる貨幣を支出し，ひとたびそれらが発生したときに，保険金と名づけられる貨幣の支給を受けて，それによって家庭生活や企業活動の破壊を克服し，もって経済的保障を達成する経済的制度である。保険によれば，毎月または毎年，平均化された一定の小額の貨幣の支出によって，いつでも必要なときに，必要な額または所定の額の貨幣の調達をなしうる。保険によって，家庭生活も企業活動も一段と計画性を強めることができ，経済的保障の達成につき合理化と効率化を推進しうるのである。

〔保険の誕生とその発展〕遠い昔から保険に類似する制度や原始保険は存在していたが，資本主義社会になるにつれ，各人はその家庭生活ならびに企業活動につき自己責任を負わなければならなくなり，偶然の災害や事故または不幸な事態の発生に対し，個人的に経済的保障を達成する必要が生じて，ここに保険が考案せられた。そして物質文明・機械文化はますます社会に危険を増加させ，増大させたが，他方では数理的技術や企業経営の技術が開発され，また貨幣制度や通信・交通の発達，法律学理の充実などで，一段と保険発達の環境が強化されたのである。そして保険は現代にあってますます必要不可欠の制度となった。

まず保険は，中世イタリアの都市での海上保険として誕生し，航海と貿易をめぐる損害の発生に備えられたが，それらは個人保険業者による投機的または賭博(とばく)的性格が強かった。しかし徐々に内容と形態を整えて，株式会社組織による近代的保険へと発展していった。近代的都市の成立につれ，海上保険における諸技法を活用しての火災保険が登場してきたが，それには各国の諸都市でしばしば発生した大火が直接の契機となった。しかも都市住民の私有財産たる家屋，家財または商品などの豊富になったことも，火災保険の必要を促したのである。生命保険は，人々が労働力を販売して所得を獲得するようになったときに，最も一般化し，発達した。つまり労働力の宿っている生命と身体の死亡・老齢・疾病(しっぺい)・傷害・廃疾などは，所得の断絶をきたすとともに，不時の出費をもたらすもので，結局は家庭生活の破壊となり，貧窮に陥ることとなる。ここに生命保険への要求が高まってきたが，生命表が作成せられたことならびに経済の発達による生活水準の上昇が生命保険料の支出を可能として，生命保険は著しく発展した。資本主義の進展は，労働者階級の貧困化をもたらし，労資の階級対立は激化した。これらの事態の発生に備えて，社会主義思想の鎮圧を目的として社会保険が成立せしめられた。これは多くの場合，公営・強制の労働者保険として始められたが，現代では社会保障制度へと発展的解消を遂げつつある。

〔保険のしくみと原理〕保険は同種の危険にさらされている多数の人々や企業が協力して，共同の団体を結成し，個々の人や企業にとっては偶然であっても，それを多数について観察すると災害や事故の発生とその程度に一定の規則性すなわち確率の存在することに着目し，その団体に所属する全員がそれぞれ一定額の貨幣支出の負担をすることにより，たまたま偶然の災害や事故ならびに不幸な事態に遭遇した不運な人や企業に対し，必要とされる額あるいは所定の額の貨幣を提供するものである。貯蓄が単独で個別の経済的保障の制度であるのに対し，保険は協同の相互扶助の社会的制度であり，ここで結成される共同の団体を保険団体という。保険団体は同質・同型の多数な危険の集合体であって，そこでの偶然の災害や事故の発生確率は大数の法則によって把握(はあく)されている。保険団体は危険団体ともいわれる。

保険に加入するためには，保険契約を締結しなくてはならない。保険契約は，一方の当事者としての保険者と他方の当事者としての保険契約者とからなる。保険者とは，所定の事故としての保険事故が発生した場合に保険金の支払いをなすべき者をいい，保険契約者とは，自己の名をもって保険者と保険契約をする者のことをいう。保険契約者は所定の保険料を保険者に支払わなければならない。保険加入者はすなわち保険契約者のことである。保険契約は，申し込みと承諾とがありさえすれば有効に成立するとされるが，実際には保険申込書という書面によって申し込まれ，保険契約成立後に，保険者から保険契約者に，保険証券という保険契約の成立を証し，その内容を明らかにする証券が交付される。この保険証券の裏面に，保険約款といわれるところの保険契約の内容に関する契約条項が記載されているが，保険による経済的保障はこの保険約款の定めるところによって実施される。保険には保険契約者という文言とは別に，被保険者ならびに保険金受取人という文言が多く使われている。生命保険*についてみれば，人の生死という保険事故発生の対象体であるその人をいい，生存保険*の場合は被保険者と保険金受取人は一致するが，死亡保険*や養老保険*などでは，両者は一致しない。そして損害保険*についてみれば，保険事故発生の対象体としての物そのものすなわち保険の目的に偶然の災害や事故が生じて実際の損害をこうむる者を被保険者とするが，この場合では被保険者と保険金受取人は同一となる。保険契約者は被保険者または保険金受取人と一致するのが普通である。

多数の同質・同型な危険が集合せられて形成される保険団体について，必要な保険金の総額つまり保険者からみれば支出と，個々の保険料の総額つまり保険者からみれば収入とが，過不足のないように計算されていることが保険にとって必要であり，このことを保険における収支相等の原則とするが，このためには保険団体全体として必要な支出額を危険を中心にして把握し，これを各危険に平均して分担させる方式すなわち平均保険料方式と，保険加入者の所得の多寡などによる負担能力の格差をつける保険料の決定方式があり，この2方式に対して給付・反対給付均等の原則といわれる保険料の決定方式もある。

〔保険の分類〕保険は，家庭生活と企業活動の複雑化に伴って著しくその種類を増してきたが，これを特定の規準にしたがって分類すると次のごとくになる。①危険発生の対象が人間であるか物財であるかによって，人保険と物保険または財保険とする。生命・疾病・傷害・廃疾・失業などの保険は人保険であり，各種の物的財産の保険ならびに責任・信用・利益・再保険などは物保険に属する。②保険に加入し，または保険料を負担する者が家計つまり家庭である

か企業であるかによって，家計保険と企業保険に分かれる。③保険料が国民経済的にみて純粋費用に属するか将来のための蓄積分を含むかによって，費用保険と蓄積保険に分けられるが，長期の生命保険が蓄積保険の代表である。④保険の経営者の公共体か私人かの別によって，公営保険と私営保険または民営保険とされる。公営保険には国の経営する国営保険と地方自治体の経営する狭義の公営保険とがある。そのほか設立を国が強制した保険機関の経営する保険をも公営保険とする見解があるが，この意味においてはわが国の健康保険法にしたがって設立された健康保険組合の保険も公営保険とされる。これとは別に，健康保険法によって，健康保険組合の設立されていないところに，厚生省の監督して取り扱う国営の健康保険があり，また国民健康保険法によって，市町村は国民健康保険を公営保険として経営している。このほか郵政省の経営する簡易保険は国営保険の一種である。そして個人の経営する保険事業としては，イギリスのロイズがあるが，各種の組合保険もまた私営保険または民営保険とされるのが一般である。しかし民営保険の代表は株式会社と相互会社の形態で経営される保険である。⑤保険金があらかじめ約定の一定額として支給されるかまたは発生した損害の度合いに応じて支払われるかによって，定額保険と損害保険に分かれる。⑥保険加入が強制されるか加入者の自由意志に任せられるかどうかで，強制保険と任意保険に分かれる。⑦損害保険については，保険が物財の経済的価値以下につけられているものを一部保険，同額につけられているものを全額保険または全部保険，価値以上につけられているものを超過保険とする。⑧保険者が引き受けた危険の一部をさらに次の保険者の保険につけた場合，これを再保険といい，そして最初の保険者と保険契約者との間の保険を元受保険または原保険という。⑨保険が国家政策の手段として行なわれるかどうかで，政策保険と個人保険または私保険とに分類され，政策保険はさらに社会政策の手段としての社会保険と，産業の振興や保護などの経済政策の手段としての経済政策保険たとえば農業保険・森林火災保険・漁船保険・輸出保険・中小企業信用保険・中小漁業融資保証保険・住宅融資保険・木船保険などに分けられる。この場合の個人保険を普通保険とすることもある。⑩わが国の商法は，保険を損害保険と生命保険とに分けて規定を設けているが，これは法制上の分類であって，その基準は，偶然の災害や事故または不幸な事態の発生によって生じた損害の程度に応じて保険金の額が異なるのが損害保険であり，あらかじめ保険金の額が定められてあるのが生命保険とされるところにある。

【保険の経営とその監督】生命保険も損害保険もともにその経営のほとんどは，株式会社または相互会社の企業形態による民営にゆだねられている。事業の性質上，生命保険では相互会社の形態が多く，損害保険では株式会社の形態が多い。一般に保険契約の当事者としての保険者は，これら保険会社のことをさす。会社の組織者としては，相互会社では社員，株式会社では株主であり，会社の意志決定機関は，相互会社では社員総会あるいは社員総代会，株式会社では株主総会である。事業資金は，相互会社では基金，株式会社では株金をもって構成され，保険料は，相互会社では確定せず，不足分の追徴や過剰分の払いもどしがあることになっているが，実際には株式会社の場合と同じく確定している。事業の経営責任は，相互会社では社員，株式会社では株主が負う。事業の利潤または剰余金は，相互会社では社員に，株式会社では株主に配当される。

保険経営は，保険の勧誘・募集すなわち保険の販売より始められるが，これは保険外務員や代理店などの外野機関によって主として推進される。続いて保険料の徴収や保険契約の整理・保全などの業務があり，最後に保険金支払いの業務がある。これらを円滑に実施するための経営活動があって，特に数理，危険選択，損害査定，法律などの諸業務が特色となっている。しかしこれら本来の業務に対し，付随的業務とされながらもきわめて重要なものに資産運用活動がある。これは保険契約が大形化し，長期化し，さらに契約数が増加するにつれて，徴収せられた保険料が集積せられて膨大な保険資金となったときに，これを投・融資して運用するところの業務である。この意味で保険会社は機関投資家とされ，金融機関としても産業界に重きをなしつつある。

保険事業は，その公共性から国家の強力な監督を受けている。わが国では〈保険業法〉とその付属法令によって，保険契約者を保護するために事業の健全な発展を期するように，私営保険会社の経営について詳細な規定が定められて，保険監督法規の中心となっている。このほか〈外国保険事業者に関する法律〉〈保険募集取締に関する法律〉〈損害保険料率算出団体に関する法律〉などがあるが，これらは保険契約者の利益を保護し，保険の公共性の見地に立って，保険事業の適正かつ健全を目的としている。

〔庭田範秋〕

通災害と大気汚染の二大車公害に対処すべく，祝祭日の盛り場から自動車の乗り入れを禁止しようという交通規制の構想。昭和44(1969)年，美濃部東京都知事が〝歩行者天国〟構想を提唱，その時点では地元と警視庁の反対で実現しなかったが，44年度の交通災害が，死亡864人，負傷者10万6千人にも達したことと，翌年の7月11日にニューヨーク市が5番街から自動車を追放して好評を得たこともあって，昭和45年8月2日の日曜日に銀座，新宿，池袋，浅草に「歩行者天国」が初めて実現して話題となった。昭和49年には上野駅前から銀座8丁目を結ぶ，世界一長い全長5.5kmのプロムナードが6月10日にスタート，114万1千人の人出で週末を賑わせた。

ほこうそ　【補酵素】　⇨酵素

ほごかんさつ　【保護観察】　犯罪を行なった者，またそのおそれのある者を改善・更生させるため，一定の遵守事項を命じて指導・監督し，また本人みずからの改善・更生を補導・援助する制度。保護司の協力を得て，保護観察所が家庭裁判所で保護観察に付された少年，少年院からの仮退院者・仮出獄者・執行猶予者，婦人補導院からの仮退院者に対して行なっている。遵守事項は，一定の住居の確定，善行の保持，転居・長期旅行の届け出などである。なお，保護観察を規定した法律に，犯罪者予防更生法(1949)・執行猶予者保護観察法(1954)・少年法・売春防止法などがある。〔井上公耳〕

ほごかんさつじょ　【保護観察所】　各地方裁判所の所在地に設置される保護観察のための機関。法務大臣の管理下で，保護観察のほか，犯罪予防のための世論の啓発，地域社会の浄化などを行ない，保護観察所長の下で，専門的知識・技能をもつ保護観察官およびこれに協力する保護司が活動している。

ほごかんぜい　【保護関税】　関税賦課によって，その商品の国内供給価格を高め，その商品を産出する自国の産業の保護・育成を目的とする関税。輸入関税の保護効果は，国全体からみると資源の適正配分を阻害する場合もあり，損失をこうむるかもしれないが，価格の引き上げられた特定産業は短期的にはつねに利益を得る。保護関税は，工業の勃興(ぼっこう)しつつある発展途上国で幼稚産業を保護するために必要となる(→育成関税)。また一方，独占段階の先進国では独占利潤獲得のため外国商品の国内侵入を防ぎ，カルテルを保護するカルテル保護関税もある。　〔唐木圀和〕

ほごこく　【保護国】　国際条約に基づき，一方の国が他方の国に統治権能の一部を行使させる関係にある場合，保護を与える国(権能を行使する国)を保護国，保護を与えられる国(代わって権能を行使してもらう国)を被保護国という。通常は外交能力についてみられるが，その法的地位は条約に

よって異なり，行使される外交能力の範囲も条約によって規定される。保護関係の先例としては，イギリスを保護国とするエジプト(1914～1922)，日本を保護国とする韓国(かんこく)(1905～1912)などがある。被保護国は国際法上半主権国家である。〔広部和也〕

ほごし　【保護司】　保護司法(1950)によって設置された非常勤国家公務員。法務大臣から委嘱され，地方更生保護委員会または保護観察所長の指揮監督を受け，保護観察官の業務を補っておもに保護観察*の職務にあたる。無給与なので，社会奉仕の精神をもつ篤志家が選ばれる。任期は2年。犯罪者の更生保護，犯罪の予防，そのための世論の啓発，地域社会の浄化などを使命とする。定数は52,500人以下。なお，地方更正保護委員会は各高等裁判所の所在地に置かれ，3～9人の委員で組織，任期は3年。➔保護観察所

ほごしょく　【保護色】　動物の色彩が周囲やその背景とよく似るためその動物の敵(捕食者)に気づかれにくい場合，その色彩を保護色という。たとえば山岳や極地の雪の上で暮らすライチョウ・ユキウサギ・ホッキョクギツネなどでは，体色の白いものが多い。また，バッタやカメムシが草の色と同じ緑色であったり，モンシロチョウやアゲハのさなぎが周囲の色に似たりするのも保護色である。保護色はきわめて多くの動物に普通にみられるものであり，被食者が捕食者からの隠蔽(いんぺい)の意味をもつ適応といえるが，一方，捕食者のほうも被食者にみつかりにくい色彩である場合が多い。たとえばトラやヒョウの斑紋(はんもん)は一見はでに見えるが，実は森林内では光の陰影とまぎらわしい。また，カマキリやクモの中には虫が多く飛来する花の色彩とそっくりなものがいるなど，多数の例をあげることができる。これらの場合は，保護色とはいわず隠蔽色といっているが，他動物にみつかりにくくしていることで，本質的には保護色と同様の適応である。体色が周囲の明暗や色の変化に応じて変わるものも多く知られ，カエル類・トカゲ類・魚類・甲殻(こうかく)類では周囲の明暗によく反応するものが多い。特にカメレオンの色彩適応はみごとなものとして有名である。〔松本忠夫〕

ほごしょぶん【保護処分】⇨家庭裁判所

ほこた　【鉾田(町)】　茨城県南東部，鹿島(かしま)郡の町。人口28,000。東は太平洋，南は北浦に面し，かつて北浦を経て江戸方面に送る物資輸送の港であった。畑が多く，サツマイモ・ラッカセイ・ゴボウ・トウガラシ・スイカをつくり，サツマイモのデンプン工場が多い。養豚も盛んである。常磐(じょうばん)線石岡駅から関東鉄道が通じているが，将来は南から鹿島線が延長される予定である。

ボゴタ　［Bogotá］　南アメリカ北部，コロンビア共和国の首都。人口286万(1976)。



ボゴタ　市の中心商業地区を除くと，植民地時代の古い建築が多く残っている。町は斜面にも広がっており，坂道が多い

熱帯にあるが，アンデス山脈中の標高2,650mの高所に位置しているのでしのぎよい。1538年スペイン人の侵入者が大陸経営の基地として建設したのが起源で，1819年コロンビアの独立とともに首都となり，政治・経済・文化の中心地となった。付近の山地から岩塩・石炭・エメラルドなどを産するが，その量は少ない。市内には機械・綿織物・毛織物・食料品などの工業がある。〔小栗　宏〕

ほごちょう　【保護鳥】　旧狩猟法によって指定され，捕獲が禁止されていた鳥類。現在の〈鳥獣保護及狩猟ニ関スル法律〉では，以前とは逆に狩猟鳥を指定しており，野生鳥類はすべて保護すべきであるという原則によっている。➔狩猟鳥獣

ほごぼうえき　【保護貿易】　種々の貿易障壁によって輸入を制限する一方，輸出奨励策を遂行することによって輸出を増大させようとする貿易政策。保護貿易の形態および論拠は，国によってまた発達段階によってさまざまである。広義にとれば，産業*革命以前にヨーロッパでとられた重商主義*の政策が含まれる。重商主義は近代国家建設期の財政を確立するため，商業貿易を保護し，金銀の流出をおさえ，流入を図る政策，つまり貿易差額を重視する政策であった。この貿易思想は，財ではなく，貴金属のみを財産と考える誤りを犯しているが，反面，貴金属の流入によってもたらされる好況，雇用拡大の効果に着目していた点で，理論的根拠を有している。貿易取引差額をめざす保護政策と違って，各国に産業が勃興(ぼっこう)し，しかもイギリス一国が強大な国際競争力を有する時代になると，後発資本主義諸国は，幼稚産業*を保護するために，育成関税*および保護関税*をはじめとする保護政策をとるようになった。時代的には，自由貿易主義時代のあとの19世紀末であり，狭義の保護貿易は特にこの時代の政策をさすことが多い。ドイツでは1873年の恐慌のあと，1879年に鉄・毛織物・綿織物その他の工業品に保護関税が付せられた。また，アメリカのマッキンレー関税(1890)も，保護関税の代表的なものである。第1次世界大戦後，さらに世界恐慌のあと各国が経済の復興，雇用の改善のため，再び貿易差額をめざした保護貿易政策をとるようになった。しかし，これは有効需要を一国を中心に考えて拡大しようとする近隣窮乏化政策*になりがちであり，他国の報復を招くことが多かった。第2次世界大戦後は，後進国が政治的独立に続いて経済的自立をめざすようになり，工業化を促進させるという観点から，幼稚産業保護論が現代的課題として再び取り上げられている。このほか保護の論拠としては，一国が戦略的その他の理由で必需品の国内生産を確保するため，また，既存産業やカルテルの独占的利潤を確保するためなどがあげられる。しかし，もし国内にひずみが存在しないとしたら，自由貿易論からは，幼稚産業保護論のみが是認できる論拠であろう。〔唐木圀和〕

ほこりだに　【埃蜱】　蛛形(ちゅけい)類・ダニ目・ホコリダニ科の総称。貯蔵穀粉・乾物・菓子などの食品類や医薬品などを加害する微小なダニで，体長0.15mm内外。雌には気管系と気門があるが雄にはなく，体は頭胸部と腹部とに明瞭(めいりょう)にくぎられている。自由生活を営む。小麦粉・乾魚・乾燥シイタケ・トウガラシなどにつくナミホコリダニ，貯蔵麦粒につくムギホコリダニなどが日本に分布する代表的な種類である。

ボゴール　［Bogor］　インドネシア，ジャワ島西部の都市。人口19万6,000(1971)。ジャカルタの南60km，サラク山北麓(ほくろく)の標高250mに位置する。オランダ領時代にはボイテンゾルグとよばれ，ジャカルタの避暑地として知られていた。当時の総督の別邸は，現在，大統領の別邸になっている。1817年に開設された熱帯植物園があり，各種の研究所も付属して熱帯農業研究の世界的な中心となっている。60万点の標本をもつ腊葉館(さくようかん)は特に著名である。〔別技篤彦〕

ぼさつ　【菩薩】　梵語(ぼんご)bodhisattva(ボーディサットバ)，パーリ語bodhisatta(ボーディサッタ)の音訳で，〈悟りを求める修行者〉〈求道者〉の意。したがって，もともとは成道以前のブッダをさす語であったが，大乗仏教ではすべての修行者が仏と同じ悟りを得ること，すなわち成仏することを理想としたので，彼らは出家・在家を問わずみずからを菩薩と称した。この大乗の菩薩たちは，ブッダが仏となるまえに世のため無量の善根功徳を積んだのと同じように，利他行に精進することによってみずから菩薩たることを自覚したのである。かくして大乗仏教は無量無数の菩薩たちを生んだ。菩薩ということばはやがて大乗仏教の進展とともにその理想像を示すものと

なった。すなわち衆生救済のためにはいかなる自己犠牲をもいとわず，みずからの悟りをあとまわしにしても他の人々を救うことが理想とされた。そして修行の出発点(初発心時(しょほっしんじ))からこれを〈誓願(願)〉として誓うことが要求され，さらに修行が完成してもけっして涅槃(ねはん)にはいらない〈無住処涅槃〉を理想の境地とした。やがてこのような菩薩は仏と等しい完成者でありながら，大乗の理想を実現するためにあえてこの世に姿を現わしたものと考えられるようになった。こうして文殊(もんじゅ)菩薩・普賢(ふげん)菩薩・観世音菩薩(→観音)・勢至菩薩・地蔵菩薩などの名をもった菩薩が大乗経典に数多く登場し，彼らの功徳が力説され，それ自体が信仰の対象となった。また，菩薩行とは菩薩の知恵に基づく慈悲の行で，具体的には六波羅蜜(ろくはらみつ)(六度)の修行である。また菩薩の境地の高まりを示すものとして十地が立てられている。〔岡部和雄〕

ほさにん　【保佐人】　準禁治産者のなす訴訟および重要な財産上の行為のために付せられる保護機関をいう。準禁治産者がこれらの行為をなすには保佐人の同意を得ることを要し(民法12条)，保佐人の同意を得ずしてなした行為は，準禁治産者自身において取り消すことができる(民法12条2項)。しかし，保佐人は同意権を有するだけで代理権を有しないから法定代理人ではなく，したがって，準禁治産者の同意を得ずしてなした行為を取り消したり，追認することはできないと解するのが通説である。もっとも，保佐人に取り消し権や追認権を認めなければ，準禁治産制度を設けた意義がほとんど失われるため，これを認めるべきであるという意見も有力である。なお，保佐人となる者については，後見人に関する規定が準用される(民法847条)。〔黒木三郎〕

ボサノバ　[bossa nova]　ブラジルの新しい大衆音楽の総称。〈新しい突起〉という意味で，1950年代後半から高まってきた音楽運動をさす。カルロス-ジョビン・ジョアン-ジルベルト・ルイス-ボンファ・バーデン-パウエルらが代表的存在である。作品にはそれぞれの個性が反映しているが，一般にブラジル伝統のリズム(サンバ)感覚をもとにして，モダン-ジャズの影響を強く受けた和声づけなどで現代化を図っている。音楽形式は，シンコペーションをもった4分の2拍子のギターによるリズムをもち，メロディーは叙情的である。〔中西義郎〕

ほし　【星】　太陽・月・星雲以外の見かけの小さな天体の総称。恒星・惑星・流星・彗星(すいせい)・衛星などを含んでいるが，狭義には恒星を意味する。

ぼし　【墓誌】　地上に立てる墓碑に対して，地下に埋める墓印としてつくられたもの。材料は金銅版・石・磚(かわら)などを用いる。ヨーロッパ・中国・日本それぞれにみられるが，ヨーロッパは最も起源が古く，中国はこれに次ぐ。中国で北魏(ほくぎ)以後に行なわれた石版の上に銘文を刻し，ふたをおおう形式のものには書のすぐれたものが多く，日本の奈良時代の金銅版のものも書がよい。

ほしがき　【干し柿】　わが国の代表的な乾燥果実の一。成熟した渋ガキの皮をむいて乾燥し，貯蔵できるようにしたもの。乾燥によって，渋味のタンニン物質は酸化して不溶性となり，甘味が生じ，これが濃縮されるので甘味が強くなる。製造法によって，胡露(ころ)ガキ・紅ガキ・くしガキ・巻きガキなどがある。

ほしがらす　【星烏・星鴉】　鳥類・カラス科。全長約35cm。黒かっ色で，体全体に白斑(はくはん)を散らす。亜高山帯以上の針葉樹林・ダケカンバ林などに好んで繁殖し，秋冬には海抜800mぐらいのところにも降りてくる。〈ガーガー〉と鳴くほか，〈アーオ，アーオ〉というのどをおさえて出すような妙な声でも鳴く。

ほしがれい　【星鰈】　硬骨魚類・カレイ科。全長40cmに達する。同属のマツカワに似るが，本州北部にいないこと，垂直びれの黒色斑(はん)が丸いこと，側線の前部の湾曲の高さが小さく幅が高さの3.7～4倍などの点で区別できる。本州中部以南の各地沿岸，朝鮮南・西部，ソ連のピョートル大帝湾，中国北部に分布する。食用魚で美味。

ほしぐちどうぶつ　【星口動物】　動物分類学上の一門。円筒形の体で，体内に引き込みうる細長い吻(ふん)をもつ。体表はクチクラでおおわれ，ややかたい。幼生時以外はつねに底生生活を行ない，浅海から深海底までの砂・泥中(でいちゅう)，貝の死殻(しかく)中などにすむ。幼生時はトロコフォラ型幼生となって浮遊生活をする。生殖はつねに有性生殖のみ。卵割のようすや幼生の形態などから環形動物に非常に近縁であると考えられるが，星口動物には生涯(しょうがい)を通じて体節構造が現われない。

ぼしけんこうてちょう　【母子健康手帳】　母と子の保健状態を記入して，その子の健康発育の参考とするための手帳。母子保健法の第16条に，都道府県知事(都の特別区では区長)は妊娠の届け出をした母にこれを交付することの規定がある。妊産婦が医師・歯科医・助産婦・保健婦などに健康診断を受けたとき，出生後の乳幼児が健康診断を受けたとき，それぞれの状態を記入してもらう。また予防接種を受けたときも，その記入欄にその旨の記載を受ける。〔宇留野勝正〕

ポジションしどう　【ポジション指導】　窓口規制に代わって日本銀行が採用した金融統制方式。日本銀行が市中銀行の貸し出し・預金・外部負債の状態などを勘案して，資金の安定した市中銀行に対し貸し出しを多くするもので，貸し出しにわくをはめる窓口規制と違って市中銀行の自由裁量の余地が大きい。

ぼしじん　【母子神】　原始母神あるいは土地母神と，その子である小男神をいう。母神が子神を抱いた姿の古代の出土品が多くある。母神は生殖力・生命力・豊穣(ほうじょう)の象徴であり，月・ウシ・龍蛇(りょうだ)・水などと結びついていることが多い。母神あるいは母子神崇拝は，インド・古代オリエント文化圏をはじめとして，ほとんど全世界の，主として農耕民の間にみられる。アスタルテーとタンムーズ，イーシスとホーロス，レアーとゼウス，キュベレーとアッティスなどは母子神の例である。日本のスクナヒコナの神，桃太郎・一寸法師などの説話の主人公は，水と関連があり，母神の存在も認められるところから，同じ母子神信仰の系列にはいるとする説もある。〔神谷美保子〕

ほしだからがい　【星宝貝】　軟体動物・腹足類・タカラガイ科。殻高(かくこう)11cm，殻径7cm，背腹径5.5cmほどの球卵形の巻き貝。背面は丸くふくらんで黒かっ色の円斑(えんはん)を散らし，左右の外套(がいとう)の合線は朱色の縦線となる。腹面は白色。殻口は狭くて，両縁には歯状の刻みがある。紀伊(きい)半島以南の太平洋・インド洋に分布し，潮間帯下の岩礁に普通にみられる。殻を観賞用や貝細工の材料とし，また，貝殻(かいがら)の層で色彩の異なるのを利用してカメオをつくる。〔波部忠重〕

ほしとおる　【星亨】　(1850～1901)　明治前期の政治家。東京の生まれ。1874年(明治7)イギリスに留学し，帰国後弁護士となる。1881年自由党に参加して，反政府活動に活躍。1892年衆議院議員に当選，衆議院議長となったが不信任案で除名された。1896年駐米公使となったが，1898年憲政党内閣成立を聞いて無断で帰国し，憲政党に入党。1900年伊藤博文(いとうひろぶみ)が立憲政友会を結成すると憲政党を解散してこれに参加した。同年第4次伊藤内閣逓相となったが，藩閥勢力の反対にあって辞職し，のち東京市会議長となった。しかし汚職の容疑で非難を浴び，反対派伊庭(いば)想太郎に刺殺された。〔千野境子〕

ほしなまさゆき　【保科正之】　(1611～1672)　江戸初期の大名。会津藩主松平氏の祖。2代将軍秀忠(ひでただ)の妾腹(しょうふく)の子，3代将軍家光(いえみつ)の異母弟。幼名幸松丸。信濃(しなの)(長野県)高遠藩主保科正光の養子となり，1631年(寛永8)藩主，1636年出羽(山形県)二十万石，1643年会津二十三万石の領主となった。1651年(慶安4)家光の遺命により幼少の将軍家綱の補佐となって幕政の安定を図り，殉死の禁など種々の新政策を実施した。両国橋の架橋，玉川上水の開設など江戸の発展にも尽くした。藩主としてもその家臣団の組織，新田開発，社倉・義倉の設置など治績をあげ，

藩祖として名君とうたわれた。また朱子学や神道(しんとう)の熱心な信奉者で，みずから作成した《会津家訓》は，会津藩の基本方針を示したものである。《二程治教録》《会津風土記(ふどき)》などの編著がある。おくり名は土津(はにつ)霊神という。〔岡山泰四〕

ぼしねんきん【母子年金】国民年金法(1959)に基づく醵出制(きょしゅつせい)年金の一。夫の死亡時，18歳未満であるかまたは精神障害や身体障害など，特別の廃疾がある20歳未満の子と生計を同じくする女子に支給される。ただし，夫の死亡当時，夫によって生計を維持していた者に限られ，また所定の保険料納付済期間を満たしていることを要する(国民年金法37条)。母子年金の額は91,200円で，その子のうち1人を除いた子1人につき4,800円が加算される(国民年金法38条・39条1項)。また，一家の生計中心者である男子(夫・子・父・祖父)と死別し，18歳未満の孫または弟妹と生計を同じくしている女子には，準母子年金が母子年金に準じて支給される。➔国民年金 ➔次項〔椿 輝男〕

ぼしふくし【母子福祉】広義には一般家庭の母と子の福祉を意味し，狭義には配偶者のない母とその未成年の子の福祉をいう。通常，後者の意味に解して使用される。母子家庭の母は，生計と子の養育という二重の責任を負い，母子ともに社会的・経済的・精神的に不安定な状態にある。この状態の母子家庭に対して，国家・社会の責任でその生活を援助し，独立自治の障害となるいっさいの問題を除去し，家庭生活と環境をつくることにより，児童の福祉をも増進させるための事業が母子福祉事業である。日本では1938年(昭和13)母子保護法が施行されたが，それ以前でも不十分ながら恤救(じゅっきゅう)規則(1874)・救護法(1929)などによって行なわれていた。しかし1941年母子保護法が(旧)生活保護法に統合されて廃止されたこと，1949年政府による母子福祉対策要綱の決定に伴い，①公的扶助の徹底，②母子居住環境の改善，③生業援護の促進，④母に養育される児童の福祉などが掲げられたこと，母子福祉資金の貸付等に関する法律(1952年制定，翌年実施，母子福祉法制定により廃止)などの対策を経て，1964年7月に母子福祉法が制定された。現在では，さらに児童扶養手当や国民年金法の母子年金*・母子福祉年金*などのいわゆる母子家庭対策が，経済的自立を主旨として行なわれ，総合的施策が講じられている。➔母子福祉法〔椿 輝男〕

ぼしふくしねんきん【母子福祉年金】国民年金*法(1959)に基づく無醵出制(むきょしゅつせい)年金の一。夫の死亡当時，義務教育終了前か，または軽度の精神障害や身体障害など特別の廃疾がある20歳未満の子と生計を同じくする母子年金*受給資格のない女子に支給される。ただし，夫の死亡当時，夫によって生計を維持していたことを要する(国民年金法61条1項)。母子福祉年金の額は28,800円で，その子1人を除く子1人につき4,800円が加算される(国民年金法62条・63条1項)。また，一家の生計中心者である男子(夫・子・父・祖父)と死別し，義務教育終了前の孫または弟妹と生計を同じくしている女子には，準母子福祉年金が母子福祉年金に準じて支給される。〔椿 輝男〕

ぼしふくしほう【母子福祉法】母子家庭の生活の安定とその20歳未満の児童の育成，およびその母の健康で文化的な生活の保障を図ることを目的とする法律。1964年(昭和39)制定。おもな内容は，母子福祉資金の貸付(事業開始資金・事業継続資金・修学資金・技能習得資金・修業資金・就職支度資金・生活資金・住宅資金・転宅資金・就学支度(したく)資金の10種)，福祉事務所*の母子相談員の設置，公共施設内の売店の設置やたばこ小売人の指定の優先的取り扱い，公営住宅入居の特別配慮，雇用の促進，母子福祉センター・母子休養ホームの母子福祉施設の設置(10条・16条・17条・18条・19条・21条)など幅広い母子福祉対策を含んでいる。〔椿 輝男〕

ほしぶどう【干し葡萄】⇨レーズン

ほしみどろ【星味泥】緑藻(りょくそう)類・ホシミドロ科・ホシミドロ属の総称。池沼・水田などの淡水の止水中に生じ，ふつう固まって水中に浮く。一列細胞の糸状体で分枝せず，各細胞に2個の星状の葉緑体がある。生殖は接合による。

ほしむし【星虫】星口動物・ホシムシ科。体長5cm内外で，乳白色を呈する。吻(ふん)の先端に存在する口部の周囲には，触手が放射状に並ぶ。東京湾以西の沿岸や内湾，瀬戸内海などに分布し，潮間帯の砂泥底(さでいてい)に穴を掘ってすむ。

ホジャ［khoja］和卓とも書く。イスラム社会における身分を示す称号の一。元来は17〜19世紀の中央アジア，特に東部のカシュガル方面で神秘主義教団に属するイスラム貴族の称号であった。現代イラン語では身分のある人，富裕な商人を意味し，トルコ共和国のオスマン語では単なる敬称となっている。

ほしゃく【保釈】裁判所が，勾留(こうりゅう)されている被告人を監獄または警察留置場より出所することを認める制度のこと。保釈には，権利保釈(請求保釈)と職権保釈(裁量保釈)がある。権利保釈とは，請求があれば特定の事由のある場合(刑事訴訟法89条に掲げる事由)を除いて，必ず許さなければならない保釈のことで，勾留されている被告人，またはその弁護人・法定代理人・保佐人・配偶者・直系親族・兄弟姉妹の請求により，一定の保証金を納めさせるとともに種々の条件を付して認める保釈のこと。もしその条件を守らなかったり，理由なく出頭に応じなかったときは，保釈は取り消され，保証金を没収する(同法88条以下)。職権保釈とは，裁判所が職権で被告人を保釈する場合である。裁判所は，保釈を許可したり保釈請求を退けたりするときには，検察官の意見を聞かなければならない。なお保釈制度は，被疑者には適用されない。〔井上公耳〕

ボーシャン［André Bauchant］(1873〜1958) フランスの画家。H.ルソー*と並ぶいわゆる素朴(そぼく)派の代表的画家。園芸を本業としたが，46歳のころから独学で絵を描きはじめ，1921年パリの展覧会にはじめて出品。初期には歴史上の主題を好んで扱っていたが，のちには詩情をたたえた風俗画・風景画・静物画を描いた。

ぼしゅうせつりつ【募集設立】発起人が，会社の設立に際して発行する株式総数の一部を引き受け，残余の株式について株主を一般から募集して会社を設立する手続き。発起設立*に対することばであり，実際には，発起設立における裁判所の介入を避けるために，この募集設立の方法により会社を設立することが多い。手続きとしては，発起人による定款の作成，その認証，株式発行事項の決定，株主の募集，応募した者の株式申込証による株式の引き受け，その払い込み，創立総会の招集，そこでの取締役・監査役の選任，会社設立の登記といった経過を経て株式会社が成立する。〔松本治雄〕

ぼしゅうだん【母集団】統計的考察の対象とする観測可能な個体の全体からなる集団。たとえば，わが国の各家庭の家族数を調べるのに，国勢調査などで全家庭について調査する場合と，一部の家庭を抽出して調査する場合とがある。後者の場合でも全体を考察するための資料を得るためである。このように，もとの集団全体(全家庭)が母集団である。これに対して抽出されたものを標本という。

ボシュエ［Jacques Bénigne Bossuet］(1627〜1704) フランスの神学者。ディジョンの生まれ。ルイ14世の太子の教育にあたる。1681年モーの司教となり，すぐれた説教で〈モーの鷲(わし)〉の異名を得た。そのおもかげは《弔辞集》《説教集》によって知られる。1682年，王室顧問としてフランス教会会議を指導，教皇に対抗して絶対王政を弁護し，フランス国家の独立とフランス教会の自由を宣言した。ナントの勅令*の廃止に一役買い，プロテスタントとの連合の可能性を探ってライプニッツ*と交渉した。神秘的寂静主義を徹底して批判し，その立場に立つフェヌロン*との論争でも有名。〔石井忠厚〕

ほしゅしゅぎ【保守主義】保守的意識と広くよばれるものは通常みられる現象である。急激な社会変化を喜ばず，現状維持を固守し伝統を墨守する態度は，安定した社会ならどこにもある自然感情である。こ

とに年齢が高くなるにしたがってこの保守的態度も強固になるのが普通である。人によってはこれを伝統主義とも名づけている。

政治思想の系列からする保守主義は，E.バークを典型とする世界観ないしは一定の行動様式として定型づけられているが，彼はフランス革命のラジカルな変革を批判し，代わりにイギリスの慣習的な国民社会を高く評価した。保守主義ということばは，1818年シャトーブリアンが王党派の機関誌をそうよんだことから始まる。近代的保守主義の成立はバークの影響を強く受けた19世紀初頭のドイツ-ロマン派の思想運動を経て，ことにアダム-ミュラー(1779～1829)を中心としたロマン的保守主義にその方法的成立をみる。その内容は，規範だけで物事を考えるのではなく，流動的な多くの具体的な存在そのものの生きた知識を重視することである。のちにヘーゲルは〈存在するものはそれ自身において理性的なもの〉として，ミュラーの動的思考を受け継ぎ，あらゆる存在は認識可能なのだという社会科学の精神を誕生させた。存在の根拠を確かめようという考え方である。物事を弁別するためにまずその客観的な姿を知ろうという保守主義も生まれた。➔急進主義

〔溝口　潔〕

ぼじゅつのへんぽう【戊戌の変法】 中国，清朝(しんちょう)を立憲君主制に改革しようとした運動。1898年(戊戌の年)，光緒帝(こうちょてい)の〈国是を明らかに定める詔勅〉に始まり，光緒帝の幽閉，西太后の訓政復活で終わる。康有為・梁啓超(りょうけいちょう)ら変法自強運動(洋務運動に対し，国政改革による自強が必要であるとする運動)を唱えていた漢人官僚が列強の帝国主義的侵略による国土分割の危機を救うため，明治維新にならって上からの改革を図り，科挙の廃止，軍隊の近代化などを定めた61の詔勅が発布された。〈百日維新〉〈百日改革〉ともいう。

〔勝村哲也〕

ほしゅとう【保守党】 イギリスの政党。1832年の選挙法改正以降，トーリー党の後身として地主・貴族の利害を代表した。1846年穀物法改正をめぐりピール派が離脱してのち，ディズレーリのもとで自由党との間に二大政党対立の議会政治を展開した。1886年J.チェンバレンの自由統一党が参加。1905年までソールズベリ・バルフォアらのもとで保守党政府が続いた。1915～1922年には自由党との連立政権を形成し，その後も短い期間を除いて1945年までボナー-ロウ・ボールドウィン・N.チェンバレン・チャーチルらが政権の座にあった。第2次世界大戦後は1951年にチャーチルが復帰し，以後イーデン・マクミラン・ヒュームと保守党政権が続いた。今日，労働党と交互に政権を担当している。

〔板橋重夫〕

ほしょう【保証】 主たる債務者がその債務を履行しない場合に，その履行をなすことによって主たる債務を担保することを内容とする債権者と保証人との契約をいう。保証債務(保証契約によって保証人の負う債務のことで，従たる債務ともいわれる)は，主たる債務を担保することが目的であるから，次のような性質を有する。①付従性といわれるもので，主たる債務が存在しなければ保証債務は存在せず，主たる債務が変更・取り消し・消滅すれば保証債務もその変更・取り消し・消滅の原因となる。また，保証債務はその目的または態様において，主たる債務より重くすることはできない(民法448条)。②随伴性といわれるもので，主たる債務が移転するときは保証債務も移転する。③補充性といわれるもので，保証債務は主たる債務が履行されない場合にのみ，その補充として履行される債務である。保証債務は一般に保証人と債権者との契約によって成立するが，保証人となりうる者の資格については制限がない。ただし，法律上または契約上保証人を立てる義務を負う場合には，能力者であり，かつ弁済の資力を有する者を保証人としなければならない(民法450条)。債権者が保証人に対して債務の履行を請求してきた場合には，保証人はその保証債務の補充性によって，債権者に対して〈催告の抗弁権〉(まず主たる債務者に債務の履行を請求せよと主張しうる抗弁権)と〈検索の抗弁権〉(まず主たる債務者の財産に執行せよと主張しうる抗弁権)を行使することができる(民法452・453条)。連帯保証の場合は補充性を有しないため，この両抗弁権がないことに注意を要する。また，保証債務の付従性から，保証人は主たる債務者の債権者に有する債権をもって相殺することができるとともに，逆に債権者の主たる債務者に対してなした履行の請求，その他時効の中断などは保証人に対してもその効力を生ずる(民法457条)。保証人のなした保証債務の履行は債権者に対する関係においては自己の債務を弁済したものであるが，債務者に対する関係においては他人の債務を弁済したものであるから，保証人はその主たる債務者に対して当然求償権を取得することになる。しかし，その求償権の法的性質および範囲は，保証人と債務者との関係によって異なる。

〔黒木三郎〕

ほしょうじゅんび【保証準備】 ⇨正貨⇨発券制度

ほしょうてん【補償点】 有機物の合成反応である光合成と分解反応である呼吸とがつり合い，二酸化炭素および酸素の吸収・放出が見かけ上0となったとき，その光の強さを補償点という。水中ではこのときの水深を補償深度という。陽生植物(陽生植物プランクトンを含む)の補償点はより明るい側(800～2,000ルクス)にあり，陰生型のものでは暗い側(300～1,000ルクス)へずれてくる。これらの光強度は，日射の1～5％程度の明るさとみなせる。自然条件のもとで植物が生長を続けるには，長期にわたって光合成量が呼吸量を上回らなければならない。日中の光合成と呼吸のつり合いだけでは，夜間の呼吸をまかなえず，それだけ余分に光合成を行なう光強度が必要とされる。このような1日を単位とするつり合いは，補償点より明るい側にあり，これを日補償点とよぶ。樹冠下層の葉では，上層の葉の増量とともに呼吸が光合成を上回るようになり，やがて落葉する。水中では，日補償深度よりも浅層を有光層(生産層)，深層を無光層(分解層)といっている。

〔船越真樹〕

ほしょうほけん【保証保険】 債務不履行によってこうむる債権者の損害を塡補(てんぽ)する保険。つまり売買・雇用・請負・貸借などの契約において，債務者・請負人・使用人などの債務不履行につき，注文主・雇い主・貸し主などの備えのための保険。

ほしょうれい【蒲松齢】(1640～1715) 中国，清(しん)代の文人。山東の人。明(みん)王朝滅亡の動乱期に成人し，貧しい家庭環境の中で官吏登用試験に及第して官界に出ることを夢見て一生試験を受け続けたが，ついに不遇に終わった。しかし，文語体の短編小説集《聊斎志異(りょうさいしい)》をはじめ，多くの民衆日用の通俗読み物を残した。また，長編小説《醒世姻縁伝(せいせいいんねんでん)》もその作だという説がある。

ほじょかへい【補助貨幣】 本位貨幣の補助の役目をする貨幣。小額面の取引の便宜を図るための政府硬貨をいい，その素材価値は額面価値よりも低い。現在，わが国で流通しているものは1円・5円・10円・50円・100円貨。なお，オリンピック記念貨の1,000円貨が発行されている。

ほじょきん【補助金】 国または地方公共団体が，地方公共団体または民間事業に対し，行政上のある目的のために交付する金銭をいう。この意味での補助金は，法令上つねに補助金とよばれるとは限らず，奨励金・助成金・補給金・給付金・交付金・負担金などとよばれることもある。補助金の交付の対象となる事業は補助事業といわれ，公益的事業の場合もあれば，農林水産業の場合もあり，また一般の営利事業の場合もある。いずれにしても，補助金は国・地方公共団体が直接反対給付を求めることなく支出する公金であるから，その使途については法律によって適正化が強く要請されている。

〔西野義彦〕

ほしょく【補色】 余色ともいう。適当な割合で混ぜ合わせた二つの光の混合色が白・灰・黒のような無彩色になるような二つの光。補色はあらゆる有彩色にあるのでその組み合わせは無数にある。その二つの色光のスペクトル組成をみると，一方に現われるスペクトルは他方では欠けている。色環上の相対する2色が補色となるように配列したものを補色色環という。マンセル

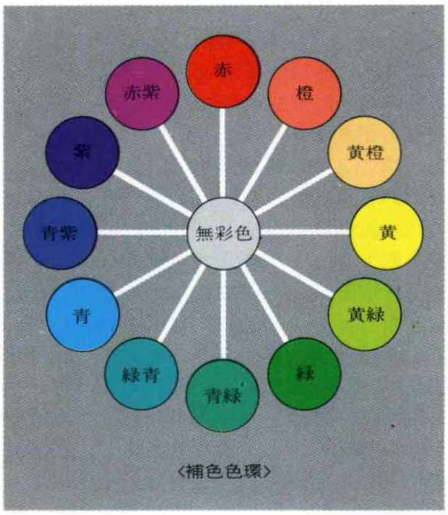
表色系・オストワルド表色系は色相がだいたい補色色環になっている。また色を見る場合，単独で見ることはほとんどなく，周囲の色との比較で見ることが多い。この場合，色の見え方が変わるもので，色の対比とよぶ。色の対比は三属性に関係があり，それぞれ特有の効果を示す。色相対比で特に補色どうしの場合(補色対比)には互いの彩度は大きくなり，いっそうあざやかに見える。このような効果をねらうことを補色効果という。➔色　〔中山忠巳〕

ぼしりょう　**【母子寮】**　児童福祉法(1947年公布，翌年施行)に基づく児童福祉施設の一。配偶者のない女子，またはこれに準ずる事情にある女子(配偶者との間に離婚・行方(ゆくえ)不明・遺棄などの関係にある女子)と，その者の監護すべき児童(18歳未満)を入所させて保護する施設。しかし単なる宿所提供の施設ではなく，児童の福祉を保障するのが目的であり，寮母による生活指導と嘱託医による保健指導が行なわれている。また，乳児は近くの保育所か寮内の保育室などを利用して保育し，少年20人以上の場合には指導員がつくほか，母親には職業指導も行なう。1971年(昭和46)現在の施設数は507で，6,773世帯が入寮している。なお，入所措置の事務は福祉事務所*で行なっている。　〔松島　浄〕

ぼしん　**【母神】**　⇨母子神

ぼしんしょうしょ　**【戊申詔書】**　1908年(明治41)(戊申の年)10月13日に発布された詔書。日露戦争後の経済不況，対外関係の悪化を背景に，社会的・思想的混乱が生じたのに対して，その矯正(きょうせい)，天皇制国家機構の高揚を目的として出され，以後教育勅語*とともに道徳教育の基準とされた。

ぼしんせんそう　**【戊辰戦争】**　明治維新の際，薩摩(さつま)・長州2藩を中核とする政府軍と旧幕府軍が各地で交戦した戦争の総称。1868年(慶応4・明治1)が戊辰(つちのえたつ)の年にあたるのでこの名称がつけられた。薩長討幕勢力の挑発(ちょうはつ)に憤激した江戸幕府15代将軍徳川慶喜*(よしのぶ)は，1868年1月京都に進撃，ここに戊辰戦争が開始された。しかし鳥羽(とば)・伏見の戦い*で薩長軍に敗れ，慶喜は江戸に帰って恭順の意を表した。同年4月政府軍は江戸城を接収，5月には江戸上野に拠(よ)る彰義隊*を即日鎮圧した。続いて会津・仙台(せんだい)・米沢(よねざわ)などの東北諸藩は奥羽越列藩同盟*を結んで政府軍と抗戦したが，各戦線で敗れて順次降伏し，9月中心となった会津藩の降伏によって東北地方は平定された(➔会津戦争)。また旧幕府の海軍を率いて函館(はこだて)に拠っていた榎本武揚*(えのもとたけあき)の軍も，1869年5月政府軍の猛攻に屈して降伏(➔箱館戦争)，ここに戊辰戦争は終結した。以後幕藩体制は急速に解体して近代的統一国家の形成へ歩を進めた。　〔高崎德次〕

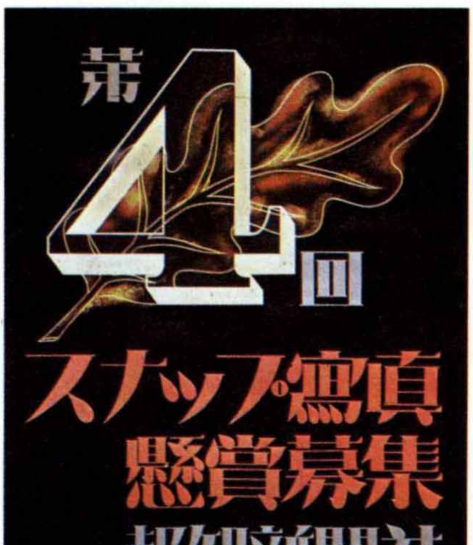


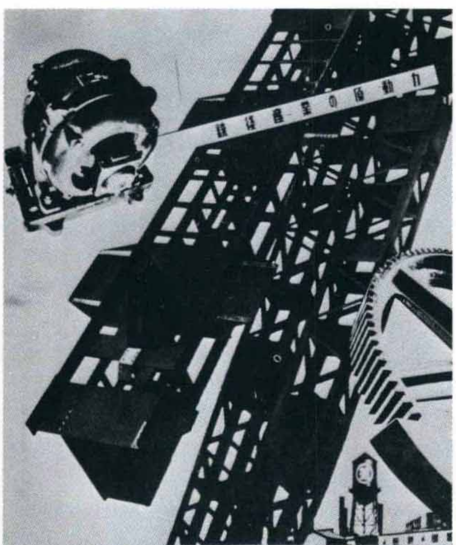
補　色

ホスゲン　[phosgene]　$COCl_2$　塩化カルボニルともいう。活性炭などの触媒存在下で，一酸化炭素と塩素ガスを熱するか，四塩化炭素を発煙硫酸と処理して得られる。無色のきわめて有毒な気体。第1次世界大戦中窒息性の毒ガスとして用いられた。空気などで薄められると干し草を思わせる臭気となる。目を強く刺激し，吸入により催涙，呼吸困難などの症状を呈し，多量に吸入した場合は致死性の肺水腫(はいすいしゅ)を起こす。ポリウレタンや染料の合成原料として使われる。　〔石戸良治・荒木洋之助〕

ポスター　[poster]　ポスト(柱)にはる，告示するという意味から成立した語である。ポスターの前身ともいえるものは，中世の国家・教会が発行した〈告示〉に類する文字だけの貼(は)り札(木版刷り)であった。近代におけるポスターは，19世紀の初めロートレック・ボナール・ビヤールらの参加によって幕が開かれた。特にロートレックは，日本の浮世絵版画の技法によって制作した。わが国のポスターの前身ともいえるものは江戸後期の木版刷りの〈絵ビラ〉である。これは見せ物や寄席(よせ)の芸能ポスターに類するもので，町の辻(つじ)々や床屋・湯屋にはり出された。観客動員のための広告のはじまりといえよう。その最盛期は明治初期から中期ごろまでで，以後は石版印刷に押されて衰微した。〈絵ビラ〉の秀作として落語家三遊亭万橘(さんゆうていばんきつ)の《ヘラヘラ坊万橘》(➔デザイン［写］)がある。大正期にはいると，商工業の躍進的な成長とともに印刷技術(平版)も向上・発展し，量産性のない石版印刷は退潮した。商業美術としてのポスターの役割もしだいに社会の注目を浴びるようになったが，このころのポスターのモチーフは画家の手になる絵画主義の〈真に迫る〉色刷り美人ポスターであった。こうした風潮に近代的な洋風スタイルを導入し，新風を吹き込んだのが杉浦(すぎうら)非水である。その後，第1次世界大戦後グロピウスが創立したバウハウス*からのデザインの波は，わが国にも訪れ，原弘(ひろし)・亀倉(かめくら)雄策らに深く投影した。バウハウス流の写真モンタージュ理論をポスターに試みた亀倉雄策の作品の登場は，きわめて記念的であった。これは，写真とデザインの交流を実証し，現代性の認識と確認を与えたともいえる。しかし，不幸なことに太平洋戦争への突入によってポスターは戦争協力のために大きな役割を負わされた。なお，終戦後，復興した産業界の要請によって，デザイン界も息を吹き返し，現在の盛況をみせるに至っている。　〔伊藤幸作〕

ポスト　[post]　郵便ポストともいわれ，





ポスター　(左)原弘　1930　(右)亀倉雄策　1938

正式には郵便差出箱という。郵便物を差し出す場合，大別すると，郵便差出箱に差し入れる方法と郵便局へ差し出す方法との二つがある。郵便差出箱に差し入れることができる郵便物は，普通取り扱いの通常郵便物，書留としない速達郵便物，年賀特別郵便物などで，小包や特殊取り扱いのものなどは郵便局の窓口に差し出す。郵便差出箱は，局前・切手売りさばき所前とか，その他利用の多い箇所に設置されており，毎日定時に集配局に取り集められ，所定の処理が行なわれる。郵便差出箱の形状は柱形・箱形があり，1901年(明治34)赤色円形の鉄製柱箱が設置された。1956年(昭和31)からは速達専用ポスト(青色)が，また1958年からは配達郵便物が多すぎて一度に携行できない地域に，前送保管する箱を兼ねたポストが現われ，さらに1962年からは差し出しの際，方面別に区分できる，いわゆる方面別ポストが登場した。このほか，私設郵便差出箱の制度がある。〔高橋譲二〕

ボストーク ［Vostok］ ソ連の初期の人間衛星船。ボストーク1号は1961年4月12日ガガーリン*少佐を乗せて地球を1周，1時間48分後に回収され，人類最初の宇宙飛行を行なった。全重量4.7t，上部に脱出カプセルのある前部の船室と後部の機械室とからなる。2号は1961年8月チトフ少佐を乗せて地球を17周し，その1年後3・4号が同伴飛行を行ない，5号は地球を81周し，2日後別の軌道に打ち上げられた6号には女性宇宙飛行士テレシコワ大尉が乗り，両船は5kmまで接近してすれ違った。このあと，2～3人乗りのボスホード*シリーズに移行した。〔原田三夫〕

ボストン ［Boston］ アメリカ合衆国，マサチューセッツ州の州都。人口63万7,000，大ボストン275万4,000(1975)。マサチューセッツ湾に臨む自然の良港をもつニューイングランド地方の主要港湾都市である。印刷・出版業，衣服・綿花・皮製品工業，電気製品工業が盛んで，合衆国最大の羊毛の取引をなし，漁獲物の取引も世界有数である。おもに石炭・綿花・羊毛・皮などの原料品を輸入し，輸出は軽工業生産品が大部分を占める。1630年清教徒の移住者によって集落が築かれ，その移住者の一部がイギリスのボストンから来たことからその名を都市名とした。1773年12月には独立戦争の導火線となった〈ボストン茶会事件*〉が発生するなど，合衆国における歴史的都市の一つである。ニューイングランド地方の文化の中心地で，ボストン美術館，1636年創設された合衆国最古のハーバード大学，マサチューセッツ工科大学がある。鉄道は放射状に各地に延び，国内・国際航路と結ぶ空港がある。〔椙村大彬〕

ボストンこうきょうがくだん 【ボストン交響楽団】 アメリカ合衆国の代表的なオーケストラ。1881年に銀行家ヒギンスンの財政的な援助で創立され，ニキシュ*(1889～1893)・ムック(1906～1908，1912～1918)・モントー*(1918～1924)らによって発展，次いでクーセビツキー*(1924～1949)の手で第一級の存在となった。そのあとはミュンシュ*(1949～1963)やラインスドルフ(1963～)が指揮者として活躍した。1960年に来日。なお，アーサー - フィードラーによるボストン - ポップス管弦楽団の名で，夏季のポップス - コンサートなどでも活動している。〔向坂正久〕

ボストンちゃかいじけん 【ボストン茶会事件】 アメリカ独立革命*の原因となった1773年の事件。七年戦争*後重商主義政策を強めたイギリスは北アメリカ植民地に対して茶条例*を制定したが，植民地はこれに強く反対，特にボストンでは東インド会社の茶の陸揚げを拒否する決議が人民集会で採択された。マサチューセッツ総督トーマス - ハッチンスンが茶の陸揚げを強行せんとするや，サミュエル - アダムズ*やジョン - ハンコックら〈自由のむすこたち〉がインディアンに変装して12月16日夜同社の茶船3隻を急襲，15,000ポンド(90,000ドル)の茶を海中に投じた。このためイギリスは態度を硬化させ，ボストン港湾条例のほか強圧的諸条例を翌年制定したが，その結果アメリカ植民地人の間に独立の気運が強まった。〔折井一彦〕

ボストン - マラソン 毎年4月19日にアメリカ合衆国のボストン～ホプキントン間(マサチューセッツ州)で行なわれるマラソン - レース。オリンピックを除くと，世界で最も古いレースであり，第1回は1897年に開かれ，1972年まで76回を数える。マサチューセッツ州では4月19日は〈愛国者の日〉とよぶ記念日で，マラソンもその記念事業の一つとして行なわれ，また東部海岸一帯の迎春行事ともなっており，参加者の多いこと，コースに折り返しがなく，心臓破りの丘があることなどで有名。日本の初参加は1951年(昭和26)で，〈原爆の子〉田中茂樹(しげき)が初優勝した。〔伊東春雄〕

ポズナニ ［Poznań］ ポーランド西部，バルタ川沿いの工業都市。人口47万6,000(1971)。機械製造と農産加工が盛ん。1922年以来毎春開かれる国際見本市でも名高い。スラブの最古の集落の一つで，10世紀にはポーランド最初の司教が置かれ，この国の文化の中心となった。17世紀初頭には人口30,000をこえ繁栄したが，以後スラブとプロシアの紛争の地となり，衰えた。ポズナニ事件*で有名。

ポズナニじけん 【ポズナニ事件】 1956年6月ポーランドのポズナニ市で起こった労働者・市民の暴動。人民民主主義革命後ポーランドでは急速な工業化が国民の生活水準を低下させ，それによって大衆の不満がソ連でのスターリン批判を機に爆発したもの。暴動はポーランド軍の出動で鎮圧されたが，ポーランド統一労働者党は党に責任があることを自己批判し，10月の党第8回中央委員会総会でゴムルカを第一書記に選び，過去の誤りの清算と民主主義保障のために必要な措置をとった。〔山県弘志〕

ボスニア(湾) ［Bothnia］ ヨーロッパ北部，フィンランドとスウェーデンにはさまれたバルト海の支湾で，湾口にオーランド諸島がある。冬季3～6か月間結氷し，湾奥のルレオ港(スウェーデン)は付近で産する鉄鉱石の積み出し港であるが，凍結期には北極海に面するノルウェーのナルビク港が利用される。ニシン・サケ・カマスなどの漁業が行なわれる。

ホスピタリズム ［hospitalism］ 施設障害ともいう。乳児院*・病院その他の保育施設に収容されることが原因となって，子どもの身体や精神の発達状態に障害を生ずること。古く乳幼児の疾病(しっぺい)治療に際し，病院に入院させると，家庭で治療する場合よりも経過が悪いことが，ドイツの小児科医によって指摘され，この名がつけられた。

【原因・症状】 ①他の保育児からの感染や養護の不適によって罹病(りびょう)率が高い。②人工栄養児であり，養護不足によって運動が不足し，罹病率が高いために，身体発育が不良である。③古くは死亡率がきわめて高かった。④精神・情緒の発達に障害がある。すなわち言語の発達も非常におそく，特に情緒については，古くから施設児は憂鬱(ゆううつ)的・内向的で積極性がなく，逃避的行動や退行的行動が現われ，ゆがんだ性格を示すことが指摘されてきた。精神や情緒の発達障害の原因としては次のような点があげられる。子ども(特に生後3年間)の人格形成には，家庭における母子の皮膚接触による愛情の交流が重要とされる。この時期に母から離され，保育者の手不足な集団保育をされるので，人格形成にゆがみが生じてくる。また保育者との会話の機会も少ないために，言語の発達も遅れることになる。なお，家庭内でも母親の養護に不足があれば，施設児と同様な発達障害がみられる。最近では，母親の就労のために，保育所や乳児預かり所に預けられる結果，ホスピタリズムになる事例が多くなっている。

【予防法】 母親はできるだけ施設に入れたり，保育所に預けたりしないで保育を行なうほうが望ましい。また施設では，保育者1人あたりの保育児数をできるだけ少なくして，子どもの欲求を満足させることがたいせつである。〔宇留野勝正〕

ボスホード ［Voskhod］ ソ連の衛星船。ボストーク*の次の段階の衛星船で，重さは約6tと推測されている。ボスホード1号は1964年10月，2号は1965年3月に打ち上げられた。1号では3人の乗船を達成し，2号では，乗員レオノフが10分間の史上最初の宇宙遊泳を行なった。

ボスポラス(海峡) ［Bosporus］ バル

カン半島南東部と小アジア西北部の間にある海峡。最狭部は800m，長さは30km。北東は黒海へ，南西はマルマラ海・ダーダネルス海峡を経てエーゲ海に通ずる。海峡の両側とも15世紀以来トルコ領であるが，黒海と地中海を結ぶ要衝であるため，黒海に臨む国の間で航行権をめぐる紛争が絶えなかった。現在は軍艦以外は自由に通行できる。バルカン半島側にあるイスタンブールと小アジア側にあるユスキュダルとの間を結ぶユーラシア大橋の架橋計画がトルコ政府によって進められている。〔長津一郎〕

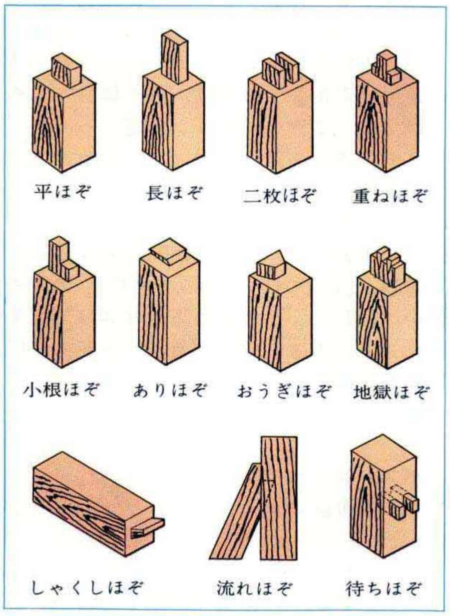
ほぜいせいど【保税制度】 関税*がかけられる外来物資に対し，一定地域にある間，一定期間，課税が保留されることをいう。関税制度に対する一種の緩和策で，仲継ぎ貿易*や加工貿易を奨励する目的をもっている。この特典のある場所が保税地域で，①貨物の通関*手続きを行なう間，一時の保管や処理に使われる保税上屋(うわや)，野積み場や貯水池などの屋外施設，②外国貨物の積みおろし・仮置き・荷さばきなどのできる指定保税地域，③産業や貿易の振興を目的として，長期の保管を認める保税倉庫，④同じ目的から輸出のための製造・加工を認めている保税工場がある。保税期間は，上屋は1か月，倉庫は2か年。〔上坂酉三〕

ポセイドン [Poseidon] ギリシア神話の海の主神。また地震とウマの神。クロノスとレアの子。ゼウスの兄(または弟)。彼は海や大地をときにゆるがせ，ときにしずめる三叉(みつまた)の矛(ほこ)を手にし馬車をかる男神とされ，しばしば粗暴な男や怪物の父とされる。トロヤの城壁をアポロンとともにつくったが報われなかったので，《イリアス*》では終始ギリシア方に味方した。《オデュッセイア*》ではむすこキュクロプスのポリュペモスを盲にされたので，主人公の帰還の邪魔をし，破滅をはかっている。〔左中庸博〕

ほせいよさん【補正予算】 予算作成後において，さまざまな事情によって，予算を変更しなければならない場合にとられる予算手続きを補正予算という。1962年(昭和37)の財政法改正で，かつての追加予算と修正予算とを合わせて，法令上これを補正予算とよぶことになった。補正予算が認められるのは，①予算作成後に生じた事由に基づいて，特に緊要な経費もしくは国庫債務負担行為の金額を増加しなければならない場合，②法律上もしくは契約上，国の義務となっている経費に不足が生じた場合などである。公務員給与および食糧管理特別会計*への追加繰り入れなどが，年々の予算補正のおもな要因となってきたが，1968年度からは，このような恒例的な予算補正を必要としないように，当初予算の段階でこれらを勘案して編成するという総合予算主義のたてまえをとることになった。〔西野義彦〕



ポセイドン アテネ国立考古博物館蔵



枘 用いる部位によって種類が多い

ほせん【保線】 列車の運転に支障のないように，線路・建造物・付帯用地・保安設備を常時保守・管理する業務。内容から次の二つに大別できる。①線路の保守：直接に線路を維持・修繕する作業を行なう。寿命のきた軌道の材料を交換したり，軌条の狂いなどを修正したりする作業のほか，線路用地を管理する作業も含まれる。②建造物の保守：橋梁(きょうりょう)・トンネルなど線路に付帯する特殊な構造物の簡単な手入れや破損箇所の修繕などを行なう。これらのほかに，雪国における除雪，山岳地帯における落石警戒や災害の防止・復旧なども保線の重要な業務である。鉄道では，保線区・工事区・機械軌道区などの現業機関が保線を担当しており，近年は作業の機械化が進んでいる。〔宍塚正幸〕

ぼせんしきぎょぎょう【母船式漁業】 付属漁船を伴った母船を中心として，長期間洋上にあり，陸上に依存しないで営むことのできる漁業形態。付属漁船を最大限に稼働(かどう)させ，母船は新鮮な漁獲物を早期に処理加工するので，陸上基地を求めにくい遠洋漁業において行なわれる。近代的な工船漁業としての出現は，わが国では1921年(大正10)のカニ母船式漁業，外国では1924年のノルウェーの母船式捕鯨(南氷洋)がその初めである。現在はわが国ではサケ・マス(→サケ-マス漁業)，マグロ・クジラ(→捕鯨)・カニ(→カニ工船)や底魚(外国ではクジラ・カニなど)を対象とし，海洋の漁業の中で最も大規模な組織と生産力を有している。

一般に1母船に対して，キャッチャーボート*数隻ないし10数隻と専属の運搬船(仲積み船)で船団を構成する。母船は，洋上の基地として，加工・冷蔵設備をもち，漁獲物の処理加工のほか，飲料水・食料品その他の必要品の供給や漁船員のレクリエーションの場を提供することなどを主要な任務とする。運搬船は，母船で処理された漁獲物やその製品を内地や輸出先の外国の港に送り届け，再び漁場に向かう際には，船団あての郵便物や生活必需品の運搬にあたる。〔石野　誠〕

ほぜんしょぶん【保全処分】 民事訴訟において，勝訴判決が出た場合の強制執行*が実効をもつようにあらかじめする仮の処分，および判決による権利関係の確定に先だって，当事者間の現在の権利関係を仮に定める処分。訴訟では，当事者間の権利関係について，厳格な手続きで慎重に審理判断するが，その反面判決が確定するまでには長い日数がかかる。その間に強制執行の対象となるべき財産や争いの対象となっている財産が，他に移転されたり現状を変更されると，のちに勝訴判決を得ても，強制執行が効を奏さなくなる。そこで強制執行の目的物の仮差し押え(民事訴訟法737条)や係争物に対する種々の仮処分(同法755条)がなされる。また，判決による権利の確定を待っていたのでは，当事者のこうむる損害が大きい場合などには損害を防止するため当事者間の権利関係を仮に定める仮処分(同法760条)がなされる(たとえば，解雇の効力を争う訴訟において，判決が出るまでの被解雇者の生活を保証するためになされる賃金仮払いを命ずる仮処分など)。なお，保全処分の審理には，その性質上迅速性が要求されるので，事実については疎明で足りることになっている。〔内田剛弘〕

ほぞ【枘】 材の継ぎ手に用いるために，木・石・金物などの端部につくりだした突起。ほぞをはめる他材の穴をほぞ穴という。木構造で梁(はり)・柱や土台の出隅(でずみ)につくられ，建具・家具などにも用いられる。元来，日本建築の金物を用いない接合形式として行なわれてきたが，現在では多くの場合，塼(せん)・くさびおよび金物による補強が施される。

ほそいこうたく【細井広沢】 (1658～1735) 江戸中期の書家。遠江(とおとうみ)(静岡県)の人。名は知慎。諸芸をよくしたが，とりわけ書は最も巧みであった。北島雪山に

明(みん)の文徴明*の書法を学び，唐様(からよう)を流行させた。篆書(てんしょ)・隷書・楷書(かいしょ)・行書・草書の5体をよくし，また，書に関する著述も多い。

ほそいへいしゅう 【細井平洲】(1728～1801) 江戸中期の儒学者。尾張(愛知県)の人。10歳のとき師について諸学を学び，16歳から21歳まで京都・長崎に遊学し，特に儒学を修めた。25歳のとき江戸で塾(じゅく)を開き名声を得，米沢(よねざわ)藩・尾張藩に招かれた。彼の学問は広範で，儒学にとどまらず，中国語を学び，またオランダ文化にも触れたという。著書《詩経古伝》《平洲小語》など多数。

ほそう 【舗装】 路面を，快適・安全に通行できるように保護強化する路面構造物。アスファルト舗装・コンクリート舗装およびブロック舗装に大別される。構造としては，表層部とその下にある路盤からなる。表層部は，アスファルト舗装ではアスファルトと骨材との混合物，コンクリート舗装ではコンクリート版である。また，ブロック舗装では種々のブロックにあたる。路盤は，一般にじゃり・砕石などを締め固めたもの，あるいはセメントやアスファルト，またはタールで安定処理した材料などでつくられる。舗装の全厚は路盤と表層部の合計厚さのことで，表層部の厚さは舗装の種類と交通量から決められ，あまり大きな差はなくだいたい5～25cmで，路盤の厚さは交通量と路床支持力の二つによって決定する。その厚さは種々の条件によりかなりの相違があり，10～80cmもの幅がある。路盤は表層部から伝達される荷重を広く分散させて支持力の小さい路床の変形や破壊を防ぐとともに，表層部を均一に支持する役目をもち，質と厚さが十分でないと良好な表層部をつくっても短期間に破壊する。表層部は交通による摩耗や荷重に十分に耐えかつ不透水性にして下層の路盤・路床を浸透水による軟化作用から保護しなければならない。また，凍結融解やその他きびしい気象作用に対する強い抵抗力が要求される。

〈アスファルト舗装〉 表層部は表層と基層とからなり，それぞれアスファルト混合物でつくられるが，多少材料が異なっている。アスファルト混合物は，一般にアスファルトプラントで粗骨材(砕石)・細骨材(砂)・石粉およびアスファルトをそれぞれ150℃前後に加熱してからミキサーで混合してつくるので，加熱混合物ともいわれる。これをさめないように現場に運び，アスファルトフィニッシャーなどの機械で均一に敷きならし，次にローラーで十分に締め固めるのが標準工法である。これに対しアスファルト量をやや多くし，高温時の流動性を利用して流し込んで平らにならすようなグースアスファルトというものや，アスファルト中にゴムを3～5%混合して性質を改良したゴムアスファルトを用いるなど，特殊なものがいくつかある。アスファルト舗装は高速道路用の高級のものから簡易舗装まで広く用いられ，全舗装の約90%を占めている。これは同じ程度の他種の舗装に比較して低廉で施工速度が速く，修理が容易であるなどの利点をもつためである。アスファルトとタールを用いる舗装を一括して瀝青舗装ともいう。また，これらの表層部はたわみ性が他の舗装法より大きいのでたわみ性舗装ともいう。

〈コンクリート舗装〉 厚さ20～25cmのコンクリート版を表層部に用いるもので，版自身のたわみは非常に少ないので剛性舗装ともいわれ，アスファルト舗装とつねに優劣が比較される舗装の一方の代表であるが，現在わが国ではかなり少ない。コンクリート舗装は，温度変化などによる膨張・収縮の際に生ずる破壊力を軽減するために，版を縦・横に切って目地をつくる必要がある。これは手間がかかるうえに版の弱点にもなる。このため目地をなるべく少なくするようなくふうがなされており，プレストレスを入れたPSコンクリート舗装では，数百メートル無目地のものもある。コンクリート舗装は，色が白く光の反射率が高く明るいうえ，温度変化が少ないため目地が特に必要ないことなどから，トンネル内の舗装に適している。

〈ブロック舗装〉 現在はほとんど歩道や広場などだけに用いられ，車道部には以前つくったものがわずかに残っている。ブロックの種類にはれんが・石(小舗石という)・アスファルトブロック・コンクリートブロック，木のブロックなどがある。これらのブロックを種々の配列形式に基づいて1層に配列し，各ブロックの目地にはアスファルト・セメントモルタルあるいは砂で充塡(じゅうてん)する。ブロック舗装は施工に手間がかかるうえ，平坦(へいたん)性に劣るので，現在の車道には適さないが，小舗石やれんがなどは配列の形式などにより美しい模様が構成できるので広場などの舗装にかなり用いられている。〔森　麟〕

ほそかみきり 【細天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長20～32mm。体は細長く，赤かっ色ないし黒かっ色で，全面に灰黄白色の微毛が密生する。触角は体長よりも長く，第1節は太く，第3節以下の各節に長い黒色の縁毛がある。鞘翅は先端に向かってしだいに細まる。日本全土のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国・シベリア東部などに広く分布する普通種で，成虫は6～9月に出現し，燈火にもよく飛来する。幼虫は，クヌギの朽ち木に寄生する。

ほそかわかつもと 【細川勝元】(1430～1473) 室町中期の守護大名。父は持之(もちゆき)。法名龍安寺(りょうあんじ)宗宝。1445年(文安2)管領(かんれい)，のち1452年(享徳1)，1468年(応仁2)にも管領となった。応仁(おうにん)の乱*には将軍義政(よしまさ)および後土御門(ごつちみかど)天皇を奉じ，東軍の領袖(りょうしゅう)として西軍の山名持豊(宗全)と争ったが，決着をみずに没した。禅に傾倒して龍安寺・龍興寺を建てた。

ほそかわがみ 【細川紙】 埼玉県比企郡小川町付近で江戸初期からすかれていた楮皮(こうぞかわ)製の強靱(きょうじん)な紙。用途は古くは帳簿用であったが，今日では記録用・和本用など。細川の名称は高野山下の和歌山県伊都(いと)郡細川の奉書を範としたのに由来する。



細川ガラシヤ
堂本印象筆

ほそかわガラシヤ 【細川ガラシヤ】(1563～1600) 細川忠興*(ただおき)の夫人。明智光秀*(あけちみつひで)の3女。本名玉。織田信長(のぶなが)の命によって忠興に嫁し，3子を生んだ。本能寺の変*により，一時離縁されたが，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に許されて復縁した。1587年(天正15)高山右近*の影響でキリスト教徒となり，ガラシヤの洗礼名を得た。関ケ原の役*のとき，忠興が徳川方に属したので，石田三成*はガラシヤを人質として大阪城にはいることを強要したが，ガラシヤは承知せず自殺したという。〔岡山泰四〕

ほそかわし 【細川氏】 清和源氏。足利(あしかが)氏の支族。足利義季(よしすえ)が三河(みかわ)(愛知県)額田(ぬかた)郡細川郷に住み，細川を姓としたのに始まる。足利尊氏(たかうじ)の挙兵の際，和氏(かずうじ)・頼春(よりはる)・顕氏(あきうじ)らがこれに従って軍功を立て，これにより讃岐(さぬき)(香川県)・阿波(あわ)(徳島県)・淡路(兵庫県)・和泉(いずみ)(大阪府)などの守護となり，1367年(正平22・貞治6)頼之(よりゆき)以降管領*(かんれい)に任じて室町幕府の重鎮となった。応仁(おうにん)の乱*後著しく勢力を失ったが，織田・豊臣(とよとみ)氏に仕えた支流の藤孝(ふじたか)(細川幽斎*)・忠興*(ただおき)父子が家名を再興，丹後(京都府)のち豊前(ぶぜん)(大分県)，次いで肥後(ひご)(熊本県)に移封された。以後，有力外様(とざま)大名として明治維新に至り，侯爵に叙された。〔村尾元忠〕

ほそかわしげかた 【細川重賢】(1718～1785) 江戸中期の熊本藩主。民部・主馬(しゅめ)と称し，諱(いみな)は紀雄(のりたか)。4代藩主宣紀(のぶのり)の子。5代藩主の兄宗孝(むねたか)の養子となり，1747年(延享4)襲封。9代将軍家重の重の字を与えられて重賢と改名。藩財政を立て直すため，みずから倹

約を実行し，検地*を行ない，球磨(くま)川の治水，養蚕・植林の奨励，租税の軽減などの諸政策を実施して藩政を刷新し，領民を益するところ多く，宝暦の改革とよばれた。また熊本城内に藩校時習館*を建てたほか，医学寮再春館，演武場の設置など，文武を奨励した。紀伊(きい)藩主徳川治貞(はるさだ)とともに名君の聞こえ高く，紀州の麒麟(きりん)，肥後の鳳凰(ほうおう)と並称された。世に銀台公という。〔岡山泰四〕

ほそかわただおき【細川忠興】(1563～1645) 安土桃山・江戸初期の武将。幼名千代丸，通称与一郎。父は藤孝(ふじたか)(幽斎)。京都の生まれ。細川輝経(てるつね)の養子となり，室町幕府の大外様衆(おおとざましゅう)に列し，足利(あしかが)氏滅亡後，父藤孝とともに織田信長(のぶなが)に属して昵近衆(じっきんしゅう)に列した。1578年(天正6)信長の命により明智光秀*(あけちみつひで)の娘玉(細川ガラシャ*)と結婚。1580年父とともに丹後(京都府)十二万石余に封ぜられ，宮津城を築いて住した。本能寺の変*で明智光秀に招かれたが応ぜず，豊臣秀吉(とよとみひでよし)に従い，以後賤ケ岳(しずがたけ)の戦い*，小牧・長久手の戦い*，文禄(ぶんろく)・慶長の役*などで武功を立てた。秀吉の死後は徳川家康(いえやす)に属し，関ケ原の役*の軍功により豊前(ぶぜん)(大分県)三十九万石に封ぜられた。1619年(元和5)子忠利(ただとし)に譲って隠退。翌年剃髪(ていはつ)して三斎宗立と号した。和歌をよくし，絵画・蹴鞠(しゅうきく)・有職(ゆうそく)故実などにも通じ，千利休*に茶の湯を学んで七哲のひとりに数えられた。著書に《細川三斎茶書》がある。〔岡山泰四〕

ほそかわゆうさい【細川幽斎】(1534～1610) 安土桃山時代の武将・歌人。名は藤孝(ふじたか)。兵部大輔(ひょうぶたゆう)と称し，法名玄旨。三淵晴員(みぶちはるかず)の子，将軍足利義晴(あしかがよしはる)の庶子ともいわれる。細川元常の養子となり，義晴・義輝(よしてる)に仕え，義輝が三好(みよし)三人衆・松永久秀*(まつながひさひで)に殺されたのち，織田信長(のぶなが)にたよって義昭(よしあき)を将軍とした。1573年(天正1)義昭追放後は信長に従い，細川を改め一時長岡氏を称した。1580年子忠興(ただおき)とともに丹後(京都府)宮津城に住し，1582年信長の死により剃髪(ていはつ)して，田辺(たなべ)城に移った。のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)に仕えて重用された。和歌をよくし，古今伝授*をうけて二条派*の道統を継いだ。家集に《衆妙集》，著書に《百人一首抄》《詠歌大概抄》《耳底記》《伊勢(いせ)物語闕疑抄(けつぎしょう)》などのほか，《九州道の記》《東国陣道記》などの陣中日記もある。また有職(ゆうそく)や能楽・茶道などの諸芸にも通じた。〔岡山泰四〕

ほそくらこうざん【細倉鉱山】宮城県栗原(くりはら)郡鶯沢(うぐいすざわ)町にある鉛・亜鉛鉱山。9世紀中ごろ発見され，江戸時代は仙台(せんだい)藩の直轄経営など，幾多の変遷を経て，現在は三菱(みつびし)金属鉱業の経営になる。月産にして，鉛亜鉛鉱77,500t(品位，鉛1.3%，亜鉛3.8%)で，精練は山元で行ない，鉛1,600t，亜鉛1,800t，硫酸4,500tを生産する。従業員約1,500人で，神岡鉱山と並ぶ鉛・亜鉛の産額をあげている。



細田栄之《風体美撰合》東京国立博物館蔵

ほそだえいし【細田栄之】(1756～1829) 江戸後期の浮世絵師。名は時富(ときとみ)，鳥文斎と号した。勘定奉行(ぶぎょう)丹波守(たんばのかみ)時行の長男で，みずからも小納戸(こなんど)役を勤める幕臣であったが，浮世絵の世界に共感して職を辞し，以後はひたすら美人画家としての道を歩んだ。鳥居清長の作風を継承して，気品に富んだ長身の立ち姿に独自の形式を生み出し，全盛期の喜多川歌麿(うたまろ)に対抗した。肉筆画にもひいで，門下に栄昌(えいしょう)・栄里・栄水・栄深などの俊才を擁して，細田派を形成した。〔小林　忠〕

ほそだたみき【細田民樹】(1892～1973) 小説家。東京の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒業。不合理な軍隊生活の体験をもとに，軍隊批判の短編集《或(ある)兵卒の記録》を発表，プロレタリア文学運動の興隆に一面あずかった。のち《文芸戦線*》に参加，《真理の春》など資本主義下の矛盾をあばく社会小説を発表。

ほそへりかめむし【細縁亀虫】こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・ヘリカメムシ科。体は細長く，長さ1.5cmほどで，銅色光沢のある暗かっ色，背面はかっ色の微毛でおおわれる。前胸背の側縁には鋭い突起がある。半翅鞘(はんししょう)は腹端に達し，膜質部は大きく，淡かっ色透明で光沢がある。後脚の腿節(たいせつ)は棍棒(こんぼう)状で太く，内側に鋭い棘状(きょくじょう)突起の列がある。腹部背板に大きな黄色の斑紋(はんもん)と黒色の帯状紋があり，飛翔(ひしょう)中によく目だち，一見ハチ類のように見える。幼虫の形状や行動はアリに似ている。日本・朝鮮・中国に分布する最も普通な種で，ダイズその他のマメ科植物に多くみられ，しばしば大害を与える。➔ヘリカメムシ

ホーソーン［Nathaniel Hawthorne］(1804～1864) アメリカ合衆国の小説家。マサチューセッツ州セーレムの清教徒の家の生まれ。幼少から感受性鋭く，孤独で隠遁(いんとん)的であったが，内心社交をあこがれた。セーレム港税関吏・イギリス領事などをつとめ，イタリアにも遊んだ。人間の内面の暗さを寓意(ぐうい)と比喩(ひゆ)による象徴的手法で描き，格調高い文体と心理的な洞察(どうさつ)力にすぐれた。現実への鋭い意識をもってロマンスの世界を描いた彼の伝統は，ジェームズ*を経てフォークナー*に及ぶ。短編集《トワイス-トールド-テイルズ》《旧牧師館の苔(こけ)》のほか，代表作として《緋文字*(ひもんじ)》《大理石の牧羊神》《七破風(はふ)の家》などがある。〔紳川　恙〕

ホーソンじっけん【ホーソン実験】アメリカ合衆国のウェスターン電機会社のホーソン工場で，1927～1932年の間にハーバード大学の心理学者メイヨーにより行なわれた実験。作業条件(照明度・賃金・労働時間など)と生産能率との関係についての産業心理学的実験で，その結果は，生産能率は従業員の感情・態度およびインフォーマル-グループ*などの人間関係に強く影響されることが明らかになった。この実験から人間関係論が開拓され，テーラー*の科学的管理法*における合理的な〈経済人〉の仮説が打破され，管理論に新方向を与えた。〔清水　晶〕

ホタ［jota］スペインのアラゴン・バレンシア・ナバラなどで行なわれる民族舞踊音楽。踊りは一組み以上の男女による。歌は情熱的な恋愛を内容として，8分の3ないし4分の3拍子の速いリズムで歌われる。伴奏楽器はカスタネットが最も普通で，ほかにタンバリン・ギター・バンドゥリアなどが加わることもある。アラゴンのものが有名なのでホタ-アラゴネサの名でも知られる。リスト・グリンカ・ファリャ・アルベニスなどが作品に用いている。〔山口　修〕

ほた【保田】千葉県安房(あわ)郡鋸南(きょなん)町の北部地区。もと保田町が1959年(昭和34)勝山町と合併して現町名となった。保田港はイワシ・アジの水揚げの多い漁港で，農村部は草花の栽培が盛んであり，露地栽培の北限である。市街地は国道127号線(館山(たてやま)街道)沿いに保田湾を囲み，内房線が通じる。海岸は遠浅で学童や家族づれの海水浴に適し，〈こどもの海〉とよばれ，旅館・民宿が多く，夏季には人口が倍増する。鋸(のこぎり)山の南登山口にあたり，また南房総国定公園の観光基地となる。海浜の別願院には浮世絵師菱川師宣(ひしかわもろのぶ)の墓がある。〔浅井得一〕

ぼた ⇨ずり

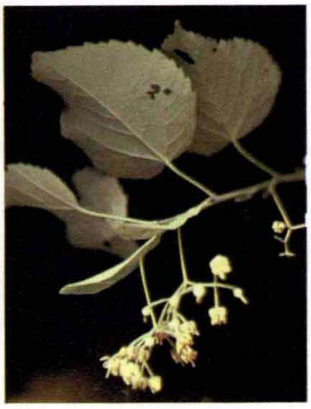
ポーター ［Katherine Anne Porter］（1890～1980） アメリカ合衆国の女流小説家。テキサスの生まれ。ジャーナリストとしてヨーロッパ各地に滞在。心理的な洞察(どうさつ)力とドラマ性に富む短編小説によって認められた。代表作は，メキシコ革命に取材した短編《花開くユダの木》。他に長編《愚者の船》など。

ポーター ［Cole Porter］（1893～1964） アメリカ合衆国の作曲家。インディアナ州の生まれ。はじめ法律を学んだが，のちハーバード大学などで作曲を学んだ。1916年最初のミュージカルを発表し，1919年には《ヒッチ-クー》，さらに《ニューヨーカー》《キス-ミー-ケート》《カンカン》などヒット-ミュージカルを作曲した。ほかに《夜も昼も》《ビギン-ザ-ビギン》などのヒット曲がある。

ぼだい 【菩提】 梵語(ぼんご)bodhi（ボーディ）の音訳で，悟り*および悟りの智慧(ちえ)のこと。覚・智・道と訳される。菩薩*(ぼさつ)は菩提を目的とし菩提の心を発し，仏は菩提を完成し，無上正等菩提を得るのである。のちに意味を転じて，冥福(めいふく)の意に用いられるようにもなり，先祖の冥福を祈ることを，それの菩提の完成を願うことから，菩提を弔うといい，先祖代々の所属の寺院を菩提寺・菩提所というようにもなった。 〔真野龍海〕

ぼだいじ 【菩提寺】 菩提所・香華院(こうげいん)・氏寺ともいう。一般に寺檀(じだん)関係にある檀家が護寺のせめを負う所属寺院をさしていう呼称。檀家は菩提寺に先祖代代の墓地を設け，あるいは位牌(いはい)を安置し，読経(どきょう)・誦呪(じゅじゅ)の法事を依頼して先祖の菩提を弔い，一方菩提寺は檀家に信仰を分かち与える関係をもつ。特定の檀家をもたず祈禱(きとう)・参詣(さんけい)を主とする寺を祈禱寺とよぶのに対し，回向寺ともよばれる。 〔藤井正雄〕

ぼだいじゅ 【菩提樹】 双子葉植物・シナノキ科。中国原産の落葉高木で，寺院などによく植えられる。高さ15mほどになってよく分枝し，小枝に星状毛が密生する。葉は互生し，長さ6～10cmの三角状心臓形で先はとがり，縁に細鋸歯(さいきょし)がある。裏面には星状毛が密生し，灰白色を呈する。初夏に葉腋(ようえき)から集散花序を下垂し，淡黄色の芳香のある5弁小花を密生する。花序の柄は長く，1枚のへら形の葉状包葉がある。果実は径8mmほどの球形核果で，灰かっ色の毛が密生する。近縁種のオオバボダイジュは，東北地方から北海道に分布し，葉は円形で大きく，縁に大きな鋸歯があり，裏面は細毛が密生して白色。なお，ドイツの街路樹のリンデン-バウムはボダイジュと訳されるが，ヨーロッパ産の別種である。また，ブッダがボダイジュの下で悟りをひらいたといわれるが，これはクワ科のイチジク属の植物で，インドボダイジュという。



ボタイジュ



インドボダイジュ

ボダイジュ



穂高岳 11月の北アルプス穂高連峰。右から北穂高岳・涸沢岳・奥穂高岳・前穂高岳が連なる。手前は前穂高から延びる北尾根

ぼだいしん 【菩提心】 梵語(ぼんご)bodhicitta（ボーディチッタ）のことで，菩提*の心。道心・道念・覚意と訳される。仏を目的とし，悟り*を求める心。菩薩(ぼさつ)は修行の初めに必ずこの心を起こさなければならない。それを発菩提心，略して発心・発意(ほっち)といい，初発心・新発意ともいう。菩提心の内容は，四弘誓願*(しぐぜいがん)などあるが，浄土宗などでは他力信仰の立場から，浄土往生の信仰である安心*(あんじん)をあてる。

ぼだいせんな 【菩提僊那】 （704～760） 日本に渡来したインドの仏教僧。Bodhisena（ボーディセーナ）の音訳で，菩提仙那とも書く。日本では菩提僧正とか婆羅門僧正(ばらもんそうじょう)とよばれた。林邑(りんゆう)（ベトナム南部）出身の僧仏哲と中国に渡り，さらに736年，唐僧道璿*(どうせん)や仏哲とともに来日した。これは遣唐使による戒師招請に応じたものである。彼は《華厳経(けごんきょう)》を心要とし，呪術(じゅじゅつ)にもすぐれていたという。751年（天平勝宝3）僧正となり，行基*の推挙で東大寺大仏開眼(かいげん)供養の導師をつとめた。 〔岡部和雄〕

ぼだいるし 【菩提流支】 生没年不詳。6世紀に中国で活躍したインド僧。名はBodhiruci（ボーディルチ）の音訳で，ほかに菩提留支とも書いた。北魏(ほくぎ)時代の代表的訳経僧のひとり。勒那摩提(ろくなまだい)・仏陀扇多(ぶっだせんた)とともに《十地経論》を訳し，のちに地論宗（北道派）の祖のひとりとされた。また曇鸞*(どんらん)に《観無量寿経》を授けて浄土教に回心させ，さらに浄土教聖典として重要な《無量寿経論（浄土論）》を翻訳した。このため後世には浄土教の一祖として数えられる。《入楞伽経(にゅうりょうがきょう)》など39部127巻の翻訳があったとされる。 〔岡部和雄〕

ほたかだけ 【穂高岳】 長野・岐阜の県境，北アルプス南部にそびえる山。標高3,190mでわが国第3の高峰。非火山性山岳としては，南アルプスの北岳に次ぐわが国第2の高峰。奥穂高岳（3,190m）を中心に，北穂高岳（3,100m）・涸沢(からさわ)岳（3,103m）・西穂高岳（2,909m）・前穂高岳（3,090m）などの高峰からなり，急峻(きゅうしゅん)な地形を示す。涸沢カールのほか多くのカールをもつ。北穂高の北方西側は垂直に近く，井上靖(やすし)の小説《氷壁》の舞台となった絶壁をなす。また，奥穂高・前穂高間の吊(つ)り尾根，前穂高の北尾根など険しい岩場や尾根があり，わが国の近代登山を生んだところとして知られる。 〔高野 繁〕

ほたかやま 【武尊山】 群馬県北東部，沼田市の北方にある山。北に開口する旧火口をもつ円錐(えんすい)形火山で，標高2,158m。火口を囲んで，前武尊山・武尊山・獅子ケ鼻(ししがはな)山・剣ケ峰山などの峰があり，山体の侵食が進み，山腹は放射状谷で刻まれているが，山麓(さんろく)に高原が広がり，スキー場が多い。古くから信仰の山としても知られ，南麓の迦葉(かしょう)山には天狗(てんぐ)信仰で名高い弥勒(みろく)寺がある。

ポタージュ ［potages］ 獣肉・家禽(かきん)・魚・甲殻(こうかく)動物などの煮出しじるを調理したスープの総称。ポタージュ-クレール（澄んだスープ），ポタージュ-リエ（濁ったスープ）があるが，わが国では後者のみをいっている。ポタージュ-リエにはピューレ（漉(こ)しスープ），ブルウテ（卵黄スープ），クレーム（クリームスープ）の3種類がある。➔スープ

ほたてがい 【帆立貝】 軟体動物・二枚貝類・イタヤガイ科。殻長(かくちょう)20cm，

殻高19.5cm，殻幅5cmに達する大形種。殻(から)は扇形で，殻頂の両側に大きな耳状突起がある。左殻はふくらみが弱く，帯紫かっ色のものが多いが，幼時は赤・黄・白色などの斑紋(はんもん)がある。右殻はややふくらみ，多くは白色，両殻表には20～25本の低くて太い放射肋(ほうしゃろく)がある。さらに左殻には全面に小鱗片(りんぺん)状彫刻がある。軟体は中央に大きくて丸い後閉殻筋(貝柱)があり，前閉殻筋を欠く。足は小さく指状。幼時は足糸で地物に付着する。本州東北地方から北海道・オホーツク海・沿海州・朝鮮北部に分布し，水深10～30mの砂礫(されき)底にすむ。産卵は水温9℃内外で行ない，産卵期は陸奥(むつ)湾・奥尻(おくしり)島では4月であるが，根室は7月になる。1年で2cm，2年で6cm，3年で9cmに達し，漁獲してよい殻高になる。肉は食用となるが，貝柱は乾製品やかんづめなどにされる。殻は貝細工の材料やカキの稚貝のコレクター(幼生の付着器)に使う。また，貝焼き料理のなべとして用いられる。ホタテガイの名は一方の殻を帆のように立てて水面を移動するというのでつけられたが，このような習性はなく，殻を激しく開閉して飛ぶように泳ぎ移動する。なお，イタヤガイ*をホタテガイと誤ってよぶことがあるが，まったくの別種である。〔波部忠重〕

ぼたもち　**【ぼた餅】**　⇨おはぎ

ポタラきゅうでん　**【ポタラ宮殿】**　中国，チベット自治区の主都ラサ西郊，マルポリ山上にある24階建ての石造城塞(じょうさい)ふうの建築。かつてダライ-ラマ*の宮殿とチベット中央政府庁舎を兼ねたもの。ポタラは観音*の聖地ポタラカ(補陀落(ふだらく))のことで，観音の化身とされたチベット王朝の祖ソンツェンガンポ王が7世紀に，最初11階の宮殿をマルポリ山に建てたことに由来する。第5代ダライ-ラマ時代にポタラ宮殿増築が計画され，1645年に工事が開始され，第5代の死後も摂政サンゲギャムツォが工事を継続し，1694年さらに9層が加えられて現在のものとなった。下層11階は表壁が白塗りで白殿とよばれ，上層13階は紅殿とよばれる。宮殿内部には秘宝・秘仏などのほか5代以降(6代を除く)の歴代ダライの遺体も安置されている。屋上の北隅(ぐう)に金色堂があり，観音が祭られている。〔金子良太〕

ほたる　**【螢】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ホタル科の総称。体は細長く，いくぶん扁平(へんぺい)で，全体柔らかい。色彩は黒・黄・赤・かっ色などが多い。夜間活動性で，発光器官をもつ種類が多い。雌成虫は雄とまったく異なって無翅で幼虫のような形状を呈する種類が多い。頭部は小さく，前胸背板の下に完全にあるいは一部おおわれ，触角は11節で，雄ではくし歯状または扇状のものが多い。前胸は大きい。鞘翅は革質だが柔らかく，後翅はよく発達しているが幼



ホタテガイ



ヘイケボタル



クシヒゲベニボタル

ホタル



ホタル石　新潟県五十島鉱山産

虫型の雌にはない。腹板は6～7個が認められ，第6・第7腹板に発光器官をもつ種類が多い。幼虫は細長く扁平で，頭部は小さく鎌状(かまじょう)の大顎(あご)があり，脚はよく発達する。成虫・幼虫ともに捕食性で，ミミズ・カタツムリ・小形甲殻(こうかく)類・こん虫類などを食べ，湿地帯や暖地の多雨な地域に生活する種類が多い。亜熱帯や温帯では森林中や河川に沿った場所に多く見られる。また山の草の斜面などにも多い。全世界から約2,000種が知られ，熱帯や亜熱帯に最も種類が多い。日本には約40種が分布し，その約半数が発光するが，成虫が発光せずに卵や幼虫が発光する種類もある。よく発光する種は，ゲンジボタル*・ヘイケボタル*・ヒメボタルの3種で，オバボタルやマドボタルは幼虫だけが発光する。

ホタルの発光器は，一般に幼虫期には腹部末端節の左右に一つずつあって外部からは見えないが，成虫では腹部末端の1～2節の腹面が他節と明瞭(めいりょう)に区別できる発光板となっている。ゲンジボタルでは，発光するのは未交尾の個体が多く，交尾後や産卵後の個体では発光も弱い。発光の回数は，ゲンジボタルでは1分間に80回前後，ヘイケボタルでは1分間に120回前後である。幼虫では，このような短時間の点滅は起こらない。発光の意義は，生殖活動や外敵への防御反応などが考えられるが，まだ不明の点が多い。➔生物発光〔鈴木邦雄〕

ほたるいか　**【螢烏賊】**　軟体動物・頭足類・ホタルイカモドキ科。小形の発光するイカで，外套(がいとう)長7cm，外套幅2cmほどのやや長い円錐(えんすい)形。雄は雌よりもやや小形。8本の腕は短く，外套の半分くらいで，1対の触腕は外套とほぼ同長。触腕を除く全体表には数百の発光器があるが，第4腕の先端背面に3個の黒色粒状の発光器があって最強の光を出し，目の背側の皮下に5個あるものが次に強い光を出す。発光は継続的であるが，興奮するとよく光る。

オホーツク海から日本海および，駿河(するが)湾まで分布し，水深200～1,000mにすむ。富山湾では産卵期の5～6月浅海に回遊し，多数集まって発光するさまは美しく，魚津市付近の海域は特別天然記念物に指定されている。回遊するのは大部分が雌である。マツイカともいい，酢みそあえ・くし焼き・みりん干しなどにする。〔波部忠重〕

ほたるいし　**【螢石】**　フッ素の原料鉱物。CaF_2　等軸晶系，正六面体と正八面体とからなる結晶が多い。劈開*(へきかい)は正八面体に完全，硬度4，比重3.01～3.25。色は無色透明であるが，薄い緑や紫をおびることがある。分布の広い鉱物で，わが国では新潟県五十島(いそじま)鉱山などに産出する。製鉄用溶剤としての利用が多く，また赤外透過域が広いので分光分析用のプリズム・レンズや装飾用などに用いられる。

ほたるが　**【螢蛾】**　こん虫類・鱗翅(りんし)目・マダラガ科。体長17～19mm。翅(はね)を広げた長さ45～60mm。雄の触角はくし歯状。体・翅とも青みをおびた黒色で，頭部は赤い。前翅は前縁部から斜めに1本の白帯が走る。年2回の発生で6～7月および9月に出現し，若齢幼虫で越冬する。成虫は昼間弱々しく飛び，一種の臭気がある。幼虫はマサキ・ヒサカキを食べ，黄色で黒い縁どりがある。各節にある山形のいぼ状突起からは1～2本の長毛を生じ，刺激を与えると毛の基部から液を出して特異なにおいを発する。さなぎになるときには，葉の表面にかっ色のやや堅い繭をつくる。日本全土のほか中国・台湾・朝鮮・インド・インドシナに分布する。近縁種にシロシタホタルガがあり，後翅の内半部は白く，や

はり昼行性である。　〔多々内修〕

ほたるかずら　【螢蔓】　双子葉植物・ムラサキ科。丘陵地の草原に自生する多年草。全草に剛毛があり，茎は高さ15～25cmほどで，基部から出る枝は地面をはうようにして伸びる。葉は長さ３～６cm，幅１～２cmの長楕円(ちょうだえん)形で，柄はなく互生する。４～５月，上部の葉腋(ようえき)に直径1.5～２cmの花冠が５裂した碧紫(へきし)色花を１個ずつつける。

ほたるはむし　【螢金花虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長４mm内外。体は黒色で，頭部・前胸・腹端部などは黄かっ色。ときに鞘翅端に黄色紋のある個体が見られる。触角は細長い。前胸背板はほぼ四辺形で，両側部は丸みをおびる。鞘翅は基部の幅が前胸背板の幅とほぼ等しい。日本全国とサハリン(樺太(からふと))に分布し，成虫は５～10月に見られる。雑食性で，きわめて多種の植物を食害する。幼虫は，土中で生活し，根部を食害する。

ほたるぶくろ　【螢袋・山小菜】　双子葉植物・キキョウ科。山地や草原に自生する多年草。根茎は短く，茎は直立して高さ30～80cmとなって全体に粗毛がある。葉は長さ５～８cm，幅1.5～４cmの長卵形で，互生する。６～７月，茎頂の葉腋(ようえき)に長さ４～５cmの筒状鐘形花を下向きにつける。花冠は白色ないし淡紅紫色で内側に濃色の斑点(はんてん)がある。がくは５全裂し，裂片は線状披針(ひしん)形で裂片の間はそり返る。ヤマホタルブクロは裂片の間がそり返らない。子どもたちが花にホタルを入れたことから，この名がついたという。若葉は山菜として食べられる。　〔加藤僖重〕

ホータン　［Khōtan］　中国，新疆(しんきょう)ウイグル自治区，和闐(わてん)県タリム盆地の南辺，崑崙(こんろん)山脈の北麓(ほくろく)にあるオアシス都市。古来軟玉の産地として有名。この地の古代住民はイラン語族に属するホータン語を話し，ビジャヤ王家のもとに天山南路，西域南道の大勢力であり，特に仏教の東伝に果たした役割は大きい。古くは于闐(うてん)とよばれた。

ぼたん　【牡丹】　双子葉植物・キンポウゲ科。中国北部原産の落葉低木で，1,000年以上も前から花を観賞するために庭などに植えられた。高さは１～２mが普通であるが，中には３mを越す老木もある。葉は２回３出複葉または２～３回羽状に分かれ，各小葉は３～５裂する。５月，枝先に直径10～25cmの花を１個ずつつける。がく片は５枚，花弁は５枚以上あって不規則に浅裂する。おしべは多数，めしべは３～５本で細かい毛におおわれる。白・黄・淡紅・紅・紫色などいろいろの品種がある。根の皮は局方生薬の牡丹皮で，駆瘀血(くおけつ)・消炎・鎮痛薬などに用いられる。〔加藤僖重〕

【歴史】中国では200年ごろから薬草として栽培されていたが，隋(ずい)時代から園芸植物として観賞されるようになり，唐時代を経て宋(そう)時代に栄えた。欧陽向の《洛陽(らくよう)牡丹記》はこの時代の書物として有名である。明(みん)時代の二如亭の《群芳譜》には182品種が掲げられている。日本に渡来した年代は明らかでないが，《蜻蛉(かげろう)日記》に〈ほうたん〉という名で記されているのが最初といわれている。その後《花壇綱目》(1681)には41品種，《花壇地錦抄》(1694)には299品種が掲げてある。明治以後，産地としては大阪・新潟・島根が有名になり，苗木の輸出も行なわれている。

【栽培】繁殖はつぎ木により，台木は共台またはシャクヤク台。つぎ木の適期は９月上・中旬。耐寒性は強く，日あたりのよい冷涼な気候を好む。　〔小杉　清〕

ボーダン　［Jean Bodin］　(1530～1596)フランスの政治学者。アンジェーの生まれ。ツールーズ大学で法学を修め，1561年パリで弁護士となる。1571年より王室に仕え，特にアンリ３世の下で活躍した。1576年，主著《国家論》を著わし，政治学の体系化をはじめて試みた。彼はこの書で近代的な意味での主権の観念を明らかにするとともに，絶対君主のために最高主権の根拠を示した。ユグノー戦争*に対しては新教徒に対しても信仰の自由を認めるように説いた。

ぼたんいろ　【牡丹色】　ボタンの花のような色。さえた赤紫色。紅染めと藍(あい)染めとをかけて染め出した非常にはなやかな





ホタルガ　(上)ホタルガ　(下)シロシタホタルガの幼虫



ホタルブクロ



桃山



朔平門



渡世白



聖代



日月錦



大正の誇

ボタン

色で，紅を増せば紅梅色，藍を増せば藤色・二藍・桔梗（ききょう）色などとなる。日本工業規格（JIS）慣用色名〈ボタン色〉は，色相3.0 RP，明度5.0，彩度14.5と規定されている。

ぼたんいんこ　【牡丹鸚哥】　鳥類・オウム科。代表的な中形インコで，セキセイインコの倍くらいの大きさ。アフリカの北東部に分布し，ブルーボタンインコ・ヤマブキボタンインコ・ルリコシボタンインコなどがある。いずれの種類も目の回りに白い輪がある。じょうぶで飼いやすく，巣引きもできるが，鳴き声が少しやかましい。

ぼたんこう　【牡丹江】　ムータンチヤン　中国北東部，黒龍江（こくりゅうこう）省南東部にある都市。人口約15万1,000。1935年に図佳鉄道が通じてから急速に発展し，かつて満州国時代には多くの日本人が居住していた。松花江の支流牡丹江の左岸にあり，水運の便がよく，牡佳・牡図・浜綏（ひんすい）3鉄道の交点で，付近の平野で産する小麦・ダイズ・米などを集散する。製材業が行なわれ，近年紡績工場やタイヤ工場も建設されている。　〔木村辰男〕

ぼたんづる　【牡丹蔓】　双子葉植物・キンポウゲ科。山野に自生するつる性の落葉樹。茎は角張る。葉は対生し，1～2回3出複葉で，長さ2～8cmの小葉からなる。8～9月，円錐（えんすい）形の花序を葉腋（ようえき）から出し，直径1.5～2cmの乳白色花を多数つける。がく片は4枚で，花弁はなく，白色の多数のおしべと数本のめしべがある。果実は卵形の痩果（そうか）で表面に細かい毛が立っている。本州の中部から北部に多く見られる果実に毛のないものをコボタンヅルといい，本種の変種とされる。

ぼたんていかんこんき　【牡丹亭還魂記】　中国，明（みん）代の戯曲作者湯顕祖*の戯曲。俗に《牡丹亭》ともいう。作者の自序によれば1598年の作。女主人公の杜麗娘（とれいじょう）は，夢に青年柳夢梅に会い，ちぎりを結ぶが，夢破れ，傷春の情たえがたく病臥（びょうが）して死ぬ。のち，夢の中の青年柳夢梅がその墓を開き，杜麗娘は再生して苦労を重ねたのち両者は結ばれる。思春期の少女の心を艶麗（えんれい）な筆で描写し，明代屈指の戯曲とされている。　〔今村与志雄〕

ぼたんどうろう　【牡丹燈籠】

1 正しくは《怪談牡丹燈籠》という人情噺（にんじょうばなし）。三遊亭（さんゆうてい）円朝作。1884年（明治17）に口演速記が発表され，講談・落語の速記流行のもととなった。中国，明（みん）代の短編怪談集《剪燈（せんとう）新話*》中の1編《牡丹燈記》を翻案したもの。この翻案は円朝が最初ではないが，原作の世界を江戸の世話物に移した脚色は傑作とされる。旗本飯島平左衛門（いいじまへいざえもん）の家の物語で，全体の筋は二様に分かれ，平左衛門と若党孝助にまつわるかたき討ちの物語に，平左衛門の娘お露とその恋人である浪人萩原新三郎（はぎわらしんざぶろう）を中心とする怪談をからめてある。かたき討ちがおもな筋だが，むしろわき筋の怪談に力が注がれており，その部分が現在も多く上演され，3世河竹（かわたけ）新七によって劇化もされた《怪異談牡丹燈籠》はお盆興行によく出される。　〔長尾一雄〕

2 ⇨怪異談牡丹燈籠（かいだんぼたんどうろう）

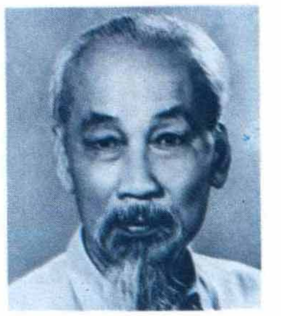




ボタンインコ　（上）ブルーボタンインコ（下）ヤマブキボタンインコ



ボタンヅル



ホー-チミン

ぼたんぼうふう　【牡丹防風】　双子葉植物・セリ科。海岸の岩の割れ目などに自生する多年草。高さ1mになり，全体は緑色で，中実の茎の先近くにだけ細かい毛がはえる。根は太く長い。下方の葉は2～3回3出，上方の葉は1～2回3出複葉である。7～9月，枝先に8～20本の散形花序を出し，小さな白色5弁花をつける。果実は長さ4～6mmの楕円（だえん）形の分裂果で，細かい毛がはえており，縁が狭い翼になる。

ホー-チミン　［Hô Chi-Minh］（1890～1969）　ベトナム民主共和国（北ベトナム）初代大統領。本名グエン-タト-タイン。ベトナム中部のゲアン省の生まれ。1911年独立運動を決意してフランスに渡り，グエン-アイコック（阮（げん）愛国）の変名で植民地解放運動を始めた。第1次世界大戦終結後，ベルサイユ会議にベトナム人代表として出席し，〈ベトナム人民の8項目の要求〉を提出した。1920年フランス共産党創立と同時に入党。1930年インドシナ共産党（のちにベトナム労働党）を結成，1941年にはベトナムに潜入，ベトミン*（ベトナム独立同盟）を結成して反仏・抗日ゲリラ闘争を指導した。第2次世界大戦後の1945年8月，阮朝政府より政権を奪取（八月革命）して，ベトナム民主共和国の独立を宣言，大統領（1945～1969）兼首相（1945～1955）となった。1960年以降激化したベトナム戦争*に重要な役割を果たしたが，心臓病のため急死した。　〔吹浦忠正〕

ほちょうき　【補聴器】　難聴*者の耳の働きを補う携帯用の器具。音声を電気的に増幅させて内耳に伝える。マイクロホン・増幅器・受話器および電源の4部分からなる。受話器はイヤホン方式がほとんどで，イヤホンとともに小形で高感度に設計できる電磁形が多く，また圧電形もかなり使用される。最近では，水銀電池・集積回路*が登場するに及び，ますます小形軽量化が進み，箱形から耳掛け形，めがね形・挿耳（そうじ）形が普及している。一般的には，250～4,000 Hz（ヘルツ）の間で一様な特性をもつよう設計され，音声の拡大率（音響利得）は40～50デシベルのものが普通である。なお，補聴器はすべての難聴者に適合するわけではなく，全伝音性難聴と一部の感音性難聴に適用される。　〔石井哲夫〕

ポチョムキンごうのはんらん　【ポチョムキン号の反乱】　1905年6月14日帝政ロシアの黒海艦隊の新造戦艦ポチョムキン号の水兵が起こした反乱。昼食の腐肉のスープを拒否し，そのうちのひとりが射殺されたことに端を発し，水兵は委員会を結成して艦を管理した。反乱は水雷艇267号，戦艦ポベドノスツェフ号をも巻き込み，水兵はゼネストを行なっていたオデッサの労働者とも交歓した。艦内で空論が重ねられるうち，オデッサに対するツァーリ政府の弾圧とポベドノスツェフ号の脱落によって，ポチョムキン号はルーマニアのコンスタンツへ向かった。6月25日水兵たちは艦をルーマニア官憲に引き渡し，政治亡命の形をとって上陸した。少数の将校は帰国後逮捕され，1906年1月裁判にかけられて刑に服し，大部分の水兵は二月革命*後帰国するか，移民またはルーマニアに永住した。〔山県弘志〕

ぼっか 【歩荷】 物資を徒歩による背負い運搬をする人夫のこと。中部山岳地帯に多く見られた。ぼっかというよび名は〈かちに(歩荷)〉の音読みによるものであるという。近代以前の陸上運搬は，おもに牛馬の背によったものであるが，牛馬の通れない険しい山道ではこれらの人夫によって物資の運送が行なわれた。歩荷の使う運搬具は，古くは背負いなわ・背中当てであったが，のちには背負い梯子(はしご)を使い，〈にんぼう(荷棒)〉とよぶ荷をささえるつえを携えた。山間部へは塩・魚など，帰路は炭・アズキなどを運んだ。〔山路勝彦〕

ぼっか 【牧歌】 アイディルの訳で，田園詩・小景詩などともいう。元来，叙情詩の形式の一つで，ヒツジ飼いなどを主人公とする素朴(そぼく)な内容のものである。ローマ時代にウェルギリウスの《田園詩》，ロンゴスの《ダフニスとクロエ》などが生まれ，のちにこれらを模倣した作品が数多くつくられた。また，音楽でもパストラルやベルジュレットの訳として，田園的な情景やヒツジ飼いに関する音楽をさすのに用いられる。ルネサンスでは，ヒツジ飼いを主人公としての愛の歌が数多くつくられ，特に18世紀では，宮廷でもヒツジ飼いの服装を楽しんで，バッグパイプを使って，ひなびた響きを出した牧歌が流行した。

ほっかい 【北海】 大西洋の支海で，ヨーロッパ北東部，スカンジナビア半島・ユトランド半島・グレートブリテン島に囲まれる海域。面積57万5,000km²。平均深度94m。最浅部はドッガーバンクの14m，最深部は海谷をなすノルウェー沖で680m。北はノルウェー海，南はイギリス海峡を経て大西洋に，東はバルト海に通ずる。ほとんどが大陸棚(たいりくだな)上に位置し，ドッガーバンク・グレートフィッシャーバンクなど多くの浅堆(せんたい)があってニシン・タラなどの好漁場をなす。海上交通は激しく，沿岸にはロンドン(イギリス)・アンベルス(ベルギー)・ロッテルダム(オランダ)・ハンブルク(ドイツ連邦共和国)などの港市がある。〔長津一郎〕

ほっかい 【北海】 ペイハイ 中国，広西チワン族自治区南西部にある港市。トンキン湾に臨む小半島上の良港で，1876年イギリス・清(しん)国間の芝罘(チーフー)条約によって開港し，容江・濂江(れんこう)などの水運により，西江流域や雲南省方面との取引が盛んに行なわれて栄えた。しかし，その後，西江流域に次々と港が開かれて衰微したが，近年，北ベトナムに近接した連絡港として再び重視されている。付近で砂糖・くだもの・桐油(とうゆ)などを産する。〔船越昭生〕

ぼっかい 【渤海】 698〜926年の間，中国の東北，現在の吉林省を中心に，沿海州・朝鮮東北部にかけての地域に存続した国。ツングース系の大祚栄(だいそえい)が，則天武后の自立で動揺している唐の間隙(かんげき)をついて建国。当初の国名は震国。713年唐から渤海郡王に封ぜられ国名を渤海と改めた。2代武王は唐に対抗するため，727年日本に使いをつかわして同盟を結び，以後滅亡まで200年にわたり国交が維持された。武王使節の来朝は34回，日本使節の派遣も13回にのぼり，この間貿易が活発に行なわれたことは，その旧都上京龍泉(りゅうせん)府の旧跡から和同開珎(わどうかいほう)が発掘された一事をもってしても明らかである。また渤海が，新羅(しらぎ)と不仲であった日本にとって唐への一通路となり，唐の文物の仲継者としての役割も果たしたことは注目される。末期には国内に貴族の対立が目だち，契丹*(きったん)に滅ぼされた。〔黛 弘道〕

ぼっかい 【渤海】 ポー海 中国，遼東(りょうとう)半島と山東半島の間にある黄海北部の湾入。面積42,900km²，平均深度21m。湾内の屈曲は少なく，南西から黄河が流入し，北部の遼東湾には遼河が注いでいる。底質は北東部が砂質，南西部は泥質(でいしつ)砂からなる。沿岸には旅大・営口・塘沽(タンクー)・天津(てんしん)などの諸港があり，山東半島の製塩地帯は中国最大の規模を誇り，沿岸漁業も盛んである。

ほっかいえび 【北海蝦】 甲殻(こうかく)類・タラバエビ科。北海道以北，千島列島などの沿岸や入り江で大量に漁獲される大形のエビで，体長13cmほどになる。体色は赤緑色で，体軸に平行に数本の黄または白色の縦じまがあるが，個体によりまたその生息場所により変異がみられる。額角はあまり長くならず，上縁に13〜18個，下縁に10〜16個の棘(きょく)を有する。第2脚は左右の長さが異なり，つねに左脚が長い。

ほっかいどうかいたくし 【北海道開拓使】 1869年(明治2)に設置された北海道開拓経営のための行政機関。はじめはサハリン(樺太(からふと))をも管轄。黒田清隆*(きよたか)指導のもとにアメリカ人ケプロン*をはじめ多数の外人顧問を招き，移民・屯田(とんでん)を奨励，さらに道路・港湾・炭田・工場などの育成を行なった。1882年廃止された。

ほっかいどうかいたくしかんゆうぶつはらいさげじけん 【北海道開拓使官有物払い下げ事件】 1881年(明治14)北海道開拓使*の長官黒田清隆*(きよたか)が，官有の土地・建物・製造所などを同じ薩摩(さつま)(鹿児島県)出身の五代友厚*らに破格の安値で払い下げようとした事件。自由民権派の攻撃の的となり，政府は払い下げを中止する一方，民権派の参議大隈重信*(おおくましげのぶ)らを免官して明治十四年の政変*を断行，同時に国会開設の詔勅を発布した。〔応和邦昭〕

ほっかいどうかいはつちょう 【北海道開発庁】 北海道の総合開発の計画立案・調査・実施に関する事務を扱う行政機関。国務大臣が兼任する北海道開発庁長官を長とし，総理府の外局に設けられている。1950年(昭和25)6月設置。付属機関として北海道審議会，地方支分部局として北海道開発局(札幌(さっぽろ))を置いている。

ほっかいどうじゅうかんじどうしゃどう 【北海道縦貫自動車道】 国土開発幹線自動車道の一つとして計画中の高速道路。函館(はこだて)市〜稚内(わっかない)市間約640kmで，北海道を南北に縦断する。このうち，1968年(昭和43)以降苫小牧(とまこまい)市〜岩見沢市間92kmが日本道路公団によって工事施行中であり，千歳(ちとせ)市〜広島(札幌(さっぽろ)市南郊)間23kmは1971年12月に完成している。なお，北海道における国土開発幹線自動車道には，このほかに北海道横断自動車道(小樽(おたる)市〜釧路(くしろ)市間および足寄(あしょろ)町〜北見市間，計約400km)が予定されている。〔青木栄一〕

ほっかいどうしんぶん 【北海道新聞】 北海道で発行されている日刊紙。北海道で最初に発行された《函館(はこだて)新聞》に次いで古く，その9年後の1887年(明治20)1月札幌(さっぽろ)で創刊された《北海新聞》が前身。1942年(昭和17)北海道にあった11紙を統合したもので，現在は北海道全域に普及している。本社は札幌。東京・函館・旭川(あさひかわ)・釧路(くしろ)など9支社がある。発行部数は朝刊約99万4,000部(1980)。

ほっかいどうだいがく 【北海道大学】 国立大学。1918年(大正7)東北帝国大学農科大学を母体に設立された。前身は札幌(さっぽろ)農学校*で，旧制帝大では唯一の予科が置かれたことでも知られる。1919年医学部を加え，以後工・理・法・文学部を設置した総合大学となった。1949年(昭和24)付属機関を合わせて新制大学に移行，現在，文・法・教育・経済・理・医・薬・工・農・獣医・水産の11学部と大学院，低温科学，応用電気，触媒の各研究所，付属図書館のほか，各学部の研究施設をもつ。本部は札幌市中央区北八条西5丁目。

ほっかいどうたんこうきせん 【北海道炭礦汽船】 1889年(明治22)政府より払い下げを受けた幌内(ほろない)炭鉱と付属の運炭鉄道を基に北海道炭礦鉄道として創業。1906年に社有鉄道が国有となり，いまの社名に改めた。三井系列の石炭会社。第2次世界大戦後しばらく〈黒いダイヤ〉とよばれて石炭ブームが続いた。1955年(昭和30)ごろから石油に押され不況の色を濃くしたが，出炭の6割が原料炭という恵まれた条件をもっていることから本格的な合理化に取り組み，北海道観光事業に進出するなど再建に力を入れている。本社東京。鉱業所は夕張・平和・幌内・清水沢(しみずさわ)など。資本金70億2,200万円，年間売上高82億5,000万円，従業員数51(1980年9月)。

ほっかいどうちほう 【北海道地方】 日本の最北端にある地方で，本州に次ぐ日本第2の大島北海道とその属島からなり，行政的には都府県と同格の道という地方公共団体で，また国の北海道開発事業を実施す

るために，北海道開発庁がある。道庁は札幌(さっぽろ)市にあり，ここに北海道開発庁・北海道開発局もある。北は宗谷(そうや)海峡を隔ててサハリン(樺太(からふと))，南西は津軽海峡を隔てて本州と対し，西は日本海，南東は太平洋，北東はオホーツク海に面している。面積は83,511km²で，九州地方の2倍に近く，全国の22％を占める。人口は556万で，東京都・大阪府・神奈川県・愛知県に次ぎ第5位，人口密度は1km²あたり67人で，全国最低である。原住民と考えられているアイヌ*は今日では約15,000人いるが，純粋な血統を伝える者は少ない。道花はスズラン，道木はエゾマツ，道鳥はタンチョウ。行政上石狩・空知・上川・後志(しりべし)・檜山(ひやま)・渡島(おしま)・胆振(いぶり)・日高・十勝・釧路(くしろ)・根室・網走(あばしり)・宗谷・留萌(るもい)の14支庁と32市67郡(155町25村)に分かれる。ただし郡は名称のみで，ほとんど意味がない。

【地形】地形は菱形(ひしがた)の胴体部とその南西方に続く半島部に大別され，その間に石狩低地帯がある。胴体部には北の宗谷岬(みさき)から南の襟裳(えりも)岬まで，地質構造上はサハリンの山系の延長である蝦夷(えぞ)山系が貫通し，東側に北見山地と日高山脈，西側に天塩(てしお)山地と夕張山地の2列の山地が連なる。これらの山地から東西へ広がる丘陵地の間には上川盆地・名寄(なよろ)盆地・富良野(ふらの)盆地などの中央盆地列があり，夕張山地の西方には南北に走る馬追丘陵の西側に石狩平野が開ける。南西には円形の内浦(噴火)湾をいだいて渡島半島が南へ弧を描き，その南端は津軽海峡を隔てて，本州北端と相対する。東部には根室・知床(しれとこ)の両半島が突出し，千島列島に相対する。千島火山帯が蝦夷山系と交わる中央部一帯には道内で最も高峻(こうしゅん)な石狩山地と大雪火山群があり，石狩岳(1,962m)・音更(おとふけ)山(1,932m)などの褶曲(しゅうきょく)山地と旭岳(あさひだけ)(2,290m)・トムラウシ山(2,141m)・十勝岳(2,077m)などの火山群が連なる。周辺一帯は針葉樹林の繁茂する雄大な自然美に恵まれ，大雪山国立公園に指定されている。千島火山帯が延びる東部には雌阿寒岳(めあかんだけ)(1,503m)・雄阿寒岳(1,371m)などの火山が噴出し，周辺部には阿寒・屈斜路(くっちゃろ)・摩周などのカルデラ湖があって，阿寒国立公園を形成する。千島火山帯はさらに北東へ走って知床半島から千島列島に及ぶが，知床半島には羅臼(らうす)岳(1,661m)・硫黄(いおう)山(1,563m)・知床岳(1,254m)などの火山がそびえ，半島沿岸の雄壮な海岸美と合わせて知床国立公園に指定されている。南西の半島部は地質構造上は本州北部の延長で，一般に山がちであり，本州から延びる那須(なす)火山帯が重なって，〈蝦夷富士〉とよばれる羊蹄(ようてい)山(1,893m)やニセコアンヌプリ(1,309m)・恵庭岳(1,320m)・樽前(たるまえ)山(1,042m)などの火山が多く，内浦湾北岸に面する有珠(うす)山(725m)の北麓(ほくろく)には，1944年(昭和19)に噴出した昭和新山(407m)がある。周辺には風光のすぐれた支笏(しこつ)・洞爺(とうや)などのカルデラ湖や，登別・定山渓(じょうざんけい)・洞爺などの温泉があり，支笏洞爺国立公園の区域内に含まれる。渡島半島には内浦湾南岸に面して駒ケ岳(こまがたけ)(1,133m)がそびえ，南麓に大沼・小沼・蓴菜(じゅんさい)沼の3湖が連なって，周辺一帯は大沼国定公園に指定されている。道内を流れる主要河川はすべて中央部の山地から発して，下流部に沖積(ちゅうせき)平野をつくる。石狩山地北麓から発する流域面積では全国第2位，長さでは第3位の石狩川は上川盆地を潤し，神居古潭(かむいこたん)の峡谷を経て下流流域の石狩平野では，低湿地を蛇行(だこう)しながら沿岸に多くの三日月湖をつくる。十勝岳に源を発する十勝川の流域には狩勝峠の東部に十勝平野が開けており，屈斜路湖を水源とする釧路川流域には湿地の多い釧路平野や広大な根釧(こんせん)台地が開ける。また天塩岳を発して北流する天塩川は，名寄盆地を潤したのち，下流に天塩平野をつくる。これらの平野の低湿部には泥炭(でいたん)の分布が多く，泥炭地の開発は北海道の大きな課題である。海岸線は東西の半島部を除いて一般に出入りが少なく，太平洋岸とオホーツク海岸は弓なりに長く延びている。オホーツク海岸にはサロマ湖・能取湖(のとろこ)・網走湖などの潟湖(せきこ)があり，西の半島部には函館(はこだて)湾・内浦湾・小樽(おたる)湾があって，函館・室蘭(むろらん)・小樽の良港をいだく。付属の島としては，日本海上に礼文(れぶん)・利尻(りしり)・奥尻などの各島があり，南千島の択捉(えとろふ)・国後(くなしり)両島は日本が領有を主張しているが，現在はソ連の占領下にあり，所属は未決定である。

【気候・生物】北緯42度から45度の間にあるため亜寒帯性気候を呈し，夏季は涼しく冬季は寒冷で，渡島半島南端の函館は1月の平均気温－3.9℃で，青森の－2.0℃に比べて1.9℃低く，札幌では－5.1℃を記録する。東部は千島海流の影響を受けて特に寒さがきびしく，沿岸部は冬季氷結する。根室・釧路方面は，千島海流と日本海流が東の沖合いで出あうために，春季から夏季にかけて海霧(ガス)が生ずる。内陸部の上川盆地は寒暑の差が大きく，旭川の平均気温は最低の1月が－8.5℃，最高の8月は20.9℃で，1902年(明治35)1月25日に－41.0℃を記録しているが，これは日本の気温の最低記録である。南西部の日本海岸は対馬(つしま)海流の影響で気候がかなりやわらぎ，気温は冬季でも氷点をわずかに下回る程度であるが，海を渡って吹きつける北西季節風のために降雪量が多い。山地にさえぎられた太平洋岸は冬季は雪は少ないが寒い風が吹きおろし，夏季は南東季節風のため雨が多い。年間を通じて季節風が山にさえぎられるオホーツク海岸の北見地方は，年降水量が800mm内外にすぎず，日本で最も降水量の少ない地域である。四季の移り変わりも本土とはかなりの差があり，東京より約1か月半おそく春を迎える。アカシアの花の咲く初夏の候はオホーツク海高気圧が張り出して，梅雨はなく晴天の日が続く。夏の訪れも一般におそく，8月の平均気温が西部で20℃，東部で18℃前後，根室では17.1℃となる。夏季から冬季にかけては天候の変化が激しく，降水量は多いが台風がくることは少ない。秋季は短く，10月下旬には降雪がみられる。冬季には大陸の高気圧の影響で北西の季節風が吹き，1月の平均気温は内陸部で－8℃前後に達する。年間降水量は札幌で1,141mm，帯広で927mm，網走で848mm，道内平均は1,000mm前後で，日本の他地域と比べてきわめて少ない。1880年に，ブラキストンが津軽海峡を境として，鳥類その他の生物分布が異なることを指摘(ブラキストン線*)したが，北海道の生物界はシベリア大陸的であり，東南アジア的な本土とは異なっている。ヒグマをはじめ，クロテン・シマリス・ナキウサギ・ヤチネズミ・ワタリガラスなどは北海道に特有の動物で，本土にすむツキノワグマ・ニホンザル・カモシカ・イノシシ・モグラは北海道にはいない。しかし，ブラキストン線は鳥類・淡水魚類および植物では厳密な境界になっておらず，森林にはエゾマツ・トドマツなどの寒帯系のものが多いが，トドマツは本州の亜高山地帯にも分布する。

【第1次産業】産業三大別人口比は14：26：60。第1期(1952～1962)・第2期(1963～1970)・第3期(1971～1980)の総合開発計画の進展に伴い最近は道路・港湾などの産業基盤の整備が進み，農業や工業の生産は安定しているが，石炭産業は斜陽化の傾向を示している。1977年の1人あたりの所得は125万8,000円で，全国で第15位を占める。農業は耕地面積が98万7,000ヘクタールと広く，農家数は15万戸，兼業農家率は53％で，全国で最も低い。しかし土地生産力が低く，農業期間も短いため，1戸あたりの経営面積を広くし，畜力や大農具を使わなければやっていけない。石狩川の中流流域や，中央部の上川・富良野などの盆地を中心に，年々水田が増加しているが，水田率は29％にすぎない。東部の台地や平野では耕地のほとんどが畑で，欧米式の大規模な機械化農法による多角的な畑作経営が営まれている。米は明治初期には渡島半島でしか栽培されなかったが，その後の品種改良や栽培技術の改善によって，最北の宗谷地方や，夏季に気温の低い根室・釧路地方の一部を除く道内各地でつくられる。平年収量は99万0,200t (1978)で，農業粗収入の40％に達し，本土にも移出され，米の商品

化率は全国最高である。東部の台地や平野では耕地はほとんど畑で，大規模な機械化農法によって多角的な生産が営まれ，ジャガイモ・豆類をはじめ，各種の工芸作物がつくられる。ジャガイモは網走・上川・十勝・後志地方が主産地で，年収穫量は207万t(1978)に達し，全国の総産量の60％を占め，良質の種いも・デンプンとして全国各地に移出される。インゲンマメ・燕麦(えんばく)は全道でつくられ，インゲンマメは全国の95％を占め，燕麦は家畜の飼料に利用されるが，全国の83％を占める。北見・網走地方ではハッカ・テンサイ，十勝平野ではダイズ・アズキ・テンサイ・アマの畑が多い。全国の収穫量に対する比率はテンサイ100％，ハッカ73％，ダイズ13％，アズキ62％を占める。野菜類ではトマト・キャベツ・タマネギ・結球ハクサイなどがつくられ，いずれも全国有数の収穫がある。道南の羊蹄山麓で栽培されるアスパラガスは大半をかんづめにして輸出している。果樹ではリンゴ・ブドウなどの収穫が多い。原野が広く放牧の便に恵まれているために，牧畜はきわめて盛んで，わが国第1の畜産地帯を形成する。一時盛んであったメンヨウの飼育は衰えているが，十勝・釧路の原野でウシ・ウマが大規模に飼育されており，ウマは漸減しつつはあるが90,000頭を数えて全国の72％を占める。酪農が盛んで，乳用牛は62万頭(1978)に達し，全国第1位で34％を占め，一般農家でもサイロに飼料をたくわえ，畑を1年おきに牧場に利用するなど多角経営によって，ブタなどとともに飼育するところが多い。酪農製品では牛乳184万t，バター30,000t，チーズ3,000t，練・粉乳80,000tの年産があり，バターが東京都に次ぐほかはいずれも全国最高である。ニワトリの飼育数は672万羽(全国第6位)で，年間産卵量は11億8,000万個(1970)を数える。林野面積は580万7,000ヘクタールで全道面積の73％を占め，素材生産量が1,061万m^3(1970)に及ぶわが国第1の林業地帯である。森林の54％は国有林で，天然林が多い。豊富な林産資源のうちエゾマツ・トドマツ・カラマツなどの針葉樹はパルプ原料として利用され，全国生産量の15％に及ぶ。ナラ・カバノキ・カエデ・シナノキなどの広葉樹はおもに製材用・坑木用となり，ナラ材を主とするインチ材，シナノキ・センノキなどの合板材は全国輸出量の半ばを占めている。水産業は明治末期までは，北海道の産業の主力で，サケ・マス・スケソウダラ・マダラ・カニ・コンブなどの寒流の漁獲物と，イワシ・イカ・マグロなどの暖流の漁獲物に恵まれ，特に南下する千島海流が北上する暖流と出あう東部沖合いから千島列島へかけての海域は，大陸棚(たいりくだな)が広く，世界的な漁場として知られる。函館・釧路などを基地とする北洋漁業は第2次世界大戦以前はカムチャツカ半島・アリューシャン列島・アラスカ方面にまで進出し，サケ・マスの漁業船団やカニ工船などが活躍していた。いまはソ連・アメリカ合衆国・カナダとの間に漁業に関する条約が結ばれて，漁区・漁獲量・漁法などの制限を受けている。サケ漁は沿岸各地や河川でも行なわれている。ニシン漁はかつて渡島半島西岸で栄えたが，いまは漁場が北へ移り，留萌や利尻島・礼文島を中心に行なわれ，漁獲量は著しく減少している。1970年の漁獲量は175万tに及び，全国の20％を占める(スケソウダラ・サバ・カレイ・イカナゴ・マス・サケ・マダラ・ニシン・サンマの順)。これらの水産物を本土へ供給するために早くから水産加工も発達し，かずのこ・ニシン・スケソウダラ・マダラの干物，カニやサケのかんづめなどが多く，特にかんづめ類は海外へも大量に輸出される。

【第2次産業】地下資源は石炭をはじめ金・鉛・亜鉛・鉄・砂鉄・マンガン・石綿などの豊富な鉱産物がある。炭田地域は西部の夕張山地や東部の釧路・留萌付近に多く，中でも夕張山地の西側に空知・美唄(びばい)・夕張などの炭田をもつ石狩炭田地帯は，施設が新しく，生産能率も高く全道の約80％の石炭を産出する。採掘された石炭は道内で工業用や家庭用に使用されるばかりではなく，およそ半分は鉄道によって小樽や室蘭に運ばれ，さらに船で京浜・東北・北陸地方へ送られる。九州の炭田が老朽化したために，一時石炭王国になったが，最近はエネルギー革命の影響を受け，大手炭鉱で閉山するものがあいつぎ，炭鉱経営の立て直しが急務となっている。1971年の炭鉱数は42で，全盛期の1957年の30％に，労務者は25万人で，これも40％に減っているが，なお出炭量は2,100万tで，全国の約2分の1を出し，1人あたりの出炭量は80tを越えて，全国の平均を上回っている。金は紋別市内の鴻之舞(こうのまい)鉱山や千歳(ちとせ)市内の千歳鉱山を中心に2,120kg(1970年，精鉱中の金属含有量)の産出があり，全国の27％を占めて首位である。東部の阿寒地方ではイオウ，西部の倶知安(くっちゃん)付近では鉄鉱を産し，内浦湾沿岸では砂鉄の産が多い。北見地方の龍昇殿(りゅうしょうでん)鉱山やイトムカ鉱山に産する水銀は全国一の産量があり，日高地方にはわが国唯一の石綿の産地がある。また石狩平野で少量の石油を産出するほか，最近は沿岸の各地域で石油・天然ガスの試掘も盛んである。電力は，降水量が少ないので火力発電所に重点が置かれ，全道の出力190万kWの60％を占めているが，最近は豊平(とよひら)川上流の豊平峡ダム，天塩川上流の岩尾内ダム，石狩川上流の大雪ダムなどの建設が並行して行なわれ，水力発電の開発が進んでいる。後志支庁管内の共和村・泊村にまたがる地区には北海道電力による原子力発電所の建設が予定されている。工業は発達の歴史が浅く，大規模な工業地帯の形成はまだみられないが，豊富な石炭と原料に恵まれていまも出荷額で第1位を占める食料品工業をはじめ，早くから特色のある工業が発達し，工業製品年間出荷額は1兆3,238億円(1969)で全国第11位を占める。苫小牧(とまこまい)・江別・釧路・旭川の製紙・パルプ工業，札幌のビール・酪農製品・デンプン，帯広の砂糖，北見のはっか油，函館のかんづめなどの諸工業は，いずれも北海道に産する原料によって発達したものである。このほか砂川・旭川・釧路・函館には化学肥料工場，函館には造船所，室蘭には大製鉄所がある。近代工業地帯は札幌・小樽・室蘭・苫小牧・江別・千歳の6市と11町1村からなる道央新産業都市によって代表される。総面積は5,153km^2で，地域別にみると，札幌・小樽工業地帯は道中央部にあり，札幌・小樽・江別3市と手稲・石狩・余市3町からなり，食品・製紙・かんづめ製造・ゴムなどの軽工業を主とし，工業生産額は全道の20％を占め，将来は精密機械工業地帯の造成が計画されている。苫小牧工業地帯は道南部，太平洋岸に面した苫小牧市と周辺5町からなり，紙・パルプ製造を主とし，重化学工業地帯としての発展が期待される。室蘭工業地帯は道南西部，太平洋岸にあり，室蘭市と周辺3町からなり，製鉄・製鋼を中心とした北海道最大の重工業地帯で，新産業都市の中核として将来は石油化学コンビナートによる重化学工業地帯の建設が予定されている。また道東部の釧路市を中心に，白糠(しらぬか)町・釧路村を含む新興工業地帯は，釧路・白糠両炭田などの地下資源に恵まれ，製紙・パルプ・化学肥料製造を主としているが，これも今後の新産業の開発が期待されている。

【交通・都市】陸上交通は，鉄道では函館本線(函館～旭川)・室蘭本線(長万部(おしゃまんべ)～岩見沢)・根室本線(滝川～根室)・石北本線(新旭川～網走)・宗谷本線(旭川～稚内(わっかない))を主要路線として各支線が発達している。国道は5号線・12号線・36号線・37号線・38号線・39号線・40号線・44号線などが幹線道路であるが，鉄道とともになお開発の余地を多く残しており，また道路の舗装率は約10％で，全国平均の約13％に比べて劣っている。本州との間の交通は青函(せいかん)連絡船(青森～函館)によっているが，すでに飽和状態に達しているので，津軽半島北端と渡島半島南端の海底を貫く青函トンネル*の工事も進み，1979年3月に完成の予定である。航路としては青函連絡船のほか函館・室蘭・釧路・小樽・根室・稚内などの港からそれぞれ沿岸航路があるが，いずれも小規模で，1972年には釧路から東京へフェリーボートが就航した。航空路は道南西部の千歳空港を中心として，東京と結ぶ定期便の利用が盛んで，そのほか丘珠(おかだま)(札幌)・函館・旭川・帯広・

釧路・利尻・稚内・紋別・女満別(めまんべつ)・中標津(なかしべつ)の計11空港がある。未開発の地域が多く人口の63%は都市に集中し，1965～1970年の市部人口の増加率は6.7%，郡部人口の減少率は9.5%となっている。札幌市をはじめ旭川・帯広・北見・名寄などの諸都市は明治以降の開拓が進むにつれて，無人に近い内陸部に植民区画による条丁制を利用して建設されたものである。これに屯田兵(とんでんへい)村の要素を加味した都市には滝川・江別・深川・士別などがあるが，地形による変化はあっても形式的にはあまり変わりがない。明治以前から発達した集落には函館(箱館)・根室・小樽・江差などの商・漁港，松前藩の城下町であった松前などがある。当時はいずれも海岸線の砂州や段丘上に立地した小規模な集落にすぎなかったが，今日では市街地が発達している。また山地の斜面や段丘上に商店街や住宅列が集中する夕張・芦別(あしべつ)・美唄などの炭鉱都市も独特の景観を呈する。全道32市のうち江別・赤平(あかびら)・紋別・士別・名寄・三笠(みかさ)・根室・千歳・滝川・砂川・歌志内・深川・富良野の13市は，1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以来の新しい市で，登別・恵庭・伊達(だて)の3市は，それよりさらに新しいいわゆる〈3万人市〉である。

【歴史】 古くから蝦夷地とよばれ，その原住民はアイヌで，蝦夷ともよばれた。日本の古代史上に出てくる蝦夷は，必ずしも現代のアイヌの先祖とはいえないが，アイヌとは深い関係があると推定される。古代には蝦夷地は出羽国に編入されて，渡島ともよばれた。7世紀半ばに阿倍比羅夫(あべのひらふ)が大和(やまと)朝廷の命を受けて，前後3回にわたって蝦夷を征討し，685年にその政庁を後方羊蹄(しりべし)においたと伝えられる。8世紀から9世紀にかけては坂上田村麻呂(さかのうえたむらまろ)が，北海道や東北地方に遠征した記録が残っている。奈良時代から平安時代にかけて，蝦夷は本州から北海道へ移住したが，鎌倉時代以後は和人(日本人)の移住も増加した。室町時代には蝦夷との友好を保ちながら江差地方の漁業，渡島半島沿岸の砂金採取などに従事し，商人も沿岸各地に進出して，渡島半島南部を勢力圏とした。1443年(嘉吉3)奥羽の豪族安東盛季(あんどうもりすえ)の渡道以後は，和人と蝦夷との接触はますます活発となったが，純朴(じゅんぼく)で文字を持たない蝦夷はしだいに圧迫されていった。松前藩の祖武田信広(たけだのぶひろ)が，1454年(享徳3)に松前に渡り蝦夷の平定を行なって以来，各地で反乱が起こったが，特に1457年(長禄1)のコシャマインの反乱は蝦夷の最後の抵抗を示すものであった。1543年(天文12)に信広の孫松前義広(よしひろ)が，松前の大館(おおやかた)に居を占めるころには，蝦夷地の実権は和人に移り，北海道開拓の基礎が築かれた。



法起寺　わが国に現存する最古の三重塔。三間三重塔婆，本瓦葺

江戸時代にはいると松前慶広(よしひろ)は幕府から松前藩主に封ぜられ，福山城を築いて全道を支配し，以後はその子孫が松前藩を治めた。江戸中期からはロシアの南下政策が北海道に及び，1778年(安永7)にはロシア船が通商を求めて来航し，1792年(寛政4)にもロシアの使節ラクスマンが根室に来航した。これに対して幕府は北辺防備の態勢をかためるために，1799年に東部を，1807年(文化4)に西部を松前藩領から切り離して幕府直轄領とした。一方1802年(享和2)には蝦夷奉行(ぶぎょう)(翌年箱館奉行と改称)をおいて積極的に開拓を進め，伊能忠敬*(いのうただたか)・近藤重蔵*・高田屋嘉兵衛(かへえ)・間宮林蔵*らが北辺の航路開拓や探検を行なった。明治維新に際して幕軍の榎本武揚*(えのもとたけあき)や荒井郁之助(あらいいくのすけ)らは，函館を一時占拠したが，まもなく降伏した。明治新政府は1869年(明治2)に蝦夷地を北海道と改め，札幌に開拓使を置いて，アメリカ合衆国から招いた農政家ケプロン*らの指導のもとに本格的な開発に着手した。当時は全道合わせて16万余の人口しかなかったが，1874年には屯田兵制度が実施され，続いてクラーク*を招いて札幌農学校*を創設し，小樽と幌内間に鉄道が開設するなどしだいに開発が進み，移住者も増加した。1882年に開拓使が廃され，函館・札幌・根室の3県が置かれたが，開拓途上にある北海道に本土なみの行政を施行することは無理であった。そのため1886年には3県を廃止して北海道庁を設置，広範な権限を認めて積極的な開拓政策を進めた。その後数回の行政上の変革を経て，1947年4月に地方自治法が施行され，他の都府県と同様に普通地方公共団体となって現在に至っている。第2次世界大戦で海外の植民地をすべて失ったわが国では，北海道の総合開発が再び時代の脚光を浴びるようになり，1950年以来，北海道総合開発委員会が組織され，また総理府に北海道開発庁が設けられた。➔33ページ(地図)　〔浅井得一〕

ほっかいどうとうほくかいはつこうこ【北海道東北開発公庫】 北海道および東北地方の総合開発の促進のために1956年(昭和31)に北海道開発公庫として設立された政府金融機関。その後1957年に東北地方も対象とするようになったので現在の名称に改称された。資金源泉は資本金，政府からの借入金，債券発行などによる。資金運用面では民間金融機関との協調融資*のほか，民間企業へ出資できるのが特徴であり，また債務保証も行なっている。〔速水　保〕

ボッカッチョ　［Giovanni Boccaccio］(1333～1375)　イタリアの小説家・詩人。ダンテ*・ペトラルカ*と並ぶルネサンス期イタリアの3大文学者のひとり。生まれはパリ，あるいはチェルタルドともいわれるが，明らかでない。父はフィレンツェの商人。ナポリ大学の法学部に学んだが，その間ギリシア・ラテン文学を読み，詩作をはじめた。ラテン語の作品，イタリア語で書かれた散文など，作品は数多い。中でも，ペトラルカとの出会いによって古典研究に目を開かれ，それと並行して書いた《デカメロン*》は，その名を不朽のものにした作品で，口語体・文語体を駆使し，リアルな人間群像を描きだした。イタリア散文の父，物語作者の手本，近代精神の創始者とよばれるゆえんもそこにある。ほかに恋愛物語《フィアンメッタ》《フィロコロ》や《ダンテ伝》《詩集》などがある。〔田島　修〕

ほづがわ【保津川】 ⇨大堰(おおい)川

ほっきがい【北寄貝】 ⇨ウバガイ

ほっきじ【法起寺】 奈良県生駒(いこま)郡斑鳩(いかるが)町にある聖徳(しょうとく)宗の寺。638年(舒明10)，山背大兄王(やましろのおおえのおう)が岡本宮を改めて寺としたと伝えられ，岡本寺・池後(いけじり)寺ともよばれた。伽藍(がらん)は，金堂が西，塔が東に位置するいわゆる法起寺式伽藍配置をなす。現存する三重塔(国宝)は，《聖徳太子伝私記》の〈法起寺塔露盤銘〉によると，685年(天武14)に着工，706年(慶雲3)に完成したと伝えられる。

ほっきせつりつ【発起設立】 発起人*が設立に際して発行する株式全部を引き受けて会社を設立する手続き。単純設立・同時設立ともいわれ，募集設立に対することばである。設立手続き自体は簡単であるが，裁判所の選任した検査役による検査を受けなければならないために，実務上はほとんどの会社がこの発起設立を避け，募集設立の方法によっているのが実状である。この手続きとしては，発起人が定款を作成し，その認証を受け，株式発行事項を決定し，設立に際して発行する株式の総数を書面でもって引き受け，直ちに引き受け価額の全額を払い込み，取締役および監査役を選任する(商法166～170条)。次にこの取締役は，設立経過調査のため検査役の選任を裁判所に請求し，検査役は，払い込み，現物出資

の給付の有無と変態設立事項とを調査し，その報告に基づいて裁判所はそれを不当と認めたときは，これに変更を加えて発起人に通告し，所定手続き終了後，２週間以内に会社設立の登記をして会社は成立することになる(商法188条)。〔松本治雄〕

ほっきにん　【発起人】株式会社の設立を発起し，定款に発起人として署名をした者。定款に署名した以上，実質的に会社設立の企画に参加していない者でも発起人であり，その責任を負わなければならない。発起人の資格には特に制限はなく，その人数は７人以上でなければならない。発起人は少なくとも１株は株式を引き受けなければならず，発起人が設立する会社のためにした行為は，会社成立後は当然に会社のためにした行為となる。発起人が任務を怠ったときは，会社に対して連帯して損害賠償をしなければならないし，悪意または重大な過失があった場合には，第三者に対しても責任を負わなければならない(商法193条)。定款には署名していないが，株式申込証・目論見(もくろみ)書・株式募集文書に氏名を書き，設立を賛助するような記載をした者は，擬似発起人として発起人と同一の責任を負わなければならない(商法198条)。〔松本治雄〕

ほっきょく　【北極】北極点を中心とする地域で，明確な範囲はなく，北緯66°30′以北とする場合(北極圏)や，北極海*の範囲，また７月の平均気温10℃の等温線以北など境界には諸説がある。しかし，一般には北極海を中心にグリーンランド・アイスランド・ヨーロッパ大陸北端・スバールバル諸島・シベリア北部・アラスカ北部・カナダ北部が含まれる。

【自然】低温記録は，ユーラシア大陸ではソ連ヤクート自治共和国での－70℃，北アメリカ大陸ではカナダユーコン地方の－50℃がある。北極海は表面が冬季には90％，夏季には70％が氷におおわれるが，冬でも無氷水面がある。主要動物で最も数の多いトナカイはラップ人らによって遊牧され，ジャコウウシは一時濫獲によって著しく減少したが，近年保護政策によってようやく増加してきている。ほかに北極グマ・アザラシ・セイウチ・クジラなどがいる。植生は低木類と地衣類・蘚苔(せんたい)類などで，ユーコン地方やアラスカでは一代交配種の耐寒種による穀物がつくられている。鉱産資源はかなり豊富で，シベリアの金・スズ・石油，カナダの鉄鉱・石油，アラスカの石油などが知られている。

【探検】スウェーデンのノルデンツェルド*がノルウェーからベーリング海峡へ抜ける北東航路を発見(1878～1879)し，ノルウェーのナンセン*がグリーンランドをはじめて横断(1888)したあとフラム号で北極点に向かったが北緯86°で引き返した(1893～1896)。アメリカ合衆国のピアリー*はソリによってはじめて北極点に達し(1909)，ノルウェーのアムンゼン*(1922～1925)とアメリカ合衆国のバード*(1926)はともに北極点を飛行した。〔大崎　晃〕



ホッキョクギツネ

ほっきょくかい　【北極海】北極点を中心に，北極圏内66°33′N以北にある海域をいう。ユーラシア大陸北部と北アメリカ大陸北部に囲まれ，多数の島々が点在するが，大陸はない。ノルウェー海から大西洋に通じ，太平洋へはベーリング海峡を経て通ずる。面積1,409万km²。平均深度は1,205m，最深点はアンガラ海盆にあるリトケ海淵(かいえん)の5,449m。大陸の海岸線は出入が多く，支海には東シベリア・ラプテフ・カラ・バレンツ・ノルウェー・グリーンランド・ボーフォートの各海があり，ノボシビルスク諸島・ノバヤゼムリャ・スバールバル諸島などがある。大陸棚(たいりくだな)が発達しているが，海底の地形は三つの海盆に分けられ，ロモノソフ海嶺(かいれい)(最高地点は水深954m)・メンデレーフ海嶺・アンガラ海盆がある。シロクマ・アザラシ・セイウチが生息し，付属海では漁業が盛んである。世界の海域の中では最も観測が遅れているが，探検の歴史は古く1878～1879年にはノルデンツェルド*がノルウェーからベーリング海峡に抜けて北東航路を，1903～1906年にアムンゼン*がグリーンランドからベーリング海峡に抜けて北西航路を開いた。北極点に最初に到達したのは1909年のピアリー*で，その後1926年にバード*・ベネットが飛行機で達し，1958年にはアメリカの原子力潜水艦ノーチラス号が氷の下から極点に達した。第２次世界大戦後，軍事航空路が開設され，科学などの目的から調査と研究がなされている。〔長津一郎〕

ほっきょくぎつね　【北極狐】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イヌ科。頭胴長57cm，尾長34.5cmほど。口先は短く，耳もまるく短い。毛色には冬に全身白色となる白型と冬にも白色にならない青型がある。北極圏・北千島・アラスカなどに分布する。足の裏には毛が密生し，雪や氷の上を歩くのに適する。

ほっきょくぐま　【北極熊】哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。体は大形で，頭胴長2.7mほど。シロクマともいい，全身クリームがかった白色。足裏に毛があり，氷上での活動を助ける。北氷洋の氷上・沿岸などにすみ，水泳・潜水は巧みで，氷上で休むアザラシなどを捕食する。➜クマ

ほっきょくせい　【北極星】こぐま座α星。実視等級2.5等，800光年の距離にあるF型超巨星。天の北極から約1°離れているが，付近に明るい星のないことから，天の北極を示す星として仰がれてきた。しかし，地球の歳差*運動のため，天の北極は天球上を移動してゆき，いまから2,500年も経ると現在の北極星は天の北極から30°も離れることになる。中国名は北辰(ほくしん)。

ほっく　【発句】⇨俳句

ほっくきょう　【法句経】仏教経典。パーリ語Dhammapada(ダンマパダ)の訳。仏教経典のうち最も古い時代に成立したものの一つで，経典・戒律の中に散在するブッダの教えを集大成したもの。26章423偈(げ)の詩からなり，内容は仏教の教義のみならず，一般道徳に関しても人の進むべき正しい道を示しており，人世指南の書といえる。数種の漢訳に加えて北西インド，中央アジア方面から梵語(ぼんご)で書かれたものが発見されており，広い流布のあとを裏づけている。〔佐藤良純〕

ポックスウイルス　［poxvirus］天然痘(痘瘡(とうそう))・牛痘・鶏痘・ウサギ粘液腫(ねんえきしゅ)などの病気をひき起こすウイルス群。形態・物理学的性状が似ており，分類上１グループにまとめられている。このうちヒトに関係深いものは，痘瘡の病原体であるバリオラ・アラストリムおよび痘瘡ワクチンとして人為的に得られたワクシニアウイルスの３種である。ウイルスとしては最も大きく，300×200×100mμのれんが状で，中心部に遺伝物質であるDNAがあり，外側には被膜がある。非常に安定であるが，56℃，30分の加熱で不活化される。また，エチルアルコール・ホルマリンでは比較的容易に不活化される。皮膚や粘膜から侵入して皮膚を侵し，しばしばそのウイルス固有の発疸を生じさせる。増殖は細胞質(核外)で行なわれ，多くのものが封入体を形成し，ある種の封入体は実際ウイルス増殖の場であることが示されている。〔石川　彬〕

ぽっくりびょう　【ぽっくり病】前兆もなく，しかも深夜睡眠中に突然うなり声を発して四肢(しし)をつっぱったかっこうで，急死してしまうもの。20～30代の頑強(がんきょう)で栄養佳良の青年に多くみられる。解剖の結果，主要臓器に特筆すべき変化は認められないが，ある程度，副腎(ふくじん)の発育不全，軽度の冠動脈硬化，心筋と冠動脈の発育の不均衡，胸腺(きょうせん)実質の残存が観察されることがある。これらに過労，就眠前の過食・喫煙・性交などの肉体的条件が重なって，急激な冠動脈の攣縮(れんしゅく)の結果起こる冠不全(軽度の冠動脈硬化，心筋と冠動脈発育の不均衡のある場合)，一次的なショック状態(副腎の発育不全，胸腺の残存)などが原因と推定されている。確実

な予防の方法はないが，平常健康に自信のある者も心身の酷使は避けるべきである。〔佐野隆志〕

ほっけ【𩸽】硬骨魚類・アイナメ科。全長40cmほどの海産魚。背びれ約20棘(きょく)30軟条で上縁はゆるやかな凸形(とつがた)，臀(しり)びれ約27軟条，尾柄は低く，尾びれは深く切れ込んで二叉に分かれる。側線は各側に4本あり，第3側線は胸びれより後方にあり，第4側線は胸部と腹部の正中線にあって二叉に分かれ，臀びれ基底の左右に沿って縦走する。なお，これらの側線のほかに，胸びれと腹びれの間を縦走する1本の側線がある。北海道周辺に多いが，日本海南部や宮城県金華山沖あたりからも知られている。食用魚。〔安田富士郎〕

ほっけ【北家】藤原四家の一(→藤原氏)。不比等(ふひと)の2男房前(ふささき)を祖とし，その邸宅が兄武智麻呂(むちまろ)の邸の北にあったところからこうよばれる。房前は元明・元正天皇の信任が厚く，その子永手・真楯(またて)・魚名らも大臣・納言として活躍し，特に真楯の子孫は，内麻呂(右大臣)・冬嗣(ふゆつぐ)(左大臣)・良房(太政(だじょう)大臣)と引き続き枢機に参画してしだいに権力を固めていき，後世の摂関家(→摂家)の基礎をつくったので，藤原四家のうち最も栄えることとなった。中世以降この流れが分裂して五摂家*の分立をみたが，これが公家(くげ)最高の家格として重んじられたほか，三条・西園寺(さいおんじ)・徳大寺などの有力公家も多くはこの流れをくむものであった。〔鮗　弘道〕

ホッケー［hockey］球技の一。各11人の選手で編成された2チームが，スティックで1個のボールを打ち合い，相手のゴールに入れたボール数で勝負を争うもの。ただし，ヨーロッパやアメリカ合衆国で単にホッケーという場合はアイスホッケーをさし，陸上のホッケーはフィールドホッケーまたはグラースホッケーといっている。

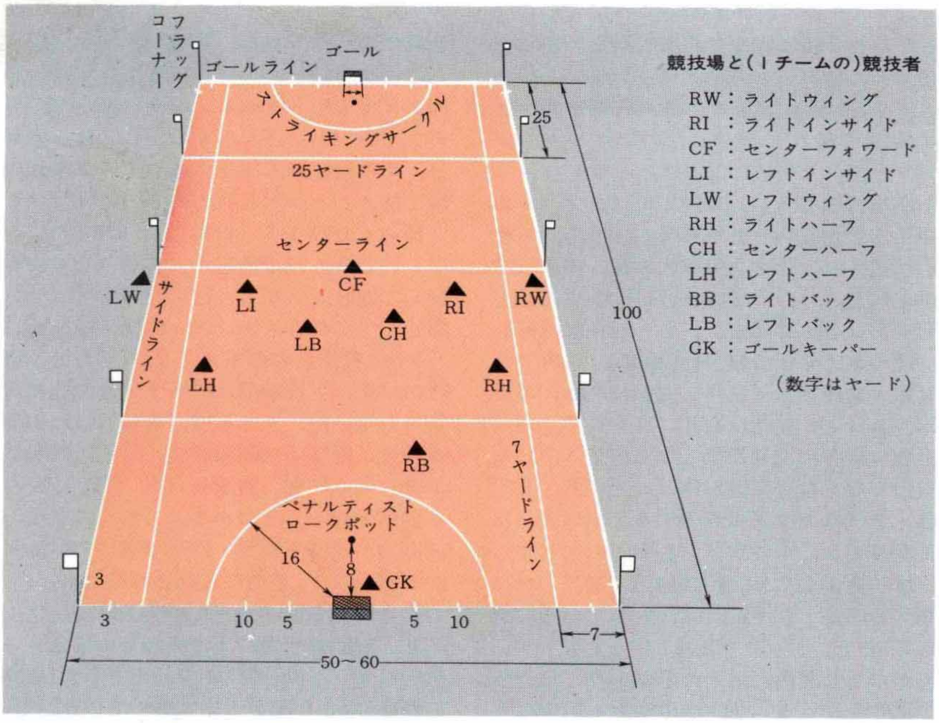
【歴史】 ホッケーの起源については明らかでないが，アテネ*で発見された紀元前の浮き彫りの中に，6人の裸像がスティックを持って立ち，そのうちの2人が向かい合って，競技開始の姿勢をとっていることから，紀元前から球技の一つとしてホッケーのようなものが行なわれていたのではないかといわれている。また1272年ごろ，アイルランドで真鍮(しんちゅう)製のボールを使用したといわれるホッケーに似た競技があり，アメリカ大陸でもインディアンの間で，古くからホッケーに似たゲームが行なわれていたと伝えられる。近代スポーツとしてのホッケーの成立は，1887年イギリスにホッケー協会が創立されたころからとされ，この前後からオーストラリア・フランス・パキスタン・インド・アメリカ合衆国など各国に普及し，1924年パリにおいて国際ホッケー連盟(FIH)が設立され，オリンピックには1928年の第9回アムステルダム大会から正式種目となった。



ホ ッ ケ



ホ ッ ケ ー 無敵のインドチーム(ブルーの上着)の妙技に，ホッケーファンをうならせたオリンピック東京大会(1964)の香港戦



日本にホッケーが伝えられたのは1906年(明治39)のことで，当時東京の飯倉(いいぐら)にあった聖アンドリウス教会の牧師グレーの手で，慶応義塾(ぎじゅく)大学に紹介されたのが最初である。その後，横浜・神戸(こうべ)に住む在日外人チームとの交流などを行ないながら成長し，1923年(大正12)日本ホッケー協会が設立され，今日の隆盛をみるに至った。

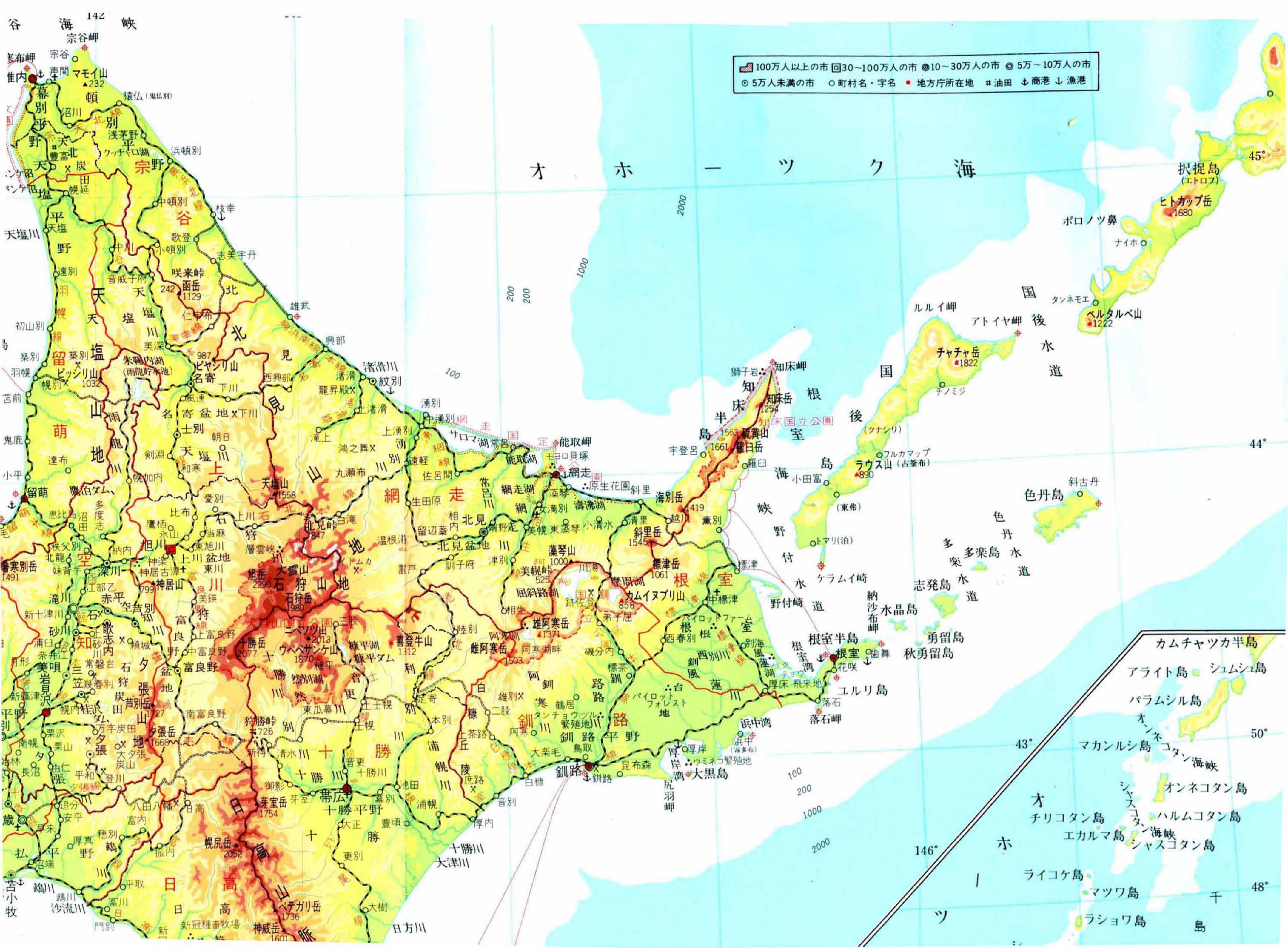
〔競技方法〕 試合は各11人の2チームの間で行なわれるが，各チームの編成は攻撃を専門とするフォワードが5人，攻撃と守備を兼ねるハーフバックが3人，守備専門のフルバックが2人，ゴールの守備に専念するゴールキーパーが1人となっている。

試合時間は前半・後半各35分で，この間に5分の休憩がある。女子は前半・後半各30分で，休憩は男子の場合と同じ。試合は，センターラインの中央で行なわれるブリーオフ(両チームから出た各1人のプレーヤーがボールをはさんで向かい合い，スティックの平面をボールの上でお互いに3回打ち合わせたあと，ボールに対して行動を起こす)で開始される。

おもな反則は，次のとおり。ハイスティック：ボールを打ったときや空中にあるボールを止めるときに，スティックが肩から上にあがった場合。キックボール：ゴールキーパー以外のプレーヤーが，ボールをけったり，足でボールを止めたりした場合。オブストラクション：スティックや体・手などを用いて相手のプレーを妨害した場合。デンジャラスプレー：乱暴なプレーをした場合。その他，オフサイドなどがあり，このような場合相手方にフリーヒットが与えられる。また，ストライキングサークル内で防御側が反則を犯したときは，攻撃側にペナルティコーナー(ストライキングサークルがゴールラインと交わる地点から行なう)が与えられ，防御側プレーヤーが自陣25ヤードラインとゴールラインとの間で最後にボールに触れて，ボールがゴールラインを越えて出た場合，攻撃側にコーナーヒット(コーナーフラッグの地点から行なう)が与えられる。また，防御側プレーヤーがストライキングサークル内で得点を防ぐため故意に反則した場合，あるいは同サークル内

原书缺页

原书缺页



100万人以上の市 30～100万人の市 10～30万人の市 5万～10万人の市
5万人未満の市 町村名・字名 地方庁所在地 油田 商港 漁港
オホーツク海
宗谷海峡
宗谷岬
稚内
マモイ山 232
宗谷丘陵
天塩川
留萌
旭川
名寄
北見
網走
紋別
能取岬
知床岬
知床半島
知床岳 1254
羅臼岳 1661
硫黄山 1563
知床国立公園
根室海峡
根室
根室半島
納沙布岬
釧路
帯広
大雪山
旭岳 2290
石狩岳 1980
十勝岳 2077
ニペソツ山 2013
ウペペサンケ山 1870
石狩山地
北見山地
天塩山地
日高山脈
幌尻岳 2052
ペテガリ岳 1736
芽室岳 1754
夕張岳 1668
芦別岳 1727
十勝平野
釧路平野
根釧台地
阿寒湖
屈斜路湖
摩周湖
雄阿寒岳 1371
雌阿寒岳 1503
斜里岳 1545
羅臼
標津
中標津
厚岸
落石岬
霧多布
襟裳
国後島
ラウス山 890
国後水道
択捉島
ヒトカップ岳 1680
ベルタルベ山 1222
色丹島
歯舞
水晶島
志発島
多楽島
勇留島
秋勇留島
ユルリ島
カムチャツカ半島
シュムシュ島
アライト島
パラムシル島
オンネコタン島
ハルムコタン島
シャスコタン島
エカルマ島
チリコタン島
マカンルシ島
ライコケ島
マツワ島
ラショワ島
千島
44°
43°
45°
48°
50°
142
146°

で無意識な反則がなかったならおそらく得点されたと思われるときは，攻撃の側にペナルティストロークが与えられる。この場合，攻撃側の1人のプレーヤーによって，ペナルティストロークポイントからゴールに対して1回のシュートが許される。

〔施設と用具〕競技場は図参照。ボールは野球のボールより少し大きい程度で，コルクとより糸でつくったしんを白い皮でおおったもの。重さは5 ½オンス(約156g)まで。スティックは，右手前に持ったとき，その左側の面が正面になるようにつくられており，ボールに対してこの平面部分しか使用できない。スティックの重さは12オンス(約340g)～28オンス(約794g)で，直径2インチ(約5㎝)の輪を通る太さでなければならない。プレーヤーはこのスティックでボールを相手ゴールへ打ち込んで得点を競うわけであるが，図のストライキングサークル内からのシュートだけが得点となる。
〔矢野博一〕

ほっけいっき　【法華一揆】　戦国時代，日蓮(にちれん)宗(法華宗)徒によって起こされた一揆*。天文法華の乱ともいう。室町中期以来，日蓮宗は近畿(きんき)地方に発展し，特に京都の町衆*に多くの信者を得てしばしば一揆を起こした。1532年(天文1)細川晴元(1514～1563)は一向一揆*討伐のため，法華一揆の力を利用して山科(やましな)の本願寺を焼き打ちした。その後5年間にわたり法華一揆は市内寺院を拠点に，地子銭(→地子)排除を宣言し，市内を自治的に警備した。しかし，1536年延暦(えんりゃく)寺衆徒は60,000の兵をもって京都の日蓮宗21か寺を焼き払った。これにより法華一揆は解体し，以後京都における日蓮宗の宗勢は弱まった。
〔高崎徳次〕

ほっけじ　【法華寺】　奈良市法華寺町にある真言律宗の寺。総国分寺の東大寺に対し，光明皇后が745年(天平17)に父藤原不比等(ふひと)の旧宅を改め，総国分尼寺として伽藍(がらん)を建立(こんりゅう)した。現在の南大門・本堂・鐘楼は桃山時代に豊臣秀頼(とよとみひでより)が再建したもの。本堂に安置される本尊の《木造十一面観音立像》は平安前期の優作。また，国宝の《絹本著色(ちゃくしょく)阿弥陀(あみだ)三尊及童子像》は平安時代の作で，わが国仏画の代表作である。

ほっけはっこう　【法華八講】　単に八講ともいう。《法華経(ほけきょう)》8巻を八座に分けて講説する法会。中国の唐に先例があるが，わが国では796年(延暦15)，勤操*(ごんそう)が奈良の石淵(いわぶち)寺で同志7人とこれを修したのがはじまりであり，以来，宮中・幕府・各寺院で営まれてきた。なお，《法華経》8巻の前後に開経の《無量義経》，結経の《観普賢経》を加え，十巻十座に分けて講説するのを〈法華十講〉，さらに《法華経》28品(ほん)に開経・結経を加えて，これを30日に分けて一日一品ずつ講説するのを〈法華三十講〉という。
〔京戸慈光〕

ボッケリーニ　［Luigi Boccherini］(1743～1805)　イタリアの作曲家・チェロ奏者。ルッカの生まれ。コントラバス奏者の父親から音楽の手ほどきを受けたのち，ローマでチェロと作曲を学ぶ。やがて，タルティーニの弟子(でし)であったバイオリン奏者F.マンフレディとともにフランス各地に演奏旅行を企てた。パリではゴセック*に会った。このころいくつかの室内楽作品が出版された。1769年にはスペインに招かれ，王子ルイスつき作曲家・演奏家の地位を獲得。その後，スペインを中心に活躍するが，晩年にはあまり恵まれず，貧困のうちに世を去った。作曲家としてのボッケリーニは古典派に属し，この時代の器楽曲作曲家として重要な位置を占めている。ハイドンと同様，特に新しい室内楽様式の確立に多大の貢献をした。彼の音楽の特徴は，イタリアとフランスの趣味の融合にあり，優美で，洗練された作風を示している。作品には，種々の楽器の組み合わせによる三重奏から八重奏に至る数多くの室内楽曲があり，交響曲や協奏曲などの管弦楽曲もある。
〔寺田兼文〕



法　華　寺　豊麗な肉身の趣を見せる白檀による本堂安置の《木造十一面観音立像》

ほっけん　【法顕】　生没年不詳。中国，東晋(とうしん)時代の訳経僧。山西省平陽の生まれ。4世紀後半から420年前後までの人らしい。西域求法(ぐほう)僧のひとりで，インド旅行記《仏国記*》は有名である。彼が長安を出発したときはすでに60歳という高齢であった。かねてから中国における戒律文献の不備を痛感していた彼は，なんとかしてその完本を将来しようという求法の志やみがたく，同学の4人とともに危険に満ちた西域の旅に向かった。帰国後，みずから入手した大衆部の律蔵，《摩訶僧祇律(まかそうぎりつ)》40巻その他を翻訳した。〔岡部和雄〕

ポッゲンドルフ　［Johann Christian Poggendorff］(1796～1877)　ドイツの物理学者・科学史家。1834年ベルリン大学教授。1820年，電磁気に関する研究から最初の電流計である電磁倍率器を発明。1824年《ポッゲンドルフの物理化学年報》を創刊編集し，また1857年から科学史のための《科学者辞典》を編集した。

ほっこくしんぶん　【北国新聞】　石川県で発行されている地方新聞。1893年(明治26)8月5日創刊。金沢市に本社を置く。赤羽万次郎が改進党派有志を糾合して発行したもの。1940年(昭和15)《北国毎日新聞》と改題，県下の有力紙を合併して県の代表紙となったが，1950年現在名にもどる。1954年《富山新聞》(朝刊)と業務提携し，発行部数は朝刊約23万4,000，夕刊約87,000(1980)。

ボッシュ　［Hieronymus Bosch］(1450ごろ～1516)　ネーデルラントの画家。南オランダのヘルトゲン-ボッシュに生まれ，同地に没した。宗教画・寓喩画(ぐうゆが)・風刺画などを制作。魅惑的な風景描写・写実



ボ ッ シ ュ　《最後の審判》　ミュンヘン-アルテ-ピナコテク蔵

的な風俗描写を下地に，しばしば空想的・幻想的な情景や妖怪(ようかい)を描いて比類のない独創性を示した。その風刺精神はまことに鋭く，ブリューゲル*ら後代の画家に与えた影響は大きい。代表作に《悦楽の園》《乾草車》などがあり，第2次世界大戦後にはシュルレアリスムの要素をもった画家として，あらためて大きな評価が与えられた。〔岡部紘三〕

ボッシュ [Carl Bosch] (1874〜1940) ドイツの化学工業家。ケルンに生まれ，ライプチヒ大学で有機化学を学ぶ。IG染料工業会社社長。F.ハーバー*の発明した空中窒素固定法を彼と共同して工業化を行ない，水素・窒素からアンモニアの合成に成功。また1913年炭酸ガスとアンモニアから尿素の工業的合成にも成功し，空中窒素固定法とともに第1次世界大戦中に火薬原料および肥料として利用された。高圧化学の工業化に関する業績に対し1931年ベルギウスとともにノーベル化学賞を受賞。➔ハーバー－ボッシュ法〔山下愛子〕

ぼっしゅう 【没収】 刑罰*の付加刑の一。犯罪行為と関係ある一定の物を犯人から取り上げて国庫に帰属させる処分のこと(刑法19条)。没収の対象は，①犯罪行為を組成した物(偽造文書など)，②犯罪行為に供しまたは供しようとした物(凶器など)，③犯罪行為から生じ，もしくはこれによって得た物または犯罪行為の報酬として得た物，④以上掲げた，物の対価として得た物などである。付加刑であるので，懲役・罰金などの刑罰を言い渡す場合に限って科すことができる。また没収は，形式上は刑罰であるが，この目的は，その物から生ずる犯罪の危険性を防止し，犯罪による不当利益を除去することにある。なお，一定の場合には犯人以外の者に属する物を没収することができる。〔井上公耳〕

ほっしょうじりゅう 【法性寺流】 藤原忠通(ただみち)(1097〜1164)の書風。忠通は平安時代の末の人で，法性寺関白といわれている。その書風は藤原行成*の書風を強く書いたもので，当時および鎌倉時代に流行した。忠通の孫藤原良経*(よしつね)の後京極流は法性寺流の継承である。

ほっしん 【発疹】 ⇨はっしん

ほっしんしゅう 【発心集】 鎌倉前期の説話集。14世紀初めの成立か。撰者(せんじゃ)は鴨(かも)長明。はじめ3巻本として成立していたが，後人の加筆があって現在の8巻となった。仏教関係の説話が多く，《今昔物語集*》《続本朝往生伝》《古事談》など先行の説話集に取材している。

ほっす 【払子】 白払(びゃくほつ)・払麈(ほつじん)ともいう。元来は，カ・アブなどの害虫や塵埃(じんあい)を払い除くための用具として，インドで使用されていたが，仏教経典類で供養具や荘厳具(しょうごんぐ)，または本尊脇侍(わきじ)の持物の一つとしてあげるところから，僧侶(そうりょ)の威儀を正す仏具に転用された。一振すれば煩悩(ぼんのう)・悪難を払い除き，一切畜生を払えば畜生みな解脱を得るとも説かれる。《毘奈耶律(びなやりつ)》という法典には羊毛払，アサや古裂(こぎれ)でつくった線払，樹皮を用いた樹皮払の三つをあげているが，遺品で見るかぎりでは，白色の長い獣毛をたばねて棒状の柄先にとりつけたものが通例である。僧侶の持物として宗派を問わないが，わが国では禅宗関係の儀式具に特に重用され，禅僧の肖像画である頂相(ちんそう)にも散見される。〔河田 貞〕

ほっすがい 【払子貝】 海綿動物・ホッスガイ科。本体は帽子をさかさにしたような形で，その下に長い硅糸(けいし)束の柄部がある。その形が払子に似るのでこの名がある。本体には多くの小孔があり，内部は網状になる。柄部の硅糸束は多少ねじれており，その上部に，カイメンスナギンチャクが必ず共生する。全長50cmにも達する大形の海綿で，そのうち本体は10〜15cm程度。相模(さがみ)湾の300〜500mから知られ，柄部で海底に立っていると考えられる。

ほっそうしゅう 【法相宗】 仏教の一宗派。法相という仏教用語は万象が有する本質の相状を意味し，この宗では法相を分析的・分類的に詳細に説くので法相宗とよばれる。また学説の特徴が，万象ことごとく自己の意識が変現したものであり，人間の心識の働きを離れてそれ以外にいかなる実在もないという唯識思想を説くので，唯識宗ともよばれる。唯識思想は仏教の二大潮流の一つで，インドでマイトレーヤ(弥勒(みろく))・アサンガ*(無着)・バスバンドゥ*(世親)によってしだいに体系化された。中国では唐の玄奘*(げんじょう)がインドに留学した際に戒賢からその思想を学び，《解深密経*(げじんみっきょう)》や《成唯識論*》など唯識学派の仏典を持ち帰り翻訳して思想を宣揚した。そして彼の高弟の窺基*(きき)によって宗派としての形態をそなえるようになった。窺基の後継者に恵沼・智周(ちしゅう)などが出て宗旨を広めた。日本には飛鳥(あすか)時代から奈良時代にかけて前後4回にわたって伝来したが，道昭が653年(白雉4)に伝えたのが初伝である。これら4伝は元興(がんごう)寺*と興福寺*を中心に伝来し，元興寺の系統を南寺伝，興福寺の系統を北寺伝という。法相宗の学問は上記2寺のほか法隆寺*・薬師寺*をはじめ奈良の諸寺で仏教の基礎学として広く学ばれた。現在では興福寺と薬師寺が法相宗の大本山であり，その下に40余の末寺がある。〔佐藤成順〕

ほったまさよし 【堀田正睦】 (1810〜1864) 江戸末期の幕府の老中。下総(しもうさ)(千葉県)佐倉藩主。備中守(びっちゅうのかみ)と称す。号は見山。1825年(文政8)佐倉十一万石を継ぎ，1834年(天保5)寺社奉行(ぶぎょう)，1837年大阪城代に任ぜられたが赴任せず，西丸老中となった。1841年老中となり幕政に参与したが，1843年帰藩して藩政改革を行ない，社倉の設置，蘭学(らんがく)の奨励，西洋兵制の研究・採用などを行なった。1855年(安政2)老中首座となり，1857年日米通商条約をハリスと交渉し，翌1858年条約調印の勅許を得るために上洛(じょうらく)したが，得られなかった。また将軍継嗣問題*で一橋(徳川)慶喜(よしのぶ)を支持して，紀州派と争い，朝幕間の融和を図ったが，紀州派の井伊直弼(いいなおすけ)の大老就任により敗れ，老中を罷免された。〔岡山泰四〕

ポツダム [Potsdam] 東ドイツ中部，ベルリン南西部に接する都市。人口12万0,300(1976)。かつてプロシア王やドイツ皇帝の居住地で，フリードリヒ大王の造営になるサンスーシー宮殿とその庭園が残っている。紡績や機関車製造が行なわれ，市東部のバーベルスベルクは映画撮影で知られる。地磁気観測所など各種研究所がある。1945年7月26日，連合国が対日共同宣言(ポツダム宣言)を行なったところとして著名。

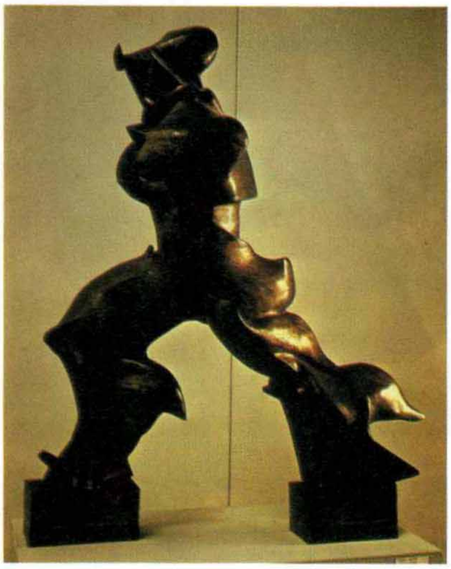
ポツダムかいだん 【ポツダム会談】 1945年7月17日〜8月2日，ベルリン郊外ポツダムで開かれた首脳会談。アメリカ合衆国大統領トルーマン，イギリス首相チャーチル(のちアトリーと交替)，ソ連首相スターリンらが参加。ドイツの戦後処理方針と日本の降伏条件とが討議され，ドイツ問題に関しては8月2日ポツダム協定(議定書)が調印され，のちにフランスもこれに参加した。対独講和会議の開催と講和成立までアメリカ合衆国・イギリス・フランス・ソ連の4か国によるドイツの分割占領，ドイツの地方自治の推進などを規定，連合軍によるドイツ占領政策の原則を明示した。日本の降伏条件については7月26日，ポツダム宣言*が発表された。〔折井一彦〕

ポツダムきんきゅうちょくれい 【ポツダム緊急勅令】 〈ポツダム宣言*ノ受諾ニ伴ヒ発スル命令ニ関スル件〉(昭和20年勅令542号)のこと。ポツダム宣言の受諾に伴って，日本政府は間接統治の方法をとった連合国最高司令官の指令を実施するため，本来は法律で定めるべき立法事項を，命令で実施できるよう緊急勅令*の形式をとった。1952年対日講和条約*の発効に伴い廃止。➔ポツダム命令

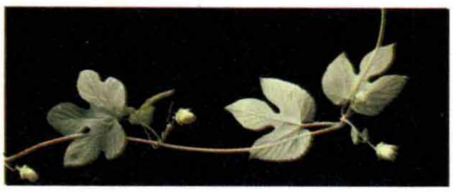
ポツダムせんげん 【ポツダム宣言】 1945年7月26日，ポツダム会談*で発表されたアメリカ合衆国・イギリス・中国の対日共同宣言。ソ連も8月8日対日宣戦布告後これに参加した。13か条よりなり，はじめの4か条で連合国の戦力と戦意を誇示したあと，第5条で日本の無条件降伏を勧告，第6条以下で降伏の具体的条件を提示している。日本軍国主義の永久排除のため，連合軍の日本占領，領土の削減，完全武装解除，戦争犯罪人の処罰，民主的諸原則の確立などを規定し，8月14日日本はこれを受諾して降



ボッチチェリ 《ビーナスとマルス》 ロンドン-ナショナル-ギャラリー蔵



ボッチョーニ 《人体の力学》



ホ ッ プ

伏,太平洋戦争は終わった。9月2日ミズーリ号艦上で調印された降伏文書はこの宣言を内容としており,以後占領軍の日本占領計画や対日講和条約の基礎となった。 〔折井一彦〕

ポツダムめいれい 【ポツダム命令】 ポツダム緊急勅令*に基づく旧憲法下の勅令・閣令・省令(新憲法公布後はそれぞれ政令・府令・省令)の総称。ポツダム勅令としては,警察予備隊令・公職追放令・物価統制令など,現行憲法で勅令が政令と改められて以降は,ポツダム政令として,団体等規制令*・占領目的阻害行為処罰令などがあった。1952年(昭和27)対日講和条約*発効後,出入国管理令*など一部のものは法律として残され,現在も暫定的にその効力が認められている。 〔原田政洸〕

ほったよしえ 【堀田善衛】 (1918〜) 小説家。富山県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学仏文科卒。国際文化振興会その他での勤務,中国での体験などから《祖国喪失》《歯車》などを発表。1951年(昭和26)《広場の孤独》で芥川(あくたがわ)賞*を受賞,国際的な視野と社会性が注目された。他に《時間》《海鳴りの底から》《ゴヤ》などの大作のほか随筆集《インドで考えたこと》などがある。その後もアジア-アフリカ作家会議など国際舞台で精力的に活躍。

ボッチチェリ 〔Sandro Botticelli〕 (1445ごろ〜1510) イタリアの画家。フィレンツェで画家となり,先輩画家の影響を受けながら独自の画風を樹立,イタリア-ルネサンスの巨匠のひとりとなった。しかし,内面的には新興のルネサンス精神と中世的な考え方に引き裂かれていた。このためか,前半期の作品には,素描家としての特質を生かした神話的主題による官能的なものが多い。しかし,晩年にサボナローラの教説に心服してからは,著しく神秘的な傾向を強め,前半期のみずみずしさは失われていった。生涯(しょうがい)には,大工房を経営し,きわめて豊かな生活を送った時期もあったが,晩年は病弱のためもあって,不遇のうちに終わった。代表作としては,《ビーナスの誕生》《春》《ピエタ》《キリストの埋葬》などがある。 〔吉田玲子〕

ぼっちゃん 【坊っちゃん】 夏目漱石*(そうせき)の初期の中編小説。1906年(明治39)《ホトトギス*》に発表。四国の中学に赴任した坊っちゃんが,周囲の卑俗・退廃とたたかうというもので,その性は単純であっても正義派の主人公によって,現実の俗悪さを戯画的に描き出し,作者の不正への怒りを激しく表出した。善玉・悪玉の明確さ,江戸ことばと四国方言の対比の妙,きびきびした文体などで,現在でも広く愛読されている。

ホッチョセぶし 【ホッチョセ節】 岐阜県の民謡。中津川を中心とする恵那(えな)郡一帯にあった盆踊り唄(うた)に由来し,《中津川甚句(じんく)》ともいう。三味線(しゃみせん)の伴奏がついて,二上がりのお座敷唄となった。波状の旋律線と〈ホッチョセ〉という囃子詞(はやしことば)とが対比的に組み合わされている。

ボッチョーニ 〔Umberto Boccioni〕 (1882〜1916) イタリア未来派*の最重要な画家・彫刻家。1898年ローマに出てバルラ*に学び,1900年セベリーニとも知り合う。新印象派と象徴派の影響を受けながら分割主義の絵画にしたがっていたが,1908年にはミラノに移って,翌年未来派運動の主唱者マリネッティ*に会い,この運動の指導的な作家・理論家として活動した。1910年に未来派画家宣言をバルラ・セベリーニらと署名,1912年には単独で未来派彫刻の技術宣言を公にしている。 〔井関正昭〕

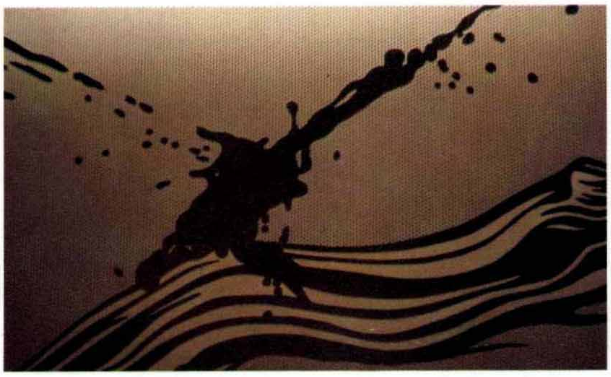
ホッテントット ⇨ブッシュマン-ホッテントット

ホットケーキ 〔hot cake〕 パンケーキともいう。小麦粉に卵・牛乳・食塩・砂糖・ベーキングパウダー・バターなどをよく混ぜて,バターをひいた分厚い鉄板(またはフライパン)に円形に流して焼く。食べるときはバターをのせ,はちみつ・メープルシロップ・カラメルソースなどを添える。朝食や子どものおやつとされ,また甘味を薄くして軽食として用いる。

ホットドッグ 〔hot dog〕 小形のロールパンでつくるサンドイッチ*の一種。パンを天火であたためて切り目を入れ,切り口にからし・バターを塗る。ウインナーソーセージを,薄切りのピクルスまたは千切りのキャベツといっしょにパンの切り口にはさむもの。アメリカ合衆国で創案され,わが国では第2次世界大戦後に軽食として急速に普及した。

ホット-マネー 〔hot money〕 国際短期資本移動(→資本移動)には金利裁定のように利子所得の獲得を目的にするもののほかに,資本価値の保全を目的にして国際金融市場の間を移動するものがある。たとえば,ある一国において,インフレーション,為替(かわせ)平価の切り下げ,為替管理の導入,その他社会的ないしは政治的不安が発生するような場合には,その国に流入している短期資本の資本価値がそこなわれたり,場合によっては回収不能に陥る危険が生ずる。したがってこのような危険を回避し資本価値の保全をはかる目的で,このような国からより安定した国へ短期資本が流出することになる。このような短期資本をホット-マネーという。ホット-マネーの移動は,急激に短期のうちに多額に発生するから国際収支困難をひき起こすことが多い。 〔安井孝治〕

ホッパー 〔hopper〕 上部が広く開き,下部が狭い出口からなる円錐(えんすい)形または角錐形の容器。下部には開閉用のダンパーやバルブなどをそなえる。石炭・鉱石・セメント・穀類など粉粒体や塊状の物体をたくわえるのに用いられ,下部には鉱石車・計量器などが待ち受ける。なお,つまりやすい物体を扱う場合は,それ相当の形状やつまり防止機構が施される。



ポップ-アート リキテンシュタイン《作品》 シカゴ美術研究所蔵



ホッベマ《並木道》 ロンドン-ナショナル-ギャラリー蔵

ホップ [hop] 双子葉植物・クワ科。ヨーロッパからアジア西部原産のつる性多年草で，地上部は枯れる。セイヨウカラハナソウともいう。茎や葉に下向きの棘(とげ)があり，つるで他物にからみつき，高さ8mにもなる。葉は3～5裂する掌状葉で対生するが，花序に近い葉は切れ込みがなく，両面ともざらつく。雌雄異株で，8～9月ごろ雄花は小さな円錐(えんすい)花序をなし，雌花は3～5cmの長楕円(ちょうだえん)形状の花穂をなしてたれ下がる。雌花の包や子房には黄色い腺点(せんてん)がある。成熟初期の果実を乾燥して，ビールの苦味と芳香をつけるのに用いる。長野・山梨・新潟県および東北地方・北海道で栽培される。本州中北部から北海道に分布するカラハナソウは，本種によく似るが腺点が少ないので利用されない。➔前ページ(写)〔加藤僖重〕

ポップ-アート [pop art] ポピュラー-アートの略称。1950年代末から1960年代の初頭にかけて，ロンドン・ニューヨークを中心に起こり，各国に波及した。その当初は，絵画様式のみをささず，大衆文化そのものをさす表現として用いられていた。しかし，1960年代初頭には，抽象表現に対立する図像表現をさすようになった。技法的には，ハード-エッジ*・シルク-スクリーン・極彩色などが特徴的に用いられる。代表的作家には，漫画を印刷の網目まで入れて拡大して描くリキテンシュタイン，モンロー・ジャクリーヌ夫人の写真などを幾列にもくり返すウォホール，巨大なハンバーガーをつくるオルデンバーグらがいる。

ホッブズ [Thomas Hobbes] (1588～1679) イギリスの哲学者・政治思想家。ウィルトシャーの田舎(いなか)牧師の子として生まれた。オックスフォード大学に学んだのち，彼の終生のパトロンとなったキャベンディッシュ家の家庭教師となって，フランス・イタリアへも同行。以後3度大陸を訪れ，1640～1651年の間はピューリタン革命を避けてフランスで亡命生活を送り，ガッサンディ*・メルセンヌらと知り合う。彼の思想にはガリレイ*・ガッサンディ・デカルト*らの大陸の思想家の影響が大きく，F.ベーコン*に始まるイギリス経験論の伝統の中では独自な立場にある。帰国後王政復古を迎え，以後，だいたいにおいて静かな学究生活を送った。彼は機械的唯物論*の立場に立って，すべての実体は物体であり，すべての現象は運動に帰すことができると考えた。また，快の追究，苦の拒否を人間の本性とする功利主義的立場を主張した。その政治思想は絶対王政の正当化にあるが，その根拠を人間の自然権と社会契約に求めたところに彼の新しさがある。主著《リバイアサン*》のほか，《自然法および人為法の構成要素》《哲学綱要》など。〔石井忠厚〕

ホッベマ [Meindert Hobbema] (1638～1709) オランダの画家。ロイスダール*に師事したが，師とともにオランダの代表的風景画家として知られる。森・小川・水車小屋などを好んで題材として扱った。その作品は正確な自然研究，ゆったりとした構図を特徴とし，代表作には《水車》などがある。生涯(しょうがい)についてはあまり詳しいことは知られていないが，1688年からは税務官吏をつとめたという。

ほっぽうじんしゅ 【北方人種】 ⇨コーカソイド

ほっぽうせんそう 【北方戦争】 1700～1721年，バルト海支配をめぐるロシアとスウェーデンの戦争。スウェーデンのカール12世はナルバの戦い*でロシア軍を大破し，ロシアと同盟したポーランド・デンマークを制し，ウクライナに侵入。1709年ポルタバの戦いで再起したロシア軍に敗れ，その後ノルウェーとの戦いでカール12世は戦死した。1721年のニスタット条約*によりスウェーデンはロシアと講和し，ロシアはペテルブルグなどバルト海東岸地域を獲得した。

ポーツマス [Portsmouth] イギリス，イングランド南部，イギリス海峡に面する港市で，同国海軍の主要基地。人口20万(1974)。16世紀ヘンリー8世の時代に造船所が築かれて以来，イギリスの重要軍港となり，特に19世紀に大拡張された。市の南部地区は保養地で海水浴場となる。12世紀建造の聖トーマス寺院があり，作家ディケンズの生家がディケンズ博物館となっている。

ポーツマス [Portsmouth] アメリカ合衆国東部，ニューハンプシャー州の大西洋岸にある港湾・商業都市。人口111,000(1970)。合衆国海軍の造船所があり，避暑地としても知られる。日露講和条約(➔ポーツマス条約)の締結地。

ポーツマスじょうやく 【ポーツマス条約】 日露戦争*の講和条約。日露講和条約ともいう。アメリカ大統領T.ルーズベルトの斡旋(あっせん)で，1905年(明治38)8月10日からアメリカのポーツマスで日本全権小村寿太郎*，ロシア全権ウィッテ*の間で講和会議が開かれ，会議は領土割譲と賠償金問題で難航したが，日本の譲歩で条約は29日妥結，9月5日正式に調印された。本条約で日本はロシアに対して，①韓国(かんこく)における日本の政治・経済・軍事上の優越と利権の承認，②関東州租借権，南満州鉄道とその付属地の鉱山採掘権の譲渡，③50°N以南の樺太(からふと)(サハリン)の割譲，④沿海州とカムチャツカの漁業権の許与などを認めさせ，ロシアの南満州進出を封じて韓国を確保し，さらに大陸に進出する足がかりをつくった。しかし日本国内では，条約内容を不満とする国権主義者らによって日比谷で新聞社，交番の焼き打ち事件*などが起こされた。〔高崎徳次〕

ほづみのぶしげ 【穂積陳重】 (1856～1926) 法学者。伊予(愛媛県)宇和島藩士の家に生まれ，藩校を出てのち大学南校に学ぶ。1876年(明治9)イギリス・ドイツに留学，

1881年東京大学講師，翌年から同教授となり民法学を担任。民法典論争*においては実施延期論を主張した。次いで富井政章*(まさあき)・梅謙次郎*とともにこれに代わる民法典の起草に携わったほか，商法・民事訴訟法などの起草にも参画した。また，法を文化現象としてとらえ，比較法制史的方法によって法の生成・発達・進化のあとを明らかにすることに力を注いだ。主著に《法律進化論》《隠居論》などがある。〔安達利夫〕

ほづみやつか【穂積八束】(1860～1912) 憲法学者。穂積陳重(のぶしげ)の弟。東京大学卒業の翌年からドイツに留学した。帰国後，1889年(明治22)母校の教授となり，憲法学講座を担任した。旧憲法のもとで君権絶対主義を提唱した代表的な憲法学者である。民法典論争では〈民法出でて忠孝亡ぶ〉と有名な警句をはいて法典延期論に加担した。主著に《憲法提要(上・下)》《憲法大意》など。

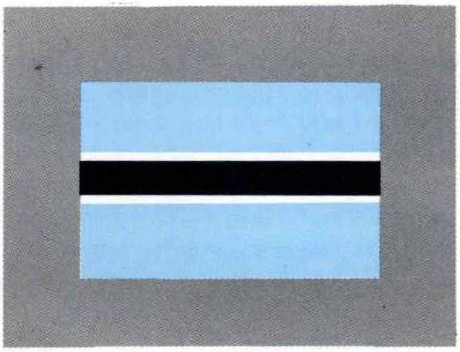
ぼつりそうろんそう【没理想論争】 文学論争。1891年(明治24)から翌年にかけて森鷗外*(おうがい)・坪内逍遙*(しょうよう)の間に起きた，日本近代文学史上最も重要な論争の一。芸術にイデア(理想)を認めるか否かをめぐって文学の目的・方法を模索した。逍遙がシェークスピアの戯曲について没理想であることを評価したのに対し，鷗外はハルトマンの美学を援用しながら，世界は実(レアル)のみならず想(イデア)に満ちていると反駁(はんばく)を加え，対立した。この客観主義と主観主義の対立は結局不十分のまま終わり，のちに北村透谷・島村抱月らによって問題点は深められた。〔金子　博〕

ボツリヌスきん【ボツリヌス菌】 食中毒の原因菌で，クロトリジウム属の細菌。嫌気(けんき)性のグラム陽性桿菌(かんきん)で周囲にべん毛をもち，芽胞をつくり，土中に広く分布する。この菌自体には病原性がなく，感染しないが，強力な菌体外毒素を産生する。魚に付着しているこの菌の芽胞が，ソーセージや生魚を料理する間に発育して毒素を産生するため，これを食べると数時間から数日後に神経系障害を主症状とするボツリヌス食中毒を起こす。この菌は熱に弱く，煮た食品では中毒を起こさない。菌にはA～Eの5型があり，アメリカにはA型が，日本にはE型が多い。

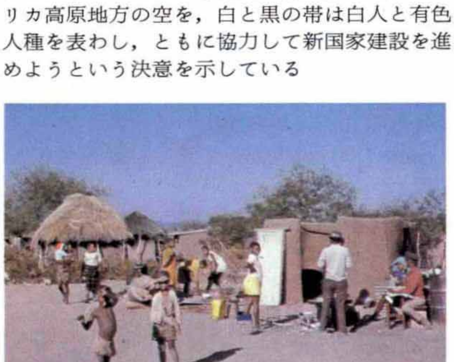
ボツワナ(共和国)［Republic of Botsuwana］ アフリカ南部，南アフリカ共和国の北にあるイギリス連邦に属する共和国。イギリス保護領のベチュアナランドが1966年に独立したもの。面積60万732km²。人口82万(1978年推)。首都ガベロネズ。

〔自然・住民・産業〕国土の南西部はカラハリ砂漠(さばく)，北部は沼沢地で，住民はほとんど東部の高原地帯に集中している。人口の90％はバンツー系の黒人で占め，ヨーロッパ系住民は10％にすぎない。約14％がキリスト教徒で，公用語は英語。牧畜と酪





ボツワナ　1966年制定。青は美しい南アフリカ高原地方の空を，白と黒の帯は白人と有色人種を表わし，ともに協力して新国家建設を進めようという決意を示している



ボツワナ　首都ガベロネズ郊外の農村風景。乾燥のきびしい自然環境は，少ない緑やどろ造りの住居や建て物などに現われている

ホテイアオイ



農が主産業で，ほかにラッカセイ・トウモロコシなどを栽培する。金・銅・石炭などの鉱産物はヨーロッパ人の手で開発され，さらに彼らは酪農にも進出している。輸出の約85％が畜産品で，若干の鉱産物とともに南アフリカ共和国へ輸出している。

〔歴史・政治〕19世紀末，南アフリカの沿岸地方から北上するオランダ系植民者の圧力から生活圏を守るため，諸部族はイギリスに保護を求め，1885年その保護領(ベチュアナランド)になった。その後，南アフリカ共和国駐在のイギリス高等弁務官によって統治されたが，その間，国内で激しい抗争，対立を続けていた諸部族はしだいに統一を図って1966年9月イギリス連邦内の共和国として独立した。しかし，黒人への人種差別をする南アフリカ共和国に対して経済・運輸などで全面的に依存しているため，人種差別に反対しながらも同国に対して従属的な立場にある。35の議席をもつ立法議会があり，ほかに諮問機関の役割を果たす首長議会(15議席)がある。〔小栗　宏〕

ボーデ［Johann Elert Bode］(1747～1826) ドイツの天文学者。ハンブルクの生まれ。少年時代から天文に興味をもち1772年ベルリン天文台にはいった。1774年《ベルリン天文暦》を創刊，1786年同天文台長となった。惑星間の距離に関する経験的法則はドイツの天文学者ウォルフおよびティティウスにより見いだされたが，1772年にボーデがこれを大いに提唱したので，以後一般にボーデの法則*とよばれるようになった。星図を製作し，また多くの著書を著わしてドイツ天文学の発展と普及に努めた。〔根本順吉〕

ほてい【保定】パオティン 中国，河北省中部にある同省の主都。人口約35万。北京(ペキン)の南方にあり，京広鉄道と大清河の支流府河の交点に位置し，古来，北京防衛の要地をなしていた。省中部の物産の集散地として発達し，綿布・苧麻(ちょま)・小麦・綿花を集散する。近年製粉・農機具・精油・フィルム・化学肥料などの工場が新設され，さらに化学繊維工場が計画されている。医学校・農学校などの教育施設，省立の図書館や博物館など文化施設面も整えられている。〔船越昭生〕

ほてい【布袋】(？～916) 中国，唐末五代の禅僧。明州奉化県(浙江(せっこう)省)の生まれ。名を契此(かいし)という。額が広く腹がふくれ，つえをたずさえて大きな布袋を背負い，その中へ身の回りの品をすべて入れて持ち歩いた。乞食(こつじき)して諸方をめぐり，吉凶や晴雨を占ってはずれることがなかったという。布袋和尚(おしょう)の名で庶民に親しまれたが，のちには弥勒菩薩(みろくぼさつ)の化身と信じられるようになった。日本では七福神*のひとりとして数えられ，水墨画などによく描かれた。〔岡部和雄〕

ほていあおい【布袋葵】 単子葉植物・

ミズアオイ科。南アメリカ原産の多年草で，観賞用として世界じゅうの暖地で栽培されるが，水田やみぞ・池などにも繁殖している。長いひげ根が多数束生し，根ぎわから枝を出して繁殖する。葉は多数束生し径5〜10cmの卵円形で厚く，光沢がある。10〜20cmの葉柄の中ほどが倒卵形に膨大して浮きの役目を果たす。これは陸上にはえるものでは目だたなくなる。8〜10月ごろ，葉間から20〜30cmの花茎を伸ばし，藤色(ふじいろ)の花を総状に一時につけ，美しい。花は直径3cmほどで，上部が6裂して上方の一片は大きく，中央に黄斑(おうはん)がある。

ボディー-ビルディング [body building] バーベル*を使って，身体各部の筋肉を強化し，発達させる身体強壮法。広い場所を必要としないし，自分の体力に応じた運動ができ，効果も大きいので，今日では非常に盛んになっている。アメリカ合衆国ではコンテストも行なわれている。

ボーデのほうそく 【ボーデの法則】 太陽〜惑星間の距離に関する経験法則。〈ティティウス-ボーデの法則〉ともいう。1772年ドイツの天文学者ティティウスが発見し，当時ベルリン天文台長であったボーデ*が世に紹介した。地球〜太陽間の距離を1とすると，惑星までの距離が，

$$0.4+0.3\times2^{n-1}$$

で表わされるというものである。次表に，〈ボーデの法則〉による距離と実際の距離とを示す。この法則の発表後に発見された天王星(1781)・小惑星ケレス(1801)が，この法則とよく合うので信用を高めたが，海王星の距離は相当にはずれ，冥王(めいおう)星は全然合っていない。〈ボーデの法則〉のほか，種々の経験法則が発表されたが，まだ理論的に距離の法則は導かれていない。 〔木下　宙〕

惑星名	n	ボーデの法則による距離	平均距離
水　星	$-\infty$	0.4	0.3871
金　星	1	0.7	0.7233
地　球	2	1.0	1.0000
火　星	3	1.6	1.524
ケレス	4	2.8	2.77
木　星	5	5.2	5.203
土　星	6	10.0	9.520
天王星	7	19.6	19.21
海王星	8	38.8	30.19
冥王星	9	77.2	39.52

ホテル [hotel] 外客の宿泊に適するように，洋式の構造および設備をもってつくられた施設。外来者も利用できるロビー・レストラン・バーなどのパブリックスペースを備え，客のプライバシーを重んじた設計がなされている点などで旅館*と区別される。日本では，元禄年間(1688〜1703)江戸本石町に〈おらんだや〉とよぶ外国人用宿舎が建てられたのがはじまりといわれるが，本格的洋式ホテルとしては，1869年(明治2)



ボーデン湖　湖の北東岸にあるリンダウの町の船着き場。ホテルやレストランが並び，ここから湖上の観光船が出る

東京築地(つきじ)に開業したホテル館が祖とされ，1890年には帝国ホテルが開業した。第2次世界大戦後，1948年(昭和23)国際観光ホテル整備法が制定され，特に東京オリンピックや万国博覧会などを契機として急速に整備された。一般に食事料金と室料とが別で，10〜15%のサービス料金が請求されるが，日本のホテルはチップを不要とする点を特徴とする。 〔奈良茂雄〕

ボーデン(湖) [Boden] 西ドイツ・スイス・オーストリアの国境をなす湖。コンスタンツ湖ともいう。面積538.5km²。湖面標高396m，最大深度252m。ライン氷河谷の跡に生じた断層湖で，ライン川が南岸から流入し北西岸から流出している。アルプス山麓(さんろく)に位置して美しい景観をもち，湖畔にフリードリヒスハーフェン・コンスタンツの観光地がある。

ポテンシャル [potential] 空間のある領域内の各点でベクトルAが与えられているとき，その領域をベクトルAの場*というが，直角座標によるAの成分A_x, A_y, A_zが，$A_x=-\dfrac{\partial\varphi}{\partial x}$, $A_y=-\dfrac{\partial\varphi}{\partial y}$, $A_z=-\dfrac{\partial\varphi}{\partial z}$によって求められるような関数$\varphi(x,y,z)$が存在するとき，$\varphi$を$A$のポテンシャルという。場の性質によってはポテンシャルが存在しない場合もある。ベクトルの場の一つは力*の場である。たとえば重力*の場では，鉛直上向きにz軸を選べば，力の成分は0，0，$-g$で，$\varphi=gz$である。また質量Mの物体の周囲に生じる万有引力の場では，物体の位置を原点とすると，原点からrの距離の点(x, y, z)での力の成分は$-\dfrac{kM}{r^3}x$, $-\dfrac{kM}{r^3}y$, $-\dfrac{kM}{r^3}z$で，$\varphi=-\dfrac{kM}{r}$となる。ただしkは万有引力の定数である。電場・磁場などにおいてもポテンシャルを考えることができる。電場のポテンシャルは電位とよばれる。 〔有山正孝〕

ボート [boat] さお・櫂(かい)・オールまたは櫓(ろ)を用いて推進する小形舟艇の総称。櫓櫂船ともいう。また，広義には船全般をさし，汽艇(蒸気機関を装備)やモーターボートなど，推進器をつけた大形のものも含まれる。

ほどいも 【塊芋】 双子葉植物・マメ科。ホドともいう。山林に自生する多年生つる性植物。茎は他物にからんで1〜1.5mになる。葉は長柄のある羽状複葉で，3〜5枚の卵形の小葉からなる。7〜8月ごろ，葉腋(ようえき)から花軸を伸ばし，淡黄緑色花を10cm内外の総状花序につける。旗弁は広く先はそり返り，翼弁は小形で紅紫色をおび，龍骨弁(りゅうこつべん)はねじれている。地中の塊根は食用にされる。

ポートエリザベス [Port Elizabeth] 南アフリカ共和国南岸，インド洋に臨む港市。人口38万7,000(1970)。貿易港として西方にあるケープタウンと並ぶ勢力をもち，鉄道による内陸各地との交通の便もよい。金をはじめ各種鉱産物の積み出し港で，これらを原料とする各種軽工業も盛ん。石炭などの動力源にも恵まれ，同国有数の工業都市になっている。1820年イギリス移民の手で建設され，1873年にキンバリーまで鉄道が結ばれて発展した。 〔小栗　宏〕

ポートオブスペイン [Port of Spain] 西インド諸島南部，小アンチル諸島の南端にあるトリニダード-トバゴ共和国の首都。人口68,000(1970)。トリニダード島の北西岸，パリア湾奥に位置する港市で，政治・経済の中心であるとともに，小アンチル諸島の経済・交通の中心でもある。同島唯一の港で，砂糖・カカオ・石油・天然アスファルトなどを積み出す。

ほどがや 【保土ケ谷】 神奈川県横浜市の中央部の区，また狭義には保土ケ谷区の東端，江戸時代に神戸・帷子(かたびら)・岩間の3村が，東海道の保土ケ谷宿を形成していた地域をさす。面積21.2km²，人口18万2,000。区域の中央には帷子川が北西から東南へ向かって流れ，川沿いにはスカーフ・マフラーなどの捺染(なっせん)工場が多い。東部には多摩丘陵の洪積(こうせき)台地があり，帷子川と今井川の谷が侵食してつくった沖積地(ちゅうせきち)に旧東海道が通じていた。1887年(明治20)東海道本線が開通して保土ケ谷駅が新設され，駅付近は区行政の中心となっている。西部は農村地帯で，相模(さがみ)鉄道に沿う鶴ケ峰(つるがみね)・二俣(ふたまた)川・希望ケ丘などの地区には宅地造成が盛んに行なわれているが，1969年(昭和44)旭(あさひ)区として独立した。旭区の面積32.5km²，人口20万7,000。 〔浅井得一〕

ホドグラフ [hodograph] 質点の運動の経路上の各点における速度に等しいベクトルを任意の一点から引いたとき，ベクトルの終点がつくる曲線。ホドグラフ上での各点における速度ベクトルは，それに対応するもとの質点運動の経路上の各点における加速度となるため，運動を幾何学的に論

ずる場合に便利である。

ほとけ【仏】 仏陀(ぶっだ)・覚者の意味のほかに，一般には死者・死霊をさしていう。〈ほとけ〉の訓については古来諸説がある。梵語(ぼんご)Buddhaを仏陀・浮屠(ふと)などと音訳するが，たとえば《倭訓栞(わくんのしおり)》は浮屠家の音訛(おんか)といい，《日本釈名》は〈ほと〉は人，〈け〉は消える意味で死者をいうと述べ，《如蘭社話(じょらんしゃわ)》は親鸞(しんらん)の《善光寺和讃(わさん)》をひいて仏教伝来の当初，物部守屋(もののべのもりや)が〈ホトチリケ(熱病神)よ〉とののしったことにあるとし，また柳田国男は〈ホトキ〉という器物に食饌(しょくせん)を入れて祭る霊であったとみるなどさまざまである。おそらく仏葬が一般化してからの名であろう。〔藤井正雄〕

ほとけのざ【宝蓋草】 双子葉植物・シソ科。サンカイグサともいう。平地の少し湿った草原に見られる越年草。茎は基部で分枝し，高さ10～30cmで，1～2cmの丸い葉をつける。5～6月，長さ1.7～2cmの紅色花を上部の葉腋(ようえき)に数個つける。なお，春の七草のホトケノザはキク科のオニタビラコである。

ポドゴルヌイ［Nikolai Viktorovich Podgornyi］(1903～　) ソ連の政治家。ウクライナの生まれ。15歳から労働者として働く。1930年共産党入党。1931年ウクライナの砂糖工場の技師となり，1939～1940年および1944～1946年ウクライナ共和国食品工業人民委員代理，1940～1942年ソ連食品工業人民委員代理。1950～1963年ハリコフ州党委員会，ウクライナ党中央委員会第一書記を歴任し，1956年にはソ連共産党中央委員。1960年ソ連中央委員会幹部会員。1965年ソ連最高会議幹部会議長(国家元首)となる。〔山県弘志〕

ポートサイド［Port Said］ エジプト-アラブ共和国の北東部，スエズ運河の地中海側の入り口に位置する港市。人口34万2,000(1974)。1859年運河建設工事の開始とともに万国スエズ海洋運河会社の本社が置かれ，以来，運河交通管理の中心都市となった。1902年ナイル川デルタ東部にワタの栽培が広がると，その積み出し港として発展し，1904年首都カイロと鉄道で結ばれてからは，さらに発展した。港は石油・石炭の貯蔵と精油設備が整っている。〔小栗　宏〕

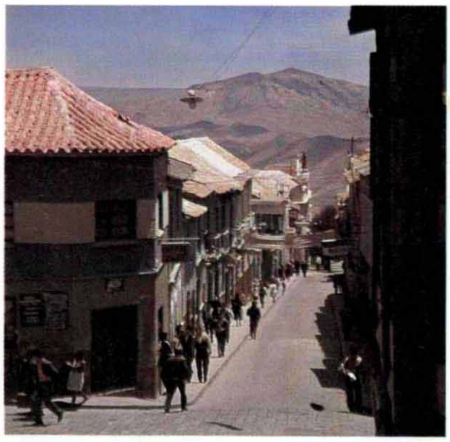
ポトシ［Potosí］ 南アメリカ，ボリビア共和国南部にある鉱山都市。人口74,000(1967)。アンデス山脈中の標高4,040mの高地に位置する世界で最も高所にある都市の一つで，熱帯にあるが気候は年間を通じて冷涼である。16世紀の半ばに付近で銀が発見されて起こった都市で，17世紀前半には人口も10万を越え西半球最大の都市といわれたが，その後メキシコやペルーに銀産出量で抜かれてさびれた。1900年ごろスズ鉱山が開発されてその中心都市として再び活気を取りもどし，現在は鉛・銀なども採掘している。〔小栗　宏〕

ポートスーダン［Port Sudan］ アフリカ北東部，スーダン共和国の紅海に臨む港市。人口11万(1971)。スーダン唯一の海港であり，同国貿易の約85％を扱う。首都ハルツームと鉄道で結ばれ，綿花・ゴム・コーヒー・羊毛・ヤギ皮などを積み出している。

ポドゾル［podosol］ 土壌*(どじょう)の基本型の一。地表の酸性腐植物質の影響により，A層が著しい溶脱作用をうけ鉄分とともに腐植質を消失し漂白された白土。溶脱物質はその下に集積し，暗かっ色のかたい層を形成することが多い。シベリア・カナダ・スカンジナビアなどのように寒冷で微生物活動があまり盛んでない湿潤な森林地帯，特に常緑の針葉樹林帯に分布する。わが国では典型的なポドゾルはみられないが，北海道北見地方のトドマツ樹林下にポドゾル性の土壌が存在している。〔桑原正見〕



ホトケノザ

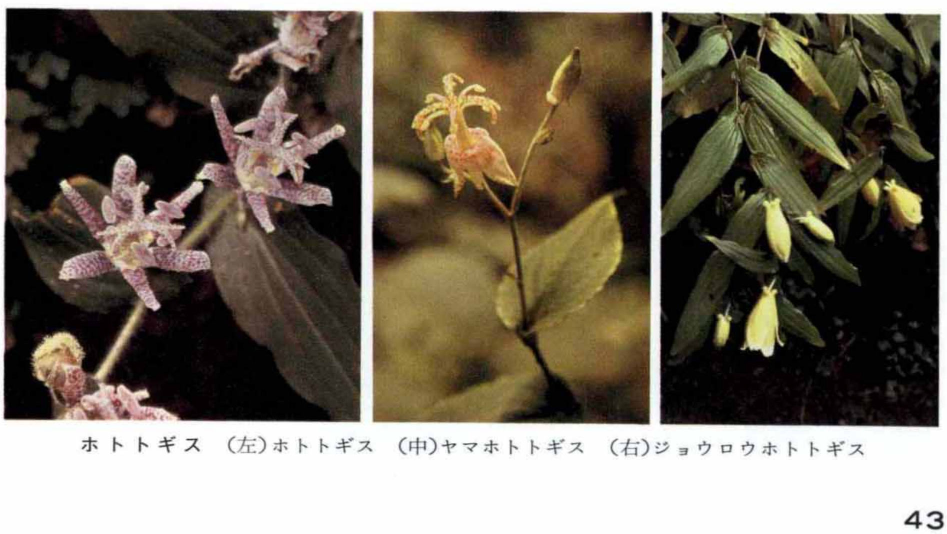


ポトシ　山の斜面に広がるポトシの町。町には16～17世紀ごろの植民地時代の古いおもかげが残されている

ポートダーウィン ⇨ダーウィン

ほととぎす【杜鵑草】 単子葉植物・ユリ科。山地の陽地に自生する多年草。全体に上向きの毛がはえ，茎は高さ40～80cm，葉は長さ8～15cm，幅2～5cmの長楕円(ちょうだえん)形で互生する。9～10月，各葉腋(ようえき)に短い柄のある花を2～3個ずつつける。花被片は長さ2.5～3cmの披針(ひしん)形で6枚あり，白色で内側に紫色の斑点(はんてん)がある。おしべ6本，めしべの柱頭は3本でその先が2裂する。近縁のヤマジノホトトギスは下向きの毛がはえ，葉に白斑があり，縁に細毛があって花柄が長い。ヤマホトトギスは茎に毛がなく，下部の葉に濃色の斑点があり，花が小さく花序の柄が長い。タマガワホトトギスは深山の湿地に自生し，全草無毛，葉は楕円形で基部は茎を抱き，花は鮮黄色で暗紫色の斑点がある。キバナホトトギスは暖地に自生し，葉の中部以下が折りたたむように茎を抱き，黄色で暗紫の斑点のある花を2～3個腋生させる。ジョウロウホトトギスは葉腋に一つずつ黄色花を下向きにつける。〔加藤僖重〕

ほととぎす【杜鵑・時鳥・不如帰】 鳥類・ホトトギス科の総称およびそのうちの一種。ホトトギス科は全世界の温帯と熱帯に広く分布し，6亜科約130種からなる。科全体としては，樹上性のものや地上性のもの，託卵性のものなど生活様式はいろいろなものがある。大きさはスズメ大のものから，カラス大まで。ホトトギス亜科は旧世界の温・熱帯に47種が分布し，すべて託卵性である。このうちのカッコウ属の鳥は12種あり，そのうちわが国にはツツドリ・ホトトギス・カッコウ・ジュウイチの4種が生息する。バンケンモドキ亜科はおもに熱



ホトトギス　(左)ホトトギス　(中)ヤマホトトギス　(右)ジョウロウホトトギス

帯に生息する非託卵性ホトトギス類で約30種。オオハシカッコウ亜科は熱帯アメリカに4種が分布し，集団性である。このうちのオオハシカッコウ(アニー)は数羽の雌が一つの巣に産卵し，ふつう1巣に10～15卵を産み，共同で抱卵・育雛(いくすう)する特殊な習性がある。ミチバシリ亜科は南北アメリカに11種が，東南アジアに2種が分布する。地上性のカッコウで，脚は長く，もっぱら歩行生活をし，荒地や草原にすんでヘビやトカゲ類を好んで食う。このうち3種は託卵性である。コウア亜科は10種からなり，マダガスカル島特産。この類の生活についてはまだよく知られていないが，地上性のものが多く，あるものは集団性で，すべてが非託卵性。バンケン亜科はアフリカから南アジア・オーストラリアにかけて1属27種が生息する。この科としては中～大形のものが多く，地上性をおび，翼は短めで脚は強く，くちばしはがっしりとしており，おもに大形こん虫類を食べる。

ホトトギス亜科のホトトギスは全長26～29cm。胸から背面は灰紫かっ色で，腹部に黒紫色の横斑(おうはん)がある。尾は長く，先がとがっており，飛行中の姿は一見ハヤブサに似る。夏鳥として日本全国の平地から亜高山帯の低木の混ざる草原や疎林など，明るいひらけた環境を好んで繁殖する。ウグイス・アオジ・ミソサザイなどに託卵する。鳴き声は〈テッペン，カケタカ〉と聞こえる。〔浦本昌紀・安部直哉〕

ホトトギス 俳句雑誌。ホトトギス社発行。月刊。一貫して客観的態度による写生句の理念と実践を守る。1897年(明治30)1月，松山で柳原極堂が創刊，当初は正岡(まさおか)子規の俳論・俳評を中心に編集されたが，1898年10月東京に発行所を移し，高浜虚子が編集を担当。子規・虚子のほか河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)・坂本四方太・内藤鳴雪らが執筆。子規なきあと，夏目漱石(そうせき)の《吾輩(わがはい)は猫(ねこ)である》をはじめとして鈴木三重吉・長塚節(ながつかたかし)・伊藤左千夫(いとうさちお)らの散文を掲載して文芸誌の観を呈したが，大正初年ごろより再び俳誌にもどり，村上鬼城・渡辺水巴(わたなべすいは)・飯田蛇笏(いいだだこつ)らを輩出，昭和年代にかけて山口誓子・水原秋桜子・高野素十・阿波野青畝(あわのせいほ)らを生み，俳壇の中心的存在となる。ほかにも日野草城・山口青邨(せいそん)・川端茅舎(かわばたぼうしゃ)・松本たかし・中村草田男(くさたお)・中村汀女(ていじょ)ら多くを輩出し，今日に至っている。〔金子 博〕

ほととぎす 【不如帰】 徳富蘆花(ろか)の長編小説。1898年(明治31)11月～翌年5月《国民新聞》連載。武男(たけお)と浪子(なみこ)の新しいタイプの理想的夫婦が，日清(にっしん)戦争に出征した武男をめぐる人間関係や，浪子の結核などから破綻(はたん)に陥っていく悲劇を，夫婦愛を軸に描いた作品。当時の実話に取材したもので，時代の姿をも濃厚に反映させて，広く長く読まれるとともに，新派の古典となっている。

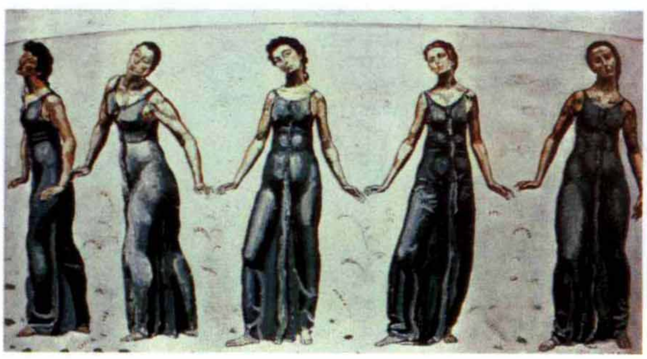
ほととぎすがい 【時鳥貝】 軟体動物・二枚貝類・イガイ科。殻長(かくちょう)3cm，殻高1.3cm，殻幅1cmの長卵形で，前方へ細くなり，後方へ多少広くなる。殻頂は前方によりふくらむ。殻(から)は薄質で，殻表は黄緑色で黒紫色の放射条やさざなみ状の模様がある。平滑で光沢があるが，前端近くに少数の放射肋(ろく)がある。日本全国および朝鮮・中国沿岸に分布し，内湾の潮間帯から水深20mの砂泥(さでい)底にすむ。海底に群生してハマグリやアサリの養殖を害する。



ホトトギス



ポトマック川　ワシントン市内を流れるポトマック川と満開の桜並木。遠くの白い建物はジェファーソン記念館



ホドラー《無限への一瞥》 ウィンタトゥール美術館蔵

ポトマック(川) [Potomac] アメリカ合衆国東部の川。アパラチア山脈に発し，東流して大西洋岸のチェサピーク湾に注ぐ。全長459km。下流部に首都ワシントンがあり，市内河畔の桜並み木は日本から送られたもので，名所となっている。

ほどむらがみ 【程村紙】 コウゾの皮に米のりを加え，溜漉(ためずき)による厚手の紙。用途は絵図紙用。栃木県那須(なす)郡烏山(からすやま)付近の卯(う)の木部落小字(こあざ)程村が原産地で，この地で明治中期まですかれた。

ポートモレスビー [Port Moresby] ニューギニア島南東部，パプア湾東岸にある港市で，オーストラリア領パプアとオーストラリア信託統治領ニューギニアの政庁所在地。人口42,000(1972)。コプラ・ゴム・木材・金鉱などを輸出する。市街は港を囲む半島上に広がり，連邦政府司政官が駐在する政庁と民族博物館がある。地名は1873年この港をはじめて訪れたイギリス海軍提督ジョン-モレスビーにちなむ。

ホドラー [Ferdinand Hodler] (1853～1918) スイスの画家。初期の作品には，クールベなどのフランス写実主義の影響がうかがわれるが，そのころからすでに後期の作風を特徴づける明快で厳格な画面の秩序性が表わされている。1890年有名な《夜》を描いて表現主義的傾向へと向かい，ユーゲント-シュティール(→アール-ヌーボー)の開拓者となった。その後は印象派に対抗して独自の寓意(ぐうい)画の世界をつくり出した。

ポートランド [Portland] アメリカ合衆国北西部，オレゴン州の北端にある同州最大の都市。人口35万7,000(1975)。コロンビア川の支流ウィラメット川岸にある河港・工業都市で，整備された港には外洋航行船舶も接岸でき，外洋航路の起点になっている。木材の積み出し港として世界的に知られ，紙・小麦・羊毛・野菜・果実・くず鉄なども輸出する。パルプ・製紙・かんづめ・小麦粉・バターなどの工業が盛ん。気候は温和で，市街にはバラが咲き乱れ〈バラの都〉の異名をもち，市内および付近には日系人が多い。オレゴン大学・ポートランド大学など多くの教育施設をもつ文化・教育都市でもある。〔相村大彬〕

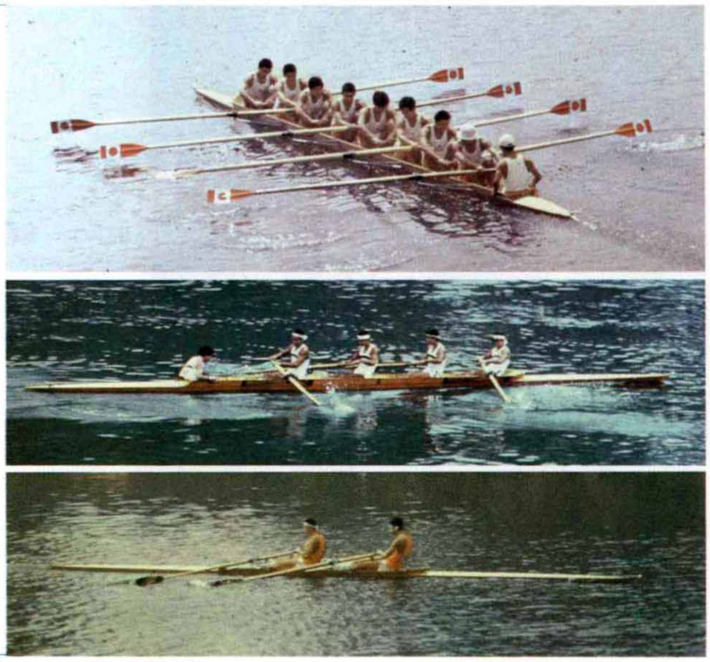
ボートレース [boat race] 漕艇(そうてい)競技・レガッタともいう。一定の距離をクラッチまたはローラックで1点をささえられたオールでボートをこぎ，その着順によって順位を競う競技。

〈歴史〉 船をこぐことは人間が生活するうえにおいて必要とされ，古くから行なわれていたがレースとしての起源は14世紀にイ

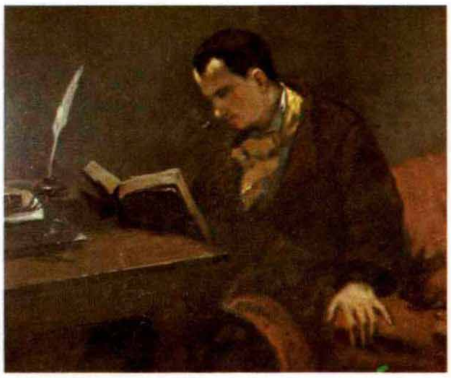
タリアのベネチアでゴンドラの競漕が行なわれた記録が最も古い。近代スポーツとしての最初のボートレースは1716年イギリスの名優ダゲットがテムズ川河畔の漁商組合にはかってシングル-スカルの競漕大会を行なったものである。このレースには審判規則がなく，とにかく4マイル先のゴールへ早く到着した者が優勝で，勝者にはハノーバー家の紋章のついた赤いブレザーコートが贈られた。これがブレザーコートの源となり，レースの名もダゲット-コート-エンド-バッジ-レースとよばれた。1829年にはテムズ川で，オックスフォード大学とケンブリッジ大学の第1回対校戦が行なわれている。このようにイギリスで盛んになったボートレースであったが，漕法や競艇の新機軸を実現することがなく，主導権はやがてアメリカへ移った。アメリカでは1852年にエール・ハーバード両大学による対校戦が行なわれている。アメリカは日本同様大学が中心勢力でオリンピック大会でも1830年以来，1956年のメルボルン大会まで大学クルーによってエイトを連覇(れんぱ)してきた。

日本で最初にボートをこいだのは，長崎在留のオランダ人だといわれ，ヨットや4人こぎ滑席艇を母国から取り寄せてこいだというが正確な記録がない。記録的に最も古いのは1866年(慶応2)横浜市にイギリス人が中心となって本国から数隻の滑席艇(4人・6人こぎ)をもってきてバージクラブをつくったことで，これが横浜アマチュアーローイング-クラブの前身である。1869年(明治2)には入港中のイギリス海軍と数回の滑席艇レースを行なっている。1874年には日本人による最初のカッター-レースが行なわれ，1877年ごろから学生間にボート熱が広まっていった。1883年東京帝国大学が東京師範学校(現教育大学)にレースを挑戦(ちょうせん)，東京師範学校が勝っているが，これがわが国の対校競漕のはじまりであった。これに刺激された東京帝国大学は競艇建造に力を入れ，大正の初めまで日本の漕艇界をリードしていった。日本初の国際レースは1885年，東京帝国大学と横浜アマチュアーローイング-クラブの外人が横浜港でレース(1,000m)を行ない，外人が大差で勝っている。1905年には早慶対校第1回レースが行なわれ，1920年(大正9)には日本漕艇協会が正式に発足，オリンピックには1928年(昭和3)の第9回アムステルダム大会に初参加し，以後毎回代表を送っている。

《競技種目》 オリンピック大会・国際競技会・全日本選手権など正式なレースはすべて距離2,000m，水路幅12.5m，水深3mのコースで行なわれ，使用艇はシェル艇。種目はエイト(8人こぎ)・舵手(だしゅ)つきフォア(4人こぎ)・舵手なしフォア(4人こぎ)・舵手つきペアー(2人こぎ)・舵手なしペアー(2人こぎ)・ダブル-スカル(2人こぎ)・シングル-スカル(1人こぎ)の7種目がある。



ボートレース
上からエイト・フォア(舵手つき)・ダブル-スカル



ボードレール G.クールベ《ボードレールの肖像》1853 モンペリエールファーブル美術館蔵

以上のシェル艇のほか，わが国では固定席艇(フィックス)，艇底が角形のナックル艇の試合が盛んに行なわれ，国体種目にも加えられている。ルールは，スタートで2度フライングしたり，他のコースを侵害した場合は失格。同着の場合は再レースで順位を決め，各種目とも予選・敗者復活戦・準決勝・決勝の順で試合が進められる。〔細谷正勝〕

ボードレール ［Charles Baudelaire］(1821～1867) フランスの詩人。パリの生まれ。幼くして父と死別，母親は陸軍少佐オーピックと再婚。この事件が詩人にとって終生の怨恨(えんこん)，家族の不和の原因となった。20歳のとき，文学青年との交際を危惧(きぐ)した家族によってインド行きの船に強制的に乗せられ，モーリス島などを経てパリに帰還。このときの熱帯地方の風物が詩に異国情緒のイメージを提供することになった。帰国後，ばくだいな亡父の遺産を相続し，伝説的なまでの豪奢(ごうしゃ)な生活をはじめ，混血女ジャンヌ-デュバルと同棲(どうせい)，破滅的な生活のはてに禁治産者となった。早くから美術批評《サロン》で名をなし，近代生活の美をたたえ，ドラクロアを礼賛。1848年の二月革命には反乱の側に立った。またポー*の作品に魅せられ，その翻訳に従事。1857年詩集《悪の華*(はな)》を出版するが，風俗紊乱(びんらん)のかどで告発され，6編の詩の削除を求められた。しかしこの詩集は，音楽性・意識性などにおいて画期的なもので，近代詩の先駆をなすものであり，象徴主義*の祖となった。以後，文学・美術・音楽の批評を精力的に行なうが，中でも《人工楽園》《現代生活の画家》は詩についての美しい省察にあふれている。他に《悪の華》の姉妹編《パリの憂鬱*(ゆううつ)》や《日記》がある。晩年は生活・健康に恵まれず，ベルギーで梅毒の発作で倒れ，パリで死んだ。〔井上輝夫〕

ボートワイン ⇨ぶどう酒

ボーナス ［bonus］ 半期ごとまたは四半期ごとに，賃金とは別に臨時に支払われる一時金。賞与・臨時給与・期末手当などともよばれる。第2次世界大戦前は社員・職員だけに支払われ，工員には〈もち代〉などの名でごく少額が支払われたにすぎなかったが，戦後はボーナスの支給は一般的慣行となっている。営業成績との関連で支払われる傾向があるため，利潤分配的性格をもつと同時に，労働条件の一部であるとも意識される。したがって，賃金のあと払い的性格の面ももっている。〔河井研一〕

ボナパルチスム ［bonapartisme］ 歴史的にはナポレオン1世*・3世*による政治形態をさす。それはフランス革命後のフランスにおける階級闘争の混乱の中から，諸階級間の勢力が均衡した結果成立したものである。具体的には，それはブルジョアジーとプロレタリアートの力関係が均衡しているとき，農民層にその支持基盤を求めつ



ボナール《燈下》1899　ブリヂストン美術館蔵

つ軍事的専制政治を行ない，プロレタリアートの進出を阻止しようとするものであった。今日では，ボナパルチスムは諸階級間の勢力均衡のうえに立つ国家権力が，あたかも超階級的であるかのように装いながら，実際的にはプロレタリアートの進出を阻止しようとする場合に用いられている。〔西尾孝司〕

ボナパルトけ　【ボナパルト家】　イタリア語ではブオナパルテという。ナポレオン1世*・同3世*の属する家系で，15世紀末イタリアのトスカナからコルシカ島に移住。陪席判事のナポレオンの父カルロ(1746～1785)は妻レチチア-ラモリーノとの間に5男6女をもうけた。次男のナポレオン(1世)のほか，長男ジョゼフ(ナポリ王・スペイン王となり，のちアメリカに移住)，三男リュシアン，四男ルイ(オランダ王，その第3子がナポレオン3世)，五男ジェローム(ウェストファーレン王，1850年元帥，この子孫が王位請求資格者となる)。女子ではエリザ(トスカナ大公妃)，ポーリーヌ(ガスタラ大公妃)，カロリーヌ(ナポリ王妃)などがいた。なお，ナポレオン1世の子(ローマ王)は1週間帝位(ナポレオン2世)を認められ，病弱のため21歳で死んだ。〔喜多迅鷹〕

ポナペ(島)　[Ponape]　西太平洋，カロリン諸島東部にあり同諸島中最大の島。面積333km²。赤道のやや北に位置し，火山島で玄武岩の溶岩台地からなり，沿岸にはサンゴ礁が発達している。鉄鉱石とコプラを産する。住民はポナペ人で漁業・焼畑農業などを行なっている。現在，アメリカ合衆国の信託統治領になっている。

ボナベントゥラ　[Bonaventura]　(1221～1274)　スコラ哲学者。イタリアの生まれ。フランシスコ会にはいり，のちパリ大学で高名のスコラ哲学者ヘールズのアレグザンダーに学び，同大学で神学を教えた。当時，ドミニコ会のトマス-アクィナス*と並び称された大学者。自然認識に関してはアリストテレス説を採用したが，彼の立場は主として伝統的なプラトン的アウグスチヌス説にあるといえる。三位一体は神秘的体験によってのみ理解されるとした点など，彼のうちにスコラ的思弁とともに，強い神秘主義的傾向をみることができる。主著《神へ向かう魂の歩み》。〔広川洋一〕

ほなみ　【穂波(町)】　福岡県嘉穂(かほ)郡に属し，遠賀川支流の穂波川に沿う町。人口27,000。1955年(昭和30)穂波・大分の2村が合併して町制を施行。筑豊(ちくほう)炭田に位置し，筑豊本線・上山田線の通じた明治中期以降急速に炭鉱町として発展した。同炭田最大の炭鉱密集地として盛時には42,000を数えた人口も，現在は全炭鉱が閉山したため激減した。

ボナール　[Pierre Bonnard]　(1867～1947)　フランスの画家。はじめアカデミー-ジュリアンで学び，のち，ナビ派の仲間となる。セリュジエ・ビュイヤールらと交わり，互いに影響し合った。画業に専念してからの豊醇(ほうじゅん)な色彩による表現は，同時代の画家の間にあってもひときわすぐれている。代表作に《ラ-ベイニョワール》《朝食》などがある。

ボナン　[bonang]　ジャワのガムラン音楽*に使われる青銅製の旋律打楽器(体鳴楽器*)。突起つき釜形(かまがた)のゴングをつりひもの上に水平に置いたもので，釜は前後2列に音階の音の数だけ配列される。大・中・小の3種があり，合奏の主旋律とリズム的旋律装飾を行なう。

ボニファチウス(8世)　[Bonifatius]　(1235ごろ～1303)　ローマ教皇。在位1294～1303年。イタリアの名門貴族の生まれ。教皇庁の要職を経て教皇となり，王権に対して教皇権の優位を主張した。1296年フランス王フィリップ4世と教会財産への課税問題などで争い，1303年同王顧問ギョーム-ノガレの率いる武力によって捕えられた(アナーニ事件)。のちローマにのがれたが，憤死した。

ほにゅうえいよう　【母乳栄養】　母乳で乳児を栄養すること。人乳栄養・天然栄養ともいう。母乳の成分は，牛乳*に比べて熱量や水分はほぼ同じであるが，タンパク質・カルシウム・リン・ビタミンB_2などが少なく，炭水化物・鉄・ビタミンCなどが多い。乳児の消化の点からはアルブミン*が主である母乳のほうが適する。

【母乳の長所】①消化がよく，吸収率が高い。②病原体などが侵入することが少なく，衛生的である。③調乳の手間がかからない。④母乳栄養児の腸中にはビフィズス菌*が繁殖しやすいので，チフス・赤痢の伝染性腸疾患にかかりにくい。⑤母乳中に免疫体があって，少なくとも生後まもない間の胃腸粘膜の感染を防ぐのに，ある程度役だつ。⑥母乳栄養児は人工栄養児に比べて，総体的に病気にかかることが少ない。⑦授乳による皮膚接触を通じて，母子間の愛情の交流が行なわれる。なお，乳児の母子間の接触欲が過大になりやすく，人工栄養*より離乳がしにくいことや，母親の就労・就職に不便であることなどの欠点もある。

【方法】時間と回数は月齢によって異なる。1日の回数は，新生児では2～3時間ごとで7～8回，1～2か月児では3～3.5時間ごとで6～7回，3か月以降では3.5～4時間ごとで5～6回与える。1回の授乳時間は約15分である。なお，1日の哺乳(ほにゅう)量が平均より少ない場合は，牛乳や粉ミルクで補う。〔宇留野勝正〕

表-1 母乳の成分(100gあたり)

成　分	量
熱　量	61Cal
水　分	88.2g
タンパク質	1.4g
脂　肪	3.1g
炭水化物	7.1g
灰　分	0.2g
カルシウム	35mg
ナトリウム	15mg
リ　ン	25mg
鉄	0.2mg
ビタミンA	100I.U.
カロチン	20I.U.
ビタミンB_1	0.02mg
ビタミンB_2	0.03mg
ニコチン酸	0.2mg
ビタミンC	5mg

表-2 平均哺乳量(1日あたり)

月　齢	哺乳量(g)
2週	550
1か月	650
2か月	800
3か月	850
4か月	900
5か月以後	1,000

ほにゅうるい　【哺乳類】　脊椎(せきつい)動物・哺乳綱の総称。すべての動物群中で最も栄え，大きな脳とすぐれた知力をもつ。哺乳類は古生代末期の二畳紀ごろから爬虫

(はちゅう)類より分岐した動物群であるため，哺乳類に絶対的な特徴といえるものはきわめて少ない。たとえば，哺乳類の子は乳を飲んで育つが，化石爬虫類のキノドント類も乳を飲んだらしく，哺乳類と爬虫類の中間的な類も存在した。したがって，ここでは現生哺乳類に限定して述べる。

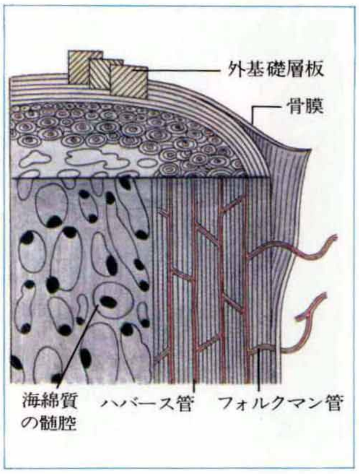
【現生哺乳類の特徴】 哺乳類は毛をもつ唯一の動物で，ヒツジのように長く密なものからクジラのように無毛のものまであるが，無毛のものでも胎児の時期には毛がある。毛は皮膚のくぼみから伸び，一定の周期で新しい毛と代わり(換毛という)，多くの哺乳類では年２回みられる。つまり，秋になると厚い冬毛に代わり，春には軽い夏毛となる。冬毛が純白のオコジョなどでは換毛がよくわかる。毛には何種類かあり，一般に綿毛とよばれる下毛は最も量が多く，保温に役だつ。下毛を保護している刺毛あるいは上毛は，長くかたくあらい。ネコの顔の剛毛(ひげ)は触毛で，根に感覚神経の末端がきている。ウマの尾の毛は長期間伸び続け非常に長くなる。ヤマアラシの針毛(とげ)は毛の特殊化したものである。プロングホーンの角は毛がぎっしりと集まってできている。

乳腺(にゅうせん)は哺乳類だけに見られるもので，哺乳類の名が示すように子は乳で育つ。一般に乳腺は集合して乳頭に開口し，乳頭は両側腹に沿ってわきから鼠蹊(そけい)部まで左右対をなして存在する。乳頭数はヒトの１対からテンレックの12対まであり，有蹄(ゆうてい)類では乳腺は鼠蹊部に集中し，しばしば乳頭は互いに近接して乳房を形成する。有袋類では乳頭は育児嚢(いくじのう)の中にあり，生まれた子は袋内へ自力ではいって乳頭をくわえる。単孔類では乳頭はなく，乳腺は腹部に開口し，乳はここから毛を伝わってしみ出て，卵からかえった子はしみ出た乳をなめる。

皮脂腺は毛とともに哺乳類の大きな特徴の一つで，皮膚と毛に油分を与えるもので，それの集合した臭腺は特徴的なにおいの液を分泌し，繁殖期には特に強い芳香を放つ。またスカンクはこの液を護身用の武器としている。

哺乳類の骨格は脊椎動物に共通のものであるが，他の多くの脊椎動物と比べ哺乳類の骨の数は少ない。頭骨においてはそれが著しく，顎(あご)の骨は一つでできている。ふつう哺乳類の頸椎(けいつい)は７個で，首の長いキリンでも短いクジラでもまったく同数である。中耳小骨は鐙(あぶみ)骨・砧(きぬた)骨・槌(つち)骨の３個で，音波を鼓膜から内耳へ伝える。

角は護身用とされたり，繁殖期の闘争用とされる特殊なものである。スイギュウ・カモシカ・レイヨウなどの洞角(どうかく)は枝分かれせず，頭骨から伸びる骨のしんにヒトのつめのような角質のものがかぶさっている。年をとるにしたがって大きくなるが，毎年脱落することはない。キリンは一生の間皮膚でおおわれた切り株状の角をもつ。シカの枝角は角座より伸びたかたい骨で，毎年脱落し，落ちるとじきに皮膚におおわれた袋角が伸び，成長しきると皮膚は死んではがれ，角質の枝角が完成する。例外はあるがほとんどの雄ジカには枝角があり，トナカイを除けば雌ジカには枝角はない。



骨
骨の構造

歯は爬虫類には１種類のものしかないが，哺乳類には門歯・犬歯・前臼歯(ぜんきゅうし)・臼歯の４種類の歯がある。また多くの哺乳類には乳歯と永久歯の２組みの歯がある。しかし，歯クジラ類では終生はえ替わらず，ハリモグラ・センザンコウ・アリクイなどは進化の途中で歯を失った。歯は類によって特殊化し，バビルサでは上顎の犬歯は長く上方へ伸び，皮膚を突き破っている。ゾウの門歯は長大な牙(きば)となり，食肉類の前臼歯と臼歯の１対は大きく鋭く，肉を切り裂くのに適した裂肉歯となっている。イッカクの角は門歯が前方へねじれながら伸びたものである。

多くの哺乳類の胎児には胎盤があり，子は母親の胎内で十分育ってから生まれる。妊娠期間はゴールデンハムスターの14日ほどからインドゾウの22か月まで。単孔類は卵を産み，有袋類では子は未熟の状態で生まれ，ふつう胎盤はない。

哺乳類は鳥類と同様温血動物である。体温はほぼ一定を保つが，爬虫類・両生類・魚類は環境の温度の影響を受け，体温が下がると活動は鈍くなる。ふつう哺乳類の体温は36℃前後であるが，あるものでは周囲の温度にいくらか左右されるものがあり，砂漠(さばく)にすむジリスは42℃にもなり，逆に体温が下がると冬眠するものもいる。ウッドチャックはふつう体温36℃，脈搏(みゃくはく)数80回/分，呼吸数25回/分であるが，冬眠状態では体温13.5℃，脈搏数４回/分，呼吸数は５分に１回となる。食物の少ない冬に眠ることは生き残るのにつごうがよく，冬眠するまえに多量の食物をとって太り，巣穴に食物を貯蔵する。同じ種の動物でも寒い地方にすむものだけが冬眠することも多い。

このように他の脊椎動物に比べ有利な形質を備える哺乳類は世界じゅうに広く分布し，暑い砂漠，森林から極地のツンドラ，氷原まであらゆる所に生息する。体の大きさも変化に富み，史上最大の動物で体重115tに達するシロナガスクジラから，体重2.8gに達しないコビトジャコウネズミまである。

【分類】 現生哺乳類は次の18目に大別される。( )内の数はおよその種数。①単孔目(カモノハシ・ハリモグラなど６)，②有袋目(オポッサム・アカカンガルーなど233～241)，③食虫目(モグラ・トガリネズミなど426±)，④皮翼目(マライヒヨケザル・フィリピンヒヨケザル２)，⑤翼手目(オオコウモリ・キクガシラコウモリなど794±)，⑥霊長目(ニホンザル・ヒトなど199～244)，⑦貧歯目(オオアリクイ・ミツユビナマケモノなど31)，⑧有鱗(ゆうりん)目(センザンコウなど７)，⑨ウサギ目(ナキウサギ・ノウサギなど63±)，⑩齧歯(げっし)目(ドブネズミ・シマリスなど2,399±)，⑪クジラ目(マイルカ・マッコウクジラなど89～106)，⑫食肉目(キツネ・トラなど259)，⑬管歯目(ツチブタ１)，⑭長鼻目(インドゾウ・アフリカゾウなど２～３)，⑮イワダヌキ目(ロックハイラックスなど12)，⑯海牛目(ジュゴンなど５)，⑰奇蹄目(ウマ・シロサイなど17)，⑱偶蹄目(イノシシ・ウシなど154～195)。

なお，種数は学者によりまちまちで，3,500種とも，4,800種ともいわれる。〔今泉吉典〕

ホーニングばん 【ホーニング盤】 ホーンと名づける棒状の砥石(といし)を軸の周囲に放射状に配置したものを穴の中に入れ，ばね・油圧その他の方法で穴の壁に押し付けながら回転させ，同時に往復運動を与えて穴の内面を仕上げるための工作機械。きわめて短時間に精度の高い，しかも耐摩耗性に富んだ面を得ることができるので，内燃機関のシリンダーや軸受けの内面を仕上げるのに用いられる。なお，外面・平面・歯車用のホーニング盤もある。〔稲田重男〕

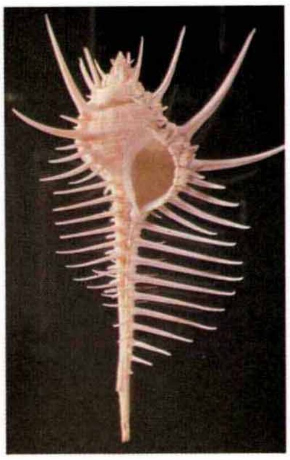
ほね 【骨】 内臓の保護，身体の支柱および運動に関与する重要器官。形によって長骨・短骨・扁平(へんぺい)骨・含気骨などに分けられる。長骨には大腿(だいたい)骨・上腕骨などの管状骨，短骨には椎骨(ついこつ)・手根骨・足根骨など，扁平骨には頭頂骨・胸骨などがある。含気骨は蝶形(ちょうけい)骨・篩(し)骨・前頭骨・上顎(じょうがく)骨などのように，内部に腔所(こうしょ)すなわち副鼻腔をつくるものをいう。他の骨との組み合わせで骨格*をつくり，構成する組織は造骨細胞がつくりだした基質で，有機性成分と無機性成分からなる。前者のおもなものはオッセインというタンパクで，後者はリン酸カルシウムを主とするカルシウム塩である。これらの成分によって骨に強靭(きょうじん)性と弾力性が付与される。骨は血中カルシウ

ムの貯蔵場所としても意義が大きく，上皮小体*のホルモンによって調節を受ける。骨質の緻密(ちみつ)度によって骨は緻密質と海綿質とに分けられるが，前者は骨表面ならびに骨幹部に，後者は骨端部にみられる。長骨では骨幹部は骨質がなく髄腔とよばれ，海綿質の間の腔とともに骨髄*で満たされている。また骨のほとんど全表面は骨膜*におおわれているが，関節面だけは軟骨*の薄い層でおおわれている。骨組織には骨小腔という腔所があり骨細胞を入れている。骨細胞は骨細管によって栄養を受けているので，かたい骨質の中にありながら生きている。骨外からの血管がフォルクマン管，さらにハバース管という管によって骨質にはいりこんでいる。なお，骨の横断面を薄くしてみると，ハバース管のまわりに年輪のように層板状の骨質ができているのがわかる。これをハバース層板と称している。ビタミンD不足によって起こるのが佝僂(くる)病*である。〔幡井勉・橋本長〕

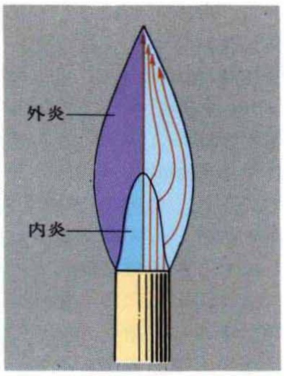
ボネ [Charles Bonnet] (1720〜1793) スイスの動物学者・生物学思想家。ジュネーブの生まれ。はじめ法律学を修めたが，のちレオミュール*に師事して動物学を研究。1745年，アリマキの単為生殖を実験的に確認し，この事実を根拠として前成説の有力な主唱者となった。のちヒドラの再生現象を知り，前成説と再生現象を宥和(ゆうわ)させようとして，1769年独特の発生学説を提出した。のち眼病のため実験を断念して，もっぱら思索にふけった。ライプニッツの影響をうけて，無機物にはじまって人間を頂点とする連続的な推移系列を考えたが，この推移は時間的なものではなく，進化論には到達していない。〔中村禎里〕

ほねがい 【骨貝】 軟体動物・腹足類・アクキガイ科。殻高(かくこう)は14cm，殻径は棘(とげ)を除くと3.5cmほどで，卵円錐(らんえんすい)形の殻(から)から細長い水管嘴(すいかんし)が伸びている。その上に多くの細長い棘が出て，魚の骨のような形をしているためこの名がある。棘は120°ごとに三方に突き出ている。房総半島以南，太平洋・インド洋の水深20〜50mの砂底にすむ。形が美しいため観賞用にするが，戸口につるして悪魔よけとする地方もある。〔波部忠重〕

ボネリア [*Bonellia*] 環形動物・ユムシ綱・ボネリムシ科の一属。吻(ふん)は大きく，先が二叉に分かれる。雌雄異型が著しいので有名。雌は体長2〜6cmほどで，体色は濃緑色，吻の部分はやや薄い緑色。雄は体長1mmの小形で，雌の体内に寄生し，吻もなく蠕虫(ぜんちゅう)状。浮遊幼生期に雌の吻に付着したものは寄生して雄になり，自由生活をするものは雌として成長するといわれる。日本ではボネリムシ・オオボネリムシなどが知られ，ボネリムシの雄は雌の咽頭(いんとう)中に，オオボネリムシの雄は腎管(じんかん)中に寄生する。雌は死んだサンゴ



ホネガイ



炎

塊中や砂泥(さでい)中に穴を掘ってすむ。千葉県以南の暖海に分布する。〔向井 宏〕

ほのお 【炎】 可燃性気体と酸素とが連続的に供給され，定常的にほぼ一定の場所で一定の形を保ちながら燃焼して熱と光を発している状態。可燃性気体としては水素・石炭ガス・メタン(天然ガス)・ＬＰガスなどがあり，酸素は空気として供給されることが多い。可燃性気体をそのまま大気中に噴出させて燃焼させる場合は，空気が炎の中に拡散する形式で供給され，一般に炎は長く比較的低温(都市ガスで最高900℃ぐらい)である。可燃性気体にあらかじめ適当量の空気を混ぜて噴出させる場合は，炎は短く高温(都市ガスの場合最高1,700℃ぐらい)に達する。炎は普通は内炎(還元炎)と外炎(酸化炎)から構成される。一般に炎が安定しているときは，炎孔からの混合気の噴出速度と燃焼速度がつり合っており，燃焼速度が大きすぎると逆火(フラッシュバック)が起こり，噴出速度が大きすぎると炎の吹き消え(リフティング)が起こる。〔寺沢誠司〕

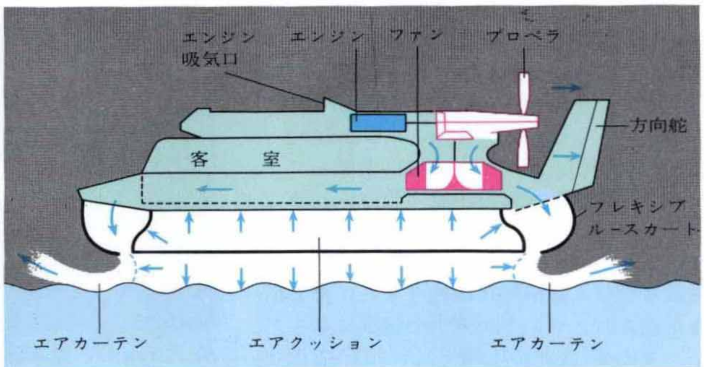
ホノルル [Honolulu] アメリカ合衆国ハワイ州，オアフ島南岸にあるハワイ州の州都。人口32万5,000(1970)。同州最大の都市で，港は港湾施設が整い，北アメリカ・アジア・オセアニアを結ぶ航路の汽船が寄港し，空港は太平洋横断航空路の着陸地をなすなど，太平洋における海・空交通の重要な中継基地である。1795年ハワイ王朝の始祖カメハメハが，ハワイ諸島全域を統一してこの地を都と定めてから，ハワイ諸島の政治的中心地となった。パイナップル・バナナ・コーヒーなどを輸出する。市の南東，ヤシの茂るワイキキ海岸はダイヤモンドヘッドを望む景勝地で，海水浴場として有名である。観光地として，特に冬季には合衆国本土からの避寒客が多い。第2次世界大戦で日本海軍の攻撃を受けたパールハーバーは市の北西11kmにあり，現在も海軍基地となっている。州立のハワイ大学がある。〔相村大彬〕

ポパー [Karl Popper] (1902〜) オーストリアの科学哲学者。ロンドン大学教授。ウィーン学団(→論理実証主義)のメンバーではないが，それに近い形で独自な思想を展開した。その中心は，検証可能性に代わる反証可能性で命題の有意味性をとらえようとしたことで，つねに普遍的な形をとる科学の命題は，個的な経験的事実によって検証されることはないが，一つの事実によっても反証されうるから，そこに有意味性の基準があるとした。また，彼には社会科学に関する哲学上の業績もある。主著《探求の論理学》《歴史主義の貧困》。〔寺中平治〕

ホバークラフト [hover craft] 機体の下面に高圧空気を噴出させ，空気のクッションをつくって浮揚し，空中プロペラなどによって航走する乗り物。ジェム(ground effect machineの略称)またはエアカーともいう。地面あるいは水面と直接に接触しないので，陸上・沼沢地・水上など，どのような地表面でも自由に走行できる。実用上からは浮揚の地上高をできるだけ大きくしたほうがよいが，地上高を増すと空気流量が増して浮揚に必要なパワーが増大する。またクッション空気の圧力を増すと浮揚パワーがふえる。そこで，機体底部に可撓(かとう)性のスカートを取り付け，クッション空気に対しては浮揚高を少なく，固体の障害物あるいは波などに対する実効的な浮揚高を大きくするようにくふうされている。用途としては，第1に水陸両用の旅客船あるいはフェリーボート*があげられる。現在最も多く製造されている種類で，わが国でも40〜50人乗り，水上速度60ノット級の旅客船がつくられている。第2は重量数百ないし数千トン，速度80〜100ノットの超高速船で，これが実用化されれば，輸送機構に新しい分野をひらくことになる。第3には，軌道用車両の車輪に代わる車両支持方式がある。たとえば時速350km以上の高速を出すには，車輪式でなく別の支持方式が必要となる。空気支持方式はこの解決法の一つで，フランスでは実験車による実験に成功し，わが国でも基礎研究が進められている。→次ページ(図)〔中口 博〕

ボバリーふじん 【ボバリー夫人】 フローベール*の長編小説(1857)。いなか医師ボ





ホバークラフト (左)国産のMV-PP5形　乗客定員50人　最高時速100km　ガスタービン機関1基　(右)浮上の原理

バリーの妻エンマが，ロマン的なあこがれを数々の恋愛を通して求めながら破滅していく生涯(しょうがい)を描く。人物の性格描写や自然描写にすぐれ，残酷なまでの迫真の文体は写実主義の一頂点を示すものである。作者が〈エンマは私である〉と述べたように，フローベールの思想を余すところなく展開した代表作。

ボパール ［Bhopal］ インド共和国中央部，マディア-プラデシュ州の州都。人口29万8,000(1971)。デカン高原の西寄りに位置し，かつてはハイデラバードに次ぐイスラム系藩王国の要都で，その王宮やモスクがいまも残っている。現在は州の政治・経済・交通・教育の中心で，新しく工場も建設されている。

ポバール ⇨ポリビニルアルコール

ぼはん 【母斑】 ⇨あざ

ボーバン ［Marquis de Vauban］ (1633〜1707) 本名セバスチアン-ル-プレストル。フランスの築城家・軍人・経済学者。貧乏貴族に生まれたが，1655年登用されて，300以上の城塞(じょうさい)の建設・補修を行ない(ダンケルク・リル・メッツ・ストラスブールなど)，その後軍人としても新しい要塞包囲戦で活躍し，1668年リル城塞司令官，1703年元帥となる。引退後，税制の不合理をつき税の平等を主張する《王室十分の一税》を著わして逮捕され，著書は火中に投ぜられて，失意のうちに死んだ。〔喜多迅鷹〕

ポピュラーおんがく ［ポピュラー音楽］ 英語のポピュラー-ミュージックに対応する語で，最も広い意味では，クラシック音楽*・純音楽に対して大衆音楽・通俗音楽をさす。しかし，人により時代により，その解釈や使い方には違いがあり，一言では言い尽くせない。現代では音楽上の階級制度は失われ，クラシック音楽も実演・テレビジョン・ラジオ・レコード，その他を通じてだれでも接することができる。しかし，かつてはその多くが宮廷・貴族を中心とした上流階級の特殊音楽だったことを考えると，クラシック音楽以外の音楽を大衆のもの，すなわちポピュラー音楽とするのもうなずける。一方，クラシック音楽や純音楽は純粋に芸術的な心から生まれ，他の行為を伴わずに聞くために作られるものとされながら，そうでないものや，反対にポピュラー音楽の中にも芸術性を追求したものもあり，その区別は判然としない。しかし，一般にはポピュラー音楽はクラシック音楽・純音楽の対立語とされる。その意味では日本の歌謡曲*もポピュラー音楽の範疇に含まれるが，一般にポピュラー音楽というと，外国の大衆音楽だけが頭に浮かぶ。かつてはクラシックの小品からジャズ*まで，西洋音楽系の通俗音楽すべてを軽音楽(ライト-ミュージック)とよんでいたが，近年，その概念をそっくりポピュラー音楽が継承した形である。そしてジャズ・シャンソン*・カンツォーネ*・ラテン音楽・タンゴ*・ハワイアン・フォークソング*・カントリー-アンド-ウェスタン*・ロック*・ムード-ミュージック*からミュージカル*・映画音楽など，国籍やスタイルを問わず一般大衆に親しみやすい音楽すべてをさすことばとして使われるようになった。しかし，ポピュラー音楽すなわちアメリカのヒット曲といった感じがぴったりする人も少なくないだろう。これは第2次世界大戦後に日本にはいってきた外国の大衆音楽の中で，アメリカのそれが支配的であったことと関係が深い。また，ジャズがそうした中から脱落していったのは，しだいに難解になり，通俗的ではなくなったからであろう。そして聞くほうの好みも細分化されて，各ジャンルに分けられていった。しかし，ロックが世界に浸透するにしたがい，各国の特殊性は失われ，より世界的傾向に統一されてきたことから，ポピュラー音楽の受けとり方は再び各ジャンルをこえて統合されはじめている。この傾向は日本の歌謡界も例外ではなく，外国作品と区別のつかないような洋楽ふうの曲，いわゆる和製ポップスなども出てきている。そうした意味では，今日のポピュラー音楽は，世界共通の大衆のための音楽ということができよう。〔鈴木道子〕

ポピュリスム ［Populisme］ 1920年代終わりのフランスの文学運動。バレリー*・プルースト*・ジイド*らの文学がブルジョア的であるとして，民衆の苦しみや喜びを共感をこめて描く民衆のための文学を主張した。アンドレ-テリーブ・レオン-ルモニエらが理論家として主導。この主張に沿った作品に与えるポピュリスト賞を設け，1929年ダビ*の《北ホテル*》が受賞，一躍その名を高めた。しかし，ほかにフィリップ*ら数人の作家の作品があるだけで，大きな成果をみなかった。〔池田公麿〕

ボビン ［bobbin］ 紡績した糸を巻き取るための木またはファイバー製の糸巻き，またはミシン*の下糸を巻くための糸こま(リール)。前者は筒形で，木管ともいう。後者はふつう車状で，金属製が多く，糸の巻きもどりを防ぐ糸止めをつけたものもある。

ポープ ［Alexander Pope］ (1688〜1744) イギリスの詩人。古典の素養と詩才に恵まれ，若くして代表作《批評論》を著わし，ホメロスの翻訳によって名声を得た。《髪盗み》《愚人列伝》など風刺詩にすぐれ，これらと哲学詩ともいえる《人間論》によってイギリス詩史上第一級の詩人となる。貴族的な詩風に反して，幼時の大病による病弱のため私生活はわびしく，生涯(しょうがい)を独身で通した。

ホプキンズ ［Frederick Gowland Hopkins］ (1861〜1947) イギリスの生化学者。イーストボーンの生まれ。正規の大学教育は受けていないが，ロンドンのガイ病院で生理学と化学分析を学び，のちケンブリッジ大学教授。1901年トリプトファンの発見，1907年筋収縮における物質交代の研究，1912年ビタミンの研究，1921年グルタチオンの発見など業績が多く，現代生化学の創始者のひとり。現代生化学の発展をになった数多くの俊秀を育成した功績が大きい。1929年エイクマンとともにノーベル医学生理学賞を受賞。〔中村禎里〕

ボブスレー ［bobsleigh］ ハンドルおよびブレーキのついた鋼鉄製の橇*(そり)による滑降競技。19世紀末にスイスのアルプス地方で発達したウインタースポーツで，冒険好きな人々の人気を集めて各国に普及し，1923年国際ボブスレー連盟(FIBT)が設立された。冬季オリンピックの種目としては，1924年第1回シャモニー大会から正式種目となった。

わが国には1937年(昭和12)にはじめて紹介され，オリンピックには1972年の第11回札幌(さっぽろ)大会から参加している。競技は

2人乗りと4人乗りの2種目があり，参加者は18歳以上の男子に限られている。全長1,500～1,700mのコースを4回滑降し，総計タイムで順位が決められる。〔藤岡　端〕

ホブソン　[John Atkinson Hobson]（1858～1940）　イギリスの経済学者。ダービーの生まれ。父は自由党の政治家。オックスフォード大学で古典学を学んだ。卒業後，ラスキン*・ベブレン*・スペンサー*らの影響を受け，経済学に興味をもち，その研究に進んだ。ロンドン大学の講師になったが，その著《産業の生理学》(1889)が社会批判の性格をもったため解職され，以後終生，著述家としての生活を送った。ボーア戦争*直前に南アフリカに旅行したが，この経験がのちの《帝国主義論》(1902)著作の契機となった。彼がおもに仕事をしたのは，進歩的週刊紙《ネーション》の寄稿家としてであり，帝国主義・軍国主義に反対し続けた。彼は自称〈経済学の異端者〉であったが，晩年にはマンチェスター大学が名誉学位を贈り，またピグーやケインズ以後は，その厚生経済学の立場と過少消費・過剰投資の理論が高く評価された。〔林　達〕

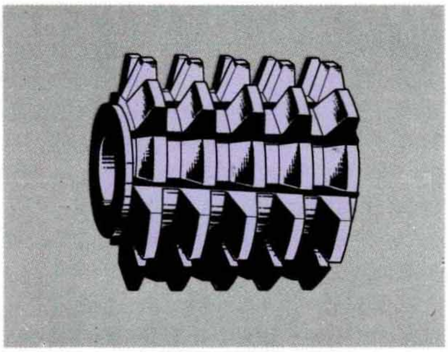
ホブばん　【ホブ盤】　歯切り盤*の一種。円柱の周囲に刃を少しずつずらしてねじのように並べたホブと名づける工具を用いて，歯切りをする。普通は平歯車・はすば歯車の歯切りをするが，特別な装置をつけてやまば歯車・ウォームホイール・スプラインなどをつくることもあり，また円錐(えんすい)形のホブによってかさ歯車をつくることのできるものもある。

ホフマン　[Ernst Theodor Amadeus Hoffmann]（1776～1822）　ドイツの小説家。ケーニヒスベルクの生まれ。後期ロマン派を代表する存在で，音楽への郷愁にとりつかれ，音楽評論を書くほか，みずから作曲もした。父から芸術家はだを，母から法官気質を受け継ぎ，作品はロマン派の空想的な世界と現実的な世界の対立の中に，独特の幻想・怪奇・戦慄(せんりつ)の世界を表わす。傑作《黄金の壺(つぼ)》を含む作品集《カロー風の幻想曲》，童話《胡桃(くるみ)割りと鼠(ねずみ)の王様》を収めた《ゼラピオン同人集》，未完の大作《牡猫(おすねこ)ムルの人生観*》，愛欲と血に狂った恐ろしい神父の一生を描いた《悪魔の霊液》などの作品がある。オッフェンバッハ*の《ホフマン物語*》など音楽を通しても有名。〔松尾幸子〕

ホフマン　[August Wilhelm von Hofmann]（1818～1892）　ドイツの有機化学者。ギーセンの生まれ。ギーセン大学でリービヒに師事し，主としてコールタールの性質と組成を研究。タール中の塩基性物質を発見し，学位論文でアニリンと命名した。1845年イギリスから招かれ，ロンドンの王立化学大学の教授となり，イギリスの工業化学を育成した。1865年ドイツへもどってベルリン大学教授となり，1868年ドイツ化学協会を創立した。彼とその後継者によってドイツ染料化学は築かれた。〔加藤邦興〕



ボブスレー　踏み固めた雪に散水した人工コースで行なわれる



ホブ盤　単体ホブ

ホーフマンスタール　[Hugo von Hofmannsthal]（1874～1929）　オーストリアの詩人・劇作家・エッセイスト。ウィーンの生まれ。早熟の天才として完璧(かんぺき)な形式美を備えた叙情詩や老成した叙情的小戯曲《昨日》《チチアンの死》《痴人と死》を発表，世紀末のウィーンに登場したが，生の危機やことばへの絶望を克服し，古代や中世やバロックを伝承する創造を始め，オーストリアと全ヨーロッパの文化遺産を継承する最後の詩人となる。ギリシア劇《オイディプス》《エレクトラ》，中世宗教劇《エブリマン》，バロック劇《大世界劇場》などを再構成し，ザルツブルク芸術祭の創始者となる。晩年は意識的にカトリシズムに帰依し，汎(はん)ヨーロッパ理念をいだく。結婚の神聖視はオペラ《影なき女》に，受難による救済の思想は戯曲《塔》にみられる。また，オペラ台本《バラの騎士》はR.シュトラウス*の作曲で有名。書簡やエッセーにもたぐいまれな感受性や予見力が認められる。〔岩淵達治〕

ホフマンのほうそく　【ホフマンの法則】　経済の発展につれて，製造工業における消費財産業と資本財産業とのそれぞれ純産出量(付加価値)の比率であるホフマン比率が低下する，つまり消費財産業は相対的に減少し，資本財産業は相対的に増大するという法則。ドイツの経済学者ホフマン(1903～　)はその比率によって工業化の段階を四つに分けている。ホフマンの法則は産業分類の方法に問題を残すものであるが，他方において各国の工業発展形態の共通性を指摘した意義は大きい。〔加藤　寛〕

ポプラ　[poplar]　双子葉植物・ヤナギ科・ポプルス属の総称。北半球の温帯に約40種があり，日本にはドロノキとヤマナラシ(ハコヤナギ)の2種が野生する。しかし，日本でふつうポプラといっているものはヨーロッパ原産のセイヨウハコヤナギで，茎は直立して高さ30mほどになり，不定芽の発達で樹形はほうき状になる。葉は長さ2～5cmの広三角形で，わずかな風にも揺れる。雌雄異株で，4月ごろ，葉に先だって長さ3～5cmの穂状花序を下垂する。〔横井朝子〕

ほへい　【歩兵】　陸軍の兵科*の一。通常徒歩で火戦・白兵戦を行なう戦闘兵種である。中世の騎士団の時代を除き，古来つねに地上戦闘の主兵であった。第1次世界大戦時は火力装備が著しく増強されて戦力を増した。その後は軍の機械化により戦場機動力(運動性)を増し，現代ではさらにヘリコプターによる機動が図られている。歩兵は，たとえ他兵種の協力がなくても独力で行動し，どのような地形・時期においても直接戦闘を実行し，最終の勝負を決するのが特徴である。〔森田　哲〕

ほへいほう　【歩兵砲】　歩兵が敵の機関銃座や戦車などに対抗するために使う砲。口径は37～75mm程度。一般に小形・軽量で，分解運搬が可能につくられているが，最近では自走化されるようになって，100mm以上の大形・強力なものも使われている。ふつう榴弾砲(りゅうだんほう)が多く，カノン砲は対戦車用などに用いられる。迫撃砲も歩兵砲の一種といえる。

ボヘミア　[Bohemia]　チェコスロバキア西部の地方。エルベ川の上流部にあたり，四方を山地に囲まれて全体が盆地状の地形をなす。南東は同国のモラビア地方，北東はポーランド，西はドイツ，南はオーストリアと接する。この国の最も豊かな農業地域で，また地下資源にも恵まれ，首都プラハをはじめ，ビール醸造とレーニン機械工場のあるピルゼン，ガラス工業のテプリツェシャノフなど工業都市が多く，鉱工業の先進地域をなしている。エルベ川の谷間の平坦地(へいたんち)ではテンサイ・ジャガイモ・ホップや果実の栽培が盛ん。5世紀ごろからスラブ系チェク人が定着し，10～14世紀はドイツの勢力下に置かれた。16世紀以降はハプスブルク家の支配下にあったが，チェク人の激しい独立運動が展開され，第1次世界大戦後の1919年モラビア・スロバキアとともにチェコスロバキアとして独立した。ドイツ語名はベーメン。なおボヘミアの地名は，この地に紀元前に居住していたボイイ人に由来する。〔梶川勇作〕

ホーベル　[Hobel]　長壁切羽で炭層を

かんなのように削り取る方式の採炭機械。比較的軟弱で厚さの小さい炭層の採掘に適する。機体とチェーンコンベヤーがセットになっていて，機体の往復運動によって削り取られた石炭はコンベヤーへ落ち，流れてメーンコンベヤーまで運ばれる。構造が簡単で，塊炭が比較的多く得られる。ホーベルは第2次世界大戦後，ドイツを中心に急激に普及し，わが国でも多数使用されたが，現在ではあまり使われていない。
〔西松裕一〕

ほぼ【保母】 児童福祉施設(保育所・乳児院・精神薄弱児施設・養護施設・聾唖児(ろうあじ)施設など)で児童の保育に従事する女子。その資格は，厚生大臣が指定した保母を養成する学校または施設を卒業した者，または都道府県知事が行なう保母試験に合格した者に与えられる。1970年(昭和45)12月末現在の総数は，84,851人であり，そのうちの72,832人が保育所で勤務している。

ポーポー［papaw］ 双子葉植物・バンレイシ科。北アメリカ原産の落葉小高木で，果樹として栽培される。わが国には明治中ごろに渡来し，東京以南では野外で育つ。高さ10mほどになる。葉は互生し，長さ15～30cmの長楕円(ちょうだえん)状倒卵形で，先は鋭くとがる。早春，葉に先だって径4～5cmの暗紫色の鐘形花を下垂する。花弁は6枚で，外側の3枚は広卵形で大きく，内側の3枚は短くてとがり，直立する。おしべは多数。果実は長さ5～15cmのゆがんだ楕円体で，黄緑色から暗緑色に熟す。種は多数あり，カキの種に似た形で長さ2.5cmほど。果皮は柔らかくクリーム状で，芳香があり美味。なお，papawはパパイアをさすことがあり，区別するためアメリカン-ポーポーともいう。
〔横井朝子〕

ポポカテペトル(山)［Popocatepetl］ メキシコ中南部，メキシコシチーの東南約70kmにある火山。標高5,452m。山頂に直径約600mの火口がある。万年雪をのせ，ガスを噴出している。最近では1927年に噴火があった。成層火山。

ボーボワール［Simone de Beauvoir］(1908～) フランスの女流作家・評論家。パリの生まれ。ソルボンヌ大学で学びメルロ-ポンティ・サルトルらと交友，哲学教授資格を得る。教師生活ののち，小説《招かれた女》でデビュー，自我と他者の相克および連帯の可能性，左翼知識人のあり方などを主題に《他人の血》《レ-マンダラン》を発表。サルトルとともに実存主義文学の代表的作家となった。また評論《第二の性》は，実存主義の立場からの女性論で世界的な反響を呼んだ。他に自伝的連作《娘時代》《女ざかり》，小説《人はすべて死す》などがある。
〔立仙順朗〕

ホーマー ⇨ホメロス

ホーマー［Winslow Homer］(1836～1910) アメリカの画家。南北戦争中にさし絵画家として従軍，《前線からの捕虜》で画家としての名声を確立した。1867年から1880年ごろにかけては，田園を背景として《グロスターの農場》などの風俗画を数多く描いた。しかし，イギリス訪問後は，たくましい写実的表現で，《命づな》などのように好んで海を題材に扱った。晩年には印象派ふうの水彩技法を採用している。〔松本芳夫〕

ポマード［pomade］ ゼリー状または半固体の整髪料。髪に光沢と芳香を与え，おもに男性の整髪に用いる。植物性と鉱物性があり，植物性はひまし油と木蠟(もくろう)・蜜蠟(みつろう)の混合物で，鉱物性はワセリン・流動パラフィン・固形パラフィンなどを主成分として蠟で固めたもので，ともに着色し香料を加える。植物性は鉱物性に比べて粘着力が強く，洗髪も容易であるが，日光・空気などによって変質しやすい。

ボーマルシェ［Pierre-Augustin Caron de Beaumarchais］(1732～1799) フランスの劇作家。パリの生まれ。時計商・音楽教師・出版業・武器輸出業など，多彩な職業を転々とした。その間《セビリアの理髪師》《フィガロの結婚》の2作の喜劇でアンシャン-レジームへの痛烈な批判を行ない，フランス革命前夜の民衆の大喝采(かっさい)を博した。ほかに，散文《備忘録》がある。


ポーポー (上)花 (下)果実

ホームウエア［home wear］ ハウスドレスともいう。家庭着のことで，働き着，客の応接用のもの，くつろぎ着など，家庭で着用する衣服全般をさす。このほかエプロンドレス・かっぽう着・丹前・前掛け・ゆかたなども含まれる。最近では家庭生活を楽しむ傾向が強まり，素材やデザイン面でも，明るくくつろいだ感じのものが各種つくられている。

ホムス［Homs］ シリア-アラブ共和国西部の都市。人口26万7,000(1975)。同国の西部穀倉地帯の中心にあって，アレッポから南下してベイルートおよびダマスカスに至る鉄道に沿い，農畜産物を集散する。絹織物・宝石細工などの手工業がある。

ホームスパン［homespun］ 手紡ぎ織物の意味で，本来は羊毛を手紡ぎして織った，やや太めの糸の紡毛織物で，ところどころに太い部分があって，あらい感触と手づくりの味を特徴とする服地。現在はこれに似た毛織物で機械紡織をしたものをすべてホームスパンという。スポーティーな服地・コート地やハンチング地などに用いられる。

ホームヘルパー［home helper］ 労働者の家庭で，主婦が出産・病気などによって家事に従事できない場合，企業から派遣されて，主婦に代わり家事労働に従事する人。わが国では1960年(昭和35)に労働省がホームヘルプ制度を施行して，始められた。資格は，労働省所管の家事サービス職業訓練所(全国8か所)の家政科(3か月)修了，または各県が行なう訓練指導(150時間以上)を修了した者が取得できる。企業の従業員として社外勤務を行なうもので，仕事の内容は似ているが，一般家庭から報酬を受け取る家政婦とは区別される。〔館古都子〕

ホームリカー ⇨果実酒

ホーム-ルーム［home room］ 第2次世界大戦後，アメリカの教育制度の導入によって設けられた中学校・高等学校における学級集団の名称。アメリカの中等学校で

ホーマー《遊ぶ子供達》



は単位履習制がとられており，生徒は自分の選択する教科の教室に移動し，教科ごとの集団を形成するため，学級担任が生徒の生活指導をする場としてのホーム-ルームが必要とされ，家庭のように解放された生徒の生活集団が育成された。わが国では，特別の教科を除けば学級は一教室に固定されており，ホーム-ルームという名称は〈教室〉ではなく，ホーム-ルームの〈時間〉を意味する。ホーム-ルームの時間には，担任教師は教科学習以外の生徒の活動や生活を指導するが，学級における〈仲間意識〉の形成の場として大きな教育的意味をもっている。しかし，1947年(昭和22)に新制の中学校にはじめて採用されたこの制度は，1958年の〈学習指導要領〉で〈道徳〉と〈学級活動〉に改められ，高等学校だけにその名称が残っている。〔福井幸雄〕

ポメラニアン ［pomeranian］ イヌの一品種。北ドイツのポメラニア地方原産の極小形愛玩犬(あいがんけん)。口吻(こうふん)はとがり，小さな立ち耳で，短胴の全身は長毛におおわれ，飾毛豊かな背上の尾は扇のようである。毛色は黒・オレンジ・クリーム・かっ色など。体重は1.8～2.8kgぐらいが喜ばれる。➔イヌ

ホメロス ［Homeros］ 生没年不詳。ギリシアの最初の叙事詩人。紀元前8世紀ごろの人とされる。生涯(しょうがい)は未詳だが，キオス島かスミルナの生まれらしい。英雄叙事詩《イリアス*》と《オデュッセイア*》の作者。《ホメロス賛歌》もこの詩人の作品として伝えられている。盲目で，諸国の王侯貴族の館を訪れ，求めに応じて英雄の偉業をうたった吟誦(ぎんしょう)詩人のひとりであった。叙事詩《イリアス》と《オデュッセイア》がはたしてひとりの詩人の作品かどうか，またホメロスという特定の吟誦詩人が存在したかどうか，多くの詩人たちが歌い継ぎ語り継ぐうちに長編叙事詩が成立したのではないか，古来このような問題が〈ホメロス問題〉として学者間で論議されてきた。近年では，ホメロスとよばれる天才詩人が，叙事詩人の伝統をふまえつつ二つの統一性ある独自の詩を作成したというのが定説になっている。ディテュランボス六脚韻を用いた詩はホメロス以後叙事詩の定型となり，ギリシア文学・ラテン文学に深い影響を与えた。ホメリダイ(ホメロスの子ら)とよばれる吟誦詩人は，その後，幾世紀にもわたって英雄叙事詩を歌って町から町へと歩いた。なお《ホメロス賛歌》はデメテル女神・アポロン神・ヘルメス神など，それぞれの神にまつわる神話や縁起物語を軽妙なタッチでうたったもので，33編の賛歌が収められている。〔久保正彰〕

ホモぎゅうにゅう 【ホモ牛乳】 ホモジナイザー*で脂肪球を細分して，クリーム*が分離しないようにした牛乳*。市乳*の処理工程で多く用いられる。通常の殺菌法でつくった牛乳は，静置すると生乳と同様にクリーム層が分離するが，これを防ぎ，また脂肪球の細分によって，胃の中で比較的柔らかなカード(カゼインが酸・レンニンによって凝固したもの)を生ずるようになり，タンパク質が消化されやすくなる。



ホメロス



ホヤ マボヤ

ホモ-サピエンス ［Homo sapiens］ すべての現生人類の所属する種。最初の化石は，後期旧石器時代にさかのぼり，頭骨は薄く，顔面骨は軽い。額は高くドーム状になる。ネアンデルタール人に見られぬ頬骨洞(きょうこつどう)があり，頤(おとがい)が発達する。オーリニャック文化とともに出現し，フリント製のブレードが主要な道具であった。後期旧石器の中ごろにソリュートレ文化期に移行し，マグダレ文化で骨器を使用しはじめた。ヨーロッパでは，オーリニャック文化をもつホモ-サピエンスが，ムステリアン文化のネアンデルタール人を駆逐したものと考えられている。当時から，現生人類にみられるほど著しくないにしても人種差が現われていた。〔鈴木 尚〕

ホモジナイザー ［homogenizer］ 不均一な組成のものを機械的な処理により均一化する装置。二液相を混合分散して乳濁液をつくる乳化機と，固相を破砕して液相に分散させる破砕機がある。特に，生物学的研究の補助手段として，動植物組織・菌体組織を破砕し分離させるのに使われるが，油脂・樹脂の乳化，ペースト・マヨネーズ・クリームの製造など，食品・薬品・化学工業でも広く利用されている。

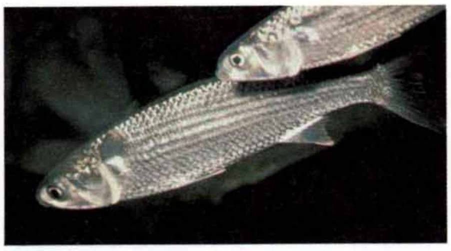
ホモ-ハビリス ［Homo habilis］ 〈能力あるヒト〉の意で，1960～1963年にかけて，東アフリカのタンガニカのオルドバイ峡谷で，リーキーによって発見された化石人類の頭骨破片，上顎(じょうがく)骨・下顎骨・手骨など。時代はジンジャントロプス(200万年前)とほぼ同時代。発見者のリーキーらはこの化石人類をホモ属に加えているが，この主張が正しければ，オーストラロピテクス属とホモ属が同一地点に同時に生存していたことになるが，まだこの問題については定説がない。脳容量は680cc。骨盤と下肢(かし)骨は直立二足歩行に適するなどの特徴がある。〔鈴木 尚〕

ホモフォニー ［homophony］ ポリフォニー*に対する用語。一つの声部が主体をなし，他の声部が和声的にも旋律的にも，これを補助する関係にある楽曲。音楽史上，このホモフォニーがはっきりと姿を現わすのはルネサンス末期からバロック時代初めにかけてであって，ジョスカン-デ-プレやパレストリーナを模範とするそれまでの様式に対して，感情や情緒をよりよく表現するために要求されたものである。モンテベルディのいう第2の作曲法(セコンダ-プラティカ)がこれで，特にバロック初期においては，この二つの様式が共存していた。〔吉田泰輔〕

ほや 【海鞘】 原索動物・尾索綱・ホヤ亜綱の総称。単体性のホヤと群体性のホヤが知られる。単体性ホヤはツニシンとよばれるかたい外皮をかむり，体の後方で岩・小石・海藻(かいそう)などに付着し底生生活を営む。体の前方には入水孔，そのやや後方に出水孔があり，体内にはいった水は鰓嚢(さいのう)とよばれる広い室で，呼吸と摂餌(せつじ)に使われる。えさは海水中に浮遊するプランクトンや微小有機粒などで，鰓嚢内で粘液によって集められ口から消化管へはいる。群体性ホヤも構造はよく似ているが，個虫は小さく，共通の外皮中に埋もれており，一つの群体内で個虫による分化がみられるものもある。幼生はオタマジャクシ状の形態で，浮遊生活をするが，幼生時のみに脊索(せきさく)をもち，原索動物であることがわかるが，成体では消失する。全世界の海岸の潮間帯におびただしく生息するだけでなく，浅海からも，数千メートルの深海からも知られている。マボヤは東北地方では食用としている。〔向井 宏〕

ボヤイ ［Janos Bolyai］ (1802～1860) ハンガリーの数学者。コロズバルの生まれ。軍人として育てられる一方，数学者の父ファーカス(1775～1856)の教育により早くから数学に長じた。16歳でウィーンの工兵学校にはいり，のち軍務につくかたわら平行線理論の研究に没頭，やがて非ユークリッド幾何学の着想に到達した。この研究は〈空間の絶対的科学〉(1825～1826)と題する論文にまとめられ，その後1832年父の著わした数学書の付録として出版された。しかしこの不朽の業績は長く認められず，不遇のうちに没した。〔下平和夫〕

ぼら 【鯔・鯔】 硬骨魚類・ボラ科。全長80cmに達する海産魚。いわゆる出世魚で小形のものをイナとよび，さらに細かく分けることもある。東京では，オボコ→イナッコ→スバシリ→イナ→ボラ→トドといい，高知ではイキナゴ→コボラ→イナ→オオボラというように成長するにつれ呼び名が変わる。頭は縦扁(じゅうへん)して平らで，体は円筒状に近い。成魚では目に脂瞼(しけん)がよく発達している。胃壁は厚い筋肉からなり，そろばん玉形で俗に〈ボラのへそ〉といわれる。世界じゅうの暖海に広く分布し，幼魚はしばしば川をさかのぼる。愛知・三重県などで養殖もされている。食用魚。からす*みは卵巣からつくられるが，卵巣はふつう本州中部以北では発達しない。



ボ　ラ

ポーラー ［poral］ 強撚(きょうねん)の梳毛(そもう)糸を，あらく織った梳毛織物。本来はモヘア糸を縦に使った織目のあらいかたい手ざわりの毛織物で，光沢に富み，通気性がよく，夏の背広服・ドレス・スーツなどに用いられる。主として無地・霜降りで，縞(しま)入りのものもある。近来は化学繊維でつくったものもある。

ポライウォロ ［Pollaiuolo］ イタリアの画家。15世紀にフィレンツェで工房を経営し，画家・彫刻家・版画家・金工家として活動したアントニオ(1432〜1498)とピエロ(1443〜1496)の兄弟。両者ともドナテッロ・カスターニョらの影響を強く受け，レオナルド-ダ-ビンチの先駆者とされるが，弟ピエロはやや技量が劣るといわれる。しかし，明らかに兄アントニオのものとされる作品も多くはない。代表作は《聖セバスチアーノ》，教皇シクストゥス4世・インノケンティウス8世の記念碑。〔井関正昭〕



A.ポライウォロ《婦人像》 ポルディニペッツォリ美術館蔵

ほらいもり 【洞蠑螈】 両生類・プロテウス科。オルムともいう。ユーゴスラビアの北西部とイタリアの北東部に限産し，洞穴(どうけつ)の地下水中にすむ洞穴動物。全身白色であるが，光のもとで長く飼育するとかっ色をおびてくる。全長25〜30cm。体は細長くやや側扁(そくへん)し，目は退化しており，生涯(しょうがい)3対の外鰓(がいさい)を失わない。四肢(しし)は小さく，ゆびは前肢に3本，後肢が2本。えさは主として小形の甲殻(こうかく)類。卵は雌の輸卵管内で発生し，成体に近い形の幼生で産まれる。しかし雌を15℃以上の高温環境に置くと卵を産む。〔松井孝爾〕

ほらがい 【法螺貝】 軟体動物・腹足類・フジツガイ科。殻高(かくこう)40cm，殻径19cmの大きな巻き貝で，螺塔は円錐(えんすい)形，螺層は10階で各層はふくらむ。殻頂部は赤味をおびる。殻表には低くて広い螺肋(らろく)をめぐらし，その上に半月状の紅・褐(かつ)・白などの斑紋(はんもん)が交互にあり，ヤマドリの羽の模様となる。体層は非常に大きくてふくらみ，殻口も大きく，殻口内は紅橙(こうとう)色をおびる。ふたは卵楕円(らんだえん)形の革質で，軟体は紅色。紀伊(きい)半島以南，太平洋・インド洋の潮間帯下の岩礁にすむ。肉は食用となる。殻(から)は置き物や貝細工にするほか，殻頂などに歌口をつけて吹奏楽器とする。これは，昔は陣貝といって戦陣の合い図や時報に用いられた。また，仏教では法具として用いられ，修験道(しゅげんどう)でも先達が吹きながら霊場を回っている。〔波部忠重〕

ほらがとうげ 【洞ケ峠】 京都・大阪の府境近くにある峠。標高約70m。生駒(いこま)山地北端の丘陵地を越える峠で，京都から石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)のある京都府綴喜(つづき)郡八幡(やわた)町を経て，河内(かわち)方面へ出る東高野街道が通っている。本能寺の変*後，1582年(天正10)山崎の合戦*のとき，大和(やまと)の筒井順慶が兵を率いてここに布陣し，両軍の形勢を望観して有利なほうに味方したことから，日和見(ひよりみ)主義をさす〈洞が峠をきめこむ〉のことばを生んだ。現在国道1号線の枚方(ひらかた)バイパスが通っている。〔高野　繁〕

ホラズム ⇨コラズム-シャー朝

ホラチウス ［Quintus Horatius Flaccus］ (BC65〜BC8) ローマの詩人。南部イタリアのウェヌシアで解放奴隷の子として生まれる。教育熱心な父とともにローマへ上り，のちアテナイへ遊学。やがて共和政を死守するブルトゥス軍に投じて敗れ，ローマへ帰る。父はすでになく，財産も没収され，下級官吏となったが，ウァリウス・ウェルギリウス*らの紹介でアウグストゥスの政治顧問マエケナスの知遇を得，ついにはかつて敵対した皇帝自身の厚遇を受けた。彼はウェルギリウスとともにラテン詩文の黄金時代を築いた。作品には，政治・風俗・恋愛などを扱った詩集《エポーディ》17編，ルキリウスの開拓したジャンルに洗練の度を加え，軽妙洒脱(しゃだつ)につづった《諷刺(ふうし)詩集》2巻，全力を傾注し青銅に劣らず不朽，ピラミッドよりも高いと自負した叙情詩集《カルミナ》4巻，あか抜けした調子でアウグストゥス期のエリートの特質をよく示す《書簡集》2巻などがある。有名な《詩論》は《書簡集》中の《ピーソーへの手紙》のことである。代表作《カルミナ》では，特に1〜3巻でギリシアの叙情詩ふうを取り入れつつ，みごとなラテン韻律により個性を確立した。ウェルギリウスの神秘性とは対照的に陽気で率直な気質が随所に見られ，作品を通して経歴が比較的よく知られる。〔松田　治〕

ポラリス ［Polaris］ アメリカの戦略ミサイル潜水艦が搭載(とうさい)する中距離弾道弾(IRBM)。ポラリス(北極星)はニックネーム。原子力潜水艦と戦略ミサイルを組み合わせた兵器体系の一環として1957年から開発が始められ，1960年から潜水艦に搭載，配備された。潜航したまま発射できるのが特徴で，1隻の搭載数16発，1分間隔で発射する。IRBMとしては異例の小ささで，固体燃料2段式。射程はA-1が2,000km，A-2が2,800km，A-3が4,600kmで，最近はより強力なB-3型ポセイドンが配備されつつある。〔藤井冬木〕

ボラール ［Ambroise Vollard］ (1868〜1939) 近代絵画史に大きな役割を果たしたフランスの画商。エコール-ド-パリの画家を後援し，セザンヌ・ピカソ・マチスらのそれぞれ第1回の個展を組織した。また，グラフィックな分野にも興味をもち，ピカソの版画集を出版するなど，この分野でも注目すべき先駆者である。ピカソの手になる彼の肖像画は有名である。著書に《ある画商の思い出》などがある。

ポラロイドランドカメラ ［Polaroid land camera］ ポラロイドカメラともいう。1947年アメリカ合衆国のE. H. ランドによって発表された特殊カメラ。撮影後に黒白プリントは10秒で，カラープリントは60秒で完成する。感光材料は専用の一対のネガ紙とポジ紙を使用する。ネガ紙はフィルム・印画紙*と同様の感光性のあるハロゲン化銀乳剤を使用しているが，ポジ紙は感光性のないコロイド銀乳剤を塗布してある。撮影後に感光材料を引き出すと，ローラーの間

を通ったポジ紙ロールについている現像薬品のはいった袋が破れ，ネガ紙とポジ紙は粘性のある現像液ではり合わされる。この現像液は強アルカリの迅速現像液であると同時に，ハロゲン化銀溶剤も含むので，ネガ紙の露光された部分については現像が進行するが，その他の部分はハロゲン化銀は溶解されてポジ紙の側に拡散する。その途中で現像液に触れるが，ポジ紙に移ってコロイド銀を現像核としたときにはじめてハロゲン化銀は還元されて金属銀となり，ポジ像が転写される。　〔新川幸信〕

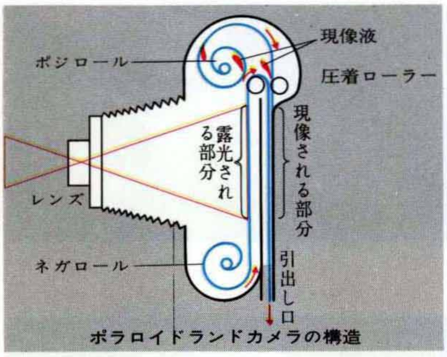
ポーラログラフィー　［polarography］　微小電極と，非分極性電極を組み合わせて電解を行ない，得られた電圧-電流曲線を解析して，試料溶液中の各種被電解物質の定性・定量分析を行なう電気化学的分析法。測定装置をポーラログラフといい，得られた曲線をポーラログラムという。微小電極には，通常，内径0.03～0.05mmのガラス毛細管から水銀粒がほぼ3秒に1滴の割合で滴下する滴下電極を陰極として用い，陽極には広面積の水銀プールを用いる。前者は微小なため，電流密度が大きく，分極*はほぼ完全とみなせるが，後者は広面積で，かつ測定中の電流はμA程度に小さいため，電極電位は一定で，非分極性とみなせる。また，被電解物質がほとんど拡散*のみによって微小電極に供給されるようにするため，電極過程を妨害しないような電解質（支持電解質）として塩化カリウムを加える。加電圧を増していくと，完全分極電極においては電位が被電解物質の還元電位に達しないうちは電流はほとんど流れず（残余電流），還元電位から直線的に増加し，ある加電圧で存在する被電解物質濃度に比例する一定値を示す。これを限界電流といい，定量分析の基礎原理となる。そのときの拡散電流I_d（波高）は次のイルコビッチの式で表わされる。

$$I_d=607nD^{\frac{1}{2}}Cm^{\frac{2}{3}}t^{\frac{1}{6}}\ (\mu A)$$

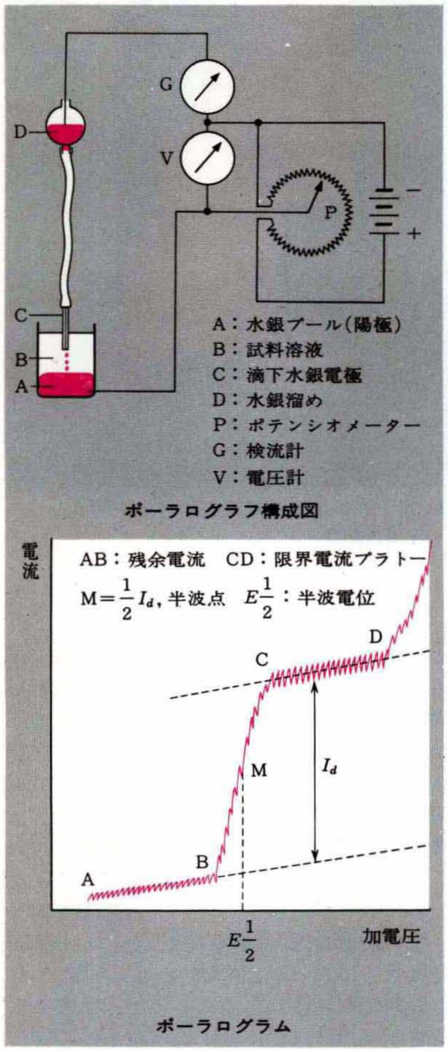
ここで，C：被電解物質の濃度，D：その拡散定数，m：水銀流出速度，t：滴下間隔，n：1モルあたりの電極反応に要する電気量のファラデー数。この式から，I_dとCは比例していることがわかる。また電流が$\frac{1}{2}I_d$に対応する点の電位を半波電位といい，同一条件では被電解物質の種類により特有な値を示すため，定性分析に用いられる。この微小電極の利点は，つねに新しい水銀粒が滴下されるので，履歴現象を避けられること，再現性がよくなること，電解量がきわめて微量なため，電解の前後で組成の変化がほとんどないことなどである。

〔三輪　誠〕

ポーラン　［Jean Paulhan］（1884～1968）　フランスの批評家・作家・言語学者。1915年第1次世界大戦の従軍記《勤勉なる兵士》で認められ，1925年《NRF*》（新フランス評論）の主筆となり，ミショー・エリュ



ポラロイドランドカメラ



ポーラログラフィー

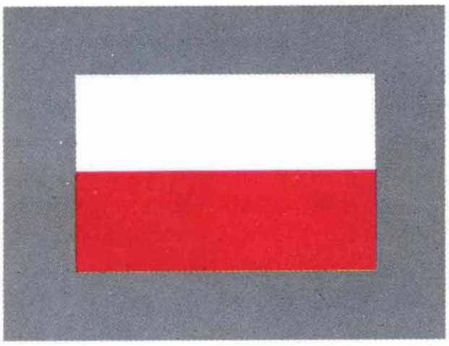
アール・ポンジュ・サルトルらを世に送り出した。第2次世界大戦中は反ナチス抵抗運動に積極的役割を演じた。1953年《NNRF》（新新フランス評論）を創刊。また1959年対独協力をしたため発禁となっていた《NRF》を復刊。心理学的立場から思考と言語の関係を考察し，《タルブの花》《詩の鍵（かぎ）》は大きな影響を与えた。　〔前納弘武〕

ボランタリー-チェーン　［voluntary chain］　任意連鎖店。チェーンストア*の一種で，経営者各人が自分の店舗を所有し，かつ経営するが，卸売業者もしくは製造業者と連係を保った営業活動を行ない，グループ全体としてある程度の共通性と統一性を保つという性格を備えた組織をいう。1920年代初頭，アメリカでチェーンストアの進出に対抗してその防衛手段として形成されてきた。独立性を維持しつつ永続的連鎖関係を締結し，協同の力で規模の利益を享受しようとするもので，共同広告・共同販売・商品開発などの事業を協同で行なうとともに，商品の仕入れ・共同発注などを行ない，流通コストの低減や経営の近代化・合理化を図るものである。　〔清水　晶〕

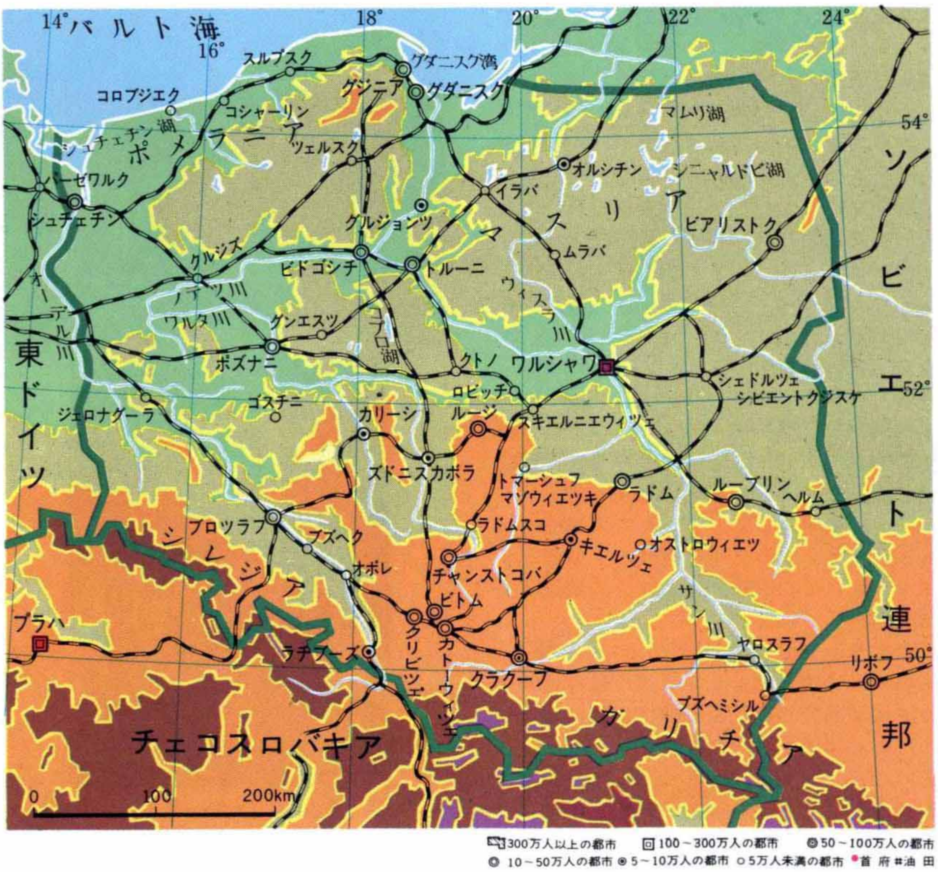
ポーランド（人民共和国）　［Poland, Polska Rzeczpospolita Ludowa］　ヨーロッパ中央部の人民共和国。ポーランドは英語名で，ポーランド語ではポルスカという。北はバルト海に面し，西はドイツ人民共和国（東ドイツ），東はソ連，南はチェコスロバキアと接する。面積31万2,677km²，人口3,523万（1979年推）。首都ワルシャワ。

〔自然〕国土の大半は北ドイツ平野から続く標高200m以下の大平野である。南部はチェコスロバキアとの国境にズデート山地，カルパート山脈が走り，平野との間に中生代の地層からなる台地がある。平野の北部にはかつての大陸氷河作用のあとが多くの湖沼・堆石丘（たいせききゅう）となって残っている。この部分は農業生産に不適で，多くは針葉樹林におおわれている。平野はビスラ川とオーデル川，およびその支流が網目状に流れる低地で，牧草地として利用されている。平野と山地の間の標高200～600mの台地が，この国の経済の中心である。鉱産資源が豊かで，肥沃（ひよく）な土壌（どじょう）（黒土）に恵まれ，農業生産も盛んであり，人口密度も最も高い。台地はケスタ地形のがけや河川によって，いくつかの小台地に分かれている。南部国境の両山地はともに白亜紀層からなり，谷間以外は森林におおわれている。気候は，平坦地（へいたんち）が大半を占めるため，南部の山地を除いては一般に単純で，地域差も少なく，東へいくほど大陸性気候となる。平野では平均気温8℃前後，最暖月7月が17～19℃，最寒月2月が－2～－4℃である。ほとんどの河川は2～3か月間は結氷する。降水量はワルシャワで470mm，台地南端のクラクーフで603mmである。冬は降水は少ないが，山地の雪どけで4月ごろ河川は増水し，洪水（こうずい）になることもある。

〔国民〕99%がスラブ族のポーランド人である。現在より全体に領土が東方にあった第2次世界大戦前には，国民の3分の1はウクライナ人・白ロシア人・ドイツ人・ユダヤ人などであったが，戦後の領土変更と移住によって，ポーランド人以外はごく少数となった。大戦によるポーランド人戦死者は約600万といわれ，そのため，現在も男性は女性より90万人少なく，国民の40%は25歳以下の青年が占める。人口の自然増加



ポーランドの国旗　1918年の国家再興によって公式に制定されたものだが，起源は数百年以上さかのぼることができる。伝説の建国者レヒ・ニヒの兄弟が南スラブ地方を出立し，〈夕日に白いワシを見た地点を都とせよ〉という神の啓示によって首都ワルシャワを定めたという故事から，夕日を赤で，ワシを白で表わしている



率は近年急減し，現在1,000人あたり年８人である。国民の95％はカトリック教徒で，公用語はポーランド語。国土は22の行政区に分かれるが，このうちワルシャワ・ルージ・クラクーフ・ブロツラフ・ポズナニの大都市が人口46万以上を擁し，これらを含めて都市人口は国民の52％(1970)を占める。

〔経済〕第２次世界大戦前は農業中心であったが，1969年には農業従事者は国民の３分の１に減っている。戦後の農地改革によって50ヘクタール以上の土地所有を禁止し，没収した600万ヘクタールを小農や農業労働者に分配した。一時農業の協同組合化を進めたが失敗し，いまでは農地1,960万ヘクタールのうち協同組合のものは30万ヘクタールにすぎず，1,640万ヘクタールが個人経営，280万ヘクタールが国営である。国土の約半分が耕地で，ライ麦・ジャガイモ・小麦の順に作付けが多い。ライ麦・ジャガイモの生産ではソ連に次いで世界第２位，テンサイは第５位である。工業では，シレジア地方の炭田を中心に重工業化が促進されている。石炭の産出は年間約1.35億ｔで，埋蔵量は約710億ｔといわれる。また亜鉛の生産・製練では世界第５位である。工業は，かつてはシレジア地方とルージ周辺に集中していたが，いまはクラクーフ・ワルシャワ・チェンストホバなど各地に計画的に新工業地域がつくられている。貿易取引の65％はソ連をはじめとする共産圏諸国である。おもな輸入品は鉄鉱・石油・肥料・小麦などであり，輸出品には石炭・セメント・船舶などがある。　〔梶川勇作〕

〔歴史・政治〕ポーランドの中心部に早くから定住していた西スラブ系の農耕民族ポラーニ人は，10世紀後半，諸部族を統合してピアスト朝(960～1370年ごろ)を成立させた。このもとに，周辺のスラブ民族がギリシア正教をうけ入れたのに対して，ポーランド人はカトリック教に改宗した。しかし，11世紀には早くも，政権をめぐる内部抗争や貴族の台頭がみられた。また，12世紀以来のドイツ人の東方植民活動や，13世紀のフン族のヨーロッパ遠征など，激しい外圧にさらされ，統一はしばしば失われた。14世紀になると，カジミエシ３世(在位1333～1370年)を経てヤゲロ朝(1386～1582)が成立，対外的にはリトアニアとの同君連合によってドイツ騎士団を圧倒するほどになった。ヤゲロ朝のもとでポーランドは隆盛期を迎え，16世紀前半にはルネサンス文化が栄えたが，一方で封建領主が権限を拡大し，16世紀後半には選挙王制となって急速に衰退した。17世紀になると，貴族の反乱や外国の干渉，ロシア-スウェーデン戦争による国土の荒廃など，王権と国威は下降した。1733年に始まったポーランド継承戦争を経て，外国の干渉はますます激しくなり，特に隣国で強大となったロシア・プロイセン・オーストリアによって，1772年には第１次ポーランド分割*が起こった。そして，コシューシコ*による愛国運動もあったが，1795年の第３次分割によってポーランドは滅亡した。以後ポーランドでは独立運動が続いた。ナポレオンの支配下につくられたワルシャワ大公国はウィーン会議後解体し，わずかにロシア支配領につくられた自治共和国だけが，20世紀初めまで存在した。第１次世界大戦の終わった1918年に共和国設



ポーランド　ポーランド南部クラクーフ市の国立美術館の建物。広場を散歩する隻脚の老人は第２次世界大戦時の兵士か

立を宣言し，パリ講和会議で，著名なピアニストであるパデレフスキーを首相として独立を承認され，小協商諸国と協調した。しかし小党分立の状態から，1926年ピルスツキー将軍による軍部クーデターが起こり，独裁政権のもとにナチス-ドイツに接近した。1939年ドイツとロシアによるポーランド侵入・分割は第2次世界大戦の契機となり，国内ではドイツに対する抵抗運動が盛んとなった。1945年，ロシア軍による解放を背景に独立を回復し，1952年7月セイム(国会)で憲法が制定され，人民共和国として発足，今日に至っている。

国権の最高機関はセイムとよばれる一院制の国会で，年に2回招集される。多数政党制をとり，ゴムルカの指導するポーランド統一労働者党が第一党として実権をもってきた。外交ではソ連と協調の立場をとり，ワルシャワ条約機構・コメコン体制推進を二大柱としている。

ポーランドえいが 【ポーランド映画】 無声映画時代のポーランド映画は，1930年までに年間20本を上回る制作本数に達していたが，作品として見るべきものはなかった。しかし1930年代にはいると，アバンギャルド映画やソビエト映画の影響下にフォルド・ヤクボフスカ・ブシュコフスキーらの作家が生まれて，映画界に新風を吹き込んだ。フォルドの《街(まち)の軍団》などが代表作である。第2次世界大戦は首都ワルシャワを崩壊させ，多くの映画人を殺した。全国に約800館あった映画館が，戦後にはわずか5館となるほどであった。しかし，1945年には国営の映画機関〈フィルム-ポルスキ〉が創立され，ワルシャワとウツジに撮影所が建てられた。多くの映画はナチス-ドイツの残虐性を告発し，対ナチ抵抗運動を描いたものが多かった。ヤクボフスカの《アウシュビッツの女囚》，フォルドの《国境の街》などがその代表作である。

ポーランド映画の存在を世界的なものにしたのは，1950年代後半のワイダ・カワレロビッチ・ムンクらの諸作であった。1956年に始まったスターリン批判，ポズナニ事件などが，ポーランドにおける戦中・戦後体験への全面的な問いかけをはじめて可能にした。ワイダは《地下水道》《灰とダイヤモンド》など，カワレロビッチは《影》《夜行列車》など，ムンクは《エロイカ》《パサジェルカ》などによって，それぞれ戦中・戦後の意味を自己の体験として深く問いつめた。ポーランド-リアリズムの映画とよばれるこれらは，戦後ポーランドのすぐれた情況論でありながら，同時に世界の映画に大きな影響を与えた。しかし1960年代にはいると，これら体験を軸としたドラマチックな作品は，成長した戦後世代と大衆社会状況の前に，しだいにその意味を希薄なものにし作品の力を相対的に弱めることになった。それに代わってポーランド映画の主役は，ポ





ポーランド映画 (上)《灰とダイヤモンド》(ワイダ監督，1958) 政治の激動に巻き込まれた青年の悲劇を描く傑作 (下)《尼僧ヨアンナ》(カワレロビッチ監督，1960) 尼僧院を舞台に人間の意識の深層を探究する

ランスキー・スコリモフスキーら戦後世代の作家へと移った。彼らの作品は，いずれも平凡な日常生活を題材にしつつ，その中でいかにして自己の真の体験を獲得できるかという真摯(しんし)な問いかけを含んでいた。ポランスキーの《水の中のナイフ》，コンビツキーの《サルト》，スコリモフスキーの《バリエラ》などが代表作である。〔波多野哲朗〕

ポーランドかいろう 【ポーランド回廊】 第1次世界大戦後ベルサイユ条約によって，ドイツからポーランドに編入された西プロイセン地方とポーゼン地方北部の通称。全体的に森林・農地が多く，ドイツ人・ポーランド人が住み，後者がやや多い。ポーランドとバルト海とを結ぶ細長い地帯であるため，こうよばれる。ドイツの弱体化とロシア革命への防御線にしようとする列強の意図と，ポーランド自身の要求とによってベルサイユ体制の一部となったものである。ヒトラーの台頭以後，グダニスク(ダンチヒ)とともに係争地となり，第2次世界大戦中の1939年9月ドイツ軍のポーランド侵攻で占領されたが，戦後再びポーランドの領有となった。〔山県弘志〕

ポーランドけいしょうせんそう 【ポーランド継承戦争】 1733年ポーランド王アウグスト2世(強健王)が没すると，多数貴族党はフランスの後援のもとにスタニスラフ-レシチンスキを国王に選んだ。これに対しリトアニアを中心とする勢力は，ロシア・オーストリアの国内の少数貴族を助けて，ザクセン選帝侯アウグスト3世を立てた。このためイタリアとラインの二つの戦線でフランス・スペイン・サルジニアと，ロシア・オーストリアとの間の戦争となった。1735年に休戦，1738年11月ウィーン講和条約が結ばれ，アウグスト3世の王位が認められ，レシチンスキは王位を断念したが，フランスとスペインはナポリ・シチリアなど領土を広めた。〔山県弘志〕

ポーランドご 【ポーランド語】 スラブ語派に属する言語。現在，ポーランド本国の住民約3,200万人と外国在住ポーランド人約450万人が使用。8～9世紀にオーデル川・ブルダ川・ビスラ川流域の方言をもとに発達し，11～12世紀に文語の基礎がつくられ，14～15世紀にクラクーフ地方の方言的特徴を取り入れて発達した。現代ポーランド語の特徴は，鼻母音を保存していること，アクセントが語末から2番めにくること，二人称の敬語に三人称のpan，paniを用いることなどである。〔小野 堅〕

ポーランドぶんがく 【ポーランド文学】 10世紀のなかばにカトリックを国教として受け入れて以来，ポーランドはラテン文字の採用にもみられるとおり，伝統的に西欧文化との結びつきが深く，文学史の流れも，ルネサンスの〈黄金期〉に始まり，バロック・古典・啓蒙(けいもう)主義を経，ロマン主義・写実主義・自然主義・モダニズムの諸思潮から，現代のアンチ-ロマンの傾向に至るまで，西からの影響を特に強く受けてきた。そうした外来思想文化は，もとより，土着のスラブ的性格と，この国の歴史的な特殊事情によって屈折を受け，ポーランド語によって濾過(ろか)されて，独自な地域文学としてのポーランド文学がつくりあげられた。

その歴史的特殊事情の第1にあげなければならないのは，18世紀末から第1次世界大戦後まで，およそ1世紀半にわたって独立を失っていたことである。この間，文学もまた民族解放の課題を至上命令としてみずからに課したため，たとえば，ミツキェービッチ・スウォバツキ・クラシンスキからノルビッドに至るロマン主義文学のように，技法的にも思想的にも鋭く深い一流の世界文学を生みながら，主題があまりにも政治的・地方的にすぎて，外国人には理解しにくいという定評を得てしまった。しかし，この国の文学が世界に知られることの少ないのは，以上の理由よりも，むしろ，ポーランドでは伝統的に文学の主流が詩であって，翻訳されることによって多かれ少なかれ本来の輝きを失うという事情に基づくものだと思われる。それはシェンキェービッチ・レイモントという2人の散文作家がノーベル賞を受けていることによっても納得されよう。この辺の事情に変化が生じたのは，第2次世界大戦後であって，一つには，

現代詩が広い読者層から離れて，散文が文壇の主流となったこと，また一つは，定型詩が凋落(ちょうらく)し，詩の翻訳が可能になったことである。

独立回復後は，共通の政治目標がなくなったため，種々雑多な傾向や流派が起こり，対立するとともに，相互に影響刺激を与え合って発展した。人民共和国成立後も，スターリン期を除き，また，イデオロギーの問題を別にすれば，自由な党の文芸政策の結果，芸術的諸流派の併存競合が認められ，文学活動は活発である。

歴史的特殊事情の第2は，カトリックの国であるこのヨーロッパ型文化のスラブの土壌(どじょう)に，社会主義がソ連を通じて移植されたことであって，この新しい方向が従来の文化的伝統を今後どう変えていくか注目される。　〔米川和夫〕

ポーランドぶんかつ　**【ポーランド分割】**　17世紀末以降，選挙王政のポーランドで王位をめぐって内紛が絶えず，ロシアとプロイセンの台頭によって列強の干渉も激しさを増し，1772年・1793年・1795年の3回にわたる分割でポーランドは抹殺(まっさつ)された。

第1次は，1764年ロシアのエカテリナ2世がスタニスラフ-ポニアトフスキーをポーランド王として事実上の保護国としたため，フランスに支持された反対派貴族が反乱を起こし，ロシアがその弾圧に乗り出したので，プロイセン王フリードリヒ2世はオーストリアのマリア-テレジア*とともにロシアによるポーランド併合を防ぐため，ポーランド分割を提案し，最初の分割を行なった。ロシアは白ロシアの東北部，プロイセンは西プロイセン，オーストリアはガリシアを得た。第2次は，フランス革命に前後するポーランド貴族の進歩派・保守派の対立に，エカテリナ2世が介入してコシューシコの指揮するポーランド軍を破り，プロイセンとともに1793年第2次分割を行なった。ロシアは白ロシア，ウクライナの一部，プロイセンはダンチヒ・トルン・ポズナニを得た。第3次分割は，ポーランド革新派が1794年クラクーフ反乱を成功させ，ワルシャワにコシューシコの執政政府が成立した。しかし直ちに反撃したロシア・プロイセン軍によってポーランド愛国勢力は次々に敗れ，10月ワルシャワも陥落した。それによってポーランド王国は地図上から消滅し，ロシアが東半部，プロイセンが西部，オーストリアが南部をそれぞれ領有し，その後20世紀前半に至るまでポーランドの独立はならなかった。　〔山県弘志〕

ホーリー　［holly］　双子葉植物・モチノキ科。ヨーロッパ中南部から西アジア原産の常緑高木で，ヒイラギモチ・セイヨウヒイラギともいい，観賞用として庭園に植えられる。高さ10mほどになり，よく分枝する。葉は互生し，卵形で先は鋭くとがって縁に棘状(とげじょう)の鋭い鋸歯(きょし)があり，革質で光沢がある。5～6月に葉腋(ようえき)に数個から10数個の黄色小花を群生する。花は雌雄異花で，径6mmほど。がく・花弁ともに4枚。雄花はめしべが退化している。果実は径6mmほどの球形で，赤色に熟して光沢がある。クリスマスの装飾に用いる。　〔横井朝子〕

ポリアクリロニトリル　［polyacrylonitrile］　アクリロニトリルの重合体。アクリロニトリルは付加重合を最も容易に行なう単量体の一つで，たいていの重合開始剤で簡単に重合してポリアクリロニトリルとなる。重合温度の調節を考えて工業的には水溶液重合や乳化重合でつくられる。熱的性質は比較的良好で90～100℃で可塑性を示し，250℃ぐらいから着色し，350℃で分解する。通常の有機溶剤にはとけないが，いくつかの特殊な溶剤にとける。他の単量体と共重合させ湿式紡糸でつくられるアクリル繊維が最大の用途で，そのほかやはり共重合体としてNBRやABS樹脂などにも利用される。　〔伊藤　卓〕

ほりあしるい　**【掘足類】**　⇨軟体動物

ポリアミド　［polyamide］　アミド結合－CO･NH－のくり返しからなる線状高分子化合物。ポリアミドからつくられる合成繊維の商品名をナイロンといったが，これは現在ではポリアミドそのものをさす一般名になっている。ポリアミドには多くの種類がある。ナイロン66，ナイロン6が最も一般的で，その他にナイロン6，10・ナイロン11・ナイロン7・ナイロン9などもあり，それぞれ原料・製法が異なる。合成繊維としてのナイロンは強度や耐摩擦性・弾性などにすぐれていることで有名，繊維以外にも成型品として歯車・ベアリング・ファスナーなどに利用され，また接着剤・塗料などの用途もある。　〔伊藤　卓〕

ポリウレタン　［polyurethane］　ウレタン結合－NH･CO･O－を有する合成高分子化合物。1分子内にイソシアナート基－NCOを二つもつ化合物(ジイソシアナート)と同じく水酸基－OHを二つもつ化合物(ジオール)との間の重付加反応でつくられる。たとえば，ヘキサメチレンジイソシアナートと1,4-ブタンジオールの反応によってできる線状高分子化合物(ポリテトラメチレンヘキサメチレンウレタン)はポリウレタン繊維*としてブラシの毛などに用いられる。一方，ジオールとして線状のポリエステル*(またはポリエーテル)の両端に水酸基のついた化合物を用い，これとジイソシアナートと反応させ，水を加え，加熱してできるウレタン結合を有する三次元網状高分子は，ウレタンゴム・ウレタンフォームとよばれ広く用いられている。また，きわめて強力かつ万能の接着剤*としても重要。　〔伊藤　卓〕

ポリウレタンせんい　**【ポリウレタン繊維】**　合成繊維の一種。スパンデックスともいわれる。石炭・石油を粗原料とし，エチレングリコールとアジピン酸・ジイソシアナートを重合したもの。特性としてきわめて伸びやすく，6～8倍の伸縮性をもち，張度は大ではないが耐候性大で吸湿性小，電気の絶縁も良好。ゴム系の代わりに伸縮性を要する衣料に利用される。

ポリエ　⇨カルスト地形

ポリエステル　［polyester］　エステル結合－CO･O－のくり返しからなる合成高分子化合物。1分子内に二つのカルボン酸基－COOHをもつ化合物(二塩基酸)と，1分子内に二つの水酸基－OHをもつ化合物(二価アルコール)との重縮合によって得られる線状のポリエステルと，二価アルコールの代わりに三価アルコールを用いてつくられる三次元網状高分子*のポリエステルとがある。線状ポリエステルで代表的なのはテレフタル酸とエチレングリコールとの重縮合*でつくられるポリエチレンテレフタレートで，これは合成繊維*としてテトロンの商品名で有名。薄くかつ大きな強度を示すフィルムとしても最近利用が増している。強化プラスチックとして知られる不飽和ポリエステルも重縮合生成物は線状であるが，加熱などの処理で構造式中の二重結合が開裂し，他の単量体と共重合することによって三次元網状化する。エチレングリコールの代わりに三価アルコールのグリセリンなどを用いると最初から三次元網状のポリエステルができる。これがアルキド樹脂で代表的な熱硬化性樹脂である。　〔伊藤　卓〕

ポリエステルせんい　**【ポリエステル繊維】**　テレフタール酸とエチレングリコールを合成してつくられる合成繊維。粗原料は石炭・石油・天然ガス。フィラメント・ステープルともに生産されている。強度は大で，吸水性はきわめて僅小(きんしょう)，ぬれても強さが変わらず，熱可塑性に富み，形態安定性が大で，ウォッシュ-アンド-ウェア性・パーマネントプリーツ性がすぐれている。染色はやや困難で，高圧染色などの特殊な方法が必要。ピリング(毛玉)を生じやすい。用途は薄地の耐久的衣料，形くずれしない服地，工業的用品などで，他の繊維と混用されることが多い。合成繊維としてナイロンに次いで大量に需要されている。　〔小川安朗〕

ポリエチレン　［polyethylene］　エチレンの付加重合によって得られる高分子化合物。ビニルポリマーの一つで熱可塑性樹脂に含まれる。

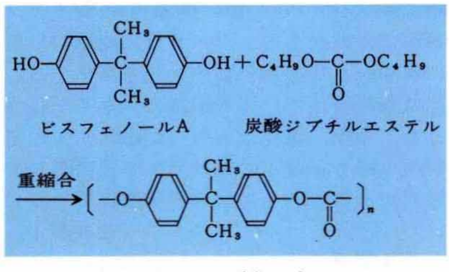
$$n\cdot \underset{\text{エチレン}}{CH_2{=}CH_2} \xrightarrow{\text{付加重合}} \underset{\text{ポリエチレン}}{[-CH_2-CH_2-]_n}$$

$=CH_2$基が数万個連なった分子鎖からなる最も単純な高分子化合物といえる。重合方法に3種類ある。①高圧法：ガス状のエチレンを1,000～1,500気圧に加圧し，酸素や過酸化物の存在下に170℃ぐらいに加熱し

て重合させる方法。最も古い製造法。②中圧法：金属酸化物を触媒として数十～百気圧で重合させる。比較的新しい方法。③低圧法：チーグラー触媒(トリエチルアルミニウムと四塩化チタンの混合系)を用い，10気圧程度のエチレン圧で重合させる方法。このほか最近では超高圧法や放射線重合法などもある。これら重合方法の相違は生成品の性質にも反映される。たとえば，①③②の順に比重が大きく，かたく，軟化点が高く，伸びが少なくなる。これは，本来直線状のはずの分子鎖が，途中で２方向に伸びる枝分かれの度合いによって生ずると考えられ，①ではこれが大きい。このため高圧法ポリエチレンを低密度ポリエチレンまたは分岐ポリエチレン，低・中圧法ポリエチレンを高密度ポリエチレンまたは直鎖ポリエチレンともいう。一般に比重0.91～0.98と水よりも軽い透明または半透明の可燃性ワックス状固体で，電気絶縁性に特にすぐれる。空気のような気体はよく通す。低密度ポリエチレンは軟化点が100℃ぐらいなため成型品にはむかず，フィルムに多く利用される。一方，高密度ポリエチレンは常温で十分のかたさをもつので，バケツ・びんなどの成型品に用いられる。また，電気絶縁材料としての用途もきわめて重要。〔伊藤　卓〕

ポリえんかビニル【ポリ塩化ビニル】⇒塩化ビニル樹脂

ポリオ［polio］急性灰白髄炎・脊髄性小児麻痺(せきずいせいしょうにまひ)・ハイネ-メジン病などともいう。ポリオウイルス*の経口感染によって起こる急性伝染病で，小児に罹患(りかん)率が高く，四肢(しし)の弛緩性麻痺をきたすことが特徴。以前はかなりみられたが，ポリオ生ワクチンが開発された後は著しく患者の発生が減少した。症状は，多くの場合麻痺に先だって発熱・発汗・四肢背部などの疼痛(とうつう)・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・下痢・せき・咽頭痛(いんとうつう)・睡眠障害・痙攣(けいれん)・髄膜刺激症状などの初期症状がみられる。しかし，ときには前日までなんらの異常のなかった児に，朝起きてみたら麻痺がみられたということもある。麻痺は，発熱が２～５日続いて解熱するころに現われることが多く，すべて運動麻痺である。部位は下肢片側が多く，ときに両下肢・上肢，まれに腹筋・腰筋・頸筋(けいきん)などにみられ，程度によって完全麻痺・不完全麻痺などがある。経過は数週間から数か月で漸次軽快してまったく治癒(ちゆ)するものもあるが，多くは永久麻痺を残す。麻痺肢は筋および骨が萎縮(いしゅく)して細くなり，血液循環も悪くなって皮膚温が低下し，変形ならびに機能障害をきたす。治療は安静にして薬物療法を行ない，呼吸麻痺には鉄製の人工呼吸器である鉄の肺を用いる。予防としては，ソークワクチンやセービンワクチンなどの弱毒性生ワクチンが広く用いられている。〔高橋悦二郎〕



ポリカーボネート

ポリオウイルス［poliovirus］ポリオ*の病原体。エンテロウイルスに属し，このウイルスの遺伝子であるRNAの外側にタンパク質の殻(から)があり，外形は正20面体で，直径28mμ。血清学的に３型に分類され，動物ウイルスとしては最初に結晶化された。1949年エンダースらによって培養状態では神経細胞(自然状態の宿主)以外の細胞でも増殖し，特有の細胞変性を生じることが示された。この発見は，動物ウイルス研究を飛躍的に向上させるきっかけとなった。このウイルスの自然感染はヒトに限られ，実験的にサルに感染させた結果からみると，腸から侵入し局所的に増殖したウイルスが，血行を介して中枢神経に至り，増殖して神経細胞を破壊する。心筋・リンパ節にも病変がみられる。ウイルスは咽頭(いんとう)・腸管から排泄(はいせつ)され，ハエ・ゴキブリなどが伝播(でんぱ)するものと考えられている。しかし，感染しても発症するのはワクチンを接種しない場合でも１％以下と思われる。予防には，ソークによってつくられたホルマリン不活化ワクチン(ソークワクチン)と，コプロウスキー・コックス・セービンにより開発された弱毒性生ワクチンがあり，このうちではセービンのもの(セービンワクチン)が最もすぐれている。これらのワクチンを投与した国では，その後顕著な流行がみられなくなった。〔石川　彬〕

ポリカーボネート［polycarbonate］炭酸エステル結合 $-O-R-O-\underset{\underset{O}{\|}}{C}-$ のくり返しからなる熱可塑性樹脂*の総称。R(アルキル基)の種類によって脂肪族・芳香族の各ポリカーボネートがある。代表的なのはビスフェノールAタイプのもの。合成樹脂*の中では歴史が新しく，1958年にアメリカ合衆国ではじめて工業生産された。機械的強度がきわめて大きく，非常に重要な位置を占めている。比重1.20，融点200～300℃で，−180℃に冷やしてももろくならない。電気絶縁材・フィルムなどとしても有用であるが，特に強度を生かした建築材料など，ABS樹脂*やFRP*などとともにエンジニアリングプラスチックとしての用途はきわめて広い。〔伊藤　卓〕

ほりかわ【堀川】⇒近頃河原達引(ちかごろかわらのたてひき)

ほりかわてんのう【堀河天皇】(1079～1107) 在位1086～1107年。白河天皇の第２皇子*。母は藤原師実(もろざね)の娘賢子。名は善仁。1086年(応徳３)わずか８歳で即位。父白河上皇が院政を行なったので，政治上なすところはなかった。長ずるに及んで関白師通・左大臣源俊房(としふさ)らを側近として政務に精励したが，1107年(嘉承２)29歳の若さで世を去った。文学・音楽の素養もあり，笙(しょう)の名手でもあった。陵墓は京都市右京区の後円教寺陵。〔黛　弘道〕

ほりかわなみのつづみ【堀川波鼓】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。３段の世話物。近松門左衛門*(もんざえもん)作。1707年(宝永４)竹本座*初演。実話をもととした妻敵討(めがたきうち)話。因幡(いなば)藩士小倉彦九郎の妻お種はふとした偶然から姦通(かんつう)し，のちに自刃する。帰国した彦九郎は自刃した妻をやむなくやいばにかけ，相手の男宮地源右衛門を討ち果たす。近松の三大姦通物の一。

ほりぐちすてみ【堀口捨己】(1895～) 建築家。岐阜県の生まれ。1920年東京帝国大学建築学科を卒業。同年，石本喜久治ら同志と分離派建築会を興して，近代建築の導入に努めた。初期の作品にはドイツ表現主義などの影響がみられるが，中世日本住宅や茶室の研究を行なって以後は，伝統的な日本建築の意匠を機能主義的に近代建築に表現した。住宅にすぐれた作品が多い。また，茶室の研究者としても知られる。

ほりぐちだいがく【堀口大学】(1892～1981) 詩人・翻訳家。東京生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学文学科中退。外交官の父とともに長く海外生活を送り，フランス語に精通。翻訳と創作詩の両面での活躍は，文学史的に意義深い。訳詩集《月下の一群*》は，シュルレアリスム*の紹介など昭和詩壇に大きな影響を与えた。その詩作は，鋭い感覚に満ち官能性の豊かなもので，《月光とピエロ》《人間の歌》などの詩集がある。

ほりこしくぼう【堀越公方】室町中期，幕府が関東の押えとして伊豆(いず)(静岡県)堀越に置いた足利(あしかが)氏一族。堀越御所ともいう。1457年(長禄１)８代将軍足利義政*(よしまさ)は，弟の政知(まさとも)に古河公方*足利成氏を討たせようとして関東に下向させたが，政知は鎌倉にはいることができず，上杉(うえすぎ)氏に擁されて伊豆田方郡堀越に居館を定め，堀越公方と称した。その後勢力はふるわず，1491年(延徳３)政知の没後，子の茶々丸が継母および異母弟を殺して相続したが，その内紛に乗じた伊勢(いせ)長氏(北条(ほうじょう)早雲*)に攻められて滅亡した。〔高崎徳次〕

ボリシェビキ［Bol'sheviki］ロシア語で〈多数派〉という意味。ロシア社会民主労働党内の二大派閥の一つであり，のちにソ連共産党となる。1903年ロンドンで開かれた第２回党大会はレーニン*の率いるボリシェビキとマルトフ派のメンシェビキ(少数派

の意)に分裂し，以後抗争を続けたが，1907年メンシェビキは党から除名され，ロシア社会民主労働党はボリシェビキのものとなり，ロシア革命を指導した。ロシア革命がボリシェビキ革命といわれるのはこのためである。➔メンシェビキ ➔ロシア革命
〔西尾孝司〕

ボリショイげきじょう 【ボリショイ劇場】 ロシア語で〈大劇場〉の意。特にモスクワにある国立歌劇場をさし，正しくは〈レーニン勲章ソ同盟国立アカデミー大劇場〉という。1776年に創立され，1780年にいまのスベルドルフ広場に建てられた。以後，三度火災にあい，現在の建物は1856年に建てられた。専属のボリショイ-オペラ団は特にロシア-オペラでは世界最高の水準を保ち，現在，常任指揮者ロジェストベンスキーのもとにソ連最高の歌手を擁している。同じく専属のボリショイ-バレエ団はレニングラード-バレエ団と並ぶソ連の二大バレエ団で，メッセレル・レペシンスカヤ*・プリセツカヤ・ラドウンスキーらが輩出した。

ポリジーン ［polygenes］ 量遺伝子ともいい，量的形質を支配する遺伝子群のことで，質的形質を支配する主遺伝子(メジャージーン)に対する語。1942年，イギリスのK.メーサーによって提唱されたもの。ポリジーンは，ヒトの身長・体重・知能，ニワトリの産卵量・卵重・成長速度，ウシの乳量や白斑(はくはん)の量，こん虫の生存力・薬剤抵抗性，栽培植物の収量など，日常われわれの目に触れるほとんどすべての形質に関係している。1個のポリジーンの作用は環境の効果よりも小さい。たくさんの遺伝子が同一形質に作用するので，関与するポリジーンの数・強さのほか，環境の効果と合わさって表現型に連続的な変異をもたらす。個々のポリジーンは染色体上にあり，メンデル遺伝にしたがって親から子に伝えられる。一般に，ポリジーンの数や染色体上の正確な位置がわからないので，主遺伝子の場合とは異なった分析方法によらねばならない。ふつう量的形質は，集団の平均値と変異の幅で表わし，その解析には分散を用いる。ある量的形質に関し，異なった平均値をもつ二つの純系を交配すると，雑種第1代は両親のほぼ中間の平均値となり，変異の幅は両親と同じである。同系交配によって得た雑種第2代は，平均値が雑種第1代とかわらないが，変異の幅は両親の両極端に近いものまでいろいろ生じる。適当な方法で解析すると，量的形質の変異は次のような成分に分割できる。

- 全表現型分散
  - 遺伝分散
    - 相加効果による分散(遺伝子分散)
    - 優性関係による分散
    - 相互作用による分散
  - 環境分散

全表現型分散のうち，遺伝子分散の占める割合を〈遺伝率〉といい，その形質の遺伝する程度を表わす。例として，ニワトリの産卵量の遺伝率は約20%，ブタの成長率は30%，ショウジョウバエの剛毛数は52%と推定されている。遺伝率の高い形質ほど選抜の効果が大きい。量的形質にみられる変異は，主遺伝子による突然変異のように大きく目だつことはないが，その多くが自然選択の直接の対象となるものであり，生物の進化を理解する上できわめて重要である。
〔北川 修〕

ポリス ［polis］ 古代ギリシアの都市国家。本来の意味は原始共同体が外敵の侵入に際して婦女子・家畜を避難させ，みずからもここに立てこもって防衛する丘のことで，ドイツ語のブルク(城)と類似し，またのちにはアクロポリス*にその機能をとどめている。このような要害の地に周辺の地域から人々が集住して都市国家を形成した場合が多かったので，ポリスは都市国家を意味し，その市民はポリテスとよばれるようになったが，シュメール・フェニキアなど古代世界の各地に成立した都市国家がすべてポリスと同じ性格をもったのではなく，共和政初期のローマがポリスに比較的に似かよっていた。すなわち市民の会合の広場であるアゴラ*(ローマではフォルム)が市街地の城壁や丘を欠くポリスでも，ポリス生活の大きな特色であった。ポリスということばはすでにホメロスの叙事詩にみえるが，都市国家として成立したのはBC750年ころからで，法制的には長期にわたって完成された。完成されたポリスは守護神を祭る小高い丘アクロポリスのそのふもとの中心市(アステュ)と周辺の田園とからなっていたが，その面積はわが国の町村程度，人口は数千から20,000くらいが通常であり，アテナイとスパルタは例外的に大きなポリスであった。ポリスの総数は，ギリシア本土・島々・植民地を通じて数百に及んだ。

ポリスは，その内部の社会構成によって，スパルタ型とアテナイ型とに分けることができる。前者はスパルタやクレタ島のポリスなどのように，ドーリア族のギリシア人が先住民を征服して，これを奴隷身分にして形成したポリスで，少数の市民は征服後割り当てられた世襲地を奴隷身分の農民に耕作させた。後者では征服に基づく社会階級の対立は明白ではなく，市民共同体内の貴族と平民の身分の差が知られ，初期には貴族が政権を独占したが，軍事的機能と経済力の向上によって中小農民の政治的地位が上昇し，紀元前5世紀以降，無産市民の政治的発言権の増大によって民主政ポリスの段階に達した。しかし，民主政ポリスにおいても市民のほかに在留外人や多数の奴隷のような非市民がおり，在留外人には公民権・私権ともに著しく制限され，奴隷にはまったく認められていなかった。市民と非市民との身分的差別がきびしく，非市民に市民権が与えられることはきわめてまれであった。ポリスは自由・自治・自給自足を理想としたが，自給自足は容易ではなかった。このポリスの政治・社会を基盤としてギリシアの文化は輝かしい成果を生んだが，紀元前4世紀半ばマケドニアに敗れたのちはポリスは形骸化し，しだいに活力を失った。
〔秀村欣二〕

ポリスチレン ⇨スチロール樹脂

ホリゾント ［Horizont］ 1869年ドイツで考案された舞台機構。舞台奥に，内側に向かって湾曲してこしらえられたなめらかな鼠色(ねずみいろ)塗装の壁で，照明効果・音響効果，また舞台装置の簡素化などに役だっている。


堀辰雄

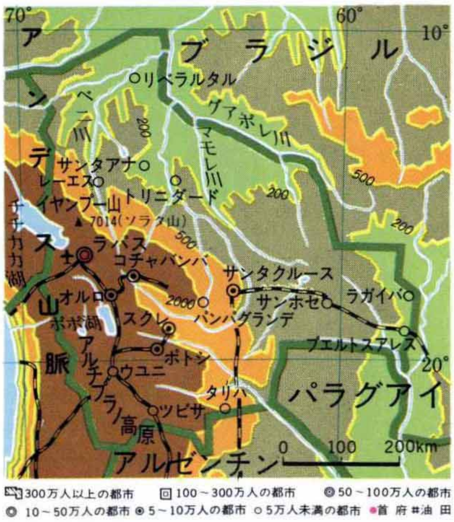
ほりたつお 【堀辰雄】 (1904～1953) 小説家。東京の生まれ。東京帝国大学国文科卒。室生犀星*(むろうさいせい)・芥川龍之介*(あくたがわりゅうのすけ)に師事。1930年(昭和5)の《聖家族》が出世作。ラディゲ*・プルースト*・モーリヤック*・リルケ*らの影響を受け，伊藤(いとう)整*らとともに〈新心理主義文学〉のにない手となり，《美しい村》《風立ちぬ*》などを発表。一方わが国の王朝文学への関心を強め，《かげろふの日記》をはじめとする王朝物を書いた。また折口信夫*(しのぶ)の感化で，再三大和路(やまとじ)を旅し，小品の連作《大和路信濃路(しなのじ)》その他の成果を上げた。《四季*》の編集にも従事。知性と感性の融合した叙情に作風の特色をみることができる。ほかに《朴(ほお)の咲く頃(ころ)》《菜穂子(なおこ)》《姨捨(おばすて)》《曠野(あらの)》など。
〔小林敬子〕

ホリデー ［Billie Holiday］ (1915～1959) アメリカ合衆国のジャズ歌手。メリーランド州の生まれ。母が13歳のときの子。14歳で娼婦(しょうふ)となり，売春罪で投獄されるという暗い過去を背負って歌手になり，1930年ごろからニューヨークで成功，1933年以降テディ-ウィルスンとのコンビによるレコードも成功を収めた。独自の節回しとくずし方をもった唱法はジャズ-ボーカルとして革新的なもので，ジャズの唱法に大きな影響を与えた。また黒人のリンチを歌った《奇妙な果実》は人種偏見への抗議の歌として注目をひいた。陰影に富む人生派の歌手として，彼女は人間の真実を歌い上げ，人種・民族を越えて多くの人々に感動を与えてきた。
〔岩浪洋三〕

ほりぬきいど 【掘り抜き井戸】 ⇨井戸

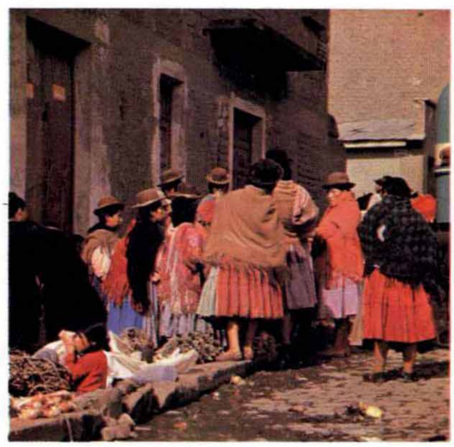
ポリネシア ［Polynesia］ 太平洋をメラネシア・ミクロネシアとともに三分したときの一つで，東太平洋をさし，だいたい東経165°から西経110°，北緯30°から南緯45°で，ハワイ・ニュージーランド・イースター島を頂点とする三角形の範囲をいい，多くの島が散在する。ニュージーランドを除いては，すべてが熱帯に位置する。島々は火山島および火山島の表面と周囲に発達したサンゴ礁からなり，火山島の中にはハワイのように海底から数千メートルもそそり立っているのもある。植生は熱帯性で，ココヤシは最も広く分布し，原住民の食料とヤシ油の原料として重要である。パンノキはカヌーの材料となり，実は食料となる。サツマイモは南アメリカから渡来したといわれている。動物の種類は極端に少なく，歴史時代に移入されたものを除けば，哺乳(ほにゅう)動物はリス類を2種数えるにすぎない。ニュージーランドにはかつてダチョウの一種が生息していたが，いまは絶滅した。最も数の多い大形動物は海鳥である。原住民のポリネシア人は人類学上コーカシア系に分類されるが，マライ人やニグロ・モンゴル系との関係も否定できず，かつて東南アジア経由でユーラシア大陸からはいってきたものと考えられ，メラネシア人やミクロネシア人とは異なっている。原住民は農漁業に従事し，焼畑によってタロイモをつくる。ニュージーランドのみは例外で，ヨーロッパ人による播種(はしゅ)農業が行なわれている。ポリネシア言語の本流はサモア語で，これからハワイ・タヒチ・トンガ・マオリなどの各語が派生し，相互に多くの類似性をもっている。大航海時代以来，欧米勢力が押し寄せた結果，原住民王国はあいついで滅び去り，今日ではイギリスの保護下にトンガ王国が存続するだけである。西サモアはニュージーランドの信託統治下にあったが，1962年に独立した。ハワイは1959年アメリカ合衆国の50番めの州に加えられ，アメリカ合衆国はほかに東サモアを領有している。クック諸島は1888年イギリスの保護下に置かれ，1901年にニュージーランド領となった。フランス領ポリネシアはフランス共和国の海外県に編入され，ソシエテ・ツアモツ・オーストラル・マルケサス(マルキーズ)・ガンビエの各諸島を含んでいる。イギリス人移民によって1907年に自治を獲得したニュージーランドは原住民のマオリ族に対して保有地を認め，白人との混住を許し，議会に議席を与えるなどの同化政策をとっており，これはポリネシアに植民地をもつ他の国にとって，植民政策のモデルとなっている。 〔大崎　晃〕

ポリネシアしょぞく **［ポリネシア諸族］** ポリネシア人は人種的にはコーカソイドを基幹に，モンゴロイド・ネグロイドの要素を交えて形成された。言語的には，広大な海域に散布する諸島民間の類似は著しく，





ボリビアの国旗 1825年制定。赤・黄・緑の3色はそれぞれ動物・鉱物・植物を象徴し，この国の豊かな天然資源を表わす。中央の紋章にはフランス革命に由来する〈自由の帽子〉，アンデス特有のコンドル・アルパカ・パンノキ，かつて多量の銀を産出して16～17世紀には貴金属鉱山の代表としてヨーロッパにも知られたポトシの丘，九つの地方を表わす星などが描かれている



ボリビア 坂道の多い首都ラパスの裏町。道路に物売りが店を出し，山高帽をかぶったインディオの婦人が集まっている

総じてポリネシア語と一括されるが，これはマライ-ポリネシア語族に属する。形質・言語・文化の比較研究からポリネシア人の原郷は東南アジアであることはほぼまちがいない。その移動はBC1000年ごろのことで，次いでメラネシアの東南端の島々，西ポリネシアのサモア・トンガ諸島などにも植民がなされ，ここから紀元前2世紀ごろ東ポリネシアのマーケサス諸島とソシエテ諸島に向けての移動がみられた。これらの基地から数次にわたる渡航植民の波が，比較的近年に至るまで逐次諸方に送り出されたらしい。ニュージーランドへの最後の植民は18世紀であったといわれる。このようにして広大なポリネシアの島嶼圏(とうしょけん)はポリネシア人によって埋め尽くされた。

〔牛島　巌〕

ボリバル ［Simón Bolívar］ (1783～1830) 南アメリカの独立運動指導者。ベネズエラの生まれ。1810年独立運動に加わり，1819年ベネズエラ・ニューダラナダ・キト(いまのエクアドル)をスペインから奪回して，これらを含むコロンビア共和国を樹立した。また1825年，彼の名にちなむボリビア共和国の独立にも成功した。

ボリビア(共和国) ［Bolivian Republic, República Boliviana］ 南アメリカ中央部にある共和国。アンデス山脈が東西に最も幅を広げた部分を占め，北と東はブラジル，西はペルー・チリ，南はアルゼンチン・パラグアイと接する。面積109万8,581km²。人口543万(1979年推)。首都は，法的にはスクレだが，事実上はラパス。

〔自然・住民〕 国土は西部のアンデス山脈中の高原，東部のアンデス山脈の前山山地，北部から東部にかけての平原に三分される。南アメリカの脊梁(せきりょう)をなすアンデス山脈は，この国に至ってその幅を約640kmに広げ，標高3,000～4,000mの高原上にはチチカカ湖，その南方に塩湖のポポ湖がある。熱帯にあるが，高原上にあるラパスの最暖月平均気温は12.5℃と涼しく，降水量も少ない。北東部の平原は熱帯気候下にあり，高温多湿で密林と草原におおわれ，開発が遅れている。住民の約75%は標高3,000m以上の高原に住み，その構成は，約70%が原住民のインディオ，25%は白人とインディオの混血であるメスチソで，ヨーロッパ系住民は5%にすぎない。インディオはおもにチチカカ湖周辺に住み自給農業を行なっているが，ラパス周辺にも多く，メスチソやヨーロッパ系住民のほとんどは都市に住んでいる。人口密度は1km²あたりわずか3人で，南アメリカで最も低い。文化程度も南アメリカで最も低く，未就学児童は約50%(1965)もあり文盲率が高い。国語はスペイン語だが，ケチュア語・アイマラ語などもインディオの間では使用されている。カトリック教が国教になっている。

〔産業・経済〕 インディオは昔ながらの原始的な農耕方法でトウモロコシ・小麦などをつくり，リャマ(アメリカラクダ)を飼って生活している。東部の山間盆地では小麦やトウモロコシのほか，ブドウ・オリーブ・リンゴなどの栽培もみられる。高原はアンデス山脈が海岸からの湿気をさえぎり，と

ころどころに砂漠(さばく)さえあって,農耕には灌漑(かんがい)が必要である。この国の経済をささえているのは鉱業で,輸出の90%は鉱産物が占める。特にスズは輸出鉱産物の75%を占め,鉛と銅がこれに次ぐ。鉱山は東部山地に集中し,スズは精鉱輸出では世界のスズ輸出の18%を占めているが,近年は減産の傾向にある。

〔歴史・政治〕原住民文化は7世紀ごろからのものが知られているが,13世紀にインカ帝国に征服された。1535年ピサロに征服されてスペインの植民地となり,特にポトシ銀山の開発で重要視された。19世紀にはいってラテンアメリカ各地で独立運動が活発化すると,ここでもボリバル*の援助の下に1825年独立を達成し,その名をとって国名をボリビアとした。しかし独立後の政情は安定せず,今日まで60回の革命を起こし,70人以上の大統領が交代している。革命はアメリカ系およびイギリス系資本で経営される鉱山労働者の不満が原因となる場合が多く,1952年の革命では鉱山の国有化が行なわれ,大地主制を解体して農地を零細農に分割しているが,依然として政情の完全な安定には遠い。政体は大統領が元首で,任期は4年。議会は二院制で,定員27人の上院は任期6年,下院は定員111人で任期4年。〔小栗　宏〕

ポリビニルアルコール [polyvinylalcohol] 熱可塑性樹脂*の一。PVA・ポバールなどともいう。単量体のビニルアルコールは不安定なためもっぱら酢酸ビニル樹脂を原料とし酸またはアルカリによる加水分解(ケン化)で合成する。合成樹脂*の中では数少ない水溶性高分子の一。その性質を利用して繊維接着用ののりとか土壌(どじょう)改良剤,または水溶性フィルムなどに用いられるが,最大の用途は合成繊維をはじめとしてフィルム・接着剤・スポンジなど,アセタール化によって水溶性を除いたポリビニルアセタールとしての利用にある。〔伊藤　卓〕

ポリプ [polyp] 腔腸(こうちょう)動物の有刺胞類で,付着生活しているものをいい,浮遊生活をしているものをクラゲという。構造は付着に適しており,円筒状のからだの底面は足盤,上端は開口して口盤となり,口盤の周囲には触手が生じる。口盤と足盤にはさまれたからだの部分や,足盤の延長した部分から無性的に新しいポリプが生じるが,これが母体から分離しないとき,ポリプの群体ができる。また,雌雄異体のクラゲの受精卵がプラヌラ・ヒドルラ・アクチヌラなどの幼生形を経てポリプが形成される。➔クラゲ

ポリープ [polyp] 外皮・粘膜・漿膜(しょうまく)などの面に茎をもって突出し,肉眼的に乳頭状を示す良性腫瘍(しゅよう)。茸腫(じょうしゅ)ともいう。好発するものは鼻茸(はなたけ)・胃腸ポリープ・子宮ポリープ・膀胱(ぼうこう)ポリープなどで,表面はなめらかなものが多く,血管に富み,炎症性のものと腫瘍性のものとがある。大腸に遺伝性に多発するポリープ(多発性腺腫性(せんしゅせい)茸腫症)や胃ポリープは癌性変化をすることがある。切除手術などを行なうが,再発しやすい。〔小坂井　守〕

ポリフォニー [polyphony] ホモフォニー*に対する用語。二つ以上の音が同時的に響かされ,しかもそれらの進行が声部という水平の線的な構成要素を中心として行なわれ,和声はこの横の流れの結果複次的に生じてくるような楽曲。ポリフォニーは対位法*という用語と混同されているが,前者は,主として16世紀ごろまでの音楽のもつ楽曲全体の様式をさし,後者はむしろ楽曲に含まれている技術的側面をさすことが多い。ポリフォニーの歴史は9世紀にまでさかのぼり,オルガヌム*によって代表される初期のもの。13世紀のモテット,14世紀のマショーらの作品なども重要であるが,中心をなすのはルネサンス時代の音楽で,デュファイ*に始まりオケゲム*・オブレヒト*を経てジョスカン-デ-プレ*でいわば古典的完成に達した。通模倣様式はその典型的なものである。〔吉田泰輔〕

ポリプロピレン [polypropylene] 熱可塑性樹脂*の一。プロピレンの付加重合*で得られる線状高分子化合物*。1954年イタリ

$$n\cdot \underset{\text{プロピレン}}{CH_2=CH-CH_3} \xrightarrow{\text{付加重合}} \underset{\text{ポリプロピレン}}{[-CH_2-\overset{\overset{\displaystyle CH_3}{|}}{CH}-]_n}$$

アの化学者G.ナッタによってプロピレンの立体規則性重合が見いだされ,のちつくられるようになった。石油化学工業*との密接な関連において,その原料の低廉なことなどの多くのすぐれた性質のために,その利用は急速に伸びている。比重は0.89〜0.92でポリエチレンより軽く,きわめてじょうぶで透明なフィルムがつくられ,このフィルムに直接印刷もできる。融点160℃。溶融紡糸で繊維にしたものはナイロン*の約1.5倍の強度がある。染色性などにはまだ改良の余地があるが,ナイロン・ポリエステルに次ぐ合成繊維として注目されている。〔伊藤　卓〕

ほりべやすべえ **【堀部安兵衛】**(1670〜1703) 赤穂(あこう)義士*の一人。本姓中山。名は武庸(たけつね)。越後(新潟県)新発田(しばた)の生まれ。1694年(元禄7)2月11日高田馬場におけるしゅうと菅野(すがの)六左衛門の果たし合いに加勢して数名をきり,勇名をはせた。翌年赤穂藩士堀部弥兵衛(やへい)に望まれて養子となり,馬廻(うままわり)役二百石を継いだ。浅野長矩(ながのり)の殿中刃傷(にんじょう)事件後,1702年大石良雄(よしお)らとともに討ち入りに参加,翌年幕府により切腹を命ぜられた。〔高崎徳次〕

ポリマー ⇨高分子

ポリミキシン [polymyxin] 1947年アメリカのベネディクトらが発見した細菌*Bacillus polymyxa*の産生する抗生物質でA,B,C,D,Eなどに分類される。*B.aerosporus*の産生するエロスポリンもこれに含まれる。現在使用されているのはポリミキシンBである。グラム陰性菌の疾患,特に緑膿(りょくのう)菌に他の抗生物質よりも有効であることが特徴。一般に溶血性などの毒性が強いので注射は不可能であり,また経口的に投与しても分解されるので,外用される場合が多い。〔川村次良〕

ポリュクレイトス [Polycleitus] 紀元前5世紀に活躍したと思われるギリシア最大の彫刻家。おもにブロンズで制作したといわれているが,大理石による作品にも傑作が少なくない。古代の伝記作者によれば,その制作による人体は,つねに変わらないプロポーションをもっていたといわれる。彼の原作は失われて存在しないが,ローマ時代の模刻などから推定すると,人体の理想美を理論的に追究しようと努めたようである。

ポリュビオス [Polybios] (BC203ごろ〜BC120) ローマ時代のギリシアの歴史家。大地主の子としてペロポネソス半島のメガロポリスに生まれる。エジプト大使に任命され,のちアカイア同盟軍事執政官に任ぜられた。第3マケドニア戦争の際ローマに移送され,ローマの将軍スキピオ(小)の保護のもとに著述にしたがう。将軍に従ってイタリア半島・スペイン・ヌミディア・南ゴール地方・アルプス・アフリカなどに遠征した。落馬がもとでヌマンチアで没。主著《世界史》40巻はBC220/219〜BC145/144年にわたるローマの興隆史で,第2次,第3次ポエニ戦争を中心に書かれているが,さらにローマのみならずその周辺の国々の歴史と地誌も書かれている。ほかに《ピロポイメン伝》《戦略論》などがある。〔久保正彰〕

ボーリング ⇨試錐

ポーリング [Linus Carl Pauling] (1901〜　) アメリカの物理化学者・生化学者。オレゴン州ポートランドに生まれ,オレゴン州立大学卒業後,ミュンヘン・コペンハーゲン・チューリヒの各大学に学ぶ。1931年カリフォルニア工業大学教授,1937年ゲーツ-クレリン化学実験所長となる。結晶および分子の立体構造を研究し,量子力学を化学に応用して,共鳴概念を提唱した。このほかイオンの大きさの決定,免疫化学に関する研究など,その業績は多方面にわたる。化学結合の本性,特にタンパク質の分子構造の研究で1954年ノーベル化学賞を受賞し,さらに平和運動に活躍して1962年ノーベル平和賞を受賞した。〔山下愛子〕

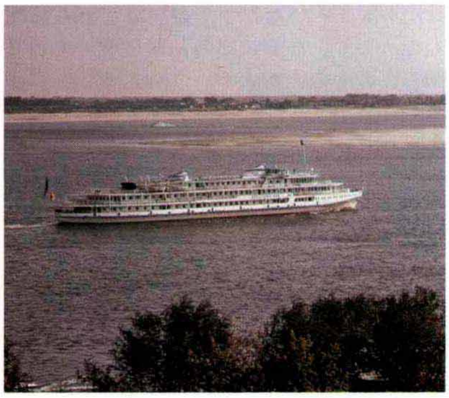
ホール [Charles Martin Hall] (1863〜1914) アメリカの化学者・冶金(やきん)工業家。オハイオ州トンプソンの生まれ。

オバーリン-カレッジ在学中の1886年，溶融ヒョウショウ石にアルミナを溶解して電解するアルミニウム製錬法を発明し，メロン財閥の援助によって企業化に成功した。この会社は1907年アメリカ-アルミニウム会社と改称し，彼は副社長となり，アメリカのアルミニウム工業の発展に大きく寄与した。

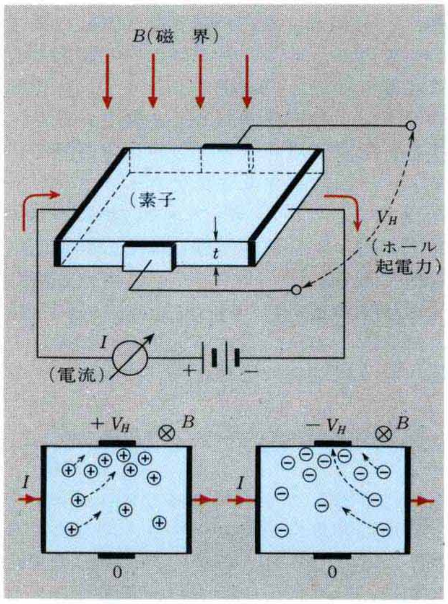
ボール ［John Ball］（？～1381） イギリスの聖職者。生涯(しょうがい)は不明な点が多い。20年間巡回説教師をつとめたが，ウィクリフの説に共鳴して教会の腐敗を鋭く攻撃し，社会の平等を強く要求した。〈アダムが耕し，イブが紡いだとき，だれが地主であったか〉ということばは有名である。のちカンタベリー大司教によって破門を宣告される。ワット-タイラーの乱*の扇動者として逮捕され，セント-オルバンズで処刑された。

ポール ［Lewis Paul］（？～1759） イギリスの紡績機械発明家。1733年ごろから紡績機械の発明に従事し，1738年J.ワイアット(1700～1766)と共同で〈羊毛およびもめんを紡ぐまったく新しい方法〉と題する特許を取得。これは異なる速度で回転する数対のローラーによって，それまで手でやっていた糸の引き伸ばし工程を機械化したものである。これはふつう，発明の協力者J.ワイアットの名を加えてワイアット・ポール紡績機とよばれる。この発明は，その後アークライトやハーグリーブスの紡績機にその原理がとり入れられ，産業革命の発端となった。〔加藤邦興〕

ボルガ(川) ［Volga］ ソ連南西部，ヨーロッパ-ロシア地方を流れる大河。ヨーロッパ最長の川で全長3,690km，流域面積は142万km²。モスクワ北西のバルダイ丘陵に発し，カザンまで南東に流れ，さらにボルゴグラード(スターリングラード)までは南西に流れ，ここから南東に向きを変えて，アストラハンから巨大なデルタをつくりながらカスピ海にはいる。デルタは河口から160km，80以上の分流をつくっている。無凍結期間は河口付近で8か月，上流部では6か月である。流域は，中世にはスラブ人・フィン人によって集落がつくられ，川は交易のルートとして使われていたが，16世紀中ごろロシア帝国によって全域が征服された。支流が多いが，年間の水位差は大きく，氾濫(はんらん)・渇水があいつぎ，航行に不便であったが，1930年代から上流部で，1950年代から中・下流部で総合開発の〈ボルガ改造計画〉が施行され，結氷期以外の航行はつねに可能となった。ボルガ-ドン運河*によって黒海と，モスクワ運河によってバルト海と結ばれ，内陸交通の大動脈であり，ソ連の河川運輸の50%以上がこのボルガ川によっている。沿岸には，カリーニン・ゴーリキー・カザン・クイビシェフ・サラトフ・ボルゴグラード・アストラハンなどの港湾・工業都市がある。近年，沿岸の400余の工場からの排液・汚水による河川の汚濁が問題化し，7億余ルーブルの予算が全工場の浄化装置新設のために支出されることとなった。〔大石堪山〕



ボルガ川 広大なロシアの平原を流れるボルガ川。ボルゴグラードを離れた〈ボルガ下り〉の白い観光船が行く



ホール効果 ホール効果とキャリアの運動によって起こるホール起電力との関係

ポルカ ［polka］ チェコスロバキアに生まれた舞踊および舞曲の形式。1830年ごろから有名になり，1839年にはウィーンに伝えられ，ヨハン-シュトラウス父子によって，ウィンナ-ワルツとともに多くの曲が発表された。4分の2拍子の速いテンポで，下図のリズム形をもつことが多い。スメタナはオペラ《売られた花嫁》や弦楽四重奏曲《わが生涯(しょうがい)より》でこの舞曲を用いている。



ボルガ-ドン(運河) ［Volga-Don］ ソ連南部，ボルガ川とドン川を結ぶ運河。全長101km。ドン川の水面から四つの閘門(こうもん)により44m上り，九つの閘門で88m下ってボルガ川にはいる。13のダムと人造湖，三つのポンプステーションがあり，発電や灌漑(かんがい)に利用されている。運河建設はピョートル1世のころから実施されたが成功せず，ソ連の第3次5か年計画により着工されて1952年に完工した。ソ連の自然改造計画の一環として，ボルガ-ドン総合開発計画が実施されたことで有名。この運河には総延長758kmの幹線灌漑運河が付属しており，沿岸の75万ヘクタールを灌漑する。運河の完成により，モスクワ～ロストフ間の航路が開かれ，内陸と北海・黒海を結ぶ交通網が完成した。〔大石堪山〕

ボールがみ ［ボール紙］ ⇨板紙

ボルク ［Houis Bolk］（1866～1930） オランダの人類学者・解剖学者。はじめ法律学を志したがやがて医学を学び，アムステルダム大学のルーゲのもとで解剖学を研究，のち同大学教授。著書《人間生成の問題》(1926)において，人間の成体が体重に対する脳の重量比，頭骨の縫合線の状態など多くの点で類人猿(るいじんえん)の胎児に似ていると主張した。

ホールこうか ［ホール効果］ 電流の流れている導体または半導体に，直角方向の磁界を加えると，電流と磁界とに直角方向に起電力を発生する現象。1879年アメリカ合衆国の物理学者E.H.ホールによって発見された現象で，半導体中のキャリアの種類の判定，密度の測定に有効な手段として利用されている。ホール電圧 V_H は，

$$V_H = R_H \cdot \frac{BI}{t}$$

という関係にあるため，磁束密度 B の測定にも利用されている。また，磁界をコイルに電流 I_L を流して発生させると，ホール電圧が素子を流れる電圧と I_L との積に相当するため，乗算回路として利用することができる。〔伊藤糾次〕

ボルゴグラード ［Volgograd］ ソ連，ロシア共和国にあるボルガ川下流の重工業都市。人口91万8,000（1976）。1925年まではツァーリツィン，1925～1961年間はスターリングラードと称した。ボルガ川右岸に臨み，ボルガ川水運の要衝で，また南ロシアの鉄道交通の中心でもある。ソ連最大のトラクター工場をはじめ農業機械・石油精製機械・造船・鉄道車両・冶金(やきん)・木材・織物・食品などの工業が行なわれ，ソ連有数の工業都市である。南北部には，230万kWの大発電所と1959年に完成した人造湖ボルゴグラード湖がある。1589年，ボルガ川の交通を守る要塞(ようさい)として建設されて河川交通の中心となり，鉄道の開通後は周辺の穀倉地帯を控えて商業の中心として栄え，革命後は重工業が急速に進展した。第2次世界大戦で1942年8～11月にかけてドイツ軍との間にスターリングラードの戦いが行なわれ，ソ連の危機を救ったと

ころとして〈英雄の都市〉とよばれている。市街は大戦によって廃墟(はいきょ)となったが，1950年には完全に復旧した。〔斎藤長二〕

ボルジア [Cesare Borgia] (1475～1507) イタリアの政治家。教皇アレクサンデル6世の子。父の教皇即位により，1492年バレンシア大司教となり，1493年枢機卿(すうきけい)となる。1498年教皇使節としてフランス王ルイ12世に使いし，その知遇を得てナバル王の妹と結婚，父教皇の権威を利用して中部イタリアを征討し，1501年ロマニア公に封ぜられた。そのころマキアベリ*とも知り合った。1502年反乱を企てたコンドティエリ(傭兵(ようへい)隊長)を虐殺し，翌年新たに中部イタリア征討を計画したが，父教皇の急死で中止。次の教皇ユリウス2世はボルジア家の宿敵であったため，中部イタリア領を没収され，さらに捕えられてスペインに送られた。1506年義兄ナバル王のもとに逃げたが，そこで戦死した。彼は大胆にして細心，すぐれた政治的才能を示すとともに，残忍・暴虐にして目的達成のためには手段を選ばず，マキアベリはその《君主論》の中で，彼の性格を詳しく述べて，理想的な専制君主としている。彼はまた文芸を愛し，レオナルド-ダ-ビンチ*も一時彼の保護をうけた。〔大野慎一郎〕

ボルシチ [borshch] ロシアの家庭料理。アヒル・牛胸部肉・塩豚・腸詰め・野菜・ビーツ(赤カブ)などを材料とした濃厚な味のスープで，ビーツを用いるのでれんが色をしているのが特徴である。各地方・家庭によってそれぞれ独自のつくり方がある。一般的には牛バラ肉をかたまりのまま水，タマネギ，ゲッケイジュの葉，ニンニク，粒こしょうとともに厚手のなべに入れて火にかけ，煮たったらあくをすくい取り，弱火で約1時間煮込む。これに乱切りのジャガイモ・キャベツを加え，やわらかく煮えたら肉を取り出す。一方ビーツ・ニンジン・タマネギを千切りにしてバターでよくいため，肉の煮じるとトマトを加えてどろりと煮て，これを肉を煮たなべに加えて煮込む。肉は大切りにして深ざらに盛り，熱いスープを実とともに注いで食べる。〔泉　敬子〕

ボールズ [Paul Bowles] (1910～　) アメリカ合衆国の小説家。ニューヨークの生まれ。はじめ音楽家を志し作曲や音楽批評に従事したが，のちに作家に転じた。長年モロッコに在住，その方面を素材にしたものが多い。現代生活の緊張と危機とをあざやかに描き，実存主義*的な作風。代表作は《極地の空》《かよわい餌食(えじき)》など。

ホルスタイン ⇨ウシ

ホルスト [Gustav Theodore Holst] (1874～1934) イギリスの作曲家。グロスターシャーのチェルトナムのスウェーデン系の家庭に生まれる。音楽愛好家の父親から音楽の手ほどきをうけ，ピアノやオルガンを学びながら，町の教会の合唱団を指揮し，しだいに作曲家になる決心をした。1895年2歳年長の作曲家ボーン-ウィリアムズに出会い，強い影響を受けた。1908年声とピアノのための《ベーダ讃歌(さんか)》を発表し，作曲家としてデビューした。彼は哲学・天文学・文学などに強い興味をもっていたが，特に東洋や日本に対して憧憬(どうけい)をもち，インドや日本を題材にしたオペラや標題音楽を多数作曲した。ヒンズー教の物語によるオペラ《サビトリ》(1908)は有名である。1916年7楽章からなるオーケストラ曲《惑星》を作曲し，ホルストの名声は決定的なものになった。1919年ロンドン王立音楽学校の教授に就任。以後作曲と教育の分野で活躍した。〔船山　隆〕

ボルゾイ [Borzoi] イヌの品種。ロシア原産の大形犬で，昔はオオカミ狩りに用いたが，現在は気品のある優美な姿態を楽しむ観賞犬である。毛色は白地に赤かっ色・黒色などのまだらがある。体高は70～80cm。

ボルタ [Alessandro Volta] (1745～1827) イタリアの物理学者，電気学の開拓者。コモの生まれ。コモの王立学院を卒業，1768年23歳で同校の物理学教授となり，その後パビア・パドバ各大学教授。電気現象を研究し電気盆・電気ピストル・ユージオメーター・蓄電器などをあいついで製作。その後ガルバーニの動物電気の考えを批判して金属の接触による電気発生(接触電位差)の考え方に到達し，1800年ごろボルタの電堆(でんたい)を考案してはじめて化学作用による電流を得，電池の発明へ導いた。電位差の単位ボルトは彼の名にちなむ。〔藤村　淳〕

ポルダー [polder] 低湿地の干拓によって造成された土地で，特にオランダの干拓地をさしていう。内部にはクリークが縦横に設けられて土地の乾燥をはかり，かつて排水のために風車が用いられていたが，現在では電気モーターに代わった。干拓地は牧場や耕地となり，チューリップ・ヒヤシンスの球根栽培が行なわれる。なお，干拓地を北ドイツではテルペン，デンマークの西岸地方ではコールという。

ボールダー-ダム ⇨フーバー-ダム

ボルタでんち 【ボルタ電池】 ⇨電池

ボルチモア [Baltimore] アメリカ合衆国東部，メリーランド州北部にある工業都市。人口85万2,000，大ボルチモア207万1,000 (1975)。チェサピーク湾奥，パタプスコー川を20kmさかのぼった地点にある港市で，造船業・製鉄鋼業，銅などの非鉄金属精練業，肉かんづめなどの食品加工業，石油精製・化学肥料・繊維・精糖・電気機械・運輸機械などの工業が盛ん。海陸交通の要地で，港は合衆国有数の荷物扱い量をもち，鉄鉱石・砂糖・石油・ゴムなどを輸入し，小麦粉・石炭・鉄鋼・セメント・機械などを輸出する。1729年に建設され，メリーランド植民地の創設者ボルチモア卿(きょう)にちなんで市名とした。1876年創立のジョンズ-ホプキンズ大学がある。〔椙村大彬〕

ボルツァーノ [Bernhard Bolzano] (1781～1848) チェコスロバキアの哲学者・数学者・論理学者。プラハの生まれ。カトリックの司祭で，プラハ大学の宗教哲学教授をつとめたが，のち職を追われ，著書は禁書になった。後期カント派の観念論に反対し，論理学的実在を心理的過程から分離，真理や表象や命題はそれ自体で存立し，それを考える精神とは独立のものとみなした。彼の純論理主義はブレンターノらの独墺(どくおう)学派(ブレンターノ学派)の起源となり，特にフッサールの現象学において結実した。〔飯塚勝久〕

ボルツマン [Ludwig Boltzmann] (1844～1906) オーストリアの理論物理学者。ウィーンの生まれ。ウィーン大学に学んだのち，グラーツ・ウィーン・ミュンヘン・ライプチヒの各大学教授。その後再びウィーン大学に帰り，物理学および自然科学方法論を担当した。古典力学と原子論の立場から熱理論の展開に力を注ぎ，特に熱力学第二法則の気体運動論的な基礎づけは画期的な業績で，エントロピー概念・H定理・ボルツマン方程式など統計力学の基礎を築いた。これらの理論に基づいてさらに気体の拡散や粘性など応用面の研究も精力的に推進した。思想的には原子論の強固な支持者としてオストワルドらとはげしく論争し，最後の原子論者などとよばれたが，その方法論的立場は量子論導入の先駆ともみなされる。〔藤村　淳〕

ボルツマンていすう 【ボルツマン定数】 物理学における普遍的定数の一。孤立系のエントロピー*Sは，統計力学的には与えられた条件下で系の取り得る状態数をWとすると，$S=k\log_e W$と書かれるが，このkをボルツマン定数とよぶ。ボルツマン*は，気体の分子運動論において速度分布則を導くために導入したH関数$H=\int\int\int F\log F\,dudvdw$($F$は速度分布関数，$u$, v, wは垂直速度成分)の少なくとも熱平衡状態においてとり得る値$-\log_e W$を用いて，気体の不可逆現象を微視的立場から説明したが，このようにボルツマン定数は，微視的立場からみるH関数と，巨視的熱力学量エントロピーとを結びつける定数である。したがって，微視的な立場から探究する統計力学において重要な働きをする。統計力学的に理想気体の状態方程式を導き，熱力学的に導いたそれとを比べると，ボルツマン定数は，気体定数をアボガドロ数で割ったものに等しいことがわかる。また，等分配法則によると絶対温度Tにおける1変数あたりの平均エネルギーは$\frac{1}{2}kT$に等しい。kの最も確からしい値は，$k=(1.38054\pm0.0018)\times10^{-16}$エルグ/°Kである。〔中野藤生〕

ホルティ ［Nagybanyai Horthy Miklos］（1868〜1959） ハンガリーの政治家・軍人。フィウメの帝国海軍専門学校を卒業し，1886年オーストリア-ハンガリー海軍にはいる。第1次世界大戦中に活躍し，1918年海軍少将，のちオーストリア-ハンガリー帝国の艦隊司令長官となる。1919年クン-ベラ共産政権に対抗してセゲドに臨時政府を樹立しその軍事相，1920年3月ハンガリー王国摂政となる。第2次世界大戦末期の1944年10月休戦を企ててヒトラーに追われ1945年連合軍に抑留。1951年以来ポルトガルに亡命した。〔山縣弘志〕

ボルテール ［Voltaire］（1694〜1778） フランスの文学者・啓蒙(けいもう)思想家。本名フランソア-マリ-アルーエ。パリの生まれ。当時の摂政オルレアン公を風刺して投獄され，獄中《エディプス王》を書いて翌年上演，大成功を収めたが，一貴族に決闘を申し込んで再度投獄された。海外亡命を条件に釈放され，イギリスに渡って《アンリヤード》を出版し，フランス最大の叙事詩人と賞揚された。帰国後《ザイール》《哲学書簡》，さらに各国を転々としつつ，小説《カンディード》，歴史書《ルイ14世の世紀》，《哲学辞典》など，多数の作品を公にし，その理神論を楯(たて)に人間の理性と進歩を信じる実践的思想家として，専制政治や教会を鋭く批判し，また近代的歴史学の礎石を築いた。晩年はスイス国境に近いフェルネに住み，18世紀を代表する啓蒙思想家としてヨーロッパじゅうの尊崇を集めた。〔山口佳巳〕



ボルテール

ホルテンシウスほう 【ホルテンシウス法】 古代ローマの法律。BC287年に独裁官(ディクタトール)となったホルテンシウスが成立させたもの。従来，全国民を拘束する法は兵員会(コミティア-ケントゥリアータ)で投票によって採決されたものに限られていたが，ホルテンシウス法は，護民官によって召集される平民(プレブス)だけの民会(平民会)での決議も全国民を拘束するとした。これは，あいつぐ戦争で貧困化した農民が反乱を起こし，テベレ河畔(かはん)のヤニクルム丘にたてこもった事件の解決としてとられた措置であった。この法は，それまでの貴族(パトリキ)と平民の身分闘争を終結させた法として有名である。〔弓削　達〕

ボルト ⇨ねじ

ボルト ［volt］ 電位差*(電圧)の単位。記号V。MKS単位系では，1クーロンの電荷を運ぶ仕事が1ジュールであるような2点間の電位差を1Vとする。1アンペア*の電流が1オーム*の抵抗に流れるとき，その両端に生ずる電位差に等しい。

ボールト ［vault］ 穹窿(きゅうりゅう)と訳す。アーチ*の連続や凹曲面(おうきょくめん)によってつくられた天井および屋根のこと。ボールトの原理は6,000年前すでにバビロニアやエジプトで知られていたが，ローマ・ビザンチン・ゴシック各期に特に発達した。平天井に比べ，れんが・切り石のような小さな部材でつくることができ，モルタル・コンクリートなどで固める。

ボルドー ［Bordeaux］ フランス南西部，ガロンヌ川の左岸にある港市。人口26万7,000(1968)。フランス4大港の一つで，ぶどう酒の名産地を控えその積み出し港として世界的に知られる。造船や石油精製も盛ん。ローマ時代からの都市で，市街には中世の建築物が多く残る。1441年創立の大学がある。第1次・第2次世界大戦中に一時ここに政府が移されたことがある。モンテーニュ*・モンテスキュー*らの生地としても知られる。〔梶川勇作〕

ボールドウィン ［Stanley Baldwin, 1st Earl Baldwin of Bewdley］（1867〜1947） イギリスの政治家。1908年保守党下院議員として政界にはいり，第1次世界大戦後ロイド-ジョージ連立内閣の大蔵政務次官，1921年商務院総裁として入閣し，ロー内閣の蔵相を経て，1923年首相に就任。1924年1月いったん辞職し，10月選挙で保守党の大勝によって再び首相となる。1931年マクドナルド挙国連立内閣に枢密院議長として入閣，1935年マクドナルド隠退後再び首相となった。エドワード8世のシンプソン夫人との結婚問題では，王の退位を求めた。1937年辞職。〔松下京子〕

ボールドウィン ［James Baldwin］（1924〜　） アメリカ合衆国の黒人作家。ニューヨークの生まれ。父は説教師。はじめ説教師になるが文学に転じ，ライト*らのいわゆる〈抗議小説〉をこえたところから出発，実存主義の影響が強い実験的手法が特徴。人種問題についての発言でも著名。自伝的な長編小説《山にのぼりて告げよ*》，同性愛を追求した《ジョバンニの部屋(へや)》《もう一つの宝》などの小説のほか，評論集《ぼくの名はだれも知らない》《この次は火だ》，戯曲《白人へのブルース》などがある。〔浜本武雄〕

ボルドーえき 【ボルドー液】 農薬の一。硫酸銅液と石灰乳液とを反応させてできる殺菌剤で，硫酸銅・水酸化銅および硫酸石灰がその主要成分をなし，青緑色を呈する。1885年フランスのボルドーで創製され，初めブドウのべと病の防除剤として多用された。わが国では，1907年ごろから一般に使用され，長い間病害防除になくてはならないものとされた。ふつうアルカリ性であるが，pHは混合される硫酸銅と石灰との比で変わる。たとえば硫酸銅1と生石灰0.3では中性となり，等量あるいは過剰石灰ではアルカリ性に傾く。本剤中の銅塩は水に難溶だが，散布後中和されて可溶性銅を生じ，これが殺菌作用を呈する。すなわち銅塩は病菌内に侵入し，SH酵素を阻害しこれを死滅させるものと考えられる。過石灰ボルドーはイネ・リンゴ・ナシ・カキ・コンニャク・マメ類の病害によく効き，また等量石灰ボルドーはトマト・ダイコン・茶などの病害防除に使われる。〔深谷昌次〕

ポルトガル ［Republic of Portugal, República Portuguesa］ ヨーロッパ南西端のイベリア半島西部を占める共和国。北と東はスペインに接し，西は大西洋に面する。面積92,082km²(大西洋上のアゾレス・マデイラ諸島を含む)。人口987万(1979年推)。他に海外領土として，アフリカにアンゴラ・モザンビーク・ポルトガル領ギニア・ベルデ岬(みさき)諸島・サントーメ島があったが，1970年代に相ついで独立した。現在，アジアにマカオ・チモール島がある。首都リスボン。

【自然】北部はスペインからイベリア高原(メセタ)が延びており，土地の95%が標高400m以上であるのに対し，南部は低地が東方に深くはいりこみ，半分以上が標高200mをこえない。北部はドーロ川とその支流が深い谷をつくり，岩盤が露出しているところが多い。南端には石灰岩のアルガルベ丘陵が東西に走っている。ドーロ・タホ・グアジアナなどの主要河川はいずれもスペインに源がある。南北に長い海岸線には標高100m内外の砂丘列があり，単調で自然の良港に乏しい。海運の70%はタホ川河口のリスボンで，20%はドーロ川河口のオポルトで扱われる。気候は西岸海洋性であるが，北部と南部，東の山地と西の海岸部では大差がある。海岸部中央のリスボンの平均気温は1月11℃，8月23℃で，年降水量は710mmである。降水量は北にいくほど多くなり，オポルトでは年1,300mm。なお，山地では最も多く，エストレラ山脈では3,000mmに近い。南部は乾燥した夏をもつ地中海性気候に移る。

【住民】住民はポルトガル人だが，民族的にはスペインとほぼ同様で，古イベリア人種にケルト・ゲルマンなどが混血した人種であり，地域差はほとんどない。多くはカトリック教徒であり，国語はポルトガル語。かつては文盲率が高かったが，現在は30%以下となっている。昔の首都であるコインブラに1290年創立の大学があるほか，リスボンとオポルトに大学が置かれているが，文化的にはヨーロッパでも遅れている。

【経済】国土の約半分が農用地，4分の1が森林として利用され，残り4分の1が不

毛地である。農地は海岸部と南部に多い。国民の約40％が農林漁業に従事している。作付け面積では小麦が56万ヘクタール，トウモロコシ43万ヘクタール，豆類38万ヘクタール，ライ麦24万ヘクタール，オート麦21万ヘクタールの順となっている(1969)。小麦生産は45万tで，国内消費を満たすことができず，ジャガイモも主要食料となっている。農産物で有名なのはブドウで，特にドーロ川河口のオポルトはぶどう酒積み出しで知られ，ポートワインの名は世界的である。ぶどう酒生産は8億l，輸出量は4,000万lに達する(1969)。これに次ぐ輸出品は南部を中心に産するコルクで，年産16万t(世界の2分の1)である。近海はイワシ・マグロ漁業が盛んで，そのかんづめは主要輸出品である。工業は農産加工・水産加工が中心で近代工業は少ないが，リスボン・オポルト周辺にやや集中した工業地帯がある。ポルトガルは人口80万のリスボン，30万のオポルト以外は50,000人未満の小都市ばかりであるが，これらが農村地帯の商業中心になっている。貿易はイギリス・ドイツ民主共和国(西ドイツ)・アメリカ合衆国や海外領土との取引が多い。輸入品は自動車・綿花・鉄鋼・石油などが主で，慢性的な輸入超過に悩んでいる。〔梶川勇作〕

〔歴史〕 **〈レコンキスタと建国〉** イベリア半島西部のミニョ川からグアジアナ川に至る大西洋に面する地域のレコンキスタ(国土回復運動*)は，その東部・北部に位置するカスチリア・レオンのフェルナンド大王によって12世紀後半に進められ，コインブラを首都とする一国の形成をみた。これに続いて同世紀末よりフランスの王族アンリ-ド-ブルゴーニュが騎士団を率いてムーア人討伐に来国し，カスチリア王から，王女とこの土地を与えられて，ポルトゥカレ伯に任じられた。その子アフォンソ-エンリケ(1112～1185)はレコンキスタを精力的に進めるとともに，1143年カスチリアの支配からポルトガルを独立させた。1147年リスボンを占領してタホ川の線までその国境を広げた。その後12～14世紀を通じてカスチリアとの間にはしばしば抗争があり，またムーア人の反撃も行なわれたが，この間王権は伸張し，ディニシュ王(在位1279～1325年)のとき，この詩人王により宮廷文化がひらけ，農業・商業などが進展し，商船隊・海軍力の増強が行なわれ，海外発展の基礎が置かれた。

〈絶対主義と海外発展〉 14世紀後半，王位継承問題をめぐる反カスチリア闘争が行なわれ，新しくアビシュ朝がジョアン1世(在位1385～1433年)によって開かれ，ジョアンはイギリスと手を結んでカスチリアを破り，カスチリアとは1411年に最終的和平が結ばれたが，この間ポルトガルへのイギリス勢力の浸透がみられた。

このように絶えざる戦争の中に建国と国



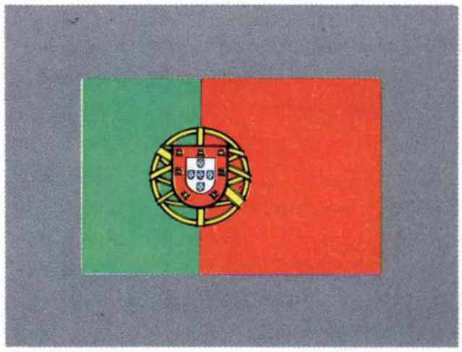
ポルトガル 首都リスボンの港と埠頭。埠頭にはクレーンが林立し倉庫が建ち並ぶ。遠くタホ川河口の対岸が見える



いなか町の風景。婦人の頭上運搬や黒ずくめの衣服(マントやスカート・くつしたなど)が印象的である

力の維持・発展を行なわなければならないポルトガルは，その経済的基礎として特に有利な産業とてなく，国土は狭小で必ずしも肥沃(ひよく)とはいえず，したがってその王権の財政的ささえも弱く，活路を海外交易と海外植民地獲得に求める必要に迫られていた。1415年アフリカ北岸のムーア人の通商拠点セウタを攻撃して占領したが，この世紀にはジョアン1世の王子エンリケ(1394～1460，航海王と称される)がサンビセンテ岬(みさき)に居を定め，天文・航海の施設をおいて大洋航海者を養成してアフリカ西海岸の探検航海と植民事業を推進し，アフリカ西海岸各地との交易および交易拠点の建設をみ，1488年ディアスが喜望峰岬を発見し，1498年バスコ-ダ-ガマがここを回ってインドのカリカットへ到達し，東インド新航路を完成した。こうしてポルトガルの東洋進出は軌道に乗り，マヌエル1世の時代(在位1492～1521年)にはポルトガル-東インド帝国の建設が進み(また15世紀末にはブラジルも発見されポルトガルの植民地となった)，王室の独占下にインド貿易は東洋の諸物産をポルトガルへ運び，リスボンはその中心地としてにぎわい，王の絶対権





ポルトガルの国旗 1910年制定。王制時代の国旗の地色(青・白)を希望と革命の血を表わす緑・赤に変えたもの。紋章の輪は天球儀で，ポルトガル人によって開かれた世界を表わし，七つの城と，五つの盾はサラセン人に対抗してキリスト教勢力を盛り返した記念である

力も強まった。

ポルトガルの東洋経営は総督府が置かれたインドのゴアを中心として行なわれたが，日本には1543年(天文12)種子島(たねがしま)に漂着したポルトガル船による鉄砲伝来をはじめとし，1549年ポルトガル王室より東洋伝道に派遣されたイエズス会のフランシスコ-ザビエルの鹿児島上陸と2年3か月にわたる日本伝道，それに続くキリシタン大名の出現と南蛮貿易の展開など，両国の交易史は興味深い関係を示している。しかし，この東洋からもたらされるはなやかな富もポルトガル国内の産業の発展には結びつかず，逆にこれらの富は貴族や富裕者層の寄生的な財貨消費者的傾向を強め，広大なアジア植民地支配は多くの人材と多額の植民地行政・軍事費を本国から吸いとっていき，16世紀後半には国家財政は枯渇していった。1578年若き国王セバスチアン1世がモロッコにムーア人を攻めて大敗を喫し，国王は

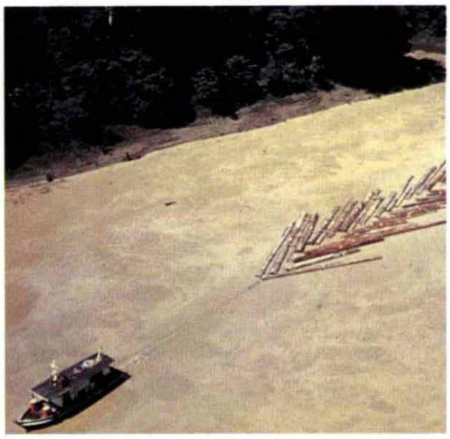
戦死し，多数の騎士・兵士が戦死または捕虜となったことは国運衰退への道を示す象徴的な出来事であった。1580年にはポルトガル王位はスペイン王フェリペ２世の継ぐところとなり，以後1640年までスペイン王室の統治下に置かれた。

〈ブラガンサ家の盛期〉1640年スペインの衰退に乗じ，フランスの援助を得て，カタロニアの反乱を機にブラガンサ家のジョアン４世が王位を継ぎ，王朝は1910年まで続いた。17～18世紀は一般的にみて，貴族の廷臣化と富裕な教会の王権への従属化がみられ，小規模ながら絶対主義的支配の体制化が進んだが，中産的市民層の形成はみられず，国民的産業の発展も弱く，国富は貧弱で，経済的・社会的には下降線をたどっていた。18世紀後半のジョゼ-マヌエル(在位1750～1777年)の治世には宰相ポンバルが独裁的地位を占めて，従来の対イギリス協調政策を修正して保護貿易政策をとって国内産業の保護育成をはかり，農業改革を進め，貴族や教会の力をおさえるなど(1759年イエズス会を追放)の諸改革を行なったが，改革の中途で宰相の地位を追われた。

19世紀はじめナポレオン戦争中はナポレオンの侵略を受けてリスボンは占領され，王家はポルトガルの植民地であるブラジルへ亡命した。そして解放戦争である半島戦争においてポルトガル軍はイギリス軍の援助のもとにフランス軍と戦ったが，ナポレオン没落後は事実上のイギリス軍占領下に置かれた。これに対して1820年反イギリス・自由主義的改革を望む革命が起こり，翌年ブラジルから国王ジョアン６世が帰り，立憲王政の成立をみたが，市民的勢力の弱いこの国ではやはり絶対主義的旧体制の再現の傾向が強く現われていた。なお1822年ブラジルが独立したため，ポルトガルの経済は傷手をうけ，以後植民地経営の主力はアフリカに向けられた。

〈20世紀〉19世紀後半も軍人のクーデターや小革命のような政局不安定を示す事件が続き，1910年王政が廃止され，共和国となったが，政権交替がめまぐるしく，クーデターやゼネストの頻発(ひんぱつ)の中に政治的・経済的危機は深まっていった。

第１次世界大戦にはドイツの宣戦を受けて連合国側に立って参戦し，小軍隊をフランスへ送った。戦後も政情不安は続き，クーデターや暗殺事件などしばしば起こり，1926年軍部の大規模なクーデターが行なわれたが，経済政策・労働政策に失敗し，国内は混乱に陥った。このような混乱を収拾するため1928年軍人政治家カルモナが大統領となり，1932年サラザールが首相に抜擢(ばってき)され，蔵相・外相・陸相を兼ねて内政・外交・軍事を指導し，以後サラザールの独裁のもとに産業開発・国力増強の政策がとられた。第２次世界大戦には巧みに中立を守り，戦後，NATO*に加わり，国連においても西方陣営の立場をとっているが，1961年アンゴラの暴動やインド軍によるゴアの解放などポルトガルの植民地支配はゆらぎ，1970年サラザールの死はポルトガルの将来に一つの転機をもたらそうとしている。〔保坂栄一〕



ボルネオ島 北ボルネオ，サバ州のジャングルから切り出された木材の輸送。木材は河口のサンダカンに集められ，日本にも輸出される

ポルトガルご【ポルトガル語】ポルトガル本国およびブラジルの国語。このほか，アンゴラ・モザンビーク・ポルトガル領ギニアなど，広大な地域にわたって用いられている。ラテン語を母国語とする，いわゆるロマンス系の言語で，同じくイベリア半島にあるスペインの国語とは互いによく似ている。また，歴史的にも多くの共通点をもっている。つまり，ラテン語以外に，イベロ族やケルト族など，ローマ以前の住民のことばや，５世紀と８世紀にはいってきたゲルマン民族や回教徒たちのことばも相当ある。ブラジルでは，ポルトガル語のことをブラジル語とよんでいる。ポルトガルのポルトガル語と比べて，語彙(ごい)の点でかなり違いがある。土着のトゥピー・グヮラニー語が，人名・地名・動物名・植物名などに数多くはいっている。さらに，黒人たちがもたらしたアフリカ起源の単語も若干見られる。〔吉田秀太郎〕

ポルトガルりょうギニア【ポルトガル領ギニア】アフリカ西端に位置するポルトガルの旧植民地。面積36,125km²。人口57万(1978)。北はセネガル，東と南東はギニアに接し，西は大西洋に面する。海岸はリアス式海岸で屈曲に富み，沿岸にビサゴ諸島がある。国土は一般に低平で，年平均気温は25℃，年雨量は1,000～1,500mmである。米・ラッカセイ・ヤシ油を産し，皮革・木材を輸出する。原住民はニグロでフラー族をはじめ数部族に分かれ，言語・習慣もまちまちである。1446年ポルトガル人が来航し，1879年その植民地になったが，1973年独立。首都はビサウに置かれた。

ポルトガルりょうチモール【ポルトガル領チモール】⇨チモール島

ホルトそう【ホルト草】双子葉植物・トウダイグサ科。ヨーロッパ原産の一年草ないし越年草。茎の高さ50～70cm。葉は長さ５～10cmの線形ないし披針(ひしん)形で，対生する。全草無毛。７～８月，緑色小花を茎頂につける。種子を乾燥させたものを続随子といい，脂肪油を多量に含み，果皮と脂肪油を除いたものは利尿薬や下剤に用いられる。

ポルトノボ［Porto Novo］西アフリカ，ベニン人民共和国の首都。人口90,000(1976)。16世紀に起源を有し，ポルトガルの奴隷貿易根拠地として発展，1863年フランスと土侯の間に保護条約が結ばれてフランスの西アフリカ植民基地の一つとなった。市街は干潟(ひがた)を囲んだ半島上に広がり，旧市街には植民地時代の建造物や遺跡が多く残るが，新市街は近代的である。

ポルトープランス［Port-au-Prince］西インド諸島，ハイチ共和国の首都。人口30万6,000(1972)。ハイチ島西岸ゴナブ湾に臨む天然の良港をもつ，ハイチ最大の都市である。政治の中心をなし，ワタなどを産する平野を控え商業と農産加工業が盛んで，醸造・製粉・植物油精製などの工業もある。港からはコーヒー・砂糖・サイザル麻・バナナなどを積み出す。航空路がアメリカ合衆国のマイアミやジャマイカ・キューバ・プエルトリコなどに通じている。市街は人家が密集し下水設備も整備されていないため，衛生状態はよくない。1749年フランス人によって起こされた。〔小栗　宏〕

ポルトランドセメント ⇨セメント

ボールトン［Matthew Boulton］(1728～1809) イギリスの技術者・工業家。バーミンガム北方のソホの生まれ。金属加工業を経営し，ソホに最新設備をもつ大工場を建て，各種金属製品を製造。J.ワット*と共同して1775年ボールトン-ワット商会を設立，蒸気機関の発明を完成させ，生産に移した。その後1788年蒸気動力による貨幣鋳造機を発明し，各国に輸出した。

ボルネオ(島)［Borneo］東南アジア，マライ諸島中の最大の島。面積74万6,300km²。山脈が中央から四方に走り，北端に最高峰のキナバル山(4,101m)がある。南部のバリト川・カプアス川などがつくる三角州は低湿で，森林におおわれる。高温多雨で，チーク・ゴム・木材の産が多い。原住民のダヤク族は，米・サゴヤシ*をつくり，また狩猟によって生活している。鉱産物は豊かで，石油・鉄鉱石・銅・ダイヤモンド・石炭・金・銀・鉛・アンチモニーなどの埋蔵が知られているが，石油のほかはほとんど未開発で，タラカン・バリクパパン・サマリンダ・セリア・ミリの油田が有名である。都市と海岸部には，マライ人・ジャワ人・中国人が多く住む。13世紀にインド人，1521年にポルトガル人が渡来し，続いて1600年にオランダ人，1665年にはイギリス人が

渡来し，島は分轄された。第2次世界大戦中の1942～1945年には一時日本に占領された。現在は政治的に四つに分かれ，島の約3分の2を占める南部のカリマンタンはインドネシア領，北西のサラワク・サバ(北ボルネオ)はマレーシア領，マレーシア領に囲まれたブルネイはイギリスの保護領となっている。　〔大崎　晃〕

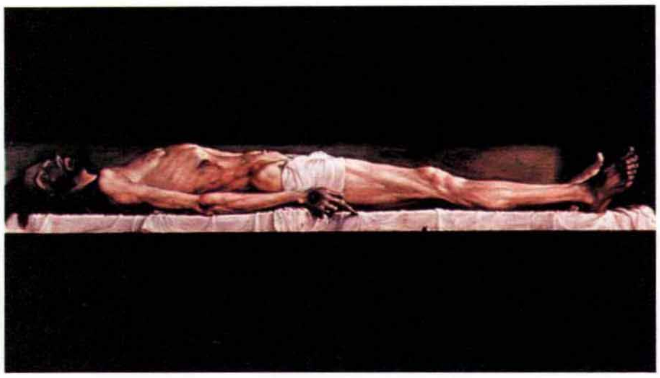
ホルバイン　[Hans Holbein]

①デル－エルテーレ　(1465～1524)　ドイツの画家。おもに祭壇画や肖像画を制作。その作品には生硬な人物表現など後期ゴシック様式をとどめるが，肖像の素描には佳作が多い。代表作は《セバスチャン祭壇画》など。

②デル－ユンゲレ　(1497ごろ～1543)　デル－エルテーレの子。デューラーと並ぶドイツ－ルネサンスの代表的画家。バーゼル・ロンドンで活躍，1536年ヘンリー8世の宮廷画家となる。制作は多岐にわたったが，特に巧みに性格を描出した肖像画にすぐれ，この分野でドイツ絵画の頂点に立つ。《死の舞踏》などすぐれた木版画も残している。主要作品は《マイアー市長の聖母》《エラスムスの肖像》《ヘンリー8世の肖像》などである。　〔岡部紘三〕

ボールばくだん　[ボール爆弾]　⇨CBU爆弾

ボールばん　[ボール盤]　主軸の先端のドリルに回転と送りを与えて，穴あけをするための工作機械。ドリル以外にリーマー・タップその他の工具を取り付けて，リーマー仕上げ・座ぐり・ねじ立てなどもすることができる。普通は立て形で，工作物に対して上方より穴をあけるが，横や斜め方向に向かって穴をあけることができるようにしたものや，同時に多数の穴をあけるようにしたものもある。おもな種類をあげると，①直立ボール盤：最も普通のもので，丸または角形のコラムの上方にドリルを取り付けるための主軸頭があり，下方には工作物を載せるためのテーブルを備えている構造のもの。同じような構造で小形のものに手加減ボール盤，卓上ボール盤がある。②ラジアルボール盤：太いコラムの回りを旋回できるアームがあり，このアーム上に移動できる主軸頭を備えていて，工作物を固定したまま，主軸頭を移動させて任意の位置に穴あけができるようにしたもの。③多軸ボール盤：多数の主軸を備えて同時に多数の穴あけができる構造のもの。立て形と横形がある。④多頭ボール盤：1個の基台に数台の小形の直立ボール盤を設置したもので，ギャング形ボール盤ともよばれ，穴あけ，リーマー通し，ねじ立てなど一連の加工を続けて行なうことができる。⑤深穴ボール盤：長いドリルを用いて，深い穴をあけるためのもので，横形が普通である。ドリルを回転させるものと，工作物を回転させるものとがある。　〔稲田重男〕



ホルバインd.Ä　《棺の中のキリスト》

ボルヒェルト　[Wolfgang Borchert]　(1921～1947)　ドイツの作家。ハンブルクの生まれ。第2次世界大戦後の廃墟(はいきょ)の故国に衝撃的な作品を投げ出し，戦後わずか2年にして26歳で病没。代表作は，あらゆる戸口から拒否される復員兵の告発と絶望を表わした戯曲《戸口の外》で，非常な反響をよび世界各国で上演された。ほかに戦場などをテーマにした詩，短編小説がある。

ポルフュリオス　[Porphyrios]　(233ごろ～304ごろ)　ギリシアの哲学者。シリアの生まれ。アテナイでロンギノスに学び，のちローマにおいてプロチノスの熱烈な信奉者，弟子(でし)となった。彼は独自の思想家というよりは，先師の学説の解釈家であった。彼の手になるアリストテレス《範疇論(はんちゅうろん)》の注釈書は，のちに中世スコラ哲学の発展に大きな影響を与えた。

ホルベア　[Johan Ludvig Holberg]　(1684～1754)　デンマークの劇作家。ノルウェーの生まれ。〈北欧のモリエール*〉といわれ，《居酒屋政治家》《山のエッペ》など庶民を題材とした鋭い社会風刺喜劇が多い。コペンハーゲン・オックスフォード各大学に学び，学者としても形而上学(けいじじょうがく)・歴史・地理・言語学など多方面にすぐれ，その方面での業績も多い。

ボールペン　筆記用具の一種。正しくはボール－ポイント－ペン。インキ収容管に連結させた先端金具に小径のボール(鋼球または人造宝石球)をはめこみ，その回転につれてインキが少量ずつ出て筆写できるようにしくんだもの。鉛筆形・携帯形(ノック式・多色用)などがある。1919年ハンガリーの一青年によってはじめて実用化されたもので歴史は浅いが，インキの飛び散ることがなく，使用方法も簡便であり，量産によるコストの引き下げから安価なもの(使い捨て用，スペア交換式など)が多量に出回るようになった。　〔三菱鉛筆(株)〕

ボルボックス　[volvox]　緑藻(りょくそう)類・ボルボックス科。オオヒゲマワリともいう。日あたりのよい澄んだ池沼で，春から夏にかけて発生する。500～50,000個の細胞からなる中空で球形の群体をつくり，その径は1㎜を越えることがある。各細胞は2本のべん毛をもち，群体は回転して泳ぐ。べん毛2本をもつ精子と卵による有性生殖を行なう。無性生殖は栄養生殖のみで，細胞が群体の内腔(ないこう)に落ち込み，分裂して娘群体をつくり，母体が死んで破れると出て成長する。

ホルマリン　[formalin]　ホルムアルデヒド*の37重量%水溶液の商品名。ホルムアルデヒドの重合を防ぐために10～15%のメチルアルコールを添加してある。無色透明の液体で，劇薬に指定されている。最近では60%程度の高濃度のものも知られている。防腐剤・収斂(しゅうれん)剤・消毒剤として，用途に応じて種々の濃度で使われている。

ホルミウム　[holmium]　周期律表第III族，希土類元素の一。記号Ho，原子番号67，原子量164.9303。1879年，スウェーデンのP. T. クレーベによって発見された。無水塩化物をアルカリ金属で還元して得られる。希土類中で存在が最も少ない金属の一。融点1,500℃，比重8.76，三価の化合物をつくる。

ホルムアルデヒド　[formaldehyde]　H•CHO　メタナールともいう。三量体はパラホルムアルデヒドとして知られる。石炭・木材などの燃焼時の煙に含まれ，有機物の不完全燃焼時に生じる。工業的には銀・銅・アルミナ・コークスなどの触媒存在下で空気を酸化剤としてメタノールを気相酸化して製する。不快な窒息性の臭気をもつ無色の気体。融点－92℃，強い還元性をもち，水によくとける。反応性が大で，容易に重合する。殺菌剤として用いられるほか，種種の合成樹脂製造原料とされる。
〔石戸良治・荒木洋之助〕

ホルムスク　[Kholmsk]　ソ連，サハリン(樺太(からふと))南部西岸にある港市。日本領時代の名称は真岡。人口36,000(1968)。サハリン南部の鉄道・道路交通の要衝にあたり，水産加工，紙・パルプなどの工業が行なわれる。航海学校がある。

ホルモン　[hormon]　動物体内の内分泌腺(せん)でつくられ，直接体液中に分泌されて，特定の組織や器官に作用する物質。広い意味では，神経分泌によるものや，植物ホルモンなどのように特定の腺細胞から分泌されたものでなくても，組織から分泌される物質が個体の器官や機能に特殊な影

響を及ぼすものも含む。ホルモンの特徴は，特定の器官からごく少量が分泌され，触媒的に働いて，必要な作用を現わすことである。この場合，1種のホルモンが単独で働くのではなく，いくつかのものが互いに協力したり，拮抗(きっこう)したりしながら作用する。そのため，一つのホルモンの過不足によっても，全身的な異常をひき起こし，ときには生命に危険の及ぶこともある。これらホルモンのすべてを統御する最高位の内分泌器官は脳下垂体*であり，さらにこの脳下垂体は間脳の支配下にある。現在，化学的に構造が明らかにされているホルモンは，ステロイド*系ホルモンと，タンパク質・ポリペプチド・アミノ酸に関係した非ステロイド系ホルモンに大別される。前者には女性ホルモン*(エストロン・プロゲステロン)・男性ホルモン*(テストステロン)・副腎(ふくじん)皮質ホルモン*(コーチゾン)などがある。非ステロイド系ホルモンには甲状腺ホルモン*(チロキシン)・副甲状腺ホルモン(→上皮小体)・副腎髄質ホルモン(アドレナリン*)・膵臓(すいぞう)ホルモン(インシュリン*)・脳下垂体ホルモン*などがある。最近では天然ホルモンの種々の誘導体がつくられ，医療などに使われている。無脊椎(むせきつい)動物では，サイナス腺・アラタ体・前胸腺・食道下神経節などからの分泌が知られているが，多くは神経分泌である。植物ホルモンには，傷ホルモン・植物生長ホルモン・ジベレリンなどが知られる。〔平野修助〕

ホルン［horn］金管楽器の一。この楽器の直接的な先祖は狩りに使われたホルンで，これは長いパイプを運搬に便利なように巻いたものであった。17世紀末ごろまでに楽器が小型化したため，オーケストラに加えられ，後期バロック時代にはホルンのための協奏曲も生まれた。しかし，当時は管の長さを増減する装置がなかったので，自然倍音の音しか奏せなかった。18世紀にはいると，管の一部を取り替えて，長さの違う替管を差すことによって，音がふえた。19世紀になると，管の長さを内部で機械的に変えるバルブの装置が生まれ，今日のような実用性を獲得した。なお，それまでに使われていたストップ奏法(手を朝顔形の手口に入れて音高を変えること)も一つの表現法として使われることがある。ホルンは音色が柔らかく室内楽的なニュアンスが出やすいので，オーケストラやコンチェルトの楽器としてだけでなく，木管五重奏の一員として，また，ピアノや弦との室内楽によく用いられている。〔徳丸吉彦〕

ボルン［Max Born］(1882～1970) ドイツの物理学者。ブレスラウの生まれ。同地およびハイデルベルク・チューリヒ・ゲッチンゲンの各大学に学ぶ。その後ベルリン大学教授などを経て，1921年ゲッチンゲン大学教授。1933年ナチス政府に追われてイギリスに亡命。1936年エジンバラ大学教授。量子力学の開拓者のひとりとして行列力学の形成にあずかり，また量子論の確率的解釈をたてた。ポーランドの物理学者L.インフェルト(1898～1968)とともにたてた非線型電磁力学はボルン-インフェルトの理論として知られる。そのほか相対性理論の研究，結晶格子(こうし)の力学なども著名。ゲッチンゲン大学教授時代にはとりわけ多くのすぐれた学徒を育て，物理学の後継者づくりにも貢献した。1954年ノーベル物理学賞を受賞。〔藤村 淳〕



ホ ル ン 5弁のダブルホルン



ポ ロ ポロに使用する馬は小がらで強健で闘志に満ち，競技者の意のごとく動く

ホルンフェルス［hornfels］接触変成作用*でできた変成岩。緻密(ちみつ)でかたい岩石でハンマーでたたくと火花が出る。肉眼では一般に鉱物を見分けにくいが，顕微鏡で見ると，セキエイとクロウンモの微晶の集合である。接触部に近いところでは，キンセイ石やコウチュウ石の変斑晶(へんはんしょう)ができていることがある。

ホルンボステル［Erich Moritz von Hornbostel］(1877～1935) ドイツ系の比較音楽学者。シュトゥンプの影響で心理学的・音楽分析的に諸民族の音楽を研究し，ザックス*とともに体系的な楽器分類法を発表して今日の民族音楽学*の発達の基礎を築いた。論文《比較音楽学の諸問題》(1905)，《楽器分類学》(1914)は有名。

ボレル［Emile Borel］(1871～1956) フランスの数学者・政治家。エコール-ノルマル卒業後，リール大学などを経て1909年パリ大学教授。数学者としては特に函数論の業績が著しく，そのほか解析学・確率論・集合論に貢献した。数学教育学・科学批評家としても知られる。彼の名はコンパクトに関するハイネ-ボレルの定理やボレル集合*などに残されている。他方，共和社会党領袖(りょうしゅう)のひとりとして政治に参加し，1925年パンルベ内閣の海相に就任した。

ボレロ［bolero］18世紀末ごろから知られているスペインの舞曲。舞踊としてはステップの複雑さと片手を頭上にあげた位置での急な停止に特徴がある。音楽的には，3拍子で，下のようなリズム形がカスタネットで伴奏され続ける点に特徴がある。民俗的なもの以外では，ベートーベン・オーベル・ウェーバー・ショパンらに例があり，特にラベルの管弦楽のためのものは名高い。なお，キューバのボレロは2拍子でシンコペーションを特徴としている。〔徳丸吉彦〕



ボレロ［bolero］ウエストラインよりたけの短いジャケット*。元来はスペインの男子が着る民族衣装の上衣のことで，この型が一般に婦人・子ども用として着用されている。そでなし，またはそでつきのものがあり，多くはセーター・ブラウスなどの上に前を開いて着用する。軽快な上衣で，家庭着からイブニングドレスの上に着るボレロまで広く用いられている。

ほろ【母衣】背に負うて矢を防ぐ武具。保侶・保呂とも書き，もっぱら方形で，幅と長さが5尺(約1.5m)・8尺(約2.4m)などがある。布製で色は紅白・薄紅の2種があり，ひだを設けて狭くたたむことができる。上下にひもをつけ，上のひもは鎧(よろい)の母衣つけ鐶(かん)に結び，下のひもは腰に巻いて背に負っている。矢が激しく飛来すると，下のひもを解き頭からかぶって矢を防ぐ。のちには鯨鬚(げいしゅ)を入れ，布をふくらませて装飾ともした。〔稲垣史生〕

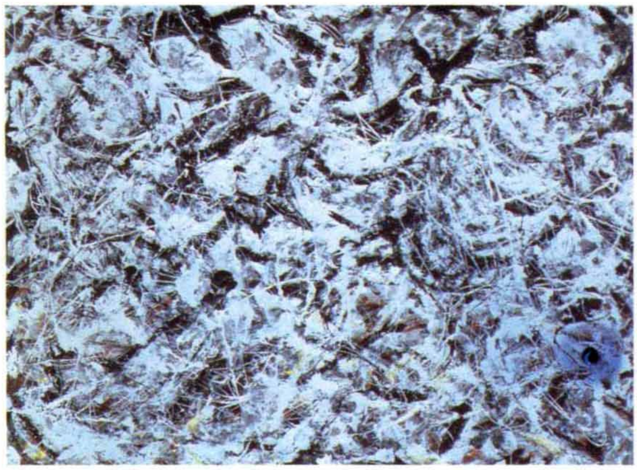
ポロ［polo］小形の馬をあやつり，T字形のスティク(マレット)でボール(直径8.25cmの木・竹)をゴールに入れ，得点を争うホッケーに似た競技。BC500年ごろペルシアを中心に行なわれていたといわれ，その後東方に伝わってインドで定着した。近代スポーツとして盛んに行なわれはじめたのは，1869年ごろにインドからイギリスに渡ってからである。

競技は274mと183mの長方形の草原(室内競技場は274mと137m)で行なわれ，4人(室内は3人)の競技者はボールをパスやドリブルで送りながら，バックの中央にある幅7.3m，高さ9.15mのわくのゴールに入れる。競技時間は7分30秒ずつの8回に分かれ，この間各3分の休憩時間を設ける。得点はゴールにボールを入れるごとに1点で，ボールをマレット以外で止めたり，馬の尻をたたいたりするなどの反則があればその得点の半分が減じられる。〔伊東春雄〕

ホログラフィー［holography］光の

波動性を巧みに利用して，レンズ・鏡などを用いず物体の完全に立体的な像を再現する一種の写真法。原理的には以前から知られていたが鮮明な写真が得られ注目を浴びるようになったのは，1964年アメリカ，ミシガン大学のリースとウパトニークスのレーザー*を用いた実験以後である。レーザーからの光を半透明鏡で二つに分け，その一つは直接写真乾板に，他方は撮影すべき物体にあてて反射・散乱させた光を同じ乾板に入射させる。この結果，乾板には複雑な干渉の縞(しま)模様が生ずる。この乾板(ホログラム)にレーザー光をあてると，その後方に実物と同じ虚像が，また前方には実像が再現される。その像は完全に立体的で，目を横に動かせば，物体の側面が見られ，また前方の像に焦点を合わせれば後方がぼけて見え，その逆も可能となる。この技術はその特徴を生かし応用が広く開拓されつつある。〔吉原邦夫〕

ポロック［Jackson Pollock］（1912～1956） アメリカの画家。初期の作品には，1930年代のアメリカ的写実主義の特徴が色濃く反映されていた。しかし，ピカソ・マッソンらの影響によって作風は一変し，抽象的な作品群を続々と制作しはじめた。彼は，単にアメリカにおける抽象表現主義の中心人物であるばかりではなく，世界に影響を及ぼしたアクション-ペインティングの作家として知られている。

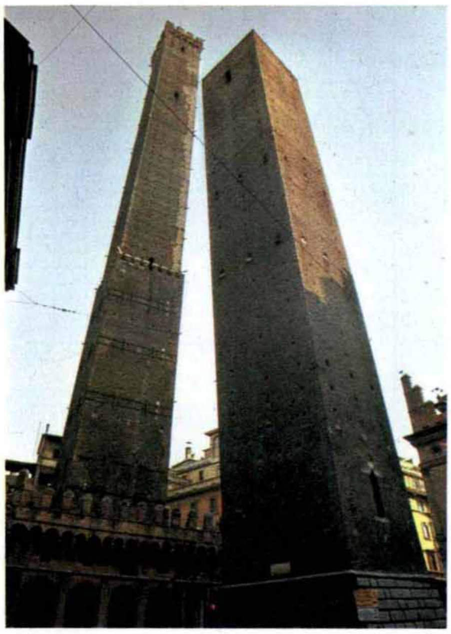


ポロック《灰色の虹》
シカゴ美術研究所蔵

ボロディン［Aleksandr Porfir'evich Borodin］（1833～1887） ロシアの作曲家。貴族の私生児としてペテルブルグに生まれる。音楽には趣味として幼時から親しんだ。薬学を専攻し，ペテルブルグ医科大学の教授となり，研究の合い間に作曲活動をした。しかし1862年以降，〈五人組*〉に参加し，国民主義の立場で作品を発表した。作品には《中央アジアの草原で》《イーゴリ公*》などのほか，交響曲や弦楽四重奏曲などがある。〔向坂正久〕

ボロディン［Mikhail Markovich Borodin］（1884～1953ごろ） ソ連の政治家。ビチェブスクの生まれ。ユダヤ人で本名はグルゼンベルク。1903年ロシア社会民主労働党入党。1906年社会民主党ストックホルム大会に出席してアメリカ合衆国に亡命。ロシア革命後帰国し，メキシコ・アメリカ・イギリスで活動，トルコ国民政府の顧問となる。1923年から中国国民政府の顧問として中国革命の実質的指導者となったが，蔣介石*(しょうかいせき)の反共路線によって国共分裂後影響力を失い，ソ連指導部とも意見が合わず，1927年帰国した。1930年《モスコーーデイリー-ニューズ》紙の編集長となったが不遇であった。〔山県弘志〕

ポロナイスク［Poronaisk］ ソ連，サハリン(樺太(からふと))中部東岸にある港市。日本領時代の名称は敷香(しくか)。人口22,000(1960)。ポロナイ(幌内(ほろない))川河口に近く，紙・パルプ，建設用材，水産加工業などがあり，毛皮の集散地でもある。近くに炭田があり，石炭を輸出する。



ボローニャ ボローニャにある二つの斜塔。手前のガリセンダの斜塔は高さ47m，頂上は底部から3mも傾いている

ポロニウム［polonium］ 周期律表第Ⅵ族に属する放射性元素。記号Po 原子番号84。1889年メンデレーエフによって予言され，1898年キュリー夫妻によりピッチブレンド中からラジウムとともに発見された。これは質量数210のもので半減期138.4日。ふつうポロニウムといえばこれをさす。銀白色の金属で，融点250℃。化学的性質はテルルおよびビスマスと類似。空気中に放置すると酸化膜におおわれて黄色となる。物理的測定におけるα線源・中性子源として用いられる。〔古屋 弘〕

ボローニャ［Bologna］ イタリア北部，ロンバルジア平原南部の都市。人口49万(1975)。1158年に創立された世界最古の大学の所在地として知られている，中世ヨーロッパの学問の中心であった。レーノ川に沿い，豊かな農業地帯の中心にあり，ソーセージの生産は世界的に名高い。BC187年に起こった古い都市で，いまもイタリアの南北および東西交通の要地である。第2次世界大戦でも戦災をあまり受けず，中世の建造物が多く残されている。〔梶川勇作〕

ボローニャだいがく【ボローニャ大学】 イタリア北部ボローニャにある国立大学。ヨーロッパ最古の大学で，起源は8世紀ごろからの法学校であるが，大学となったのは，1158年ボローニャ出身の法律家イルネリウスを中心に，ヨーロッパ各地から集まった法律学生の組合によるローマ法の研究施設が，フリードリヒ1世により公認されたことによる。以来，パリ大学とともに各国の大学の模範となった。現在，法，医，理，哲・文の4分科大学と薬学専門学校がある。

ポロネーズ［polonaise］ ポーランドの舞曲。同じポーランドの舞曲でも，マズルカ*が民俗的なのに対し，ポロネーズは上流階級に結びついた堂々とした性格をもつ。16世紀末ごろに生まれ，おそらく18世紀にはいってから定型化され，J.S.バッハも《管弦楽組曲第2番》でこれを用いている。その後，ポーランドの作曲家に限らず，シューベルト・ウェーバー・リスト・チャイコフスキーらによって作曲されている。おもな音楽的特徴は，中位の速さの3拍子，アウフタクト(上拍)のないフレーズの開始，弱拍での終止などであり，他の舞曲と同様，小さな音形の反復も多い。〔徳丸吉彦〕

ほろのべ【幌延(町)】 北海道，留萌(るもい)*支庁北端の町。人口4,100。町名はアイヌ語のポロヌプ(大きな原野)に由来する。町域は東西に細長く，西は日本海に面する広い泥炭(でいたん)湿地の下サロベツ原野で，パンケ沼・ペンケ沼を含む。東は天塩(てしお)川支流の問寒別(といかんべつ)川流域の低い丘陵部である。下サロベツ原野は未開発であるが，丘陵部では酪農が行なわれ，中心集落の幌延に乳業工場がある。宗谷(そうや)本線から天塩線を分岐し，国道40号線(天塩国道)・232号線が通じる。

ホロビッツ [Vladimir Horowitz] (1904～) アメリカ合衆国のピアニスト。ロシアのキエフの生まれ。6歳からピアノを学び，キエフ音楽院でブルーメンフェルトに師事した。1921年に卒業すると，ただちにデビューし，ロシア国内で活躍。1924年ベルリンで，1928年ニューヨークで大成功を収めた。1933年に指揮者トスカニーニの娘と結婚，1944年アメリカ合衆国に帰化した。1953年以後病にあったが，1965年に歴史的なカムバックをした。〔向坂正久〕

ボロブドゥール [Borobudur] インドネシア，ジャワ島中部にある仏教遺跡。シャイレンドラ朝時代(8世紀)の建立(こんりゅう)で，インドふうジャワ芸術の最もすぐれた建造物。自然の丘に黒色の安山岩で9層の基壇を築き，頂上に仏塔を置く。この主塔のほか上層3段には合計72個の小塔を巡らし，下層の方形基壇周壁には美しい仏教浮き彫りがある。➔仏教(図)

ほろほろちょう【珠鶏】 鳥類・ホロホロチョウ科の総称。サハラ以南のアフリカとマダガスカル島に7～10種が生息する。全長40～70cmで，体の割合に頭は小さく，頭頸(とうけい)部に羽毛のないものもある。胴部はまるっこく卵形で，尾は短い。雌雄同色に近い。一般に草原や疎林にすみ，脚は強い。繁殖期以外は数十羽が群生する。ヨーロッパでは古くから家禽(かきん)として飼われ，動物園などでもよく飼育されている。


ホロホロチョウ

ぼろぼろのき【幌幌の木】 双子葉植物・ボロボロノキ科。九州・沖縄に分布する落葉低木で，山野に自生する。小枝は一部を残して冬に葉とともに脱落する。葉は互生し，長さ4～6cmの卵形で先はとがり，洋紙質で柔らかい。4月ごろに葉腋(ようえき)に香気のある筒状で先が4裂した黄色花を穂状につける。雌雄異花で，花序の下部に雌花，上部に雄花をつける。和名は材質がもろく，柔らかいことによる。

ボロミーニ [Francesco Borromini] (1599～1667) イタリアの建築家。1620年ごろローマに出て，マデルナ*のもとでサン-ピエトロ大聖堂などの石彫に従事。のちベルニーニ工房の首席助手として活躍したが，不和のため独立した。1634年にはサン-カルロ-アレ-クアトロ-フォンタナ教会の建造を委嘱されている。この教会は，きわめて小規模ながら，ローマの寺院建築中で最も個性的な空間構成をもつことで有名である。

ホワイトカラー ⇨72ページ

ホワイトゴールド [white gold] ニッケル13～27%，銅1.6～45%，亜鉛1.3～17.4%，残りは金よりなる金・ニッケル・銅・亜鉛合金。銀白色を呈し，白金の代用として装身具あるいは歯科用に供せられる。10, 12, 14, 18カラットの各種合金がある。

ホワイト-ハウス [White House] アメリカ合衆国の大統領の官邸。ワシントンのペンシルベニア街の南側にある。1792年から着工されたが，一時焼失，1817年再建，以後数度の拡張工事を経て現在の姿となる。建物の壁が白く塗られていることから，T.ルーズベルト*大統領によってこの名がつけられ，以後，公式の名称となった。ホワイトハウスの名は，ときに，アメリカ大統領筋という意味にも用いられている。1階は事務室や公式宴会場，2階は大統領の居室となっている。〔広部和也〕

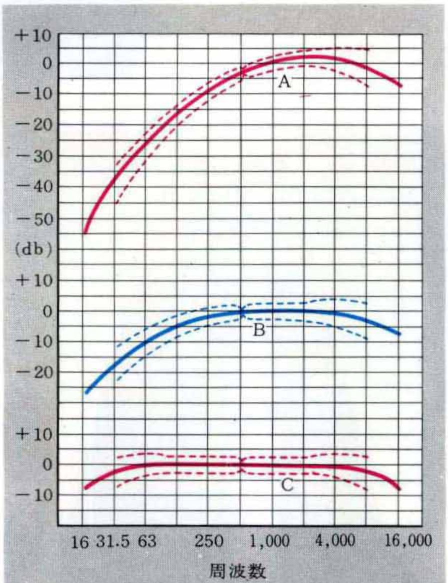
ホワイトヘッド [Alfred North Whitehead] (1861～1947) イギリスの数学者・哲学者。ケント州ラムズゲートの生まれ。ケンブリッジ大学で数学を学び，同大学講師を経てロンドン大学教授となる。1924年にアメリカ合衆国に渡り，ハーバード大学教授。はじめライプニッツ*・クーチュラ*の影響下で数学的論理学(記号論理学)を研究，同時に10年に及ぶラッセル*との協力のもとに，彼との共著《数学原理*》を発表し，数学の論理的基礎について論じた。他に《科学と近代世界》《過程と実在》《思想の冒険》などがある。

ホワイトメタル [white metal] スズまたは鉛を主成分とし，これに適量のアンチモン・銅・亜鉛などを加えた軸受け合金の総称。スズを主成分とする合金は一般にバビットメタルとよばれスズ75～90%，アンチモン3～15%，銅3～10%の範囲内で種々の組成がとられ，鉛を主成分とする合金はアンチモン10～20%，スズ5～15%，鉛残部よりなる合金が使用される。

ボワロー [Nicolas Boileau-Despréaux] (1636～1711) フランスの詩人・批評家。パリの生まれ。《風刺詩集》《書簡詩》などの詩集で認められる一方，《詩法》において古典主義文学理論を完成，批評家としての名をあげた。文学における良識・自然を重んじ，プレシオジテ*やその反動であるビュルレスクなどの気どりや誇張，衒学(げんがく)趣味を強く排斥，またその古典尊重は〈新旧論争*〉を巻き起こした。

ほん【本】 ⇨図書

ホン [phon] 騒音レベルの単位，標準聴覚によってその音と音の大きさが等しいと判断された周波数1,000ヘルツの純音の音圧を$p\mu b$とするとき$10\log(p/0.0002)$を単位とする無名数の名称。騒音の評価は人間にとってどのように感じられるかを基準にして決められなければならないが，人間の心理的・生理的な量として直接測定することは非常に困難であるため，一般には騒音を物理的な量として正確に測定し，その測定値と人間の主観的な心理量や身体への影響などとを対応させて評価する。ホンはそのための評価値で，耳の聴覚特性をもとに決めたA，B，Cの3個の特性をもつ回路を組み込んだ騒音計による指示値のことを意味し，それぞれの特性による指示値にホン(A)，ホン(B)，ホン(C)の単位をつけてよぶが，ホン(A)のことを単にホンでよんでもよい。使用する騒音計(指示騒音計・簡易騒音計)および測定法については日本工業規格(JIS)による規定がある。〔池谷和夫〕



指示騒音計の聴感補正回路

ホ ン

ホーン(岬) [Horn] 南アメリカ大陸最南端，チリ領ホーン島の南端にある岬(みさき)。南緯約56°に位置し，ドレーク海峡をはさんで南極大陸と対する。1616年ここを通過したオランダの航海者によって発見，命名された。付近は暴風雨と強い潮流のため，帆船航行の時代には難所として知られていた。高さ400mの絶壁がある。パナマ運河開通以前は航路上の要衝であった。

ぼん【盆】 ⇨盂蘭盆会(うらぼんえ)

ボン [Bonn] ドイツ連邦共和国(西ドイツ)の首都。人口28万4,000 (1975)。同国西部，ライン川に臨む。1948年ここで開かれた憲法会議で，同国の首都となった。議事堂・大統領官邸がある。ローマ時代の城塞(じょうさい)から発達し，13～18世紀末まではケルン大司教の居住地であった。1818年ドイツ最初の大学が設立され，長く宗教・文化の中心であった。ベートーベンの生地でもあり，生家・博物館がある。

ほんあみこうえつ【本阿弥光悦】 (15

58～1637） 江戸初期，刀剣の鑑定・研磨（けんま）を家業としたが，書画・漆芸・陶磁などの諸技にもすぐれていた。本阿弥家7世光心の養嗣子光二の子として京都に生まれ，自得斎・徳友斎・太虚庵などと号した。書風は肥瘦（ひそう）の差がはなはだしく，豊満で装飾的な効果をもつ。そのためか，金銀泥（でい）で下絵を施した料紙との調和をねらった作品が多い。作陶では，楽焼茶碗（ちゃわん）《不二》など傑作といわれるものが多い。なお，光悦は各種の工芸家を集めた〈光悦村〉を形成したことでも知られる。

ほんいかへい 【本位貨幣】 一国の貨幣制度の基礎となる貨幣*。たとえば金本位制度*における金貨*，銀本位制度における銀貨。その場合金・銀貨の額面価値は素材価値に等しい。➔本位制度

ほんいきごう 【本位記号】 ナチュラルともいう。嬰（えい）記号*・変記号*・重嬰記号・重変記号などの変化記号を取り消し，基準の幹音にもどす記号で，♮と書かれる。重嬰のついたハ音のあとで，ハ音に本位記号がつけばハ音（嬰ハではなく）になる。

ほんいせいど 【本位制度】 一国の貨幣の基準を定める法律的制度または経済的秩序。その本位貨幣*1単位の価値が一定量の金属と結びつけられている場合を拘束本位制度または金属本位制度とよび，そうでない場合を自由本位制度または紙幣本位制度とよぶ。しかし後者の場合にも貨幣発行量は国の法規または貨幣当局によって人為的に規制されているのであって，現実には管理通貨制度となっている。拘束本位制度は金本位制度*および銀本位制度*・金銀複本位制度に分かれるが，金本位制度*はさらに金貨本位制度・金核本位制度（金地金本位制度・金為替（かわせ）本位制度*）に分かれる。〔速水　保〕

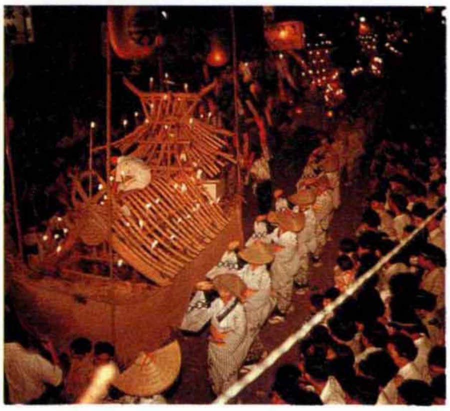
ぼんおどり 【盆踊り】 盂蘭盆会*（うらぼんえ）に精霊を迎えて慰めるため，寺の庭や町の広場で行なわれる老若男女による踊り。音頭（おんど）に合わせて踊るが，囃子（はやし）は大太鼓に笛のほか，小太鼓や鉦（かね）・空樽（あきだる）なども用い，三味線（しゃみせん）を加える所もある。櫓（やぐら）に音頭の者が上り，その回りを幾重にも取り囲んで踊るのが一般的だが，いくつもの組をつくって町を練り歩くこともあり，これを流しとか盆やつしなどとよび，四国の阿波（あわ）踊りもこれに属する。その他燈籠（とうろう）を頭上に飾って踊る燈籠踊りや，篝火（かがりび）をたく所もある。もと念仏踊り*に出，小町踊りや伊勢（いせ）踊りの要素が加わり，風流*（ふりゅう）化したものが多く，村の共同娯楽として，また秋の豊作の祈りもこめられている。〔中山和芳〕

ぼんがいちにょ 【梵我一如】 インドにおける正統バラモン系統の最も重要な思想の一。宇宙の根本原理ブラフマン*は個人存在の根本原理アートマン*と同一であるとする考え。この梵我一如の真理を悟れば，生死の束縛からまったく自由となって解脱できる。これは《ウパニシャッド*》の中心的教義であり，後代インド哲学の主流をなすベーダーンタ学派*のシャンカラ*およびその後継者たちは，この教義を哲学的・論理的に深めて不二一元論*を唱導した。〔前田専学〕



本阿弥光悦　楽茶碗　銘七里　五島美術館蔵





盆踊り　（上）〈おうもんで，おうもんで〉と裏声の念仏を唱えながら死者の霊を慰める新盆の行事　長崎県嵯峨ノ島　（下）旧盆にわらでつくった家に燈明を立てて，各町内を練り歩く精霊送り　秋田県横手市

ほんかどり 【本歌取り】 歌学用語。有名な古歌の成句を取り入れて，新しく作歌する方法。とる古歌を本歌という。新しくつくられた歌は，本歌の世界を背後の広がりとしてもつことになり，余情を豊かにする効果がある。平安期以後に用いられた手法であるが，藤原俊成*（としなり）のころから盛んになり，《新古今和歌集*》の1割強は本歌取りの歌である。のち，この手法は連歌*の場に引き継がれ，ますます発展する。

ほんがんじ 【本願寺】 浄土真宗*の本山。鎌倉中期に創建され，江戸初期東西両本願寺に分かれた。親鸞*（しんらん）没後，その娘の覚信尼*が京都の東山大谷の自宅に親鸞の墓を移して小堂を建て，木像を安置して大谷廟堂（びょうどう）としたのを起源とする。その子孫が留守（るす）職（のちの門主）として寺を相続し，南北朝時代覚如（3世）の代から本願寺を称するようになり，親鸞の教義を積極的に宣布して真宗の中心教団となった。室町中期，蓮如*（れんにょ）（8世）が出て宗勢大いに発展したが，1465年（寛正6）叡山（えいざん）衆徒に焼き打ちされ，近江（おうみ）（滋賀県），さらに越前（えちぜん）（福井県）に移り，吉崎（よしざき）御坊を中心にして北陸地方に教線を拡大した。1478年（文明10）京都の山科（やましな）に本願寺を再興したが，1532年（天文1）法華一揆*（ほっけいっき）の攻撃にあって焼かれ，大阪の石山本願寺*に移った。1559年（永禄2）顕如*（11世）は門跡を勅許され，その宗勢は戦国大名*に比肩するほどの実力を伴った。織田信長（のぶなが）に寺地譲渡を迫られたことから，1570年（元亀1）信長と交戦を開始，対抗10年に及んだが，1580年（天正8）敗れて焼亡，正親町（おうぎまち）天皇*の勅により講和した。和平後顕如は紀伊（きい）（和歌山県）鷺森（さぎのもり）・和泉（いずみ）（大阪府）貝塚（かいづか）に移り，二男准如が12世を継ぎ，1591年豊臣秀吉*（とよとみひでよし）の援助によって京都堀川通七条の地に堂宇を建立（こんりゅう）した。これが現在京都にある西本願寺で，1602年（慶長7）徳川家康（いえやす）が長子教如に京都烏丸（からすま）通七条の寺地を寄進したのが東本願寺である。

〈西本願寺〉浄土真宗本願寺派の本山。山号龍谷山（りゅうこくざん），京都市下京区堀川通に所在。1617年（元和3）初めの堂宇が焼失したので，翌年本堂を再建，1636年（寛永13）御影堂（みえいどう）を建立した。本堂はその後1760年（宝暦10）に改築されている。建物のうち唐門（からもん）・大書院（ともに国宝）などは伏見城*の遺構，飛雲閣（国宝）は聚楽第*（じゅらくだい）の一部が移建されたと伝えられる。その他，黒書院・北能舞台，《親鸞上人（しょうにん）画像》などが国宝に指定されている。江戸時代門跡寺院として栄え，現在も本願寺派の多数の門徒を擁し，教界に重きをなしている。

〈東本願寺〉浄土真宗大谷派の本山。京都市下京区烏丸通七条に所在。顕如の没後，長男教如は12世を継いだが，豊臣秀吉の命により2年にして弟の准如に本願寺を譲って隠退した。しかし，教如に従う門徒が多かったので，1602年徳川家康はこれに寺地を与え，寺堂を建立させた。これが東本願寺の起源である。1639年（寛永16）3代将軍

→74ページ

ホワイトカラー

［white collar］

【ことばの意味】ホワイトカラーという用語は，ふつうブルーカラーと対比して用いられる。すなわち，ホワイトカラーとは白いワイシャツに背広を着て仕事をする人々の外見をそのままことばに表わした英語である。他方，ブルーカラーとはブルーの作業服を着て働く人々の外見を表わした英語である。さらに仕事の内容から説明すると，ホワイトカラーは人間や物の管理業務に携わる人々のことを意味しており，ブルーカラーは現場で実際に手を用いて生産労働に従事している人々のことを意味している。前者は精神的労働に従事し，後者は筋肉的労働に従事すると特徴づけられてもいる。日本語でいう〈職員〉〈俸給(ほうきゅう)生活者〉(または〈サラリーマン〉)ということばは，ホワイトカラーとほぼ同じ意味に用いられており，これに対比される〈工員〉〈賃金労働者〉はブルーカラーと同じ意味に用いられている。

【新中間層としてのホワイトカラー】マルクスの階級理論によれば，資本主義が発展するにつれて，資本家階級と労働者階級との二大階級の対立がますます明確になり，この両階級のいずれにも属さない中間階級は，いずれはどちらかの陣営に属することになるはずであった。マルクスが中間階級として考えていたものは，自営小企業者・商人・金利生活者・手工業者・自営農民などであって，これらはふつう〈旧中間層〉とよばれている。ところが，マルクスの理論のようには事態は展開せず，旧中間層は増大はしないにしても，依然として根強く存続しつづけ，かつ資本主義の発展は，マルクスの考えにはなかったまったく新しい階層を大量に生みだしたのである。すなわち，資本家階級や労働者階級の概念では簡単に割り切ることのできない〈新中間層〉としてのホワイトカラーが，社会の前面に大量に出現してきたのである。ホワイトカラーとしての新中間層の量的発展をもたらした社会経済的基盤は，大量生産様式の発展，それに伴う経営販売機構の拡充，サービス産業の拡大，国家行政機構の拡大，国民の高等教育の普及などである。これらの事象の発展は，広くいって工業化に伴うものであって，資本主義国だけにみられる現象ではない。工業化を進めるソビエト社会主義国においても，これらの事象の発展は多かれ少なかれみられるのであり，したがってソビエトにおいてもホワイトカラーの量的増大は必然的である。さて，ホワイトカラーの増大を統計的に明らかにするためには，いかなる職業に従事する人々がホワイトカラーにはいるかを確定しなければならない。職業分類の大項目においてホワイトカラー職に関係ある職業としては，専門的・技術的職業，管理的職業，事務従事者，および販売従事者が考えられる。これらの職業に従事する人々が，わが国では1955年(昭和30)から1975年の20年間に，どのくらい増大したかを，他の職業と比較して一覧表にしたのが下の表である。

専門的・技術的職業，管理的職業，事務従事者，および販売従事者の職業にホワイトカラーが含まれる。表からもわかるように，これら四つの職業に従事する人々は，1975年には約2,219万人，全就業者の41.9％を占めている。これに対してブルーカラーの主体をなす生産工程従事者は，1,680万人で全就業者の31.7％を占めている。しかしながら，上述の四つの職業に従事する人々がすべてホワイトカラーではない。それでは，これらの職業のうち，どのような職業をホワイトカラーと考えたらよいだろうか。まず〈事務従事者〉が典型的なホワイトカラーであることには問題はない。事務従事者とは次のような職務を遂行する人々のことである。すなわち〈一般に課長以上の職務にあるものの監督を受けて現金出納・帳簿・文書またはその他の記録などの作成・保管(事務機械を用いる者を含む)・応接・調査などの経営・管理の補助的業務に従事するものをいう〉。官庁や会社に雇用されて俸給を受け取っているいわゆる〈サラリーマン〉の大部分がこの部類にはいる。表からもわかるように，この事務従事者の増加が，他の職業に比べて特に著しい。したがって事務従事者をホワイトカラーの主体と考えてよいだろう。次にホワイトカラーを含んでいる職業で問題になるのは〈専門的・技術的職業〉である。専門的・技術的職業とは〈高度の専門的水準において，科学的知識を応用し，技術的な業務に従事する者，教育・芸術・宗教・法律その他の専門的性質の業務に従事する者をいう〉。このように規定される専門的・技術的職業には，いわゆる独立自営の〈自由業〉が含まれていることに注目しなければならない。自由業はホワイトカラーではない。たとえば，独立の開業医はホワイトカラーではないが，病院勤めの医師はホワイトカラーである。小・中・高校や大学の教師は専門職のホワイトカラーであるが，フリーの文筆家や画家はホワイトカラーではない。また法律事務所や会社に勤めている法律家はホワイトカラーであるが，独立の弁護士はホワイトカラーではない。このような自由業を含む専門的・技術的職業のうち85％は，ホワイトカラーに属するとみてよい。現代社会は官庁や会社勤めの専門的・技術的職業が増大する傾向にある。アメリカではこの職業に従事する人々は，全就業人口の14％を越えており，職業の専門職化が進んでいる。次に〈管理的職業〉ではどの範囲までの人々をホワイトカラーにいれたらよいだろうか。管理的職業とは〈事業経営の方針の決定，経営方針に基づく執行計画の樹立，作業の監督・統制などもっぱら経営体の全部または課以上の内部組織の経営管理に従事するものをいう〉。要するに，管理的職業とは官庁や会社の課長以上の役職者のことであり，トップおよびミドルの管理者のことである。ただこの場合，社長や重役をホワイトカラーと考えることは適切ではないが，課長や部長などはホワイトカラーにいれてもよいだろう。ホワイトカラーを含んでいる職業でいちばん問題になるのは，販売従事者である。ここでいう販売従事者とは〈有体的商品・不動産・有価証券などの売買，売買の仲立ち・取り次ぎ・代理・勧誘・受注などの仕事，金融・保険の代理・募集の仕事，サービスの勧誘・仲立ちの仕事など売買・売買類似の仕事に従事する者をいう〉。デパートの販売員やセールスマンなどは，ホワイトカラーとよんでよいが，この販売従事者に含まれる小売店主・卸売店主・飲食店主，さらに行商人・廃品仲買人などはホワイトカラーではなく，旧中間層としての自営業者である。さらにまた規模の小さい商店や販売店，あるいは不動産会社などに雇用されている人々もホ

職業別就業者一覧

(単位千人)

職業分類＼年度	1955年		1975年		増減	
専門的技術的職業	1 906	(4.8)％	4 024	(7.6)％	2 118	2.8％
管理的職業	844	(2.1)	2 279	(4.3)	1 435	2.2
事務従事者	3 243	(8.2)	8 841	(16.7)	5 598	8.5
販売従事者	4 212	(10.6)	7 042	(13.3)	2 830	2.7
農林漁業作業者	16 058	(40.6)	7 290	(13.8)	−8 768	−26.8
採掘作業者	349	(0.9)	83	(0.2)	−266	−0.7
運輸・通信従事者	1 088	(2.7)	2 398	(4.5)	1 310	1.8
技能工，生産工程作業者及び労務作業者	9 488	(24.0)	16 799	(31.7)	7 311	7.7
保安職業従事者	430	(1.1)	736	(1.4)	306	0.3
サービス職業従事者	1 973	(5.0)	3 463	(6.5)	1 490	1.5
合計	39 591	(100.0)	52 955	(100.0)	13 364	−

ワイトカラーから排除したほうがよい。したがって，〈販売従事者〉でホワイトカラーというときには，比較的大きな会社に雇われて販売の仕事に従事している人々のことであると考えるのが適切であろう。わが国の1975年の国勢調査では，卸売業・小売業における自営業者は225万人，金融・保険・不動産業での自営業者は12万人，サービス業での自営業者は142万人をかぞえる。このように販売従事者として分類されている人々の中には，かなりの数の自営業者が含まれており，さらに零細な経営規模の商店や会社で販売の仕事に従事している人々が多数含まれている。販売従事者として分類されている570万人のうちの半数以上はこうした人々である。したがって，販売従事者を一括してホワイトカラーと考えることには問題がある。しかし他方，販売に従事するホワイトカラーは，生産規模の拡大につれて，この20年間に280万人増加している。

【ホワイトカラーの階層】〈20世紀の舞台で新顔の俳優として主役を演じているのは，ホワイトカラーであり，その意味ではホワイトカラーをぬきにしては，現代社会の動きを分析することはできない〉とアメリカの社会学者ライト-ミルズは，その名著《ホワイトカラー》の中で指摘した。この20世紀に登場したホワイトカラーは，生産手段を所有せず会社などに雇われている点では，ブルーカラーと変わらない。しかし彼らはブルーカラーよりも教育水準が高いし，所得も多く，昇進の道が開かれており，ブルーカラーとは生活様式も異なり，またみずからをブルーカラーから区別しようとする意識も強い，といわれてきた。はたして，このことはすべてのホワイトカラーに対して一般的にいえることだろうか。ブルーカラーと対比されるホワイトカラーといっても，そのホワイトカラー自体は多種多様な人々から構成されていて，けっして単一のまとまりのある社会階層ではない。類型的には，ホワイトカラーには少なくとも三つの階層が含まれている。まず第1のホワイトカラー層は，管理的職業および高度の専門的・技術的職業に従事している人々で，自己の職務を遂行するに際して，多少なりとも自主的判断と自己の労働に対する主体的な統制が許されている人々である。これらの人人を上級ホワイトカラーとよんでおこう。次に問題になるホワイトカラー層は，上級ホワイトカラーの命令を受けて，彼らを助けて仕事をする人々である。その人々には課長補佐・係長などの管理的立場にある人々，また大学出の若い専門的・技術的職業従事者や事務従事者も含まれる。これらは中級ホワイトカラーである。しかし，この中級ホワイトカラーには2種類の人々がいる。それは，昇進の期待に刺激されて行動する大学出のエリート-コース驀進者(ばくしんしゃ)，すなわち上級ホワイトカラー予定者と，20～30年の勤続ののちにようやく手にした課長補佐や係長のポストを無事に勤めて定年を迎える層とである。この後者のホワイトカラーに，〈小成に安んじてつつましく生活する〉小市民という，日本のサラリーマンの姿が代表されており，そこには受身で平凡な毎日をしんぼう強く送ることによって，ようやく定年まぎわになって係長になった人々の生活の悲哀が潜んでいる。第3のホワイトカラー層は，事務機構の合理化やオートメーション化の進行によって，少しの自主的な判断をも許されない規格化された画一的な仕事を反復する歯車的存在としてのホワイトカラー層である。いまやこのホワイトカラー層がホワイトカラー人口の分厚い底辺を形成している。

【ホワイトカラーとブルーカラー】1977年のわが国の男子高校卒業者の職業別就職状況をみてみると，就職者総数27万7,000人のうち，専門的技術者は11,000人で全体の4%，事務従事者は31,000人で全体の11.2%，販売従事者は51,000人で18.4%，生産工程従事者は121,000人で全体の43.7%となっている。この就職状況からもわかるように，男子高校卒業者は，ホワイトカラー職よりもブルーカラー職に多く就職している。27年まえの1955年においては，ホワイトカラー職(専門的技術者と事務従事者)に就職したものが全体の32.5%であり，ブルーカラーの生産工程従事者が22.2%で，ホワイトカラー職に就職したもののほうが多かったのである。このように男子高校卒業者はしだいにブルーカラー職に就職するものが増加している。高校卒業者のブルーカラー就業者の増大は，一方では進学による中学卒就業者の減少と，他方では大学卒就業者の年々の増大によるものである。このことは重要なことを意味している。中学卒と高校卒の学歴の差が，もはやブルーカラー職，またはホワイトカラー職就業のための絶対的基準ではなくなっているのである。しかもこの中・高卒業者の賃金に関しては，ブルーカラーとホワイトカラーとの賃金格差が縮小し，前者が後者を上回る傾向さえでてきている。技術革新によるオートメーション化の進展によって，現場の労働環境や労働自体が根本的に変化し，従来の筋肉的な労働は機械の監視的計測的な労働へと転化する。他方，ビジネス-オートメーションの発展は，事務労働を変化させ，キー-パンチャーなどのブルーカラー的なルーティン-ワークを増大させる。このように技術革新の進展は，事務労働と現場労働とを，それぞれホワイトカラー職とブルーカラー職とに区別することを無意味にする。すなわち，従来ホワイトカラーが独占してきた頭脳労働の分野にブルーカラーが大量に進出し，他方ホワイトカラー層内部が高度の専門的・技術的職業に従事する者と，単純な作業的事務に従事する大量のホワイトカラーとに分解する傾向が現われてきた。また生活水準の一般的向上は，生活様式においても，ホワイトカラーとブルーカラーとの差異を失わしめつつある。ブルーカラーも背広を着て通勤し，自家用車をもつようになり，もともと外見上の服装から由来したホワイトカラー・ブルーカラーという用語を死語にしつつある。こうした生活水準の平均化は，ホワイトカラーとブルーカラーとの賃金格差が縮小したことにもよるのである。たとえば，1935年の工員の給料を100とすると一般事務職員のそれは166，課長は400，すなわち約4倍であり，そのほかに賞与における地位別格差がきわめて著しかった。賞与に関しては，工員は年間1.56か月であったのに対して，係長は7.53か月，部長にいたっては17か月であった。しかし1968年においては，工員の給料100に対して，一般事務職員は104と格差はわずかであり，課長においても191と2倍には達していない。部長においても約2倍半ぐらいである。さらに，ホワイトカラー層内部でも学歴あるいは年齢・勤続などの個人的属性による賃金格差の縮小がみられる。大学卒職員と高校卒職員の学歴による賃金格差は，若い層ではほとんどなくなっており，高年齢層でも賃金格差はしだいに縮小しつつある。

【ホワイトカラーの将来】以上みてきたように，20世紀に新中間層として登場してきたホワイトカラーは，いまやホワイトカラー層の増大，それに伴う職務の分化や変化によって，さらにはブルーカラー全体の賃金の上昇などによって，ホワイトカラーが全体として享受していたブルーカラーに対する社会的・経済的・精神的優越性を，しだいに失いつつある。ホワイトカラーとブルーカラーとを区別する絶対的な基準であった学歴は，すでに中・高卒のレベルにおいては，両者を区別する基準ではなくなった。いまなお，大学卒と高校卒との間には昇進のチャンス獲得に差はあるけれども，この両者の賃金格差はしだいに縮小しつつあるし，かつ全体的な教育程度の上昇，とりわけ大学卒業者が増大することによって，学歴による賃金格差や昇進チャンスの格差は縮小し，業績や能力の面がいっそう強調されるようになるだろう。また技術革新の進行は，両者の相対的な格差をますます縮小するが，同時にホワイトカラー自体の中で専門的・技術的職業に生きがいを見いだす人々が増大し，単なる事務一般として職業分類される人々の職業分化や専門化が進むであろう。　〔武田良三・佐藤慶幸〕



東本願寺大師堂



西本願寺本堂

本 願 寺

家光(いえみつ)は，さらに東方の隣接地を寄進し，ここに園池を構えて法主の隠居所とした。渉成園(枳殻邸(きこくてい))がこれで，現在名勝に指定されている。堂宇は創建以来6回の改築を経ているが，本堂(阿弥陀(あみだ)堂)・大師堂をはじめ，大寝殿・白書院・黒書院など広壮な建物を擁し，国宝《親鸞真蹟(しんせき)教行信証》など多くの寺宝を伝えている。〔高崎徳次〕

ポンキエリ ［Amilcare Ponchielli］(1834～1886) イタリアの作曲家。クレモナの生まれ。9歳でミラノ音楽院に入学し，22歳のとき最初のオペラを発表，その後次次と作品を書いた。成功作に《ジョコンダ》があり，その中の〈時の踊り〉は独立して演奏されることが多い。また，彼は1854年にクレモナのサン-イラリオ聖堂の楽長となり，のちベルガモ大聖堂の楽長になった。特にオペラと宗教音楽で活躍した。

ほんきょく 【本曲】 日本伝統器楽のレパートリー分類に使われる用語。外曲*に対する語で，〈本来の曲〉〈根本の曲〉が本義であるが，普通は尺八*・胡弓*(こきゅう)・一弦琴*などの楽器のために作曲・編曲された曲群，あるいはその流派独自の曲を意味する。

ほんぐう 【本宮(町)】 和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡の町。人口5,400。県東部，十津川流域の本宮村など4村が1956年(昭和31)合併して発足。中心地区の本宮は熊野(くまの)三山*の一つである熊野坐(くまのにます)神社の鳥居前町で，近くに湯峰(ゆのみね)温泉・川湯温泉もある。吉野熊野(よしのくまの)国立公園の区域内に含まれる。主産業は林業。

ぼんげ 【凡下】 主として鎌倉時代に庶民の身分を意味した呼称。甲乙人とも称し，農民や商工業者をさした。幕府法では，御家人*・非御家人を問わず主君をもつ武士とは厳重に区別し，刑法その他において種々異なる待遇を与えた。たとえば，御成敗式目*によると，謀主の罪として武士は所領没収・遠流に処されたが，凡下は顔面に火印を押された。室町時代以降は地下人とか土民とよばれるようになった。

ほんけい 【本溪】 ペンチー 中国，遼寧(りょうねい)省東部の鉱工業都市。旧名は本溪湖。遼河支流の太子河上流，瀋安(しんあん)鉄道(瀋陽～安東)沿線にあり，遼溪鉄道(遼陽～本溪)を分岐している。石炭と鉄の産地で，日露戦争後，日中合弁会社によって採炭と製鉄が始まり，現在，鞍山(あんざん)に次ぐ鉄鋼コンビナートの中心である。ボーキサイトも採掘され，セメントなどの工業も行なわれている。

ホンゲイ ［Hon Gay］ 北ベトナム北部，トンキン湾の支湾アロン湾に面する港町で，ホンゲイ炭田の中心地。良質の無煙炭の産地として世界的に知られ，露天掘りも一部で行なっている。現在年間300万tを産出し，ホンゲイ港はその積み出し港となっている。埋蔵量は約12億tと推定される。

ほんけ・ぶんけ 【本家・分家】 家*の系譜的関係を示す概念。家制度のもとで，家督*を相続する直系の系譜または家を本家，本家から分岐して一家が創設されることおよびその創設された家を分家という。本家は〈ほんたく〉〈おもや〉，分家は〈しんたく〉〈しんや〉などともいう。長男が本家を継ぎ，二男・三男が分家するのが普通であるが，長子であれば女子でも家督を継ぐ姉家督*や，末子相続*が行なわれた地方では長男も分家した。本家・分家の関係は，父系・直系家族の結合原理の拡大によって生じるものであるから，そこに設定された系譜の本源としての本家と，分岐としての分家との相互絶対的地位も，両者がともに永続性をもつ家であることによって排他的に永続する。また，こうした系譜上の本末関係は，本質的には本家の伝統に基づく権威の行使と，それに対する分家の承服の妥当性にささえられているが，実際的には本家の家産分与などの庇護(ひご)・援助と，その恩恵に報いる分家の奉仕を伴っており，しばしば共通の社会生活の場において支配・服従，もしくは上下関係として顕在化する。また本家・分家の関係は，系譜の本末の相互認知により成立するものであるから，女子や親(隠居分家)さらには血縁関係のない奉公人や使用人が分家になることもある。なお，本家・分家関係が本家を頂点に連鎖し，集団的に組織化される場合，これを同族団という。旧民法は，本家・分家関係を認めたが，現行民法はこれをまったく認めていない。〔藤見純子〕

ほんげんてきちくせき 【本源的蓄積】 原始的蓄積ともいう。賃労働関係＝雇用関係を前提として行なわれる資本による賃労働の搾取を内容とする資本制蓄積に対し，そのような賃労働関係の形成，したがって資本がどのようにして発生し形成されてきたかを明らかにする，いわば資本の歴史的形成を資本の本源的蓄積という。資本制蓄積の歴史的前提をなす資本の本源的蓄積は，資本主義社会に直接的に先行する封建社会での生産的基礎であった自営農民から土地(生産手段)を奪い，生産手段を奪われた農民を資本のための賃労働力に転化し，生産手段を賃労働搾取の手段に転化させることによって行なわれる。したがって，資本の本源的蓄積は，労働条件としての生産手段と直接生産者との間の直接的結合関係を破壊し，両者を分離させる過程にほかならない。イギリスにおける15世紀末以降に行なわれた〈囲い込み運動〉(エンクロージャー*)は本源的蓄積のプロセスと内容を示す典型とされている。〔常盤政治〕

ぼんご 【梵語】 ⇨サンスクリット

ボンゴ ［bongos］ ラテン-アメリカの民俗音楽・大衆音楽で使われる膜鳴楽器。筒形胴片面太鼓を大小2個組み合わせたもので，奏者は腰掛けて両ももの間にはさみ，手のひらや指でたたいてリズムを打つ。大きいほうは低音用，小さいほうは高音用で，それぞれ中心部に近い箇所は低い音，縁は高い音を生じる。

ほんごう【本郷】 東京都文京区南東部の旧本郷区で，狭義には高さ20m内外の本郷台地上の地区をさし，本郷通りに沿って1丁目から7丁目までの町域に分かれる。江戸時代には〈本郷もかねやすまでは江戸のうち〉という句にあるように，本郷3丁目のいまも洋品店として残る小間物屋〈かねやす〉のあたりが江戸の市街地の北限で，中山(なかせん)道沿いに場末の町並みが見られるにすぎず，その他の地域には武家屋敷が多かった。江戸中期以後湯島の聖堂や昌平黌(しょうへいこう)が建てられて文教地区となり，明治初期には前田侯の屋敷跡に約47万m^2の敷地をもつ東京帝国大学（いまの東京大学）が建設された。国宝の赤門付近には古書店や医療器具店が多い。営団地下鉄丸ノ内線の本郷3丁目駅がある。〔浅井得一〕

ホンコン【香港】 中国，広東(カントン)省南部，珠江河口の東岸にあるイギリスの直轄植民地。ホンコン（香港）島とその属島および九龍(きゅうりゅう)半島先端の九龍地区とその北方にあたる，ニューテリトリーよりなる。面積1,045km^2，人口437万（1975）。ホンコン島（属島を含む）は，阿片(あへん)戦*争の結果1842年の南京(ナンキン)条約によって獲得したもの，九龍地区はアロー戦*争の結果1860年の北京(ペキン)条約によって，ニューテリトリーは1898年に99年間の期限でともに租借したものである。住民の大部分は中国人である。ホンコン島は全島カコウ岩の基盤よりなり，最高峰はビクトリアピーク（551m）で，夜景の美しさは世界的に知られている。九龍半島はカコウ岩の風化土壌(どじょう)におおわれた丘陵地で，最高峰は大帽山（957m）。亜熱帯の海洋性気候で，夏には台風の襲来をうけることもある。イギリスの東アジア政策の拠点で中継貿易を行なう自由港として栄えている。現在でも中国にとって資本主義諸国と貿易を行なう際の窓口になっている。しかし，大陸からの多数の流入人口をかかえ，第2次世界大戦後は豊富な労働力を利用した繊維・金属・ゴム・食品・電気器具などの工業が起こっている。また東アジアの為替(かわせ)取引の中心をなす著名な金融市場でもある。中国との鉄道連絡は，九龍駅から深圳(しんせん)経由で広東省の中心広州市に至る広九鉄道で結ばれている。設備の整った港湾がホンコン島と九龍地区の両側にあり，九龍地区にある啓徳空港はアジア航空路の中心になっている。〔船越昭生〕

ぼんさい【盆栽】 ⇨次ページ

ほんさろく【本佐録】 江戸初期の政治論書。本多正*信(まさのぶ)の著書といわれるが不明。1巻。《治国大概》《治国平天下》のほか多くの別称がある。2代将軍秀忠(ひでただ)の求めにより正信が建議したものを内容とし，〈天道を知ること〉以下7か条に分けて政道の要綱を論じている。政治の心得，大名の統制，農民の取り扱い方などについて述べているが，ことに農民統制の重要性を説き，〈百姓は財の余らぬように不足なきように治める事道なり〉とあるのは有名。〔高崎徳次〕

ほんざん【本山】 支配下にある末寺をもつ寺。江戸時代に寺院諸規則がととのえられ，一宗一派の根本道場である祖山を総本山とよんだほか，大本山・本山・別格本山・準別格本山などの別に分けられた。本山に所属する寺院を末山・末寺，支坊を別院・御坊，本山・本寺の境内地にある小寺を子院・支院・枝院・寺中・寺内・塔頭(たっちゅう)などという。

ほんじ【本辞】 《古事*記》の序文にみえ，《旧*辞》と同義。神話・伝説あるいは歌物語を内容とする伝承記録。天武天皇のころ，《帝紀》《本辞》の数が正実に違い，多く虚偽を加えているとして，天皇の修史事業，さらには《古事記》《日本書紀》編纂(へんさん)が行なわれる因となったとされる。

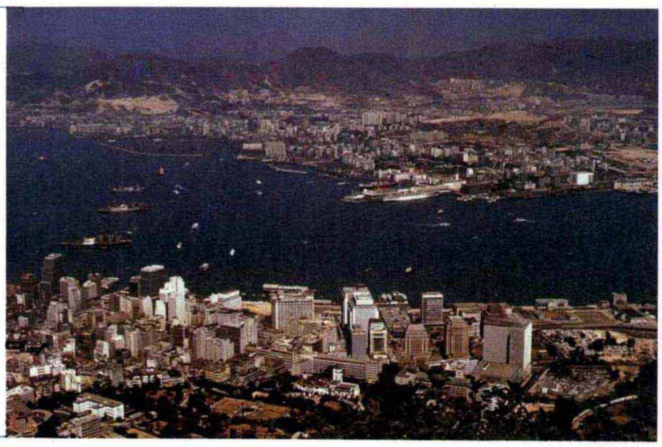
ぼんじ【梵字】 古来インドに広く行なわれた文字で，ブラーフミー文字とよばれ，左から右へと書かれる表音文字である。紀元前8世紀にメソポタミア地方から隊商の手でセム系の文字がインドに輸入され，インドで改良を加えられ，紀元前5世紀ごろにはブラーフミー文字の原形は成立していたと推定されているが，その現存する最古形はBC250年のアショカ王碑文に見られる。仏教渡来とともにわが国に伝わった梵字は，このブラーフミー文字の系統であるが，インドで5世紀以後に成立した後期グプタ書体とよばれるもので，悉*曇(しったん)と称する。〈法隆寺貝葉〉の文字が，その最古の例である。なお，現行の印刷書体の梵字はナーガリー文字（デーバナーガリーともいう）と称し，8～10世紀ごろに成立した書体である。〔村田忠兵衛〕



ボンゴ

ポンジシェリー［Pondicherry］ インド南東部，ベンガル湾に面するかつてのフランスの植民地で，現在はインド政府の直轄地。マドラスの南約150kmにあり，1672年フランスがこれを奪ってインド経営の基地の一つとしたが，その後イギリスとの間に争奪がくり返された。インド独立後，フランスとの協定で，1954年インドに正式に返還された。それ以来同じく旧フランス領であったヤナオン・カリカルとともにインド政府の直轄地となっている。良港をもち，紡織業が行なわれている。主都ポンジシェリー市の人口は15万3,000（1971）。〔別技篤彦〕

ほんじすいじゃく【本地垂迹】 神仏習*合思想の一形態。仏あるいは菩薩(ぼさつ)が人々を利益し，救うために，いろいろな神の姿となって，この世に現われるという考え方。つまり仏・菩薩を本地，諸神を垂迹とし，両者が一体であると説く。この説は，教義的には《法華経(ほけきょう)》の本門・迹門の思想，《大日経》の本地身・加持身の思想である。本地垂迹思想の成立は平安時代であるが，その下地は奈良時代から育成されたもので，平安時代にはいって，天台宗や真言宗の教義に裏づけられて山王一実神道や両部神道が成立した。さらに平安末期から鎌倉時代になると，日本の神々に，それぞれ本地の仏・菩薩を配置するようになった。こうしてこの説が普及するにつれて多くの権現像がつくられ，また《春日曼茶羅(かすがまんだら)》のような本地曼茶羅がつくられるようになった。しかし南北朝時代になると，神を本とし仏を末とする卜部(うらべ)神道が主張されるようになり，江戸時代にはいると国学者による復古思想運動が展開され，明治維新には神仏分*離・廃仏毀*釈(はいぶつきしゃく)が行なわれて，本地垂迹説はまったく姿を消した。〔玉山成元〕



香　港 ビクトリアピークから見おろした香港。対岸は九龍の市街で，背後の山はだは近年の宅地造成により削られている

盆　　栽

日本独特の〈生きた芸術〉として，国内はもとより，海外からも大きな賞賛を得ている観賞用のはち植え。広くみればいわゆるはち物園芸の一態ではあるが，その特色・観賞・仕立て法などを子細に考察すると，明らかに差異があることがわかる。

〔特色〕 はち物園芸は，草花や木をはちに植えて育て，その花や葉の美しさ，あるいは実なりのすばらしさなどを楽しむもので，培養上のくふうは認められるとしても，芸術品とはいいがたい。これに反して盆栽は，素性のよい樹木をはちに植えて培養し，これに作者の美的創意を施して仕上げるもので，樹木を素材とした美術的行為の所産とみなされている。その表現されたものが主として自然の景色の美しさであることから，古くは盆栽の本質を〈自然の縮図〉といってきた。しかし，今日では必ずしも自然景の写実的表現にとどまらず，理想化された自然美の探求に作者の創作目標が置かれている。

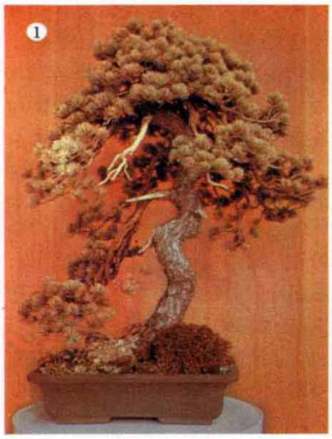
〔歴史〕 盆栽の前身はすでに平安時代に現われ，《春日(かすが)権現験記》や《法然上人(しょうにん)絵伝》などには木製の組み子ばちに樹木を植えたものがいくつか描かれている。鎌倉時代になると，ある程度，〈枝を矯(た)め，葉を透かす〉くふうもされるようになったらしく，これは能の《鉢木*(はちのき)》にもうかがえる。そののち，室町時代から江戸初期にかけては，文献の徴すべきものはない。これは，打ちつづく戦乱によって盆栽を愛好する心のゆとりが生まれてこなかったためと思われる。しかし泰平を迎えた元禄(げんろく)年間(1688～1703)以降，江戸を中心に園芸趣味が急速に盛り上がってきた。園芸史上，特筆されるべき伊藤伊兵衛(いとういへえ)の《地錦抄(じきんしょう)》20巻が上梓(じょうし)されたのもこのころで，サツキ・ツツジ・ツバキなどの花物全盛時代を現出した。つづいて，文化・文政期になると，オモト・ランなどの斑葉(はんよう)物が全盛をきわめた。こうした園芸界の活況の中で，文人画家や詩人たちが従来のはち物にあきたらず，これに文人趣味的な雅致を入れて芸術品として観賞しようとした文人植木が関西の一郭から台頭し，明治初期には〈ぼんさい〉という呼称も文献に現われだした。1877年(明治10)ごろには，京都・大阪ならびに東京に，はじめて盆栽を専門とする業者も生まれ，当時の政財界の名士の間にも多くの愛好家がでて，ようやく盆栽芸術が確立された。以来，何回かの戦争によって打撃をこうむりながらも，平和の到来とともに復興し，今日では未曾有(みぞう)の大衆化の時代を迎えつつある。

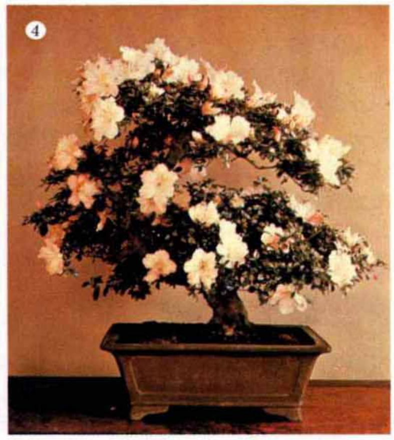
〔観賞〕 盆栽が芸術である以上，他の芸術品との共通点があるのはもちろんであるが，その素材が生きた植物であることと，自然美の観察から出発したこととによって，独特の見方がある。①根張り：盆栽にはよい根張りがなければならない。つまり，電柱を立てたような根もとでは安定感がなく，美しさも生まれてこない。俗に四方根張りといわれているように，根は土表にある程度露出し，しかも，前後左右に曲折を描いて走り，しっかり大地をつかんで動じないような状態が望ましい。②幹：盆栽の骨格をなすもので，総括的にいえば，立ち上がりに無理がなく，上に行くにしたがってだんだんに細くなり，醜い傷がなく，そのうえ，そのしん(頂点)は勢いよく天を摩するようでありたい。なお，特に荒皮性といって樹皮が荒れて剝皮(はくひ)したさまを賞する場合もある。③枝：盆栽に変化を与える重要な働きをなすもので，必ずしも多いのがよいわけではなく，繁閑よろしきを得て枝くばりが整っているのが理想である。昔から車枝(1箇所から放射状に出た枝)や閂枝(かんぬきえだ)(門状に左右水平に出た枝)などは，美観上きらわれている。④葉：盆栽の大きさからいってなるべく小葉か短葉であることが望ましく，そのうえ，生気に満ちているのがよい。なお，花や実も花物や実物盆栽にあっては欠くことのできない要素である。さらに盆栽は生き物であるから，生命の躍動美がなければならず，名木ともなれば格調の高さが要求される。

〔樹種による分類〕 人気樹種として盆栽に仕立てられるものは100種程度であるが，盆栽界では，これらを慣習上，次のように区別している。①松柏(しょうはく)類：クロキともいう。いわゆる常緑樹で，高木性のものである。おもなものには，クロマツ・ゴヨウマツ・エゾマツ・トショウ・シンパク(ミヤマビャクシンの古木)・ヒノキ・スギなどがある。②雑木類：松柏類以外のものを総括していう。主として落葉樹だが，さらに3種に分けられる。㋑葉物：芽出しから紅葉までを観賞するもの。ケヤキ・カエデ・ブナ・ハゼなど。㋺花物：ウメ・サクラ・ボケ・カイドウ・コブシ・ツツジ・サツキなど。㋩実物：カキ・ナシ・カリン・ウメモドキ・ヒメリンゴ・ベニシタンなど。なお，陳列の際に添えとして使われる山野草は，ときには草物盆栽として盆栽に準じて扱われることもある。

〔おもな樹形〕 自然樹の生態からいくつかのパターンが抽出されて盆栽の樹形が生まれたものと思われるが，そのおもなものは次のとおりである。①直幹：1本立ちで，その幹が根もとから樹頂までまっすぐに立っている姿のもの。亭々(ていてい)とそびえ立つ野中の一本杉(いっぽんすぎ)のようなもので，高木老幹の姿を理想化したものといえよう。②斜幹：1本立ちだが，幹が左右いずれか一方にやや傾いて立った姿のもの。海浜や渓谷(けいこく)などでよく見かける趣のものである。③模様木：1本立ちで，幹が直立せず，わずかな曲折を描いて伸び上がる姿のもの。幹の変化が見どころとなっている。④蟠幹(ばんかん)：1本立ちであるが，幹が前後左右に屈曲し，いかにも激しい風雪に耐えて生長してきたような力強さを表わすもの。⑤懸崖(けんがい)：1本立ちの木で幹が大きく傾き，枝先がはち面より下へたれ下がったもの。断崖絶壁に立つ木の姿をしのばせる。なお，蟠幹と懸崖との中間の樹形を〈半懸崖〉とよんでいる。⑥双幹：1株から2本の幹が立ち，その主幹と従幹とが高低・太細・幹模様などの調和がよくとれ，一体化した美しさを表わすもの。なお形は双幹に似ているが，2本の木が根もとで寄り合ったものは〈双樹〉とよばれ，双幹とは区別されている。⑦株立ち：1株から数本，もしくは10数本の幹が群がり立った姿のもの。どちらかといえば低木の群生態を表わす形である。⑧根連なり：何本かの木を寄せ植えしたように見えながら，根は1本でつながっているもの。深山などで倒れた幹から根を生じ，枝が立ち上がった姿をよく見かけることがある。なお，これを人工的につくったものは〈筏吹(いかだぶき)〉とよんでいる。⑨寄せ植え：ひとはちの中に，主として同種類の木を数本あるいは10数本植え込んで，森や林の風景美を表現しようとしたもの。⑩石付き：自然石を利用して，そのくぼみに木を数本植え込んだり，あるいは石上に木の根を抱かせたりしたもので，絶海の孤島や高い山頂などの風景を連想させるもの。このほか，〈根上がり〉といって，根が土表から盛り上がった特殊な形のものもある。

〔仕立て法〕 盆栽の仕立て法には，通常，5種のコースがある。①山取り：山野で自生している自然樹の中で，特に素性のよいものや形のすぐれたものを掘り取って仕立てる法。適期は3月中旬～5月上旬ごろで，掘り取るに際しては，太根の徒長枝だけを刈るほかは，根毛をいためず土をなるべく多くつけて持ち帰るようにする。特に根をかわかさないように注意する。植え付けてから2週間ぐらいは強い日ざしを避け，半日陰で水を切らさずに根付けさせる。②実生：種をまいて育てる法。適期は3月中・下旬。水はけのよい用土をつくり，水を切らさずに発芽を促す。雑木類の小品仕立てならば3～4年めから見られるようになる。③さし木：元気のよい新芽，もしくは新梢(しんしょう)を切り取って土にさし，発根させて仕立てる方法。適時は3月中旬から5月下旬。さし穂の先は鋭利な刃物で斜めに切り，





①ゴヨウマツ　模様木　樹高70cm　深山の古木の趣　②スギ　株立ち　樹高65cm　直立した木立ちの群落　③ブナ　寄せ植え　樹高50cm　晩秋・初冬の詩情　④サツキ　模様木　樹高45cm　旧花〈松波〉で人気が高い　⑤ボケ　株立ち　樹高27cm　早春の野をいろどる花　⑥エゾマツ　石付き　樹高25cm　孤島の風景を表わす。

水中に入れて水を吸わせてからさすと発芽しやすい。④つぎ木：同種類か同系統の樹木をつぎ合わせ，独立した苗木をつくる方法。つがれるほうを台木，つぐほうをつぎ穂という。その方法はいろいろあるが，盆栽では主として元接法(もとつぎほう)がとられている。適期は2月下旬から3月中旬。勢いのよい新梢を切り取ってつぎ穂とし，台木の根もと近くを鋭利な小刀で斜めに切り，これにつぎ穂をさし込み，すきまのないようにぴったりと合わせ，ひもかテープで結びつけておく。順調にいけば翌春には台木から切り放して仕立てられる。⑤取り木：親木の枝や幹の部分を発根させ，形のよいところを切り放して苗木をつくる方法。適期は3月中旬から5月下旬。多く行なわれている方法は，環状剝皮といって，発根させようとする部分の樹皮を幹の太さの3倍くらいの幅でむき取り，赤土と水ごけを塗ったものを団子状に巻きつけ，ビニールでおおっておく。かわかさないで灌水(かんすい)しておくと，早いものは秋には切り放せる。このほか，低木類は株分けでふやして苗木をつくる。

〔整姿法〕盆栽はよい樹形につくりあげることがなによりも肝要であるが，そのためには主として次のような方法が行なわれている。①芽摘み：4月下旬から5月下旬ごろまで，勢いよく出てきた新芽を，全体の樹形を考えながら，摘み取る。つまり，力の集まりすぎた枝先や伸ばしたくない枝などは摘み取り，反対に元気のよくない枝や伸ばしたい枝はそのままにしておく。この芽摘みは1回だけでなく2～3回繰り返すこともあるが，こうして木全体の力のバランスをはかり，理想の樹形を仕立てていくのである。なお，芽を摘むと半月ぐらいで2番芽がふいてくるが，これは小葉となる。②剪定*(せんてい)：徒長した枝や美観上好ましくない枝を切り取ること。あまり枝が多すぎると通風・採光が悪くなり，木の生育上もよくないので，松柏類は5，6月ごろ芽摘みのときに，また雑木類は主として落葉後に，枝の切り込みを行なう。根は枝と比例しているので，植え替えの際，枝の剪定に準じて切り込みを行なうようにする。③針金かけ：幹の基本形をつくるためには芽摘みや剪定だけでは不可能なので，銅線の針金を使い，これを幹や枝にらせん状にその太さに応じて巻きつけ，理想の形に曲げる。適時は新芽が動きはじめるまえか，樹液の動きがやや止まったころがよい。つまり，2～3月か，10月～12月ごろである。なお，樹はだの弱い雑木類には，針金に紙を巻いて使用する。このほかに，葉刈りといって葉全部を取って2番芽を小葉にさせる方法なども行なわれている。

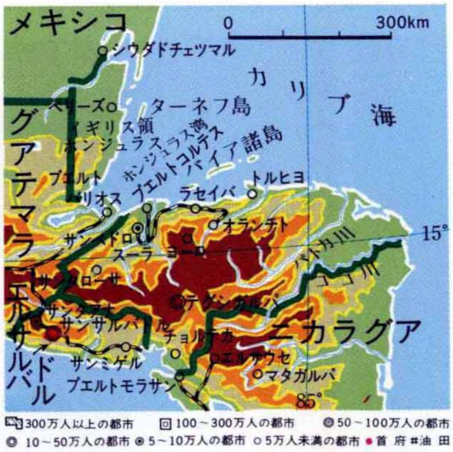
〔培養と管理〕盆栽は生き物だから，一応完成したあとも，これを保たせ，さらによりよくするようにしなければならない。ここに盆栽家の苦心と楽しみとがあるわけであるが，項目に分けて説明してみよう。①置き場所：理想は南面した場所で，東南がひらけ，西北に風よけのあるところ。要は適度の日当たりと通風が得られる場所ならばよい。②灌水：井戸水でも水道水でもよいが，4～5日以上くみおいた水を使い，必ずじょうろでたっぷりと掛ける。1日に何回と決める必要はないが，かわいたらそそいで，水切れを起こさせないようにする。概して春夏は多めに，秋は普通に，冬は日に1回ぐらいでよい。③施肥：肥料としてはおもに油かすが使われている。油かすには植物に必要な窒素・リン酸・カリウムが含まれているのでほとんどこれだけでもよい。ただ，花物や実物には多少の骨粉を混ぜる。春と秋には十分やる。方法は水で練って団子状に丸めてはち すみに置くのと，水で薄めて水肥として施すのとがある。水肥の場合は，厳寒時に油かす1.8 *l*を18 *l*の水につけて2，3か月置き，十分に腐熟させ，春になってその上澄み液をさらに10倍に薄めて用いる。④用土：害虫や肥料分を含まない清潔なもので，均一の粒状に精選されたものでなければならない。清潔なために病虫害に侵されず，粒状のために保水や排水によく，そのうえ，発根を刺激して促すようになる。松柏類は主として赤玉土，雑木類には黒土の腐葉土，サツキには鹿沼土(かぬまつち)が使われる。なお，はち底にはあらいゴロ土，次に中粒の土，そのうえに細粒の土の順に植え込む。⑤植え替え：長い間放置しておくと土中に根が充満し，生長を阻害するので，松柏類では3～4年に1回，雑木類では1～2年に1回，植え替えて土を新しくし，根を3分の1ほど切り込む。これによって新陳代謝を促し，樹勢は活発化してくる。⑥害虫駆除：特に3月から6月ごろにかけては害虫がつきやすいので，発芽前に薬剤を散布して予防をしておくとよい。もちろん，発生したらすみやかに駆除する。　〔村田圭司〕

ほんしつ 【本質】 哲学用語。①形而上学(けいじじょうがく)において，偶有性(アクシデント)と対立し，存在を構成するものをいう。アリストテレスはこれをウーシアとよび，第一哲学(形而上学)の対象とした。彼にとって，本質と実体とは同一である。②現実存在(エクジステンス)と対立し，存在の本性をなすものをいう。すなわち，本質は存在を規定するものをさし，現実存在は現に存在するという事実をさす。この対立は中世のスコラ哲学において用いられたが，両者の関係はちょうど可能と現実との関係に似ている。デカルトとスピノザはこうした観点にたって本質と実体とを区別し，本質は現実存在をもたないゆえに実体と異なると考えた。現代の実存主義は本質と現実存在(→実存)との対立を再びとりあげたが，それは本質が個物に先だって普遍的に存在するという従来の考え方を完全に転倒したものであった。サルトルは，少なくとも人間存在に関しては〈実存は本質に先立つ〉という形でそれを表現している。③フッサールにおいて，事実が事実として成立しうるためには必ず規定されなければならないものをいい，時間・空間的には存在しないが，客観的・必然的性格をもつ対象とされる。たとえば，赤いものにあっては〈赤〉が本質であり，それが意識の対象となる。形相ともいわれる。 〔飯塚勝久〕

ほんじもの 【本地物】 中世の本地垂迹(すいじゃく)思想に基づき，神仏の前生談・人間時代を述べた物語。室町期の御伽(おとぎ)草子に多くあり，《熊野(くまの)の本地》《貴船の本地》などがある。安居院(あぐい)作と伝わる説話集《神道集(しんとうしゅう)》がその源流とされる。

ホンジュラス(共和国) [Republic of Honduras, Repúplica de Honduras] 中央アメリカの中央部にある共和国。東はニカラグア，西はグアテマラ，南西はエルサルバドルと境を接し，北と南はそれぞれカリブ海と太平洋に面している。面積11万2,088km²。人口369万(1978年推)。首都テグシガルパ。

〔自然・住民〕北部のカリブ海岸沖合いに深さ4,000mに及ぶ海淵(かいえん)があり，スペインの探検者たちが〈ホンデュラ〉(深いの意)とよんだのが国名の由来である。地形は，一般に高原状であるが，南部を東西に中央アメリカの脊梁(せきりょう)山脈が走っている。海岸の平地は狭く，カリブ海岸には砂丘や潟湖(せきこ)の連なる低湿地がある。全般に熱帯気候で，雨は年間を通して降るが，冬に短い乾季があり，平地は高温多湿で森林におおわれる。住民の約90%はスペイン人とインディオの混血であるメスチソで，インディオは約10%以下，白人は1%にも満たず，住民の大部分は南西部の高原に集中している。国語はスペイン語で，宗教はほとんどがカトリック教徒である。





ホンジュラスの国旗 中米連邦共和国解体後も青・白・青の連邦共和国旗を用いていたが，1866年に5か国がかつて連邦共和国に結合していたことを表わす五つの星をつけ加えた。二つの青い帯はこの国が面している太平洋とカリブ海を表わし，白は平和を意味するという

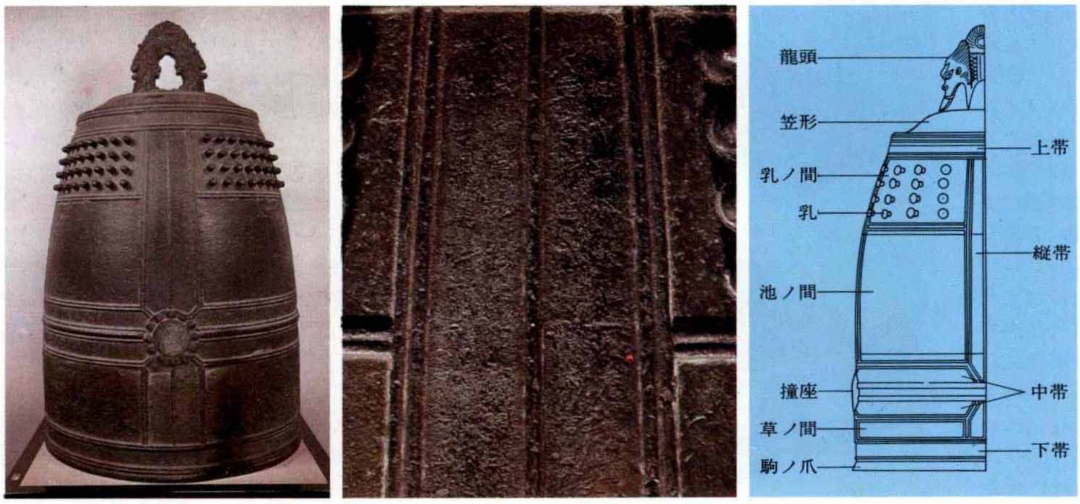
〔産業・経済〕農業国で，国民の大半がなんらかの形で農業に従事している。輸出作物の第1はバナナで，カリブ海岸のアメリカ合衆国のユナイテッドフルーツ会社が経営するプランテーションで栽培され，この国の輸出総額の3分の2を占めている。バナナ輸出はかつては世界一を誇ったが，近年は病害のため生産がふるわず，エクアドル・パナマに次ぎ第3位である。バナナに次ぐ輸出作物はコーヒーで，ほかに少量のタバコ・綿花・カカオの輸出がある。林産物はマホガニーが有名であるが，これもアメリカ資本によって経営され，輸出先もアメリカ合衆国である。鉱産では金・銀の産が知られる。交通は道路交通が重きをなし，パンアメリカン－ハイウエーによってグアテマラ・エルサルバドル・ニカラグアと結ばれ，首都テグシガルパはハイウエーとカリブ海岸・太平洋岸地方を結ぶ結節点になっている。

〔歴史・政治〕1502年コロンブスの第4回航海で発見され，1520年にメキシコを勢力下に収めたコルテスの部下ダビテが，ここにスペインの植民地を建設した。1821年に独立し，1823年には現在の中央アメリカ5か国の領域を版図とする中央アメリカ連邦共和国に加わったが，連邦共和国は1838年に解体したため，1839年に独立して共和制をとった。大統領が元首で，任期は6年。議会は一院制の国民議会で定員は64名，任期は6年。クーデターが起こるなど政情は不安定である。 〔小栗 宏〕

ほんじょ 【本所】 東京都墨田区の南部地区。もと本所区は1878年(明治11)東京府15区制の施行によって発足し，1889年東京市の市制施行と同時にその市域に包まれたが，1947年(昭和22)北側の向島区と合併して墨田区となった。旧区域は隅田(すみだ)川東岸の低湿地一帯を占め，南接する江東区の深川地区とともに明治以降多くの工場が立地し，また住宅の過密地区で，最近は工場用水のくみ上げなどによる地盤沈下が社会問題化している。国電総武線の両国・錦糸町(きんしちょう)両駅があり，錦糸町駅付近は江東・江戸川両区方向へのバスターミナルが発達し，江東楽天地などのレクリエーションセンターが整備されて小規模な副都心を形成する。両国駅の北側には関東大震災の遭難死者の霊を弔う震災記念堂があり，南側には江戸時代の明暦の大火の横死者を弔う回向院がある。 〔浅井得一〕

ほんじょう 【本荘(市)】 秋田県南西部の市。人口42,000。戦国時代以来の古い城下町で，江戸時代には六郷氏二万石が領していた。1954年(昭和29)市制施行。市域は日本海に面し，子吉(こよし)川下流の本荘平野の中心部を占め，南に鳥海山(2,230m)を望む。市街地には住宅・商業・工業の3地域を区画した都市計画が行なわれ，道路の整備も進んでいる。産業三大別人口比は22：26：52。良質の本荘米の産地として知られ，海岸の砂丘を利用したイチゴ・メロンの栽培が盛んで，特産に本荘塗・金工品がある。羽越本線から矢島線を分岐し，国道7号線・107号線が通じる。鶴舞(つるまい)城跡のある本荘公園はサクラの名所である。

ほんじょう 【本庄(市)】 埼玉県北部の市。人口53,000。鎌倉時代に若泉荘(わかいずみしょう)とよばれる荘園の中心集落となり，江戸時代は中山(なかせん)道の宿場町で，2・7の日の市も立った。1954年(昭和29)市制施行。市名は荘園時代に本荘とよばれたことにちなむ。南部は神流(かんな)川の古扇状地が堆積(たいせき)した本庄台地で，北部は利根(とね)川中流南岸の氾濫原(はんらんげん)である。産業三大別人口比は15：38：47。台地上は畑が多く，利根川氾濫原も礫(れき)質で水田に適せず，桑園が発達する。製糸業・絹織物業が盛んで，伊勢崎銘仙(いせざきめいせん)などの下請けをする家内工業が行なわれていたが，第2次世界大戦後は繊維製品の機械化生産が進んでいる。沖電気その他の電気機械器具の大工場，食料品工場なども集まって近代工業が発展しつつある。高崎線，国道17号線・同バイパスが市域をほぼ東西に通じ，これと直交して主要県道の寄居～本庄～伊



梵　　鐘　(左)観禅院に伝来した天平時代における基準的作例の銅製梵鐘。一方の撞座上部縦帯に4行各行20字の以下の銘がある(中)〈揵揺神器金鼓仁風聲振驚岳響暢龍宮奉爲四恩先靈聖躬遊神壽域聒言天衆釦輪息下折機淸空斧城伊竭弘誓無躬鑄銅四千斤白鑞二百六十斤神龜四年歳次丁卯十二月十一日鑄寺主德因時〉(右)各部名称　興福寺蔵

勢崎線が南北に走り，利根川を渡るところに坂東(ばんどう)大橋がある。

ぼんしょう　**【梵鐘】**　仏寺の鐘楼に懸吊(けんちょう)し，法会・祭礼所用の仏具として，また時報の具として使用される鐘。仏教では，鐘をつくことにより，衆生の夢をさまして仏道に帰依させるとともに，その打鳴による功徳は広大無辺であると説く。梵語の〈揵稚(けんち)〉をこの種の鐘にあてる説もあるが，揵稚は木製楽器とする説もあり，梵鐘の起源を遺品に照らして明確にすることはできない。梵鐘はその形式・文様などから支那(しな)鐘・朝鮮鐘・和鐘に大別されるが，いずれの場合もその形式の源流を中国殷(いん)・周時代に礼楽用とした銅製楽鐘にたどることができる。これらの楽鐘は鐘身断面が杏仁(きょうにん)形をなし，後世の和鐘や朝鮮鐘にみられる円形断面と異なるが，これは寺院の規模が大きくなるのに伴って大鐘を必要とし，鐘声を大きくするための必然であるともいわれる。かさ形上方にある甬(よう)とよばれる筒形の柄は朝鮮鐘の旗插(きそう)にあたり，後世に乳とよばれる側面の突起も楽鐘に先例が認められる。鐘身断面を円形とする梵鐘最古の例は，中国六朝(りくちょう)代末葉にあたる〈陳太建銘梵鐘〉で，小形ながら乳を造成しないだけで，龍頭(りゅうず)・蓮華文撞座(れんげもんつきざ)・袈裟襷(けさだすき)など奈良時代和鐘の形式・文様と酷似し，和鐘の祖型が相前後する六朝代に確立したことを想像させる。和鐘の細部呼称は図のとおりであるが，奈良時代から平安時代末葉ごろまでの梵鐘では，龍頭の長軸線と2箇の撞座を結ぶ線が直交するのに対し，平安後期から以後の梵鐘ではこの2線が相重なる関係となり，おおむね龍頭の頭部方向に撞座が形成される。平安時代中期を境にこの傾向が顕著であるため，前者を古式，後者を新式として区別する。また，撞座の位置が古式では高く，新式では下降するのも特徴的である。ちなみに〈陳太建銘梵鐘〉では鐘身高の50%，すなわち鐘身中央部に撞座をつくるのに対し，奈良時代の和鐘では40%前後，鎌倉時代以降はほぼ下方から22%の位置に撞座が定着する。古式の例としては和鐘最古の紀年銘鐘とされる妙心寺鐘，東大寺大仏開眼(かいげん)に前後する時期の作と比定されるわが国最大の東大寺鐘，興福寺鐘をはじめ，序を橘広相(たちばなひろみ)，銘文を菅原是善(すがわらこれよし)，書は藤原敏行(としゆき)の手になる神護寺鐘や，菅原道真(みちざね)銘文，小野道風書と伝える栄山寺鐘が平安初期の遺例として名高い。新式の先駆を示す梵鐘は，書の神護寺，音色の三井寺(園城寺(おんじょうじ))，形の平等院といわれ，三名鐘にあげられている平等院の鐘で，その優美な形姿とあいまって，朝鮮鐘を連想させるように飛天を陽鋳するなど，豊かな装飾意匠は和鐘において比類がない。新式の梵鐘は平安時代の過渡期を経て，鎌倉時代には形式の完成をみるが，以後細部の形状や文様に多少の変容はあっても，大勢は江戸時代まで踏襲された。ただ太平洋戦争中，武器・弾薬用の材として慶長以降の梵鐘の多くが供出させられ，この時代の梵鐘研究に空白を残したことは惜しまれる。

〔河田　貞〕

ほんじょうむつお　**【本庄陸男】**　(1906～1939)　小説家。北海道の生まれ。青山師範学校卒業。卒業後小学校教員となったが，教員組合事件のため免職。ナップ*に参加，プロレタリア文学運動を推進し，処女作《北の開墾地》や出世作《白い壁》を発表。《人民文庫》編集に従事するとともに，北海道開拓農民の歴史を描いた代表作《石狩川》を発表したが，病没。他に《女の子男の子》《妻におくるの書》など。

ほんしょしごせん　**【本初子午線】**　ロンドン郊外にあるグリニッジ天文台(旧)の子午環を通る子午線。この子午線を基準の子午線とし，経度や世界時を決める原点としている。

ほんじん　**【本陣】**　①平安末期以降の軍営の本拠。②江戸時代，武家用の宿泊施設。1635年(寛永12)参勤交代*制の施行によって，各宿場に設けられ，諸大名のほか勅使・宮門跡・幕府役人なども利用した。大名自身のとどまるところはその大名家にとって本営であるので，本陣とよばれた。宿場の旧家があてられることが多く，その当主は庄屋(しょうや)・名主・問屋を兼ね，苗字(みょうじ)・帯刀*を許された者が多かった。規模は広大で，破風(はふ)造りの屋根をもつ玄関を構え，一行中の最高位者が宿泊する上段の間は書院造り*で設備・調度などが整えられた。本陣の数はふつう1宿1軒であったが，数軒に及ぶ宿場もあり，予備的な本陣を脇(わき)本陣と称した。明治維新後廃止された。

〔高崎徳次〕

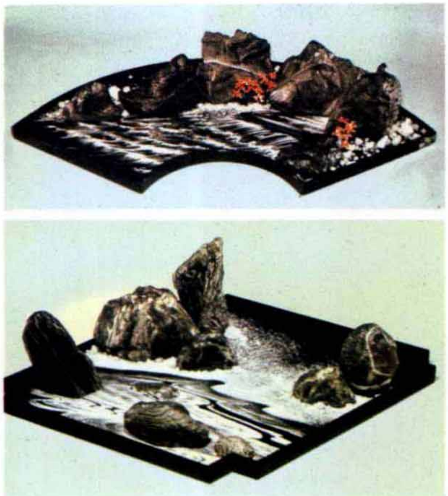
ポンス　オランダから伝来したことばで，ポン酢とも書き，ポンズともいう。ダイダイ・レモン・オレンジ・ユズなどの柑橘(かんきつ)類をしぼった果汁(かじゅう)。適度の酸味と芳香があるので，寄せなべ・ちりなべ*や肉類のしゃぶしゃぶなどの調味料として用いられる。

ポンスレ　[Jean Victor Poncelet]　(1788～1867)　フランスの数学者・機械工学者。メッツの生まれ。エコール-ポリテクニク卒業後，工兵少尉としてナポレオンのロシア遠征に従軍，モスクワから敗退の際負傷して捕虜となった。収容所での2年間数学，特に射影理論を研究。この研究をもとに帰国後，射影幾何学を樹立，幾何学史上多大な影響を与えた。その後この理論を機械学に応用，タービンの理論を開拓してポンスレ水車の設計などを行なった。パリ大学教授・エコール-ポリテクニク学長などを歴任。

〔下平和夫〕

ほんせき　**【本籍】**　人の戸籍*の所在地をいう。すなわち，一夫婦およびこれと氏を同じくする子を中心として，各人の身分に関する事項を記載する公簿である戸籍を編制する基準となる場所のことであり，地名地番をもって表示される(戸籍法6条)。本籍は生活の中心となる現実の住所とは関係がないから，届け出によってこれをどこに定めてもよいし，自由に移転させることもできる。

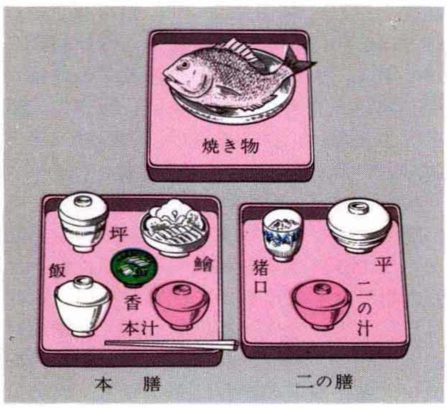
ぼんせき【盆石】黒い漆塗りの盆の中に，1個もしくは数個の石を建てて(石を置くこと)大小の砂を配し，主として風景美を描写するもの。その淵源(えんげん)は足利(あしかが)時代のころ，造庭の雛型(ひながた)として試みられたことにあったといわれているが，他方，盆に置いた石のすわりの悪いことから砂をあしらっているうちに，意識して砂を使うようになったとも伝えられている。いずれにせよ，江戸前期にはほぼ技法が定まり，絵画的手法をとり入れた名勝地の風景の再現が人気を集めた。いわゆる江戸八流(遠州・石州・相阿弥(そうあみ)・利休・遠山・細川など)の各流も生まれ,互いにわざを競い合い，寛政から文政期(1789～1829)には最大の興隆期を迎えた。江戸後期には砂だけで風物を描く盆画も盛んとなった。その後一時衰微したが，明治後期に勝野博園が出て細川流を再興し，動きのある柔らかい描法をくふうした。現在では，古典盆石の保存に努める石州流と，石と砂のデザイン化に新生面をひらこうとする細川流との二大流派が活躍している。いずれの場合でも，古い伝統をもつ盆石には，作法のパターンが基本として受け継がれている。主石を建て，副石を添え，会釈石をあしらい，これに9種類の粒子の異なる砂(白砂)を〈盛る〉〈播(ま)く〉〈ふるう〉の三手法を自由自在に駆使して,景を打つ(つくること)のである。道具には匙(さじ)・羽根・丸篩(まるふるい)・月型などがある。〔村田圭司〕



盆　石　(上)古典盆石〈秋の渓流〉 古谷石を使い紅葉の添え物をあしらって，古典的技法により秋の渓流の景を表現したもの　(下)現代盆石〈流れ〉 三波石の紋理と砂の模様を調和させて，現代ふうに流れのイメージを表現したもの。(いずれも細川流盆石作品)

ボンゼルス［Waldemar Bonsels］(1881～1952) ドイツの小説家。神秘的な自然や小さな動物の生活に興味をもち，物語《蜜蜂(みつばち)マーヤの冒険*》(1912)を書いて名声を得た。このほかに妖精(ようせい)の冒険を描いた《天国の人々》，熱帯の自然の奇跡と驚異を表わした《インドの旅》，人の運命を考えた《心の中の神と自然》などがある。

ほんぜんりょうり【本膳料理】純日本式の最も本格的な形式の配膳法。室町時代に始まり，江戸時代に内容・形式が整えられて一般に普及し，冠婚葬祭の儀式料理となった。その後しだいに簡略化されて，現在はほとんど行なわれないが，現今の会席料理*のもとになった。配膳は各人めいめいに行ない,汁(しる)の数によって一汁(いちじゅう)三菜から三汁十一菜まであり，菜の数に応じて膳の数も増すが，二汁五菜が多く行なわれた。内容は，次のようなものが盛られ，食事が済むと湯が出され，菓子・茶が供される。①本膳：汁(本汁または一の汁)は多くはみそ仕立てで，膾*(なます)は海山のさちを山形に盛り合わせて酢を掛けたものを盛り，坪(深めのふたつき容器)には野菜の煮物またはしんじょ(白身魚の肉をすって蒸したりゆでたりしたもの)のあん掛けなどを盛る。また小皿(こざら)には香の物を2～3種取り合わせる。②二の膳：平(平たいふたつき椀(わん))に海・山・里のものを5種類ほど盛るが，みやげにする場合は汁を入れない。また猪口(ちょく)には浸し物・あえ物・煮豆などを盛る。二の汁はすまし汁が多い。③三の膳：三の汁は多く潮(うしお)仕立て。さしみ・煎酒(いりざけ)(さしみのつけ汁)なども供する。④与(四)の膳：向詰(むこうづめ)ともいい，焼き物にはタイの姿焼きなどを用い，みやげとして客が持ち帰る。⑤五の膳(台引き)：口取り・硯蓋(すずりぶた)ともいう。山海の珍味を取り合わせる。〔塩川ふみ〕



本膳料理　二汁五菜(坪と平の位置は流儀によって異なる)

ほんぞうがく【本草学】中国で発生した学問で，生薬*類についての解説を主としたもの。書物としては《本草綱目》52巻・付図2巻がよく知られているが，これは明(みん)の李時珍(りじちん)がそれまでに開発されたほとんどの薬物(生薬)1,890余種のそれぞれに釈名(名の起こりや異名・基源)・気味(性状)・主治(効能)・修治(製造法)・発明(編著者の考察)・正誤・付方(使用方)を述べて集大成したもので，1590年に金陵で刊行，第2版は1603年江西本として公刊。国訳本として白井光太郎監修・鈴木大拙訳がある。だが，このような大著が明代に突然に編纂(へんさん)されたのではなく，宋(そう)代に蜀(しょく)の唐慎微が撰(せん)した《経史証類備急本草》が種本で，それに374種を加えたものである。そして《経史証類備急本草》は《嘉祐(かゆう)本草》を種本に，後者は《開宝本草》を，これも唐代の《新修本草》を，さらにこれは薬物書として最も名高い梁(りょう)の陶弘景の《神農本草経集註(しゅうちゅう)》をもとにしている。集註の元本は隋書(ずいしょ)の経籍誌によるといくつかあったと思われる。このほか多くの本草書があるが，主流をなしたのは以上のもので，実証的性格の強い《傷寒論》などに比べると，記載は玉石混交し，陰陽五行説に毒された迷信的要素が多い。これは陶弘景のような神仏家や文献学者が撰述したことにも一因があろう。このため，量を誇る《本草綱目》よりも，たぶん300種にも満たないと推測される古代の事実認識を主とした《神農本草》(陶弘景が種本としたもの)のほうに質的には高い価値を認めたい。

わが国では，730年(天平2)に筆写された《新修本草》がある(中国には残っていない)。《延喜式》には〈およそ医生は皆蘇敬(そけい)の新修本草を読む〉とある。918年(延喜18)深江(深根)輔仁(すけひと)が《本草和名》を撰したが，生薬名に異名・和名を付したにとどまり，独自の本草学は江戸時代に興隆した。貝原益軒の《大和(やまと)本草》(1709)，田村藍水(らんすい)の《人参譜(にんじんふ)》(1737)，岩崎灌園(かんえん)の《本草図譜》(1828)，伊藤圭介(けいすけ)の《泰西本草名疏(そ)》(1833)などが著わされ，採薬家としては阿部(あべ)将翁*・小野蘭山*(らんざん)・渋江長伯・野呂(のろ)元丈などが知られ，中国産の生薬(いわゆる漢薬)に非常に近いものを数多く開発しており，注目に値する。〔伊沢凡人〕

ほんぞうこうもく【本草綱目】⇨前項

ほんだぎけんこうぎょう【本田技研工業(株)】世界最大の自動二輪車メーカー。1948年(昭和23)資本金100万円で設立,たちまち自動二輪車が爆発的人気をよび，世界各国にも輸出，〈オートバイのホンダ〉の名を広めた。その後1967年3月から軽乗用車を発売，その部門でも業界第1位に進出，さらに小型トラックも続けて発売。1969年にはホンダ1300乗用車を発売，トヨタ自動車工業・日産自動車など大手メーカーにも対抗。つねに若者向きの商法を念頭に置いた商品開発が特色。年間生産台数(1971)は軽乗用車・小型トラック30万8,600,自動二輪車192万7,200，うち自動二輪車の輸出台数は130万8,000。本社東京，工場は浜松・鈴鹿(すずか)・狭山(さやま)。資本金366億9,900万円，年間売上高1兆694億4,200万円，従業員数22,641(1980年8月)。

ほんだこうたろう【本多光太郎】(1870～1954) 物理学者。愛知県の生まれ。18

97年東京帝国大学理科大学物理学科卒業。1907年から4年間ヨーロッパ各国に留学，帰国後東北帝国大学教授，1931年総長となる。この間同大金属材料研究所長もつとめた。その後東京理科大学学長に就任。長岡半太郎*とともに磁気歪(ひずみ)の実験的研究を行ない，分子磁石説を展開，さらに物質の磁気的性質から鉄鋼・鉄合金の物理冶金(やきん)学的研究へと進んだ。1917年当時において最も強力な磁石鋼としてKS鋼，1933年さらに新KS鋼を発明。1937年日本金属学会創立とともにその初代会長となる。1916年学士院賞，1937年第1回文化勲章などを受賞。〔藤村　淳〕

ほんだち【本裁ち】大裁ちともいう。和服の成人用の寸法で裁った長着・羽織・じゅばん・コートなどの裁ち方。子ども物の中裁ち，幼児物の小裁ち*と区別するために名づけられた。➔和裁

ほんだとしあき【本多利明】(1744～1821)　江戸中期の経済学者・算学者。越後(えちご)(新潟県)の人。江戸に出て和算・蘭学(らんがく)を学ぶ。のちみずから算学の塾(じゅく)を開く。天文・地理・航海術など，その知識は広範にわたるが，特に経済学への関心が深く，物産流通の問題について探るために各地を旅行。《経世秘策》はその成果で，開国・貿易の必要を説き，重商主義政策を唱える。またヨーロッパの事情に通じ，《西域物語》で西洋諸国の近代性を説き，わが国の立ち遅れを指摘した。〔永藤　武〕

ほんだまげ【本多髷】江戸時代の男子の髪形。本多という名称は，本多忠勝(ただかつ)家中の武士の髪形に起源するともいわれている。それを芝居の役者が結いはじめてから一般に広まった。ぞべ本多・豆本多・円まげ本多・大阪本多など，本多ふうとしての種類も多く，江戸末期からは〈ちょんまげ*〉の俗称でよばれた。➔髪形(図)

ほんだまさのぶ【本多正信】(1538～1616)　江戸初期の大名。年寄。佐渡守(さどのかみ)。三河(みかわ)(愛知県)の生まれ。早くから徳川家康(いえやす)に仕えたが，1563年(永禄6)三河の一向一揆*(いっこういっき)に加わって家康にそむき，一時加賀(石川県)に住んだ。1582年(天正10)許されて再び出仕し，その後姉川の戦い*などに功を立てた。1590年家康の関東入国のとき，相模(さがみ)(神奈川県)甘縄(あまなわ)一万石を与えられ，江戸城下の経営に参画した。このころから家康の信任を得て関東の諸務を奉行(ぶぎょう)した。1607年(慶長12)家康が駿府(すんぷ)(静岡市)に移ると，2代将軍秀忠(ひでただ)の年寄(老中)となり権勢をふるった。封禄(ほうろく)はわずか三万石であったが，最高の謀臣として幕府の創業に功があった。有名な《本佐録*》は，彼の著といわれるが，確かではない。〔岡山泰四〕

ほんだわら【馬尾藻】褐藻(かっそう)植物・ホンダワラ科。北海道以外のわが国各地に分布し，潮間帯下部以下の岩上に生ずる海藻。長さ2mくらいで，茎の断面は三角ないし四角。葉はへら形で鋸歯(きょし)がある。また，葉が変形して楕円(だえん)形または倒卵形の気胞をつくる。雌雄異株で，卵受精による有性生殖のみを行なう。海中林をつくり，水産上重要である。名は穂俵の意で，豊年を祈って正月の飾りとする。《万葉集》では〈なのりそ〉の名でよまれている。カリ分に富むため肥料として昔から使われた。若いものは食用となる。ホンダワラ属にはヨレモク・アカモク・ウミトラノオなど多くのものが含まれ，大西洋のまん中にあるサルガッソー海*(藻海)はホンダワラ属の一種の浮遊群落で有名。

ぼんち【盆地】周囲を高地によって取り囲まれている低平な地域で，山間にあるものを山間盆地，大陸内部にあるものを内陸盆地という。盆地の基盤地形を盆地底，盆地底に湖をもつものを湖盆，盆地底が周辺山地から供給された砂礫(されき)の堆積(たいせき)によって平坦(へいたん)になったものを盆地床，盆地を囲む周辺の高地を盆地縁とよぶ。盆地は成因によって5種に分けられる。曲降盆地は，地盤の曲降によって生じたもので，盆地の中心ほど低く，会津盆地・武生(たけふ)盆地・ロンドン盆地などがこれにあたる。断層盆地は，断層によって盆地周辺部を限られたもので，このうち両側が平行な断層崖(だんそうがい)によって限られるものを地溝(ちこう)盆地といい，松本盆地・諏訪(すわ)盆地・伊那(いな)盆地のように構造線に沿って発達することが多い。また一方を断層崖によって限られ他方が傾動地塊の背面になっているようなものを断層角盆地といい，亀岡(かめおか)盆地やアメリカ合衆国のグレートベースンはこの例である。侵食盆地は，堅硬な地層と軟弱な地層が存在し，軟弱な地層を堅硬な地層が境界状に取り囲んでいるとき，軟層のほうが早く削剥(さくはく)されて低下するために形成されたもので，秩父(ちちぶ)盆地はこの例であるといわれる。台上盆地は，造陸運動によって下降した浅い皿状(さらじょう)の盆地で，アフリカのコンゴ盆地などがある。中間盆地は，造山運動による盆地と造陸運動による盆地の中間的な性質のものをいう。また，地表が盆地状にならなくても，地層が盆状構造をなしている場合は造構造盆地とよばれ，関東平野がこれにあたる。〔桑原正見〕

ポンチ　⇨パンチ

ポンチョ［poncho］南アメリカのインディオが用いた代表的な衣服で，貫頭衣*の一。大きな毛布の中央に穴をあけて頭を通し，余りを前後にたらして着用する。現在ではこの型のそでなし外衣をいい，リゾートウエアや室内着に用いられる。

ぼんちょう【凡兆】(？～1714)　江戸前期の俳人。姓は野沢。別号，加生・阿圭(あけい)。加賀(石川県)金沢の生まれ。京で医業を営み，1688年(元禄1)ごろから去来*・尚白(しょうはく)らに交わり蕉風(しょうふう)に接し，のち在京した芭蕉*(ばしょう)に親しく教えを受け，驚異的な上達を示した。去来と協力して《猿蓑*(さるみの)》を編纂(へんさん)し，最多数の44句を入集，客観叙景句に名声を博したが，のち芭蕉から遠ざかり，また罪によって投獄されるなど，晩年は寂しく大阪に没した。〔奥野純一〕

ほんちょうがし【本朝画史】江戸初期の画史・画論書。狩野(かのう)山雪の著述をもとに，その子永納がまとめたもので，1678年(延宝6)の林鵞峯(がほう)の序がある。はじめに絵画論を概説し，次いで画家405名の伝記を記し，付録として用具や絵の具などにも言及している。完備した画史・画論書として古いものの一つであり，日本絵画史研究の基礎的文献として知られている。

ほんちょうし【本調子】三下がり*・二上がり*とともに三味線(しゃみせん)の基本的な調弦法の一。低い弦(第一弦)から，たとえばシ・ミ・シ(完全4度＋完全5度)に合わせるもの。ここでは絶対音高は問題ではない。多くのジャンルで最もよく使われ，特に義太夫節(ぎだゆうぶし)では中心となる調弦法である。

ほんちょうすいこでん【本朝水滸伝】読本*。建部綾足*(たけべのあやたり)作。25巻。1773年(安永2)刊。恵美押勝(おしかつ)・和気清麻呂(きよまろ)・大伴家持(やかもち)ら，100に折れた桑の枝から生じた100人の勇者が伊吹(いぶき)山に立てこもって悪臣道鏡を討つべく奮戦する雅文小説。《水滸伝*》を奈良時代の歴史的事件に翻案したもので，綾足の死により未完に終わったが，滝沢馬琴*の《高尾船字文》や山東京伝*の《忠臣水滸伝》などに影響を与えた。

ほんちょうつがん【本朝通鑑】江戸初期，幕府が林家に命じて編纂(へんさん)させた編年史。1670年(寛文10)成立。中国の《資治通鑑*》を範とし，漢文体で273巻。3編に分かれ，正編は林羅山*(らざん)，前・続編は子の林鵞峯(がほう)(1618～1680)の編。ほかに凡例・引用書目・提要・付録がある。正編は40巻，羅山が編纂した《本朝編年録》に鵞峯が手を入れたもので，神武天皇から宇多天皇の歴史。前編は3巻，神代の巻。続編は230巻，醍醐(だいご)天皇以降慶長年間(1596～1614)に至る歴史。一般に儒教主義的な修史となっているが，異説を掲げるなど，厳正な考証を示している。〔高崎徳次〕

ほんちょうにじゅうしこう【本朝廿四孝】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物。近松半二*・三好松洛(みよししょうらく)・竹田出雲*(いずも)・竹本三郎兵衛らの合作。1766年(明和3)竹本座*初演。戦国時代を背景に上杉(うえすぎ)・武田(たけだ)両家の争いに材を得，多くの〈川中島物〉の中の代表的作品。複雑きわまる筋立てで，半二特有の技巧を凝らした作品であるが，興行的に大成功で今日でもたびたび上演される。初演の年の

5月に歌舞伎(かぶき)に移され，道頓堀(どうとんぼり)中の芝居で初演された。〈十種香〉〈狐火(きつねび)〉〈勘助住家〉〈筍(たけのこ)掘り〉などの段(場)が上演され，〈狐火〉の人形振りは有名。八重垣(やえがき)姫は時姫・雪姫とともに三姫*とよばれる大役である。〔前田慎一〕

ほんちょうもんずい【本朝文粋】平安後期の漢詩文集・14巻。成立は11世紀中ごろ。編者は藤原明衡(あきひら)。平安初期以来200年間の漢詩文の傑作427編を選び，文章の規範としようとしたもの。所収詩文は，賦・雑詩・詔・対策・表・奏状など39部門に分けられ，作者は70人に及ぶ。以後の漢詩作文の模範として活用され，《本朝続文粋》《朝野群載》など後続の編集を刺激するなど，後世への影響は大きい。

ほんて【本手】箏曲(そうきょく)や三味線(しゃみせん)音楽で，基本となる楽器のパートのこと。《六段の調べ》では，たとえば雲井調子の替手は，平調子の本手(原曲)と組み合わされる。そのほか，大薩摩節*(おおざつまぶし)のように旋律パターンの名まえとして，また三味線組歌や尺八の場合のように曲の種類の名まえとしても使われる。

ぼんてん【梵天】インド神話の神。一般に大梵天王(マハーブラフマン)をさす。寂静・離欲とも訳し，別に娑婆(しゃば)世界主・世主天ともいわれる。元来，生主神(プラジャーパティ)のもつ世界創造の原理より発展し，有・知・喜を備えた唯一常住独存の絶対的原理(梵)と考えられ，我(→アートマン)と同一視されたが，この原理の顕現として男性人格神と認められたのを梵天と称する。仏教にあっては，ブッダの成道のとき衆生のため深法を説くことを請うた〈梵天勧請〉の説話のように，しばしば《阿含経(あごんきょう)》や律に記されるばかりでなく，大乗経典などに多く記載され，特に帝釈天*(たいしゃくてん)とともに仏の依頼をうけて国土を護持する神として知られている。現存する遺品は多く，法隆寺・東大寺・興福寺・唐招提寺(とうしょうだいじ)などの像は有名。〔北条賢三〕

ほんど【本渡(市)】熊本県，天草諸島中の下島にある市。人口42,000。もと本砥・本戸などと書き，近世初期にはキリシタンの布教が進み，島原の乱*では激戦地となった。明治以降は天草郡の政治・経済・商業・交通の中心となり，1954年(昭和29)市制施行。中心市街は天草下島にあるが，本渡瀬戸を隔てて上島の一部も市域に含む。産業三大別人口比は25：17：58。農漁業が主産業であるが，近年は観光開発が盛んである。本渡港からは三角(みすみ)・八代(やつしろ)・水俣(みなまた)・島原などへ定期航路があり，天草五橋の開通によって，本渡瀬戸に開閉橋が架橋され，国道266号線が牛深から三角へ走る。島原の乱の戦没者を祭る千人塚(せんにんづか)，本戸城跡などのキリシタン遺跡に富む。特産はポンカン・つばき油・天草さらさ・水ノ平焼など。

ポンド［pound］イギリスの貨幣単位。略号£。補助単位はシリング，ペニーで，もと1ポンド＝20シリング，1シリング＝12ペンス(ペンスはペニーの複数)であったが，1971年2月15日に十進法の採用と補助通貨単位の呼称変更が実施され，1ポンド＝100ペンスとなった。

ポンドは19世紀以来，長い間にわたって国際通貨として世界市場に君臨してきたが，現在ではその地位をアメリカ-ドルに譲り，実質的に国際通貨としての地位を喪失してしまった。第2次世界大戦以後においても，しばしばポンド危機が発生し，1949年および1967年に平価切り下げが行なわれ，現在ではポンドの為替(かわせ)平価は1アメリカ-ドル＝0.3838ポンド。1ポンド＝802.56円。イギリス連邦諸国は，イギリスのポンド(これをスターリング-ポンドとよぶ)と等価で同一名称の貨幣単位を使用している(→スターリング地域)。〔安井孝治〕

ポンド［pound］ヤード-ポンド法の重量(正しくは質量)の基本になる単位。①0.45359243kgをいう。記号lb ②金銀や薬剤をはかる場合には，373.24gに相当する重量単位を金量ポンドという。記号lb，Tr

ぼんとくたで 双子葉植物・タデ科。池や田の縁に自生する一年草。茎は紅紫色で高さ50～70cm，まばらに分枝し，節は少しふくらむ。葉は広披針(こうひしん)形で表面に八字状の紅紫斑(はん)があり，互生する。葉鞘(ようしょう)の縁には毛がある。8～10月 枝先に淡紅色の花を粗につけた穂を下垂させる。和名はぼんつく(愚鈍者)のタデの意で，本種によく似たヤナギタデの葉に辛味があるのに対して，本種は辛くないためである。→タデ

ポンドちいき【ポンド地域】⇨スターリング地域

ぽんとちょう【先斗町】京都市中京区の東部地区。北は三条の一筋南から南は四条まで，西は高瀬(たかせ)川に沿う木屋町通りから東は鴨(かも)川西岸に至る南北約500m，東西約50mの細長い地区で，東隣の祇園(ぎおん)と並ぶ京都の代表的な花街(いろまち)として知られる。江戸初期に鴨川の河原(かわら)を埋め立てて，茶屋や旅館がつくられてから歓楽地として発達し，1813年(文化10)以来公認の遊郭が設けられた。春に歌舞練場で催される鴨川踊り，夏の川床が名高い。

ポントピダン［Henrik Pontoppidan］(1857～1943) デンマークの小説家。ユトランドの生まれ。自然主義の代表的作家。貧民階級の生活を克明に描写し，社会の虚偽と偽善を真摯(しんし)に告発した。懐疑的な幻滅主義者であり，作品には重苦しい情調がある。代表作《約束の土地》3巻は，理想主義者の牧師が農民の娘と結婚，農民の中にとけこもうとするが失敗，発狂して精神病院で果てる話。1917年ギェレルプ*とともにノーベル文学賞を受賞。〔鈴木徹郎〕

ほんともものなり【本途物成】田畑の本貢租のこと。鎌倉時代にもみられるが，江戸時代に一般化した。物成・本年貢(ねんぐ)・取箇(とりこ)・成箇(なりこ)などともよばれ，雑税を小物成*と称したのに対する。石高に免(租率)を乗じて出し，原則として米納であったが，実際は金銀納でこれを物成銀とよぶこともあった。

ボンネット［bonnet］額から両わきを深く耳をおおうように後ろからかぶる感じの帽子。ブリムのあるものとないものとがある。元来は布製の柔らかいもので，婦人用としては18世紀に正装として用いられたが，フランス革命後一般に愛用され，19世紀に全盛をきわめた。わが国でも明治の鹿鳴館(ろくめいかん)時代には帽子の代名詞となるほど代表的な形であった。当時のボンネットは，布・ストローなどでつくられ，造花・リボン・レース・羽根などではなやかに装飾されて用いられた。現在はおもに子ども用として用いられるにとどまる。→帽子(図)〔酒井登代〕

ぼんのう【煩悩】仏教で身心を悩まし乱して平常心を失わしめる本能的な心情。梵語(ぼんご)kleśa(クレシャ)の漢訳語。本来は，事物の認識や人間関係において敏感に反応する人間的な感情や意識のことをさすが，仏教ではこれらの感情や意識は，正しい真理(→法)の把握(はあく)を妨げるものであるとして煩悩とよんだ。また同様に，主観と客観を前提とする対象的な認識や知的分析なども，悟り(真理との同一化)に至るための障害であるから煩悩とされる。しかしいくら出世間的な法を求めるといっても，生身の人間はあくまでも感覚の活動を通して生命感を得ている世間的な存在である。小乗仏教ではこのような感覚的な生命感そのものの滅却を主張し，生ける仏になることをめざした。そこでは人間に必然的につきまとう煩悩は根元悪とされ，それを徹底的に除去しなければ悟りは得られないとするペシミスチックな人間観に立っていた。ところが大乗仏教では，人間である以上煩悩は身心においてたえず発動しているのであって，煩悩の働きそれ自体は否定できないと考える。ここではむしろ，本能や感情や意識の発動そのものにとらわれない精神状態に至ることが重要なのである。大乗仏教でいう中道*とか悟り*というのはそのような境地をさしていうのであって，個々の煩悩の完全な断滅をいうのではない。したがって，大乗仏教における煩悩は，個々の自然発生的な感情や心情のことをさすよりは，むしろ事物に対して執着し妄執(もうしゅう)する心の傾向もしくは構えを意味するのである。大乗思想の一つの到達点である〈煩悩即菩提(ぼだい)〉という命題も，このような考え方から出てくるのであって，煩悩に満ちた身心を保ちながら，世間的な執着心を放

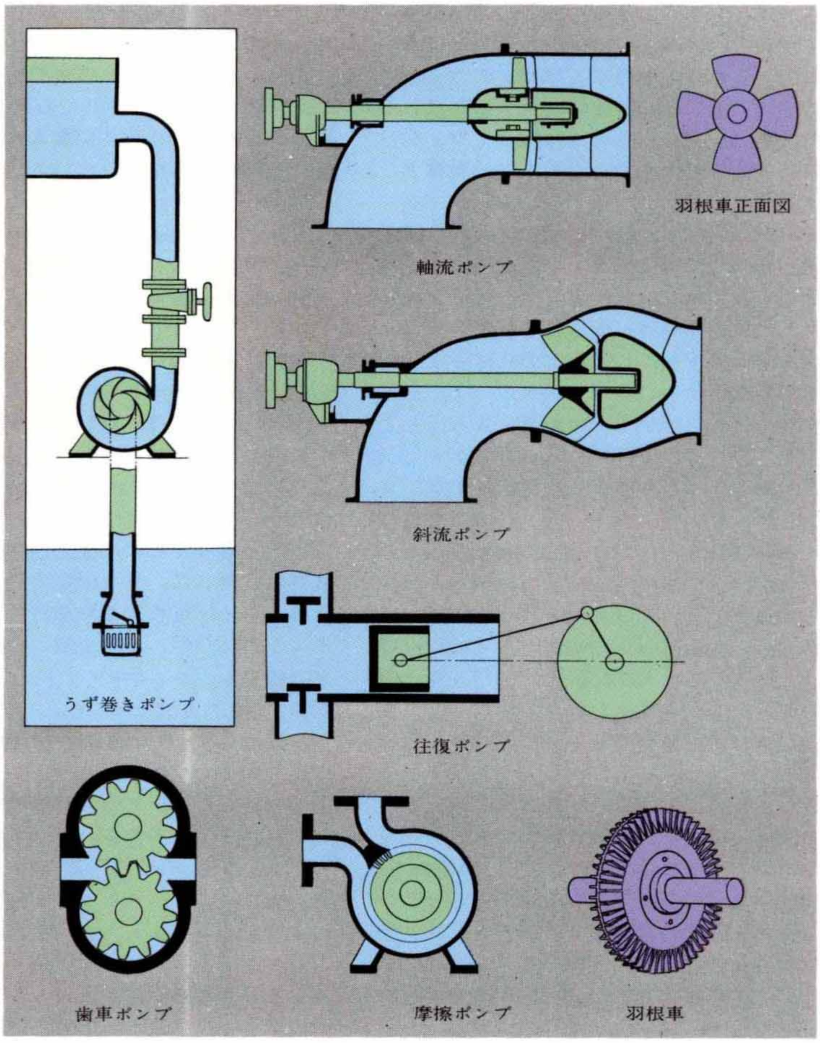
棄して出世間的な智恵(ちえ)の世界と同一化しようとする考え方である。この点で大乗仏教は，人間的な煩悩を悪業と認識しつつも，それからの脱却ではなく，それの制御をめざす積極的な人生観に立脚しているといえる。

教理的にいえば，煩悩には百八煩悩とか八万四千の煩悩などがいわれるが，中心になるのは6種の根本煩悩である。それは貪(むさぼること)・瞋(いかり)・痴(おろか)・慢(おごりたかぶること)・疑(うたがう心)・見(とらわれた見方)をいう。またこれを六随眠(ずいめん)ともいい，前三者を三毒という。最後の見はさらに身見・辺見・邪見・見取見・戒禁取見の5種に分けられ，前の5種と合わせて，十根本煩悩もしくは十随眠と名づける場合がある。また20種の随煩悩という分類もある。〔山折哲雄〕

ほんのうじ【本能寺】 京都市中京区本能寺町にある本門法華宗(ほっけしゅう)本山。1415年(応永22)日隆が創建。もと本応寺と称し五条坊門にあったが，1433年(永享5)六角大宮に移り，本能寺と改めた。1536年(天文5)比叡山(ひえいざん)衆徒の焼き打ちにあい焼失，16世紀半ば日承が再建した。1582年(天正10)本能寺の変*により焼かれ，1587年現在地へ移った。以後も火にかかり，現在の堂宇は1928年(昭和3)再建されたもの。織田信長(のぶなが)の本廟(ほんびょう)がある。〔杉坂靖子〕

ほんのうじのへん【本能寺の変】 1582年(天正10)織田信長(のぶなが)が京都本能寺において明智光秀*(あけちみつひで)に急襲され，自殺させられた事件。信長は毛利氏と対戦中，羽柴(はしば)(豊臣(とよとみ))秀吉(ひでよし)から救援の要請を受け，光秀らに出陣を命じ，みずからも救援することとして京都四条の本能寺に宿した。光秀は13,000の軍を率いて前線に向かう途中，6月1日早暁京都に道を転じて本能寺を急襲した。信長は防戦ののち寺に火を放って自殺し，子の信忠(のぶただ)も二条城で奮戦したが敗れて自殺した。京都を手中に収めた光秀は，迅速に近畿(きんき)地方の経営にとりかかったが，にわかに東上した秀吉と山崎で戦って敗れ，世に〈三日天下〉と称される。この事件で信長の天下統一事業は挫折(ざせつ)したが，以後秀吉がその地位を継承することとなった。なお，光秀が反乱を起こした理由については，一般に信長に対する宿怨(しゅくえん)とされているが，明確なことは明らかにされていない。→山崎の戦い〔高崎徳次〕

ポンパドゥール［Jeanne Antoinette Poisson, Marquise de Pompadour］(1721～1764) フランス王ルイ15世*の愛妾(あいしょう)。パリの生まれ。富裕な徴税請負人の子。1741年従兄の徴税請負人ルノルマン-ド-トゥールネムと結婚。1744年ごろルイ15世に知られ，〈フランスで最も魅力をそなえた女性〉の賛辞をうけ，1745年侯爵夫人の称号を受ける。以後20年間，〈王とフランスとヨーロッパ〉に君臨する。芸術家・文学者を保護したが，ショアズール宰相を支持して政治にも介入し，七年戦争*では王を説いて宿敵オーストリアと結んでプロイセン・イギリスと対抗した。〔喜多迅鷹〕



ポンプ
ポンプの種類

ボンバルド［bombarde］ 15～17世紀にかけて使われたダブル-リードの木管楽器。音はオーボエに似ているが，もっと荒荒しい響きをもつ。高音域から低音域のものまで各種あり，最も低いものは大型で，約3mの長さをもつ。そのそうぞうしい性格のために，トロンボーンやツィンク(コルネット)とも合奏された典型的なルネサンスの管楽器である。

ほんびゃくしょう【本百姓】 江戸時代，田畑・屋敷をもつ自作農で，領主に対して年貢*(ねんぐ)・夫役*(ぶやく)を負担する義務がある者。高請(たかうけ)・高持(たかもち)百姓ともいう。幕藩体制の経済的基盤をなすもので，耕作に必要な用水権・入会(いりあい)権などの百姓株や村政参与の権限を有し，名寄帳*に登録された。これに対して，小農民や無高の者を水呑(みずのみ)百姓*などといったが，彼らも新田開発・灌漑(かんがい)整備などに伴う生産力の発展にささえられてしだいに自立して新たに本百姓となり，五人組*制度・田畑永代売買禁止令*・分地制限令*・慶安御触書*(おふれがき)などによって，土地に束縛されて領主側の財政的基盤となった。しかし，中期以後には，商品経済の影響を受けて，本百姓の中には田畑をもたない水呑百姓に転落する者，土地を集積して寄生地主化する者などが現われ，さらに後期には百姓株の移動が激化し，村方騒動などが続発して村落秩序はくずれ，本百姓体制も維持されなくなっていった。〔岡山泰四〕

ぼんぶ【凡夫】 梵語(ぼんご)pṛthag-jana(プリタグ-ジャナ)の訳。愚かで凡庸な人の意。仏教を理解できないような愚かな人。仏教の修行の段階でいえば聖者(阿羅漢(あらかん))になる最初の段階にさえ至っていない人。また，いわゆる〈愚かもの〉をも意味し，中国・日本の高僧の中には，自己反省の告白の語となり，救われがたい自己の別称として表現している。〈罪悪生死の凡夫〉〈罪悪深重の凡夫〉というのはその代表例。

ポンプ［pump］ 圧力差に抗して水その他の液体を送出する機械。古くから種々の形式のものがある。現在最も一般に使用されているのは，うず巻きポンプおよび軸流ポンプであり，前者は高揚程に，後者は

大流量に適する。その中間として斜流ポンプがある。現在灌漑(かんがい)あるいは排水用に用いられる大形のポンプは，すべて以上の形式のものでターボ形ポンプとよばれる。特に高い圧力を得るには往復ポンプ，粘性のある油などの圧力を高めるには歯車ポンプ・ベーンポンプが適する。歯車ポンプやベーンポンプは回転ポンプとよばれ，往復形と合わせて容積形ポンプと総称する。特殊なものとしては井戸ポンプに使用されている比較的高揚程が得られる摩擦ポンプ，ジェット流を利用し低水位の液体をすい上げて高水位に上げるジェットポンプ，水撃すなわち流れている水の衝突による圧力上昇を利用した水撃ポンプ，空気泡(くうきほう)の上昇を利用して揚水する空気揚水ポンプなどがある。〔田島清灝〕

ポンプせん【ポンプ船】⇨浚渫船(しゅんせつせん)

ポンペ［Johannes Lydius Catherinus Pompe van Meerdervoort］(1829～1908) オランダの海軍軍医。現ベルギー領のブルージュの生まれ。1848年ユトレヒトの海軍軍医学校を卒業。1856年海軍二等軍医となり，翌1857年(安政４)ヤパン号で来日し，長崎に開設された第２次海軍伝習所の医官となった。長崎西役所で松本良順をはじめとする日本人学生に対し，動植物学・物理学などの基礎学科から解剖学・生理学・薬物学・臨床各科に関する講義を計画的に行なった。また人体解剖を実施し，1861年(文久１)に日本最初の洋式病院である長崎養生所(のちの精得館)を開設させた。これによって一般患者の診療にあたるとともに臨床講義をも行なうことができるようになった。多くの人材を養成し，長崎における西洋医学教育に関する彼の諸施策は，その後の各所の模範となった。1862年帰国し，1864年ハーグで開業。また国際赤十字事業にも参画した。著書に《日本における五年》など。〔大鳥蘭三郎〕

ボンベイ［Bombay］ インド西海岸中央部の港市で，マハラシュトラ州の州都。人口597万1,000(1972)。インド第１の大都市である。アラビア海岸沿いのボンベイ島に位置する良港で，インド西部への海上からの門戸である。もとは寒村であったが，1534年ポルトガルに領有され，次いで1661年イギリスに譲られた。1672年イギリスはインド経営の拠点を北方のスラトからここに移し，以来海岸の埋め立て，港の整備などによって近代的都市が建設された。現在インドの対外貿易の半ば近くはここで扱われ，また紡織工業の中心でもある。ほかに，機械・造船・食品加工・金属・化学薬品・ガラスなどの工業がある。在留外国人も多く，国際色の濃い都市である。名所に〈インドの門〉，パーシー教徒の〈鳥葬の塔〉，エレファンタ島の洞窟(どうくつ)寺院などがある。〔別技篤彦〕

ポンペイ［Pompei］ 古代ローマの都市。ナポリの東南，ベスビオ火山の麓(ふもと)にあったが，79年の大噴火で灰に埋まった。20,000の人口中，2,000人の死者が出たという。1738年はじめて発掘され，1860年以後に組織的に発掘されている。一瞬のうちに埋没したのでローマ時代の生活がそのまままうかがえる遺跡が多い。公共建築物が完備し，家具類，モザイク壁画，落書きなど，美術文化史上貴重なものがある。〔高山高雄〕

ポンペイウス［Gnaeus Pompeius Magnus］(BC106～BC48) 古代ローマ共和政末期の将軍・政治家。イタリア東部ピケヌム地方の大土地所有者で，父ストラボからその地方の政治的地盤を受け継ぎ，その地方から私費で３軍団を編成，スラが東方遠征から帰るとこれに協力，閥族派として政界に登場した。スラは妻の先夫の娘をポンペイウスに与えてこれを自派につなぎとめようとしたが，スラが倒した政敵マリウスの残党をシチリア・アフリカ・スペインに掃討，BC71年にはスパルタクスの奴隷反乱を根絶し，BC70年執政官となってからは民衆派の立場に移った。BC67年当時地中海を荒らしていた海賊掃討の指揮権を与えられ，３年の予定をわずか３か月で完了。翌年はミトリダテス追討の指揮権を与えられ，アルメニアからカフカス地方にまで攻め入り，ミトリダテスを自殺に追い込んだ。このとき，アルメニアをローマの属国とし，ポントゥスを属州とし，シリア王国も倒して属州とした。これらの東方遠征中の諸措置の元老院による批准と，退役兵への土地割当法案の成立をはかるため，カエサル・クラッススとの私的同盟(三頭政治)を結成した(BC60)。東方遠征中貞操を守れなかった妻ムキアを離婚，代わりにカエサルの娘ユリアと結婚。BC57年には５か年にわたるローマ市の食糧補給役となり，BC55年再び執政官，翌年から５か年スペイン総督の権限を与えられた。BC53年クラッススがパルチア遠征で戦死してから，三頭政治は事実上解体した。ガリア遠征で巨大な勢力に成長したカエサルを押えるために閥族派はポンペイウスを味方に引き入れ，BC52年，彼は３度執政官となった。BC49年ついに内戦となり，カエサルがガリアから帰るまえに，ポンペイウスはバルカン半島にのがれたが，追ってきたカエサル軍とファルサロスに戦って敗れてエジプトにのがれ，上陸前に刺客の手に倒れた。〔弓削　達〕

ほんぽじとう【本補地頭】⇨地頭

ボンボン［bon bon］ 洋風砂糖菓子の一種。外皮を砂糖で固め，中にくだもの・果汁(かじゅう)・ウイスキー・ブランデーなどを入れたもの。古くはドラジエといったが，18世紀の末に〈ボンボン〉という日本語の〈うまうま〉に相当する幼児語になった。わが国ではブランデーを砂糖で包んだものをいっているが，本来はもっと範囲が広い。

ほんむねづくり【本棟造り】 長野県南部に多く見られる民家形式。切妻屋根の妻を正面に向け(妻入り)，妻の部分には大きな破風(はふ)と，その頂部に〈すずめ踊り〉とよぶ装飾を載せる。この地方で，古く御館(おやかた)とよばれた地主層の大規模な家に限って営まれたつくりで，この地方特有の石置きの板葺(ぶ)き屋根であるため，一般の草葺き屋根よりも屋根勾配(こうばい)がゆるく，広い間口いっぱいにこのゆるい勾配の切妻屋根を大きくかけ渡した意匠は独特で，堂堂とした風格をもっている。〔渡辺保忠〕

ほんもく【本牧】 横浜市中区の南東地区。東京湾に突出する高さ30～40mの台地で，北部は千代崎川で限られ，南部の頭を切られた谷は西から一ノ谷・二ノ谷・三ノ谷とよばれる。三ノ谷には純日本式庭園の三溪園(さんけいえん)がある。南端の本牧岬(みさき)は海岸美にすぐれていたが，いまは北端の十二天鼻の本牧埠頭(ふとう)の建設に引き続き，西隣の磯子(いそご)区の根岸湾臨海工業地帯へ連なる埋め立て地が造成されていて，もとのおもかげはない。なお北部の小港や十二天地区は，横浜開港後外人の遊興地として栄えたところである。〔浅井得一〕

ほんもんじ【本門寺】 東京都大田区池上にある日蓮宗(にちれんしゅう)大本山。長栄山と号す。13世紀末に池上宗仲・宗長らが日蓮に帰依して創建し，本門寺と称した。のち日朗が鎌倉妙本寺とともに兼職し，堂宇を修理し大伽藍(がらん)とした。1608年(慶長13)徳川秀忠(ひでただ)が山門・五重塔を建立(こんりゅう)。のち再三焼けたが，加藤・前田ら諸大名の帰依，歴代将軍の外護を受け寺運が盛んであった。寺領百石。第24世日等以後は伏見宮家が住持となった。徳川吉宗(よしむね)の母深徳院の墓がある。〔杉坂靖子〕

ほんやくけん【翻訳権】 著作権に含まれる権利の一種で，著作物を外国語に翻訳する権利。現行著作権法27条は，〈著作者は，その著作物を翻訳し，編曲し，もしくは変形し，または脚色し，映画化し，その他翻案する権利を専有する〉と規定しているように，著作者以外の者が翻訳する場合は，著作権者の許諾または権利の譲渡を受けなければならない。旧著作権法では，翻訳権は著作物の初版発行後10年以内に翻訳発行されない場合には消滅するものとされ，10年以内に翻訳・発行されたものについてのみその保護期間を著作者死後38年と規定されていた。しかし，1971年(昭和46)１月１日施行の新法では，1970年末までの翻訳物には旧規定を適用し，1971年以降発行の著作物については，翻訳権の保護期間を一般の著作物と同じく50年と改正延長されることとなった。〔前納弘武〕

ま

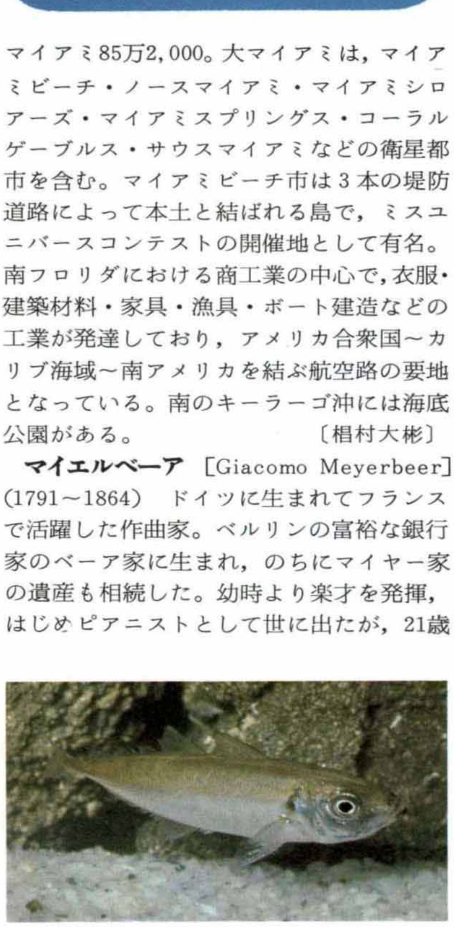
ま 【間】 日本音楽でリズムや時間の組織を示すのに広範に使われる。〈間が悪い〉というように，リズムの全体を示す場合，また〈間が伸びる〉というように，リズムグループの中での音と音との時間的間隔を示す場合，表間*・裏間*のように，拍子をもつ場合の拍の意味，早間のようにテンポを示す場合などがある。

まあじ 【真鰺】 硬骨魚類・アジ科。全長40cmに達する海産魚。単にアジともいい，また松江・神戸(こうべ)でオオアジ，四国東岸でゼンゴ，真鶴(まなづる)でジンダなどという。体は細長く側扁(そくへん)し，側線の全長に沿ってゼンゴとよばれる大きいかたいうろこ(楯鱗(じゅんりん))がある。背びれは2基で，第1背びれ8棘(きょく)，第2背びれ32～34軟条，臀(しり)びれは2離棘と28～30軟条。生時には，体の背部は暗緑色で腹側は銀色。北海道および朝鮮の北東部以南，広く暖海域に分布する。沿岸近くの中層にすみ，群をつくって大形のプランクトンを食べ，4～7月ごろ浮遊卵を産む。幼魚は流れ藻(も)の下などに多く，成長は早い。漁期は以前は夏であったが，近年は周年漁獲される。最も普通の総菜用の魚で，鮮魚は塩焼き・酢の物・から揚げ・干物にされるほか，たたきにする。 〔安田富士郎〕

まあなご 【真穴子】 硬骨魚類・アナゴ科。全長90cmに達する海産魚。東北・北陸・山陰地方ではハモというが，ハモというまったく別種の魚がいるので注意する必要がある。東京ではハカリメともいうが，これは側線部に見える白点の列がはかりの目盛りのように見えるためである。体は細長く棒状で，腹びれがないのが著しい特徴。北海道以南の日本各地および朝鮮に分布する。内湾の海藻(かいそう)の茂った砂泥底(さでいてい)に多く，昼は砂泥底の中や海藻の陰にじっとしているが，夜になると活動して小動物を貪食(どんしょく)する。冬季にはやや深所に移動する。すし・てんぷら種などに用いられる高級な食用魚。➔ハモ 〔安田富士郎〕

マイアミ ［Miami］ アメリカ合衆国フロリダ半島南東部，大西洋岸にある亜熱帯気候の保養都市。人口36万5,000(1975)，大マイアミ85万2,000。大マイアミは，マイアミビーチ・ノースマイアミ・マイアミシロアーズ・マイアミスプリングス・コーラルゲーブルス・サウスマイアミなどの衛星都市を含む。マイアミビーチ市は3本の堤防道路によって本土と結ばれる島で，ミスユニバースコンテストの開催地として有名。南フロリダにおける商工業の中心で，衣服・建築材料・家具・漁具・ボート建造などの工業が発達しており，アメリカ合衆国～カリブ海域～南アメリカを結ぶ航空路の要地となっている。南のキーラーゴ沖には海底公園がある。 〔相村大彬〕

マイエルベーア ［Giacomo Meyerbeer］(1791～1864) ドイツに生まれてフランスで活躍した作曲家。ベルリンの富裕な銀行家のベーア家に生まれ，のちにマイヤー家の遺産も相続した。幼時より楽才を発揮，はじめピアニストとして世に出たが，21歳からオペラ作曲家を志し，イタリアに行き，いくつかのオペラを発表したあとパリに進出，この地で1831年に発表した《鬼のロベール》で好評を得，以後《ユグノー教徒》《予言者》を上演，死の年に《アフリカの女》を書いた。フランスのグランド-オペラ*の代表的存在である。 〔向坂正久〕



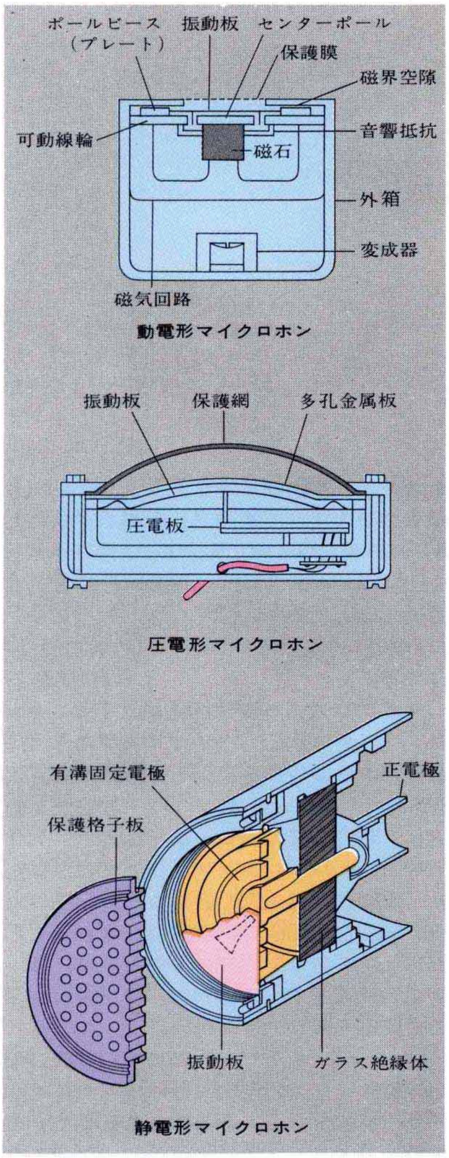
マ ア ジ

マイクロウエーブつうしん 【マイクロウエーブ通信】 マイクロウエーブのもつ直進性その他の特徴を応用した無線通信方式。800メガヘルツ～15ギガヘルツの電波を使用し，空中電波の送受にはパラボラアンテナや箱形のパスレングスアンテナなどを使う。周波数の幅を広く取れるため，一つの波で同時に数千人の電話通話が送れるとともにテレビジョン中継にも役だっている。また自然現象や人工雑音の影響が少ないので，安定良質な通信が可能。

マイクロウエーブが通信に使われたのは，1947年アメリカ合衆国のベル研究所がニューヨーク～ボストン間300kmで実験したのが最初。日本では1954年(昭和29)東京～大阪間に電話360回線とテレビジョン1システムを送る設備がはじめて開通し，市外通話やテレビジョンの電波を経済的に遠方に送ることができる方法であるため大いに発展し，1970年3月現在の総延長は19,000kmと，全国各都市をほぼ結んでいる。一つの波でより多くの電話回線を取る技術も発達



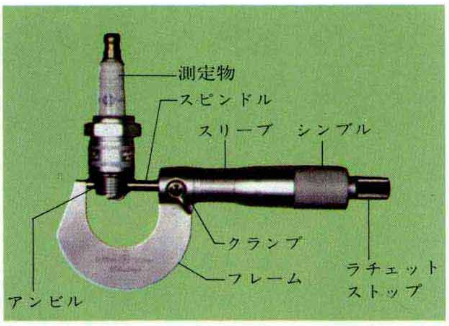
マイアミ 紺碧の大西洋に臨んで豪華なホテルの立ち並ぶマイアミビーチの砂州。背後の水路はインディアン-クリーク



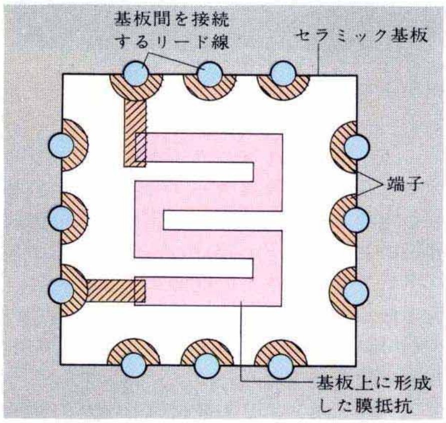
マイクロホン　構成図

し,現在では世界初の1,800通話送れる６ギガヘルツ回線も使われている。マイクロウエーブは光と同じ直進性をもつため，途中に障害物があればその先に送れない，電波を50km飛ばすと最初の強さの100万分の１～100億分の１にも弱まるなどの性質をもつため，長距離区間の通信には，相互に見通しのきく一定距離ごとの山頂・ビル屋上などに増幅中継のための中継局を設ける必要がある。現在この中継局は全国で520局をこえその３分の２は無人局となっている。なお，山岳回折や対流圏散乱の現象を応用した，見通し外地域へのマイクロウエーブ通信も実用化され，沖縄～本土間で用いられている。

さらに，より周波数の短い電波を通信に利用する研究も進められており，１ルートで電話約10万通話分取れるミリ波通信，あるいは１ルートで原理的に電話数百万通話分，テレビジョンなら数千チャネル分選べる光(レーザー*)通信などの実用化も遠くはない。〔滝　誠〕



マイクロメーター



マイクロモジュール　抵抗を取り付けた基板例

マイクロウエーブりょうほう 【マイクロウエーブ療法】 極超短波療法ともいう。高周波療法*の一種で，波長１m以下で１cm以上の電磁波を利用する治療法。普通は波長12.5cm付近のものを用いる。赤外線よりも波長は長いが，屈折・反射など光に近い性質をもち，赤外線と同様にその生理作用は温熱作用が中心で，10～20cmの距離から治療部位を照射する。人体内部への深達性は赤外線にまさるが，３～４cmでエネルギーの大部分が吸収される。温熱による循環改善・鎮痛・滲出(しんしゅつ)・吸収に用いられる。〔増田武弘〕

マイクロは 【マイクロ波】 ⇒電磁波

マイクロフィルム 〔microfilm〕 図書・文書・図面などの資料を10分の１～40分の１ぐらいに縮小して撮影したフィルム。資料の保管スペースの節約，散逸防止などを目的とする。幅は16mm・35mm・70mm・105mmなど各種あるが，ふつう35mm幅のものがよく用いられ，100フィートの長さで平均650こま，1,300ページが撮影できる。利用の際はマイクロフィルム-リーダーなどの光学的装置で拡大するか，またはフィルムから印画紙に焼き付けるかして読む。種類としてはフィルムをリールに巻いて１巻にした長尺のロールフィルム，25～30cmの長さにそろえて切ったストリップフィルム，透明なシート状のフィルムに数こまないし数十こまを並べて撮影したマイクロフィッシュ，カードの一定位置にあけられた窓わくに１こまずつフィルムをはりつけたアパーチュアーカードなどがある。〔北島武彦〕

マイクロホン 〔microphone〕 音波を電気信号に変換する電気音響変換装置のうちで，電話用送話器を除いたものの総称。音波を小さな振動板で受け，振動板の運動を電気信号に変換するもので，変換方式には動電形(ダイナミックマイクロホン)・静電形(コンデンサーマイクロホン)・圧電形(クリスタルマイクロホン)などが多く用いられている。音波の音圧に比例した電圧を発生するものを圧力形マイクロホン，音波の粒子速度に比例した電圧を発生するものを速度形マイクロホン(ベロシティーマイクロホン)とよぶ。圧力形マイクロホンは，高音域を除いて無指向性であり，速度形マイクロホンは正面方向と背面方向で感度が極大となるような双指向性であるが，これを組み合わせて正面方向だけに感度を有する単一指向性マイクロホンがつくられ，広く放送・録音用に使用されている。〔伊藤　毅〕

マイクロメーター 〔micrometer〕 長さの測定器の一。ピッチの正確なねじを利用して品物の外径・内径や厚さの寸法が精密に測定できる。アンビルと称する固定した測定面とスピンドルの先端の測定面の間に品物をはさむ。スピンドルの測定面の反対側につまみがついていて，これを回すとスピンドルと一体となった雄ねじが固定された雌ねじの中で回転し，スピンドルが送られるようになっている。ねじのピッチはふつう0.5mmであるから，スピンドルは１回転で0.5mm送られることになる。スピンドルとともに回る円形の目盛りが円周を50等分しているので，その１目盛りは0.01mmを表わすことになる。〔森田　鈞〕

マイクロモジュール 〔micromodule〕 1959年アメリカ合衆国のＲＣＡ社が発表した一種の微小化回路。まず，１辺が約８mm角の薄いセラミック板の周辺に，半円状の端子電極を等間隔に配置した基板を用い，この上にそれぞれ抵抗・コンデンサー・コイルあるいはダイオード・トランジスターなどを単独に取りつけ，適当な端子を選んで接続する。次に，それらを必要なだけ選んで積み重ね，端子間をリード線で連結したのち，樹脂でダイス状に固めて一つの機能をもった回路素子の形に組み上げたものである。マイクロモジュールは，必要なものをプリント配線板の上に並べて使用するが，外形寸法が規格化されているため，空間占有効率がよく，装置全体を小形化するのに有効であるばかりでなく，回路の信頼性を大きく向上させ，集積回路*開発の動機ともなった。〔伊藤糾次〕

まいげつしょう 【毎月抄】 藤原定家*(さだいえ)の歌論書。《定家卿(きょう)消息》《和歌庭訓(ていきん)》ともいう。奥書によれば，1219年(承久１)衣笠家良(きぬがさいえよし)に書き送った

ものということになるが，定家に仮託した偽書だとする説もあり，はっきりしない。内容は十体論，心と詞(ことば)の関係，本歌取りや題詠の方法，歌道について，稽古論(けいころん)などからなっており，きわめて組織的かつすぐれた内容をもつ。

マイケルソン［Albert Abraham Michelson］(1852〜1931) アメリカ合衆国の物理学者。ポーランドの生まれ。1854年に家族とともにアメリカ合衆国に移住した。海軍兵学校卒業後，ヨーロッパに留学，ベルリン・ハイデルベルク・パリの各大学で学んだ。1893年以降シカゴ大学教授。1881年精密な光干渉計(マイケルソン干渉計)を製作，さらに1887年E. W. モーリー(1838〜1923)とともに地球とエーテルの相対運動を実測した(マイケルソン-モーリーの実験*)。この結果はやがてアインシュタイン*の相対性理論の実験的基礎を与えた。このほか，カドミウム線を用いた標準メートルの測定，階段格子(こうし)の製作などを行ない，晩年は光速度の精密測定に従事した。1907年ノーベル物理学賞を受賞。〔藤村 淳〕

マイケルソン-モーリーのじっけん［マイケルソン-モーリーの実験］A. A. マイケルソン*とE. W. モーリー(1838〜1923)とが1887年にエーテル*の存在を実証しようとして行なった実験。当時，光はエーテルという未知の媒質中を伝わると考えられていた。彼らは地球がエーテルに対して運動していることを利用して，地球の運動方向に平行および垂直に進む光が鏡で反射されて帰ってくるまでの時間の差をはかれば，エーテルの存在を実証できると考えたが，その結果，時間差は認められず否定的結果となり，特殊相対性理論*を発展させる基礎となった。〔早川幸男〕

まいこ［舞妓］ 舞により酒興を添える小妓(しょうぎ)。舞妓の称は元禄(げんろく)(1688〜1703)以前からあり，はじめは踊りが専門で，涼み船や武家・町家へ呼ばれて芸を売ったが，明和・安永(1764〜1780)ごろから町芸者となり，表芸に歌・三味線(しゃみせん)を加えて今日の芸者に近づいた。現在舞妓の名は京都に残り，独特の妓品として存続したが，舞のほか鼓など下方もつとめ，衣装は赤襟(あかえり)，だらりの帯で裾(すそ)を引いている。11〜16歳の少女がたてまえだったが，玉代は一人まえの芸者と同額の点，他地方の〈おしゃく〉や〈半玉〉と違っている。1947年(昭和22)〈女子年少者労働基準規則〉ができ，18歳未満の少女は酒席接待を禁じられ，舞妓の年齢も上昇している。〔稲垣史生〕

まいこどり［舞子鳥］ 鳥類・マイコドリ科の総称。メキシコからパラグアイにかけての亜熱帯・熱帯の森林に約60種が生息する。大きなものでは全長15cmに達するが，大部分のものはもっと小さく，翼と尾が短くて丸っこいからだつきである。1種の例外を除き雌雄異色で，雄は美しい。繁殖期



舞　妓　赤えりのじゅばんに，帯をだらりに結び，着物のすそを引く風習がいまなお守られている　京都

にはニワシドリ*やフウチョウ*類のように，雄は特定の踊り場をもって踊る。声の届く程度離れて踊り合うものや，集団で踊るものもある。ここに雌をひきつけて交尾をする一夫多妻ないしは乱婚性。営巣・抱卵・育雛(いくすう)はすべて雌だけが行なう。雄の風切り羽には種類によっていろいろな変型がみられ，踊りの最中に枝をぽきっと折るような音や，旗を強く振ったときに出るような妙な音を出す。〔安部直哉〕

マイコプ［Maikop］ ソ連，カフカス山脈の北部地方，アジゲイ自治州の州都。人口12万7,000(1976)。クバン川の支流ベラヤ川沿いにあり，ソ連有数のマイコプ油田が市の南西方にある。醸造・かんづめ・たばこなどの工業が盛んである。1897年にBC3000年代の古い墳墓が発掘され，マイコプ文化とよばれている。

マイコプラスマ［mycoplasma］ PPLO(pleuropneumonia-like organism，牛肺疫群微生物の略)ともいう。180〜250 mμとウイルスと同程度の大きさの小さな細菌。牛肺疫ではじめて発見された。呼吸器官の病気をひき起こす。細菌濾過器(ろかき)を通過し，しばしば組織培養に混入して研究を乱す。

まいさか［舞阪(町)］ 静岡県浜名郡の町。人口11,000。浜名湖口東側にありウナギ・スッポン・カキ・ノリなどの養殖とクルマエビ・シラスの漁業が行なわれる。弁天島地区は浜名湖遊覧の基地として観光地となっている。国道1号線・東海道本線・同新幹線が通る。

マイスタージンガー［Meistersinger］15〜16世紀ドイツのハンザ同盟*都市を中心に活動した詩人兼音楽家。ミンネゼンガー*が多くは貴族であったのに対し，都市の市民，特に職人たちがその中心であった。彼らはその技能により，生徒(シューラー)，学友(シュールフロイント)，歌手(ジンガー)，詩人(ディヒター)，先生(マイスター)といった厳格な位階秩序によって分けられる。著名な人物としては，ワーグナーの《ニュルンベルクの名歌手*》に現われるハンス-ザックス，それにコンラート-ナハティガルらがいる。その音楽は，装飾音の多い単旋律であり，〈バイゼ〉という独特の旋律型をもつ。また形式的にはほとんどバール形式であり，作詩・作曲にはいろいろの手続き・規則をふまえなければならず，非常に衒学(げんがく)的な色彩の強いものであった。〔吉田泰輔〕

マイセンじき［マイセン磁器］ ヨーロッパにおける最初の磁器製作窯の製品。窯は，磁器の研究に没頭した化学者ボットゥガー(1682〜1719)により，1710年マイセンに王立製陶所として建設されたのが最初である。その後，ヘロルド・ケンドラーらの傑出した陶芸家の努力によってヨーロッパ最高の地位を築いた。作品は装飾器物・日用品ともに華麗・堅実な印象を与え，その声価は現在においてもその製作とともに続いている。

まいぞうぶつ［埋蔵物］ 土地その他の物の中に包蔵され，だれの所有に属するかわからない物をいう。埋蔵物を発見したときは，遺失物法に従って，公告後6か月以内に所有者が判明しなければ，発見者がその所有権*を取得する。ただし，他人の物の中で発見した場合には，発見者とその物の所有者とが折半して埋蔵物の所有権を取得することになる(民法241条)。また，埋蔵物が，歴史上または芸術上価値の高いものであるか，もしくは考古資料に供すべき文化財であるときは文化財保護法の適用があり，その発掘に制限があるほか，発見者および土地所有者はその物の価額に相当する報酬金を受け取り，その物の所有権は国庫に帰属することになる(文化財保護法57〜65条)。〔黒木三郎〕

まいぞうぶんかざい［埋蔵文化財］ 主として地下・水底などに埋蔵されている有形文化財*。考古学上の遺跡内部に攪乱(かくらん)されずにそのまま包含されている遺物の類がこれにあたる。また，住居址(じゅうきょし)のように土地に固着している施設も含めていう。代表的なものは貝塚*(かいづか)・古墳*・原始集落址などである。その保護行政としては，1871年(明治4)の太政官(だじょうかん)布告〈古器旧物保存方〉以来各種の法令が出されたが，1919年(大正8)〈史跡名勝天然記念物保存法〉によって，指定史跡の現状変更の禁止や史跡発見の措置が定められた。さらに1950年(昭和25)文化財保護法*の制定によって，正式に埋蔵文化財の名称が定められ，その保護と活用，帰属関係などについて一貫した規定が整備された。→文化財〔高崎徳次〕

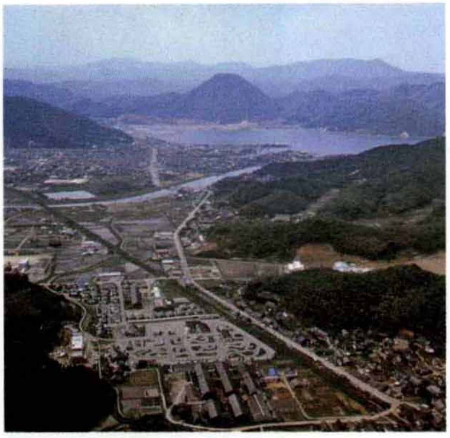
マイソール［Mysore］ インド南部，マイソール州の都市。人口35万6,000(1971)。州都バンガロールの南西約135kmにあり，かつてのマイソール王家の所在地で，イスラムふうの王宮がある。王宮にある象牙(ぞうげ)

と黄金でつくられた玉座は有名。現在はマイソール大学(1916年創立)などを中心とする文教都市となっている。香木細工・絹織物・象牙細工などが行なわれている。

マイソールせんそう　［マイソール戦争］ 1767〜1799年の間，南インドのマイソール王国とイギリス東インド会社の間に行なわれた4次にわたる戦争。マイソール王国の部将ハイダルらの反イギリス闘争は実を結ばず，かえって南インドのイギリス植民地化を決定的なものにした。

まいたけ　【舞茸】 担子菌類・サルノコシカケ科。秋季ナラの大木の根ぎわに群生するきのこ。多く枝分かれをした茎の上に，花びらのようなかさが重なって塊状となり，全体の直径は30cmぐらいになる。かさは扇状・へら状で薄く，表面は灰色で，下面は白色で小孔がある。美味な食用菌である。

まいづる　【舞鶴(市)】 京都府北部の市。人口98,000。西舞鶴は中世以降田辺(たなべ)とよばれた港町で，1578年(天正6)細川幽斎・忠興(ただおき)父子が城下町の基礎を固め，江戸時代には京極氏を経て牧野氏三万五千石の城下町であった。明治以後は舞鶴町となり，漁業基地として栄えた。東舞鶴は明治中期までは小農漁村にすぎなかったが，1901年(明治34)海軍の舞鶴鎮守府が設置されて以来，軍港として発展した。1938年(昭和13)両地区が舞鶴市・東舞鶴市として同時に市制を施行したが，1943年海軍の要請によって合併し，現市域を形成した。市名は舞鶴湾*が古来ツルが翼を広げて飛ぶ姿にたとえられることにちなむ。市域は若狭(わかさ)湾西部の支湾舞鶴湾岸から東部の広大な半島部にかけて広がり，南は綾部(あやべ)市，西は宮津市と接する。市街地は西舞鶴・東舞鶴にそれぞれ形成されるが，第2次世界大戦後はその間の中舞鶴にも新市街地が発達した。産業三大別人口比は12：33：55。商工業が盛んで，旧海軍施設を利用した造船所があり，そのほか織物・車両・化学・ガラスなどの近代工業が行なわれる。東舞鶴は戦後，大陸からの引き揚げ者・復員者でにぎわい，最近は港湾整備や臨海工業地帯の造成が進み，ナホトカとの定期航路も再開されて大陸貿易の発展が期待される。海洋気象台・海上自衛隊地方統監部が置かれている。西舞鶴は若狭湾周辺海域の漁業基地となり，イワシ・アジ・サバの水揚げが多い。小浜線・舞鶴線・宮津線が通じ，国道27号線(阪鶴(はんかく)道路)・175号線・177号線・178号線が集まり，北海道の小樽(おたる)との間にフェリーボートが就航する。近畿(きんき)自動車道舞鶴線の建設工事も進んでいる。細川幽斎が石田三成に攻められた舞鶴城跡や，西国三十三か所の札所の一つ真言宗醍醐(だいご)派の松尾寺などがあり，湾外北方の冠島に天然記念物指定のオオミズナギドリ繁殖地がある。〔浅井得一〕



舞 鶴 市　中舞鶴上空から西舞鶴の市街と舞鶴湾を望む。湾奥に港の埠頭が見える。直線状に小浜線が通り，白く国道27号線が港に向けて走る

まいづるわん　【舞鶴湾】 京都府舞鶴市の前面，若狭(わかさ)湾中西部の一湾。溺(おぼ)れ谷*のリアス式湾入で，大浦半島北西端の博奕岬(ばくちみさき)と対岸の金ケ崎との間を湾口とし，湾口から幅1kmほどの狭い水道を経て，中央の戸島を境に東湾と西湾とに分かれる。水深10〜20m。それぞれの湾首には東舞鶴・西舞鶴の港湾都市が発達する。若狭湾国定公園の一部。

マイトナー　［Lise Meitner］(1878〜1968) スウェーデンの女性物理学者。ウィーンの生まれ。ウィーン大学で物理学を学び，1926年ベルリン大学教授，カイザー＝ウィルヘルム研究所化学教授となる。O.ハーンのもとで放射能を研究し，1918年プロトアクチニウムを発見。1933年ナチスの圧迫を受けてデンマークのボーア*のもとにおもむき，さらにスウェーデンに移ってのち帰化した。1949年ストックホルム工業大学の教授。ハーンとシュトラスマンによる実験に対し，これがウラン・トリウムの核分裂であるとの説明を与えるなど，核物理学に重要な貢献をした。〔藤村　淳〕

マイトマイシン　［mitomycin］ 1955年秦藤樹(はたとうじゅ)らが発見した放線菌の産生する抗生物質で，抗菌性および抗癌(こうがん)性がある。その後この菌からさらに強力な抗癌性を示す物質が発見され，そのうち最も毒性が少なく，抗癌性のあるものがマイトマイシンCと命名された。本剤は既存の抗腫瘍(こうしゅよう)剤では治療効果の認められなかった胃癌・直腸癌などの消化器癌に対してもかなりの緩解率を示す。しかし，出血傾向・悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・発熱・白血球減少などの副作用が強い。〔川村次良〕

まいにちしんぶん　【毎日新聞】 日本の代表的全国紙の一つで，《朝日新聞》《読売新聞》とともに三大紙といわれる。〈あらゆる権力から独立し，左右に偏しない社論と報道とによって，自由にして民主的な社会の確立に寄与する〉という編集綱領をうたっている。1882年(明治15)2月創刊された《日本立憲政党新聞》が前身で，1885年《大阪日報》と改題。1887年大阪の財界人有志が買収して，翌年《大阪毎日新聞》と改題。その後，1903年第5代社長本山彦一*(ひこいち)の〈新聞は商品である〉という新聞商品主義の経営理念に基づいて一般大衆紙へと転換，急激な勢力拡大に成功した。1911年《朝日新聞》に対抗して東京進出をもくろみ，東京最古の《東京日日新聞》(1872年創刊)を合併して全国紙としての体制を確立，1915年(大正4)夕刊発行。1935年(昭和10)門司(もじ)(現在は北九州市・福岡県)・名古屋(愛知県)で印刷発行を開始し，大正から昭和にかけて《朝日新聞》と激しい争奪戦を展開した。第2次世界大戦中の1943年《毎日新聞》と題名を統一して今日に至っている。大阪・東京・西部(北九州市)・中部(名古屋市)の4本社のほか，北海道発行所(札幌(さっぽろ)市)を有する。発行部数朝刊約459万，夕刊約252万(1980)。〔前納弘武〕

まいにちマラソン　【毎日マラソン】 毎日新聞社主催のマラソンレース。1946年(昭和21)から毎年5月か6月に行なわれ，朝日マラソン*とともにわが国のマラソン大レースの一。はじめは毎日新聞大阪本社をスタートおよびゴールとするコースで行なわれてきたが，交通事情の悪化で，1964年オリンピック東京大会後，琵琶(びわ)湖畔コースに定着した。隔年に日本選手権を兼ね，またオリンピック代表選考会を兼ねて行なわれている。ほかに2月第1日曜日に行なわれる別府毎日マラソンがある。〔伊東春雄〕

マイネッケ　［Friedrich Meinecke］(1862〜1954) ドイツの歴史家。ブランデンブルクのザルツベーデルの生まれ。ベルリン大学に学ぶ。シュトラスブルク・ベルリン大学教授，第2次世界大戦後にはベルリン自由大学初代総長となる。三大作《世界市民主義と国民国家》(1908)，《近代史における国家理性の理念》(1924)，《歴史主義の成立》(2巻,1936)のほかに《国家と個性》(1933)，《歴史的感覚と歴史の意義》(1939)，《ドイツの悲劇》(1946)など多数。彼は歴史を直観により内的にとらえようとした。国家を権力と倫理との2面からながめ，権力としての国家を倫理的に高めようとした。歴史主義を個別化的思考としてその展開をあとづけた。〔兼岩正夫〕

マイノング　［Alexius Meinong］(1853〜1920) オーストリアの哲学者。レンベルクの生まれ。ウィーンでブレンターノ*に師事した。グラーツ大学教授。精神はつねになんらかの対象を志向するというブレンターノの説からヒントを得て，意識対象を非心理学的に対象一般として考察する対象論を創始した。また，認識論的・心理学的研究を行ない，〈アンナーメ(仮定)〉という独自の概念をつくったり，価値論の独特な研究をした。主著《アンナーメについて》《対象論と心理学的研究》《可能性と蓋然(がいぜん)性について》。〔仲村計美〕

まいばやし　**【舞囃子】**　能の略式演奏形態。一曲の眼目ともいうべき部分(主として後段で，シテの見せ所)のみを切り離して，数人の地謡と囃子とによって舞うこと。シテは面・装束をつけず，紋服・袴(はかま)だけで演じ，囃子方は正座のまま，曲譜は能のとおりに演奏する。室町時代にはすでに行なわれていたと思われる。略して単に囃子ともいう。

まいはら　**【米原(町)】**　滋賀県坂田郡の町。人口13,000。県中東部にあり，琵琶湖(びわこ)に臨む。1956年(昭和31)旧米原町と息郷(おきさと)・醒井(さめがい)両村とが合併して発足した。古くは中山道(なかせんどう)・東山道と大津・坂本(さかもと)を結ぶ港で，朝妻船で知られる朝妻港を中心とする港町として栄えた。東海道本線・同新幹線と北陸本線の分岐点で，国鉄の機関区が置かれ，国道8号線・21号線・名神高速道路も通る交通の要地である。醒井にはマスの養魚場があり，石灰岩が産出される。湖岸の磯(いそ)には1950年(昭和25)入江(いりえ)干拓地が完成した。

マイ-フェア-レディ　ミュージカルの曲名。バーナード-ショーの《ピグマリオン》に基づいて，アラン-ラーナーが台本・作詞を，フレデリック-ローが作曲を担当，1956年3月初演された。ロンドンの下町に住む花売り娘イライザを6か月間で貴婦人に仕立てあげられるかどうかで，言語学者ヒギンズ教授は友人とかけをし，このかけに勝って，彼女と結ばれるというストーリー。レックス-ハリスンとジュリー-アンドリュースの主演によって大ヒットし，1964年映画化もされた。

まいふくし　**【埋伏歯】**　歯がはえる時期を過ぎても，なお顎(あご)の骨の中にとどまって，口の中にはえてこない状態の歯をいう。本来はえるべき位置がすでに他の歯で占められていてはえる余地のない場合に起きるが，余地は十分でもなんらかの原因で歯が完成しても萌出(ほうしゅつ)しない場合もある。埋伏歯で最も多いのは下顎(かがく)の親知らず*で，次に犬歯である。そのほか，乳歯が早く抜けたり，逆におそくまで残っている場合に，その下からはえてくる永久歯に埋伏がみられることがある。また，歯が転位して異常な方向へ発育し，口の中にはえてこない場合もある。埋伏歯は，炎症の原因や歯並びを悪くしたり，神経を圧迫して神経痛・神経麻痺(まひ)・歯嚢(しのう)性歯嚢胞*の原因となったりするので，抜歯を必要とすることが多い。　〔成田令博〕

まいまい　⇨カタツムリ

まいまいが　**【舞々蛾】**　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ドクガ科。雄は体長17〜24mm，翅(はね)を広げた長さ45〜60mm。翅は黒色，かっ色，その中間型の3型があり，個体によっては翅の中央がやや淡色。雌は体長20〜40mm，翅を広げた長さ70〜93mm。翅はかっ色をおびた白色。成虫は年1回7〜8月に出現し，雄は昼間活発に飛ぶが雌は不活発で食樹の幹などに止まっていることが多い。卵塊は母ガの毛でおおわれ，そのまま越冬する。幼虫は4〜6月にみられ，口から糸を吐いてぶら下がるためブランコケムシとよばれる。雑食性でリンゴ・ナシ・モモ・ヤナギ・クヌギ・クリなど100余種を食べ，果樹や森林の大害虫として知られ，特に北海道から関西にかけて大発生をすることがある。若齢のうちは群集する。日本全土を含む旧北区に分布し，北アメリカやオーストラリアにも侵入している。〔多々内修〕



マイマイカブリ

まいまいかぶり　**【蝸牛被】**　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体長3〜6.5cm。頭部と前胸が細長く伸び，大顎(おおあご)は大きく，複眼は小さい。鞘翅は細長い卵形で，左右が完全に癒合(ゆごう)して開かず，翅端は長く伸長し，地方によって叉(さ)状を呈するものがある。後翅は退化し，完全に消失しているため飛べない。脚はよく発達して歩行に適する。幼虫・成虫ともカタツムリ類を好んで捕食し，成虫は頭胸部をカタツムリの殻(から)に突っ込み，口から消化液を出して肉をとかして飲む習性がある。ほかにミミズ類なども捕食する。1世代に2〜3年を要し，冬は幼虫態または成虫で越すが，幼虫は土中に，成虫は土中または朽ち木中にもぐり，ときに集団で越冬しているものもみられる。成虫は夜行性で，昼間は石や倒木の下などに潜む。日本特産種で，南千島から屋久島・種子島(たねがしま)に至る地域に限って分布する。飛ぶことができないため，地理的な障害によって隔離され，遺伝子の交流が妨げられて，体の大きさや各部の形状・色彩などに変化を生じた多数の地方集団が区別されている。それらは，以前はいくつかの種に分けられていたが，交配実験の結果から，変異は連続的で生殖的隔離もなく，すべてが同一種に属することが明らかとなり，現在では約10の亜種に分けられている。一般に南西日本に分布するものは大形で黒色が強く翅端が強く突出するが，北日本に分布するものは小形で背面が美しい色彩をもち，翅端の突出が弱い。

〔鈴木邦雄〕

マイモニデス　⇨イブン-マイムーン

マイヤー　［Julius Robert von Mayer］(1814〜1878)　ドイツの医師・物理学者。ハイブロンの生まれ。1840年東インド会社の船医としてジャワに向けて航海中，静脈血が普通より赤くなっていることに注目し，これを契機として帰国後，熱と運動の関係に深い考察を向け，《無生物界の力に関する考察》(1842)を書き，エネルギー保存の法則を提唱した。続いて1845年生物体内におけるエネルギー代謝を物理学と関連づけ，また天体のエネルギー源を論じた。しかしこれらの諸説は世に認められず，失意ののち精神異常で晩年を送った。　〔藤村　淳〕

マイヤー　［Conrad Ferdinand Meyer］(1825〜1898)　スイスの詩人・小説家。チューリヒの生まれ。はじめに法律家を志したが，細い神経と過剰な自意識のため悩みつづけ，40歳ごろからの文筆生活にはいるまで無為に過ごす。作家としてはプロイセン-フランス戦争の勝利に触発された《フッテン最後の日々》(1871)をはじめとして多くの作品を発表。イタリア-ルネサンスや宗教戦争を題材として物語を一人物に語らせる〈枠(わく)小説〉の形式を用いた歴史小説と，リルケ*の形象詩にも通ずる叙情詩にすぐれたものが多い。　〔関　徹雄〕

マイヤー　［Julius Lothar Meyer］(1830〜1895)　ドイツの物理学者・化学者。カールスルーエ工業大学教授などを経てチュービンゲン大学教授。1869年メンデレエフとは別に元素の周期律を発見し，翌年原子量と原子容との関係を曲線で示した。

マイヤー　［Victor Meyer］(1848〜1897)　ドイツの有機化学者。ブンゼン*・バイヤー*に学び，シュツットガルト・チューリヒ・ゲッチンゲン・ハイデルベルク各大学教授を歴任した。分子量の蒸気密度測定法の改良(ビクトル-マイヤー法)のほか，芳香族カルボン酸のエステル化反応における立体障害の研究，ケトオキシムの発見，高温でハロゲン分子が分解することの発見などがある。

マイヤー-フェルスター　［Wilhelm Meyer-Förster］(1862〜1934)　ドイツの小説家・劇作家。ハノーバーの生まれ。ライプチヒその他の大学で法律や美術史を学び，作家となる。戯曲《目に見えぬ鎖》《クリームヒルト》などがあるが，文名を高めたのは，自作の長編小説《カール-ハインリヒ》を戯曲化した《アルト-ハイデルベルク*》の上演によってである。

マイヨール　［Aristide Maillol］(1861〜1944)　フランスの彫刻家。はじめ画家を志してパリの美術学校に学び，タピスリーを制作した。ブールデルと交遊を結び，木彫やテラコッタなどを試み，ロダンの助力を得て本格的に彫刻家になったのは40歳ごろからである。ロダンの写実的作風に対し，古典的明晰(めいせき)な形態をもつ独自の豊醇(ほうじゅん)な世界を展開した。代表作としては，豊かな量感と生命力をもつ裸婦像《地中海》《イル-ド-フランス》《三人の美神》などがあげられるが，小彫刻にも多く

の佳品がある。　〔三木多聞〕

マイル　［mile］　ヤード-ポンド法の距離の単位。1,760ヤードに相当し，1609.344mにあたる。記号mile

まいるか　**［真海豚］**　哺乳（ほにゅう）類・クジラ目・イルカ科。全長2mほどで，くちばしが細長い。背は濃青色，腹は白色で，その境に黄土・灰色の部分がある。大西洋・太平洋・インド洋などに広く分布する。泳ぐ速度は速く，ニシン・イワシなどの群遊魚やイカなどを食べる。

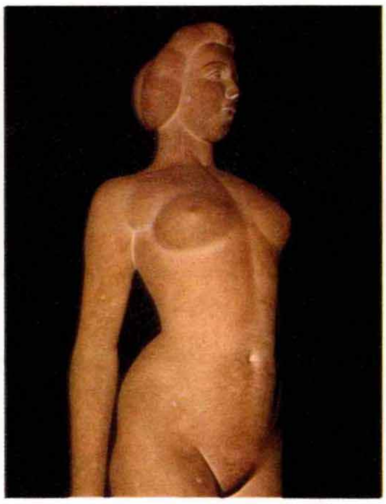
マイルレース　［mile race］　陸上競技の競走種目のうち，マイル単位の距離で行なわれるレース。イギリスを中心に，アメリカ・オーストラリア・ニュージーランドなど，旧イギリス植民地やアングロサクソン民族のいる地域では，メートル制でなく，マイル制の中・長距離レースが盛んに行なわれていて，おもな種目に，1・2・3・6・10マイルなどがある。1968年第19回オリンピックメキシコ大会後，マイル制をやめ，すべてメートル制にする動きもあるが，特に現在では室内競技会として1・2マイルは棒高飛びとともに人気種目となっている。　〔伊東春雄〕

まいわし　**［真鰯］**　硬骨魚類・ニシン科。全長20cmほどの海産魚。一般にイワシ・ユワシ，東北地方でナナツボシ，関東地方でマイワシ・ヒラ，瀬戸内海・高知でヒラデという。体は細長くやや側扁（そくへん）する。背びれ15～19軟条，臀（しり）びれ16～20軟条で，腹部に弱い稜鱗（りょうりん）がある。体側に1～2列の黒点があり，ときにはその上下に1列ずつの黒点がある。1935年（昭和10）ごろには日本周辺で年間200万tの生産があった重要魚種であったが，近年その漁獲量は激減している。群をなして海の表面近くにすみ，日本周辺からカムチャツカまで分布している。産卵期は1～2月が盛期で，南西日本が主産卵場である。塩焼きとして喜ばれるが，かんづめなどにして輸出する。　〔安田富士郎〕

マイン（川）　⇨ライン川

マインツ　［Mainz］　ドイツ連邦共和国（西ドイツ）中部，ライン川とマイン川の合流点にある港市。人口18万4,000（1975）。ライン地方のぶどう酒の集散地で知られ，化学・皮革・印刷工業が盛ん。1450年グーテンベルク*はこの地で印刷術を発明したとされ，かつての王侯の宮殿跡がいまはその博物館となっている。またドイツのロマネスク建築を代表するマインツ聖堂をはじめ多くの教会がある。ラインラント-ファルツ州の主都。　〔梶川勇作〕

マウイ（島）　［Maui］　アメリカ合衆国，ハワイ州の島。ハワイ諸島第2の大島でハワイ島の北西に位置する。面積1,886km²。中心都市は，北岸にあるワイルワ。大火口をもつハレアカラ火山（3,056m）があり，サトウキビ・パイナップルを産する。



マイヨール《イル-ド-フランス》1910



マイワシ



マインツ　大司教座の所在地であるマインツには著名な教会が多い。教会の青いドームが噴水と芝生に調和して美しい

マウナケア（山）　［Mauna Kea］　アメリカ合衆国ハワイ州，ハワイ島の北部にある死火山。標高4,205m。ハワイ諸島中の最高峰であるとともに，島にある山としても世界の最高。楯状（たてじょう）火山でゆるやかな傾斜をもつが，火口は不明瞭（ふめいりょう）である。冬季には山頂部に積雪をみる。

マウナロア（山）　［Mauna Loa］　アメリカ合衆国ハワイ州，ハワイ島の南部にある活火山。標高4,171m。北にマウナケア山，東にキラウェア山が連なる。巨大な山容で知られ，中央火口は現在は活動していないが，斜面にはいくつかの火口がある。1832年以降約20回もの大噴火を記録している。楯状（たてじょう）火山。

マウマウだん　**［マウマウ団］**　ケニア共和国の独立前，原住民キクユ族過激分子が組織したテロ団体で，1952年ごろから数年間その闘争は続いた。マウマウの反乱の根本的原因は，白人入植者の不法不当な土地収奪にあることは明確で，キクユ族の住地であった最も肥沃（ひよく）な土地40,000km²をホワイト-ハイランド（白人入植者専用高地）とし，キクユ族120万のうち75万は5,000km²の原住民指定地域に押し込められ，30万はホワイト-ハイランドで白人農園の小作農となり，他は都市へ流入した。イギリスはテロや焼き打ちに対して，1952年非常事態を宣言，3年間に1億5,200万ポンドの巨費を投じて徹底的な武力弾圧を行なった。死傷者・逮捕者を合わせると40,000人余，他に60,000人が隔離された。一方，白人民間人の死者はわずか30名であった。ケニヤッタ*以下の独立運動の指導者が逮捕投獄されたのもこのときである。1960年にようやく非常事態解除。イギリスもこれ以後，ケニアにおけるアフリカ人の政治参加のわくをしだいに広げざるをえなくなった。　〔喜多迅鷹〕

マウリアおうちょう　**［マウリア王朝］**　古代インド最初の統一国家（BC321ごろ～BC184）。BC326年のアレクサンドロス大王*のインド侵入は，インド内部に統一の気運を呼び起こし，チャンドラグプタ*が四方諸国を征服してマウリア王朝を完成した。首都はパータリプトラ（現在のパトナ）。第3代アショカ王*は熱心な仏教信奉者で，仏教精神を明らかにした石柱・石刻を各地に建立（こんりゅう）した。アショカ王のあとマウリア朝は広い領域の統制力を失って，紀元前2世紀初めに滅んだ。　〔小谷仲男〕

まえうた　**［前歌］**　日本伝統音楽の楽式用語。後歌（あとうた）に対応する。特に地歌・箏曲（そうきょく）の中の手事物とよばれる純器楽を部分的に含むレパートリーでは，和歌などを歌詞に使った前歌が手事*に先行する。ふつうおそいテンポで歌われる。

まえおび　**［前帯］**　女帯の結び方の一種で，帯を前に結ぶもの。江戸前期ごろから庶民の既婚婦人の間に始まり，江戸末期まで広く流行し，江戸後期にこの名がつけられた。しかし，近世初期から帯幅がしだいに広くなって，結び目が前では作業しにくいことと，装飾的に大きく結ぶには後ろのほうが適することから，やがてすたれた。他方，遊女は抱（かか）え帯*を前に結ぶとともに，たけの長い幅広の帯を前帯に締める風習があり，関西では横に長く締め，関東（江戸）では縦に長くたらす結び方であった。➔帯（図）　〔堀越すみ〕

まえかわさみお　**［前川佐美雄］**　（1903～　）　歌人。奈良県の生まれ。東洋大学東洋文学科卒業。はじめ佐佐木信綱*（のぶつな）の門にはいり，《心の花》編集に従事。プロレタリア短歌運動が起こるや，新興歌人連盟などの結成に参加したが，まもなく芸術派へ転進して，《日本歌人》を創刊・主宰した。幻想的ロマンチシズムの強い歌風で，歌集

に《植物祭》《白鳳(はくほう)》《大和(やまと)》などがある。

まえくづけ 【前句付】 雑俳種目。本来は連歌・俳諧(はいかい)の練習の一方法として，点者が前句(普通は14音，7・7にあたる)を出題し，これに17音の長句をつけるもの。17世紀半ばごろから独立の文芸となり，一般大衆の間に流行した。前句はしだいに単純化し，付句だけでまとまったおもしろさを追求するようになって，やがて川柳を独立させた。

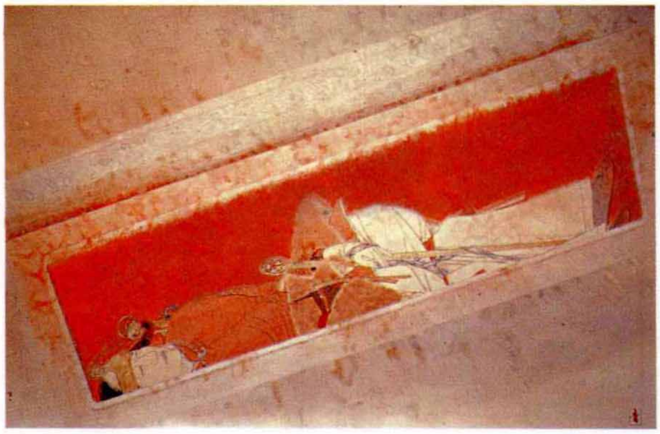
まえじまひそか 【前島密】 (1835～1919) 近代郵便制度の創設者。新潟高田藩士の家に生まれる。1870年(明治3)太政官(だじょうかん)に郵便制度開設を建議し，欧米の制度視察に出発。翌年帰国して駅逓頭となり，横浜・神戸(こうべ)・長崎・函館(はこだて)・新潟に郵便役所を設置，1873年官民競業を廃し，官営の全国均一料金制による近代的郵便制を確立した。1877年駅逓局長，1878年元老院議官，1880年内務省駅逓総監になった。1882年立憲改進党創立に参加し，1884年離党。1887年東京専門学校校長，1888年逓信次官。のち実業界にはいった。〔安達利夫〕

まえだえうん 【前田慧雲】 (1855～1930) 浄土真宗本願寺派の学僧。三重県の人。大賀旭川(きょくせん)などについて漢文学を修めてから，本願寺派の西山教校にはいって仏典を学び，のち真宗学および天台学を修めた。1900年(明治33)に東京帝国大学文学部講師，1906年東洋大学学長に任ぜられたが，1922年(大正11)には龍谷(りゅうこく)大学学長に転じて，同派子弟の教育と宗門の学事に貢献した。主著《大乗仏教史論》《天台宗綱要》。〔山折哲雄〕

まえだかんじ 【前田寛治】 (1896～1930) 洋画家。鳥取県の生まれ。東京美術学校卒業後，1922年(大正11)から1925年にかけて滞仏。帰国して同志と一九三〇年協会を創立した。のち前田写実研究所を興し，1929年(昭和4)帝国美術院賞受賞，審査員に推され，帝展のホープとして期待されたが，夭折(ようせつ)した。

まえだこうひろいちろう 【前田河広一郎】 (1888～1957) 小説家。宮城県仙台(せんだい)市の生まれ。宮城県立第一中学校を中退，徳富蘆花(ろか)に師事。1907年(明治40)アメリカへ渡り英文の作品を発表。1920年(大正9)帰国後，《中外》誌編集に従事するとともに《種蒔(ま)く人》《文芸戦線》同人となり，《三等船室》などで認められた。初期プロレタリア文学の代表作家であり，アメリカ生活に取材した長編《大暴風雨時代》のほか，長編《支那(しな)》，評論《十年間》《蘆花伝》などがある。〔小林敬子〕

まえだしょざん 【前田曙山】 (1871～1941) 小説家。本名次郎。東京の生まれ。はじめ風刺的な《にごり水》《千枚張》などを書いて硯友社(けんゆうしゃ)系の作家として活躍。のち大衆小説に転じ，《燃ゆる渦巻(うずまき)》《落花の舞》などで人気を博した。


前田青邨《石棺》1962 東京国立近代美術館蔵


前田利家

まえだせいそん 【前田青邨】 (1885～1978) 日本画家。岐阜県の生まれ。梶田(かじた)半古に学び，初期院展・文展・紅児会で活躍し，1914年(大正3)再興院展に参加して同人に推された。1922年，小林古径とともに日本美術院の留学生としてヨーロッパに渡る。歴史画を得意とするが，静物・風景・肖像にもひいで，洗練された技巧をもってなる。帝室技芸員を経て，1937年(昭和12)帝国芸術院会員となり，1951年東京芸術大学教授となった。1955年文化勲章を受章。〔匠　秀夫〕

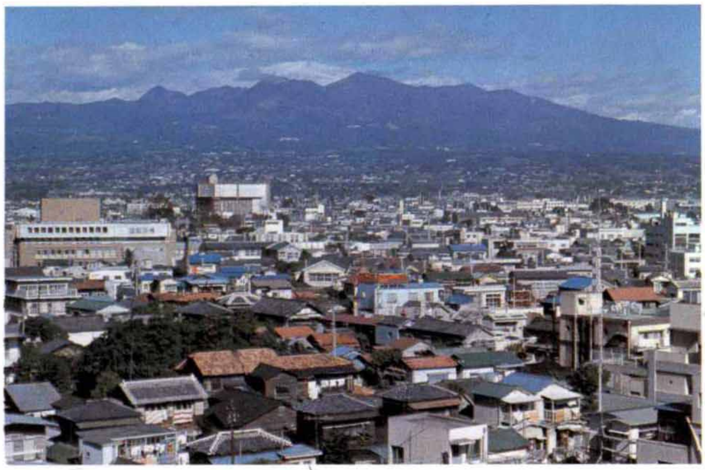
まえだつなのり 【前田綱紀】 (1643～1724) 加賀藩の5代藩主。光高(みつたか)の子。母は水戸頼房(みとよりふさ)の娘。初名綱利(つなとし)。顧軒・松雲などと号した。1645年(正保2)父の急死により3歳で家督を継ぎ，会津藩主保科正之(ほしなまさゆき)(妻の父)の後見のもとに藩政を整備した。治世76年に及び，3代将軍家光の時代より8代将軍吉宗(よしむね)の時代にわたった。産業の振興，凶年の対策から，困窮した藩士の救済，非人小屋の建造など民政にも尽くし，加賀藩中興の英主と称された。また学問を好み，大学頭(だいがくのかみ)林鳳岡(ほうこう)・室鳩巣(きゅうそう)と親交があり，木下順庵(じゅんあん)を招いて和漢古典の蒐集(しゅうしゅう)・保存・編集を行ない，尊経閣文庫の基を築いた。《庶物類纂(るいさん)》《歴代叢書(そうしょ)》などが綱紀の保護により編纂され，平安末期から鎌倉・室町時代にかけての東寺領荘園(しょうえん)に関する約40,000通に及ぶ古文書《東寺百合文書》の保存にも尽力した。〔岡山泰四〕

まえだとしいえ 【前田利家】 (1538～1599) 安土桃山時代の武将。加賀藩主前田氏の祖。幼名犬千代。羽柴筑前守(はしばちくぜんのかみ)・加賀大納言などと称した。尾張(おわり)(愛知県)荒子(あらこ)の生まれ。織田信長(のぶなが)に仕え，1560年(永禄3)桶狭間(おけはざま)の戦い，1570年(元亀1)姉川の戦い，1575年(天正3)長篠(ながしの)の戦いなどで戦功を立て，越前(えちぜん)(福井県)府中(現在の武生(たけふ)市)三万余石を与えられ，佐々成政(さっさなりまさ)・不破光治(ふわみつはる)とともに府中三人衆といわれた。1581年能登(のと)(石川県)一国を領して七尾城に住し，1583年賤ヶ岳(しずがたけ)の戦いには柴田勝家の与力として出陣したが，途中で豊臣秀吉(とよとみひでよし)の軍に下り，ともに勝家を攻めた。戦後，加賀(石川県)2郡を加増されて金沢城に住し，1585年には佐々成政を破り，北陸を平定して秀吉から羽柴筑前守の称を与えられた。秀吉の晩年には五大老のひとりとして徳川家康(いえやす)に次ぐ実力をもち，秀吉の死後はその遺言で秀頼(ひでより)の後見となり，家康との対立の調整にあたった。〔岡山泰四〕

まえだふら 【前田普羅】 (1888～1954) 俳人。本名忠吉。東京の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科中退。報知新聞社に入り，長く記者として活躍。高浜虚子門下生として大正初期の俳壇で注目された。のち《辛夷(こぶし)》を主宰。自然描写にすぐれ，特に裏日本の山水を愛し，気迫のこもった句をよんだ。句集に《普羅句集》《春寒浅間山》《飛驒紬(ひだつむぎ)》など。

まえだゆうぐれ 【前田夕暮】 (1883～1951) 歌人。本名洋造。神奈川県の生まれ。中郡中学を神経衰弱のため中退し，のち上京して尾上柴舟(おのえさいしゅう)門下となる。歌誌《向日葵(ひぐるま)》を発行するとともに，1910年(明治43)処女歌集《収穫》を発表，自然主義歌人として注目された。翌年《詩歌》を創刊。一時口語自由律短歌に転じたが，再び定型に復帰。歌集に《生くる日に》《原生林》《水源地帯》など。

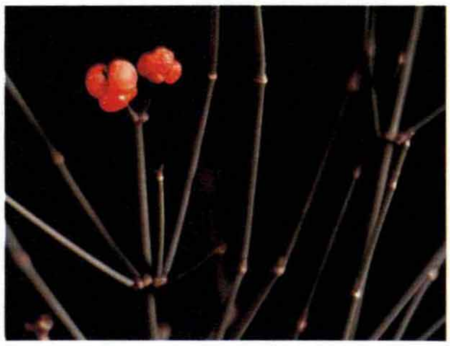
まえのりょうたく 【前野良沢】 (1723～1803) 江戸中期の蘭学者(らんがくしゃ)・医学



前橋市　赤城山と前橋市街。市中からは，赤城・榛名・妙義・浅間など，上信越国境の名山が望まれる

者。本姓谷口。名は熹(よみす)，字(あざな)は子悦，号は蘭化・楽山。良沢は通称。中津藩の医官前野東元の養子となる。伯父(おじ)宮田全沢の感化を強く受け，他人のあまり行なわないことを進んで行なう習癖を身につけたという。オランダ語の学習，一節切(ひとよぎり)(尺八の一種)・猿若(さるわか)狂言の習得などはこの性行の現われと考えられる。1769年(明和6)オランダ語研究を志して青木昆陽*(こんよう)に師事，翌年長崎でオランダ通詞からオランダ語を学ぶ。1771年江戸千住(せんじゅ)小塚原(こづかっぱら)で行なわれた死刑囚の腑分(ふわけ)に杉田(すぎた)玄白*・中川淳庵(じゅんあん)とともに立ち会い大きな感動を受ける。これが機縁となって《解体新書*》の訳述事業が始まり，オランダ語を解する唯一の人としてその指導的役割を果たした。その後もオランダ語学研究の第一人者としてひたすら蘭書の訳述に努め，《管蠡(かんれい)秘言》《字学小成》《和蘭訳筌(オランダやくせん)》《魯西亜(ロシア)大統略記》《和蘭築城書》ほか多くの翻訳書などを著わした。高山彦九郎*(ひこくろう)と親交があった。〔大島蘭三郎〕

まえばし　**【前橋(市)】**　群馬県の中南部，県庁のある市。人口26万4,000。古くは廐橋(うまやばし)とよばれた東山道の宿駅で，江戸時代には酒井氏十五万石の城下町として栄え，松平氏十七万石がそのあとを継いだが，利根(とね)川の水害のため1767年(明和4)以後川越に移り，城は廃されたが，1863年(文久3)に修築してまたもどった。当時から生糸・繭などの交易が盛んで，1870年(明治3)日本最初の機械製糸工場が設けられて以来，上州の養蚕地帯と良質の地下水を背景に〈糸の町〉として発展した。1892年市制施行。市域は関東平野の北西縁に位置し，北東部は赤城(あかぎ)火山の南西斜面にまたがり，西縁を利根川，市街地をその分流広瀬川が貫流する。産業三大別人口比は12：30：58。繊維・食料品・家具・輸送用機器・電気機器などの諸工業が発達し，利根川西岸には工業団地が設置されている。北部に群馬用水が引かれ，周辺部は小麦の産地，酪農地帯として知られる。両毛線・上越線・私鉄上毛鉄道が集まり，国道17号線・50号線が通じ，バス網が四通八達する。将来は上越新幹線・関越自動車道が通じる予定である。首都圏整備地域に含まれ，群馬大学教育学部・医学部，市立工業短期大学などの文教施設をもち，旧城跡の前橋公園や，県立スポーツセンター・県営総合運動場・児童遊園地・敷島公園があり，赤城山の観光基地となる。駅南東の前方後円墳の二子山古墳は史跡として名高い。特産は家具・木工製品・こけしなど。詩人萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)の生地である。〔浅井得一〕



マオウ　同属のフタマタマオウ

まえはたひでこ　**【前畑秀子】**　(1914～　)　水泳選手。現姓兵藤。和歌山県出身。1932年(昭和7)オリンピック-ロサンゼルス大会で200m平泳ぎ2位，1936年ベルリン大会で200m平泳ぎに優勝し，日本女性で初の金メダルを獲得した。そのとき，河西三省アナウンサーの実況放送〈前畑がんばれ〉で一躍全国的に有名になった。

まえばらいっせい　**【前原一誠】**　(1834～1876)　政治家。長州藩の出身。吉田(よしだ)松陰の弟子(でし)。長崎で洋式戦術を習得。松陰の死後には明治維新の達成に尽くし，1869年(明治2)越後(えちご)府知事・参議となり，大村益次郎*(ますじろう)暗殺後兵部大輔(ひょうぶたゆう)となったが，1870年兵制改革で指導部と意見合わず下野。1876年萩(はぎ)の不平士族を率い萩の乱*を起こし，敗れて斬首(ざんしゅ)された。

まえばる　**【前原(町)】**　福岡県糸島郡の町。福岡市西郊に位置する。1955年(昭和30)隣接3村を合併して発足した。中心の前原地区は江戸時代には宿場町・市場町として発達したが，現在は筑肥(ちくひ)線・国道202号線で福岡市と結ばれ，同市への通勤者が多い。周辺部では野菜種子・ミカンなどの農産やノリ養殖が盛ん。なお，怡土(いと)城跡・平原古墳・志登支(しとし)石墓群(ドルメン)・雷山神籠(こうご)など遺跡が多い。人口41,000。

まえびき　**【前弾き】**　日本伝統音楽の楽式用語。楽器による前奏のことで，主として三味線(しゃみせん)・箏(そう)によるジャンルでこの用語が使われるが，義太夫(ぎだゆう)では前弾きとはいわず，また琵琶(びわ)などでは別の名称がある。小唄(こうた)では反復形式のときに後弾(あとび)きを前弾きに兼用することがあり，これは送り*とよばれる。

まおう　**【麻黄】**　裸子植物・マオウ科。中国北部からモンゴルに広く分布する常緑小低木。日本では薬草園に栽培される。根茎は木質で直径2～3cm，長さ50～70cm，赤黄色で，これからトクサに似た高さ30～70cmの地上茎を出す。葉は退化して鱗片(りんぺん)状になって対生する。雌雄異株で，6～7月に枝先に2個ずつ卵形の花序をつける。雄花には2～4本のおしべ，雌花には2個の裸の胚珠(はいしゅ)があり，花被状の包葉に包まれている点が他の裸子植物と異なる。全草を乾燥させたものは局方生薬の麻黄で，エフェドリン*を主成分としたアルカロイドを含み，気管支喘息(ぜんそく)などに用いられる塩酸エフェドリンの原料とされ，また漢方では発汗・解熱薬として麻黄湯・小青龍湯(しょうせいりゅうとう)などに配合される。〔加藤僖重〕

まおか　**【真岡】**　⇨ホルムスク

まおらん　**【麻緒蘭】**　単子葉植物・ユリ科。ニュージーランド原産の常緑多年草。ニュージーランドアサ・ニュウサイラン(新西蘭)ともいう。沼沢地に自生し，繊維植物としてマオリ族*が古くから利用した。日本には明治初年に渡来し，観賞用として庭園に栽植されている。葉は多数根生し，2列に並んで扇状に広がる。長さ1～2.5m，幅5～10cmの長剣状で先は鋭くとがり，暗緑色。ときに葉縁に赤・橙色(とうしょく)の条線のはいるものがある。夏に葉叢(ようそう)から，2～3mの筒形で平滑な花茎を伸ばし，複総状花序に暗赤黄色の花をつける。

マオリぞく　**【マオリ族】**　ニュージーランド原住民。ポリネシア人の伝承に基づいて再構成すると，原住民は数回にわたって東部ポリネシアから渡来したもので，14世紀半ばに大規模な移住があった。形質的・文化的にはポリネシア系に属し，南部は採集狩猟，北部はタロイモ・サツマイモなどの原始農耕を営む。北部マオリ族では木彫りなどの工芸にすぐれ，また集会所の壮麗さは著名である。男子は顔面に精巧な入れ

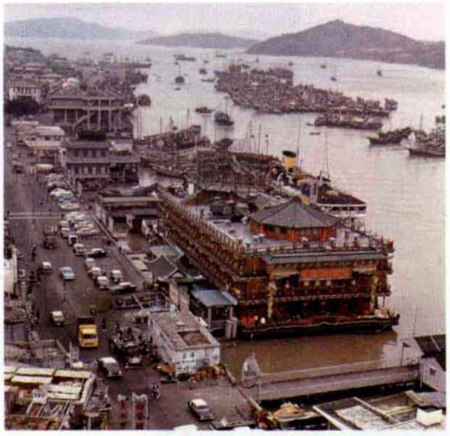
墨を施す。〔牛島　巌〕

マカオ【澳門】中国，広東(カントン)省南部，珠江の河口西南端にある小半島と付近の2島からなる地域。ポルトガル領。ポルトガル政府の任命する総督が統治している。面積16km²。人口27万(1972年推)。地名は港の近くにある媽祖廟(まそびょう)に由来するといわれる。わが国では江戸時代に天川・阿媽(あま)港などとよんでいた。1557年，ポルトガル人が倭寇(わこう)を鎮定した功によって居住権を得，1887年総督殺害を理由に永久管理権を獲得した。16世紀後半以降，ポルトガルの東アジアにおける貿易基地として，金・生糸・絹織物・銀などの取引を盛んに行なったが，後背地を欠き，港もしだいに浅くなったため，その繁栄は香港(ホンコン)に奪われ，いまではマッチ・線香など小規模な家内工業と漁業にたよっており，産業はふるわない。しかし，聖パウロ寺院や要塞(ようさい)・カモンイス公園・孫文居住館などの史跡・名勝に恵まれ，観光地・避暑地として，東方の香港とともに有名になっている。住民のほとんどは中国人である。〔船越昭生〕

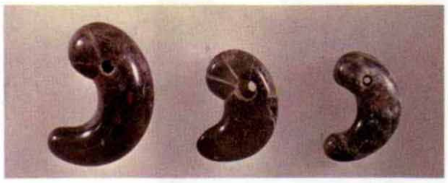
まがきへいくろう【曲垣平九郎】江戸初期の馬術家。讃岐(さぬき)(香川県)高松の城主生駒(いこま)高俊の家来。名は盛澄。1634年(寛永11)正月晦日(みそか)，将軍徳川家光(いえみつ)が増上寺参詣(さんけい)の帰途，馬上で愛宕(あたご)山下を通りかかったとき，騎乗したままで山上の梅花を手折って来る者を求めたのに応じ，平九郎は愛馬にむち打ち86段の石段を一気に駆けのぼり，みごと梅の一枝を得て帰り賞賛を博した。生駒家が廃絶するや，一時浪人したこともあるが，のち尾張侯に仕えたという。なお，愛宕山の壮挙は将軍秀忠(ひでただ)のときともいい，定説がない。〔稲垣史生〕

まかしかん【摩訶止観】中国，隋(ずい)代の仏書。20巻。天台三大部の一。594年荊州(けいしゅう)玉泉寺で智顗(ちぎ)が講述し，灌頂(かんじょう)が筆録したもの。独自の宗教体験と実践とによって貫かれており，自己の一心のうちに，すべてがまどかに具するという円頓(えんどん)止観を説くため，具体的な実践を総論的立場(五略)と別論的立場(十広)とから説いており，天台教学の奥旨をきわめたものとして今日なお重視されている。注釈書に湛然(たんねん)の《止観輔行(ぶぎょう)》などがある。〔京戸慈光〕

マガダおうこく【マガダ王国】インド古代都市国家の一。マガダとは現在のビハール州南部の古代地域名。ブッダの生存時代，国王ビンビサーラはラージャグリハ(王舎城)に都を置き，仏教の有力な保護者であった。紀元前4～5世紀ごろからナンダ朝がマガダを支配したが，やがてその部将のチャンドラグプタが同王朝を滅ぼして，みずからマガダ国王となり，マウリア王朝を創始し，近隣諸国を征服して，ついにマガダ王国による最初のインド統一を成し遂げた。〔小谷仲男〕



マ カ オ　マカオの海岸通り。中央は水上に浮かぶレストラン，カジノ-ド-マカオ。狭い海峡を隔てた対岸は中国



勾　　玉　硬玉製　東京国立博物館蔵

まがたま【勾玉】古代日本の装飾用玉類。曲玉とも書く。C字形に湾曲し，頭に穴をあけた長さ1～5cmの形状をもち，おもに硬玉製。縄文(じょうもん)時代のものは形が不規則で，特に石器時代勾玉とよばれる。弥生(やよい)時代には形も整い，頭部に3～4条の線が刻まれたJ字頭勾玉が出現した。古墳時代には特に多く見られ，前期末から碧玉(へきぎょく)製のもの，後期から瑪瑙(めのう)・水晶製でコの字形の勾玉が一般化し，また大形で周囲に勾玉状の突起をつけた祭祀(さいし)用の子持勾玉など特殊な形状のものも現われた。勾玉の発生については，動物の歯牙(しが)に由来するとする獣牙起源説が一般的であるが，月神信仰の象徴であるとする説も有力である。

マカダム［John Loudon McAdam］(1756～1836) イギリスの土木技術者。スコットランドに地主の子として生まれ，私財を投じて道路建設に従事。砕石による舗装法〈マカダム舗装〉を発明し，1816年ブリストルの道路建設監督となりこれを実施。これにより道路維持費の減少が立証され，さらに政府の道路監督長官としてイギリスの道路交通網を一新した。

マカッサル［Makassar］インドネシア，セレベス島南西端にある港市。人口43万5,000(1971)。セレベス島第1の都市で，整備された良港をもち，島で産する米・コプラ・コーヒー・ゴム・香料などの輸出港であるとともに，ジャワ島・スマトラ島・ボルネオ島・小スンダ列島・モルッカ諸島の物資も集散する，インドネシア屈指の商業都市でもある。また，スラバヤ(ジャワ島)・バリクパパン(ボルネオ島)との間には海底電線・定期航空路があり，インドネシアの通信・交通上の要地ともなっている。住民の大部分はマカッサル族で，マライ諸島の海洋民族として知られ，ヨーロッパ人・華僑(かきょう)も多い。1668年オランダ人によって築城されたのが起源。〔別技篤彦〕

マカッサルぞく【マカッサル族】インドネシア，セレベス島のマカッサル半島西海岸一帯に居住する新マライ系の民族。ブキ族と酷似している。古くから帆船でセレベス島付近，ボルネオ島東岸，ジャワ島・スマトラ島にかけて商業活動に従事してきた。土侯・貴族・平民に分かれ，〈神器共同体〉ともいうべき地縁集団を形成する。

まかべ【真壁(町)】茨城県中央部に位置する真壁郡の町。人口21,000。北東に裏筑波(うらつくば)とよばれる加波山(709m)があり，登山者が多い。農業地帯にあるが，古くからカコウ岩の採掘で知られる。カコウ岩は石質がかたく石燈籠(いしどうろう)・石碑・墓石用に適しており，外国へも輸出されている。また清酒の醸造も盛ん。南部の旧紫尾(しいお)村では土管や植木ばちを主とする紫尾焼の産がある。関東鉄道筑波線に沿う。

マカーム［màqām］アラビア系古典芸術音楽の理論用語。音階・音進行・リズム・テンポなどの諸要因に従って規制する旋律法ないしは旋律型を意味する。エジプト・トルコなどではマカームとよばれるが，アゼルバイジャンではムガーム，ウズベク(ウズベキスタン)ではシャシュマコーム，イラン(ペルシア)ではダストガーハという名称が使われる。いずれも一定のわく内での即興的旋律演奏のための指針であるという点で，インドのラーガと類似しており，固定旋律型をもつ点で，部分的にラーガ，およびインドネシア(ガムラン音楽)のパテットの概念と比較することができる。マカームは，もともとは撥弦(はつげん)楽器ウードの左手の指使いを図象的に整理したことから理論化されるようになったといわれ，ラーガやパテットと同様に，情動・時間・季節・色彩などと結びつけられて，旋律型応用の場が伝統的に規定されている。〔山口　修〕

まがも【真鴨】鳥類・ガンカモ科。各地に普通に見られる淡水ガモ。アヒルの原種で，俗に青首といわれる。雄は顔・頸部(けいぶ)が金属光沢のある濃緑色で，他の部分はだいたいかっ色。雌は全体にかっ色。北海道・本州の水辺で繁殖するほか，秋季には大陸から多数が渡来する。➔カモ

マカリオス［Makarios］(1913～77) キプロス共和国初代大統領，ギリシア正教大主教。キプロス島の生まれ。アテネ大学神学部卒業後，アメリカに留学。1948年帰島して主教となり，1950年大主教となる。キプロスのギリシア併合運動を指導し，19

56年イギリスによってセイシェル島へ追放され，翌年に釈放され，1959年キプロス独立協定成立に伴い帰島，1960年8月独立とともにキプロス共和国初代大統領に就任し，1968年再選された。ギリシア系島民から〈民族の父〉と慕われている。　〔折井一彦〕

マーガリン　［margarine］　精製した動植物油およびそれらからつくった硬化油を混合し，これに水や発酵乳を加えて乳化し，練り合わせた脂肪性食品。油脂は，最近では大豆油・やし油・綿実油*などの植物性油脂が多く用いられる。19世紀後期にバターの代用品として考案されたもので，製造過程において製品の流れが真珠(ギリシア語でマーガライト)のように輝くことから名づけられたといわれる。わが国では1887年(明治20)にはじめて輸入され，1908年に国産品が誕生した。その当時から第2次世界大戦直後までの製品は，硬化油のにおいが悪く，かたさもバターのようでなく，品質も悪かった。しかし現在では製造技術も進歩し，ビタミンA・Dなどの強化も行なわれ，口あたり・風味・栄養ともにバターに近いものがつくられる。また季節・用途によって，口中でとける温度などを加減できる点で，バターよりもすぐれている。近年純植物性のものや低温でも伸びのよいソフトタイプもつくられ，代用品でなく独立した食品として，需要が増加している。〔佐藤友太郎〕

マカルー(山)　［Makalu］　ネパール北東部，ヒマラヤ山脈のエベレスト山群にある高峰。標高8,475m。エベレストの南東約25kmに位置し，山容の美しいことで知られる。1955年フランスのアルパインクラブ探検隊によって初登頂がなされた。このとき8,000m級峰としては他に例のない全員登頂という快挙であった。

マーガレット　［marguerite］　双子葉植物・キク科。モクシュンギクともいう。カナリア諸島原産の多年草で，庭などに栽培され，切り花としてもよく用いられる。全草無毛。茎は高さ50～100cmでよく分岐し基部は木化する。葉は淡緑色で羽状に分裂する。春から夏に枝の先に直径3～6cmの頭状花を1個ずつつけ，舌状花は白色，筒状花は黄色。変種には，舌状花も黄色のキバナマーガレットや八重咲きのものなどがある。

マカレンコ　［Anton-Semyonovich-Makarenko］　(1888～1939)　ソ連の教育者・作家。1905年に教師となったが，1914年師範学校に入学，1917年に卒業した。その後1920年から3年間ゴーリキー-コローニャで未成年法律違反者の教育に従った。1928年以降には主として文学活動を行なったが，ゴーリキーの影響を受け，数多くの教育的著作が多い。マカレンコの教育的信念は〈教育学は最も弁証法的・可動的な，複雑・多様な科学である〉という彼のことばに尽くされているが，児童の集団形成の



マーガレット



キバナマーガレット

マーガレット

法則を明らかにした点においても功績は大きい。

マカロニ　［macaroni］　小麦粉を原料とする押し出し麺(めん)の代表的なもの。イタリアが発祥地で，イタリアを中心に栽培されるデュラム小麦を原料とし，小麦粉に温湯を加え，これに高圧真空プレスで圧力をかけて麺線として押し出し，乾燥してつくる。近年は硬質小麦を用いることが多い。広義のマカロニ類には多くの種類があり，中空の細い管状をした狭義のマカロニ，棒状のスパゲッティ*，それより細い棒状のバーミセリ，卵類を含むヌードルがある。このほか，プレスに取り付ける型金を変えることにより，リボン状・星状・貝殻(かいがら)状(シェル)・文字形(アルファベット)など種々のものがつくられる。料理にはふつうゆでてから使い，グラタン・サラダ・コロッケやスープの浮き実に用いる。

〔佐藤友太郎〕

まがん　**［真雁］**　鳥類・ガンカモ科。日本に渡来するガン類中最も多いもので，ユーラシア大陸・北アメリカ大陸の北部で繁殖する。全長70cm前後で，くちばしは桃色，額は白色，脚は橙(とう)色，体は全体に灰かっ色である。大きな声で，〈グァン，グァン〉と鳴き合い，かぎ形の編隊を組んで飛ぶ。➔ガン

マーカンティリズム　⇨重商主義

まき　**［槇］**　⇨イヌマキ

マキ　［Maquis］　第2次世界大戦中，ドイツ占領下のフランス山間地帯(中部フランスあるいはアルプス付近)でレジスタンス活動を行なった抗戦団体。本来〈マキ〉とはコルシカ島の低木地帯のことで，それから法をのがれてマキに住むお尋ね者を意味した。マキは根強い抗戦を続けたが，特に1942年ドイツへの労働徴用を忌避した青年が大量に参加し，各派の者が協力して，1943年以後の解放戦の主役を演じる〈フランス国内軍(FFI)〉の母体となった。

〔喜多迅鷹〕

まき　**［牧］**　牛馬を放し飼いする土地のこと。大化改新(645)以前のことはわからないが，律令(りつりょう)時代には牧についての制度も整えられ，軍団用のウマの増殖と育成が図られた。軍団制の衰退とともに牧の制度にも変化を生じ，《延喜式》の制では勅旨牧(御料馬)・官牧(軍馬・役牛)・近都牧(馬寮のウマ)の3種があり，それぞれ役割を異にしたが，律令制の崩壊とともにしだいに放牧化・荘園(しょうえん)化が進んだ。一方，武家政権による独自の牧が成立したが，その詳細は明らかでない。江戸時代には8代将軍徳川吉宗(よしむね)が下総(しもうさ)(千葉県)の小金・佐倉(三里塚(さんりづか)御料牧場の前身)に牧を設けたほか，南部藩の馬の牧，松江藩の牛の牧なども著名であった。　〔黛　弘道〕

まき　**［巻(町)］**　新潟県西蒲原(にしかんばら)郡の町。人口29,000。町域は鎧潟(よろいがた)干拓地から角田山(482m)にかけて広がり，1955年(昭和30)巻町を中心に周辺6か村が合併して発足。越後(えちご)線が通じ，西蒲原穀倉地帯の中心をなす。海岸部はかつて毒消し行商の出身地として知られたが，いまは蔬菜(そさい)栽培が盛ん。

マギ　［Magi］　古代ペルシアの祭司者。ギリシア語でマゴスという。最も古い記録として，カンビュセス2世*のとき，マギのガウマータが王位を奪おうとしたといわれる。マギは学問，特に神学に詳しく，のちには占星術や魔術にすぐれたカルデア(バビロニア)の僧侶(そうりょ)たちと同一視された。《新約聖書》の〈マタイの福音書〉に記されている，イエス誕生の際にベツレヘムを訪れた東方の3博士もマギである。

まきあげき　**［巻き上げ機］**　⇨ウインチ

マキアベリ　［Niccolò di Bernardo dei Machiavelli］　(1469～1527)　イタリアの政治思想家。フィレンツェの生まれ。ロレンツォ-メディチの極盛期，フランス軍侵入によるメディチ家追放と共和政の復活，サボナローラの神政政治とその処刑などを経験したのち，1498年ソデリーニを首班とする共和政府に書記官として参画し，以後14年間行政・外交の面で活躍した。その間イタリア国内のみならず，フランス・ドイツ大使として活躍し，ボルジア*にも会っている。1512年メディチ家の復活により辞職し，晩年は思索と著作に専念し，《君主論*》《ローマ史論》《フィレンツェ史》など

を書いた。彼は主著《君主論》の中で，目的達成のためには手段を選ばぬ権力政治を主張しているが，これは当時分裂混乱の中で列強の侵攻に苦しむイタリアを救おうとする愛国者としての発言であり，また政治論を神学・道徳から解放して現実に立脚させようとするルネサンス精神の現われであった。〔大野慎一郎〕

まきあみ 【巻き網】 魚群を網で取り巻き，網の囲みを縮小させて捕獲する方式の漁具。主として表層付近を遊泳する魚群を対象とするが，魚群探知機で魚を捜したり，集魚燈や餌料(じりょう)を用いて魚を集めたりして，それを囲い込む場合もある。網具の形状は一般に長方形で，袋網のある有嚢(ゆうのう)類(縫い切り網・タイ縛り網など)と袋網のない無嚢類(揚繰(あぐ)り網・巾着(きんちゃく)網)とがある。沿岸海域でアジ・サバ・イワシなどを多獲している網具の多くは，巾着網・揚繰り網・縫い切り網である。このうち，揚繰り網と巾着網とは広く全国的に操業され，両者の操業方法は近年ではほとんど差がなくなったが，前者はわが国で発達し，後者は明治初期(1880年代)に日本に移入されたものである。〔石野　誠〕

まきありつね 【槇有恒】 (1894～　) 登山家。宮城県出身。慶応義塾(ぎじゅく)大学卒業。1914年(大正3)日本山岳会に入会し，1921年にヨーロッパアルプスのアイガー山(3,973 m)の東山稜(さんりょう)を初登攀(とうはん)。1925年カナディアンロッキーのアルバータ山(3,619 m)に初登頂。1944(昭和19)～1946年，1951～1955年には日本山岳会会長をつとめ，1956年ネパール-ヒマラヤのマナスル山(8,125 m)日本登山隊長として初登頂に成功した。同年文化功労者に選ばれた。著書に《山行》《マナスル登頂記》などがある。

まきえ 【蒔絵】 ⇨次ページ

まきがい 【巻き貝】 ⇨貝　⇨腹足類

まきかえしせいさく 【巻き返し政策】 アメリカ合衆国，アイゼンハワー政権の対共産圏外交。1952年大統領選挙の際，共和党外交政策顧問ダレスがトルーマン政権の〈封じ込め政策〉を批判して，冷戦の主導権の奪取，武力攻撃以外の心理的・経済的手段によるソ連陣営への反撃を主張したことに由来する。ダレスは1953年アイゼンハワーの国務長官に就任，東ヨーロッパ諸国のソ連からの〈解放〉，核兵器の大量戦略使用による〈大量報復〉の〈ニュー-ルック政策〉，危機をつくり相手を和解させる〈せとぎわ政策〉など新しいことばを使い，〈巻き返し〉を実現するかにみえた。しかし，既存の共産地区を〈解放〉し，ソ連の勢力圏を後退せしめた例はない。〔折井一彦〕

まきかけでんどう 【巻き掛け伝動】 伝動装置の一。原動車と従動車の間に，柔軟な材料でつくった媒介節を環状にして巻きつけて回転を伝える。軸間距離が比較的大きい場合に用いられ，ベルト伝動・チェーン伝動・ロープ伝動などがある。



牧野虎雄《向日葵》1929　ブリヂストン美術館蔵

まきさしあみ 【巻き刺し網】 刺し網で魚群を包囲するか，逃路を遮断(しゃだん)しておき，水面を棒でたたくなどして魚群を威嚇して網目に刺して捕獲する漁具。小規模な漁業で，九州・瀬戸内海地方のたたき網や各地で見られる追い込み網・狩り刺し網などがこれに属する。いずれも沿岸の浅い水域，河川などで使用され，コノシロ・ボラ・イナダなどを対象とする。

マキシム ［Sir Hiram Stevens Maxim］ (1840～1916) イギリスの発明家。アメリカに生まれ，はじめ電気技術者として活躍し，1881年のパリ万国博覧会では電圧調整機の出品で名誉勲章を得た。イギリスに帰化して，軍事技術に転じ，1883年に有名なマキシム機関銃を発明。このほか，1889年に火薬〈マキシマイト〉を発明し，さらに飛行機も手がけたが成功するには至らなかった。

まきぞの 【牧園(町)】 鹿児島県始良(あいら)郡の町。人口12,000。町域は霧島火山の西半分を占め，肥薩(ひさつ)線が通り霧島西口駅がある。霧島屋久国立公園に含まれる林田・丸尾などの温泉がある。

まきのしょうぞう 【牧野省三】 (1878～1929) 映画製作者・監督。京都に生まれ，千本座の座主となり，のち日活の前身横田商会にはいり，撮影所長などをつとめた。1925年(大正14)マキノ-プロダクションを創立。近代的映画技術を積極的に取り入れ，またスピード感のある剣戟(けんげき)などによって，今日の時代劇映画の手法を確立した。また脚本家の寿々喜多呂九平(すすきだろくへい)，俳優の尾上(おのえ)松之助・阪東(ばんどう)妻三郎・片岡千恵蔵・嵐(あらし)寛寿郎，監督の衣笠(きぬがさ)貞之助ら多くの映画人を養成した。〔波多野哲朗〕

まきのしんいち 【牧野信一】 (1896～1936) 小説家。神奈川県小田原の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。《爪(つめ)》《熱海(あたみ)へ》で認められ，《父を売る子》など，自己や父母の身辺を自虐的ともいえる独特のユーモアで描写した自然主義的な私小説を発表。プロレタリア文学の勃興(ぼっこう)とともに沈黙したが，《村のストア派》《ゼーロン》など田園叙事詩的騎士物語に転進した。やがて神経衰弱の昂進(こうしん)によって沈鬱(ちんうつ)な作風に向かい，自殺した。晩年の作に《淡雪》《裸虫抄》がある。〔小泉浩一郎〕

まきのとみたろう 【牧野富太郎】 (1862～1957) 植物分類学者。高知県の生まれ。小学校を中退後，独学で植物学の研究を始めた。1881年(明治14)上京し，やがて帝国大学理科大学(現東京大学)に出入りし，1893年から1939年(昭和14)まで助手・講師をつとめたが，在野の研究者としての基本的姿勢を一生貫いた。各地に植物採集をして，数多くの新種を記載し，特に日本産タケ類の研究は有名である。専門的研究のほか《大日本植物誌》(1900～1911)から《日本植物図鑑》(1925)に至るまで多くの著書があり，植物の知識の普及にも大いに貢献した。1951年第1回文化功労者として表彰され，また1957年没後に文化勲章を受けた。〔中村禎里〕

まきのとらお 【牧野虎雄】 (1890～1946) 洋画家。新潟県の生まれ。東京美術学校を卒業して官展に活躍，1922年(大正11)帝展審査員となる。槐樹社(かいじゅしゃ)，旺玄社(おうげんしゃ)結成の中心となり，現在の多摩美術大学の創立にも尽力した。明るい彩色で日本画ふうの独自の様式をつくった。

まきののぶあき 【牧野伸顕】 (1861～1949) 政治家。鹿児島の生まれ。大久保利通(としみち)の子。牧野吉之丞(きちのじょう)の養子となる。1871年(明治4)アメリカに留学。1880年外務省にはいり，1906年第1次西園寺(さいおんじ)内閣の文相，1909年枢密顧問官をつとめた。1911年第2次西園寺内閣の農商務相，1913年(大正2)山本内閣の外相などを経て1919年パリ講和会議全権。1921年宮内相，1925年内府となり10年間在任。天皇制官僚の保守穏健派を代表し，二・二六事件で狙撃(そげき)された。吉田(よしだ)茂は女婿。〔安達利夫〕

まきのはらだいち 【牧ノ原台地】 静岡県中南部，大井川下流南岸に広がる低い丘陵地。金谷付近が標高約300 mで最も高く，南東に向かって低くなり，駿河(するが)湾岸で100 m以下になる。侵食谷が発達し，谷底は水田になっているが，斜面や台地上には茶畑が広がる。

まきはた 【牧畑】 日本の原始的な農法の一つで，律令(りつりょう)時代に諸国に置かれた牧から農牧混同の耕作形態に変化したもので，ヨーロッパの三圃(さんぽ)農法に似ている。日本では4圃に分け，それぞれの

→97ページ

蒔　　絵

漆工芸*の加飾法の一つである。漆で文様・地塗りを施し，かわかないうちに金属粉(金・銀・スズなど)や色粉(朱・黄・緑など)を毛棒あるいは筒で蒔きつけ，粉を付着させて絵柄などを表わしたものである。〈蒔画(まきえ)〉とも書かれ，平安時代の文献には〈こがねしてまかせ〉などと表現されている。なお，蒔絵が施されている対象は実に多種多様である。たとえば，建築(中尊寺金色堂の内陣装飾)をはじめ，宗教用具(経箱・厨子(ずし)・須弥壇(しゅみだん)など)，家具調度・化粧道具・文房具・飲食器などの生活用具，遊戯具・楽器・茶道具・香道具・喫煙具・装身具などの趣味用具，刀鞘(かたなさや)・弓・矢・鞍(くら)などの戦闘用具，近世になってからの大名の乗り物や女乗り物などにまで及んでいる。

【技法】蒔絵の技法には，以下のように基本的な3種がある。①平蒔絵は技術的には最も簡単な方法で，しかも蒔絵全般に通ずる基本的なものである。工程は，紙に図を描いて，これを漆器面に転写し，その上を絵漆で描き，かわかないうちに粉を蒔きつけ，かわいてから文様の部分だけ漆をつけてみがく。粉を蒔きつけたままでみがかないものを蒔放しという。桃山期に行なわれた高台寺蒔絵*は，この蒔放し法を基調としている。江戸中期以降には，平蒔絵独特の効果を生かした表現は行なわれなくなった。②研出(とぎだし)蒔絵は，粉を蒔きつけて乾燥させ，漆を塗って木炭で研ぎ出す技法である。工程は，研立て・置目(おきめ)・地描(が)き・粉蒔き・粉固め・塗込み・荒研ぎ・仕上げ研ぎ・胴擦(ず)り・みがきの順序である。この技法は最も早くから行なわれ，平安時代に全盛した。正倉院の《金銀鈿装唐大刀(でんそうからたち)》の鞘に施されている末金鏤(まつきんる)はこれと同技法である。③高蒔絵は適当な高さに文様を肉取りし，その上に蒔絵を施したものである。高低が表わされ，豪華な感じが強調されている。工程は，一例ではあるが，置目をし，下蒔きによってだいたいの肉取りをして摺漆(すりうるし)と下蒔研ぎをし，高蒔絵漆で描く。これを高上げというが，このあと乾燥してから木炭で高研ぎし，摺漆をし，平蒔絵と同様に地描き・粉蒔き・粉固め・粉研出・摺漆をして仕上げる。肉上げの材料によって，炭粉上高蒔絵・錫上(すずあげ)高蒔絵・錆上(さびあげ)高蒔絵・漆上高蒔絵などの呼称がある。この技法が行なわれたのは鎌倉時代後期からで，遺品には三島大社の《梅蒔絵手箱》(国宝)の表面に表わされた梅花・樹幹・雁(がん)・水鳥などがある。このほかに，応用技法としてあげられるものに，付描き・描割・浴(あび)せ蒔・蒔ぼかし・木地蒔絵・研切(とぎきり)蒔絵・針描などがある。また，文様以外の空間に蒔く地蒔には，塵蒔(ちりまき)・平塵(へいじん)(塵地)・沃懸地(いかけじ)・平目地・梨地(なしじ)などがある。さらに，蒔絵に併用される技法としては，螺鈿(らでん)・平文・切金(截金)(きりかね)・埋物(うめもの)などがある。

【歴史】奈良時代あるいはそれ以前には，各種の漆工芸の技法が行なわれていたとされているが，蒔絵に該当する技法は見あたらない。わずかに正倉院の〈末金鏤大刀〉の技法が蒔絵を知る手がかりとなるのではないかといわれている。これには二説があって，一つは金の鑢粉(やすりふん)を漆に混ぜて描く練描(ねりがき)説，他の一つは文様を描いて鑢粉を蒔き，その上に漆を塗って研ぎ出したとする説である。他に，法隆寺献納宝物中の利矢(とがりや)五本に黒漆を塗って，金の鑢粉を蒔きつけた例がある。平安時代には，蒔絵に関する記録や作例が断片的に見られる。これらは9世紀半ばぐらいから現われ，10世紀にはその製作もかなり進んでいたとみられる。この時代は，様式的には前後期二つの様式が看取されるが，前期はごくあらい鑢粉を用い，平塵に金銀の研出蒔絵で文様を表わし，器形や文様には奈良時代に伝えられた唐風の趣が残る。遺品には，《花蝶(ちょう)蒔絵挟軾(きょうしょく)》《蓮唐草(はすからくさ)蒔絵経箱》(いずれも国宝)などがある。後期は唐風の影響から脱して，いわゆる純日本ふうが見られる。文様には自然景が取り上げられ，絵画的表現が行なわれ，金銀の研出蒔絵に青金や蒔ぼかしも用いられ，螺鈿も併用されている。形もふくよかで，あくまでも優美な情趣の世界が表わされている。遺品には《流水蝶鳥蒔絵箏(しょう)》《沢千鳥蒔絵小唐櫃(こからびつ)》(いずれも国宝)などがある。鎌倉時代には，前代の叙情性は身をひそめてしまった。武家の時代は現実主義を追う時代であった。様式的特徴をあげれば，①文様は表現が写実的で，構成がきわめて知的，②蒔絵における3種の基本的技法の完成，③器形に緊張感・量感が現われたことなどである。代表的作品には《沃懸地籬菊(まがきにきく)螺鈿硯箱(すずりばこ)》《蝶牡丹(ぼたん)蒔絵螺鈿手箱》《梅蒔絵手箱》(いずれも国宝)などがある。室町時代は東山文化の時代である。武家の支配下にはあったが，京都に幕府を置いたことで，貴族的な性格が強いものであった。蒔絵の技法においても，前代の完成のあとを受けて，変化に富んだ各種の表現が見られたが，従来の技法を打ち破る必然性も生まれていた。その結果として現われたのが，一は禅宗の思想的影響や宋(そう)・元工芸の様式の模倣であり，二は技術的な面での精妙さの表現である。なお，この時代には，将軍家の蒔絵師として幸阿弥(こうあみ)・五十嵐(いがらし)の両家があった。遺品は熊野(くまの)速玉大社の《古神宝類》中の〈手箱十一合〉(国宝)が代表的である。桃山時代の蒔絵は様式的に三分類される。①建築蒔絵は伏見城に見られる。遺構は各地に分散しているが，一様に明(みん)代の図様の意匠がうかがわれる。②高台寺蒔絵は高台寺に保存されている蒔絵調度類の総称である。和風の意匠をもち，装飾性に富んでいる。③南蛮様式の出現である。文様の中に南蛮人やその使用する器物を表わしたものとか，ヨーロッパ人の使用する用具に，わが国の蒔絵や漆工技法で装飾を施したものである。江戸初期には伝統的様式を守った徳川家御抱(おかかえ)蒔絵師の幸阿弥・古満・梶川(かじかわ)の三家がある。また，主題を古典に求め，斬新(ざんしん)な構成をとり，才知と感覚を誇り，大胆適切に材料を使用した本阿弥光悦・尾形光琳(こうりん)の一派がいる。江戸中期には町人の経済力の伸長に伴って，しだいに華美な装飾が好まれ，後期には技術の種類と製作の数においては他時代を抜いた。〔荒川浩和〕



蒔　絵　(左)黒漆塗に金平蒔絵・螺鈿・鉛板・銀板などで《伊勢物語》にちなむカキツバタと橋の図を表わした尾形光琳《八橋蒔絵硯箱》蓋表　東京国立博物館蔵(右)　平塵の地に金銀の研出蒔絵で怪魚・カメ・鳥などを表わす《海賦蒔絵袈裟箱》蓋表部分　教王護国寺蔵

圃を4年間に作付け1回，放牧3回とし，放牧中のウシやウマの糞尿(ふんにょう)が肥料となるようにした。作物は大麦・ダイズ・アズキ・アワ・ヒエなどである。江戸時代末期以後，牧畑は山林や普通畑にしだいに変わり，現在では隠岐(おき)諸島*の島前(どうぜん)にわずかに残っているにすぎない。〔浅井得一〕

まきひげ【巻鬚】 茎や葉の一部が変形して細長いつる状となったもの。他物に巻きついて植物体を保持・安定させる。キュウリ・ブドウなどは枝，エンドウなどは小葉，ノウゼンハレンなどは葉柄が変形して巻きひげとなっている。

マーキュリー ［Mercury］ 古代ローマの神。ラテン名メルクリウス。商業の守護神で，その神殿が建てられた5月15日は商人たちの祝日となった。ギリシア神話のヘルメス*と同一視される。

マーキュリーけいかく【マーキュリー計画】 人間の月飛行の準備段階として，有人衛星を打ち上げ回収しようとしたアメリカ合衆国の計画。1958年NASA(航空宇宙局)を発足させたが打ち上げ用のアトラスロケットの試験に手間どり，1960年末レッドストーンロケットを用いて無人カプセルの弾道実験を開始。翌年1～2月にアトラスでチンパンジーを乗せたカプセルと無人カプセルを弾道に打ち上げるなど，弾道打ち上げ実験をくり返したのち，1962年2月グレン中佐を乗せた1.35tのマーキュリーカプセル(フレンドシップ7)がはじめて軌道を回るのに成功した。フレンドシップ7は近地点160.8km，遠地点261.4kmの軌道を3周した。次いでオーロラ7・シグマ7も成功，1963年5月最後のフェイス7が地球を22周してマーキュリー計画は完了した。これらのカプセルはその後のジェミニやアポロの原形となった。〔原田三夫〕

マーキュロクロムえき【マーキュロクロム液】 マーキュロクロム2%を含む鮮紅色ないし暗赤色の水溶液で，俗に赤チンという。マーキュロクロムはメルブロミンともいう水銀化合物で，化学名ジブロム-オキシメルクリ-フルオレセイン-ジナトリウム，分子式 $C_{20}H_8O_6Br_2Na_2Hg$ 強い殺菌力があるため，殺菌剤として創面・皮膚・粘膜の消毒にもっぱら外用する。本液は刺激が少なく，炎症を起こすことなく安全に使用することができるため，病院はもとより家庭でも用いられている。水銀剤であるため内用は絶対に危険であり，外用でも皮膚面の広範囲にわたる使用は避けるべきである。また，光によって変化するため，保存には注意を要する。〔江本龍雄〕

まきりょうこ【巻菱湖】（1777～1843）江戸末期の書家。〈幕末の三筆〉のひとり。名は大任，越後(えちご)(新潟県)の人。19歳のとき江戸に出て，漢学を亀田鵬斎(かめだほうさい)に学び，書は唐の欧陽詢(おうようじゅん)・李邕(りよう)(李北海)を学んで，一家をなし，菱湖流といわれた。字形は端正で習いやすいが，平凡である。

まく【幕】 演劇および劇場用語。最も普遍的には，額縁式舞台と観客席との間をくぎる布をいう。上下に動かす緞帳*(どんちょう)と，左右に動かす引き幕とがある。近代劇では前者，歌舞伎(かぶき)では原則として後者を使う。江戸時代，官許の劇場は必ず引き幕で，緞帳は小芝居*に限られた。各座は独自の引き幕の〈定式幕〉をもっていた。現在どこの劇場でも用いている柿(かき)・萌黄(もえぎ)・黒の3色の布を縦につないだものは，森(守)田座*の定式幕が今日に残ったものである。演劇に幕が使われるようになったのは比較的新しく，ヨーロッパでもギリシア演劇にはなかった。現在の形が定型となったのは，舞台装置が複雑になったために転換の時間を要するようになり，また幕による時間的なくぎりの特性を生かすようになった近代劇成立以後のことである。歌舞伎も，はじめは能舞台を襲用したから幕はなかった。幕の成立は〈続き狂言〉の発生以後である。ただし，俳優の登退場用の橋懸(はしがかり)(のちに花道*)の〈揚げ幕〉だけは当初からあった。歌舞伎における幕の種類と用法は多様である。たとえば，浅黄幕・黒幕・道具幕などの類は，それぞれの用途に応じて，主として背景代わりにつるもので，効果を考えて〈切って落とす〉場合もある。〈消し幕〉は舞台での死体などをかたづけるために黒衣(くろこ)が広げて使うものである。道具幕には〈山幕〉〈浪(なみ)幕〉〈霞(かすみ)幕〉などがある。幕をいったん引いてしまったあとに，〈幕外〉といって，特別な引き込みの演出があることなどは，歌舞伎における幕の意味がヨーロッパのそれと異なっていることを示すものであろう。→幔幕(まんまく)〔服部幸雄〕

まぐさ【楣】 窓あるいは出入り口の上部において，柱間にかけ渡される横架材。木造ならびに石造建築で用いられる。真壁構造においてはまぐさはなく，ぬきがこれにあたる。

マクシミリアン(1世) ［Maximilian］（1459～1519） 神聖ローマ皇帝。在位1493～1519年。フランス王と争ってブルゴーニュ公領の大部分を獲得したほか，ボヘミア・ハンガリーの継承権を獲得し，また子フィリップをスペイン王女と結婚させるなど，巧妙な外交政策によってハプスブルク家*発展の基礎を築いた。その後，イタリアの支配権をめぐるフランス王との争いや，スイスの独立に直面したため，内政改革によって国内の支持を得ようとし，さまざまな行政改革を実施したが失敗し，対外的にもミラノを失った。しかしハプスブルク家の地位はその外交政策によってむしろ強化された。皇帝は文芸を愛好し，〈ドイツ最後の騎士〉とよばれた。〔松 俊夫〕

マクシミリアン ［Ferdinand Joseph Maximilian］（1832～1867） メキシコ皇帝。在位1864～1867年。オーストリア-ハプスブルク家の太公で，1857年ベルギー王女シャルロットと結婚し，ロンバルト-ベネト王国総督に就任。1864年ナポレオン3世の命でメキシコ皇帝に即位したが，メキシコ国民の強い民族主義的反発にあい，さらに1866年アメリカ合衆国の要求に屈してフランス軍が撤退を開始したため窮地に陥り，翌年ベニート-ファレスの率いる革命軍に捕われて処刑された。〔松下 洋〕

マクシモビッチ ［Karl Ivanovich Maksimovich］（1827～1891） ロシアの植物学者。モスクワ近郊に生まれる。ドルパト大学に学び，同大学植物園およびペテルブルグ王立植物園に勤めた。1860年(万延1)シベリアを経て函館(はこだて)に来訪し，横浜・長崎など各地に足を伸ばして植物採集を行ない，1863年(文久3)帰国。日本の植物相を世界の学界に紹介するとともに，日本の植物学研究に影響を与えた。

まくしるい【膜翅類】 こん虫類・膜翅目の総称で，ハチやアリの類をいう。こん虫類中で最も高度な進化発展を遂げた群である。体の大きさは変化に富み，体長0.2mm内外の微小種から，産卵管の長さを入れると，体長170mmをこすものまである。色彩もきわめて変化に富み，金属光沢の強いものから全体を毛で密におおわれているものまである。口器は，かむ・なめる・吸うなどに適した構造をしており，複眼のほかに単眼をもつ種類が多い。翅(はね)は膜質で，翅脈の数は少なく，前翅は後翅よりも大きくて，両者は後者の前縁にある棘(とげ)の列によって連なって1枚の翅のように動き，飛ぶのにつごうがよくなっている。無翅の種類も多い。腹部は一般に6～7節が認められ，基節は胸部と癒合(ゆごう)している。雌には種々の形状の産卵管がある。完全変態を行ない，幼虫には無脚のものと有脚のものがある。食植物性のものと食肉性のものがあり，寄生性の種類も多い。また，ハナバチ類やアリ類には社会生活を行なう種類が多い。

膜翅目は大きい群で，広腰亜目と細腰亜目の2亜目150科以上に分類され，全世界からこれまでに12万種以上が発見されているが，おそらくはその数倍に上る未発見種があると考えられる。広腰亜目は腹部の基部が幅広く胸部に結びつき，幼虫はほとんど食植物性で胸脚のほかに腹脚をもつものが多い(キバチ科・クキバチ科・ヤドリキバチ科・ハバチ科・コンボウハバチ科など)。細腰亜目は腹部の基部が明瞭(めいりょう)にくびれ，幼虫は無脚で生活習性は変化に富む(ヒメバチ科・コマユバチ科・クロタマゴコバチ科・アリ科・ツチバチ科・アリバチ科・セイボウ科・スズメバチ科・ジガバチ科・ヒメハナバチ科・ハキリバチ科・ミツ

バチ科など)。〔鈴木邦雄〕

マクスウェル [maxwell] CGS電磁単位系における磁束の単位(→電磁気単位系)。記号Mx　$1\,\mathrm{Mx}=10^{-8}\,\mathrm{Wb}$(ウェーバー*)

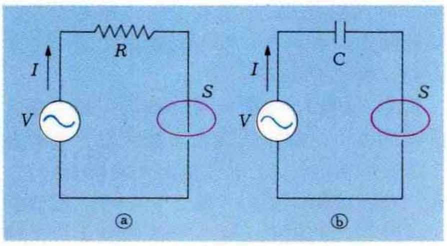
マクスウェル [James Clerk Maxwell] (1831～1879) イギリスの理論物理学者。スコットランドの生まれ。エジンバラ・ケンブリッジ両大学に学んだ。1856年以降アバジーン・ロンドン・ケンブリッジ諸大学の教授を歴任,またキャベンディッシュ研究所の創立に尽力し,初代所長となった。少年時代に卵形線に関する論文を提出するなど,早くからその才能を示し,電磁気学および気体分子運動論の二つの分野で画期的な業績をあげた。ニュートン*と並ぶ古典物理学の完成者のひとり。電磁気学の分野では,ファラデー*の電磁場の考えをもとに流体との類推から電磁場の数学的理論を完成,〈マクスウェルの基礎方程式〉とよばれる美しい電磁理論の体系をつくりあげ,光の電磁理論を樹立した。気体分子運動論では平衡状態での分子の速度の分布を考察(マクスウェル分布),その基礎を築いた。また粘性係数から気体分子の平均自由行路を与えたことも重要である。このほか,色彩論や自動制御論に関する研究などもある。〔藤村　淳〕

マクスウェルのほうていしき 【マクスウェルの方程式】 電磁場の性質を記述し,電磁波理論の基礎となる基本方程式。初等電磁気学によれば,電流には磁気作用があり,図ⓐのように閉曲線で囲まれた面Sを,閉回路を形成している導電電流Iが流れていると,閉曲線に沿ってI(A)に等しい起磁力(アンペア回数)を生ずる(アンペールの法則*)。ところが図ⓑのようにコンデンサーを含む交流回路においては,導電電流Iはコンデンサーの両極で不連続となり,閉回路とみなすことができない。かかる場合,アンペールの法則を先と同様に適用できるかはあいまいな点である。マクスウェル*はコンデンサーCファラド(→静電容量)にかかる充放電電流$C\dfrac{dv}{dt}$に等しい変位電流*なるものを定義し,これが導電電流と同じく磁気作用をもって,コンデンサーの両極間の空隙(くうげき)を流れると考え,変位電流を導電電流と対等に取り入れて,アンペールの法則をすっきりした形に拡張した。これとファラデーの法則*は電磁場の基本式であり,両者を数学的に変形して空間の一点における電場と磁場の関係式に確立したのがマクスウェルの方程式で,次のように示される。

$$\mathrm{rot}\,H=\kappa E+\varepsilon\frac{\partial E}{\partial t},\quad \mathrm{rot}\,E=-\mu\frac{\partial H}{\partial t}$$

ただし,H:磁場強度　E:電場強度
κ:媒質の電気伝導度　ε:媒質の誘電率
μ:媒質の導磁率〔小原啓義〕

まぐそこがね 【馬糞金亀子】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科の一種あるいはマグソコガネ属とその近縁の数属の総称。



マクスウェルの方程式　変位電流の説明図

体は黒色で光沢があり,長さ5mmほど。頭部は前頭に3個の瘤(こぶ)がある。前胸背板にはきわめて細かい点刻と粗大点刻がまばらにあり,側縁に白色毛がまばらに列生する。鞘翅は明瞭(めいりょう)に点刻された縦溝(じゅうこう)がある。日本全土のほか朝鮮・中国・モンゴル・東シベリアなどに分布し,成虫は獣糞(じゅうふん)・人糞・動植物質の腐敗物や死体などに好んで集まる。幼虫もそれらの下の土中に穴を掘って腐敗物などを貯蔵し,それを食べて成長する。1年に1回秋季に発生し,成虫で越冬して翌春早くに交尾・産卵する。

マグソコガネ類は全世界からきわめて多数の種類が知られ,日本にも約60種が知られているが,そのうちマグソコガネ属にオオフタホシマグソコガネ・オオマグソコガネなど40種ほどが属する。いずれも腐敗動植物質や獣糞などに好んで集まる。体は細長く,体形はいずれもよく似る。大きさは体長3mm内外の微小種から体長13mmに達するものまであり,黒色・赤かっ色・黄かっ色などの色彩のものが多い。➜糞虫

〔鈴木邦彦〕

マクダウェル [Edward Alexander MacDowell] (1861～1908) アメリカの作曲家。ニューヨークの生まれ。1876年にヨーロッパに渡り,パリ音楽院・フランクフルト音楽院などに学んだ。ピアニストとしても作曲家としても評価され,ダルムシュタット音楽院の教授となったが,1888年に帰国,ボストン交響楽団で代表作の《ピアノ協奏曲第2番》を初演した。1896年以後コロンビア大学の音楽学部長として活躍した。

マクダネル-ダグラス [McDonnell Douglas Corp.] アメリカ合衆国最大の航空宇宙会社。1967年マクダネル社がダグラス社を買収して生まれた会社。マクダネル社は1939年創立,艦載ジェット戦闘機ファントムⅠ・Ⅱ,F-15など軍用機を開発して発展を続けてきた。一方民間航空機業界の名門ダグラス社は1920年に創立され,DCシリーズの輸送機製造で知られてきたが,民間航空機のジェット化に遅れをとり赤字を累積,合併の道を選んだ。最近では短距離大量輸送のエアバスDC-10を開発し,現在では軍需・民需の均衡のとれた安定した航空機製造会社に成長した。本社セントルイス。年間売上高20億7,000万ドル,従業員数9万2,000(1971)。〔氏家　尚〕

マグデブルク [Magdeburg] ドイツ民主共和国(東ドイツ)西部,ベルリンの南西130km,エルベ川中流右岸の商工業都市で,東ドイツ最大の河港市でもある。人口27万8,000(1976)。テンサイ栽培地域の中心で,精糖業・鉄鋼・金属精練・紡績・製紙などの工場がある。805年カール大帝によって建設され,のちハンザ同盟*に加わるほど成長したが,三十年戦争*で荒廃した。1806年フランスに占領されたが,1814年プロシアに返還され,ザクセンの首都となった。

〔梶川勇作〕

マグデブルクのはんきゅう 【マグデブルクの半球】 1654年O.ゲーリケが行なった大気圧実験に用いられた半球。彼は空気ポンプを用いて大気圧と真空に関する一連の実験的研究によって知られているが,その中で特に有名なのがレーゲンスブルクの町で行なわれたこの実験である。これは直径約40cmの金属製の半球2個を密着させてその内部の空気を抜き,両側からウマに引かせて引き離そうというもので,実際には16頭のウマに引かせて,ようやく引き離すことができたという。当時ゲーリケはマグデブルクの市長であったためこの名がある。

〔今淳治郎〕

まくでんい 【膜電位】 半透膜によって隔てられた溶液の間に生じる電位差。普通はドナンの膜電位をいう。これは,溶液の一方に半透膜を透過しないイオンが含まれている場合,両液間の濃度差によって電位差が発生するというものである。生体細胞は半透性の原形質膜に包まれており,この膜を境にして細膜の内液と外液の間にみられる静止電位も一種の膜電位である。膜電位の変化は活動電流*を生じる原因となる。

マーク-トウェーン　⇨トウェーン

マクドゥーガル [William McDougall] (1871～1938) イギリスの心理学者。1920年アメリカ合衆国に渡り,ハーバード・デューク大学の教授となる。目的論的心理学の立場から,生活体の生来的傾向である本能を追求し,一定の活動と情動と認識の3面の結合したものと考えた。さらにこの立場から〈集団心〉の研究に進み,社会心理学の樹立に貢献した。

マクドナルド [James Ramsay MacDonald] (1866～1937) イギリスの政治家。スコットランドの貧しい漁師の子として生まれた。1894年独立労働党に参加し,1900年労働代表委員会の結成とともに書記となり,1906年下院議員に選出され,1911年には労働党の党首となる。第1次世界大戦中影響力を失い,1918年の選挙で破れたが,1922年再起。1924年労働党政府の首相,同年11月の選挙で敗北したが,1929年再び首相。1931年労働党政府が分裂し,保守党との連立政権を形成,労働党の多数の支持を失った。保守党優勢の内閣に形だけの首

相としてとどまったが，1935年辞任した。〔板橋重夫〕

マクドナルドてんもんだい　【マクドナルド天文台】　アメリカ合衆国テキサス州の砂漠(さばく)の中の山頂にある天文台。テキサス州の銀行家マクドナルドの寄付によって，1939年口径208cmの望遠鏡の完成とともに設立された。はじめはヤーキス天文台とテキサス大学が共同で運営していたが，1963年からテキサス大学が運営している。1968年，口径271cmの反射望遠鏡を新設し，銀河系外星雲，恒星の分光・偏光，惑星の物理的状態などの研究を行なっている。〔守山史生〕

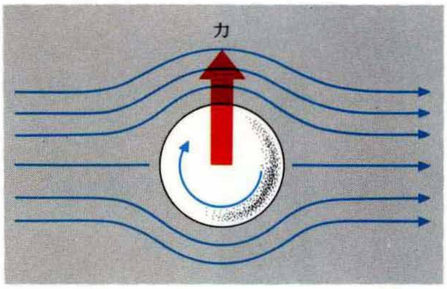
マグナ-カルタ　［Magna Carta］　1215年イングランド王ジョン*によって認可された勅許状。〈大憲章〉ともいう。王は教皇との争いや大陸出兵の敗北などによって出費を重ね，さまざまな名目で重税を課したため，国内に大きな不満を巻き起こした。諸侯は大司教ラングトンを中心に集まり，国政の改善を求め兵を糾合し，ロンドン市民もまたこれに応じた。王はついに屈伏して，彼らの起草した60か条余の要求を承認した。これはイギリスにおける教会の自由の要求に始まり，貴族の国王に対する封建的義務の再確認を行なったもの。王の恣意(しい)的な課税は拒否され，都市の特権と人民の生命財産の法的保障が約束された。以後マグナ-カルタは王権の制限と人民の自由の根拠として，イギリス憲法の諸原則の確立に重要な存在となった。〔板橋重夫〕

マグニチュード　⇒地震

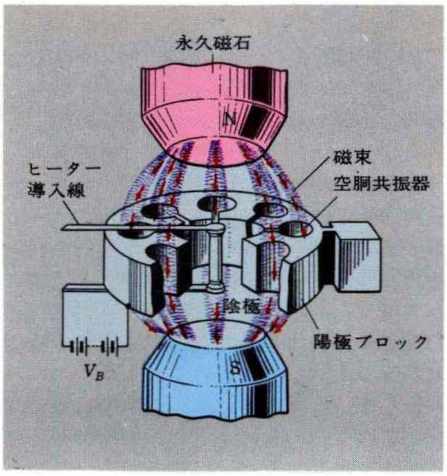
マグニトゴルスク　［Magnitogorsk］　ソ連，ウラル山脈東麓(とうろく)のチェリャビンスク州にある重工業都市。人口39万3,000(1976)。ウラル-クズネツク-コンビナートの一環として1932年に操業を始めた大製鉄所があるほか，鉱山用機械・クレーンなどの製造や，軽工業・食品工業も盛んである。1929〜1931年の第１次５か年計画期に建設された新興都市である。

マグヌスこうか　【マグヌス効果】　流体中で球や円柱を流れに垂直な軸のまわりに回転させると，流れと回転軸に垂直な方向に力を受ける現象。力の大きさは流速と回転角速度に比例する。流体は粘性のために球または円柱とともに回転し，物体表面速度と流速の一致する側(図の上方)では回転の速度が流れの速度に加わって速く流れ，反対側では逆にゆっくり流れる。このため上方の圧力が下方よりも小さくなり，物体は上方へ押される。野球のボールがカーブするのはこのためである。この現象はドイツの物理学者マグヌスによって飛行する砲弾についてはじめて研究されたのでこの名がある。〔内田茂男〕

マグネサイト　［magnesite］　耐火材料およびマグネシウムの原料鉱物。$MgCO_3$　リョウクド石ともいう。三方晶系，硬度3.5〜4.5，比重2.95〜3.12。劈開*(へきかい)は三方向に完全，色は白・黄白・灰白などである。



マグヌス効果



マグネトロン　マグネトロンの構成

マグネシア　［magnesia］　MgO　酸化マグネシウムのこと。苦土ともいう。炭酸マグネシウムや水酸化マグネシウムを焼成してつくる。工業的には海水に石灰などを加えて水酸化マグネシウムをつくり，さらにこれを焼いてつくる。またマグネサイト($MgCO_3$)を焼成しても得られる。比重3.65，融点2,800℃，沸点3,600℃，白色の粉末で，純度の高いものは白色度の標準となる。耐火物原料として多く使われるほか，制酸薬・マグネシアセメントなどに用いられる。〔鈴木　篁〕

マグネシアこんえき　【マグネシア混液】　分析試薬の一。リン酸イオン$PO_4{}^{3-}$，ヒ酸イオン$AsO_4{}^{3-}$の定性・定量に用いられる。マグネシウム・アンモニウムの塩化物をアンモニア水にとかして調製する。イオンと反応すると，ともに白色の，酸に可溶のリン酸またはヒ酸マグネシウムアンモニウム６水塩を沈殿する。沈殿物を濃塩酸にとかして硫化水素を通じると，ヒ酸イオンのほうは黄色の硫化ヒ素となって沈殿するから，二つのイオンを区別することができる。〔三輪　誠〕

マグネシアセメント　⇒セメント

マグネシウム　［magnesium］　周期律表第II族に属するアルカリ土類金属の一。記号Mg　原子番号12，原子量24.305。1808年H.デービー*により酸化物として存在を確認され，1853年R.W.ブンゼン*が金属の単離に成功した。地球上に広く分布しており地殻(ちかく)成分の重要な成分元素の一。鉱物にはマグネサイト・ドロマイト・ジャモン石・カッ石などがあり，海水中にもイオンとして含有される。工業的には無水塩化マグネシウムの融解塩電解法や炭素による高温還元などでつくられる。銀白色の展延性のある軽い金属で結晶構造は六方稠密格子(ちゅうみつこうし)。比重1.74(20℃)，融点650℃，沸点1,107℃，薄い箔(はく)や針金に加工しうる。乾燥空気中では表面に酸化被膜が生成し，内部を保護する。湿った空気中では，酸化はすみやかに進行する。箔や粉末は激しく燃焼して酸化マグネシウムになる。ハロゲン元素・ヒ素などとも反応する。希酸には水素を発生して溶解する。還元性が強い。２価の化合物が安定である。軽合金としてジュラルミンやエレクトロンなどの材料となり，還元剤・脱酸剤やフラッシュ・花火などに使われる。〔古屋　弘〕

マグネシウムごうきん　【マグネシウム合金】　マグネシウムを主成分とする合金。鋳造用合金はアルミニウムを10％まで，亜鉛を３％まで含み，マグネシウム-アルミニウム系およびマグネシウム-アルミニウム-亜鉛系が使用されている。加工用合金は３〜９％のアルミニウム，0.2〜0.5％の亜鉛を含む合金が実用化されている。ジルコニウムあるいは希土類元素を含む耐熱合金もある。強さはアルミニウム合金に劣るが，軽い点でまさる。航空機材料・自動車用などに用いられる。〔岡村志郎〕

マグネトロン　［magnetron］　マイクロ波発振用の真空管。本質的には同軸円筒構造の２極管の一種で，軸方向に磁界を加えることによって電子に運動を与えるようにした真空管である。

まくのうち　【幕の内】　本来は将軍の相撲(すもう)上覧の際に，幔幕(まんまく)の内に円座を占めることを許されたすぐれた力士をいう。転じて，芝居の幕あいに食べる弁当をさす。段組みの重箱に，小さく俵形に握った飯を黒ゴマをまぶして詰め，これにしるけの少ない焼き物・揚げ物・煮物・香の物などを季節や好みによって取り合わせる。

マクベス　シェークスピア*の悲劇。５幕。1606年の作と推定される。魔女の予言と妻の執念に野望をかきたてられた将軍マクベスが，スコットランド王ダンカンを殺害して王位につくが，平安な眠りを失い，次々に殺人をくり返し，妻の狂死ののち，みずからもダンカン王の遺児マルカムらに敗れる。野心と罪と良心の相克が，マクベス夫妻の強烈な性格の対比のうちに描き出され，全編緊迫した韻文体で悲劇性をうたった名作。〔五十嵐一〕

マグマ　［magma］　地殻(ちかく)の中やマントルの上部で，高温の液体の状態にあって，冷却固結すれば火成岩になる物質。岩

漿(がんしょう)ともいう。地下にあるままの状態は観察できないが，地表に噴出したものは火山の溶岩として認められる。地表に噴出するときの温度は一般に1,000～1,200℃である。粘性は成分によって著しく異なり，玄武岩質のものは水のようにさらさらと流れるが，流紋岩質のものはむくむくと盛り上がるだけで，ほとんど流れないこともある。このような状態のマグマが地下に大きなかたまりで存在すれば，その部分は地球の核と同じように，地震の横波を通さないはずであるが，いままでのたくさんの観測でも，そのような部分は見つかっていないので，マグマはときどき少しずつ発生するものと考えられる。温度圧力の条件から考えて，カコウ岩質のマグマは地殻の下部で，玄武岩質のマグマはマントルの上部で発生するらしい。

マグマが地殻の中でゆっくり冷えると，深成岩ができる。また，地下浅い所まで上昇したマグマの上端が割れ目などができたために急に減圧されると，マグマの中にとけていた水分などが発泡(はっぽう)して，サイダーやビールのせんを抜いたときのように地表に流出する。それが急冷してできたのが火山岩である。また，マグマの固結の際には高温の水が分離され，それがマグマから熱エネルギーを運搬する役をして熱水*を生じることもある。〔片山信夫〕

マクマオン ［Marie Edme Patrice Maurice de MacMahon］（1808～1893）フランスの軍人・政治家。17世紀に亡命したアイルランド貴族の生まれ。陸軍士官学校卒業。アルジェリアで軍務につき，1855年クリミア戦争，1859年イタリア独立戦争などに参加し，マジェンタの戦功によって元帥となり，〈マジェンタ公〉の称号を受けた。プロイセン-フランス戦争*ではセダンで敗北，捕虜となった。1871年パリ-コンミューンを弾圧し，ティエールの失脚後第3共和政2代めの大統領に就任，王党派に支持されて反動政策を強行したが，1876年共和派の進出によって辞職した。〔喜多迅鷹〕

マクマス-ハルバートてんもんだい ［マクマス-ハルバート天文台］ アメリカ合衆国ミシガン州，ポンティアクにあるミシガン大学付属の天文台。高性能の塔望遠鏡をもち，太陽の研究ですぐれた業績をあげている。

マクマホン-ライン ⇨中印国境紛争

マクミラン ［Maurice Harold Macmillan］（1894～　）イギリスの政治家。オックスフォード大学を卒業し，1924年以来下院議員。1951～1954年チャーチル内閣の自治相をつとめ，年間30万戸の住宅建設に成功する。イーデン内閣の外相・蔵相を経て，1957年1月から1963年10月まで首相。スエズ問題で悪化したアメリカとの関係の改善に努力し，ポンド流出を阻止してインフレーションの増進を押えた。1963年懸案のEEC*加盟がド-ゴールの反対で実現せず，プロフューモ事件によって保守党の人気が落ち，退陣した。マクミラン書店社長。〔板橋重夫〕



マクラガイ

まくめいがっき ［膜鳴楽器］ フランスのマイヨン(1841～1924)，ドイツのホルンボステル*・C.ザックス*らによる楽器*の科学的分類法によって五大分類された楽器群のうちの一。基本的な発音原理は人為的に張力を加えた膜状のもの(皮革・紙)の振動で，大部分は太鼓*と俗称される。

まくら 落語用語。落語の本題にはいるまえに，その内容にふさわしい漫談や小噺(こばなし)をやり，しだいに噺のふんい気をつくる技術。これを〈まくらをふる〉という。

まくらがい ［枕貝］ 軟体動物・腹足類・マクラガイ科。殻高(かくこう)3.5cm，殻径2cmほどの巻き貝。殻(から)は厚く円筒形で，螺層(らそう)は低くて小さく，体層が著しく大きい。殻表は平滑で光沢があり，淡黄かっ色の地に黒かっ色のジグザグ状の縦じまがある。殻口は狭いが長く，殻口内は紫色をおび，内軸唇(ないじくしん)は白色で多くのしわがある。蓋(ふた)を欠く。軟体の外套(がいとう)で殻を左右からおおい，砂に埋もれて生活するので触角や目は小さい。房総半島以南，太平洋・インド洋の水深5～30mの砂底にすみ，貝殻は貝細工の材料となる。〔波部忠重〕

まくらぎ ［枕木］ 線路の道床に敷き並べ，上にレールを載せてくぎ類で取りつけ，軌間を正確に保つとともに，列車荷重をささえるための軌道材料。使用場所によって，橋枕木・分岐枕木・並み枕木などの種類がある。従来は木枕木が多く，クリ・ヒバ・ナラなどの木材に防腐剤を注入して用いたが，耐用年数は7～15年で短い。最近では，コンクリート枕木，特にピアノ線入りのPC枕木が広く実用化された。これは重量があるので軌道が安定するだけでなく，耐用年数も約50年と長いので，新幹線のほとんどや多くの主要幹線に敷設されている。➔線路〔宍塚正幸〕

まくらざき ［枕崎(市)］ 鹿児島県薩摩(さつま)半島南西端の市。人口30,000。江戸時代には小漁村にすぎなかったが，明治以後カツオの一本づり漁業の根拠地として急速に開け，南薩地方の中心都市となった。1949年(昭和24)市制施行。面積は74.6km²で，県下の都市中最小。南は東シナ海の外洋に面し，コラ層を含むシラス台地が市域の大半を占める。産業三大別人口比は**35：24：41**。枕崎港はカツオの水揚げが多く，水産加工業が発達して，かつお節(薩摩節)の加工が盛んである。鹿籠(かご)ブタとよばれるブタの産地で，東部台地ではアッサム原種による良質の紅茶がつくられ，県立紅茶試験所がある。指宿(いぶすき)枕崎線が通じ，私鉄鹿児島交通が鹿児島本線伊集院(いじゅういん)駅とを結び，国道225号線・226号線・270号線が集まる。台風の通路にあたり，1945年の枕崎台風では大きな被害を受けた。

まくらのそうし ［枕草子］ 平安中期の随筆。清少納言*の作。文学史的に随筆文学の最初の作品とされている。成立には諸説があるが，一般には清少納言が993年(正暦4)ごろから一条天皇の中宮定子薨去(こうきょ)の1000年(長保2)までの後宮に宮仕えした時期とされる。300段あまりの文章からなり，類聚(るいじゅ)的章段・日記的章段・随想的章段の3形式に分類整理される。類聚的章段は約160段で，〈すさまじきもの〉などのタイトルを掲げる〈もの〉型章段と，〈山は〉などで始まる〈は〉型章段に分けられる。日記的章段は約50段で，後宮女房としての公的体験をおもに記し，随想的章段は自然と人事の鋭い断面を描いている。《枕草子》は従来，〈機知〉と〈をかし〉の文学として特徴づけられていて，その執筆態度は跋文(ばつぶん)にうかがえ，世間の常識的興趣から逸脱し，ときには正反対の意見を吐いたこと，遠慮のない人物批評をしたことの述懐が述べられている。類聚的章段・随想的章段は，《和名類聚抄》《古今和歌六帖*(ろくじょう)》や唐の李商隠(りしょういん)の《李義山雑纂(ざっさん)》などに源泉素材を求める考え方もあるが，影響関係ははっきりしない。〈むつかしげなるもの。ぬひ物の裏。猫(ねこ)の耳のうち。……〉〈月のいとあかきに，川を渡れば，牛のあゆむままに，水晶などのわれたるやうに，水の散りたるこそをかしけれ〉などの類聚・随想の章段に見られるように，鋭い感受性と的確な文章，また人物評など，これを読む宮廷貴族に嘆声をあげさせたほど好評を博したという。それは，作者の先入見を排した独特なものの見方・感じ方と清新な逸興的精神にささえられて今日的な随筆というスタイルの生誕を物語るものであろう。日記的章段は美貌(びぼう)と才知に恵まれた中宮定子の賛美と藤原道隆(みちたか)一門の繁栄の感嘆が約半数を占め，中宮への人間的理解と信頼に裏づけられている。伝本は，以上の3分類を雑然と並べた雑纂系の〈三巻本〉〈伝能因所持本〉と，3分類に整然と並べた〈前田家本〉〈堺本(さかいぼん)〉が代表的で，雑纂系が跋文などから原初形態ではなかったかとされている。〔安藤太郎〕

まくらのそうしえまき 【枕草子絵巻】 《枕草子》に取材した絵巻物。鎌倉時代の制作で，現在，詞・絵各7段の1巻からなっているが，当初のままとは思えない。墨線を主体とし，髪や眉(まゆ)，調度などに黒墨を，唇(くちびる)にわずかに朱を用いる程度の典型的な白描画である。ほとんど墨一色の簡素な描写で，はなやかな宮廷生活を表現している点が特徴である。

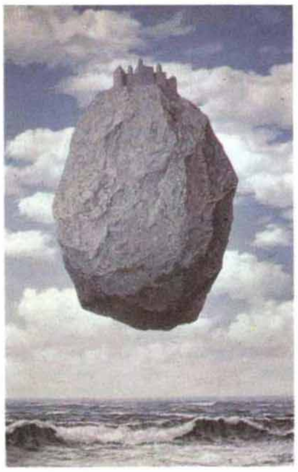
まくらめし 【枕飯】 死後すぐに死者のまくらもとに供える飯。これを死弁当とよんでいる所もあり，また飯の代わりに団子を供える所も多い。死ぬということは肉体から霊魂が遊離し，魂呼び*してももとにもどらない状態のときに生ずると民間では信じられているが，遊離した霊魂がどこへ行くかという点に関しては，さまざまに考えられている。特定の場所へ霊魂が立ち寄るという考え方の中で，とりわけ多いのは善光寺参りである。死者が善光寺参りをする際携帯するのが枕飯だという地方が多い。しかしこれは仏教普及による一生に一度は善光寺参りをという観念に結合した説明であって，元来は魂呼びと同じように，食物の魅力によって霊魂を呼びもどす観念の中に，この習俗の説明を求めるほうが妥当であろう。 〔渡辺欣雄〕

マクラメレース ［macrame lace］ レース編みの一種。何本かの糸を並べておき，結び合わせてつくる。アラビアに起源をもち，マクラメとはアラビア語で縁飾りを意味し，元来は布端のほつれを結んで止めたものが，やがて装飾となって発展した。ヨーロッパへは十字軍によってもたらされて流行し，壁掛けその他室内装飾・服飾に利用されるようになった。わが国でも同類の技法は，古く茶つぼの袋，檜扇(ひおうぎ)のふさ，縄(なわ)のれんの装飾編み部分などに見られるが，一般に普及したのは，ヨーロッパから導入された明治以降，特に大正末期から昭和初期にかけてで，今日では手さげ・ハンドバッグ・テーブルクロス・ベルトなどに多くつくられる。基礎の結び方には，巻き結び・平結び・鎖結び・二重結び・止め結びの5種があり，これらを間隔をあけたり連続させたりして，各種の模様結びができる。 〔山村あい子〕

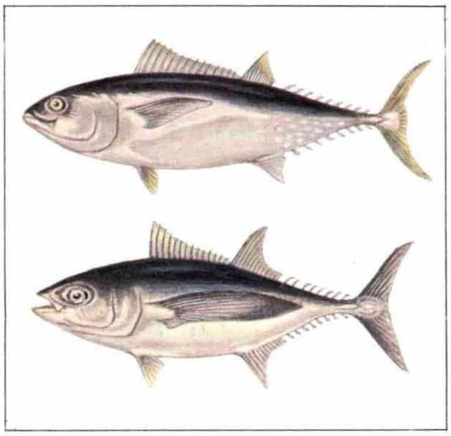
まくり 【海人草】 紅藻(こうそう)植物・フジマツモ科。カイニンソウ・シャコサイ(鷓胡菜)ともいう。世界の暖海，わが国では紀伊(きい)半島以南の干潮線下の岩上に生じる海藻。体は円柱形で太さ2～3mm，叉状分枝をして高さ20cmぐらいになり，表面に小枝が毛状に密生する。有性生殖を行なって果胞子を生ずる体と，四分胞子を生じて無性生殖する体とがある。夏秋のころに採取し乾燥したものが生薬*のマクリで，古くから駆虫薬として用いられた。有効成分は特殊なアミノ酸で，カイニン酸およびアロカイニン酸と命名された。



マクラメレース
紙ひもで編んだハンドバッグ



マグリット《ピレネーの城》 1959



マグロ (上)クロマグロ (下)ビンナガマグロ



マクワウリ

マグリット ［René Magritte］ (1898～1967) ベルギーの画家。ブリュッセル美術学校に学ぶ。はじめキュービスムなどの影響を受けたが，パリに出てエリュアール・ブルトンらシュルレアリストと交わり，1920年代後半にはその一員として活躍した。しかし，他のシュルレアリストと異なり，オートマティスムは使わず，抽象的表現もとらず，もっぱら素朴(そぼく)で詩的な主題を細密な手法で描き，トロンプルイユ*にすぐれ，後進に多大の影響を与えた。1971年(昭和46)わが国で回顧展が催された。 〔吉田玲子〕

まぐろ 【鮪】 硬骨魚類・サバ科。多くの場合マグロ属のクロマグロ・メバチ・ビンナガ・キハダ*などの総称とされるが，クロマグロをさすこともある。いずれも紡錘形をした魚である。

クロマグロはホンマグロともいい，また，東北地方でシビ，東京でマメジ(若魚)，和歌山県でマグロシビ，高知でハツ・マグロなどという。第1背びれ13～15棘(きょく)，第2背びれ14軟条でその後ろに8～9個の黄色の離棘があり，臀(しり)びれは13～15軟条と7～8個の離棘がある。全長3mに達し，肉は赤色。サハリン(樺太(からふと))・北海道以南，フィリピンまで分布する。小魚・イカ類などを食べる外洋性の魚で，6～7月ごろ産卵する。マグロ類中最も沿岸にまで来遊する種類で，大謀網*・一本づり・はえなわ*などで漁獲される。すし・さしみに好適。

ビンナガは宮城県でビンチョウ，関西でトンボなどとよばれ，胸びれが著しく大きい。第1背びれ14棘，第2背びれ14軟条と8離棘，臀びれ14軟条と8離棘。世界じゅうの温海にすみ，全長1mに達する。50～60cmの小形のものは初夏に沿岸でさおづりでもとれるが，大形のものは遠洋漁場ではえなわで漁獲される。肉は赤みが少ないのでさしみには向かないが，ステーキ・照り焼きなどに向く。小形のものはかつお節にもされる。

メバチは東京でバチ・ダルマなどとよばれ，本州中部以南の太平洋およびインド洋の熱帯部に広く分布し，遠洋はえなわ漁業の重要なマグロ類の一つである。全長2mに達し，第1背びれ14～15棘，第2背びれ13軟条と9離棘，臀びれ13軟条と9離棘。肉は赤みがあるため，さしみ・すしにクロマグロの代用品として広く大衆的に使われている。 〔安田富士郎〕

まくわうり 【甜瓜】 双子葉植物・ウリ科の一年生草本。メロンの仲間。キュウリに似た草性で匍匐(ほふく)する。雌雄異花で側枝に雌花をつける。子房下位の雌花はキュウリに似ており，完熟した果実は特有の芳香をもつ。中国で発達し，わが国でも古くから利用されており，ナシウリ・ナツメウリ・キンウリなどが昔から親しまれてき

たが，近年は品種改良が進み，西洋メロンとの交配した品種もできており，果実が黄色で長楕円(ちょうだえん)形のものや白色で丸形のものなどが市販されている。〔松本正雄〕

まげ　**【髷】**　髪をたばねて綰(わがね)る(輪をつくるように結びたばねる)意で，のちの日本髪の部分名称でもある。前髪・鬢*(びん)・髱*(たぼ)のそれぞれの毛先を集めて最後に仕上げ，全体の髪形を引き立てる中心的部分。この髷形の変化により，髪形の名称がつけられているものが多い。なお，髷の起源は，5～6世紀の古墳時代の人物埴輪(はにわ)の像に見られる。➔髪形

マケエフカ　［Makeevka］　ソ連，ウクライナ共和国のドネック州にある都市。人口39万6,000(1972)。ドネツ炭田*の一中心で，冶金(やきん)・コークス・鋼管などの工業が盛ん。第2次世界大戦でドイツ軍に破壊されたが，のち復興した。

まげしけん　**【曲げ試験】**　⇨材料試験

マーケット-シェア　⇨市場占拠率

マーケティング　⇨104ページ

マーケティングリサーチ　⇨市場調査

マケドニアおうこく　**【マケドニア王国】**　古代にギリシアの北，トラキアの西にあたるマケドニアに建設された王国。ギリシア人の一種族ドーリア人の一派が，BC1100年ごろマケドニアにはいって建設したもので，アルガイダイまたはテメニダイとよばれる王家が支配した。アイガイを首都とし，ギリシアの英雄時代のような軍事王としての地位を保った。ペルシア戦争*の時代からギリシア史に登場し，アミュンタス1世(在位？～BC495年ごろ)はクセルクセス1世*に服属し，その子アレクサンドロス1世(在位BC495ごろ～BC440年ごろ)はギリシアとペルシアの間に立って巧妙に事態に処した。その子ペルディッカス2世(在位BC440ごろ～BC413年ごろ)はペロポネソス戦争*に巻き込まれながらも国力を増大した。その弟アルケラオス(在位BC413～BC399年)は首都をペラに移し，またエウリピデス*を招くなどギリシア文化の摂取をはかったが，彼の死後王位継承をめぐって内紛が生じた。

フィリッポス2世*(在位BC359～BC336年)は王室の内紛をしずめ，アルケラオス以来企てられた政治・軍事組織の改革を完成した。すなわち軍事王としての王権を制約していたヘタイロイとよばれる貴族団を土地を媒介とする宮廷貴族とし，彼らから同じくヘタイロイとよばれる騎兵隊を組織し，他方農民の土地所有を安定させて彼らをペゼタイロイという歩兵軍団に組織した。こうして国内を固めたフィリッポスは対外的にも積極策をとり，東方カルキディケ半島からアテナイの勢力を追い払い，パンガイオン鉱山を採掘して財力を養い，BC338年，カイロネイアの戦い*でアテナイ・テーベの連合軍を撃破してギリシアに対する覇権(はけん)を確立し，翌年コリントで開かれたギリシア連盟でペルシア帝国に対する戦争の総司令官に推されたが，BC336年ペラで暗殺された。しかし，その子アレクサンドロス大王*(在位BC336～BC323年)はマケドニア・ギリシアの紛争を鎮圧し，BC324年父と同じ資格で東方に遠征し，ペルシア帝国を滅ぼし，さらにインド西北部まで進軍したのち，軍を返してバビロンを首都として大帝国の統治に着手したが，熱病にかかって急死した。

大王の死後大帝国は分裂し，マケドニアでも内紛が続き，大王の異母弟フィリッポス3世，大王の母オリンピアス，妻ロクサネ，幼児アレクサンドロス4世はあいついで殺され，カサンドロス*がマケドニア王となったが，その後アンチゴノス2世*(在位BC276～BC239年)がアンチゴノス朝*を開き，ヘレニズム世界においてエジプト・シリアと並立し，ギリシアのアイトリア・アカイア両都市同盟にも圧力を加える勢力となった。しかし，フィリッポス5世(在位BC222～BC179年)はシリアのアンチオコス3世と結んで地中海世界に進出しようとしてローマの政策と衝突し，さらにカルタゴのハンニバル*と同盟を結んで第1回マケドニア戦争(BC215～BC205)を行なったが勝敗は決することなく，第2回マケドニア戦争(BC200～BC196)のキノスケファレの戦い(BC196)で敗れた。その子ペルセウス(在位BC179～BC168年)も反ローマ政策をとり，第3回マケドニア戦争(BC171～BC168)を起こしたが，ピドナの戦い(BC168)でローマ軍に敗れて捕虜となり，アンチゴノス朝は断絶し，マケドニアはローマ領となった。➔ヘレニズム〔秀村欣二〕



曲　物　弁当箱　(左)すぎ製　(右)ひのき製　青森県

まげもの　**【曲物】**　民具*の一。ヒノキ・スギ・サクラなどの板を薄くへぎ，熱湯につけたりしてやわらかくし，曲げて円筒形・楕円(だえん)形などにして底をつけたもの。古代・中世のころから盛んに用いられた。現在ではめんぱ・わっぱという弁当箱にみられ，また，蒸籠(せいろう)・米びつ・篩(ふるい)・柄杓(ひしゃく)などもある。なお，古くは桶・樽(たる)の側板や底を締めるたがなどにも用いられた。

まごうた　**【馬子唄】**　日本民謡の重要な種類で，江戸時代に人や荷物を運ぶとき，またウマを追うときに馬方によって歌われた歌。箱根・鈴鹿(すずか)・信濃(しなの)のものが有名で，特に信濃では，《小諸(こもろ)馬子唄》や《信濃追分》などがある。メリスマ*ふうの追分*は馬子唄から生まれ，これが各地で追分を生んでいる。音楽的には，ゆっくりしたテンポ，拍子によらないリズム，母音を延ばす歌い方に特徴がある。江戸時代から他のジャンルにとり入れられ，有名なものでは，〈坂は照る照る鈴鹿はくもる〉と高い音域で歌われる義太夫節(ぎだゆうぶし)《恋女房染分手綱(こいにょうぼうそめわけたづな)》の〈重(しげ)の井子別れの唄〉がある。〔徳丸吉彦〕

まこがれい　**【真子鰈】**　硬骨魚類・カレイ科。全長30cmほどの海産魚。東京でマコ・マコガレイ，大阪・兵庫県でマガレなどという。背びれ65～70軟条，臀(しり)びれ50～53軟条。目は体の右側にあり，口は小さい。体は茶かっ色で，不明瞭(ふめいりょう)なかっ色斑紋(はんもん)がある。南日本から北日本に広く分布する。美味で煮つけなどにして広く利用されるが，北日本では不味な魚としている。

まごしきょうへい　**【馬越恭平】**　(1844～1933)　実業家。三井物産発展の功労者。岡山県出身。大阪で宿屋の主人をしていたが，益田孝*(ますだたかし)に勧められ先収会社に入社，1876年(明治9)同社が貿易会社三井物産として発足すると同社に移り，おりからの西南戦争*で政府の必要物資をほとんど納入した功により，物産の総元締め役，横浜支配人に抜擢(ばってき)されて活躍。1892年経営難に陥っていた日本麦酒(ビール)の整理委員長に就任し，三井を辞して同社の経営合理化を図って再建に成功，1906年三大ビール会社の合併で大日本麦酒が設立されてその社長となり，ビール業界の発展に努めた。そのほか数多くの会社社長・重役を兼任した。〔片岡一郎〕

まごたろうむし　⇨ヘビトンボ

まごめとうげ　**【馬籠峠】**　長野県南西部，岐阜県との県境近くにあり，木曾(きそ)山脈支脈の鞍部(あんぶ)を越える峠。標高801m。木曾川本流に沿って下る旧中山道(なかせんどう)は，南木曾(なぎそ)町付近で流路から離れ，妻籠(つまご)・馬籠の2宿を経てこの峠を越え，岐阜県側の落合に抜けていた。妻籠・峠間には雄滝・雌滝があり，馬籠宿は島崎藤村の生地として有名で藤村記念館が建ち，ここから岐阜県側に下る坂道からの眺望(ちょうぼう)はすばらしい。途中の新茶屋には，一里塚(いちりづか)古跡・芭蕉(ばしょう)句碑や藤村の筆になる〈是(これ)より北木曾路〉の道標などがある。現在，交通路としてはさびれたが，史跡などを訪れる観光客が多い。〔高野　繁〕

まこも　**【菰】**　単子葉植物・イネ科。沼地に群生する多年草。根茎は太くて横には

う。茎は多数叢生(そうせい)し，高さ1～2 mの円柱形で太い。葉は長さ50～100cm，幅2～4cmの狭披針(きょうひしん)形で粉緑色，中脈は太く，葉基部は細まって鞘状(しょうじょう)に茎を抱く。夏から秋，茎頂に40～60cmの大形の円錐(えんすい)花序をつけ多数の小穂をやや密につける。上部の小穂は雌性，下部のものは雄性。雌小穂は1雌花からなり淡緑色で長さ2～3cmの長い芒(のげ)がある。雄小穂は赤紫色で芒はない。果実は長楕円(ちょうだえん)形の穎果(えいか)。幼苗で果穂病にかかって肥厚軟化したものをとうはく(茭白)・こもづのといい，中国では食用とする。しかし，日本のマコモにはこもづのは生じない。また，時期が過ぎて黒い胞子が出たものはまこも墨にして，おはぐろなどに用いられた。〔横井朝子〕

マサイス［Quentin Massys］（1466～1530）フランドルの画家。1491年アントワープの画家組合にはいり，デューラー・ホルバインらと交わった。やがてイタリアールネサンスの影響を受け，フランドルの風俗画に新しい面をひらいた。彼の豊富な色彩の諧調はルーベンスに受け継がれている。宗教的題材の作品が多い。

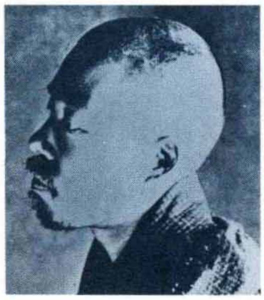
マサイぞく【マサイ族】ケニアからタンザニアの内陸サバナで最も有名な好戦的な牛牧民で，ナイル語族ないしナイル-ハム語(クシ化ナイル語)族に属し人口10万余。年齢階梯(かいてい)制による強固な軍事組織をもち，他の牛牧民としばしば衝突しバンツー系農耕民へも多大の影響を及ぼしてきた。多妻婚的複合家族を基盤とし外婚的な父系氏族組織もみられるが，首長制は発達していない。創造主的な天神信仰や祖先崇拝をもちながら，来世を信ぜず埋葬もしない。〔高橋統一〕

マザウェル［Robert Motherwell］（1915～　）アメリカの画家。ハーバード大学で哲学を学んだが，その後独学で美術を修めた。1944年〈20世紀美術展〉に作品を発表。その後，ポロック・デ-クーニングらとともに抽象表現主義の画家として活躍した。

まさおかしき【正岡子規】（1867～1902）俳人・歌人。愛媛県松山の生まれ。本名常規(つねのり)。幼名処之助，通称升(のぼる)，別号越智処之助・獺祭(だっさい)書屋主人・竹の里人。東京帝国大学国文科中退。大学時代から古俳句の研究を志して，生涯(しょうがい)の事業である《俳句分類》に着手。大学中退後，新聞《日本》にはいり，《獺祭書屋俳話》を同紙に連載，俳句革新の第一声をあげた。写生を提唱し，《俳諧(はいかい)大要》《俳人蕪村*(ぶそん)》などにおいて蕪村の浪漫性や印象的な作風を高く評価。1898年(明治31)《ホトトギス*》を松山から東京に移し，日本派俳句の興隆の基礎を固め，あわせて写生文を提唱。《歌よみに与ふる書*》において《古今和歌集》より《万葉集》を評価し，短歌の革新を図り



マサイス《金貸しとその妻》



正岡子規





マサキ（上)果実（下)花

〈根岸短歌会*〉を興した。歌風は写生の基盤に万葉の叙情を加え，独自の歌境を開き，伊藤(いとう)左千夫*・長塚節*(ながつかたかし)を経て〈アララギ*〉派により大成された。俳句は高浜虚子*・河東碧梧桐*(かわひがしへきごとう)を介して近代俳句の主流を形成し，写生文の延長上に虚子・左千夫・節・鈴木三重吉*・夏目漱石*(そうせき)らの小説を生んだ。歌集《竹の里歌》，句集《寒山落木*》《俳句稿》，随筆《墨汁(ぼくじゅう)一滴》《病牀(びょうしょう)六尺》《仰臥(ぎょうが)漫録》などがある。〔小泉浩一郎〕

まさかど【将門】日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《忍夜恋曲者(しのびよるこいはくせもの)》。1836年(天保7)初演。山東京伝*原作の歌舞伎(かぶき)狂言《世善知相馬旧殿(よにうとうそうまのふるごしょ)》の大詰めの舞踊。将門山の古御所の妖怪(ようかい)変化を確かめにきた大宅(おおや)太郎光国に，平将門*の娘滝夜叉(たきやしゃ)姫が傾城(けいせい)姿で現われて色じかけでからむが見破られ，妖術で立ち向かうという内容。

まさき【柾】双子葉植物・ニシキギ科。海岸付近に自生する常緑低木で，いけがきや庭木として栽植されている。枝はよく茂り，緑色で平滑。葉は対生し，長さ4～7cm，幅3～4cmの倒卵形で鋸歯(きょし)があり，濃緑色で光沢がある。6～7月ごろ，葉腋(ようえき)に長柄をもった集散花序をつけ，緑白色の小花を開く。がくは筒状で先が4浅裂し，花弁は卵形で4枚。果実は扁球(へんきゅう)形の蒴果(さくか)で，秋から冬に紅熟して3～4裂し，中から赤橙(せきとう)色の仮種皮のある種子を裸出し美しい。園芸品には葉に黄や白の斑(ふ)がはいったものがある。近縁種のツルマサキは常緑つる性植物で，茎のところどころから細い根を出し，他物に付着してよじ上る。

まさき【松前(町)】愛媛県伊予(いよ)郡の町。人口28,000。県中北部，松山平野の南部を占め，重信(しげのぶ)川の左岸にあり，伊予灘(いよなだ)に面する。1938年(昭和13)臨海部の砂丘に現在の東レの合成繊維工場がつくられるまでは一漁村にすぎなかった。国道56号線が通り，松山市へは伊予鉄道の便があって，その郊外的性格をもつ。

マザーグースのうた【マザーグースの歌】イギリス・アメリカで広く親しまれてきたわらべ歌。フランスのペロー*の童話集《マザーグース(ガチョウおばさん)のお話》をニューベリーが英訳し，1765年ごろ刊行。以後，わらべ歌の総称となった。多彩な内容で，幼い子どもの音感・言語感覚をみがくうえでも貴重な素材である。

マサチューセッツ(州)［Massachusetts］アメリカ合衆国北東部，大西洋に面する州。面積20,400km²，人口580万(1974)。州都ボストン。独立宣言13州の一。西部はバークシャー丘陵が南北に走り，コネチカット川が貫流する。州名はインディアン語で〈大きな丘〉の意。1620年に信教の自由を求める清教徒がイギリスから渡来し植民地を築いた歴史の古い州で，合衆国の政治・学術・経済の発展に重要な役割を演じたところといえる。コッド岬(みさき)沖合いのジョージバンクやニューファンドランド沖のグランドバンクに近いことから漁業が早くから発達し，かつて漁民は捕鯨のため全世界の海に出漁したこともある。漁獲高はアラスカ州・カリフォルニア州に次いで全国第3位である。製靴(せいか)・製紙・電気・機械・綿織物業などの工業が盛んで，製靴業はペンシルベニア州に次いで第2位。農業では酪農，家禽の飼育，リンゴ・モモなどの果樹園芸が盛んで，ツルコケモモの生産は全国一である。ハーバード，その他の著名な大学が多い。主要都市，ウースター・スプリングフィールド。〔相村大彬〕

マーケティング
[marketing]

アメリカン-マーケティング協会の定義によれば，〈マーケティングとは，商品もしくはサービスを生産者から消費者もしくは使用者にまで流通させることに関する企業の経営活動の遂行を意味する〉と示されている。

〔発生〕一般に認められているように，マーケティングの起源はアメリカに求められる。アメリカは南北戦争の終わるころまでは，農業国であり，経済のすべてが農業を中心として推進されていた。南北戦争以後は，イギリスに端を発した産業革命の波を受け，急速に工業化が進展し，経済の中心は工業生産に置かれるようになった。当時の企業はもっぱら生産能率の改善・向上にすべての努力を傾注して，より大量の商品を，より低い原価で生産するように心がけていればよかった。もちろん，この時代における流通経済はすでに相当に複雑化してきていたが，その能率を改善・向上するについては，ほとんど関心が払われなかった。それは，いまだ生産(供給)が需要を上回ることなく，したがって人々は限りなき〈売り手市場〉を当然のことと信じていたからである。しかし，1929年以降の世界恐慌*の発生によってこの状態はまったく一変した。従来は市場では需要が供給を上回っており，〈つくれば売れる〉状態であったが，大量生産体制が確立し，供給が需要を上回るようになると，〈つくっても売れない〉状態へと変わっていった。このような市場の狭隘(きょうあい)化に加えて，資本の集中・集積に伴い企業規模は巨大化し，いわゆる寡占化が進んだ。それによって，企業間の競争方式も価格による競争から，品質・サービス・包装・広告・宣伝などの非価格競争へと移行した。

企業は完全競争にみられるような単なる価格による販売方法によってではなく，需要の動向を調査・分析し，顧客の欲求をとらえ，あるいは新しい欲求を見いだし，種種の販売政策によって市場を積極的に創造していくという科学的な販売方法(需要の創造)によって，競争に打ち勝っていかなければならなくなった。このような，近代的・科学的な販売方法こそ〈マーケティング〉の意味するものにほかならない。事実，多くの企業は，機械やオートメーションによって大量生産された商品を，なんとかして，どしどし大量販売して売りさばくことに大きな努力を払わねばならなくなった。しかしやがて大量販売だけを主眼としたマーケティングでも問題は解決されがたいことが気づかれるに至った。すなわち，マーケティングがその効果を発揮するためには，大量生産にふさわしい大量販売，そしてまたそのような大量販売を可能にする大量消費という結びつきが，形成されなければならないという考え方が広まったのである。

しかしながら，そのような大量消費は，ただ企業が一方的に押しつけただけでは，けっして十分に実現されうるものではなく，消費者もしくは使用者の側の消費ないし生活の変化とともに進展していくものであったため，消費者もしくは使用者の意志および利益というものを重視する企業経営のあり方・考え方が現われるに至った。

このように，今日のマーケティングは，科学的な販売方法という〈手段〉としてだけではなく，消費者の重視，または消費者の尊重といった，いわゆる消費者志向という思想，あるいは理念としてもまたとらえられるのである。したがって，マーケティングは，生産された商品(もしくはサービス)をいかにして販売するかという販売あるいは営業部門の管理問題から，企業経営の維持・存続を図るには，どのような商品を生産していけばよいか，どのように販売していけばよいかを，消費者を中心として考えていく，企業全体の問題へと拡大されていったのである。今日いわれる〈トータル-マーケティング〉(全社的マーケティング)とは，このような消費者志向という理念により，企業全体をおおう現代のマーケティングの性格にほかならない。

〔体系〕マーケティングとは以上のような歴史・性格をもつが，その内容および体系は次のようなものである。

〈マーケティングの準備〉 マーケティング活動は，まずその市場の状態，消費者の動

マサチューセッツこうかだいがく 【マサチューセッツ工科大学】 アメリカ合衆国，マサチューセッツ州ケンブリッジ市にある工業技術系の私立大学。MITの通称で知られるが，法人組織の創設は1861年，開講は1865年である。工科系においては，群を抜く教授陣・研究施設を誇っているが，近来は人文・社会科学系の学部の充実にも力を入れている。また，研究中心の大学院教育でも名高い。

まさつ 【摩擦】 物体を面に沿ってすべらせようとするとき，その運動を妨げるような力が作用する現象。この力を摩擦力という。

〔摩擦の法則〕面上の物体に対して面に平行に力を加え，徐々に増していった場合，力がある大きさに達するまで物体は動き出さない。これが静止摩擦で，力と反対方向に，大きさの等しい静止摩擦力が生じてつりあうためである。静止摩擦力には限界があり，それ以上の大きさの力を加えると物体は動き出す。この限界における摩擦力を最大静止摩擦力といい，これは接触面間の全圧力に比例する。この場合の2力の比を静止摩擦係数という。また，物体が面に沿って運動しているとき，その接触面において運動を妨げようとする力が働く。これが運動摩擦またはすべり摩擦で，このときの運動摩擦力は物体の速度に関係なく，物体の運動方向と逆向きで，垂直抗力に比例する。この2力の比を運動摩擦係数という。運動摩擦係数は静止摩擦係数より小さい。このような摩擦係数は接触面積には関係なく，面の性質のみによって定まる。なお，接触する2物体以外に物質が存在しない場合を乾燥摩擦というが，摩擦の法則はこの場合にのみなりたつ。

〔摩擦角〕水平面と傾きθのあらい斜面上に物体を載せた場合，垂直抗力をNとすると，物体がすべり出さないための条件は$\tan\theta \leq \mu$(μ：静止摩擦係数)である。この条件を満足する最大の傾斜角を摩擦角(静止摩擦角)という。

〔その他の摩擦〕ころがり摩擦：球や円筒状の物体がころがるときも運動を妨げようとする力が作用し，これをころがり摩擦という。ころがり摩擦力は接触面間の全圧力に比例し物体の半径に反比例する。この摩擦力はすべり摩擦力よりはるかに小さいため，ころ・ボールベアリングなどに応用される。粘性摩擦：運動流体あるいは物体が流体中を動くとき，流体の粘性により抵抗が生じる。この粘性による抵抗を粘性摩擦という。〔今淳治郎〕

いろいろな物質の摩擦係数

接触物体	面の状態	静止摩擦係数	運動摩擦係数
鋼鉄と鋼鉄	乾燥	0.15	0.03〜0.09
同上	塗油	0.11〜0.12	0.009
鍛鉄と鋳鉄	乾燥	0.19	0.18
同上	塗油	——	0.16
鋼鉄とコルク	乾燥	0.455	——
ガラスとコルク	乾燥	0.52	——
あさなわと粗木材	乾燥	0.59	——
あさなわとみがいた木材	乾燥	0.33	——
カシとカシ		0.62	0.48

向，需要の内容などについて，科学的なデータ把握(はあく)の方法によって的確な知識をもつことから始まる。たとえば，市場分析や販売分析の方法によって，市場における需要の大きさや動向に関するデータを把握・分析し，これに基づいて需要を予測し，販売を予測する活動が行なわれている。いわゆる〈市場調査〉は，それらを総括した〈マーケティング情報〉獲得の手段であるといえる。このような，消費者がもつ需要の量的側面を分析する市場調査に加えて，最近では消費者そのものの人間的な生活の態様や買い物の動機などに関する分析が重視されるようになった。これは〈消費者研究〉とよばれるものであり，主として消費者の態度・反応，および嗜好(しこう)などについての発見と分析とに関するものであり，動機研究はその典型的なものの一つである。

《マーケティング戦略》 マーケティングを遂行していくために必要な市場ならびに消費者に関する知識が準備されたならば，次には主としてこれに基づいて，またこれに必要な判断と洞察(どうさつ)とを加えて，種々の〈マーケティング戦略〉が企画され，推進されていく。このマーケティング戦略は，企業と消費者との結びつき関係から一般に次の三つのグループに分けることができる。①商品政策，②販売促進，③販路政策。①の商品政策とは，消費者もしくは使用者の需要に適合した商品を生産し，あるいは仕入れるということに関する活動で，いわゆる製品開発もしくは製品計画に代表されるもので，技術革新のテンポの早い今日では全マーケティング戦略のベースともなる主要な政策であり，また消費者の必要と欲求を充足させるという点で，今日のマーケティングの特徴を示している。②の販売促進とは，消費者もしくは使用者に働きかけて，自分の商品について，需要を抱いてくれるように方向づけるための活動であり，これには，一般に広告・宣伝・人的販売などを含むすべての消費者もしくは使用者の購買を喚起し刺激するための手段が含まれる。また狭い意味では，広告・宣伝・人的販売などと並んで，陳列・展示会・実演販売などをいう。③の販路政策とは，商品を消費者もしくは使用者にまで流していくための販売経路の選択・育成，および督励に関する活動であり，基本的にはマーケティングのための，会社内部の組織，および会社外部の代理店および販売店，すなわち卸売業者および小売業者の組織の構成をいかにするかという問題である。

《マーケティング管理》 これらのマーケティング戦略をより効果的に，しかも合理的に遂行するためには，それを具体的に推進するための計画・組織および指揮がなされ，さらにその実施の結果を分析・評価するための統制が行なわれるという近代的な経営管理の方法が用いられる必要がある。これはつまり，近代的な科学的管理のシステムを，マーケティング活動の実施の管理に応用することにほかならない。この意味のマーケティング活動の管理を一般に狭義のマーケティング管理，すなわち販売管理とよんでいる。

《マーケティングの実施》 このような管理のもとに，実際のマーケティング活動が実施されていく。販売員が販売のために出張したり，商品企画部が商品のデザインをしたり，広告部がポスターを作成したりするなどは，いずれもこの活動の中にはいるものである。これら実施活動を総括して，一般にマーケティング実施とよんでいる。

次にマーケティングは種々の観点から，いくつかの部門別マーケティングに分類することができる。まず第1にマーケティングはそれが対象とするものによって，①商品のマーケティング，②サービスのマーケティング，③資金のマーケティングの三つの分野に分けられる。一般の物品製造業者や物品販売業者が行なうマーケティングは①のものであり，また観光業者やサービス業者が行なうマーケティングは②のものであり，さらにまた金融業者や保険業者が行なうマーケティングは③のものである。第2に，マーケティングはそれが遂行される相手方，すなわち何人に対してマーケティングするかという観点から，消費者向けのマーケティング・業務者向けのマーケティングの二つに分けられ，前者は消費財マーケティング，また後者は生産財マーケティングともいう。〔清水　晶〕

まさつあっせつ　【摩擦圧接】 金属などの接合法の一。素材を突き合わせて相対運動をさせ，その接触面に発生する摩擦熱を利用する。接合すべき材料の一方を固定し，他方を加圧しながら高速回転させると接合面に高熱が発生し接合が行なわれる。炭素鋼・ステンレス鋼・工具鋼・軽金属・異種金属の接合に用いられる。この方法は余分な部分の加熱の必要がなく，効率がよいなどの利点がある反面，断面形状が円形でなければならないなどの欠点もある。〔内田茂男〕

まさつかく　【摩擦角】 ⇨摩擦

まさつぐるま　【摩擦車】 動車から従動車に摩擦力を利用して回転力を伝達する車。鋳鉄製のもの，あるいは摩擦を増加させるために接触面に皮・紙・木などを取りつけたものが用いられる。回転軸が平行な場合は円筒形，交わる場合は円錐(えんすい)形の車を用いる。あまり大きな動力を伝達するのには適さない。摩擦力を増加させるために車周に沿ってみぞをつけたみぞつき摩擦車も用いられる。摩擦車はその接触位置をずらせて無段変速をさせるのにも用いられるが，そのために円筒・円錐のほか，球面・円弧回転面などが接触面として利用されることもある。〔森田　鈞〕

まさつけいすう　【摩擦係数】 ⇨摩擦

マサッチョ ［Masaccio］(1401～1428) イタリアの画家。ルネサンスを推進する上にあずかるところ多かったフィレンツェ派の，最も若々しい高貴な芸術的発現を，20代で夭折(ようせつ)したこの画家の残した作品に，典型的に求めることができよう。マサッチョは遠縁の画家のもとで画業を学びはじめ，1422年にフィレンツェの画家ギルドに名を連ねた。彼の作と比定されるものは，《聖母と聖アンナ》《奉献者たちと聖三位一体》，切断されて各所に散在しているピサのサンタ-マリア-デル-カルミネの祭壇画，フィレンツェのサンタ-マリア-デル-カルミネのブランシカッチ家礼拝堂に描かれたフレスコの4作である。最後の作品は聖ペテロの生涯(しょうがい)を描き，副次的にアダムとイブの物語が入り口に描かれている。この作品の完成にあたって，マソリーノ*



マサッチョ《貢の銭》(部分) 1427 サンタ-マリア-デル-カルミネ聖堂蔵

-ダ-パニカーレの協力を得た。マサッチョは，この作品を未完成のままローマに行き，その地で没した。彼は技法的に立体性を追求しただけではなく，その作品のもっている劇的効果によって，ゴシック期の絵画とは一線を画す表現に到達した。〔吉田玲子〕

まさつでんき 【摩擦電気】 摩擦によって生ずる電気。絶縁性のある二つの物体を摩擦すると，おのおのの表面に互いに異なった種類の電気が発生する。その発生する電気の量や種類は，摩擦の強さや摩擦する面積などによるばかりではなく，摩擦する物質の種類の組み合わせによっても異なる。

まさつりょく 【摩擦力】 ⇨摩擦

まさむね 【正宗】 生没年未詳。鎌倉末期の刀工。相模(さがみ)(神奈川県)鎌倉に住し，〈古今第一等〉の名刀を作刀した。新藤五国光の弟子(でし)で，同門の行光の養子となったと伝わる。作風は沸(にえ)できの妙味を最大限に発揮し，大板目肌(はだ)に美しく地景を交えたものであるが，その作には年紀のある確実なものはない。しかし，記録には《江戸長銘正宗》という名物の短刀があり，〈正和三年〉銘があったという。

まさむねはくちょう 【正宗白鳥】 (1879〜1962) 小説家。岡山県の生まれ。本名忠夫(ただお)。東京専門学校卒業。1903年(明治36)読売新聞社に入社，のち，自然主義の拠点となった文芸欄を編集するかたわら，《寂寞(せきばく)》《塵埃(じんあい)》などの短編小説で自然主義文学運動の新進として認められた。続いて，《何処(どこ)へ*》《五月幟(さつきのぼり)》《微光》《泥人形(どろにんぎょう)》などで，みずからの周辺に材をとった虚無的な人生凝視を示し，《妖怪画(ようかいが)》《地獄》などで生の根底にひそむ無気味な戦慄(せんりつ)を剔抉(てっけつ)。その後《入江(いりえ)のほとり》《牛部屋(うしべや)の臭(にお)ひ》などにおける梗塞(こうそく)された生への注目を経て一時は小説を放棄したが，1924年(大正13)戯曲《人生の幸福》を発表，《安土の春》などの戯曲によって創作活動に復した。第2次世界大戦後には《戦災者の悲み》《人間嫌(きら)ひ》などのほか評論に活動を示した。1940年(昭和15)日本芸術院会員，1943年日本ペンクラブ会長となり，1950年文化勲章を受章。〔小泉浩一郎〕

マザラン [Jules Mazarin] (1602〜1661) フランスの政治家。イタリアのペスチナに生まれる。イタリア名はジュリオ-マザリニ。1639年フランスに帰化。ルイ14世時代の宰相。ローマのイエズス会学校に学び，一時教皇軍にはいった。のち外交使節として手腕を発揮し，ルイ13世*・リシュリュー*らに認められ，1641年枢機卿(すうきけい)，翌年宰相リシュリューの死によってその地位を継いだ。1643年ルイ13世が死去，わずか5歳のルイ14世が即位。摂政となった母后アンヌの寵愛(ちょうあい)と庇護(ひご)のもとに，リシュリューの政策を継承して，王権の強化に努めた。内政ではフロンドの乱*を鎮圧し，対外的には巧妙な外交的手腕でウェストファリア条約*を結んで三十年戦争*を終結させ，アルザスを獲得，ドイツ・スペイン両ハプスブルク家*をおさえ，フランス絶対主義の確立を図った。《マザラン文庫》を残している。〔喜多迅鷹〕



正宗白鳥



マシコ 水浴びをするベニマシコ

マーサリク [Tomáš Garrigue Masaryk] (1850〜1937) チェコスロバキアの政治家・哲学者。モラビアの生まれ。1911年プラハ大学哲学科教授。第1次世界大戦にはベネシュ*らとともに独立運動を指導，チェコスロバキア独立後に初代大統領(在任1918〜1935年)となる。著書《自殺と近代文明》《ロシアとヨーロッパ》など。

まさん 【馬山】 マサン 朝鮮，慶尚(けいしょう)南道の鎮海湾に臨む港市。人口18万7,000(1970)。付近一帯はカコウ岩地帯で水質がよく，名酒の醸造地として名高い。農・水産物の集散・加工が盛ん。

まし 【麻紙】 麻布を原料としてすいた紙。奈良時代には多く用いられたが，高価で，文字を書きにくいので，のちには用いられなくなった。

ましき 【益城(町)】 熊本県上益城郡の町。人口24,000。熊本市の東に接し，1954年(昭和29)木山町を中心に4か村が合併して発足した。熊本と阿蘇(あそ)をつなぐ交通上の要地であり，ダイズ・アズキ・ナンキンマメなど畑作農業が盛ん。近年は熊本市への通勤者が増加している。

ましこ 【猿子】 アトリ科の小鳥のうち，赤紫色の羽毛が多く，しかもその部分が目だつものの呼び名。日本産のものでは，ベニマシコ・アカマシコ・ギンザンマシコ・ハギマシコなどがある。

ましこ 【益子(町)】 栃木県南東部，芳賀(はが)郡の町。人口22,000。古くは猿子と書いた。西部を小貝川が流れ，台地と低地を利用して，米・タバコをつくり，畜産も行なわれる。古い歴史をもつ益子焼*の産地として知られ，原料の粘土は中心集落の益子町北東の山地から出るが，約60の製陶業者はこの粘土産地と益子町との間の傾斜地を利用して登り窯(のぼりがま)を築いて分布している。第2次世界大戦後益子焼は一時ふるわなかったが，最近の民芸ブームのためにまた復活している。このほか農村の余剰労働力を利用したカメラや時計の工場がある。

ましこやき 【益子焼】 栃木県芳賀(はが)郡益子町で製する陶器。同町の大塚(おおつか)啓三郎が嘉永(かえい)年間(1848〜1853)に陶土を発見，試製したことに起因する。当時，藩主もこれを奨励し，資金を貸与したという。また，1855年(安政2)には白土の発見もあり，京焼*の土瓶(どびん)・土鍋(どなべ)などの台所用雑器に擬したものを製した。近年は，民芸運動の勃興(ぼっこう)と結びついた浜田庄司*(しょうじ)の出現によって，広く知られるようになった。

マジソン [Madison] アメリカ合衆国東北部，ウィスコンシン州の州都。人口168,000(1975)。州南部のメンドタ湖とモノナ湖にはさまれた地峡に発達した都市で，風光にすぐれる。農業機械・機械・電気製品工業が盛ん。州立のウィスコンシン大学がある。

マジックインキ ⇨サインペン

マジックハンド ⇨マニピュレーター

マジノせん 【マジノ線】 第1次世界大戦後フランス陸相マジノによって東部のドイツ国境沿いに構築された地下都市的大要塞線(ようさいせん)。ドイツはジークフリート線*でこれに対抗した。しかし第2次世界大戦中の1940年6月ドイツの電撃作戦によって簡単に突破され，難攻不落の要塞も空軍の前には無力なことが明らかとなり，いわゆる〈要塞線〉に終止符が打たれた。

まじまりこう 【真島利行】 (1874〜1962) 有機化学者。京都の生まれ。1899年(明治32)東京帝国大学卒業。のちドイツ・イギリスに留学，1911年帰国して東北帝国大学教授となり，のち大阪大学総長となる。日本産天然物の有機化学的研究，特にウルシの主成分インドール誘導体の研究(マジマのインドール合成)によって1917年学士院賞受賞。ほかに紫根などの天然色素・感光色素・合成染料などを研究。トリカブト*類のアコニチンほか多数のアルカロイドの構造研究を行なう。また諸大学の創設に尽力し，研究室を組織・指導した。〔山下愛子〕

マシマロ [marshmallow] 本来はビロードアオイ(アルテア)の根にある粘りと風味をもつ西洋菓子であるが，現在は砂糖・水あめ・コーンスターチ(またはかたくり粉)・ゼラチン・着色料・香料などを原料としてつくる。特異な軽い風味とゴムのよ

うにふわふわした舌ざわりをもつ。原料の配合により種々の変わった味のものができる。砂糖・水あめに水を加えて加熱溶解し，ゼラチンを加えて混合機で攪拌(かくはん)してあわだて，それにコーンスターチ・着色料・香料などを加え，型に流して固める。一般的組成は水分17.9，タンパク質3.7，脂質0.7，砂質78.4，灰分0.7％である。〔泉 敬子〕

マシャード-デ-アシース ［Joaquim Maria Machado de Assis］（1839～1908） ブラジルの作家。リオデジャネイロの貧家に生まれた。作品には，一種独特のユーモアのうちに，作者の強い人間不信に根ざしたペシミズムがうかがわれる。《ブラス-クーバスの回想》が代表作。ブラジル文学アカデミーの創立者のひとりで，初代会長。

マジャパヒトおうちょう 【マジャパヒト王朝】 ジャワ島中部および東部に13世紀末から16世紀初めまで存在した王朝。ジャワにおける最大で最後のヒンズー王朝。シンガサリ朝最後の王クルタナガラが，クディリの代官ジャヤカトワンに殺された際，その女婿(じょせい)ラーデン-ビジャヤはのがれてブランタス川流域のマジャパヒトに都した。このころ，中国の元朝はクルタナガラが元の使者を侮辱したことから，1293年ジャワに討伐軍を送った。ビジャヤははじめ元軍と結び，ジャヤカトワンが元軍に捕えられるに及んで，にわかに元軍を攻撃して敗走させ，以後，ジャワ王たることを宣言して王朝を開いた。第4代ハヤムウルク(在位1350～1389年)のころが最盛期であったが，第7代クリタビジャヤのころに至って衰退し，1478年にはクディリ朝のラナビジャヤに侵略され，マジャパヒト王朝は急速に勢威を失い，1513～1528年の間に滅亡したと推定される。中国の史書には麻喏巴歇とか満者伯夷と記されている。〔船越昭生〕

マシャーブルム(山) ［Masherbrum］ アジア中南部，カラコラム山脈中の高峰。K_2峰の南西約32kmにあり，東峰(7,821m)・西峰(7,806m)の2峰からなる。1960年アメリカ-パキスタン合同隊によって初登頂された。

マーシャル(諸島) ［Marshall］ 西太平洋にある島群。32のサンゴ礁島と多数の岩礁からなる。総面積181km²。人口19,000(1968)。東部のラタック(日の出の意)諸島と西部のラリック(日の入りの意)諸島の二つの列島に分かれ，それぞれ長さ約800kmにも及び，クアジャリン・ヤルート・エニウェトク・ビキニなどの大環礁がある。住民はミクロネシア人で，ココヤシ・パンノキ・バナナ・パパイア・ヤムイモ・タロイモなどをつくっている。1526年スペイン人が発見し，1885年からドイツの保護領となり，第1次世界大戦中の1914年日本が占領して委任統治領となった。第2次世界大戦では，日本・アメリカ合衆国間の激戦場となり，戦後1947年からはアメリカ合衆国の信託統治領になっている。北端のビキニ島とエニウェトク島は，アメリカ合衆国の原水爆実験場となり，このため原住民は強制的に東方のロンゲリク島に移住させられた。1954年の水爆実験の際，付近の海域で日本漁船の第5福龍丸(ふくりゅうまる)が〈死の灰〉の被害を受けた。〔大崎 晃〕

マーシャル ［Alfred Marshall］（1842～1924） イギリスの新古典学派*の経済学者。ロンドンの生まれ。はじめ父の勧めによりオックスフォード大学で神学や哲学を学んだが，数学・物理学に興味をもつようになり，ケンブリッジ大学に移り物理学の研究に専心した。のちに神学・哲学にひかれて，1868年カント研究のためにドイツに渡ったが，同年ケンブリッジ大学の倫理学特別講師となった。このころ，経済学の研究に進む決意をし，チューネン*・クールノー*・ミル*の経済学を研究し，とりわけリカード*経済学の数理化に苦心した。同時に広く社会・歴史・哲学の研究も行ない，1870年再びドイツに渡って1年間，ヘーゲルの哲学，歴史学派の経済学，特にロッシャーの理論，社会主義理論，マルクスとラッサールを研究した。このように広範な研究を行なうかたわら，みずからロンドンの貧民街の生活を調査し，自分の理論的研究と関連づけようと試みた。1883年トインビーの後任としてオックスフォード大学の講師，1885年ケンブリッジ大学の教授となり，1901年王立労働委員会委員となった。主著は《産業経済学》(1879)，《経済学原理》(1890)，《産業と商業》(1919)，《貨幣・信用・商業》(1923)など。〔林 達〕

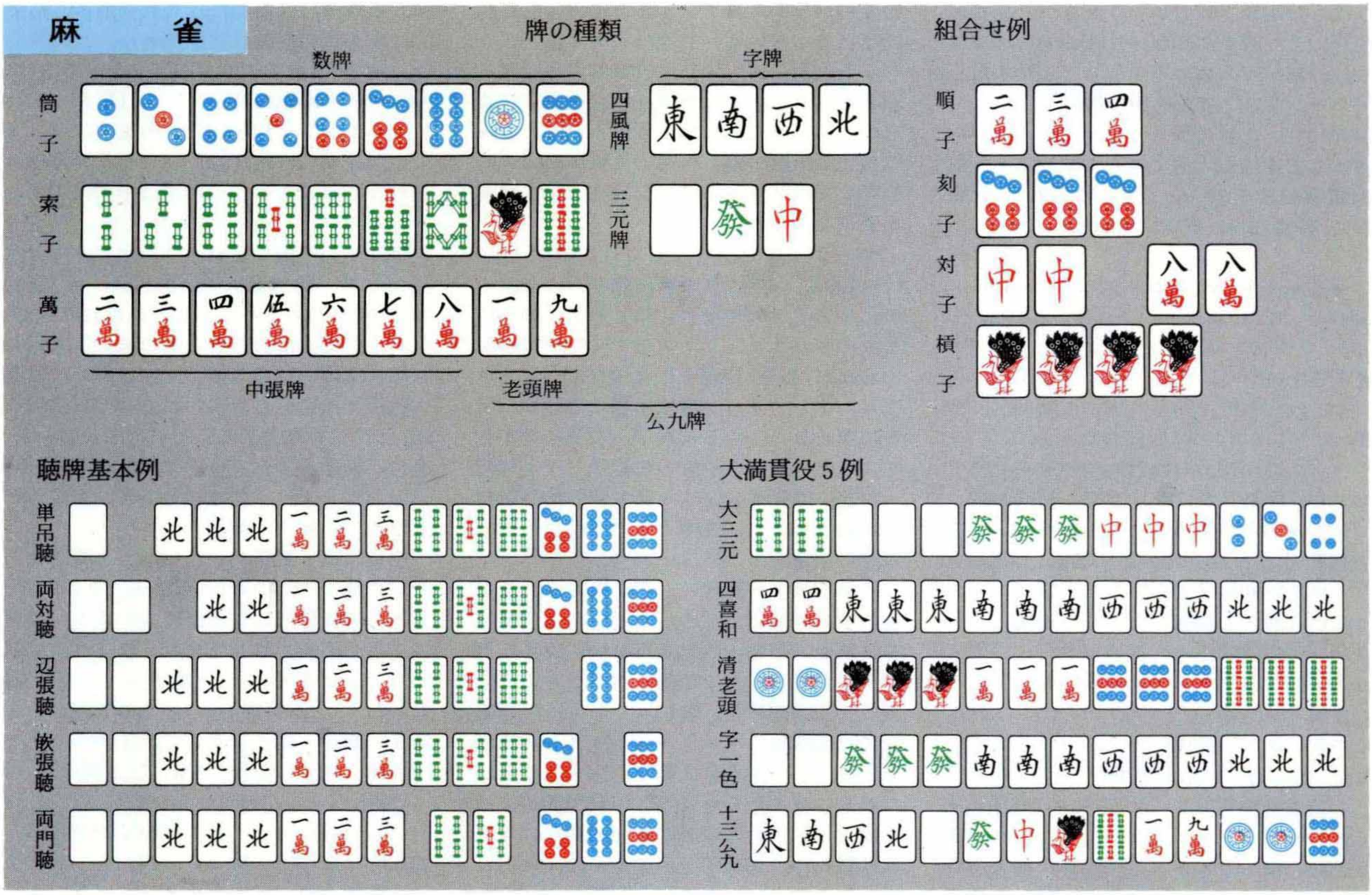
マジャールじん 【マジャール人】 ドナウ川中流域に住み，フィン-ウゴル語派の一つであるハンガリー語(マジャール語)を母語とする民族。いわゆるハンガリー人。もとウラルからボルガにかけて住んでいたが，9世紀に現在のハンガリーの地に移り，先住のゲルマン・アバール・ブルガール-トルコ・スラブ人などと混血して，国家を形成するに至った。人口約1,140万。宗教的にはカトリック66％，カルバン派21％，ルーテル派6％である。〔田中克彦〕

マーシャル-プラン ［Marshall Plan］ アメリカ合衆国が第2次世界大戦後のヨーロッパに対して実施した復興計画(ERP)。1947年6月国務長官マーシャルは，1952年までにヨーロッパ諸国が経済的復興と自立を達成するため，アメリカ合衆国はこれを援助する用意があると発表，1948年4月経済協力法として実現した。その実施機関として経済協力局(ECA)，西ヨーロッパ16か国の受け入れ機関としてヨーロッパ経済協力機構(OEEC)が設立され，1951年末までに125億ドルが投入され，大戦前の工業水準を30％越す成果をあげた。被援助国への義務が多い〈ヒモつき援助〉であったため，ソ連や東欧諸国は援助受け入れを拒否，結果的に東西両陣営の対立を深めた。この計画は，1952年自由主義国の相互安全保障法(MSA)に引き継がれた。〔折井一彦〕

マージャン 【麻雀】 室内遊技の一。4人の競技者が136枚の牌(パイ)を種々に組み合わせて勝敗を争う。起源は中国にあるとされ，清朝(しんちょう)のころに形態と内容が定まり，わが国に伝わったのはアメリカを経由して，明治(1868～1911)末・大正(1912～1925)初めごろであるといわれている。なお，全国的に流行をみたのは大正末から昭和初期にかけてであり，特に第2次世界大戦後には盛行し，多かれ少なかれ金銭を賭(か)けて行なわれることが常識となった。また，最近のルールは，偶然性を強め，賭けの効果をあげるために上がり点を多くする方式をとることが多い。

用具は牌・骰子(シャイツ)(さい)・籌碼(チョウマー)(点棒)・牌卓(パイチュオ)(テーブル)などである。牌は骨材に竹の裏打ちがあり，表面に文字や図柄が彫り込まれ，筒子(トンツ)(餅子(ピンツ))・索子(スオツ)・萬子(ワンツ)・三元牌(サンユアンパイ)・四風牌(スーフォンパイ)の5種がある。筒子・索子・萬子はそれぞれ1から9までの各種4個ずつで計108個，三元牌は中(チョン)(紅中(ホンチョン))・発(ファー)(発財(ファーツァイ))・白(パイ)(白板(パイパン))の3種各4個で12個，四風牌は東(トン)・南(ナン)・西(シー)・北(ペイ)の4種各4個で16個である。

競技はまず4人の競技者の着席位置を決めることで始まる。位置が決まると，全部の牌をよくかきまぜ，竹の面を上にして各自の前に17幢(チョアン)ずつ並べる。1幢は牌の2枚重ねにしたものである。この17幢の列が各自の前にそれぞれ1列ずつ，井桁(いげた)の形に並べられる。ここで，位置決めのときに東を引き当てた者が仮親として骰子を振り，第1投の目にあたった者が第2投を行ない，親(荘家(チョワンチャ))を決める。親は東家となり，以下右回りに南家・西家・北家の順である。この親が骰子を振って出た目数の者の17幢の列から，各自2幢(4個)ずつ3回取り，4回めに親は次の1幢の上の1個と3幢めの1個を取り，子(散家(サンチャ))はそれぞれ順に1個ずつを取る。親は14個，子は13個の手牌となり，これを配牌(ペイパイ)という。この配牌を，原則として3個1組みに組み合わせるのである。組み合わせは多種多様である。たとえば2・3・4の順子(シュンツ)でもよいし，同字牌3個の刻子(コーツ)でもよい。また，同字牌4個の積子(カンツ)でもよい。こうした形のものを4組み，他に雀頭(チャオトウ)にあたる同一牌2個をもつ形に仕上げることが，この遊技の目的である。これが完成されたときが和了(ホーラ)(上がり)で，次が和了の段階になるという場合が聴牌(ティンパイ)である。なお，組み合わせを完成するためには，模(モー)・吃(チー)・碰(ポン)・槓の方法がある。



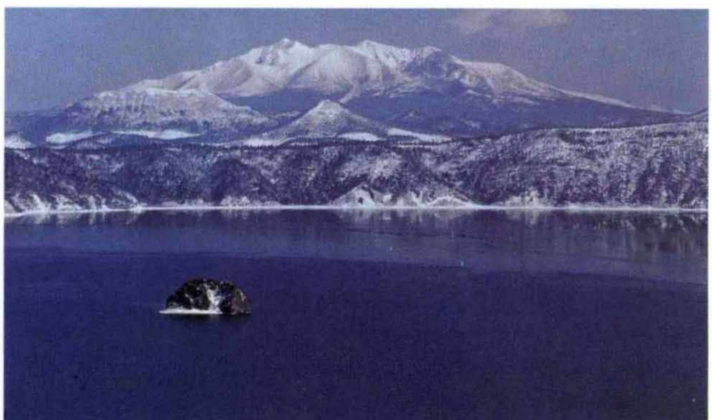
さらに，点数を倍増させるための役（飜(ファン)）が用いられる。競技は1回の和了あるいは未和了で1局を終了とし，東家から北家までの1回りを4回くり返すことが行なわれる。これが一荘(イーチョワン)である。現今では半荘戦がよく行なわれ，東・北あるいは東・南で終わり，籌碼のプラス・マイナスで勝負が決まる。〔村木幸生〕

ましゅうこ【摩周湖】 北海道東部，阿寒(あかん)国立公園東部にあるカルデラ湖。屈斜路大カルデラの中にある摩周火山のカルデラにたたえられる。面積19.6km²，水面高度351m，最大深度212m。貧栄養湖のため，かつては最大透明度41.6mを記録し世界第1位であったが，現在は28m。湖岸は高さ約150mの絶壁に囲まれ，濃藍(のうらん)色の水をたたえ，濃霧のときが多く神秘の湖として有名。中心部にはカムイシュ島とよばれる湖面上25mの小島がある。注入河川も流出河川もなく，水位の変化はほとんどない。ニジマス・ヒメマスが移殖されている。湖名は〈カモの湖〉を意味するアイヌ語に由来する。〔長津一郎〕

マショー [Guillaume de Machaut]（1304ごろ～1377） 中世フランスの作曲家。北フランスのジャンパーニュ県の生まれ。〈アルス-ノバ*〉といわれる14世紀の新しい音楽の重要なにない手になった。聖職者としての教育を受けたのち，ボヘミアのヨハネス王の秘書となり，王についてヨーロッパ各地を旅行し，各地の音楽に接した。マショーの作品は，モテット・バラード・ミサなど当時の音楽のあらゆる領域にわたっているが，最も重要なのはミサ曲で，《ノートルダムのミサ曲》が知られる。〔船山　隆〕

まじょ【魔女】 英語ウィッチの訳。魔女についての迷信は世界各地でみられ，今日でもアフリカなどには根強く残っているが，ヨーロッパで魔女狩りや魔女裁判が盛んに行なわれたのは，特に中世末からルネサンス時代にかけてであった。そのころ魔女は異端審問の対象としてきびしく処罰された。ヨーロッパの魔女に関する迷信の起源については，キリスト教のはいるまえの信仰，たとえばケルト人のドルイド教からという説がある。

魔女はふつう老女で，なんらかの動物といっしょに住んでいた。その動物としては黒ネコが最も多いが，イヌ・ブタ・ヤギ・魚・トカゲ・アヒル・鳥などいろいろのものがあった。またそれらを組み合わせた怪物もあった。魔女自身これらの動物に化けるともいわれた。家庭用の愛玩動物の珍しかった時代に，こうした動物をもった老女は，近隣の人々には奇怪で恐しい姿に見えたためであろう。魔女は箒(ほうき)に乗って夜



摩周湖 冬の摩周湖。カルデラ湖であるために湖岸は絶壁に囲まれている。湖中の島はカムイシュ島(弁天島)。正面は斜里岳

間に空中を飛ぶと信じられ，またウマやヤギに乗って飛ぶともいわれた。空中飛行のまえに，魔女は魔法の油を全身に塗った。この油は洗礼前の子どもの身体からとったもので，彼女たちは幼児を殺してその肉を食べるとされていた。

魔女は平生はひとり住まいであったが，ときおり集会を行なった。集会はつねに夜間で，その場所はドイツのブロッケン山など荒れ果てた場所であった。ニワトリが鳴くとすべてのものが消えうせるとされた。彼女たちは〈黒ミサ〉を行ない，その宴会は〈安息日〉とよばれ，彼女たちの団体は不吉な13人で構成されると信じられた。

ドミニコ会の修道士によって1486年ごろ出された《魔女の槌(つち)》は，魔女裁判に関する最も重要な書物として知られる。魔女狩りと魔女裁判はヨーロッパ各国で行なわれたが，ドイツで最も激しく，17世紀だけで10万人が処刑されたといわれ，スペインやイギリスでは少なかったという。魔女裁判は一般の異端審問と同様過酷なもので，審問官の一方的な裁判で被告の弁護は認められず，しばしば拷問が行なわれた。

〔兼岩正夫〕

マジョリカ ［majolica］ 15世紀以来，イタリア国内でつくられた錫釉(すずゆう)陶器(ファイアンス)の総称。名称の起こりは，スペイン国内でつくられていた錫釉陶器をマヨルカ島の商人がイタリアへ売り込みのため船載し，それをマジョリカとよんだが，のちにイタリア国内で製作されるようになった陶器に転じて用いられるようになったものと伝えられる。マジョリカは総じて素焼きした器物の上に錫釉をかけ，それに多種類の鮮明な色彩を用い宗教画・歴史画・肖像・花卉(かき)・動物・風景などを描いたものが多い。一般日用器物のほか，薬用壺(つぼ)・彫刻品・装飾用品・タイルなどがつくられている。

〔市川　清〕

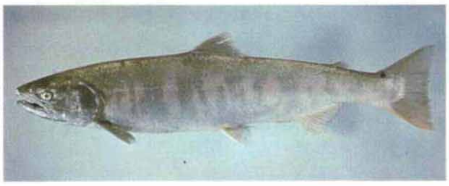
マシーン ［Leonide Massine］(1896～) ロシア生まれの舞踊家・振り付け師。1912年モスクワ帝室舞踊学校卒業。翌年バレエ-リュス*に加入。1925年ディアギレフ*の死とともに脱退し，以後欧米の数々のバレエ団で活躍した。おもな作品には《三角帽子》《春の祭典》《子供の遊び》などがあるが，交響曲をバレエ音楽に生かしたシンフォニックバレエに新分野を開き，また当時の新興芸術である映画やジャズ音楽への理解も深くバレエとの結合に先鞭(せんべん)をつけた。映画《赤い靴(くつ)》《ホフマン物語》にも出演した。

〔高橋孝一〕

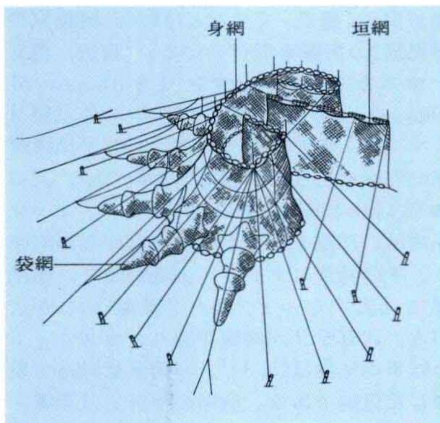
ましんウイルス 【麻疹ウイルス】 麻疹(はしか)の病原体。ヒトからヒトに飛沫(ひまつ)感染し，発疹・多核巨細胞を生じさせる。各種の培養細胞でよく増殖する。ウイルス粒子は球形で直径150～250mμ，遺伝子はRNAで，外側に被膜をかぶる。熱に対して比較的弱く，37℃でもあまり安定ではない。



魔　女 年1回深夜に開かれる魔女たちの宴　ゴヤ《魔女のサバト》プラド美術館蔵



マ　ス　サクラマス



枡　網

有機溶媒にも弱い。ウイルス粒子の構造がジステンパー-ウイルス，牛疫ウイルスと非常に近く，また，いずれもミクソウイルス*と構造上の共通性があるため，パラミクソウイルスに含められる。

〔石川　彬〕

ます 【鱒】 硬骨魚類・サケ科のサクラマス*の別名であるが，サケ・マス類とよばれるように総称にも使われる。養殖魚として有名なニジマスやカワマスなどの淡水産食用魚，また，セッパリマス*・マスノスケ*などいずれもサケ科に属す魚類で，すべて食用としての利用価値は高い。また，つりの好対象になるものも多い。➔サケ

ます 【枡】 穀物や液体の体積をはかる計量器。計量の方法には口縁(くちべり)で計量するもの(盛り切り枡)と目盛り線を基準としてはかるものがある。形状はわが国で古来から使われてきた方形の枡のほか，西洋に多い円筒形・円錐(えんすい)形のものがある。枡の容量を規定するために方形のものは各辺の長さが定めてあり，円筒形・円錐形のものは円の直径と高さが規定される。使用材料から，木製・金属製・ガラス製・陶磁器製・ほうろう鉄製・有機合成樹脂製などに分けられる。木製枡はヒノキやサワラなど変形しにくい木材が使われる。液体用では漆などを塗って液がしみこまないようにし，また枡の摩耗を防ぐため鉄の縁取りをする場合もある。油類用には金属製の枡が使われ，めっきやほうろうびきなどでさびどめをする。潤滑油用はオイルジョッキとよばれる。ガラス製のものはメスシリンダーのように分割目盛りがつけられ，液面の高さで体積を測定するものが多い。わが国の枡は大宝令(たいほうりょう)によって唐制にならい，およそ5合(0.902l)の大きさに決められたのが最初といわれる。その後律令制度の崩壊に伴い各種の私的な枡の発生がみられた。これは平安末期から鎌倉時代にかけて特に盛んとなり，国衙(こくが)・荘園(しょうえん)などで荘枡が使用された。この間，1072年(延久4)後三条天皇は荘園整理政策の一環として，宣旨枡*といわれる国家公定枡を制定したが，その権威を保ち得たのは，鎌倉時代末までである。一方，鎌倉中期からの商業の発達とともに，各地に商業枡ないし市場枡が，さらに室町時代には商業枡から発展した町枡が商業都市・城下町などで生まれた。京都およびその周辺では，天正(1573～1591)のころからいわゆる京枡*が使用され，その後豊臣秀吉(とよとみひでよし)が太閤(たいこう)検地*の実施にあたり，石盛にこの京枡を指定したため京枡は全国的に使用されだした。これは縦横それぞれ5寸，深さ2寸5分であったが，その後寛永年間(1624～1643)にそれぞれ4寸9分，2寸7分に改められた。徳川家康(いえやす)の開府後，江戸では江戸枡が発生し，やがて京枡と並んで代表的な枡として普及したが，徳川幕府の基礎確立に伴う諸制度の整備の必要から，1669年(寛文9)京枡が公定枡に指定され，他の諸枡は廃止された。同時に京都と江戸に枡座が置かれ，全国的な統一がなされた。この公定枡は新京枡とよばれ，その容積は64,827立方分(約1.804l)であり，これが現行枡の基礎となった。

1876年(明治9)明治政府は太政官(だじょうかん)布告によりそのまま新京枡を国家公定枡として指定し，さらに1893年の度量衡法の施行により公定枡としての地位を確立したが，1952年(昭和27)の計量法実施以来1升を単位とした枡は使われなくなった。➔度量衡

〔下平和夫〕

ますあみ 【枡網】 定置網*の一種。つぼ網ともいう。内湾で多く用いられる小形の網で，定置漁業権に基づくものではない。

網は元来は垣(かき)網と枡形の身網とからなるが，最近では底網をつけ，袋網も取り付けている。敷設水深もこれに伴ってやや深めとなり，約20mまでの水域で行なわれる。網はふつう1日1回上げて，おもにタイ・スズキ・カマス・イカ・カレイ・ハゼなどを漁獲する。

ますい【麻酔】 人工的に身体の一部あるいは全部に一時的な無痛状態をつくり出すこと。一時的であることが重要で，永久的あるいは半永久的に同じ状態が起こった場合は麻痺(まひ)という。もともと手術のときの痛みを除くために発達した。歴史的にみると，わが国では，1805年(文化2)華岡青洲*(はなおかせいしゅう)が麻沸湯という内服麻酔薬を発明し，これを用いて患者を無意識に陥らせて乳癌(にゅうがん)の手術をした記録が最初で，これはわが国のみならず世界でも最も早く行なわれた無痛手術である。外国では1846年アメリカ合衆国のモートンがエーテルを用いて行なったのが最初とされる。

麻酔には意識の消失と全身の無痛が同時に得られる全身麻酔と，身体の一部だけの無痛が得られる局所麻酔があり，それぞれ用いる薬剤が異なる。また全身麻酔に用いる薬剤にもさらに2種類があって，呼吸といっしょに肺から吸入する笑気やハロセンなどと，静脈注射で用いるある種の睡眠薬や麻薬などが代表的なものである。エーテルやクロロホルムも肺から吸入させる麻酔剤であるが，現在はあまり用いない。現在最も進歩した全身麻酔法は，たくさんの種類の麻酔薬を少量ずつそれぞれの特徴を生かしながら混合して用いる方法で，さらに筋肉だけを特別にゆるめる薬剤を加えたりする。局所麻酔は手術の場所と痛みを感ずる脳との間の神経の連絡を薬剤によって数時間断ち切る方法で，全身に対する影響が少ないという長所をもつ。薬剤としては古くはコカインがよく用いられた。しかし現在ではコカインの欠点を除いたすぐれた麻酔薬がたくさん発見されている。また局所麻酔は手術のときの痛みを除くだけでなく，いろいろな病気で起こる痛みを除いて治療するのにも用いられる。以上の麻酔法や麻酔薬のどれを選んで用いるかは，患者の状態や手術の種類などによって決定されるが，このような判断を下す専門医を麻酔科医という。〔鈴木　太〕

ますかがみ【増鏡】 南北朝時代の歴史物語。17巻。ほかに19巻，20巻の増補本があり，作者には二条良基(よしもと)があげられ，成立は1368～1376年(正平23・応安1～平授2・永和2)と推定される。嵯峨(さが)の清涼寺で，老尼が語る昔物語を記すという形式によって，1180年(治承4)の後鳥羽(ごとば)天皇の誕生から，1333年(元弘3・正慶2)後醍醐(ごだいご)天皇の隠岐(おき)から京都還幸までを，公家(くげ)の側に立ってほぼ年代順に記している。承久・元弘(げんこう)の乱に関する記述もあるが，歴代の天皇に関する事項や宮廷の年中行事・儀式・遊宴の叙述が中心。構成・文体などは《源氏物語》《栄華物語》の影響を受けている。〔信太　周〕



マス-ゲーム　国慶節のパレードに行なわれる盛大なマスゲーム　中国

マスカット-オーマン［Sultanate of Muscat and Oman］ 1970年7月以降オーマン国と国号を変更。アラビア半島南東部の海岸に沿う。面積21万2,457km²，人口89万(1978年推)。首都マスカット。オーマン湾沿いに幅2kmほどの狭い海岸平野があり，その背後にアフダル山地が走り，西南部には広大なルブアルハリ砂漠(さばく)が広がる。北部を北回帰線が通り，マスカットの年平均気温は28.8℃，年雨量は99mmで乾燥した気候である。海岸の平野では果実・コーヒーなどが栽培され，ナツメヤシ・果樹・タバコ・ラクダが主要輸出品となっている。おもな貿易相手国は，インド・パキスタンで，近年は石油の開発も進められた。16世紀前半以来ポルトガル領であったが，1891年以後イギリスの保護国であった。1971年国連加盟。〔梶川勇作〕

マスカーニ［Pietro Mascagni］(1863～1945) イタリアのオペラ作曲家。リボルノの生まれ。幼少から音楽的才能を発揮したが，法律家にさせようとした父の反対でその教育は遅れ，ようやく14歳で正規に音楽を学び，やがてミラノ音楽院でポンキエリ*に師事した。同校を中退後，旅回りの歌劇団に加わっていたが，1889年にソンツォーニョ出版社の懸賞オペラに応募，《カバレリア-ルスチカーナ》が1等となった。これはベリズモ*-オペラの代表作とされる。〔向坂正久〕

マスクラット［muskrat］ 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。頭胴長28.5cm，尾長23cmほどの巨大なネズミで，体毛は長く密生し，体色は黒・焦げ茶・白など。北アメリカに分布，手足や尾は水中生活に適した構造となっている。川べにすみ，土手などに大きな穴をあけて巣とする。日本・ヨーロッパなどでは毛皮獣として輸入・飼育されたものが逃亡・野生化している。体から強いにおいを放つためニオイネズミともいわれる。

マス-ゲーム［mass-game］ 集団で行なう徒手体操や組み体操のこと。古代ギリシア・ローマでは，運動・演劇・音楽・文学などの集団競技会を定期的に催した。現代になってこの中から個人技(わざ)を総合して集団的な迫力と美を生み出す目的で，集団徒手体操が取り入れられ，体育祭やオリンピック大会などで公開演技として行なわれるようになった。なお，民族の団結，愛国心の高揚などに利用されて，ソ連・チェコスロバキア・中国などで盛んである。〔鈴木美嶺〕

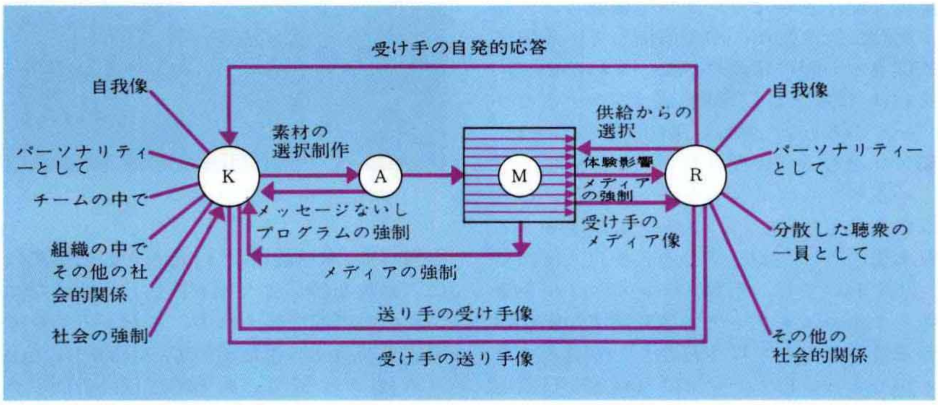
ますごじゅうそうきょく【鱒五重奏曲】 シューベルト*作曲の室内楽曲(1819)。ピアノ・バイオリン・ビオラ・チェロ・コントラバスという特殊な編成からなり，全体は5楽章から構成されている。曲名の由来は，第4楽章の主題と変奏に，1817年に書いた歌曲《鱒》の旋律を用いているところによる。全楽章を通じて嬉遊曲(きゆうきょく)的な快活さにあふれている。

マスコミュニケーション［mass communication］ 新聞・ラジオ・テレビジョン・雑誌・映画・レコードなどの機械的媒介手段(マスメディアという媒介装置)を通して，精神的意味内容を言語や映像などの記号にのせて，大衆に大量かつ一方的に伝達するコミュニケーション*形態およびその過程をいう。したがって厳密な見方をすれば，1440年代にドイツ人グーテンベルク*の発明した活版印刷(→印刷)という技術的な媒介装置によって，不特定多数の受け手に呼びかけることが可能となったとき，人間のマスコミュニケーション活動は始まったということもできる。しかし，マスコミュニケーションの〈マス〉ということばには，大衆という意味と同時に大量という意味も含まれており，それが文字どおり一大社会現象として受け手ひとりひとりの日常生活に多大の影響を与え，その影響が無視しえないほどに発達したのは，いずれの国においても第2次世界大戦後のいわゆる大衆社会*の発達とその軌を一にしているとみてよい。マスコミュニケーションという用語そのものも，1940年前後のアメリカ合衆国にはじめて登場したのであり，日本で広く使われはじめたのは朝鮮戦争あるいは対日講和条約締結後のことである。その後，マスコミュニケーション時代という一時期を画することとなるが，このころ出現したテレビジョンの驚異的な普及が，現代のマスコミュニケーションを飛躍的に発展させたものといえる。

そもそもコミュニケーションとはなにかという問いに対する最も簡略化された答えは，個人と個人との間で言語・身ぶり・映像などの記号によってなんらかの意味を伝え合う過程という説明である。日常会話にみられるこのようなコミュニケーション形

態をパーソナルコミュニケーションとよんでいる。この個人間のコミュニケーションという原理は，たとえ古代の人々がどのような記号を利用していようと，さらにまた文字以前のコミュニケーション形態も想定されるのであって，有史以来変わらぬ人間の社会過程・社会関係を成立させる根本的な条件である。しかし，マスコミュニケーションが登場したことによっていまや人間のコミュニケーション過程は個人間レベルのパーソナルコミュニケーションとマスメディアによるマスコミュニケーションとの二大分野を構成することとなった。人間の社会生活においては，以上のような〈記号を利用するコミュニケーション過程〉は，もう一方の基本的社会過程である，〈労働を中心とする行為過程〉と発生的にも機能的にも不可分に結びついている。

【構造】 マスコミュニケーション過程は，第1に送り手，第2にメディア，第3にメッセージ(伝える内容)，第4に受け手という四つの単位によってなりたっている。この四つの基本的要素のもとに，ドイツの心理学者G.マレッケ(1922～)の提示した図式は，マスコミュニケーション過程の構造を説明する代表的なものの一つである。まず受け手はメディアに接触してメッセージを体験し，なんらかの影響を受ける。メディアは多量のメッセージを受け手に供給し，受け手はその中からあるものを選択し，あるものを拒否したり無視する。どういうメッセージを選択するか，どのように体験するか，そこからどういう影響を受けるかを決定するものは，特定のパーソナリティー*構造をもった個人としての受け手に大きく依存しているが，同時にそれぞれのメディアの技術的特性によってもそれらは異なってくるために，受け手はメディアの強制のもとに置かれ，メディアについてのイメージを形成する。受け手はけっして孤立した個人ではなく，一方において無数の社会的な同時代的関係の中に組み込まれており，メッセージに接触することによって聴衆の成員でもある。送り手のほうでは，いかなるメッセージを生産し供給するか，どんなふうに制作するかの決定を行なうが，その選択と制作活動には，送り手自身のパーソナリティー構造，ときどきの状況，受け手の場合と同様の社会的関係などが関与する。さらにマスコミュニケーションの送り手は，つねにチームの中で仕事をし，このチームはもっと大きな生産組織に編入されている。また送り手は一定期間におけるメッセージないしはプログラムの強制下に置かれ，そのメッセージや形式はメディアの技術的特性によっても動かされる。したがって送り手もメディアの強制を受けることとなり，その全体的活動は社会の強制をも受けることとなる。このほか送り手の受け手像，受け手の送り手像もマスコミュニケーション



マスコミュニケーション　マレッケによるマスコミュニケーションの場の図式

過程に影響を及ぼす要因として考えることができる。

以上のマレッケの図式は，マスコミュニケーション過程の四大要素をめぐって作用するさまざまな個人的・社会的要因と，その方向を図式化したものであるが，このほかに送り手・受け手の属する小集団をコミュニケーション過程の中に組み入れた，アメリカの心理学者ライリー夫妻の図式，オピニオン-リーダー(社会集団の直面する課題の解決にあたり，その方向づけの中心的な役割をになう理論家)の存在に注目し，マスメディアから発した影響力は最初にオピニオン-リーダーに達し，次いでオピニオン-リーダーからパーソナルコミュニケーションによって諸個人に伝達されていくというアメリカの心理学者D.カッツとラザースフェルドの〈二段階の流れ論〉などがある。後者のとらえ方は，情報の流れそのものよりも，むしろ影響の表われ方について個人的な影響力を重視するものであって，特に選挙に際しての投票者の意思決定過程には合致する場合もあろう。また単に送り手とはいっても，メディアの所有者としての〈送り手〉と内容の送り手としての〈つくり手〉とを区別して考えるべきだという議論もあるが，基本的にマスコミュニケーション過程は送り手からする一方的コミュニケーション過程である。その過程において，メディアの伝える内容を受けとった人々が，心理的・行動的になんらかの反応を示した場合これを効果といい，こうした効果を生じさせる力を機能とよんでいる。

【特徴と機能】 現代社会のマスコミュニケーション状況が情報化社会といわれるまでに肥大化した過程には，資本主義の発達による生産の発展と市場の拡大，義務教育の普及による大衆の知的水準の向上，絶えざる技術革新，言論活動の政治的保障など近代社会建設以来の歴史的背景が潜んでいる。しかし現在におけるマスコミュニケーションの特徴は次のようにいうことができる。第1に資本主義社会における送り手は，膨大な資本と高度の技術を擁する一個の企業体であること。そのためメディアの所有者は生産手段を私有する一部資本家に限られ，マスコミュニケーションの中立性という理念を維持していくことが困難であること。第2に送り手と受け手との間には，パーソナルコミュニケーションにみられるような人格的接触がなく，コミュニケーションの流れはつねに一方的であり，いわゆる受け手からのフィード-バックがきわめてむずかしいこと。その意味で新聞の投書欄や放送のモニター制度のもつ意義は大きいが，すべての受け手にそのような機会が与えられているわけではない。第3に企業としての送り手はたえず営利性を追求し，地位・年齢・知識水準などの異なる不特定多数の大衆に同一の内容を伝えるために，内容の平均化・低俗化・ステレオタイプ(紋切り型)化の傾向を招き，いわゆる大衆文化状況をもたらす。その結果受け手のパーソナリティーもまた画一化され，反応はステレオタイプ化し，政治的無関心層が拡大しかねない。アメリカの経済学者であり統計学者であるミルズは，このような状況に置かれた大衆を〈制度化されたメディアのマーケット〉にすぎないと評したが，個人レベルでの能動性・主体性をいかにマスコミュニケーション理論の中に組み込むかという問題はとにかく，社会心理レベルの問題としては以上のような特徴を指摘することができよう。

次にマスコミュニケーションの機能については，まずマスコミュニケーション機構が置かれた社会体制の相違によって大きく異なり，個人心理のレベルでも諸個人の置かれた立場によってさまざまな形での機能がみられる。したがって巨視的次元での機能と微視的次元での機能とを総合的にとらえる視点が必要であるが，マスコミュニケーション研究の中では，環境の監視機能，環境に反応する際の社会諸部分相互の関連づけの機能，世代から世代への社会的遺産の伝達機能，および娯楽的機能などが指摘される。そのうち本質的機能として最も大きなものは，直接目に見えない，耳に聞こえない世界の環境を社会の成員に伝達することにある。したがって，マスメディアに

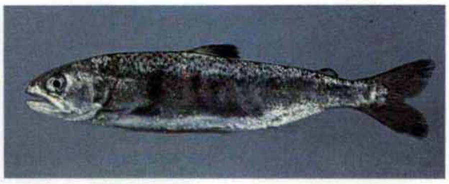
よって提示されたシンボル的環境と，人間が実際に社会生活の中で直面している現実的環境との間には避けがたいずれが生じ，それは〈環境と疑似環境〉,〈オリジナルとコピー〉, あるいは〈現地と地図〉などという比喩(ひゆ)をもって表現されている。

いまやマスコミュニケーションは，ことばの上でも〈マスコミ〉という略語をもって日本語の中に定着している。また人々の実生活においても，新聞・テレビジョンを筆頭とするマスメディアの送り出す情報に接することなくしては1日たりとも暮らすことができないほど，マスコミ現象と日常生活は密接な関係をもっている。そしてこの密接な関係が大部分の受け手にとっては，無意識的・情緒的・心理的なものであるだけに，マスコミ現象の提供する現代社会問題はより重大なものであるといわなければならない。現代のマスコミュニケーション状況を把握(はあく)するためには，それが一方的なコミュニケーション過程であるがためにも，〈だれが，なにについて，いかなる通路によって，だれに対して，いかなる効果をねらって〉なす伝達かという発想基盤をもつことが重要である。　〔前納弘武〕

ますだ【益田(市)】 島根県西端の市。人口53,000。古くから石見(いわみ)地方西部の物資集散地として発展し，1952年(昭和27)市制施行。市名は砂田の呼称が変化したものといわれる。北は日本海に面し，高津川と益田川の複合三角州上の平野部と周辺山地を含み，東西に長い長方形の広大な市域で，海岸砂丘が発達する。北西部には蟠龍湖(ばんりゅうこ)がある。産業三大別人口比は22：30：48。平野部は古くから大田・浜田とともに石見三田と称される水田地帯で，裏作につくられるイグサも県下一の産出量を誇る。商業活動が盛んで，背後に林業地帯を控えて木材を集散するほかパルプ工場も多く，繊維・製材・木工などの工業が行なわれる。しょうゆ・桐(きり)げた・畳表などの伝統的な家内工業もあり，沿岸漁業も行なわれる。山陰本線から山口線を分岐し，国道9号線・187号線・191号線が集まる。画家雪舟が晩年を過ごした土地で，彼が築いたといわれる医光寺・万福寺の庭園があり，蟠龍湖県立公園には柿本人麻呂(かきのもとのひとまろ)を祭る柿本神社があり，境内の万葉植物園が名高い。

ますたけ【鱒茸】 担子菌類・サルノコシカケ科。夏～秋に樹木の切り株・枯れ木にはえるきのこ。普通は傘(かさ)が重なりあって生じ，かたまりとなる。ときには枝分かれした短い茎のある場合がある。傘は幅10～20cmの扇形・半円形で橙黄(とうおう)・濃赤色，肉はマスの肉色。若いものは食用となる。

ますだこうぞう【升田幸三】 (1918～　) 将棋棋士。広島県の生まれ。1932年(昭和7)木見金次郎9段に入門。1946年7段当時に，木村義雄(よしお)名人との五番勝負に三連勝を博して人気を集めた。独特な鋭い攻めの棋風で知られているが，先手を重視する新戦法の創案は数多い。同門に大山康晴(やすはる)があり，兄弟弟子(でし)の間でタイトルを争ったことも多い。



マスノスケ

ますだたかし【益田孝】 (1848～1938) 実業家。三井財閥の大番頭。新潟県佐渡の生まれ。1873年(明治6)井上馨(かおる)とともに先収会社を創立，3年後同社が三井物産として発足すると社長に就任し，その事業網の拡大・発展を図った。三井三池炭鉱創立には団琢磨(たくま)を抜擢(ばってき)して成功した。よきライバルであった中上川彦次郎(なかみがわひこじろう)の死後，全三井の最高責任者として，積極的に大陸進出を図るなど，66歳で引退するまで三井の柱石となり，またのちの多くの人材を養成した。〔片岡一郎〕

ますだときさだ【益田時貞】 ⇨天草四郎

マスタードゆ【マスタード油】 芥子油(からしゆ)のこと。アブラナ科に属するシロカラシまたはクロカラシの種子を圧搾してとれる半乾性脂肪油で，シロカラシ油とクロカラシ油とがある。オレイン酸・リノール酸・リノレン酸などのグリセリドが主成分。またカラシの辛味成分であるイソチオシアン酸アリルも含まれる。鹼化価(けんかか)は170～180，ヨウ素価は92～122で，食用・薬用とされ，またせっけん・潤滑油などの原料として用いられる。

マスタバ [mastaba] 古代エジプトの墳墓の一形式。名まえは外観がベンチ(アラビア語のマスタバ)に似ていたことによる。上部構造は日乾れんがまたは石灰岩の切り石でつくられ，底面は長方形，長軸は通常南北方向をさし，上面は平坦(へいたん)で，ゆるく傾斜する側壁をもつ。ミイラを納置する地下の玄室へは竪(たて)坑が通じていた。第1王朝(BC3000年ごろ)に出現し，王墓がピラミッドとなる古王国時代(紀元前27～紀元前23世紀)には貴族の墓の形式として発展を遂げ(石造マスタバ)，葬祭のため東壁に設けられていた二つの〈偽扉(ぎひ)〉は上部構造内につくられる多数の礼拝室となり，壁面は墓主の日常生活や供犠を描く美しい浮き彫りで飾られた。サッカラ・ギゼーの墓地に代表的な例が多くみられるが，中王国時代以後，岩窟(がんくつ)墓の出現によって典型的なものは姿を消す。大きさはさまざまだが，底面10×6m，高さ4mのものから底面50×25m，高さ12mの間のものが多い。➔エジプト(別丁)　〔屋形禎亮〕

マスチフ [mastiff] イヌの一品種で，イギリス産の短毛の大形犬。祖先は古代ローマ時代の強力な軍用犬で，現在は大邸宅向きの番犬。頭部は大きく角形で，くびは太く，胸は広くて尾はたれる。毛色は顔面が黒い黄色がかった金色。体高69～76cm，体重73kgくらい。

マスト [mast] 元来は帆を張るために，船の中心線上に立てられた木または鋼製の柱。現在は帆を用いない船でも，デリック・見張り台の取り付け，アンテナの展張，信号旗・航海燈の掲揚などのために使用される。形状からは1本柱・3本柱などがある。また帆船のマストは，前方からフォアマスト・メインマスト・ミズンマスト・ジガーマストの名称でよばれる。

マストドンぞう【マストドン象】 哺乳(ほにゅう)類の仲間で，長鼻目真象亜目の象類に属す化石動物。新生代第三紀の中新世から沖積世(ちゅうせきせい)まで生存し，ことに北アメリカの中部および東部に多産する。この仲間は200種以上も知られているが，あごの長い仲間と短い仲間に分けられる。前者は第三紀中新世に絶滅した。後者の一種であるアメリカ合衆国ケンタッキー州の泥炭地(でいたんち)から産出するマストドン-アメリカヌス-ケルは鮮新世から洪積世(こうせきせい)まで栄え数千年前まで生存したが，インディアンによって滅ぼされた。〔神戸信和〕

ますとみおんせん【増富温泉】 山梨県北巨摩(こま)郡須玉(すたま)町にある温泉。泉温35℃，泉質はラジウム含有アルカリ性食塩泉で，胃腸病・腎臓(じんぞう)病・肝臓病・リウマチなどにきくといわれる。釜無(かまなし)川の水系塩川の支流本谷川の渓谷(けいこく)にあり，武田(たけだ)信玄の隠し湯の一つで，古くから湯治場として知られ，わが国屈指のラジウム温泉で名高い。秩父(ちちぶ)多摩国立公園に含まれ，金山高原(1,410m)・金峰(きんぷ)山(2,595m)・瑞牆(みずがき)山(2,230m)などへの登山口でもある。中央線韮崎(にらさき)駅からバスの便がある。　〔木村東一郎〕

マスネー [Jules Emile Frédéric Massenet] (1842～1912) フランスのオペラ作曲家。リヨン近郊モントーの工場主の21番めの子として生まれる。6歳のとき家は破産したが，彼は9歳のときパリ音楽院に進んだ。1863年にローマ大賞第1位となり，ローマに留学。帰国後は新進作曲家として注目された。1867年以降，劇場にも進出し，特に《マノン》(1884)，《ウェルテル》(1893)，《タイス》(1894)などは代表作とされる。1876年から18年間パリ音楽院の教授となり，多くの作曲家を育てた。

〔向坂正久〕

ますのすけ【鱒之介】 硬骨魚類・サケ科。サケ・マス類中で最も大きくなる種類で，全長2mほどに達する。市販されるものも1mを越す大きいものが多い。背びれ11軟条，臀(しり)びれ14～16軟条で，背側・

背びれ・尾びれに黒点がある。北海道・沿海州・カムチャツカ・アラスカや北アメリカ太平洋側の沿岸に分布する。肉は桃色で，かんづめ・塩ざけにされ，重要な食用魚である。

ますみかとう 【十寸見河東】（1684～1725） 河東節*(かとうぶし)の始祖。本名，藤十郎。江戸日本橋の生まれ。若いころから遊芸の道にはいった。主として半太夫節(はんだゆうぶし)を学んだが，師との不和をきっかけに，1717年(享保2)江戸太夫河東と名のって他の流派の特徴をも取り入れた新しい浄瑠璃(じょうるり)を始めた。以後，この名は家元名として継承され，11世(1841～1919)の死後より十寸見会が名義をあずかっている。

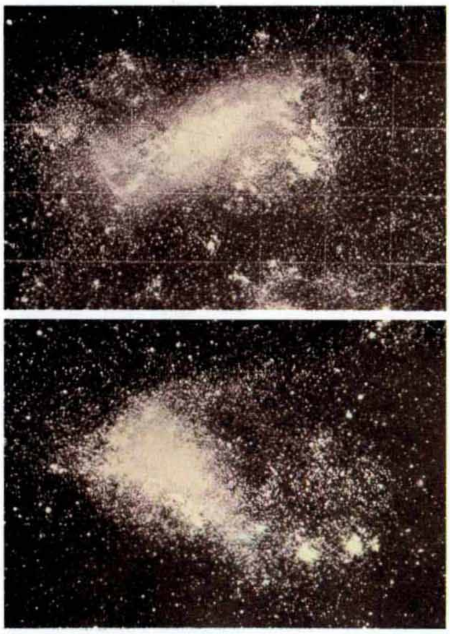
マズルカ ［mazurka］ ポーランドの民俗的舞曲。マズール・マズレクともいわれ，15～16世紀マゾフシェ地方(ワルシャワが中心)に興り，18世紀後半にヨーロッパじゅうに知られるようになった。マズルカは3拍子であるが，厳密にはその中に次の3種を含んでいる。第1種は狭義のマズールで，マズルカを代表し，付点音符，弱拍へのアクセント，中庸のテンポを特徴とする。第2種はクヤウィアクで，遅いテンポ・三連音符・装飾音・テンポ・ルバートを特徴とする。第3種はオベレクで，速いテンポとパターンの反復をもつ。民俗舞踊としては，バイオリン・バッグパイプが使われ，5度や8度の重音や教会旋法*の旋律が使われた。芸術音楽の中には，シマノフスカ(1790～1831)・クルピニスキー(1785～1857)・モニューシュコ(1819～1872)らがこれを取り入れ，ショパン*もピアノ独奏用に10歳ごろから死の年までマズルカを書き続け，そこには民俗音楽を濃く反映させて，他のショパンの音楽とは異なる性格を与えている。〔徳丸吉彦〕

マセイオ ［Maceió］ 旧名マサヨ。ブラジル東部，大西洋に臨むアラゴアス州州都。人口24万3,000(1970)。郊外に海港ヤラグア港をもつとともに二つの空港があり，また鉄道で北方のレシフェや内陸部と結ばれる。主産業は織物・家具・食料品・砂糖・せっけん・たばこなどの軽工業で，砂糖と綿花を港から輸出する。市街の中央にシンボルの燈台が建っている。

ませいせっき 【磨製石器】 中石器時代・新石器時代に使用された研磨された石器*。日本では無土器時代にはないが，縄文(じょうもん)時代の初期にすでに局部磨製の石斧(せきふ)や石鏃*(せきぞく)が見られ，中期以後乳棒状石斧など各種の磨製石器が盛んに使用された。後期になると精巧な石斧が多くなるとともに，石剣または独鈷(どっこ)石のような特殊な磨製石器もつくられた。弥生(やよい)時代にはいると磨製石斧も様相が一変して，蛤刃(はまぐりば)石斧や抉入(けつにゅう)石斧のような高度の性能をもつ石斧が一般化し，また収穫用農具の石庖丁*(ほうちょう)，銅鏃と同形式の磨製石鏃，銅剣を模した石剣もつくられた。磨製石器に用いられた石材には，砂岩・粘板岩・センリョク岩・リョクデイ岩・ジャモン岩などがある。〔高崎徳次〕



マゼラン 未知の海峡を求めて南下するマゼラン



マゼラン雲 (上)大マゼラン雲 (下)小マゼラン雲

マゼラン(海峡) ［Magellan］ 南アメリカ大陸南端とその南にあるフエゴ島にはさまれた海峡。長さ560km，幅4～32kmで，屈曲した水路が大西洋と太平洋とを結んでいる。1520年マゼラン*が世界一周航海中に大西洋から太平洋に向けてここを通過したので，彼の名にちなんで名づけた。波が荒く，航海の難所であるが，1914年パナマ運河が開かれるまでは，大西洋と太平洋とを結ぶ重要な航路であった。寄航地はプンタアレナス(チリ)。〔長津一郎〕

マゼラン ［Ferdinand Magellan］（1480ごろ～1521） ポルトガルの航海者。スペインの支援を得て人類史上最初の世界一周航海を行なった。ポルトガルの下級貴族の家に生まれ，1505年東インドへおもむき，ポルトガル海軍のマラッカ攻撃その他の軍事行動に参加した。1512年帰国し，翌年モロッコ遠征に加わったが，規律違反などの罪に問われ，ついにポルトガル国籍を放棄して，スペイン王室への忠勤を誓った。スペイン王カルロス1世(カール5世*)の援助を得て，1519年8月10日セビリア港から5隻の船，237名の乗組員をもって出航，カナリア諸島を経て，ブラジル海岸より南アメリカ大陸の沿岸を南下しつづけ，1520年10月21日大陸南端の海峡を発見して，これに突入し，38日間の航海によってこの海峡(のちに彼の名をとってマゼラン海峡と称した)を横断して大洋に出た。この大洋はこのとき波静かな状態であったので，彼は〈太平洋〉と名づけ，航海を続けて1521年3月グアム島に到着，続いてフィリピン群島方面を探検航海したが，マクタン島で土人と抗争し殺された。生き残った部下は2隻の船をもって航海を続け，ティドールに至って香辛料を積み込み，90トンの小船ビクトリア号1隻のみをもって喜望峰を回り，1522年9月8日セビリアに帰着した。この大事業を完成してスペインへ帰り得たのはわずか18名であった。〔保坂栄一〕

マゼランうん 【マゼラン雲】 不規則星雲。かじき座の大マゼラン雲，きょしちょう座の小マゼラン雲よりなる。南天にあるために，わが国やヨーロッパ・北アメリカから見ることはできない。16世紀ごろに南半球を航海したポルトガル人によって発見され，世界一周を企てたマゼランを記念して名づけられた。全天で最も明るい星雲で，大マゼラン雲の写真等級は0.5等，小マゼラン雲は1.5等である。視直径はそれぞれ8°と4°。太陽系からの距離は17万光年と18万光年であり，銀河系外星雲の中で最もわれわれに近く，銀河系の回りを衛星のように回っている。約10^8個の星よりなっていて，銀河系に存在するような各種の天体(球状星団・散開星団など)が存在しており，いちばん明るい星は11等に見える。中性水素の21cmの電波観測によると，ガスの大部分は扁平(へんぺい)に分布して，大きな回転速度をもっている。〔磯部琇三〕

マーゼリゼーション ⇨シルケット糸

マゾヒズム ［masochism］ からだを縛られたりむち打たれるなどの残虐行為を加えられ，苦痛を味わう際に性的興奮と快感を得る性衝動の異常。つまり性的倒錯(→異常性欲)の一形態で，被虐愛ともいう。オーストリアの小説家マゾッホがこの種の行為を描いたのにちなんで名づけられた。

性的倒錯としてのマゾヒズムはサディズム*と表裏をなすものであるが，フロイトは人間には先天的に一次的マゾヒズムが存在し，破壊衝動(死の本能，タナトス)は自己自身に向いている，それがエロス(生の本能)と融合することによって外界に向かったときサディズムとなると考えた。そのほか，従来の性的倒錯としてのマゾヒズムに女性に特有なマゾヒズム，無意識的罪悪感によって自己処罰衝動にかられる道徳的マゾヒ



マソリーノ-ダ-パニカーレ 《伝道者と聖マーチン》

ズムの存在をも明らかにしている。フロイトのこのマゾヒズム論を通して，マゾヒズムは一つの人格傾向を意味することばとなり，その後マゾヒズム的性格の研究がライヒ*・フロム*などによってなされた。

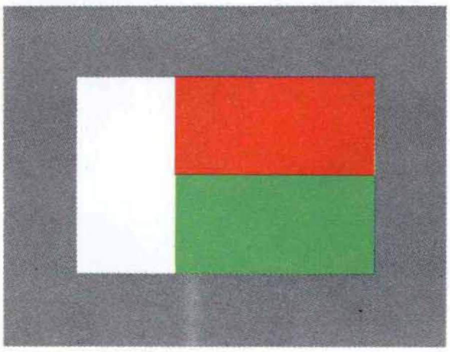
〔小此木啓吾〕

マソリーノ-ダ-パニカーレ [Masolino da Panicale] (1383～1447ごろ) イタリアの画家。画風はゴシックの伝統を残しているが，弟子マサッチョ*の新しい芸術とゴシックを仲介する芸術として，重要な意味をもつ。1427年にはハンガリーで仕事をしているが，帰国後はフィレンツェとローマで過ごした。代表作としては，北イタリアのカスティリオーネ-オローナの洗礼堂の壁画，ローマのサン-クレメンテ聖堂とフィレンツェのサンタ-マリア-デル-カルミネ聖堂の壁画などがある。ただし，後二者の壁画群は，マソリーノ・マサッチョのいずれの手になったか明らかではない。

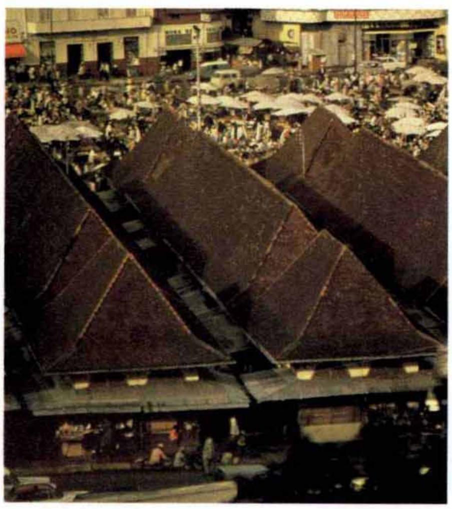
〔井関正昭〕

マタイ [Matthaeus] 生没年不詳。十二使徒のひとり。ガリラヤ湖の北西の町カペナウムの収税吏であったが，イエスに出会い，その使徒となる。《新約聖書》の〈マタイの福音書〉の著者とされるが疑問もある。イエスの死後，約束の聖霊を待望する使徒団の中にいたことが〈使徒行伝〉に記されているが，その後の消息は不明。伝承によるとユダヤ人伝道に従事したとされる。





マダガスカルの国旗 1959年制定。白・赤・緑は，自由・愛国・進歩を象徴する。3色とも同面積に分割されている



マダガスカル 首都タナナリブの市場。白い日傘の下に色とりどりの野菜・くだものが並んでいる。手前の建物も常設のマーケット

マタイのふくいんしょ 【マタイの福音書】 ⇨福音書

マダガスカル(民主共和国) [République Démocratique de Madagascar] アフリカ東南方，インド洋上にあるマダガスカル島(世界第4の大島)を占める共和国。マルガシュ・マラガシともいう。面積58万7,041km²。人口874万(1979年推)。首都アンタナリボ。

【自然・住民】東海岸寄りをほぼ南北に高度1,500～2,500mの山脈が走り，ここから多くの川が東側のインド洋と西側のモザンビーク海峡に注いでいる。山脈は北部に最高峰マロモコトロ山(2,886m)がそびえ，南進するにしたがってゆるやかな起伏をなす。西部に海岸平野が開け，東部のインド洋岸の平野は狭い。気候は熱帯性で，西岸は冬乾燥するが，東岸では年中雨が多い。住民は大部分がマルガシュ人で，祖先はマライ・インドネシア起源とみられ，インドネシア人との類似性が多いといわれる。ほかに少数のニグロとフランス人がいる。キリスト教徒約40%，ヒンズー教徒約5%，残りは伝統的なアニミズムを信仰している。公用語はフランス語。

【産業・経済】主産業は農業で，米・トウモロコシ・ラッカセイ・キャッサバのほか，輸出用作物としてコーヒー・サトウキビ・バニラなどを栽培し，また牛を飼う。工業では製糖・製粉のほか織物類・陶器・スズ細工などがある。貿易では輸出入ともフランスに大きく依存している。

【歴史・政治】1500年ポルトガル人によって発見され，以来ヨーロッパとの通商・往来が盛んとなり，フランス・イギリス両勢力が領有を争ったが，1896年フランスの植民地となった。1958年フランス共同体内の自治共和国となり，1960年6月独立した。元首は大統領で，任期7年。国会は二院制。外交は新フランス・新西ヨーロッパの政策をとる。フランスの海・空軍基地がある。

〔小栗 宏〕

マダガスカルく 【マダガスカル区】 動物地理学上の旧熱帯区の一亜区で，マラガシー亜区ともいう。マダガスカル島はおよそ8,000万年以前にアフリカ大陸から切り離され，他の場所にはまれにしかいない生物や，絶滅してしまった生物が残っている。たとえば，原始的なサルのキツネザルの類は他の場所では絶滅してしまっているが，この島では繁栄している。カメレオンもこの島に起源を発し，世界じゅうのカメレオンの約半分の種類を占める。鳥類もこの島だけに見られるものが46種も知られている。さらに，食虫類にも特有のものが多い。一方，アフリカ大陸にいる貧歯類・有蹄(ゆうてい)類・食肉類は見られない。植物も80%はこの島特有の種類で，生物地理学上注目されている島である。 〔松本忠夫〕

またぎ 又鬼とも書く。東北地方で狩りを生業とする人々。山間に定住し，冬季に集団的に狩猟に従う。一団は15～20人で，17～60歳の男子で構成され，〈スカリ〉とよばれる頭目がいてその配下も固定していた。1～2月(寒またぎ)はカモシカ・サル，その後(春またぎ)はクマ・シカ・ムササビなどをめざして行動し，各地の〈またぎ宿〉を本拠に狩りに従った。現在は銃猟だが，古くは山刀を槍(やり)先にして武器とした。捕獲物を解体する儀礼である毛祭りや配分方式に古い習俗をとどめ，山入り前や山神祭りの儀礼，あるいは狩りのときだけ使う特別の山ことばの制などにも古風を残している。またぎ仲間に伝来する《山立(山達)根本巻》という本縁物語は，元祖磐三郎(ばんざぶろう)(→磐次磐三郎)が日光権現を助けたため，国じゅうの狩りを特免されたと説いている。〔合田 濤〕

まだけ 【真竹】 単子葉植物・イネ科。中国原産の大形のタケで，日本では広く栽培されている。根茎は太く横走する。稈(かん)は直立して高さ20m，径10～13cmになり，太くて中空で，表面は平滑で鮮緑色。タケの皮はほとんど無毛で，暗色の斑点がある。葉は長さ8～15cm，幅1～2cmほどで，先がとがり，3～5枚が掌状につく。葉鞘(ようしょう)の縁には開出した肩ひげがある。花は長い周期をもって6月ごろに開花し，長さ4～6cmの穂状花序をつける。茎はじょうぶで，細工物・竹ざお・尺八・ものさしなどにする。根茎を地上に直立させたものを実竹といい，稈が充実して空洞(くうどう)がなく，印材やステッキにされる。〔横井朝子〕

マタジ [Matadi] アフリカ中部，ザイール共和国(旧コンゴ民主共和国)西部の港市。人口14万4,000(1974年推)。コンゴ川河口から約160km上流にある河港で，この国第1の貿易港であり，コンゴ川下流域の商業中心地でもある。北東約250kmの首都キンシャサとの間は鉄道で連絡している。

またたび 【木天蓼】 双子葉植物・マタタビ科。山野に自生する落葉つる性低木。枝は長く伸び，若枝には細毛がある。葉は互生し，長さ8～14cmの広卵形ないし卵状長楕円(ちょうだえん)形で，先は鋭くとがって縁に細鋸歯(さいきょし)があり，上面は緑色，下面は白色。花期に枝先の葉が白色に変わり，よく目だつが，のちには再び緑色にもどる。雌雄異花で，6～7月に葉腋(ようえき)にウメに似た白色花を下向きにつける。花は径2cmほどで芳香があり，がく・花弁とも5枚。雄花は1～3個が集まってつき，多数のおしべがある。雌花は単生し，柱頭は多裂する。まれに両性花をつける。果実は8～9月に黄熟し，長さ2～3cmの楕円形の液果で先がとがり，特有の臭気がある。果実にマタタビタマバエが寄生すると凸凹(とつおう)の虫癭(ちゅうえい)ができ，これを木天蓼(もくてんりょう)といって，内服して体を暖めるのに用いたり，酒に浸して薬酒(天蓼酒)にする。若葉は酢みそあえにして食べられる。果実は少し辛みがあるが生食や塩づけにされる。ネコ類はマタタビを非常に好み，この木に集まる。近縁のミヤママタタビは深山に自生し，形はマタタビに似るが，葉の基部が心形にへこみ，ネコをひきつけない。〔横井朝子〕





マタタビ
(上)果実 (下)花

マダム-バタフライ ⇨蝶々(ちょうちょう)夫人

まだらが 【斑蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・マダラガ科の総称。小形のものから大形のものまで大きさ・形とも変化に富み，後翅に尾状突起をもつものもある。成虫は口吻(こうふん)が発達し，単眼をもつものが多い。昼行性で，ゆるやかに飛翔(ひしょう)して花上を訪れる。卵は楕円(だえん)形。幼虫は一般に太く短く，黒地に黄色紋のようなはでな色彩をしている。地上に細長い繭をつくってさなぎとなる。ふつうミノウスバ亜科・ホタルガ亜科・マダラガ亜科の3亜科に分けられ，サツマニシキ・オキナワルリチラシ・ベニモンマダラなど日本で最も美しいガが含まれる。旧北区とオーストラリア区に主として分布する。〔多々内修〕

またらじん 【摩多羅神】 摩怛利神・摩都羅神とも書く。円仁*(えんにん)が唐から帰朝するとき空中より大師を呼び守護を約したことより，天台宗では常行堂の守護神として祭るという。のち念仏門の守護神ともされる。像は唐風の冠をかぶり和風の狩衣(かりぎぬ)を着て，左手に鼓を持つ。左右には舞い姿の童子が侍り，頂上には雲を描き，内に北斗七星をかたどる。この神が大黒天*と同体と考えられるのは《大日経疏(しょ)》の摩訶迦羅(まかから)(大黒天)の説によるといわれる。京都市太秦(うずまさ)の広隆寺の牛祭り*はこの神の祭りである。〔北条賢三〕

まだらちょう 【斑蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・マダラチョウ科の総称。大形のチョウで，体は細長く，翅(はね)は非常に大きい。雄は後翅に発香腺(せん)があり，臭気を発散する。季節的2型や雌雄2型があって色彩が異なり，鳥や捕食性の動物に襲われないのは，味がまずいことと表皮がかたくて皮状であるためといわれ，そのためドクチョウとともにしばしば擬態のモデルとなっている。成虫の飛び方は非常にゆるやかで各種の花を訪れるが，驚かすと空中高く舞い上がるため，ときには台風などに乗って迷チョウとしてはるか遠方で採集されることがある。幼虫は一般になめらかで，肉質突起が数対ある。さなぎは短い円筒形で，しばしば金・銀色の斑紋(はんもん)があり，頭部を下にぶらさがる。世界から約900種が知られ，新熱帯区と東洋区に多い。日本ではアサギマダラが全土に分布し，東洋区系のスジグロカバマダラ・カバマダラ・オオゴマダラ・リュウキュウアサギマダラが沖縄にみられる。オオカバマダラは渡りをするので有名で，南ヨーロッパのものはイギリスに渡り，北アメリカのものは大群をなして秋にカリフォルニアに南下する。〔多々内修〕

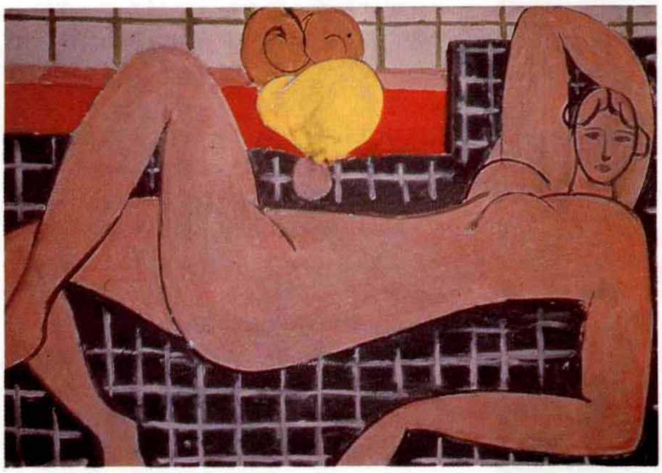
まだんのしゃしゅ 【魔弾の射手】 ウェーバー*作曲の3幕のオペラ。台本はキントで，1821年6月18日にベルリン王立劇場で初演された。ジングシュピール*の型を踏襲しながら，ドイツ語によるオペラとして後世に大きな影響を与えた。ボヘミアの森林を背景に森林保護官の娘アガーテ(ソプラノ)をめぐってマックス(テノール)とカスパール(バス)という2人の狩人の争いを描いたもので，序曲をはじめ，〈婚礼の合唱〉〈猟人の合唱〉など独立して演奏されるものが多い。〔向坂正久〕

まちあい 【待合】

1茶会の招客が待ち合わせ，亭主(ていしゅ)の迎えつけを待つ場所。母屋(おもや)の1室をあてるのを寄付(よりつき)ともいうが，母屋から独立して外露地に建てる場合は，待合とだけいう。土間や縁側のついた小亭で，略式の床の間や丸炉を設け，瓶掛(びんかけ)・たばこ盆・敷き物などが用意してある。床の間には本席で使う道具の添え文などが掛けられ，客との小声の談話や喫煙はしてもよい。ここで飯頭の勧める湯を飲み，客順を決める。〔桑田忠親〕

2江戸時代に商人の寄り合いや，旅立ちの待ち合わせに利用した待合茶屋の略。ただ座敷を貸すだけで，酒や料理は出さないのがたてまえであったが，明治初期汐留(しおどめ)の船宿*が引き払って，そのあとに待合茶屋と船宿をつき合わせたようなものができ，それまでと異なった待合となった。その待ち合わせの対象はもっぱら芸者となり，土地がらから政治家・政商が遊興した。酒食代，芸者の玉代，さらに売春料の一部をはねることで成立し，昭和まで繁盛し，〈待合政治〉のことばさえ生んだ。〔稲垣史生〕

まちうたい 【待謡】 能の形式(楽式)用



マチス《バラ色の裸婦》
1935 ボルチモア美術館蔵

語。夢幻能の第2場(後場)の初めで，ワキが後ジテの出場を待つ状態でうたう部分をさし，句法と旋律法は上歌(あげうた)による。

マチエ [Albert Mathiez] (1874～1932) フランスの歴史家。上セーヌ県のラ-ブリュイエールの生まれ。高等師範学校を出て1911年ブザンソン大学，1919年ディジョン大学，1926年よりソルボンヌ大学で講義。彼は進歩的でマルクス主義者といわれたが綿密な史料研究による事実を重んじ，図式にとらわれなかった。彼はジョレスの革命の社会経済史研究を受け継いだが，複数革命説を唱えた。すなわちフランス革命は貴族革命から始まりブルジョア革命に移り，次いで民主共和制革命から社会民主制の革命へと段階的に動いたと主張した。著書に《フランス革命》《テルミドール反動》など。〔兼岩正夫〕

まちしゅう 【町衆】 室町時代，町に住んで集団的自治生活を営んだ商工業者。京都や堺(さかい)(大阪府)の町衆は有名。応仁(おうにん)の乱後，町衆は自治的な組織として町組をつくり，封建勢力や土一揆(つちいっき)の侵害に対して自衛した。土倉・酒屋などの商工業者が中心で，これらの町衆は民衆の生活に根ざした芸能・芸術のにない手ともなり，独特の庶民文化を生んだ。織田信長(のぶなが)が出銀に反対した上京(京都)を焼き打ちにしたのを契機に，京都における町衆の自治組織はその生命を失い，やがて封建支配下にあって治安維持や税負担を受け持つ機関と化した。近世初期にはその門閥商人のうちから，角倉了以(すみのくらりょうい)などのような気概を示した町衆を出した。〔高崎徳次〕

マチス [Henri Emile Matisse] (1869～1954) フランスの画家・彫刻家。20世紀の最も傑出した芸術家のひとり。アカデミー-ジュリアンに学んだのち，モローのアトリエにはいる。ルーブル美術館の作品を模写し，1896年以降茶がかった色調の，伝統にしたがった絵を展覧会に出品。1900年を迎えると，のちに〈フォーブ〉を形づくることになる他の画家たちと展覧会を行なう。1904年から1905年にかけてスーラ・シニャック・ゴッホ・ゴーギャンらの理論をネグロ-アフリカの彫刻や近東の装飾芸術からの刺激と結びつけ，それによって自己のアカデミックな背景に訣別(けつべつ)し，フォービスムとして知られている輝かしい色彩と大胆な構図の様式を展開していく。1908年ごろからは作風が変わってやや写実的な傾向をみせ，色彩も原色から中間色や暗色を加えたより複雑なニュアンスを示す。1911年から1年間モロッコを旅行したが，その影響は色彩・構図・主題に反映された。1917年から1929年にかけてニースに滞在。大作と取り組む一方，たえず素描を制作した。フォーブ時代の点描風の断続した線は，その後力強いがやや単調な非常に省略された素描に移行していたが，ニース時代になると単純ではあっても単調さを感じさせない味わいのある線が生まれる。この期の油絵は，比較的薄塗りのうちに複雑なニュアンスを含んでいたが，ニース時代も終わりになると絵の具は厚みを増す。1931年ロシア・オセアニア・アメリカ合衆国に旅行。1933年バーンズ財団の壁画を完成。1930年代後半のスタイルはいっそう装飾的になり，しばしばフォーブ時代の手法を思わせるが，より優美で細やかな展開を示す。1939年バンスに移る。1947年から4年を費やしてバンスのドミニコ会修道院ロザリオ礼拝堂の全装飾を制作。なお，マチスは1900年ごろから1930年代半ばまで彫刻を盛んに制作し，この面においてもパイオニアとして形式上の種々の新しい試みを行なった。〔岸野悦子〕

マーチソン [Roderick Impey Murchison] (1792～1871) イギリスの地質学者。スコットランドの生まれ。青年時代は軍人として過ごしたが，23歳のときに結婚した妻の励ましで，地質学の研究を始めた。イギリス各地の地質調査を行ない，28歳のときにライエルとともにフランス・北部イタリアを旅行し，地質学に関する多くの論文を公表した。特にイギリスの古生層に関するすぐれた研究がある。1831年から南ウェールズを調査してシルリア系を設定し，さらにセジウィックとともに，デボン系を設定した。1855年イギリス地質調査所所長，またロンドン地質学会の議長を二度にわたりつとめた。

まちだ 【町田(市)】 東京都南端の市。人口28万7,000。古くから鎌倉街道・町田街道の会合する宿場町・市場町として開け，明治以後相模原(さがみはら)の農産物・生糸の集散地となり，1908年(明治41)の横浜鉄道(いまの国鉄横浜線)，1927年(昭和2)の小田急電鉄の開通などにより地方中心都市として発展した。1958年市制施行。市域は多摩丘陵の南西部に位置し，中心市街は横浜線と小田急電鉄が交差する原町田で，かつて2・6の市が開かれたあとの三角形の空地がまだ残り，西は境川を隔てて神奈川県と接する。産業三大別人口比は2：36：62。農村部では野菜・イチゴ栽培などの近郊農業が盛んで，第2次世界大戦後は自動車・金属・食品などの近代工業が発達している。首都圏の都市開発区域に指定され，東京・横浜の住宅地としての開発が進み，国道16号線・246号線が近郊を走る。横浜市港北区との境界付近に遊園地〈こどもの国〉が広がり，また玉川大学・桜美林大学・和光大学がある。東部の高ケ坂遺跡は関東地方で最初に発見された縄文(じょうもん)時代の敷き石住居址(じゅうきょし)として知られる。

まちだかせい 【町田佳声】 (1888～1981) 日本音楽研究家。本名は嘉章(よしあき)。はじめ美術を学んだが，音楽のほうに道を変えて三味線(しゃみせん)音楽の各ジャンルの旋律型を中心に個別・比較・総合研究を始めた。最大の功績は，ほぼ日本全域に及ぶ民謡の収集・採譜・分析である。作曲家として《三絃(さんげん)協奏曲》《ちゃっきり節》などの作品，学者として《ラジオ邦楽の鑑賞》(1950)，《長唄(ながうた)のうたい方と弾き方》(1930)など。また，1955年に《日本民謡大観》(9巻)が完成した。〔山口 修〕

まちどしより 【町年寄】 江戸時代の町役人で，村方における名主・庄屋(しょうや)に相当する。①江戸町年寄：町奉行(まちぶぎょう)に属し，各町の名主の上にあり(大阪の惣年寄(そうどしより)にあたる)，樽屋(たるや)・奈良屋(ならや)・喜多村の3家が幕末まで世襲し，三年寄といわれた。町奉行の御触(おふれ)の伝達，名主の進退，株仲間の願届，諸税などの収納，神田・玉川上水の管理など，重要な町政にあたった。身分は町人であったが，格式は高く，年頭などには将軍に拝謁を許され，将軍の代替りのときには江戸町中を代表して献上物をした。②大阪町年寄：江戸の名主に相当する。惣年寄の指揮のもとに，御触口達の伝達，人別改め，訴訟の世話などから，町治一切を処理した。はじめは任命であったが，のちには町ごとに1人，町人の中から選挙された。〔岡山泰四〕

マチネー [matinée] フランス語のマ

タン(朝)から出た語。演劇・オペラなどで，普通の夜間興行に対して，土曜日・日曜日などに特に催される昼間(午後)の興行のこと。ヨーロッパでは木曜日にも行なわれることが多い。

まちびけし　【町火消し】 ⇨消防

まちぶぎょう　【町奉行】 江戸幕府の役職名。この称は永禄(えいろく)年間(1558～1569)からみえるが，重職となったのは江戸幕府のときである。単に町奉行という場合は，江戸の町奉行をさし，直轄領の主要都市に置かれた遠国奉行*としての町奉行には，京都町奉行・大阪町奉行・長崎町奉行などがあり，そのほか駿府(すんぷ)(静岡県)・日光(栃木県)・堺(さかい)(大阪府)・伏見(京都府)・奈良・宇治山田(三重県)などにもあった。寺社奉行*・勘定奉行*とともに三奉行の一つで，老中の支配に属し，旗本(はたもと)が任ぜられ，定員は2名(一時3名のこともあった)で，南北両奉行に分かれ，月番で交替に執務した。江戸の町人に関する行政・警察・司法を担当し，輩下に与力*・同心*を置いた。役料は三千石。北町奉行所は呉服橋門内に，南町奉行所は数寄屋(すきや)門内にあった。大岡忠相*(ただすけ)(越前守(えちぜんのかみ))・遠山景元(かげもと)(金四郎)は名奉行として有名。〔岡山泰四〕

まちや　【町屋】 市街地の民家。街区に面して密集して建ち，狭い敷き地を有効に利用するために生まれたもので，一般民家・農村民家と区別してよばれ，近代以降の建築様式のものは含まない。現存するものはほとんど近世後半のもので，間取りの上から，平安京以来の長い都市生活の知恵から完成された京都系の通り庭式(街路から土間を通って裏へ通り抜ける形式)と，そうした伝統をもたず新興都市として栄えた江戸を中心とした表土間式(街路に並行して土間をとる形式)とがある。通り庭式では，目かくしに細かい連子を打つ意匠が特徴。江戸では度重なる大火のために，かわらぶき・土蔵造りが奨励された。〔渡辺保忠〕

まちやくにん　【町役人】 江戸時代，町奉行*(まちぶぎょう)などのさしずで町方の事務にあたった町人。町によって名称が異なり，江戸では町年寄*の下に町名主・月行事・家持・家主など，京都では雑色・中座など，大阪では惣年寄(そうどしより)・町年寄・町代・家持・家守などがあった。町会所・惣会所・自身番などで会合して事務をとり，御触(おふれ)・申渡(もうしわたし)の伝達，人別改め，訴訟の和解，火の元の取り締まりなどにあたった。江戸では世襲が多く，町から役料を受けたが，大阪では互選で選ばれ，衣服代としていくらかの銀子を受けながら家業を営んでいた。〔岡山泰四〕

まちやっこ　【町奴】 江戸初期，江戸市中に横行した市井遊俠(ゆうきょう)の徒。六法・かぶき者・男伊達(おとこだて)などともよばれた。戦国の殺伐とした余風を継ぎ，徒党を組み，



マチュー《フランス王の軍隊の喊声》1954　ニューヨーク近代美術館蔵

マチュピチュ



ことさらに異装し，大刀を差して盛り場を横行して旗本奴*(はたもとやっこ)と対抗した。その多くは，臨時に中間(ちゅうげん)(武士に随従する雑卒)・小者などに雇われて世を渡る渡り中間で，その口入れ(周旋)を業としていた町人が首領と仰がれた。幡随院長兵衛*(ばんずいいんちょうべえ)・唐犬権兵衛などは有名。1664年(寛文4)旗本奴が幕府から取り締まられたのちは町奴がもっぱら勢いをふるったが，1686年(貞享3)火付盗賊改め中山勘解由(かげゆ)の大弾圧で一時衰えた。しかしのちその系統は俠客に引き継がれ，幕末には新門辰五郎(たつごろう)などが世に知られた。〔高崎徳次〕

マチャード　［Antonio Machado］(1875～1939) スペインの詩人。セビリアの生まれ。兄マヌエルも詩人。フランス語の教師をしながら詩作を続け，処女詩集《寂寥(せきりょう)》(1903)で認められた。代表作は落莫(らくばく)とした自然を介してカスチリアの心をうたった詩集《カスチリアの野》。ほかに思索的散文詩集《ファン-デ-マイレーナ》などが重要。スペイン内乱では，共和政府に協力し，フランスに亡命，客死した。

マチュー　［Georges Mathieu］(1921～　) フランスの画家。法律と哲学を修め，のちイギリス文学の学位をとる。1942年以降作画に専念し，1947年にパリに住み，あちこちのサロンに出品した。アメリカの新表現主義の画家たちに共感をよせ，抽象の形式的なものに反発して，アクションの過程に創造精神を見いだした。

マチュピチュ　［Machu Picchu］ 現存するインカ帝国最大の遺跡。ペルー南部クスコ市の北西約80kmに位置し，ウルバンバ川沿いのマチュピチュ・ウワイナピチュ両高峰間の狭い地形上にある。帝国の祭祀(さいし)センターもしくは軍事基地であったとする説があるが，その起源はなお不詳である。堅固な巨石を積み上げた石造建築・墳墓・段々畑・住居跡がほぼ完全な形で保存され，祭祀所・手工業地帯など職業別に区画された集落は，帝国の高い組織力をうかがわせる。1911年アメリカ人ハイラム-ビンガムによって発見された。〔松下　洋〕

マチン　【馬銭】 双子葉植物・フジウツギ科。東インド原産の常緑高木で，高さ5～10m。葉は対生し，長さ8～10cmの卵円形で全縁，3～5脈が目だつ。多数の白色花が集散花序につき，花冠は5裂する。おしべは5個で花糸はなく，葯(やく)が花冠の縁につく。めしべは線状形で，子房上位，2室がある。果実は1.5～1.8cmの球形の漿果(しょうか)。種子は楕円(だえん)形で毛があり，乾燥したものはホミカ・蕃木鼈(ばんぼくべつ)・馬銭子(まちんし)とよばれ，アルカロイドのストリキニーネ*・ブルチンを含み，薬用とされる。

まつ　【松】 裸子植物・マツ科・マツ属の総称。主として北半球に分布する高木ないし伏臥(ふくが)性低木でほとんどの種が常緑であるが，カラマツの仲間は落葉する。葉は針状で葉肉内に樹脂道をつくる。長枝と短枝の別があるが，マツ属では短枝の上に2～5枚の葉が集まってつく。雌雄同株で，雄花は新枝の基部に穂状をなして多数のおしべをつけ，雌花は新枝の頂部に多数の鱗片(りんぺん)をつけて数個生じ，おのおのの鱗片に2個の胚珠(はいしゅ)をつける。果実は木質で種子に翼のあることが多い。有用森林樹木として重要である。〔加藤僖重〕

〔種類〕 マツ類は複維管束類と単維管束類



マ　ツ　①クロマツ　②アカマツ　③ダイオウショウ　④ハイマツ　⑤チョウセンマツ　⑥ゴヨウマツ

に大別される。①複維管束類：針状葉は2〜3本で束生する。鱗状葉はいつまでも落ちず，葉の維管束は2個。種子には翼があり，材はかたい。三葉松はすべて外国産である。クロマツは，樹皮は灰黒色で亀甲(きっこう)状に深く裂ける。冬葉の鱗片は白色。針状葉はかたく，長さ5〜15cm。オマツともいい，青森県以南の暖帯の海岸に生育し，南部では山地にも生ずる。海岸の砂防樹や庭園樹などに用いられる。アカマツは，樹皮は赤かっ色で亀甲状に浅く裂ける。冬芽の鱗片は赤かっ色。葉はクロマツより柔らかく，長さ5〜10cm，メマツともいわれる。北海道南部から九州屋久島まで分布し，山地に多く，重要な針葉樹種の一。ウツクシマツは，アカマツの一品種で滋賀県に自生し，天然記念物。主幹がなく，根もとから多くの幹をほうき状に生ずる。庭園樹として価値が高く，接ぎ木で繁殖したものをタギョウショウとよぶ。アイグロマツは，アカマツとクロマツの混生地域に生じた雑種。材質や成長はすぐれている。フランスカイガンショウは，地中海沿岸地方原産で松やに採取用として栽培される。ダイオウショウは，葉の長さ50cm，球果25cmに達する三葉松で，北アメリカ東部原産の庭園樹として植栽される。テーダマツは，北アメリカ原産の三葉松で，成長がよく造林されている。②単維管束類：針状葉が5本。短枝を包む鱗片葉は早く落ちる。葉の維管束は1個。材は柔らかい。種子に翼のないことがある。ハイマツは，千島・北海道・本州の高山およびシベリア・朝鮮などに分布する。低木で地をはい高さは3m内外。チョウセンマツは，本州中部の山地，朝鮮から中国東北部にかけて分布する。種子は大きく食用に供される。ゴヨウマツは，ヒメコマツの変種で，高さ30mに達する高木。北海道，本州中部・四国・九州の山地に分布。用材や盆栽などに用いられる。ストローブマツは，北アメリカ東部原産。五葉類中最も材質的にすぐれており，日本でも北海道や東北で造林されている。

クロマツ・アカマツともに日本の重要な造林樹種で，人工植栽は密植が必要。天然更新も容易である。アカマツにはマツクイムシの被害が九州から東海にかけて恒常的に発生する。またストローブマツはさび病のために大被害をうけている。マツの材はやにが多いが，針葉樹のうちでは重硬なため建築材・土木用材・パルプ材などに用いられる。また，マツ類は庭園樹としても重要で日本庭園には欠かせない。ダイオウショウは洋風庭園樹として好まれる。

〔中村克哉〕

まつあなあきぞうむし　【松孔開象鼻虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長は口吻(こうふん)を除いて1〜1.5cm。体は赤かっ色で，いくぶん銹色(さびいろ)ないし黒色をおびる。全体に黄かっ色の微毛がまばらにはえ，鞘翅に同色の微毛からなる2本の横帯がある。頭部は密に皺状(しわじょう)に点刻され，口吻は前脚腿節(たいせつ)よりもやや短い。鞘翅には粗大な点刻列がある。本州・四国・九州のほか，朝鮮・東シベリアからヨーロッパまで広く分布するマツ類の害虫。

まついかんじ　【松井簡治】　(1863〜1945)　国語学者。千葉県銚子(ちょうし)の生まれ。東京大学教育学科卒業。東京文理大教授・同付属図書館長・学長事務取扱などを歴任。上田万年(かずとし)と共編で《大日本国語辞典》を編集した。その編集のため集めた図書は現在静嘉堂(せいかどう)文庫に収められている。ほかに《大鏡》《増鏡》《水鏡》の校訂本を萩野由之・関根正直らと共編で出版。

まついしょうおう　【松居松翁】　(1870〜1933)　劇作家。宮城県の生まれ。本名真玄(まさはる)。1894年(明治27)処女作《昇旭(のぼるあさひ)朝鮮太平記》を発表。1899年初世市川左団次のため自作小説《悪源太》を脚色して以来，《源三位頼政(よりまさ)》《後藤又兵衛》ほかを執筆。1913年(大正2)河合武雄(かわいたけお)と公衆劇団を創立し，代表作《茶を作る家》を演出。全作品は140余にのぼり，生涯(しょうがい)演劇界の実際に即した指導・改革に努めた。

〔小泉浩一郎〕

まついすまこ　【松井須磨子】　(1886〜1919)　女優。長野県松代(まつしろ)の生まれ。本名小林正子。24歳で文芸協会演劇研究所の第一期生となり，坪内逍遙(しょうよう)・島村抱月の指導をうけた。《人形の家》のノラ，《ハムレット》のオフィーリアなどで新時代の女優として注目されたが，1913年(大正2)抱月との恋愛事件から2人を中心に芸術座を結成，《復活》など大衆性の濃い演劇活動で一世を風靡(ふうび)した。舞台，私生活ともに新時代の情熱的女性として有名であった。抱月の死の2か月後に自殺。〔大島　勉〕

まついだ　【松井田(町)】　群馬県南西部，碓氷(うすい)郡の町で，1郡1町をなしている。人口20,000。町域に長野県との境をなす碓氷峠があり，南には妙義山がそびえる。中心集落は東の松井田と西の坂本で，ともにかつては中山道(なかせんどう)の旧宿場町であった。その中間の横川には中山道の関所跡があるが，またアプト式鉄道の起点として知られた。主産業は農業・養蚕で，また特産にベントナイトがある。

まつうら　【松浦(市)】　長崎県北端の市。人口25,000。古くは〈まつら〉とよばれた農漁業集落で，昭和にはいってから佐世保炭田の開発によって県北の炭鉱都市として繁栄し，1955年(昭和30)新御厨(しんみくりや)・志佐・調川(つきのかわ)の3町が合併して市制施行，同年今福町も編入した。市域は北松浦半島の北部，松浦湾沿岸沿いに東西に長く延び，北は玄界灘(げんかいなだ)に面し，東は佐賀県伊万里(いまり)市と隣接する。西と南は国見岳(436m)を中心とする丘陵性山地が海に迫り，今福川・調川川・志佐川・悪太郎川・龍尾(たつお)川などの諸河川が谷間を縫って北流する。産業三大別人口比は32：30：38。石炭採掘が基幹産業で，御厨の黒潮港から石炭を移出していたが，最近の石炭産業の斜陽化によって中小炭鉱の閉山が多い。工業都市への転換を図って松浦臨海工業地帯が造成され，工場の誘致が進められている。松浦線・国道204号線が海岸沿いに走る。後背山地は地すべりの多発地帯で，1953年に大きな今福地すべりがあった。

まつうらたけしろう　【松浦武四郎】　(1818〜1888)　江戸時代末期の探検家。伊勢

(いせ)(三重県)一志郡須川(すかわ)村の生まれ。成人して諸国を歩き，1845年(弘化2)より3度にわたって蝦夷地(えぞち)におもむいた。1855年(安政2)幕府の蝦夷地山川地理取調御用掛になり，蝦夷全土と樺太(からふと)(現在のサハリン)を踏査。明治政府も函館(はこだて)府判事・蝦夷開拓御用掛・開拓大主典などに登用した。北海道の呼称と道内国郡名の大半の考案者，国郡界の設定者としても知られる。《三航蝦夷日誌》《東蝦夷日誌》《西蝦夷日誌》などの著書がある。〔大崎　晃〕

まつえ　【松江(市)】 島根県の東部，県庁のある市。人口13万2,000。1607年(慶長12)堀尾吉晴(ほりおよしはる)が松江城を築城，江戸時代には京極氏を経て松平氏十八万石の城下町として繁栄した。1889年(明治22)市制施行。中海(なかのうみ)と宍道湖(しんじこ)に接して東西に延びる沖積(ちゅうせき)低地の松江平野上に位置し，北方は島根半島によって日本海と隔てられる。中央を流れて両湖を結ぶ大橋川にかかる松江大橋が市域を南北に2分する。北部は藩政時代の武家屋敷地区で，松江城のある城山付近は県庁をはじめ官公庁が多い。南部は旧町人町で，松江駅を中心に繁華街を形成する。美しい水の都で〈東洋のベネチア〉とよばれ，1951年(昭和26)国際文化観光都市に指定された。産業三大別人口比は13：20：67。商業・サービス業を主体とする消費都市的な性格が強いが，近郊には水田地帯が開け，カブ・セリなどの野菜類やカキなどの果樹栽培が行なわれる。宍道湖のシラウオ・ワカサギ・スズキ，中海のアカガイ・カキなどの魚介類の水揚げがあるが，近年衰退している。最近は造船・製材・木工品・食料品などの諸工業が行なわれ，宍道湖の淡水化や中海の干拓が進み，宍道湖岸に旅館団地，中海沿岸に鉄工団地がつくられて，観光と工業両面からの発展が期待される。山陰本線・私鉄一畑電鉄・国道9号線が通じ，南西郊の玉造温泉へ松江道路が走り，国鉄バス雲芸線が国道54号線沿いに三次(みよし)(広島県)を経て広島へ至る。将来は山陰新幹線が通じる予定である。小泉八雲ゆかりの地でその旧宅をはじめ，松江城(千鳥城)のある城山公園，松平治郷(はるさと)の茶室であった菅田庵(かんでんあん)，大蛇(おろち)退治で知られる八重垣(やえがき)神社，宍道湖に浮かぶ嫁ケ島などの名勝旧跡に富む。島根大学がある。〔浅井得一〕

まつおかえいきゅう　【松岡映丘】 (1881～1938)　日本画家。兵庫県の生まれ。上京して橋本雅邦*・山名貫義(つらよし)らの門にはいり，のち，東京美術学校を卒業，1918年(大正7)には同校の教授に任ぜられた。この間文展に数々の賞を受け，また金鈴社・新興大和絵(やまとえ)会・国画院を結成した。大和絵の研究を通じて，土佐派の伝統を現代に復活すべく大いに力を尽くした。1930年(昭和5)帝国美術院会員となった。



松　江　市　宍道湖上空から見た市の中心部。左手前の森は松江城のある城山公園で，その手前が官庁街。宍道湖の出口にかかるのは松江大橋



マツカサウオ

まつおかこまきち　【松岡駒吉】 (1888～1958)　社会主義労働運動家・政治家。鳥取県の生まれ。郵便夫・旋盤工見習いののち室蘭(むろらん)製鋼所に入社，1914年(大正3)友愛会*加入，のち労働運動の右派の指導者となり，1932年(昭和7)日本労働総同盟(総同盟)会長となる。1940年全国の労働組合が産業報国会に解消されるにあたり，右翼的わく内でこれに反対。第2次世界大戦後再建された総同盟会長となり，日本社会党結成に右派を代表して参加。代議士5回当選，1947年片山内閣の衆議院議長を勤めた。〔安達利夫〕

まつおかひさし　【松岡寿】 (1862～1944)　洋画家。岡山県の生まれ。はじめ聴香読画楼で川上冬崖(とうがい)に師事，のち工部美術学校でフォンタネージに学んだ。1880年(明治13)から1888年にかけてヨーロッパに滞在，帰国の翌年明治美術会の結成に参加した。文展の開設に際しては審査員をつとめた。後年教育界に転じて活躍したが，その方面の功績は大きい。

まつおかようすけ　【松岡洋右】 (1880～1946)　外交官・政治家。山口県の生まれ。1900年(明治33)アメリカのオレゴン大学卒業。帰国後外務省にはいり，外交官として中国・ベルギー・アメリカなどの勤務を経て，1921年(大正10)退官。1927年(昭和2)南満州鉄道*(株)の副社長となる。1932年満州事変をめぐるジュネーブの国際連盟会議に首席全権として出席し中国侵略を弁護，日本の国際連盟の脱退を宣言。1937年満鉄総裁。1940年第2次近衛内閣外相になり，東南アジア進出政策を推進し，日独伊(にちどくい)三国同盟*を締結。翌年モスクワで日ソ中立条約*に調印したが，同年6月ドイツ・ソ連戦が開かれると，対ソ開戦を主張した。またイギリス・アメリカとの開戦をも主張して内閣総辞職の因をつくり，政界を引退した。第2次世界大戦後A級戦犯に指定されたが，審理中病死した。〔安達利夫〕

まつおこうざん　【松尾鉱山】 岩手県岩手郡松尾村にあるイオウ鉱山。1882年(明治15)の発見で，1914年(大正3)から開発が行なわれ，全盛時には全国生産量の約3分の1を占めた。石油精製時の副産物であるイオウが出回るに及んで，1969年(昭和44)イオウの採掘を停止し，わずかに硫化鉄鉱の採掘が行なわれたが，これも1972年4月に停止し閉山した。

まつおばしょう　【松尾芭蕉】 ⇨芭蕉

マッカーサー　［Douglas MacArthur］(1880～1964)　アメリカ合衆国の軍人。アーカンソー州の生まれ。1903年ウェストポイント陸軍士官学校卒業。1930年大将に昇進し，1937年退役した。軍部の極東通として知られ，1941年日本・アメリカ合衆国間の緊張が高まるや現役に復帰し，アメリカ極東軍司令官としてフィリピンに派遣され，1942年太平洋戦争のマニラ陥落によりオーストラリアに脱出。西南太平洋方面連合軍総司令官として対日反攻を指揮した。1945年日本の降伏とともに日本占領連合国軍最高司令官となり，日本国憲法・農地改革・財閥解体などの民主化に努めた。1950年朝鮮戦争の勃発(ぼっぱつ)とともにその占領政策も反動化した。朝鮮戦争には国連軍最高司令官として戦闘を指揮したが，中華人民共和国の介入後は本国政府と意見が合わず，1951年4月トルーマンにより解任。議会で自己弁護の演説をした際，〈老兵は死なず，ただ消えゆくのみ〉と結んだのは有名。〔折井一彦〕

まつかさうお　【松笠魚】 硬骨魚類・マツカサウオ科。全長11cmほど。三重県でエビスウオ，高知でヨロイ・ヨロイウオなどという。体は大きい骨板状のうろこでおお

われ，背びれの棘(きょく)は強大である。下顎(かがく)の前端に1対の黒く見える発光器があり，発光バクテリアが共生して発光する。また，うきぶくろによって発音し，腹びれの棘を摩擦して音を出す。太平洋岸では房総半島以南，日本海岸では富山県以南，フィリピンを経てアフリカ東岸にまで分布する。東シナ海ではかなり多量に漁獲される。てんぷら・焼き魚・みそしる・かまぼこの材料にする。〔安田富士郎〕

マッカーシー ［Mary McCarthy］（1912～　） アメリカの女流小説家。シアトルの生まれ。名門バッサー-カレッジを卒業後，演劇批評や教職に従事しながら小説家・批評家として認められた。学園や知識人の生活を風刺した作品が多い。代表作の長編《グループ》は，8人の女性の人生を描き，愛・性・結婚などの問題を女性の目で鋭く見つめたもの。

マッカーシズム ［McCarthyism］ アメリカ合衆国上院議員ジョゼフ-マッカーシー(1909～1959)のもとに行なわれた共産主義者追放運動。1950年2月，上院政府運営委員会のマッカーシーが国務省内に多数の共産主義者が存在すると指摘，以後極東問題の権威ラチモアや国務長官マーシャルやアチソンを次々に非難するとともに，国務省の各機関や海外のアメリカ情報局図書館を検閲，共産主義関係の文献を廃棄した。しかし，マッカーシーが陸軍を攻撃するに至り，1954年12月上院はマッカーシー非難決議を採択，ここに猛威をふるったマッカーシズムも勢力を失った。この〈赤狩り〉旋風は，中華人民共和国の成立にみられるように社会主義体制が国際的に強化されたこと，それに応じて資本主義体制の維持とアメリカ独占資本主義の優位が要請されたことに起因するもので，対外的には封じ込め政策*や巻き返し政策*と，国内的にはスミス法*やマッカラン法*と趣旨を同じくするものである。〔折井一彦〕

まつかぜ 【松風】 能の曲名。観阿弥*(かんあみ)作，世阿弥改作といわれている。三番目物。諸国を巡る僧が摂津(兵庫県)の須磨(すま)に来て，松のかげにある2人の海女(あま)松風・村雨(むらさめ)の墓を弔い，塩づくりの仮り屋に宿ろうとすると，2人の女が海の潮をくみながらもどって来る。僧は仮り屋の客となるが，2人の女は松風・村雨の霊で，昔在原(ありわら)行平がこの地に流されたときに愛され，その後こがれ死にをした者たちだった。2人はそのことを僧に語り，松風は行平の形見の衣服を身につけて舞い狂い，夜明けとともに松に吹く風を残して消え去る。シテは松風，ワキは僧。村雨はシテヅレ。〔長尾一雄〕

まつかぜもの 【松風物】 日本舞踊・音曲のうち，能《松風*》をもととする作品，またその系統。舞踊としてよく上演されるものに長唄(ながうた)《汐汲*(しおくみ)》，清元節《須磨の写絵》などがある。



マツカレハ幼虫

まつかたまさよし 【松方正義】（1835～1924） 政治家・財政家。鹿児島県の出身。1875年(明治8)地租改正*事務局設置とともに改正事業に従事。1878年万国博事務局副総裁になる。1880年内務卿(ないむきょう)となり，1881年参議兼大蔵卿として紙幣整理*を断行し，翌年正貨を蓄積して日本銀行*を創立した。1885年第1次伊藤(いとう)内閣，1898年第2次山県内閣の蔵相をつとめ，近代日本の財政信用制度を確立。また1891年第1次，1896年第2次松方内閣を組閣した。1903年枢密顧問官。1917年(大正6)内大臣となる。晩年は元老に遇された。〔安達利夫〕

まっかつ 【靺鞨】 中国，隋(ずい)・唐時代に満州東北部から朝鮮の北部にいたツングース系諸族。6世紀半ばに勿吉(もっきつ)が崩壊してのち，その支配下にあった諸族を中国側は靺鞨とよんだ。7部族に大別される。唐代に，そのうちの粟末(ぞくまつ)靺鞨が渤海(ぼっかい)を建て，またのちに黒水靺鞨が女真*となって金を建てたとされている。

マッカラーズ ［Carson McCullers］（1917～1967） アメリカの女流小説家。異常なアメリカ南部人を描く点でフォークナー*との類似がみられるが，その小説手法は平明である。20代の作者に名声をもたらした処女作《心は孤独な狩人》は，唖(おし)で聾(つんぼ)の誠実な人物を中心に南部いなか町のさまざまな群像を描いた傑作。

マッカランほう 【マッカラン法】 1950年9月に成立したアメリカ合衆国の反共立法。マッカラン上院議員の提出になるのでこの名があるが，正しくは〈国内治安法〉という。スミス法*とともにマッカーシズム*の一翼を担った。

まつかれは 【松枯葉蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・カレハガ科。翅(はね)を広げた長さは雄で45～60mm，雌で70～90mm。個体によって色彩の変異が大きく，特に雄では著しい。翅はかっ色・赤かっ色・暗かっ色・黒かっ色・灰白色など，前翅には白・黒かっ色の線があるが不明瞭(ふめいりょう)な場合もある。多くは前翅中央に1個の白点があり，その外側に白い縁取りをもつ暗色帯が走る。成虫は5～10月にわたって出現し，ふつう発生は年1回であるが2回のこともある。幼虫は背面に長い棘(とげ)のある毛虫で，マツケムシとよばれる。クロマツ・アカマツなどのマツ類を食害し，特にアカマツの単純林が最も被害を受ける。冬になると幼虫は樹皮の裂け目や地上の枯れ葉の下に集団で潜み，翌春再びこずえにもどって葉を食う。防除には，幹にわらなどをまいて越冬のために降りてくる幼虫を集める誘殺法があるが，最近ではウイルスによる生物的防除法も発達してきている。日本全土・朝鮮・中国・シベリアなどに分布。〔多々内修〕

まつかわ 【松皮】 硬骨魚類・カレイ科。全長60cmをこえる海産魚。北海道ではタカノハガレイ・ヤマブシガレイ・カンタカなどという。背びれ82軟条，臀(しり)びれ58軟条。目は体の右側にある。背びれ・臀びれ・尾びれにはかっ色の帯状の斑紋(はんもん)がある。無眼側は，雄では赤みをおびた黄色，雌では白っぽい。北日本に広く分布し，雄は美味だが雌は不味であるといわれる。

まつかわうら 【松川浦】 福島県北東端，相馬(そうま)市の西方太平洋岸にある潟湖*(せきこ)。面積6.3km²，水面高度0m，最大深度5.5m，長さ7km。最大幅1.5km。松川浦港付近の人工水路によって外洋に通じている。湖中に小島や奇岩が多く，松島に似ているので小松島の名もある。ノリの養殖場で，松川浦自然公園に指定されている。

まつかわおんせん 【松川温泉】 岩手県岩手郡松尾村にある温泉。泉温45～93℃，泉質は単純硫化水素泉で，神経痛・リウマチにきくといわれる。岩手連峰北麓(ほくろく)の松川の渓谷(けいこく)に臨み，十和田八幡平(はちまんたい)国立公園内に含まれ，八幡平(1,614m)・岩手山(2,041m)の登山口となり，国民宿舎・キャンプ場・スキー場がある。付近には天然記念物のモリアオガエルの生息する御護沼(おごぬま)・影沼や，天然蒸気の噴出口，およびわが国最初の泉熱を利用した松川地熱発電所(20,000kW)などがある。松川地熱発電所は，日本重化学工業の経営で1966年(昭和41)営業開始，その全部を東北電力に配電している。花輪線大更(おおぶけ)駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

まつかわじけん 【松川事件】 1949年(昭和24)8月17日東北本線松川～金谷川駅間で起こった列車転覆事件。レールの継ぎ目板や犬くぎがはずされていた計画的犯行で，乗務員3名が死亡した。検察庁は国鉄人員整理反対闘争を行なっていた国鉄および東芝松川工場の労働組合員など20名を起訴。一審・二審とも有罪判決が下されたが，判決への疑問が高まり，広津和郎*(かずお)らを中心とする公正判決要求運動が拡大した。1959年最高裁判所は共同謀議*の存在を疑って仙台(せんだい)高等裁判所へ差しもどした。1961年仙台高等裁判所は全員無罪と判決，1963年最高裁判所は検察側の上告を棄却して被告の無罪が確定した。この事件は，下山事件*・三鷹(みたか)事件*とともに，第2次世界大

戦後の三大事件の一つに数えられ，国鉄の行政整理を容易にした。また被告中に日本共産党員がいたため，日本共産党の暴力行為と宣伝され，レッド-パージ*,1950年の日本共産党に対する事実上の非合法化の端緒となった。なお，この事件は時効となったが，真犯人は不詳。〔原田政洸〕

マッキーバー ［Robert Morrison MacIver］（1882〜1970） アメリカ合衆国の理論社会学者・政治学者。スコットランドの生まれ。1927年コロンビア大学教授，のちニューヨーク大学総長となった。その研究は方法論・社会行為論・政治社会学など多岐にわたるが，特に研究生活の初期に発表されたコミュニティー(共同社会)とアソシエーション(派生社会)の概念は著名である。コミュニティーは自然発生的な全体的領域の共同生活圏(村・町・民族など)であり，アソシエーションは特殊的利害関心により，基礎社会内部に人為的・機能的につくられる機構(家族・教会・会社・国家など)であるとし，両者および各社会間の調和的関係に社会構造の本質があると指摘した。主著に《コミュニティー論》《近代国家論》《社会，その構造と変動》などがある。〔藤見純子〕

マッキンリー(山) ［McKinley］ アメリカ合衆国，アラスカ州にある高山。標高6,194m。北アメリカ大陸の最高峰をなす。ロッキー山脈の北端部に近く，アンカレッジ市の北北西約240kmの地点にある。1913年ハドソン-スタックによって初登頂された。氷河の発達が著しく，その山岳美にすぐれるところから付近一帯は1917年マッキンリー山国立公園に指定された。山名はアメリカ合衆国第25代大統領W.マッキンリーにちなむ。〔大石堪山〕

マッキンリー ［William McKinley］（1843〜1901） アメリカ合衆国の政治家。第25代大統領。在任1897〜1901年。オハイオ州の生まれ。南北戦争に従軍し，戦後オハイオ州で弁護士を開業。1877年共和党より下院議員に選出され，1891年まで在職。1890年高率の保護関税法の制定に成功した。1892年オハイオ州知事となり，大実業家マーク-ハンナの知遇を得て,民主党のブライアンを破り1896年大統領に当選した。在任中は高率保護関税の制定や金本位制の維持に努め，産業界の繁栄に寄与した。米艦メイン号爆破事件により，1898年4月宣戦を布告しアメリカ-スペイン戦争を遂行した。戦争中に長年懸案のハワイを併合，12月のパリ平和条約でフィリピン・プエルトリコ・グアムを獲得したほか，1899年と1900年には国務長官ヘイが門戸開放政策をとるなど，アメリカ外交は伝統的孤立主義から離れ，ラテン-アメリカや極東に対する帝国主義的進出を開始した。1900年大統領に再選されたが，翌年9月無政府主義者に暗殺された。〔折井一彦〕

マック ［MAC］ Military Air-lift Commandの略。アメリカ空軍空輸隊のこと。1966年1月に編成。おもに〈空飛ぶストライコム*〉の空輸に任ずる。局地戦用に核武装した3個師団を，世界のどこにでも10数時間以内に空輸できる能力をもっている。

まつくいむし 【松食虫】 広義にはマツ類を加害するこん虫類の総称であるが，分類学上はきわめて多くの群を含み，加害部位も群によってさまざまである。マツカレハやマツノキハバチのようにマツ類の葉を食べて生活する鱗翅(りんし)類や膜翅類，マツモグリカイガラムシ・マツヒラタカメムシのように樹皮下に寄生して吸汁(きゅうじゅう)するものやマツオオアブラムシ・マツホソアブラムシのように葉から吸汁するもの(以上いずれも半翅類)もある。しかし,一般にマツクイムシという場合は，より狭義の幼虫や成虫がマツの枝幹部の樹皮下や材部に穿孔(せんこう)するキクイムシ類やカミキリムシ・ゾウムシなどの甲虫類をさしていることが多いが,明瞭(めいりょう)な区別があるわけではない。マツクイムシ類の被害は第2次世界大戦の直後ころから日本の各地で年々激しくなり，全山のマツが枯死したところもあったが，1955年(昭和30)ごろから以降はあまり大規模な発生は見られなくなった。上述のように，マツを加害するこん虫は多種であるが，マツを枯死に至らせる直接の原因となるような種はキクイムシ科・ゾウムシ科のものが多い。マツクイムシ類の発生を助長させるような原因にはいろいろあるが，風水害や雪害・旱魃(かんばつ)・乱伐・山火事，マツカレハなどの加害などによるマツの樹勢の衰弱が第1にあげられる。防除にはまずマツ林の管理を十分に行ない，計画的な伐採，被害木の早期発見に努めねばならない。被害木は切り倒し，樹皮をはぎとって焼却するなどの処置を行なう。〔鈴木邦雄〕

まつげ 【睫】 ⇨目

まつけむし 【松毛虫】 ⇨マツカレハ

マッケンジー(川) ［Mackenzie］ カナダ北西部を流れる川。グレートスレーブ湖に発し，北西に流れて北極海の支海ボーフォート海に注ぐ。本流は全長1,800km。河口には大きなデルタをもつ。6〜10月間が航行可能。流域には森林資源・地下資源が多い。

まっこうくじら 【抹香鯨】 哺乳(ほにゅう)類・クジラ目・マッコウクジラ科。全長17〜19mで，体は灰色。頭部は巨大で，特異な形をしている。各海洋に広く分布するが，大西洋・太平洋の赤道付近ではみられない。群れで回遊し，イカ類を好むが魚も食べる。潜水能力が高く，40〜60分ももぐり続ける。水面下2,200mの所で，海底電線に巻きついて死んでいた例が知られる。腸内にときにろう状のかたまりがみられるが，これを龍涎香(りゅうぜんこう)(アンバーグリス)といい，動物性香料の一つである。生息数が減少しており，国際的に本種のみならずクジラ類全体の保護の必要が叫ばれている。〔今泉吉典〕

まつさか 【松阪(市)】 三重県中部の市。人口11万3,000。1588年(天正16)蒲生氏郷(がもううじさと)が城下町を開き，江戸時代は紀州藩の代官が置かれ，参宮・和歌山・熊野(くまの)の諸街道の分岐点，松阪木綿(もめん)の集散地として南勢商業の中心地をなした。当時の松阪(伊勢(いせ))商人は全国に進出し，その中から三井財閥も生まれた。1933年(昭和8)市制施行。市域は東は伊勢湾に臨む伊勢平野南部の沖積地(ちゅうせきち)，西は高見山地東縁の山地を含む。産業三大別人口比は16：32：52。商業活動が盛んで，南部を流れる櫛田(くしだ)川流域をはじめ，中南勢から紀州へかけての広い商圏をもつ。松阪木綿の伝統を受け継いだ繊維工業が盛んで，鐘淵(かねがふち)紡績・興和紡績・松阪紡績などの工場が集まる。金属・模造真珠などの工場も多く，松阪港を中心に，石油化学・鉄鋼などの重化学工業誘致の計画も進んでいる。周辺には水田地帯が開け，特産の松阪牛が飼育されて，東京・名古屋・大阪方面へ移出される。紀勢本線から名松線を分岐し，近畿(きんき)日本鉄道山田線・三重交通松阪線が通じ，国道23号線・42号線・166号線が集まる。松阪城跡，本居宣長(もとおりのりなが)の旧宅〈鈴廼舎(すずのや)〉は特別史跡に指定され，岡寺観音，空海の開基といわれる岩内(ようち)瑞厳(ずいがん)寺などの古寺がある。戦災を受けなかったので，城下町としての不規則な町並みがそのまま残っている。〔浅井得一〕

マッサージ ［massage］ 整形外科の非観血療法の一。関節の拘縮・強直・骨折・捻挫(ねんざ)などや，神経麻痺(まひ),変形の矯正(きょうせい),先天性股関節脱臼(こかんせつだっきゅう)によるギプス固定の後療法などに適応される。軽擦法・強擦法・揉捻(じゅうねん)法(つまみあげる)・叩打法(小刻みにたたく)・震顫(しんせん)法(こぶしや肘(ひじ)を押しつけてふるわせる)などがあり，それぞれ疾患と症状に応じて行なわれる。局所に急性炎症(せんしょう)がある場合，結核性関節炎・悪性腫瘍(しゅよう)，新鮮な骨折や挫傷などがある場合は禁忌で，マッサージを行なってはならない。原因疾患をわきまえずに関節結核にマッサージを行ない，結核性脳膜炎を起こして死亡させた例もあるので注意を要する。整形外科医の指導で理学療法士が行なうのが安全である。→按摩(あんま)〔山中英夫〕

まつしたぜんに 【松下禅尼】 生没年不詳。安達景盛(あだちかげもり)の娘。北条(ほうじょう)時氏の妻。経時(つねとき)・時頼(ときより)・為時(ためとき)・時定らの母。1230年(寛喜2)時氏と死別し，出家。1247年(宝治1)三浦泰村(やすむら)が時頼に反逆した際，禅尼は高野山から父の景盛をよび寄せ，時頼に献策させ



松　島　松島湾の東側宮戸島の大高森から望んだ松島の景勝。遠景は松島湾で，その対岸は塩竈市・松島町にあたる

た。執権*の母にもかかわらず，障子の切張りをして，みずから質素倹約の範を示し，御家人*の心得を説いた話は，《徒然草*(つれづれぐさ)》に載せられて有名。〔高崎徳次〕

まつしただいさぶろう　【松下大三郎】　(1878～1935)　国語学者。静岡県の生まれ。国学院大学卒業。1923年(大正12)国学院大学教授。国語における語の分類の研究に独特の理論体系をたて，副体詞および活用や格の考え方は独創的である。また，題目語などを説く文章論的考察や敬語などに関しても独特の理論がみられた。国語文法に深い関心を示し《日本俗語文典》(1901)はその先駆である。著書《標準日本文法》《標準日本国語文法》など。ほかに，和歌研究の基本的資料としての《国歌大観》の編著がある。〔寒河江実〕

まつしたでんきさんぎょう　【松下電器産業(株)】　家庭電器製品のトップメーカー。代表的な高収益会社で，松下電工・松下通信工業など多くの子会社からなる松下グループの柱。1918年(大正7)松下幸之助が配線器具の製造販売会社を設立，その後電球・ラジオなど事業の拡大を図り，1935年(昭和10)株式会社に改めた。現在はカラーテレビを含む無線機器・家庭電化機器のほか，電池・管球部門があり，製品は〈ナショナル〉の商標でよく知られている。海外10か国に製造会社，6か国に販売会社を設けている。またオランダのフィリップス社のほか24社と技術援助契約を結んでいる。本社大阪府門真市，工場は大阪・東京・名古屋など64。資本金599億8,600万円，年間売上高1兆7,345億円，従業員数34,158(1980年5月)。

まつしま　【松島(町)】　宮城県宮城郡の町。人口17,000。町域は松島湾*の北西岸から背後にかけて広がり，南は塩竈(しおがま)市に隣接する。松島湾ではノリ・カキの養殖が盛んで，北部では米作が行なわれる。海岸には水族館・ホテル・レストハウス・ヨットハーバーがあり，景勝の松島*と瑞巌(ずいがん)寺*(国宝)を控えて観光の町としてにぎわいをみせている。東北本線・仙石(せんごく)線が通ずる。

まつしま　【松島】　宮城県中部，仙台(せんだい)湾*の中央部にある景勝地。日本三景の一つで，女性的な内湾の美をもって知られ，各地で何々松島とよばれる同類の地形・風景の称の元祖となっている。1902年(明治35)には松島県立自然公園に，1923年(大正12)には国の特別名勝に指定された。宮城県宮城郡松島町をはじめ，塩竈(しおがま)市ほか4町にまたがり，松島湾*内の大小260あまりの島々を含めた一帯の景勝をさし，鎌倉時代以降中央の人々にもその美が知られるようになり，江戸時代にはいって芭蕉(ばしょう)の《奥の細道》における賞賛によって天下の名勝松島の地位が確定した感がある。湾内の島々は，おもに凝灰岩や砂岩・レキ岩からなり，地質構造に支配されて規則正しく並び，波食によって種々の奇景を示す。特に，仁王(におう)島などのように外洋に面したものは，波食が強いために著しく破壊されているのがその例である。島上にはアカマツ・クロマツが茂って，松島という名の由来となっている。クロマツは太平洋岸の北限となっている。湾岸に近い丘陵からの展望がよく，多聞(たもん)山・大高森・富山・扇谷(おおぎがたに)山からのながめを，それぞれ偉観・壮観・麗観・幽観といって，松島の四大観という。また，東部の宮戸島からは縄文(じょうもん)遺跡が発掘されて，湾岸には塩竈神社や瑞巌(ずいがん)寺・五大堂・観瀾亭(かんらんてい)など史跡にも富む。松島町の東側には入り江の埋め立て地に松島ヘルスセンターが建設され松島タワー(高さ64m)からは湾内を一望にできる。湾岸のドライブ，遊覧船を楽しむなど観光客が多い。〔浅井得一〕

まつしまわん　【松島湾】　宮城県，仙台(せんだい)湾*中央にある支湾。松島丘陵の南東部が沈降し，丘陵化した段丘地形が島々となって松島*をなしている。同じく仙台湾支湾の石巻(いしのまき)湾西方に隣接し，宮戸島南東端の萱野崎(かやのざき)と西方へ8.3km隔てる七ケ浜半島東端の花淵(はなぶち)崎とを結ぶ線を湾口とし，東から宮戸島・寒風沢(さぶさわ)島・野々島・桂(かつら)島・馬放島など比較的大きな島が続く。これらの間に鰐ケ淵(わにがふち)水道・寒風沢水道・石浜水道・代ケ崎水道などがあって仙台湾と通じている。東側は，宮戸島と本土とをつなぐ砂州の洲崎浜(すさきはま)によって石巻湾と隔てられる。散在する大小260余の島は凝灰岩や砂岩・レキ岩からなる。西部には内湾として塩竈(しおがま)湾をもち，代ケ崎水道が外海とつながる。湾庭は浅く3～4mで，カキ・ノリの養殖で知られ，特に種ガキはアメリカ合衆国に輸出される。〔山口恵一郎〕

マッシュルーム　[mushroom]　きのこの英名であり，きのこの総称ともなるが，ツクリタケをいう場合が多い。ツクリタケはシャンピニオン・西洋マツタケなどともいわれ，担子菌類のハラタケ科に属し，世界的に広く栽培される。傘(かさ)の径は5～12cmで，はじめ球形，のち半球形・饅頭(まんじゅう)形，その後開いて扁平(へんぺい)となる。表面ははじめ白色，のち淡黄かっ色で，ときにはささくれができる。肉は厚くて白色であるが，空気に触れると淡紅色になる。ひだははじめ白色，のち桃色，その後黒色になる。茎の高さは4～8cm，径1～3cm。白色で上方に膜質のつばがある。〔曽根田正己〕

まっしょうしんけいけい　【末梢神経系】　中枢神経系*の対語。中枢神経から出て身体各部に連絡する神経繊維*の束からなる刺激伝達路。脳幹から出るものを脳神経，脊髄(せきずい)から出るものを脊髄神経といい，脳神経は12対，脊髄神経は31対(頸(けい)神経8対，胸神経12対，腰神経5対，仙骨(せんこつ)神経5対，尾骨神経1対)ある。末梢神経は，刺激を体表や体内の諸器官から中枢へ伝える求心性(知覚性)と，中枢から末梢へ伝達する遠心性とに大別される。遠心性のものには，骨格筋に連絡する運動性のものと，内臓に連絡する自律神経性のものとがある。➔神経　➔神経系　➔神経節〔高野一雄〕

まつしろ　【松代】　長野市南東部の地区。もと埴科(はにしな)郡松代町であったが，1966年(昭和41)長野市に編入された。長野盆地の南東部，千曲(ちくま)川東岸にあり，江戸時代は真田(さなだ)氏十万石の城下町として栄え，いまも当時をしのばせる景観が残る。明治初年，諏訪(すわ)とともに県下で最も早く製糸業が興ったが，のち信越本線からはずれたために発展が遅れた。近代工業はあまりふるわず，近郊はリンゴの栽培が盛んである。長野電鉄で，須坂(すざか)を経て長野駅と結ばれる。東方に第2次世界大戦中大本営疎開予定地として掘られた大地下壕(ちかごう)があり，いまは気象庁地震観測所に利用されている。付近の皆神山(643m)はドーム型の火山で，1965年から1967年にかけての松代群発地震の最初の震源地として知られる。〔浅井得一〕

マッソン　[André Masson]　(1896～　)　フランスの画家。はじめブリュッセルやパリの美術学校に学んだが，ほとんど独学。

1912年詩人ベルハーレンの勧めでパリに出る。キュービスムの影響を受けながら，やがてシュルレアリスムに参加して夢幻的な作品傾向をみせた。

まつだいらかたもり　【松平容保】（1835～1893）　幕末の会津藩主。肥後守（ひごのかみ）と称し，祐堂（ゆうどう）・芳山と号す。美濃（みの）（岐阜県）高須（たかす）藩主松平義建（よしたけ）の第6子。1846年（弘化3）会津藩主松平容敬（かたあき）の養子となり，1852年（嘉永5）襲封。1860年（万延1）桜田門外の変後，幕府に招かれて幕府と水戸（みと）藩との調停にあたった。1862年（文久2）幕政改革に際し，松平慶永（よしなが）とともに幕政参与となり，次いで京都守護職に就任，公武合体に尽力した。1863年薩摩（さつま）とともにクーデターを起こして尊王攘夷（じょうい）派を排除し（→八月十八日の政変），一橋（徳川）慶喜（よしのぶ）・松平慶永・山内豊信（とよしげ）・島津久光（ひさみつ）らとともに参与に任ぜられて公武合体・雄藩連合の方針で政局安定を図ったが失敗して辞任した。1864年（元治1）禁門の変（蛤御門（はまぐりごもん）の変）で薩摩藩とともに長州藩を撃退。一時陸軍総裁職に転じたが，守護職に再任され，大政奉還後は慶喜に従って大阪に下った。1868年（慶応4）1月鳥羽（とば）・伏見の戦いで敗れて慶喜とともに海路江戸にのがれ，次いで帰藩した。会津戦争で奥羽越列藩同盟の中心となり，会津若松城に籠城（ろうじょう）して征討軍に抵抗したが，同年9月降伏，鳥取藩に永禁錮（えいきんこ）に処された。1872年（明治5）許され，1880年東照宮宮司となった。　〔岡山泰四〕


松平容保

まつだいらさだのぶ　【松平定信】（1758～1829）　江戸後期の奥州白河（しらかわ）藩主。越中守（えっちゅうのかみ）。号は楽翁（らくおう）（白河楽翁とも）・花月翁。田安宗武（むねたけ）の第7子で，8代将軍吉宗（よしむね）の孫。1774年（安永3）白河藩主松平定邦（さだくに）の養子となり，1783年（天明3）襲封。領内窮乏のおり，倹約を命じて藩財政の建てなおしを図り，いわゆる天明の飢饉（ききん）にも領内に餓死者なしといわれた。1787年11代将軍家斉（いえなり）のとき，その清潔な人格と政治的手腕を買われて老中となり，田沼意次（おきつぐ）の失脚後，幕政を担当して改革に努めた（→寛政の改革）。その政策の目的は，民生の安定と幕威の振興にあったが，あまりに厳格であったため，しだいに民衆の反感を募らせることとなり，1793年（寛政5）老中を辞任。以後再び藩政に精励，隠居後は学問・文芸に余世を送った。著書も多く，老中としての施政を書いた自叙伝《宇下人言（うげのひとごと）》，随筆集《花月草紙》，考古の書《集古十種》など182部に及んでいる。→尊号事件　〔岡山泰四〕


マッソン《画家における地中海》1943

まつだいらし　【松平氏】　三河（みかわ）加茂（かも）郡松平郷（愛知県豊田（とよた）市）に興った豪族。徳川氏の旧姓。本姓は在原（ありはら）。また江戸時代につくられた系図では清和源氏の嫡流で，上野（こうずけ）（群馬県）の豪族新田（にった）氏の出で，上野徳川（得河（とくがわ））郷を領有した得川氏の子孫と伝えるが不詳。15世紀初頭の親氏（ちかうじ）を祖とし，3代信光（のぶみつ）の子から竹谷（たけのや）・御油（ごい）・能見・深溝（ふこうず）・大給（おぎゅう）・滝脇（たきわき）など庶流の家をなして各地に散在し，それら同族の力によってしだいに領土を拡張したが，東の今川氏，西の織田氏らに圧せられた。7代清康（きよやす）（徳川家康の祖父）のとき，岡崎城によって三河を制した。その子広忠（ひろただ）は織田氏に対するため長男竹千代（家康）を人質として今川氏に属し，桶狭間（おけはざま）の戦いで今川氏が滅亡すると，9代家康が自立して三河統一に成功した。1566年（永禄9）徳川氏と改姓し，京都の賀茂（かも）神社との縁によって家紋を三葉葵（みつばあおい）にしたといわれる。1603年（慶長8）家康は江戸幕府を開き，以後将軍家・御三家・御三卿（きょう）以外の庶流分家を松平氏と称した。十八松平のほか，家康の同母弟から出た信濃（しなの）（長野県）小諸（こもろ）・伊予（いよ）（愛媛県）松山・伊勢（いせ）（三重県）桑名・伊予今治（いまばり）・下総（しもうさ）（千葉県）多古の5家は，久松松平氏とよび，家康取り立ての武蔵（むさし）（埼玉県）川越の松井松平，信濃松本の戸田松平，武蔵忍（おし）・上野（群馬県）小幡（こばた）の奥平松平の4大名がある。そのほか，家康の次男秀康（ひでやす）を祖とする越前（えちぜん）家の松平およびその支流，御三家支流の松平，将軍家縁者の松平（保科（ほしな）松平，越智（おち）松平，本庄（ほんじょう）松平など）があった。なお，有力な外様（とざま）大名で松平姓を与えられたものに，前田・島津・伊達（だて）・浅野・細川・黒田・蜂須賀（はちすか）・毛利・鍋島（なべしま）・山内・池田（備前［岡山県］・因幡（いなば）［鳥取県］）など10数家があった。　〔岡山泰四〕

まつだいらのぶつな　【松平信綱】（1596～1662）　武蔵（むさし）（埼玉県）川越藩主。伊豆守（いずのかみ）。大河内（おおこうち）久綱の子で，叔父（おじ）の正綱（まさつな）の養子となって家督を継ぐ。幼時より3代将軍徳川家光（いえみつ）に仕え，1633年（寛永10）老中となり，武蔵忍（おし）二万六千石を与えられ，翌年三万石を加増された。1638年島原の乱に出陣してこれを平定し，功により武蔵川越六万石，1647年（正保4）加増されて七万五千石を領した。4代将軍家綱の代には幕政に参画し，1651年（慶安4）の慶安事件の弾圧，1652年（承応1）の浪人蜂起（ほうき）の指導者別木庄左衛門（しょうざえもん）の陰謀（2代将軍秀忠（ひでただ）夫人の27回忌に老中を討ち取る計画），江戸の大火などを処理して幕政確立に貢献し，世に〈知恵伊豆〉とうたわれた。〔岡山泰四〕

まつだいらふまい　【松平不昧】（1751～1818）　江戸後期の茶人。石州流伊佐派3世半寸庵幸琢（こうたく）門下で石州流不昧派の開祖。出雲（いずも）（島根県）松江7代藩主。出羽守（でわのかみ）宗衍（むねのぶ）の次男で幼名鶴太郎，長じて治郷（はるさと）と名のり，佐渡守・出羽守に任ぜられる。未央庵・一閑子・一々斎・宗納・不昧などの号がある。江戸（東京）麻布天真寺の大巓和尚（だいてんおしょう）に参禅し，《無門関》（中国宋（そう）代の仏書）の〈不落不昧〉の語からとって，不昧と号した。著書に《贅言（むだごと）》《古今名物類聚（るいじゅ）》18巻，《瀬戸陶器濫觴（らんしょう）》3巻，《一畳半極秘》《茶礎》《不昧公茶湯心得》などがある。　〔桑田忠親〕

まつだいらよしなが　【松平慶永】（1828～1890）　幕末の福井藩主。号は春岳・礫川（れきせん）。田安家の出身で，1838年（天保9）松平家を継いで，藩政改革に努め，また西洋兵制の採用，銃砲の鋳造などを行なった。ペリー来航後は海防・攘夷（じょうい）を主張し，1858年（安政5）日米修好通商条約の無勅許調印に反対し，将軍継嗣問題では家臣橋本左内らと一橋（徳川）慶喜（よしのぶ）擁立に努めたが，安政の大獄で大老井伊直弼（いいなおすけ）によって隠居・謹慎に処せられた。1860年（万延1）桜田門外の変後謹慎を解かれ，1862年（文久2）政事総裁職に任ぜられて将軍後見職の慶喜を助け，幕政改革・公武合体を推進した。1863年14代将軍家茂（いえもち）が朝廷から攘夷の即行を迫られたとき，慶永は家茂の辞職を主張したがいれられなかったため，無断帰藩して政事総裁職を免ぜられた。同年の八月十八日の政変により，

上京して朝議参与となり，次いで1864年(元治1)京都守護職となった。1867年(慶応3)山内豊信(とよしげ)・島津久光(ひさみつ)・伊達宗城(だてむねなり)と四侯会議を開いて長州藩の処分と兵庫開港を議した。大政奉還・王政復古にあたって討幕には反対したが，明治新政府成立後は議定となり，次いで内国事務総督・民部卿(きょう)・大蔵卿を歴任し，1870年(明治3)麝香間祗侯(じゃこうのましこう)となり第一線を退いた。《松平春岳全集》がある。
〔岡山泰四〕

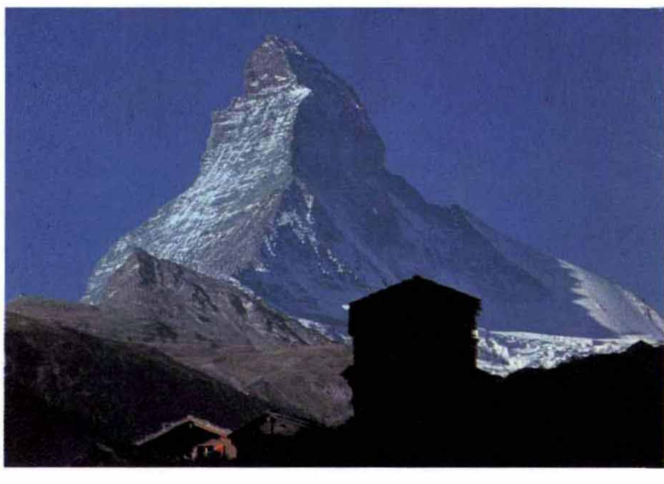
まつだいらよりつね 【松平頼則】(1907〜) 作曲家。東京の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学仏文科在学中に作曲家になることを決意し，作曲を小松耕輔(こうすけ)とウェルクマイスターに，ピアノをラウトルップに師事した。1930年(昭和5)同大学を中退し，近代フランス音楽と自作による演奏会を開き，ピアニストとしてデビューした。以後近代フランスの作曲家から多くの影響を受けながらいくつかの作品を作曲したが，1935年にチェレプニン懸賞に応募した管弦楽曲《パストラル》が第2位に入賞し，本格的な創作活動にはいった。第2次世界大戦の間に，日本の雅楽に強い興味をもち，これ以後雅楽のイディオムを用いた作品を多数発表するようになる。そして《ピアノと管弦楽のための主題と変奏曲》(1953)と《催馬楽(さいばら)によるメタモルフォーゼ》(1954)とが国際現代音楽祭に入賞し，その名まえは世界に広く認められた。雅楽と同時にヨーロッパの現代音楽や前衛音楽にも興味をもち，斬新な作風による室内楽の作品を多数残している。著書に《近代和声学》がある。
〔船山　隆〕

まつたけ 【松茸】 担子菌類に属するマツタケ科のきのこ。傘(かさ)は球形から生長して山形・扁平(へんぺい)となり，表面は淡茶かっ色から茶かっ色。通常秋にアカマツ林に生ずるが，ときにはエゾマツ・シラビソ・ツガ・クロマツなどの林にも生ずる。また，梅雨時発生することもある。わが国では全土に分布し，特に長野県，近畿(きんき)・中国地方に多い。まだシイタケのように人工栽培はできず近時生産量は激減している。わが国の秋の味覚を代表するきのこで，特有の歯触りと香気が賞用される。香気は成分である桂皮酸(けいひさん)メチルとマツタケオールによる。
〔中村克哉〕

マッターホーン(山) [Matterhorn] ヨーロッパ南部，スイスとイタリアの国境をなすペニン-アルプス山脈中の高峰。標高4,505m。フランス名はモンセルバン，イタリア名はモンテチェルビノ。スイス側の登山基地はツェルマットで，ここから望む山容はピラミッド形をなし，氷河に削られた急峻な壁をもち美しいことで知られる。初登頂は，1865年E.ウィンパーによってスイス山稜(さんりょう)から完遂されたが，帰途隊員7人のうち4人が転落死した。この山の北壁は，グランドジョラス山北壁，アイガー山北壁と並んで〈アルプスの三大北壁〉といわれる。
〔大石堪山〕

マッチーニ [Giuseppe Mazzini] (1805〜1872) イタリアのリソルジメント(国家統一運動)の志士。ダンテ・マキアベリ・ルソーらの影響をうけてカルボナリ党に身を投じ，1830年投獄。その間党の運動の偏狭さを感じ，リソルジメント運動を広く国民的地盤に立脚させることを目的に，1831年マルセイユで青年イタリア党を結成した。1848年二月革命の刺激をうけてミラノ革命・ガリバルディ義勇軍に参加し，翌年トスカナ革命・ローマ共和国にも加わったが，いずれも失敗してロンドンに亡命した。当時のイタリアには彼の共和主義をうけいれる社会的基盤がなく，青年イタリア党の暴発は弾圧を招いた。イタリア王国成立後はガリバルディとローマ・ベネチア獲得を企てて失敗。1864年第1インターナショナルに参加したが，マルクスと対立して脱退した。
〔大野慎一郎〕


マツタケ


マッターホーン山　北東から見たマッターホーンの威容。左側が東壁，右側が北壁で，両者を分けて手前へ延びる稜線がヘルンリ尾根

まっちゃ 【抹茶】 粉末にした茶。挽茶(ひきちゃ)ともいう。玉露と同様に発芽後20日間ぐらい被覆して収穫した茶葉を，蒸してかわかし，切断機に掛けたのち，葉柄・葉脈を除き茶うすでひいて粉末にする。鎌倉時代に栄西禅師が中国からわが国へ伝え，のち茶湯の流行をみるに至った。

まつど 【松戸(市)】 千葉県北西部の市。人口39万1,000。古くは江戸川の渡頭集落で，江戸時代には陸前浜街道の宿場町・市場町として発達した。明治以後東京との結びつきが深まり，特に関東大震災，常磐(じょうばん)線の電化，第2次世界大戦などによる社会情勢の変化から，東京の住宅衛星都市として発展した。1943年(昭和18)市制施行。市域は江戸川下流流域の沖積地(ちゅうせきち)から下総(しもうさ)台地西縁にかけて広がり，中心市街は西部の低地に，住宅地域は台地上に広がる。産業三大別人口比は2：37：61。近郊野菜の産地で，矢切のネギ・樋口(ひのくち)のカブなどの特産で知られ，国立千葉大学の園芸学部では世界各地の樹木草花を栽培している。また八柱は二十世紀ナシの原産地である。最近は東京から進出した工場群によって台地上に内陸工業団地が造成され，常盤平(ときわだいら)や小金地区には住宅団地の開発が進んでいる。常磐線・新京成電鉄・流山鉄道が通じ，国道6号線に沿う。八柱の庭園式霊園(東京都営)・競輪場・自衛隊松戸駐屯(ちゅうとん)部隊などがある。

まつとう 【松任(市)】 石川県南西部の市。人口43,000。江戸時代には手取扇状地の早場米地帯を控えて米や肥料の集散が盛んで，周辺農村部の日常生活圏の中心地として発展した。1970年(昭和45)11月市制施行。市域は加賀平野の中心部をなす手取扇状地の扇央にあたり，西は日本海に臨み，北東は金沢市と接する。産業三大別人口比は21：31：48。周辺部は水田が開け，古くから米の単作栽培が行なわれてきたが，最近は金沢市の市域拡張に伴い商業活動が盛んで，金沢への通勤者住宅も増えている。北陸本線・国道8号線に沿い，国鉄の鉄道工場がある。

マットレス [mattress] 敷きぶとん。通常寝具用の下敷きをさす。固定用の寝台には従来わらを入れた厚い下敷きを用い，和式のものとして近来はゴムまたはポリウレタン樹脂のフォーム(発泡(はっぽう)体)を入れたものを用い，折りたたむことができる。わらのマットレスは重いが，保温・吸湿が良好である。発泡体のマットレスは軽くて取り扱いは便利であるが，吸湿性に乏しく，通気性に欠点がある。いずれもその上

に敷きぶとんを併用する。　〔小川安朗〕

まつながていとく　【松永貞徳】 ⇨貞徳

まつながひさひで　【松永久秀】 (1510～1577)　戦国時代の武将。三好長慶(みよしながよし)の家臣。1563年(永禄６)長慶の子義興(よしおき)を毒殺し，長慶の死後に嗣子義継の幼少に乗じて専横をきわめた。1565年三好三人衆とともに13代将軍足利義輝(あしかがよしてる)を襲い自殺させた。1567年三人衆と組んだ筒井順慶と戦って東大寺大仏殿を焼き，畿内(きない)を支配したが，1568年入京した織田信長(のぶなが)に降伏。1577年(天正５)信長にそむき，居城信貴山(しぎさん)城で敗死した。　〔村尾元忠〕

まつながわふう　【松永和風】 長唄(ながうた)の唄方(声楽部門)の芸名。初世は天明・寛政期(1781～1800)に活躍した松永忠五郎(？～1842)。３世和楓(わふう)(1837～1916)は本名を松永栄次郎といい，清元の節回しを長唄に活用して人気を博した。４世(1874～1962)は本名を吉田定次郎といい，1931年(昭和６)より和楓を和風と改め，音量豊かな美声と繊細な節回しで一世を風靡(ふうび)した。

まつねとうようじょう　【松根東洋城】 (1878～1964)　俳人。東京の生まれ。本名豊次郎。京都帝国大学法学部卒。夏目漱石(そうせき)・正岡(まさおか)子規門下で《ホトトギス》により，河東碧梧桐(かわひがしへきごとう)の新傾向俳句に対抗，《新春夏秋冬》を編集。1908年(明治41)より《国民新聞》の〈国民俳壇〉を主宰。高浜虚子の俳壇復帰とともに《ホトトギス》と絶縁。1919年(大正８)には公職を辞し，連句の研究や実作などに努めた。芭蕉(ばしょう)を尊び，人間修業としての俳句を唱えた。句集に《俳諧(はいかい)道》《黛(まゆずみ)》《薪水帖(しんすいちょう)》など。　〔小泉浩一郎〕

まつのうち　【松の内】 正月の門松・松飾りなどを取りはずすまでの期間をいう。門松を取り除くのを松おろし・松送りなどとよぶが，その時期は地方により異なり，普通には元日から７日までを松の内とよぶ土地が多い。西日本には15日までを松の内とする土地があり，江戸時代でも古くは15日まで門松を立てておいたが，のちに７日朝，さらに６日夕刻に松飾りを取りはずすようになった。門松は年神の依代(よりしろ)であるから，これを取りはずすことは正月の終了を意味し，その時期はしだいに早くなる傾向が認められる。　〔直江広治〕

まつのおたいしゃ　【松尾大社】 京都市右京区嵐山宮町にある。祭神は大山咋神(おおやまくいのかみ)と市杵島姫命(いちきしまひめのみこと)。701年(大宝１)鴨県主(かものあがたぬし)の第２子都理によって創建された。嵐山の山神と保津川の水神とを奉斎し，農耕の神として信仰されてきた。本殿は両流れ造りで，社宝に平安時代の作とされる男女３神座像などがある。例祭は４月２日。

まつのきくいむし　【松小蠹虫】 こん虫



松尾大社　本殿



マツバギク

類・鞘翅(しょうし)目・キクイムシ科。マツノコシンクイともいう。体は長卵形で長さ４～５㎜。暗かっ色ないし黒色で，光沢が強く，全面に灰色毛がある。触角は黄かっ色。日本全土のほか，東アジア一帯からシベリア地方を経てヨーロッパに至る広い地域に分布し，北アメリカにも産する。アカマツ・クロマツ・チョウセンマツなどマツ類に寄生し，樹皮下や新梢(しんしょう)の髄部を食害する。年１回の発生で，成虫は５～６月に発生する。成虫で越冬し，翌春再び出現して産卵する。

まつのは　【松の葉】 日本音楽ないし歌謡文学の文献名。５巻。1703年(元禄16)の刊行で，編者は秀松軒。芸術歌曲(三味線(しゃみせん)伴奏など)・民謡・俗謡の歌詞を分類して集録したもので，近世歌謡研究に不可欠の書といわれる。

まつのみどり　【松の緑】 長唄(ながうた)の曲名。1850年(嘉永３)ごろ杵屋(きねや)六翁(４世六三郎)の作曲になるが，作詞者は不詳。娘の改名披露のためにつくられたので，後世に〈祝儀もの〉レパートリーに加えられている。また小曲の独吟曲なので〈手ほどき物〉として初心者が習うが，同時に完全な演奏はむずかしいといわれる。

まつのやまおんせん　【松之山温泉】 新潟県東頸城(ひがしくびき)郡松之山町にあり，泉温37～98℃，泉質は含塩化土類食塩泉で，胃腸病・神経痛にきくといわれる。山中の温泉で，古くは鷹ノ湯(たかのゆ)とよばれたという。越後(えちご)三名湯の一つとして名高く，付近には謡曲《松山鏡》で知られる鏡ケ池やスキー場がある。飯山(いいやま)線津南駅からバスの便がある。

マッハ　[Ernst Mach] (1838～1916)　オーストリアの物理学者・哲学者。モラビアの生まれ。ウィーン大学卒業後，グラーツ・プラハ諸大学教授を経て，1895年ウィーン大学の科学史・科学論の教授。力学の発展史を研究し，その著《歴史的批判的にみた力学の発展》などを通じて，ニュートン力学の系統的な批判を展開，力学の深化に貢献した。超音速ジェットの研究，音速測定など，音響学の実験的研究も行ない，マッハ数の概念を導入した。このほか熱学・光学を史的検討した業績などもある。また哲学方面では，ヒューム・カントの影響を受けて実証主義的な立場から独自の認識論を展開，また科学的事実の記述に関して思惟(しい)経済説を主張し，経験批判論の先駆者となった。エネルゲティク(エネルギー論)の思想の有力な支持者ともなり，19世紀後半の科学界・思想界に大きな影響を与えた。　〔藤村　淳〕

まつばいろ　【松葉色】 松の葉のような色。わずかに青みをおびたにぶい緑色。古くは，黄染めと藍(あい)染めとで染め出したものと思われる。いわゆる濃い緑色とよばれてもいる。また，緑みをおびた，暗い黄緑色を松葉色ということがある。日本工業規格(JIS)慣用色名〈松葉色〉がこれであり，同規格には色相7.5GY，明度5.0，彩度4.0と規定されている。

まつばぎく　【松葉菊】 双子葉植物・ツルナ科。南アフリカ原産の常緑多年草。茎は木質で横にはい，多数の枝を出す。葉は対生し，長さ５㎝ほどの多肉質の棒状で先がとがる。７～９月，長い花柄の先にキクに似た径４～５㎝の紅紫色花を１個つける。花弁は線形で数が多いが，おしべの変形したものである。日あたりのよい石がきなどに観賞用に植える。花は日中に開き，夕方閉じる。

マッハすう　【マッハ数】 気体の流れの速度のその状態における音速に対する比。オーストリアのE.マッハの名をとったもの。空気中を高速で進行する飛行体の速度を，音速を単位として表わすのに用いる。マッハ１は音速(15℃で秒速約340m)と等しい速度で，時速約1,200kmである。➔高速気流

まつばせ　【松橋(町)】 熊本県中央部，宇土半島の東端を占める下益城(しもましき)郡の町。人口19,000。1954年(昭和29)松橋町を中心に３か村が合併して発足した。鹿児島本線が通り，国道３号線と218号線が分岐する。かつては港町として栄え，天草・長崎・鹿児島方面と船で結ばれていたが，いまは土砂の堆積(たいせき)によりその機能を失った。イグサ・粘土がわらの産がある。

まつばぼたん　【松葉牡丹】 双子葉植物・スベリヒユ科。ブラジル原産の一年草で，

庭などに植えられる。全体が多肉質で，茎は多く分枝して高さ10～30cm。葉は長さ1～2cmの棒状で互生し，葉腋(ようえき)には長い白毛がはえる。7～9月，枝先に直径3cmの5弁花を1個ずつ上向きにつけ，晴天の日に開く。花色は白・黄・赤・桃色や絞りなどいろいろである。果実は蒴果(さくか)で，中に鉛色の小さな種子が200～300個はいっている。種子は4～5月にまく。

まつばめもの　【松羽目物】　日本舞踊のうち，能・狂言に取材したもの，またその系統。能舞台*にならって正面の板羽目に根つきの松，左右の袖(そで)に竹を描いた羽目板模様の張り物を用いることから，このよび名が生まれた。特に明治時代には当時の高尚(こうしょう)趣味に迎えられて，能からの《船弁慶*》《土蜘*(つちぐも)》や，狂言からの《素襖落*(すおうおとし)》《釣女*(つりおんな)》など多くの作品を生み，大正・昭和にその風が及んでいる。　〔如月青子〕

まつばやしけいげつ　【松林桂月】　(1876～1963)　日本画家。山口県の生まれ。野口幽谷に師事，日本南宗画会・日本美術協会に幹部として活躍。また，初期文展に出品し，南画の重鎮とされた。1932年(昭和7)帝国美術院会員。1944年帝室技芸員。第2次世界大戦後は日展の再興に尽力した。

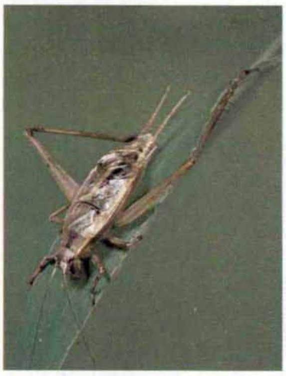
まつばら　【松原(市)】　大阪府中央部の市。人口13万4,000。古代には難波(なにわ)から大和(やまと)へ至る交通の要地で，ほぼ東西に走る長尾・竹ノ内両街道とこれと直交する中高野街道が集まる。1955年(昭和30)市制施行。市域は大阪平野の中央，狭山(さやま)古扇状地の高さ20～35mの緩傾斜地にあり，北と南を大阪・堺(さかい)の両市にはさまれ，東は藤井寺・羽曳野(はびきの)の両市と接する。産業三大別人口比は2：44：54。近郊農業が盛んで，野菜類の促成栽培が行なわれるが，近年住宅地化の傾向が著しく，耕地は減少している。模造真珠・敷き物・金網などの近代工業もあるが，経営規模は小さい。近畿(きんき)日本鉄道南大阪線が通じ，西名阪道路の起点となる。反正天皇の皇居址(こうきょし)と伝えられる丹比柴籬宮(たぢひのしばがきのみや)跡や大塚古墳などの史跡に富む。

まつばらこ　【松原湖】　長野県東部，千曲(ちくま)川上流で八ケ岳(やつがたけ)火山の東麓(とうろく)にある湖。猪名湖(いなこ)と長湖があるが，一般には前者だけをよぶ。猪名湖は面積0.08km²，水面高度1,123mで，冬季に結氷し，氷質のよいスケート場として知られ，森林に囲まれた避暑地としてもにぎわう。小海線松原湖駅からバスで15分。八ケ岳中信高原国定公園に属する。

まつばらん　【松葉蘭】　シダ植物・マツバラン科。四国・九州南部・八丈島・小笠原(おがさわら)諸島などの山地の樹上や岩上に生ずる常緑多年生シダ。維管束植物の中では最も原始的なものと考えられ，根がなく，根茎は二叉分枝をくり返す(原始的な性質)。



マツバボタン



マツムシ

地上茎は直立して高さ10～30cmになり，緑色無毛で，数回叉状分枝する。葉は小さな鱗片(りんぺん)状で，茎に散在している。3個の胞子嚢(ほうしのう)が合着した単体胞子嚢群は，径2mmほどで，はじめ緑色でのちに黄色となる。観葉植物としてはち植えなどにされる。➔シダ植物

まつぶさ　【松房】　双子葉植物・モクレン科。ウシブドウともいう。山地に自生するつる性落葉木本。茎は長く伸びて太くなり，切るとマツのような香がある。葉は互生し，長さ2～5cmの卵円形で質はやや厚く，下面は帯白色。雌雄異株で，5～6月に葉腋(ようえき)に長い花柄のある淡黄白色花を下垂する。花被は9～10枚で，花弁とがくの区別がない。雄花は多数のおしべを，雌花は多数のめしべをつける。結実すると，花托(かたく)が発達して球形の液果がブドウの房のようにつき，秋に黒藍(こくらん)色に熟し，内に種子を2個もつ。果実は食べられる。

まっぽうしそう　【末法思想】　ブッダの教えがいずれはまったく消滅してしまうことを予想した一種の終末観で，一定の時期に仏教が衰亡することを予言して危機意識を示す考え。その時期を3種に分け，正法・像法・末法の時代とする。ブッダが入滅した直後から，ブッダの教えとその実践とがよく守られ，その結果である悟りも得られる期間を正法という。それに対し，教えとその実践のみ守られても，結果は得られない期間を像法といい，教えそのものは形だけ残る時代を末法という。この考えは最初，仏教教団内部の違和感や堕落に対する戒しめとして説かれたが，その後，外部からの迫害などによって，より現実的危機感が強まり打ち出されたものである。特に中国にはいって重要視された。北斉(ほくせい)の慧思*(えし)の記述が最も古く，信行・道綽*(どうしゃく)・善導*らによって鼓吹された。日本では源信*・法然*・日蓮*(にちれん)らがそれぞれの立場から末法を強調し，その時代(時)にふさわしい能力(機)ある者が受けるべき教えであると力説した。一般に正法を500年あるいは1,000年とし，像法を1,000年，末法を10,000年とする。日本では，正法1,000年，末法1,000年と考えるのが多く，いずれも祖師たちは生まれた時代が末法の時代であるという危機意識にたって教えを説いた。平安末期に成立したといわれる《末法燈明記》は特に有力な根拠を与えた書物として著名である。　〔石上善応〕

まつまえおいわけ　【松前追分】　⇨追分

まつまえはん　【松前藩】　江戸時代，蝦夷地(えぞち)(北海道)を領有した藩。福山藩ともいう。藩主松前氏。外様(とざま)大名。1457年(長禄1)武田信広(たけだのぶひろ)がアイヌの酋長(しゅうちょう)コシャマインの反乱を鎮定して蠣崎(かきざき)氏を継ぎ，その子孫が津軽の豪族安東氏の代官として松前地方を統一した。1590年(天正18)5代慶弘(よしひろ)は京都におもむいて豊臣秀吉(とよとみひでよし)に謁し，蝦夷地を領することを認められて安東氏から独立。1599年(慶長4)徳川家康(いえやす)からも同じ権利を認められ，姓を松前と改め，翌年松前に福山城を築いて一藩を形成し，以後版籍奉還まで及んだ。日本最北の藩として米産がないため石高はなかったが，蝦夷地を支配して砂金・木材・沿海漁業，その他の豊富な資源による運上*などで藩の財政をまかなった。藩主は志摩守(しまのかみ)・伊豆守(いずのかみ)を称し，交代寄合*の地位にあって参勤交代にも特例が設けられた。1799年(寛政11)ロシアに対する警備のため，幕府は東部を直轄領とし，次いで1807年(文化4)には全地を直轄領として松前氏を陸奥(むつ)(福島県)伊達(だて)郡梁川(やながわ)九千石に移封し，松前を箱館奉行*(はこだてぶぎょう)の管轄とした。1821年(文政4)には全地が松前氏に返還されたが，1855年(安政2)函館(はこだて)の開港に伴い，ほとんどが再び直轄領となり，代地として梁川および出羽(でわ)(山形県)東根を合わせて三万石が与えられた。1868年(明治1)新たに厚沢部(あっさぶ)村館(たて)に築城して移り，まもなく脱走幕府軍に襲われたが，翌年官軍と協力して失地を回復し，館藩として復活，窮乏のうちに廃藩置県となった。　〔岡山泰四〕

まつまえぶぎょう　【松前奉行】　⇨箱館(はこだて)奉行

まつむし　【松虫】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・コオロギ科。体はやや扁平(へんぺい)で，全体淡かっ色，翅端までの長さ24mmほど。頭頂は扁平で，前方斜め下方に突出する。

前胸背は後方に幅広く，中央に太いかっ色の縦帯がある。前翅は尾端に達し，雄では背面部は幅広く，末端部は三角形を呈し，発音鏡には直角に曲がる1本の横脈がある。雌の背面部には8本の斜縦脈がある。後脚はきわめて細長い。雌の産卵管は細長く，直線状で後脚の腿節(たいせつ)とほぼ等長。関東以西，台湾まで分布する。年1化で，冬は卵態で越す。秋の鳴虫の代表種で，成虫は8月下旬～10月下旬に見られる。草原の雑草の根ぎわに生活し，〈チンチロリン〉と澄んだ美しい声で鳴く。マツムシ類を独立させてマツムシ科として扱う研究者もある。〔鈴木邦雄〕

まつむしそう　**【松虫草】**　双子葉植物・マツムシソウ科。山野に自生する越年草で，高さ60～90cm。葉は対生し，長さ5～10cmで羽状に細かく分裂する。8～10月，青紫色のキクに似た直径4～5cmの頭花を茎頂につける。果実は直径1.5cmの球形でがくが変形した針がある。タカネマツムシソウはたけが低く頭花の大きい高山形であり，ソナレマツムシソウはたけの高い海岸形で関東地方に分布する。近縁種のセイヨウマツムシソウは南ヨーロッパ原産で，花色に白・赤・紫などがあり，園芸植物として庭などに植えられる。

まつむらごしゅん　**【松村呉春】**　(1752～1811)　江戸中期の画家。京都の人で，字(あざな)は伯望，月溪(げっけい)と号した。画ははじめ大西酔月に学び，のち与謝蕪村(よさぶそん)に南画を習った。蕪村没後は円山(まるやま)応挙の写生画風に近づき，応挙ふうの写実画描写に蕪村譲りの南画的情趣を加味した軽妙な画風を創造し，京都画壇に流行させた。松村景文・岡本豊彦(とよひこ)ら多数の門弟を集めて四条派*を形成,代表作に《柳鷺群鴉図屛風(りゅうろぐんあずびょうぶ)》がある。〔小林　忠〕

まつむらしょうねん　**【松村松年】**　(1872～1960)　こん虫学者。兵庫県明石(あかし)の生まれ。1895年(明治28)札幌(さっぽろ)農学校を卒業。翌年同校助教授，1902年同校教授となったのち，1907年東北帝国大学農科大学教授を経て1919年(大正8)北海道帝国大学教授。《日本昆虫学(こんちゅうがく)》(1897)をはじめとする多数の著書によりこん虫学の普及に努め，日本の草創期こん虫学において中心的な役割を果たした。

まつむらじんぞう　**【松村任三】**　(1856～1928)　植物分類学者。常陸(ひたち)(茨城県)松岡藩の出身。はじめ大学南校で法律を学んだ。のち植物学に転じ，1877年(明治10)東京大学の小石川植物園助手となり，1883年に助教授，1890年に東京帝国大学理科大学教授に昇任。日本における植物分類学の基礎づくりに尽力した。

まつむらみねこ　**【松村みね子】**　(1878～1957)　歌人。東京の生まれ。本名片山広子。東洋英和女学校卒。佐佐木信綱*(のぶつな)に師事。歌風は素材に新しさがあり，抑制された内面美と清らかな風趣に富む。アイルランド文学に通じ，シング*の戯曲を翻訳，紹介した。歌集《翡翠(かわせみ)》《野に住みて》がある。

まつも　**【松藻】**　双子葉植物・マツモ科。池や沼の水の中に自生する多年草。茎の長さ20～40cmで，枝を少し出す。葉は5～12枚が輪生し，おのおのが又状に分かれ，各裂片は糸状。8～9月，葉腋(ようえき)に淡紅色花をつけるが，花には雌雄の別があり，花弁はない。➔キンギョモ

まつもと　**【松本(市)】**　長野県中西部の市。人口18万9,000。平安時代初期から信濃(しなの)の国府が置かれ，江戸時代には戸田・堀田(ほった)・水野氏らの城下町として栄え，幕末には松平氏六万石が領した。明治末期からは良質の湧泉(ゆうせん)を利用して製糸業や酒造業が興り，また陸軍の連隊が置かれて軍都として栄えた。1907年(明治40)市制施行。市域は松本盆地の東端，犀(さい)川とその支流諸河川の複合扇状地上にあり，中心市街は中央を東西に流れる女鳥羽(めとば)川によって，北・南深志に2分される。産業三大別人口比は13：32：55。食料品・繊維・機械の工業が発達し，特に第2次世界大戦後は疎開工場の拡張によって県内最大の商工業都市となっている。1962年(昭和37)近隣の岡谷(おかや)・諏訪(すわ)・茅野(ちの)・塩尻(しおじり)・大町の5市と6町11村を合わせて，松本諏訪新産業都市に指定され，南部の塩尻を結ぶ国道19号線沿いに工場誘致が行なわれ，木工団地が造成されて，諏訪地方と一体化した近代工業地区が発展しつつある。信州大学(文理・医学部)や私立松商学園短期大学があって，長野市とともに県の文教の中心都市となる。篠ノ井(しののい)線・国道19号線が通じ，北方へは大糸線と糸魚川(いといがわ)街道が走り,西方の上高地とは松本電鉄・野麦街道，東方の上田とは松本街道で結ばれる。将来は中央自動車道が通じる予定である。松本城の天守閣は国宝に指定されており，また1876年に建築されてほとんど原型のままの開智(かいち)小学校記念館があり，周辺の北アルプス山岳地帯や東方の美ケ原高原は行楽客を集め，北東郊には浅間温泉がある。毎年1月に行なわれる〈あめ市〉は，かつて日本海の塩が糸魚川街道で運ばれた交易のなごりをとどめる。〔浅井得一〕

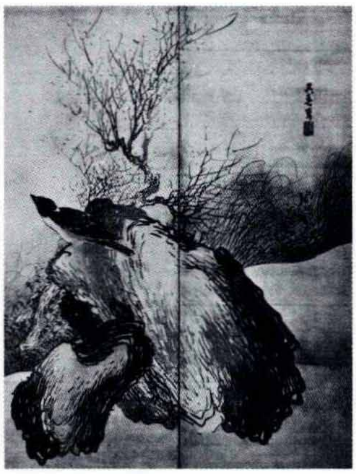
まつもとこうしろう　**【松本幸四郎】**　歌舞伎(かぶき)俳優。現在8世。屋号高麗(こうらい)屋。

[1]初世(1674～1730)　はじめ松本小四郎の名で女方だったが，立役*(たちやく)に代わり幸四郎と改名。2世・3世はそれぞれ4世・5世の市川団十郎*の前名。

[2]4世(1737～1802)　和事*・実事*を得意とした名優。



マツムシソウ



松村呉春　《柳鷺群鴉図屛風》六曲一双右隻部分



松本市　松本城付近の市街。天守閣の向こうには，松本盆地の西を限る北アルプスの山々が白く輝く

③5世(1764～1838)　4世の子。鼻が高くすごみのきく容貌(ようぼう)なので俗に〈鼻高幸四郎〉といわれた。敵役(かたきやく)を得意とし，写実的な生世話物*の演出を創始。

④7世(1870～1949)　2世藤間勘右衛門(かんえもん)の養子，9世団十郎の門弟。荒事*と舞踊にすぐれ《勧進帳*》の弁慶はあたり役。

⑤8世(1910～　)　7世の次男。初世中村吉右衛門*の娘と結婚。実父と義父の特色を兼ねた立役として活躍している。　〔松井俊諭〕

まつもとじょう　【松本城】　長野県松本市にある平城。1504年(永正1)小笠原貞朝(おがさわらさだとも)の部将島立貞永(さだなが)が築城し，深志城と称したのに始まる。武田(たけだ)信玄・織田信長(のぶなが)・上杉景勝(うえすぎかげかつ)らを経て，旧領を回復した小笠原貞慶(さだよし)(1546～1595)が松本城と改称した。以後もしばしば城主が代わり，1726年(享保11)六万石で入封した戸田光慈(みつしげ)以降戸田氏が世襲して明治に至った。現存遺構は1590年(天正18)入封した石川数正(かずまさ)・康長(やすなが)父子のとき完成し，寛永年間(1624～1643)に大修理を経たものである。5層6階の大天守には，乾(いぬい)小天守・渡櫓(やぐら)・辰巳(たつみ)付櫓・月見櫓(以上国宝)が付属し，いわゆる連結式と複合式の合体した特殊な平面構成をもち，矢狭間(やざま)が多く，1階には石落としを多数張り出して武装を重んじた様式となっている。1950(昭和25)～1955年にかけて解体修理が行なわれた。　〔西ケ谷恭弘〕

まつもとせいちょう　【松本清張】　(1907～　)　小説家。福岡県の生まれ。本名清張(きよはる)。高等小学校卒業後，印刷の版下工などを経て朝日新聞社に入社。1952年(昭和27)《或(あ)る「小倉日記」伝》により芥川賞(あくたがわしょう)を受賞。はじめは歴史に取材した小説を書いたが，1957年の《点と線》《眼(め)の壁》など日常性や社会悪に着目した推理小説で広範な読者層を獲得，社会性の強い作風で推理小説に一時代を画した。現代史の暗黒面をついた実録《日本の黒い霧》，歴史小説《かげろう絵図》のほか，古代史研究もあり，活躍は各方面に及んでいる。　〔中島河太郎〕

まつもとはん　【松本藩】　江戸時代，信濃(しなの)(長野県)松本地方を領した藩。1590年(天正18)徳川家康(いえやす)の重臣石川数正(かずまさ)が入封して以来，藩の規模が定まり，1592年(文禄1)子の康長が襲封したときは約八万石であった。1613年(慶長18)改易され，以後は，小笠原(おがさわら)・戸田・松平・堀田(ほった)氏らと代わった。1642年(寛永19)から水野氏がしばらく続き，1726年(享保11)戸田氏が再び入封して廃藩置県に至った。それらの諸氏はいずれも譜代大名で，六万石ないし八万石を領した。　〔岡山泰四〕

まつもとぼんち　【松本盆地】　長野県中央部，東は筑摩(ちくま)山地*，西は北アルプスの断層崖(だんそうがい)に限られた南北約50km，東西約10kmの細長い盆地。西側の山地からは，北から高瀬川・中房(なかぶさ)川・烏(からす)川・梓(あずさ)川・奈良井(ならい)川などが盆地に流入し，山麓(さんろく)には傾斜の急な扇状地を形成している。北部は古くから水田が開かれ，安曇平(あずみだいら)は穀倉地帯として知られる。南部ではおもに畑作が行なわれ，特に南西部の桔梗ケ原(ききょうがはら)はブドウをはじめ，モモ・リンゴ・ナシなどの果樹や野菜・トウモロコシの栽培が盛んである。また南安曇郡穂高町では湧水(ゆうすい)を利用したワサビ栽培が行なわれている。盆地の中心地は松本市で，国鉄篠ノ井(しののい)線・大糸線，松本電鉄や国道19号線などが集中している。なお桔梗ケ原には，縄文(じょうもん)・弥生(やよい)時代の平出(ひらいで)遺跡がある。　〔味沢成吉〕



マツモムシ　背を下にして泳ぐ習性がある

まつもとまたたろう　【松本亦太郎】　(1865～1943)　心理学者。群馬県の生まれ。東京帝国大学卒業後，エール・ライプチヒ両大学に学ぶ。東京と京都の帝国大学に日本最初の心理学実験室をつくり，ブント*流の実験心理学の先覚者としての役割を果たした。研究は広く心理学全般にわたったが，学習*における練習効果の個人差，知覚成立の材料，衝動的意志動作などの説は有名。

まつもとりょうじゅん　【松本良順】　(1832～1907)　幕末・明治時代の医者。佐藤泰然の次男として江戸に生まれ，のち幕府医官松本良甫(りょうほ)の養子となる。字(あざな)は子良，号は蘭疇(らんちゅう)・蘭痴。名をのちに順と改む。深川の坪井塾(じゅく)で蘭学・医学を学び，また伊東玄朴(いとうげんぼく)・戸塚(とつか)静海にも従学した。1857年(安政4)長崎へ遊学，同年秋来日したポンペの助手となってポンペに協力，日本における西洋医学実施に努めた。1863年(文久3)江戸の医学所頭取に任ぜられ，明治維新の騒乱に際しては幕府方に身を投じた。のち明治政府に仕え，陸軍省軍医となり，日本の陸軍軍医制度を制定した。1873年(明治6)初代陸軍軍医総監。著書に《養生法》《通俗衛生小言》などがある。1885年神奈川県大磯(おおいそ)に海水浴場を開設した。〔大鳥蘭三郎〕

まつもむし　【松藻虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・マツモムシ科。体長11.5～14mm。体は灰黄色で，黒色の斑紋(はんもん)があり，ビロード様の光沢がある。北方に産するものほど黄色部が広く淡色である。口吻(こうふん)は短く太い。後脚の脛節(けいせつ)と跗節(ふせつ)には長毛が多く，遊泳に適している。日本全国のほか朝鮮に分布する。池沼などの静水に生活し，つねに背面を下にして泳ぎ，稚魚やオタマジャクシ・小水生こん虫などを捕食する。近似種に全体黄白色のキイロマツモムシがあり，本州の北部や中部の高地帯のほか，利尻(りしり)島・サハリン(樺太(からふと))・東シベリア・ヨーロッパに分布する。マツモムシ科は全世界から約200種が知られ，南アメリカの熱帯地方やインドなどに種類が多い。日本からは上記2種のほか，さらに数種が知られている。〔鈴木邦雄〕

まつやに　【松脂】　マツ属植物の幹・根から分泌する樹脂。わが国ではアカマツ・クロマツの幹に木質部に達する程度にV字形の斜溝(しゃこう)を切り付けて採取する。切り付け面の幅は樹周の2分の1～3分の1，地上約30cmのところから切り付けを始め，2～3日おきに前回位置の上方2～3mm間隔に斜溝をくり返して採取する。切り付けの際，40～50％濃度の硫酸溶液を少量スプレーすれば増収が図れるが，翌年の滲出(しんしゅつ)量が減退する。まつやには水蒸気蒸留によってテレ　ン油とロジン(固松脂)に分けられ，前者は各種溶剤・合成樟脳(しょうのう)・合成樹脂・合成ゴムなどの原料に，また後者は製紙時のサイズ剤・乳化剤・せっけん・塗料・絶縁材料・医薬・農薬などに用いられる。　〔高島藤順〕

まつやま　【松山(市)】　愛媛県の中部，県庁のある市。人口39万6,000。1603年(慶長8)加藤嘉明(よしあき)が築城して都市の開発が進み，江戸時代は久松氏十五万石の城下町であった。1871年(明治4)の廃藩置県で松山県に属し，1873年愛媛県の設置とともに県庁が置かれた。1889年市制施行。西は瀬戸内海の伊予灘(いよなだ)に臨み，重信(しげのぶ)・石手両川下流流域の沖積(ちゅうせき)低地である松山平野の中心部に位置する。市街は高さ132mの丘陵上にある松山城を囲んで平野部に広がり，城南地区に県庁をはじめ多くの官公庁のビルがあり，大街道・港町の繁華街が続く。産業三大別人口比は9：26：65。第2次世界大戦前は，地方行政・学芸の中心地として，消費都市的な色彩が強かったが，戦後は旧軍用地に石油・繊維・化学などの近代工場が設置されて，臨海工業都市に発展した。伊予・北条(ほうじょう)両市と温泉・伊予両郡を総括した中央都市圏構想が進められており，第2松山港の建設計画もある。市域内の和気に14万kWの出力をもつ火力発電所があり，特産の伊予絣(がすり)や砥部(とべ)焼・竹製品などをつくる中小工場も市内各所にみられる。予讃(よさん)本線・私鉄伊予鉄道が通じ，国道11号線・33号線・56号線・196号線が集まる。将来は四国新幹線・四国横断自動車道が通じる予定である。高浜港は，阪神(はんしん)～別府航路の寄港地で，三津浜港と宇品(広島市)・

柳井(山口県)の両港との間にはフェリーボートが就航する。松山空港からは，大阪・広島へ定期航空路が通じる。愛媛大学のほか私立松山商科大学や二つの短期大学が置かれ，県文化の中心である。北東部にわが国最古の歴史をもつ道後温泉があり，1951年(昭和26)国際観光温泉都市に指定された。松山城の3層の天守閣がそびえる勝山，奈良時代創建の石手寺，正岡子規・高浜虚子・夏目漱石(そうせき)の句碑などの史跡名勝に富む。〔浅井得一〕

まつやまじょう　**【松山城】**

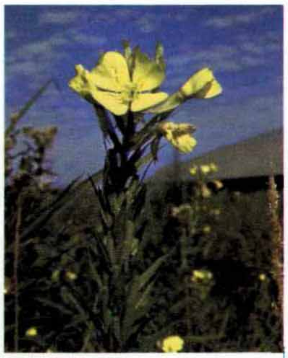
1 愛媛県松山市にある平山城。金亀(きんき)城・勝山城ともいう。1602年(慶長7)加藤嘉明(よしあき)が工事に着手し，1605年5層の天守が完成。1627年(寛永4)嘉明が陸奥(むつ)の会津(福島県)に移ったのち，蒲生忠知(がもうただのり)，次いで久松定行が十五万石で入封，3層の天守に改修した。以後世襲して明治に及んだ。この間改築が数度あったので建築物は各時代のものが混在する。勝山の山上に本丸，山麓(さんろく)に二の丸・三の丸を置き，天守(重要文化財)は外部3重，内部3階で穴蔵がついているが，外形は江戸時代の特色を示している。

2 岡山県高梁(たかはし)市臥牛(がぎゅう)山(480m)の山頂にある山城。備中(びっちゅう)松山城・高梁城ともいわれる。中世より戦略上の要地であったが，1600年(慶長5)小堀(こぼり)遠州が改修した。外部2重，内部2階の天守は山城天守唯一の遺構で，天和(てんな)年間(1681～1683)に改築されているが，変化に富み，中世的で古風な天守の特色を残している。史跡に指定されている。

まつよいぐさ　**【待宵草】**　双子葉植物・アカバナ科。チリ原産の多年草。1851年，オランダ人によって観賞植物としてもたらされたが，現在では川原・土手・鉄道沿線などにみられる。基部から高さ50～90cmの茎が数本出る。葉は長さ5～15cm，幅5～12mmの披針(ひしん)形で中央脈は白く，短い鋸歯(きょし)があり，互生する。茎や葉に毛がある。5～8月の夕方，茎の上部の葉腋(ようえき)に径2～4cmの黄色4弁花をつける。花は朝になるとしぼんで赤朱色になる。花柱の先は四つに分かれている。近縁のオオアレチマツヨイグサは北アメリカ原産の二年草で，高さ1～1.5m，6～7月に直径6～8cmの黄色4弁花をつけ，基部が赤色の毛におおわれている。メマツヨイグサは葉の中央脈が赤く，花弁の縁が互いに重なり合う。アレチマツヨイグサは花弁の先端が重なり合う。一般にマツヨイグサ・オオマツヨイグサをツキミソウというが，本来のツキミソウは白色花をつける別種である。

〔加藤僖重〕

マツヨイグサ





ツキミソウ

マツヨイグサ

まつらさよひめ　**【松浦佐用姫】**　伝説上の人物。大連(おおむらじ)大伴金村(おおとものかなむら)の第3子狭手彦(さでひこ)の愛人。宣化天皇の時代，狭手彦が朝命を受けて海を渡り高句麗(こうくり)を破ったが，《万葉集》にはその出発にあたって佐用姫が高山に登り，領布(ひれ)(女子服装具の一)を振って別離を悲しんだので，その山を領布麾(ひれふり)山とよんだという地名伝説がみえる。《肥前風土記(ふどき)》には佐用姫は弟姫の名で描かれ，狭手彦と別れて5日後より，狭手彦に似た男が夜ごと訪れたが，姫がその正体を調べると峰の頂の沼の大蛇(だいじゃ)であった。侍女の知らせにより親族一同が尋ねると，すでにヘビも姫も見えず，沼の底に姫の死骸(しがい)らしきものがあったので，それを峰の南に収めて墓としたと伝える。〔黛　弘道〕

まつらしげのぶ　**【松浦鎮信】**

1 初世(1549～1614)　安土桃山時代の大名。肥前(長崎県)の人。道可隆信(たかのぶ)の子。肥前守(ひぜんのかみ)。式部卿(きょう)。1589年(天正17)落髪して無外庵(むがいあん)宗静と号し，平戸法印と称した。1600年(慶長5)関ケ原の役に石田三成らの誘いに応じなかったので徳川家康(いえやす)から所領を安堵(あんど)されて平戸藩を建て，六万三千石を領した。1605年オランダ船を平戸に誘致して平戸貿易を盛んにした。

2 2世(1622～1703)　肥前平戸藩主。肥前守。はじめ重信(しげのぶ)，のち鎮信と改めた。1637年(寛永14)父の遺領を継ぎ，島原の乱後長崎を警備した。1658年(万治1)幕命によりキリシタン60余人を処刑した。山鹿(やまが)素行に親しんで兵学を学び，和漢の学および禅にも通じ，中国の文天祥を慕ってみずから天祥庵と号した。また茶の湯を片桐(かたぎり)石州(貞昌(さだまさ))に学び，一派を立てて多くの門人を出した。

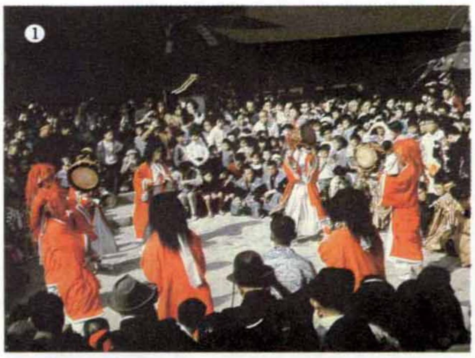
〔岡山泰四〕

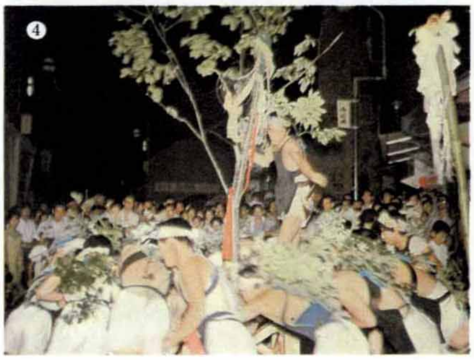
まつらとう　**【松浦党】**　鎌倉・室町時代に北九州の沿海地方に割拠していた武士団の連合組織。松浦七党・松浦一揆(いっき)ともよばれた。肥前(長崎県・佐賀県)松浦4郡を中心に近辺の小豪族が結合して海域の海上権を共同で掌握していた。その結合の契機は明らかでないが，文永・弘安(こうあん)の役で元軍の侵害を甚大(じんだい)に受けた経験から，共同防衛を必要としたためとされている。室町初期にはその結束は最も強く，しばしば会合して連盟規約を制定し，《一揆契諸条々》などと称して，各自の独断専行を許さず，争論などの場合は必ず一揆の会議に従うことを定めている。松浦党に属する諸氏は源氏を称し，大別して上松浦党と下松浦党とに分かれた。その中から近世大名の平戸藩主松浦氏が出た。〔高崎徳次〕

まつらのみやものがたり　**【松浦宮物語】**　鎌倉初期の擬古物語の一。3巻。藤原定家の若いころの習作と伝わる。遣唐副使として渡唐した橘氏忠(たちばなうじただ)が，琴の秘曲を伝授されたり，内乱を静めるのに活躍したり，不思議な恋を経験したりするなど，伝奇的な要素の濃い物語である。《宇津保物語》《浜松中納言物語》などの模倣のあとが著しい。

まつり　**【祭り】**　祭りは〈まつらふ〉と同じ語源のことばで，元来尊いかたの前に侍座し奉仕することを意味したとされている。そして祭りの本質は，神霊を迎えて丁重に飲食を勧め，その同じ食物を末座にあって相伴することによって，神人合一の境地に達する点にあった。神社の基本形式が一族の氏神祭りにあったという点は，ほぼ通説になっているが，その氏神祭りの時期は，春は旧2月か4月，秋は旧11月の年2回または秋のみ1回というのが多い。この年両度の祭りが，春の農耕開始と秋の収穫終了の時期に応じていることは，大いに意味がある。各地の神社の祭日についても，春の例祭は旧2月あるいは4月，秋の例祭は旧11月という傾向が顕著である。もう一つの系統として夏祭りがある。6～7月のころ，水べに神輿(みこし)をかつぎ出したり，山車(だし)・鉾(ほこ)などを引き回す祭りである。夏祭りの源流は，除疫祭としての祇園会(ぎおんえ)(→祇園祭)であるとされている。

祭りを構成する基本的要素としては，次の諸点があげられる。①物忌み：神霊を迎えるために清浄な状態にはいることで，物忌みが最高潮に達したときが，すなわち祭りになる。物忌みはかつては祭りをなりたたせる重要な条件であったが，経済生活の複雑化に伴い，しだいに守られなくなり，全体として衰退の一途をたどってきている。職業神主が祭りの主役をつとめるところでは，物忌みはいっさい神主に任せ，氏子は単に祭りに列するだけという風も広まってきた(→忌み)。②依(よ)り代(しろ)：日本人の古い信仰では，神は祭りのたびに迎えられ，




祭　り　①やすらい祭り　疫病の流行をしずめる祭礼　京都　今宮神社　②津島祭　祇園祭とともに夏祭りの代表である　愛知県津島市　③どぶろく祭り　収穫を祝い，翌年の豊作を祈る例祭で，特に祭りの間にはどぶろくの醸造が認められる　岐阜県白川郷　④榊祭り　サカキの木を飾った神輿が町内を練り回り，いっさいの不浄や悪疫を払う　長野県　榊神社　⑤御幣振り　神来臨に際して，その所在を明らかにするため御幣を振る　三重県　弥美神社

祭りがすめば帰っていくものと信じられていた。したがって神来臨に際してその所在を明らかにするために，なんらかの目印を整える必要があった。この目印は神の側からすれば依り代であり，人間の側からすれば招(お)ぎ代(しろ)である。神屋として常設の社殿や祠堂(しどう)を構えている場合でも，中に御神体として鏡・御幣・サカキ・石などのいずれかを納めてあるものが多く，これらはいずれも神屋以前の祭祀(さいし)方式を示すもので，神の依り代である。最も目につくのは御幣であるが，これは紙が普及してから以後のものである。御幣以前の形としては〈削り花〉であるが，これも鋭利な刃物の普及を前提としている。古くさかのぼれば天然の木や石ということになる。依り代にはもう一つの系統があり，それは神のことばを聞く必要がある場合で，人間が依り代に立つ。これを神人(よりまし)とよぶ。③神と人との共食：祭りで神供を神ともども氏子一同で分け食べるのは，同じ食物をとることにより，神と人間との間の目に見えないつながりがいっそう強められ，人々は神の恩恵に浴することができるとする信仰にあった。この神と人との共食は直会*(なおらい)とよばれる。直会の食物は，もち・粢(しとぎ)・飯など米がなくてはつくれない点が注目される。酒や魚も神供として重要な位置を占めている。④伝統的競技：これにはたとえば，弓で的を射る競技，相撲(すもう)・綱引き・競馬・競舟，球のとりあいなど，現在では祭りの付帯行事あるいは余興のごとく解する土地が多くなってきているが，元来は農作の豊凶や漁獲の多少に関して，神意のいかにあるかを占うための神事，すなわち年占*(としうら)に発したもので，祭りを構成する重要な要素であった。⑤神事芸能：神事芸能の原初的な形態としては，手を振る，手を打つ，物を投げるといったごく素朴(そぼく)な動作が考えられる。それが発展すれば舞になるが，こうした演技的要素は，神がかりになるためのくり返しの身ぶりと解される。異形のものに扮装(ふんそう)したり，人形*(ひとがた)を用いた演技(芸能化すれば人形芝居)があり，また生産の過程を模擬的に演ずるものなどもある。

〔直江広治〕



マ　ツ　リ　カ

まつりか　【茉莉花】　双子葉植物・モクセイ科。インド原産の常緑低木で，高さ1.5〜3 m。枝には少し稜(りょう)があり，軟毛でおおわれる。葉は長さ4〜6 cmの卵状楕円(だえん)形ないし広卵形で，対生または3輪生する。花は長さ1〜1.5 cmの白色花で，3〜12個枝先に集まって咲く。花からは香料のジャスミン油が得られる。➔ジャスミン

まつりばやし　【祭り囃子】　国神(くにつかみ)・鎮守神などの祭礼のときに行なわれる囃子音楽。祭礼囃子ともいう。横笛と大小の太鼓を主要楽器とし，これに鉦(しょう)を加えた標準的編成による器楽の合奏形態で，踊りを伴うこともある。山車(だし)・屋台などの上で演奏されることが多い。神に奉納する芸能として各地域の神社と結びついて民間伝承されている。代表的なものに京都の祇園(ぎおん)囃子*，神田囃子の名で関東地方に流布している葛西(かさい)囃子系統の囃子，佐賀県・長崎県の浮立(ふりゅう)などがあり，各地に大太鼓を中心とする太鼓囃子がある。

〔山口　修〕

マディソン　［James Madison］　(1751〜1836)　アメリカ合衆国の政治家。第4代大統領。在任1809〜1817年。バージニアの独立自営農民の出身。バージニア議会議員・大陸会議代表・パリ講和委員を歴任したあと，1787年憲法草案の起草に活躍，〈アメリカ憲法の父〉とよばれた。また，その批准促進のためハミルトン*・ジェイと著した《フェデラリスト》では卓越した政治思想を展開した。1789〜1797年連邦議員をつとめたが，フェデラリスト*の政策には批判的で，ことに1798年の〈外人法および治安法〉に対しては〈バージニア決議〉を起草，州権論の立場からこれに反対した。1801年ジェファソン*の国務長官に就任，1809年彼を継いで大統領となった。国務長官時代からヨーロッパのナポレオン戦争の対処に悩み，1807年出港禁止法，1809年国交断絶法などで中立維持に努めたが，クレイやカルフーンら若手の連邦議員(〈戦争鷹(たか)〉)の台頭により，1812年イギリスとの戦争を余儀なくされた(1812年戦争*)。しかし，指導力不足で戦局は有利に展開せず，フェデラリストからは〈マディソンの戦争〉と非難された。国内政策では農民の利益を代弁したが，新興産業資本の重要さをも認めていた。

〔折井一彦〕

マデイラ(諸島) [Madeira] 北大西洋，ポルトガルの南西約1,000km，モロッコの西約700kmにあるぶどう酒で有名な島群。面積797km²。人口26万9,000(1968)。ポルトガル領。火山島で，海上から望むピコリボ山(1,831m)は美しい。1419年ポルトガル人によって発見された。かつてサトウキビを栽培していたが，ここでとれるぶどう酒をイギリス人が植民地へ持って行ったところ好評を得，それ以来マデイラ酒の名で知られるぶどう酒の生産が盛んとなり，現在ブドウ畑が海抜700mの高所まで広がっている。主都フンシャル。 〔大崎 晃〕

マテオ-リッチ [Matteo Ricci] (1552〜1610) イタリアのジェスイット教団(イエズス会*)の宣教師。ジェスイット教を最初に中国に伝えた。中国名は利瑪竇(りまとう)。1578年インドのゴア，1582年澳門(マカオ)，1583年広東(カントン)に至り，南昌(なんしょう)・南京(ナンキン)を経て，1599年北京(ペキン)に着き，1601年明(みん)の万暦帝と会見した。徐光啓*らを改宗させるとともに，西洋の科学技術を教え，ユークリッド幾何学の訳書《幾何原本》，中国最初の世界地図《坤輿(こんよ)万国全図*》を残した。 〔勝村哲也〕

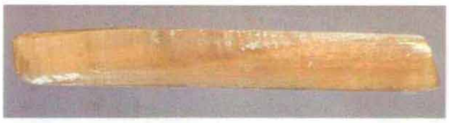
まてがい 【馬刀貝】 軟体動物・二枚貝類・マテガイ科。殻長(かくちょう)12cm，殻高1.6cm，殻幅1.2cm。殻(から)は薄質で細長く，円筒形。背腹縁は並行し，前端は斜めに，後端は直角に切られる。殻表は平滑で光沢があり，黄色。軟体の出入水管は互いに癒着(ゆちゃく)して，植物のツクシのように節があり，そこからたやすく切れて落ちる。足は前端が楔形(くさびがた)であるが，長く伸ばすことができ，その先端を細かく動かして砂を掘る。北海道南部から台湾までに分布し，内湾の潮間帯の砂泥底(さでいてい)に楕円(だえん)形の深い穴を掘ってすむ。干潮時に穴の中に食塩・尿素などを入れると，その刺激で反射的に穴の口へはねて，殻を穴から突き出す。この習性を利用してそれをつまみ取って採取する。また，矢形のマテ突きを穴の中へ差し込んで引き出す。肉はむき身やつくだ煮にする。 〔波部忠重〕

まてき 【魔笛】 モーツァルト*作曲の2幕のオペラ。台本はウィーラントの童話をもとにシカネーダーが中心となってまとめ，初演は1791年9月30日にウィーンのウィーデン劇場で行なわれた。王子タミーノ(テノール)が夜の女王の娘パミーナ(ソプラノ)と結ばれるのが物語の骨子であるが，高僧ザラストロ(バス)や鳥刺しパパゲーノ(バリトン)がからみ，第1幕と第2幕では内容が変化するなど，多彩・複雑である。ジングシュピール*の最大傑作とされる。〔向坂正久〕

マテゾン [Johann Mattheson] (1681〜1764) ドイツの作曲家・音楽理論家。ハンブルク-オペラの歌手・指揮者・作曲家として出発。1704年からはイギリス公使の秘書，さらに代理人を約40年間続け，他方この間，宮廷楽長をもつとめた。このように彼は音楽・政治の両分野で活躍したが，1728年ごろには耳が聞こえなくなり，楽長職を辞している。作品には，ミサ曲・受難曲などの宗教作品，オペラ・器楽曲などがある。また，文筆家としても知られ，彼の音楽に関する著作は，18世紀の最も重要な音楽文献となっている。主著《完全なる楽長》。 〔寺田兼文〕

マテちゃ 【マテ茶】 双子葉植物・モチノキ科。パラグアイ・ブラジル原産の常緑低木で，葉を摘んでマテ茶(パラグアイ茶ともいう)をつくる。葉は長さ7〜12cmの卵形で，質は厚く，先は鈍頭。花は葉腋(ようえき)に集散花序をなしてつき，緑色で小さい。果実は径6mmほどの球形の核果で，赤熟する。マテ茶は2%ほどのカフェインを含み，特有の香気があって，嗜好(しこう)性飲料としておもに南アメリカで用いられる。

までのこうじのぶふさ 【万里小路宣房】 (1258〜?) 〈せんぼう〉ともよばれる。鎌倉末期から南北朝時代にかけての廷臣。藤原氏。父は従(じゅ)三位資通(すけみち)。後二条天皇の東宮大進として仕え，その即位後蔵人頭(くろうどのかみ)兼大蔵卿(きょう)，次いで参議となったが，天皇の死去により退官。その後後醍醐(ごだいご)天皇*の登用を得，権中納言となり，吉田定房*(よしださだふさ)・北畠親房*(きたばたけちかふさ)とともに〈後の三房(さんぼう)〉と称された。1324年(正中1)の正中の変*では鎌倉に使して幕府に天皇の告文を伝え，日野俊基*(としもと)らの釈放に成功した。のち大納言に進んだが，1331年(元弘1・元徳3)元弘(げんこう)の乱*に参画して官爵を奪われた。1333年(元弘3・正慶2)復官して持明院朝に出仕。建武中興*が成るに及び，陸奥(むつ)・出羽(でわ)按察使(あぜち)を兼ね，雑訴決断所*頭人に任ぜられた。1335年(建武2)退官し翌年出家。日記《万一記》がある。 〔高崎徳次〕



マ テ ガ イ

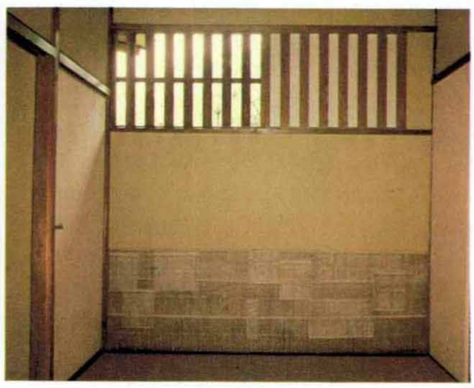
マデルナ [Carlo Maderna] (1556〜1629) イタリアの建築家。はじめ伯父(おじ)ドメニコ-フォンタナのもとで仕事を始めたが，サンタ-スザンナ聖堂のファサードの建築意匠で認められ，以後初期バロックを代表する建築家として活躍した。主要な作品には，パオロ5世のもとで造営に参加したサン-ピエトロ聖堂の〈マデルナの長堂〉とファサードなどがある。

まど 【窓】 採光・通風・眺望(ちょうぼう)などの目的のために，建築物の壁・屋根にあけられた開口部。壁と一体となって建築物の外面を構成するので，耐力的意義ばかりでなく，意匠的意義も大きい。夏季高温多

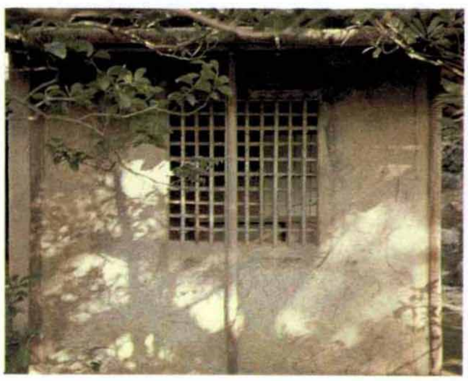
窓



連子窓(法隆寺西院回廊)



無双窓(如庵)



下地窓(仁和寺遼廓亭)



格子窓

湿のわが国では換気のために開口部を広くとることが必要条件であるので，ヨーロッパのそれとは著しく異なる。法隆寺の連子窓(れんじまど)に始まり，寝殿造りに見られる蔀窓(しとみまど)，さらに平安時代に発明され，書院造りで定式化したあかり障子窓，茶室建築に取り入れられた下地窓，その他無双窓・格子窓(こうしまど)・突き出し窓・地窓などと多様な変化を示し，日本建築独特のふんい気をつくりだした。ヨーロッパにおいては，夏季低湿であること，石造・れんが造などの組積造が多いことから，一般に窓は小さく，中世初期まで単純であったが，ゴシック建築時代にはいってステンドグラスを用いるようになって教会堂建築の重要な装飾となり，各種の形式のものが現われた。鉄骨鉄筋コンクリート構造の発達に伴い，特に最近ではカーテンウォール構造*の発達により全面ガラス張りのものが出現した。

開閉方法により分類すると引き違い窓・開き窓・回転窓・引き倒し窓・はめ殺し窓・すべり出し窓・上げ下げ窓があり，木材・鋼材・アルミニウムなどの材料で額縁・わく・建具によって構成されている。アルミニウムによる窓サッシは木造建物にも進出し，また窓ガラスにも断熱ガラス・紫外線吸収ガラスなどが使用され，さらにはプラスチックの出現など多様な変化をしている。〔神山幸弘〕

まとい 【纏】 戦国時代から戦場において武将の所在を示す目印として軍馬の側に立てた標識。幟*(のぼり)を大きくしたようなもので，棹(さお)の先には馬簾(ばれん)といって厚紙・皮などを輪形に細長く切った作り物をたらしたりした。特に豊臣秀吉(とよとみひでよし)の千成瓢箪(せんなりびょうたん)は有名である。江戸時代になってからは消防組が組の標識として利用し，〈出し〉という飾り物をつけて，組の名を文字で記入したりしたものも現われた。現在でも出初(でぞ)め式*などで見ることができる。〔山路勝彦〕

まとうだい 【的鯛】 硬骨魚類・マトウダイ科。マトダイともいう。体長50cmほどになる海産魚。背びれ10棘(きょく)23軟条，臀(しり)びれ4棘22軟条，体は長卵形で強く側扁(そくへん)し，灰かっ色をおびた銀白色。成魚では体のほぼ中央部に大きなかっ色の斑紋(はんもん)があるが，しばしば不明瞭(ふめいりょう)なことがある。本州中部以南，オーストラリアに広く分布する。産卵期は6月ごろで，やや深海の海底に生息する。春季に美味。

マトゥラー ［Mathurā］ インド，ウッタル-プラデシュ州の町。ニューデリーの南方160km，ジャムナ川流域にあり，古くから仏教・ジャイナ教・ヒンズー教の宗教的中心で，現在もクリシュナ信仰の聖地として巡礼者が多く集まる。クシャン朝時代にそのインド支配の拠点となり，ガンダーラと並んで他の地に先がけて仏像を彫刻し，特色ある赤色砂岩を材料とした美しいマトゥラー美術をつくりあげた。つづくグプタ時代にもその洗練された彫法で崇高な仏像様式を生み出し，インド彫刻の傑作を残した。現在，マトゥラーにはこれらの作品を収蔵した博物館があり，一般の観覧に供されている。〔小谷仲男〕



纏 江戸町火消しの伝統をいまに伝える出初め式での纏の勢ぞろい 東京晴海



マトウダイ



マ ド ガ

まどが 【窓蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・マドガ科の総称またはそのうちの一種。世界から約600種が知られ，大部分は熱帯産でアフリカに多く，小形のガで翅(はね)は白色または黄色をおびた透明紋をもつことが多い。旧北区と新北区には少なく，日本にはマドガ・マダラマドガなど約10種が知られる。マドガは翅を広げた長さ15〜20mm，触角はくし歯状。体・翅とも黒色で，脚はところどころ黄色斑(はん)がある。前後翅とも黄色の小紋が散在し，中央に白色半透明の大きな紋がある。成虫は昼行性で5〜9月まで山地に普通にみられ，湿地に飛来することがある。幼虫はボタンヅルを食べ，葉を巻いて中にすむ。日本全土に分布し，千島からも知られている。〔多々内修〕

まどがい 【窓貝】 軟体動物・二枚貝類・マドガイ科。殻長(かくちょう)9.5cm，殻高10cm，殻幅0.7cm。殻(から)は薄質で円形，扁平(へんぺい)で右殻は特に平ら，左殻は弱くふくらむ。殻表は白色をおびた半透明で，真珠光沢があり，微細な放射条が密にある。内面は殻頂に八字形の鉸板(こうばん)がある。台湾以南，太平洋・インド洋の浅海の砂底に分布し，特にフィリピンに多い。平らな右殻を切って窓の障子にはめたのでこの名がある。貝細工の材料としても用いられる。〔波部忠重〕

まどぐちきせい 【窓口規制】 日本銀行が市中銀行*の貸し出しを統制するために行なう措置の一。日本銀行が定期的に市中銀行に貸し出し予定額を報告させて審査し，貸し出し額を査定額の範囲内に収めるように勧告する形で行なう。この方法によると対象とする市中銀行が片寄ること，市中銀行が貸し出し額を操作して，表面に現われないようにする〈含み貸し出し〉などがなされて効果があがらないため，1965年(昭和40)以降ポジション指導*に切り換えられるようになった。

マードック ［Iris Murdoch］ (1919〜) イギリスの女流作家。アイルランドの生まれ。オックスフォード大学を卒業し，母校の哲学講師などを経て，作家志望の青年が主人公のピカレスク小説*ふうの長編《網の中》でデビュー。当初〈怒れる若者たち*〉のひとりとみなされたが，その後《砂の城》《鐘》《切られた首》などによって独自の世界を開いた。同性愛や近親相姦(そうかん)，不倫の愛などを素材にして，波乱に富んだストーリーを展開しながら，自由と愛，幻影と真実などの問題を扱い，知的で幻想的なふんい気をもつ作品が多い。他に，サルトル論や多くの哲学論文がある。〔栗原行雄〕

マドラス ［Madras］ インド南東海岸の港市で，ボンベイ・カルカッタに次ぐ同国第3の貿易港。マドラス州の州都でもある。人口247万(1971)。1640年イギリスのフランシス-デイにより建設されてからセント-ジョージ要塞(ようさい)を中心にして発達した。浅い砂浜に突出した防波堤に守られた港からは皮革・食品・タバコ・鉱石などを輸出している。繊維・化学・機械・皮革などの工業も行なわれる。海岸に沿い約3kmにわたるマリナビーチはマドラス市民の散策の場所となっている。1857年創立の大学や博物館・天文台などがある。〔別技篤彦〕

マトラッセ ［matelasse］ ふくれ織りの生地。和服地では纐纈織(こうけちおり)とよばれる。たてよこ二重織りで，表面織りは収縮せず，裏面織りが収縮するように，裏面のたて糸・よこ糸に強撚糸(きょうねんし)を用いるか，熱収縮する化学繊維を利用して収縮

処理を行ない，表面を模様の形にふくらませる。立体感があって装飾的であるので，ドレス地・コート地・女帯・羽織などに用いる。

マドリガル ［madrigal］ 中世からルネサンスへかけてイタリア・イギリスを中心に広く普及した世俗歌曲。①14世紀イタリアのマドリガルは，1行11シラブルからなる8行または11行詩で，終わりにリトルネッロ*をもつ。8行詩を例にとれば，その詩形はⅠ(1～3行)～Ⅱ(4～6行)～リトルネッロ(7～8行)で，音楽はA～A～Bと対応し，2～3声で，上声部が装飾的旋律をもつ。作曲家としてはランディーニ(1325～1397)が代表的。15世紀にはいって急速に衰退した。②16世紀イタリアのマドリガルは，形式的には14世紀のものとはまったく関係がなく，15世紀末の世俗詩的なフロットラよりも洗練された趣をねらった無定形の詩または音楽である。初期の3～4声のものから，後期の5～6声，さらに独唱マドリガルまで，ほぼ1世紀にわたって多彩な展開をみせた。代表的な作曲家としては，ベルデロー・マレンツィオ・ジェズアルド・モンテベルディらがあげられる。③イギリスのマドリガルはイタリアの影響のもとに16世紀中ごろから盛んとなり，17世紀前半まで続いた。イギリスの作品はイタリアの叙情的なものに対して，描写的表現にすぐれている。モーレイ・ウィルクスらが代表的作曲家である。 〔吉田泰輔〕

マトリックス ⇨行列

マドリード ［Madrid］ スペインの首都。人口352万(1974)。同国中央部，メセタ(イベリア高原)の標高650mにあり，タホ川の支流マンサナレス川に沿うが，この川は夏季には水がなくなる。乾燥した内陸にあるため，気候の変動がきわめて激しい。古くはムーア人の城砦(じょうさい)であったが，11世紀スペインに奪回されてから政治・軍事上重要となり，1560年正式に首都となった。しかし，近代都市としての発達は19世紀に鉄道が通じてからで，いまも産業面よりは政治・文化の中心としての色彩が強い。美しい都市として知られ，観光客が多い。 〔梶川勇作〕

マドレーヌぶんか 【マドレーヌ文化】 後期旧石器時代最後の文化。南西フランスのドルドーニュ県のマドレーヌ遺跡に由来する命名。マグダレーヌ文化ともよぶ。小形の石刃系石器が多く，銛(もり)・針・尖頭器(せんとうき)などの骨角器が最も発達した。一般には洞窟(どうくつ)生活をしており，そこに洞窟画を残した。ラスコー洞窟*・アルタミラ洞窟の洞窟画はこの期のものである。文化のにない手はクロマニヨン人という。西ヨーロッパに分布。

マトン ［mutton］ ヒツジの食用肉。特に生後1年半以上のヒツジの肉をいい，1年未満をラム，1年半未満をフォゲットという。肉の部位の分け方は牛肉*に準じており，ロースやもも肉は網焼きやジンギスカン料理，ばら肉・前あしは煮込み料理に用いる。しかし大きな肉塊が得にくいので，大部分はプレスハムの原料にされる。一種の臭気があり，肉色が濃いので，多くは馬肉と同様に脱色し，タマネギ・ニンニク・ショウガなどの香味とともに調理する。わが国の生産量は少なく，オーストラリア・ニュージーランド・チリなどから輸入される。 〔佐藤友太郎〕



マドリード 独立広場に面して建つアルカラ門。ここからほぼ西へアルカラ通りが市の中心部へ延びる。花壇の花が美しい



マナガツオ

マートン ［Robert King Merton］ (1910～) アメリカ合衆国の社会学者。フィラデルフィアの生まれ。コロンビア大学教授・アメリカ社会学学会会長などを歴任。経験的調査に深い関心をもち，〈中範囲の理論〉および〈理論と調査の結合〉の必要性を強調する社会学理論とその方法論を提示した。また機能主義的立場から，機能・逆機能・顕示機能・潜在機能などの諸概念を駆使して社会構造論を展開し，社会心理学的方法を導入した知識社会学を構想し，さらにその延長ともいえるマスコミュニケーションの重要性を指摘した。主著に《巨人の肩の上に》《社会理論と社会構造》などがある。 〔藤見純子〕

マナ ［mana］ メラネシアの宗教にみられる超自然的な力の観念を示す土語であったが，転じて原始宗教一般にみられる非人格的・非感覚的な力の観念のすべてを意味する。この力は精霊・人・生物・無生物などすべてに付着し，かつ転移・伝染性が強い。マナの観念はイギリスの民族学者コドリントンによって紹介された。彼によると，マナはメラネシア人の宗教信仰の基礎で，彼らの宗教行事の一般的目的は自分のためにこの力の益を得ようとすることである。なお，世界各地にも同種の観念がみられる。マナをもって宗教を説明する学説をマナイズムという。 〔牛島　巌〕

マナウス ［Manaus］ ブラジル北部，アマゾン川河口から約1,450km上流にある河港市で，アマゾナス州の州都。人口28万4,000(1970)。かつては天然ゴムの採集基地として栄えたが，現在はアマゾン川上・中流域を後背地としてブラジルナッツ・ゴム・木材・カカオなどの集散をし，輸送はすべて河川交通によって行なわれている。

まながつお 【真名鰹・鯧】 硬骨魚類・マナガツオ科。体長60cmに達する海産魚。体は円板状で側扁(そくへん)し，成魚では腹びれを欠く。背びれ10棘(きょく)39～46軟条，臀(しり)びれ7棘34～38軟条で，うろこは小さくはがれやすい。本州中部以南，朝鮮・東シナ海・東インド諸島に分布する。外洋性であるが，6～7月ごろに産卵のため内湾ときには河口にまではいってくる。美味。

マナグア ［Managua］ 中央アメリカ，ニカラグアの首都。人口31万8,000(1973)。同国西部の低地にあり，マナグア湖の南東湖畔に位置する。行政・商工業・文化の中心をなし，食品・繊維・化学などの工業がある。周辺で産するコーヒー・バナナ・サトウキビなどの集散地でもある。スペインの植民以前はインディオの町で，17～18世紀は同国のグラナダ・レオンに遅れをとっていたが，1855年首都となってから発展した。1931年地震によって市街はほとんど壊滅したが，復興した現在では近代建築が立ち並んでいる。 〔小栗　宏〕

マナスル(山) ［Manaslu］ ネパール中部，ヒマラヤ山脈中のネパール-ヒマラヤにある高峰。標高8,125m。日本人による初の，しかも唯一の登頂がなされた8,000m峰として知られる。1952年(昭和27)日本山岳会(今西錦司(きんじ)隊長)が偵察(ていさつ)を

行ない，毎年登山隊を送っていたが，山麓(さんろく)のサマ部落民の宗教上からの反対にあって果たせず，1956年5月9日槇有恒(まきありつね)隊によって初登頂された。

まなせどうさん　**【曲直瀬道三】**　(1507～1594)　安土桃山時代の医学者。京都の生まれ。本姓堀部(ほりべ)。名は正盛(まさもり)，字(あざな)は一溪(いっけい)，雖知苦斎(いちくさい)・盍静翁(こうせいおう)と号した。道三は通称。1516年(永正13)近江(おうみ)(滋賀県)の元光寺にはいって僧侶(そうりょ)となり，1528年(享禄1)足利(あしかが)学校に入学して経史を学ぶ。1531年田代(たしろ)三喜に会って中国の李朱(りしゅ)医学説を聞いてからもっぱらそれを研究。1545年(天文14)京都へ帰り翌年還俗(げんぞく)して開業。また医学舎啓迪院(けいてきいん)を設け，門人を集めて医学を教授。宮中・将軍をはじめ上流社会の間に厚い信任を得，のち豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)に仕えた。日本医学中興の祖といわれる。主著に《啓迪集》8巻のほか《治法指南篇(へん)》《弁証配剤医燈》《切紙》などがある。　〔大鳥蘭三郎〕

まなつのよのゆめ　**【真夏の夜の夢】**　シェークスピア*初期の喜劇。1596年の作と推定される。妖精(ようせい)の住む森を舞台に，4人の男女の恋愛のいざこざ，妖精の王たちや職人たちの恋愛事件を，若々しい自由奔放な気分で描いたもの。この作品以前の写実的喜劇と，以後のロマン的喜劇の中間に位置し，現実と夢幻が混交した作品である。メンデルスゾーン*の付帯音楽も著名。

まなづる　**【真鶴・鶬】**　鳥類・ツル科。大形の美しいツルで，翼長53～61cm，顔には赤色斑(はん)があり，頭・頸部(けいぶ)は白色，以下全体に灰青色で，初列風切り羽は黒色，脚は赤色。繁殖地はシベリア東南部・中国東北部・モンゴル北部，鹿児島県阿久根(あくね)市などに例年数百羽が渡来し越冬する。

まなづる　**【真鶴(町)】**　神奈川県の南西端に位置する足柄下郡の町。人口10,000。相模(さがみ)湾に突出する箱根火山の溶岩流によってできた長さ3kmの真鶴半島(突端に真鶴岬(みさき)がある)の基部にあり，半島は巨岩が重なり合う雄大な景観で知られ，県立真鶴半島自然公園に指定されて観光施設も整っている。真鶴港はブリ・アジ・カマスなどの漁獲が多い。またかつて江戸城の石がきに使われた小松石の名で知られる石材を産し，割栗石(わりぐりいし)・建築資材・墓石として利用され，京浜地方へ船で運ばれている。東海道本線が通ずる。



マナスル山　西側のマルシャンディ谷方面から見たマナスルの偉容。1956年の日本隊の登頂は，この反対の北東側から試みられた



マナヅル



マニエリズモ
(左)パルミジャーノ《長い頸の聖母》ウフィツィ美術館蔵
(右)ポントルモ《十字架降下》ウフィツィ美術館蔵

マナティー　[manatee]　哺乳(ほにゅう)類・海牛目・マナティー科。全長3mに達し，体は紫灰色。ジュゴン*に似るが，尾は丸いうちわ状。西インド諸島・フロリダ半島・メキシコ東岸などの浅瀬に分布し，水生植物を食べる。生息数はジュゴンよりも多い。長鼻類に近縁な貴重な哺乳類である。

まなべあきふさ　**【間部詮房】**　(1667～1720)　6代将軍徳川家宣(いえのぶ)・7代将軍家継の側用人*(そばようにん)。はじめ猿楽師(さるがくし)喜多七太夫(しちだゆう)の弟子(でし)であったが，1684年(貞享1)家宣の近習となり寵愛(ちょうあい)された。家宣が将軍世子となると，累進して若年寄となり，1709年(宝永6)家宣の将軍就任とともに老中格，翌年高崎五万石領主となった。続いて幼少の将軍家継を擁して強力な発言力を有し，新井白石*の政治も詮房の後援によって行なわれた。1716年(享保1)家継急死，8代将軍吉宗(よしむね)就任とともに実権を失い，翌年側用人を辞職，藩地も越後(えちご)(新潟県)村上に移され，その地で死んだ。〔高崎徳次〕

マニエリズモ　[manierismo]　イタリア語の〈マニエラ〉に由来し，時代・地方・個性・技巧の特色ある手法・作風をさし，あてはめて表現する一種の特殊な効果ある型をいう。しかし，現在では，1520年ごろから1600年にかけて，おもにイタリアに出現した芸術上の諸様相をさして用いられている。つまり，ルネサンス様式からバロック様式に移る過渡期のイタリア絵画，トスカナ派・ナポリ派の不自然な構図やけばけばしい色彩などによる本質的に不安定な，主観的で感情的な固有の型による様式である。代表的な作家にはポントルモ・ロッソ・パルミジャニーノ・ブロンツィーノ・バザーリらがあげられる。

マニキュア　[manicure]　美容と衛生を兼ねた爪(つめ)の化粧。広義には手全体の美容をいう。爪を清浄にし，形を整えて外皮をなめらかにし，光沢のある被膜をつくって爪を保護するとともに，着色して美しくする。わが国では江戸時代に爪紅(つまべに)の習慣があったが，一般に普及したのは20世紀初めである。次のような製品・用具が必要である。①製品：ネールエナメル(ニトロセルロース・アセトン・酢酸エチル・着色料・合成樹脂などを混ぜたもの)・除光液(溶剤)・トップコート(つや出し)・ベースコート(エナメルの付着力を強める)。②用具：爪切り・甘皮切り・やすり・プッシャー(甘皮押し)・バッファー(爪みがき)など。また爪の健康上，常時エナメルを塗っておくことは好ましくないので，ときには除去する必要がある。なお足の指の化粧も同様の技術を用いるが，ペディキュアとよんで区別される。　〔メイ・ウシヤマ〕

マニきょう　**【マニ教】**　摩尼教とも書く。3世紀初め，ペルシア人マニがゾロアスター教を中心に，キリスト教・仏教などを混

成してつくりあげた宗教。宇宙の原理を善と悪，光明と暗黒の二元論で説くのはゾロアスター教と似る。一時ササン朝に認められたが，やがて異端とされて迫害を受け，かえってイラン国外に広まり，ローマや中国にも伝えられた。特に9～10世紀に中央アジアのウイグル人などの信仰を得た。

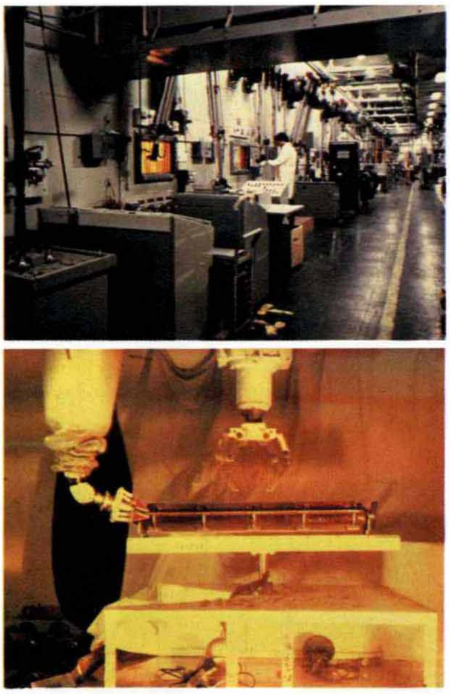
マニトバ(州)［Manitoba］カナダ中央部の州。面積65万2,218km²。人口98万8,000(1971)，州都ウィニペグ。1930年7月カナダ連邦の州となる。ウィニペグ湖の北東側は前カンブリア系の楯状地(たてじょうち)，南西側はプレーリーの平原で，プレーリーは小麦を主とする農業地域になっている。銅・亜鉛・金などの鉱産資源も豊富である。人口の47%はイギリス系の住民が占め，28%はウクライナ・ドイツ・フランス系住民である。〔椙村大彬〕

マニピュレーター［manipulator］放射性物質などの取り扱いにおいて，その危険を避けるための遠隔操作用装置。マジックハンドともいう。多数のてこ・滑車・ベルトなどの機械的・電気的機構を利用して，人間の腕・指先の運動機能をできるだけ精確に再現しうるようにつくられている。操作者は放射能遮蔽壁(しゃへいへき)で保護されたへやにいて，壁にはめこまれた遮蔽用のガラス窓からのぞきながら操作する。原子力研究所など放射性物質を扱う場所では不可欠の装置である。

マニフェスト-デスティニー［Manifest Destiny］1840年代アメリカ合衆国の西方拡大を正当化したことば。〈膨張の天命〉と訳される。1830年代以降の社会の発展，アメリカの自由の制度への確信，近隣民族への優越感など，未開の土地・民族にキリスト教と民主主義を普及させるのが合衆国の使命だとするマニフェスト-デスティニーは，当時の西部領土獲得熱に乗って，1845年長年懸案のテキサス併合，1846年オレゴン国境画定，1848年アメリカ-メキシコ戦争*によるカリフォルニア・ニューメキシコ獲得を正当化した。また，ハワイ併合，アメリカ-スペイン戦争*によるフィリピン・グアム・プエルトリコの獲得(1898)を正当化するとともに，海外への帝国主義的進出をするイデオロギーとした。〔折井一彦〕

まにゅう【魔乳】奇乳ともいう。男女にかかわらず新生児の乳腺(にゅうせん)から分泌される少量の乳汁(にゅうじゅう)。新生児の生後第1週の間は，大部分の者に多少とも乳房腫脹(しゅちょう)と乳汁の分泌がみられ，生理的なものである。これは母親から移行されたエストロゲン・プロラクチンの2種のホルモンの作用によるもので，一過性的なものであるから放置しておいても自然に消失する。成分はタンパク質や無機質が多く，母乳の初乳に似ている。〔宇留野勝正〕

マニュファクチュア［manufacture］工場制手工業のことで，資本主義生産の最初の形態。工業的発展の段階では，手工業から機械制大工業への過渡期にあたり，その基礎的な技術においてはまだ手工業の段階にとどまっており，資本による賃労働の雇用，分業に基づく協業による生産の大規模化の点では近代資本主義工業に近づいたといえる。イギリスでは1550年ごろから，産業革命前夜の1760年ごろまでが，この形態の支配的な時期であり，フランスでは16世紀末の絶対主義成立下でその発展は複雑なコースをたどりながらフランス革命をひき起こすに至る。しかし，この時期には旧来の前期的商人による生産者支配の問屋制家内工業も同時に展開し，特権マニュファクチュア・農村マニュファクチュアなどから，近代の機械制生産への道が準備された。〔喜多迅鷹〕



マニピュレーター（上)外部（下)内部　日本原子力研究所東海研究所ホットラボラトリー

マニラ［Manila］フィリピン，ルソン島南西岸にある港市。1948年新憲法によって首都を北東に隣接するケソンシチーと決めるまではフィリピンの首都であった。人口145万(1975)。都市圏を含む人口は200万をこす同国の第1の都市で，官庁などすでにケソンシチーに移ったものも多いが，依然として実質的な首都の機能を果たしている。住民の大半はタガログ族だが，中国人も多い。市街は，ルソン平原を流れるパシグ川の両岸に広がり，河口の両側には設備の整った桟橋(さんばし)が並んでいる。南岸はスペイン領時代に要塞(ようさい)であった旧市街で，北岸は繁華街エスコルタなどのある新市街で，その北に隣接して新首都ケソンシチーがある。エスコルタ・リサールなどの中心街の景観はヨーロッパふうのたたずまいを見せ，マニラ湾の美しい夕焼けは世界的に知られる。ルソン平原や国内各地からのマニラ麻・サトウキビ・タバコ・ココナツ・パイナップルなどの農産物の集散と加工を行ない，家具・皮革・繊維・セメントなどの工業が盛んである。フィリピン大学・聖トマス大学などがあり，教育文化の中心地でもある。また東南アジアにおける要地であり，マニラ港は東洋の良港として名高い。1571年，レガスピによりスペインの基地として建設され，東南アジア交易路の中心として栄え，〈東洋の真珠〉とよばれた。第2次世界大戦では大きな被害を受けたが，現在は復興している。〔別技篤彦〕

マニラあさ【マニラ麻】単子葉植物・バショウ科。アバカ・マニライトバショウともいう。フィリピン原産の多年草で，葉鞘(ようしょう)から繊維をとるために栽培される。茎は高さ3～7m，径20～40cmで数十本が束生するが，葉鞘が巻き合ってできた偽茎である。葉は30cmぐらいの柄をもち，葉は長楕円(ちょうだえん)形で上面は鮮緑色，下面は白色でかっ色の斑点(はんてん)がある。花は茎頂につき，バナナに似た花穂を下垂し，早落性の包葉に包まれ，外花被は黄色，内花被は白色。果実は長さ8～10cmの紡錘形でバナナに似ており，中径3～5cmのやや扁平(へんぺい)な黒色の種子が多数ある。開花直前の偽茎を切り取って皮をはぎ，繊維をとる。繊維は長さ1～5mほどで，水分や塩分にも強く，光沢があり美しい。船舶用ロープ・漁網用糸・衣服・袋などに用いる。〔横井朝子〕

マニラボール［manila board］表層に白色の製紙原料を用い，他の層に機械パルプ*と化学パルプ*とを混合したものをすき合わせた比較的薄い板紙。故紙の使用のほとんどないものをAマニラボール，故紙の使用量が多くなるにしたがいBマニラボール，Cマニラボールとする。1m²あたりの重量は170～370g程度。板紙の最高級品で，おもにたばこ・食品・薬品・化粧品などの小箱あるいは折りたたみ箱の製造に使われるが，一部はメニュー用紙・私製はがきなどにも使用される。表面に鉱物性顔料を塗被したものもある。〔角祐一郎〕

マヌほうてん【マヌ法典】紀元前後に成立した古代インドの法典。宗教的・社会的な人間の義務，広義の倫理的規範，民法・刑法に関する法規などを集大成したもので，古代インドの国家・社会・家族・共同体を知る上で欠かすことのできない百科全書的作品でもある。マヌとはインド神話に登場する人類の始祖で，本書がこの神話的人物に仮託されているところに，この法典の聖典としての性格がうかがえる。内容は全編12章に区分され，世界創造に関する説話，法源，種姓の義務，諸種の浄化法，学生期・家住期・林棲(りんせい)期・遊行(ゆぎょう)期の4時期の規定などが記され，また，王の義務，統治術，刑罰などが微細に定められ，最後

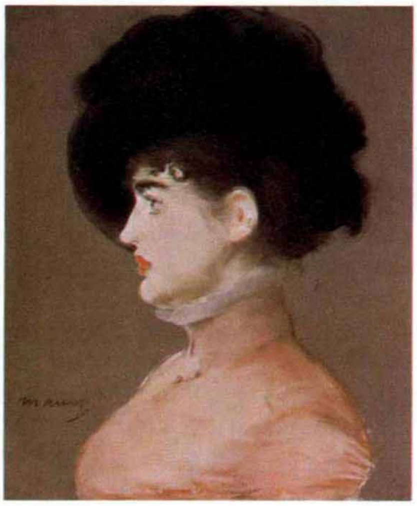
に業*・輪廻*(りんね)などの哲学的考察が加えられている。全体として現世主義的傾向が強く，また王権を擁護する意図がみられる。〔山折哲雄〕

マネ ［Edouard Manet］（1832〜1883）フランスの画家。はじめクーチュールの門にはいるが，師のアカデミックな作風にあきたらず，ルーブルをはじめヨーロッパ各地の美術館を訪れ，北ヨーロッパ・イタリア・スペイン(特にベラスケス)などの巨匠たちから多くを学び，自己の画風を確立していった。1863年，いわゆる落選者展覧会に《草上の食事》を出品。公衆の非難と嘲笑(ちょうしょう)を浴びたが，これを機に若い画家たちが彼を中心にカフェ-ゲルボアに集まり，やがて印象派*を形成することになる。1865年のサロンには《オランピア》を出品，再び評判となった。彼の作品は必ずしも印象派のそれとは一致しないが，ボードレールのいう〈近代性〉を示すその現実的なテーマ，華麗な黒などに見られる洗練された色彩感，自由で大胆な技法は，フランス近代絵画革新の旗手ならしめた。〔松本芳夫〕

マネキン ［manikin］ 衣服の販売・展示のために用いる人体模型・モデル人形。主として装飾用のものをさすが，裁断用の人台を含めることもある。衣服の着脱に便利なように，腕・足などは取りはずすことができる。服飾の流行を反映して，プロポーション・ポーズ・顔形・ヘアスタイル・素材など，多種多様である。また，ファッションモデル，化粧品のモデルなどをいう。

マネシエ ［Alfred Manessier］（1911〜 ） フランスの画家。アミアンおよびパリの美術学校で絵画や建築を学ぶ。やがて，キュービスムの影響を受けた。その創作活動においてはステンドグラスが重要な位置を占める。彼の特異性は，抽象的造形による宗教的感情の表現追究にある。抽象的作品にしばしば具象的題名を与えることが多い。

まねしつぐみ **［真似鶫］** 鳥類・マネシツグミ科の総称およびそのうちの一種。北アメリカ大陸中部・西インド諸島・南アメリカ大陸中部に31種が生息する。くちばしは細長く，尾も長めで，からだつきは細い。形態・習性がミソサザイ類・ツグミ類に似ており，これらと共通の祖先から分化した鳥と考えられている。深い森林よりも疎林や民家近くの林を好み，地上や下ばえの間でこん虫類や果実を食う。なわ張り性が強く，よくさえずる。モッキングバード類は一般に灰・青色のものが，スラッシャー類はかっ色のものが多い。アメリカ合衆国には10種が分布し，そのうちの一種であるマネシツグミは英名をモッキングバードといい，自分のさえずりのほかに，鳥や人声の物まねが巧みで，30余種の鳥のさえずりをレパートリーにもつものもあるという。民家の近くにもすむのでアメリカ人には親しまれている。〔安部直哉〕



マ ネ 《黒い帽子の女》 ルーブル美術館蔵



マネシツグミ

マネーフローぶんせき **［マネーフロー分析］** 資金循環分析ともいう。国民経済活動は実物取引と金融取引に大別されるが，マネーフロー分析では主として通貨の流れを分析することによって，通貨と経済諸活動の関連，金融取引と実物取引の関連を追究する。国民所得分析が主として実物取引の分析を行なうのに対し，マネーフロー分析では通貨の流れを中心にして経済活動を計測するので，金融取引の分析が中心となる。このマネーフロー分析は，具体的にはマネーフロー表(資金循環表)を作成し，国民経済の主要部門の間に行なわれる金融取引を記録する。そのうち〈総合マネーフロー表〉は取引部門別・金融資産別に区分を行ない，どの部門のどの金融資産・負債にどれだけ増減が起こったかを，またある部門から他の部門へどれだけ通貨・金融資産が流れたかを記録する。また〈部門別貸借対照表〉では各部門のある時点における金融資産の構成が記録される。〔速水 保〕

マノクワリ ［Manokwari］ インドネシア，ニューギニア島北岸，西イリアンの港市。人口2,000(1966)。第2次世界大戦前はオランダ領ニューギニアの統治中心地であった。戦後その地位を失ったが，イリアン(ヘールフィンク)湾以西開拓の基地となっている。良港湾に恵まれ，イリアン湾口にあるビアク島空港と結んで，沿岸航路および内陸交通の要地をなす。

まのやま **［魔の山］** トーマス-マン*の長編小説(1924)。スイスの高山療養地ダボスの結核サナトリウムを主要舞台に，第1次世界大戦勃発(ぼっぱつ)に至る7年間に，その療養所で展開される日常のできごとを通じてヨーロッパ精神史の複雑な様相を描き出したもの。主人公の青年カストルプは，思想の激突の中で人間存在の定位を生活の課題とする。この作品によって確立したヒューマニズム精神が，のちに反ファシズム闘争へ向かうマンを決定づけたといえる。〔森川俊夫〕

マノン-レスコー プレボー*の小説(1732)。青年デ-グリュが虚栄心に満ちた女性マノン-レスコーと出会い，裏切られて神学校にはいるが，再びマノンを追って破滅の道に走るという物語。全編に流れる奔放な情熱は新しい時代を予告するもので，速度のある文体には近代の影が色濃く，不朽の恋愛小説として名高い。

マーハ ［Karel Hynek Mácha］（1810〜1836） チェコスロバキアの詩人。19世紀前半のロマン主義の代表的詩人で，自然の美しさと，人間生活の価値への栄光をうたった肯定的な詩物語《五月》(1836)一作で有名になった。ロシアのプーシュキン*，ポーランドのミツケービッチ*とともにスラ



マネシエ
《ノエル58》
1958

ブの三大詩人といわれる。

マハーカッサパ ［Mahākassapa］ 生没年不詳。摩訶迦葉(まかかしょう)・大迦葉と音写し，迦葉と略称する。ブッダの十大弟子(でし)のひとり。弟子の中で衣食住に対する執着が最も少なく，自分に対してきびしい性格で，頭陀行(ずだぎょう)第一といわれた。ブッダが入滅すると，仏教教団を統率し，教団の分裂を恐れて王舎城で第1回の結集(けつじゅう)を行ない，のちにアーナンダに教団の統率を任せた。禅宗では特に彼を重要視している。〔石上善応〕

マハーバーラタ ［Mahābhārata］ 〈バラタ族大軍記〉の意。《ラーマーヤナ》と並ぶインドの二大叙事詩の一つで，ビヤーサ作と伝えられる。全編18巻に分かれ，約10万頌(しょう)を含む。ともにバラタ族に属する，100王子を中心とするクル党と，5王子を中心とするパーンドゥ党との間に行なわれた，支配権争奪のための陰謀・冒険・殺戮(さつりく)・戦闘を描き，人生の過酷と運命の非情を余すところなく描写した雄編である。賭博(とばく)によっていっさいを失って12年間森に追放される5王子，100王子の父である盲目王ドリタラーシュトラが戦争によって一族従者のすべてを失って絶望に沈む光景，5王子方の参謀として老獪(ろうかい)大胆な陰謀をめぐらすクリシュナらの人物造型は，5王子のそれぞれの英雄的行動とともに全編中の白眉(はくび)をなしている。このほか後世に甚大(じんだい)な影響を及ぼした哲学詩編《バガバッド-ギーター》や説話文学の傑作《ナラ王物語》などが挿入(そうにゅう)され，教訓説や動物寓話(ぐうわ)をはじめ，政治・法律・道徳に関する長大な議論がはめこまれている。作品の成立は，実際には紀元前2世紀～紀元2世紀の長年月にわたるものと推定されている。〔山折哲雄〕

まひ 【麻痺】 神経系の障害により筋肉の随意運動に困難をきたした状態。軽いものは不全麻痺という。一般に中枢神経の病変によって起こる中枢性麻痺と末梢(まっしょう)神経の病変によって起こる末梢性麻痺に分けられる。中枢性麻痺は深部反射およびトーヌス(筋緊張)が亢進(こうしん)する痙性(けいせい)麻痺で，片麻痺(半身不随)などにみられる。末梢性麻痺はトーヌスが低下する弛緩(しかん)性麻痺で反射は減弱し，ときに障害部位の筋萎縮(いしゅく)を伴い，顔面神経麻痺・橈骨(とうこつ)神経麻痺などと冒された神経の名でよばれる。触覚・痛覚・冷覚・温覚など知覚機能の脱落をきたす知覚性麻痺を伴うことも多いが，必ずしも並行しない。なお1年以上の長期にわたる麻痺の完全回復は困難である。〔井形昭弘〕

まびき 【間引き】 野菜などを間引くのにたとえたもので，生児を圧殺して子どもの数を制限すること。もどす・子返しなどともいうが，〈山芋掘りにやった，ヨモギ摘みに行った，海に出る〉などの隠語的表現もある。生児は臼庭(うすにわ)に埋めることが多く，間引いた子どもを臼子とよぶ地方もある。鼻や口を手で押えたり，ぬれ紙をはって窒息させたという。間引きは関東・東北などに多いとされていたが，江戸時代には全国的に行なわれていたらしい。農民の苦しい生活では多くの子どもを育てることができなかったための措置であったが，必要悪として現在ほどの罪悪感はいだかれていなかったらしい。〔中山和芳〕

まひと 【真人】 古代の姓(かばね)の一。684年(天武13)八色(やくさ)の姓の最高のものとして制定され，継体天皇以後の皇別氏(従来公(きみ)姓を称していた氏)に授けた。当初は13氏にすぎなかったが，しだいにその数を増して60以上となった。ただし平安初期以降第2位の朝臣(あそん)姓のほうが重んじられるようになり，以後皇別氏でも真人を賜わる例はなくなった。

まひわ 【真鶸】 鳥類・アトリ科。全長12～13cmの全体に渋い灰黄色の小鳥。本州と北海道の高山で少数が繁殖するが秋季にシベリア地方で繁殖したものが大群で渡来し，西日本には特に多く見られる。低い山地の針葉樹林地帯に好んで群生越冬する。〈チュイーン，チュイーン〉と鳴いて飛ぶ。➔ヒワ

マフ ［muff］ 冬の外出用服飾用品で，両手を通して暖めるための筒形のカバー。おもに毛皮でつくられるが，布製もある。内側に布を張って小物入れをつくり，ハンドバッグ兼用にしたものも多い。16世紀ごろヨーロッパの貴族階級の婦人のアクセサリーとして普及し，18世紀ごろには男子も用いた。最近ではほとんど用いられていない。

マファルゾール ［Mapharsol］ 梅毒の治療薬。サルバルサンに類似した構造をもつ有機ヒ素化合物で，局方名塩酸オキソフェナルシン。注射用にはそれのナトリウム塩を用い，40～60mgを4～7日に1回静脈注射する。他の有機ヒ素剤に比して毒性は少ないが，副作用として吐きけ・嘔吐(おうと)・頭痛・黄疸(おうだん)などを起こすことがある。抗生物質の出現により用途は激減している。毒薬。

まふぐ 【真河豚】 硬骨魚類・フグ科。体長50cmほどになる海産魚。ナメラフグともいう。体の背側は紫がかったかっ色で，多少淡泊な斑点(はんてん)がある。腹側は白く斑点はない。体表はなめらかである。サハリン(樺太(からふと))南西沿岸・北海道から東シナ海に分布し，南日本に多い。フグ料理に用いられる。➔フグ

まぶた 【瞼】 眼球の前面にあってこれを保護するひだ。眼瞼(がんけん)ともいい，両生類以上の脊椎(せきつい)動物に見られる。上眼瞼と下眼瞼に分かれ，上眼瞼に上眼瞼溝(じょうがんけんこう)があると二重まぶたとなる。まばたきによって涙で角膜や結膜を適度に潤すとともに，眼球の表面を清掃したり，光をさえぎったりする働きをもつ。なお，爬虫(はちゅう)類の多くや鳥類などには瞬膜(第三眼瞼)がある。➔目

まぶたのはは 【瞼の母】 戯曲。2幕4場。長谷川(はせがわ)伸作。1931年(昭和6)東京明治座初演。番場の忠太郎は幼いころに生き別れた母恋しさに，母を尋ね歩く放浪の旅先で，料理屋水熊(みずくま)の女主人おはまがその人と知ったが，やっと捜しあてた瞼の母は，やくざ姿の忠太郎を冷たくあしらい追い返す。無頼の徒にも通う母を慕う哀感が庶民の心をとらえ，新国劇・新派・歌舞伎(かぶき)などでしばしば上演されるほか，映画化もされている。〔西尾邦夫〕

まふねゆたか 【真船豊】 (1902～1977) 劇作家。福島県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科中退。1934年(昭和9)の戯曲《鼬(いたち)》が正宗(まさむね)白鳥に認められ，創作座での上演が大成功を収めた。以後，久保田万太郎に師事。我欲につかれた人間像を方言を生かした強烈な調子で描いた。その後しだいに風刺的作風におもむき，《太陽の子》《山参道》《中橋公館》などを発表。特に《遁走譜(とんそうふ)》は1940年に千田是也(これや)演出のもとに新協劇団で上演され，代表作となった。ほかに《裸の町》《黄色い部屋(へや)》や小説がある。〔小泉浩一郎〕

マフラー ［muffler］

1 防寒と装飾を兼ねて顔や首に巻くえり巻き。おもに正方形のスカーフに対して，長方形のものをいう。ドレッシーな服装からスポーティーな服装まで用いられるので，素材の種類も多く，毛・絹・キュプラやこれらの交織による紋織・プリント加工のものなどがつくられる。➔えり巻き

2 ⇨消音器

まべちがわ 【馬淵川】 岩手県東北部，北上山地に発し，北流して青森県の八戸(はちのへ)市で太平洋に注ぐ。流程106km。下流の平野では水田・畑作が多く行なわれ，また河口の八戸市は工業地帯として開発が進められている。

まほうじん 【魔方陣】 1からn^2までの自然数を，n行n列に正方形状に並べて，各行，各列，2本の対角線のおのおのの和が等しくなるようにしたもの。方陣ともいう。正方形の1辺に並ぶ個数によって，n次の方陣(n方陣)という。方陣の名は関孝和(たかかず)によってつけられたといわれるが，ヨーロッパでマジック-スクエヤーとよんでいたのを明治時代にわが国に輸入し，それに方陣を組み合わせて魔方陣といった。魔方陣についての記録は，古代中国やインドに残されているが，その後わが国やヨーロッパに伝わり，いろいろな人たちによって研究された。

図-1は，いまから4,000年ぐらいまえと推定される古代中国の伝説にある禹(う)が，治水工事に携わったとき，川から出てきた

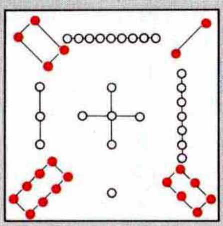


図-1

4	9	2
3	5	7
8	1	6

図-2

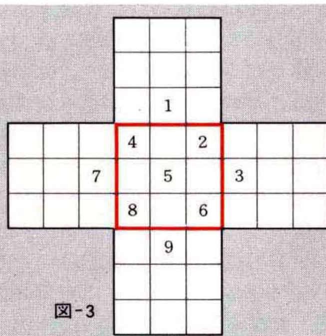


図-3

1	15	14	4
12	6	7	9
8	10	11	5
13	3	2	16

図-4

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16

図-5

1	63	62	4	5	59	58	8
56	10	11	53	52	14	15	49
48	18	19	45	44	22	23	41
25	39	38	28	29	35	34	32
33	31	30	36	37	27	26	40
24	42	43	21	20	46	47	17
16	50	51	13	12	54	55	9
57	7	6	60	61	3	2	64

図-6

1	35	34	3	32	6
30	8	28	27	11	7
24	23	15	16	14	19
13	17	21	22	20	18
12	26	9	10	29	25
31	2	4	33	5	36

図-7

1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31	32	33	34	35	36

図-8

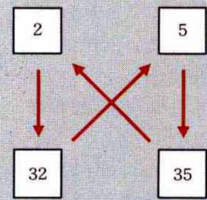


図-9

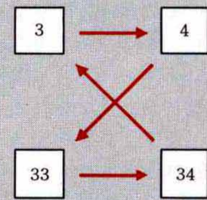


図-10

魔方陣

神亀(しんき)の背にあった模様を使って書いた落書きである。これは白丸は奇数を，赤丸は偶数を表わし，図-2に示したように1から9までの数を3行3列に並べて，横の各行，縦の各列，2本の対角線のおのおのの和が等しくなるようにしてある。図-2にあげた方陣は三次の方陣であるが，これは次のようにしてつくることができる。すなわち，図-3のように，1から9までの数を配列し，赤い正方形のわくの外に出ている数は，その数を含んでいるわくを切り離し，平行移動によって赤いわくに重ねた位置に移せばよい。次数が3より大きくなると作り方はいろいろあるが，ここではわかりやすい並べ方だけを紹介しておく。上にあげた三次の方陣の作り方は，三次に限らず五次・七次などの奇方陣に対してそのまま適用できるものである。

また，四次・六次などの偶方陣では，その偶数が4の倍数であるかないかによって作り方が異なってくる。図-4は四次の方陣を示しているが，これはまず，図-5のように1から16までの数を自然な順序に書き並べ，中央の4個と四隅(すみ)にある数をそのままとし，残りの数を中心に関して点対称な位置に移すことによってつくられる。一般に，4の倍数の次数をもつ方陣は，これと同じようにしてつくることができる(図-6参照)。

それに対して，4の倍数でない偶方陣の場合には，その作り方はやや複雑であるが，例を六次の方陣(図-7)にとれば，次のようになる。まず，図-8のように1から36までの数を自然な順序に書き並べ，2本の対角線上にある数をそのままとし，残りの数を中心に関して点対称な位置にある4個の数の組(2,5,32,35)，(3,4,33,34)，(7,12,25,30)，(9,10,27,28)，(13,18,19,24)，(14,17,20,23)に分け，2, 9, 13を含む組には図-9に示したような数の置き換えを，残りの3, 7, 14を含む組には図-10に示したような数の置き換えを行なえばよい。この作り方は，10,14,……などの偶方陣にも適用できる。〔菊池兵一〕

まほうびん　**【魔法瓶】**　飲食品を保温・保冷するための容器。19世紀末にバインホルトにより発明され，その後デュワーによって改良されたので，デュワーびんともいう。主として液体用で，広口と狭口があり，首のない広口のものは一般にジャーとよび，御飯・アイスクリームなど固形物に用いる。対流・熱伝導を防ぐために，中びんはガラス壁を二重にしてその間を真空にし，二重壁の内面を銀めっきしてある。品質・保温能力については，JISでサイズ別に24時間後の温度が規定されている。近年では二重ガラスびんの代わりに，プラスチック製やステンレス製もあるが，保温効果はやや劣る。〔船石清香〕

マホガニー　[mahogany]　双子葉植物・センダン科。フロリダから西インド諸島に自生する常緑高木で，高さ30m。葉は4～10枚の卵状披針(ひしん)形の小葉からなる偶数羽状複葉で，互生する。6～8月，直径1cmの白色5弁花を総状に葉腋(ようえき)または枝につけ，少したれ下がる。果実は長さ10cmの卵円形で，中に径約5cmで翼のある種子を入れる。材はかたくて美しい木理があり，光沢があって燃えにくいので，高級家具材として珍重される。

マホメット　[Mahomet]　(570ごろ～632)　イスラム教の創始者。正しくはムハンマドといい，〈讃(たた)えられた者〉を意味する。父をアブドーアッラー，母をアーミナとして，メッカのクライシュ族のハーシム家に生まれた。彼の誕生のとき，父はすでになく，母も彼が6歳のとき死去し，以後叔父(おじ)アブーーターリブに養育された。25歳のころ富裕な寡婦ハディージャと結婚し，商人としての第一歩を踏み出し，かなりの成功を収めた。彼はゆとりのある生活から時おりメッカの喧噪(けんそう)を避け，瞑想(めいそう)生活に親しむようになったが，このころから不思議な経験をしはじめ，これをアッラー*の召命と解し，伝道を開始した。彼の新宗教運動に対する迫害のため，622年少数の信徒とともにメディナに移住した。これをヘジラ*とよび，イスラム紀元の元年とされる。メディナでは宗教主権のみならず，政治主権の確立を図ると同時に，メッカに対して戦いをいどみ，数度の会戦ののち，630年メッカ無血征服に成功し，彼の死のころまでにはほぼすべてのアラブを統一していた。

彼の業績は，その預言者・政治家としての才能により新宗教運動を通し，それまでは部族を最高単位として生活していたアラブに民族意識を与え，以後の拡大の礎を築いたことにある。〔牧野信也〕

マホメットれき　**【マホメット暦】**　⇨イスラム暦

まぼや　**【真海鞘】**　原索動物・尾索綱・ピウラ科。かたい皮状の外皮をかぶったホヤ。体は大形で，高さ150mm，直径100mmに達し，上方は太くて下方がやや細く，下端

で岩石などに付着する。色は赤く，乳頭状突起が一面に見られるが，その突起の大小は，個体変異が激しい。白色の個体もときどき見られる。入水管・出水管は体の前端に開く。鰓嚢(さいのう)は左右にそれぞれ16～18のひだをもつ。日本各地の海岸岩礁地に普通に見られるが，東北・北海道では特に多産し，筋肉・内臓などを生のまま酢につけて食べる。〔向井　宏〕

ままこな　【飯子菜】　双子葉植物・ゴマノハグサ科。山地にはえる半寄生の一年草。高さ30～50cmで，全草に毛がある。葉は長さ3～6cm，幅1～2.5cmの卵形ないし広披針(こうひしん)形で対生する。6～7月，長さ1.6～1.8cmの紅色の唇形(しんけい)花を枝先に数個つけ，唇部には2個の白点がある。包葉は狭卵形で先がとがる。近縁のミヤマママコナは唇部の点が黄色で，包葉は鈍頭。

ままのかわ　【ままの川】　地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。19世紀初め，作詞は京都の宮腰夢蝶(むちょう)，作曲は松野検校(けんぎょう)と菊岡検校。前唄(まえうた)・手事・後唄(あとうた)の形式による手事物*であるが，唄の旋律も手がこんでいる。義太夫節(ぎだゆうぶし)《壺坂霊験記*(つぼさかれいげんき)》では，盲人の沢市にこの地歌から，〈夢が浮世か，浮世が夢か〉〈憂(う)きが情か情が憂きか〉などと歌わせている。なお，まま(儘)の川とは，なりゆきに任せるの意で，遊女のあきらめを示している。〔徳丸吉彦〕

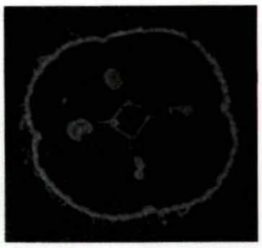
マーマレード　[marmalade]　柑橘(かんきつ)類の細片(おもに果皮)に砂糖を加えて煮たゼリー状食品。元来はマルメロ*という果実でつくったので，この名がある。ナツミカン・ユズ・ダイダイ・グレープフルーツなどの果皮・果汁(かじゅう)からつくる。果皮に含まれるペクチンによってとろりとさせるが，不足する場合はペクチンパウダーで補う。ジャム*と同様に用いられるが，わずかに酸味と苦味がある。このためわが国での消費は伸びなかったが，最近苦味のないものもつくられている。〔佐藤友太郎〕

まみじろ　【眉白】　鳥類・ヒタキ科。全長22～25cmで，ツグミと同大。雄は全体に黒色で，白色の目だつ眉線(びせん)がある。雌は全体にかっ色。北海道・本州の平地から亜高山帯の暗い森林を好んで繁殖する夏鳥。さえずりは〈チョボチィー，チョボチィー〉と聞こえる。

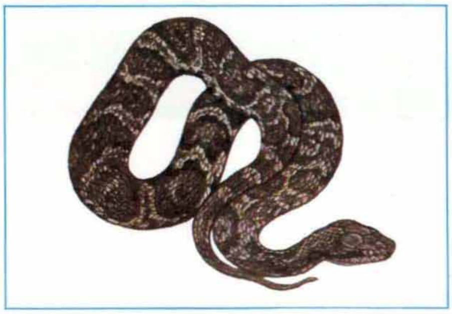
まみずくらげ　【真水水母】　腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・マミズクラゲ科。世界の温帯・亜熱帯地方に広く分布する淡水のクラゲ。日本では第2次世界大戦後にはじめて見いだされたため，人為的に持ち込まれたと考えられている。傘(かさ)の直径1cm前後。晩夏から秋にかけて，短期間，池・水槽(すいそう)・井戸などの停滞した小水域に多数出現し，多いときは水が乳白色になるとさえいわれている。しかし，出現する機構はよく知られておらず，前年に大発生した



マミジロ



マミズクラゲ



マムシ

池でも，翌年はまったくみられないことも多い。ポリプは小形で1mm前後のため発見しにくい。〔向井　宏〕

まみやかいきょう　【間宮海峡】　アジア大陸とサハリン(樺太(からふと))との間の海峡。タタール海峡・韃靼(だったん)海峡ともいう。南北の長さ約852km。最狭部は幅7kmで，アムール川(黒龍江(こくりゅうこう))の運んだ土砂の堆積(たいせき)でせばまり，冬の凍結時(11～4月間)には氷上歩行が可能となる。サハリンは江戸時代末まで島であるか，シベリアと陸続きであるかが判明しなかったが，1808(文化5)～1809年に間宮林蔵*が探検し，大陸とは海峡によって隔てられていることを発見，ジーボルト*は林蔵の功績をたたえて，その著《ニッポン》でこの海峡を〈マミヤセト〉と命名した。〔山口恵一郎〕

まみやみちお　【間宮芳生】　(1929～　)　作曲家。北海道の生まれ。幼いころからピアノを学び，1948年(昭和23)東京音楽学校に入学し池内友次郎に作曲を師事した。在学中に毎日音楽コンクールに入賞して注目を集めた。1952年に同校を卒業し，1958年には林光や外山雄三(とやまゆうぞう)らとともに〈山羊(やぎ)の会〉を結成して本格的な創作活動にはいった。〈山羊の会〉は新しい社会主義リアリズムの路線をめざしたものであるが，間宮は，民謡など日本の伝統的な音楽に強い関心をもち，1958年には画期的な《混声合唱のためのコンポジション》を発表した。この作品は，日本民謡の囃子詞(はやしことば)を素材としたもので，同年の毎日音楽賞と芸術祭奨励賞を受賞した。以後，日本の伝統音楽の語法と思想に基づきながら，伝統と現代の接点を求め続け，ユニークな作品を次々に発表している。代表作はオペラ《日本猿(にほんざる)スキトオリメ》(1965)，《オーケストラのための二つのタブロー》(1965)など。〔船山　隆〕

まみやりんぞう　【間宮林蔵】　(1775～1844)　江戸後期の探検家。常陸(ひたち)(茨城県)筑波(つくば)郡谷井田村の農家の生まれ。成人して測量学を学び，幕府に仕えた。1800年(寛政12)以後蝦夷地(えぞち)御用御雇となって蝦夷地の測量に従事。ついで1808年(文化5)サハリン(樺太(からふと))の探検におもむいて西海岸を小船で北上し，さらに原住民の船に便乗して海峡を渡ってアムール川(黒龍江(こくりゅうこう))をさかのぼり，原住民の朝貢を受けに出張してきた満州の官吏に面会した。これによっていままでユーラシア大陸の陸続きであるといわれていたサハリンが島であることをはじめて確認した。この海峡はジーボルト*によって〈マミヤセト〉の名で世界に紹介された。《東韃(とうたつ)紀行》《北蝦夷図説》などの著書がある。〔大崎　晃〕

まむし　【蝮】　爬虫(はちゅう)類・クサリヘビ科・マムシ亜科。日本に産する毒ヘビの一種で，北海道から本州・四国・九州のほか，朝鮮・シベリア・中国から中央アジアを経てヨーロッパ東部まで広く分布する。体長60～70cmで，尾はその1/9～1/5で短い。頭部は長三角形で，吻端(ふんたん)はやや角張る。瞳孔(どうこう)は縦形で，明るい場所では細く閉じている。鼻孔と目の間にはピット(頰窩(きょうか))があり，えさになる動物の体温など一定の温度を感じる。平地から山地の渓流(けいりゅう)の近く，湿度の高い竹林・水田のあぜ道などから，比較的乾燥した耕地や川原にもすむ。本種の特徴は，三角形の頭部と短い尾および斑紋(はんもん)で，灰かっ色または暗かっ色地に，黒かっ色の銭形斑紋が頭胴部から尾部にかけて20個ほど並ぶ。目の後方から頸部(けいぶ)に至る幅広い黒条も他の日本産ヘビとの区別点である。可動管牙(かんが)をもち，すばやい動作で攻撃するが，飛びつく距離は15cmくらい。毒は強いが量が少なく致命的ではない。しかし咬傷(こうしょう)箇所によっては危険。卵胎性で，秋に5～12匹を総排泄腔(そうはいせつこう)(肛門(こうもん)部)から産む。〔松井孝爾〕

まむしぐさ　【蝮蛇草】　単子葉植物・サトイモ科。関東以西の山林の陰地に自生する多年草。地下茎は扁球(へんきゅう)形で，多くの根を出す。葉は2枚で長楕円(ちょうだえん)形で先がとがる小葉5～13枚からなる複葉。

2枚の葉の間から長さ約50cmの花茎を伸ばし，長さ9～15cmの淡緑色に白または紫色のすじのある独特の形の仏炎包がつき，中に長さ6～7cmの肉穂花序をつける。雌雄異株。果実は秋，トウモロコシの果穂のようになり，赤熟する。本種の仲間は熱帯から亜熱帯に広く分布し，日本には約40種が知られる。ウラシマソウは肉穂花序の先端が長く伸び，しだいに細くなって先は下垂し，つり糸をたれているように見える。ミミガタテンナンショウは仏炎包の下部が広がって耳形となる。ヒトツバテンナンショウは5～9枚の小葉からなる葉が1枚あり，仏炎包の下部に〈へ〉の字形の紫斑(しはん)がある。〔加藤僖重〕

マムルークちょう　【マムルーク朝】　エジプト，シリアを支配したイスラム王朝(1250～1517)。アイユーブ朝はトルコ人奴隷(マムルーク)を購入して養成し，親衛隊に編成していたが，のちにこれが軍閥化してスルタンの廃立を自由にするようになり，ついには政権を奪ったのでマムルーク朝とよばれる。王朝の支配の時代は前後2期に分かれる。1258年，アッバス朝が滅びたときは亡命したカリフの遺族を保護し，また，首都カイロはバグダットに代わってイスラム文化の中心地となった。オスマン-トルコ帝国に滅ぼされた。〔斎藤淑子〕

まむろがわおんど　【真室川音頭】　山形県の民謡。大正以来，北海道・サハリン(樺太(からふと))で歌われていた《ナット節》が，昭和初期，真室川町に飛行場建設のため集まった人夫によって伝えられ，編曲されてできた新しい民謡とされている。第2次世界大戦後レコード化されてヒットした。七五調の歌詞とはねるようなリズムが特徴である。

マームーン　[al-Maʼmūn]　(786～833)　アッバス朝第7代カリフ。在位813～833年。好学の君主で，ギリシア学問のアラビア語翻訳などを奨励したため，イスラム学術活動はめざましく発達した。しかし，その治世のころから，東方イラン方面に独立王朝が続出し，アッバス朝は衰退に向かった。

まめ　【肉刺】　水ぶくれの一種。圧迫腫(しゅ)ともいう。機械的刺激を受けた部分が，はじめ充血して痛み，次いで腫(は)れて大豆大ぐらいの水疱(すいほう)や血疱(水疱の中に血液が混ざっているもの)となったもので，表皮がむけると痛みはいっそう激烈となる。機械的刺激を避け，水疱のあるものは消毒した針を刺して水を出し，マーキュロなどを塗布しておく。

まめ　【豆】　双子葉植物・マメ科の一年生ないし二年生草本，あるいはその果実。マメ科は世界に13,000種，日本に118種知られており，草本や木本でつる性のものが多い。根に根粒菌が共生して空中窒素を固定して土を肥やす性質をもつため，古くから世界的に利用されている。通常羽状複葉。



マムシグサ　(左)マムシグサ　(右)ヒトツバテンナンショウ



マメジカ

花は左右相称の5弁花で旗弁・翼弁・舟弁に分けられる。子房上位，1花柱，種子には胚乳(はいにゅう)がなく，子葉は厚ぼったい。種子はデンプン・タンパク質・脂肪などに富み，食用として栽培されるものも多く，重要な穀類である。代表的なものにアズキ・インゲンマメ・エンドウ・ソラマメ・ダイズ・ササゲ・ナタマメ・ナンキンマメなどがある。これらは種子を食すが，サヤインゲン・サヤエンドウのようにさやが未熟で多肉質のときに食すものもある。完熟した種実を乾燥したものは煮豆・いり豆や菓子の原料などにしたり，油をとったりし，ダイズはみそ・しょうゆ・豆腐などの原料となる。また家畜の飼料や，種実のできるまえに畑にすきこんで緑肥として利用することもある。〔加藤僖重〕

まめいたぎん　【豆板銀】　江戸時代の銀貨の一種。丁銀とともに秤量(ひょうりょう)貨幣で，形は不整だがだいたい円形なので小玉銀などと別称され，京都では小粒(こつぶ)ともよばれた。目方も5匁(約17g)内外で一定せず，10匁以上からのものや1匁未満のものもあり，最小のものを露銀ともいった。品位はその時期の丁銀と等しく，表面には鋳造役人大黒常是の極印の一部を押した。銀座や本両替(信用・資力の大きい両替商)で一定の目方を紙包みにするとき丁銀の目方を補い，また小額の取引に用いられた。〔高崎徳次〕

まめがき　【豆柿】　双子葉植物・カキノキ科。中国原産の落葉高木で北地に適し，日本でも古くから栽培されている。全体にカキに似るが，葉はカキよりも細く，花も果実も小さい。雌雄異花で，5～6月ごろに新枝の葉腋(ようえき)に黄白色の小花をつける。花冠はつぼ状で先は3～5浅裂し，裂片は反曲する。果実は径1～2cmの球形の液果で，秋に黄熟してやや渋味がある。生食または干し柿にする。また，青柿からは柿渋をとる。〔横井朝子〕

まめこがね　【豆金亀子】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・コガネムシ科。体長9～12mm，体幅5～7mm。体は黒緑色で金属光沢がある。頭部は小さく，触角は短く太い。鞘翅の大部分は黄かっ色で，基部が広く，後方が狭く丸みをおびる。脚は短く太く，前脚の脛節(けいせつ)外側に2個の歯状突起がある。日本全国に分布するきわめて普通な種で，成虫はマメ類・ブドウ・ヤナギなどの葉を食害する。幼虫は円筒形で腹側に湾曲し，頭部はかっ色，他は乳白色で，全体にかっ色毛がはえており，地中で腐植質や多種の植物の根などを食べる。土中で幼虫態で越冬し，年1化であるが，寒地では1世代に2年かかる。本種は北アメリカに侵入して土着し，果樹や農作物などの大害虫となり，ジャパニーズ-ビートルとよばれており，アメリカ合衆国では本種の駆除のために毎年多額の支出をしいられているという〔鈴木邦雄〕

まめじか　【豆鹿】　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・マメジカ科。ネズミジカともいう。頭胴長50cm，尾長2.5～5cm，肩高25～30cm。体は赤かっ色の地に白斑(はくはん)がある。原始的なシカ類で，足には4本の指があり，中央の2本が地につく。上顎(じょうがく)には門歯がないが，犬歯は雄では長い牙(きば)になっており，角は雌雄ともにない。インド・セイロンの森林にすみ，岩の割れ目や大きな石の間などに潜む。非常に臆病(おくびょう)であるが，おとなしく，よくなれる。

まめぞうむし　【豆象鼻虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・マメゾウムシ科の総称。体長が5mmをこす種類は少なく，体長1.5mm内外の微小種もある。卵形で，鞘翅は短く，腹部末端が露出する。頭部は下口式で，複眼は大きく，触角は複眼の前方から生じる。脚は短く，後脚の腿節(たいせつ)は太い。腹部は太く，腹板は5節。全世界から900種以上が知られ，熱帯地方に種類が多く，日本からは約20種が知られる。大部分の種類はマメ科植物の種子を食害するが，南アメリカにはヤシ類の種子内で生活するものが知られる。成虫には花に集まるものもある。卵は豆の莢(さや)や種子などの表面に産下される。幼虫は過変態を行ない，第1齢幼虫はよく発達した脚をもち，かたい種子中に突入するのに適した有歯の胸板をもつ。種子中に潜入後1回の脱皮を経て蠕虫(ぜんちゅう)型となり，無脚・無眼となる。マメ科植物に寄生するため，食用豆類の大害虫が多く，またこれらの豆類とともに全世界的に分布

を拡大した種類が多い。日本ではアズキゾウムシ*・エンドウゾウムシ*・ソラマメゾウムシ*の3種が最も重要な種類である。マメゾウムシ科は，頭部がいくぶん口吻(こうふん)状を呈するため一見ゾウムシ類に似るが，むしろカミキリムシ科やハムシ科に近縁で，それら2科とともにハムシ上科を構成する。〔鈴木邦雄〕

まめだおし【豆倒】双子葉植物・ヒルガオ科。一年生のつる性寄生性植物で，アジア東部からオーストラリアにかけて分布する。茎は細く，左巻きに寄主植物にからみつき，寄生根によって養分を奪う。葉は退化して鱗片(りんぺん)状。夏から秋にかけて白色の先が5裂した小さい鐘形花を密生する。花柱は2本で細長い。果実は平たい球形で，種子は径1.5mmほど。

まめたにし【豆田螺】軟体動物・腹足類・マメタニシ科。殻高(かくこう)1.3cm,殻径0.7cmの巻き貝。殻(から)は卵形で，やや薄質，淡黄色。螺層(らそう)は5階で数本の螺肋(らろく)を巡らす。殻口は卵形。蓋(ふた)は石灰質で卵形，外側に共心状の成長脈がある。本州・九州・朝鮮半島・中国東北部に広く分布し，湖沼の沿岸や池・溝(みぞ)にすむ。産卵期は春から夏で，透明な寒天質の膜におおわれた細長い扁平(へんぺい)な卵塊を他物に付着させる。卵は3か月くらいで成貝となる。成貝は肝吸虫*(肝臓ジストマ)の第1中間宿主である。

まめづた【豆蔦】シダ植物・ウラボシ科。岩上や樹幹に着生する常緑多年生シダ。根茎は細いが長く伸び，多数の小さな光沢のある葉をつける。葉には栄養葉と胞子葉の別がある。栄養葉は丸く長さ1～2cm，柄は1～5mm。胞子葉は長さ2～5cmのへら形で，胞子嚢(ほうしのう)群は中央脈に沿って並び，胞膜はない。

まめのしんくいが【豆心喰蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ハマキガ科。翅(はね)を広げた長さ12～14mm。前翅は暗かっ色で黒紋と黄紋が散在し，前縁部には黄色と黒色の短線があり，後縁近くに3個の黒点がある。後翅は黒色。年1回の発生で成虫は8～9月に出現し，卵をダイズの莢(さや)に産み，幼虫はダイズの種実を食害する。幼虫は老熟すると莢に穴をあけて地上に落ち，地中で繭をつくり，前蛹(ぜんよう)で越冬する。日本全土に分布し，北海道に被害が大きい。国外では中国・朝鮮・サハリン(樺太(からふと))などに分布する。幼虫はマメサヤムシ・マメシンクイムシといわれる。〔多々内修〕

まめはんみょう【豆斑蝥】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・マメハンミョウ科。体長12～17mm。体は黒色で，頭部の大部分と触角の基部数節は赤色。前胸背板中央および鞘翅の会合部と中央に灰白色の縦条があるが，寒地産のものは鞘翅の縦条が不明瞭(ふめいりょう)になる。本州・四国・九州に分布し，年1回の発生。成虫は7月中旬ごろから出現



豆　本

して，アズキ・ダイズ・インゲンマメなどのマメ類の葉を食害するが，その他の野菜や雑草なども食べる。幼虫はイナゴなどバッタ類の卵塊に寄生する。幼虫は過変態を行ない，第1齢幼虫は尾端に1対の長毛があって活発に動きまわり，近くの土中にあるバッタ類の卵塊に達すると直ちに脱皮してうじ状の幼虫に変わり，卵塊を食べて生育する。本種の成虫を乾燥させたものは局方薬のカンタリスで，カンタリジンを含み，皮膚刺激薬として用いられる。マメハンミョウ類は日本には数種が産するのみであるが，近年この類を近縁のツチハンミョウ科に含めて扱う研究者もある。〔鈴木邦雄〕

まめほん【豆本】非常に小さな形の本のこと。外国での豆本を意味するビジュブック・ミジットブック・ミニアチュアブックなどは，3cm以下のものをさし，4cmをこすものはほとんどない。

わが国でも，名古屋豆本・陸奥(みちのく)豆本・越前(えちぜん)豆本・越後豆本・神奈川豆本など，〈豆本〉を冠した本がいろいろ刊行されているが，そのほとんどは豆本の名にふさわしくなく，むしろ小形本というべきである。第2次世界大戦前の世界一の豆本は，1932年アメリカ合衆国で刊行されたE.F.トンプソン訳の《ルバイヤート*》で，縦5mm，横7mmである。1958年には，ドイツ，マインツ市のグーテンベルク博物館から《主の祈り》《愛のことば》《オリンピック憲章》，リンカーンの《自由宣言》の超豆本(縦横とも5.5mm)が現われた。しかし，その後わが国の凸版(とっぱん)印刷(株)や大日本印刷(株)が開発したマイクロブック《小倉百人一首》(縦4.5mm，横3.5mm)や《竹取物語》(縦横とも3.5mm)はそれらをはるかにしのぐものである。これらはいずれも電子工学の落とし子といえる。〔庄司浅水〕

まめまき【豆まき】⇨節分

マーモセット　⇨キヌザル

マーモット［marmot］哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・リス科。アルプスマーモットともいう。頭胴長50cm，尾長10cmほど。体は赤黄色で，頭頂と背は灰色がかる。アルプスとカルパート山地に分布する。穴を掘り，家族ごとに各個穴をもち，群れで生活する。冬は深い所にはいって冬眠する。穴の入り口にある盛り土の上で1頭が絶えず見張りをしている。食物は緑色植物。

まやく【麻薬】⇨次ページ

まやくちゅうどく【麻薬中毒】⇨麻薬

マヤコフスキー［Vladimir Vladimirovich Mayakovskii］(1893～1930) ソ連の詩人。グルジアの生まれ。父の死後モスクワに移り，若くして革命運動に参加。一時美術学校にはいるが，詩才に目ざめて〈未来派*〉に加わり，大胆な手法と荒々しい叙情で長詩《ズボンをはいた雲*》《背骨のフリュート》などを発表，新境地を開いた。ロシア革命後は時代の当面する問題を題材とし，戯曲《ミステリア-ブーフ》，長詩《150,000,000》など問題作を発表。1930年代にかけての革命再編成期の混乱の中で，恋の痛手もあって自殺したが，いまなおソ連の大詩人としての名声はゆるがない。ほかに，自伝的長詩《ぼくは愛する》やレーニンの死を悼(いた)む長詩《ウラジーミル-イリイッチ-レーニン》，戯曲《南京虫(ナンキンむし)》《風呂(ふろ)》などがある。〔川端香男里〕

まやさん【摩耶山】神戸(こうべ)市灘(なだ)区の北側にそびえる山で，六甲山地の一部。標高699m。南側の急斜面にケーブルカーとロープウエー，北側に奥摩耶ドライブウエーが通じている。付近には，ブッダの母摩耶夫人を祭った天上寺や観光牧場・森林公園・ゴルフ場などがあり，市民の行楽地となっている。山頂からの神戸市街・神戸港の眺望(ちょうぼう)，特に夜景が美しい。

マヤぶんめい【マヤ文明】インカ*・アステカ*と並ぶ新大陸の代表的古代文明。ユカタン半島を核に，現在のメキシコ東部，グアテマラ，イギリス領ホンジュラス，ホンジュラス東部のいわゆるマヤ地帯に開花した。マヤ族の起源は不詳であるが，メキシコ中央高原に興亡した諸文明の影響を受けて，4～13世紀に壮麗な石造建築と正確な天文学・数学に代表される知性豊かな独創的文化を創出した。低地の熱帯雨林地帯をも文明圏に包摂したことは，インカ・アステカの高地文明と異なるマヤ文明の一大特色といえよう。

新大陸にはBC2000年ごろよりトウモロコシ栽培を基盤とする農耕文化が開花したが，ユカタン半島にもBC1000年ごろより農耕文化が興り，メキシコ中央部のオルメカ文化を受容して，4～10世紀に独自の文明圏を形成した。〈マヤ古帝国〉とよばれるこの時代の文化的特色は，ピラミッド・疑似アーチ・神殿などの建造物，ジャガー神の石彫・神聖文字，彩色豊かな土器，高度な天文学・数学などにあった。中でも天文学は太陽・月の観測に基づき，1年を365日と算出するなど，旧大陸の古代文明に比肩しうる高度な段階に達し，数学においても早くからゼロの概念が発見されていた。マヤ古文明は，800年ごろ最盛期を迎えるが，10世紀にはいり急速に衰微した。

10世紀末，西方よりユカタン地方に侵入

→144ページ

麻　薬

微量で著しい鎮痛・鎮咳(ちんがい)作用を現わすため，医薬品もしくはその原料として必要不可欠なものであって，医療上，適切に使用される限り，比類のないすぐれた医薬品として人類の福祉に役だっている。しかしながら，それと同時に麻薬はきわめて大きな快楽感を人に与えるため，ひとたび快楽感のみを追い求めて悪用あるいは乱用するときは，特異な副作用が現われ，単に個人の問題でなく民族の興亡を左右し，ひいては世界の平和や人類の福祉に重大な影響を与えるものであることは，阿片(あへん)戦争*の史実によっても明らかである。

【麻薬の種類と薬理作用】麻薬は，次の4種類に大別できる。①ケシからつくられるあへんアルカロイド系麻薬：あへん・モルヒネ・コデイン・ヘロイン(ジアセチルモルヒネ)など，②コカ葉からつくられるコカアルカロイド系麻薬：コカイン・エクゴニンなど，③化学合成によってつくられる合成麻薬：ペチジン・メサドン・レボルファノール・ジメチルシアンブテンなど，④大麻(アサおよび大麻樹脂などその製品。ただし，アサの成熟した茎およびその製品を除く)。〈モルヒネ〉あへんアルカロイド系麻薬の代表的なもので，通常，塩酸モルヒネとして使用される。塩酸モルヒネは，白色の結晶または結晶性の粉末で，においはなく，味は苦い。主作用は，中枢神経系に対する鎮痛作用であるが，末梢(まっしょう)臓器，特に腸管に対する作用も臨床に用いられる。塩酸モルヒネの常用量(1回5～10mg)を皮下注射すると睡眠にはいりやすい状態になるが，痛覚以外の知覚は正常である。すなわち，鎮痛作用はきわめて選択的であり，あらゆる疼痛(とうつう)を抑制する。〈コデイン〉あへん中に約1％含有されているが，多くはモルヒネから合成され，通常，リン酸コデイン・リン酸ジヒドロコデインとして使用される。これらは，白色ないし帯黄白色の結晶または結晶性の粉末で，においはなく，味は苦い。鎮痛作用は，モルヒネの1/6～1/10であるが鎮咳作用が強いので，主として鎮咳剤として使用される。〈ヘロイン(ジアセチルモルヒネおよびその塩類)〉ヘロインは，モルヒネから合成される白色結晶性の粉末で，においはなく，味は苦い。また，水によくとける。ヘロインの鎮痛作用は，モルヒネより速くて強いが，副作用が非常に大きいため，わが国はもとより世界のほとんどの国が，輸入・輸出・製造・製剤・譲渡・譲受・交付・施用・所持・廃棄などの行為を禁止している。1963年(昭和38)をピークとして大きな社会問題となったわが国のいわゆる麻薬禍時代における麻薬中毒者のほとんどが，このヘロインの使用によるものであった。〈コカイン〉南アメリカ原産のコカノキの葉に含まれるアルカロイドの一種。コカノキは，わが国では研究用として温室でわずかに栽培されているのみであるが，医薬品原料の粗製コカインは，ペルーから隔年ごとに100～200kgが輸入され，通常，塩酸コカインとして使用されている。塩酸コカインは，白色の結晶または結晶性粉末で，においはほとんどなく，味は苦い。知覚神経末梢をすみやかに麻痺(まひ)させるので，局所麻酔剤として5～10％溶液が歯科・眼科・耳鼻咽喉(いんこう)科の領域で使用されている。〈合成麻薬〉麻薬取締法で59品目(1970年4月現在)が指定されており，ペチジン型・メサドン型・モルヒナン型・アミノブテン型・ヘキサメチレンイミン型など8型に分類されている。現在，わが国で市販されているものは，ペチジン型のペチジン，モルヒナン型のレボルファノール，アミノブテン型のジメチルシアンブテンなど3種類の製剤である。〈大麻〉大麻の麻酔成分は葉や花穂などから分泌される樹脂に含まれ，主成分はカンナビノール・テトラヒドロカンナビノール・カンナビジオールである。医薬品としては現在は製造されていない。

【ケシの起源と栽培の歴史】ケシの最初の文献はホメロスの叙事詩《オデュッセイア*》(紀元前9世紀ごろ)で，その第4章にあへんがもたらす陶酔感がうたわれている。また，スイスのジュネーブ湖で発見された新石器時代(紀元前3世紀ごろ)の湖上住居跡で，ケシ殻(がら)や種子が発見されているので，いまからおよそ5,000年以前に，この地方でケシが栽培されていたものと推定されている。わが国にケシが渡来したのは明らかでないが，安土桃山時代の末期に発行された曲直瀬(まなせ)道三の《宜禁本草》に阿芙蓉(あふよう)(あへん)の製法についての記載がある。昔，あへんを〈津軽〉とよんでいたことから，青森県がわが国における最初の渡来地といわれている。わが国では，明治の初期から山梨県でケシ栽培が行なわれ，市場では甲州あへんの名で有名であった。第2次世界大戦後，ポツダム省令によってケシの栽培は全面的に禁止されていたが，1954年のあへん法の制定によって国内栽培が再開された。栽培は，大阪府と千葉・長野・愛知・三重・岐阜・石川・滋賀・岡山・香川の各県で行なわれていたが，現在では和歌山県・岡山県で栽培されているにすぎない。

【あへんの生産と消費】わが国で使用されている医療用麻薬は，あへんアルカロイド系麻薬が大部分を占めているが，1969年における原料あへんの消費量は約57tで，国内生産量は非常に少ないので，大部分がインド・トルコから輸入されている。1970年における世界のおもなあへん生産国および生産量は，インド794t，ソ連226t，イラン77t，トルコ51tである(国際連合麻薬統計資料による)。

【麻薬中毒の概念とその症状】一般に，麻薬は，これを反復使用すると耐薬性が上昇するとともに，習慣性が生じ，その使用を中断すると，発汗・あくび・頭痛・悪寒(おかん)・下痢・不眠・嘔吐(おうと)・痙攣(けいれん)など，激しい苦痛を伴う禁断症状*を発現させる特異な副作用がある。したがって，一般に麻薬中毒はこれら3種の現象を含むものといわれていたが，耐薬性の上昇が使用量の上で証明されなかった例や，麻薬の長期大量使用者に禁断症状が認められなかった例もあって，しだいに習慣性が重視されるようになり，今日では〈麻薬に対する精神的身体的欲求を生じ，これをみずから抑制することが困難な状態，すなわち麻薬に対する精神的身体的依存の状態をいい，必ずしも自覚的または他覚的な禁断症状が認められることを要するものではない〉という概念が示されている。〈ヘロイン中毒〉ヘロイン中毒者がヘロインの使用を約10時間中断すると禁断症状が現われ，70時間前後で最高潮に達し，およそ5～7日で消失する。ヘロイン中毒者は，この苦しみに耐えかねてヘロインを求める。ヘロイン中毒者がヘロインを断ち切ることができないのは快楽感を求めるだけでなく，むしろ禁断症状の苦しみからのがれるためである。最初はちょっとした好奇心から使いはじめたのが，最後にはひたすらヘロインを追い求めるようになり，加速度的に身心の破滅へと転落していく。〈モルヒネ中毒〉モルヒネ中毒者が，塩酸モルヒネの使用を中断すると約30時間で禁断症状が現われ，40時間前後で最高潮に達し，以後しだいに減弱する。塩酸モルヒネは医療に用いられるが，胃痙攣・胆石など疼痛性疾患の治療がモルヒネ中毒の動機となる場合もあるので注意を要する。〈コカイン中毒〉コカイン中毒の特徴は，皮膚や粘膜に全身蟻走感(ぎそうかん)や感電感などの幻覚が生じたり，追い駆けられたりする強迫妄想(もうそう)が生じ，ときには発作的な狂暴性を発揮する。しかし，わが国におけるコカイン中毒の事例は非常に少ない。〈大麻中毒〉大麻中毒の禁断症状ははっきりと認められていないが，カンナビノールなどの有害成分が中枢神経系に作用して陶酔から興奮が続き，聴覚が鋭敏となり，また思考が分裂して時間・空間に対する観念が混乱する。ときには幻覚が生じ，不安な衝動を伴う発作を起こして暴力的となり，反社会的な行動に走る状態となる。

【国際法制の沿革と現況】麻薬に対する規制と取り締まりは，人道的見地から全人類

共通の問題として国際的規模のもとに行なわなければ，その目的を達成することはできないので，国際連合を中心として緊密な国際協力が行なわれ，1912年以来多くの条約・協定・議定書が締結され，1961年にはそれらを整理統合して〈麻薬に関する単一条約〉が採択された。わが国はこれらに積極的に加入するとともに，これを国内法に反映して総合的施策の推進を図ってきた。単一条約の特色を要約すれば次のとおりである。①国際協力および統制により，麻薬不正取引の害悪を防止し，麻薬の用途を医療上および学術研究上の目的に制限して，使用の適正を図ること，②ヘロインなど特に危険な薬品の取り締まりを強化すること，③ケシ・あへんのほか，コカノキ・コカ葉についても生産・取引関係の政府機関を設置し，独占的統制を行なうこと，④麻薬の指定および除外は，麻薬委員会が世界保健機関（ＷＨＯ）の勧告に基づいて決定すること，⑤麻薬中毒者の効果的治療のため，適当な施設を設置することが望ましいこと，⑥麻薬の不正取引に対しては，適切な処罰規定を設け，これに対処しなければならないこと，⑦国際交通に従事する船舶または航空機積載の救急目的の麻薬の運搬は，輸出入とは別個のものとみなし，その積載が認められることなどである。

【国内法制の沿革と現況】あへんは，麻薬の原料として，あるいはそれ自体あへん煙として吸飲されるが，明治政府は徳川幕府のあへんに関する禁令をそのまま継承してきびしく取り締まるとともに，1868年（明治1）太政官（だじょうかん）布告第319号によってあへん煙の吸飲を禁止し，さらに〈販売鴉片烟律（あへんえんりつ）〉（1870）を定めてあへん煙の販売・吸飲引誘・房室提供などを禁止した。この規定は，数次の改正を経て〈阿片煙ニ関スル罪〉（刑法136～141条）として存続されている。一方，あへん犯罪に対する刑罰法と並んで医療に使用されるあへんの取り扱い法規も整備された。まず〈生鴉片取扱規則〉（1870）を定め，続いて，〈薬用阿片売買並製造規則〉（1878）を定めて，あへんの国内生産を奨励するとともに外国品購入の道を開いた。モルヒネ・コカインなどに関しては，ハーグ阿片条約を実施するため〈モルヒネ，コカイン及其（そ）ノ塩類ノ取締ニ関スル件〉（1920）内務省令を制定した。その後，第2阿片条約の1929年の発効に伴い，新たに〈麻薬取締規則〉（1930）を制定，麻薬製造の許可制，薬品営業者の麻薬譲渡手続き，容器または被包の記載事項，麻薬中毒者の届け出などについて規制した。この規則は〈旧薬事法〉（1943）が制定されるまで麻薬に関する取り締まり法規として存続した。

第2次世界大戦後，連合国軍から諸種の覚え書きが発せられ，この指令を実施するため〈ポツダム宣言ノ受諾ニ伴ヒ発スル命令ニ関スル件〉（1945）が制定された。これに基づいて，〈塩酸ジアセチルモルヒネ及其ノ製剤ノ所有等ノ禁止及没収ニ関スル件〉〈麻薬原料植物ノ栽培，麻薬ノ製造，輸入及輸出等禁止ニ関スル件〉〈特殊物件中ノ麻薬ノ保管及受払ニ関スル件〉〈麻薬取締規則〉〈麻薬の製造許可に関する覚書〉などの省令が制定された。その後，麻薬に関する法規を整理統合して〈麻薬取締法〉（1948）が制定され，阿片法および前記省令は廃止された。



トルコ種　一貫種　オニゲシ　パパベル-コムタ-ツム

栽培してはいけないもの　ケ シ　栽培してよいもの

この法律では，麻薬取扱者の免許，輸入，製造，製剤，譲渡，譲受，施用，所持，廃棄，帳簿，保管，麻薬中毒者の届け出，行政上の監督，麻薬取締官の職務，麻薬犯罪の捜査のため麻薬取締官が麻薬を譲り受けることができる（いわゆる〈おとり捜査〉）などについて規定しているが，第2次世界大戦直後の，しかも占領下という特殊な事情のもとで制定されたため，1952年4月28日対日講和条約の発効後の実情に添わない点があったので，現行の〈麻薬取締法〉（19

ケシの見分け方

	植えてはいけないケシ	植えてもよいケシ
わが国で実際に栽培されている品種	ソムニフェルム種 一貫種：（花は白色，一重。厚生大臣の許可を受けて，あへん採取用として栽培されているケシの大部分がこれに属する） トルコ種 インド種 園芸変種：一重咲きのほかに，八重咲きがあり，花色は白・赤・桃・紫およびこれらの組み合わせがあり，まちがって植えられていることが多い。 セチゲルム種 わが国にはほとんどない。	ヒナゲシ オニゲシ その他 観賞用として栽培され，一重咲き・八重咲きがあり，花色は白・桃・橙・黄・赤・紫などおよびこれらの組み合わせがある。
特色と見分け方	① 全面にろう質をもっているため，白っぽい緑色をしている。 ② 草たけが大きく1ｍ以上になる。 ③ 茎が太く，しっかりしている。 ④ 無毛あるいはきわめて少ない。 ⑤ 葉は全体に茎の上のほうまでついている。 ⑥ 葉が大きく長楕円形で，まわりの切れ込みが浅い。 ⑦ 葉は無柄で，つけ根が茎を抱き込んでおり，特に茎の上のほうから出ている葉は心臓形で，深く茎を抱いている。	① 緑色をしている。 ② 草たけが低く80～90cm止まりである。 ③ 全草が弱々しい感じである。 ④ 全草に粗毛がはえている。 ⑤ 葉は茎の下方に密生している。 ⑥ 葉は羽状で，深く裂けている。 ⑦ 茎の下方から出ている葉は葉柄をもっている。

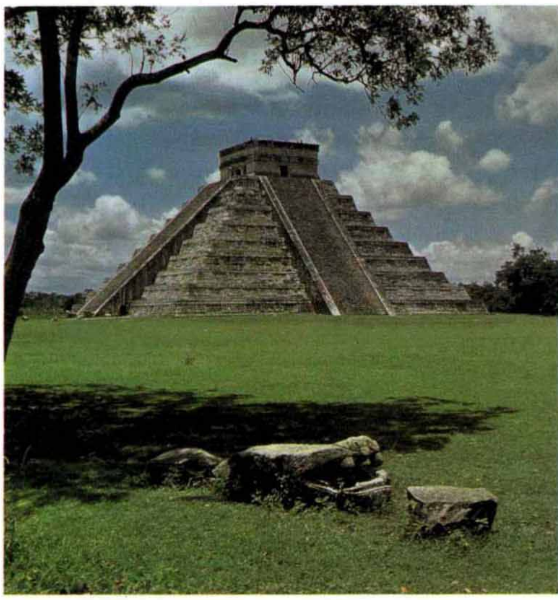
法令別違反人員の年次別推移

	1965	1966	1967	1968	1969	1970	1971
麻薬取締法違反	1090	974	658	361	239	245	229
あへん法違反	902	920	705	1148	377	230	202
大麻取締法違反	259	158	298	410	413	733	717
計	2251	2052	1661	1919	1029	1208	1148

53)が制定された。大麻は麻薬取締規則によって麻薬の取り扱いを受けていたが,〈大麻取締規則〉(1947)で別に規制されることになり,その後,現行の〈大麻取締法〉(1948)が制定された。第2次世界大戦後,連合国軍によってケシの栽培が禁止されたため,あへんの国内在庫量が減少し,医療用麻薬の製造に不足をきたすようになったので,ケシ栽培を復活するため〈あへん法〉(1954)が制定された。

あへん法で栽培が禁止されているケシの種類はパパベル-ソムニフェルム,パパベル-セチゲルムの2種類であるが,あへんアルカロイドを含有するケシ属の新種が発見されれば厚生大臣が追加指定することになる。観賞用あるいは園芸用として栽培が禁止されていないケシの種類には,ヒナゲシ(グビジンソウ)・オニゲシ・チシマヒナゲシ・アルプスゲシ・ツノゲシ・アザミゲシ・ハナビシソウなどがある。

わが国における麻薬乱用の風潮は,第2次世界大戦後の経済的混乱と,これに伴う人心の荒廃,道義心の低下などが温床となり,軍用麻薬の横流れ,大陸から引き揚げた麻薬中毒者などによって,塩酸モルヒネを対象とした麻薬中毒者が根を張り,その数は,戦前と比較して著しい増加を示した。これに着目した国際的な密輸組織によって東南アジアなどからヘロインが密輸され,これが東京・横浜・大阪・神戸(こうべ)・北九州などの大都市周辺の暴力団や売春グループの強固な密売組織にささえられて,その犯罪は巧妙・悪質化し,麻薬取締法違反者数は1963年(麻薬取締法違反送致人員2,571名)をピークとして推移した。このような事態に終止符を打つための抜本的対策として,政府は麻薬取締法の大改正を企図し,麻薬取締法の一部を改正する法律案を提出し,1963年6月21日法律第108号として公布され,同年7月11日から施行された。改正の要点は罰則の強化,麻薬取締態勢の強化,麻薬中毒者の入院措置制度,麻薬中毒者相談員制度などである。この法律改正を契機として厚生省・警察庁・法務省・大蔵省・海上保安庁など関係機関が緊密な連携のもとに取り締まりを強化するとともに,国民各層に対して麻薬禍に関する啓発指導を強力に行なうなど総合的施策が効を奏し,燎原(りょうげん)の火のごとく広がった悲惨な麻薬禍の勢いは,しだいに衰えていった。　〔吉崎三男〕





マヤ文明　(左)マヤ新帝国の首都チチェン-イッツアのカスティヨ(城塞)。スペイン人はカスティヨとよんだが,神殿と考えられる　(右)いまなお約200万のマヤ人がいるが,その伝統的な生活様式はしだいに失われつつある。左はマヤの夫人



繭　(左)カイコ　(中)ヤママユガ　(右)コナガ

したトルテカ族はチチェン-イッツアを首都にマヤ族を支配し,さらにウシュマル・マヤパンの二大都市を糾合して三都市同盟を形成した。ここに先の〈マヤ古帝国〉と区別される〈マヤ新帝国〉が誕生した。新帝国の文化は,マヤ古文明とトルテカ文化の混淆(こんこう)で,9層365段のピラミッド,球技場,蛇神(じゃしん)ケツァルコアトルの像など,トルテカ文化の影響をうかがわせるものが少なくない。新帝国が隆盛する11～13世紀にマヤ古文明も復興するが,かつての壮麗さ・精緻(せいち)さは影を潜め,独創性に乏しく,退廃的色彩が濃くなった。意匠も抽象的で幾何学模様が増大した。新帝国は,国王・貴族・司祭を支配層,農民・商人を平民,奴隷を最下層とする安定した階層社会を形成していたが,各都市間の抗争から内部分裂した。13世紀初頭チチェン-イッツアの覇権(はけん)はマヤパンに奪われ,同市も15世紀中葉衰退し,以後新帝国は18の部族に分かれて抗争をくり返した。16世紀スペイン人の渡来した当時,マヤ文明はすでに衰亡の極にあった。　〔松下　洋〕

まやませいか　【真山青果】　(1878～1948)　劇作家・小説家。本名彬(あきら)。仙台(せんだい)の生まれ。第二高等学校中退後上京し,小栗(おぐり)風葉の門にはいった。1907年(明治40)《南小泉村》で小説家として認められ,《茗荷畑(みょうがばたけ)》など自然主義の短編を発表したが,原稿二重売却事件で文壇を退き,新派の専属劇作家に転進。1924年(大正13)戯曲《玄朴(げんぼく)と長英》で文壇に復し,《平将門(たいらのまさかど)》《江戸城総攻》《明君行状記》《元禄(げんろく)忠臣蔵》など,史実追究に基づく構想雄大な社会悲劇・性格悲劇を発表した。　〔小泉浩一郎〕

まゆ　【眉】　瞼(まぶた)(眼窩(がんか))の上縁にあたるところに弓状にはえている毛。額に汗をかいたときや水がついたとき,目に流れ込むのを防ぎ,また表情を表わすときに大きな役割を果たす。しかし生理的意義ははっきりしない。眉の動きに関係する筋は,前頭筋・眼輪筋・皺眉筋(しゅうびきん)・鼻根筋である。なお,眉の毛の寿命は100日ぐらいで,頭髪の3～5年に比べてかなり短い。

まゆ　【繭】　こん虫の幼虫がさなぎになる際に,外部からの刺激を防ぐために絹糸を吐いてつくる殻(から)。外側に絹糸の繭層があり,内部にはさなぎと脱皮殻がはいっている。しかし,その形状・構造は種によってさまざまで,表面に土砂・枯れ葉などをつける場合も多い。カイコ・ヤママユなどの繭は絹糸腺(けんしせん)からの糸だけからなるが,甲虫のタコゾウムシの繭はマルピーギ管からの分泌物でつくられる。蛹期(ようき)

のない外翅(がいし)類には原則として繭はないが，糸を出して巣をつくるものもある。土の中の小穴で蛹化するものは普通は繭をつくらない。

〔カイコの繭〕狭義にはこの場合をさし，繭層から生糸をとる目的で特に飼育される。簇(まぶし)の中でつくられた繭は，繭をつくる足場となっている毛羽を除去し，正常な繭を選び出す。ふつう１頭が１個の繭をつくるが，ときとして２頭ないし数頭が共同で１個の繭をつくる。これは同功繭とよばれ，不良繭の一種であるが，これから繰った糸を用いれば味のある絹織物ができる。カイコの繭は品種によって形状，繭層の厚薄，構造の粗密，表面のちぢれ，色などが異なり，形状には球形・卵形・楕円(だえん)形・紡錘形・俵形などがある。繭の大きさは１l の容積にはいる数で示し，農家で飼育する実用品種では100粒以下，最近では80粒以下のものもある。繭の全重量を繭重といい，ふつう2.0～2.4g ぐらいである。繭層重の繭重に対する百分率を繭層歩合といい，繭の評価に重要であるが，品種改良の結果向上し，現在では23～25%ぐらいである。１粒の繭からとれる糸の長さを繭糸長といい，実用品種で1,200～1,400mのものが多い。繭からとれる生糸の量を糸量という。

〔赤井　弘〕

まゆずみ　【眉墨】　黛とも書く。眉毛を整えたあと，好みの形に眉を描いたり，眉を濃く見せるために使われる化粧品。現在では鉛筆状のアイブローーペンシルと，粉末をプレスして板状に固めたものとの２種が用いられ，コールドクリームを塗った上に，前者は直接，後者は筆を用いて描く。原料は顔料・色素がほとんどで，墨色・かっ色・グレーの顔料などに粘結剤を加えてつくる。

まゆずみとしろう【黛敏郎】(1929～　)作曲家。神奈川県の生まれ。早くからピアノと作曲に興味をもち，1949年(昭和24)東京音楽学校に入学し，橋本国彦(くにひこ)・池内友次郎・伊福部昭(いふくべあきら)らに師事して作曲を学んだ。在学中からジャズのリズムなどを取り入れた作曲を試み，1951年ジャズのイデオムを用いた《10楽器のためのディベルティメント》は卒業作品。卒業後フランスに渡り，パリ音楽院に入学した。パリでミュージック-コンクレート*(具体音楽)の試みを知った彼は，帰国後の1953年に，《ミュージック-コンクレートのためのXYZ》を発表し，日本におけるこの分野の最初の作曲家となった。さらに1956年には諸井誠*(もろいまこと)とともに，日本での最初の電子音楽《７のバリエーション》を発表して話題を集めた。以後，日本の伝統音楽に強い関心を示し，特に仏教音楽と仏教思想による多くの作品を発表した。《涅槃(ねはん)交響曲》(1958)，《曼荼羅(まんだら)交響曲》(1960)，交響詩《輪廻(りんね)》(1962)，《ブガク》(1966)などが代表作。〔船山　隆〕


繭　玉
埼玉県


マユミ

まゆだま　【繭玉】　作物の豊作を予祝する小正月行事の一。米の粉または餅(もち)を丸めて，ミズキ・エノキ・クワ・ヤナギなどの枝にさした餅花の一種で，座敷・神棚(かみだな)・大黒柱などに飾りつける。関東・東北地方に広く分布し，本来は餅や団子をちぎってつけたり，削掛(けずりかけ)を飾ったが，養蚕が流行するようになってから，カイコの安全を祈る点が強調され，繭形につくられるようになった。

まゆみ　【真弓】　双子葉植物・ニシキギ科。山地に普通の落葉小高木。ヤマニシキギともいう。果実と紅葉を観賞するため庭木としても栽植される。葉は対生し，長さ６～12cm，幅４～６cmの長楕円(ちょうだえん)形で，鈍鋸歯(どんきょし)があり，先はとがる。雌雄異株で，雄花・雌花・両性花が株をことにしてつく。初夏に前年枝の根もとに集散花序に数個の淡緑色花を開く。がくは４枚で半円形，花弁は４枚で卵状楕円形。雄花はおしべ４本，両性花はおしべ４本めしべ１本がある。果実は径８～10mmのほぼ四角形の淡紅色の蒴果(さくか)で，熟すと４殻片(かくへん)に裂けて内から朱紅色の仮種皮をかぶった種子が現われる。材は淡黄白色で狂いが少ないため，こけし，将棋の駒(こま)，版木などに用いられる。若葉は食用になる。〔横井朝子〕

まゆやま　【眉山】　びざんともいう。長崎県島原半島東部，島原市の背後にそびえる山。標高819m。雲仙岳(うんぜんだけ)の側火山で，1792年(寛政４)の噴火とそれに伴う地震によって山体東半が崩壊し，島原湾に九十九(つくも)島*をつくった。雲仙天草国立公園に属する。

マヨネーズソース［mayonnaise sauce］卵黄・油(サラダ油など)・ビネガーを十分に混ぜ，乳化状態にした濃いソース*。多くは食塩・カラシ・白コショウなどの香辛料を加える。野菜・魚介などの冷たい料理に用いる。フランス語のマニエ(かき混ぜる)が語源といわれる。わが国の食生活が洋風化するにつれて，消費量は年々増大している。そのままドレッシングソースとして用いるほか，ゆで卵・タマネギ・ピクルス・パセリなどのみじん切りを加えたタルタルソース，約10%量の煮つめたトマトソースを混ぜたマヨネーズ-トマトソースなどがつくられる。〔佐藤友太郎〕

マヨルカ(島)［Majorca］マリョルカ島・マジョルカ島，あるいはまたメノルカ島ともいう。地中海西部，スペイン東方にあるバレアレス諸島中最大の島。面積3,411km²，人口約33万。スペイン領。地質的にはイベリア半島のアンダルシア地方の延長とみられ，東西に２列の山脈が走り，湖や洞窟(どうくつ)がある。住民は主都パルマ(パルマ-デ-マヨルカ)をはじめ都市に集中している。オリーブ・アーモンド・レモン・オレンジ・イチジク・ブドウ・ピーマン・アンズなどを産し，またブランデーとぶどう酒も名高い。雨が少ないため灌漑(かんがい)には苦労しているが，階段状の畑はよく耕されて豊かである。〔大崎　晃〕

マヨン(山)［Mayon］フィリピン，ルソン島の南東部にある活火山。標高2,421m。1814・1897・1928・1947・1968年に大爆発を起こし，周辺に大被害を与えた。美しい山容の成層火山で，山麓(さんろく)一帯はマヨン火山国立公園に指定されている。

マラー［Jean Paul Marat］(1743～1793)フランス革命時代の政治家。1774年《奴隷の鎖》で専制政治を攻撃，1789年フランス革命勃発(ぼっぱつ)後《人民の友》紙を創刊，民衆の人気を集め革命の指導者のひとりとなる。1792年の８月10日事件後の国民公会*に選出され，革命的独裁を主張，ジャコバン党*を率いジロンド党*攻撃の先頭に立った。そのためジロンド党同情者の女性シャルロット-コルデに入浴中に刺殺された。遺体はいったんパンテオンに収められたが，テルミドールの反動の後他に移された。〔喜多迅鷹〕

マラー［Hermann Joseph Muller］(1890～1967)アメリカ合衆国の遺伝学者。ニューヨークの生まれ。コロンビア・コーネル両大学に学んだのちモルガン*のもとで遺伝学を研究。1927年テキサス大学在職中ショウジョウバエにX線を照射して，人為突然変異をひき起こすことに成功。1933年からソ連に招かれモスクワ遺伝学研究員と

なったが，やがてルイセンコ*と論争して，イギリスに渡り，1937年エジンバラ大学研究員。その後帰国してアマースト・インディアナ各大学教授を歴任。20世紀中葉における遺伝学の国際的指導者として活躍した。このほか原水爆の製造・実験・使用に反対し，アメリカ政府を公然と批判するなど，科学者の平和運動においても重要な役割を果たした。1946年ノーベル医学生理学賞を受賞。〔中村禎里〕

マーラー［Gustav Mahler］（1860～1911） オーストリアの作曲家・指揮者。ユダヤ商人の子としてボヘミアのカリシュトに生まれた。ウィーン音楽院でエプシュタイン・フックス・ブルックナーに学ぶ。またウィーン大学で歴史・哲学・音楽史を修めた。卒業後，ハレ歌劇場を皮切りにブダペスト王立歌劇場・ハンブルク市立歌劇場・ウィーン宮廷歌劇場・ウィーン-フィルハーモニー管弦楽団，さらに1908年にはアメリカ合衆国に渡り，ニューヨークのメトロポリタン歌劇場，ニューヨーク-フィルハーモニー交響楽団などの指揮者を歴任。当時の代表的な指揮者のひとりとして数多くのオペラや管弦楽曲に卓越した解釈を示した。作曲家としてのマーラーは，ハイドン・ベートーベンを経てシューベルト・ブルックナーに至るウィーン古典派の流れをくむ最後の巨匠であり，同時にリスト・ワーグナーらの新ロマン派の影響をも強く受け，この二つの流れの上に独自の世界を形成した。その作品は９曲の交響曲（第10番は未完）と歌曲によって代表される。彼の交響曲は長大で，形式的にも複雑に拡大され，また標題音楽的な傾向を示している。特に，彼の作品における大規模なオーケストラとその卓越した駆使は他の追随を許さない。また交響曲第２番（復活）・第３番・第４番・第８番（千人）ではベートーベンの《第９交響曲》と同様，声楽が加えられている。歌曲の代表作としては，オーケストラつきの連作歌曲集《さすらう若人(わこうど)の歌》《なき子をしのぶ歌》などがある。《大地の歌》は歌曲というよりも交響曲のジャンルにはいる作品である。彼は後期ロマン派から20世紀初頭という音楽史上の過渡期に位置し，伝統を背負いつつ，一方では進歩的傾向を示し，彼に続くシェーンベルク・ベルク・ウェーベルンらに決定的な影響を与えている。〔寺田兼文〕

マライ（諸島）［Malay］ アジア大陸南東部とオーストラリア大陸との間にある諸島の総称。東インド諸島ともいう。赤道の南北にわたり，太平洋とインド洋の間に広がる。大スンダ列島・小スンダ列島・モルッカ諸島・フィリピン諸島などを含む。住民の大多数はマライ人とメラネシア人である。ボルネオ島やスマトラ島のあるスンダ陸棚(りくだな)は，水深75ｍ以下の浅海であり，またセレベス島の周辺にはセレベス海・フロレス海・バンダ海などの深い海盆がある。〔大崎　晃〕

マライ（半島）［Malay］ 東南アジア，インドシナ半島西部から南に突出し，東のボルネオ海と西のアンダマン海を分ける半島。北部のクラ地峡以南をさす。長さ約1,100km，幅は最大320km。南北に脊梁(せきりょう)山脈が走り，最高点はタハン山の2,189ｍ。山地の大部分は森林におおわれ，切り立った斜面をなしている。西岸に幅約30kmの海岸平野が続き，東岸は，砂地のデルタが内陸の沼地を包み込んでいる。季節風の影響から東岸の雨季は10～３月であるが，西岸は５～８月が雨季になる。半島の西岸から南端にかけて島嶼(とうしょ)が多く，シンガポール・ペナンなどの良港がある。農産物は豊富で，米をはじめサトウキビ・コーヒー・綿・コショウを産し，ゴムのプランテーションは有名である。林産も多く，チーク材は重要であり，鉱産では鉄鉱とスズがある。住民はマライ人・中国人・インド人などで，外来の中国人とインド人は経済的に強い力をもっており，政情にも影響している。大部分がマレーシア連邦に属するが，北部はタイに属し，南端にはシンガポールがある。〔長津一郎〕

マライご［マライ語］⇨インドネシア語

マライシア（連邦） ⇨マレーシア

マライじん［マライ人］ インドネシアの住民の大部分を占める人種。アジア大陸から到来し人種的にはモンゴロイド*に属し，平均身長160cm。文化的には旧マライ人と新マライ人に区別される。前者はインド人の影響をこうむらない諸民族で，バタック族（スマトラ）・ダヤク族（ボルネオ）・トラジャ族（セレベス）などがある。後者は沿岸を移動して，諸多の文化の影響を受け，インド・アラビア・中国その他の人種要素を混入している。〔牛島　巌〕

マライ-ポリネシアごぞく［マライ-ポリネシア語族］ ドイツの言語哲学者W. v. フンボルトの命名。また，オーストリアの人類学者W.シュミットはオーストロネシア語族とよび，直訳して南島語族ともいう。西はアフリカ東岸マダガスカル島のホーバ語から東は南アメリカのチリ領内ラパヌイ島（イースター島）のラパヌイ語，北は台湾の高砂(たかさご)族・ヤミ族の言語から南はニュージーランドのマオリ語に囲まれる地域の中に点在する島々の言語を含むが，ニューギニアの内陸部，オーストラリアの言語は除く。この語族の故郷はインドシナ半島にあり，そこから現在の位置に広がったとオランダの学者H.ケルンは考えた。それぞれの言語の特徴から比較言語学的に次の３語派に分ける。①インドネシア語派：ホーバ語，マレーシアのマライ語*，インドネシアのバタク語・ミナンカバウ語・ジャワ語・ダヤク語・ミナハサ語，フィリピンのタガログ語*・ビサヤ語，台湾の高砂語など。さらにミクロネシア（内南洋）のチャモロ語・パラオ語もこの語派に属する。②メラネシア語派：ミクロネシアのヤップ語・トラック語，ニューギニア東南部に散るビスマルク諸島・ソロモン諸島・フィジー諸島などの言語。③ポリネシア語派：ミクロネシアのヌクオロ島・グリーニジ島の言語，マオリ語を含めて180° E以東の太平洋の島々の言語，トンガ語・サモア語・ハワイ語・タヒチ語・ラパヌイ語など。これらの言語の中でジャワ語は，南インドのパラワ文字に由来する固有の文字をもっており，７世紀以降からの碑文・文学作品がある。そのような古代のジャワ語は特にカウィ語とよばれる。〔崎山　理〕

マラウィ（共和国）［Republic of Malawi］ アフリカ東南部にある共和国。北はタンザニア，東と南はモザンビーク，西はザンビアに接する。面積11万8,484km²。人口597万（1978年推）。旧名ニアサランド。首都リロングェ。

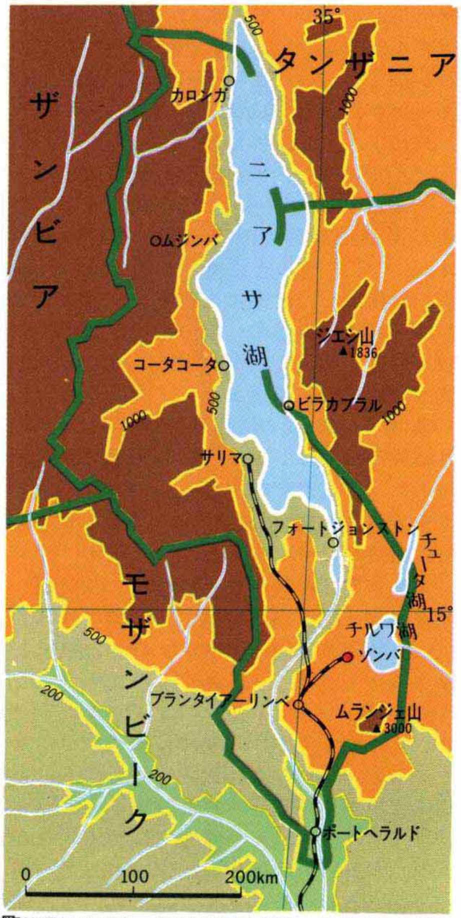
〔自然・住民〕モザンビークとタンザニアとの国境をなすニアサ湖は東アフリカ大地溝帯(ちこうたい)の一部をなしており，国土の北部では海抜1,000～1,500ｍの高原が，南部では，500～1,000ｍの台地が展開している。熱帯にあるが，高度が高いため涼しい。雨量は東部で多く，高原上では少ない。住民はバンツー系で，ほかにインド人がいる。公用語は英語。キリスト教徒とイスラム教徒が総人口のそれぞれ約25％を占め，他は原始宗教を信じている。

〔産業・経済〕主産業は農業で，ニアサ湖に臨む低地では米・綿・茶を，高原ではタバコ・ラッカセイをつくり，ウシを飼う。またニアサ湖での漁業も行なわれる。タバコ・茶・綿は輸出している。

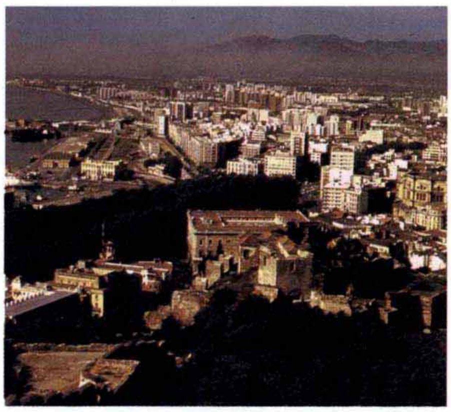
〔歴史・政治〕もとニアサランドとよばれた地域で，1859年イギリスの探検家リビングストンがはじめて到達，1891年にイギリスの保護領となった。1953年北ローデシア・南ローデシアとともにローデシア-ニアサランド連邦を結成したが，1962年脱退し，1964年イギリス連邦内の自治国として独立，1966年共和国となった。元首である大統領のもとに，一院制の議会がある。ローデシア・南アフリカ共和国との結びつきが強い。〔小栗　宏〕

マラガ［Málaga］ スペイン南部，地中海岸の港市。ジブラルタルの北東約100kmにある。人口40万3,000（1974）。歴史的建造物が多く，気候が温和であるため，観光・保養地として名高い。良質のぶどう酒を産し，精糖・水産加工などの工業も盛ん。フェニキア人によって創建され，８世紀以降ムーア人の領土となり，13世紀に最も繁栄した。

マラカイボ［Maracaibo］ 南アメリカ，ベネズエラのマラカイボ湖*北西岸に位置する港市で，この国第２の都市。人口65万



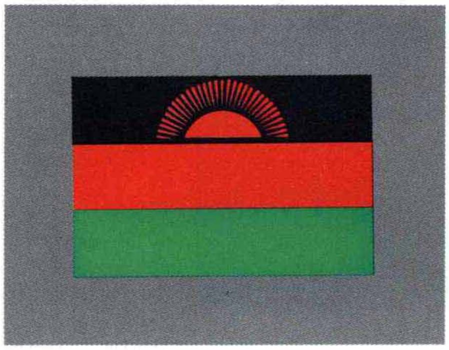
マ ラ ウ ィ



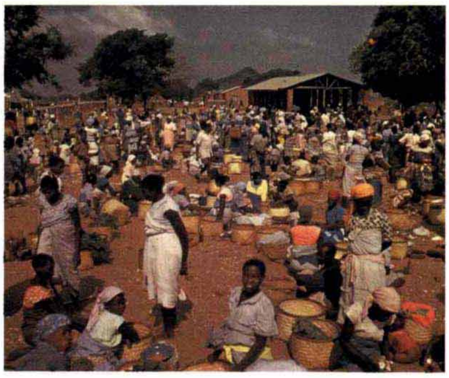
マ ラ ガ　マラガの市街と港湾。新しい建築物に混じって，古い教会やアラビア時代の城跡が残っている

2,000(1971)。周辺に展開する油田地帯の中心地で，精油施設がある。また周辺で産するコーヒー・カカオ・砂糖を集散し，石油とともに，ここから輸出する。1571年に建設の起源をもつ。

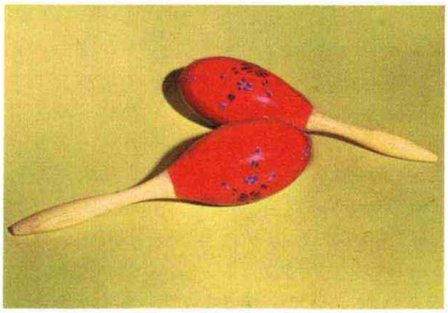
マラカイボ(湖)［Maracaibo］ 南アメリカ，ベネズエラ北西部にある塩湖。面積13,000km²。湖面標高は０ｍ。最大水深250ｍ。北岸に長さ55kmにわたる狭い水道があり，ベネズエラ湾を経てカリブ海に通じ小形の船舶が航行している。湖岸と湖底に油田が分布し，湖面は原油や周辺農産物の主要輸送路となっている。北岸のマラカイボは石油とその関係品の積み出し港になっている。1499年スペイン人が発見した。



マラウィの国旗　1964年制定。黒はアフリカ大陸の人々を，赤はアフリカ人が自由のために流した血を，緑は常緑の自然を表わす。また，太陽は，全アフリカ大陸の希望と自由のあけぼのを象徴する



マ ラ ウ ィ　地方の町のマーケット風景。売り手にも買い手にも婦人が多い。品物を入れたバスケットが目をひく



マ ラ カ ス



マラソン-レース　オリンピック大会中の最大の花であるマラソン競技　第19回オリンピック-メキシコ大会会場のソカロ広場を出発する各国選手

マラカス［maracas］ 体鳴楽器*ガラガラ*の一種。南アメリカにもあるが，ラテンアメリカ(特にキューバ)の民俗・大衆音楽でリズム楽器として使われる。もとは乾燥したマラカの実を振って鳴らすものであったが，いまは木やプラスチックでつくる。

マラソンざい［マラソン剤］ 殺虫剤の一。アメリカ合衆国のＡＣＣ社によって創製された低毒性有機リン剤で，動物に対する毒性はパラチオンの１/100～１/200程度。原体は黄色の液体で工業製品には強いニンニク臭がある。殺虫力はパラチオン・ＥＰＮなどより劣るが，選択性があり，また植物体の内外で分解されやすく，残留毒性の心配がないため果樹や蔬菜(そさい)の害虫に使用される。アルカリ性薬剤，特にボルドー液との混用は避けたほうがよい。ウンカ・ツマグロヨコバイ・クロカメムシ・ハモグリバエ・アブラムシ・アオムシ・ハマキムシなどに適用される。特にツマグロヨコバイの特効薬として各地で多用されたが，抵抗性の発達により現在ではツマグロヨコバイの防除にはほとんど使用されなくなった。

〔深谷晶次〕

マラソン-レース［marathon race］ 陸上競技，長距離競走の一種で，42.195kmを走るロード-レース。

起源は，1896年ギリシアのアテネで第１回近代オリンピック大会の開催が決定したとき，大会の創設者クーベルタン*がソルボンヌ大学の言語学者ブレアルの提唱を採用し，大会の最終日に行なわれた。ＢC490年，アテネ北東のマラトンで当時圧倒的な軍事力を誇っていたペルシア軍を破ったギリシア軍の戦勝を知らせるため，古代オリンピックの競走選手だったフィリッピデスがアテネまで約40km走りつづけ,〈勝利はわれにあり〉と告げたまま息絶えたという故事に由来したものである。第１回大会はマラトンの競技場からアテネ競技場まで36.750kmであったといわれるが，地元ギリシアのルイスが息もたえだえにゴールにたどりつき，しかも優勝を果たして，全ギリシア人を狂喜させた。

レースとしても人力の限界にいどむ壮烈さが競技精神と一致するので，その後はオリンピックのプログラムの上で重要な位置を占めるようになり，またマラソンだけの単独行事も各地で開催されるようになった。

1908年第４回ロンドン大会に，ロンドン郊外のウィンザー宮殿からロンドン市内のシェファード-ブッシュ競技場までの間で行なわれたマラソンコースの距離が42.195kmであったため，1924年第８回パリ大会からは正式な距離として採用された。耐久レースとして発足した当時のマラソン競技は，

完走することが目標とされ，時間も3時間を切る程度であったが，1952年第15回ヘルシンキ大会でザトペック*が2時間23分03秒2で走って以来，現在では完全にスピード時代にはいった。

わが国にはじめてマラソンが紹介されたのは1911年(明治44)に，翌年の第5回オリンピック-ストックホルム大会の予選として行なわれたときで，以後日本でも人気のある競技の一つとして発展し，現在では多くの世界的一流選手が輩出している。

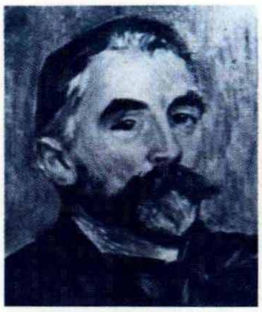
競技規則としてはおもに次の三つがある。①公路上を走る，②参加者はあらかじめ医師の診断を受けなければならない，③大会主催者側の用意した飲食物を11km過ぎた地点から5kmごとにとることができる。〔伊東春雄〕

マラータせんそう【マラータ戦争】マラータ同盟軍とボンベイのイギリス東インド会社の間に行なわれた3次にわたる戦争(1775～1818)。マラータ族は西インドのボンベイ周辺を占める熱烈なヒンズー教民族で，18世紀以来統一的勢力(同盟)を形成し，イギリスの最強敵であった。イギリスの再三の攻撃に敗れ，インドの植民地化は決定的となった。

マラッカ［Malacca］マレーシア連邦，マライ半島西岸の港市。人口70,000(1957)。マライ半島最古の都市の一つで，マラッカ海峡*に臨む交通の要点にあたる。15世紀にマライ人による王国が興り，東西交通と香料貿易の中継地として栄えた。このため1511年アジアに進出したポルトガルに占領され，以後もオランダ・イギリスに占領され，東洋貿易の拠点となった。しかし，19世紀初頭シンガポールが建設されると重要性を失った。現在はゴム・コプラの輸出港で，市内には多くの華僑(かきょう)が居住する。〔別技篤彦〕

マラッカ(海峡)［Malacca］東南アジア，マライ半島とスマトラ島にはさまれた海峡。長さ約800km，幅約50～200km。インド洋・アンダマン海と南シナ海を結び，ヨーロッパ・インド方面とアジア東部を連絡する航路の要衝にあたり，船舶の往来が激しい。潮の干満差が大きく，深度も比較的浅いが航行には支障なく，沿岸にはシンガポール・マラッカ・ペナン(マライ半島側)・ベラワン(スマトラ島側)などの港市がある。またこの海峡は軍事的にも重要で，シンガポールは軍港として知られ，第2次世界大戦では，この海域の制海権が戦闘の争点の一つとなった。〔長津一郎〕

マラッカおうちょう【マラッカ王朝】14世紀末，マラッカに創建された王朝で，8代約130年余にわたって存続した。2代ムガット-イスカンダルシャー(在位1414～1423年ごろ)時代の初めにイスラム教が伝えられ，以後イスラム王国となった。東西貿易の中継地として，マラッカ海峡を擁する地理的有利性を背景に繁栄し，中国・ジャワ・インドなどとの交易が盛んに行なわれた。中国に対しては朝貢関係にあり，中国の文献には〈満剌加〉〈麻六甲〉と記されている。1511年ダルブケルケの率いるポルトガル軍の攻撃を受けて敗退し，翌年反撃に失敗して没落した。わが国の《異国朱印帳》には〈摩利伽〉と記載されている。〔船越昭生〕



マラルメ

マラトンのたたかい【マラトンの戦い】BC490年，アッチカ東海岸のマラトンで，ミルチアデスの率いるアテナイ軍がペルシア軍を破った戦い。→ペルシア戦争

マラバル(海岸)［Malabar］インド半島南西部のアラビア海に面する海岸。ゴアから半島の南端コモリン岬(みさき)に至り，長さは約900km。西ゴーツ山脈が海岸に迫って南北に走るため，海岸低地は幅50～110kmと狭い。西ゴーツ山脈は南西モンスーンをさえぎり，雨季には海岸一帯に相当量の降雨をもたらす。農業が古くから盛んで，平野部では米・サトウキビ・コーヒー・茶・コショウ・香料などを産し，ゴム園もふえている。山地ではチーク・シタン・コクタンを産する。主要都市にマンガロール・コジコーデ(カリカット)・コーチン・トリバンドラムがある。〔長津一郎〕

マラマッド［Bernard Malamud］(1914～) アメリカ合衆国の小説家。ニューヨーク生まれのロシア系ユダヤ人で，幼時を貧窮のうちに過ごした。アメリカにおけるユダヤ人というものの意味を，非妥協的に追及し続けている数少ない作家の一人。長編には《生まれながらに》《新しい生活》《フィクサー》，短編集に《魔法の樽(たる)》《愚者より先に》がある。

マラリア［malaria］マラリア原虫*の感染によって起こる伝染病で，届け出伝染病に指定されている。ヒトに寄生する原虫には，三日熱マラリア原虫・四日熱マラリア原虫・熱帯熱マラリア原虫・卵形マラリア原虫の4種があり，主としてハマダラカの類によって伝播(でんぱ)される。カに刺されてから一定の潜伏期*ののち，急に高熱を出し，発汗解熱したのちは無症状となるという状態をくり返し，やがて貧血・衰弱・脾腫(ひしゅ)が主症状となる。治療にはキニーネ*のほか，各種の抗マラリア剤が用いられる。マラリアは全世界に広く分布し，特に熱帯地方に多く，かつては全世界人口の3分の1が罹患(りかん)していたといわれる。わが国では，近年まで三日熱の小流行地があったが，現在ではほとんど消滅した。

カによって人体内にはいった原虫は，いったん肝臓などの内被細胞や組織球に侵入して増殖する(赤外型)。その後赤血球に寄生して赤血球内で多数の原虫に分裂(分裂体)し，再び他の赤血球内に侵入をくり返す。臨床上この時期に一致して特有な発熱が起こる。分裂体の一部のものが雌雄の生殖母体になり，これがカに吸われるとカの体内で雌雄の生殖体となり，両者が接合して接合体となる(有性世代)。接合体は胃の外被膜内でオオシストとなり内部に多数のスポロシストが形成される。スポロシストはやがてカの唾液腺(だえきせん)に集まって感染の機会をまつのである。〔山本　久〕

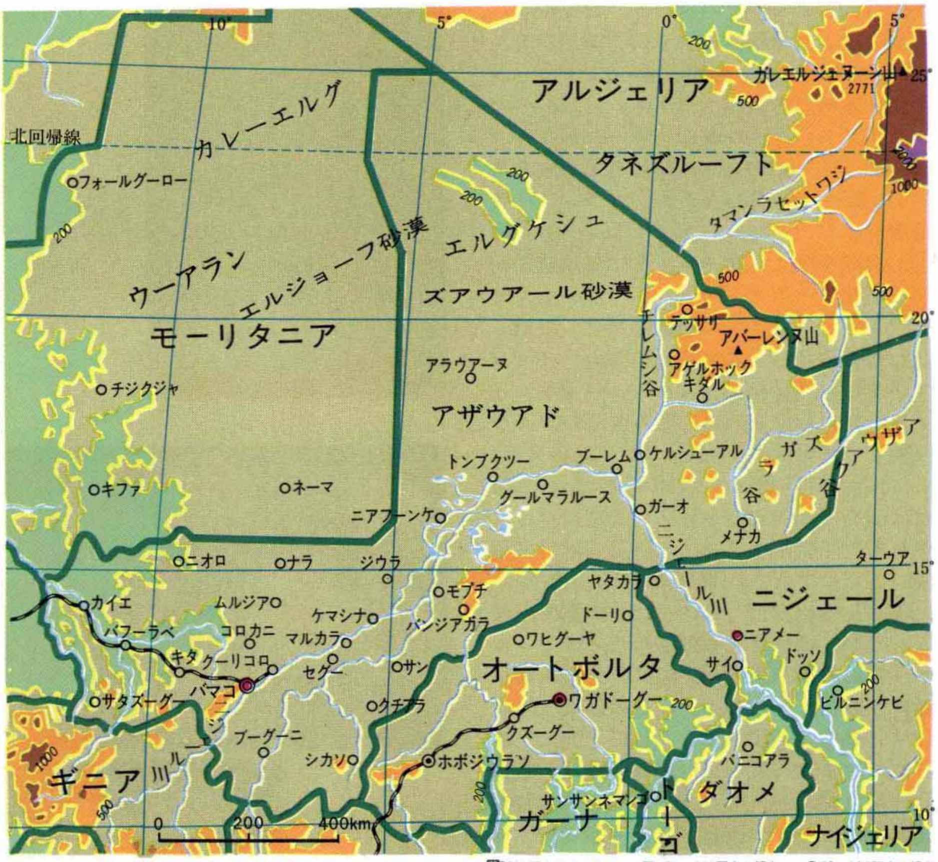
マラリアげんちゅう【マラリア原虫】原生動物・胞子虫綱に属する原虫で，脊椎(せきつい)動物の血球内に寄生する。分類学上はプラスモジウム・ヘモプロテウス・ロイコチトゾーン・ピロプラズマ・ヘモグレガリナを総称するが，一般には狭義にプラスモジウムをマラリア原虫といっている。生活史は複雑で，有性・無性生殖をくり返す。プラスモジウムは赤血球内で無性世代をくり返し，有性世代は中間宿主であるカの体内で起こる。ヘモプロテウスは鳥の赤血球に寄生し，無性世代は内被細胞内で行なわれる。ロイコチトゾーンも鳥の血球に寄生する。ピロプラズマは哺乳(ほにゅう)類の赤血球に寄生するが，その有性世代の過程はいまだ明らかでない。ヘモグレガリナは冷血動物(ヘビ・トカゲなど)の血球に寄生する。〔山本　久〕

マラルメ［Stéphane Mallarmé］(1842～1898) フランスの詩人。パリの生まれ。中学時代よりおもにユゴー*の影響下に詩作を始めた。1862年ロンドンに渡り，翌年帰国し英語教師として生計を立て，ポー*・ボードレール*の美学を基礎に独自の象徴詩を完成。純粋に言語だけでつくりあげる詩的世界を極限にまで追求して，象徴主義*の代表者とみなされるに至った。やがて火曜会というサロンを催し，若きバレリー*・ジイド*・クローデル*らに影響を与えた。おもな作品に《エロディアード》《半獣神の午後》の二大傑作のほか，遺稿《イジチュール》《骰子一擲(とうしいってき)》などの詩編，《逍遙遊(しょうようゆう)》に収められた散文詩・演劇論がある。〔立仙順朗〕

マランタ［*Maranta*］単子葉植物・クズウコン科の一属。熱帯アメリカ原産の宿根草で，14種の植物が含まれる。カラテア*属によく似るが，子房が3室ではなく，1室である点が異なる。観葉植物としてはち植えし，温室で栽培する。普通に栽培される種類はマランタ-ビカラーで，葉は地下の塊根から直接出る矮性(わいせい)種。葉形は



マ ラ ン タ　マランタ-ビカラー

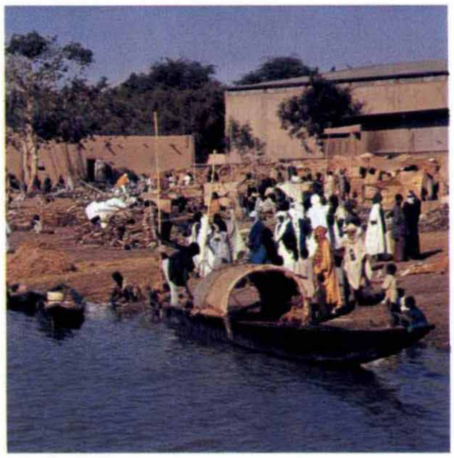


300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

マ　リ



マリの国旗　1961年制定。緑は農産物の豊かさを，赤は勇気と独立のために流された血を，黄色は純潔と天然資源を表わす。なお，1959年現国旗の中央にデザイン化した黒人像を描いた旗を制定したが，翌年セネガルと分離して黒人像を除いた。なお，セネガル国旗では黒人像は緑の星に変えられた



マ　リ　ニジェール川中流のガーオの町の岸辺。ガーオはサハラの隊商路がニジェール川を渡って首都のバマコに通ずる要衝である

広楕円(こうだえん)形で表面は鮮黄緑色，中肋(ちゅうろく)の両側に黒かっ色の斑点(はんてん)がある。裏面は淡紫色。繁殖は主として株分けによる。生育適温は25℃内外で，多湿を好む。

マリ(共和国)　［Republic of Mali, République du Mali］　アフリカ西部にある共和国。東はニジェール，西はモーリタニア・セネガル，北はアルジェリア，南はオートボルタ・コートジボアール・ギニア・セネガルと境を接する。面積124万km²。人口691万(1978年推)。首都バマコ。

〔自然・住民〕国土の北半分をサハラ砂漠(さばく)が占め，南部は東西に流れるニジェール川によって潤され，中央部には湿原がある。気候は，全体的に高温で乾燥している。住民はマンジンゲ族・バンバラ族が主で南部に集中しており，北部は少数の遊牧民が住むだけである。中世にマリ王国を建設したマンジンゲ族の子孫は，今日でもその誇りをもっている。公用語はフランス語だが，各部族語も広く用いられる。約55％がイスラム教徒で，他は伝統的な原始宗教を信じている。

〔産業・経済〕北部ではヒツジ・ヤギ・ウシの牧畜が行なわれ，南部のニジェール川流域ではヒエ・米・豆類・トウモロコシ・キャッサバなどを栽培していたが，1960年以降は農地改良が進み，商品作物としてラッカセイがとり入れられ，重要な輸出作物となっている。また1964年に灌漑(かんがい)用のダムが完成し，これら施設の整備された地域では綿がつくられている。

〔歴史・政治〕中世にはマリ王国の栄えた地で，19世紀末からフランスが進出，フランス領スーダンとしてフランス領西アフリカに編入された。1958年フランス共同体内の自治国となり，1960年3月セネガルとともにマリ連邦を結成したが，同年9月分離独立し単独でマリ共和国となった。1968年軍事クーデターが起こり，現在も軍事解放委員会が政権を掌握している。フランスとの関係の緊密化を図りながら，非同盟主義の政策をとっている。〔小栗　宏〕

マリ　［John Middleton Murry］　(1889～1957)　イギリスの文芸評論家。ロンドンの生まれ。オックスフォード大学卒業。女流作家マンスフィールド*と結婚。文学雑誌の編集者として活躍しつつ，芸術至上主義的なT. S. エリオット*との論争を通して，文学の社会性を強調。また，精神革命のにない手として作家・評論家をとらえる視点から，D. H. ロレンス*・ブレイク*・スウィフト*・シェークスピア*らの評伝を書いた。ほかに《文体論》《共産主義の必要》などの著作がある。〔五十嵐一〕

マリア　［Maria］　イエス-キリストの母。聖書によると，大工ヨセフと婚約中，聖霊*によってイエスを懐胎したという。その後ヨセフと結婚して多数のむすこと娘を生み，イエスの伝道中ナザレに住んでいたらしい。イエスの処刑のとき十字架のそば近くにいて，彼の処刑を見守ったと伝えられている。

マリアかんのん　［マリア観音］　江戸時代，隠れキリシタン*が礼拝した尊像。きびしい禁教下にあって，表面的には棄教して村方の寺の檀家(だんか)(→檀越(だんおつ))となった隠れキリシタンが，観音像を聖母子像に見立てて秘密に礼拝したもの。観音像には中国から渡来した白磁・青磁の子安観音像など種々ある。現在でも長崎県の五島列島などではマリア観音が礼拝されている。

マリア-テレジア　［Maria Theresia］　(1717～1780)　オーストリアの女帝(大公)。

在位1740～1780年。ハンガリーおよびボヘミア女王。1736年ロートリンゲン公フランツ-シュテファンと結婚。1740年，父カール6世*の定めた相続法プラグマティッシェ-ザンクチオン(女子の場合でもハプスブルク家*所領を不分割のまま相続しうるとする規定)に基づいて即位したが，フランスの支持をうけたバイエルン・ザクセン・スペインが異議を唱え，オーストリア継承戦争*が起こった。一方プロイセン王フリードリヒ2世*もシュレジエンの割譲を要求して侵入したため彼女は苦境に追い込まれ，イギリスの支持をうけ結局シュレジエンをプロイセンに割譲したものの，巧みに処して夫を神聖ローマ皇帝に即位させ(フランツ1世)，また彼女の相続権をも承認させた。のち彼女は国力の充実に力を注ぎ，またカウニッツ*を用いて宿敵フランスと同盟し(〈外交革命〉)，ロシアとも同盟を結んでシュレジエン奪回をはかった。このため七年戦争*が起こったが，結局目的を達することができなかった。戦後内政改革，特に産業の振興や教育改革などに意を用い，その施策は啓蒙(けいもう)専制政治の一つとされた。夫の死後，1765年長子ヨーゼフ2世*を神聖ローマ皇帝につけたが，オーストリアについては共同統治者にとどめ，彼女が実権を握った。その間，第1回ポーランド分割*や対トルコ戦争などに参加し，プロイセンと並ぶドイツの有力国家としての立場を保持した。なおフランスのルイ16世の王妃マリー-アントアネット*は彼女の娘である。〔松　俊夫〕

マリアナ(諸島)［Mariana］西太平洋，フィリピンの東方2,500kmにあり，サイパン・テニアン・アナタハンなど14の島よりなる火山諸島。中心はサイパン島。面積約640km²。人口11,000(1968)。1521年マゼランが発見した。地名は，スペイン国王フィリップ4世の未亡人でオーストリア女王マリア-アンナの名によったもの。アメリカ-スペイン戦争後の1899年ドイツに割譲され，第1次世界大戦後グアム島を除いて日本の委任統治領になった。第2次世界大戦では日米両軍の激戦地となり，現在はアメリカ合衆国の信託統治領になっている。諸島南端部にあるグアム島は，行政上別にされる。原住民はミクロネシア系のチャモロ人，主産物はコプラ。〔大崎　晃〕

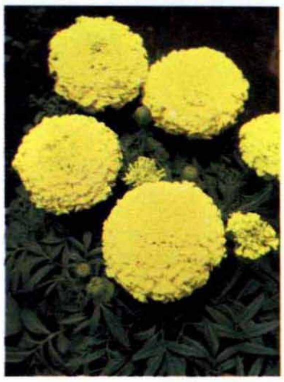
マリアナ(海溝)［Mariana］西太平洋，マリアナ諸島*の南東沖合いにあり，世界最深のビチアス海淵(かいえん)(深度11,034m)をもつ海溝。北半では南北に，南半では東西に延び，さらに南西では深度を減じてパラオ海溝になる。はじめグアム島南東のネロ海淵(9,635m)が発見され，次いでその南西にチャレンジャー海淵(10,863m)が発見された。

マリア-ラーハしゅうどういん【マリア-ラーハ修道院】ケルンとマインツの間，ラーハ湖に臨んで立つ，六塔をもつこの



マリー-アントアネット





マリーゴールド (上)フレンチマリーゴールド (下)アフリカンマリーゴールド

寺院はドイツ-ロマネスク初期建築の代表的な作例である。1093年に着工されたが，完成をみたのは13世紀初頭で，その間に初期の建築計画にさまざまな他様式がとり入れられた。簡素で厳粛な内陣やドームのつくりには着工当時の発想が生きているが，外部の装飾的要素にはロンバルド様式の影響が強く，内部のドイツ的な簡素さと対照的に複雑な装飾性を示す。〔吉田玲子〕

マリア-ルーズごうじけん【マリア-ルーズ号事件】1872年(明治5)横浜に寄港中のペルー国商船マリア-ルーズ号から，苦力(クーリー)がイギリス軍艦に脱出して，同船が中国人奴隷230人をペルーに輸送中であることを訴えた事件。イギリス代理公使ワトソンの糾明方申請を受けた外務卿(がいむきょう)副島種臣(そえじまたねおみ)は，神奈川県令大江卓に命じて臨時法廷を開き，中国人全員を釈放し本国送還と決めたため，ペルーとの間に紛争が起こった。しかし，ロシア皇帝アレクサンドル2世の仲裁で日本側の主張が通った。➔廃娼運動〔応和邦昭〕

マリー-アントアネット［Marie Antoinette］(1755～1793) フランス王ルイ16世*の妃。オーストリアのハプスブルク家の出で，母はマリア-テレジア*。1770年王太子時代のルイと政略結婚し，1774年ルイの即位によって王妃となった。生来の美貌(びぼう)を誇ったが，一面軽薄で浪費的であり，〈赤字夫人〉〈オーストリア女〉などと，国民の反感をかった。また，時勢を理解できず，1789年フランス革命が起こると，ミラボーら立憲王政派の接近工作も成功せず，王妃は反革命勢力の中心となり，外国，特にオーストリアに革命への干渉を期待した。オーストリアとの戦争が始まると，これと通謀して革命勢力を挑発(ちょうはつ)し，1792年の八月十日事件によって王とともにその地位を追われ，タンプル塔に幽閉された。ルイ16世刑死後，1793年8月コンシエルジュリー牢獄に移され，10月裁判を受け，国家に対する反逆罪によって処刑された。ルイとの間に早死した1男1女を含めて2男2女をもうけた。〔山上正太郎〕

マリウス［Gaius Marius］(BC156～BC86) 古代ローマの将軍・政治家。スキピオ(小)に従って武名をあげ，のちユグルタ戦争を平定，さらにゲルマン諸族を破りローマへの侵入を防いだ。農民出身の彼は，護民官に選ばれ，執政官*を7度つとめ，軍制を市民兵から職業軍人兵に改革し，また平民党の指導者として閥族派のスラ*と対立。スラがミトリダテス戦争出征中に，その一派を殺害し政権を握ったが，まもなく病死した。

マリオット［Edme Mariotte］(1620ごろ～1684) フランスの物理学者。ディジョンの生まれ。気体の研究から，1676年ボイルの法則*を再発見した。このためフランスでは〈マリオットの法則〉ともよばれる。このほか流体静力学の研究，目の盲点の発見などがある。フランスアカデミー会員。

マリオネット ⇨人形劇

まりごけ【毬苔】水流や波にもまれて球状の団塊をつくったコケ。マリモ*とは異なり，種類の名ではなくて一種の生態形である。わが国では，猪苗代湖(いなわしろこ)(福島県)で蘚類(せんるい)のミズスギゴケ(天然記念物)と苔類(たいるい)のイナワシロウロコゴケが，阿寒湖(あかんこ)(北海道)でヤナギゴケ(蘚類)，屈斜路湖(くっしゃろこ)(北海道)でウカミカマゴケ(蘚類)がマリゴケとなる。また北ヨーロッパの高山では，風のために生ずる陸生のマリゴケが知られ，また，わが国でも御嶽(おんたけ)山(長野・岐阜県)火口底にミヤマギボウシュゴケ(蘚類)が小石を包んだマリゴケをつくるのが知られている。

マリーゴールド［marigold］双子葉植物・キク科。ふつうアフリカンマリーゴールドとフレンチマリーゴールドをいう。前者はセンジュギク(千寿菊)ともいい，フレンチマリーゴールドよりもたけが高く，花色は黄ないし橙黄(とうおう)色で赤色系統は

なく，切り花や花壇用にされる。フレンチマリーゴールドはコウオウソウ(紅黄草)ともいい，花色は黄・クリーム・帯紅橙黄色など，矮性(わいせい)で花壇用にされる。ともに春まき一年草として栽培される。

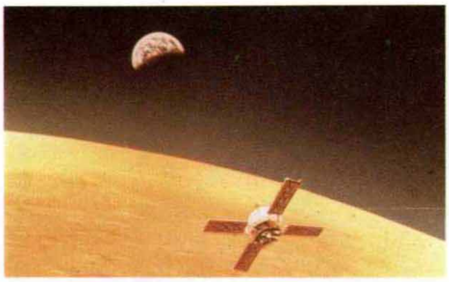
まりしてん　**【摩利支天】**　梵語(ぼんご)Marīci(マリーチ)の音訳で，威光・陽炎とも訳され，日月の光を神格化したものと考えられる。造物主プラジャパティあるいは梵天の子，またカーシュヤパ仙人(せんにん)の父として広く崇拝されていたが，仏教にはいってからは姿を隠し，つねに障難を除いて利益を施す天部の一尊と仰がれた。形像は諸説あるが，天女の形に似せて卍(まんじ)を施した天扇をとるもの，三面(正面菩薩(ぼさつ)・右童女・左忿怒(ふんぬ)の顔をもつ)・八臂(はっぴ)でイノシシに乗ったものが多い。この尊を祭り護身・隠身・遠行・得財・勝利などを念じて修法する〈摩利支天法〉は広く行なわれた。また，武士の守り本尊として厚く信仰された。　〔北条賢三〕

マリタン　［Jacques Maritain］(1882～1973)　フランスの哲学者。パリの生まれ。ソルボンヌ大学で学び，さらにハイデルベルク大学でドリーシュに師事。1914年パリのカトリック学院教授，1945～1948年バチカン駐在フランス大使，1948～1960年プリンストン大学教授。彼は唯物論的思想からベルグソン哲学を経てトマス-アクィナス*の思想に到達，ネオトミズム*の代表的思想家となる。主著《認識の諸段階》《形而上学(けいじじょうがく)序説》《キリスト教的人道主義》など。

マリー-ド-メディシス　［Marie de Médicis］(1573～1642)　フランス王アンリ4世*の妃で，ルイ13世*の母。イタリアのトスカナ大公，メディチ家のフランチェスコ2世の息女で，1600年アンリ4世と結婚し，1610年王の死後，若年のルイ13世の摂政となった。アンリ4世の政策路線に従わず，イタリア人コンチニを重用してルイ13世と対立し争った。リシュリューの仲介で和解したが，続いてこの大政治家と不和になり，1630年彼に対する陰謀に失敗して亡命し，国外で没した。対外的にも伝統的な反ハプスブルク家政策をとらず，これと接近してスペインの同家からアンヌ-ド-トリッシュをルイ13世の妃に迎えた。なお，美術の愛好家・保護者としても有名。

〔山上正太郎〕

マリナー　［Mariner］　アメリカの惑星探査体。最初に成功したのは2号で，1962年金星に向けて打ち上げられ，金星から34,750kmのところを通過，42分間の観測に成功，金星の磁場が地球の10分の1以下であること，水がないこと，表面温度が427℃にも達することなどを測定した。探査機は重さ201kg，高さ3m，直径1.5mの基部の両側に太陽電池を張った2枚の翼がある。1967年5号は金星から3,970kmのところを通過，金星大気は大部分が炭酸ガスで，気圧は15～20気圧であることを測定した。また1964年4号は火星から9,850kmのところに接近，火星表面写真の電送に成功した。重さ260kg，高さ3m，電送の関係から太陽電池を張った翼を4枚に増加。近接写真には長さ5kmのものまで写っており，月のようなクレーターの存在も確認された。1969年6号・7号はいずれも火星の接近観測に成功した。また，1971年11月に打ち上げられた9号は，火星の人工衛星となるのに成功し，火星表面だけでなく火星の衛星の写真も撮影し，電送してきた。〔原田三夫〕



マリナー　火星のまわりを回るマリナー9号(想像図)　上方は地球



マリーニ《騎手》1952 ブリヂストン美術館蔵



マリモ

マリーニ　［Marino Marini］(1901～1980)　イタリアの代表的彫刻家。初期にメダルド-ロッソの影響を受けたが，造型における独創性はロダンをこえるといわれる。ギリシアのアルカイック彫刻や，中国漢代の陶俑(とうよう)に霊感を得た肖像彫刻にすぐれ，1950年代の等身大による〈馬に乗る人物像〉のシリーズは代表作として愛好者が多い。これらは，西欧の主要美術館に必ずといってよいほど所有されている。近代彫刻に与える彫刻の伝統の活力と深さとの影響は非常に大きい。　〔井関正昭〕

マリネッティ　［Filippo Tommaso Marinetti］(1876～1944)　イタリアの詩人で未来派*の創立者。1909年パリで未来派宣言を行ない，近代生活と芸術における機械の効用を強調し，ダイナミックな概念を表現すべきことを唱えた。ボッチョーニ*・カッラ*・ベルラ*らの未来派画家の指導者・保護者としても活躍し，多くの論文・詩作を発表した。

マリノフスキー　［Bronislaw Kasper Malinowski］(1884～1942)　ポーランド出身のイギリスの社会人類学者。1914～1918年メラネシア・オーストラリア・ニューギニアを調査し，1927年ロンドン大学教授。特にトロブリアンド諸島の実地調査の結果から，文化全体の機能的関連を唱え，機能主義の立場から，未開社会の研究に画期的な新生面を開いた。

マリピエロ　［Gian Francesco Malipiero］(1882～1973)　イタリアの作曲家。ベネチアの生まれ。10代の後半になって作曲家の道を選び，エンリコ-ボッシほかに対位法や和声法を学んだ。以後パリに留学して自己の語法を確立させ，作曲と音楽教育の二つの分野で積極的な活動を始めた。かなりの多作家であり，作品は，ピアノ曲・室内楽・管弦楽曲・合唱曲・バレエ音楽・舞台音楽とあらゆる楽種にわたっている。中でも標題をもつ7曲の交響曲が重要である。　〔船山　隆〕

マリファナ　［marihuana］　大麻の葉の乾燥したものをいい，粉末としてたばこに混ぜたりして喫煙する。喫煙により幻覚的な快感を生じ，激しく動きたくなり，知覚が敏感となる。大麻取締法によって所持・譲渡などが禁止されている。➔大麻

マリボー　［Pierre de Marivaux］(1688～1763)　フランスの劇作家・小説家。パリの生まれ。1721年の喜劇《恋にみがかれたアルルカン》以後，《愛と偶然の戯れ*》《偽りの告白》などの喜劇を数多く発表。いずれも愛のめばえを〈マリボダージュ(マリボー趣味)〉とよばれる繊細な台詞(せりふ)で表現した。《マリアンヌの生涯(しょうがい)》《成り上がり百性》など風俗小説も書いたが，これらにはリアリズムのきざしがみられる。

まりも　**【毬藻】**　緑藻(りょくそう)類・シオグサ科。北半球の湖沼に散在して分布する淡水藻。球形の団塊をつくることを特徴とし，以前はマリモ属とされたが，そうならないもの(フジマリモ)もあり，現在ではシオグサ属に含められる。体は不規則に分枝した糸状体で，放射状に集まって球塊となり，直径10cmをこすこともある。昼間は放出した酸素気泡(きほう)によって浮上し，夜

は沈む。わが国では，北海道の阿寒湖(あかんこ)(天然記念物)・チミケップ湖(変種ウツロマリモ)，青森県左京沼(変種ヒメマリモ)，山中湖・河口(かわぐち)湖(ともに山梨県)(変種フジマリモ)に産する。

マリュス [Étienne Louis Malus] (1775～1812) フランスの物理学者。パリの生まれ。軍事技術家養成の学校で学びのち軍隊にはいったが，選ばれてエコール-ポリテクニクに学び，卒業後技術将校となった。やがて物理学の研究にはいり，主として光学の分野で活躍，1808年反射光の偏光現象を発見した。

マリー-ルイズ [Marie Louise] (1791～1847) ナポレオン1世*の皇后。オーストリア皇帝フランツ2世の娘。ウィーンの生まれ。ワグラムの戦勝などを背景に帝位の世襲を望むナポレオンに請われ1810年結婚(ナポレオンはその前年ジョゼフィーヌ*と離婚)。1811年ナポレオン2世(ローマ王)を生む。ナポレオンに対する愛情はなく，ナポレオン没落後はパルマ大公国公女となりナイペルク伯と結婚，さらにその死後ウィーン宮廷の侍従ボンベル伯と結婚，1831年の革命でパルマ大公国から追放された。〔喜多迅鷹〕

マリンスノー [marine snow] 海雪・セストンともいう。海水中に浮遊する懸濁物で，海中に浮遊しているようすを，雪の降る様になぞらえたもの。深海船の開発によって深海を直接目で見ることができるようになったが，数千～10,000mに及ぶ深海でも固形物の浮遊が認められている。主として浅層の動・植物プランクトンに起因するもので，遺体の分解片や溶出した有機物が炭酸カルシウム・リン酸カルシウム・ケイ酸などの無機物とともに固形物を形成したものである。太平洋の北東部では，1 m^3の海水中に動物プランクトンが2mg，植物プランクトンが20mgいるのに対し，これ以外の懸濁物が125mg(いずれも乾量)にも達している。セストンは海洋のバクテリアにとって生活の場であり，そのいっさいはえさである。このため生物体に由来する有機物の量は浅層のセストンに多く，分解されやすいものを失った深層のセストンでは大部分を無機物が占めるようになる。〔船越真樹〕

マリンバ [marimba] 打奏体鳴楽器の一。いわゆる木琴であるが，配列した木片・竹片・金属片のそれぞれの下にひょうたん・竹筒・金属筒の共鳴体をとりつけてある点に特徴がある。形態や名称は雑多だが，アフリカ東部・南部に広く分布する。ヨーロッパでは共鳴体を有し通常の木琴より音域位置の低いものをいう。

マール [maar] マグマ*の中のガス・水蒸気の弱い爆発によってできる円形の小形火山。火口を囲んで，砕屑(さいせつ)物が低く堆積(たいせき)する。火口はときに水をたたえ，深さに比べて径はかなり大きい。ドイツのアイフェル地方のマール群は有名で，マグマ中のガスの爆発によるものである。わが国では，秋田県男鹿(おが)半島の一ノ目潟(がた)・二ノ目潟・三ノ目潟がその例である。



マリンバ

まるうんか [円浮塵子] こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・マルウンカ科。体はほとんど半球形で長さ6mmほど，色彩は個体によって変化に富み，淡かっ色ないし暗かっ色のものが多い。前翅に各2個の淡色紋があるが，淡かっ色で無紋のもの，全体黒化するものなど変異が多い。本州・四国・九州のほか台湾に分布する。夏季各地に普通な種類で，各種の広葉樹の葉上に多い。マルウンカ科は世界に広く分布し，日本には約10種が産し，本種のほかキボシマルウンカ・カタビロクサビウンカ・クサビウンカなどが代表的な種類である。

まるおか [丸岡(町)] 福井県北部，坂井郡の町。人口25,000。1955年(昭和30)丸岡町を中心に周辺の5か村を合併して発足した。中心地区の丸岡はかつて柴田(しばた)氏によってつくられた城下町で，いまは機業が盛ん。北陸本線と国道8号線(北陸街道)が通じる。

まるおかじょう [丸岡城] 福井県丸岡町にある平山城。霞ケ城(かすみがじょう)ともいう。1576年(天正4)柴田(しばた)勝家の養子勝豊(かつとよ)が築城，青木・青山・本多諸氏を経て1695年(元禄8)有馬清純(きよずみ)が入封，以後有馬氏*の居城として明治に至った。外部2重，内部3階，石製本がわらぶきの小規模な天守(重要文化財)は，大きな入母屋(いりもや)造りの屋根の上に回縁高欄のついた望楼を載せ，現存最古の形式である。しかし内部の手法は意外に新しく，住宅的要素もまったくないことなどから，後世のある時期に改築されているとみられている。1948年(昭和23)福井地震で倒壊，1955年再建された。〔西ケ谷恭弘〕

まるおび [丸帯] 女帯の一種。幅68cm，たけ410cmの丸帯地を幅二つ折りにして，帯芯(おびしん)を入れて仕立てた帯。上がり幅30cm内外。礼装用として錦織(にしきおり)・金襴(きんらん)が多く用いられ，織り模様が全体に織り出されているのが特徴。いかなる結び方にも適する。女帯は近世初期からしだいに太くなり，江戸後期には幅最大40cm内外となって，現今の丸帯の形となり，他方両側に異なる帯地を縫い合わせた腹合わせ帯*(鯨帯・昼夜帯)に対して，一種類の帯側である古来の帯に丸帯の名がつけられた。晴れ着としても明治から昭和初期まで広く用いられたが，1935年(昭和10)ごろから名古屋帯*が流行し，礼装以外にはすたれた。➔帯〔堀越すみ〕

まるがたごみむし [円形芥虫] こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体は長卵形で，長さ約9mm。全体黒色で，銅色・青色・緑色などの光沢がある。触角の基部数節と脚は赤かっ色。日本全国のほか，朝鮮・中国からヨーロッパに至る地域に広く分布する。日本では，ほとんど一年じゅう見られ，各地に最も普通な種類で，他の小こん虫類やミミズなどを捕食するほか，ナズナの果実などの植物質も食べる。近縁の種が数種あるがいずれも酷似していて同定がむずかしい。

マルガッシュ ⇨マダガスカル共和国

まるがめ [丸亀(市)] 香川県北西部の市。人口71,000。近世までは瀬戸内海沿岸の一寒村にすぎなかったが，1597年(慶長2)生駒親正(いこまちかまさ)が築城し，のち山崎家治(いえはる)が城下町を整備，江戸時代に京極氏五万一千五百石の城下町となり，後期は金刀比羅宮(ことひらぐう)参詣客(さんけいきゃく)の船着き場として栄えた。1871年(明治4)丸亀県庁の所在地となり，同年11月香川県の管内にはいった。第2次世界大戦までは歩兵十二連隊が設置されて軍都として発展し，最近は坂出(さかいで)と並ぶ中讃(ちゅうさん)地方の商工業都市として繁栄している。1899年市制施行。市域は，東の土器川，西の金倉川などがつくる丸亀平野の三角州上から西部の海岸にまで広がり，瀬戸内海に浮かぶ塩飽(しわく)諸島の大半も市域内に含まれる。産業三大別人口比は11：36：53。平野部ではため池の灌漑(かんがい)による米・麦の二毛作農業が行なわれ，海岸部には蓬萊(ほうらい)塩田があって，食塩を原料とする化学工業も興っている。全国一の生産を誇る伝統の丸亀うちわをはじめ，綿糸・麦稈真田(ばっかんさなだ)などの特産があり，竹製の花かごは輸出品となる。予讃本線・国道11号線が通じ，丸亀港は，内海観光の一中心となって1,000トン級の汽船が出入し，対岸の倉敷市(岡山県)の水島・下津井両港とそれぞれフェリーボートが就航する。三層の天守閣(国宝)をもつ丸亀城跡は展望のすぐれた亀山公園となり，最近は塩飽諸島へも多くの観光客が訪れる。〔浅井得一〕

マルキーズ(諸島) ⇨マルケサス諸島

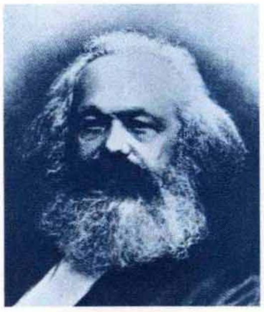
まるきぶね [丸木船] ⇨刳船(くりぶね)

マルク [Mark] ドイツの貨幣単位。1871年ドイツ帝国の成立に伴い，新しい通貨

単位として制定。補助単位はフェニッヒで，1マルク＝100フェニィゲ(フェニッヒの複数)。西ドイツ-マルクは多額の金・外貨準備を背景に世界で最も強い通貨の一つとなっており，1969年10月には9.29％の平価切り上げ，1971年12月の多国間通貨調整では13.58％の切り上げが実施された。西ドイツの為替(かわせ)平価は1アメリカ-ドル＝3.2225マルク。なお，東ドイツは為替平価を設定していない。〔安井孝治〕

マルク［Franz Marc］(1880～1916) ドイツ表現主義の画家。1909年ごろカンジンスキー*らの芸術にふれて従来のアカデミックな方法を捨て，抽象へと進む。1911年カンジンスキーとともに〈青騎士*〉を結成。汎(はん)神論的神秘主義的な態度で自然に接し，抽象によってその根源的な神秘をあらわにしようとした。色彩の用い方は象徴的である。代表作は《森の中の鹿(しか)》《動物の運命》など。

マルクス［Karl Heinrich Marx］(1818～1883) ドイツの社会主義者・経済学者。プロイセン領ライン州トリエルに弁護士の子として生まれた。ベルリン大学で法律と哲学を学び，急進的民主主義新聞《ライン新聞》の主筆となり，プロイセン政府の政策を批判したが，しだいに経済問題に関心をもつようになり，経済学の研究に没頭した。このころエンゲルス*と知り合った。ドイツでは十分な言論の自由が保証されていなかったので，結婚後，パリに移り，《独仏年誌》を発刊し，急進的民主主義から離れ，社会主義に移った。1844年以来エンゲルスとの交遊が始まり，2人はパリの革命家の団体に出入りし，共著で《神聖家族》(1845)を公刊した。次いでパリを追放され，ブリュッセルに移り，ここで《ドイツ-イデオロギー》(1846)，《哲学の貧困》(1847)を著わした。これはプルードン*の《貧困の哲学》を批判したもので，小市民的無政府主義に反対し，労働者と労働組合の意義を説いた。かつてバイトリンクによって指導されていた〈義人同盟〉はロンドンで〈共産主義同盟〉に発展したが，1847年以来これに関係し，エンゲルスと共同して《共産党宣言》を書き，1848年の革命の直前に公表した。パリに二月革命が起こり，ブリュッセルから追放されたが，ドイツに三月革命が起こったので，ケルンでエンゲルスらと《新ライン新聞》を発刊し，革命の指導と啓蒙(けいもう)宣伝にしたがった。《賃労働と資本》はこの新聞に載った論文である。革命の挫折(ざせつ)とともに同紙は刊行を禁止され，マルクスはパリにのがれ，さらにロンドンに渡った。ロンドンにおけるマルクス一家の生活は苦しかったが，彼は《ニューヨーク-トリビューン》など多くの新聞に寄稿し，またマンチェスターで木綿(もめん)工場を経営するエンゲルスの援助によって，貧しいうちにも平静な研究生活を続けることができた。経済学に


マ ル ク ス


マルクス兄弟

関する本格的研究はこのときになされた。1850年《新ライン評論》を発刊したが，それに《フランスにおける階級闘争》(1850)を載せた。また，アメリカの新聞に《ルイ-ボナパルトのブリュメール18日》(1851)および《革命と反革命，1848年のドイツ》(1851)を書いた。その後《経済学批判》(1859)を公刊したが，1867年には主著《資本論》第1巻が刊行された。これは1849年にロンドンの大英博物館にこもって以来17年にわたる研究の成果であり，あらゆる経済学者・工場検査官・議会委員会の調査報告の徹底的な研究の成果である。その他の著作としては《フランスにおける内乱》(1871)，《ゴータ綱領批判》(1875)などがある。長期の貧しい生活と激しい研究のため肉体は衰えたが，1881年の妻の死は彼の精神の決定的打撃となり，まもなく永眠した。なお，《資本論》の第2巻・第3巻は，死後エンゲルスによって原稿の中から編集・出版され，またその続編は《剰余価値学説史》3巻となってエンゲルスの死後，カウツキー*によって刊行された。〔林　達〕

マルクス-アウレリウス［Marcus Aurelius Antoninus］(121～180) ローマ皇帝。在位161～180年。学問・教養を深く愛し，ストア哲学者としても高名。ギリシア語による《自省録》12巻を残した。これは個人的な覚え書きであるが，死の恐怖や現世の煩労の克服をストア哲学に求めた内省の書であり，後期ストアの傑作として名高い。そこにはエピクテトス*の影響が認められる。彼の治世はいわゆる五賢帝時代の最後にあたるが，たび重なる遠征や天災が続き，政治的には必ずしも成功とはいえない。〔左中庸博〕

マルクスきょうだい［マルクス兄弟］アメリカの喜劇俳優チーム。グルーチョ(1895～1977)・ハーポ(1893～1964)・チコ(1891～1961)・ゼッポ(1901～)の4兄弟で，のちゼッポを除くトリオとなる。それぞれ得意の楽器をこなし，独特の集団芸を演じて1920～1930年代に一世を風靡(ふうび)した。グルーチョはギターの名手で饒舌(じょうぜつ)，ハーポはハープとパントマイム，チコはピアノと漫談，ゼッポはサキソフォーンと二枚目役を得意とした。スピードのあるギャグ，スラップスティックな演技が売り物で，代表作品に楽劇《アニマル-クラッカーズ》，映画《JJナッツ》などがある。〔波多野哲朗〕

マルクスけいざいがく［マルクス経済学］マルクス*・エンゲルス*によって樹立された経済学の体系，およびその後ヒルファーディング*・レーニン*らマルクスの理論的後継者によって発展させられた経済学をいい，マルクス主義経済学ともいう。マルクス主義*の核心的部分は彼の《資本論*》において体系的に展開されている。彼の理論は，ドイツ古典哲学とイギリス古典派経済学(→古典学派)およびフランス社会主義の批判的摂取によって確立されたといわれる唯物史観*を前提として，資本主義的生産様式を歴史的・過渡的なものとして把握(はあく)し，労働の二重性と剰余価値の発見に立脚した労働価値説*による資本主義社会の経済的運動法則を解明した体系にほかならない。資本主義の発達に伴って起こってきた独占資本主義*の分析としては，《資本論》を継承しこれを独占資本主義段階と照応し発展させたヒルファーディングの《金融資本論》(1910)，レーニンの《帝国主義論》(1917)などがあげられる。現代の資本主義経済における〈新しい現象〉の解明のため，上記のような古典的著作をいっそう発展させた研究が要請されているが，資本主義の本質の解明は《資本論》においてすでにみごとに展開されており，今日における経済学的研究の潮流を二分し(近代経済学とマルクス経済学)，その一大潮流をなしている。〔常盤政治〕

マルクスしゅぎ［マルクス主義］マルクス*およびエンゲルス*らによって打ち立てられ，レーニン*・毛沢東*などによって継承・発展させられた思想体系の総称。弁証法的唯物論*および史的唯物論*を基礎に，資本主義社会の経済運動法則を明らかにする経済学説，および国家論と革命論を中心とする政治理論などを主軸に，文化・芸術に至る広範な知識分野に及ぶ。一方，マルクス主義は単に〈解釈の学問〉ではなく，人間の真の解放をめざす〈変革の科学〉たることが強調され，ここから政治・社会などさまざまな具体的運動にになわれることによって，現実的影響力を全社会的にまた全世界的に及ぼすに至っている。その思想体系は，形成以来すでに1世紀以上を経過し，その間に

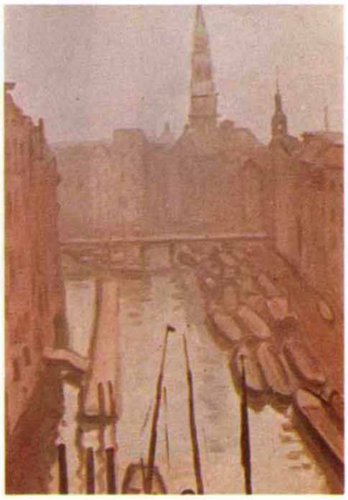
おける資本主義世界の大きな変化にもかかわらず，依然として一大思想潮流となっている。現実的にも，今世紀にはいりロシア革命*によるソビエト社会主義共和国連邦の成立，また第２次世界大戦後における中国革命*の勝利など，世界総人口の３分の１が社会主義国家圏にはいり，その世界的比重が高まっている。〔伊藤昭一郎〕

マルクーゼ［Herbert Marcuse］（1898～1979） ドイツ生まれのアメリカ合衆国の思想家。ユダヤ人の子として生まれ，1933年ナチス台頭とともにジュネーブへ移り，1934年アメリカ合衆国に亡命し，アメリカ各地の大学で教鞭(きょうべん)を取る。初期の業績としては，ヘーゲルの哲学体系をハイデッガーの方法で歴史哲学的に再構成する試みや《初期マルクス研究》がある。その後，革命の社会理論を追究した《理性と革命》，フロイト理論の哲学的研究《エロス的文明》などがあり，1960年代にはその独自な暴力論が世界各地の学生運動に取り入れられ，その名を高めた。〔岸田晩節・田島修〕

マルグリット-ド-ナバール［Marguerite de Navarre］（1492～1549） ナバール女王・女流作家。在位1544～1549年。アングレーム伯シャルル-ドルレアンの娘。フランソア１世*の姉。1509年アランソン公シャルルと結婚，その死後1527年ナバール王アンリ-ダルブレと再婚。深い教養と知性をもち，マロ・カルバン・ルフェーブルなど多くの人文主義者や芸術家を保護し，ナバール国は迫害された文人の避難所となり，〈フランス-ルネサンスの愛すべき母親〉ともいわれた。彼女自身，《デカメロン》にならった《エプタメロン》(1559)などを著わしている。〔喜多迅鷹〕

マルケ［Pierre-Albert Marquet］（1875～1947） フランスの画家。1890年パリに出，モローのもとに学び，マチスやルオーを知る。1905年フォービスムに参加。フォービスムの奔放さと印象派的要素を結びつけた独自の画風を確立した。風景画や港の光景を好んで描いたが，明快にしてきびしく構成されたその作品は，暗い色調が支配的である。素描にもすぐれ，すばやい簡略な線で形態や情景をみごとにとらえている。〔松本芳夫〕

マルケサス(諸島)［Marquesas］ 南太平洋，ポリネシアにある11の火山島からなる諸島。フランス領。マルキーズ諸島・マーケサス諸島ともいう。ヌクヒバ島・ヒバオア島などがある。面積1,274km²，人口5,000(1967)。1595年スペインの航海者A.メンダナが，ペルーからサモア諸島へ向かう航海中に発見した。原住民はその後来島したヨーロッパ人によって殺害されたり，病気で倒れたりしてほとんど滅んでしまった。1842年フランスはこの島を植民地とし，インディアンを西インド諸島から移住させ，プランテーションの労働者として使った。



マルケ《ハンブルクの運河》



マルシャン《アルルの女》

画家ゴーギャンは，文明社会からのがれて晩年をここで過ごした。〔大崎　晃〕

まるこ【丸子(町)】 長野県小県(ちいさがた)郡の町。人口25,000。千曲(ちくま)川の支流依田(よだ)川の流域にある。1956年(昭和31)丸子町を中心に周辺５村が合併して発足した。第２次世界大戦前は製糸工業が盛んであったが，戦後紡績・食品加工・機械工業に転換した。養蚕・酪農も盛んで薬用ニンジンなどの特産がある。鹿教湯(かけゆ)・霊泉寺温泉などがあり，上田市とバスで結ばれている。

マルコ［Markus］ 生没年不詳。初名はヨハネ。《新約聖書》の〈マルコの福音書〉の筆者とされる。エルサレムにあった彼の住居はキリスト者の集会所であった。バルナバのいとこで，彼とともにパウロ*の伝道旅行に従った。ペトロ*とも親しかった。

マルコーニ［Guglielmo Marconi］（1874～1937） イタリアの物理学者。無線電信の発明とその事業化で知られる。富裕な実業家を父とし，父の住宅でヘルツ波を応用した無線電信の実験を始め，1896年無線電信に関するイギリスの特許を得て，ロンドンで最初の公開実験に成功。当時ロシアのポポフも実験に成功していた。マルコーニはイタリアで企業化の見込みがないため，1897年ロンドンにマルコーニ無線電信会社を創立し，ドーバー海峡でイギリス～フランス間の通信を実現。大西洋を隔てた送受信は1901年12月12日にコーンウォール州ポルデュからニュー-ファンドランドのセント-ジョンズ間で成功した。はじめ無線電信事業は海底電信事業から妨害されたが，対船舶また船舶対船舶の通信では欧米を独占した。1909年K. F. ブラウンとともにノーベル物理学賞を受賞。1919年パリ平和会議のイタリア全権代表。1933年世界周遊の途中に来日した。〔山崎俊雄〕

マルコのふくいんしょ【マルコの福音書】 ⇨福音書

マルコ-ポーロ［Marco Polo］（1254～1324） イタリアの商人・旅行家。ベネチアの生まれ。17歳のとき父ニコロ-ポーロとおじのマテオ-ポーロに連れられて，陸路小アジア・イラク・イラン・パミール・中央アジアを経て中国に旅行し，元朝のフビライ汗に17年間仕えて厚遇されたが，1295年海路ベネチアへもどり，その後貿易に従事した。彼の《東方見聞録*》ははじめてモンゴリア・中国・イラン・イラクなどのアジアの事情をヨーロッパに伝えたものとして有名。〔若松　寛〕

マルサス［Thomas Robert Malthus］（1766～1834） イギリス古典学派の経済学者。ロンドン郊外に牧師の子として生まれ，ケンブリッジ大学で生物学・数学を学び，卒業後は牧師になった。父とともに田園生活を送りながら，経済や政治に関する研究を行ない，32歳で《人口論》(1798)を公刊した。当時イギリスはフランス革命の影響をうけ，物価騰貴・食糧不足で社会不安が広まっており，政府は救貧法を改正して貧民救済の条件をゆるめようとしたが，救貧税負担の増加をきらう世論はあまり賛成しなかった。改正によって貧民の人口がふえ，負担も増すと考えられたからである。彼の《人口論》の内容は，人口は幾何級数的に増加するのに，食糧生産は算術級数的にしか増加しない，これが自然の法則で，食糧の不足や物価の騰貴はそれゆえ自然現象であり，国家の施策などによって防げるものではないというものである。〔林　達〕

マルシャン［André Marchand］（1907～　） フランスの画家。1932年にサロン-ドートンヌ，1933年にアンデパンダン展に出品して画壇に登場。アルジェリア滞在中に制作した《若い娘と麻痺(まひ)患者》によって，1937年ポール-ギヨーム賞を受賞。その後，プロバンスの風景を郷愁に満ちた筆致で制作した。のち作風はグラフィックな要素を強めて抽象的になり，その画風は第２次世界大戦後の日本画壇に影響を与えた。

マルス［Mars］ 古代ローマの神。古

くは農業神とみなされたらしいが，ローマ神話では軍神としての性格が著しい。ギリシア神話のアレス*と同一視されたことから，ユノの子，ロムルスとレムスの父とされる。

マルセイユ ［Marseille］ フランス南部，地中海に臨む同国最大の貿易港で，パリに次ぐ大都市。人口88万9,000(1972)。北アフリカをはじめ世界各地からの船舶が集まり，農産物や原料が搬入され，工業製品が輸出される。造船・機械・製粉など各種工業が行なわれるが，ことにせっけん生産は名高い。古くからの港で，歴史的建造物が多く残っているが，町並みは近代的で活況を呈する。紀元前6世紀にギリシアの植民地として開かれ，マッシリアとよばれた。中世からすでに地中海交通の一大中心であったが，特にスエズ運河開通後は世界的な貿易港に発展した。 〔梶川勇作〕

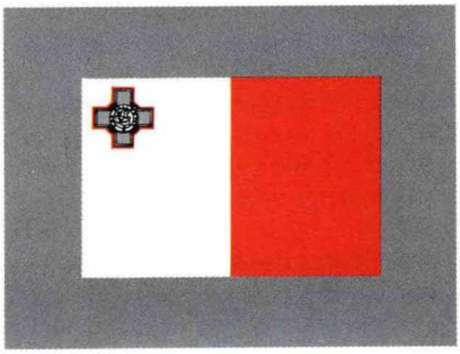
マルセル ［Gabriel Marcel］ (1889～1973) フランスの哲学者。パリの生まれ。一時パリのリセ(高等中学)の教授をつとめたが，のち思索と著述に専念し，《形而上学(けいじじょうがく)日記》(1927)，《存在と所有》(1935)などの哲学的著作と，多数の戯曲を発表した。はじめロイスらの新ヘーゲル主義の影響を受けたが，のち観念論を捨て，どうしても客観的反省の対象とならない人間の実存，存在の神秘，他人との主体的関係などを考察し，それを日記や戯曲という非体系的な形で記述した。彼はカトリックの代表的な実存主義哲学者のひとりである。戯曲には《渇(かわ)き》《密使》などがある。1966年(昭和41)来日した。 〔飯塚勝久〕

マルタ(共和国) ［Republic of Malta］ 地中海の中央部，イタリアのシチリア島南方約100kmにあるイギリス連邦内の独立国。マルタ島を中心にゴゾ島・コミノ島からなる。面積316km²。人口36万(1978)。首都は港町のバレッタ。1964年9月イギリスの直轄植民地から独立した。ジブラルタル・キプロスとともにイギリスの地中海海域における軍事基地となっている。島は石灰岩からなり低平で，最高地点は南西岸の標高250mである。海岸線は南岸を除いて，全体に複雑である。地中海式気候で，オレンジやレモン・ブドウなど果実の産出が多く，また蜂蜜(はちみつ)とレースは名高い。近年は観光収入も重要財源となっている。住民はセム系で複雑に混血したマルタ人。公用語は英語・マルタ語であるがイタリア語も用いられる。ローマ-カトリックが国教。紀元前10世紀にフェニキアの植民地として開かれ，貿易仲継地として栄えた。9世紀にはムーア人の支配下に置かれ，後スペイン領となって最盛期を迎えた。1798年ナポレオンに征服されたが，1814年のパリ条約でイギリスの植民地となった。現在，首相のもとに一院制の議会がある。 〔梶川勇作〕

マルターゼ ［maltase］ マルトース(麦芽糖)を加水分解して2分子のブドウ糖にする酵素。高等動物では腸液・膵液(すいえき)・唾液(だえき)中に消化酵素として分泌されるが，腸液中のものの作用が強い。このほか軟体動物・甲殻(こうかく)類などの中腸腺(ちゅうちょうせん)からも分泌される。植物では酵母・糸状菌などのほか発芽中の種子中などにも生産される。この場合はデンプンなどが加水分解される途中に生ずるマルトースの処理にあたっている。



マルセイユ マルセイユの新港ジョリエット埠頭。右手の奥に，旧港の船だまりとその背後にノートルダム寺院の丘が見える



マルタの国旗 1942年，当時イギリス領だったマルタの住民は，枢軸国軍の包囲攻撃によく耐えた英雄的行為によって，セント-ジョージ勲章を贈られたが，同年これを記念して勲章を配した旗が制定された。1964年，独立に際してわずかな修正を施して制定されたのがこの国旗である



マルタ 首都バレッタのグランド港のバリエラ埠頭とその背後の市街。町は岩盤のごつごつした丘陵の上に広がっている

マルタン ［Pierre Emile Martin］ (1824～1915) フランスの製鉄技術者。父エミールとともに銃砲用の硬質鋼を製造する工場で働いた。W.ジーメンス*と共同して蓄熱式反射炉により銑鉄・屑鉄(くずてつ)から鋼を製造する〈ジーメンス-マルタン法〉を発明。これはベッセマー*の転炉法に対して平炉製鋼法とよばれ，現在も使用されている。しかし，この発明で産をなしたわけではなく，パリの場末で人々に忘れられたまま暮らしたが，1910年見いだされ，晩年はヨーロッパ鉄鋼業者からの年金で幸福に過ごした。 〔加藤邦興〕

マルタン ［Frank Martin］ (1890～1974) スイスの作曲家。プロテスタントの牧師の子としてジュネーブに生まれ，チューリヒ・ローマ・パリで作曲を学んだ。以後ジャック-ダルクローズ音楽学校やケルン音楽院で作曲の教鞭(きょうべん)をとるかたわら，精力的な作曲活動を続け，ブロッホやオネゲルと並ぶ現代スイスの代表的な作曲家となった。はじめは後期ロマン派やセザール-フランクに共感してロマン的作風をとっていたが，しだいに12音技法や不規則なリズム法に興味をもち，斬新(ざんしん)な作曲語法を確立した。代表作はオラトリオ《魔薬の酒》(1941)，オラトリオ《地には平和を》(1944)，《ハープ・チェンバロ・ピアノのための小協奏曲》(1946)，《七つの管楽器と弦楽器と打楽器の協奏曲》(1949)など。 〔船山 隆〕

マルタン-デュ-ガール ［Roger Martin du Gard］ (1881～1958) フランスの小説家。パリ近郊に生まれ，古文書学院に学んだのち，1913年ドレフュス事件*に取材した小説《ジャン-バロワ》で文名をあげた。その後第1次世界大戦に従軍。1940年には，文学史に不朽の名をとどめる大作《チボー家の人々*》を，20年余の日時をかけて完成した。この長編小説は，第1次世界大戦前後の人間社会を冷静に描きつつ，人間精神の内部の軌跡をたどったもので，心理描写と歴史的客観性のみごとな融合をみせている。ほかに小説《古きフランス》などがあるが，一時コポー*とともに演劇に力を入れ，数編の

劇作がある。また，ジイドとは好敵手として友情をかわした。1937年ノーベル文学賞を受賞。〔池田公麿〕

マルチアリス ［Marcus Valerius Martialis］（44ごろ～103ごろ） ローマの詩人。スペインの生まれ。23歳でローマへ上り，保護者を求めて転々とした食客文人。約1,500編の〈寸鉄詩〉で名高い。主題は多岐にわたり，ローマ市民の日常生活を知る上で好個の資料である。攻撃的な風刺は少なく，気のきいたおどけた表現が得意。ユウェナリス・小プリニウス・シリウスらの友人。

マルチーニ ［Simone Martini］（1284ごろ～1344） イタリアの画家。ドゥッチョの強い影響のもとに自己の作風を発展させていき，やがてジョットに次いで14世紀イタリアにおける重要な画家となった。その作品は明るく，親しみに満ちた色彩，細部に至る細密な描写，繊細で美しい描線などを特色とする。ナポリ・シエナ・ピサなど各地で活躍したのち，1339年アビニョンにおもむき同地で客死。詩人ペトラルカと親交があった。代表作は《マエスタ》《聖告》など。〔松本芳夫〕



マルチーニ《聖告》 ウフィツィ美術館蔵

マルチーニ ［Giambattista Martini］（1706～1784） イタリアの作曲家・音楽理論家。バイオリン奏者の父から手ほどきを受け，のちプディエリ・リッチェリに学ぶ。聖職につくとともに，宗教音楽の分野に作品を残した。彼の音楽は，パレストリーナ以来の厳格な対位法を駆使した，いくぶん保守的な作風を示している。また，当代随一の音楽理論の大家として知られ，グルック・J.C.バッハ・モーツァルト・グレトリーらが師事している。《音楽史》など，歴史的・理論的著書がある。〔寺田兼文〕

マルチニク(島) ［Martinique］ 西インド諸島南東部，ウィンドワード諸島の北部にある島。フランス領。面積1,090km²，人口34万(1972)。火山島で貿易風帯に位置し，全島森林におおわれた美しい島で，ラフカディオ-ハーン*はヨーロッパから日本に向かう途中ここに立ち寄っている。かつて北西岸にあった都市サン-ピエールは，当時カリブ海地方で最も繁栄していた都市の一つであったが，1902年のモンプレー山の噴火によって全滅した。主産物は砂糖・ラム酒・バナナ・パイナップルなど。1502年コロンブスに発見され，1635年からフランスの植民地となった。主都フォール-ド-フランス。〔大崎　晃〕

マルチバイブレーター ［multivibrator］ 2個の真空管あるいはトランジスターを使用して再生結合を行ない，それらの大振幅における非直線性を顕著に利用して2種の電気的状態の間を交互に跳躍し，それに応じた波形を発生する一種の弛張(しちょう)振動発生回路。非安定・単安定・双安定いずれの状態も実現でき，特殊波形発生器として用いられる。

マルテのしゅき 【マルテの手記】 リルケ*の小説(1910)。異郷のパリで孤独な生活を送るデンマークの若い詩人マルテがしるす内面的記録である。大都会の生活が自分の心に刻みつける反応を確かめていく最初の部分は，実存的苦悩の文学的結晶として有名。第1部はパリの体験の合い間に故郷の少年時代の追憶を織り込み，第2部では愛と死をめぐって思いは歴史上の世界にも広がる。

マルテンサイト ［martensite］ 広義には，合金系一般において，二つの同素変態間に生ずる準安定中間組織をさす。これは無拡散変態した相で，炭素鋼や鉄-ニッケル合金などに見られる。一般にはオーステナイト*の分解生成物で，焼き入れ速度が十分大きくパーライトへの転移が阻止された場合などに生ずる金属組織をさす。これには α マルテンサイト(白色針状組織)と β マルテンサイト(黒色針状組織)とがあり，前者は不安定で，100～120℃の加熱で後者に変わる。後者は，α 態に比べて安定しており，かたくてもろい。また，磁性が強く，電気抵抗は小さい。〔秋枝哲児〕

マルドゥク ［Marduk］ バビロニア神話の神。天地創造の神で，光と秩序の神とされた。はじめバビロン市の守護神とされたが，ハンムラビ王*によって全バビロニアの最高神とされ，アレクサンドロス大王に征服されるまで，その信仰が続いた。

マルトース ［maltose］ ブドウ糖2分子が α-1,4結合してできた還元性二糖類で，麦芽糖ともいう。➜麦芽糖

まるとびむし 【円跳虫】 こん虫類・粘管目・マルトビムシ科の総称。体長0.5～2.0mmの微小種のみを含む。腹部が著しく大きくて丸く，腹部末端の2本の長い突起でよく跳躍する。翅(はね)はない。全世界から250種以上が知られ，日本にも約10種が知られる。いずれも地上の湿気の多い場所や朽ち木・きのこ類・水表面・植物体上などに生活する。キマルトビムシやキボシマルトビムシのように，ウリ類・ナス・トマト・菜類などの幼苗を食害するものもある。上記2種のほか，池やたまり水などの静水面を活発に跳躍するミズマルトビムシや湿気に富む石の下・朽ち木・落葉などに多いセグロマルトビムシなどが代表的な種類である。〔鈴木邦雄〕

マルトフ ［Martov］（1873～1923） ロシア社会民主労働党(メンシェビキ)の指導者。本名はYulii Osipovich Tsederbaum。ペテルブルグ大学在学中から革命運動にはいり，レーニンの同志として闘争同盟に参加したためシベリアに流刑されたが，1900年国外に亡命した。1903年第2回党大会でレーニンと対立し，党分裂の端緒をつくった。ロシア第1革命のとき帰国したが再び亡命。二月革命のとき再度帰国し，社会民主労働党の左派として一時はソビエト政権に協力したが，1920年に亡命し，反ソ活動に従事した。主著《ロシア社会民主労

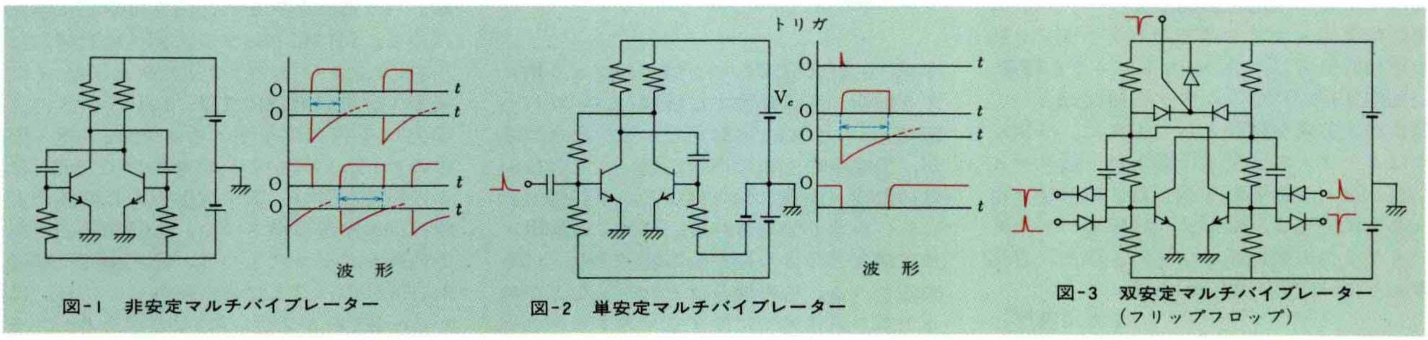


図-1 非安定マルチバイブレーター　図-2 単安定マルチバイブレーター　図-3 双安定マルチバイブレーター（フリップフロップ）

マルチバイブレーター

働党史》など。　〔米沢克夫〕

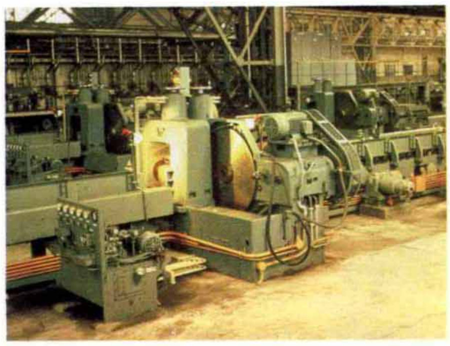
マルヌのたたかい　【マルヌの戦い】　第1次世界大戦中，セーヌ川の支流マルヌ川をはさんで展開されたドイツ・フランス間の戦い。1914年9月初旬の西部戦線最初の両軍の主力戦。ドイツ軍はベルギーを通過して北フランスからパリに迫ったが，フランス参謀総長ジョッフル指揮の軍隊は9月マルヌ川にこれを迎え，5～6日の総反撃によりドイツ軍を退却せしめた。この結果，ドイツ軍のフランス侵入が阻止され，西部方面での短期決戦を意図するドイツのシュリーフェン作戦*も失敗。以後西部戦線は長期塹壕戦(ざんごうせん)と化した。1918年7～8月，ドイツ軍はパリにマルヌ川方面から再び侵入，最後の大攻撃を試みたが，フランス軍は反攻，再度これを敗退せしめた。この戦いによりドイツの敗北は決定的となった。　〔折井一彦〕

まるのうち　【丸の内】　東京都千代田区の東部，東京駅を中心とする地区。現在の町名としては丸の内1～3丁目がある。もと丸之内と書き，江戸時代は江戸城の東面をなす外郭で，大名屋敷や旗本(はたもと)屋敷が集まっていた。明治維新後一時荒廃したが，兵営・官舎などが設置され，1890年(明治23)，民有地として三菱(みつびし)が払い下げを受けて貸事務所街を建設し，1914年(大正3)東部に東京駅の中央停車場が完成して，東京の表玄関口としての偉容が整った。関東大震災後は一流会社や銀行が集まって，代表的なビジネスセンターを形成し，さらに第2次世界大戦後は新丸ビルをはじめ高層ビルが建設されて面目を一新し，日本経済の中枢機能を果たしている。東京駅からは国内各地へ列車が発着するほか，国電山手(やまのて)線・京浜東北線，地下鉄丸ノ内線が通じる。　〔浅井得一〕

まるのこばん　【丸鋸盤】　円板状の丸のこを高速度で回転させて材料を切断するための機械。製材所・木工所などで用いる木材切断用のものと，大形鋼材・パイプ・レールなどの切断に用いる金属切断用のものとがある。

まるばぐみ　【円葉胡頽】　双子葉植物・グミ科。暖地の海岸の林内に自生する常緑つる性低木。枝にはかっ色の星状鱗片(りんぺん)が密生する。葉は長さ5～10cmの卵円形ないし円形で全縁，先はとがる。上面は濃緑色で光沢があり，下面は白色鱗片が密生する。秋，葉腋(ようえき)に白黄色の花を数個つける。がくは鐘形で先が4中裂し，裂片は卵状三角形で筒部よりもやや短い。果実は長さ1.5～2cmの長楕円(ちょうだえん)体で，翌春赤熟する。

まるばしちゅうや　【丸橋忠弥】　(？～1651)　忠也とも書く。出羽の浪人。宝蔵院流槍術(そうじゅつ)の達人で，江戸本郷弓町に道場をもっていた。1651年(慶安4)由井(ゆい)正雪*の幕府転覆謀議に参画し，江戸城襲撃を担当したが，老中松平信綱(のぶつな)の内偵(ないてい)と，裏切り者の出訴により7月23日捕えられた。性軽率のため，包囲した捕方(とりかた)の〈火事だ火事だ〉という声に，丸腰で飛び出したところを難なく押えられたもの。8月13日，忠弥は家族とともに鈴ケ森*で処刑された。➔慶安事件　〔稲垣史生〕



丸鋸盤　H形鋼切断用丸鋸盤　刃の直径は1.4m，刃先の厚さは9mmもある



マルハチ

まるばだけぶき　【丸葉岳蕗】　双子葉植物・キク科。山地の草原に自生する多年草で，高さ40～100cm。根出葉は長い柄があり，長さ20～30cm，幅25～35cmの腎円(じんえん)形で，鋸歯(きょし)が目だつ。茎葉は基部がふくれて茎を抱く。7～8月，直径7～9cmの頭花を散房状につける。筒状花は9～13個，舌状花は黄色で約10個ある。

まるはち　【丸八】　シダ植物・ヘゴ科。亜熱帯地域に分布する木生シダで，幹は直立して高さ数メートルに達する。葉の落ちた跡に八の字状の紋ができるのでこの名がある。葉は長さ1～2mで2回羽状複葉。葉柄と葉軸に多数の小さいとげがある。ヘゴと同様に園芸用の飾りに使われる。

まるはなばち　【円花蜂】　こん虫類・膜翅(まくし)目・ミツバチ科。オオマルハナバチともいう。体は黒色で，毛先のそろった長毛を密生するが，腹部背面の毛は直立していない。雌雄によって毛の色彩は著しく変化し，また地域的にも変化が大きい。雌(女王バチ)は大形で，体長17～22mm，体は幅広く前胸部と腹部第2節背板には黄白色毛帯があり，腹端の3節には赤かっ色毛がある。本州に産するものには，前胸部と腹部の黄白色帯が著しく退化したものがある。翅(はね)は透明で，かっ色をおび，翅脈は黒かっ色。働きバチは体長10～20mm，女王バチに比べ黄白色毛が多く，胸部中央と腹部第3節の背板に黒色毛帯があり，腹端の3節には赤かっ色毛がある。雄バチは秋季にだけ出現し，体長12～20mm，働きバチに似るが胸部の黄白色毛が多く，中央の黒色毛帯が著しく細い。日本全国のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国に広く分布し，寒地では平地から高山帯まで普通に見られるが，暖地では山地にのみ見られる。土中に営巣し，冬は女王バチだけが朽ち木中などで越す。酷似する種にコマルハナバチとクロマルハナバチがある。コマルハナバチは日本全国に分布し，女王バチと働きバチは毛が長く，腹部背面の毛も直立しており，毛先もそろっていず，雄は初夏に出現する。クロマルハナバチは本州・四国・九州に分布し，毛は濃色で短く，胸部ではビロード状を呈し，腹部背面の毛は強くねており，雄は晩夏から秋にかけて出現する。マルハナバチ類は，ユーラシア大陸の中北部から北アメリカにかけて多くの種類があり，日本にはこのほかトラマルハナバチなど約10種が分布する。いずれも体は短く太く，全体長毛におおわれる。社会生活を行ない，土中・木の穴などに枯れ草などで球形の巣をつくる。花粉や花ミツを食物とするが，ニッポンマルハナバチヤドリのように，他のマルハナバチ類の巣に寄生する種類もある。　〔鈴木邦雄〕

まるばはぎ　【丸葉萩】　双子葉植物・マメ科。山地にはえる落葉低木で，高さ1～2m。葉は互生し，3出複葉で，枝の上方に密生する。小葉は長楕円(ちょうだえん)形で幅が広く，先はまるいかややへこみ，ヤマハギよりも丸みをおびる。裏面には短毛がはえ，淡色となる。秋に葉よりも短い総状花序を腋生(えきせい)し，長さ1.0～1.5cmの紅紫色の蝶形(ちょうがた)花をつける。果実は扁平(へんぺい)な楕円形の豆果で，熟しても裂けず，中に1個の種子がある。

マルピーギ　［Marcello Malpighi］　(1628～1694)　イタリアの解剖学者。ボローニャの近くに生まれ，ボローニャ大学で医学を学んだのち，同大学・ピサ・メッシナ大学の教授を歴任。晩年は教皇インノケンチウス12世の侍医となった。おもな研究業績としては，1661年の毛細血管と肺小胞組織の発見，1669年こん虫内部構造の解明，1672～1673年ニワトリ胚(はい)発生過程の精密な追究，1675～1679年植物の組織と細胞の観察などがあり，これらの所見はいずれも当時における顕微鏡の性能を限度まで駆使して得たものである。　〔中村禎里〕

マルピーギかん　【マルピーギ管】　体腔(たいこう)内に生じた老廃物を排出する器官の一種で，クモ類・唇脚(しんきゃく)類・倍脚類・こん虫類にみられる。中腸と後腸の境界に

開口した細長い糸のような形の盲管である。種類によってその数は不定で，少ないものでは1対，多いものでは100以上にもなる。脈翅(みゃくし)類の幼虫のように，蛹化(ようか)するまえにマルピーギ管から絹糸状の物質を出す働きなどをするものもある。

マルピーギしょうたい【マルピーギ小体】 ⇨腎小体(じんしょうたい)

マールブランシュ［Nicolas de Malebranche］(1638～1715) フランスの哲学者。1654年ラ-マルシュ大学・ソルボンヌ大学神学部で学ぶ。1660年オラトリオ会修道士。はじめアウグスチヌスの書に強く影響を受けたが，偶然デカルトの《人間論》を読み，デカルト主義者になる。彼は宗教と哲学の調和，デカルトの二元論の克服を図ろうとし，機会原因論を唱えた。主著《真理の探究》《自然と恩寵(おんちょう)について》《形而上(けいじじょう)学と宗教に関する対話》など。〔石井忠厚〕

マールブルク［Marburg］ 西ドイツ中部，ヘッセン州の都市。フランクフルト-アム-マインの北方約75kmにある。1527年創立の大学が名高い。12世紀に城塞(じょうさい)が築かれ，13～17世紀にはヘッセン領の中心であった。古い遺跡が多く，観光地として知られる。

マールブルクは【マールブルク派】 19世紀末，マールブルク大学のコーエン・ナトルプらを中心とする新カント派の一派。ウィンデルバント・リッケルトらの西南学派に対応する。西南学派がカントの文化科学的側面を継承・発展させたのに対し，マールブルク派はカントの数学的・自然科学的側面を発展させた。カッシーラー・ゲールラント・キンケル・ブーフェナウ・ハルトマン・ハイムゼートに継承された。

まるべに【丸紅(株)】 三菱(みつびし)商事・三井物産に次ぐ総合商社の一。1858年(安政5)呉服卸商の〈紅忠〉として発足，1921年(大正10)貿易業に進出し，丸紅商店となる。1941年(昭和16)伊藤忠・岸本商店と合併し三興，1944年呉羽(くれは)紡績・大同貿易と合併し大建産業となる。第2次世界大戦後丸紅として再出発し，1955年高島屋飯田(いいだ)を合併して丸紅飯田となったが，1972年1月丸紅に社名変更。繊維・金属を中心に機械・化学品・食糧・軽工品(セメント・建材・ベニヤなど)までの総合商社としての地位を固め，さらに住宅産業・海洋開発部門への進出に積極的である。営業所は国内53，海外109。本社大阪。資本金396億円，年間取扱高8兆3,881億円，従業員数7,841(1980年9月)。

まるほんかぶき【丸本歌舞伎】 歌舞伎脚本の一種。人形浄瑠璃(じょうるり)の戯曲を歌舞伎に移入したものをいう。義太夫(ぎだゆう)浄瑠璃の全段の詞章を完全に収めた版本を丸(院)本というところからこの名が出たが，〈でんでん物〉〈竹本狂言〉などのよび名もある。丸本歌舞伎の価値が定まったのは，1715年(正徳5)の《国姓爺(こくせんや)合戦》の好評以来で，今日では，歌舞伎の時代物狂言中最も重要な位置を占めている。



円山応挙〈写生帖部分，虫〉 東京国立博物館蔵

まるまげ【丸髷】 女子の日本髪の一。勝山髷と同系で，頭頂の髷が長円形である。江戸時代中期ごろより結われ，京阪(けいはん)地方では身分の低い下女などが結ったと思われるが，江戸では既婚女性の髷として発達した。髷の大小は流行により変化し，江戸末期には大きな髷型を入れて，厚みも幅もある髷になった。しかし，幕末から明治になると，全体に引き締まり，小さく落ち着いた。大正・昭和の初期まで，若妻は赤いてがら，中年は水色・藤色など落ち着いた色のてがらを用い，年代に合った既婚女性の髷として，広く結われたが，現在はほとんど見られない。〔橋本澄子〕

まるまるちんぶん【団団珍聞】 1877年(明治10)3月，野村文夫の主宰する団々社から発行された滑稽(こっけい)風刺雑誌。漫画・漫文・狂歌・狂詩・狂文など漢学の素養のない一般庶民にも親しみやすい形式で政治風刺を行ない，1881～1882年ごろその全盛期であった。団団社は1878年10月同様の雑誌《驥尾団子(きびだんご)》を創刊し，明治10年代における風刺文学の発生に果たした役割は大きい。

マルメ［Malmö］ スウェーデン南部の港市。人口24万4,000(1975)。エレソン海峡をはさんで，デンマークのコペンハーゲンとは26kmの鉄道フェリーで連絡する。海軍基地でもあり，また造船や精糖などの工業が行なわれる。ハンザ同盟時代にはニシン漁業で栄えた。14世紀建造の教会，16世紀建造の市庁舎などが残っている。

マルメロ［marmelo］ 双子葉植物・バラ科。榲桲とも書く。イラン・トルコ地方原産の落葉高木で，ヨーロッパ南部で広く栽培され，日本には1634年(寛永11)に渡来した。幹は数本叢生(そうせい)して高さ5～8mになり，枝はよく分枝し，若枝は綿毛が密生している。葉は互生し，長さ5～10cmの卵形ないし長楕円(ちょうだえん)形で全縁，先は鈍頭。質は厚く，上面は暖緑色，下面は白綿毛が密生する。5月ごろに新枝に白色ないし黄紅色をおびた径4～5cmの芳香のある5弁花を単生する。おしべ多数，めしべ5本。がく・花柄などには綿毛が密生する。果実は長さ10～12cmの球形または西洋ナシ形で綿毛を密生し，10月ごろに黄熟して芳香が強い。果肉は石細胞が多く，木化している。果実を生食または砂糖づけ・ジャム・ゼリーなどにする。日本では東北地方や長野県などに多い。マルメロはポルトガル語。〔横井朝子〕

まるもり【丸森(町)】 宮城県南端，伊具(いぐ)郡の町で，1郡1町をなす。人口21,000。中心集落は角田盆地の南西端，阿武隈(あぶくま)川のつくる峡谷の出口を占め，かつては阿武隈川の水運の河港として栄えたが，現在は付近の農村の中心町となっている。また相馬(そうま)藩に対する伊達(だて)藩最南の要地として丸森城が築かれ，城跡が東郊に残っている。

まるやまおうきょ【円山応挙】 (1733～1795) 江戸中期の画家。丹波(京都府)に生まれ，少年時より京都に出て活躍した。名ははじめ氐(てい)，のち応挙，字(あざな)は仲選，一嘯(いっしょう)・夏雲・仙嶺(せんれい)などと号した。はじめ石田幽汀(ゆうてい)に狩野(かのう)派の画法を学び，のち眼鏡絵(めがねえ)の制作を通して西洋画法を独学，さらに中国宋(そう)・元院体画や沈南蘋(しんなんぴん)などの写実的描写を学習して，革新的な写生画風を開拓した。30歳代に円満院門主祐常(ゆうじょう)の庇護(ひご)を受けて画壇の中央に出たが，みずから開発した写生画風に，伝統的な琳派(りんぱ)の装飾画風を結びつけて，華麗優美な新しい装飾画形式を創造，巨匠としての地位を確保した。以後，京都の画風は応挙風に一変し，長沢蘆雪(ろせつ)ら多くの門弟を集めて円山派を形成する一方，南画家松村呉春を写生画家へと転向させた。代表作に，大乗寺・琴比羅宮(ことひらぐう)の障壁画のほか，《孔雀牡丹図(くじゃくぼたんず)》《雨竹風竹図屛風(びょうぶ)》《雪松図屛風》〈写生帖〉などがある。〔小林　忠〕

まるやまかおる【丸山薫】 (1899～1974) 詩人。大分県の生まれ。東京高等商船学校(現在の東京商船大学)・東京大学国文科中退。第1詩集《帆・ランプ・鷗(かもめ)》で認められ，堀辰雄(ほりたつお)・三好(みよし)達治らと詩誌《四季》を編集，四季派叙情詩の中核として活躍。その詩は一貫して物象への永遠の郷愁を暗喩(あんゆ)や擬人法をもって歌っている。詩集に《幼年》《物象詩集》《点鐘鳴るところ》《青春不在》などがある。

まるやまは【円山派】 江戸中期以後に京都を中心に流行した絵画の流派。平明な写実を基礎とする洗練された装飾画風は京都市民の好尚(こうしょう)にあい，京都画壇を独



マルロー



マレーシア

占する隆盛をみた。松村呉春*の開いた四条派と合わせて円山四条派または京派と総称される。所属画家に，円山応挙*・長沢蘆雪*(ろせつ)・源琦(げんき)・奥文鳴・山口素絢(そけん)・中島来章・幸野楳嶺(ばいれい)らがいる。

マルロー ［André Malraux］（1901～1976） フランスの小説家・政治家。パリの生まれ。東洋語学校で中国語などを学び，1920年代にはインドシナ・中国を旅行，中国では革命運動に参加。その体験をふまえた特異な文明論《西欧の誘惑》を発表し，以後盛んな文筆活動にはいって，革命や冒険を扱った小説《征服者》《王道》《人間の条件*》《希望*》などでその文名は世界じゅうに知られた。これらの小説には，死と紙一重にある行動への参加を通して人生の不条理性をこえ，人間の尊厳と自由を回復しようとする人物たちが，力強く描かれている。そして作者自身，第2次世界大戦中はレジスタンス運動で主要な位置にあり，また戦後はド-ゴールの閣僚として政治活動を行なうなど，行動精神を実践した。〔立仙順朗〕

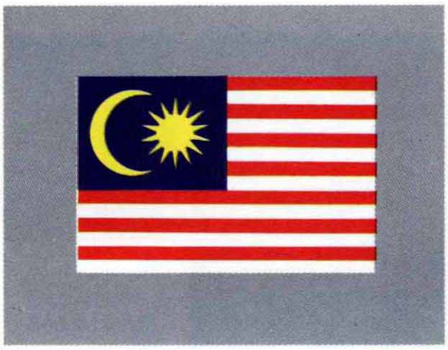
マレー(半島) ⇨マライ半島

マレー(川) ［Murray］ オーストラリア南東部の川。ニューサウスウェルズ・ビクトリア両州の大部分を流域とする。全長2,580km。オーストラリア-アルプスに発し，南西に流れてアデレード東方のエンカウンター湾に注ぐ。総合開発により中・下流部は灌漑(かんがい)に利用され，流域には良好な農牧畜地域が開ける。

マレー ［David Murray］（1830～1905） アメリカの教育家。明治初期における日本の教育制度の確立に貢献した。ユニオンカレッジを卒業後，1863年ラトガースカレッジの数学・天文学教授。1873年(明治6)文部省に招かれて来日，1878年まで文部省学監として学制の確立などに尽力し，東京大学・学士院・博物館の開設に貢献した。

マレーぐま【マレー熊】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。頭胴長1.1～1.4m，体重27～65kg。体は黒色で吻(ふん)は淡黄色，前胸部にV字形の白斑(はくはん)がある。マライ半島・スマトラ・ボルネオに分布する。つめは長くて鋭く木登りがうまい。果実・こん虫を好み，小獣や小鳥を捕食する。→クマ

マレーシア ［Malaysia］ 東南アジアの連邦制の君主国。シンガポール島を除くマライ半島の南部およびボルネオ島北部のサ



マレーシアの国旗 1963年制定。マラヤ連邦の国旗に3条と星を加えたもの。14の条はこの国を構成する諸地方を表わすが，シンガポールの独立後も変更されていない。黄色はイスラム土侯の色で，青・白・赤はユニオンジャックの影響を受けている。月と星は回教を中心とする国であることを表わす



マレーシア　マライ半島中部イポー付近の中国人系のスズ鉱山。採掘のあとは荒れ地や水たまりとなっている場合が多い

ラワクとサバからなる。面積32万9,749km²，人口1,330万(1979年推)。首都クアラルンプール。

【自然・住民】マライ半島南部は山がちで，中央部をパンジャラン山系が走り，最高点はタハン山の2,189m。東西両海岸には低湿な平野が連なり，特に西岸はよく開け，人口も稠密(ちゅうみつ)であるが，東岸は未開地が多い。サラワクは，ボルネオ島の脊梁(せきりょう)山脈と海岸との間に広い低地があるのに対し，サバは山がちで，ボルネオ島の最高峰キナバル山(4,101m)が海岸近くにそびえている。熱帯で雨が多く，山地は密林におおわれ，季節風の影響から雨季は，マライ半島東岸とサラワク・サバが10～3月，マライ半島の西岸は5～8月になる。住民構成はきわめて複雑で，マレー人は約47%，中国人34%，インド人9%で，ほかにヨーロッパ系住民などもおり，政情に強い影響を及ぼしている。原住民はマレー人であるが，19世紀以後にスズ鉱山・ゴム園などが開かれてからは中国人・インド人・イギリス人が多数移住し，典型的な複合民族居住地域に変化した。マレー人の大部分はデューテロ-マレー(開化マレー)で，サラワク・サバにはプロト-マレー(第1次マレー)に属するダヤク族・タガザン族もいる。マライ半島の奥地には採集・狩猟生活を営むセマング族・サカイ族などがいる。マレー人はイスラム教，中国人は仏教，インド人はヒンズー教を信仰する。公用語は英語とマレー語だが，中国語も用いられる。

【産業・経済】この国の産業はゴムとスズの二大産物を中心に発展した。ゴムは19世紀末以来発達し，マライ半島西岸を中心に生産約100万t(1965)，総輸出額の60%に達し，世界の天然ゴムの約40%を占める。生産は大農園(エステート)と農民が小規模に栽培するスモール-ホールディングとがあるが，60%は大農園からの生産である。近年は合成ゴムに押されぎみであり，若いゴム樹木への植え替えを進めたりして打開に苦慮している。スズは，マライ半島北部西岸の丘陵地を中心に年間約77,000t(1964)を産し，世界総生産の約3分の1を占めるが，イギリス人経営のものが多い。このほか近年盛んに開発されている鉄鉱石は，おもに日本へ輸出しており，サバの油田も有望な資源である。ほかに金・タングステン・ボーキサイト・マンガンも産する。農業は，マレー人の米作が主であるが，自給度は50%程度にすぎず，他にコプラ・砂糖・コショウ・カカオがあり，林産にはチーク材が

ある。貿易は輸出入合計25億米ドルで東南アジア諸国の中では最も高く，1人あたり国民所得も254ドルに達し，やはり東南アジア諸国で最も高い。しかし，農園と鉱山の大半，海運・貿易・銀行の多くはイギリスを中心とするヨーロッパ資本と中国人に握られ，このためマレー人の生活程度はなお低い。

【歴史・政治】マレー人は3～4世紀ごろにスマトラ島から移住してきたといわれ，インド人と交流しながら民族を形成していった。14世紀にはマラッカ王国を建設し東南アジアに勢力をふるったが，このころからインドの影響力が後退し，代わってイスラム教が及んできた。1511年ポルトガルのマラッカ占領で，王国は滅んだ。1641年オランダがマラッカに進出したが，1867年イギリスがシンガポール・マラッカ・ペナンを直轄植民地とし，1895年ペラク・スランゴール・ヌグリスンビラン・パハンを保護領とし，1914年にはジョホール・ブルネイを加えてイギリス領マレーを形成した。第2次世界大戦中は日本に占領されたが，戦後は再びイギリスの支配下にはいり，1957年イギリスとの協定でマライ半島部分を中心にマラヤ連邦を結成，イギリス連邦内の独立国となった。その後1963年9月シンガポールとボルネオ島北部のサラワク・サバを加えてマレーシア連邦が成立したが，1965年8月シンガポールが分離独立した。元首は国王で，ペナン・マラッカ・サラワク・サバを除く各州の首長の中から選出され，任期は5年。議会は二院制。イギリスとは経済合同委員会・作戦委員会を設けるなど現在も密接な関係にある。なお内政的には，経済的実権をもつ中国人・インド人とマレー人との対立が激しく，しばしば暴動を引き起こしている。〔別技篤彦〕

マレース［Hans von Marées］（1837～1887）ドイツの画家。ベルリン・ミュンヘン・ローマなどで制作。イタリアではティツィアーノ，ラファエロらの作品の模写を行なった。1869年のスペイン・オランダ旅行によって作風は変化し，色彩は力強く，構図は堅牢(けんろう)となった。有名な壁画《オレンジをつむ騎者と裸女》でその芸術は頂点に達し，人物と空間の関係の表現，構成上の静と動の対比に意を注いだといわれる。フィードラー・ヒルデブラントとの交友は，互いに実り多い刺激を与え合った。〔松本芳夫〕

マレーばく【マレー貘】哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・バク科。頭胴長2.4m，尾長7.5cm。体はがんじょうで，よく動く管状の鼻がある。体の前半部と四肢(しし)は黒かっ色で残りの部分は灰白色。ビルマ・マレーシア・スマトラに分布する。夜行性で注意深く，ふつう1頭で生活する。森林や川べにすみ，草や木の芽などを主食にする。子はイノシシの子のような白色の縦じまがあり，成長するにつれて消失する。➔バク



マーレビッチ《椅子に坐す人》





マロニエ
果実にはとげがある

マーレビッチ［Kazimir Severinovich Malevich］（1878～1935）ロシアの画家。純粋幾何学的絵画の創始者。1912年から1915年にかけて，キュービスムの影響のもとにシュプレマティスムの運動を起こす。これは，画面からいっさいの具象的形態を除き，単純な幾何学的形態による構成を行なうものである。一方，スラブ民族特有の神秘主義的傾向をもった彼にとって，画面は存在の最も神秘な深みから生まれる精神的体験の投影でもあった。〔岸野悦子〕

マレルブ［François de Malherbe］（1555～1628）フランスの詩人。カンの生まれ。アンリ4世・ルイ13世の庇護(ひご)下に宮廷詩人として活躍，《マリー＝ド＝メディシス祝婚歌》など多くの詩を残した。16世紀の混乱したフランス語を排し，単純平明な表現を主張，古典主義時代に道を開いた。

マレンゴのたたかい【マレンゴの戦い】1800年6月14日，ナポレオン1世が北イタリアのマレンゴ平野でオーストリア軍を破った戦い。ジェノバでイタリア方面軍を攻囲していたオーストリア軍の裏をかき，吹雪(ふぶき)のサンベルナール峠越えでアルプスを強行突破し，マレンゴ平野に陣を敷いた。当時国内では反ナポレオン分子が結集しつつあり，ルイ18世の王党派の陰謀も進行していたが，この勝利でそれらは粉砕された。翌年オーストリアとの間にリュネビルの和約が成立。〔喜多迅鷹〕

マレンコフ［Georgii Maksimilianovich Malenkov］（1902～　）ソ連の政治家。オレンブルグの生まれ。国内戦に際して赤軍に志願，1920年入党。1934年以来党中央委員会内で重要な位置を占め，1939年党中央委員会書記局員，組織局員を兼任。ドイツ・ソ連戦争中は国防委員。第2次世界大戦後の復興に貢献。1952年の第19回党大会で党中央委員会書記兼幹部会員。1953～1955年ソ連閣僚会議議長。1955年同議長代理兼発電所大臣となったが，1957年〈反党グループ〉に加わったとして要職を解任された。〔山県弘志〕

マロ［Clément Marot］（1496～1544）フランスの詩人。フランソワ1世，その姉で女流作家であったマルグリット＝ド＝ナバールに仕えたが，新教徒であったため旧教徒の迫害に苦しめられ波乱に満ちた生涯(しょうがい)を送った。伝統的な中世の詩型による詩を書いたが，表現は軽快な優雅さをそなえ，のちの古典主義の手本とされた。

マーロー［Christopher Marlowe］（1564～1593）イギリスの詩人・劇作家。カンタベリの生まれ。ケンブリッジ大学を卒業し，いわゆる大学才人派のひとりとしてエリザベス朝演劇の基礎をつくった。シェークスピアの《ベニスの商人》と同様，ユダヤ商人を扱った《マルタ島のユダヤ人》や，ゲーテに影響を与えたといわれる《フォースタス博士の悲劇》などが著名。他に《エドワード2世》や，いくつかの詩編がある。無神論者として騒がれ，また国王のスパイとして活躍もし，最期はロンドンの居酒屋で暗殺されたともいわれる。典型的なルネサンス人で，一気に歌いあげるような文体には，独特の純粋な美しさがある。また，シェークスピアとの同一人説や，合作説もあり，なぞの多い人である。〔五十嵐一〕

マロニエ［marronnier］双子葉植物・トチノキ科。バルカン半島原産の落葉高木で高さ30mほどになる。トチノキに似るが，果実にとげがある。葉は掌状で，小葉は5～7片あり，楔状(くさびじょう)倒卵形。5～6月に白色で赤色斑(はん)のある花を円錐(えんすい)花序につける。果実は球形で，径6cm内外。

マロリー［Thomas Malory］（1410ごろ～1471）イギリスの騎士・作家。当時流布していた膨大なアーサー王伝説を取捨選択し，秩序だて再構成した《アーサー王の死》の作者とされている。この作品の文体は，頭韻を含みつつも，簡潔・平明な散文のリズムによって統一されている。彼の作品は，アーサー王関係のものを含めて8編ほど知られているが，一つのテーマのもとに筋を展開していく手法は，近代小説のジャンルを確立していく上での一つの道程になっているといえよう。〔五十嵐一〕

マロングラッセ ［marron glacé］ クリを砂糖づけにしたフランス式の高級菓子。渋皮をむいたクリを最初糖度24度ぐらいの糖液に浸し，80℃ぐらいに保ちながら約３時間保温してから，糖液より出す。次の日には糖液の糖度を１度高くして前日のクリを入れ，湯煮式で80℃で３時間保つようにする。このようにして糖度32度を保つまで毎日糖度を１度ずつ高くしていき，最後に表面の糖液を洗い，金網上に並べて約50℃の温度で30分乾燥して製品とする。なお，わが国のクリは水分が多く，くずれやすいので，もめん糸を幾重にも巻いてくずれないように注意してつくるが，この場合毎日２度ずつ糖度をあげて糖分を十分にしみ込ませる。〔泉　敬子〕

まわた 【真綿】 カイコの繭からつくった綿。さなぎはだ(さなぎを取り巻く部分)，ガに食い破られた繭，下級品の繭を煮て，これを引き伸ばしてつくる。伸ばし方によって，半円形の袋状にした袋綿，長方形(幅145cm，たけ220cm)の丹前綿，片面に糊(のり)つけした吹き止め綿などがある。繊維が細く，軽くて柔らかく，引っ張りに強く，布に密着する性質をもち，保温性に富むが弾力は小さい。古代から衣類の中綿として，上流階層に使用され，江戸時代に木綿*(もめん)綿が普及するまでは，綿といえば真綿をさした。綿入れ長着の中綿のほか，木綿綿の切れるのを防ぐ引き綿としても用いられ，大正末期ごろから絹綿とよんで掛けぶとんの中綿にも用いたが，総じて現今は使われなくなった。〔堀越すみ〕

まわりぶたい 【回り舞台】 劇場の舞台機構の一。舞台の床を円形に切り，装置を飾ったまま回すようにした機構のことで，舞台転換を早くするため，または特殊な演出効果をあげるために使う。1758年(宝暦８)歌舞伎(かぶき)で並木正三*(しょうぞう)がくふうしてはじめて用いたといわれる。なお，回り舞台の内側にもう一つ回り舞台を切って二重に回す仕掛けを〈蛇(じゃ)の目回し〉という。

マン(島) ［Man］ イギリス，イングランドとアイルランドのほぼ中間，アイリッシュ海に浮かぶ島。面積572km^2。人口60,000(1972)。風光に恵まれ，気候温暖な観光地として有名で，牧場の中を走る小形の鉄道，島を一周するモーターサイクル(自動二輪車)レースのコース，また晴れた日には頂上からアイルランド・スコットランド・イングランド・ウェールズが見渡せるスネーフェル山がある。港町の主都ダグラスには近世ふうの建物が並び，キャッスルタウンにはノルマン人が建設した古城が残っている。石器時代の遺跡が多く，７世紀にはノルウェーのバイキング*が占領し，1286年からイングランド王の支配下に置かれたが，今日でもなお独自の議会をもち，大幅な自治が認められている。原住民はケルト系のマンクス(マン島人)で，マンクス語を話す。燕麦(えんばく)・ジャガイモを産し，牧羊と酪農が盛んである。〔大崎　晃〕



T.マン
（ドイツ）

マン ［Thomas Mun］ (1571～1641) イギリスの貿易商人・重商主義者。ロンドンの織物貿易商人の子として生まれる。青年時代に近東貿易に従事し，貿易実務の訓練をうけたあと，東インド貿易に関与し，1615年に創立まもない〈東インド会社〉の理事になり，以後この会社の経営に主導的役割を果たした。マンがイギリス重商主義の理論的定礎者といわれるようになったのは，貿易差額論を完成したことによる。当時，東インド物産を輸入するために多大の銀地金を輸出していた東インド会社に向けられた批判にこたえ，《イギリス東インド貿易論》(1621)，《外国貿易によるイギリスの財宝》(1664年，著述は1630年)を著わし，国の富は，輸出される地金と輸入される商品の販売によって得られる地金との順差額によってはかられるべきことを主張した。〔林　達〕

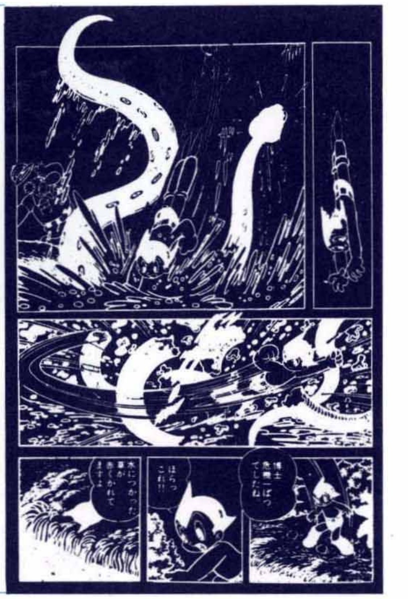
マン ［Heinrich Mann］ (1871～1949) ドイツの小説家。トーマス-マン*の兄。鋭い風刺精神をそなえた作家で，フランス革命の理想を高くかかげ，第１次世界大戦中は戦争のむきだしの暴力に反対して帝政ドイツを批判することによって，弟トーマスと対立。第１次世界大戦のあとは弟とともに反ファシズム闘争に文学者として指導的役割を演じたが，亡命地アメリカ合衆国からドイツ人民共和国(東ドイツ)へ帰国しようとしていたやさきに急死した。作品には，映画《嘆きの天使》の原作である《ウンラート教授》(1905)ほか長短編多数がある。〔森川俊夫〕

マン ［Thomas Mann］ (1875～1955) ドイツの小説家・批評家。ハインリッヒ-マン*の弟。リューベックの素封家の家に生まれたが，詩人デーメル*に文学的才能を認められ，やがて《ブデンブローク家の人々*》(1901)の成功で作家的地位を確立。その後《トリスタン》《トニオ-クレーガー*》などをはじめとする作品を発表したが，第１次世界大戦中はヨーロッパ精神史におけるドイツ文化の意義について深刻に検討し，反デモクラシーの立場から政治論集《非政治的人間の考察》をまとめた。第１次世界大戦をはさんで12年の歳月をかけて完成した《魔の山*》は，20世紀の精神が的確にとらえられるとともに，保守主義から戦闘的ヒューマニストへのマンの転回を示す作品といえよう。1933年ナチ政権の成立とともに亡命し，主としてアメリカ合衆国に滞在し，その間に四部作《ヨーゼフとその兄弟》のほか《ファウスト博士》《選ばれし人》などを完成した。一方，失われたドイツ文化の真の継承者を意識していたマンは，ラジオ放送を通じて第２次世界大戦中ドイツ人にナチスへの抵抗を呼びかけつづけた。終戦後，故国の精神的指導者としての帰国を要望されたが，もどらず，1952年以来スイスに移り住み，最後の長編《詐欺師フェリークス-クルルの告白 第一部》を書きあげた。〔森川俊夫〕

まんえんがんねんけんべいしせつ 【万延元年遣米使節】 1860年(万延１)日米修交通商条約*の批准書交換のため派遣された日本使節団で，アメリカ合衆国に派遣された最初の外交使節。一行は正使外国奉行(ぶぎょう)新見正興*(まさおき)，副使村垣範正*(むらがきのりまさ)，目付小栗忠順*(おぐりただまさ)のほか，属僚・通訳など77名の多数にのぼった。１月アメリカ軍艦ポーハタン号に上船し，横浜港を出帆して太平洋を横断，ハワイ・サンフランシスコ・パナマを経て，ワシントンに到着した。滞米１か月余，大統領ブキャナンと会見して批准書を交換したのち，帰途は大西洋・喜望峰沖・インド洋経由で，同年９月地球一周の大旅行ののち帰国した。護衛艦として勝海舟を艦長とする咸臨丸*(かんりんまる)が派遣され，日本人の操縦による最初の太平洋横断が成功した。〔高崎徳次〕

まんが 【漫画】 政治・社会・日常生活あるいは想像世界など，人間の営みのあらゆる領域を対象とし，おもに笑い・風刺・ナンセンス・ユーモア・物語などの要素からなる，大衆的視覚表現の一ジャンル。表現の手段は，図象とことば，あるいは図象のみで，特に漫画映画(→アニメーション)の場合にのみ音もそれに加えうる。表現形式は，普通の絵画芸術に比べて自由であり，写実的表現のほかに大胆な誇張・省略が可能で，連続する複数の画面(こま)の使用によって，小説や映画のような物語展開も可能となる。また，今日的な意味での漫画の重要な性格として，印刷・複製されてはじめて漫画として成立することを見落としてはならない。漫画の種類は，表現形態によって，１枚一こまで完結したカーツーン，新聞漫画に代表される四こま漫画，連続する複数のこまからなり，コミック-ストリップス・物語漫画・劇画*などとよばれるものに分けられる。また，扱う内容や手法・読者対象などの区別からは，政治漫画・風俗漫画・時事漫画・家庭漫画・風刺漫画・ギャグ漫画・ナンセンス漫画・ユーモア漫画・ＳＦ漫画・冒険漫画・子ども漫画・少女漫画・青年漫画・貸し本漫画など，多様な呼称がある。





漫　画　(左)井上洋介〈井上洋介漫画集ナンセンス展から〉 (右)手塚治虫《鉄腕アトム》

なお，大衆的視覚表現としての漫画の歴史は，本格的にはいわゆる市民社会が形成・成熟されていく19世紀以降に始まるといえる。しかし，それ以前にも，漫画的な表現は古くからあった。わが国では，奈良時代の法隆寺金堂の落書き，平安末期の鳥羽(とば)僧正作といわれる《鳥獣戯画》，鎌倉から室町期にかけての絵巻物・絵草紙などに，漫画的な表現と内容が見られる。さらに江戸時代になると，葛飾(かつしか)北斎の《北斎漫画》のように〈漫画〉ということばも使われ，そのほかにも英一蝶(はなぶさいっちょう)・歌川国芳(くによし)・鍬形蕙斎(くわがたけいさい)らが，当時の庶民生活の諸相をこっけいみ豊かに，漫画的な表現を多分に含んで描いた。

【今日の漫画】 西洋近代の漫画は，18世紀イギリスの画家ホガース，それに続くローランドソン・ジルレーらの風刺画の先駆のあと，19世紀フランスのドーミエによって基礎づけられた。ドーミエはフランス革命後の近代化されていく社会の矛盾を鋭い風刺で描き，弾圧を受けた。スペインの画家ゴヤも戦争の悲惨さを描く銅版画集を残している。やがて印刷術の近代化とジャーナリズムの成立・発展とあいまって，本格的な漫画が現われた。多くの画家が漫画をかき，専門的な漫画家も登場し，イギリスでは《パンチ》などの漫画雑誌も生まれた。アメリカでは1896年ニューヨークの新聞《ザ-ワールド》が，アウトコールト作の漫画《ホーガンス-マレー》を掲載，けばけばしい黄色でいろどったこの漫画は俗に〈黄色小僧〉ともよばれ，コミック-ストリップスの嚆矢(こうし)となった。以後アメリカでは，コミック-ストリップスが次々に登場する。フィッシャーの《マットとジェフ》，マクナマスの《おやじ教育》，キングの《ガソリン横丁》などが著名なものである。1935年にはシーガルとシャスターの《スーパーマン》が現われた。今日の著名な漫画家としては，アメリカのスタインベルグ・アンゲラー・オズボーン，その他《ピーナッツ-ブック》で有名なシュルツ，雑誌《マッド》を中心に活躍するタラムら，ソ連のモール・エフィーモフ，漫画雑誌《クロコディール》のククルイニクスイ，イギリスのサール，フランスのフランソワ・サンペ・ペイネらがいる。

日本では，江戸末期の1861年(文久1)イギリス人ワーグマンが横浜で英文の雑誌《ジャパン-パンチ》を発行，さらにワーグマンに師事した小林清親(きよちか)らが《団団珍聞(まるまるちんぶん)》などで時事漫画を発表して，今日的な漫画の流れが始まった。そのほかに明治期に活躍した漫画家として，フランス人ビゴー・北沢楽天・小川芋銭(うせん)らがいる。また，雑誌は《東京パック》のような漫画専門誌が生まれた。続いて大正から昭和へかけて，近代的な漫画が本格的に描き始められた。漫画家の筆頭は岡本一平で，《朝日新聞》などに風刺漫画を精力的に発表した。麻生(あそう)豊が1924年(大正13)《報知新聞》に連載した《ノンキナトウサン》は，今日の四こま漫画の嚆矢とされ，そのほか，連載子ども漫画の最初とされる樺島(かばしま)勝一の《正チャンの冒険》，宮尾しげをの《団子串助(くしすけ)漫遊記》，田河水泡(たがわすいほう)の《のらくろ》《蛸(たこ)の八ちゃん》などが現われ，柳瀬(やなせ)正夢・須山(すやま)計一・下川凹天(おうてん)らの政治漫画，島田啓三らの子ども漫画とともに，漫画の隆盛を誇った。1932年(昭和7)には新漫画派集団(のちに漫画集団)が結成され，横山隆一・近藤日出造・杉浦幸雄(すぎうらゆきお)らがジャーナリスティックな漫画を発表するに至る。第2次世界大戦中は，近藤日出造主宰の《漫画》が唯一ともいえる漫画専門誌として発行され，近藤日出造・横山隆一・杉浦幸雄・清水崑(しみずこん)・那須良輔(なすりょうすけ)・西川辰美(たつみ)らが，国策宣伝・戦意高揚の漫画をかいた。第2次世界大戦後には，さきの《漫画》のほか，伊藤(いとう)逸平らの《VAN》，まつやまふみおらの《クマンバチ》などの雑誌が発刊され，横山泰三(たいぞう)・六浦光雄(みつお)・加藤芳郎(よしろう)・荻原(おぎわら)賢次らの新人も出て，敗戦後の混乱した世相を活写していく。続いて，産業の復興，大衆社会の成熟を背景にジャーナリズムが異常なまでの発達を遂げ，南部正太郎の《ヤネウラ3ちゃん》，長谷川(はせがわ)町子の《サザエさん》，根本進の《クリちゃん》，横山泰三の《プーサン》などが，横山隆一の《フクちゃん》とともに，新聞漫画として一般家庭の中に浸透していく。また，子ども漫画も大きな発展を示し，横井福次郎・倉金章介(しょうすけ)・島田啓三・福井英一らの活躍のほか，物語漫画の基礎をうちたてた山川惣治(そうじ)の《少年王者》，映画的手法を縦横に取り入れた手塚治虫(てづかおさむ)の《ジャングル大帝》《メトロポリス》《鉄腕アトム》など，新しい子ども文化の一翼としての子ども漫画が確固たる地位を築いた。1956年(昭和31)には雑誌《週刊漫画TIMES》が創刊されるなど，週刊誌・テレビジョンの大量出現・普及とともに一種の漫画ブームとなり，谷内六郎・小島功(いさお)・岡部冬彦(おかべふゆひこ)・井上洋介・久里洋二・長新太・馬場のぼるらの漫画家が独自な活動を示し，1959年には《少年マガジン》《少年サンデー》などの子ども漫画の週刊誌が誕生した。一方，貸し本屋向けの漫画雑誌・単行本が数多く読まれ，すでに1957年に辰巳ヨシヒロが自作漫画に劇画という呼称を用い，小島剛夕(ごうせき)・川崎のぼる・つげ義春(よしはる)・さいとうたかお・佐藤まさあき，あるいは《忍者武芸帳》の白土三平，《墓場の鬼太郎》の水木しげるらが登場して，貸し本漫画から一般ジャーナリズムへと作品活動の場を広げていった。

〔菊地浅次郎〕

まんがえいが 【漫画映画】 ⇨アニメーション

マンガニン [manganin] 銅にマンガン約12%，ニッケル約2%を加えた合金。固有抵抗が高く常温付近での抵抗温度係数および対銅熱起電力が小さいので精密抵抗材料として標準抵抗器や精密電気計測器に使用される。特性は固有抵抗が44 $\mu\Omega$ cm。常温における温度係数は$-10\sim25\times10^{-6}$/度，対銅熱起電力は2.0 μ V/度以下である。

マンガベイ [mangabey] 哺乳(ほにゅう)類・オナガザル科・マンガベイ属。オナガザル属とアカカ属の中間的な特徴をもつ。4種からなり，まぶたが白いのでシロマブタザルともいう。体はほっそりして，動作は敏捷(びんしょう)。体色はじみ。アフリカの森林にすみ，雑食性。群れは小さい。生態はよくわかっていない。

マンガン [manganese] 周期律表第Ⅶ族に属する金属元素。記号Mn，原子番号25，原子量54.9380。1774年シェーレ*によって発見された。広く岩石圏に分布する。

鉱物には，酸化物を主体とした軟マンガン鉱・硬マンガン鉱・カツマンガン鉱などがある。マンガンの酸化物をアルミニウムの粉末で還元するテルミット法(→テルミット)によって得られる。銀白色～灰色の金属で，融点1,247℃，沸点2,090℃，比重は同素体によってわずかに差があり，αマンガンは7.44，β，γはそれぞれ7.29，7.21である。αマンガンは常温では安定であるが，かたくてもろい。γマンガンは電解して得られたもので，柔らかくて展延性がある。高温下で酸素・イオウと直接反応する。原子価は2，3，4，6，7が主であるが1，5価も知られている。特殊鋼・ステンレス鋼などの脱酸剤に使用され，アルミニウムや銅合金に添加される。　〔古屋　弘〕

マンガンこう　【マンガン鉱】　マンガンを含む鉱石鉱物。軟マンガン鉱MnO_2，硬マンガン鉱$MnO_2 \cdot nH_2O$，リョウマンガン鉱$MnCO_3$，バラキ石$(Mn, Ca)SiO_3$などがある。一般に，鉱石として取り扱われる場合，金属マンガン鉱および二酸化マンガン鉱に分けられる。前者はマンガンを利用する鉱物で，フェロマンガン・シリコマンガンなどの原料，または製鉄の脱酸剤となり，リョウマンガン鉱・バラキ石や，低品位の硬マンガン鉱・軟マンガン鉱が含まれる。後者は二酸化マンガンを利用するもので，乾電池・化学薬品・マッチに用いられる。高品位の硬マンガン鉱・軟マンガン鉱がこの鉱石となる。　〔今井秀喜〕

まんきゃくるい　【蔓脚類】　甲殻(こうかく)類・蔓脚亜綱。幼生時は浮遊生活を送るが，成体はつねに固着生活をする。背甲は外套(がいとう)となり，体全体をすっぽりと包む。またその外側には殻板をつくり，保護を強化する。甲殻類ではあるが，体節は不完全である。第1触角の部分で他物に固着し，体は殻内で倒立した状態にある。そのため，第2触角・複眼は退化している。また，後体部も退化し，付属肢(ふぞくし)もない。ふつう，6対の胸肢が大きく発達して蔓脚(つるあし)とよばれ，水中のプランクトンを濾過(ろか)して食べるのに役だつ。寄生性のものは著しく変形し，甲殻類の特徴をほとんど失う(→フクロムシ)。普通は雌雄同体であるが，ミョウガガイ科・ケハダエボシ科には雌雄異体の個体も見いだされる。雌雄異体の場合，雄は体制が著しく退化して小形になり，いわゆる矮雄(わいゆう)と称せられ，正常形の雌の外套膜内面に付着する。小形の雄は雌雄同体のものも存在し，この場合は補雄とよばれる。卵はノープリウス→メタノープリウス→キプリス幼生を経て成体となる。すべてが海産種で，汽水にすむものも少数知られている。蔓脚亜綱は，完胸目(エボシガイ・フジツボ類)，尖胸(せんきょう)目，嚢胸(のうきょう)目(キンチャクムシなど)，無脚目(ダーウィンの報告した1種のみで，以後再発見されていない)，根頭目(フクロムシ類)の5目に分類される。〔向井　宏〕



マングース　インドコブラを攻撃する



マングローブ　濃緑の葉はメヒルギ，黄緑色の葉はオヒルギ

マンゴー



マングース　［mongoose］　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ジャコウネコ科。頭胴長37cm，尾長36cmほど。体はかっ色がかった黄灰色で，霜降り状。アラビア・イラン・インド・セイロンなどに分布する。やぶの多い開けた土地や耕作地に多く，茂みや岩陰で休息する。日中・夜間とも活動し，ネズミ・ヘビ・トカゲなどの動物質や果実などの植物質をも食べる。動きがすばやく，コブラなどの毒ヘビをも食うので，明治年間には沖縄などにハブ退治を目的として移入されたことがある。　〔今泉吉典〕

マングローブ　［mangrove］　熱帯・亜熱帯の海岸・河口・入り江にはえる木本植物の総称。樹木の根もとは満潮時には水面下になり，泥中(でいちゅう)に生育するため，特殊な形態・生態を示す。一般に塩化ナトリウムを多量に含んで吸水力が大きく，葉や根の浸透圧は高く30～100気圧という高い価が知られている。また支柱根や吸水根を出すものが多く，地中の根は通気組織がよく発達している。マングローブ林の代表的なものであるヒルギ類では，種子が樹上で発芽し，泥中に落下して突き刺さり，そこで生長する。マングローブ林を構成する種の代表的なものはヒルギ科のオヒルギ・メヒルギ・ヤエヤマヒルギ，クマツヅラ科のヒルギモドキ，センダン科のホウガンヒルギなどのほか，ヤブコウジ科・アカネ科・キツネノゴマ科・シクンシ科などにも知られる。　〔横井朝子〕

まんげつ　【満月】　地球から見て月が太陽と正反対の位置にきたとき，つまり太陽と月の黄経の差が180°になったときで，月は太陽に照らされた半球面を地球に向けて円形に輝く。望ともいう。

まんげんしばん　【卍元師蛮】　(1626～1710)　江戸時代の臨済宗の僧。相模(さがみ)(神奈川県)小田原の人。号は独師。18歳で出家し，妙心寺の嘿水(ほくすい)の法を継いだ。日本の僧伝の編纂(へんさん)を志し，諸国の老師を歴訪して30余年間にわたり資料収集に努め，1678年(延宝6)に《延宝伝燈録》41巻を著わして日本の禅僧約1,000人の伝記を集録，さらに各宗の僧伝の編集を発願し，1702年(元禄15)《本朝高僧伝》75巻を完成。

マンゴー　［mango］　双子葉植物・ウルシ科。熱帯アジア原産の常緑高木で，熱帯産果樹の代表的なものの一。葉は互生し，長さ10～30cmの線状披針(ひしん)形で革質，濃緑色で光沢がある。極端に大形の円錐(えんすい)花序に帯紅白色の花を多数つける。花は径6mm内外で，雄花と両性花がある。果実は大きさ形ともにさまざまで，アンズ大から径20cm内外のものまである。果皮はやや厚く黄色。果肉は淡黄色で多汁(たじゅう)，特有の香気があり，甘味が強い。種子はかたい殻(から)をかぶり，長楕円(ちょうだえん)形で扁平(へんぺい)，果実は生食のほか，ジャム・かんづめなどにされる。　〔横井朝子〕

まんごくうら　【万石浦】　宮城県東部の牡鹿(おしか)半島*基部，石巻(いしのまき)湾岸に深く湾入した塩水湖。面積6.9km²，最深点8.5m。リアス式海岸の入り江が，北上川の堆積(たいせき)土砂による砂州のために海と隔てられたもの。カキを中心にノリ・貝類の養殖が盛ん。湾口には渡波(わたのは)漁港がある。

マンゴスチン　［mangosteen］　双子葉植物・オトギリソウ科。マライ半島原産の常緑高木。熱帯果樹で，高さ6～10m，径1mほどになる。葉は対生し，長さ15～20cmの長楕円(ちょうだえん)形で，表面は光沢があり，全縁で先はとがる。3～4月ごろに葉腋(ようえき)か小枝の先に1～2個の両性花を，枝先に3～9個の雄花をつける。花は径5cm内外の淡肉色で，がく・花弁ともに4枚。めしべは花柱を欠き，柱頭は5～7裂する。果実は径4～7cmのやや扁平(へんぺい)な球形で，8～9月ごろに赤紫色に熟し，がくが宿存している。種子は扁平で放射状に配列

し，種子の回りには白色の仮種皮があって，これを食用にする。果皮を浸出してかっ色染料を得る。〔横井朝子〕

まんざい【万歳】 正月期間中，家々を訪問して歌舞を行ないながら祝言を述べ，米銭をもらい歩く門づけ芸人の一。確かな起源は判明しないが，古来日本には正月に神が来訪し，家や村々を祝福するという信仰・他界観があり，万歳はそれに密着した観念にささえられてきたといえよう。このような観念がやがて芸能化し，一定の評判を得ると，鎌倉時代に千秋(せんず)万歳師というような専業者が生まれた。室町時代になると風折烏帽子(えぼし)に素袍(すおう)をまとい，足駄をはいて，太夫(たゆう)が舞い，才蔵が鼓を打ってこっけいな掛け合いをして祝言を述べるという万歳の内容ができあがった。さらに江戸時代にはいると各地に専業的万歳の集団が生まれ，その本拠地の名を取って三河(みかわ)万歳・大和(やまと)万歳・河内(かわち)万歳・尾張万歳・島津万歳などと称した。現在でも地方色を維持しつつその伝統は絶えていない。〔渡辺欣雄〕

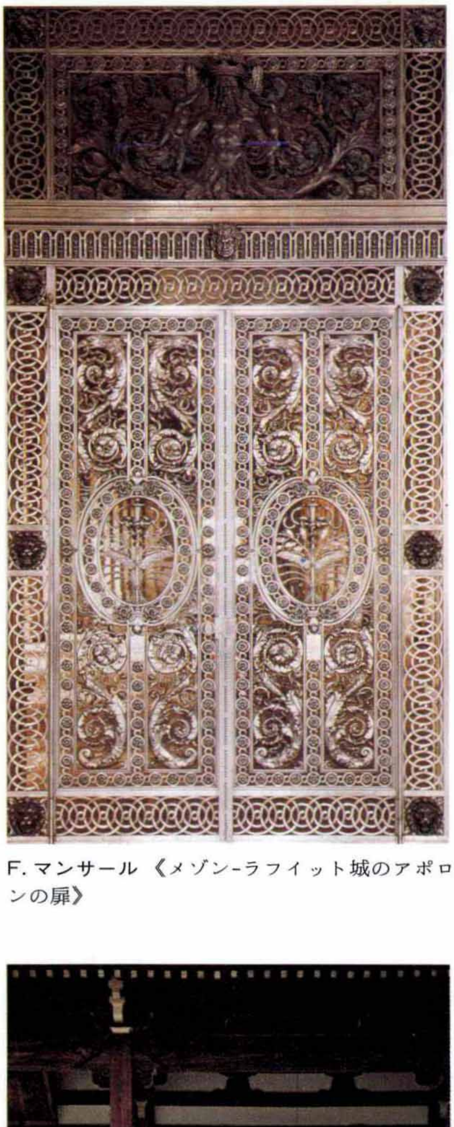
まんざい【漫才】 演*芸の一種。2人でこっけいな問答を演じる芸。〈万歳〉を現代化したもので，1887年(明治20)ごろ，大阪の場末の小屋ではじめて舞台の芸として演じた玉子家円辰(えんたつ)の〈万才〉がその始祖にあたる。大正から昭和にかけて，吉本(よしもと)興行が〈万才〉に力を注ぎ，その充実につれて上方落語を追い抜き，隆盛期にはいった。はじめは，女が扇子で男の頭をたたくという単純な形式であったが，1930年(昭和5)，横山エンタツ・花菱(はなびし)アチャコのコンビ結成以後は，新鮮な話題による台本も用意されて近代化し，吉本興行では，1933年〈万才〉を〈漫才〉と改めた。関西ではエンタツ・アチャコのほか林田十郎・芦乃屋雁玉(あしのやがんぎょく)，玉松一郎・ミスワカナらのコンビが現われて人気を博し，関東ではリーガル千太・万吉が活躍した。現在，関西で中田ダイマル・ラケット，鳳(おおとり)啓助・京唄子(うたこ)，関東でコロムビアトップ・ライトらのコンビが人気を集めている。〔興津　要〕

まんざいきょうかしゅう【万載狂歌集】 江戸後期の狂歌集。1783年(天明3)刊。四方赤良(よものあから)(蜀山*人(しょくさんじん))編。唐衣橘*洲(からころもきっしゅう)の《狂歌若葉集》に対抗して企画された。題名に〈三河(みかわ)万歳〉と《千載和歌*集》をもじり，《千載和歌集》の部立てに合わせて部類分けしている。200名以上の当代人をはじめ古人の狂歌も多く収め，刊行と同時に爆発的人気を得た。天明調狂歌の代表的撰集(せんしゅう)の一。

まんざいらく【万歳楽】 日本の雅楽の曲名。左方(唐楽)に属し，平調(ひょうじょう)，延八拍子で奏される。別名《鳥歌万歳楽》。中国で作曲されたものが伝えられたとも，日本で作曲されたともいわれる。舞は4人で，オウムまたは鳳凰(ほうおう)の鳴き声を表わしている。



マンサク



F.マンサール《メゾン-ラフィット城のアポロンの扉》



卍　黄檗宗大本山万福寺開山堂の卍高欄

まんざおんせん【万座温泉】 群馬県北西部，吾妻(あがつま)郡にあり，泉温63～93℃，泉質はイオウ泉で，胃腸病・リウマチなどにきくといわれる。白根山(2,162m)の谷あい，標高1,760mにあり，1764年(明和1)の発見と伝えられる。上信越高原国立公園に属し，避暑・スキー客でにぎわう。信越本線軽井沢駅・長野原線長野原駅からバスの便がある。

まんさく【万作】 双子葉植物・マンサク科。日本原産で，各地の山野に自生する落葉高木。庭木としても栽植される。高さ10mほどに達する。葉は互生し，長さ7～12cm，幅5～7cmのややゆがんだ菱状(ひしじょう)楕円(だえん)形で，上半部は波状の鋸歯(きょし)があり，下半部は全縁で，下面脈上に星状毛がはえる。2月ごろ，葉に先だって前年枝の節に数個の黄色花を束生する。花弁は4枚，長さ1～2cmの線形でやや縮れ，内面の基部が紫色をおびる。果実は卵状球形で短い綿毛が密生し，9～10月に熟して2裂し，黒色の光沢のある種子をはじき出す。

マンサール［François Mansart］(1598～1666) フランスの建築家。当時のフランスにおける古典主義的な作風の代表。彼は明快で精緻(せいち)な設計によって，ブロア城のオルレアンの翼部，メゾン-ラフィットの城館，バル-ド-グラース教会などを設計し，バロック様式とロココ的な優雅さを巧みに融合させ，しかも典型的にフランス趣味を生かした傑作を残した。建築用語〈マンサード〉(二重勾配(こうばい)で腰折れの屋根)は彼の盛名にちなんだものであるが，晩年は時代の好尚(こうしょう)に合わず，不遇のうちに生涯(しょうがい)を終えた。〔吉田玲子〕

マンサール［Jules Hardouin-Mansart］(1646～1708) フランスの建築家。F.マン*サールに師事し，のちルイ14世治下の宮廷建築家として活躍。1678年からベルサイユ宮の造改築に従事し，〈鏡の間〉・温室・グラン-トリアノン・礼拝堂などを設計，造営した。1699年に建築総監督に任ぜられ，バンドーム・ビクトワールの広場を設営した。宗教的な作品としては廃兵院礼拝堂がある。豪奢(ごうしゃ)・華麗な作風で後世に影響を与えた。〔吉田玲子〕

まんじ【卍】 梵語(ぼんご)でsvastika(スバスチカ)といい，吉祥のシンボル。太陽神としてのビシュヌ*神を象徴するものといわれるが異説もある。ジャイナ教でも24種の吉祥相の一つとされ，仏教でもブッダの32相あるいは80種好の一つに数えられることもある。現にインドで胸にこの印をもつ仏像がある。古くから世界各地で用いられ，右回り(卐)と左回り(卍)の両種がある。さまざまな説明があるが，どちらも起源は同じである。〔奈良康明〕



マンジュウガニ
スベスベマンジュウガニ



満州事変　関東軍のハルビン入城(1931)

マンシーニ　[Henry Mancini]　(1924～　)　アメリカ合衆国の作曲家。オハイオ州の生まれ。ジュリアード音楽院で作曲を学んだ。第2次世界大戦に参戦し，戦後はテックス-ベネキー楽団で編曲に携わった。1951年から映画音楽に関係し，1961年には《ティファニーで朝食を》でアカデミー賞(音楽賞・主題歌賞)を受けた。彼の作風は都会的で叙情的な感覚にあふれている。他に《酒とバラの日々》《シャレード》などがある。1967年(昭和42)来日。

まんしゅいん　【曼殊院】　京都市左京区一乗寺竹の内町にある天台宗の寺。もと延暦(えんりゃく)寺に属し，比叡(ひえい)山上にあって東尾坊と称したが，のち現寺号に改め，竹内門跡とも称された。一時内裏の近辺に寺門を構えたが，良尚(りょうしょう)法親王(桂(かつら)宮2代智忠(としただ)親王の弟)のとき現在地へ移り，1656年(明暦2)には建築・庭園とも完成した。小書院背後の八窓軒茶室は，室内の造り，八つの窓の配置など，古田織部(おりべ)や小堀(こぼり)遠州の好みに共通したものがある。　〔永井信一〕

まんしゅう　【満州】　中国，東北地方一帯の旧称。清朝(しんちょう)開創の特殊地域で，遼寧(りょうねい)(旧名，奉天)・吉林(きつりん)・黒龍江(こくりゅうこう)の東北部3省をその範囲とした。遼河および松花江(しょうかこう)流域の東北大平原を中心とし，北はアムール川(黒龍江)を隔ててソ連と，東は長白山脈，鴨緑江(おうりょくこう)・図們江(ともんこう)を経て朝鮮と対し，南は渤海(ぼっかい)に臨み，西は大興安嶺(こうあんれい)山脈によって内モンゴル自治区と接する。17世紀中期，清の大宗が国号を後金から清に改めて以後，女真人は民族名を満州と称した。19世紀末にはロシア勢力の浸透が激しく，ここへの進出を企図していた日本との抗争地域となり，日露戦争の舞台となった。戦後，日本は遼東半島南部を租借し北清鉄道南半を獲得したが，同時に張作霖(ちょうさくりん)などいわゆる奉天軍閥の本拠にもなった。1931年の満州事変後は，関東軍や南満州鉄道(株)など，現地軍官民の間から満州独立の企てが起こり，関東軍の熱河侵入後，1932年3月国際連盟のリットン調査団派遣に先だって独立を図り，清朝の後裔(こうえい)溥儀(ふぎ)を執政にすえ都を新京(長春)に定め，年号も大同として満州国の独立を宣言し，既成事実とした。しかし，軍事・政治の全権は関東軍が事実上掌握しており，内容的には真の独立国とはかけ離れていた。満州国は〈王道楽土・五族協和〉を理念としたが，日本人優位の確立と植民地化を急ぎ，現地住民の利益と鋭く対立した。満鉄による鉄道建設や産業開発，満州重工業開発(株)を中心とする工業建設は日本の軍事的要請とあいまって急速に拡大し，日本からの農業移民も大量に送り込まれて，関東軍の兵力は最も多いときには100万に達した。しかし，これら実質的な日本支配に対する中国人の抵抗も激しく，武装ゲリラの対日活動は終始絶えることがなかった。1945年8月ソ連軍の侵入による関東軍の崩壊，第2次世界大戦の敗北によって満州国は瓦解(がかい)した。と同時に，地域名としての〈満州〉の呼称も廃され，戦後は東北地方の名でよばれるようになった。中華人民共和国成立後は，多くの未開発地の開拓が進められ，森林資源をはじめ石炭・金などの地下資源，および豊富な水力を利用した電源開発などが大々的に行なわれ，重化学工業を中心とする重要な工業地帯を形成している。　〔船越昭生〕

まんじゅう　【饅頭】　蒸し物菓子の代表的な一種。小麦粉を砂糖・ふくらし粉を加えた水でこねて皮をつくり，あんを包んで蒸したもの。これは薬饅頭(塩瀬系)で，関東で多くつくられる。わが国へは14世紀半ばに中国の林浄因が伝え，奈良饅頭と称して売り出し，茶道の点心としても珍重された。はじめはあんなしで，のちにアズキあんを入れた。また熟した甘酒の絞りじるに米粉かもち米粉を入れて発酵させ，こしあんを包んで蒸したのが，関西で好まれた酒素饅頭(虎屋(とらや)系)で，鎌倉時代末期に聖一(しょういち)国師(円爾(えんに)弁円)が中国の饅頭(マントウ)の製法を伝えたものといわれる。その後各種の名物饅頭がつくられ，進物・儀式用の菓子とされた。　〔塩川ふみ〕

まんじゅうがに　【饅頭蟹】　甲殻(こうかく)類・オウギガニ科。岩礁域に数種が知られ，いずれも背甲が盛り上がっている。スベスベマンジュウガニは甲長36mm，甲幅51mmほどの小形種で，淡かっ色の地に濃色の不規則な斑紋(はんもん)があり，房総半島以南に分布する。アカマンジュウガニは赤色で，甲長61mm，甲幅100mmほど，はさみの先のほうは黒色，相模(さがみ)湾以南に分布する日本固有種である。このほか，ホシマンジュウガニ・ヘリトリマンジュウガニなどがある。

まんしゅうご　【満州語】　アルタイ語族のツングース語群に属し，中国の清朝(しんちょう)を建てた満州族の言語。王朝成立後，しだいに漢化をこうむり，言語的にも勢力が衰え，ついに絶滅したかにみられていたが，現在もなお新疆(しんきょう)省などで数万の満州人が使用している。満州族は1599年，はじめてモンゴル文字を借用し，満州語を表記するに至り，1632年にそれを改良して有圏点満州文字を創製した。満州語の文献資料はかなり豊富で，言語学・歴史学の分野で重要とされている。　〔荒井伸一〕

まんしゅうこく　【満州国】　1932年(昭和7)3月1日清朝(しんちょう)最後の皇帝溥儀(ふぎ)を執政として創立された日本の傀儡(かいらい)国家。日露戦争以後日本は満州の一元的支配，華北への侵略に力を注いでいたが，中国革命の波及を憂慮した軍部は，1931年9月18日満州事変を起こして張学良の勢力を駆逐するとともに，自治運動の高揚を指導して満州国を創立させ，さらに熱河作戦で創立当初の東北3省に熱河省を加えた。1932年9月日満議定書の締結により，日本政府は満州国を承認した。しかし国際連盟はリットン調査団を満州に派遣，その報告書は日本の侵略を暴露し，1933年国際連盟が満州国を否認するや日本はそれを脱退した。1934年溥儀を皇帝とする帝政が施行され，最高諮問機関として参議府，行政機関として国務院が置かれたが，駐満大使・関東庁長官を兼任する関東軍司令官の指導下に，すべての要職を日本人が占め，実権を握っていた。いっさいの政治結社が禁止され，唯一のものとして政策を宣伝・浸透させるための官製機関の満州国協和会がつくられた。経済面では，軍需工業の確立を意図して満州重工業開発(株)が設立され，軍事的性格の経済建設がすべてに先行した。このため満州人民は，労働者徴発・重税・インフレーションなどに苦しめられ，しだいに反日的傾向を示し，中国共産党の影響とあいまって東北抗日連合のゲリラ組織が拡大していった。1945年8月対日参戦したソ連軍によって占領され，日本の敗戦とともに満州国は消滅した。　〔応和邦昭〕

まんしゅうこくきょうわかい　【満州国協和会】　満州国に置かれた唯一の官製の教化・宣伝の政治組織。1932年(昭和7)7月25日発足。五族協和・王道楽土のスローガンを掲げ，満州国政府・関東軍が一体となって臨戦体制を強化し活動した。1945年消滅。

まんしゅうじへん　【満州事変】　1931年(昭和6)9月18日柳条溝(りゅうじょうこう)事件によって開始された日本の満州侵略戦争。満鉄爆破事件によって張作霖(ちょうさくりん)を暗

殺して以来，張学良が国民政府と提携して抗日的になったため，軍部・右翼を中心に満州占領を強行しようとする気運が高まり，関東軍の中堅参謀らの計画に基づいて侵略が開始された。政府は不拡大方針をとったが，現地軍はそれを無視して戦線を拡大し，1932年1月までに東北3省を占領した。同時に関東軍は自治指導部を設置して作為的な独立運動を起こさせ，1932年3月1日満州国がつくられた。この間日本国内では十月事件，血盟団事件，五・一五事件など，ファシズム勢力の激化が続き，政党内閣は倒れた。政府には軍部をおさえる力がなく，現地軍は1933年熱河作戦により熱河省を占領したが，国民政府は塘沽(タンクー)協定を結んで事実上の講和とし，満州での既成事実を黙認した。〔応和邦昭〕

まんしゅうぞく【満州族】 ツングース族の一支族。中国や朝鮮の歴史に出てくる高句麗(こうくり)や女真(女直)と同じ系統であり，清朝(しんちょう)を築き，中国の支配層にもなったことがある。明(みん)の時代までは半猟半農の低い生活段階を送り，社会は氏族制度で組織されていた。それが16世紀末から急激に興隆し，清という大帝国をつくったがその成立は歴史上のなぞとされている。帝国は辛亥(しんがい)革命まで続いて漢との同化が進み，生活様式はいまでは漢民族とほとんど変わらなくなった。〔山路勝彦〕

まんしゅうぼうじゅうだいじけん【満州某重大事件】 ⇨南満州鉄道爆破事件

まんじゅうぼや【饅頭海鞘】 原索動物・尾索綱・ポリクリニ科。群体性のホヤで大きい球状になって直径10〜15cmに達し，底面の一部で岩などに付着する。赤橙(せきとう)色で大きなミカンが海岸に打ち上げられているように見える。個虫も大きく，20mmにもなって，群体ボヤのしくみの観察に適す。個虫は10数個から数十個集まってきれいに並んだ系列をつくる。日本南部の海岸岩礁地の潮間帯によく見られ，フィリピンまで分布する。〔向井 宏〕

まんじゅさん【万寿山】 マンショウ山 中国，北京(ペキン)旧市街の北西約10kmにある名勝。北京が国都になって以来，離宮や寺院が建てられたところで，もとは甕山(ようざん)といったが清(しん)の乾隆(けんりゅう)帝が，母の寿を祝って万寿山と名づけた。南に控えた昆明湖(こんめいこ)をあわせた山水の景勝は頤和園(いわえん)とよばれる。全山壮麗な建物で埋まり，ことに中央部にある仏香閣の美しさは有名で，閣上からの展望もよい。万寿山・頤和園の北東には，かつて円明園の大離宮があり，ベルサイユ宮殿を模した洋風の建物があったが，1860年のアロー戦争でイギリス・フランス連合軍によって占領され，廃墟(はいきょ)と化した。〔船越昭生〕

まんじゅしゃげ【曼珠沙華】 ⇨ヒガンバナ

マンズー［Giacomo Manzu］(1908〜) 現代イタリアの代表的彫刻家。ほとんど独学であるがドナテロ・ロダン・マイヨールらから多くを吸収し，1939年以後多くの国際展に出品，名声を高めた。彼の繊細で自然主義的な形態によって解釈された主題は，静かな幻想の世界の中で座した婦人や枢機卿(すうききょう)といった肖像彫刻によく表わされている。1949年サン-ピエトロ大聖堂の扉(とびら)，1956年ザルツブルク大聖堂の扉のため青銅による浮彫りの大作を制作している。〔井関正昭〕



曼荼羅《両界曼荼羅》から〈胎蔵界曼荼羅〉金剛峯寺蔵

マンスフィールド［Katherine Mansfield］(1888〜1923) イギリスの女流作家。ニュージーランドの生まれ。ロンドンに留学後結核と戦いながら創作し，若くしてフランスに倒れた。故郷の自然と人間を描いた珠玉の短編小説には，チェーホフの影響が大きい。短編集《幸福》《園遊会》《鳩(はと)の巣》などのほか，《詩集》，評論集《小説と小説家》，夫のM.マリ編集の《日記》《書簡集》などがある。

マンスリー-レビュー［Monthly Review］ アメリカ合衆国の社会主義評論雑誌。月刊。1949年ニューヨークで創刊。左翼評論家・マルクス主義経済学者として著名なスウィージーとヒューバーマン(1903〜1968)が編集。発行部数は少ないが，国際的には高い評価を得ている。

まんせいたんじゅんせいたいせん【慢性単純性苔癬】 ⇨ウィダール苔癬

マンセルそしきそ【マンセル素色素】 ⇨色

マンゾーニ［Alessandro Manzoni］(1785〜1873) イタリアの小説家・詩人。教養高かった母とともに若くしてパリのサロンに出，フランス啓蒙(けいもう)主義者たちと交わりその影響を受けた。やがて妻の改宗と，フランス護教論者たちの著作からの影響とによって，カトリックに改宗。国家統一運動に大きな情熱をもってミラノで文筆活動を続け，晩年は国民的敬愛を受けた。文学は史実とカトリック的道徳にのっとってつくられるべきだとする主張は，カトリックの大祭日を歌った詩集《聖歌》，悲劇《カルマニョーラ伯》《アデルキ》，およびイタリア近代小説の先駆である《婚約者》などの代表作によく表われている。〔小瀬村幸子〕

マンソンれっとうじょうちゅう【マンソン裂頭条虫】 扁形(へんけい)動物・条虫綱に属する寄生虫。広節裂頭条虫によく似るが，全長60〜90cmで，体節の内部構造が異なるので区別できる。イヌ・ネコなどの肉食獣を最終宿主とし，その腸管に寄生する。第一中間宿主はケンミジンコ，第二中間宿主は広くヒトを含む哺乳(ほにゅう)類・鳥類・爬虫(はちゅう)類・両生類などにわたる。ヒトへの感染は，第一・第二中間宿主を生食することによって起こる。ヒトでは成虫になることができず，幼虫(プレロセルコイド)が皮下組織・腹腔(ふくこう)内・各種臓器などで発育して腫瘤(しゅりゅう)をつくるため，寄生部位によっては危険である。しかし，無痛性であるので，感染しても気がつかないことが多い。治療法は，外科的に腫瘤を摘出する。予防には飲料水に注意し，野外ではなま水を飲まないこと，中間宿主であるカエル・ヘビ・鳥などを生食しないことである。特にわが国では，強壮剤として生き血を飲む習慣があるので注意を要する。〔山本 久〕

まんだら【曼荼羅】 梵語(ぼんご)maṇḍala(マンダラ)の音写。仏の道場・土壇・図絵などをいう。もともと文章などの一くぎりをいったが，のち神聖な区画，仏の道場，そのために築いた土の壇などを意味するようになり，さらに密教にはいってからは，本質(maṇḍa)を有するもの(la)の意から，中心になる仏(大日如来)をめぐって多数の仏・菩薩(ぼさつ)の集まる図絵を意味するようになった。これには多くの種類があるが，密教の理念を示す胎蔵界曼荼羅と実践を示す金剛界曼荼羅はその中心をなす。➔金剛界 ➔胎蔵界〔金岡秀友〕

マンダレー［Mandalay］ ビルマ中部の都市。人口41万8,000(1973)。イラワジ川中流域にあり，19世紀末ビルマ王国がイギリスに滅ぼされるまではその首都であった。東の丘には数百のパゴダ(仏塔)がそびえている。絹織物・銀細工・仏具などの伝統的手工業が行なわれている。ビルマ中部の政治・経済の中心をなし，また首都ラングーンとは鉄道で結ばれる交通の要点でもある。

まんだん【漫談】 演芸の一種。昭和の初期にトーキーの出現で失業した活弁がはじめた話芸で，時事問題や世相風俗などをこっけいと諧謔(かいぎゃく)を交えてコントふうに語るものだが，落語のような物語性も，立体的演出もない。大辻(おおつじ)司郎が命名し，徳川夢声・西村楽天・山野一郎・牧野周一らが活躍した。

マンチェスター［Manchester］ イギリス，イングランド北西部，ランカシャーの工業都市。人口51万6,000(1974)。西の海

岸部のリバプールとは1894年完成のマンチェスター運河で結ばれている。世界的な工業都市で，繊維・鉄鋼・ゴム・航空機などが生産される。またイギリス経済の一中心でもあり，株式取引所や保険会社が集中している。イギリス産業革命発祥の地として有名。13世紀から毛織物を産していたが，18～19世紀に工場制組織と紡績・織物機械の発明によって飛躍的発展を遂げ，近代イギリス経済界の一大中心となった。またイングランド北部の教育・文化の中心でもあり，マンチェスター大学や工業技術研究所が名高い。〔梶川勇作〕

マンチェスター-ガーディアン ⇨ガーディアン

マンチュリー【満州里】 中国，内モンゴル自治区北部の都市。人口約50,000(1965)。ソ連との国境に位置し，ソ連領のオトポルと相対している。1901年に建設され，ロシア人の町として発展した。現在は浜洲(ひんしゅう)鉄道の終点で，牧畜地帯の物資集散地として知られ，畜産関係の工業が行なわれている。

まんちょう【満潮】 潮の満ち干につれて，海面は1日に2回水位が上がって最高となり，2回最低となる。水位が最高の状態を満潮という。➜潮汐(ちょうせき)

マンデス-フランス［Pierre Mendès-France］(1907～) フランスの政治家。パリ大学法学科卒業後弁護士となり，25歳で急進社会党の下院議員に当選し，1938年大蔵次官となる。第2次世界大戦には空軍将校として従軍，フランス降伏後はド-ゴール政権に参加して，ビシー政府に捕われて10年の刑を宣告されたが脱出し，自由フランス軍で活躍した。解放後の1944年ド-ゴール内閣蔵相，1954年首相兼外相となり，インドシナ戦争の早期収拾を図り休戦に成功したが，1955年北アフリカ政策で失敗して辞職。1968年の総選挙に統一社会党から立候補したが落選した。〔喜多迅鷹〕

まんてつ【満鉄】 ⇨南満州鉄道(株)

マンテーニャ［Andrea Mantegna］(1431～1506) 北イタリア初期ルネサンスの最も重要な画家。パドバで修業。ドナテロから強い影響を受けたが，古代ギリシア・ローマ芸術にも深い関心を示した。初期の傑作にはサン-ゼーノ聖堂の祭壇画などがあげられる。1460年以降マントバのロドビコ-ゴンツァーガの宮廷画家となる。彼の描く人物は明確なる彫塑的形態を有し，荘重にしてきびしい。また，遠近法を意識的に用いることによって，空間の幻覚的効果を獲得した。その代表作がマントバの城内のカメラ-デリ-スポージに描かれた天井画であるが，ここには美術史上最初の群像肖像が描かれている。銅版画にもすぐれ，デューラーに多大な影響を与えた。〔松本芳夫〕

マンデビル［Bernard de Mandeville］(1670ごろ～1733) イギリスの思想家。オランダのロッテルダムの生まれ。ライデン大学で医学・哲学を学び，ロンドンに渡って医者を営みながら，著述した。1705年，主著《不平をならす蜂(はち)の群れ》(のち〈蜂の寓話(ぐうわ)〉と改題)でイギリス市民社会を風刺し，人間の悪徳・我欲による消費が社会・国家の経済的繁栄をもたらすと説いて既成の道徳の偽善性をあばいた。その思想はヒューム・A.スミス・ベンサムらに影響を与えた。



マンチェスター　マンチェスター郊外の製鉄所。溶鉱炉や煙突，放熱塔などから煙や蒸気が立ち上り，空気のよごれが著しい



マンテーニャ《聖母子と聖アンナ》ウフィツィ美術館蔵



マントヒヒ

マント［manteau］ 本来はそでなしのゆったりした外套(がいとう)の総称。現在はそでのある外套も含まれる。ケープ*状のつり鐘形で，裁ち方によって布を丸くくり抜いたサーキュラー形と肩に縫い目のあるスパニッシュ形とがある。またたけの長さもトレーンを引いたものから肩の部分だけをおおう短いものまで，変化が多種にわたる。わが国では第2次世界大戦前に，ステンカラーのえりで身ごろにケープをつけたそでなし外套をとんび・インバネス*(二重回し)とよび，男子の背広や和服の上に用いていた。〔小池千枝〕

まんどうえ【万燈会】 懺悔(ざんげ)・滅罪のために万燈を点じて仏・菩薩(ぼさつ)に供養する法会。わが国では651年(白雉2)宮中において2,700の燈を点じて行なわれたのをはじめ，10月15日の東大寺の万燈会や薬師寺・興福寺・金剛峯寺(こんごうぶじ)などの諸大寺で万花会と並んで恒例行事となった。万燈供養は奈良市春日(かすが)大社の節分と盆の万燈籠(まんどうろう)，神戸(こうべ)市生野神社の風鎮の千燈祭や，また盆の迎え火・送り火などに万燈籠を立てるなど広く民間にも行なわれている。〔藤井正雄〕

マンとうティーティーレース【マン島TTレース】 イギリスのマン島*で，毎年6月，3日間にわたって行なわれるモーターサイクル(自動二輪車)の世界グランプリ-レース。TTはツーリスト-トロフィーの略。1907年にはじめて行なわれ，世界のモーターサイクル-レースの草分け的な存在である。1911年からは全島コース(標高差430m)が設けられ，50・125・250・350・500ccまで5クラスの車が1周60.71kmのコースを3～6周してタイムを競う。このレースをきっかけにして，各国にグランプリ-レースが生まれ，現在はワールド-シリーズも行なわれている。わが国からは1958年(昭和33)にはじめて参加し，以来たびたび優勝している。なお，同島では自動車レースも行なわれている。〔浮田裕之〕

まんどころ【政所】 平安中期以降，親王家・摂関家(➜摂家)・寺社などの事務処理機関。令制(りょうせい)の家令(親王・内親王・三位(さんみ)以上などの家)で，家務・会計を管理する制度が衰えたのちに現われ，特に荘園*(しょうえん)など所領の事務を処理することを主たる任務としたが，摂関家政所のように国政に関係をもつものもあり，摂関家政所下文(くだしぶみ)が重要な意味をもった。武家政権下でも，鎌倉・室町幕府には政所が置かれ，一般政務を執り行なって重要な存在であった。〔黛　弘道〕

マントバーニ［Annunzio Mantovani］(1905～80) イギリスのポピュラー音楽の指揮者・編曲者。イタリアのベネチアに生まれ，5歳のときイギリスに移住した。はじめピアノを，のち父からバイオリンを学び，10代のときすでにホテルや放送などで演奏してその名を知られた。第2次世界大

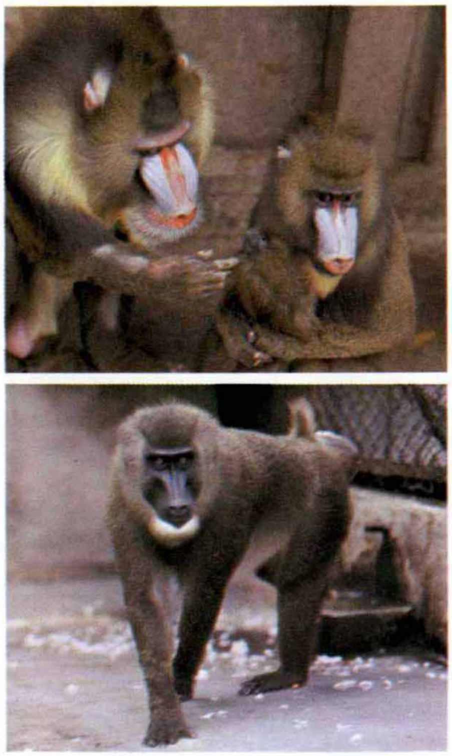
戦後，弦楽器を重視した40人を越える大編成の楽団を結成し，その豊かな弦の響きを生かした現代的な編曲・演奏で，ムード-ミュージックの第一人者となった。1963年(昭和38)来日。

マントひひ【マント狒狒】 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。エチオピア・アラビアの南西部にすむヒヒの一種。雄は肩から背に白灰色の長毛があり，大きなマントをまとったようになる。雑食性で，荒地にすみ，1頭の成雄を中心とした数頭の群れをつくる。夜の泊まり場には多くの群れが集合し，数百頭の集団となる。知能も社会もサル類では高度。→前ページ(写真)

マンドリル [mandrill] 哺乳(ほにゅう)類・オナガザル科。アフリカ西部の熱帯降雨林にすむヒヒの一種。顔は大きく，鼻筋は赤色で，両側に白と青の隆起がある。雌は雄の約半分で顔は黒い。性質は獰猛(どうもう)。10～20頭の群れをつくり，森の林床にすむ。雑食。ドリルはマンドリルと同じ体形で同じ場所にすむが，顔は光沢のある漆黒色で，顔の回りは白っぽい毛で包まれる。

マンドリン [mandolin] リュート属の撥弦(はつげん)楽器。18世紀に大形のマンドーラから派生し，いくつかの種類の中から，現行のナポリ式が最も普及するようになり，同属の楽器では最新のもの。8本の弦を2本ずつ合わせ，バイオリンと同じく5度間隔で調弦する。胴は半球形にふくらんでおり，指板にはフレットがある。右手に義爪(ぎそう)をもって弦をはじき，特に同じ音を細かくひき続けるトレモロ奏法が特徴である。すでにバロック時代にビバルディによってコンチェルトが作曲され，以後も独奏・合奏の曲が多くつくられた。大きさの違うマンドリンを集めたマンドリン-オーケストラもある。〔徳丸吉彦〕

マントル [mantle] 地球の内部構造を同心円状に4分したうちの地表側から2番めの部分。地殻(ちかく)のすぐ下部にあり，地表下10～40kmにあるモホロビチッチ不連続面*の下から，深さ2,900kmまでの間を占める。体積では地球全体の約82%，質量では約68%にあたる。すぐ下の核とよばれる部分と異なり，地震波の横波も伝えるので固体の状態と認められるが，少なくとも上部マントルは，1年間に数センチメートルくらいの流速で熱対流を起こしうる点では，粘性の大きな流体の性格を備えていると考えられる。地殻はこの上部マントルの上に浮かんだ状態でアイソスタシー*が成立しており，マントルの熱対流によって大陸移動説*が裏付けられている。マントルの主成分はマグネシウムのケイ酸塩である。上部では地殻中と同じように，カンラン石やキ石となっているが，数百キロメートル以上の深いところでは，地殻では見られないスピネル*型の結晶構造の鉱物になっているものと推定される。〔片山信夫〕



マンドリル (上)マンドリル(左は雄) (下)ドリル



マンドリン

マントルピース [mantelpiece] 元来は暖炉の上の棚(たな)や前飾り棚をいうが，壁つき暖炉全体をさすこともある。最近では暖房装置が発達したので，暖房用でなく，洋室の装飾的な棚として設け，れんが・タイル・石張りなどで仕上げて，冬季にストーブを入れる場合も多い。

まんなおし【間直し】 漁村では大漁のときに〈まいわい〉などとよばれる大漁祝いが行なわれると同時に，不漁が続くと氏神の前に集まっておこもりをしたり，酒盛りをする風をまんなおしという。地方によっては，げんなおし・しあわせなおし・しおなおしなどと称している。いずれも運をなおす，幸運を祈願する意味である。長崎県島原半島の漁村では，この際豊漁船に酒をあげて，網にとれた魚のうろこをこすりつけたりするが，これも豊漁にあやかって好運を得ようとするものと考えられる。〔渡辺欣雄〕

マンナン [mannan] D-マンノースの重合した多糖類。植物種実の皮，海藻(かいそう)，酵母などに含まれる。特に松柏(しょうはく)類の木質部やナツメヤシ・ゾウゲヤシの種子の細胞壁を形成するヘミセルロースの主成分である。植物細胞壁のマンナンはマンノースが直鎖状にβ-1,4結合した重合体である。セルロースに似て安定なミセル構造をもち，水に不溶。5%の冷苛性(かせい)ソーダ液に溶出する部分をマンナンA，10%の冷苛性ソーダ液にとける部分をマンナンBということもある。酵母マンナンは主として1,2-結合で重合しており，これに1,6-結合でマンノース残基2個の分岐鎖が連結した網状の構造をもっている。〔南川隆雄〕

マンニット [mannit] マンニトールともいう。炭素数6個の糖アルコール。水にとけ，甘味がある。D-型は植物に広く見いだされる。特にトネリコ・スズカケ・オリーブの樹液やタマネギ・ニンジン・干し柿(がき)に多い。ほかに褐藻(かっそう)類やきのこ類にも多く含まれている。また種々の微生物がマンニットをつくることができ，エネルギー源として利用している。

まんねんぐさ【万年草】 双子葉植物・ベンケイソウ科。ふつうオノマンネングサをいう。これは山地に生ずる多年草であるが，庭にも栽培される。茎や葉は多肉質で，枝を多数出し，高さ10～15cm。葉は線形で長さ2～3cm，輪生または対生する。5～6月，枝頂に黄色5弁花をつけ，花弁は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，めしべは直立する。メノマンネングサは山地の岩上にはえ，高さ10cm。葉は長さ5～10mmの円柱形で互生する。めしべは水平に開く。海岸の岩間に見られるタイトゴメは米粒状の葉を密につけ，めしべは斜上する。コモチマンネングサは高さ20cmの一年草で，上部のさじ形の葉は互生する。葉腋(ようえき)に珠芽ができ，これが地面に落ちて新個体となる。〔加藤僖重〕

まんねんすぎ【万年杉】 シダ植物・ヒカゲノカズラ科。山地の林内に見られる常緑多年生シダ。主軸は長くはい，ところどころに地上茎を出す。地上茎は高さ10～30cmで，枝を多く出す。葉は小さく密につき，全体がスギのような形となる。環境条件によって種々の形態を示し，観賞用として植えられる。

まんねんたけ【万年茸】 担子菌類・サルノコシカケ科。広葉樹の切り株にはえるきのこ。全体は漆塗りのような光沢があり，傘(かさ)と茎とからなる。傘は腎臓(じんぞう)形・円形で，径は5～13cm，厚さ1cm，表面は平滑で光沢があり，赤かっ色・紫かっ色。茎は直立し，傘の側方または中央部に着生

する。霊芝(れいし)といって古くから床飾りなどにされている。

まんねんどけい【万年時計】 田中久重*(ひさしげ)が1850年(嘉永3)につくったぜんまい駆動の時計*。400日巻きの精巧なもので，最高の和時計*といわれる。スイス製懐中時計を全体の脱進装置として，それから分岐した歯車機構で全装置を動かすしくみで，彼の天才的な考案を加えてつくられた。頭部に太陽と月の運行を模型で表わし，六角形の各面に洋式文字板，和式文字板，二十四節気の月日，七曜，十干十二支(暦)，月齢が示されている。〔岩沢 央〕

まんねんひつ【万年筆】 インキを用いる筆記用具の一種。英語ファウンテン-ペンの訳語。1809年イギリスのF. B. フォールシュがペン軸にインキをためる方法を発明して特許をとった。同年イギリスのJ. ブラマーがこれにファウンテン-ペンと命名したのがその名の由来である。1852年イギリスのハウキンスがイリドスミン*つきの金ペンを発明し，1854年アメリカ合衆国のN. グッドイヤーがエボナイトをペン軸に使用する特許をとった。しかし，万年筆が実用的になったのは，1884年アメリカ合衆国のL.E. ウォーターマンが毛管現象を応用してインキをペン先に導くことを発明してからである。それ以前の万年筆はフォールシュのバルブ式によっていたため，インキの流出量の調整がむずかしい欠点があって実用にならなかった。日本では1901年(明治34)アメリカ製の金ペンつき万年筆がはじめて発売され，1905年には国産の金ペンつき万年筆が生まれている。

【構造】①ペン先：材質は14金が最適とされているが18金・21金も使われている。このほかにステンレススチールを使った白ペンや，それに金めっきをしためっきペンもある。先端にはペンの摩耗を防ぐためにイリドスミンまたは硬質耐酸合金が溶接されている。②ペン芯(しん)：素材はエボナイト・合成樹脂が使われ，インキを軸内からペン先まで自動的に導く役割と，軸内の空気の膨張(気温と体温の差による場合と気圧変化による場合がある)によってあふれるインキを貯蔵してインキもれを防ぐ役割を果たす。③胴：素材は金属・エボナイト・合成樹脂などが使われ，その内部にインキを貯蔵する役割と万年筆を保持するのに適した太さと形とをもっている。④さや：胴とほぼ同じ素材が使われ，ペン先を保護し，ペン先の乾燥を防止して，クリップをつけて携帯の便を図る機能をもっている。

【種類】主としてインキの吸入方法によって分類される。これには自動吸入式とスペア式がある。自動吸入式は，ゴム・塩化ビニルのチューブの弾力を利用するもので，手押し式・バネ押し式・圧縮空気式などの装置でインキを自動的に吸入するものと，ピストンが前進後退してインキを吸い上げ



万年時計 和時計の最高傑作といわれる(高さ53cm，国立科学博物館蔵)

るものとがある。スペア式はインキのはいったカートリッジを取り替える方式のものである。

現在，万年筆の著名なメーカーとして，国内ではパイロット・セーラー・プラチナなど，外国ではパーカー・シェーファー・ペリカン・モンブランなどがある。

〔福永吉太郎〕

まんねんゆき【万年雪】 高山や高緯度地方の寒地などで堆積(たいせき)して年じゅう消えない雪をいう。万年雪の上に年々新しい万年雪が堆積し，その厚さを増して圧力が加わると粒状構造の氷となり，この氷が雪線*を越えて動き出したものが氷河*である。

まんねんろう【迷迭香】 双子葉植物・シソ科。地中海沿岸原産の常緑低木で，高さ1.5m。全体に芳香がある。葉は対生し，長さ2～4cmの線形で，縁は裏側に強く巻き，上面は光沢があり，裏面に綿毛があって灰白色で，油点が散在する。5～7月，葉腋(ようえき)に総状に長さ12mmの淡紫色の唇形花(しんけいか)をつける。葉はピネン・シネオールなどを含み，香料をとるのに用いる。

まんのういけ【満濃池】 香川県仲多度郡満濃町にある灌漑(かんがい)用の溜池(ためいけ)。金倉川上流の侵食谷をせき止めてつくったもので，周囲約20km，満水時面積1.4km²，最大水深31m，貯水量1,540万m³。8世紀初期に創設され，その後空海らによって数度にわたり修築されたが，12世紀末の破堤後は荒廃が著しく，農民はたびたび大干害で被害を受けた。1631年(寛永8)に再興され，その後の改修を経て，1954年(昭和29)に嵩(かさ)上げ工事が完成して，今日の姿となった。灌漑面積は，丸亀(まるがめ)平野の約46km²に及ぶ。〔竹内淳彦〕

マンノース［mannose］ 還元基をもつヘキソースの一。D-マンノースは植物や酵母の構造多糖類であるマンナン*の構成成分である。コンニャクマンナンは加水分解によってマンノースとブドウ糖を2：1の割合で生成する。その他，結核菌やウマ・イヌの血中にも見いだされる。

マンハイム［Mannheim］ 西ドイツ南西部，ライン川とネッカー川の合流点にある都市。人口33万2,000(1970)。1834年に河港が開かれ，穀物・石炭の積み出しが多く，機械・製粉・化学など諸種の工業が盛んである。1606年創建。旧市街はバロック式建築の多い整然と計画された通りであったが，第2次世界大戦中に75％が被害をうけた。

マンハイム［Karl Mannheim］(1893～1947) ドイツの社会学者。ハンガリーのブダペストの生まれ。パリ・フライブルク・ハイデルベルクの大学に学び，1930年フランクフルト大学教授。その主著《イデオロギーとユートピア》において，歴史主義の立場からマルクス主義のイデオロギー論を相対化しつつ，相争う諸イデオロギーの調停役として，知識人を高く評価する知識社会学を提唱した。1933年ナチス政権の成立によりイギリスに亡命。ロンドン大学講師，のち同教育研究所教授となり，ヨーロッパ民主主義の限界を指摘しながらも，独裁制としてのナチズム・コミュニズムを批判し，〈第三の道〉としての計画化社会を提唱した。ユネスコのヨーロッパ部長在任中死去。著書に《知識社会学の問題》《変革期における人間と社会》などがある。〔小林宏一〕

マンハイムがくは【マンハイム楽派】 18世紀中ごろ，ドイツのマンハイムの選帝侯カール-テオドールの宮廷を中心に活動した音楽家グループ。その音楽史上の意義は，交響曲の第3楽章にメヌエットを配し古典派交響曲への発展の道を開いたこと，第2主題の操作を作曲技法に持ち込んだこと，さらにその管弦楽法にトリルをはじめとする特殊な音型，ゼクエンツによるクレッシェンドの技法，陰影に富んだデュナーミクなど，のちの管弦楽の基本をなす多くの技法を取り入れたことなどである。作曲家としては，始祖といわれるシュターミッツ*をはじめ，リヒター・トエスキ・カール-シュターミッツ・カンナウィヒらがいる。

〔吉田泰輔〕

マンハッタン(区)［Manhattan］ アメリカ合衆国，ニューヨーク市マンハッタン島を占める行政区。面積56.3km²，人口175万(1967)。西はハドソン川，東はイースト川によって限られる南北に長い地区で，ニューヨークの商業活動の心臓部をなす。➔次ページ(写)

マンフォード［Lewis Mumford］(1895～) アメリカの哲学者・文明批評家。ニューヨーク州ロングアイランドの生まれ。ニューヨーク市立大学・コロンビア大学などに学び，1942年スタンフォード大学教授，1951年ペンシルベニア大学教授を歴任した。幅広い学識で《アメリカン-キャラバン》の編集長をつとめ，《技術と文明》《都市の文化》《人間の条件》など多くの著書がある。また



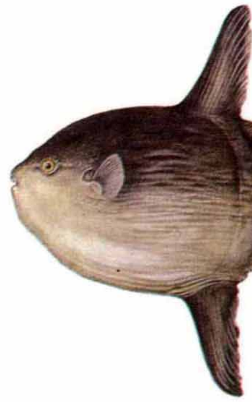
マンハッタン　ニューヨーク港上から望んだマンハッタン島南部の摩天楼街。左手はハドソン川，右手はイースト川方向

特殊な研究書としては《ハーマン-メルビル》がある。〔松沢　勝〕

まんぷくじ　【万福寺】　京都府宇治市五ケ庄(ごかのしょう)にある黄檗宗(おうばくしゅう)大本山の寺。わが国に黄檗禅宗を伝えた明僧(みんそう)隠元*禅師により，1659年(万治２)に創立された。山内の堂宇の造営は1661年(寛文１)から着手，８年後に大雄宝殿が完成した。伽藍(がらん)の建築手法や装飾には中国ふうの要素が多く，全体に異国的なふんい気に包まれている。なお，寺宝の《隠元禅師画像》は17世紀後半喜多元規(もとのり)の筆になり，特異な画法が用いられている。

マンボ　[mambo]　ラテンアメリカ音楽の一。1940年ごろからキューバの首都ハバナでアンセルモ-サカサス・フリオ-グティエレスらのピアノ奏者の即興的演奏から徐徐に定型化され，ペレス-プラド*がメキシコに紹介してから世界的に流行した。彼はこれを新しいダンスリズムとして整理し，大編成による新感覚の編曲でヒットさせた。《エル-マンボ》《マンボ第５番》《チビリコ》などの有名曲があるが，その他の曲をマンボのリズムに編曲して演奏することも世界的に盛んである。〔中西義郎〕

まんぼう　【翻車魚】　硬骨魚類・マンボウ科。大形になる海産魚で，体重800kgに達する。東北地方でウキギという。体は卵形で著しく側扁(そくへん)し，背びれ17軟条，臀(しり)びれ16軟条。背びれ・臀びれ・尾びれが特異な形をしており，頭だけの魚のように見える。太平洋・地中海などの暖海に生息して，ふつうクラゲ類を食する。卵は非常に多くて３億粒にも達するという。肉は白身で脂肪がなく，淡泊。



マンボウ

まんぽうざんじけん　【万宝山事件】　1931年(昭和６)満州在住の朝鮮人と中国人の衝突事件。世界大恐慌を機に困窮した朝鮮人農民は，次々と満州に移住し水田開拓を企てたが，中国人農民との間に土地をめぐる紛争が続出し，７月１日長春郊外万宝山で中国人農民約500人が，入植朝鮮人約300人を襲撃した。７月３日仁川では反中国暴動が発生，日本は中国の不法を宣伝して満州侵略の気運を盛り上げた。

マンホール　[manhole]　人孔ともいう。地下の下水管渠(かんきょ)の維持管理や，電力・通信用ケーブル管路の接続・修理および通気などのために設けられた路面上の出入り口。一般に，管径・勾配(こうばい)の変化点および管渠の屈接点・合流点などに設けられる。形は円形のものが多い。入り口は，作業員が路面より出入りするために径60cmの鉄わくと縁石で囲み，円形の鉄蓋(てつぶた)かコンクリート蓋でおおう。➔下水道

マンモスケーブ(国立公園)　[Mammoth Cave]　アメリカ合衆国，ケンタッキー州中西部にある国立公園。アパラチア山脈西麓(せいろく)の大鍾乳洞(しょうにゅうどう)マンモスケーブを中心に，1936年国立公園に指定された。洞内にはエコー川が110mにわたって流れ，目のない魚もすんでいるといわれる。洞穴は1799年に発見された。

マンモスぞう　【マンモス象】　哺乳(ほにゅう)類の仲間で長鼻目に属する化石動物。新生代第四紀洪積(こうせき)世に生存し，氷期のために全身に深い毛を有し，体は現世のゾウと同様な骨格をもち，体高が3.5m以上もあり，上あごには２本の大きく巻いたきばをもち，臼歯(きゅうし)の咀嚼(そしゃく)面には20〜24列のひだがある。現今，シベリアから氷づけになった完全なマンモスの化石が発見されている。マンモスゾウは北ヨーロッパ・シベリア・中国・日本・カナダ・北アメリカなどに生存していた。〔神戸信和〕

まんようがな　【万葉仮名】　真仮名・真名ともいう。日本語を書きはじめたとき，その音を写すのに用いた漢字。同一音(〈ア〉に，阿・安・英，吾・足，嗚呼など)幾とおりかの字があてられた。金石文や《古事記》《万葉集》《風土記(ふどき)》《宣命》などに用いられた。朝鮮語表記に用いられた吏読(リト)にまねたものかと思われる。字音を借りた正音がな(１字１音節〈宇弥(海)〉，１字２音節〈英(あが)〉〈南(なむ)〉)，字訓を借りた借訓がな(１字１音節〈八間跡(大和)(やまと)〉，１字２音節〈金(兼ね)〉，２字１音節〈海藻(め)〉)の類がある。その用字では，清濁の字が(〈加(カ)〉〈何(ガ)〉のように)区別され，ア行のエ(e)とヤ行のエ(ye)が(〈衣〉と〈延〉のように)書き分けられている。そのほか，キケコソトノヒヘミメヨロ(モ)に，それぞれ甲類と乙類とされる区別(支・吉・企・祇・杵など甲の〈キ〉，幾・記・奇・樹など乙の〈キ〉)があり，〈上代特殊仮名遣(づかい)〉とよばれる。これは，音(母音)に区別があったものとされている。〔日下部文夫〕

まんようしゅう　【万葉集】　現存最古の歌集。全20巻。

【名義】《万葉集》という書名の編集当時の読み方は不明であり，意味についても諸説あるが，〈万世に伝わるべき集〉と考える説が有力である。

【成立と編者】成立年次には確証がないが，759年(天平宝字３)の大伴家持*(おおとものやかもち)の歌が最も新しいもので，ほぼ奈良時代末までに全巻が完成したものとみられる。編者についても，伝説的な橘諸兄(たちばなのもろえ)説などもあるが，巻17以降が家持の歌日記の体裁をなしていたり，巻16以前にも家持の父大伴旅人*(たびと)やその周囲の人々の歌が多いことなどから，家持が全巻の編纂(へんさん)に深い関係をもったことは確かで，さらに家持近親の者あるいは後人の手が加わって現在の形に整えられたものと考えられている。

【部立てと歌体】歌数はおよそ4,500余首で，20巻に分載されているが，歌の配列方法は，歌の内容・歌体・題材・表現法などの種類による場合と，作歌の年代順による場合とがあり，またこの両法を併用することもある。歌の種類は雑歌・相聞(そうもん)・挽歌(ばんか)という三大分類のほかに，譬喩歌(ひゆか)・問答歌などの名称が用いられたり，さらに春夏秋冬の別が加えられたりする場合もある。このうち相聞は相互の起居を問う意で，その関係は男女・親子・兄弟・親戚(しんせき)・朋友(ほうゆう)・君臣などに及ぶが，恋愛関係のものが最も多い。挽歌は元来ひつぎを挽(ひ)くときの歌で，哀悼(あいとう)の心を歌ったもの。雑歌は上のいずれの分類項目にも属さないものをいい，羇旅(きりょ)・遊覧・詠物・述志・懐古・宴会など種々の歌を含んでいる。歌の形式からみると，短歌(➔和

歌)が大部分で，これに次いで約270首の長歌*，ほかに旋頭歌*(せどうか)が約60首，仏足石歌*体の歌が1首含まれる。

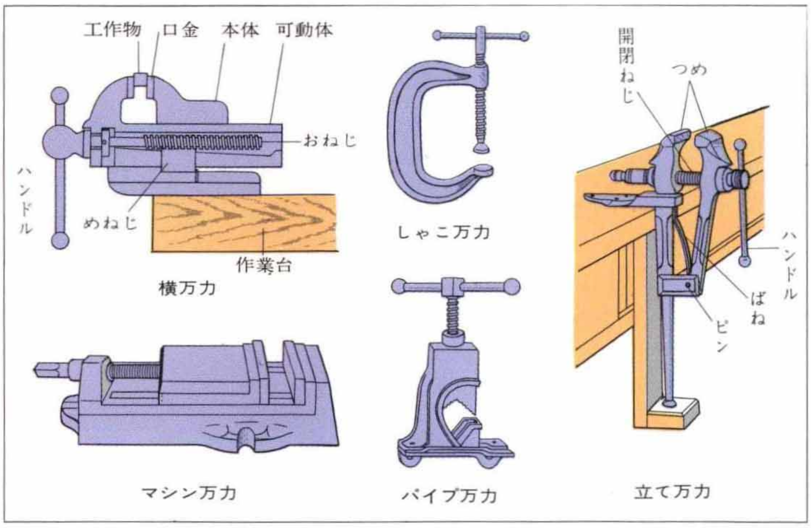
【時代区分】仁徳(にんとく)天皇の皇后磐姫(いわのひめ)の作と伝えられるものから759年の家持の作までおよそ450年間の歌が収められているが，実際は舒明(じょめい)天皇前後から1世紀間につくられた歌が大部分であって，歌風の変遷によって次の4期に分けられる。①第1期：近江(おうみ)期以前(壬申(じんしん)の乱*(672)まで)で，代表歌人としては舒明・斉明(さいめい)・天智(てんち)の各天皇や額田王*(ぬかたのおおきみ)・有間皇子など皇室歌人が中心。形式的にも内容的にも古代歌謡から脱皮していく過渡期にあたり，万葉歌風の発生期である。いわば素朴(そぼく)時代ともいうべきで，感情を率直に表現した作が多い。②第2期：飛鳥(あすか)藤原期(奈良遷都(710)まで)で，天武・持統の両天皇，大伯皇女(おおくのひめみこ)・大津皇子・志貴皇子などの皇室歌人，柿本人麿*(かきのもとのひとまろ)・高市(たけち)黒人*・長意吉麻呂(ながのおきまろ)らの官人が活躍。和歌の最初の隆盛期ともいうべき時代で，激動的な政治情勢を反映して歌も生気にあふれ，力強く重厚な作が多い。特に人麻呂や黒人によって純粋な叙情歌や叙景歌が数多くよまれた。③第3期：奈良時代前期(733年(天平5)まで)で，歌の個性化が著しく進んで文学作品として完成の域に達し，いわば万葉の最盛期を迎える。人生詩人としての大伴旅人・山上憶良*(やまのうえのおくら)，自然歌人としての山部(やまべ)赤人*，伝説歌人としての高橋虫麻呂*のほか，大伴坂上郎女*(さかのうえのいらつめ)・笠金村*(かさのかなむら)など，特異ですぐれた歌人が輩出した。④第4期：奈良時代中期(759年まで)で，大伴家持・狭野弟上娘子*(さののおとがみのおとめ)・笠郎女*などが含まれる。万葉時代もいわば衰退期にはいり，歌の形式は固定化し，歌風は理知的・技巧的となって優美・繊細な叙情と感傷が好まれ，平安時代への推移の傾向を示している。なお，これとは別に東国地方の農民の詠じた民謡的な東歌*(あずまうた)(巻14所収)や，東国から九州へ派遣された兵士たちのよんだ防人歌*(さきもりうた)(おもに巻20所収)は，特異な傾向を示す作歌群として注目される。また，このほかに作者および作歌年代の不明な歌が2,000首以上もあって，《万葉集》の幅広さを物語っている。

【用字法と音韻】和歌の表記には漢字の表意・表音の2機能を駆使しており，後者の用法がいわゆる万葉がな*である。これを漢字の読み方で大別すれば，音を用いるものには，漢語・仏語をそのまま用いるもの(力士・法師)と，いわゆる音がな(由佐＝雪，安吉君散＝秋草，念＝寝む)とがある。訓を用いるものには，正訓(春・鳥)・借訓(夏樫＝懐し)・義訓(西渡＝傾く)・戯訓(山上復有山＝出で)などの別がある。また，奈良時代の音節数は清音61・濁音27(現代語は清音44・濁音18)あり，キヒミケヘメコソトノモ(《古事記》《万葉集 巻5》)ヨロギビゲベゴゾドの20音節が2種に発音され，またア行のエとヤ行のエ，イとヰ，エとヱ，オとヲ，ジとヂ，ズとヅの各音が区別されていた。子音では，サ行の発音はts(一説にʃ)であり，ハ行音の発音はF音(さらに古くはP音か)であった。また，語頭に濁音やラ行音がくることはなく，拗音(ようおん)・撥音(はつおん)・促音などもまだ発生していない。

このように，《万葉集》は時代・作者・歌体・内容・美などにわたって実に多種多様で，いわば上代和歌の一大結集とみることができる。素朴・豪壮な初期の作品から繊細・優美な末期の作品に至るまで，大きな曲折を経てはいるが，全体として，真実な感動と健康な格調とによって，古代人の魂と人間像がいきいきと描き出されている。〔大久保広行〕

まんようだいしょうき【万葉代匠記】 契沖*著の《万葉集*》注釈書。20巻。水戸(みと)徳川家から依頼を受けた下河辺長流*(しもこうべながる)に代わって執筆したもの。1688年(元禄1)ごろ初稿成立，さらに増補訂正を重ね，1690年ごろ精撰(せいせん)本が成立。解釈・本文批判に卓説創見に富み，《仙覚抄(せんかくしょう)》と並んで万葉研究者必見の書とされる。研究の科学的態度と実証的方法とが以後の国学者に与えた影響も大きい。

万　力





マンリョウ

まんりき【万力】 バイスともいう。手仕上げ時などで，工作物をはさんで固定させる工具。本体に固定した口金(あご・つめ)とねじで動かせる口金との間に工作物をはさむ。次のような種類がある。①横万力：作業台に固定した本体の口金に対して可動口金が水平に移動するもの。②立て万力：作業台に固定した本体の口金に対して可動口金が下方のピンを中心として動く。両口金の開き方は平行にはならない。③マシン万力：フライス盤・ボール盤などの工作機械で加工するときに用いるもの。④しゃこ万力：C形をした小形の万力。⑤パイプ万力：管や丸棒をつかむためのもので，歯のついたV形の口金が上下にあり，上の口金が上下に動く。〔森田 鈞〕

まんりょう【万両】 双子葉植物・ヤブコウジ科。暖地の林内にはえる常緑低木で，観賞用に栽植もされる。高さ30～60cmで，よく分枝する。葉は枝端に多く，互生につき，長楕円(ちょうだえん)形で鈍鋸歯(どんきょし)があり，質は厚く光沢がある。夏に前年枝の端に散形花序をつけ，白色小花を開く。がく・花弁ともに5枚で，花弁には紅色の細かい点がある。果実は球形の液果で美しい赤色に熟し，冬から春まで枝についている。園芸品が多く，葉が斑(ふ)入り，丸，縮れたものなどで，果実では白色・黄色・赤紫色のものがある。〔横井朝子〕

マン-レイ ⇨レイ

み

みいけたんでん【三池炭田】福岡県大牟田(おおむた)市・熊本県荒尾市を中心に筑後(ちくご)川河口から有明海東岸に分布する日本有数の大炭田。理論埋蔵炭量約17億t,炭質は高品位の粘結性歴青炭(5,000～7,000kcal/kg)で,コークス用・電力用として使用されている。1469年(文明1)一農夫によって発見されたと伝えられ,江戸時代には三池藩・柳河(やながわ)藩などによって経営された。1873年(明治6)官営となり,1889年には三井家に払い下げられ,以来大規模に開発が進められた。現在では,宮浦・三川・四山の3鉱の坑口のみを残して他は閉山している。陸部はすでに掘り尽くされ,海底下700m前後のところが掘られている。現在日本一のビルド鉱として機械化が進められ,年間約600万tを出炭している。〔竹内淳彦〕

みいでら【三井寺】能の曲名。作者不明。四番目物。狂女物の代表作とされる。わが子のゆくえを尋ねる母親が京都の清水寺に参籠(さんろう)すると,夢の中に〈近江(おうみ)(滋賀県)の園城(おんじょう)寺(三井寺)へ行け〉とお告げがある。おりしも中秋名月で,園城寺では僧たちが月見をしているが,母親はそこへ物狂いの芸人となって出かけて行き,下級の僧が突く鐘の音に感動して,自身も鐘楼へ上って鐘を突く。月見の僧の中にこの母の捜し求めていた子がいて互いに気づいて,世にいう別れの鐘とは反対に,鐘のために再会できたことを喜ぶ。シテは母親,ワキは園城寺の僧,ほかに子方がシテの子を,ワキヅレが従僧を,狂言方が鐘突きの下級僧を演じる。〔長尾一雄〕

みいでらごみむし【三井寺歩行虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オサムシ科。体長14～19mm。体は黄かっ色で黒色紋がある。石下や草むらにすみ,成虫・幼虫とも肉食性で,幼虫はケラの卵を好んで食う。捕えられたり危険を感じると,身を防ぐためにぶすっという発射音とともに腹端部から淡黄白色のガスを出すため,ヘッピリムシ・ヘヒリムシと俗称される。ガスは腹端部にある体内の1対の腺(せん)でつくられた3種の化学物質の混合物で,液体として貯蔵されており,それが酵素を触媒として爆発し,体外に発射されるという。このガスの発射は何回も連続して行なうことが可能で,4分間に約30回発射した例があるほか,アリに対して約200回発射したという例も知られている。なお,ゴミムシ・オサムシ・カメムシなどのように,捕えると悪臭を放つようなこん虫類をもヘッピリムシということもある。〔鈴木邦雄〕

ミイラ【木乃伊】人間または動物の死体の腐敗が体内水分の蒸発によって阻止され,そのままかわき固まったもの。ミイラには,自然ミイラと人工ミイラの2種がある。自然ミイラは,死体が置かれた周囲の自然条件によって生成されたものをいい,したがって,風通しのよい湿度の低い場所から多く発見されている。テーヨが南アメリカのパラカス砂漠(さばく)で発見した数百体のミイラ群,ヘディン*が楼蘭(ろうらん)の遺跡で見つけた女性ミイラ,わが国の大谷探検隊がタクラマカン砂漠で発掘した数体のミイラ,フィリピンのルソン島アラゴット山の洞穴(どうけつ)から出た数百体のミイラ群など,すべて典型的な自然ミイラである。わが国のような湿潤温暖の国でも,環境の条件しだいでは自然ミイラは生成されうる。1884年(明治17)には富山市常楽寺の土塀(どべい)内から男性の乞食(こつじき)ミイラが発見され,最近では1956年(昭和31)東京深川永代(えいたい)橋の橋げた下から男性の自然ミイラが発見されている。人工ミイラとして最も著名なものは,エジプトのそれであろう。エジプトではすでに第1王朝時代(BC3000年ごろ)からミイラづくりが行なわれていたが,その最盛期はツタンカーメン*で有名な第18王朝(紀元前15世紀)のころである。ヘロドトスの《歴史》によると,その製法には貧富によって3種の区別がなされていた。最も高価な方法は,鼻孔から鉄製のかぎで脳漿(のうしょう)を引き出し薬品を注入して洗い流す。次いでわき腹を鋭いエチオピア石で裂き,腹腔(ふくこう)内の臓物を除去したのち,やし油で洗い清め,没薬(もつやく)や桂皮(けいひ)などの香料を詰めて元どおり縫合する。このあと70日間ソーダ液につけてから亜麻布の包帯で巻き,表面にゴムを塗って完成する。中等の製法は,肛門(こうもん)からすぎ油を注入し,せんをして70日間ソーダづけにし,せんを抜いてすぎ油で溶解した内臓を排出させる。最低の製法は,下剤を注入し,腹腔を洗浄したうえソーダづけにしてつくりあげる。これらの遺骸(いがい)は木棺に収め,墓所に安置される。エジプト以外でも,ミイラづくりは世界の広い地域にわたって行なわれている。それらはいずれも,死者の復活・再生を願うなど,呪術(じゅじゅつ)的・宗教的な行為として,死者を死者以外の人間の手によってミイラ化したも



ミイラ
(左)エジプト第19王朝の王ラーメス2世のミイラ　紀元前13世紀　カイロ美術館蔵　(右)山形県鶴岡市南岳寺の鉄龍海上人のミイラ　1881年ごろ土中入定

のである。しかし，わが国の出羽三山を中心に残されている13体の即身仏のように，みずからの意志でみずからをミイラ化するような特異な例もある。彼らはおよそ3年にわたる断食で体内脂肪を落とし，死期を悟るとみずから墓穴を掘って土中に入り，ミイラ化するのである。これは弥勒(みろく)信仰に基づく土中入定であり，56億7,000万年後にこの世に現われ，衆生を済度するという弥勒菩薩(ぼさつ)に随行しようとする行為である。このほか，死体を殺菌消毒して腸内に水銀を注入し密閉した容器に収容して，生前そのままの状態で保存する軟体屍(なんたいし)(第3永久保存死体)も，一種のミイラといえよう。〔佐野文哉〕

みうら【三浦(市)】 神奈川県南東部の市。人口49,000。古くから風待ち港・漁港として開け，昭和初期から遠洋漁業基地として発展した三崎を中心として1955年(昭和30)市制施行。市域は三浦半島*の南端，高さ80m以下の隆起海食台に位置し，海岸線は溺(おぼ)れ谷*の地形を示して出入りが多い。中心市街の三崎は台地南端の海食崖(がい)下にあり，城ケ島*を自然の防波堤とする良港である。産業三大別人口比は27：19：54。三崎港は表日本のマグロ延縄(はえなわ)漁業の基地となり，マグロをはじめ，サバ・サンマ・イカなどの年間水揚げ高は約79,000t(170億円)に達する。台地上は畑作が盛んで，京浜市場を控えて野菜の早期栽培が行なわれ，ダイコン・スイカ・キャベツの生産が多い。特にダイコンは〈三浦ダイコン〉の名で知られ，冬季に京浜方面に出荷される。京浜急行電鉄が三浦海岸駅まで通じ，国道134号線を利用して横須賀(よこすか)・逗子(ずし)方面からバス路線が集まる。城ケ島とは城ケ島大橋(有料道路)で結ばれ，そのほか東洋一のマリンパーク(水族館)をもつ油壺(あぶらつぼ)，剣崎燈台などの景勝地があり，四季を通じて観光客を集める。将来は西海岸に海中公園がつくられる予定である。〔浅井得一〕

みうらあんじん【三浦按針】⇨アダムズ

みうらし【三浦氏】 平安時代から鎌倉時代にかけて勢力をもった相模(さがみ)(神奈川県)の豪族。桓武(かんむ)平氏の一族。鎮守府将軍平良茂(よしもち)の孫公義(きみよし)が相模三浦に住み，三浦氏を称した。その子為継(ためつぐ)は源義家*に従い，以後代々源氏に属して繁栄した。義明(よしあきら)のとき相模大介(おおすけ)となり，これより三浦介を称するようになった。義明とその子義澄は源頼朝*(よりとも)の挙兵に三浦党を率いて参加し，鎌倉幕府の創業を助けた。義澄は相模守護，その子義村は承久の乱*ののち河内(かわち)(大阪府)・紀伊(きい)(和歌山県)の守護も兼ね，北条(ほうじょう)氏に次ぐ実力をもつ有力御家人となった。次の泰村(やすむら)も権勢をふるったが，しだいに北条氏と対立を生じ，1247年(宝治1)執権北条時頼により一族はほとんど滅ぼされた。その後支族が勢力を回復して三浦によったが，1516年(永正13)義同(よしあつ)・義意(よしとも)父子の代に北条早雲*に討たれて滅亡した。〔高崎徳次〕

みうらたまき【三浦環】(1884〜1946) ソプラノ歌手。日本人で国際的に通用した最初の洋楽家。東京の生まれ。東京音楽学校在学中からグルックの《オルフェオ》初演にエウリディーチェの役をつとめ，のち声楽家として活躍しながら，母校で教えた。1913年ドイツに留学，のちイギリスに移って，ロンドンでデビュー。すぐれた声に加えて，演技や姿のよさなどをあわせもったため，ヨーロッパ・アメリカなどで《蝶々(ちょうちょう)夫人》役で活躍した。〔徳丸吉彦〕

みうらちょら【三浦樗良】⇨樗良

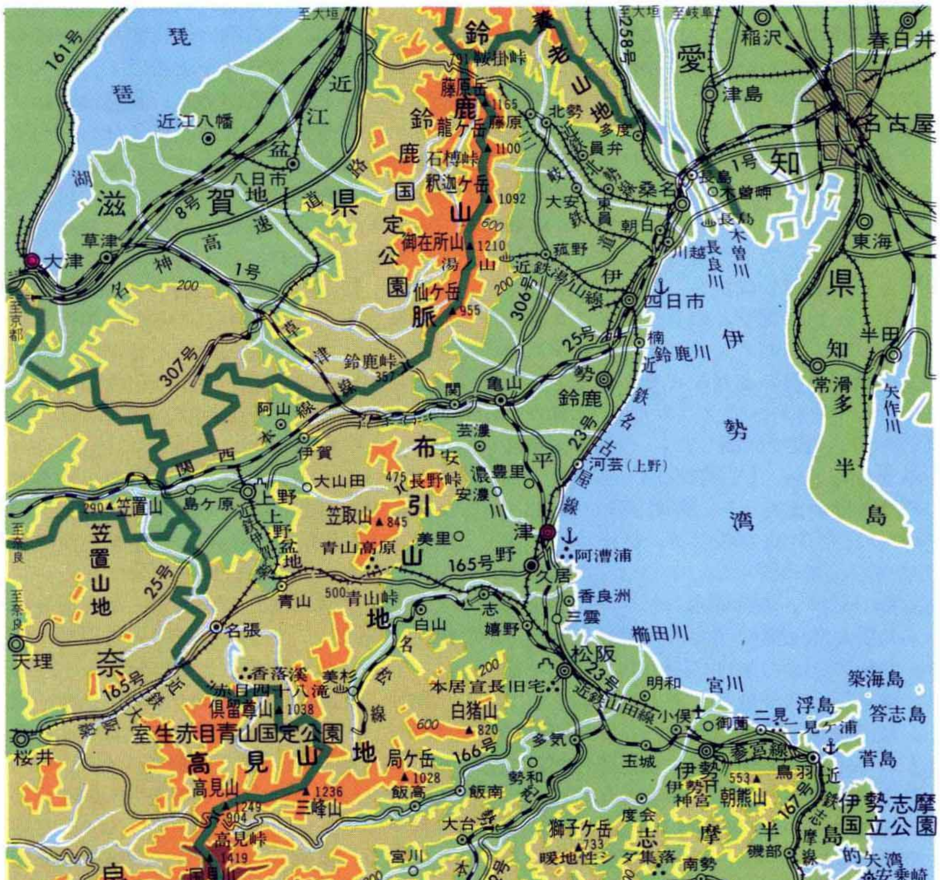
みうらばいえん【三浦梅園】(1723〜1789) 江戸中期の儒学者。豊後(ぶんご)(大分県)の人。名は晋(すすむ)，字(あざな)は安貞，のち安鼎(あんてい)。綾部絅斎(あやべけいさい)・藤田貞一らに学んだ。幼時より自然現象に興味をもち，30歳で天地の条理(自然界の法則)を窮め，条理学と名づけた。その方法論としてとった弁証法的論法は当時としては画期的なものである。博学多識な彼は儒学だけではなく，経済学の方面でも鋭い見解を示した。すなわち，〈悪幣盛んに行はるれば精金皆隠る〉は，グレシャムの〈悪貨は良貨を駆逐する〉と類似思想であるが，梅園の場合は紙幣の悪弊を嘆いたものである。諸侯からの招きにも応じなかったが，晩年には杵築(きつき)侯から家老職をもって待遇された。著書《玄語》《贅語(ぜいご)》《敢語》ほか。〔田上光治〕

みうらはんとう【三浦半島】 神奈川県南東部に突出する半島。東京湾と相模(さがみ)湾とに分け，房総半島と相対する。相模湾に面した逗子(ずし)と東京湾に面した船越を結ぶ線を半島頸部(けいぶ)とし，北・中・南の3地域に分けられ，北部・中部はおもに丘陵地をなし，最も高い中部は北から南へ二子山・大楠(おおくす)山・武(たけ)山の3列の山並みに区分され，その間は谷に仕切られる。南部は平坦(へいたん)な海食台が広がる。海岸線は，南西部に油壺(あぶらつぼ)湾・小網代(こあじろ)湾など，北東部には長浦湾・横須賀(よこすか)湾・浦賀湾など出入りが多い。地質構造は複雑で，おもに海成第三紀層の葉山層群と三浦層群とからなっている。半島は良港に恵まれ，古くから交通上重要な位置を占めてきたが，近世には江戸の守りとして三崎(みさき)・浦賀が，明治以後は横須賀が東京の守りとして重視され，第2次世界大戦中は半島全体が海上防衛基地となり諸施設があった。気候は温和で，南部では三浦ダイコンをはじめ野菜の早期栽培が盛んで，城ケ島・油壺をはじめ，半島全体が保養地となっており，住宅地としての開発も進んでいる。〔味沢成吉〕

みえ【見得】 歌舞伎(かぶき)の演出・演技の一。俳優が役の心理的な盛り上がりを表現するため，劇の進行中に動作を一時停止し，絵画的なポーズをとること。1人または2人以上の場合があり，種類は多い。観客の印象を強めるため，多くは〈ツケ〉や鳴り物を入れて効果をあげる。なお，見得をすることを〈見得をきる〉といい，日常語でも，きわだった言動でいばって見せることの意味に使われている。

みえ【三重(県)】 近畿(きんき)地方南東部の県。東と南は太平洋に臨み，北西から北東へかけては滋賀・岐阜・愛知の3県，西は京都府と奈良県，南西は和歌山県と接する。県花はハナショウブ，県木はジングウスギ，県獣はニホンカモシカ。伊勢(いせ)・伊賀・志摩3国の全域と紀伊国の一部を占め，面積5,773km²，人口168万6,000。人口密度は1km²あたり292人。県庁のある津以下の13市と14郡(45町11村)に分かれる。

【自然】県域は南北に細長く，中央部を東流する櫛田(くしだ)川の谷が中央構造線とほぼ一致して，地形を南北に二分する。内帯に属する北部は，木曾(きそ)・揖斐(いび)・長良(ながら)の3河川と養老山地をはさんで愛知・岐阜の両県と接し，鈴鹿(すずか)山脈・布引山地が南北に走って滋賀県・京都府との境をなす。鈴鹿山脈は高さ1,000m内外の山地で，東側は伊勢平野に向かって急崖(きゅうがい)をつくり，南部の鈴鹿峠(357m)は古くから伊勢・近江(おうみ)両国を結ぶ重要な交通路で，鈴鹿関が設けられていた。御在所山(1,210m)と東麓(とうろく)の湯ノ山温泉を中心に山岳と渓谷(けいこく)の景観がすぐれ，文化財・史跡などの多い周辺部を含めて鈴鹿国定公園に指定されている。外帯に属する南部には険しい紀伊山地が東西に走り，三峰山(1,236m)・国見山(1,419m)・池木屋(いけのきや)山(1,396m)・大台ケ原山(1,695m)などの山々が奈良県境に連なり，さらに熊野(くまの)川とその支流北山川をはさんで，和歌山県と接する。大台ケ原山は県下最高峰で，山上に高原状の平坦面(へいたんめん)が広がり，周辺には原始林が繁茂して，吉野(よしの)熊野国立公園の区域内に編入されている。平地は北部に伊勢湾沿いの伊勢平野，布引山地西側の上野盆地があるが，南部には熊野灘(くまのなだ)沿いに小平野が点在するにすぎない。伊勢平野は，鈴鹿・雲出(くもず)・櫛田・宮などの諸河川の沖積(ちゅうせき)作用と海岸の隆起作用によって形成されたもので，北端は木曾川・揖斐川・長良川などのつくる三角州地帯に輪中(わじゅう)集落が古くから発達し，上野盆地は伊賀盆地ともよばれ，北方の近江盆地(滋賀県)と同様に陥没作用によってできた盆地である。伊勢平野の南東方には隆起海食台地の志摩半島が太平洋上に突出して，伊勢湾と熊野灘とをくぎる。半島東半部は伊勢神宮・海女(あま)・真珠で知られる国際観光地で，伊勢志摩国立公園に指定されている。海岸線



三重県

の長さは1,013kmに及び，伊勢湾沿岸は単調な砂浜海岸であるが，志摩半島から熊野灘沿岸にかけては出入りの多いリアス式海岸で，磯浜(いそはま)が多い。気候は一般に温暖で，北部と南部，海岸部と内陸部にそれぞれ地域差がみられる。伊勢平野は夏季は高温多雨，冬季は雨の少ない表日本東海型の気候を呈し，上野盆地は寒暑の差が大きい内陸型の気候である。志摩半島以南の臨海部は冬季も温暖で雨が多く，亜熱帯性植物が繁茂して南国的景観を呈する。紀伊山地南部は有数の多雨地帯で，尾鷲(おわせ)では年間降水量が4,000mmに達し，大台ケ原山周辺では5,000mmをこす記録もある。

〔産業・経済〕 産業三大別人口比は11：40：49。主産業は農漁業で，最近は伊勢湾沿岸に四日市を中心として近代工業が発達している。県民1人あたりの年間所得は127万3,000円(1977)で，全国で第14位を占める。

〈農林水産業〉 農家の総数は11万6,000，兼業農家率は92％ときわめて高い。耕地面積は97,000ヘクタール，水田率は74％で，伊勢平野で〈伊勢米〉，上野盆地で〈伊賀米〉を産し，米の平年収量は22万5,000t(1970)で，ほぼ自給できる。畑作は鈴鹿山脈東方の台地や志摩半島の海食台地で主として行なわれ，サツマイモ・キュウリ・キャベツの栽培が盛んで，宮川流域の〈伊勢ダイコン〉はたくあんづけにして出荷される。〈伊勢茶〉とよばれる茶の特産も古くから名高く，鈴鹿山脈東麓の三重郡・鈴鹿郡を中心に27,122t(生葉，1970年)を産し，静岡県・鹿児島県に次いで全国第3位である。最近は亀山(かめやま)市を中心に紅茶も産出され，鹿児島県に次ぐ産額をあげている。志摩半島南部から熊野灘沿岸にかけてはミカン・ナツミカンの栽培も近年盛んである。畜産業では〈松阪(まつさか)牛〉とよばれる肉牛の飼育が古くから知られる。北勢地区で約7,000頭が特別な飼料で飼育され，東京・大阪へ出荷される。そのほか，乳牛やブタの飼育も盛んで，乳牛は14,000頭，ブタは13万6,000頭を数える。林野面積は38万3,000ヘクタールで，県域の66％を占め，その大半は民有林である。素材生産高は92万2,000m³(1970)で，スギ・マツ・ヒノキなどの針葉樹林が多く，特に尾鷲地方のヒノキの美林が名高い。水産業は活発で，専業漁家数は2,500戸に近く，海面漁獲量は18万4,000t(1970)で，カツオ・カタクチイワシ・キハダ・ビンナガ・スルメイカなどの水揚げが多く，その他貝類や海藻(かいそう)類なども採取する。特産の真珠は志摩半島南部の英虞(あご)湾・五ケ所湾などを中心に養殖され，24.8t(1970)の生産は全国一を誇るが，最近はアメリカ合衆国のドルーショックなどの影響で，輸出がふるわず不況である。伊勢湾沿岸ではノリの養殖が盛んで，年間生産枚数は6億2,000万枚(1970)に達し，愛知・福岡両県に次ぎ，全国第3位である。

〈鉱工業〉 地下資源には恵まれず，石灰石がおもな鉱産物で，鈴鹿山脈北部に埋蔵量が多い。和歌山県境の山地ではマンガン・硫化鉄・銅なども少量産出される。工業製品年間出荷額は1兆0,637億円(1969)で全国第13位を占め，伊勢湾に臨む桑名・四日市・鈴鹿・津・松阪などの各都市を連ねた伊勢湾工業地帯では化学・繊維・石油石炭製品・食料品・電気機器・輸送用機器・陶磁器などの生産が盛んである。化学工業は四日市市の石油化学コンビナートが中心で，塩浜の第1，午起(うまおこし)の第2コンビナートに隣接する霞ケ浦(かすみがうら)に大協和石油化学が第3コンビナートの建設計画を進めている。津市には世界的な規模をもつ日本鋼管の造船所，松阪市にはセントラル硝子(ガラス)・東京ニッケルなどの大工場が進出し，オートバイの大工場のある鈴鹿市や，江戸時代以来の鋳物業を受け継いで金属工業の盛んな桑名市と合わせて，新興工業地

帯としての発展が著しい。一方，四日市市の公害は大きな社会問題となっており，住民のせき・たん・ぜんそく発作などの訴えが急増し，その対策が急がれている。繊維工業は〈松阪もめん〉の伝統を受け継ぐ松阪市を中心に津・鈴鹿両市などで綿紡績が盛んで，かなきん・ポプリン・ブロードの生産は全国第5位を占め，桑名・四日市両市の卓上用陶磁器製品の特産は全国第2位を占める。伝統的な家内工業としては，桑名・四日市周辺で江戸中期からつくられた万古焼が名高く，そのほか亀山市のろうそく，上野市の和がさ・組みひも，伊勢市のみやげ物などがあるが，いずれも経営の規模は小さい。

〔交通・都市〕県の中・北部は畿内と隣接する立地条件から伊勢・伊賀・笠置(かさぎ)などの諸街道が集まり，南部には熊野街道があって，陸上交通は古くから発達していた。鉄道では関西本線・紀勢本線のほか，参宮線・名松線・草津線などの支線をもつ国鉄と，大阪・伊勢・名古屋の3市をつなぐ近畿日本鉄道が県下の旅客輸送の大動脈となっている。古来の幹線道路は改修されて国道1号線・23号線・25号線・42号線となり，これを補うために名阪国道(国道2号線)・名四国道(国道1号線)も建設されている。国道165号線・166号線は県中部を東西に走り，167号線・260号線は志摩半島から熊野灘沿岸を走って，伊勢道路・伊勢志摩スカイラインなどの有料道路も発達している。海上交通では貿易港四日市を中心に物資の集散が多く，観光面では鳥羽(とば)港と伊良湖岬(いらごみさき)を結ぶ伊勢湾フェリーや御座～浜島間を結ぶ奥志摩フェリーなどのフェリーボートのほか，鳥羽と蒲郡(がまごおり)・名古屋との間に水中翼船が就航し，賢島は英虞湾の定期船の発着港としてにぎわう。人口密集地帯は伊勢湾沿岸で，特に四日市市を中心とする北部の工業地帯は人口密度が高い。県庁所在地の津市をはじめ，鈴鹿・松阪・上野・桑名・名張・鳥羽・亀山の8市はいずれも旧城下町から発達した都市で，そのほか四日市は近代工業都市，伊勢は伊勢神宮の鳥居前町，尾鷲は水産都市，熊野は熊野三山の神領地としてそれぞれ独自の都市形成の歴史がみられる。県下13市のうち，名張・尾鷲・亀山・鳥羽・熊野の5市は1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以後の新しい市であり，久居(ひさい)は〈三万人市特例法〉によって生まれた新市である。

〔歴史〕北部は大和(やまと)地方の開発とともに古くから開け，646年(大化2)には鈴鹿山脈の山間部に日本三関の一つ鈴鹿関が置かれ，畿内地方を東方の侵攻から守る防御線の役割を果たしていた。古くは伊勢国であったが，7世紀末には伊勢・伊賀・志摩の3国に分立し，平安時代には伊勢・志摩の大半は伊勢神宮の所領，伊賀の半ばは東大寺の荘園(しょうえん)となり，平清盛が中央で権力を握ると神宮領は平氏の統治下に置かれた。鎌倉時代は守護が置かれたが，南北朝時代には北勢と伊賀を除いて南朝の勢力下にはいり，北畠(きたばたけ)氏が支配した。室町時代から戦国時代にかけては北畠・仁木(にき)・一色・畠山らの豪族が各地に割拠したが，織田信長(のぶなが)に平定され，やがて豊臣秀吉(とよとみひでよし)が全国を統一すると，1608年(慶長13)に藤堂高虎(たかとら)が伊予(いよ)から移って伊勢の一部と伊賀を統治し，他地域も諸大名に分割された。江戸時代には藤堂氏の伊勢・伊賀三十二万三千石の所領のほか，北勢・志摩は松平氏ほかの諸大名に細分され，南勢紀州部は紀伊徳川氏の所領，幕府直轄領，大神宮領などが入り混じり，所領関係は複雑をきわめた。伊勢湾北部の低地では，木曽・揖斐・長良3川の大水にしばしば悩まされたが，1755年(宝暦5)にはいわゆる宝暦の治水が行なわれた。1871年(明治4)の廃藩置県に際して安濃津(あのつ)・度会(わたらい)の2県が設置されたが，翌1872年に安濃津県が三重県と改称，1876年に度会県を統合して，現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

みえいぐ 【御影供】〈みえいく〉〈みえく〉ともいう。真言宗の祖師忌をいう。神仏や祖師・先徳の彫塑や図画したものを影像といい，影像を祭る堂宇を御影堂，影像を供養するのを御影供という。910年(延喜10)3月21日に観賢僧正が東寺で空海の真影を供養して以来，真言宗の祖師忌の別称となった。

みえないにんげん 【見えない人間】エリソンの小説(1952)。黒人の主人公が，故郷の町や大学，さらには革新政党内での生活を通じて，アメリカ社会における黒人差別の根の深さを知り，絶望の果てに自分を〈見えない人間〉と規定して，社会との関係を断った地下生活者になるという物語。アメリカの黒人文学史上最も著名な作品の一。

ミオグロビン [myoglobin] 筋肉細胞内に見いだされるヘモグロビン様のヘムタンパク質。分子量はヘモグロビンの約4分の1で17,000。1分子あたりプロトヘムを1個もち，1本のペプチド鎖からなる。結晶化されており，ケンドルーによってその三次構造が決定されているが，ヘモグロビン同様に球状に近く，ヘム付近のアミノ酸も同じである。しかしアミノ酸組成の比較からミオグロビンはヘモグロビンから独立につくられると考えられる。ミオグロビンはヘモグロビンに比べて酸素に対する親和性が強く，一酸化炭素に対する親和性が小さい。したがってミオグロビンの生理的役割は酸素の運搬にあるのではなく，筋組織中に酸素を確保することではないかと考えられる。〔原野友之〕

ミオシン [myosin] 筋肉の収縮タンパク質の一。1939年エンゲルガルトらはミオシンがATP加水分解酵素であることを示し，1941年セント-ジェルジらはそれがミオシンとアクチンからなるアクトミオシンであることを発見した。分子量は50万～60万。L-メロミオシンの先にATP分解酵素の活性をもつH-メロミオシンを結合して，細長い分子となっている。単離されたミオシンはH-メロミオシンに由来するATP分解作用をもつが，アクチンにもまたこの作用がある。H-メロミオシンを介してミオシンはアクチンと結合し，アクトミオシンを生じる。これもまたATP分解作用をもち，筋収縮の基本構造となっている。ミオシンは筋繊維のA帯に相当し，アクチンはI帯に相当している。なお，ミオシンは変形菌のような下等な生物でも見いだされている。〔原野友之〕

みかいしゃかい 【未開社会】〈未開〉および〈原始〉という語は，英語のプリミティブに対応するものとして一般に同意語のように用いられているが，民族学・文化人類学では，先史時代の社会は原始社会といい，現代の文明社会のわく外にある社会に限って未開社会というのが普通である。未開社会も，文明社会と同様に固有の歴史をもっているから，未開社会と原始社会を同一視することは危険である。未開社会は，①文字をもたないこと，②技術水準の低さと人口の狭小さ，③強度の社会の孤立性・封鎖性，④伝統文化の強さ，⑤社会の成員の行為の集団性による社会の強い同質性などの特徴によって，文明社会に比較して自然状態に近い社会といえる。〔森部　一〕

みかいしゅうのイタリア 【未回収のイタリア】1866年イタリア王国はプロイセン-オーストリア戦争に参加してベネチアを得たが，なおトレンチノ・トリエステ・イストリア・ダルマチアなどのイタリア人居住地がオーストリア領に残された。イタリアはこれを〈未回収のイタリア〉とよんで獲得運動を続け，民族主義者の熱烈な目標ともなった。第1次世界大戦が起こると，三国同盟に参加していたイタリアは，この〈未回収のイタリア〉の要求をオーストリアが拒否したことを理由に，協商国側について参戦し，1919年サン-ジェルマン条約の結果その大部分を獲得したが，フィウメ・ダルマチアの帰属をめぐってユーゴスラビアとの間に新たな問題が発生した。〔大野慎一郎〕

みかいどう 【実海棠】双子葉植物・バラ科。ナガサキリンゴともいう。中国原産といわれる落葉小高木で，高さ7mほどになる。葉は互生し，長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，縁に浅い鋸歯(きょし)がある。新葉は綿毛をかぶる。花は葉と同時に開き，新枝の先に散形につく。淡紅色の5弁花で，カイドウ(ハナカイドウ)よりも花柄が短く，直立してたれ下がらない。果実は扁球(へんきゅう)形で径2cmほど，秋に黄熟して食べら

れる。

みかえりしきんとくべつかいけい【見返り資金特別会計】 アメリカ合衆国の対日援助物資(ガリオア・エロア)を，政府が国内に払い下げて得た円代金を経理するために設けられた特別会計。1948年(昭和23)までは貿易特別会計の形で輸出入補給金の役割を果たしてきたが，1949年度以降見返り資金特別会計として設置され，経済復興を目的に重要産業への投資財源として使用された。1953年アメリカ合衆国の対日援助打ち切りに伴い廃止され，残余財源は産業投資特別会計に吸収された。

みがきにしん【身欠き鰊】 ニシンでつくる素乾品の一種。ニシンのえらや内臓を除いて2～3日日干ししたのち，背・腹・背骨の3部分に切り分け，再び日干しして背の部分だけをそろえたもの。生干しのほうがうまく，煮つけ・かば焼きなどによい。なお長期間保存して油焼けしたものは，あくまたは米のとぎしるであく抜きしてから調理する。

みかく【味覚】 化学的感覚の一つで，味を感じ取り識別する感覚。口腔(こうこう)粘膜の上皮にある味蕾(みらい)によって受容され刺激が味覚中枢に伝えられて味覚を生じる。この刺激は水溶液の状態で受け入れられるもので，砂糖などの固形物も唾液(だえき)にとけてはじめて味として感じられると思われる。味覚は酸味・塩味・甘味・苦味の4種類に大別されるが，味はそれらの組み合わせと，臭覚・触覚・温度覚・視覚などの総合されたものとして生じる。➔味

みかぐら【御神楽】 ⇨神楽

みかげ【御影】 兵庫県神戸(こうべ)市東灘(ひがしなだ)区の海岸地区。芦屋(あしや)とともに阪神(はんしん)間有数の高級住宅地区で，地名は神功(じんぐう)皇后が三韓(さんかん)征伐から帰国した際，〈沢ノ井〉の泉に姿を映して化粧されたことにちなむといわれる。灘五郷の中郷の地，銘酒〈沢之鶴(さわのつる)〉で知られる酒造地で，その起源は南北朝時代に〈沢ノ井〉の泉でつくった酒を朝廷に献上したことに始まる。背後に六甲山を控えて古くから良質のカコウ岩の産出があり，産地名を冠して御影石とよばれる。《万葉集》や《大和(やまと)物語》で知られる処女塚(おとめづか)の史跡がある。〔浅井得一〕

みかげいし【御影石】 ⇨カコウ岩

みかさ【三笠】 日露戦争当時の連合艦隊旗艦。日本海軍の注文によりイギリスのビッカース社で1899年(明治32)1月に起工し，1902年3月1日に完成した。常備排水量15,140トン，速力18ノット，30cm砲4門，15cm砲14門，8cm砲20門，5cm砲4門，魚雷発射管4基を備え，攻撃力と防御力の両面で当時の列強戦艦中，最優秀の部に属した。日本海海戦でロシア遠征艦隊撃滅の中心的役割を演じ，1923年(大正12)9月軍艦籍を除かれたあとも，記念艦として横須賀(よこすか)(神奈川県)白浜海岸に保存されている。〔藤井冬木〕

みかさ【三笠(市)】 北海道中央部の市。人口24,000。1873年(明治6)アメリカ人技師ライマンの幌内(ほろない)煤田(ばいでん)調査によって開発が始まり，その後大正初期にかけて幌内・幾春別・奔別(ぽんべつ)・唐松・弥生(やよい)など，多くの炭鉱が開坑して〈石炭の町〉として発展した。1957年(昭和32)市制施行。市域は，夕張山地の西縁，幾春別川と支流奔別川の上・中流流域に広がり，両川の河岸段丘面に炭鉱集落群が集まる。産業三大別人口比は10：47：43。石炭産業が主体であるが，近年中小炭鉱の休閉山が多く，人口も1965～1970年間に15.8%減少し，カーボンブラック工場の誘致などによって工業都市への転換が図られている。幾春別川流域は農業地帯で，米・野菜をつくり，市域の大半を占める山地では林業も行なわれる。幌内線が通じ，三笠駅から幾春別・幌内へ分岐しておもに石炭輸送の役割を果たしている。幾春別川の上流には桂沢(かつらざわ)ダムがつくられ，人造湖桂沢(かつらざわ)湖は洪水(こうずい)防止・発電・農業用・飲料用と多目的に使われるほか，道立自然公園に指定されて市民の行楽地となっている。

みかたごこ【三方五湖】 福井県西部の久々子・水月・三方・日向(ひるが)・菅(すが)の5湖をいう。自然または人工の水路によって互いに連絡し，久々子・日向の2湖は海水が出入し，淡水湖は奥にある三方湖だけで，海に近いほど塩分が濃い。いずれも海岸にあるが，低い丘陵に囲まれる。ハゼ・ボラ・ウナギ・コイ・フナ・モロコ・ワカサギ・タコ・クロダイ・イワシなどを産し，つりの名所で知られる。若狭(わかさ)湾国定公園に含まれる。〔長津一郎〕

みかたはらだいち【三方原台地】 みかたがはら台地ともいう。静岡県西部，浜松市街地北方に広がる洪積(こうせき)台地。西は浜名湖，東は天龍(てんりゅう)川の沖積地(ちゅうせきち)に境される。標高は北東部が高く約90mで，南に低くなり約30mで終わる。砂礫(されき)層の上にローム層をのせ，かつては水に乏しいため荒地として残されていたが，明治初年失職した武士によって開墾が始められた。現在では秋葉ダムからも水が引かれ，茶・野菜を栽培するほかミカン園も造成されている。航空自衛隊浜松基地があり，三方原の戦いの古戦場としても有名。〔高野　繁〕

みかたはらのたたかい【三方原の戦い】 戦国末期，遠江(とおとうみ)(静岡県)三方原で行なわれた武田(たけだ)信玄と徳川家康(いえやす)との合戦。東海地方を制圧して上洛(じょうらく)の機をうかがっていた信玄は，1572年(元亀3)遠江・三河(みかわ)(愛知県)方面を攻略するため大挙出陣し，二俣(ふたまた)城を落として家康の居城浜松城に迫った。しかし，武田軍は要害堅固な浜松城を避けてさらに西進したので，家康はこれに誘われ織田信長(のぶなが)の援軍とともに出撃，12月23日夕刻三方原で両軍の激戦となった。この合戦で徳川軍は完敗し，家康は浜松城に退いた。戦後，信玄が三河方面に進出中病没したため，家康は窮地を脱した。〔高崎徳次〕

みかづき【三日月】 新月から3日めの月。夕方に西の空に左側が欠けて見える。➔月

みかづきこ【三日月湖】 河跡湖および牛角湖ともいう。河道のそばにある三日月形の湖沼のことで，蛇行(だこう)していた川が洪水(こうずい)時などに切れて蛇行湾曲部の旧河道が河流からとり残されたものである。北海道の石狩川・十勝川などの流域によく発達している。

みかづきも【三日月藻】 緑藻(りょくそう)類・ミカヅキモ科。池沼・水田などに生ずる淡水藻で，プランクトンとして浮遊生活し，あるいは他物に付着する。三日月または弓形の単細胞で，群体はつくらない。細胞の先端から粘液を出して運動することがある。細胞の中央で2分裂する無性生殖を行ない，接合によって有性生殖を行なう。

みかどあげは【帝揚羽】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・アゲハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70mm。前翅は黒色の地に3列の淡緑色の斑紋(はんもん)が並び，中央部のものが最も大きい。後翅も外縁近くに淡緑色の紋列があり，前縁には白色の紋，中央には二つの淡緑色の紋がある。裏面は表面より淡色で，後翅の前縁と中央部から後縁にかけて黄色または赤色の紋がある。年3回の発生で春型は5月，夏型は7月と9月に出現する。成虫はアオスジアゲハほど敏速ではなく，水辺の湿地やトベラ・センダン・ウツギなどの花に集まる。幼虫はオガタマノキを食べ，さなぎで越冬する。東洋熱帯に広く分布し，日本はその北限にあたる。九州・四国・本州・沖縄にみられるが食草の関係から分布は局地的である。高知市のものはその生息地とともに天然記念物とされている。〔多々内修〕

みかどきじ【帝雉】 鳥類・キジ科。雄は全身黒紺色で，尾は長く白斑(はくはん)がある美しいキジの一種。雌は全体に暗かっ色。台湾特産種。今世紀の初め，イギリスの収集家が2本の長い尾羽を入手したが，それが既知のどの種の羽でもないことに気づき，数年後台湾の高山ではじめてこの鳥を採集したという鳥学上世界的に有名な鳥。

みかみおときち【三上於菟吉】(1891～1944) 小説家。埼玉県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科中退。朝鮮独立運動に取材した《春光の下に》でデビューし，やがて通俗文学に転じた。伝奇的な時代小説を得意とし，《敵討(あだうち)日月双紙》などを書き，特に復讐(ふくしゅう)物語《雪之丞変化(ゆきのじょうへんげ)》は映画・演劇にもなって大好評を博し

た。ほかに情痴的な現代小説も多い。

みかみはん　【三上藩】　甲賀藩ともいう。近江(おうみ)(滋賀県)野洲(やす)郡に置かれた藩。藩主遠藤(えんどう)氏。外様(とざま)大名。一万石。1698年(元禄11)遠藤胤親(たねちか)が常陸(ひたち)(茨城県)から入封。1870年(明治3)胤職(たねもと)のとき，和泉(いずみ)(大阪府)吉見(よしみ)に移って吉見藩を称し，廃藩置県に至った。

みかわ　【三河(国)】　愛知県の東半部を占める旧国名。三州。東海道に属する。大化改新前は参河・穂の2国造(くにのみやつこ)が支配していた。律令(りつりょう)時代には碧海(あおみ)・額田(ぬかた)・賀茂(かも)・幡豆(はず)・宝飫(ほお)・設楽(したら)・八名・渥美(あつみ)の8郡。国府・国分寺はともに現在の豊川(とよかわ)市。古代より伊勢(いせ)神宮に赤引糸(あかひきのいと)を貢納するなど関係が深く，中世には神宮領30余か所を数えるに至った。鎌倉時代には安達(あだち)盛長が守護であったが，のち足利(あしかが)氏の世襲となり，その一族が国内各地に土着した(細川・吉良(きら)・一色・今川氏など)。室町時代には高・仁木(にき)・一色・細川の諸氏が守護となった。応仁(おうにん)の乱後，土豪松平氏が台頭したが，織田・今川両氏にはばまれて独立を維持できず，今川氏と結び，ついで織田氏*と同盟した。豊臣秀吉(とよとみひでよし)は小田原征伐の後，徳川家康(いえやす)を関東に移封したが，近世には岡崎・刈谷(かりや)・西尾・吉田(よしだ)・田原その他の譜代小藩がたてられた。明治維新後10藩をまず10県とし，1871年(明治4)額田県にまとめ，翌年これを愛知県にあわせて今日に至る。　〔黛　弘道〕

みかわしま　【三河島】　東京都荒川区のほぼ中央部にある地区。隅田(すみだ)川西岸の低湿な沖積地(ちゅうせきち)を占め，江戸時代は水田を主とする農村地帯で，将軍家の鷹場(たかば)があった。1889年(明治22)北豊島(きたとしま)郡三河島村となり，1920年(大正9)町制を施行，1932年(昭和7)東京の市域の拡張に伴い，尾久・南千住(みなみせんじゅ)・日暮里(にっぽり)の3町と合併して荒川区となった。以後は北部を町屋，南部を三河島町と称し，1961年住居表示の改正によって三河島の町名は荒川に変わった。明治中期以後下水処分場・火葬場(町屋)などの都市周辺施設が置かれ，商店街・住宅街とともに多くの小工場が立地して，人口過密のスラム地帯が形成されている。荒川区役所など，区の行政機関が集まり，常磐(じょうばん)線・京成電鉄上野線・帝都高速度交通営団の地下鉄千代田線が通じる。常磐線三河島駅・京成電鉄町屋駅付近に中心商店街が発達している。　〔浅井得一〕

みかわものがたり　【三河物語】　徳川家康(いえやす)・秀忠(ひでただ)・家光(いえみつ)の3代に仕えた大久保彦左衛門*(ひこざえもん)(忠教(ただたか))の手になる回想録。3巻よりなる。上巻・中巻は主家徳川氏代々の仁政と祖先や



ミカドキジ

一族の徳川氏に対する勲功をしるし，下巻は自己の体験をしるした自叙伝というべきもので，みずからの武功に対する自負と，報いられなかったことへの不満を述べ，これを因果観であきらめようとしている。文字・かなづかいの誤り，方言の混入などで，読解に困難であるが，その至情は紙面にあふれている。自筆原本が伝存されているが，これを読みやすく加筆した伝本に，《大久保忠教日記》《三河記》《参州記》などと称する書がある。　〔岡山泰四〕

みかわもめん　【三河木綿】　愛知県東半部の三河地方に産する綿布の代表名。三河地方は，わが国にはじめて綿実をインド人漂流者が持ち込み，栽培された歴史をもつ。以後，日本の綿布の産地として著名で，晒(さらし)木綿・手ぬぐい地などのような着尺綿布が代表的。

みがわりざぜん　【身替坐禅】　日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)・長唄(ながうた)の曲名。松羽目物*。1910年(明治43)初演。狂言《花子*》を舞踊化したもの。男が，妻には坐禅をしていると見せかけて，実は太郎冠者(かじゃ)を身替わりにして恋人のもとへ抜け出す。このトリックを見つけた妻は，自分で太郎冠者に代わって坐禅をつとめ，帰ってきた夫を懲らしめる。

みかわわんこくていこうえん　【三河湾国定公園】　愛知県，三河湾を囲む渥美(あつみ)半島の沿岸，知多半島の南西岸，湾北の御前崎(おまえざき)や付近の沿岸，湾内の佐久島などを含む国定公園。面積約82km²。1958年(昭和33)に指定され，1965年には伊良湖(いらご)地区が追加指定された。渥美半島の南岸は遠州灘(えんしゅうなだ)に臨む断層海岸で，北岸に比べて変化は少ないが，恋路ケ浜・日出(ひい)ノ石門・赤羽根・一色ノ磯(いそ)海岸などの景勝地がある。また，田原城跡・吉胡貝塚(よしごかいづか)などの史跡もある。知多半島の南端には海食崖(かいしょくがい)が見られ，海上には小島が散在し，多島海風景が展開し，海水浴客・つり客でにぎわう。湾の北岸は砂浜海岸で風景も美しく，吉良(きら)・西浦・三谷・形原などの温泉もある。伊良湖岬(みさき)先端のヤブツバキ・タブノキの原生林や，知多半島の鵜ノ池(うのいけ)に生息するカワウは天然記念物に指定されている。東海道本線・名古屋鉄道三河線など交通の便がある。　〔木村東一郎〕

みかん　【蜜柑】　双子葉植物・ミカン科。アジアの熱帯・温帯に広く分布する常緑低木～高木。葉は広卵形で光沢があり，互生する。光に透かすと多数の小さな油室が見える。葉柄には翼があり，葉身との間に関節がある。花は白色まれに紫色の5弁花，おしべは多数でたいてい癒合(ゆごう)している。子房は黄色花盤の上にあり，花柱は1本。果実は黄色の液果で袋状の内果皮の中にはえている太い毛の中に甘い液をたくわえる。花が葉腋(ようえき)に1個またはかたまって咲き，種子の胚(はい)が緑色の仲間(ウンシュウミカン・ユズ類)と，花が穂になってつき，種子の胚が白い仲間(レモン・ザボン・ダイダイ・雑柑(ざっかん)類)に分けられる。ウンシュウミカンは最もよく食べられているもので高さ約3mの低木，葉は長さ8～10cmの楕円(だえん)形で先がとがる。果実は直径5～8cm，皮は薄くむきやすい。種子は普通できない。キシュウミカンは葉の長さ5～7cm，果実も小さく直径3～4cm，種子がある。江戸時代に食されていたのは後者である。　〔加藤僖重〕

【ウンシュウミカン】約300年前に中国から将来された果実の種子から偶然実生として生じたもので，鹿児島県長島が原産地とされる。果実は早熟性で品質にすぐれる。耐寒力があり，わが国の気候に適応する。1874年(明治7)ごろから現在の主産地に普及，それまで主体であったキシュウミカンに代わって，わが国柑橘(かんきつ)類の代表的

みかん　ウンシュウミカン系統図

ウンシュウミカン出現(鹿児島県長島)
↓
在来系(福岡県田主丸)
- 池田系(大阪府池田)→大阪・和歌山・四国・瀬戸内
- 伊木力系(長崎県伊木力)→長崎・佐賀
- 尾張系(愛知県中島)→大阪・広島・山口／愛知・静岡・神奈川→全国的に栽培(杉山ウンシュウ　林ウンシュウなど)

早生ウンシュウ→
- 青江早生(大分)　1892年ごろ発見
- 宮川早生(福岡)　1909年ごろ出現



ミ カ ン　ウンシュウミカン　①米沢　②杉山　③林

存在となった。1892年ごろ大分で着色の早い枝変わり，青江早生(わせ)が発見され，その後も早生系をはじめ種々の優良系の探索・育成が進められている。ウンシュウミカンの系統は図のごとくである。尾張系から枝変わりで生じた米沢ウンシュウ(静岡)・南柑20号(愛媛)・藤中ウンシュウ(神奈川)などの中生種は，普通ウンシュウの年内出荷が暖地産に劣るのを補う点や，また採収労力の配分の面などで注目される。ふつうウンシュウでは尾張系に優良な杉山(すぎやま)ウンシュウ(静岡)・林ウンシュウ(和歌山)などが発見，その代表系となっている。ウンシュウミカンは第2次世界大戦後の果樹園芸の勃興(ぼっこう)に伴って増植され，大きな集団産地が生まれた。主産地は愛媛・静岡・長崎・和歌山など，栽培面積は1,268ヘクタールとなり，現在リンゴを抜いて果樹の中で最も多い。市場には10～3月潤沢に出回る。年平均気温15℃以上の土地がよく，傾斜地利用が多いが，平坦地(へいたんち)は寒害に注意を要する。台木はカラタチ台・ユズ台などであるが，前者は浅根性で，やや矮性(わいせい)である。後者は深根性で樹勢強く，木が大きくなる。早生種では計画密植栽培も行なわれる。整枝は開心自然の半円形整枝を採用し，剪定(せんてい)では生育と結実が平衡するように注意する。摘果は従来あまり行なわれなかったが，樹勢の維持，隔年結果の予防，玉揃(たまぞろい)の平均化，品質向上などのため奨励されている。病害は瘡痂病(そうかびょう)・潰瘍病(かいようびょう)の防除に注意する。また害虫はカイガラムシ類・ダニ類・コナジラミなど警戒を要し，その防除は薬剤散布暦，発生予察に基づいて行なわれ，散布は定置配管・スピードスプレーヤー・空気散布などにより行なう。貯蔵には，果実を傷つけないよう注意し，皮が少ししなびる程度にしてから低温で行なう。アオカビ・ミドリカビには注意を要する。〔岩垣駛夫〕

みかんいろ　【蜜柑色】　ミカンの果実の表皮のような色。黄赤色。日本工業規格(JIS)慣用色名〈ミカン色〉は，色相5.5YR，明度6.5，彩度12.5と規定されている。

ミカン色のように，黄赤系統の色を柑橘(かんきつ)類の名をもって表わすことは非常に多い。たとえばほかに橙(だいだい)色・柑子(こうじ)色・オレンジ色などがある。一般には，

ミカンコミバエ



ミカン色・橙色・オレンジ色の三つを同一の色として考えているようであるが，日本工業規格ではミカン色を橙色よりもやや黄みが多くオレンジ色よりはやや黄みの少ない色としている。また，これらより明度および彩度のわずかに高い色と規定している。橙色は，標準の黄赤(5 YR　6 /12)と同じ色である。〔武井邦彦〕

みかんこみばえ　【蜜柑小果実蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・ミバエ科。体長7～10mm，体は黒色で黄色の斑紋(はんもん)がある。翅(はね)は透明で，前縁と一部の翅脈に沿って淡い黒色の斑紋がある。日本では，奄美(あまみ)諸島の奄美大島・喜界島・徳之島(とくのしま)などと小笠原(おがさわら)諸島に発生するが，国外では台湾や中国南部からインドにかけて広く分布する。本種の幼虫は，各種ミカン類をはじめ，ウリ類・トマト・パパイア・マンゴーなど多種の果実に寄生し，果肉内に食入して大害を与える。

みかんせいこうきょうきょく　【未完成交響曲】　シューベルト*作曲の交響曲第8番ロ短調。古典交響曲は4楽章が基本となっており，シューベルトもそのつもりで書きはじめたらしいが，第3楽章のスケルツォの9小節まででスコア(総譜)が終わっており，そこから〈未完成〉とよばれた。現在では第1楽章アレグロ-モデラートと第2楽章アンダンテ-コン-モトのみが演奏される。書かれたのは1822年ごろとされているが，発見されたのは1865年で，初演は同年12月17日。〔向坂正久〕

みかんのこなかいがらむし　【蜜柑粉介殻虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・コナカイガラムシ科。雌成虫は体長3～4mm，体幅2.0～2.5mmの楕円(だえん)形で，橙黄(とうおう)色，背面は白色のろう質物で薄くおおわれるが，背中線は露出して橙黄色の縦線が顕著。体の周縁には白色のロウ質の突起が多数あり，尾端の1対は長い。本州・四国・九州のほか世界の亜熱帯・熱帯の各地に広く分布し，ミカン類をはじめクワ・シュロ・ヤシ，各種観葉植物を成虫・幼虫ともに吸汁(きゅうじゅう)加害し，温室害虫としても知られる。また幼虫の分泌液にはしばしばすす*病菌が繁殖して黒くなり，樹勢が弱まる。〔鈴木邦雄〕

みかんのとげこなじらみ　【蜜柑棘粉虱】　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・コナジラミ科。雌成虫は，体長1mmほど。橙黄(とうおう)色で紫かっ色の斑紋(はんもん)があり，全体に薄く白色粉をかぶる。前翅は紫かっ色で7個の不定形の白色の斑紋があり，後翅は全体淡紫色。本州・四国・九州のほか，台湾・フィリピン・中国・インド・ハワイなどに広く分布し，ミカン類に寄生する。本種の天敵としてシルベストリコバチ(ヒメコバチ科の体長0.7mm内外の微小なハチ)があり，中国の広東の原産で，1925年(大正14)イタリアのシルベストリ(1873～1949)によって長崎に輸入され，本種の駆除に好成績を収めている。現在は九州の農事試験場で人工飼育されている。〔鈴木邦雄〕

みかんみばえ　【密柑果実蠅】　こん虫類・双翅(そうし)目・ミバエ科。ミカンバエともいう。体長10mm内外，翅(はね)を広げた長さ20mm内外。体は淡黄かっ色。頭部は胸部とほとんど等幅。胸背は卵形で淡黄色の1縦帯があり，中央後半部に同色の1縦紋がある。腹部は比較的短く，基部で細まり，中央に黒かっ色の1縦線と第3・4節の基部に中央の切断された黒色の横帯がある。翅は透明で灰色をおび，前縁部は黄かっ色，翅脈は濃黄かっ色。九州に分布するミカンの重要な害虫である。年1回発生し，成虫は6～7月に出現する。卵は果実の袋の中に1粒ずつ産下され，幼虫はミカンの果肉を食べて成長する。被害果実は健全果実よりも早く色づき，やがて落果する。〔鈴木邦雄〕

みき　【三木(市)】　兵庫県中南部の市。人口69,000。中世以来別所氏5代の城下町であったが，天正年間(1573～1591)に別所長治(ながはる)が豊臣秀吉(とよとみひでよし)に滅ぼされて以来は江戸時代を通じて大工道具を中心とする〈金物の町〉として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。市域は加古川の支流美嚢(みのう)川の河岸段丘上に位置し，中心市街は南岸の神戸(こうべ)電鉄三木駅周辺に発達する。東は神戸，西は小野・加古川の各市と接する。産業三大別人口比は10：41：49。主産業は金属工業で，伝統の大工道具をはじめ，作業用工具・家庭用金物など多くの用具を生産し，年間出荷額は30億円に達する。美嚢川流域は灘(なだ)の酒米の産地で，マツタケの産も多い。南部の広野に大ゴルフ場がある。三木線・加古川線で加古川市，神戸電鉄で神戸市，国道175号線で明石(あかし)市と結ばれる。三木城跡はいま上ノ丸公

園として市民に親しまれている。

みききよし 【三木清】(1897～1945) 哲学者。兵庫県の生まれ。京都帝国大学哲学科卒。西田幾多郎・波多野精一に学ぶ。1922(大正11)～1925年ドイツ・フランスに留学，ハイデッガーの影響を受けた。1926年第三高等学校講師，1927(昭和2)～1930年法政大学教授。彼はマルクス主義に接近し，生の存在論に立って唯物史観を人間学的に解釈しようとした。1930年共産党に資金提供の嫌疑(けんぎ)で検挙され，釈放後西田哲学に接近したが，1945年ある共産主義者を保釈中にかくまって脱獄援助罪の容疑で捕えられ，同年9月26日獄死。宗教的傾向をもった理想主義者で，哲学的著作のほかに文学・文化・社会・時代の問題に多数の評論を残したが，体系的哲学者としてよりも，評論家・批評家として精彩を放った。最も学問的な著作は未完の《構想力の論理》である。他に《パスカルに於(お)ける人間の研究》《唯物史観と現代の意識》《歴史哲学》《哲学入門》《哲学ノート》《続哲学ノート》ほか。遺稿《哲学的人間学》《親鸞(しんらん)》。〔中川 誠〕

ミキサー [mixer] 固体と固体，固体と液体，液体と液体などを混合する機械の総称。混合機ともいう。さらに取り扱う物体によって，混合機・攪拌機(かくはんき)・捏和機(ねつわき)などに大別され多種多様である。単にミキサーという場合は，固体と固体，あるいは固体と少量の液体とを混合する機械をさすことが多い。この場合には，混合容器自体が回転する回転混合機と，混合容器を固定し，内部に回転する羽根を設けた攪拌混合機とがある。回転混合機の代表的なものには，水平円筒混合機と二重円錐(えんすい)混合機およびV形混合機などがある。攪拌混合機は，羽根の形状によって，スクリュー形・リボン形および鋤形(すきがた)などがあるが，混合と同時に輸送も兼ねることができる。特別なものとして容器の底部から空気を吹き込んで，粉粒体を流動させて混合する流動化混合機がある。〔下村吉郎〕

みぎねじのほうそく 【右ねじの法則】 ⇨アンペールの法則

みきもとこうきち 【御木本幸吉】(1858～1954) 真珠養殖の先覚者。三重県鳥羽(とば)のうどん製造業の家に生まれたが，早くから志摩で取引されていた真珠に関心をもち，その養殖が可能と知ると，全財産を投げ出して研究に没頭，赤潮と戦いながら1893年(明治26)5個の半円真珠を，さらに1905年苦心のすえ天然真珠と寸分違わぬ真円真珠の養殖に世界ではじめて成功した。翌年特許を受け，〈ミキモトパール〉として全世界に販売，1926年(大正15)のフィラデルフィア万国博に真珠の塔を出品，〈世界の真珠王〉の名を高めた。第2次世界大戦中は養殖禁止令が発せられ，大きな打撃を受けたが，戦後まもなく生産を再開し，死ぬまで真珠業界を指導した。〔片岡一郎〕

みきょうしょ 【御教書】 古文書の一様式。奉書形式の文書のうち，三位(さんみ)以上の公卿(くぎょう)，あるいはそれに準ずる者の意を奉じて出したものをいう。鎌倉時代には，将軍の命を奉じて執権・連署が出す関東御教書と，六波羅(ろくはら)探題が出す六波羅御教書があり，室町時代には執事・管領(かんれい)が足利(あしかが)将軍の仰(おおせ)を奉じて出す室町将軍家御教書がある。

みきろふう 【三木露風】(1889～1964) 詩人。本名操。兵庫県の生まれ。早稲田(わせだ)大学・慶応義塾(ぎじゅく)大学中退。清純な叙情詩集《廃園》(1908)で認められ，北原白秋と併称された。しかし詩集《寂しき曙(あけぼの)》のころより象徴詩風へ移行。《白き手の猟人》は内面的な沈潜と音楽性にすぐれ，明治の象徴詩集として高く評価された。続いて《幻の田園》《良心》《蘆間(あしま)の幻影》などの詩集を発表。1920年(大正9)に北海道のトラピスト修道院に講師として赴任して以後，《象徴詩集》《信仰の曙》など信仰心に満ちた詩集を出したが，これらは芸術性に乏しい。ほかに童謡集《小鳥の友》などがある。〔小泉浩一郎〕

ミグ [MiG] ソ連の航空機技師ミコヤンとグレビッチの協同開発による航空機の総称，あるいはその開発設計チームの略称。1940年に最初のミグ1がつくられ，第2次世界大戦中のミグ3以来，優秀な戦闘機が世に出ているが，ミグの名が一躍有名になったのは，朝鮮戦争におけるミグ15の活躍以来のことである。その後もミグ17を経て超音速のミグ19，マッハ2級のミグ21がつくられ，特にミグ21は1960年代のソ連，東ヨーロッパ諸国などの代表的戦闘機となった。1960年代後半からは，マッハ3級のミグ23も開発され，ソ連空軍の主力となりつつある。〔藤井冬木〕

ミクサート [Mikszáth Kálmán](1847～1910) ハンガリーの小説家。スロバキア地方の生まれ。ブダペスト大学卒業。弁護士の助手や地方新聞の記者をしながら小説を書き，郷土の農村生活に題材をとった短編集《スロバキアの親類たち》(1881)で広く認められた。その後，19世紀末から20世紀初めにかけ，ハンガリーの代表的作家としての地位を確立し，アカデミー会員や国会議員にも選ばれた。ほかに《ベステルツェの包囲》(1895)など多くの長編がある。〔徳永康元〕

ミクソウイルス [myxovirus] インフルエンザウイルスA型・B型・C型の総称。また，このほかにパラインフルエンザウイルス・ムンプスウイルス(お多福風邪(かぜ)ウイルス)・ニューカッスル病ウイルスなどを含めることもある。特徴として，赤血球のムコタンパク質と反応して赤血球を凝集させ，次いで，自身のもつ酵素で赤血球表面のウイルス吸着部を破壊し，ウイルス粒子を解き放す作用があげられる。遺伝子としてRNAをもち，外装は突起の多い被膜よりなり，ほぼ球形で直径80～120mμ。RNA・タンパク質のほか，リン脂質や炭水化物が含まれている。〔石川 彬〕

みくに 【三国(町)】 福井県北部にある坂井郡の町。人口23,000。九頭龍(くずりゅう)川河口右岸にあり，1957年(昭和32)周辺3村と隣接町村の一部を編入して発足した。中世以来，越前(えちぜん)平野を控えた港町として栄えたが，鉄道開通後は漁港となった。東尋坊・越前松島・三里浜などは越前加賀海岸国定公園に含まれ，訪れる観光客が多い。京福電鉄が通じる。

みくにさんみゃく 【三国山脈】 関東地方北西部，群馬・新潟・長野の3県境を，ほぼ北東から南西に走る山脈。地名は上野(こうずけ)・越後(えちご)・信濃(しなの)の3国の境界にあたることにちなむ。兎岳(うさぎだけ)(1,926m)・巻機(まきはた)山(1,962m)・茂倉岳(1,978m)・谷川岳(1,963m)・仙ノ倉(せんのくら)山(2,026m)・大黒山(2,072m)・白砂山(2,140m)などの高峰が並び，表日本と裏日本の障壁となって両地域の生活に大きな地域差を生じている。古来交通の難所とされ，清水(しみず)峠・三国峠を経て往来されたが，現在は清水トンネル・三国トンネルが通じる。利根(とね)川の本流や支流の吾妻(あがつま)川と信濃川の支流魚野川や只見(ただみ)川などの水源をなしている。一部は上信越高原国立公園に属する。〔高野 繁〕

ミグマタイト [migmatite] 変成岩の中にカコウ岩質の細い筋が無数にはいっているもの。その中の一つは，変成作用がカコウ岩の溶融温度以上で行なわれたため，岩石中のカコウ岩質の成分がとけて集まり，たくさんの筋のようになってあとに固結したと考えられるもので，先カンブリア系の中に多く見られる。他の一つは，カコウ岩体の貫入の際，接触部にあった地層の中にカコウ岩マグマが細かくしみこんだためにできたと考えられるもので，日本にもその例が少なくない。〔片山信夫〕

みくらしま 【御蔵島】 伊豆(いず)七島の一。東京都三宅(みやけ)支庁御蔵島村に属する島。〈みくらじま〉ともいい，御倉・三蔵などとも書いた。人口201。三宅島の南南西18kmにあるほぼ円形の火山島。一島一村をなし，面積19.7km²，中央の御山(851m)は，八丈島の西山(854m)に次ぐ伊豆諸島第2の高峰で山腹に火口湖の御代ケ池がある。海岸は100m以上の断崖(だんがい)が囲み，特に南西岸には480mの日本最高といわれる海食崖が切り立ち，断崖からは小河川が滝となって落下している。南西岸には300万羽といわれるオオミズナギドリの生息地がある。水は伊豆諸島中最も豊富で，水力発電所と簡易水道がある。交通はきわめて不便で，東京から月2回三宅島経由の定期船が通うが，しけると欠航する。南の八丈島との間



御蔵島 北西上空から望んだ御蔵島の全容。手前左に唯一の部落・船着き場が見える。右側海岸の高い海食崖は黒崎高尾の断崖

には黒潮〈黒瀬川〉が流れており，江戸時代には流人が送られていた。〔浅井得一〕

みくりや【御厨】 御園(みその)ともいう。古代・中世に存在した皇室や神社の所領。元来は，魚介類・くだものなどの供膳(くぜん)・供祭物を調進する屋舎を意味したが，のちその所領をさすようになった。皇室の御厨は内膳司(ないぜんし)の所管で，畿内(きない)や近国に多数置かれたが，平安時代になって院宮・王臣家が地方土豪と結託して乱立したため，902年(延喜2)全面的に停止された。神社の御厨は，文献に見えるところでは伊勢(いせ)神宮と賀茂(かも)神社に限られる。ことに伊勢神宮の御厨は平安後期から鎌倉時代にかけてその宗教活動とあいまって全国的に多数分布するに至った。その領有関係は荘園*(しょうえん)とまったく等しく，室町時代にはいって荘園制の解体期を迎えると，急速に崩壊した。〔高崎徳次〕

ミグレニン ［migranin］ 偏頭痛・神経痛などに内用する繁用薬の一。アンチピリン・カフェイン・クエン酸が90：9：1の割合からなる。白色の粉末で味は苦く，水にとけやすい。アンチピリン・カフェインの相乗作用により鎮痛作用を示す。アンチピリンを含むのでピリン疹(しん)を起こす特異体質者には注意を要する。劇薬。

ミクロトーム ［microtome］ 顕微鏡標本の作製過程で，材料を3～50μの厚さに切る精密機械。薄切器ともよばれる。ミクロトーム刀の固定台，試料固定装置，試料片を左右・前後・上下に傾ける装置，切る厚さを調節する微動装置などからなる。刃の運動の方法によって回転式と滑動式に大別され，種々の条件によって使い分けられる。回転式はパラフィンを用いて包埋した試料を一定の厚さで連続して切る場合に有効で，固定された刃に試料が上下運動を行なって一定の厚さだけ刃に近づく。滑動式は試料は固定され，刃台に水平に取り付けられた刃がレールの上を滑動して切片をつくる。この方法では連続切片を得ることは困難であるが，大きな切断面を得るときや厚く切る材料などに適している。このほか最近では電子顕微鏡のために厚さ0.05μの超薄切片をつくるミクロトームが登場してきている。この場合，刃はガラスまたはダイヤモンドを用いるが，光学顕微鏡標本のためのミクロトームは金属刃である。〔高野一雄〕

ミクロネシア ［Micronesia］ 太平洋の島々をポリネシア*・メラネシア*とともに三分したときの北西部をさし，赤道から北緯20°，東経130°から180°の範囲をいう。地名は〈小さい島々〉の意で，島々は一般に低平で小さいが，サンゴ礁がよく発達している。台風圏からははずれ雨量も多くはないが，地下水位は浅く水の供給は十分で，高温と海風の恵みはバナナ・パンノキ・ココヤシ・タロイモ・サツマイモ・ヤムイモの産に好適である。ミクロネシア人は東南アジアから渡来したものとみられ，インドネシア人・フィリピン人・パプア人とは言語や身体の面でも類似している。ミクロネシア人の一般的特徴は長頭，銅色の皮膚，直毛，細い身体をもつ。島々はカロリン・マリアナ・マーシャル・ギルバートの諸島に分かれる。カロリン諸島とマリアナ諸島はかつてスペインに領有されたが，のちドイツ(マリアナ諸島のグアム島だけはアメリカ合衆国)に売却され，第1次世界大戦後ドイツはマーシャルを加えて3諸島を失い，日本の委任統治領となり，第2次世界大戦後はアメリカ合衆国の信託統治領となった。ギルバート諸島のナウル島とオーシャン島はリン鉱石に富み，ナウル島はイギリス・オーストラリア・ニュージーランド3国の委任統治領から1968年独立して共和国となった。オーシャン島はイギリス領のギルバート-エリス諸島の政庁所在地である。マーシャル諸島のエニウェトク・ビキニの両サンゴ環礁は原水爆の実験場に使用された。〔大崎　晃〕

ミクロネシアしょぞく【ミクロネシア諸族】 ミクロネシア諸島の原住民の総称。メラネシア人・ポリネシア人・マライ人・ネグロイドなどの混血人種で，皮膚の色も明色からかっ色に至る変差がある。身長は中身長であるが東へ行くにつれて増加する。言語も地域差があるが等しくオーストロネシア語族に属する。ミクロネシア人をカナカ族とマリアナ諸島のチャモロ人とに二大別することがある。社会構造では母系社会で，高度な酋長(しゅうちょう)制が発達して階級社会を構成する。男子集会所の組織も広く伝播(でんぱ)している。文化的にもポリネシア・インドネシア・マライなど文化要素が混在し，たとえば西カロリン諸島の土器の形や，ビンロウの実に石灰を塗ってキンマの葉で包んだものをかむ習俗はマライの影響を受けていることを示す。一方，東カロリン諸島のカバ酒の使用はポリネシア系の文化要素の移入を示す。なお，ポナペ島には石造の巨大な城跡がある。〔牛島　巌〕

ミクロン ［micron］ メートル法の長さの単位。ミリメートルの1,000分の1をいう。記号μ。微生物などの大きさを表わすのに用いる。さらに小さい長さの単位として，ミクロンの1,000分の1にあたるものをミリミクロンといい，記号mμで表わす。

ミケーネぶんめい【ミケーネ文明】 ⇨ エーゲ文明

ミケランジェロ ［Buonarroti Michelangelo］（1475～1564） イタリア-ルネサンス期最大の画家・彫刻家・建築家。フィレンツェ領カプレーゼ駐在の執政官の家に生まれたが，その直後に一家はフィレンツェに移った。1488年，家族の反対をおして13歳でギルランダイヨ*の弟子(でし)となるが，翌年メディチ家の保護を受けたために師のもとを去った。ここでミケランジェロはギリシア彫刻にふれ，思想的には新プラトン主義などの影響を受けた。ベネチア・ボローニャにおもむいたのち，1496年ローマを訪れ，サン-ピエトロ大聖堂の《ピエタ》を制作，再びフィレンツェにもどって多くの仕事を依頼された。なかでも，彼の記念碑的な作品となったのが《ダビデ》で，古典的な人体美を追求している。1505年，教皇ユリウス2世の招きで再度ローマを訪れたミケランジェロは，サン-ピエトロ大聖堂の内装およびシスティナ礼拝堂の大天井壁画の制作を行ない，1512年に完成。フィレンツェにもどって，サン-ロレンツォのメディチ家礼拝堂のファサード，廟墓(びょうぼ)の彫刻などにとりかかった。この仕事は，メディチ家の政治的危機により一時的に中断しなければならなかったが，1530年にはこれをほぼ完成し，1534年ローマにもどり，システィナ礼拝堂の《最後の審判》を制作。サンガロ*の死後，サン-ピエトロ大聖堂の再建を引き受けたミケランジェロは，かつてのブラマンテの計画を取り入れながらも，独自のダイナミズムを発現した。彼は，多くの分野においてルネサンスの中心人物であった。しかし，その盛期には，わずかながらもマニエリスティックな様相をおびている。〔吉田玲子〕

ミゲル-イダルゴ ［Miguel Hidalgoy Costilla］（1753～1811） メキシコ独立運動の先駆者。グワナハート市の生まれ。カトリック神父となり，農業・醸造業・養蜂(ようほう)業の育成に努めたが，スペイン政府の抑制策にあい，しだいに植民地行政への批判を開始した。1810年インディオを率いて〈ドローレスの叫び〉として知られる反スペインののろしをあげ，グワナハート市を奪取。しかしメキシコシチーの攻略に失敗し，翌年捕えられて処刑された。　〔松下　洋〕

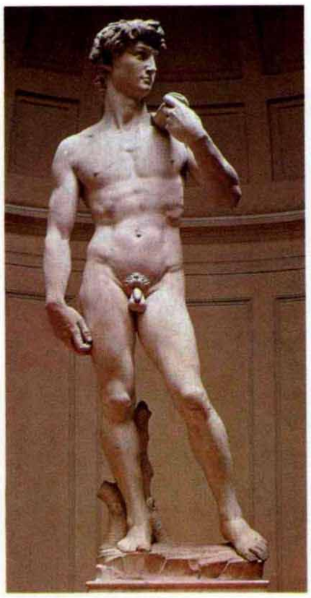
ミケロッツォ ［Michelozzo di Bartolommeo Michelozzi］（1396～1472） イタリア-ルネサンス期の彫刻家・建築家。鋳造彫刻家として出発したが，ドナテッロ*・ブルネレスキ*とともにメディチ家墓碑の建築的意匠を試み，その後は建築家として活躍した。サン-マルコ聖堂・メディチ宮殿などの代表作に見られるように，その作風はブルネレスキを平俗化したものといわれている。

みこ 【巫女】 ⇨市子

みこがみてんぜん 【神子上典膳】（？～1628） 江戸初期の剣客。上総(かずさ)（千葉県）の住人で，伊藤(いとう)一刀斎につき一刀流の奥義をきわめた。のち師の命により兄弟子(でし)小野善鬼と勝負してこれをきった話は有名。1593年（文禄2）徳川家康(いえやす)に召されて三百石を得，柳生宗矩*(やぎゅうむねのり)とともに2代将軍秀忠(ひでただ)の剣術の師となり，外祖父の氏を継いで小野次郎右衛門忠明(じろえもんただあき)と改名した。なお，小野派一刀流の祖は忠明の子忠常で，3代将軍家光(いえみつ)に仕えて八百石に加増された。

みこし 【御輿】 神霊が本社より他所に渡御されるときの乗り物。神輿(しんよ)ともいう。種類は多いが，構造的には台・胴・屋根の3部分からなり，屋根には鳳凰(ほうおう)または葱花(そうか)を置き，渡御の際には2本の棒を台に通してかつぐ。起源は明らかでないが，《続日本紀(しょくにほんぎ)》に東大寺大仏建立(こんりゅう)の際，宇佐八幡(はちまん)大神を迎えるのに御輿を使用した記事があるので，奈良時代初期もしくはそれ以前からあったものと思われる。現在のように華美な御輿を中心にした行列が練り歩くのは平安時代以後である。御輿を激しくふるわせてもみあうのを御輿振りと称して，神威の盛んなるようすを示す。　〔田上光治〕

みこひだりけ 【御子左家】 和歌の家筋の一。藤原道長の六男大納言長家が，醍醐(だいご)天皇の皇子左大臣源兼明(かねあき)の旧邸を伝領した以後の家名であるが，平安末期に藤原俊成(としなり)・定家に至って歌道師範家としての地位を確立した。俊成の時代にはまだ六条藤家の勢力が強かったが，伝統的な正調を継承しながら，新たな叙情を打ち出して重きをなし，定家の代にその声



ミケランジェロ　〈巨人〉と称されていた大理石の刻彫による《ダビデ》 1501～1504

望は他家の追随を許さぬものとなった。定家のあとを嫡子為家(ためいえ)が継いだが，のち為家の3人の子，為氏・為教(ためのり)・為相(ためすけ)のそれぞれが二条・京極・冷泉(れいぜい)の3家に分立した。　〔佐藤恒雄〕

ミコヤン ［Anastas Ivanovich Mikoyan］（1895～1978）ソ連の政治家。アルメニア人でチフリス県の労働者の家に生まれ，チフリスの神学校を卒業。1915年入党。1917年からバクーで党活動をし，ソビエト政権の樹立に尽くした。1920年2月アゼルバイジャン共産党第1回大会を組織，1926年モスクワに移って食糧供給部門を担当し，供給人民委員・食料品工業人民委員を歴任して，1937～1946年ソ連人民委員会議副議長。第2次世界大戦中は国家防衛委員として赤軍への食糧などの供給に尽くした。1946～1955年および1957～1958年ソ連閣僚会議副議長，1958年以後同第1副議長。1956年第20回党大会でフルシチョフとともにスターリン批判演説を行ない注目を浴びた。最高会議代議員・党幹部会員（1965年再選）のかたわら中華人民共和国・アメリカ合衆国・キューバ・日本などを訪問した。1966年4月，党幹部会員を辞任。　〔山県弘志〕

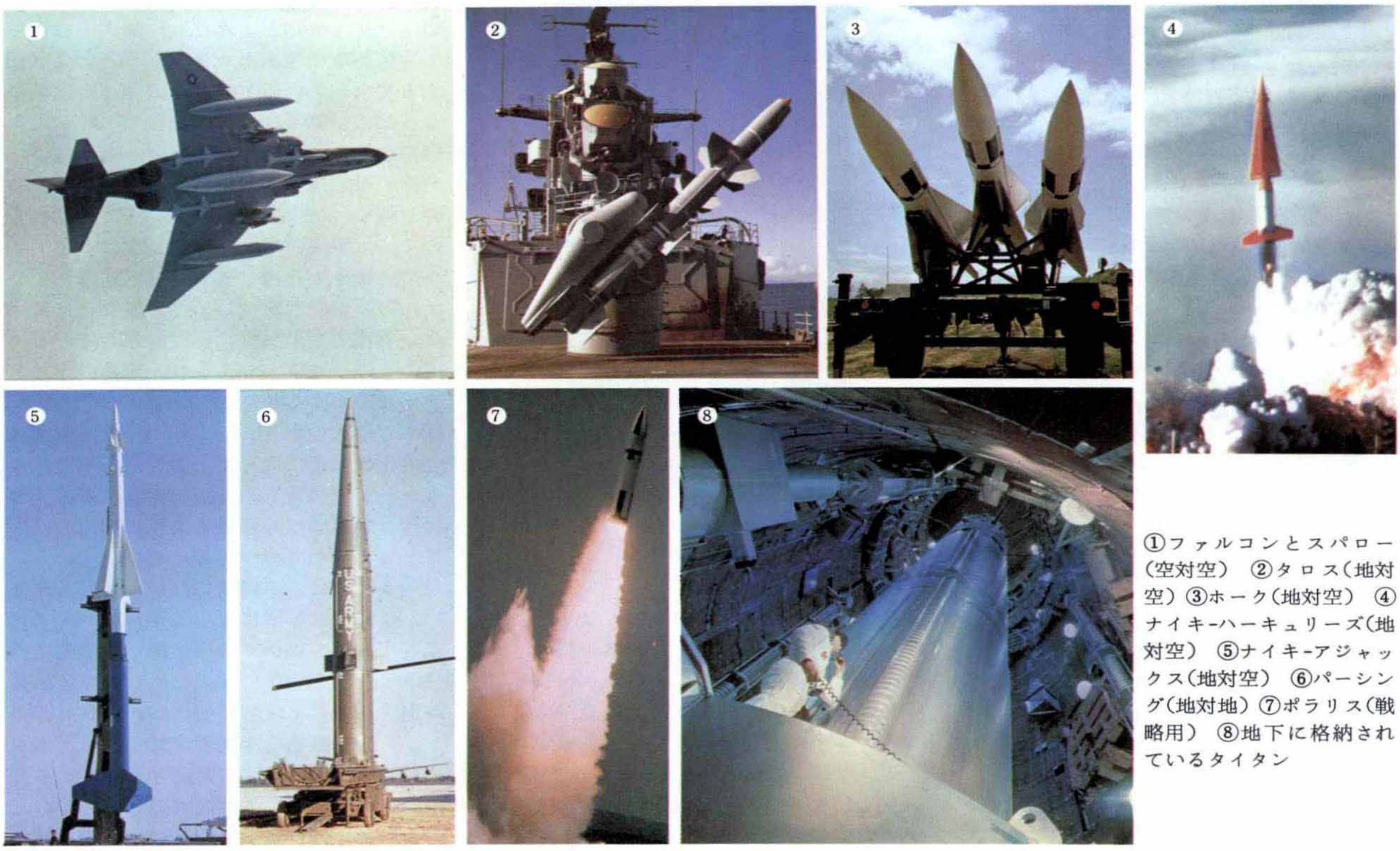
ミサ ［missa］ カトリック教会の祭式。イエス-キリストがみずからの代理人で全権をゆだねた者としての司祭を通して，みずからの肉（パン）と血（ぶどう酒）を神にささげる祭式。信徒にとっては，キリストの十字架の受難の再現としての意味をもち，また救済の恩寵(おんちょう)にあずかる者としての自己の再確認という意義もある。プロテスタント教会でこれに相当するものに聖餐(せいさん)式がある。

ミサイル ［missile］ 元来〈飛翔(ひしょう)体〉を意味する語で，一般には無人の飛行体全般をさす。しかし最近ではロケットをエンジンとする自己管制または自己誘導装置をもった弾道弾・誘導弾などの兵器をさし，戦略的な弾道弾以外の無管制・無誘導のものはロケット弾とよんだり，無人ではあっても観測用や宇宙用ロケットなどとは区別する場合が多い。ミサイルの発達が急激になったのは第2次世界大戦後であるが，大戦中にドイツが開発したジェットエンジン装備の有翼爆弾V-1やロケットエンジンの弾道弾V-2などが実用化された最初のもので，大戦後，アメリカやソ連はそのドイツの実績をもとにしてロケット兵器やミサイルの開発研究をはじめた。最初はまだロケット技術が未熟で，比較的短距離の戦術用のものやジェットエンジン装備の有翼ミサイルがつくられたが，1957年にソ連がICBM*の実験に成功して以来，戦略弾道弾の実用化は急速に進んだ。また誘導ミサイルもレーダー装備や赤外線探知器などの発達に伴う誘導装置の進歩により，従来の火砲にとって代わりつつある。

ミサイルは，上昇時にだけロケットを使い，姿勢制御装置によって正しいコースに乗り，弾道を描いて目標に落下する弾道弾（BM）と，自己のもつレーダーまたは赤外線追跡装置によって目標に向かったり，ほかからの無線指令や誘導電波に従って飛ぶ誘導弾（GM）の2種に大別される。弾道弾の中には長射程の大陸間弾道弾（ICBM）と中距離弾道弾（MRBM），この中間の射程をもつ中間射程弾道弾（IRBM）などがあり，いずれも戦略用ミサイルで核弾頭を装備する。また誘導弾は核弾頭を装備するものとしないものがあるが，発射する側と目標の種類により次のように分けられる。飛行機対飛行機用の空対空ミサイル（AAM），飛行機対地上目標用の空対地ミサイル（ASM），地上または艦艇対飛行機用の地対空ミサイル（SAM）や対戦車ミサイル（ATM），ミサイル迎撃用の対ミサイル-ミサイル（AMM）などがあり，またポラリスのように水中から発射する弾道ミサイルである艦隊弾道弾（FBM）や潜水艦が敵潜水艦を攻撃するための水中対水中ミサイル（UUM）であるサブロック（SUBROC）などがある。また近い将来，人工衛星が弾頭を搭載(とうさい)するか，人工衛星そのものが弾頭となる宇宙ミサイルも実用化されると思われる。➔次ページ（写）　〔藤井冬木〕

みさかさんち 【御坂山地】 山梨県南部，富士山と甲府盆地*との間に，ほぼ東西に連なる山地。地質は御坂層群とよばれる層厚7,000m以上の第三系からなり，侵食がかなり進んで険しく，北側は甲府盆地に接して御洗(みたらし)川・金川・浅川などにより山麓(さんろく)に扇状地をつくる。南側は富士山の噴出物におおわれ，富士山麓との間に富士五湖が並ぶ。山地からの富士山の眺望(ちょうぼう)はすぐれており，訪れるハイカーも多い。富士吉田(ふじよしだ)と甲府を結ぶ国道137号線

ミ サ イ ル



①ファルコンとスパロー（空対空）　②タロス（地対空）③ホーク（地対空）　④ナイキ-ハーキュリーズ（地対空）　⑤ナイキ-アジャックス（地対空）　⑥パーシング（地対地）⑦ポラリス（戦略用）　⑧地下に格納されているタイタン

が，東寄りの新御坂峠を通る。〔高野　繁〕

みさき　**【岬(町)】**　大阪府泉南郡の町。人口23,000。府の南西端にあり，大阪湾に臨む。1955年(昭和30)深日(ふけ)を中心に周辺の１町２村が合併して発足した。深日は古くから知られた景勝の地で，淡路島の洲本(すもと)へフェリーボートが通ずる。和泉(いずみ)がわらの産があり，多奈(たな)川には火力発電所がある。南海電鉄多奈川線が通ずる。

ミサきょく　**【ミサ曲】**　広義にはミサにかかわる歌詞をもつすべての楽曲をさす。狭義には，そうした歌詞をもつ多声の楽曲のことで，必ずしも典礼と結びつくものではない。多声のミサ曲は13世紀中ごろに始まり，ミサ通常文よりも固有文に対する作曲が中心をなした。しかし14世紀には通常文のための作品が多くなり，トゥールネのミサ曲は通常文を通して作曲された最初の作品であるが，ひとりで作曲された作品としてはマショーのミサ曲が最初である。ミサの作曲はルネサンスにはいってその頂点に達し，デュファイらブルゴーニュ楽派の定旋律をテノールのみにもつ定旋律ミサ，各章の冒頭に同じ動機を用いるモットーによる循環ミサなどを経て，オケゲムのやや懐古的でリズムに特徴をもつ作品，さらにジョスカン-デ-プレやオブレヒトの通模倣様式によるミサ曲でその様式は完成された。さらに既存作品をもじって作曲するパロディー-ミサ，さらに定旋律にとらわれない自由な作風によるものと，多彩な展開を遂げた。ルネサンス末のラッソーやパレストリーナらの作品は，それまでのミサ曲の諸様式の総覧である。バロック時代にはいると，ルネサンス様式の擬古典的な曲と同時に，オペラやオラトリオの影響を強く受けた器楽伴奏つきのものもつくられた。J. S.バッハの《ロ短調ミサ曲》は，バロック音楽の精華である。古典派のハイドン・モーツァルト・ベートーベン，さらにロマン派のシューベルト・リストやフランク・ブルックナーと，ミサ曲はかなりの数にのぼるが，最近では作曲家の中心的な興味の対象ではなくなっている。　〔吉田泰輔〕



ミ サ ゴ

みさご　**【鶚】**　鳥類・ワシタカ科。全長60cm前後でトビと同大の魚食性のタカ。１属１種のミサゴ科とされることもある。背面はかっ色，頭・胸・腹部・翼下面は白色で目だつ。世界に広く分布し，わが国では海岸の断崖(だんがい)の森林や木におおわれた島などの樹上に営巣し，海面近くを泳ぐ魚や河川・湖沼の浅いところに産卵に来た魚などを真上から急降下して捕える。つめは鋭く，足の裏面は魚がすべらぬような細かいかたい小突起が一面にある。アメリカのような大湖沼のあるところでは，そこにすむ魚類を主食としており，農薬の濃縮された魚類を食べているので，卵からも農薬が検出され，生息数は近年激減している。〔安部直哉〕

みささ　**【三朝(町)】**　鳥取県の中部，東伯郡の町。人口8,900。1953年(昭和28)天神川上流域の５村が合併して発足。中心地区に，ラジウム含有量日本一といわれ放射能温泉として知られる三朝温泉があり，各種の保養機関が多く，国民保養温泉に指定されている。名勝三徳山の中腹にある三仏寺は天台宗の行場として知られ，奥院の投入堂は国宝に指定されている。他の地区は山村で，林業と和牛の飼育が盛んである。山陰本線上井から国道179号線を通って津山市(岡山県)に至る国鉄バスは，ウラン鉱床で知られる人形峠を通る。



ミシシッピ川　広大な湿地帯と無数の川口とをもってメキシコ湾に注ぐミシシッピの河口付近(ルイジアナ州)。鳥趾状デルタとよばれる

みさと　【三郷(市)】　埼玉県の南東端の市。人口95,000。1972年(昭和47)５月北葛飾(きたかつしか)郡三郷町が単独で市制施行。市域は，東方の江戸川と西を流れる中川の間の沖積(ちゅうせき)低地を占め，南は東京都葛飾区と千葉県松戸市に接する。産業三大別人口比は７：47：46。低地部は〈三郷半領〉とよばれた早場米の産地として江戸時代から有名で，ほかにレンコンもつくり，また自然堤防上の畑では亀戸(かめいど)ダイコン・コカブを産する。第２次世界大戦後は工場の進出がめざましく，これまで鉄道が通じていなかったが，現在国鉄武蔵野(むさしの)東線が通っている。

みさわ　【三沢(市)】　青森県東部の市。人口40,000。昭和初期までは太平洋沿岸の一寒村にすぎなかったが，1941年(昭和16)に海軍航空基地が設置されて以来都市化が進んだ。第２次世界大戦以後はアメリカ軍が駐留して〈基地の町〉として知られる。1958年市制施行。市域は，小川原湖(おがわらこ)の南方，三本木原の洪積(こうせき)台地から太平洋岸の低地にかけて広がる。産業三大別人口比は22：17：61。三本木原台地ではジャガイモを中心とする畑作やウマの放牧が行なわれるが，夏季はオホーツク海から冷たい気流をもたらす〈やませ〉とよばれる偏東風によって，しばしば冷害を受ける。海岸部には漁業集落が点在するが，沿岸漁業はあまりふるわない。小川原湖の南東岸に三沢空港があり，アメリカ駐留軍の基地となるほか，自衛隊の北部航空司令部が設置されている。また，付近の地域を含めた〈むつ小川原開発計画〉が国と県，財界の手で進められており，大規模な工業基地の建設が実現する予定であるが，住民の反対も強い。東北本線・国道45号線が通じ，十和田(とわだ)観光電鉄の起点で，東北本線の三沢駅(もと古間木)は，市の玄関口であるとともに十和田八幡平(はちまんたい)国立公園の観光基地となる。　〔浅井得一〕

ミシガン(州)　[Michigan]　アメリカ合衆国北部，カナダとの国境にある五大湖に面する州。州域は，半島状に北方に突き出して西から北にかけてミシガン湖，北から東にかけてヒューロン湖・エリー湖に面する地域と，ウィスコンシン州の北東方スペリオル湖に面する地域とに広がっている。面積15万km²。人口909万8,000(1974)。州都ランシング。1837年１月に合衆国26番めの州となる。州名はインディアン語で〈大水〉の意。南東端のデトロイトを中心とする地域の自動車生産は世界一を誇り，ほかに製紙・食品加工・金属・化学・木材工業なども盛んである。この州の労働者の週平均収入は，全国で２番めに高い。五大湖のうち，オンタリオ湖を除く四つの湖に接し，州域にも約２万の氷河湖がある。ミシガン湖岸では果樹園芸が盛んで，フルーツパイ用のさくらんぼの生産は全国第１位，リンゴは第３位，ナシは第４位。鉄鉱石の産出はミネソタ州に次いで全国第２位，石膏(せっこう)の生産高は第１位である。17世紀初め，フランス人によって植民され，七年戦争ではイギリスに割譲されたが，独立戦争でアメリカ合衆国領となった。主要都市，デトロイト・フリント・グランドラピッズ。　〔椙村大彬〕

ミシガン(湖)　[Michigan]　アメリカ合衆国北部，五大湖の一。面積58,020km²。氷河湖で，五大湖中第３の大きさをもち，この湖だけが合衆国とカナダとの国境線に関係ない。湖面標高177m，最大水深281m。北部の狭いマキナク水道によって東のヒューロン湖に通じている。南岸からはイリノイ川が流出しミシシッピ川に連絡する。湖の北部は，冬季結氷する。湖岸の低地は農業地帯をなし，特に酪農が盛ん。湖上は船舶の往来が激しく，沿岸にシカゴ・ミルウォーキー・ゲーリなどの港市があり，湖岸には保養地も多い。　〔長津一郎〕

ミシシッピ(州)　[Mississippi]　アメリカ合衆国南東部の州。面積12万4,000km²。人口232万4,000(1974)。州都ジャクソン。1817年12月に州となったが，1861年に南部連盟に加盟，1870年に連邦政府に再加入を認められ，合衆国20番めの州となる。州名はインディアン語でミシシッピ川をさす〈大川〉の意。地形は，北東部の丘陵地から西端部のミシシッピ川沖積地(ちゅうせきち)へ，また北部から南部のメキシコ湾岸に向かって，それぞれ傾斜している。綿花は州第１の農産物で，生産量はカリフォルニア州に次いで第２位であるが，近年北部の綿花地帯では，綿花を中心とした多角的経営に移行しつつある。また森林が多く木材・パルプの生産も盛んである。石油・天然ガスの生産高は州の全鉱業生産の85％を占め，工業では食品・化学工業が主要である。黒人の多い州で，禁酒法を維持し続け，1966年５月に合衆国で最後に同法を廃止した州である。　〔椙村大彬〕

ミシシッピ(川)　[Mississippi]　アメリカ合衆国中央部を北部から南部にかけて貫流する大河。長さ3,780km。流域面積324万8,000km²。最長の支流ミズーリ川の源流部まで含めると全長6,210kmで，世界の第３位。本流はミネソタ州北西部に源を発し，一般に南東方向に流路をとりながら，河口部に巨大な鳥趾(ちょうし)状のデルタを形成してメキシコ湾に注ぐ。途中10の州境をなし，約250の支流をもつ。主要な支流にはミズーリ川のほかに，アーカンザス(アーカンソー)川・オハイオ川・イリノイ川・レッド川などがあり，本流に沿う主要都市には，ミネアポリス・セントポール・ラクロス・ダベンポート・セントルイス・メンフィス・バトンルージュ・ニューオリンズなどがある。ヨーロッパ人がはじめてミシシッピ川を発見したのは，1500年代初めメキシコ湾を探検したスペイン人水夫と考えられるが，1541年にスペイン人のフェルナンド-デソトが下流部を探検したのが記録にある最初である。その後1673年フランス人のマーケットとジョリエが探検，1682年にはラサールが河谷全域を探検してフランス領を宣言した。1783年には合衆国の西部国境となり，1803年にルイジアナを買収の結果，全流域が合衆国領となった。古来，ミシシッピ川は交通の大動脈として役だってきた。先住民はもちろん，探検家・貿易商人・狩猟者や西部への開拓者にとって重要な水路であった。特に19世紀初頭の蒸気船の出現以来，合衆国での最も重要な幹線路の一つとなり，鉄道が内陸部へはいるまで，その地位は続いた。現在では輸送路としての重要性は少なくなったが，ミネアポリスまでは汽船の遡航(そこう)が可能である。また水資源としても重要で，水力発電・工業用水・灌漑(かんがい)用水として大規模に利用されている。　〔大石堪山〕

みしま　【三島(市)】　静岡県東部の市。人口94,000。古くは伊豆(いず)の国府・国分寺が置かれ，地名も伊豆国府とよばれた。南伊豆の白浜から三島大社が移ってからはその門前町として栄え，三島の名がおこり，江戸時代には，箱根峠を控えて東海道の重要な宿場町となった。明治以後は東海道本

線からはずれたために一時さびれたが，1934年(昭和９)の丹那(たんな)トンネルの開通によって交通の要地として復活した。1941年市制施行。市域は，伊豆半島の北部，箱根山の西麓(せいろく)から狩野(かの)川下流流域の田方平野へかけて広がり，中心市街は富士山から流出した三島溶岩流南端の湧水地(ゆうすいち)周辺部に位置する。産業三大別人口比は７：38：55。富士山の伏流水を利用して，近代工業が発達し，化学繊維・電気機器・ゴム化学・乳製品などの大工場が集まり，東駿河(ひがしするが)湾工業地帯の一中心となる。東海道本線・同新幹線に沿い，伊豆箱根鉄道が分岐する。道路交通では国道１号線・136号線・同三島バイパスが通じ，愛鷹(あしたか)山麓の東名高速道路沼津インターチェンジも近距離にあり，バス路線が発達して，伊豆観光の中央玄関口となる。三島大社・同博物館・市立公園楽寿園・国立遺伝学研究所・佐野美術館があり，周辺部には伊豆長岡温泉・韮山(にらやま)温泉や韮山反射炉などの観光地に富む。民謡《農兵節(のうえぶし)》の発祥地として知られる。特産はわさびづけ。〔浅井得一〕

みしまおこぜ【三島䲁】硬骨魚類・ミシマオコゼ科。全長30cmほどの海産魚。関西ではムシマともいう。体はやや紡錘形で，頭は大きく，その上部は扁平(へんぺい)である。第１背びれ４棘(きょく)，第２背びれ14軟条，臀(しり)びれ13軟条。体は青みをおびた淡灰色で，赤かっ色の網状斑紋(はんもん)がある。日本中部以南の各地および朝鮮南部に分布する。食用になるが美味ではない。

みしまさいこ【三島柴胡】双子葉植物・セリ科。山地の陽乾地に自生する多年草。高さ40～70cm。葉はかたく，広線形の単葉で平行脈があり，ホタルサイコに似るが葉の基部が茎を抱かない。花は黄色で，８～10月，数十個集まって咲く。乾燥させた根は局方薬の柴胡で，解熱・鎮痛・強壮薬として用いられる。

みしまたいしゃ【三島大社】静岡県三島市大宮町にある。祭神は大山祇神(おおやまづみのかみ)と事代主神(ことしろぬしのかみ)。社伝によると，仁徳(にんとく)天皇のころ賀茂(かも)郡下田町にある伊古奈比咩命(いこなひめのみこと)神社の社域から現在地に移されたという。鎌倉幕府は鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)・伊豆山神社とともに当社を深く崇敬し，以来，関東武士のあつい信仰を受けた。社宝に《三島本日本書紀》，宗忠作の太刀(たち)などがある。例祭は８月16日。〔佐野文哉〕

みしまみちつね【三島通庸】(1835～1888) 政治家。薩摩(さつま)藩の出身。1862年(文久２)寺田屋騒動*に連座。討幕運動に参加し，明治維新後1871年(明治４)東京府権参事，1874年酒田県令となり，わっぱ騒動*を弾圧した。1882年福島県令，翌年栃木県令を兼任した。この時代，会津地方三方道路開設工事を強行し，民権運動の指導者



ミシマサイコ



三島由紀夫

河野(こうの)広中*を議長とする福島県会と対立，いわゆる福島事件*を起こした。1884年加波山事件*を誘発。1885年警視総監，1887年保安条例*の公布とともに，反政府派・自由党員ら570人を東京から追放，3,000人を検挙した。〔安達利夫〕

みしまゆきお【三島由紀夫】(1925～1970) 小説家・劇作家。本名平岡公威(きみたけ)。東京の生まれ。東京大学法科卒。学習院中等科在学中《花ざかりの森》を発表。美意識において日本浪曼(ろうまん)派*の影響を受けた。第２次世界大戦後，耽美(たんび)的な短編で早熟な才能が注目され，長編《仮面の告白》《愛の渇(かわ)き》によって一躍流行作家となった。特に前者には戦中世代が戦後に直面しての喪失の意識が色濃い。1951年(昭和26)より翌年にかけての外遊で訪れたギリシアの廃墟(はいきょ)に深い感動を覚え，ギリシア的人間像への憧憬(どうけい)が《潮騒(しおさい)》に結実し，古典美の近代化を志向する時代が始まった。一方，自然主義的伝統との方法論的対決の深化は《金閣寺》として結実。その後《鏡子の家》《宴(うたげ)のあと》《憂国》《豊饒(ほうじょう)の海》などの野心作を発表。劇作家としても早くから活躍し，《鹿鳴館(ろくめいかん)》《近代能楽集》《喜びの琴》などの劇作がある。早くから独自の天皇論・武士道精神を論じ，のちには私兵組織〈楯(たて)の会〉を結成・主宰し，1970年11月〈楯の会〉会員とともに東京市ケ谷(いちがや)の自衛隊東部方面総監部に乱入，割腹自殺した。〔小泉浩一郎〕

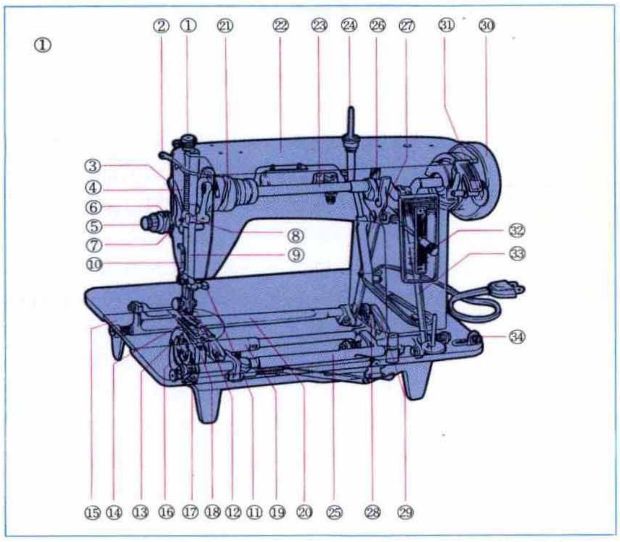
みじゅくじ【未熟児】妊娠満期(38～42週，平均40週)にならないで出産した新生児*。しかし胎児の発育には個人差があって，37週以下で生まれても，身体は十分成熟している場合もまれにある。また以前は2,500g以下の出生体重の新生児をすべて未熟児としていたこともあるが，最近は在胎期間37週以下で体重2,500g以下の者という見解をとるようになった。一方，出生体重2,500g以下の者は妊娠期間の長短に関せず低体重児という。低体重児の大部分は未熟児であり，その反対に未熟児の大部分は低体重児である。

未熟児の特徴は身体の発育が悪く，体重2,500g以下，身長45cm以下のことが多い。皮下脂肪，呼吸機能，体温調節機能が未発達であるため，いわゆる生活力が薄弱で，出生後まもなくの間の死亡率が非常に高い。特に出生体重が1,800g未満の者は死亡率が高い。また新生児期を無事過ごしても，その後も発育不良・食欲不振・精神薄弱などや，免疫の低下，貧血やビタミン欠乏症などを合併することも多く，虚弱児になりやすい。出生体重の特に少ない者，生活力薄弱の者は電気保育器に入れて育てる。〔宇留野勝正〕

ミシュレ［Jules Michelet］(1798～1874) フランスの歴史家。パリの印刷屋の子として生まれ貧困の中で勉学。1838年，コレージュ-ド-フランスの教授。ナポレオン３世に反対したためにのちに教壇を追われた。彼はビコの歴史哲学の影響を受け，過去に同感するいきいきとした想像力を備えかつ祖国愛に燃え，フランス革命の理想を熱烈に賛美し，フランス民衆に深い愛情を抱いていた。著書に《フランス史》《フランス革命史》《近代史年表》《世界史入門》などがある。〔兼岩正夫〕

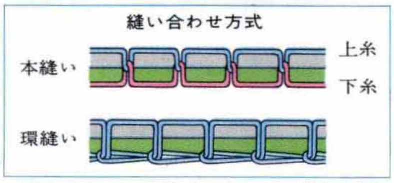
ミショー［Henri Michaux］(1899～) フランスの詩人・画家。ベルギーの生まれ。青年時代より世界各地を旅行，詩集や旅行記を発表したが，1940年代になってジイド*の推賞で広く知られた。生の重圧にうめく人間の不安や幻影を，鋭い風刺と幻想で表現。画家としてもアンフォルメルの先駆として名をあげた。《試練・悪魔祓(はらい)》などの詩集がある。

ミシン 正しくはソーイングマシンといい，布や皮・紙などを糸などで機械的に縫い合わせたり，飾り縫いをしたりする機械。はじめはなめし皮を縫う道具として考案され，1790年イギリスの指物師(さしものし)トーマス-セイントが今日のミシンの原型となる機械を発明したが，非常に粗末なもので実用には至らなかった。1825年フランスの裁縫師バーセレミ-シモニーが一本糸でかぎ針による環(わ)縫いミシンを発明し，1834年アメリカ合衆国のウォルター-ハントが，上糸と下糸の二本糸からなる今日の本縫いミシンの基礎をつくった。ハントの考案した原理はのちにいろいろな人によって改良され，1844年にエリアス-ハウが手回し式本縫いミシンをつくった。やがて1851年I. M. シンガー*が留め縫い式のミシンを考案し，今日のミシンの基礎がつくられた。









ミシン ①頭部の構造(家庭用直線本縫い)
②オートマチックジグザグミシン
③ミシンししゅう(刺し縫い・粒縫い・砂縫い・カットワークによる)
伊藤敏子作品

①押え圧力調節装置 ②天びん ③押え上げ ④押えばね ⑤糸調子ナット ⑥糸調子さら ⑦糸取りばね ⑧糸棒抱き ⑨針棒 ⑩糸掛け ⑪針止めねじ ⑫針 ⑬押え金 ⑭送り歯 ⑮すべり板 ⑯ボビンケース ⑰中がま ⑱大がま ⑲下軸 ⑳水平送り軸 ㉑天びんカム ㉒アーム ㉓上軸 ㉔糸立て棒 ㉕上下送り軸 ㉖送りカム ㉗二またロッド ㉘小振り子 ㉙大振り子 ㉚はずみ車 ㉛糸巻き装置 ㉜送り調節器レバー ㉝クランクロッド ㉞糸案内台

その後1世紀を経て，現在一般家庭用ミシンのほか特殊ミシンを含め，約3,000機種以上がつくられている。わが国へは江戸末期にはじめて渡来したといわれるが，一般には1860年(万延1)中浜万次郎*がアメリカから持ち帰ったのが最初とされる。その後明治・大正時代には多種多様のミシンが輸入され，1900年(明治33)ごろシンガーミシンが進出して普及した。

【種類・形式】用途からは，一般に家庭用・職業用・工業用の三つに大別される。家庭用には，駆動方式によって次の3種類がある。①手回し式：はずみ車についたハンドルを右手で回しながら縫製するので，布の操作は左手のみにたよるという欠点があり，現在ではほとんどみられない。②足踏み式：踏み板でベルト車を回し，はずみ車を動かす方式で，毎分300～500回転程度の速度で縫製できる。従来の家庭用ミシンはほとんどこの形式であったが，現在では電動式に変わりつつある。③電動式：小形モーターをミシン頭部に取りつけて駆動する方式で，最高毎分約1,200回転の速度を得ることができ，回転数の変速はペダル式のコントローラーによるものが多い。最近では家庭用ミシンの中心を占める。

また縫い目の構成方法からは，次の3種に分けられる。①直線本縫いミシン：最も多く使われ，上糸と下糸の2本の糸で鎖縫いする形式である。②ジグザグミシン：縫い目の構成方式は直線本縫いと同じであるが，針落ちが左右に振れるので，千鳥縫いや穴かがり，ししゅうもできる。これにはジグザグ幅の変換装置だけをもち，模様などはすべて手動で行なうセミジグザグ式から，レバー操作の組み合わせや変換カムの内蔵によって，自動的に多種類の模様縫いができるフルオートマチックジグザグ式まで，各種のものがある。最近は，電動式ミシンに併用して家庭用ミシンの中心を占め，今後ますます需要が増加すると思われる。③環縫いミシン：1本糸で縫う方式と上下2本の糸で縫う方式とがあるが，いずれも裏が鎖状の縫い目になる。従来ほとんど工業用であったが，近年小形の家庭用が市販されている。

さらに糸送りをするてんびんの形式によって，アームの右端に左向きにつくカム式，手前向きにつくリンク式，内蔵されている回転式の3種があるが，現在ではリンク式が多い。回転式は運動にむらがなく，高速回転に耐えるので，ほとんどが工業用である。一般に家庭用ミシンは，1台で多様な縫い方を要求されるので，各種の付属器具が考案され，ファスナー押えつけ金・定規・三つ巻き器・タッカー・バインダー・ラフラー(ひだ取り器)のほか，穴かがり・ピコ縫い装置などが取りつけられている。

職業用ミシンは，家庭用ミシンを堅牢(けんろう)化・大形化したもので，毎分1,500～1,800回転程度に高速化し，家庭用より能率的につくられている。おもに洋服仕立て業者に用いられる。工業用ミシンは，高速度運転と長時間の連続運転に耐えるように設計され，縫製工場で被服の大量生産に用いられる。このため職業用ミシンより堅牢度を増し，さらに高速化するために，すべて電動式で，回転数は毎分3,500～6,000回転までのものがあり，それぞれ低速度・高速度・超高速度ミシンとよばれる。また家庭用と異なり，1台で単機能を果たすので，作業目的に合わせた多種多様の機種がある。〔小室正雄〕

【ミシンししゅう】ミシンを使って行なうししゅう。1950年(昭和25)ごろに国産のジグザグミシンがつくられて，広範囲に普及した。上糸にししゅう用の色糸をかけ，下糸に細い白糸を使うのが特徴である。送り金の代わりに手で軽く調子をとりながら，下絵通りに縫うと，上糸・下糸が，布地の厚みの中で交差し，色糸が表面に出て，手縫いと変わらない模様を効果的にすみやかに縫い表わすことができる。基礎縫いには，線縫い・点線縫い・砂縫い・スカラップ縫い・刺し縫い・コードししゅうなどがあり，ほかにドロンワーク*・カットワークなどのレース模様もできる。ほつれにくく，洗たく・摩擦に強いので，洋服のネーム，ハンカチーフ・ブラウス・和服・敷き物にも用いられる。〔山村あい子〕

みじんこ【微塵子】 甲殻(こうかく)類・枝角目・ミジンコ科。体長1.2～2.5mmほどで，雄は小形。甲殻は広卵形。頭部は丸く，複眼は大きい。世界各地に広く分布し，池沼に生息する。しかし，ミジンコといった場合，一般には枝角目の総称として用いられる。体は1～3mmくらいの小形で，全体に円または楕円(だえん)形をした左右2枚の甲殻で包まれ，腹面で開く。脚は4～6対あり，遊泳に適しており，葉脚とよばれる。複眼は左右が癒合(ゆごう)して一つになる。この類の特徴は第2触角が大きく，途中で二つに分枝していることである。増殖は多くは単為生殖により，特に夏の間は雌だけで産卵する。卵は雌の背甲内にある育房中で発生し，幼生となって泳ぎだす。秋には雄が生じ，有性生殖を行なう。受精卵はキチン質の掩卵殻(えんらんかく)で保護され，水底に沈んで越冬する。一部は海水中から見いだされるが多くは淡水産で，淡水域での魚類の餌料(じりょう)として重要とされており，乾燥粉末はキンギョの餌料としても市販されている。〔向井 宏〕

みず 双子葉植物・イラクサ科。湿地に自生する一年草。高さ20～40cmで，枝を多く出し，淡緑色で柔らかい。葉は互生し，長さ2～5.5cmの菱状(ひしじょう)卵形で縁に鈍

い鋸歯(きょし)がある。雌雄同株で，9～10月に葉腋(ようえき)に集散花序をなして無柄の花がつく。雄花に2花被片，雌花に3花被片がある。アオミズは本種によく似るが葉の先がとがり，ヤマミズは雌花の花被片が5枚である。なお，山菜でミズといわれるものは同科別属のウワバミソウ*のことである。

みず【水】 常温で無色の液体。地上に最も多量に分布する物質の一つで，天然には海水・地下水・雨水・鉱泉・水蒸気・氷などとして存在する。古くは宇宙構成元素の一つと考えられたが，1781年キャベンディッシュ*が水素の燃焼によって水が生じることを発見し，次いでラボアジエ*が水素と酸素の化合物であることを明らかにした。水分子の構造は酸素原子を頂点とする二等辺三角形で，O－H結合の長さは0.96Å，また酸素原子のまわりの二つのO－H結合のなす角は104.5°である。結合に関係する電子の密度分布は電気陰性度の大きい酸素原子の側に偏在するため，分子は1.84D(D:デバイ単位＝10^{-18} cgs, esu)の双曲子モーメントをもつ。水蒸気は近紫外や可視光領域では透明，赤外線領域では伸縮振動や変角振動による強い吸収を示し，遠赤外領域では分子の回転による吸収がある。水は代表的な液体として種々の物理量の単位の基準物質とされるが，その物理化学的性質はきわめて複雑である。その主原因はO－H結合がおびる極性によって分子間に強い水素結合が生じ，その結果ファンデルワールス力以外に強い分子間引力が作用することにある。つまり液体では個々の分子が独立に運動するのではなく，相当数の分子が水素結合で連結されたかたまりとして挙動すると考えられる。また氷ではX線や中性子線回折などの結果，直線状の水素結合が三次元に発達して六方晶系の格子(こうし)を形成していると考えられている。融点0℃，沸点100℃，密度1.08/cm³(3.98℃)，屈折率n_D^{20}＝1.333。塩類が水によくとけ，電離しやすいのは，水の誘電率(20℃で80.36)が高いためイオンのクーロン引力が弱められ，かつ水分子がイオンの回りに配位するためである。水自身もわずかに電離し，純水(25℃)のイオン濃度はほぼ10^{-7}モル／lである。酸性ないし塩基性水溶液でも両イオン濃度の積(イオン積)は一定値10^{-14}(モル/l)^{2}を保つ。なおH^+イオンは水分子と結合してヒドロニウムイオンとして存在する。水は室温でアルカリ金属やアルカリ土類金属と作用して水素を発生し，カルシウムカーバイドと反応してアセチレンを発生する。また金属や非金属の酸化物と作用して塩基や酸を生じ，弱酸・弱塩基の塩やエステル類を加水分解する。なお，天然の水素は平均0.0156％の重水素D(H^2)を含むため，普通の水には約0.03％のHDOと約2×10^{-6}％のD_2Oが含まれる。〔前田史朗〕



ミズオオバコ

みずあぶ【水虻】 こん虫類・双翅(そうし)目・ミズアブ科。体長14～16mm，体は黒色。複眼は大きく，雄では微毛がはえる。複眼間には1対の黄色の斑紋(はんもん)がある。胸部背面は，雌では前半中央部に不明瞭(ふめいりょう)な灰色の2縦帯があり，雄ではこれを欠き黄かっ色毛でおおわれる。翅(はね)は煤色(すすいろ)で，末端だけ淡色。腹部の両側部に橙黄(とうおう)色の小紋がある。本州・四国・九州のほか，中国に分布し，成虫は7～8月に出現して，各地に普通に見られる。幼虫は，水田や比較的水温の高い淡水中に生活しており，ときには温泉中に見いだされることもある。

ミズアブ科は，全世界から1,200種以上が知られ，日本にも約30種が分布する。いずれも体は幾分扁平(へんぺい)で，腹部の基部は多少くびれる。鈍い金属光沢のある種類が多い。幼虫は，水生のものと陸生のものとがあり，前者では腹部末端が伸長して呼吸管となっているものが多く，後者は朽ち木中や植物質の腐敗物などに生活している。コウカアブやアメリカミズアブのように便所やごみための付近に多く，衛生害虫と見なされる種類も少数ある。〔鈴木邦雄〕

みずあめ【水飴】 ⇨飴

みすい【未遂】 犯罪の実行に着手したが，犯罪の完成に至らないこと。実行の着手以前の行為を予備といい，実行した結果犯罪が完成した場合を既遂という。刑法は，既遂を罰することを原則とし，未遂は刑罰法の条文に未遂処罰の規定がある場合のみ罰する(刑法44条)。原因により中止未遂と障害未遂に分かれる。前者は自己の意思により犯罪の実行を中止した場合で，中止犯とよばれる。後者はなんらかの支障によって犯罪を完成するに至らない場合で，狭義の未遂とよばれる。狭義の未遂はさらに着手未遂と実行未遂に分かれる。前者は行為者がある犯罪の実行に着手したが，自己の意思以外の事情に妨げられ，予定した行為の全部を終わらない場合をいい，後者は予定した行為は全部終わったが，所期の結果をあげることができなかった場合をいう。なお，未遂罪は，その刑を減軽することができ，中止犯の場合は必ず減軽されるか免除される(刑法43条)。〔井上公耳〕

みずいろおながしじみ【水色尾長小灰蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ38mm内外。翅は黒色で後翅には外縁近くに4個の白色紋があり，その外側に細い白線が走る。裏面は白色で，前後翅とも中央部の黒帯が目だつが，黒帯は変化が多い。後翅には名の示すように長い尾状突起があり，先端は白い。発生は年1回で，平地では6月上旬から，山地では7～8月に出現する。昼間は食樹の葉上に静止し，夕暮れにウラナミアカシジミ・アカシジミなどとともに活発に樹上を飛翔(ひしょう)する。卵は扁平(へんぺい)な饅頭(まんじゅう)形で，ブナ科植物の小枝に産卵され，そのまま越冬する。幼虫は緑色。日本全土に分布するが，四国・九州には少ない。国外では中国・台湾・朝鮮・モンゴル・シベリアなどから知られている。➔シジミチョウ〔多々内修〕

みずうお【水魚】 硬骨魚類・ミズウオ科。体は延長して側扁(そくへん)し，うろこを欠く。背びれは著しく大きく41～44軟条，臀(しり)びれ14軟条。口裂は大きく，鋭い歯がある。肉は柔らかく，深海性で，体長60cmほどになる。太平洋・大西洋に分布する。日本では駿河(するが)湾でときどきとられ，またこの地方の海岸にも打ち上げられることがある。食品価値はない。

みずおおばこ【水大葉子】 単子葉植物・トチカガミ科。本州以西の池やみぞの水中に自生する一年草。葉は長柄で多数叢生(そうせい)し，長さ8～20cm，幅2～10cmの卵形ないし楕円(だえん)形で先は丸く，縁は波状，紫かつ緑色を呈する。夏から秋に葉間から水面まで長い花茎を伸ばし，花を1個頂生する。花は径3cmほどの白色花でやや紅色をおび，花弁は3枚で円形。花の下部に長い筒形の包鞘(ほうしょう)があり，縁にちぢれた翼がある。果実は長楕円形で，がくと包鞘が宿存する。熟すと縦に裂けて，多数の種子を水中に散布する。

みずかがみ【水鏡】 平安後期から鎌倉前期へかけての歴史物語。中山忠親(ただちか)の著とする説もあるが不詳。1170～1195年(嘉応2～建久6)の成立。ある修行者が仙人(せんにん)から聞いた話を，長谷寺(はせでら)に参詣(さんけい)した老尼に語り聞かせるという形式をとり，神武天皇から仁明(にんみょう)天皇の850年(嘉祥3)までの歴史を記し，《大鏡*》の前史を補ったものであるが，同時代の漢文体史書《扶桑略記》を和文体に抄訳したにすぎず，文学的価値は〈四鏡*〉の中で最も劣る。〔信太　周〕

みずかび【水黴】 藻菌(そうきん)類・ミズカビ科をいうが，水生の藻菌類を一般にさす場合もある。ミズカビ科は水中のこん虫の死体・植物片上などにはえるかびである。菌糸は比較的太く，よく枝分かれし，隔膜を欠く。円柱状・棍棒(こんぼう)状の遊走子嚢(ゆうそうしのう)をつくり，遊走子は2本のべん

毛をもつ。有性生殖は造精器から生卵器内に受精管をおろして受精する方法による。

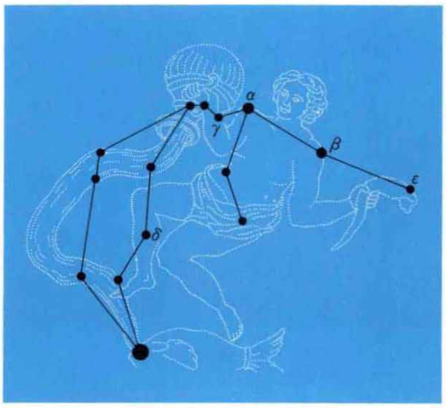
みずかまきり　【水蟷螂虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・タイコウチ科。体長40～45mm。体は棒状で細長く，灰かっ色ないし黄かっ色。頭部は小さく，複眼は黒色で光沢が強い。前胸背は細長く，前半部は円筒状，後半部は幅広い。小楯(しょうじゅん)板はほぼ菱形(ひしがた)。半翅鞘(はんししょう)は細長く，腹端には達しない。前脚はカマキリ類に似てかま状の捕獲脚となっており，基節が著しく長く，腿節(たいせつ)のほぼ中央内側に強大な棘状(きょくじょう)の突起がある。腹部の末端には体長とほぼ等長の細長い呼吸管がある。日本全国のほか，朝鮮・中国・東シベリア・台湾・ビルマなどに広く分布し，各地の池沼に普通で，他の水中の稚魚やこん虫類の幼虫などを捕食する。水草の間などに多く，晴天の日によく飛行する。本種に似て小形(体長24～32mm)のヒメミズカマキリが，日本全国のほか，朝鮮・中国北部・東シベリアに産する。　〔鈴木邦雄〕

みずがめざ　【水瓶座】　やぎ座とペガスス座の間にはいりこんでいる黄道上の星座。秋の南天にかかる。広い星座であるが明るい星に乏しく，いちばん明るいα星・β星もともに3等にすぎない。望遠鏡の対象として球状星団M-α，惑星状星雲NGC7009などがある。➔星座

みずガラス　【水硝子】　ケイ酸ナトリウム$Na_2O \cdot nSiO_2$の濃水溶液。粘度の大きい透明な液体で，空気中でかわかすとガラス状となる。nは1～4ぐらいで，数の少ないほうから1号，2号，3号などといい，それぞれ用途が異なる。ケイ砂と炭酸ナトリウムとを混合して融解し，ガラス状のカレットをつくり，これを加圧加熱して水にとかすか，可溶性のケイ酸原料をオートクレーブで加圧加熱処理してつくる。シリカゲルの製造原料，接着剤・せっけんの製造，土壌(どじょう)安定剤などに多く使われる。　〔鈴木　篁〕

みずき　【水木】　双子葉植物・ミズキ科。クルマミズキともいう。山林に自生する落葉高木で，庭木として栽植もされる。高さ15～20mになり，枝は輪状に分枝し，横に広がる。一年枝は濃紅かっ色，その後は緑灰色で，冬には紅色をおびて美しい。葉は長い柄で互生し，長さ7～12cmの広卵形で全縁，先はとがる。表面は緑色，下面は白色をおびて細かい毛が密生し，6～8対の側脈が著しく突出する。5～6月に小枝上に径6～12cmの散形花序をつけ，白色小花を開く。枝一面に花をつけるので，遠くから見ると全体が白く見えるほどである。花弁は4枚で4～5mmの長楕円(ちょうだえん)形。果実は径6～7mmの球形の核果で，8～10月に藍黒(らんこく)色に熟す。　〔横井朝子〕

みずき　【水城】　福岡県筑紫(つくし)郡太宰府(だざいふ)町から大野町にかけて築かれた



みずがめ座



ミズキ



ミズキンバイ



ミズクラゲ

大宰府*防衛のための古代の城。663年(天智2)朝鮮半島出兵軍が白村江(はくすきのえ)の戦い*で唐・新羅(しらぎ)軍に惨敗したため，翌年外敵の来襲に備えて，左右の山で最もせばまっている地点に高さ14mの土塁を約1kmにわたって築き，太宰府盆地をふさいだ。現地を流れる御笠(みかさ)川をせき止めて水をたくわえた貯水池と土塁からなる。

みずぎ　【水着】　⇨海水着

みずきりゅう　【水木流】　日本舞踊の流派の一。元禄(げんろく)期(1688～1703)の歌舞伎(かぶき)俳優初世水木辰之助(たつのすけ)を流祖とし，門弟の粂(くめ)が水木歌仙(かせん)と名のって一流を創始した。元禄期以後，江戸城の大奥や大名家に招かれて歌舞・音曲を演じ，また女中などに指南した御狂言師・女師匠の系流で，代々女性が継いだ。昭和初年，家元3世歌仙が関西に移ったため，東京水木会・水木流舞踊協会などの3派に分かれた。　〔高橋秀雄〕

みずきんばい　【水金梅・水龍】　双子葉植物・アカバナ科。沼や池に自生する多年草。全草柔らかく，どろの中に根茎が長く伸びる。茎は直立して長さ30～50cm。葉は長さ4～7cm，幅1～2.5cmの広卵円形で，長さ1cmの柄で互生する。7～9月，葉腋(ようえき)に直径2～2.5cmの黄色4～5弁花を1個ずつつける。がく片4～5枚，おしべ8～10本。

みずぐも　【水蜘蛛】　蛛形(ちゅけい)類・ミズグモ科。体長8～15mm。背はかっ色ないし赤かっ色で，毛がはえる。腹部は灰かっ色で短毛におおわれ，斑紋(はんもん)はない。淡水中にすみ，藻(も)の間に糸で鐘形の巣をつくり，水面から腹に空気を玉状につけて運び，巣を空気で満たす。ヨーロッパには普通であるが，日本では，京都と北海道から採集記録があるのみである。

みずくらげ　【水水母】　腔腸(こうちょう)動物・鉢(はち)クラゲ綱・ミズクラゲ科。沿海では最も普通にみられるクラゲで，傘(かさ)は円盤状で扁平(へんぺい)，大きいものは直径30cmをこえる。無色半透明であるが，馬蹄(ばてい)形をしたかっ色ないし紫かっ色の4個の生殖器が傘内にみられる。この生殖器の形態からヨツメクラゲともいわれる。傘の外縁には短い多数の触手がある。傘縁は8等分され，おのおのの境の部分に1個ずつ平衡器をもっている。口腕は4本あり，内側に溝(みぞ)があり，溝が合わさったところに口がある。しばしば大群をなして出現し，河口域などでみられることも多い。刺胞の毒は強くなく，人間には無害であるが，その強さは季節的に多少変化するようである。発電所や工場などで，海水を冷却用に使っている場合は，取水口などにこの種が多数はいって，機械の運転に支障をきたすことが多い。　〔向井　宏〕

みずげい　【水芸】　本水を使って行なう手品。伴奏につれて扇子・刀・着物などから水を吹き上げる芸で，水を通した細い管を演者に通じておき，水の係りと演者との呼吸によって指定する場所から水を吹き上げる仕掛けになっている。泉鏡花の《義血侠血(きょうけつ)》(《滝の白糸》)の水芸はよく知られている。また，奇術師松旭斎(しょうきょくさい)天勝*の水芸も有名である。

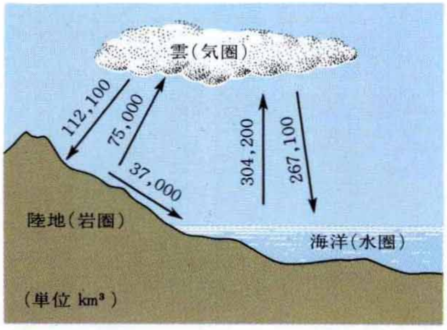
みずごけ　【水蘚】　蘚(せん)類・ミズゴケ科。寒冷地に広く分布し，湿地・腐植土上

に群生する。高さ20cmに達し，雌雄異株。頂端に黒色球形の胞子嚢(ほうしのう)を数個つける。コケ植物中最も利用されているもので，その高い保水性を利用して，輸送時の苗の保護やはち植え栽培に用いる。また乾燥したものは詰め物とする。湿原に堆積(たいせき)した遺体は泥炭(でいたん)となって燃料とされ，また圧搾してテックスとする。

みずさいばい　【水栽培】　水を培地として作物を栽培する栽培法。水耕法ともいう。元来は試験研究の目的で始められ，幼植物を用いて短期間だけの試験が行なわれた。その後植物の生育に無機栄養素の必要であることが明らかとされ，1938年にアメリカ合衆国のホーグランドが培養液組成を明らかにして以来，これが一つの標準とされた。水耕の培地は水自体で，植物体をささえるためには便宜上浅底のざるに小石を入れ，根は水中に浮かせ，必要に応じて水中に気泡(きほう)を送って酸素を供給する。この場合は，培養液の組成，作物の栄養生理，欠乏症の検定など，主として実験研究に用いられる。実用的には大規模に植物体をささえることが困難であり，ほとんど利用されていない。水耕栽培における培養液中には植物の生育に不可欠の要素が必要である。多量に必要なものは，窒素・リン酸・硫酸・カリ・石灰・苦土，水稲にはケイ酸も必要である。微量要素は，鉄・マンガン・ホウ酸・銅・亜鉛・モリブデンなどである。培養液には，これらの塩類を適当量とかしこむ。培養液に用いる水は蒸留水がよいが，井戸水や水道水・雨水でもよい。培養液のpHは5～6.5で，塩酸や苛性(かせい)ソーダで調整する。培養液の更新は，10 *l* 前後の容器のときで，夏には週に1回以上，冬には2～3週間に1回必要である。
〔金木良三〕

みずさきあんない　【水先案内】　船舶が港内や狭い水路，河川などを航行する場合，その地理・水路状況・海潮流などに通じ，しかも船舶運航に熟練した者が，船長に代わり，または援助して船を安全に導くこと。それを行なう者を水先案内人またはパイロットという。多くの国では，法律によってパイロットを必要とする水域を定め，強制水先区とよんでいる。パイロットになるには，3,000総トン以上の船舶の船長の経験を3年以上有し，運輸大臣の行なう水先人試験に合格して，水先免許を取得しなければならない。外国では，港内パイロット・河川パイロット・海パイロットなどに分けている場合もある。　〔飯島幸人〕

みずさわ　【水沢(市)】　岩手県南部の市。人口55,000。802年(延暦21)に坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)が征夷(せいい)開拓の基地として胆沢(いざわ)城を築き，江戸時代には伊達(だて)氏の家臣留守(るす)氏の小城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。市域の中央部近くを北上川が南流し，西部には奥羽山脈から東流する胆沢川がつくった胆沢扇状地が広がり，扇端は崖状(がいじょう)をなして北上低地に臨む。市街地は扇端部のがけ下を通る奥羽街道に沿って発達する。産業三大別人口比は22：24：54。胆沢穀倉地帯の中心で，米のほか，果樹・酪農の産が多い。伝統ある羽田(はだ)鋳物工業，農機具製造などが行なわれ，南部鉄びん・風鈴を特産する。東北本線・国道4号線に沿い，秋田県と結ぶ水沢～十文字線の建設が進んでいる。水沢緯度観測所*・駒形(こまがた)神社・胆沢城跡などの名所史跡に富む。



水資源

みずさわいどかんそくしょ　【水沢緯度観測所】　岩手県水沢市にある。1899年(明治32)世界各国が協力して緯度変化を観測するため，地球上の同じ緯度(39°8′N)のシンシナチ(アメリカ合衆国)・カルロフォルテ(イタリア)などとともに設立された観測所の一。天頂儀・浮遊天頂儀・子午環・写真天頂筒*などを備え，極運動や位置天文の観測を行なっている。1962年(昭和37)以降，国際極運動観測の中央局の役目を果たしている。　〔守山史生〕

みずしげん　【水資源】　自然の水のうち，人類が資源として利用できる水。人間生活に最も深いかかわりあいをもつ資源の一つである。水は，不足しても，また多すぎても，人間生活を不可能にする。地球上における水の存在形態は次のようになっている。

地球上の水（1,500×10⁶ 単位km³）
- 気圏水：13,000
- 岩圏水：125.5×10⁶
- 水圏水
  - 海洋水：1,370×10⁶
  - 陸上水：229,300

水は各圏域間を循環し，各圏域の存在量は常時ほぼ一定に保たれている。水資源としては，この循環系のうち気圏→岩圏→水圏と移動しているものを利用する場合が多い。すなわち，1年間に降水として地上に達する11万2,100km³を主として利用し，そのうちでも河水となって流出する37,000km³が重要である。日本についてみると，年間降水量が南海地方の2,500mmから北海道東北部の700mm余の間にあり，平均は1,600mmで，日本全土に6,000億tの降水がある。これが台風・梅雨・雪，その他として降る。このうち，平均して2,000億tが蒸発するとされ，河川流出分はほぼ4,000億tと推定される。

これらの水の使われ方を国内についてみると，農業・工業・電力および都市生活用などに類別される。農業用水は水田・畑地灌漑(かんがい)に使用され，そのうち水田については20mm/日の減水深で35万ヘクタール，灌漑日数100日として年間460億tが必要とされている。農業用水は河川・湖沼から70%以上が取水される。工業用水は1969年(昭和44)の統計によると，ボイラー用水(6.6億t・年)，製品処理・洗浄用水(72.3億t・年)，原料用水(2.1億t・年)，冷却・温調用水(176.8億t・年)を淡水から利用しており，その他に海水(117.4億t・年)を使用している。海水の大部分は冷却用水として使われている。また業種別にみると，化学工業，鉄鋼業，紙・パルプ・紙加工業などが大口の使用業種で全体の72%を占めている。水力発電量は1970年の統計によると800.89億kW時になっており，1kWが1～7tの水量を必要とするので多大な水量となる。しかし水力発電は高度の高いところで水を利用し，下流において他の用水として再利用される機会が比較的多い。火力発電量は2748.68億kW時でこれもばくだいな量の水を必要とするがほとんど海水でまかなわれている。都市生活用水は1970年には上水道用水(簡易・専用水道を含む)が100億8,800万tに達している。これら用水の経年変化については，農業用水は過去・現在・将来とも大きく変化することはないと考えられる。発電は水力1に対して火力3.4(1970)になり，水力は限界に達している。火力はいっそう増大し，一方原子力発電の比重も増加するであろうから海水の利用もばくだいな量になるであろう。工業用水と都市生活用水は現在までも産業規模の拡大，都市人口の急増，生活水準の向上に比例して増大を重ねてきたが，今後も同様の傾向をたどり，水資源問題の中心となるであろう。水の取得と余剰水の処理は世界の多くの地域で経済発展の限界要素となってきている。このためにユネスコでは1965年から国際水文観測10か年計画(IHD)により地球上の水資源を調査研究し，将来の人間に必要な水を確保しようとしている。一方このような問題のほかに水の循環系のバランスを無視した取水(地下水の過度のくみ上げ)による地盤沈下と使用済み工業用水の排水による公害問題に関係して，工業用水や都市生活用水の再利用などの問題が今後の最も重要な問題の一つとなってきている。〔塚本良則〕

年	工業用水（億t・年）		
	淡水	海水	合計
1958	87.3	32.0	119.3
1962	136.2	62.0	198.2
1967	210.6	95.4	306.0
1970	271.6	117.4	389.0

みすじちょう　【三条蝶】　こん虫類・鱗

翅(りんし)目・タテハチョウ科，翅(はね)を広げた長さ65㎜で，翅形は丸みをおびる。翅は黒色で，前翅基部から中央に向けて剣状の白斑(はくはん)があり，その外側に大きな白色紋が並ぶ。後翅に2本の白帯があり，内側のものが幅が広い。裏面はかっ色。年1回の発生で，平地では5月，山地では6～7月に出現する。樹上を高く飛び，湿地や獣糞(じゅうふん)に飛来するが，花を訪れることはない。幼虫はイロハカエデなどカエデ科の植物を食べ，幼虫態で越冬する。日本全土および朝鮮・中国・台湾に分布する。本種に近縁の群は類似種が多く，いずれも黒地に数本の白帯が走り，日本からはコミスジ・オオミスジ・ホシミスジなどが知られている。〔多々内修〕

みずすまし【鼓豆虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ミズスマシ科。体は長卵形で，長さ7㎜ほど。背面は黒色で鋼鉄光沢をおび，腹面は黒色で扁平(へんぺい)。脚は赤かっ色。腹部末端の尾節は露出している。日本全国のほか朝鮮・中国・台湾に分布し，各地の池沼や小川に普通な種類で，水面を旋回する。ミズスマシ科は全世界から500種以上が知られ，日本には約10種が分布している。いずれも体は長卵形で，表面はなめらかで光沢が強く，複眼はそれぞれ上下に分かれ，水面を旋回しながら水中と水上を同時に見ることができる。幼虫も水生で，他のこん虫類などを捕食し，老熟すると水中の物体上に繭をつくってさなぎになる。日本に産する代表的な種類にはミズスマシのほか，小形のコミズスマシやヒメミズスマシ，大形(8～10㎜)で鞘翅の側縁後方と翅端に棘(とげ)のあるオオミズスマシ，大形で鞘翅の先端部が切断状を呈するツマキレオオミズスマシ，大形だが体が細いオナガミズスマシなどがある。〔鈴木邦雄〕

みずたき【水炊き】鶏肉を用いたなべ料理の一種。元来は中国料理を応用して長崎で始まり，やがて博多(はかた)名物となり，博多煮ともいう。若鶏をぶつ切りにして洗い，弱火で約1時間水煮してしるをこし，土なべに移して供する。肉とともに，豆腐・生シイタケ・ダイコン・ネギ・ホウレンソウなどを入れることも多い。つけじるはポンスしょうゆに薬味を入れて用い，しるには塩としょうがじるを加える。

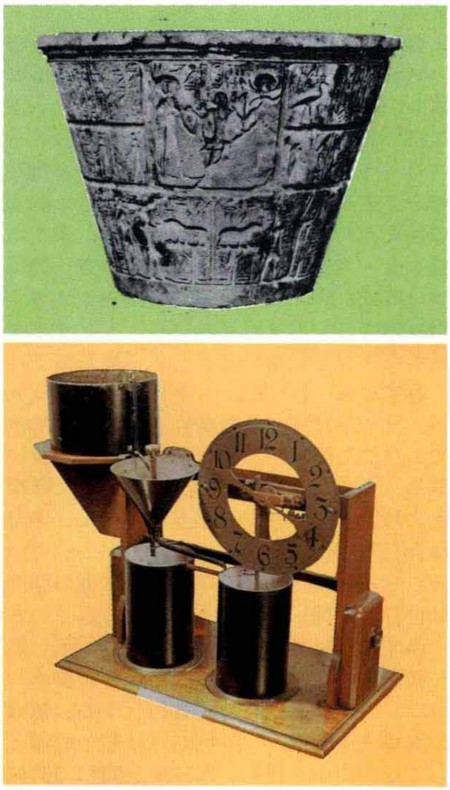
みずだこ【水章魚】軟体動物・頭足類・マダコ科。世界最大のタコで体長3m，体重30kgに達する。胴部の外套(がいとう)は卵形で赤かっ色。体表はなめらかで細かいしわがあり，また多くの小乳頭がある。目の上後方には耳状小突起がある。腕は胴長の4～5倍あり，第1腕が最も長く，第2，3，4の順に短くなるが著しい差はない。本州中部以北，北海道・千島・サハリン(樺太(からふと))の水深100～200mにすむ。食用にするがマダコより劣り，肉身が締まっていないのでこの名がある。



ミズスマシ



ミスト機　背負い式動力ミスト機



水時計　(上)古代エジプト(底部の穴からの流出量を内側の目盛りではかるもの，石製)BC1400ごろ　(下)古代ギリシア・ローマ(下部容器への流入量を文字板で読む精巧なもの。模型)

みずだに【水蜱】蛛形(ちゅけい)綱・前気門類のうち水中に生活するダニの総称。一般に微小で，0.3～2㎜ほど。体は円盤状ないし球状で，色彩のあざやかな種類が多い。大部分の種類は淡水中に生活するが，海水中に生活する種類も少数知られ，また温泉中から発見された種類もある。全世界からきわめて多数の種類が知られ，日本にも多くの種類が分布している。成虫は肉食性で，ミジンコ類を好んで捕食するが，幼生時は寄生性で，甲殻(こうかく)類のえら，二枚貝の外套(がいとう)，タニシの体中などのほか，トンボ類の幼虫(ヤゴ)やミズカマキリなどの水生こん虫の体表に寄生する。

みずたにやえこ【水谷八重子】(1905～1979)　女優。本名松野八重子。東京の生まれ。1913年(大正2)に芸術座*公演の《内部》に群衆の子役で出演したが，正式の初舞台は1916年の芸術座公演《アンナ-カレーニナ》のセルジイ役。新劇女優として出発したが，しだいに新派劇に出演する機会が多くなり，新派を背負う女優として重きをなした。1956年(昭和31)芸術院賞を受賞。

ミスチ(山)［Misti］ペルー南部，アンデス山脈中の休火山。標高5,835m。アレキパの北東11kmにそびえる。典型的な成層・円錐(えんすい)型をなし，その美しさはインカ時代より賞賛されており，ペルー在住の日本人はペルー富士とよんでいる。1881年ウィリアム-ピッカリングが初登頂した。

みずちょう【水帳】⇨検地

ミステリー　⇨推理小説

ミストき【ミスト機】農薬散布機の一。濃厚薬液を加圧し，直径50μ内外の微粒にして強風で噴出飛散させる。このように小さな粒子は作物の表面によく付着し，また，落下速度が小さいので葉の裏面にもつき，小量で広い面積に散布できるなど作業労力も節約できる。ミスト機はすべて動力用で，背負い式動力ミスト機が普及している。

みずどけい【水時計】水の流出・流入によって時間経過をはかる時計。小穴のある容器に水を満たし，下降する水面によって刻まれた時計目盛りを読むので，クレプシュドラ*(ギリシア語で水盗人の意)ともよばれた。最初は古代エジプトで，夜間や雨天に使えない日時計*の補いに用いられた。紀元前2世紀にはアレキサンドリアのクテシビアスが浮子(うき)を使って円柱上の目盛りを指示する時計をつくった。その後しだいに東方へ伝わり，インド・中国でも古くから使用された。わが国では，660年(斉明6)にはじめて漏刻とよぶ水時計をつくり，時を知らせたと《日本書紀》に書かれている。
→時計　〔元持邦之〕

ミストラル［Frédéric Mistral］(1830～1914)　フランスの詩人。中世の吟遊詩人*の文学とプロバンス語の復興刷新を主張して，文学団体〈フェリブリージュ〉を結成して活躍。また牧歌的な悲恋物語である叙事詩《ミレイユ》などで，プロバンス語による詩作を実践した。1904年ノーベル文学賞を受賞。

ミストラル［Gabriela Mistral］(1889～1957)　チリの女流詩人。本名ルシラ-

ゴドイ-アルカヤーガ。愛の甘美と苦渋を簡潔な筆致でうたった。代表作は《荒廃》《愛情》《開墾》。1945年ノーベル文学賞受賞。

みずどり 【水鳥】 湿地の混ざる草原や荒地状の原野，種々の規模の湖沼・河川とその付近，干潟(ひがた)・海岸などの水辺で，1年のうちのかなりの時期を過ごす鳥類と海鳥類を総称していう。学問上の厳密な用語ではなく，一般的な便宜によることばである。水鳥に該当する鳥を，日本産の鳥類について科を単位としてあげると，アビ・カイツブリ・サギ・コウノトリ・トキ・ガンカモ・ツル・クイナ・ノガン・レンカク・タマシギ・ミヤコドリ・チドリ・シギ・セイタカシギ・ツバメチドリ・ヒレアシシギ・カワガラスの各科および海鳥類。このほか，科としては水鳥というのにふさわしくないが，種としては水鳥としてもいいものに，カワセミ・ヤマセミ(カワセミ科)，キセキレイ・セグロセキレイ・ハクセキレイ(セキレイ科)などがある。〔安部直哉〕

みずな 【水菜】 ⇒キョウナ

みずなぎどり 【水薙鳥】 鳥類・ミズナギドリ科およびそのうちの一種をいう。この科とアホウドリ科・ウミツバメ科・モグリウミツバメ科の4科がミズナギドリ目に含まれ，鼻孔が上嘴(じょうし)上に管状をなして開口している特徴があり，以前は管鼻目といわれた。この管状の鼻は，海洋生活をするこれらの鳥類が海水を飲み込むため，体内の塩分濃度を調整する必要があり，目のわきにある塩腺(えんせん)が濾過(ろか)作用の一部をなし，余剰の塩分を飛行しながら射出して捨てるのに役だっていると考えられている。海上を低く水を薙ぐように，巧みに滑空するので，ミズナギドリという名でよばれ，魚・イカ・エビなどを主食とする。潜水して採食するもの，もっぱら水表面で採食するものなど採食方法は種類によって異なる。おもに北半球の温寒帯海域に生息しているフルマカモメ，南極大陸付近に一生とどまって生活するユキドリのようなものもあるが，その大部分は南半球に繁殖地があり，海洋上を回遊的な渡りをする。世界に57種がある。ハシボソミズナギドリはオーストラリア・タスマニアで南半球の夏季に繁殖し，親鳥は雛(ひな)に多量の給食をして，先に繁殖地を離れて渡りに出る。雛の体重は一時親鳥の1.8倍にもなり，体内にたくわえられた物質で発育・成長する。この雛を捕えて，油を採取し，肉はかんづめにするという産業が大々的になりたっている。オーストラリア政府は，乱獲を防止するため長年この鳥の生態を研究している。親鳥は繁殖後，太平洋の西側を北上し，6～8月ごろ，日本の太平洋沖に大群がみられ，アリューシャン列島近海まで北上して，北半球の夏を過ごし，太平洋の東側を南下して，また繁殖地にもどるという大洋生活をしている。この科の一種であるミズナギドリはクリスマス島・ハワイ諸島などで繁殖し，日本近海ではごくまれにしかみられない。〔安部直哉〕

みずなみ 【瑞浪(市)】 岐阜県南東部の市。人口40,000。中世以降，美濃(みの)・尾張(おわり)・伊勢(いせ)の3国の守護として勢威をふるった土岐氏の発祥地で，美濃焼の産地として古くから知られる。1954年(昭和29)市制施行。市域は土岐川流域の平地を中心に北部の高原地域，南部の小里川流域にかけて広がる。中心市街は土岐川北岸の河岸段丘面にあり，中央本線瑞浪駅前に商業地区が発達する。産業三大別人口比は7：49：44。主産業は陶磁器工業で，南岸の瑞浪地区と最南部の陶(すえ)地区が主要な生産地となり，陶地区には輸出向けのディナーセットの製造工場が多い。北部高原には豊富なウランの埋蔵地があり，デスモスチルスその他の化石で有名な第三紀中新世の地層もみられる。中央本線と国道19号線・21号線が通ずる。明世(あけよ)・白狐(びゃっこ)などの温泉がある。

みずなら 【水楢】 双子葉植物・ブナ科。日本をはじめ温帯アジアに広く分布する落葉高木。幹は直立し高さ30m，径1.5mほどになり，樹皮は黒かっ色で不規則な縦の深い割れ目がはいる。葉は互生して枝先に集まり，長さ6～15cm内外の倒卵形で，大きな鋭い鋸歯(きょし)がある。雌雄同株で，5～6月ごろ新枝の基部に長さ5cm内外の雄花穂を下垂し，枝の上部の葉腋(ようえき)に総包に包まれた雌花を1～7個つける。果実は長さ2～3cmのいわゆるどんぐりで，殻斗(かくと)は椀(わん)状で鱗片(りんぺん)が密生する。材は建築・家具・器具のほか，シイタケ栽培用原木などに用いる。〔横井朝子〕

みずにら 【水韮】 シダ植物・ミズニラ科。池や沼に生ずる夏緑性シダ。茎は塊状で二次的に肥大し，上方から多数の細長い葉を，下方からひげ根を出す。葉は鮮緑色の角張った円柱形で長さ20～30cm，茎部は卵形で胞子嚢(ほうしのう)と小舌がついている。胞子には大小2形がある。本種の仲間は世界に65種，日本に2種が知られている。

みずのじゅうろうざえもん 【水野十郎左衛門】 (？～1664) 江戸幕府の旗本(はたもと)。名は成之(なりゆき)。知行三千石。無頼の旗本を糾合し大小神祇(しんぎ)組の頭領として江戸市中を横行。1657年(明暦3)町奴(まちやっこ)幡随院長兵衛(ばんずいいんちょうべえ)と争い，これを殺害したことは有名。行状粗暴を幕府にとがめられて切腹させられた。

みずのただくに 【水野忠邦】 (1794～1851) 江戸後期の譜代大名。遠江(とおとうみ)(静岡県)浜松藩主。肥前(佐賀県)唐津(からつ)藩主水野忠光(ただみつ)の子。1812年(文化9)家督を継ぐ。1815年奏者番，1817年寺社奉行(ぶぎょう)を兼ね，幕府の要職につこうとして望んで浜松に移った。次いで大阪城代・京都所司代・西の丸老中を経て，1834年(天保5)老中，1839年老中首座に上り最高責任者となった。1841年11代将軍徳川家斉(いえなり)の死後，天保(てんぽう)の改革を強行したが，その反動的な改革は人望を失い，ことに江戸・大阪十里四方の上知令の失敗は致命的で，1843年老中を免ぜられた。翌年再び老中首座となったが，1年足らずで辞職した。次いで在職中に登用した鳥居耀蔵(ようぞう)らの不正の責任を問われ，二万石を減封され，隠居・蟄居(ちっきょ)を命ぜられ，失意のうちに没した。〔岡山泰四〕

みずのとしかた 【水野年方】 (1866～1908) 日本画家。江戸の生まれ。はじめ大蘇芳年(たいそよしとし)につき，1887年(明治20)ごろから師のあとをうけて《やまと新聞》に挿絵(さしえ)を描き，画名をあげた。また，日本美術協会や初期院展の審査員となり，浮世絵風俗画の地位を高めた。門下に鏑木(かぶらぎ)清方・池田輝方(てるかた)らの俊才がいる。

みずのはな 【水の華】 湖沼や海洋で季節的に認められる植物プランクトン(浮遊性藻類(そうるい))の増殖現象。低温，高温，日照量の減少，栄養塩の不足などが原因となって，休眠や個体数の減少などで目だたなかった植物プランクトンが，生活の場の変化にしたがって増殖してくる。冬に澄んでいた湖水が初春に藻類の増殖で濁ってくるのはその一例である。これは低水温で成層していた湖水が表層から暖められて循環し，表層水付近に栄養塩類をもたらすことによると考えられる。この現象は秋に再び起こるが，これを春に起こる春の水の華に対して秋の水の華とよぶ。おもな藻類は，緑藻・ケイ藻・藍藻(らんそう)である。水の華は庭の池や金魚ばちでも認められるが，広域内で季節的な周期を示す点で，青粉や赤潮と区別する。〔船越真樹〕

みずのへんたい 【水の変態】 宮城(みやぎ)道雄作曲の箏曲(そうきょく)。彼の最初の記念すべき作品で，1909年(明治42)，15歳のときに作曲された。水が霧・雲・雨・雪・霰(あられ)・露・霜に変態する様を和歌をつないで歌詞としたもので，手事の部分や旋律にその後の新日本音楽の傾向がよく示されている。

みずのみひゃくしょう 【水呑百姓】 江戸時代，田畑を所有しない無高の百姓。高持の本百姓に対していった。水呑ともいう。水を飲んで暮らすほどの貧乏百姓の意から始まったといわれる。検地帳・名寄帳などに記載されない隷属農民，土地をもてない次・三男，貢租重課などのための土地喪失者などがこれにあたる。土地を所有しないため多くは小作人となったり，出かせぎ奉公・日雇いかせぎなどをした。また大工・鍛冶(かじ)その他農村に住んでいた職人も水呑とよばれた。➔高持百姓 ➔百姓

〔岡山泰四〕

みずばしょう 【水芭蕉】 単子葉植物・サトイモ科。湿地に自生する多年草で，本

州中部以北，千島・カムチャツカ・東シベリアに分布する。根茎は太く短く，横走して じょうぶな根を多数出す。葉は花後に花序の横から根生し，長さ40～80cm，幅15～30cmの長楕円(ちょうだえん)形，頂部は円形で先端がとがり，淡緑色で柔らかい。春，雪どけとともに葉に先だって，白色の仏炎包に包まれた肉穂花序をつける。仏炎包は8～12cmの楕円形で先はとがり，基部は鞘(さや)状となって花柄を包む。肉穂花序は開花時には2～3cmで，淡緑色の両生花を密生する。花被は4枚で小さく，子房は花軸に半ば埋まる。果実は液果で，肥厚した花軸に埋まっている。北アメリカの太平洋岸には仏炎包の黄色の別種がある。〔横井朝子〕

みずはらしゅうおうし　**【水原秋桜子】**　(1892～1981)　俳人。本名豊。東京神田の生まれ。東京帝国大学医学部卒業。窪田空穂*(くぼたうつぼ)・松根東洋城*・高浜虚子*に師事。阿波野青畝*(あわのせいほ)・山口誓子*・高野素十*とともに4Sとよばれ，《ホトトギス*》の黄金期を形成。のち客観写生になじめず《ホトトギス》を去り，みずから主宰する俳誌*《馬酔木*(あしび)》に論文《自然の真と文芸上の真》を発表，新興俳句*の口火を切った。その句は有季・定型・文語の句であり，おもに旧跡・名勝に材を求め，風景句で本領を示した。句集に《南風》《葛飾(かつしか)》《新樹》などがあり，評論に《定型俳句陣》などがある。〔瀬良垣宏明〕

みずひき　**【水引】**　双子葉植物・タデ科。山野に自生する多年草。茎の高さ50～80cmで，全体に粗毛がある。色は赤色で節は少しふくらむ。葉は長さ7～15cm，幅4～9cmの長楕円(ちょうだえん)形で，しばしば表面に赤紫色のかぎ形の斑紋(はんもん)がある。8～10月，枝先や葉腋(ようえき)に長さ20～40cmの穂状花序をつける。花は表側が赤色，裏側が白色で，水引に似るのでこの名がある。全草ほとんど無毛で葉の先がとがり，果実の大きいものをシンミズヒキ，花に赤みがなく白色だけのものをギンミズヒキという。

みずひき　**【水引】**　儀礼用品の一。細いこよりにのり水を引いてかわかしたもので，古くは髪を結う際の元結いにも用いたが，現在は贈答の金品に結んで掛け，祝意・弔意などを表わすのに用いる。贈答用の水引はふつう幾本かを並べて中央から左右に染め分けたものを用いる。祝事や進物には，紅白・金銀・紅金などのものを，凶事には，黒白・藍白(らんぱく)などのものを用いる。結び目は品物の正面中央に置くが，通常向かって左の条を上に重ねるように結ぶ。結び方にも種々あって，一般の祝事には結び留めにし，先端をさらに輪結び・本結び・あわび結び・相生(あいおい)結びなどにする。凶事には結び切りにするが，祝事でも婚礼祝い・全快祝いには，縁起をかついで結び切りにするのがならわしである。➔結び(写真)

みずひきがに　**【水引蟹】**　甲殻(こうかく)類・



ミズバショウ



水原秋桜子



ミズヒキ



ミース-ファン-デル-ローエ　ニューヨークの《シーグラム-ビル》(1958)　基部柱列と下層部分

ミズヒキガニ科。歩脚も含め全長10cmぐらいのカニであるが，甲長は約15mmで小さく，第1～第3歩脚は細く長い。鉗脚(かんきゃく)や歩脚は赤色をおびて美しい。第4脚は小さく，前節と指節ではさみ状をなす。甲殻は縦長の二等辺三角形で，額角は2本に分かれ，長く突出する。類似の種にサナダミズヒキガニがあり，鉗脚と歩脚が美しい紅白のしま模様になっている。両種ともわが国沿岸の30～80m付近の海底に普通に分布するが，後者のほうがより南方系である。〔向井　宏〕

ミース-ファン-デル-ローエ　［Ludwig Mies van der Rohe］　(1886～1969)　ドイツ生まれのアメリカの建築家。1909年ベーレンスの門にはいり，1911年から1938年まで自己の事務所をベルリンにもって，設計活動を行なった。彼の名を世界に高めたのは，第1次世界大戦直後の〈ガラス壁の超高層建築案〉である。その後，バウハウスの第3代校長などを勤めたが，ナチスに追われてアメリカに渡り，アメリカ建築教育の発展に努めた。

みずぶくれ　**【水ぶくれ】**　水疱(すいほう)の俗称。表皮内または表皮と真皮の間に漿液(しょうえき)がたまり，皮膚面が盛り上がったもの。エンドウ大までのものを小水疱，それ以上のものを水疱といい，内容が濃汁(のうじゅう)のものを膿疱という。機械的刺激によってできるが，しばしばみられるものに疱疹(ほうしん)(ヘルペス)・熱傷・とびひ・皮膚炎などの水疱がある。➔発疹

みずほ　**【瑞穂(町)】**　東京都北西部，埼玉県との境にある西多摩郡の町。人口23,000。1940年(昭和15)に箱根ケ崎ほか3村が合併して成立，1958年には埼玉県入間郡元狭山(もとさやま)村の大部分を編入した。畑作を主とした農業が行なわれ，陸稲・ジャガイモ・ダイコンをつくり，また狭山茶を産するが，最近は乳牛・ブタ・ニワトリの飼育が盛んである。町域の南部はアメリカ軍の横田基地の一部になっている。八高線が通じ，箱根ケ崎駅がある。

みずほ　**【瑞穂(区)】**　愛知県名古屋市南東部の区。もと愛知郡呼続(よびつぎ)町一帯の地区で，1921年(大正10)名古屋市域の拡張によって南区に編入され，1944年(昭和19)13区制の実施に伴い，瑞穂区として分離独立した。面積11.11km²，人口12万1,000。都市化が進み，人口密度が大きく，1km²あたり10,891人に達する。西部の新堀川(しんぼりかわ)運河沿いに木材工業が，堀田(ほった)通りにはプラグ・碍子(がいし)・ミシン・映写機などの大工場が立ち並び，自動車関係の事業所や修理工場も多い。名古屋鉄道名古屋本線・国道1号線が南部をほぼ平行して走る。東部の瑞穂通りは市で最初にできた環状線が通じて交通条件が整備され，東方の東山丘陵は住宅地区となり，市立大学病院・区役所などがある。弥富(やとみ)町にはラグビー場

を併置した瑞穂グラウンドがある。
〔浅井得一〕

みずほ【瑞穂(町)】 京都府船井郡の町。人口6,200。府の中央西端部に位置する。1951年(昭和26)付近の4村が合併し，1955年町制を施行した。主産業は農業であるが，山林が広く，林業の近代化に力を入れている。また，マツタケの産地として知られている。国道9号線・173号線で京阪神(けいはんしん)地方と結ばれる。

みずぼうそう【水疱瘡】 水痘の俗称で，水痘ウイルスによる小児期の急性伝染病。このウイルスは帯状疱疹*(ほうしん)の原因となるヘルペスウイルス*と同じもので，病像の違いは体内の抗体量によると考えられている。潜伏期は約2週間。はっきりした前駆症状なしに突然発熱して発疹を生ずる場合と，発疹に気づく24時間くらいまえから発熱したり不機嫌(ふきげん)になったりする場合とがある。まず小さな淡紅色斑(はん)を生じ，まもなく丘疹となり，やがて中心に水疱を生じて2～3日で黒かっ色の痂皮(かひ)をつくり，7～10日で脱落してなおる。発疹は皮膚だけでなく全身いたるところに生じ，口腔(こうこう)などの粘膜にも現われる。全部の発疹が出そろうのに数日，結痂が全部完了するのに約1週間，痂皮が脱落消失するのに2～3週間を要する。水痘の伝染力は発疹出現の2～3日前から発疹が結痂するまで続くが，一度かかれば終生免疫が得られる。治療は解熱剤・止痒(しよう)剤の投与以外に特別のものはないが，かゆいためにかきむしって細菌感染を起こして瘢痕(はんこん)を残したり，あるいは重い合併症を起こしたりしないよう注意しなければならない。
〔田嶋公子〕

みずまき【水巻(町)】 福岡県遠賀(おんが)郡の町。人口26,000。県北部，遠賀川下流右岸に位置する。明治中期から炭鉱の開発により発展したが，近年は炭鉱不況のために深刻な打撃を受けている。鹿児島本線・国道3号線が通じ，東隣の北九州市への通勤者が激増している。

みすみそう【三角草】 ⇨ユキワリソウ

みずむし【水虫】 こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・ミズムシ科。体長約1cm。体は暗黄色で，多数の黒色条斑(じょうはん)がある。頭部は黄色で前縁は丸く，複眼は黒色で大形。半翅鞘は前縁部が灰色で，波状黒線は細かいが，比較的規則正しい。体の下面と脚は黄色。前脚は短く，雄では幅広い跗節(ふせつ)の内面に全長にわたる歯列がある。中脚・後脚は著しく長く，水中を泳ぐのに適する。日本全国のほか朝鮮・中国東北部などに分布し，寒地に多く，池沼に生活する。ミズムシ科は全世界から多数の種が知られ，日本にもかなりの種類が分布するが，調査研究が十分に行なわれていない。いずれも水生で，よく似た種類が多い。前脚が短く，中脚と後脚は著しく長い。発生は年1回で，冬は成虫態で越す。成虫は，しばしば燈火に群集することがある。日本に産する最も普通な種はコミズムシで，体長6mm内外，俗にフウセンムシといい，日本全国の水田や池沼に多く，朝鮮・台湾にも分布している。
〔鈴木邦雄〕

みずむし【水虫】 汗疱状白癬(かんぽうじょうはくせん)の俗称。糸状菌の一種である白癬菌が手のひら，足の裏，手足の指の間などに感染してできる表在性白癬。次の三つの型がある。①水疱(すいほう)型：足の裏・縁・かかとなどに小水疱が多発し，水疱は粟粒(ぞくりゅう)大から米粒大で，はじめは表皮があめ色になり，のちしだいに隆起してついには破れて白い輪の形をした跡が残る。水疱内容は透明であるが，しばしば化膿(かのう)して膿疱となり，あるいはじくじくすることもある。②趾間糜爛(しかんびらん)型：足の指の間，特に4番めと5番めの指の間の皮膚が白くふやけたり，表皮がはげて糜爛面を生ずる。③角化型：おもに足の裏や手のひらに生ずるもので，角質増殖によって皮膚が厚くざらざらし，皮膚が赤く見え，角質がはげ落ちる。いずれもかゆみが強く，傷口から細菌がはいって化膿し，その部分の皮膚が赤くはれて熱をもって痛む。またリンパ管に炎症が波及して腕や脚に赤い線条が現われたり，リンパ節がはれて痛んだりする。夏季，特にくつをはくことによって悪化し，冬季は軽快するが，何年間も続くのでときに爪(つめ)にも及ぶことがある(爪白癬)。治療には，グリセオフルビンとよぶ内服薬もあるが，化膿した場合はサルファ剤や抗生物質で治療し，ぬるま湯で薄めたリゾール液で洗浄したり，ホウ酸水・リバノール液で湿布する。手足は清潔を保ち，蒸れないようにする。なお，水虫によく似た病気に湿疹*・皮膚炎*・汗疱*・掌蹠(しょうしょ)膿疱症などがあり，これらに水虫の治療を施すとかえって悪化させるおそれがある。
➔白癬　〔田嶋公子〕

みずや【水屋】 茶室の勝手・台所。茶事の用具を整え，茶器類を整頓(せいとん)したり，使ったあとで洗ったりする場所。その形式や構造は，茶室の茶道口(さどうぐち)や給仕口によって決定するが，広さは3～4畳ぐらいで，大炉・長炉・丸炉などを備え，必要な棚(たな)・物入れ・簀(す)の子流しを構える。たいせつな茶器類を置いたり，扱ったりする場所であり，また働くのに便利なように，その構造には細かな注意が払われ，清潔で安定感を必要とする。なお社寺で，参詣(さんけい)者が手や口を清めるために水を備えてある場所も水屋というほか，飛騨(ひだ)(岐阜県)白川地方では勝手元の用水場を，京都・奈良地方では食器戸棚をそれぞれこの名でよんでいる。　〔桑田忠親〕

みずら【髪】 美豆良とも書く。古代の男子の髪形。髪を中央から分け，左右の耳の部分で，輪をつくって結んだ形で，8世紀以後は，おもに少年(元服以前)の髪形となった。特に貴族階級の風習で，のち皇族などが，江戸時代までこの風習を受け継いでいた。➔髪形(図)

ミズーリ(州)［Missouri］ アメリカ合衆国中部の州。面積18万0,487km²，人口477万7,000(1974)。州都ジェファソンシチー。1821年8月合衆国24番めの州となる。州名は，インディアン語の〈泥の川〉の意で，ミズーリ川をさしたものといわれる。東境はミシシッピ川，西境の一部はミズーリ川によって限られ，両河川とも交通の要路となり，水路の通運延長は約3,000kmに及ぶ。州域の大部分はプレーリーの農業地域で，中でも家畜収入は全農業収入の3分の2を占め，ブタの飼育頭数は全国第3位となっている。鉱産資源にも恵まれ，鉛・重晶石は全国一の産出高を示し，その他，石灰・石炭・鉄鉱石などもある。工業では，セントルイスを中心にロケットエンジン・航空機などを含む輸送機械工業が最も多く，食肉・製粉などの食品工業，化学・印刷・金属などの工業がこれに次いでいる。主要都市，セントルイス・カンザスシチー。
〔相村大彬〕

ミズーリ(川)［Missouri］ アメリカ合衆国中西部の川。長さ3,970km，源流部も含めれば4,369kmとなる。流域面積約138万km²。ミシシッピ川最大の支流。モンタナ州西部のロッキー山脈に発し，南東流してミズーリ州のセントルイス付近でミシシッピ川に合流する。支流の多いことで知られるが，流域はロッキー山地・グレートプレーンズ・中央低地・オザーク台地の四つに区分される。山地および上流部は森林および大放牧地帯，グレートプレーンズは小麦の世界的産地，中央低地はトウモロコシ・大豆の産地である。この川はインディアンによって古くから利用されており，毛皮交易や西部への開拓ルートのためにも利用された。また，この川は多量の土砂を運搬するため洪水(こうずい)が絶えなかったが，1944年のミズーリ河谷開発計画によって多目的ダムが数多く建設され，洪水調節・灌漑(かんがい)・水運・水力発電・観光施設などに役だっている。
〔大石堪山〕

ミズーリきょうてい【ミズーリ協定】 アメリカ合衆国において南部奴隷州と北部自由州の境界を設定した1820年の妥協協定。同国は建国以来自由州と奴隷州を同数として連邦政治の均衡を図ってきたが，1819年ミズーリが奴隷州として連邦加盟を求めた際，その州憲法に奴隷制廃止条項を付加する修正案が提出され，奴隷制がはじめて全国的に重要な政治問題として登場した。奴隷制廃止に対する南部の反対は強く，審議は難航したが，1820年ミズーリを奴隷州として連邦加盟を認める代わりに，マサチューセッツ州からメーン州を分離して自由州とすることにした。以後ルイジアナ購入

地域内では36°30′Nをもって自由州・奴隷州の境界とすることで妥協が成立した。1821年8月ミズーリは正式に連邦に加盟した。同協定は南北の政治的対立の激化を一時的に阻止したが，アメリカ-メキシコ戦争*により獲得されたカリフォルニアが1850年連邦加盟を申請するに至り，適用が不可能となり，〈1850年の妥協〉で事実上破棄された。　〔折井一彦〕

みずわらび　**【水蕨】**　シダ植物・ミズワラビ科。主として暖地の水田・湿地の水中にはえる一年生のシダ。短い根茎から葉を束生する。葉には栄養葉と胞子葉の2型があり，栄養葉は長さ5～30cm，幅3～17cmで2～3回羽状に分かれ柔らかい。胞子葉は長さ50cmで2～4回羽状に分かれ，裂片は線状で裏へ巻いて胞子囊(ほうしのう)を包む。若葉は食べられる。

みせいねんしゃ　**【未成年者】**　満20歳に達しない者(民法3条)。未成年者は心身の発達が不十分で完全な判断能力を欠くため，これを無能力者*として取り扱い，親権者または後見人がその法定代理人*となる。未成年者が法律行為をなすには法定代理人の同意を必要とし，同意を得ずして行なった法律行為は取り消すことができる(民法4条)。ただし，単に権利を得，または義務を免れる行為，法定代理人が目的を定めて処分を許した財産のその目的の範囲内での処分行為(学費や修学旅行費の支払いなど)，目的を定めず処分を許した財産の処分行為(こづかい銭の使用など)については，法定代理人の同意を得なくとも単独で有効になしうる(民法4・5条)。営業を許された未成年者のその営業に関する行為についても同様である(民法6条)。また，未成年者は婚姻することによって成年*に達したものとみなされ，以後離婚しても未成年になることはない(民法753条)。なお，未成年者を保護する立法としては，民法のほか未成年者飲酒禁止法(1922)，未成年者喫煙禁止法(1900)があり，また20歳を基準とするものではないが，年少者・児童に対する労働基準法(1947)，児童福祉法(1947)などがある。未成年者の刑事上の責任については少年法*によって，家庭裁判所の保護処分がなされる。　〔黒木三郎〕

ミーゼス　[Ludwig Edler von Mises]　(1881～1973)　アメリカ合衆国の経済学者。オーストリアの生まれ。ウィーン大学卒業。1913年から1938年まで母校に在職し，シュンペーター*とともにウィーン学派*を代表した。ナチスに追われ，1940年アメリカ合衆国に渡り，アメリカ国立経済研究所に勤め，1945年からニューヨーク大学教授となり，翌年アメリカ合衆国に帰化した。専攻は貨幣論で，貨幣的過剰投資説を唱えた。ハイエク*の師であり，アメリカ新自由主義の創始者である。社会主義における経済計算の可能性を否定して，ランゲ*と論争した。主著

ミセバヤ



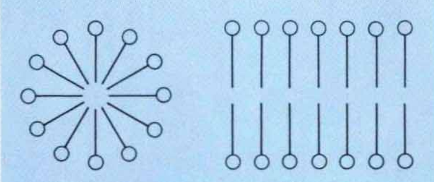


図-1　ミセルの模式図

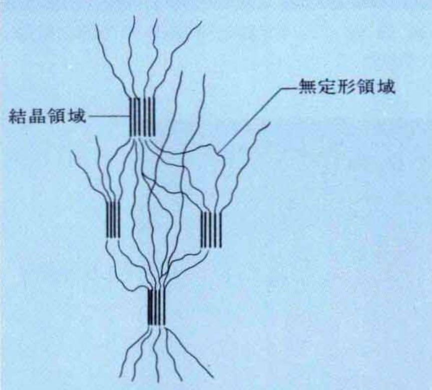


図-2　ふさ状ミセルの模式図

ミセル

に《貨幣と流通手段の理論》(1912)，《社会主義社会における経済計算》(1920)，《人間行為経済学論説》(1949)などがある。　〔林　達〕

みせばや　**【見せばや】**　双子葉植物・ベンケイソウ科。はち植えにして観賞する多年草で，おそらく瀬戸内海の小豆島原産。茎は何本も出て，斜めに立つかたれさがる。葉は扇形で長さ10～15mm，幅13～20mm，肉厚で3輪生する。10～11月，直径約6mmの桃色5弁花が集まって枝の先につく。

みせられたるたましい　**【魅せられたる魂】**　ロラン*の長編小説(1922～1934)。《アンネットとシルビー》《夏》《母と子》《予告する者》よりなる。自由と独立を求めて現代社会を生き抜くアンネット-リビエールを主人公に，この新しい女性像に託して，個人主義から社会主義の社会へと脱皮する過程を，矛盾や過誤をも含めて描くもの。《ジャン-クリストフ*》と並ぶ作者の代表作である。

ミセル　[micelle]

1 合成洗剤やせっけんのような表面活性剤の溶液中で，濃度がある特定の値(臨界ミセル濃度)以上になったとき，溶質である表面活性剤分子またはイオンが規則正しく集合配列して形成する集合体。1913年アメリカ合衆国の化学者J.W.マックベインによって命名された。ミセルの形については，球状のものと層状のものが考えられている(図-1)。

2 高分子物質を構成する微小な結晶部分。1858年スイスの植物学者K.W.ネゲリによりはじめてデンプンや植物細胞壁に存在することが提唱された。ミセルの概念を用いて高分子*の種々の性質を説明するのに，最初は独立ミセル説が中心になっていたが，現在ではふさ状ミセルによって説明されるのが普通である(図-2)。セルロースの場合，ミセルの大きさは長さ約500Å，幅約50Åといわれる。　〔伊藤　卓〕

みそ　**【味噌】**　蒸したダイズを，米・大麦・ダイズに繁殖させた麴菌(こうじきん)の酵素によって，食塩を混ぜながら分解させた調味食品。みそしるなどの調味料として不可欠であるだけでなく，しょうゆと異なり，タンパク質の供給源としても重要な役割を果たしている。わが国へは，大和(やまと)時代に中国から朝鮮を経て伝来した。最初は密祖(みそ)または高麗醬(こまびしお)とよばれ，現在のようにしょうゆ*との区別は明確でなかったようである。平安時代以前には醬*(ひしお)以前の意味で未醬(みしょう)と書かれたが，のちに味醬となり，味曾，さらに味噌となった。全国各地で気候・風土の違いによって独自のものがつくられ，現在に至っている。

【種類】　原料・色相・食塩量によっていろいろな種類がある。

①原料(麴)による分類
　米みそ(米麴)：白みそ・江戸みそ・仙台(せんだい)みそ・信州みそ
　麦みそ(大麦麴)：いなかみそ
　豆みそ(ダイズのみ)：八丁みそ・溜(たまり)みそ・三州みそ

②色相による分類
　白みそ：白みそ
　相白みそ：信州みそ
　赤みそ：仙台みそ・江戸みそ・麦みそ・豆みそ

③食塩量による分類
　甘みそ：白みそ・江戸みそ
　辛みそ：仙台みそ・信州みそ・八丁みそ・麦みそ

以上はおもにみそしるとして使用される味噌であるが，このほかそのまま食べるなめ味噌*がある。また最近ではビタミンA・B_1・B_2や炭酸カルシウムを加えて栄養を強化したものもあり，現在の生産量は米味噌が大半を占めている。熟成期間は，従来甘味噌で4～7か月，辛味噌・麦味噌で1年，豆味噌は1年以上が普通であったが，近年は仕込み後温度を上げて発酵・熟成を早める温醸法(速醸法)によって，より短い

期間でつくられる。　〔佐藤友太郎〕

みぞかくし　【溝隠】　双子葉植物・キキョウ科。アゼムシロともいう。湿地に自生する多年草。茎は細く，地をはって，多数の枝を出す。枝は斜上して高さ5〜15cm。葉は長さ1〜2cm，幅2〜4mmの披針(ひしん)形ないし狭楕円(きょうだえん)形で，2列に互生する。6〜10月，葉腋(ようえき)に長さ約1cmの淡赤色の花をつける。

みぞぐちけんじ　【溝口健二】　(1898〜1956)　映画監督。東京の生まれ。葵橋(あおいばし)洋画研究所卒業後，新聞記者を経て日活に入社，《愛に甦(よみが)える日》で監督となる。大正末期から昭和初期にかけては，情緒あふれる明治ものや左翼的なイデオロギーの映画で注目されたが，1936年(昭和11)の《浪華悲歌(なにわエレジー)》《祇園(ぎおん)の姉妹》の2作で日本映画のリアリズムを確立。その後，芸道ものや近松・西鶴(さいかく)らの江戸文学の映画化に名作が多く，特に1952年の《西鶴一代女》から《雨月物語》《山椒太夫(さんしょうだゆう)》と，3年連続してベネチア国際映画祭で受賞。世界的にも屈指の巨匠のひとりに数えられている。ほかに《近松物語》《赤線地帯》など。　〔佐藤忠男〕

みぞごい　【溝五位】　鳥類・サギ科。全長50cm弱の全身濃栗(くり)色のサギ。夏鳥としておもに本州中部以南に渡来し，森林中の暗いところを好んで繁殖する。林内から外へ飛び出ることは少なく，山中の沢や湿地でカニ・ミミズなどを食う。少数は越冬するものもある。

みそさざい　【鷦鷯】　鳥類・ミソサザイ科およびそのうちの一種をいう。世界に59種が知られ，このうちミソサザイだけが北アメリカから旧世界にも分布域を広げて，ユーラシア大陸北部から北アフリカにかけて分布しているが，この種以外は熱帯アメリカを中心に南北アメリカ大陸にのみ分布している。最大はサボテンミソサザイで全長25cm強，他のものはほとんど全長10〜15cm程度である。くちばしは細めで，脚は大きく，翼は短い。全体にかっ色に富み，背腹面に横斑(おうはん)のあるものが多い。森林内の地表に近い暗やみを好み，細かなすきまを縫って動くものが多い。また，サボテンミソサザイのようにサボテンのはえた砂漠(さばく)状の乾燥地域にすむものや，川べのヨシやガマのはえた湿地にすむものもある。こん虫類を主食とする。巣はいずれの種も側面に口のある球形のものをつくる。北アメリカのイエミソサザイは民家付近の林・やぶにすみ，巣箱をよく利用する。体の大きさに似ず大きな声で，息長く美しいさえずりをするものが多い。

ミソサザイは全長10cm前後で，全体に濃かっ色のかわいい鳥。日本では各地の低山帯から高山帯にかけての岩の多い溪流(けいりゅう)沿いや，森林内の岩土の出た所，がけくずれの斜面のある所などを好んですむ。早春から大きな美しい声で，息長く〈チーチュリチュリリ……〉とさえずる。冬季は平地にも降りて，民家の庭先の茂みなどにも普通にみられる。　〔安部直哉〕

みぞそば　【溝蕎麦】　双子葉植物・タデ科。山野の湿地や川の縁に自生する一年草。茎や葉に下向きの棘(とげ)がある。茎の高さ30〜60cm。葉はソバの葉によく似て基部が三角形の耳形に張り出し，全体は広卵形で，葉の両面に毛があり，表面に八の字形の黒い紋がある。葉柄に緑色の狭い翼が発達し，葉鞘(ようしょう)には毛がある。8〜10月，白ないし紅色の花を茎の先および葉腋(ようえき)に穂状につける。果実は茶色の痩果(そうか)で，3稜(りょう)がある。

みそづけ　【味噌づけ】　みその液汁(えきじゅう)を材料にしみ込ませて材料を柔らかくし，みそ固有の芳香とうま味とを与えたつけ物の総称。みそには酒またはみりんと砂糖を混ぜて練り合わせる。材料はダイコン・ゴボウ・シロウリ・キュウリ・ナスなどの野菜類のほか，魚介類・獣肉類(淡塩をして締めてから甘みそにつける)も用いられる。

みそのざ　【御園座】　劇場の名称。名古屋市中区栄1丁目にある。1897年(明治30)開場。第2次世界大戦中の戦災を含んで2度焼失したが，1963年(昭和38)に御園座会館として復興して現在に至る。観客定員は1,819人。名古屋における演劇界の中心的存在である。

みそはぎ　【禊萩・溝萩】　双子葉植物・ミソハギ科。小川の縁や湿地に自生する多年草。茎は四角，高さ40〜100cmで，全草無毛。葉は対生し，長さ2〜6cm，幅5〜15mmの披針(ひしん)形で，柄はない。8月，葉腋(ようえき)に1〜3個の紅紫色の6弁花をつける。おしべ12本，めしべ1本で，株によっておしべとめしべの長さが異なり，異株異花受粉をする。全草を乾燥させたものを千屈菜といい，下痢止めに用いられる。また，花は仏花として盂蘭盆会(うらぼんえ)に供えられる。

みぞれ　【霙】　雨と雪が同時に降る現象。季節的には冬の初めと終わりに多い。

みた　【屯田】　⇨屯倉(みやけ)

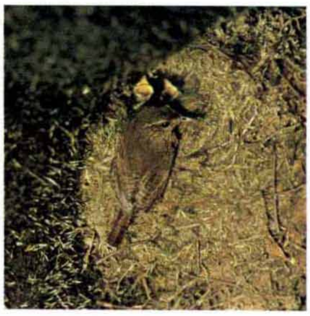
みたか　【三鷹(市)】　東京都中部の市。人口16万。市名は江戸初期まで諸侯の鷹場があったことにちなむが，中期以後は新田開発が進み，昭和初期に，中央本線三鷹駅の開設以来住宅地・工業地として急速に発展してきた。1950年(昭和25)市制施行。市域は武蔵野(むさしの)台地の東部に位置し，南西部と東部の縁辺に台地を刻む谷頭がみられる。北は武蔵野市，東は杉並(すぎなみ)・世田谷(せたがや)の両区と接する。産業三大別人口比は1：34：65。第2次世界大戦で戦災を受けたが，戦後住宅地として著しく発展し，南部には日本住宅公団の三鷹台・牟礼(むれ)・新川の各団地や都営の山中団地が集まる。自動車・電気機器・光学機器・金属



ミゾカクシ



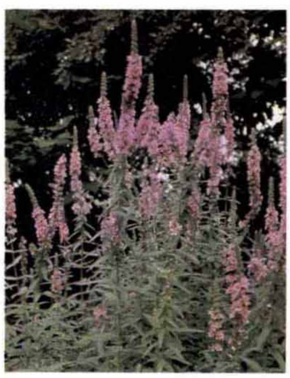
溝口健二　《赤線地帯》撮影中の溝口監督（右端）



ミソサザイ



ミゾソバ



ミソハギ
エゾミソハギ

などの大工場も立地する。北部を中央本線が東西に走り，帝都高速度交通営団の地下鉄東西線が国電三鷹駅まで乗り入れている。京王帝都電鉄の井の頭(いのかしら)線が東端をかすめて走り，南東部には中央高速道路の三鷹インターチェンジが建設中である。南西部の大沢地区には東京天文台や国際基督(キリスト)教大学があり，武蔵野市との境には井の頭自然公園がある。

みたかじけん 【三鷹事件】 1949年(昭和24) 7月15日中央線三鷹駅構内で無人列車が暴走し，20人の死傷者を出した事件。捜査当局は国鉄の人員整理に反対する組合員の共同謀議による計画的犯行として，国鉄労働組合三鷹分会の組合員10名を起訴した。第1審判決(1950年8月)は共同謀議を空中楼閣と判断して竹内景助の単独犯行と認め，竹内を無期懲役，他を無罪とした。これに対し，検察官・被告人双方から控訴がなされ，第2審判決(1951年3月)は竹内を死刑，他を無罪とした。この判決に対しても両者から上告がなされ，1955年6月最高裁判所は第2審判決を支持。竹内はさらに再審請求を出したが，再審開始前に死亡したため，1967年6月東京高等裁判所は〈この再審請求は竹内の死亡で終了した〉と決定を下した。この事件は，同年起こった下山事件*・松川事件*とともに三大政治事件といわれている。 〔原田政洸〕

みたけさん 【御岳山】 武州御岳ともいう。東京都青梅(おうめ)市西端の奥多摩山地にある山。標高1,070m。山地の入り口に位置し，ケーブルカーが山頂に達している。山頂付近には御岳神社を中心にみやげ物屋・飲食店や講中宿泊のための御師*(おし)の家があり，また会社や団体の休養施設もある。付近一帯には野鳥の生息も多く，都民のレクリエーション地として親しまれている。秩父(ちちぶ)多摩国立公園に属する。

ミダス ［Midas］ ギリシア神話でフリギアの半ば伝説的な王。ある日道に迷ったシレノスをもてなしたところ，望みはなんでもかなえてやると言われ，手に触れる物がみな黄金になるように願った。しかし，食物が黄金に変わってしまうので空腹に苦しみ，この贈り物を捨てたいと願い出た。彼はパクトロス川で身体を洗うよう命じられた。それ以来この川の砂は黄金を含むようになったという。

ミダスえいせい 【ミダス衛星】 ⇨軍事衛星

みたぶんがく 【三田文学】 文芸雑誌。1910年(明治43) 5月創刊，以後何度も休刊・復刊をくり返し，1966年(昭和41) 8月復刊，現在に至る。三田文学会発行。慶応義塾(ぎじゅく)文科の不振を打開するため，森鷗外(おうがい)・上田敏らの推薦で永井(ながい)荷風を教授に迎え創刊。自然主義的色彩の濃い《早稲田(わせだ)文学*》や《白樺*(しらかば)》などと対立しながら，《スバル*》《新思潮*》の同人らが多



ミチヤナギ

く執筆，耽美(たんび)主義的色彩を特徴とした。荷風・鷗外のほか，泉鏡花・小山内薫(おさないかおる)・吉井(よしい)勇・谷崎潤一郎らが作品を寄せ，久保田万太郎・水上滝太郎(みなかみたきたろう)が育った。そのほか小島政二郎(まさじろう)・西脇(にしわき)順三郎・石坂洋次郎・丸岡明(あきら)らが続き，第2次世界大戦後も原民喜・堀田善衛(ほったよしえ)・加藤道夫(かとうみちお)・安岡章太郎・遠藤周作・坂上弘(ひろし)，評論では山本健吉・江藤淳(じゅん)ら，三田派・新三田派とよばれる人々を世に送っている。 〔金子　博〕

みたむらえんぎょ 【三田村鳶魚】 (1870～1952) 随筆家・時代考証家。本名玄龍(げんりゅう)。東京八王子の生まれ。若くして三多摩壮士として活躍，新聞記者を経て三宅雪嶺(みやけせつれい)らの政教社社員となり，その後もっぱら江戸文化・風俗の研究に従った。その該博な江戸知識は《江戸叢書(そうしょ)》20巻で知られる。

みだれ 【乱】 八橋検校*(けんぎょう)の作といわれる箏(そう)の段物の一。正しくは《乱輪舌》という。輪舌は雅楽の輪説という箏の奏法に由来し，構成が破格なことに関係があろう。生田流や山田流では，それぞれ10あるいは12の部分(段)に分けて考えられている。

みだれがみ 【みだれ髪】 与謝野晶子*(よさのあきこ)の処女歌集(1901)。399首を収録，6章からなる。奔放な空想と情熱の歌風は新詩社*・《明星*》派の歌風を代表するとともにロマン派短歌の経典となった。人間本能の全面的肯定は人間解放の声でもある。〈やは肌(はだ)のあつき血潮にふれもみでさびしからずや道を説く君〉などが著名。

ミタンニ(王国) ［Mitanni］ アッシリアの北西方地域に侵入したインド-ヨーロッパ系の一民族が，原住民のアルメノイド系フルリ人を征服して建てた古代オリエントの王国。首都はワシュカンニで，一説にはユーフラテス川上流の現在のハラフという。紀元前18世紀末に建国され，紀元前15世紀のシャウシャタル王のときが最盛期で，アッシリアを服属させて北メソポタミアからシリアにわたる大帝国を建設し，ヌジに王宮を建てた。エジプト王トトメス3世*の遠征に対抗してシリア・パレスチナの都市国家を援助したが敗れ，トトメス4世のとき(紀元前15世紀末)エジプトと同盟関係にはいる。トゥシュラッタ王もアメンヘテプ3世*・イクナートン*と友好関係を維持したが，紀元前14世紀中ごろヒッタイト王シュピルリウマシュに敗北してその臣属国となり，紀元前13世紀前半アッシリアに滅ぼされた。みるべき文化は残さなかったが，フルリ人に学んだウマと戦車の使用はオリエント諸国に伝えられ，戦術の革命をもたらした。 〔屋形禎亮〕

みちとせ 【三千歳】 清元節の曲名。本名題《忍逢春雪解(しのびあうはるのゆきどけ)》。河竹黙阿弥(かわたけもくあみ)の《天衣紛上野初花(くもにまがううえののはつはな)》(河内(こうち)山)の中で，直侍が入谷の寮に遊女の三千歳に会いにきて，捕り手に囲まれながら逃げるという筋。作曲は2世清元梅吉といわれるが，当時の女流名人清元お葉の作とも，2人の共作ともいわれる。1881年(明治14)作。冒頭の雪の情景での一中節ふうの出や，三千歳の〈一日逢はねば千日の思ひに私や煩(わずろ)うて〉というくどきでの新内節の使い方がおもしろい。 〔徳丸吉彦〕

みちのくがみ 【陸奥紙】 檀紙(だんし)の別名。陸奥(東北地方)ですかれたので陸奥紙という。➔檀紙

みちやなぎ 【路柳】 双子葉植物・タデ科。道端や野原に普通にみられる一年草。基部から何本も枝を出して高さ10～50cmになり，節がふくれる。葉は長さ1.5～4cm，幅3～12mmの長卵形で，短柄で互生につく。全草無毛。托葉(たくよう)のさやは白色の膜質で，不規則に裂ける。5～10月，葉腋(ようえき)に緑白色の小花をつける。痩果(そうか)は長さ2～3mmで，がくに包まれるかまたは先がわずかに顔を出す。海岸によくみられるアキノミチヤナギは葉先がとがり，痩果はがくから約半分顔を出す。 〔加藤僖重〕

みちゆき 【道行】 和服の一種ではおり着にする。本来は江戸時代から明治末期まで，僧侶(そうりょ)・医師・俳諧師(はいかいし)・茶人などが着用した。形は合羽*(かっぱ)に似たひざまでの身たけで，角そで・襠(まち)付きで胸が角形にあき，小衿(こえり)がつき，結びひもで前を留め合わせる。現代でも僧侶の略服に着られるが，衿の形は変化して幅2～3cmの縁どりのようにつけ，額縁仕立て*となった。この衿を道行衿とよび，明治中期以降女子の合羽・コート*につけるようになり，現在でも袷(あわせ)半コート・単(ひとえ)雨コートに流行している。これは前合わせはスナップ・ボタン・結びひもなどで留めるが，襠はない。 〔堀越すみ〕

みちゆき 【道行】 日本芸能の芸態の名。道路その他を通行することを表わすもので，目的地に至るまでの道程が表現されることが多い。囃子物(はやしもの)などの器楽のみを伴うものと，それに加えて歌を伴うものとがある。神輿(みこし)や山車(だし)の巡行に奏さ

れる囃子に道行の名のあるものが多く，伎楽*(ぎがく)・舞楽*などの古代芸能でも演技の場所に役者が到着するまでの音楽・演技をこの名でよぶことがあるのは，祭りの場所に至る神の行列を芸能化したものとも考えられる。田植え踊りや雨請い踊りなどの大ぜいが踊る芸能でも道行を演ずる場合が多いが，これらは歌を伴っている。

《古事記》《日本書紀》などに記された歌謡や，《万葉集》の長歌にも道行とよばれる種類の歌があるが，これらは道中の地名・風物などを多数うたいこんでいる。この形式は中世芸能，ことに能に受け継がれた。能では登場人物がある土地からある土地へ行くことを表現する演技が多く，ことに曲のはじめに登場するワキの道行は，その曲の舞台となる地名を紹介する重要な役割をもち，ほとんどの曲は道行がすんで〈急ぎそうろうほどに――に着きてそうろう〉とワキが言ってからはじめて曲の中心部にはいる。また《三井寺》《蟬丸(せみまる)》《柏崎(かしわざき)》など，主として狂女物といわれる種類の能では，わが子などを捜して各地を旅するシテの道行が重要な見せ場になっている。一般に能の道行における謡の句法と音楽上の形式は，上歌*(あげうた)によっている。

一方《平家物語》《太平記》などにみられる道行文は，この芸態が語り物の芸能を通じて文学に取り入れられたもので，道中の地名や風物だけでなく，旅をする人物の心理描写をも含めて美しい七五調の文体で記され，古来名文の誉れが高い。江戸時代にはいってからは，小説・浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)などに取り入れられ，ことに近松門左衛門(もんざえもん)が《曾根崎(そねざき)心中》で心中する男女が死に場所を求めてさまよう場面を道行として脚色して以来，浄瑠璃には必ず道行の場面が挿入(そうにゅう)され，また歌舞伎でも，ことに常磐津節(ときわずぶし)・清元節*などの豊後節(ぶんごぶし)系浄瑠璃を用いた道行の場面が，舞踊の演目として狂言の中で演じられ，また独立しても演じられている。→次項　〔長尾一雄〕

みちゆきもの　【道行物】　日本舞踊・音曲のうち道行*を題材にした作品，またその系統。数の上では，心中しようとする男女がその目的地に着くまでの哀れで甘美な情緒をうたったものが多いが，主従や親子関係のもの，1人または3人以上のものもある。清元節《お染*(道行浮塒鷗(うきねのともどり))》《落人*(おちうど)(道行旅路の花聟(はなむこ))》，常磐津節(ときわずぶし)《お三輪(願糸縁苧環(ねがいのいとえにしのおだまき))》《梅川*(道行情の三度笠(さんどがさ))》，宮薗節(みやぞのぶし)《鳥辺山*(とりべやま)》など作品はいたって多い。　〔如月青子〕

ミチューリン　[Ivan Vladimirovich Michurin]　(1855～1935)　ロシアの園芸育種家。中部ロシアのコズロフ(現在のミチューリンスク)に生まれる。幼いときから植物を育てることに関心をもち，やがて鉄道の電信修理係として働くかたわら，果樹の新種育成に心を打ち込み，園芸家として専念した。そのころ，中部ロシアでは果樹の種類が非常に少ないばかりでなく，質的にも西ヨーロッパのものより数段と劣っていた。彼はこの貧しいロシアを〈花咲く大地〉に変えようと決心し，その生涯(しょうがい)を果樹の新品種育成にささげた。その結果，80年の間に約300種以上の優良品種を育成することに成功した。これらの実践を総括して，果樹の一生を，①受精から種子形成までの期間，②種子発芽から栄養生長の期間，③最初の花芽形成の期間，④成木として完成する期間に区分した。そしてこの植物の一生が外的な生活条件と不可分であり，性質も生活条件との相互の関係で歴史的に形成されたとし，成木は環境の作用を受けにくく，変異しにくいが，若木の時代，特に種子発芽の時期の植物体は変異を受けやすく，それが遺伝的になることを明らかにした。

このようにミチューリンは，新品種育成においては，幼木をどのような環境で育てるかが育種として重要なことで，メンデル遺伝学的に生物の遺伝を環境から切り離し，宿命的・絶対的なものと考えず，変異を生物の適応性と結びつけて理解した。このミチューリンの学説は，獲得形質は遺伝しないとするメンデル遺伝学と対立しており，彼はつぎ木雑種法を利用するとともに，有性交雑の子孫の特性が両親からの遺伝性に依存している部分よりも，その多くが雑種植物の発育初期の環境の作用に依存していることを強調した。　〔柳下　登〕

みつあなぐま　【蜜穴熊】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。アフリカラーテルともいう。頭胴長75cm，尾長20.5cmほど。ふつう背は灰色，腹は黒色で，その境に白線がある。アフリカに広く分布し，穴を掘るのがうまく，木にもよく登る。雑食性でこん虫・トカゲ・カメなどや植物質を食べ，蜂蜜(はちみつ)が好物。肛門腺(こうもんせん)はよく発達し，臭い液を飛ばすこともできる。

みついぎんこう　【三井銀行(株)】　三井系企業集団の中核体。1683年(天和3)三井両替店(りょうがえだな)を開業，1874年(明治7)為替(かわせ)銀行三井組となり，1876年三井銀行を設立，1909年株式会社となる。1943年(昭和18)第一銀行と合併，帝国銀行を名のり，1944年十五銀行を合併，第2次世界大戦後第一銀行を分離，新たに帝国銀行を設立，1954年現在の行名となった。本店東京。店舗数は国内161，海外9。資本金550億円，預金残高7兆1,921億円，従業員数12,257(1980年9月)。

みついけ　【三井家】　三井財閥*の母体となった江戸時代の豪商。中世以降，近江(おうみ)(滋賀県)佐々木氏の家臣であったが，元和(げんな)年間(1615～1623)に越後守(えちごのかみ)三井高安の子高俊(たかとし)が伊勢(いせ)(三重県)松阪(まつさか)で質屋兼酒屋を開いたのが商人としての起こりといわれる。1673年(延宝1)高俊の子高利(たかとし)のとき江戸に呉服店〈越後屋*〉を開き，のち大阪・京都にも進出して両替店を兼業しながら商業資本として発展した。以後幕府為替御用達(かわせごようたし)となって御為替三井組と称された。この間，高利は総本家と同族8家(のち11家)を創設して家憲を制定，さらに高平のとき，統轄機関として大元方を設け，同族の団結を固めた。明治維新に際しては，大番頭三野村利左衛門(りざえもん)の働きで朝廷方に献金その他の支援を行ない，政商としての基礎を固め，1872年(明治5)越後屋を分離して財閥形成へと進んだ。

みついこうざん　【三井鉱山(株)】　三池(福岡県)・砂川・芦別(あしべつ)(ともに北海道)の鉱業所を有する代表的石炭会社。1888年(明治21)三池炭鉱の払い下げを受け，1892年三井鉱山合資会社として設立，1893年合名会社に改組，1911年三井合名会社鉱山部の独立によって設立された会社。1941年(昭和16)に三井燃料工業所や石油合成三池試験場を分離して三井化学(株)を発足させ，第2次世界大戦後の1950年には金属部門分離で神岡鉱業(現在の三井金属鉱業)を別会社とした。戦前は三井銀行・三井物産とともに三井の三本柱といわれたが，エネルギー革命におされ，わが国最大の埋蔵量を誇る三池鉱業所をもつ三井鉱山も膨大な赤字をかかえている。1959年から1960年にかけて会社の人員整理に反対し，全三井炭鉱労働組合連合会は大規模な合理化反対闘争を展開(三池争議)した。本社東京。1974年度の出炭量は2,030万t。資本金50億円，従業員数1,673(1980年9月)。

みついざいばつ　【三井財閥】　銀行・信託・保険から主要産業部門さらに商社まで備えた旧財閥のうち最大かつ最古の歴史をもつ総合財閥。明治新政府が樹立される過程で，三井家*が積極的な財政援助の見返りとして新政府の直接保護や官業の払い下げを受け，政商としての地位を獲得した。1876年(明治9)三井銀行・三井物産を設立，1888年三池炭鉱払い下げを受けて，1892年三井鉱山を創立，引き続いて紡績・製紙工場などを手に入れた。この間，2部(工業・地所)3社(銀行・物産・鉱山)制を確立して総合財閥としての多角化を進めていった。その後，日清(にっしん)・日露戦争を経て発展し続けた三井財閥は，1909年に時代の進展に対応して組織変更を行ない，三井同族11家を社員とする資本金5,000万円の三井合名会社を設立，この三井合名会社を持株会社*として三井財閥の基礎が確立されることとなった。第1次世界大戦後の不況，昭和恐慌の中においても着々と弱小企業を合併し，強大な独占体として発展を続け，日中戦争から太平洋戦争に至る期間には軍需工業方面にも進出を図った。第2次世界大

戦後，財閥解体によって解体されたが，終戦時の規模は直系・傍系・投資会社など151社，公称資本金の合計約30億円に達した。現在は三井系企業の社長会や三井銀行融資系列関係，株式の相互持ち合いを中軸とする三井グループが形成されているが，これは三井同族を中心とした資本の結合体としての旧財閥とはその性格をことにしている。〔原　豊〕

みついし　【三石】　岡山県の旧町名。県南東部，兵庫県との境に位置した。船坂峠の西麓(せいろく)にあって古くから山陽道の宿場町として知られてきた。現在は，ろう石と耐火れんがで知られ，ろう石は陶磁器原料として名古屋・東京方面への移出が活発。山陽本線・国道2号線が通る。1971年(昭和46)備前町と合体，備前市市制施行。

みついぞうせん　【三井造船(株)】　三井系企業の中心的な重工業メーカー。船舶のほか，産業機械・建設機械も手がける。1917年(大正6)三井物産の造船部としてスタート，1937年(昭和12)玉野造船所として分離独立，1942年現社名に改称した。1958年千葉に業界にさきがけて大形ドックを建設，1962年には日本開発機製造を合併，陸上部門を強化した。さらに1967年藤永田(ふじながた)造船を合併。第2次世界大戦前から定期大形高級船の建造で知られ，国内だけでなくヨーロッパの船主とも連携をもつ。千葉が超大形船・タンカー，玉野が超高速貨物船・特殊船舶，藤永田(大阪府)が中形船と，造船所ごとに分業体制を敷いている。本社東京。資本金303億円，年間売上高2,011億8,100万円，従業員数11,616(1980年9月)。

みついとうあつかがく　【三井東圧化学(株)】　三井系の総合化学会社。工業薬品・合成樹脂・肥料・農医薬などを生産，特に硫安・尿素の化学肥料生産は業界第1位。1968年(昭和43)三井鉱山を母体として発展した東洋高圧工業・三井化学工業の合併によって発足。東洋高圧工業は1933年三池炭鉱からのコークスを原料とする硫安製造会社としてスタート，三井化学工業は1941年三池炭を基礎原料にタール利用の化学会社として発足した会社で，両社の合併により生産規模の大形化，製品の多様化，研究開発が図られ，わが国の化学工業の各分野にわたって指導的地位に立つ総合化学会社となった。本社東京。工場は大牟田(おおむた)(福岡県)・名古屋・千葉・堺(さかい)(大阪)・尼崎(あまがさき)(兵庫県)・大竹(山口県)・砂川(北海道)など。資本金329億2,800万円，年間売上高4,058億7,400万円，従業員数7,684(1980年9月)。

みついはちろうえもん　【三井八郎右衛門】　(1808〜1885)　三井家13代めの当主。世襲の名八郎右衛門を継ぎ高福(たかよし)と名のる。幕末維新の大混乱期に，大富豪の総領として生まれ，時勢の見通しを誤ることなく，番頭三野村利左衛門の非凡な政治的



ミツガシワ

手腕に助けられ，新政府の資金調整に努め，太政官札(だじょうかんさつ)発行をはじめとして，新政府の財政基礎の確立に貢献，井上馨(いのうえかおる)・伊藤博文(いとうひろぶみ)・山県有朋(やまがたありとも)らと深く結びつき，次々と利権を入手して，政商として遺憾なく才腕をふるった。1876年(明治9)わが国初の民間銀行三井銀行を，さらに三井物産を興すなど，三井財閥形成の基礎を築いた。〔片岡一郎〕

みついぶっさん　【三井物産(株)】　わが国を代表する総合商社。取り扱い商品は多岐にわたるが，重化学工業品が中心で取扱高では業界第1位。1876年(明治9)わが国最初の商社として設立，三井財閥の中核として発展してきたが，第2次世界大戦後財閥解体によって百数十社の商社に分割された。1947年(昭和22)旧物産有志によって第一物産を設立，互洋貿易・三井木材・第一通商・日本機械貿易などを合併，1959年旧物産の不動産部門を受け継いだ三井物産と合併した。続いて1965年には木下産商を合併，現在では三菱(みつびし)商事と並ぶ二大商社となった。海外支店網が充実しており，海外事業所136，現地法人20社がある。また，鉄・銅鉱石，木材，石油資源などの資源開発に意欲的で，海外投資に積極的である。本社東京，国内事業所58。資本金487億1,900万円，年間取扱高11兆2,081億8,100万円，従業員数10,470(1980年9月)。

みついふどうさん　【三井不動産(株)】　三菱(みつびし)地所と並ぶわが国不動産業の代表的存在。1941年(昭和16)三井合名会社所有の不動産を母体にして三井11家の出資によって設立，1956年には財閥解体で清算中の三井本社を合併し，300年余にわたる三井の伝統を継いでいる。発足当時はビルと土地の賃貸・管理が主だったが，1957年には浚渫(しゅんせつ)・埋め立て事業を，1961年には宅地造成に進出した。東京・大阪・福岡など大都市中心に大規模なビルを所有し，その中の一つ霞が関(かすみがせき)ビル(地上36階，高さ147m)は超高層ビルのわが国における第1号として話題になった。本社東京。資本金152億6,100万円，年間収益1,503億2,700万円，従業員数939(1980年9月)。

みつおしえ　【蜜教】　鳥類・ミツオシエ科の総称。サハラ以南のアフリカに13種，ヒマラヤ山地に1種，マライ・スマトラ・ボルネオに1種，計15種があり，森林・樹上性である。全長は10〜20cm大。じみな羽毛をしている。これまで知られているかぎりどの種も託卵性で，キツツキ類・ゴシキドリ類・ムクドリ類に託卵する例が多い。ある種では雛(ひな)の卵歯が異常に鋭く，しかも長期間残っていて，宿主の雛をこの鉤(かぎ)状のくちばしでかみ殺して巣外に出すという特異な習性が知られている。さらにもう一つの特徴は，ハチの幼虫やさなぎを好んで食うアフリカの土民やミツアナグマをハチの巣に導き，巣が取り落とされて捨てられた残りのハチの巣を食う習性である。このとき，5〜6m先で尾を広げたり，声を出して目だつ動作をして，少しずつ巣に動物を案内し，その距離は500m程度であるという。この習性は2種類についてのみ確かめられているが，他の種類の消化管内にもハチの巣は見いだされ，しかもハチの巣を分解する消化管内バクテリアももっているという。〔浦本昌紀・安部直哉〕

みつかいどう　【水海道(市)】　茨城県南西部の市。人口41,000。江戸時代は鬼怒(きぬ)川水運の河港で，商圏は東方の筑波(つくば)山麓(さんろく)にまで及んだ。1954年(昭和29)市制施行。市名は，古代に坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)が東征の際，この地の井戸でウマに水飼いしたことから〈水飼戸〉と称したことにちなむといわれる。市域は関東平野のほぼ中央部，鬼怒川と小貝川にはさまれた沖積(ちゅうせき)低地に広がり，産業三大別人口比は32：30：38。周辺に穀倉地帯を控えて農産物の集散が盛んで，農産加工・紡織などの工場もあるが経営規模は小さい。関東鉄道常総線・国道294号線が通じ，東京方面への通勤者も増加している。法蔵寺には歌舞伎(かぶき)などで名高い累(かさね)の墓，弘経(ぐぎょう)寺には千姫の墓と遺品がある。北東郊の谷田部(やたべ)町には高層気象台があり，筑波研究学園都市の中心地に予定されている。

みつがしわ　【三槲】　双子葉植物・リンドウ科。山地の沼や湿地に自生する多年草。根茎は緑色で太く直径7〜10mm，横に長く伸びる。葉は長さ4〜8cm，幅2〜5cmの長楕円(ちょうだえん)形ないし卵状楕円形の小葉3枚からなる羽状複葉で，葉柄は長い。4〜8月，長さ20〜40cmの花茎を伸ばし，白色の5深裂した花を総状につける。葉はメリアチン・ゲンチアニンを含んで苦く，民間では健胃薬として用いる。

みっかはしか　【三日はしか】　はしかに似て発熱・発疹(はっしん)などをきたすが，はしかに比較して経過や症状が非常に軽く，3日くらいで治癒(ちゆ)するような，乳幼児に多い発疹性伝染病の俗称。古くから三日はしかといわれていたものの多くは風疹であるが，そのほか突発性発疹症やその他のウイルス性疾患(アデノウイルスやエコーウ

イルス感染症など)でも同じような症状がみられるので，これらも三日はしかといわれることが多い。➜風疹

みっかび 【三ケ日(町)】 静岡県引佐(いなさ)郡の町。人口16,000。浜名湖北岸に位置し，ミカン栽培の先進地として知られ，完備した農道，大規模な自動選果場などがあって見学者が絶えない。また三ケ日人骨*の出土地で，貝塚(かいづか)・古墳なども多く見られる。二俣(ふたまた)線・東名高速道路が通じ，三ケ日インターチェンジがある。

みっかびじんこつ 【三ケ日人骨】 静岡県引佐(いなさ)郡三ケ日町只木(ただき)の石灰岩採石場から発見された洪積世(こうせきせい)の化石人骨。いままで発見された三ケ日人骨は前頭骨2片，頭頂骨2片，左側頭骨1片，右腸骨1片，右大腿骨(だいたいこつ)1片の7片で，これらはいずれも保存状態が良好でよく化石化している。これらは，頭部が後面観で〈家型〉の輪郭をもった高い頭脳をもつこと，また眼窩(がんか)上平面を形成すること，さらには柱上大腿骨を有するなど，明らかに現世人類(ホモ-サピエンス)に普通にみられる特徴をもつ。日本列島の各時代人骨にその類似を求めるならば縄文(じょうもん)時代人の形質に最も近いものとされる。また，その特徴の一つは身長が低く，推定150㎝で，これは一般に低身長に属する縄文時代人よりもさらに低い。 〔河原純之〕

ミツキェービッチ [Adam Mickiewicz] (1798～1855) ポーランドの詩人。この国のロマン主義文学を代表する国民的文学者。学生時代に民族主義的な秘密結社を興し，ロシア官憲に逮捕され，数年をロシア各地で過ごすうちに，ルイレーエフをはじめとするデカブリストの詩人やプーシキン*らと親交を結び，革命意識を深めた。その後，西ヨーロッパに亡命，フランスではスラブ文学を講じたりしたが，やがて独立運動の闘士としてより実際的な政治運動に携わり，1855年クリミア戦争勃発(ぼっぱつ)に際して，反ロシアのポーランド解放義勇軍を組織しようとしたが，コンスタンチノープルでコレラに倒れた。代表作は，自由清新な民謡の調べを復元しロマン主義時代を開いた詩集《バラードとロマンス》，ロシアの風物に託して詩人の感懐をうたった《クリミア-ソネット》，夢幻とあこがれと愛国的モチーフのない交ざった詩劇《ジァードゥイ(父祖の祭り)》，叙事詩《パン-タデウシュ*》など。 〔米川和夫〕

みっきょう 【密教】 仏教の一流派。秘密仏教の略。仏の悟り*は言語や論理をこえたものであり，われわれの日常的な認識では獲得できるものではない。これは秘密である。この秘密の境地に直接はいっていこうとする仏教の運動を密教といい，彼らはそれまでの仏教の論理主義や実践を，日常的限界の下にあるものとして批判した。インドの密教家は，多くみずからを〈金剛(こんごう)大乗(バジュラ-マハーヤナ)〉と称し，従来の〈大乗〉の人々を一歩こえた意識を示し，中国においても，みずからを〈密教〉，従来の仏教を〈顕教〉とよんで区別した。これからもわかるように，密教は大乗仏教の実践と認識の継承的発展である。インド仏教の最終的発展段階として7世紀から8世紀にかけて大成され，以後1203年，インドに仏教が滅びるまでの間存続した。教義の上では，ブッダは歴史的ブッダをこえた，全宇宙の理念としての仏(法身(ほっしん)仏)を考え，すべての活動と存在はその現われであるとした。この仏を大日如来*という。次いで，その表現は全宇宙の活動と存在のうちにあるとし，それを図示したものを曼荼羅*(まんだら)と名づけ，この曼荼羅への思念・瞑想(めいそう)によっての成仏を示している。さらに仏の身(身体)・口(言語)・意(思惟(しい))の三つの活動力(三密)は，われわれ人間のそれと対応するものとみ，実践を通じて，有限なる人間と無限なる宇宙との一致を説く。このような，全身を貫く実践的指向が密教の最大の特色であり，さらに全宇宙の生命体を仏とみ，それとの一体を説く肯定的な世界観が，その哲学・認識論の特色であった。このような仏教思想史的特色は，さらにインドの伝統的宗教(バラモン教)の諸神や儀礼を取り入れることによってきわめて多彩な外形を繰り広げるに至った。種々の禅定(ぜんじょう)仏(瞑想の仏)，観音*その他の菩薩*(ぼさつ)，不動明王*などの多数の忿怒(ふんぬ)仏(明王*)などは，インドの諸神との融合のもとに密教の絢爛(けんらん)たる神殿を形成し，インド・チベット・中国・日本の仏教美術の一大潮流となった。

密教は7～8世紀に善無畏(シュバカラシンハ)・金剛智(こんごうち)(バジュラボーディ)・不空*らによって中国にはいり，9世紀初め空海*によって日本に伝えられ，真言宗*として大きな発展を示した。また，台密(たいみつ)の名において天台宗*にも密教が取り入れられたほか，日蓮宗(にちれんしゅう)・禅宗なども多かれ少なかれ密教の影響を受けている。チベットにも7世紀ごろからネパールを通じて密教が伝わり，モンゴルにもやがて伝播(でんぱ)し，ラマ教*の名のもとに今日まで，この地の仏教となっている。〔金岡秀友〕

みつくち ⇨兎唇(としん)

みつくりかきち 【箕作佳吉】 (1857～1909) 動物学者。美作(みまさか)(岡山県)津山藩の藩医の子として江戸に生まれる。慶応義塾(ぎじゅく)および大学南校(現在の東京大学)に学び，のちヨーロッパやアメリカ合衆国に留学，エール・ジョンズ-ホプキンズ・ケンブリッジの各大学で動物学を修めた。1881年(明治14)帰国後直ちに東京大学講師，翌年日本人として最初の動物学教授となった。日本における近代動物学の創始者として，後継者の育成と動物学の発展に寄与した。また三浦三崎の日本最初の臨海実験所の創設に尽力，初代所長をつとめた。研究業績中特に爬虫(はちゅう)類の初期発生の研究はすぐれ，またカキ・アコヤガイの養殖などにも寄与した。 〔中村禎里〕

みつくりりんしょう 【箕作麟祥】 (1846～1897) 法学者。美作(みまさか)(岡山県)津山藩出身。祖父阮甫(げんぽ)に蘭学(らんがく)を学び，蕃書(ばんしょ)調所の英学教授手伝並出役・開成所教授見習・外国奉行(ぶぎょう)翻訳御用頭取などを歴任後，1867年(慶応3)フランスへ渡る。帰朝後は明治政府の一等訳官，以後翻訳局長・民法編纂(へんさん)課長などを歴任，1887年(明治20)法律取調委員，民法典論争*後の1893年には法典調査会主査委員として旧民法・旧商法の編纂に参加した。他方，元老院議官・貴族院議員・行政裁判所長官などを歴任，また和仏法律学校(法政大学の前身)の校長などもつとめた。主著に《仏蘭西(フランス)法律書》《仏国常用法》などがある。 〔安達利夫〕

みつけ 【見付】 城門の俗称。城郭の出入り口の関門で，通行者の監視・検察にあたったのでこの呼称がある。本来は庶民や旅行者の通行の多い外郭の城門を意味したが，やがて内外の城門一般にわたってよばれるようになった。各見付には番所を置き，つねに番士(譜代大名の家臣)が詰めて警備にあたり，夜間は門扉(もんぴ)を閉ざして通行を禁止した。江戸城ではおもな城門を三六見付と総称した。現在も赤坂見付・市谷(いちがや)見付・四谷見付などの名称が地名として残っている。 〔高崎徳次〕

みつけ 【見附(市)】 新潟県中部の市。人口42,000。中世には上杉(うえすぎ)氏の出城が置かれ，江戸時代には村松藩領となり，幕末には堀氏三万石が領した。藩が奨励した〈見附結城(ゆうき)〉の特産が名高い。1954年(昭和29)市制施行。市域は新潟平野の南東部，信濃(しなの)川支流の刈谷田(かりやだ)川の渓口部(けいこうぶ)に位置し，南は長岡市，西は栃尾(とちお)市と接する。産業三大別人口比は14：50：36。周辺には水田が開け，県の穀倉地帯の一部を形成する。伝統の機業は先染化繊織物やメリヤスが主体で，シャツ・ブラウス地は全国消費量の半数近くを生産し，県立染織試験場がある。旧今町では醸造と毛筆製造などの在来工業が行なわれる。葛巻(くずまき)地区には日本有数の見附油田があり，1960年石油資源開発会社によって開発され，石油の年産は一時は21万7,700kl(1964)に達して日本一を誇ったが，現在は31,300kl(1970)に落ちている。市街地には長岡市から私鉄越後(えちご)交通が通じ，西方には信越本線・国道8号線が走る。

みつこし 【(株)三越】 百貨店業界一の老舗(しにせ)。1673年(延宝1)三井高利(たかとし)が創業した越後屋*(えちごや)が前身。1894年(明治27)三越呉服店として創立，1904年株式会社となる。昭和の初めにいちはやくチェーン百貨店としての店舗網をつくり，19

28年(昭和３)三越と改称した。店頭現金売り・定価販売の商法は当時としては画期的なものであった。古い伝統から堅実な経営方針に徹してきたが，流通業界の革新で最近は積極策が目だち，衛星都市への小形店の進出や，関係会社〈二幸〉を通じてのスーパーストアの経営などを行なっている。百貨店の信用度を示すといわれる商品券の売り上げは業界一を誇る。資本金216億9,100万円，年間売上高4,905億4,800万円，従業員数13,613(1980年８月)。

みつざきけんぎょう　**［光崎検校］**　(?～1853)　江戸末期，京都の箏曲(そうきょく)・地歌の音楽家。歴史的には，箏の独立性を高め，それにかなった形で新しい作品をつくった点が重要である。《五段砧*(ごだんぎぬた)》では，音域の高低が異なる２面の箏のみによる合奏を行ない，《秋風の曲》では，《六段の調べ》のような段物の器楽性を，昔の箏組歌(→組歌)の声楽性と接続して，三味線(しゃみせん)とは異なる箏の特色を再び取り出そうとした。〔徳丸吉彦〕

みっしょくさいばい　**［密植栽培］**　集約的な土地利用形式の栽培。水稲では移植の労力，気象条件などから3.3 m²あたり50株ぐらい植えつけられるが，早期または早まき・早植え栽培が普及するにつれ，70～80株になった。この場合，深耕・多肥などの条件を伴う。ミカンではいったん植えつければ慣行的に樹齢50年余も採果されるが，植栽株数をふやして計画的に密植すると，２～３年で収穫は３～５ｔに達する。しかし，樹齢は長もちせず，10年ぐらいで植え替える必要がある。密植の有利点を経営上に取り入れることは最近かなり盛んになってきた。中国の衛星田と称する多収穫栽培では，10アールあたり40,000株，32万本の水稲苗を作付けした例がある。〔金木良三〕

みつすい　**［蜜吸］**　鳥類・ミツスイ科の総称。オーストラリア区を中心に分布し，花蜜を主食とする類で，約170種からなる。オーストラリア区外に分布するものは，アフリカに２種，バリ島に１種のほか，小笠原(おがさわら)諸島のメグロがミツスイ科であるという報告があり，これに従うと計４種である。花蜜食性の鳥はハチドリ科・ハナドリ科・タイヨウチョウ科など，はでな美しい羽色のものが多いが，これらのものに比べ，ミツスイ科の鳥は全般にじみである。アフリカ産のオナガミツスイは尾が長く，全長45cm弱と特に大きいが，他のものは大きいものでも25cm大の中小形の鳥である。舌はくちばしの外に伸出できる構造であり，さらに舌先はブラシ状になっていて花蜜を吸うのに適している。〔安部直哉〕

みつだえ　**［密陀絵］**　密陀油(油に少量の密陀僧〔一酸化鉛〕を加えて煮沸した乾性油)に絵の具を混ぜたもの(密陀油が乾燥剤として働き，一種の油絵の具ができる)で描いた絵。漆器に用いられることが多く，



ミツスイ　エリマキミツスイ

漆芸の技法の一つとして知られている。この法は，中国，唐代から行なわれ，明(みん)代の遺品はわが国に数多い。わが国では桃山期から江戸初期にかけて流行し，白色が鮮明であるため世人に喜ばれた。

みつだそう　**［密陀僧］**　⇨リサージ

みつたにくにしろう　**［満谷国四郎］**　(1874～1936)　洋画家。岡山県の生まれ。小山正太郎の不同舎に学び，明治美術会で世に出た。1900年(明治33)フランスに渡り，翌年帰国後に同志と太平洋画会を創立した。1911年の再度のフランス行き後は官学様式から近代様式に転向，さらにしばしば中国に渡って独自の東洋的様式をつくった。1925年(大正14)帝国美術院会員となった。

ミッチェル　［Margaret Mitchell］　(1900～1949)　アメリカの女流小説家。ジョージア州アトランタの生まれ。はじめ医学を志してスミス-カレッジに学んだ。唯一の作品である《風と共に去りぬ》は，南北戦争とその後の再建時代を背景に，勝気ながら魅力的な女性スカーレット-オハラを中心とした人間群像を10年の歳月をかけて描いた長編小説で，世界的ベストセラーとなった。

ミッチェルリヒ　［Ernst Eilhard Mitscherlich］　(1794～1863)　ドイツの化学者。ハイデルベルク・ゲッチンゲン・ストックホルム大学などに学んだのち，1820年ベルリン大学教授。ローゼ(1795～1864)らとの共同研究により，結晶の同形律(異なる物質であっても，同じ結晶構造と結晶形を示し，混晶*をつくることのできる物質は，化学的構造も同じことが多いという法則)を発見。また元素の化学的類似性について研究した。鉱物の化学的基礎を築き，晩年には，検糖計を考案。

ミッチーナ　［Myitkyina］　ビルマ北部，イラワジ川上流右岸の都市。人口13,000(1953)。中国の雲南省境に近い。小汽船はイラワジ川をさかのぼってここまで航行でき，また首都ラングーンから北上する縦貫鉄道の終点である。チーク材の集散地として知られる。

みつでかえで　**［三つ手楓］**　双子葉植物・カエデ科。山地にはえる落葉高木で，庭園にも栽植される。春の紫紅色の若葉と，秋の紅葉を観賞する。葉は長い柄で対生する３出複葉。小葉は長さ５～７cm，幅２～３cm。卵状楕円(だえん)形で，先は尾状に鋭くとがり，縁にあらい鋸歯(きょし)がある。表面には粗毛が散在し，裏面脈腋(みゃくえき)に白毛がはえる。雌雄異株で，４～５月，今年伸びた枝に長さ５～20cmの総状花序を下垂し，黄色花を開く。果実は長さ2.5～４cmのかっ色の翼果で，翼は直角かやや斜開する。

みつど　**［密度］**　物質の単位体積あたりの質量。質量密度ともいう。一般には，ある量が空間・面上・線上に分布している場合に，その量が単位体積・面積・長さあたりにどれだけ含まれるかを示し，それぞれ体積密度・面密度・線密度とよぶ。空間に対する電荷，面積に対する人口の分布状態を表わす電荷密度・人口密度などはその例である。

ミッドウェー(島)　［Midway］　太平洋中央部，ハワイ諸島の北西約2,500kmにあるサンゴ礁の島。面積5,200 m²。島は低木におおわれ，潟湖(せきこ)には熱帯魚が泳いでいる。1859年ハワイ人の航海者ブルックスが発見したときは無人島であった。1867年以降アメリカ合衆国領。1903年合衆国海軍の補給基地が置かれ，1935年パンアメリカン航空のハワイ-フィリピン航路の補給基地が置かれた。第２次世界大戦中の1942年６月日本軍はこの島への上陸作戦に失敗し，付近の海域でミッドウェー海戦が行なわれた。〔大崎　晃〕

みつとうげやま　**［三ツ峠山］**　山梨県南部，御坂(みさか)山地の東部にあり，標高1,786m。北の御巣鷹(おすたか)山，中央の開運山，西の木無(けなし)山の３峰からなり，南面にはロッククライミングの練習で有名な屏風(びょうぶ)岩などの岩場や広い草原もあって変化に富んでいる。富士山と富士五湖の眺望(ちょうぼう)もすぐれ，東京から訪れるハイカーが四季を通じて多い。登山口は富士急行三ツ峠駅と御坂峠にある。

みつどこうか　**［密度効果］**　生物の生活のいろいろな面に対して，その生物の個体群密度(一定空間内の個体数あるいは生物質量)が及ぼす影響をいう。広義には，その生物種の密度が増すにつれてそれに対する他種の働きも増すようなもの(たとえば天敵の働き)をも含む。普通は最初に述べたような狭い意味に用いられ，自種個体群の密度が変わることによって，個体間の相互作用が感覚生理的・心理的に変わったり，食物栄養源その他の環境資源あるいは空間の利用に影響を及ぼし，その結果，個体の行動・形態・生理機能・生長，ひいては個体群の生長(増殖)などに変化が現われることをいう。

特に環境資源や空間の利用に不足が生じない程度の比較的低密度で，個体間の相互作用によって生ずるものをグループ効果と

いい，反対に環境資源や空間の利用に不足が生じて競争が起こるほどの高密度で生ずるものをこみ合い効果ということがある。グループ効果は，一定空間内に2個体以上の個体(多くは同種，まれに異種)がいっしょに置かれたときに，単独であったとき，あるいはより低密度であったときには見られない現象が生ずることをいい，こん虫でよく調べられている。たとえば単独に飼われたアワヨトウの幼虫の最終齢は黄色・緑色ないし赤かっ色の体色をもつが，グループにして多数飼育すると黒色になり，さらに単独飼育個体より活動的で，えさもより多く食い，生長も速くなることが知られている。またヨツモンマメゾウムシでは成虫に〈飛ぶ型〉と〈飛ばない型〉があるが，飛ぶ型は幼虫期に高い密度であったときに生じ，これはより多くの卵を産む。トノサマバッタの類でも密度が高いときと低いときとで行動や形態や生理機能の非常に異なるものが出現し，高密度のとき現われるものを群生相，低密度のとき現われるものは孤独相といっている。そしてこのような相や型が現われる現象を密度効果(グループ効果)に基づく相変異といっている。グループ効果が生じるのは個体間の視覚的・触覚的・化学的相互刺激によって神経内分泌系が変化するためだろうといわれている。

こみ合い効果は，密度の増加に伴って動物にとってのえさ，植物にとっての光その他生活に必要なものが不足し，生息空間が実質的に，また心理的に不良になることによって，個体の生長や個体群の増殖が妨げられることをいう。たとえば，一定空間内に置かれた生物の個体群の増殖率は個体群自身の大きさ(たとえば個体数ではかる)によって異なり，したがって時間とともに変わっていくのが普通である(個体群の大きさは一定空間内においては密度にほかならない)。生物の種によって増殖に最も適した密度が存在するが，この最適密度を越えると，一般に，密度が増すにつれて個体数増加がにぶっていき，その結果図のようなロジスティック曲線とよばれる生長曲線を描くことになる。これは出生率や死亡率が高い密度によって悪影響を受け，そのため増殖率が密度の増加とともに減るからである。このようなとき，密度効果(こみ合い効果)が増殖率に働いたという。こみ合い効果は個体群のふえ過ぎをおさえることに役だっている。

個体群の増殖率に対する密度のきき方にはドゥロソフィラ型・アリー型・中間型などといった型があり，種によって異なる。ドゥロソフィラ型は密度が高くなるにしたがって一方的に増殖率が下がるようなもので，アリー型は最適密度がかなり高い密度のところにあるものである。アリー型の生物は一般に密集してコロニー生活をしている種やいわゆる社会を高度に発達させている種に多い。

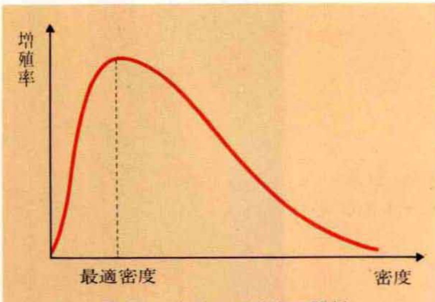


図-1　密度と増殖率の関係

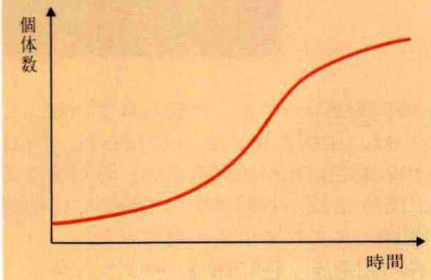


図-2　ロジスティック曲線

密度効果

増殖に対する密度効果の具体的な起こり方はさまざまである。アズキゾウムシなどでは高密度になるとおもに産卵数が減ることによって増殖率が下がる。これは産卵場所の取り合いや個体同士の衝突により産卵行動が妨げられるためだといわれている。個体の生長もその個体の属する個体群の密度によってしばしば大きな影響を受ける。たとえば，作物(植物)をあまり密植すると，ひよわな個体しかできないことはよく知られており，このようなことを避けるためには適当なまびきを行なわなければならない。

〔太田邦昌〕

みつどりゅう　**【密度流】**　⇨海流

みつば　**【三葉】**　双子葉植物・セリ科。山地にはえる多年草で，野菜としても栽培される。茎は直立し，高さ30～90cm。根出葉および下部の葉柄は長く，葉は先のとがった卵形で鋸歯(きょし)のある3小葉からなる。初夏，白色小花を散形花序につける。アジア全域，北アメリカ温帯に自生し，わが国では18世紀ごろから栽培している。特有のかおりを有するが，セロリほど強烈でなく，日本料理に適し，しるの実や浸し物として利用する。冷涼な気候を好み，春から秋にかけて適時播種(はしゅ)でき，また，葉柄部を軟化して白く仕上げる栽培法もある。

〔松本正雄〕

みつばうつぎ　**【三葉空木】**　双子葉植物・ミツバウツギ科。山地に普通な落葉低木。幹は高さ2mぐらいになり，よく分枝する。葉は2～4cmの柄で対生する3出複葉。小葉は長さ3～7cmの卵形で，先はとがり，縁に細鋸歯(さいきょし)がある。5～6月ごろ，枝先に円錐(えんすい)花序をつけ，長さ7～8mmの白色の花を開く，がく・花弁ともに5枚で同形・同色。おしべ5本とめしべ1本がある。果実は径2.5cmぐらいの膜質で扁平(へんぺい)な軍配形をした蒴果(さくか)で，2室に分かれ，実の上部は矢筈(やはず)のようになっていて，熟すと上部が広く裂ける。若葉は食べられる。

みつばち　**【蜜蜂】**　こん虫類・膜翅(まくし)目・ミツバチ科・ミツバチ属の総称。代表的なものは，オオミツバチ・コミツバチ，東洋種(野生の日本亜種を含む)・西洋種の4種で，このうち，日本で見られるのはあとの2種類である。しかし，一般にミツバチといえば世界各国で広く飼養されている西洋種をさし，これには多数の品種があるが，黄色系のイタリア，黒色系のカーニオラン・コーカシアンなどが著名である。ミツバチには雌性の女王バチと働きバチ，雄性の雄バチの3型があり，女王バチは大形で体長20mm内外，腹部が特に肥大している。働きバチは体長12～15mm，全体かっ色の軟毛でおおわれている。雄バチは，働きバチよりひとまわり体が大きく，複眼も大きいが，動作は鈍い。

ミツバチは社会性こん虫で生活には規則正しい分業がみられる。その生活を営む単位を群とよび，1群の総数は5,000～40,000くらいである。その中には女王バチが1匹と，春の繁殖期にだけ雄バチが数百匹おり，その他はすべて働きバチである。ミツバチの巣の内部は一年じゅう，30～32℃の定温状態であり，女王バチは六角形の巣部屋(すべや)の奥壁の中央に卵を1個産む。春の産卵盛期には1日に2,000卵，また，1年間では計20万個も産卵する。巣部屋は3種類あり，働きバチの育児室は六角形で小形，また雄バチが育てられる巣部屋はこれより一まわり大きい。この両巣部屋は水平方向に積み重なっている。新女王バチが生育する巣部屋(王台)は大形で，初期の杯形から楕円(だえん)形に増大し，巣から下向きにぶら下がってつくられる。雌性ミツバチは有精卵，雄性は無精卵から生まれる。卵は乳白色，バナナ形。卵期間は3型とも3日間。幼虫は乳白色のうじ虫。幼虫期間は6日間で，女王うじが少し短い。さなぎは初期には乳白色。末期には成虫と似た体形となる。さなぎ期間は女王バチが7日間で最も短く，働きバチは12日，雄バチは15日である。ミツバチの幼虫のえさは蜂蜜でなく，王乳(ローヤルゼリー)である。女王バチうじに与えられる王乳の量はつねに多く，王台内部の天井にたくわえられる。働きバチや雄バチには少量の王乳のほか，末期には花粉も混入される。新女王バチは羽化後，約10日で多数の雄バチを伴って結婚飛行し，空中で交尾したのち巣にもどってまもなく産卵を始める。その直前に，親の女王バチは半数くらいの働きバチといっしょに巣分かれ(分封)をする。雄バチは結婚飛行が唯一の仕事で，巣内のことはなにもしないため，夏

の終わりから秋に働きバチにより巣から追い出されてしまう。働きバチは羽化後約2週間は巣内の仕事をする(内勤バチ)。最初は，口から王乳を吐き出して幼虫を養う乳母(うば)バチの役目をし，その後は腹部の裏側から分泌される蠟片(ろうへん)を材料として巣づくりをする。羽化後2週間で外勤バチとなり，花を訪れて花蜜や花粉を集め，巣へ持ち帰って巣板の上で収穫ダンスをする。働きバチのダンスは花のありか(方向と距離)を知らせる仲間への合い図である(ミツバチのことば)。働きバチの寿命は普通は1か月，冬は約半年。これに対し，女王バチは2～3年，雄バチは約1か月。

〔蜂蜜〕 働きバチが花から集めた花蜜を蜜胃の中にためて巣へ運び，巣部屋の中で貯蔵した液体。諸外国ではアリマキが分泌する糖類からできるものも蜂蜜に含めている(甘露蜜)。蜂蜜は，花の種類によって，色・かおり・味などが違い，たとえばレンゲ蜜・ナタネ蜜などの黄色から，ソバ蜜の黒かっ色などさまざまである。pHは3～5。日がたつと結晶して乳白色に固まる。成分は，水分が20%内外。ブドウ糖35%，果糖37%，ショ糖などが4%あり，非常に甘く，栄養分に富む。微量成分には鉱物質(鉄・銅・マグネシウムなど)0.1%，アミノ酸類・酵素類・ビタミン類(B_1，B_2，B_6，B_{16}，C，K)などがある。蜂蜜の特殊性は古くから認められ，食用(生食・菓子・ジュース)，薬用(皮膚のあれ止め，やけど，ドリンク剤)，化粧用(クリーム・せっけん)，蜜酒の原料などにされる。〔岡田一次〕



ミツバチ ①女王バチ(中央) ②雄バチ ③働きバチ ④王台と働きバチ ⑤巣 ⑥分封

みつばちマーヤのぼうけん **【蜜蜂マーヤの冒険】** ボンゼルス*の代表的物語(1912)。ミツバチのマーヤが外の世界に出て，カブトムシ・トンボ・クモなどいろいろな虫たちに出会い，さまざまな経験をしたのち，最後にクマバチの襲撃から仲間たちを救うという話。詩的な自然描写の中に，小さな動物たちの姿を借りて巧みに風刺を取り入れ，世界の少年少女に親しまれている。

みつばつつじ **【三葉躑躅】** 双子葉植物・ツツジ科。本州中部の山地に自生する落葉低木で，庭木としても栽培される。茎は高さ2mほどになり，枝は車輪状に出る。葉は花後に伸び，枝先に3枚が輪生し，長さ5～7cmの菱(ひし)状広卵形。若葉のときには裏側に強く巻いて直立し，両面に腺毛(せんもう)が密生して著しく粘つくが，のちにはほとんど無毛となる。4月ごろ，葉に先だって枝先に紅紫色花を横向きにつける。花冠は径3～4cmの漏斗状で，先は5深裂し，おしべ5本。花糸・花柱ともに無毛で，子房には密に腺点がある。果実は長さ1cm内外の卵状楕円(だえん)形の蒴果(さくか)。



ミツバツツジ

みつびしかせいこうぎょう **【三菱化成工業(株)】** わが国の代表的総合化学会社。三菱系化学会社の中核的存在でもある。1934年(昭和9)に三菱鉱業と旭硝子(あさひガラス)の共同出資によって設立。当初は日本タール工業を名のり，1944年旭硝子と合併したが，第2次世界大戦後分離し，1950年現社名で再発足した。アルミ・合成樹脂・火薬・染料・硫安・コークス・医薬品・カーバイドなど多角的経営を展開している。アジア石油(株)の株式を過半数取得して石油化学の原料分野に進出，さらに日本合成ゴム(株)への資本参加で，合成ゴムへの進出に意欲的である。本社東京。工場は黒崎(福岡県)・四日市(三重県)・直江津(新潟県)・水島(岡山県)・坂出(さかいで)(香川県)など。資本金503億6,600万円，年間売上高6,586億6,600万円，従業員数8,040(1980年7月)。

みつびしぎんこう **【三菱銀行(株)】** 三菱系企業集団の中核体。1895年(明治28)に三菱合資会社銀行部が開業，それ以前からすでに三菱財閥によって経営されていた第百十九国立銀行を吸収，三菱財閥直属の金融機関として活動，この事業を継承して1919年(大正8)に三菱銀行が設立された。1929年(昭和4)森村銀行，1940年金原銀行，1942年東京中野銀行を買収，1943年第百銀行を合併，1948年には千代田銀行と改称したが，1953年現行名に復した。店舗数国内199，海外支店7。本店東京。資本金891億円，預金高10兆7,873億9,200万円，従業員無17,159(1980年9月)。

みつびしこうぎょうセメント **【三菱鉱業セメント(株)】** 1918年(大正7)高島炭鉱・尾去沢銅山を傘下(さんか)にもつ三菱合資会社鉱山部を分離して設立。1950年(昭和25)に太平鉱業(現三菱金属)を分離したのをはじめ，兼業のセメント・製塩なども子会社にゆだねてきた。1969年8月からは石炭部門を分離，三菱高島炭鉱・三菱大夕張炭鉱として独立させ，今後は石炭販売・石油・建材の3本立ての予定。また，三菱グループと組み，石油・原料炭・ウランなどの資源開発を計画している。本社東京。資本金189億2,600万円，年間売上高2,158億8,300万円，従業員数2,078(1980年9月)。

みつびしざいばつ **【三菱財閥】** わが国の代表的な総合財閥。銀行・信託・保険から重化学工業・運輸・商社までを備え，その規模は三井財閥*に次ぐものである。しかし，そ

の歴史は比較的新しく,1870年(明治3)土佐藩が藩営商社大阪西長堀(にしながほり)商会を,土地・建物・汽船3隻とともに岩崎弥太郎*(やたろう)に払い下げたことに始まる。岩崎はこれを土佐開成商社と名づけて海運業を営み,事業範囲の拡大に伴い,1873年三菱商会,1875年三菱汽船会社,さらに同年郵便汽船三菱会社と改称し会社形態をとった。やがて岩崎は三井と同様に明治新政府に協力してその軍事輸送に携わり,海運保護政策による内外航路の独占的経営の利益をほしいままにしたが,他方,1873年ごろから鉱山業・保険業に進出,1887年には政府から長崎造船所の払い下げを受け,傘下(さんか)事業を多角的に拡大していった。こうして,1893年三井合名会社に比べてより法人的性格の強い三菱合資会社が設立された。1895年合資会社内部に三菱銀行の前身たる銀行部が設置され,明治末年までに三菱財閥の基礎が構築された。第1次世界大戦・昭和恐慌の激動期にもその独占的な支配力を強化・発展せしめた三菱は,満州事変以降の軍事経済化に対応して軍需工業部門を急速に拡大し,1934年(昭和9)にはその中核企業たる三菱重工業を設立した。第2次世界大戦後の財閥解体によって解体されたが,組織の三菱としての伝統は生き残り,旧三菱グループの結束は堅く,3社に分割された三菱重工業は合併により再び力を結集し,わが国のみならず世界の代表的重工業企業として君臨している。〔原　豊〕

みつびしじゅうこうぎょう　【三菱重工業(株)】　わが国屈指の総合重工業会社。世界最大のタンカー,原子力発電設備,各種機械プラントから航空機・乗用車・ルームクーラーに至るまで多岐にわたり,未来産業である宇宙開発・海洋開発・公害対策にも積極的に取り組んでいる。1887年(明治20)三菱財閥*が官営長崎造船所の払い下げを受け重工業に乗り出したのがはじまり。1917年(大正6)に三菱合資会社から造船部門が独立,1934年(昭和9)三菱航空機を合併,社名を三菱重工業と改称,軍需企業として活躍した。第2次世界大戦後,三菱日本重工業・新三菱重工業・三菱造船に三分割されたが,1964年に合併,再発足した。資本自由化に備え,1970年自動車部門を分離,アメリカ合衆国のクライスラー社との合弁会社三菱自動車工業を設立した。本社東京,工場は長崎・広島・三原(広島県)・神戸(こうべ)(兵庫県)・名古屋(愛知県)・横浜(神奈川県)などにある。資本金1,188億円,年間売上高1兆3,493億円,従業員数58,897(1980年10月)。

みつびししょうじ　【三菱商事(株)】　わが国最大の総合商社。1918年(大正7)三菱合資会社の商事部門が独立,三菱財閥*を背景に三井物産と並ぶわが国の代表的貿易商社に成長。1947年(昭和22)財閥解体により約140社に分割されたが,1950年に第2会社光和実業として再出発し,1952年三菱商事の名を復活,1954年には不二商事・東京貿易・東西交易など旧商事グループ各社と大合同した。取扱高の内容は金属・機械・化学品・食料・繊維・燃料・資材など多岐にわたるが,特に重化学工業部門のウエートが70%を占めるのが特色。従来は三菱グループの商業部門的存在だったが,資本自由化に伴う国際経済体制への確立から三菱グループのリーダー格の役割を果たしている。本店東京,国内支店52,海外支店57,ほかに海外現地法人19。資本金575億円,年間売上高12兆668億円,従業員数10,413(1980年9月)。



ミツマタ

みつびしでんき　【三菱電機(株)】　1921年(大正10)三菱造船の神戸(こうべ)電機製作所を分離し,アメリカのウェスチングハウス社と提携して設立。カラーテレビから原子力機器まで手がけるわが国の代表的総合電機メーカー。各種の産業用電子機器部門では高い市場占拠率を有しており,特に防衛電子機器・宇宙通信機器・電子部品などに特色がある。本社東京。工場は神戸・伊丹(いたみ)(ともに兵庫県)・長崎・名古屋(愛知県)など。資本金738億2,200万円,年間売上高1兆754億4,600万円,従業員数48,738(1980年9月)。

みつぼし　【三ツ星】　オリオン座の中央部に,ほぼ1.5°の間隔を置いて1列に並ぶδ・ε・ζの3個の2等星をいう。付近は散光星雲M-42(オリオン座の大星雲)や暗黒星雲(馬頭星雲)がある。

みつまた　【三椏】　双子葉植物・ジンチョウゲ科。中国原産の落葉低木で,日本には古く渡来し,暖地では野生化している。高さ2mほどになり,枝はふつう3分枝し,樹皮は茶かっ色。葉は互生し,長さ10～15cm,幅3cm内外の長楕円(ちょうだえん)状披針(ひしん)形で,先はとがり,表面は緑色,下面は灰白色。晩秋の落葉のころ,枝先につぼみをつけ,3～4月に葉に先だって黄色小花を開く。花は径3～5cmの球状花序になり,小花は花弁がなく,がくは長さ7～14mmの筒状で,先は4裂し,内面は黄色で外面は細毛を密布する。おしべ8本とめしべ1本をもち,花柱は細長く花外に超出する。果実は痩果(そうか)。樹皮の繊維は和紙原料として古くから利用され,繊維はコウゾよりも短いが漉(す)きやすい。

みつまたれんげだけ　【三ッ俣蓮華岳】　北アルプスのほぼ中央にある山。標高2,841m。長野・富山・岐阜3県の県境に位置し,黒部(くろべ)川・高瀬川・神通川支流の高原川が発している。立山連峰と後立山連峰と槍(やり)・穂高連峰の三つの尾根の会合点にあたり,北アルプス縦走路の中心になっている。頂上から北東へ下って三俣山荘があり,夏山には救護所が開設される。登山路は,大町市葛(くず)温泉から烏帽子岳(えぼしだけ)・野口五郎岳経由のコースと,槍ケ岳からのコースがとられる。〔高野　繁〕

みつまめ　【蜜豆】　約1.5cm角に切った寒天*と,塩ゆでにしたアカエンドウ,短冊(たんざく)形に切った求肥*(ぎゅうひ)を混ぜ,糖蜜*(とうみつ)を掛けた甘味食品。餡蜜(あんみつ)・フルーツ蜜豆・クリーム蜜豆などがあり,明治中期ごろ創製されたといわれる。

みつみねさん　【三峰山】　埼玉県西部,東京都との県境近くに南北に連なる妙法ケ岳(1,332m)・白岩山(1,921m)・雲取山(2,018m)の3峰の総称。狭義には三峰神社*の社地のある妙法ケ岳をいう。山麓(さんろく)から神社の近くまでロープウエーが通じ,また,二瀬ダムから約3kmほど上ったところから神社のすぐ下までは三峰観光道路(有料)も通じていて,訪れるハイカーも多い。

みつみねじんじゃ　【三峰神社】　埼玉県秩父(ちちぶ)郡大滝村三峰にある。祭神は伊弉諾神(いざなぎのかみ)・伊弉冉神(いざなみのかみ)。社伝によると,景行天皇の41年ヤマトタケルノミコト*が東征の途次この山に登り,仮殿を営んでイザナギノカミ・イザナミノカミの2神を祭ったのに始まるという。のち山岳修験道場として本地仏が置かれ,文亀(ぶんき)年間(1501～1503)行者道満によって繁栄をきわめ,天台修験の本山となった。例祭は4月8日。〔佐野文哉〕

みつめんこもり　【三つ面子守】　日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《花蝶東籬妓(はなにちょうまがきのうかれめ)》という五変化の一(→変化物)。津打治兵衛(じへえ)作詞,名見崎徳治作曲。1829年(文政12)初演。子守娘がおもりの合い間に手まりをついて遊ぶが,むずかる子のきげんをとるため,おかめ・えびす・ひょっとこの三つの面をかぶり踊って見せる。その技巧が見どころ。

みつゆびかもめ　【三趾鴎】　鳥類・カモメ科。中形のカモメで,全体に灰白色。飛翔(ひしょう)中は翼の先の黒色の三角形が目だつ。カモメ類の多くのものは平坦(へいたん)な場所で営巣するが,本種は北太平洋の海岸や島の断崖(だんがい)の岩棚(いわだな)に営巣する。冬季は日本近海にまで南下するが,外洋性で沿岸部には多くない。夏季,北海道の知床(しれとこ)半島の崖(がけ)に未繁殖の若鳥が多数生息している。→次ページ(写真)

みつろう　【蜜蠟】　王ろうともいう。ミ

ツバチの腹部にあるろう腺(せん)から分泌され，ミツバチの巣の主成分をなす。主としてセロチン酸ミリシル・パルミチン酸ミリシル・ピポゲイン酸ミリシルなどのエステルの混合物からなり，黄かっ色で，精製脱色したものは白色である。融点は59〜66℃。比重約0.96。光沢剤・化粧品・ろうそく，模型の製造などのほか，薬用としても用いられる。

みていけいすうほう【未定係数法】たとえば，〈ある三次式 $f(x)$ を $(x-1)^2$ で割ったら，商が $x+1$ で余りが $x+2$ になったという。この三次式を求めよ〉という問題で，

$$f(x)=Ax^3+Bx^2+Cx+D$$

と置けば，所与の条件から次の式がつくられる。

$$Ax^3+Bx^2+Cx+D=(x+1)(x-1)^2+(x+2)$$

そして，これが恒等式であることから A，B，C，D の値を定めることができる。このように，ある整式 $f(x)$ を定めるのに，未定の係数 a_0，a_1，……，a_n を用いて，まず

$$f(x)=a_0x^n+a_1x^{n-1}+\cdots\cdots+a_n$$

と表わしておき，所与の条件から未定の係数の値を定める方法を未定係数法という。

上例の場合に未定の係数を定めるには，右辺を展開整理して，両辺の対応する係数および定数項がそれぞれ等しいことを利用する係数比較法と，x に 0，1，−1，−2 などを代入して，A，B，C，D についての連立方程式をつくってこれを解く数値代入法とがある。〔菊池兵一〕

みと【水戸(市)】茨城県中部，県庁のある市。人口21万3,000。鎌倉時代に大掾資幹(だいじょうすけもと)が築城し，文禄(ぶんろく)年間(1592〜1596)佐竹氏によって城下町の基礎が築かれた。1609年(慶長14)徳川頼房(よりふさ)が封ぜられて以来，江戸時代を通じて徳川御三家の一つ水戸藩三十五万石の大城下町として発展した。明治以降は，県の政治・経済・文化の中心都市となり，1889年(明治22)市制施行。市名は古くから水路の要津で，水門(みと)とよばれたことにちなむといわれる。市域は関東平野の北東部，那珂(なか)川下流流域に広がり，市街地は那珂川と千波湖の間の細長い台地上上市とその南東方の低地下市に分かれる。江戸初期に上市と下市を双子(ふたご)町とした都市づくりが行なわれ，上市には水戸城と武家屋敷，下市には藩主から独占商業権を与えられた問屋が本町通りに問屋街をつくり，浜街道と那珂川の水運に恵まれて，市場町・河港として栄えた。産業三大別人口比は9：22：69。近代工業は未発達で，商業・観光を主とした消費都市的性格が強い。上市東部には，官庁・学校・会社などが集中し，繁華街が発達する。下市には商店街のほか，たばこ工場・醸造工場・製粉工場などがあり，特産品の農人形・梅ようかん・水府うちわ・


ミツユビカモメ

水戸納豆などの製造も行なわれる。茨城(いばらぎ)大学のほか2私立短大があり，最近は西部の赤塚(あかつか)方面へ住宅地が広がる。常磐(じょうばん)線から水郡線を分岐し，国道6号線・同水戸バイパス・50号線・51号線・123号線が集まり，周辺の各都市との間にバス路線が発達する。東部には水戸城跡，徳川斉昭(なりあき)が設立した藩校弘道館(こうどうかん)・孔子廟(こうしびょう)があり，西部には日本三名園の一つで梅の名所として知られる偕楽園(かいらくえん)，千波湖などがある。〔浅井得一〕

ミード［George Herbert Mead］(1863〜1931) アメリカ合衆国の哲学者・社会心理学者。マサチューセッツ州の生まれ。デューイとともにシカゴ学派を形成し，民主主義社会とはすべての構成員がそれぞれ知見を交換し，おのおの社会的統制過程に参加することによって，その天分を伸ばし成長していく社会であると説いた。また社会心理学の立場から自我の構造を分析し，社会的行動主義とよばれる立場を打ち立てた。論文集《現在の哲学》などがある。

ミード(湖)［Mead］アメリカ合衆国西部，コロラド高原にある湖。1936年コロラド川に建設したフーバー-ダムの堰(せき)止めによってできた。人造湖では世界一といわれる。面積640km²。ネバダ・アリゾナ両州の州境をなし，水はおもにカリフォルニア州に送られて，発電とカリフォルニア南部の灌漑(かんがい)に使われている。上流には有名なグランドキャニオンがある。

みどうかんぱくき【御堂関白記】藤原道長の日記。《入道殿御暦》《御堂御日記》などの別称がある。36巻。998年(長徳4)〜1021年(治安1)の記録を変体漢文で記載。当時の政治上の重要事，有職(ゆうそく)故実・儀式典礼上に貴重な史料であるとともに，摂関政治の極盛期を現出した道長その人の日記であることにも興趣がそそられる。書道史的価値もある。

みどうすじ【御堂筋】大阪市の中心部を南北に走るメインストリート。北の梅田から南の難波まで長さ約4km，幅43m余の近代的道路で，高速・緩速の道路を区切るイチョウの街路樹が美しい。沿道には中之島・船場・島之内などの繁華街があり，銀行・商社の高層ビルが立ち並ぶ。地名は道筋に北御堂(西本願寺別院)・南御堂(東本願寺別院)があることにちなむ。

みとがく【水戸学】江戸時代に水戸藩において成立し大成された学問。広義には徳川光圀(みつくに)に始まる《大日本史》の編纂(へんさん)を通して展開された学問全般をさし，狭義には幕末の徳川斉昭(なりあき)の《弘道館記(こうどうかんき)》に表われた精神に基づく学問大系をいう。また狭義のそれを後期水戸学と称し，それ以前のものを前期水戸学と分ける場合もある。前期水戸学は《大日本史》の編纂の過程に人倫の道を明らかにし，皇室の尊厳を説き，後期水戸学はそれを政治上に実践しようと試みた政教学である。ここには朱子学を中心に陽明学・国学・神道(しんとう)などの要素もみられる。この学問は幕末の志士に大きな影響を与え，尊王攘夷(じょうい)運動の理論的支柱となった。主要な学者として安積澹泊(あさかたんぱく)・藤田幽谷・藤田東湖・会沢正志斎がいる。〔熊谷保孝〕

みとこうもん【水戸黄門】⇨徳川光圀(みつくに)

ミトコンドリア ⇨細胞

みとはん【水戸藩】常陸(ひたち)(茨城県)水戸地方を領した藩。御三家の一。江戸初期には，佐竹義宣(よしのぶ)・武田(たけだ)(松平)信吉(のぶよし)，次いで徳川家康(いえやす)の第10子頼将(よりまさ)(頼宣)が在封したが，1609年(慶長14)第11子頼房(よりふさ)が常陸下妻から転封し，頼房を藩祖として，以来11代世襲して廃藩置県に至った。その領地は大部分常陸国内で，はじめ二十五万石，3代綱条(つなえだ)のとき三十五万石となった。藩主は定府(じょうふ)といってつねに江戸に居住し，江戸小石川に上屋敷があった。後楽園はその庭園として有名である。2代光圀(みつくに)は，天下の副将軍水戸黄門として知られ，《大日本史》の編纂(へんさん)に着手し，水戸学創始の名君といわれた。6代治保(はるもり)は，藩政改革に意を注ぎ，藤田幽谷らによる農村振興，攘夷(じょうい)論の提唱などを行なった。9代斉昭(なりあき)は，幽谷の子藤田東湖・会沢正志斎らを用いて藩政改革を行ない，弘道館(こうどうかん)を設け，尊王攘夷論者の中心的存在となった。幕末には天狗(てんぐ)党・諸生党に藩論が分かれ，桜田門外の変・天狗党の乱を起こした。〔岡山泰四〕

みとみきゅうよう【三富朽葉】(1889〜1917) 詩人。本名義臣(よしおみ)。長崎県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒業。在学中に人見東明らと自由詩社を興し，その機関誌《自然と印象》に作品を発表。フランス象徴主義の詩人に傾倒し，ボードレール・マラルメ・ランボーらの作品を翻訳するとともに口語自由詩を書いた。《三富朽葉詩集》がある。

みとめいん【認め印】実印でない個人の印章。市町村長などに届けないので印鑑証明がとれず実印ほど重んじられないが，押印の法律上の効力は実印と同じである。

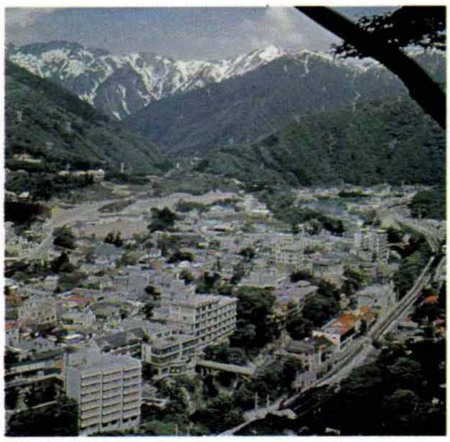
ミトラ ［Mithra］ ペルシアに発し，小アジアを経てヨーロッパに至り，ローマ帝政末期に最も栄えた密儀宗教の神。BC2000年ごろすでに太陽神としてアーリア人に信奉されており，一時ゾロアスター教により克服されたが，その後アナヒタなどとともに復活，1世紀末にはローマ，ドナウ川・ライン川流域を中心に急速に広まり，キリスト教の最大の強敵として最後の勝利を争ったが，キリスト教に帰依する皇帝の出現とともに迫害を受け，すみやかに消滅した。〔牧野信也〕

みどりいし 【緑石】 腔腸(こうちょう)動物・花虫類・ミドリイシ科。群体は平たくなってテーブル状になり，表面には数センチメートルの長さの枝が一面に突出する。日本南部のサンゴ礁に最も普通の種である。➔テーブルサンゴ

みどりかみきり 【緑天牛】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。体長12～22mm。体は美しい緑色で金属光沢に富む。触角および脚は青藍(せいらん)色，体の下面は白色の微毛が密生する。体は細長く，前胸背板には多数の横じわがあり，その両側中央部に円錐(えんすい)状の突起がある。日本全国のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・中国に広く分布し，成虫は5～8月に発生してバラ科植物の花などに好んで集まる。幼虫は，クリ・トドマツなどの伐採木の枝幹部に穿孔(せんこう)加害する。

みどりざる 哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オナガザル科。体色は灰緑がかった黄色で，顔は黒く睾丸(こうがん)は青い。サバンナモンキー・ベルベットモンキーともいい，アフリカのサバナに広くすみ，10～50頭の群れをつくる。雑食で草の根・果実・葉などのほかこん虫・小動物も食べる。近ごろは，実験動物としてポリオワクチンの検定に使われ重要である。日本の動物園に普通にみられる。➔オナガザル

みどりしじみ 【緑小灰蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科。翅(はね)を広げた長さ37mm内外。雄の翅表は金属光沢のある緑色で，前後翅とも外縁部が黒く縁取られる。雄は多型で，黒かっ色で無紋のもの，前翅基部に青紫色紋のあるもの，前翅中央に橙色(とうしょく)紋のあるもの，青紫色紋と橙色紋が同時に現われるものの4型が知られ，遺伝子の支配を受けていると考えられている。裏面は赤かっ色で後翅にはW字形の白帯があり，後角部には橙色の斑紋(はんもん)がある。成虫は年1回，暖地では6月，寒地では7月に出現し，湿原・湖畔などのハンノキ林に多産する。卵で越冬し，孵化(ふか)した幼虫は糸を吐いて若葉をつづり，その中に潜む。日本全土に産するが暖地ではまれである。国外では中国・朝鮮・アムール川流域地方・サハリン(樺太(からふと))に分布する。日本にはこのほかミドリシジミと名のつく種類が13種知られ，クロミドリシジミを除いて雄はいずれも緑色で，小形だが美しい。〔多々内修〕



水上温泉 利根川上流の川沿いにできた水上温泉の温泉街。北の新潟県境にそびえる谷川連峰は，まだ雪を残している

みどりのハインリヒ 【緑のハインリヒ】 G.ケラー*の長編小説(初版1853～1855年,改作版1879～1880年)。画家志望の主人公ハインリヒ・レーが，19世紀前半のスイス・ドイツの市民社会を背景に，さまざまな人生経験を経て，健全な労働精神を体得し，すぐれたひとりの人間として発展していく過程が，写実的にみごとに描かれている。19世紀ドイツ教養小説*の傑作。

みどりむし 【緑虫】 原生動物・有色鞭毛虫(べんもうちゅう)綱・ミドリムシ科。ユーグレナともいう。長い1本のべん毛をもって運動する。体は単細胞で，べん毛の基部付近にまっかな眼点がある。細胞内には楕円(だえん)形の緑色素体が多く含まれており，同化能力をもっているので植物とされる場合も多い。核は中央に1個ある。たまり水や池・沼などに多くみられる。池などでまれに大繁殖して水を緑色に変え，水の華(はな)とよばれることもある。海産の近似種では赤潮の原因となり，有害生物として知られているものもある。〔向井 宏〕

ミドル-クラス ［middle-class］ 中産階級・中間階級・中間層などと訳される。その意味内容は，歴史とともに，またこれを問題とする学問領域の違いにより一様でなく，上記訳語も混同して使用されている。ミドル-クラスということばは，まず中世封建社会における貴族・僧侶(そうりょ)に対置され，資本主義成立のにない手となった第三身分としてのブルジョアジー*という意味をもっている。さらに，資本主義社会の展開とともに生起したブルジョアジーの分解によって，従来の中産階級(たとえば，産業資本家・小農)とは区別されるものとして登場してきたホワイトカラー*が，新中間層としてミドル-クラスの範疇(はんちゅう)でとらえられる。また政治学の領域では，あるヒエラルキー*の中間に位置し，権力志向的な政治意識・行動様式をもった階層をミドル-クラスという。地域社会の顔役，工場の職長といった人々がそれである。彼らはみずからと日常的利害関係にある庶民とを掌握しつつ，ヒエラルキー総体の安定化に寄与するのである。〔小林宏一〕

みなかたくまくす 【南方熊楠】 (1867～1941) 生物学者・民俗学者。和歌山県の生まれ。1884年(明治17)第一高等中学中退後，1886年アメリカ合衆国に渡り，一時ランシング大学に籍を置いたが，ほとんど苦労して独学し，メキシコ・キューバなどを回ったのちイギリスに渡り，ロンドン学会の天文学懸賞論文に第1位となって認められ，大英博物館の東洋文献資料整理の職を得，粘菌類の研究に着手し，かたわら日本の古典の英訳紹介も行なった。1900年に帰国，和歌山県田辺(たなべ)町(現田辺市)に住んで菌類の採集につとめ，種々新発見をした。また民俗学の研究にも没頭し各地の神話・伝説を収集，生前未発表ながらそれに関する膨大な著作を著わした。南方熊楠全集10巻(1972)がある。なお，その博覧強記，大酒家，数々の奇行などが知られる。

みなかみおんせん 【水上温泉】 群馬県利根(とね)郡水上町にある温泉。泉温32～60℃，泉質は含芒硝(ぼうしょう)重炭酸土類泉・含重曹石膏泉(じゅうそうせっこうせん)・単純泉で，皮膚病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。谷川岳の南麓(なんろく)，利根川峡谷の断崖(だんがい)上に温泉旅館が立ち並んでいる。古くから知られ室町時代に上杉憲政(うえすぎのりまさ)が湯治したという。上牧(かみもく)・奈女沢(なめさわ)・谷川・大穴・湯桧曾(ゆびそ)などとともに水上温泉郷の一つを形成する。上越地方観光の中心地で，奥利根方面への入り口にもあたり，団体旅行客や行楽客でにぎわう。付近には谷川岳天神平・水上峡・諏訪峡(すわきょう)などの名勝地がある。交通は上越線水上駅下車が便利。〔木村東一郎〕

みなかみたきたろう 【水上滝太郎】 (1887～1940) 小説家。本名阿部(あべ)章蔵。東京の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学理財科卒業。在学中より《スバル*》に作品を発表。小説《山の手の子》で，後期ロマン派の新人として注目された。やがて社会人の周辺を文明批評を織り交ぜて描く作風に移り，《大阪》《勤人》《大阪の宿》を発表。ほかに評論集《貝殻(かいがら)追放》など。

みながわきえん 【皆川淇園】 (1734～1807) 江戸中期の儒学者。京都の人。はじめ伊藤(いとう)仁斎*の堀川(ほりかわ)学を学んだが，のちに一家をなし，私塾(しじゅく)弘道館(こうどうかん)を設立した。その学風は〈漢にあらず，宋(そう)にあらず〉といわれ，考証学派の筆頭に数えられる。また易を学問的に解釈しなおした。ここには研究対象である〈物〉を見きわめるという特殊な学問的態度がある。著書《易学開物》《名疇(めいちゅう)》など多数。〔田上光治〕

みなくち 【水口(町)】 滋賀県甲賀郡の

町。人口27,000。県南部，野洲(やす)川中流域に位置する。1955年(昭和30)貴生川(きぶかわ)・水口の両町と周辺2村が合併して発足した。中心地区の水口はもと加藤氏二万五千石の城下町，のち東海道の宿駅として栄え，現在もこの地方の商業の中心で，近年は工場の進出もみられる。貴生川は草津線・信楽(しがらき)線・近江(おうみ)鉄道の分岐点で，交通上の要地である。

みなくちまつり　【水口祭り】　苗代(なわしろ)に種籾(たねもみ)をまく際，その苗代田の水口で行なう神祭りの儀礼。苗代祭り・しと祭りともいう。苗代田の水口に少し土を盛り，そこにヤマブキ・ツツジ・クリなど季節の花をさし，焼き米を供えるのが一般的なしきたりであるが，田に苗標(なえじるし)の木の枝を立てる地方もある。この木の枝は単なる飾りものではなく，田の神の依(よ)りつく依代(よりしろ)である。このとき供える焼き米は種籾の残りでつくり，この焼き米を〈カラスの口にすえる〉という地方があるところから，害虫駆除のまじないと解される。　〔直江広治〕



水口祭り　田の神の降臨を仰いで，季節の花をさし，酒を供えて祭る

みなしぐり　【虚栗】　俳諧撰集(はいかいせんしゅう)。其角編。1683年(天和3)刊。発句418句，歌仙(かせん)9巻などを収め，作者は蕉門(しょうもん)以外にも及んでいる。杜甫(とほ)・寒山・白居易などの詩精神をよりどころとして談林俳諧の低俗さをこえようとした芭蕉(ばしょう)らの努力を示し，表現にも漢語や字余りなどが多用されて佶屈(きっくつ)感を与えている。蕉風俳諧確立の過渡期の代表的撰集であるとともに，天明中興期の蕪村(ぶそん)らに大きな影響を及ぼした。

みなせさんぎんひゃくいん　【水無瀬三吟百韻】　連歌百韻。1488年(長享2)1月22日，宗祇(そうぎ)の〈雪ながら山もとかすむ夕かな〉の発句で，肖柏(しょうはく)・宗長の3人によってよまれ，水無瀬の後鳥羽院御影堂(ごとばいんみえいどう)に奉納された。古来，百韻連歌の名作として連歌師の模範とされた。

みなせじんぐう　【水無瀬神宮】　大阪府三島郡島本町にある。もと水無瀬宮と称され，祭神は後鳥羽(ごとば)上皇・土御門(つちみかど)上皇・順徳上皇。承久の乱ののち隠岐島(おきのしま)で没した後鳥羽上皇の霊を慰めるために，同帝の離宮のあった現在地に水無瀬信成が1240年(仁治1)に創建した。1873年(明治6)に，同じく承久の乱ののち配流先の阿波(あわ)で没した土御門上皇，佐渡で没した順徳上皇の霊を合祀(ごうし)し，さらに後鳥羽院700年祭にあたる1939年(昭和14)に現社名に改められた。境内に有名な茶室燈心亭(とうしんてい)がある。例祭は12月7日。　〔佐野文哉〕

みなと　【港】　船が安全に停泊できるだけでなく，水陸交通の連絡点であり，旅客の乗降とともに貨物の積みおろし・仕分け・貯蔵および加工も行なう場所。港湾ともいう。わが国における平野は，主として海岸寄りにあって，人口・産業が集中している。そこで昔から貨物の運搬に船を用いることが多く，これらの船の船着き場として，河口をほとんど手を加えないまま利用することが多かった。現在でもそれを整備して使っている所がある。しかし，明治になってからは，これらと別に普通の海岸に近代的で大規模な港をつくるようになった。そのわけは，①河口は川の流砂で埋まりやすいこと，②船が大形となり喫水も深くなったこと，③建設機械が発達して大規模な工事が可能となったことなどである。なお，欧米大陸では一般に平野が多く，大河を利用した内陸水運が盛んで，河口港はもちろん数百キロメートル上流の河港もある。

【種類】①用途から分けると，商港・工業港・漁港・軍港・避難港などとなる。商港とは普通の港のことで商船が出入りする。工業港とは，一つあるいは多数の工場が専用する港で，ふつう工場地先にある。避難港とは，荒天のときに付近を通る小形船が避難する目的の港である。②行政上から分けると，〈港湾法〉によれば，重要港湾に指定されたものが111港(1972年7月1日現在)，このうち外国貿易上特に重要として特定重要港湾に指定されたものは，室蘭(むろらん)・千葉・東京・横浜・川崎・新潟・清水(しみず)・名古屋・四日市(よっかいち)・大阪・堺(さかい)・神戸(こうべ)・姫路・和歌山下津・徳山下松・下関(しものせき)・北九州の17港，また国内産業上特に重要として準特定重要港湾に指定されたものは横須賀(よこすか)・呉(くれ)・舞鶴(まいづる)・佐世保・刈田(かんだ)の5港で，いずれも政令で指定されたものである。以上のほか，特に政令で指定するのではないが港湾法を適用する地方港湾(962港)や，小形船の避難上重要と政令で指定された避難港(38港)などがある。これらの種別によって工費に対する国庫補助率などが異なるわけである。漁港法によれば，漁港を4種類に分け，そのいずれに属するかは農林大臣が指定する。第1種は利用の範囲が地もとを主とする小漁港で約2,158港，第2種は利用の範囲が第1種と第3種の中間にあるもので471港，第3種は利用の範囲が全国的なもので104港，第4種は離れ島などにあって漁船の避難上特に必要なもので87港，計約2,820港となる。③構造様式から分けると，閉口港と開口港となる。閉口港とは，干満潮位の差が5～6m以上あるような港では船を横づけしたとき不便なので，港の入り口を水門または閘門(こうもん)で仕切り，内部の水位をほぼ満潮位付近に保つようにしたものである。九州西岸の三池港，朝鮮西岸の仁川(じんせん)港，フランス南西岸の諸港などがその例である。開口港は閉口港でない普通の港をさす。④外国貿易上から分けると，開港・自由港・自由港区がある。関税(輸出税・輸入税)上外国貿易を行なってもよい港が開港で，関税に関係なく自由に貨物の積みおろし・貯蔵・包装替え・加工などを許される港が自由港である。ただし貨物が港と内陸との境界線を越えるときには関税がかかる。港内に自由港的な特定区域を設けたときこれを自由港区という。

【立地】わが国においては，遠浅な海岸を浚渫(しゅんせつ)・埋め立てして得た土地を大工場またはコンビナートの敷地とし，その地先を工業港とすることが多い。この場合，その近くに商港があることが望ましい。すなわち，都市と中小工場群のためには商港が，大工場のためにはその地先に工業港が必要である。漁港については，遠洋漁業用の漁港は数は少なくてもよいが設備をよくする。函館(はこだて)・三浦三崎・下関などはその例である。一般漁民のためには第1種漁港を数多く分布させる。

【施設】港は陸上交通と海上交通との継ぎ目にあたる。そこで，港を通る人や貨物の流れを安全に速くさばきうるよう諸施設が十分に整備され，またそれらの間に質・量の上で過不足があってはならない。主要施設を列挙すれば次表のとおりである。このうちの一部について説明しよう。泊地：船が港内で沖がかりする場所。防砂堤：砂浜につくった港で，砂が港内に巻き込まないようにするためのもので，構造は防波堤より簡易なもの。導流堤：河口が砂で埋まるのを防いで港までの航路筋を固定させるために，海へ向かって突き出した堤。岸壁：大形船を横づけするための，水底から直立した巨大な土留壁。ドルフィン：独立した柱状構造物で，護岸の沖側の適当な水深の所に設け，船を横づけさせる(1船につ

施設別	内　容
水　域	航路・泊地・船だまり
外　郭	防波堤・防砂堤・導流堤・防潮堤
係　留	岸壁・桟橋・浮き桟橋・ドルフィン・係船浮標・物上げ場・舟引き場
臨港交通	道路・駐車場・鉄道・操車場・運河
航行補助	航路標識・信号・照明・港務通信
荷さばき	荷役機械：上屋
保　管	倉庫・サイロ・野積み場・貯木場・危険物置き場・貯炭施設・貯油施設
旅　客	旅客上屋・手荷物取扱所・待合所
船舶補助	給油施設・給水施設・給炭施設

港









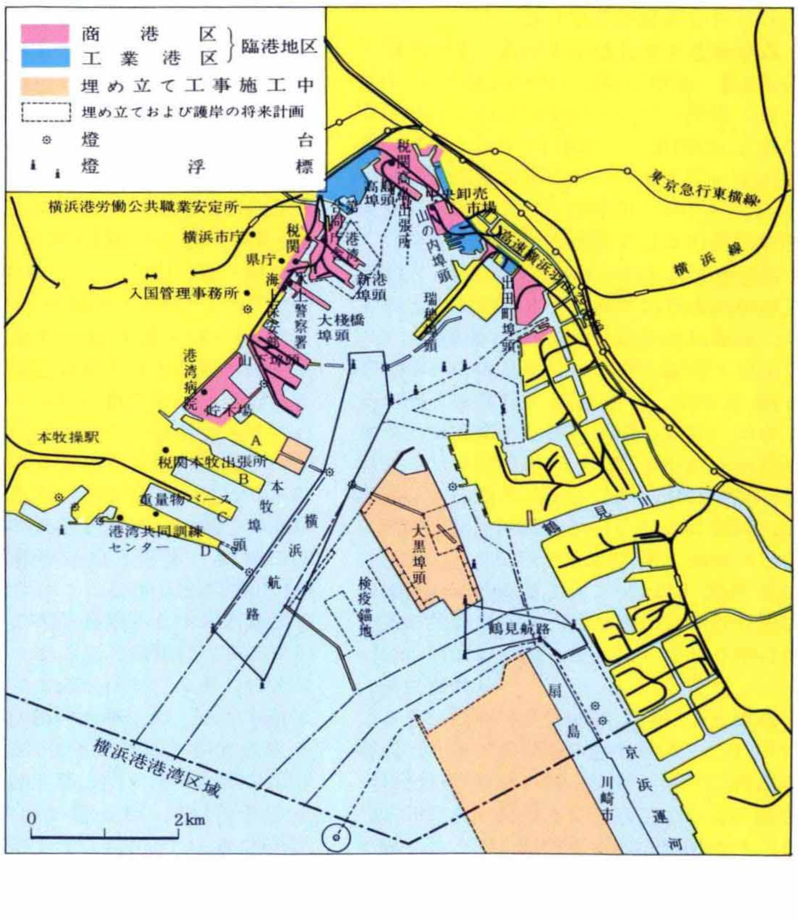
①検疫　青酸ガスによるネズミの駆除　ペストを媒介する恐れのあるネズミを駆除するために行なう作業
②引き船　大きな船舶は，埠頭からタグボートによって引き出される
③荷役　コンテナーの積み込み作業
④送迎　送迎デッキは悲喜こもごものうちにもにぎやかな風景となる



シドニー港（オーストラリア）おぼれ谷のポートジャクソン湾口にある天然の良港。右手白い建物はオペラハウス，左上のハーバーブリッジは，夜間は照明にはえて美しい



横浜港　1859年開港以来，わが国最大の貿易港として栄える。特定重要港湾



き少なくとも２本必要)もので，横づけのための構造物としては簡単で工費が安い。石油・石炭などのばら荷扱いの場合に用いる。物上げ場：小形船用の小岸壁。上屋：貨物を一時的に置くための建物。倉庫：貨物を長期間保管するための建物。サイロ：小麦・セメントなどをばらのまま貯蔵する特殊倉庫。野積み場：石材など雨ざらしでよいものを置く場所である。

〔工事〕①〈施工者〉おもな港については運輸省港湾局と総理府北海道開発庁が計画を立て，施工は第一(新潟)・第二(横浜)・第三(神戸)・第四(下関)・第五(名古屋)のそれぞれ港湾建設局と北海道開発局(札幌(さっぽろ))が分担している。ただし東京港・大阪港・名古屋港はそれぞれ東京都・大阪市・名古屋港管理組合(県市合同の機関)が計画・施工している。地方のあまり大きくない港は地方自治団体が，運輸大臣の認可を得て施工する。②〈施工〉港の工事は水上で行なうことが多いから，陸上の場合より早く機械化されている。ふつう，機械類は鋼製の平たい浮き箱上につくりつけて，それぞれ杭(くい)打ち船・クレーン船・浚渫船などとよばれ，これらを作業船と総称する。日本の港湾工事では工事量からみて浚渫と埋め立てが最大部分である。

〔港の管理・運営〕横浜港・神戸港をはじめ一般に，市役所(施設)・運輸省(工事と海運・燈台関係)・大蔵省(関税関係)などがばらばらに行政を行なっているわけで，利用者にとって不便であり，港の機能上もよくないといわれている。〔佐島秀夫〕

みなと【港(区)】東京都23特別区の一つで，中央部の区。東は東京湾に臨み，北は新宿・千代田・中央の３区，南は品川区，西は渋谷(しぶや)区と接する。1947年(昭和22)芝・麻布(あざぶ)・赤坂の３区が合併して成立。面積19.1km²，人口は20万で千代田・中央・台東・荒川・文京に次いで少ない。区域の大半は武蔵野台地の一部をなす淀橋(よどばし)台上にあり，渋谷川の下流古川がほぼ中央部を流れて谷を刻む。芝の高輪(たかなわ)・白金の台地から麻布・赤坂の両地区にかけては江戸時代に武家屋敷が多く集まっていたが，明治以後は高級住宅地・外国大公使館・大学・各種研究所などに転用されている。東部は東京湾に臨む沖積(ちゅうせき)低地で，南北に走る東海道本線の東側は京浜工業地帯の中核をなす重工業地帯を形成し，北東端の新橋駅付近は銀座に続く商業地帯として繁栄し，汐留(しおどめ)貨物駅を控えている。東京湾岸には竹芝棧橋(さんばし)・日ノ出棧橋・芝浦埠頭(ふとう)などの東京港の港湾施設があり，第２次世界大戦後は海岸の埋め立てが進んで，工場・倉庫などが集まり，下水処理場・屠殺(とさつ)場などの施設もある。1969年に完成した南大井埠頭は品川区との間に帰属が争われている。西部には明治神宮外苑の一部，北東部には東京タワーと芝公園・旧芝離宮恩賜庭園があり，行楽客を集める。国電山手線・京浜東北線，都営地下鉄１号線・営団地下鉄日比谷線・銀座線，首都高速道路１号線・２号線・３号線が縦横に走る。〔浅井得一〕

みなとがわのたたかい【湊川の戦い】1336年(延元１・建武３)５月湊川(神戸(こうべ)市)で行なわれた足利尊氏*(あしかがたかうじ)・直義(ただよし)軍と新田義貞*(にったよしさだ)・楠木正成*(くすのきまさしげ)軍との戦い。九州で再挙した尊氏・直義は，10数万の大軍を率いて京都に進撃した。これに対して後醍醐(ごだいご)天皇*の命を受けた朝廷軍は，義貞を総大将にして兵庫で迎撃体制を立てた。直義軍の主力を防ぐため湊川に布陣していた正成軍は兵庫に上陸した尊氏軍の攻撃にあい，敗れて正成は弟正季(まさすえ)と自刃した。次いで義貞軍も尊氏・直義合流軍と生田の森で戦って敗れ，義貞は京都に敗走した。この戦勝で尊氏は一挙に入京して光明院を擁立して室町幕府*を開いた。〔高崎徳次〕

みなまた【水俣(市)】熊本県南西端の市。人口37,000。中世には水俣氏の館(やかた)町で，1907年(明治40)日本窒素が鹿児島県曾木(そぎ)電気と協力してカーバイド工場を設置して以来，工業都市として発展した。1949年(昭和24)市制施行。市域は，八代(やつしろ)海に臨むリアス式海岸の湾頭部から背後山地にかけて東西に長く延び，中心市街は水俣川河口付近に発達する。産業三大別人口比は18：32：50。日本窒素(現在のチッソ(株))の水俣工場を中心に，化学工業が盛んで化学肥料・カーバイド・塩化ビニルなどを生産し，関連・下請工場も多い。1953年以来，メチル水銀化合物によって発生した水俣病*が，漁民の間に多くの患者を出して沿岸漁業の衰退をもたらした。鹿児島本線から山野線を分岐し，国道３号線・268号線が集まる。貿易港水俣港・工業港梅戸港があり，水俣港からは天草下島の本渡・牛深両港へフェリーボートが通ずる。海岸部に湯ノ児(ゆのこ)，南部の矢筈岳(やはずだけ)(687m)北東麓(ほくとうろく)に湯出(ゆのずる)の２温泉があり，湯ノ児には国民宿舎水天荘がある。徳富蘇峰(そほう)・蘆花(ろか)の生地として知られる。〔浅井得一〕

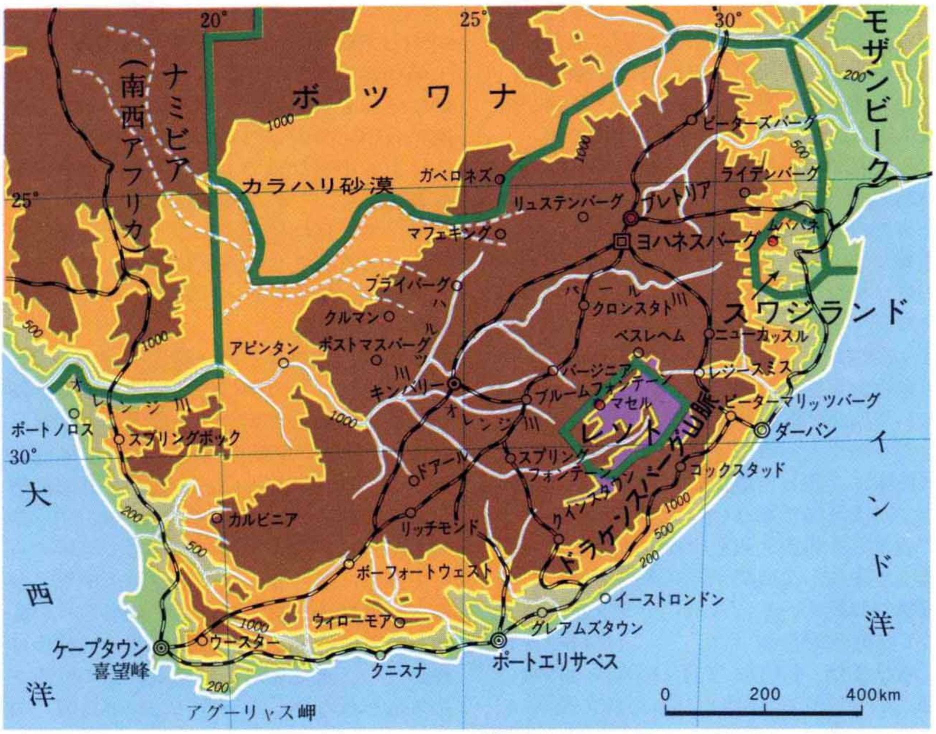
みなまたびょう【水俣病】熊本県水俣市郊外の水俣湾沿岸に発生した工場廃液による中毒。原因が究明されるまでは，水俣奇病，あるいはネコに多発したためねこ踊り病とよばれた。1956年(昭和31)水俣保健所が新日本窒素(現チッソ)水俣工場付属病院から特異な脳症状を呈する４人の患者について報告を受けたのが発見の端緒となり，その後，市内開業医らの努力で，患者は1953年ごろから発生していたことがわかった。1959年には熊本大学医学部水俣病研究班が有機水銀中毒説を発表，また1963年には汚染源が前述の工場であることも判明した。この間調査が進むにつれて患者数は増加し，1964年から翌年にかけては新潟県阿賀野(あがの)川上流約60kmにある昭和電工鹿瀬(かのせ)工場(現鹿瀬電工(株))の排液により，下流の住民にも同じ犠牲者を出した。メチル水銀化合物に汚染された魚介類を摂取することによる中毒なので，患者の発生は漁業関係者に多く，それは漁獲量の大きさに一致している。1968年政府はようやく水質汚濁による公害病として正式に認定したが，発見以来10余年もかかっており，多くの問題を残している。

症状は，発熱などの一般症状がなく，多くは緩徐に，まれには急激に発症する。四肢(しし)末端の知覚異常，口周囲のしびれに始まり，数週で運動障害(歩行障害，頭部のふるえ，書字障害，不随意運動)・言語障害が著明となり，求心性視野狭窄(きょうさく)・難聴・嚥下(えんげ)障害などが出現して半年ぐらいで極期に達する。また胎児期に中毒にかかる胎児性水俣病では，脳性麻痺(まひ)の症状を呈する。死亡を免れた者でも症状はほぼ固定し，重症者は一生廃人同様の生活を送るほかはない。なお，1972年６月現在の熊本県の水俣病認定患者は生存147人，死亡52人。〔井形昭弘〕

みなみあしがら【南足柄(市)】神奈川県南西部の市。人口40,000。市域は箱根火山の金時山・明神ケ岳などの外輪山の北東斜面から酒匂(さかわ)川の支流狩川の低地に広がる。1972年(昭和47)市制施行。ミカン・茶・クリを産する農業地帯で，中心集落の関本は，かつて東海道の脇往還(わきおうかん)である矢倉沢街道の宿場。関本の南，狩川の右岸に沿ってきれいな空気と豊富な地下水にたよった日本最大の富士フィルム足柄工場がある。小田原から関本まで伊豆(いず)箱根鉄道大雄山線が通じ，それから南西約４kmの明神ケ岳の山腹にある大雄山最乗寺は，曹洞宗(そうとうしゅう)の古寺で，寺域内の俗に道了尊とよばれている道了権現は，商売繁盛の神として参詣(さんけい)者が多い。

みなみアフリカ(共和国)【南アフリカ】Republic of South Africa　アフリカ大陸の南端部を占める共和国。北はナミビア(南西アフリカ)・ボツワナ・ジンバブエ・モザンビークと境を接し，東はインド洋に，西は大西洋に面する。面積122万1,037km²。人口2,848万(1979年推)。首都プレトリア。立法府はケープタウン。

〔自然・住民〕全般に標高1,000m前後の台地が占めるが，北西部にはカラハリ砂漠(さばく)の一部が広がり，東部にはこの国の脊梁(せきりょう)をなすドラケンスバーグ山脈が北東から南西にかけて走る。この山脈にはモントースールス山(3,299m)など標高約3,000mの山々が連なり，山脈北部から発するオレンジ川は国土の中央部を西流して大西洋に注いでいる。気候は比較的温暖で，降水量は東岸には多いが，西岸と内陸部は少ない。しかしケープタウン周辺の南

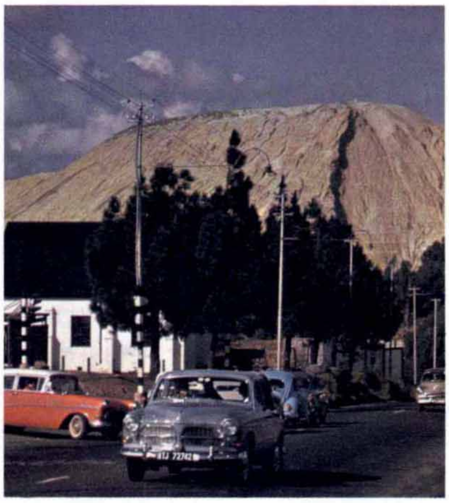


南アフリカ

300万人以上の都市　□100～300万人の都市　◎50～100万人の都市　◎10～50万人の都市　◉5～10万人の都市　○5万人未満の都市　●首府　#油田



南アフリカの国旗　1927年制定。この国旗は四つの旗から構成される。すなわち，古いオランダ国旗の色に由来するオレンジ・白・青は最初の開拓者であるブール人がこの国の主体であることを示し，中央には左からユニオンジャック・旧オレンジ自由国国旗・旧トランスバール共和国国旗を描いて，ブール戦争を戦ったこれらの国によってこの国の歴史が塗り変えられたことを示している



南アフリカ　ヨハネスバーグ近郊の金鉱山へ通ずるハイウエー。正面に見える山は金の採掘によってできたボタ山で，付近には多い

西海岸地域は，偏西風の影響から冬季に雨があり，地中海性気候になっている。住民は約20％がヨーロッパ人で，オランダ系のアフリカーナを中心にイギリス人・フランス人・ドイツ人からなる。カラード（混血）は10％，アフリカ人は65％，インド人を主とするアジア人は５％の割合である。キリスト教徒が多く，公用語は英語とアフリカーンス語*。

【産業・経済】農牧業はインド洋岸とケープタウン周辺に集中している。サトウキビ・パイナップルは東岸湿潤地域に，タバコ・小麦・果実類は東部の灌漑（かんがい）地域に，大麦・ライ麦・燕麦（えんばく）・トウモロコシは東部高原に，柑橘（かんきつ）類・ブドウなどの果樹はケープタウン周辺につくられている。ドラケンスバーグ山脈北側の草原は牧牛・牧羊地域となっている。しかし，この国の経済をささえているのは鉱工業で，金はトランスバール州およびオレンジ自由州を中心に，産出量は世界一を誇り，金の残鉱からはウラニウムも採取されている。この２州には金・ウランの精練所がある。またキンバリーを中心としてダイヤモンドの富鉱があり，世界の産出量の11％を産し，特に装飾用ダイヤでは世界一の産出額である。このほかクロム・マンガン・銅・石炭・鉄・石灰を産し，いずれも良質で，ヨハネスバーグ・プレトリアを中心に各地に製練工業が発達している。またこれらを基礎とする機械工業，農畜産物を原料とする毛織物，食品工業も盛んである。第２次世界大戦後は，急速な工業の発展によって工業生産物のヨーロッパ依存は急減した。

【歴史・政治】17世紀にオランダの移民アフリカーナ（ボーア）が入植してケープ植民地が成立したが，19世紀初めイギリス人が進入，ケープ地方を奪ったのでアフリカーナは北方へ退いてトランスバール共和国とオレンジ自由国を建設した。しかし19世紀末イギリス人が両国の鉱山に目をつけるに及んで再びアフリカーナと対立し，1899～1902年のボーア戦争*となった。戦いに勝ったイギリスはアフリカーナの両国とケープ植民地・ナタール植民地を吸収して1910年南アフリカ連邦を結成し，イギリス連邦内の自治領とした。次いで1913年の土地法によってアフリカ人は多くの土地を吸収されて原住民居住区へ押し込められた。これが人種差別隔離政策（アパルトヘイト*）とよばれるもので，この結果アフリカ人は生活のために白人経営の農場・鉱山の低賃金労働者となった。この政策はアフリカーナをはじめとする貧しい白人（プアホワイト）に対する保護政策ともなっている。しかしこの政策は国際世論の非難を浴びたため，1961年共和国として独立し，イギリス連邦から脱退した。首都は立法府のあるケープタウンと行政府のあるプレトリアに分かれ，司法府の中心はオレンジ自由州のブルームフォンテーンにある。元首は大統領。議会は二院制で，参政権は白人だけが認められている。〔小栗　宏〕

みなみアメリカ【南アメリカ】　アメリカ大陸のうちパナマ地峡より南の部分をいい，西は太平洋，東は大西洋，北はカリブ海に面し，南はドレーク海峡を隔てて南極大陸に対する。付属の島は，南端のフエゴ島や北西の太平洋上のガラパゴス諸島などを除けば目だったものはなく，本土とフエゴ島の間に有名なマゼラン海峡がある。面積1,780万km²，人口３億2,400万。北アメリカのうちメキシコより南の中部アメリカを加えてラテンアメリカ*，または中南米として扱うことも多い。

【自然】海岸線は南西部のフィヨルド地形の部分を除けば比較的単調で，フエゴ島を頂点とし，パナマ地峡とサンロケ岬（みさき）を底辺とする逆三角形をなしており，このような全体の形と，山地と低地の配置は，北アメリカによく似ている。西部には北アメリカのロッキー山脈とともにコルジレラ山系として一つにまとめられるアンデス山脈があり，東部にギアナ高地・ブラジル高原などの低い山地があって，その中間に世界最大の流域をもつアマゾン川やラプラタ川の流域の低地が広がっている点も，北アメリカによく類似している。最高点はアンデ

ス山脈南部のアコンカグア山(7,021m)で，北アメリカ最高のマッキンリー山(6,194m)より高い。またアンデス山脈中には北部のコトパクシ山(5,978m)をはじめ活火山が多く，湖はアンデス山脈中部のチチカカ湖を除けば大きなものはないが，チチカカ湖の湖面標高は3,800mで，大湖としては世界最高である。滝ではブラジルとアルゼンチンの国境のイグアス滝が有名である。南アメリカの北端は北緯12°をこすガリナス岬から南端は南緯56°のホーン岬まで及び，赤道が東はアマゾン川の河口から西はコトパクシ山を連ねて走っている。南北の緯度差が大きく，気候も多様であるが，地形が北部は幅が広く，南に行くにしたがって狭くなるので，面積からいえば熱帯気候が大きな割合を占め，アマゾン川の低地から大西洋岸に及ぶセルバとよばれる熱帯雨林気候の地域は，大陸の約27％を占め，その両側の緯度10°付近を中心とする乾・雨季のはっきりした熱帯サバナ気候の地域は約36％に達し，両者を合わせると熱帯気候の地域が約63％となる。熱帯サバナ気候の地域のうち，北半球のものはリャノ，南半球のものはカンポ*(ブラジル)および，グランチャコ*(ボリビア・アルゼンチン・パラグアイ)とよばれるが，南半球のほうがその範囲ははるかに広い。カンポの南にあるのは日本の南西部と同じような温帯湿潤気候であるが，降水量は日本の半分ぐらいしかなく，それは南へ行くほど少なくなって，南部は温帯草原のパンパとなる。パンパの中心にあるアルゼンチンの首都ブエノスアイレスの年平均気温は17.0℃，年降水量は975mmである。太平洋岸すなわちアンデス山脈西麓(せいろく)の気候は，北部の熱帯雨林気候から，ペルー砂漠(さばく)・アタカマ砂漠などのある砂漠気候，南緯35〜40°付近の地中海性気候，40°以南の西岸海洋性気候と変化し，大西洋岸の南部にもパタゴニア砂漠などのある砂漠気候の地域が存在する。太平洋岸の砂漠気候は，南極海から北上するフンボルト海流(ペルー海流)によって緯度の割合には低温で，しかも雨の少ない気候となっており，ペルーの首都リマの年降水量は31mmしかない。大西洋岸南部の砂漠気候は，偏西風がアンデス山脈によってさえぎられるためである。8,000kmという世界最長のアンデス山脈の気候は，南北によりまた高度によって複雑であるが，その中に点在する高原と盆地は，海岸の熱帯気候や砂漠気候を避けたよい生活環境を提供している。コロンビアでは78％，エクアドルでは55％，ボリビアでは56％の国民がアンデス山中に住み，ボリビアのラパスは海抜3,690mにある世界最高の首都である。アマゾン川流域の熱帯多雨林は樹種も多く，アフリカの樹種と同じものもあり，ここはまたパラゴムノキの原産地で，ラン科の植物やカンナなど，日本にも観賞用に伝えられているものが多い。また葉の直径が2mにも達するオオオニバスが名高い。ブラジル高原の南部からパンパにかけてはマテチャノキが自生し，葉をつんでマテ茶をつくる。アンデス山脈の北部はジャガイモの原生地で，現在も野生のものがある。動物として特色のあるものにナマケモノ科・アルマジロ科・チンチラ科・テンジクネズミ科などがあり，ラクダ科のグアナコは家畜としてラマ*とアルパカ*となっている。猛獣はピューマ*を除いてほとんどいない。鳥類は多く，アンデス山脈のコンドル*は名高い。アマゾン川に巨魚ピラルクーや猛魚ピラニアがいる。

【住民】原住民はアメリカインディアン(スペイン語ではインディオ)であるが，16世紀以降スペイン人・ポルトガル人を主とするラテン系の民族が植民し，また19世紀の中ごろからはそれ以外のイタリア人やドイツ人が加わり，また日本人などのアジア系の民族もはいってきて，これにアフリカから奴隷として輸入された黒人をも含めて，人種・民族の構成はきわめて複雑となった。北アメリカと異なる点は，原住民のインディアンと，外来者との混血がよく行なわれていることである。ヨーロッパ人とインディアンとの混血をスペイン語でメスチソ，ヨーロッパ人と黒人との混血をムラート，インディアンと黒人との混血をザンボというが，これは主としてカリブ海沿岸諸国の呼び名であって，同じスペイン系の諸国でも国により呼び名をことにしている。国別にみて白人の最も多いのはアルゼンチンで，97％がスペイン人である。チリもスペイン人が75％，ウルグアイもスペイン人が多い。ブラジルはポルトガル人を主とする白人が62％を占めるが，日系人も62万人いて南アメリカ諸国中最も多い。インディアンの最も多いのはボリビアで52％，このほかにメスチソが28％いる。エクアドルもインディアンが40％，メスチソを主とする混血が40％を占める。また旧イギリス領のガイアナの住民の45％は労働力としてアジアから移入されたインド人である。

【宗教と言語】ラテン系の民族が主流をなしているために，カトリック教徒が圧倒的に多く，アルゼンチン・ボリビア・パラグアイではカトリックが国教となっているが，信仰は自由である。しかしアルゼンチンではカトリック教徒でなければ大統領となれない。ブラジルでは93％がカトリック教徒ではあるが，黒人が11％もいるために，黒人の間ではカトリックとアフリカの土着宗教との融合がみられる。インディアンの間にはアニミズムが存在する。言語は公用語がポルトガル語のブラジルと英語のガイアナを除いて，すべてスペイン語が公用語となっている。しかしブラジルではスペイン語・イタリア語・ドイツ語・日本語なども使用されており，ガイアナではヒンズー語・ポルトガル語も使われ，またこの国ではヒンズー教やイスラム教も行なわれている。アメリカインディアンの言語は種類が多く，またその相違も大きいが，中部から北部にかけて広く分布しているアラワク語族が代表的である。

【政治】原住民のアメリカインディアンは，13〜15世紀にかけてペルーのクスコを中心にインカ*帝国を建て，輝しい文化を残したが，16世紀にはいってスペイン人に征服され，それ以後南アメリカの大部分はスペインの植民地となり，ブラジルだけがポルトガルの所有に帰した。19世紀にはいって，アメリカ合衆国の独立やヨーロッパにおけるナポレオン戦争の影響で，1816年にはスペインからアルゼンチン，1818年には同じくチリ，1822年にはポルトガルからブラジルが独立し，これと相前後してコロンビアその他の国々もスペインから独立，最近では1966年にイギリス領ギアナがガイアナとして独立し，植民地として残っているのはカリブ海に面するスリナム(オランダ領ギアナ，1954年自治領)とフランス領ギアナ(1946年海外県)のみである。しかし各国とも独立後は革命やクーデターをしばしばくり返し，たとえばボリビアは南アメリカでも最も政情が不安定で，1825年にスペインより独立以来，現在までに187回の政変があったといわれている。しかし，1823年にアメリカ合衆国大統領モンローがいわゆるモンロー主義*を唱えて，アメリカ州に対するヨーロッパの不干渉を主張して以来，南アメリカ諸国を含むラテンアメリカに対するアメリカの政治的経済的な影響力は時代とともに強まり，現在ではそれが米州機構*に受け継がれて，全体としてはアメリカの裏庭といわれ，その統制下にあるような状態となった。ところが1970年代にはいって，ナショナリズムの高まりからアメリカからの離脱という〈第2の独立期〉にはいり，1968年のクーデターによってペルーに生まれたベラスコ政権は反米的な態度を明らかにし，1970年にはチリに社会主義政権が誕生し，ベネズエラではアメリカ系資本の国有化が図られている。

【産業】資源は豊富で，第2次世界大戦の影響もほとんど受けなかったが，その開発はまだ遅れている。各国とも大土地所有制が根強く残り，また産物が限定され，農業では単一栽培の傾向が強い。たとえばブラジルでは人口の51％が農業に従事し，輸出総額の89％は農産物で，コーヒーが35％(1969)を占めている。そのほかカカオ(世界第3位)，トウモロコシ(世界第3位)，甘蔗糖(かんしょとう)(世界第2位)，バナナ(世界第1位)などがおもな農産物であるが，主食の小麦は輸入している。アルゼンチンの主産物は小麦とトウモロコシであるが，おもな産業はウシやヒツジを主とする牧畜である。またコロンビアはブラジルに次ぐ世界第2のコーヒーの生産国であり，エクアドルは



南アルプス国立公園 冬12月の南アルプス主要部。南方上空から北を望む。中央遠景に白く赤石岳，左上方に遠く北岳が連なる

バナナ・コーヒー・カカオの3品目で外貨の67％(1968)をかせぎ，ペルーのおもな農産物は綿花・サトウキビ・コーヒー，パラグアイではサトウキビ・トウモロコシ・綿花である。またペルーとパラグアイでは米も栽培されている。ガイアナの主産業も農業であって，サトウキビと米をおもにつくっている。これらの農業または農牧業本位の国に対して，ウルグアイはウシ・ヒツジなどの牧畜が主で，食肉と羊毛・毛皮は輸出総額の70％(1968)を占めているが，最近は輸出が伸びていない。またチリは世界の埋蔵量の40％を占める銅(生産高は第4位)，世界の生産をほとんど独占している硝石やヨードなどを主とする鉱業国であり，ベネズエラは世界第3位の石油生産国で，鉄鉱石の埋蔵も多く，ボリビアはマレーシアに次ぐ世界第2のスズ鉱の生産国で，輸出総額の54％(1969)を占めており，また天然ガスも豊富である。このほかスリナムは世界第3のボーキサイトの生産国である。第2次世界大戦後はブラジルではサンパウロ，アルゼンチンではブエノスアイレスを中心に工業地域が形成されつつある。ブラジルの工業の主力は紡績業であるが，近年は製鉄・化学・自動車・セメントなどの工業が興り，アメリカ合衆国・西ドイツなどからの投資も多い。サンパウロには年産30万台のフォルクスワーゲンの工場がある。

〔交通と貿易〕鉄道網はアンデス山脈の東麓およびブラジルの南部からパラグアイ・アルゼンチンにかけた地域に限定され，アマゾン川流域を中心とする熱帯雨林気候の地域は，世界でも大きな鉄道空白地帯の一つであるが，アマゾン川は水運によく利用されている。道路の発達は遅れているが，1936年以来米州会議の決定によって着工されているパンアメリカン-ハイウエーの完成が待たれている。貿易は総輸出額の90％以上が農畜産物というアルゼンチンや75％以上が鉱産物というチリの例にみられるように，産業構造を反映した輸出品のかたよりと対米依存が大きな弱点となっており，またどの国でも輸入の首位を占めているのは機械類であって，これが世界的な南北問題*の焦点となっている。➔213ページ(地図)



南アルプス国立公園

みなみアルプスこくりつこうえん【南アルプス国立公園】 長野・山梨・静岡の3県にまたがる山岳国立公園。北は鞍掛(くらがけ)山(2,047 m)から，南は光岳(2,591 m)に至る南北約50kmの長さ，面積約358km²の地域で，1964年(昭和39)に指定された。2,500 m以上の高峰が50近く連なり，山地は甲斐駒(かいこま)・鳳凰(ほうおう)山系，白根山系，赤石山系の三つの山稜(さんりょう)に大別される。これを大井川・天龍(てんりゅう)川・富士川・早川などが深い谷を刻み，奥大井渓谷(けいこく)をはじめとし，多くの景勝地がある。山頂周辺にはお花畑があり，ツガ・モミ・トウヒなどの原生林におおわれた広大な山岳景観が特色である。付近には白根三山の展望のよい夜叉神(やしゃじん)峠(1,770 m)，第2の上高地といわれる野呂(のろ)川林道，渓谷美の寸又(すまた)峡などがあり，北東部の山麓(さんろく)には藪(やぶ)の湯・御座石湯・桃の木湯などの温泉地が散在している。登山基地は，山梨県白州町・韮崎(にらさき)市・身延町，長野県高遠町・松川町，静岡県静岡市椹島(さわらじま)など。 〔木村東一郎〕

みなみイエメン（人民民主共和国）【南イエメン】People,s Democratic Republic of Yemen 現在は，イエメン人民民主共和国という。アラビア半島南西端にある共和国。イエメン-アラブ・サウジアラビア・オーマンに囲まれ，南はアデン湾に面する。面積約33万3,000km²。人口185万（1978年推）。首都アルシャーブ。

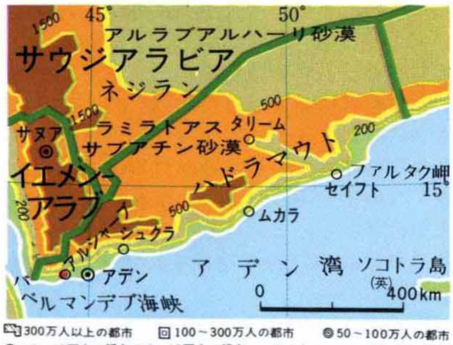
〔自然・住民〕国土は半島西南端から東方に延びる山地が大部分を占め，平野は海岸沿いにわずかしかない。高地では年間1,000mmの降雨があるが，気温は高く平均気温は24℃で，全般に乾燥している。住民はほとんどがアラブ人で，アデンの周辺以外では大半が高地に住み，文盲率は高い。国語はアラビア語。宗教はイスラム教。

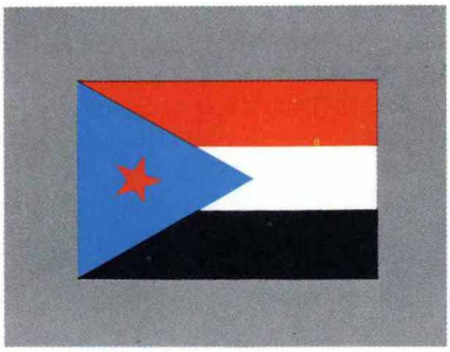
〔産業・経済〕人口の30％が農業に従事しているが，水に制約され可耕地は全土の10％に足りず，穀物も自給できない。しかし綿花は主要輸出品で，年額約200万ポンドに達している。工業ではアデンにあるブリチッシュ石油会社の製油施設を除くと，軽飲料・タバコ・アルミ加工の工場があるだけで，これもアデンに集中している。

〔歴史・政治〕1839年イギリスはアデンを占領，1937年単独の直轄植民地とした。1963年アデンと同じくイギリス保護下の土侯国が集まってイギリス保護領の南アラビア連邦を組織したが，民族解放戦線(NLF)が権力を握って，1968年11月南イエメン人民共和国として独立，1970年11月イエメン人民共和国と改称した。立法・行政権は人民最高会議がもち，元首は大統領で，評議会議長がつとめている。独立後は，特にソ連・中国・北朝鮮など東側諸国との関係を強めている。 〔今井留吉〕

みなみくんぞう【南薫造】(1883～1950) 洋画家。広島県の生まれ。東京美術学校卒業後1907年(明治40)から1910年まで滞欧，滞欧作展の印象派ふうの明快な作風は新鮮な刺激を画壇に与えた。文展ではたびたび受賞し，1916年(大正5)審査員，1929年(昭和4)帝国美術院会員。また母校の教授として美術教育にも尽力した。

みなみざ【南座】 劇場の名称。京都市東山区四条にある。四条通りに面して南側にあることから，幕末に南側の芝居とよばれ，明治中期以降に南座となった。元和(げんな)年間(1615～1623)に公許された京都の七つの櫓(やぐら)のうちの一座でゆいしょがある。1906年(明治39)，松竹合名合社の所有となり，現在も松竹株式会社に属している。古





南イエメンの国旗 1967年制定。赤は革命とそのために流された血，白は平和，黒は植民地主義とその根絶，青は人民を表わす。青地に赤の星は革命の主力となった民族解放戦線のシンボル



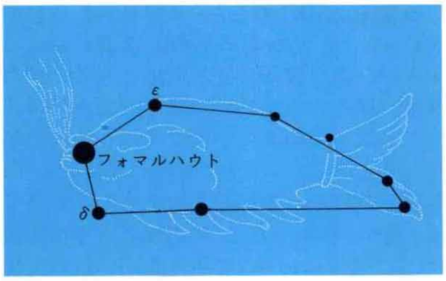
南イエメン アデンのユルマクサル空港。アジア・ヨーロッパ・アフリカの三大陸を結ぶ国際航路の要点となっている

風な破風(はふ)造りに櫓・梵天(ぼんてん)を飾る現建築は1929年(昭和4)につくられ，収容人員は1,500人。

みなみシナかい【南シナ海】 太平洋西部にあり，中国本土の華南地方・インドシナ半島・マライ半島・ボルネオ島・フィリピン諸島・台湾に囲まれた海域。南西部のボルネオ海は，世界最大の大陸棚(たいりくだな)であるスンダ陸棚の一部で，底部は平坦(へいたん)で深度は75m以下，平均深度も55mである。北東部は一般に深く2,000～4,000mの深度で広がり，最深点はルソン島北西沖の5,420m。中国沿岸海流(暖流)が，インドシナ半島寄りを台湾海峡からジャワ海の方向へと流れている。日本・中国から東南アジア・インド方面への航路にあたり，船舶の往来は激しく，沿岸にマニラ・香港(ホンコン)・シンガポールなどの港市がある。〔長津一郎〕



南十字星 南十字星とケンタウルス座のα，β星



みなみのうお座

みなみじゅうじせい【南十字星】 天の南極近くで十字形に並ぶみなみじゅうじ座のα，β(ともに1等)，γ(2等)，δ(3等)の4星をいう。縦の線を延長すると約4.5倍の距離に天の南極があり，南半球で方向を知るための星として昔からたいせつな役目を果たしてきた。

みなみちた【南知多(町)】 愛知県知多半島南端，知多郡の町。人口27,000。1961年(昭和36)内海(うつみ)・豊浜(とよはま)・師崎(もろさき)の3町と篠島(しのじま)・日間賀島の2村が合併して発足。豊浜と師崎には漁港があり，ミカン・球根・草花などの農業も盛んである。近年名古屋市民の休養地として海水浴・魚つりなどに訪れる人が多い。愛知用水の完成によってかつての水不足から解放された。

みなみのうおざ【南魚座】 秋の南天低くかかる小さな星座。みずがめ座の南，輝星の乏しい空間に光るα星フォマルハウト(1,2等)が目印，α星以外は全部4等以下の暗い星で，目だたない星座である。

みなみベトナムかいほうみんぞくせんせん【南ベトナム解放民族戦線】 The National Front for Liberation 略称NFL。南ベトナム(ベトナム共和国)の民族民主統一戦線。ベトコンともよぶが，この名はゴージン-ジエム*政権が，ジュネーブ協定*(インドシナ休戦協定)の完全実施を要求する活動家たちを反政府分子の共産主義者と非難してつけたレッテルである。ジュネーブ協定に予定された1956年7月までの統一選挙を完全に無視したゴージン-ジエム政権とこれを支持したアメリカ合衆国に対し，1956年ごろから広範に起こった反アメリカ・反ゴージン-ジエムの政治闘争，および1959年ごろから各地に広がった武装闘争(ゲリラ闘争)を結合する形で，1960年12月結成された。解放戦線創立の活動綱領には，アメリカ帝国主義支配と，その手先ゴージン-ジエム政権の打倒，民族民主連合政府の樹立，民主制度の採用，独立・自主経済の建設，土地改革，平和中立政策の実現，民族文化の建設などをうたっている。人民革命党(マルクス-レーニン主義政党)・民主党・急進社会党などの政党，仏教・キリスト教・カオダイ教などの宗教勢力，農民・労働者・知識人を含む20余の大衆団体を幅広く結集している。アメリカ軍および南ベトナム政府軍との戦闘で果敢な抵抗を行なうと同時に，解放区には行政・経済・文化などの面で制度的な建設・指導にあたり，1967年8月新政治綱領を採択した。1969年6月にはベトナム民族民主平和勢力連合とともに，南ベトナム共和国臨時革命政府を樹立，ソ連・キューバ・中国・東ヨーロッパ諸国など10数か国に承認を受け，在外常駐機関を設置して外交活動も行なっている。臨時革命政府顧問評議会議長にはグエン-フー-ト*解放民族戦線議長が選ばれ，その下に6人の副議長，多数の中央委員がある。➜ベトナム戦争〔広部和也〕

みなみぼうそうこくていこうえん【南房総国定公園】 千葉県，房総半島*太平洋岸の太東崎および東京湾岸の富津岬(ふっつみさき)より南部の沿岸一帯，面積56.7km²の地域で，1958年(昭和33)に指定された。太平洋岸は海岸線が入り組み，海食崖(かいしょくがい)が発達したところが多く，太東崎やおせんころがしの断崖がすばらしい。東京湾岸は砂浜がゆるやかに延びる海岸風景が見られ，富津岬の砂嘴(さし)がみごとで，鋸山*(のこぎりやま)(329m)は海岸に迫り，展望が美しい。南端部の洲崎(すさき)・野島崎*・千倉海岸は海食台地と砂浜が続き，変化に富む地形が見られ，鴨川(かもがわ)市までの沿岸は花の栽培で有名である。鯛ノ浦*(たいのうら)は大タイの生息地で，特別天然記念物に指定されている。〔木村東一郎〕

みなみまんしゅうてつどう【南満州鉄道(株)】 略称満鉄。1905年(明治38)のポーツマス条約*でロシアから譲渡された東清(とうしん)鉄道の一部と，その付属権益をもって設立された半官半民の株式会社。1906年勅令第142号により，資本金2億円(うち政府出資1億円)で設立された。初代総裁は後藤新平*。満州における軍事的・経済的拠点として，大陸の進出・支配に大きな役割を果たしつつ事業を拡張し，1940年(昭和15)には，資本金16億円という当時世界最大の株式会社となった。1941年の社員は20

万人，その他の従業員を合わせると30万人を数えた。事業は鉄道を中心に鉱山・水道・電気・製造工業・調査部門に及び，関係会社は50に上り，満鉄コンツェルンとよばれるほどの威容を誇った。満州事変*前1,100km余であった営業キロ数も，事変後満州国有鉄道・朝鮮鉄道を接収，新線を加えて太平洋戦争中は10,000km余となった。1945年ソ連軍の満州占領により消滅。〔応和邦昭〕

みなみまんしゅうてつどうばくはじけん【南満州鉄道爆破事件】 1928年(昭和3)6月4日張作霖*(ちょうさくりん)が北京(ペキン)から奉天に向かう途中，関東軍参謀河本(かわもと)大作らの陰謀により列車を爆破されて即死した事件。軍部はこれを機に張の勢力を排除し，満州を中国から切り離して一元的に支配することをめざした。日本国内では満州某重大事件として発表されただけで，真相は知らされなかった。

みなみローデシア【南ローデシア】 ⇨ローデシア

みなもとのさねとも【源実朝】(1192～1219) 鎌倉幕府の第3代将軍・歌人。源頼朝*(よりとも)の第2子。将軍とはいえ北条(ほうじょう)氏が幕府の実権を握っていたので，実朝の地位は名目のみであった。鶴岡八幡宮*(つるがおかはちまんぐう)で右大臣拝賀の儀を行なった際，兄頼家の子公暁(くぎょう)に殺された。和歌は藤原定家*の指導を受け，当時の京都歌壇の風潮とは異なった万葉調の歌人として知られる。家集《金槐(きんかい)和歌集*》がある。

みなもとのしたごう【源順】(911～983) 平安中期の歌人・学者。《拾遺和歌集*》以後の勅撰集(ちょくせんしゅう)に多く入集し，権門貴族に出入りし，屏風歌(びょうぶうた)・贈答歌を多く残した。また，漢詩文の才能にも恵まれていた。〈梨壺(なしつぼ)五人〉のひとりとして《後撰和歌集》を撰進し，《万葉集》に訓点を施す作業にも力を尽くした。家集に《源順集》があり，漢和辞書の嚆矢(こうし)である《倭名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)》を著わし，また，《宇津保物語*》《落窪(おちくぼ)物語*》の作者にも擬されている。

みなもとのたかあきら【源高明】(914～982) 平安中期の公卿(くぎょう)。醍醐(だいご)天皇の皇子。母は更衣源周子。920年(延喜20)源姓を賜わり，966年(康保3)右大臣，翌年左大臣となった。妻は右大臣藤原師輔(もろすけ)の娘で，村上天皇の中宮安子の妹。安子所生の為平(ためひら)親王に期待した高明は，娘をその妃としたが，師輔・安子があいついで没したため，967年守平親王(円融天皇)が冷泉(れいぜい)天皇の皇太弟に立てられて失望した。969年(安和2)天皇の病により譲位の議が起こったが，このとき高明は為平親王擁立の陰謀の首謀者として大宰権帥(だざいのごんのそち)に左遷され，971年(天禄2)召還されるまで九州にいた(→安和の変)。これにより藤原氏は有力他氏の排斥に終止符を打ち，政権独占の体制を固めた。高明は学を好み，朝儀に通暁し，《西宮記》を著わした。〔黛　弘道〕

みなもとのたかくに【源隆国】(1004～1077) 平安中期から後期にかけての公卿(くぎょう)。左大臣高明(たかあきら)の孫で大納言俊賢(としかた)の子。正二位・権大納言となり，世に宇治大納言という。毎夏，宇治の別荘に往来の人を招き入れ，障子を隔てて俗説巷談(こうだん)を聞き書きしたものが《宇治大納言物語》(《今昔物語集*》ともいう)で，これを13世紀初頭に増補したものが《宇治拾遺物語》といわれる。

みなもとのためとも【源為朝】(1139～1170) 平安末期の武将。為義(ためよし)の第8子。通称鎮西八郎。射術の名手といわれ，13歳のとき父為義に追われて九州に下った。九州での乱行がはなはだしいため朝廷より上洛(じょうらく)を命ぜられたが聞かず，為義が解官されるに及んでようやく上洛した。保元(ほうげん)の乱*で父為義とともに崇徳(すとく)上皇方について戦ったが，敗れて伊豆(いず)(静岡県)大島に流された。1170年(嘉応2)伊豆介(いずのすけ)狩野茂光(かのうしげみつ)に攻められて自殺したが，琉球(りゅうきゅう)にのがれて王祖となったという伝説もある。〔飯田悠紀子〕

みなもとのためよし【源為義】(1096～1156) 平安末期の武将。源義親(よしちか)の子。義家の孫。父義親が誅(ちゅう)されたのち祖父義家の嫡子となる。六条堀川に住んだので六条判官とよばれた。1154年(久寿1)子為朝(ためとも)の九州における乱行により検非違使(けびいし)の官を解かれた。保元(ほうげん)の乱で為朝とともに崇徳(すとく)上皇方についたが敗れ，天皇方についた子義朝の助命嘆願も及ばず，信西・平清盛らの強硬意見により斬罪(ざんざい)に処せられた。

みなもとのつねのぶ【源経信】(1016～1097) 平安後期の歌人。宇多源氏。民部卿(きょう)道方の子。博学にして多才，豪放にして判断力に富む性格で，朝政にも重きをなし，権大納言に皇后宮大夫を兼ねたが，1094年(嘉保1)大宰権帥(だざいのごんのそち)として任地におもむき，そこに没した。清新な歌風は客観的な叙景歌にすぐれ，格調が高い。《高陽院(かやのいん)七番和歌合(うたあわせ)》をはじめ，当時の歌合にたびたび判者となり，その堂々たる判により〈天下判者〉と称された。〔北村杏子〕

みなもとのとおる【源融】(822～895) 平安初期の公卿(くぎょう)・歌人。嵯峨(さが)天皇の皇子。母は大原全子。870年(貞観12)左大臣。887年(仁和3)従(じゅ)一位となる。宇治の別荘はのちに道長・頼通(よりみち)の手に移って平等院*となり，嵯峨の別荘棲霞観(せいかかん)の地は今日の清涼寺*となった。また河原院(かわらのいん)を東六条に営み，世に河原左大臣といわれた。

みなもとのとしより【源俊頼】(1055ごろ～1129ごろ) 平安後期の歌人。源経信*(つねのぶ)の三男。晩年に出家して能貪(のうたん)と号した。当時の歌壇の第一人者で，白河院(しらかわいん)の命を受けて《金葉和歌集*》を撰進(せんしん)し，また多くの歌合(うたあわせ)に招かれて判者となった。歌風は自由で清新，豊かな詩想と才能によって伝統的な詠風を大胆に革新し，また連歌・俳諧(はいかい)にもすぐれた。家集《散木奇歌集》，歌学書《俊頼髄脳》がある。

みなもとののりより【源範頼】(?～1193) 鎌倉初期の武将。源義朝*(よしとも)の第6子。母は遠江(とおとうみ)(静岡県)池田宿の遊女。同国蒲御厨(かばのみくりや)で成長したので蒲冠者(かばのかんじゃ)と称された。1180年(治承4)源頼朝の挙兵にあたって参陣し，翌年頼朝の代官として義経(よしつね)とともに軍を率いて西上，源義仲*を討ち，次いで平氏追討の命を受けて一ノ谷の戦い*で平氏を破り，その功により三河守(みかわのかみ)に任ぜられた。さらに軍を率いて転戦し，1185年(文治1)壇ノ浦の戦い*で平氏一族を滅ぼした。のち引き続き九州にとどまってその経営にあたった。鎌倉に帰ってから曾我(そが)兄弟*の夜討ちに関連して疑われ，たびたび異心のないことを誓約したが聞かれず，1193年(建久4)伊豆(いず)(静岡県)修禅寺に幽閉，殺された。〔高崎徳次〕

みなもとのみちちか【源通親】(1149～1202) 鎌倉初期の公卿(くぎょう)・歌人。内大臣雅通(まさみち)の子。土御門(つちみかど)内大臣ともいう。はじめ平教盛(のりもり)の娘と結婚したが，平氏没落後，後鳥羽(ごとば)天皇の乳母(うば)藤原範子を妻とし，後白河(ごしらかわ)法皇の寵姫(ちょうき)丹後局(つぼね)と結んで政才をふるった。1192年(建久3)後白河法皇没後，一時勢力は衰えたが，1196年源頼朝(よりとも)の後援者関白九条(藤原)兼実(かねざね)を排斥，次いで外孫土御門(つちみかど)天皇を立てて後鳥羽上皇の院別当となり，鎌倉幕府に対抗，源博陸(はくろく)(源関白)と称された。和歌にすぐれ，《千載和歌集》以下に29首収め，著書に《高倉院厳島(いつくしま)御幸記》などがある。

みなもとのみつなか【源満仲】(913～997) 平安中期の武将。源姓を賜わった経基(つねもと)の子。多田満仲と号す。969年(安和2)安和(あんな)の変*で，平将門(まさかど)討伐に功をあげた藤原秀郷(ひでさと)の子千晴を退け，左大臣源高明を失脚させて摂関政治の確立に力を貸し，以後藤原摂関家と密接な関係を保持し，清和源氏隆盛の基礎を築いた。摂津守(せっつのかみ)となったとき同国多田(大阪府)に住み，以後多田源氏を称した。970年(天禄1)同地に多田院を創立し，ここに葬られた。

みなもとのゆきいえ【源行家】(?～1186) 鎌倉初期の武将。為義(ためよし)の第10子。本名義盛。新宮十郎・十郎蔵人(くろうど)と号す。1180年(治承4)に発せられた以仁



90°
80°
70°
60°
50°
メリダ
ユカタン半島
チェツマル
ベリゼ
イギリス領ホンジュラス
プエルトコルテス
ホンジュラス
テグシガルパ
グラシアスアジオス岬
マタガルパ
ニカラグア
ブルーフィールズ
マナグア
ニカラグア湖
リモン
プンタレナス
サンホセ
コスタリカ
ダビッド
パナマ
コロン
パナマ運河
パナマ湾
マンサニヨ
サンチアゴ
ハイチ
サンチェス
サントドミンゴ
ポルトープランス
ドミニカ
モンテゴベイ
キングストン
ジャマイカ
サンファン
バージン諸島
ソンブレロ島(イ)
ポンセ
プエルトリコ島(ア)
アンチグア島(イ)
ガトループ島(フ)
ドミニカ島(イ)
マルチニーク島(フ)
セントルシア島(イ)
小アンチル諸島
ブリッジタウン
バルバドス
グレネーダ島(イ)
トリニダードトバコ
ポートオブスペイン
カリブ海
アルバ島(オ)
キュラソー島(オ)
ボネール島(オ)
300万人
10～50
サンタマルタ
バランキヤ
カルタヘナ
マラカイボ
マラカイボ湖
カビマス
バルキシメト
バレンシア
カラカス
バルセロナ
クマナ
メリダ
ベネズエラ
オリノコ川
シウダドボリバル
ククタ
サンクリストバル
サンフェルナンドデアプレ
カイカラ
モンテリア
マグダレナ川
ブカラマンガ
リタクバ山
5493
メデリン
ツンハ
リャノ
クイブド
マニザレス
トリマ山
5216
ボゴタ
イバゲ
ブエナベンツラ
カリ
パルミラ
ネイバ
ウイラ山
5751
ポパイアン
パスト
ガレラス山4266
コロンビア
マルペロ島(コロンビア)
エンジェル滝
ロライマ山
2810
ギアナ高地
サンフェルナンドデアタバポ
ボアビスタ
ジョージタウン
ニューアムステルダム
パラマリボ
ガイアナ
ギアナ
スリナム
カイエンヌ
アマパ
マカパ
マラジョ島
ネグロ川
ブランコ川
ヤプラ川
オビドス
グルバ
ベレン
マナオス
アマゾン川
モンテアレグレ
サンタレン
タパジョス川
トカンチンス川
シングー川
アラグァイア川
キト
エクアドル
ガラパゴス諸島
チンボラソ山
6272
アンバト
グアヤキル
クエンカ
ローハ
アリカ
イキトス
マラニョン川
ウカヤリ川
ベンジャミンコンスタント
ジュルア川
セルバ
マデイラ川
プルス川
クララ
ピウラ
アグハ岬
チクラヨ
カハマルカ
ロボスデチエラ島
ペルー
トルヒヨ
ワスカラン山
6768
チンボテ
ワヌコ
パスコ山
4608
セロデパスコ
ラオロヤ
カヤオ
リマ
キラバンバ
ワンカベリカ
ウアミナ山
4401
クスコ
ピスコ
イーカ
チチカカ湖
ヤンプー山
7014
ボリビア
ラパス
ヤウカ
アレキパ
プーノ
モエンド
タクナ
アリカ
ピサグア
イキケ
サハマ山
6520
オルロ
ポーポ湖
コチャバンバ
サンタクルーズ
スクレ
ポトシ
ウユニ
ポルトベリョ
ブラジル
プリンシペダベイラ
マトグロッソ高原
ジアマンチノ
マトグロッソ
クイアバ
カンポ
ゴイアス
ゴイアニア
アラグアリ
ウベラバ
コルンバ
カンポグランデ
トレスラゴアス
リベイロンプレト
太平洋
アタカマ海溝
南回帰線
チュキカマタ
トコピヤ
リカンカブル山
5930
アントファガスタ
ソコンパ
フフイ
サルタ
タコポソ
タルタル
チャニャラル
カルデラ
コピアポ
アスフレ山(コピアポ)
6080
アタカマ砂漠
ツクマン
サンチアゴデルエステロ
トロ山
6382
カタマルカ
チレシト
ラリオハ
サンフェリックス諸島(チリ)
コキンボ
ラセレナ
チリ
イヤペル
サンフアン
アコンカグア山
7021
メンドサ
サンフェリペ
バルパライソ
サンチアゴ
サンフェルナンド
タルカ
カウケネス
コンセプシオン
チヤン
アンツコ山
3566
レブー
ネウケン
アンデス山脈
ファンフェルナンデス諸島(チリ)
コロラド川
グランチャコ
プエルトカサド
パラグアイ
コンセプシオン
サンペドロ
アスンシオン
フォルモサ
レシステンシア
コリエンテス
エンカルナシオン
ポサダス
イグアス滝
ピルコマヨ川
パラナ川
ウルグアイ川
メルセデス
ラファエラ
サンタフェ
パラナ
コンコルジア
コルドバ
ビヤマリア
ロサリオ
アルゼンチン
パイサンドー
メロ
フロリダ
ウルグアイ
ミナス
モンテビデオ
ブエノスアイレス
ラプラタ
ラプラタ川
ボリバル
オラバリア
タンジル
マールデルプラタ
ネコチア
テレン
サンタローサ
メルセデス
ペルガミノ
サンパウロ
ポンタグロッサ
アプカラナ
マリンガ
オリニョス
クリチバ
パラナグア
サンフランシスコ
フロリアノポリス
パソフンド
ツバラン
サンタマリア
サンタローザ
ポルトアレグレ
ペロタス
パトス湖
リオグランデ
ミリン湖
150
1500
3000
6000
300
600

原书缺页

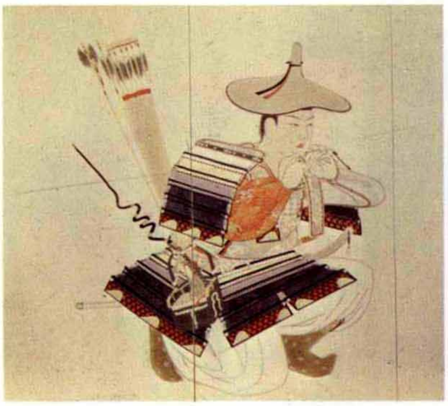
原书缺页

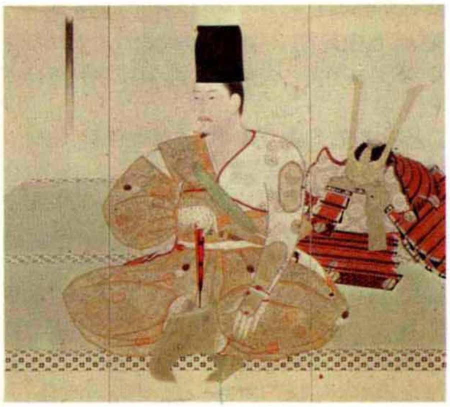
王*(もちひとおう)の令旨(りょうじ)を諸国源氏に伝えたといわれる。源頼朝(よりとも)から一時美濃(みの)(岐阜県)・尾張(愛知県)の経営をゆだねられたが，やがて源義仲と結んで入京し平氏を西走させ平氏追討宣旨を受けた。しかし義仲と不和になってこれと対立，義仲滅亡後は源義経(よしつね)と組んで頼朝追討宣旨を後白河(ごしらかわ)法皇に強要，さらに四国の惣(そう)地頭(→地頭)に補任されたうえで都をのがれたが，和泉(いずみ)(大阪府)で関東よりの追討軍常陸房昌明(ひたちぼうまさあきら)・北条(ほうじょう)時定に捕えられ，きられた。〔飯田悠紀子〕

みなもとのよしいえ【源義家】(1039～1106) 平安後期の武将。頼義(よりよし)の長男。幼名八幡(はちまん)太郎という。射術にすぐれ，前九年の役*に父頼義に従って奮戦，その戦功により出羽守(でわのかみ)に任ぜられた。父の死後嫡流を継ぎ摂関家に臣従して武勇の士としての地位を固めた。この間大江匡房*(まさふさ)に兵法を学んだという。1083年(永保3)陸奥守(むつのかみ)兼鎮守府将軍として現地に赴任し，勃発(ぼっぱつ)した後三年の役*を鎮定したが，朝廷はこれを私戦として扱い，追討官符を与えずに勧賞も行なわないばかりか，かえって陸奥守の任を解いた。しかしこの戦闘を通して義家は東国武士団との間の私的主従関係を強化し，武士の棟梁(とうりょう)としての地位を固め，義家に田畑を寄進する百姓も多かった。院政の開始とともに朝廷は源氏抑圧策をとったため，正四位下に叙せられ，院の昇殿は聴許されたとはいえ，嫡男義親(よしちか)の乱行もあって晩年は苦境であった。〔飯田悠紀子〕

みなもとのよしつね【源義経】(1159～1189) 平安末期・鎌倉初期の武将。義朝(よしとも)の第9子(一説では第8子)。母は近衛(このえ)天皇の皇后九条院に仕えた雑仕女(ぞうしめ)常盤(ときわ)。幼名牛若丸・九郎，源九郎と号した。平治の乱*後捕えられて鞍馬(くらま)寺*に入れられたが，のち脱出して陸奥平泉(むつひらいずみ)(岩手県)の藤原秀衡(ひでひら)をたよってその保護を受け，1180年(治承4)兄頼朝(よりとも)の挙兵に応じてこれに属し，1184年(寿永3・元暦1)範頼(のりより)とともに上洛(じょうらく)して源義仲を粟津(あわづ)に敗死させ，続いて平氏を一ノ谷・屋島・壇ノ浦に破ってこれを全滅させた。この間その武勇により頼朝の推挙を経ずに左衛門少尉(さえもんのしょうじょう)・検非違使(けびいし)に任ぜられた。その後しだいに頼朝との阻隔が顕著となり，叔父(おじ)行家と結んで頼朝追討の宣旨を受けたが失敗し，再び陸奥平泉の秀衡をたよった。秀衡没後，その子泰衡(やすひら)に襲われ衣川館で自刃した。〔飯田悠紀子〕

みなもとのよしとも【源義朝】(1123～1160) 平安末期の武将。為義(ためよし)の長男。平正盛(まさもり)・忠盛(ただもり)が源氏に代わって政治権力を伸張していた時期に，


源義経《黄瀬川の陣》(部分) 安田靫彦画


源頼朝《黄瀬川の陣》(部分) 安田靫彦画

相模(さがみ)(神奈川県)にあって東国に勢力をふるった。保元(ほうげん)の乱*では平清盛とともに後白河(ごしらかわ)天皇方について勝利を得，崇徳(すとく)上皇方についた父為義以下一族の多くを斬罪(ざんざい)に処した。乱後左馬頭(さまのかみ)まで上ったが，清盛に比べて政治的に恵まれないことを不満とし，藤原信頼(のぶより)と平治の乱*をひき起こした。敗れて東国にのがれる途中尾張(愛知県)で長田忠致(おさだただむね)に殺された。〔飯田悠紀子〕

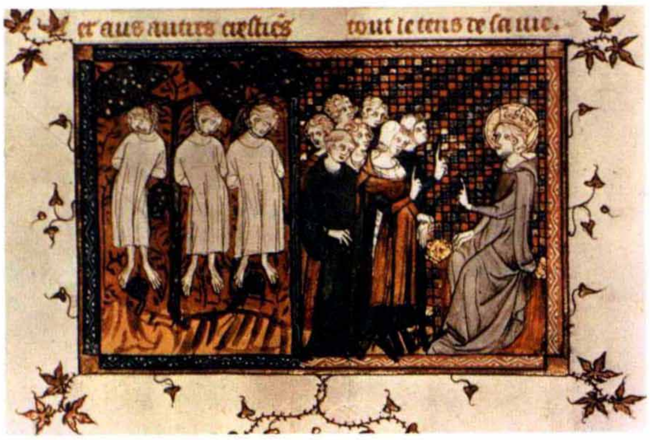
みなもとのよしなか【源義仲】(1154～1184) 平安末期の武将。義賢(よしかた)の第2子。木曾(きそ)次郎ともいう。父義賢が源義平に殺されたのち，信濃(しなの)(長野県)木曾で中原兼遠に養育されて成人した。1180年(治承4)源頼朝(よりとも)に続いて信濃に挙兵し，北陸道に進出して倶利伽羅(くりから)峠に平維盛(これもり)を破り，源行家と結んで京都から平氏を西走させた。入京後食糧の欠乏から軍兵の狼藉(ろうぜき)がはなはだしく人望を失い，平氏追討の実もあがらないうえ行家とも離反して孤立した。1183年(寿永2)かねてから反目していた後白河(ごしらかわ)法皇を幽閉してみずから征夷(せいい)大将軍となったが，翌年入洛(じゅらく)した源範頼(のりより)・義経(よしつね)の軍に敗れ，近江(おうみ)(滋賀県)の粟津(あわづ)で敗死した。〔飯田悠紀子〕

みなもとのよしひら【源義平】(1141～1160) 平安末期の武将。義朝(よしとも)の長男。1155年(久寿2)叔父(おじ)義賢(よしかた)を討って武名をあげ，悪源太とよばれた。1159年(平治1)平治の乱*には父に従って奮戦，父が東国に敗走したのち，京都に潜入して平清盛父子をねらったが，平氏の家人難波経房(つねふさ)に捕えられ，六条河原(かわら)できられた。

みなもとのよしみつ【源義光】(1045～1127) 頼義(よりよし)の第3子。母は平直方の娘。新羅明神(しんらみょうじん)で元服したので新羅三郎と称した。弓馬の術に長じ，知謀にすぐれ，また笙(しょう)をよくした。左兵衛尉(さひょうえのじょう)として在京中，兄義家が後三年の役*で苦戦しているのを聞き，1087年(寛治1)官を辞して陸奥*(むつ)に下り，義家の軍に合して清原武衡(たけひら)・家衡を滅ぼした。帰京して刑部丞(ぎょうぶのじょう)・常陸介(ひたちのすけ)・甲斐守(かいのかみ)を経て刑部少輔・従(じゅ)五位に進んだ。その子孫から武田氏が出た。

みなもとのよりいえ【源頼家】(1182～1204) 鎌倉幕府の2代将軍。頼朝(よりとも)の長子。母は北条政子*(ほうじょうまさこ)。幼名万寿。1199年(正治1)家督を継いだが，側近者を重んじ，頼朝以来の重臣を軽んじたので，その独裁をおさえるために，政子は北条時政*ら老臣たちによる合議制を敷いた。それを不満とする頼家は，1202年(建仁2)将軍に就任したが，以後も常軌を逸する行為が多かった。翌年頼家はしゅうとの比企能員*(ひきよしかず)と北条氏討伐を計画したが，かえって能員は殺され，頼家は伊豆(いず)(静岡県)修禅寺に幽閉され，翌年殺された。〔高崎徳次〕

みなもとのよりとも【源頼朝】(1147～1199) 鎌倉幕府の初代将軍。義朝(よしとも)の第3子。母は熱田大宮司季範(すえのり)の娘。1159年(平治1)右近将監(うこんしょうげん)・上西門院蔵人(くろうど)を経て内蔵人となった。同年平治の乱*で東国へ敗走中，美濃(みの)(岐阜県)で平氏の軍に捕えられたが，池禅尼*の口ききで助命され，伊豆(いず)(静岡県)に流された。配流中，北条政子*(ほうじょうまさこ)と結婚。1180年(治承4)以仁王*(もちひとおう)から平氏追討の令旨(りょうじ)を受け，北条時政らの助力を得て挙兵したが，石橋山の戦い*に敗れ海路安房(あわ)(千葉県)に渡った。その後三浦・千葉氏ら東国武士の援助を得て同年鎌倉にはいり，ここを根拠地にした。富士川の戦い*で平維盛(これもり)・忠度(ただのり)らの軍を敗走させたのち関東一円を制圧，しだいに東海・東山諸国をその勢力下に置いた。こうして天下は京都を中心とする源義仲*，西海の平宗盛*(むねもり)，関東の源頼朝，奥州の藤原秀衡*(ひでひら)の勢力圏に分かれた。1183年(寿永2)後白河(ごしらかわ)法皇の求めにより弟の範頼・義経(よしつね)の軍を西上させ，翌年義仲を追討，次いで1185年(文治1)壇ノ浦の戦い*で平氏一族を滅ぼした。



ミニアチュール　《聖王ルイの裁き》 1320年ごろ

同年不仲になった義経追討を理由に守護・地頭を全国的に設置することを勅許され，武家政治の基礎を確立した。1189年にはみずから軍を率いて藤原泰衡(やすひら)を滅ぼした。1190年(建久１)上京して権大納言・右近衛(うこんえ)大将に任ぜられ，さらに1192年には征夷(せいい)大将軍の宣下を受け，鎌倉幕府を創設した。1195年再び上京して東大寺再興の供養に臨み，その勢威を公家(くげ)に示した。しかし翌年提携者の関白藤原(九条)兼実(かねざね)が失脚，朝廷対策の打開に努めたが，1199年(正治１)成功を見ずして病死した。➔鎌倉幕府　〔高崎徳次〕

みなもとのよりのぶ　**【源頼信】**　(968〜1048)　平安中期の武将。満仲の第３子。満仲の長男頼光(よりみつ)は摂津源氏を継ぎ，二男頼親(よりちか)は大和(やまと)源氏の祖，三男頼信は河内(かわち)源氏の祖となったが，武門の家として栄えたのはこの河内源氏である。頼信は藤原道長に臣従して摂関家の近習として家門の繁栄を図り，諸国の守(かみ)を歴任して鎮守府将軍に任ぜられた。1030年(長元３)甲斐守(かいのかみ)のときに平忠常(ただつね)の反乱を鎮定するため東国におもむいたが，忠常は戦わずに降伏し，この勝利を契機に頼信は東国の諸豪族を配下に糾合することとなり，東国に源氏の勢力の基礎を築いた。　〔飯田悠紀子〕

みなもとのよりまさ　**【源頼政】**　(1105〜1180)　平安末期の武将。仲政の子。歌人としても名高い。従三位(じゅさんみ)に叙せられたため，出家後は源三位入道と号した。1180年(治承４)後白河(ごしらかわ)法皇の皇子以仁王(もちひとおう)を奉じて平氏討伐の兵をあげたが，敗れて宇治で自害した。この挙兵から数か月後に源頼朝(よりとも)以下の諸国源氏の蜂起(ほうき)がみられることとなる。

みなもとのよりみつ　**【源頼光】**　(948〜1012)　平安中期の武将。満仲の長男。摂津源氏を継ぐ。武名高く，大江山の酒呑童子(しゅてんどうじ)を退治した説話が残されている。兼家・道長らに奉仕して藤原摂関家との結びつきをいっそう強化し，摂関家の後援によって諸国の守(かみ)を歴任し富を蓄積した。その財力は摂政兼家の二条京極邸の新築の宴のときには30頭の馬を贈り，道長の土御門(つちみかど)邸再築のときにはその調度品をすべて調進したといわれるほどのものであった。

みなもとのよりよし　**【源頼義】**　(988〜1075)　平安中期の武将。頼信(よりのぶ)の長男。武勇にすぐれ，平忠常(ただつね)の乱では父頼信に従って名声を得，1051年(永承６)安倍(あべ)頼時の反乱には陸奥守(むつのかみ)に任ぜられ，1053年(天喜１)鎮守府将軍を兼ねた。前九年の役が起こるや，関東の精兵を率いて安倍氏追討に従い，1057年に頼時を誅(ちゅう)し，1062年(康平５)清原氏の助けを得て頼時の子貞任(さだとう)を倒してこの乱を鎮定した。この戦功により正四位，伊予守(いよのかみ)に任ぜられた。頼義によって源氏の東国支配はいっそう強化された。

ミナレット　［minaret］　イスラム寺院に付属する尖塔(せんとう)。本来の目的はムッラー(僧)が頂上にのぼり，日に５度，祈りの時刻を信者に呼びかけるもの。普通は円屋根のモスク(本殿)のかたわらに数個のミナレットを配し，美しい建築効果を出す。

ミナンカバウぞく　［ミナンカバウ族］　スマトラ中部の西側高地に居住する新マライ系の民族。人口約200万(1930)。14〜15世紀には中部スマトラ全体を支配する王国を形成したが，17世紀以後イギリス・オランダの植民地経営の開始に伴い衰退した。社会生活の各方面に母系的特質を有し，早くからイスラム教・ヒンズー教の影響を受けた。

ミニアチュアかん　［ミニアチュア管］　真空管の周波数特性ならびに熱放散を改善するために考えられた小形管。電極構造を収納するのに十分なだけのガラス容器を用い，電極間容量，導入線のインダクタンスなどを減少させるようにつくられている。

ミニアチュール　［miniature］　①写本の装飾。ミニアチュールは鉛丹を意味するラテン語が語源である。元来，写本中の赤い装飾文字を意味したが，写本装飾の発達に伴ってページの縁飾りや本文中のさし絵をも意味するようになった。エジプトの《死者の書》にすでに見られ，ギリシア・ローマでも描かれたが，聖書の装飾に見られるように中世には精妙なものがつくられた。14世紀ごろからは世俗的な素材が用いられるようになった。イタリアールネサンスにも描かれたが，中心はフランス・ネーデルランドであった。インド・ペルシアなどアジア諸地域でも発達した。②細密画。小形の絵であるところからこの語を転用して，細密肖像画をさす場合もある。15世紀フランスに発端をもつ。象牙(ぞうげ)・メダル・宝石などに描かれた。18世紀の上流社会のロココ趣味にかなって大いに流行した。　〔末吉雄二〕

みにしゅう　**【壬二集】**　藤原家隆(いえたか)の歌集。《玉吟集》《家隆卿(きょう)集》ともいう。1245年(寛元３)の冬に家隆自筆の歌稿をもとに，藤原基家(もといえ)が編纂(へんさん)して成立。総歌数2,850余首，家隆の全生涯(しょうがい)の主要作品が網羅(もうら)されている。

みね　**【美祢(市)】**　山口県西部の市。人口22,000。明治中期までは山間の農林業地であったが，1904年(明治37)海軍省採炭部が設置されて無煙炭の開発が始まり，1920年(大正９)ごろからは石灰石の大規模な採掘が行なわれて鉱業都市として発展した。1954年(昭和29)市制施行。市名は嶺(みね)を意味する古代の美禰郷に起源をもつといわれる。市域は長門(ながと)山地の西部に位置し，県下唯一の内陸都市である。産業三大別人口比は24：39：37。無煙炭や石灰石などの地下資源が豊富で，大嶺炭田の無煙炭は全国生産の約60％を占め，秋吉台(あきよしだい)の石灰石を原料に石灰・セメント工業が行なわれる。そのほか，於福台(おふくだい)を中心とする大理石の採掘は全国の80％を占める。美祢線が通じ，中国縦貫高速道路のインターチェンジが置かれる予定である。秋吉台国定公園の西側の探勝基地となる。

ミネアポリス　［Minneapolis］　アメリカ合衆国，ミネソタ州中東部にある同州最大の商工業都市。人口37万8,000(1975)。ミシシッピ川とミネソタ川の合流点にあり，東の対岸にはセントポールがあり，両市を含む大都市地域の人口は172万(1966)。ミシシッピ川にかかるセントアンソニー滝の水力を利用した製粉業によって発達した都市で，製粉・精肉・乳産加工・醸造・化学製品などの産業があり，同州の工業・商業・経済・教育・交通の中心地になっている。1851年創設のミネソタ大学があり，ミネアポリス交響楽団を有するなど文化活動の面でも盛んである。　〔椙村大彬〕

みねかえで　**【峰楓】**　双子葉植物・カエデ科。本州中部から北海道に分布し，深山に自生する落葉小高木。秋の紅葉が美しい。葉は対生し，径５〜８cmの５深裂する掌状葉で，裂片は卵状菱(ひし)形で縁に不整な重鋸歯(じゅうきょし)がある。雌雄異株で，６〜７月に枝先に短い総状花序をつけ，帯赤色の黄色花を開く。果実は長さ２〜３cmの翼果

で，翼は直角に開く。近縁のコミネカエデは葉の裂片の先が長く尾状にとがり，花弁やがくは小形で，翼果はほぼ直線的に開くことで区別できる。

みねざきこうとう　【峰崎勾当】　生没年不詳。18世紀末の天明・寛政(1781～1800)ごろに活躍した大阪の地歌*の演奏家・作曲家。その作品には今日でも地歌の代表作に数えられているものが多い。地歌の端唄*(はうた)では，《雪》《袖香炉(そでこうろ)》《こすのと》，地歌の手事物では《残月》《越後獅子(えちごじし)》などがあり，最後のものは，同名の長唄に取り入れられている。

みねざくら　⇨サクラ

みねずおう　【峰蘇芳】　双子葉植物・ツツジ科。本州中部以北の高山にはえる常緑小低木。茎は高さ10～15cmで，地をはってよく分枝し，枝は斜上して一面に広がる。葉は対生し，線形で密生するため，マット状になる。葉は著しく外側に巻き，革質で平滑，表面は濃緑色，下面は白色。7月ごろ，茎頂に散形花序をつけ，白色でやや紅色をおびた花を数個開く。花冠は広鐘形で先は5裂し，星状に開く。果実は小さい球形の蒴果(さくか)。

ミネソタ(州)　［Minnesota］　アメリカ合衆国中北部の州。北部はカナダに，東はスペリオル湖に面する。面積21万7,000km^2，人口391万7,000(1974)。州都セントポール。1858年5月合衆国32番めの州となる。州名はインディアン語の〈濁った〉の意で，ミネソタ川の水をさしたもの。南流してメキシコ湾へ注ぐミシシッピ川，カナダのハドソン湾へ北流するレッド川，東流してスペリオル湖にはいるセントルイス川の3河川がこの州から発している。また湖は〈一万湖の地〉といわれるほど多い。農業は酪農が盛んで，家畜からの収入は全農業収入の3分の2を占め，バターは全国1位，乳牛の生産はウィスコンシン州に次いで第2位となっている。鉄鉱石はメサビ・バーミリオンなどの鉱山から全国の60%を産出している。工業は精肉・乳酪製品などの食品工業と機械工業が盛ん。主要都市，ミネアポリス・セントポール・ダルース。〔椙村大彬〕

みねやま　【峰山(町)】　京都府中郡の町。人口15,000。奥丹後半島中部の竹野川流域に位置する。享保(きょうほう)年間(1716～1735)に西陣から伝えられて盛んとなった丹後縮緬(ちりめん)の中心機業地の一つで，現在もその集散地である。宮津線・国道178号線が通る。

ミネルバ　［Minerva］　ローマ神話の女神。職人や商業ギルドの守護神。エトルリアに起源をもつと思われる。ジュピター・ユノと三位一体の形をとる。ギリシア神話のアテナ*と同一視される。

みの　【美濃(国)】　岐阜県の南半に位置する旧国名。濃州。東山道に属す。大化改新前は三野前国造(みののみちのくちのくにのみやつこ)・三野後(みちのしり)国造・本巣(もとす)国造・牟宜都(むげつ)国造などがいたが，大化改新後一国となり，多芸・石津・安八(あはち)・山県(やまがた)・不破・池田・大野・本巣・席田(むしろだ)・方県・厚見・各務(かがみ)・武義・群上・賀茂(かも)・可児(かに)・土岐・恵奈(えな)の18郡であった。国府は現在の不破郡垂井(たるい)町，国分寺は大垣(おおがき)市。鎌倉時代には大内・宇都宮(うつのみや)・北条(ほうじょう)の諸氏が守護となり，その後室町時代を通じて土岐氏が守護職を世襲したが，戦国末期に斎藤道三*に滅ぼされた。次いで織田信長*(のぶなが)が斎藤氏を討ち，岐阜城を築いて移住した。1600年(慶長5)当国の関ケ原で天下分け目の戦いが行なわれ(→関ケ原の役)，その結果徳川家康(いえやす)が覇権(はけん)を握った。江戸時代には大垣・加納・岩村・郡上八幡(はちまん)・高須(たかす)などの諸藩が置かれたが，概して小藩が多かった。明治維新後9県となり，1871年(明治4)統合されて岐阜県となり現在に至る。〔簱　弘道〕



ミネズオウ



ミノー《静物》

みの　【美濃(市)】　岐阜県南部の市。人口27,000。1606年(慶長11)金森氏の築城以来の城下町で，江戸時代は美濃紙の集散地として知られた。1954年(昭和29)市制施行。市域は濃尾平野の北端から美濃高原へかけて広がり，市街地は長良(ながら)川と支流板取川の合流点から下流部にかけて発達する。産業三大別人口比は8：55：37。製紙の中心は板取川流域の牧谷で，障子紙・謄写版原紙・美術紙などを手すきで生産するが，最近は機械すきが増加している。南西郊の武儀川流域も武芸谷(むげだに)という通称で，製紙業地として知られる。越美(えつみ)南線・国道168号線がほぼ南北に縦断し，名古屋鉄道美濃町線で南西方の岐阜市と結ばれる。

ミノー　［André Minaux］　(1923～　)　フランスの画家。パリの装飾美術学校に学び，さらにブリアンションらに師事。1948年に批評家賞を受賞して，ビュッフェとともに急速に頭角を現わした。画風は，最初は写実的であったが，しだいにキュービスムなどを取り入れて画面造形に近代化を強めた。

ミノアぶんめい　【ミノア文明】　⇨エーゲ文明

ミノアもじ　【ミノア文字】　ミケーネ文字ともいう。ギリシアのクレタ島，ペロポネソス半島のピュロスなどで今世紀になって多量に発見された文字。紀元前15～紀元前13世紀にわたって使用された。書体により，①ヒエログリフィックA，②線文字A　③線文字Bに分類される。③は1952年イギリス人ベントリスとチャドウィックにより解読され，音節文字であること，古いギリシア語を写したものであることが明らかになった。歴史時代のギリシア語*よりもさらに数世紀古く，この言語はミケーネ語とよばれる。〔崎山　理〕

みのお　【箕面(市)】　大阪府北西部の市。人口99,000。1910年(明治43)箕面有馬(ありま)電鉄(いまの京阪神(けいはんしん)急行電鉄箕面線)の開通以来，沿線の住宅地開発が進み，近年は住宅団地も多く建設されて，大阪のベッドタウンとなっている。1956年(昭和31)市制施行。市域の大半は秩父(ちちぶ)古生層からなる箕面山地で，高さ400～500mの準平原状の山頂をもつ。南部には千里山丘陵の間に箕面川が流れて，高さ40～100mのやや急傾斜した扇状地をつくり，南端は箕面断層崖(だんそうがい)によって限られる。産業三大別人口比は3：32：65。住宅・観光都市の性格が強く，新稲(にいいな)地区の周辺では庭木・植木・草花などの栽培が盛んである。箕面山地一帯の箕面公園は古く滝と紅葉で知られた名所で，こん虫の宝庫ともいわれ，昆虫館(こんちゅうかん)がある。1967年明治の森箕面国定公園に指定され，東海自然歩道の終点にあたる。

みのが　【蓑蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ミノガ科の総称およびそのうちの一種。中～小形のガで，黒かっ色のものが多く，世界から約800種が知られる。雄はよく発達した翅(はね)と脚をもち活発に飛び回るが，雌は雄と同様の翅をもつものから無翅無脚のものまで，いくつかの段階に分かれる。幼虫は孵化(ふか)するとすぐに筒状の蓑をつくり，ミノムシとよばれる。蓑は植物の葉・小枝・土・塵芥(じんかい)などを絹糸で綴りあわせてつくられ，端部から頭と胸を出して葉花・樹皮・コケなどを食べる。老熟すると蓑を他物にくくりつけ，その中でさなぎ

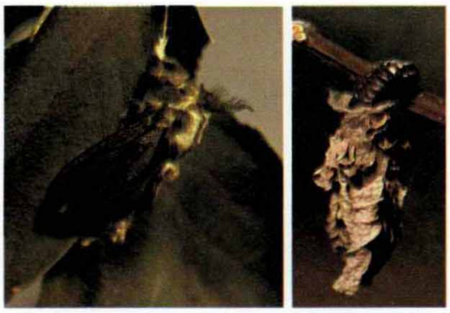
となる。雄は蓑の下端から羽化して飛び出すが，無翅の雌では蓑の中にとどまって雄の飛来を待って交尾が行なわれる。この科の中には雄が発見されていない種があり，単性生殖が行なわれていると考えられる。このうちの一種であるミノガは，雄で体長15～18mm，翅を広げた長さ23～24mm。体・翅とも黒かっ色で紋はない。雌は体長13mm内外，翅と脚は退化してうじ虫型。成虫は年1回4～7月に出現し，雄は夕刻活発に飛び回る。幼虫はヒマラヤスギなどを食べる。日本全土のほか，中国・サハリン(樺太(からふと))・中央アジアに分布。〔多々内修〕

みのかさご【蓑笠子】硬骨魚類・フサカサゴ科。全長30cmに達する海産魚。神奈川県三崎でヤマノカミという。体は楕円(だえん)形でやや延長する。各ひれは大きくて特に背びれ・胸びれは大きく，棘部(きょくぶ)には毒腺(どくせん)が発達してこれにさされるとたいへん痛い。体色は赤みの強い暗かっ色で，濃かっ色の横帯がある。日本中部以南，沖縄・台湾・フィリピンなど温帯・熱帯域の沿岸に広く分布し，ときには潮だまりにはいることもある。派手な色合いと，胸びれを大きく広げてゆっくり泳ぐ姿が美しいので，水族館などで珍重される。また案外美味であるともいう。〔安田富士郎〕

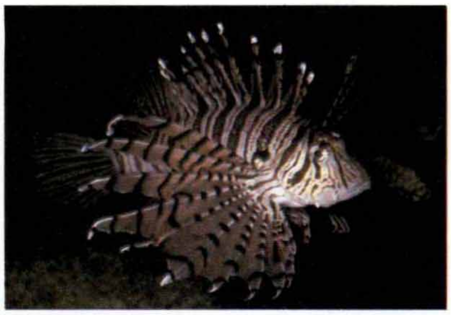
みのかも【美濃加茂(市)】岐阜県南部の市。人口39,000。中心集落の太田(おおた)は江戸時代には木曾(きそ)川の渡船場にあたる中山道(なかせんどう)の宿場町であった。1954年(昭和29)市制施行。市域は濃尾平野の北東端から美濃高原へかけて広がり，市街地は木曾川と支流飛驒(ひだ)川の合流点付近の北岸に位置する。産業三大別人口比は15：37：48。両川流域の農村地帯では米・麦・サツマイモなどがつくられ，台地上の山之上地区はナシ・ブドウ・カキ・モモなどの果樹栽培が盛んで，クワ畑も多く，乳牛が飼育される。高山本線は太多線・越美南線が美濃太田駅で会し，国道21号線・41号線・248号線が集まる。木曾川の景勝地〈日本ライン下り〉の起点で，飛驒木曾川国定公園の観光基地となる。

みのし【美濃紙】美濃(岐阜県)ですかれた紙であるから美濃紙というが，美濃産に限らずに，同じような紙をすべてこういう。書院紙ともいう。コウゾを原料としてすいた紙で，半紙より大きく，紙質はじょうぶである。48枚を1帖(じょう)とする。

ミノス［Minos］古代ギリシア，クレタの伝説上の王。彼についての伝説とミノア文明の歴史的事実との関連は定かでないが，ミノスは王朝または称号の名であったかもしれない。伝説では彼はゼウスとエウロペの子。妃パシパエとの間に2人の娘アリアドネ*とパイドラ，それに2人のむすこがあった。一般には公正な支配者で，そのため死後ラダマンテュス・アイアコスとともに冥府(めいふ)の裁判官とされたというが，



ミノガ　オオミノガの成虫と幼虫



ミノカサゴ

アッチカ伝説では残虐な支配者で，アテナイより7人の若者と7人の娘を毎年ミノタウロス*への生贄(いけにえ)に送らせたという。

ミノタウロス［Minotauros］ギリシア神話の怪物。クレタ王ミノス*は海神ポセイドンとの約束を破ったため，怒った海神は王妃パシパエが牡(お)ウシを恋するようにしてしまった。ここから生まれたのが半人半牛のミノタウロス(ミノスのウシの意)である。怪物はダイダロス*がつくったラビュリントス*(迷宮)に閉じ込められ，アテナイの英雄テセウス*に退治された。

みのは【美濃派】俳諧(はいかい)流派。獅子門(ししもん)ともいう。美濃(岐阜県)の支考*によって美濃の地を中心に組織されたことからこの名がある。平明を売り物に地方に浸透し，その影響力は東北から九州に及んだ。特に乙由*の伊勢(いせ)派*と結んで強大な勢力をなしたが，蕪村*(ぶそん)らから〈支麦の徒〉〈田舎蕉門(いなかしょうもん)〉と非難された。

みのぶ【身延(町)】山梨県南西部，南巨摩(みなみこま)郡の町。人口10,000。富士川中流に位置し，川沿いの狭い平地を除くとおおむねが山地である。1931年(昭和6)町制施行，1955年周辺3村を合併した。中心の身延は，1274年(文永11)日蓮(にちれん)が開いた日蓮宗総本山久遠寺の門前町として発達した。林業・製材業が盛ん。富士川左岸に身延線が通じ，右岸に国道52号線が走る。

みのぶさん【身延山】山梨県南西部にある山(高さ1,148m)で，日蓮宗(にちれんしゅう)総本山身延山久遠寺*の所在地。行政上は南巨摩(みなみこま)郡身延町に属する。日蓮宗の聖地で，身延線・国道52号線が通じ，山頂の奥の院までロープウエーが通じている。参道には樹齢200～300年の老杉(ろうさん)が立ち並び，東西の谷には32の宿坊が本山に連なる。北東郊に下部(しもべ)温泉がある。

みのべたつきち【美濃部達吉】(1873～1948) 憲法学者。兵庫県の生まれ。東京大学卒業。1902年(明治35)以来1934年(昭和9)まで東京帝国大学教授として憲法・行政法を担当。1921年大日本帝国憲法を自由主義的解釈によって天皇機関説*を発表し，君主絶対の国体論や，軍部・右翼の軍国主義の思想運動に抵抗した。以後，国体明徴派の非難と排撃をうけてその憲法に関する著書は発禁を命ぜられたが，第2次世界大戦後の晩年に至るまで不屈の活躍を続けた。戦前の主著に《憲法撮要》《日本憲法の基本主義》，戦後の主著に《新憲法概論》《日本国憲法原論》など多数がある。〔安達利夫〕

みのべりょうきち【美濃部亮吉】(1904～) 経済学者。東京都の生まれ。美濃部達吉長男。1927年(昭和2)東京大学卒業。法政大学教授，毎日新聞論説委員をへて，1947年(昭和22)統計委員会事務局長・行政管理庁統計基準部長を歴任，経済評論家として活躍。1967年(昭和42)革新政党支持の初の東京都知事となり，1971年(昭和46)再選。1975年(昭和50)三選。

みのみかわこうげん【美濃三河高原】岐阜県南東部から愛知県北東部にわたって広がる高原状の山地で，北半は美濃高原，南半は三河高原とよばれる。北と東は飛驒(ひだ)山地・飛驒山脈*・木曾(きそ)山脈*に接し，西と南はゆるやかに低下して濃尾平野*・岡崎平野*・東三河平野(豊橋(とよはし)平野)に移る。全般に平坦(へいたん)な地形を示すが，木曾川や矢作(やはぎ)川など深い谷もある。

みのむらりざえもん【三野村利左衛門】(1821～1877) 幕末から明治にかけて，三井家*の番頭として手腕をふるった三井中興の功労者。信濃(しなの)(長野県)出身。農家に生まれ江戸に出て両替商を開業，豪商三井に対する幕府御用金緩和策でその非凡な才を認められ，三井家手代三野村家を継いだ。幕末の混乱期に，8代目八郎右衛門とともに幾多の困難を乗り切った。特に井上馨*(かおる)・大隈重信(おおくましげのぶ)らの明治新政府首脳と三井家との関係をとり結び，三井をして新政府御用達の筆頭に押し上げ，300年の歴史をもつ三井を新たに政商三井として脱皮させ盤石の基礎を築いた。三井本店を東京に移し，近代的な組織・機構をつくりあげるべく大改革を断行，世界的な金貨騰貴の際にも未然に損害を防ぎ，さらに三井銀行頭取となり，三井物産創立を発案し，財界における三井の独占制覇(せいは)を導いた。〔片岡一郎〕

ミノルカ［minorca］卵用のニワトリで，地中海ミノルカ島原産。黒色のものが代表的な内種である。脚は鉛色，体重は雄3.8kg・雌3.2kg，卵重は65～66gと大きいが，産卵数が少なく，初産までに200日前後かかるのが欠点。

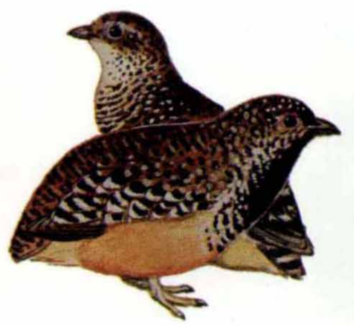
ミノルカ(島) [Minorca] メノルカ島ともいう。地中海西部，スペイン東方にあるスペイン領バレアレス諸島東端の島。面積669km²，人口約44,000。海岸線は複雑で，沿岸の海は深く良港マオンがある。北部は丘陵地だが，南部には肥沃(ひよく)な平野があり，穀物・オリーブ・ブドウ・果物を産し，ウシ・ヒツジの飼育を行なっている。また鉄鉱石も産し，クツの製造と織物工業がある。かつてカルタゴ・ローマ・ムーアの諸民族に支配されたが，1783年からスペイン領となった。 〔大崎 晃〕

ミハイロフスキー [Nikolai Konstantinovich Mikhailovskii] (1842～1904) ロシアの社会学者・文芸評論家。1870年代のナロードニキの指導的理論家。初めヘーゲルに傾倒したが，プルードンを知るに及んで社会主義に転じ，〈道徳価値に基づく社会主義的個人主義〉の学説としてパブロフの人類論を援用，ロシアにおける非マルクス主義的社会主義の傾向の強い思想体系をうちたてた。主著は《進歩とは何か》《ダーウィン理論と社会科学》《トルストイ伯の右手と左手》《残酷な天才》。 〔藤家壮一〕

ミハイロフスキー [Nikolai Garin-Mikhailovskii] (1852～1906) ロシアの小説家。貴族出身。もと鉄道技師で，1892年ナロードニキ的考え方のルポルタージュ《ある村での数年間》で認められたが，のちマルクス主義に転じた。代表作に，1870～1880年代の知識人の内面的成長を描いた自伝的三部作《チョーマの幼年時代》《中学生》《大学生》がある。

みばえ 【果実蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・ミバエ科の総称。大部分の種類は小形で体長10mmをこえるものは少なく，体は細く，明るい色彩をもつ。翅(はね)は体に比べて大きく，斑紋(はんもん)のあるものが多い。頭部は半球形で，複眼は大きく，単眼はあるものとないものとがあり，口吻(こうふん)は短く肉質で大形の唇弁(しんべん)がある。成虫は各種の果実に好んで集まる。幼虫はうじ型で，食性は変化に富む。全世界から多数の種類が知られ，日本にも多くが分布する。この類で最も有名なものは，幼虫がミカン類の果実中に食入するミカンコミバエ・ミカンミバエ・チチュウカイミバエ，ウリ類の果実に寄生するウリミバエなどで，これらのうちミカンコミバエは奄美(あまみ)大島以西に，ミカンミバエは九州以西に既に土着している。そのため，寄主植物であるミカン類・ウリ類の発生地域からの輸入は，税関法で禁止されている。

みはま 【美浜(町)】 福井県南西部，若狭(わかさ)湾に臨む三方郡の町。人口13,000。1954年(昭和29)山東など4村が合併して町制施行。町域は耳川流域と若狭湾岸からなり，水産業が盛ん。敦賀(つるが)半島北西部海岸には関西電力の原子力発電所があり，三方五湖の一つ久々子湖が西部にある。小浜(おばま)線が通る。



ミフウズラ 手前は雌

みはま 【美浜(町)】 和歌山県西部，日高郡の町。人口8,600。紀伊(きい)水道に臨み，1954年(昭和29)松原・三尾・和田の3村が合併して発足。煙樹ケ浜の松原，日ノ御埼(ひのみさき)などのすぐれた観光資源をもつ。三尾は移民が多くアメリカ村の通称があり，野菜の促成栽培が盛んである。

みはら 【三原(市)】 広島県南東部の市。人口86,000。中世には中国街道の宿駅であったが，安土桃山時代以後は城下町・港町として発達し，1582年(天正10)小早川隆景(こばやかわたかかげ)が築城した三原城は海水を引き入れた濠(ほり)をもち，浮城(うきじろ)といわれた。江戸時代は福島正則(まさのり)を経て浅野氏が統治し，瀬戸内海沿岸に大規模な干拓が行なわれて新田や塩田が開かれ，1864年(元治1)糸崎に埠頭(ふとう)が設けられた。1936年(昭和11)市制施行。市域は瀬戸内海に面し，沼田川下流流域と吉備(きび)高原に含まれる山地・丘陵部にかけて広がる。産業三大別人口比は10：43：47。昭和初期に帝国人絹(現在の帝人)・日本セメントなどの工場が設置されて工業都市として発展し，沼田川干拓地を中心に繊維・セメント・車両などの工場が立ち並び，また，伝統ある清酒醸造はいまも盛んである。山陽本線から呉(くれ)線を分岐し，国道2号線・185号線が集まる。糸崎港は瀬戸内海屈指の良港で，因島(いんのしま)・生口(いくち)島・瀬戸田・尾道(おのみち)などへ定期航路が通じ，今治(いまばり)(愛媛県)へフェリーボートが就航する。1397年(応永4)に建立(こんりゅう)された臨済宗仏通寺派の大本山仏通寺があり，瀬戸内海国立公園に属する筆影山(313m)山頂からの眺望(ちょうぼう)がすばらしい。 〔浅井得一〕

みはら 【三原(町)】 兵庫県三原郡の町。人口16,000。淡路島の南部に位置し，1955年(昭和30)洲本(すもと)平野の榎列(えなみ)・八木・市・神代の4村が合併して発足。有名な淡路タマネギの生産が多く，酪農も盛ん。淡路国分寺塔跡は史跡に指定され，また淡路人形の発祥地として知られる。

みはらやま 【三原山】 東京都伊豆(いず)大島の中央にそびえる富士火山帯の三重式活火山。標高758m。山体中央に北東に開けた径約3～4kmのカルデラがあり，比高約160mの中央火口丘(狭義の三原山)がそびえ，その頂上部に径700～800mの噴火口がある。1777(安永6)～1778年に大噴火があり，溶岩は海岸にまで達した。1950(昭和25)～1951年にも大噴火があって，溶岩はカルデラ底をおおった。東京から近く早くから観光地として知られてきた。元町からカルデラ山頂の御神火茶屋までバスが通じ，火口原の火山灰地は砂漠(さばく)に似た景観をもち，山麓(さんろく)にはツバキをはじめ，暖帯性樹林の自然公園もある。富士箱根伊豆国立公園に属する。→大島 〔高野 繁〕

みはる 【三春(町)】 福島県中東部，田村郡の町。人口19,000。化学・製材・木工・羊毛加工などの工業が行なわれる。秋田氏五万五千石の居城舞鶴(まいづる)城の城下町として発達した。古くから2・7の日の六斎市が開かれ，また馬産地として馬のせり市も行なわれ，三春駒(みはるこま)の名は有名であった。付近はタバコの栽培が盛ん。

みひつのこい 【未必の故意】 犯罪事実について確定的な故意はないが，結果発生の可能性の予見(認識)があり，故意が認められる場合のこと。たとえば，屋上から物を投げ落とした結果，これが通行人にあたって死に至った場合，傷害致死罪か過失致死罪かが問題となる。階下に物を投げれば人にあたり傷害を与えるかもしれないという可能性の予見がある限り，はっきりした傷害の故意はなくとも，未必の故意として傷害致死罪が成立する。これに対し，自己の経験から，その時刻に通行人がいないと確信して物を投げた場合は，傷害という結果発生をまったく予見しなかったのであるから，その不注意の点だけが過失致死罪に問われることとなる。 〔井上公耳〕

みぶ 【壬生(町)】 栃木県南部，下都賀郡の町。人口34,000。町域を思川の支流黒川が南流し，その両側の台地に耕地が開けて，米・麦・野菜をつくり，カンピョウ・トマトの特産があり，畜産も行なわれている。中心集落の壬生は，かつて鳥居氏三万石の城下町，日光西街道の宿場町・市場町，黒川の河港であった。最近は玩具(がんぐ)・化学・食品などの工場が増加し，中でも玩具工場は1965年(昭和40)に東京都江東地区の中小輸出メーカーが平地林を開いて集団で移転したもので，東武鉄道宇都宮(うつのみや)線に〈おもちゃのまち駅〉が新設された。

みふうずら 【三斑鶉】 鳥類・ミフウズラ科の総称およびそのうちの一種。旧世界の熱帯と亜熱帯に15種が分布し，いずれも全長10～15cmほどでまるっこい体つきをしている。外部形態・一般習性・生息地などがウズラに似るが，分類学上はツル目に属する。また，サケイ科やハト科に近縁ではないかとも考えられている。繁殖習性は少し特異であり，一般に雌が雄よりも美しく大形で，巣づくりは雌雄ともに行なうが抱卵は雄が行ない，育雛(いくすう)もおもに雄が行なう。雌は何羽かの雄とつがいになり，

その巣に産卵する。抱卵日数は12〜13日。巣立雛(びな)は生後10週間に2回換羽し，成鳥と同様に発育・成長し，飼育下のものでは早いものは3か月めに産卵したという。このうちの一種のミフウズラは種子島(たねがしま)・馬毛(まげ)島・奄美(あまみ)諸島に分布し，草原や畑に生息するが，非繁殖期はあまり目に止まらない。雌雄とも全体にかっ色に富み，雌ののどは黒色。〔安部直哉〕

みぶきょうげん【壬生狂言】 能・狂言系の民俗芸能の一。京都市中京(なかぎょう)区の壬生寺において，毎年4月21日から1週間または10日間行なわれる無言狂言。1300年(正安2)壬生寺の住持円覚(1223〜1311)が，勧善懲悪・因果応報の真理を民衆に平易に説くためにはじめたものと伝わる。演者はもと壬生郷士であったが，現在は壬生大念仏講の人々で，仮面をつけた演者が，鰐口(わにぐち)(円形で中空の鈴)・太鼓・横笛でガンデンガンデンとはやされつつ，身振り・手振りで舞う。曲目は《餓鬼罪人》《餓鬼責》など30数曲あるが，毎日最初に演ずるのは《炮烙割(ほうらくわり)》で，最終日には《湯立》《棒振》で締めくくることになっている。➔狂言〔佐藤　薫〕

みぶし【壬生氏】

1藤原北家中御門流の園氏の分家で，江戸中期より壬生と称した。幕末に至り基修(もとなが)が攘夷(じょうい)派公卿(くぎょう)として活躍し，七卿落のひとりとしても有名。明治維新後華族に列し，伯爵を授けられた。

2垂仁(すいにん)天皇の後裔(こうえい)と称する小槻(おづき)氏が平安中期以後太政官(だじょうかん)の左大史の職(太政官の事務を扱う役)を世襲して官務家といわれたが，平安末期に至り隆職(たかもと)がはじめて壬生と称し，甥(おい)広房の大宮家と対立した。壬生官務家も明治時代に至り華族に列し，子爵を授けられた。〔黛　弘道〕

みぶでら【壬生寺】 京都市中京(なかぎょう)区壬生梛(なぎ)ノ宮町にある律宗の寺。別称壬生地蔵・小三井寺。鑑真(がんじん)の開基と伝わる。991年(正暦2)地蔵菩薩(ぼさつ)を祭り快賢が中興，1005年(寛弘2)勅願寺となる。1077年(承暦1)地蔵院,1259年(正元1)宝幢三昧院(ほうとうさんまいいん)，1300年(正安2)住持円覚が修復し，心浄光院と改称した。このとき，融通念仏の真意を説くために壬生狂言を考案したと伝えられる。1464年(寛正5)足利義満(あしかがよしみつ)の改修により寺観を誇ったが，1788年(天明8)焼失し，1825年(文政8)再建された。1962年(昭和37)には放火で本堂・本尊とも焼失した。新選組屯所(とんしょ)跡が境内東北に残っている。〔杉坂靖子〕

みぶな【壬生菜】 ⇨キョウナ

みふね【御船(町)】 熊本県中部，上益城(かみましき)郡の町。人口18,000。緑川の中流部に位置し，郡の行政・経済上の中心をなす。1955年(昭和30)御船町を中心に周辺7



三船久蔵

村が合併し発足した。熊本市からバスが通じ，同市への通勤者が多い。

みふねきゅうぞう【三船久蔵】 (1883〜1965) 柔道家。岩手県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学中退。1903年(明治36)講道館に入門，1923年(大正12)講道館指南役となり，1945年(昭和20)には最高位の10段となった。軽量ながら大車・隅(すみ)落とし・肩車などの得意技を用いて巨人を倒し，〈技の三船〉として有名になった。柔道の普及に貢献し，1961年文化功労者として顕彰された。

みぶのただみね【壬生忠岑】 生没年未詳。平安前期の歌人。子の忠見とともに三十六歌仙(かせん)に選ばれている。官位は六位に叙されはしたが終生低かった。しかし歌人としては名高く，《古今和歌集》では紀貫之(つらゆき)らとともに撰者(せんじゃ)となっている。作品は勅撰集に80余首あり，家集に《忠岑集》，歌論書に《和歌体十首》がある。

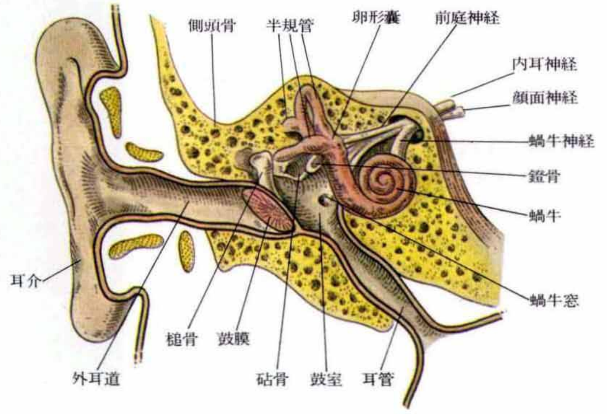
みぶん【身分】 広義には，特定の社会や集団内において，他人の地位との関連によってとらえられる特定個人の地位。個人は種々の地位(男と女，老人と青年と子ども，家族内の夫と妻，会社内の社長と社員など)によって集団や社会に位置づけられ，そのような特定の地位を占めることによって，それに付随する権利・義務の総体を享受するばかりでなく，その行使を役割行動として他人から要求・期待される。身分は，その取得態様によって年齢・性・家族などへの生得的な帰属，つまり出生とともに予定される帰属的身分と，出生の如何(いかん)にかかわらず個人の才能や努力によって獲得される獲得的身分に分けられる。狭義には，この前者の意味が強調され，上下関係，支配・服従関係が制度化・固定化されている場合をさす。インドのカースト，日本の公家(くげ)・武家・百姓・町人・賤民(せんみん)，また中世ヨーロッパの第一身分(国王・封建領主)・第二身分(貴族・僧侶(そうりょ))・第三身分(農民・商人・手工業者)などは，いずれもこの意味での身分である。なお，このような意味での身分が個人の行動をきびしく束縛し，そこにおけるすべての社会関係が身分関係を内包，もしくはそれに規定されていて，社会全体が少数の支配者層と多数の被支配者層に階層分化している社会を身分社会という。〔藤見純子〕

みぶんけん【身分権】 親族関係における身分的地位に基づいて与えられる権利をいう。親の子に対する監護教育権(民法820条)，居所指定権(民法821条)，婚姻の同意権(民法737条)，夫婦相互間における同居・扶助を求める権利，婚姻費用を分担させる権利などである(民法752・760条)。相続権は財産権の性格が強いが，これを身分権であると解するのが通説である。身分権は身分法上の地位に基づいて生ずる個々の具体的な権利の総称であって，確然とした一個の身分権というものが存在するわけではない。また，身分権は一身専属権であって，これを譲渡・相続・放棄することができないとともに，義務的色彩が濃い権利であることがその特徴である。特に財産権と区別して使われる概念であるが，最近は身分ということばが封建的階級制を意味するような語感を伴うため，むしろ〈家族法上の地位〉という用語が多く使われている。〔黒木三郎〕

みぶんせいぎかい【身分制議会】 中世後半のヨーロッパに現われた，聖職者・貴族・上層市民という身分別に構成された議会。等族会議ともよぶ。封建制最盛期には国王の諮問機関である聖俗の封建諸侯からなる王室会議があったが，国王の貨幣に対する需要が増すと，上層市民を参加させ課税を承認させる必要が生まれ，ここに身分制議会が成立した。王は出席を要求する権利を有し，課税権，戦争の開戦・停戦の承認，意思伝達などをはかろうとした。出席の各身分はそれぞれ議会を通じて特権を守り王権を抑えようとする。イギリスのパーラメント，フランスの三部会，アラゴン・カスチラのコルテス，神聖ローマ帝国の帝国議会などはこれである。全国的な中央集権をなし得ない段階において全国的に課税を実施するための現実的手段であった。したがって官僚制による中央集権化がなされる絶対王政の成立とともに，その機能を失い，近代的議会へと移行した。〔高山高雄〕

みほじんじゃ【美保神社】 島根県八束(やつか)郡美保関町にある。祭神は事代主命(ことしろぬしのみこと)。美穂津姫神(みほつひめのかみ)を配祀(はいし)する。天孫降臨に先だってオオクニヌシノカミに国土献上が命ぜられたとき，その子コトシロヌシノミコトは美保の海岸でつりをしていたが，父神の諮問に答えてすみやかに献上するよう答え，みずからは海中に青柴垣(あおふしがき)を築いてこもったと伝えられる。この故事に基づいてコトシロヌシノミコトは漁業の祖神として尊崇され，つりざおを手にタイを抱く福徳円満の御影は俗にエビス様と称され，商売繁盛の神として全国的に流布された。4月7日の例祭のほか，12月3日に諸手船(もろたぶね)神事が行なわれる。〔佐野文哉〕

みほのせき【美保関(町)】 島根県八束(やつか)郡の町。人口8,700。島根半島の東端



耳　ヒトの耳の仮構図

に位置する。1955年(昭和30)美保関と付近の3村が合併。もと，美保湾は天然の良港として山陰地方の海上交通の要地となり，隠岐(おき)への渡航地であった。また，海上安全の守神として広く信仰された美保神社*の鳥居前町でもあった。俗謡《関の五本松*》は港付近の松をうたったものである。日本海に面する沿岸部一帯は大山(だいせん)隠岐国立公園に属し，北浦は名勝に指定されている。

みほのまつばら　【三保ノ松原】　静岡県清水(しみず)市に属し，市南部の駒越(こまごえ)から，駿河(するが)湾上を北東に4kmにわたって突出した分岐砂嘴(ぶんきさし)上の景勝地。砂嘴は駿河湾側は高度15mにも及ぶ松林の砂丘が海岸に沿って続いている。その外側の海浜に御穂(みほ)神社や〈羽衣の松〉があり，富士山のながめがすばらしく，海水浴や磯(いそ)づりで訪れる人が多い。またトマト・キュウリ・草花などの温室栽培が行なわれている。湾岸に沿って東海道本線清水駅から三保駅まで清水港線が走り，埋め立てにより工業地帯が形成されているが，近年湾内の海水汚染が問題となっている。〔味沢成吉〕

みほろダム　【御母衣ダム】　岐阜県大野郡白川村にあり，1961年(昭和36)庄川*(しょうかわ)の水系大白川に完成したロックフィル式ダム。高さ131m，総貯水量3億3,000万m³で，水力発電を目的として電源開発会社がつくった。御母衣第1発電所は地下発電所で，最大出力は21万5,000kWである。

みまさか　【美作(国)】　岡山県の北部を占める旧国名。作州。山陽道に属する。古くは吉備(きび)国に属したが，天武天皇のころ，これが備前*・備中*・備後*(びんご)に3分され，さらに713年(和銅6)備前の北部をさいて独立させたのがはじまりである。もと英多(あがた)・勝田・苫田(とまた)・久米(くめ)・大庭・真島の6郡であった。国府・国分寺はともに現在の津山市。鎌倉時代には，梶原景時(かじわらかげとき)・和田義盛(よしもり)が守護であったが，のち北条(ほうじょう)氏の世襲となり，室町時代には佐々木・山名・赤松の諸氏が交替した。戦国時代には浦上・尼子・毛利氏らの侵入をこうむり，戦国末期には宇喜多氏に支配された。関ケ原の役*後小早川(こばやかわ)秀秋，次いで森氏を経て松平氏*が入封(津山藩)，のち勝山藩が立てられ，幕末には鶴田(つるた)藩となった。明治維新後は3県となり，次いでこれを北条県にまとめ，1876年(明治9)岡山県に編入して現在に至る。〔黛　弘道〕

みまな　【任那】　4世紀後半から6世紀後半のほぼ2世紀の間，朝鮮半島南部に存在した日本の属領的諸小国の総称。《日本書紀》に伝える370年前後の大量派兵により，任那植民地の成立をみたのであろう。大和(やまと)朝廷はここを直轄地とし，役人と軍隊を派遣して統治するとともに，百済*(くだら)・新羅*(しらぎ)・高句麗*(こうくり)との交渉にあたらせた。このような統治・外交機関を，《日本書紀》では〈任那日本府〉といっているが，実態はわからないところが多い。512年大伴金村*が〈任那四県〉を百済へ割譲したことは，任那の大和朝廷に対する信頼を裏切ったもので，以後任那諸国は急速に新羅に傾き，新羅もまた実力をもってこれら諸国の略取を図ったため，日本側の支配は危機に瀕(ひん)した。日本の出先官憲の失態，筑紫(つくし)(北九州)国造(くにのみやつこ)の反乱(→磐井(いわい)の乱)にみられる国内の動揺で危機はさらに深まり，562年にはついに新羅のためわずかに残されていた任那諸国のすべてを併呑(へいどん)されてしまった。ここにおいて朝鮮半島における大和朝廷の足がかりは完全に喪失した。〔黛　弘道〕

みみ　【耳】　脊椎(せきつい)動物の頭部にある音の受容器と平衡受容器をもった感覚器*。外耳・中耳・内耳の3主部よりなるが，動物の種類によって外耳を欠いたり，内耳の一部を欠いたりするものがある。

ヒトやその他の哺乳(ほにゅう)動物の外耳は，耳介と外耳道からなる。耳介は外耳孔の回りで音を集めるもので，内部には軟骨が認められる。動物の種類によっては外耳の方向を自由に変えることができるが，ヒトでは退化して動かすことはできない。外耳道は外耳孔から鼓膜までの管状(約2～3cm)の部分で，ここにある耳道腺(じどうせん)から耳垢(じこう)が分泌される。外耳道は爬虫(はちゅう)類の一部以上に認めることができるが，両生類のカエルでは欠いている。

中耳は，鼓膜およびその内側にある鼓室と耳管からなり，鼓膜で外耳と境されている。鼓膜は直径約1cmの薄い筋性の膜で，中央部がわずかに鼓室のほうに飛び出している。鼓室の中にある耳小骨の槌(つち)骨がこの鼓膜に付着して存在する。耳小骨にはそのほか，砧(きぬた)骨・鐙(あぶみ)骨があり，それぞれてこの状態をなしている。音の振動は外耳道を経て鼓膜を振動させ，次いで槌骨に振動を与え，さらに砧骨，鐙骨へと伝導する。鐙骨は中耳と内耳の境の前庭窓をふさぐように位置している。耳小骨は哺乳動物だけに存在し，小さい筋が付着している。また，中耳には鼓室と咽頭(いんとう)を結ぶ耳管がある。耳管はエウスタキオ管ともいい，中耳の中の気圧と外界との気圧を一定にする役割を果たし，ふつう扁平(へんぺい)につぶれた形をしている。高い山や高速乗物で，ときどき耳の中のジーンという音を経験するが，これは外界と中耳の中の気圧の差が生じたことによる。このとき，大きく口を開いて唾液(だえき)をのむ動作をして口を閉じると，耳管が開いて気圧は平衡になる。中耳と耳管はカエル以上の動物に認めることができるが，魚類では欠いている。

内耳はすべての脊椎動物に存在するもので，聴覚に欠くことのできない部分である。蝸牛(かぎゅう)(うずまき管)・卵形囊(らんけいのう)・球形囊・半規管(三半規管)などで構成される。蝸牛は2～3回らせん状に巻いたカタツムリの殻(から)に似た形をしている。外側は骨によって囲まれ，内部にはリンパ液と音を知覚する感覚細胞が存在する。振動が蝸牛にはいると，リンパ液が動いて感覚細胞を刺激し，感覚細胞は感受した刺激を聴神経へと導く。感覚細胞の集まったものをコルチ器官*と称する。魚類の耳は内耳だけである。前庭と半規管は平衡感覚をつかさどる。前者は体の傾斜や位置を知覚する位置覚器で，後者は体の回転を知覚する運動覚器である。なお，魚や両生類では，頭部や体の側面部にある側線という装置が水の流れを感ずる平衡感覚器と考えられる。〔高野一雄〕

みみかきぐさ　【耳掻草】　双子葉植物・タヌキモ科。湿地に自生する多年草で，食虫植物として知られる。根茎は長く地下をはい，白色で細長く，捕虫袋をまばらにつける。葉は線形ないし倒披針(とうひしん)形で根茎のところどころから地上に伸びる。8～10月，高さ7～15cmの花茎を伸ばし，2～7個の小さな黄色花をつける。がく片が2枚あり，その形が耳かきに似ているのでこの名がある。花が淡紫色のものはムラサキミミカキグサという。

みみかわ　【耳川】　美々津川(みみつがわ)とも

いう。宮崎県北部の九州山地に発し，東流して日向灘(ひゅうがなだ)に注ぐ。流程約100km。ほとんど山間部を峡谷をなして流れ，上流の上椎葉(かみしいば)発電所をはじめ発電所が多く，合計出力は28.7万kWに及ぶ。

みみず【蚯蚓】環形動物・貧毛綱・新貧毛目の俗称であるが，一般にはフトミミズ科の一種であるフツウミミズのことをいう。陸上産の動物で，剛毛はきわめて短く各体節の周囲に1列ある。体節は約140くらいあり，前方から14体節目から3体節ほどは半ば癒合(ゆごう)し，白くなって環帯をつくる。環帯上には剛毛はない。北海道以外の日本では最も普通に見られる。池づりなどのえさに使われる。➔貧毛類

みみずく【木菟】鳥類・フクロウ科のうち，耳のようにみえる耳羽をもつものの俗称。しかし，アオバズクでは耳羽はない。➔フクロウ

みみずく【耳蟬】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ミミズク科。翅端までの体長14～18mmで，体形はセミに似る。体は黒かっ色ないし暗かっ色で，ときに強く赤みをおびることがある。頭部は幅広く扁平(へんぺい)で，前縁は突出する。前胸背の後半部に1対の大きい耳状突起があり，雄では上方に突出するのみであるが，雌でははるかに大形で上前方に向く。後翅は半透明で，著しく黄かっ色をおび，細かい暗かっ色の汚点を散布する。本州・四国・九州のほか，台湾・朝鮮・中国に分布する。成虫は夏から秋にかけて発生して，各種の広葉樹上で生活し，燈火にも飛来する。成虫態で越冬し，翌春産卵する。ミミズク科は，熱帯地方から多くの種類が知られているが，寒地には少ない。日本には他にコミミズク・ホシコミミズク・ヒラタミミズクの3種が知られているが，北海道には1種も分布していない。〔鈴木邦雄〕

みみだれ【耳だれ】外耳道から液体を排泄(はいせつ)すること。耳漏ともいう。化膿(かのう)性の中耳炎*の際，鼓膜の各層を浸潤して浸出したり，鼓膜に穿孔(せんこう)があると外耳道を通じて外部に排泄される。その液は，漿液(しょうえき)性・水様性，あるいは粘液の混じた膿汁(のうじゅう)の場合がある。外耳炎によるものは，ほとんど非粘液性である。一般に炎症が高度になると量も多くなり，膿性となってくる。しかし，反対に量が少ないのは，必ずしも炎症が軽度であることを意味するとはかぎらない。炎症が高度であっても，鼓膜穿孔から膿汁排泄が容易でなく，鼓室内に貯留していることがあるので，量の多少のみで炎症の程度を決めることはむずかしい。手当てとしては膿を脱脂綿でこすらないようにそっとふき取り，軽く綿で耳に栓(せん)をしておく。またかわいてこびりついたときは，ぬるま湯や薄いホウ酸水で湿してからふきとる。〔清水淑郎〕

みみつ【美々津】宮崎県日向(ひゅうが)市の南部地区。もと児湯(こゆ)郡美々津町で，1955年(昭和30)日向市に編入された。耳川*河口の漁港で，神武(じんむ)天皇が大和(やまと)東征に際して船出したという伝説が残り，天皇が休息したと伝える場所に立磐(たていわ)神社がある。近年河口が浅くなったため漁港としての機能は衰退したが，イリコの特産がある。日豊本線・国道10号線が通ずる。


ミミナグサ

みみなぐさ【耳菜草】双子葉植物・ナデシコ科。野原・道ばた・畑などに見られる一年草。全草に細かい毛がはえ，上方には腺毛(せんもう)が多い。茎は下部から分岐して叢生(そうせい)し，高さ10～30cmで赤みをおびる。葉は長さ1～4cm，幅4～15mmの長楕円(ちょうだえん)形で対生する。3～6月，白色5弁花をつけ，花弁はがく片とほぼ同長。果実は長さ8～10mmの蒴果(さくか)で先が10裂する。いちばん下の果実柄はがくの長さの2～4倍ある。近縁のオランダミミナグサはヨーロッパ原産の帰化植物で，茎は赤くならず，葉は丸みが強く，いちばん下の果実柄はがく片とほぼ同長である。〔加藤僖重〕

みみなしやま【耳成山】奈良盆地南部，橿原(かしはら)市にある山。古い火山が侵食されて残った小丘で，標高140m，比高100mにすぎないが，富士山に似た美しい山容をもつ。大和(やまと)三山*の一つで，万葉集にもうたわれている。古くはくちなし山ともよばれ，付近には藤原京の史跡が多い。

みみなり【耳鳴り】外界から正常な音の刺激がないにもかかわらず，耳の周囲・内部，あるいは頭の内部で雑音を感じる現象をいう。ほとんどの耳鳴りは，本人のみが感じる自覚的耳鳴りで，軽度のものは静かな夜半にだけ聞こえるが，高度のものは昼間の騒音の中でも聞こえる。また，オトスコープ(耳鏡)を用いても，あるいは離れていても他人が聴取できる耳鳴りを他覚的耳鳴りという。成因については，外耳道内の異物や中耳内の貯留液による雑音，耳周囲血管の搏動音(はくどうおん)など，はっきり音源がわかっているものと，耳管狭窄症(きょうさくしょう)の発症と同時に起こるもの，ストレプトマイシン(抗生物質)を注射して起こるものなど，まだ定説のないものとがある。感音系障害によるものは高調で持続的な音が聞こえ，伝音系障害によるものは低調で断続的な音が聞こえる。耳鳴りをきたす疾患としては，中耳炎*・内耳炎*・メニエール症候群*・ニコチン中毒*・アルコール中毒*・高血圧症*・動脈硬化症*などがある。〔清水淑郎〕

みもう【味盲】ある物質に対しての味覚が先天的に欠如する現象。代表例はフェニルチオカルバミド(PTC)味盲で，PTCはふつう苦味を感じるがこの者は感じない。劣性遺伝するといわれ，比率は人種的にも異なり，日本人での比率は約10%で，ヨーロッパやアメリカ人の30%に比べて著しく低い。

ミモザ ⇨アカシア

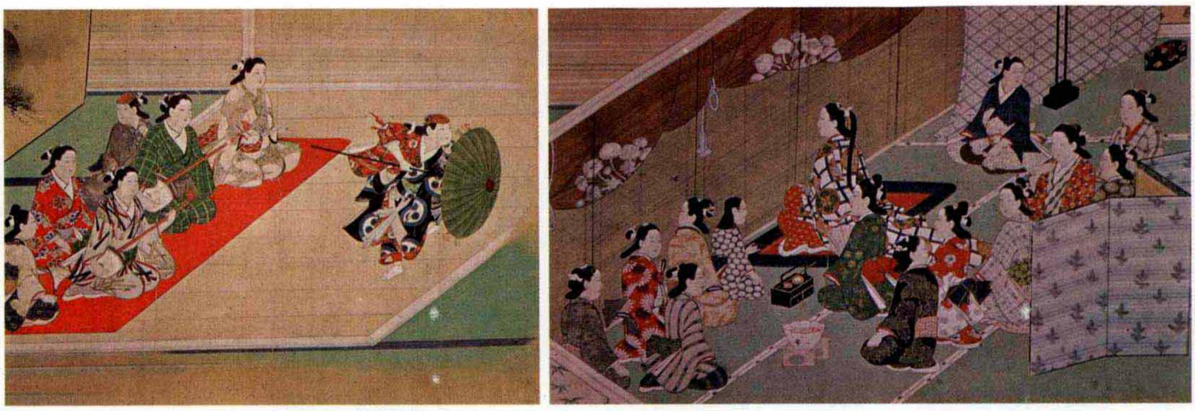
みもとほしょう【身元保証】通常，雇傭*(こよう)契約に付随して締結される契約。これには，被用者が将来雇傭契約上の債務不履行*によって使用者に与え得る損害の賠償義務を保証する契約と，被用者の責の有無にかかわらず(病気による欠勤など)，使用者に生じ得るいっさいの損害の賠償義務を保証する損害担保契約とがある。後者は身元引き受けともいい，身元保証と区別して考えられてきたが，〈身元保証ニ関スル法律〉(昭和8年，法律42号)の制定によって，従来の保証人の負う過酷な責任が制限され，いずれも次の規定にしたがうこととなった。第1に，引き受け・保証その他名称の如何(いかん)を問わず保証契約の存続期間は最長5年(ただし，存続期間を定めなかったときにはその存続期間は3年となる)とする。第2に，使用者は，被用者に業務上不適任または不誠実な事実があり，そのため身元保証人の責任をひき起こすおそれがあることを知ったとき，または被用者の任地を変更し，そのため身元保証人の責任を加重したりその監督を困難なものとしたときには，身元保証人にそのことを遅滞なく通知しなければならない。身元保証人がこの通知を受けたときは，将来に向かってのみ契約を解除することができる。第3に，裁判所は身元保証人の損害賠償の責任およびその金額を定めるについては，被用者の監督に関する使用者の過失の有無，身元保証人が身元保証をなすに至った事由，被用者の任務または身上の変化その他いっさいの事情を斟酌(しんしゃく)する。第4に，身元保証法の規定に反してなされた身元保証人に不利益な特約は，すべて無効とする(身元保証ニ関スル法律1～6条)。〔黒木三郎〕

みもとほしょうほけん【身元保証保険】⇨信用保険

みやいりがい ⇨カタヤマガイ

ミヤオぞく【ミヤオ族】中国西南部に居住する少数民族。貴州省を中心とし隣接の諸省に分布するが，インドシナ半島北部にも及ぶ。人口は約270万。中国で苗と記すが，彼らはモン・ムンなどと称する。ミヤ

宮川長春《風俗図巻》大和文華館蔵



オ語の系統は，モン-クメール・タイ・シノ-チベタンなど諸説があり，定説をみない。村落は山腹に立地し，おもに焼き畑耕作を行ない，トウモロコシ・ソバ・キビなどを栽培し，ウシ・ブタ・ニワトリなどを飼う。精霊を信仰し，シャーマニズムの要素が強いが，祖先崇拝も行なう。〔加治　明〕

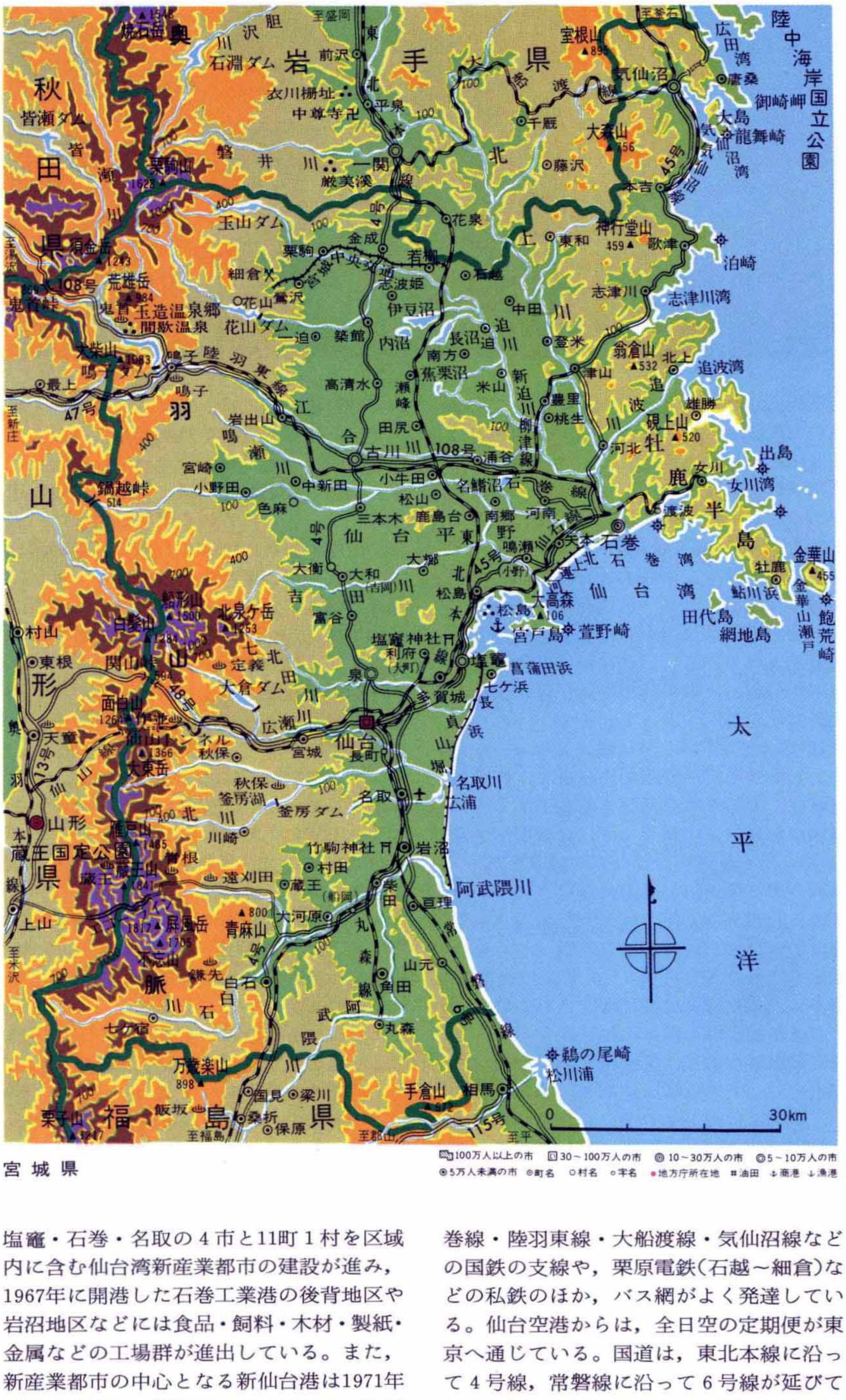
みやかわ【宮川】 紀伊(きい)山地の大台ケ原山東部に発し，三重県中部を東流し，伊勢(いせ)平野南部を流れて伊勢市の北で伊勢湾に注ぐ。流程80km。伊勢神宮のそばを流れるのでこの名があり，古くは斎ノ宮川(いつきのみやかわ)ともよばれた。上流の大杉台は美しい峡谷と森林地帯で，吉野熊野(よしのくまの)国立公園の一部をなし，ダムがつくられて発電に利用されている。

みやがわちょうしゅん【宮川長春】（1682～？）江戸中期の浮世絵師。尾張(愛知県)の生まれ。江戸に出て菱川師宣(ひしかわもろのぶ)の画風を慕い，ふくよかな美人画に典型を示した。版画には筆を染めず，肉筆画を専門として，正徳・享保(きょうほう)（1711～1735）のころに活躍した。代表作に《風俗図巻》《柳下美人図》などがある。門下に宮川長亀(ちょうき)・宮川一笑らを出し，宮川派の一派を興した。

みやぎ【宮城(県)】 東北地方南東部の県。東は太平洋に臨み，北は岩手・秋田，西は山形，南は福島の各県と接する。陸前国の大半と岩代(いわしろ)国の一部を占め，面積7,288km²，人口205万5,000。1km²あたりの人口密度は282人，人口は東北地方第1位，人口密度も第1位である。県花はミヤギノハギ，県木はケヤキ，県鳥はガン，県獣はシカ。県庁のある仙台(せんだい)市以下11市と16郡(61町2村)に分かれる。

〔自然〕 西部の山形県境には奥羽山脈が南北に走り，那須(なす)火山帯がこれと重なって，北から栗駒(くりこま)山(1,628m)・荒雄岳(984m)・船形山(1,500m)・蔵王(ざおう)山(1,841m)などの火山が連なる。北東部には北上山地，南東部には阿武隈(あぶくま)山地の北端があり，これらの山地に囲まれて東北地方最大の仙台平野が広がる。仙台平野は松島丘陵によって仙北・仙南の2平野に分けられる。仙北平野は鳴瀬川や北上川とその支流迫(はざま)川・江合川などによって形成された低平な沖積(ちゅうせき)平野，仙南平野は名取・阿武隈の両河川によって形成された沖積平野で，南部に白石・角田などの盆地がある。北上山地の南端は太平洋に突出して牡鹿(おしか)半島と金華山・網地(あじ)島などの島を形成する。半島およびその北方の三陸海岸は典型的なリアス式海岸で，北東端の気仙沼市周辺は陸中海岸国立公園の区域に編入されている。仙台湾岸は弓形の砂浜海岸を形成し，中央部に松島丘陵の末端が沈降した松島湾があって，そのすぐれた風光は〈日本三景〉の一つに数えられる。仙台湾から南は単調な砂浜海岸が続く。県の最高峰は，山形県境にそびえる蔵王山で冬の樹氷が名高く，山麓(さんろく)には青根・遠刈田(とおかった)・鎌先(かまさき)などの温泉があり，周辺一帯は蔵王国定公園に指定されている。また，北西部の岩手・秋田両県県境には栗駒山がそびえ，周辺部には間歇(かんけつ)温泉として知られる鬼首(おにこうべ)をはじめ温泉が多く，栗駒国定公園に指定されている。そのほか仙台市の西郊には秋保(あきう)・作並などの温泉がある。気候は代表的な表日本式気候で，冬季は晴天が続き，降雪は少なく，夏季には雨がやや多い。北部は北東風の〈やませ〉のために冷害に襲われることがある。仙台市の年平均気温は11.6℃，最高は8月の24.0℃，最低は1月の0.6℃で，年降水量は1,245mmである(1941～1970年平均)。

〔産業・経済〕 産業三大別人口比は17:28:55。主産業は農漁業で，最近は仙台市周辺に近代工業が発達している。県民1人あたりの年間所得は124万3,000円(1977)で，全国18位であるが，東北地方6県のなかでは第1位。**《農林水産業》** 農家総数は12万1,000戸，兼業農家率は91%で全国平均よりも高い。耕地は16万9,600ヘクタール，水田率は76%だが，気候の関係で一毛作田が多い。米の主産地は仙北平野で，平年収量は54万1,900t，全国でも北海道・新潟県・秋田県に次ぎ第4位を占める(1970)。畑は少ないが，麦類・ダイズ・ジャガイモがつくられ，最近はコンニャクや葉タバコがふえている。ビニルハウスによるキュウリ・トマトの半促成栽培などの近郊農業が行なわれ，仙台市周辺では，カーネーション・スイートピーなどの温室栽培も見られる。また，仙台ハクサイや冬のホウレンソウなどが，仙台市周辺から関東・関西の市場に送られている。くだものの栽培は少ない。養蚕は南部の伊具(いぐ)郡がおもで，福島県北部の養蚕地帯の延長をなしている。ウシの飼育が盛んで，飼育頭数は乳牛51,000頭，役肉用牛38,900頭を数え，東北地方ではいずれも第3位を占める(1970)。ブタ・ニワトリの飼育も最近増加しつつある。林野面積は43万ヘクタールで，県域の59%を占める。広葉樹が多く，針葉樹が少ないので，素材生産量は80万7,000m³にすぎず，木材は不足している。広葉樹はおもに薪炭用となり，木炭の生産は年々減少しているが，7,736t(1970)で，全国では第6位を占める。特産物として，竹材・ナメコ・干ししいたけ・ウルシなどがあり，竹材の生産量は20万束で，東北地方第1である。沖合いに暖寒両流の流れる好漁場を控え，年漁獲総量は54万2,000t(1970)で，東北地方では第1位，全国でも有数の水産県であるが，他県の漁船による水揚げが多い。気仙沼・志津川・石巻・塩竈(しおがま)・女川(おながわ)などがおもな漁港で，サンマの漁獲は全国一である。カツオ・マグロ・カレイ・ヒラメなども多くとれ，鮎川(あゆかわ)(牡鹿町)や女川を基地とする近海捕鯨も行なわれている。気仙沼湾・松島湾や牡鹿半島基部の万石浦などを中心とするカキやノリの養殖が盛んで，カキの生産は広島県に次いで全国第2位，アメリカ合衆国に向けて種ガキが輸出されている。水産加工品としては，塩竈市や仙台・石巻・気仙沼などの各市に，仙台藩時代にヒラメの保存用に考案された〈ささかまぼこ〉の特産がある。最近はアワビの養殖計画も進んでいる。**《鉱工業》** 地下資源としては，北西部の奥羽山脈のふもとの細倉鉱山の鉛(全国第2位)と亜鉛(全国第3位)が第1位で，志田郡三本木町付近には亜炭の埋蔵が多い。金・銀・銅・硫化鉄鉱なども少量を産する。工業は，食料品・水産加工などを主とし，重化学工業は立ち遅れており，工業製品年間出荷額は3,497億円(1969)で，東北地方では福島県に次ぐ。仙台・



宮城県

■100万人以上の市 ◻30～100万人の市 ◎10～30万人の市 ◎5～10万人の市
◉5万人未満の市 ◉町名 ○村名 ○字名 ●地方庁所在地 ‡油田 ⚓商港 ⚓漁港

塩竈・石巻・名取の4市と11町1村を区域内に含む仙台湾新産業都市の建設が進み，1967年に開港した石巻工業港の後背地区や岩沼地区などには食品・飼料・木材・製紙・金属などの工場群が進出している。また，新産業都市の中心となる新仙台港は1971年7月に開港し，周辺地区には重化学・鉄鋼などの大手企業の立地も決まり，今後の発展が期待される。郷土産業としては，岩出山町(玉造郡)のしみどうふ(高野どうふ)や寒天，白石市の手すき和紙(蔵王紙)・鰮麺(うーめん)・紙布織り，仙台市の仙台平・仙台みそ・堆朱(ついしゅ)・埋もれ木細工，各温泉地のこけしなどがある。

【交通・都市】東北本線と常磐(じょうばん)線が県の南部の岩沼で合しており，この二つが鉄道の大動脈である。仙山線・仙石線・石巻線・陸羽東線・大船渡線・気仙沼線などの国鉄の支線や，栗原電鉄(石越～細倉)などの私鉄のほか，バス網がよく発達している。仙台空港からは，全日空の定期便が東京へ通じている。国道は，東北本線に沿って4号線，常磐線に沿って6号線が延びている。1973年中に仙台と東京間の供用開始をめざす東北縦貫自動車道の建設も進んでいる。都市には仙台・白石のように旧城下町として発達した都市，古川・角田のように近郊農村部の中心となる田園都市，石巻・塩竈・気仙沼のような水産都市，名取のような仙台に南接する衛星都市がある。県庁のある仙台は官庁や銀行が集まり，高層ビルの立ち並ぶ東北の拠点都市で，塩竈・石巻・名取の3市とともに仙台湾新産業都市に指定され，新しい工業地帯の造成が進んでいる。県下11市のうち白石・名取・角田の3市は，1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以降の新しい市，多賀城・泉・岩沼の3市はいわゆる〈三万人市〉である。

【歴史】縄文(じょうもん)式の遺跡に富み，特に石巻市の東方，牡鹿郡稲井町の沼津・高木などの広大な貝塚(かいづか)には多くの出土品が見られる。仙台市の南郊には弥生(やよい)時代の住居群があり，当時の稲作農耕のあとをしのばせる。古墳も仙台市付近に多く，名取市の雷神山の前方後円墳は東北地方で最大の規模をもつ。大化改新に際して陸奥(むつ)国が設けられ，奈良時代には多賀城に国府と鎮守府が設置された。当時から金の産地として知られ，749年(天平勝宝1)の大仏建立(こんりゅう)に際して陸奥から献上された金は，金華山の産ともいわれたが，今日の研究では遠田郡涌谷(わくや)町黄金迫(こがねはざま)の黄金山神社付近が産地とされている。平安時代にはいると，坂上田村麻呂(さかのうえのたむらまろ)の征討によって蝦夷(えぞ)がしだいに帰順し，鎮守府は多賀城から北方の胆沢(いさわ)城へと前進した。平安後期以後は奥州の藤原氏の支配下にはいり，栗原(くりはら)郡金成(かんなり)町，本吉(もとよし)郡本吉町津谷(つや)などで産した金がその主要財源となった。鎌倉時代には葛西(かさい)氏が奥州総奉行(そうぶぎょう)に任ぜられ，南北朝時代にはいると南朝の北畠顕家(きたばたけあきいえ)に従う葛西氏と，北朝方の大崎氏が対立した。戦国時代には伊達政宗(まさむね)が県南に勢力を張り，1590年(天正18)豊臣秀吉(とよとみひでよし)が小田原(おだわら)城を攻略後は刈田郡を除く現在の県域と岩手県南部が伊達氏の所領となった。伊達氏は関ヶ原の戦いの戦功によって刈田郡も領域に含め，仙台に青葉城を築いて江戸時代を通じて六十二万石を統治した。一関(岩手県)で三万石の大名の扱いを受けた田村氏は伊達家の家臣であり，そのほか，白石・角田・岩出山・涌谷・登米(とよま)・水沢(岩手県)にも一万石以上の一族や家臣がいた。伊達政宗は，桃山式文化を奥州に移し，南蛮貿易を行なうために支倉常長(はせくらつねなが)をローマに派遣するなど，経済・文化の振興に努めた。また，藩の財政の基本として，江戸へ米を移出するために北上川を改修して，本流を米の移出港石巻に南下させ，その流域に多くの新田を開発させるなどの施策を行なった。江戸時代を通じて，この方針は政宗の後継者によって引き継がれ，タバコ・ベニバナ・アイなどの農産物や種種の海産物，ウマ・金・銅・鉛・砂鉄などの特産も藩の財政を助けるのに役だった。江戸後期には飢饉(ききん)と水害が続出し，幕末には蝦夷地の警備に多くの資金がさかれて財政は苦しくなり，明治維新に際しては，奥州列藩同盟を組織して官軍と戦ったために，二十八万石に減封されて1871年(明治4)の廃藩置県を迎えた。廃藩置県に際して仙台・登米・角田の3県が置かれ，翌年合

併して仙台県となり，1873年に宮城県と改称した。1876年には，伊達藩の旧領のうち磐井(いわい)地方を岩手県に分離して現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

みやぎのはぎ【宮城野萩】 双子葉植物・マメ科。山地に自生する草本状低木で，庭木にもする。茎は高さ1～1.8mほどで多数叢生(そうせい)し，草質で細く，上部はたれ下がり，全体に絹毛でおおわれる。葉は互生する3出複葉で，小葉は長さ3～5cmの長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，下面は短伏毛が密生して淡色に見える。夏から秋に小枝の葉腋(ようえき)に紅紫色の美しい蝶形花(ちょうけいか)を総状につける。花期が長く，花柄は長く伸びる。夏に咲くためナツハギともいう。園芸品に白色花のシロバナハギ，初夏に咲くサミダレハギ，花茎や茎の毛が立っているケハギなどがある。〔横井朝子〕

みやぎみちお【宮城道雄】 (1894～1956) 箏曲(そうきょく)演奏家・作曲家。神戸(こうべ)の生まれ。同地で生田流の2世中島検校(けんぎょう)に師事してから朝鮮に渡る。15歳で《水の変態*》を作曲し，以後尺八の吉田(よしだ)晴風，また1917年(大正6)に東京に出てからは中尾都山や洋楽系統の音楽家・理論家と結び，いわゆる新日本音楽*の運動を興した。作曲に際しては，邦楽のもっている共通の旋律パターンを西洋古典音楽のわくの中でいかしなおしたものが多い。また，楽器の改良も試み，弦が80本の箏や大形の胡弓(こきゅう)をつくったりしたが，今日定着しているのは十七弦である。作品は教則本用の小品も含めて多数ある。代表作《桜変奏曲》《春の海*》《越天楽(えてんらく)変奏曲》ほか。〔徳丸吉彦〕

みゃくせき【脈石】 ⇨鉱石

みゃくどう【脈動】 地面は，地震のたびに断続的に振動するほかに，つねにかすかな振動を続けている。この継続的な地動を脈動という。脈動の周期は広い範囲にわたるが，それぞれの場所では一定した周期をもっている。脈動は，人為的なもの(工場や車の振動など)，気象的なもの(風，海のうねりなど)が原因となって起こる。

みゃくなしびょう【脈なし病】 橈骨(とうこつ)動脈および頸(けい)動脈の脈拍が触れなくなる病気。最近では大動脈弓症候群に含まれるとされる。動脈炎により内腔(ないこう)に血栓*(けっせん)を生じて閉塞(へいそく)を起こすためで，一般に30歳前後の婦人に多い。1948年(昭和23)清水健太郎・佐野圭司が命名してから注目された。特有の症状として，橈骨動脈拍動消失のほか，頸動脈洞(どう)反射の亢進(こうしん)，視力障害，四肢(しし)の冷感・疲労感，血圧低下，血圧の左右差，めまい，頭痛，失神などがある。結核*・膠原病*(こうげんびょう)と関係があるともされている。治療には，副腎(ふくじん)皮質ホルモンや降圧剤などを用いる。〔佐藤恒夫〕

みゃくはく【脈搏】 心臓の搏動につれて動脈中に起こる血圧の変動。普通は手首の橈骨(とうこつ)動脈壁を触れて測定する。健常者では1分間に70～80回規則正しく触れ，しかも心臓の搏動と一致する。血管の弾性度や太さなどの相違のために，脈搏のようすは動脈管系の各部において異なる。動脈硬化の強い場合や出血などによるショック状態では，脈搏は小さくなって触れにくい。1分間の脈搏数が異常に多く100をこえるものを頻脈(ひんみゃく)，少なくて50以下となるものを徐脈という。また，脈搏の律動が不規則なものを不整脈という。脈搏の状態によって，心臓の病気やからだの調子などを推察することができる。



三宅島　島を一周する舗装道路と1962年の大爆発でできた三七山。黒い火山灰の砂漠は海にまで続き，噴火のすさまじさを物語る

みゃくらくまく【脈絡膜】 ⇨目

みゃくらくもうまくえん【脈絡網膜炎】 脈絡膜と網膜に起こる炎症。網脈絡膜炎ともいう。目の強膜と網膜との間にあって血管に富む脈絡膜は，内膜である網膜を養っている(→目)。したがって脈絡膜と網膜は，同時に炎症に冒されるか，あるいは脈絡膜により網膜に波及することが多い。病態によって，中心性脈絡網膜炎・びまん性脈絡網膜炎，散在性脈絡網膜炎に分けられ，そのいずれも結核*ないし梅毒*が主原因とされている。特に日本では中心性脈絡網膜炎が多い。自覚的には暗点・視力障害・視野狭窄(きょうさく)・飛蚊症*(ひぶんしょう)・光視・小視症・大視症・変視症などの症状を訴えることが多い。他覚的には硝子体や網膜の混濁のほか，ときに網膜の浮腫(ふしゅ)・出血・白斑(はくはん)などを呈する。治療としては，原因療法のほか高張食塩水結膜下注射などを行なう。〔納富教雄〕

みやけ【屯倉】 大化改新以前の朝廷直轄領。宮家・御宅・三宅とも書く。5世紀ごろ畿内(きない)を中心に帰化人の土木技術を駆使した水田開発が盛んとなり，その結果成立したのが初期の屯倉である。次いで6世紀にはいると地方支配者である国造*(くにのみやつこ)の領域の一部をさいて屯倉を設定し，これまでの住民をそのまま屯倉の民とした。現地管理はその国造の一族がこれにあたった。それとは別に，地方の良田を指定して屯倉を設置し，中央から田令(たつかい)とよばれる管理者を派遣することも行なわれるようになった。この場合は，付近から農民を徴発して耕作にあたらせ，これを田部とよんで戸籍に登録するなどの新しい管理方式がとられた。屯倉の中には，天皇の位に付属するものや皇族の個人財産とされたものもあるが，それも原則的には朝廷直轄とみるべきであろう。大化改新により公地公民*の制が打ち出されるに及んで屯倉は消滅した。なお，豪族の私有地である田荘*(たどころ)もその実態はおよそ屯倉に近いものであったと推定される。〔黛　弘道〕

みやけじま【三宅島】 伊豆(いず)七島*の一島。東京都三宅支庁三宅村を構成し，伊豆七島中3番めに大きく，ほぼ円形をなす。人口4,500，面積55km^2。最高峰の雄山(814m)は成層火山で，しばしば噴火の記録があり，最近では1962年(昭和37)に大噴火があり，溶岩流が北東岸から海中に達した。高温多雨で年降水量は3,000mm前後に達する。伊豆・坪田・神着・伊ケ谷(いがや)・阿古(あこ)・三池の部落があり，伊豆に支庁，坪田に役場がある。江戸時代には流刑地となっていて，島役所跡，流人の墓地など史跡に富む。しかし，良港に恵まれず交通不便なため観光客は少なかったが，1966年から東京との間に定期航空路が開かれ，また東岸の三池浜に定期船が接岸できるようになったので観光客が急増し，島の俗化が心配されるようになった。西洋野菜・バター・テングサなどの産がある。なお，カンムリウミスズメなど約230種の野鳥も豊富である。〔浅井得一〕

みやけせつれい【三宅雪嶺】 (1860～1945) 評論家。名は雄二郎。雪嶺は号。金沢藩士の家に生まれ，1883年(明治16)東京大学文学部哲学科卒業。東京専門学校(早稲田(わせだ)大学の前身)講師などを経たのち，1888年志賀重昂(しげたか)らと政教社*を創立。雑誌《日本人*》を発行し，当時の藩閥政治と欧化主義に対抗して日本主義を主張した。終始在野の立場を貫き，哲学・東洋文学に関する独創的な著述も多い。大正末期に雑誌《我観》を創刊。明治・大正・昭和の3代にわたり，穏健適切な評論活動を続け，論壇の重鎮となった。1943年(昭和18)文化勲章を受章。著書に《我観小景》《同時代史》など多数。なお，妻の龍子(たつこ)(1868～1943)は花圃と号し，歌人・小説家として文名を得た。〔高崎徳次〕

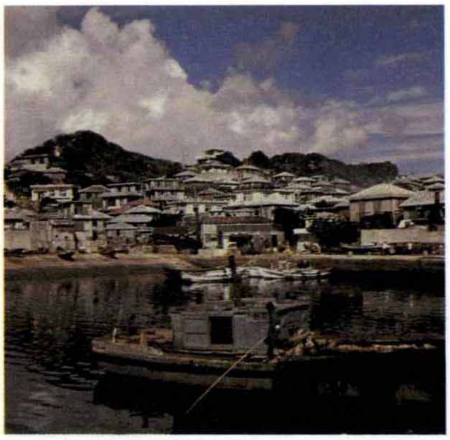
みやこ【宮古(市)】 岩手県中東部の市。人口62,000。古くから漁港として開け，江戸時代には宮古代官所が置かれた。1941年(昭和16)市制施行。市域は太平洋岸から背後の北上山地にかけて広がり，東部には宮古湾が重茂(おもえ)半島北端の閉伊埼(へいざき)と対岸の臼木(うすぎ)半島によって湾口をい

だかれ，南西方へ約10km湾入する。市街地は宮古湾に注ぐ閉伊川河口に位置する。産業三大別人口比は20：27：53。宮古港は遠洋漁業の根拠地，特にサンマ漁の基地で，水産加工・製氷・冷凍施設などがあり，1962年に10,000トン級岸壁が完成して以来商港としても発展している。耐火れんが・肥料・金属製品などの工場が集まって臨海工業地帯が形成され，肥料(硫安)の原料には北方の田老鉱山の硫化鉄鉱が使われる。山田線が盛岡から通じ，国道45号線・106号線が集まる臼木半島東端の浄土ケ浜は陸中海岸国立公園の景勝地で，重茂半島東端の魹ケ崎(とどがさき)は，本州の最東端(東径142°4′35″)にあたり，魹ケ崎燈台がある。宮古湾奥に注ぐ津軽石川は，冬季産卵のために川を上る〈南部鼻曲り鮭(さけ)〉で名高い。

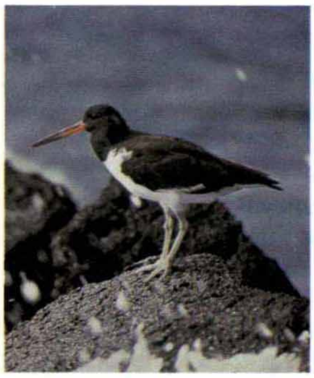
みやこぐさ 【都草】 双子葉植物・マメ科。路傍の草地などに多い多年草。茎は細長く緑色で，叢生(そうせい)して地をはう。葉は互生し，3出複葉。小葉は全縁で，楕円(だえん)形ないし倒卵形で長さ6～13mm。小葉と同大の1対の托葉(たくよう)がある。4～10月，葉腋(ようえき)から花柄を出して鮮黄色の蝶形花(ちょうけいか)を1～3個つける。豆果は長さ30mmほどで，熟すと2裂してねじれ，黒色の種子を飛ばす。

みやこじぶんごのじょう 【宮古路豊後掾】 (1660～1740) 江戸時代の浄瑠璃太夫(じょうるりだゆう)(語り手)。豊後節の創始者。はじめ都一中の門人として都国太夫半中を名のったが，1723年(享保8)独立して都路国太夫，さらに1733年宮古路豊後掾と改称した。江戸その他で活躍し，世話物，特に心中事件を扱って人気を博した。

みやこじま 【宮古島】 沖縄県宮古諸島の主島。面積145km^2，人口50,000。平良(ひらら)市と城辺(ぐすくべ)・下地の2町および上野村に分かれる。低平な台地状の島で，海岸には隆起サンゴ礁がよく発達している。年降水量は2,300mmに達するが，地下への浸透が多く，水不足に悩んでいたが，最近は簡易水道ができている。かつてはマラリアが流行し，そのために消滅した集落もあったが，第2次世界大戦後は根絶した。耕地率は55%で，かつては水田もあったが，いまは畑のみとなり，サトウキビを主とし，サツマイモもつくり，大小の製糖工場がある。宮古産の黒砂糖は品質のよいので知られている。漁業の規模は小さい。中心の平良市には16世紀以来の歴史をもつ宮古上布の特産があり，また那覇(なは)との間に定期航路のほか，定期航空路も開けている。琉球(りゅうきゅう)王朝時代に宮古諸島を支配した仲曽根豊見親(なかそねとよみや)の墓や，人頭税の苦難をしのばせる人頭石などがあり，平良市の町はずれにある高さ約120cmのこの石は，これと同じ高さに子どもが成長すれば，人頭税の対象となったことを示すものである。特有な祭祀(さいし)や歌謡など，民俗的



宮古諸島 主島宮古島の西にある伊良部島の佐良浜の村落と船付き場。強風に備えた鉄筋造りの民家が目だつ



ミヤコドリ

に興味の深いものが多い。 〔浅井得一〕

みやこしょとう 【宮古諸島】 琉球(りゅうきゅう)諸島のうちで，台湾に近い先島諸島の東の部分。面積215km^2，人口61,000。宮古島を主島とし，その北方に池間島，西方に伊良部(いらぶ)島と下地島，南西方に来間(くりま)島があるほか，西方にやや遠く離れて多良間島と水納(みのう)島がある。沖縄県宮古支庁に属し，1市2町3村に分かれ，宮古島の平良市に支庁がある。どの島も琉球石灰岩とよばれるサンゴ石灰岩の台地を主とし，地形は低平であるが，水利に乏しく，森林もほとんどない。水田はなく，畑のみでサトウキビをおもに栽培している。漁業は池間島・伊良部島のカツオ漁を除いて不振である。かつてはマラリアが流行していたが，いまは根絶し，またハブはここにはいない。 〔浅井得一〕

みやこしんぶん 【都新聞】 明治から昭和にかけ東京で発行された日刊紙。1884年(明治17)9月25日小西義敬(よしたか)の創刊した夕刊紙《今日新聞》が前身で，1888年11月16日より朝刊紙《みやこ新聞》として発足し，その後《都新聞》と改題した。1891年ごろ楠本正隆(くすもとまさたか)が買収して一時は改進党系の機関紙となったが，演劇関係の記事を豊富に掲載し，花柳界に人気を博したことが同紙の最大の特徴となっている。第2次世界大戦中，新聞統合政策によって《国民新聞》と合併し，1942年(昭和17)10月より夕刊紙《東京新聞》と改めて再出発した。➔東京新聞 〔前納弘武〕

みやこどり 【都鳥】 鳥類・ミヤコドリ科の総称およびそのうちの一種。東部シベリアから朝鮮・南北アメリカ大陸海岸，ヨーロッパ大西洋岸，地中海沿岸，オーストラリア・アフリカ南部の海岸などに繁殖するチドリ類に近縁の海浜にすむ美しい鳥。全長45cm前後。くちばしと脚は赤色系で，全身黒色の型と腹部が白色の型とがあり，4～7種と学者によって分類は異なる。種種の海浜動物を主食とし，貝類も好み，長く強いくちばしで二枚貝類をこじあけて食い，英名をオイスターキャッチャーという。この科の一種であるミヤコドリは，わが国にまれに旅鳥または冬鳥として渡来する。くちばしは朱色，脚は紅色，頭部・胸・上面は黒色，腹部は白色で，翼と尾に太い白帯がある。冬羽では頸(くび)に白い横帯がある。なお，在原業平(ありわらのなりひら)の和歌で知られる都鳥は本種をさすのではなく，ユリカモメをいう。➔ユリカモメ 〔安部直哉〕

みやこどり 【都鳥】 長唄(ながうた)の曲名。作曲は2世杵屋(きねや)勝三郎，作詞は伊勢屋喜左衛門(いせやきざえもん)という江戸の札差(ふださし)といわれる。初演は1855年(安政2)。男女の情を，春から夏への隅田(すみだ)川の情景によって扱ったもの。音楽的には，独吟用の表情のこまやかさがあり，短い合の手もそれぞれ歌詞に対応している。前弾はあとになっていくつか作曲され，1921年(大正10)の稀音家浄観(きねやじょうかん)のものがよく使われる。 〔徳丸吉彦〕
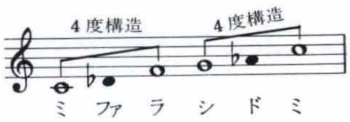
みやこのじょう 【都城(市)】 宮崎県南部の市。人口12万8,000。平安時代中期に平季基(すえもと)が島津荘とよぶ広大な荘園(しょうえん)を開き，鎌倉初期に惟宗忠久(これむねただひさ)が守護として赴任し島津氏を称したが，その後島津氏が鹿児島へ本拠を移してからは，その支藩の城下町として栄えた。明治以後は，盆地周辺の農林産物を集散加工する商工業都市となり，1924年(大正13)市制を施行，1965年(昭和40)北諸県(きたもろかた)郡荘内町を合併した。市域は都城盆地から北西方の霧島山山麓(さんろく)にかけて広がり，市街地は大淀(おおよど)川支流の沖水川・萩原(はぎわら)川の間に開ける。産業三大別人口比は24：24：52。農村地帯では米・サツマイモ・ナタネ・タバコなどをつくり，古い伝統をもつ茶の特産が名高く，養蚕や養豚も盛んである。製糸・ハム・かんづめ・デンプン・木材などの工場があるが，いずれも経営規模は小さい。日豊本線から吉都・志布志の両線を分岐し，国道10号線・221号線・222号線・269号線が集まる。市域北西部は霧島屋久国立公園の区域内にあり，庄内(しょうない)川の甌穴(おうけつ)群(天然記念物)や，関ノ尾滝(せきのおのたき)・母智丘(もちおか)のサクラ並み木などの名所がある。 〔浅井得一〕

みやこのにしき【都の錦】(1675ごろ〜?) 浮世草子作家。神官の家に生まれ，若年にして京都に遊学したが，やがて遊蕩(ゆうとう)に耽(ふけ)るようになり勘当された。その後は大阪において文筆活動で生活していたが，江戸に下ったとき，浪人改めで捕えられ薩摩(さつま)(鹿児島県)に流された。作品に《元禄曾我(げんろくそが)物語》《元禄太平記》《風流源氏物語》などがある。

みやこのはる【都の春】 山田流の箏曲(そうきょく)。1890年(明治23)，東京音楽学校の開校を祝う演奏会のために，同校の教師の3世山勢松韻が作曲。京都の春を読み込んだ歌詞で，手事の部分がはなやかで目だつのが特色である。

みやこのよしか【都良香】(834〜879) 平安初期の漢学者・漢詩人。文章生(もんじょうしょう)を経て文章博士(はかせ)となる。その間，藤原基経(もとつね)などと《日本文徳天皇実録*》を編む。著作に《都氏文集》《富士山記》《道場法師伝》などがある。文章家としての名声は高く，彼の手になる勅符・詔書も多い。

みやこぶしおんかい【都節音階】 日本音楽，特に近世邦楽でよく使われる音階で，陰旋法とほぼ同じもの。半音(実際には半音よりやや狭い音程)を含む5音音階である。



みやこわすれ 双子葉植物・キク科。山地に自生するミヤマヨメナを改良して観賞用に栽培される多年草。ノシュンギクともいい，また花屋ではアズマギクともいうが別種に山地にはえるアズマギクがあるので注意を要する。茎の高さ20〜60cm。葉は長さ5〜7cm，幅2.5〜3cmの長楕円(ちょうだえん)形で，有柄であるが茎の上方の葉は無柄。5〜7月，葉腋(ようえき)および茎頂に長い柄を伸ばし，直径3.5〜4cmの頭花を散房状に数個つける。舌状花は紫色で，管状花は黄色。



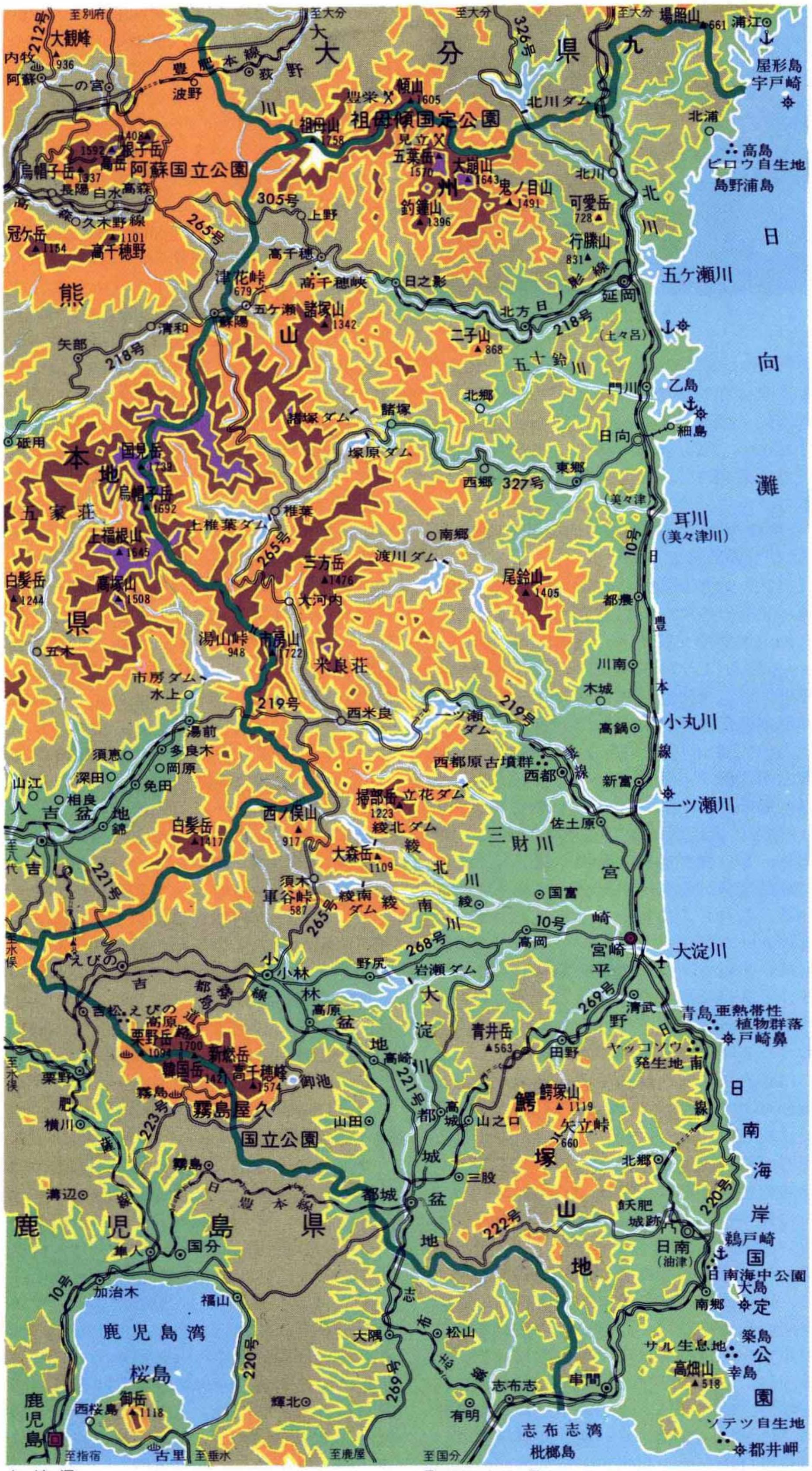
ミヤコワスレ

みやざ【宮座】 近畿(きんき)地方に濃厚にみられる特殊な神社祭祀(さいし)組織で，村の神社の氏子の中に，特に祭祀権をもつ家筋があり，祭祀儀礼を独占している。宮座が顕著にみられるようになったのは動乱期である中世後期からで，当時村落内も人の出入りが多く，祭祀集団の結束を求め，座*の存在と祭祀による村落の統制の必要性によったと考えられる。宮座は年寄層と若衆とに分け，神主*と頭屋*などといった神事分担を行なうことが多く，年齢階級的な構成をもっていて，直会*(なおらい)での座順は厳格であった。このように宮座は厳格な階層秩序によって，結束はかたく排他的であり，宮座の財源である神田*・頭田も所有していた。
〔渡辺欣雄〕

みやざき【宮崎(県)】 九州地方南東部の県。東は太平洋に面し，北は大分，西は熊本，南は鹿児島の各県と接する。日向(ひゅうが)国の全域を占め，面積7,197km²，人口115万2,000。1km²あたりの人口密度は九州地方では最低で160人。県花はハマユウ，県木はフェニックス，県鳥はコシジロヤマドリ。県庁のある宮崎以下9市と8郡(28町7村)に分かれる。

【自然】大半が山地で，平地は東部の海岸線に見られるにすぎない。北西部には険しい九州山地が南北に走り，北は祖母山(1,758m)・傾山(1,605m)などの連山が大分県境を画して，祖母傾国定公園を形成する。西の熊本県境には国見岳(1,739m)・市房(いちふさ)山(1,722m)などがあり，南西部には霧島火山帯に属する韓国岳(からくにだけ)(1,700m)・高千穂峰(たかちほのみね)(1,574m)・新燃岳(1,421m)などの火山群が鹿児島県境に連なる。周辺部一帯は鹿児島県の桜島や屋久島とともに霧島屋久国立公園の区域内に編入されている。これらの山地から発する五ケ瀬川・耳川・一ツ瀬川・大淀(おおよど)川などの諸河川はいずれも東流して日向灘(ひゅうがなだ)に注ぎ，上流は急流をなして水力発電に利用されることが多い。平野は一ツ瀬・大淀両川のつくる南東部の宮崎平野が最も広く，そのほか北部に五ケ瀬川下流流域の延岡平野，南西部に大淀川上流流域の都城(みやこのじょう)盆地などがあるが，いずれも小規模である。南部の霧島山周辺には鹿児島県から続くシラス台地が発達している。海岸線は延長350kmに達するが，屈曲が少なく，細島(日向市)・油津(日南市)の2港を除いては良港に乏しい。宮崎市以南の海岸部は風光がすぐれ，日南海岸国定公園に指定されている。黒潮の影響を受けて温暖多雨の表日本式気候を呈し，宮崎では年平均気温16.8℃，年降水量2,594mmに及ぶ。南部海岸地帯は特に温暖で，積雪はほとんどみられず，青島その他に熱帯・亜熱帯性の植物が群生する。降水量は中部の山岳地帯が最も多い。しばしば台風の通過路となり，大きな災害を受けることが多い。

【産業・経済】産業三大別人口比は24:26:50。主産業は農業で，近代工業の発達は遅れており，県民1人あたりの年間所得は105万0,000円(1977)で，全国でも42位と下位である。《農林水産業》農家総数は97,800戸，兼業農家率は75%，耕地は97,200ヘクタールで，総面積の12.7%にすぎない。水田率は51%で，宮崎平野が米の主産地となり，平年収量は16万3,500t(1970)である。麦・サツマイモ・ナタネの産も多く，サツマイモは年間収量27万8,000t(1970)で，最近は減少しているがそれでも鹿児島県に次いで全国第2位である。温暖な気候を利用して野菜・草花の早期栽培が行なわれ，カボチャ・キュウリ・ナス・トマト・スイカなどを北九州や阪神(はんしん)地方へ移出し，冬季の乾燥した西風を利用した切り干し大根も移出向きにつくられる。都城盆地では茶・タバコ・ラミーなどを産し，西都原(さいとばる)にはクワ畑が多い。山地では焼き畑耕作も行なわれヒエ・アワ・トウモロコシが栽培される。家畜は北部にウシ，南部にウマが多く飼育されている。肉用牛は15万5,000頭(1970)を数え，鹿児島県に次いで全国第2位，ウマは3,612頭を数え，全国第5位を占める。霧島山麓(さんろく)では最近ウマに代わって乳牛による酪農が盛んで，県全体で28,900頭が飼育され，都城盆地では養豚が行なわれてハムを産する。林野面積は58万7,000ヘクタールで，県域の4分の3を占め，マツ・スギを主とする針葉樹林が広く分布し，林業は九州地方で最も盛んである。素材生産量は年間179万m³(1970)に達し，北海道・岩手・秋田の各県に次ぎ，全国第4位を占める。南部を中心に国有林が多く，300年の古い歴史をもつ飫肥(おび)林業地帯には，造船用材として名高い飫肥スギをはじめ，針葉樹林が繁茂する。北部と中部は広葉樹が主であるが，奥地には未開発林が多い。材木のほか竹材や木炭の産も多く，江戸時代以来栽培されているシイタケは，大分県に次いで全国第2位で特産物として輸出される。水産物は近海漁業が主で，北部の土々呂(ととろ)(延岡市内)では巾着網(きんちゃくあみ)によるイワシ漁業が行なわれ，中部では引き網と一本釣(いっぽんづり)漁業によるアジ・カツオの産も少なくない。南部の油津は熱帯海域まで出漁する遠洋漁業の基地となり，カツオ・マグロ・ブリの水揚げが多い。南東端の都井岬(みさき)付近ではトビウオを漁獲する。年間漁獲総量は53,349t(1970)で，イワシは乾燥して移出され，カツオはかつお節や輸出用のかんづめにつくられる。最近は養殖漁業への転換も図られて，魚類の保護培養や漁場の改良造成などの事業が進められている。《鉱工業》地下資源は，北部山地にスズ・亜鉛・銅を産する見立，銅・硫化鉄を産する槇峰(まきみね)，鉛・銅・スズを産する土呂久の諸鉱山があり，スズは全国第2位の埋蔵量をもつといわれる。北西部には石灰岩が広く分布しており，宮崎平野の天然ガス，西臼杵(にしうすき)郡高千穂町のドロマイトの鉱床も知られているが，開発はあまり進んでいない。雨が多く，山



宮崎県

100万人以上の市　30～100万人の市　10～30万人の市　5～10万人の市
5万人未満の市　町名　村名　字名　地方庁所在地　油田　商港　漁港

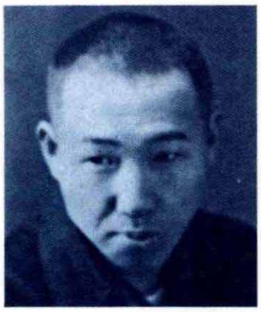
がちの地形のために諸河川の上流部には水力発電の開発が進み，発電量は九州地方の50%以上を占め，県外へその半ば以上を送電している。九州電力の一ツ瀬ダムはわが国で黒部ダムに次ぐ大規模なアーチ式ダムで，総出力18万kWに達する。立地条件に恵まれないために近代工業は立ち遅れており，延岡市の化学繊維・薬品，日南市の紙・パルプなどの工業がおもなもので，そのほか，サツマイモを原料とするデンプン・アルコール製造などの食料品工業，木材を原料とする木製品工業なども県下各地にみられるが，いずれも経営規模が小さい。日向・延岡の両市とその周辺地域は工業用地・工業用水・港湾などの立地条件がすぐれ，最近日向延岡新産業都市に指定され，工業開発の前途に期待がかけられている。

〔交通・都市〕九州山地によって北九州地方と隔てられ，近代産業や都市の発達が海岸部に限られてきたために鉄道・道路・港湾の発達は一般に立ち遅れている。陸上交通では，東部の海岸線を南北に走る日豊本線と国道10号線が県下の動脈となり，日豊本線からは日ノ影線・細島線・妻線・吉都線・志布志線などの各支線が分かれる。日ノ影線は将来，豊肥本線の支線高森線と結ばれる予定で，そのほか，鹿児島本線の支線である肥薩(ひさつ)線も県下の一部を走る。バス交通は宮崎・都城・延岡を中心として海岸平野で発達しているが，諸河川をさかのぼって山地と連絡する交通路は未開発のところが多い。国道220号線・221号線・222号線・268号線・269号線は県南から鹿児島県へかけてかなり密な交通網を形成するのに役だち，国道218号線・219号線・265号線などは九州山地を横断して，熊本県への連絡の便を果たしている。海上交通でもわが国の主要航路からはずれており，細島・油津の2港を中心に沿岸航路が開けるにすぎない。航空路では，1954年に宮崎空港が開設され，大阪・福岡・鹿児島の各地に定期航空路が通じており，最近の観光ブームに乗って利用客が大幅に増加している。人口の密集地域はおもに東部の海岸地帯にあり，山間部には椎葉(しいば)・米良荘(めらのしょう)など，全国でも有数な辺境地区が残っている。東部の海岸地帯には，県庁のある宮崎市を中心に，その北方には近代工業都市の延岡，細島港をもつ日向，宮崎平野北部の農産物集散地西都などの都市があり，南方にはパルプ工業の盛んな日南，漁港都市串間(くしま)，南西方には都城・小林両盆地の中心都市都城・小林などの都市がある。これら9市のうち，串間・西都の2市は1953年(昭和28)の町村合併促進法施行以後の新市で，えびのは〈三万人市〉であるが，人口は28,000と減少している。

〔歴史〕古代文化の中心地で，《古事記》や《日本書紀》にしるされた皇祖発祥にちなむ神話・伝説・遺跡などが数多く残されている。日向，あるいは襲(そ)の国とよばれ，先住民族熊襲(くまそ)の勢力が強大で，大和(やまと)朝廷に対抗した。先人の遺跡は多く，西都原のような特異な景観も見られるが，発見された古墳はほとんどすべて5世紀以降のものと推定されている。日向国には古くは大隅(おおすみ)も含まれていたが，713年(和銅6)に大隅国が新設されて肝属(きもつき)・贈

唹(そお)・大隅・姶羅(あいら)の4郡が同地区へ編入された。平安時代には都城を中心とする島津庄(しょう)や宇佐神宮領などの広い荘園(しょうえん)が発達し，源平時代には平家の落武者(おちむしゃ)が源氏の追及をのがれて山間の辺境に隠れ住んだという伝説が伝えられている。鎌倉時代には守護島津氏の勢力が強大となり，土持・畠山(はたけやま)・大友・伊東(いとう)などの各氏も県下各地に勢力を競い，天正年間(1573～1591)にローマに派遣された少年使節の正使伊東マンショは，日向の豪族伊東家の出身である。戦国時代にはこれら諸氏の興亡が著しく，江戸時代にはいってからは島津氏の鹿児島藩・佐土原藩をはじめ，伊東氏の飫肥藩，秋月氏の高鍋(たかなべ)藩，内藤氏の延岡藩，相良(さがら)氏の人吉(ひとよし)藩などの小藩が分立していた。1871年(明治4)の廃藩置県で7県が置かれ，1873年に統一されて宮崎県となり，一時鹿児島県に合併したが，1883年分離独立して現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

みやざき 【宮崎(市)】 宮崎県の中東部，県庁のある市。人口25万5,000。江戸時代は延岡藩の飛地で，代官所が置かれた。明治以後は県の行政・交通・文化の中心地として発展し，1924年(大正13)宮崎・大淀(おおよど)の2町と1村が合併して市制を施行。第2次世界大戦中，戦災や台風のため市街の大半を損壊したが，豊富な木材を利用して復興した。市域は日向灘(ひゅうがなだ)に面する宮崎平野の南部を占め，大淀川が貫流する市街地ではフェニックス・ビロウなどの亜熱帯植物が茂って南国情緒が豊かである。宮崎駅前から西へ走る高千穂通りと，これと直交する橘(たちばな)通りが繁華街で，県庁・市役所・銀行・役所などの集まる事務地区，デパートや商店の立ち並ぶ商業地区を形成する。北部には宮崎大学をはじめ学校が集まり，住宅地も開けて，文教住宅地区を形成している。産業三大別人口比は10：18：72。主産業は農業・商業・サービス業で，消費都市的な性格が強い。温暖な気候と，大淀川流域の肥えた低地に恵まれて米とサツマイモの生産が多く，カボチャ・スイカ・キュウリなどの野菜類の促成栽培が行なわれ，遠く京浜地方まで出荷される。果樹では，ナツミカンの栽培が盛んである。近代工業はふるわず，食料品加工・家具など，農林産加工の中小工場があるにすぎない。最近では大工場誘致の計画が進んでいる。日豊本線から日南線・妻線を分岐し，国道10号線・219号線・220号線・269号線が集まり，私鉄宮崎交通のバスが各地に延びている。将来は東九州新幹線・九州南部横断自動車道が通じる予定である。宮崎空港からは，大阪・福岡・鹿児島へ定期航空路が通ずる。日本唯一の民間航空のパイロット養成のための運輸省に属する航空大学校があり，宮崎神宮*・平和の塔・青島・こどもの国などの名所に富み，青島の亜熱帯性植物群落や，内海のヤッコソウ発生地は特別天然記念物に指定される。日南海岸国定公園・霧島屋久国立公園を控えて，南国九州の観光基地となり，年間観光客は200万人を越える。特産には，日向カボチャ・はにわ・ビロウうちわ・碁盤・貝細工など。〔浅井得一〕



宮沢賢治

みやざきじんぐう 【宮崎神宮】 宮崎市神宮町にある。祭神は神日本磐余彦尊(かむやまといわれひこのみこと)，すなわち神武天皇。鸕鷀草葺不合尊(うがやふきあえずのみこと)と玉依比売命(たまよりひめのみこと)を配祀(はいし)する。神武天皇の没後にその孫タケイワタツノミコトが創祀したものという。この地は神話にいう高千穂宮のあったところで，神武天皇の東征の起こされた遺跡と伝えられる。古くは神武天皇宮または神武天皇社と称されたが，1873年(明治6)宮崎神社と改められ，さらに1913年(大正2)に現社名となった。例祭は10月26日。

みやざきやすさだ 【宮崎安貞】 (1623～1697) 江戸前期の農学者。安芸(あき)(広島県)広島藩士の次男として生まれ，一時福岡藩主黒田忠之(ただゆき)に仕えたがやがて辞し，みずから農耕に従事して農民を指導。また西日本各地を遍歴して，実地に農業を観察し，これらの体験・見聞に中国農書を参照して1697年(元禄10)《農業全書》を著わす。実用的価値において，この書をしのぐものは明治初期に至るまで出なかったといわれている。とりあげた作物には，果樹・工芸作物・薬草など換金作物が多く，また施肥についても金肥を重視していることは，当時の商業的農業の発展に関連していると思われる。〔中村禎里〕

みやざわけんじ 【宮沢賢治】 (1896～1933) 詩人・童話作家。岩手県稗貫(ひえぬき)郡花巻町に生まれる。真宗のあつい信者であった父の影響をうけて育ち，盛岡高等農林学校を卒業，のち稗貫農学校の教諭となる。この間，1921年(大正10)突如上京し，妹トシの病気で帰郷するまでの半年余りを，筆耕・校正の仕事のかたわら日蓮宗(にちれんしゅう)の宣布につとめて暮らした。その後教職を辞して農耕生活にはいり，稲作指導などを通じて農村の近代化に尽力したが，実践活動途上で病に倒れ中絶。小康を得た1931年(昭和6)には東北砕石工場技師となったが，再び発病，1933年9月21日永眠した。賢治の文学活動は，同郷の石川啄木*(たくぼく)に刺激されて書いた中学時代の生活的な短歌に始まり，みずから心象スケッチと称した豊麗な詩作，法華経(ほけきょう)，素朴(そぼく)な社会主義的傾向，民話の香気のみごとに融合した童話，そして晩年の文語詩と充実した展開をみせたが，生前には詩集《春と修羅*(しゅら)》，童話集《注文の多い料理店》(ともに1924年)が自費出版されただけの無名の地方作家であった。代表作に童話《セロ弾(ひ)きのゴーシュ》《銀河鉄道の夜》《風の又三郎*》，詩《小岩井農場》などがある。〔岡田純也〕

みやじま 【宮島(町)】 広島県佐伯(さえき)郡の町。人口3,400。面積約30km²。県北西部に浮かぶ島(宮島または厳(いつく)島)で一島一村をなし，厳島神社*があり鳥居前町として発達。神社を中心に日本三景の一つに数えられ，最高点の弥山(みやま)からの眺望(ちょうぼう)にすぐれ，瀬戸内海国立公園の観光の中心の一つになっている。

みやじますけお 【宮嶋資夫】 (1886～1951) 小説家。東京の生まれ。幼少のころから各種の職業を転々とし，大杉(おおすぎ)栄*・荒畑寒村*らの編集する雑誌《近代思想》に影響され，アナーキストとしての道を歩んだ。1916年(大正5)《坑夫》を発表，資本主義の機構にメスを入れて注目されたが発禁となった。その他株屋の世界に取材した《金》や自伝《遍歴》などがある。

みやしゅうじ 【宮柊二】 (1912～　) 歌人。新潟県の生まれ。長岡中学校卒業後上京，転々と職を変え放浪した。北原白秋*の門にはいり，《多磨(たま)》創刊より同人として活躍。1953年(昭和28)《コスモス》を創刊・編集。孤独な人間存在をかわいた叙情の中に描いて，昭和歌壇の第一人者となる。歌集に《小紺珠(しょうこんしゅ)》《晩夏》《日本挽歌(ばんか)》など。

みやすどころ 【御息所】 〈みやすんどころ〉ともいう。天皇の御休息所の意から，転じて天皇の御寝に侍した宮女の汎称(はんしょう)。女御・更衣さらには正式の職名のない者にも，所生の皇子・皇女の有無に関係なく用いられた。平安初期からあり，のちには皇太子や親王の妃にもこの称が用いられたが，平安末期以後は正式には用いられなくなった。

みやぞのぶし 【宮薗節】 浄瑠璃(じょうるり)の一。薗八節ともいわれる。この流派を開いたのは享保(きょうほう)時代(1716～1735)末ごろ，宮古路豊後掾(みやこじぶんごのじょう)の上方時代の弟子(でし)宮古路薗八で，のちに宮薗鸞鳳軒(らんぽうけん)と称した。しかし，文政時代(1818～1829)に上方での流派がすたれるとともに江戸に移され，宮薗千之(せんし)が家元としてこれを伝え，現代に至っている。古典で伝承されているものは，《鳥辺山(とりべやま)》《夕霧》《桂川(かつらがわ)》など10段にすぎない。しかし，同じ題材の曲では清元節や

義太夫節(ぎだゆうぶし)にまで宮薗節の手が借用されている。音楽的には，江戸の浄瑠璃よりは，歌い方や三味線(しゃみせん)の響きなどが上方の地歌に近い。しかし，地歌に比べれば，唄(うた)は語り物としての性格があり，また楽器としての三味線は地歌のものに近いが，左手のスリ(食指・中指で棹(さお)の表面の弦をすって音を出す)が少ない。なお，《道行袖屏風(みちゆきそでびょうぶ)》(1963)のような新曲もあるが，宮薗のかかりとして有名な三味線の手を使うなど，様式的には変わらない。〔徳丸吉彦〕

みやた【宮田】⇒神田

みやた【宮田(町)】福岡県北部，鞍手(くらて)郡の町。人口24,000。遠賀川の支流犬鳴川流域に位置し，1884年(明治17)炭鉱が開坑してから炭鉱町として急速に発展した。しかし近年の石炭産業の不況により，大きな打撃を受けた。宮田線が通じる。

みやたけがいこつ【宮武外骨】(1867〜1955) 明治文化史研究家・ジャーナリスト。香川県出身。漢学を修業，のち《頓智(とんち)協会雑誌》《滑稽(こっけい)新聞》などを発行。1926年(大正15)東京帝国大学の明治新聞雑誌文庫創立とともにその初代主任に就任し，新聞史料として重要な《東天紅》《公私月報》などを発行した。小学校3年修業のみの学歴であったが，若いときから文筆をよくし，江戸時代の制度，明治初期の風俗史，政治の裏面史などに造詣(ぞうけい)が深く，辛辣(しんらつ)な風刺に走ってはしばしば筆禍事件をひき起こした。《私刑類纂(るいさん)》《賭博史(とばくし)》など100冊余に及ぶ著書を残した。希代の奇人としても有名。〔前納弘武〕

みやづ【宮津(市)】京都府北部の市。人口29,000。天正年間(1573〜1591)細川忠興(ただおき)が築城して以来都市化が進み，江戸時代には京極・永井・阿部(あべ)・奥平・青山の各氏が領し，中期以降は本庄(ほんじょう)氏七万石の城下町で，また〈いろは四十七〉の回船問屋が立ち並ぶ西回り航路の寄港地として繁栄した。1954年(昭和29)市制施行。市域は若狭(わかさ)湾南西端の宮津湾*沿岸に南北に延び，東は由良(ゆら)川を隔てて舞鶴(まいづる)市と接する。中心市街は宮津湾奥に注ぐ大手川の三角州上に半円形に広がり，魚屋町・紺屋町などの町名や外堀・城門・家老邸(いま裁判所)・代官所(いま市役所)などの遺構に古い城下町の名残りをとどめる。産業三大別人口比は17:32:51。漁業・水産加工などが盛んで，宮津港は最近の日ソ貿易再開により対岸貿易港としての発展が期待される。奥丹後半島の機業地を控えて丹後縮緬(ちりめん)を移出し，冶金(やきん)・メリヤス・造船などの工場もある。粟田(あわた)地区には東洋一の火力発電所が建設中である。宮津線・国道176号線・178号線・312号線が集まり，丹後海陸交通の汽船・ケーブルカー・バスが宮津湾周辺地域を結ぶ。宮津湾北西岸から砂嘴(さし)が南西に細長く延びる天橋立*は，日本三景の一つで，特別名勝に指定され，若狭湾国定公園の一中心をなす。〔浅井得一〕

みやつこ【造】氏姓制度の姓*(かばね)の一。造を姓とする氏族は多かったが，おもに地方にあって政治をとった国造*と職業部民である品部*(ともべ)を統率して朝廷に奉仕した伴造*(とものみやつこ)が称したものらしい。684年(天武13)天武天皇が八色の姓(やくさのかばね)を制定したとき，造の姓をもつ有力氏族は，連*(むらじ)以上の姓を賜わり，造の姓は少なくなった。

みやづわん【宮津湾】京都府宮津市の北，若狭(わかさ)湾最西部をなす細長い湾。西側の奥丹後半島と東側の栗田(くんだ)半島との間の2.4kmを湾口とし，北東〜南西方向9kmに及ぶ沈水海岸*で，水深は11〜27m。東部湾奥には宮津港と宮津市街があり，漁港の宮津港は江戸時代から海上交通の要所である。西部湾奥は天ノ橋立*の砂嘴(さし)でくぎられ，潟湖(せきこ)の阿蘇海(あそかい)と文珠水道でつながる。湾域のほとんどは，若狭湾国定公園*に含まれる。〔山口恵一郎〕

みやのうらだけ【宮之浦岳】鹿児島県南部，屋久島*の中央にそびえる九州地方の最高峰。標高1,935mで，付近には1,500m以上の高峰が11座もあり，永田岳(1,890m)や黒味岳(1,836m)などを合わせて八重岳ともよばれる。洋上の高山のため降水量は著しく多く，樹木が繁茂し，標高1,000〜1,500mを中心にヤクスギの原生林が広がり，重要な林産資源となっている。またシカ・サルも多く生息している。霧島屋久国立公園*に属し，登山者も多い。〔高野　繁〕

みやのしたおんせん【宮ノ下温泉】神奈川県足柄下郡箱根町にあり，泉温46〜79℃，泉質は弱食塩泉で，神経病・婦人病・胃腸病などにきくといわれる。早川の渓谷(けいこく)沿いに大旅館があり，箱根温泉郷の中心で箱根七湯の一つをなす。箱根外輪山の展望や早川渓谷の探勝などがよく，箱根観光の中心地として知られる。箱根登山鉄道が通じる。

みやのじょう【宮之城(町)】鹿児島県北西部薩摩(さつま)郡の町。人口20,000。川内(せんだい)川中流域の盆地に位置し，古くから祁答院(けどういん)地方の中心で，1955年(昭和30)に隣接する山崎町を合併した。県下有数の米の産地であり，茶の栽培，養蚕も盛ん。宮之城線が通じ，宮之城温泉がある。

みやべきんご【宮部金吾】(1860〜1951) 植物病理学者。江戸の生まれ。1881年(明治14)札幌(さっぽろ)農学校を卒業後，東京大学理学部・ハーバード大学で学ぶ。1889年に帰国し，札幌農学校教授となり，次いで東北・北海道両帝国大学教授を歴任。日本における植物病理学の創始者のひとり。また北海道の植物分布の研究の開拓者。エトロフ・ウルップ両島間に引かれる生物境界線の宮部線は，彼を記念してつけられたもの。1946年(昭和21)文化勲章を受章。

みやまいり【宮参り】生児がはじめて氏神に参拝し，氏子となる儀礼。宮参りの日どりは地方により異なるが，男児は32日め，女児は33日めというところが多く，お七夜，食初め*のときに行なうところもある。宮参りはひあけ・おひあけともいわれ，この日から生児の忌*(いみ)があけるが，産婦の忌は生児よりも長いとされ，30日前後の宮参りに母親は行かず，産婆や親戚(しんせき)の者がつれていく。また，地方によってはとりいまいり・さかまいりといって鳥居の前までしかいかず，後日正式に参るところもある。宮参りは氏神による生児の承認と村人の一員としての承認の意義をもち，氏神の前で認めてもらうために生児をわざわざつねって泣かせたり，村人や子どもに赤飯・酒・菓子をふるまい，生児を祝福してもらうこともある。また，このときに生児の額に鍋墨(なべずみ)をつける呪的(じゅてき)行為も行なわれる。〔中山和芳〕

みやまかみきり【深山天牛】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・カミキリムシ科。ヤマカミキリともいう。体長34〜57mm。体は黒かっ色ないし黒色で，背面は灰黄色の短い微毛で密におおわれ，体下面はやや長い灰白色の微毛でおおわれる。触角は，雄では体長の2倍に近く，雌では体長よりやや短い。鞘翅は微細な点刻におおわれ，翅端は丸みをおびるが，会合線上に1個の短い棘(きょく)がある。日本全国のほか，朝鮮・中国・東シベリアなどに広く分布する。成虫は6〜9月に出現し，夜間活動して樹液などに集まり，燈火にもよく飛来する。幼虫はクリ・コナラ・クヌギなどの生木の幹中に食入する害虫で，成虫になるのに2〜3年を要する。〔鈴木邦雄〕

みやまきりしま【深山霧島】双子葉植物・ツツジ科。九州の霧島山・阿蘇(あそ)山・雲仙岳(うんぜんだけ)などの高山に自生する常緑低木。高さ1〜2mになるが，山頂の露出地では10cmほどにしか伸びない。茎はよく分枝し，かっ色の剛毛がある。葉は，春葉が長さ0.8〜3cmの長楕円(ちょうだえん)形で，秋葉はさじ形でごく小さく，脈上にかっ色の毛が多い。5〜6月，枝端に2〜3花を散形花序につけ，紅紫色の美しい花を開く。花冠は径2〜3cmの漏斗状で先は5裂する。樹形や花色に変化が多く，白色花のものもある。本種は園芸品のクルメツツジの母種であるという。

みやまくわがた【深山鍬形虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・クワガタムシ科。体長雄43〜72mm，雌32〜39mm。体は暗赤かっ色ないし黒かっ色で，雄のほうが一般に黒みが強い。体の背面は，雄では有毛であるが雌では無毛。雄では頭部に1対の大きな耳状突起があり，大顎(おおあご)は一般に頭部と胸部を合わせたよりも長く，下方に湾曲し，

末端はほぼ等しく2分岐し，普通は中間に4個の歯がある。しかし，しばしば大顎の小さい矮小(わいしょう)型も見られる。雌では大顎は小さい。脚は黒かっ色で，雌雄とも腿(たい)節の外側に長楕円(ちょうだえん)形の黄かっ色紋がある。日本全土のほか，朝鮮・中国・東シベリアなどに広く分布し，いくつかの亜種に分けられる。成虫は7～8月に出現し，クヌギなどの樹液に好んで集まり，燈火にもよく飛来する。幼虫は，クヌギ・ブナなどの朽ち木を食べ，成虫になるのに4年ほどかかる。〔鈴木邦雄〕

みやまざくら【深山桜】双子葉植物・バラ科。深山に自生する落葉高木で，高さ5～10mになる。新枝は伏毛が密生する。葉は互生し，長さ4～8cmの倒卵形で重鋸歯(じゅうきょし)があり，両面とも鮮緑色。葉柄や葉の裏面の脈上に毛を密生する。5～6月ごろ，葉腋(ようえき)に総状花序に径1.5～2cmの白花を4～10個つける。花序には緑色卵円形の包葉があり，果時にも残存する。果実は径5～6mmの球形の核果で，夏に赤黒色に熟す。

みやましろちょう【深山白蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さ65mm内外。翅は白色で翅脈は黒く，前翅の前縁・外縁・中室端は黒かっ色。雌は大形で，白色鱗粉(りんぷん)の発達悪く，半透明に近い。裏面はほとんど表面と同様であるが，後翅基部に橙黄(とうおう)色の斑紋(はんもん)がある。高山チョウの一つで，年1回7月上旬に発生する。成虫は標高1,000～2,000mの森林地帯に限って生息し，クガイソウ・マルバダケブキ・トラノオ・アザミなどの花上を緩慢に飛び，雄は湿地に群集する。卵はヒロハヘビノボラズ・メギなどの葉裏に産みつけられ，幼虫はクモの巣状のテントをつくって群生し，3齢幼虫で越冬。さなぎは黄白色の地に黒点を散布して美麗。日本では飛騨(ひだ)・木曾(きそ)・赤石山脈，八ケ岳・蓼科(たてしな)などの本州中部山岳地帯にのみ分布し，国外では中国西部・台湾山地・朝鮮北部・チベット・アムールなどから知られている。近似種にエゾシロチョウがあり，北海道に分布する。
➔シロチョウ　〔多々内修〕

みやもとむさし【宮本武蔵】(1584ごろ～1645)　江戸初期の剣豪。名は政名(まさな)，号は二天。美作(みまさか)(岡山県)または播磨(はりま)(兵庫県)の出身といい，父は新免無二斎武仁(たけひと)。無二斎は当理流十手術の達人で，武蔵もそれを習ったが，のちに剣技に活用して新境地を開いた。13歳で新当流の達人有馬(ありま)喜兵衛と戦って勝ち，16歳で但馬(たじま)(兵庫県)の剣豪秋山某と勝負して撃殺した。以来，一生のうち有名剣士と試合すること六十余度，一度も負けたことがなかったと伝える。特に足利(あしかが)将軍の剣術師範の吉岡(よしおか)憲法と三度立ち会って二度勝ってからはみずから〈日下開山〉と号した。はじめ円明流を編み出したが，のちに二刀の使用をくふうして〈二天流〉と称した。武者修業の遍歴中，豊前(ぶぜん)(福岡県)小倉の城主細川忠興(ただおき)のもとで，鬼才佐々木小次郎*と出会い船島(のちに巌流(がんりゅう)島)で勝負し，武蔵は敵をいらだたせたり，太陽を背にするなど合理的に戦い勝った。1640年(寛永17)熊本藩主細川忠利(ただとし)に仕え，兵法書《五輪書》を著わすとともに，宋(そう)元画ふうの水墨画を巧みに描いた。〔稲垣史生〕

宮本百合子



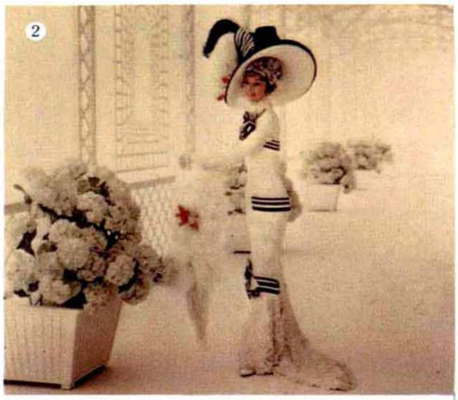
みやもとゆりこ【宮本百合子】(1899～1951)　小説家。本名ユリ。旧姓中条。東京の生まれ。日本女子大学英文科中退。18歳のとき《貧しき人々の群》を坪内逍遙*(しょうよう)の推薦で《中央公論》に発表し，認められた。1918年(大正7)父とともにアメリカに渡り，1920年帰国。この間結婚したが，のち離婚。この体験が，代表作《伸子*》に結実した。1927年(昭和2)湯浅芳子(よしこ)に同行してソ連に旅行，ブハーリン*の《史的唯物論》から影響を受けるなど，多くの体験を重ね，ヨーロッパ諸国を経て，1930年帰国。プロレタリア文学運動に参加し，宮本顕治と結婚，弾圧・検挙の中を活躍した。この期の作品に《乳房(ちぶさ)》などの小説，《冬を越す蕾(つぼみ)》《婦人と文学》などの評論がある。第2次世界大戦後は，新日本文学会*の中心メンバーとして活躍するとともに，《播州(ばんしゅう)平野》《二つの庭》《道標》などの大作を発表した。〔瀬良垣宏明〕

ミュージカル［musical］音楽・ダンスにコメディーやドラマなど演劇的要素の三者がつねに渾然(こんぜん)と一体をなし，一つのプロットに組み込まれた演劇形態。おもにニューヨークの演劇街ブロードウエーを中心に発達，今日ではアメリカの国民的文化財ともなったブロードウエー-ミュージカルを典型とし，世界各地でも上演されている同型式の大衆向け音楽舞台劇をいう。内容もコメディー・ドラマ・悲劇・ファンタジーなどさまざまである。広義の解釈としてレビュー・ボードビル・ショーなどを含めることもある。同様な形態をもつミュージカル映画*・テレビ番組などを単にミュージカルとよぶこともある。

【ミュージカルの歴史】アメリカの芸術・芸能の多くがヨーロッパからの移植にはじまってアメリカ独自の展開を遂げたように，ミュージカルも例外ではなく，むしろその典型といえよう。18世紀ごろからイギリスのバラード-オペラが持ち込まれ，さらにパントマイムを中心にしてパロディやカリカチュア的要素を強調したバーレスク*へと発展，これに南北戦争当時流行した白人が黒塗りの顔で黒人を演じるニグロ-ミンストレル-ショーの民族的な歌・踊りが加わってボードビルとなった。そのハイライトをなす生活・文化への風刺をこめた寸劇が長編スケッチへと成長した。並行して紹介されつづけたウィーンのオペレッタ，イギリスのコミック-オペラ，フランスのオペラ-ブッファなどから作劇術・作曲技術などが積極的にとり入れられ，1920年代までにアメリカ人の生活感情に根ざす独特の舞台芸能が形成されてきた。1927年O.ハマースタイン2世*(台本・作詩)とジェローム-カーン(作曲)のコンビによる《ショー-ボート*》は，はじめて音楽・ダンス・演劇的要素の三者と，社会・風土・人種問題に根ざしたテーマが一体化された傑作とされ，今日のスタイルが確立された。それ以後1930年代にかけて，バーリン*・ガーシュイン*・ポーター*・ロレンツ-ハート・R.ロジャース*などすぐれた作者たちが，充実した作品を送りだした。

【現代のミュージカル】それらは一般に美男美女が甘い恋をささやく物語が大半であったが，1943年にブロードウエーで初演された《オクラホマ！》はさらにシリアスな題材を求め，舞台も野外にとって2,212回続演という画期的な大ヒットになった。このロジャースとハマースタインのコンビはさらに《回転木馬》(1945)，《南太平洋》(1949)，《王様と私》(1951)，《サウンド-オブ-ミュージック》(1959)などでミュージカルにドラマチックな展開をみせ，ブロードウエー-ミュージカルの声価を世界にたかめた。この間バーリンの《アニーよ銃をとれ》(1945)，バーンスタイン*の《ウェストサイド物語》(1957)が初演され，アラン-ジェー-ラーナーとフレデリック-ローのコンビになる《マイ-フェア-レディ*》(1956)は2,717回続演の記録をたてた。1960年代には新人が続続と現われ，ジェリー-ハーマンの《ハロー-ドーリー！》(1964年，2,844回続演)，ジェリー-ボック作曲《屋根の上のバイオリン弾(ひ)き》(1964年，3,242回続演)，ミッチ-レー作曲《ラーマンチャの男》(1965)が世界的反響を呼び，《ヘア》(1967)や《イエス-キリスト-スーパースター》(1970)のようなロック-ミュージカルも登場した。イギリスでもライオネル-バートの《オリバー！》(1963)のような秀作が誕生した。日本では第2次世界大戦後，秦豊吉(はたとよきち)による一連の〈帝劇ミュージカル〉が試みられ，1963年には《マイ-フェア-レディ》の翻訳上演に成功し，以来，アメリカ・イギリスのヒット作が日本人または外国人キャストで紹介され







ミュージカル映画

①《雨に唄えば》(ケリー-ドーネン監督, 1952) 映画の都ハリウッドを描いたスター誕生物語
②《マイ-フェア-レディ》(キューカー監督, 1964) 花売り娘が社交界の女王になるまでを描く
③《サウンド-オブ-ミュージック》(ワイズ監督, 1965) 母のない子と若い尼僧の心の交歓を描く

つつある。オリジナル新作は今後に期待される。〔日野康一〕

ミュージカルえいが【ミュージカル映画】 ミュージカル-ショーやオペレッタを中心とした映画。意味としては音楽映画のことであるが，元来このことばは西部劇とともにハリウッド映画の二大潮流となった映画の一ジャンルを示すもので，クラシック音楽の映画や音楽家の伝記映画は含まない。トーキーの出現とともにつくられ，最初は《ブロードウエー-メロディー》のように舞台の単純な描写から始まったが，1930年代には《ラブ-パレード》《四十二番街》《トップ-ハット》などの秀作を生み，ハリウッド独自の映画的スタイルを確立した。その後色彩映画の出現によって一段とはなやかになり，《イースター-パレード》《パリのアメリカ人》《雨に唄(うた)えば》がつくられ，その存在は世界的なものになった。さらに70ミリ映画と立体音響の時代にはいると，《ウェストサイド物語》や《メリー-ポピンズ》など映画史上屈指の興行成績を誇る大作がつくられた。このようにミュージカル映画は，ハリウッド映画の企業的拡大化におけるバロメーターであった。一方この影響下にあって，その他の国々でもすぐれたミュージカル映画がつくられた。古くはフランスの《自由をわれらに！》やドイツの《会議は踊る》，新しいところではイタリアの《ナポリの饗宴(きょうえん)》，フランスの《シェルブールの雨傘(あまがさ)》《ロシュフォールの恋人たち》などが代表的なものである。〔波多野哲朗〕

ミュージック-コンクレート［musique concrète］ 具象音楽・具体音楽ともいわれる。1948年ごろパリでピエール-シェフェールによってつくられはじめた。これは，外界にある具体的な音(楽器に限らず，生物や機械の音など)を，電子工学的な装置によって変形したり合成したりして作曲者の意図にしたがった音響作品にまとめあげようとするものである。シェフェールにはピエール-アンリとの共作《オルペウス53》という代表作がある。最初，この種の音楽と電子音楽との区別は明確であったが，1956年にシュトックハウゼンが《少年の歌》において両者を融合させて以来，ミュージック-コンクレートは広義の電子音楽に含まれることになった。なお，日本では，NHKのスタジオを中心に，黛敏郎(まゆずみとしろう)・武満徹(たけみつとおる)・柴田南雄(しばたみなお)らによって作品が発表されている。〔徳丸吉彦〕

ミューズ ⇨ムーサ

ミュゼット［musette］ フランスのバッグパイプで，鞴(ふいご)で空気を送る。ルネサンス時代から使われたが，バロックのルイ14世時代に宮廷で田園趣味の一つとして愛用された。持続低音(ドローン)が鳴るのが特徴であり，古典派になっても，たとえばモーツァルトの第4，第5バイオリン協奏曲の終楽章のように，この楽器の特徴を模倣して民俗的な旋律をつくる例は多い。なお，3拍子の速くない舞曲でドローンを使う舞曲もミュゼットとよばれ，これは，ヘンデルのコンチェルト-グロッソやJ.S.バッハの組曲にみられる。〔徳丸吉彦〕

ミューちゅうかんし【μ中間子】 素粒子の一。μ粒子またはミューオンともいう。μ^+，μ^-の2種類が存在し，前者は後者の反粒子である。スピンは1/2，質量は電子質量の約206.8倍。μ^+とμ^-は平均寿命約2.2×10^{-6}秒でそれぞれe^+，ν_e，$\bar{\nu}_\mu$およびe^-，$\bar{\nu}_e$，ν_μに崩壊する。1942年(昭和17)坂田昌一(しょういち)らによって予言され，1947年C.F.パウエルによる宇宙線の実験において存在が確証された。

ミュッセ［Alfred de Musset］(1810～1857) フランスの詩人。幼時から詩作を始める早熟さで，20歳のとき詩集《スペインとイタリアの物語》によってロマン派の寵児(ちょうじ)となった。しかし，つねに素直な叙情精神と皮肉な洞察(どうさつ)力との間で苦悩し，30歳以降にはみるべき作品をつくれなくなった。女流作家サンドとの悲恋は有名で，この恋愛体験に基づく長編小説《俗界の子の告白》がある。ほかに戯曲《戯れに恋はすまじ》《ロレンザッチョ》がロマン派演劇として著名。〔井上輝夫〕

みゆびしぎ【三趾鷸】 鳥類・シギ科。全長約19cm。夏羽は顔・頭・胸・上背面は黄かっ色，冬羽は灰かっ色。腹部は夏冬羽とも純白で，全体として白っぽく目だつ。旅鳥として渡来し，九十九里浜のような外洋に面した砂浜を好んで群生し，波打ちぎわで波と遊ぶように活発に採食する。

ミュラー［Wilhelm Müller］(1794～1827) ドイツの詩人。民謡調の詩を多く書いたが，シューベルトの作曲によって有名な《美しき水車小屋の娘》《冬の旅》の詩人として，また，トルコの支配に抗するギリシア独立戦争を賛美した詩集《ギリシア人の歌》の作者として知られている。病を得て短い生涯(しょうがい)を終えたが，遺児マックスはイギリスへ渡って大学者となった。

ミュラー［Johannes Peter Müller］(1801～1858) ドイツの生理学者・比較解剖学者。コブレンツの生まれ。ボン・ベルリン両大学で学び，のち両大学教授を歴任。初期は神経生理学・発生学の研究を多く行なったが，晩年は比較解剖学・海産動物生活史の研究に進み，生殖器官の発生，血液やリンパに関する諸発見など多くの研究業績を残した。また教育者として多くの俊秀を育てた点で，19世紀の科学史に不朽の名を留めた。その門下からケリカー・シュワン・デュ-ボア-レイモン・フィルヒョー・ヘッケル・ヘルムホルツのほか多くの著名な学者を輩出し，これらの人々は19世紀の細胞学・組織学・生理学・生化学・発生学・進化論・微生物学・物理学・科学思想における最大級の人物である。〔中村禎里〕

ミュラー［Fritz Müller］(1821～1897) ドイツの進化論的動物学者。ウィンディッシュホルツハウゼンに生まれ，ベルリン・グライフスワルト両大学で学ぶ。1852年にブラジルに渡り，生態学・分類学・

発生学で多くの貢献をなした。中でも，1864年クルマエビの諸幼生形が，別種の甲殻(こうかく)類の成体に類似していることを発見したことは有名。彼によればこの事実はクルマエビが進化の過程で，それら幼生形に似た諸段階を経て現在に至ったことを示すという。この成果は，のちにヘッケルによる〈生物発生原則〉の定式化(1886)に大きな影響を与えた。〔中村禎里〕

ミュラー ［Max Müller］ (1823～1900) イギリスの宗教学者・言語学者。W.ミュラー*の子としてドイツに生まれ，ベルリン大学で学んだのちイギリスに帰化した。オックスフォード大学教授。《東洋聖典集》51巻，《リグ-ベーダ》6巻を編集・刊行し，科学的な宗教学の創始者として知られた。主著に《言語学講義》《神話学》のほか，短編小説《ドイツ人の愛》などがある。

ミュラー ［Benjamin Karl Leopold Müller］ (1824～1893) ドイツの陸軍軍医。ヘッセンのマインツの生まれ。ボン・ベルリン両大学で医学を学ぶ。王立シャリテ病院・フリードリヒ-ウィルヘルム軍医学校の医官を経て1856年から12年間ハイチに派遣され，1870年のプロイセン-フランス戦争には第4野戦病院の医長として参戦。1871年(明治4)8月日本に東京医学校教師として来任，わが国におけるドイツ医学の移植の基礎を確立した。1875年帰国後ベルリンの廃兵院長となった。〔大鳥蘭三郎〕

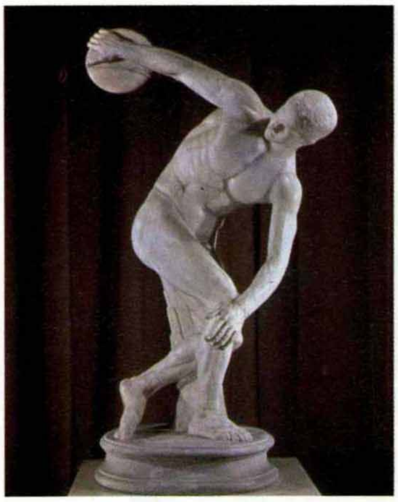
ミュラー ［Otto Müller］ (1874～1930) ドイツの画家。ブレスラウ・ドレスデン・ベルリンなどで修業，制作に励む。やがてヘッケルと知り合い，橋派*に参加する。1919年以後はブレスラウ美術学校で教鞭(きょうべん)を取り，同地に没した。ゴーギャンの影響を受けた表現主義的作風で，ジプシーの生活や女性の裸体像をくり返し描いた。

ミュラー ［Paul Hermann Müller］ (1899～1965) スイスの化学者。オルテンの生まれ。バーゼル大学卒業後，同地のガイギー社の研究室にはいる。鞣(なめ)し剤イルガインを合成したのち，植物の害虫対策に着手し，DDT*の強力殺虫効果を発見，殺虫剤研究の新分野を開拓した。1948年ノーベル医学生理学賞を受賞。

ミュルーズ ［Mulhouse］ フランス北東部，アルザス地方の工業都市。綿織物で名高い。人口11万6,000(1968)。1273年自由都市となり，のち，長くスイスと同盟を結ぶ小共和国であったが，1798年フランスに編入された。1871年ドイツ領となり，第1次世界大戦後フランスに返還された。

ミュールせいぼうき ［ミュール精紡機］ ⇨精紡機

ミュルダール ［Karl Gunnar Myrdal］ (1898～　) スウェーデンの経済学者。1923年ストックホルム大学法学部大学院を卒業し，1931年ジュネーブ国際研究所大学院副教授，ストックホルム大学教授となり，現在同大学国際経済研究所長。スウェーデン銀行理事・政府政策委員会委員をつとめ，1947年から1957年まで，国際連合ヨーロッパ経済委員会委員長をつとめた。スウェーデン社会民主党に所属。主著《貨幣的均衡論》(1939)，《経済理論と低開発地域》(1957)，《ゆたかさへの挑戦(ちょうせん)》(1964)。ティンバーゲン*らとともに福祉国家論を代表する北欧福祉国家派，北欧学派*の中心人物。1930年代の不況克服に大きな功績をあげ，現在は低開発国問題の研究に従事している。〔林　達〕



ミュロン　《円盤投げ》(模刻像)



ミュンヘン　市の中心部に建つフラウエン-キルヘ(教会)の大聖堂。戦後修復された青銅丸屋根の二つの塔はミュンヘンの象徴である

ミューロケット ［μ-rocket］ わが国の科学衛星打ち上げ用の宇宙ロケット。東京大学を中心として開発された。4段式固体燃料ロケットで，ミュー-4S・M-4Sなどという。標準型の直径1.4m，長さ23.6m，全重量43.8t。8本のブースターロケットを束ねて発射する。1段めの推力75t。1970年(昭和45)9月25日に1号機を発射したが失敗，1971年2月16日に2号が試験衛星MS-T1を軌道に乗せた。これが国産第2号衛星の〈たんせい〉である。同年9月28日には4S型3号が科学衛星〈しんせい〉を軌道に乗せた。〔新羅一郎〕

ミュロン ［Mylon］ BC480～BC450年ごろの古代ギリシアの彫刻家。アテナイで活躍し，初期古典ギリシア彫刻の巨匠のひとりとされる。青銅彫像を得意とし，とりわけ人体の運動，瞬間の動作などを彫像に表現することにすぐれていた。ローマ時代の模刻である《ディスコボロス》から判断して，調和に富む表現に熟達していたことがわかる。また，やはり模刻の《アテナとマルシュアス》の群像でもその特質が十分に表わされている。

ミュンシュ ［Charles Münch］ (1891～1968) フランスの指揮者。ストラスブールのオルガン奏者の家庭に生まれる。ストラスブール音楽院を出，はじめバイオリン奏者として活躍，1932年に指揮者としてデビューした。1935年からパリ-フィルハーモニック協会，1938年からパリ音楽院管弦楽団の正指揮者をつとめ，1946年アメリカにデビュー，1949年から1963年までボストン交響楽団の常任指揮者をつとめた。国立パリ管弦楽団の創設に参画，その総監督をつとめたが在任中に世を去った。1960年と1962年に来日。〔向坂正久〕

ミュンスター ［Münster］ 西ドイツ北西部，ノルトライン-ウェストファーレン州の都市。人口26万4,000(1975)。13世紀以来ハンザ同盟*の有力都市で，第2次世界大戦前までは中世のなごりをとどめる町なみで有名であったが，市街の60%を戦災で失った。しかし，いまも鉄道交通の要地で，繊維・醸造などの工業が盛ん。1773年創立の大学が残る。

ミュンスターベルク ［Hugo Münsterberg］ (1863～1916) ドイツ生まれの心理学者・哲学者。ライプチヒ大学でブント*に学び，1887～1891年フライブルク大学で教職，その後アメリカ合衆国に渡りハーバード大学教授。心理学の実社会への応用に業績を残した。産業心理学研究の祖である。

ミュンツァー ［Thomas Münzer］ (1489ごろ～1525) ドイツ農民戦争*の指導者。はじめルター*の改革を支持したが，のち再洗礼派の信仰に基づく平等社会の建設を主張してルター派と対立し，各地を回って貧農や下層市民に教会の改革を訴え，大きな刺激を与えた。1525年一時ミュールハウゼンに民主的な都市共同体を樹立したが，ヘッセン伯軍の攻撃を受けて敗れ，捕われたのち斬首(ざんしゅ)された。

ミュンヘン ［München］ 西ドイツ南部，バイエルン州の州都。人口131万4,000(1975)。ドナウ川流域とライン川流域を結ぶ交通の要地に位置し，南ドイツの政治・経済・文化の中心をなす。機械・化学・印刷・ビール醸造工業などが盛ん。市街ははじめイザル川の左岸に建設されたがいまは氾濫原(はんらんげん)一帯に広がり，旧市街の中心マリ

エン広場から街路が放射状に走り，広場の付近には二つの尖塔(せんとう)をもった15世紀建造のフラウエン教会がある。ドイツ博物館やアルテピナコテーク美術館，1472年インゴールシュタットに創立され1826年にここに移されたドイツ最大の総合大学をはじめ多数の文化施設がある。建設の起源は12世紀ハインリヒ獅子(しし)王が建設したもので，以来バイエルン地方の中心となり，ルードウィヒ1世(1825～1848)とマクシミリアン2世(1848～1864)の治世下に幾多の建造物と美術品をもたらし，芸術都市として発展した。第1次世界大戦後は革命の舞台となり，1918年11月の社会主義共和国の宣言,1923年11月のヒトラーによる一揆(いっき)，1943年ミュンヘン大学学生によるヒトラー体制への最初の反乱などが知られている。なお，1972年8月第20回オリンピック大会が開催された。〔大崎　晃〕

ミュンヘンいっき　**【ミュンヘン一揆】**　1923年11月，ナチスがミュンヘンで，政権獲得を企てて起こした武装蜂起(ほうき)。当時，ドイツではルール占領の影響を受けて社会的混乱が強まっており，バイエルンでは王党派の右翼政権が成立していた。ヒトラー*やルーデンドルフ*らはこれにも反対し，蜂起を行なったが，ゼークトらの国防軍首脳により鎮圧され，ヒトラーは投獄された。

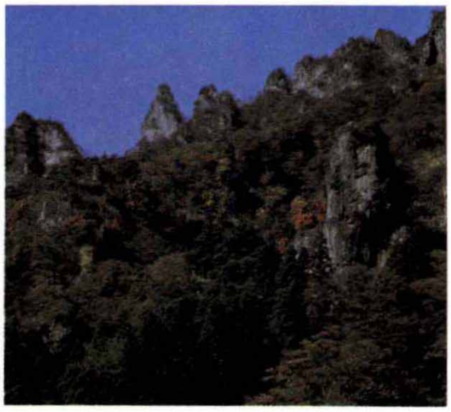
ミュンヘンかいだん　**【ミュンヘン会談】**　1938年9月，イギリス・フランスがドイツのズデーテン地方併合の要求を認めた会議。同年3月のオーストリア併合後，ドイツはチェコスロバキア国内のドイツ人にズデーテン地方のドイツ帰属要求運動を起こさせた。チェコスロバキア・ドイツともに総動員令を準備する危機がここに発生した。イギリス首相チェンバレン，フランス首相ダラディエはイタリアのムッソリーニを誘い，南ドイツのミュンヘンでヒトラーと会談，〈ミュンヘン協定〉でズデーテン地方がナチス-ドイツの最後の領土要求との条件で，これを承認した。その当時，チェンバレンとダラディエの危機回避の功績は高く評価されたが，その実，〈ミュンヘン協定〉とはソ連に脅威を感ずるイギリス・フランスがナチス-ドイツの強硬な要求に譲歩した屈従外交で，1939年3月ドイツのチェコスロバキア侵入でそれが明らかになった。➔宥和(ゆうわ)政策〔折井一彦〕

ミヨー　[Darius Milhaud] (1892～1974)　フランスの作曲家。ユダヤ系フランス人を両親に，南フランスのエクス-アン-プロバンスに生まれた。故郷でバイオリンを学び，のち作曲家の道を選んでパリ音楽院に入学してデュカ・ジョルダジュ・ビドール・ダンディらに作曲を学んだ。在学中からいくつかの作品を発表していたが，第1次世界大戦中は詩人大使クローデル*の秘書としてブラジルに渡った。大戦後帰国し，1920年には，友人のオネゲル・プーランク・





ミョウガ
下は花



妙 義 山　紅葉にいろどられていく秋の妙義山。白っぽい凝灰質の山体は侵食を受け，峨々とした奇岩怪峰をつくりあげている

オーリックらと〈六人組〉を結成し，ジャーナリズムや音楽界にはなばなしく登場した。以後定期的にアメリカ合衆国に渡り，教育と作曲という二つの分野で精力的な活動を続けた。非常に筆の速い作曲家で，これまでですでに500曲にのぼる膨大な作品を残している。作風は，一方では複調や多調を用いドイツ的であるが，他方では地中海的なリリシズムをもっている。代表作はバレエ音楽《世界の創造》，ピアノ二重奏《スカラムーシュ》など。〔船山　隆〕

みょうえ　**【明恵】**　⇨高弁

みょうおう　**【明王】**　梵語(ぼんご) Vidyā-rāja(ビドヤー-ラージャ)の訳。大日覚王の教令を受けて忿怒(ふんぬ)の姿で現われ，もろもろの悪魔を降伏(ごうぶく)する諸尊をいう。密教では明王に，不動明王*・降三世明王・軍荼利(ぐんだり)明王*・大威徳明王*・金剛夜叉(やしゃ)明王・愛染明王*・孔雀(くじゃく)明王*・烏瑟沙摩(うすさま)明王などの名をあげ，その中のはじめの五尊は五大明王として知られる。真言寺院では明王を本尊に祭るものが多い。〔北条賢三〕

みょうが　**【茗荷】**　単子葉植物・ショウガ科。熱帯アジア原産の多年草で，本州以西の山林内に野生化しているが，栽培もされている。根茎は地中を横走して多節多肉で，淡黄色，鞘状(しょうじょう)の鱗葉(りんよう)がある。茎は葉鞘が巻いた偽茎で，斜上して高さ50～100cmになり，1年で枯れる。葉は2列に互生し，長さ20～25cmの広披針(こうひしん)形で先がとがり，基部は葉鞘になる。鱗緑色で質は薄くて柔らかく，表面はやや波打つ。下部の葉は葉身を欠く。夏に根茎から別に茎を出し，その先に花序をつける。花序は紅紫色で紅条のある多数の肉質の包片に包まれ，包片の間から5cm内外の淡黄色の花をつける。花被は3枚で披針形。栽培は半陰地を好み，腐植質の多い粘土質が適する。花序はしるの実やつけ物にして食用とされる。葉に白斑(はくはん)のある変種をフイリミョウガといい，切り花やはち植えにする。〔横井朝子〕

みょうが　**【冥加】**　仏や菩薩(ぼさつ)から知らず知らずのうちに加護を受けていること。冥応・冥益・冥感などともいう。反対にあからさまに加護を受けることを顕加という。本山へ納める金銭を冥加金というのは，仏の冥加を請いあるいは仏の冥加に対する感謝として納める金銭という意味からきているらしい。

みょうががい　**【茗荷貝】**　甲殻(こうかく)類・ミョウガガイ科。水深100mをこえる深海域に産する蔓脚(まんきゃく)類*で，体は大きく雌で15cmにも達する。雌雄異体で，雄は1mm以下の矮(わい)雄となり雌の内部に寄生する。雌では体は頭状部と柄部に分かれ，頭状部には14枚の殻板があり，体を保護している。雄では殻板が退化する。柄部は長く，表面は鱗片(りんぺん)でおおわれてかたい。柄部で他物に付着する。暖海性で，相模(さがみ)湾以南にみられる。

みょうがきん　**【冥加金】**　江戸時代の雑税の一種。幕府・諸藩が特に営業を許可し，または特殊の保護や利権を与えた商・工・漁業その他の業者から，その報償として上納させた。運上*とは異なり，一種の献金として定率がなかったが，のちには率を定めて課税するようになった。金納のほか物納または労力提供の場合もあった。醸造業者・質屋・旅籠(はたご)屋などの個人営業に対するものと，株仲間*に対するものとの2種があった。〔高崎徳次〕

みょうぎあらふねさくこうげんこくていこうえん　**【妙義荒船佐久高原国定公園】**　群馬・長野の2県にまたがり，妙義山*(1,104m)・八風山(1,315m)・物見山(1,375m)・荒船山*(1,423m)・十国峠を含む面積131km²の地域で，1969年(昭和44)に指定された。山岳と高原の公園で，妙義山は侵食作用により柱状・板状節理が発達し，巨岩・奇岩の景観がみごとで特に紅葉時の美観で知られる。荒船山・物見山を中心とする標高約

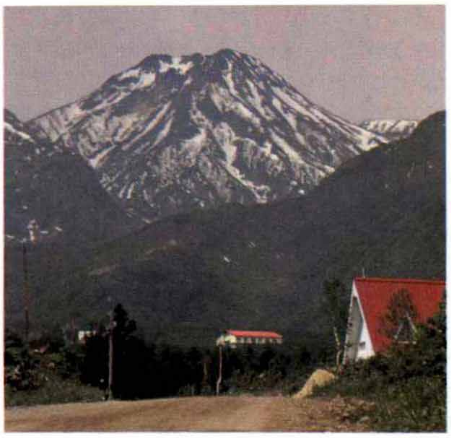
1,000mの高原には，山岳牧場で有名な神津(こうづ)牧場があり，高原の草地にはレンゲツツジ・ノリウツギなどの群落が見られる。〔木村東一郎〕

みょうぎさん　【妙義山】　群馬県西部，長野との県境近くにあり，北の白雲山(1,081m)，西の金洞(こんどう)山(1,104m)，南の金鶏山(856m)の3峰からなる。上毛三山の一。浅間火山群に属する古い火山で，古生層・第三紀層の上にのる凝灰角レキ岩の侵食が進み，石門・ろうそく岩・大砲岩などの奇景をつくり，特異な山容をなす。信越本線・国道18号線など交通幹線に近く，登山・ハイキング・キャンプに訪れる人が多い。妙義荒船佐久高原国定公園に属する。〔高野　繁〕

みょうぎょうどう　【明経道】　律令(りつりょう)制における大学の四科の一。経書を専攻する学科。《礼記(らいき)》《左伝》《毛詩》《周礼(しゅらい)》《儀礼(ぎらい)》《周易》《尚書(しょうしょ)》の7経を選択科目，《孝経》《論語》を共通必修科目と定めた。本来，大学における本科ともいうべき存在であったが，平安初期以降，文章道(もんじょうどう)の隆盛におされて衰退した。それとともに中原・清原両家が博士(はかせ)を世襲した。

みょうけんじ　【妙顕寺】　京都市上京区妙顕寺前町にある日蓮宗(にちれんしゅう)の大本山。具足山と号す。1321年(元亨1)日像(1269～1342)が創建。京都における日蓮宗最初の寺院で，以後この流派は四条門流と称された。勅願寺ともなり，公武の帰依を得たが，しばしば叡山(えいざん)僧徒の迫害を受け，1393年(明徳4)寺号を妙本寺と改称させられた。1519年(永正16)寺号を復元したが，法華一揆(ほっけいっき)で焼失，1542年(天文11)再興ののち，1584年(天正12)現在地に移建された。寺宝には日蓮遺文，その他諸師の遺墨がある。古文書は龍華(りゅうげ)秘書として名高い。〔杉坂靖子〕

みょうけんぼさつ　【妙見菩薩】　梵語(ぼんご) Sudarśana(スダルシャナ)の訳。国土を守り，死を除き生を定め，罪を感じ，福寿を増益する菩薩と説かれる。形像は二臂(ひ)または四臂で印契(いんげい)・持ち物は多様である。二臂像は概して左手に北斗七星をささえた蓮華(れんげ)をもち，右手は説法印につくる。この菩薩を勧請(かんじょう)して長寿延命・除災招福を祈る修法に〈北斗尊星法〉がある。また，妙見信仰はこの菩薩に対する信仰で，インドに由来するよりはむしろ中国の道教に基づくようである。わが国でも古くから信仰され，《日本霊異記(りょういき)》をはじめ《阿娑縛抄(あさばしょう)》などに記されている。日蓮宗(にちれんしゅう)・真言宗では妙見宮を祭るところが多い。大阪府の能勢(のせ)妙見は著名であり，福島県相馬(そうま)市の野馬追いは〈相馬三妙見〉の神事で，江戸時代の妙見祭の駒捕(こまとり)の神事より起こったものである。〔北条賢三〕



妙高山　妙高高原から望んだ妙高山。〈越後富士〉の名にそむかず，山体は優美な鐘状をなしてひときわ高くそびえる

みょうけんやま　【妙見山】　大阪府北部の豊能(とよの)郡，丹波山地南部の一峰。大阪・兵庫の府県境にあり，標高662m。山頂に能勢(のせ)妙見があり，江戸時代から〈妙見参り〉で知られる。山麓(さんろく)まで能勢電鉄，山頂までケーブルカーが通じる。

みょうごう　【名号】　梵語(ぼんご) nāmad-heya(ナーマデーヤ)の訳。名字または単に名とも訳される。おもに仏・菩薩(ぼさつ)の称号をいい，尊号・徳号・嘉号(かごう)などともいう。字義は仏・菩薩などの体をそのままよび表わしたものが名であり，その徳を表わすのが号といわれる。諸経典にはこの名号を聞いたりとなえたりすることの功徳が各所に説かれるが，特に浄土教では南無阿弥陀仏(なむあみだぶつ)の六字を名号といい，これをとなえることによって滅罪・往生など甚深(じんしん)の功徳をうけるとする。〔大谷旭雄〕

みょうこうおんせん　【妙高温泉】　新潟県の西南端，中頸城(なかくびき)郡妙高高原町にあり，泉温55～70℃，泉質は含土類イオウ泉で，皮膚病・動脈硬化・婦人病にきくといわれる。妙高山山麓(さんろく)の台地に街道に沿って旅館が並び，赤倉・関温泉などとともに妙高温泉郷の一湯をなす。高原の温泉で，特に冬のスキー客が多い。信越本線妙高高原駅から近い。

みょうこうさん　【妙高山】　新潟県西南部，長野との県境近くにそびえる妙高火山群の主峰。標高2,446m。径約3kmの東に開くカルデラをもつ二重式火山の中央火口丘が妙高山で，越後富士(えちごふじ)ともいわれる。外輪山は長い裾野(すその)を引き，妙高高原が広がる。付近には温泉が多く，妙高高原温泉郷をつくり，旅館・山荘・国民休暇村があり，湯治・登山・キャンプ・スキー・ゴルフなど，四季を通じてにぎわう。上信越高原国立公園に属する。〔高野　繁〕

みょうごんじ　【妙厳寺】　愛知県豊川(とよかわ)市にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。通称豊川稲荷(いなり)。1441年(嘉吉1)東海義易の草創で，1541年(天文10)今川義元(よしもと)の外護により伽藍(がらん)が整備された。鎮守として稲荷神の荼枳尼天(だきにてん)を祭っているが，本尊は千手観音である。本堂・荼枳尼天堂(仏殿)・奥の院などが現存する。なお，東京都港区赤坂の豊川稲荷はその別院で，大岡忠相(ただすけ)が本寺から勧請(かんじょう)して自邸内に祭ったのをはじめとし，明治時代に現在地に移建されたものである。

みょうじたいとう　【苗字帯刀】　江戸時代，武士に準ずる資格を庶民が与えられること。士農工商の身分の固定した江戸時代，農工商は領主に奉仕する者とされ，苗字(元来は名字)もなく，帯刀も禁じられた。しかしその中で公職を勤めたり，献金その他特別の功労があった者に対しては，特に苗字帯刀を許されることがあった。これには一代許可・永代許可，あるいは苗字または帯刀のみの許可などの別があり，苗字は世襲されても，帯刀は一代限りが普通であった。明治維新後は，四民平等により一般人もすべて苗字を称するようになり，帯刀は禁止された。〔岡山泰四〕

みょうしゅ　【名主】　平安後期から室町時代にかけて，国衙(こくが)領・荘園(しょうえん)の構成単位となっていた名田(みょうでん)を直接経営した有力農民。前身は平安初期の田堵(たと)があるが，名主の語が見られるのは11世紀後半からである。名主ははじめは家長として下人・所従を含めた家族労働体を率いて農業経営を行なったが，やがて作人に小作させるようになった。荘園領主の支配下にあって，自己の名田における年貢(ねんぐ)以下諸役のすべてについて，名主の責任として徴収・貢納の任にあたった。鎌倉時代になると，有力名主は武士化して荘官に任命され，やがて在地領主となる者もあり，一方作人・下人のうちからは名主職(しき)を得て名主となる者も出た。南北朝・室町時代には，名田の分割所有が行なわれ，また名田の権利が名主職(加地子(かじし)収得権)・作職(作職得分収得権)・下作職(耕作権)に分かれたので，従来名田に対して単一支配権を有していた名主の階層は分解，ここに名田制は解体した。〔高崎徳次〕

みょうじょう　【明星】　⇨金星

みょうじょう　【明星】　文芸雑誌。1900年(明治33)～1908年刊行。全100冊。詩歌の革新をめざして与謝野(よさの)鉄幹が興した東京新詩社の機関誌。5号まで新聞形，6号以下は雑誌形。はじめ啓蒙(けいもう)的性格をおびていたが，しだいに浪漫主義的傾向を鮮明にし，明治30年代の後期浪漫主義運動の中心となった。内省的・宗教的で厭世(えんせい)的な暗さをおびた《文学界》の前期浪漫主義に対し，唯美的傾向が強く，西洋ふうないしは王朝ふうの華麗豪奢(ごうしゃ)な詩的世界を展開，特に恋愛賛美，奔放な空想，芸術至上主義などをその特色とする。森鷗外(おうがい)・上田敏の支持を受け，鉄幹・与

謝野晶子(あきこ)をはじめ山川登美子(とみこ)・窪田空穂(くぼたうつぼ)・相馬(そうま)御風・薄田泣菫(すすきだきゅうきん)・蒲原(かんばら)有明・岩野泡鳴(ほうめい)・小山内薫(おさないかおる)・北原白秋・石川啄木(たくぼく)・高村光太郎・吉井(よしい)勇・木下杢太郎(もくたろう)・長田秀雄(ひでお)らが活躍，芸術の一大殿堂の観があった。しかし自然主義の台頭に伴って衰微をきざし，白秋らの脱退を機に廃刊した。なお，1921～1927年(大正10～昭和２)の第２次《明星》，1947～1949年の第３次《明星》などがあるが，その文学史的意義は小さい。

〔三浦　仁〕

みょうじん【明神】 諸天・鬼神の特別のよび方で，明とは智恵(ちえ)の明らかなことをいい，神とは威徳の測り知れないことをいう。語源については，〈名神〉より転じたという説がある。名神とは創祀(そうし)も古くゆいしょ正しく霊験のすぐれた神をいい，平安初期から両者は同じに用いられていた。また，仏教の〈神明〉より用いられたとする説もある。神明とは本地の仏陀(ぶっだ)が垂迹(すいじゃく)した威光自在の天地の神祇(しんぎ)をさし，僧俗ともに古来よりこれを信仰していた。〔北条賢三〕

みょうしんじ【妙心寺】 京都市右京区花園妙心寺町にある臨済宗妙心寺派の大本山。1337年(建武４・延元２)，花園天皇が離宮を施捨，関山慧玄(えげん)を開基に迎えて建立(こんりゅう)した。応仁(おうにん)の乱で荒廃したが，しだいに復興，江戸時代には伽藍(がらん)が整備された。山内には数多くの塔頭(たっちゅう)を擁し，国宝・重要文化財に指定されている物件はきわめて多く，禅宗美術としてその質と量において，大徳寺のそれに次ぐ。主要なものには妙心寺の海北(かいほう)友松《三酸寒山拾得図》《琴棋書画図》《花卉(かき)図》，狩野(かのう)山楽《呂望(ろぼう)商山四皓(しこう)図》《厳子陵虎渓(こけい)三笑図》，大燈国師の墨跡〈関山字号〉(国宝)と関山慧玄に与えた〈印可状〉(国宝)，塔頭退蔵院の如拙《紙本墨画淡彩瓢鮎(ひょうねん)図》(国宝)，天球院の狩野山楽・山雪父子の障屏画(しょうへいが)などはその一例で，他に絵画のみをあげると長谷川(はせがわ)等伯《猿猴(えんこう)図》(龍泉庵)，《山水図》(隣華院)，狩野元信《山水花鳥図》(霊雲院)などがある。

〔永井信一〕

みょうじんしょう【明神礁】 伊豆(いず)諸島青ケ島の南約70kmの海底にある岩礁。海底の複式火山の中央火口丘と推定され，西約８kmにあるベヨネーズ列岩は，その外輪山の一部と思われる。1896年(明治29)にイギリス船によって〈波浪礁〉として報告されて以来，何回か噴火をくり返した。1952年(昭和27)に漁船第11明神丸が島影を発見してこの名がつけられ，このとき海上保安庁の観測船第５海洋丸が遭難している。以後数度にわたって火山の新島ができたが，大爆発で海面下に没した。〔浅井得一〕

みょうちょう【妙超】 ⇨宗峰妙超

みょうでん【名田】 平安時代から中世にかけて国衙(こくが)領・荘園(しょうえん)の構成単位となった土地。律令(りつりょう)制の崩壊に伴って，有力農民がその私有権を強化するために耕作地に自己の名を冠するようになったのがはじまりとされている。成立過程については諸説あるが，要するに，口分田(くぶんでん)・墾田・買得地・荘地などが私田化したもので，古代末から中世にかけて国衙領・荘園を問わず土地制度の基礎的単位となった。その間，所当官物・年貢(ねんぐ)・公事(くじ)など諸課役は原則として名田を対象に課せられた。名田の所有者である名主は，下人・所従を含めた家族労働体を率いて名田を経営し，のちには作人に小作もさせた。荘官・武士も農業経営者としては名主であって，名田は彼らの経済的基盤となった。名田の規模・経営方法は多様で，畿内(きない)では小耕地の集積からなる数町程度，辺境では数十町歩の領主的性格のものが多かった。鎌倉後期以降特に室町時代になると，一つの名田は複数の名主によって分割所有されるようになり，名主職(しき)・作職・下作職といったいくつもの権利が生ずるようにもなった。太閤(たいこう)検地を契機として名田は否定され，一部に地名として残っただけで消滅した。〔高崎徳次〕

みょうにょ【明如】 (1850～1903) 浄土真宗(西)本願寺派第21世門主。本名大谷光尊，明如は法号。京都の生まれ。1871年(明治４)父大谷光沢(広如)の死により門主となる。翌年，島地黙雷(もくらい)・赤松連成らをヨーロッパに派遣して海外の宗教事情を視察せしめ，大教院分離の建白，教部省の設置など，明治新政府の宗教政策に大きな影響を与えた。その子に大谷光瑞(こうずい)・木辺孝慈・九条武子(たけこ)らがある。

みょうばん【明礬】 １価金属と３価金属の硫酸塩が一定の割合でつくる複塩の総称。一般式は $R^{I}_{2}SO_4 \cdot R^{III}_{2}(SO_4)_3 \cdot 24H_2O$，１価金属としてはナトリウム・カリウム・アンモニウム・ルビジウム・セシウム・タリウム，３価金属としてはアルミニウム・クロム・鉄・コバルト・セリウム・ガリウム・インジウム・バナジウム・チタン・マンガン・ロジウム・イリジウムなどである。１価金属イオンの種類によってそれぞれソーダミョウバン・カリミョウバン・アンモニウムミョウバンなどとよぶが，一般にミョウバンといえばカリミョウバン $K_2SO_4 \cdot Al_2(SO_4)_3 \cdot 24H_2O$ をさす。いずれも正八面体の無色の結晶で水に可溶。それぞれの硫酸塩の混合溶液を冷却すると結晶して得られる。用途は媒染剤・製薬・製紙・浄水・写真化学薬品などがあるが，最近では製紙・浄水などには硫酸アルミニウムが多く用いられるようになった。〔鈴木　篁〕

みょうばんせき【明礬石】 ミョウバンや硫酸アルミニウムの原料となる鉱物。$K_2SO_4 \text{-} Al_2(SO_4)_2 \cdot 2Al_2O_3 \cdot 6H_2O$ の組成を有し，三方晶系，硬度3.5～４，比重2.58～2.75，ガラス光沢を示す。白色・帯灰白色で条痕(じょうこん)は白。わが国では中国地方のろう石鉱床などに産し，イタリア・アメリカ合衆国・オーストラリアなどに高品位の鉱床がある。

みょうぶ【命婦】 令制(りょうせい)における貴婦人の名称。五位以上の位を有する女性を内命婦，五位以上の官人の妻を外命婦といった。内命婦のうち特定の職掌をもつ者は宮人(きゅうじん)(女官)であるが，それ以外は外命婦とともに朝儀の際に参列した。平安中期以降は中級女官を意味するようになり，父兄の官職によって靫負命婦(ゆげいのみょうぶ)・侍従命婦などとよばれた。

みょうほういん【妙法院】 京都市東山区東大路七条にある天台宗の寺で，日吉門跡(ひえもんぜき)ともいう。延暦(えんりゃく)年間(782～805)最澄の創建という。もと延暦寺三千坊の一つで，比叡(ひえい)山にあったが，新日吉神社が創祀(そうし)されると，その宮寺として元和(げんな)年間(1615～1623)現在地に移った。天台座主(ざす)三院の一つで，室町時代には門前八か町に及ぶほど寺運盛んであった。現在蓮華(れんげ)王院(三十三間堂)は本院に属し，近世には方広寺・大興徳院なども所管した。蓮華王院の諸堂をはじめ，妙法院庫裏(くり)や《ポルトガル国印度(インド)副王信書(羊皮紙)》など国宝の指定物が多い。〔杉坂靖子〕

みょうぼうどう【明法道】 律令(りつりょう)制における大学の四科の一。律・令を専攻するもので，730年(天平２)はじめて学科として独立した。上級貴族は文学・歴史の教養を求め，このような実務的教養を軽視したので，この学科は意外にふるわなかった。平安中期以降中原・坂上(さかのうえ)両家が博士(はかせ)の地位を世襲した。

みょうまん【明満】 (1718～1810ごろ) 江戸後期の僧。行道とも木食(もくじき)五行ともいい，晩年は明満と称した。回国巡歴を事とし，北は北海道から南は鹿児島に至るまで遍歴して，数多くの仏像を残した。彼の悲願は千体仏を刻むことであり，晩年は二千体仏を刻むことであった。有名な木食仏として現在は数多く発見されているが，その功績はひとえに柳宗悦の努力による。回国と影像が悲願であった無名僧の行跡は高く評価されなければならない。

〔石上善応〕

みょうまんじ【妙満寺】 京都市中京区寺町二条下ルにある顕本法華(ほっけ)宗総本山。妙塔山と号す。法華宗八本山の一。1389年(元中６・康応１)日什(にちじゅう)が創建。1532年(天文１)勅願所となり，1583年(天正11)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の命で堀川(ほりかわ)より現在地に移った。1864年(元治１)兵火で焼失したが，明治初年再建され，現在は仏堂・方丈などがある。寺宝に日蓮(にちれん)

本尊・真筆などがあり，寺宝の道成寺の鐘は〈安珍・清姫の鐘〉として有名。

みょうり　【冥利】　生きとし生けるものが仏や菩薩(ぼさつ)から受けている目に見えない利益。〈冥〉とは幽冥で見聞できないものの意味。類似の用語に*冥加・冥見などがあり，凡人の目には見えないが仏や菩薩がつねにわれわれを見ていることを冥見という。また，よい行為の報いとして受ける利益を冥利ということもある。さらに一般に幸福の意味にも用いられる。

みよし　【三次(市)】　広島県北部の市。人口39,000。古くから山陽・山陰を結ぶ交通の要地で，江(ごう)川水運の要地であった。江戸時代中期には浅野氏の支藩五万石の城下町で，のち奉行所が置かれ，牛馬市で知られた。1954年(昭和29)市制施行。市域は江川上流の可愛(えの)・馬洗・西城・神野瀬(かんのせ)など諸河川の合流点にあたる*三次盆地と周辺山地を含む。産業三大別人口比は26：23：51。米やタバコ・ナシなどの農産物を集散し，ウシの飼育が盛んで，十日市町に牛市場が開かれる。山地ではマツがパルプ材・坑木として切り出される。芸備線・福塩線・三江南線が集まり，国道54号線・184号線が通ずる。アユの特産があり，馬洗川の鵜飼(うがい)は古い伝統をもつ。

みよし　【三好(町)】　愛知県中西部，西加茂郡の町。人口26,000。丘陵地帯に位置し，かつては水に恵まれなかったが*愛知用水が町域の中央を貫流し，土地改良が行なわれて低地は水田に，丘陵地はカキ・ブドウ・野菜の栽培地域となった。また近年は名古屋から中小企業団地が移転してきている。

みよしあきら　【三善晃】　(1933～　)　作曲家。東京の生まれ。幼少のころよりピアノを学び，作曲を平井康三郎・池内友次郎・レイモン-ガロアーモンブランらに師事した。東京大学文学部仏文科に入学し，在学中にフランス政府給費留学生としてフランスに渡り，1955年(昭和30)から1957年までパリ音楽院で作曲を学んだ。帰国後《ピアノソナタ》(1958年度毎日音楽賞)や音楽詩劇《オンディーヌ》(1959年度芸術祭賞・イタリア賞)などを発表し，その完璧(かんぺき)な技術とリリシズムによって高い評価を受けた。以後《交響３章》(1960)，《弦楽四重奏曲第１番》(1962)などでこうしたロマン的な作風を完成させた。1962～1965年にかけては，協奏曲という様式に取り組み，《ピアノ協奏曲》《ソプラノとオーケストラのための〈決闘〉》《管弦楽のための協奏曲》《バイオリン協奏曲》などを作曲し，いずれも各種の音楽賞を受賞した。《弦楽四重奏曲第２番》以後は，かなり前衛的な書法に近づき，《レクイエム》(1972)などの傑作を発表している。　〔船山　隆〕

みよしきよゆき　【三善清行】　(847～918)　平安初期の儒者。淡路守(あわじのかみ)氏


三好達治

吉(うじよし)の子。善相公とも称され，文人ながら処世の術にも巧みで文章博士(もんじょうはかせ)から参議宮内卿(きょう)に至った。*菅原道真(すがわらみちざね)・紀長谷*雄(きのはせお)らの高才と並んで，漢学極盛時を形成。革命改元の例を開いた《革命勘文》，時弊を指摘した《意見封事(ようじ)十二か条》は著名である。格式の編纂(へんさん)にも参加した。そのほか《円珍伝》《藤原保則(やすのり)伝》《善家秘記》などの著がある。

みよしじゅうろう　【三好十郎】　(1902～1958)　劇作家。佐賀県の生まれ。12歳で孤児となって親戚(しんせき)を転々とし，土工など労働生活を経て早稲田(わせだ)大学英文科を卒業。1928年(昭和３)の処女戯曲《首を切るのは誰(だれ)だ》以降，《炭塵(たんじん)》《傷だらけのお秋》などでプロレタリア戯曲作家として認められた。その後転向，《斬(き)られの仙太(せんた)》にその心情を描き，第２次世界大戦中にはみずからの生活記録を《浮標(ブイ)》で戯曲化した。戦後の代表作には，ゴッホの伝記劇《炎の人》のほか，極限状況の中に人間の本質を問う《冒した者》などがある。　〔瀬良垣宏明〕

みよしたつじ　【三好達治】　(1900～1964)　詩人。大阪の生まれ。東京帝国大学仏文科卒業。在学中*梶井(かじい)基次郎らの雑誌《青空》に参加，その後《詩と詩論》などにより，さらに堀辰雄(ほりたつお)・丸山薫(かおる)らと雑誌《*四季》を創刊。1930年(昭和５)処女詩集《測量船》を刊行し，脈々たるリリシズムで昭和の代表的名詩集とされた。さらに詩集《南窗集(なんそうしゅう)》《山果集》において，*ジャムなどの四行詩と伝統俳句との統合を試みた。その後も《艸(くさ)千里》《一点鐘》《駱駝(らくだ)の瘤(こぶ)にまたがって》などの詩集があり，昭和の代表的な叙情詩人としての位置を築いた。ほかに随筆・紀行・評論などもある。　〔瀬良垣宏明〕

みよしながよし　【三好長慶】　(1523～1564)　戦国末期の武将。元長の長子。初名範長(のりなが)。父の戦死により10歳で家督を継ぎ，管領(かんれい)細川晴元(はるもと)の執事となったが，1549年(天文18)一族の三好政長(まさなが)を殺し，1552年晴元を退けて室町幕府13代将軍足利義輝(あしかがよしてる)を近江(おうみ)(滋賀県)に追放し，京都を支配，管領に細川氏綱を擁した。その全盛期には本国阿波(あわ)(徳島県)をはじめ，近畿(きんき)・四国にわたる８か国を勢力下に置いた。しかし家臣の*松永久秀(まつながひさひで)が専権をふるうようになって，1563年(永禄６)長慶の子義興(よしおき)を殺すに及び，落胆のうちに翌年河内(かわち)(大阪府)飯盛(いいもり)城で病没した。戦国時代の代表的武将であったが，教養もあり，特に連歌にすぐれていた。　〔高崎徳次〕

みよしぼんち　【三次盆地】　広島県北部，中国山地と吉備(きび)*高原の間に形成された盆地列の一。周囲の山地から流入する神野瀬(かんのせ)川・西城川・馬洗川・可愛(えの)川は*三次市で合流して*江(ごう)川本流となり，中国山地をうがって日本海に注ぐ。盆地周辺には山地に続いて丘陵が形成され，中央の盆地底に三次市がある。気候は大陸性で，特に秋の夜には霧が発生しやすく，〈霧の海〉として知られる。山陽・山陰を結ぶ交通の中心地として古くから栄え，周辺部には古墳や史跡も多い。　〔味沢成吉〕

みよしまなぶ　【三好学】　(1861～1939)　植物学者。江戸の生まれ。1889年(明治22)帝国大学理科大学(現在の東京大学理学部)卒業。のちドイツのライプチヒ大学に留学。1894年に帰国し，同年母校の教授となる。日本における植物生理学・植物生態学の創始者として功績があり，門下から多くの学者が出た。その著《植物学講義》(1899)は名著として知られる。後半生は天然記念物の保存に努めた。

みよしやすのぶ　【三善康信】　(1140～1221)　鎌倉幕府初代の*問注所の執事。法名は善信。母が源頼朝(よりとも)の乳母(うば)の娘であった関係から，頼朝が伊豆(いず)(静岡県)に配流中しばしば使いをつかわして京都の動静を報告した。1184年(寿永３・元暦１)問注所創設とともにその執事となり，幕府の基礎を固めた。1221(承久３)職を子の康俊(やすとし)に譲り，以後子孫がその職を世襲した。

ミラ　［Mira］　くじら座にある長周期の脈動変光星(→変光星)。平均周期332日。光度は10.1～2.0等と変光し，極小のときには肉眼では見えない。*スペクトル型はＭ５～Ｍ９の間を動く。*超巨星の一つで最も膨張したときには太陽の460倍の大きさになる。最初に発見された変光星で，1596年ドイツのファブリツィウスがはじめて記録している。

ミラー　［Henry Miller］(1891～1980)　アメリカ合衆国の小説家。ドイツ系移民の子としてニューヨークに生まれた。各種の職業に従事した。1930年にパリに渡り９年間滞在し，《北回帰線》《暗い春》《南回帰線》を発表し，帰国後，《セクサス》《プレクサス》《ネクサス》を含む三部作《バラ色の十字架》を書いた。その文学は機械文明にゆがめられた人間性の回復をめざすもので，大胆な性描写に満ちた超現実的な手法は独自の世界を展開して，多くの作家に深い影響



ミラノ　天をさしてそびえる大寺院のドオモ。石畳の敷かれた広場にはたくさんのハトが群れ，子どもたちが餌をやってたわむれている

を及ぼしている。〔井上謙治〕

ミラー　[Glenn Miller]（1904～1944）　アメリカのバンドリーダー。アイオワ州の生まれ。1920年代後半から1930年代前半にかけてはトロンボーン奏者としてスイング-ジャズやディキシーランド-ジャズで活躍した。1938年に結成したオーケストラで成功して全米一の人気バンドとなった。クラリネットがリードするきらびやかなキラー-ディラー-スタイルに特色があり，《真珠の首飾り》《イン-ザ-ムード》などが有名。1953年には伝記映画《グレン-ミラー物語》が制作された。彼は第２次世界大戦に応召中，飛行機事故のためドーバー海峡で行方不明となったが，バンドはその後も存続され，現在はバディ-デフランコが指揮にあたっている。〔岩浪洋三〕

ミラー　[Arthur Miller]（1915～　）　アメリカの劇作家。ニューヨークの生まれ。ユダヤ人問題をはじめアメリカの社会的矛盾をついた思想性の強い作風が特徴。代表作《セールスマンの死》のほかに，マッカーシズムを批判した《るつぼ》や《橋からの眺(なが)め》がある。T.ウィリアムズとともに現代アメリカ演劇の代表的存在。

みらい　【味蕾】　味覚の受容器。味覚芽ともいう。ヒトでは特に舌乳頭に多数分布するが，軟口蓋(なんこうがい)や喉頭蓋(こうとうがい)の上皮中にも少数ある。成人より小児によく発達する。高さ77～81μ，幅40μのつぼみ状の構造で，粘膜表面に味孔という小孔があってそこから細長い味細胞の突起が出ている。味細胞には少数の支持細胞がたる状に組み合わさっている。なお，両生類以上では口腔(こうこう)内に限られるが，魚類では体表にも分布している。➔舌

みらいは　【未来派】　20世紀初頭イタリアに起こった芸術運動。産業革命後の新しい機械文明の誕生とイタリアの国家統一運動を機に，文化の新しい革新がめざされたとき，詩人マリネッティを指導者としてボッチョーニ・セベリーニ・バルラ・カッラ・ルッソロ・サンテリアらの画家・彫刻家・建築家を中心として行なわれた。1909年にまずマリネッティによる一般的な〈未来派宣言〉がパリで発表され，翌年画家たちによる〈未来派画家宣言〉〈未来派技術宣言〉，続いて〈彫刻宣言〉〈建築宣言〉など多くの未来派宣言が発表された。マリネッティが最初の宣言の中で〈……新しい美……機関銃のように突き進む怒号する自動車は《サモトラケの勝利の女神像》より美しい……〉と言ったように，彼らの運動はダイナミックな機械美を求め，表現としてキュービスムにおける対象の分解に，さらに時間を導入しようとした。1912年からヨーロッパ各地で未来派展が開催されて大きな反響を与えたが，第１次世界大戦の発生に伴ってこの運動は短命に終わった。しかし，未来派の前衛的な活動は，今日の美術の国際的な傾向の中で再認識されている。〔井関正昭〕



ミラボー　カルナバレ美術館蔵

ミラキジウム　[miracidium]　扁形(へんけい)動物・吸虫綱・二生類に属する動物の卵殻(らんかく)内にできる幼生の第一代のもの。体は長楕円(ちょうだえん)形ないし長卵形で，体表は繊毛でおおわれ，眼点・分泌腺・棒状の腸などがある。宿主から出た卵が水中にはいると泳ぎだして，中間宿主である巻き貝の組織中にはいる。

ミラノ　[Milano]　イタリア北部，ロンバルジア平原北西部にある都市。人口173万1,000(1975)は，首都ローマに次ぐ。イタリア第１の商・工業都市で，金融面でもローマをしのぐ。繊維・化学・機械・印刷が主要工業であり，生糸市場が開かれるのは有名。ミラノ聖堂・サンタマリア-デレ-グラチェ聖堂・ブレラ美術館・スカラ座や1863年創立の大学など著名な歴史的建造物が多い。古くからアルプス越えの交通の要地として栄え，12世紀には強大な都市国家となって繁栄した。ナポレオン支配下ではイタリア王国の首都であったが，のちオーストリア領となり，1860年イタリアに統合された。〔梶川勇作〕

ミラノちょくれい　【ミラノ勅令】

①313年，ローマ皇帝コンスタンチヌス１世がミラノでリキニウス帝と会見し，連名で発布した勅令。万人の信教の自由を保証し，特にキリスト教公認の意味をもち，ローマ帝国下のキリスト教迫害史に終止符を打ったものとして名高い。

②1807年，ナポレオン１世がベルリン勅令を補足するために発した勅令。この両者を合わせて大陸封鎖令という。

ミラボー　[Honoré Gabriel Victor Riqueti, Comte de Mirabeau]（1749～1791）　フランス革命期の政治家。南フランスの小貴族で重農主義経済学者ミラボー侯（1715～1789）の子。はじめ軍人となったが，放蕩(ほうとう)生活のため多くの借財を負い，モニエ侯夫人との駆け落ち事件などで父と激しく対立，数年間投獄された。その間専制主義を攻撃した《専制論》などを著わした。1789年三部会に第３身分として選出され，その雄弁と博識によって革命初期の国民議会・憲法制定国民議会の指導的政治家となった。彼の立場はブルジョア自由主義に基づく立憲王国で，革命の進展とともに左派と対抗，王権との妥協を図り，マリー-アントアネットと秘密に会見し，報酬と引き換えに宮廷への意見具申を行なった。その風評のため民衆の信望を失いはじめたころ病死した。〔喜多迅鷹〕

ミラレパ　[Mid-la ras-pa]（1040～1123）　ラマ教カーギュパ派の開祖であるマルパの弟子。綿服１枚のみを着る苦行者として知られ，また詩人として多くのすぐれた作品を残した。

ミリオン-セラーズ　[million sellers]　100万枚以上売れたレコード。ゴールド-レコードともいう。各レコード会社がそのレコード曲の歌手・作曲家・作詞家などに金製のレコードを与えて賞する。なお，10万枚以上のものをシルバー-ディスクという。

ミリカン　[Robert Andrews Millikan]（1868～1953）　アメリカ合衆国の物理学者。イリノイ州モリソンの生まれ。コロンビア大学卒業後，ベルリン・ゲッチンゲンの各大学に留学。帰国後，シカゴ大学教授を経て，1921年カリフォルニア工業大学教授。気体中のブラウン運動を研究し，また油滴を用いて電子の荷電の精密測定に成功した（ミリカンの油滴法）。その後スペクトル分析の研究を行ない，短波長のミリカン線を発見，さらに宇宙線の研究なども行なった。

1923年ノーベル物理学賞を受賞。

ミリカンのゆてきほう 【ミリカンの油滴法】 電子の電荷 e の値を定量するため，ミリカンが油滴を用いて行なった実験。1909年ミリカンは，水滴を用いたウィルソンの実験方法を改良して，精度の高い実験に成功し，e の絶対値として 1.59×10^{-19}〔クーロン〕を得た。図は実験に用いられた装置の原理を示すもので，2枚の金属平板を水平に保持し，この間に電圧を加えて均一な電界をつくることができるようにしておく。この空間に油を噴出させてつくった油滴を，電極にあけた小穴から入れる。まず，電圧を加えない状態で，油滴が落下する速度を測定する。次に，電圧を加えながら電極間をX線で照射して空気分子をイオン化し，発生した電子を油滴に付着させると，油滴は電界の作用で落下速度が変化する。これらの測定値から計算によって電気素量を求める。〔伊藤糾次〕

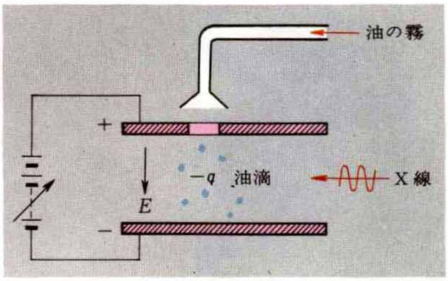
ミリはつうしん 【ミリ波通信】 ⇨マイクロウェーブ通信

ミリバール [millibar] 気圧の単位。記号mb。1 mb の圧力とは，1 cm² の面積に1,000ダインの力が働くときの圧力で，1気圧は1,013.25mb に相当する。また，水銀柱の高さで表わすと，760㎜の及ぼす圧力と同じである。

ミリビリス [Stratis Myrivilis] (1892～1969) ギリシアの小説家。レスボス島の出身で，方言を駆使し独特な文体をつくりだした。第1次世界大戦を契機として起こった戦争文学を代表する作家で，戦場での一兵士の日記の形をとった《墓での生活》は大きな反響をよんだ。代表的な作品として，ほかに《黄金の眼をした女教師》《牧羊神(パン)》などがある。

ミリューコフ [Pavel Nikolaevich Milyukov] (1859～1943) ロシアの政治家・歴史家。1886年モスクワ大学歴史哲学科を卒業し，母校の講師となる。1903年からアメリカでロシア史を講じ，1905年帰国して立憲民主党(カデット)の組織者の1人となり，党中央委員会議長，機関紙《レーチ》編集者となる。二月革命後第1次臨時政府の外相となったが，1917年5月最後まで戦争を遂行する旨連合国との間に約した秘密約定が左翼の抗議にあい辞任した。十月革命後ロシア南部で白衛軍・外国干渉軍に協力し，1924年パリに亡命し反ソビエト宣伝活動を行なった。〔山県弘志〕

みりん 【味醂】 甘味が強く粘りのある酒で，おもに料理の調味に用いるほか，とそ・白酒の原料にする。蒸したもち米を麹(こうじ)・しょうちゅうなどで仕込み，60～90日熟成させてできたもろみを絞ってつくる。熟成中に酵素作用により糖分ができて甘くなる。糖分40度内外，アルコール分15～17度である。一般の飲料には甘すぎるので，熟成後しょうちゅうと水を加えて甘味を薄くして飲用にしたものを〈本直し〉という。甘味のあるしょうちゅうの味で，糖分2～5度，アルコール分20～25度。一名柳かげともいう。〔住江金之〕



ミリカンの油滴法



J. S. ミル



ミルクイガイ

みる 【水松・海松】 緑藻(りょくそう)類・ミル科。低潮線近くの岩上に多い海藻で，世界に広く分布する。体は又状に数回分枝し，長さ10～30㎝。手ざわりはスポンジ状であるが，これは体が細い糸状体の集合からなるためである。冬から早春にべん毛を2本もった異形配偶子をつくり，有性生殖する。古くから食用とされ，乾燥・塩蔵する。また三杯酢にして生食される。

ミル [John Stuart Mill] (1806～1873) イギリスの古典学派の経済学者，功利主義の哲学者。リカード派の経済学者ジェームズ＝ミル(1773～1836)の長男としてロンドンに生まれた。父は古典学派経済学の最大の理論家であるリカードの親友であり，また，功利主義の哲学者ベンサムとも親交があり，《インド史》《経済学要論》の著者として高名であった。父の手で早期教育を受け，3歳でギリシア語，8歳でラテン語，12歳までに倫理学・心理学・数学・物理学・化学・古典学を学び，14歳までに大学卒業程度の教養を身につけ，約1年間フランスに遊学し，大陸の自由主義の影響を受けた。1821年に帰国し，法律学，ベンサムの功利主義の研究を始め，1823年には〈功利主義協会〉を創立した。同年，父が関係していた東インド会社にはいり，以後35年間在職した。この間，哲学のほかに社会科学特に経済学の研究を続け，1843年に《論理学体系》，1844年には《経済学原理》を著わした。1865年から3年間下院議員として働き，自由主義の闘士として，言論・集会・結社の自由，婦人参政権，議員道徳などを説いたが，その見解は保守主義者にいれられなかった。1868年以降直接政治活動から離れ，《隔週評論》その他に寄稿したり，公開演説会を開いたり，政治的啓蒙(けいもう)運動に従事した。著作は前記のほかに《自由論》(1859)，《功利主義》(1863)，《婦人解放論》(1867)など。彼はA.スミス・マルサス・リカードの経済学を総合し，自己の体系を構成した。古典学派経済学の集大成者といわれ，著書《経済学原理》は経済学教科書として古典の地位を占めた。〔林　達〕

ミール [Mir] 15世紀から20世紀初めのロシアの農村共同体。オブシチナと同義。村長を選出する村会の構成員の集合体をさすこともある。初期のミールにおいては耕地・森林は共有，家・家畜などが私有であり，原始社会の残存が保持されていたが，しだいに耕地も私有となり，階層分化に伴って氏族関係も崩壊した。封建期のロシア農業はミールと不可分であり，地主とツァーリ政府は連帯責任，〈税の均等化〉などによってミールを搾取の対象に転化し封建体制の中に組み込んだ。1861年の農業改革においてもミールは存続させられた。19世紀から20世紀にかけて，ミールはスラブ主義者によってロシア固有の制度と考えられ，ブルジョア自由主義者は資本主義発展の障害とみ，ナロードニキらは共同体的農村社会主義の実現を夢見て争点となったが，資本主義の急速な発展，ことに〈ストルイピン改革〉による富農の育成によって崩壊した。〔山県弘志〕

ミールアリーシール ⇨ネワーイ

みるいろ 【海松色】 浅海の岩などに着生する海藻(かいそう)ミルのような色。緑みをおびた暗い灰色。楊梅皮(ももかわ)の鉄媒染によって染め出されるが，時代により色相・明度にやや違いがある。江戸時代に〈いき〉な色として人々に好まれた海松茶はこの系列にはいる。また，海松茶の青みのものを青海松茶・藍(あい)海松茶などともいう。

ミルウォーキー [Milwaukee] アメリカ合衆国，ウィスコンシン州南東部のミシガン湖に臨む港湾工業都市。人口66万6,000。大ミルウォーキー142万(1975)。ミシガン湖に注ぐミルウォーキー川河口にある同州最大の都市で，電気機械・ビール・皮革品・自動車などの工業が盛ん。ビールの生産高は合衆国第1位である。

みるくいがい 【海松貝・西施舌貝】 軟体動物二枚貝類・バカガイ科。商品名ミル

ガイ。大形で，殻長(かくちょう)14cm，殻高9cm，殻径5.5cm。殻(から)は厚いがもろく，卵形で殻を閉じても両殻の間は広く開いており，ここから皮をかむった太く長い水管を出す。殻表は白色で黄かっ色の厚い殻皮をかむる。水管は美味ですしだねとなる。北海道から九州の内湾の浅い砂泥底(さでいてい)にすむ。

ミルズ［Charles Wright Mills］(1916～1962)　アメリカ合衆国の進歩的社会学者。1939年テキサス大学大学院卒業。メアリーランド大学を経て，コロンビア大学教授に就任した。プラグマティズム*を方法論的基盤としながらも，M.ウェーバー・マルクスらのヨーロッパの社会理論の強い影響を受け，《パワー-エリート》などの著作を通じてアメリカ社会を鋭く批判した。その社会学理論の特色は，過度の経験主義，抽象的な社会体系論を批判し，歴史的現実の中に置かれた全体社会を念頭に置いて，個々の社会現象を批判的に分析しようとした点にある。《ホワイト-カラー》(1951)，《社会学的構想力》(1959)などの著書もある。〔小林宏一〕

ミルチアデス［Miltiades］(BC540ごろ～BC489ごろ)　古代ギリシアのアテナイの将軍。貴族出身，キモンの子。第2回ペルシア戦争*のとき，マラトンの戦いを指揮し，ペルシア大軍を破った。重装歩兵の密集隊形戦術の勝利といわれる。翌年パロス島遠征に失敗し失脚した。

ミルトン［John Milton］(1608～1674)　イギリスの詩人。ロンドンの富裕な公証人の家に生まれ，少年時代から最高の教育を受けて，ケンブリッジ大学を卒業。詩人を志して読書・詩作の生活，イタリア旅行などの中で，仮面劇詩《コウマス》や友人の死を悼(いた)む悲歌《リシダス》，その他叙情詩を書いた。やがて時事問題に関心をもつようになり，O.クロムウェル*の指導する清教徒革命に参加し，共和政府の外国語秘書官をつとめ，また反対派攻撃の論文を執筆。この間，不幸な結婚，少年時からの刻苦勉励と激務などにより，1654年に失明したが，なお屈せず多くの論文を口述筆記で発表した。代表的な論文に《離婚論》《無検閲出版自由の弁》《偶像破壊者の論》《イギリス国民のための弁》などがある。やがて王政復古後，政府に財産を没収され，隠世生活にはいり，宗教叙事詩《失楽園*》《復楽園》および英雄叙事詩《闘士サムソン》を口述により完成。この三大叙事詩は，雄大な構成と荘重な詩体よりなり，17世紀から20世紀初頭にかけてイギリス詩の最高範例とされた。しかし1920年代にはエリオット*が，その技巧的な荘重体と臨場感の不在を論難し，1930年代にはリービスが詩体の非現代性を批判。若い詩人たちから尊遠・反発されたが，1940年代以降には，再評価の動きが審美的な立場から高まった。〔長崎勇一〕



ミルトン



ミレー《スープ》1869　美術館(マルセイユ)蔵



ミロ《逆さの人》バーゼル美術館蔵

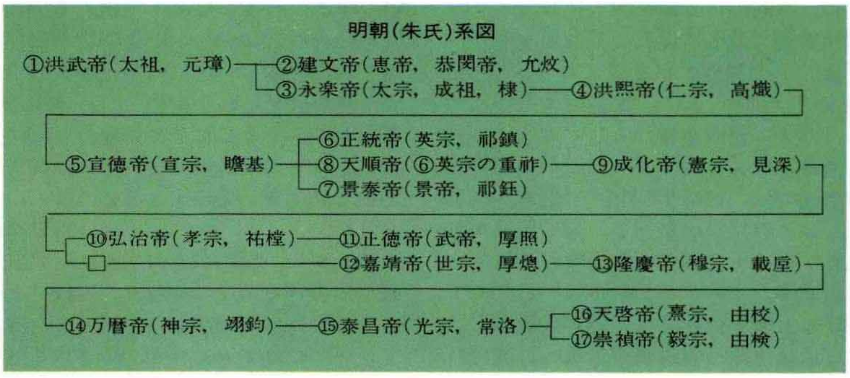
ミルラン［Alexandre Etienne Millerand］(1859～1943)　フランスの政治家・大統領。在任1920～1924年。パリで弁護士を開業し，1885年下院議員に選出され，独立社会主義連盟に所属，社会立法に活躍するかたわら，《小共和国》紙などの編集に従事。1899年ワルデック-ルソー内閣に商相として入閣，社会党内に激しい衝撃をひき起こした。その後しだいに社会主義から離脱右傾化し，労働相・陸相を歴任，第1次世界大戦後の1920年に首相となり，次いで共和国大統領となり，対独強硬策(ルール占領)をとった。辞任後は上院議員となる。〔喜多迅鷹〕

ミレー［Jean François Millet］(1814～1875)　フランスの画家。1837年パリに出てロマン主義的作品を描いていたが，ドーミエの影響を受けて写実主義に向かう。1849年パリ郊外バルビゾンに移住したが，これを契機に彼の芸術が開花した。T.ルソーら他のバルビゾン派の画家とは異なり，風景よりもおもに農民生活に題材を求めた。その農民画は写実を基としながら詩的・宗教的情感に包まれている。すぐれた素描も多い。代表作は《種蒔(ま)く人》《晩鐘》《落穂拾い》など。〔岡部紘三〕

ミレトスは［ミレトス派］古代ギリシアにおける最初の哲学学派。最初の哲学者といわれるタレス*のほか，アナクシマンドロス*・アナクシメネス*の3人がこの派に属する。いずれも小アジアのイオニア地方の植民市ミレトス生まれであるところから，ミレトス派の名でよばれる。彼らは万物の根源的原理(アルケー)をはじめて探究した最初の哲学者で，タレスは〈水〉を，アナクシマンドロスは〈ト-アペイロン(無限定のもの)〉，アナクシメネスは〈空気〉をそれぞれアルケーと考えた。万物の根源を一つのものと考える一元論的思想と，その根源がそれ自体生命をもち運動すると考える物活論的思想が彼らの共通の特色であるが，これはその後のギリシア自然学の方向を決定づけたものとして重要な意味をもっている。なお，この3人にヘラクレイトス*を加えて，イオニア派*とよぶこともある。〔本橋正義〕

ミロ［Joan Miro］(1893～　)　スペインの画家・陶芸家。1919年パリに出てシュルレアリスムの運動に参加。第2次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)に伴ってスペインに帰り，戦後は一時アメリカ合衆国にも渡った。フランス滞在中はバレエの舞台装置や衣装も製作したが，1940年代半ばからは陶芸が制作の重要な部分を占めた。ミロは20世紀美術の諸運動に関係したが，きわめて個性的である。鮮明な色彩と詩的・音楽的感覚を伴った自由なフォルムを特質とするその芸術は，気まぐれで陽気な幻想性を示すが，この幻想性は厳格な造形性にささえられたものである。パリ万国博スペイン館，ハーバード大学，パリのユネスコ本部(1958)などに壁画を制作している。〔岸野悦子〕

みろくぼさつ【弥勒菩薩】菩薩の名。梵語(ぼんご)Maitreya(マイトレーヤ)の音写で，慈氏菩薩とも訳される。現在はまだ菩薩のままで兜率天*(とそつてん)で説法しているが，ブッダが入滅して，やがて末世となり，



あらゆる仏の教えが消滅してしまう時期がくる。その後，すなわちブッダ入滅から56億7,000万年たって，この世に現われ，仏のいない時代に仏となって，迷える衆生を救うといわれている。そのとき，弥勒仏とよばれる。仏教における未来に現われる仏の代表である。しかし，そのような長い年月が待ちきれず，弥勒の天上に生まれることを望んだり，早く地上に降りてくることを願ったりする経典が信仰され，中国・日本では乱世になると世直しの仏として弥勒信仰が盛んに行なわれた。日本では弥勒信仰は乱世の前半に，後半には阿弥陀(あみだ)信仰がそれにとって代わった。弥勒像は数多くつくられ残っているが，京都太秦(うずまさ)の広隆寺にある《弥勒菩薩半跏像(はんかぞう)》(国宝)は世界的に有名。〔石上善応〕

ミロンガ [milonga] アルゼンチンとウルグアイの平原，大西洋沿岸部に行なわれる歌曲および舞曲形式。本来民謡であるが，初期のタンゴと密接なつながりをもち，現在も広く行なわれている。民謡としてのミロンガは4分の2拍子のゆるいテンポをもち，ギター独奏および歌曲として発達した。《牛車にゆられて》が代表曲で，歌詞は物語性をもち，教訓や素朴(そぼく)な哲学を含んだものが多い。1930年代から，タンゴ楽団のための快活なミロンガが多く使われるようになり，《ミロンガ-センチメンタル》などの軽妙な曲が多数作曲されて今日に至っている。多くは歌謡であるが，現代では器楽用の技巧的な作品も多い。ほかにタンゴ音楽家の間ではリズム要素の強いタンゴをもミロンガとよぶ。〔中西義郎〕

ミロンはんのう 【ミロン反応】 チロシンを含むタンパク質の検出法の一。試料液にミロン試薬(水銀1容を発煙硝酸1容にとかし，これを2容の水で薄めたもの)を加え，加熱するか，室温に数十分放置すると赤色に着色するか，黄白色の沈殿を生ずる。この沈殿は硝酸にとけて赤色溶液となる。この反応はフェノール性水酸基をもつ芳香族化合物に共通なもので，チロシンを含むタンパク質のほか，フェノール・サルチル酸なども呈色する。反応機構は，フェノール性水酸基のオルト位に水銀化反応が起こり，これがニトロソ化されたものがもとになって呈色すると考えられている。〔三輪　誠〕

みわやま 【三輪山】 奈良盆地南東隅(ぐう)，桜井市にある円錐(えんすい)形の山。標高467mで，山頂はハンレイ岩からなり，全山老樹におおわれる。古来信仰の中心となり，西麓(せいろく)に大神(おおみわ)神社があって，全山を神体としている。大神神社の門前町三輪は，かつて市場町として，また奈良から伊勢(いせ)に通ずる街道の宿場町として栄えた。

みわやまでんせつ 【三輪山伝説】 神婚説話の一。《古事記》によれば，美しい若者が活玉依毘売(いくたまよりひめ)を夜ごとに訪れていたが，そのうち娘が身ごもり，それを怪しんだ両親は相手の若者の正体を知ろうとして娘に策を授けた。娘は埴(はに)(赤土)を床のあたりに散らし，麻糸をつけた針を衣のすそに刺しておいたところ，その糸が山(三輪山)の社に至ったので，若者が山の蛇神であったことを知った。そのときへやに残りの糸が三勾(みわ)(三輪)あったのでその地を三輪とよぶようになったと記されている。〔宮井義雄〕

みん 【明】 モンゴル民族が建てた元朝の中国支配を打倒して，漢民族が主権を回復した王朝(1368～1644)で，最後の漢人帝国。満州民族の清朝(しんちょう)に滅ぼされた。建国者は朱元璋(しゅげんしょう)(洪武帝(こうぶてい))。国都は南京(ナンキン)に置かれたが，永楽帝のとき北京(ペキン)に移った。国号の明は王室の姓が朱であるので，〈太陽〉〈火〉を表わす〈朱明〉という語からとったものである。皇帝は277年の間に17代に及んだが，途中英宗が2度即位している。明代では皇帝1代を通して同じ年号と定まっているため，年号をもって各皇帝を示すことが一般的である。たとえば太祖朱元璋を洪武帝，英宗を正統帝・天順帝と呼ぶ。また，帝室では同一世代の者を他の世代の者と区別する命名法を採っている。すなわち五行説に基づいて名の1字に木火土金水を示す語を置き，太祖の子には〈木〉，孫には〈火〉というふうに，世代ごとに整えている(系図参照)。

1344～1347年にかけて黄河が大氾濫(はんらん)を起こしたので，1351年，元朝政府は治水と貧民救済のため黄河修復に15万人を徴発した。しかし，工事完了後これらの貧民が失業者集団になることを政府は気づかず，白蓮(びゃくれん)教徒劉福通(りゅうふくつう)の扇動により大混乱が生じた。このとき元の朝廷に内紛があり，十分な対策が立てられないまま各地に貧農が蜂起(ほうき)した(→紅巾(こうきん)の乱)。こうした農民軍の中から頭角を現わし，ついに元朝にかわって天下を統一したのが乞食僧(こつじきそう)であった朱元璋である。

明代は政治を中心として4期に区分できる。第1期：洪武帝による国内政治体制の確立期で，皇帝権の強化が進められた。それは1380年に丞相(じょうしょう)の胡惟庸(こいよう)が謀叛(むほん)を企てたという名目で建国の功臣を誅殺(ちゅうさつ)し，丞相と政府の最高機関であった中書省を廃止し，中書省の下部機関である六部(りくぶ)を皇帝に直属させたこと，軍事統轄機構も権力の集中をさけるため5分割して，それぞれ皇帝に直属させたことに端的に示される。第2期：永楽帝によって対外政策の成功をみた全盛期で，モンゴリア地方に5回親征してタタール・オイラートを討ったこと，8回にわたる鄭和(ていわ)の南海遠征，安南の服属が特筆される。内政面では，北京に遷都し，政治・軍事の中心を華北に移したので，生産の中心地である江南と北京とを結ぶ大運河の整備に主力を注いだ。このことが明・清の銀経済の発展を促進した。第3期：宦官(かんがん)が政治の実権を握り，モンゴルの侵入と倭寇(わこう)に苦しめられた動揺期で，正統から万暦の中期がこれにあたる。永楽帝は靖難(せいなん)の役で宦官の助言によって勝利を得たため彼らを重用したが，その弊害がここに現われた。この時期に一陣の新風を送ったのは張居正の改革で，一条鞭法(べんぽう)は清初まで続けられた。第4期は宦官・東林党の抗争と農民軍の蜂起による滅亡期で，李自成(りじせい)によって明は滅ぼされた。

文化のうえでは実用・実践を尊ぶ傾向が強く，儒学では陽明学，著作では《天工開物》《永楽大典》などが後世に影響を与え，マテオ-リッチらによってヨーロッパ科学が紹介された。〔勝村哲也〕

ミンアンムークせい 【ミンアンムーク制】 ⇨猛安謀克制

みんえいてつどう 【民営鉄道】 私有鉄道または略して私鉄ともいう。わが国では日本国有鉄道を除く各種鉄道事業の総称。経営主体によって，私鉄(大手私鉄14社と中小私鉄)・公営・帝都高速度交通営団に分けられる。また法令では，地方鉄道と軌道とに大別され，次のように分類される。①地方鉄道：一地方の交通を目的とするもので，公衆の利用する鉄道。鋼索鉄道(ケーブルカー)・モノレール(懸垂式鉄道など)も含む。②専用鉄道：私人または公共団体が専用にするもので，国鉄・地方鉄道と直通または連絡する。③軌道：一般交通の便

に供し，原則として道路面上に敷設される。④専用軌道：専用鉄道と同じ性格をもち，原則として道路面上に敷設される。⑤無軌条電車(トロリーバス*)。⑥索道：空中に架設した索条に運搬器をつるして運送する設備。ロープウエー・リフトなどが該当する。

わが国では，1869年(明治2)東京～横浜間に計画されたのが最初で，1880年日本鉄道会社が東京～青森間の鉄道敷設を目的として設立され，政府がこれを援助したので，1883年に上野～熊谷(くまがや)間が開通した。1891年には上野～青森間が全通し，同会社の営業成績が良好なのに着目して，以後各地で私鉄の建設が順調に進められた。軌道の最初は，1882年東京馬車鉄道の新橋～日本橋間開業である。現在では営業キロ数11,465，輸送人員95億人(1969)に及ぶ。〔宍塚正幸〕

みんか 【民家】 社寺・宮殿・貴族住宅などに対して，一般庶民の住む家。民家のうちでも，都市の民家はその独自な性格から町屋*といって区別されることがある。高級な邸宅建築は時代の建築様式を直接的に反映し，華美な装飾や高価な建築材料を惜しみなく用いて，記念的な建築美をめざす。これに対して，民家の特色は，実用性から遊離せず，制約された経済力のもとで入手しやすい材料を用いて，よりよい住居を営もうとする努力が，いく世代にもわたって積み重ねられ，その結果として風土的で自然にとけ込む素朴(そぼく)な建築美が生み出されていることである。わが国の民家は一般に，土間と板の間(板敷き)と座敷の3部分から構成されている。土間は，原始時代から古代にかけての一般庶民の竪穴(たてあな)住居や土間式住居にまでさかのぼる空間部分であるが，板敷きは古代の寝殿造り*，座敷は中世末の書院造り*につながりをもち，これらの上流住宅の特徴を，庶民生活の向上に伴って一時代ずつ遅れながら，部分的にあるいは単純化して取り入れ，民家特有の間取りを発達させてきたものである。この三つの性格の異なる空間からなる民家の間取りの中でも，最も素朴で基本的な構成は広間形で，広い土間に続いて設けられる板敷きの一室が広間とよばれ，屋内の中心をなし，その奥を2室に仕切り，南側を接客的な座敷とし，北側に寝室(ねま)をとるもので，規模は比較的小さく，江戸時代一般農民層の民家形式であるが，今日では増改築されて原形のまま残るものは少ない。江戸時代の名主・庄屋(しょうや)をはじめとする村役人層の住居は，家構えもりっぱで間取りも発達し，四つ間取り*・六つ間取りなどとよばれるように，座敷部分のへや数や面積が増大する。民家の風土的特色は，特に屋根の構成によく現われ，東北地方の主屋に厩(うまや)を接続して突出させた曲屋形式や，甲州の屋根裏で養蚕するため屋根の妻側に採光窓をとった兜棟(かぶとむね)，信州の傾斜のゆるい石置き板ぶき屋根の本棟造り*，急勾配(きゅうこうばい)で大規模な切り妻屋根で知られる飛驒(ひだ)白川村の民家，火を用いる土間部分をかわら屋根とし，本屋を急勾配のかやぶきとした奈良盆地の大和棟(やまとむね)など，その他各地方それぞれに特有の地方色と造形美が生み出されている。〔渡辺保忠〕

みんかい 【民会】 古代ギリシアの民主政治における市民の総会で，行政・立法および部分的には司法上の最高の決定機関。アテナイではエクレシア，スパルタではアペラ，デルフォイやテッサリアの諸市ではアゴラとよばれたが，本来アゴラは〈集会〉を意味し，エクレシアとアペラは人々の〈召集〉を意味する。民会の実態がいちばんよく知られているのはアテナイの場合で，貴族政時代には召集されるのは市民の一部に限られていたが，民主政時代になり，成年男子の市民全体が召集されるようになり，エクレシアは真の民会となった。民会は将軍などの重要官職の選挙，その決議による立法，国事犯についての弾劾の採否，外交関係の決定，外国人への市民権その他の特権の付与などを行なった。直接民主政である民会でも全市民が出席したわけではなく，アテナイにおいても田園の農民は多く欠席したが，紀元前4世紀初めから日当が支給された。これは決議の成立のために出席者の定員数が必要なためであった。民会における発言は全市民に平等に与えられていたから，自由に修正動議を出した。採決は多数決の原理に立ち，一般に挙手により，まれに投票石を用いての秘密投票がなされた。スパルタの民会は初期には〈リュクルゴス制度〉により民衆の決定権が強かったが，その後，王や長老の出す議案の採決権しか認められなくなり，紀元前5世紀には民衆を代表する5人の監督の議長のもとで重要な国策の決定を行なった。なお，古代ローマでは兵員会・平民会・クリア会などが民会に相当する。➜平民会〔秀村欣二〕

みんかんしんこう 【民間信仰】 民間に伝承される信仰現象一般をいう。この場合の民間とは，皇室の祭祀(さいし)や，特定の宗教団体の統制指令に基づく儀礼・神学・経典などをもたないことをさす。信者の大部分は一般庶民であり，彼らの生活文化に深く食い込んだものは，やはり民間信仰に含めるので，民間信仰と既成宗教とを厳密に区別することはむずかしい。巫女(みこ)・祈禱師(きとうし)の問題や，予兆・卜占(ぼくせん)・禁忌*・呪術*(じゅじゅつ)・憑(つ)き物*・妖怪*(ようかい)などの俗信*だけを民間信仰に含める人もあるが適切ではない。たとえば神社の場合，特別な大社を別にすると，すべて地域共同体の氏子・崇敬者の自主的・自発的な行動にささえられており，当番制で神役を受けもち，物忌みして心身を清め，神を迎えてもてなし，神に代わって霊験(れいげん)を現わし，静かに神を送り返す。神職は専門職として，客人なみに扱われる。数軒の一族で祭る同族神の場合や，各戸の屋敷の一隅(いちぐう)に祠(ほこら)をもつ屋敷神の場合も同様である。日本人の信仰は，原始信仰以来の霊魂*信仰を基調としてきたが，その上に仏教・陰陽道(おんみょうどう)など進んだ宗教体系をも次々に取り入れ，また近世初頭には，それらを統一融合させて独自の体系を整えようとする努力も現われ，きわめて複雑な様相を示している。家々には神だなを設けて神々を祭るほか，台所や納戸や井戸・便所にも神を祭り，盆・正月には神を迎え，農業その他の生業にもそれぞれの神がある。神と仏との区別も明確でなく，祝詞(のりと)と経文とを混同することさえ珍しくない(➜神仏習合)。また，豊作・大漁・防疫など，村全体の利害に関係の深いものは，呪術的な行為を共同祈願の形で行ない，個人的な希望や占いには巫女・祈禱師のたぐいが活躍する。俗信は本来，信仰よりも広い心の動きを示すものであるが，現在見られる個個の俗信現象には，信仰の破片や信仰の零落したものが，非常に多く含まれている。〔井之口章次〕

みんかんでんしょう 【民間伝承】 フランス語のトラディション-ポピュレールの訳語で，英語のフォークロアの意味する内容にもあたる概念である。フランスの民俗学者サンティブは著書《民俗学概説》の中で，民俗学を〈民間伝承の科学〉と定義し，民間伝承とは民間文化を構成する全事実を包含するものとしている。彼は民間という語を〈公〉に対立する概念としてとらえ，〈公〉とは政府や宗教当局から発するすべてのもの，特に学校や教義問答で教えるすべてのものをさすとしている。したがって，そうした〈公〉以外の部分，一般庶民の間に伝え行なわれているすべてのものを民間的と考えることになる。フォークロアということばは，イギリスのトムスが1846年に伝統的信仰・伝説および庶民の間に行なわれている風習・生活様式・慣習・宗教儀礼・迷信・民謡・謎(なぞ)などを包括することばとして使用したのがはじまりである。フォークはいわゆる知識階級とは区別される一般庶民をさし，ロアは知識を意味することばであった。したがって，元来は〈民間の知識〉というほどの意味であったが，この学問の資料をさすことばとして，また同時にこれを研究する学問をもさす呼称として用いられてきた。

日本民俗学の樹立者である柳田国男*は，当初みずからの研究をさして〈民間伝承の学〉とよび，現在の日本民俗学会をも〈民間伝承の会〉と称した。柳田は著書《郷土生活の研究法》で民間伝承の3部分類を試みている。第1部有形文化で衣食住・生業・交通交易・贈答・社交・冠婚葬祭・年中行事・神祭・舞踊・競技・童戯など，第2部は言語芸術で命名・童謡・諺(ことわざ)・謎・民謡・

民　　家



曲　　屋　岩手県遠野市　南部馬の産地として知られる岩手県の民家は，厩を主屋から突出させて設けるので，特有の曲屋形式となっている



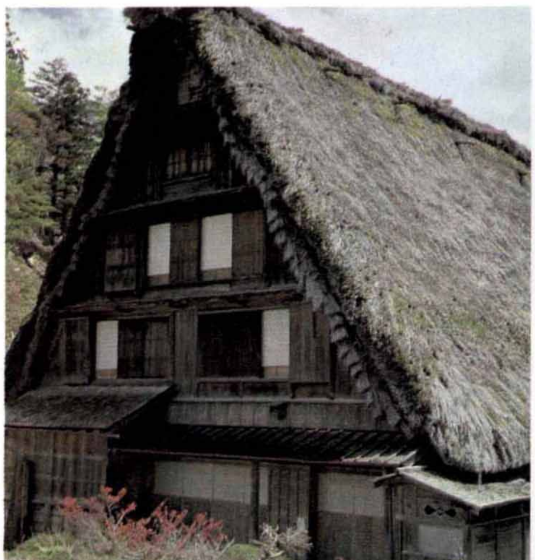
土蔵造りの町屋　埼玉県川越市　近世末の江戸の町屋は，防火上土蔵造りが奨励されたが，江戸近郊の川越の町屋にはそのおもかげが残る



兜　　棟　東京都西多摩郡檜原村数馬　屋根裏べやで養蚕するために採光の窓を屋根の妻側の一部を切り落として設けると，写真のような特異な形の屋根となる



本棟造り　長野県東筑摩郡朝日村　松本平を中心とした地方に見られる。妻を正面に向け(妻入り)，大きな破風とその上にのせた雀踊りとよばれる棟飾りが特異である



合掌造り　岐阜県大野郡白川村　巨大な茅葺きの切り妻造りで，屋根裏べやが数層からなり，太い合掌で屋根の骨組みがつくられている



大和棟　大阪府羽曳野市　大和・河内地方の民家は急勾配の茅葺きの本屋と，ゆるい勾配のかわら葺きの厨(土間)部分とが，特有の屋根の構成をつくり，大和棟とよばれている

語り物・昔話・伝説など，第3部は心意現象で妖怪(ようかい)・兆(きざし)・占い・禁忌・呪術(じゅじゅつ)・民間療法などである。この分類は民間伝承を採集する便宜によったもので，第1部は眼を通して得られるもの，第2部は耳を通して得られるもの，第3部は感覚に訴えるものという分け方になっている。最近ではこれを体系的に編成しなおして，①経済伝承，②社会伝承，③儀礼伝承，④信仰伝承，⑤芸能伝承，⑥言語伝承とする分類案が行なわれつつある。要するに，民間伝承とは庶民の日常生活のうちに伝承されてきた基層的な文化をさし，民俗学*という学問がこの領域の開拓を進めつつあるということができよう。〔直江広治〕

みんかんほうそう 【民間放送】 ⇨商業放送

みんかんやく 【民間薬】 医療の発達していなかった時代，民間の言い伝えで薬として病気の治療に用いられていた草根木皮



ミンク

などをいう。この中には信仰的な要素のものもあり，医師が診断のうえ，科学的根拠によって用いるものでないため，現代の医学・薬学の立場からみると合理的なものもあるが，根拠不明のものも多い。実体が主として草根木皮であったため漢方薬とよく混同されるが，漢方薬は診断の上に立つ治療薬であり，この点で異なる。〔江本龍雄〕

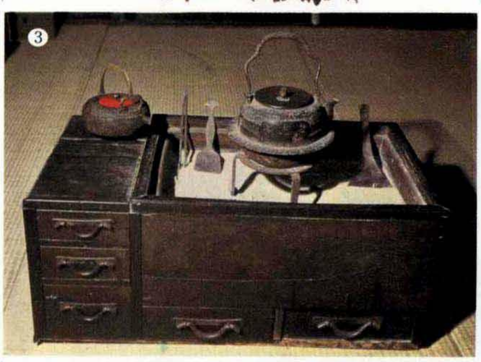
みんかんりょうほう 【民間療法】 一般人の間で考えられたり伝承されている病気の治療法。温灸(おんきゅう)・按摩(あんま)・指圧などの療法，各種の電気治療・紫外線治療・ヨガ・断食療法，薬草のせんじまたは塗布などがある。多くは東洋医学の民間療法に類似し，経験的色彩が強く，たとえ科学的根拠が明白でなくとも症状に照らして一定の治療法がとられることが多い。呪術(じゅじゅつ)的・宗教的要素の強いものも多い。

ミンク ［mink］ 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。アメリカミンクともいう。雄は頭胴長38cm，尾長20cmほどで，雌はやや小さい。体はイタチよりもやや大きく，毛皮獣として有名。体は光沢のある暗かっ色で，尾端は黒に近く，下顎(かがく)の先端とのどに白斑(はくはん)がある。毛皮用に養殖されるものには，黒・青灰・灰かっ色などいろいろの毛色がある。メキシコから北極地方に至る北アメリカに分布し，森林の水べに多い。泳ぎがうまく，魚・マスクラット・水鳥・カエルなどの動物を食べる。巣は川岸に穴を掘ったり，樹洞(じゅどう)や岩の裂け目などにつくる。毛皮は美しいばかりかじょうぶなため，婦人用オーバー・ショールなどに用いられる。〔今泉吉典〕

みんぐ 【民具】 一般庶民が日常生活の必要からつくり出し使用してきた伝承的な民間生活用具の総称。近代的な機械工業によって生産されたものは除外する。民具という用語をはじめて提唱したのはアチック-ミューゼアム（現日本常民研究所）を主宰した渋沢敬三*(けいぞう)で，1933年（昭和8）ごろのことであるが，最近では学術用語として広く用いられるようになった。民具の研究は，主として民俗学*および民族学*の分野から進められてきた。アチック-ミューゼアム編《民具問答集》中に収められている〈民具蒐集(しゅうしゅう)調査項目〉によると，民具を〈我々の同胞が日常生活の必要から技術的に作り出した身辺卑近の道具〉と定義し，以下のような広範な生活用具を民具の内容に含ませている。①衣食住に関するもの：家具・燈火用具・調理用具・飲食用具・食料および嗜好品(しこうひん)，服物・履物(はきもの)・装身具・出産育児用具・衛生保健用具。②生業に関するもの：農具・山樵具(さんしょうぐ)・狩猟用具・漁具・紡織色染用具・畜産用具・交易用具。③通信運搬に関するもの：運搬具・行旅具・報知具。④団体生活に関するもの：災害予防具・若者宿の用具，地割用具・共同労働具。⑤儀礼に関するもの：誕生から元服・婚姻・厄除(やくよ)け・年祝い・葬式までに用いるもの。⑥信仰・行事に関するもの：偶像・幣帛(へいはく)類・祭供品および供物，楽器・仮面・呪具(じゅぐ)，卜具(ぼくぐ)・祈願品。⑦娯楽・遊戯に関するもの。⑧玩具(がんぐ)・縁起物など。民具の内容が生活文化のほとんど全領域にわたっている点











民　具　①蓑　山形県　②背負籠（ばんどり）　山形県　③火鉢　秋田県　④雪沓　岐阜県　⑤唐箕　東京府中市

がうかがえるが，この分類案は今日もなお民具分類の基準としての価値を失っていない。

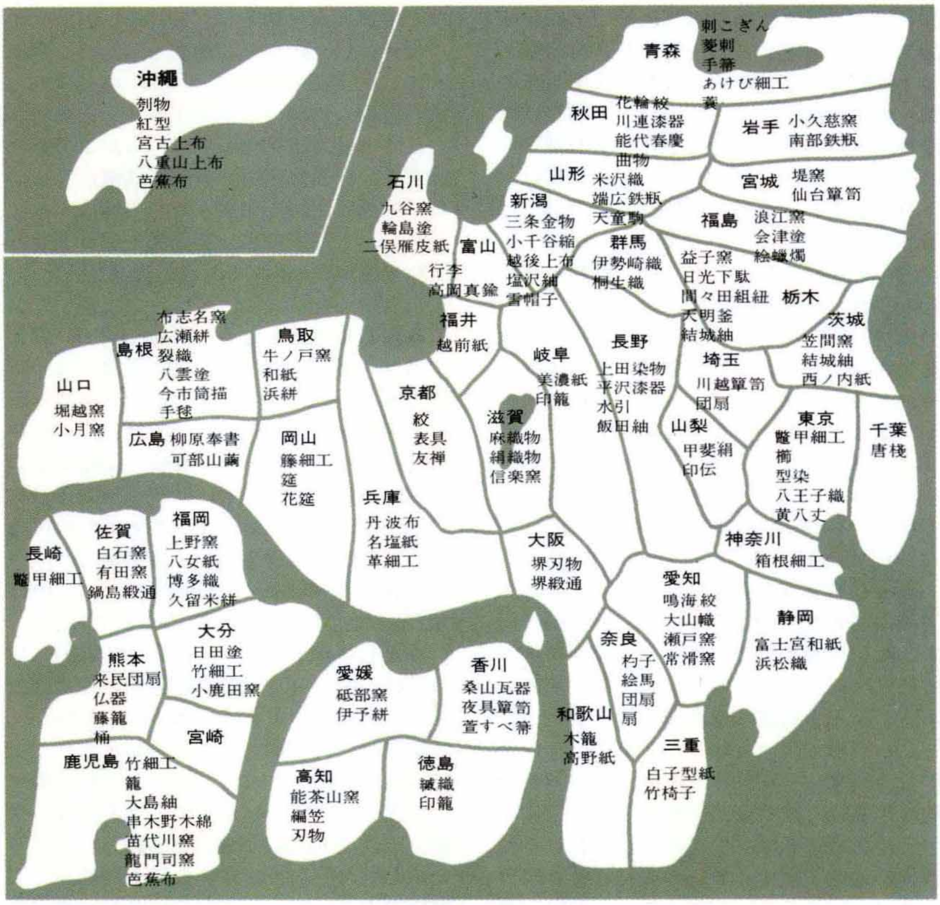
民具の研究は，まず民具資料の収集と記録から始められるが，その場合，次の研究方法がある。ある特定の民具について，名称・材料・形態・構造・使用法・製造法などを記録し，全国的に多数の事例を集めて比較研究を試みるならば，その民具の歴史的変遷や地域差をはじめとして日本人の生活技術，さらには民族文化の究明に迫ることができよう。これが民具研究の基本的方法である。

民具の大部分は腐りやすい植物性物質でつくられている。また，近代的な機械工業による生産物の浸透によって，日本の伝統的な民具は急速に姿を消しつつある。現在残されている民具を早急に調査し記録するとともに，収集・保存の途を構ずることが急務である。この点〈文化財保護法〉(昭和29年告示)が制定されたことは喜ばしいことで，同法でいう〈有形民族資料〉は民具と同じ内容のものである。そのうち特に重要なものは〈重要民俗資料〉として指定され，国家的保護を加えることになった。単に保護を加え展示するだけでなく，民具を中心とする研究博物館が早急に設置されることが望まれる。〔直江広治〕

みんげい　【民芸】　民衆の生活に用いられる実用品をつくる工芸，すなわち民衆的工芸の略称である。この民芸ということばが，日本民芸運動の創始者である柳宗悦*(むねよし)によっていわれる以前には，いわゆる民芸品は雑器とか，荒物とか，下手物とか称され，美的価値はまったく含まれないものと考えられていた。しかし，柳はそこに美的世界を見いだし，雑器の美の性質と意義を探ることの重要さを認めた。また，柳によって，英訳としてフォーク-クラフトの語もあてられた。

一般に，民芸の発生は原始時代にまでさかのぼると考えられている。その根拠は，民芸は民衆の実用工芸であるから，民衆の存在があれば当然実用具の存在があるためである。しかし，民俗学でいわれるところの民具*とは明瞭(めいりょう)に一線が画されている。民具は民俗資料としての研究の対象である。一方，民芸は優劣のありうる美しさを選択して美的価値を付与されたものである。

柳による民芸運動の第一歩は1926年(昭和1)にしるされた。河井(かわい)寛次郎*・浜田庄司*(しょうじ)らと図った〈日本民芸美術館設立趣意書〉の発表がそれである。また。翌年にはこの理論づけとして《工芸の道》が刊行された。その後，柳はあいつぐ調査と収集，民芸品の展観などを行ない，1931年には雑誌《工芸》を発刊，1936年には日本民芸館を創立した。日本民芸館では，一貫した美の標準のもとに日本および外国の民衆的



民　芸　日本民芸地図

工芸品が収集・展示され，現存する地方民芸品の発見・紹介が行なわれている。

みんげい　【民芸】　新劇の劇団。1947年(昭和22)民衆芸術劇場(民芸)として発足したが，1949年劇団内の思想問題などでいったん解散，翌年第2次民芸が再建された。これが現在の〈劇団民芸〉である。創立メンバーは，滝沢修*(おさむ)・清水将夫(しみずまさお)・宇野重吉*・岡倉士朗・北林谷栄(たにえ)らで，1951年三好(みよし)十郎*作《炎の人》の成功により新劇界での位置を定めた。以後久保栄*《火山灰地》，ミラー*《セールスマンの死》，サルトル*《汚れた手》など多くのすぐれた舞台を残している。〈リアリズム演劇〉を目標に，その活動は多方面に意欲的である。〔工藤　隆〕

みんじさいばん　【民事裁判】　私人間の生活関係に関する事件と，民事訴訟でとりあげることのできる事件に関する裁判*。刑事裁判*・行政裁判に対する概念で，民事訴訟の裁判・強制執行*・破産*，非訟事件(供託*，家庭裁判所*で取り扱われる家事審判・家事調停など)の裁判などである。なお，民事裁判は当事者の申し立てがあってはじめて開始される。→民事訴訟

みんじそしょう　【民事訴訟】　私法上の紛争について，裁判所が当事者間の権利関係の存否について公権的判断を下して紛争を解決する手続き。民事訴訟法*に基づいてなされる。広義には，行政庁の処分の効力を争う行政訴訟を含む。犯罪に対して有罪・無罪を判断し，国家の刑罰権を発動する手続きである刑事訴訟*と区別される。民事訴訟は，私法上の権利の実現を国家機関の公権的な判断および強制力によって図ろうとするものであり，この反面各人が実力で相手方に義務の履行をしいることは禁止される。これを自力救済の禁止という。民事訴訟には，貸し金の返還を求める訴訟のように，人にある行為(給付)をなすことを求める給付訴訟，所有権を否定する者に所有権の確認を求める訴訟のように，一定の権利関係が存在するとの確認を求める確認訴訟，離婚を求める訴訟のように，一定の権利関係の創設を求める形成訴訟などがある。民事訴訟によって権利の実現を図ろうとする場合には，裁判所に訴状を提出して訴え*を提起する。訴えを提起する者を原告*といい，相手方を被告*という。

裁判所は，当事者が提出した証拠から当事者の主張した事実が真実であるか否かについて判断する。これを心証を形成するという。認定した事実に法律をあてはめた結果，原告の請求に理由があると判断すれば原告の請求を認める判決を下し，理由がないと判断するときは請求を棄却する判決を下す。判決に不服がある場合には控訴*ができ，控訴の裁判に不服な場合にはさらに上

告ができる。また給付訴訟において原告勝訴の判決が確定すると，判決を債務名義として強制執行ができる。なお，民事訴訟の第一審は，請求額が10万円以上の事件は地方裁判所，10万円未満の事件は簡易裁判所のそれぞれ管轄である。〔内田剛弘〕

みんじそしょうほう【民事訴訟法】民事訴訟の手続きについて規定した法律。わが国の民事訴訟法は，ドイツ法を範として起草され，1890年(明治23)公布された。その後1926年(大正15)強制執行編を除く全編が全面改正され，次いで数回の部分的改正を経て今日に至っている。全8編・805条からなり，裁判所および当事者に関する事項，訴えの提起および証拠調べに関する事項，控訴・上告・再審の手続き，手形訴訟手続き，強制執行手続き，仲裁手続きなどについて規定している。〔内田剛弘〕

みんじちょうてい【民事調停】⇨訴訟

みんじとくべつほう【民事特別法】民事一般法に優先して適用される民事に関する特別法規。民事一般法には民法と商法があるが，民事特別法は民法に対する特別法という意味で用いられることが多い。代表的なものに〈日本国とアメリカ合衆国との間の相互協力及び安全保障条約第6条に基づく施設及び区域並びに日本国における合衆国の地位に関する協定の実施に伴う民事特別法〉があるが，これはアメリカ軍が職務執行中，違法に他人に損害を与えた場合，またはアメリカ軍の占有・所有・管理する土地の工作物その他の物件の設置・管理に瑕疵(かし)があった場合に生じた損害について，日本国がこれを賠償することを定めたものである。〔原田政洸〕

みんしゃとう【民社党】⇨民主社会党

みんしゅうえき【民衆駅】駅舎の新築または改築をするとき，建設費の一部または全部を民間が負担して建築したもの。費用負担の見返りに，駅舎の一部を一般の経営する店舗や食堂などの施設として利用する。経済的価値の高い駅用地が立体的に有効に利用でき，工事費の節減，都市美の形成，乗客の利便などの利点がある。国鉄では，民衆駅の建設については，部外者を加えた財産管理等公正委員会で審議し，その基準を，①災害を受けた仮駅，②老朽のため取り替え工事を急ぐ駅，③都市計画で改築または移転を必要とする駅，④輸送需要の増加で改築を必要とする駅などに限定している。1950年(昭和25)に完成した東海道本線豊橋(とよはし)駅が最初で，1972年現在で全国に59駅ある。〔宍塚正幸〕

みんしゅうしは【民衆詩派】第1次世界大戦後のデモクラシー思想を背景に，ホイットマン・カーペンター・トローベルらヨーロッパ・アメリカ合衆国の民衆詩人の影響を受け，従来の高踏的な詩を民衆に近づけようとした詩の流派。百田(ももた)宗治の《表現》，加藤一夫(かずお)の《科学と文芸》などの雑誌を母体とし，1918年(大正7)1月創刊の《民衆》をその拠点とした。文学史的には大正期の〈民衆芸術運動〉の一環をなす。百田・加藤のほか富田砕花・白鳥省吾(しょうご)・井上康文(いのうえやすぶみ)らがこの派に属する。作品は平俗で芸術的価値に乏しいが，口語自由詩を発展させた功績は大きい。しかし，大正末期には芸術派・プロレタリア派の挟撃(きょうげき)にあって衰退した。〔三浦 仁〕

みんしゅうそしょう【民衆訴訟】国または公共団体の機関の法規に適合しない行政機関の行為に対し，その是正を求める訴訟。選挙人である資格，その他自己の法律上の利益にかかわらない資格で提起できる(行政事件訴訟法5条)。行政法規の正当な適用の保障，行政の公正を期するために認められている。選挙無効・当選無効についての訴訟(公職選挙法202条以下)，住民訴訟(地方自治法242条の二)などがある。

みんしゅかどうめい【民主化同盟】1948年(昭和23)2月全日本産業別労働組合会議(産別会議)の事務局長細谷松太を中心に，労組運動の民主化を主張して結成された組織。民同と略称される。1947年炭鉱労働組合全国協議会(炭協)からの中立系組合の脱退，国鉄反共連盟の結成を端緒として翌年結成された。以後日本社会党と連携して主導権を握り，1950年7月には日本労働組合総評議会(総評)を結成，労働運動の主流となった。しかし朝鮮戦争以降民同内部の対立から左右に分裂し，やがて左派が主導権を握るに至った。〔応和邦昭〕

みんしゅきょうわとう【民主共和党】アメリカ合衆国建国初期の政党。アメリカにおける政党的対立は1787年連邦憲法案をめぐり発生した。西部小農民・南部プランター(大農園主)を中心とし，フェデラリストの支持する憲法案に反対したアンチ-フェデラリストは憲法制定により存在意義を失ったが，ワシントンやハミルトンによりフェデラリストの政策が実現すると，彼らは共和党(リパブリカンズ)としてこれに対抗した。その指導者はジェファソンで，独立自営農民をアメリカ人の理想像とする農本主義，州権論，憲法の厳格解釈，反イギリス・親フランス的立場をとった。共和党はアダムズ政権の〈外人法および治安法〉に強く反対，〈ケンタッキー決議〉〈バージニア決議〉を発表してこれに抗議したが，このころから民主共和党とよばれるようになった。1800年共和党はジェファソンを大統領に当選せしめ，いわゆる〈ジェファソニアン-デモクラシー〉を現出したが，以後政府与党としてフェデラリストの政策を実施したため，モンローの時代には政党的対立は消滅した。1824年選挙は共和党員間で争われたが，この選挙をめぐって党は2分，J.Q.アダムズ・クレイ・ウェブスターの党派は国民共和党，のちホイッグ党となり，ジャクソンやカルフーンの党派は正式に民主共和党となった。これが民主党の前身である。〔折井一彦〕

みんしゅしゃかいしゅぎ【民主社会主義】社会民主主義よりもさらに右寄りの社会主義思想。第2次世界大戦後のヨーロッパで影響力をもちはじめ，今日でも有力なイデオロギーの一つとなっている。中心機関としては社会主義インターナショナル(→コミスコ)があり，おもな政党にはイギリスの労働党，西ドイツの社会民主党，フランスの社会党などがある。民主社会主義の特徴は共産主義と社会主義を区別するところにあるが，それは共産主義に徹底して反対する反共主義となる。国内的には福祉国家論を展開し，革命なき社会主義社会の実現を主張する。また，議会主義を強調し大衆運動の組織化をあまり重視しない。このようなイデオロギーに基づく民主社会主義政党は，保守党が議会において過半数を割る場合に，保守党との連立政権を組む場合が多い。日本の民主社会党もこの主義を標榜(ひょうぼう)している。〔西尾孝司〕

みんしゅしゃかいとう【民主社会党】日米安全保障条約の問題で日本社会党を脱党した西尾末広を中心に，1960年(昭和35)1月結成された民主社会主義政党。初め民主社会党，1969年11月から民社党。初代委員長西尾末広。最高顧問片山哲。階級政党を否認して国民政党を呼称し，議会制民主主義による中道的政治・漸進的改革を主張している。1967年6月西尾委員長辞任，西村栄一就任。1971年4月西村死亡により同年6月委員長春日(かすが)一幸。1960年11月の衆議院議員選挙では40名から17名に議席が激減したが，その後の選挙ではしだいに増加し，1971年12月現在，国会での勢力は衆議院30，参議院13議席を占めている。〔原田政洸〕

みんしゅじゆうとう【民主自由党】1948年(昭和23)3月15日に結成された保守政党。芦田均(あしだひとし)内閣のもとで野党であった日本自由党と，日本民主党から分裂した幣原(しではら)喜重郎を中心とする同志クラブが合併して結成された。総裁吉田(よしだ)茂。第2次吉田内閣を少数党単独内閣として発足させたが，1949年1月の総選挙で絶対多数を獲得し，日本民主党と第3次吉田連立内閣を発足させた。1950年2月日本民主党の連立派23名を吸収して同年3月1日自由党と改称。〔原田政洸〕

みんしゅしゅぎ【民主主義】⇨250ページ

みんしゅとう【民主党】共和党と並ぶアメリカ合衆国の二大政党の一。建国当初のアンチ-フェデラリスト党，ジェファソンの指導する共和党(のちの民主共和党。現在の共和党とは無関係)の後身で，1828年ごろ民主党と改称。この当時の党指導者ジャクソンはジェファソン的農本主義を継承，

西部小農民層・東部労働者・南部プランター階級を糾合していわゆる〈ジェファソニアン-デモクラシー〉を実現した。以後南北戦争まで2期を除いて政権を担当したが，奴隷制が全国的重要問題となるにつれ，南部と北部の対立が深まり，1860年党は分裂した。民主党は南北戦争による南部の敗北，共和党急進派による圧迫などにより19世紀後半は弱体化し，クリーブランドの2期を除いて1913年まで野党にとどまった。この間民主党は独占資本の代弁者化した共和党と対立，西部農民や東部労働者の不満を代弁，1896年には人民党とともにブライアンを大統領候補に立てたが，共和党のマッキンリーに敗れた。共和党の分裂により1912年T.W.ウィルソン*は大統領に当選すると，低関税・累進課税・反トラスト法・連邦準備銀行制度などのニュー-フリーダム*政策を実施，革新政治を続行した。彼は第1次世界大戦には中立を維持したが，1917年参戦を余儀なくされた。T.ルーズベルト*・タフト*の1920年選挙では民主党は共和党のハーディングに政権をゆだねたが，1929年に起こった大恐慌の結果1932年民主党のF.ルーズベルト*を大統領に選出した。ルーズベルトは強力な国家的統制によるニュー-ディール*政策を実施した。第2次世界大戦後，あとを継いだトルーマンのフェア-ディールは社会保障・最低賃金などで成果を収めたが，対外的にはアメリカ・ソ連間の冷戦を展開，1952年の朝鮮戦争で，共和党のアイゼンハワーに政権をゆだねた。1961年から1969年まではケネディ*とジョンソン*が再び政権を担当し，そのニュー-フロンティア計画はいずれもニュー-ディールの精神を継承した。現在民主党は黒人・カトリック・移民など，アメリカ社会の少数派の利益を代弁し，共和党よりも権力集中・企業規制・社会福祉の拡大・平等機会の達成などの傾向が比較的強い。➔民主共和党　➔共和党　〔折井一彦〕

みんしんがく　【明清楽】　江戸時代から明治時代にかけて日本でかなり盛んに行なわれた中国の近代音楽に対する俗称。音楽的にも時代的にも明楽と清楽は別のものであったが，明治初期には合成されて明清楽とよばれた。レパートリーは必ずしも中国起源だけでなく，日本のものも含まれる。楽器は鑼(ら)・太鼓などのリズム打楽器，洋琴*・胡琴*(こきん)・月琴*(阮咸(げんかん))・三弦子・琵琶*(びわ)・笛・篳篥*(ひちりき)・笙(しょう)などで，明清の系統により楽器編成が異なる。　〔山口　修〕

ミンスク　［Minsk］　ソ連西部，白ロシア共和国の主都。人口90万7,000(1976)。鉄道の要衝として知られ，自動車・トラクター・オートバイ・工作機械などの機械工業や，周辺の農畜産物の加工業が盛ん。科学アカデミーや大学などもある。1067年の年代記にもその名が記されている古い都市で，商業・地方政治の中心として発達し，12世紀にはミンスク公国の首都になり，14世紀にはリトアニア領，その後もポーランドに属したことがある。1793年ロシア領となった。　〔斎藤晨二〕

ミンストレル　［minstrel］　ヨーロッパ中世の旅芸人。吟遊詩人・楽人・曲芸師なども含む呼称。古代ローマの道化役者〈ミムス〉に起源をもち，11～14世紀にかけてヨーロッパ一帯に盛んとなった。中には，王侯貴族をパトロンとする者もあり，14～15世紀には，フランス次いでイギリスでミンストレルのギルドもつくられた。なお，〈ミンストレルショー〉というのは，19世紀前半にアメリカ合衆国オハイオ川沿岸地方に起こった大衆音楽劇で，白人が黒人の扮装(ふんそう)をして歌や踊りを演じるショーのこと。〈ミンストレルズ〉ともいわれ，人気を集めた。　〔毛利三弥〕

みんせいいいん　【民生委員】　民生委員法(1948)により，以前の方面委員に代わって設けられた民間の奉仕者。都道府県知事の推薦に基づいて，厚生大臣が委嘱する名誉職で，任期は3年である。生活保護などの社会福祉*の拡充を目的として，各市町村の一定の区域を担当し，同時に児童福祉法(1947)による児童委員をも兼ねている。職務は，住民の生活状態を把握(はあく)し，生活扶助や医療扶助などの保護を必要とする者に適切な保護・指導を与え，社会福祉施設と密接な連絡をとるとともにその機能を助け，福祉事務所などの関係行政機関の業務に協力する。また低所得階層に対する世帯更生の貸付金制度の指導や援助を行なったり，地域福祉の増進と拡充を目的とした民間協議機関である社会福祉協議会の構成員として，地域住民の健康と福祉に関する調査活動や生活指導なども行なっている。定員16万人(1972年7月)。　〔松島　浄〕

みんせいとう　【民政党】　⇨立憲民政党

みんせんぎいんせつりつけんぱくしょ　【民選議院設立建白書】　明治初期の国会開設の建白書。征韓(せいかん)論*に敗れて参議を辞した板垣(いたがき)退助・後藤象二郎・江藤新平・副島種臣(そえじまたねおみ)らは，1874年(明治7)1月民選議院設立を主張して，古沢滋(しげる)・岡本健三郎・小室信夫(のぶお)・由利公正(きみまさ)らと連署の建白書を太政官(だじょうかん)左院に提出，実現のため愛国公党*を組織した。この建白書が《日新真事誌》(1872年イギリス人ブラックが東京で創刊した邦字新聞で，特許を得て左院議事や建白などを掲載)に公表されるや激しい論争が展開され，大井憲太郎*らは全人民の参政権を主張した。建白書は自由民権運動*の口火を切るものであった。　〔応和邦昭〕

みんぞく　【民族】　⇨253ページ

みんぞくいしょう　【民族衣装】　人類が衣服を着るようになった理由は，寒冷な気候などから身体を保護すること，羞恥心(しゅうちしん)，装飾への欲求などが考えられる。したがって，同一の気候帯では基本点で一致した類型の分布が多くみられる。民族衣装とは，この基本型に，生活形態，文化の高低，宗教の相違，階級制度，その地で得られる材料・技術，異民族との接触など，さまざまの要素が加わって，それぞれの民族によって独自に生み出された衣服をいう。

熱帯では，帯・紐(ひも)が基本となっている。褌(ふんどし)の形をとるものが多く，アメリカ・ポリネシア・アフリカ・南アジアなどに分布している。暖帯や寒帯では当然身につけるものが多くなり，種類や形式も複雑になる。大別して，ポンチョ*形(ヨーロッパ・南北アメリカ・西アジア・東南アジア・インドネシア・ミクロネシア・ポリネシアに分布)，長スカート形(ポンチョ形より広い分布をもつ)，マント*形(この気候帯の全域に分布)がある。

エスキモーは，トナカイの毛皮を主材料としたフードつきのアノラック*を着用する。アメリカ-インディアンは，ほとんどなにも着けない西部の諸部族，バッファローやカモシカの皮服を用いる大平原の部族，美しい織物をつくる南西部の諸部族など，地域によって大きな差がある。モンゴル人は，基本的には中国服*と同じ型の服を用いる。足首までのたけのものを前で合わせ帯で締める。乗馬に便利なようにゆるやかに仕立ててある。女性はスカートをつける。イスラム教圏の諸族は，男子は，長い上衣に腰回りが2倍近くあり，足首が細くなっているズボンを着ける。防寒のためには1枚の布をポンチョふうにまとう。女子は頭からかぶるマント型のチャードル(ボルガ・アバ)をつけている。アラブ諸族は，熱気を避けるためにだぶだぶの衣服で身体全体をおおい，頭にも白い布をかぶる。アフリカの服装は多様であるが，イスラム・アラブの影響地域では類似が見られる。東南アジアでは，長衣に一枚布を腰に巻きつけるサロン*あるいはこれにズボンの組み合わせが多く見られる。➔252ページ(写真)　〔神谷美保子〕

みんぞくおんがく　【民族音楽】　⇨254ページ

みんぞくおんがくがく　【民族音楽学】　諸民族の民族音楽*(民俗音楽と芸術音楽)を個別的・比較的・総合的に記述分析する学問。音楽学*の中の一部門で，19世紀後半にドイツ・イギリス・アメリカ合衆国で始められた。異民族の音楽に対する関心はもちろんそれ以前からあったが，比較音楽学という名称で代表されるような学術的意図をもった調査研究が行なわれるようになってから1世紀に満たない浅い歴史しかない。初期の学者，エリス*・ホルンボステル*・ザックス*・クンスト*たちが従事した研究は，比較的広く浅い情報に基づいて鋭い直観的洞察(どうさつ)力で音階・旋律型・リズムなど純音楽的語法の一般論を引き出すことであ

➔252ページ

民主主義

【定義】 民主主義という語は，わが国では大正時代にデモクラシーの訳語として定着したが，その語源はギリシア語demos（人民）とkratia（権力）の合成語に由来し，〈人民が支配する政治〉を意味する。《近代民主政治》の著者J.ブライスは，〈民主主義ということばは，ヘロドトスの時代以来，国家の支配権が特定の階級にではなく，社会全体を構成する全員に合法的に与えられている政治形態である〉と定義しているが，この規定が最も包括的であろう。しかし，古代の都市国家アテナイの民主主義を除けば，民主主義が体制として定着するのは近代以降の歴史においてである。したがって，西欧近代の民主主義をモデルとして考える場合，その内容は三つのレベルで理解するのが適当であろう。すなわち，理念としての民主主義は，自由・平等など諸々の基本的人権の主張を意味し，制度としての民主主義は，三権分立制・議院内閣制・地方自治制・立憲主義などに基づく政治体制を意味する。また，1968年5月のフランス学生運動やアメリカの公民権運動，1960年代後半の日本における学生運動などは，政治運動としての民主主義の特徴を明らかにしている。この〈政治的民主主義〉のほかに，社会・経済領域における民主主義が存在する。〈産業民主主義〉は，工場労働者の自由として，19世紀末にイギリスのウェッブ夫妻*によって唱えられたが，のちにはギルド社会主義とほぼ同じ意味に用いられた。これに対して，アメリカでは，労使の協調に力点が置かれて，〈労資生産委員会〉〈苦情処理委員会〉などの制度として定着している。また，第2次世界大戦後の産業社会の発展に伴い，ドイツ・オーストリアにおける〈共同決定〉，ユーゴスラビアにおける〈自主管理〉と〈労働者協議会〉などがその結実である。〈経済民主主義〉は，〈社会民主主義〉と表裏をなす思想であり，具体的には，第1次世界大戦後のドイツにおける〈社会化〉政策，第2次世界大戦後のイギリスにおける重要産業の〈国有化〉政策や社会保障制度などがあげられる。これとともに，〈社会民主主義〉は，イギリス労働党，ドイツ社会民主党，スカンジナビア諸国の社会主義政党の政策・綱領に明らかなように，マルクス主義*に依存せず，社会政策や労働立法により資本主義社会を平和裏に変革する立場である。しかし，これらの民主主義は，いずれも〈政治的民主主義〉を基礎にしてはじめて成立するという事実を見のがしてはならない。

【民主主義の歴史】 近代民主主義の思想家J.J.ルソー*は，〈もし神々からなる人民があれば，その人民は民主主義を取るであろう〉と古代民主主義を賛美している。しかし，それは古代ギリシアの都市国家一般の政治形態ではなかった。都市国家アテナイの民主主義でさえ，紀元前7世紀に萌芽(ほうが)をみながら，ペリクレス（BC495～BC429）時代にはじめて〈氏族＝門閥支配〉を排除した〈デモスの支配〉，非貴族的市民の直接民主主義として全盛期を迎えたのである。それは，満20歳以上の男子の市民全員が参加する〈民会〉を基礎に，選挙と抽選による執行機関としての〈500人委員会〉と，抽選による陪審員より構成される裁判所の3機関により運営されていた。ペリクレスは，〈アテナイ市民は，自己の家事に専念することを理由に国家をないがしろにはしない。そして，他の仕事に従事している者でさえ，政治に対する正しい考えをもっているのだ——たとえ少数の者が政策立案者であるにしろ，われわれはすべて政策の健全な判断者なのである〉と述べ，スパルタの軍事的寡頭(かとう)制に対するアテナイの民主主義の優越を誇示したが，それをあまり理想化するのは適当でない。当時の哲学者プラトンやアリストテレスがかなり否定的な態度を示したことを想起すべきである。むしろ重要なのは，古代民主主義の西欧近代における〈再生〉である。前出の引用で明らかなように，ルソーは《社会契約論》でプラトンの哲人政治やアリストテレスの政体循環論に対して〈一般意思〉の実現として民主共和国を理想化することにより，市民革命の一つの流れ，人民主権論を主張するジャコバン派，バブーフ，マルクスに至る〈全体主義的民主主義〉を祖述したのであった。それは草の根の民主主義として，人民主権の極限的拡大の中に自由・平等などの市民的自由の実現を求める政治的態度であり，1848年にマルクスは《共産党宣言》に，〈労働者革命の最初の第一歩は，プロレタリアートを支配階級に高めることであり，民主主義をかちとることである〉と書いて継承の方向を明らかにしている。これに対して，近代市民革命の主流ともいえる〈自由主義的民主主義〉は，J.ロック*の市民的自由→議会→政府という自由主義的政治機構の構想に明らかなように，〈夜警国家〉あるいは〈自由放任国家〉として，政治権力の極小化の中に市民的自由を求める政治的態度であり，〈アメリカ独立宣言〉や〈フランス人権宣言〉などがその例である。1776年，ロックの政治思想の影響下に起草された〈アメリカ独立宣言〉は，〈われわれは自明の理として，すべての人は平等につくられ，造物主によって，一定の奪いがたい天賦の権利を付与され，その中に生命・自由および幸福の追求の含まれることを信ずる。またこれらの権利を確保するために人類の間に政府が組織されたこと，そしてその正当な権力は被治者の同意に由来するものであることを信ずる。そして，いかなる政治の形態といえども，もしこれらの目的を毀損(きそん)するものとなった場合には，人民はそれを改廃し，彼らの安全と幸福をもたらすべしと認められる主義を基礎とし，また，権限の機構をもつ新たな政府を組織する権利を有することを信ずる〉と，その〈自由主義的民主主義〉の諸原理を厳粛に宣言している。

しかし，初期資本主義から産業資本主義への移行とともに，国民代表として地主・資本家など名望家層の支配が確立するにつれて，〈全体主義的民主主義〉は，類的存在としてのプロレタリアートの解放を求める社会主義運動の中に止揚され，〈プロレタリア民主主義〉あるいは〈社会主義的民主主義〉として展開していくのである。次いで，今世紀における独占資本主義の成立は，テクノロジーの発達による工業生産力の飛躍的上昇と植民地利潤を背景として，労働者階級の社会的・経済的参加——経済的蓄積の増加，社会保障の前進，企業参加の制度化，国民教育の普及，余暇文化の享受などを実現し，漸次，彼らの革命的性格を奪い，体制内馴化(じゅんか)の道を開いた。これらの条件とともに，労働者階級の政治的参加として普通選挙制が実施され，ここに〈大衆民主主義〉が形成された。K.マンハイムは，この過程の合理的側面を〈基本的民主化〉と高く評価しながら，同時に，人民主権の主体として登場した労働者階級が，権力の側から操作の対象として客体化され〈孤独な群衆〉に転化し，他方では，中央集権化された巨大な権力が少数者に集中する過程として描いている。こうして，市民政治の構造転換として成立した大衆民主主義状況のもとでは，第1に，社会主義が労働者階級の体制内化とともに，議会主義と社会保障の実現にみずからの運動を限定することにより，社会民主主義と共産主義とに分裂する。ことに，社会民主主義は，中産階級化した労働者の要求に対応して，脱革新化の傾向を強め，むしろ体制補完の機能をになうに至っている。第2に，C.R.ミルズが指摘したように，政党幹部，高級官僚および軍人，経済指導者などに膨大な政策決定権が集中する結果，19世紀的な憲法的政治決定機構は，権力の中間レベルに脱落し，単に合法性の追認的機能を営む傾向を示している。第3に，啓蒙(けいもう)主義哲学に由来する理性的市民像は，巨大な現代政治の下で崩壊し，〈孤独な群衆〉の無力感や無関心がつねに再生産され，政治的リーダーシップは非合理な情緒や感情に訴える傾向を深める。これらの病理的な症候群は，民主主義の危機あるいは議会主義の腐敗として繰り返し語られてきた。しかし，〈大衆民主主義〉は

これらの病理的な症候群を積極的に利用しつつ,〈権力エリート〉の支配として,〈抑圧的寛容〉の下に生じる大衆の疑似的自発性を管理する政治形態として存立しているのである。

【現代世界の民主主義】現代世界の民主主義は,西欧近代にその端緒をみながら,今日では世界的な規模にまで拡大している。しかし,それは現代史の脈絡の中で多くの曲折を経てはじめて定着したのである。たとえば,第1次世界大戦におけるプロイセン軍国主義に対する〈民主主義の戦い〉,1917年のロシア革命によるソ連の成立,1935年のコミンテルン第7回大会における民主主義の評価の転換,そして,第2次世界大戦後の東欧諸国の解放と植民地諸国の独立などの各段階を経て,民主主義は,〈プロレタリア民主主義〉あるいは〈第3世界の民主主義〉として,世界的な規模で展開するに至ったのである。〈プロレタリア民主主義〉は,ルソー的な〈全体主義的民主主義〉の発展として,マルクスによってプロレタリアートの解放を意味するものと定義された。次いでレーニンは,〈プロレタリア民主主義〉を労働者階級の実質的平等の実現であると規定して,《国家と革命》において,〈民主主義は平等を意味する。平等のためのプロレタリアートの闘争および平等のスローガンがどんなに偉大な意味をもっているかは,平等というものを階級の廃絶という意味に正しく理解すればよくわかる。しかし,民主主義は,ただ形式的平等を意味するにすぎない。生産手段の所有に関する社会の全成員間の平等,すなわち,労働の平等,賃金の平等が実現されるや否や,直ちに人間の前に不可避的・形式的平等から実質的平等に向かって,各人は能力に応じ,各人には欲望に応じて,という準則の実現に向かって前進するための問題が生じる〉と述べて,〈プロレタリア民主主義〉が社会主義国家において実現されると主張している。こうして,民主主義的中央集権制を政治制度の基本原則とし,前衛党の指導するプロレタリア独裁*の国家として最初に成立したソ連は,輝かしき導きの星でありながら,国際的・国内的条件のために,その民主主義について幾多の問題を内包せざるをえなかった。いわゆる〈スターリン主義〉の問題がそれである。〈スターリン独裁〉の基礎は,社会主義的工業化の強行にあたって,膨大な農民層や労働者の低い文化水準に直面して,プロレタリア独裁から前衛党の独裁へ,そして,国家と前衛党の癒着(ゆちゃく)の結果,スターリンを頂点とする官僚主義的プロレタリア代行国家が形成されたことにある。しかも,当時の国際的条件がその絶対化を補強したのである。第1次世界大戦後の西欧諸国における社会主義革命の失敗と資本主義の世界的ヘゲモニーの確立がそれである。その結果,スターリンによる一国社会主義*の選択は,リアルな現実認識をもちながら,同時に,国際的革命運動の〈コミンテルン〉への従属を強要することになり,ここにロシア革命の教条化・絶対化を生み出したのであった。P.トリアッチ*は,この過程を悲劇とよび,《ヤルタ遺書》において,〈最大の注意をひく問題は,ソ連についてもその他の社会主義国についてもみられるのだが,スターリンによって始められた民主主義的自由と人身の自由の制限と抑圧の体制を克服する問題である〉と述べ,〈プロレタリア民主主義〉の再建の方向を示している。事実,この方向は,〈社会主義への多様な道〉とともに,新しい型の民主主義として,世界的な規模で模索されているが,特に,中国の〈プロレタリア文化大革命〉や〈キューバ革命〉の動向は,今後とも注目に値しよう。また,1968年8月悲劇的結末をみながら,チェコスロバキア共産党が《行動綱領》において,〈社会主義とは,搾取的な階級関係の支配から勤労人民を解放するだけではありえない。それは,いかなるブルジョア民主主義も与えないほど,個体性を完全に発揮する大きな可能性を与えねばならない〉と規定したことは,産業社会の成熟した社会主義体制における民主主義の問題と展望を示して興味深い。ところで,第2次世界大戦後に独立したアジア・アフリカ・ラテンアメリカなどの〈第3世界〉では,急速な工業化を遂行する国家資本主義の形成を必要とすることから,その政治形態において,独自の民主主義を発展させている。たとえば,ギニアのセク-トーレは,民主主義をアフリカの普遍的利益を実現するための人民意思の支配と定義して,ルソー的な人民主権論を主張している。しかし,ルソーが,その理論的徹底を求めて直接民主主義に到達しているのに対して,セク-トーレは,一党独裁制と民主主義的中央集権制に帰着している。この意味で,セク-トーレは,レーニン的な前衛党理論への接近を示しながらも,ギニア民主党は特定階級の利益ではなく,全アフリカの社会層の利益を具現すると規定し,そこに一党独裁制の存在理由を求めている。こうして,大衆政党としてのギニア民主党が全国家機関を掌握することにより,〈指導された民主主義〉としてのセク-トーレのアフリカ民主主義が完結する。この民主主義の系譜には,スカルノのインドネシア,エンクルマのガーナ,アユブ-カーンのパキスタンなどが属している。これに対して,西欧的な〈自由主義的民主主義〉も,インド・ナイジェリア・プエルトリコなどに定着している。ことに,多人種国家では,民主主義は,種族集団間の権力の抑制と均衡過程として多元主義的な展開をする場合が多い。しかし,〈第3世界の民主主義〉を考える場合,工業化との関連を注意する必要がある。特に,国営セクターや私的セクターに対する民衆の支持の問題や,各セクターのエリートの近代化戦略の方向などを考慮することが重要であろう。

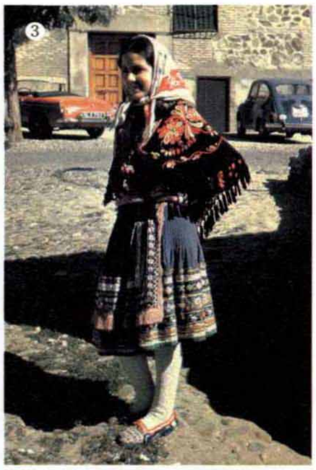
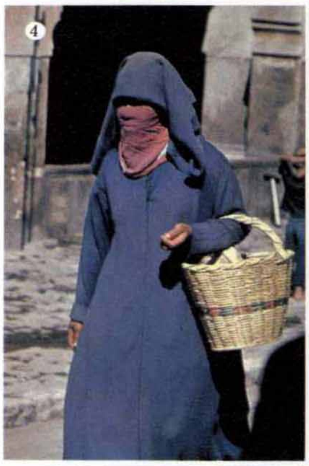
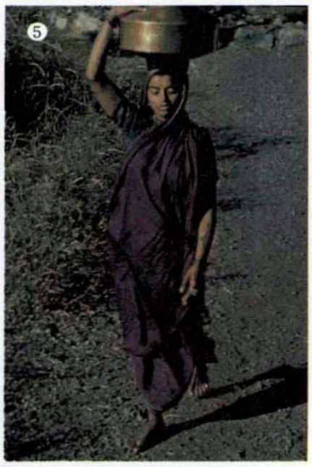
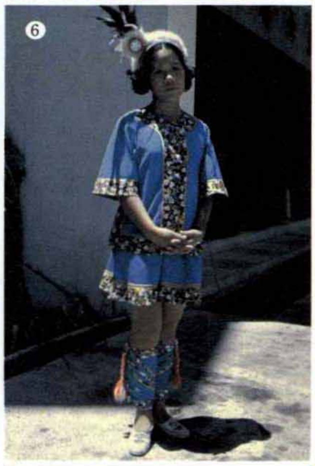
【戦後日本の民主主義】戦後日本の政治過程において,1960年代ほど,いわゆる〈戦後民主主義〉の虚実が問われた時期はない。〈戦後民主主義〉を虚妄(きょもう)といい,幻想と貶置(へんち)する視座の成立は,明らかに,日本社会の構造変動に伴う〈戦後民主主義〉の機能変化という問題性を示すものであった。1945年(昭和20)8月の軍国主義日本の敗北を起点とするアンシャン-レジームの民主化は,その不徹底な側面をもちながらも,すでに冷戦イデオロギーに転化した西欧民主主義に対比するとき,〈封建対近代〉を基軸とする民主主義として,すぐれた啓蒙的・革新的機能をになうものであった。この間民主化の潮流は,対米従属を再建のばねとした支配層のオールド-ライト的な〈逆コース〉の抵抗に遭遇しながら,1950年代には戦前的・封建的・家族主義的諸要素の批判意識あるいは新憲法感覚として,国民各層の間に広範に定着したといえよう。しかし,〈日本資本主義の歴史的勃興(ぼっこう)期〉と賛美された日本経済の高度成長が独占資本のイニシアチブで開始され,その具体的成果が上級労働者をはじめとする国民各層に波及し,日本版〈豊かな社会〉が出現するに及び,受益者感覚の醸成とともに,〈私生活民主主義〉といわれる生活態度が形成された。この〈私生活民主主義〉とは,生活水準の相対的上昇を前提とする新憲法感覚のマイホーム化ともいうべきもので,人間としての生きがいを生産の場からマイホームに求め,そこでの消費生活の中に人間性の解放や自由を享受する生活態度であり,外部からこの小宇宙を侵害されない限り,求めて政治化することはない。特に,1960年の安保闘争を契機とする支配層のニュー-ライト路線の選択は,高度成長の成果の均霑(きんてん)という事実を背景に,この生活態度を国民の間に積極的に再生産することにより,〈戦後民主主義〉を保守支配のメトーデに転化したのであった。

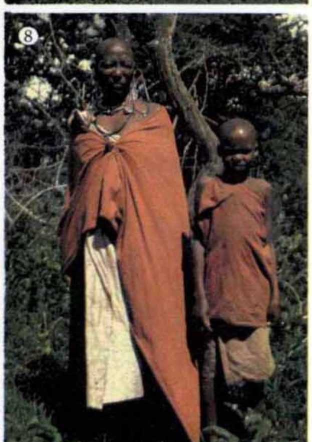
この保守支配のメトーデと化した〈戦後民主主義〉は,いわゆる〈強行採決〉の論理として集中的に展開しているのである。1969年の国会における〈健保特例法延長法〉案から〈大学の運営に関する臨時措置法〉案に至る無審議・強行採決の連続過程は,多数党が少数党の意見に歩み寄る〈多数=少数決原理〉ではなくて,多数党による〈一般意思〉の不当な独占を意味する。ことに,情報化社会において機能する議会制は,政策の立案および決定権の脱議会化という大衆民主主

義状況においても，なお，その立案および決定過程を，議会の審議を通じて国民に公開し説得を行なう社会的承認機能を営まねばならない。それは，多数党支配下の議会では最低限確保されるべき機能に属するが，議会内外における保守支配の相対的安定を前提として，つねに〈強行採決〉をビルトーインした議会制民主主義は，保守支配のメトーデ以外の何物でもありえないということができよう。

〈戦後民主主義〉の幻想論者たちが執拗(しつよう)に攻撃したのは，まさにこの保守支配のメカニズムであった。彼らの革命運動は，高度産業社会に対する鋭い否定と拒否の論理をもちつつ，世界的な規模で展開した。特に，彼らの二重権力論が提起した〈大衆直接民主主義〉は，その先駆性理論に固執することから生じる国民の組織化に関する側面の欠落にもかかわらず，管理社会に対するアンチ-テーゼとして注目に値するものがあった。しかし，現代の〈巨大社会〉における民主主義は，基本的民主化の方向として，議会制民主主義と直接民主主義の効果的な組み合わせを必要とする。巨大な現代政治の世界に対する無力感や不可視性のため，主権者としての国民が脱政治化していく状況においては，国民生活に密接な自治体や地域の政治を中範囲の領域としてセットして，それへの積極的参加を促進することが，民主主義の革新のため有効な戦術といえよう。たとえば，日本経済の高度成長に伴う都市問題や産業公害の累積的増大，社会資本や社会保障制度の欠如，地域間格差の増大などの諸問題が，自治体レベルに集積している現実である。この可視的で参加可能な地域政治への主体的参加こそ，巨大な中央政治への新たな視界と展望を開き，民主主義を国民の側から革新する可能性を与えるものである。〔木暮正義〕





民族衣装　①ソ連　②ドイツ　③スペイン　④モロッコ　⑤インド　⑥台湾　⑦モンゴル　⑧アフリカ

った。この傾向はいまだにドイツや日本の一部の学者に残っている。これに対して，民族の小さな単位について個別的・徹底的に調査し，しかも音楽語法だけでなく，音楽がその民族の社会生活の中で果たす役割，あるいは音楽を取り囲む文化的脈絡についても研究しようとする考え方が今世紀半ばアメリカ合衆国で強まった(D. マカレスター，A. メリアムなど)。〔山口　修〕

みんぞくがく【民族学】 人類の文化の歴史と構造を研究する学問。はじめはもっぱら未開民族の文化を対象としていたが，のちには文明民族も考察の範囲に含めるようになってきた。アメリカで文化人類学*とよぶ学問の主要部分は民族学に相当し，イギリスの社会人類学*はヨーロッパ大陸での民族学の一部にあたる。ふつう理論的な比較研究を民族学とよび，特定民族の文化の記述を民族誌とよぶ。民族学の先駆は古代ギリシアにもあったが，独立の科学として成立したのは19世紀中葉であって，以来各国，各学派がそれぞれ独自の発達を遂げたため，民族学の方法や学問的傾向は国や学派によってかなり異なっている。大ざっぱな傾向としては，ドイツ・オーストリアでは民族学を歴史科学とみる傾向が強く，イギリスやフランスでは社会構造の研究に重点があり，アメリカではこの二つのほかに心理学的立場も強い。〔大林太良〕

みんぞくがく【民俗学】 民間伝承*(伝承資料)を比較研究することによって，民族文化の究明をめざす学問。文明度の高い民族にあっては，その文化は表層文化と基層文化という2層構造をもつものとして理解されなければならない。表層文化は特殊的・個性的・一回的な性格が顕著で，早くから書き残された文献資料があるため，その究明は主として歴史学(文献史学)によって進められてきた。表層文化が沈下して基層文化に影響を与えるという面も認められるが，全体として表層文化は基層文化にささえられてきたという面が強い。そして民族文化の民族文化らしい性格は，基層文化においてより濃厚に見いだせるであろう。ところ

➔256ページ

民　　族

〔定義〕言語・地域・文化の共通性に基づく心理状態の共通性(民族性)を基盤として，運命共同体としての自覚(民族意識)をもっている人々の集団。その分類は相対的なもので，ヨーロッパ民族に対するアジア民族という大きい区分も成立するし，アメリカにおけるヨーロッパ系民族に対するアメリカ-インディアン，アメリカ-インディアンの中でのプエブロ族に対するナバホ族というように，しだいに小さくなる区分も成立する。

〔民族と人種〕人種は身体的特徴の共通性から人類を生物学的に区分する概念であるのに対し，民族は文化的共通性を基準として人類を社会的に区分する概念である。しかし，民族という語が，〈共通の祖先をもつ血縁共同体〉であると意識され，さらに〈同じ血が流れている〉という信仰や神話によってささえられていることがしばしばある。こうして，文化的な概念である民族に生物学的要素を付着し，極端な場合には民族と人種を同義語と感じたり，両者を混同したりするので注意を要する。

〔民族と言語〕民族は共通の言語をもつことを前提とするが，言語が共通であれば必ず一つの民族を構成するとはかぎらない。フランス民族はフランス語という共通語を前提の一つとして成立しているが，フランス系のスイス人やベルギー人はフランス民族と区別されうる。スペイン語を使用するメキシコ人はスペイン民族とは区別される。

〔民族と国家〕文化的な概念である民族と政治的概念である国家は必ずしも1対1の対応を示さない。日本のように日本民族が大部分を占めて統一国家を形成している場合もあるが，現在(1969)の朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国(だいかんみんこく)のように1民族が2国家に分かれていたりする。アメリカ合衆国・インド共和国・インドネシア共和国のように多数の民族が1国家を構成する場合(多民族国家)もある。さらに，ジプシー*や，イスラエル独立以前のユダヤ民族のように国家をもたない民族もある。一般に，民族は，国民として1国家を形成することを望み，ここに近代における民族問題が発生する。多民族国家の場合，独立や統一の実現，国内の少数民族の同化吸収に際して，運命共同体としての〈統一民族〉の一体感を高めるために，①〈民族語〉としての共通語の整理・標準化・普及，②祭典・国民祝日による統一シンボルの形成，③国家内の諸民族間の通婚の奨励などが政策的に行なわれる場合がある。単民族国家でも，多民族国家でも，戦争などの対外的危機や内部分裂の危機に直面すると，民族の共同体意識の高揚を図るナショナリズム*が強まることが多い。

〔自民族至上主義〕エスノセントリズムの訳語で，自民族の習慣・価値観・民族性は，他民族に比べて最もすぐれているという考え方。世界の諸民族の間に普通にみられる現象で，中華思想，ユダヤ人の選民意識，ナチスのアーリア人優越主義，第2次世界大戦中の日本の皇民意識などはその一例にすぎない。現代の思潮として，各民族の文化のもつ価値の相対性を認め，それぞれの文化の尊厳を重んじ，政治的にも民族自決主義をとる考え方が，自民族至上主義のアンチテーゼとして生まれてきた。しかし，現在でも心理的なよりどころとして，自民族の優越を信じる人々は多い。異民族と接触する場合，個人的な感情のもつれや誤解が生ずると，それを直ちに相手の民族のずるさ・怠惰・不正直・意地悪のゆえだと，自己の価値基準によって解釈し，自分の属する民族の優越性を再確認して，自分の具体的な行動を合理化・正当化するという現象はしばしばみられる。このような心理的過程から生ずる民族差別の信念や偏見，同一祖先から成立したと信ずる仲間意識などが，民族と民族の間の融和を妨げ，それが政治的・経済的問題とからんで抗争を激しくし，民族問題の起因や深刻化の要因となる。

〔民族問題〕二つ以上の民族が同一地域に住んでいたり，1国家を形成したりしている場合に民族集団間に生ずる政治的・経済的・社会的な問題。このような社会では，それぞれの民族の各成員は，自分の属する民族への帰属感を強め，成員間の仲間意識を固めて民族集団の結束を増す反面，他民族の成員に対して差別感・反感をいだき，排斥・排撃・差別などの行動をとりやすい。こういう感情や態度は，両民族集団の接触交渉の様式，人種的・文化的差異の度合い，政治的・経済的勢力の差，さらに政府が民族融和政策をとっているかどうかなどの条件によって種々な様相を呈する。また，現実には，民族問題は，人種的偏見に基づく人種問題と同時に現われることが多い。政策決定者が，民族問題に関してとる政策には次のようなものがある。①絶滅：ナチスのユダヤ人虐殺などがこの例である。また，意図的な絶滅でなくても，白人が植民地に伝染病や酒を持ち込み，それに対処する医療政策をもたなかったために，原住民が死滅したり，人口が激減した例は，南北アメリカ大陸やオーストラリアなどに多い。②放逐：これは絶滅政策や同化政策がうまくいかないときにとられることの多いもので，たとえば，キリスト教徒によるユダヤ人の放逐，イギリスのヘンリー8世のジプシー追放，白人によるアメリカ-インディアンの強制疎開などがある。③入国制限・拒否：これは異民族が新しくはいることによって将来生ずる政治的・経済的・社会的問題を防止するためにとられる政策で，アメリカ合衆国の東洋人に対する市民権獲得制限，オーストラリアでの市民権獲得の条件に加味される民族差の問題などがこれである。④同化政策：これが進んでいるのはハワイ・ブラジルなど。雑婚によって民族間の文化の交流が行なわれ，文化的差異が縮まると，さらに雑婚の傾向が生まれる。また，職場や，資格獲得に際する民族差別や，経済競争における民族差別を排除すると，個人の集団帰属意識は，民族差よりも社会階層差により強い基盤をおくようになる場合がある。これは，南北両アメリカの民族同化の過程や，インドネシアのエリート集団の形成過程においてみられる現象である。⑤隔離：居住地域をことにさせる空間的な隔離政策は，南アフリカ共和国に例がある。生活様式に制限や規定を与え民族差を保とうとする社会的な隔離政策はアメリカ合衆国南部諸州の黒人と白人の差別，世界各地の植民地における植民者と被植民者の差別などである。⑥多元主義：1国家を構成するすべての民族の平等と主権を認め，各文化の独自性を寛容に尊重し集団間相互の協調を期待するもので，ソ連・スイスがこの政策を実行している。

〔民族主義〕日本語の民族主義は〈国家主義(ナショナリズム*)〉と同義に使われたり，人種差別を教義的に主張する〈レイシズム〉〈レイシャリズム〉の訳語として用いられたりする。前者の場合は，民族の統一と独立，民族国家の建設と発展をめざす思想と行動をさす。後者のレイシズムは人種論ともよばれ，人類の過去の歴史は，この人種的偏見に基づく，政治的・経済的・社会的な矛盾に満ちている。1951年のユネスコの人種宣言はこれに強く反対し，機会の均等と法の下の平等が生物学的な人種によって異なるべきでないことを主張している。

〔民族性〕各民族のもっている思考様式や心理的特性。民族性を生み出す要因としては，①遺伝因子論，②環境としての気候その他の〈風土〉決定論，③環境としての社会や文化より学習するという理論などがあるが，最近の研究によれば，遺伝子によりある程度生物学的な方向性や制限を与えられた個人が，共通の社会的・文化的環境の影響のもとに性格や思考様式を形成し，同一民族に属する個人は，その性格や思考様式をもつ可能性が高いために民族性が生ずると考えられている。そして，風土的条件は社会構造や生活様式の全体に影響し，したがって民族性に対しては間接的な影響力をもつと考えられている。

〔未開民族〕文字をもつ文明民族に対し，文字をもたない民族をいう。〔原ひろ子〕

民族音楽

諸民族がそれぞれの民族性ないし国民性を反映させた音楽伝統。その民族性は旋律・リズム・発声法・楽器などの音楽的な面からばかりでなく，音楽が宗教・舞踊・労働といった社会の中で位置づけられている機能的な面からも，その民族に固有な特徴として具体化されている。言い換えれば，それぞれの民族音楽は，一群の音楽構造上の特徴と一群の社会機能上の特徴とをもっている。そうした特徴の一つ一つを個別的に取り出してみれば，類似した特徴が他民族の音楽にも同じように見うけられることもあるだろう。実際，つながりのある民族，たとえば共通の祖先から派生した二つの民族や混血によって生じた諸民族などでは，類似した特徴の数の多いことがわかっている。すなわち，一般論としては，二つの民族が民族分類上から近い関係にあればあるほど，その二つの民族音楽は多くの共通の特徴をもつということがいえよう。

〔分類〕 このような観点から世界の民族音楽をごくおおまかに分類するなら，自然民族の音楽*と高文化民族の音楽とに二分される。後者はさらにそれぞれの文化の中で芸術音楽・民俗音楽，そして場合によっては新しい大衆音楽(ポピュラー音楽*)という区分をもっている。したがって民族音楽と民俗音楽という混同されやすい二つの用語は明確に区別されなければならない。再定義するなら，民族音楽は諸民族の固有の音楽であり，これに対して民俗音楽は民族の如何(いかん)にかかわらず芸術音楽に相対する音楽(民謡*を代表とする)をさすのである。音楽と関連の深い舞踊についても同じように民族舞踊*と民俗舞踊とが区別される。また，民族音楽を地理的に分類すると次のようになる。自然民族の音楽という部類にはいるものとしては，アフリカ音楽*，アメリカ-インディアンの音楽，オーストラリア(原住民)の音楽，オセアニア音楽*(ポリネシア・メラネシア・ニューギニア・ミクロネシア)および高文化領域の中に散在する少数自然民族(アイヌ・高砂族(たかさごぞく)など)の音楽があげられる。他方，高文化民族の音楽という部類にはいるものとしては，東アジアの音楽(中国音楽*・朝鮮音楽*・日本音楽*・琉球(りゅうきゅう)音楽*・モンゴル音楽*・チベット音楽*および部分的にベトナム音楽*)，東南アジア音楽*(フィリピン音楽*・ベトナム音楽・タイ音楽*・ビルマ音楽*・インドネシアの音楽)，南アジアの音楽(インド音楽*)，中央アジア音楽*，西アジア音楽*(アラビア音楽*・エジプト音楽*・ユダヤ音楽*・古代オリエントの音楽)，東ヨーロッパの音楽(ギリシア音楽*・ハンガリーの音楽その他)，北ヨーロッパの音楽(ソビエト-ロシア音楽*など)，西ヨーロッパの音楽(ドイツ音楽*・フランス音楽*・スペイン音楽*など)，アメリカ後住民の音楽(アングロ-サクソン系音楽・スペイン系音楽・ポルトガル系音楽・黒人音楽・混合音楽)(→ジャズ)などがある。

〔音楽的特徴〕 民族音楽の音楽構造上の民族的な特徴は，編成などの演奏慣習と，旋律・リズムなどの音楽内部構造にある。

〈編成〉 まず演奏者の数という観点からソロ，少人数によるアンサンブル，多人数のもの，ソロ(音頭*)・グループ対比などの形態が諸民族それぞれの好みによって採用される。また，民族によっては男女の性別が意識的に区別されたり，混成されたりする。さらに編成がより音楽的に規定されるのは声楽・器楽の区別あるいは混成によってである。このような編成に関する演奏慣習は，しばしば各民族の社会構造・風俗習慣を反映している。たとえば東ヨーロッパ・アメリカ-インディアン・インドネシアのように共同体意識が強力な民族にあっては，統一されたグループ演奏がレパートリーの多数を占める。もっと具体的にいえば，アメリカ-インディアンのグループ歌唱のほとんどがユニゾン(→斉唱)であることと，インドネシアのガムランが層的多声部構造の器楽合奏を基礎としていることとは，共同体意識の微妙な違いと社会構造の違いを明らかに示しているといわれる。またオセアニアで広く見うけられる，男女がいっしょに演奏しないという伝統的な習慣は，音楽的に音色統一感をねらうばかりでなく，同時にその社会での社会的分業と宗教的タブーにしたがった必然的な結果でもある。

〈音楽内部構造〉 民族性を決定するのはテクスチャー・形式・音高構造・時間構造・音強構造・音色構造など音楽の構造的側面にもよっている。①テクスチャー：前述した編成に直接関係する音楽構成意図で，民族音楽においては単声性(モノフォニー)と多声性*(ヘテロフォニー*・ポリフォニー*・和声*・平行など)とに大別される。たとえばモノフォニーとしてはアメリカ-インディアン，ヘテロフォニーとしてはアジアの大部分，ポリフォニー・和声としてはヨーロッパやアフリカ，平行歌唱としてはヨーロッパ・ポリネシア・マダガスカルなどの諸民族の音楽が目だっている。また，リズム上のテクスチャーとしては，同一の基本リズムが貫かれるホモリズム(大部分の民族)と，異なるリズム原理が同時に利用されるポリリズム(アフリカ)とがある。②形式ないし楽式：即興演奏を基盤としてモザイク的に多数のモチーフを散りばめる自由形式と，部分的に即興の要素があるだけで全体としては一定の法則にしたがった固定形式とがある。前者の代表例はペルシア音楽である。後者の固定形式には固定の度合いが種々あり，単なる一定数のパターンの反復・変奏(自然民族)や，図式的数量的なバランスやコントラストを意図した形式(ヨーロッパ・東アジアなど)，また主題の理論的変奏に基づく展開形式(ヨーロッパ・インド)などがある。③音高構造：音組織*・音域・旋律がこれをささえている。音組織の基礎となる音階では，アタック(音の出はじめの状態)のはっきりした音をもつ大部分の民族の場合には，使用する音の数がまず問題となる。自然民族でしばしばみられる少数音階(1・2・3・4音など)，アフリカ・アジア・ヨーロッパ・アメリカ-インディアンなど例の多い5音音階*(ペンタトニック)，実践上はともかく理論上からの多数音階(ヨーロッパ・インド・東アジア)などが顕著である。音階では数ばかりでなく使用される音程も民族性決定の重要な要素であり，微小音(微分音)が圧倒的な自然民族，平均律の音程によるヨーロッパ，両者を混用するアラビア・インド・東アジアが特徴的である。民族によってはアタックが明瞭(めいりょう)でなく，したがって音階に還元するのが困難であったり，あるいはむしろ無意味であったりする音楽がある。それはグリッサンド(滑音)が音組織の基本になっている場合であり，オセアニアやアジアの一部で聞くことができる。音域については，広い狭いといった幅ばかりでなく，音域位置にも注意しなければならない。近世邦楽の多くのものが高音域位置に傾いたり，ラマ教の声楽様式が極端に低い音域位置の特徴をもったりすることがあるからである。旋律に現われる民族性はまず旋律輪郭によることが考えられる。それはオーストラリア原住民の音楽に典型的にみられる明確な下行形旋律の反復や，日本民謡に頻繁(ひんぱん)に現われる波状旋律といった場合である。さらに旋律フレーズの長短が民族的特徴を決定することもある。たとえばそれはポリネシアの声楽について知られている，できるだけ一息で長いフレーズを歌うのがよいとされることや，東南アジアのフルートのあるものにみられるように，訓練を積んだ特殊な呼吸法を使って切れめなく演奏する方法などもある。また音高構造上のいっそう重要な側面として装飾がある。インドやインドネシアなどの芸術音楽と追分様式の日本やモンゴルの民謡では，複雑な装飾音型が好まれる。これと対照的に，多くの文化にある神話や叙事詩をうたう語り物的音楽では，歌詞が優先してメリスマ*はあまり使われないのが普通である。④時間構造：この観点から民族音楽を眺望(ちょうぼう)してみると，リズム・拍節法(メトリック)・テンポという点から様式の区別ができることが多い。リズム構造は，前述したホモリズム・ポリリズ









①オーストラリア原住民においては音楽と舞踊は不可分である。楽器はわずかしかない。カンガルーをはじめ動物の動作をまねた踊りでは音響管が用いられ，ときには１週間も踊り続けられる　②台湾の孔子廟では，春秋の釈奠の祭り(孔子祭)に楽舞が催され，用いられる楽器は祭器として尊重されている　③ヨーロッパのアルプス地方に古くから伝わるアルペンホルン。原始的なホルンの一種であるが，２～３本を同時に鳴らして美しい和音をもつ旋律を奏することもできる　④アフリカ，ガーナでは木琴に似たバラフォンがメロディーを奏し，さまざまな太鼓でリズムが強調される

ムの対概念のほかに，リズムパターンの反復(イソリズム*)・変奏，小音価やシンコペーション*を含んだ複雑なリズム(アフリカ・インド)などの演奏意図が問題となる。そしてリズム構成の基本原理として分割リズム(拍の分割)と付加リズム(拍数を加算的にふやす)とがある。前者の例は西ヨーロッパ，後者の例はインドにみられる。拍節法はまず第１に自由リズム(拍感がない)と固定リズム(明白な拍感をもつ)，第２に一定の拍節によるイソメトリック(朝鮮の３拍子系，日本・中国の２拍子系，西ヨーロッパの大部分の拍節法)といくつかの異なる拍節が交代するヘテロメトリック(東ヨーロッパ・アフリカ・インド)とが重要である。テンポは一定であるか，変化するか，変化するとすれば，急激な変化か漸次変化かということが意味をもつこともある。⑤音強構造：テンポと同じように音量が一定・急激変化・漸次変化のいずれであるかが問題となる。古代中国の琴楽は極端に音量が小さいことが特徴であるし，バリ島のガムランは音量大小の対比を効果的に使った音楽であることを参考にすると興味深い。⑥音色構造：器楽と声楽の使い分けや組み合わせ，器楽内部における楽器編成，声楽における声楽技法ないし発声法(各民族言語との関連を考慮すること)などに民族固有の特色が現われる。たとえば日本伝統音楽はレパートリーの圧倒的多数が声楽であり，擦弦楽器があまり意義深い役割を果たさず，むしろ箏(そう)・三味線(しゃみせん)・琵琶(びわ)といった持続音効果の少ない楽器のほうが優遇されるということ，また，自然民族の多くが鼻音的効果をめざした発声をするということなどからも，上記のことが理解されるのである。

ここにあげたような音楽語法のほかにも，多くのものが実際に諸民族の音楽の中にみられるはずであり，その詳細な記述・採譜・分析・比較による情報は民族音楽学*の既出版文献にある程度求めることができるし，将来さらに研究が進むであろう。

〔文化的脈絡〕 世界の民族音楽の多くは，いわゆる〈クラシック〉についていえるような芸術至上主義的ないし美的な純芸術という性格をもつのではなく，それぞれの社会の中で機能的な位置を占め，宗教儀礼・労働・恋愛・日常生活などの文化的背景に直接結びついた音楽となっている。高度な音楽理論に裏づけられたインドやインドネシアの芸術音楽でさえも，純粋に音の構成美を楽しむためだけのものではない。マカーム*やラーガ*などの旋律法原理が，時間・季節・情動といった音楽以外のものと，概念的・心理的に密接な関係をもたされているということがその一つの証拠である。ましてや，高文化内の民俗音楽や自然民族の音楽は，その社会のメンバーの政治的・経済的・宗教的その他の社会生活とより直接的に関連しているといえる。音楽が政治的脈絡にどのように組み込まれるかというと，たとえば，西アフリカのいくつかの社会では，支配階級の人々だけに許される特定の太鼓や太鼓のリズムパターンが規定されていたり，ミクロネシア(特にパラオ)の社会では，政治的指導者の地位を保つ目的で，集会の場で歌詞に英雄的業績をたたえる内容を込めた歌をうたうという効果的な音楽利用方法があったりする。また，経済的な機能が音楽に認められる最も典型的な例としては，呪術(じゅじゅつ)的・医療的効力をもつとされている特殊なレパートリーを所有する人が，その音楽を演奏したり他人に教えたりして，経済的な利潤を得ることができるという自然民族音楽の一面がある。宗教的には祭祀(さいし)に際して音楽の聴覚的要素が，特殊な衣装や祭祀用具の神秘的な装飾文様・色彩などの視覚的要素，飲食物・香などの味覚・嗅覚(きゅうかく)的要素などとともに，その場では不可欠の事項となっている。

以上のように社会的・共同体的な周辺状況に囲まれた民族音楽は，多くの場合舞踊とともに，そこの社会構成メンバーの積極的な音楽行動によって存続が可能となっている。すなわち各民族の中で音楽家として認められた人々の役割は，約束あるいは伝統の価値体系にしたがって，作曲・演奏・教授学習(伝承)・評価などの行動をとることなのである。したがって民族音楽は，それぞれの民族の中で特定の社会文化的意義を与えられ，特定の音楽構造を備えた音響現象として理解することができる。しかし，いかなる民族音楽といえども一定の社会様式・音響様式を保ち続けるわけではなく，時の経過とともに，その民族の内部的変化や他民族との交流を通じて変容していくのがつねである。そして中にはヨーロッパやインドの芸術音楽あるいはアフロ-アメリカ民族の芸術音楽としてのジャズなどの例からもわかるように，もとは特定の民族だけによって享受されていたものが，しだいに複数の民族に受け入れられるようになって普遍性を増し，本来の民族音楽の概念から離れていく音楽もある。〔山口　修〕

で基層文化については，そのにない手であった一般庶民，すなわち農民・漁民・町人や諸職の工人などが長い間文字に縁のない存在であったところから，文献記録の類がほとんど残されていない。文献資料に代わるものとしては伝承資料の利用であるが，その扱い方が文献と異なるのは当然である。伝承資料は類型的であり，集団によってささえられ，根本的にはくり返し的な性格が顕著である。しかし長い年代にわたって伝承されていくうちには，くり返さない部分が生じてくる。その変化は地域ごとに一様ではなく，遅速の差があったと考えられる。現在われわれが同種の民族について，各地の資料をできるかぎり数多く集めてみた場合，著しい類似と同時に差異が眼につくのは，以上のような理法に基づくものである。この類似と差異を手がかりとして，比較研究を進めることによって，現在からさかのぼって歴史的変遷の過程を跡づけていくことが可能なはずである。このような操作が民俗学的方法とよばれるものである。個々の伝承資料の意義を考えるにあたって，それを類型化し，比較研究法によって歴史的変遷を跡づけるという点で，民俗学は広い意味の歴史学，少なくとも歴史科学に属する学問として位置づけられる。

民俗学の成立は，庶民というものと民間伝承を処理する方法の発見にかかっていた。そうした意味でこの学問が一個の独立科学として体系を整えだしたのは，ヨーロッパにおいては19世紀後半にはいってからである。現在この学問の学術用語として使用されているフォークロアあるいはフォルクスクンデということばがつくり出されたのもこの時期においてである。日本においては，民俗研究の萌芽(ほうが)的なものは，すでに江戸時代後期からあったが，日本民俗学として独自の地位を認められるようになったのは大正年代にはいってからであり柳田国男*の出現によって体系的な学問としてその地位を固めた。〔直江広治〕

みんぞくげいのう【民俗芸能】民間に伝承される各種の芸能。民間芸能・郷土芸能ともいう。宗教的起源をもつものが多く，信仰と結びついて比較的古い形を保って伝承されている。職業的な芸人によらずに村落社会の成員老若男女によって，祭礼行事とともに年々くり返し演じられてきた。民俗芸能は発生の動機を考慮しながら分類すると，①神楽*(かぐら)，②田楽*，③風流*(ふりゅう)，④舞楽*や延年舞，⑤能*・狂言*・地芝居，⑥人形劇，⑦万歳・春駒(はるこま)などの大道芸・門づけ芸などに分けられる。

みんぞくしゅぎ【民族主義】⇨ナショナリズム

みんぞくぶよう【民族舞踊】世界の諸民族がそれぞれの民族性の表現を芸術的な身体動作のパターンとして伝統化した舞踊。舞踊に現われる民族性とは，舞踊の目的(宗教儀式・労働・娯楽・純芸術)，他の諸芸術(音楽・演劇・美術)との関係，動作のパターン(動的・静的あるいは身体部分運動の特徴)，踊り手の組み合わせ(ソロ・男女デュエット・同性群舞・異性群舞など)，フォーメーション(列配置・円形配置・多様配置)，表現意図および方法(マイム的模倣，運動によるエネルギー発散など)といった多くの側面からの特徴の組み合わせによっている。ほとんどすべての民族が自分たちの民族舞踊をもっているが，特筆すべき例としては次のようなものがあげられる。本能的に身体を動かし続けるアフリカ諸部族の舞踊・インド舞踊*・インドネシア舞踊*・タイ舞踊，アクロバット的なものを含む中国舞踊，能・歌舞伎(かぶき)・地歌舞などにおける静止的な日本舞踊*，戦闘踊り・棒踊り・座踊りなどのオセアニア舞踊，種々の動物をまねた主として円舞のアメリカ-インディアンの踊り，そのほかヨーロッパ諸国ではレントラー(ドイツ)・ワルツ*(オーストリア)・ガボット*・ブーレー*(以上フランス)・ポルカ*(チェコスロバキア)・ポロネーズ*・マズルカ*(以上ポーランド)・タランテラ(イタリア)・ボレロ*・タンゴ*・フラメンコ*(以上スペイン)，さらに複雑なリズムによる東ヨーロッパ諸国の民俗舞踊，中近東諸国の結婚式その他における踊りなどが有名である。〔山口　修〕

ミンダナオ(島)［Mindanao］フィリピン南東部の大島。フィリピン諸島中ルソン島に次ぐ第2の面積をもつ。面積95,587km²，人口約530万。東は太平洋，南はセレベス海，西はスル海，北はミンダナオ海に面する。屈曲に富む海岸線をもつ火山性山地と高原の島で，フィリピン諸島の最高峰アポ山(2,965m)がある。高温多雨で森林におおわれ，チーク・ラワン材を産する。耕地は島の面積の2％しかないが，米・サトウキビ・ワタ・トウモロコシ・タバコ・コーヒー・アサを産する。スリガオに鉄鉱山があり，ほかに金・銅・石炭も産出する。都市の周辺以外は道路も発達せず，沿岸と河川の水運が交通上重要な役割を果たしている。主要都市はダバオ・サンボアンガ。〔大崎　晃〕

みんちょう【明兆】(1352～1431) 室町初期の東福寺の画僧。諱(いみな)は吉山。淡路(兵庫県)の人で大道一以の法弟。応永年中(1394～1427)殿司(でんす)職につき，兆殿司と俗称された。宅磨(たくま)派以来の日本の漢画風仏画，また渡来した宋(そう)・元の道釈画・羅漢(らかん)画などを学び，元の顔輝をはじめ明の仏画に至るまで典拠を求めており，本領は濃彩の仏画である。《五百羅漢図》などが代表作で，《聖一国師像》などの肖像画もある。一方，水墨山水画・禅林肖像画にもひいで，《渓陰(けいいん)小築図》が彼の筆とされる。筆致は筆あたりの強い墨気濃厚なもので，霊彩・一之ら東福寺系画風の基礎となった。〔中島純司〕

みんていけんぽう【民定憲法】憲法制定会議を国民の公選で組織し，そこで草案を審議・可決して公布される憲法。特に第2次世界大戦後は，普通この方法がとられている。この可決された草案が，さらに国民投票*に付せられ，そのうえで公布・施行されるという民主的な手続きがとられるわけである。民約憲法といわれたこともある。このほか，君主が草案を国民代表の会議(憲法議会など)に付し，それが審議・可決を得て公布される憲法を，協定憲法(協約憲法)という。➔欽定憲法〔鈴木安蔵〕

みんてき【明笛】中国の楽器で明楽に使われる。縦笛(長簫(ちょうしょう))をさすこともあるが，普通は横笛のことである。長さ約67cmの細い竹管で，両端は唐木(からき)や象牙(ぞうげ)で装飾してある。穴は12個あるが，下の4個(うち2個は裏側)は飾り穴である。等間隔で並んだ6個が指穴，少し離れてあるのが響孔，さらに離れて歌口がある。響孔には湿らせた薄い皮膜を張り，発音とともにこれを響かせてさわり*のような効果をねらう。〔山口　修〕

ミンドロ(島)［Mindoro］フィリピン諸島，ルソン島の南にある島。面積9,736km²，人口31万。平野は少なく山がちで，北部にハルコン山(2,505m)がある。モンスーン帯にあって雨量が多く，サトウキビの栽培が盛ん。ほかに米・カカオ・タバコ・アサ・ワタを産する。森林におおわれ，マホガニーをマニラの木材市場へ積み出す。鉱物資源には富むが，開発は遅れている。中心都市は北岸のカラパン。

ミンネゼンガー［Minnesänger］フランスのトルーベール*やトルバドール*の影響のもとに成立したドイツの詩人・音楽家。彼らの多くは貴族であり，その活動期は12～15世紀初頭に及ぶ。現在残っている音楽は，だいたい1200年以降のものであり，時代的に13世紀初期～同中期～同後期～14世紀以降に分けられる。しかし，この運動そのものは13世紀初期にはすでに衰退に向かっている。詩の内容はフランスのそれに比べて道徳的色彩が強く，聖母マリアの賛歌が大半を占める。音楽形式はA～A～Bのいわゆるバール形式と，フランスのレからきたライヒ形式(一つの旋律を少しずつ変形しながら歌い進めていく)とがおもである。また教会旋法への結びつきは，トルーベールなどより強固である。代表的なミンネゼンガーとしてワルター-フォン-デアー-フォーゲルワイデ・ナイトハルト-フォン-ロイエンタールらがあげられる。〔吉田泰輔〕

みんぶしょう【民部省】①律令(りつりょう)官制における八省の一つで，太政官(だじょうかん)の下にあって民政全般をつかさどる官庁。職員には卿(かみ)・輔(すけ)・丞(じょう)・録(さかん)の四等官があり，そのもとに史生(ししょう)・省掌・使部・直丁が属した。被管*の官

庁には主計(調・庸などの支出計画)・主税(租の総括的管理)の2寮があった。②明治初年の官庁。1869年(明治2)7月官制改革で新設。広く通商・産業・交通の諸事業を統轄したが1871年廃止され，その事務の大部分はやがて内務省*に引き継がれた。〔黛　弘道〕

みんぽう【民法】私法の一般法ないし原則法をいう。すなわち，近代社会において自由・平等・独立の法的人格を有する各人相互の財産関係および家族関係を規律する私法的領域の基礎法をなすものをいう。しかし，通常，民法といえば民法典をさすことが多い。明治維新後，明治政府は，近代国家として，国内的には資本主義生産を発展させるとともに，対外的には不平等条約の改正，治外法権の撤廃を図るために体系的な民法典を制定し，近代的な裁判制度を確立する必要に迫られていた。そこで明治政府は，当初はフランス民法を翻訳してそのまま日本民法としようとしたこともあったが，1879年(明治12)フランス法学者ボアソナード*を招き，フランス民法を講義させて司法官を養成するとともに，民法草案を起草させた。こうして民法典(旧民法)はなり，いったん1890年に公布され，1893年から施行されるはずであったが，いわゆる民法典論争*を生じ，ついに施行は無期延期となった。旧民法に代わって新たに編纂(へんさん)されたのが現行民法である。穂積陳重*(ほづみのぶしげ)・富井政章*(まさあき)・梅謙次郎*を起草委員とし，当時発表されたドイツ民法第一草案を参考として作成された。1896年に前3編(総則・物権・債権)が，1898年に後2編(親族・相続)が公布され，ともに同年7月16日から施行された。しかし，民法典中親族・相続編は，わが国古来の淳風(じゅんぷう)美俗であるという名のもとに，家父長的家族制度を採用した前近代的規定であったため，前3編の，資本制経済を確立する制度的条件たる市民社会的法秩序を定めた規定とは不統一・矛盾するものとなっていた。そこで，大正末期より，民法学者間ではこれを改正する要望が強かった。しかし，また逆に，戸主権の強化を図って国家統制を強めようとするために，民法典に反動的改正を加えようとする政府の動きもあり，結局は大きな改正はなされなかった。第2次世界大戦後，日本国憲法が新たに制定され，個人の尊厳と両性の本質的平等が家族法においてもその基本原理となることが宣明せられたため(憲法24条)，この基本原理と相矛盾する親族・相続編は根本的改正の必要に迫られ，1947年(昭和22)民法応急措置法を施行することによって，暫定的に新憲法の理念と衝突する民法の規定を修正した。のち同年法律222号によって両編の改正法が公布され，1948年1月1日から施行された。なお，この際民法第1編冒頭に私法解釈の基準となる原理を明らかにする2か条が設けられるとともに，妻の行為無能力の規定が削除された。1898年の民法典施行後，資本制経済の著しい発展に伴い，民法はその他の規定においても，各種の特別法の制定などによって，修正・整備・補充されて今日に至っている。〔黒木三郎〕

みんぽう【民報】中国，清(しん)末の中国同盟会*の機関誌。1905年11月に創刊され，1910年2月の26号で終わった。おもな執筆者は胡漢民(こかんみん)・汪兆銘*(おうちょうめい)・陳天華・章炳麟*(しょうへいりん)。原則として月刊，毎号120～180ページ，発行部数は40,000～50,000，日本の東京で出版された。発刊の辞は孫文。有名な三民主義が，ここで最初に書かれた。のち孫文派に対抗して章炳麟派が編集の実権を握る。1957年にリプリント版，1972年に索引が出版された。〔勝村哲也〕

みんぽうてんろんそう【民法典論争】明治時代における旧民法公布をめぐる論争。国内における市民社会の発展の促進を図るためのみでなく，不平等条約*の改正，治外法権*の撤廃を図るため法典の編纂(へんさん)・整備を急いだ明治政府は，1890年(明治23)4月フランス法学者ボアソナード*の原案を修正した民法のうち，財産編・財産取得編・債権担保編・証拠編を公布，また10月には日本人起草の財産取得編の相続・人事編を公布し，1893年に施行すると定めた。しかし，これよりさき1889年東京大学のイギリス法学派で構成する法学士会が本法案に対して提出した意見書をめぐって，イギリス・フランス2法学派の賛否両論が起こり，1893年の施行の前年に論争は頂点に達した。その主要な争点は，旧民法がフランス民法を範として，自由主義・個人主義を基調としていたため，これがわが国の国情に適するか否かという考え方の対立にあったが，論争は必ずしも民法典の内容上の本質的な理論的対立ということだけではなく，両派の相互無理解や政治的対立とみられる面も少なくなかった。しかし，フランス法学者の主張する断行論と，伝統的な歴史主義を主張するイギリス法学者の主張する延期論とによるこの論争は，ついに帝国議会を動かし，当時の新興ブルジョアジーの力は封建的反動勢力に押されて，1893年の施行は無期延期された。その後，新たに起草委員3名が任命せられ，ドイツ民法第一草案にならった明治民法が1898年に施行されることになった。〔安達淑子〕

みんぽんしゅぎ【民本主義】大正時代，吉野(よしの)作造*によって唱えられた理論。人民主権を意味する民主主義*とは区別し，政治の目的は民衆の福利にあり，政策の決定は民衆の意向によるのが憲政の本義であるとして，政党内閣制の確立，普通選挙法の実現を具体的目標とした。主権在君を認めた不徹底さはあったが，高揚する大正デモクラシー*の指導理論となった。

みんまや【三厩(村)】青森県津軽半島北部，東津軽郡の村。人口5,700。村域は三厩湾西半の龍飛崎(たっぴざき)までの海岸とその背後の山地を占め，津軽海峡をはさんで北海道松前半島と対する。海は水産物，背後の山地はヒバの良材を出す。中心集落の三厩は，かつて松前街道(三厩街道)の終点で蝦夷地(えぞち)(北海道)へ渡る要津であり，平泉をのがれた源義経(よしつね)主従3騎がここから蝦夷地に渡ったとの伝説があり，部落のはずれにその厩という岩穴がある。地名はこの伝説に由来する。津軽線の終点で，北海道福島町との間にフェリーが通じる。なお龍飛崎では，現在，青函(せいかん)トンネル*の建設工事が進められている。

みんみんぜみ【蛁蟟】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・セミ科。体長33～37mm，同翅端まで56～64mm。体は太くて短く，黒色の地に鮮緑色の斑紋(はんもん)がある。この斑紋は個体によって変化が大きく，黒色部がほとんどない個体もみられる。翅(はね)は透明で，ときにややかっ色をおび，特に翅端や外縁部で顕著である。日本全国と中国に分布する。成虫は7～9月に出現し，寒地では平地にもみられるが低山帯に多く，西南日本では山地にだけ産する。日本に産する代表的なセミの一種で，鳴き声は〈ミーンミンミンミンミンミー〉に近い。幼虫は土中で樹木の根部から吸汁(きゅうじゅう)して生活し，成虫になるまで5～6年かかると考えられるが，まだ詳しく研究されていない。

みんやくろん【民約論】ルソー*の著書。正しくは《社会契約，または政治的権利の原理》といい，《社会契約論》とも訳される。1762年オランダで刊行。政治的・道徳的に自由な自然状態を奪われ，契約によって束縛された社会状態に置かれた人間に〈自然〉を回復しようとする意図をもって書かれた。彼はその際自由・平等な主体としての個人が集まり，契約を結び，共通の利益をめざして，〈一般意志〉に導かれる政治を理想とする。その人民主権説はフランス革命に多大の影響を与えた。民主主義の古典として今日なお広く読まれている。〔石井忠厚〕

みんゆうしゃ【民友社】徳富蘇峰*(そほう)の創設による出版社。この社から発行された総合雑誌《国民之友》(1887～1899，全23巻372冊)は，政治・社会・文化の各方面に啓蒙(けいもう)的な役割を果たしたが，その主張は，自由平等をめざす平民主義を基本としていた。なお，社会主義運動の紹介，福地桜痴*・山路愛山*らによる幕末史の研究，文芸欄《藻塩草(もしおぐさ)》での文学者の育成などは，注目すべき功績である。

みんゆうりん【民有林】所有者が国以外である森林。民有林には都道府県・市町村財産区という地方公共団体の所有する公有林と，個人・会社・団体・社寺などの所有する私有林とがある。わが国の森林全体の中で民有林のしめる割合は高く，面積

では公有林10%，私有林58%，計68%であり，蓄積では公有林9%，私有林46%，計55%である。民有林は，国有林に比較して奥地林が少ないため，人工林化が進んでいる。〔野々村豊〕

みんよう【民謡】民族音楽を芸術音楽と民俗音楽とに大別するときに後者に属する音楽。言い換えれば，声楽による民俗音楽である。

【概念】民謡を定義する際にしばしば問題とされる条件，すなわち作曲者の存在が意識されない社会の基層の人々によってささえられた民間伝承(フォークロア)による歌であるとする規定は，世界の民謡の多くにあてはまりはするが，けっしてすべてについていえることではない。この条件を満たさない場合も多いし，一般論として定義するには世界の民謡の存在形態は多様でありすぎる。民族によっては，純音楽構造の相違において民謡が他の種類の音楽から区別される場合もあるだろうし，歌詞の言語構造・表現内容，演奏様式(演奏慣習)，社会の中での歌の用途・機能，音楽家・非音楽家の行動様式などの音楽をとり囲む周辺状況(脈絡)からの相違による場合もある。また民謡ないしは民俗音楽と芸術音楽との音楽的な関係を，前者は後者の前段階・準備段階であると解釈して進化論的に並べる考え方もあるが，これはごく一部に相互の影響関係が認められるだけで，多くの場合二つの大きな音楽様式の並列的共存であるとみなすほうが自然である。
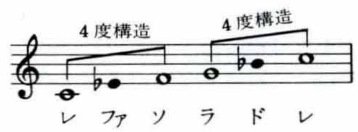
【分類】一般に，わらべ唄・子守歌・仕事歌・恋歌・娯楽歌(騒ぎ歌)・挽歌(ばんか)(葬送歌)・踊り歌などのように，便宜的に異なる分類基準の同居した形で行なわれるのが普通である。これは民謡をささえる人々が自分たちの音楽伝統に含まれる部類を論理的に分類しようとはせず，むしろそれぞれの部類の歌にとって，なにが最も特徴的であるかということに関心の中心を向けることによっている。普遍的な立場から民謡を分類する方法としては，音楽構造・文化的脈絡の二つの方向からのさまざまな特徴にしたがって分類し，その結果を統合する方法も考えられているが，実際にはまだ標準的なものはない。したがって，民謡研究者の間で広く行なわれている分類も個別的な特徴だけをとり出した方法で，それは，たとえば音階構造・リズム(固定リズムと自由リズムなど)・形式(有節形式・通作形式など)・伴奏楽器編成・歌詞形態・舞踊形態・用途・表現内容などを基準としている。

【特徴】民謡の大部分は芸術音楽のような理論的裏づけや記譜法をもたないので，同一の曲とされるものでも演奏がまちまちであることが多い。この傾向は無伴奏の歌，独唱曲の場合にいっそう強い。しかし，伴奏楽器の編成が意識的にパターン化されたり，グループ歌唱の形態がとられることが多くなったりすると，旋律やリズムの固定化現象が生じてくる。それでもなお地理的にいくらか離れると同一の曲がやはり多少異なることもある。このような現象はバリアンテ(ある音形のくり返しにおける部分的な変化)が生じたものとして把握(はあく)される。このバリアンテの一つ一つにみられる特性は，個人様式・集団様式・地域様式であったりするので，民謡の形態は，多くの場合，即興の要素が多少含まれた画一的でないものが尊ばれる。社会の中での民謡の本来の姿は，その共同体の共有財産としての歌であったり，あるいは特定の人だけしかうたえない歌でもときに聞いて楽しむというような，いわば社会統合的またはコミュニケーション手段的なものであることが多い。したがって普通は民謡についての職業音楽家というものは存在しない。しかし，音楽様式が変化するにつれ，単なる口承に加えて才能と訓練が必要になってきたり，社会分業が推し進められるようになるにつれて，とりわけ祭祀(さいし)的音楽家は職業的地位をもつようになっていく傾向もある。

【伝播(でんぱ)】通常，民謡はある1か所にとどまらず，村落間・種族間で婚姻・交易その他の人的交流を通して他の地域へと伝播していく。その伝播のしかたは，原曲がそのまま伝えられる場合よりも，むしろ，音楽構造の特徴ある一部分や歌詞だけが移行することのほうが多く，そういう場合には原曲の本体は失われて新しい別の曲が生まれることになる。こうした伝承・伝播が種種の形で長い期間にわたって進行するにつれて，より広い地域全体に同質的音楽特徴が浸透していくものと推定することもできる。

現代文明社会ではマスコミの影響や価値体系変換などが起因して，共同体の民謡やバリアンテの豊富な民謡は少なくなる傾向にあり，〈正調〉というレッテルが日本民謡につけられる例から察せられるように，画一化される現象が生じている。〔山口 修〕

みんようおんかい【民謡音階】日本音楽，中でもわらべ唄・民謡など基本的なところで使われる音階。ただし，わらべ唄や物売りの声ではこの音階の一部分のみが使われる。半音を含まない。



みんりつ【明律】中国の明・清(しん)時代に施行された刑法。朝鮮李朝(りちょう)で準用され，ベトナム・日本の法律にも影響を与えた。明初に数回の改定を経て，1397年に確定した。名例・吏・戸・礼・兵・刑・工の7律，460条，30巻。

みんわ【民話】ことばのなりたちは民間説話の略語であるが，その意味する内容には3種の別がある。①昔話・民譚(みんたん)・民間説話とよばれるものとまったく同義に用いる，②昔話よりは広義に，口承の物語のいっさいを包括させて用いる，③昔話を素材としながらも，これに文学的ないし文芸的表現を加えたものをさすなどがあり，最近では特に③の意味での用い方が顕著である。木下順二の《夕鶴(ゆうづる)》や《三年寝太郎》など一連の民話作品は，③の類型にはいるもので，もはや昔話そのものとはいいがたい。《夕鶴》に代表される民話作品が歓迎された理由は，その素材となった昔話に対して，日本人がいわば民族の心の故郷として，郷愁に似た感情をつないでいることによるといえよう。〔直江広治〕

む

む【無】 プラトン以来，西洋哲学において考えられた無の観念は，ほとんどすべての存在に対立する相対的な無を意味した。言い替えれば，存在の否定，非存在であった。ヘーゲルは，まったく無規定の存在はなにものでもないゆえに非存在と同じであるとみなし，存在から非存在への移行を弁証法的運動の出発点とした。ベルグソンも絶対的な無の観念を否定し，〈存在しない〉対象の観念は，必然的に〈存在する〉対象の観念を含むと述べている。実存哲学は無の観念に重要な役割を与えた。サルトルは無の古典的解釈を受け継ぎ，無は存在のあとにくるもの，存在にまとわりつくものと考えている。彼によれば，人間の意識は存在についての問いをたてることによって，存在の中に裂けめをもたらす。人間は無を世界に到来させる存在であるという。ハイデッガーは，例外的に，世界の外から〈存在者〉を包むような，したがって〈存在〉と同一であるような絶対的な無を探究した。バールはこの点について，古典哲学の誤りは無を否定によって説明したところにあり，もし宇宙に無が存在しないならば，否定も存在しないと述べている。

これに対し東洋では特に仏教の空*や老子・荘子の無為の思想において深く追究された。仏教の中心思想は無常・無我・無漏・無為など，多く〈無〉で表現される。無は否定の語であり，一般的には存在の否定を表わすとされるが，仏教では，その他に存在の有無を越えた妙無・絶対無の意味をもつ。この妙無を正しい智恵(ちえ)で把握(はあく)することを仏教の目的とする。インド仏教では〈空〉の思想として〈無〉をとらえることが多いが，論理的な面が強い。それが中国に仏教が伝来されて以来，中国固有の老荘の無為思想との交渉によって，日常生活の場にまで深められた。仏教各派の中では真言宗・禅宗が特に〈無〉の思想を強調する。真言宗は阿字(あじ)(→阿字観)を追究するが，この阿字とは無や非を意味する梵語(ぼんご)からきている。阿字もまた存在の無でなく，妙無である。禅宗では唐代に趙州(じょうしゅう)が〈狗子(くし)仏性〉の話で〈無〉の1字を説いており，宋(そう)代の法演によって評価され，大慧宗杲(だいえそうこう)によって強化されて禅の中心を貫くものとなる。日本の臨済禅はこの延長上に位置する。《無門関*》の第1則がこの無字の公案であり，〈無〉の1字を書いた禅の書が多い。〔飯塚勝久・石井修道〕

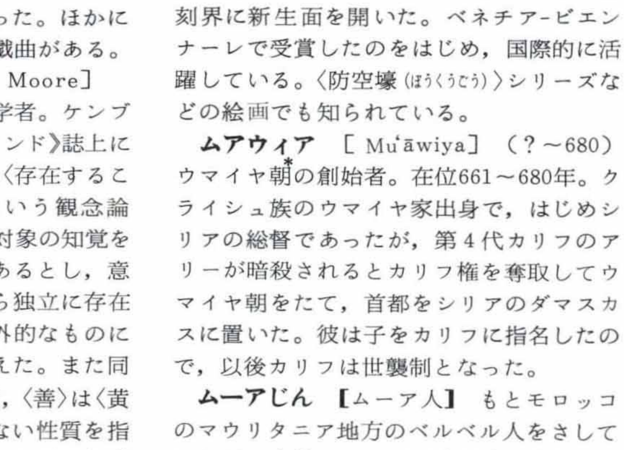
ムーア ［George Moore］（1852～1933） イギリスの小説家。アイルランドの生まれ。ゾラ*の影響を受けた写実的手法で，《エスター・ウォーターズ》などを発表。イギリスにおける自然主義を代表し，のちアイルランド文芸復興*の運動に加わった。ほかに自伝的小説《一青年の告白》や戯曲がある。

ムーア ［George Edward Moore］（1873～1958） イギリスの哲学者。ケンブリッジ大学教授。1903年《マインド》誌上に《観念論の論駁(ろんばく)》を発表，〈存在することは知覚されることである〉という観念論の基本的主張が知覚の対象と対象の知覚を混同する誤りに基づくものであるとし，意識される事物は意識の働きから独立に存在するのであり，両者の関係は外的なものにすぎないとする新実在論*を唱えた。また同年，主著《倫理学原理》を出版，〈善〉は〈黄色〉のように単純で分析できない性質を指示する語であるから定義することができず，これを自然科学や形而上学(けいじじょうがく)の用語で定義しようとすれば〈自然主義的な誤り〉を犯すことになると説いた。彼の哲学する姿勢は，哲学の言語を吟味しその意味を分析することによって哲学上の問題そのものに批判の光をあて，これを解決に導こうとするものであり，ラッセル*やウィトゲンシュタイン*とともに分析哲学*の一つの源泉となった。主著《倫理学原理》《倫理学》《哲学研究》。〔石倉恒之〕

ムーア ［Henry Moore］（1898～　） イギリスの彫刻家。ロンドンの王立美術学校に学び，古代メキシコの彫刻や原始彫刻，あるいはブランクーシ*らから刺激を受けながら独自の抽象的作風を展開し，自然の形態に基づく有機的構成を示し，イギリス彫刻界に新生面を開いた。ベネチア・ビエンナーレで受賞したのをはじめ，国際的に活躍している。〈防空壕(ぼうくうごう)〉シリーズなどの絵画でも知られている。

ムアウィア ［Muʻāwiya］（？～680） ウマイヤ朝*の創始者。在位661～680年。クライシュ族のウマイヤ家出身で，はじめシリアの総督であったが，第4代カリフのアリーが暗殺されるとカリフ権を奪取してウマイヤ朝をたて，首都をシリアのダマスカスに置いた。彼は子をカリフに指名したので，以後カリフは世襲制となった。

ムーアじん【ムーア人】 もとモロッコのマウリタニア地方のベルベル人をさしていたが，少数のアラビア人に率いられたベルベル人のイスラム教徒軍がイベリア半島を征服し，そのときからスペイン人は彼らをモロス(ムーア)とよぶようになった。のちイベリア半島のイスラム教徒のみでなく，北アフリカのイスラム教徒もムーア人とよ



ムーア《眠る人の習作》

ばれるようになり，地理上の発見以後は広く東アフリカ・アジアのイスラム教徒にも適用された。〔大野慎一郎〕

むいかまち【六日町(町)】新潟県南東部，南魚沼郡の町。人口27,000。1956年(昭和31)六日町を中心に周辺3か村を合併して発足した。中心地区の六日町は古い市場町に起源をもち，三国・清水(しみず)の両街道の分岐点として，また魚野川の河川交通の終点として栄えた。温泉もあり，上越のスキー場の一中心となっている。上越線・国道17号線が通ずる。

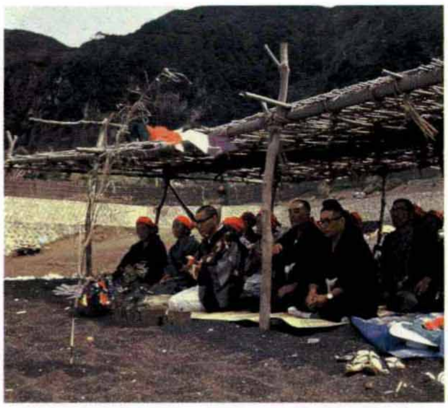
むいしき【無意識】普通には，意識されない精神過程。無意識の存在は，19世紀後半にブロイエル・ジャネ*らによって注目され，やがてフロイト*によって独特の無意識論が形成されて，精神分析*学の重要な概念の一つとなった。フロイトは，人間の心的現象を意識と無意識の二大領域に分け，さらに後者を努力することによって意識化できる〈前意識〉と本来の〈無意識〉とに分けて考えた。本来の無意識は，反社会的なあるいは好ましくない欲求や情動を超自我*の検閲と自我*の働きとによって意識化されないようにしてしまった状態のもとにあり，催眠*法・自由連想法・麻酔薬などの方法によって意識の力が弱まったときはじめて意識に上るものと考えられる。しかもこの無意識が心的決定論*にしたがって意識過程を左右し，日常の行為にまで影響を及ぼす力をもっているとされている。〔馬場謙一〕

むえいとう【無影燈】外科手術室で使われる特殊照明燈。手術台上の直径30cm内の手術野を，10,000ルクス以上の高照度にし，執刀する医師や看護婦の頭暗がり，手暗がりを生じないよう，さらに切開部の温度上昇をきたさないように，なるべく熱線を遮断(しゃだん)する配慮がなされている。たとえば，24V 25W電球9個を熱線吸収フィルターに内蔵したハナウルクス無影燈や，24V 40Wシールドビーム形クールレイランプ7個使用の無影燈による手術野の中心照度は30,000ルクスに及ぶ。〔伊東　孝〕

むえんかやく【無煙火薬】弾丸発射薬の一。黒色火薬に比べて発射時に煙の発生が少ない。銃砲の発射薬は中世以来黒色火薬*が使われてきたが，19世紀末からニトロセルロース系とニトログリセリン系の火薬が，発射時の黒煙が少なく性能もすぐれているため黒色火薬に代わって用いられるようになった。ニトロセルロースを主体とするニトロセルロース火薬(シングルベース)と，ニトロセルロースとニトログリセリンの混合物を主体とするニトログリセリン火薬(ダブルベース)とが代表的なものである。〔住谷光圀〕

むえんたん【無煙炭】⇨石炭

むおんがくぶよう【無音楽舞踊】音楽の伴奏を伴わない舞踊。モダンダンス*派のラバン*・ビグマン*によって提唱され，舞踊芸術の自律性を確立するため，舞踊を身体の動き以外のあらゆる要素から解放する実験の一環として試みられた。したがって実験の域にとどまり舞台芸術として一つのジャンルを形成するには至らなかったが，これによって〈舞踊とはなにか〉という舞踊の本質が改めて考え直され，のちの創作舞踊界に大きな影響を与えた。



迎え火　盆のはじめに精霊を迎えるためにたく　新島

むかいきょらい【向井去来】⇨去来

むかいじ【霧海篪】尺八音楽の曲名。琴古流*では《霧海篪鈴慕》と称され，《虚空鈴慕》《真虚霊(しんのきょれい)》とともに古伝三曲に数えられる。いわゆる経典ものであり，黒沢琴古が長崎の虚無僧寺正寿軒の一計子から習い編曲したといわれる。

むかいしま【向島(町)】広島県御調(みつぎ)郡の町。人口20,000。尾道(おのみち)市の対岸にある向島の西部と西隣の岩子島を町域とする。日立造船の工場があり，従業員の多くは尾道からの通勤者である。1968年(昭和43)尾道との間に架橋が完成した。米作のほか，山地斜面ではミカンを中心とする果樹の栽培が盛ん。なお向島(面積25.4km^2)は台地状の島で最高点は高見山の289m，島の東部は尾道市に含まれている。

むかえび【迎え火】盂蘭盆会*(うらぼんえ)に精霊を家に迎えるために焚(た)く火。盆月の13日夕刻に焚くのが通例であるが，七夕*(たなばた)や14日に焚くところもある。迎え火を焚く場所は，どこから精霊を迎えると考えたかを示すもので重要であるが，墓・辻(つじ)・川ばた・門口など，地方ごとにさまざまである。海沿いの地方で，砂浜で迎え火を焚くのは，先祖様が海の彼方から訪れると考えていたからであろう。関西地方では〈迎え松明(たいまつ)〉とよんで，スギやマツを墓前で焚き，その火をローソクに移して持ち帰って，仏壇の燈明をともす。迎え火によって家に迎えられた先祖様は盆棚に祭られる。13日に迎えた精霊は16日に送るのが普通で，その際の〈送り火〉は迎え火と同じ方式で行なうところが多い。〔直江広治〕

むがくそげん【無学祖元】(1226～1286) 中国，南宋(そう)時代の臨済宗の僧。明(みん)州の人。俗姓は許氏。字(あざな)は子元。諡(おくりな)は仏光禅師・円満常照国師。13歳で杭州(こうしゅう)浄慈寺の北礀(ほっかん)に得度，5年ののち径山(きんざん)の無準師範*に参じて開悟した。1280年(弘安3)北条時宗*(ほうじょうときむね)の招きによって渡来し，鎌倉建長寺に住し，1282年円覚寺の開山第1世となり，弘安(こうあん)の役に際しては時宗の師として多大の影響を及ぼした。著書に《仏光録》がある。〔田中良昭〕

むがくめんかぶしき【無額面株式】株券*に金額の記載されていない株式。額面株式に対する。株主の権利の割合を示す方法としては，発行済み株式総数の額面総額に対する持ち株の額面合計額の割合によるもの(たとえば発行済み株式総額100万円に対する持ち株額面合計10万円といったように)と，発行済み株式総数に対する持ち株合計数の割合によるもの(たとえば発行済み株式総数10万株に対する持ち株合計数10,000株といったように)との二つが考えられるが，このいずれの方法によっても株主の割合的権利自体には変わりがない。そればかりでなくA社の株を時価500円で買った人と300円で買った人とがまったく同じ一個の権利をもつというのもおかしいし，会社はつねに時価により新株を発行することができるとすれば，資金調達がきわめて便利になるといったところから，1950年(昭和25)改正商法でこの無額面株式の制度が採用された。しかし現在まではほとんど発行されていない。〔松本治雄〕

むかご【零余芽・珠芽】芽の一種で，胎芽ともいう。養分をたくわえて肥大した芽で栄養生殖にあずかり，多くは葉腋(ようえき)にでき(ノビル*のように花序にできるものもある)，地上に落下して新しい植物体となる。芽の鱗片葉(りんぺんよう)が肥大したものを鱗芽(オニユリ*など)，主軸が肥大して球状となったものを肉芽(ヤマノイモ*など)ということがある。

むかしえび【昔蝦】甲殻(こうかく)類・軟甲亜綱・ムカシエビ目。軟甲亜綱中では最も原始的な仲間として有名で，生きている化石*といわれ，世界各地の地下水から知られている。白色小形の動物で，すべて目をもたず，甲殻もない。体は細長く15体節からなり，頭部・胸部・腹部に分けられる。胸部には8対の付属肢(ふぞくし)がある。地下水中の砂底の表面や砂粒間隙(かんげき)などにすんでいると思われるが，詳しい生態はまだ明らかではない。採集には，地下水をポンプでくみ上げ，プランクトンネットで濾過(ろか)する方法がとられるが，個体数が少ないため，多量の地下水が必要である。わが国からはサイコクムカシエビ・セトゲオナガムカシエビなど3属15種が知られている。〔向井　宏〕

むかしつせきにん【無過失責任】損害の発生について故意・過失がなくても損害

賠償の責任を負うこと。民法は，故意・過失によって他人の権利を侵害したときにのみ賠償責任を負うという過失責任主義を原則とするが(民法709条)，資本主義の発達に伴う大企業の出現がもたらした災害については，公平の原則から無過失責任が主張されるようになった。代表的な考え方としては，危険な施設の所有者は，それから生ずるいっさいの損害について当然に責任を負わなければならないという危険責任の理論と，利益を受ける者はその収益活動に伴って生ずる損害については，当然に責任を負わなければならないという報償責任の理論などがある。民法が無過失責任を認めているのは，土地の工作物および竹木の設置・植栽または保存・管理の瑕疵(かし)により，他人に与えた損害に対する占有者・所有者の負う責任のみであるが(民法717条)，労働者災害保障や鉱害賠償などについても特別の立法によって無過失責任が認められている(労働基準法75〜77・79・80条，鉱業法109条以下)。自動車損害賠償についてもほぼ無過失責任に近い損害賠償義務が認められている(自動車損害賠償保障法3条)。なお，無過失責任を認めたとしても，加害者に賠償能力がなければ意味をなさないところから，労働者災害補償保険法・健康保険法・厚生年金保険法など各種の損害保険制度が設けられるに至っている。〔黒木三郎〕

むかしとかげ 【昔蜥蜴】 爬虫(はちゅう)類・ムカシトカゲ科。ニュージーランドの一部の島に限産。体長50〜80cm。絶滅した喙頭(かいとう)目の中で，ただ1種のみ生き残って生きている化石*として政府の厳重な保護下にある。頭骨や外形はトカゲ類に似るが，そのほか体の構造はむしろワニに似ている。頭頂には第3の目といわれる顱頂眼(ろちょうがん)が発達しており，レンズと網膜を備える。日中は洞穴(どうけつ)中に水鳥と同居し，夜間外に出てこん虫類を捕える。かなり低温になっても活動し，体温が7〜14℃くらいでも採食する。寿命は100年くらい。〔松井孝爾〕

むかしとんぼ 【昔蜻蛉】 こん虫類・トンボ目・ムカシトンボ科。腹長40mm，後翅(こうし)長30mmほど。体は黒かっ色で黄色の斑紋*(はんもん)がある。体の構造はサナエトンボ*科に似ており，高等な不均翅亜目のトンボ類に近いが，翅(はね)の構造はカワトンボ科やイトトンボ科など均翅亜目のトンボ類に似ており，前・後翅がほぼ等しく翅基部が柄状をしており，静止時には完全に閉じるなど，両亜目の中間的な特徴をもつ。日本特産種で，成虫は5〜6月ごろ出現し，山間地の渓流(けいりゅう)上を活発に飛翔(ひしょう)する。卵はフキやワサビなどの茎や葉柄などに産付される。孵化(ふか)した幼虫は渓流の石の下などにすみ，5〜8年を経て成虫になるという。ムカシトンボ科は，ヨーロッパなどから数種の化石種が発見されている。現存種はムカシトンボとインドヒマラヤ地方に産するヒマラヤムカシトンボの2種が知られているにすぎないが，特異な群であり，ムカシトンボ亜目を構成している。なお，ヒマラヤムカシトンボは，1921年に1匹の未熟な幼虫の標本に基づいて命名記載されて以後採集されたことがなかったが，1958年に幼虫が，また1962年に成虫が，それぞれ日本人研究者によって再発見され，世界的にも有名となった。〔鈴木邦雄〕



ムカシトカゲ



ムカシトンボ



行　　縢《石山寺縁起絵巻》(部分)

むかしやんま 【昔蜻蜓】 こん虫類・トンボ目・ムカシヤンマ科。腹部長50mm，後翅(こうし)長47mmほど。体はがんじょうで，黒かっ色の地に黄色斑紋(はんもん)がある。胸側部には2本の太い黄条がある。腹部は雌雄とも太く，円筒状で，第3〜7腹節には各節3対の小さい黄条がある。山地性で，本州の各地と九州だけから知られる。成虫は5月ごろから出現し，寒地では8月ごろまで見られる。飛翔(ひしょう)は遅鈍で，日あたりのよい山間の空地や渓流(けいりゅう)の近くに多い。幼虫は渓流の近くの湿地の蘚(せん)類中や湿った土中に縦のトンネルをつくって生活し，成虫になるまでに数年を要する。ムカシヤンマ科はサナエトンボ科に含められていたが，より原始的な形態をもつため独立の科とされた。日本にはムカシヤンマ1種のみが産し，オーストラリアに6種，北アメリカに2種，チリに1種が産するにすぎない。➔トンボ　〔鈴木邦雄〕

むかで 【百足・蜈蚣】 節足動物・唇脚(しんきゃく)綱に属する動物で，いわゆる多足類の主要なメンバーの一。体長1.5〜14cm。体は背腹に平たく，細長い。頭と尾端の節を除き，ほぼ同様な形の多くの節からなりたっている。頭には1対の触角と小さな単眼，それに獲物を倒す強力な牙(きば)(顎肢(がくし))がある。脚の数はさまざまで，イシムカデ類では15対，オオムカデ類では21対，アカムカデ類では23対，ジムカデ類では31〜170対まである。森林の落葉の下や石・倒木の下など暗く湿った場所に好んですむが，オオムカデ類は朽ちた切り株の中に特に多く，ジムカデ類は地中深いところにも潜入する。日本だけで130種以上の種類が知られる。そのうち，ヒトにとって危険なものは大形のオオムカデ類のみで，あとのものは危険ではない。刺された場合は，すぐにアンモニア水をつけるとよい。なお，ムカデを油につけたものを切り傷の薬としたこともあったが，効果は明らかではない。〔青木淳一〕

むかでのり 【百足海苔】 紅藻(こうそう)類・ムカデノリ科。潮間帯の潮だまりなどに生じる海藻で，世界各地に分布する。体は扁平(へんぺい)で，高さ30cmほどになり，1〜2回叉状分枝した主枝の両縁から小枝を密な羽状に生じ，それがムカデを思わせる。有性生殖をして果胞子を生ずる体と，四分胞子によって無性生殖する体とがある。淡水にさらしたのち干して貯蔵し，酢の物などとして食用にする。また壁用の糊料ともされる。

むかばき 【行縢】 武士の服装品の一種。多くはシカの毛皮でつくられ，旅行や狩の際に，馬上において雨に備えるために下半身の前面を包んだ。《倭名類聚抄(わみょうるいじゅうしょう)》には〈行縢，和名無加波岐〉と見えている。《更科(さらしな)日記》の五十九には〈人はただ野にゐて夜を明かす，草の上にむかばきなど打ち敷きて，上にむしろをしきて，いとはかなくて夜をあかす〉と記されているところから，旅行の際に草の上に行縢を打ち敷いたことが知られる。のちには笠懸*(かさがけ)・流鏑馬*(やぶさめ)・犬追物*(いぬおうもの)などのときにも射手が用いた。〔河鰭実英〕

ムガールちょう 【ムガール朝】 チムールの子孫バーブル*が中央アジアからインドに侵入して樹立した王朝(1526〜1857)。当時のインドはイスラム・ヒンズー諸王朝の交戦で四分五裂の状態にあり，バーブルは

ロディー朝を倒してデリーを都とし，王朝の基礎を築いた。第３代皇帝のアクバル*は統治機構を整備し中央集権を強化し，ヒンズー・イスラム両勢力の融和にも意を用いた。そのため続く２～３代の皇帝は豊かな国家財政に恵まれ，絢爛(けんらん)たる宮廷文化を享受し，ムガール朝の最盛期を現出した。しかし，17世紀後半の第６代皇帝のアウランゼーブ*のころから財政に窮乏をきたし，熱心なイスラム信者であった皇帝はジズヤ(非イスラム教徒に対する人頭税)を復活してヒンズー教徒を圧迫したため，有力なラージプート族・マラータ族，シク教徒の離反を招いた。一方，そのころからイギリス東インド会社の植民地経営も露骨に進められ，1857年のセポイの反乱*を契機にインドはイギリス領となり，ムガール朝は名実ともに滅亡した。〔小谷仲男〕

むかわ　【鵡川】 北海道，日高山脈北部に発し，夕張山地との間を峡谷をなして流れ勇払(ゆうふつ)平野東部で太平洋に注ぐ川。流程146km。穂別町・鵡川町の農業地帯の水利源となっており，下流では10月末から11月初めにかけて名物シシャモの漁がある。

むかんふもん　【無関普門】 (1212～1291) 鎌倉時代の僧。臨済宗南禅寺派の祖。仏心禅師・大明国師の諡号(しごう)がある。信濃(しなの)(長野県)の人。19歳のとき，上野長楽寺の栄朝から菩薩(ぼさつ)戒を受け顕密二教を習った。のち上洛(じょうらく)して東福寺の開山円爾弁円*(えんにべんえん)に師事して５年，禅の研鑽(けんさん)を積んだ。40歳で入宋(そう)し，12年間とどまって断橋妙倫(だんきょうみょうりん)の印可を受けて帰国した。関東・北越の各地で教化活動に従事したが，のちに東福寺の第３世を継ぎ，さらに亀山(かめやま)上皇の招請により，南禅寺*を開いた。〔岡部和雄〕

むぎ　【麦】 冬作の禾穀(かこく)類の総称。オオムギ・コムギ・エンバク・ライムギに分類される。オオムギは有稃(ゆうふ)オオムギと稃(すくも)の遊離しやすいハダカムギとに分けられ，農林省統計上からはしばしば有稃オオムギをさらに六条オオムギと二条オオムギ(ビールムギ)とに分ける。ムギは狭義には有稃オオムギをさす。ムギ類は世界最古の作物の一つである。オオムギは米とともに混炊，コムギは製粉して麺(めん)あるいはパンとする。エンバクは滋養に富み消化しやすいのでオートミールとするほか，再生力が強いので青刈り飼料としてよく用いられる。ライムギは耐寒性大で，その子実を製粉してつくったパンは色は黒いが日持ちがよい。〔金木良三〕

むぎ　【牟岐(町)】 徳島県海部(かいふ)郡の町。人口8,200。県の南部にあり，牟岐線の終点で，太平洋に面する。沿岸部は室戸阿南(むろとあなん)海岸国定公園に属し，また漁業が盛んで，沿岸漁業のほか，カツオ・マグロ漁が行なわれる。内陸部では米・麦を主とする農業が行なわれる。

むぎあかたまばえ　【麦赤癭蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目・タマバエ科。体長２mm内外で，体形はカに似て体・翅(はね)が細く，脚は細長い。体は赤かっ色。関東地方以南に分布するコムギなどムギ類の害虫。幼虫は麦粒に食入し，多いときは１粒に30匹も寄生することがある。幼虫は３週間内外で老熟して土中に潜入し，繭をつくって越冬し，翌春さなぎとなる。年１回発生し，成虫は４月下旬ごろから出現する。通風の悪い畑，厚まきやおそまきの畑に多く発生し，本種の加害を受けるとムギの生長が阻害され，結実が悪くなる。

むきかがく　【無機化学】 諸元素ならびに無機化合物を対象とする化学の一分野。無機化合物のうち，化学的性質が解明されてしまったものから，複雑な錯化合物や人工的につくられた超ウラン元素，および特殊な用途のある元素化合物などが対象とされることが多く，取り扱う対象によって錯塩化学・地球化学・核化学・放射化学などに細分される。一方，方法論的には無機化合物の物理化学的方法による研究に重点が置かれている。

むきかごうぶつ　【無機化合物】 炭素を含まないすべての化合物，および一部の簡単な炭素化合物の総称。後者としては炭素の酸化物(CO_2，CO，C_3O_2)，シアンおよびシアン化物(C_2N_2，KCN，$Na_3Fe(CN)_6$)，チオシアン酸塩($NaSCN$)，炭酸塩(K_2CO_3，$KHCO_3$)などがあげられる。四塩化炭素・二硫化炭素などは有機化合物に近い性質を有するので有機化合物に分類されることもある。歴史的には鉱物界に由来する化合物を無機化合物，動植物界に由来し生命力の作用でつくられて，人工的に合成できないと考えられていた化合物を有機化合物と分類した。その後多くの有機化合物が合成され，この区別はなくなった。〔竹下三吉〕

むぎこがし　⇨香煎(こうせん)

むきこきゅう　【無気呼吸】 ⇨呼吸

むきしつ　【無機質】 炭素・水素・酸素・窒素(有機質や水を構成するおもな元素)以外の元素で生体内に含まれ，なんらかの役割をもつものの総称。カルシウム・ナトリウム・塩素・リン・銅・鉄などがそれで，食品を燃して残る灰が無機質であるため，食品分析では灰分として扱われる。また，これらは無機塩の形で食べることが多いのでミネラル(鉱物質)ともよばれるが，体内では必ずしも無機質として存在せず，ヘモグロビン中の鉄のように有機質の構成元素になっている場合も多い。人体内で１kgをこえるカルシウムから，極微量の銅まで，各無機元素の含量はまちまちである。〔江川元偉〕

むきじょうでんしゃ　【無軌条電車】 ⇨トロリーバス

むきせんい　【無機繊維】 金属繊維・ガラス繊維・岩石繊維などの無機質繊維の総称。有機質繊維に対する。無機繊維のうち，天然繊維としては石綿(アスベスト*)などの鉱物質繊維，人造繊維としては金銀箔(きんぎんはく)などを利用した金属繊維，ガラスを溶融紡糸したもの，安山岩・玄武岩を溶融紡糸したものなどがある。一般に耐熱性が大で燃焼せず，熱伝導度が小で保温・保冷の効果がすぐれている。金属繊維は装飾用に，ガラス繊維はカーテン地・強化ガラス板などに，岩石繊維は冷蔵器などに，アスベストは防火服などに用いられる。〔小川安朗〕

むぎちゃ　【麦茶】 麦湯ともいう。大麦を玄麦のまま煎(い)り，熱湯で煮出して飲む。一般に冷やして夏季の飲み物とし，少量の砂糖や塩を加えることもある。江戸市中などで煎茶(せんちゃ)よりも古くから売られた。取り入れ直後の新麦を焙(ほう)じたものがうまい。

むぎひげながあぶらむし　こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アブラムシ科。体長2.5mm内外で，体は黄緑色ないし緑色，まれに赤かっ色の個体が出現する。頭部と胸部は暗黄赤色，複眼は赤色。翅(はね)は透明で，少数の翅脈がある。腹部は卵形で，後端部に１対の黒色の角状管がある。日本全国のほか世界の各地に広く分布する普通種で，ムギ類やイネの害虫として知られるが，そのほかバラ科植物なども加害する。卵態あるいは無翅胎生雌虫で越冬し，翌春増殖するが，他の多くのアブラムシ類のように夏から秋に寄主植物の転換は行なわない。

むぎふみ　【麦踏み】 霜柱などによって麦の根が浮き上がるのを押さえるため，真上より麦を踏みつける作業。これによって麦の徒長を押さえ，分蘗(ぶんけつ)を促し，根の伸長を助けることができる。また茎は展開性となり，細胞液の濃度を増すので耐寒性を高めるほか，通風・採光もよくなり，生育は良好となる。12～３月の間に２～３回，日中の暖かい時間に行なう。

むぎやぶし　【麦屋節】 富山県の民謡。穀物の産出しにくい山あいの生活にたくしてさびしさをうたった歌詞をもつもので，三味線(しゃみせん)は二上り*の調弦，他の楽器として尺八・胡弓(こきゅう)・四竹(よつだけ)を加え，速いテンポの踊りがつく。同じ系統の曲が福井県・岐阜県にもある。

むきゅうどう　【無窮動】 〈連続する動き〉を意味するイタリア語のモート-ペルペトゥオやラテン語のペルペトゥーム-モビレの訳語。19世紀に流行した楽曲の形で，16分音符のように細かい音符を初めから終わりまで速く奏し続けて，音の運動のおもしろさを示すものである。パガニーニ，メンデルスゾーンのほか，多くの作曲家によってつくられている。なお，〈常動曲〉の訳語も使われる。

むきょうしつ　【無響室】 無限の広がり

をもつ空間と，音響的に同じ効果をもつように工場や研究室の中につくられた反響のない防音室。スピーカー・マイクロホンなどを用いた音響装置は，それを使用する場所・室の状態などによって特性が大きく左右されるため，その設計・製作に際しては，それぞれの感度（レスポンス）として使用状態の影響のない，すなわち音の反射のない理想的な状態における感度を基準とすることが望ましく，音響機器自身のほかにはなにもなく，周囲からなんの妨害も受けない，無限の広がりをもった空間が必要とされる。無響室は，それを再現したもので音響機器の特性の測定（校正）のほか，空気中における音波の伝搬，音場の研究，聴覚の研究などが行なわれる。そのために無響室は十分な厚さのコンクリート構造とし，室の内面全体にガラス繊維でつくった楔形(くさびがた)の吸音構造体をとりつけ，これにより80ヘルツ以上で99％強の吸音率を得ることができる。また外部からの振動を防ぐためにはスプリング・防振ゴムなどを用いた吊(つり)構造が採用される。なお水中音響測定に使用される無響水槽(すいそう)もある。〔池谷和夫〕

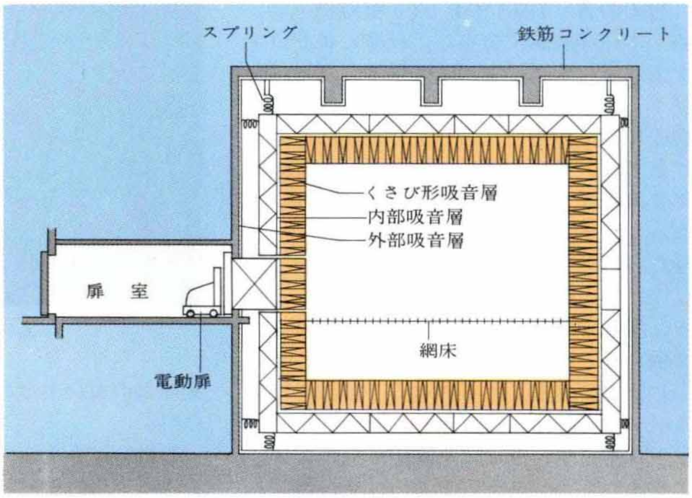
むぎわらぎく　【麦藁菊】 ⇨カイザイク

むぎわらとんぼ　【麦藁蜻蛉】 ⇨シオカラトンボ

むく　【無垢】 和服長着の表と裏または表着・下着をすべて同布で仕立てたもの。無垢仕立てともいう。本来は白無垢など，白羽二重で表と裏を同布で仕立てたのをいい，上層公家(くげ)の＊小袖(こそで)（内衣），富裕な男子の黒五つ紋付きの綿入れや口綿入れの二枚重ね・三枚重ねの下着には，白無垢・鼠(ねずみ)無垢などの羽二重・平絹が使われた。しかし，近代からは一般に表布と裾回(すそまわ)＊し布とが同布であるのをいい，女子の黒留袖(くろとめそで)・色留袖の表着および白下着は裾回しが表布と同布である。〔堀越すみ〕

むくげ　【木槿】 双子葉植物・アオイ科。中国・インド原産の落葉低木で，ハチスともいう。高さ３ｍほどになってよく分枝し，樹皮は灰白色で，枝は折れにくい。葉は互生し，長さ５～12cmの卵形でときに中ほどまで３裂し，縁には不規則な鋸歯(きょし)があり，葉面はざらつく。夏から秋にかけて，葉腋(ようえき)に径５～15cmほどの大形花をつけ，花弁は５枚で基部は癒着(ゆちゃく)する。園芸品が多く，花色には赤紫・白・紫色や花の底が紅色のものなどがあり，また八重咲きのものもある。おしべは多数で，合体する。花柱は花外に超出し，柱頭は５裂する。果実は2.5cm内外の卵円形の５稜(りょう)のある蒴果(さくか)で，星状毛が密生し，熟すと５裂する。種子は扁平(へんぺい)な腎臓(じんぞう)形で，縁にかっ色毛が多数はえる。

つぼみを木槿花(もくきんか)といい，粘滑止瀉薬として，胃腸炎・腸出血・下痢などに用いられる。〔横井朝子〕



無響室　断面図


ムクゲ


ムクドリ

むくどり　【椋鳥】 鳥類・ムクドリ科の総称およびそのうちの一種。アフリカを中心に，広く旧世界に２亜科110種が分布する。アフリカに分布するウシツツキ２種をウシツツキ亜科に，他のすべてをムクドリ亜科に分類している。大きさは日本に生息するムクドリ大のものが多く，羽毛は一般に灰・かっ色系のじみな鳥である。形態も変わったものは少ないが，アフリカ産で赤・緑色などの金属光沢の美しい羽毛をもつテリムクドリ類，頭の皮膚が裸出したフィリピン特産のメガネムクドリ，アフリカ産のニクダレムクドリや東南アジア産のキュウカンチョウのように肉だれのあるものなどがある。深い森林にすむものは少なく，一般に疎林・サバナ・農耕地や都会地に生息し，地上採食性ないし樹上性である。ほとんどのものが，本来は樹洞(じゅどう)に営巣する。スズメムクドリ・オシムクドリはスズメやイエスズメのように世界各地で，営巣場所は建物を，採食場所には農耕地を利用し，人間生活に依存している。ウシツツキは全長20cm大で，太いくちばしがあり，全体に灰かっ色，ウシ・サイ・キリンなどの背に群れで止まって，寄生しているダニ類を食う習性がある。

この科の一種であるムクドリは，全長25cm前後で，全体によごれた感じの灰かっ色，夏羽では頭顔部の灰白色の羽毛と橙黄(とうおう)色のくちばしが目だつ。日本各地の平地，特に都会地周辺から低山帯で繁殖する普通に見られる鳥である。本州では中部以北の都会地に特に多い。最近はいたるところの山地に観光施設ができるため，それに依存して分布域を広げている。〈リヤア，リヤア〉と鳴く。秋・冬は数千羽の大群になることもまれでなく，大群で林をねぐらにする。〔安部直哉〕

むくどりもどき　【擬椋鳥】 鳥類・ムクドリモドキ科の総称。熱帯アメリカを中心に，広く新大陸と西インド諸島に約90種が分布する。小さいものはムクドリ程度から大きいものはハシボソガラス大まであり，生息場所は多様で，熱帯森林や温帯の針葉樹林帯，草原，水辺の湿地，半砂漠(さばく)状の所などにわたっている。食性はこん虫食性・種子食性・雑食性のものなどがある。羽色はアメリカン-ブラックバード類やアメリカン-オリオール類には黒・赤・橙色(とうしょく)のものが，カウバード類・グラッケル類にはかっ色や黒紫色のものが多い。多くのものはカップ形の巣をつくって繁殖するが，オロペンドラ類は大きなヘチマのような形の巣を高木にかけて集団営巣し，一夫多妻性である。アメリカン-ブラックバード類にも一夫多妻性のものがあり，さらにカウバード類には完全な託卵性のコウウチョウや，託卵性の発達の初期の習性を示しているものもある。北アメリカに生息するアキバドリとセキレイ科のサハラ以南のアフリカに生息するキムネタヒバリは，全身の羽色・模様が非常に似ており，相似の例としてよく知られている。〔安部直哉〕

むくのき　【椋の木】 双子葉植物・ニレ科。本州中南部に分布し，丘陵に多く自生する落葉高木で，庭木にもする。高さ20m，径1mほどになり，よく分枝して枝は細く，樹皮は灰かっ色で，古い木では縦に長くはげ落ちる。葉は互生し，長さ5～9cmの卵形で先がとがり，不規則な鋭い鋸歯(きょし)があって，表面はざらつく。雌雄同株で，5月ごろ新葉とともに淡緑色の花を集散花序につける。雄花は新枝の基部に集まってつき，雌花は新枝の上方の葉腋(ようえき)に1～2個つく。果実は径1～1.5cmの卵状球形の核果で，黒熟し，果肉は甘くて食用になる。材はかたく，建材・器具材・船材・バットなどにし，枝はノリ養殖用のそだひびにする。〔横井朝子〕

むくみ　過剰の組織液が皮下組織に貯留したことによって起こる腫脹(しゅちょう)をいう。医学上は浮腫という。一般にむくみのある部分は，なんとなくはれぼったく，下腿(かたい)などでは指先で圧迫すると指のあとがいつまでもくぼんだままになっている。このようなむくみは，心不全・糸球体腎炎(じんえん)・ネフローゼ・肝硬変・癌(がん)・脚気(かっけ)・栄養失調症・妊娠などの際にみられる。また，発赤や疼痛(とうつう)を伴った場合は炎症性のむくみである。そのほか粘液水腫の際には，皮膚に一種の粘液素が蓄積し，浮腫状を呈する。治療としては，食餌療法・薬物療法のほか，ときに機械的に排液することもある。〔佐藤恒夫〕

むくろじ　【無患子】 双子葉植物・ムクロジ科。山林などにはえる落葉高木で庭木としても栽植され，高さ18mに達する。葉は互生する大形の偶数羽状複葉。小葉は8～12枚つき，長さ7～15cm，幅3～4cmの卵状披針(ひしん)形で先はとがり，全縁，革質でやや光沢がある。秋に黄色に紅葉する。6～7月，枝先に長さ30cm内外の円錐(えんすい)花序をつけ，淡緑色の小花を開く。花は径5mm内外で，花弁・がくともに4～5枚。雌雄異花で，雄花には8～10本のおしべがあり，花外に超出する。雌花には1本のめしべと退化したおしべがある。果実は径2cm内外の球形で，黄かっ色に熟し，内に黒色球形の種子を1個もつ。果皮はサポニンを多く含み，干したものはせっけんの代用になる。種子は羽根つきの羽根の玉にする。〔横井朝子〕



ムクロジ

むけいぶんかざい　【無形文化財】 文化財保護法に指定される文化財の一。有形文化財と対をなすもので，演劇・音楽・工芸技術その他の無形の文化的所産，すなわち芸術的・工芸的技術のうち特に価値の高いものが認定される。認定された技術の保持者が俗にいう〈人間国宝〉であるが，無形文化財には国宝はない。無形文化財の保護としては，記録(映画・レコード・採譜など)の作成と公開，技術の維持・向上と伝承者の育成のために必要な経費の一部助成，工芸作品の買い上げなどが行なわれる。➔文化財

むけいぼうえき　【無形貿易】 税関の作成する自国の貿易統計(通関統計)に現われていない貿易で，〈見えざる貿易〉ともいう。おもな項目は，①外人観光による国内での外貨取得，②外国観光による外貨の流出，③特需関係による駐留外人の外貨支払い，④海運や保険の国際活動による外貨運賃や外貨保険料の受け払い，⑤技術輸出や技術輸入による外貨の受け払いなどである。外国領海や公海における出漁水産物の外国処理は，洋上輸出として貿易統計に記載されている。➔貿易収支〔上坂酉三〕

むげっけい　【無月経】 月経の周期異常。生理的なものは青春期前・閉経期後・妊娠中・授乳中などにみられる。病的無月経は，原因的には，子宮の形成不全・炎症などによる子宮性，卵巣形成不全・老化・摘出などによる卵巣性，下垂体の腫瘍(しゅよう)・壊死(えし)などによる下垂体性，脳腫瘍・環境変化・精神因子などによる視床下部性に分類されている。

むげん　【無限】 無限ということばは，一般に，際限のないこと，すなわち，有限の否定を表わすのに用いられる。数学でも同じで，たとえば，1，4，9，16，……と限りなく続く数の系列を無限数列という。また，関数$y=\frac{1}{x^2}$のグラフでは，上方および左右へ限りなく延びている。このように，曲線が限りなく延びる部分をもつとき，その部分を曲線の無限分枝という。これらはわかりやすい例であるが，数学でよく用いることばに無限大や無限集合がある。

〈無限大〉 関数$y=\frac{1}{x^2}$では，$x=0$のときのyの値はないが，xが0に近いとyは大きな値をとる。正確に述べると，xの値を0ではないが，0に近い値とさえすれば，それに応ずるyの値はいかほどでも大きくなる。関数yがこのような変化をすることを〈yは無限大になる〉という。これを$y\to\infty$と書き，記号∞を無限大と読む。同じように関数$y=-\frac{1}{x^2}$では，xが0に近づくときそれに応ずるyの値は負であって，その絶対値は限りなく大きくなる。関数yがこのような変化をすることを，〈yは負の無限大になる〉といい，$y\to-\infty$と書く。$-\infty$を負の無限大というのに対し，∞を正の無限大といい$+\infty$と書くこともある。∞や$-\infty$は変化のようすを表わすための記号であって，正や負の無限大という数があるのではない。

〈無限集合〉 直線を点の集合と考えると，それは限りなく多くの点を含む集合である。集合の各要素に順に番号をつけていくと最後の要素まで残らず番号がつけられる。すなわち，要素を数えつくすことができるとき，この集合を有限集合という。これに対し，要素が限りなくあって数えつくすことができない集合を無限集合という。たとえば，偶数の全体，分数の全体，線分上にある点の全体などは，みな無限集合である。数学では二つの集合の要素の間に1対1の対応を残りなくつけることができるとき，これらの集合は同等であるとか同じ濃度をもつという。無限集合は，自然数全体の集合と同等な部分集合をもつ。また，有限集合では，その真部分集合は全体と同等ではない。それで，自分の真部分集合と同等になる集合が無限集合であると定めることもできる。なお，線分上の点の全体も自然数の全体も無限集合であるが，これらは同等ではない。〔小西勇雄〕

むげんきどう　【無限軌道】 ⇨キャタピラー

むげんきゅうすう　【無限級数】

$$\sum_{k=1}^{\infty}a^k=a+a^2+a^3+\cdots\cdots+a^n+\cdots\cdots$$

$$\sum_{k=1}^{\infty}\frac{1}{k}=1+\frac{1}{2}+\frac{1}{3}+\cdots\cdots+\frac{1}{n}+\cdots\cdots$$

などのように，項の個数が無限にある級数をいう。単に級数ということが多い。無限級数$\sum_{k=1}^{\infty}a_k$において，その部分和$S_n=\sum_{k=1}^{n}a_k$のつくる数列S_1，S_2，S_3，……，S_nが有限なSに収束するとき，すなわち$\lim_{n\to\infty}S_n=S$のとき，この無限級数は収束して和Sをもつという。$\lim_{n\to\infty}S_n$が収束しないときは発散するという。たとえば，無限等比級数$\sum_{k=1}^{\infty}ar^{k-1}(a\neq 0)$は$|r|<1$のとき収束し，$|r|\geqq 1$のとき発散する。また，$\sum_{k=1}^{\infty}a_k$が収束すれば$\lim_{k\to\infty}a_k=0$であるが，$\lim_{k\to\infty}a_k=0$であるからといって$\sum_{k=1}^{\infty}a_k$が収束するとはかぎらない。たとえば，$\lim_{k\to\infty}\frac{1}{k}=0$であるが，$\sum_{k=1}^{\infty}\frac{1}{k}$は$+\infty$に発散する。〔菊池兵一〕

むげんせきにんしゃいん　【無限責任社員】 会社の債務について，直接に無限・連帯責任を負っている社員。合名会社はこの社員だけで構成されており(商法80条)，合資会社はこの社員と有限責任社員(出資額を限度として直接に連帯して責任を負っている社員)の双方で構成されている(商法146条)。無限責任社員の責任は，①会社財産をもっては債務を完済できないとき，②会社財産に対する強制執行がその効を奏しないときのいずれかの場合に具体化するものであるから，会社の第1次的責任に次ぐ第2次的責任である(商法80条)。また，社員の責任は従属的なもので，会社の債務が消滅すれば社員の責任も消滅するし，会社

が債務の履行を拒絶できる抗弁事由をもっているときは，社員もこれを主張することができる(商法81条)。なお，無限責任社員は以上のような責任を負わされているので，これに対応して原則として業務執行および代表の権限をもっている(商法70・76・151条)。〔松本治雄〕

むげんせんりつ【無限旋律】 ワーグナーの旋律をさすのに用いられることば。ワーグナーの楽劇*の旋律が，それ以前の古典派やロマン派のオペラのような明確な段落とまとまりをもたないで，逆に段落感を与えないようにつくられているところからこの名でよばれる。これは，アリアとレシタチーボが交替する，いわゆる番号オペラの考えに対立するもので，劇的な展開の連続性が連続する旋律によってささえられている。〔徳丸吉彦〕

むげんだい【無限大】 実数*の数列x_n($n=1,2,3,\cdots\cdots$)があって，どんな大きな数Mをとっても，あるn_0があって，そのn_0より大きいすべてのnについて，$x_n>M$となるとき，x_nは(正の)無限大になるという。大まかにいえば，変数x_nが限りなく大きくなっていくことをいう。x_nが無限大になることを記号で$x_n\to+\infty$(＋を省略して$x_n\to\infty$とすることが多い)や$\lim_{n\to\infty}x_n=\infty$と書く。記号∞は無限大と読む。$x_n$が，負で絶対値が限りなく大きくなるとき，$x_n$は負の無限大になるといい，記号で$x_n\to-\infty$と書く。一般に，無限大とは，変数が限りなく大きくなる状態をいったものといえる。無限大という一つの数があるわけではない。ただし，記号$+\infty$，$-\infty$などを形式的に導入して，たとえば，すべての実数aについて$+\infty>a$，$a<-\infty$や$\infty+a=\infty$などという用い方をする場合もある。

なお，無限大と同様に無限小が考えられる。すなわち，変数xが0に収束するとき，その変数xは無限小になるといい，記号で$x\to0$と書く。〔杉岡司馬〕

むけんだいり【無権代理】 代理権のない者が代理行為をすること。表見代理と狭義の無権代理とを含む。無権代理は本来無効であるが，表見代理は無権代理人と本人との間に特殊な関係が認められる場合には，取引の安全の保護と相手方の保護のため，これを正当な代理行為と同様に本人に対して効力を生じるようにする制度である。これに対して，無権代理人と本人との間になんの関係も認められない狭義の無権代理は，本人がこれを相手方に追認*しなければその効力を生じない(民法113条)。この場合，相手方も本人に対して相当の期間を定めてその期間内に追認するか否かの催告*権を有するとともに，追認のない間はその契約取消権も有する(民法114・115条)。代理権の証明ができず，かつ本人の追認を得られなかった無権代理人は，相手方の選択にしたがい，相手方に対する履行または損害賠償の責任を負わなければならない(民法117条)。➔表見代理〔黒木三郎〕

むこいりこん【婿入り婚】 婚姻成立祝を嫁方であげ，婚舎も一定の期間嫁方に置かれる古風な婚姻方式をいう。具体的には，まず男が女のもとへ通うことによって，事実上の婚姻が開始され，それが両家によって認められ，嫁の親と婿との対面を中心に，簡単な祝いが嫁方であげられることで婚姻が成立する。以後婿は公然と嫁のところへ通うことになり，ある年月を経たのちに，嫁は婿方に引き移る。引き移りの時期はまちまちであるが，古くは婿方の親の隠居などによって嫁が新しい主婦として迎えられるおりが多かったらしい。〔直江広治〕

むこう【無効】 法律行為*が，一定の事由によって当事者の企図した効力を生じないこと。無効と類似の法的概念として取り消し*があるが，取り消しはいちおうの効力のある法律行為を特定人が取消権を行使することによってその効力を失わせることであるが，無効はなんぴとの主張をまたず，当然に効力がないことである。したがって，取り消しうる行為が取消権者の追認*や，一定の時の経過による取消権の消滅によって，有効な行為となりうるのに対し，無効な行為は追認や時効*によっても有効な行為となりうることはない。無効原因としては，法律行為の内容の公序良俗*違反(民法90条)，相手方の知っている心裡留保*(民法93条)，虚偽表示*(民法94条)，法律行為の要素に錯誤のある意思表示(民法95条)，内容の確定できない法律行為などがある。また，婚姻や縁組みにおける人違いもそうである(民法742・802条)。しかし，法律行為が一定の事由によって無効となった場合，その行為が他の要件をそなえているときには，当事者の意図を判断して他の法律行為として効力を認めることもある。これを無効行為の転換という。たとえば，秘密証書遺言としては要件を欠いて無効であるが，自筆証書遺言としては要件をそなえている場合，これを自筆証書遺言として取り扱うことが認められる場合などである。なお，無効な行為を目的とする契約はその効力を生じないから，その履行前であれば履行義務はなく，履行後であれば法律上の原因なくしてなされた不当利息として，給付したものの返還を請求することができる(民法703条)。また例外として，無権代理による行為は無効であるが，本人の追認があれば初めから有効な行為となる。ただし第三者の権利を害することはできない(民法116条)。〔黒木三郎〕

むこう【向日(市)】 京都府南西部の市。人口49,000。京都盆地の西，京都と阪神(はんしん)地域を結ぶ回廊地帯に位置する。1972年(昭和47)市制施行。東海道本線・京阪神急行京都線・国道171号線などの交通の便があり，工場の進出が著しく，洛南(らくなん)工業地帯の一画をなす。住宅の造成も急で人口が急増している。史跡の長岡宮跡がある。

むこうじま【向島】 東京都墨田区北西部の地区。西の隅田(すみだ)川と東の荒川放水路にはさまれた沖積地(ちゅうせきち)上にあり，江戸時代は大名・富商の別荘が多く，特に隅田川沿岸は〈墨堤〉とよばれるサクラの名所であった。明治以後は水運を利用する多くの工場が立地して江東工業地帯の一中心となり，1932年(昭和7)東京市の市域拡張に伴って南葛飾(みなみかつしか)郡の隅田・寺島・吾嬬(あずま)の3町が合併して向島区が成立，1947年本所区と合併して墨田区となった。現在の墨堤は西岸の浅草河岸(台東区)も合わせて都立隅田公園となり，百花園などとともに下町の人々の行楽地となっている。寺島町にあった玉ノ井の私娼街(ししょうがい)は永井(ながい)荷風*の名作《濹東綺譚(ぼくとうきたん)》に描かれて名高い。東武鉄道伊勢崎(いせさき)線・京成電鉄押上線・都営地下鉄・国道6号線(水戸(みと)街道)が通じる。〔浅井得一〕

むこうじょうちゅう【無鉤条虫】 扁形(へんけい)動物・ジョウチュウ科。鉤(かぎ)をもたないのでカギナシサナダともいう。ウシ・ヤギを中間宿主とする。体長4～10mに達し，体節は1,000以上になり，末端に近い体節ほど成熟する。頭部には4個の吸盤をもつ。十分に成熟した体節は卵を充満して，そのままちぎれて糞便(ふんべん)中に排出される。卵は球形で，ウシが卵を取り込むとその体内で孵化(ふか)し，消化管壁を貫いて筋肉・皮膚などで嚢虫(のうちゅう)となる。嚢虫は5～10mmほどの白色の袋で，肉眼でもわかる。人体へはこの嚢虫をもった牛肉を生食することによって寄生し，小腸内で発育して成虫となる。体節が肛門(こうもん)付近で運動することや，糞便中に白い体節が見られることから，寄生が判明することが多い。多くは無症状であるが，ときに腹痛・下痢・貧血などを起こす。治療にはアテブリン・ビチオノール・フィルマロンなどが用いられる。予防としては，牛肉を生食しないこと，食肉検査，糞便の合理的処理などがあげられる。➔条虫〔山本　久〕

むこがわ【武庫川】 兵庫県東部，丹波高原南西部に発し，南流して大阪平野北西部に出て大阪湾に注ぐ川。流程約66km。三田盆地で羽束(はつか)川・黒川・有野川・有馬(ありま)川などを合流し，三田市，宝塚(たからづか)市間に武庫川渓谷(けいこく)をつくり，猪名(いな)川を合わせて三角州をつくる。支流の羽束川はせき止められ上水道・工業用水に用いられ，特に三田盆地では灘(なだ)の酒醸造用の三田米をつくる。

ムーサ［Mousa］ ギリシア神話の詩と音楽の女神。英語ではミューズ。後期には哲学・天文学などすべての学芸の神。ゼウスとムネモシュネの娘。9人の姉妹神で，ふつう複数形でムーサイとよばれる。聖域はヘリコン山やオリンポスの東ピエリアな

ど。後期には，ムーサの中でも，たとえばカリオペは叙事詩，クレイオは歴史，メルポメネは悲劇というように，おのおの独自の分野に結びつけられた。

むさくいちゅうしゅつほう 【無作為抽出法】 母*集団から標本を取り出すとき，母集団のどの要素も同じく選び出されるようにする方法。任意抽出法ともいう。さいころや抽選機や乱数表などが利用される。

むささび 【鼯鼠】 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・リス科。頭胴長38cm，尾長35cmほど。背は種々の茶色，腹は白い。耳介の長毛と手足は黒い。前後肢(し)の間および後肢と尾の基部，前肢から頸側(けいそく)に飛膜が発達し，夜間に飛膜を拡げて木から木へと滑空する。日本・朝鮮・中国に分布する。夜行性で果実・木の芽・樹皮などの植物質を食べる。日本では本州・四国・九州の低山の森林に比較的普通にみられ珍しくないが，ヨーロッパ・アメリカなどでは非常に珍重される。夜出て鳴き，飛ぶのでバンドリ(晩鳥)の別名がある。〔今泉吉典〕



ムササビ

むさし 【武蔵】 同型艦大和(やまと)とともに，史上最大の戦艦。1938年(昭和13)3月三菱(みつびし)重工業長崎造船所で極秘のうちに起工，太平洋戦争中の1942年8月に完成したが，戦闘の様相は大艦巨砲主義から航空機主体の時代に移っており，2年後の1944年10月レイテ沖海戦で命中魚雷20本以上，爆弾17発以上のほか無数の至近弾を受けて沈没した。全長256m，幅36.9m，常備公試排水量69,100トン，主砲46cm砲9門，ほかに15.5cm砲12門，12.7cm高角砲12門，速力27ノット。〔藤井冬木〕

むさし 【武蔵(国)】 東京都(島嶼(とうしょ)を除く)と埼玉県および神奈川県の東部にまたがる旧国名。武州。はじめ東山道に属したが，771年(宝亀2)東海道に編入された。牟邪志(むざし)・知々父(ちちぶ)の2国造(くにのみやつこ)の領域であったが，大化改新後武蔵国にまとめられた。もと豊島(としま)・足立(あだち)・新座(にいくら)・荏原(えばら)・埼玉(さいたま)・入間(いるま)・高麗(こま)・比企・横見・大里・男衾(おぶすま)・幡羅(はら)・榛沢(はんざわ)・児玉(こだま)・賀美(かみ)・那珂(なか)・秩父(ちちぶ)・多麻・橘樹(たちばな)・都筑(つづき)・久良(岐)(くらき)の21郡。国府は現在の東京都府中市，国分寺は同国分寺市にあった。早くから帰化人の手で開発が進み，官の*牧が置かれた。平安中期以降，在地豪族の武士化が進んで，武蔵*七党とよばれる武士団が生まれ，坂東(ばんどう)*八平氏中の秩父氏一族も各地に割拠した。鎌倉時代には有力御家人・北条(ほうじょう)氏一門が国司と守護を兼ね，室町時代には高・仁木(にき)氏を経て上杉(うえすぎ)氏が守護を世襲，戦国末期には上杉氏の重臣*太田道灌(おおたどうかん)，次いで後北条氏が支配した。1590年(天正18)後北条氏滅亡後，徳川家康(いえやす)が江戸に築城してここを領国の中心とし，1603年(慶長8)江戸*幕府を開いた。それより260年余にわたって江戸は全国支配の中心として繁栄した。忍(おし)・川越・岩槻(いわつき)などの譜代小藩のほかは天領・旗本(はたもと)領であった。明治維新後，江戸府・品川県・小菅(こすげ)県，次いでこれを合わせて1871年(明治4)東京府が置かれ，1888年には伊豆(いず)七島を合わせた。また忍・岩槻・浦和県を合わせて1871年埼玉県とし，六浦県を神奈川県に合わせ，さらに足柄県を合併することによって現在の神奈川県が生まれた。〔黛　弘道〕

むさししちとう 【武蔵七党】 平安後期，武蔵(埼玉県・東京都・神奈川県)を中心に活躍した同族武士団の総称。《武蔵七党系図》によれば，村山・横山・猪俣(いのまた)・児玉(こだま)・丹・西・野与の各党となっているが，《書言字考節用集》では私市(きさいち)・丹治・西野・横山・村山・猪俣・児玉となっている。諸党の成立や発展の具体的事情については明らかではないが，武蔵守(かみ)や武蔵介(すけ)の子孫が現地に土着して武士化したもののようで，いずれも源頼義(よりよし)・義家を棟梁(とうりょう)と仰いで源氏の家人となった。室町時代にはいって党的性格を失った。なお，《源平盛衰記》や《太平記》にその名が見えるので，鎌倉・南北朝時代にも活躍していたことが知られる。〔高崎徳次〕

むさしの 【武蔵野(市)】 東京都中央部，23特別区部の西に接する市。人口13万2,000。江戸初期，町人の開拓による新田集落が開け，五日市街道沿いの短冊(たんざく)形地割が当時を物語っている。関東大震災以後は東京の郊外住宅地として発展し，第2次世界大戦後は急速に東京のベッドタウン化する一方，新興工業地帯も形成されている。1947年(昭和22)市制施行。市域の大半は高さ50～60mの武蔵野*台地上にあり，南東部に井の頭(いのかしら)の低地がある。産業三大別人口比は1：26：73。横河(よこかわ)電機製作所などの工場や，電電公社の電気通信研究所があり，中央本線が市域内を東西に貫通する。東部の吉祥寺(きちじょうじ)駅は国電中央線で新宿，京王帝都電鉄井の頭線で渋谷(しぶや)とそれぞれ結ばれ，駅前にはデパート・商店街が発達して東京都の副都心化の傾向が強い。吉祥寺周辺部には成蹊(せいけい)大学や井の頭公園・井の頭自然文化園などがあり，学園文化都市的な様相を呈する。南隣する三鷹(みたか)市との境を玉川上水が流れる。

むさしの 【武蔵野】 薩摩琵琶(さつまびわ)の曲名。16世紀半ばすぎに，薩摩の島津日新斎が作詞し，盲僧の淵脇(ふちわき)寿長院が作曲したといわれる。《迷悟擬(めいごもどき)》《花の香》とともに薩摩琵琶最初期の曲で，人生ははかないが徳をみがくべきであるとうたった教訓歌である。

むさしの 【武蔵野】 国木田*独歩の短編小説。1898年(明治31)1～2月，《国民之友》に《今の武蔵野》と題して発表。結婚生活に破れた作者が，傷心をいやすために渋谷村に住んで武蔵野の散策に過ごしていたときに得た自然風物の印象を，清新な文体で描いた作品。*ワーズワースの自然観照や*ツルゲーネフ《あひびき》の影響がみられ，*自然主義文学の代表作とされる。

むさしのだいち 【武蔵野台地】 関東平野の南西部の主体をなし，東京都と埼玉県にまたがって広がる洪積(こうせき)台地。多摩川がつくった隆起扇状地で，東に向かって緩傾斜し，扇頂の青梅(おうめ)は標高約180m，扇端の東京山手(やまのて)地区東端は約20mのがけで荒川沖積(ちゅうせき)低地に臨む。一般に台地面は，三浦層群の上に礫層(れきそう)が，さらにその上位に平均数メートルの関東ロームが堆積(たいせき)していて，水に乏しく，江戸時代には玉川上水などの開削によって開拓されたところも多い。東半は東京西郊の市街地，西半は近郊農業地帯であるが，第2次世界大戦後西半の都市化が急速に進んでいる。〔高野　繁〕

むさしむらやま 【武蔵村山(市)】 東京都中北部の市。人口57,000。中世には武蔵*七党の一つ，村山党の発祥地として知られ，江戸時代に新田開発が行なわれた。1954年(昭和29)北多摩郡村山町として町制を施行，1970年11月山形県の村山市と区別するために現市名に改称して市制施行。市域の北部は狭山(さやま)丘陵が起伏し，南部は武蔵野*台地の北西端にあたる平坦地(へいたんち)である。産業三大別人口比は3：46：51。農業は畑作が主で，近郊野菜の供給地となっている。村山大島・狭山茶などの特産がある。南隣する立川市の北端部を西武鉄道拝島線が走るが，交通の便に恵まれず，東京都内で最も農村的な色彩が強い。しかし，最近は住宅地・団地の進出で人口が急増している。国立村山療養所がある。

むさんかいきゅう 【無産階級】 ⇨プロレタリアート

むさんしょう 【無酸症】 胃液中の遊離塩酸がまったく消失する症状。だいたいの標準として胃液の総酸度は，30～60 mEq/l が正常で，60mEq/l以上を*胃酸過多症(過酸症)，30mEq/l以下を減酸症，0を無酸症とよんでいる。さらにヒスタミン注射による胃液分泌刺激に対しても，分泌が起こ

らないものをヒスタミン不応性の無酸症，あるいは真性無酸症という。無酸症は萎縮(いしゅく)性胃炎・胃癌(がん)・悪性貧血・重症消耗性疾患・肝臓疾患などの場合にみられるが，特に真性無酸症を呈し，消化器障害の症状があるときは胃癌を疑う重要な所見となる。食欲不振・胃部圧迫感・悪心(おしん)その他頭痛・脱力感などを訴えることが多い。治療は原因疾患によって異なるが，炭水化物に富む食餌(しょくじ)を適当量与え，タンパクをやや制限し，塩酸リモナーデ・アチドールペプシンなどを与える。

〔佐野隆志〕

むし　【虫】　日本舞踊。1921年(大正10)初演。外遊中に見たロシア-バレエに刺激された市川猿之助*(えんのすけ)が帰国後に発表したもので，新舞踊*の歴史上エポックをつくった作品として意義が深い。秋の野に戯れていた虫が，やがて冬になって死んでいくさまを描いた作品。歌詞はなく，尺八を基調とする音楽を用いた。

むしおくり　【虫送り】　イネの害虫を駆除するための儀礼。近年農薬による虫の駆除が普及するまでは，全国的に虫送りの行事が行なわれた。前代の人々は虫害を悪霊のしわざと考え，稲穂が実るまでの間に虫送りを村の共同祈願の一つとして行なった。その方式は，夜間に松明(たいまつ)を連ねて田の中の道を村境まで行く，田の中を鉦鼓(しょうこ)を鳴らしながら行くなどの二つがあった。行列の中心はわらでつくった人間の等身大の人形で，その中に食物を満たして送ったり，あるいは害虫を少しかごに入れるか，葉に包んで持たせる場合などもあった。害虫を統制する力のある者に依頼して，連れて帰ってもらうという呪法(じゅほう)と考えられる。　〔直江広治〕

むしかり　双子葉植物・スイカズラ科。オオカメノキともいう。山地性の落葉小高木で，高さ２～４ｍ。葉は対生し，大形円形で先はとがり，縁には鋸歯(きょし)がある。４～５月，枝先に直径７～12cmの散房花序をつけ，中央に小形の両性花，周辺に白色大形の装飾花がある。果実は楕円(だえん)形で赤熟する。

むしくい　【虫食】　鳥類・ヒタキ科・ウグイス亜科・ムシクイ属の総称。ユーラシア大陸の温帯の森林に30余種が繁殖し，冬季は南方に渡って越冬する。いずれも全長10cm前後の小鳥で，上背面はくすんだ緑色，下面は白色ないしは淡黄緑色で，特に目だった模様はなく，互いによく似る。形態・色彩だけでは，野外にいるものはもちろんのこと，手に取ってみても，種の区別が容易でないものもある。囀(さえず)りは種によって非常に特徴が明確で，それぞれの種の間で同種個体の認識に役だつと考えられている。こん虫類を主食とし，地上あるいは地上に近いところに営巣する。わが国には５種のムシクイが分布し，たとえばエゾムシクイはしみいるような声で〈チィーツーキー，チィーツーキ〉と，メボソムシクイは〈リリリ，リリリ〉と，センダイムシクイは〈チイヨ，チイヨ，ジイー〉とそれぞれ独特の囀りをする。　〔安部直哉〕

ムシカリ





ムシクイ　メボソムシクイ



ムシトリスミレ

ムシトリナデシコ



むしこぶ　【虫こぶ】　⇨虫癭(ちゅうえい)

むしとりすみれ　【虫取菫】　双子葉植物・タヌキモ科。高山の湿地にはえる多年草で，食虫植物。茎はなく，葉は長さ３～５cm，幅１～２cmの狭卵楕円(だえん)形で，質は柔らかく，上面には短い腺毛(せんもう)があり，粘液を出して小さいこん虫を捕える。７～８月，５～15cmの花茎を伸ばし，先端に紫色花を１個つける。花冠の長さ1.2～1.8cmの唇状形で長い距があり，スミレの花に似る。果実は長さ４～６mmの楕円状の蒴果(さくか)で，二つに分かれる。

むしとりなでしこ　【虫取撫子】　双子葉植物・ナデシコ科。観賞用として江戸時代末期に渡来したヨーロッパ原産の一年草。全体が白っぽい。茎は直立して高さ30～60cmになり，各節の下部に粘液を出す部分があって，ときに虫がくっついていることがあるためこの名がある。４～７月，枝先に直径１cm，筒長15～18mmの紅色５弁花を多数つける。

むじな　⇨タヌキ

むじな　【狢】　アナグマの別称で，ササグマ・マミともいう。タヌキと同一視あるいは混同している地方もあり，長野県北安曇(あずみ)郡小谷地方でいう狢はタヌキのことである。架空の動物としての狢は〈ばんぶく〉ともよばれ，毛が白く腹に毛のないばんぶくはよく化けて人をだますという。狢に関する伝承としては，旅の高僧に化け，求めに応じて書を揮毫(きごう)したが，犬に見破られて殺されたというのが各地に共通している。なお，タヌキにはタヌキ憑(つ)きといって人に憑く話が多いが，狢にはこれがない。　〔直江広治〕

むじなも　【狢藻】　双子葉植物・モウセンゴケ科。日本・ヨーロッパ・インド・オーストラリアなどに点在する水生食虫植物で，日本では1890年(明治23)牧野富太郎*が東京の小岩で採集したのが最初である。根はなく，茎は６～25cmで少し枝を出す。葉身は二枚貝のような袋状，葉柄はくさび形で数本の毛があり，６～８枚が輪生する。袋の部分は自由に開閉し，中に小さな虫がはいると閉じ込めて消化してしまう。７～８月，淡緑色の小さな５弁花を水上に出す。果実は丸い蒴果(さくか)で，花後に花柄が曲がって水中にはいる。

むしのたれぎぬ　【虫の垂衣】　枲の垂衣，牟子垂衣とも書く。苧麻(からむし)で製した薄く長い垂れぎぬのかぶり物。平安時代から室町時代ごろまで女子が外出に際して用いた市女笠*(いちめがさ)の周囲にたらし，道中の風塵(ふうじん)や害虫を避けた。〈むし〉というのはいらくさ科の苧麻や枲(けむし)の意で，垂衣をこの植物繊維で織ったからである。

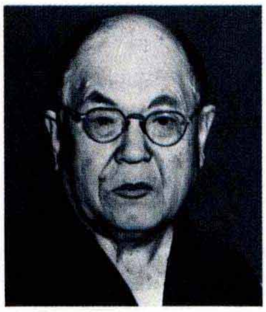
むしば　【むし歯】　歯の硬組織(エナメル質・象牙(ぞうげ)質)が冒されて欠損する疾患。歯科医学上は齲歯(うし)・齲蝕歯(うしょくし)とよぶ。原因について種々の説があるが，現在のところでは，微生物の代謝の生産物(おもに酸)による破壊であるとするアメリカ合衆国の歯科医・細菌学者ミラー(1853～1907)の化学細菌説が支持されている。しか

し研究方法が進むにつれてそれだけとは言いきれないものも多い。ごく表面のエナメル質に限られたもの，象牙質までに及んだものなどその程度は種々である。むし歯は一度かかったら絶対になおらず，放置すればひどくなる一方なので，早いうちにむし歯の部分に詰め物をして治療する必要がある。〔菊池　進〕

むしひきあぶ【食虫虻】こん虫類・双翅(そうし)目・ムシヒキアブ科の総称。体長は5～50mmと変化に富む。体は細長いものから短太のものまであり，色彩はハチに似たものが多く，多毛である。頭部は長さよりも著しく幅広で，触角は普通3節からなって前方に突出し，末端節には突起や羽毛状の刺毛があるものが多い。複眼は大きい。口器は下方に向かう短太でかたい口吻(こうふん)からなり，末端に細長い唇弁(しんべん)がある。胸部は大きく，背面は強く膨隆する。脚はふつう細長く，腿節(たいせつ)と後脚の脛節(けいせつ)は太まることが多い。翅(はね)は大きくて強く，無色透明または暗かっ色ないし黒かっ色をおびる。腹部は8節からなる。肉食性で，成虫は飛翔(ひしょう)中に他のこん虫類を捕え，口吻で刺して運動を不可能にさせたのち，体液を吸う。トンボ類・セミ類などの大形こん虫もしばしば捕食される。幼虫は円筒形で，土・塵芥(じんかい)・朽ち木中などに生活し，他のこん虫類の幼虫を捕食あるいは寄生すると考えられているが，まだ詳しく研究されていない。全世界から4,000種以上が知られ，7亜科に分類される。日本には4亜科約50種が分布し，代表的なものにアシナガムシヒキ・オオイシアブ・トラフムシヒキ・アオメアブ・シオヤアブ・マガリケムシヒキなどがある。〔鈴木邦雄〕

むしぶんれつ【無糸分裂】直接分裂ともいい，核分裂が紡錘体を形成しないで行なわれるもので，核がくびれたり引きちぎれるようにして2個に分かれる。ハツカネズミの腱(けん)，ムラサキツユクサの茎などのほか，老化した細胞や病的な細胞などにみられる。

むしゃく【無錫】ウーシー　中国，江蘇省南部の都市。人口約70万。太湖の北岸にあり，大運河が通過し，滬寧(こねい)鉄道(上海(シャンハイ)～南京(ナンキン))と自動車道路の要地をなす。太湖沿岸の穀倉地帯の中心に位置し，古くから米・蚕糸・小麦の集散地として栄え，ことに米の取引は四大米市の一つといわれるほど盛んであった。19世紀末に，紡績工業が設けられてから急速に繊維工業が発達し，従業員数約10,000という紡織捺染(なっせん)の一貫工場があるほか，時計・油圧ポンプ・工作機械・ディーゼルエンジンなどの工場も建設されている。古く漢代に県が置かれたが，これは西方にあるスズ鉱の精錬のためであったといわれる。現在の市街は宋(そう)代に起源をもつとされ，周囲6kmの城壁で囲まれた中を運河が縦横に走り，工業地域は城外北西郊につくられている。付近には太湖をはじめ恵山寺・東林書院跡などの古跡や名勝がある。〔船越昭生〕



武者小路実篤



ムシヒキアブ

むじゃく【無着】⇨アサンガ

むじゃくどうちゅう【無着道忠】(1653～1744)　江戸時代の臨済宗の僧。但馬(たじま)(兵庫県)の人。号は葆雨堂(ほううどう)，照冰堂。8歳で妙心寺龍華院(りゅうげいん)の竺印(ちくいん)について出家，のち諸方を遊歴し，25歳で竺印の遺命で龍華院に住した。その後諸師の講席に参じて教禅を参究する一方，儒道二教，暦数を学び，学徒に禅書を講じた。1707年(宝永4)妙心寺に住し，1744年(延享1)92歳で寂した。博学で文筆に長じ，《禅林象器箋(ぞうきせん)》《正法眼蔵僣評(せんぴょう)》など多数がある。〔田中良昭〕

むしゃじけん【霧社事件】1930年(昭和5)10月27日台湾の台中州霧社で起こった高砂族(たかさごぞく)の抗日暴動事件。日本の現地官憲による労役強制や極度の社会・経済的差別に憤激した高砂族約1,500人が蜂起(ほうき)し，警察・学校・民家などを襲撃，日本人134人を殺害した。台湾総督府は警官・軍隊を出動させて1,000余人の高砂族を殺害して11月19日これを鎮圧した。翌年1月台湾総督石塚(いしづか)栄蔵は罷免され，政府も責任を追及された。〔応和邦昭〕

むしゃどころ【武者所】①院の武者所。上皇の御所を警備し，御幸に供奉(ぐぶ)する武士の詰所(つめしょ)を称し，転じてその武士のことをいい，〈武者〉〈所〉とも略称した。985年(寛和1)円融院のとき，院の武者所10名に弓矢を帯びさせたのを初見とする。②建武中興政府の武者所。1334年(建武1)条規が定められた。所員は新田(にった)・長井・三浦・小早川(こばやかわ)など鎌倉以来の豪族64名が所属し，6番に構成されて交替制であった。新田氏一族が中心となり，京都の警備をおもな任務としたらしいが明らかでない。〔高崎徳次〕

むしゃにんぎょう【武者人形】⇨五月人形

むしゃのこうじさねあつ【武者小路実篤】(1885～1976)　小説家・劇作家。東京の子爵の家に生まれた。東京帝国大学社会学科中退。早くからトルストイの平和主義に影響を受けたが，やがて社会主義思想やメーテルランクの作品にふれ，自我の欲求を肯定する独自な個性主義へと移った。1910年(明治43)志賀直哉(なおや)らと《白樺(しらかば)》を創刊。小説《お目出度(めでた)き人》や戯曲《わしも知らない》で作家としての地位を確立した。第1次世界大戦を契機に，人道主義への傾斜が濃厚となり，1918年(大正7)には宮崎県に理想郷〈新しき村〉建設を始めた。以後《友情》《人間万歳》《或(あ)る男》などの代表作を発表。白樺派の解散や〈新しき村〉からの離反を経て，第2次世界大戦後は一時戦犯として追放されたが，《真理先生》などによって復活。ほかに《愛と死》《幸福な家族》などの小説や，伝記的作品，あるいは美術関係の著作も多い。〔瀬良垣宏明〕

むしゃのこうじせんけ【武者小路千家】茶道の一流派で三千家の一。官休庵(かんきゅうあん)千家ともいう。千宗旦(そうたん)の次男一翁宗守が，讃岐(さぬき)(香川県)高松藩の御茶頭(おさどう)をやめ京都武者小路に官休庵を建てて，官休庵1世を唱えたのに始まる。宗守の茶名を世襲し，現在，10世有隣斎宗守に至る。武者小路千家流は，京都市武者小路の家元を基盤とし，9世癒好斎(ゆこうさい)宗守の出生地である大阪市でも，願泉寺の出身である木津家を中心に発展し，そのほか四国の高松市や東京都にも，主として知識階級に広まった。〔桑田忠親〕

むじゅうりょうじょうたい【無重量状態】重さのなくなった状態。重さは引力を受けている物体が，そのささえとなっているものに及ぼす力である。したがって，物体とそれをささえるものが自由に動く場合，たとえば自由落下する箱の中の物体には質量はあるが重さはない。動力による速度変化がなく，慣性によって宇宙空間を飛ぶ人工衛星や宇宙船の内部はこの状態であり，その中のものは重さをもたない。

むしゅく【無宿】江戸時代，農民・町人で一定の正業から離れ，住居の定まらなかった浮浪者。無宿者ともよんだ。中期以後，商業資本・前貸資本の重圧や過重な封建収奪のため，貧農や下級町人の間から転落者が出て，都市ことに江戸に集中して無頼の生活を送った。天明の飢饉(ききん)以後激増し，治安上無視できない問題となった。寛政の改革では，幕府は人足寄場(にんそくよせば)を設置し，無宿に授産を行なって更生の道を講じるようにし，この制度は明治維新まで継続した。また天保(てんぽう)の飢饉以後は，天保の改革において人別改(にんべつあらため)(人

口調査)を強化して無宿の江戸流入を押さえ，人返し*法を実施した。〔高崎徳次〕

むしゅぶつせんせん【無主物先占】現に所有者のない物を他人に先んじて所有の意思をもって占有すること(民法239条1項)。漁猟によって魚や鳥獣を捕獲したり，他人の捨てた物を拾うなど。無主の動産*は先占者が所有権を取得するが，無主の不動産*は国庫に帰属する(民法239条2項)。

むじゅん【矛盾】相互に否定し合って両立しないという2項間の関係。現実における矛盾と論理学上の矛盾とが区別される。前者は事物のうちに働く諸要因の対立をさし，弁証法はこれを自然の変化や社会の発展の原動力としてとらえる。後者は概念や判断もしくは命題における肯定と否定，真と偽にかかわるもので，とくに両項の中間に第三項を許容しないという対立関係である。たとえば〈有色〉と〈無色〉とは互いに矛盾する概念である。これら以外のものは考えられないからである。また〈すべての人間は理性的である〉と矛盾する命題は〈ある人間は理性的でない〉である。一方が真であれば他方は必ず偽でなければならず，ともに真あるいはともに偽とはなりえないからである。〔石倉恒之〕

むじゅんしはん【無準師範】(？～1249) 中国，南宋(なんそう)の臨済宗の僧。蜀(しょく)の梓潼(しとう)の人。俗姓，雍(よう)氏。諡(おくりな)は仏鑑禅師。9歳で平陰山の道欽(どうきん)について剃髪(ていはつ)，諸方を行脚(あんぎゃ)して坐禅(ざぜん)弁道を重ね，霊隠(りんにん)寺の破庵(はあん)祖先に法を継いだ。その後は主として杭州(こうしゅう)の径山(きんざん)に住し，化導すること20年，1233年には理宗帝に召されて法要を説いた。門人には無学祖元*・兀庵普寧*(ごったんふねい)らがある。著書《仏鑑禅師語録》《仏鑑禅師奏対録》。〔田中良昭〕

むじゅんりつ【矛盾律】論理学用語。矛盾原理ともいう。アリストテレスはこれを〈同じものが同時に，そしてまた同じ事情のもとで，同じものに属しかつ属さないということは不可能である〉と表わしたが，一般には〈AはBでありかつ非Bであるということはありえない〉という形式で表わされる。これは〈AはBである〉という命題と〈Aは非Bである〉というその否定命題とは同時には真でありえず，一方が真であれば他方は必ず偽であるということであって，〈AはBであるか，もしくは非Bであるかのどちらかである〉という排中律を含んでいる。またこの原理は〈Aは非Aではない〉とも表わされ，〈AはAである〉という同一律*を裏返したものでもある。〔石倉恒之〕

むじょう【無常】梵語(ぼんご) anitya(アニトヤ)の漢訳で，非常ともいう。万物が生滅変化して同じ状態にとどまらないこと。インド仏教では，あらゆるものが常住でないことを〈諸行無常〉といい，三法印や無常偈(げ)の中の重要な思想の一つとされてきた。当初この無常は，念々無常(万物は刹那(せつな)ごとに生滅して常でないこと)，相続無常(人の寿命が尽きて死滅ずること)という解釈をうけて，自然現象と人生にかかわる切実な問題としてとりあげられたが，のちしだいに思弁的傾向を強めた。仏教が日本に伝えられるようになると，この無常に対する観想は，いわゆる無常感とともに，日本人の宗教意識を深く規定することになった。特に平安朝の《源氏物語*》などに代表される女流文学においては，現世的人間の関係と自然の推移を〈はかなし〉と見，そのはかなさに対して〈あはれ〉と同感し詠嘆するところに独特の無常感が醸成された。このような無常感の土台には，個々の存在は必ず滅する(色即是空)という見方がみられ，《平家物語*》や《方丈記*》にも受け継がれた。ところがやがて《徒然草*(つれづれぐさ)》に至って，いっさいの存在は本来無常なるものであって，無常性こそかえって一切万物の根底である(空即是色)というように，感覚的な無常感を転換させる立場が現われた。これは無常を感傷的にではなく自覚的に選びとろうとする態度であり，したがって一種の世界観認識としての無常観であった。すなわち無常の絶対性を人生の実相とみて，その中にかえって自由闊達(かったつ)の境地を見いだそうとする宗教的自覚がみられる。〔山折哲雄〕

むしょうけいやく【無償契約】⇨契約

むしょうこうふ【無償交付】⇨交付公債

ムージール［Robert Musil］(1880～1942) オーストリアの小説家。生前はほとんど無名に等しかったが，第2次世界大戦後世界的に注目を浴びている特異な作家。未完の大作《特性のない男》は，第1次世界大戦前のオーストリアのすぐれた風刺図であるとともに，いかなる〈特性〉をも拒否して可能性に生きる男の物語である。ほかに処女作《士官候補生テルレスの惑い》，短編集《三人の女》など。

むしるい【無翅類】こん虫類・無翅亜綱の総称。成虫になっても翅(はね)がなく，また変態をせず(無変態)，甲殻(こうかく)類のようにいつまでも脱皮する(トビムシ類では成熟して産卵をするようになったのちでも，数十回の脱皮を行なうものが知られる)など，多くの原始的と思われる特徴がある。他の全こん虫類が含まれる有翅亜綱と対置されるが，両者の関係は不明な点が多く，議論が分かれるところである。すなわち，現在の有翅亜綱のこん虫類が現在の無翅亜綱のこん虫類の祖先型から生じたとする説と，両亜綱を結ぶ直接的な共通の祖先はなく，両者はそれぞれ別の系統のものから独立に分化してきたとする説がその主要なものである。無翅亜綱は次の4目からなる。①原尾目：微小(成虫で1㎜内外)で触角がなく，腹節が12節ある。腐植質の多い土中に生活する。カマアシムシ類(ヨシイムシなど)。②総尾目：頭部にむち状ないし糸状の触角があり，腹部末端に1対の尾角とその中間に1本の尾毛をもつ。イシノミ類・シミ類など。③双尾目：前者によく似るが，尾毛はない。ナガコムシ類・ハサミコムシ類など。④粘管目：第1腹節下面に出入自在の粘液でおおわれた嚢(のう)を先端につけた腹管という器官があり，また腹部はわずか6節である。トビムシ類(ミズトビムシ科・イボトビムシ科・ツノトビムシ科・マルトビムシ科)など。➔シミ ➔トビムシ〔鈴木邦雄〕

むしろ【莚】筵・蓆とも書く。材料により菅(すげ)・竹・稲・絹・藁(わら)むしろなどがあり，動物製のものでは氈(せん)むしろなどの種類がある。また産地により，出雲(いずも)むしろ(島根県)・信濃(しなの)むしろ(長野県)などの名もある。農・山村では，むしろ織りを農閑期の仕事にしている。藁むしろは，農家で畳代わりに炉の回りなどに敷き，また地上に敷いて，穀物の脱穀作業や天日乾燥に用いたり，最近ではかますに仕立てたり包装用に使用したりしている。〔合田 濤〕

むじん【無尽】加入者を集め加入者各人より掛け金を出資させ，抽選または入札の方法によりその出資金の中から加入者に金銭または物品を給付する，相互扶助的な組合*類似の制度。鎌倉時代に困窮者の救済や神社・仏閣の修理・参拝費の資金集めのために行なわれたのがはじまりで，江戸時代にはいりしだいに商工業金融や消費者金融的性格をおび，明治時代には相互扶助的な無尽講(頼母子講*(たのもしこう))と無尽会社の行なう営業無尽とに分離した。その後しだいにその重要性が薄れ，1951年(昭和26)相互銀行法により無尽会社は相互銀行*に転換し，普通銀行業務の比重が大きくなっている。〔速水 保〕

むしんさほけん【無診査保険】生命保険では，一般に被保険者すなわち保険の対象となる者は健康体であることを求めている。このためには保険医とよばれる医師による診査が行なわれるが，この医的診査を省略したのが無診査保険である。無診査保険は有診査保険に比べて，健康体の被保険者の選択は不十分となるが，保険医の不足に対処し，診査に伴う諸経費の節約が可能となる。このため小口の保険は無診査保険となることが多く，特に簡易保険*はその代表である。ただし，保険金額・加入年齢に制限が設けられているほか，契約後2年以内の死亡発生は保険金支払いが削減される。〔庭田範秋〕

むしんろん【無神論】神あるいは神的なものの存在・作用などを否定する立場。有神論・多神論・汎(はん)神論に対しては神的世界秩序を否定する。ギリシア語のアテオスに由来し，ギリシア・ローマでは国家

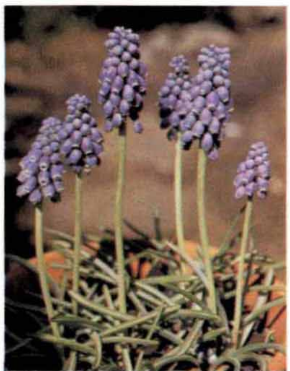
公認の神を否定する立場を無神論とよんだ。歴史的にはある既成の宗教が，自分たちが神とよぶものを否定する主張に対して用いてきた。無神論は積極的には，人間存在の意味と価値はそれ自体によって肯定されるべきであり，人間存在それ自体の尊厳と神の表象とは調和しがたいとする。哲学的に基礎づけられた無神論的世界観としては，ニーチェとその追随者による神信仰から解放された存在の肯定としての立場，フォイエルバッハによる神の理念および彼岸的表象は人間の願望と不安との投影であるとする立場，マルクスによる神信仰は支配階級のある目的をもった虚構であるとする立場，科学的立場から神信仰を科学的な証明の不足によるものとする立場，さらにサルトルの実存主義的無神論などがある。〔豊福英利〕

むすいアルコール　**【無水アルコール】**　水を含まないエチルアルコール。無水酒精ともいう。生石灰やセッコウなどの固体脱水剤を使って脱水したのち蒸留して得られる。無水硫酸銅・無水炭酸カリウムなどを用いる場合もある。微量水分の除去には金属ナトリウムや金属マグネシウムなども使う。また，ベンゼンやトリクロルエチレンなど水およびアルコールと三成分系共沸混合物をつくるものを混ぜて蒸留する方法もある。用途は，写真感光材料・有機工業薬品のほか，医薬品・化粧品などの製造に使われる。

むすいさくさん　**【無水酢酸】**　$(CH_3CO)_2O$　カルボン酸無水物の一つで，2分子の酢酸が脱水縮合した構造の化合物。ケテンと酢酸の反応，その他でつくられる。強い刺激臭のある無色の液体。水，アルカリと作用すれば，酢酸またはその塩となる。酢酸エステル合成試薬の一つで，おもにアセチルセルロースの製造に用いられるが，医薬や染料などの製造におけるアセチル化剤としても用いられる。

むすいしょうさん　**【無水硝酸】**　N_2O_5　五二酸化窒素ともいう。冷濃硝酸を五酸化リンと蒸留脱水するか，冷やした液体四二酸化窒素N_2O_4にオゾンを作用させると生成する。無色のかたい光沢のある柱状晶で，吸湿性・爆発性がある。0℃ですでにNO_2と酸素に分解しはじめる。水には激しい音をたててとけ，硝酸となる。

ムスカリ　［*Muscari*］　単子葉植物・ユリ科の一属。ヨーロッパからカフカス地方原産の多年草で，40〜50種がある。日本には明治初年に渡来し，観賞用として切り花やはち植えにされる。鱗茎(りんけい)は小さな卵形で，葉は3〜4枚が根生して肉質線状。春に無葉の花茎の茎頂に総状花序につぼ形の小花を下垂する。果実は翼状の3稜(りょう)がある蒴果(さくか)で，種子は黒色球形。①ムスカリ-アルメニアカム：葉は6〜8枚で，下部に溝(みぞ)がある。花序の下部の花は濃青紫色で口縁は白覆輪で稔性(ねんせい)，上部の花は淡青色で不稔性。②ムスカリ-ボトリオイデス(ルリムスカリ)：葉は濃緑色で長く，横に倒れる。花は濃紫色。変種のアルブムは白色花。③ムスカリ-コモスム(ハネムスカリ・ハナビムスカリ)：花穂が細かく分かれて羽毛のようになる。④ムスカリ-モスカーツム：花は帯黄紫色で，水平につき，麝香(じゃこう)のような香気がある。〔横井朝子〕



ムスカリ-ボトリオイデス



ムスカリ-コモスム

ムスカリ

ムスカリン　［muscarine］　アシタカベニタケ・ベニテングタケ・アセタケなどに含まれるアルカロイドの一種。腐敗した魚肉中にも存在する。猛毒でアトロピンと拮抗する作用をもち，副交感神経を刺激し，脈搏(みゃくはく)をおそくし，腺(せん)分泌を阻止し，縮瞳(しゅくどう)作用がある。

ムスチエぶんか　**【ムスチエ文化】**　旧石器時代中期の文化。西南フランスのドルドーニュ県のムスチエ遺跡に由来して命名された。暖期から寒期への移り変わりを反映した複雑な内容をもち，暖期には河岸段丘，寒期には洞窟(どうくつ)に住む。剝片(はくへん)石器が主で，石灰岩の投弾，木の槍(やり)，骨角器などもあり，地面に浅い穴を掘り死者を埋葬している。文化のにない手はネアンデルタール人という。ヨーロッパからアフリカ北部，西南アジア，東南インドに分布する。〔高山高雄〕

むすび　**【結び】**　実用から装飾用に至るひもを用いた結び方の総称。ひもと結びの発生は織物よりも古く，BC5000年ごろといわれ，古代には約束の月日，数量，意志などを結び方で表わした。結びの歴史は，主として実用本位のものと審美性・表徴性の強いものとの2方向に発展した。ヨーロッパでは，船舶用・登山用の各種結び，紋章の原型といわれる中世のヘラドリック-ノット，編み物，マクラメ結び(→マクラメレース)など，実用本位で発達した。これに対してわが国では，法隆寺・正倉院に残る工芸品(箜篌(くご)・刀子)のひもに見られるように，ひも自体の意匠と故実や結んだ形を重視し，装束・調度・神仏に関するものまで，審美的な面で広く発展した。服飾面では，古くは埴輪(はにわ)や土偶に見られ，平安時代以降は有職(ゆうそく)故実に関する結びがあり，被布*飾りや帯をはじめ，羽織・はかまのひも，帯締めなどの結びがある。中世からは武具(鎧(よろい)・冑(かぶと)・刀剣・馬具・弓具)に関するものも多く，冑の総角(あげまき)・鎧の大総角は冑や鎧の背部を華麗に飾っている。また室町時代に始まった水引*は，女子に必須(ひっす)の教養として，諸流派まで生まれた。

結びは，目(結び目)・体(輪差の部分)・手(端)の三部分からなり，結んだ形によっ



結びかたの種類



水引きに用いられた飾り結び

結　び

て次のような種類がある。①結節：一端に結びこぶをつくる。一重結び・玉止め結びなど。②結合：端と端を結び合わせる。はた結び・こま結び・てぐす結びなど。③結着：他のものに結びつける。すごき結び・一結びなど。④装飾用文様：水引や神仏用に見られるもの。各種の花結び，あわび結び・華鬘(けまん)結びなど。⑤止め合わせ：釈迦(しゃか)結び・とんぼ結びなど。

〔宇賀神勝・田村彰三〕

むすめぎだゆう 【娘義太夫】 女性が語る義太夫節。義太夫節は男性が語るのが本筋であったが，女性でも人形なしで語ることが江戸末期から行なわれた。特に明治20年代から明治の終わりまで東京を中心に流行して，女性の魅力を伴っての〈さわり〉の強調は，若い男の観客に〈どうする，どうする〉の掛け声をかけさせた。通常の義太夫節と比べるとひき語りが多く，語り芸としては歌う要素が強いという特色がある。しかし，豊竹呂昇(とよたけろしょう)をはじめ高度な芸をもっているものも少なくない。現在の伝承者はほとんどが60歳以上のため，〈女義太夫〉の呼び方のほうが普通である。

〔徳丸吉彦〕

むすめぐみ 【娘組】 未婚の女子の年齢集団。若者組に対比される。加入年齢は地方によって多少異なるが，一般に15・16歳である。娘組は若者組に比べて早く衰退したが西南日本の沿海地帯に多かった。娘組は宿舎(娘宿)を伴うが，数軒の家に分散して宿舎とする場合が多く，娘組の宿は寝宿と深いつながりをもっている。娘宿のことを糸ひき宿などという地方もあるように，糸繰り・針仕事・苧績(おう)みなどの夜なべ仕事を行ない，村の仕事を手伝っていた。しかし，娘組の実質的な機能は婚姻と密接な関係があり，娘組の宿の主人である宿親や，娘組の組合頭は配偶者を探し選択する任務をもっていた。 〔渡辺欣雄〕

むすめどうじょうじ 【娘道成寺】 日本舞踊・長唄(ながうた)の曲名。本名題《京鹿子(きょうがのこ)娘道成寺》。1753年(宝暦3)初演。能の《道成寺》を基にして多くの道成寺物が生まれたが，その中で最も代表的な作品。現行の丁寧な形は，道行(義太夫(ぎだゆう)による場合が多い)・問答・乱拍子・中啓の舞・手踊り・まり唄の踊り・振り出し笠(がさ)の踊り・所化の花傘(はながさ)の踊り・手拭(てぬぐい)を用いたくどき・羯鼓(かっこ)の踊り・手踊り・鈴太鼓の踊り・鐘入り・所化の祈り・後ジテ，押戻(おしもどし)しで，その構成は華麗で変化に富んでいる。 〔如月青子〕



娘道成寺 6世中村歌右衛門による〈くどき〉の部分。この作品は能を基にしながら，歌舞伎舞踊としての独自の展開に特徴を示している

むすめやど 【娘宿】 ⇨娘組

むせい 【夢精】 睡眠中に欲情的な夢とともに，快感を伴って射精すること。一種の生理的現象であり，健康な男子が禁欲している場合には，ふつう1か月に数回ぐらい起こる。しかし，毎日あるいは一夜に数回起こるものは病的であり，その原因として，精神的過労・神経衰弱や尿道・前立腺(ぜんりつせん)・直腸・脊髄(せきずい)の疾患などが考えられる。

むせいえいが 【無声映画】 現在のトーキー映画が出現する以前の音のない映画で，サイレント映画ともいう。1929年ごろから世界的にトーキー化がはじまって急速に衰えた。無声映画は表現のすべてを映像にゆだねていたので，その時代には映像表現の可能性がきびしく追求されて，モンタージュ論・リズム論など多くのすぐれた理論や技巧が生まれた。ただ日本の無声映画は，活弁とよぶ説明者による解説と，楽士による伴奏音楽とがつけられて特異な発達を示し，より大衆的なものになると同時に，映画独自の方法の発展を遅らせる結果を招いた。➜日本映画 〔波多野哲朗〕

むせいおん 【無声音】 言語音の一種。声帯の振動を伴わないもの。有声音に対する。〈p〉〈t〉〈k〉〈s〉〈h〉〈θ〉〈f〉その他の音。日本語では，カ行・タ行・サ行・ハ行・パ行の子音は無声音である。なお，ふつう有声音で発せられる音が無声音になったものは無声化音といい，発音記号では〈ḁ〉〈m̥〉などのように字母の下に小さい丸をつけてしるす。

むせいふしゅぎ 【無政府主義】 ⇨アナーキズム

むせきついどうぶつ 【無脊椎動物】 脊椎骨をもたない動物の総称で，哺乳(ほにゅう)類・鳥類・爬虫(はちゅう)類・両生類・魚類を除くすべての動物が含まれる。脊椎動物に対することばであるが，一つの門に相当するわけではなく，分類学上の特定の用語ではない。種数・個体数ともに脊椎動物に比べて圧倒的に多い。陸上では節足動物門のこん虫綱が最も優勢であり，海中では軟体動物門が優勢である。脊索動物として脊椎動物と同じ仲間に入れられることもある原索動物も，無脊椎動物に含められる。

〔向井 宏〕

むせんこうほう 【無線航法】 ⇨電波航法

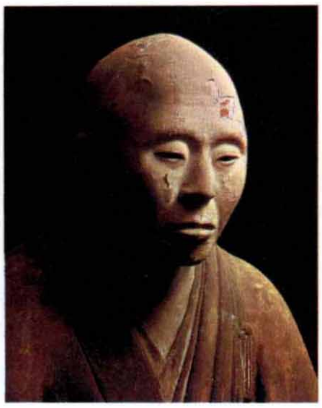
むせんつうしん 【無線通信】 電磁波を媒体とする電気通信の一方式。任意の2点間または多点間を結び，電線の引けないような地点や状況であっても通信ができることが特徴である。無線通信の業務を行なうには，電波法に基づいた認可を得なければならない。使用する電波の波長により多くの種類に分けられる。長波通信(波長1km以上，周波数300Hz(ヘルツ)以下)は，波長が長いので回折により地球の裏側まで電波が届き，昔は多く利用されたが，使用周波数が低いので通信容量が少なく，また送受信設備が膨大になるので現在はほとんど用いられていない。中波通信(波長1km～100m，周波数0.3～3MHz)は電波の到達距離が数百キロメートル以下であるが，簡便な受信機で間に合うのでラジオ放送の標準放送や，近距離の船舶による海上移動局などに使用される。短波通信(波長100～10m，周波数3～30MHz)は電波が電離層で反射されて地球の裏側へ届き，長波より簡便な送受信施設ですみ，また音声周波数による変調が可能であるので，遠距離通信に多く使用される。VHF通信(波長10～1m，周波数30～300MHz)は，見通し地域にしか伝達しないが，周波数が高いので情報量の多い通信ができ，FM放送やテレビジョン放送もこの周波数帯で行なわれる。また，近距離の移動無線にも多く使われている。UHF通信(波長1m～10cm，周波数0.3～3GHz)はVHF通信に似ている。波長のオーダーがcmのマイクロ波通信では，波長が短いので指向性のするどい電波を放射することができ，通信容量が大きいこととあいまって現在では無線通信の主役をになっている。マイクロ波通信は，地上局間では見通し距離内に中継所を置く必要があるが，ケーブルを埋める必要がないので国内の電話・電信・テレビジョン中継などの大部分がマイクロ波を利用している。国際間の通信のほとんど全部が人工衛星を利用したマイクロ波通信である。さらに波長の短いミリ波通信はより通信容量を増すことができるので将来の通信の中核になるものと思われるが，現在の時点ではそれほどの需要はなく実用化されていない。ただし，ミリ波通信では電波を空気中に放射すると雨滴などの反射により通信できなくなるので，導波管中を通すことになり無線とよべなくなるかもしれない。

〔小原啓義〕

むそう【無双】無双仕立て(表地を引返して裏も同生地で仕立てる)にした和服。冬用のじゅばんで表裏同布の袷袖(あわせそで)を無双袖，袷羽織の表裏続いた同布のを無双羽織，表が縞(しま)で裏は繻子(しゅす)織の二重組織に織った袴(はかま)地を無双袴という。男子の黒五つ紋付き羽二重の無双羽織は，裏の背に絵羽模様*を染め出したり，お召しなどには表が無地，裏に織り模様を絵羽で織り出したりするものもある。

むそうそせき【夢窓疎石】(1275～1351) 鎌倉・室町時代の臨済宗の僧。天龍(てんりゅう)寺*開山。伊勢(いせ)(三重県)の人。勅号は生前の夢窓・正覚・心宗の各国師号に，諡号(しごう)として普済・玄猷(げんゆう)・仏統・大円の各国師号があり，〈七朝帝師〉といわれる。甲斐(かい)(山梨県)で出家し，叔父(おじ)の明真，東大寺戒壇院の慈観に教学の指導を受け，諸国を遊歴して顕密二教を学んだが，のち禅に転じて一山一寧*，高峰顕日に師事し，高峰の法を継いだ。建武中興の後，後醍醐(ごだいご)天皇に召されて京都南禅寺に住し，また鎌倉円覚寺にも住したが，北条(ほうじょう)氏の衰退後は京都に臨川寺を建てて移り，足利尊氏(あしかがたかうじ)の尊信を受けた。また安国寺利生塔の創建と後醍醐天皇追善のための天龍寺建立(てんりゅう)に努め，その開山となった。天龍寺船による貿易の促進や，門人の育成に意を用い，門下に春屋妙葩*(しゅんおくみょうは)をはじめとする人材が輩出して夢窓派を形成し，五山文学の発展に尽くすとともに，造園にも卓越した才能を発揮した。著書《夢中問答集》など。〔田中良昭〕

ムソルグスキー［Modest Petrovich Musorgskii］(1839～1881) ロシアの作曲家。16世紀以来の地主貴族の家系に生まれた。少年時代に母からピアノを習い，10歳のときペテルブルグに移住して，あるドイツ人から本格的に音楽を学んだが，貴族の子弟は当時軍人になるのが常で，12歳のとき陸軍士官学校予備校にはいり，翌年近衛士官学校に入学した。1856年に同校を卒業し，連隊勤務になったが，ここで5歳年長の軍医で作曲家ボロディン*と親しくなり，やがて砲兵隊の士官であった作曲家キュイ*とも親交を結び，その紹介でバラキレフ*とも親しくなった。これにリムスキー-コルサコフ*を加えたメンバーは〈五人組*〉として後年大きな役割を果たした。1858年に軍役を退いたムソルグスキーは音楽に専心し，翌年管弦楽のための《スケルツォ》を発表して作曲家としての第一歩を印した。1861年に農奴解放令が出て，経済的に自立する必要が生じ，官吏となりながら作曲活動を続けたが，このころから飲酒の量が多くなり，健康を害した。1867年に《禿山(はげやま)の一夜》，1869年には大作《ボリス-ゴドノフ》の初稿を完成した。このオペラはロシア-オペラの最大傑作で，彼は引き続きオペラ《ホバンシチーナ》の作曲に着手したが未完成に終わった。ピアノ曲《展覧会の絵*》，さらに多くの歌曲の中に天才の証しを示しながらも，世に認められることもなく廃人のようになって早逝(そうせい)した。彼の音楽は特にドビュッシーを通じて20世紀音楽に大きな影響を与えた。〔向坂正久〕



夢窓疎石
瑞泉寺蔵



ムソルグスキー

むたいざいさんけん【無体財産権】無形の精神的能力の所産である経済的利益について認められる独占的・排他的権利。工業所有権ともいわれる特許権・実用新案権・意匠権・商標権のほか，著作権などがその例である。法的性質としては，独占的・排他的性質を有するほか移転性を有し，その効力としては，権利の侵害に対しては損害賠償の請求権が認められ，さらに近時では物権類似の物権的請求権が認められつつある。もっとも，特許権や著作権などについてはその存続期間が制限されており，その期間を経過したあとは，社会一般の利用に広く供されることになる。〔黒木三郎〕

むたいさいばい【無袋栽培】果実に袋掛けをしない栽培法。果実では病害虫予防および外観良化のため，幼果のときから紙袋を掛ける栽培法(有袋栽培)が普通であったが，農薬の進歩，無袋の場合の果実の質のよさの認識，生産費の低減などから，特に病害虫の防除困難な果実以外は袋を掛けずに栽培されるようになった。元来諸外国では無袋栽培が普通である。無袋栽培による果実は糖分・ビタミン含量は多いが通常外観は劣る。〔岩垣駛夫〕

ムータジラは【ムータジラ派】イスラム神学の一派。アッバス朝前期に公認学派としてその最盛期を迎えたイスラム史上最初の大思想運動。〈身を引く者〉を意味するが，これは彼らが両極端のハーリジー派*とムルジア派から身を引き，その中間の立場をとったことに由来するとされる。彼らの主張は，①神の唯一性，②創造された《コーラン》，③正義の神，④自由意志論などであるが，その特徴は合理性にあり，最高の規範が理性であった。これはギリシア哲学の影響に拠るものであり，以後正統派も論争の必要上，彼らの概念を用い，正統派思弁神学が樹立された。代表的な学者としては，ワーシル-ビン-アター・アッラーフ-ナッザーム・ジュッバーイらがあげられる。〔牧野信也〕

むたまがわ【武玉川】雑俳*選集。慶紀逸が自評の前句付の中から佳吟を選び1750年(寛延3)に出版したのが初編。以下毎年1編を刊行し，途中《燕都枝折(えどのしおり)》と改題して15編まで出し，以下2世紀逸によって受け継がれる。14字句の短句が多い。この書の刊行で，前句付が普及流行し，また《俳風柳多留*》などのちの前句付集に与えた影響も大きい。

むちうちしょう【鞭打ち症】⇨鞭打ち症候群

むちうちしょうこうぐん【鞭打ち症候群】慣性によって頭部に力が加わり，鞭を振ったように衝撃的に頸部(けいぶ)が揺れるため生ずる一連の症候群。頭部と頸部に直接力が加わった場合は除かれる。追突・衝突・急停車などの自動車事故による場合が多く，特に突然追突されると人の首は過伸展してから反動的に過屈曲されてこの症候が発生する。鞭打ち障害で損傷する個所は項筋，椎間枝(ついかんし)，関節包，その付近の神経などで，症状は脳震盪(のうしんとう)症状，項部痛，後頭部痛，頸椎骨折などである。受傷直後の治療は安静と固定がたいせつで，頭痛，吐きけ，上肢(じょうし)のしびれ，めまいのある人は入院させたほうがよい。この時期には止血剤・消炎酵素剤・鎮痛剤などを使用する。頭痛の強いものは腰椎穿刺*(せんし)が必要である。牽引(けんいん)は原則として行なわないが，逆に上肢のしびれの強いものには安静固定を目的として軽くグリソン係蹄(けいてい)(イギリスの解剖学者・内科医グリソンによってはじめて用いられた牽引器具)を使用するとよい結果を得ることもある。しだいに症状がとれて頸部の運動時痛のみになったら，プラスチックのカラー固定などを行なう。4週前後でときどきカラーをとって徐々に日常生活へ復帰させるが，症状のどうしてもとれないものは頸椎用コルセットに代える。頸椎牽引には反対の意見もあるが，症例によって，牽引・低周波通電・前斜角筋ブロックなどを行なう。〔山中英夫〕

むちも【鞭藻】褐藻(かっそう)類・ムチモ科。春，潮間帯下部の潮だまりに生じる海藻で，関東以南の太平洋岸に分布する。体

は径２～３㎜の円柱状で数回叉状に分枝し，長さ50cmに達する。若いものは頂端に小房状の成長毛がある。雌雄異株で，卵受精をする。ヨーロッパに分布する近縁種では，小形の胞子体が知られているが，本種には知られていない。

ムチン ［mucin］ 糖タンパク質*の一種。唾液(だえき)や粘液のように粘りけのあるものの中に多量に含まれる。糖部分はかなり多く40～50％にも達し，シアル酸とよばれる特殊なカルボン酸をもった糖の誘導体が含まれている。嚥下(えんげ)に役だつとともに，いろいろな感染の防止に働くといわれる。

むつ【陸奥】 ⇨長門

むつ【鯥】 硬骨魚類・ムツ科。体は幼魚では赤かっ色であるが，成長するにつれて黒かっ色となり，全長１ｍに達するものもある。第一背びれ８棘(きょく)，第二背びれ１棘13軟条，臀(しり)びれ３棘13軟条。歯が著しく鋭いため，釣獲(ちょうかく)したときにけがをすることがある。日本中部の太平洋側，特に相模(さがみ)湾一帯および伊豆(いず)七島に多い。幼魚は内湾に群生するが，成長とともにやや深所の礁に移動する。初春に産卵し，このころがいちばん美味とされている。〔安田富士郎〕

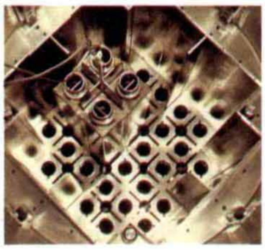
むつ 特殊貨物の運搬と乗員訓練とを目的として建造された，わが国最初の原子力船。1968年(昭和43)に原子動力実験船として，日本原子力船開発事業団によって石川島播磨(いしかわじまはりま)重工業で起工され，1969年に進水し，1973年完成の予定。熱出力36,000kWの軽水型原子炉１基を搭載(とうさい)し，蒸気タービン１万馬力で巡航速力16.5ノット，燃料を補給せずに14万5,000海里を航行できる。➔原子力船

むつ【陸奥(国)】 現在の福島・宮城・岩手・青森の４県と秋田県の一部にまたがる旧国名。もと〈みちのく〉といった。奥州。東山道に属する。古くは蝦夷(えぞ)のいた地域であったが，７～８世紀に朝廷の経略が進むにつれて国郡が建置されていった。712年(和銅５)出羽*を分置。《延喜式》には白河(しらかわ)以下35郡を記載するが，のち54郡となった。国府は現在の宮城県宮城郡多賀城町，国分寺は仙台(せんだい)市木ノ下にあった。724年(神亀１)多賀城*を築いて陸奥国府兼鎮守府とし，802年(延暦21)胆沢(いざわ)城*を築いて鎮守府を前進させた。平安中期以降，俘囚(ふしゅう)の族長安倍(あべ)氏*，次いで清原氏を経て藤原清衡(きよひら)が勢威を張り，その子孫が鎌倉初期まで４代にわたって平泉(岩手県)を根拠地として奥羽に君臨した。1189年(文治５)奥州藤原氏滅亡後，奥州総奉行*(そうぶぎょう)，次いで陸奥留守職(るすしき)が置かれ，室町時代には奥州探題*が置かれたが，いずれも国内御家人を統率するだけの権威はなく，戦国時代には津軽・南部・伊達(だて)などの諸氏が割拠した。豊臣秀吉(とよとみひでよし)の統一後，江戸時代には津軽・南部・仙台・会津・白河・二本松など大小合わせて10数藩が置かれた。廃藩置県によりこれら諸藩は県となり，次いで青森・岩手・宮城・福島の４県に統合されて今日に至る。〔黛　弘道〕

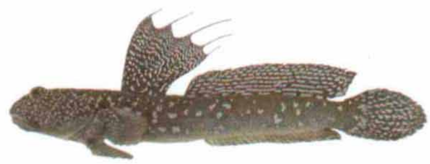


ム　ツ





む　つ (上)8,350総トン，全長130ｍ，幅19ｍ (下)搭載した原子炉の炉心部(中央左上の四角柱状のものが燃料部分，その中央は制御棒)



ムツゴロウ



ムッソリーニ

むつ【むつ(市)】 青森県北東部の市。人口49,000。江戸時代は南部藩の代官所が置かれ，明治以降も下北半島の中心都市であった田名部町と，明治後期以来海軍の要港となった大湊(おおみなと)町が合併して，1959年(昭和34)市制施行。市域は陸奥(むつ)湾*支湾の大湊湾岸一帯の低地と，恐山山地の一部，北部の津軽(つがる)海峡沿岸部を含み，下北半島中央屈曲部に〈人〉の字状に広がる。産業三大別人口比は13：22：65。周辺部はわが国有数の砂鉄の産地で，水産業・林業・酪農なども行なわれるが，これまで産業は一般に不振で後進地域開発の対象となっていた。1971年，下北半島基部の小川原湖との総合開発を目的とする〈むつ小川原開発計画〉が立案され，今後の発展に期待がもたれている。大湊には海上自衛隊地方総監部があり，大湊港は日本最初の原子力船母港となっている。大湊線から大畑線を分岐し，下北半島各地へのバス路線の起点となり，青森へも直通バスが走る。日本三大霊場の一つである恐山*を中心とする下北半島国定公園の観光基地となる。

むつうぶんべん【無痛分娩】 分娩に必須(ひっす)な陣痛には痛みを伴うのが普通であるが，痛みはかなり主観的なもので，個人差がある。お産のときの痛みは不安・恐れなどのためにより強く感ずる者が多く，このような産婦では全身の筋肉が緊張して疲労し，ひいては娩出が長びき，胎児の状態が悪くなることがある。このような場合に痛みを和らげることは分娩を順調に進行させるために必要であり，薬を用いる無痛分娩が行なわれる。麻酔の方法は分娩の進行状態によって異なる。ふつう初期には鎮痛剤・鎮静剤が用いられ，娩出期になると浅い全身麻酔あるいは局所麻酔が行なわれる。無痛分娩で問題となるのは，痛みをとると子宮収縮は弱くなり，分娩の進行が逆に支障をきたすことがあるし，また麻酔は胎児には無用で，むしろ有害といってよいことである。したがって，産婦に必要なことは〈自分で子どもを産むのだ〉という自覚であり，これにお産の原理をよく知って，陣痛発作のときの痛みを和らげる補助動作を覚えることである。〔木川源則〕

ムックリ アイヌの伝統的楽器。別名ムックナ。一般には口琴*とよばれ，体鳴楽器*に分類される。竹製が普通であるが，最近は金属製のものもある。細長い竹片に薄い舌状のものを切り出して，糸をとりつけて引っぱり，舌状のものを振動させる。口腔(こうこう)で共鳴をさまざまに変えて楽しむ。

むつごろう【鯥五郎】 硬骨魚類・クモハゼ科。有明海に生息する汽水魚。福岡県柳川市や佐賀ではムツ・ホンムツなどという。体は細長く，第一背びれ５棘(きょく)，第二背びれ25軟条，臀(しり)びれ25軟条。左右の腹びれは相合して吸盤となる。胸びれ基部は肉質が多く，これを小びれがおおっているため，泥土(でいど)の上の歩行に役だつ。肉は柔らかいが，脂肪が多くて美味。

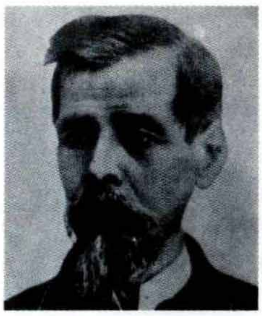
ムッソリーニ ［Benito Mussolini］(1883～1945) イタリアの政治家・独裁者。1904年イタリア社会党に入党して新聞記者として活躍し，1912年執行委員に選ばれた。第１次世界大戦には参戦を主張して，党を除名された。戦後イタリアには革命運動が高まったが，1919年彼は国粋主義・軍国主

義・侵略主義をかかげる〈戦闘者ファッショ〉を結成。はじめ党勢拡大のため急進主義を唱えたが，1920年秋社会主義革命が失敗するや，独占資本・大地主との結合を明らかにし，暴力をもって革命勢力を打倒し，1921年〈戦闘者ファッショ〉を〈ファシスタ党*〉と改称してその首領となった。翌年さらに暴力反革命運動を進め，10月ローマ進軍を行なって政権を奪取し，内閣を組織した。その後国内では独裁体制の樹立に努め，1926年他の政党を解散し，1928年ファシズム大評議会を国家最高機関として独裁者の地位を確立した。対外政策では人気獲得と市場拡大のためベルサイユ体制*の打破を唱えて侵略主義をとり，1924年フィウメを併合し，1926年アルバニアを支配下においた。1933年以降のナチス-ドイツの台頭に対しては，初めこれを警戒してイギリス・フランスと結んだが，世界経済恐慌波及による社会不安打開のため，1935年エチオピア戦争*を開始してイギリス・フランスと対立するや，ドイツに接近し，スペイン内乱*勃発(ぼっぱつ)に際して協力体制をかため，1936年10月ベルリン・ローマ枢軸を形成した。第2次世界大戦に対してはフランス敗北をみてこれに参戦したが，各地で敗北を喫して権威を失い，1943年7月連合軍のシチリア上陸を機に，彼は投獄され，ファシスタ党は解散された。イタリア降伏後ドイツ軍に救出され，北イタリアで抗戦を再開したが敗れ，1945年4月コモ湖畔で捕えられて銃殺された。〔大野慎一郎〕

むつむねみつ【陸奥宗光】(1844〜1897) 明治時代の政治家・外交官。和歌山県出身。少年時より勤王派に属し，脱藩して勝海舟の海軍操練所に学び，1867年(慶応3)坂本龍馬(りょうま)の海援隊*に参加。明治維新後は，兵庫県・神奈川県知事を経て大蔵省にはいり，地租改正*に貢献した。1874年(明治7)薩長(さっちょう)有司専制に抗議して下野。1878年元老院幹事在職中，林有造・大江卓の反政府運動を支援して投獄されたが，1882年特赦となり，ヨーロッパ・アメリカ合衆国に留学。1886年帰朝後外務省に勤務した。1890年第1次山県(やまがた)内閣の農商相，同年代議士に当選したが翌年辞任。1892年枢密顧問官，同年第2次伊藤(いとう)内閣外相となり，条約改正*に努力し，日清(にっしん)戦争には日本全権として下関(しものせき)条約*に調印して陸奥外交と称された。著書に《蹇々録(けんけんろく)》がある。〔安達利夫〕

むつわき【陸奥話記】平安末期の軍記。1巻。《陸奥物語》ともいう。1062年(康平5)源頼義(よりよし)・義家父子に討伐された安倍(あべ)頼時・貞任(さだとう)・宗任(むねとう)の反乱，いわゆる前九年の役*を題材とし，全文漢文で記す。作者・成立とも未詳だが，反乱の鎮定後，能筆の漢文家の手になるものとされる。史料としての信頼度もあり，《今昔物語集*》にも素材を提供している。

むつわん【陸奥湾】本州北端，津軽・下北両半島に囲まれて北方へ開く大湾。平舘(ひらだて)海峡によって津軽海峡に通じる。湾域は，津軽半島北東端の高野崎(たかのざき)と下北半島西岸の焼山崎間以南で，南岸中央の夏泊半島によって東西に分かれる野辺地(のへじ)湾・青森湾*の両支湾があり，北東部には支湾大湊(おおみなと)湾がある。水深は湾中央部で約40mで，湾内ではかつてタラやイワシの漁獲があったが，現在は不振で定置網による沿岸漁業や大湊湾のアサクサノリ養殖程度である。大湊湾はかつての海軍基地であったが，現在は海上自衛隊基地，わが国最初の原子力船の母港であった。青森湾は青函(せいかん)連絡船をはじめ，船舶交通の集中海域である。〔山口恵一郎〕



陸奥宗光



無敵艦隊《アルマダ海戦の図》 この海戦における敗北を契機にスペインの海上権はしだいに衰退することとなった

むていぎじゅつご【無定義術語】 数学の理論で，定義しないまま用いる術語。無定義要素ともいう。数学の理論体系を公理的方法によってつくる場合に，いくつかの基本的な術語は定義することなく用いられる。数学の理論の中で用いられる術語は，それ以前に出てきた術語を使って定義しなければならないから，すべての術語を定義しつくすことはできないことになる。したがって，理論のはじめの段階では，定義しないまま用いる術語がどうしても必要になる。たとえば，ユークリッド幾何学*を体系化するとき，〈相異なる2点を通る直線は一つあって一つに限る〉などという公理を設ける。このとき，〈点〉〈直線〉〈通る〉などの術語は，定義をまったく与えないまま用いており，それらは無定義術語である。無定義術語は，直接に定義はされないが，実は公理系によって間接的に定義されており，その用い方がきびしく規定されていると考えることができる。〔杉岡司馬〕

むていけいたんそ【無定形炭素】⇨炭素

むてきかんたい【無敵艦隊】 アルマダともいう。スペイン語で艦隊・海上勢力の意で，1588年イギリスを攻撃したスペインの艦隊はその強力さを誇示して特に無敵艦隊と称した。また，イギリスではこの戦いを〈アルマダ海戦〉とよんでいる。このとき，無敵艦隊は戦闘艦や輸送船などを含めて約130隻の艦船，22,000人の乗組員と兵士をもって1588年5月リスボンを出航した。目的はイギリス海峡の制海権を確保し，当時フランドルにあってオランダと戦争中のパルマ公の軍隊をイギリスへ上陸させてイギリスを攻撃することであったが，同年7月から8月にかけてイギリス海軍と戦って敗れ，北海からスコットランド沖，アイルランド沖を迂回(うかい)して帰国の途中，暴風雨と食糧不足などのため多くの人命と艦船を失った。しかし，戦闘艦68隻のうち44隻は残り，スペインは無敵艦隊の再建を急いだ。したがってこの海戦でスペイン海上勢力が壊滅したわけではなかったが，海上覇権(はけん)がスペインの手から離れていく転回点となった。〔保坂栄一〕

ムテジウス［Hermann Muthesius］(1861〜1927) ドイツ近代デザイン運動の推進者。ベルリン工科大学を卒業し，1896年から1903年にかけてロンドンのドイツ大使館に勤務した。帰国後の1907年美術・工芸・工業・商業など各種領域の力を結集し，製品の質的向上をめざすドイツ工作連盟を創設。即物性と合理性による新しい時代の造形をめざし，W.モリス*の美術工芸運動の影響を受けていた。

むとうさんじ【武藤山治】(1867〜1934) 実業家・政治家。鐘淵(かねがふち)紡績を隆盛に導いた功労者。岐阜県の豪農の子と

して生まれ，慶応義塾(ぎじゅく)卒業後，アメリカに留学，27歳のとき三井銀行に入社，中上川彦次郎*(なかみがわひこじろう)の工業化政策の一端として鐘淵紡績に派遣された。以来35年間にわたり，同社の発展のため力を尽くし，特に1900年(明治33)の金融恐慌に際しては，紡績大合同を推し進めて独占化を達成，紡績界最大の指導者となった。1923年(大正12)には政治教育普及・政界浄化の目的をもって〈実業同志会〉を組織，その会長となり，次いで衆議院議員をつとめて政界に活躍した。さらに1932年(昭和７)時事新報社社長となり，1934年同紙上で帝人事件*を摘発，政財界の腐敗を追及したが，同年３月10日福島新吉の凶弾に倒れた。

〔片岡一郎〕

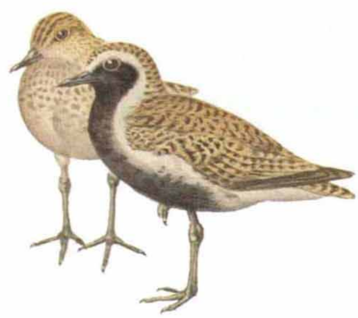
むどきぶんか 【無土器文化】 土器*をまだ伴わない石器時代の文化。先土器文化またはプレ縄文(じょうもん)文化ともいい，縄文文化に先行するすべての文化は，このうちに含まれる。1949年(昭和24)群馬県の岩宿遺跡*ではじめてローム層中から石器を発見して以来，無土器文化の研究は急速に進み，今日までに全国数百か所の遺跡が発見されている。無土器文化の最古の段階は握り斧(おの)を主体とする文化で，前期旧石器時代にさかのぼる可能性をもつ。次いで石刃を主体とする文化があり，続いて尖頭器(せんとうき)の文化が現われる。その後は細石器文化で，これが縄文文化へと続く。最近の研究では，無土器文化の地域差までが明らかにされつつあるが，一方では石器以外の遺物や無土器文化と縄文文化とのつながりの問題など，未解決の問題は多い。

〔田辺征夫〕

ムード-ミュージック ［mood music］ 柔らかなムードをもった音楽，またはムードをかきたてる音楽。一般には弦楽器を中心としたポピュラーなオーケストラ演奏などをよんでいる。その源をたどれば，17世紀のイタリアの室内楽にまでさかのぼることができるが，現代のムード-ミュージックは1910～1920年代に形成されたとみてよい。元祖はアメリカのポール-ホワイトマンやアンドレ-コステラネッツらで，当時彼らの指揮するオーケストラはセミ-クラシック・シンフォニック-ジャズとかダンス音楽などとよばれていた。それが日本でムード-ミュージックの名でクローズアップされだしたのは1955年(昭和30)ごろからで，LPレコードの普及と呼応して一時大流行し，その後も広く愛好されている。しかし，これに厳密な定義を与えることはむずかしい。耳あたりのよいクラシックの名曲なども，会話を楽しむときの伴奏音楽として聞けばムード音楽になりうるといったあいまいさがあり，音楽自体に特定のスタイルやきわだった特徴もなく，聞き手が主導権を握る場合が多いからである。オーケストラのほか，楽器ソロをたてたソロ-ムード，ソフトなコーラス，静かなふんい気のあるムード-ジャズや，作業能率をあげるバックグラウンド-ミュージック*など，さまざまなスタイルや効用があり，最近では狭義のイージーリスニング*とよばれることも少なくない。フランスでは〈ミュジーク-ダンビアンス(ふんい気音楽)〉とよばれる。代表的アーチストにマントバーニ*・P.フェイス*・ポール-モーリア楽団などがある。 〔鈴木道子〕



宗像神社 辺津宮本殿



ムナグロ 左は雌，右は雄



ムーニエ 《サンキュロット》 1893 ルーブル美術館蔵

むなかた 【宗像(町)】 福岡県北部，宗像郡の町。人口54,000。北九州市と福岡市の中間にあり，鹿児島本線が通じる。1954年(昭和29)赤間・東郷の２町と周辺３村が合併して発足。近年は住宅団地・大学などの建設がめざましく，北九州市・福岡市への通勤者がふえている。

むなかたしこう 【棟方志功】 (1903～1975) 木版画家。青森県の生まれ。はじめ油絵を志したが版画に転向，1928年(昭和３)より平塚(ひらつか)運一に学び，国画会に出品した。第２次世界大戦後の1952年ルガーノ国際版画展で優秀賞，1953年サンパウロビエンナーレ展で１等賞，1956年ベネチアビエンナーレ展で大賞と，あいついで受賞し，国際的な名声を確立した。1970年文化勲章を受章。

むなかたじんじゃ 【宗像神社】 福岡県宗像郡にあり，田心姫神(たごりひめのかみ)を祭る沖ノ島の沖津宮，湍津姫神(たぎつひめのかみ)を祭る大島の中津宮，市杵島姫神(いちきしまひめのかみ)を祭る田島の辺津(へつ)宮の３社を総称して宗像神社という。３女神はいずれも天孫を守り助けるためにアマテラスオオミカミの勅を受けて筑紫(つくし)に天降ったと伝えられる。３神は玄界灘(げんかいなだ)の守護神とされ，海上・陸上の交通安全の守り神として尊崇されてきた。1578年(天正６)再建の辺津宮本殿と1590年再建の辺津宮拝殿は重要文化財に指定されており，また20,000余点に及ぶ沖ノ島出土の祭祀(さいし)遺品も国宝・重要文化財に指定されている。なお，当社は全国9,000余社を数える宗像神社の総本社である。例祭は10月１～３日。

〔佐野文哉〕

むなぐろ 【胸黒】 鳥類・チドリ科。全長22～26cmで，ダイゼンよりやや小形。夏羽は下面全体に黒色，上面は黒かっ色と黄金色のまだらで美しい。冬羽は全体に黄かっ色になる。春秋に干潟(ひがた)・湿地・草地・畑地などに多数渡来し，一部は越冬している。

むなべつせん 【棟別銭】 〈むなべちせん〉とも読み，棟役ともいう。鎌倉・室町時代における課税の一種。朝廷・幕府・社寺の修理建築費調達のため，幕府が家屋の棟数別に課した。ことに室町幕府は財政難を補うためしばしば徴収し，はじめ臨時税であったのがやがて定期化して，幕府の重要な財源となった。また荘園*(しょうえん)領主や大名も領内にこれを課するようになったため，領民を苦しめた。戦国大名領では戦費調達のため，武田(たけだ)・今川氏などが租税の一部として徴収した。➔段銭

〔高崎徳次〕

ムーニエ ［Constantin Meunier］(1831～1905) ベルギーの彫刻家。はじめブリュッセルの美術学校に学び，のちにグルーに絵画を習った。1886年以降，工員や人夫など労働者を題材に，質実でヒューマニスティックな写実表現を示し，浮き彫り彫刻も試みた。

ムーニエ ［Emmanuel Mounier］(1905～1950) フランスの思想家。人間の受肉性を強調したキリスト教的人間観に基づ

いて，人格主義(ペルソナリスム)という思想的実践運動を提唱，1928年雑誌《エスプリ》を発刊し，健筆をふるった。第2次世界大戦中はレジスタンス運動に参加。主著に《ペギーの思想》《実存主義入門》《人格主義》などがある。

ムニエル　[meunière]　原意は粉ひき・粉屋。魚に小麦粉をまぶしバターで両面を焼く調理法，またその魚料理をいう。魚は塩・こしょうをしてしばらくおいてから用いる。焼き上がったらさらに盛ってレモンじるをたらし，パセリのみじん切りを振り掛け，ムニエルバター(バターをとかしその中にレモンじるを加えたもの)を掛ける。つけ合わせは多くの場合ジャガイモの揚げたものを添える。

ムニャチコ　[Ladislav Mňačko]　(1919～　)　チェコスロバキアの作家，ジャーナリスト。スロバキア出身。第2次世界大戦後のチェコスロバキアの個人崇拝(スターリン主義)を批判する《遅れたレポート》(1963)で一躍有名になり，1968年《権力の味》《七日目の夜》を書いて，ソ連軍のチェコスロバキア侵入と同時に亡命した。

むねきよ　【宗清】　常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《恩愛瞶関守(おんあいひとめのせきもり)》。〈雪の常磐〉ともよばれる。義太夫節(ぎだゆうぶし)の《源氏烏帽折(げんじえぼしおり)》を翻案したもので，作詞は奈河本助，作曲は3世岸沢式佐。初演は1828年(文政11)江戸市村座。牛若丸ら3人の子どもを連れた常磐御前が伏見木幡(こはた)の関(京都市)で平家の武士弥平兵衛宗清に捕えられ，清盛の館(やかた)に連れていかれるというもの。なお，長唄(ながうた)の《鞍馬山(くらまやま)》は芝居ではこれに続くもの。

むねたかしんのう　【宗尊親王】　(1242～1274)　鎌倉幕府6代将軍。後嵯峨(ごさが)天皇の第1皇子。母は平棟子。1252年(建長4)鎌倉に下って征夷(せいい)大将軍となったが，実権は北条(ほうじょう)氏に握られ，名目だけの地位であった。1266年(文永3)謀反(むほん)の疑いで将軍職を廃され，京都にもどって出家。和歌にすぐれ，《柳葉和歌集》《瓊玉(けいぎょく)和歌集》などの歌集がある。

むねながしんのう　【宗良親王】　(1311～1385？)　南北朝時代の歌人。後醍醐(ごだいご)天皇の第5皇子。母は贈従三位(じゅさんみ)為子(ためこ)。15歳で天台座主となり，元弘(げんこう)の乱で北条(ほうじょう)氏討伐に失敗して讃岐(さぬき)(香川県)に流され，1333年(元弘3・正慶2)上洛(じょうらく)，後醍醐天皇崩御とともに還俗(げんぞく)して宗良親王と称した。以後，各地を転戦して悲運の生涯(しょうがい)を閉じた。歌は母の甥(おい)二条為定に師事し，平明温雅な二条派の流れをくむが，苦闘の生活に根ざした歌には新鮮な迫力がある。《新葉和歌集》を撰(せん)し，家集に《李花(りか)和歌集》がある。　〔佐藤恒雄〕

むねやけ　【胸やけ】　嘈囃(そうざつ)ともいう。前胸部・食道部に灼熱(しゃくねつ)感の起こること。酸性のおくび(胃にたまったガスの口腔(こうこう)外に出るもの)に原因すると考えられている。過食，特に胃内停滞時間の長い食品や糖質の多い食品をとりすぎた場合や，胃潰瘍(いかいよう)・十二指腸潰瘍・胃炎(急性・慢性)などの際にみられ，また胃に器質的変化がないにもかかわらず，胃液の酸過剰をきたす胃酸過多症の際にみられる。治療は刺激性食品を避け，胃液分泌抑制剤・胃酸中和剤・胃酸吸着剤などを用いる。　〔佐野隆志〕



ム　ベ（上）花　（下）果実

むのうりょくしゃ　【無能力者】　単独で完全な法律行為をなしえない者。行為無能力者ともいい，民法は未成年者・準禁治産者・禁治産者を無能力者として規定している。旧民法では，妻も無能力として規定されていたが，第2次世界大戦後，新憲法の制定によって，個人の尊厳と男女の本質的平等の理念が掲げられたことから，これと根本的に矛盾・衝突する同規定は削除された。無能力者制度は，無能力者個人の財産上の利益を保護するとともに，無能力者と取引する相手方にあらかじめいちおうの警戒を与え，不測の損害をこうむることを防止することにある。無能力者には保護機関(親権者・保佐人・後見人)が一様に付せられるが，行為能力についてはその種類に応じて差異がある。未成年者は原則として単独では法律行為をすることができず，法律行為をするには法定代理人の同意を得ることを要する(民法4条1項)。同意なくしてなされた法律行為は，これを未成年者・法定代理人ともに取り消すことができる(民法4条2項)。準禁治産者は，原則として単独で法律行為をすることができるが，訴訟行為および重要な財産上の行為をなすには，保佐人の同意を要する(民法12条)。保佐人の同意を得ずしてなした法律行為は，準禁治産者自身においてのみ取り消すことができるというのが通説であるが，保佐人もこれを取り消すことができるという説も有力である。禁治産者は後見人によってのみ行為をすることができ(民法8条)，後見人の同意を得ても単独では法律行為をすることができない。禁治産者のなした行為は，すべて取り消すことができる(民法9条)。ただ，無能力者の行為は取り消すことはできるが，当然に無効ではないから，相手方にとっては取り消されるか否か不明な間は，きわめて法律関係が不安定になる。そこで無能力者の相手方は，本人が能力者になったのちは本人に，まだ能力者にならないときは法定代理人に対して，取り消し得べき行為を追認するかどうかの催告をすることができる(民法19条)。これは無能力者と取引した第三者を保護するための規定である。また無能力者が詐術を用いて能力者と信じさせた場合にはもはや取り消すことはできない(民法20条)。もっとも無能力者制度の目的とするところは，前述のとおり無能力者個人の財産上の利益を保護することにあるから，本人の意思を尊重する身分行為(認知・婚姻・縁組み・遺言など)については，無能力者であっても，意思能力を有するかぎり単独で有効になしうる。

〔黒木三郎〕

ムババネ　[Mbabane]　アフリカ南部，スワジランドの首都。人口20,000(1976)。同国西部，南アフリカ共和国との国境近くに位置する。付近に鉱山があり，良質の鉄鉱石を産して輸出もしている。また周辺の農産物の集散地でもある。

むはんどうほう　【無反動砲】　火砲の一。弾丸発射時のガスの一部を後方に噴出させることにより，その力と発砲の反動をつり合わせて，反動が砲に伝わらないようにしたもの。第2次世界大戦末期に開発された。駐退器やがんじょうな砲座を必要としないため，構造が簡単，軽量で機動力が高い。口径は57～155㎜程度。最近ではロケット弾を発射する砲もこの名でよばれている。

ムービー-カメラ　⇨シネ-カメラ

むひょう　【霧氷】　寒冷地方や冬山で，木や地物に霧が付着してつくる氷。白色または半透明の氷晶で樹霜・樹氷・粗氷の3種類がある。樹霜は，おもに水蒸気の昇華によってできた氷の結晶で，その形は，針状・板状・樹枝状などがある。多くは平地で放射霧のときなどに生じ，弱い風があるときには物体の風上側に成長する特徴がある。樹氷は，おもに過冷却の霧粒が物体に吹きつけられ凍結したもので，白色不透明の氷である。側面には昇華によって霜ができていることもある。風の強い所では，風上に向かって発達する。－5℃以下で発生する。粗氷は，半透明または透明に近い氷のかたまりで，樹氷と同じようにしてできるが，霧粒も大きく気温が0℃付近のときに多い。　〔相原正彦〕

むびるい　【無尾類】　⇨カエル

むべ　【郁子】　双子葉植物・アケビ科。

トキワアケビともいう。暖地にはえるつる性落葉低木で，生けがきやさくにつくられたり，盆栽にもされる。茎は左巻きに他物に巻きつき，太いものは径5cmほどになる。葉は互生し，5～7枚からなる掌状複葉。小葉は長さ5～9cmの長楕円(ちょうだえん)形で，革質平滑，裏面に著しい網目がある。4～5月，前年枝の葉腋(ようえき)に3～7花を総状花序につけ，白色で淡紅色の条のある花を開く。雌雄同株で，雌花は雄花より数が少なく，やや大形。花弁はなく内外2輪に配列した6枚のがく片からなり，外側の3枚は幅が広い。雄花はおしべ6本，雌花は3子房をもつ。果実は長さ5cm内外の卵円形の液果で，晩秋に紫色に熟すが，アケビのように裂開せず，内に黒色の種子を多数持つ。果肉は白色で甘く，食用になる。　〔横井朝子〕

むみょう　【無明】 仏教の重要語。梵語(ぼんご)avidyā(アビディヤー)の訳。世俗的知恵ではなく，真実の智慧*(ちえ)を見きわめることができず，暗く迷い惑う精神状態のこと。最初は煩悩*(ぼんのう)の一用語で，愚かさを意味していたが，十二縁起*の第1が無明であることから，根本思想を示す語として重要視されるに至った。誤った知恵のため，真理である四諦(したい)に暗いとするのが《阿含経(あごんぎょう)》の説き方であり，渇愛(かつあい)と表裏の関係にあるとする。やがて，部派仏教ならびに大乗仏教などでは，各種の解釈がなされた。特に《大乗起信論*》では根本無明と枝末無明とに分け，煩悩の最も深い根源と考えている。この語はやがて文学の中に取り入れられるようになった。特に《無明長夜》はその代表で，無明をやみの長夜にたとえている。　〔石上善応〕

むみょうしょう　【無名抄】 鴨(かも)長明*の歌論書。彼が日野外山(とやま)に隠棲(いんせい)してから，《方丈記*》を執筆する以前，13世紀初め(鎌倉初期)に完成したものか。内容は80項目ほどの，歌論・歌話・歌人逸話などからなる雑録。歌論史上に注目される〈幽玄*〉の説が記録されているほか，彼の師である俊恵(源俊頼*(としより)の子)の歌論や，当時の歌壇の一面を伝える資料として貴重である。

むみょうぞうし　【無名草子】 物語評論書。13世紀初め(鎌倉初期)の成立か。作者は不明とされるが，藤原俊成*(としなり)あるいは俊成の娘とする説もある。内容は，京都東山の最勝光院に参詣(さんけい)した老尼(虚構の人物)が，その帰途にある家の女房たちと話をするという趣向からなる。話題は月・手紙・夢・涙・経から《源氏物語*》《狭衣(さごろも)物語*》など多くの物語の批評に及び，読者の立場からする見方が注目される。《風葉和歌集*》とともに，散佚(さんいつ)した物語の内容を知る資料として貴重である。　〔桑原博史〕

ムームー　［muumuu］ ハワイ諸島の婦人用民俗服の一種。元来はヨーロッパの宣教師によってもたらされた。ゆったりした筒形の開放的なデザインで，たけは床まであり，はでなプリント模様の布が用いられる。ハワイでは社交着として広く通用しているが，わが国では1962年(昭和37)ごろから夏の婦人用ホームウエア・レジャーウエアとして着用されている。

むもうしょう　【無毛症】 生まれつき毛がはえていない状態のこと。先天的に毛をつくる毛乳頭がないために全然毛がないものと，軟毛はあっても硬毛にならないものとがある。前者に対しては植毛以外に方法はない。陰部無毛症は後者に属するもので，男性ホルモンのはいっている軟膏(なんこう)を局所に塗布するだけでよいが，皮膚科医の指示にしたがう必要がある。

むもんかん　【無門関】 中国，南宋(なんそう)時代に活躍した臨済系の禅僧，無門慧開(えかい)(1183～1260)の著。四十八則の公案をあげて，それに評唱と頌(しょう)を加えたもの。〈無門関〉とは無の一関の意で，禅を学ぶ者の通過すべき関門であるという。本書にはいたるところに〈無*〉の字が用いられているが，この〈無〉は有無の二元にわたらない絶対の〈無〉である。その意味で第一則の〈趙州狗子(じょうしゅうくし)〉の〈無〉には全編を貫く著者の基本思想が全現している。比較的小冊子で読みやすいことから，参禅者の入門書として読まれてきた。　〔岡部和雄〕

むゆう　【夢遊】 〈夢中遊行〉ともいう。睡眠中に突然起き上がり，歩いたり，ある種の動作をしたのち，再び眠ってしまうような現象。この際，知覚が非常にせばめられているので，ときに不慮の事故を起こすこともある。翌朝はたいていの場合覚えていない。子どもには珍しくない現象であるが，頻回(ひんかい)にみられたり，成人でもしばしばある場合には，てんかん*の精神運動発作を疑って脳波をとってみることが必要である。

むら　【村】 地域的な集落の単位。都市的集落の町や都市とは本質的に異なり，語源的には〈群(むれ)〉で，集団を意味する。一般に，その生活の基盤となる産業によって，農村*・山村*・漁村*などに区別される。歴史的にみれば，大化改新*以前の行政単位として，国の下に県(あがた)，県の下に邑(むら)があったといわれるが，確かなことは明らかでない。律令(りつりょう)時代には，郡の下に里または郷があり，村落をさす場合には郷・里のほかに村・邑などの字も用いられた。中世には荘園*(しょうえん)村落が現われ，室町時代にはいると畿内(きない)を中心として郷村制*が展開し，中・小名主*(みょうしゅ)層による村落結合が行なわれた。太閤(たいこう)検地*では村が検地の単位となり，行政単位として把握(はあく)された。江戸時代にはいると，村は本百姓*を中心に構成され，名主*(庄屋(しょうや))がその首長で，長い間同じ場所に居住するため血縁関係の濃い社会を形成し，村が入会(いりあい)権*・水利権*をもつに至った。近代になってからは，市制・町村制(➡市町村)の施行により町村合併が行なわれ，村の数は減少し，字(あざ)・大字・部落などとなってその名を残した。　〔岡山泰四〕

むらいげんさい　【村井弦斎】 (1863～1927) 小説家。本名寛。三河(みかわ)(愛知県)の生まれ。東京外国語学校ロシア語科中退。報知新聞社に勤めつつ，《小説家》で作家として世に出，立志伝的小説《小猫(こねこ)》などその作品は，大衆の求めるところに応じ，文名を高めた。ほかに長編《日の出島》，料理法を説いた異色の小説《食道楽》など。

むらいちょうあん　【村井長庵】 ⇨勧善懲悪覗機関(のぞきからくり)

むらいり　【村入り】 他所から村落にはいってきてそこに定住する際の必要な手続きをいう。村落で共同生活するには村人の相互扶助が必要であり，それには付き合い・義理が伴い，面識を必要とした。したがって村落生活に必要な面識をうるため，他所からの移住者は顔見知りを求めるあいさつをして，贈答を行なった。それによって永続的な付き合い関係を得て，村の行事・儀礼に参加し，義理を尊ぶことによって一人まえの村のメンバーとなった。なお，分家した家が村落の構成員になることも村入りというが，この場合は，村寄合*(よりあい)で本家の紹介をうけあいさつするぐらいで加入できたが，祭祀(さいし)や村落共有財産については，差別された。　〔渡辺欣雄〕

むらおきて　【村掟】 ⇨村極(むらぎめ)

むらかたさんやく　【村方三役】 江戸時代，代官・郡奉行(こおりぶぎょう)などの監督のもとに郷村の行政をつかさどった名主(なぬし)(庄屋(しょうや))・組頭(くみがしら)(年寄・長百姓)・百姓代(脇(わき)百姓)の村役人をさす。地方(じかた)三役ともいい，名称は地方によって各種あって，その地位や資格にも多少の差があった。名主は村の代表で，世襲の家柄が多かったが，のち選挙・輪番などで一代かぎりとなった。村の自治，年貢(ねんぐ)の収納，農業施設の管理などにあたった。組頭は名主の補佐役で，村民の合議，または選挙によって選ばれ，組頭給，または高役(石高によって賦課された臨時の課役)減免の特典があった。百姓代は村民代表で，名主・組頭の村政運営を監査し，年貢・村費の割り当てにあたった。なお，領主は名主を通じて村落を支配した。　〔岡山泰四〕

むらかみ　【村上(市)】 新潟県北部の市。人口34,000。中世以来の古い城下町で，当時は小泉ノ庄本荘(こいずみのしょうほんじょう)とよばれた。1598年(慶長3)村上義明(よしあき)が臥牛(がぎゅう)山山麓(さんろく)に舞鶴(まいづる)城の平城と城下町を形成して以来，村上と改称，江戸時代にはしばしば藩主が交替したが，1717年(享保2)以来内藤氏五万石が統治し

た。1954年(昭和29)市制施行。市域は新潟平野の北端部にあって日本海沿いに南北に延び，東西も三面川の流域沿いに細長く延びて山形県境に達し，L字形をなす。中心市街地は三面川下流の段丘面に発達し，かつての士族町と町人町からなる。産業三大別人口比は16:26:58。山辺里(さべり)織とよばれる絹織物や，漆器の堆朱(ついしゅ)細工などの特産がある。わが国の茶の栽培の北限地で，三面川のサケ漁も名高い。羽越本線・国道7号線が通じる。日本海沿岸の瀬波は温泉町，南西端の岩船は漁港で，粟島*(あわしま)へ定期航路が通じる。

むらかみかがく　**【村上華岳】**　(1888～1939)　日本画家。大阪の生まれ。京都市立絵画専門学校卒業。文展出品を経て，1918年(大正7)土田麦僊(ばくせん)らと国画創作協会を興して活躍した。1929年(昭和4)同協会解散後は神戸(こうべ)に隠棲(いんせい)し，個展によって作品を発表。内面的・宗教的境地をめざした独自の山水画・宗教画を樹立した。

むらかみきじょう　**【村上鬼城】**　(1865～1938)　俳人。本名荘太郎(しょうたろう)。鳥取藩江戸藩邸に生まれた。はじめ官途を志して法律を学んだが耳疾のため断念。《ホトトギス*》創刊とともに句を投じ，やがてその代表的俳人となった。自然写生にすぐれた句が多い。句集に《鬼城句集》など。

むらかみげんぞう　**【村上元三】**　(1910～　)　小説家。朝鮮元山府の生まれ。青山学院中学部卒業。はじめ梅沢昇(のぼる)一座の脚本を書いたが，やがて長谷川(はせがわ)伸*に師事，時代小説を書きはじめ，1940年(昭和15)《上総風土記(かずさふどき)》で直木賞*を受賞。代表作《佐々木小次郎》《源義経(みなもとのよしつね)》などのほかに劇作・テレビ脚本も多い。

むらかみせんしょう　**【村上専精】**　(1851～1929)　浄土真宗大谷派の僧。兵庫県の生まれ。7歳にして三部経を誦したという。はじめ漢籍を学び，のち唯識論を修めたが，1875年(明治8)25歳のとき愛知県の入覚寺村上界雄の養嗣子となり，翌年同寺住職となる。1882年高倉学寮の夏期講座に《唯識論述記》を講じ，1887年東京曹洞宗(そうとうしゅう)大学林講師に任じた。1889年東京神田に仏教講話所を設け，毎月仏教講話集を出版して自身の研究を発表した。同年7月東京浅草大谷教校校長となり，9月東京帝国大学印度哲学科講師に任じ，1899年文学博士。しかし1901年《仏教統一論》の〈第1編大綱論〉を発行したとき，本山の忌諱(きい)にふれ，10月みずから僧籍を脱した。1917年東京帝国大学教授，翌年帝国学士院会員，1926年大谷大学学長。主著《仏教一貫論》《真宗全史》。　〔山折哲雄〕

むらかみてんのう　**【村上天皇】**　(926～967)　在位946～967年。名は成明。醍醐(だいご)天皇の皇子。母は藤原基経(もとつね)の娘穏子。944年(天慶7)兄朱雀(すざく)天皇の皇太弟となり，946年受禅即位。949年(天暦3)藤原忠平(ただひら)の死後は摂政*・関白*を置かずにみずから政務に精励したので，世にその治世を〈天暦の治〉といい，父醍醐天皇の〈延喜の治〉と並び称されたが，実際には律令(りつりょう)政治が形骸(けいがい)化した時期であった(→延喜・天暦の治)。日記《天暦御記》の残欠が伝わる。967年(康保4)在位のまま没した。陵墓は京都市右京区鳴滝の村上陵。　〔黛　弘道〕



ムラサキ

むらかみなみろく　**【村上浪六】**　(1865～1944)　小説家。本名信(まこと)。別号ちぬの浦浪六。和泉(いずみ)(大阪府)堺(さかい)の生まれ。小学校卒業後，下級官吏などの職につき各地を転々としたのち，報知新聞社に入社。《三日月》を発表して文名を高め，町奴(まちやっこ)の仁侠(にんきょう)を描く撥鬢(ばちびん)小説作家と称された。《奴の小万》などこの系列の諸作のほか，現代小説《当世五人男》《八軒長屋》なども人気を集めた。

むらぎめ　**【村極】**　近世，村民が村政運営のためみずから定めた法。村定(さだめ)・村掟(おきて)・村法・村議定ともいう。慣習的に村民の生活を規制していたが，誓約や罰則の確認を要するので文書になって残っているものも多い。成文化されたものは覚(おぼえ)・申合(もうしあわせ)・証文などと称され，庄屋(しょうや)をあて名にして五人組*の組頭(くみがしら)が連署し，村民一同の誓約を代表している書式が多い。内容は多岐にわたるが，貢納・生産・身分に関する規制が特に目だつ。年貢(ねんぐ)は村請(むらうけ)制で村全体に責任がかかるので，名寄帳*(なよせちょう)や五人組帳の前書きをもって当年の年貢完納を誓い合う掟文とする形式を取っている例が多い。生産に関しては農事全般にわたりさまざまの規制があったが，入会地(いりあいち)・灌漑(かんがい)用水の利用，労力融通の相互扶助についてが代表的である。また，鎮守社祭礼の神事諸役は村民の家柄・身分・序列の標式となっていたので，祭りに関するさまざまの慣例や信仰も掟として重んぜられた。これらの事項に違反した者に対しては村制裁が加えられた。村制裁には罰金刑のほかに，掟文には仲違(なかたが)いなどの語で表現されている村内共同生活からのいっさいの排除がある。近時まで農村になごりをとどめていた村八分*の風習はこれにあたる。　〔高崎徳次〕

むらさき　**【紫草】**　双子葉植物・ムラサキ科。山地の草原に自生する多年草。茎は高さ40～70cmで，全体に粗毛がある。根は大きく，紫色をしている。葉は長さ3～7cm，幅0.7～2cmの披針(ひしん)形ないし長楕円(ちょうだえん)形で柄はなく，互生する。6～7月，葉腋(ようえき)に5深裂した白色小花を数個総状につける。根を乾燥させたものを紫根といい，漢方では解熱・解毒薬とする。またしぼりじるは赤紫色ないし黒紫色の染料として古くは用いられた。

むらさきいがい　**【紫貽貝】**　軟体動物・二枚貝類・イガイ科。殻長(かくちょう)9cm，殻高5cm，殻幅3.5cm。殻(から)は薄質長卵形で殻頂のほうへ細くなり，腹縁はほぼ真直で長く黒紫色で，腹側はかっ色をおびる。左右両殻の間から足糸を出して地物に付着する。ヨーロッパ原産であるが，世界に広がり，日本には1926年(大正15)ごろからみられ，1935年(昭和10)には神戸(こうべ)港から報告された。現在では全国の内湾の潮間帯の岩礁やアコヤガイ・カキの筏(いかだ)に付着するので，養殖の害敵となる。また火力発電所などの冷却水の水道に付着してつまらせることもある。産卵期は12月から翌年4月ごろまでで，1年で成熟し，2年で殻長9cmになる。肉は食用とされ，特にヨーロッパでは養殖もされている。近縁のイガイは日本在来種で，本種よりも大きくなり，殻は厚い。➔イガイ　〔波部忠重〕

むらさきいろ　**【紫色】**　有彩色の基本色名の一。わが国では，古来から高貴で優婉(ゆうえん)な色として人々に非常に好まれたが，時代によってその概念は異なっていて，古くは現在の紫よりもにぶい色をいった。染色方法は紫根とあくによった。上古の紫は，濃いものはかなり黒みで深紫・黒紫・古代紫などと称し，薄い紫は浅紫といった。江戸時代になると，スオウの鉄媒染によって染め出した紫が流行するようになった。両者を区別して前者は本紫，後者はにせ紫と称された。現在，日本工業規格(JIS)慣用色名〈紫〉は色相5P，明度3，彩度12の色と規定されている。　〔武井邦彦〕

むらさきうに　**【紫海胆】**　棘皮(きょくひ)動物・ナガウニ科。日本沿岸に産するウニ類中で最も普通な種。殻(から)は直径5cmほどのやや平たい円形で，暗紫色を呈する。棘は長く，先端はとがる。夏が生殖期で，バフンウニなどとともに発生の研究によく使われる。北海道から九州および東南アジアまで広く分布し，日本では生殖腺(せいしょくせん)を食用とする。海岸の岩礁地帯に多く，岩の割れ目や凹所(おうしょ)に潜み，海藻(かいそう)を食べる。➔ウニ　〔向井　宏〕

むらさきうまごやし　**【紫馬肥・苜蓿】**
⇨アルファルファ

むらさきおもと　**【紫万年青】**　単子葉植

物・ツユクサ科。シキンランともいう。メキシコ・西インド諸島原産の常緑多年草。日本には江戸時代末に渡来し，温室性の観葉植物として栽培される。茎は短く直立し，先に多数の葉を斜開する。葉は長さ15～25cm，幅3～4cmの広披針(こうひしん)形で先がとがり，基部は茎を抱く，上面は暗緑色，下面は紅紫色で美しい。夏に葉腋(ようえき)にうもれて，2枚の紫色の包葉に包まれた花序をつける。花は白色の径7mmほどの小花で，花弁3枚。果実は楕円(だえん)形の蒴果(さくか)。葉裏に黄や白の条のあるものや，まったく緑色のものがある。

むらさきかたばみ【紫酢漿草】 双子葉植物・カタバミ科。アカカタバミともいう。南アメリカ原産の多年草で，江戸時代に観賞用に輸入されたが，現在は全国の畑・野原によく見られる。地下に小さな鱗茎(りんけい)があり，分裂してふえる。葉は根生し，葉柄は長さ10～20cm，葉身は3枚の小葉からなり，各小葉は長さ2～5cmのハート形。7～10月，長い花茎を伸ばし，直径1.5～2cmの紅色5弁花をつける。

むらさきけまん【紫華鬘】 双子葉植物・ケシ科。林の明るい所に自生する二年草で，ヤブケマンともいう。高さ20～40cmで，全草質が柔らかい。根出葉は長さ5～10cmの2～3回羽状複葉で，各小葉は不規則に切れ込む。4～5月，高さ5～15cmの花茎をのばし，4～20個の紅紫色の花をつける。果実は蒴果(さくか)で，熟しても緑色のままで2片に分かれ，黒色の小さな種子を多数出す。花が全体に白く紫色の部分が花口に限られているものは，シロヤブケマンという品種である。

むらさきさぎごけ【紫鷺苔】⇨サギゴケ

むらさきしきぶ【紫式部】 双子葉植物・クマツヅラ科。山野に自生する落葉低木で，庭木としても栽植される。高さ2mほど。葉は対生し，長さ6～12cmの楕円(だえん)形で先がとがり，縁には小鋸歯(しょうきょし)がある。6～7月に集散花序を腋生(えきせい)し，芳香のある白色または帯赤紫色の小花を多数つける。花冠は長さ3～5mmの鐘状で腺点(せんてん)があり，先が4浅裂し，おしべは4本で花外に超出する。果実は径5mmくらいの小球形の核果で，10～11月ごろに紫色に熟して美しく，落葉後も残存する。材は白色でかたく，粘りけがあり，道具の柄などにする。

むらさきしきぶ【紫式部】(978ごろ～1014ごろ) 平安中期の物語作者・歌人。藤原為時(ためとき)の娘。生没年・本名については諸説があって，現在は定説がない。父為時は藤原北家の出であるが，摂関を多く出した良房(よしふさ)系ではなく，良房の弟長良の系統で，官位も代々四位・五位のいわゆる受領(ずりょう)とよばれる層に属した。母は藤原為信(ためのぶ)の娘。父の祖父堤中納言藤原兼輔(かねすけ)，母の祖父藤原文範(ふみのり)をはじめ，父も兄の惟規(のぶのり)も歌人・詩人・学者として著名で，式部も文芸の一家としての矜恃(きょうじ)を持ち続けたのであろう。幼少から漢籍・仏典・和歌の教養を積み，生来の才とあいまって一流の教養人であった。996年(長徳2)父は越前守(えちぜんのかみ)に任ぜられ，式部らとともに赴任するが，藤原宣孝(のぶたか)の式部に対する求婚も始まっていた。翌々年に宣孝と結婚，宣孝は40歳をこえていた。しかし，2年後には一女賢子を残しての夫の死にあっている。数年の寡居ののち，1005年(寛弘2)12月，一条天皇の中宮彰子*(藤原道長の娘)のもとに出仕。女房名は藤式部といったが，《源氏物語*》著述の名声から紫式部と通称されたらしい。中宮家における役割は，彰子の教育・身辺の雑用・客人の取り次ぎなどであった。この宮仕えによって，いよいよ当代の社会の実相にふれ，《源氏物語》の世界もさらに広く深く構成されていったのであろう。《源氏物語》のほか，《紫式部日記*》《紫式部集》などが残されている。

〔大軒文子〕

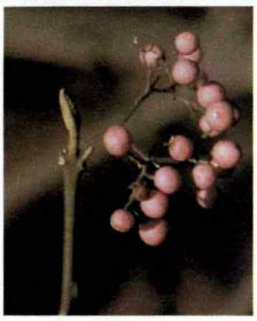


ムラサキカタバミ



ムラサキケマン





ムラサキシキブ
(上)花 (下)果実



ムラサキツメクサ

むらさきしきぶにっき【紫式部日記】 平安時代の日記。12巻。紫式部*の作。1008年(寛弘5)秋より，1010年1月までの記録。その記事は，一条天皇の中宮彰子*が敦成(あつひら)親王(のち後一条天皇)出産のため里下りした父藤原道長の邸土御門殿(つちみかどどの)の描写に始まり，出産前後の修法，誕生，天皇の行幸，親王御五十日の儀，中宮内裏還御など公生活の様相，さらには和泉(いずみ)式部*・赤染衛門*・清少納言*など同僚の女房たちへの批評の含まれる消息体の部分などからなる。1008年の記載が全体の半ば以上を占め，女房たちの衣装・容態の過度に細密な描写，登場人物のときどきの心情を執拗(しつよう)に追求する姿勢，また消息文とよばれる部分が全体の5分の1もあり，文体も急に手紙文に変化しているなど，現存のものは残簡ではないのか，消息文は後にまぎれこんだのではないか，またそもそもこの日記はいかなる目的をもって書かれたのか等々，問題も多く，諸家の説も数多い。しかし《源氏物語*》と表裏をなす世界をもっている点に大きな意義がある。〔大軒史子〕

むらさきしきぶにっきえまき【紫式部日記絵巻】《紫式部日記*》を絵巻物化したもの。現在，藤田美術館・蜂須賀(はちすか)家(各1巻)，五島美術館(3面)など諸家に詞(ことば)・絵各20数段分が伝わるが，もとはかなりの巻数だったと思われる。絵は《源氏物語絵巻》の系統をひいて濃彩なつくり絵風である。鎌倉中期の制作とみられ，描写がやや繊細にすぎ，〈源氏〉ほどの高貴な画趣に欠けるが，当代のこの種の絵巻では代表作にあげられている。

むらさきつめくさ【紫詰草】 双子葉植物・マメ科。アカツメクサともいう。ヨーロッパ原産の多年草で，地面をはうように

して広がる。明治初めアメリカから牧草として輸入されたが，現在では畑や道ばたなどに見られる。葉は3小葉からなり，各小葉は長さ2～5cm，幅1～3cmの長楕円(ちょうだえん)形で，細かい鋸歯(きょし)がある。5～9月，長さ8～15cmの花茎を出し，直径2～3cmの球形の花序をつける。花序の真下には無柄の葉がある。花は長さ13～18mmの豆花で，濃紅色ないし白色。

むらさきつゆくさ【紫露草】 単子葉植物・ツユクサ科。北アメリカ原産の多年草で，日本には明治初年に渡来し，観賞用に栽植されている。茎は高さ50cm内外となって多数群生し，平滑な円柱形。葉は互生し，長さ30cm内外の広線形で先がとがり，内がくぼんで樋状(といじょう)になり，基部は鞘状(さやじょう)に茎を抱く。春から夏に枝先に散形花序をつけ，青紫色の花を密生する。花は径2～3cmで一日花，おしべは6本で，花糸に長い紫色の毛があり，細胞学の実験によく利用される。近縁のオオムラサキツユクサは，全体に大形で，高さ50～100cmになる。葉は長さ50cm，幅2～3cmになり，二つに折りたたまれている。花は径3～5cmで大きく，花色が青・白・紅・桃色のものや，八重咲きのものなどがある。

むらさきとびけら【紫飛螻】 こん虫類・毛翅(もうし)目・トビケラ科。体長20～27mm，翅(はね)を広げた長さ50～80mm。雌は雄よりも大形。頭部は暗かっ色ないし黒色，触角はむち状。前胸はかっ色，中・後脚は背面黒色，下面黄かっ色。前翅は長楕円(ちょうだえん)形で，黄色の地に黒かっ色紋が一面に散布する。後翅は光沢のある黒紫色で，翅端近くに幅広い黄色帯がある。日本全国のほか，サハリン(樺太(からふと))・台湾・中国からインドまで広く分布する。成虫は6～9月に発生し，水べの林などに潜み，夜間活動して，燈火にもよく飛来する。幼虫は池沼に生活し，水底に沈んでいる落ち葉などを集めて円筒形の巣をつくり，水草や他の微小な生物を捕食する。日本産毛翅目中最大で，最も美しい種類である。翅が大きいことや飛び方などが一見ガ類に似るが，翅にはまったく鱗粉(りんぷん)がないので容易に区別できる。近似種のゴマフトビケラは，小形で翅を広げた長さ50～57mm，前翅は本種に似るが後翅は白色半透明で外縁部が黒かっ色。北海道・本州に分布し，成虫は7～8月に出現して，昼間ゆるやかに飛ぶ。〔鈴木邦雄〕

むらじ【連】 古代の姓*(かばね)の一。神代以来皇室に仕えた豪族の有力な者に与えられた。特に有力な者は大連(おおむらじ)として，大臣*(おおおみ)と並んで大和(やまと)朝廷(→大和国家)を主宰した。684年(天武13)八色(やくさ)の姓*が制定された際，旧来の連姓を称する豪族は多く宿禰*(すくね)姓(第3位)を賜わり，連姓そのものは第7位の姓とされた。しかしその前後に造(みやつこ)姓などの卑



ムラサキツユクサ
オオムラサキ
ツユクサ

姓から連姓に昇る者も多かった。

むらたじゅう【村田銃】 1880年(明治13)に村田経芳*(つねよし)により完成された国産の小銃。村田は西南戦争の経験などを考慮し，フランスのグラー銃，オランダのボーモン銃などの長所をとり入れて，独自の単発銃を発明した。口径11mm，全長1,294mm，重量4.15kg，射程1,500m。その後改良された連発式のものもつくられた。

むらたしゅこう【村田珠光】 (1423～1502) 珠光流茶道の開祖。茶の湯の開山とも，茶の湯の名人ともいわれる。杢市検校(もくいちけんぎょう)の子。奈良称名寺にはいって僧侶(そうりょ)となったが，寺役を怠ったため破門され，諸国を放浪したすえ大徳寺の一休和尚(おしょう)に参禅した。仏法も茶の湯の内にありと唱え，茶禅一味の心境を会得したという。茶道の秘伝を能阿弥*(のうあみ)に授け，その推薦で足利義政(あしかがよしまさ)の茶道師範となった。珠光は，貴族向きの能阿弥流の書院広間の茶事に対して，庶民向きの数寄屋(すきや)の茶法を創案し，茶道における侘(わ)びの境地を開拓した。晩年，奈良に茶室独炉庵(あん)を建て，侘び茶事に専念した。〔桑田忠親〕

むらたせいふう【村田清風】 (1783～1855) 幕末の長州藩士。長門(ながと)(山口県)三隅(みすみ)村の生まれ。長州藩天保(てんぽう)の改革の指導者。通称亀之助(かめのすけ)。5代の藩主に仕えたが，1837年(天保8)毛利敬親*(たかちか)が襲封するとともに重用され，当時ばくだいな藩債と領内大一揆(いっき)に直面していた藩政の改革に着手した。その改革を通じ，下士・豪農・豪商を基盤とする絶対主義化を推し進め，人材登用・藩債整理・殖産興業・兵制改革を断行した。ことに財政策では，藩内の経済的矛盾を藩外との交易で解決しようとし，越荷方(こしにかた)(藩営金融・倉庫業)など一連の新政策をもって領内の経済をたてなおした。1844年(弘化1)退陣したが，その改革は周布(すふ)政之助(1823～1864)らによって継承され，幕末時における長州藩活躍の基礎となった。〔高崎徳次〕

むらたぞうろく【村田蔵六】 ⇒大村益次郎

むらたつねよし【村田経芳】 (1838～1921) 軍人。村田銃*の創始者。薩摩(さつま)藩士の子。戊辰(ぼしん)戦争に従軍。維新後ヨーロッパに留学し，各国の小銃製造状況を視察。帰国後東京工廠(こうしょう)にはいり銃砲の国産化に努めた。1880年(明治13)西南戦争の経験により村田式単発銃を創始。1885年改良型を出し，1889年前床弾倉式連発銃を完成した。

むらたはるみ【村田春海】 (1746～1811) 近世中期の国学者・歌人。通称平四郎。号は琴後翁(ことじりのおきな)・錦織斎(にしごりのやのあるじ)など。江戸の豪商の家に生まれ，十八大通のひとりに数えられる通人でもあった。賀茂真淵*(まぶち)の門人となり，仮名づかいの研究にひいで，《新撰(しんせん)字鏡》を紹介する《字鏡考証》を著わした。ほかに新古今調の和歌と流麗な擬古文を収めた《琴後集》がある。

ムラート ［mulatto］ コーカソイド*とニグロイド*の間に生まれた混血児。ローゼンブラットの評価によれば新世界には811万3,180のムラートがいる。アメリカ合衆国においては，社会的圧力で，多数のムラートが白人として国勢調査員に登録したり，黒人として登録するので，正確な数は不明。また，ブラジルでは人種差別の社会的忌避から困難。皮膚色は，連続的変異をもつ中間色を示す。

むらのしろう【村野四郎】(1901～1975) 詩人。東京の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学理財科卒業。少年時代から俳句に親しみ，のち川路柳虹*(りゅうこう)の《炬火(たいまつ)》同人となり処女詩集《罠(わな)》を刊行。その後《詩と詩論》《旗魚》などに参加，また笹沢美明(ささざわよしあき)とともに《新即物性文学》を発刊してドイツの新即物主義*文学運動を紹介した。現代人の生の内面を知的に描いた詩集《実在の岸辺》《亡羊記》などがある。

むらはちぶ【村八分】 江戸時代，村の協同生活維持のため，秩序違反者に課した村民間の制裁。起源は明らかでないが，近世には町八分・村外(はず)しなどともよばれた。村全体による違反者への絶交処分という形をとり，ふつう，それは寄合や集会などの公の場で正式に協議され，村人の総意として決定される。村八分される理由は，盗み・暴行・失火などの刑事的犯罪行為を含む場合もあるが，むしろ多くは，村規約(→村極(むらぎめ))の違反，共同作業の怠慢などの秩序軽視や無視のたぐいである。その内容も公私全般に及ぶいっさいの交際を絶ち，違反者を社会的にまったく孤立化させる場合が多いので，自給自足的・封鎖的性格が強く，転居の不自由な村の状況では，その制裁効果はきわめて大きい。明治時代以降も長くこの遺習は続いたが，いまは人権侵犯で禁止されている。〔藤見純子〕

ムラビヨフ ［Nikolai Nikolaevich Muravyov］ (1809～1881) ロシアの軍人・政治家。1847年東シベリア総督として

植民などのシベリア開発に貢献した。1858年には清朝(しんちょう)との間に愛琿(あいぐん)条約*を結び，アムール川左岸を得たが，この功績によりアムールスキー伯となった。

ムラビンスキー ［Evgenii Alexandrovich Mravinskii］(1903～) ソ連の指揮者。ペテルブルグの生まれ。1924年にレニングラード音楽院に入学し，同校に7年在籍している間に，指揮科でガウクとマルコの指導を受け，1931年卒業と同時にキーロフ-オペラ劇場の副指揮者となった。1938年に全ソ指揮者コンクールに優勝し，レニングラード-フィルハーモニー管弦楽団*の正指揮者となる。1956年にウィーンとベルリン，1960年にヨーロッパ諸国，1962年にアメリカ合衆国・カナダなどに演奏旅行して圧倒的な評価を受けたが，病身のためにその後の活動は国内に限られている。ソ連の生んだ最高の指揮者である。
〔向坂正久〕

むらまつ 【村松(町)】 新潟県中部，中蒲原(なかかんばら)郡の町。人口23,000。1955年(昭和30)村松町を中心に周辺3か村が合併して発足。特産に村松茶や五泉平(ごせんびら)の名で知られる織物がある。周辺の山から吹きおろす〈だし*〉はしばしば大火の原因となっている。蒲原鉄道で五泉・加茂の両市と結ばれる。

むらまつしょうふう 【村松梢風】 (1889～1961) 小説家。静岡県の生まれ。本名義一。慶応義塾(ぎじゅく)大学中退。《中央公論》に中間読み物を発表，情話作家として世に出た。《上海(シャンハイ)》《正伝清水(しみず)次郎長》などを発表，通俗小説を手がけたほか，《本朝画人伝》《近世名勝負物語》など，人物史にも健筆をふるった。

むらやま 【村山(市)】 山形県中東部の市。人口33,000。中心集落の楯岡(たておか)は戦国時代以来最上(もがみ)氏の古い城下町，羽州街道に沿う宿場町であった。1954年(昭和29)村山郡楯岡町が周辺5か村と合併して市制施行。山形盆地の北部，最上川の中流に沿って東西に長いほぼ長方形状を示し，西は奥羽山脈と接するため，山地が市域の6割をこえる。産業三大別人口比は47：23：30。楯岡は食料品・小間物・雑貨・衣料品などの取引が多く，ハムの製造が行なわれる。その他の地域は純農村で，盆地部には水田が開け，モモ・オウトウなどの果樹園が多い。周辺山地では養蚕やナメコの栽培が盛んで，西郊の西川鉱山では金を産出する。市街地の西端を奥羽本線・国道13号線が南北に貫く。松林に囲まれた東沢公園は建設省から自然公園に指定され，バラの名所。幕末の探検家最上徳内の出生地である。

むらやまかいた 【村山槐多】 (1896～1919) 詩人・洋画家。横浜市(神奈川県)の生まれ。京都府立第一中学校時代から文芸に親しんだが，いとこの画家山本鼎(かなえ)の影響で画家を志した。1914年(大正3)上京，



村山槐多《湖と女》

はじめは小杉放庵*(こすぎほうあん)に師事，のち日本美術院研究所に学んだ。院展洋画部の若きホープとして彗星(すいせい)のごとく現われ，夭折(ようせつ)した。赤・青・かっ色の色彩に激しい感情を託した表現で，大正期の自由な自我発出のふんい気を伝えている。なお，没後に詩集《槐多の歌へる》などが刊行された。
〔匠 秀夫〕

むらやまともよし 【村山知義】 (1901～1977) 劇作家・演劇評論家・演出家。東京の生まれ。東京大学哲学科中退。ドイツに渡り前衛美術を学び，帰朝後，マヴォ・三科などのシュルレアリスム*の芸術団体を創設。その後社会主義思想に接近するとともに河原崎(かわらざき)長十郎*らと劇団心座，さらに前衛座を結成。《暴力団記》などの劇作を発表，プロレタリア演劇で活躍した。第2次世界大戦後も新協劇団・東京芸術座を中心に活躍するとともに，小説《忍びの者》などもある。
〔瀬良垣宏明〕

むらやまりゅうへい 【村山龍平】 (1850～1933) 《朝日新聞》の創始者。三重県の生まれ。1879年(明治12)大阪において《朝日新聞》を創刊，1881年上野理一と共同で，新聞経営に専心，当時の新聞が，一般大衆には難解すぎる政治新聞と，逆にあまりにも卑俗な新聞と2種類しかないことに目をつけ，報道本位，読者へのサービスをモットーに，政治的に一方にかたよることなく読みやすい社会政治論評，新聞小説掲載などを特徴に，商業紙として成功を収めた。1888年には《めざまし新聞》を買収し，《東京朝日新聞》として東京に進出，全国紙態勢を整えた。経営者として非凡な手腕を発揮，政府当局の圧力にも耐え，《朝日新聞》の基礎を確立した。《毎日新聞》の本山彦一(ひこいち)とともに，日本新聞史上に一時代を画した。
〔片岡一郎〕

むらよりあい 【村寄合】 村人が共通の問題に関して談合すること。政治的色彩だけでなく，宗教的色彩も強く，村入り*の慣行や村八分*などの制裁はここで決められる。付き合いの慣行がかなり厳格でたいせつなものであるのは，村寄合が，村人の合力を基盤とした村落内の年中行事*の施行，生産労働における相互扶助を維持していくのに必要なためである。したがって村寄合における座順や意見を左右する地位は厳格であり，そこには血統や家がらまたは身分といったものが反映していた。村寄合の指導者である村役はそうした規準によって選ばれたが，近年は選挙や任期制を取り入れて村役が代議員化しつつある。
〔渡辺欣雄〕

ムーラン-ルージュ ［Moulin-Rouge］
[1] 1889年10月に開場したパリのモンマルトルにあるダンスホール。フランス語で〈赤い風車〉の意。フレンチ-カンカンを最初に始めたところとして有名。

[2] 日本では，1931年(昭和6)東京新宿に創設されたレビューの小劇場。名称はパリのものを借用したが，その軽演劇*は，新劇*と異なった気安さがあってインテリ層のファンを多くひきつけた。1951年解散したが，その間に多くのすぐれた作家・演出家・俳優を育てた功績は大きい。
〔毛利三弥〕

むりしき 【無理式】 $\sqrt{a+b}$, $\sqrt[3]{a}+\sqrt[3]{b}$, $a^2b+\sqrt{b}$などのように，根号の中に文字を含む式。特に$\sqrt{a\pm2\sqrt{b}}$のように，根号の中に無理式を含むものを二重根号の式といい，これらは$x+y=a$, $xy=b(x>y)$となるx, yを使って，それぞれ$\sqrt{x}\pm\sqrt{y}$と簡易化される。また，$\frac{c}{\sqrt{a}\pm\sqrt{b}}$のように分母に無理式を含む分数式の分母子に$\sqrt{a}\mp\sqrt{b}$をかけて，$\frac{c(\sqrt{a}\mp\sqrt{b})}{a-b}$の形にすることを分母の有理化という。

むりすう 【無理数】 実数*の中で，有理数*でない数。すなわち，整数a, b $(b\neq0)$によって分数a/bの形にかけない実数を無理数という。たとえば，$\sqrt{2}$, $\sqrt[3]{2}$などのようないわゆる不尽根数，円周率πや自然対数(→対数)の底eなどは無理数である。無理数を最初に発見したのは，古代ギリシアのピタゴラス学派の人たちであったという。この人たちは，$\sqrt{2}$などが無理数であることを知っていた。無理数は，小数で表わすと，非循環無限小数になる。また，数直線でいうならば，整数および分数(整数比)で表わされる点以外の点は，無理数で表わされるということになる。無理数，ひいては実数の理論を数学的に確立することは，歴史的にみてもなかなか困難であった。実数論は，微積分学のような解析学の発展につれて，その基礎固めの必要上から完成されたのである。それは19世紀も末になってからで，デデキント・カントール・ワイエルストラ

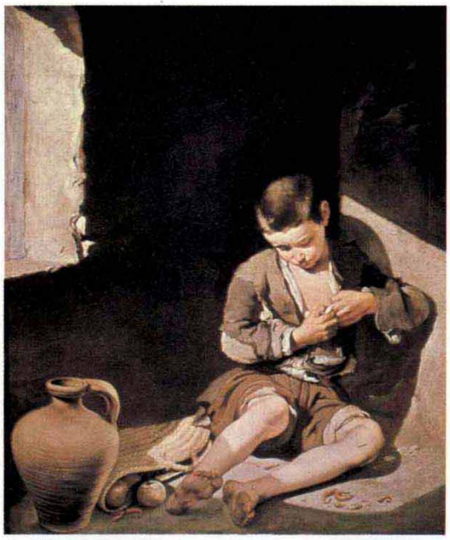
スらによって解決された。これらの実数論は，有理数をもとにして組み立てられている。〔杉岡司馬〕

ムリダンガム ［mridangam］ 南インドの芸術音楽，北インド（ベンガル・マニプルなど）の舞踊音楽に使われる両面太鼓（膜鳴楽器）。胴の材料はもとは粘土であったが，現在は通常木をくりぬいてつくられる。ひもを交互に張り巡らすことによって膜を締め，楔(くさび)のはめ方で張力を加減することができる。右側の膜の中央部には，米・マンガン・鉄粉などを混ぜて練ったものを張りつけて，主音の音高が出せるように調律する。〔山口　修〕

むりほうていしき 【無理方程式】 $x-\sqrt{x+1}=5$ などのように，未知数に関する無理式を含む方程式。この無理方程式を解くには，移項して $x-5=\sqrt{x+1}$ とし，両辺を2乗して整理して，2次方程式 $x^2-11x+24=0$ をつくり，この方程式の解 $\{8,3\}$ のうち，はじめの方程式を満たす8だけを解として採用すればよい。一般に無理方程式を解くには，項を適当に移し，両辺を何乗かすることをくり返して整方程式をつくり，その整方程式の解のうちではじめの無理方程式を満たすものを求めればよい。この場合，整方程式の解であって，無理方程式の解でないものを無縁根という。上例では3が無縁根である。〔菊池兵一〕

むりょうじゅきょう 【無量寿経】 仏教の経典。《観無量寿経》《阿弥陀経(あみだきょう)》とあわせて〈浄土三部経〉といわれる。〈大無量寿経〉〈大経〉ともいう。魏(ぎ)の康僧鎧(こうそうがい)の訳(252)とされるが，最古のものは紀元前後にできたと考えられる。他に4種の漢訳もあるが，本経がおもに浄土教で使われる。内容は，無限の昔法蔵比丘(びく)が現われ，救いを求める人を往生させる理想の浄土を建立(こんりゅう)しようとして四十八の願を誓い，願行完成して，極楽浄土を成就し，その阿弥陀仏となって，念仏者を救うこととなったのを説いている。願の中でも第18願の王本願は重要で，浄土に生まれんとして10度念じても往生できなければ，仏とならないという誓いで，念仏往生を説き，浄土教の中心思想となっている。経は，その後，それらの願に応じた浄土の姿，往生の方法，仏教者の道徳などを説く。三部経の中でも本願を強調し，浄土真宗では特に重んじられる。〔真野龍海〕

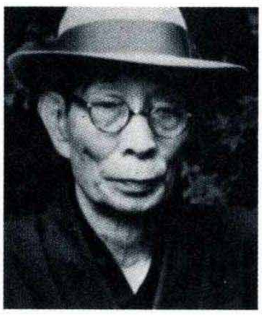
ムリリョ ［Bartolomé Esteban Murillo］（1617～1682） スペインの画家。はじめファン-デル-カスティリョに入門，師が画業を離れたために独学で絵を学んだ。その後同門のモーヤのフランドルの新様式に触れ，ローマ遊学を志した。しかし，マドリードに出たのみで終わり，セビリアに帰って制作したと伝わる。作品には連作の宗教画が多いが，ほかにしばしば児童を好んで描いた。



ムリリョ《乞食の少年》ルーブル美術館蔵



ムレスズメ



室生犀星

ムルシア ［Murcia］ スペイン南東部，ムルシア地方の中心都市。海岸部のカルタヘナの北西80km，セグラ川に沿う。人口24万1,000(1974)。果実類の集散地として知られる。起源は古代ローマにさかのぼるが，現在の町は825年にコルドバのカリフによって建設され，1265年以後はカスチリア領となった。ルネサンス期の教会が残っているが，古くからの市街の多くは19世紀初期のフランスの侵略で破壊された。

ムルナウ ［Friedlich Wilhelm Murnau］（1889～1931） 無声映画時代のドイツの代表的な映画監督。ムルナウの生まれ。1926年以降はアメリカに移住。表現主義やカマーシュピールの影響を受けたが，幻想的なものや超自然的なものへの傾向が，その作品を個性的なものとし，陰影に富んだ画面の美しさは特筆に値する。代表作は《ノスフェラトゥ》《最後の人》など。

ムルマンスク ［Murmansk］ ソ連の北西端，コラ半島にあるムルマンスク州の州都。人口36万9,000(1976)。北極海のバレンツ海に臨み，不凍港をもち，レニングラードへムルマンスク鉄道が通じている。トロール漁業の基地でもあり，水産加工業が盛ん。1915年鉄道建設とともに建設された都市である。

むれすずめ 【群れ雀】 双子葉植物・マメ科。中国原産の落葉低木で日本には江戸時代に渡来し，庭木として栽植されている。幹は多数叢生(そうせい)して高さ1.5～2m。よく分枝し，小枝には稜(りょう)がある。葉は偶数羽状複葉で，小葉は2対あり，長さ1～3.5cmの倒卵形。中軸はとげ状となって翌年も宿存する。5～6月，葉腋(ようえき)に短枝を伸ばし，長さ2.5～3cmの黄色の蝶形花(ちょうけいか)をつける。花は古くなるにつれて黄赤色に変化する。

むろあじ 【室鰺・鰘】 硬骨魚類・アジ科。体長30cm近くになる海産魚。一般にムロという。体は細長い。第1背びれは8棘(きょく)，第2背びれは1棘と31～33軟条，その後方に1小離れびれがあり，臀(しり)びれは2遊離棘と1棘と26～28軟条，その後方に1小離れびれがある。側線の直走部には楯鱗(じゅんりん)が33個ある。体色は背側が黒緑色で，腹部は銀白色。南日本の沿岸域に分布する。食用魚で，乾物にして好まれる。

むろうさいせい 【室生犀星】（1889～1962） 詩人・小説家。本名照道，別号魚眠洞(ぎょみんどう)。金沢市の生まれ。旧藩士の子に生まれたが，早く父をなくし，母とも生別，室生寺の住職室生真乗の養嗣子となった。高等小学校中退後，裁判所の給仕などに就職するかたわら，文学に親しみ，21歳で上京し，北原白秋・萩原朔太郎(はぎわらさくたろう)らの影響下に詩人として出発。1918年(大正7)処女詩集《愛の詩集》，第2詩集《抒情(じょじょう)小曲集》を発表して，詩人としての地位を確立した。一方，小説家としても《幼年時代》《性に眼覚(めざ)める頃(ころ)》《或(あ)る少女の死まで》などの，少年期の性的感覚を描いた作品でデビューした。佐藤春夫(はるお)・芥川龍之介(あくたがわりゅうのすけ)らとの親交の中で，盛んな作家活動にはいり，詩集《寂しき都会》，代表作の小説《あにいもうと》などを発表。第2次世界大戦後も円熟した作風で，自伝的な小説《杏(あんず)っ子》を残した。〔瀬良垣宏明〕

むろうじ 【室生寺】 奈良県宇陀(うだ)郡室生村大字室生にある真言宗室生寺派の大本山。8世紀末に興福寺の僧賢璟(けんけい)によって創建され，天長年間(824～833)に空海によって諸堂の再興があり，その弟子(でし)堅恵が女人の入山を許したと伝えられ，女人高野ともいう。わが国の山岳寺院の代表的な遺構で，静寂な自然に取り囲まれた堂塔が開創当時のおもかげをしのばせる。金堂(国宝)は平安期の建立(こんりゅう)で，礼堂は江戸時代に付け加えられたものである。

帝釈天曼荼羅(たいしゃくてんまんだら)を描いたと伝えられる板絵の前面に《木造釈迦如来(しゃかにょらい)立像》(国宝)を安置し,《木造十一面観音立像》(国宝)と文殊・薬師・地蔵が両わきに並ぶ。これらの仏像は平安前期の制作で,十二神将は鎌倉期の作。中央釈迦像の板光背の彩色画は特に美しく,背後の板絵とともに平安前期の貴重な絵画の遺品である。弥勒堂(みろくどう)は鎌倉期の建立で,興福寺から移建したもの。本堂(灌頂堂(かんじょうどう))(国宝)は鎌倉中期の様式をもった建築,五重塔(国宝)はわが国最小のものである。〔永井信一〕

むろきゅうそう【室鳩巣】(1658～1734) 江戸中期の儒学者。名は直清,字は師礼,通称は新助,鳩巣・滄浪(そうろう)と号した。父は備中(びっちゅう)(岡山県)の人で,江戸で医家を営んだ。江戸谷中(やなか)の生まれ。15歳のとき前田綱紀(つなのり)に仕え,命によって京都に遊学し,木下順庵(じゅんあん)に学び,また山崎闇斎(あんさい)門下の羽黒成実にも学んだ。1711年(正徳1),新井白石の推挙により幕府の儒官となる。古学隆盛の中で朱子学を守り後世に伝えた。著書に《大学中庸新疏(しんしょ)》《赤穂(あこう)義人録》《駿台(すんだい)雑話》などがある。〔坂本和子〕

ムロージェック〔Sxawomir Mrożek〕(1930～) ポーランドの作家・漫画家。風刺的なユーモア-コント,前衛的な劇作によって著名。グロテスクな誇張の呼び起こす〈黒い笑い〉を武器に鋭い文明批評を行なう。コント集《象》,戯曲《タンゴ》など。

むろと【室戸(市)】 高知県南東端の市。人口28,000。江戸時代は捕鯨,明治以後はカツオ漁業の基地として栄えた。1959年(昭和34)市制施行。市域の大半は安芸(あき)山地で,南端の室戸岬(さき)を頂点としてほぼ三角形をなし,東の紀伊(きい)水道沿岸から西の土佐湾沿岸にかけて帯状の隆起平野が海岸線を縁どる。産業三大別人口比は35：20：45。室津・室戸岬の2港を中心にマグロ・カツオなどの遠洋漁業が盛んで,かつおぶし加工が行なわれる。東岸の佐喜浜(さきのはま)・椎名(しいな)ではブリの大敷網漁業が行なわれたが,最近はふるわない。海岸平野では温暖な気候を利用してキュウリ・トマト・マメなどの促成栽培・抑制栽培が行なわれ,海岸段丘下の緩斜地ではビワがつくられる。室戸岬は豪壮な海岸美を誇り,室戸阿南(あなん)海岸国定公園の中心地となる。また,台風の通路にあたるため,高岡・行当地区には壮大な防風石がきが見られる。海岸沿いに国道55号線が走り,牟岐(むぎ)町(徳島県)と安芸市から急行バスが通じる。

むろとあなんかいがんこくていこうえん【室戸阿南海岸国定公園】 徳島・高知の2県にまたがり,橘(たちばな)湾岸から室戸岬(むろとざき)・羽根岬に至る四国東南岸一帯を含む面積72km²の地域で,1964年(昭和39)に指定された。北部の阿南海岸はリアス式の沈



室　生　寺　本堂(灌頂堂)

降海岸で,千羽海崖(かいがい)は豪壮な断崖,八坂八浜は出入りに富む海岸線が美しい。南部は海岸段丘の発達する隆起海岸で,室戸岬は荒波が岩に砕ける景観が豪快で,燈台・最御崎(ほつみさき)寺がある。北の橘湾は大小15の島が散在する多島海で,阿波(あわ)松島ともいわれ,湾内の弁天島と室戸岬のアコウ・ソテツなど亜熱帯性植物の群落は,天然記念物に指定されている。また大浜海岸・蒲生田崎(がもうだざき)はウミガメの産卵地として知られる。〔木村東一郎〕

むろとざき【室戸岬】 高知県東南端,室戸市に属す。太平洋に突出し,足摺(あしずり)崎と相対して土佐湾をいだく。大部分は砂岩とデイ岩で占められるが,先端から東のビシャゴ岩付近にかけてはハンレイ岩が見られ,背後は約120mと200mの2段の海岸段丘をなす。付近は準無霜地帯で,アコウ・アオギリ・タチバナ・クワズイモ・ウバメガシなどの亜熱帯植物が繁茂している。また台風の通路にあたり,暴風日数が多く,1965年(昭和40)9月10日日本の最大風速69.8m/秒が記録された。高岡・行当の民家には防風の石がきがつくられている。段丘上には燈台をはじめ,測候所・四国第24番札所の最御崎(ほつみさき)寺があり,中岡慎太郎の銅像もある。室戸阿南海岸国定公園の一部をなす。高知市からバスが通じる。〔味沢成吉〕

むろまちじだい【室町時代】⇨次ページ

むろまちじだいびじゅつ【室町時代美術】 室町時代の美術。室町時代は禅宗文化が社会全般をおおった時代であるが,造形美術においても見るべき成果のほとんどは禅宗の理念を基底に置く。また,禅宗の受容が,貴族文化に対する武家文化の形成という,政権の側からの要請と重なり,禅宗を通じての中国宋(そう)・元美術の意識的摂取という形で独自の文化形成をめざすことになる。このため,まず絵画史の分野で水墨画が禅寺の画僧をにない手として興隆し,南北朝以来の寄合(よりあい)・喫茶の場における以上にすぐれた山水・人物・花鳥画がつくられた。これらは多く詩画軸の形式をもち,15世紀前半をその盛期とする。特に応永年間(1394～1427)には《柴門(さいもん)新月図》(国宝)《江天遠意図》《芭蕉(ばしょう)夜雨図》,伝周文筆《三益斎図》,伝明兆(みんちょう)筆《溪陰(けいいん)小築図》(国宝)など名作が残され,続いて相国寺の如拙,周文・宗湛(そうたん),東福寺の明兆・霊彩ら,さらに将軍家同朋(どうぼう)の阿弥(あみ)派,大徳寺の墨谿(ぼくけい)・墨斎らが詩画軸のみならず大画面の襖(ふすま)・屏風(びょうぶ)などに水墨の傑作を描いたが,応仁(おうにん)(1467～1468)以降に相国寺から出て地方へ下った雪舟によって,室町水墨画は詩画軸小画面の限界を抜いて,画巻や連幅画面にその完成態を見せる。同様に文明・延徳(1469～1491)のいわゆる東山時代には,雪舟・宗湛・宗継・相阿弥,また鎌倉の祥啓,大徳寺の曾我蛇足(そがだそく)らが大作を残し,狩野正信(かのうまさのぶ)が如拙・周文・宗湛のあとを受けて将軍家御用絵師となり,続いてその子元信が各地の大寺院の襖に山水・花鳥の大作を描き,桃山における狩野派の隆盛へと道を開いた。

漢画の隆盛に比し,大和絵(やまとえ)は〈山水(せんずい)屏風〉〈浜松図屏風〉などの大作が残り,桃山の金碧(きんぺき)障壁画を準備しているが,末期には〈風俗図〉〈洛中(らくちゅう)洛外図屏風〉なども興り,さらに〈職人尽〉や御

➔286ページ



室　戸　岬　岬の海岸段丘の下は断崖となって落ちこみ,奇岩・岩礁が屹立する。遠くの岩の上にはいそづりの客の姿が見える

室町時代

時代区分上の名称で，足利(あしかが)時代ともいう。一般に，1336年(延元１・建武３)の室町幕府成立から，1573年(天正１)その滅亡までの約240年間をさす。足利尊氏(たかうじ)の開幕から３代将軍義満(よしみつ)のときに南北両朝の合一が実現するまでの内乱の期間を南北朝時代として区別する考え方もあるが，南北朝時代を室町時代に含めて考えるのが一般的である。また室町時代の下限についても，応仁(おうにん)の乱・文明の乱がいちおう終結した1477年(文明９)とし，それ以後を戦国時代と称して区別する考え方もある。

〔政治〕足利尊氏は，持明院統の光明天皇を擁立して南朝の後醍醐(ごだいご)天皇方と戦い，半世紀余にわたって南北朝の動乱が続いたが，新田義貞(にったよしさだ)・北畠顕家(きたばたけあきいえ)が戦死し，後醍醐天皇がなくなったのちは，南朝方の衰勢はおおうべくもなかった。その間尊氏は，1336年に建武式目を制定して武家政治の大綱を示し，1338年(延元３・暦応１)には北朝から征夷(せいい)大将軍に任ぜられて室町幕府を開き，武家政治は名実ともに確立された。戦乱は尊氏の死後，その子義詮(よしあきら)になっても続いたが，義満の代になると細川頼之(よりゆき)が管領(かんれい)となって守護大名の統制を強め，幕府政治はいちおうの安定に向かい，1392年(元中９・明徳３)には南北朝の合一が実現して，足利政権による全国の統一が完成した。

この政権の基礎になったのは，南北朝の内乱を通じ，荘園(しょうえん)制に依存しながらもこれを侵食して各地に一円的な領主制を打ち立てつつあった中小武士たちであり，特にこれらの武士を組織化していった守護大名であった。尊氏は，山名・赤松らの有力武将のほか，斯波(しば)・畠山・今川・細川らの足利一族を国々の守護に任命した。この時代の守護は，鎌倉時代に守護の権限として規定された大犯(だいぼん)三箇条のほか，刈田(暴力的に他人の田畑の作物を刈り取る)狼藉(ろうぜき)・使節遵行の新たな権限を認められ，戦乱に乗じてその権力をしだいに強化していった。中でも義詮の名で公布された半済(はんぜい)法は，荘園年貢(ねんぐ)の半分を兵粮米(ひょうろうまい)として守護に与えるというものであったが，守護はこれを領国内の武士たちに分与し，在地武士を服属させるきずなとした。また守護の中には半済と称して不法に年貢を横領したり，荘地を奪い取ったりする者も少なくなかった。さらに任国全域に守護段銭(たんせん)とよばれる臨時課税を行なったり，武士の荘園侵略に苦しんでいた荘園領主や知行国主から年貢を請け負う守護請を通じてしだいに荘園・国衙(こくが)領(公領)を私的領地に転化させ，守護の領主化が促進された。このようにして守護はその経済力を強化し，軍事的に国内武士を組織化していった。一方在地の武士たちは，しだいに独立性を増し，荘園制のわくをこえて結束してきた農民の反抗をおさえ，また在地領主間の紛争解決や所領拡大のために守護を被官化するようになり，守護は守護領国制とよばれる分権的体制を進展させて守護大名へと変化していった。彼らがこのような守護領国制を確立し，維持していくためには，幕府権力に依存することが必要であり，有力守護大名は，幕府の強化に力を尽くした。室町幕府はこのような守護大名の連合政権として成立したのである。

しかしながら，守護大名によってささえられている室町幕府は，必ずしも安定した政権ではなく，守護大名が分権的性格を強めてくるにしたがい，しだいにその統制がとれなくなってきた。そこで義満のときに南北朝の合一を実現し，日明(にちみん)貿易による幕府財政の強化に意を注ぐとともに，一門以外の強大な勢力をもつ守護大名の抑制に努めた。まず美濃(みの)(岐阜県)・尾張(おわり)(愛知県)・伊勢(いせ)(三重県)の守護土岐氏の内紛につけこんでこれを攻め，1391年(明徳２)には当時11か国の守護を兼ねて〈六分一殿〉とよばれた山名氏清を殺してその勢力をそぎ，さらに1399年(応永６)には周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)など６か国の守護大名大内義弘(よしひろ)を和泉(いずみ)(大阪府)堺に討って幕府の権威を高めることに成功した。しかし守護大名の独立性が増せば増すほど，専制的な支配を強めようとする将軍権力と衝突せざるをえなくなった。1413年には伊達(だて)氏の反乱があり，1425年には北畠満雅(みつまさ)が伊勢でそむき，さらに翌年には上杉氏憲(うえすぎうじのり)が鎌倉公方(くぼう)足利持氏にそむき(→上杉禅秀の乱)，各地で有力武士の反乱があいついだ。６代将軍義教(よしのり)の代になると，守護大名の独立化と土一揆(つちいっき)の頻発(ひんぱつ)に対して幕府権威の確立を図るために専制政策を強行した。1438年(永享10)には持氏を攻め滅ぼし，さらに持氏の遺子を奉じて反乱を起こした結城氏朝(ゆうきうじとも)を誅(ちゅう)したが，義教の専制は幕府の元老の間にも反対の機運を巻き起こし，1441年(嘉吉１)には義教自身，播磨(はりま)(兵庫県)守護赤松満祐(みつすけ)に殺害された。このようなあいつぐ反乱と土一揆の頻発によって幕府の権威は失墜し，幕府権力は衰退の一途をたどった。嘉吉(かきつ)の乱後，義勝(７代)・義政(よしまさ)(８代)が将軍職についたが，もはや将軍に実権はなく，有力守護大名に擁立されているにすぎず，幕政は腐敗し，険悪な世相をよそに義政は宴会と物見遊山(ゆさん)に日を送るありさまとなった。幕政の実権は細川氏と山名氏によって争われ，その対立は将軍義政の後嗣問題をきっかけに表面化し，斯波・畠山両管領家の継嗣争いがからんで，応仁の乱・文明の乱がひき起こされるに至った。この乱の結果，将軍の威令はまったく行なわれなくなり，幕政の実権は細川氏に移り，以後足利将軍は京都を中心とする地方勢力の一つにすぎなくなった。また守護大名の多くも守護代以下の家臣や新興武士層との対立を深め，管領細川氏の実権は家臣の三好長慶(みよしながよし)に奪われ，三好氏の権力もその家臣松永久秀(まつながひさひで)に移り，実力ある下位の者が上位者を圧倒する下克上の世となり，守護大名に代わって，新しく戦国大名の登場をみることになった。

関東では，永享の乱ののち足利氏は古河公方と堀越(ほりこし)公方に分かれ，実権を握っていた上杉氏も山内・扇谷(おうぎがやつ)両上杉氏に分かれて抗争が続き，その対立に乗じて北条(ほうじょう)早雲が出て，小田原を本拠とし，その子氏綱，孫氏康(うじやす)の３代の間に関東の大半を領国として支配する戦国大名に成長した。越後(えちご)(新潟県)では守護上杉氏にかわって長尾氏が実権を握り，主家を継いだ謙信が甲斐(かい)(山梨県)の武田(たけだ)信玄と対立した。守護斯波氏の領国であった尾張・越前(福井県)は守護代の織田・朝倉両氏にそれぞれ奪われ，美濃の土岐氏は斎藤道三に，京極氏の近江(おうみ)(滋賀県)・出雲(いずも)(島根県)は浅井・尼子氏に奪われた。大内氏も家臣陶晴賢(すえはるかた)に滅ぼされ，陶氏も土豪の毛利氏に討たれた。四国では土佐に長宗我部(ちょうそかべ)氏が興り，九州では大友・龍造寺(りゅうぞうじ)・島津氏が，奥羽では伊達・南部・最上(もがみ)の諸大名が互いに相争う状態となった。これらの戦国大名は実力だけをたよりに領国の拡大を図り，外部からの戦いに備え，また強力な権力の確立は家臣団の統制と，独立性を増した郷村(→郷村制)の農民の支配を貫徹するためにも必要であった。こうした富国強兵策は戦国大名に共通した政策であり，大名は分国内の土地を一手に握り，家臣の所領もいったん大名が没収し，あらためて御恩として知行地を給与し，奉公の義務を要求した。また大名の城下に家臣を集め，彼らを完全な家臣団として編成した。多くの大名は分国支配のために分国法を制定したが，家臣団の統制は特にきびしく，知行地の自由処分や分割相続は禁じられて相続や婚姻は領主の承認が必要とされ，喧嘩両成敗(けんかりょうせいばい)や厳罰刑などの処置がとられた。農民の年貢は分国経済の基礎であったから農民統制もきびしく行なわれ，家臣たちがかってに農民を使役することを禁じ，郷村

を連帯責任の組織として利用した。戦国大名が農民の支配を家臣に任せず直接支配したことは守護大名の領国支配と大きく相違する点である。このように，戦国大名は分国支配の強化と富国強兵政策によって分国の拡大を図って果てしない戦乱を続け，全国統一の事業は織田信長*(のぶなが)・豊臣秀吉*(とよとみひでよし)の出現を待たねばならなかった。

〔社会経済〕荘園制の強固な時期には，農民の生活基盤である地理的自然村落と荘園的土地支配の体制とは必ずしも一致するものではなかった。しかし室町時代にはいると農民たちは，入会地の確保や灌漑(かんがい)用水の配分，あるいは灌漑施設の新設，日常生活の必要から惣*(そう)とよばれる地域的な村落結合の組織をもって行動するようになった。この時代には農業生産力の増大が著しく，水稲の品種も早稲(わせ)・中稲・晩稲(おくて)など多様になって土地や目的に合った栽培が行なわれるようになり，草木灰や廐肥(きゅうひ)の使用とあいまって稲と麦との二毛作も進展した。水車の普及や灌漑用水路の開発は耕地の拡大や利用度の向上をもたらし，単位面積あたりの収穫高も増大した。また生産物の地方的分化も進み，山城(京都府)・大和(やまと)(奈良県)・駿河(するが)(静岡県)の茶，越後の苧(お)・四国の藍(あい)，中国地方の漆などの商品作物の栽培も盛んになり，京都・奈良などの大都市周辺の農村では商品作物としての蔬菜(そさい)の栽培も行なわれた。このような農業生産力の増大は農民の独立性を高め，名主*の一部には，武力をたくわえて独自の行動をとるものもあり，従来名主に隷属していた作人や下人の中にも独立した農民に成長する者が多くなった。農業生産力の向上に伴う農民の独立化は，荘園のわくをこえた農民の地域的結合(郷村制の形成)に拍車をかけた。郷村制は，南北朝の動乱において農民の生活自衛の必要からも畿内(きない)近国を中心に広く成立し，年貢の百姓請*や領主に対する年貢の減免の要求，代官*の非法に対する強訴などを集団で行なったり，やがて土一揆を興して荘園領主・幕府・守護大名に実力で反抗するようになった。惣は神社の祭祀(さいし)組織である宮座*を中心に成立したものが多く，神社の年中行事を機会に定期的な村民の寄合をもって一村の行事や行動を決定し，惣の掟(おきて)を定め，国人・地侍・有力名主などを指導者として惣の自治的な運営を図った。このような郷村制の発達は，荘園制を内部から崩壊させ，やがて荘園とはその名だけでしだいに実質を失っていった。荘園制の解体の中で一円領主化への道を指向しつつあった在地の武士たちは，ある場合は守護大名の被官となることによって農民支配の強化を図り，またのちには郷村の指導者として土一揆に加担し，国一揆*を組織





(上)応仁の乱は京の町や寺院を荒廃させ，幕府を完全に無力化した。《真如堂縁起絵巻》(部分)真正極楽寺蔵(下)《日月山水図屏風》六曲一双左隻　当期に流行した大和絵屏風の代表作で，秋の田と冬の雪を表わし，自然描写にスケールの大きさを示す。東京国立博物館蔵

して守護大名と武力抗争する国人・地侍なども現われるようになった。しかし応仁の乱後，戦国大名の成長と領国支配の強化によって，在地の武士層は戦国大名の家臣団に強固に編成され，また郷村はその自治性を奪われて連帯責任の組織として戦国大名の領国支配の単位に編入されていった。

この時代には，農業生産力の増大によって手工業も著しく発達し，従来荘園領主に隷属していた手工業者は，しだいに独立の生産者となって市場目あての商品生産を行なうようになった。京都の西陣や織物業，土佐(高知県)・美濃・越前の製紙業，尾張の陶器業などが盛んとなり，釜(かま)・鍬(くわ)などの鋳物業の発達によって，安価な農機具が提供され，その面から農民の独立と農業生産力の増大に役だった。

手工業や農業の発達は商業の発達を促進した。鎌倉時代の座*のほか，各種の部門にわたって新座が結成され，荘園領主の保護のもとにあった旧来の座商人との間に業務や業種の協定が行なわれ，また業種や業務の細分化・専門化が進んだ。京都や奈良では常設の店舗が並ぶようになり，振売(呼び売り行商)・連雀(れんじゃく)商人(比較的遠距離，商品を持ち歩いて売る商人)などの活躍も目だった。また各地に独特の農産加工品や手工業製品がつくられ，商品経済が発達すると，これらを交換する定期市も三斎市から六斎市に進み，市*の開催日も隣接地域と協定されるようになり，農村に商品経済が浸透し，年貢の銭納化を一般化させた。またこれまで荘園制に依拠して輸送をつかさどっていた問丸*なども，しだいに独立の運輸・倉庫業者となり，都市の酒屋・土倉などの高利貸し業者が金融機関の役割を果たし，為替(かわせ)や割符*(さいふ)も一般に行なわれるようになった。このようにして商業や手工業の面でも荘園制のわくや機能がくずれはじめ，戦国時代にはいると各地の戦国大名は，富国強兵と領国経済の円滑化のために市場の保護に努め，商人の来住を歓迎し，市場税も免除するようになり，やがては楽市・楽座*の政策にまで発展していった。

〔文化〕この時代，政治的・経済的に公家(くげ)を圧倒した武家は，義満の北山時代(→北山文化)から義政の東山時代(→東山文化)に至って，貴族化した足利将軍家を中心とする上級武士の生活を反映して独自の文化を生み出した。また室町文化は，都市における町衆や，独立性を増した農民の間に庶民的文化を生み出し，さらに応仁の乱ののち，戦乱をのがれた貴族・僧侶(そうりょ)らの文化人が大名をたよって地方に移住したことから，文化の地方普及が著しく進んだ。

仏教では，臨済宗*が尊氏以来幕府の保護によって盛んとなり，夢窓疎石*をはじめ春屋妙葩*(しゅんおくみょうは)・絶海中津*(ぜっかいちゅうしん)・

義堂周信*らの宋学や漢詩文に長じた名僧が出て幕府の政治上の顧問となる者も現われた。尊氏は天龍寺を創建して疎石を開山とし，安国寺を国ごとに設け，京都・鎌倉に五山*の制を定め，義満のときにこれを整備するなど禅宗*の保護に努めた。この結果，禅宗，特に臨済宗は上級武士や公家の間に広まり，禅趣味は室町文化の主軸となって社会に広がった。さらに義満のときに日明の国交が開かれて禅僧の往来が盛んになると，宋・元・明の文化を吸収して，五山はこの時代の学問・文学の中心をなした(→五山文学)。また曹洞宗*(そうとうしゅう)は地方の武士や庶民の間に広まった。日蓮宗*(にちれんしゅう)は日親が現われて朝廷・幕府・商人の間に熱心な布教活動を行ない，京都を中心に急速に教線を伸張させたが，延暦(えんりゃく)寺*と争いを生じ，京都では衰退していった。一向宗は本願寺派に蓮如*(れんにょ)，専修寺派に真慧(しんえ)が出て深く庶民の間に浸透していった。蓮如は各地に講*を組織して勢力を拡張したが，延暦寺の圧迫を受けて北陸で布教に努め，摂津(大阪府)石山に本願寺*を建立(こんりゅう)して一向宗の全盛時代を現出した。

学問の分野では，公家・貴族の政治的・経済的衰退によって，〈古今伝授*〉のような学問の公開性をはばんで創造性を抑止する傾向が強かったが，一条兼良*(かねら)や三条西実隆*(さねたか)の古典や有職(ゆうそく)故実の研究にはみるべきものがあり，それは伝統的貴族文化の遺産を継承しようとする意欲の現われでもあった。学問の一般的停滞の中で，五山の禅僧による宋学の研究が当代の学問を代表した。応仁の乱ごろから貴族文化人や学僧の地方への下向が盛んとなり，島津氏は入明して儒学を学んで帰朝した桂庵玄樹*(けいあんげんじゅ)を招いて宋学を普及し，大内氏は城下の山口に学僧たちを集めて保護し，関東の上杉憲実(のりざね)は足利学校*を再興するなど地方文化の興隆に力を尽くす大名もあり，文化の地方伝播(でんぱ)はいっそう盛んになった。また武士や庶民もしだいに教育を受けるようになり，《伊呂波歌(いろはうた)》《庭訓往来(ていきんおうらい)》《童子教》《実語教》などを教科書として習字や読書が教えられた。

公家の間に始まった連歌は，南北朝時代以降，武士・庶民にも広く愛好された。この時代の初期，二条良基*が連歌の規則(応安新式)を定め，《菟玖波集*(つくばしゅう)》が勅撰(ちょくせん)に準ぜられてからは，社交の文芸として盛んになり，宗祇*(そうぎ)が格調高い正風連歌を唱えて《新撰菟玖波集》を撰したが，しだいに形式化すると，連歌に自由な着想や用語を求める傾向が生まれ，戦国時代に山崎宗鑑*の《犬筑波集(いぬつくばしゅう)》が現われて江戸時代の俳諧(はいかい)の源流となった。また民衆的な芸能として南北朝時代に盛んになった猿楽*(さるがく)は，義満の保護を受けて洗練された能楽を大成した。能楽は貴族化しつつあった武家の趣味にかなうものとして歓迎され，また猿楽の即興と滑稽(こっけい)を受け継いだ能狂言は日常生活に題材をとり，軽妙な通俗的ことばを用いて，風刺をその趣向としたので広く庶民に親しまれた。これらの連歌や能は，公家・武家の文化として成立発展し，しだいに庶民の間に広まっていったが，逆に《一寸法師》や《ものぐさ太郎》などの御伽草子*(おとぎぞうし)は，庶民の立場から生まれ，子女の読み物として民衆の間に流行していった。また民衆に愛好されたものに小歌があり，これは《閑吟集*》にまとめられた。

室町初期には，武家の住宅建築に公家の寝殿造り*が取り入れられていたが，この様式はさらに変化し，書院造り*が行なわれるようになった。庭園も閑寂・枯淡・幽玄な趣をみせ，この時代初期の写景的な庭園から，しだいに禅宗の影響のもとに象徴的な枯山水*(かれさんすい)の様式が発達した。また書院造りの床には水墨画*の掛け軸がかけられ，棚(たな)には陶器を飾ることが流行し，その面からも美術工芸の発達が促されることになった。➔室町時代美術　〔鈴木英雄〕

伽草子(おとぎぞうし)系絵巻にも《福富草紙》《稚児(ちご)観音絵巻》《百鬼夜行絵巻》などが現われて頂点に達した。伝統的な絵巻としては土佐派の光信が室町末に《清水寺縁起》などを描いて，宮廷・公家(くげ)社会の衰退を食い止めている。建築の分野では禅宗様が盛行し，禅寺の塔頭(たっちゅう)から派生した書院および書院造り建築とその庭園は禅宗文化の遺産として貴重である。鹿苑(ろくおん)寺金閣から慈照寺銀閣(国宝)への推移の中に書院造り形式の浸透のあとを見る。他に遺構として慈照寺東求堂同仁斎(国宝)・妙心寺霊雲院書院などがある。庭園は将軍家が帰依した夢窓疎石の作である西芳寺庭園に原形をもち，臨川寺・等持寺・天龍(てんりゅう)寺・瑞泉(ずいせん)寺などにその初期的な様式を残すが，やがて枯山水にその完成形態を生み出し，龍安(りょうあん)寺庭園・大仙院(だいせんいん)庭園・退蔵院庭園などに代表的な遺例を見る。彫刻は仏像彫刻が衰退し，仏所が分立して鎌倉彫刻の余韻を伝えるにすぎなかった反面，頂相(ちんぞう)彫刻が宋・元の写実性を学んで佳作を生み出し，《一休宗純像》などを残す。また，面打ちといわれた一群の人々の手で，すぐれた能面がつくられたことは特筆に価する。工芸では，将軍家の宋・元美術愛好と生活用美術品の需用を満たすため，蒔絵*(まきえ)の幸阿弥派・五十嵐(いがらし)派，金工の後藤派などがあり，鎌倉以来の瀬戸焼*，また信楽(しがらき)焼*などに成果がみられる。➔絵巻物・庭園(写真)　〔中島純司〕

むろまちばくふ　【室町幕府】　中世，足利尊氏*(あしかがたかうじ)によって開かれた武家政権。1338年(延元3・暦応1)尊氏は北朝*より征夷(せいい)大将軍の宣下を得て幕府を開設，その後武力で南朝*の勢力を圧倒し，3代将軍義満(よしみつ)に及んで両朝合体と有力守護の打倒に成功し，幕府の最盛期を現出した。1378年(天授4・永和4)義満は京都の室町に新第(しんてい)(室町殿)を築いて幕政をつかさどったので，その政権を室町幕府と称するようになった。職制はほぼ鎌倉幕府*にならい，管領*(かんれい)のもとに政所(まんどころ)・問注所・侍所・評定衆・引付(ひきつけ)などがあり，地方機関としては関東管領・九州探題・奥州探題などが置かれた。その財政的基礎は諸国の荘園*(しょうえん)や商業に対する課税，明(みん)との貿易などであった。しかし尊氏がもっぱら守護大名の協力によって政権を掌握した事情から，その政権は三管・四職*(ししき)を中心とする守護大名の連合政権的性格が強く，かつ全国的に半独立の守護大名領国が形成されたため，幕府の政治・経済的基礎は不安定であった。義満以後，幕府の権威は下降をたどり，6代将軍義教(よしのり)のとき鎌倉公方(くぼう)の反抗(→永享の乱)，将軍の暗殺(→嘉吉(かきつ)の乱)が起こってからは，一族・重臣の反抗・政争に対して将軍の統制力は弱化，8代将軍義政(よしまさ)の代に将軍・管領家の相続争いからついに応仁(おうにん)の乱*が勃発(ぼっぱつ)した。乱後，幕府はまったく無力化して下克上の世となり，戦国時代にはいった。その間，歴代将軍は細川・大内・三好(みよし)らの戦国大名の傀儡(かいらい)として存在するにすぎず，1573年(天正1)15代将軍義昭(よしあき)が織田信長(のぶなが)に京都二条城から放逐されて，15代230余年にわたる室町幕府は滅亡した。　〔高崎徳次〕

室町幕府職制表

- 将軍
  - (京都) 管領(執事)
    - 評定衆
    - 引　付(内談)方(頭人・引付衆)
    - 政　所(執事・執事代〈開闔〉・政所代)
    - 問注所(執事)
    - 侍　所(所司〈頭人〉・開闔・所司代)
    - 小侍所(所司〈頭人〉)
    - 地　方(頭人・開闔・奉行)
  - (遠国)
    - 関東府(関東管領・執事)
      - 評定衆
      - 引付衆
      - 問注所執事
      - 政所執事
      - 侍所執事
    - 九州探題
    - 奥州探題
    - 羽州探題
    - 守　護

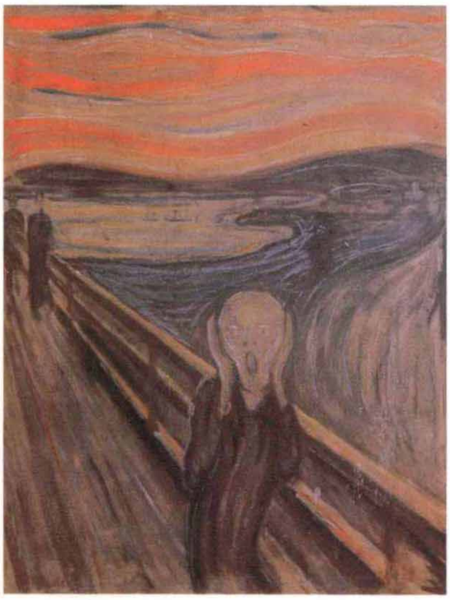
むろらん【室蘭(市)】 北海道南西部の市。人口16万0,000。江戸末期から道内奥地へはいり込む拠点として開け，明治初期に屯田兵(とんでんへい)が入植したが，泥炭地(でいたんち)のために不成功に終わった。1892年(明治25)室蘭本線*の開通により夕張炭田の石炭積み出し港として発展し，明治後期からは製鉄・製鋼などの重工業も興り，〈鉄の町〉として活況を呈した。1922年(大正11)市制施行。市名はアイヌ語の〈モルエラン〉(ゆるやかに下る道)にちなむという。市域は太平洋岸の胆振(いぶり)地方西部にあり，内浦湾の入り口に位置する絵鞆(えとも)半島と，これに続く北部地区を含む。絵鞆半島は砂州でつながれた陸繋(りくけい)島で，輪西から祝津へかけて東西に延びる平地上に中心市街がある。北部は北を鷲別岳(わしべつだけ)，東を鷲別川，西をテマイベツ川で画されたほぼ三角形の区域で，北東は登別市，北西は伊達(だて)町と接する。産業三大別人口比は1：40：59。室蘭港は内浦湾の支湾白鳥湾に面する天然の良港で，港湾施設が整い，その周辺地区には新日本製鉄や日本製鋼の工場敷地を中核として，セメント・石油などの工業も導入され，北海道最大の重工業地域が形成される。周辺の登別市と虻田(あぶた)・伊達の2町を含めて，道央新産業都市に指定され，石油化学コンビナートによる臨海工業地帯が建設される予定である。室蘭本線は半島部の室蘭から東室蘭を経て，西進して函館(はこだて)本線長万部(おしゃまんべ)駅へ達する線と，東進して苫小牧(とまこまい)から北上して函館本線岩見沢駅へ達する線とがあり，札幌(さっぽろ)～函館間を結ぶ道南西部の大動脈となる。また，札幌・長万部へ通ずる国道36号線(室蘭街道)・37号線は，工業地帯と港湾あるいは周辺観光地とを結ぶ重要な役割を果たしている。展望のすぐれた測量山，波浪によって侵食された絶壁の地球岬(みさき)，南部藩陣屋跡などの名所史跡があり，支笏洞爺(しこつとうや)国立公園の観光基地となる。特産はイカ・ウニなど。国立室蘭工業大学がある。〔浅井得一〕



室蘭市 絵鞆半島にいだかれた室蘭港と室蘭の市街。港内では埋め立て地の造成が進んでいる。対岸左手の工場は新日鉄室蘭製鉄所

むろらんほんせん【室蘭本線】 長万部(おしゃまんべ)～東室蘭～岩見沢間および支線の東室蘭～室蘭間の国鉄路線。営業キロ数217.4およびほかに貨物支線1本(1.4km)がある。1892～1928年(明治25～昭和3)開業。北海道における幹線鉄道の一つで，函館(はこだて)～札幌(さっぽろ)間の特急・急行列車の運転(千歳(ちとせ)線経由)，夕張炭田より室蘭への石炭輸送に重要な機能を果たす。

ムンク［Edvard Munch］(1863～1944) ノルウェーの画家・版画家。はじめ自然主義の影響を受けたが，やがて主題との主観的なかかわり方において，絵の諸要素の取り扱いにおいて，表現主義の開拓者のひとりとなった。1889年から1892年にかけて主としてパリで印象派その他の諸要素を吸収し，まもなく心理的内容を強めるためにそれらを用いた。ムンクは作品を一つのアンサンブルとして構想したが，《生命のフリーズ》連作においては欲望・不安・嫉妬(しっと)・孤独・死など，人間を襲う根源的な暴力を取り扱った。彼は，その象徴主義においていくぶん文学的であるとされるが，1909年以後はテーマが内的・静的なものから外向的・活動的なものへ変化し，パレットも明るくなる。こうした変化は1916年完成のオスロ大学の壁画に顕著である。〔岸野悦子〕



ムンク《叫び》1893 オスロ国立美術館蔵

ムーンストーン［moonstone］ 月長石ともいう。月の光を受けて凝集した石ということから名づけられた。アルカリチョウ石の一種。劈開*(へきかい)(100)面付近で月光のような青白い光を放つのが特徴で，原因は月長石がセイチョウ石とアルバイトの超顕微鏡的な極細片が無数に双晶をくり返してできているためなどと考えられている。美しいものはセイロンに産出する。准宝石として用いられる。

ムンダぞく【ムンダ族】 インドのビハール州南部のチオタ・ナグプール高原，オリッサ州の丘陵地帯に住み，ムンダ語系に属するムンダ・ブウミィジュ・ホー・ビルホオル・サンタル・サオラなど約10の部族。1960年代には人口約500万と推定された。身体的にはプロト-オーストラロイーデに属し，長頭・短軀(たんく)・黒色膚・波状毛・広鼻などを特徴とする。このような特徴は中部・南部インドの他の諸部族やヒンズー最下層カースト民にもみられる。現住地は丘陵・森林地帯のため，ごく最近までインド高文明の影響が少なかった。しかし彼らは，孤立的な集団ではなくインドの他の住民と共通する文化要素を多く有している。大部分のムンダ族は農耕に従事するが，チオタ・ナグプールの小集団であるビルホオル族は狩猟・採集民であり，オリッサ州に住む若干の部族は焼き畑*農業に従事する。宗教はアニミズムを基盤とするもので，死者崇拝，シャーマニズムの要素が強く他界観念が発達している。近来ヒンズー化の過程にあり，イギリス教育施設の導入以来，この傾向は特に強化されている。〔佐々木宏幹〕

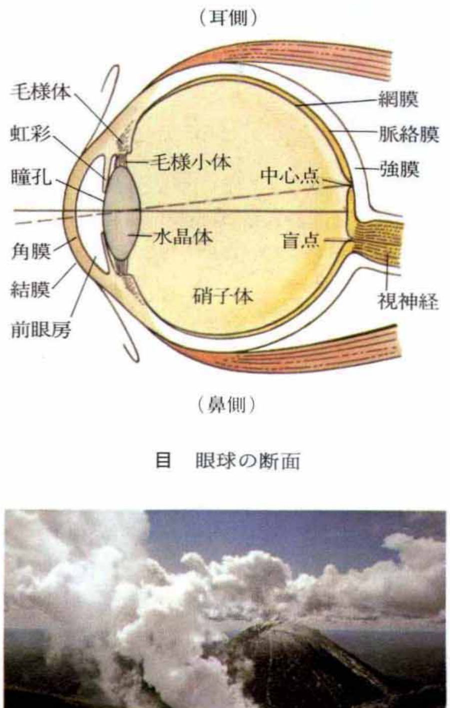
め

め【目】 視覚*をつかさどる感覚器*。
〔ヒトの目〕 視覚器の主となるものは眼球で，付属器として眼筋・眼瞼(がんけん)・涙腺(るいせん)などがある。眼球は直径約2.5cmの円球状で，眼窩(がんか)中にあり，外膜・中膜・内膜の三つの膜で包まれている。外膜は不透明で白色のじょうぶな強膜(白目の部分)である。全周の6分の1にあたる眼球の前方は透明な膜(黒目の部分)でこれを角膜とよぶ。中膜は脈絡膜(強膜と網膜との間にある膜)・毛様体(脈絡膜の前端部が肥厚して細いひだとなった部分)・虹彩(こうさい)(最前部にある円盤状の薄い膜)に分かれ，血管に富み色素をもっていて光線は通さない。したがって眼球の内部は暗い。内膜は網膜と色素上皮層に分かれ，網膜には錐状体*(すいじょうたい)と桿状体(かんじょうたい)がある。錐状体は色を感じ，桿状体は明暗を感ずるとされている。

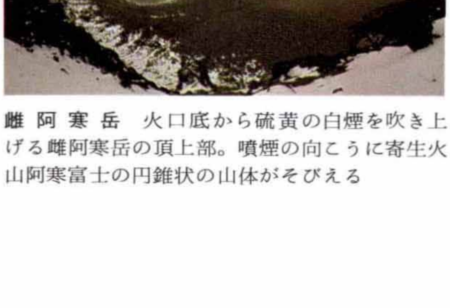
水晶体は角膜の後方の後房中にあり，毛様小帯(小帯繊維)によって毛様体に連絡している。毛様体は虹彩の外側に存在する水晶体の厚さを変える役割(目の調節作用)を果たす。角膜と水晶体の間を前眼房といい，眼房水が満ちている。水晶体を前から見るとその中心部には虹彩がない。この部分が瞳孔(どうこう)で，瞳孔を広げたり，小さくしたりするのは虹彩にはいっている2種の筋による。水晶体の裏側には硝子体とよばれる透明なコロイド*がはいっている。網膜の一部がさら状にへこんだところがあり，ここは錐状体が多く最も視力のよいところである。

光は角膜・前眼房・水晶体・硝子体と進んで網膜に達し，これが視神経に伝えられて大脳に至り，視覚を生ずる。老人になると毛様体が水晶体の厚さを変えることができなくなるので老視となる。眼球の奥行きが正常でなく，長すぎる場合には遠方の像は網膜に達しないうちに結ばれてしまうので近視が起こる。逆に遠視は，軸長が短いことから生ずる。また，角膜・水晶体の凹凸(おうとつ)がある場合は焦点が結ばれないので乱視となる。色を識別できない場合を色盲*という。視神経が網膜から出るところを盲点*といい，ここは視細胞を欠くので光を感じない。網膜に結ばれるのは平面像であるが，ヒトの目は奥行きを知ることができる立体視である。

眼筋は眼球の運動を支配する横紋筋*である。眼瞼は上下に分かれ，上下ともまつげ(睫毛(しょうもう))をもち，さらに上部には眉毛(まゆげ)がある。眼瞼の内面は結膜でおおわれている。涙腺は涙をつくり，つねに流れ出て眼球の表面を潤している。
〔動物の目〕 イヌ・ネコなどの目が暗いところで青白く見えることがあるのは，脈絡膜にある反射膜または光輝膜の作用による。ヒトの目は，対象との距離によって水晶体の厚さを変える方法をとるが，魚類・両生類・ヘビ類などでは水晶体を前後に動かして行なう。またヒトの目の水晶体は両凸レンズの形であるが，魚類やリス・ヘビなどは球形である。ヘビ類の眼瞼は上下が癒着(ゆちゃく)して透明になっている。網膜における錐状体と桿状体の数は動物によって違っている。フクロウ・ネコなどの夜行性のものは桿状体が多く，ニワトリ・ハトなどは錐状体が多い。また，錐状体だけしかないものには，リス・トカゲ類，桿状体だけしかないものには，モグラ・コウモリなどがある。なお，こん虫は複眼*である。
〔高野一雄〕



目 眼球の断面



雌阿寒岳 火口底から硫黄の白煙を吹き上げる雌阿寒岳の頂上部。噴煙の向こうに寄生火山阿寒富士の円錐状の山体がそびえる

め【芽】 茎・葉・花などが未発育の状態のもの。形・位置・構成器官などによっていろいろに分けられる。植物の一定の場所にできるものを定芽といい，茎の先端にできる頂芽，葉腋(ようえき)に生じる腋芽などがある。これに対して葉・根・節間などに生じるもの(コモチシダなど)を不定芽という。また，芽が伸長して葉や茎となるものを葉芽，花となるものを花芽という。さらに，冬芽*のように休眠状態のものを休眠芽という。なお，葉腋にできる腋芽は，ふつう1個のことが多いが，コゴメウツギのように2個以上できるものがあり，これを副芽という。

めあかし【目明】 江戸時代，民間の犯罪事件に対して，探偵(たんてい)・逮捕の任にあたった者。岡引(おかっぴき)・御用聞きなどともいう。またその子分の手下・下引(したっぴき)を含めて捕方(とりかた)とも総称した。町奉行(まちぶぎょう)配下の同心*に所属し，市井の犯罪を捜査，犯人または容疑者を検挙して自身番*に連行し，犯行を自白させた。定められた俸給(ほうきゅう)はなく，奉行所より受ける臨時の手当金や富商などからの寄付をおもな収入とし，かたわら小料理屋などを兼業する者もいた。捕物の際のほかは普通の町人の服装をしていた。〔高崎徳次〕

めあかんだけ【雌阿寒岳】 北海道東部，阿寒国立公園の南西端，十勝支庁と釧路(く

しろ)支庁の境界にある活火山。阿寒カルデラの外輪山に噴出した二重式火山で，阿寒湖をはさんで雄阿寒岳の南西に位置する。中央火口丘の中マチネシリの西にそびえる寄生火山小雌山(ポンマチネシリ)(1,503 m)が最高点。山麓(さんろく)一帯は針葉樹林帯で，エゾマツ・トドマツの樹海があり，1,000 m以上はハイマツの群落と高山植物がある。西麓に雌阿寒温泉とオンネトーの小湖水がある。阿寒国立公園に属す。〔高野　繁〕

メアリ　［Mary］　イングランド女王。

1 1世(1516～1558)　在位1553～1558年。ヘンリー8世とその最初の妃カサリンとの娘。母の離婚後，王位継承権を奪われ，庶子として冷遇されたが，1553年異母弟エドワード6世の死去によって即位した。翌年スペイン王フェリペ2世と結婚し，即位当時の約束に反してカトリックを復活させ，プロテスタントに対する弾圧を強化した。母の離婚や宗教改革に協力した僧侶(そうりょ)・役人を死刑・追放・財産没収などで処罰したため〈血なまぐさいメアリ〉とよばれた。

2 2世(1662～1694)　在位1689～1694年。ジェームズ2世とその最初の妃アンの娘。プロテスタント教徒として育てられ，1677年オレンジ公ウィレム(のちのウィリアム3世)と結婚。1688年の名誉革命により夫とともにイングランド女王として共同統治者となる。政治的決定には重要な役割を演じなかったが，つねに夫に忠実な妻として国民にも信頼があった。子がなく夫より先に没したため，ウィリアム3世の死後，妹アンが王位を継いだ。〔板橋重夫〕

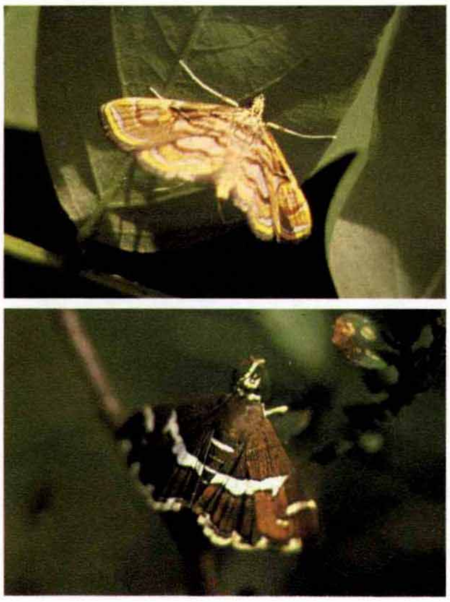
メアリ-スチュアート　［Mary Stuart］(1542～1587)　スコットランド女王。在位1542～1567年。父ジェームズ5世の死により，生まれて1週間後に即位した。16歳でフランス皇太子(のちのフランソア2世)と結婚，2年後夫と死別し，翌年スコットランドにもどり，1565年エリザベス1世のいとこの子ヘンリー-スチュアートと再婚した。1567年，夫がボズウェル伯に暗殺されると，同伯と再婚したためメアリは夫を殺害した容疑を受け，ヘンリーの子ジェームズ6世を支持する一派と対立。戦いに破れてイングランドにのがれたが，エリザベス1世は彼女を捕え幽閉した。イギリスのカトリック系諸侯はメアリを擁してエリザベス追放の陰謀を計画，スペインもこれを背後で支持した。1587年2月エリザベスは彼女を陰謀に加担した理由で処刑した。〔板橋重夫〕

メアリー-ポピンズ　イギリスの小説家パメラ-トラバース(1906～　)の連作小説。気どり屋で怒りっぽく，そのくせりちぎで不思議な魔力をもつ老女メアリーを中心とする幻想的な作品。第1作《風にのってきたメアリー-ポピンズ》は1934年に発表され，以後第4作(1953)まで書かれ，演劇・映画にもなった。

メイア　［Golda Meir］(1898～1978)　イスラエルの政治家・婦人宰相。ウクライナの首都キエフに生まれる。1906年アメリカ合衆国に移住し，ミルウォーキー師範学校卒業後，1921年イスラエルに移住してユダヤ人独立運動に参加，1924年ユダヤ労働総連合婦人労働委員会委員となった。以後1948年駐ソ初代公使，1949年労相，1956年外相などを歴任し，1968年イスラエル労働党が結成されるとその書記長に就任した。1969年3月エシコル首相の死去により，インドのガンジー，セイロンのバンダラナイケ両首相と並ぶ，数少ない婦人の宰相となった。〔吹浦忠正〕



メイエルホリド



メ　イ　ガ　(上)ゼニガサミズメイガ(ミズメイガ亜科)　(下)シロオビノメイガ(ノメイガ亜科)

めいあん　【明暗】　夏目漱石(そうせき)の長編小説。1916年(大正5)《東京朝日新聞》に連載，その死によって未完に終わっている。津田とお延の若夫婦の生活を軸に，虚栄・うぬぼれ・嫉妬(しっと)などの情念に支配された小市民的エゴイストたちの人間関係が，的確に容赦なく描き出され，日本近代を代表する本格的心理小説というに値する。

メイエルホリド　［Vsevolod Emil'evich Meierkhol'd］(1874～1942)　ロシア・ソ連の俳優・演出家。ペンザの生まれ。ダンチェンコの指導を受け，モスクワ芸術座に加わったが，反自然主義的傾向により退座，独自の活動に向かう。革命後は全ソビエト演劇の革命をめざし，マヤコフスキーの《ミステリヤ-ブッフ》などを上演。1920年にはメイエルホリド劇場が創設され，斬新(ざんしん)な演出で注目された。しかし，彼の演劇観はスターリン政権に受け入れられぬものとなり，1938年劇場は閉鎖され，彼は粛清された。1956年名誉が回復され，その先駆的業績は世界的に評価された。〔毛利三弥〕

めいおうせい　【冥王星】　太陽系のいちばん外側を回る第9惑星。海王星の軌道の摂動より存在が予想されてはいたが，極大光度が＋14.9等級と非常に暗いためになかなか発見されなかった。1930年に彗星(すいせい)を捜索していたC.W.トンボーにより偶然に発見された。衛星系をもたないので海王星の摂動より質量が求められ，地球質量の0.9倍と見積もられているが精度はあまりよくない。視直径は0.″24。赤道半径は3,400km。しかし，この値を採用すると密度が50g／cm³にもなって，惑星の値としては大きすぎる。表面は視直径があまり小さいのではっきりしないが，氷結していて金属球のような光り方をしているとすると，半径がもっと大きくなって矛盾はいちおう解決できる。

軌道長半径は39.52天文単位。離心率が0.250と他の惑星より1けた以上大きい。このため，近日点では29.65天文単位まで近づき，海王星の軌道長半径30.22天文単位より内側までくる。しかし，他の惑星の摂動が適当に働くために，海王星と冥王星の距離はある程度以上は近寄らない。冥王星はいろいろな点で他の惑星と非常に異なっているので，他の惑星と成因の異なる天体がなんらかの原因で太陽系にとらえられたのではないかと考えられる。➔惑星〔磯部琇三〕

めいが　【螟蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・メイガ科の総称。ヤガ科・シャクガ科に次ぐ大きな群で，全世界に広く分布し，地上・水上の生活に広く適応している。日本には450種が知られ，中形のものもあるが大部分は小形で，黄・黒・かっ色などのじみなものが多い。体は細長く，口吻(こうふん)が発達し，脚は細長い。翅(はね)は体に比べて比較的大きく，腹部の基部に鼓膜器官がある。夜行性で，昼間は翅を屋根形にたたんで静止する。幼虫は生活様式が多様で，葉を巻くもの，つづるもの，茎・根・枝・幹などに食入するもの，コケ類を食べるもの，果実や花に食入するもの，貯穀や菓子に寄生するもの(ノシマダラメイガ)，ハチの巣に寄生するもの(ギンモンシマメイガ)，水面に生活するもの(マダラミズメイガ)などがある。重要害虫が多数含まれ，特にニカメイガはイネの害虫としてよく知られる。多数の亜科に分けられ，おもなものにマダラメイガ亜科・フトメイガ亜科・ツトガ亜科・ミズメイガ亜科・ノメイガ亜科などが

ある。〔多々内修〕

めいがいせん　【盟外船】　海運同盟のある特定の外国航路において，この同盟に加入を認められない船会社の所属船舶。アウトサイダーと慣称される。盟外船がその特定航路に割り込み就航することを盟外配船とよび，同盟船との間に激しい競争を起こすことがあり，この際同盟側では闘争船を仕立て，採算を度外視した最低運賃を出して対抗することがある。

めいき　【明器】　神明の器の意味で，中国で墓に副葬される土偶や什器(じゅうき)・竈(かまど)・井戸・家屋などの模型をいう。戦国時代の黒陶の人形，漢・六朝(りくちょう)の陶俑(とうよう)，唐三彩などがそれである。

めいき　【鳴器】　鳥類の発音器。他の脊椎(せきつい)動物の声帯と異なり，気管が気管支に分かれる部分に発音装置があり，鳴管ともいう。最も普通の鳴器は，気管の末端にある数個の骨が合わさって共鳴装置となり，気管支の始部にある両側壁から骨の間の薄い膜が鼓膜となって内腔(ないこう)に向かい，これが振動することによって鳴くことができる。これと異なり，気管や気管支だけで鳴器をつくっているものもある。

めいきんるい　【鳴禽類】　①俗称としてはさえずりの声の美しい鳥をいい，〈小鳥〉とほぼ同一内容で，英語のソング-バードにあたる。②学問上はスズメ目を四分したうちの一つで，鳴管の構造，特にそこに付着している筋肉が5～7対あることが特徴である。さえずりの声の悪いもの(カラスなど)もあるが，複雑な美しいさえずりをする鳥はすべてこの類に属している。現生鳥類の約半数にあたる4,000種ぐらいからなり，鳥の中で最も繁栄しており，最も進化しているとみなされる。鳴禽類は全長70cmのワタリガラスを最大とする中・小形の鳥で，数種の渓流(けいりゅう)性のものを除いてすべて陸の鳥であり，広い水面で生活するものは1種もいない。体型はいわゆる小鳥型で，頸(くび)や脚が長いものはない。くちばしと食物は非常にさまざまで，種子食の円錐(えんすい)形，こん虫食の細いくちばし，空中こん虫食の扁平(へんぺい)で基部の広いくちばし，花蜜(かみつ)食の非常に細長くてしばしば下曲したくちばし，モズのような猛禽型のくちばし，その他がある。またすみ場所もさまざまで，陸上のあらゆる場所に広がっており，世界じゅういたるところに分布している。〔浦本昌紀〕

めいげついん　【明月院】　鎌倉市山ノ内にある臨済宗建長寺派の寺。福源山と号し，上杉憲方(うえすぎのりかた)が密室守厳を開山として創建したと伝えられ，廃絶した禅興寺の塔頭(たっちゅう)であった。重要文化財の《上杉重房坐像(しげふさざぞう)》は，俗体武士の肖像彫刻として名高く，鎌倉地方の仏師の手でつくられたものであろう。また，本堂には北条時頼(ほうじょうときより)の塑像が安置してあり，



メイゲツソウ

これも鎌倉期の造像として注目される。アジサイの名所として紫陽花(あじさい)寺の名で一般に知られている。〔永井信一〕

めいげつかえで　【名月楓】　双子葉植物・カエデ科。ハウチワカエデともいう。山地に自生する落葉高木。高さ12mほどに達し，若枝は無毛。葉は対生し，大形の円形で，掌状に9～11裂する。裂片は長卵形で先はとがり，縁に垂鋸歯(きょし)がある。葉身・葉柄ともはじめは白毛をかぶるが，のち裏面の葉脈に沿ってはえる毛を除いてほとんど無毛となる。花は若葉とともに出て，今年伸びた若枝に散形につき，紫紅色で美しい。がく・花弁ともに5枚。雄花と両性花があり，雄花はおしべ8本で子房は退化する。両性花は短いおしべと長軟毛のはえためしべ1本がある。果実は長さ2cmくらいの翼果。

めいげつき　【明月記】　〈照光記〉ともいう。藤原定家の日記。異本が多いが国書刊行会本は1180年(治承4)より1235年(嘉禎1)までの記事を載せている。欠脱が多いが，記事は歌道に関するもの，朝廷内の動きや公武関係に関するものなど，内容が豊富である。

めいげつそう　【明月草】　双子葉植物・タデ科。イタドリの園芸品種で，ベニイタドリともいう。草たけ50～60cmで，花色には赤から白まで変化があるが，ふつう赤色の花が栽培されている。

めいし　【名詞】　品詞の一種。代名詞とともに体言に含められる。活用のない自立語で，単独で文の主語になることができるほか，助詞・助動詞を伴って，いろいろな格に立つことができる。代名詞は，名詞の一種として扱われることもあり，また，名詞と区別して扱われることもあるが，上のような文法機能については，両者の間に差異が認められない。名詞(代名詞以外)は通常，次のように類別される。①固有名詞：人・土地・国などの，固有の名を表わすもの。例：中村洋子・節子・京都・太平洋・日本・アメリカ合衆国。②普通名詞：一般の事物の名を表わすもの。例：紙・鉛筆・太陽・人間・スポーツ・民主主義・思い出。③数詞：数量や順序を数えるもの。例：一つ・2匹・3人・4枚・5番・第6。④形式名詞：形式的な意味をもつもの。上に連体修飾語を加えて用いられる。例：(おもしろい)こと・(言う)とおり(にせよ)・(子どもの)ため(を考える)・(そういう)わけ(です)・(ばかにした)もの(でもない)。西欧語では，固有名詞と普通名詞とでは，文法的性質の異なる点がみられるが，国語では意味上区別されるにとどまる。そのほか，西欧語の名詞は，性・数・格の違いに応じて語形を変えることが多いが，国語の名詞にはそのようなことがない。〔市川　孝〕

めいじいしん　【明治維新】　幕藩体制を打倒し，明治新政権を樹立して，近代国家として日本が前進しはじめた政治的・社会的変革。王政復古の大号令の中で百事御一新が唱えられたが，それを《詩経》の中の〈維新〉の語を用いて王政維新などとよび，さらに明治改元に応じて明治維新とよばれるようになった。明治維新の時代範囲については，王政復古の政変を中心にし，大政奉還から廃藩置県ごろまでとする狭義の区分もなされるが，一般には，幕末から明治初年にかけて，変革が進行し終結をみるまでの過渡期をあてている。この変革期を具体的にいつからいつまでとするかについては，変革の性格をどう解するかによって諸説に分かれる。普通は維新を絶対主義政権の成立とみなして，始期は天保(てんぽう)の改革が始まった1841年(天保12)ごろ，終期は西南戦争の1877年(明治10)までとされる。

天保期(1830～1843)は幕藩体制が動揺をきわめ，深刻な危機感に迫られた支配者が藩政改革を断行して，必死に難局を打開しようとしていた。そうした情勢下で，薩摩(さつま)・長州両藩をはじめとする西南雄藩では下級武士層が藩政に進出し，藩財政の再建，門閥制の打破，洋式軍備の採用など藩政改革に成果をあげて，絶対主義への方向をめざしていた。一方，村落支配者の豪農層も藩政改革の過程において藩政改革者と提携し，その両者の同盟関係は下層からの革命を圧殺するとともに，広範な尊王攘夷(そんのうじょうい)運動を展開した。幕府はその保守性から天保の改革に失敗し，以後それが雄藩との対立に劣勢となる大きな原因となった。ペリーの来航後，わが国は欧米先進国の国際社会に導き入れられることになるが，日米修好通商条約締結と将軍継嗣問題とを機に，大老井伊直弼(いいなおすけ)は幕政の有司専制を確立しようとした。しかし桜田門外の変で井伊が倒れると，その後の政局は京都が中心となり，主導権は雄藩藩主連合の手に渡った。欧米資本主義との接触はわが国民生活に深刻な影響を及ぼし，尊王攘夷論は民族的自覚と生活実感にささえられて，全国的な政治運動となった。やがて尊王攘夷運動は西南雄藩の下級武士団に指導されて討幕運動へと進展し，薩長同盟が成立すると政局は急転して15代将軍徳川慶喜(よしのぶ)の大政奉還となった。1867年(慶応

3)王政復古によって天皇制絶対主義政権が実現し，明治新政府は五箇条の御誓文*・政体書*を掲げて公議世論に基づく基本方針を天下に示したが，近代統一国家建設のためには権力集中を必要とし，版籍奉還*・廃藩置県*をあいついで断行して藩閥官僚が主導する中央集権体制を強化した。さらに富国強兵*・殖産興業*政策を積極的に推進して，文明開化をスローガンに社会制度や国民生活の近代化を図った。この間，政府の絶対主義または近代的諸政策を不満とする不平士族や農民は，士族反乱や農民一揆(いっき)を起こして各地に反政府抗争を展開したが，1877年西南戦争の終結をもって強固な天皇制絶対主義政権が確立した。

明治維新の評価については，これを絶対主義的変革とする説がほぼ現在の通説となっているが，明治維新を不徹底ながらもブルジョア革命とする説が主張され，いわゆる日本資本主義論争*が展開された。なお，維新史の終期についても，廃藩置県とする説，西南戦争を境とする説，また1889年の大日本帝国憲法発布の年とする説などがある。〔高崎徳次〕

めいしかい【名士会】フランス絶対主義時代のフランス国王の諮問機関。三部会*の代行機関として，1367年以来ときどき召集されていたが，国王によって指名された王族・大貴族・司教・知事・高等法院長，大都市の市長，地方三部会の代表者などからなり，国王の意志に反対した例はなかった。フランス革命前の1787年にカロンヌ，1788年にネッケルが召集したが，かえってその財政改革案に反対し，三部会召集を決定し，〈貴族の反抗〉を激化させ，革命の発端となった。〔喜多迅鷹〕

めいじざ【明治座】劇場の名。東京都中央区日本橋浜町2丁目にある。幕末に西両国にあって〈三人兄弟の芝居〉とよばれた鷹張(こもばり)芝居を前身とする。1873年(明治6)この芝居の金主が久松町に劇場を建て，喜昇座といった。いくたびも火災に逢い，座名も久松座・千歳座(ちとせざ)と変わり，1893年初世市川左団次*の出資で新築したときから明治座となる。その後も戦災を含めて3度焼失したが，1958年(昭和33)新築したのが，現在の劇場である。〔服部幸雄〕

めいじじだい【明治時代】⇨次ページ

めいじじゅうよねんのせいへん【明治十四年の政変】1881年(明治14)参議大隈重信*(おおくましげのぶ)とその一派が政府から追放された事件。1880年民権派の国会開設運動は頂点に達し，政府も憲法制定・国会開設を決意するに至ったが，即時開設を主張する民権派の大隈は，漸進的意見をもつ伊藤博文(いとうひろぶみ)らと激しく対立した。おりから北海道開拓使官有物払い下げ事件*が起こり民権派の政府攻撃に油を注いだ。伊藤らは官有物払い下げを中止する一方，右大臣岩倉具視(ともみ)と結んで，同年10月大隈

明治神宮 広大な森に包まれ，手前表参道より鳥居・楼門・外拝殿・内拝殿・本殿が並ぶ





明治天皇

を追放，同時に1890年を期して国会を開設するという詔書を出し，プロイセン流の欽定(きんてい)憲法の制定に乗り出した。これにより，薩長(さっちょう)藩閥政権が確立し，立憲制への第一歩が踏み出された。〔応和邦昭〕

めいじしょうちくばい【明治松竹梅】箏曲(そうきょく)の曲名。1902年(明治35)大阪の菊塚検校(きくづかけんぎょう)の作曲。高低2部の箏により合奏される。この題は，歌詞に松・竹・梅をうたった御製を用いたことによる。オルゴール調子といわれる新しい調弦法のせいもあって，新しい時代にあった新曲として一時好まれた。

めいじじんぐう【明治神宮】東京都渋谷(しぶや)区代々木外輪町にある。祭神は明治天皇と昭憲皇太后。1915年(大正4)国費によって創建に着手し，1920年に完工した。その間，延べ10万余人に及ぶ青年団員の勤労奉仕，全国から奉賛会に寄せられた1,000万円の寄金，また36種10万本に及ぶ献木などがあった。1945年(昭和20)4月，戦災によってほとんどの建造物を焼失したが，戦後明治神宮復興奉賛会が組織されて1958年に再興された。境内は内苑(ないえん)と外苑とに分かれ，外苑には聖徳記念絵画館や国立競技場・野球場などがある。例祭は明治天皇の誕生日にあたる11月3日。〔佐野文哉〕

めいじせいか【明治製菓(株)】森永(もりなが)製菓と並ぶ大手製菓会社。菓子・食品のほか，売り上げの40%近くを占める薬品部門をもつのが特色。1916年(大正5)明治製糖の出資で創業，1940年(昭和15)乳業部門を明治乳業として分離。第2次世界大戦後にペニシリン・ストレプトマイシンなどの薬品部門に進出，独占商品のカナマイシンでは国内大手製薬会社に技術・原末(バルク)を提供するなど，すぐれた発酵技術には定評があり，カネンドマイシンなど有力新薬の開発が続いている。本社東京，工場は川崎・足柄(神奈川県)・大阪・岐阜・東海(愛知県)など。足柄工場は世界一の原末専門工場として有名。資本金125億6,200万円。年間売上高1,657億700万円，従業員数5,865(1980年9月)。

めいじそう【明治草】⇨ヒメムカショモギ

めいじだいがく【明治大学】私立大学。前身は，1880年(明治13)，フランス法学を主として教授するために東京有楽町に設立された明治法律学校である。その後神田駿河台(するがだい)に移転し，1903年明治大学と改称。1920年(大正9)大学令による大学となり，予科を設置。1949年(昭和24)新制大学となった。現在，法・商・政経・文・工・農・経営の7学部と大学院，女子短大をもつ。本部は東京都千代田区神田駿河台。

めいじてんのう【明治天皇】(1852～1912) 近代日本最初の天皇。在位1867～1912年。孝明天皇の第2皇子。母は中山慶子。名は睦仁(むつひと)。幕藩体制の崩壊期に急死した父孝明天皇のあとを継いで，1867年(慶応3)践祚(せんそ)。1868年3月五箇条の御誓文*を発布，9月改元。1869年(明治2)江戸を東京と改めて旧江戸城を皇居とした。この間天皇が幼少であったことに乗じ，薩摩(さつま)・長州両藩を中心とする討幕派は，討幕密勅の降下や王政復古*の大号令など，自派に有利な方向で専制的な変革を進めた。1889年大日本帝国憲法*の制定によって，天皇は名実ともに統治権の総攬者(そうらんしゃ)となり，総帥権を一手に収める大元帥の地位が定まった。また1890年には教育勅語*の発布によって，国民思想上・道徳上の指導者ともなり，日清(にっしん)・日露戦争の勝利とあいまって，内外に帝国主義国家の英主としての評価を確立した。陵墓は京都の伏見桃山陵。明治神宮に奉祀(ほうし)。〔安達利夫〕

めいしのきょり【明視の距離】疲労がなく，最も楽に物体を明視しうる距離。こ

→294ページ

明治時代

明治天皇在位の1868年(明治1)から1912年に至る時代をいう。科学的な時代区分ではないが，この時期は，朝廷と武家政権の二元的な政治体制が克服されて天皇を頂点とする絶対主義政権が樹立し，統一国家を形成した時代であり，日本資本主義の形成とその上昇の時期にあたっていたこと，また日本資本主義が天皇制と密接不可分な関係にあり，現代天皇制の樹立を象徴する明治天皇と離れがたく結合しているため，一般にこの呼称が使われている。

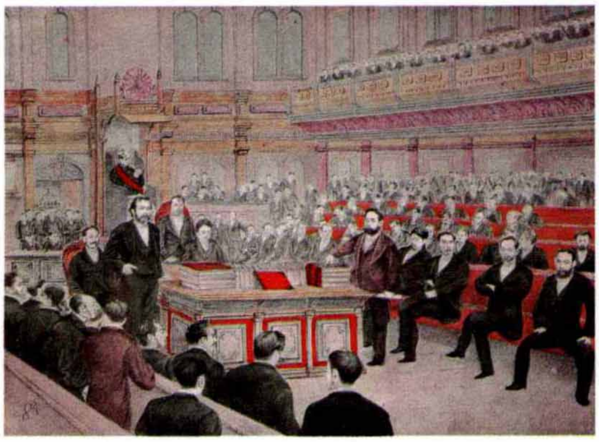
【天皇制絶対主義形成期】1841年(天保12)天保(てんぽう)の改革の開始から，1877年西南戦争までの時代をいう。すなわち明治維新とよばれる時期である。維新の始期については，1853年(嘉永6)のペリー来航，1858年(安政5)の安政の五か国条約の締結などの説があるが，ここでは天保の改革の開始を始期とすることにする(→明治維新)。

江戸幕府を全封建的統一者とする幕藩体制は，封建的自営農である本百姓の自給的小規模経営から収奪する現物貢租をおもな経済的基礎としていた。幕府は年貢(ねんぐ)米の売却を目的とする全国市場圏の形成，三都の直轄，貨幣鋳造の独占により，封建経済を統一的に掌握していた。ところがこの構造は18世紀前後から明らかに変容を始め，先進地畿内(きない)で農民的商品経済が発展して農民層の分解を進め，農村に新興商人を輩出させ，これが都市の特権的商人の独占を破ろうとするまでに成長を遂げたのである。幕府の享保の改革やその後の諸藩の改革は，いずれもそうした事態に対応するため封建的土地所有を強化して農村の商品生産をおさえ，農民を再編成することを目的にした点で符合している。しかし文化・文政時代にはいるとこの情況はいっそう深刻化し，諸藩の領内市場が拡大・自立化し，幕府の全国市場を脅かすに至った。大阪市場への入荷の減少と江戸の物価の騰貴はその現われであった。また頻発(ひんぱつ)する百姓一揆(いっき)は，商品流通の拡大が貧農の大規模の蜂起(ほうき)を可能とした事情を物語っている。1837年の大阪における大塩平八郎の乱はその危機をさらに深刻なものとした。このような社会的背景のもとに，幕府・諸藩の天保の改革はいやおうなしに断行されたのである。その眼目は，発展する農民的商品経済をどのように掌握し，財源化していくかという点にあった。その代表的な例が株仲間の解散政策で，こうした幕府みずから商業統制権を握ろうとする試みは，結果として農民的商品経済の進行と，藩の統一市場の形成をおさえる力を幕府がすでに失っていたことを暴露した。以上のことから，この時代の基本的な階級対立は封建支配者と耕作農民に求めることができる。それは，封建制の矛盾激化によりその決定的危機に対処するため，地主・高利貸し資本家層を自己の権力の内部に編入してブルジョア革命を遂行し，封建制より資本制への転化を図ろうとする封建支配者層と，孤立分散の自給自足経済から脱皮して商品経済の渦中(かちゅう)に現われた小商品生産者としての耕作農民の対立である。小農自立化に伴って農村における百姓一揆が頻発してその主導権はしだいに中・貧農層へと移行し，さらに都市においても民衆の打ちこわしが盛り上がり，封建支配者に深刻な危機意識を抱かせた。それは，封建支配者内部の対立・分裂を必然的にひき起こし，また幕府と雄藩，上層武士と下層武士の対立が顕著となり，さらに，1853年以後は欧米列強の開国要求をめぐって，開国か攘夷(じょうい)かに支配者層が二分された。列強の圧力と民衆の反封建闘争に対処するために，封建権力の統一の実現，封建制から近代的な体制への転化，諸藩割拠制から中央集権的な統一国家の創出が封建支配者層の政治的課題となった。その結果，新政権は自己の支配の正当性を主張するために，その象徴として天皇を登場させるに至った。1867年(慶応3)の大政奉還，王政復古のクーデターの直後から，新政権は，武力討幕派が公議政体派におされて雄藩連合政権の体裁をとることとなるが，鳥羽(とば)・伏見の戦いを契機とする戊辰(ぼしん)戦争による軍事的勝利によって，維新政府は動向の定まらない諸藩の去就を明らかにさせ，御一新の強調，五箇条の御誓文・政体書の形で，建国宣言を表明した。こうして1871年廃藩置県が断行され，個別的な領有権の否定が強行された。すでに諸藩合議による意志決定は否定されており，ここに天皇のもとでの超藩的な有司専制による国家意志の決定が確立し，天皇は古来の伝統的君主から絶対主義的君主として超然たる存在に転化した。それこそ大久保利通(としみち)・木戸孝允(たかよし)・岩倉具視(ともみ)ら有司の念願であり，努力を傾けた関心事であった。維新政府は，外国交渉や徳川慶喜(よしのぶ)征討をめぐって起こった内部対立，外圧をめぐる対応策，人民の反抗への対処に迫られた結果，絶対主義官僚群の育成と機構の整備を急ぎ，その結果，官僚層が進出し，この廃藩置県は断行されたのである。こうして薩摩(さつま)・長州両藩出身者を中心として藩閥政治が行なわれた。

廃藩置県以後，神権専制的な思想は政治の前面からしだいに後退し，文明開化といわれる開明的な施政が打ち出された。学制発布・地租改正・徴兵令の着手がそれである。これらは，欧米列強の外圧に対抗する統一国家の樹立を意図する民族意識を背景として，近代化遂行の主導権を天皇の権威をかつぐ藩閥勢力が握ろうとする動きにほかならなかった。開明化とは強力かつ敏速な資本主義化の実施であり，天皇制絶対主義のあらわな貫徹にすぎなかった。こうして封建的な諸関係は止揚されず残存され，耕作農民は絶対主義の再編の網の目に束縛されるに至った。政府の物質的な基礎は地租に依存していた。しかも旧来の土地への課税は全国的な統一を欠き，均等ではなかった。これを全国的に統一し，いっせいに改正することはこの時期の重要な課題であった。その改正事業(近代的租税制度の創立のはじまり)は農民の不満をよび，また同時期に行なわれた徴兵令や学制への反対闘争を惹起(じゃっき)させた。また文明開化は富国強兵の政策を目的としており，必然的に外交における国家意識を助長する。こうして1873年の征韓論(せいかんろん)の対立，1874年の征台の役，1875年の江華島事件と，朝鮮・中国への侵略政策が開始され，対外危機の扇動がなされた。これは幕末からの攘夷論の変容であり，封建制度の解体による失業不平士族の不満の解消発散策としても有効であった。征韓論は絶対主義官僚内部の対立を表面化させたが，主流派は征韓論を退けながらその直後に台湾出兵を行ない，反政府派の不満をそらせることに成功した。その内部対立は西郷隆盛(たかもり)らの封建反動派と，板垣退助(いたがきたいすけ)・後藤象二郎らの民選議院派を生み，前者は西南戦争によって自滅し，後者は次の時代をになう自由民権運動の中心として登場した。

【自由民権運動期】1878年から1889年までの時期をいう。この時期の基本的な対立関係は，その基礎を強めつつあった天皇制絶対主義およびこれに寄生する政商的商業高利貸し資本家と，これに対抗する農民層や権力の保護下にない豪農・豪商層との間にあった。地租改正以前にあっては，国家は農民の総生産米の48%を収奪し，これに対して小作関係を通じての地主層取得はわずかに2%にすぎなかったが，地租改正事業が完了した1880年から約10年間のうちに，領主と農民の関係に代わって，地主・小作関係が農業における支配的な生産関係となるに至っている。すなわち，1890年以降1892年までの平均で国家の取り分は13%，地主の取り分は51%，小作の取り分は36%となっている。農民大衆は農業経営の改善によって商品経済に適応するため地租の軽減を要求し，豪農・豪商層は近代的な工業・商業を分担するために政府の保護と財政への発言を求めていた。これは当然に有司専制への非難，専制排除のための有力な対抗策としての国会開設の要求となって現われ，1874年の民選議院設立建白書提出を始期と

するいわゆる自由民権運動*が始まった。1877年から1879年には新聞・雑誌による旧士族出身の民権家と，民会・地租問題をひっさげて地方政府と対抗する豪農・農民とが連合し，公然たる宣伝・説得を行なうことによって全国的な政治運動の展開をみるようになった。すなわち愛国社*の結成，国会期成同盟*の成立である。ここに至って民権運動は初期の運動がもっていた不平士族による反政府運動としての性格を克服して国民的基盤を獲得し，欧米の民主主義思想の影響下で，政治の民主化を求める国民運動へと発展したのである。これを基部からささえたものは広範な耕作農民のエネルギーであった。1881年の明治十四年の政変*は絶対主義の側では，国会開設期日を明示して自由民権運動に譲歩しつつ立憲政治の施行を約したが，他方ではその取り締まりを強化して民権派を弾圧するに至った。これに対して民権各派は，自由党・立憲改進党などの政党をつくって恒常的な組織をもち，ブルジョア的民主主義運動への発展を内包しつつ政治運動に専念した。しかし，前述のように1880年から1890年にかけての地主小作制の展開によって，産業資本は寄生地主制*と堅く結びつき，地主の土地集積と自作農の小作人への転落の傾向が顕著となり，在野の中小資本は政商的大資本に圧服され，自由民権運動から豪農・豪商層が脱落する結果を招いた。また，政党内部でも将来の立憲制実施に備えて絶対主義権力と妥協を図ろうとする首脳部と，耕作農民と結んで政府打倒に突き進もうとする地方下部党員左派との分裂が顕著となった。下部党員は直接行動をひき起こし，1882年の福島事件*，1883年の高田事件*，1884年の群馬事件*・秩父(ちちぶ)事件*・加波山事件*へと大衆に基礎を置く諸事件から，1884年の自由党解党後しだいに少数精鋭によるテロリズムへと落ち込み，局地的な蜂起(ほうき)の形で消滅，敗退した。民権運動の敗因はこれにとどまらず，次のような国際的契機に求めることもできる。資源獲得・販売市場として着目された朝鮮は，日本の資本蓄積過程にあたって大いに役だち，国防の前線基地として朝鮮を確保することは日本の天皇制絶対主義にとって至上のものであった。しかし，1882年壬午(じんご)の変，1884年の甲申の変(→京城事件)にみられるような朝鮮をめぐる日本と中国との対立の激化，および中国の背後にあるロシアとの関係などによってしだいに日本の対鮮貿易は衰退した。そこで1882年日本は，中国を対象とする大陸作戦を仮想して陸海軍備の拡張に努めた。民権運動はその国際的な側面において，こうした絶対主義的国権論に近づき，民権伸張を第1とする従来の主張がしだいに薄れて，天皇制・軍国主義*の強化に転化し，対外侵略を



《国会議事堂想像図》 1881年国会開設の詔勅が下って以来，新聞・雑誌などに模擬国会が発表された。図はその一

下部からささえる思想を提供することとなった。大井憲太郎*らの民権左派の大阪事件*は，国権拡張の主張のもとに民権を伸張するという民権運動の変容のありさまを最もよく表わしている。憲法発布直前の大同団結運動*は民権運動が本来的にもっていた地租軽減,言論・集会の自由という要求とともに，強硬自主外交の主張において反政府保守派と連合した。完全な国際的平等を求める不平等条約撤廃を求める条約改正*運動は，近代的なナショナリズムの発現であったが，その平等の獲得が朝鮮を支配下に置き，その優越性によってアジアの盟主たることを国際的に認識させようとする公然たる侵略の主張を抱き合わせにもっていた。民権を犠牲にする国権論は，朝鮮・中国の民衆の犠牲のうえに日本の国威を発揚するというものであったから，当然その傾向は排外的な軍国主義たらざるをえなかった。したがって大同団結運動は在野右翼を助ける結果となり，民権運動の過去の栄光を踏みにじる終末を迎えるに至った。1889年発布された大日本帝国憲法*は民権運動の挫折(ざせつ)の所産であり，専制と軍国主義を実現する天皇の公然たる勝利の宣言にほかならなかったのである。

【日清(にっしん)・日露戦争期】直接国税15円以上の納税者に選挙権・被選挙権を与えた制限選挙によって成立した帝国議会は，本質的には寄生地主の議会であった。民権派は自由党・立憲改進党を結党して，民力休養・地租軽減をスローガンに官吏俸給費(ほうきゅうひ)・軍備拡充費を削って予算の縮小を図った。この戦いは政府の干渉にもかかわらず，数度の選挙において有権者の支持を受けて多数を制した。しかし，自由党や立憲改進党は，すでに人民大衆から切り離された議員中心の政党に変貌(へんぼう)しており，その地盤は地主・高利貸し資本家であった。したがって予算削減を目的とするその政策は，彼らの利益の代弁として，権力の保護，国家財政・地方財政の援助を獲得しようとするものであった。しかし1893年の第4議会で国防の急務を説く詔勅が出るや，それらの政党はいちはやく政府攻撃をやめ，藩閥と妥協した。こうして大陸進出に向かう挙国一致体制は準備され，1894年から1895年にかけて軍事的・経済的拠点を求める絶対主義官僚の主導によって，日清戦争*が遂行された。産業資本は清国市場の開拓を図るため，これに積極的に支持を与えた。この間日本は，アジアにおけるイギリスとロシアの対立を利用し，すでに開戦直前に懸案の日英条約改正を成立させていた。日清戦争の勝利は日本資本主義を飛躍的に発展させた。2億テールの償金は産業革命を促進し，朝鮮・満州市場への紡績工業の進出，軍需拡張による軍事産業の発展などで，ブルジョアジーは恒久的な基盤を得た。また日本の軍事力は国際的な地位の上昇をもたらした。

1900年の義和団の乱*は，日清戦争後の列強の中国分割のいちおうの決算と，帝国主義段階の将来を知らしめた。日本はここに列強と肩を並べ，列強から圧迫される立場を脱して，一転弱小国を襲うオオカミの地位に立ったのである。三国干渉*後，官僚・地主・資本家は積極的に日露戦争の準備に狂奔した。自由党と旧立憲改進党は，軍備大拡張の財源を求める地租増徴をめぐる政争に乗じ，合同して憲政党をつくり，伊藤博文*(いとうひろぶみ)内閣を倒して1898年憲政党内閣をつくっていた。すでに寄生化し，地租増徴の負担を国家権力によって小作人に転嫁(てんか)することができた地主は，もはや地租増徴には反対しなかった。軍事力を背景とする特殊権益の設定なしには朝鮮・満州市場を保持しえないブルジョアジーは，軍備拡張と満州侵略を積極的に支持した。初の政党内閣の倒壊と軍閥中心の藩閥内閣の成立はそれを裏書きしている。資本主義の成立は，資本と賃労働との対立関係，すなわち労働者階級の台頭と労働運動*の発生を意味した。労働運動は欧米の社会主義思想の洗礼を受け，半封建的な地主・小作関係による劣悪な労働条件を反映して激しく

高揚し，民権運動の敗退によって，民主主義的な諸要求を実現すべき任務が労働運動に課せられていたという特殊情況もこれを助長した。1897年の労働組合期成会*の結成，1898年の社会主義研究会の成立，1901年の社会民主党の創立が，その契機であった。支配階級は幼い労働運動・社会主義運動に対して，その国際的背景と結びつけて，過度の恐怖心をいだいた。このことが，天皇制のもとでの官僚・地主・資本家の抱き合わせ関係を密接にする契機となった。そして，中国再分割競争に参加するための軍備強化と，政府・議会の対立を終息して国内体制を安定させて，きたるべき労働運動の高揚に備え，既成政党の悪弊を除いて規律ある国家的政党を出現することが必要とされ，商工業者の積極的な政治への参加を要請するために立憲政友会*が成立した。当時ロシアは満州支配の野望を露骨に現わし，露清密約によって満州の軍事・行政権を掌握しようとしていた。

日露協商と同時に，日英同盟*が並行して交渉にのせられたが，ロシアが日本の朝鮮における政治的・軍事的優位を認めなかったため，1902年ついに日英同盟締結を迎えた。日本は米英の財政的・外交的支援を頼みとして，朝鮮・満州をめぐってロシアと帝国主義戦争に突入した。戦争の主導は，絶対主義官僚とブルジョアジーによってなされた。開戦と同時に，朝鮮を植民地化する措置がとられ，さらに政府は開戦後大規模な世論指導を行なったが，日清戦争にはみられなかった反戦運動が平民社*を中心に戦争中も続けられ，国際的な労働運動・平和運動との連帯を強めた。

日露戦争を境に，日本資本主義は独占の段階に突入した。そして早くも1907年には資本主義恐慌に見舞われ，構造的な危機を迎えた。足尾銅山鉱毒事件*・大阪砲兵廠(ぞうへいしょう)ストライキをはじめ，1906年・1907年には労働運動は著しく高揚し，それに対応して1907年の日本社会党*結成禁止，1908年の赤旗事件*など，社会主義運動に対する弾圧は一段ときびしくなった。1910年の大逆事件*は階級対立の激化の現われであり，日本資本主義による時代閉塞(へいそく)の状況を物語っている。また同年，韓国(かんこく)はさきに日清戦争の結果領有した台湾とともに実質的に日本の植民地となり(→日韓併合)，ここに植民地をもつ帝国主義国日本が成立したのである。地方における韓国民の抵抗に対して，日本は軍事力を増強してこれを圧服した。戦後日本は遼東(りょうとう)半島を領有し，南満州鉄道*を経営，満州に対する日本の支配権はさらに拡大した。とどまるところを知らない軍備の拡張と，産業における財閥支配の確立は密接に結びつき，産業資本は政党を使って政治的な発言を強め，植民地市場へと進出し，イギリス・アメリカの権益が強固であった満州市場でも日本は大豆貿易，石炭・鉄鉱業に積極的に進出し，イギリス・アメリカとの対立をひき起こした。この間，国内では大逆事件以後の天皇制の倫理的再補強，天皇の死去，明治の終焉(しゅうえん)は急速に迫っていた。

〔安達淑子〕

れは正常の視力の持ち主で，物体が目から約25〜30cmにあるときとされる。健康な目で物体を明視しうる最短距離(近点)は10〜20cmであるが，これは目の調節作用を極度に働かせた場合である。虫めがね・顕微境などの倍率は，明視の距離に像をつくるものとして計算され，この場合は25cmと約束されている。

めいじのもりたかおこくていこうえん【明治の森高尾国定公園】 東京都の南西端にある高尾山*を中心とする国定公園。面積7.69km² の地域で，明治百年記念事業の一つとして，1967年(昭和42)に指定された。高尾山頂の大見晴らし台から，陣馬山(857m)に至る尾根道は展望が開け，登山者でにぎわうハイキングコースとなっている。高尾山周辺は昔から信仰の山であったため自然はよく保護され，参道のスギ並み木は樹齢1,000年といわれ，天然記念物に指定されている。森林はカシ・モミ・アカマツ・ブナなどを主とする原生林で，こん虫・野鳥・植物なども豊富であり，中でもこん虫は日本三大生息地の一つに数えられている。高尾自然科学館がある。東海自然歩道の出発点でもある。〔木村東一郎〕

めいじのもりみのおこくていこうえん【明治の森箕面国定公園】 大阪府箕面市北部の北摂山地の南麓(なんろく)一帯を占める国定公園。面積9.62km² で，明治百年記念事業の一つとして1967年(昭和42)に指定された。箕面川に沿い，天狗鼻(てんぐばな)・地獄谷などの奇岩が見られ，箕面滝とともに景勝地をなす。森林は，南部ではアカマツの自然林が主で，北部ではシイ・カシ類の広葉樹の天然林も見られる。滝安(ろうあん)寺・勝尾寺の名刹(めいさつ)や，開成皇子の墓など古寺や史跡にも恵まれている。箕面滝付近に群生するニホンザルは天然記念物に指定されている。東海自然歩道の終着点でもある。

〔木村東一郎〕

めいじむら【明治村】 愛知県犬山市の南部にある屋外博物館的な公園。尾張丘陵の入鹿池(いるかいけ)から周辺丘陵地へかけて広がる。明治文化をしのぶために，1965年建築家谷口吉郎と名古屋鉄道が創設したもので，当時の貴重な建築物を移築し，また，交通機関などを集めている。聖ヨハネ教会堂，西郷従道(つぐみち)・森鷗外(おうがい)・夏目漱石(そうせき)の邸宅，品川燈台・三重県庁舎・東山梨郡役所・札幌(さっぽろ)電話交換局，帝国ホテルの一部，京都市の市電，蒸気機関車第1号，佃島(つくだしま)の渡し船，歩兵六連隊の兵舎などがおもな展示物である。

〔浅井得一〕

めいしゅう【明州】 ⇨寧波

めいじゅんのう【明順応】 暗順応*の対語。暗所から明所に出るとき，外界の光刺激に対して網膜が順応すること。はじめは明所に慣れないためまぶしさを覚えるが，直ちに光感受性が減退して，1〜2分以内にまぶしさを感じなくなる。この機能は，網膜の中央部を占める錐状体(すいじょうたい)細胞の明所視の能力，およびその周辺部にある桿状体(かんじょうたい)細胞の視紅が光にあうと視黄，さらには視白に変じて光感受性を失うためと推測されている。明順応障害としては，上記の錐状体細胞機能の欠如や，全色盲などがあげられる。→視細胞

〔納富教雄〕

めいしょう【名勝】 1950年(昭和25)制定の文化財保護法*によって指定された景勝地。公園・庭園・山岳高原・海浜・峡谷・花樹・岩石・展望地点などがある。文化財保護法公布以来，文化財保護委員会により全国各地の景勝地が名勝として指定されている。中でも特に価値のすぐれたものは特別指定とされ，史跡や天然記念物としても価値の高い名勝は，史跡・名勝，あるいは名勝・天然記念物としてあわせて指定される。特別名勝の一例としては，松島(宮城県)・富士山(静岡・山梨県)など，特別史跡・特別名勝の例としては鹿苑(ろくおん)寺(金閣)庭園など，特別名勝・特別天然記念物の例としては上高地(長野県)などがある。なお，1972年3月現在の名勝指定件数は，天然記念物・史跡とあわせて指定されているものも含み246(特別名勝24)である。

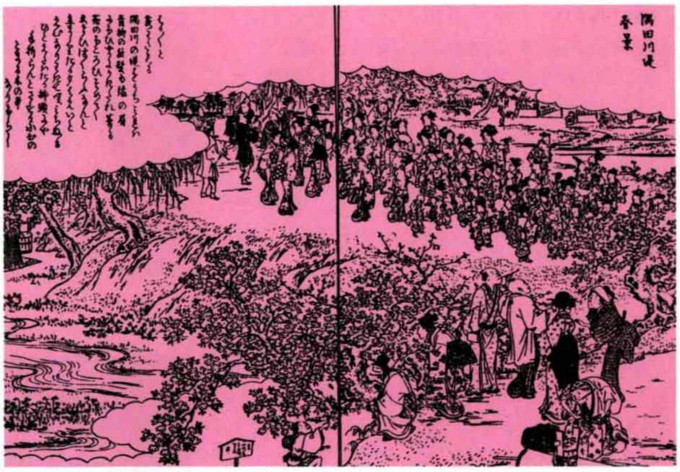
〔高崎徳次〕

めいじようすい【明治用水】 愛知県豊田(とよた)市以南の矢作(やはぎ)川・矢作古川と境川間の岡崎平野*(西三河(にしみかわ)平野)100km² を灌漑(かんがい)する用水。大幹線水路52km，支線小幹線水路296kmに及ぶ。都築弥厚(つづきやこう)によって企てられ，岡本兵松(ひょうまつ)・伊予田(いよだ)与八郎が地もとに働きかけて開発され，1880年(明治13)に開通した。現在の堰堤(えんてい)は1948年(昭和23)に完成したものである。用水の開通により，この地方は〈日本のデンマーク〉といわれる豊かな農業地帯になったが，近年工業化が進んでいる。〔竹内淳彦〕

めいしょうてんのう【明正天皇】(1623〜1696) 江戸初期の天皇。父は後水尾天皇。母は2代将軍徳川秀忠(ひでただ)の娘和子(かずこ)(東福門院)。名は興子。紫衣(しえ)事件*

で幕府の専横に激怒し，突然退位した父帝のあとを継いで，1629年(寛永６)即位。奈良時代以降なかった女帝として在位15年ののち，1643年皇弟の後光明天皇に譲位した。のち太上天皇の尊号を受け，半世紀に余る隠居生活を送った。陵墓は京都市東山区今熊野(いまくまの)の月輪陵。

めいしょえ 【名所絵】 大和絵(やまとえ)の画題の一。けしきの美しさや歌の題材で有名な場所を描いた絵。平安時代の屛風(びょうぶ)に好んで用いられ，逢坂関(おうさかのせき)・明石浦(あかしのうら)・天橋立(あまのはしだて)・春日野(かすがの)などいくつかの名所を組み合わせて描き，それに関する歌を色紙形に書くのが普通であった。これらの遺品は伝わらないが，鎌倉時代には《伊勢(いせ)新名所歌合絵巻》があり，近世の〈洛中(らくちゅう)洛外図〉などもその一種と考えられている。



名所図会 《江戸名所図会》から〈隅田川堤春景〉

めいしょずえ 【名所図会】 江戸中期以後刊行された通俗的な地誌の総称。さし絵を中心に，江戸・京都および諸国の名所の風物・沿革を案内記ふうに記し，詩歌・俳句などを引用して絵草子の体裁をとった。江戸初期の《名所記》に源流を発するが，名所図絵と名づけられたのは，1780年(安永９)刊行の秋里籬島(あきさとりとう)編・竹原春朝斎画《都名所図会》が最初である。特に《江戸名所図会》(1834年・1836年に分けて刊行)は江戸地誌の集大成として著名。《東海道名所図会》(1797)，《摂津名所図会》(1798)など，幕末までそのおもなものでも30数種刊行された。〔高崎徳次〕

めいしん 【迷信】 さまざまな民間信仰や俗信のうち，社会生活上黙認できないような実害を伴うものを，特に迷信とよぶ。迷信と正信とは，時代や地域により，またそれを受けいれる人々によっても違うわけで，そのため正確な区別はつけがたい。かつては単なる民間信仰や俗信などであったものが，堕落して実害を伴う迷信と化したものもある。また，ある地域で迷信とされるものが，他の地域ではまだ実害を伴わない俗信の域にとどまっている場合もある。一般的に社会の近代化が進むにつれて，科学的・合理的な見方が強まり，それまでの生活技術なり知識が迷信視される傾向にある。はっきり迷信とわかっているものは，これをわれわれの生活から排除していかねばならぬことはもちろんで，たとえば丙午(ひのえうま)の女は結婚しないとか，狐憑(きつねつ)きなどは，明らかに実害を伴うもので，迷信とよんでよいものである。〔直江広治〕

めいしんこうそくどうろ 【名神高速道路】 国土開発縦貫自動車道の中の中央自動車道(東京～吹田)路線中の小牧～吹田間に，別途の吹田～西宮間を付け加えた延長約190kmの高速自動車国道。1958年(昭和33)に着工され1965年に全線開通したわが国最初の本格的高速道路である。総工費約1,180億円で，１kmあたりでは６億円余りになる。



名神高速道路　京都南インターチェンジ茨木

直線区間は全体の42%，標準幅員は４車線24.4ｍである。設計速度は80～120km／時が地形に応じて用いられている。インターチェンジは15か所ある。〔森　　麟〕

めいすう 【名数】 物の重さを１kg，物の長さを5.2cmなどと量を表わした数値と単位の名をいっしょにしたものを名数という。単位の名が一つだけついているものを単名数，２時間３分４秒のように，二つ以上ついているものを複名数または諸等数という。

めいすうほう 【命数法】 数に対する名まえのつけ方。わが国における命数法は，一から十までは一つずつの数に名まえを定め，十から上は十進法で，十を十集めて百，百を十集めて千，千を十集めて万と名づける。万から上は万進法で，万を万集めて億，億を万集めて兆というように名づける。

万(まん)	10^{4}	正(せい)	10^{40}
億(おく)	10^{8}	載(さい)	10^{44}
兆(ちょう)	10^{12}	極(ごく)	10^{48}
京(けい)	10^{16}	恒河沙(ごうがしゃ)	10^{52}
垓(がい)	10^{20}	阿僧祇(あそうぎ)	10^{56}
秭(じょ)	10^{24}	那由多(なゆた)	10^{60}
穣(じょう)	10^{28}	不可思議(ふかしぎ)	10^{64}
溝(こう)	10^{32}	無量大数(むりょうたいすう)	10^{68}
澗(かん)	10^{36}		

めいせん 【銘仙】 実用性を第一として織った大衆向きの絹織物。埼玉県秩父(ちちぶ)・群馬県伊勢崎(いせざき)地方で江戸時代からつくられていた。じょうぶな平組織で，絹織物であっても光沢が少なく，多彩な絣(かすり)か縞(しま)が多いのを特徴とする。着尺・裏地・夜具地などの実用品として需要の多かったものであるが，第２次世界大戦後は，ウール着尺や合化繊織物の発達によってほとんど姿を消してしまった。

めいそうきょく 【瞑想曲】 西洋音楽でロマン派時代に穏やかな動きの器楽の小品につけられた題。マスネーのオペラ《タイース》の有名なバイオリン曲をはじめ，チャイコフスキーやグラズノフにも，バイオリンとピアノのための瞑想曲がある。

めいそうしんけい 【迷走神経】⇨脳神経

めいだい 【命題】 なんらかの主張をことばで表現したもの。主語・述語およびこれらを結合する繋辞(けいじ)とからなりたち，〈ＳはＰである〉という形式をもつ。ただし文とは区別される。文によって表現されたものが命題であり，したがって異なる文で同一の命題を表現することが可能である。また真偽を決定できるということが命題の基本的性質であり，疑問文や命令文などは命題を表現したものではない。命題の種類については，まず主語と述語の関係を無条件に主張する定言的命題と，〈もしＳがＰならば，S′はP′である〉という形式で，前件を条件として後件を主張する仮言的命題と，〈ＳはＰであるか，あるいはS′はP′であるかである〉という形式で，二つ以上の選言肢(せんげんし)をもち，どれかが真であると主張する選言的命題とに分けられる。定言的命題はさらに，全称肯定〈すべてのＳはＰである〉，全称否定〈いかなるＳもＰでない〉，特称肯定〈あるＳはＰである〉，特称否定〈あるＳはＰでない〉に分けられる。〔石倉恒之〕

めいたがれい 【目板鰈】 硬骨魚類・カレイ科。体長30cmに達する海産魚。東京でメイタ，関西・東北地方でメダカガレなどという。目が体の右側に突き出るようにあり，口は小さい。背びれ70～76軟条，臀(しり)びれ52～54軟条。体は淡かっ色の地色に，多数の暗かっ色の斑紋(はんもん)を密布する。北海道以南の日本の各地沿岸，朝鮮・台湾・中国に分布する。食用魚。

めいちだい　硬骨魚類・メイチダイ科。体長36cmに達する海産魚。東京・大阪でメイチ，和歌浦(和歌山県)でメダイ，尾鷲(おわせ)(三重県)でメイチャなどとよぶ。体は楕円(だえん)形で側扁(そくへん)し，背びれ10棘(きょく)10軟条，臀(しり)びれ3棘10軟条。ややマダイに似るが，体色が紫がかる。幼魚では左右の目の間にかっ色の一帯がある。日本南部から台湾・フィリピン・東インド諸島に分布する。夏季に美味。

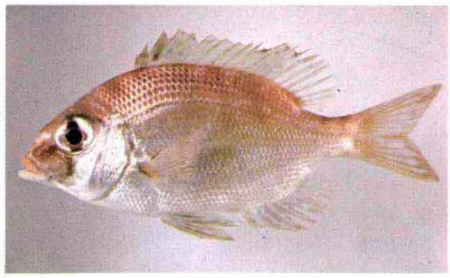
めいちょう　【迷鳥】　ある地域に見られる鳥のうちで，その地域に規則的に毎年出現するのではなく，出現頻度(ひんど)のごく少ない種類。しかし，個体数は少ないが，規則的に出現する渡り鳥との間に線を引くことはむずかしい。

めいど　【冥土】　死者が行く暗黒の世界。冥途(めいど)・冥界・黄泉(よみ)などともいう。そこには閻魔などの十王や多数の冥官がいて，生前の人間の過失や罪悪を罰すると信じられた。日本では三途(さんず)の川や賽の河原(さいのかわら)があると説かれる。道教の冥府信仰と仏教の地獄思想や地蔵信仰とが結合してできた思想らしい。

めいとうせん　【明刀銭】　中国，戦国時代に用いられた貨幣の一。刀子(とうす)の形をした青銅貨幣で，表面に明の字が鋳出されており，燕(えん)の国君の鋳造になるものと考えられる。河北省から東北南部，朝鮮北部にかけて多量に出土する。ほかに，斉刀(せいとう)・尖首刀(せんしゅとう)・円首刀の3種がある。

めいとくき　【明徳記】　室町初期の語り物の一。明徳の乱平定直後の成立か。作者未詳。3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)の時代に起こった山名氏清・満幸(みつゆき)らの謀反(むほん)に取材して，山名一族の落魄(らくはく)していく運命を記す。時宗系の物語僧によって語られた。《承久記(じょうきゅうき)》《応仁記(おうにんき)》と合わせて三代記といわれる。

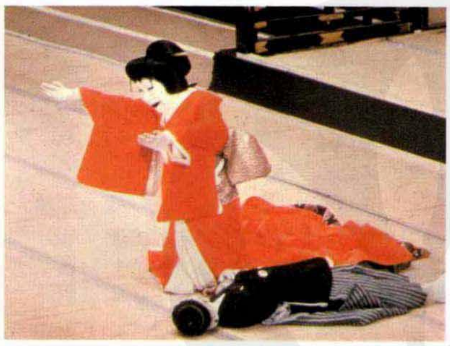
めいとくのらん　【明徳の乱】　南北朝末期，守護大名山名氏清・満幸(みつゆき)が起こした反乱。山名氏は山陰地方を中心に日本全国の6分の1にあたる11か国の守護職を一族で分有し，〈六分一殿〉と称されるほど勢力をふるったが，その勢力を警戒した3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)は，山名氏の一族間が分裂しているのを利用し，本家の時熙(ときひろ)・氏幸兄弟の不忠を名目に，分家の氏清・満幸にこれを討たせた。義満は時熙らの敗走のあと，氏清・満幸に恩賞として領国を与えたが，1391年(元中8・明徳2)時熙らの罪を許し，逆に満幸を追放しようとしたので，氏清・満幸は反乱を起こして京都を攻撃した。これに対し義満は細川・大内・畠山(はたけやま)ら諸大名を動員してこれを討たせた。京都の内野の戦いで，氏清は戦死，満幸は出雲(いずも)(島根県)にのがれたが討たれ，この結果，山名氏の勢力は一挙に消滅されて幕府の権力は高まった。　〔高崎徳次〕



メイチダイ



冥途の飛脚　〈封印切り〉　八右衛門(右，市村竹之丞)にそそのかされた忠兵衛(中，実川延若)は封印を切り，あわれ梅川(左，中村福助)との恋は死出の旅路となる



伽羅先代萩　〈御殿〉の場　乳母の政岡(中村歌右衛門)は，若君の身代わりに死んだわが子をほめたたえる

めいどのひきゃく　【冥途の飛脚】　義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。3段の世話物。近松門左衛門(もんざえもん)作。通称《梅川忠兵衛》。1711年(正徳1)竹本座初演。飛脚問屋亀屋(かめや)の養子忠兵衛が遊女梅川と馴染(なじみ)を重ね，金につまったあげく公金の封印を切って梅川を身請けし，故郷新口(にのくち)村へ落ち延びる。実父孫右衛門に会うが，ついに役人に捕えられる。近松の世話浄瑠璃(じょうるり)中の傑作の一つで，のちにこの作品をもとにして紀海音の《傾城三度笠(けいせいさんどがさ)》，管(すが)専助の《傾城恋飛脚》などの改作，および歌舞伎(かぶき)の《恋飛脚大和往来(こいのたよりやまとおうらい)》が生まれている。　〔前田慎一〕

めいにち　【命日】　⇨追善

めいはんのう　【明反応】　緑色植物の光合成において，葉緑素で吸収された光のエネルギーにより水の分解が起こる過程をいう。この結果として酸素が発生し，一方では水素による細胞中の物質の還元が行なわれて，光エネルギーは化学エネルギーに転換される。光合成のこの段階は温度には関係なく，光の強さや波長により影響される。➔光合成　➔暗反応

めいぶつぎれ　【名物裂】　わが国に室町期から江戸期にかけて中国から渡来した宋(そう)・元・明(みん)代の染織品。茶道の興隆につれて茶器などの袋や掛け軸の表装などに用いられ，各個に，織物の文様(花兎金襴(かときんらん))，伝来した人名(細川緞子(どんす))，所蔵者(鶴岡間道(つるおかかんとう))など，茶器の名(簡井金襴)，その他の名称が付された。裂の種類は金銀襴・緞子・印金・間道・錦(にしき)・風通・ビロード・甲斐絹(かいき)などである。

めいほうそてつ　【明峰素哲】　(1277～1350)　鎌倉末期の曹洞宗(そうとうしゅう)の僧。加賀(石川県)の人。俗姓は富樫(とがし)氏。初め比叡(ひえい)山に出家し，天台教学を学んだが，のち金沢(石川県)の大乗寺で瑩山紹瑾(けいざんじょうきん)に謁し，随侍すること8年，次いで各地を遊歴し，1323年(元亨3)能登(のと)(石川県)永光(ようこう)寺に瑩山を拝して印可を受けた。永光寺に10余年住し，暦応(1338～1341)の初め大乗寺に移り，のち越中(富山県)に光禅寺を開いた。その法系を明峰派という。　〔田中良昭〕

めいぼくせんだいはぎ　【伽羅先代萩】　歌舞伎(かぶき)脚本・義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。1660年(万治3)以降，伊達綱宗(だてつなむね)が吉原(よしわら)の遊女高尾を寵愛(ちょうあい)して失政，家臣らがこれを暴露したため伊達安芸(あき)らが江戸に出て，綱宗を隠居させた伊達騒動に材を得ている。歌舞伎脚本では5幕の時代物で奈河亀輔(ながわかめすけ)作。1777年(安永6)大阪中の芝居初演。綱宗が伽羅(きゃら)でつくったげたをはいていたという巷説(こうせつ)からこの名題がつけられたという。今日上演されるものは，歌舞伎と義太夫節の初演のものに，1778年初世桜田治助作の《伊達競阿国戯場(だてくらべおくにかぶき)》を折衷したもので，〈御殿〉〈対決〉〈刃傷(にんじょう)〉などの場は名高く，くり返し上演されている。義太夫節は9段の時代物で，松貫四・高橋武兵衛・吉田角丸らの合作。1785年(天明5)江戸結城座(ゆうきざ)初演。亀輔と治助の作によるところが多い。4段めで伊達義綱(よしつな)の放埓(ほうらつ)を止めるため女の生血を酒に混ぜ，伽羅をたき煎(せん)じて飲ませ本心をとりもどさせるところからこの作の名ができたともいわれる。これら伊達騒動に材をとった歌舞伎・浄瑠璃(じょうるり)の系統は〈伊達騒動物〉とよばれ，数多くの作品が伝えられている。　〔前田慎一〕

めいもくろん　【名目論】　⇨普遍論争

めいよかくめい　【名誉革命】　1688～1689年のイギリスの市民革命。王政復古後，

チャールズ2世*・ジェームズ2世*とカトリック教徒の王があいつぎ，特にジェームズ2世は自己の王位継承に反対したホイッグ党を議会より締め出し専制主義を強化，また審査律*を事実上踏みにじってカトリックの国教化を図り，反対者を迫害した。1688年ジェームズ2世の2度めの妃に皇太子が生まれたので，さらにカトリック王が続くことを恐れたトーリー・ホイッグ両党の代表7名は，合議の結果ジェームズの先妻の長女メアリ(のちのメアリ2世*)と彼女の夫オレンジ公ウィレム(のちのウィリアム3世*)を招請した。ウィレムは軍を率いてイギリスの西南ターベイに上陸。イギリス軍は戦意なく投降したので，ジェームズはフランスに亡命した。王の統治権放棄で議会は多数をもってウィリアム3世とメアリ2世を共同の王として推戴(すいたい)し，議会の決定した〈権利宣言〉を承認，翌1689年〈権利章典〉として正式に決定された。この革命は流血をみることなく成就されたので名誉革命とよばれる。この革命により，王権は議会の制定した法によって制約され，立憲君主政治が実現して，〈王は君臨すれども統治せず〉といわれる政治原則が確認された。政治の実権を握ったのは地主階級と新興の商工階級であり，主として前者はトーリー党，後者はホイッグ党によって議会で争った。王は多数党の指導者を大臣に任命することが一般化し，政党政治の端緒が開かれた。〔板橋重夫〕

めいよきそんざい　【名誉毀損罪】　公然と事実を摘示し，人の名誉を毀損する罪。刑は3年以下の懲役・禁錮(きんこ)または50,000円以下の罰金(刑法230条)。死者の名誉を毀損した場合は，その内容が真実であるときは罰せられない。〈公然〉とは不特定または多数の者が知ることのできる状態をいい，〈事実〉とは悪事醜行はもちろん，人の社会的評価を害するに足りるいっさいの事実をさし，その事実が真実であるか否かは問わない。〈摘示〉とは，特定人の名誉が害される可能性があれば足り，その方法は問わない。ただし，この名誉毀損行為が，①公共の利害に関する事実にかかり，②その目的がもっぱら公益を図るためであったと認められ，しかもその事実があったことの証明がなされたときは罰せられない。また，公訴を提起されていない人の犯罪行為に関する事実は，公共の利害に関係あるものとみなされ，公務員や公選による候補者に対する名誉毀損は，真実の証明があるかぎり罰せられない。なお，この犯罪の成立には，被害者の告訴*を要する(→親告罪)。➜プライバシー　〔井上公耳〕

めいよじゅうみん　【名誉住民】　社会・文化の興隆に功績があった者に対し，その功績をたたえるとともに，住民敬愛の対象として顕彰することを目的とした制度。名誉都民・名誉市民・名誉町民などがある。東京都の名誉都民の選定条件を例にとると，公共の福祉を発展させ，あるいは教育の進歩や住民の生活・文化・文明の繁栄に貢献し，その功績に対して住民の支援があった場合や，または広く町の発展，住民生活の向上に尽くし，郷土の誇りとして尊敬する場合に授与される。名誉市民・名誉町民の選定条件も東京都の例とほぼ同様である。〔斎藤昌男〕

メイラー　［Norman Mailer］　(1923〜　)　アメリカ合衆国の小説家。ハーバード大学卒業後，第2次世界大戦に従軍，その体験を描いた《裸者と死者*》で一躍有名になった。以後も現代の危機への鋭い洞察(どうさつ)に満ちた《バーバリの岸辺(きしべ)》《鹿(しか)の園》のほか，《ぼく自身のための広告》などを発表，また反体制運動の擁護者としても知られる。

メイランファン　【梅蘭芳】　(1894〜1961)　中国の俳優。名は瀾。蘭芳は芸名。祖父，父，彼自身，および子と4代にわたりいずれも京劇*の名女形。女形を立役と同じ地位に引き上げたこと，歴史劇を発展させたことなど，その業績に数えられる。《天女散花》《嫦娥奔月(こうがほんげつ)》《黛玉葬花(たいぎょくそうか)》など艶麗(えんれい)なものを得意とする。戦前から日本やアメリカ合衆国・ソ連を訪れ，国際的に有名。日中戦争中は被占領地区にあって，ひげをたくわえて舞台に登場しなかった。新中国になってから中国戯曲研究院院長として後進の指導にあたるほか，政界の要職にもついた。芸談《舞台生活四十年》がある。〔今村与志雄〕

めいりんかん　【明倫館】　江戸時代の藩校名。周防(すおう)(山口県)長州藩・大和(やまと)(奈良県)高取藩・越前(えちぜん)(福井県)大野藩・伊予(いよ)(愛媛県)宇和島藩・讃岐(さぬき)(香川県)丸亀(まるがめ)藩などの各藩校名であるが，特に長州藩の明倫館が知られている。長州藩明倫館は，1719年(享保4)藩主毛利吉元(よしもと)が城下の萩(はぎ)に創立し，武術・天文・礼式などの諸学科を設け，朱子学の教育を行なった。幕末，藩主敬親(たかちか)の代に文武教育の刷新を図って新規に敷地・校舎を拡大し，経学・歴史・制度・兵学・博学・文学の6科目を定め，1855年(安政2)医学所内に西洋学所を付設した。1863年(文久3)藩庁の山口移転に伴い，同地の講習堂を改めて山口明倫館とし，萩明倫館と併置され，維新後の1872年(明治5)廃校となった。〔高崎徳次〕

めいれい　【命令】　一般には，上位の者から下位の者に対する強制的なさしずを意味するが，法律上では種々の用法がある。①国会の議決を必要とする法律に対して，行政機関が制定する法の形式。内閣が発する政令，内閣総理大臣または各省大臣が発する省令，各庁の長官や各委員会の長が発する庁令・規則などがある。命令の範囲は，一般的に民主主義の発展につれて制限される傾向があり，現行憲法では執行命令と委任命令を認めているだけである。②行政機関が法令に基づいて特定人に対してなす下命行為。違法建築の除却など。③裁判官がその権限に属する事項についてなす裁判。公判期日の指定や特別代理人の選択のように，訴訟中に起きる付随的事項や緊急を要する事項について行なう。裁判所が行なう判決・決定に対するもの。〔原田政洸〕

めいれきのたいか　【明暦の大火】　江戸初期，江戸市中の過半を焼失した大火。振袖(ふりそで)火事・丸山火事ともいう。火元は本郷丸山(東京都文京区)の日蓮宗(にちれんしゅう)本妙寺で，檀家(だんか)の病死者が着ていた振袖を焼却処分中の失火と伝えられるが，事実とはいいがたい。1657年(明暦3)1月18日の当日は旱天(かんてん)続きのうえ烈風が吹いたため，たちまち全市に延焼し，翌19日新しい出火を伴って，両日にわたる火災で江戸城本丸をはじめ豪壮を誇った多数の武家屋敷が，市中500余町の民家とともに焼失し，10万余の焼死者を出した。幕府は施米などで一般罹災者(りさいしゃ)の救済にあたり，大名には10年賦の貸与金，旗本(はたもと)には下賜金・拝借金を許した。江戸再建に際しては，災害の経験を生かして市街を整備し，18か所の火除地(ひよけじ)(広小路)を設け，道幅，町家の規模・体裁を統一した。また大名屋敷は郊外に，寺院・遊郭・歌舞伎(かぶき)小屋は場末に移転を命ぜられるなど，江戸の市街は景観を改めて，世相・人心に一転機を与えた。なお，本所の回向院*にこのときの死者を祭ってある。〔高崎徳次〕

めいろ　【迷路】　心理学で，動物および人間の主として学習*過程の研究に用いられる実験装置の一。迷路は，一般的には，①出発点，②袋小路を含む通路，③目標点(動物を用いる場合にはえさ・水などの報酬が置かれる)からなり，正しい道順は一つしかない。種々の迷路を用い，空間的系列学習(複式迷路)，空間的弁別学習(T型迷路)，視覚的弁別学習(T型迷路・Y型迷路)，時間的系列学習(時間迷路)，探索行動(開放迷路)などが研究されている。〔佐藤方哉〕

めいろくざっし　【明六雑誌】　1873年(明治6)森有礼(ありのり)の提議により，福沢諭吉・西周(あまね)・中村正直など16名を同人として組織された明六社の研究発表機関誌で，翌1874年に創刊された。同人たちは新しい社会の思想問題・人道問題・科学知識など時代の先端をいく論策を掲載し，為政者から青年学徒まで新知識の源泉をこの雑誌に求めた。しかししだいに政府の圧迫が激しくなり，1875年6月讒謗律*(ざんぼうりつ)が発布されるや同年11月第43号で廃刊した。〔前納弘武〕

めいわじけん　【明和事件】　江戸中期，幕府が山県(やまがた)大弐*・藤井右門らを謀反人(むほんにん)として処刑した事件。大弐は江戸で兵学・儒学などを教え尊王思想*を鼓吹

し，《柳子新論》を著わして幕政を批判した。一方，大弐宅に寄宿していた右門も甲府城・江戸城攻撃の軍略を論じた。幕府は上野(こうずけ)(群馬県)小幡(おばた)藩の内紛にかこつけて大弐らを捕え，1767年(明和４)不敬の罪で大弐を死罪，右門を磔刑(たくけい)に処した。また，さきの宝暦事件で追放中の竹内式部も連座して八丈島に流された。この事件は宝暦事件と並んで最も早い時期の反幕的な事件として世に衝撃を与えた。➔宝暦事件　〔高崎徳次〕

めおとさかずき　【女夫盃】　夫婦の契りをかわす儀礼の中で行なわれる新郎・新婦間の盃の交換のこと。夫婦盃とも書き，関東地方ではあいさかずき，西日本ではこんこんさかずきなどという。現代の結婚式において友人・知人・親類らの同席する前での盃の交換は夫婦関係の社会的承認を得るというきわめて重要な意味をもち，三三九度の盃として知られているが，古くは新郎・新婦間の盃よりも，嫁の親と婿の親との間，あるいは嫁と婿の親，婿と嫁の親との間の盃の交換が重要視されていた。➔結婚式　〔渡辺欣雄〕

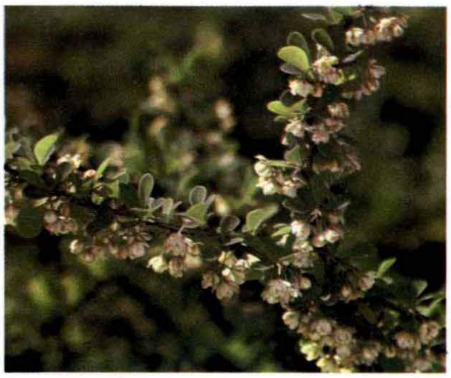
めかじき　【眼梶木】　硬骨魚類・メカジキ科。全長3.6mに達する海産魚。体は延長し，やや側扁(そくへん)する。吻(ふん)は著しく突出する。第１背びれ38〜45軟条，第２背びれ４〜５軟条，第１臀(しり)びれ12〜16軟条，第２臀びれ３〜４軟条。腹びれを欠くのが著しい特徴。全世界の温帯・熱帯に広く分布する。性質は荒く，剣状の吻で大形魚やクジラを攻撃するといわれる。マカジキ類よりも深所にすむといわれるが，海上を浮いていることもあり，突棒(つきんぼう)漁業でもとれる。近年はマグロ延縄(はえなわ)でとれるのが多くなった。ヨーロッパ・アメリカ合衆国ではスポーツつりの好対象である。食用魚で，肉は白っぽい。➔カジキ　〔安田富士郎〕

メカニカルパルプ　⇨機械パルプ

めがね　【眼鏡】　目の屈折異常や調節異常を正視同様の状態にしたり，目を保護するための器具。〈がんきょう〉ともいう。ヨーロッパでは13世紀末ごろより使用され，日本に渡来したのは16世紀前半と推定される。使用目的により矯正(きょうせい)眼鏡と遮光(しゃこう)眼鏡に大別される。①矯正眼鏡：レンズは普通は透明ガラス，ときにはプラスチックでつくられ，近視には凹(おう)レンズ，遠視・老視には凸(とつ)レンズ，乱視には円柱レンズなどがそれぞれ用いられる。また遠近両用の目的で，遠用の眼鏡に近用の眼鏡をはめこんだ二重焦点レンズや，最近では外観上その境界を不鮮明にしたバリラックスレンズが用いられることもある。そのほか潜伏性斜視には斜視の度に応じプリズムを処方することもある。②遮光眼鏡：紫外線・赤外線・放射線などの有害光線や，陽光・ヘッドライトなどのまぶしさを防ぐ



メガネザル



メ　ギ

ため，黄・青・赤・緑・かっ色・灰紫色など各色調のサングラスがある。なお，これらの眼鏡のほか，特殊のものとして矯正用のコンタクトレンズや，水中用・防塵(ぼうじん)用などの眼鏡がある。➔レンズ　〔納富教雄〕

めがねえ　【眼鏡絵】　鑑賞する際に凸(とつ)レンズを通して見る絵。〈覗絵(のぞきえ)〉と〈操絵(あやつりえ)〉の２種があり，いずれも透視遠近法を利用して，空間の奥行きを誇張的に表現する。操絵は〈覗からくり〉に用い，左右逆形に描かれる。オランダや中国の商船によって舶載され，江戸中期以降にはわが国においても盛んに描かれたが，その影響は浮世絵の〈浮絵〉や円山(まるやま)派の写生画法，さらには洋風画の誕生へと及んだ。

めがねぐま　【眼鏡熊】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・クマ科。頭胴長1.5〜1.8m，体重140kgほど。体は黒色で多くは目の周囲にめがね状の白い輪がある。ベネズエラ南部からチリ北部のアンデス山地に分布し，生息数は多くないらしい。おもに果実・木の葉などの植物質を食べる。

めがねざる　【眼鏡猿】　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・メガネザル科。原猿に属する下等なサルで，フィリピン・ボルネオ・セレベスなどに分布する。頭胴長は10〜15cmで，約20cmの細い尾をもつ。丸くて大きな目をもち，長い足でカエルのようにとぶ。日中は眠り，夜活動する。おもにこん虫や小動物を食べる。

めがねへび　【眼鏡蛇】　⇨コブラ

メガラは　【メガラ派】　メガラのエウクレイデスを祖とするギリシア哲学の一派。小ソクラテス派の一つで，ソクラテス思想のうち，特にその対話法を継承発展させた。〈善は多くの名でよばれているが，実は一つである。そしてこの善に反するものは存在しない〉というエウクレイデスの説にみられるように，エレア派の思想の影響も受けている。さらに，真の存在は不生不滅・不変不動であるとし，これを，エレアのゼノンの論証法を用いて弁護・主張したといわれる。この論法が彼の弟子(でし)たちによって論駁(ろんばく)のための論法として極端化され，やがて争論術(エリスチケー)に発展するに至った。そのため，この派は争論派・弁証派ともよばれた。この派で有名な人々にエウブリデス・ディオドロス-クロノス・スチルポンらがある。　〔本橋正義〕

メガロポリス　⇨300ページ

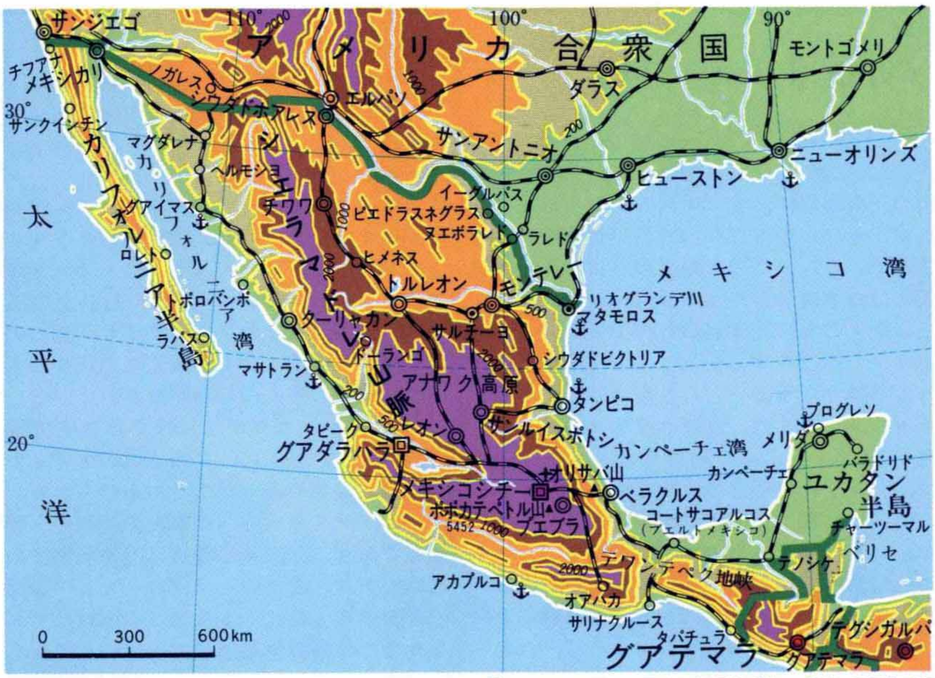
めぎ　【目木】　双子葉植物・メギ科。コトリトマラズ・ヨロイドウシともいう。山野に自生する落葉低木で，いけがきや庭木にされる。高さ２mほどになってよく分枝し，若枝はかっ色で稜条(りょうじょう)がある。葉は互生または短柄上に輪生し，長さ２〜３cmの倒卵形で全縁，表面は光沢があり，裏面は帯白色で，秋に紅葉する。葉柄の基部に葉の変形したとげが１〜３本ある。４月に新葉とともに２〜４個の淡黄色の花を総状につける。花は径８〜10mmで，花弁は６枚で長楕円(ちょうだえん)形，花糸は感受性が強くおしべに触れると内方に曲がる。果実は長さ１cmの長楕円形の漿果(しょうか)で，秋から冬に赤熟し，光沢がある。木部を煎(せん)じて目を洗ったためこの名がある。　〔横井朝子〕

メキシコ(合衆国)　[United States of Mexico, Estados Unidos Mexicanos]　中部アメリカの連邦共和国。西と南は太平洋，東はメキシコ湾とカリブ海に面し，北はアメリカ合衆国，東南部はグアテマラとベリセに接する。面積197万2,546km²。人口6,938万(1979年推)。首都メキシコシチー。

【自然】国土の中央部を占めるメキシコ高原は古い大きな準平原とみられ，その東縁には東シエラマドレ山脈，西縁には西シエラマドレ山脈が走り，高原の外側には狭い海岸平野がある。両山脈は，高原が第三紀に隆起したときの褶曲(しゅうきょく)山地で，ユカタン半島の基部付近で合体する。高度は南へいくほど高く複雑な地形を示し，北部では山脈の平均高度1,500m，高原は1,200mであるのに対し，南部は山脈が3,000m，高原も2,500mに達する。高原には新しい火山が多く，中でもオリサバ山(別名シトラルペーペトル山，標高5,658m)・ポポカテペトル山(5,452m)は，メキシコの屋根をなしている。この高原の狭くなった部分がテワンテペク地峡で，最高点わずか220mの低い丘陵をなし，ユカタン半島も低い



メキシコの国旗　1968年制定。ただし，原形は19世紀初頭の独立運動時代にさかのぼることができるし，1937年には紋章の形もほぼ同じものが制定された。紋章は，〈ヘビをくわえたワシが湖のほとりのサボテンに止まっているところに都せよ〉という啓示によってメキシコシチーが築かれたという伝説に由来する

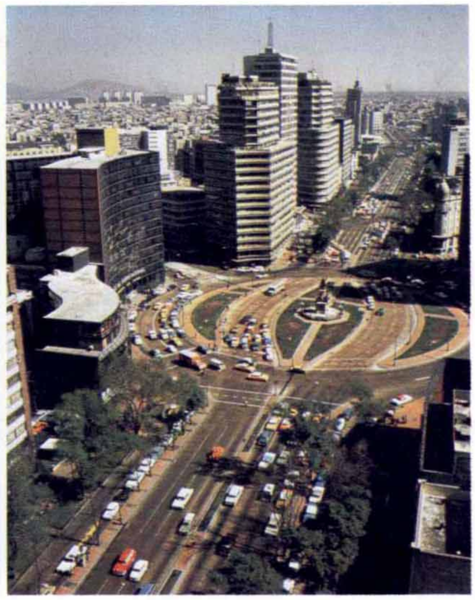


300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市　10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

メキシコ



メキシコ　メキシコシチーとプエブラを結ぶハイウエーの通ずるメキシコ高原の農村。遠く白雪をいただくポポカテペトル山がそびえる



メキシコシチー新市街の中心部。8車線の車道とグリーンベルトをもった大通りインスルヘンテス通りが延びる

台地になっている。海岸は大きな出入がなく，東のメキシコ湾側にユカタン半島の突出があるのに対して，太平洋岸には深く食い込んだカリフォルニア湾をはさんで細長い丘陵性のカリフォルニア半島がある。国土のほぼ中央を北回帰線が横切り，南部の海岸低地やユカタン半島は高温多湿で森林におおわれているが，北部ではサバナや砂漠(さばく)もみられ，カリフォルニア半島やソノラ砂漠などの不毛地がある。気温は，低地で年平均20～25℃であるが，高原では10～15℃と低く，山地では冷涼で万年雪のある山も多い。乾・雨季ははっきりしており，雨季の夏にはにわか雨のように毎日午後に降り，秋にはしばしばハリケーンが襲来する。

〔住民〕 住民は，メスチゾとよばれるスペイン人とインディオの混血が約60％を占め，純粋のインディオは25％前後，白人はスペイン系で15％足らずである。人口の大部分が高原に集中しており，メスチゾは都市・農村を問わず広く居住しこの国の政治・経済を握っている。インディオは高原で貧しい農牧生活をしているが，白人の多くは都市居住者である。宗教は国民の95％がカトリック教徒で，公用語はスペイン語である。

〔産業・経済〕 国土の大半が荒地や草地であるが，雨量の多い南部では古くから低地・高原を問わずトウモロコシをつくり，インディオ文明をはぐくんできた。大牧場や耕地は高原上に多く，低地の森林は未開発の所が多い。第2次世界大戦後，政府は工業化に努めているが，まだ第1次産業が主要産業で，農牧民が有業人口の約65％を占める。高原では住民の主食であるトウモロコシ栽培が多く，肉牛の飼育も盛んであり，標高1,000m以下の地域ではサトウキビが栽培される。北部では灌漑(かんがい)による綿作が盛んで，製品も良質で大部分を輸出する。東部海岸やユカタン半島北部はバナナ・コーヒー・サイザル麻・カカオ・パイナップルなどの主産地になっている。テワンテペク地峡はチューインガムの原料チクルの産地として知られる。鉱産は，銅・亜鉛・鉛・銀・イオウ・石油・鉄鉱を産し，中でも銀は，かつては豊富な産出を誇り鉱産輸出額の4分の1を占めていたが，近年はふるわない。石油はタンピコなどメキシコ湾中部などに豊富な埋蔵量をもち，公社経営で採掘し，製精もしている。第2次世界大戦中から工業化が進み，繊維・食品などの工場も建設された。戦後は，外資の導入も加えて，冶金(やきん)・電気機械・肥料などの重工業の育成を図り，成果を収めている。鉄道・石油・天然ガス・電力などは国有事業である。貿易では，輸出総額の約3分の2は鉱産物が占め，ほかに綿花・コーヒーがある。交通は，メキシコシチーを中心に国有鉄道網が走り，メキシコシチーは首都であるとともに，アメリカ合衆国・中央アメリカ・南アメリカ・カリブ海諸島間の航空路の中心をなしている。パンアメリカン-ハイウエーが国土を縦断し，海路でも多くの国際航路がカリブ海・太平洋に開け，主要港にベラクルス・タンピコなどがある。

〔歴史・政治〕 1519年スペインのコルテスがメキシコに上陸し，1521年にはアステカ*帝国を滅ぼし，以後300年間にわたってスペインの植民地となった。ここに，テオティ

メガロポリス

［megalopolis］

〈大きな都市〉という意味。アメリカ合衆国の北東海岸に，北はボストンから，南はワシントンに至る五つの大都市が連続して並んでいるが，この大都市圏およびその周辺地域の連続した帯状の都市化地域は，既成の最大の都市化地域の名称であるメトロポリス*の概念をはるかにこえて，規模も内容も特異であるので，これをはじめてメガロポリスとよんだ。メガロポリスの名づけ親であるフランスの地理学者ゴットマンは，アメリカ合衆国の北東地域を旅行中，この巨大な都市化地域に興味をもち，1956年からプリンストン大学付属研究所で，この地域の研究を重ね，その成果を6年後の1961年に《メガロポリス》と題する著書によって発表した。ゴットマンによれば，この地域のよび名については，マクロポリス・メガトンなどの候補があったが，結局メガロポリスに落ち着いたという。メガロポリスという名は世界の都市問題研究家の間に反響をよび，メガロポリスに関する多くの議論や研究がなされた。

アメリカ合衆国北東地域の巨大な都市化地帯(アメリカン-メガロポリス)は，長さ970km，幅50～160km，面積約140,000km^2に及ぶ巨大なものである。面積はアメリカ合衆国の総面積の1.8％にあたり，アメリカ合衆国総人口の約20％にあたる3,500万(1960)が住んでおり，この地域の人口密度は1km^2あたり約250人で，アメリカ合衆国の平均人口密度よりはるかに高い集住地域を形成している。

アメリカン-メガロポリスは，北からニューハンプシャー・マサチューセッツ・ロードアイランド・コネチカット・ニューヨーク・ペンシルベニア・ニュージャージー・デラウェア・メリーランド・バージニアの10州にまたがり，内部には，ボストン・ニューヨーク・フィラデルフィア・ボルチモア・ワシントンという人口100万以上の五つの大都市が含まれ，さらにこれら五つの大都市の中間およびその周辺に点在する人口20～80万の多くの都市が含まれている。アメリカン-メガロポリス形成の歴史的要因としては，第1に，この地域がアメリカ経済の中心地であったことがあげられる。ここはアメリカ大陸への移民の最初の上陸地点であり，西部開拓時代は内陸部開発の基地であり，またのちにはヨーロッパ貿易の要衝であった。こうしてこの地域はアメリカ全土の経済的基地であるばかりでなく，ヨーロッパをもそのヒンターランド(後背地)としてもっていた。第2に，アメリカ合衆国は州が政治の単位であり，各州の独立性が重んじられ，しかも大西洋臨海地帯は多数の州に分割されていたため，各州の核心都市が互いに近接しながらも，それぞれの政治的・経済的独自性が保たれつつ個別に完成され，のちに連続した都市域を形成する下地ができていたことなどがあげられる。またその地理的要因としては，第1に，この地域が北部・西部の諸地方に比較して温暖であること，第2に，平坦(へいたん)な臨海平野と標高200～300mの低い台地からなり，農業や河川交通が発達して生産活動が容易であることなどがあげられる。

以上の歴史的・地理的条件のもとにおいてアメリカン-メガロポリスがしだいに形成されていくが，具体的な発展過程は次のとおりであった。①最初は州の中核となる都市が形成され，やがて商工業の発展とともに中核都市の人口がふえ，100万人をこす大都市となる。②自動車交通の発達に伴って都市域が広がり，中核都市の影響を強く受ける大都市圏ができる。その中心は業務地区に，郊外は住居地区にと機能の分化が起こり，各地区は交通網によって有機的に結ばれる。③大都市の周辺地域には衛星都市のような新たな核が生まれる。④大都市圏はおのおの拡大し，ついにはその影響圏が重なり合うようになる。その一方では，大都市間相互の物的・人的交流がしだいに盛んとなり，その間の関係が強まる。⑤住宅や工業が都市間および大都市周辺地域に拡散し，星雲状またはコロイド状になり，大都市圏の境界すら不明瞭(ふめいりょう)になる。このようにして形成された地域は，単にいくつかの大都市の集合という以上の機能をもちはじめる。⑥国内の他のどの地域よりも，人口・工業生産などの占める比重が高く，一国の政治・経済・文化に及ぼす影響力はきわめて強くなるばかりでなく，国内の政治・経済における中枢管理機能をも一手にになうようになる。また同時に，この地域は国際的影響力をももつ地域となる。

人類は自然の中に散住していた時代から，一部の特権階級のみが都市に住む時代を経て，すべての人間が都市の恩恵にあずかる時代を迎えつつあるが，アメリカ合衆国北東地域におけるメガロポリスの形成は，このような文明史的見地からとらえる必要が

ワカン・マヤ，さらにトルテク・ミシュテクなどを経てアステカと続いた古来の文明は，スペインの征服者によって影を潜めた。1821年に独立，1824年には共和制を樹立し，派兵されたスペイン軍を破った。その後1846年テキサスの独立をめぐって起こったアメリカ-メキシコ戦争に敗れてニューメキシコ・アリゾナ・カリフォルニアを合衆国に譲り，リオグランデ川を国境とする条約を締結した。その後も何回となく政権が交替し，1910年の革命によって1917年新憲法が制定され，1934年に就任したカルデナス大統領は大地主制解体による農民への土地分配や石油利権の国有化などを進めた。政体は連邦共和制。元首は大統領で，直接選挙により選出する。任期は6年。議会は二院制で，直接選挙による。ラテンアメリカでは最も政情の安定した国家とされ，国際的には中立主義の立場をとっている。行政区は29州，1連邦区(首都)，2直轄地からなり，各州はそれぞれ憲法と行政・司法・立法の三権をもっている。〔小栗　宏〕

メキシコ(湾)［Mexico］　アメリカ合衆国南部とメキシコ東部に囲まれた海域。面積約185万km^2。東はフロリダ半島とキューバ島，南はユカタン半島に至る北アメリカ最大の湾で，フロリダ海峡を経てバハマ諸島・大西洋に通じ，ユカタン海峡からカリブ海・小アンチル諸島に通ずる。カリブ海と合わせて〈アメリカ地中海〉ともよばれる。最大水深は4,023m。海水の表面流は，時計回りでゆるく環流し，メキシコ湾流*の発源海域とされている。注入する河川にはミシシッピ川・リオグランデ川などがあり，沿岸にはニューオーリンズ・ガルベストン(ともにアメリカ合衆国)・タンピコ(メキシコ)などの港市がある。〔長津一郎〕

メキシコ(湾流)［Mexico］　単に〈湾流〉ともよぶ。北大西洋を北東へ流れる，黒潮と並ぶ世界の大暖流。メキシコ湾*に発源するとされているが，アンチル海流やカリブ海からの海水も関係をもつ。フロリダ半島からアメリカ合衆国の大西洋岸に沿って北上し，ニューファンドランド島付近で北東に向きを変え，北ヨーロッパのスカンジナビア半島北部からスバールバル諸島にまで及んでいる。後半のヨーロッパを流れる部分は北大西洋海流とよぶこともある。ヨーロッパの高緯度地方には穏やかな気候をもたらしている。〔長津一郎〕

メキシコえんせい　【メキシコ遠征】　1862～1867年のナポレオン3世*によるメキシコ征服計画。1861年10月，イギリス・フランス・スペインの3国は外債取り立てのため軍隊を派遣してメキシコの税関を押収したが，野心家のナポレオンはメキシコの征服を企図し，翌年軍を内陸部に進め，1863年メキシコシチーを攻略した。1864年にはオーストリアのマクシミリアン太公を新帝国皇帝に即位させたが，1865年メキシコ人の抵抗運動とモンロー主義に立つアメリカの圧力に屈して撤兵を開始，1867年にはマクシミリアンが処刑された。〔松下　洋〕

メキシコおんがく　【メキシコ音楽】　メキシコの音楽は歴史・様式・民族の観点から少なくとも5種類に分類することができ

ある。現在，文明は新たな段階にさしかかりつつあって，その先鋭的な現われの一つがメガロポリスの形成とみることができる。アメリカのメガロポリスは，世界の主要地域における大規模な都市化現象の先駆的・実験的役割を果たし，その成否は人類の運命にも大きく影響するであろう。

メガロポリスの理論が日本に紹介されて以来，専門家の間でメガロポリスについての検討が始められたが，第1に問題になったのはメガロポリスの定義であった。ゴットマンすら明確な定義を下していないメガロポリスに対して，人口学・社会学・地理学・都市計画などの各専門分野において，また各研究者の興味のもち方によって認識が異なったのは当然であろう。メガロポリスの訳語にしても超大都市地域(石水照雄)・巨域都市(木内信蔵)・巨帯都市(磯村(いそむら)英一)・巨大都市連合(丹下健三)・巨帯連関都市または巨帯総合都市(舘稔(たてみのる))と訳者によってさまざまであるが，太平洋ベルト地帯(京浜・名古屋・阪神(はんしん)さらに瀬戸内海を経て，北九州に至る地帯)に代わって東海道メガロポリスという名称が一般化するにしたがい，原語のままのメガロポリスで通じるようになった。

石水照雄は，ゴットマンにならってメガロポリスの諸性格のうち，核心的なものとして三つの要素を取り上げている。すなわち，メガロポリスとは，①いくつかの巨大都市(メトロポリス)を包含する多核的都市化地帯であり，大都市圏の連接・重複した地帯であって，②郊外分散が進展し，都市部と農村部との境界が不明瞭であるような星雲状構造をもち，③居住・商工業・政治・文化など多種の機能の上で国民経済の中枢としての役割を果たしているような都市化地域であると規定している。一方，舘稔は，メガロポリスとは，①急速持続的な都市化が進行して，②メトロポリスをこえた多核的都市化地域を形成し，③人口および経済的・社会的・文化的中枢機能の集中した地域であり，④一国の経済・社会・文化に対して，中枢的機能と地位を占める地域であって，⑤これまでなかった新しい都市化地域の形態であると定義している。

一方，メガロポリスの範囲画定のための基礎的・計量的研究が，人口問題研究所において行なわれた。それは，人口密度・人口増加率・人口移動の地域連関などの人口学的諸指標から，メガロポリスの範囲を画定しようとするものである。その結果，東京から大阪を経て福岡に至る太平洋ベルト地帯は，メガロポリスとしての人口的条件は満たしていることが判明した。一方，メガロポリスが一国の政治・経済の中枢部をなすという機能的条件は必ずしも認定されなかったが，その後通信網の整備，東海道新幹線，東海道高速自動車道路の完成などの交通網の整備によって，東京・名古屋・大阪の三大都市圏の相互連関が強まり，有機的に結合しながら，全体として日本の政治・経済・文化の管理中枢的役割をもちはじめ，機能的にもメガロポリスの要件を満たしつつある。そして東京から大阪に至る都市化地域は，将来北は仙台(せんだい)，南は福岡まで延びることが十分考えられる。

ゴットマンはまた，ヨーロッパにおいて二つのメガロポリスが形成されることを予見している。リバプール・ブラッドフォードをその北端，ロンドンを南端とする地域と，アムステルダムを北端，パリを南端とする地域とである。したがって，ヨーロッパ大陸では国境を越えて連続したメガロポリスが生まれつつあるといえる。メガロポリスの概念を拡大して，世界に四つのいわばワールド-メガロポリスが出現するという説もある。その場合，予想される地域は，南北アメリカ大陸の太平洋沿岸地域(サンフランシスコからロサンゼルス・メキシコシチーを経てチリに至る)と大西洋沿岸地域(ボストンからワシントン・フロリダ半島を経てキューバを通りサンパウロに至る)，およびユーラシア大陸の太平洋沿岸地域(東海道メガロポリスから中国南海岸・タイ・カンボジア・マライ・インドネシアを経てメルボルンに至る)と大西洋沿岸地域(オスロからヘルシンキ・西ヨーロッパ・イベリア半島を経てアフリカ西海岸に至る)などである。以上四つのワールド-メガロポリスができるとすれば，それは北緯60°から南緯30°くらいまでの間に展開し，北緯50°から南緯20°くらいの間に中心部がある構造になるという。この説とは別に，メガロポリスが発展・拡大すると，現在のように，地表の一定の地域のみが都市化している状態ではなく，地球上のあらゆる地域が人間定住社会になり，交通通信網が張り巡らされて，均質に開発されていくと説く人もいる。いずれにしても，人口の爆発的増加と技術革新を背景に，メガロポリスが新たな時代の先鋭的現われであることは確かであり，メガロポリスの将来は，人類の将来と表裏一体をなしていくであろう。

〔竹内泰夫〕

る。第1に先住民であったインディオ系のマヤ文化における音楽があげられる。この音楽はほとんど滅びて詳細は知られていないが，宗教儀礼のための音楽が中心で，単声的歌唱の伴奏楽器として縦形太鼓・樽形(たるがた)太鼓・4穴フルートなどが使われていたと推定される。第2に後住民スペイン人による芸術音楽で，宗教音楽・世俗音楽両面にわたってヨーロッパからの影響を受けながら多くの作曲家を生み出している。第3にスペイン系の民俗音楽。第4にスペイン系を中心にインディオの要素のはいった新しいメキシコ民俗音楽がある。これには祭りの舞踊音楽フアパンゴ，スペインのサパテアード*に由来する4分の3拍子の舞曲ハラベ，バイオリン・ハラナ(ギター)・アルポン(ハープ)・ギタロン(大形ギター)によるマリアッチ合奏などがあり，豊かな伝統をもっている。第5に，民俗音楽の要素を大幅に取り入れ，さらにアメリカ合衆国のポピュラー音楽などの影響をも受けた大衆音楽があり，アメリカ合衆国・日本など外国でも好まれている。〔山口　修〕

メキシコシチー［Mexico City］メキシコの首都。人口1,000万(1976)。海抜2,300mの高原に位置し，熱帯ではあるが気候は温和である。古くはテノチティトラン*とよばれアステカ帝国の王都であったが，1521年スペイン人コルテスに占領されて祭政の中心をなした大神殿も破壊された。代わってスペイン植民地の新都が建設され，1821年メキシコの独立とともに首都となった。市街は，碁盤目状に整然と区画され，中央広場プラザ-マヨールに面して大統領官邸をはじめ各官庁庁舎が並ぶ。東西に走る大通りには高層ビルが立って商業地区を形成し，南郊には高級住宅地区が広がり，北西郊は紡績・食料品などの軽工業がみられる工場，住宅地区になっている。近年は，精油・化学・鉄鋼などの重工業も発展しつつある。メキシコの政治・経済・文化・交通の中心をなし，鉄道・道路・国際航空路も集中している。新大陸最古のキリスト教会をはじめ，1551年創立のメキシコ大学，博物館・美術館・図書館などがある。

〔小栗　宏〕

めぎしま【女木島】香川県高松市の北2.5kmにある南北に細長い島。かつては北の男木(おぎ)島*とともに雌雄島村をつくっていたが，1956年(昭和31)高松市に編入された。面積2.6km²，人口660。最高点は標高217mで，カコウ岩の山地の段々畑や少しばかりの水田と沿岸漁業の半農半漁の生活が行なわれている。東岸の東浦には，頭上運搬の風習や防風防潮のためのオーテとよぶ石塁が見られる。また桃太郎の伝説が残り，鬼ケ島ともよばれる。高松港から定期船が就航している。〔浅井得一〕

メーキャップ［make-up］俳優が登場人物に扮(ふん)するために，顔に施す化粧，あるいはそのさまざまな技術。原始社会の呪術(じゅじゅつ)的祭式などで用いられた仮面や顔の彩色が起源とされる。ヨーロッパでは，近代劇の登場に伴う役がらの複雑化と電気照明の完成によってメーキャップの必要性が一段と増し，技術も精巧・複雑にな

った。ヨーロッパふうの〈ドーラン化粧〉は，脂肪性の練白粉(ねりおしろい)にグリース-ペイント・パウダーを用いる。日本に古くからある〈水化粧〉は，白粉・砥粉(とのこ)などの顔粉を水にとき，はけで塗るもので，歌舞伎(かぶき)に多く用いられる。歌舞伎の舞台化粧は〈隈取*(くまどり)〉，中国の京劇*のそれは〈臉譜(れんぷ)〉といって，様式性が強い。
〔工藤　隆〕

めキャベツ　【芽キャベツ】　双子葉植物・アブラナ科の一年生または越年生草本。キャベツ類の一種で，茎が長く伸び，葉腋(ようえき)に小さな結球した葉をつけるので，コモチキャベツ・コモチカンランともいう。性質はキャベツに似ており，キャベツより葉が柔らかく，球が小さいので，ゆでて肉料理につけ合わせたり煮込んだりする。


メキャベツ

めぐすり　【目薬】　⇨点眼剤

めぐすりのき　【眼薬の木】　双子葉植物・カエデ科。山野に自生する落葉高木。高さ10mほどに達し，枝にかっ色粗毛が密生する。葉は対生し，かっ色毛のはえた長さ2～4cmの柄をもつ3出複葉。小葉は長さ6～10cm，幅2～5cmの楕円(だえん)形で，縁に不整な波状の鋸歯(きょし)があり，裏面の特に葉脈上にかっ色の長くて柔らかい毛を密布する。花は白色で若葉とともに出て，3個ずつつく。がく・花弁ともに5枚。果実は長さ3～4cmの翼果。


メグスリノキ

メクネス　［Meknès］　アフリカ北西部，モロッコ王国北部の都市。人口24万4,500(1971)。古都フェスの西方にあり，フェスと並ぶ商業都市として栄えている。市内ではモロッコカーペットの生産や金属細工の加工が行なわれる。11世紀に建設の起源を有し，17～18世紀当時の古跡が多い。

めぐみのけんか　【め組の喧嘩】　⇨神明恵和合取組(かみのめぐみわごうのとりくみ)

めくら　【盲】　失明状態に対する総称。医学的には明暗もわからない完全盲(絶対盲)をいうが，社会的には視力が0.02以下のもの，すなわち，眼前1mの指数(1m指数)がわからず，日常の仕事ができないものをさす。なお，視力0.04以下，0.02以上のものを準盲と名づける。

めくらあぶ　【盲虻】　こん虫類・双翅(そうし)目・アブ科。体は長さ1cm内外，黒色で，前胸背に2本の灰色の縦条があり，腹部第1～2節の背板は黄色。翅(はね)の前縁部と中央の幅広い横斑(おうはん)は暗かっ色。日本全国のほか，サハリン(樺太(からふと))・千島・朝鮮・中国・東シベリアなどに分布する普通種で，成虫は5～7月に出現し，ヒトや家畜から吸血する衛生害虫。このほか数種のメクラアブ類が日本に分布し，いずれも幼虫は水辺の泥土(でいど)中に生活し，成虫がヒトや家畜から吸血する。日本産の重要な種には，メクラアブに似て全体黒色のクロメクラアブ，前胸背が光沢のある黒色のキゴシメクラアブ，腹部背面に4本の黒色縦線のあるヨスジメクラアブなどがある。
〔鈴木邦雄〕

めくらうなぎ　【盲鰻】　⇨ヌタウナギ

めくらかめむし　【盲亀虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・メクラカメムシ科の総称。複眼はあるが単眼がないためこの名がある。小形で，体長3～7mm内外の種が最も多く，体長10mmをこす種はほとんどない。体は楕円(だえん)形ないし長楕円形で，多少扁平(へんぺい)で弱々しい外観を示すが，活発に行動する群である。触角はよく発達して長く，4節からなり，口吻(こうふん)も4節からなり長い。同一種中に，長翅型・短翅型・無翅型の3型の生ずるものが少なくない。脚はよく発達していて細長く，しばしば後脚の腿節(たいせつ)が太まり，跗節(ふせつ)は普通3節でまれに2節。大部分のものは植物から吸汁(きゅうじゅう)する。卵は生きた植物の組織中に産み込まれ，成虫が夏から秋にかけて発生する種類が多い。冬は成虫態で，樹皮下などで越すものが多い。この科は，異翅亜目中最大の群で，全世界から600以上の属に属する5,000種類以上が知られており，日本にもかなりの種類が分布しているが，まだあまり詳しい研究がなされていない。日本に産する代表的な種類には，カイガラムシ類を吸食するマツノヒゲボソメクラガメ，マツに寄生するマットビメクラガメ，タバコなどナス科植物に寄生するタバコメクラガメ，グンバイムシ類を捕食するグンバイメクラガメ，マメ類・サツマイモ・ウリなどに寄生するオオクロトビメクラガメ，イネ科植物に寄生するムギメクラガメ・アカホシメクラガメ・アカスジメクラガメなどがある。
〔鈴木邦雄〕

めくらながやうめがかがとび　【盲長屋梅加賀鳶】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称《加賀鳶》。河竹黙阿弥*(かわたけもくあみ)作。1886年(明治19)，千歳座(ちとせざ)(のちの明治座*)初演。加賀藩おかかえの加賀鳶と町火消(まちびけし)の争いに，盲長屋のにせ盲人道玄の悪事を織り混ぜた世話物*。質屋をゆすって失敗したすえ，百姓殺しの罪が現われて捕えられる道玄の話に人気があり，これに加賀鳶の頭(かしら)梅吉が，けんかに乗り出す鳶一同を制する〈木戸前勢揃(せいぞろ)い〉の場をつけて，よく上演される。
〔松井俊諭〕

めくらへび　【盲蛇】　爬虫(はちゅう)類・メクラヘビ科。体長14～18cmで，尾はその1/3。トカゲとヘビの中間的な形態をもち，体制はまったく地下生活に適する。体はミミズ型で目は退化し，えさはシロアリ類。卵性。旧大陸の熱帯地方に広く分布し，日本では南西諸島一帯に産する。

メクレンブルク　［Mecklenburg］　ドイツ北東部，バルト海に面する地方。ドイツ平原の一部をなし，湖沼が多く，また肥沃(ひよく)な農業地帯である。主要農産物は大麦・テンサイ・ジャガイモなど。言語上は方言の多い地方である。主要都市にロストック・シュトラルズント・シュベリンなどがある。

めぐろ　【目黒(区)】　東京都23特別区の一つで，南西部の区。北は渋谷(しぶや)，南は品川・大田，西は世田谷(せたがや)の各区と接する。面積14.4km²，人口26万4,000。1932年(昭和7)東京市の市域拡張に伴い，荏原(えばら)郡の目黒・碑衾(ひぶすま)の2町が合併して成立，1947年そのまま東京都の特別区となった。区域は武蔵野(むさしの)台地の一部をなす目黒台・荏原台上にあり，北東部には目黒川，南西部には呑(のみ)川が流れて，台地に谷を刻む。東京急行電鉄東横線がほぼ中央部を横浜へ向けて走り，その沿線は昭和初期以来住宅地として急速に開けた。都立大学駅から自由ケ丘駅へかけての北側高台は都内でも有数の高級住宅地帯である。目黒川の低地には中小工場が集まり，北部の大橋付近の台地上には世田谷区とまたがって旧練兵用地を転用した団地や建設省国土地理院がある。文教施設も区域内に多く，北東端の駒場(こまば)地区には東京大学教養学部・東京教育大学農学部および旧軍施設を転用した多くの学校群があり，西部には東京都立大学・東京工業大学その他の学校が集まる。国電山手線は南東端をかすめて走るが，目黒駅は地名の起源となった目黒不動とともに品川区域に属する。主要道路には目黒川の谷沿いにほぼ南北に走る山手通りと，これと交差して都心から郊外へ向かう玉川通り・駒沢通り・目黒通りなどがあり，商店街は目黒駅前の権之助坂(ごんのすけざか)，東京急行電鉄東横線の中目黒駅前，自由ケ丘駅前に発達する。
〔浅井得一〕

メゴチ　⇨ネズッポ

メコン(川)　［Mekong］　東南アジア，インドシナ半島を流れる大河。長さ4,020

km，流域面積約80万km²。チベット高原南東部に発し，中国雲南省を経て，ビルマ・タイ・ラオスの国境を流れ，カンボジアおよび南ベトナムを貫流して河口に巨大なメコン-デルタを形成しながら南シナ海に注ぐ。モンスーン地域にあるため水量の季節的変動が激しく，乾雨季の差は10mに及ぶ。しかし雨季の洪水（こうずい）・氾濫（はんらん）は平野一面に肥沃（ひよく）な土壌（どじょう）をもたらし，米作を中心とする東南アジアきっての穀倉地帯をつくりあげている。最近この川の流量調節・灌漑（かんがい）などを目的とした総合開発計画が着工された。〔大石堪山〕

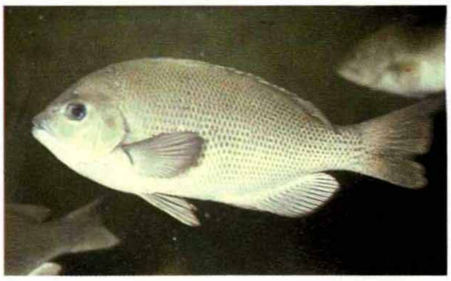
メコンがわかいはつけいかく【メコン川開発計画】 チベットに発し，インドシナ半島を流れる大河(全長4,020km)の開発計画で，1955年ごろから，エカフェ*が中心となって進めている。多数国に流域をもつ国際河川開発のモデルとして，メコン川の本・支流の各所に水量調節のダムを建設し，雨季における洪水（こうずい）防止，乾季の塩害防止，水力発電，灌漑（かんがい），漁業開発などを進め，流域諸国の経済的・社会的開発を図ろうとするものである。ラオス・タイ・カンボジア・ベトナムの流域4か国で構成する〈メコン川下流域調査調整委員会〉(通称メコン委員会，1957年設立)が中心になり，わが国を含む26か国および16に及ぶ国際機関の資金的・技術的援助のもとに，総合開発が進められている。〔深海博明〕

メーザー ⇨レーザー

めざましんぶん【めざまし新聞】 明治初年代の自由党系日刊新聞。1884年(明治17)星亨*（とおる）が創刊した《自由燈（じゆうのともしび）》を前身とし，1886年《燈新聞》，1887年《めざまし新聞》と改題した。しかし同年12月保安条例*で星亨が東京を追われたため，翌年7月大阪朝日新聞社の村山龍平*（りゅうへい）が経営権を買収して《東京朝日新聞》と改題，これが《朝日新聞*》の基となった。

めざましどけい【目覚時計】 置き時計の一種で，予定した時刻にベルを鳴らすことができるもの。予定時刻に指針と時針が一致すると，カム車が打ちぜんまいに取り付けた槌（つち）の押えばねをはずし，ベルを打つしくみで，オルゴール・ブザーを使ったものや，打音が断続したり，しだいに強くなったりするものなどもある。最近では腕時計にも目ざまし機構を備えたものがあり，その最初は1947年にスイスでつくられた。〔元持邦之〕

メシア［Messiah］ ヘブライ語で〈油を塗られた者〉の意で，特に王をさす。やがてイスラエル人が長い被圧迫民族としての生活を送るに至って，自分たちを解放する救世主としての理想の王を待望する思想が，とりわけ預言者の間で生まれた。イエスはこのふんい気の中に登場し，みずからもメシアとしての自覚を有したといわれる。しかし，イエスは地上の王国ではなく，天上の王国を説いたために，イエスをメシアと認めないユダヤ教から，メシアと認めるキリスト教がはっきり分離した。なお，キリストはメシアのギリシア語訳である。〔石井忠厚〕



メジナ



メジロ

メシアン［Olivier Messiaen］(1908〜) フランスの作曲家。その斬新（ざんしん）な作風により，第2次世界大戦後の前衛音楽に決定的な影響を与えた。文芸学者を父に女流詩人を母に南フランスのアビニョンに生まれ，8歳のころからピアノと作曲を始めた。1919年パリ音楽院に入学し，以後12年間にわたって音楽院に在学し，ジャン-ガロン・ノエル-ガロン・マルセル-デュプレ・モーリス-エマニュエルらに師事して作曲や音楽理論を学んだ。熱心なカトリックの信者であるメシアンは，オルガン曲《昇天》《主の降誕》，弦楽四重奏曲《世の終わりのための四重奏曲》などを発表して，作曲家としての地位を獲得した。1942年パリ音楽院の教授となり，《アーメンの幻影》《幼児（おさなご）イエズスへの20のまなざし》《トゥーランガリラ交響曲》などの傑作を書いた。以後ダルムシュタット夏期講習の講師をつとめて若い世代に多くの影響を与えるかたわら，世界各地の鳥の声を素材にした創作活動を続けている。〔船山 隆〕

メシエ［Charles Messier］(1730〜1817) フランスの天文学者。バドンビレの生まれ。パリのクルニ館の天文台員となり，彗星（すいせい）の研究に専念し，多くの彗星を発見。また彼は彗星観測の際，星雲や星団と区別するため，1781年その目録をつくった。これには103個の天体が含まれ，その目録番号はメシエ番号(略号M)として今日でもなお使用されている。

メシェッド［Meshed］ マシュハドともいう。イラン北東部の都市。人口59万2.000(1971)。標高約1,000mの高原に位置し，付近はイラン有数の農耕地帯をなし，麦・綿花・ビート・くだもの・羊毛を産し，絨毯（じゅうたん）製造でも知られる。古くからアフガニスタン・中央アジアへの通商の要路として栄えた。西方にある首都テヘランとは鉄道で結ばれる。9世紀に建造されたイスラム教シーア派第8代イマーム-レザの廟（びょう）があり，中世以降はこの廟を中心に発展し，イスラム教徒の聖地の一つとされた。第2次世界大戦中はソ連軍に占領された。地名はアラビア語で〈殉教の地〉の意。〔今井留吉〕

めじな 硬骨魚類・メジナ科。体長30cmほどの海産魚。和歌山・高知でグレ，静岡県静浦でクシロ，大阪でブレなどという。背びれ13棘（きょく）15軟条，臀（しり）びれ3棘12軟条。体は卵形で側扁（そくへん）し，体色は緑紫色で，目は青色。幼魚ではしばしば雲状の斑紋（はんもん）が現われることがある。日本北部から台湾・東シナ海に分布，沿岸の岩礁帯に生息するが，幼魚は潮溜（しおだま）りにもはいる。肉は磯（いそ）臭い。〔安田富士郎〕

メーシーひゃっかてん【メーシー百貨店】 R. H. Macy & Co., Inc. アメリカの代表的百貨店。1858年創立。ニューヨークの本店は世界一の店舗面積を誇る。ほかにニュージャージー・カリフォルニア・ジョージア・ミズーリ・カンサスなどに支店をもち，それぞれの大都市郊外に衛星店を配している。店舗数62。年間売上高9億6.000万ドル，従業員数38,000(1971)。

メシュトロビッチ［Ivan Meštrović］(1883〜1962) ユーゴスラビアの彫刻家。はじめウィーンなどで学んだが，1907年パリに出てロダンの強い影響を受けた。激情的力強さと誇張された動きをもつ独特の作風で，記念碑的大作を数多く制作した。

めじろ【目白・繡眼児】 鳥類・メジロ科の総称およびそのうちの一種。日本・中国東南部など旧北区の一部，東洋区・大洋区・エチオピア区に広く分布する。いずれも全長10cm強の小鳥で，上背面黄緑色，下面白色ないし淡黄色，胸やわきは淡かっ色で，一般に目の回りに白色の環状羽がある。12属85種からなるが，上記の形態と羽色の属間および種間の差異は，他に例のないほどに少ない。こん虫類・花蜜（かみつ）・果実をおもに食べる。ミツドリ科・タイヨウチョウ科・ハナドリ科と本科の鳥が旧世界産の花蜜食性の鳥のグループであり，舌の先はミツドリ科と同様にブラシ状である。メジロ科の一種のメジロは，日本全国の山地に普通に分布し，繁殖している。秋から春には，数羽ないし100羽ぐらいの群となって平地に降りてくる。ツバキの花蜜を特に好み，熟したカキも好物である。メジロ類は島などに定着すると亜種・種へと分化する傾向が強く，日本産のものも学者によって

は6～8亜種に分類される。〔安部直哉〕

めす【雌】雌雄異体の生物で卵をつくりだす個体をいい，雄*に対して用いる。下等な生物で卵・精子といった区別の分化がはっきりしないときは，大配偶子を生じるほうを雌という。雌を表わす記号は♀。

メス［mes］手術や解剖に用いる外科刀。刃先が丸くなっている円刃刀と刃先がとがっている尖刃刀(せんじんとう)との2種類があり，前者は皮膚や皮下組織などを切開するときに，後者は体腔(たいこう)内でメスの刃先を利用して細かい操作をするときに用いられる。なお，特殊なものとして骨メス・電気メスがあり，前者は骨膜を切開するときに，後者は電流を通じて金属板を熱し，そのとがった先端で組織や臓器を切断するときに用いる。

メス［Metz］フランス北東部，モーゼル川河岸の都市。人口10万8,000(1968)。森林でおおわれた丘陵地に位置し，南方50kmのナンシーと鉄道で結ばれるなど交通の要地でもある。フランスとドイツの国境地帯にあって，軍事基地として歴史上名高く，フランクフルト条約でドイツへ割譲されたロレーヌ地方の中心であった。1919年フランスに返還された。

メース［Mace］アメリカの戦術用地対地ミサイルの一。マーチン社開発によるジェット推進式有翼ミサイル。マタドールの発達型で，A・B・C 3型がある。慣性誘導方式を採用し，核弾頭が標準装備で，発射重量6～8t，射程1,000～2,000km。B型は沖縄に配備されていたことがある。

めすあかむらさき【雌赤紫蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科。翅(はね)を広げた長さ70～90mm。メスグロヒョウモンとともに雌雄異型の最も顕著なチョウの一つで，色彩形状からは雌雄が別種のように思える。雄は黒かっ色，前翅翅端部に小さな白紋，中室外側に大きな白紋があり，後翅の中央にも同色の大きな円紋がある。この白紋の周囲は光線により紫色に輝く。雌は橙黄色で，前翅前縁部と外縁は幅広く黒かっ色となり，前翅の翅端部に白色の斜帯がある。この雌はマダラチョウ科のカバマダラに似ており，擬態しているともいわれる。成虫は5月ごろから出現し，花に飛来する。幼虫はスベリヒユを食べる。沖縄に普通で，本州・四国・九州の各地で迷チョウとして採集されることがあり，偶発チョウとしては採集記録の最も多い種である。国外ではオーストラリアを含む東洋熱帯に広く分布し，その他アフリカ・アメリカの熱帯・亜熱帯地方に産する。〔多々内修〕

メスエンじょうやく【メスエン条約】1703年イギリスとポルトガル間に結ばれた条約。ポルトガルがイギリスにスペイン継承戦争*参加を約束するとともに，ポルトガルの対イギリス経済的従属を決定的にした。イギリス毛織物の無税輸入はポルトガルの家内工業を破壊し，イギリスのポルトガルぶどう酒輸入の関税引き下げは，工業発展の可能性をもっていた北部農村をイギリス資本に結びつけ，一般にポルトガル市場をイギリスの独占下に置く結果をもたらした。〔大野慎一郎〕

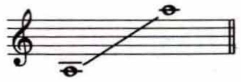
メスチゾ［mestizo］アメリカ-インディアンとヨーロッパ人，あるいはヨーロッパ人とニグロまたはマライ人との交雑の結果生ずる混血。南アメリカには1,600万人のメスチゾが生存し，インディオの2倍の数に上る。新世界では3,900万人に上る。パラグアイでは住民の97%がメスチゾであり，ベネズエラでは70～90%である。メキシコ，中央アメリカでは1,200万～1,300万人のメスチゾがいる。

メースフィールド［John Masefield］(1878～1967) イギリスの詩人。ヘレフォードシャーの弁護士の子として生まれる。早く両親に死別し，少年のときから海員生活にはいり，ニューヨークその他を放浪。1902年《海水民謡詩集》を発表し，海の詩人として知られた。1930年桂冠(けいかん)詩人となる。叙事詩《永遠の慈悲》のほか，多くの詩や戯曲がある。

メセタ［Meseta］イベリア半島，スペインのほぼ4分の3を占める高原の総称。スペイン語で台地の意。おもに古生層と結晶質岩石からなる。平均高度600m以上であるが，中央部にほぼ東西にグアダラマ山脈・トレド山地などの地塁性山地が走り，台地は南北の二つの広い盆地に分かれる。これらは盆地といっても高原状をなし，一般に平坦(へいたん)である。メセタは全体として西に傾いているので，エブロ川を除いては河川はいずれも西流し，メセタの縁辺部では深い谷をつくったり，滝または早瀬となったりする。そのため海岸と内陸との交通の障害をなしている場合が多い。気候は，台地であるため大陸性に近く，大部分の地域は年降水量600mm以下の乾燥した地中海型の気候である。植生は硬葉常緑樹が卓越するが，雨の少ない地域はステップ的になり不毛である。主作物は小麦であるが，牧畜も行なわれている。〔大石堪山〕

メソジストきょうかい【メソジスト教会】J.ウェスリー*に起源をもち，主としてアングロサクソン文化圏に展開したプロテスタント系教会の一。ウェスリー自身はイギリス国教会の司祭であったが，その教説が教会に受け入れられなかったため野外説教を行ない，やがて1739年ブリストルに最初のメソジスト会を設立した。1744年，第1回年会において教理の標準を定め，1795年，正式にイギリス国教会から分離した。信仰体験の重視を基本にして，社会的関心が強く，労働者のための教育や禁酒矯風(きょうふう)に熱心である。その後イギリス・アメリカ合衆国において多くの分派を生じたが，その分裂は教理上の問題よりは教会政治上の問題に原因があった。現在，信徒数は約1,900万人に及ぶ。日本においては1873年(明治6)設立の美以教会に端を発し，分裂と合同を経て日本メソジスト教会となり，本多庸一を初代監督に選んだ。現在の信徒数約30,000と称し，青山学院大学・関西学院大学神学部で伝道者を養成している。〔堀越知巳〕

メゾ-ソプラノ［mezzo soprano］女声の中間音域で，ふつう下図の音域である。ソプラノ*ほど声に輝きはないが，内面の表出にすぐれている。



メゾチント ⇨銅版画

メソポタミア［Mesopotamia］チグリス・ユーフラテス両川の流域地方の古代名。ギリシア語で両川地方を意味する。およそ34°Nを境に北部はアッシリア*，南部はバビロニア*とよばれ，バビロニアは古くは北半がアッカド*，南半がシュメール*とよばれた。両川の氾濫(はんらん)がもたらす肥沃(ひよく)な沖積土(ちゅうせきど)に人工灌漑(かんがい)を行ない豊かな収穫をあげ，都市を中心に世界最古の農耕文明の一つが成立した。先住民族については不詳であるが，開放的な地形のために，紀元前4世紀以後シュメール人・アッカド人・グティ人・エラム人・アムル人・アッシリア人・カッシート人・フルリ人・カルデア人・ペルシア人などが，あいついで侵入し，その一部あるいは全部を支配する王朝を建てた。シュメール文明はエジプト文明と並んで世界最古の文明であり，ともに古代オリエント文明を代表する。これを継承発展させたバビロニア文明は古代西アジア全体に広がり，ギリシア科学をはじめとして古典古代文明に大きな影響を及ぼしている。➔オリエント〔屋形禎亮〕

メソポタミアびじゅつ【メソポタミア美術】メソポタミア地方チグリス・ユーフラテス両河の流域で，BC3000年ごろからBC539年ごろまでに栄えた美術。メソポタミア地方は人類最古の文明が発祥した地方で，BC5000年ごろから文化活動が始まり，練土の家，幾何学文のある土器などが出土している。〈シュメール〉およそBC3000年ごろ新たに外カピアン地方から移住してきたシュメール人が支配力を強めた。キシュ・ウルク・ウル・マリなどの都市跡から，動物や人間を彫ったスタンプ形印章・円筒印章，緑色がかった素地に幾何学文のある土器などの遺物が多く発掘されている。建築はウルクのA・B・C・Dと名づけられた四つの神殿，ウルクの白神殿，カファジェのシン神殿などの神殿と，ウルの王墓などの墳墓によって代表されるが，早くから焼成れんがによる円蓋(えんがい)や筒形ボールトなどが用いられている。また，ジッグラトという層塔を建てている。〈バビロニア〉

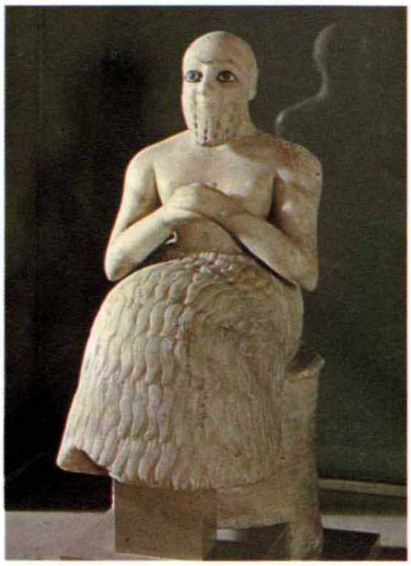
アッカード王朝のあと，蛮族のグティ王朝，ウル第3王朝の新シュメール時代と続くが，BC1830年ごろセムの一族アムルル人がバビロン第1王朝を興し，ハンムラビ王の時代に最も盛んになった。美術の性格はシュメール美術の伝統を吸収したものであるが，多く侵略されて遺物は少ない。ウルで2階建ての住居跡が発掘された。彫刻に，スーザ出土の〈ハンムラビ王法典碑〉がある。**《アッシリア》** 紀元前14世紀以来独立国として発展したが，紀元前8～紀元前7世紀にかけて大帝国を築いた。アシュル・ナシル・アプリ2世のニムルード宮殿，サルゴン2世のコルサバード宮殿などが代表的遺構である。多くシュメール・バビロニアの伝統を継いだが，戦争や狩猟など王権を誇示する浮彫に独自の表現を発展させた。アシュル・バン・アプリ王のニネベ宮殿のライオンの間の浮彫などが代表的な作例である。**《新バビロニア》** 紀元前7世紀の末に，カルデア人ナボポラサルがアッシリアを倒しバビロンにカルデア王朝を興した。代表的遺構はナボポラサルと子のネブカドネザルの時代のバビロンの建築物であり，城壁・王宮・神殿・住宅などが含まれる。カルデア王朝はBC539年にペルシアに滅ぼされ，その後メソポタミアはペルシア人の支配するところとなったが，その美術はペルシア美術に受け継がれ西アジア美術の中核をなすことになった。〔末吉雄二〕

メソン ⇨中間子

めだい 硬骨魚類・イボダイ科。全長90cmに達する海産魚。高知でダルマ，室戸岬(ざき)(高知県)でメナなどとよぶ。体は卵形で側扁(そくへん)し，背びれ7～8棘(きょく)22～26軟条，臀(しり)びれ3棘18～19軟条。若魚は黒っぽいが，全長50cmぐらい以上では薄赤いものが多い。幼魚は胸びれが丸みをおび，体側に黄色をおびた波状のしまがある。日本各地の深所からかなり多量にとられる。食用魚で，さしみ・照り焼きなどにされる。

めだか **【目高】** 硬骨魚類・メダカ科。全長2.5～4cmほどの淡水魚。背びれ6軟条，臀(しり)びれ15～21軟条。雄では背びれの後縁に欠刻があり，臀びれは雄のほうが大きい。日本・朝鮮・アジア大陸東部・台湾・海南島に分布し，池・沼・水田・小川などの水面近くを群泳する。浮遊性の小動物を食べ，東京付近では4～10月ごろに付着卵を産む。ヒメダカ・シロメダカ・アオメダカは飼育品種で，これに対して天然に生息している緑かっ色のものをノメダカということもある。実験用・観賞用に適するじょうぶな小魚である。〔安田富士郎〕

メタクリルさん **【メタクリル酸】** $CH_2=C(CH_3)\cdot COOH$ α-メチルアクリル酸のこと。アセトンシアンヒドリンを希硫酸で加水分解すると得られる。刺激臭のある無色のプリズム状結晶。融点16℃，水・アルコール・エーテルに可溶。酢酸より酸性が強く，腐食性がある。重合しやすく，特に加熱時に微量の塩化水素の存在下などで容易に重合する。還元するとイソ酪酸になる。水溶性高分子化合物の合成原料，ビニル化合物との共重合体の原料，イオン交換樹脂の原料として使われる。〔石戸良治・荒木洋之助〕



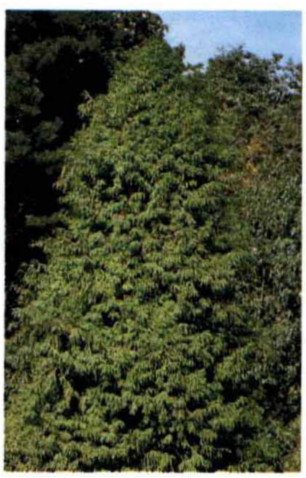
メソポタミア美術 《代官エビ-イル像》 ユーフラテス中流マリ出土 ルーブル美術館蔵



メ ダ イ



メ ダ カ



メタセコイア

メタクリルさんじゅし **【メタクリル酸樹脂】** ⇨アクリル樹脂

めだけ **【女竹】** 単子葉植物・イネ科。川べや海岸近くに藪(やぶ)をつくって群生する常緑性のタケ。地下茎は広く横走する。茎は高さ3～6m，径1～3cmほどで中空，上部はよく分枝する。葉は枝頂に数枚が掌状につき，長さ10～25cmの狭披針(ひしん)形で先端は長く鋭くとがる。まれに開花し，のち枯死する。たけのこは5月ごろに出て，タケの皮は暗緑色から白黄色に変わり，長く茎に残存する。たけのこは食べられるが辛味がある。茎はかきね・支柱・ざる・かご・筆軸などに用いる。

メタスタージオ ［Pietro Metastasio］(1698～1782) イタリアの詩人・劇作家。早熟な詩才に恵まれ，ウィーンの宮廷詩人として生涯(しょうがい)のほとんどを過ごした。《見棄(す)てられたディドーネ》《アソティリオ-レゴロ》ほか，音楽劇や宗教劇など作品は多数。詩と音楽の調和，悲劇と喜劇の融合を特色とした。

メタセコイア ［*Metasequoia*］ 裸子植物・スギ科。アメリカに現存するセコイア属によく似た化石植物で，葉が対生すること，細いこと，球果に柄があり，鱗片(りんぺん)が対生していることなどがセコイアとの区別点である。世界各地から化石として出てくるが，第2次世界大戦後，中国四川省で現生種が発見され，*Metasequoia glyptostioboides*(和名，アケボノスギ)と命名された。これは現在，わが国でもよく庭園に植えられている。生長が早く，葉質が柔らかく，樹形のよい種類である。冬に黄葉して，小枝ごと落葉する。

メタセンター ⇨復原性

メタノール ⇨メチルアルコール

メタリコン ⇨金属溶射法

メタリックヤーン ［metalic yarn］ 金属を細く引き伸ばした糸。金属糸ともいう。金属としてはアルミニウム・金・銀・銅-亜鉛合金などが用いられ，以前は箔(はく)として利用したが，最近では金属を真空蒸着したプラスチックフィルムも用いられる。広く金銀糸と称せられるのは金箔・銀箔を絹糸・人絹糸などにらせん状に巻きつけた糸で，ふつうラミー織物に交織される。その輝きの美しさから装飾用の衣料として，豪華なドレス・金襴(きんらん)・銀襴などの帯地・能衣装などに用いられる。〔小川安朗〕

メタルハライドとう **【メタルハライド燈】** 水銀蒸気封入の発光管内に，ヨウ化

タリウム・ヨウ化インジウム・ヨウ化ナトリウムなどの金属ハロゲン化物を入れた画期的白色放電燈。従来の高圧水銀燈に比べ50％明るいので，広場・商店街から高天井室，空港のエプロン照明など，螢光(けいこう)高圧水銀燈照明の分野に進出しつつある。色の見え方は白色螢光燈程度で，これは青・緑・黄赤・赤の線スペクトルの組み合わせによる原子発光のためである。また，陽光ランプという高演色メタルハライド燈では，水銀蒸気封入の発光管内に，ヨウ化スズを添加し，自然昼光に近似の連続スペクトルによる分子発光であり，明るさは高圧水銀燈と同等，色の見え方は格段によく，わが国独自の世界的発明品である。一般照明用として今後の普及が期待される。

〔伊東　孝〕

メタルフォーム ［metal form］ 鋼製型わくのこと。コンクリートを打設する際の囲いとして用いられる。型わく材料としては木材・合板・硬質繊維板・特殊硬質紙・プラスチックなどがあるが，他の型わくに比し，打ち上げ表面が平滑・美麗かつ精度が高い，水密性が高い，組み立て解体が容易，転用性にすぐれる，寿命が長いなどの特徴がある。1955年(昭和30)ごろより使用が開始され，ダム・橋脚，その他の土木用構築物には打ち放し仕上げとして盛んに用いられているが，建築関係では対象の変化が大きいので使用はあまり伸びていない。鋼製のため，寸法の端数が出ると加工が容易でないので，設計の際には型わく寸法を考慮して断面・長さを決定しなければならない欠点がある。 〔神山幸弘〕

メタン ［methane］ CH_4 最も簡単なメタン系炭化水素。沼や湿地の泥中(でいちゅう)で有機物の腐敗，発酵により生成し，古くから沼気(しょうき)の主成分として知られている。天然ガス中や石炭・石油留分などの熱分解・接触分解・水素化分解などの際に発生するガス中にも含まれる。無色，引火性のある気体で，純粋なものは無臭。融点－182.7℃，沸点－161.58℃，化学的に非常に安定。1,200℃付近の温度で短時間(1/100秒程度)分解するとアセチレンが得られる。また酸素や空気で部分酸化するとメチルアルコール・ホルムアルデヒドを生じる。光化学的にハロゲンと反応して，ハロゲン化物の混合物を生じる。アンモニアおよび酸素とともに白金触媒の存在下で1,000～1,100℃にするとシアン化水素が得られるが，この方法は工業的に利用されている。その他家庭用・工業用の燃料としても用いられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

メダン ［Medan］ インドネシア，スマトラ島北岸の都市。人口63万6,000(1971)。スマトラ島第1の都市で，市街はデリ川両岸に広がり，近郊は風化した火山灰質土壌(どじょう)に恵まれ，農園が集中している。特に葉巻用デリータバコ(スマトラタバコ)は有名で，ゴム・茶の産額も多い。19世紀のタバコ農園の開発とともに発展し，農産物の集散をなす商業の中心地になった。北方にはインドネシア第2の貿易港で外港でもあるブラワンがある。また，国際・国内航空路用の空港をもち，スマトラ島縦断道路も通じている。川の西岸は官庁や住宅が多いヨーロッパふうの近代都市で，東岸はイスラム教の大寺院や華僑街(かきょうがい)があり，原住民の密集する居住区となっている。

〔別技篤彦〕

メタンけいたんかすいそ 【メタン系炭化水素】 脂肪族飽和炭化水素の総称。パラフィン系炭化水素，あるいは単にパラフィンともいう。結合はすべて単結合で，炭素骨格は鎖状で，環状構造は含まない。一般式 C_nH_{2n+2} メタン・エタン・デカン・イソブタン・エイコサンなどがある。反応性は非常に小さい。CH_4 から $C_{70}H_{142}$ あたりまでのものは石油中に含まれる。高級パラフィン類の固体ろうがオゾケライトとして東ヨーロッパに産出する。低級のものは無色無臭の気体，C_5H_{12} から $C_{16}H_{34}$ あたりまでは無色の液体，さらに高級なものは白色固体となりろう状を呈する。ガス状のものは燃料ガスとして，液状のものはガソリン・燈油・軽油・重油・潤滑油などとして用いられる。固体のものはパラフィンろうとして用いられる。 〔石戸良治・荒木洋之助〕

メチオニン ［methionine］ $H_3C\text{-}S\text{-}CH_2CH_2CH(NH_2)COOH$ 含硫アミノ酸の一種で，必須(ひっす)アミノ酸の一。L-型は多くのタンパク質に広く分布しているが，加水分解によって得られるメチオニンの量は通常きわめて少量である。卵白アルブミン・カゼインには比較的多く含まれる。生体内での種々の化合物のメチル化反応に，メチル基供与体として重要な役割を果たし，D-メチオニンは生体内で相当するケト化合物を仲介としてL-型に変換しうる。

メチルアルコール ［methyl alcohol］ CH_3OH メタノール・カルビノール・木精ともいう。木材乾留で得られるが，工業的には水性ガス(一酸化炭素と水素)を高圧で接触反応させて製造される。刺激臭がある無色透明な液体。可燃性・流動性・揮発性を有する。融点－96℃，沸点64.65℃，水・エチルアルコール・エーテルに任意の割合で混ざる。毒性があり，通常8～20gで失明し，30～50gで死に致る。メチルエステル類，メチルエーテル類やホルマリンの合成原料，および燃料・溶剤・分析試薬などに利用される。〔石戸良治・荒木洋之助〕

メッカ ［Mecca］ サウジアラビア西部，紅海岸ヘジャズ州南部のジッダ港東方約60kmにある都市。人口36万7,000(1974)。近代的高層ビルが林立する一方，古いアラブの町が広がる。ここはイスラム教祖マホメットの生育・開教の地として，イスラム世界の聖都とされ，世界各地で行なわれる信徒の礼拝は場所の如何(いかん)を問わずメッカに向かって行なわれ，その表象の黒色聖石を安置する神殿がある。イスラム暦の巡礼月には世界各地から巡礼者が雲集する。

〔今井留吉〕

めっき 物体表面を金属で被覆する方法の総称。鍍金(ときん)ともいう。古くは水銀中に金をとかして金アマルガムとし，これを塗ったのち，加熱して水銀を蒸発させて金のめっきを行なった。このめっき材料を滅金といい，これを塗ることを塗金といった。その後，滅金がめっきに，塗が飾るという意味の鍍に転じて鍍金となった。しかし，明治以後，各種のめっき方法が開発研究され工業的に重要な技術となるに及んで，装飾的意味の強い鍍金の用語は使われなくなった。現在行なわれているめっきの方法を分類すると表のようになる。〔上田重明〕

金属めっき法の分類

分類	被覆金属	被覆方法 (一般的呼称)		被覆層(めっき層)形成の原理
乾式めっき	融体	溶融めっき		溶融金属浴中に，被めっき体を所要時間浸したのち取り出し，溶融金属を凝固させて被覆する(固相-液相間の拡散・浸透)
		溶射めっき		金属を溶融し，空気あるいはガスによって被めっき体表面に噴射する(被覆層は機械的に付着)
	気相	気相めっき	真空蒸着	真空中あるいは減圧容器中で金属を加熱蒸発させ，被めっき体表面に凝固させる(蒸着)
			スパッタリング	減圧容器中でグロー放電を起こさせ，陰極のスパッタリング現象を利用してめっきする
			化学気相めっき	加熱されている被めっき体の表面に，金属化合物の蒸気を送り，物体表面における反応によって被覆する
	固相	合わせ圧延法 (クラッド法)		2種以上の金属・合金を張り合わせ圧延する(合わせ圧延)。または鋳型内に被めっき体を置き，溶融金属を鋳込む(鋳ぐるみ)
湿式めっき	水溶液	電気めっき		電解質溶液に2本の電極を浸して，直流を通電し，陰極の被めっき体に金属を析出させる
		化学めっき		金属塩の溶液中に被めっき体を浸し，イオンの置換反応あるいは酸化・還元反応によって金属を析出させる

めっきん【滅菌】 試料その他の物質・衣料・容器やへやの中などに通常混在して生存している微生物を，すべて殺してしまうこと。微生物の有害作用を除去したり，滅菌後単一の微生物を増殖させたりする目的で行なう。耐熱性の物質の場合は160℃以上に30分加熱する乾熱滅菌，液体や寒天培地などは121℃の温度で15ポンドの水蒸気圧を15分以上かける高圧滅菌，100℃の水につける煮沸滅菌，エチレンオキサイドによるガス滅菌，紫外線や放射線の殺菌力を利用する方法など，材料の物理的性質に応じて各種の方法がある。胞子をつくる微生物を殺すには間欠滅菌といって1日1回3日間くらい滅菌をくり返すこともある。また，アルコールなどの化学物質による滅菌法もある。〔和気 朗〕

めつけ【目付】 室町時代以降の武家の職名。元来は戦陣における監察者の意。室町初期，所司代*の配下に置かれた横目に始まる。戦国時代には，大名が被官や土豪および敵国の内情を探るため設置したが，安土桃山時代に常置の職となった。1617年（元和3）江戸幕府は目付10名を設置し，若年寄*の支配下で旗本*(はたもと)・御家人*の監察にあたらせ，1639年（寛永16）月番制を定めて職制を整えた。役高は千石。諸藩も同様の制度を置いた。→大目付

メッシナ［Messina］ イタリア南部，シチリア島北東端のメッシナ海峡に臨む港市。人口26万1,000（1975）。ヨーロッパ有数の天然の良港で，背後の丘陵から望む風景が美しい。市街は1908年に大震災を受けて，80,000人近くが死亡した。くだものの輸出が多く，絹織物を産し，漁業も盛んである。紀元前9世紀から知られた町で，13世紀から1713年まではスペイン領であった。

メッテルニヒ［Klemens Wenzel Lothar, Fürst von Metternich］（1773～1859） オーストリアの政治家。ラインラントの貴族の出で，宰相カウニッツ*の孫娘と結婚して順調に政界に出，フランス駐在大使を経て，1809年外相となった。以来40年，事実上オーストリアの指導者として国政にあたり，ナポレオン戦争*でもロシアと結んでナポレオン打倒に協力した。ウィーン会議*では議長として諸国間の利害調整に努め，ウィーン体制を確立してヨーロッパの保守的再建にあたり，神聖同盟*・四国同盟*を利用して自由主義・国民主義運動をきびしく抑圧した。強固な正統主義思想の持ち主で反動勢力の中心人物であったが，1848年ウィーンの三月革命*で失脚，イギリスに亡命したが1851年帰国し，ウィーンに没した。〔松 俊夫〕



メッテルニヒ

メーデー［May Day］ 毎年5月1日に労働者が示威の集会・行進によってその団結の力を示す統一行動日および労働者の祭典日。1886年5月1日アメリカのシカゴを中心に行なわれた8時間労働制を要求する労働者のゼネストを記念して第1回の行動を起こしたことに始まる。1889年パリで開催された第2インターナショナル（→インターナショナル）の創立大会では，毎年5月1日をメーデーとして，8時間労働制などを要求する闘争日とすることが定められ，1890年に第1回の国際メーデーが行なわれた。日本では，1920年（大正9）に第1回メーデーが約10,000人の労働者を結集して開かれ，第2次世界大戦後は第17回メーデーから大規模な形で復活した。〔河井研一〕

メデイア［Medeia］ ギリシア神話の女性。コルキス王アイエテスの娘で，太陽神ヘリオスの孫，キルケー*の姪(めい)。魔法にすぐれ，イオルコス王子イアソン*を助けて黄金の羊皮を手に入れさせた（→アルゴナウチカ）。イアソンとの間に2人の子どもをもうけたが，数々の危険と罪を犯してコリントにのがれた。この地でイアソンは心変わりをして，コリント王女と縁組みをしたため，彼女は怒りと嫉妬(しっと)に狂って王女を焼き殺し，わが子2人を殺害して夫に復讐(ふくしゅう)した。

メディア（王国）［Media］ BC675～BC550年ごろ，インド-ヨーロッパ系の遊牧民メディア人がカスピ海南西の山地（現在のイラン北西部）に建てた王国。メディア人は言語・人種ともペルシア人に近く，紀元前2世紀初めよりこの地に住み，アッシリア*・ウラルトゥ*の支配をうけた。紀元前7世紀前半，プラオルテス王のもとにスキタイ人の支援を受けてアッシリアより独立，その子キュアクサレスは，BC612年新バビロニアのナボポラッサル王と同盟してアッシリアを滅ぼし，小アジアのリディア王国と和平し，イランの大部分，ウラルトゥ王国の旧領，カッパドキアの一部を含む大王国を建設した。しかし王国内には多くの半独立の地域や種族をかかえ，さらにバビロニアとの抗争が王国の基盤を弱め，次のアステュアゲス王は属領ペルシアのキュロス2世*に敗死し，王国はペルシアの支配下にあった。その文化については詳しくはわからないが，ゾロアスター教の至高神アフラ-マズダの信仰など，アケメネス朝ペルシア文化と共通する点が多いとみられる。〔屋形禎亮〕

メディチけ【メディチ家】 ルネサンス期のフィレンツェの支配者。14世紀後半チオンピの乱*に味方し小市民の人気を得て台頭，ジョバンニ（1360～1429）は金融業をはじめて産をなし，また大市民をおさえて小市民の支持を固め市政に重きをなした。その子コシモ（1389～1464）は金融業を拡張して教皇・諸君主に融資し，その代償として得た鉱山経営・商工業により巨富を積み，その富を利用し黒幕として市政を左右した。彼はまた文芸を保護し，そのもとでフィレンツェはルネサンスの一大中心となった。その孫ロレンツォ（1449～1492）は政敵を排除して専制君主の地位を確立し，その富力と外交により内外に威信を高め，メディチ家の最盛期をもたらした。ルネサンスも彼の保護奨励により絶頂期に達した。しかしその晩年すでにその財力も傾き，その一門から教皇（レオ10世ら）を出したが，次代ピエロ2世のときフランス侵入軍と結んで，市民により一時フィレンツェから追われ，7代めの大公ジャン-ガストーネ（1671～1737）の死によって家系は断絶した。〔大野慎一郎〕

メーデーじけん【メーデー事件】 1952年（昭和27）5月1日のメーデーで起こったメーデー参加者と警官隊との衝突事件。対日講和条約・日米安全保障条約の発効4日めに行なわれた第23回メーデーは，両条約への不満と，皇居前広場の使用不許可が結びついて参加者の怒りを買い，事件は発生した。デモ隊は散会予定地であった日比谷(ひびや)公園に着いたのち再び行進を始め，皇居前広場に進入して警官隊と衝突した。その際，警官隊はピストル・催涙ガスを発射してデモ隊を襲撃，大乱闘となった。これによりデモ隊は死者2名，重軽傷者多数を出した。この事件で1,200余名が逮捕され，そのうち261名が騒擾(そうじょう)罪で起訴された。1970年1月統一公判を要求した被告203名のうち，110名が無罪，93名が有罪の判決を受けた。検察側が控訴しなかったため無罪は確定したが，現在有罪となった被告全員は控訴中。〔原田政洸〕

メデリン［Medellín］ 南アメリカ北部，コロンビア共和国中西部の都市。人口91万3,000（1968）。海抜1,500mの高所に位置し，熱帯であるがしのぎよい。コーヒーの集散地であるとともに，この国の経済の中心をなし，繊維・機械・食品などの工業が発達し，周囲の山地から産出する金・銀・銅の集散地でもある。1675年に建設の起源を有し，20世紀になって周辺地域でコーヒー栽培が盛んになったのに伴い発展した。

メーテルランク［Maurice Maeterlinck］（1862～1949） ベルギーの劇作家。24歳のときパリに出て，象徴主義の詩人たちから影響を受けて詩作したが，のち劇作に転じた。《ペレアスとメリザンド》《モンナ-バンナ》《青い鳥*》がその代表作で，象徴的手法と神秘思想のもとに，運命・死などから愛・幸福に至る主題を描き，近代劇の

新しい一面を開いた。ほかに《闖入者(ちんにゅうしゃ)》《群盲》など。1911年ノーベル文学賞を受賞。

メドゥサ ⇨ゴルゴン

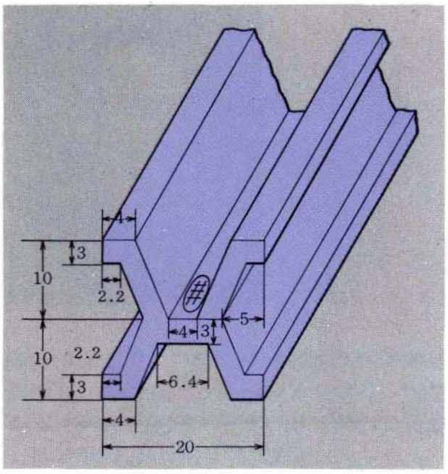
めどはぎ 【蓍萩】 双子葉植物・マメ科。原野に自生する多年草。茎は高さ60～100cmになり，細くかたく，やや木化し，よく分枝する。枝には毛があり，縦に稜条(りょうじょう)がある。葉は密に互生する3出複葉で，小葉は長さ1～2.5cmの倒披針(とうひしん)形で灰緑色。夏から秋にかけて，葉腋(ようえき)に散形花序をつける。花には有弁のものと無弁のものがあり，有弁花は長さ6～7mmの白色の蝶形花(ちょうけいか)で紫色の斑(はん)がある。無弁花は2～3mmくらい。果実は有弁花のものは卵形の莢果(きょうか)，無弁花では扁平(へんぺい)な莢果をつける。

メートル [meter] メートル法の長さの基本単位。もとは国際メートル原器によって示された長さと規定されていたが，現在ではクリプトン原子のある一定の条件における波長の1,650,763.73倍に等しい長さとして定められている。記号m。補助単位として次のようなものがある。

ミリメートル(mm)……1mの1,000分の1
センチメートル(cm)……1mの100分の1
デシメートル(dm)……1mの10分の1
キロメートル(km)……1,000m

メートルげんき 【メートル原器】 メートル法国際条約によって定められた長さの単位を基準としてつくられたもの。国際メートル原器とメートル条約加盟国に配布されている各国メートル原器がある。メートルの定義は，1960年に光の波長を基準にすることに改められたが，国際メートル原器は永久に保存されることになっている。メートル原器はほぼX字形の断面をもつ長さ約1.02mの白金-イリジウム合金製の棒で，その表面に引かれている2線間の距離が0℃において1mと定められている。原器の材質は白金90%，イリジウム10%の合金とされているが，実際にはイギリスのジョンソン-マシュー社製のものを分析したところによると白金89.81%，イリジウム10.10%，ロジウム0.01%，消失量0.07%，鉄微量という結果が出ている。〔有山正孝〕

メートルじょうやく 【メートル条約】 メートル法*を国際的に統一するための条約。1875年5月20日パリで開催された外交会議で採択され，1876年1月1日から発効した。その内容はメートル法を万国に施行し，これを完全にするため，度量衡万国中央局を設置し，メートル原器*・キログラム原器の監査，万国原器の保存，各種原器や尺度の国際的比較，電気単位の審査および保存などを行なうこと，また，6年ごとにパリで度量衡総会議を開催すること，万国中央局の業務監督のため度量衡万国委員会を設置することなどである。日本は1885年(明治18)加入。〔広部和也〕



メートル原器(単位mm)


メトロノーム

メートルほう 【メートル法】 長さおよび質量について，それぞれメートル*とキログラムを基本の単位とし，補助単位がすべて十進法で組み立てられている単位系。昔は国と国との間ではもちろん，一国の内部でもつながりのない単位が幾通りも用いられていたため，商取引その他にさまざまの不便があった。1790年フランス革命直後のフランスで，国内だけでなく広く他の国々にも採用されるような単位系統を樹立することが計画され，地球の子午線の全周の4,000万分の1を長さの単位として使用することになった。その後，多くのすぐれた学者による精密な測量の結果，得られた長さを〈メートル原器〉の目盛り線によって表示し，これを長さの基本単位〈メートル〉とした。また，質量の基本単位には，密度が最大の温度における純粋の水が，1mの10分の1を1辺とする立方体の体積を占めるときの質量を採用することとし，これを〈キログラム原器〉によって表示した。その後の精密な測定の結果，原器に示された長さや質量には，多少の誤差があることがわかったが，原器のほうを基準とした。それで，メートル条約に加入した各国に類似の原器を配布することによって，国際的な単位の制度が確立されるに至った。その後にメートル原器は，1960年(昭和35)の国際度量衡総会の決議によって廃止され，より不変のものとするために光の波長に基づいて定めることに改められた。〔富田芳秀〕

メトロノーム [metronome] 規則的な拍節法(等間隔の拍)をもつ音楽のテンポを正確に打ち出させたり測定したりするための機器。1812年オランダのウィンケルが複振り子原理を利用して発明し，1816年ドイツ人メルツェルが免許をとった。下に錘(おもり)をつけた棒の上部が振り子のように左右に往復し，上部には上下に移動できる別の錘がついていてこれを目盛りに従ってずらすと振り子運動のテンポが変えられるしくみである。〔山口　修〕

メトロポリス [metropolis] 数十万から1,000万程度の人口をもつ大都市の形態。➔メガロポリス

メトロポリタンかげきじょう 【メトロポリタン歌劇場】 ニューヨークにあるオペラ劇場。1883年に開場され，1892年に焼失したが，翌年再建され，20世紀にはいって黄金時代を迎えた。特に1908年にガッティ-カサッツァが，1950年にルドルフ-ビングが総支配人になった時期が全盛であった。1966年にリンカーン-センターの中に移され，1972年からジョラン-ゲンテルーを総支配人に迎えて，新しい時代を画そうとしている。プッチーニの《西部の娘》ほか，ここでの世界初演の作品は多い。〔向坂正久〕

メトンしゅうき 【メトン周期】 月の満ち欠けと季節の関係が同一の状態に帰る6,940日の周期。紀元433年にギリシアのメトンが発見し，彼はこれを19年または235朔望月*(さくぼうげつ)に等しいとした。詳しくは，19年(19太陽年*)＝6,939.6018日，235朔望月＝6,939.6882日で，両者の違いはわずかである。この周期は，バビロニア・中国でも見つけられており，中国では19年を章とよんでいた。太陰太陽暦で閏月(うるうづき)の置き方の基礎となっている。〔木下　宙〕

メナジオン [menadione] 血液凝固因子として1934年に発見されたビタミンK群の一で，合成法で製造される。黄色の結晶で，光によって変化しやすく，呼吸器・皮膚を刺激する。血液の凝固因子の一つであるプロトロンビンの肝臓内生成に必要な物質で，プロトロンビン量の低下による出血に対して効果がある。閉塞性黄疸(へいそくせいおうだん)・潰瘍性(かいようせい)腸炎・各種肝疾患・新産児黄疸などに伴う出血に用いる。医薬品としては水溶性の亜硫酸水素付加体として用いることが多い。〔鈴木郁生〕

めなだ 【眼奈太】 ⇨ボラ

メナド [Menado] インドネシア，セレベス島の北東端，ミナハサ半島北西岸にある港市。人口17万(1971)。同島北部の経済・行政の中心をなし，近郊には農園があり，コプラ・コーヒー・香料などを集散し，輸出している。近年は真珠の養殖，漁業基地としても発達しており，外航船も寄

港する。住民の大部分は近世以来キリスト教の教化を受け，インドネシアで最も教育水準が高いといわれるミナハサ人である。港に近い西部地区は商業区，南部は学校や官庁，北部はアラビア人・中国人の居住区になっている。同島の南西端にあるマカッサルとともにセレベス島の二大都市をなすが，港湾はマカッサルに劣る。〔別技篤彦〕

メナム(川) ［Menam］ チャオプラヤ川ともいう。アジア南部，タイ国にある川。長さ約1,200km。同国北部のインドシナ山脈南部に発して南流し，シャム湾に注ぐ。下流部は低平なデルタを形成し，多くの分流をなす。デルタには首都バンコクがあり，沿岸にも主要都市が発達している。流域一帯は重要な穀倉地帯で，この川は輸送手段として大きな役割を果たしている。近年は洪水(こうずい)調節・灌漑(かんがい)・発電などの多目的ダムが建設され，総合開発が進められている。〔大石堪山〕

めなもみ **【豨薟】** 双子葉植物・キク科。荒地・野原・川原などに見られる一年草。高さ70～100cmほどで，全草に直毛が密生する。葉は長さ5～15cm，幅3～7cmの卵形で小さい鋸歯(きょし)があり，長さ4～6cmの柄で対生する。9～10月，茎や枝先に直径1cm前後の黄色頭花をつける。総包片は数枚あり，粘液を出す腺毛(せんもう)があってべとつく。和名は，別属のオナモミに比して全体が柔らかい感じがすることによる。

メナンドロス ［Menandros］ (BC342またはBC341～BC291) ヘレニズム時代のギリシアの新喜劇作家・俳優。アテナイの上流階級の出身。エピクロス派の哲学に親しんだが，叔父(おじ)アレクシスの手引きによって喜劇作家への道を歩んだ。激動する社会・政治から離れて知的孤高を保ちつつ，作劇活動に専念，BC321年に処女作を発表し，以来30年間に100編以上の作品を書いた。死後も人気が衰えず，その作品はアテナイやローマでしばしば上演された。作品は完全に残っているものはなく，多くの部分が残っているものに《気むずかしや》《委託裁判》《切られ髪》《サモスの女》《先祖の霊》の5編がある。悲劇作家エウリピデスの影響が強くみられ，すぐれた性格描写，劇の進展法および劇の筋そのものにも影響が認められる。劇の伝統的な主題である神話を排除して，主題を同時代の事件や人物にとり，市井の風俗・習慣，恋愛の駆け引き，葛藤(かっとう)を写し出し，主として恋模様が題材となった。登場人物は人間一般の弱点や欠点を誇張した形で，性格と性格のからみあいが劇の筋を展開する。地口やだじゃれを避けて，立場や性格のこっけいさで笑いを引き出している。すなおな文体，登場人物に適合したせりふ，人間の弱さや欠点を包み込む大らかな暖かい心は，ラテン文学，特にプラウトゥス*やテレンチウス*らの劇作家，ヨーロッパ文学に深い影響を



メナモミ

及ぼした。〔久保正彰〕

メニエールしょうこうぐん **【メニエール症候群】** 難聴*・耳鳴り*および発作性めまいを主症状とする症候群。1861年フランスの耳鼻科医メニエール(1799～1862)が発表して以来この称がある。内耳・中枢神経の障害時に起こり，迷路症患・脳腫瘍(のうしゅよう)・脳血管障害などの既知原因疾患以外のものをいう。メニエール病は，めまいの発作が数分から数時間続き，吐きけ・嘔吐(おうと)・冷汗などの自律神経症状を起こすが，意識障害などの中枢神経系の症状はみられない。難聴や耳鳴りは初期には回復するが，発作がくり返し起こると，固定してもとにもどらなくなる。これは内リンパ液の産生・吸収の障害により，内リンパ水腫が起こるためと考えられている。青壮年者層に多く，概して男子に多い(小児・老人には典型的な例はみられない)。治療には，心身の安静を心がけ，水分・食塩摂取を制限し，種々の薬物療法を行なう。重症のものには，内リンパ嚢(のう)開放術・迷路破壊術・前庭神経切断術などの外科手術を行なう。〔冨田善治〕

メニスカス ［meniscus］ 細い円管内の液面で，その周辺が表面張力によって上がったり，あるいは下がったりしてつくる一種の曲面。本来はギリシア語で三日月の意。また，一面が凸(とつ)，他面が凹(おう)であるレンズをメニスカスレンズという。

メニューイン ［Yehudi Menuhin］ (1916～) アメリカ合衆国のバイオリン奏者。ロシア系ユダヤ人の両親のもとにニューヨークで生まれた。7歳のときサンフランシスコでデビューし，天才少年の名をほしいままにした。1934年，13か国73都市に演奏旅行を行なったが，第2次世界大戦後の1947年にフルトベングラー*と共演して以後スイスに移り，さらにイギリスに定住することになり，その音楽観は大きな変化を示している。バース音楽祭を主宰して，指揮も行なっている。1951年(昭和26)と1971年に来日。〔向坂正久〕

メヌエット ［menuet］ 17世紀中ごろから18世紀終わりにかけて盛んに愛好された舞曲。もとはフランスのいなかの踊りであったが，リュリ*がつくり，ルイ14世が踊って宮廷音楽(舞踊)としたため，その後ヨーロッパ各地に広がった。バロック時代には組曲の中に組み込まれ，古典派になると，交響曲や室内楽の第3楽章などに組み入れられた。また，メヌエットによるリートも数多く用いられた。構成的には，二つの部分に分かれ，それぞれが反復される。また，二つのメヌエットを作曲しておいて，これを交互に奏することも多く，これがメヌエット～トリオ～メヌエットの原形となった。拍子は4分の3拍子，テンポは中庸のものが最も多い。〔徳丸吉彦〕

めぬけ 硬骨魚類・フサカサゴ科・メバル属の海水魚のうち，メヌケと名のつくものの総称。バラメヌケ・サンゴメヌケなどメバルに近い北方性の底魚。体は卵形または楕円(だえん)形で側扁(そくへん)し，目は大きく，頭部には多くの棘(とげ)がある。体色は赤みの強いものが多い。北日本の沿岸域，特に岩礁の発達した所のやや深所に多い。体長30cmほどになる。食用魚で，美味なものが多い。➔アコウダイ

メーヌ-ド-ビラン ［Maine de Biran］ (1766～1824) フランスの哲学者。本名フランソワ-ピエール-ゴンティエ-ド-ビラン。政治家でもあり，ドルドーニュ県行政官を振り出しに，立法議会議員などをつとめた。彼は意識の本性を解明するために，内感に与えられたものを取り出すという方法をとり，そこから18世紀哲学の特にすべてを受動的な感覚に還元するコンディヤック*の感覚論を批判，意識の能動性，自我の意志的努力を説いた。しかし晩年には，キリスト教的愛の意義を認め，人間の生は動物的生と精神的生の媒介であると述べている。彼の思想はベルグソン哲学にその発展をみることができる。〔飯塚勝久〕

メネス ［Menes］ 生没年不詳。伝承上の古代エジプト王国の最初の統一者で，第1王朝の創始者とされる王(BC3000年ごろ)。はじめ上エジプト王国の王で，下エジプト王国を征服，ヘロドトスによれば堤防を築いてナイルの流れを変え，上下エジプトの境界近くに新都〈白い壁〉(のちのメンフィス)を建設した。同時代史料のナルメル王(有名な化粧板の奉納者)あるいはアハ王と同一視する説，王国建設に貢献した数代の王の業績がひとりの王に仮託されたとする説などがあり，なお決定をみていない。〔屋形禎亮〕

メネラオス ［Menelaos］ ギリシア神話の英雄。アトレウスの子で，アガメムノン*の弟。スパルタ王。ヘレネの夫。ヘレネに求婚する多くの王たちの間には，彼女の選ぶ夫がだれであれ，この夫がいったん危難にあった場合は，一致協力してこれを助けるという約束が結ばれていた。そのためヘレネがトロヤ王子パリス*に奪われ，トロヤ戦争が始まると，諸王が兄弟のもとにはせ

参じた。彼はトロヤで勇敢に戦い，ヘレネを奪い返して故国へもどり，娘ヘルミオネを育て幸福に暮らした　〔松田　治〕

メネンデス-イ-ペラーヨ　[Marcelino Menéndez y Pelayo]（1856〜1912）スペインの文学史家・批評家。マドリード大学教授・国立図書館長などを歴任。熱烈なカトリシズムと愛国心に基づき，古今の文学を中心に広範な批評活動を行なった。代表作は《小説の起原》《スペインにおける美的観念の歴史》など。

メネンデス-ピダル　[Ramón Menéndez Pidal]（1869〜1967）スペインの言語学者・歴史家。マドリード大学でメネンデス-イ-ペラーヨ*に学んだ。実証的方法で言語・文学・歴史の各分野に画期的業績を残した。《スペイン語史的文法提要》《スペイン語の起源》《わがシードの歌》などが代表的研究である。

めのう　【瑪瑙】粒度や孔隙(こうげき)の分布が少しずつ異なる玉髄*が層状に重なって細かいしま模様をつくっているもの。色は乳白・青白・黄かつ・赤かつ・緑・青・紫など。火山岩の空洞(くうどう)内に，空洞の壁に平行したしま状，あるいは水平のしま状を呈して産出する。特にしま状構造の著しいしまめのう，セキテッ鉱のため全体が赤色をおびたおびめのう，こけのはえたように見えるこけめのうなどがある。飾り石として用いられるあざやかな色調のしまめのうは，人工着色してつくられる。また，めのう乳鉢(にゅうばち)としても広く使用されている。世界各地から産出するが，特にインドのデカン高原は著名な産地であるが，他にウルグアイ・ブラジル・南アフリカ共和国なども有名である。　〔加藤敏郎〕

メノッティ　[Gian Carlo Menotti]（1911〜　）イタリア生まれのアメリカの作曲家。カルディナーレの生まれ。早くから音楽の才能を現わし，12歳のとき最初のオペラを作曲し，1923年ミラノ音楽院に入学して本格的な作曲法を学んだ。1927年同校を卒業し，翌1928年にアメリカに渡り，フィラデルフィアのカーチス音楽院に入学。卒業後は同校で教鞭(きょうべん)をとるかたわら，オペラを中心に精力的な作曲活動を続けた。オペラ《電話》(1947)，《アマールと夜の訪問者》(1951)などが代表作とされる。　〔船山　隆〕

めはじき　【目弾・茺蔚】双子葉植物・シソ科。野原や林内の下草として自生する越年草。高さ50〜100cmほどで，全草に白毛がある。根出葉は長さ5〜10cmで中〜深裂し，長い柄があり，花時には枯れる。茎葉は対生して，長さ5〜10cmで3深裂し，各裂片はさらに2〜3中裂するためヨモギの葉のようである。上部の葉は小形で細く，切れ込みも浅くなる。7〜9月，茎の上部の葉に数個の淡紅紫の唇形花(しんけいか)を輪生する。全草を干したものを益母草(やくもそう)



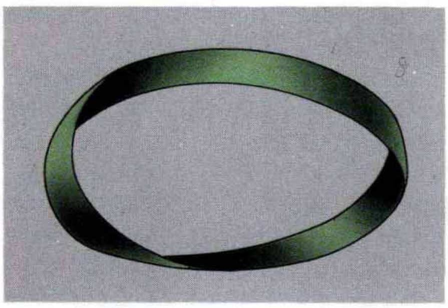
めのう　アメリカ，ワシントン州産



メハジキ



メバル



メービウスの帯　1本の細長いたんざくを一ひねりして両端を張り合わせるとできる



メヒシバ

といい，婦人薬にされる。

めばち　【目撥】⇨マグロ

めばる　【眼張】硬骨魚類・フサカサゴ科。体長20cmほどの海水魚。和名は目が大きいため目を見張っているとの意。背びれ13棘(きょく)14軟条，臀(しり)びれ3棘8軟条。体は楕円(だえん)形でやや延長し，側扁(そくへん)する。頭部には多くの棘(とげ)がある。胎生魚であるが，卵はあまり発達しないうちに体外に放出される。日本の磯(いそ)にごく普通に見られる磯魚で，北は北海道小樽(おたる)にまで分布している。食用魚で美味。近縁種に千葉県以西の沿岸に分布するトゴットメバルや北海道函館(はこだて)以南に分布するタケノコメバルなどのほか，アコウダイ・メヌケ類などがある。

メービウスのおび　【メービウスの帯】紙テープ(長方形の紙)を180°(半回転分)ねじって，その両端を張り合わせてできる図のような帯状の輪。平面や球面では，面の表側と裏側の二つの側がある。メービウスの帯でも，その一部分を見ると表と裏の両側があるように思われるが，表側をたどりながら進むと，はじめに裏側と考えた側も表の続きであることがわかる。すなわち，メービウスの帯は表裏の区別ができない(側が一つだけの)面である。なお，メービウスの帯をその中心の線に沿ってはさみで切ると，輪が二つに分かれないで，やはり一つの輪になる。　〔小西勇雄〕

めひしば　【雌日芝】単子葉植物・イネ科。ジシバリともいう。路傍や畑地に普通に自生する一年生の雑草。茎は基部が斜上または横走し，よく分枝して，節からひげ根を出し，先は立って高さ30〜90cmになる。葉は長さ20cm，幅7〜12mmの線形で，先はとがり，縁に細歯があり，基部は葉鞘(ようしょう)となって粗に白長毛がある。夏から秋にかけて，枝頂に長さ7〜15cmの花穂を数本ないし10数本掌状につけ，開出する。花穂は淡緑色で，小穂は枝の一側面に圧着し，無柄と有柄の小穂が一組みになって一か所につき，2列に並ぶ。一方は完全花で他方は不稔(ふねん)である。花は早朝に開花し，紫色の葯(やく)が現われる。花柱は二叉の羽毛状で，紅紫色を呈する。　〔横井朝子〕

めひるぎ　【雌紅樹】⇨紅樹

メフィストフェレス　[Mephistopheles]略してメフィストともいう。ファウスト伝説*に出てくる悪魔の名まえで光をきらうものの意。マーロー*の《フォースタス博士(はかせ)》にも出る。ゲーテ*の《ファウスト*》では契約以来ずっとファウストと行をともにする副主人公となった。ゲーテはこれを単なる悪魔とせず，体制に批判的だが非建設的な嘲笑者(ちょうしょうしゃ)としての近代人的性格を与えたので，文学における典型的性格の一つとなった。

メフメット（2世）[Mehmet]（1430〜1481）オスマン-トルコ帝国の第7代スル

タン。在位1451～1481年。1453年にビザンチン帝国の最後の拠点であるコンスタンチノープルを征服した。また，内政に関しても新制度をつくるのみならず，従来の制度を組織的なものにし，20世紀まで続く帝国の基礎を固めた。

メフメット-アリー　［Mehmet ‘Alī］（1769～1849）　エジプトの大守，アルバニア系。在位1805～1849年。1798年にナポレオンがオスマン帝国領のエジプトに侵入した際，アルバニア非正規軍の士官としてトルコ軍に加わったのをはじめとして，エジプト・シリアの各地に転戦し，頭角を現わした。1803年エジプトの大守を追放し，1805年にオスマン政府によって大守として承認された。内政においては各種の工場設立，築港，軍制改革などエジプトの近代化に努力した。　〔斎藤淑子〕

メーフラワーせいやく　【メーフラワー誓約】　1620年，ピルグリム-ファーザーズ*が北アメリカ大陸上陸に先だって署名した誓約。イギリスからニューイングランドのコッド岬(みさき)に達したメーフラワー号は11月21日，現在のプロビンスタウンに入港した。その際41名の成人男子は船上において神の前に契約を結び，信仰の自由と秩序・安全の維持のため政治団体を組織，公正・平等な法律を制定，これに服従することを誓った。この誓約に基づいてプリマス植民地が建設され，またのちのマサチューセッツ植民地も同様の契約により社会形成がなされた。このようにメーフラワー誓約は，ピューリタン的社会契約による政治社会形成の最初の例として，アメリカ政治思想史上重要な意義をもつ。　〔折井一彦〕

めまい　【目眩】　眩暈(げんうん)ともいう。聴力・視力・思考力低下などを伴うふらつき，目の前が暗くなる感じやぼうっとなる感じになる。原因は非常に多く，全身的なもの（貧血・心臓疾患・視力異常・婦人科的疾患など），平衡器官の前庭神経中枢領域のもの（脳腫瘍(のうしゅよう)・脳血管障害・脳炎），前庭器末梢(まっしょう)（耳性）のもの（迷路炎・メニエール症候群・薬物中毒・手術後遺症）などがある。原因療法が重要で，現在特効を奏するものはない。　〔石井哲夫〕

めまつ　【雌松】　⇨アカマツ

めみずむし　【眼水虫】　こん虫類・半翅(はんし)目・異翅亜目・メミズムシ科。体は長楕円(ちょうだえん)形で，長さ5mmほど。頭部は短いが，複眼は大きく，触角は短く細い。体は黒色で不明瞭(ふめいりょう)な灰色の斑紋(はんもん)を散布するが，ときに全体黒色となるものがあり，また体側部には黄色の条紋がある。口吻(こうふん)は基部が太く，かつ非常に長く，腹部に達する。脚は黄かっ色で，後脚は長くて跳躍に適する。本州・四国・九州のほか，南ヨーロッパからアジアの東部にかけて広く分布し，成虫は春季に水田その他の湿潤の地に多く，他のこん虫類その他の小動物を食べる。幼虫が土を背上に負う習性がある。　〔鈴木邦雄〕



メムリンク
《奏楽の天使》

めみょう　【馬鳴】　⇨アシュバゴーシャ

メムリンク　［Hans Memling］（1435ごろ～1494）　ネーデルランドの画家。ケルン・ブルージュなどで活躍。新しさはないが，バイデン*・グース*らの影響を受け，15世紀古ネーデルランド絵画を集大成した。高度の技術と暖かい色彩で，物語性にあふれた牧歌的・詩的作品を描く。抑制された内省的表現を得意としたが，劇的緊張や鋭い性格描写には欠けていた。肖像画にもすぐれ，画面の背景にはじめて純粋な風景を利用したといわれる。

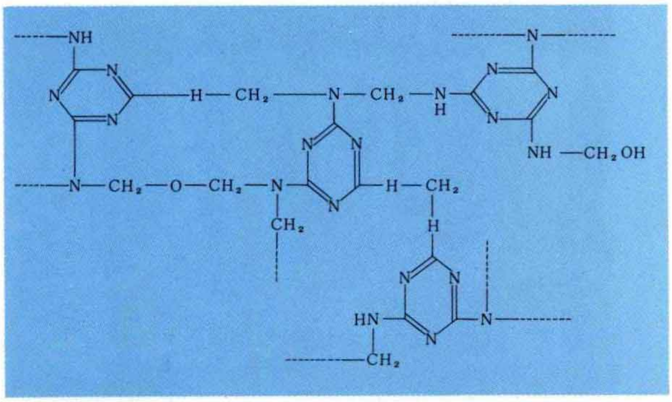
めやすばこ　【目安箱】　江戸幕府が享保(きょうほう)の改革*の参考にしようとして，民意を聞くために設けた投書箱。1721年（享保6）8月，8代将軍徳川吉宗*(よしむね)が江戸城龍(たつ)の口評定所前に設置し，百姓・町人など一般庶民（武士は除外）が諸役人の不正や不平不満その他の進言を投書した。箱は錠をおろしたままで城内に運び，吉宗がみずから開封したという。小石川薬園内の養生所設置，江戸市中の防火方針などは，投書を採用して行なわれた例である。なお，以後歴代将軍もこれを踏襲し，また諸藩にも同じような制度があった。〔岡山泰四〕

めやに　【目やに】　病的な眼分泌物。眼脂ともいう。正常の結膜は，上皮細胞・好中球・リンパ球・好酸球・単球・細菌などの増殖をおさえる酵素を含んだ涙液で常時潤っているが，そこに炎症が起こると，結膜炎*の種類により漿液(しょうえき)性・粘液性・繊維素性・膿性(のうせい)などの分泌物が混在するようになる。はなはだしいときは，その分泌物が瞼裂(けんれつ)外にあふれ，ときには瞼裂やまつげ（睫毛(しょうもう)）にも糊着(こちゃく)する。病的分泌物の中には，種々の細菌や多量の上皮細胞・好中球・リンパ球などが含まれているので，その内容を知ることは，結膜炎の種類決定に有力な手がかりとなる。　〔納富教雄〕

めら　【米良】　米良荘(めらのしょう)ともいう。宮崎県中部，九州山地中の一ツ瀬川上流流域一帯の呼称。行政上は児湯(こゆ)郡西米良村と西都市の東米良・寒川(さぶかわ)の2地区とに分かれる。九州山地の中生層が深い侵食谷を刻み，平地の生活圏と長い間隔絶された地域で，古い集落や耕地は比較的緩傾斜の山頂付近に集まり，道路も屋根筋を通ることが多い。平家の落人部落という伝説をもち，江戸時代には人吉(ひとよし)藩に属して，米良氏が支配した。最近はダムや発電所の建設に伴って地域開発が進み，木材・シイタケが移出され，米良茶（山茶）の特産で知られる。西都市・湯前(ゆのまえ)町（熊本県）と国鉄バスで連絡する。　〔浅井得一〕

メラニン　［melanin］　生体に含まれる黒色色素。生体内では芳香族アミノ酸の一種であるチロシンから合成される。構造はインドール-5・6-キノンが非酵素的に重合されたものであると考えられている。動物の毛・皮膚や微生物などに小粒（黒色粒）として含まれ，光の受給に関係する。遺伝病として知られる白子は，メラニン合成に関与する酵素が遺伝的に欠損したもので，生体内にメラニンは含まれていない。

メラネシア　［Melanesia］　太平洋の島島をポリネシア*・ミクロネシア*とともに三分したときの南西部をいい，赤道以南のニューギニアからフィージー諸島までの範囲をさす。地名は〈暗黒色の黒人〉の意で，住民は太平洋諸島のうちで皮膚の色が最も黒い。メラネシア人は，かつてインドネシアからニューギニアへ渡来した人々がそこでパプア人と混血し，さらにソロモン諸島・ニューヘブリジース諸島・ニューカレドニア島へ移動していったものと考えられている。約200種あるといわれる原住民語は，大別してパプア語とメラネシア語に分けられる。島々は火山島で雨量が多く，低地は森林と湿地におおわれているが土壌(どじょう)は肥沃(ひよく)でない。原住民はタロイモ・ヤムイモ・サツマイモ・サゴヤシ・バナナ・パンノキ・ココヤシを自給用につくり，ブタを飼う。また，フィージー・ソロモン両諸島で金が，ニューカレドニア島でニッケル・クロム・コバルトが採掘されている。砂糖・コーヒー・カカオ・ゴムは部分的にプランテーションで生産されている。政治的



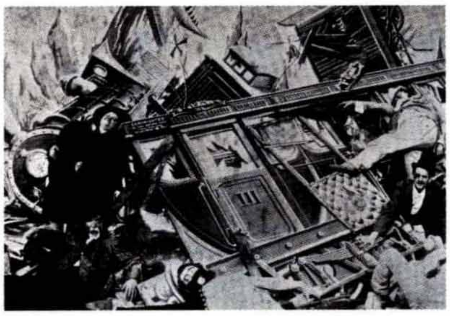
メラミン樹脂

にはニューカレドニア島とロイヤルテー諸島はフランス領，ニューヘブリジーズ諸島はイギリスとフランスの共同管理，フィージー諸島はイギリス領，ソロモン諸島は最北部を除いてイギリスの保護領，ソロモン諸島最北部のブーゲンビル島とブカ島およびビスマーク諸島は，ニューギニアの北東部とともにオーストラリアの信託統治領，ニューギニア南東部はオーストラリア領パプア，ニューギニア西部はインドネシア領西イリアンになっている。〔大崎　晃〕

メラネシアしょぞく　【メラネシア諸族】メラネシア原住民は白人の発見当時，新石器段階の原始農耕民であった。メラネシアの原住民は人種上黒色人種の中のオセアニック-ネグロイド（大洋州黒人）として一括されるが詳しくはネグリト*・パプアおよび狭義のメラネシアの3型に区別される。言語はパプア語と狭義のメラネシア語の2グループに分けられ，後者はオーストロネシア語族を構成する。メラネシアの島々にはおそくもＢＣ1000年ごろまでに，東南アジア方面から新石器的農耕文化が波及していた。それは原始的農耕文化で，掘り棒を唯一の農具としたタロイモ・ヤムイモ・バナナ・パンノキなどを作物とする焼き畑農耕で，この状態が16～17世紀にヨーロッパ人が渡来するまで続いた。〔牛島　巌〕

メラピ（山）［Merapi］インドネシア，ジャワ島中部にある活火山。標高2,911m。富士山に似た典型的な成層・円錐（えんすい）火山。ジャワで最も活動的な火山として知られ，1006年の大噴火では数千人の死者を出し，また爆発のたびに大きな被害を出している。火山観測所がある。

メラミンじゅし　【メラミン樹脂】メラミンとホルマリンを原料として得られる熱硬化性樹脂。生成反応は基本的には付加縮合反応でフェノール樹脂・ユリア樹脂とまったく同じである。すなわち，まずメラミンとホルマリンとの付加反応でメチロールメラミンを生成し，次いで加熱による脱水縮合によって分子間メチレン結合$-CH_2-$またはエーテル結合$-CH_2-O-CH_2-$を生成して樹脂化される。最終的に加熱硬化された樹脂は図のような網状構造をなし，



メリエス　空想科学的な映画《不思議な旅行》(1904)の一場面

不溶不融である。耐熱性・耐化学薬品性・耐摩耗性などが特に高い。セルロース・木粉などの充塡（じゅうてん）剤とともに硬化させてつくられる成型品は，食器などの家庭用品・電気用品に，また積層材はテーブルなどの化粧板用に需要が多い。その他，織物や紙に加工して防皺（ぼうしわ）性・湿潤強度を向上させたり，塗料・接着剤としての利用も多い。〔伊藤　卓〕

メランヒトン　［Philipp Melanchton］(1497～1560)　ドイツの宗教改革者。ブレッテンの生まれ。ハイデルベルクとチュービンゲン大学に学んで人文主義を吸収し，1517年ウィッテンベルク大学のギリシア語教授となる。ルター*の宗教改革に触れて，この運動に投じ，彼の右腕ともいえる活動をした。ルターの激情に対するメランヒトンの知性は，ルター思想の体系化と組織化に補足的な役割を果たした。《アウグスブルク信仰告白》の執筆を通して，その神学はルター派教会内の正統主義を形成するが，ルターの敬虔（けいけん）とメランヒトンの人文主義との相違は年を追って明らかとなり，その対立はルター派内部における論争の中心課題として残された。〔堀越知巳〕

メリエス　［Georges Méliès］(1861～1938)　フランスの映画監督。はじめ奇術師として舞台に立ったが，リュミエール兄弟*のシネマトグラフによって映画に興味をもった。1897年偶然の機会に発見したトリックによる特殊撮影*の技法を用い，空想的・幻想的世界を描いた。《月世界旅行》《海底二万哩（マイル）》などが代表作。歴史的事件を題材とした《ドレフュス事件》などの作品もある。また，映画製作専用のスタジオをはじめて建て，撮影のために人工照明を用いたことでもしられる。〔大谷裕子〕

めりかり　【乙甲】日本音楽の音高（ピッチ）に関する用語。〈めり〉とはある基本の音よりも下げることないしは下がることを意味し，〈かり〉はその逆に上げることないしは上がることである。上下する幅（音程）は場合によってさまざまであり，微小音・半音・全音などがある。たとえば指穴の少ない尺八では，指の押え方（部分開き）とくちびる・歌口の角度の調整をすることによって〈大めり〉（全音）や〈中めり〉（半音）の違いを出すことができる。〔山口　修〕

メーリケ　［Eduard Mörike］(1804～1875)　ドイツの詩人。ロマン派末期のシュワーベン詩派の系統にはいり，19世紀ドイツを代表する叙情詩人である。ルートビヒスブルク生まれで，いなか牧師として田園生活に親しんだ。ビーダーマイヤー*的なのびやかな表現の背後に人生の深淵（しんえん）をのぞかせるのが作品の特徴。詩は民謡ふうのものから，造形的・観照的なものまで多彩である。長編小説《画家ノルテン》，短編《プラハへの旅路のモーツァルト》がある。

メリスマ　［melisma］声楽の旋律装飾に関する理論用語。歌詞を伴う声楽において，歌詞の音節（シラブル）1個に対し複数の音楽音を与えて装飾を施すことを意味する。これに対して，1音節に1楽音しか与えない歌い方をシラビックという。もとはグレゴリオ聖歌*の様式を説明する特殊用語であったが，現在では民族音楽学*の用語としてすべての声楽について用いられる。

メリダ　［Merida］メキシコ東部，ユカタン半島の中心都市。人口24万5,000(1976)。ユカタン州の州都で，周辺はサイザル麻の生産をはじめ農業が盛んなところで，サイザル麻製造工場が多い。他に穀物・くだもの・タバコ・綿花・コーヒーなどの農産物を集散する。せっけん・チョコレート工業も行なわれている。1542年に建設の起源を有し，古いおもかげを残す建造物も多く，南東方にはマヤ文明の遺跡として有名なチチェン-イッツア*がある。〔小栗　宏〕

メリッソス　［Mellissos］(ＢＣ480～ＢＣ400)　古代ギリシアの哲学者。サモス島の生まれ。ペリクレスの率いるアテナイ艦隊が攻めてきたとき，海軍の司令官としてこれを破った。パルメニデス・ゼノンに続くエレア派*の哲学者で，パルメニデスの説いた〈真に有るもの（存在）〉の思想をいっそう徹底・発展させた。彼によれば，真に有るものは不生不滅・不変不動・無始無終であって，時間的・空間的にも無限であり，したがって限定を行なうところの空虚もまったく存在しないと説き，運動や多の存在を否定した。真に有るものとしてパルメニデスが考えた〈完全な球体〉もなお限定を含

むものとして，その徹底を図ったといえる。〔本橋正義〕

めりはり【減張】日本音楽の音強法(ディナーミク)に関する用語。乙張とも書く。ゆるめることと張ること，すなわち弱・強の音強変化を意味し，これを意識的に使い分けて抑揚表現豊かに演奏することを〈めりはりのきいた演奏〉という。

メリメ［Prosper Mérimée］(1803～1870) フランスの小説家。パリの生まれ。長編歴史小説《シャルル9世年代記》で成功を収めたが，その才能は中短編により鋭くうかがえ，《マテオ-ファルコーネ》《タマンゴ》《エトルリアの壺(つぼ)》《コロンバ*》《カルメン*》などにおいて，明断(めいせき)な文章で皮肉な傍観者として人生を切断してみせた。史学・考古学・言語学にすぐれ，ヨーロッパ各地を調査旅行し，その体験・教育が作品に色濃く現われている。晩年には政治家としても活躍した。〔池田公麿〕

メリヤス 機械編みの編み物*地の総称。これに対して，手工的に編んだものを手編み地という。くつしたを意味するスペイン語のメディアス，ポルトガル語のメイアスから転化した日本語で，近来ニットともいわれる。織物と異なり，1本の糸がループ(編み環(わ))を形づくりながら縦または横の方向に走り，各段ごとにからみ合った構造である。糸の走る方向によって，よこメリヤスとたてメリヤスに分類される。よこメリヤスは糸がほぐれやすく，裁断・縫製しにくいので成形編成によって製品(一般の下着やくつしたなど)をつくる。たてメリヤスは一般にトリコット*ともよばれ，糸がほぐれないので裁断・縫製に適し，生地を編んで縫い手袋・婦人服・子ども服などに多くつくられる。メリヤス地は一般に編み目が大きく開いているために含気量に富み，下着として保温力が大である。薄地のものは通気性が大で，この点では防暑的である。また伸縮性がきわめて大きいので，動作によく適応する。〔小川安朗〕

めりやす 音楽用語。①長唄(ながうた)の一種で，《無間の鐘》《明の鐘》(《宵(よい)は待ち》)《黒髪》《五大力》などに代表される小品。ゆるやかなテンポで叙情的な歌詞がなだらかな節回しで歌われる。本来は芝居の中でセリフなしで動きの少ないところで用いられたもの。②義太夫節(ぎだゆうぶし)では，三味線(しゃみせん)だけで劇的な状況を伴奏する手をさす。雪の降るさま，櫓(やぐら)や木に登るさま，水の落ちるさまなどに結びついて，同じ形が反復して奏される。〔徳丸吉彦〕

メリーランド(州)［Maryland］アメリカ合衆国，大西洋岸中部の州。面積27,394km^2，人口409万4,000(1974)。州都アナポリス。独立宣言13州の一。州名はイギリスのチャールズ1世の妃(きさき)マリア女王の名にちなむ。チェサピーク湾の東岸は低い海岸平野で，その両岸では果樹・野菜栽



メリメ



メルビル

培，湾内ではカキの養殖業が盛ん。州域の約半分は森林で，材木の生産が多い。工業は金属・食品・飲料・輸送機械・化学・電気器具・ミサイル工業などがある。首都ワシントン市に近く，同市向けの生産物や，同市の人々が集まるレクリエーション施設も多い。ジョンズ-ホプキンズ大学・メリーランド大学のほか，アナポリスには海軍兵学校がある。主要都市，ボルチモア。〔相村大彬〕

メリンス ⇨モスリン

メルカプタン［mercaptane］アルコールの酸素原子をイオウ原子で置き換えた化合物。チオアルコール・チオールともいう。一般式はR-SH。アルコールによく似た性質をもつが，相当するアルコールより沸点は低く，弱酸性を示し金属塩をつくりやすい。酸化によってスルホン酸を生じる。一般に揮発性の無色の液体で，不快臭がある。水にとけにくい。エチルメルカプタンC_2H_5SHは催眠薬の原料，都市ガスの付臭などに用いられる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

メルギー(諸島)［Mergui］ビルマ南端，アンダマン海の沿岸に散在する約900の島からなる島群。成因はビルマを走る山系が沈水したもので，雨量が多く森林におおわれ，海辺にはマングローブが繁茂し，ニシキヘビやトラが生息している。海のジプシーとよばれる漂海民族のセルング族が居住する。主産物に有名な真珠があり，ほかにタングステン・スズの産もある。

メルセンじょうやく【メルセン条約】870年東フランク国王ルードウィヒ2世(ドイツ人王)と西フランク国王カール2世(禿頭王)との間に結ばれた条約。ベルダン条約*でフランク王国はロタール・ルードウィヒ・カールの間に3分されたが，ロタールが855年に死ぬとその領土は3子の間に分けられた。ロタール2世は北半分である〈ロタールの国〉(ロートリンゲン)をうけたが，ロタール2世が869年に死ぬと叔父(おじ)のルードウィヒとカールがその土地を取ろうと争った。2人は翌870年メルセン条約を結んで，ルードウィヒは今日のオランダ地方を，カールは今日のベルギー地方を入手し，ロートリンゲンは2人の間で分けられた。この条約の文章はドイツ・フランス両国の俗語で書かれている。〔兼岩正夫〕

メルセンヌ［Marin Mersenne］(1588～1648) フランスの物理学者・数学者。デカルトの友人で，はじめその影響下に神学・哲学を研究，のち天文学・数学・物理学に転じ，音速の実測を含む音響学の研究などを行なった。主著《普遍的調和》において，素数などの数学的研究や音楽理論などを考究した。当時の学者・文人と広く交わり，デカルトの説をはじめ学者間の意見交流や学界の研究成果の交換に大いに貢献した。

メルトン［melton］紡毛織物の一種。やや太い紡毛糸を平織りまたは綾(あや)織りにして縮絨(しゅくじゅう)(フェルト)させて短く毛刈りする，いわゆるメルトン仕上げを施したもの。色は霜降りか無地で，主として冬用のジャケット・スーツ・コート，あるいは制服地として広く用いられる。

メルビル［Herman Melville］(1819～1891) アメリカ合衆国の小説家・詩人。ニューヨークの富裕な商家に生まれたが，家の破産と父の狂死により学業を捨て，いくつかの職業を経て，21歳のとき捕鯨船に乗り組んだ。南海の島で船を脱走，食人種タイピー族の間で暮らした体験をもとに，1846年《タイピー》を著わして文名をあげた。その後《オムー》など4作を出版，相当の成功を収めたが，1851年《白鯨*》，翌年《ピエール》と真価を賭(と)して発表した大作は，その難解さゆえに不評を買い，孤独の中に引きこもった。残る歳月，ときにヨーロッパ旅行，講演，出版などを行なったが，晩年の20年は一税関吏として，失意と神への懐疑のうちに過ごした。今世紀にはいって再評価され，《白鯨》は世界文学中の一大傑作と認められている。〔山本　晶〕

メルヘン［Märchen］空想性・幻想性に富む物語。人間とともに悪魔・妖精(ようせい)・小人・動物などが登場，非現実的なできごとを繰り広げる。多くは民間伝承によるもので，その国特有の物語・童話・おとぎ話として伝えられる。グリム兄弟*の収集した童話は民族的メルヘンの代表例であり，ほかにドイツ-ロマン派のノバーリス*・ホフマン*，イギリスの耽美(たんび)派詩人ワイルド*らが，創作メルヘンを書いた。

メルボルン［Melbourne］オーストラリア東南部の港市で，ビクトリア州の州都。人口254万4,000(1974)。天然の良港に恵まれ，後背地には豊かな農牧地を控えて鉄道・



メルボルン　北側上空から見たメルボルン。ヤラ川に沿った手前の高層ビル街は市の中心部で，市庁舎・裁判所・博物館などがある

自動車道路の結節点となっている。シドニーに次ぐオーストラリア第2の都市で，機械・器具・自動車などの重工業から，製粉・皮革・酪製品などの農畜産加工まで，各種の工業が発達している。またシドニーと並ぶ大貿易港でもあり，羊毛・小麦・肉類・皮革・バター・果実類を輸出する。市街はヤラ川河口に展開し，街路も広く，メルボルン大学・ビクトリア大学・セントポール聖堂・博物館・図書館などがあり，対岸には世界的に有名な植物園もある。起源は1835年タスマニア島から来た流刑移民によって開かれた。かつてオーストラリアの首都の地位をシドニーと争ったが，双方ともに譲らなかったため，両市の中間点にあるキャンベラが新首都として建設された。〔小栗　宏〕

メルルーサ　[merluza]　硬骨魚類・メルルーサ科・メルルーサ属の海水魚の総称。体は延長し，やや側扁(そくへん)する。タラにたいへん近い種類であるが，日本には産しない。アフリカ南部・ニュージーランド沿岸に分布し，北洋に生息する種類もある。日本には主としてアフリカ沿岸で操業する遠洋トロール漁業により持ち帰られるものが多く，冷凍食品として市販されている。

メルロ-ポンティ　[Maurice Merleau-Ponty]　(1908～1961)　フランスの哲学者。ロシュフォール-シュル-メールの生まれ。リヨン大学・パリ大学教授を経て，コレージュ-ド-フランス教授に就任。彼はフッサール後期の現象学から出発し，主著《行動の構造》《知覚の現象学》によって，サルトルとともにフランス実存主義を代表する哲学者となる。彼の哲学は，心理学・生理学に対する深い理解に基づいた綿密な現象学的記述に徹している。また，サルトルと協同して雑誌《レ-タン-モデルヌ》を創刊，今日のマルクス主義をめぐる諸問題に健筆をふるった。その後政治問題に関してサルトルと対立，決別した。晩年は研究生活にもどり，言語学・社会学・美術に関するすぐれた論文を発表，自己の哲学の再検討をめざした遺稿《見えるものと見えないもの》を執筆中，急逝(きゅうせい)した。〔飯塚勝久〕



メロッツオ-ダ-フォルリ　《教皇シクストゥス6世》

メレアグロス　[Meleagros]　ギリシア神話の英雄。カリュドンの王オイネウスの子。生後7日めに運命の女神が現われ，いま燃えている木片が燃えつきるとき彼は死ぬと予言したので，母アルタイアは火を消して木片を保存し，彼は不死身の勇士に成長した。父王がアルテミスに供物を忘れたため女神は怒り，大イノシシに山野を荒させた。それでギリシア全土の英雄を募りイノシシ狩りが行なわれた。狩の賞が彼の好意もあって紅一点のアタランテに贈られ，それが原因で母の兄弟たちとの間に争いが生じて，彼は彼らを殺した。アルタイアはそれを悲しみ例の木片を火中に投じたので，彼は死んだという。〔左中庸博〕

メレジコフスキー　[Dmitrii Sergeevich Merezhkovskii]　(1865～1941)　ロシアの詩人・小説家・文芸評論家。宮廷に仕えるウクライナ貴族の家に生まれた。ペテルブルグ大学在学中に実証主義哲学に熱中しナロードニキにも近づいたが，女流詩人ギッピウス*と結婚後しだいに神秘主義に傾き，夫人とともに初期ロシア象徴主義の代表者となった。ロシア革命に反対して1919年国外に亡命。世界を霊と肉，キリスト教精神と異教精神の闘争とみなし，両者の統一の上に世界の救済を求めた。主著に歴史小説三部作《キリストと反キリスト》，評論《永遠の伴侶(はんりょ)》がある。〔藤家壮一〕

メレディス　[George Meredith]　(1828～1909)　イギリスの小説家・詩人。はじめ弁護士助手となったが，ジャーナリズムに転じ，小説家ピーコックの娘との結婚・離婚，貧困に苦しむ生活の中で，執筆した。知的傾向の強い小説，観念的な人間像の造型と警句と機知に富む会話を特色とする。詩作では，女性の娼婦(しょうふ)性と自我の格闘を心理描写の中に歌った連作の詩《近代の恋》が著名。小説の代表作には《リチャード-フェバレルの試練》《ビーチャムの生涯(しょうがい)》《エゴイスト*》がある。また講演《喜劇論》は，知的な喜劇的精神の社会的効用を豊富な引例で実証し，文明批評としても高く評価された。〔長崎勇一〕

メレンゲ　[merengue]　ドミニカのダンス音楽。起源ははっきりしないが，カーニバル音楽に前身があるらしく，快活な4分の2拍子をもつ。アフリカ的色彩も強く加わっており，2小節ごとにドラムが連打音を入れるのが特徴。《ラ-エンパリサ》《船乗りメレンゲ》などが有名で，ハイチ・コロンビアなどでも愛好されている。

めろうふかんのん　【馬郎婦観音】　三十三観音の一。観音*はさまざまな姿に身を変えて衆生を救うとされるが，これもその一つで，馬氏の婦人として化現した観音のこと。中国，唐代に書かれた《法華経(ほけきょう)》の霊験記にある説話に基づく。宋(そう)代以後，この信仰が広く行なわれたらしい。

メロッツオ-ダ-フォルリ　[Melozzo da Forli]　(1438～1494)　イタリアの画家。ピエロ-デラ-フランチェスカ*の弟子(でし)。遠近法を開拓し，優美な構図で柔らかいふんい気を表現した。代表作にはローマのサンティ-アポストリ聖堂の天井画などがある。

メロビングちょう　【メロビング朝】　481年から751年まで続いたフランク王国前半の王朝。メロビングという名称は伝説的な先祖メロベウスに由来する。この王朝は元来フランク族の1派サリー-フランク族の首長の家がらであった。クロービス王(在位481～511年)が北ガリアにフランク王国を建てた。王の死後国土は4子の間に分割され，クロタール王(在位511～561年)の晩年に一時統一されたが，その死後再び4人の子に分割された。その間ブルグント王国を滅ぼすなどフランク王国の拡大は続いた。しかし王家の間の争いが激しく貴族の勢力が台頭した。王権が維持されたのはダゴベルト1世(在位629～639年)のころまでであった。東

部のアウストラシアに基盤をおくアルヌルフ家が貴族勢力の中心として宮宰の威を世襲して事実上王国を支配し,王権は名のみとなった。宮宰のピピン(小)はメロビング朝最後の王ヒルデリック3世を751年廃位して修道院に押し込めみずから王位についた。これによりメロビング朝が倒れてカロリング朝*が始まった。メロビング朝時代は西洋史上で文化の最も衰えた暗黒時代とされている。〔兼岩正夫〕

メロビングちょうびじゅつ 【メロビング朝美術】 メロビング王国時代の美術。ローマ帝国時代の伝統と,ケルト人やゲルマン人の民族的な美感およびオリエントからもたらされた要素とが混在している。建築は,ポワティエのサン-ジャン礼拝堂に見られるように,比較的古代ローマの伝統を残している。文献によれば,フランスのおもな町の聖堂は,この時代にはすでに創建されているが遺構として現存するものは少ない。民族的美感を最もよく表わしているものは工芸であって,武具・馬具・織物などを鳥獣・魚・人物・怪物などの抽象化した動物文様,菱形(ひしがた),円星(まるぼし)文様などの幾何学的文様,組紐(くみひも)文様などをもって装飾している。また,キリスト教経典の写本は,工芸品に見られるのと同様の文様と文字との組み合わせと,東方的な色彩の強い,平面的でプリミティブな人間像のミニアチュールによって装飾されている。この抽象的な傾向は建築およびその装飾彫刻にも及んだ。〔末吉雄二〕

メロン ［melon］ 双子葉植物・ウリ科の一年生草本。植物学的にはいろいろの変種があり,東洋で発達したマクワウリも含まれるが,日本で一般にメロンといえばヨーロッパ系メロンをさす。古くから地中海沿岸で露地栽培に適するように改良が進められ,多くの品種がなりたち,さらにイギリスで温室栽培用の品種が育成された。植物体の形や性質はマクワウリに類似するが,一般にマクワウリより病気に弱い品種が多い。わが国には明治以後多くの品種が導入されたが,露地では病気に弱いため温室栽培が発達し,多くはアールスフェボリットという品種をもとにした改良品種で,マスクメロン(果肉が緑色で芳香が強い)に属するネットメロン(熟すると果皮に網模様のはいるもの)である。近年,病気に強い露地メロンの改良種もトンネル栽培*・ハウス栽培されるようになった。また大形で果実にみぞがあるカンタロープ種も改良に使われ,栽培しやすい品種がつくられつつある。〔松本正雄〕

メロンざいばつ 【メロン財閥】 モルガン・ロックフェラーに次ぐアメリカ合衆国の代表的財閥。アイルランド系の移民トマス-メロン(1813～1908)が当時の新興都市ピッツバーグで不動産売買をはじめて巨富を築き,1870年私立銀行のメロン父子商会





メロン
(上)露地栽培
(下)アールスフェボリットの改良品種

を創立したことに始まり,おりからの恐慌で破産した抵当不動産取得によって資産をふやし,銀行はメロン-ナショナル銀行と改称,1910年代の終わりには銀行・不動産を中心に建築・炭鉱・保険など着々と事業を拡大,一大財閥を形成していった。一方1901年テキサスに新油田が発見されると同時に進出,採掘権をもっていたガッフィー社を買収,資本支配し,同時に石油送油管などの関連企業をも傘下(さんか)に収め,ロックフェラー財閥*の石油独占に対抗した。1830年代にはさらにアルミニウム部門に進出,アメリカ-アルミニウム(略称アルコア*)を中心にアルミニウムの完全な垂直的独占を形成(シェア99%)し需要増大の波に乗り,のちにこれがメロン財閥の中心産業となった。当主のアンドリュー-メロン(1855～1937)は1921年財務長官に就任,在任中その地位を利用し,アルコア独占の維持に努めた。現在石油・アルミニウムを中心に石炭・鉄鋼・電機・化学・鉄道など膨大な企業連合体を形成し,銀行資本と産業資本との高度な結合,さらに政治権力との密接な結びつきによって,アメリカ産業界に君臨している。おもな企業にアルコア・ガルフ石油*・メロン-ナショナル銀行・ウェスチングハウス-エレクトリック*・ピッツバーグ炭鉱などがある。〔片岡一郎〕

めん 【綿】 ⇨綿織物

めん 【面】 ⇨多面体

めん 【面】 仮面・マスク・おもてともいう。人間(死者を含む)・動物・神霊などの顔かたちに似せてつくり,顔にかぶる造形物。材料は木・紙(張り子)・皮などが多く,材料・用途・地域などにより多くの種類がある。古く原始社会からつくられ,最初は呪術(じゅじゅつ)・祭儀などの宗教的用具として,のちには祭礼や舞踊・劇などに用いられた。現在でも未開民族の間では各種のものが使われているが,そのほか現存する古いものでは,外国では古代エジプトのツタンカーメン*の黄金死者面や古代ギリシア以来ヨーロッパで用いられた演劇用仮面(→仮面劇),わが国では神楽面*(かぐらめん)や伎楽面*(ぎがくめん)・能面*・狂言面*などが知られ,特に伎楽面以下の面は芸術的価値の高いものとして発達した。一方わが国の郷土玩具(がんぐ)の面は,紙や木で簡素につくられ,神楽の面を模したおかめ*・ひょっとこ*・天狗(てんぐ)・キツネや歌舞伎(かぶき)の役者面などが祭礼・縁日で売られた。しかし現在では,テレビジョン番組・漫画などの主人公に取材したセルロイド製の玩具面に代わってきた。なお,面の装着法によって,顔につける狭義のマスク,顔の部分またはその上下につけるマスケット,着用を目的としないマスコイドに分類することもある。➔次ページ(写真)〔森部 一・牧野玩太郎〕

メーン(州) ［Maine］ アメリカ合衆国北東端,大西洋岸の州。面積86,030km²,人口104万7,000(1974)。州都オーガスタ。長くマサチューセッツ州に属していたが,1820年に分離し,合衆国23番めの州となった。州名はフランスの地方名にちなむ。けしきのよい海岸・砂浜・湖・山に恵まれ,休養・観光地として知られる。全土の87%は森林で,材木・パルプ資源に富み,近海は漁業が盛んで,エビは全国一の生産をあげている。農業はジャガイモ・リンゴの生産,家禽(かきん)の飼育が知られており,ジャガイモはアイダホ州に次いで全国第2位。工業では水産物・農産物の加工業と製靴(せいか)・繊維工業がある。主要都市,ポートランド。〔榾村大彬〕

メーン ［Henry James Summer Maine］ (1822～1888) イギリスの法制史家・社会学者。ケンブリッジ大学教授。法の発展過程を歴史的・比較法学的方法によって分析し,原始社会における家族員が個人として法的に解放されていく過程(文明の発達)を,名著《古代法》(1861)の中で〈身分から契約へ〉という有名なことばで説明した。また,原始社会は父権制社会であるとした彼の規定は,モーガン*らの母権制社会論と対置されている。晩年の《ポピュラー-ガバメント》(1885)では,多数決を原理とする民主主義が多数の専制になりやすく,かつ衆愚政治になると主張した。〔原田政洸〕

めんえき 【免疫】 元来免税とか兵役の免除を意味したラテン語に由来する英語immunityが免疫の語源で,転じて伝染病から免除されていること,あるいは病原体に対する抵抗性を獲得した状態をさすようになった。麻疹(ましん)(はしか)や百日咳(ひゃくにちぜき)は一度かかると二度と同じ子どもはかからないことはよく知られている。ある

面



面　①三春張り子面（福島県）　②花祭りの舞踏用面—榊鬼（愛知県北設楽郡東栄町）　③張り子の玩具面—ぬけ面（鳥取県倉吉市）　④神楽面（宮崎県西臼杵郡高千穂町）　⑤舞楽面—崑崙八仙　⑥悪魔払いの舞踏用面（チベット）　⑦舞踊用面（セイロン）　⑧宮廷舞踊の紙製面（タイ）　⑨舞踏用面—神の使者バロン（インドネシア）　⑩ラマ舞踏用面—跳鬼仮面（中国）　⑪繁栄と厄よけの面（コートジボアール，バウレ族）　⑫祖先崇拝と豊饒祈願の面（コートジボアール，グーロ族）　⑬舞踏用の木製面（ニューギニア，モートロック島）　⑭木製面（フィジー諸島）　⑮婚礼用面（メキシコ）　（⑧⑩⑬は早稲田大学演劇博物館蔵）

いはワクチン*やトキソイド*による予防接種によっても同じような状態が得られ，これらを獲得免疫とよぶ。これに対して，生まれながらにして生体がある病気にかからない状態を自然免疫という。たとえば，麻疹や百日咳はヒト以外の動物はかからないし，またヒトはニワトリやネズミの結核菌には感染しない。しかし，この自然免疫の成立機転は今日の免疫現象のそれと異なっている。現在では病原微生物にとどまらず，いろいろな抗原に対して生体がそれぞれ特異的に反応する抗体を産生した状態をいっている。

【免疫学の発達と解明】ジェンナー*によって開発された種痘法は，パスツール*によってみごとに受け継がれ，ニワトリコレラ・炭疽病(たんそびょう)・狂犬病などの感染病の予防法の確立が免疫学の基礎となった。さらにベーリング*と北里柴三郎*(しばさぶろう)による毒素に対する生体内抗毒素(抗体*)の産生証明と，その性質の解明が血清療法*の道を開いたばかりでなく，病原微生物を離れて抗原*と抗体の反応を試験管内にもたらし，血清学を発展させた。その後，ラントシュタイナーらによる抗原の化学構造に対応した抗体との反応解析は免疫化学の領域を生み，抗原抗体反応*の生物物理学的研究の発展となった。一方ピルケー*は病気の経過ないし抗原の刺激によって，正常の生体の免疫反応がいろいろ変化し，アナフィラキシー*・過敏症*などを起こすと考え，〈変化した生体の反応能力〉に対しアレルギー*という概念を与えた。いずれにせよ，免疫の基本的問題は抗体産生機構の解明である。抗体産生については免疫化学の発展に伴って，抗原が直接鋳型となってその構造に適合した抗体を産生するという説(直接鋳型説または指令説)が支配的であった。しかし，抗原が鋳型となる以上，抗体産生時につねに産生細胞中に抗原が存在せねばならない。さらに初回の抗原接種後の抗体産生反応(第一次応答反応)が抗原刺激の消失や弱化のため抗体産生が停止または弱化したとき，再抗原接種によって抗体産生が再開され(第二次応答反応)，抗体産生速度は第一次応答反応に比べてはるかに速く，産生量もはるかに大きい。これらの現象は指令説で説明することは困難である。近年になってバーネットによって新しい抗体産生理論(クローン選択説)が提唱され，生物学的観点から免疫反応を解析しようとする現代の免疫生物学の発展をみるに至った。指令説が化学的観点に立っているのに対して，クローン選択説では，外来物質が生体にはいったときにそれが抗体産生を引き起こすためには，生体がその物質を〈自己〉と〈非自己〉とによりわける識別反応が免疫反応の第1段階であり，生体には特定の抗原に対して反応する能力をもった免疫適格細胞(これをクローンという)集団があり，抗原は対応するクローンを選択し増殖させて，特定の抗体産生を行なわせるというのが骨子である。また，胎児期に自己の抗原と反応する細胞クローン(禁止クローン)は除去されて，自己・非自己を識別する情報体制が確立されるとする。このことは，生後になんらかの理由で禁止クローンが出現・増殖する可能性もあり，この理論によって自己免疫疾患(自己を構成する抗原と反応する抗体を産生し，その反応に基づいて生ずる疾患と考えられるもので，たとえば，ヒトのある種の甲状腺(こうじょうせん)疾患，全身性紅斑性狼瘡(こうはんせいろうそう)，リウマチ性関節炎，糸球体腎炎(じんえん)など)の成因を説明することができる。抗原の識別，抗体産生に続いて免疫学的記憶の確立という継次的反応が起こる。指令説の立場では，抗体産生の維持のためには抗原の存在が不可欠であるから，厳密な意味では免疫学的記憶は存在しない。選択説では免疫適格細胞のある種の細胞が記憶細胞として存在するであろうと予想される。選択説にもいろいろな弱点も認められているが，この理論の提出を契機として最近は免疫機構について，特に免疫適格細胞間の関係がかなり明らかにされてきた。抗原がリンパ組織に到達すると，そこに多数存在する細胞質の広い突起をもった食作用を示すマクロファージという細胞に取り込まれ，刺激をうけて細胞は増殖する。やがてその部位に大形の好塩基性細胞が増加し，免疫グロブリンIgMを産生する。IgG抗体は形質細胞によって産出されることは異論のない事実であるが，これら細胞の由来や系統を直接証明することは困難で，必ずしも一致していない。免疫適格細胞の母細胞はすべて骨髄にあり，これからリンパ球へ分化し，さらに成熟分化して形質細胞となるとする一元説と，リンパ球系細胞と形質細胞は異なった母細胞から由来すると唱える二元説とがあり，抗原刺激によって増殖する前記の大形好塩基性細胞は，リンパ組織の網目構造を形造っている細網細胞に由来し，やがて成熟して中・小リンパ球の一部を形成し，これらリンパ球がIgM抗体をつくるという見方もある。いずれにしろ，リンパ球が免疫適格細胞の主役であることは確かである。ところで末梢(まっしょう)リンパ組織や血液中に存在するリンパ球は，けっして均一な細胞集団ではなく，機能をことにする少なくとも2種類の細胞からなっている。その一つは成熟分化の過程で胸腺を通過し，分泌する液性因子の影響をうけるもので，胸腺依存性リンパ球・T細胞という。このリンパ球は末梢リンパ組織の一定の部位に定着し，あるいは胸管を通して血流にはいり，毛細血管を経て再び末梢リンパ組織へと再循環しており，液性抗体を産生する能力はない。他のリンパ球は胸腺と別個な組織(鳥類のファブリキウス囊(のう)に相当する器官と考えられているが，ヒトや他の哺乳(ほにゅう)類ではまだ明らかになっていない)の影響下に分化すると考えられており(B細胞という)，液性抗体(IgM)を産生する能力をもっている。さて，抗原刺激をうけると，この2種類の細胞の協同作用によって抗体が産生されることが明らかになってきた。T細胞は血流・リンパ流にのって体内をパトロールし，抗原をキャッチして認識し，その刺激によって分裂，増殖する。このT細胞の助けをかりてB細胞が抗体産生すると考えられる。あるいはT細胞が抗原を結合して集め，B細胞が抗体産生しやすいような状態をつくりあげる。抗原を介してT細胞とB細胞が結合して抗体を産生するという考えもある。免疫学的記憶についてはT細胞の特性と考えられていたが，B細胞にも認められ，したがってT・B両細胞いずれもその能力をもつといえよう。ツベルクリン反応のような遅延型過敏症や同種動物間の皮膚移植や臓器移植などの免疫反応(移植免疫)では，血清中に抗体は認められず，反応を起こした生体のリンパ球(感作リンパ球)自身が，その反応を引き起こす能力をもっていることがわかったが，これはT細胞の機能である。この詳細な反応機作はわからないが，液性抗体に対して想定されたのが細胞性抗体であり，その反応を細胞性免疫という。また感作リンパ球を同系の動物に移入することによって，受動的に免疫状態をつくることができる。これを養子免疫といっている。〔橘 武彦〕

めんえきけっせい【免疫血清】免疫*現象を応用した病気の治療・予防法。免疫体(抗体)を直接体内に移入する受動性免疫療法と，体内で産生させようとする能動性免疫療法とがある。前者では血清療法*，後者ではワクチン*療法が代表的である。

めんえきりょうほう【免疫療法】ある病気に感染した際，その病原菌・毒素(抗原)に対して特異強力な防御物質(抗体)を体内へ移入するか，または体内で産生・増強させる治療法。前者が受動性免疫療法で，血清療法*が代表例，後者が能動性免疫療法で，ワクチン*療法が代表例である。予防にも用いられる。

めんおりもの【綿織物】綿繊維を紡績した糸を織った布地の総称。綿繊維はゼニアオイ科の植物の種子に密生する種子毛で，原産地はインド。綿織物は紀元前数千年前からインド・アメリカ大陸などでつくられたことが遺物から知られる。現在の綿の主産地はアメリカ・エジプト・インド・中国など。日本で普及したのは安土桃山時代以後である。綿織物は一般に安価で，耐久力があり，吸湿性に富み，染色も自由であるために，衣料・寝具・家具・衛生材料・日用品などに広く利用される。平織り・綾(あや)織り・繻子(しゅす)織り，その他の変わり織りに織られ，白地・無地染め・縞(しま)・絣(かすり)，あるいは捺染(なっせん)(プリント)されて模

様を現わし，絞り染め・臈纈(ろうけち)染めの生地にも用いられる。小幅織物としては天竺木綿(てんじくもめん)・さらし木綿など，広幅織物では金巾(かなきん)・キャラコ・ポプリン・ブロード・ドリル(綾木綿)・繻子・帆布・綿ネルなど，薄地のものではローン・ギンガム・ガーゼ・縮などがある。綿織物はよごれは落ちにくいが強い。洗浄力に耐え，アイロンがけは高熱が適当である。近来，ビニロンなどの合成繊維を混紡して，耐久力を要する作業服・学生服などに利用する場合が多い。洗たくによる収縮を防ぐために防縮加工を施し，さらにシルケット加工をして光沢を与えることもある。〔小川安朗〕

メンガー [Carl Menger] (1840～1921) オーストリア学派または限界効用学派の経済学者。ポーランド領ガリシアのノイザンディクに弁護士の子として生まれ，ウィーン大学およびプラハ大学に学び，クラカウ大学で学位を得た。卒業後はジャーナリストとして活躍したが，この間，経済理論についても研究を続け，1871年に主著《国民経済学原理》を公刊した。これは，オーストリア学派の出発点となった基本文献であり，限界効用原理による経済現象の理論化をはじめて行なったものである。1879年以降ウィーン大学経済学教授として経済学・財政学を講じ，ウィーザー・ボエーム-バベルクら後継者の養成に力を尽くした。1880年代末には貨幣制度調査委員会の一員として通貨問題解決に携わった。また，シュモラーを中心とするドイツ歴史学派との間に交わされた，経済学の方法をめぐっての〈方法論争〉は有名である。〔林 達〕

めんかくいっていのほうそく [面角一定の法則] 同じ種類の鉱物の結晶では，相対応する二つの面角が同条件(同温同圧)のもとで一定であり変化しないという法則。1669年デンマークのN.ステノはセキエイの結晶を測角して発見した。これは結晶学の基本法則の一つで，結局，結晶内部の原子構造の規則性に由来するものである。

メンゲルベルク [Josef Willem Mengelberg] (1871～1951) オランダの指揮者。ユトレヒトの生まれ。同地の音楽学校とケルン音楽院で学び，1892年よりルツェルン音楽祭の指揮者。1895年から1945年までアムステルダム-コンセルトヘボウ管弦楽団の指揮者として，このオーケストラを世界的なものに育てあげた。その間，ロンドン交響楽団やニューヨーク-フィルハーモニー交響楽団の指揮者も兼務した。第2次世界大戦中にナチスに協力したために追放され，スイスの別荘で余生を送った。20世紀の大指揮者のひとりに数えられる。〔向坂正久〕

メンケン [Henry Louis Mencken] (1880～1956) アメリカ合衆国の批評家。ボルチモアの生まれ。はじめ《スマート-セット》誌の文芸欄を担当，1924年にはジョージ-ネイサンと《アメリカン-マーキュリー》誌を創刊。つねに文壇の中心にあってアメリカ文化の俗物性を鋭く批判する一方，ドライサー・オニールなどの作家たちを擁護した。《偏見》《神々を論ず》《民主主義に関するノート》など多数の著書を残したが，中でも重要なのは《アメリカ語》である。〔酒本雅之〕



免罪符 路上で堂々と売買された

めんこ [面子] 玩具(がんぐ)の一種。江戸時代には面打(めんうち)・面形といって，役者の紋や火消しまといなどの面形を浮き出させた土製の〈泥(どろ)めんこ〉があったが，明治中期以後ボール紙製のものが流行した。遊び方には他の面子に自分の面子を打ちつけて区画外にはじき出すもの，投げ合って表裏で勝負するものなどがある。

めんこうげん [面光源] ある面のすべての点から光が放射されるような光源。点光源・線光源に対する名称。点光源・線光源では照らされる面の距離によって照度が大きく変わるが，面光源ではその面が距離に対して十分に大きければ，距離によって照度は変わらない。また同じ明るさならば面光源のほうが輝度が低いのでまぶしくないのが長所である。螢光体(けいこうたい)の薄膜に交流電界をかけて発光させる，いわゆる電場発光(エレクトロルミネッセンス)を利用した面光源も研究されているが，効率・色の点でまだ実用化されていない。〔吉原邦夫〕

めんざいふ [免罪符] カトリック教会が贖宥(しょくゆう)として信者に発行した証明書。贖宥状ともいう。1063年，スペインのイスラム教徒との戦いの際，はじめて発行されたが，以後，十字軍遠征の兵士にも与えられ，中世末期には教皇庁の贖宥の解釈があいまいになって，単に献金への代価として乱発された。ルターは贖宥の教理の解釈でカトリック教会と対立し，ここから宗教改革が広がっていった。

めんし [綿糸] 綿繊維を紡績した糸。綿繊維は2～4cmの短繊維で，これをくしけずって平行に並べ，少しずつ引き出して撚(よ)りをかけて糸に紡ぐ。紀元前数千年前から紡錘を用いて紡ぐことが行なわれ，これが進歩して糸車で紡ぎ，さらに機械化されて綿糸紡績が工業化された。8番手くらいの太い糸から，100番手以上の細い糸まで紡績され，1本撚りの単糸，2～3本合わせた2子撚・3子撚などがある。他にカタン糸・ガス糸・シルケット糸などがある。〔小川安朗〕

メンシェビキ [Men'sheviki] ロシアのマルクス主義の右派。ロシア社会民主労働党内の多数派(ボリシェビキ)に対する少数派(メンシェビキ)。1903年社会民主労働党第2回大会で，役員選挙にレーニン派に敗れて分裂したマルトフらが少数派になったことに由来する。思想的にはロシアの合法マルクス主義・経済主義・解党主義と結びついており，ドイツ社会民主党の修正主義・ひより見主義のロシア的一変種とみなすことができる。マルクス主義を教条的に受け継いでその生命力を失ったため，当面するロシア革命をブルジョア民主主義革命としか位置づけられず，逆にそのわくの中に運動を押し留める役割を果たした。そのような革命の性格規定から出発したため，革命の主導権はブルジョアジーにあるとして人民大衆(農民を含む)の革命的役割を理解しなかった。1912年プラハにおける党協議会で除名されるまでロシア社会民主党の一翼をなしたが，実際はポトレソフ・マスロフら解党派と，プレハーノフら再建派に分裂していた。第1次世界大戦に際して祖国防衛派(プレハーノフ・ポトレソフら)と，非戦論を唱えた国際派(マルトフ・ダンら)とに分裂し，二月革命とともに大部分のメンシェビキはブルジョア臨時政府を支持し，六月事件以後政府に参加した。国際派は一時ボリシェビキに接近したが，ごく少数が十月革命後ボリシェビキに転換したにとどまった。中間派のトロツキー・ルナチャルスキー・ウリツキーらはボリシェビキに合同して革命に参加した。革命後の国内戦・外国干渉の中で多くのメンシェビキは反革命の立場に立つか，亡命して反ソビエト活動にしたがった。一部はボリシェビキに入党したが，しばしば党内反対派を形成した。〔山県弘志〕

めんじつゆ [綿実油] ワタの種子(含油量15～25%)から圧搾法によって採油した油。リノール酸・オレイン酸・飽和脂肪酸などを主成分とする。精製した綿実油を冷却して，固形物を除いたものを冬油，除かないものを夏油という。冬油はサラダ油の主原料として普及しているが，近年綿実の生産は世界的に不足しており，綿実油の増産はあまり期待できない。

メンス ⇨月経

めんぜいてん [免税点] 課税標準が一

定金額以下であるとき，課税を除外する場合があるが，この場合の一定金額のことを免税点という。課税標準が免税点をこえれば，その課税標準の全体，すなわち免税点以下の部分の金額についても課税される点で，基礎控除*とは異なる。小額の課税物件を課税対象外におくための制度である。現在，免税点制度をとっているのは，物品税*・入場税*・不動産取得税*・料理飲食等消費税・自動車取得税・固定資産税*などである。免税点を広義に用いる場合には，課税最低限と同じ意味になる。〔西野義彦〕

めんせき【面積】平面あるいは曲面の上で，閉じた折れ線や閉じた曲線が囲む部分の大小をいい表わすのに，単位の広さを決めてその何倍にあたるかを数値によって客観的に表わしたもの。面積の計量単位として，1辺が1mの正方形の面積すなわち平方メートルが定められており，そのほかに補助計量単位として平方ミリメートル・平方センチメートル・平方キロメートル・アール・ヘクタールなどがある。

次のような簡単な図形の面積Sを求めるには，必要な部分の長さや角度をはかり，公式にあてはめて計算すればよい。

長方形(縦a，横b)　$S=ab$
平行四辺形(底辺a，高さh)　$S=ah$
三角形(底辺a，高さh)　$S=\frac{1}{2}ah$
三角形(2辺a, bでその間の角α)
$$S=\frac{1}{2}ab\sin\alpha$$
三角形(3辺a, b, c，$s=\frac{1}{2}(a+b+c)$とする)
$$S=\sqrt{s(s-a)(s-b)(s-c)}$$
台形(上底a，下底b，高さh)　$S=\frac{1}{2}(a+b)h$
円　(半径r，円周率π)　$S=\pi r^2$
長円(長半径a，短半径b)　$S=\pi ab$
扇形(半径r，中心角α)　$S=\frac{\alpha}{360}\pi r^2$
球面(半径r)　$S=4\pi r^2$

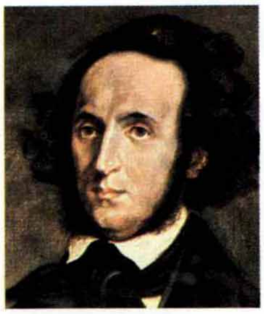
なお，直線で囲まれた多角形の面積は，これをいくつかの三角形に分割して求める。また，プラニメーター*を用いても求めることもできる。近似的な方法としては，①図形を方眼でおおってその目の数を数える(この場合，曲線にかかった方眼は0.5個とする)方法，②図形を等間隔に引いた平行線でいくつかに分け，この平行線を底とする台形あるいは三角形で近似させる方法，③精度を高めるために放物線で近似させる方法などがある。〔富田芳秀〕

めんせきけい【面積計】⇨プラニメーター

めんせきそくどいっていのほうそく【面積速度一定の法則】⇨ケプラーの法則

めんせきやっかん【免責約款】船荷証券や保険証券などにおいて，債務者が法律上負担すべき責任を免除または軽減される旨を定めた約款のこと。たとえば保険証券で，戦争・地震などによる損害については，


メンダコ


メンデルスゾーン

保険会社は責任を負わないと書かれているのがこれである。この約款も法律が特に免責を禁止している事項で，船舶所有者の堪航(たんこう)能力担保義務(商法739条)などを除いては，一般に有効と考えられている。

めんそ【免訴】刑事裁判において，訴訟の実体的条件を欠くため，検察官が行なった起訴*を不適法として訴訟を打ち切ること。判決で免訴の言い渡しをしなければならない場合は，①すでに確定判決を経ているとき，②犯罪後の法令改正により刑が廃止されたとき，③大赦があったとき，④時効が完成したときなどである(刑事訴訟法337条)。なお，免訴の判決があると，その判決の既判力*(一事不再理の効力)によって，再びその事件について裁判をすることはできない。〔井上公耳〕

めんたい【明太魚】⇨スケソウダラ

めんだこ【面蛸】軟体動物・頭足類・メンダコ科。体高6cm，体幅25cm。体は軟弱な寒天質で，全形凸(とつ)レンズ状，面を思わせるのでこの名がある。暗黄かっ色の背面には両眼が半球状に突出し，目の後方に小さいひれがある。8本の腕はほぼ同長で広い膜で連なり，腕に沿って8個の淡紅小円斑(しょうえんはん)がある。腹面は暗赤紫色。吸盤はほぼ1列に並ぶが13～16は大きく2列になる。日本特産で相模(さがみ)湾から九州の水深100～1,500mのところにすむ。

めんちょう【面疔】⇨癤(せつ)

メンツェル［Adolf von Menzel］(1815～1905)ドイツの画家・版画家。石版工の子として生まれ，父から技術を学んだ。しかし，その精妙的確な素描力は自得したという。1840年歴史家クーグラーの《フリードリヒ大王伝》にペン画のさし絵を描いて名声を確立した。1835年ごろから油絵を始めたが，おもにフリードリヒ大王時代を扱った歴史画を描く。1845年から1860年にかけての作品には，すでに巧まない軽やかな写実主義のうちに，印象派的傾向が現われている。《鉄工場》は近代的工場を表現した最初の大作といわれている。〔松本芳夫〕

メンデル［Gregor Johann Mendel］(1822～1884)現代遺伝学の創始者。シレジア地方のハイツェンドルフの農家に生まれる。ギムナジウムに学んだほか，ウィーン大学の聴講生になったのが最高の学歴であり，生物学・自然科学の専門教育は受けていない。ブリュン(現在はチェコスロバキア領のブルノ，当時はオーストリア領)の修道院にはいり，エンドウマメの交雑実験を行なう。その結果は1866年に発表されたが，1900年のド-フリースらによる再発見まで30余年も無視されつづけた。この研究は遺伝の基本法則(メンデルの法則)をはじめて明らかにした点で，自然科学史上画期的な意義をもっている。メンデルの研究成果の意義は，①雑種7代に至るまでの精細な実験を系統的に行ない，帰納的に定量的法則に到達したこと，②この法則をになう実体として〈要素〉の存在を説き，遺伝子概念を予知したこと，③これに関連して，遺伝現象・遺伝法則を生殖細胞の形成と受精の過程に結びつけ，かくて細胞遺伝学・分子遺伝学に至る道をひらいた点にある。〔中村禎里〕

メンデルスゾーン［Felix Mendelssohn］(1809～1847)ドイツの作曲家。ハンブルクの裕福な銀行家の家に生まれる。はじめ母からピアノの手ほどきを受け，のちにL.ベルガーにピアノを，ツェルターに作曲を習った。1818年にピアノの公開演奏を行ない，神童として人々の注目を集める一方，1826年には，はやくも《真夏の夜の夢》の序曲が作曲された。この年から1829年まで，ベルリン大学で学んだ。1829年メンデルスゾーンは，J.S.バッハの死後忘れ去られていた《マタイ受難曲》を演奏し，バッハの音楽の価値を人々に認識させ，バッハ再評価の先がけとなった。その後，数年にわたってドイツ・オーストリア・イタリア・フランス・イギリスを旅行し，リスト・ベルリオーズらの知己を得た。この間に序曲《フィンガルの洞窟(どうくつ)》，交響曲《イタリア》，ピアノ曲《無言歌》第1集などのすぐれた作品が生み出された。帰国後，ジュッセルドルフ市の音楽監督をつとめ，1835年ライプチヒ-ゲバントハウス管弦楽団*の指揮者に就任し，同楽団をヨーロッパ第一といわれるすぐれた楽団に育て上げた。この功績によって，ライプチヒ大学から名誉博士号が贈られた。1841年プロイセン王フリードリヒ-ウィルヘルム4世に招かれてベルリンへ行った。また，1843年にはライプチヒに音楽学校を設立し，シューマンらとともに同校で作曲とピアノを教えた。先に序曲だけが作曲されていたシェークスピア

の《真夏の夜の夢》の付随音楽が完成し，また交響曲《スコットランド》や有名なバイオリン協奏曲ホ短調が作曲された。しかし，このころから健康を害し，その後オラトリオ《エリア》を作曲してイギリスで初演をしたものの，帰国後体力の衰えが著しくなり，38歳の若さで生涯(しょうがい)を終えた。彼の音楽には深さや悲劇性がないといわれるが，古典的伝統に基づき，均整のとれた形式によって澄んだロマン的世界を展開している点に独自性がみられる。〔寺田兼文〕

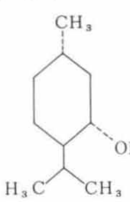
メンデルのほうそく【メンデルの法則】⇨遺伝

メンデレーエフ［Dmitrii Ivanovich Mendeleev］(1834～1907) ロシアの化学者。シベリアの生まれ。早く父に死別，ペテルブルグ師範学校官費生として学び，中学教師となる。その後ハイデルベルク大学でブンゼン*・キルヒホフ*らに学び，帰国後ペテルブルグ大学教授。無機化学講義を大系づけるため，教科書《化学の基礎》(1868～1869)において元素の原子量がその性質と関係あることを認め，1869年周期律を発見。1875年元素の周期律表の中で，未発見の元素の位置とその性質を予言，これはのちにガリウム・スカンジウム・ゲルマニウムなどの発見によって実証された。このほか液体の熱膨張について研究し，アンドリュースに先だって臨界温度を認めていた。また溶液論・化学量論的研究のほか，石油資源・石炭の開発に尽くし，利用と分離精製法および石油の成因について調査した。1890年大学を退き，度量衡局長となる。〔山下愛子〕

メンデレビウム［mendelevium］周期律表第Ⅲ族，アクチニド元素の一員で，超ウラン元素。記号Md，原子番号101。1955年カリフォルニア大学で，プルトニウムに中性子を照射して生成した。アインスタイニウム253に，α粒子を衝撃して核反応を起こさせるときにも生成する。3価の原子価を有するが詳しい性質は不明。

メンドサ［Mendoza］アルゼンチン西部，アンデス山麓(さんろく)にある都市。人口11万(1966)。内陸の乾燥地に位置し，近年周辺では農牧地の開拓が進んでいる。また付近には油田もある。ここからチリのサンチアゴへアンデス横断鉄道が通じている。16世紀後半に建設の起源を有するが，1861年の地震で1万人以上が死亡，市街は全壊という惨事に見舞われた。

メントール［menthol］モノテルペンアルコールの一種。光学異性体(d-メントールとl-メントール)とラセミ体(dl-メントール)がある。l-メントールは別名はっか脳として知られ，はっか精油の主成分(70～90%)で，はっか精油を冷却すると固形物として得られる。





メンフクロウ



メンドサ この地方の気候はきわめて乾燥しているが，アンデス山脈から流れ出る川の水を引き，町は緑の樹木で美しく飾られている

無色の結晶で，融点41.6℃，沸点216℃。水に難溶だが，エチルアルコール・エーテルなどにはよくとける。特有の爽快(そうかい)なにおいをもつ。清涼剤あるいは医学用・食用・香味用などとして用いられる。dl-メントールはチモールを接触還元すると他の異性体との混合物として得られ，光学分割により純粋なd-メントールとl-メントールに分けることができる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

メンヒ(山)［Mönch］スイス南部，ベルナー-アルプスにあるベルナーオーバーランド山群中の高峰。標高4,105m。アイガー山とユングフラウ山との中間に位置する。登山基地グリンデルワルトから出る登山電車は，アイガー山およびこのメンヒ山をトンネルで抜け，メンヒ山とユングフラウ山の中間点にある高度3,454mのユングフラウヨッホ駅まで達するが，これに乗るとアイガー山の絶壁やアレッチ氷河などの景観を上から見ることができる。〔大石堪山〕

メンヒル［menhir］新石器時代後期から青銅器時代にかけて残された巨石記念物の一。立石と訳す。自然石か多少加工した方柱形の1本の石を立てたもの。2mぐらいのものから10mに及ぶものもある。フランスのブルターニュ地方に多く残っている。原始的な巨石信仰とも一種の神像的なものともいわれる。

メンフィス［Memphis］アメリカ合衆国，テネシー州南西端にある同州最大の都市。人口66万1,000(1975)。ミシシッピ川に臨む河港をもった商工業都市で，綿花と木材の大取引市場として有名。鉄道の中心地で，鉄鋼品の集散をなす。また綿実油・機械工業も発達している。付近には黒人が多く居住する。

メンフィス［Memphis］エジプトのカイロの南約25km，ナイル西岸にある古都。エジプト古王国時代の王都で，下エジプト第1州の州都。現在名ミト-ラヒナ。第1王朝の祖メネス*が統一王国の都として建設したといわれ，第3王朝(BC2700年ごろ)以降歴代の宮廷が置かれ，西方台地には壮大なピラミッドを中心とする王族・貴族の墓地(サッカラ・ギゼーなど)が建設された。中王国時代以後首都は上エジプトに移るが，下エジプト行政の中心府として，聖なる墓地の所在地として，市神プタハとその聖牛アピスの信仰の聖地として，また第18王朝(BC1580年ごろ)以降，特に第26王朝(紀元前7世紀)以降は外国人居留区(シリア人，のちギリシア人・ガリア人・ユダヤ人・フェニキア人など)をもつ国際都市として，BC331年アレキサンドリア市が建設されるまで繁栄を続けた。イスラム教徒のエジプト征服によって完全破壊され，その石材はカイロ市の建設に利用された。〔屋形禎亮〕

めんふくろう【面梟】①鳥類・メンフクロウ科の総称。骨学上の特徴の相違に基づいてフクロウ科とは区別されている。世界に10種があり，ナヤフクロウは世界的分布をしているが他のものは旧世界にのみ分布し，いずれも夜行性・地上営巣性であり，ほとんどのものはひらけた草原や荒地に生息するので，グラス-オウル(grass owls)ともいわれる。

②ナヤフクロウ*Tyto alba*の別称。メンフクロウ科の鳥は英語でbarn owls，すなわちナヤフクロウ(納屋梟)ともよばれ，*Tyto alba*の英名がbarn owlまたはcommon barn owlであるため，混乱がある。本種はユーラシア大陸の西部，北アメリカ大陸南部に広く分布し，30余亜種からなる中形のフクロウで，顔面はハート形でサルのようなあいきょうのある顔つきをし，羽毛は美しい。胸には他の多くのフクロウ類に比べ縦斑(じゅうはん)が少ない。農家の納屋や廃屋の屋根裏などに営巣することが多く，夜行性で耕地のネズミ類を捕え主食としている。〔安部直哉〕

めんよう【緬羊・綿羊】家畜のヒツジのうち，毛用ヒツジ，特にメリノー種の異名とされることが多い。➔ヒツジ

も

も【裳】 上代から平安時代にかけて女子が下半身にまとった布。袴*(はかま)に対してスカート式のものをいい，奈良時代には裙(くん)とも記した。表面に着ける上裳と，その下に着る下裳とあったが，平安中期ごろから公家(くげ)の女子の袴はしだいに長くなり，また衣(きぬ)(女房装束の下に重ねて着る単衣*(ひとえ))も裾(すそ)が長くなったので裳は形式化し，背面のみに着けられるようになった。宮廷女子の正装のときには必ず用いたが，鎌倉時代以後は宮廷の大儀のときにのみ用いられるものとなった。〔河鰭実英〕

も【喪】 死者の近親者たちが一定期間，家に忌みこもること。死者は息を引き取っても死んだとはみなされず，殯(もがり)という蘇生(そせい)期間を経て，死が確認された。喪に魂(たま)呼び*の儀礼が関係するのはそのためであり，呼んで帰らぬ魂は死霊となり，しだいに清められて祖霊となる。死霊の出現は喪の開始である。喪は忌(き)と服(ぶく)とに分かれ，死の忌みの重さを示す。忌は通常中陰*のうちと考えられているが，それは死者が完全に他界へはいるまでの49日間で，これを忌中ともいう。忌中を終えると，死者と共食していたさまざまな規制が解かれ，平常の生活にもどる。それ以後は服の期間となり，月忌・初盆・年忌などを取り行なうことになる。死者の出たことは，死者とその近親者との別れであるのみならず，ある種の穢(けが)れや恐怖などであるため，喪は死者を無事他界へ送り出すための，また穢れをぬぐい忌の制裁を避けるための，死にまつわる観念である。〔渡辺欣雄〕

モー [mho] 電気抵抗の逆数コンダクタンス(→アドミタンス)の単位。記号℧。1℧とは，1Ω(オーム)の抵抗体のもつコンダクタンスをいう。

モア [moa] 鳥類・モア目・オオモア科とコモア科の鳥の総称。ニュージーランドにのみ知られる絶滅した走鳥類*。南北両島から多数の半化石状の骨が発掘され，オオモア科6種，コモア科13種に分類されている。ダチョウよりもむしろエミューやヒクイドリに似て，太めの湾曲した首をもち，背たけ1～3mであろうと推察されている。絶滅の要因は確かでない。最後の種は19世紀にはいってから絶滅したと考えられている。

モア [Thomas More] (1478～1535) イギリスの人文学者・政治家。ロンドンの生まれ。オックスフォード大学に学び，1499～1503年カルトジオ修道会にはいるが，以後政治家として，下院議員・ロンドン副市長・外交使節などを経て，1529年大法官となる。しかしヘンリー8世*が離婚問題でローマ教皇と対立した際，モアはカトリック教徒の立場から王の離婚を認めず，そのため王の怒りを買って大逆罪の名のもとに処刑された。エラスムス*とは終生親交があった。のちカトリック教会聖人とされた。著書《ユートピア》ほか。〔石井忠厚〕

モアサン [Ferdinand Frédéric Henri Moissan] (1852～1907) フランスの無機化学者。パリの生まれ。はじめ薬剤師として徒弟奉公していたが，のち自然史博物館へ入り，フレミのもとで化学を学ぶ。1886年フッ素の遊離に成功。1889年パリの薬学学校教授を経て，1900年パリ大学無機化学教授となる。1892年に電気炉を製作して人工的にダイヤモンドをつくったほか，種々の難溶物の溶融，炭化物・ケイ化物・ホウ化物など高温化学について研究した。1906年ノーベル化学賞を受賞。死後その遺産によりモアサン化学賞が設定された。

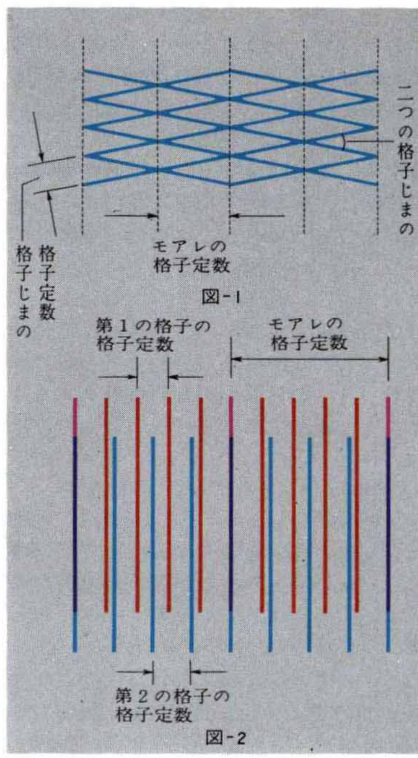
モアレ [moiré] 二つの格子縞(こうしじま)を重ねて透かして見るとき現われる拡大されたあらい目の縞模様。2枚のまったく同じ格子縞の向きがわずかに違うときには，もとの格子縞にほぼ垂直の方向に走るモアレが見られ(図-1)，その拡大率は二つの格子縞の間の角度(単位ラジアン)の逆数にほぼ等しい。また二つの格子縞がまったく平行で，その格子定数(格子縞の模様のくり



裳《春日権現験記》(部分)



モア ナショナル-ポートレート-ギャラリー蔵



モアレ

返し周期の長さ)がわずかに違うときには，もとの格子に平行に走るモアレが見られ(図-2)，その拡大率は二つの格子縞の格子定数の差の相対値(差を格子定数の平均値で割った値)の逆数にほぼ等しい。2枚のすだれを重ねて透視したり，網版の印刷物を再び格子状スクリーンにかけて網版をつくるときに現われる。〔飼沼芳郎〕

モイラ [Moira] ギリシア神話で運命の女神。モイラは本来〈割り当て〉の意であり，人が生まれる際にその人に割り当てられた〈その人の持ち分〉(運命)を抽象的にモイラとよんでいた。しだいに擬人化されて，ヘシオドスでは運命の3女神モイライ(モイラの複数形)としてラケシス・クロトス・アトロポスの名があげられ，ゼウスとテミスの娘，またはニュクス(夜)の娘とされる。

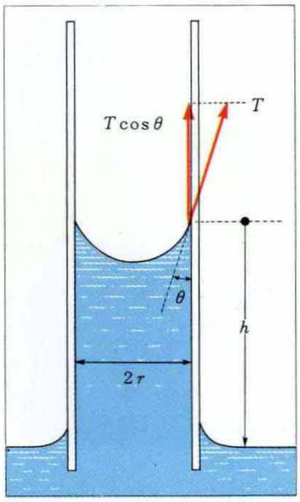
もうあんぼうこくせい【猛安謀克制】中国，金の太祖阿骨打*(アクダ)が，1114年女真族古来の部族的な軍事組織を，行政と軍事との機能を発揮するように改めた制度。行政組織としては，300戸を1謀克部,10謀克部を1猛安部とし，軍事組織としては，1謀克部から100人の兵士を徴集して1謀克軍を編成した。猛安部の長を猛安，謀克部の長を謀克といい，行政機関の長であるとともに軍隊の指揮官でもあった。女真語で猛安は千,謀克は族長の意。〔若松　寛〕

もうか【孟軻】⇨孟子

もうがくどうぶつ【毛顎動物】毛顎動物門を形成する一群の浮遊性動物で，一般にヤムシといわれる。体は細長く，扁平(へんぺい)な円柱状で，頭部・軀幹(くかん)部・尾部に分けられる。頭部には1対の小眼をもち，腹面に口が開く。口の外側方には数対の顎毛があり，えさを捕える場合に使用される。軀幹部には1～2対の薄い側鰭(そくき)があり，尾部には尾鰭がある。消化管は体の中央を直走し，腹面後方に肛門(こうもん)として開口する。雌雄同体で，卵巣は軀幹両側に1対存在し，おのおの両側に開口する。精巣は尾部の直前にあり，両側の小突起に開口する。発生は直達的で，親とほぼ同形の幼生を生ずる。海洋のプランクトンとして重要な動物群で，橈脚(とうきゃく)類*などの動物プランクトンや稚魚などの捕食者として知られている。顕著な垂直日周移動をするものも多く，浅海では昼間は底の表面付近に多い。〔向井　宏〕

もうがっこう【盲学校】⇨盲教育

もうかんげんしょう【毛管現象】毛細管現象ともいう。液体中にきわめて細い管を立てると，管内の液面が管外の液面より上がるか，または下がる現象。一般に液と管壁との間の接触角が90°より小さい場合(水など)は管内の液面は上昇し，90°より大きい場合(水銀など)は下降する。図のように接触角をθ，液の表面張力をT，密度ρ，管の半径をrとすると，管内の液面と管壁



毛管現象

の接触部において上向きに働く力の合力$T\cos\theta\cdot 2\pi r$と液柱の重さ$\pi r^2\cdot\rho gh$はつりあうから$h=2T\cos\theta/r\rho g$となる。すなわち管を上昇する液の高さは，半径に反比例する(ジュリンの法則)。なお，石油ストーブの芯(しん)や吸い取り紙・ペン先などはこの現象を利用したものである。〔今淳治郎〕

もうぎゅう【蒙求】中国，唐中期の李瀚(りかん)の著。3巻。伝説時代から南北朝時代に至る多様な人物を選び，その逸話・説話を述べて教戒・世間智(ち)に供したもので，児童用教科書の類である。4字1句の対句を用い，押韻してあり,全部で596項。中国でも日本でも愛読された。なお，一般に児童用教科書や初歩入門書で何々蒙求と名づけたものがある。

もうきょういく【盲教育】特殊教育の一部として取り扱われている盲人に対する教育。わが国の盲教育は1878年(明治11)に京都盲唖(もうあ)院開設以来，盲学校が各地に設けられ，1923年(大正12)の〈盲学校及聾(ろう)学校令〉で各道府県に設置が義務づけられたが，その時点ではすでにすべての道府県に設置されていた。それまで盲・聾と両者を分けずにきたが，この法令により法規上は別個の学校と考えられるようになった。今日，学校教育法によって，都道府県に盲学校設置の義務が明記され，同時に保護者に子弟の就学義務が課せられている。しかし，現実にはその就学率は低く，1960年(昭和35)でようやく40％強であり，これを100％に近づける努力が必要である。また，社会復帰のために，本人の能力に応じて普通人と同じ教育が受けられるようにすることも必要である。〔浜田陽太郎〕

もうきん【猛禽(類)】ワシタカ目とフクロウ目に属する鳥の総称。典型的には鳥獣を食物とし，鋭いくちばし・つめ・強力な足をもつ。他の鳥がくちばしで食物をとるのに対し，足で獲物を捕え，くちばしはそれを引き裂くのにしか用いない。猛禽類の中には魚・こん虫・死肉を主食とするものもあるが，くちばしと足の形および採餌(さいじ)法はすべて同一である。ただし，モズ類などのようにくちばし・足や採餌法などがこれに似ている鳥もあり，通俗的にはそれをも猛禽とよぶことがある。〔浦本昌紀〕

もうこう【孟郊】(761～814) 中国，唐代の詩人。孟東野ともいう。役人として不遇で，一生貧乏に苦しみ，詩に貧乏生活の苦しみを詠じた。韓愈*(かんゆ)の文学主張に共鳴し，それを支持した。

もうこうぜん【孟浩然】(689～740) 中国，唐代の詩人。40歳過ぎに一時，長安(陝西(せんせい)省)・洛陽(らくよう)(河南省)に出て官途につこうとしたことがあったほか，生涯(しょうがい)の大部分は故郷(いまの湖北省襄陽(じょうよう))の鹿門山(ろくもんざん)に隠棲(いんせい)，あるいは江南各地を旅して終わった。詩は五言の律詩と排律が多く，きびしい形式の中に壮大な山水や旅に見た情景をとらえてうたった。唐代の山水詩の第一人者で，のちの王維*の先駆となった。〔今村与志雄〕

もうこごぐん【蒙古語群】⇨アルタイ系諸族

もうこしゅうらい【蒙古襲来】⇨文永・弘安(こうあん)の役

もうこしゅうらいえことば【蒙古襲来絵詞】文永・弘安(こうあん)の役*の蒙古襲来に取材した絵巻物。蒙古軍との交戦の次第よりも，両役に奮戦した九州の武士，竹崎五郎兵衛季長(ごろべえすえなが)の戦功を記録したもの。季長みずからがこの絵巻2巻を制作せしめ，1293年(正応6)，甲佐大明神へ奉納した。絵は画風から2種あり，かなり綿密に描かれた部分もあるが，雑で粗野な筆も混じり，地方的な作風を思わせる。当時の記録画として貴重である。御物。

もうこしょう【蒙古症】⇨ダウン症候群

もうこじんしゅ【蒙古人種】⇨モンゴロイド

もうこずもう【蒙古相撲】蒙古人の間で行なわれている日本の相撲に似た格技。蒙古語ではバリルドホという。元朝太祖のころからあったもので，王侯襲名の祝典，昇位・誕生の慶事，ラマ寺院や部落の祭りなどに必ず行なわれた。競技方法は各部落間の対抗戦，個人の優勝戦などがあり，服装は，柔道着に似たジドックを着て，半ズボンに長ぐつ，背にたすきをかける。はじめ中腰で立ち合って，組み・けり・投げの技(わざ)が行なわれ，競技規則は，①審判(1名)に全権が任される，②ひざから上の部分を地につければ勝ちとなる，③ひざから上をけったり足をとってはいけないなどがある。なお試合場の範囲は無制限であるが，見物人の人がきによって自然にわくができる。〔呉　政男〕

もうこていこく【蒙古帝国】⇨モンゴル帝国

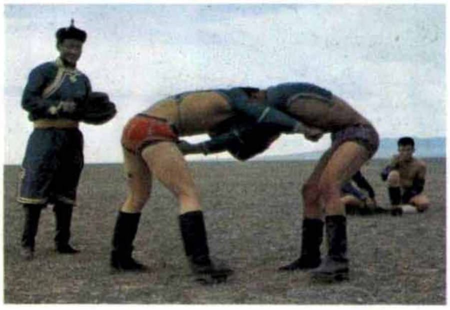
もうこはん【蒙古斑】⇨児斑

もうさいけっかん【毛細血管】組織の細胞と接触する非常に細い網目状の血管。

毛細管ともいう。直径約8～20μで，1個の血球細胞が形を変えてやっと通過できる太さのものもある。血管の壁はきわめて薄く，1層の内皮細胞と基底膜からなり，ところどころにルージェー細胞が存在する。ルージェー細胞は収縮性があって毛細血管の太さを変えることができ，血液の流量を変化させる。組織と接触して物質の交換を行なうが，細いこと，表面積が大きいこと，壁が薄いこと，血流がおそいことが物質の交換にきわめて重要な役割を果たしている。最近，毛細血管にも数種類の分類がなされつつある。これは，腎(じん)小体(腎臓の一部)・脳・内分泌腺(せん)・肝臓・脾臓(ひぞう)などの器官では，それぞれ特殊な毛細血管があるからである。普通の毛細血管や肺などでは，内皮細胞は強く接着しているが，腎小体・内分泌腺・肝臓の洞様(どうよう)毛細血管では，内皮細胞の細胞膜に小孔があって物質の通過が自由になっている。➔血管

〔高野一雄〕

もうし 【孟子】 (BC372～BC289) 中国，戦国時代の儒家思想家。名は軻(か)，字(あざな)は子輿(しよ)または子車。山東省の人。孔子の孫の子思に学び，所信を実行するため諸侯に遊説したが果たさず，対話・対論集である《孟子》7編を残した。《孟子》は朱子学の特別な尊信を受けたので，儒教を孔孟の教えというようになった。そして《四書》の一つとなり，中国・日本で広く読まれ，多くの注釈書が書かれた。孟子の思想の大要をあげれば次のとおりである。すなわち，彼によれば，孔子の教えた人の道は天が人に賦与した性に備わっているから，自分の内にあるものは実行すれば天の道にかなう。これが〈性善説〉である。性善の内容は仁・義・礼・智(ち)で，それは具体的には父母を愛し兄長に敬事する家族道徳であり，これこそ人間にとって最もたいせつな基本である。政治の道はこれの拡大で，君主・天子は民の父母であり，天子は自分の性に従って民を愛育する。これが王道である。王道の根本は民本主義にあり，天の下では天子もひとりの民にすぎないが，人民のために



蒙古相撲 わが国の相撲の原型に酷似するモンゴル人民共和国の国技



モウセンゴケ

天が任命したのだから，人民をそこねる政治をする天子は天が免職にして新人を任命する。これがすなわち〈革命〉である(→天命)。さて，王道の具体策は，井田法によって人民の均等な土地利用を保証し，この物質的基礎の上に，人民が家族道徳を築くことができるようにする。孟子は，性という点では天子と民との平等を考えたが，体制上の治者と被治者をきびしく区別し，それは徳のあるなしによる当然の差別であるとした。孟子は時勢遅れの家族本位の社会・政治を夢みた。そこに彼の観念的な理想主義が生まれ，後世愛された歯切れのよい道義論もここから生まれた。 〔西　順蔵〕

もうしょうくん 【孟嘗君】 (？～BC279ごろ) 中国，戦国時代の斉(せい)の公族。本名は田文。賓客数千人を招いて好遇し，諸侯たちに匹敵する実力をもった。魏(ぎ)の信陵君，趙(ちょう)の平原君，楚(そ)の春申君とともに四君と並称され，戦国末の政治を動かした。秦(しん)の昭王にとらわれたとき，賓客の中の盗みと物まねのじょうずな者の力でのがれた，いわゆる鶏鳴狗盗(けいめいくとう)の故事は有名。斉と魏の宰相をつとめたが，のちに自立して諸侯となり，薛(せつ)で死んだ。 〔小南一郎〕



蒙古襲来絵詞 上陸した元軍の兵と戦う竹崎季長。宮内庁蔵

もうしるい 【毛翅類】 ⇨トビケラ

もうせんごけ 【毛氈苔】 双子葉植物・モウセンゴケ科。日あたりのよい山野の湿地にはえる多年草で，最も普通の食虫植物。葉は根もとから四方に広がって出て，長い柄があり，葉身は径5～10mmの円形で，表面に粘液を出す毛が多数ある。毛の色は日なたでは赤色，日陰ではほぼ透明である。8月，高さ7～20cmの花茎を伸ばし，数個の花をつけて下から1個ずつ白色5弁花を咲かせる。果実は長楕円(ちょうだえん)形の蒴果(さくか)。近縁のコモウセンゴケは葉がへら形をしており，柄が短く，濃紅色花をつける。尾瀬ケ原にあるナガバノモウセンゴケは，葉が直立して線形のへら形をしており，柄が長い。また，モウセンゴケとナガバノモウセンゴケの自然雑種であるサジバモウセンゴケも知られている。 〔加藤僖重〕

もうそう 【妄想】 思考障害の一種。根拠のない主観的な確信であって，論理的な反証にあっても，その誤った思考内容の不合理性や事実との矛盾を訂正できない異常体験。大別して，発生的に了解可能で，感覚や感情状態から2次的に導かれる〈妄想様観念〉と，一次的で了解困難，原発的な〈真正妄想〉とに分けられる。

〈真正妄想〉は精神分裂病に特有で，①理由もなく周囲が無気味に感じられ，たいへんなことが起こりそうなばく然とした異様な感情に襲われる〈妄想気分〉，②知覚に異様な意味が与えられる〈妄想知覚〉(たとえば，小鳥の声を聞いてそれが自分の死刑の前触れであると信ずる)，③突然，啓示のように異様な観念が浮かんでくる〈妄想着想〉(たとえば，道を歩いていて，突然〈自分は天皇の落とし子である〉と確信する)などがある。

妄想はまた，内容から，対人関係に関する関係妄想(他人の行為をなんでも自分に関係づける)や被害妄想(他人から害を受ける)，自分自身の評価に関する劣等妄想や誇大妄想(自分を誇大に評価する)などさまざまに分類される。妄想は精神病の中心的な症状で，各種の精神病に出現するが，比較的純粋な形は精神分裂病の〈妄想型〉にみられる。 〔鈴木寿治〕

もうそうちく 【孟宗竹】 単子葉植物・イネ科。中国原産の大形のタケで，沖縄を通って日本に渡来し，日本各地に栽植され，野生化している。地下茎は太く広走し，茎は高さ10～12m，径20cmほどになり，円柱形で中空。枝は節から2本ずつ出て，その先はよく分枝し，多数の葉をつける。葉は

小枝の先に2～8枚つき，長さ4～8cmの披針(ひしん)形。まれに花をつけ，花穂は細い円筒状で，重なりあった包鞘(ほうしょう)でおおわれる。たけのこの皮は緑かっ色で黒かっ色の斑点(はんてん)があり，針形の縮形葉がある。茎はもろく，細工物に利用される。

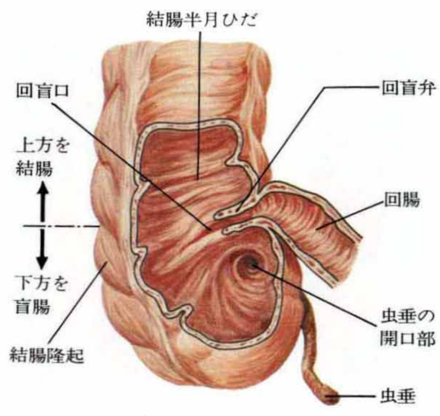
もうたくとう【毛沢東】マオツォートン(1893～1976) 中国共産党*中央委員会主席。字(あざな)は潤之(じゅんじ)。湖南省湘潭(しょうたん)県の山村に中農の長男として生まれる。湖南第一師範学校に学び，西欧思想に触れて〈新民学会〉を組織(1917)，心身の鍛練を提唱。卒業後，五・四運動*を指導，《湘江評論》を発行して《民衆の大連合》を執筆，やがてマルクス主義者となり，中国共産党創立大会(1921)に湖南省代表として参加した。1924年，中共中央委員・中国国民党*宣伝部長代理，このころから農民の組織化に着手した。国共分裂(1927)後，蜂起(ほうき)した農民を率いて井岡山(せいこうざん)に最初の農村武装根拠地を創設し，〈農村が都市を包囲する〉という全く新しい独自の革命の道をひらいた。1931年瑞金*(ずいきん)中華ソビエト共和国臨時中央政府主席。だが，都市労働者蜂起一点ばりの極〈左〉教条主義者から右翼日和見(ひよりみ)主義として批判され，一時党内における権利を奪われる。大長征の途上開かれた遵義会議(1935)で極〈左〉路線を克服して党中央委員会主席に就任，中共における指導権を確立した。以後，抗日戦，国共内戦を通じて《実践論》《矛盾論》《文芸講話》など多くの著作を発表して解放闘争を勝利に導き，1949年10月中華人民共和国を樹立した。解放後は，国内の社会主義建設の指導にあたるかたわら，中ソ論争においては国際共産主義運動における修正主義批判を提起，1965年にはプロレタリア文化大革命を起こして革命勝利後の国内における修正主義一掃を図るなどした。《毛沢東選集》4巻がある。〔吉田富夫〕



毛沢東

もうたくとうしゅぎ【毛沢東主義】毛沢東と中国共産党が多年にわたる中国革命*闘争の具体的実践を通じて発展させてきた思想。1966年8月の中国共産党第8期中央委員会第11回総会は，〈毛沢東思想は，帝国主義が全世界的な崩壊に向かい，社会主義が全世界的な勝利に向かう時代のマルクス-レーニン主義〉であると規定した。特に，社会主義社会の諸矛盾を，階級と階級闘争の永続的存在としてとらえるという過渡的階級闘争理論が特徴的である。

もうちょう【盲腸】小腸から大腸に移行する部分。ヒトの場合は大腸の起始部で，骨盤右前の上前腸棘(ちょうきょく)と臍(へそ)を結ぶ線上の中央部に位置し，端が袋のように行き止まりになっている。大腸より太いが長さは約5～8cm。ウシ・ウマ・ウサギなどの草食動物では長く発達しているが，肉食動物・雑食動物では発達の程度は悪く退化している。盲腸の左後壁からは虫垂*(虫様突起)が出ている。



盲　腸



盲　点

もうちょうえん【盲腸炎】⇨虫垂炎

もうつじ【毛越寺】岩手県西磐井(にしいわい)郡平泉町にある天台宗の寺。山号は医王山。平安後期，藤原基衡*(もとひら)が創建，秀衡(ひでひら)が拡大して，堂塔50余，禅房500余に及んだ。遺跡調査により，諸堂は寝殿造りふうの寺院群に分かれ，浄土式庭園*に臨んでいたことが知られる。当時は中尊寺*に見られるような荘厳さで飾られていたと推定されるが，奥州藤原氏が滅亡したのち衰微し，鎌倉・戦国時代に数度火災で焼失。現在の本堂その他は明治以降再建されたものである。寺院跡は特別史跡，庭園は特別名勝に指定され，また当時の芸能であった〈延年舞〉を伝えている。〔高崎徳次〕

もうてん【盲点】マリオット*によって発見された生理的視野の欠損。盲斑(もうはん)ともいう。片眼で1mの距離にある平面視野計(→視野)の中心を注視するとき，その中心点より外方約15°の部位に，縦約7°，横約5°のほぼ楕円(だえん)形の盲点(視野の欠損)が存在する。健常な網膜は外界からの射入光線の刺激を受けて光覚を起こすが，視神経の入り口である乳頭(視神経円板)だけは視細胞*が存在しないためこの能力を欠く。その乳頭の対応部がマリオットの盲点である。簡単には白地に黒か黒地に白で小円を描き，さらにその左方5～10cmに小十字を描いて，両者の間隔の約3.5倍の距離から右眼だけで小十字を凝視すると小円が見えなくなることでわかる。〔納富教雄〕

もうどうけん【盲導犬】盲人の目となりつえとなって誘導するイヌ。実験的にはシェパードの雌が最適とされるが，ラブラドール・レトリーバーその他も用いられる。ふつう盲人はイヌの首と肩に連結してある皮バンドを左手に持って歩くが，盲導犬は路上の障害物を主人に教え，前後左右を見て安全な方向へ導くよう訓練されている。

もうはつ【毛髪】⇨毛

もうはつしつどけい【毛髪湿度計】毛髪の湿度によって伸び縮みする性質を利用した湿度計。毛髪の長さは湿度0から100％になると約2.5％伸びる。伸びの長さと湿度との関係は直線的ではなく，湿度の低いところほど大きく，温度によっても多少変化する。毛髪は，化学薬品を用いて脱脂したものを使用する。毛髪の伸縮を目盛り板上の針の動きに表わしたものや，円筒上にペン書きさせる自記式のものがある。

もうふ【毛布】ブランケットともいう。太い紡毛糸を平織り・綾(あや)織り・二重織りに織り，起毛して厚地にした織物。染色は無地，プリント模様，縞格子(しまごうし)などのものがある。厚いわりに重量は軽く，含気量が大であるので，保温力に富み，特に寝具に用いられる。一般に羊毛製品が多いが，近来はレーヨン・アクリルなどの化学繊維製品もあり，また綿毛布もつくられる。なお，夏の寝具用としてタオル地でつくられたものをタオルケットという。〔小川安朗〕

もうまく【網膜】⇨目

もうようたい【毛様体】⇨目

もうりし【毛利氏】戦国時代以降，中国地方で勢力をふるった豪族。大江広元*の子季光(すえみつ)が，その所領相模(さがみ)(神奈川県)愛甲郡毛利荘(しょう)の名をとり毛利氏を称したという。1336年(延元1・建武3)季光の孫時親(ときちか)が安芸(あき)(広島県)吉田(よしだ)荘の地頭職(しき)となり，以後この地方に勢力を張った。元就(もとなり)のときその勢力は最も伸張し，陶(すえ)・尼子氏らを滅ぼして山陽・山陰両道10か国を支配下に置いた。その孫輝元(てるもと)は豊臣秀吉(とよとみひでよし)に属して安芸・周防(すおう)(山口県)など7か国百二十万石を領し，五大老*の一人となったが，関ケ原の役に豊臣方に属して敗れたため，長門(ながと)(山口県)・周防2国三十六万石に減封された。城は長門萩(はぎ)にあったが，幕末の藩主敬親(たかちか)のとき周防山口に移した。明治以後は華族に列し，公爵を授けられた。支族が多く末家として長府・徳山・清末の毛利氏は支藩で，これに岩

国吉川(きっかわ)氏を加えて,四末家または四支藩と称した。一門として長門の厚狭(あつさ)・阿川(あがわ),周防の右田・吉敷(よしき)・大野の毛利氏,および三丘の宍戸(ししど)氏は一門六家と称した。　〔岡山泰四〕

もうりてるもと【毛利輝元】(1553～1625)　安土桃山時代の武将。元就(もとなり)の孫,隆元(たかもと)の子。1571年(元亀2)元就の遺領を継ぎ,吉川(きっかわ)元春・小早川隆景(たかかげ)を補佐した。1580年(天正8)織田信長(のぶなが)に追われた15代将軍足利義昭(あしかがよしあき)を助け,以来信長の中国地方経略に抗戦,1582年高松城の攻防に際して,本能寺の変で羽柴(はしば)(豊臣(とよとみ))秀吉(ひでよし)と和した。以後秀吉に属して広島に築城して移り,安芸(あき)・備後(びんご)(以上広島県),周防(すおう)・長門(ながと)(以上山口県),石見(いわみ)・出雲(いずも)(以上島根県)などで百二十万石を領した。秀吉政権下には,五大老の一人となり,秀吉没後は秀頼(ひでより)を補佐し,関ケ原の役では徳川家康(いえやす)に反したため,戦後周防・長門2か国のみ三十六万石に削封された。剃髪(ていはつ)して宗瑞(そうずい)と号した。　〔岡山泰四〕

もうりもとなり【毛利元就】(1497～1571)　戦国時代の武将。弘元(ひろもと)の子。1523年(大永3)家督を継ぎ,はじめ尼子晴久,のち大内義隆(よしたか)に属したが,1540年(天文9)二男元春を吉川(きっかわ)氏,三男隆景(たかかげ)を小早川氏の養子として安芸(あき)(広島県)に勢力を伸ばした。義隆が陶晴賢(すえはるかた)に殺されると,1555年(弘治1)厳島(いつくしま)の戦いで晴賢を討ち,次いで大内義長を破って安芸・周防(すおう)・長門(ながと)(ともに山口県)を平定した。のち備後(びんご)(広島県)・備中(岡山県)・石見(いわみ)(島根県)に出兵,さらに出雲(いずも)(島根県)に出兵して尼子氏を滅ぼし,ついに中国地方10か国を制覇(せいは)した。子の隆元・吉川元春・小早川隆景の3人を3本の矢にたとえた自筆教訓状の話は有名。　〔村尾元忠〕

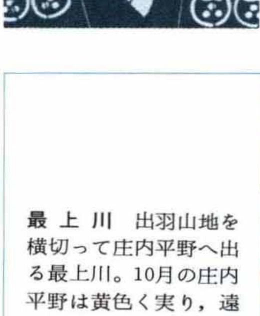
もうろうじょうたい【朦朧状態】　⇨意識障害

もうろく【耄碌】　老人性の生理的な退行変性によって起こる痴呆様(ちほうよう)症状を呈するもので,いわゆる〈老いぼれる〉こと。性格変化・知能低下・記憶障害・妄想(もうそう)・強直状態が起こるが,高度となると痴呆に移行する。必ずしも動脈硬化による血行障害によるものでなく,実質性の退行変性の因子も少なくない。➔老人性痴呆

もえぎいろ【萌木色・萌黄色】　もえはじめた草木の若葉のような色。緑みをおびた黄緑色。萌黄は平安時代から見える色名であり,染色方法は浅い藍(あい)染めと,カリ安・黄蘗(きはだ)などの黄色染料をかけあわせたものと思われる。現在,日本工業規格(JIS)慣用色名〈モエギ〉は,色相6.0GY,明度6.0,彩度6.0と規定されている。

もえび【藻蝦】　甲殻(こうかく)類・クルマエビ科。体長10cm前後の中形エビで,シバエビ・ヨシエビなどに似るが,生時の体色は淡黄青色を呈し,尾肢(びし)の先端が緑色であることなどで区別することができる。また,雌雄の交接器の形状は特異的で,はっきりと区別できる。しかし,モエビと一般に称せられるのは,テナガエビ族のモエビ族に属する一群の小エビである。モエビ科のエビ類は一般に小形(10～50mm)で,沿岸浅所の海藻(かいそう)上などに生息し,沿岸性魚類の餌料(じりょう)として重要であるが,直接人間の食用となるものはほとんどない。モエビ科では,トゲモエビ・ホソモエビ・コシマガリモエビ・アカシマモエビなどが普通に見られる種である。　〔向井　宏〕

もおか【真岡(市)】　栃木県南東部の市。人口53,000。中世には芳賀(はが)氏の城下町として栄え,江戸時代は真岡代官所が設置され,〈真岡もめん〉の特産で知られた。1954年(昭和29)市制施行。市域は鬼怒(きぬ)川東岸低地から真岡台地,五行川・小貝川流域を経て,南東部は茨城県境を走る八溝(やみぞ)山地に及び,中心市街は真岡台地と五行川沿岸の低地にまたがる。産業三大別人口比は31：39：30。各河川の沿岸低地や台地の侵食谷は一毛作の水田地帯で,台地上ではラッカセイを特産し,最近はモモ・イチゴなどの栽培が盛んである。1962年に低開発地域工業開発地区,1954年に首都圏の市街地開発地域に指定されたのを契機として住宅団地や金属工業団地が造成され,田園都市から住宅・工業都市への脱皮を図っている。真岡線が通じ,宇都宮(うつのみや)とはバスで結ばれる。南部には石器の出土で知られる磯山(いそやま)遺跡がある。



毛利元就

モカ［Mocha］　アラビア半島,イエメン南西部のバベルマンデブ海峡に臨む港町。人口約6,000(1968)。山岳地帯で生産されるモカ-コーヒーの輸出港として知られているが,周囲は乾燥した砂漠(さばく)であり,海港としては同国中部沿岸にあるホデイダに及ばず,近年は交通の便のよいホデイダや南イエメンのアデンからの積み出しが増加しており,衰退の傾向にある。

モガジシオ［Mogadiscio］　アフリカ東岸,ソマリア共和国の首都で,インド洋岸の港市。人口23万(1972)。アラビア人によって建設され,港として栄えた。15世紀初め明(みん)の鄭和(ていわ)の遠征隊の支隊が来港している。畜産物の取引,皮革加工などの手工業が行なわれる。同国の政治・経済・文化の中心をなすとともに,交通の要地でもある。1959年創立の大学や13世紀建造のモスクがある。

モカシン［mocasin］　元来は北アメリカのインディアンのはきもので,底から足を包むように縫い合わせた原始的なくつ。今日ではこれに似たつくり方のくつをいう。底から皮(布)を持ち上げ,甲のほうにのせ皮を用意して,この2枚を縫い合わせる方法で,気軽なカッターやスポーツシューズに使われる。はきごこちが良く,甲部分のデザインに多くの変化をもたせることができるのが特徴で,底皮をつけないものは室内ばきに最適である。　〔小池千枝〕

もがみがわ【最上川】　山形県を貫流する川。山形県南部,福島県境の吾妻(あづま)火山群に発し,米沢(よねざわ)・山形・新庄(しんじょう)の各盆地を過ぎ,出羽山地を横切り,庄内平野に出,酒田市で日本海に注ぐ。流程232km,流域面積は7,040km²で山形県全面積の80%にあたり,東北地方日本海斜面第一の大河である。野川・須(す)川・寒河江(さがえ)川・丹生(にぶ)川・小国川・鮭(さけ)川などの支流を合わせ,出羽山地を横切る最上峡,米沢・山形盆地間の五百(いも)川峡谷も有名である。また,わが国三急流の一。古くは,

最上川　出羽山地を横切って庄内平野へ出る最上川。10月の庄内平野は黄色く実り,遠く日本海との間に砂丘の林が帯状に連なる



舟運があり，下流へ米・ゴマ・ベニバナを，上流へは塩・塩干魚・砂糖などを運んだが，鉄道開通後は衰えた。下流の庄内平野は米産が多い。新庄盆地を中心とした流域一帯は，最上総合開発特定地域に指定され，国土保全開発が進められている。〔長津一郎〕

もがみがわふなうた 【最上川舟唄】 山形県の民謡。舵(かじ)をとる固定リズムの部分と，追分様式の装飾音型豊かな自由リズムの部分とが交互に歌われる。北九州の鯨漁櫓(ろ)こぎ唄《平戸節》と北海道の《追分》が同系統の曲とされている。

もがみとくない 【最上徳内】 (1754～1836) 江戸時代後期の探検家。出羽(山形県)の人。行商をして蝦夷(えぞ)地に渡ったが，のち江戸に出て本多利明*(としあき)の門下となり，測量・天文・地理などを学んだ。1784年(天明4)には幕命により本多利明に代わって蝦夷地沿岸を調べ，さらに1786年には千島の国後(くなしり)・択捉(えとろふ)・得撫(うるっぷ)に至り，ロシア人と会った。また1792年(寛政4)樺太(からふと)(現サハリン)探検にもおもむいた。箱館奉行*(はこだてぶぎょう)支配役をはじめ幕府の諸役もつとめた。著書に《蝦夷草紙》などがある。 〔大崎　晃〕

モーガン ⇨モルガン

もぎ 【茂木】 長崎市の南東部，橘(たちばな)湾に臨む地区。旧茂木町が1962年(昭和37)長崎市に編入された。古くから〈茂木ビワ〉の名で知られるビワの産地で，いまも全国の約20%を産出し，近年はミカン・ナシの栽培も盛んである。茂木港では小形底引き網漁業が行なわれ，また島原半島や天草諸島へ定期航路も開けている。

もく 【目】 生物の分類上の単位の一。綱の下，科の上に位する。目の下に幾つかの科が含まれる。

もくあんれいえん 【黙庵霊淵】 生没年不詳。鎌倉末期から南北朝初期の臨済宗の僧。特に水墨画僧として有名。鎌倉の浄智(じょうち)寺で禅を学び，嘉暦(かれき)年間(1326～1328)に中国，元にはいり，そこで没したと伝えられる。禅宗がわが国に根をおろした建長年間(1249～1255)以降，宋(そう)・元の水墨画の鑑賞が行なわれ，やがてわが国でも水墨画の発展をみるが，黙庵の画跡も元からもたらされ，そのため元人と誤解された。画の系統は不明であるが，牧谿*(もっけい)の再来といわれる。 〔田中良昭〕

もくか 【木化】 木質化ともいう。植物は生長につれて細胞壁が厚くなって強固さを増してくるが，これははじめセルロースだけからできている膜層に，リグニンが生成し沈着してくるためである。この過程を木化という。木化は生育のごく初期からみられ，細胞壁の肥厚につれて進行するが，木化の終わった細胞は分裂能がなくなり，ついには死んでしまう。木化によって組織は強固になり，抵抗力が増し，また水分の通過もよくなる。

もくぎょ 【木魚】 仏具の一。空洞(くうどう)の円形(魚形)に魚鱗(ぎょりん)を刻したもの。読経(どきょう)の際に用いられる。もと寺院において衆を集めるための合い図として鳴らされる魚鼓*・魚板に発する。現在では1身2頭の龍(りゅう)が向かい合って珠を含む形になっている。また，テンプルブロック，最近ではウッドブロックとしてドラムセットに組み込まれ，ジャズなどの楽器としても用いられている。

もくげんじ 【木槵子】 双子葉植物・ムクロジ科。センダンバノボダイジュともいう。海岸に自生する落葉高木で，庭木としても栽植される。高さ10mほどになり，疎に分枝して円形の樹冠をつくる。葉は互生し，長さ30～40cmの奇数羽状複葉で，一部は再羽状葉となる。小葉は7～15枚で，長さ4～10cmの卵形で，先はとがり，縁に不整の鈍鋸歯(どんきょし)がある。7～8月，枝端に長さ30～45cmの大形円錐(えんすい)花序を直立する。花は黄色で基部は赤みをおび，径1cmほど。4枚の花弁は長さ8mmくらいの披針(ひしん)形で，上方はそりかえり，基部には反曲した付属器官がある。おしべは8本で，花糸は長く，花外に超出する。果実は長さ3～5cmの卵状長楕円(ちょうだえん)形の蒴果(さくか)で，熟すと3裂し，内に黒色の種子が3個ある。種子は数珠(じゅず)に用いられる。 〔横井朝子〕

もくざい 【木材】 生材と気乾材の総称。生材とは，伐採した生木中の樹液を水と置換した含水率の高い(繊維飽和点以上)ものをいい，気乾材とは，生材を乾燥させたものをいう。材木は商業用語。

〔分類〕樹木の分類として植物学的には外長樹・内長樹の二大別がある。前者は幹の外囲が成長して年輪をつくっていき，後者は外側がかたく形成され，幹が太くならずに伸びていくタケやシュロなどである。木材は外長樹から得られ，これはさらに針葉樹と広葉樹に分けられる。この分類は重要で，両者の性質は相反する。針葉樹はスギ・マツ・ヒノキなどで松柏(しょうはく)類に属し，軟木ともいわれ，加工しやすく比重も小さい。通直で大材が得られ，構造材として使われることが多く，仕上げ材としても有用である。広葉樹は松柏類以外の木材で硬木ともいわれ，比重が大きい。種類は多く，性質も一定でない。ナラ・ケヤキ・ラワンなどで，仕上げ材・造作材・家具材に利用される。

〔組織と成分〕樹木の成長は，樹皮のすぐ内側の形成層の細胞が分裂してふえることによる。成長は春・夏が早く，秋・冬はおそい。成長の早い部分は柔らかく春材といい，おそい部分は秋材(実際は夏材)といってかたく濃色である。このくり返しによって年輪ができる。木材を微視的に見ると繊維(針葉樹では仮道管*，広葉樹では木繊維という)があり，木材の強さを受けもつ。道管*は広葉樹だけにあり，肉眼でも見られ，辺材部分にあって根から樹液を運ぶ役割を果たす。針葉樹では仮導管が行なう。木口面での道管の配列は樹種によって異なり，ブナなどの散孔状，ナラなどの環孔輻射(ふくしゃ)状，ケヤキなどの環孔波状，タモなどの環孔散点状がある。髄線は樹心から放射状に出ており，樹液の水平移動を受けもつ。木柔細胞は繊維と平行な管で養分の貯蔵を行なう部分である。樹脂溝(こう)は樹脂の移動および貯蔵を行なうところで，幹に平行・直角に走る。

木材の化学成分は樹種にあまり左右されず，セルロース50～60%，リグニン20～30%，ペントザン10～30%，灰分少量で構成される。

〔性質〕木材の性質は，その含水状態の違いによって大きく異なる。十分かわいた木材を大気中に放っておくと吸湿し，大気湿分と平衡状態になってそれ以上水分を吸わない。これを気乾状態という。わが国における気乾状態は含水率15%ぐらいのときである。これ以上は繊維内はやがて飽水状態となる。このときの含水率は30%近くで繊維飽和点とよぶ。ここまでは木材も膨張を続けるが，それ以上になると水分は繊維間の空隙(くうげき)に遊離水としてたまり膨張はとまる。すなわち，木材は含水率0～30%の間で伸縮する。含水率1%の変化で接線方向(板目)は0.25～0.35%，半径方向(柾目(まさめ))で0.10～0.18%，繊維方向(長手)はほとんど変化せず0.02%ぐらいである。強度も含水率と関係し，生材ではほぼ一定であるが，同じ生材が繊維飽和点を越えて含水率が小さくなるほど圧縮強度は急激に大きくなる。また比重の大きいものほど強度は大きい。木材には方向性があり繊維平行方向では強く，直角方向では圧縮の場合平行方向に比べて10～20%，引っ張りでは3～10%の強さしか示さない。また節が多いと強度は小さくなる。木材は可燃性である。160℃を過ぎると炭化しはじめ，さらに熱すると260℃ぐらいで口火によって発火する。そこで，防火上260℃は燃焼性をチェックする規格温度になっている。熱伝導率は小さく，軽いものほど保温性はあるが水分を含むと性能は落ちる。熱膨張は非常に小さい。

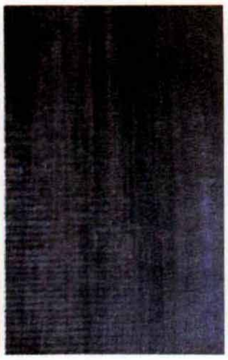
〔伐木・製材・乾燥〕伐木の時期は，樹液の少ない冬がよい。しかし，樹皮の利用が目的の場合には，皮はぎのしやすい点で夏がよい。製材するまでには樹液を出して水分と入れ替えるためと菌虫害を防ぐために浸水させる。次に乾燥であるが，これには自然乾燥法と人工乾燥法がある。後者にはいろいろの方法があるが対流式の熱気乾燥法がすぐれ短期間(針葉樹で7日，広葉樹で14日前後)ですむ。

〔防腐・防虫・防火処理〕腐朽菌は下等寄生植物で，その繁殖条件は十分な空気，十分な栄養分，適当な水分，適当な温度の四

木　材

外国産


チーク


コクタン


シタン

広葉樹


キリ


ミズナラ


ケヤキ

針葉樹


カヤ


アカマツ


ツガ


モミ


ヒノキ


スギ

つである。この条件が一つでも欠けると育たないから耐朽性のためには，どれか一つ以上を満足させなければよい。防虫については，特に関西・四国・九州におけるイエシロアリの被害には注意を要する。関東近辺のヤマトシロアリは床・土台回りを食うくらいである。ともに暗所を好み，マツは好餌(こうじ)となる。また，ヒラタキクイムシはラワンなどの広葉樹を食い小穴をあける。防虫薬剤には，ヤマトシロアリ用のクレオソート油，これに防蟻(ぼうぎ)効力のある薬剤を混合したものがあり，このほかにペンタクロール-フェノール・フッ化ソーダ・クロールデンなどがある。ヒラタキクイムシにはパラ-デ-ベンゾール・ホルツ-デ-クロロ-ベンゾールなどが使用される。防腐薬剤には防虫薬剤と似たものが使用される。

防火については，防火剤塗布・注入がある。防火剤には第二リン酸アンモニウムなど，火熱にあって不燃性ガスを発生するもの，水ガラスのようにとけてガラス状の被膜をつくるものがある。これらは水溶性で，防火剤と併用する。

【用途】建築材のほか建て具・家具・坑木・枕木(まくらぎ)・楽器・電柱など用途が広く，薄くはいで繊維板・パーチクルボード・合板・フローリング・集成木材・サンドイッチ板などがつくられる。　〔難波蓮太郎〕

もくざいかがく　【木材化学】　木材の組成・腐朽・風化・熱・薬剤などによる変化の現象を，おもに化学的方法で明らかにする学問。対象物は死物としての木材であって，生物としての樹木を対象とする樹木化学とは異なる。木材化学の発達を促進した要因は，木材の防腐処理，木材加熱による製炭および乾留，木材パルプ製造とその利用，木材糖化，木材の材質改良などの発達で，特にパルプ製造とその利用の貢献が大きい。木材の元素組成は樹種によらず，炭素約50％，水素約６％，窒素約0.5％以下，灰分は通常１％以下で残りの大部分は酸素である。これらの元素によって構成される成分はきわめて多種にわたる。木材の骨格をなす細胞膜の構成成分である主成分は，セルロース・ヘミセルロース・リグニンからなり，その合計は約95％，中でもセルロースが約50％を占める。木材の化学的組成の最も大きな特徴はリグニンを多量に含むことで，いわゆる木化の現象はリグニンが多量に形成されるためといわれる。副成分は樹脂・精油・脂肪・ろう・タンニン・色素・有機酸・アルカロイド・ステリン・タンパク質・無機物その他で，種類はきわめて多く，樹種・樹齢・部位・産地により異なるが，量的には一般に数パーセント以下である。これらの副成分は細胞内や細胞間，あるいは特定の組織内に充塡(じゅうてん)していることが多い。樹皮は木材質と異なった組成を示し，一般にセルロースが少なく，リグニンが多い。また水および有機溶剤に可溶の成分，灰分なども多い。しかし樹皮の化学的研究は木材質ほどは進歩していない。　〔米沢保正〕

もくざいかんりゅう　【木材乾留】　木材炭化法の一。木材をレトルトや窯(かま)などの容器に入れ，空気を遮断(しゃだん)，あるいは適当に導入を制限して，直接または間接に加熱し，木炭・木酢液・木タールおよび木ガスを得る方法。レトルトは鉄製あるいは耐火れんが内張りの直立または水平の乾留装置で，加熱室，留出液の冷却装置，ガス洗浄装置などが付属している。乾留方式により非連続式と連続式があり，加熱方式により外熱式と内熱式がある。乾留生産物のうち木炭は家庭用燃料や工業用原料に，木酢液と木タールは土壌(どじょう)殺菌・除草・脱臭・防腐・防虫など，また木ガスは乾留装置の熱源に利用される。　〔堀岡邦典〕

もくざいとうか　【木材糖化】　木材中の多糖類(セルロースおよびヘミセルロース)を酸で加水分解して単糖(グルコース・キシロース・マンノース・ガラクトースなど)を得ること。酸としては硫酸・塩酸などが多用される。最近では木材加水分解ともいう。木材糖化は，1919年にH.ブラコノーが木材を濃硫酸で加水分解して，多量の糖が生成することを見いだしたのに始まる。わが国

でも硫酸を用いる，いわゆる硫酸法による工場が設立されたが，現在は稼働(かどう)を停止している。世界的にみてもソ連以外では本工業の成立はみられない。〔米沢保正〕

もくじきしょうにん 【木食上人】 五穀を断ち，木の実や果実ならびにそば粉の類だけを食べて修行する人に対する尊称。おもに真言宗系の僧に多い。高野山の応其*(おうご)は特に有名で，和歌にも精通していた。常陸(ひたち)(茨城県)の木食観海，最近では木食仏で有名な甲斐(かい)(山梨県)の木食五行すなわち明満*が代表者。多くは半僧半俗の姿で修行の一つとして回国遍歴を常としている。

もくしょうぜん 【黙照禅】 中国，南宋(なんそう)初期に曹洞宗(そうとうしゅう)の僧，宏智正覚(わんししょうがく)が主唱した禅風で，ひたすら黙して座するところに，おのずから悟りの智慧(ちえ)が働き出すとする禅風。この名は，公案*をくふうし，それを手がかりとして仏心を徹見しようとする看話(かんな)禅*を主唱した大慧宗杲(そうごう)が，宏智の禅風をさして，黙然不動にとどまり，活発自在な禅の生命を失うものと言って非難したことから起こったものである。両者は対立しつつ覇(は)を競い合った。〔田中良昭〕

もくしろく 【黙示録】 《新約聖書》の最終の書。1世紀末，十二使徒のひとり，ヨハネによって書かれ，詳しくは〈ヨハネの黙示録〉という。22章よりなり，当時の教会の現状から説を起こし，小アジアの七つの教会に対する神の賞賛・反省，そして神の審判，天上の祝福が語られ，この世の終末と教会の未来とをもって終わる。預言・象徴的なことばで語られ，きわめて難解な書である。

もくずがに 【藻屑蟹】 甲殻(こうかく)類・イワガニ科。この科の中では大形のカニで，甲幅は6cmほどになる。はさみ脚は強大で，腕節前縁・前節両面・指節基部などに長い毛が密生して，房状となる。歩脚は扁平(へんぺい)になり，腕節以下に長毛列がある。河口域の淡水・汽水の砂泥底(さでいてい)に生息し，上流までさかのぼることもある。分布は非常に広く，北海道から沖縄までの各地および中国大陸沿岸にまで及ぶ。中国大陸・朝鮮半島には近似種のシナモクズガニがすむが，最近はヨーロッパまで分布を広げていることが知られている。食用とする地方もあるが，寄生虫が多いので注意が必要である。〔向井 宏〕

もくせい 【木犀】 双子葉植物・モクセイ*科のギンモクセイ*またはキンモクセイ*をいう。

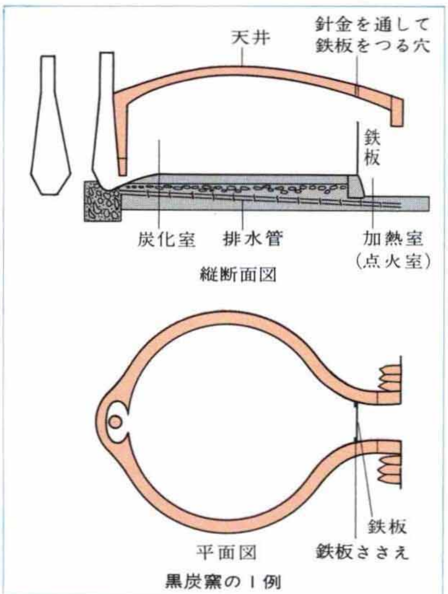
もくせい 【木星】 太陽系の第5惑星。軌道長半径5.203天文単位*，公転周期は11.87年。離心率は0.048。金星に次いで明るく，合のときに－1.4等級，最接近の衝で－2.5等級である。自転周期は緯度により異なり，赤道付近で9時間50分30秒，中緯度



モクズガニ



木　星　中央部の黒点は衛星の影



木　炭

で9時間55分41秒である。このように緯度によって自転周期が異なるのは，木星表面が地表のように固体でないことを示している。表面は厚い雲におおわれ，反射能*は高く0.58である。雲には赤道部に平行ないくつかの縞(しま)模様があり，赤っぽい色をしている。さらに，長径4万km程度の楕円(だえん)形をした大赤斑(だいせきはん)とよばれる赤い模様もある。表面温度は赤外線観測によると－145℃であるが内部はもっと高温であろう。大気の主成分は水素・メタン・アンモニアで，観測することはできないがヘリウムも多量に存在すると推定されている。内部は理論的な考察から，中心部に地球と同じくらいの大きさの高密度の岩石層があるとされている。視半径は，地球より平均最近距離で約23″，赤道半径は71,400kmで扁平(へんぺい)な形をしている。これは自転周期が非常に短く遠心力が強いためである。比重は1.33。質量は地球質量の318倍で太陽の1／1,000である。角運動量は太陽系全体の60％以上を占めており，太陽系起源に関する問題点になっている。また，木星からは3種類の電波，①cm領域の熱放射，②波長10mくらいの大気中の雷の雑音，③木星を取り巻くバン-アレン帯からくるシンクロトロン放射(波長1m付近)が観測され，③によって木星に磁場が存在していることがわかる。衛星は，ガリレオが発見した四つのガリレオ衛星を含めて12個ある。➔木星型惑星〔磯部琇三〕

もくせいがたわくせい 【木星型惑星】 木星と似た性質をもつ惑星，木星・土星・天王星・海王星をさす(冥王(めいおう)星はふつう地球型惑星にも木星型惑星にも含めない)。質量は地球に比べて10倍以上，半径は地球の4～11倍あり，平均密度は水と同じ程度で，土星のように水より軽いものもある。太陽より遠いため表面温度は低く，－150℃以下である。10時間ぐらいの速い周期で自転しているため扁率(へんりつ)が大きく0.05程度で，土星では眼視観測でも楕円(だえん)形であることがわかる。表面重力が大きいため厚い大気をもち，主成分は水素・メタン・アンモニアなどよりなる。元素の存在比は太陽に似ていて，原始惑星の性質を残しているといえよう。衛星の数が多く，太陽系の衛星の大部分は木星型惑星に属している。➔地球型惑星〔磯部琇三〕

もくだい 【目代】 平安・鎌倉時代の地方官の代官*。遙任*(ようにん)・知行国の制が盛行するに伴い，国守・知行国主はみずからの子弟・家人を目代として任国に下向させて国務を執行させた。目代は国衙(こくが)の在庁官人*を率いて留守所を組織し，地方で実権を握った。鎌倉時代以後，国司制度の崩壊とともに消滅。なお，武家の場合には眼代とよばれることもあった。

もくたん 【木炭】 木材を空気の供給を断って加熱分解して得られる木材炭化物。いわゆる炭のこと。家庭用・工業用燃料や工業材料として用いるが，それぞれ乾留法・製炭法を異にする。家庭燃料用木炭には白炭と黒炭とがある。黒炭は窯内(ようない)消火法によるもので，加熱室で燃材を燃して，炭材をたてこんだ炭化室を加熱し，乾燥から自発炭化(300～350℃)に導き，炭化末期に500～600℃に温度を上げる。温度上昇のためには多量の空気を通すがこれを精錬といい，炭はかたくなり，炭素の割合が高くなる。その後密閉して空気を断って冷やして取り出す。これに用いる黒炭窯(がま)は土窯ともいい，土でつくるが，窯口・排煙口

にのみ石を用いる。また白炭は窯外消火法によるもので，炭化ののち通風口を広げて多量の空気を入れ，樹皮を燃焼させるとともに，1,000℃ぐらいまで温度を上昇させて不純物を除き，取り出して灰と砂を水で練った素灰をかけて急冷消火する。黒炭よりもかたくなる。この窯を石窯ともいい，石でつくり，精練のとき放射熱を期待する。さらに簡単な方法や，乾留装置を用いる方法などもある。わが国の木炭は，かつては200万tの生産があったが，近来激減し，1970年(昭和45)には18万tに満たない。また，用途も家庭燃料用が大部分であったが，工業用が相対的に増加し，しかも二硫化炭素・ケイ素製造用が大部分である。活性炭は木材のほか，ヤシの実・リグニン・獣骨・石炭などが原料となるが，その生産は増加している。木炭はリン・イオウが少なく製鉄・精練用に適しているが，高価なので近年は用いられない。かつてはガス発生用・黒色火薬用としても賞用された。その他デッサン用，漆器の下塗り，銅・亜鉛版などの研摩用などの用途もある。

木炭の化学的成分は炭素が白炭で90％以上，黒炭でも85％以上を占め，灰分(無機塩類)は樹皮に多いが，3％以下である。生木材に対する収炭率は10数％，乾留では20％以上になる。着火温度は黒炭で300℃以上，白炭で400℃以上で，表面に酸素を吸着し，表面燃焼が進み，炎は少ない。発熱量は6,000～7,000cal/g。燃焼の際，酸素の還元が強く，炭酸ガスとともに一酸化炭素の発生がみられ，特に黒炭の燃焼の初期は注意を要する。木炭のかたさは，木炭検定器で鉛を1とし，鋼を20として，その間の比較値で示されるが，製法・樹種によって異なり，クヌギ・ナラ・カシ類などがかたい。また精練の程度により電気抵抗が異なる。炭材はナラ・クヌギ・カシがよく，クヌギは薪炭材のため造林され，ウバメガシなどは択伐林も仕立てられた。これらは細丸太のままあるいは割って用いられる。黒炭は樹皮のついた，菊花状の割裂のあるものがよく，中には池田炭・佐倉炭のように茶の湯に用いられるものもある。白炭はかたくて，素灰で白っぽく，金属音のするものがよい。ウバメガシでつくられた備長(びんちょう)炭はかたく，ウナギのかば焼き用として賞用される。

日本の製炭は第2次世界大戦前は交通不便な山奥に炭焼き小屋を設け，材積あたり，重量あたりの価格をあげることにより，広葉樹材および労働を有利に商品化していた。炭焼きといわれる製炭労働者は，業者に雇われる焼子と自営とがあったが，現在はほとんど自営である。いずれも土石で炭窯をつくり，木を伐採し，調製して炭窯に詰め，乾燥・点火・炭化・精練・消火・俵装を経て出荷までを一貫して行なっている。しかし人手不足と木材騰貴に加えて，石油やガスなどの燃料におされて現在では激減している。〔川名　明〕

もくたんせん　【木炭銑】　木炭を燃料に用いて製造した銑鉄。木炭はコークスよりも灰分中のリンおよびイオウが少ないため，木炭銑はコークス銑に比べ成分が純良で種種のすぐれた性質を有する。良質の鋳物銑として高級鋳物の配合原料，あるいは高級鋼製造用特殊銑として用いられる。スウェーデン製が特に有名である。

もくてきご　【目的語】　文の成分の一種。西欧語の文法で，動詞の表わす動作をこうむるもの・人を示す語を目的語とよぶが，これにならって，国文法でも，目的語(あるいは客語)を立てることがある。〈水を　飲む〉〈本を　読む〉のように，格助詞〈を〉のつく文節が，だいたいこれにあたる。目的語を修飾語*や補語*と区別する根拠の一つは，目的語を伴った文が受け身の形をとる場合，それが主語に転換するという点にある。一般には，目的語は連用修飾語に含めて考える。〔市川　孝〕

もくてきぜい　【目的税】　特定の使用目的または特定の事業に要する経費にあてるために賦課される税。ある事業などから利益を受ける者が限定されているような場合には，その事業に要する費用を，その受益者のみに負担させることが適当であると考えられ，したがって目的税の場合には，納税義務者が特定の範囲に限定されている。道府県が課している目的税としては自動車取得税・入猟税・軽油引き取り税・水利地益税があり，市町村税としては入湯税・都市計画税・水利地益税・共同施設税・国民健康保険税があり，国税としては地方道路税がある。➔受益者負担の原則〔西野義彦〕

もくてきろん　【目的論】　事物の目的や究極性についての学。1728年，C.ウォルフ*によってはじめて用いられた哲学用語で，〈物の目的を説明する自然哲学の一部は目的論(テレオロギア)とよばれうる〉に由来する。語源のギリシア語テロス(遂行・行為の目的・完成された目的)は，もともとテレテー(宗教的祭式)によって到達されたものをいう。テレテーのもつ宗教的神秘性がプラトン哲学のテロスの語の基礎にある。プラトンによれば，〈人間は実にこのように，想起のよすがとなる数々のものを正しく用いてこそ，つねに完全なる秘儀にあずかることになり，かくてただそういう人のみが，ことばのほんとうの意味において完全な(テレイオス)人間となる〉(《パイドロス》)。アリストテレスでは目的原因が万物の原理となる。目的は事物に内在しており，運動や生成は内在している可能性が現実性となることにほかならず，自然のできごとは目的にかなっており，万物がめざす究極目的は神である。すでにアナクサゴラスはヌース*が万物を秩序づけるとして，世界を目的論的に説明した。神を最高の目的とするアリストテレスの考え(エンテレケイア*)は教父哲学やスコラ哲学の世界観の基礎となる。中世哲学では世界は存在の秩序を有しており，すべてのものは世界の一員として目的論的に存在の秩序に適合している。ブルーノやシャフツベリは世界の合目的性をたたえた。デカルトは機械論*の立場に立って目的論を退け，またF.ベーコン・ホッブズ・スピノザ・ヒュームも目的論に反対した。ライプニッツは機械論と目的論は根本的に対立するものでないと考え，その主著《単子論》で〈精神は目的原因の法則に従って，欲求・目的・手段によって作用し，物体は動力原因の法則つまり運動の法則に従って作用する。しかも，この二つの世界，動力原因の世界と目的原因の世界は，互いに調和している〉という。近世哲学の目的論の典型はカントの《判断力批判*》にみられる。彼によれば，〈ある一つの客観の概念は，この概念が同時にその客観の現実性の根拠を含んでいるかぎり，目的とよばれ，そしてある物が目的に従ってのみ可能であるような物の性質に一致することは，その物の形式の合目的性とよばれる〉。カントは，美の構造にみられる主観的合目的性(悟性と構想力との自由な戯れの状態――主観的普遍性)を基軸とし，幾何学的図形の客観的形式的合目的性，有機体の客観的実質的合目的性，究極目的としての道徳的人間(道徳的目的論)を媒介として，自然全体を壮大な目的の体系として論証する。〈自然を客観的根拠から認識するためよりも，むしろわれわれの内にある表象結合の主観的根拠との類比によって自然を理解させるために，目的の概念を物の性質の中に戯れに投げ入れるのである。単なる機械関係として考察された自然は，まさしくこうした原理(目的結合)による統一に出会わなければ，ほかにも幾千のしかたで形成しえたであろう。それにもかかわらず目的論的判定は，少なくとも問題としては正当に自然研究にかかわるであろう。しかし目的に従う因果性との類比によって，自然研究を観察および研究の原理のもとに持ちきたすためのみであり，自然研究をこの類比によってあえて説明しようとするのではない。これに反して，もしわれわれが自然に対して意図的に働く原因を付加するとすれば，すなわち目的論に対して，自然が特殊法則の側からみて(統制的原理に)従属すると考えられうる現象の単なる判定のための統制的原理のみでなく，意図的に働く原因を付加することによってまた自然の原因から自然の所産を導出する構成的原理をも，基礎に置くとすれば，自然目的の概念は理性概念として一つの新しい因果性を自然科学の中に導入することになってしまう。われわれはこの新しい因果性を自分自身の中から借りてきて他のもろもろの存在者に与えるだけであり，にもかかわらずこれらの存在者をわれわれと同種

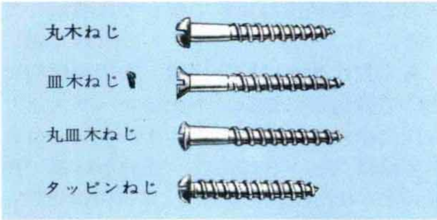
類であるなどとは想定しようとしてもいないのに〉。

カントの提出した目的論の問題状況は19世紀以後も受け継がれた。しかし自然科学は理論的に立てた仮説を実験と経験によって検証するという方法論をもつから，近代科学では機械論的傾向が優勢であった。物理学は1900年M. プランクの作用量子・エネルギー量子の発見によって画期的な場面を迎えた。これまで哲学者の頭の中にあった動力原因と目的原因の関係が経験的探求でも現実のものとなる。彼は〈理論物理学の研究は歴史的に発展していく経過の中で奇妙なしかたで物理的因果性の公式化に到達した。この物理的因果性はいわば目的論の性格をもっており，しかも思惟(しい)する人間の存在とは無関係なのである。しかしこの物理的因果性はわれわれの感覚でとらえられうるのであるから，合目的は行為に対応する公式化を許すのである〉と説いた。近代生物学では機械論はおもに生命現象の合目的性を認める生気論と対立する理論として論じられているが，近代における生気論の最も重要な展開はドリーシュ*によってなされた。彼は機械論の立場からウニの初期発生の実験的分析に従事していたが，ウニ卵の著しい調節能力をみて，動的目的論を不可避であると認め，新生気論を唱えた。彼は生気論の根拠としてウニ卵・ウミヒドラ・複合ボヤなどの再生実験の結果から名づけた調和等能系，つまりその部分が全体を調節的に形成しうる系の存在，すなわちすべての部分が等しく全体を再現できる系の存在，および人間の行動をあげている。次にこれらの現象には非機械的因子が働いているとして，これをエンテレヒーとよんだ。ユクスキュル(1864～1944)も生物の目的追求性は機械論の原理では説明できないとした。〔中川　誠〕

もくねじ　【木螺子】　薄い金物または板材を木材に取り付ける場合，ドライバーでねじこんで締めるらせんねじ。くぎの一種といえる。材質は鋼と黄銅鋼の2種類が日本工業規格(JIS)で規定されているが，他の金属およびめっきしたものもある。形状は丸木ねじ・皿(さら)木ねじ・丸皿木ねじの3種である。引き抜きせん断耐力をもち，硬木に使うほど耐力は増す。木ねじのねじこみ長さは径の7倍以上である。木口面にねじこんだときの耐力は，木材の繊維方向に直角にねじこまれた場合の耐力に比べて小さく75％ほどである。〔難波蓮太郎〕

もくはんが　【木版画】　⇨版画

もくひぼん　【木皮本】　インドネシアのスマトラ島の原住民バタク族は，紙の発明前，木の皮をなめし，その上に特有の象形文字をしるして折り本のように仕立てた。バタク族の象形文字は解読されている。また，中央アメリカのユカタン半島に文化を誇ったマヤ族は，木の板に極彩色で絵文字を



木ねじ



木　目　上半分は材の中心を通る柾目で，下半分は中心を通らない板目



モグラ

しるしたが，この絵文字はまだ解読されていない。

もくぶ　【木部】　篩部*(しぶ)とともに維管束*を構成する主要素の一。道管・仮道管・木部繊維・木部柔組織からなる。根から吸収した水分・養分の通路となるが，この働きは被子植物では道管が，道管を欠くシダ植物・裸子植物では仮道管が行なっている。また，木部は植物体の支持にも役だっている。

もくへんコンクリート　【木片コンクリート】　骨材として木のおがくずを用いたコンクリート。見かけ比重が小さく，容易に切断できる。音や水分をよく吸収し，断熱性がすぐれている。

もくめ　【木目】　木理のうちで装飾的価値のある美しいもの。杢(もく)とも書く。木理とは，木材の縦断面に現われる組織状態をいい，年輪が明瞭(めいりょう)なものほど木理ははっきりする。ヒノキなどのように，繊維が樹幹の軸と平行しているものを木理通直という。道管*の大きいキリなどは木理が粗であるといい，ナラのように春材と秋材の区別のはっきりするものは不均一木理などという。木目は木の種類によって異なる独特なもので，ブナなどに見られる銀杢，うず巻きを連ねたような模様のケヤキなどに見られる板目の美しい玉杢，木材の繊維が樹幹の軸方向に波状をしているもので特に美しいさざ波杢，マホガニーに見られる木理の交錯でできる縞(しま)杢の不規則なまだら杢など多種にわたる。銘木*に属するものもある。〔難波蓮太郎〕

もくようとう　【木曜島】　オーストラリア北東端，ヨーク岬(みさき)の北方50kmにあるプリンス-オブ-ウェールズ諸島中の島。面積3.24km^2，人口約2,000。トレス海峡の航路上の要地で，ポートケネディ港があり，真珠採取の基地でもある。1770年ジェームズ-クックがオーストラリアの沿岸を探検したときに発見したもので，その日が木曜日であったのでこの名がつけられた。1912年からオーストラリアに所属している。

もくよくかいめん　【沐浴海綿】　海綿動物・モクヨクカイメン科。群体は団塊状になったり，やや扁平(へんぺい)になったりして，生息環境によって異なり，一定の形をとらない。色彩も変異に富み，生時は黄・褐(かっ)・黒・黒かっ色などが見られる。内部は多数の小孔やみぞが入り混じり，基質は寒天質の物質からなる。寒天質内には海綿質繊維からなる骨格が含まれている。熱帯・亜熱帯海域に多く，日本では沖縄付近に産する。沖縄の久米(くめ)島では養殖が行なわれていた。文房具・化粧用具などとして使用される。

もぐら　【土龍・鼹鼠】　哺乳(ほにゅう)類・食虫目・モグラ科。頭胴長13.5cm，尾長1.8cmほど。毛はビロード状で光沢があり，かっ色ないし黒かっ色。本州・四国・対馬(つしま)・五島・天草などに分布し，平地から山地にトンネルを掘ってすむ。ミミズやこん虫の幼虫などの動物質を食べる。よく日にあたると死ぬといわれるが，そのようなことはなく，日中でもときどき地上に出てくる。夜間はいっそう出ることが多く，しばしばフクロウ類のえじきとなる。〔今泉吉典〕

もくらんじ　【木蘭辞】　中国，南北朝時代北朝の民間叙事詩。作者不明。木蘭という少女が父に代わって従軍，12年にわたって各地を転戦して故郷に帰るが，ついに男装の木蘭が女であるとは戦友も気がつかなかったという。つくられた年代も不明だが，陳王朝(557～589)の釈智匠(しゃくちしょう)の編した《古今楽録》に記録されているから，陳

代以後の作ではなかろう。これを映画化したものに《木蘭従軍》がある。

もぐりうみつばめ［潜水海燕］鳥類・モグリウミツバメ科の総称。ミズナギドリ目の他の科の鳥は，滑行を主としたすぐれた飛行能力をもつが，この科の鳥は潜水性にすぐれている。南半球に5種が分布し，全長25cm以下の小形の鳥。翼は短く，これを水中で使う。体は丸っこく，ウミスズメ類によく似たつくりである。

もくれん［木蓮］双子葉植物・モクレン科。シモクレン・モクレンゲともいう。中国原産の落葉小高木で，日本には古く渡来し，庭木として栽植されている。高さ4mほどになり，枝は太い。葉は互生し，長さ10～18cmの大形の倒卵形で先は鈍頭，質はややかたく，全縁。3～4月に葉に先だって枝先に大形の暗紫色花をつけ，つぼみのときは膜質の包に包まれる。がくは3枚で小さい。花弁は6枚で倒卵状長楕円(ちょうだえん)形，おしべ・めしべとも多数。果実はかっ色の長楕円形で，多数の袋果からなり熟すと白色糸状の種柄で，赤色の種子を下垂する。本種はトウモクレン(ヒメモクレン)の変種であるが，トウモクレンは枝も細く花弁も小形であり，まれにしか栽培されない。近縁のハクモクレンも中国原産の落葉高木で，3～4月に芳香のある大形白色花をつける。3枚のがくは白色で大きく，花弁のように見える。サラサレンゲは花弁の外側は暗紅色，内側は白色で美しい。
〔横井朝子〕

もくろう［木蠟］ハゼノキの果実を温圧して得た脂肪を日光で漂白したもの。はぜろうともいう。白色～微黄色のかたまりで融点は約50℃。主成分はパルミチン酸グリセリドで，光沢剤・ろうそく・頭髪油・化粧品などに用いられる。

もくろみしょ［目論見書］株式・社債などの有価証券*の募集・売り出しのために，公衆に提供する証券発行会社の事業に関する説明を記載した文書。内容はふつう，経営の大要，企業予算の大要，資金計画・事業収支計算などが記載されている。公募の場合には，大衆投資家保護のため，この作成は証券取引法によって，強制されている(証券取引法3・4・13条)。

モケット［moquette］パイル織物*の一種。基布組織はたて糸・よこ糸を綿糸・麻糸・ビニロン糸などを用い，別に羊毛糸・ビニリデン糸・ナイロン糸・レーヨン糸などを添毛糸として織り込み，これを表面に立つように切ったものである。主として無地に染色され，いす張り地その他家具装飾に用いられる。

モザイク［mosaic］色彩のある細石・陶片・ガラス片・貝殻(かいがら)・木片などを組み合わせ，配置し，絵画文様を構成する技法。セメント・漆喰(しっくい)の表面に埋め込まれ，壁面・床面・柱などの装飾に利用



モクレン　(上)モクレン　(下)ハクモクレン



モザイク　サン-ビターレ聖堂の〈テオドラ〉部分

された。また，小形のものには家具・装身具などの作品がある。現存する最古のものとしては，メソポタミアの遺跡エレクの円柱を飾った多彩円錐(えんすい)形テラコッタ製のモザイクがあり，これはBC3000年ごろのものである。グレコ-ロマン期になると，美しい配色を使ったモザイク画が盛んにつくられ，その好例をポンペイ-ヘラクラニウムの遺跡に多く見ることができ，特にアレクサンドロス大王とダリウス3世のイッソスの戦闘図は有名である。床面モザイクとしては，2世紀のアンチオキアの郊外ダフネにある，ローマ期別荘のモザイクが細石片の美しい一例である。ビザンチン期にはキリスト教の会堂装飾に盛んに利用され，当時の作品にはガラスに金彩を焼きつけたものも使用され，一段と装飾効果を増した。特にラベンナのサン-アポリナーレ-ヌオボ聖堂およびサン-ビターレ聖堂のモザイク，イスタンブールのアヤ-ソフヤの聖徒図，その他ローマ・ベネチアなどに多数の傑作を見ることができる。モザイクの利用はゴシック時代にいくぶん衰えたが，ルネサンス期に至って再び盛んになり，引き続き利用されて現代に及んでいる。しかし，その構図は建築とともに著しく近代性をおびたものに変わってきた。
〔市川　清〕

モザイク［mosaic］1個体に二つまたはそれ以上の遺伝的な対照形質が混ざっているような一種の奇形。こん虫の鱗翅(りんし)目に属するものがほとんど大部分を占め，膜翅目・双翅目にもこれに次いで見ることができる。モザイクになる形質としては，体色についてのものがいちばん多いが，そのほかにも外部の形態，毛の状態などがある。また，1個体中に雄性部分と雌性部分が見られる雌雄モザイクがある。なお，植物ではキメラ*といわれる。

モザイクびょう［モザイク病］ウイルスによる植物の病気の一。ウリ類・タバコ・トマト・アブラナ科植物・マメ類その他，多くの植物に発生する。伸長中の新葉の葉脈部が透明化し，次いで葉の全体に濃緑部と退緑部の斑点(はんてん)・条斑が生じてモザイク症状を呈する。病葉は波状に収縮して奇形となり，下方に曲がり，あるいは細長く糸葉になる。茎・節間・葉柄も短くなって萎縮(いしゅく)し，株全体の発育が不良となる。病原ウイルスの代表的なものはタバコモザイクウイルス・キュウリモザイクウイルスで，汁液(じゅうえき)伝染，アブラムシによる虫媒伝染を行なうが，まれに種子伝染もみられる。
〔渡辺　実〕

モザイクらん［嵌工卵］調節卵*に対して用いられる語で，多細胞動物の発生初期の比較的早い時期に，割球の運命が決定されるような卵をいう。このような卵は，卵割期に割球または胚(はい)の一部を除去すると，除去した部分にあたる一定のものを欠如することになる。たとえば，ウリクラゲの8細胞期に割球を分離すると，本来ならば8列となるはずの櫛板(くしいた)列が，そのときの割球数に応じた数しかできない。また，ツノガイの極葉を除去すると，頂毛や繊毛環のない幼生ができる。これらは，調節卵で見られるように，他の部分で補充することができないような構造であることと，特定の材料が特定の部位に局在しているためと考えられる。クシクラゲ類・紐虫(ひもむし)類・線虫類・環形動物・節足動物・軟体動物・ホヤ類の卵がモザイク卵である。
〔蒲原春一〕

もさん［茂山］ムサン　朝鮮半島，咸鏡(かんきょう)北道，豆満江(とまんこう)岸の山間にある鉱山都市。人口約10万。豆満江を隔てて中国に接する。北方の彰烈洞(しょうれつどう)にある茂山鉄鉱山は1916年に発見され，磁鉄鉱を主として埋蔵量は10億tといわれ，全山露天掘りで操業している。日本統治時代には年産20万t程度であったが，1962年には1,000万tを採掘している。また製材・ベニア板・農機具の工場もあり，大学と高等専門学校がある。
〔矢守一彦〕



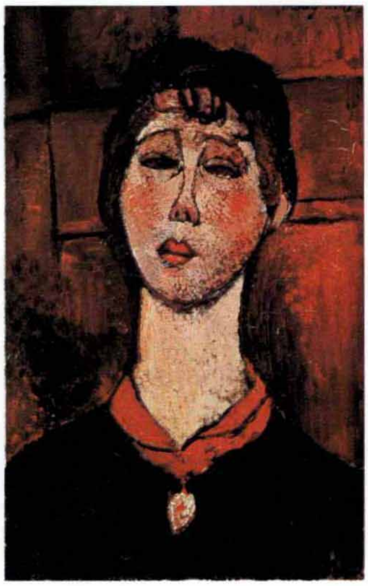
モザンビーク 主都ロレンソマルケスの町と港。近代的なホテルの建物が，公園や街路樹の豊かな緑とよく調和して美しい

モザンビーク ［Mozambique］ アフリカ南東部にあるポルトガルの海外州であったが，1975年6月，人民共和国として独立した。面積78万3,030km²，人口1,047万(1978年推)。首都マプト。東部はインド洋に面し，中央を流れるザンベジ川をはさんで，北部は標高1,500～2,000mの高原が占め，南部には平野が広がっている。気候は亜熱帯性で，11～4月が雨季で暑く，5～10月が乾季でややしのぎよい。住民のほとんどはバンツー系の黒人で，自給作物として，トウモロコシ・キャッサバ・ヒエ・ラッカセイなどを栽培している。商品作物には綿・サトウキビ・茶・コプラなどがある。

マシェル大統領が率いるモザンビーク解放戦線の1党制で，1977年から78年にかけて，ソ連・キューバ・北朝鮮・アンゴラと友好協力条約を結び，東側陣営との連帯が強化された。 〔小栗 宏〕

モザンビーク(海峡) ［Mozambique］ インド洋の南西端，アフリカ大陸南東部のモザンビーク*(ポルトガル領)とマダガスカル島とにはさまれた海峡。長さは約1,600km，幅は400～800km。北方にはコモロ諸島(フランス領)，南にはユーロパ島(マダガスカル領)などがある。モザンビーク海流が南流しており，アフリカ大陸からはザンベジ川が注いでいる。

もじ 【文字】 〈もんじ〉ともいう。時間の流れに沿って前後に配列する音声言語の分節に対応して，前後に並ぶ平面記号を個個に字といい，その社会的に固定したひとそろいを文字(体系)とする。文字体系は，表記体系の要素となって文字言語を完成する。表記の単位は語が基本であり，その語の表記様式によって，①語幹と接辞以下に分割しない単語文字(漢字など)，②原則として音節に分割する音節文字(かななど)，③子音・母音に分割する字母文字(ローマ字など)の三つの類型に分けられる。文字言語は，情報を広く伝え，長く保存し，多く蓄積し，詳しく分析し，確実に検証し，たやすく複製して，言語技術を革新し，社会の正史をつくり，文明の重要なかぎとなった。



モジリアニ 《ブランシュ゠ドリベール夫人の肖像》

文字は符号からは生まれにくく，絵から転化した。その物の名の音を借りること(仮借(かしゃ))，その物から連想される語義に転用すること(転注)，この二種類のあて字法が象形とともに言語の分節をとらえる道を開き，まず単語型の文字体系を完成した。文字の三つの類型は，その発達段階でもある。文字化が音声言語固有の分節を段階を追って発見させた。文字ははじめ，農耕都市国家(メソポタミア・エジプト・中国など)の年代記・暦・記帳のために，祭祀(さいし)・暦法・穀倉(神庫)をつかさどる司祭者によって考案され，やがて交易時代を経て，しだいに階層的・地域的に広がり，近代国家では識字(文字能力)が国民の人権に加わることになった。今世紀末，全世界に文盲の消えることが期待されている。現今の世界は，ローマ字圏・ギリシア文字圏(ソビエトを含む)・アラブ文字圏・インド文字圏(ビルマ・タイ・カンボジアを含む)・漢字圏の5地域に分かれる。このうち漢字を除く4種の文字は，同じく古代セム文字の系統に属し，字母(アルファベット)型である。近年まで漢字圏にあったベトナムはローマ字を採用，南北朝鮮では(独特な字母型の)朝鮮文字専用に進みつつあり，トルコのローマ字採用(1929)，モンゴルのロシア文字採用(1946)などの文字改革や新国語の正字法制定などが諸地域の課題となっている。 〔日下部文夫〕

もじ 【門司(区)】 福岡県，北九州市北東部の区。面積68.38km²，人口14万3,000。瀬戸内海の西の入り口をやくし，645年(大化1)に〈文字ケ関(もじがせき)〉が置かれた古くからの交通の要地であったが，江戸時代には対岸の赤間関(あかまがせき)(いまの下関(しものせき)市)に繁栄を奪われ，塩田のある小農漁村にすぎなかった。1889年(明治22)，石炭などの特別輸出港に指定されて港湾施設が整備され，その後鹿児島本線の開通，北九州工業地帯の形成に伴い，食料品工業のほか非鉄金属・セメントなどの工業が発達し，西日本最大の貿易港として発展した。第2次世界大戦後は港の役割は減じたが，関門鉄道トンネル・同国道トンネル・北九州高速道路が通じて，本州と九州をつなぐ重要な接点となっており，山陽新幹線の新関門トンネル及び関門橋も完成開通した。区域は筑紫(つくし)山地北東端の傾動地塊である企救(きく)半島の大半を占め，戸ノ上山(521m)・風師(かざし)山(362m)・砂利(ざり)山(247m)などが連なる。西側は急な断層崖(だんそうがい)をなし，市街地は関門海峡に沿う低地から山腹にかけて広がり，表門司とよばれる。東側は屈曲に富むリアス式海岸で，遠浅の周防灘(すおうなだ)沿岸に農漁業集落が散在して，裏門司とよばれる。関門海峡に臨む和布刈(めかり)公園は瀬戸内海国立公園に編入された景勝地で，古い伝統をもつ和布刈神社がある。 〔浅井得一〕

もしゃでんそう 【模写電送】 ⇨ファクシミリ

モジュール ［module］ 主として建築に用いられる用語で，寸法調整のため特に選ばれた寸法単位。モジュールは1個の場合もあるが，系列として与えられることもある。建築工業近代化のための一つの手法で，建築のあらゆる部分を一定の大きさの倍数関係に整えようとするときの基準になる寸法である。このことにより，標準化・量産化されて，経済的に物をつくることができる。なお，機械ではメートル制歯車の歯の大きさを表わすのに用いられている。 〔船越 泉〕

モジリアニ ［Amedeo Modigliani］ (1884～1920) イタリアの画家。1906年パリに出てロートレック・セザンヌの影響を受けた。その後モンパルナスに住んだころから，パリ画壇にあって特異な存在となった。ブランクーシ・コクトーらとも交わり，彫刻も試みている。エコール゠ド゠パリ*の中にあって天才性を発揮したが，卵形の顔と

細長い首の単純化された肖像画は，豊かで重厚な表現を強く感じさせる。また，官能的な中に一種の憂愁感を包んだ作品は，今日も多くのファンをもつ。過度の飲酒と貧困のために夭折(ようせつ)した。〔酒井忠康〕

モース [Samuel Finley Breese Morse] (1791～1872) アメリカの画家・発明家。画家としてのわずかの成功ののち，しろうとではあったが電信機の発明に没頭した。友人たちの援助によってしだいに改良された彼の電信機はやがて認められ，1843年政府の援助で最初の試験線がワシントン～ボルチモア間に引かれた。1844年に最初の打電が行なわれたが，その電文は〈神はなにをなしたまいしか〉という聖書のことばだった。また〈モールス符号〉とよばれる独自のアルファベット記号を考案，これは今日でも世界的に利用されている。〔加藤邦興〕

モース [Edward Sylvester Morse] (1838～1925) アメリカ合衆国の生物学者。ポートランドの生まれ。アガシー*について動物学を修める。1877年(明治10)動物採集のため来日中，東京大学初代動物学教授に招かれた。日本人動物学者の育成，学会の創始など動物学の移植に貢献したほか，進化論の普及にも尽力。生物学以外では，特に大森貝塚*(かいづか)の発見(1877)をはじめとして学術的発掘を行ない，草創期日本の人類学・考古学に影響を与え，また日本人の生活や美術の海外紹介などにも努めた。〔中村禎里〕

もず 【鵙・百舌】 鳥類・モズ科の総称およびそのうちの一種。旧世界に広く分布し，4亜科74種からなる。そのうちわずか2種が新世界にも分布を広げているのみで，分布の中心は熱帯アフリカである。モズ亜科は25種からなり，一般に羽毛はじみで，頭が大きく，がっちりした体つきをし，くちばしと脚は鋭く強い。深い森林内にはすまず，林縁や低木のある草地や農耕地などにすむ。高木の下枝や低木にとまって地上付近を見張り，各種のこん虫類・ネズミ類・トカゲ類などを見つけると，飛び降りて鋭いくちばしと脚で捕える。モリモズ亜科はアフリカ産で39種からなり，その大部分は赤・黄・青色などの羽毛のモズ亜科の鳥よりもずっとはでで，雌雄2型である。深い低木帯の内にすみあまり姿を見せないが，それぞれ特徴ある鳴き方をするのでその存在が知られるという。カブトモズ亜科はやはりアフリカにのみ分布し，9種からなる。前2亜科の鳥のように食物を狩って捕えることはせず，森林性で群になり，シジュウカラ類のようにおもにこん虫類を採食する。ブタゲモズ亜科はボルネオの森林にすむブタゲモズただ1種からなる。類縁関係は不明で，学者によってはムクドリ科に入れている。

モズ亜科の一種であるモズは，日本各地の平地から亜高山帯にかけて繁殖し，秋季には漂鳥性のものが平地におり，冬のテリトリー(なわ張り)を構える活動をする。そのときの鳴き声は〈キチキチ，キチキチ〉という高鳴きである。捕えた獲物をとがった枝などに刺すことがあり，これをモズの早贄(はやにえ)という。〔安部直哉〕

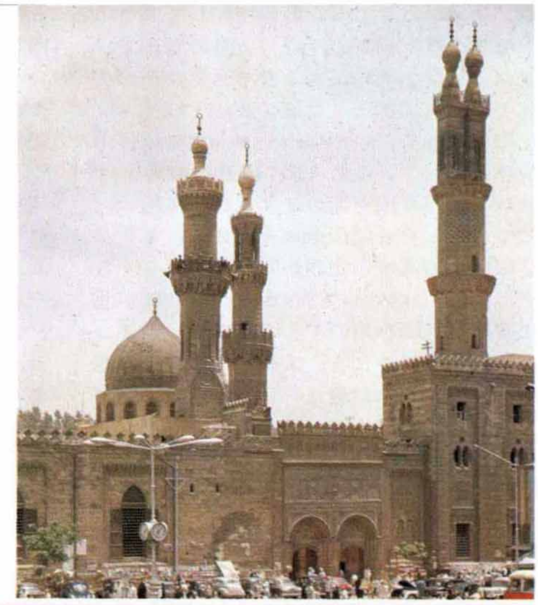


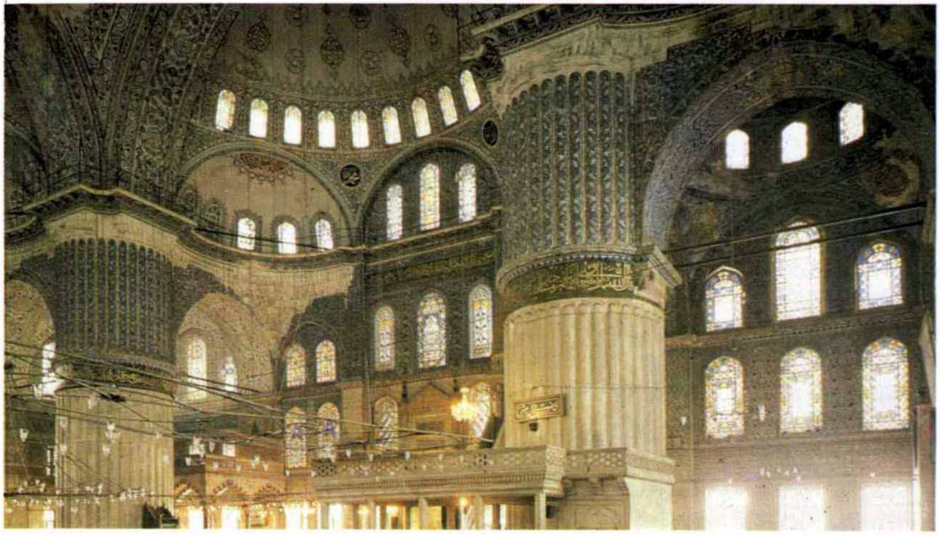


モ　ズ　下はモズの早贄

モスク [mosque] イスラム教寺院。礼拝者の集まる広間を主とした建物であるが，イスラム教では偶像を礼拝しないので内部は簡素である。メッカの方角に壁龕(へきがん)(ミフラーブ)がつき，かたわらに説教壇がある。外には，身を清める泉水や，ミナレットとよばれる塔が付属するのが普通である。

もずく 【水雲】 褐藻(かっそう)植物・ナガマツモ科。北海道・東北地方以外のわが国各地の沿岸の低潮線付近のホンダワラ類に着生する海藻で，体は粘質に富み柔らかい。よく分枝し，長さ30cmくらいになる。この体は胞子体であり遊走子を生ずる。遊走子が発芽すると，顕微鏡的な配偶体を生ずる。雌雄同株で，有性生殖は同形接合。太平洋岸では早春に，日本海側では夏季に採取さ





モ　ス　ク　(上)エジプト，カイロのアズハルのモスク。970年ごろ，ファティマ朝の下で創建された。現存する世界最古の大学の一，アズハル大学が付属し，今日なお，イスラム神学・法学研究の中心となっている　(下)トルコ，イスタンブールのアフメト1世のモスク内部。〈ブルー－モスク〉の名で知られる。四方に半球ドームを置いて中央ドームをささえ，中央ドームの高さは43mにも達する。1609～1616



モ ス ク ワ　市の南西部レーニン丘に立つモスクワ大学から見た大学の庭園。その向こう大きく蛇行するモスクワ川を隔てて立つ円形の建物は，中央レーニン-スタジアム。遠景に市の中心街が開ける

れ，塩蔵品とされる。酢の物にして食べる。

モスクワ　［Moskva］　ソ連の首都で，また，ロシア共和国およびモスクワ州の主都でもある大都市。ソ連の政治・経済・文化の中心地で，ヨーロッパ-ロシアのほぼ中央に位置している。人口740万(1973)。市域は，ボルガ川支流のモスクワ川に沿い，七つの丘とその間の低地を占める。モスクワ川は市の南半を北西から南東に大きくS字形に蛇行(だこう)して流れ，その湾曲部が北に突出した所が市の中心であるクレムリン宮殿の南壁にあたる。大陸性気候で冬は寒く，1月の平均気温は−10℃で，最低気温−42℃の記録がある。夏は7月の平均気温が19℃でかなり高い。年降水量は580mmで，雨は7～8月に多い。住民の約95%はロシア人で，ほかにユダヤ人が3%，ソ連各地出身のさまざまな民族が若干住んでいる。人口構成では，1959年当時女子が男子を100万人も上回っていたが，これは30歳以上の男子が少ないためで，革命後の内乱や2度にわたる世界大戦による人的損害の大きさを物語っている。また市が無制限に拡大するのを防ぐため，きびしい流入制限を設けて，1935年に人口350万を限度と決め，かなりの効果をあげたといわれるが，それでも1956年に480万，1968年に656万と増加は著しい。産業面での主力は工業で，特に鉄鋼と機械が代表的であり，乗用車工場や伝統的な冶金(やきん)工場のほか，電機・工作機械などの大工場がある。また，革命前からの伝統をもつ綿・毛・絹の織物工業はソ連第1の生産地となっている。その他，化学・食品・印刷なども活発である。しかし，工場の建設は市内では制限されているため，工業地帯は郊外に置かれている。交通面でもモスクワはソ連の中心をなし，鉄道は市内を巡るサドーボエ環状通りの外側にレニングラード駅・カザン駅・白ロシア駅など，それぞれの行先地名をつけたターミナル駅があり，各方面に放射状に路線が延びている。道路交通でも，市の主要な放射状道路に続く各地への幹線道路(レニングラード街道・モジャイスク街道・オスタボフ街道など)に長距離バスやトラックを走らせている。空路は，都心から30数キロメートルの位置にある国内線用のブイコボ・シェレメチェボ，国際路線用のブヌコボ・ドモジェドボの4空港が主要起点となっている。水運は五つの海の港といわれるとおり，北西に向かうモスクワ運河によってボルガ川と結び，バルト海・白海・カスピ海・黒海・アゾフ海への船便があり，重要な河港になっている。市内のサドーボエ環状通り以内の路面電車は，交通難から1960年に全廃され，代わってトロリーバスが運行されており，自動車もこの区域内では，時速60km以下に制限されている。市内の交通機関で最も重要なのは地下鉄で，1931年に着工されて以来，数次の工事によって現在は延長約80kmに達し，市内を縦横に走り，1日の利用客300万人といわれている。文化面では，モスクワ大学が市の南西部レーニン丘に偉容を誇っているほか，農業・工業・医学・教育の各単科大学，さらに外国人留学生を多く集めるルムンバ記念諸国民友好大学などがある。ソ連の学術研究機関の中心であるソ連科学アカデミー，ソ連最大のレーニン図書館，ボリショイ劇場・モスクワ芸術座・チャイコフスキー音楽堂・モスクワ-サーカス，ロシア美術を集めたトレチャコフ美術館，ヨーロッパ近代絵画の名作をもつプーシキン美術館などは有名である。市街は，クレムリン宮殿を中心に放射状に延びる街路と，同心円状にそれらをつなぐ環状通りが市街の基本をなす。モスクワ川とネグリンカ川の合流点付近に政府諸機関とクレムリン宮殿・赤い広場があり，ここからミールヌイ・ゴーリキー・レーニンなど10本の大通りが東西南北に延びている。環状通りは3本あり，いちばん内側のブリバール環状道路は，かつてクレムリン宮殿の第2の城壁があった跡で，2番めのサドーボエ環状道路は第3の城壁の跡である。この環状通りの内側が旧モスクワ市街で，古いロシアのおもかげを残しており，外側は，革命以後に整備され建設が行なわれた新市街である。さらに1962年にはモスクワ市を取り巻く半径20～25km，全長109kmのモスクワ環状自動車道路がつくられ，最高時速120kmで走れる高速道路となっている。また，市の南西郊には，新しい住民地区がデパートなどを組み合わせて建設されている。市内は公園と街路樹が多く，郊外はマツやシラカバの森林が多く残されている。

年代記にモスクワが現われるのは1147年《イパチェフスキー年代記》からで，当時すでに商工業が栄えていた。13世紀にモスクワ公国の首都となってからしだいに市域は拡大し，15～16世紀には石造りの城壁ができ，周辺の要所には防備を兼ねた寺院もつくられた。各種の工業も盛んになり，17世紀の人口は20万余に増加していた。1712年から，首都は現在のレニングラードに移ったが，当時すでに今日のモスクワ市街の原型は形成されており，その後も経済上の一中心地として存続した。また，この間，タタール・ポーランド・ナポレオンによる遠征軍のためにしばしば戦火にも見舞われた。特に1812年，モスクワはナポレオン軍に1か月半にわたって占領され，市街も大きな損害を受けたが，飢えと寒さからナポレオン軍は退却した。1861年の農奴制廃止前後から資本主義が発展して多数の企業がモスクワに集中し，1917年の革命当時は約1,000の企業があり，人口は200万に達した。革命後，再び首都となり，1930年代からのモスクワ改造計画などにより，近代都市として大きな発展を遂げ，名実ともにソ連の中枢都市となっている。〔斎藤晨二〕

モスクワかいだん　【モスクワ会談】　1943年10～11月モスクワで開かれたイギリス・アメリカ・ソ連3か国外相会議。アメリカ国務長官ハル，イギリス外相イーデン，ソ連外相モロトフのほかに軍の首脳も参加，第2次世界大戦遂行上の問題と戦後世界の平和・安全保障の機構について討議した。この会議で，①全般的安全保障に関する4か国共同宣言，②イタリアに関する宣言，③オーストリアに関する宣言，④ヒトラー一派の残虐行為に関する声明などが発表された。一般に〈モスクワ宣言〉とよばれる①

の宣言には3国のほかに中国も参加し，大戦の早期終結への協力を約した。また，戦後の国際平和と安全のため国際機構の設立が決められたが，これはのちに国際連合へ発展した。なお，この会議においてソ連の長年の要求である第2戦線の設定が決定され，ソ連のイギリス・アメリカ不信は解消した。〔折井一彦〕

モスクワげいじゅつざ【モスクワ芸術座】ソ連の劇団およびその劇場。現在の正式の名称は，〈ゴーリキー記念ソ連邦国立モスクワ芸術アカデミー劇場〉。頭(かしら)文字をとって〈ムハト〉とも略称される。1898年にスタニスラフスキー*とネミロビチ-ダンチェンコ*とによって創設された。第1回公演は《フョードル大帝》。第5回公演のチェーホフ*作《かもめ》が大成功を収め，以後のチェホフ作品をすべて初演し，劇団のマークはカモメの形を採用した。十月革命のあと劇団は長らくヨーロッパ・アメリカの公演旅行にたったが，帰国後，新しいソビエト演劇の中核的存在として，リアリズム演劇を推し進めた。スタニスラフスキー-システム*として知られるその演技術は他国への影響も大きく，初期の俳優ではモスクビン・カチャーロフ・オルガ-クニッペル(チェーホフ夫人)らが有名である。➔ロシア-ソビエト演劇〔毛利三弥〕

モスクワせんげん【モスクワ宣言】

1 ⇨モスクワ会談

2 1957年11月モスクワで開催された12の社会主義国の党代表者会議で採択された宣言。正式名称は〈社会主義国の共産党・労働者党会議の宣言〉。社会主義諸国および平和勢力が強化され，帝国主義の崩壊過程が著しく早まっている現在，アメリカ合衆国を先頭とする帝国主義のもくろむ戦争は防止することができるとし，両体制の平和共存，修正主義の克服，各国共産党の自主性尊重，社会主義国間の連帯強化，および資本主義国における権力獲得，独立・民主・平和の戦いと社会主義建設のため，社会党との連携の可能性などを呼びかけた。この宣言は，1960年10月モスクワで開かれた81か国の共産党・労働者党の代表者会議で採択されたモスクワ声明に発展し，以後，国際共産主義運動の綱領的文書となった。〔広部和也〕

モスクワだいがく【モスクワ大学】ソ連の首府モスクワにあり，正式にはロモノーソフ記念モスクワ国立総合大学という。1755年ロシア最初の大学として詩人・科学者であるロモノーソフ*によって創設された。当時から自然科学を中心とした学風で知られている。現在は市の南西にあるレーニン丘の上に，学生寮から劇場まで含めた32階建ての巨大な施設をもち，12の学部，168の講堂，1,700の実験研究室がある。

モスクワたいこうこく【モスクワ大公国】14世紀初めから15世紀までモスクワを中心に存在した封建国家で，ロシア国家統一の基礎となった。13世紀にダニール-アレクサンドロビチがモスクワ公国を確立して以来，大公イワン1世が周辺諸国に対する優位の基礎を確立した。コストロマ・ニジェゴロドなどいくつかの公国を併合する一方，封公の権限をも制限し，モスクワ大公の地位は強化された。15世紀中ごろの封建諸公の反乱はワシリー2世に弾圧され，その子イワン3世はロシア中央国家の基礎を築いた。〔山県弘志〕



モスクワ芸術座　ゴーリキー《どん底》第2幕。1902年の初演以来，同座の代表的な演目となっている

モスクワほうそう【モスクワ放送】ソ連の国外向け国営放送。ソ連閣僚会議付属ラジオ・テレビジョン国家委員会のもとに設置され，国外への宣伝活動を行なうことをおもな目的とする。1929年10月ドイツ語で開始されたのが最初で，現在では約50種の言語で放送を行なっている。日本語放送は1942年(昭和17)開始された。なお，国家委員会の管理下にある国外向け放送はモスクワ放送のほかに，レニングラード放送・タシケント放送・キエフ放送などによっても行なわれている。〔飯田良明〕

モースのこうどけい【モースの硬度計】天然の鉱物を標準にして，鉱物の硬度を10等級に分けたもの。すなわち，硬度1(タルク)・硬度2(セッコウ)・硬度3(ホウカイ石)・硬度4(ホタル石)・硬度5(リンカイ石)・硬度6(セイチョウ石)・硬度7(セキエイ)・硬度8(トパズ)・硬度9(コランダム)・硬度10(ダイヤモンド)で，試料とこれらの標準鉱物とをすり合わせて，どちらに傷がつくかで硬度を決める。これは定性的なもので，だいたいのめやすにすぎない。また標準鉱物が手もとにない場合には，つめ(2.5)・ナイフ(5.5)を用いてめやすを立てることもできる。〔加藤敏郎〕

モーズリー［Henry Maudslay］(1771～1831)イギリスの機械発明家。産業革命初期のすぐれた機械発明家ブラマのもとで18歳から働き，1797年独立して工場をもった。同年旋盤の刃物台を横送りする刃物台スライド-レストをはじめ，ねじ切り旋盤などの発明，工作機械の発達に大きな貢献をした。また，彼の工場からはナズミス*・ホイットワース*・クレメントらのすぐれた人材が出て，イギリス機械工業の中核をなした。〔加藤邦興〕

モーズリー［Henry Gwyn-Jeffreys Moseley］(1887～1915)イギリスの物理学者。イートン校とオックスフォード大学に学び，マンチェスター大学で研究。X線分光学の開拓者として知られ，特に諸元素の固有X線を測定比較し，1914年原子番号との間になりたつ関係式(モーズリーの法則)を見いだした。第1次世界大戦中海軍の戦闘に加わって戦死した。

モスリン［muslin］元来はインドでつくられた薄地の平織綿布であるが，一般にはこれに模して梳毛(そもう)糸で織った織物をいう。わが国では，明治時代になって毛織物が発達してからこれを製造しはじめ，メリンスまたは唐縮緬(とうちりめん)と称して，和服用に流行したことがある。近来はレーヨン・綿・アセテートなどのほか，各種の合繊混紡でつくられる。薄地で軽く，白地のまま，または各種の染色を施して，広く衣料・家具・装飾その他ふろしき・旗・袋などに用いられる。〔小川安朗〕

モスル［Mosul］イラク北部にある同国第2の都市。人口34万3,000(1968)。チグリス川右岸に位置し，北部地方の政治・経済の中心をなしている。アラブ・クルド両民族の接点にあり，古くから隊商路の拠点として栄えた。穀物・家畜・羊毛・毛皮などを集散していたが，1926年以来イギリス・オランダ・アメリカ合衆国・フランスの資本によるイラク石油会社の手で石油の開発が進み，北部油田地帯の中心となっている。また織物業も盛んで，毛織物のモスリン*はここの地名に由来する。チグリス川の対岸にニネベの遺跡があり，古代都市の跡や，12～13世紀の建造物も多く残っている。1926年イラク領になった。〔今井留吉〕

モスレム［Moslem］イスラム教徒のこと。正しくは〈ムスリム〉といい，〈イス

ラム〉と語根を同じくし，〈神に身をささげる者〉を意味する。最初マホメット*はみずからの宗教とその信徒を特別の名称でよぶことはせず，単に〈真の宗教〉〈信仰する人人〉と表現していたが，メディナ後期，〈イスラム〉と〈ムスリム〉とを正式の名称として採用した。これはユダヤ教徒との対立・論争を通して，みずからを他と明確に区別する必要が生じたためと考えられる。
〔牧野信也〕

モーゼ ［Moses］ 古代イスラエル民族の指導者。《旧約聖書》の世界で最も重要な人物。モーセともいう。その生涯(しょうがい)は《旧約聖書》中の〈出エジプト記〉〈レビ記〉〈民数記〉〈申命記〉に記される。ヤコブの子孫がエジプトで奴隷状態にあった時代に生まれ，ヘブライ人であるにもかかわらずあやうく命を救われて王宮で成長した。あるとき同胞のためエジプト人を殺して逃亡，シナイ山で神ヤーウェ*に接して民族救済の使命を与えられる。数々の苦難を経てエジプト脱出に成功し，3か月後にシナイ山へ到着。そこで神の与えた十誡*(じっかい)その他の律法*を民に伝える。その後，不平の多い民を神にとりなしつつ，長年荒野を放浪したあげく，約束の地カナンを目前にして没する。エジプト脱出は民族成立の端緒であり，ユダヤ教の根本となった律法の制定，唯一神ヤーウェ信仰の確立などにみられる指導力は，彼が紀元前14～紀元前13世紀ごろに実在した人物であることを疑わせない。
〔松田　治〕

モーゼごしょ 【モーゼ五書】 《旧約聖書》の最初の5書，〈創世記*〉〈出エジプト記*〉〈レビ記*〉〈民数記〉〈申命記〉の総称。律法*の意でも使われる。ユダヤ教の基盤となる律法が主内容で，口伝による物語や教訓などが集められ，神とイスラエルの民とのかかわりあいがしるされる。全体として紀元前10世紀初頭から紀元前6世紀半ばにかけて編纂(へんさん)され，紀元前5世紀には5部に分けられた。あらゆる面で民を指導する権威をおび，《旧約聖書》中で最初に正典として認められた。古くから著者とみなされてきたモーゼ*の名が冠せられるが，この著作説は今日では否定されている。しかし，〈創世記〉以外ではモーゼが中心人物となっており，神の召命を受けて着実に任務を果たし，また神と対面して語った唯一の人でもある点で，この名称は適切であろう。
〔松田　治〕

モーゼル(川) ［Moselle］ フランス北東部から西ドイツ西部を流れる川。全長515km。ボージュ山地に発し，ロレーヌ地方の平原を北西に流れ，ナンシー・メスの各都市を経て北東に向きを変え，ルクセンブルクと西ドイツの国境沿いを流れて，コブレンツでライン川に合流する。上流部から中流部にかけては肥沃(ひよく)な耕地が開け，下流部の河谷斜面はブドウの産地で，ぶどう酒のモーゼルワインの名は有名である。ロレーヌ工業地帯とライン地方を結ぶ内陸水路としても重要で，外洋船はメスまで遡航(そこう)できる。
〔大石堪山〕



モーゼ ミケランジェロ《モーゼ》 サン-ピエトロ-イン-ビンコリ聖堂

もぞうし 【模造紙】 局紙*の外観をまねてつくった紙。表面は平滑であるが地合(じあい)はそれほど良好でなく，原則として白土・タルクのような充塡(じゅうてん)剤を含まない。一般には，さらし化学パルプを原料とし，抄造後カレンダーを強くかけてつくる。元来，ヨーロッパでわが国の局紙をまねて亜硫酸パルプを原料としてつくった紙を，さらにわが国でまねてつくったところからこの名がある。雑誌の表紙，事務用品，各種包装用に使われる。
〔角祐一郎〕

モーター ⇨電動機

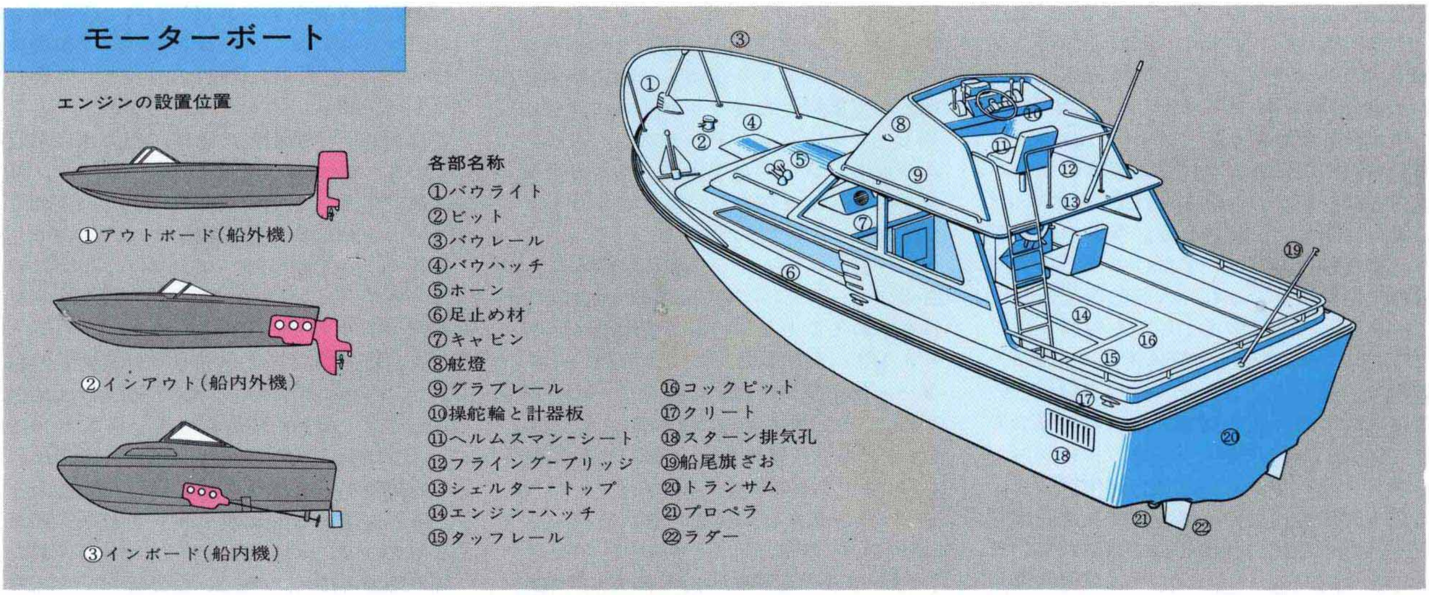
モーターサイクル-レース ［motorcycle race］ 自動二輪車(オートバイ)レースの総称。四輪車(オートモービル)レース(→自動車競走)と区別して使われている。一般道路・サーキット*(さまざまな道路状態を取り入れた周コース)・ヒルクライミング(丘上り)・砂上レース・ツーリングなど，耐久力・馬力・性能などに応じていろいろなレースがある。四輪車のレースと同様に，モーターサイクルの技術向上に役だってきた。1907年イギリスのマン島で行なわれたマン島TTレース*が最初の大規模な競技で，以後デイトナ-ビーチの全米200マイル選手権など各国でスピードを競うグランプリ級のレースが行なわれてきた。1904年には国際モーターサイクリスト連盟(FIM)も生まれ，1949年からは各国のグランプリを統一してグランプリシリーズができた。レースは50・125・250・350・500ccの5クラスに分けて行なわれている。このほか，モトクロスといって自動二輪車によるクロスカントリーシリーズもある。

日本の自動二輪車も1959年(昭和34)からはグランプリシリーズに参加，1961年にホンダが125，250ccでシリーズ優勝を遂げ，1966年には全クラス制覇(せいは)の偉業を果たした。ホンダ以外の日本の各メーカーも好成績をあげ，日本のオートバイはこのグランプリシリーズを制覇(せいは)して世界的になった。

なお，車券を売り，勝者予想の配当を目的とするいわゆるオート-レースは日本独特のもので，前記の諸レースとは別種のものである。
〔浮田裕之〕

モータースポーツ ［motor sports］ 自動車を使って行なう競技の総称。この世に2台めの自動車が誕生したときから始まったといわれるほど，人間の本能的競争心によって生まれ，育てられてきた。歴史は古く，グランプリ(大賞)レースの中にその推移をみることができる。1894年にパリ～ルーアン間の自動車レースがはなばなしくスタートすると，その魅力はヨーロッパ各地に広がった。1900年には道路を一部閉鎖して周回するようになり，さらにサーキット*の建設により，公道を走行するラリー(定められた公道をその区間ごとに定められた速度で走り，区間の所要時間とあらかじめ計測された時間との差を争う競技)と，サーキットを走行するレース(速度が順位判定の決定的な要素となる競技)は完全に分離した。1905年に大西洋をはさんでゴードン-ベネット杯レースが開催され，翌年フランスは技術開発の促進をねらいとして，エンジン・重量に制限をつけてグランプリレースを開催し，今日に至る基本姿勢を確立した。初期のレースに出場した車は完全な市販車であったが，レースが盛んになったこのころから，レース専門のドライバーによる専用のレーシング-マシンによって競われるようになった。1927年には単座のフォーミュラカー*が誕生した。また2座のスポーツカー*は，ツーリングカー(市販の量産車)的性格が強くなり，ル-マン24時間レースにみられるような，耐久テストを目的としたレースへと進んだ。〈より速い車，すなわちよりすぐれた車〉というイメージを販売に結びつけるために，大資本のメーカーによって行なわれるスポーツカーレースやツーリングカーレースは，モータースポーツの花形といえよう。わが国の青年層にも人気のあるラリー，ジムカーナ(平坦(へいたん)な500～1,000m程度の屈曲したコースを1台ずつ走ったり，走りながら玉入れ競技のようなことをしたりする)，手づくりの車で砂上の走行を楽しむサンドバギーなど，新しい型のレースが登場したが，これらは今後さらに発展することであろう。

わが国では1963年(昭和38)に鈴鹿(すずか)サーキット*で行なわれた第1回日本グランプリレースによって，ようやく世界に通用するレベルに達した。それ以前は自動車の普及が著しく遅れ，少数の人々によって小規模な自動車レースが開催されていたにすぎないが，1960年代になって国産車の量産体制が整うと，モータースポーツも国民の

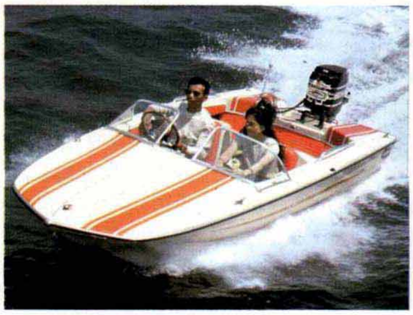


間に親しみをもって迎えられるようになった。

競技的性格をもつモータースポーツは，次のような種目に分けられる。①レース：クローズドコースでのレース，ロードレース，耐久レース。②ラリー：耐久トライアル的性格のラリーなど。③スピード競技：タイムトライアル(独走して記録を競う)，ヒルクライム(定められた坂道を上り，所要時間を競う)，オートクロス(ハイスピード，ジムカーナ)，スプリント。④記録挑戦(ちょうせん)：一定距離と一定時間における平均速度で競う。➔自動車競走　〔山本克典〕

モダニズム　[modernism]　既成の権威・価値・封建性に反抗し，科学的・合理的な方法によって，新たな価値の創造と近代化をめざす運動またはその思想の総称。近代主義的・現代主義的傾向と訳される。宗教上は，1900年前後，カトリック教会内部で外的権威の束縛を脱し，ダーウィン*の進化論や聖書の高等批判など，近代諸科学の成果に矛盾しない教義を確立しようとした運動を意味する。芸術上は，20世紀初頭から1930年ごろまでに起こった表現主義*・ダダ*・形式主義*などの感覚的・抽象的な諸運動を意味する。

日本では特定の芸術傾向，すなわち大正末期から昭和初期にかけて展開された，いわゆる新感覚派から新興芸術派へと続く一連の文学上の運動，また絵画・彫刻において抽象主義やシュルレアリスム*(超現実主義)など，ヨーロッパ・アメリカ合衆国の芸術から無差別に移入された方法，およびそこに内在する芸術上の傾向を意味することが多い。これらの運動は移入文化・移入芸術の性格が強く，近代的な装飾性にとらわれすぎて，ほどなく流行的・実験的な段階で停滞したが，第2次世界大戦後，そこに内在した方法・様式は継承されて芸術の各分野で開花しつつある。　〔溝口　潔〕


ランナバウト


クルーザー(全長63フィート)



レーサー(3点支持形，最高速力150km/時)



魚雷艇(海上自衛隊12号)

モーターボート　[motorboat]　内燃機関を備えた比較的小形で軽快な艇の総称。自動艇・機械艇・内燃機艇ともいう。古くはガソリン機関を搭載(とうさい)したものがほとんどであったが，最近は軽油を燃料とするディーゼル機関が発達し，娯楽用艇にはガソリン機関，実用艇にはディーゼル機関が多く使われている。

〔種類〕　多くの種類があり，用途からは次のように分類できる。①実用艇：魚雷艇*・ミサイル艇・掃海艇*・哨戒(しょうかい)艇・救難艇・救命艇・消防艇・交通艇・測量艇など。②娯楽用艇：数日ないし数か月間海上生活ができ，豪華な内装と外観をもつ社交用船で，一般に帆装しないモーターヨット，比較的大形で，屋根つきの船室(キャビン)を備えるクルーザー，内湾用の小形で軽快な短距離用ボートで，船室のおおいのないランナバウトをはじめ，フィッシャーマン・ハウスボート・レーサー(競走用)・レコードブレーカーなどがある。③営業用艇：遊覧艇・高速旅客艇など。また船体形状(主として横断面)には，角形と丸形とがある。大きな船舶のように水に浮いている状態のままで走るものを排水量形，水面を滑走するものを滑走形，それらの中間的なものを半滑走形といい，滑走形・半滑走形は角形が多く，排水量形は丸形が多い。より高速なものは，船底に段をつけたステッパーや3点支持形がある。さらに艇体が二つに分かれている双胴形のをカタマラン(➔カタマラン船)といい，ほかに水中翼船*(ハイドロフォイル-ボート)，ホバークラフト*などの変わった艇もある。艇の構造材料には，木材(ヒノキ・ベイマツ・マホガニー・ラワン・耐水合板)や強化プラスチック(FRP)・

耐食軽合金・布・ゴムなどがあるが，最近はFRP製が多くなった。FRPはガラス繊維をポリエステル樹脂で何層も積層するもので，量産に適している。〔戸田孝昭〕

モータリゼーション ［motorization］ 自動車が市民生活の中に広範にはいりこみ，生活と深いかかわりをもつ状態。自動車化・自動車文明などと訳される。今日の自動車は，貨客輸送機関としてだけでなく高度消費時代の象徴ともされ，大衆的普及を遂げてレジャー・通勤の足としても利用されている。またその発達・普及に伴って，道路・駐車場の建設，タクシー・修理工場などの営業活動も活発化されている。わが国でも1960年(昭和35)代からモータリゼーションが著しく進んでいるが，他方排気ガスによる公害や環境施設の不備および交通災害などが，大きな社会問題として残されている。〔成田武男〕

モダン-アート ⇨340ページ

モダン-ジャズ ［modern jazz］ 1940年代以降に起こった新しいジャズの総称。その特徴としては，スイング-ジャズまでのジャズは2拍子ないし4拍子を基調としたのに対し，モダン-ジャズも一般にリズムは4拍子であるが，ビートの基調は8拍である。このため〈1－2－3－4〉という4拍は，〈1と2と3と4と〉に細分され，〈と〉の部分にメロディーの強拍が移される。つまりオフ-ビートとなる。コールマン-ホーキンズ(1904～)とC.パーカーのテナーサックス，あるいはアール-ハインズ(1905～)とバド-パウエル(1924～1966)のピアノを比較するとこのことがよくわかる。またハーモニーの面では，より複雑なパッシング-コードを多用する。

1930年代末期，有名なスイング-バンドに分散して働いていた有能な若手プレイヤーは，毎夜仕事が終わってからニューヨークの黒人街ハーレムのクラブに楽器をもって集まり，ジャム-セッションに興じたが，新しいジャズ-スタイルはその中から生まれた。それは古いジャズからの論理的な発展ではあったが，種々の事情で地下活動だけで5年近くも埋もれていたため，日の目を見たときには，急進的な改革のように思われた。このスタイルは〈ビー-バップ〉とよばれ，ジャズとは別物のように思われた時期もあるが，天才C.パーカーはビー-バップこそジャズの本流に起こった正しい発展であることを納得させた。1940年代の終わりにパーカーとトランペット奏者M.デービスは，フォームを欠き，ジャム-セッションの延長のような形で演奏されていたバップに，すぐれた編曲者の手を借りて，統合感豊かなフォームを与えた。彼がキャピトル-レコードに吹き込んだそれらの作品は，《クールの誕生》と題されている。他にS.ゲッツ・レニー-トリスターノ(1919～)・リー-コニッツ(1927～)・ジョージ-シアリング(1919～)らのすぐれたミュージシャンが現われ，バップの語法を用いて抑制のきいたクールなジャズを演奏し，朝鮮戦争の基地として繁栄したロサンゼルスに住む白人ミュージシャンも，デービスやゲッツ・コニッツのレコードを手本に，クールでスマートなジャズを演奏した。これをウェストコースト-ジャズまたはクール-ジャズという。一方，ニューヨーク周辺の黒人たちは白人のクール-ジャズに敬意を表したが，それをまねることなくバップの伝統を守り，アドリブに主体を置く，より力強いモダンなバップを演奏した。これを〈ハード-バップ〉という。黒人臭さを打ち出したので，〈ファンキー〉(黒人臭いの意)とあだ名された。ホレス-シルバー(1928～)・クリフォード-ブラウン(1920～1956)・セロニアス-モンク(1920～)・S.ロリンズ・アート-ブレイキー(1919～)らによって代表されるハード-バップは，クールの衰退とともに1950年代後半ジャズの主導権を奪回した。1959年，アルトサックス奏者オーネット-コールマン(1930～)の出現とともに〈フリー-ジャズ〉時代にはいる。楽典をまったく無視した彼の音楽は，狂った音程と不協和音に満ちていたが，人の心を打つ何物かがあった。これに触発されたフリー-ジャズは，叫び声・騒音などあらゆる音楽上の規約を無視する混沌(こんとん)の音楽である。この時期に現われた偉大なミュージシャンにジョン-コルトレーン(1926～1967)がいる。黒人のフリー-ジャズは〈ブラック-ミュージック〉ともよばれ，人種差別からの解放を心理要因として発生したが，ヨーロッパの白人たちを刺激したのは，長い音楽伝統からの解放であった。近代音楽だけでは満たされないものが，フリー-ジャズで満たされたのである。フリー-ジャズ時代に，ヨーロッパのジャズはかつてない発展をみた。しかし，1970年代を迎えて，フリー-ジャズは反省期にはいり，現在，ポスト-フリー(フリー-ジャズ以後)ともいうべきスタイルを指向しつつある。➔ジャズ 〔油井正一〕

モダン-ジャズ-クァルテット ［Modern Jazz Quartet］ アメリカ合衆国のジャズ-コンボ。ピアノのジョン-ルイス(1920～)，ビブラフォーンのミルト-ジャクソン(1923～)，ベースのパーシー-ヒース(1923～)，ドラムスのコニー-ケイ(1927～)の4人の黒人からなる。優雅で室内楽ふうのサウンドをもち，クラシック音楽ファンの間にも人気がある。もとは1940年代のD.ガレスピー楽団のリズム-セクションから独立したもので，1952年末にレギュラー-グループとなった。ジョン-ルイスの作曲になる《フォンテッサ》，映画《大運河》の音楽などがある。〔岩浪洋三〕

モダン-ダンス ［modern dance］ 20世紀初頭，ドイツとアメリカに興った新舞踊運動。ドイツ系モダン-ダンスはアメリカの女流舞踊家ダンカンによって先鞭(せんべん)がつけられた。これは古典バレエの特に技巧面に対するアンチ-テーゼとして興ったものである。バレエの技術が追求するものは形式美・感覚美である。それは自然運動のもつ豊かさ・柔軟さはもたないが，身体運動のぎりぎりの限界から生み出される美は，いかなる自然運動にもない独特のものである。〈アン-ドゥオール〉とよばれる足のポジション(かかとをつけて両足のつま先を180°に開く)をはじめ，アクロバット的回転運動などすべてが反自然的・人為的で，肉体の苛酷(かこく)な苦役なしには生み出せない種類の美といえる。ダンカンによって始められたモダン-ダンス運動は，この苦役から肉体を解放し自然運動によって舞踊に豊かな表現性を取りもどそうとするものであった。したがってモダン-ダンスの理念の中に，当初から芸術的要求と相並んで身体の健康への要求が根強く存在していたことはむしろ当然のことであった。

しかし古典バレエのテクニックに反対したダンカンも既存のものに対する攻撃に急で，自己の舞踊に，芸術としての確固とした理論的基礎を与えるまでには至らなかった。やがてダンカンの理想はドイツでラバンとビグマンに受け継がれることになるが，ラバンは理論的方面で，ビグマンは実践面で貢献し，この2人によってドイツ系モダン-ダンスは芸術として完成されたのである。ダンカン→ラバン→ビグマンと続くドイツ系モダン-ダンスはラバン・ビグマン時代にはいってからは古典バレエの技巧面だけでなく，舞踊劇としての古典バレエそのものに関しても疑問が提出された。そしてついには古典バレエのもつすべての要素を拒否し，他のすべての芸術のジャンルからの舞踊の自律性を求めるようになった。ビグマンによって実験的に試みられた無音楽舞踊(絶対舞踊)はその究極の到達点であった。これは舞踊から音楽・背景・物語性を切り離し，肉体の動きのみによって構成される純粋舞踊で，舞台舞踊として一般化はしなかったが，これまで無反省に舞踊を音楽やその他の要素と結びつけてきたこの世界に，〈舞踊とはなにか〉という本質的な問いをはじめて投げかけ，以後の舞踊界は多かれ少なかれ，つねにこの問いをめぐって大きく動くようになった。

ドイツ系モダン-ダンスはバレエの伝統のなかったドイツに根づき，ナチス-ドイツの文化政策の中にも組み込まれ，第1次世界大戦後のドイツで盛んに奨励された。ちょうどその時期にビグマンの教えを受けた邦正美(くにまさみ)・江口隆哉(たかや)らによってわが国にも移植され，その流れは現在まで続いている。アメリカ系モダン-ダンスはドイツ系ほどバレエに対して厳格ではなく，バレエ的要素も必要とあれば取り入れている。また，音楽など他の芸術との境界

も厳密に考えることなく，すべての舞台芸術の要素を加えて総合芸術としての方向に進んでいる。これはドイツとの国民性の違いもあろうが，アメリカ系モダン-ダンスの先駆といわれるデニショーン舞踊団(セント-デニスとテッド-ショーンによって1915年に創設された)自体が〈舞踊による音楽の視覚化〉を出発点とし，他の芸術に対してかなり柔軟な姿勢をもっていたということから理解できるであろう。アメリカ系モダン-ダンスの頂点を形成したグラーム*もその例に漏れない。現在の世界のモダン-ダンスはドイツ系よりもアメリカ系が大勢を占め，わが国でも舞踊劇として上演されることが多く，物語や音楽，そのほか舞台背景も取り入れられている。しかしアメリカ系モダン-ダンスも古典バレエの技巧を構成の基礎としていないことでは，バレエとは異なった舞踊のジャンルに属し，その意味ではダンカンの影響を受けて起こったモダン-バレエ(→バレエ)とは異なる。〔高橋孝一〕

もち【餅】 もち米を水に浸し，蒸して臼(うす)でついて粘りを出した食品。黐(もち)が語源といわれ，同様に粘着性があることに由来する。古くは糯飯(もちいい)(もち米を使った飯)ともよばれ，本来神事・行事などの〈はれ〉の日の食品で，神と人との共食に不可欠のものであり，神を介して人や物に生命を与える霊力を保持すると信じられた。したがって，正月の年神*への供物，誕生祝い・出産祝いなどの祝儀餅(力餅)，年中行事*における節日や人生儀式における節供餅など，多くの儀礼に欠くことのできない食品でもあった。

原料・形状によっていろいろな種類がある。原料には，米のほか，アワ・キビ・クズやワラビの根などが用いられる。また，ヨモギ・ノリ・クルミ・ゴマなどをつき混ぜることもあり，それぞれの名を餅の上につけてよばれる。形状からは，のし餅・切り餅・菱餅*(ひしもち)・鏡餅*などがある。つきたての餅は，デンプンがα化しているので消化がよく，古くなるとαデンプン*がβデンプンに変わってかたくなり，消化が悪くなるので焼いてαにもどす。代表的な食べ方は雑煮*で，ほかに磯辺餅(いそべもち)(焼いてのりを巻く)・安倍川餅*(あべかわもち)などがあり，切って乾燥させ，欠餅*(かきもち)・あられなどもつくられる。〔佐藤友太郎〕

もちかぶがいしゃ【持株会社】 生産および販売活動を子会社に任せ，株式の保有や人事・企画・研究などの部門を担当して，子会社の支配に専念する親会社。持株会社の存在は，子会社の支配に必要な資本その他を節約でき，全体として生産活動の合理化を達成できる点で有利である。財閥本社もこれに含まれる。第2次世界大戦後，財閥解体・過度経済力集中排除法・独占禁止法*などで持株会社は禁止されたが，徐々に株式保有・役員兼任・合併などの制限が緩和されてきている。〔加藤 寛〕



モチノキ
果実



モーツァルト 父レオポルド，姉マリア-アンナと演奏する少年モーツァルト

もちぐさ【餅草】 ⇨ヨモギ

もちづき【望月】 能の曲名。作者不明。四番目物。信濃(しなの)(長野県)の安田の荘司(しょうじ)友治(ともはる)が望月秋長に討たれたあと，安田の家臣小沢刑部(ぎょうぶ)友房(ともふさ)は近江(おうみ)(滋賀県)の守山の宿で旅館を営んでいる。そこへ流浪の旅に出た友治の妻と子が来て泊まり，小沢は喜んで名のり出る。おりしも望月秋長もこの宿に泊まり合わせるので，小沢は一計を案じ，まず友治の妻を盲女に仕立てて歌をうたわせ，その子花若に八撥(やつばち)という芸をさせ，自分は獅子舞(ししまい)を見せる。望月が油断して眠るのを見すまして小沢はとびかかり，花若とともにみごとにかたきを討ち取る。シテは小沢友房，ワキは望月秋長。ほかに友治の妻をシテヅレ，花若を子方，望月の従者を狂言方が演じる。長唄(ながうた)・舞踊化されている。〔長尾一雄〕

もちつつじ【黐躑躅】 双子葉植物・ツツジ科。本州中部から四国に分布し，山地に自生する常緑低木。庭木にもされる。茎は高さ1～2mで，枝は細く，長毛と腺毛(せんもう)が密生する。葉は枝端に集まってつき，長楕円(ちょうだえん)形で先はとがり，質は薄く，葉柄とともに腺毛が多数ある。秋に出た葉は小形で，両縁が下面に巻き，線状に見える。春，枝先に径5～7cmの大形の花を1～5個つける。がくは長さ2～3cmの披針(ひしん)形で，密に腺毛があって粘りつく。花冠は漏斗状で先は5裂し，白から紅紫色で，紅斑(こうはん)があり，おしべはふつう5本で紫色。果実は蒴果(さくか)で毛がある。全体に腺毛が多いので，ネバツツジともいう。園芸品は多い。〔横井朝子〕

もちのき【黐の木】 双子葉植物・モチノキ科。常緑小高木。暖地の海岸近くの山林に自生し，半耐寒性で庭木としても栽植される。高さ5～15mになり，樹皮は平滑，葉は互生し，長さ4～8cm，幅2～4cmの倒卵状楕円(だえん)形で，質は厚く鈍頭全縁。雌雄異株で，4月に前年枝の葉腋(ようえき)に，黄緑色の小花を束生する。がくは4裂し，花弁は4枚で長さ4mmくらいの広卵形。雄花は花弁と同長の4本のおしべをもち，めしべは退化している。雌花は1本のめしべと花弁より短い4本のおしべをもつ。果実は径1～1.3cmくらいの球形の漿果(しょうか)状の核果で，8～10月ごろに赤熟する。樹皮からは鳥や虫を捕えるとりもちが得られる。園芸品に果実の黄色いキミノモチノキがある。〔横井朝子〕

もちひとおう【以仁王】(1151～1180) 後白河(ごしらかわ)天皇の第2皇子。母は藤原季成(すえしげ)の娘成子。高倉宮・三条宮と号す。母が摂関家(→摂家)出身でなかったため，親王宣下も得られず不遇であった。1180年(治承4)源頼政*(よりまさ)の勧めで平氏討伐の令旨(りょうじ)を諸国の源氏に伝えて挙兵したが，この企てはいちはやく平氏に探知されて平知盛*(とももり)らの追撃を受け，興福寺に向かう途中，頼政とともに宇治(京都府)で敗死した。〔飯田悠紀子〕

モーツァルト［Wolfgang Amadeus Mozart］(1756～1791) オーストリアの作曲家。ザルツブルク大司教の宮廷楽団で副楽長をつとめていたレオポルド-モーツァルト(1719～1787)を父親として生まれ，五つ年上の姉マリア-アンナ(通称ナンネル)とともに理想的な早教育を受けて成長した。子どもたちの才能を世に認めさせるために，レオポルドは1762年から数多くの演奏旅行を企画・実行し，特に1763年から2年半，フランスからイギリスに至る大旅行では，ウォルフガングは各地で神童の名をほしいままにした。さらに1769年から1773年までの間に3回にわたってイタリアに旅行し，これら少年期における外界との接触はその音楽の豊かな下地をつくるのに大きな意義があった。モーツァルト父子の演奏旅行に好意的であったザルツブルクの大司教シュラッテンバッハが死去し，後任にコロレドがついて以後もモーツァルトは大司教の楽

モダン-アート

モダン-アート

［modern art］

近代芸術または近代美術と訳されるが，美術においてはいくぶん特殊な概念として用いられている。美術史上，近代の起点をいつからとするかについては，ルネサンス*，19世紀，クールベ*のレアリスム，セザンヌ*などいくつかの説があるが，モダン-アートは近代の時代概念を意味しない。時期的にいえばむしろ現代に近いが，現代の美術がすべて含まれるわけではない。一般にモダン-アートの名称は，自然を再現する伝統的な美意識を離れて，個性的な感性に基づく独自な造形的方法を用いた作品全般に対して用いられるが，第1次世界大戦後ヨーロッパに勃興した革新運動と並行して，モダン-アートの概念が一般化した。したがってモダン-アートはアバンギャルド*の概念ともかなり重複するが，アバンギャルドが因襲を打破し急激な変革を求める反アカデミックな意識や精神の状態についていわれるのに対して，反自然主義的な制作の原理や様式をさして用いられる。モダン-アートの範囲を，リード*は後期印象派以後の革新的な美術に，またオザンファン*はキュービスム以後の抽象主義的諸傾向に限定しているが，必ずしも一定しない。モダン-アートは，普通にはキュービスム*・フォービスム*・表現主義*・未来派*・構成主義*・新造形主義*・ダダ*・シュルレアリスム*など，さまざまな名称をもった多種類な諸流派を含むものとして使われている。19世紀までの統一した世界観を基盤とする美術が秩序ある形式を求めたのに対して，モダン-アートは遠近法とレアリスムの否定を契機に伝統を打破し，新しい視覚や構造を求め，統一した形式の崩壊へ向かっている点では共通しているが，多様な諸傾向は相互に対立と交錯を含みながら複雑に分化している。

〔特色と背景〕 モダン-アートの社会的背景としては，なによりも19世紀末から20世紀初頭にかけての科学技術・機械文明の発達が社会環境を大きく変えたことがあげられる。科学技術の発達に伴う合理主義的な側面を反映したのはキュービスムからアブストラクト-アートへつながる系列である。機械文明の発達は，写真・建築・デザインなどの分野において直接的に新しい表現方法を拡大したばかりでなく，機能的な美を重視する傾向を生み，未来派が新しい機械とスピードの美を賞揚し，造形的ダイナミズムを主張したのをはじめ，構成主義は物質的な素材の開発とそれらの新しい素材による空間構成を求めた。線・面・色彩・形態・空間などの造形要素が自立的な重要性をもつものとして探究され，アブストラクト-アート*の中にモンドリアン*らの幾何学的抽象やカンジンスキー*のような内省的抽象表現が現われた。

また，一般的には科学技術の発達に対して楽天的であった19世紀後半から末にかけて，非合理主義の哲学とともに，文明の退廃と人間精神の危機を強く意識した美術は，自然の再現から離反して感覚の純化へ向かった。20世紀にはいって，フォービスムと表現主義はこうした危機意識と精神的不安を背景に，個性の解放と主観の表出をめざした。合理主義に対する不信は第1次世界大戦によって頂点に達し，大戦中から戦後にかけてヨーロッパ各地に興ったダダの運動は，いっさいの伝統・思想・芸術形式を否定する反芸術的な主張を掲げた。これに続くシュルレアリスムは，理性の支配を退け非合理的なものや意識下の世界を重視し，ダダから引き継いだ〈フロッタージュ〉〈オブジェ〉〈デカルコマニー〉〈デペイズマン〉〈コラージュ〉など新しい技法を駆使しながら，見る者の意識下に潜む欲望や幻想を呼び起こし，創造力を解放して美術に新しい次元をもたらした革新的な運動であった。モダン-アートは，このように，合理主義と非合理主義を基盤とする二つに分裂し，対立交錯したが，通信交通機関の発達に伴い，国際交流を飛躍的に増大させ，各地域の特殊性よりも国際的連関性が強調されている。

〔モダン-アート以後〕 モダン-アートの下限をどこまでとするかについて定説はないが，第2次世界大戦後の美術の激しい変動を考え合わせると，戦前のモダン-アートとかなり隔絶していることは否定できない。それは，少なくとも戦争直後のサロン-ド-メ系のノン-フィギュラティフまでと1950年代に隆盛した抽象表現主義以後では，美術という概念そのものが大きく変貌(へんぼう)してしまっているからである。第2次世界大戦後の美術は混沌(こんとん)とした状況の中で複雑に交錯しながら流動しており，それを簡明に系統的に整理することは不可能であるが，ここでは1950年代と1960年代に現われた主要な新しい美術の動向を略述することにする。アメリカのアクション-ペインティング*とヨーロッパのアンフォルメル*を含めた〈抽象表現主義*〉は，それまでの理知的な造形主義に対して，生命感の緊張したオートマチックな表現行為そのものや，物質としてのマチエールそのものの喚起力を

団に籍を置いて作曲活動をしていたが，1777年から母親を伴ってマンハイム・パリへの旅に出た。これはより有利な条件の就職を目的としたものであったが，この旅行は少年から青年への過渡期にあたって，母親の死と失恋などを彼にもたらした。パリ滞在中には交響曲《パリ》などを発表し，ザルツブルクにもどってからより多くの作品にその影響を表わしている。1780年秋よりミュンヘンに滞在し，翌年1月にオペラ《イドメネオ》を初演したが，彼の休暇が長いのを怒って，大司教コロレドは滞在中のウィーンに呼びつけ，同様に不満をもっていたモーツァルトと激論をかわし，ついに大司教専属の音楽家の地位を離れた。フリーになったモーツァルトはピアニストとして人気を集め，数多くの協奏曲を書いたが，1782年にはオペラ《後宮よりの誘拐(ゆうかい)》や交響曲《ハフナー》を発表して，その名声を高めた。この年コンスタンツェ-ウェーバーと結婚し，妻を伴って翌年ザルツブルクを訪れ，帰途に交響曲《リンツ》を書いている。

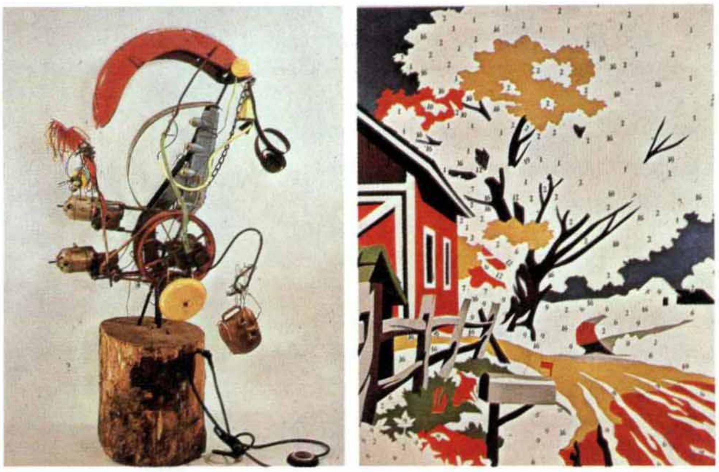
モーツァルトはハイドン*と親交を結び，その友情は〈ハイドン-セット〉とよばれる6曲の四重奏曲に表わされているが，ピアニストとしての人気が下降するにしたがって生活は苦しくなった。オペラ《フィガロの結婚*》《ドン-ジョバンニ*》はウィーンよりプラーハで評価が高く，その地で初演した交響曲《プラーハ》はその間の事情を示す作品である。1787年にモーツァルトはグルックの後任としてウィーンの宮廷作曲家に任じられたが，生活はいっこうに好転せず，借金の手紙を書きながら変ホ長調・ト短調・ハ長調(ジュピター交響曲*)の〈三大交響曲〉を作曲した。1790年にオペラ《コシ-ファン-トゥッテ》を発表，翌年にはオペラ《魔笛*》で大成功を収めたが，健康を害し，病の床で《レクイエム》を書きつつ，未完のまま世を去った。彼は声楽・器楽のあらゆるジャンルに手を染めており，ハイドンとともにウィーン古典派の完成者のひとりであるが，その音楽の中にはすでに19世紀の予兆が無意識のうちに示されている。〔向坂正久〕

もつがいふせん　【物外不遷】　(1795～1867)　江戸末期の曹洞宗(そうとうしゅう)の僧。伊予(いよ)(愛媛県)松山の人。幼時に広島伝福寺で出家。各地を遊歴ののち，宇治(京都府)興聖寺の関浪磨甎(かんろうません)に参じて大悟した。のち，江戸に出て吉祥寺の学寮にはいり，再び広島に帰って尾道(おのみち)の済法寺に住し，姫路侯の帰依を受けた。また剣道の達人でもあり晩年は国事に奔走した。拳骨(げんこつ)をもって落款としたので，拳骨和尚(おしょう)とよばれた。〔田中良昭〕

モッガラーナ　［Moggallāna］　マウドガルヤーヤナともいい，目連・目犍連(もくけんれん)と音訳される。ブッダの十大弟子*(でし)のひとり。ブッダの第一の弟子サーリプッタ*(舎利弗(しゃりほつ))とともに，懐疑論者サンジャヤのもとから集団転向し，ブッダの弟子となり，教団をまとめた。この2人の力で仏教教団は確固たる地位を築くことがで

重視し，強調して，表現という概念を大きく変えた。そこでは対象を描写したり，造形的な要素を構成したりするのではない，新しい表現という考え方が現われた。抽象表現主義は1950年代に国際的に非常に隆盛となり，日本でも〈アンフォルメル旋風〉などとよばれたほど盛んに行なわれた。抽象表現主義の台頭には，苛酷(かこく)な戦争体験と戦後の荒廃の中の不条理な心理表現としての要因がある。抽象表現主義を〈熱い抽象〉，純粋抽象や幾何学的抽象を〈冷たい抽象〉と対比する呼称も使われた。1960年前後には，抽象表現主義の一つの反動として，アメリカのネオ-ダダイズム，ヨーロッパのヌーボー-レアリスムが興り，日常的なモチーフや素材を油彩と等価値なものとして〈アッサンブラージュ〉(寄せ集め)して提示する新しい芸術観が現われたが，コラージュの考え方を発展させたアッサンブラージュは，さまざまな廃物を積極的に素材としたため〈廃品芸術〉とよばれた。これは，量産製品と大量消費とが生み出した廃物に注目した点で，物質観に新しい局面を開き，それらに取り囲まれた都市的文化環境を新しい視点から見なおした。1960年代後半にはいると，抽象表現主義とは対照的に感情表現や情念をできるだけ排除しようとする，いわゆるクールな傾向が台頭してきた。マス-メディアに現われた図像を積極的に取り入れた〈ポップ-アート*〉は，廃品芸術が提示した都市的文化環境の中で，物体と人間の相互反応に注目して，芸術と日常的現実との境界を否定しはじめた。このことは廃品芸術以来，芸術の自律性という観念が崩壊しはじめたことを意味する。さらに明確な形態と鮮明な色面による〈ハード-エッジ*〉(かたいへり)，直接見るものの視覚心理を刺激し，錯覚を利用することもある〈オップ-アート*〉，抽象表現主義と区別して〈ポスト-ペインタリー-アブストラクション〉(絵画的抽象後の抽象)などさまざまな名称の傾向が盛んになったが，それらは感情表現をできるだけ排除し，無表情で開放的な性格をもっていた。こうしたクールな表現は立体造形にも現われ，〈プライマリー-ストラクチャー〉は単純明快な形態と構造によって，具体的な空間の中にもう一つの新しい空間を設定し，主張した。その色数の少ない鮮明な色彩は，彫刻に色彩をよみがえらせたが，同時に素材の従来の意味での材質感や重量感を消去または変質させた。プライマリー・ストラクチャーは台座を失うことによってその自律性を放棄し，外部空間につながり，見るものと作品の相互浸透を図る〈環境芸術〉への志向も示した。科学技術の発達に伴うテクノロジーの導入も積極的に行なわれ，〈キネティック-アート〉とよばれる光と動きの芸術は，同時に環境芸術としての性格をもった。プライマリー-ストラクチャーよりいっそう表現的でない〈ミニマル-アート〉は徹底的に単純化した形のみ，あるいは形のくり返しのみを提示した。ミニマル-アート以後の芸術では，作者の〈制作〉なり〈発表〉なりの中に，従来の意味で〈造形する〉要素が希薄となり，関心は存在の継続よりも現在の状態・位置・過程に集中し，ものを〈つくる〉よりものを〈置く〉あるいは〈提示する〉ことが重要になる。〈エアー-アート〉〈アース-アート〉などの呼称が与えられるいわゆる〈コンセプチュアル-アート〉(概念芸術)は状態・状況・位置・過程などを通じて，もののあり方についてコンセプチュアルに追究していくから，造形芸術のわくにとどまらず，映像をはじめさまざまな情報との関連が求められている。

〔三木多聞〕

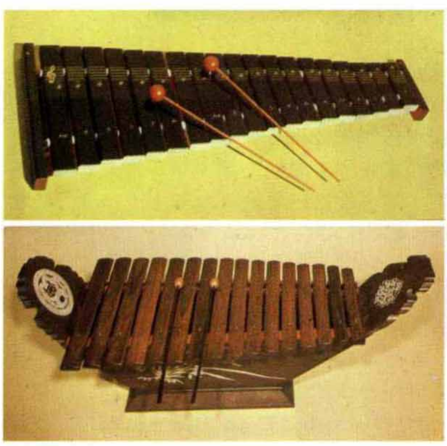


(左)ティンゲリー《BALUBA No.3》1959 (右)ウォホール《風景》1962

きた。仏教教団をねたむ執杖バラモンたちに襲われ，それが原因でブッダ在世中に没した。超自然的能力にすぐれ，神通(じんづう)第一といわれた。この伝説から，餓鬼との対話などをし，迷える人々を救った記述が経典には多い。〔石上善応〕

もっかんがっき　【木管楽器】　西洋の慣例的な楽器分類名称。管楽器の中で植物質の管をもつものを意味する。現在は金属製の楽器でも，もともと木製であったものはこれに属する。リード(簧(こう))のないフルートの類，シングルリード(単簧)のクラリネット，ダブルリードのオーボエ・ファゴットがあるが，サクソフォーンを含める場合もある。

もっきん　【木琴】　旋律打楽器の一。シロフォン・ザイロフォンともよばれる。長さの異なる木片をわくや箱の上に並べて桴(ばち)で打って鳴らすので体鳴楽器*にはいる。東南アジアの合奏音楽で使われるもののほか，中国・日本・アフリカ・ヨーロッパなどにある。





木　琴　(左上)2オクターブの小形木琴　(左下)中国の清楽で使われる舟形木琴　(上)西洋音楽で使われる半音つきの木琴

もっけい　【牧谿】　南宋(なんそう)末・元初の画僧。至元年中(1264～1295)に没したという。蜀(しょく)の人で名は法常。前身は明らかでないが，禅僧となって浙江(せっこう)省西湖付近の六通寺の開山となる。同地方に長く居住し，水墨画家として親しまれたらしい。山水・道釈人物・花卉(かき)などを描いた。院体的な描法とも，南宗の文人画風とも異なるので中国の画史類では高く評価されていないが，わが国では鎌倉以降室町期にかけて禅林・武家を通じて熱誠な支持を

受け，馬遠・夏珪(かけい)・玉澗(ぎょくかん)らとともに室町・桃山期の水墨画に大きく寄与した。意思簡当と評される精微で抑制のきいた筆致で，主観表現と客観表現とがとけあい，また北宗画的様式と南宗画的様式とが融合した，理想的な画態である。代表作には《観音猿鶴(えんかく)図》《蜆子和尚(けんすおしょう)図》《瀟湘(しょうしょう)八景図》などがある。
〔中島純司〕

もつご【持子】 硬骨魚類・コイ科。体長6～8cmほどの淡水魚。東京でハヤ・ヤキ，琵琶湖(びわこ)沿岸でイシモロコなどという。背びれ8～9軟条，臀(しり)びれ7軟条。体は細長く，口は小さく吻端(ふんたん)にある。口ひげはない。産卵期の雄は紫黒色となり，吻部に追い星を生じる。日本・朝鮮・台湾・中国に分布し，平野部の浅い池や細流に生息する。産卵期は3～7月ごろ。食用になる。

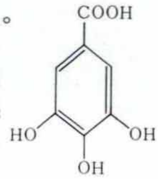
もっこうきかい【木工機械】 刃物を用いて木材を種々の形に加工する機械。切断用のものとしては丸のこ盤*・帯のこ盤*などがあり，曲線状に切り抜くためには糸のこ盤*がある。面を平らに削るためには各種のかんな盤が用いられ，丸穴や角穴をあけるにはボール盤*・角のみ盤が用いられる。また，丸棒・円板その他の特殊形状をつくるためには木工旋盤・木工フライス盤・ルータマシンなどが用いられるが，これら以外に表面をなめらかにするサンダ，薄板をはぐスライサーなど種々の木工機械がある。
〔稲田重男〕

もっこく【木斛】 双子葉植物・ツバキ科。山野に自生する常緑高木で，庭園に栽植される。高さ7m以上になり，枝は太く樹皮は黒かっ色をおびる。葉は互生し，長さ7～9cmの長楕円(ちょうだえん)形で先は丸く全縁，質厚く，光沢があり，やや赤みをおびる。雌雄異株で，夏に当年枝の下半部に1～2cmの花柄をもつ淡黄白色花を下向きに叢生(そうせい)する。花は径1cmほど，がくは5枚で緑色，花弁は5枚で倒卵形で平開する。雄花にはおしべが多数あり，めしべは退化している。果実は径1～3cmの卵状球形の漿果(しょうか)で，皮は厚く，熟すと不規則に裂けて，紅色の種子を朱紅色の糸で下垂する。〔横井朝子〕

·**もっこつ**【没骨】 東洋画の描写技法。形体面の輪郭をとらず，墨や彩色のみによって面をつくる方法。明確に輪郭をとる場合を鉤勒*(こうろく)という。没骨は宋(そう)の徐崇嗣(じょすうし)あたりの花鳥画においで創始されたが，のち山水画にも用いられた。

もっしょくし【没食子】 中近東に生育するブナ科の植物*Quercus intectoria*の若枝にタマバチ科のハチの一種が産卵して生じた虫癭*(ちゅうえい)。この中にタンニン*を70%含み，タンニン原料として用いる。

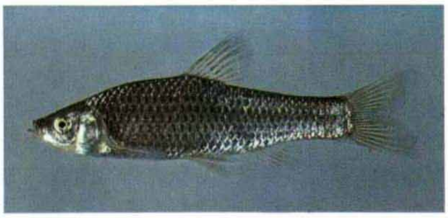
もっしょくしさん【没食子酸】 3,4,5-トリオキシ安息香酸のこと。ぼっしょくし酸・ガルス酸ともいう。無色の結晶で，タンニンを加水分解して得られる。遊離のままでも植物の葉・果実・茎・根などに含まれるが，植物によってはタンニンとして多量に含むものが知られている。強い還元剤で水によくとける。水溶液は第二鉄塩により青黒色の沈殿を生ずる。青インキをはじめ写真・染料あるいは医薬の製造原料として用いられる。また強い収斂(しゅうれん)作用があるため，希薄溶液としてうがい剤・洗眼剤などにも使われる。



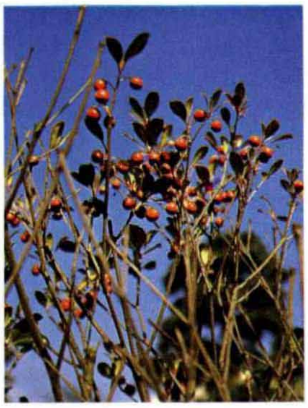
〔石戸良治・荒木洋之助〕



牧　谿
《観音猿鶴図》三幅対のうち〈猿図〉 大徳寺蔵



モ ツ ゴ



モッコク

モッセ［Albert Mosse］(1846～1925) ドイツの法学者。1879年ベルリンの日本公使館顧問となり，憲法調査のためにヨーロッパに渡った伊藤博文(いとうひろぶみ)らに，ダナイスト*の高弟としてプロイセン憲法の講義を行なった。1886年(明治19)日本政府の招きで来日し，内閣および内務省の顧問となり，明治憲法立案に貢献した。特に地方自治制度の創設に大きな影響を与えた。1890年帰国。

モット［Lucretia Coffin Mott］(1793～1880) アメリカの婦人運動家でクェーカー派の説教者。マサチューセッツ州の生まれ。1833年以来，奴隷制反対協会フィラデルフィア婦人部長として活躍。また，婦人解放のためにも，1848年〈婦人の権利〉の大会を主催し，〈婦人の所信〉という宣言を発表した。これはアメリカにおける最初の組織的婦人運動である。

モット［Nevill Francis Mott］(1905～) イギリスの物理学者。リーズの生まれ。ケンブリッジ大学に学んだ。マンチェスター・ケンブリッジ各大学の講師を経て，1933年ブリストル大学教授。1954年以来キャベンディッシュ研究所長。原子核の諸問題や衝突現象の研究から金属・合金・半導体結晶などの分野に進み，固体量子論の進歩に大きく貢献した。国際物理学連盟会長などをつとめ，現在イギリスの理論物理学界の指導的立場にある。また多くのすぐれた教科書を著わした。

モッブ ⇨群集心理

もっぽ【木浦】 モクポ 朝鮮半島，全羅(ぜんら)南道西岸にある港市。人口16万3,000(1967)。古くからの交通の要地で，李朝(りちょう)初期には木浦営に水軍が置かれていた。港は1897年に開港し，原鉱石や米・綿花の日本への積み出し港になっていた。湖南線の終点で，後背地の全南平野で産する米・綿・麦の集散と精米・製粉・綿実油など農産加工の中心地になっている。羅州群島などが展開する多島海域では水産業が行なわれ，ノリの生産が多い。市街は儒達山の南斜面から海岸にかけて展開し，教育大学などの教育・文化機関がある。
〔矢守一彦〕

もてぎ【茂木(町)】 栃木県南東端，芳賀(はが)郡の町。人口21,000。町域の北部を那珂(なか)川が流れ，それに臨む傾斜地や丘陵地に耕地が開け，米・麦のほかタバコの栽培が盛んである。水戸(みと)線の下館(しもだて)から通じる真岡(もおか)線の終点で，また国道123号線に沿う。隣接する茨城県と経済的にも文化的にも関係が深い。工業化が遅れ，人口が減少している。

モテット［motet］ 宗教的多声楽曲の一形式であるが，歴史的にさまざまの変遷を遂げたので，その様式を一義的に定義づけることはむずかしい。13世紀初頭にノートルダム楽派*の多声楽にはじめて現われたもので，最初は独立した楽曲ではなく，曲の多声部分の名称として使用されていた。初期のモテットの代表的なものは，同時に二つの異なった歌詞が歌われる二重モテットであり，ここからラテン語以外(おもに

フランス語)の歌詞をもつものも現われる。14世紀にはモテットの作曲は一時衰退し，わずかに同じリズム型を計量的に使用するイソリズミック-モテットが注意をひくのみである。ルネサンスにはいると，それ以前の伝統は完全に捨て去られ，グレゴリオ聖歌を定旋律とし，全声部を同一の歌詞で作曲する方法がとられた。15世紀後半から16世紀前半にかけてはモテットの作曲が盛んであったばかりでなく，このジャンルに時代の様式が最も顕著に反映している。声部も3声のものからしだいに5〜6声のものへと拡大され，2〜3部からなる，かなり長いものもつくられた。技法的にみれば，各声部が同一の旋律によって模倣し合う，いわゆる通模倣が，特に16世紀にはいって一般的となり，この対位法的部分とホモフォニー的な部分との交替によって曲が進行した。この時代以降，モテットは広くヨーロッパじゅうに普及したが，ベネチア楽派の複合唱によるモテットを除いて，特にみるべき革新はなく，バロック以降の器楽伴奏つきのものでは，他のジャンルの様式の浸透によりモテットの独自性は失われ，わずかにJ. S. バッハのドイツ語によるモテットの中にバロックふうのモテットの成果を知るのみである。その後現代に至るまで多くの曲がつくられているが，音楽史の中で重要な地位を占めるには至っていない。

〔吉田泰輔〕

モデラート　［moderato］　音楽の速度標語。〈中位の〉を意味するイタリア語の形容詞。テンポを表示するものとしては，本来はアレグロ-モデラートの意味であるから，速さとしてはアレグロとアンダンテの間である。

モーテル　［motel］　自動車を利用する旅行者が自動車をへやの近くに駐車できる宿泊施設。正しくはモーターリスツホテル。モーテルは1930年代のアメリカ合衆国においてモータリゼーションの発達により，ドライブツーリストが盛んになり，そのため簡単な宿泊小屋と車庫をつくって自動車旅行者に貸すようになったのがはじまりである。ホテルに比べ経済的でチップなどの煩わしさがなく，自動車で自分のへやの前に行けるのが利点。わが国では，モーテルの名称をつけた宿泊所が近年来各地にみられるが，本格的なモーテルはまだ数が少ない。

〔田丸睦雄〕

もとうけほけん　【元受け保険】　保険者すなわち保険経営主体がその引き受けた保険の一部または全部を再保険に付けた場合のもととなる保険。原保険ともいう。元受け保険と再保険の関係は，保険者が引き受けた保険つまり元受け保険または原保険を，さらに別の保険者に引き受けさせる場合の保険が再保険とされる。

もとおりおおひら　【本居大平】　(1756〜1833)　江戸後期の国学者。号は藤垣内



本居宣長《本居宣長画像》　鈴屋遺跡保存会蔵

(ふじのかきつ)。伊勢(いせ)(三重県)松阪(まつさか)の人。父は本居宣長(のりなが)の門人。13歳で宣長門下となり，44歳で養子になる。宣長の没後，失明した実子本居春庭に代わってあとを継ぎ，本居姓を名のる。紀州侯に仕え，和歌山に住んで多くの門人を指導した。この間に《紀伊続風土記(ふどき)》を選進する。本居家の学風を広く普及させるのに力があった。主著《神楽歌(かぐらうた)新釈》《万葉集合解》，家集《藤垣内文集》。

〔永藤　武〕

もとおりのりなが　【本居宣長】　(1730〜1801)　江戸中期の国学者・復古神道家。国学四大人のひとり。号は鈴屋(すずのや)。伊勢(いせ)(三重県)松阪(まつさか)のもめん商人の家に生まれる。医学修業のため23歳で京に上り，医学のほか堀(ほり)景山について儒学・国学も学び，特に契沖(けいちゅう)の書に接して平安文学研究を志す。5年ほどで帰郷し，小児科医を開くとともに国学の研究に従事。《紫文要領》《石上私淑言(いそのかみささめごと)》を書き，〈もののあはれ論〉を確立する。34歳のとき賀茂真淵(かものまぶち)に会って示唆を得，《古事記》研究に着手。69歳のとき《古事記伝》を完成した。著書は他に《直毘霊(なおびのみたま)》《玉勝間》《源氏物語玉の小櫛(おぐし)》《初山踏(ういやまぶみ)》などがあり，《玉鉾(たまぼこ)百首》などの歌集もある。

〔永藤　武〕

もとおりはるにわ　【本居春庭】　(1763〜1828)　江戸後期の国学者。伊勢(三重県)松阪(まつさか)の人。本居宣長(のりなが)の長子。号は後鈴屋(のちすずのや)。32歳のとき眼病で失明，京に出て鍼法(しんぽう)を学び，帰郷後それを業とする。宣長の没後は鈴屋を継ぎ，門弟の養成にあたった。国語学に長じ，宣長の学をこの方面に発展させた。主著《詞八衢(ことばのやちまた)》《詞通路(ことばのかよいじ)》。

もときしょうぞう　【本木昌造】　(1824〜1875)　日本における活版術の創始者。長崎の人。オランダ通詞本木久美(ひさよし)の養子(6代め)。オランダの活字発明家コステルの伝記に啓発されて洋式活版を研究し，1851年(嘉永4)ごろ流し込み活字を創案し，自著《蘭和(らんわ)通弁》を印刷した。長崎製鉄所御用掛・頭取となり，のち上海(シャンハイ)の活版技師ガンブルを招いてその指導を受け，明朝体(みんちょうたい)を中心とした号数活字の体系化に成功，わが国近代的印刷の基礎を確立した。1870年(明治3)長崎製鉄所辞任後，大阪・京都・横浜・東京などに活版製造所を開設した。

〔岡山泰四〕

もとごえ　【基肥】　施用時期による肥料分類の一。追肥に対する語で，元肥とも書く。作物の播種(はしゅ)や植えつけのまえまたはその直後に肥料を施用すること。窒素・リン酸・カリ・マグネシウムなど，作物の生育に必要で，土壌(どじょう)中から失われやすい栄養分を肥料として施すことを施肥というが，施肥は生育期間などを考慮して何回かに分けて施すほうが有利な場合が多い。基肥・追肥は施肥時期による分類で，施用時期によっては止め肥(追肥のうち最終回に行なうもの)，穂肥(穂ばらみ期に施すもの)，礼肥(作物収穫後，地力の維持・増進のために施すもの)などの言い方を用いる場合もある。また，季節からは土壌中の腐植含量を増加させるため，冬季に休閑田などに施す寒肥などの言い方もある。

もどしこうはい　【戻し交配】　バッククロスの訳。一方の親が一つまたはそれ以上の遺伝子についてホモ接合になっているような交配。もしも，ホモ接合の遺伝子が劣性であれば，検定交配とよばれる。戻し交配の結果生じたものをBC_1世代とよぶ。BC_1世代の個体をさらに同一の親に戻して交配すると，BC_2が得られる。毎代同一の親に戻し交配を続けると，雑種の遺伝的構成は，戻し交配した親のそれに近くなる。

もとすこ　【本栖湖】　山梨県，富士山北麓(ほくろく)にある富士五湖の一。富士五湖中最西端に位置する。面積5.1km²，水面高度902m，最大深度121.6m。五湖中最も深く冬も凍結しない。注入河川も流出河川もないが，周囲の溶岩を通じて伏流し桂(かつら)川や芝川に排水している。富士箱根伊豆(いず)国立公園に含まれる。

もとだながざね　【元田永孚】　(1818〜1891)　幕末・明治の儒学者・教育思想家。肥後(熊本県)出身。藩奉行(ぶぎょう)などの要職をつとめ，1871年(明治4)大久保利通(としみち)らの推挙で宮内省に出仕して侍講を拝命し，1881年1等侍講兼皇后宮御用係，1886年宮中顧問官，1888年枢密顧問官となった。その間，儒教的徳育の強化を促す《教学大旨》や文部省修身教師用書《幼学綱要》の執筆や編纂(へんさん)に従事し，1890年の教育勅語草案起草に重要な役割を果たした。

〔赤司政雄〕

もとちょう　【元帳】　各勘定科目別にそれぞれ勘定口座を設けて取引を記録・計算し，その勘定口座を集めた帳簿。実務界では伝票を元帳に代用させている。またすべての取引を網羅(もうら)するところから，総勘定元帳ともよばれる。取引量の増大により，必然的に勘定口座が多くなるため，特定の勘定については，その内訳明細を勘定口座別に記録・計算する帳簿を設けるほうが便利である。この帳簿を補助元帳という。これには，商品有高帳・売掛金元帳(得意先元帳)・買掛金元帳(仕入れ先元帳)など種


モナコ　モンテカルロの市街とラコンダミーヌ港。有名なカジノは右手の海岸にある。手前の半島の海沿いに建つのはモナコ海洋博物館

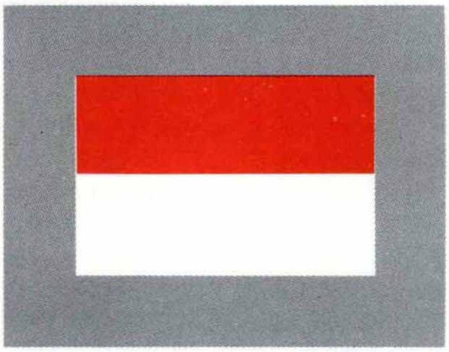
種のものがある。　〔山桝忠恕〕

もとはこねおんせん　【元箱根温泉】　神奈川県足柄下郡箱根町姥子(うばこ)にある温泉。泉温50～60℃，泉質はセッコウ泉・芒硝泉(ぼうしょうせん)・酸性硫化水素泉で，皮膚病・婦人病などにきくといわれる。芦ノ湖畔(あしのこはん)にあり，湯ノ花沢からパイプラインで引き湯している。小田原・熱海(あたみ)・湯河原(ゆがわら)・三島方面に通ずる交通の要地であり，芦ノ湖遊覧船の発着場所でもあり，四季を通して観光客でにぎわう。付近には箱根神社・箱根関所跡・箱根園・箱根公園などがあり，年中行事としては7月31日の湖上祭りが有名である。小田原駅からバスの便がある。　〔木村東一郎〕

もとやまひこいち　【本山彦一】　(1853～1932)　新聞経営者。熊本県の生まれ。江戸に出て箕作秋坪(みつくりしゅうへい)・福沢諭吉らに学び，神戸(こうべ)師範学校長・模範中学校長を歴任後，《大阪新報》《時事新報》の編集にあたり，のち実業界に転じた。1903年(明治36)大阪毎日新聞社の5代めの社長に就任。翌年東京に毎日電報社を興し，1911年には《東京日日新聞》を買収，《朝日新聞》の村山龍平(りゅうへい)と並んで新聞界に君臨した。農業問題にも関心をもち，1927年(昭和2)富民協会を設立，1930年には貴族院議員に勅選された。　〔高崎徳次〕

もとゆい　【元結い】　〈もっとい〉ともいう。結髪の道具として用いられるひも。奉書紙を幅3cmばかりに切ってよりをかけ，水に浸してから布でしごき，のち乾燥させる。よってからしごくので，〈より元結〉〈しごき元結〉の名もある。江戸中期より用いられた。ほかに平元結といって，和紙をよらずに，2～3cmの幅に適宜に切り，より元結を結んだ上に装飾用として結ぶものがある。これがのちに丈長(たけなが)として女性の結髪の場合の装飾品となった。現在でも花嫁の文金高島田や，芸者の島田などにこの丈長が見られる。　〔橋本澄子〕

もとらゆうじろう　【元良勇次郎】　(1858～1912)　心理学者。東京帝国大学文科大学に精神物理学の講座を開講し，1890年(明治23)日本で最初の心理学担当教授となった。日本における実験的・科学的心理学研究の先覚者で，ブントの実験心理学の流れをくむものであったが，特に多くの心理学者を養成した功績は大きい。


モナコの国旗　1881年制定。赤と白の格子模様を主体としたグリマルジー家の紋章に由来する。なお，インドネシアの国旗とまったく同じであるが，両者に関係はない


モナズ石

もどりかご　【戻駕】　日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。顔見世物。本名題《戻駕色相肩(もどりかごいろにあいかた)》。1788年(天明8)初演の顔見世狂言《唐相撲花江戸方(とうずもうはなのえどかた)》に含まれる作品。京の紫野で浪花(なにわ)の次郎作(実は石川五右衛門(ごえもん))と吾妻(あづま)の与四郎(実は真柴久吉(ましばひさよし))のふたりの駕かきが，乗っていた禿(かむろ)を相手に島原・吉原(よしわら)の廓話(くるわばなし)を見せ，のちに立ち回りとなる。

もどりばし　【戻橋】　日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)の曲名。本名題《戻橋恋の角文字》。1890年(明治23)初演。渡辺綱(わたなべのつな)の伝説に基づき，綱が京の戻橋で美女に装った鬼の片腕を切り落とす。はじめ演奏用に書きおろされたものであったが，初世花柳寿輔(じゅすけ)の振り付けで5世尾上(おのえ)菊五郎によって舞台にのせられたもの。新古演劇十種の一。

モートン　［William Thomas Green Morton］　(1819～1868)　アメリカ合衆国の歯科医。マサチューセッツ州チャールトンの生まれ。ハーバード医学校に学ぶ。化学教授であったC. T. ジャクソンの勧めに従い，1846年エーテルによる無痛的抜歯を試みて成功。この麻酔剤をレテオンと名づけ，ジャクソンとともに特許を得たが，その優先権についてふたりの間に訴訟問題が起こり，失意と貧困のうちに死んだ。

もなか　【最中】　和菓子の一種。もち米粉を蒸して薄く伸ばし，焼いてつくった皮2枚で餡(あん)を包んだもの。古くはせんべいに類した干菓子で，江戸中期に餡を入れるようになった。江戸吉原(よしわら)の菓子店が最中月として売り出したのが最初といわれる。現在は四角・ひょうたん・梅花・菊花などの形状があり，各種材料の餡が用いられる。

モナコ(公国)　［Principality of Monaco, Principauté de Monaco］　フランス南東端，イタリアとの国境に近く，地中海に臨む立憲王国。面積1.5km²，人口3万(1978年推)。首都モナコ。バチカン市国に次いで世界で2番めに小さい独立国。リビエラ海岸に面し，気候温暖で風光にすぐれることから，世界的な休養地として名高い。1878年開設の公認賭博(とばく)場カジノで知られるモンテカルロ，海上に突き出た岩盤の岬(みさき)でビザンチン様式寺院のあるモナコビィユ，商業地区であるラコンダミーヌの3地区からなる。王家の祖先はジェノバ(イタリア)の出身で，10世紀にモナコを領有した。1792～1815年の間はフランス領，1861年フランスの保護下に公国となった。1911年憲法と国会が創設され，1945年には婦人も参政権を得た。政治的にフランスとの関係が深く，公用語もフランス語である。宗教はカトリック。経済は観光事業中心で，国費はカジノの収益をあてており，また切手の発行権をもっている。兵役・所得税はない。現国王レーニエ3世(1923～　)は，1956年アメリカの女優グレース-ケーリーを妃に迎えた。有名な海洋博物館がある。　〔梶川勇作〕

モナズいし　【モナズ石】　トリウムおよびセリウムの原料鉱物。$(Ce, Th)PO_4$　単斜晶系，硬度5～5.5，比重4.9～5.3，黄色あるいは帯緑黄色の結晶。わが国では，岐阜県中津川市・福島県石川町などのペグマタイト中に産し，外国ではインド・ブラジルなどの海岸の漂砂鉱床(→砂鉱床)に大量に産する。

モナド ［monade］〈単子〉ともいう。ライプニッツの形而上(けいじじょう)学の重要概念。モナドは広がりも形もない不可分で単純な実体で，世界は無数のモナドからなる予定調和の体系とされた。➔ライプニッツ

モーニケ ［Otto Gottlieb Johann Mohnike］（1814〜1887） ドイツの医学者。オランダの軍医となり，1848年（嘉永１）長崎出島のオランダ商館の医官として来日。聴診器およびフランス製の産科器械をはじめて日本にもたらした。また，持参した牛痘苗を用いて種痘を試みたが成功せず，翌年牛痘痂(ぎゅうとうか)を使ってようやく牛痘接種に成功。これは日本にジェンナー種痘法を広める契機となった。このほか気象学に関する知識を伝え，また実際に観測をも行なった。1869年（明治２）バダビア（現ジャカルタ）を経て帰国。　〔大鳥蘭三郎〕

モニター ［monitor］ 放送番組を聞いて，それぞれの立場から批判・助言をする者。番組の内容・演出・用語・技術などの各項目について行なう。1949年（昭和24）NHKが聴取者による批判制度を設けたのに始まり，現在では大新聞社などでも新聞モニター制を設けている。また，テレビの映像・音声を送る場合に起こる画像の白黒の陰影や，音の不良状況を調整することおよびその技術者，放送が予定通り正常な状態で放送されているかどうかを局内で監視する人などのこともモニターという。〔松沢　勝〕

モニタリングポスト ［monitoring post］ 放射線の線量を調べるために測定を行なう場所。原子炉，放射性同位元素を取り扱う施設，あるいは加速器を設置した施設などで，施設外への放射線の影響を防ぐために，施設内外の適当な場所で放射線量の測定を行なう。その場所に測定器を常設して測定を自動的ならびに連続的に行ない結果を記録計に記録することが多い。

モニリアしょう 【モニリア症】 ⇨カンジダ症

モーニングコート ［morning coat］ 男子の昼間用の正式礼服。色は黒またはチャコールグレーで，布地はドスキンが多く，夏はカシミア地を使う。上衣は剣えりで，前はシングル合わせ，ウエストに切り替え線があり，後ろのたけはひざぐらいで，前すそは大きくカットされ，後ろに馬乗りがあいている。チョッキは上衣と共布またはグレーなどで，シングルのものが多く，ズボンは縞地(しまじ)ですそはシングル，シャツはドレスシャツを着用する。ネクタイはダービータイで，黒白の縞か銀模様のものをするが，盛装用としてアスコットタイを用いる場合もある。帽子は黒またはグレーのシルクハットかホンバーグ，くつはエナメルかプレーンな黒ぐつをはき，白またはグレーの手袋を持つ。　〔小室正雄〕

モネ ［Claude Monet］（1840〜1926） フランス印象派の代表的画家。初期にはクールベ・コローの影響を受けたが，マネの感化によって明るい外光描写に向かい，ターナーの作品に接して色調分割の技法を追究した。1874年のいわゆる〈匿名画家展〉に《印象，日の出》を出品，物議をかもし，印象派の通称を生んだ。パリ・アルジャントイユ・ベトイユ・ジベルニーなどに住み，また各地に旅行して多くの風景画を残す。彼は自然を色彩現象としてとらえ，光に応じて変化する色彩の微妙なニュアンスを描こうとした。《積藁(つみわら)》《ルーアン聖堂》《テムズ川》《睡蓮(すいれん)》などの連作が多い。　〔岡部紘三〕



モ　ネ 《日傘の女》 1886 ルーブル美術館蔵



モノアラガイ

ものあらがい 【物洗貝】 軟体動物・腹足類・モノアラガイ科。殻高(かくこう) 2.5cm，殻径２cmほどの巻き貝で，殻(から)は薄質の淡黄かっ色半透明。螺層(らそう)は４階，螺塔は小さく，体層ははなはだ大きくふくらむ。殻口も大きく，卵形。軸唇(じくしん)は白みをおびて，殻軸の部分でねじれる。日本全国の池沼や河川にすむ。春から秋にかけて水草や石にナマコ状のゼラチン質の卵塊を産み，１年で成貝になる。本種に似て小さいヒメモノアラガイは寄生虫である肝蛭(かんてつ)の中間宿主となる。　〔波部忠重〕

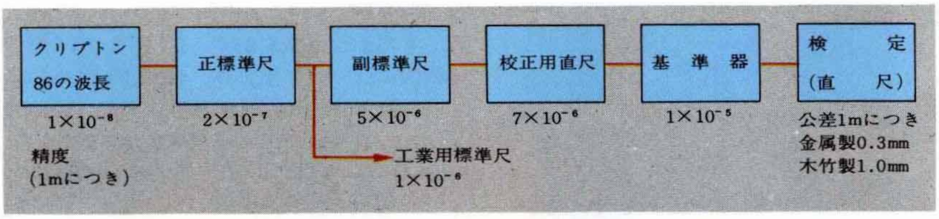
ものがたり 【物語り】 歌舞伎(かぶき)・日本舞踊の演出法の一。主役が，相手役その他の人々に対して，その舞踊劇の筋に重要なできごとを回想形式によって語って聞かせる表現法。

ものがたりぶんがく 【物語文学】 平安時代にはいって生まれ，《源氏物語》を頂点に，鎌倉時代にかけて数々の作品を生みだした，仮名散文による虚構創作の類をいう。広義には，歌物語・歴史物語などをも含むが，〈作り物語〉を中核として考えられている。平安時代の現存作品としては，《竹取物語》に始まり，《宇津保物語》《落窪物語》《源氏物語》《狭衣(さごろも)物語》《浜松中納言物語》《夜半(よわ)の寝覚(ねざめ)》《とりかへばや物語》《堤中納言物語》などであるが，諸資料によるとほかに約100編の存在が知られ物語文学の隆盛を示している。鎌倉時代には約200種の存在が《風葉和歌集》によって知られる。

〈物語〉は，太古には悪霊や外祖神の神秘や恐怖を語る意味であったらしいが，〈もの〉の原義が薄れ，信仰を失うにつれて，単に神秘的な話，珍奇な話をさすようになっていったらしい。このように物語文学は，古代の神話・伝説・説話の類と同源であるが，文学ジャンルとして生成発展するのは平安時代にはいってからで，平安貴族社会（特に女性たち）の好尚(こうしょう)・要求と，仮名の発達とに起因するものである。物語文学は，神話や伝説の古伝承以来の伝承性を色濃く残すが，同時に平安貴族社会の現実も強く反映している。また理想性も物語文学の特色の一つであるが，初期の物語の理想性は，伝承的世界に密着したすでに与えられたものであったのが，しだいに，時代の現実に根ざした内側からのものに切り替えられていく。《源氏物語》がその成功例である。その後，物語文学には《源氏物語》以上のものは現われず，ほぼ摂関政治の推移とともに運命を一つにした。鎌倉時代以降の物語文学は擬古物語との評もあるように，むしろ前代の憧憬(どうけい)に根ざすもので，鎌倉時代の社会の現実に迫るものではなくなっている。　〔鈴木一雄〕

ものくさたろう 【物くさ太郎】 御伽草子(おとぎぞうし)。求婚・恋愛談。《おたがの本地》ともいう。道に落としたもちを人に拾ってもらうほどの無精者，信濃(しなの)（長野県）の物くさ太郎は，人夫の召に応じて上京，以前とはうって変わって一生懸命に働いた。そして清水観音のあたりで会った美女に，歌才を認められて結婚，のちに貴族の出で善光寺如来の申し子だったとわかって国司に任命され，長寿を保って，おたが（穂高）の明神となって現われた。下剋上の世相を反映した，いわゆる御伽草子の庶民的小説の一。　〔信太　周〕

モノコックボディー ［monocoque body］ 一体構造車体。単体構造ともいう。自動車の車体（ボディー）自体を構造部材として利用し，車体とフレームを完全に一体化したもの。溶接技術の飛躍的な向上により，軽量でしかも剛性が大きく，フレームの除



ものさし　線目盛り標準の移し方

去によって床面を低くできることから，中形以下のセダン形乗用車に多く採用されている。

ものさし　【物指】　長さをはかる器具の一。2本以上の平行な目盛り線があるもの，または，面と面によって長さを表わすものとがあり，一般的には，直尺・巻き尺・折り尺とよばれている。目盛りには，実際の長さが刻んでいる実目盛り，実目盛りに倍率がかかった伸縮目盛りのほか，特殊なものでは，色と色との境界線を目盛り線とした境目盛り，または一定の長さで色分けし，その色の範囲内にあれば同一寸法と読む括約目盛りなどがある。ものさしには，精度が高いH断面の標準尺から数ミリメートルの一般用まであるが，取引証明に使用するものは，検定に合格したものを使わなければならない。検定は各都道府県にある計量検定所で行なうが，一部のものさし，たとえば，全長が50cm未満のもの，合成樹脂製のものなどは，検定は行なわれない。検定を行なうまでの標準(基準器という)の移し方と，そのときの精度については別図のとおりで，これでわかるように検定に合格したものでも，誤差があることを承知して使う必要がある。　〔角田和一郎〕

ものさしとんぼ　【物指蜻蛉】　こん虫類・トンボ目・モノサシトンボ科。腹長35mm内外，後翅(こうし)長25mm内外。雄の地色は黄緑色，頭部背面は黒色。腹部は細長く，第3〜7節の基部がわずかに淡色であるため，ものさしを思わせる。脚は黄白色で，腿節(たいせつ)・脛節(けいせつ)の関節部と脛節端から跗節(ふせつ)にかけては黒かっ色。成熟雌は，地色は黄白色で，腹部は棒状。雌雄ともに未熟のものは色彩が淡く，特に羽化直後のものは全体淡かっ色を呈する。日本全国のほか，朝鮮・中国・台湾・マライ半島・インドなどに分布し，成虫は5月ごろから出現して，低地の樹木の多い池沼に多く見られる。

ものじたい　【物自体】　ドイツの哲学者カント*の用語で，現象*に対立。感覚の原因として考えられたものであるが，認識は感覚内容に主観の認識形式が加わって成立する(現象)から，感覚の原因(物自体)は認識できない。それゆえ消極的意味の可想体(ノウメナ)で，感性と悟性を制限する限界概念。しかし理性の理念，超感性的対象とも考えられ，自然の超感性的基体といわれる。実践的には自由を根拠づける英知界として要請され，感性界の根拠・原型，自由と必然の調和の原理としての理念となる。　〔中川　誠〕

モノチス　［*Monotis*］　軟体動物二枚貝類の一種。中生代三畳紀に栄え，この時代の示準化石*。殻(から)は平らで薄く，両弁はほとんど同形で表面に放射状の線がある。エトモノチスはモノチスの亜属。海生で，全世界的に分布。わが国では皿貝(さらがい)期に各地に多産する。

モノディー　［monody］　ルネサンス末期からバロック初期にかけての伴奏つき独唱声楽曲の様式。すべての声部に同じ比重をもたせるルネサンス時代の対位法的様式に対して，ある特定の声部を中心とし他はこれを補助するようなものをいい，カッチーニやペリの声楽曲にみられるように，レシタチーボふうの独唱に通奏低音*による伴奏がついたものが代表的な例である。

ものなり　【物成】　⇨本途物成

もののあわれ　【もののあはれ】　〈情〉の世界における，最も清められ深められた感情をいう。至純の心情でもあるが，〈ものはかなく，女々(めめ)しきまことの情〉を特色とする。特に，平安時代の，女性的優美の精神，情本位の考え方，物と人あるいは景と情との融合一致の理想を総括するときに用いられる。平安時代の理念を〈もののあはれ〉の精神といったのは，江戸時代の本居宣長*(もとおりのりなが)であり，《源氏物語*》の本質をこの語で言い表わし，これを広げて平安時代の文芸精神も，さらに文芸一般の本質をもこの語で言い表わした。宣長の指摘は，平安時代の精神の特色を鋭くつくとともに，日本精神の伝統的な底流の一つをみごとに見抜いたという意味で貴重である。　〔鈴木一雄〕

もののべし　【物部氏】　饒速日命(にぎはやひのみこと)の後裔(こうえい)と称する古代の大豪族。軍事・刑罰のことをつかさどる物部の民を率い，大伴氏*と並んで大和(やまと)朝廷の軍事力の中心をなした。5世紀後半の物部目(さかり)，6世紀前半の麁鹿火(あらかび)，尾輿(おこし)，後半の守屋(もりや)など，代々大連*(おおむらじ)を出して権力をふるったが，587年(用明2)守屋が蘇我(そが)馬子*に滅ぼされてから衰えた。しかし同族の中心をなす家は，のちに石上(いそのかみ)と改め，7〜8世紀を通じて大臣*(おおおみ)・納言の地位を保った。　〔黛　弘道〕

もののべのあらかび　【物部麁鹿火】　(？〜536)　6世紀前半の武烈・継体・安閑・宣化朝の大連*(おおむらじ)。麻佐良(まさら)の子。大連大伴金村*と並んで国政をとり，継体天皇の擁立に同意し，527年(継体21)には勅命をうけて磐井(いわい)の乱*を鎮定した。

もののべのおこし　【物部尾輿】　生没年不詳。5世紀前半，欽明(きんめい)朝の大連*(おおむらじ)。大連目(さかり)の孫，荒山の子。大連守屋(もりや)の父。欽明朝のはじめ，任那(みまな)四県の百済(くだら)への割譲に収賄があったとして大連大伴金村*を非難攻撃し，ついにこれを引退させて大連の地位を独占した。やがて仏教受容の可否をめぐり，中臣鎌子(なかとみのかまこ)(藤原鎌足*(かまたり))とともに排仏を主張して，大臣(おおおみ)蘇我稲目(そがいなめ)との対立を深めた。　〔黛　弘道〕

もののべのもりや　【物部守屋】　(？〜587)　6世紀後半，欽明(きんめい)・敏達・用明朝の大連*(おおむらじ)。尾輿(おこし)の子。父のあとを継いで排仏を主張し，崇仏派の巨頭蘇我(そが)馬子*と対立した。蘇我氏をおさえるため，用明天皇の没後穴穂部(あなほべ)皇子を皇位につけようと図ったが，皇族・豪族の多数を味方につけた馬子に攻められ，河内(かわち)(大阪府)の渋河(しぶかわ)の自宅で討たれた。これより物部氏は大いに衰え，蘇我大臣(おおおみ)家の独裁体制がほぼ確立した。　〔黛　弘道〕

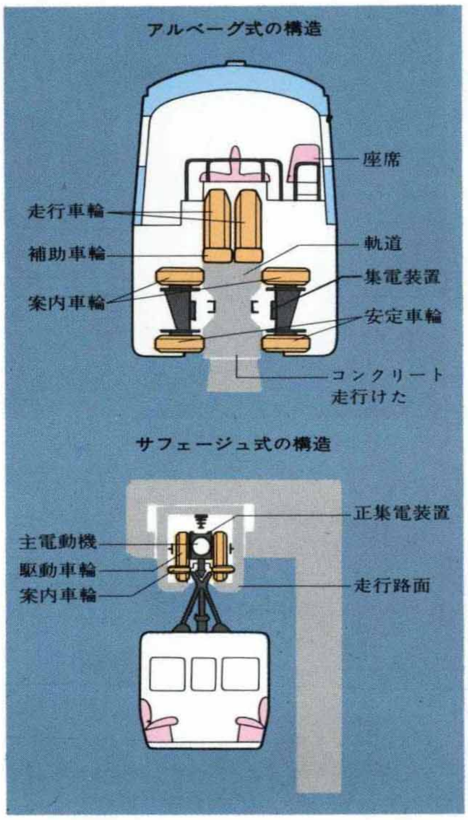
ものべがわ　【物部川】　高知県東部，剣山地に発し，南西に流れて高知平野東部に出，南国市で土佐湾に注ぐ川。流程80km。上流は美しい峡谷で知られ，中でも別府峡は有名で県自然公園に指定されている。中流は河岸段丘が発達し，下流部は藩政時代から高知平野東部の灌漑(かんがい)用水として利用されていた。

ものもらい　⇨麦粒腫(ばくりゅうしゅ)

モノレール　［monorail］　単軌鉄道ともいう。1本のレールを使って走行する交通機関。車体をささえる方式によって，懸垂式と跨座式(こざしき)の2種に大別され，それぞれ懸垂式鉄道・跨座式鉄道とよばれる。①懸垂式：レールにぶらさがって走る方式。サフェージュ式が代表的で，鋼製けたの上面に堅木の走行路面を取り付け，その上を空気入りゴムタイヤ付きの台車が走行し，この台車に車体がつり下げられている。②跨座式：軌条に馬乗りにまたがって走る方式。このうちアルベーグ式は，コンクリートけたの上面を空気入りゴムタイヤ付きの台車が走行し，その上に車体が載っている方式である。これに対しロッキード式は，コンクリートけたの上面に取り付けた鋼製レールを鋼製車輪(弾性車輪)付きの台車が走行し，この上に車体を載せた方式である。

以上の各方式とも，曲線における台車の誘導・方向変換，車体にかかる横風や不平衡遠心力などによる横荷重をささえるために，軌道けたの両側面に接する案内輪または安定輪を備えている。モノレールは，脱

線・踏切事故の心配もなく，主としてゴムタイヤを使うので在来の鉄道より騒音が小さく，乗りごこちもよい。またレールを高架にするので広い土地を必要とせず，既設道路・線路の上部を使用できるので，今後の都市交通機関として有望である。しかし交差や分岐の複雑なことや車両保守の困難さなどが欠点としてあげられる。営業用としては，1901年に建設された西ドイツの懸垂式のものが最も古いとされるが，わが国では1957年(昭和32)に東京の上野動物園に懸垂式がはじめてつくられ，その後主として遊園地用に使われた。1964年に東京の浜松町～羽田空港間に全長13.1km(アルベーグ式)が最初の本格的旅客輸送用として登場し，やがて神奈川県の大船～片瀬江の島間のサフェージュ式などができ，現在世界一の営業キロ数に達している。〔三宅　良〕









モノレール　①懸垂サフェージュ式(湘南モノレール，大船～片瀬江の島間)　②懸垂式(上野動物園)　③跨座アルベーグ式(東京モノレール，浜松町～羽田空港間)

モノローグ　［monologue］　独白と訳される。ダイアローグ(対話)に対するもので，舞台で登場人物が相手なしに自分の心理などを説明するせりふをいう。この方法はギリシア悲劇の時代から使われており，中でも《ハムレット》の独白は有名。近代劇になると，チェーホフの《煙草(たばこ)の害について》，コクトーの《声》などのようにモノローグだけの演劇(モノドラマ)も生まれた。日本では，主として筋の展開のために能や歌舞伎(かぶき)に取り入れられている。
〔西尾邦夫〕

モーパッサン　［Guy de Maupassant］(1850～1893)　フランスの小説家。ノルマンジーのミロメニルの生まれ。はじめ官吏になったが，フローベールに師事してリアリズムを学び，処女作《脂肪の塊(かたまり)》の鋭い心理描写で一躍文名を得た。以後，人間の欲望の醜さや欺瞞(ぎまん)をあばく作品を数多く発表。社会のあらゆる階層を描く視野の広さによって，風俗作家としても成功した。代表作に《女の一生》《ベラミ》《ピエールとジャン》《水の上》などがある。晩年は強度の神経症から発狂するに至り，パリの精神病院で死んだ。無類の物語づくりの才能で，人生のはかなさ・悲惨・悲哀を的確にとらえた短編小説は，広範な影響力をもち，また《ピエールとジャン》の序文の小説論は著名。〔井上輝夫〕



モーパッサン

モハーベ(砂漠)　［Mojave］　アメリカ合衆国南西部にある乾燥地域で，グレートベースンの一部をなす。シエラネバダ山脈の南にあって，カリフォルニア州南東部一帯を占める。北は死の谷に接し，南はビラ砂漠(さばく)に続く。東にコロラド川があり，パーカーダムから，砂漠を横切ってコロラド水道が施設されている。砂漠中は侵食地形が発達し，塩湖・砂丘が多くみられる。

もばら　【茂原(市)】　千葉県中部の市。人口71,000。古くから九十九里浜の海産物と内陸部の農産物の交易が盛んで，江戸時代には4・9の日の六斎市が開かれて市場町を形成していた。1935年(昭和10)以来，周辺部にメタン系の天然ガスが発見され，これを利用した化学工業が起こり，近代工業都市として発展している。1952年市制施行。市域は九十九里浜平野南西部に位置し，市街地には多くの商店が軒を連ねている。産業三大別人口比は18：36：46。天然ガスを燃料とする化学・電気機器などの工業が盛んで，1965年にはモリブデン工場も進出した。天然ガスを原料とする鹹水(かんすい)ヨードの生産量は，全国の約80％に達している。周辺の水田地帯には両総用水が通じ，ラッカセイの特産のほか，近郊野菜の栽培も盛んである。南部の鶴枝(つるえ)地区は農業地帯であったが，最近33万m²の永吉(ながよし)工業団地が造成されている。外房総線・国道128号線に沿い，住宅団地の建設も進んでいる。西部には東身延山とよばれる藻原(そうげん)寺や鷲山(じゅせん)寺があり，鶴枝地区にある八幡(はちまん)山のシイ林には天然記念物のヒメハルゼミが生息する。

もはんぎかい　【模範議会】　1295年イギリスのエドワード1世によって召集された身分制議会。僧侶(そうりょ)・貴族のほか各州ごとに2名の騎士，200余の都市の代表が召集され，これ以後，騎士・市民の召集が恒常化していったので，後年模範議会とよばれた。

モーパンじょう　【モーパン嬢】　ゴーチエの書簡体小説(1836)。男装の女主人公の恋愛遍歴を通して，因襲にこり固まった市民社会や古典主義文学を皮肉り，批評と道徳からの芸術の独立性を主張した作品。のちの高踏派美学の先駆的役割を果たした。

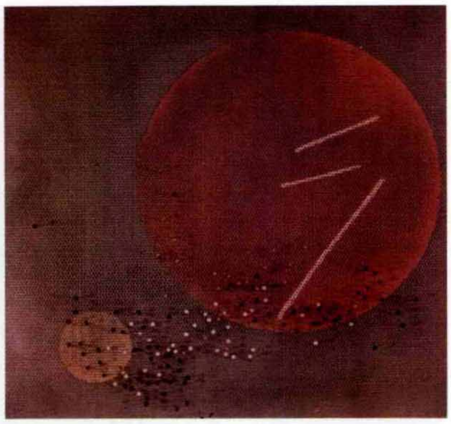
モービルせきゆ　【モービル石油】　Mobil Oil Corp. 世界第2位のアメリカ合衆国の総合石油メーカー。生産販売網を世界各地にもつ。天然ガスの生産はほとんどアメリカであるが，原油はアラスカ・カナダ・中近東などで合弁会社を設立し，新しい油田を開発している。販売ではアメリカ・カナダが売り上げの約2分の1を占め，南ヨーロッパ・日本・南アフリカなどに進出している。化学品では高純度のテレフタール酸の世界最大の工場をもち，エチレン・プロピレン・ブタジエンなども生産している。わが国での石油販売には子会社モービ

ル石油があり，子会社中央開発興業が不動産，子会社モービル船舶が内航タンカーの配船を行なっている。またスタンダード石油(ニュージャージー)と共同出資の東亜燃料，三井物産を中心とする三井グループとの合弁会社極東石油がある。本社ニューヨーク。年間売上高82億4,000万ドル，従業員数75,000(1971)。〔氏家　尚〕

モーブ　［Mauve］　1856年イギリスの化学者W.H.パーキン*が発見した最初の合成染料。モーベインともいう。塩基性染料*。パーキンはキニーネを合成する目的でアニリン(実はトルイジンが混入した不純物)を酸化したが，得られたのは黒かっ色の塊にすぎなかった。しかし彼はそこに混在する少量の赤紫色化合物を抽出し，これが絹をよく染めることを発見しただちにこの製造を工業化した。モーブは今日では実用性をもたないが，この発明が端緒となって次々と新合成染料が出現，今日の染料工業を築く因となった。〔稲田正作〕

モフかんじょう　【ＭＯＦ勘定】　大蔵大臣勘定。大蔵大臣名義の勘定という意味であって，政府の外貨預金勘定のことをいう。政府の保有する外貨資金のうち預金形態にあるものがこの勘定残高である。政府は，この勘定を通じて外貨の受け払いおよび振替を行なうが，アメリカ-ドルの政府への集中はこの勘定を通じて行なわれる。

もふく　【喪服】　喪に服するときに着る衣服。素服ともいう。元来は喪屋*にこもる近親者の服装で，現代では死者への慎みと悲しみを表わす礼服。古代には藤衣(ふじごろも)(藤づるの繊維で織った衣服)が着られた。また天皇は錫紵(しゃくじょ)(浅黒染めの麻の袍)，公家(くげ)は橡(つるばみ)染めや鈍色(にびいろ)のものを用いたが，武家は特に定めはなく，礼服が着られた。江戸時代に市民は無紋の白か水色の麻裃(あさかみしも)を着て，その下に冬は白絹の小袖(こそで)，夏は白帷子*(しろかたびら)，女性も白小袖・白帷子の長着に白の羽二重・綸子(りんず)の帯を着用した。これらの服装は大正時代まで続いたが，しだいに簡略化され，男子は通常の紋服(黒五つ紋付き染め抜きの羽織で，冬は羽二重，夏は平絽(ひらろ)か紗(しゃ)，袴(はかま)をはき，長着は黒・鼠(ねずみ)・藍色(あいいろ)などの羽二重・帷子)が着られた。女子は第2次世界大戦中までは近親者の喪には白装束が残ったが，戦後はすたれ，略式の黒五つ紋付き染め抜きの長着で，冬は羽二重・縮緬(ちりめん)，夏は平絽・絽縮緬，帯は黒繻子(くろしゅす)・紋綸子・平絽などで，長じゅばん・半えりは白，黒無地のぞうりに定まった。葬式・告別式などの法要以外の通夜・年回には，略式に男子は無地のお召し・結城紬(ゆうきつむぎ)などに縫い紋の羽織で袴をはき，女子は藤色・紫紺・茶・藍鼠(あいねず)などの無地の長着に黒の帯・ぞうりを用いる。なお，古くから地方によって各種の喪服が使われたが，現今は統一



モホリ-ナギ　《空間調節しろ》　1936

される傾向にある。〔堀越すみ〕

洋装では装飾的要素が少なく，黒で統一した服装が主であるが，白または略式に暗色のじみな色調が用いられる。くつ・くつした・手袋・帽子・バッグに至るまですべて黒が正式で，宝石その他の装飾品はつけない。各時代・宗教・性別・階級・職種によって異なるが，一般的には和装のような一定の形式がなく，デザイン・布地も自由で，慎みを感じさせる服装であればよい。男子は礼装と同じで，ネクタイなどもともに黒一色に装うモーニングが代表的で，左腕に喪章をつけ，略式の場合は濃色の背広でよい。〔小池千枝〕

モブツ　［Joseph Mobutu］　(1930～　)　コンゴ(民主共和国)の軍人・政治家。1960年独立後，陸軍司令官。同年9月第1回反ルムンバ-クーデターを決行，ルムンバ*首相殺害事件の黒幕とみられている。その後コンゴ人民はルムンバの後継者ギゼンガ副首相の臨時政府を支持，武装してオリエンタル州に拠点をつくったが，国連軍と協力してこれを封鎖し，1961年アメリカ合衆国寄りのアドゥラ政権をつくった。1965年11月第2次無血クーデターでカサブブ*大統領を追放，軍事政権を樹立し大統領に就任した。〔喜多迅鷹〕

モヘア　［mohair］　アンゴラヤギの毛。トルコ・南アメリカ・北アメリカ・オーストラリアなどに産する。繊維はやや長く，絹のような光沢があり，強い。服地裏地・帽子・パイル(添毛)地などに用いられる。

モヘンジョ-ダロ　［Mohenjo-Daro］　ハラッパー*と並んでインダス古代都市文明の代表遺跡。パキスタンのシンド地区にあり，BC2500～BC1500年ごろ栄えた。モヘンジョ-ダロとは〈死人の丘〉の意味で，1921～1931年にイギリスのJ.マーシャルらによって発掘された。現在遺跡のそばに博物館が建てられ，インダス文明の彩文土器・石彫・青銅器・印章など豊富に陳列されている。

もほう　【模倣】

①他者の行動が刺激となり，それに類似した行動を遂行すること。無意識的な〈自動的模倣〉と，意識的な〈意志的模倣〉とがあり，後者はさらに，手本となる他者の目前ですぐ行なう〈直接模倣〉と，他者が示した行動を記憶しておき，のちに行なう〈間接模倣〉とに分けられる。これらに対応する行動は人間以外の高等動物にも認められる。模倣の由来については，生得説と習得説があるが，現在では後者が優勢である。模倣は，共感とともに，社会的場面における心理的相互作用としては，一時的で一方的である点から，最も基本的なものと考えられ，近年，〈模倣〉と〈共感〉を，〈同一化*〉と関連づけて，共通の視点から科学的に研究しようとする動向がみられる。〔佐藤方哉〕

②音楽用語。一つの主題または動機を別別の声部で近接してくり返すこと。すでにノートルダム楽派のオルガヌム*に現われるが，ルネサンス時代のポリフォニー*では最も重要な構成要素となる。またフーガ*では，技法の展開に必須(ひっす)のものである。〔吉田泰輔〕

モホめん　【モホ面】　⇨モホロビチッチ不連続面

モホリ-ナギ　［László Moholy-Nagy］　(1895～1946)　ハンガリー生まれのアメリカ合衆国の画家・彫刻家・デザイナー。はじめリシツキーやマーレビッチらのシュプレマティスムの影響を受けたが，1923年にバウハウスの教授陣に参加。1937年にシカゴに移住し，ニュー-バウハウスを設立した。その金属工作部門の主任としての経験を生かした単純で構成的な作風が特徴的である。なお，彼のフォトグラムによる作品は，キネティック-アートの先駆とみることもできる。〔吉田玲子〕

モホールけいかく　【モホール計画】　地殻(ちかく)を貫いてマントル*にまで達するボーリング孔をモホールとよび，モホールをつくる企てをモホール計画という。地殻やマントルの物理的・化学的性質を調べ，地球内部で起こる現象を解明するために，アメリカ合衆国とソ連で計画された。地殻の厚さは，大陸部分で約35km，海洋部分で約5kmである。35kmもの深いボーリングは現在の技術では不可能なので，海洋部分でモホールをつくることが計画された。海洋の地殻の上には3,000mを越える海水がのっている。そこで，作業船を海上に固定し，そこからわく組をおろし，海底からボーリングをすることになる。技術的にはかなり困難な作業である。アメリカ合衆国では1961年にカリフォルニア沖のガダルーペ島付近で予備実験が行なわれた。深さ3,600mの海底から，170mの堆積層(たいせきそう)を貫き，玄武岩層中に10数m孔をあけることができた。しかし，この予備実験ののち，いろいろな理由で計画は中止された。〔堀福太郎〕

モホロビチッチふれんぞくめん　【モホロビチッチ不連続面】　モホ面ともいう。地殻(ちかく)とマントルとの境界面。今世紀の初

めにユーゴスラビアの地震学者モホロビチッチ*(1857〜1936)が地震波の走時曲線*から，地下数十キロメートルの深さに地震波の速度が不連続に変わる面が存在することを推定したのがはじまりで，その後の研究により，それは確かに地殻とマントルとの境界面であることがわかった。平均の深さは地下約30kmであるが，大洋底では浅く，大きな山脈の下では深くなっている。

〔片山信夫〕

もみ 【樅】 裸子植物・マツ科。九州から本州の山野に自生する常緑高木で，高さ30〜50m，直径1〜1.5mに達する。樹皮は暗灰色で，溝(みぞ)がある。枝は太く水平に出る。葉は長さ2〜3.5cm，幅3〜4mmの線形で先がわずかにへこむが，若木のものでは先が2尖裂(せんれつ)する。裏面には白黄色の気孔線が2本あるが，古くなると目だたなくなる。雌雄同株で，6月に前年の葉腋(ようえき)に花をつける。雄花は長楕円(ちょうだえん)で下垂し，多数の葯(やく)がある。雌花は長卵形で上向につく。球果は長さ10〜12cm，幅約3cmの円筒形で，種子は楔形(くさびがた)で大きな翼がある。庭木・クリスマスツリーなどに用いられるほか，建材・パルプ材などにもされる。本種の仲間にはウラジロモミ・シラビソ・オオシラビソ・アオモリトドマツなどがある。

もみじ 【紅葉】 植物学的にはカエデ科の仲間を総称するが，一般には葉が紅葉する植物全体をいう。日本には秋に紅葉するものが多く，100種を越えている。→カエデ →紅葉

もみじあおい 【紅葉葵】 双子葉植物・アオイ科。コウショッキ(紅蜀葵)ともいう。北アメリカ原産の多年草で，明治のはじめ日本にはいり，庭によく植栽される。トロロアオイ*によく似ており，茎は薄く白い粉をふき，全草無毛。高さ1〜2m。葉は3〜5深裂し，各裂片は細くとがる。花は直径10〜15cmの赤色5弁花で，花弁の間に空間があり，7〜8月に咲く。

もみじがい 【紅葉貝】 棘皮(きょくひ)動物・ヒトデ類・アスツロペクテン科。腕が5本で星形をした中形のヒトデ。体の外縁に縁板と称する堅固な石灰質の板を並べる。上方の縁板よりも体の下方のものがより大きい。下方縁板には棘がある。背側は青灰色で腹面は白色である。類似種のトゲモミジガイは，やや大形で背面暗赤かっ色を呈し，縁板の棘は大きい。前種は日本各地の浅海の砂泥(さでい)中に普通に見られる。後者は本州南部・四国・九州などに分布する。両者とも底生の貝類などを常食する。

もみじがさ 【紅葉傘】 双子葉植物・キク科。山地の林にはえる多年草。茎の高さ50〜80cm。葉は長さ15cm，幅20cmの掌状葉で，下方では5〜7中裂，上方では3〜5中裂し，長さ14cmほどの葉柄で互生する。8〜10月，葉腋(ようえき)および茎頂に白色頭

モ　ミ





モミジアオイ



モミジガイ

モ ー ム



花の円錐(えんすい)花序をつける。各頭花は5個の管状花からなる。テバコモミジガサは関東以西の表日本に分布し，脈が著しく隆起して，全草がかわくと黒くなる性質がある。

もみじがり 【紅葉狩】

1 能の曲名。観世信光*(のぶみつ)作。五番目物。紅葉の美しい季節に，上品な貴婦人たちが山中で休んでいるところへ平維茂(これもち)の一行が通りかかり，さそわれて女たちの座に加わって酒宴となる。維茂が酔って眠ると，女の1人のようすが変わって恐ろしげな姿となるが，維茂は気づかない。夢の中で八幡(はちまん)の神の使いが現われて維茂に太刀(たち)を与えるので，はじめて驚いて待つうちに，先の女が鬼の形で現われるが，激しい戦いののち維茂はこの鬼女を打ち殺して武勇のほどを示す。シテは貴婦人(あとに鬼女)，ワキは平維茂。他にシテヅレが紅葉狩りの貴婦人たちを演じ，間狂言(あいきょうげん)は神の使いをつとめる。間狂言の詞章によると，これは信濃(しなの)(長野県)の戸隠山の物語りで，維茂はここの鬼女退治に来たということになっている。歌舞伎(かぶき)舞踊化されている。〔長尾一雄〕

2 同名の能が部分的に近世邦楽に取り入れられてつくられたもので，長唄(ながうた)の本名題《色見草月盃(いろみぐさつきのさかずき)》，義太夫(ぎだゆう)・常磐津(ときわず)・長唄の掛合*による歌舞伎《紅葉狩》などが有名。ほかに荻江節(おぎえぶし)・一中節(宇治派)の同名の別曲がある。〔山口　修〕

もみじやまぶんこ 【紅葉山文庫】 江戸城内の紅葉山に設けられた文庫。楓山(ふうざん)文庫・楓山秘閣ともいう。1602年(慶長7)徳川家康(いえやす)により江戸城内に富士見亭(ふじみてい)文庫としてつくられたが，1639年(寛永16)に紅葉山に移され，この名でよばれた。徳川将軍家直属の文庫として，金沢文庫*・駿河(するが)文庫の重要な書物が集められた。1630年以後，書物奉行(ぶぎょう)4名が置かれ，青木昆陽*(こんよう)・近藤重蔵*らが任命されている。現在，内閣文庫に属する。

もみすりき 【籾摺機】 イネの籾の外皮をはぎ取り(脱稃(だっぷ))玄米をとり出すための作業機。古来土臼(どうす)・杵(きね)・臼などが使われてきたが，明治から大正にかけてゴム臼・衝撃式籾摺機・ロール式籾摺機が開発された。今日ではロール式が一般的であり，脱稃に伴う玄米と籾がらの分離，未脱稃の籾と玄米，あるいは玄米中の精粒と屑粒(せつりゅう)の分離など(選別)の籾摺作業を自動的に行なう。ロールは同径で回転数の異なる2個のゴムロールからなり，ロール間隙(かんげき)を籾の厚みよりやや狭く保つ。籾はロール周速度の違いから，ロール間隙でもまれて外皮がはぎ取られる。

〔田原虎次〕

もみたけ 【樅茸】 担子菌類・シメジ科。夏・秋季にモミ林(北海道ではエゾマツ林)内の地上にはえるきのこで，食用にされる。傘ははじめ球形，のち饅頭(まんじゅう)形となり，その後扁平(へんぺい)に開き径7〜20cm。表面は平滑で，灰かっ色・淡灰色・暗かっ色。ひだは密で，白色または黄色。茎は高さ7〜20cmで，上方につばがあり，色は傘と同色。幼時はそろばん玉状である。

モーム ［William Somerset Maugham］(1874〜1965)　イギリスの小説家・劇作家。

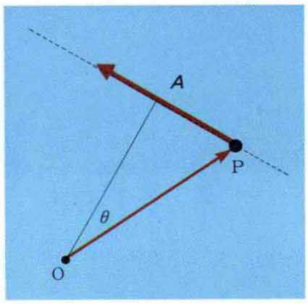
父がパリのイギリス大使館の弁護士であったためパリに生まれ，幼少時代を過ごしたので，文学的にはフランス自然主義の影響が濃厚である。医学校に学び，若い医師としてロンドンの貧民街に過ごし，その経験に基づく長編《ランベスのライザ》を発表，作家としてデビューした。代表的小説には，《人間の絆(きずな)》《月と6ペンス》《お菓子とビール》などの長編，《雨》などの短編があり，いずれも物語展開の巧みさ，ボルテール・スウィフトから学んだ単純で明晰(めいせき)な文体は，定評がある。劇作家としては，イギリスの風俗喜劇の伝統を受け継いだ《おえらがた》《ひとめぐり》があり，ほかに多くの評論・随筆がある。その文学は，芸術性を表面に出さないものであるが，底にはつねに人間性の複雑怪奇な矛盾を追究・指摘する基本的姿勢があり，そこから独自の痛烈な風刺・皮肉が生み出されてくる。〔井内雄四郎〕

モムゼン ［Theodor Mommsen］（1817～1903） ドイツの歴史家。シュレジエン地方のガルディンクで牧師の子として生まれる。弟2人も古典学者で孫のウィルヘルムも歴史家。キール大学で法律を学びローマ史に関心を抱いた。1845年イタリアに留学し碑文の研究をする。1848年のシュレスウィヒ-ホルシュタイン問題に関与してライプチヒ大学を去り，そののちチューリヒ・ブレスラウ・ベルリンなどの各大学で教え，のちプロイセン国会議員となる。彼は厳密な史料研究に基づいてローマ史研究を学問として確立した。ランケと並ぶ19世紀ドイツの代表的な歴史家。著書では《ローマ史》（3巻，1854～1856年，のち1巻追加）が最も有名で，カエサルまでのローマ史を扱い，自由主義の立場からみている。他に《ローマ国法》《ローマ刑法》，編著に《ラテン碑文集》など。1902年ノーベル文学賞を受賞。〔兼岩正夫〕

もめん 【木綿】 ⇨綿織物

モーメント ［moment］ 図のように点Oとベクトル$\boldsymbol{A}$とが与えられているとき，ベクトル$\overrightarrow{OP}$と$\boldsymbol{A}$とのベクトル積$\overrightarrow{OP}\times\boldsymbol{A}$（大きさ$A\times\overrightarrow{OP}\sin\theta$で，$\overrightarrow{OP}$と$\boldsymbol{A}$とを含む紙面に垂直手前向きのベクトル）を$\boldsymbol{A}$のOに関するモーメントという。たとえば剛体に作用する力のモーメント，運動量のモーメントなどがよく使われる。

もも 【桃】 双子葉植物・バラ科。古くから果樹として栽培されている中国西北部原産の落葉小高木で，高さ3～5mになるが，果樹として適当に切りつめて収穫しやすい高さとする。葉は互生し，披針(ひしん)形または広披針形で，長さ8～15cm，幅1.5～3.5cm，鋸歯(きょし)がある。3～5月，葉の出るより前に直径2.5～3.5cmの淡紅色・白色・濃紅色の五弁花を数輪ずつ枝先につける。八重咲きなどの変異もある。果実は直径5～7cmの石果で細かい毛におおわれ，核にはしわがあり，縦のみぞが1本ある。いろいろの品種があるが，花を観賞するものと果実を利用するものとがある。スモモは本種によく似ているが，花柄が長く，果実に毛がない。〔加藤僖重〕

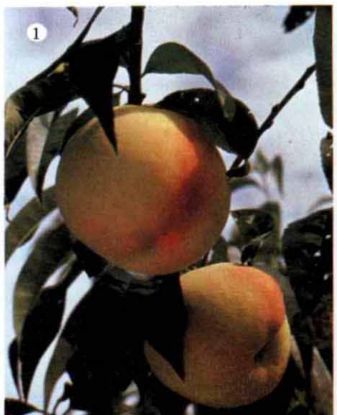


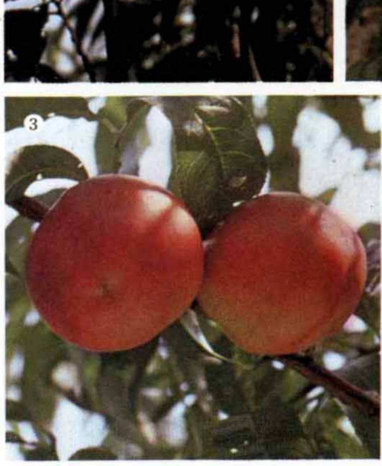
モーメント

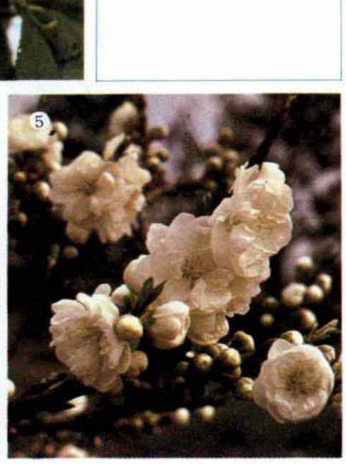
果実を利用するモモには中国から西進し，中央アジアからヨーロッパに伝わり，次いでアメリカ合衆国に渡りカリフォルニアで栽培されるヨーロッパ系のものと，中国で発達して日本に伝わり，さらにアメリカ合衆国に渡って東部で栽培される東洋系のものとがあり，前者は夏乾帯に適し，後者は夏湿帯に適する。また日本でも原生品が発見されており，〈記紀〉などにその名がみられるが，今日の生食用栽培品種は，明治初年中国から導入されたシャンハイスイミツトウ（上海水蜜桃）の遺伝子を引くものである。現在の主産地は福島・山形・長野・岡山県などで，総栽培面積は21,400ヘクタール。平均気温9℃以上で，4～10月の降水量1,300mm以下の地方に適するが，経済栽培は東北地方南半部までである。

【品種】果皮に短毛のある普通種と，短毛のないスモモのような外観のアブラモモ（ネクタリン）がある。普通種には果肉が白または乳白色・黄色・赤色のものがあり，日本ではほとんど白肉種であるが，アメリカ合衆国では生食・加工用ともほとんど黄肉種である。なお果実および種子の扁平(へんぺい)なハントウ（蟠桃）はモモの変種とされる。モモは変種変遷の激しい果樹で，それは盛果期にはいるのが早く，反面経済樹齢が短いことによる。普通種では次のものが知られる。大久保：中生種。岡山で大久保重五郎が発見した。果実は大で円形，果頂は紅斑(こうはん)に着色する。甘味多く多汁(たじゅう)で，日もちがよい。経済品種としての条件を備え，現在栽培面積の40%以上を占める重要品種。白鳳(はくほう)：中生種。中果で肉質は緻密(ちみつ)で甘味が多い。白桃：晩生種。楕円形の大果。肉質は締まり甘味多く多汁。晩熟のため虫害が多い。このほか西野白桃・砂子早生(わせ)・布目早生などが著名。アブラモモでは興津(おきつ)が著名。これは農林省園試で谷川利善の育生したもので，黄肉で品質優良である。またかんづめ専用種としては，かん桃2号・5号・12号・14号および錦(にしき)などが育生されている。

【栽培】整枝は開心自然形が多く，剪定(せんてい)は密生部の枝，不用の徒長枝を間引き，葉に光があたるように注意する。摘蕾(てきら






モ　モ　①大久保　②白鳳　③ネクタリン　④赤蟠桃（花モモ）　⑤寿星桃（花モモ）

い)・摘花も行なわれる。根は耐干性はあるが耐水性に乏しいため通気のよい土壌(どじょう)を選ぶ。8月中・下旬以降に収穫される品種はガの害があるので袋掛けを行なう。病害は，葉を侵すシュクヨウ病・センコウ病，果実に小黒点を生ずるクロホシ病，また収穫期ごろから発生，市販中の果実も腐らせるハイボシ病など注意を要する。害虫では，幹の加害部からやにが出るコスカシバ，果実を侵すモモノゴマダラノメイガ・シンクイムシ類があり，年によって，葉肉内部を線を描いて食害するモモハモグリガが大発生し，早期落葉を起こすので，初期防除を行なう。〔岩垣駛夫〕

ももあかあぶらむし【腿赤蚜虫】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・アブラムシ科。成虫は2mm内外で，無翅型と有翅型がある。無翅胎生雌虫は卵円形で淡黄緑色ないし緑色，有翅胎生雌虫は楕円(だえん)形で頭胸部は光沢のある黒色，胸部背面は強く隆起し，翅(はね)は透明で翅脈は暗色。日本全国のほか，全世界に広く分布する。多くの植物を吸汁(きゅうじゅう)する害虫で，種々のウイルス病を媒介伝搬する。日本では，冬季はモモ・ウメ・サクラなどのバラ科植物の樹上で卵態で越す。

ももいろ【桃色・桃花色】モモの花のような色。わずかに紫みをおびた薄い赤色。本来，桃色は紅染めによって染め出されたが，一般的には紅(くれない)色よりも，やや薄い色と考えてよい。現在，日本工業規格(JIS)〈桃色〉は，色相2.5R，明度6.5，彩度8.0の色と規定されている。しかし，普通には，赤系統の色の薄い色の総称として用いられることが多い。

ももいろさんご【桃色珊瑚】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・八放サンゴ亜綱・ヤギ目・サンゴ科。群体は一平面に樹枝状に分枝し，中央にかたい骨軸をもつ。骨軸の外表は薄い外皮におおわれる。外皮中のサンゴ個虫は1.5～2mmの大きさである。骨軸は炭酸石灰で堅固にされており，中心は白色。群体は最大1mに達するものも知られている。アカサンゴ・シロサンゴとともに古くから装飾用として種々の細工物にされ珍重されている。小笠原(おがさわら)群島・四国・九州沖の深さ数百メートルのところの岩盤上に付着する。サンゴ類では最も高価とされている種である。➔サンゴ

ももぞのてんのう【桃園天皇】(1741～1762) 在位1747～1762年。名は遐仁(とおひと)。桜町天皇の第1皇子。母は開明門院藤原定子。1747年(延享4)わずか6歳で即位。在位中，竹内式部に垂加神道*を学んだ徳大寺公城(きみき)・坊城俊逸(としやす)らの近習に国史・神書の進講をうけたことから宝暦事件*が起こり，20名に及ぶ廷臣が幕府に処罰された。陵墓は京都市東山区の月輪(つきのわ)陵。

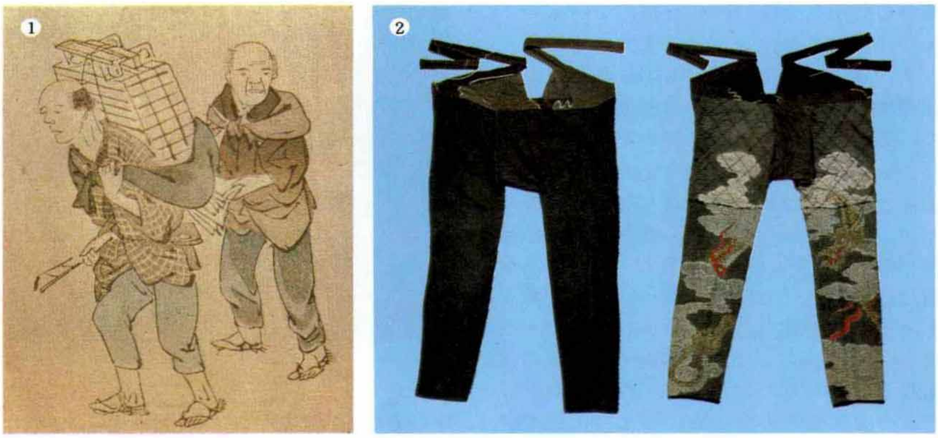
ももたそうじ【百田宗治】(1893～1955) 詩人。本名宗次。大阪市の生まれ。フランス語を独学，18歳のころから詩作を始めた。白鳥省吾ら民衆派の詩人たちを知り人道主義の立場から，《日本詩人》編集などで活躍。のち詩誌《椎(しい)の木》を主宰，後進を育てた。また，つづり方教育にも力を入れ児童生活詩の提唱でも知られる。詩集に《静かなる時》《何もない庭》《冬花帳》など。

ももたろう【桃太郎】昔話の一。日本のお伽噺(おとぎばなし)の中でも代表的なものであるが，現在の形にまとめられたのは江戸時代中期以後である。標準型は，老婆が川で洗たくしていると，モモが流れてきて，割ると中から男の子が生まれ出る。桃太郎と名づけられて成長したその子は，きびだんごを持ち，イヌ・サル・キジを家来にして鬼退治に出かけ，多くの財宝を得て帰るという筋のものであるが，地方には変化型の桃太郎話が数多く伝えられている。老婆が拾うのはモモでなくカキの実で，中に赤子がはいっていたという〈柿太郎(かきたろう)〉と名づくべき話もある。また女の子ではあるが，〈瓜(うり)子姫〉も同じ手順で小さなウリから生まれる。霊童出現の形をモモからと限定するよりも，中のうつろなウリとかヒョウタンからとするほうが古い形であることは，太平洋の島々の英雄誕生譚(たんじょうたん)や漂着譚と比較してみるとよくわかる。標準型では鬼ケ島から財宝を持ち帰ることで終わっているが，東北地方の話では鬼を退治し，捕えられていたお姫様を連れ帰ることになっている。標準型の桃太郎は，幼児向きに聞かせるために，この重要な妻求めの条を計画的に省いたものである。〔直江広治〕

ももちょっきりぞうむし【桃短截象鼻虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・オトシブミ科。口吻(こうふん)を除いた体長7～10mm。体は光沢のある赤紫色で，多少金赤色の光沢をおび，体の背面には暗色の軟毛，腹面には灰白色の軟毛がはえる。口吻は長く，中央より前方から触角が出ている。前胸背板は両側が強く丸みをおび，粗大点刻が不規則に密布し，雄では側面前方に棘状(きょくじょう)の小突起をもつ。鞘翅にも粗大な点刻からなる列があり，その間は小点刻があって皺状(しわじょう)を呈する。琉球(りゅうきゅう)諸島を除く日本全国に分布し，モモ・スモモ・ウメ・リンゴ・ナシ・ビワなど各種果樹を加害する。卵は5～7月に未熟な果実中に1粒ずつ産め込まれ，約5日で孵化(ふか)する。幼虫は果肉を食べて成長し，2～3週間で老熟して果実から脱出して土中に潜入し，土室をつくってその中で越冬する。暖地では，秋のうちにさなぎになり，やがて羽化して成虫態で越冬する。成虫は，3月下旬ごろから出現して，果樹の新芽や若葉を食害する。〔鈴木邦雄〕

もものいしゅんぞう【桃井春蔵】(1826～1885) 江戸末期の剣術家。名は直正。沼津藩家老の二男に生まれたが，桃井直由の門人となり，のちその養子として鏡心明智(きょうしんめいち)流四代めを継いだ。道場は江戸南八丁堀(みなみはっちょうぼり)あさり河岸(がし)の士学館で，千葉周作*の玄武館，斎藤弥九郎*(やくろう)の練兵館とともに，幕末の江戸の三大道場といわれた。直正の剣は天才的で，〈位(姿勢・風格の正しいこと)は桃井・業(わざ)は千葉・力は斎藤〉とたたえられている。1862年(文久2)幕府に仕え，講武所*教授方から遊撃隊頭取に進み，1867年(慶応3)には15代将軍徳川慶喜(よしのぶ)を守って上洛(じょうらく)，明治維新後は大阪にとどまって剣術を教えた。〔稲垣史生〕

ももひき【股引】腰から足首までを両足分けておおう和服の男子用下着。おもに戸外での労働・旅行に着用する。語義は股脛巾(ももはばき)(脚絆*(きゃはん))の転じたもので，地方によって〈ももはき〉〈ももとき〉〈もっぴき〉などという。南蛮衣服から取り入れたと推定され，近世からつくられた。構成は，袴(はかま)類の幅の太い直線裁ちとは異なり，身体に密着する形で，湾曲線で裁縫し，胯上(またがみ)には左右2枚の胴回り布を前で左右重ね合わせてひもを付け，はくと後ろで深く合わさるので，腰の屈折に便利である。江戸ではもめんのを股引(短いのを半股引・



もも ひ き ①江戸末期の着用姿 ②火事場用ももひきの表と裏 股下は畦刺しで，裏布に上り龍・下り龍を染めたもの(江戸末期，新居町教育委員会蔵)

猿(さる)股引)，縮緬(ちりめん)・絹のをパッチとよび，関西ではたけが足首まであるのをパッチ，ひざ下までの短いものを股引とよび，江戸では文政時代(1818～1829年)ごろを境に，それよりまえはゆるやかで，以後は細いのが好まれ，特に細いものを川並みとよんだ。用布は職人・行商人などのはもめんで，紺盲縞(めくらじま)(縦・横ともに紺の糸の平織り)が多く，上に腹掛け・はんてんを着た。絹のパッチは花色(縹(はなだ)色)が多く，もめんのは千種(ちぐさ)色(萌黄(もえぎ)色)・浅黄(水色)である。また火事場ではくものは，関西では横のだんだら縞，江戸では釘(くぎ)抜きつなぎなどの型染め，特に表に紺盲縞，裏にねずみ色もめんをつけて袷(あわせ)とし，紺のもめん糸2本で胴回りには麻の葉・亀甲(きっこう)などを刺し，股から下は水を多く含むように畦(うね)刺しにしたのを着用した。江戸後期には武士も旅行にはき，明治・大正の末まで市民も，防寒用に中流階層以上は白羽二重・紬(つむぎ)で袷仕立て，夏は白綿縮みを長着の下に着た。〔堀越すみ〕

ももひめしんくいが【桃姫心喰蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シンクイガ科。翅(はね)を広げた長さ15～19mm。前翅は細長く灰白色で，前縁に大きな三角形の灰黒色の斑紋(はんもん)がある。外縁に沿って2本の灰色帯が走り，内側のものは波状，外側のものは短い。後翅は灰色。成虫は5～8月に，北海道・東北地方で年1～2回，本州の西南部では年3回の発生をみる。リンゴ・モモの大害虫である。卵は果実の表面に産みつけられ，孵化(ふか)すると果実の中に侵入して食害する。老熟幼虫は12～15mm，果実内にいるときには黄白色，果実外に脱出するときには赤色となる。地中で繭をつくってさなぎとなり，越冬する。北海道と本州に分布する。〔多々内修〕

ももやま【桃山】京都市南部，伏見区にある台地。標高は約100m。桃山丘陵の南端に位置し，南は宇治川に面する景勝地。1594年(文禄3)から1623年(元和9)まで伏見城のあった場所でモモの名所であった。明治天皇の伏見桃山陵・同東陵があり，現在は公営住宅の団地もつくられている。

ももやまじだい【桃山時代】⇨安土桃山時代

ももやまじょう【桃山城】⇨伏見城

ももわれ【桃割れ】女子の日本髪の一。10代の少女期に結う。幕末から明治にかけて，花柳界で流行した唐人髷(とうじんまげ)の系統で，はでながらなどで可憐(かれん)な感じをだしている。髷の形が桃の実を二つに割ったように見えるのでこの名がある。

ももんが【鼯鼠】哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・リス科。頭胴長15～20cm，尾長9.5～14cm。前後肢(し)の間に飛膜が発達し，滑空することができる。目はきわめて大きい。体毛は柔らかく背は灰色ないしかっ色で，腹は白い。本州・九州に分布し，夜行



モモンガ

性で果実，木の芽，若葉などを食べる。巣は樹洞(じゅどう)を利用したり，リスのように木の枝に小枝・コケを用いてボール状につくる場合がある。山地の森林にすむが，生息数は少ない。ムササビに似るため混同されるが，体ははるかに小さく，飛膜の発達が悪い。また，尾の毛は左右に伸び，上下に少ないので尾が扁平(へんぺい)に見える。〔今泉吉典〕

もや【母屋】①小屋組み材の一種で，棟木(むなぎ)・軒桁(のきけた)に平行してたるきを受ける水平材。和風小屋組みにあっては束(つか)上に，洋風小屋組みにあっては合掌上に位置する。②寝殿造りの建物でひさしに囲まれた内側の本屋部分。身屋・身舎とも書く。

もや【靄】霧と煙霧*の中間の状態。水平視程が1km以上2km以下，湿度は霧のときよりも低い。空気中に浮かぶ微小水滴，または吸湿性の粒子で形成されている。煙霧のときには遠景が青みをおびるが，靄のときは灰色をおびて見える。

もや【喪屋】死者の近親者たちが一定期間，遺骸とともに忌みこもる建物。この習俗は古く〈記紀〉にも見え，かつ全国的に行なわれていたが，今日ではその痕跡(こんせき)が残るにすぎない。死者は殯(もがり)(蘇生(そせい)期間)を経て死を完了することになるので，喪屋は殯の期間に，死者の蘇生をまつ場所である。喪屋をわざわざ設けて近親者や死者を隔離することは，穢(けが)れに対する村人の恐怖の観念に由来し，その観念の中でたいせつなのは近親者たちが穢れた火の食物を食べ，他人はそれを食べてはならぬことであり，喪屋を特別に建てない地方でも，死者の出た家を喪屋とし，別竈(べつがま)にする習俗が残っている。〔渡辺欣雄〕

もやし【萌】豆類・麦類の種子を水に浸して，暗所で白化させながら発芽させたもの。一般に豆もやしをさすが，麦もやし(麦芽*)やニラもやしなどもある。豆もやしは多く緑豆を原料とし，最も風味がすぐれているが，ほかにダイズ・アズキなども使われる。発芽に際してビタミンCが増加するので栄養に富み，いため物・酢の物やしるの実として，季節を問わず広く食用される。

もようとりょう【模様塗料】細かい立体的な模様や違った色を組み合わせた模様など，意匠効果に富む仕上がりが得られる各種塗料の総称。縮緬(ちりめん)ワニス・結晶ワニス・ハンマートンエナメル・メタリックエナメル・パール仕上げ塗料・ビニルゾル模様塗料・和壁塗料などがある。縮緬ワニスと結晶ワニスは桐油(とうゆ)の上がわきの性質を利用して縮緬模様や霜模様をつくり，ハンマートンエナメルはアルミニウム粉の分散配列を利用して金属をハンマーでたたいたような模様をつくり，いずれも光学機械・事務機・電気器具などの塗装に用いる。メタリックエナメルは金属粉を用いきらきら輝く金属光沢を出し，自動車・電気器具の塗装などに広く用いる。パール仕上げ塗料は塗膜に真珠のような干渉色を出す。ビニルゾル模様塗料は模様出し液を塗って皮革模様や水滴模様を出し，和壁模様塗料は和壁の感じを与える塗面をつくる。このほか，一般塗料を塗装技法により美術的な意匠効果を与えるスチップル塗り，木目塗り，水玉塗りなどがある。〔鈴木荘司〕

モヨロかいづか【最寄貝塚】北海道網走(あばしり)市の網走川河口の砂丘上にある遺跡。モヨロ(最寄)はアイヌ語で〈海の中〉の意味。1936年(昭和11)史跡に指定された。7～16世紀にわたって栄えたオホーツク文化*を代表する貝塚で，上層には伸展葬のアイヌ人の骨，下層には晩期縄文式(じょうもんしき)土器のほか，副葬品として，骨器・石器・蕨手大刀(わらびてのたち)，中国の玉製装身具や鈴などが，また中央に炉のある竪穴(たてあな)住居が発掘された。モヨロ貝塚人はアイヌとは異なる北方民族といわれている。

モラティン［Leaudro Feruáudez de Moratin］(1760～1828) スペインの劇作家。モリエール*にならい喜劇を書いた新古典主義作家。《娘たちのハイ》が代表作。ほかにベーガ*以前の演劇に関する《スペイン演劇の起源》もある。

モラトリアム［moratorium］政府が命令により銀行預金を含む債務支払いを一定期間猶予させること。現代の経済機構では正常なときには信用取引が支障なく行なわれる。しかし金融界に特に重大な影響を与えるような事態，たとえば戦争・暴動・天災・恐慌などの発生した場合には，ときとして預金の払い出しが一挙に集中したり，従来の貸し出しの回収が急ピッチで行なわれ，信用制度の崩壊する危険が生ずることがある。このような事態を防ぐために一定の支払い猶予期間を与え，人心の沈静を図るとともにその間に応急対策を講ずる必要がある。わが国では，1923年(大正12)の関東大震災の際に，支払い延期緊急勅令が公布され30日間の猶予，1927年(昭和2)の金融恐慌の際にも21日間の猶予が実施された。〔池内得二〕

モラバ ⇨モラビア

モラビア ［Moravia］ チェコスロバキア中部の地方名。モラバ川の流域で盆地状をなし，西のボヘミア地方，東のスロバキア地方とは地形上も区別される。豊かな農業地帯で，南部では果物・ブドウ，中部では小麦・テンサイ，北部ではライ麦・ジャガイモを産する。ブルノ・モラフスカ-オストラバ・ブラチスラバなどの都市がある。

モラビア ［Alberto Moravia］ （1907～ ） イタリアの小説家。本名アルベルト-ピンケルレ。ローマの生まれ。処女作《無関心な人びと》以後，作家活動にはいり，一時新聞記者にもなった。1930年代にはファシスト政権に執筆禁止され，実際に文学的に開花し，多くの作品を生み出したのは第2次世界大戦後のことである。ネオ(新しいの意)-リアリスト，ネオ-モラリストともよばれ，個人の意識と社会環境の接点を心理的リアリズムで描く作風を打ち立てた。代表的な作品に《ローマの女》《軽蔑(けいべつ)》《倦怠(けんたい)》など。 〔田島 修〕

モラフスカ-オストラバ ［Moravska Ostrava］ 単にオストラバともいう。チェコスロバキア中央部，モラビア地方の商工業都市。ポーランドのシレジア地方に続く炭田地帯に位置し，鉄鋼・化学などの重化学工業が盛んである。1829年に最初の溶鉱炉が建設されたが，今世紀になってから急速に発達した。モラビア地方の行政中心地でもある。

モラリスト ［moraliste］ 広義には道徳者を意味し，しばしば皮肉をこめて用いられるが，狭義にはモンテーニュ*以来，フランスに伝統的な人間性の探究者をさす。彼らは古典にならい，自己を凝視し，日常生活の観察を通して，人間のあるべき姿，人間の生き方を追究する。その際，抽象的思弁的方法を排して，あくまでも具体的人間に執着するところに特色がある。代表的人物に，モンテーニュほか，パスカル*・ラ-ロシュフコー*・ラ-ブリュイエール*・ボーブナルグ，現代ではジイド*・モーロワ*・アラン*らがあり，一般にフランスの哲学・文学はモラリスト的色彩が濃いといわれる。 〔石井忠厚〕

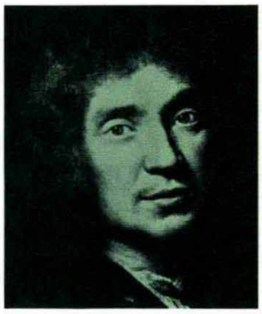
モラール ⇨士気

モーラン ［Paul Morand］ （1888～1976） フランスの小説家。外交官としての体験からヨーロッパ各地を背景にした恋愛小説《夜開く》《夜閉ざす》を発表，文名をあげた。その文体は軽快でフランス的エスプリに富み，新鮮な文学として多く読まれた。ほかに《恋のヨーロッパ》など。

もり 【銛】 魚類などを突き刺して捕獲する道具。人類の祖先が主として狩猟によって生活していた時代には，獣の骨や石片などでつくられたと推定されるが，やがて鉄器に変わり，現在では先端の金具や逆鉤(さかかぎ)が着脱できるものもある。カジキやマグロを対象とする突棒(つきんぼう)漁業*の銛もその一種で，長柄の先に二叉(にさ)または三叉した金属をつけ，その先端に銛綱を結んだ逆鉤(鏃(やじり))を装着してある。また現在使われている最大のものは，捕鯨砲(→捕鯨船)から火薬で発射される捕鯨銛で，長さ約185cm，重さ65kgもあり，平頭形の銛先が使われる。このほか磯(いそ)魚用の見突き銛や潜水銛などがあるが，磯魚などを突く簡易なものは，やすとよんで区別することもある。 〔石野 誠〕


モリアオガエル


森 有礼


モリエール

もり 【森(町)】 北海道，渡島(おしま)支庁中部にある町。人口18,000。16世紀初めに和人がニシン漁のために定住して以来開けた古い町で，1921年(大正10)町制施行。内浦湾に面し，駒ケ岳(こまがたけ)西麓(せいろく)の火山灰台地上に位置する。主産業は農業で，土地改良の進んだ台地上で米・豆類・野菜・ジャガイモ・アスパラガスなどの畑作とブドウ・ナシ・クリなどの果樹栽培が行なわれる。沿岸漁業によるコンブ・スケソウダラ・サバ・カニなどの水揚げも多く，火山灰を利用する軽石ブロックの特産もある。函館(はこだて)本線の分岐点で，国道5号線が通じる。大沼国定公園をはじめ，濁川温泉・青葉ケ丘公園・ニシン供養塔などの観光地がある。

もり 【森(町)】 静岡県西部，周智(しゅうち)郡の町。人口21,000。1955年(昭和30)森町を中心に1町4村が合併，その後も1村を編入した。中心地区の森はかつて秋葉街道の宿駅として発達し，侠客(きょうかく)森の石松の生地で知られる。チャの栽培が盛んであり，ほかに製材・窯業(森山焼)などの産業がある。二俣(ふたまた)線が通ずる。

モーリー ［Matthew Fontaine Maury］ （1806～1873） アメリカ合衆国の海洋学者。バージニア州の生まれ。海軍士官として4年間世界を航行。1942年海軍の海図・測器部(アメリカ海軍水路部の前身)の第4代部長となった。大洋を航海する船から風と海流の資料を集め，1854年にはこれを大西洋について集大成，航海にこれを利用した結果航海日数が著しく短縮された。さらに海流の主原因は重力であるという説を唱え，また湾流について詳しく記述した。1853年彼の主唱によりブリュッセルではじめて国際的な海上気象会議が開かれ，船舶の観測した海洋および気象の資料を組織的に制度化する基礎が確立された。多くの著書があり，特に《海の自然地理学》(1855)は最初の近代的な海洋学書として著名。〔根本順吉〕

もりあおがえる 【森青蛙】 爬虫(はちゅう)類・アオガエル科。山地性のカエルで樹上にすみ，ほとんど水にはいることはない。体長5～9cmで，雌は雄より大きい。体の背面は緑色または暗緑色で，暗色の斑紋(はんもん)が現われる個体もある。4～6月ごろ，水面に張り出した枝の先端に白い泡状(あわじょう)の卵塊を産みつける。このとき1頭の雌に数頭の雄が抱接し，卵に受精させながら後肢(こうし)で粘液を盛んにかき混ぜ，泡状の卵塊をつくる。孵化(ふか)した幼生は落下して水中にはいるが，イモリやヤマカガシにねらわれる。本州・四国・九州に分布し，岩手・福島県下では天然記念物に指定されている。 〔松井孝爾〕

もりありのり 【森有礼】 （1847～1889） 明治の政治家・教育家。薩摩(さつま)藩士の子。藩命でイギリス・アメリカに留学，1868年(慶応4)帰国。明治新政府では外交官として腕をふるった。1874年明六社を興してその社長となり，啓蒙(けいもう)運動を指導，男女同権の契約結婚を主張実行するなどした。その後，清(しん)国公使・イギリス公使を経て，1885年第1次伊藤(いとう)内閣の文相(初代)となって学制改革に着手し，1886年帝国憲法体制に即応する国家主義的な学校令を公布した。剛毅(ごうき)な開明性のために国粋主義者の反感を受け，1889年2月11日憲法発布の日に暗殺された。 〔安達利夫〕

モリエール ［Molière］ （1622～1673） フランスの劇作家。本名ジャン-バチスト-ポクラン。パリの生まれ。父は王室付き室内装飾師であった。クレルモンの学校でイエズス会の教育を受け，さらに大学で法学を修めた。大学を終えると直ちに〈盛名劇団〉

を組織し，13年間各地を公演。1659年パリに帰り，パレ-ロワイヤル座に進出して国王の庇護(ひご)を受けるようになった。その作品の特徴は，人間の精神の邪悪さやゆがみを突き，そこに典型的な人物像をつくり出したことで，いくつもの性格喜劇は鋭い風刺性に満ちている。おもな作品は，《ドン-ジュアン》《人間嫌(ぎら)い》《守銭奴》《タルチュフ》など。劇団指導者・俳優・劇作家の一人三役の激務に疲れ，《気で病む男》上演中に舞台で死んだ。コルネイユ・ラシーヌと並ぶフランス古典劇の代表者であるが，勢力を拡大しつつあるブルジョア階級を代表するものとしての特質をそなえていた。〔小松英輔〕

もりおうがい【森鷗外】(1862～1922) 小説家・評論家・軍医。石見(いわみ)(島根県)津和野に，藩の典医の長男として生まれる。本名林太郎。1881年(明治14)東京大学医学部を19歳の若さで卒業，陸軍にはいって，1884年から4年余にわたってドイツに留学，帰朝後は軍医として勤務のかたわら，多彩な文筆活動を行なった。その一つが留学時の体験に根ざした，日本の秀才官僚とドイツの薄幸の女性との恋とその挫折(ざせつ)を描いた処女作《舞姫》で，そのほか，彼を中心とした新声社の訳詩集《於母影(おもかげ)》，また，雑誌《しがらみ草紙》によった多様な批評もある。しかし，日清(にっしん)戦争後から1908年までは，《審美綱領》などの美学書，原作以上の名訳とされたアンデルセンの《即興詩人》の翻訳などの発表に止まる。そして，この時期を経てから自然主義の興隆に刺激され，雑誌《スバル》《三田文学》を舞台に，反自然主義の立場から自己の性欲史を述べた《ヰタ-セクスアリス》，夏目漱石(そうせき)の《三四郎》と対比すべき《青年》，明治の女の悲しさをみごとに浮き彫りした《雁(がん)》，大逆事件以後の言論統制を風刺した《沈黙の塔》のほか，《妄想(もうそう)》などのすぐれた現代小説を著わす。次いで明治天皇に殉じた乃木夫妻に衝撃を受けて，《興津(おきつ)弥五右衛門の遺書》を書き頌歌(しょうか)としたが，これを機にやつぎばやに歴史小説を発表しはじめる。《阿部(あべ)一族》《大塩平八郎》《安井夫人》《山椒大夫(さんしょうだゆう)》《最後の一句》《高瀬舟》《寒山拾得》などであり，それらには，彼の青春以来の生きさまをめぐる肯定と否定のゆらめきが歴史的素材にこめられ，鷗外作中の白眉(はくび)となっている。ほかにこの時期には《ファウスト》《諸国物語》の二大翻訳も完成した。さらに鷗外は，興味を小説的仮構よりも史実的考証へと転じ，《渋江抽斎》《伊沢蘭軒(いざわらんけん)》《北条霞亭(ほうじょうかてい)》などの史伝を書き，鷗外最後の境地を現出させる。その一方で，鷗外は軍職にあって，軍医総監・医務局長に至り，退官後も帝室博物館長に任ぜられるなど官界を歩いている。また，日本近代のゆがみの中で，この軍人・文学者(教養人)あるいは彼内部の封建性と近代的科学精神の矛盾をすべて放棄せずに生きている。これらが鷗外をまれにみるわが国近代の大作家たらしめたといえる。〔西垣　勤〕

もりおか【盛岡(市)】 岩手県のほぼ中央部，県庁のある市。人口22万6,000。1593年(文禄2)南部利直(としなお)が不来方(こずかた)城を築いて都市形成が行なわれ，江戸時代には南部氏十万石(1808年(文化5)以降は二十万石)の城下町となった。1889年(明治22)市制施行。市街は，北上川とその支流雫石(しずくいし)川・中津川の合流する河岸段丘上にあり，不来方城跡は岩手公園，重臣屋敷のあった内丸通りは県庁・市役所などの高層ビルの官庁街となり，そのほか市内各地に古い城下町のおもかげが残る。1891年東北本線の開通後発展した大通りと肴(さかな)町周辺が中心繁華街を形成する。産業三大別人口比は5：19：76。消費都市的な性格が強く，近代工業は未発達で，食料品・繊維工業などが主であり，南部鉄びんの特産がある。周辺は南部馬の産地として知られ，1658年(万治1)以来の伝統をもつ馬市が，毎年秋に開かれる。最近は郊外地区に190万m^2の工場用地が造成され，製菓・製酪・かんづめ・パルプなどの工場建設が進んでいる。東北本線から山田線・田沢湖線を分岐し，国道4号線・46号線・106号線が集まり，将来は東北新幹線・東北縦貫自動車道が通じる予定である。市域内に繋(つなぎ)温泉，周辺に小岩井農場，鶯宿(おうしゅく)温泉があり，旧藩時代の風習を伝える〈チャグチャグ馬コ〉(6月15日)の祭りは全国的に知られる。〔浅井得一〕



森　鷗外



盛岡市　南側上空から見た盛岡市の中心部。中央の緑地は盛岡城趾と岩手公園，その北に県庁・市役所・大学病院が見える。川は中津川

もりおかはん【盛岡藩】 ⇨南部藩

もりかんさい【森寛斎】(1814～1894) 日本画家。山口県の生まれ。円山(まるやま)応挙門下十哲のひとり森徹山に学び，その養子となる。円山四条派を明治時代に伝えた最後の大家で，如雲社を指導し，多くの後進を養成した。1890年(明治23)最初の帝室技芸員にあげられた。

もりぐち【守口(市)】 大阪府中部の市。人口16.5万。江戸時代は京街道の宿場町で，幕府の代官所が置かれていた。1910年(明治43)京阪(けいはん)電鉄京阪線が開通して以来，大阪東部工業地帯が延長して近代工業が発達した。1946年(昭和21)北河内(きたかわち)郡の守口・三郷の2町が合併して市制施行。市域は淀(よど)川南東岸の沖積(ちゅうせき)低地を占め，大阪市の北東に隣接する。産業三大別人口比は0：47：53。特産の守口ダイコンをはじめ，レンコン・クワイなどの産地として古くから知られたが，最近は工場や住宅の進出によって耕地はほとんどみられない。電気機器・食品加工・メリヤス加工業などの近代工業が発達し，特に弱電気メーカーの松下電器産業・三洋電気の工場群が多い。

もりさだまんこう【守貞漫稿】 江戸後期の随筆。喜田川守貞著。著者が大阪に30年，江戸に14年居住していた間に実見した市井の行事・風俗について，風俗史的に古今を対照・考証し，大阪・江戸を区別して書き集めたもので，事項別に分類して編集されている。1837～1853年(天保8～嘉永6)の17年間にわたって執筆したが，ペリー再来の騒ぎで草稿を疎開したため，未定稿に終わっている。明治末期に写本が発見され，1908年(明治41)《類聚(るいじゅう)近世風俗史》と題して出版された。江戸後期の風俗資料として貴重。〔高崎徳次〕

もりしたうそん【森下雨村】(1890～1965) 小説家・翻訳家。本名岩太郎。高知県の生まれ。早稲田(わせだ)大学卒業。博文館に入社，《新青年》を創刊・編集し，推理小説の紹介・育成に貢献。《丹那(たんな)殺人事

件》《白骨の処女》などの作品のほか，海外推理小説の翻訳も多い。

モーリシャス ［Mauritius］ インド洋上，マダガスカルの東方約750kmにある独立国。主島モーリシャスのほかに，ロドリゲス島などの付属小島を含む。面積2,045km²。人口96万(1978年推)。首都ポートルイス。

〔自然・住民・産業〕 モーリシャス島はサンゴ礁に囲まれた火山島で，最高点は標高825m。海岸平野は水にも恵まれて肥沃(ひよく)である。熱帯にあり，夏季には雨量が多く，台風も襲う。住民はインド系67%，アフリカ系20%，中国系3%で，ほかに少数のヨーロッパ人がいる。宗教はヒンズー教・イスラム教・仏教・カトリック教など。公用語は英語。主産業は農業で，生産額の90%をサトウキビが占め，ほかに米・コーヒー・トウモロコシ・コショウなどを栽培している。美しい熱帯樹が茂り観光客も多い。

〔歴史・政治〕 16世紀にポルトガル人が来島し，1598年オランダの支配下にはいり，のちフランスの統治を経て，1814年イギリス領になった。1967年内政自治が認められ，翌年イギリス連邦内の自治国として独立した。一院制の議会(70議席)をもっており，イギリスと相互防衛援助協定を結んでいる。

〔小栗　宏〕



モーリシャス 1968年制定。赤は自由と独立のための戦い。青はインド洋，黄は島と独立の栄光，緑は農業を表わし，横四色旗というユニークなデザインとなっている

モリス ［William Morris］ (1834～1896) イギリスの詩人・工芸美術家。中世の賛美者であると同時に社会主義者でもあった彼は，階級の別を問わず，美術を近代人の日常生活に融合せしめることをめざして審美運動を展開，自身で設立したモリス-マーシャル-フォークナー商会やケルムスコット印刷所を通して美術工芸品の製造・販売や書物の印刷・装丁の仕事に取り組み，また彼自身も製作者として活動した。多数の詩作品のほかに《装飾美術》などの著述がある。

〔松久勝利〕



W. モリス 《水仙》

モリス ［Charles Morris］ (1901～) アメリカ合衆国の哲学者。彼は記号論を三つに分け，記号間の論理的関係の研究を構文論，記号とその指示する対象の研究を意味論，記号と記号を使うものとの関係を扱う分野を語用論とした。また記号論のうえから統一科学の運動を進め，論理実証主義の哲学者のひとりに数えられる。なお，人間の生き方に関する類型の研究もある。主著《記号論の基礎》。

もりそせん 【森狙仙】 (1747～1821) 江戸後期の画家。名は守象(もりかた)，字(あざな)は伯牙(はくが)，祖仙と号し，のち狙仙と改めた。長崎の生まれ。大阪で活躍した。画ははじめ狩野(かのう)派に学び，のち円山(まるやま)四条派の写生画風を慕って，写実的な動物画に一家をなした。ことにサルの画は名高い。

モリソンごうじけん 【モリソン号事件】 江戸後期，アメリカ商船モリソン号が幕府の砲撃を受けて引きあげた事件。広東(カントン)にあったアメリカ貿易商社オリファント会社は，かねて保護されていた日本人漂流民7名をモリソン号で日本に送還し，対日貿易を開こうとした。1837年(天保8)モリソン号は浦賀沖に達したが，浦賀奉行(ぶぎょう)は異国船打払令によりこれを砲撃して江戸湾から撃退した。このため同船は転じて鹿児島湾に近接したが，薩摩(さつま)藩からも砲撃されてむなしくマカオに引き返した。渡辺崋山(わたなべかざん)・高野長英らは，この砲撃事件は世界情勢を無視したものであるとして幕府の鎖国政策を批判したため，やがて蛮社の獄がひき起こされた。〔高崎徳次〕

もりたかんや 【守田勘弥】 歌舞伎(かぶき)俳優。屋号は喜の字屋。現在まで14世。

①初世(？～1700) 森田座を設立した森田太郎兵衛(たろべえ)，小唄(こうた)にすぐれ，江戸木挽(こびき)町に森田座を創設した。

②2世(1676～1734) 初世の養子。立役で勘弥と名のり，森田座の座元をつとめた。

③11世(1800～1863) 坂東(ばんどう)三津五郎のとき勘弥を継ぎ，森田を守田と改称。

④12世(1846～1897) 守田座を新富町に移し新富座と改称。劇場の機構と制度を改革し，9世市川団十郎・5世尾上(おのえ)菊五郎ら明治の名優を掌握，名興行主といわれた。

⑤13世(1885～1932) 12世の三男。芸域の広い俳優で，歌舞伎界の新人といわれ，古典の二枚目から現代劇や翻訳物にも成果をあげた。

⑥14世(1907～75) 13世の甥(おい)で養子。容姿すぐれた立役として活躍した。

〔松井俊諭〕

もりたけ 【守武】 ⇨荒木田守武

もりたざ 【森田座】 〈江戸三座〉の一つとされた歌舞伎(かぶき)劇場。1660年(万治3)，森田太郎兵衛(たろべえ)が木挽(こびき)町に創設，以後代々の森田勘弥(かんや)が座元をつとめ，1856年(安政3)猿若(さるわか)町に移り，11世勘弥が〈守田座〉と改称。1872年(明治5)12世が新富町に移し，1875年から〈新富座〉と改め，洋風の建築・客席を取り入れた新式の大劇場として栄えたが，1923年(大正12)関東大震災で焼失した。

もりたしけん 【森田思軒】 (1861～1897) 翻訳家。本名文蔵。岡山県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)中退。《郵便報知新聞》の記者となり中国・ヨーロッパ・アメリカの特派員となり，見聞を広めた。ベルヌの《十五少年》，ユゴーの《探偵(たんてい)ユーベル》，ポーの《間一髪》など数多くの翻訳で知られ，その新しい翻訳の文体は二葉亭(ふたばてい)四迷らに大きな影響を与えた。

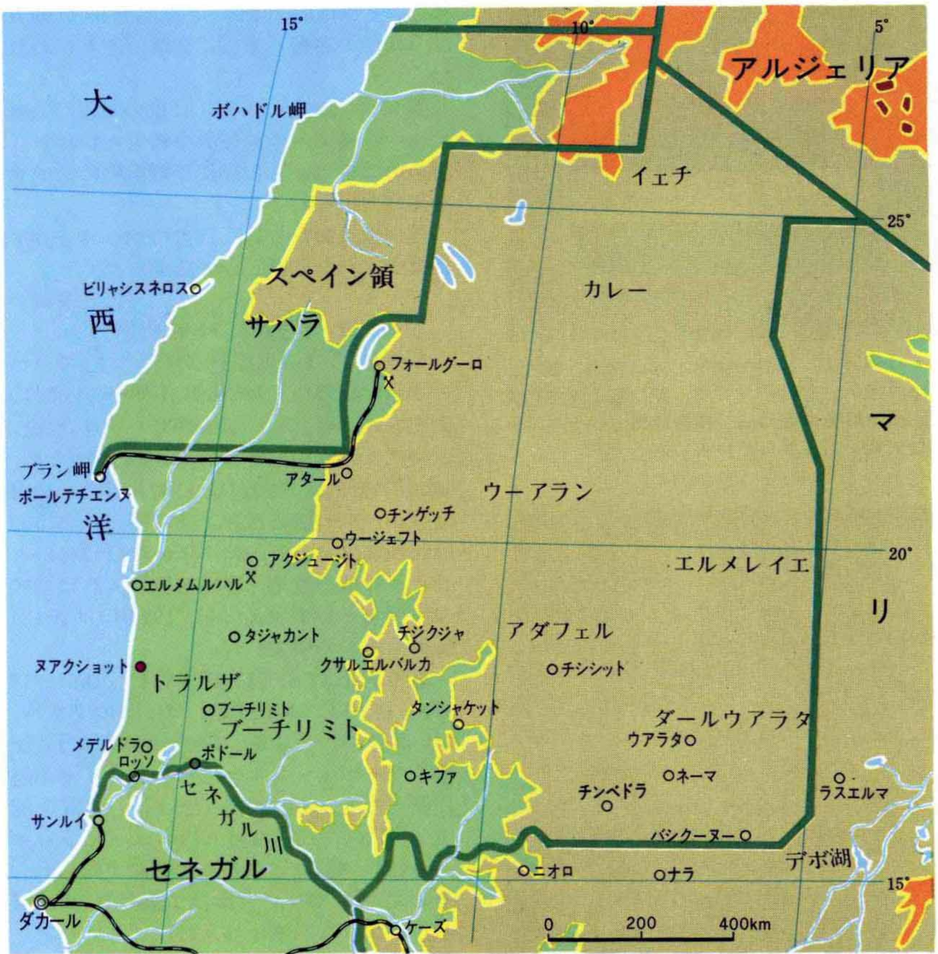
もりたそうへい 【森田草平】 (1881～1949) 小説家・翻訳家。本名米松。岐阜県の生まれ。東京帝国大学英文科卒。はじめ与謝野(よさの)鉄幹らの浪漫派文学の影響を受けたが，のち夏目漱石(そうせき)に師事。平塚(ひらつか)らいてうと情死未遂事件を起こしたが，漱石に励まされ告白的に書いた《煤煙(ばいえん)》で文壇に登場。以後《自叙伝》《輪廻(りんね)》などの自伝的小説や，ゴーゴリなどの翻訳，漱石に関する著作のほか，《細川ガラシャ夫人》など歴史小説を書いた。

〔池内輝雄〕

もりたつねとも 【森田恒友】 (1881～1933) 洋画家。埼玉県の生まれ。小山正太郎の不同舎に学び，東京美術学校卒業。1912(大正1)～1914年ヨーロッパに滞在し，帰国後日本美術院洋画部同人となり，同部解散後は春陽会の創立に参加。素朴(そぼく)・閑寂・詩趣深い画風が特色である。

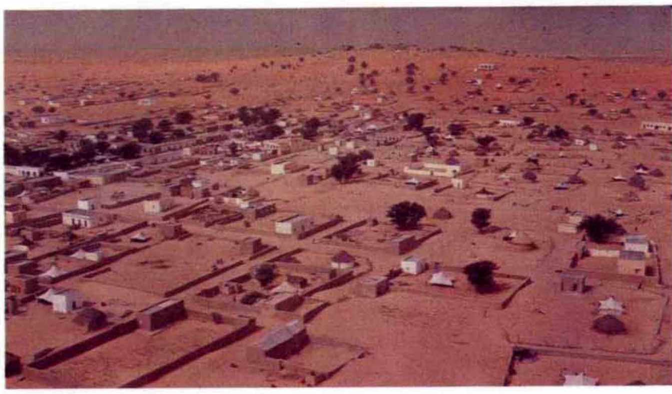
モーリタニア(回教共和国) ［The Islamic Republic of Mauritania, République Islamique de Mauritanie］ アフリカ西部，大西洋に臨む回教共和国。東はアルジェリア・マリに，北はスペイン領サハラ，南はセネガルに接する。面積103万0,700km²。人口163万(1978年推)。首都ヌアクショット。

〔自然・住民〕 国土の90%はサハラ西部砂漠(さばく)で，全般に500～600mの台地からなる。セネガル国境を流れるセネガル川が，

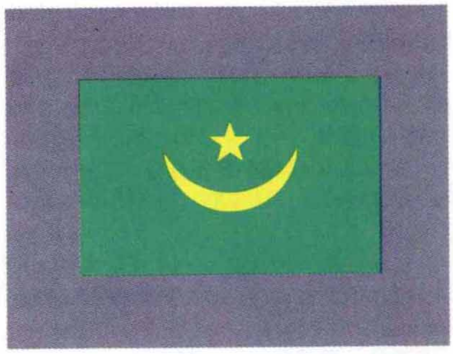


300万人以上の都市　100～300万人の都市　50～100万人の都市
10～50万人の都市　5～10万人の都市　5万人未満の都市　首府　油田

モーリタニア



モーリタニア　国の南西部，大西洋岸に近いブーチリミトの町。緑の少ない荒涼とした景観は砂漠気候のきびしい自然を物語っている



モーリタニアの国旗　1959年制定。緑は預言者マホメットの色であるとともに，サハラ砂漠を緑化して国を発展に導こうという国民の悲願を表わす。三日月と星は回教国に共通のしるしで，国民の大部分がイスラム教徒であることを示している

乾燥した国土に唯一の水の潤いを与えている。住民の80％はベルベル系のムーア人で，残りはニグロである。ムーア人はフランス語でモール人とよばれたことから国名となった。住民のほとんどがイスラム教徒で，公用語はフランス語とアラビア語。

〔産業・経済〕主産業は牛を中心とする牧畜で，農業はセネガル川流域でキビを産しているだけである。近年，大鉱床が発見され，アメリカ合衆国・フランス・イギリスの資本で開発が進められているが，工業は未発達である。

〔歴史・政治〕7世紀ごろムーア人がこの地に進出して遊牧生活を営んでいたが，のちイギリス・フランス・ポルトガル人が侵入した。1903年にフランスの保護領となり，1920年にはフランス領西アフリカの一部となった。1958年フランス共同体内の自治共和国となり，1960年11月独立した。元首は大統領で，一院制の議会(議席40，任期5年)がある。　〔小栗　宏〕

もりたりょうほう　【森田療法】　1922年(大正11)森田正馬によって創始された神経症に対する精神療法*の一。フロイト*の精神分析*療法が環境論に重点を置き，過去の心的外傷を明らかにして治癒(ちゆ)に導こうとするのに対し，森田療法は素質論に重点を置いて現在の〈とらわれ〉を超克させることにより治癒に導こうとするもの。すなわち，森田は〈神経質〉素質を考え(→神経質)，それがある機会に〈とらわれ〉の状態に陥り神経質症状を呈すると考えた。そして他の神経症学説が神経症症状を異常とするのに対し，森田は症状それ自体を異常と認めず，人間にとって当然あるべき現象と考えた。したがって，その治療は症状の除去ではなく，患者は人間として当然あるべき現象を回避せずに事実を正面からみつめ，これに耐え，あるがままの態度をとるように訓練する。一方，人間としての欲動を覚醒(かくせい)し，行動に踏み切れるようにしむける(目的本位の態度をとる)。この，現象受容と行動推進の二元的な操作によって，従来の患者の生活行動のパターンを変え，現実に適応できるようにしむけるのが特徴といえる。方法は全治療期間をおおむね40～60日とし，4期に分けて第1期—絶対臥褥(がじょく)期：患者を一室に臥床させ，不安・苦悶(くもん)に直面させる。第2期—軽作業期，第3期—重作業期：この両期を通じて不安*・葛藤*(かっとう)を受け入れたまま，作業(生活)を続行できるようにする。第4期—社会復帰期：自己の内界のみに向いていた目を，しだいに他者や社会に向けさせる。したがって，この期に学校や社会に不安や葛藤を抱いたまま生活していけるようにしむける。

〔岩井　寛〕

モーリツ　［Móricz Zsigmond］(1879～1942)　ハンガリーの小説家。東部ハンガリーの農村に生まれ，のち首都ブダペストへ出て新聞記者となった。当時の新世代の指導者だった詩人アディ*に認められて文筆生活にはいり，はじめアディの率いる西欧派に加わったが，しだいに独自の道を歩むようになり，現代ハンガリーにおける散文作家の第一人者といわれた。代表作には，出世作の短編《七クロイツァー》，長編《神の背のうしろ》など，農村や地方の生活を扱った自然主義的な作品や，三部作の歴史小説《トランシルバニア》がある。自伝的な少年小説《死にいたるまで善良であれ》も有名。　〔徳永康元〕

もりつなじんや 【盛綱陣屋】 ⇨近江源氏先陣館(おうみげんじせんじんやかた)

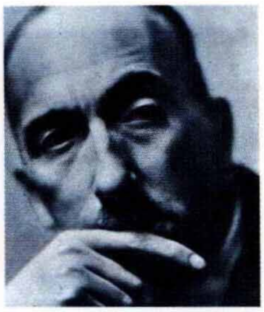
もりつばめ 【森燕】 鳥類・モリツバメ科の総称。インドからフィリピン・フィジー島にかけてとオーストラリアに10種が分布し，そのうち6種はオーストラリア産である。全長13～20cmほどで，一般に羽色はじみ。口は大きく，翼は長く先はとがった形で，ほぼ尾の先にまで及ぶ。スズメ目の鳥のうちで，一，二を競うほどにすぐれた飛行能力をもつといわれている。森林や農耕地にすみ，群をなして空中を飛び回り，こん虫類を主食とする。肉眼では見えぬ高さにまで上昇することもあるという。またスズメ目の鳥としては唯一の粉綿羽をもつ鳥である。〔安部直哉〕

もりとじけん 【森戸事件】 1920年(大正9)東京帝国大学経済学部助教授森戸辰男(たつお)と大内兵衛に対する思想弾圧事件。同年1月同学部機関誌《経済学研究》創刊号に掲載した森戸の〈クロポトキンの社会思想の研究〉が，上杉(うえすぎ)慎吉*教授らを中心とする学内右翼団体に危険思想とみなされ，同誌署名人大内とともに朝憲紊乱(びんらん)・新聞紙法違反として起訴された。その結果2人の大学の職は休職となり，法廷は社会の安寧秩序を混乱させたとして，森戸に禁錮(きんこ)3月・罰金70円，大内に禁錮2月・罰金20円・執行猶予2年の判決を下した。この事件は，学界・言論界に対する弾圧事件として非常な反響をよんだ。〔安達淑子〕

もりながしんのう 【護良親王】 (1308～1335) 〈もりよし〉とも読む。後醍醐(ごだいご)天皇の皇子。母は権大納言源師親(もろちか)の娘親子。世に大塔宮という。1326年(嘉暦1)落飾して尊雲法親王と称し，翌年天台座主となった。元弘(げんこう)の乱*には比叡(ひえい)山で挙兵したが，転じて十津川・吉野(よしの)・熊野(くまの)方面に潜伏した。その間還俗(げんぞく)して近畿(きんき)南部の各地に出没し，全国の武士に令旨(りょうじ)を発して勤王の挙兵を促した。建武中興*とともに征夷(せいい)大将軍・兵部卿(ひょうぶのきょう)に任ぜられたが，やがて足利尊氏(あしかがたかうじ)と対立，尊氏の勢力削減を策したが失敗し，1334年(建武1)捕えられ，鎌倉に幽閉されて，翌年中先代の乱*に際して足利直義(ただよし)に殺害された。〔高崎徳次〕

もりながせいか 【森永製菓(株)】 明治製菓と並ぶ製菓業界の最大手会社。エンゼルマークの商標で知られる。創始者森永太一がアメリカ合衆国で製菓技術を学び，帰国後1899年(明治32)に創業，1910年会社を設立した。第2次世界大戦後商事・乳業部門を分離，醸造・売店部門も独立させた。1969年(昭和44)10月には森永商事と合併，生産・販売を一体化し，総合食品会社としての体質強化に努めている。本社東京，工場は鶴見(つるみ)(神奈川県)・塚口(つかぐち)(兵庫県)・福岡・札幌(さっぽろ)など。資本金86億1,100万円。年間売上高1,020億1,000万円，従業員数3,370(1980年9月)。

モーリヤック



もりばな 【盛り花】 ⇨生け花

モリブデン ［molybdenum］ 周期律表Ⅵ族に属する金属元素。記号Mo，原子番号42，原子量95.94。1778年K.W.シェーレ*がモリブデナイト中に硫化物としての存在を確認。おもな鉱石は，キスイエン鉱・モリブデンエン鉱など。酸化モリブデンを高温下で水素により還元するか，融解塩電解・テリミット法などにより得られる。銀白色で光沢のあるかたい金属。融点2,620℃，沸点約4,600℃。空気中で加熱すると二酸化モリブデンになる。塩酸・希硫酸にはほとんど作用されないが熱濃硫酸・硝酸・王水には溶解する。原子価は主として6価であるが，2，3，4，5価の化合物も知られている。高速度鋼などのほか，電球・電子管・X線管球などにも使用される。酸化モリブデンは触媒に用いられる。〔古屋　弘〕

モリブデンこう 【モリブデン鋼】 モリブデンを添加した鋼。鋼は少量のモリブデン添加により弾性限が高められ，耐摩耗性・耐クリープ性が改善される。添加モリブデンの量はおよそ0.2～0.75％である。特にクロム鋼またはニッケル-クロム鋼にモリブデンを添加すると機械的性質が著しく増進される。高温における機械的性質がすぐれているので，化学プラントなどに使用される。

もりもとかおる 【森本薫】 (1912～1946) 劇作家。大阪市の生まれ。京都帝国大学英文科卒業。在学中より岸田国士*(くにお)主宰の《劇作》同人として新鮮な戯曲を発表。《わが家》《華々(はなばな)しき一族》など人間心理を追求した佳作がある。その後文学座にはいり，大衆性に富んだ演劇をめざし，《怒濤(どとう)》《女の一生》などを発表した。

モーリヤック ［François Mauriac］ (1885～1970) フランスの小説家。ボルドーの厳格なカトリックの家に生まれ，はじめ詩人として出発したが，《癩者(らいじゃ)への接吻(せっぷん)》などで小説家として認められた。以後，《愛の砂漠(さばく)》や情熱家の女性の罪と罰を描いた《テレーズ-デスケルー》などの力作を発表し，カトリック作家としての地位を確立した。その多くは生地ボルドーを舞台に，人間の霊と肉の相克が根本の主題となっている。第2次世界大戦中には抵抗運動のメンバーとして活躍，戦後には政治評論にも健筆をふるった。ほかに《蝮(まむし)のからみ合い》《夜の終り》などの小説，《小説論》《小説家と作中人物》などの評論，さらに劇作や精神的自伝《内面の記録》がある。1952年ノーベル文学賞を受賞。〔池田公麿〕

もりやま 【守山(市)】 滋賀県南西部の市。人口46,000。江戸時代は中山道(なかせんどう)の宿場町で，琵琶湖(びわこ)南東岸の木ノ浜(このはま)地区は古くから魞(えり)による漁業集落として知られた。1970年(昭和45)7月市制施行。市域は野洲(やす)川下流流域の南岸一帯を占め，琵琶湖沿岸に沖積(ちゅうせき)平野が広がる。産業三大別人口比は17：43：40。古くから水田が開け，近江(おうみ)盆地の穀倉地帯で江州(ごうしゅう)米の産地として知られる。東海道本線・国道8号線が走る南部地区には工場が多く，野洲川流域にはアセテート工場などが進出している。東門院の石塔，勝部(かつべ)神宮本殿，最明寺の五重塔，杉江(すぎえ)の小津神社本殿など，重要文化財に指定された史跡に富む。

もりやま 【守山(区)】 名古屋市北東部の区。1954年(昭和29)東春日井(ひがしかすがい)郡守山町と志段味(しだみ)村が合併して単独で市制を施行，1963年名古屋市に編入されて，守山区となった。面積34.01km²，人口130,000。矢田川沿いの低地と，矢田川と庄内(しょうない)川との間の丘陵地を占め，古墳群の多い東谷山(198m)が最高点である。丘陵地の南斜面は名古屋の新興住宅地区として発展しており，住宅団地や学園の造成が進んでいる。森林公園の一部をなし，ゴルフ場があり，市民のレジャー地域となっている。名古屋鉄道瀬戸線が通じる。〔浅井得一〕

もりよしやま 【森吉山】 もりよしさんともいう。秋田県北部，田沢湖の北方にあり，那須(なす)火山帯に属する二重式火山。標高1,454m。山域は広大で，西は大阿仁川をはさんで太平山地に，東は八幡平(はちまんたい)の火山群に接する。秋田県下の未開発地域の一つで，山麓(さんろく)一帯はブナを中心とする豊富な森林資源を蓄積している。また中腹に信仰登山で知られる森吉神社がある。

もりらんまる 【森蘭丸】 (1565～1582) 安土桃山時代の武士。美濃(みの)(岐阜県)金山城主森可成(よしなり)の子。15歳のとき織田信長(のぶなが)に仕えて小姓となり，寵用(ちょうよう)された。信長の一字を与えられて長定と名のり，1582年(天正10)美濃岩村五万石を与えられ，さらに一万石を加増された。同年本能寺の変*の際，明智光秀(あけちみつひで)の軍を迎えて奮戦中，安田作兵衛(さくべえ)のため討たれた。

モル ⇨グラム分子

モールおり 【モール織】 モール糸を応

用した織物。モール糸は芯糸(しんいと)に，金糸・銀糸・絹糸・レーヨン糸などをからみ合わせたやや太い糸で，これを織糸に用いて，種々の文様を表わした織物である。主として帯地・記章・装飾ししゅうなどに用い，また手芸・玩具(がんぐ)にも利用される。

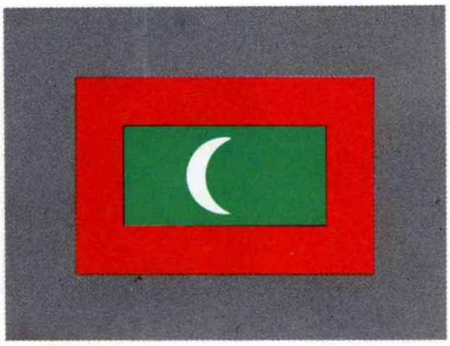
モルガーニ [Giovanni Battista Morgagni] (1682～1771) イタリアの解剖学者・病理学者。フォルリーに生まれ，1701年ボローニャ大学を卒業。1711年パドバ大学の内科学教授となり，1715年同大学の解剖学教授。1761年《解剖により検索された疾病(しっぺい)の位置と原因とについて》を著わし，疾病の症状と死後の剖検所見の比較研究を行ない各疾患の原因を探究した。梅毒性動脈瘤(どうみゃくりゅう)・急性黄色肝萎縮(いしゅく)・胃癌(いがん)・胃潰瘍(いかいよう)などの病理は本書によってはじめて明らかにされ，近代病理学の父と称されるに至った。 〔大鳥蘭三郎〕

モルガルテンのたたかい 【モルガルテンの戦い】 1315年，スイス中部エーゲリ湖畔の山地モルガルテンで農民を主体とするスイスの歩兵(長槍隊(ちょうそうたい))がハプスブルク家の騎士軍を破った戦史上画期的な戦い。これによってスイスの独立が促進され，また外国がスイスの歩兵を傭兵(ようへい)として使用する傾向が強まった。

モルガン [Jacques de Morgan] (1857～1924) フランスの考古学者・オリエント学者。ロアール-エ-シェール県のユイッソン-シュル-コッソンの旧家に生まれる。中学生のときから考古学に興味をもち，北フランス地方で発掘に従事する。高等鉱山学校を出てインド・ペルシアへ旅行。1891年にエジプト古物局長官になり，発掘に従事してエジプト先史学の創始者となる。1897年ペルシア文部大臣の顧問になる。スーサ*の発掘に従事し，エラム史研究に大きな貢献をした。著書に《エジプトの起源に関する探究》《先史人類について》《オリエントの先史》など。 〔兼岩正夫〕

モルガン [Thomas Hunt Morgan] (1866～1945) アメリカ合衆国の遺伝学者。レキシントンの生まれ。ケンタッキー州立大学およびジョンズ-ホプキンズ大学で学んだのちヨーロッパに留学。帰国後コロンビア大学教授を経て，1928年カリフォルニア工科大学教授。発生学者として出発し，1910年ごろからショウジョウバエを材料として遺伝研究を系統的に開始，1910年に遺伝子の連鎖と組み換えを発見した。これを手はじめに，彼と門下のスターテバント・ブリジス・マラー・ビードル・ドブジャンスキーらは，遺伝子地図の作成，性決定要因の追究，遺伝生化学および集団遺伝学の創始などにおいて，現代遺伝学の発展に著しく貢献した。1933年ノーベル医学生理学賞を受賞。→遺伝子 〔中村禎里〕

モルガンざいばつ 【モルガン財閥】 ア



モルジブ 1966年制定。中央の3か月はマルジブが回教徒の国であることを示し，赤と緑は二の国を支配しているサルタンの旗からきている

イ(A)	・－	エ	－・－－－
ロ	・－・－	テ	・－・－－
ハ(B)	－・・・	ア	－－・－－
ニ(C)	－・－・	サ	－・－・－
ホ(D)	－・・	キ	－・－・・
ヘ(E)	・	ユ	－・・－－
ト	・・－・・	メ	－・・・－
チ(F)	・・－・	ミ	・・－・－
リ(G)	－－・	シ	－－・－・
ヌ(H)	・・・・	ヱ	・－－・・
ル	－・－－・	ヒ	－－・・－
ヲ(J)	・－－－	モ	－・・－・
ワ(K)	－・－	セ	・－－－・
カ(L)	・－・・	ス	－－－・－
ヨ(M)	－－	ン	・－・－・
タ(N)	－・	1	・－－－－
レ(O)	－－－	2	・・－－－
ソ	－－－・	3	・・・－－
ツ(P)	・－－・	4	・・・・－
ネ(Q)	－－・－	5	・・・・・
ナ(R)	・－・	6	－・・・・
ラ(S)	・・・	7	－－・・・
ム(T)	－	8	－－－・・
ウ(U)	・・－	9	－－－－・
ヰ	・－・・－	0	－－－－－
ノ	・・－－	濁点(I)	・・
オ	・－・・・	半濁点	・・－－・
ク(V)	・・・－	長音	・－－・－
ヤ(W)	・－－	句読点	・－　・－　・－
マ(X)	－・・－	新章	・－・－・・
ケ(Y)	－・－－	かっこ	－・－－・－
フ(Z)	－－・・	小かっこ	・－・・－・
コ	－－－－	帰除線	・・・・・・

モールス符号 わが国で使用されているモールス符号。ローマ文字および数字は国際符号に準じている。濁音および半濁音は1画おいて濁点および半濁点の符号を続ける。帰除線は分数の横線記号である

メリカ合衆国最大の金融財閥。1860年J.P.モルガンによって設立されたモルガン会社はその後南北戦争の軍需品納入で巨利を得，急速に財閥を形成し，ファースト-ナショナル銀行・ナショナル-シティー銀行・バンカーズ-トラスト・ギャランティー-トラストを通じて，アメリカのあらゆる産業部門・金融部門を事実上支配していった。1914年同財閥は議会の反トラスト運動によって金融以外の産業支配力を縮小させられたが，おりからの第1次世界大戦はその金融支配圏を広げる絶好の機会となり，戦後は海外投資を積極的に行ない，世界の金融界に君臨した。1932年の総資産は726億ドル，その他50億ドルの外国会社資産をもち，これは全アメリカの会社資産の4分の1にあたっていた。1940年代にはいり，有力企業への支配権を失ったうえにロックフェラー財閥*の挑戦(ちょうせん)を受け衰退を余儀なくされたが，第2次世界大戦後も産業界・金融界への絶大な支配は変わらず，その中心ニューヨーク-モルガン-ギャランティー-トラスト社は総資産107億ドル，アメリカ第5位の大銀行である。なお，ニューヨークにあるアメリカ最高の美術品の収集を誇るメトロポリタン美術館はJ.P.モルガンの寄贈品を基礎としている。 〔片岡一郎〕

モルジブ [Maldive] スリ-ランカ(セイロン)の南西約640kmのインド洋上にある国。面積289km²。人口15万(1978年推)。マルジブともいう。南北約850kmにわたって13のサンゴ環礁を中心とする約6,000の島よりなるモルジブ諸島で構成されている。首都マレ。

【自然・住民】モルジブ諸島は北方のラカジブ諸島(インド領)，南方のチャゴス諸島(イギリス領)とともにインド洋海嶺の突端をなし，島群のほとんどが海抜5mをこえない。熱帯に位置するが，海洋性気候のため比較的しのぎやすく，年平均気温は27.3℃である。住民はドラビダ人とアラブ人の混血で，宗教はイスラム教。国語はアラビア語。

【産業・政治】主産業は漁業で，海産物の輸出が90%を占め，ほかにココヤシ・ヤシを使ったロープやマットなどの物産があり，スリ-ランカやインドのマラバル地方と交易している。古くはセイロンに朝貢していたが，イギリスのインド征圧とともに1887年保護領になり，1953年には保護下に共和制を敷いた。1965年7月イギリスから独立したが，第2次世界大戦中にイギリス空軍の基地が置かれ，ガン・アッツ両島は1986年までの30年間，イギリスに貸与されることになっている。政体は共和制で大統領を元首とし，そのもとに二院制の議会がある。 〔今井留吉〕

モールス ⇨ モース

モールスふごう 【モールス符号】 電報あるいは電信の送信において，文字の代わりに使われる符号。文字を一定の符号に変え，その符号を送信し，受信した側はこの符号を訳して文字にする。S.F.B.モースが考案した。通信設備としては，送信用の電鍵(でんけん)と受信用電磁石の発音部とからなり，人が文字を符号に変換して送り，受信側でも人が発音を聞いて文字に訳す。これの訓練には時間を要し，まちがいの多い

欠点がある。今日では船との通信など，ほかに通信手段のない区間に使われる程度で，ほとんど印刷通信・電話通信に変わっている。モールス符号は，いままでにいろいろな改良が加えられ，今日では国際モールス符号として国際間で規約されている。それによると，線(ダッシュ)の長さは点の３倍，１字中の各線または点の間隔は１点に等しく，文字と文字の間隔は３点分にとり，語と語の間隔は７点とる。〔小沢　博〕

モルダビア(共和国)［Moldavskaya S. S. R.］ソ連を構成する共和国の一。ヨーロッパ-ロシア南西端にあり，ルーマニアと国境を接している。面積33,700km²。人口348万4,000(1968)。主都キシニョフ。

〈自然・住民〉 東はドニエストル川，西はルーマニアとの国境をなすプルト川に接し，多くの河谷に分断された海抜300ｍほどの中央モルダビア高地と沿ドニエストル高地からなる。気候は温和で短い冬と暑くて長い夏に特徴づけられ，年降水量は350〜550mmである。住民はローマン語系のモルダビア人が65％を占め，ほかにウクライナ人15％，ロシア人10％，ユダヤ人３％などである。

〈産業・経済〉 ブドウ栽培が盛んで，ソ連のブドウ生産の３分の１を占め，また小麦・テンサイの栽培と乳牛飼育も盛んである。ぶどう酒・タバコなど農産加工工業が重要な産業となっている。ドニエストル川の河谷は水運・鉄道などが整い，国内の幹線交通路をなしている。

〈歴史〉 この地方は，１〜３世紀には古代ローマの支配下にあったこともある。18世紀にはロシアとトルコの係争地で，1812年にロシア領となった。革命後，ドニエストル川右岸のベッサラビア地方はルーマニア領になったが，1940年ソ連領に編入された。第２次世界大戦中はドイツに占領された。〔斎藤晨二〕

モルタル［mortar］細骨材と結合材とを混ぜ，ある時間経過後結合材が固まり，細骨材を包むようにしてできた硬化物。建築物の壁・床などの仕上げ材，ブロックの接合材などに用いられる。結合材に水を加えた水硬性セメント，細骨材に砂を用いたものをセメントモルタル，結合材に合成樹脂を用いたものを樹脂モルタル(レジンモルタル)などという。普通モルタルといえばセメントモルタルをさし，セメントと砂の調合割合は１容積：２〜３容積である。セメントと水だけでもかなりの硬化が得られるが，ひび割れしやすいことと作業しにくい欠点がある。〔船越　泉〕

モルッカ(諸島)［Moluccas］インドネシア東部，西イリアン(ニューギニア島西部)とセレベス島の間にある島群で，アラフラ海・バンダ海・セラム海・モルッカ海を分けている。面積85,286km²。主島は北部のハルマヘラ島。中世以来ヨーロッパとの間の香料貿易で知られ，16世紀にはスペインとポルトガル，少し遅れてイギリスが香料貿易によって富を築いた。しかしオランダはスペインとポルトガルを駆逐し，イギリスはアンボイナ島に後退し，1621年には香料貿易はオランダの東インド会社による独占となった。17世紀末にオランダの博物学者ランピウスが，18世紀にはイギリスの博物学者ウォレスが，ここに生息する少数の哺乳(ほにゅう)類，こん虫特にチョウ類，鳥類がこの地方独特の種類であることを発見し，生物地理学上注目を集めた。近世以来キリスト教が普及し，F. ザビエル*は，16世紀にアンボイナ・テルナテ・ハルマヘラ・モロタイの諸島を巡っている。ココナツやサゴヤシを産するが，香料のチョウジ・ニクズクは今日ではあまり重要ではない。〔大崎　晃〕

モルトケ［Helmuth Karl Bernhard, Graf von Moltke］(1800〜1891) プロイセンの軍人。大モルトケとよばれる。デンマーク貴族の出身。1858年参謀総長となり，独自の方法で参謀制度を確立，その明晰(めいせき)な頭脳による緻密(ちみつ)な作戦計画によって，プロイセン-オーストリア戦争，プロイセン-フランス戦争を勝利に導いた。プロイセン陸軍の父といわれた。

モルトケ［Helmuth Johannes Ludwig von Moltke］(1848〜1916) ドイツの軍人。大モルトケの甥(おい)で，小モルトケとよばれる。1906年シュリーフェン(1833〜1913)のあとを継いで参謀総長に就任。1914年第１次世界大戦の勃発(ぼっぱつ)とともにシュリーフェン作戦*を実施したが，マルヌの戦い*でフランスに敗れまもなく辞任した。

モルナール［Molnár Ferenc］(1878〜1952) ハンガリーの劇作家・小説家。ブダペストにユダヤ系の医者の子として生まれ，知的な家庭環境に育った。青年時代にはジュネーブへ留学して法律を学んだ。帰国後，新聞記者をしながら多くの軽妙な短編を書いて人気を博した。少年小説《パール街の少年たち》によって国外にも広く知られたが，さらに戯曲《悪魔》と，彼の代表作であるブダペストの下町を舞台とした悲喜劇《リリオム》および《近衛兵(このえへい)》の舞台の成功で，たちまち国際的な流行作家となった。1920〜1930年代は彼の全盛期で，世界各国の劇場でモルナール劇が上演されたが，やがてナチスの圧迫を避けてアメリカへ移り，第２次世界大戦後ニューヨークで客死した。他に作品は《白鳥》《オリンピア》など。〔徳永康元〕

モルヒネ［morphine］ケシに含まれるアヘンアルカロイドの代表的なもので，麻酔性鎮痛・鎮静剤の一種。通常塩酸塩として医療に用いる。塩酸モルヒネは白色の結晶で味は苦い。服用により中枢神経を抑制し，強い鎮痛・催眠作用を示す。臨床では鎮痛・鎮静・止瀉(ししゃ)などに用いられ，特に手術前処置に応用される。悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・不快感などの急性中毒のほか，連用すると耐性を生じて習慣性となる(→モルヒネ中毒)。一時的に緊張をやわらげ，快楽感をもたらすので中毒症状を起こしやすい。モルヒネは麻薬*に指定され麻薬取締法によって製造・販売などが規制されている。→阿片(あへん)〔鈴木郁生〕

モルヒネちゅうどく【モルヒネ中毒】モルヒネ*の乱用によって起こる中毒。①急性中毒：100mg以上の注射をした場合，自殺に大量使用した場合などに起こる。悪心(おしん)・嘔吐(おうと)・めまい・顔面紅潮・妄覚(もうかく)・酩酊(めいてい)様興奮・発汗などの症状が現われ(興奮期)，次いで皮膚蒼白(そうはく)・知覚鈍麻・反射機能消失・昏睡(こんすい)・脈搏(みゃくはく)緩徐・瞳孔(どうこう)縮小・中枢麻痺(まひ)などが発現し(麻痺期)，呼吸中枢麻痺によって半日以内に死亡することが多い。死体では窒息*死に似た所見がみられる。治療としては，胃洗滌(せんじょう)，興奮剤・アドレナリン・抗モルヒネ剤などを投与し，呼吸が停止したときは，人工呼吸・挿管酸素吸入を施す。②慢性中毒：モルヒネを鎮痛薬として連用した際などに起こる。食欲不振・胃炎様症状・下痢または便秘・瞳孔(どうこう)縮小・感情鈍麻・めまい・頭痛・不眠などの症状が現われ，モルヒネを禁止した場合，禁断現象が現われる。注射常習者では，注射部位の皮膚の硬化，色素沈着・膿瘍(のうよう)・炎症などがみられ，死体では注射痕(こん)が多数あり，やせていて諸臓器の変性がみられる。治療は，近年では主として即時禁断療法が行なわれている。〔青木利彦〕

モルひねつ【モル比熱】分子熱ともいう。ある物質１モルあたりの熱容量*で，その物質の比熱と分子量の積に等しい。この場合比熱として定圧比熱をとるか，定容比熱をとるかで定圧モル比熱・定容モル比熱に区別される。

モルフォちょう【モルフォ蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・タテハチョウ科・モルフォチョウ亜科。中南米の代表的なチョウで，約30種が知られている。体は細いが翅(はね)は非常に大きく，雄は青色で金属光沢がある。雌はこれに比べてじみでかっ色や黄かっ色をしており外縁は黒く縁取られる。裏面はかっ色で，前後翅とも円紋が数個ある。成虫は年１〜２回の発生で11月から５月までの雨季に見られる。日中のみ活動し，林間の水辺の明るい場所や腐った果実・樹液に飛来し，花を訪れることはない。卵は半球形で比較的大きく，卵塊として産みつけられる。幼虫はマメ科・イネ科などの植物を食べ，色彩ははでで黒・赤・白・かっ色などの紋が混じっている。頭頂には１対の角があり尾端は二叉に分かれ，背側部には剛毛の束がある。終齢まで群生し，共同して巣をつくり，齢が進むと夜間摂食する

ようになり，昼間は木の枝に隠れている。
→チョウ　〔多々内修〕

モルボー［Louis Bernard Guyton de Morveau］（1737～1816）　フランスの化学者。はじめ法律を学び，裁判官となったが，1782年辞職。化学の命名法を企画し，ラボアジエ*らの協力を得てそれに系統性を与え，今日の命名法の基礎を築く。1794年理工科学校の創設に参加し，同校教授のち校長。フランス革命時には革命側に立ち，1792年国民議会の一員として活躍。

モルモット　⇨テンジクネズミ

モルモンきょう［モルモン教］　キリスト教の一派。正しくは〈末日聖徒のイエス-キリスト教会〉という。1830年ジョセフ-スミス(1805～1844)らによってニューヨークに創設されたが，迫害されてユタ州に移り，現在本部は同州ソルトレイク。聖典として〈聖書〉以外に《モルモン教典》を有する。これはBC600年にエルサレムからアメリカに移住した教徒の祖先が金板に記した文書を，4世紀の預言者モルモンが圧縮し，さらにスミスが発見して翻訳したとされている。〔石井忠厚〕

モレクトロニクス［molectronics］　モレキュラー-エレクトロニクスの短縮語。その思想は，従来ある回路をそのまま半導体内に持ち込むことにより機能を実現するのではなく，機能を半導体内に持ち込もうとする超小形電子技術。機能デバイスの考え方と同一種類のものとみることができ，半導体デバイスの次の段階の発展の方向を示すものであるとされている。半導体集積回路の初期の段階で，ウェスチングハウス-エレクトリック社から提案された。

モーレス［mores］　W.G.サムナー*の社会学用語。習俗慣習の意のラテン語に由来し，生活の必要性から生じたフォークウェーズ(集団慣習)のうち，生活原理まで高められ，それが守られなければ集団全体の福祉が害されて社会が存続しえないようなものを意味する。それゆえモーレスは，集団生活における個人の社会的態度・行為を規制する準拠枠(わく)(道徳・タブー)となり，これを逸脱する行動はきびしく制裁される。これが高度に発達して特殊な強制力をもつようになると，法あるいは制度が生まれる。

モレーン［moraine］　堆石(たいせき)・氷堆石などともいう。氷河によって運ばれた岩塊または岩片の集まりで，地層をつくらないもの。氷河の侵食作用によって削りとられた岩片は氷河の表面を運ばれ，ときには氷河の両側に沿い，縦列に並ぶ側堆石となり，氷河の末端では氷河の消失した地点を示しながら積みあげられて端堆石(終堆石)となる。一方，氷河の底部には氷食岩屑(がんせつ)，割れ目などから供給される表堆石物質が集まって底堆石となる。〔平山　健〕

モロー［Gustave Moreau］（1826～1898）　フランスの画家。パリの美術学校に学び，ドラクロア・シャセリオーらから強い影響を受けた。細やかな写実的手法とみごとな色彩で，神話や文学的主題を扱った作品を好んで描いたが，きわめて洗練されたその象徴主義的作品は，東洋への関心とあいまって，神秘的・瞑想(めいそう)的な幻想の世界を創出している。また，のちにパリ美術学校の教授として，ルオー・マチス・マルケらの逸材を世に出した〔松本芳夫〕

もろいまこと［諸井誠］（1930～　）作曲家。東京の生まれ。作曲家諸井三郎の次子。父と池内友次郎に作曲を学び，1948年(昭和23)東京音楽学校に入学した。在学中に作曲した《ピアノ-ソナタ第1番》ですでにその才能を認められていた。1952年に卒業後本格的な作曲活動にはいり，《ピアノのための組曲》《無伴奏フルートのためのパルティータ》《管弦楽のためのコンポジション》《ピアノのためのαとβ》などを発表したが，これらの作品は国内・外国のコンクールや音楽祭に入賞し，広く国際的に認められた。12音技法やミュジック-セリエルなどの影響を受け，緻密(ちみつ)で厳格な作曲法を確立した。1956年には黛敏郎*(まゆずみとしろう)とともに日本における最初の電子音楽《7のバリエーション》を発表し，以後，20世紀音楽研究所の所員として，日本の前衛音楽運動を精力的に進めた。さらに1960年代にはいると日本の伝統音楽に興味をもち，《竹籟(ちくらい)5章》《対話5題》など尺八のための作品を発表している。〔船山　隆〕



モロコ　ホンモロコ

モロカイ(島)［Molokai］　アメリカ合衆国，ハワイ州に属する島。ハワイ諸島中央部にあり，面積670km²，人口約5,000(1960)。島は山がちで，島民はパイナップルをつくり，牛を飼育している。中心地は北岸のカラウパパ。

もろこ［諸子］　硬骨魚類・コイ科・モロコ属の淡水魚の総称。多くは流れのゆるやかな小川・池・沼などにすむ。タモロコ・ホンモロコ・イトモロコ・スゴモロコ・デメモロコなどのモロコ類から，シナイモロコ・ヒナモロコ・カワバタモロコなどのようにまったく違った属のものにもモロコの名がある。体長6～7cmの小形魚。またモツゴ*をモロコという地方もある。食用になるものも多い。

もろこし［唐黍］　単子葉植物・イネ科・ソルガム属の大形一年草。アフリカ原産といわれているが，はっきりしない。日本には古くから渡来し，湿地に強いため河原や湿地に植えられる。茎は直立して分枝せず，中実の円柱形で，高さ1.5～3mほどになり，10数個の節がある。分蘖(ぶんけつ)力は弱く，下部の節から出た木化した不定根で茎をささえる。葉は互生し，長大で先はとがって下垂し，基部は葉鞘(ようしょう)となる。夏，茎頂に長さ20～30cmの円錐(えんすい)花序をつける。花穂は密に分枝し，5mmほどの小穂が密生する。小穂は各節に3個つき，そのうち1個は無柄の両性小穂で，他の2個は有柄の雄穂である。果実は扁平(へんぺい)な穎果(えいか)で，白・黄・かっ色・赤かっ色・黒色に熟する。このほか，中国に古くから栽培されているコウリャン，茎が糖分を含む甘茎種のサトウモロコシ，花穂が著しく分枝して長く，これをほうきやブラシに用いるホウキモロコシ，アメリカで栽培されているマイロなどがある。食用・飼料用として利用され，子実は酒・もち・菓子に，茎は敷物や製紙原料に用いられる。〔横井朝子〕

モロぞく［モロ族］　フィリピンのイスラム教諸族の総称。スペイン人は北アフリカのイスラム教徒をモロとよんだが，同名称をフィリピンのそれに与えた。さまざまな種族を含むが，モロ文化ともいうべき共通文化をもつ。おもな分布地帯はスル諸島，ミンダナオ島中央南部であり，かつてはフィリピン全域に勢いがあったが，4世紀間のスペイン人との抗争で衰微し，現在は人口60～70万人程度。

もろたぶねしんじ［諸手船神事］　美保(みほ)神社*の神事行事。オオクニヌシノカミからコトシロヌシノカミへの〈国譲り神話*〉に基づく神事で，古代の刳船*(くりぶね)にかた



諸手船神事　2隻の諸手船が湾内で漕ぎ比べる神事

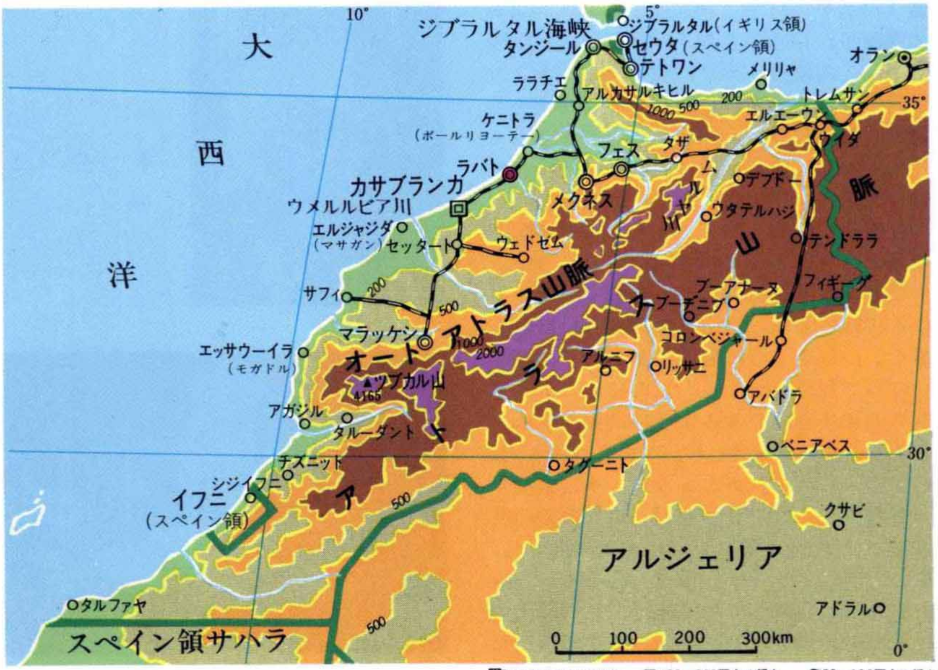
どった２隻の縦製(もみせい)の諸手船が出る。氏子の中から神籤(みくじ)で選ばれた18人の楫子(かこ)，真劔(まつか)持ちなどが楫(かい)を左右に１本ずつ持ち，２隻の船に分乗してこぎ出し，美保湾内の客人(まろうど)山下で船を止めて，オオクニヌシノミコトを祭る客人神社を拝む。国譲りに擬した応答祝言の儀式があって，再び２隻が湾内にこぎ出し，こぎ比べながら大きく２周して終わる。
〔直江広治〕

モロッコ(王国) ［Kingdom of Morocco, Royaume du Maroc, Al-Mamlakat al-Maghribiyat］ アフリカ北西端にある王国。北はジブラルタル海峡を境として地中海と大西洋に臨み，東と南はアルジェリア，西はスペイン領サハラに接している。面積44万5,050km²。人口2,024万(1978年推)。首都ラバト。

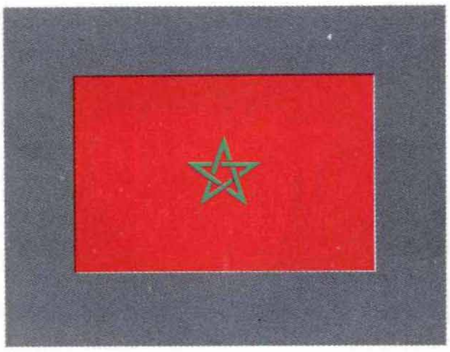
【自然・住民】国土の脊梁(せきりょう)をなすアトラス山脈は北東～南西に走り，北・中・南の３条の山脈列をつくっている。このうち中部山脈が最も高峻でツブカル山(4,165m)などがそびえ，北西アフリカの屋根を形成している。山脈の北および西は起伏のゆるやかな丘陵から平野に移り，南はサハラ砂漠(さばく)に連なる高原になっている。降水量は山脈の北西側と南東側では著しく異なり，大西洋の湿気は冬季に山脈の北西斜面に豊富な降雨をもたらすが，南東斜面にはほとんど降らない。北岸の平野はこの雨と河川とによって潤い，山脈の南東山麓(さんろく)ではオアシスが発達している。住民はベルベル人を中心とし，次いでアラビア人が多く，ほかにニグロやユダヤ人もかなり住み，これらの混血も多い。ヨーロッパ人ではフランス人が多く，約40万を数える。国教はイスラム教。公用語はアラビア語だが，フランス語・スペイン語も用いられる。

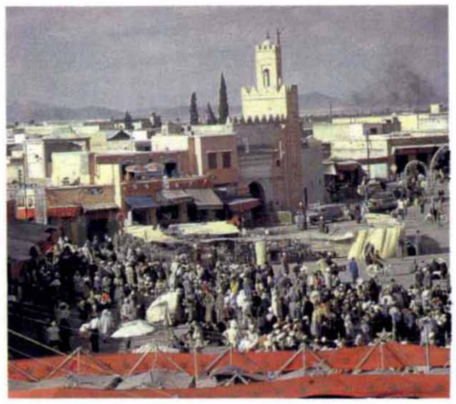
【産業・経済】北岸の平野では農業が行なわれ，大麦・小麦・柑橘(かんきつ)類・オリーブ・ブドウを栽培する。内陸ではオアシスを中心にナツメヤシをつくり，また遊牧が行なわれる。また鉱業も重要で，リン・マンガン・鉛・スズ・亜鉛・銅・石炭の埋蔵が豊富で，産出量も多い。中でもマンガンは世界有数の鉱床をもち，フランス系資本で開発されている。フランスはアトラス山脈北西部の豊富な水を利用して水力発電所を建設し，鉱産物の精錬を行なっている。一方，ジュウタン・金属細工などの伝統的な手工業も盛んである。

【歴史・政治】古くから地中海に面する軍事上の要地で，古代フィニキア・ローマの支配を受けた。７世紀にアラブ人が進出，のちイスラム諸王朝が栄えた。19世紀半ばからフランス・スペインなどの侵略が始まり，20世紀初頭にはヨーロッパ列強の争奪の場となった。1912年フランスはフェス協定によってスペインとともにモロッコを分割し，モロッコ王国の大部分を保護国とした。1956年３月フェス協定満了により，フランス領モロッコが独立し，翌月スペイン領モロッコを併合，同年10月国際管理下にあったタンジールを加えた。独立後，専制君主制をとったが，1962年12月国民投票により新憲法を制定，立憲君主国となった。元首である国王のもとに一院制の議会をもつ。外交はアメリカ合衆国をはじめ自由主義諸国との協調を保ちながら，ソ連とも友交関係を保っている。
〔小栗　宏〕



モロッコ


モロッコの国旗　起源はアラウィー現王朝の17世紀ごろの旗が赤旗だったことに由来している。1912年，〈スレイマンの星〉とよばれる緑の星が加えられ，1962年憲法体系が確立されて公式に確認された


モロッコ　西部内陸の中心都市マラッケシの町の広場。モスクのそびえる広場には商店や露天が軒を並べ，人々で雑踏している

モロッコじけん【モロッコ事件】 20世紀初頭，モロッコ分割をめぐる国際紛争。1905～1906年の第１次事件をタンジール事件，1911年の第２次事件をアガディール事件という。

1 タンジール事件：モロッコで優越するフランスに対抗して，1905年タンジール訪問中のドイツ皇帝ウィルヘルム２世がモロッコの領土保全・門戸開放を要求，フランス・ドイツ関係は緊張したが，翌年のアルジェシラス会議*でフランスに有利に解決。

2 アガディール事件：モロッコでのフランスの優位を確認したアルジェシラス会議に不満をもつウィルヘルム２世は，モロッコの内紛を機に，1911年軍艦をアガディール港に派遣したため，再び国際緊張が高まったが，11月ドイツがフランス領コンゴ北部を割譲される代わり，フランスのモロッコ保護国化を承認，危機は収まった。
〔折井一彦〕

モロトフ ⇨ペルミ

モロトフ［Vyacheslav Mikhailovich Molotov］(1890～　) ソ連の政治家。本名スクリャービン。ビャトカ県の生まれ。1906年入党し，カザン・モスクワ・ペテルブルグなどで革命運動に参加し，党機関紙《プラウダ》などの編集に携わった。十月革命*にはペトログラードの革命軍事委員として参加。1921年党中央委員，同書記，1926年同政治局員。ブハーリン派との闘争に重

要な役割を果たす。1930年ソ連邦人民委員会議議長，1939年外務人民委員，連邦閣僚会議第1副議長。第2次世界大戦中および戦後のソ連外交を指導した。1949年閣僚会議第1副議長専任，1953年再び外相となる。1956年第20回党大会後〈反党グループ〉に参加して，1957年失脚した。〔山県弘志〕

もろみ【醪】 酒・しょうゆなどの醸造の際に，麹(こうじ)，ダイズまたは米，食塩・水などを混和(仕込み)し，発酵を行なっている状態のもの。しょうゆの場合は諸味と書く。これをさらに熟成させたのち，濾過(ろか)して製品をつくる。このほか，もろみをそのまま食用できるように調製することもあり，もろきゅう(キュウリにつける)などに用いられる。➔しょうゆ ➔日本酒

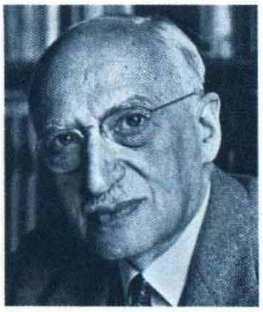
もろやま【毛呂山(町)】 埼玉県南西部，秩父(ちちぶ)山地東麓(とうろく)にある入間(いるま)郡の町。人口29,000。1939年(昭和14)毛呂・山根両村が合併して町制施行，1955年川角村を合併，1957年坂戸町の一部を編入した。桂木(かつらぎ)のユズが特産で，ほかに野菜・シイタケ・コンニャク・木材を産し，最近は養鶏が盛んになった。西部の山地は黒山県立公園に含まれ，鎌北(かまきた)湖は東京近郊の行楽地として親しまれる。南部には〈新しき村〉がある。八高線・東武鉄道越生(おごせ)線が通じる。

モーロワ［André Maurois］(1885～1968) フランスの伝記作家。本名エミール-エルツォーグ。はじめ《愛の風土》《宿命の血》などの心理小説で名をなしたが，小説的な伝記文学や歴史書にその才能を発揮。その代表作に《シェリー伝》《バイロン伝》《ジョルジュ-サンド伝》《ユゴー伝》《イギリス史》《フランス史》などがある。アランの影響を深く受け，モラリスト的評論《生活の技術》を書いた。

もん【門】 生物の分類単位の一。最も大きな単位で，動物界・植物界を大別している。動物は約16門，植物は約15門に区分される。

もんがく【文覚】 生没年不詳。平安末期から鎌倉初期の真言宗の僧。俗名は遠藤盛遠。上西門院の北面の武士であったが，誤って源渡の妻袈裟(けさ)御前を殺して出家した。熊野(くまの)で修行し，のち京都高雄に登って神護寺の退廃を嘆き，再興を発願して四方に勧進を募った。後白河(ごしらかわ)上皇の離宮に強訴して騒乱を起こし，伊豆(いず)に流罪となったが，その地で源頼朝(よりとも)の知遇を得た。神護寺を復興，東寺を修理したが，のち佐渡，さらに鎮西(九州)に流された。〔玉山成元〕

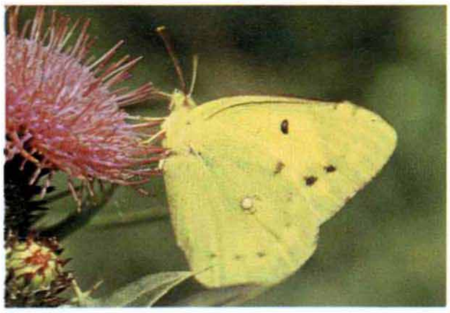
もんかげろう【紋蜉蝣】 こん虫類・カゲロウ目・モンカゲロウ科。体長15～17mm，前翅(ぜんし)長15～18mm，尾長30～34mm。体は淡黄かっ色。翅(はね)は透明で暗黄色，翅脈は太く黒かっ色，前翅中央部に顕著な暗かっ色の斑紋(はんもん)がある。尾は3本で黄



モーロワ



モンガラカワハギ



モンキチョウ

かっ色。雌はやや大形で，体・翅ともにやや淡色。また亜成虫は成虫よりも全体的に白っぽく，翅もやや不透明で，尾も短い。北海道・本州・四国・九州のほか朝鮮に分布する。成虫は4～6月に出現し，低山地および山地に見られ，雄は夕暮れどきに渓流(けいりゅう)上を優美に群飛する習性がある。燈火にもよく飛来する。幼虫は，山地の渓流や低山地の流れに生活し，細長い円筒形で，じょうぶな脚を使って砂泥(さでい)を掘る。近似の種が数種ある。➔カゲロウ

もんがらかわはぎ【紋柄皮剝】 硬骨魚類・モンガラカワハギ科。全長30cmほどの海産魚。体は卵形で側扁(そくへん)し，体表はかたくざらつく。第一背びれ3棘(きょく)，第二背びれ25軟条，臀(しり)びれ22軟条。地色は暗かっ色で赤みまたは青みをおび，体の下方に淡青色の大きい数個の円形の斑紋(はんもん)がある。口辺は赤黄色。南日本から太平洋の熱帯部，インド洋・大西洋に分布し，サンゴ礁域に多い。

もんがれびょう【紋枯れ病】 イネの病気の一。葉鞘(ようしょう)・葉・穂首に発生し，病斑(びょうはん)は初め暗緑色で不正形，のちに2～8cmの楕円(だえん)形または雲形となり，中央は灰白色，周辺は暗かっ色・暗緑色となる。病斑上に暗かっ色の菌核を生じ，これが土中で越冬し，翌年の伝染源となる。防除法は被害わらの除去，雑草とその上の菌核の焼却，窒素肥料の過用と密植とを避けるなど。薬剤では有機ヒ素剤の施用などが有効であるが，人に有毒性なので，注意を要する。〔渡辺 実〕

もんきちょう【紋黄蝶】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さ50mm内外。翅は黄色で，前後翅とも外縁部は黒く縁取られ，この中に数個の黄紋がある。また前翅の中央に黒紋が1個，後翅の中央に銀色の円紋があり，周囲にかっ色の輪がある。雌は2型あり，黄色のものと白色のものがある。この色彩は遺伝子により支配され，北海道では90％以上が白く，南に行くほど黄色の雌が多くなり，地理的勾配(こうばい)(クライン)が認められる。モンシロチョウとともに最も普通なチョウで，3月から11月ごろまで，暖地で年4～5回，寒地で年2回の発生をみる。幼虫は緑色でクローバー・ウマゴヤシ・カラスノエンドウなどのマメ科植物を食べる。成虫で年を越すと考えられ，オツネンチョウの名がつけられたこともあったが，実際には幼虫で越冬する。日本全土に広く分布し，国外では中国・台湾・朝鮮・ヒマラヤ・インドなどに知られている。近似種にミヤマモンキチョウがあり，高山チョウの一つで浅間山と北アルプスに分布する。〔多々内修〕

モン-クメールごぞく【モン-クメール語族】 語族として立てずモン-クメール諸語ともいう。その場合，オーストロ-アジア語族に属する一下位言語群となる。このような流動性は比較言語学的に系統分類上の決定的根拠がまだ立てられていないことによる。モン-クメール語族はかつて大陸部からインドシナ半島にかけて広く分布していたが，今日，その間にはいりこんだビルマ語・タイ語などによって寸断され，島のようにして連なる。音声・接辞・語順・文法的小辞などの類似から次の諸言語が含められる。西から東へ，①インドのアッサム地方のカシ語，②インド洋上のニコバル諸島語，③ビルマのサルウィン川中流流域のパラウン語・ワ語・リアン語，④ビルマのサルウィン川河口のモン語(タライン語とも)，⑤メコン川中流流域のモイ語・カー語，⑥カンボジア語(クメール語ともいう)，⑦カンボジア・ラオス国境のブニャル語などのほか，⑧マライ半島山岳地帯のサカイ語も孤立して存在する。〔崎山 理〕

もんこかいほうせいさく【門戸開放政策】 20世紀初頭のアメリカ合衆国の対中国政策。アメリカはスペイン戦争までは海外進出に消極的であったため，中国進出でもヨーロッパ列強に立ち遅れていた。この劣勢を挽回し，中国市場への割り込みを画

すため，1899年国務長官ヘイ*は関係諸国に通牒(つうちょう)を送り，清(しん)国の門戸開放，産業的・商業的機会均等の2原則の遵守を要請。1900年義和団の乱*後，第2次通牒で清の領土保全の原則をも加えた。ヘイの門戸開放通牒はアメリカの一方的宣言であったが，1922年ワシントン会議で中国に関する九か国条約*として国際的に承認された。ロシアや日本の満州への進出，日本の対華21か条要求などはこの政策への侵害とみなされ，満州事変*は九か国条約違反として第2次世界大戦後の極東国際軍事裁判*で裁かれた。〔折井一彦〕

モンゴメリー ⇨モントゴメリー

モンゴル(人民共和国)〔Mongolian People's Republic, Bughud Nairamdakh Mongol Arat Ulus〕アジア北東部の内陸にある社会主義国。北はソ連のシベリア地方，東・南・西は中国に接する。面積156万5,000km²。人口167万(1978年推)。首都ウランバートル。

【自然・住民】国土は全般に高原状をなし，平均高度は標高1,580m。西部には中国との国境を走るアルタイ山脈，さらに国内を北西～南東に走るハンガイ山脈があり，その間の盆地には内陸湖が点在している。東部には中国内モンゴル自治区のフルン(呼倫)湖に注ぐケルレン川，ソ連のバイカル湖に注ぐセレンガ川などが流れ，ステップになっているが，南部には広大なゴビ砂漠(さばく)が広がり，また北部のシベリアに接する地域には，森林も見られる。大陸内部に位置するため気温の変化が激しく，ウランバートルの平均気温は7月には17.2℃になるが，1月には－24℃となる。雨量は南部で200mm足らず，北部でも200～300mm程度である。住民の90%以上はモンゴル人で，かつての元帝国の後裔(こうえい)である。ほかに中国人・ロシア人が少数いる。人口は，1921年の革命前は年々減少を続けていたが，医療・衛生の改善などにより，その後約40年間で2倍にふえた。言語はモンゴル語を用いるが，1942年以降ロシア文字に似た新文字を用いている。宗教は，かつてはラマ教が大きな勢力をもっていたが，今日ではその権力を失っている。

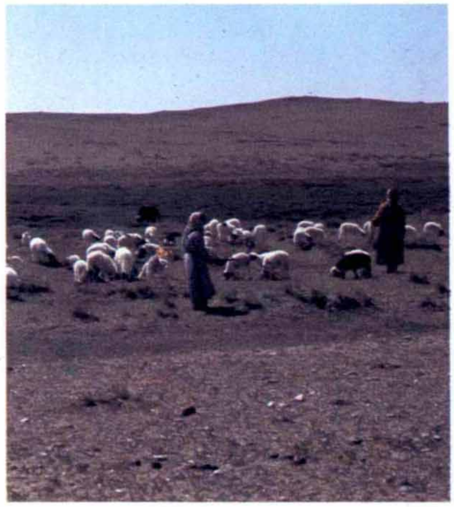
【産業・経済】主産業は牧畜で，ヤギ・ヒツジ・ウマ・ウシ・ラクダなどを飼育し，羊毛・肉類・バター・チーズなどの畜産品は輸出額の95%を占めている。近年4回に及ぶ5か年計画による給水設備，牧草栽培などを行なうことによって遊牧民を定着させ，牧畜コルホーズの建設が進められている。農業は牧畜に比べるとまだ遅れており，国営農場を中心に穀物・野菜をようやく自給できるまでになった。近年は工業，特に畜産加工に重点が置かれ，さらに鉱山開発，化学工業にも着手しており，かつての単純牧畜国家からしだいに脱皮しつつある。鉱業ではナラハイ炭田などの石炭産出のほか，鉄鉱や石油なども開発されている。交通はウランウデ(ソ連)～ウランバートル～集寧(中国内モンゴル自治区)を結ぶ鉄道が縦貫し，自動車道やセレンガ川の水運，中ソ定期航空路などが開かれている。

【歴史・政治】古く強大な勢力をアジア大陸に有したモンゴル帝国*は，始祖ジンギス汗が1227年に没したのち，オゴタイに引き継がれて成長を続け，1271年には元となったが，1368年には帝国は滅亡し，以後は明(みん)・清(しん)に支配されて中国の属領となった。しかし20世紀にはいって独立運動が進められ，1911年活仏ボクド-ゲゲンを元首とする自治政府をつくったが，ソ連の援助による人民革命党が1921年に革命を起こし，1924年に人民共和国の樹立を宣言し，1940年には社会主義建設をめざす新憲法を発布した。1961年国際連合に加盟した。政体は社会主義国家で，最高議決機関は人民大会で年1回招集される。閉会中は人民大会幹部会が代行し，モンゴル人民革命党が唯一の政党である。外交政策ではソ連と最も密接な関係にあり，1966年に友好・協力・相互援助条約を結んでいる。〔別技篤彦〕



モンゴル


モンゴルの国旗 1921年の独立戦争のころの旗に由来する。赤は古くから歓喜と勝利の色とされ，青は不変の大陸と献身・忠誠を表わすとされている。左の図柄はソヨンボとよばれる民族的形象で，繁栄・復活・向上を表わす火，太陽と月，前進・協力・防衛・正直を表わす棒状の飾り，陰陽の機微を表わす巴などからなり，その上に，社会主義国の国旗に共通する黄色い星が載っている


モンゴル モンゴル高原のヒツジの放牧。広大な自然の草地を利用する租放的な遊牧形態はいまも残っている

モンゴルおんがく【モンゴル音楽】モンゴルの音楽は大きくみれば東アジア音楽の一部であるが，楽器およびレパートリーの多くに西アジア・チベット・漢民族などからの影響がある点でユニークである。モンゴルの楽器として一般に有名な馬頭琴(キルクール，2弦擦奏)は，実際にはアラビア系統のものであるし，三弦*・胡琴(こきん)・箏(そう)・洋琴・洞簫(どうしょう)・哨吶(さない)・笙(しょう)・篳篥(ひちりき)・鼓など東アジア全般に共通の中国系統の楽器も多い。レパートリーの大部分は声楽で，5音音階が圧倒的に多く，リズムは日本の追分*によく似た自由リズムのものと，固定リズムによる有節形式の民謡とがある。〔山口 修〕

モンゴルご【モンゴル語】アルタイ語諸族の一流派。多くの方言に分かれているが，その中心はハルハ方言で，一般にモンゴル語といえばこのハルハモンゴル語をさす。人口に比して語域は広く，モンゴル人民共和国，ソ連のブリヤートモンゴル自治共和国，中国の内モンゴル自治区などで話されている。他のアルタイ系言語同様に膠着(こうちゃく)性言語で，形態的分類上膠着語

とよばれる。すなわち，名詞の曲用や動詞の活用の際に語幹は変化せず，一定の語尾を付して変化するのである。語法は日本語にきわめて類似しており，母音調和*を行なうという音韻特徴をもつ。モンゴル人民共和国では1942年の文字改革以後，それまでのモンゴル文字に代わって，ロシア文字(→キリル文字)をもって書写する新文字が使用されているが，新文字施行後，口語と文語の距離が急速にせばまった。文献資料としては，13世紀の《元朝秘史》，17世紀の《黄金史》《年代記》《蒙古(もうこ)源流》などが著名。しかし，その他の文献資料を含めてわが国に所蔵されているものは非常に少ない。〔荒井伸一〕

モンゴル語の文例

あるとき，北風と太陽が，どちらが強いか言い争っていました。《イソップ物語》から

ネゲン	ウドゥル	ホイティン	サルヒ
Нэгэн	өдөр	хойтын	салхи
ある	日	北の	風(が)

ナルタイ	マルガルダジ	ベイジェー
нартай	маргалдаж	байжээ.
太陽と	論争して	いた

ビッド	ホヨルィン	フン	フネース
Бид	хоёрын	хэн	хэнээс
われわれ	ふたりの	だれ(が)	だれより

チャダルタイ
чадалтай?
能力がある(か)

モンゴルぞく【モンゴル族】広義には，モンゴル語系の民族(モンゴロイド*)を意味し，歴史上，柔然族・契丹(きったん)族などがある。一方，狭義のモンゴル族とは，唐代にフルンボイル方面にいた蒙兀(もうこつ)で，これから出たジンギス汗がモンゴル帝国*を建設して，当時モンゴリアに遊牧していたトルコ語系を含む諸部族を吸収して以来，彼らはすべてモンゴルの名でよばれるようになり，ついに広義と狭義のモンゴルの名称が合致して，その住地を広くモンゴリアと称するに至った。〔若松 寛〕

モンゴルていこく【モンゴル帝国】1206年，ジンギス汗*が建国した帝国。首都は外モンゴルのカラコルム。モンゴルを中心に，東は満州，西は南ロシアに達する領域を支配した。ジンギス汗がその4子に分け与えた領土を基礎として，のちにキプチャク・チャガタイ・オゴタイ・イルの4汗国が成立した。モンゴルを本拠とする宗家は，ジンギス汗(太祖)に次いで，2代オゴタイ(太宗)・3代グユク(定宗)・4代モンケ(憲宗)を経て，5代フビライ汗(世祖)に至って元を称し(1271)，南宋(なんそう)を滅ぼして中国を統一した。フビライの即位に反対したアリクブカ・カイヅの反乱を契機として，4汗国は完全に独立し，モンゴル帝国は分裂した。モンゴル帝国の治下に東洋と西洋の交通はその面目を一新し，西アジアおよびヨーロッパの商人は，陸路中央アジアから天山南路を経て，もしくはシベリアの南部から天山北路を経て，遠くその販路をカラコルム・北京(ペキン)に開き，またペルシア・インドと中国との間における海上交通もひんぱんを加え，江南の泉州・福州の諸港は当時世界第1の貿易場となり，外国人の来住する者も多かった。イタリアのマルコ-ポーロ*，アフリカのイブン-バツータ*らが中国に来たのも，モンゴル帝国時代のことで，日本の国名がはじめて西方に知られたのもこの時代に属する。この時代に，西方の天文学・数学・砲術・キリスト教などが中国に移入され，中国の羅針盤(らしんばん)・活版印刷術などが西方に伝えられた。〔若松 寛〕

モンゴルフィエ(兄弟)［Joseph Michel Montgolfier, Etienne Jacques Montgolfier］(1740～1810)，(1745～1799) フランスの発明家。製紙業を営んでいたが，プリーストリの空気の性質についての著書にヒントを得，兄弟協力して軽気球の製作を志す。1783年リンネル製の気球に，木くずやわらを燃して熱した空気を詰めて最初の成功を収め，同年11月にパリでピラトル-ド-ロジェその他を乗せて，人類初の昇空に成功した。学界から認められぬため，1784年水圧ハンマーの発明を行ない，これにより科学アカデミー会員として認められ，兄は科学研究に従事した。〔加藤邦興〕

モンゴルもじ【モンゴル文字】13世紀初頭ウイグル文字*を借用してモンゴル語*を表記したのが起源である。最初は字の形もウイグル文字のままであった(ウイグル式モンゴル字とよばれる)。いわゆるモンゴル旧文字は17世紀にウイグル文字を改良し，18世紀に最終的に固定したものである。ローマ字*やアラビア文字*などと同じく，表音文字であり，縦書きにして左から右へと行を進める。同じ音素を表わす字でも，頭位形・中位形・末位形の三つの字形をもっている。1942年モンゴル人民共和国ではロシア文字の字母を用いる新文字を考案し，現在では教育をはじめすべての印刷刊行物がこの新文字によって行なわれている。〔荒井伸一〕

モンゴロイド［Mongoloid］アジア・アメリカ大陸に主として分布する中身長，広鼻，かっ色の目，かっ色から黒のこわい直毛，サフラン色から黄かっ色の皮膚色をもつ，体毛の薄い人種。

①北蒙古(もうこ)人種：満州・シベリア東部・モンゴリア・トルキスタンに分布する中身長，中鼻，こわい直毛，短頭，突出する頬骨(きょうこつ)，高い頻度(ひんど)で出現する蒙古皺襞(すうへき)，黄色い皮膚などの特徴をもつ。②中央蒙古人種：朝鮮・中国・チベット・タイ・ビルマに分布する中身長，中頭，中鼻，黄色い皮膚をもつ。③南蒙古人種：中国南部・ビルマ・タイ・インドシナ・チベットに分布する低身長，短頭の人種。④エスキモー人種：シベリア東端・アラスカ・カナダ・グリーンランドに分布。低身長(158～164cm)，こわい直毛，蒙古皺襞の頻度が高く，皮膚は黄かっ色。〔鈴木 尚〕

もんし【門歯】⇨歯

もんした【紋下】人形浄瑠璃(じょうるり)芝居の一座の代表者の称。櫓下(やぐらした)ともいう。番付で劇場の紋の下にその名が記されたことに由来する。通常太夫(たゆう)がこの地位を占めたが，まれには人形つかい・三味線(しゃみせん)ひきがなったこともある。

もんじのごく【文字の獄】中国，清朝(しんちょう)の漢人抑圧策の一つで，思想・言論を統制したもの。特に朝廷の政治を論評・誹謗(ひぼう)した者，反満人の言論をなした者，明朝(みんちょう)滅亡の経過を論じた者に対する処罰は苛酷(かこく)をきわめ，康熙(こうき)・雍正(ようせい)・乾隆(けんりゅう)帝の時代に続発した。この政策は清朝時代の学問の傾向に大きく影響し，明末清初の史実を埋没させた。

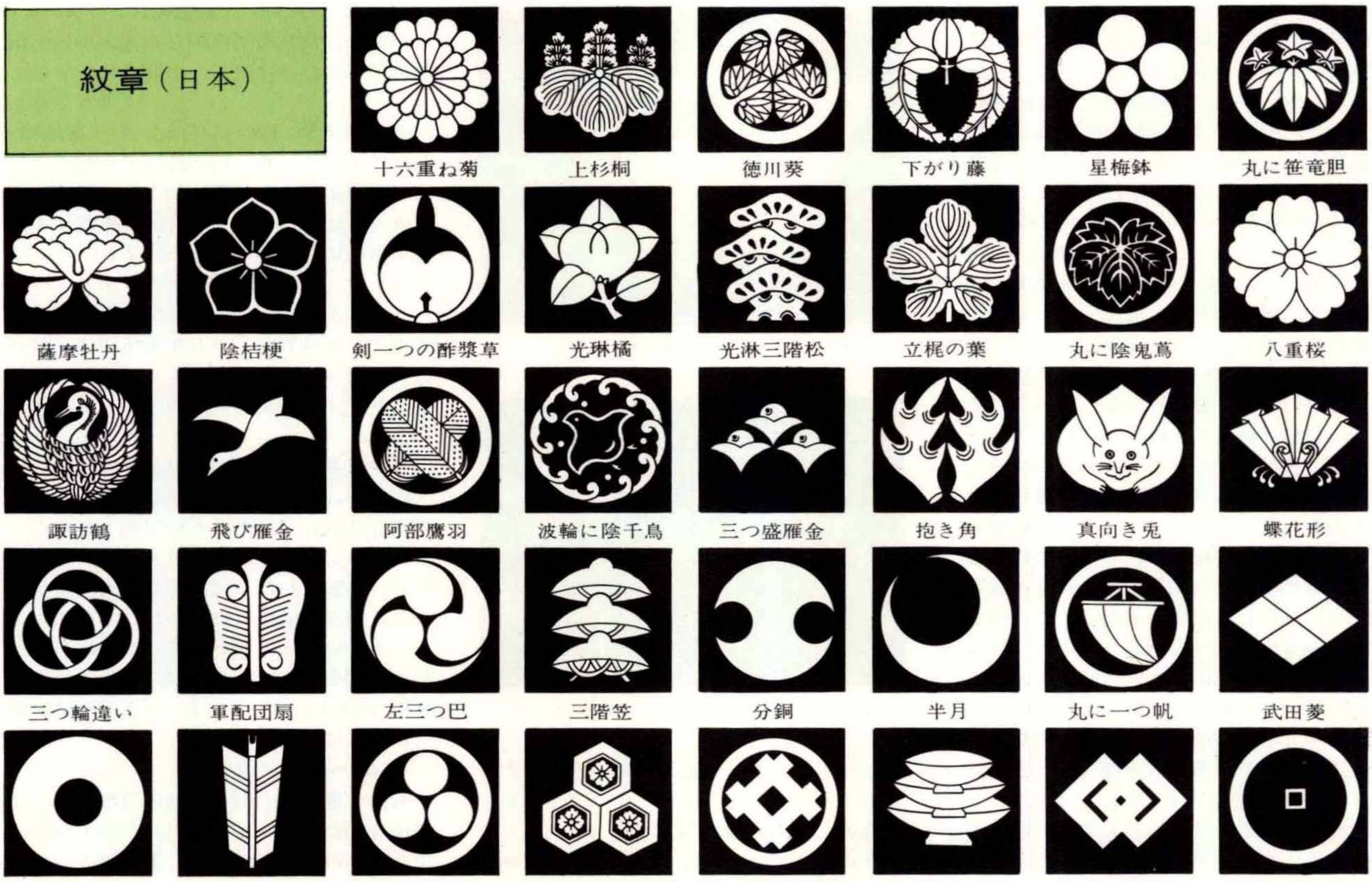
モンジュ［Gaspard Monge］(1746～1818) フランスの数学者・技術者。ボーヌで行商人の子として生まれた。幼少よりその才をうたわれ，16歳でリヨンの学校の物理学教師となった。その後メジエールの陸軍工兵学校に入学，築城問題を幾何学的方法で解明した。これが画法幾何学の創始となり，1771年認められて同校の数学・物理学教授となった。1792年革命政府の海相，1794年エコール-ポリテクニクの創立に尽力，初代学長となった。1796年ナポレオンのエジプト遠征に従軍，エジプト学会を創立した。その後，曲面の解析的研究から微分幾何学や偏微分方程式論などに大きな業績を残した。〔下平和夫〕

もんじゅぼさつ【文殊菩薩】梵語(ぼんご) Mañjuśrī(マンジュシュリー)の音写で，妙吉祥・法王子などとも訳される。大乗仏教の代表的な菩薩で，悟りの智恵(ちえ)を象徴する。多くの仏典に実在の人物のごとく記され，般若*(智恵)を示して人々を教化したと伝えられる。のちに多くの場合に普賢菩薩*と並んで釈迦(しゃか)仏の左脇(ひだりわき)に侍し，智恵の猛威を表わした獅子(しし)に乗る姿をとる。わが国では711年(和銅4)法隆寺に文殊像が安置されて以来大いに広まった。〔北条賢三〕

もんしょう【紋章】家がらや諸団体などの標識として図案化された表章。

【日本】日本の紋章の発生は，平安中期の公家(くげ)社会にみられる。平安時代，公家の牛車が参内・物見などの際，車争いにならないように標識として用い，また正装である束帯の袍*(ほう)に文様を織り込ませた。これらの紋は各自の好尚(こうしょう)に合った文様を用い，織物系統のものが多く，繊細・優美で装飾文様の要素が濃い。その後，紋

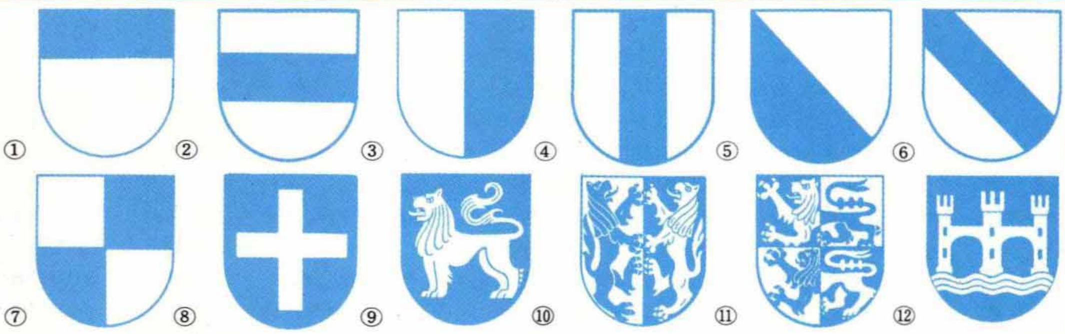
紋章（日本）



十六重ね菊　上杉桐　徳川葵　下がり藤　星梅鉢　丸に笹竜胆
薩摩牡丹　陰桔梗　剣一つの酢漿草　光琳橘　光淋三階松　立梶の葉　丸に陰鬼蔦　八重桜
諏訪鶴　飛び雁金　阿部鷹羽　波輪に陰千鳥　三つ盛雁金　抱き角　真向き兎　蝶花形
三つ輪違い　軍配団扇　左三つ巴　三階笠　分銅　半月　丸に一つ帆　武田菱
蛇の目　一本矢　丸に三つ星　三つ盛花菱亀甲　丸に角立井桁　三つ盃　違い釘抜　裏一文銭

（西洋）





紋章の構成要素
①王冠　②盾　③盾持ち　④巻き物　オーストリア　ベルベデーレ宮殿　18世紀前半

紋章の基本名称
①チーフ　②フェス（中帯）　③ペール（縦筋区画）　④ペール（縦筋）　⑤ベンド（斜帯区画）　⑥ベンド（斜帯）　⑦クォータリ（四分）　⑧クロス（十字）　⑨ライオン，ステータント（立脚）　⑩ペール，ライオン２頭，コンバタント（争闘）　⑪ペール，ライオン２頭，パッサント（歩行）　⑫アーチ２つの橋

章は家紋として武家社会に発達した。源平合戦には，源氏は白旗，平氏は赤旗を軍旗としたが，鎌倉幕府が成立してからは，白旗は源氏の嫡流が用い，家人は白旗にさまざまの文様をつけてそれと区別した。武士は戦闘の際その働きを敵味方に識別させ，軍功を評価させるために紋章を必要とし，旗・幕・武具に紋をつけた。家紋として用いられるようになったのは鎌倉中期以降で，それも定形化して世襲したものではなく，当時の流行文様を各自の好みに変形くふうして用い，佐々木氏の目結紋，足利（あしかが）・新田（にった）氏らの引両紋などのように簡明な幾何学文様が多い。その後応仁（おうにん）の*乱前後になると一族が分裂抗争し，紋章も個々の家単位に分かれて変形紋が派生し，それが家紋となって急激に増加した。さらに戦国時代にはいって集団戦が一般的になると，個人の功績を顕示することが特に必要となり，幟（のぼり）・馬印・指物（さしもの）・幌（ほろ）などに家紋がつけられ，戦陣に用いられるところから，図案も縁起を重んじ，禁厭（きんえん）・祈願の意味をもつものが多くなった。そのころから家紋はその人の権威を象徴するようになり，大名は勲功により家紋を家臣に下賜する一方，同紋を家臣が勝手に用いることを禁じた。江戸時代になって武家社会は格式化し，家紋は家系や家格を表示する目印として重要度を増し，《御紋尽（づくし）》などの書籍も刊行されるようになった。裃（かみしも）など服制上の衣服をはじめ，駕籠（かご）・調度類から提燈（ちょうちん）・印籠（いんろう）にまで家紋がつけられ，図様も左右対称の整ったものに様式化された。武家紋は，公式の場合には定紋，非公式の場合には替紋が用いられるのが通例で，替紋には一般に共用される蔦（つた）や花菱（はなびし）が使われた。江戸中期には，町人間に歌舞伎（かぶき）役者の紋を衣服につけて着ることが流行し，やがて町人の紋が創意豊かな発達をみせた。武家紋の硬化した意匠に比べて，町人の紋は自由に既成の紋章をくずして再構成した

り，判絵解(はんじえとき)ふうの図様を案出したり，庶民的な題材を意匠に取り入れたりして，崩紋(くずしもん)・比翼紋・伊達(だて)紋などを生んだ。明治時代，封建諸制度が廃止されるに及び，家紋の社会的意義は激減し，礼服は和服から洋服に代わり，第2次世界大戦後は家の観念も薄れて家紋はその内容を失い，冠婚葬祭に一部の人が紋付きを着るにすぎない現状となった。紋章の種類は約2,800種を数えるが，現行のものは100種くらいであろう。図様は天文・地理・植物・動物・建造物・調度・文字・文様など多様であるが，中でも桐(きり)・菊・蔦(つた)・笹(ささ)・桔梗(ききょう)などの植物が多く用いられている。特異な紋は江戸時代の替紋が大部分である。普及しているものには鷹(たか)の羽・井桁(いげた)・鱗(うろこ)・源氏車・鶴(つる)などがある。〔高崎徳次〕

【西洋】西洋の紋章は，12世紀のはじめ，十字軍に参加した諸侯や騎士たちの武器・武具に描かれた模様から起こった。盾(たて)や冑(かぶと)・剣・旗，鞍(くら)などの馬具，テントなど，模様の描かれた武器・武具の範囲は広かったから，それにつれて図案も，盾の輪郭を図案の輪郭線とした盾形や，同じように冑形あるいは冑飾付冑，さらにはテント・外套(がいとう)の形をしたものまで，多種多様であった。中でも盾形と冑形が最も多く，盾形の上に冑形を乗せるというように，この両者を結合した図案もあった。紋章の使用は，はじめは自由であったから，騎士やその一族郎党はもちろん，中世になって独自の権能を唱えるに至った自治都市や，その中心勢力であった市民も紋章を用いた。また，上は国王・都市から，下はギルド的な学生の自治団体や，都市周辺の農民まで用いていた。さらに本家から分家した場合に，本家の紋章に星やひもをつけて区別したり，あるいは結婚などの場合に両家の紋章を半分ずつ切り合わせるなど，紋章は非常に分化・複雑化していった。中世後期には，この複雑化した紋章を研究する紋章学が盛んとなり，またそれを記録した紋章鑑が発達した。国王や領主のもとには紋章官が置かれ，特許状を交付して紋章使用の権利を保護することも行なわれた。

紋章の形状を盾形の場合について述べると，まず盾を佩帯(はいたい)している者の側から見て，右腹・左腹・頭・へそ・足など，場所によって部位の名称が異なる。また1個の盾を図案化しただけでなく，同心円的に，盾を二重・三重にした形のものもある。部位をくぎる分割線にも，直線や曲線・ジグザグ線などがある。分割の方法は，直線で縦に真二つにくぎる縦割，縦に三つにくぎる2回縦割や，同じように横にくぎった横割・2回横割，あるいは面積の広狭による分割などをはじめ多くの方法がある。図案化された物象には，人物や，ユリ・バラなどの植物，ワシ・ライオンなどの動物，あるいは道具や，それらを組み合わせたものなどさまざまである。〔桜木　庚〕



モンシロチョウ



モンステラ　モンステラ-デリシオーサ

もんじょうどう【文章道】律令(りつりょう)制下の大学の一学科。はじめは本科(のちの明経道*)の小分化であったが，奈良前期にしだいに独立し，728年(神亀5)文章博士(はかせ)，翌々年には文章生20名が置かれて文章道が発足した。教科内容は《文選*(もんぜん)》《爾雅*(じが)》を読み，文章を習うもので，8世紀末より隆盛に向かい，9世紀にはいると紀伝道(歴史科)をも合わせ，博士の地位も明経博士を追い抜いたが，それもやがて菅原(すがわら)・大江両氏に独占されるに至った。➔大学寮〔黛　弘道〕

もんしろちょう【紋白蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さは45～65mm。翅は白色で，基部に黒色鱗粉を散布し，前翅端は黒色，中央に2個，後翅前縁に1個の黒色斑紋(はんもん)がある。裏面は淡黄色。雌は暗かっ色をおび，春に出現する個体は黒色鱗粉の発達弱く，ときに無紋白色のものもある。各地の田野に最も普通の種で，九州南部では2月初旬，関東では3月下旬，北海道では5月から出現し，暖地で年7～8回，寒地で2～3回の発生をみる。成虫はダイコン・ヒメジョオン・アザミ・キク・アブラナなどその季節の花に集まるが，7～8月の盛夏には一時急激に数が減少する。卵はキャベツ・ハクサイ・ダイコンなどの食草の葉裏に1個ずつ産まれる。幼虫は緑色で橙黄(とうおう)色の側線をもち，さなぎで越冬する。日本全土に分布し，国外では北半球の温帯地域・オーストラリアに普通である。繁殖力が強く，日本では最近沖縄の八重山群島に侵入して定着しつつある。近似種にスジグロチョウがあり，食草の関係から本種が平地・田園地帯に多いのに対し，山間部に見られる。〔多々内修〕

モンステラ［*Monstera*］単子葉植物・サトイモ科の一属。約30種ほどが熱帯アメリカに原産する。観葉植物として温室で栽培されるが，八丈島では戸外で生育する。最も普通に栽培されているのはモンステラ-デリシオーサで，和名をホウライショウ・デンシンランなどという。これはメキシコ・中央アメリカ原産のつる性多年草で，長さ数メートルに達し，茎は太くて気根を出す。葉はサトイモの葉に穴をあけたような形である。

モンスニ(峠)［Mont Cenis］フランス南東部，アルプス山脈南西部にある峠。標高2,084m。イタリアとの国境8kmのところにある。古くからアルプス越えの要衝とされ，歴史上しばしば軍隊の移動が行なわれた。現在の道路は1803～1813年にナポレオン1世によって開かれた。この峠の南西25kmに同名のトンネル(長さ13.6km，1871年開通)があり，フランスとイタリアを結ぶ鉄道が通じている。

モンスーン　⇨季節風

もんぜき【門跡】寺院の資格の一。元来は寺院の主僧をさしたが，宇多天皇が仁和(にんな)寺に出家してから，御門跡というようになり，居住する人によって区別されるようになった。親王の居住する寺院を宮門跡というが，出身者によって摂家門跡・清華門跡などといい，門跡に準ずる寺院を准門跡(脇(わき)門跡)といったが，1868年(明治1)に廃止され，のちに私称を許された。天台宗・真言宗・浄土宗・浄土真宗などには，現在も門跡がある。〔玉山成元〕

もんぜん【文選】中国，六朝(りくちょう)時代梁(りょう)の昭明太子蕭統(しょうとう)(501～531)の編集した詩文集。30巻。春秋時代から六朝の梁までの作者130人(うち女2人，偽託とされる者3人)の詩歌文章，作者不明の古詩，古楽府(がふ)などを39種の文体別に収める。故事の引用と辞句の推敲(すいこう)，形式と修辞との美しさに重点をおいて選択しているが，内容にも配慮を怠っていないので，選ばれた作品はすぐれたものが少なくない。後世の詩文集に多大の影響を与えたばかりか，唐時代は特に重視され，文選学(略して選学)が起こったほどである。日本には推古朝に伝わり，奈良・平安時代を通じて日本の漢文学をはじめ日本文学全般に影響を与えた。〔今村与志雄〕

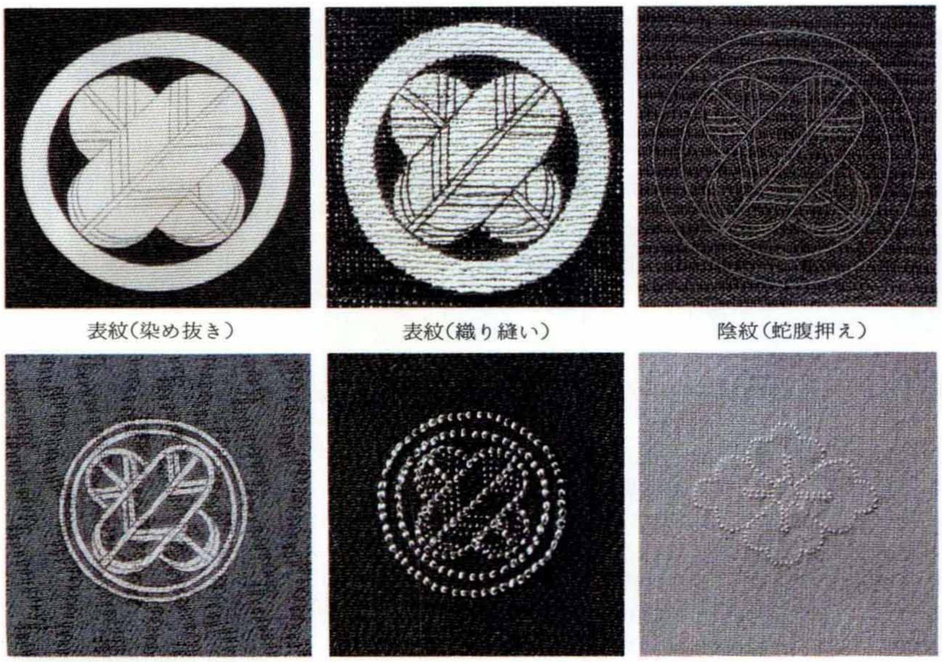
もんぜんまち【門前町】室町時代，大寺社の門前に発達した都市。中世の大寺社には多数の神職・僧侶(そうりょ)が居住したため，人口が集中し市場が発達した。また参詣人(さんけいにん)のための商店・旅宿・休憩所も営まれたため，各地にしだいに都市が形成された。伊勢(いせ)神宮のある宇治山田(三重

県)，延暦(えんりゃく)寺のある坂本(滋賀県)，春日(かすが)大社・興福寺のある奈良，善光寺のある長野などはその例で，中世の京都も洛中(らくちゅう)至るところの寺社の門前が市街化し，京都全体が門前町の複合をなした。近世にはいると有名な寺社には遊覧の参詣者が増加し，観光都市的な性格をもつ門前町が各地に発展した。下総(しもうさ)(千葉県)新勝寺のある成田市，讃岐(さぬき)(香川県)金刀比羅宮(ことひらぐう)のある琴平町などはその典型で，現在も門前町の景観を保って繁栄を続けている。➔寺内町　〔高崎徳次〕

モンぞく　**【モン族】**　ビルマのイラワジ川河口のデルタ地帯とタイに分布する少数民族。人口はビルマに約35万，タイに約65,000。背が低く，短頭。言語はビルマ人と異なり，モン-クメール語族*のモン語を用い，独自の文字をもつ。インド文化やヒンズー教の影響を早くから受け，いくつかの王朝が興亡した。

モンタージュ　［montage］　映画用語。視覚的リズムや物語上の連続，さらにはある意図された意味内容を実現するために行なわれる，撮影されたフィルム断片の結合をいう。モンタージュということばは，〈組みたてる〉という動詞からつくられ，もともと建築用語で，れんがを積み重ねるようにフィルム断片を組み立て，独自の作品世界をつくり上げると考えられた。結合されるまえのフィルム断片は，現実の対象を機械的に模写したものにすぎないが，作者の主観的な意図に基づいた結合が行なわれることによって，現実とは異なった映画的世界が創造されるのである。このモンタージュを映画芸術の基礎であると考えたのは，1920年代のソ連の映画作家たちであり，中でもエイゼンシュテイン*は結合の法則を探究することによって，いわゆるモンタージュ理論をつくり上げた。彼の場合，モンタージュは単なる断片の結合ではない。ABという二つの断片の結合は，個々の断片のもつ意味とは異なった，Cという新しい意味をつくり出すと考えられた。個々の断片は，したがって新しい意味を生むための材料にすぎない。クレショフ*の実験が示すように，一つのフィルム断片は，次にくる断片によってその意味が異なるとすれば，個々の断片は意味的には〈中性〉であるということになる。中性である断片を意味的にするための結合の法則，結局それがエイゼンシュテインにおけるモンタージュである。こうしてモンタージュは映画における文法と考えられるに至ったのであるが，現在ではこうしたモンタージュ論に反対する人々も多い。なお，警察などの犯罪捜査において，犯人の顔写真を類似した他人の顔写真の断片から合成していくものを，モンタージュ写真*とよぶ。　〔浅沼圭司〕

モンタージュしゃしん　**【モンタージュ写真】**　合成写真のこと。一般には警察用語として，氏名不詳の犯人や写真のない容疑者について，犯人を見かけた者や面接者らから犯人の顔の特徴を聞き出し，犯人像を作成し，写真にしたものを意味する。日本では帝銀事件*の捜査にモンタージュ写真を使用したのが最初であるが，現在は頭・髪・目・口・耳・鼻・顔などの形状についての分類の研究が進み，正確な犯人像が描き出せるようになった。　〔井上公耳〕



表紋(染め抜き)　表紋(織り縫い)　陰紋(蛇腹押え)

陰紋(染め抜き)　陰紋(絞り縫い)　輪なし陰紋(けし縫い)

紋付き　紋の表わし方

モンタナ(州)　［Montana］　アメリカ合衆国北西部，カナダと国境を接する州。面積37万7,000km^2，人口69万4,000(1970)。州都ヘレナ。1889年11月に合衆国41番めの州となった。西部はロッキー山脈の山地で，その面積は全州の40%を占め，東部はグレートプレーンズ*の西部をなす高原が占める。州名はラテン語で〈山が多い〉の意。東部では農業が盛んで，小麦の栽培とウシ・ヒツジなどの牧畜が行なわれ，小麦・大麦の生産高は全国第3位。西部の山地は銅・亜鉛・金・銀・マンガン・石油などの鉱産資源に富み，特に銅は全国第3位で世界的産地の一つとされ，マンガンは全国一の生産額をあげている。工業は林産加工業が最も盛んで，金属業・食品加工業がこれに次いでいる。主要都市，グレートフォールズ。　〔桐村大彬〕

モンターレ　［Eugenio Montale］　(1896～1981)　イタリアの詩人。詩集《コウイカの骨》で名声を得，ウンガレッティ*とともに現代イタリア詩の源流となった。その詩の特徴は，さまざまな新しい技法を駆使して，内的世界の純粋さを表現しようと試みたことである。代表的な詩集は《機会》《嵐(あらし)》，その他》など。

モンタン　［Yves Montand］　(1921～　)　フランスのシャンソン歌手・映画俳優。イタリアのモンスマノの生まれ。本名イボ-リビ。1923年，一家はファシストに追われてマルセイユに移り，1926年フランスに帰化した。幼いころから波止場(はとば)人足などとして働き，1939年イブ-モンタンの芸名でデビュー。はじめはカウボーイ姿でウェスタン調の歌をうたった。1944年パリへ進出し，ピアフ*の知遇を得る。彼女の忠告でレパートリーを変え，大成功を収めた。《バルバラ》《辻(つじ)馬車の馭者(ぎょしゃ)》《ガレリアン》《オランピア劇場リサイタル》でディスク大賞を受賞。1946年の《夜の門》以降，映画に出演して俳優としても人気を高め，1952年《恐怖の報酬》でスターの座を確立した。1962年来日。　〔永田文夫〕

もんちゅうじょ　**【問注所】**　鎌倉・室町幕府の機関。鎌倉幕府では訴訟裁判の事務を管掌し，1184年(寿永3・元暦1)設置。長官を執事と称し，初代執事に三善康信*(みよしやすのぶ)が任命され，以後三善氏およびその子孫である町野・太田(おおた)氏が世襲した。1249年(建長1)引付衆*の設置後，御家人の所領関係の訴訟(所務沙汰(さた))は引付衆に，刑事関係の訴訟(検断沙汰)は侍所*に移管され，金銭関係の訴訟(雑務沙汰)と一般訴訟の受理に限られるようになり，その権限は縮小した。室町幕府では，裁判権が侍所に移ったので，主として記録・証文の保管をつかさどるにすぎなくなった。〔高崎徳次〕

もんつき　**【紋付き】**　紋服。家紋をつけた羽織・長着の礼装。中世では，武家は家紋を麻布の直垂*(ひたたれ)につけ，大紋とよんだ。この紋は大きく，背縫い目，後ろ袖幅(そではば)の縫い目，前袖付け止まりの合計五つつけ，袴(はかま)には後ろ中央，前幅の縫い



モンティセリ《マルセーユの市場》

目，相引き上部に染め付けた。素襖*(すおう)にも同様につけたが，袴の紋は相引き止まりと後ろ腰のみであり，裃*(かみしも)は肩衣(かたぎぬ)の背と胸，袴には後ろ腰につけた。また男子の胴服*にもつけ，特に羽織に五つ紋をつけることが室町時代に始まり，現代まで続いている。五つ紋付きは，背紋はえり付けから5.5cm下がり，袖紋は後ろの袖山から7.5cm下がって袖幅の中央，抱き紋は肩山から15cm下がって胸幅の中央につく。その後長着にもつけるようになり，女子の長着も男子と同じ五つ紋をつけ，男女ともに近代の礼装となった。女子の紋付き羽織は略式で，三つ紋か一つ紋に限られる。

紋には地色に白で染め抜いた正式の表紋(日向紋(ひなたもん))と，紋の輪郭を細い線で表わした略式の陰紋(三つ紋または一つ紋にする)とがあり，近代の女物には円形の輪郭を省いてやさしい感じにした輪なしもある。このほか円形またはひし形の輪郭の中に下部半分に紋を表わしたのぞき紋，色をさしたり鶴亀(つるかめ)などの文様を紋にしたりする加賀紋，定紋とは関係なく，図案化された各種の模様をつけた伊達(だて)紋，二つの異なる家紋を半分ずつ重ね合わせた比翼紋などがある。また紋の表わし方には，染め抜き・こくもち(既成の紋付きの白く丸く染め抜いた紋で，これに家紋を描く)・繍(ぬ)い紋(略式)・貼(は)り付け紋があり，繍い紋には織り縫い・絞り縫い・星縫い(けし縫い)・蛇腹(じゃばら)押え・色ぼかし・金銀ぼかしなどの縫い方がある。なお，紋の大きさは時代によって変化しているが，現今は小さく，男は直径4cm，女は2cm内外である。〔堀越すみ〕

モンティ［Vincenzo Monti］(1754～1828) イタリアの詩人・劇作家。神学校から大学法科に進むが，文学に専念。やがてローマ教皇庁に迎えられ，その影響のもとに詩《天地の美》や悲劇《アリストデモ》を，またフランス革命の残虐性を非難した長詩《バスビリアーナ》を発表。その後ナポレオンの動きなどによるイタリアの状勢変化につれ思想は変転した。言語学にもすぐれ，またホメロス*の《イリアス》の翻訳もある。

モンティセリ［Adolphe Monticelli］



モンテスキュー

(1824～1886) フランスの画家。初期には正確な描線による古典的手法によっていたが，ティツィアーノ・ワトーらから多くを学び，やがて微妙なニュアンスに富む色調に基づく独自の作風を確立した。題材には子どもや女性を好んで扱った。

モンディノ［de' Luzzi Mondino］(1270ごろ～1326) イタリアの解剖学者。ボローニャに生まれ，1290年ごろボローニャ大学を卒業。1306年同大学解剖学教授となる。イタリアではじめて人体解剖を実施し，解剖学講義を行なった。1316年《解剖学》を著わし，ベサリウス*の《人体の構造》(1543)が現われるまで，権威ある解剖学書として長くヨーロッパで使用された。

モンテカチーニ-エジソン［Montecatini Edison S. p. A.］イタリア最大の総合化学工業メーカー。多角経営で硫酸・塩素・アンモニアなどの化学品部門，ホタル石・パイライトなどの採鉱部門，アルミや鉛の金属部門，肥料・合成樹脂・ガラス・医薬品・合成繊維・染料・石油・建設・発電などの部門に分かれている。化学品で売り上げのよいものは無機フッ化物・合金鉄などで，特にドデシルベンゼンは国外市場に多く出ている。ほかに高真空・赤外線光学などの技術開発が進んでいる。わが国では昭和電工・三菱(みつびし)化成工業・三菱油化・住友化学工業などが当社から技術導入している。年間売上高28億4,000万ドル，従業員数16万3,000(1970)。〔氏家 尚〕

モンテカルロ［Monte-Carlo］フランスとイタリアの国境にあるモナコ大公国の首都。人口9,500(1969)。リビエラ海岸に臨み，ニース・カンヌと並ぶ観光・保養地。1878年創立の公営カジノ(賭博場(とばくじょう))が名高い。美しい港と多くのホテルがあり，観光客を集めている。

モンテクリスト(島)［Montecristo］地中海，チレニア海上のエルバ島南方40km，イタリア本土とコルシカ島の間にある小さな岩礁島。面積5.6km²。最高点は標高645m。デュマ(ペール)の小説《モンテ-クリスト伯*》がこの島を舞台に描かれていることは有名。第2次世界大戦まではイタリア国王の私有地で，渡り鳥の猟場になっていた。生産活動は行なわれていない。

モンテ-クリストはく【モンテ-クリスト伯】デュマ*(ペール)の長編小説(1844～1845)。無実の罪で孤島の牢獄に幽閉されていた青年ダンテスが，その孤島から脱出し，モンテ-クリスト伯と称して出世して，昔の敵に復讐(ふくしゅう)する物語。自在な想像力と雄大な構想のもとに主人公の情熱と行動が描かれ，世界的に名高い。日本では1901年(明治34)に黒岩涙香*が《巌窟王(がんくつおう)》として訳した。

モンテスキュー［Charles Louis de Secondat, Baron de La Brède et de Montesquieu］(1689～1755) フランスの思想家。ボルドー近郊ラ-ブレードで田舎(いなか)貴族の長子に生まれた。オラトリオ修道会士経営のジュイイの学校に学ぶ。1714年ボルドー高等法院判事，1716年伯父(おじ)が死んで，同法院院長およびモンテスキュー男爵の称号を受け継ぐ。1721年《ペルシア人の手紙》を匿名で出版，ペルシア人の口を借りて当時の絶対王政を批判・風刺した。1726年法官の職を退いてのち，まもなくオーストリア・ハンガリー・イタリアなどを旅行，イギリスに2年間滞在して，人情・風俗・制度に関する豊富な観察と経験を積み，1729年帰国。これらをもとに1734年《ローマ人盛衰原因論》，1748年《法の精神*》を著わした。彼の〈三権分立論〉はアメリカ合衆国憲法に影響を与えたが，後代へのより重要な貢献は，歴史的諸事件の原因を〈神の摂理〉にではなく歴史そのもののうちに求め，法律などの文化現象を社会的・歴史的諸条件との相関において考察した点にある。〔石井忠厚〕

モンテッソリ［Maria Montessori］(1870～1952) イタリアの女流教育家・女医。ローマ大学で医学を学び，その後障害児教育に従事。さらに実験心理学を専攻して《児童の家》と称する幼稚園を開設，遊戯や自由体操，各種の器具を用いる感覚訓練などを重視し，特色ある幼児教育を行なった。

モンテーニュ［Michel Eyquem de Montaigne］(1533～1592) フランスの思想家・モラリスト。ボルドー近郊モンテーニュの貴族の生まれ。父から自由な人文教育を受けつつ，6歳からボルドーのギュイエンヌ学院に学び，のちツールーズで法



モンテーニュ コンデ美術館蔵



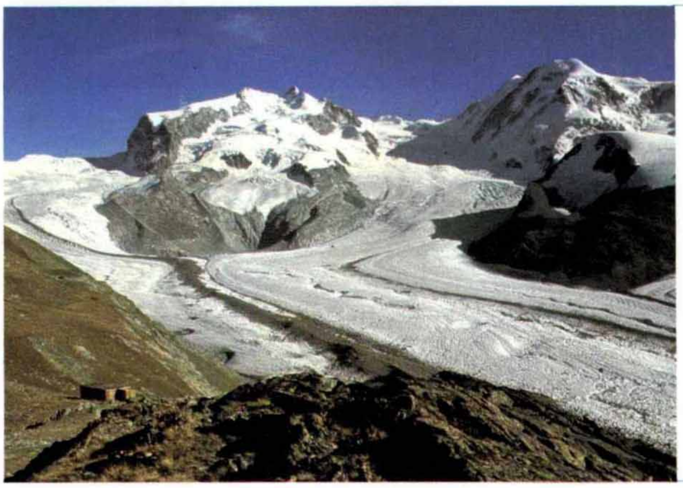
モンテビデオ モンテビデオ市の鳥瞰図。遠景右の入り江がモンテビデオ港で，左の広い海はラプラタ川の河口

律を学んだらしい。ボルドー高等法院参議となるが，1571年モンテーニュの城館に隠棲(いんせい)。《随想録》2巻を執筆し，1580年に出版した。同年イタリアに旅行し，《イタリア旅行記》を著わす。この旅行中ボルドー市長に選ばれた。1585年再び隠遁。新たに1巻を加え，《随想録》3巻の新版を1588年公刊。1590年アンリ4世の出仕の招きをうけたが辞退した。彼は近代的自我の確立者のひとりとして，またフランス-モラリストの源流として後世に大きな影響を与えている。〔石井忠厚〕

モンテネグロ ［Montenegro］ ユーゴスラビア連邦を構成する6共和国の一。同国南部に位置し，西はアドリア海に面し，南はアルバニアと国境を接する。面積13,812 km^2，人口47万2,000(1961)。人口密度は同国内で最も低い。主都はチトーグラード。ジナルアルプス山脈の南端部にあたり，東部には2,500m級の山々が連なる。牧羊業と林業が産業の中心。16世紀以降，1918年のユーゴスラビアの成立までは王国であった。〔梶川勇作〕

モンテビデオ ［Montevideo］ 南アメリカ，ウルグアイ共和国の首都。人口137万6,000(1973)。ラプラタ川河口に臨む貿易港で，同国の政治・経済・文化の中心をなす。1726年スペインの植民者によって建設され，地名は背後にある丘陵にちなむ。港からは牛肉・羊毛・皮革などの畜産物を輸出し，製粉・製紙・セメント・皮革などの工業も行なわれている。住民はスペイン系が最も多く，20世紀になってから移住してきたイタリア・イギリス系住民も多い。1726年に建設の起源を有し，1829年ウルグアイの首都となった。1849年創立の大学・博物館・バラ園などがある。〔小栗 宏〕

モンテベルディ ［Claudio Monteverdi］ (1567〜1643) イタリアの初期バロック時代の作曲家。クレモナの生まれ。同市の大聖堂の楽長インジェニェーリに約10年間師事。この学習期に伝統的な作曲技法に精通し，1587年および1590年にはすでに2巻のマドリガーレ集を出版している。マントバ公にビオール奏者として仕えた1590年以後1612年まではマントバ時代とよばれる。1602年には公爵の礼拝堂楽団の楽長となり，



モンテローザ山 北側から望んだモンテローザ(中央)。そのすそを流れるゴルナー氷河には，くっきりとモレーンの筋がつけられている

この時期の作品としては，5声のマドリガーレ集第3〜5集，初期バロックの代表的オペラ《オルフェーオ》(1607年初演)，《アリアンナ》(1608年初演，断片のみ現存)など，新しいスタイルであるフィレンツェの表現様式，通奏低音様式などによる感情表現の豊かなドラマチックな多くの作品，そしてコンチェルタート様式による彼の宗教音楽の代表作《童貞マリアの晩課》(1610)などが書かれた。1613年ベネチアのサン-マルコ大聖堂の楽長に任命され，古典的ポリフォニー様式を使用しながらも，全般的にコンチェルタート様式に基づく宗教音楽を生み出した。さらに，マドリガーレ第6集，コンチェルトと題された第7集，そして最後の第8集では規模はさらに拡大されて，種々の重唱や合唱・オーケストラなどをも使ったドラマチックな作風を示しているものも含んでいる。1637年ベネチアに最初の公開オペラ劇場が開かれると，彼もオペラ《オデュッセウスの帰郷》(1641年上演)や最大傑作であるオペラ《ポッペーアの戴冠(たいかん)》(1642)を書いた。彼はルネサンス後期からバロック初期という過渡期を身をもって生き，クレモナ時代にはポリフォニックなルネサンス的様式の作品を書いたが，その後，バロック初期のモノディー様式・表現様式・コンチェルタート様式などによって感情的表現にすぐれた劇音楽の作曲家となった。このような彼の音楽の変遷は，その九つのマドリガーレ集にはっきりと示されている。彼には10数曲の劇音楽があるが，現存しているのは6曲程度である。〔寺田兼文〕

モンテルラン ［Henry de Montherlant］ (1896〜1972) フランスの小説家・劇作家。第1次世界大戦従軍中に小説を書きはじめた。スポーツや男性的な力を謳歌(おうか)し，闘牛への強い愛着は小説《闘牛士》に結実。その傾向は代表作《若き娘たち》四部作で深められ，女性蔑視(べっし)の点でセンセーションを巻き起こした。劇作にも《死せる女王》《ポール-ロワイヤル》などの傑作があり，第2次世界大戦中のナチスドイツへの協力は批判されたが，戦後も文学的に高く評価されている。〔池田公麿〕

モンテレー ［Monterrey］ メキシコ北東部の都市。人口101万2,000(1969)。1960年以来鋼工業都市として発展し，この国の鉄鋼生産の75%以上を産している。セメント・ガラスなどの工業も盛んで，またビール生産地としても知られる。アメリカ合衆国との交通の要地にあり，首都メキシコシチーからテキサス州のサンアントニオに通ずる

鉄道に沿い，空港もある。

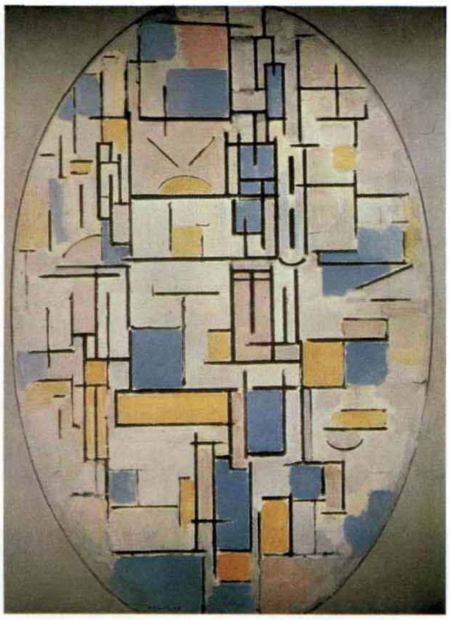
モンテローザ(山) ［Monte Rosa］ スイスとイタリアの国境をなすペニンアルプス山脈中の主峰。山頂部は10の峰からなり，その中の最高峰は4,638mである。山容は険しくはないが，多くの氷河が発達し，中でもゴルナー氷河は最大であり，北麓(ほくろく)の登山基地ツェルマットの近くまで流下している。1855年に初登頂がなされた。➔前ページ図

モンテンルパ ［Montin Lupa］ フィリピンのルソン島，マニラの南方25kmにある村。第2次世界大戦後，ここにある刑務所に日本人戦犯が多数収容されていたことで知られる。

もんと【門徒】 本来，同門の徒の意であるが，特に仏教で広く用いられた。平安時代には，天台宗で円仁(えんにん)の末流である慈覚門徒と円珍の末流である智証(ちしょう)門徒が激しく対立した。中世には，浄土真宗の下野(しもつけ)(栃木県)の高田門徒，常陸(ひたち)(茨城県)の鹿島(かしま)門徒，下総(しもうさ)(千葉県)の横曾根(よこそね)門徒，さらに越前(えちぜん)(福井県)の中野・鯖江(さばえ)・横越の3門徒がある。なお，天台宗などでは一門の僧徒を門徒というのに対し，浄土真宗では在家信者をさし，特に門徒宗といえば同宗をさす。

モントー ［Pierre Monteux］ (1875〜1964) フランスの指揮者。パリの生まれ。パリ音楽院を卒業後，バイオリン奏者として活躍，1907年にコロンヌ管弦楽団を指揮し，その後ディアギレフのロシア-バレエ団の指揮者となり，ストラビンスキーの《ペトルーシュカ*》《春の祭典*》などの問題作を初演した。1917年以降メトロポリタン歌劇場・ボストン交響楽団・サンフランシスコ交響楽団の指揮者を歴任，アメリカ合衆国の市民権を得ている。1961年にロンドン交響楽団の正指揮者となり，1963年(昭和38)同オーケストラとともに来日した。〔向坂正久〕

もんどうほう【問答法】 ギリシア語ディアレクチケーの訳。質問と応答の形式をとりながら相手の理解を深めさせたり，無知を自覚させたりする方法で，対話法ともいわれる。ソクラテス*はアテナイの街頭で人々に正しく生きることの自覚を促し，真の知識に到達させる真理探求のための方法としてこの問答法を用いた。相手の答えの中の矛盾を明らかにしながら，物事についての正しい概念規定を導き出すこの問答法は弁証法の原型である。また，彼は相手に教えるのではなく，むしろ相手が自分で真の知識を産み出す手助けをするのだとして，この問答法を〈産婆術〉ともよんだ。この問答法をさらに大きく発展させ，イデア認識のための学問的方法として確立したのがプラトン*であった。〔本橋正義〕



モンドリアン 《卵形の色面分割》 1914〜1915 ニューヨーク近代美術館蔵

もんとくてんのう【文徳天皇】 (827〜858) 名は道康。仁明天皇の第1皇子。母は左大臣藤原冬嗣の娘順子。842年(承和9)承和の変*により皇太子恒貞(つねさだ)親王が廃されたのち立太子。850年(嘉祥3)父天皇の没後即位。同年惟仁(これひと)親王(清和天皇)を皇太子とした。政治は母方の叔父(おじ)良房(よしふさ)にゆだね，857年にはこれを人臣最初の太政(だじょう)大臣*に任じた。なお，《日本文徳天皇実録*》は六国史*(りっこくし)の一。陵墓は京都市右京区の田邑(たむら)陵。〔黛　弘道〕

モントゴメリー ［Montgomery］ アメリカ合衆国，アラバマ州の州都。人口13万4,000(1960)。アラバマ川に臨み，家禽(かきん)と綿花の大集散地として知られ，また木製品・肥料・綿花工業も盛ん。南北戦争時には南部連盟の主都であった。

モントゴメリー ［Bernard Law Montgomery］ (1887〜1796) イギリスの軍人。1908年陸軍にはいり，第1次世界大戦に従軍。第2次世界大戦では1940年ダンケルク撤退作戦を指揮して成功。1942年第8軍司令官として北アフリカ作戦を指導，アラメーンにロンメル*の率いるドイツ軍を撃破，次いでシチリア・イタリアに進撃。1944年ノルマンジー上陸作戦にイギリス軍総司令官として活躍。戦後，西ヨーロッパ連合軍最高司令官となる。〔板橋重夫〕

モントヤ ［Carlos Montoya］ (1903〜) スペイン生まれのアメリカのギター奏者。近代フラメンコ-ギター奏法の確立者ラモン-モントヤの甥(おい)。マドリードのジプシーの生まれ。7歳でギターを習い，10代ですでに専門家として活躍した。1928年大舞踊家アルヘンチーナ*の伴奏者となり，世界各地で公演して好評を博した。1932年来日し，フラメンコ-ギターをわが国にはじめて紹介した。1938年ニューヨークに渡り，のちアメリカ国籍を得た。

モンドリアン ［Piet Mondrian］ (1872〜1944) オランダの画家。はじめ自然主義や新印象主義の影響を受けたが，1910年パリを訪れてドローネー・ピカソ・レジェらの作品に大いに刺激された。〈樹木〉の連作は，キュービスム美学への深い同化を示す。1914年ごろからしだいに抽象的傾向が著しくなり，水平と垂直の方向のみからなる純粋造形を追求，色彩も三原色のほかは白・黒・灰色に限られる。1917年ドースブルクらと〈デ-スティール*〉グループを結成。1920年〈ネオ-プラスティシスム〉を唱導。1940年ニューヨークに移り，同地で没した。〔岸野悦子〕

モントリオール ［Montreal］ カナダ南東部，ケベック州南端にある港市。セントローレンス川中のモントリオール島に位置する。人口121万4,000，大モントリオール232万(1972)。カナダ第1の大都市で，フランス語を話す都市としてはパリに次ぐ世界第2の都市。地名はフランス語で〈王の山〉の意。住民の3分の2はフランス系，20%がアングロ-サクソン系で，北アメリカでは国際都市的性格が最も強い。五大湖に通ずるセントローレンス水路の起点にあたり，



モントリオール セントローレンス川に臨むモントリオール港。1967年万国博の会場となったセントヘレナ島・ノートルダム島が見える

カナダの表玄関として運輸・貿易が盛んで，ロッテルダム(オランダ)に次ぐ世界第2の内陸港となっている。主要工業は精油・石油化学・化学・航空機製造・繊維・製糖・製粉・肉かんづめ・醸造などで，カナダにおける工業・商業・経済・交通の中心をなす。1967年，セントローレンス川中の二つの人工島上で万国博覧会が開かれた。モントリオール大学(フランス系)・マギル大学(イギリス系)・セントジェームス聖堂などがある。〔椙村大彬〕

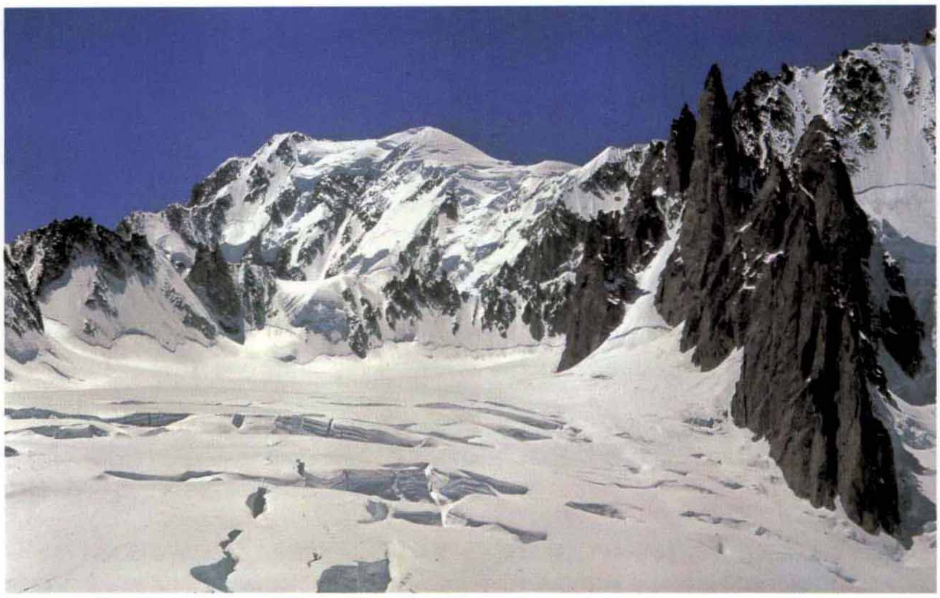
モンバサ ［Mom basa］ アフリカ東岸，ケニア南部のインド洋岸の港市。人口17万9,000(1962)。市街は大陸側とモンバサ島にまたがり，アフリカで最も美しい港の一つといわれる。ケニア国内をはじめ，ウガンダ・タンザニア北部地方の物資輸送の門戸をなし，首都ナイロビなど内陸とは鉄道で結ばれている。コーヒー・茶・綿・サイザル麻・スズ・ソーダ・牛皮・象牙(ぞうげ)などを積み出し，船舶修理，セメント・ガラス・せっけんなどの工業が行なわれる。1497年にバスコ-ダ-ガマ*が寄港し，ポルトガルとアラブが争ったが，19世紀後半イギリスに支配されて，1888～1907年まではイギリス領東アフリカの首都であった。〔小栗　宏〕

もんぱびょう 【紋羽病】 植物の病気の一。サツマイモ・クワ・果樹の根と茎の地ぎわ部の表面を病原菌菌糸が紫かっ色，厚い網状におおう紫紋羽病と，白色のちに灰かっ色の菌糸がおおう白紋羽病の2種がある。いずれでも植物は衰弱して枯れる。菌糸・菌核が土中で越年・伝染するので，本菌が寄生しないイネ科植物を数年間栽培して菌を死滅させたり，クロールピクリン・焼土などで土を消毒する。

モンパルナス ［Montparnasse］ フランスの首都パリ20区の一。モンマルトルと同様に小丘陵状をなし，ギリシアのパルナス山にちなんで，ルイ14世の時代にこの名がつけられた。セーヌ川の南岸にあり，1860年パリ市域に編入され，芸術家や外国人の居住者が多く，繁華街になっている。

モンフォール ［Simon de Montfort］ (1208ごろ～1265) イギリスの貴族・政治家。父はフランス人。イギリス王ヘンリー3世*によりレスター伯に任ぜられ，王の妹ペンブローク伯未亡人と結婚。王の専制政治に不満を抱く貴族たちを糾合し，政治の改革を要求してマグナ-カルタ*を確認させ，その具体策としてオックスフォード条令を承認させた。のちに王がこれを無効と宣告したため，内乱を指導して王を幽閉，王権を代行し，イギリス史上最初の議会を召集した。しかし，貴族の中にその行き過ぎを非難する声が高まり，これを利用し勢力を挽回(ばんかい)した皇太子エドワードに敗れ，敗死した。〔板橋重夫〕

もんぶしょう 【文部省】 教育・学術・文化の振興および普及を図ることを目的とする国の行政機関。1871年(明治4)設置。長は文部大臣。おもな権限は，①大学・高等専門学校の設置，教育・学術・文化に関する法人(学校法人)の認可，②教育委員会など地方公共団体の機関が扱う教育・学術・文化関係の行政に関する指導勧告，③都道府県知事が任命する教育長の承認，④国の宗教行政に関する事項などである。組織は内部部局として大臣官房のほか，初等中等教育・大学学術・社会教育・体育・管理の6局があり，外局として文化庁*・文化財保護委員会，付属機関として各地の国立大学をはじめとする国立諸学校のほか，日本学士院・日本芸術院・国立科学博物館・国立近代美術館・国立西洋美術館・国立国語研究所・中央教育審議会などがおかれている。〔寺尾方孝〕



モンブラン山 主峰モンブラン(中央)とシャモニーの針峰群。氷食でとぎすまされた文字どおり針のような峰々がそそり立つ



もんぺ ①裁付もっぺい(秋田県鹿角郡) ②かるさん(岐阜県・長野県) ③裾細(雪袴)の着用姿(山形県米沢地方)《雪況図会》より

モンブラン(山) ［Mont-Blanc］ アルプス山脈中の最高峰。標高4,810m。イタリアとフランスとの国境に位置する孤立峰で，大小のサン-ベルナール峠にはさまれたモンブラン山塊に属する。カコウ岩質の山で，イタリア側は急斜面であるが，フランス側は比較的ゆるやかである。氷河が発達し，アルプス最大のメール-ド-グラース氷河は北斜面を流下している。登山基地として名高いシャモニーはフランス側にあり，イタリア側にはアントレーブがあって，この両基地はケーブルカーで結ばれている。また，イタリアのクールマユールからシャモニーへは，モンブランの山腹を，1962年8月に完成した長さ11.6kmのトンネルで抜けて結ばれる自動車道がある。初登頂は，1786年フランス人のバルマとパカールの2人によってなされた。〔大石堪山〕

もんぺ 山袴(やまばかま)(農山村の労働用の袴の総称)の一種。かるさん・裁付(たっつけ)・ふんごみ・雪袴・猿(さる)袴・すねこでたち・もくらもっぺなどと同種。広く山袴と同義にも使い，股引*(ももひき)の語の転化したもの。山袴類の名称は多数あり，地方・用途・気



文　様　左から風景文，螺鈿南蛮文様，忍冬文，縠織三重襷文

候によって形も異なる。もんぺの名称は新しく，明治中期の裁縫書に見られるのみで，第２次世界大戦中は女子の防空着として全国的に着用された。戦後は農山村の女子に紺(こん)無地・絣(かすり)・縞(しま)などの綿布のものがはかれている。かるさん(伊賀(いが)袴)は〈軽衫〉などとも書き，ポルトガル語の転化したもので，近世初期に南蛮衣服から取り入れられた。ひざ下を脚絆(きゃはん)の形にしてすねに密着させ，ひざ下と足首をひもで締める。裁付は桃山時代から江戸後期に盛んにはかれたもので，かるさんと同形で，ひざ下のひものかわりに，後ろ足首のあきをこはぜ掛けにする。→袴

〔堀越すみ〕

もんべつ【紋別(市)】北海道北東部，オホーツク海に面する市。人口34,000。江戸後期から漁場が開かれ，1921年(大正10)の鉄道開通，1929年(昭和４)の紋別港修築などによって発展し，1954年市制施行。北東部はオホーツク海に臨み，北西部に渚滑(しょこつ)川，中央部に藻鼈(もべつ)川が流れる。海岸には直線状の砂浜が続き，コムケ沼・シブノツナイ沼などの潟湖(せきこ)がある。平地は少なく，市域の大半は400～500ｍ以下の低い山地で占められる。産業三大別人口比は17：33：50。渚滑川下流流域はジャガイモ・テンサイなどを産する農村地帯で，酪農が盛んである。紋別港は沿海および北洋漁業の基地となり，タラ・ホッケ・サンマなどの水揚げが多く，大手水産会社が進出して，かんづめ・冷凍などの水産加工も行なわれる。名寄(なよろ)本線から渚滑線を分岐し，国道238号線が通じる。紋別空港があり，横浜航空の札幌(さっぽろ)までの不定期便がある。藻鼈川上流の鴻ノ舞(こうのまい)鉱山も市域内に含まれる。コムケ湖畔に原生花園がある。

モンペリエ［Montpellier］フランス南部，地中海岸近くの都市。人口16万2,000(1968)。1829年創立の大学があり，ラングドック地方の文化・行政の中心をなす。また，絹やぶどう酒の集散地であり，繊維工業が盛ん。すでに13世紀から商業都市として栄えた。14世紀創建のベネディクト修道院，1593年アンリ４世創設の植物園など歴史的建造物が残る。

モンマルトル［Montmartre］フランスの首都パリ北部の地区。パリで標高の最も高い丘陵地に位置する。1875年建設の白亜の美しいサクレクール寺院を中心とした人口密集地区である。20世紀以降，著名な芸術家たちの居住が多く，またムーランルージュ*などのキャバレーがあることでも知られる。

もんみゃく【門脈】脊椎(せきつい)動物の血管系。各器官の毛細血管*の合流によってできた静脈が，心臓にもどる前，再び一部の臓器で分岐して毛細血管網をつくるものをさす。門静脈ともいう。腎(じん)門脈系・肝門脈系などがあり，前者は尾部からの静脈が腎臓内にはいって毛細血管網をつくるものをいい，哺乳(ほにゅう)類では胎児だけにある。後者は胃・腸・膵臓(すいぞう)・脾臓(ひぞう)・腸間膜から心臓に向かう諸静脈が肝臓にはいって毛細血管網をつくるものをいう。この門脈を流れる血液は静脈血ではあるが，胃や腸の粘膜から消化吸収されたタンパク質や糖質などの栄養物質が含まれている。→肝臓(図)　〔高野一雄〕

もんむてんのう【文武天皇】(683～707)　名は珂瑠(かる)。皇太子草壁皇子の子。母は阿閉(あべ)皇女(元明天皇)。697年(文武１)祖母持統天皇から皇位を譲られて即位。701年(大宝１)大宝律令*(りつりょう)を制定して律令国家体制を最終的に仕上げたが，706年(慶雲３)には早くもその一部手直しを試みている。政治に精励したが，707年わずか25歳で病没。そのあとは，子の首(おびと)皇子(聖武天皇)が幼少であったので，母が即位した。陵墓は奈良県高市郡明日香村(あすかむら)の檜隈安古岡上(ひのくまのあこのおかのえ)陵。

〔黛　弘道〕

もんめ【匁】尺貫法の重さ(正しくは質量)の単位。1/1,000貫。3.75ｇにあたる。

もんもう【文盲】基本的な初等教育，つまり読み・書き，算という，文字の習得・読解，計算の教育を受ける機会を奪われたため，成人しても通常な生活は一通りできていても，文字が読めず，書けない人のことをさしていう。アジア・アフリカ・ラテンアメリカの３大陸の場合には，列強帝国主義諸国の植民地支配のため，教育の機会を保障されず，放置されたためこの現象が発生している。今日，国連・ユネスコは，この文盲退治のため大きな努力を払っている。独立をかちえた国家も最大の教育政策として取り組んでいる。また，アメリカ合衆国では，黒人にこのような無教育者が相当存在し，黒人解放運動の重要な課題となっている。また，わが国は義務教育就学率100％を誇っているが，依然として未解放部落の人々の中には，就学の機会を奪われ，文字を読めぬ人も数多くいて，部落解放運動の発展の中で識字教育が進められている。

〔海老原治善〕

モンモリロンせき［モンモリロン石］含水ケイ酸塩の一種で，粘土鉱物の代表的なもの。一般的な化学式は$Na_{0.7}Al_2Si_4O_{10}(OH)_2 \cdot xH_2O$　土状として産する。硬度２～2.5，比重2.0～2.7，屈折率1.48～1.57，ふつう灰色・緑灰色・白色などを呈する。水にとかすと膨潤し，また陽イオン交換の性質がある。化学成分は一定でなく，鉄・マグネシウムに富むものをそれぞれノントロナイト・サポナイトとよぶ。ふつう火山灰の変質によって生ずる。特色ある物理性により重要な工業原料鉱物である。水中でゲル状の懸濁液をつくるのでボーリング用泥水(でいすい)の材料として用いられる。また可塑性を与えるため，鋳物の砂型の結合材として用いられる。　〔加藤敏郎〕

もんよう【文様】文様の字義についてみると，これには，模様・紋様・文様などの文字が用いられており，染物・織物・縫物・彫刻などに装飾としてつくり出される種々の形象・文・紋・花文・文理・紋様をさすとされている。近来，模様の文字が使用される場合が多いが，この文字の上に荒

れ・雨・晴などの文字を加えると気象関係の様相をさし，いわゆる純粋の文様の義とは別なものとなる。また，まれに紋様の文字が用いられるが，これは紋章の意と混同され，字面の印象も好ましくない。これらから，その内容，字義とも純粋にそのものの意に解される〈文様〉の文字を使用すべきものと考える。なお，ここでは日本の文様を対象とする点から，その特質を考慮しておく必要があろう。まず第1に，日本の地理・風俗・習慣をはじめ，もろもろの要素がその特質の成因に考えられるが，その一つとして，日本の置かれている位相が四方海に囲まれた島国であり，そこには四季それぞれにまったく趣の異なる情趣に富んだ風光があり，そこに居住する人々もそれらの微妙な変化に照応する繊細な神経をもっているため，それらの人々の所産である建築や美術工芸品・民芸品などが，それらの情感があふれた作品となることはいうまでもあるまい。特に，飛鳥(あすか)時代，仏教の渡来とともに請来された，中国・朝鮮などの文物の影響が濃厚であった黎明(れいめい)期の文様はさておき，平安時代後期に及んで藤原氏一門が時を得て権勢をきわめた時期に完成した，いわゆる和風様式の文様の確立によって，ここにはじめて日本人本来の好尚(こうしょう)が余すところなく，その光芒(こうぼう)を発揮してから以後，それぞれ時代による様式の変遷は当然のことながら，少なくとも江戸末期までは他国の作品には見いだしえない，和風様式の伝統は絶えることなく伝えられ，それらのあるものは現在に至るまで継続している。このような環境に生まれた日本の文様が，他国のものとその内容をことにし，波荒き大海の姿より，静寂をきわめた池表であり，重畳とした山岳よりも姿やさしい小山であり，雲を貫く大木の姿よりも，野に咲く名もなき花や，その花に舞う蝶(ちょう)の姿であり，外国の作品にしばしばみられるいかめしい体臭を放つ双頭・双脚の荒鷲(あらわし)のような姿よりも，可憐(かれん)な小鳥の姿を表わすことが好まれているのである。　〔毛利　登〕


M.モンロー

モンロー　［James Monroe］（1758～1831）　アメリカ合衆国の政治家。第5代大統領。在任1817～1825年。バージニア州出身。アメリカ独立戦争で負傷し，片足となる。ジェファソン*の影響下に州権論者として1783年以来バージニア州会議員，大陸会議，連邦議会で活躍。1794年フランス公使となり，フランスとの関係改善に尽力したが，1796年召還。1799年と1811年との二度バージニア州知事。1803年ジェファソンよりフランス特命全権公使・イギリス公使に任命，フランスからルイジアナ購入に成功。1811年マディソンの国務長官となり1812年戦争*の外交軍事に活躍。1816年大統領に選出された。その功績として1818年カナダ国境画定，1823年モンロー主義*の宣言などがあげられる。　〔折井一彦〕

モンロー　［Marilyn Monroe］（1928～1962）　アメリカ合衆国の映画俳優。写真のモデルから映画界にはいり，性的魅力で一世を風靡(ふうび)し，その歩き方に〈モンロー-ウォーク〉という呼び名までついた。単なる肉体を売りものの女優という以上に，現代アメリカ文化における性の象徴的存在であったが，1962年睡眠薬で自殺。代表作に《ナイアガラ》《帰らざる河(かわ)》《七年目の浮気》《お熱いのがお好き》などがある。

モンローしゅぎ　［モンロー主義］　1823年12月アメリカ合衆国大統領モンロー*が年次教書で発表した外交上の原則。当時，ウィーン会議により安定を回復したヨーロッパ列強は独立運動で混乱する中南米への進出を画し，ロシアも太平洋岸から南下を企てていた。経済的にラテン-アメリカに関心をもつイギリスはこれを阻止するため，合衆国に共同宣言を提案したが，モンローは国務長官アダムズの主張を入れ，単独で教書を発表した。その内容は，①ヨーロッパ諸国のアメリカ大陸非植民の原則，②同じく非干渉の原則，③アメリカ諸国の対ヨーロッパ不干渉の原則よりなり，ワシントン*以来の孤立主義を確認したものである。モンロー主義は以後合衆国の基本的外交原則となり，その間しばしば拡張解釈による系論が発表され，ヨーロッパ諸国のアメリカ介入を阻止してきた。まず，19世紀中葉，ポーク*はテキサス・オレゴン併合に関して〈非移譲の原則〉を追加，ユカタン半島を巡り自衛のための干渉を説く〈ポーク系論〉を提出。1895年のベネズエラとイギリスの領土紛争ではクリーブランドの国務長官オルニーはアメリカ大陸に対する合衆国の主権を主張する〈オルニー宣言〉を発表。20世紀初頭，T. ルーズベルトはサント-ドミンゴの外債不払い問題で，予防措置としての干渉の義務を規定した〈ルーズベルト系論〉を発表，カリブ海政策の基調を形成した。しかし，モンロー主義が合衆国の対ラテン-アメリカ帝国主義的進出を正当化するため使われたことも否めず，中南米諸国の反感も強かった。F. D. ルーズベルトの善隣外交*の開始とともに，武力干渉を排し，アメリカ大陸諸国の内政・外交に介入しないことを明らかにした。➔孤立主義　➔汎(はん)アメリカ主義　〔折井一彦〕

モンロビア　［Monrovia］　アフリカ西部，リベリア共和国の首都。人口96,000（1962）。1822年アメリカ合衆国の解放奴隷が移住して建設したのが興りで，名は当時の合衆国大統領モンロー*にちなむ。セントポール川河口に臨む港市で，ゴム・鉄鉱石などを積み出す。今日でも合衆国の影響が強く，市内には合衆国系の商社や教会・学校が多い。

や

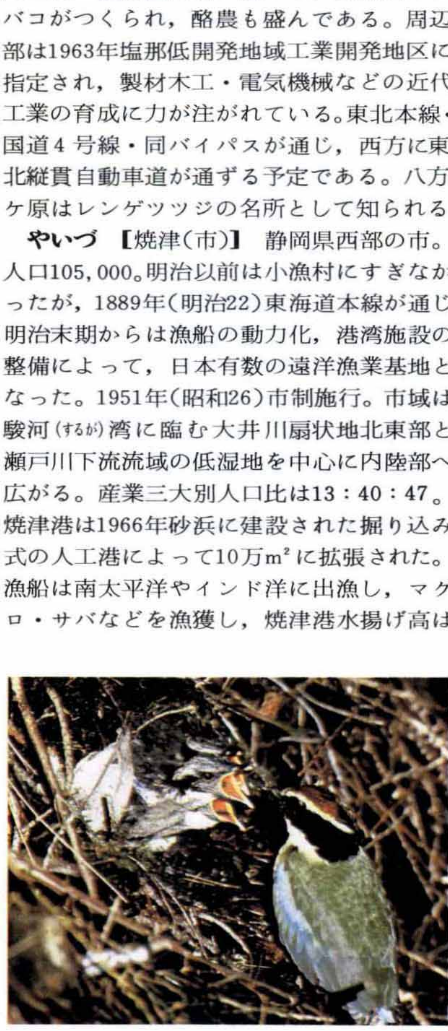
や 【矢】 弓*につがえて射る武器。簳(やがら)・筈(はず)・羽根・鏃*(やじり)からなり，使途によって軍陣用の征矢(そや)，狩猟用の野矢，けいこ用の的矢，遠く射るために軽くつくった繰矢や油をしみこませた布を巻いて火災を起こさせるための火矢などの種類がある。簳は古くヤナギのものもあったが，のちに篠竹(しのだけ)が一般的となった。矢竹のことを〈篦(の)〉ともいうので，砂みがきのものを白篦，漆塗りのものを塗篦，藁(わら)火に焦がしたものを焦篦(こがしの)といった。筈は矢の上部で，弦を掛けるよう彫りくぼめてある。その部分だけ木や角製にしたのを〈続筈(つぎはず)〉といった。羽根は矢を水平に飛ばし，または旋回命中させて威力をつけるためのもので，古くは2枚・4枚であったが，のちには3枚羽を普通とし，おもにワシ・タカ・トキの尾羽または翼を用いる。鏃はふつう鉄製で，征矢は鋭く長く，野矢は先が二つに分かれた狩股(かりまた)である。矢の長さは握りの数ではかり，1握りを1束(つか)という。握り残りの端数は指を伏せてはかり，指1本を1伏(ふせ)という。合わせて12束3伏などというが，12束を正式とする。〔稲垣史生〕

やいし 【矢石】 ベレムナイトともいう。軟体動物の頭足類に属す海生化石動物。石灰質の細長い円筒上の殻(から)を有し，後端はとがる。古生代石炭紀に出現し，中生代のジュラ紀および白亜紀に栄え，始新世ごろまで存在した。世界各地ことにアジア・北アメリカ・ヨーロッパに多く，示準化石としても重要である。

やいた 【矢板】 土砂を掘削する際に土砂の崩壊を防いだり，地下水あるいは河川水の流入を防ぐために用いられる板状のくい。木製・コンクリート製・鋼製があり，板が継がれる面に加工を施す。木矢板は水湿に耐えるマツ・クリが用いられ，土質の硬軟の程度により先端に鉄ぐつをかませるなどするが，仮設使用が多い。鉄筋コンクリート矢板は港湾・河川の岸壁として用いられ，最も利用範囲が広い。鋼矢板は，接合部も水密性があり種類も多いので，大規模な工事に使用される。〔神山幸弘〕

やいた 【矢板(市)】 栃木県北部の市。人口33,000。中世には塩谷(しおや)氏の城下町として栄え，江戸時代は日光北街道の合の宿であった。1958年(昭和33)市制施行。市域は那須野原(なすのがはら)台地の南部，高原山(1,795m)の山頂付近の八方ケ原から南東の喜連川丘陵北部へ延び，北東部は箒(ほうき)川の流域を占める。市街地は那珂(なか)川の支流内川東岸の低い台地上にある。産業三大別人口比は24：35：41。水田地帯は喜連川丘陵の樹枝状河谷に広がり，野菜類やタバコがつくられ，酪農も盛んである。周辺部は1963年塩那低開発地域工業開発地区に指定され，製材木工・電気機械などの近代工業の育成に力が注がれている。東北本線・国道4号線・同バイパスが通じ，西方に東北縦貫自動車道が通ずる予定である。八方ケ原はレンゲツツジの名所として知られる。

やいづ 【焼津(市)】 静岡県西部の市。人口105,000。明治以前は小漁村にすぎなかったが，1889年(明治22)東海道本線が通じ，明治末期からは漁船の動力化，港湾施設の整備によって，日本有数の遠洋漁業基地となった。1951年(昭和26)市制施行。市域は，駿河(するが)湾に臨む大井川扇状地北東部と瀬戸川下流流域の低湿地を中心に内陸部へ広がる。産業三大別人口比は13：40：47。焼津港は1966年砂浜に建設された掘り込み式の人工港によって10万m^2に拡張された。漁船は南太平洋やインド洋に出漁し，マグロ・サバなどを漁獲し，焼津港水揚げ高は15万8,000t(1969)で全国有数であり，京浜地区や中京地区へ鮮魚を出荷する。かつお節・かんづめ・冷凍などの水産加工が盛んで，豊富な水と工業用地を利用した造船・機械などの近代工業が開発されている。農村部では，茶・イチゴ・ナシなどを産する。東海道本線，国道1号線・150号線に沿い，東名高速道路のインターチェンジがあり，静岡市との境に2,000m余の日本坂トンネルが通じる。1954年ビキニ環礁で〈死の灰〉の被害を受けた第五福龍丸(ふくりゅうまる)事件によって国際的に知られた。



ヤイロチョウ

やいろちょう 【八色鳥】 鳥類・ヤイロチョウ科の総称およびその一種。世界に23種が知られ，東南アジアに約20種，アフリカに2種，オーストラリアに3種が分布する。全長15～28cmほど。暗い森林内にすみ，地上採食性で，こん虫類をはじめ各種の小形動物類をおもに食べる。いずれの種も尾は非常に短く，丸っこい体つきをしており，地上生活に適応して長い脚をもつ。名の示すように羽毛は色彩に富んで美しい。そのうちの一種で，日本に夏鳥として分布するヤイロチョウは，この科の中でいちばん北方にまで分布しているものである。わが国で確認されている繁殖地は，高知・長崎両県だけである。全長20cm前後で，顔頭部は黒色・黄かっ色・栗色(くりいろ)のしま模様，背面は空色・緑色，胸腹部は黄白色，両脚の間から下腹部は赤色，翼には白斑(はくはん)があり，8色の羽毛をもつ美しい鳥である。俗にアカフンドシ(赤褌)などと愛称されている。湿潤な照葉樹林内にすみ，鳴き声は〈シロペン，クロペン〉と聞こえる。〔安部直哉〕

ヤーウェ [Yahweh] 《旧約聖書》の神の名。〈エステル書〉〈伝道者の書〉〈雅歌〉を除くすべての書に現われる。この名がイスラエル人に知られた時期は，〈創世記〉4章26によればモーゼ*以前，〈出エジプト記〉3章14，6章3によればモーゼ以後となり，《旧約聖書》内でも矛盾していて定めがたい。しかし，この名が以前から知られていたにしても，出エジプトは神の救済による民族成立の起点であり，この時代にモーゼと民

族に対して，まったく新しい内容で啓示されたことは疑いえない。〈創世記〉時代はノアを選んで救うという挿話(そうわ)などもあるが，天地やアダムの創造に象徴される創造神としての性格が顕著である。ヤーウェは，世界的規模で祝福を与えるための手段としてイスラエルを選び，これを特別に保護して契約を与え，エジプトでの苦難から救出し，約束の地カナンへ導く，民族の唯一の神である。《旧約聖書》編纂(へんさん)の資料の相違から，エロヒムの名もあるが，頻度(ひんど)はヤーウェの半分以下。エホバはのちの誤読である。〔松田　治〕

ヤウンデ ［Yaoundé］ アフリカ中部，カメルーンの首都。人口13万(1973)。ビアフラ湾岸から210km上流のニョング川支流の流域に位置。1888年ドイツの植民都市として建設され，第1次世界大戦後，フランス領カメルーンの行政の中心地になった。1961年5月，アフリカ12か国の会議，ブラザビル-ブロックがここで開催され，第2次世界大戦後のアフリカ諸国の将来について討議した。外港ドアラとの間は鉄道で結ばれて内陸からの物資を集散し，市内では食品加工業が盛ん。〔小栗　宏〕

ヤウンデきょうてい ［ヤウンデ協定］ EEC*(ヨーロッパ経済共同体)と旧フランス領・ベルギー領アフリカ諸国18か国とが結んだ連合協定で，第1次協定は1963年7月カメルーンの首都ヤウンデで調印された。その内容は，EEC側は7億3,000万ドルの経済技術援助を供与するとともに，コーヒー・ココア・茶などの一次産品輸入に対する関税を全廃し，18か国側は，EECに対し，毎年15％の関税引き下げを行なうと同時に4年以内に数量制限を撤廃することなどであり，1964年に発効し，5年間有効であった。1969年7月第2次ヤウンデ協定(期間5年)が結ばれ，EC*(ヨーロッパ共同体)との間に自由貿易地域を形成し，EC側が10億ドルの経済技術援助を供与することを取り決めている。〔深海博明〕

やえごろも ［八重衣］ 19世紀前半に京都で活躍した石川勾当(こうとう)の作曲した地歌曲。それが同じく京都の八重崎検校*(けんぎょう)によって，地歌の三味線(しゃみせん)とは異なる替手(かえで)が箏(そう)のためにつくられて，今日では，いわゆる京流手事物として演奏されている。歌詞は小倉百人一首の中の衣にちなんだ和歌を集めたものであるが，技巧的で複雑な器楽旋律のほうでよく知られている。

やえざきけんぎょう ［八重崎検校］ (1776ごろ～1848) 江戸後期，京都で活動した箏曲(そうきょく)家。同時代に地歌として作曲された他の人の作品に，箏で演奏される異なる旋律(替手(かえで))をつけて合奏するようにした。有名な曲には松浦検校の《四季の眺(なが)め》，菊岡検校の《夕顔》，石川勾当(こうとう)の《八重衣*》，光崎検校の《七小町》などがある。


ヤエムグラ

やえざくら ［八重桜］ サクラ類のうちの八重咲き品種をいう。➔サクラ

やえむぐら ［八重葎］ 双子葉植物・アカネ科。平地にはえる一年草ないし越年草。茎は高さ60～90cm，四角柱で下向きの小さなとげがあり，他物によりかかって斜上する。葉は長さ1～3cm，幅1.5～4mmの線形で対生するが，托葉(たくよう)がほとんど同形同大なので各節より6～8枚の葉が輪生しているように見える。葉縁および葉裏の中央脈に逆刺がある。5～7月，茎の上部から短い枝を出し，花冠が4裂した淡黄白色の小花をつける。果実は小球形でかぎ状の毛が密生する。

やえやましょとう ［八重山諸島］ 琉球(りゅうきゅう)諸島*のうちの台湾に近い先島諸島*の西の部分。面積624km²，人口45,000。わが国の南西端にあたる。東に石垣(いしがき)島*，西に西表(いりおもて)島*があり，面積は西表島のほうが大きいが，西表島は開発が遅れており，主島は石垣島で行政・経済・交通の中心となっている。このほか波照間島・黒島・小浜島・竹富島・新城(あらぐすく)島・鳩間(はとま)島・与那国(よなぐに)島*など合わせて大小15の島があり，与那国島がいちばん台湾に近い。また台湾との間に帰属が問題となっている無人の尖閣(せんかく)列島*を含む。沖縄県八重山支庁に属し，石垣市と竹富・与那国2町に分かれ，石垣市に支庁がある。島々の地形は複雑であるが，西表島を除けば石垣島の南部をはじめ石灰岩におおわれた平坦地(へいたんち)が比較的多い。米作のほか，パイナップル・サトウキビの栽培が行なわれ，漁業も盛んである。米作には台湾から移入したスイギュウが使われている。西表島の熱帯性原生林をはじめ，自然がよく保護され，また神事や民謡・舞踊など古い琉球文化が残っていて，貴重である。第2次世界大戦の被害も少なかった。〔浅井得一〕

やえんとうげ ［野猿峠］ 東京都八王子市の南東部，多摩丘陵北西部の丘陵支脈を越える低い峠。峠からは多摩川の川原が一望のもとに収められ，多摩丘陵ハイキングコースの一つになっている。現在，峠はバス通りになっており，さらに近年では都市化が進み，自然の景観が急速に失われつつある。付近には平山城跡・多摩動物公園・百草園(もぐさえん)・高幡(たかはた)不動尊がある。

やお ［八尾(市)］ 大阪府中東部の市。人口26万4,000。室町時代創建の西証寺(久宝寺御坊)と，江戸初期に創立された大信寺(八尾御坊)を中心とする二つの寺内町を中心として栄えた。明治中期に関西本線が開通すると大阪の衛星都市的な性格を強め，近代工業が発達した。1948年(昭和23)中河内(なかかわち)郡八尾・龍華(りゅうげ)の2町と周辺3村が合併して市制施行。市域は旧大和(やまと)川の三角州にあたる西部の河内平野から東部の生駒(いこま)山麓(さんろく)にかけて広がり，市街地には大小60余の寺院があって，かつての寺内町のおもかげを残している。産業三大別人口比は2：46：52。旧八尾町の市街から北方へかけては，紡績工業や歯ブラシ・鼻緒などの雑工業が盛んで，中でも歯ブラシは全国生産の約50％を占める。周辺農村部ではイチゴ・パセリ・レタスなどの近郊野菜の栽培が行なわれる。関西本線・国道25号線(奈良街道)が北西から南東へかけてほぼ平行に走り，国道沿いに機械器具・アルミ軽金属などの大工場がある。近畿(きんき)日本鉄道大阪線河内山本駅を中心とした玉串(たまぐし)川の河床帯や，高安山(488m)の西麓地区は，大阪への通勤者の住宅地帯である。国鉄龍華操車場・八尾空港があり，中央環状線が南北に通じる。東部は金剛生駒国定公園の区域内で，東郊の信貴(しぎ)山山頂を信貴生駒スカイラインが走り，西麓からはケーブルカーが通ずる。〔浅井得一〕

ヤオぞく ［ヤオ族］ 南中国からインドシナ北部にかけて居住する民族。マン族ともいう。オーストロネシア語族ともタイ語族ともいわれ，語族系統は不明。トウモロコシや陸稲の焼き畑耕作を行なう。外婚的な父系氏族制度をもち，イヌを祖先とする槃瓠(ばんこ)伝説があり，イヌの肉を食することはタブーとされている。

やおやおしち ［八百屋お七］ (1668～1683) 江戸本郷駒込追分(こまごめおいわけ)の八百屋の娘。1682年(天和2)，江戸駒込大円寺出火の大火で円乗寺に避難したお七は，寺小姓の山田左兵衛(さひょうえ)を見そめた。帰宅したのちも左兵衛を慕い，火事になれば再会できると思って放火，捕えられて引き回しのうえ，鈴ケ森で火刑に処せられた。この実説をもとにした代表的な小説としては井原西鶴*(さいかく)の《好色五人女*》がある。また，浄瑠璃(じょうるり)・歌舞伎(かぶき)には《八百屋お七歌祭文》をはじめ多くの脚色がみられる。

やおよろずのかみ ［八百万神］ 多くの神々の意。〈八百万〉は数が多いことを意味する語。《古事記》に，アマテラスオオミカミが天岩戸(あめのいわと)にさしこもったとき，八百万神が天安河原(あめのやすのかわら)に集まり

会合を開いたと記されている。なお《日本書紀》には〈八十万神〉と記されている。

やが【夜蛾】こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科の総称。翅(はね)を広げた長さは100mm以上の大きなものから10mm以下のものまでさまざまで，一般に翅の大きさに比べて胴は太い。口吻(こうふん)はよく発達し，複眼は大きく一般に毛を欠く。触角は繊毛状のものが最も多く，鋸歯(きょし)状・両櫛歯(りょうくしば)状などもある。翅はよく発達し，色彩はかっ色系統のじみなものが多いが，中にはキンウワバ類のように金や銀の斑紋(はんもん)をもつものもある。前翅はやや細長く，中央部に腎状(じんじょう)・環状・楔(くさび)状の紋があり，外縁と平行に6本の線が走る。きわめて大きい科で全世界に広く分布しており，日本だけでも900種以上が知られている。科の下に多くの亜科が設けられているが，代表的なものに，ウスベリケンモン亜科・モンヤガ亜科・ヨトウガ亜科・モクメヤガ亜科・カラスヨトウ亜科・キンウワバ亜科・コヤガ亜科・シタバ亜科・マツバ亜科などがある。成虫の多くは名まえのように夜行性で燈火に飛来し，昼間は下草の間や木の茂みに隠れたり，樹皮や岩上に静止して周囲の色と区別できないことが多い。幼虫は一部を除けば毛をもたず平滑で，若齢のときにはシャクトリムシ型の運動をする。成虫と同様に夜行性で，昼間は根ぎわや土の中などに隠れていることが多い。繭はつくらず地中でさなぎとなる。ヨトウガ・アワヨトウ・カブラヤガなど農害虫が多数含まれ，エグリバ類やアケビコノハなどは口吻が鋭くとがり，果実に穴をあけて果汁(かじゅう)を吸う。〔多々内修〕

やがいげき【野外劇】⇨ページェント

やがく【夜学】学校教育法第44条で認めている高等学校における〈夜間定時制課程〉，および学校教育法第54条に示されている大学夜間部(二部)が現在の代表的な夜間学習の教育機関，つまり〈夜学〉である。しかし，広義には，昼間勤労している義務教育終了後の青少年・成人に対する各種学校の夜間部もこれに含まれる。また，新制中学に就学できぬ生徒のために，1949年(昭和24)神戸(こうべ)市立駒林(こまばやし)中学にはじめて発足した〈夜間中学〉も，合法的なものではないが，文部省の黙認によって存在している。わが国では，江戸時代後期の藩の教諭所，明治の私塾(しじゅく)など古くから夜間の教育機関があったが，制度としては1893年(明治26)に設置された〈実業補習学校〉の夜間授業が古い。諸外国においては，夜学は，職業の補習教育に大きな比重がある。しかし，わが国の場合は，昼間に通学不可能の者に対して，教育の機会均等を保障する制度という色彩が強い。〔福井幸雄〕

やかげ【矢掛(町)】岡山県小田郡の町。人口19,000。県南西部にあり，1954年(昭和29)旧矢掛町を中心に5村が合併して発足





ヤ　ガ　(上)樹液を吸うオニベニシタバ(シタバ亜科)とシマカラスヨトウ(カラスヨトウ亜科)　(下)アオバヤガ(モンヤガ亜科)



ヤ　ギ

した。中心地区の矢掛は山陽道の宿場町で，古くから交通の要地であった。北部の鬼ケ岳は温泉地で，また峡谷と森林美で知られ，名勝に指定されている。南端の竹林寺山には東京大学天文観測所がある。倉敷から国鉄バスが通ずる。

やがら【矢幹】硬骨魚類・ヤガラ科・ヤガラ属の海水魚の総称。日本にはアカヤガラ・アオヤガラの2種が産する。体は棒状で長く，吻(ふん)は管状に突出する。アカヤガラは体色が赤く，大形になり，沖合いに生息している。アオヤガラは青灰色で小形，磯(いそ)近くに生息する。食用として美味であるが，もっぱらアカヤガラが食用にされる。南日本以南に分布する。

やかんひこう【夜間飛行】サン-テグジュペリ*の小説(1931)。飛行士であった作者の体験をもとに，困難な夜間飛行に従事する人々を描いて，死の危険を伴う職業に生きる人間の生の尊厳と幸福を追求したもの。行動の倫理を探った傑作として名高い。

やかんほうしゃ【夜間放射】地表面のその温度に応じた上空への熱エネルギー放射(地面放射)から，大気の地表面に向かっての熱エネルギーの逆放射(大気放射)を差し引いた差。有効放射ともいう。夜間放射量は，地表面温度，大気中の水蒸気量，雲の有無などによって異なる。夜間放射は昼間でも同じように行なわれているが，昼間は日射が加わって測定困難なので，夜間を選んで精密測定が行なわれるのでこの名がある。なお，大気放射は，地面放射の約½～¼程度である。夜間放射の測定は，霜の研究に重要である。〔相原正彦〕

やぎ【山羊】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。広義には，雄に顎鬚(あごひげ)があり，尾の下側の毛のないところには悪臭を出す腺(せん)があって，角は根もとの断面が瓢箪(ひょうたん)形か四辺形で，ヒツジに見られる目の下，後ろ足の蹄(ひづめ)の間に臭い液を出す腺がないものの総称。すなわち，ギリシア・カフカス・小アジアを経てパキスタンに分布するノヤギ，小アジア・アフガニスタン・パキスタン・インドに分布するマーコール，カフカス・ソ連南東部に分布するツール，フランスとスペインの高山に分布するアルプスアイベックス，カフカス・インド北西部・モンゴルなどに分布するシベリアアイベックス，シリア・パレスチナ・アラビアに分布するヌビアアイベックスなどが広義のヤギである。狭義には家畜のヤギをいい，その先祖の野生種はノヤギである。ノヤギは，角が平たく半月形に後方に伸び，先端はふつう内方に向かい，角の前縁が鋭く，そこに不規則な小さなこぶがある。毛色は夏は茶色，冬は茶色をおびた灰色で黒い斑紋(はんもん)があり，雄には小さな顎鬚がある。家畜のヤギには用途によって多くの品種が作出され，毛用のアンゴラヤギ，これに近い高級織物の原料となるカシミアヤギ，乳用のザーネンなどが有名である。〔今泉吉典〕

やぎ【海楊】腔腸(こうちょう)動物・花虫綱・八放サンゴ亜綱・ヤギ目。すべて海産で，海底の岩礁などに固着し，群体は樹状を呈する。個虫は小さく，ふつうすべて同型で，共肉部の縦走管で互いにつながる。共肉部は2層からなり，外皮部には小骨片を含むが骨片は癒合(ゆごう)せず，内髄部は角質の骨片からなる骨軸を形成するもの(全軸亜目)と石灰質小骨片が膠着(こうちゃく)物質で固められたもの(骨軸亜目)がある。おもに熱帯・亜熱帯の暖海性で，日本近海では黒潮の影響の強い場所にみられる。骨軸亜目にはモモイロサンゴやイソバナなどが含まれ，全軸亜目にはフトヤギ・ウミヒバ・トクサヤギなどが含まれる。〔向井　宏〕

やぎ【八木】奈良県橿原(かしはら)市の北部地区。もと高市郡八木町で，1956年(昭和31)周辺3町2村と合体して橿原市となった。古くから奈良盆地中央を南北に走る中街道と東西に走る初瀬(はせ)街道との会合点にあたり，宿場町・市場町として繁栄した。近畿(きんき)日本鉄道大阪線・同橿原線が縦横

に通じ，国道24号線・165号線・169号線が集まる。

やぎアンテナ 【八木アンテナ】 ⇨アンテナ

やきいれ 【焼き入れ】 金属の熱処理法の一。鋼や合金を変態域あるいは溶解度線以上の適当な温度に加熱保持したのち，水中や油中で急冷し，徐冷のときとは異なった状態にする方法。鋼ではパーライト変態が阻止され，マルテンサイト組織となり著しく硬化する。合金では，たとえばジュラルミンにおいて時効硬化を生じさせるために焼き入れを行なう。焼き入れには水中焼き入れ・油焼き入れ・塩浴焼き入れ・熱浴焼き入れなどがある。 〔長谷川正義〕

やぎざ 【山羊座】 いて座の東にある黄道上の星座。秋の夜，南の空に望まれる。ベガ・アルタイルの2星を結んで南に約2倍延長したところに，3等以下の暗い星が倒立した三角形の形に並んでいる。

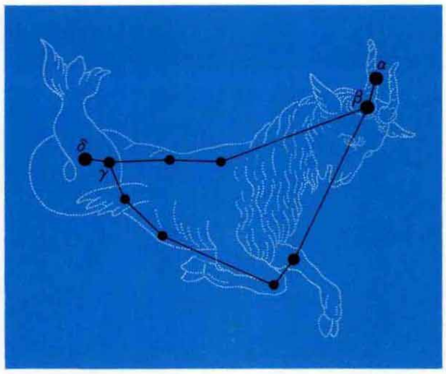
やぎさわダム 【矢木沢ダム】 群馬県利根(とね)郡水上(みなかみ)町，利根川の源流にある多目的ダム。アーチ式ダムで高さ131m，総貯水量2億400万m³で，1967年(昭和42)に完成した。矢木沢発電所の最大出力は24万kW，灌漑(かんがい)面積は23,900ヘクタール，水道給水量は34万5,000m³/日である。

やぎじゅうきち 【八木重吉】 (1898～1927) 詩人。東京の生まれ。東京高等師範学校英文科卒。英語教員をしながら，1925年(大正14)処女詩集《秋の瞳(ひとみ)》を刊行。キリスト教信者としての祈りにも似た詩風は多くの愛好者を得，またその素朴(そぼく)な口語体は詩壇にも影響を与えた。他に《貧しき信徒》《八木重吉詩集》《神を呼ばう》などの詩集がある。

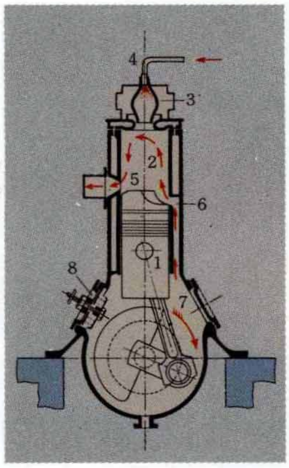
やぎしりとう 【焼尻島】 古くは〈やんげしりとう〉といい，アイヌ語で〈水産の多い島〉の意である。北海道留萌(るもい)支庁羽幌(はぼろ)町に属し，羽幌の西方約25kmにある島。天売(てうり)島とは武蔵(むさし)水道を隔てている。面積約5km²，人口1,100(1972)。最高点は97m。漁業を主とするが，かつてのニシン漁のにぎわいはなく，現在はサバ・ホッケ・カレイ・アワビなどである。全島がオンコとよばれるイチイの美林でおおわれている。羽幌～焼尻～天売間には定期航路がある。 〔浅井得一〕

ヤーキズ [Robert Mearns Yerkes] (1876～1956) アメリカの比較心理学者。ミネソタ大学教授・エール大学教授を歴任。種々の動物の知覚・行動を研究するかたわら，第1次世界大戦中は軍隊用集団知能検査作成の責任者をつとめ，1919年霊長類生物学実験所を創設，1922年《比較心理学雑誌》を創刊するなど多方面に活躍した比較心理学の第一人者。

ヤーキスてんもんだい 【ヤーキス天文台】 アメリカ合衆国シカゴ市北方ゼネバ湖畔にあるシカゴ大学所属の天文台。1897年，シカゴの実業家ヤーキスがシカゴ大学に寄贈した。口径102cmの屈折望遠鏡として世界最大のものをもち，恒星視差の測定や連星の観測に活躍した。1939年テキサス大学と共同で，テキサス州にマクドナルド天文台をつくり，口径208cmおよび91cmの反射望遠鏡を新設して，銀河系外星雲の分類，恒星スペクトルや偏光の研究など天体物理学の新分野を開拓している。 〔守山史生〕



や ぎ 座



焼き玉機関 ①ピストン ②シリンダー ③焼き玉 ④噴射弁 ⑤排気口 ⑥掃気口 ⑦クランク室 ⑧吸気口

やきだまきかん 【焼き玉機関】 シリンダーヘッドに設けられた焼き玉(鋳鉄製半球形の燃焼室)の助けを借りて燃料を着火させる内燃機関。燃料はディーゼル機関と同じく，圧縮行程の終わりに噴射弁から噴射される。始動のときは外部から焼き玉を加熱する。圧縮比は3～5と低く，熱効率は悪いが，低質の重油を用いるので経済的である。2サイクルなので構造が簡単で，取り扱いが容易なため小形漁船用などに多かったが，近年ディーゼル機関の発達により使用が減少している。セミディーゼル機関ともいう。 〔斎藤 孟〕

やきつけとりょう 【焼き付け塗料】 焼き付け塗装用の塗料で，加熱により酸化を促進され同時に重合反応を伴って塗膜が硬化乾燥する塗料および熱重合によって硬化乾燥する塗料の総称。塗膜はかたく，耐屈曲性・耐衝撃性・不粘着性・付着性および耐水性・耐薬品性・耐久性などにすぐれる。アミノアルキド樹脂塗料・熱硬化性アクリル樹脂塗料が代表的なもので，アルキド樹脂やアクリル樹脂などにアミノ樹脂などの架橋成分を配合し，加熱により高分子化して硬化する。溶剤には中・高沸点のものを用いる。焼き付けには対流炉や赤外線炉あるいは暗赤外線炉を用いる。焼き付け温度・焼き付け時間の最適条件は塗料により異なるが一般には130～180℃で，数分～30分くらいである。自動車ボデー・家庭用電気器具・カラートタン・産業機械などの塗装に広く用いる。 〔鈴木荘司〕

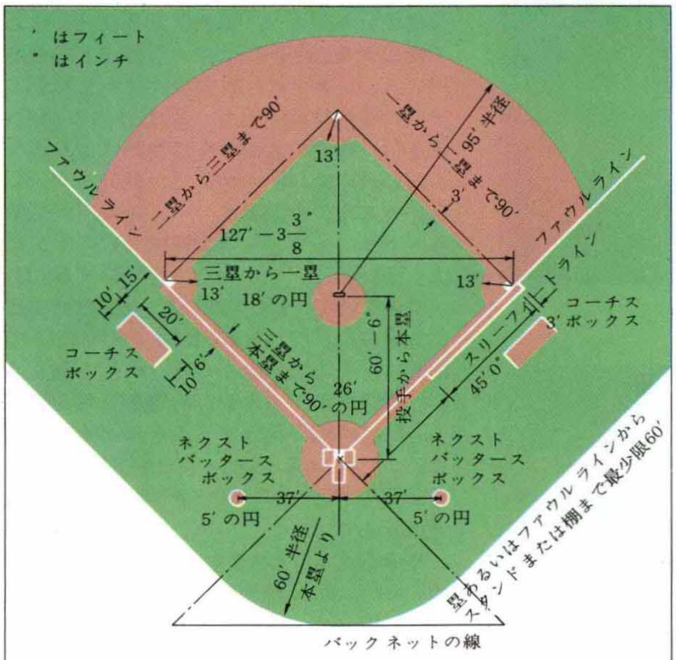
やきなまし 【焼き鈍し】 金属材料を適当な温度に加熱したあと徐冷する操作。その目的は内部応力を除くこと，硬度を軟化させ，被削性を向上させ，冷間加工性を改善し，結晶組織を調整することにある。目的に応じ，完全焼き鈍し・応力除去焼き鈍し・球状化焼き鈍し・中間焼き鈍しなど種々の方法がある。

やきならし 【焼きならし】 おもに鋼に用いられる語で，標準的組織を得るための熱処理。鋼をオーステナイトの単相になる温度に加熱したあと，静かに大気中で放冷する操作。これによってオーステナイトは徐徐に分解し，鋼の結晶粒は微細になり，機械的性質が改善される。

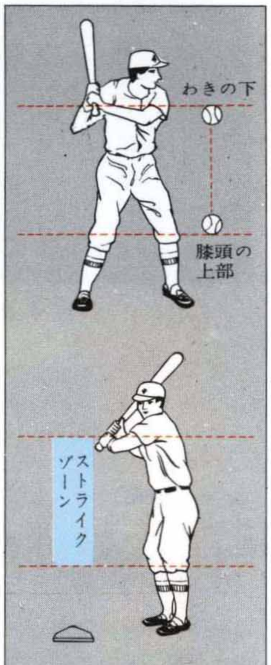
やぎにゅう 【山羊乳】 ヤギの乳。牛乳よりも多少脂肪・タンパク質が多く，無機質を多量に含み，吸収がよいので，幼児・病人用に好適といわれる。しかし雄ヤギから特有の臭気が移行することが多いので，取り扱いに注意が必要である。わが国では自家飲用にされるが，ヨーロッパでは各種チーズの原料にされる。なおバターをつくることもできるが，良質のものはできない。

やきはた 【焼き畑】 原始的な農業形態の一。原始林を伐採したのちかわかしてから焼き払ってその灰を肥料とし，雨期を利用して陸稲・イモ類・キャッサバ*などを栽培し，数年経過して肥料分がなくなると，他の場所を捜して移動する。そのため，移動式農業または遊農などとよぶこともある。東南アジア・オセアニア・ラテンアメリカ・中央アフリカなどの熱帯・亜熱帯の山地で広く行なわれ，作物もところによって異なり，たとえば東南アジアやオセアニアの島島ではタロイモが広く栽培され，住民の主食となっている。農具はふつうハックとよばれる木製のくわで，このために焼き畑農業のことを〈ハック耕〉ともいうが，ボルネオ島のダヤク族のように鉄製の農具を用いているものもある。焼き畑の所有権はところや民族によりさまざまであるが，ボルネオ島のダヤク族では自分が使用している間だけ権利をもっているいわゆる用益権である。しかし，他人が放棄した休閑地を耕作しようとするときは，もとの耕作者に断わらなければならない。朝鮮の火田も焼き畑で，それに従事している人たちを火田民*

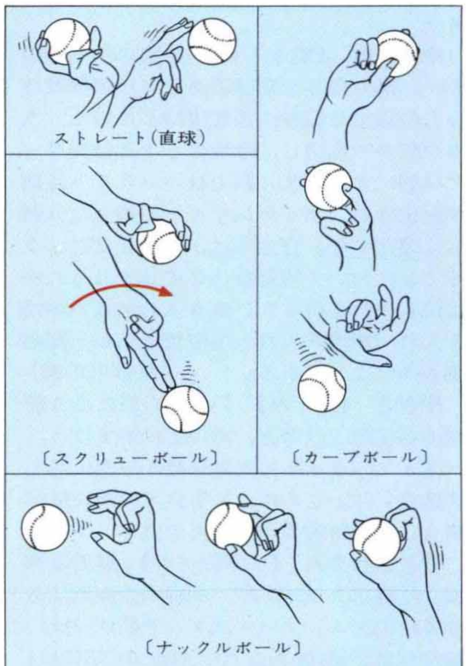
野　　球



野球競技場区画線

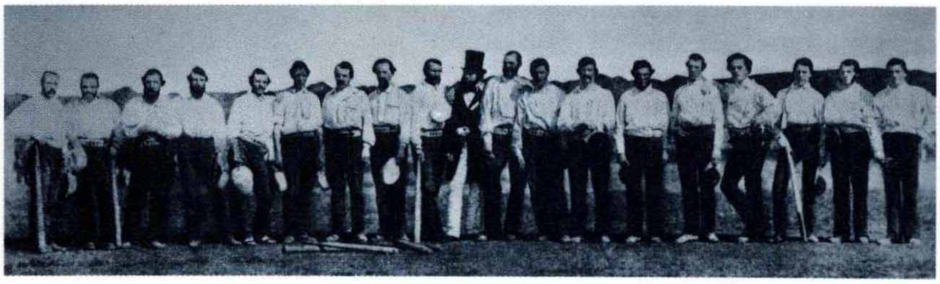


ストライクゾーン



投球のいろいろ


1897年ごろの野球用具


1845年に最初の野球チーム〈ニッカーボッカー－クラブ〉が編成された

という。日本でも九州地方の山地や中央高地の一部，伊豆(いず)諸島などで焼き畑が行なわれているが，それはやや進歩した形式の林業と結合した切り替え畑*となっていることが多い。〔浅井得一〕

やきばめ　【焼きばめ】　はめ合いの一種。外輪に相当する部分を加熱・膨張させ，空洞(くうどう)部へ内輪を正しく挿入(そうにゅう)して冷却させると，外輪体が収縮して内輪を強くしめつけ，はめ合わせ状態になるようにする作業。車両の鋼製車輪の製造，車軸や機械部品などに用いられる。

やぎぶし　【八木節】　群馬・栃木・埼玉3県の民謡。群馬では古くから盆踊り唄(うた)として樽(たる)を立てその縁と中央とを打ち分けてリズムをとり，《縦樽音頭(おんど)》とよばれていた。栃木では美声の馬方の堀米(ほりごめ)源太が大正・昭和初期に活躍したので《源太節》ともよばれた。拍感の豊かな曲。

やきもどし　【焼き戻し】　焼き入れ*した鋼を700℃以下の適当な温度に加熱して冷却することにより，焼き入れによって阻止した変態または析出を任意の状態まで進行させる操作。これにより安定な組織に近づき，またひずみが除かれて，強靭(きょうじん)性が得られる。鋼においては焼き入れで得られる顕微鏡組織はマルテンサイトであり，これを焼きもどすと，順次トルースタイト・ソルバイトに変化する。なお焼きもどしということばは，広く金属(ときには非金属)の低温度の加熱操作をさして用いることも多い。〔長谷川正義〕

やきゅう　【野球】　英語のベースボールの訳。アメリカ合衆国でつくられ普及した団体球技。公認野球規則では次の点があげられる。①囲いのある競技場で，監督が指揮する9人のプレーヤーで編成される二つのチームの間で，1人または数人の審判員のもとに，規則にしたがって行なわれる。②各チームは，相手チームより多くの得点を記録して，勝つことを目的とする。③正式試合が終わったとき，規則どおりに記録された得点の多いチームが，その試合の勝者になるなどである。また囲いのある競技場は，次のように設定する。①本塁(ホームベース)の位置を決める。②その地点から二塁(セカンドベース)を設ける方向に127フィート3インチ3/8(38.75m)の距離をとって二塁を決める。③本塁と二塁を基点にして，それぞれ90フィート(27.432m)をはかり，本塁から向かって右側の交点を一塁(ファーストベース)，本塁から向かって左側の交点を三塁(サードベース)とする(一塁から三塁までの距離は127フィート3インチ3/8となる)。④本塁からの距離は，一塁線と三塁線との交点を基点としてはかる。⑤本塁から投手板を経て二塁に向かう線は，東北東に向かっていることを理想とする。⑥本塁から投手板までの距離は60フィート6インチ(18.44m)。⑦本塁からバックストップ(後方のネット)，塁線から競技場の境界線までの距離は，60フィート(18.288m)以上。⑧本塁から一塁線および三塁線を延長して競技場の境界線に至るまでの距

離は320フィート(97.534m)以上あることが望ましい。

このようにして設定された競技場で，競技は攻撃側チームと守備側チームとに分かれて行なわれる。守備側チームは，投手・捕手・一塁手・二塁手・三塁手・遊撃手・左翼手・中堅手・右翼手とそれぞれ定められた位置をとる。攻撃側チームは，1番から9番までの順番を決めた打者(バットを持って，投手の投球を打つプレーヤー)を，その順番(打撃順)にしたがって攻撃させ，3人のアウト(規則によって塁に出られなくなること)になってその回(イニング)が終了するまでに得点をあげるよう競技する。打者の出塁は，安打(ヒット)，守備側の失策(エラー)，四球(フォアボール，ボールと宣告される投球を4個選ぶ)，死球(投球がからだに触れる)など，いろいろな場合がある。打者が塁に出ると走者(ランナー)とよばれるが，走者が一塁・二塁・三塁に進み，本塁まで至ると1点が記録される。打者は本塁の横に設定されている打者席にはいって打撃しなければならないが，規則によって，その打者の固有の打撃姿勢に基づく〈ストライクゾーン〉が決められる。ストライクゾーンは，その打者のわきの下からひざがしらまでの間の本塁上の空間で，このゾーンを通過した投球が〈ストライク〉，通過しなかった投球が〈ボール〉である。打者はストライクを3個とられるとアウト(打撃できなくなる)になる。また投球を打って飛球(フライ)となり，これを守備側が地面に触れるまえに捕えれば，打者はアウト。打者が打ってゴロ(地面をころがる球(たま))となり，一塁に走ったときは一塁に達するまえにその球(ボール)を一塁につけられるか，または打者のからだにつけられればアウト。このように，攻撃と守備を交互にくり返して得点を争うのが野球である。

《野球の起源》 野球とよばれる形式の競技は，その起源については現在でも明確にされていない。アメリカ合衆国で出版されている《野球百科事典》の改訂版(1956)では，1947年にヘンダーソン(ニューヨーク-ラケットテニスクラブ図書係)が《バットとボールと司教》に書いた野球の起源説が最も信頼できるものだとしている。このヘンダーソン説によれば，アメリカの野球に近いゲームが，1750年以前のイギリスですでに行なわれていた。これはバットとボールを使い，それにベースを走るゲームで，1800年以後までベースボールとよばれていた。これが1762年になってアメリカの多くの人たちに知られ，各地でベースボールとよばれる人気あるゲームに発達したというのである。イギリスではこのゲームが発達した地方によって，フィルダー・ラウンダーなどとよばれた。1750年にはこの競技方法を説明した本がイギリスで出版されているが，その中にピッチャー(投手)・バッター(打者)・ベース(塁)・フィルダー(野手)・ファースト・セカンド・サードなどという文字も出ていると，ヘンダーソンは発表している。イギリスでは主としてこのゲームは教会の庭で行なわれた。最初はピッチャーが杭(くい)(スツール)をめがけてボールを投げ，バッターがこれをバットで打ちホームの杭に駆けもどる単純なゲームだったが，のちにセカンド-スツール・サード-スツールなどもつけ加えられて，四つの杭を回るようになった。また走者がボールをぶつけられたらアウトという規則も生まれたりして，しだいにゲームは複雑になっていった。

《アメリカでの発達》 前記のヘンダーソン説に先だって，野球起源調査委員会(1906年編成)は，1907年に調査結果を〈1839年ニューヨーク州のクーパースタウンで，アメリカ本来のこどもの遊び(ワン-オールド-キャット)を土台とした新しいゲーム，ベースボールがダブルディの考案によりはじめて行なわれた〉と発表した。この起源説に基づいて，クーパースタウンが野球発祥地となり，ここに野球名誉の殿堂と博物館(→野球体育博物館)が建設された。しかし，この調査結果よりのちに発表されたヘンダーソン説を尊重すると，アメリカの野球はもっと違った発展の過程をたどってきたことになる。すなわち，彼の研究によると，〈イギリスからの移住者によってラウンダースというゲームがアメリカに持ち込まれた〉ことになる。ベースが一つ，ピッチャー・キャッチャー・バッターのプレーヤー3人だけのゲームをワン-オールド-キャットとよび，ベースとプレーヤーがふえるにしたがって，ツー-オールド・スリー-オールドなどとよんだりした。ヘンダーソンは，さらに，1829年にイギリスのラウンダースのやり方を書いた本がアメリカで出版されている史実を取り上げ，野球がアメリカ独自のものでないことを立証した。

アメリカ各地にこのゲームが広まり，1820年にはニューヨーク地方で，現在の野球に近いゲームが行なわれ，1835年ごろには杭に代わって平らな石，続いて砂を入れた袋(ベース)が使われるようになった。チームの人員は11人から15人，場合によっては20人ということもあった。1842年にはチームは12人で構成するように変わった。1845年には最初の野球協会〈ニューヨーク-ニッカーボッカー野球協会〉が誕生した。同年カートライトが，ほぼ今日の形に近い野球規則をつくり上げた。1846年ニュージャージー州ホボケーンのエリーシャンフィールドで，前記のニッカーボッカー野球協会とニューヨーククラブとが，はじめて前記の統一規則にしたがって試合を行なった。チームが9人のプレーヤーで編成されることになったのはこのときからである。1858年になると〈アメリカ-ベースボール-プレーヤース協会〉が設立され，南北戦争が始まるまでには，東部の大都市に何百という野球クラブが誕生し，南北戦争後には南部にも広まり，野球はアメリカのナショナルスポーツとして発展するようになった。1869年にはシンシナチ-レッドストッキングズという最初のプロチームも誕生，1875年にプロリーグのナショナル-リーグが結成され，1900年もう一つのアメリカン-リーグが生まれ，この両リーグの対立が国民の野球熱をかりたて，野球はアメリカ最大のスポーツに成長した。

《日本の野球》 明確な年代は不明であるが，1871年(明治4)から1874年まで東京神田一ツ橋の開成学校(現東京大学の前身)の数学講師ウィルソン教授が，当時の学生にベースボールを指導したのが，日本の野球のはじまりとされている。このころ，ボストン大学に留学していた平岡熈(ひろし)が帰国，1878年新橋鉄道局に勤務，外人教師や鉄道関係者に呼びかけて新橋 アスレチッククラブという野球チームをつくった。これが日本最初の野球チームといわれる。1882年になると，新橋クラブが日本最初の野球場を東京品川の八ツ山下に建設(保健場とよんだ)，駒場(こまば)農学校(現東京大学農学部の前身)との間に日本最初の野球試合が行なわれた。1894年，第一高等学校(旧制)野球部の選手中馬庚(ちゅうまかのえ)が一高野球部史を執筆，ベースボールを〈野球〉と訳し，以後日本ではベースボールを野球とよぶようになった。

《アメリカと日本以外の野球》 アジア・太平洋地域では日本のほか，韓国(かんこく)・台湾・フィリピン・オーストラリア(第2次世界大戦後)に野球連盟がある。この5か国で〈アジア野球連盟〉が構成され，各国持ち回りでアジア野球大会が開かれている。

野球の用語

アーンドラン 自責点。
エース 主戦投手。
イレギュラーバウンド バウンドが不規則に変化すること。
犠牲フライ 無死または一死で，打者が走者を得点させた場合のフライ。
サウスポー 左投手のこと。
シャットアウト 投手が相手チームに1点も与えず投げ切ること。
スイッチヒッター 左右どちらでも打てる打者。
スラッガー 長距離打者。
ダブルプレー 連係動作で2人の走者をアウトにすること。
テキサスヒット 内野と外野の間に落ちた安打。
ブルペン 投手練習場。
ラインアップ 打撃順。
ルーキー 新人選手。
ワイルドピッチ 投手の暴投。

ほかにカナダ・メキシコ・プエルトリコ・コロンビア・ブラジル・キューバ・ドミニカなどが盛んである。➔大学野球　➔プロ野球　〔鈴木美嶺〕

やぎゅう　【野牛】　バイソン*の異名とされることが多い。広義にはコブウシ*・ヤク*や，インド・ビルマ・マライ半島に分布して体高2mほどのガウル，ラオス・カンボジアの森林にすみ体高1.9mほどのコープレイ，ジャワ・ボルネオ・ビルマ・マライ半島に分布して体高1.5mほどのバンテンなどに対しても用いられる。

やぎゅう　【柳生】　奈良市の北東部地区。大和(やまと)高原北部の笠置(かさぎ)山南麓(なんろく)にあり，京都府境に近い。江戸時代には柳生の庄(しょう)とよばれ，柳生氏一万石が領していた。明治以後，添上郡柳生村・大柳生村となり，1957年(昭和32)奈良市に編入された。山間の小盆地には水田地帯が開け，山地には森林が多く，農林業が盛んである。柳生城跡，柳生家の菩提寺(ぼだいじ)芳徳禅寺と代々の墓所，再建された正木坂(まさきざか)道場，小山田家の家老屋敷跡などの名所旧跡に富む。柳生街道に沿い，東部に月ケ瀬の梅林がある。　〔浅井得一〕

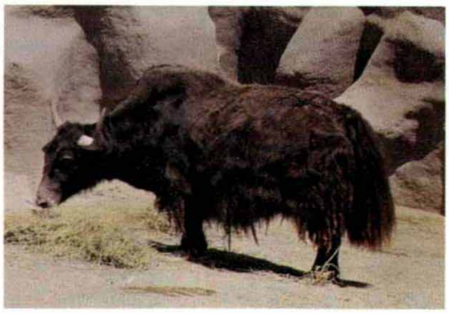
やきゅうたいいくはくぶつかん　【野球体育博物館】　わが国の野球に関する資料を収蔵・展覧する博物館。1959年(昭和34)アメリカ合衆国の野球の殿堂にならって後楽園球場*前に設置された。館内には野球の発展に貢献した関係者・選手を記念し，写真・文献・遺品などが陳列されている。なお，アメリカの通称〈野球の殿堂(ベースボール-ホール-オブ-フェーム)〉はアメリカに野球が生まれて1世紀を経たことを記念し，1939年野球発祥地のニューヨーク州クーパースタウンに建設された。殿堂内にはアメリカ野球界に貢献した人々の氏名が刻み込まれている。　〔鈴木美嶺〕

やぎゅうみつよし　【柳生三厳】(1607～1650)　江戸初期の剣術家。宗矩(むねのり)の長男。はじめ七郎，のち十兵衛(じゅうべえ)(重兵衛)。剣聖と称された父をしのぐ達人で，12歳で3代将軍徳川家光(いえみつ)の小姓となったが，1626年(寛永3)致仕し，以後新陰流の精究に没頭した。隻眼であったとか，幕府の隠密として活躍したとか伝えられるが，いずれも虚構の域を出ない。

やぎゅうむねのり　【柳生宗矩】(1571～1646)　江戸初期の剣客。大和(やまと)(奈良県)柳生藩主。宗厳(むねよし)の子。又右衛門(またえもん)但馬守(たじまのかみ)と称した。父宗厳から新陰流を継承した。徳川家康(いえやす)に仕え，関ケ原の役に功あって三千石を与えられ，2代将軍秀忠(ひでただ)の剣法師範となった。大阪の陣に出陣。3代将軍家光(いえみつ)にも信任され，1632年(寛永9)総目付となり諸大名の監察にあたった。またしばしば加増されて大和において一万二千五百石を領した。大徳寺の沢庵*(たくあん)に師事し，剣禅一理に徹し剣聖とうたわれた。　〔岡山泰四〕



柳生宗矩　芳徳寺蔵(奈良市)



ヤ　ク

やぎゅうむねふゆ　【柳生宗冬】(1615～1675)　江戸初期の大名。大和(やまと)(奈良県)柳生藩主。宗矩(むねのり)の第3子(1613年生まれとする説もある)。飛驒守(ひだのかみ)・柳陰と号す。14歳で3代将軍徳川家光(いえみつ)の小姓となり，18歳ごろより剣術に励んだ。1650年(慶安3)兄三厳(みつよし)の死によって家督を継ぎ，1656年(明暦2)4代将軍家綱の剣法師範となった。1668年(寛文8)大名に列す。

やぎゅうむねよし　【柳生宗厳】　(1527～1606)　剣法柳生流の流祖。新左衛門(しんざえもん)・但馬守(たじまのかみ)と称し，石舟斎と号した。父家厳とともに大和(やまと)(奈良県)小柳生城により，筒井順慶，次いで松永久秀(まつながひさひで)に属した。剣法にすぐれ，新当流・富田(とだ)流を学んだ。1563年(永禄6)上泉秀綱(ひでつな)に神陰流を学んで奥義をきわめ，ひたすら精究のすえ柳生新陰流を大成した。徳川家康(いえやす)に剣法師範を請われたが，老齢のゆえをもって辞し，子宗矩(むねのり)を推挙した。　〔岡山泰四〕

やきん　【冶金】　広義には鉱石から種々の製錬方法で金属を抽出し，さらに精練や合金・熱処理などを行ない，種々の加工によって目的に沿った金属を製造することをいう。これには種々の分類法があるが，第2段階の鉱石を製錬して金属を製造する方法を化学冶金，第2段階の合金を行なったり，熱処理などの物理的操作の処理を行なうことを物理冶金，また最終段階の鍛造・鋳造その他の処理によって金属に加工を行ない製品を製造することを製造冶金といっている。狭義には化学冶金をただの冶金といい，金属の製錬のみを意味することが多い。

化学冶金はさらに乾式冶金・湿式冶金・電気冶金などに分類される。乾式冶金とは，鉄鋼・銅・ニッケル・スズ・亜鉛・金・銀などの製錬に用いられる方法で，焙焼炉(ばいしょうろ)・溶鉱炉・転炉・電気炉などを用いて100～3,000℃という温度で化学反応を行なわせて，鉱石より金属を生産する方法である。たとえば，鉄鋼では酸化鉄を溶鉱炉において一酸化炭素ガスによって還元して銑鉄をつくり，この溶銑をさらに転炉に入れ，純酸素ガスを吹き込み酸化製錬を行なって鋼を製造するようなものである。温度はいずれも1,300～1,700℃が必要である。また，湿式冶金とは，鉱石中の目的とする金属を溶媒を用いて溶出し，鉱滓*(こうさい)を除いた溶液から金属を析出させるものである。たとえば硫酸焼鉱より銅をとるのに硫酸・アンモニア・塩化第一鉄などを用いる。電気冶金は電解冶金ともいい，金属の水溶液また溶融塩を電解することによって金属を得る方法で，銅・亜鉛・スズ・ナトリウム・カルシウムなどに用いられている。

物理冶金は金属組織学を中心にしたもので，熱処理や機械的処理で金属に目的の性質を与える方法である。製造冶金は金属を圧延・鍛造・鋳造して形状を与え，さらに熱処理などによって目的に適するような性質を与える方法である。ほかに金属粉末を焼結して目的の形状・性質を与える粉末冶金などもあり，タングステンの製法，超硬工具などの製造に用いられている。また真空炉中で精練する真空冶金もあり，ウラン・チタンなどに用いられている。なお，冶金は材質面から鉄冶金と非鉄冶金に分類される場合もある。冶金は非常に古くから行なわれており，金・青銅・鉄などは古代から人類に用いられ，その冶金方法も古くから見出されていた。　〔草川隆次〕

やきん　【夜禽】　夜行性鳥類をさす俗称。普通には，夜間または薄暮にだけ活動して昼間は休息している鳥類(フクロウとヨタカ)をいうが，ときとしてそれ以外の鳥でも，夜間に声が聞こえれば夜禽の声などということがある。フクロウとヨタカ以外では，ゴイサギ・ホトトギス・ジュウイチ・トラツグミ・オオヨシキリなどが夜間によく鳴く。また，カモ類には夜間採餌(さいじ)性のものがあり，干潟(ひがた)で採餌するシギ類やガンカモ類では潮の干満によっては夜に活動する。　〔浦本昌紀〕

ヤク　［yak］　哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ウシ科。肩高1.6～1.8mで，肩には著しい肉の高まりがあるが，肉垂はない。頭・体背面の毛は比較的短くなめらかであるが，腹面と側腹の毛は著しく長く，また尾のほとんどに長毛がある。家畜化されたものでは体色がいろいろであるが，野生種は黒茶色。チベットと中国西部の海抜4,000～5,000mの高原に分布し，群れで生活する。



薬師寺
東院堂正面部分



薬師岳 立山方面から見た黎明の薬師岳。左遠くに黒部五郎岳，薬師の手前は左から越中沢岳，五色ヶ原と続く

日中は斜面で休息し，早朝と夕刻に山地の草類を食べ歩く。野生のものは国際保護動物に指定されている。〔今泉吉典〕

やくがく【薬学】 医薬品の創製・生産・管理・供給などについて研究し，これに必要な基礎学および応用学を体系化した科学。また薬学では，①医薬品を自然界からまたは人工的に創製し，②生産し，③製剤化し，④その品質を確保し，⑤的確に供給し，⑥これに関する法律を定めることを目的とし，これらに加えて，医学との密接な関連において治療のみでなく疾病(しっぺい)の予防・診断などに関することもその目的の一部とする学問であるともいえる。薬学において必要とする基礎学は有機化学・生物化学・物理化学が3本の柱で，これに応用学として薬学の多くの専門学が存在する。〔鈴木郁生〕

やくざいし【薬剤師】 医薬品を取り扱う専門家として国家が認定して資格を与えた人に対する称号。医薬品は人間の生命・健康に直接関係があるため，国として薬剤師という制度をつくり，その身分に関して薬剤師法を制定している。薬剤師のおもな業務は，調剤，医薬品の供給(製造・輸入・販売・保存・管理・試験・鑑定)，食品衛生，環境衛生関係の試験研究，犯罪の化学鑑定などに関する事項などである。薬剤師の資格は，薬学系大学卒業後，国家試験に合格のうえ，厚生大臣に免許申請をして得られる。〔江本龍雄〕

やくさのかばね【八色の姓】 684年(天武13)天武天皇が改訂した姓*の制度。従来の姓制度を改めて，真人・朝臣(あそん)・宿禰(すくね)・忌寸(いみき)・道師(みちのし)・臣(おみ)・連(むらじ)・稲置(いなき)の八姓を新設し，真人には従来の公(きみ)姓の者を，朝臣には臣・君を，宿禰には連をというようにほぼ原則を立てて改め授けたが，例外もある。これにより貴族・皇族の身分秩序を天皇中心の立場から再編成し，天皇権力の強化に役だてようとした。〔黛 弘道〕

やくしじ【薬師寺】 奈良市西ノ京町にある法相宗大本山の寺。天武天皇が680年(天武9)に皇后(のちの持統天皇)の病気平癒(へいゆ)を祈願して藤原京(ふじわらきょう)に創建，平城遷都に伴い718年(養老2)に現在地に移転した。東西両塔を有するいわゆる薬師寺式伽藍(がらん)配置をなし，壮大な規模を誇っていたが，たびたび災火にあい，当初の建築物は東塔(国宝)を残すのみである。江戸期再建の金堂は近年解体され，現在は東塔と同じ様式の金堂の再現にとりかかっている。金堂安置の《銅造薬師如来及両脇侍(わきじ)像》(国宝)は初唐の影響を受けた新様式の作例で，制作年代については697年(持統11)開眼とする説と，薬師寺が平城京に移ってからのち養老～神亀(じんき)年間(717～728)に完成したとする説の2説があり，前者を白鳳(はくほう)説，後者を天平説と称している。また，東院堂安置の《銅造観音菩薩(ぼさつ)立像》(国宝)もほぼ同期の作と考えられている。このほか国宝には，天平時代の絵画の名品《麻布着色吉祥(きっしょう)天像》，平安時代の《絹本着色慈恩大師像》，平安前期の作と考えられる神像彫刻の優作《木造僧形八幡(はちまん)神・神功(じんぐう)皇后・仲津姫坐像》がある。なお，藤原京にあった薬師寺の跡は本薬師寺と称し，塔跡や礎石が残されている。〔永井信一〕

やくしだけ【薬師岳】 富山県南東部，立山連峰の南部にある山。標高2,926m。剣岳・立山とともに立山連峰三山に数えられる。尾根はほぼ南北に延び，西側は常願寺川上流の谷に刻まれ，東側に第1，第2，第3の三つのカール*があり，その直下は黒部(くろべ)川源流の深い峡谷に臨む。立山方面から槍ケ岳(やりがだけ)方面への縦走路のほぼ中央に位置する。山頂には薬師堂がある。中部山岳国立公園に含まれる。

やくしにょらい【薬師如来】 大乗仏教の代表的な仏。梵語(ぼんご) Bhaiṣajya-guru(バイシャジュヤーグル)の訳。薬師瑠璃光(るりこう)如来ともいう。東方浄瑠璃世界の教主で，十二の大願を発して人々の病苦・不具を救い，長寿延命・諸業遂行の加護を誓ったといわれる。アジア全域にわたって広く信仰され，遺存する像も少なくない。わが国でも法隆寺・薬師寺などに安置されて以来，御悩平安・宝寿長久のため造寺・造像があいついで行なわれた。中世以降，各地で霊験あらたかな薬師如来が祭られ，また七仏薬師の信仰も興り，蛸(たこ)薬師・石薬師・峰の薬師など縁起にちなむ特殊な名称によっても民衆に親しまれた。現代なお薬師信仰は盛んで，諸病平癒(へいゆ)，特に眼病の治癒に効験があると信じられ，祈願がかなうと絵馬*(えま)を納める風習が残っている。形像は一般に左手に薬壺(やっこ)を持つとされるが，持たない像もある。脇侍(わきじ)として日光菩薩*(ぼさつ)・月光菩薩*，あるいは観世音菩薩(→観音)・勢至菩薩*，また文殊菩薩*・観世音菩薩・勢至菩薩ら八菩薩，あるいは十二神将*を祭る。なお，この如来を本尊として息災のため修する秘法を〈薬師法〉という。→仏像(図)〔北条賢三〕

やくじほう【薬事法】 医薬品・医薬部外品・化粧品および医療用具が，病気の予防・診断・治療などの面で生体(ヒトまたは動物)の健康・生命に直接関係があるため，その品質の確保向上，適正な使用，厳正な取り扱いを図ることを目的として定めた法律。これら医薬品などはいずれも食品・化学薬品・日用品などとは異なり，国民の保健衛生上きわめて重要なものであるため，

衛生法規の一環として公衆衛生の向上および増進を図り，健康な生活を確保する目的で定められている。薬事に関する法律では，薬事法以外にあへん・大麻*・麻薬*・覚醒(かくせい)剤*・血液関係の取締法および薬剤師法がある。また薬事法について留意すべき点は，経済的な規制を行なうことを直接の目的としていないことである。〔江本龍雄〕

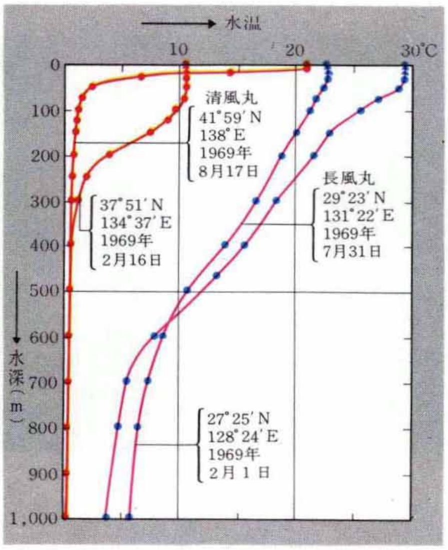
やくしま 【屋久島】 鹿児島県佐多岬(みさき)の南方約60kmにあり，熊毛(くまげ)郡に属す島。北東には種子島(たねがしま)がある。面積503km²，人口約16,000。ほぼ円形をなし，北半の上屋久町と南半の屋久町に分かれ，1965(昭和40)～1970年の人口減少率は22％と過疎化が激しい。上屋久町は口永良部(くちのえらぶ)島*も含む。壮年期の山々と深い谷の目だつ地形で，宮之浦岳(1,935m)は九州最高。海岸には段丘が発達しており，南部の段丘はやや広く耕地も開けているが，一般に平地は少ない。気候は亜熱帯的で，海岸にはガジュマル・ビロウなどが自生し，サル・シカが多くすみ，ヤクシマミドリシジミをはじめとするチョウ類も多い。雨も多く，平地では3,000mm以上，山地では8,000～10,000mmにも達し，台風の被害も多い。植物の垂直的な変化がはっきりしており，海抜1,000～1,500m以上の地域には，天然記念物のヤクスギが自生し，樹齢3,000年に達するものもあり，切り出されたものは鹿児島市で競売される。耕地ではサトウキビ・サツマイモ・ポンカン・チャが栽培される。漁業はトビウオが主であるが，最近は減少している。比較的豊富な電力を利用して上屋久町の宮之浦にカーバイドなどをつくる工場ができた。南部の海岸には岩の間から熱湯がわき出て，満潮時にはそれが海水に冷やされて入浴できるようになる温泉もある。島の大部分は霧島屋久国立公園に編入されていて，島内一周道路も完成しているので，観光客が増加している。鹿児島市から定期航路で宮之浦まで5時間，上屋久町の東端に空港があって鹿児島市から40分，それぞれ1日1便である。〔浅井得一〕

やくしゃばなし 【役者論語】 歌舞伎(かぶき)劇書。〈やくしゃろんご〉ともいう。八文字屋(はちもんじや)自笑編。中本4巻4冊。1776年(安永5)刊。〈舞台百ケ条〉〈芸鑑(げいかがみ)〉〈あやめぐさ〉〈耳塵集(にじんしゅう)〉〈続耳塵集〉〈賢外集〉〈佐渡嶋(さどがしま)日記〉〈しよさの秘伝〉〈三ケ津盆狂言芸品定〉など元禄(げんろく)(1688～1703)・享保(きょうほう)期(1716～1735)の上方歌舞伎の俳優の芸談・逸話を集録したもの。古くから歌舞伎俳優の聖典とされ，歌舞伎研究にとってきわめて貴重な文献である。〔服部幸雄〕

やくしゃひょうばんき 【役者評判記】 歌舞伎(かぶき)役者の技芸を中心として批評した書物。遊女評判記・野郎評判記の系譜を継いで，〈役者評判記〉の体裁を確かなものにした嘴矢(こうし)は，1699年(元禄12)刊の



屋久島 島の西端の永田岬と燈台。口永良部島に最も近い。カコウ岩の海崖が続き，海岸付近は亜熱帯性の樹林でおおわれている



躍　層 水深と水温の関係グラフ

《役者口三味線(くちじゃみせん)》である。三都を中心として，毎年刊行され，明治初期まで続いた。三都三冊の形式のものが多い。役者を立ち役*・敵役(かたきやく)・女方*などの分類によって記し，それぞれに，たとえば，極上上吉・上吉などといった位付け(評価)を与え，立場の違う観客代表が話し合うという形式で評判が記された。京都の八文字屋がおもな出版元であった。歌舞伎研究には欠かせない貴重な資料である。〔服部幸雄〕

やくしん 【薬疹】 内服や注射によって体内にはいった薬物が原因となって起こる発疹。皮膚に紅斑(こうはん)やかゆみを生ずる程度のものから，発熱，全身の紅斑，水疱(すいほう)，紫斑，丘疹，または尿道などに粘膜疹を生ずる重症のものまである。ときには肝機能障害やショック状態になって，死に至る場合もある。薬疹のうち，いつも同じ部位の皮膚に発疹を生ずるものを固定薬疹とよび，これはその場所に円形のかっ色または紫かっ色斑を残し，再び原因薬を摂取すると，その上に紅斑・水疱を生ずるものである。薬疹を起こしやすい薬剤には，解熱鎮痛剤のアミノピリン類，催眠剤のバルビタール類，そのほかサルファ剤など各種ある。治療としては，まず原因薬を突き止めてその使用を直ちに中止し，皮膚科医の診療を受けることである。〔田嶋公子〕

やくすう 【約数】 ある整数を割り切るような正の整数を，もとの整数の約数という。因数ともいう。12の約数は1,2,3,4,6,12の六つである。整数 a を素因数分解して，$a=p_1^{e_1}p_2^{e_2}\cdots\cdots p_n^{e_n}$ となるならば，a の約数の個数 $T(a)=(1+e_1)(1+e_2)\cdots\cdots(1+e_n)$ である。$12=2^2\times3^1$ であるから，$T(12)=(1+2)(1+1)=6$。すべての約数の和 $S(a)=\frac{P_1^{e_1+1}-1}{P_1-1}\cdot\frac{P_2^{e_2+1}-1}{P_2-1}\cdots\cdots\frac{P_n^{e_n+1}-1}{P_n-1}$ である。$S(12)=\frac{2^3-1}{2-1}\cdot\frac{3^2-1}{3-1}=\frac{7}{1}\times\frac{8}{2}=28$。すべての約数の積 $P(a)=a^{\frac{T(a)}{2}}$ である。$P(12)=12^{\frac{6}{2}}=1728$。また，多項式 $f(x)$ が多項式 $g(x)$ で割り切れるとき，$g(x)$ は $f(x)$ の約数であるという。たとえば，$(x+1)(x+2)$ は $(x+1)^2(x+2)(x+3)$ の約数である。〔青柳雅計〕

やくそう 【躍層】 海水温は深さとともに減少するが，その割合は一様ではなく急速に下がる所があり，これを躍層という。サーモクラインともいう。100mまでの浅い所と600m付近の2か所に躍層がみられる場合がある。浅いほうを第1躍層といい渦動(かどう)や対流活動の下限を示し，深いほうは黒潮流域などでみられ，黒潮と親潮潜流の境に現われる。第1躍層は季節によって変化がある。

やくそくてがた 【約束手形】 振出人みずからが一定金額の支払いを約束する形式の手形*。約束手形の振出人は手形の発行者であると同時に手形上のおもな債務者として，為替(かわせ)手形*の引受人と同一の義務を負う(手形法78条1項)。したがって支払人の存在を要せず，引き受けおよびこれを前提とする引き受け拒絶による遡及(そきゅう)，参加引き受け，複本はないが，その他の点は為替手形とだいたい同様であり，手形法も為替手形の規定の多くを約束手形に準用している。おもに信用利用の手段と，お金の貸借の際の借用証の代わりとして使われる(手形貸付)。〔松本治雄〕

やぐちのわたし 【矢口渡】 ⇨神霊矢口渡

ヤクーツク ［Yakutsk］ ソ連の東シベリア，ヤクート自治共和国の主都。人口98,000(1968)。レナ川に臨む河港市で，皮革・建築資材・木材・食品加工などの工業がある。科学アカデミー支部・大学なども置かれている。1632年に建設の起源をもち，当初は流刑地であった。

ヤクート(自治共和国) ［Yakutskaya A.S.S.R.］ ソ連，ロシア連邦共和国内の自治共和国。西は東シベリアの北極海に注ぐアナバル川流域から東はコリマ川流域，北は東シベリア海のノボシビルスク諸島に

わたる広大な地域を占める。面積310万3,000km²，人口66万2,000(1968)。主都ヤクーツク。住民はトルコ系のヤクート人が46％を占め，ロシア人44％のほかはウクライナ人・エベンク人・エベン人・チュクチ人などがいる。全人口の約56％が都市に住み，人口密度は1km²あたり0.2人にすぎない。領域はチェルスク・ベルホヤンスク両山脈をはじめ山地が大部分を占め，その間をレナ川などの大河が流れている。北部では世界の寒極といわれるベルホヤンスクなどの地域を含み，冬季は著しく寒冷となる。全体の5分の4を針葉樹林がおおい，北極海沿岸はツンドラ帯である。スズ・ウンモ・岩塩・石炭などの地下資源が豊富で，近年これらの資源による鉱業と木材加工・発電などが盛んになっている。農業は南部で大麦・小麦・ジャガイモ・野菜などが栽培され，ウシ・トナカイなど乳用・肉用の家畜飼育も盛んである。ヤクート人は，もともと遊牧・漁労・狩猟の生活を行なっていたが，17世紀にロシア人との接触が始まり，その影響を受けて定住し，農業を行なうようになった。1922年に自治共和国を形成し，近代化と産業開発が始まった。〔斎藤晨二〕

やくどし　【厄年】　一般に陰陽家(おんみょうけ)の説によって民間に広まった，厄難があるとして忌み慎まねばならないとする年。男は25・42・61歳，女は19・33・37歳という。特に男の42歳と女の33歳は大厄といわれ，その前後の年を前厄・後厄といって，前後3年間をおそれ慎むことが広く行なわれる。42は〈死に〉，33は〈さんざん〉に通ずるところから特に強調された。室町時代には十二支(→十干十二支)の思想により，13，25，37，49，61，85，99の各年を厄年としており，奄美(あまみ)・沖縄でも同様のことがみられ，この習俗は古くさかのぼると考えられる。厄年にはいろいろの厄払いが行なわれる。〔中山和芳〕

ヤクートじん　【ヤクート人】　シベリアのレナ川を中心とする広大な地域に分布するトルコ系民族。その言語には多数のモンゴル・ツングース要素がはいり，周辺民族のトナカイに代わって，ウマ・ウシをもつなど特異な点が多い。ヤクート自治共和国を形成する。

やくばらい　【厄払い】　厄年に際しては，年頭に親戚(しんせき)・知人を招いて饗宴(きょうえん)したり，氏神に詣(もう)でて厄払いをしたり，その途中の四辻(つじ)に銭や櫛(くし)をわざと落とすなどの，呪術(じゅじゅつ)行為が行なわれる。この社寺参りには，しばしばお籠(こも)りが伴い，その日1日は家人ともことばを交わしてはならぬとし，格別の物忌みを要するところもある。厄年の人が神役を担当するならわしも広くみられるところから，厄年に行なわれる厄祝いは，厄難を避けるための単なる個人的な呪術的儀礼にとどまらず，神役のための格別の物忌みをも必要とするものであったと考えられる。〔中山和芳〕

ヤクーブ-ベク　[Yáqūb Beg]　(1820ごろ～1877)　中央アジア，カシュガルの支配者。はじめコーカンド汗国に仕え，1865年カシュガルを占領してその支配者となったが，1877年清朝(しんちょう)の左宗棠(さそうとう)と戦って敗れ，クルラで自殺した。

やくぶん　【約分】　分数の分母・分子に1以外の公約数があるとき，これで分母・分子を割って，もとの分数を簡単な分数になおすこと。約分しても，分数の値は変わらない。たとえば，12/18は右のように約分される。分数を既約分数になおすには，分母と分子をその最大公約数で割ればよい。分数式についても，上とまったく同じように約分が考えられる。たとえば，

$$\frac{\overset{\overset{2}{\cancel{6}}}{\cancel{12}}}{\underset{\underset{3}{\cancel{9}}}{\cancel{18}}}=\frac{2}{3}$$

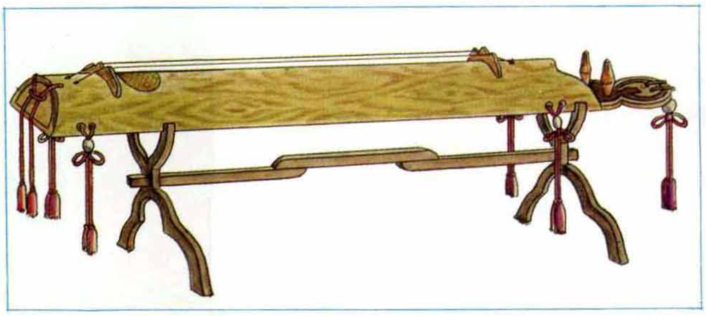
$$\frac{x(x+1)(x+2)^2}{x^2(x+1)^2(x+2)}=\frac{x+2}{x(x+1)}$$

のようになる。〔杉岡司馬〕

やくみ　【薬味】　日本料理に少量加えて，かおりと辛みを添え，食欲を増進させる香辛料。めん類やなべ物などのつけじるや調味料に加える。材料は植物性で，おろしたワサビ・ショウガ・ダイコンやサンショウ・ネギ・ウド・ミョウガ・シソ・タデなどの生鮮品と，もみのり・からし・こしょう・七色とうがらしなどの乾燥品とがある。

やくも　【八雲(町)】　北海道渡島(おしま)支庁中央部の町。人口20,000。1878年(明治11)旧尾張藩主徳川慶勝(よしかつ)が家臣とともに開拓に着手し，〈八雲たつ出雲(いずも)八重垣(やえがき)……〉の古歌にちなんで八雲と名づけた。1919年(大正8)町制施行。内浦湾に臨み遊楽部(ゆうらっぷ)川流域の八雲平野の中心部を占め，市街地は遊楽部川と支流砂蘭部(さらんべ)川の扇状地末端に位置する。駒ケ岳(こまがたけ)北西麓(ほくせいろく)の火山灰地で，道内有数の酪農地帯を形成し，1956年(昭和31)集約酪農地域に指定された。食肉公社・乳牛育成牧場・家畜人工授精所などの施設が整い，明治乳業や雪印乳業の工場がある。ジャガイモ・テンサイを集散し，沿岸漁業によるホッケ・カレイなどの水揚げも多い。遊楽部川支流の鉛川上流に良質のマンガン鉱を産出する八雲鉱山がある。内浦湾沿いに函館(はこだて)本線・国道5号線(大沼国道)が通ずる。

八 雲 琴



やくもごと　【八雲琴】　出雲(いずも)琴・玉琴ともよばれる二弦琴。1820年(文政3)に，伊予(いよ)(愛媛県)の地歌家中山琴主(一説によると箏曲の葛原勾当(くずはらこうとう)とも，両者の協力ともいわれる)によって考案された。約1mの板の上に，同音に調弦した2本の弦を張り，左手にもった小さな管で勘所を押え，右手にはめた管状のつめではじく。曲目は，神前で演奏される本曲と家庭で奏されるための外曲で，約200曲ある。江戸時代のものとしては，高尚(こうしょう)な歌詞をもち，演奏も威儀を正して行なうという特徴がある。しかし，琴の音楽そのものは，開放音とその1オクターブ上，2オクターブ上の音や，4度や5度の音を中心にしての動きが多く，楽器の構造からくるパターンが非常に強い。〔徳丸吉彦〕

やくようせっけん　【薬用石鹼】　脂肪酸のナトリウム塩で，白色ないし淡黄色の粉末または棒状の固形物。通常のせっけんは高級脂肪酸のアルカリ金属塩であるが，薬用せっけんはナトリウム塩に限定している。丸剤の調製に用いるほか，歯みがき剤・リニメント剤・座剤などの基剤の一部に使用する。また，温湯にとかして約0.3％溶液としたものを瀉下浣腸(しゃかかんちょう)に用いる。

やくよけ　【厄除け】　⇨厄払い

やぐらのおしち　【櫓のお七】　日本舞踊・義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。本名題《松竹梅雪曙(しょうちくばいゆきのあけぼの)》。1856年(安政3)初演。人形浄瑠璃(じょうるり)《伊達娘恋緋鹿子(だてむすめこいのひがのこ)》の改作で，八百屋(やおや)お七が恋人吉三(きちさ)のもとへ行くために，町々の木戸をあけさせようと，おきてを破って火の見櫓の半鐘を打ち鳴らす。おもなところを人形ぶりで見せる。

やくり　【薬理】　化学物質の生体に対する作用(薬理作用)のしくみ。作用の性質，範囲，作用機序，薬の生体内運命，応用などを総称する。狭義には疾病(しっぺい)の治療に役だつ作用をもつもの(薬)による作用を薬理作用，生体に害のあるもの(毒)による作用を中毒というが，広義にはいずれも薬理に属する。少量では薬でも，大量では中毒作用を現わすものが多い。薬理作用に関して研究する学問を薬理学といい，薬物療法の基礎として重要で基礎部門に実験薬理学，応用部門に臨床薬理学がある。〔伊藤隆太〕

やぐるまぎく　【矢車菊】　双子葉植物・キク科。庭園に栽培されるヨーロッパ東南部原産の一年草ないし越年草で，ドイツの国花。全草に白い綿毛があり，茎は高さ30～100cmに達する。下方の葉は長さ約15cmの倒卵状披針(ひしん)形で，羽状に中裂ないし深裂する。上方の葉は線状披針形である。頭花は赤・桃・青・紫・白色で，管状花だけからなるが周辺のものは大きく，7～9裂するので舌状花のように見え，その状態を矢車に見たてて名がつけられた。ヤグルマソウともいうが，ユキノシタ科に同名のものがあり，まぎらわしいので使用しないほうがよい。　〔加藤僖重〕



ヤグルマギク

やぐるまそう　【矢車草】

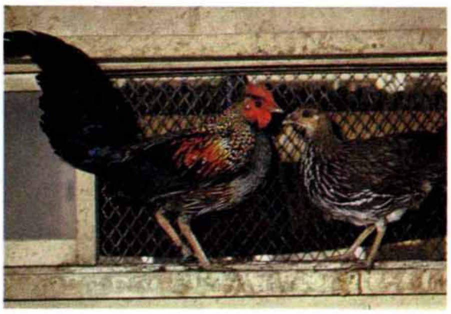
1 ヤグルマギク*の別名。

2 双子葉植物・ユキノシタ科。深山の谷間や沢沿いの陰湿地に自生する多年草。枝分かれをする太い根茎があり，5枚の小葉からなる掌状葉が根出する。各小葉は長さ10～40cm，幅5～20cmで，3～5裂する。6～7月，高さ約1mの花茎を伸ばして長さ10～40cmの花序をつけ，その軸は細かい粒状の毛におおわれる。花は径5～10mmで，花弁はなく，乳白色のがく片5～7枚がある。おしべは5～14本，花柱は2本ある。



ヤグルマソウ

やけい　【野鶏】　現在飼われているニワトリは，ヤケイから改良されたものだといわれている。ヤケイとして現存しているものは，次の4種である。①セキショクヤケイ：インド・ビルマ・タイ・インドネシアをはじめ広く東南アジアに分布し，ニワトリとは最も多くの共通点をもつといわれている。②セイロンヤケイ：セイロン島にのみ分布し，セキショクヤケイよりもいくぶん羽色が薄い。③ハイイロヤケイ：インド中央部に分布し，雄のくびの羽は黄金色の封蠟(ふうろう)様の斑点(はんてん)があって美しく，鳴き声はニワトリが驚いたときに発する声に似る。④ミドリエリヤケイ：ジャワ・ロンボク・フロレス島などに生息し，冠はかまぼこ状で切れ込みがなく，肉髯(にくぜん)といわれるニワトリののどの部分にたれさがっている肉塊は，他のヤケイのように2枚に分かれず癒合(ゆごう)して1枚になっている。　〔一戸健司〕

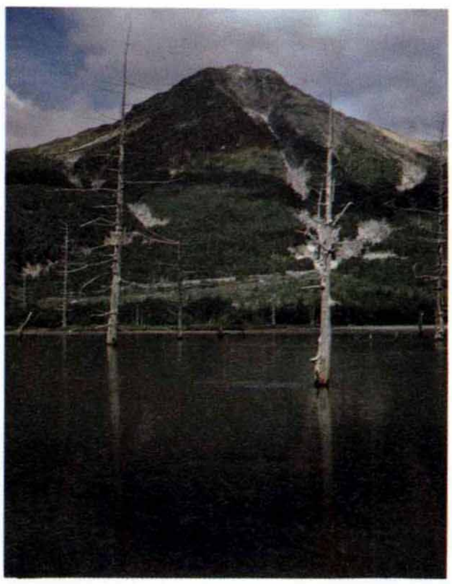


ヤ　ケ　イ　ハイイロヤケイ

やけいこっか　【夜警国家】　18～19世紀，ヨーロッパ自由主義の基本的な国家観で，自由放任主義*(レッセ-フェール)と表裏一体をなす。それによれば，国家*は人々の〈生命・自由・財産〉の守護者であればよく，国家の機能は警察的機能に限られるべきであるとする。別名〈番犬国家〉といわれる理由はここにある。夜警国家は国家の機能を最終的に刑罰の執行に求め，国家を監獄の維持者と考えるものであった。そこには，社会の調和は個々人の自由な経済的競争，つまり自由競争によって実現され，国家はむしろその妨害者でしかないという考え方がある。したがって本質的には，国家は〈害悪〉であり，にもかかわらずなおも国家が必要とされるのは，その警察機能のゆえにであるとされた。このような国家観は具体的には重税や穀物の保護貿易など，絶対主義国家による経済的干渉に対して台頭しつつあった第三階級*(ブルジョアジー)が主張したイデオロギーで，功利主義*の基本的な国家観であった。第三階級が自由のために要求した政治的プログラムであったといえる。しかしこの国家観は，国家社会主義の立場に立つラッサールらによって，国家をブルジョアの私有財産の夜回り番としてしか認識しないものとして批判された。　〔西尾孝司〕

やけいしだけ　【焼石岳】　岩手県南西部，水沢市のほぼ西方に位置する那須(なす)火山帯の火山。標高1,548m。焼石岳を主峰として，北東および南の諸峰を合わせて焼石火山群をつくる。全体に山容の侵食が進んでおり，火山岩が絶壁をなし奇岩をつくり険しい景観を見せている。また沼や小湖が多い。北麓(ほくろく)には夏油(げとう)温泉がある。

やけだけ　【焼岳】　北アルプス南部，長野・岐阜県境にそびえる活火山。硫黄岳(いおうだけ)ともいう。標高2,455m。上高地入り口の西側に位置し，山頂部には東西約200m，南北約150mの楕円(だえん)形の火口がある。1907年(明治40)の爆発以来活動を続け，1915年(大正4)には最も激しい爆発を起こし，そのときの泥流(でいりゅう)は東斜面を流下して梓(あずさ)川をせき止め，大正池をつくった。1962～1963年にも大きい爆発があり，死者を出し焼岳小屋が全壊した。現在も硫気孔活動が盛んである。中部山岳国立公園に含まれる。　〔高野　繁〕



焼　岳　大正池から望んだ焼岳。ふもとには白樺林が広がる。1915年の噴火泥流で生じたこの池の枯木も消滅に近い

やけど　【火傷】〈かしょう〉ともいう。狭義には高熱の液体・気体によるやけど(熱傷)と区別して，灼熱(しゃくねつ)物体や火炎の放射熱あるいは接触による局所の損傷をいう。軽重によって次の4種に分けられている。第1度火傷(紅斑(こうはん)性)：発赤・腫脹(しゅちょう)があり疼痛(とうつう)を伴う。死体では熱を加えても紅斑はできない。第2度火傷(水疱(すいほう)性)：表皮の下に漿液(しょうえき)が集まって水疱ができる。その内容は混濁した水様液であることも，膠(にかわ)状の凝固物，膿性(のうせい)液であることもある。死体に熱を加えても水疱はできない。第3度火傷(痂皮(かひ)性)：熱の作用がさらに強くなるか作用時間が長くなると，皮膚の表皮と真皮層が壊死(えし)に陥り，灰かっ色ないし黒色の痂皮ができる。第4度火傷(炭化性)：著しい高熱が加わると組織が炭化して黒色となる。皮膚のみでなく皮下組織・筋肉・内臓表面・骨などにまで及ぶこともある。組織がもろくなり，裂けたり切り傷状に開いていることもある。なお，第2度以上の火傷の範囲が，成人では体表の約2分の1以上に及ぶと，中毒性の症状を発して生命に危険があるといわれ，幼児ではさらに

危険性が大きく，体表の6分の1から4分の1でも死の危険があるといわれている。〔青木利彦〕

やけやま　**【焼山】**　新潟県南西部，妙高火山群の西端にある活火山。富士火山帯の北端にあたる。標高2,400m。糸魚川(いといがわ)市の南西方に位置する。円錐(えんすい)状の火山で，山頂に周囲約500mの火口をもち，その中に万年雪を残すお釜(かま)(火口湖)がある。1963年(昭和38)から1964年にかけて小爆発があった。上信越高原国立公園に含まれる。

やご　**【水蠆】**　⇨トンボ

やこう　**【夜光】**　地球上層大気中の原子・分子が発する光。大気光ともいう。都会を離れて人工の光に妨げられない地方に行くと，夜空の星のない領域もけっしてまっ暗でなく，ぼうっと明るさをもっていることがわかる。これが夜光で，地上100km付近の大気層が発光しているためである。月のない晴れた夜，星の光を含めた空の明るさの半分以上を占めている。また夜光の強さは太陽活動とともに変動する。

やごう　**【屋号】**

①苗字(みょうじ)とは別に家につけられる呼称。家名・門名などともいう。これには，①住居の所在位置や方角・地形によるもの(坂下・宮の前・北)，②家屋の構造・材料などの特徴によるもの(蔵屋・板屋)，③家印*によるもの(笹屋(ささや)・大丸)，④家の格式や本家・分家関係によるもの(本屋敷・新屋)，⑤先祖ないし一時期の主人の名によるもの(小右衛門・久蔵)，⑥職業や村内行事の任務によるもの(紺屋(こうや)・頭屋)などがある。これらは農村などの一定地域(村)に同姓が多い場合に，相互に呼び分けるため日常使われてきた。また，都市でも商家は一般に屋号で呼ばれる。これは江戸時代に武士以外は一般に姓を許されなかったため，たとえば紀伊国(きのくに)屋文左衛門のように屋号を付して称したことによる。商家の屋号は越後(えちご)屋・三河(みかわ)屋・伊勢(いせ)屋など出身地によるものが多い。また米屋・紅屋など商品目による屋号もある。商家の屋号は客の信用を保証するものである。なお，今日法律上では商号*という。

②歌舞伎(かぶき)俳優が芸名とは別に呼ばれる家名。元禄年間(1688～1704)ごろに始まる。同じ市川でも，猿之助(えんのすけ)の沢瀉(おもだか)屋，左団次の高島屋，中車の立花屋など，屋号が異なる例が多い。➜歌舞伎(表)〔力石淳次〕

やこううん　**【夜光雲】**　普通には雲の現われない高空(75～90km)成層圏に，暗夜現われる絹雲に似た雲。北半球では，夏の中緯度北部にのみ現われるが，回数はきわめて少ない。夜にはいってから一等星と同時に見え出し，初期の灰色から輝きを増し，ついにはいぶし銀のような青みがかった白色に近づく。夜半を過ぎてからは逆に色があせてくる。夜光雲が氷晶*からできているとするとその温度は160°Kと推定され，この低温層の実在はロケット観測により確認されている。〔船越　泉〕

やこうちゅう　**【夜光虫】**　原生動物・有色鞭毛虫(べんもうちゅう)・渦(うず)鞭毛虫目・ヤコウチュウ科。体は球形で直径1mm程度。殼(から)をもたず，体表には太く長い触手がある。べん毛は1本が縦溝(じゅうこう)に沿ってあるが，顕微鏡下でも見いだしにくい。細胞内には核・食胞などが見られるが，色素体はもたない。ときに異常増殖して赤潮現象をひき起こす。この種の赤潮は，色が桃色ないし赤桃色で美しく，特に極表層に集中するために魚介類への影響は比較的少ない。暖海性のプランクトンで，発光することで知られ，夜間は波の刺激で海表面が燐光(りんこう)を発し美しい。〔向井　宏〕

やこうどうぶつ　**【夜行動物】**　動物の行動には昼夜で周期的な違いがみられるものが多く，そのうち昼間は休んで夜間に摂食や生殖などの活動をするものを夜行動物といい，昼間に活動する昼行動物に対して用いられる。ネズミ・ムササビなどの哺乳(ほにゅう)類，フクロウ・ミミズクなどの鳥類，ヤモリなどの爬虫(はちゅう)類などのほか，こん虫類や海産の甲殻(こうかく)類でも知られ，環形動物のミミズも夜行動物の一種である。

やこうとりょう　**【夜光塗料】**　⇨発光塗料

ヤコービ　［Friedrich Heinrich Jacobi］(1743～1819)　ドイツの哲学者。ジュッセルドルフの生まれ。啓蒙(けいもう)思想期とドイツ観念論の境に位置し，特にカント*の形式主義的な面を感情・信仰の立場から攻撃した。その認識論は，具体的現実は観念論・唯物論の反省や推理によってではなく，直接ある種の啓示，客観的信仰によって与えられ，超自然的なものは論証によらず，感情によってのみ到達されるとする。また，徳は抽象的法則に基づくものではなく，自然的衝動から生ずるとする。スピノザをめぐって行なわれた啓蒙思想家メンデルスゾーンとの汎神論(はんしんろん)論争は有名である。〔玉井　治〕

ヤコービ　［Karl Gustav Jacob Jacobi］(1804～1851)　ドイツの数学者。ポツダムにユダヤ人の銀行家の子として生まれた。ベルリン大学在学中，オイラー*の著書により数学を独習。卒業後ケーニヒスベルク・ベルリン両大学教授となった。アーベル*の業績を評価して，アーベル積分の呼称を与え，楕円(だえん)関数論を開拓した。このほか代数学における消去法の理論にすぐれた研究を残し，関数の従属性についていわゆるヤコビの行列式を立てた。関数行列式は彼の名にちなみ，ヤコビアンともよばれる。

ヤコブ　［Jacob］《旧約聖書 創世記》に現われる人物。イサク*の子で，イスラエルの族長。兄エサウとの相続権争い，20年間いっしょに暮らした伯父(おじ)との不和，愛児ヨセフの失踪(しっそう)など，その生涯(しょうがい)は神の祝福を受けながらも，たえず危機にさらされ，他の族長らに比べて人間的に不安定であった。わが子ヨセフをたよってエジプトに行き，そこで死んだ。なお，ヨルダンの川べで神の使いと格闘したとき，彼はイスラエルという名を与えられ，これによりその12人の子らはイスラエル12支族の祖となった。〔松田　治〕

ヤコブ(小)　［Jacob］　十二使徒のひとり。聖書では〈主の兄弟〉とよばれ，イエス-キリストの縁者。イエスの復活後，熱心な信者となり，ペトロ・ヨハネとともに〈初期教会の柱〉とよばれた。《新約聖書》の〈ヤコブの書〉の著者とされる。

ヤコブ(大)　［Jacob］　十二使徒のひとり。ゼベダイの子で，使徒ヨハネの兄弟。イエスの最初の弟子(でし)のひとり。ガリラヤ湖の網元の出らしいが，詳しくはわからない。ヨハネと同様に性格の激しいことで知られ，2人ともイエスから〈ボアネルゲ(雷の子)〉とよばれている。AD44年，ヘロデ-アグリッパ1世によって殺された。使徒のうち最初の殉教者である。

ヤコブセン　［Jens Peter Jacobsen］(1847～1885)　デンマークの小説家。ユトランド半島の港町ティステの生まれ。38歳で夭折(ようせつ)したが，《マリイ-グルッベ夫人》《ニイルス-リーネ》などの不朽の名作を残した。コペンハーゲン大学で植物学を専攻，卒業後ダーウィン*に傾倒して《種の起源》《人間の系譜》などを訳したが，藻(も)の採集に熱中しすぎて肺を病み，のち文学に専心，夢と現実の撞着(どうちゃく)を主題に，彫心鏤骨(るこつ)の精緻(せいち)をきわめた文章を書き浪漫的情調をにじませた。また，ブランデスが〈散文家中唯一の色彩家〉と評したほど，彼のことばは光と色に満ちている。情景を断片的につないだ印象派ふうの小説《モーゲンス》も有名。〔鈴木徹郎〕

ヤコブセン　［Robert Jacobsen］(1912～　)　デンマークの彫刻家。はじめ木や石による表現主義的彫刻を制作したが，1947年パリに住んで以来，鉄材を駆使した有機的な空間構成を求める抽象表現を展開している。

やさい　**【野菜】**　一般にはやお屋で販売されているものをさすが，くだもの屋で扱うイチゴ・メロン・スイカなども生産者側からは野菜として扱われ，またマツタケ・シイタケ・たけのこ・マッシュルームなども野菜とすることが多い。わが国では学問上は蔬菜(そさい)とよんでおり，その種類は100種に及ぶが，重要なものは約30種である。重要な野菜の植え付け面積は60数万ヘクタール，総生産量は約1,300万tで，1人あたり年間120～130kgぐらい消費していることになる。生産される種類は，需要の動向に従って年々変動するのが常であり，近年はニンジン以外の根菜類は減る傾向にあり，

ハクサイ・レタスなどの葉菜類，カボチャ以外の果菜類，およびイチゴ・メロンなどの嗜好(しこう)食品的なものは増加の傾向にある。昔は野菜の出回りには季節性があったが，近年は地域の選定や，ビニルハウスなどの施設を利用する技術の進歩により，重要な種類はほとんど一年じゅう市場へ出荷されるようになった。野菜はいわゆる生鮮食品であるため，特に鮮度を尊ぶ種類は都市近郊での生産が多く，多少輸送性のある種類は適当な場所で大量に生産され，共同で出荷されるのが普通である。

野菜はもともと副食として利用されるものであるが，栄養上きわめて重要な農産物で，多くはビタミンCを含み，有色野菜とよばれる緑・黄色の野菜はビタミンAの給源となる。また無機塩類を含むアルカリ性食品であるため，肉・魚類など酸性食品の利用が進むと必然的に野菜の需要は高まる。また種類が多く，味やかおりも多様なため，あらゆる料理に利用されて，食生活の質的向上に役だつ。〔松本正雄〕

やさいぞうむし【野菜象鼻虫】 こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ゾウムシ科。体長8〜10mm。体はかっ色で，体表面には鱗片(りんぺん)と毛が密生する。体の背面の毛は暗色，腹面は淡黄色。鱗片は灰かっ色。前胸背板の正中部と鞘翅中央後方の横帯は淡色。口吻(こうふん)は太くて短く，触角は中央よりも前方から出て，〈く〉の字形に曲がり，先端はふくらむ。本州・四国・九州のほか，北アメリカ・オーストラリア・アフリカまで広く分布し，成虫・幼虫ともに各種の野菜を食害する。雑食性で，これまでに知られた食草は数十種に達するが，代表的なものはキャベツ・ハクサイ・ホウレンソウ・ニンジン・キュウリ・ナス・ジャガイモ・タバコなどである。年1回の発生で，冬は幼虫態で越す。卵は晩秋から早春にかけて作物の根際や土中に産下され，約2週間で孵化(ふか)して，葉や心芽を食害する。幼虫の加害は晩秋から翌春にかけてみられるが，3〜4月の加害が特に著しい。土中に潜入して土室をつくってさなぎとなり，約1か月で羽化する。本種は南アメリカ原産で，日本では1942年(昭和17)に岡山県下で発見されて以後，関東地方以西の地域に広がった。単為生殖を行なう。〔鈴木邦雄〕

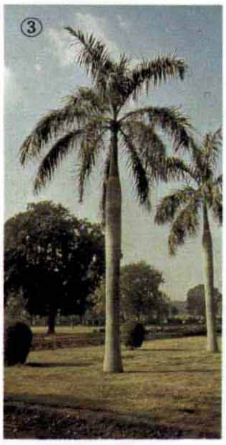
やさかじんじゃ【八坂神社】 京都市東山区祇園(ぎおん)町にある。祭神は素戔嗚命(すさのおのみこと)・櫛稲田比売命(くしいなだひめのみこと)・八柱御子神(やはしらみこのかみ)。古くは祇園社・祇園天神・牛頭(ごず)天王とも称された。創祀(そうし)については諸説があって一定しないが，一般に876年(貞観18)僧円如が兵庫県の広峰より移祭し，その翌年，藤原基経*(もとつね)が感神院を興して院内に3神を祭ったものという。祭神はいずれも厄除(やくよ)けの神として信仰されてきた。本殿は単層の檜皮葺(ひわだぶき)で祇園造り。社宝に《祇園社古図》《祇園古記録》などがある。6月15日の例祭のほか，7月17日と24日を中心に行なわれる祇園祭*や，元旦(がんたん)未明に行なわれる白朮(おけら)参り*が著名。〔佐野文哉〕



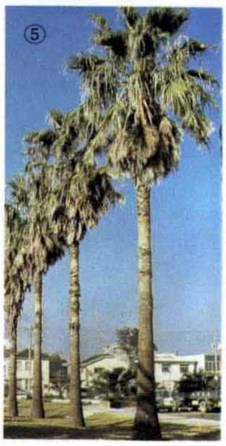
八坂神社 本殿











ヤシ
①オキナヤシ
②オオミヤシ
③ダイオウヤシ
④ウチワヤシ
⑤ワシントンヤシ

やさかにのまがたま【八坂瓊勾玉】 三種神器*の一つで，皇位の印として継承された。元来，鏡と剣と玉は古墳出土品中最も普遍的なもので，支配者の権威の象徴として伝承されたが，それが中国の伝国璽(でんこくのじ)の観念と結びついて，7世紀後半ごろから三種神器(ないし神宝)が天皇の位を証明するものとされるようになった。このうち，勾玉を加えたのは8世紀にはいってからであろう。〔黛 弘道〕

やさと【八郷(町)】 茨城県中央部，新治(にいはり)郡の町。人口29,000。筑波(つくば)山地中の柿岡(かきおか)盆地を町域とし，恋瀬川が南流して，霞ケ浦(かすみがうら)に注いでいる。1955年(昭和30)柿岡町ほか7村が合併して発足した。畑作を主とする農業地帯で，クリをはじめナシ・カキ・ミカンなどの果樹栽培や，ウシ・ブタ・ニワトリの飼育も盛んである。旧柿岡町に気象庁地磁気観測所がある。

やし【椰子】 単子葉植物・ヤシ科の総称であるが，ココヤシのことを単にヤシということがある。ヤシ科には140属2,000種が含まれ，熱帯に広く分布し，温帯地方でも屋外や温室で栽培されている。茎は大きく張って30mにもなるものから，ほとんど伸びないものがあり，また，つる性でとげで他物にからむものまで変化に富む。葉は大形で，扇状または羽状複葉。雌雄異株。花は大形の仏炎包をもつ円錐(えんすい)花序で，小花は黄緑色か淡黄色で小形のものが多い。果実は漿果(しょうか)・核果・堅果で，多くは種子を1個もつ。

ヤシ科を大別するとシュロ類・ヤシ類・トウ類に分けられる。①シュロ類は，葉が扇状葉で，3心皮のおのおのが独立した果実になる。カンノンチク・シュロ・シュロチク・タリポットヤシ・パルメラヤシ・ビロウ・フタゴヤシなどがある。②ヤシ類は，葉が羽状複葉で，3心皮が1果実の3室になる。アブラヤシ・クジャクヤシ・クロッグ・ココヤシ・サゴヤシ・サトウヤシ・ザラカヤシ・ゾウゲヤシ・ダイオウヤシ・トックリヤシ・ナツメヤシ・ニッパヤシ・ビンロウ・フェニックスなどがある。③トウ類は葉がつる性で，葉は羽状複葉。代表的なものにトウがある。

アブラヤシはアフリカ原産で，茎は高さ10〜20m，葉は長さ7mの羽状葉。果実は径4cmの卵状で，赤橙(せきとう)色に熟す。中果皮は繊維質で油分に富み，圧搾して得られるパーム油はせっけん・ろうそくの原料にされ，種子は食用にしたりやし油をとって人造バターの原料にする。クジャクヤシはインド原産で，葉が2回羽状複葉で，小葉は倒三角形。果実は房状に下垂する。熱帯地方の並み木や庭園樹としてよく用いられる。クロッグは，沖縄・台湾原産で，耐寒性が強い。茎は群生し，低木状で地上をはい，葉はほとんど根生して2〜3mの羽状葉。葉鞘(ようしょう)は繊維質でたわしやほうきにする。ザラカヤシは，熱帯アジア原産の湿地性のヤシで，茎はほとんどなく，葉

は長柄をもつ大形羽状葉。花は帯赤色。果実は径5～8cmの球形，赤さび色で光沢がある。果肉は白色で甘酸味があり，食用にする。ダイオウヤシはインド原産で，茎は高さ40mにもなり，羽状葉が優美なため，並み木や庭木とされる。タリポットヤシはマライ半島西方のアンダマン諸島原産で，茎は30mほどになる。葉は径3～5mの扇状葉で，発芽後50年以上たってから開花して枯死する。花穂は多く分枝し，高さ10mにもなり6,000万個もの花をつけるという。パルメラヤシは熱帯アジア原産で，乾燥地を好み，茎は高さ30mほどになる。葉は径1～2mの扇状葉。果実は径1～1.5cmの小形の球形で，食用になる。花穂の軸は多量の糖を含み，ヤシ酒をつくる。葉は屋根材・細工物にし，また針で経文を刻みつけるのに用いた(→貝多羅葉本(ばいたらようほん))。タリポットヤシの葉も同様に用いられた。フタゴヤシはセーシェル諸島のプララン島特産で，茎は高さ30mになり，葉は径1～3mの扇状葉。果実は長さ50cm，重さ50kgもあり，縦に深い溝(みぞ)がある。果実は成熟するのに数年かかり，その上発芽力はすぐ失われるという。　〔横井朝子〕

やし　【香具師】　矢(野)師・弥四とも書き，的屋ともいう。縁日・祭礼など人出の多い所で見世物を興行し，または品物を売ることを生業とする者。〈やし〉の語源は諸説あるが，やくし(薬師)の略語とみられるようで，漢方の諸薬草を入れる香袋売りの意味から香具師の字があてられたとする説が有力である。江戸時代には十三香具師とよばれ，売薬者・居合抜きなど各種の大道の商人と遊芸民を含んでいたが，近世には親分のなわ張り(庭場)のもとに集団をなし，やくざと結びついて親分・子分の恩顧奉仕関係を形成し，その組織は博徒(ばくと)に似ている。

ヤーシ　［Jaşi］　ルーマニア北東部の都市。人口17万(1968)。ブドウをはじめとする農産物の集散地で，鉄道の要地。15世紀建造の教会や大学(1860年創立)がある。15世紀に市制を敷き，1565年にはモルダビア公国の首都となった。1792年ここでロシア－トルコ戦争*後の条約が調印された。第2次世界大戦前はユダヤ人が多く居住していた。

やしがに　【椰子蟹】　甲殻(こうかく)類・オカヤドカリ科。甲幅約14cmほどの大形の陸生ヤドカリ。歩脚を含めると全長30cmを十分にこえる。第1脚(はさみ脚)は太く短く，つねに左側が大きくなる。歩脚のうち第4・5脚ははさみ状となるが，第5脚は鰓室(さいしつ)内にあり，外見上は見えない。一般に貝殻(かいがら)はかむらないが，幼時にはかむるといわれる。鰓室膜で空気呼吸をするが，ゾエア幼生は海中でプランクトン生活を送る。ヤシ林内に穴を掘ってすみ，木に登って果実を食べるといわれる。沖縄以南の熱帯地方にすみ，食用とされる。

やしきりん　【屋敷林】　農家の屋敷の周囲にある樹林。防風・防雪・防霧・防塵(ぼうじん)・防煙・防火などの効用があるが，燃料や不時の用材の自給などにも役だつ。防風効果が最も重要であり，生活に影響の多い卓越した常風に備えるため，日本では北・西に備えたものが多く，また山間よりは平野によく発達している。地方によって樹種・形態が変化し，農村景観を特色づけている。礪波(となみ)・出雲(いずも)両平野の屋敷林は有名である。　〔中島道郎〕

やしま　【屋島・八島】

1能の曲名。作者不明。二番目物。世阿弥(ぜあみ)時代から修羅物(しゅらもの)の代表作とされている。都の僧が讃岐(さぬき)(香川県)の屋島に来ると，老人と若者と2人の漁夫が現われ，塩焼き小屋に休むので，僧は一夜の宿を請い，老人は昔屋島の戦い*に平景清*(かげきよ)が源氏方の三保谷(みおのや)四郎の兜(かぶと)の錣(しころ)を引いた物語などをする。老人は実は源義経(よしつね)の霊で，やがて昔の勇姿を現わした義経は，平家の船の間に弓を落として，戦いの間にそれを拾った話などをする。やがて，修羅道(戦死した者が死後行くところ)で好敵手だった能登守教経(のとのかみのりつね)と戦うところなどを見せたのち，義経の霊は夜明けとともに消え去る。シテは老人(のちに義経の霊)，ワキは都の僧。若い漁夫はシテヅレが，僧の従者はワキヅレがつとめる。ほかに間狂言(あいきょうげん)として所の者が出るが，間狂言は那須(なす)与一*の扇の的の物語をすることがある。　〔長尾一雄〕

2日本舞踊・地歌・箏曲(そうきょく)・荻江節(おぎえぶし)の曲名。能の《八島》の後半に取材したもので，地歌・箏曲は明和・安永年間(1764～1780)ごろ，名古屋の藤屋勾当(こうとう)の作曲になる。のちに八重崎検校*(けんぎょう)が替手(かえで)ふうに編曲したものがよく知られる。荻江節は，4世荻江露友が1879年(明治12)，地歌を荻江化したもの。このほか，室町時代につくられた幸若舞(こうわかまい)の《八島》がある。



ヤシガニ

やしま　【屋島】　香川県高松市の北東部にある南北5km，東西2kmの半島状をなす陸繋(りくけい)島。カコウ岩上にキ石安山岩をのせた溶岩台地で，最高点は293m。平坦(へいたん)な屋根状をなしているので，この名がある。全山がマツにおおわれて，南嶺(なんれい)と北嶺に分かれ，南麓(なんろく)からケーブルカーや自動車道が山頂へ通ずる。山頂には談古嶺・獅子霊巌(ししのれいがん)・屋島寺・遊鶴亭(ゆうかくてい)などがあり，山麓には源平の古戦場が多く，南東の壇ノ浦(だんのうら)の義経弓流しの跡などは埋め立てられて陸化している。高松市とはバス・高松琴平電鉄・国鉄高徳本線で結ばれる。山頂からの景観がすばらしく，瀬戸内海国立公園に含まれる。　〔浅井得一〕

やしまのたたかい　【屋島の戦い】　讃岐(さぬき)(香川県)屋島*で行なわれた平氏と源頼朝(よりとも)の代官源義経*(よしつね)との合戦。一の谷の戦い*で敗れた平氏を追って，義経は1185年(文治1)2月摂津(大阪府)渡辺(わたなべ)から阿波(あわ)(徳島県)勝浦に渡り，背後から平氏軍を奇襲し，これを海上に追い落とした。この戦いで平氏の内海制圧は大



ヤシャブシ



屋　島　屋島山頂から東側の壇ノ浦の入り江を俯瞰する。塩田が広がり，枝条架が見える。対岸の山は五剣山

きく後退した。この戦いで，義経と梶原景時(かじわらかげとき)との〈逆櫓(さかろ)の争い〉や，那須(なす)与一の〈扇の的〉，〈義経の弓流し〉などの諸話が生まれた。　〔飯田悠紀子〕

やしゃ　【夜叉】　インドの神。梵語(ぼんご)yakṣa(ヤクシャ)の音写。《リグ-ベーダ》以来しばしば記される。半人半神の性格をもち威勢はなはだしく，人間の精気を飲み，害を与え，特に女夜叉は人間の肉血を食う獰猛(どうもう)な鬼のたぐいと伝えられる。しかし，仏教では仏法を守護しその信者を擁護する善神として説かれ，夜叉八大将・十二夜叉大将(十二神将)・十六大薬叉将(十六善神)の名で知られる。鬼子母神(きしもじん)も大夜叉女神の一つである。➔八部衆　〔北条賢三〕

やしゃじんとうげ　【夜叉神峠】　山梨県西部，南アルプス北部の鳳凰(ほうおう)山南方の鞍部(あんぶ)にある峠。標高1,770m。峠の直下には，甲府盆地へ出る御勅使(みだい)川上流と早川の上流野呂(のろ)川の谷(白鳳渓谷(けいこく))を結ぶ野呂川林道のトンネルが通る。峠からは甲府盆地が一望され，西方の渓谷を隔てた白根三山と南東方の富士山の眺望(ちょうぼう)はすばらしい。南アルプス北部の山々への登山道にあたり，ハイカーも多い。

やしゃぶし　【夜叉五倍子】　双子葉植物・カバノキ科。山地に自生する落葉高木で，高さ6～8m。幹は灰かっ色で緑白色の斑点(はんてん)がある。葉は互生し，長さ5～10cmの卵状楕円(だえん)形で，縁に低い重鋸歯(じゅうきょし)があり，側脈が10～15対ある。雌雄同株で，3～4月，葉の出るまえに花を開く。雄花穂は枝先に1本ずつ，雌花穂はそれより下の枝に1～2個頂生する。果実は長さ約2cmのまつかさ状で，通常2個ずつ着き，タンニンを多く含む。がけぎわに植えられて土留めに使われる。枝や葉に毛のあるものをミヤマヤシャブシという。➔前ページ(写真)　〔加藤僖重〕

やしゆ　【椰子油】　ヤシの果実の核(含油量30～40%)にある脂肪層より採取した油。普通は核内部の脂肪質を乾燥したもの(コプラ)を圧搾して採油するので，コプラ油ともいう。低級脂肪酸を多く含み，白色の植物脂である。一般にはせっけん・マーガリンの原料として用いられ，精製油は食用油にする。圧搾粕(かす)は飼料・みそ・しょうゆの原料となる。➔コプラ

やじゅうは　【野獣派】　⇨フォービスム

やじり　【鏃】　矢の先端につける利器，矢の根ともいう。簳(やがら)とは別に石・貝殻(かいがら)・鉄などでつくる。軍陣用の征矢尻(そやじり)と狩猟用の狩股(かりまた)があり，征矢尻は先に刃や鎬(しのぎ)をつけて鋭くとがらせ，深く敵の肢体(したい)を刺す。狩股は鳥獣の翼や脚を射切るよう，開き股につくられている。狩股の矢は4枚羽で，旋回せずに飛んであたったところを射切る。そのほか鏑(かぶら)という木や骨でつくった球形のものを狩股の根に取りつける鏑矢がある。〔稲垣史生〕



安井曾太郎《金蓉》1934　東京国立近代美術館蔵

やしろじま　【屋代島】　⇨大島(山口)

やしろひろかた　【屋代弘賢】　(1758～1841)　江戸後期の国学者。通称大郎，輪池と号した。江戸の人。国学を塙保己一(はなわほきのいち)に，和歌を冷泉為村(れいぜいためむら)に，儒学を山本北山に学ぶ。のち幕府の儒官柴野栗山(しばのりつざん)の書記となって京都・奈良の寺社を調査。1793年(寛政5)幕府の右筆に抜擢(ばってき)された。また塙保己一の《群書類従》の編纂(へんさん)に協力し，晩年には幕命により《古今要覧稿》24巻を編集した。蔵書家としても有名で，江戸不忍池(しのばずのいけ)のほとりに不忍文庫を建て，死後蔵書は徳島藩の阿波国文庫に移譲された。しかし第2次世界大戦の戦火で焼失。　〔高崎徳次〕

やすいそうたろう　【安井曾太郎】　(1888～1955)　洋画家。京都市の生まれ。梅原龍三郎(りゅうざぶろう)と同期に関西美術院にはいり，浅井忠に師事。1907年(明治40)フランスに渡ってローランスについた。1914年(大正3)帰国，二科展に発表した滞欧作品が注目され，会員に推された。1935年(昭和10)帝国美術院会員となり，二科会を辞し，翌年山下新太郎らと一水会を創立。1944年東京美術学校教授となった。帝室技芸員・芸術院会員・文化勲章受章者である。典雅な色調と近代的写実で梅原とともに長く洋画壇をリードした。特に肖像画・風景画に秀作が多い。　〔匠　秀夫〕

やすいそっけん　【安井息軒】　(1799～1876)　江戸末期の儒学者。日向(ひゅうが)(宮崎県)の人。22歳で大阪の篠崎(しのざき)小竹，26歳で江戸の昌平黌(しょうへいこう)の松崎慊堂(こうどう)に学んだ。その後，日向飫肥(おび)藩に出仕，藩学の創建・改革に貢献した。のち再び昌平黌にもどり，官儒として儒学を講じた。幕末の外国軍艦来航に際しては《海防私議》を著わし名声を博した。朱子学をおもに講じていた昌平黌で，古学を旨とする息軒が教授に採用されたことは異例で，彼の卓越ぶりがうかがわれる。ほかに《論語集説》などの著書多数。　〔田上光治〕

やすおかしょうたろう　【安岡章太郎】　(1920～　)　小説家。高知県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学在学中に召集を受け，北満州から胸部疾患のため内地送還され，その後脊椎(せきつい)カリエスを長く病みつつ小説を発表。1953年(昭和28)《陰気な愉(たの)しみ》《悪い仲間》で芥川(あくたがわ)賞を受賞，いわゆる〈第三の新人〉の代表者と目されて現在に至る。現代社会と人間の不安定な関係を描く《海辺(うみべ)の光景》《花祭》《幕が下(お)りてから》のほか，多くのエッセーもある。

やすがわ　【野洲川】　滋賀県南部，鈴鹿(すずか)山脈南部に発して北西に流れ，守山(もりやま)市で琵琶湖(びわこ)南東岸に注ぐ川。流程約60km。河口に大三角州をつくる。上流はカコウ岩の山地で，下流に沖積(ちゅうせき)平野をつくり，その先端は年々湖中に突出している。先端に近く，対岸の堅田とを結んで滋賀県営の琵琶湖大橋がかけられている。

やすぎ　【安来(市)】　島根県東端の市。人口33,000。砂鉄の製錬による〈出雲鋼(いずもはがね)〉の産地として古くから知られ，和鋼記念館がある。江戸時代には松江藩の外港で鋼の積み出しで栄えた。1954年(昭和29)市制施行。市域は中海(なかのうみ)南東岸に面し，飯梨(いいなし)・伯太(はくた)両川の沖積地(ちゅうせきち)である米子(よなご)平野西部一帯を占め，市街地は伯太川河口の安来港を中心に発達する。産業三大別人口比は30：32：38。周辺部は良質の米を産する穀倉地帯で，二十世紀ナシやたけのこの特産があり，酪農も盛んである。安来港周辺には日立金属の工場群があり，高級刃物・ピアノ線など特殊鋼の生産が行なわれる。中海臨海工業地造成事業によって鉄工業の集団化が進み，日本唯一の海綿鉄の生産工場も建設されている。山陰本線・国道9号線が通じる。民謡《安来節》の発祥地で，歌詞にある十神(とかみ)山はいまは陸繋(りくけい)島になっている。南東部に県立公園清水寺，南部に鷺ノ湯(さぎのゆ)温泉がある。

やすぎぶし　【安来節】　島根県の民謡。古い舟唄(ふなうた)《出雲節(いずもぶし)》に渡部(わたなべ)千五郎(佐兵衛(さへえ))・お糸の親子が手を加えて，今日知られる《安来節》の原形をつくったといわれる。大正期に東京浅草で紹介されてから全国的に有名になった。一般にこっけいなしぐさで〈ドジョウすくい〉を踊ることが多いが，歌の内容とは関係がない。

やすくにじんじゃ　【靖国神社】　東京都千代田区九段にある。1853年(嘉永6)のペリー来航の年以降，鳥羽(とば)伏見の戦い，佐賀の乱，西南戦争，日清(にっしん)戦争，日露戦争，第1次・第2次世界大戦など，国事のために殉死・戦死した人々の霊約240万柱を祭る。1869年(明治2)現在地に東京

招魂社として創祀(そうし)されたのに始まり，1879年に現社名に改められた。殉難戦死者の遺品類は宝物遺品館に陳列されている。例祭は，春は4月22日，秋は10月18日。

やすだざいばつ【安田財閥】安田善次郎*によってその基礎が築かれた金融財閥。三井・三菱(みつびし)・住友とともに四大財閥といわれる。1876年(明治9)第三国立銀行，1880年安田銀行が設立され，その後，両銀行とも多数の支店を設け，関連金融機関数を拡大し，保険・鉄道・不動産・紡績などの諸会社を傘下(さんか)に収めた。1912年，合名会社安田保善社が設立されるに及び，安田財閥の基礎が確立した。しかし，安田財閥は金融部門の比重が大きく，金融財閥的な性格はその後も払拭(ふっしょく)されず，日華事変に至ってようやく産業部門への本格的進出が企図されるが，他の諸財閥に比べて大きなたちおくれをみせた。現在の富士銀行は安田財閥の金融部門を継承したものであるが，産業部門との関連は深く，かつてのような金融財閥型のおもかげは少なくなっている。〔原　豊〕

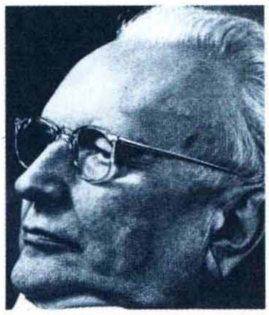
やすだぜんじろう【安田善次郎】(1838～1921) 安田財閥*の創始者。越中(富山県)の出身。26歳のとき江戸で両替店を開き，明治維新前後の貨幣混乱に乗じて，古金銀・太政官(だじょうかん)札を買い占め巨利を得，さらに諸官庁の公金取り扱いによってそれをふやし，1876年(明治9)第三国立銀行を設立，次いで4年後には安田銀行を創設，日清(にっしん)・日露・第1次世界大戦を通じて日本経済が飛躍的に発展した中で，政商的な色彩をおびずに金融業中心に財閥を築きあげた。京都銀行をはじめ多数の地方銀行を整理合併し銀行王といわれた。また社会教育にも力を注ぎ，日比谷(ひびや)公会堂・東京大学講堂などを寄付した。しかし名目的な寄付をきらい，1921年(大正10)9月28日寄付を強要した朝日平吾(へいご)の凶刃に倒れた。〔片岡一郎〕

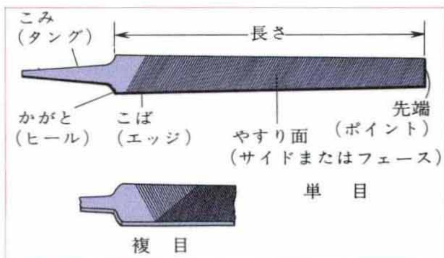
やすだゆきひこ【安田靫彦】(1884～1978) 日本画家。東京の生まれ。小堀鞆音(こぼりともね)につき，今村紫紅らと紅児会を興して新日本画の開拓につとめ，初期文展・国画玉成会で認められた。1914年(大正3)再興院展に参加，同人となる。歴史画にひいで，大和(やまと)絵を基礎とした高雅な画風により院展の重鎮として活躍を続けた。帝室技芸員・帝国芸術院会員・東京美術学校教授を経て1948年(昭和23)文化勲章を受章。日本美術院理事長。〔匠　秀夫〕

やすだよじゅうろう【保田与重郎】(1910～1981) 文芸評論家。奈良県生まれ。東京帝国大学美学科卒業。1932年(昭和7)雑誌《コギト*》を創刊，ドイツ-ロマン派の影響のもとに評論を書き，やがて1935年には神保光太郎・亀井(かめい)勝一郎*らと《日本浪曼派(ろうまんは)》を創刊。日本の民族的詩人への傾斜を深め，《戴冠(たいかん)詩人の御一人者》《後鳥羽院(ごとばいん)》《万葉集の精神》《近代の終焉(しゅうえん)》などの多数の著書には，反近代主義・反進歩主義の美意識の探求がこめられている。その一貫した国粋的思想のため第2次世界大戦後には批判されたが，《日本畸人伝(きじんでん)》などの著作で文壇に復帰した。〔金子　博〕


靖国神社　手前より第二鳥居，神門，中門鳥居，拝殿


ヤスデ　ミドリヤスデ


ヤスパース



やすり

やすで【馬陸】節足動物・倍脚綱に属し，ムカデとともに多足類*の主要な構成員となる。体長5～50mm。細長いひも形のもの，短い帯状のものが多いが，中にはぞうり形のものやダンゴムシ形のものもある。体色はかっ色や黒色に近いものが多いが，白・緑・青緑・紅色のものもある。ムカデに一見似るが，毒腺(どくせん)はなく，頭や触角はムカデほど目だたない。最も大きな違いは一つの胴節から2対ずつ脚が生じていることで，そのために倍脚類の名がついた。習性は温和で，森林の落葉下，石や朽ち木の下など，陰湿な場所に好んですみ，植物質の腐りかけたものを食べる。驚くと体をうずまき形に丸めて動かなくなるものが多く，また，悪臭のある液を分泌するものも多い。ときに人家の中に侵入してくることもあるが，別に害はしない。日本に180種以上知られている。ヤスデの大群が鉄道線路上に現われ，車輪を空転させて汽車を止めたという記録もある。〔青木淳一〕

やすな【保名】日本舞踊・清元節の曲名。狂乱物*。本名題《深山桜及兼樹振(みやまのはなとどかぬえだぶり)》。七変化(→変化物)の一。1818年(文政1)初演。人形浄瑠璃(じょうるり)《芦屋道満大内鑑*(あしやどうまんおおうちかがみ)》の一部を独立させて改曲したもの。安倍(あべ)保名が恋人榊(さかき)の死に心狂い，形身の小袖(こそで)を抱いてさまよう姿を描いた作品。6世尾上(おのえ)菊五郎*による，気分に重点をおいた演出が有名で，以後この手法を踏襲するものが多い。〔如月青子〕

ヤスパース［Karl Jaspers］(1883～1969) ドイツの哲学者。オルデンブルクの生まれ。はじめ医学を修めて精神病理学の教授となったが，のちM.ウェーバーの死に衝撃を受け職業哲学者となることを決意。ハイデルベルク大学教授，第2次世界大戦後の1948年よりバーゼル大学教授をつとめた。キルケゴール・ニーチェの強い影響を受けたが，カントにも深い親近性を示している。彼は対象的知識を問題とする科学と，対象的・客観的知識を越えた人間の主体性を問題とする哲学とを対立させ，後者によって近代の機械文明を批判し，人間の本来のあり方を回復しようとする。彼は実存哲学(→実存主義)を明確に主張し，また哲学的信仰を説いて超越者との関係を哲学的に把握(はあく)しようと試みているが，政治的にはヨーロッパ自由主義を積極的に擁護する代表的な思想家でもある。主著《哲学》《真理について》など多数。〔飯塚勝久〕

やすふるいち【安古市】広島県旧安佐(あさ)郡の旧町名，広島市の北に位置した。1955年(昭和30)古市町と安村が合併して発足し1973年(昭和48)広島市編入。古市はハワイやアメリカ合衆国への移住者の多いところとして知られた。水稲と野菜の近郊農業地域であったが，近年広島市の発展に伴って中小企業の工場や住宅が急増している。

やすらいまつり【やすらい祭り】⇨鎮花祭

やすり【鑢】工具鋼の表面に無数の細かい刃をつけた棒状の手作業用工具。金属や木材などの表面を削ってなめらかにした

り，かどを取ったりするのに用いる。断面形状により丸形・角形・平形・三角形などがあり，刃のつけ方によって単目・複目の区別があり，また刃のあらさによって荒目・中目・細目・油目などの種類がある。

やせ　【八瀬】　京都市左京区の北東地区。鴨(かも)川支流の高野川が比叡(ひえい)山西麓(せいろく)で峡谷をつくる地点にあり，地名は川に瀬が多いことにちなむといわれる。古くは京都と若狭(わかさ)を結ぶ敦賀(つるが)街道沿いの山間集落で，農林業を主産業とし，京都市中に黒木売りといってたきぎの行商に出た。また八瀬童子とよばれて禁裏の牛車(ぎっしゃ)の牛童をつとめる者を出している。最近は市街地との間に京福電鉄やバスが通じて宅地化が進み，通勤人口も増加している。北方の大原とともに深山と清流に恵まれた景勝地として並称され，石川五右衛門(ごえもん)のかまぶろなどの史跡がある。　〔浅井得一〕

やせいのよびごえ　【野性の呼び声】　ロンドンの長編小説(1903)。かつて作者自身金鉱発見におもむいたことのあるクロンダイク地方を舞台に，アラスカの原野のさなかで雪ぞりをひくイヌのバックがしだいに本来の野性に目ざめ，ついには人間の支配を脱してオオカミに変身するロマンチックな物語。

やそかい　【耶蘇会】　⇨イエズス会

やたがらす　【八咫烏】　日本神話にでてくるカラスの名。《日本書紀》によれば，神武天皇東征の際，夢にアマテラスオオミカミが現われ，八咫烏を先導とせよと告げた。はたして八咫烏が飛来し，無事大和(やまと)(奈良県)にはいったと記されている。この際のオオミカミは日神で，オオミカミと八咫烏の関係は日と烏の関係に還元されるが，烏を日の精とする思想は《楚辞(そじ)》《史記》などの中国古典に散見する。また《古事記》によれば，八咫烏をつかわしたのはタカギノカミ(タカミムスビノカミ)と記されている。そのほか《太平記》には〈くまの山の霊鳥〉，《和漢三才図会》には〈烏は熊野(くまの)の神使なり〉と伝え，烏は熊野神(→熊野三山)の使者とされているが，烏は民俗的信仰としては穀霊であり，そこに熊野神のかつての姿を烏と考え得る論拠が存する。しかし，熊野神の人格化が進むと，しだいに烏をその使者に転落させたと考えられる。　〔宮井義雄〕

やたて　【矢立て】　江戸時代にわが国で発明された携帯用の筆写用具で，墨つぼと筆を入れるさやとからなる。材質は銅で，上物には金銀の象嵌(ぞうがん)や彫刻を施したものがある。一般の旅行道具として，また商人が立ち売りの手控えをするのに便利なので広く流行した。その名称は，軍陣で箙(えびら)の中に入れたことから生じたものであろう。大工道具に墨つぼと称するものがあり，木材に直線を引くのに用いられるが，矢立てはこれにヒントを得たものであろう。　〔杉村勇造〕



ヤチネズミ

やたのかがみ　【八咫鏡】　三種神器の一つ。アマテラスオオミカミが天岩戸(あめのいわと)に隠れたとき，イシコリドメノミコトがつくった。《古事記》によると天孫降臨の際に，アマテラスオオミカミは〈この鏡はもはら我(あ)が御魂(みたま)として，我が御前をいつくがごと，斎(いつ)きまつれ〉といってこれをニニギノミコト(天孫)にさずけたという。以来歴代天皇はこれを祭り，特に崇神(すじん)天皇のときには八咫鏡をオオミカミの御霊代(みたましろ)として大和(やまと)(奈良県)の笠縫邑(かさぬいむら)に神宮をたて，垂仁(すいにん)天皇のときにはそれを伊勢(いせ)(三重県)の五十鈴(いすず)川のほとりに遷祀(せんし)した。これが伊勢神宮の内宮(ないくう)の起こりと伝えられる。　〔宮井義雄〕

やたべ　【谷田部(町)】　茨城県南西部，筑波(つくば)郡の町。人口28,000。西は水海道(みつかいどう)市，東は土浦市に接する。筑波山地の南西に続く台地上の農業地帯で，畑作を主とする。筑波研究学園都市の区域内にはいっており，また高層気象台・高速自動車試験場がある。1955年(昭和30)谷田部町ほか3村が合併して発足した。旧谷田部町は細川氏一万六千石の城下町であった。

やたべりょうきち　【矢田部良吉】(1851～1898)　植物学者。静岡県韮山(にらやま)に医師の子として生まれた。1869年(明治2)開成所の教授試補を経て外務省に転じ，アメリカ合衆国に渡りコーネル大学に学んだ。1876年帰国後東京開成学校(開成所の後身，東京大学の前身)教授・東京帝国大学教授・小石川植物園初代園長・東京高等師範学校校長などを歴任。植物分類学を研究し日本における近代植物学の開祖。なお，外山正一(とやままさかず)・井上哲次郎らと《新体詩抄》を刊行，その先駆者としても知られる。著書に《日本植物図解》《日本植物篇(へん)》などがある。　〔中村禎里〕

やちだも　【谷地だも】　双子葉植物・モクセイ科。北海道・東北地方の湿原に自生する落葉高木。高さ20～25m，太さ1mになることがある。樹皮は帯黄色で，深い裂け目がはいる。葉は対生する羽状複葉でふつう9小葉からなり，長さ30cmほど。小葉は頂小葉を除いて無柄で，長さ6～15cmの狭楕円(きょうだえん)形で先がとがり，裏面の中肋(ちゅうろく)には毛がはえ，縁に細鋸歯(さいきょし)がある。早春，前年枝の上部に円錐(えんすい)花序に花被のない小さな雄花および両性花をつける。花後，多数の翼果をぶらさげる。

やちねずみ　【野地鼠】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ネズミ科。エゾヤチネズミともいう。頭胴長12cm，尾長5cmほど。体毛は長くあらく，背は橙色(とうしょく)をおびたココア色，側面は黄色をおびたベージュ色，腹面はバフ色をおびた白色。北海道・国後(くなしり)島に分布し，北海道では各地の平地に普通で，牧草の茎・葉・種子や穀類などを食べる。冬に食物が欠乏するとカラマツなどの樹皮・根を食べるので植林地に大害を及ぼす。ハタネズミと並び，日本では最も害のある野ネズミである。

やちよ　【八千代(市)】　千葉県北西部の市。人口13万3,000。中心市街の大和田は，江戸時代は成田街道沿いの宿場町で，昭和初期からは酪農の町として発展している。1967年(昭和42)市制施行。市域は下総(しもうさ)台地の西部に位置し，産業三大別人口比は6：37：57。ラッカセイ・ナシ・野菜類の栽培が行なわれ，乳牛の飼育が盛んである。京成電鉄・国道16号線が通じる。最近は住宅団地・工業団地がつくられ，南部の大和田を中心に商店街も発達して，都市化が急速に進んでいる。1965～1970年の人口増加率は86.4%で県内の市では最高である。東部に印旛沼(いんばぬま)排水場がある。

やちょう　【野鳥】　野生の鳥類で，家禽(かきん)および飼い鳥に対するもの。家禽が人間の管理下から逃げ出して自由に生活し繁殖している場合や，飼い鳥(特に外国産の種)が逃げ出して繁殖している場合(ベニスズメ・キンパラ・ブンチョウ)は，人間が輸入して放鳥した場合(コジュケイ)を中間の場合として，野鳥との間に線を引くことができない。このような場合を野鳥とよぶかどうかは人によって異なっている。

やちよじし　【八千代獅子】　地歌の曲名。尺八の古典の旋律を胡弓(こきゅう)に移し，さらに三味線(しゃみせん)の曲に編曲されたもの。この移された部分は手事として残っている。地歌としたのは，18世紀中ごろの藤永検校(ふじながけんぎょう)といわれるが，今日では箏曲(そうきょく)としてひかれることが多い。手事部分は拍節的な動きが明確なため，芝居の下座音楽にも使われているほか，長唄(ながうた)《若菜摘(わかなつみ)》や《船弁慶》にも借用されている。　〔徳丸吉彦〕

やつお　【八尾(町)】　富山県南部，婦負(ねい)郡の町。人口23,000。1957年(昭和32)八尾町を中心に8村が合併し発足した。中心地区の八尾は渓口(けいこう)集落で，蚕種・和紙・薬草の集散地として栄え，現在も手

すき和紙の生産がある。聞名寺・本法寺などがあり，民謡《越中おはら節》の発祥地として知られる。高山線が通ずる。

やつがしら 【戴勝】 鳥類・ヤツガシラ科。この科はヤツガシラただ１種からなり，ヨーロッパ・アフリカ・アジアの暖帯・熱帯地域を中心に広く分布している。全長約28cm。わずかに下に曲がった細長いくちばしをもち，頭上には扇形の冠羽がある。翼と尾は黒色と白色のしま模様，他の部分は淡黄かっ色ないし肌色(はだいろ)である。乾燥した草原や疎林にすみ，地上によく降りる。こん虫の幼虫やミミズなど種々の動物類を主食とし，くちばしで土を掘ることもある。日本には迷鳥として渡来する。〔安部直哉〕

やつがしら 【八つ頭】 サトイモの一品種。葉柄は赤紫色をしており，ズイキとして酢の物や煮食に利用される。塊茎はいわゆる親芋が瘤状(こぶじょう)に大きくなり，一見頭がいくつも合体したような形状をしているのでこの名がある。関東地方での栽培が多く，デンプン質であるため，おでん種や煮物として古くからなじまれてきた。しかし近年栽培が減少する傾向にある。

やつがだけ 【八ケ岳】 長野・山梨両県にまたがってほぼ南北20kmに連なる火山群の総称。夏沢峠を境に南八ケ岳(狭義の八ケ岳)と北八ケ岳に分かれる。南八ケ岳は北から硫黄岳(いおうだけ)(2,742m)・峰ノ松目(2,567m)・横岳(2,834m)・赤岳(2,899m)・権現岳(2,712m)・編笠(あみがさ)山(2,524m)など，北八ケ岳は北から横岳(2,473m)・縞枯(しまがれ)山(2,395m)・茶臼(ちゃうす)山(2,383m)・丸山(2,330m)・中山(2,493m)・天狗岳(てんぐだけ)(2,646m)・根石岳(2,392m)などが連なる。山麓(さんろく)の広大なことはわが国有数で，東西と南には高原が広がり，牧場や耕地が展開する。中腹より上は針葉樹林におおわれ，高山植物が豊富である。登山のほか，ハイキング・スキー・スケートなどでにぎわう。小海線の各駅および茅野(ちの)など登山口も多い。八ケ岳中信高原国定公園に含まれる。〔高野　繁〕

やつがだけちゅうしんこうげんこくていこうえん 【八ケ岳中信高原国定公園】 長野・山梨両県にまたがり，八ケ岳*連峰・蓼科(たてしな)・霧ケ峰・美ケ原などを中心とする面積399km²の地域で，1964年(昭和39)に指定された。2,000m以上の連峰，高山植物の分布する高原，シラカンバの林に囲まれた湖などが特色で，八ケ岳は広大な森林におおわれ，中腹以上には原生林も残っている。最高峰の赤岳(2,899m)の山頂付近は岩はだが露出し雄大な景勝で名高い。蓼科から霧ケ峰の一帯には蓼科湖・白樺湖(しらかばこ)などがあり，八島湿原では湿性の高山植物の美しい群落が見られる。美ケ原は起伏のある草原で，乾性の高山植物，牛馬の放牧が見られる。蓼科温泉郷をはじめ，キャンプ地もある。山梨県の高根町，長野県の松本市・諏訪(すわ)市・茅野(ちの)市・小海町などが観光基地である。〔木村東一郎〕

やっきょく 【薬局】 正確には薬剤師*が調剤を行なう場所をいい，調剤，調剤用予製剤の調製，簡単な理化学試験を行なうことができるようになっている。しかし，一般には医薬品の販売業務を行なっている場所をも含めていう。薬局には薬剤師みずから業務を行なっているものと，薬剤師を雇って薬剤師が業務管理をしている場合があるが，いずれも薬事法によって規制されており，その設備などに関しては薬局等構造設備基準に適合する必要がある。病院・診療所などには薬局の名称を用いた調剤所があるが薬事法でいう薬局とは異なり，薬局の通念から除かれている。薬局以外の医薬品販売業のうち，薬剤師のいない販売業には薬種商販売業・特例販売業・配置販売業などがあり，これらについては取り扱う医薬品の範囲がそれぞれ制限されている。〔江本龍雄〕



ヤツガシラ



ヤツガシラ

やっきょくほう 【薬局方】 医療に使用する重要な医薬品について，国家がその品質・純度・強度などの規格と公定の名称を定めたもの。医療の適正を期するとともに，これによって取り締まりを行なっている。医薬品は疾病(しっぺい)の治療上不可欠のもので，その品質・力価の如何(いかん)は薬効に影響を及ぼすだけでなく，不測の事態も生じ，危険な場合も起こりうる。医薬品の品質・力価の確保・統一は，上記のおそれを解消するのみにとどまらずこれを使用する医師・薬剤師にとっても便利で，安心して使用ができ，さらに医薬について知らぬ患者にとっても間接的に保護される結果ともなる。このため文明各国では，その国の医療の実体に応じて薬局方を制定している。また国際的にも，国際連合の中の世界保健機構において，各国薬局方の指針と，低開発国の医療の確保と向上を期する目的で国際薬局方を制定している。わが国では1886年(明治19)にはじめて制定され，現在では薬事法によって厚生大臣が制定するように定められている。薬局方は10年ごとに新版が出ることになっており，現在は1971年(昭和46)に制定した第８改正版が実施され，これは第１部と第２部とからなり，約1,100品目の医薬品が収載されている。➔局方薬〔江本龍雄〕

やつくち 【八つ口】 女物の長着・羽織・じゅばん・コートの袖(そで)振り八つ口(袖付けから下の袖下までのあきで，袖振り・振りともいう)と，身八つ口(袖付けから下の脇(わき)縫い目のあき)とで各前後左右合計８か所のあきをいう。児童は体温が高く熱しやすいので，通風をよくするために，古代から男女児とも八つ口をあけた小袖を着せた。江戸時代には脇あけとよんだ。➔袖(図)

やっこそう 【奴草】 双子葉植物・ヤッコソウ科。1907年(明治40)に山本一が高知県幡多(はた)郡で発見し，牧野富太郎によっ



八ケ岳 清里高原から望む早春の八ケ岳連峰。左は権現岳で，中央鞍部のキレットを経て右は主峰の赤岳

て研究された世界的に珍しい植物で，スダジイまたはコジイの根に寄生する二年草。高さ3～6cm，長さ1～2cmの黄白色で卵形の鱗片葉(りんぺんよう)が2～3対十字対生する。花にいちばん近い2枚の葉が最も大きく，横に張り出したような形であり，奴が腕をつっぱらせた形に似るのでこの名がある。11～12月長さ1.5～2cmの白色頭状花を茎頂につけ，蜜(みつ)を出す。この蜜をメジロがなめながら花粉を運ぶ。果実は黄橙(おうとう)色の球形の液果で，中に小さな種子がはいっている。〔加藤僖重〕

やつしごと【俏事】 歌舞伎(かぶき)の演出用語。大名の若殿が放蕩(ほうとう)によって追放されたり，商家の若旦那(わかだんな)が勘当されたりして，紙衣(かみこ)一重に編笠(あみがさ)というみすぼらしい姿になって，以前なじんだ遊女のもとへ通うようすを描く類型的局面(パターン)をさしていう。野郎歌舞伎時代の〈傾城(けいせい)買いの狂言〉から出て，元禄(げんろく)期の上方歌舞伎の一典型となった局面と演技である。《廓文章*(くるわぶんしょう)》の伊左衛門(いざえもん)はこれである。

やつしろ【八代(市)】 熊本県中西部の市。人口10万9,000。古くから開けた土地で，平安末期に源氏政権を背景にした妙見社(いまの八代神社)の門前町となり，江戸時代は細川藩の城代松井氏三万五千石の城下町であった。明治以後は県南第1の工業都市として発展している。1940年(昭和15)市制施行。地名は〈やしろ〉(社)にちなむといわれる。市域は八代海*に面し，球磨(くま)川下流流域の八代平野南西部に位置する。産業三大別人口比は22：25：53。工業用水・石灰石・農林産物などの豊富な資源に恵まれ，1888年(明治21)セメント工場が設置されたのを契機に，製紙・人絹・酒造などの近代工業が興って不知火(しらぬい)臨海工業地帯の中心地となった。海岸部では八代海の干拓が進み，重要港湾指定の八代港には10,000トン級の岸壁が完成した。周辺農村部には水田地帯が開け，イグサ・スイカ・カボチャなどの栽培が行なわれる。鹿児島本線から肥薩(ひさつ)線を分岐し，国道3号線・219号線が集まる。不知火*の観光地，球磨川下りの拠点で南部に日奈久(ひなぐ)温泉がある。八代神社の妙見祭(11月18日)は九州の三大祭りの一つとして知られる。特産は，畳表・ザボン・アユなど。

やつしろかい【八代海】 熊本県八代市と水俣(みなまた)市の前面に広がり，宇土半島天草諸島・鹿児島県獅子(しし)島・長島によって囲まれた北東から南西に長い海域。八代湾とも，また不知火*(しらぬい)の名所であるところから不知火海ともいわれる。水深は一般に浅くて50m程度，北部では10m以浅である。干満の差は5mに達し，その大きいことは著名である。ノリ・カキ・クルマエビなどの零細な漁業が営まれているが，工場廃水による汚染が目だち，水俣病*の発生など話題を投げている。〔山口恵一郎〕



ヤツデ

やつしろがい【八代貝】 軟体動物・腹足類・ヤツシロガイ科。殻高(かくこう)19cm，殻径16cmほどの巻き貝。殻(から)は球形で，螺塔(らとう)は低く，螺層は7階，体層は丸く大きい。殻表には太く平たい肋(ろく)があり，肋間は狭い溝(みぞ)になる。肋上は濃かっ色と黄白色の斑(まだら)が交互にあり，その斑紋(はんもん)からヤマドリガイの名もある。殻頂の胎殻は黄色で明らかである。殻口は広く大きい。水管溝の湾入は明らかである。蓋(ふた)はない。北海道南部から九州，さらに西太平洋に広く分布し，水深5～40mの細砂底にすみ，棘皮(きょくひ)動物*(ウニ・ヒトデ類)を好んで食う。冬季，扇形の透明な卵嚢(らんのう)に包まれた卵を産む。肉は食用にし，殻は貝細工の材料となる。〔波部忠重〕

やつで【八手】 双子葉植物・ウコギ科。暖地の海に近い林に自生する常緑低木で，庭木として最もよく利用される。高さ2～3mになり，茎は何本も束になって出て，あまり分枝しない。茎の髄は白色で太く，顕微鏡用の切片をつくるニワトコの髄の代用にする。葉は茎の上部に集まってつき，長い柄で互生する。葉身は掌状で長さ20～40cm，5～11深裂し，各裂片の先はとがり，表面につやがある。花は白色5弁花で，10～12月，茎の先端に多数集まって円錐(えんすい)状につく。果実は直径8mmの球形で，翌年の春に黒熟する。

やつでひとで【八手海星】 棘皮(きょくひ)動物・アステリアス科。腕は基本的には8本であるが特に一定せず，7～10本の変異がある。盤部は小さく，腕もやや細くて五角柱状をなす。上縁板は一つおきに1本，下縁板には各2本の棘がある。穿孔(せんこう)体は2～3個が見られる。背側は紫かっ色で白色の斑紋(はんもん)がある。有性生殖以外に二分裂を行なってふえる。本州中部以南の沿岸岩礁地に最も普通で，貝・小魚・ウニなどの小動物を襲って食べる。

やつなおひで【谷津直秀】(1876～1947) 動物学者。東京の生まれ。1900年(明治33)東京帝国大学理科大学(現東京大学理学部)を卒業。翌年アメリカ合衆国に渡り，コロンビア大学に入学し，のち同大学講師となる。1907年帰国，東京帝国大学理科大学助教授・慶応義塾(ぎじゅく)大学教授を経て，東京帝国大学理科大学教授。日本に実験動物学を本格的に導入した先駆者。著書に《動物分類表》《無脊椎(むせきつい)動物系統学概論》など。

やつはし【八橋】 せんべいの変形で，京都の銘菓。蒸した米粉に砂糖・はちみつ・ニッケイ皮末を混ぜてこね上げ，薄く伸ばして短冊(たんざく)形に切り，焼きながらそりをつけたもの。1689年(元禄2)に聖護院の森で，八橋検校*(けんぎょう)の墓にもうでる人の茶受けに，琴形の干菓子を出したのがはじまりともいわれる。

やつはしおり【八橋織】 絹織物の一種。経(たて)方向に綾目(あやめ)が出る部分と，緯(ぬき)方向に綾目が流れる部分とを，上下左右交互に市松状に配した綾織物である。ふつうは四枚綾組織で経緯とも生糸を用いるが，経緯とも玉糸を使って織るものもある。通常，製織後に精練・染色し，一色に染めるが，市松状の文様がはっきり現われ，変化のある生地として利用度が多い。

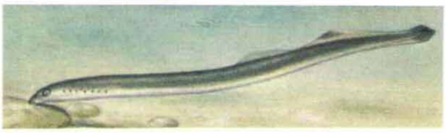
やつはしけんぎょう【八橋検校】(1614～1685) 江戸初期の音楽家。近世邦楽としての箏曲(そうきょく)の始祖といわれる。陸奥(むつ)(福島県)に生まれ，江戸で筑紫(つくし)流箏曲と三味線(しゃみせん)を習い，1636年(寛永13)に京都に移った。そこで，雅楽の影響がまだ濃く残っていた筑紫流箏曲を新しい三味線音楽にも共通する箏曲へと変えていき，半音を含む平調子を基本的な調弦法と定めた。また，《菜蕗(ふき)》をはじめとする箏組歌13曲と，《六段》など箏曲段物3曲を定めたが，それらの作曲者であるかどうかはまだ検討を要する。〔徳丸吉彦〕

やつはしりゅう【八橋流】 箏曲(そうきょく)の一流派。今日，生田流*とよばれているものが，八橋検校(けんぎょう)の高弟北島検校を経過して伝えられているのに対し，八橋流は北島検校を経過せず，その後も生田流・山田流として伝えられている箏曲のような様式上の変遷を受けなかった。この派は八橋検校の制定した組歌や段物を演奏し，地歌から移されたようなものは演奏しない。また，三味線(しゃみせん)との合奏も行なわない。八橋流は明治時代に滅びたと思われていたが，長野県松代(まつしろ)藩の伝承が残っていることがわかった。それによると，同じ曲が生田流と異なる場合がかなりある。〔徳丸吉彦〕

ヤップ(島)［Yap］ 西太平洋，カロリン諸島中の島。面積約100km^2。人口約6,000(1964)。火山島で，島の周囲にはサンゴ礁が発達している。16世紀にスペイン人が占領したが，1899年ドイツに売却され，第1次世界大戦後の1918年からは日本の委任統治領になったが，第2次世界大戦後はアメリカ合衆国の信託統治領になっている。主産物はコプラ。原住民はカナカ族に属する

ヤップ人で，かつて石の貨幣を使用していたことで知られ，石貨の大きなものは直径4ｍもあった。〔大崎　晃〕

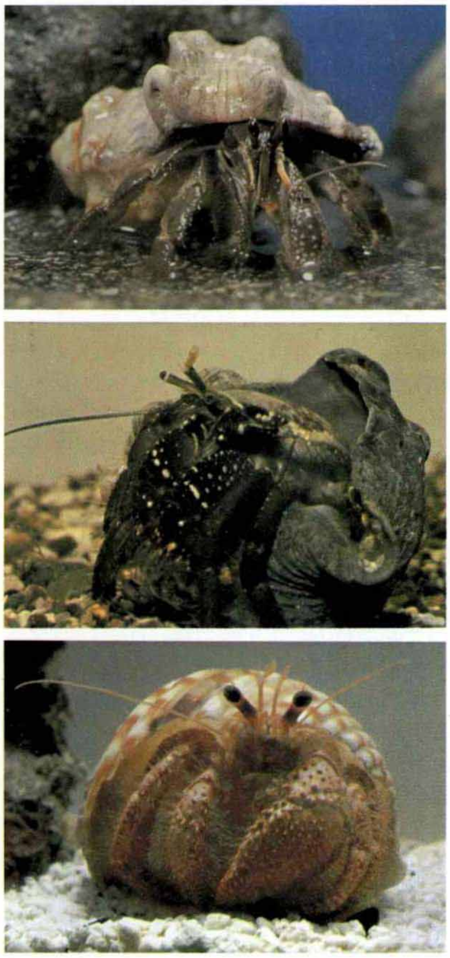
やつめうなぎ　【八目鰻】　円口類・ヤツメウナギ科。カワヤツメともいう。体は50cmほどのウナギ形であるが，目の後方に７個の外鰓孔(がいさいこう)が並び，それを目に見たててこの名がある。胸びれ・腹びれをもたず，口は円形を呈する。口腔(こうこう)には角質の歯があり，他の魚種に吸着し，皮膚を食い破って吸血する。卵は川底の礫(れき)の間に数十万個産みつけられ，孵化(ふか)してアンモシーテスとよばれる幼魚になり，川を下って海にはいる。食用にされ，ビタミンＡ含有量の多い消化管は薬用とされる。本州北部・北海道などの日本海側に分布する。ヤツメウナギ科には，ほかに全長10cmほどにしかならず海に下らないスナヤツメが知られている。〔向井　宏〕



ヤツメウナギ

ヤード　[yard]　ヤード-ポンド法*の長さの単位。0.9144ｍにあたる(計量法施行法)。記号yd　イギリスで，13世紀にエドワード１世がはじめて制定し，その後の変遷を経て現在では帝国標準ヤード(ヤード原器ともいう)に示された長さとして規定されている。これに対し，アメリカ合衆国ではメートルを基準として定め，3600/3927ｍとしているので，両者の間にはわずかな差がある。

やどかり　【寄居蟹】　甲殻(こうかく)類・十脚目・異尾類・ヤドカリ上科のツノガイヤドカリ科・ヤドカリ科・オカヤドカリ科に属する動物を一般にヤドカリと称する。一部の例外を除き，軟体動物の巻き貝死殻(しかく)に寄居する。ツノガイヤドカリ科のカルイシヤドカリは軽石に，トガリツノガイヤドカリはツノガイの死殻に寄居する。また，オカヤドカリ科のヤシガニは成体では特に貝殻(かいがら)をかぶらない。タラバカニ科もヤドカリ上科に含まれるが，体形は著しく異なり，一般にヤドカリ類とは称しない。頭部・胸部は完全に癒合(ゆごう)し，腹部は明らかに区別できる。頭胸部には１対のはさみ脚と４対の歩脚がある。はさみ脚は大きく，左右のはさみがほぼ同大のヨコバサミ類，左が大きいサンゴヤドカリなどの類，右が大きいホンヤドカリ類と，左右のはさみの大小でもおおまかに分類される。歩脚は第３・４脚はほとんど退化的で小さく，歩行には用いられない。腹部は柔らかく，ツノガイヤドカリ科とヤシガニを除けば，左右不相称になり，巻き貝に寄居できるようにらせん形に巻いている。ヤドカリ科では雌雄とも片(左)側だけに腹肢(ふくし)があるが，オカヤドカリ科では雄には腹肢を欠いて雌だけが左側に腹肢をもつ。ヤドカリは卵を腹肢で抱き，ゾエアとなるまで巻き貝殻内で保育する。ゾエアに成長した幼生は，浮遊生活を送り，数回脱皮して後期幼生のグラウコトエになり，さらに脱皮して底生に移行する。オカヤドカリ科のものは南西諸島のアダン林床などに見られ，幼生時を除けばほとんど陸生である。他のヤドカリは日本各地の潮間帯・浅海に多いが，数百メートルの深海にすむものもある。宿貝は特に決まってはいないが，種によってはより好む貝をもつものもある。〔向井　宏〕



ヤドカリ　(上)オカヤドカリ　(中)イソヨコバサミ　(下)アカホシヤドカリ

やどなしだんしちしぐれのからかさ　【宿無団七時雨傘】　歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈宿無団七〉。並木正三*(しょうぞう)作。1768年(明和５)大阪若太夫(わかだゆう)芝居初演。当時大阪で実際にあった岩井風呂(ぶろ)の湯女(ゆな)殺しの事件を脚色した世話物。宝刀詮議(せんぎ)のため魚屋団七に身をやつした茂兵衛(もへえ)が，刀の折紙を手に入れようとする愛人の遊女お富の心づかいを誤解して人殺しをする筋。作者並木正三が作中に登場して茂兵衛に意見する場面が珍しい。〔松井俊諭〕

ヤード-ポンドほう　【ヤード-ポンド法】　長さの単位としてヤード*，質量の単位としてポンド*を基本とする度量衡の単位系。フート-ポンド法ともいう。古くイギリスで発生し，メートル法が国際度量衡として承認される以前には国際的に使用されていたが，現在ではイギリス・アメリカ合衆国をはじめイギリス連邦諸国でおもに用いられている。わが国では，1958年(昭和33)まではメートル法の単位と併用することが許されていたが，現在では貿易など特殊な場合を除き，一般には使用されていない。ヤード-ポンド法では，長さの単位にヤード・フート・インチ・マイルなど，質量の単位にポンド・オンス・イギリストン・アメリカトンなど，面積の単位に平方ヤード・平方インチ・平方マイル・エーカーなど，体積の単位に立方ヤード・立方インチ・ガロン・ブッシェル・クォートなどがあり，温度に華氏目盛りを用いている。これらの単位の大きさの関係は，メートル法に比べると非常に複雑である。〔富田芳秀〕

やとみ　【弥富(町)】　愛知県海部(あま)郡の町。人口30,000。伊勢(いせ)湾に臨み，木曽(きそ)川の三角州上に位置する。水田率が90%をこえ，レンコン・野菜の栽培も行なわれる。前ケ須(まえがす)地区ではキンギョの養殖が盛んで東京・名古屋方面に出荷される。1959年(昭和34)の伊勢湾台風により大きな被害を受けた鍋田(なべた)干拓地は，その後再建された。関西本線・近畿(きんき)日本鉄道名古屋線が通じる。

やどやのめしもり　【宿屋飯盛】　⇨石川雅望(まさもち)

やどりぎ　【宿木】　双子葉植物・ヤドリギ科。エノキ・ケヤキ・ミズナラ・ブナ・アカシデ・サクラ類などの落葉樹に寄生する常緑低木で，枝が２叉または３叉に出て全体が丸くなる。茎は緑色の円柱形で，節間は長さ６～10cm，節は少しふくらむ。葉は対生し，長さ３～８cmの倒披針(とうひし





ヤドリギ
下は果実

ん)形で無柄，先は丸い。2～3月，枝先の葉腋(ようえき)に直径4㎜ばかりの黄緑色の花を3個ずつつける。花には雌花・雄花の別がある。果実は直径7㎜ばかりの球形で淡黄色に熟し，中に粘液に包まれた種子が1個はいっている。この仲間にはマツ科植物に寄生するマツグミ，主としてシイ・カシ類などに寄生するオオバヤドリギなどがある。〔加藤僖重〕

やどりばえ【寄生蠅】 こん虫類・双翅(そうし)目のうち，幼虫が他のこん虫類の体内や巣内に寄生して，その寄主から栄養をとるハエ類の総称。分類上は，ヤドリバエ科・タンカクヤドリバエ科・アシナガヤドリバエ科およびニクバエ科の一部のものがこれに相当するが，ヤドリバエ科に属するものがその大半を占める。

ヤドリバエ科は，非常に多様な群で，全世界に約300属5,000種以上が知られ，以前は数十科に分類されていたほどである。ハエ類としては中形ないし大形の種類が多く，小形の種類は少ない。黒色・かっ色・灰色などの種類が多く，また，淡色の斑紋(はんもん)をもつものが多い。体は頑強(がんきょう)で，全体に剛毛が密にはえる。頭部は大きく，複眼もよく発達している。翅(はね)も大きい。多くは昼間活動性で，花に集まる。卵または第1齢幼虫で産下され，寄主の体上か体内か寄主の食草上，あるいは寄主の生活場所に産みつけられる。若齢幼虫は，寄主の皮膚から食入したり，寄主の尾孔を通してあるいは寄主に食草とともにのみこまれるなどして体内に侵入する。寄主の体内に侵入すると，寄主の体組織によって包まれ，寄主の皮膚に小さな穴をあけてそこから呼吸するが，体内深くに寄生するものは寄主の気管系を通して呼吸する。生活様式は変化に富み，少数の種は寄主の脂肪体と血液のみによって生活し，寄主を殺すことなく寄主の体外に脱出してさなぎになる。しかし，多くの種は，寄主の体の大半を食べつくして，寄主を殺す。そのため，農林業上あるいは園芸上の害虫類の天敵として有益な種類が多いが，カイコに寄生するカイコノウジバエやカイコノクロウジバエのような害虫も少数ある。日本に分布する代表的な種類にはアワノメイガに寄生するアワノクロハリバエ，ブランコケムシに寄生するブランコヤドリバエ，アワヨトウに寄生するヨトウクロヤドリバエ，ヤママユ類に寄生するマガタマハリバエ，ウメケムシに寄生するハイイロハリバエ，ドクガに寄生するドクガヤドリバエ，スズメガ類に寄生するイモムシヤドリバエ，各種鱗翅(りんし)目の幼虫に寄生するナガボソハリバエ・ノコギリハリバエ・ヨコジマハリバエ・ケブカハリバエ・ルリハリバエ，コガネムシ類に寄生するマメコガネヤドリバエ・キイロコガネヤドリバエなどがある。

タンカクヤドリバエ科は小さい科で，日本にはセセリチョウ類に寄生するキイロタンカクハリバエが分布している。

アシナガヤドリバエ科は，大きい科で，全世界から2,500種内外が知られ，日本にも多くの種類が分布する。ヤドリバエ科によく似るが，触角が両複眼の中央よりも下方から生じていることによって，中央よりも上方から生じるヤドリバエ科と区別され，また脚も細長い。幼虫は主として鱗翅目や鞘翅(しょうし)目の幼虫の体内に寄生する。日本に分布する代表的な種類には，コガネムシ類に寄生するクチナガハリバエ・セスジナガハリバエ，ヒトリガに寄生するアシナガハリバエなどがあるが，寄主の不明な種類が多い。

ニクバエ科の寄生性の種類のうち，日本に分布する代表的な種類には，マツケムシに寄生するゲンロクニクバエ，スズメバチ類の巣中に寄生して貯蔵物や幼虫を食べるドロバチヤドリバエ，アナバチ類に寄生するアナバチヤドリバエ，ジガバチ類に寄生するシロオビギンガクシマバエ，ツチバチ類に寄生するギンガクシマバエなどがある。〔鈴木邦雄〕

やどりばち【寄生蜂】 こん虫類・膜翅(まくし)目に属するハチ類のうち，幼虫が他のこん虫類の幼虫やさなぎ，または卵に寄生するものの総称。分類学的には，きわめて多くの群を含み，その寄主となるこん虫類もほとんどすべての群にわたる。既知種だけで数万種以上もあり，将来調査研究が進めば，さらにその数倍の種類が追加されることと思われる。したがって，体の大きさや形状・色彩などは千差万別で，生活様式もきわめて多様である。ヤドリバエ類同様，農林業上あるいは園芸上の害虫の天敵として重要な種類がきわめて多い。主要なヤドリバチ類とその寄主こん虫などについて次に述べる。

①ヒメバチ科：全世界に10,000種以上が知られ，いずれも他のこん虫類の幼虫やさなぎに内部または外部寄生し，クモ類の成虫や卵に寄生するものがある。また，ミズバチ類のように，淡水中に潜入してトビケラの幼虫に産卵するものがある。アゲハヒメバチ・マダラヒメバチ(アゲハ類の幼虫)，カワムラヒメバチ(クチバスズメの幼虫)，クロヒメバチ(エビガラスズメの幼虫)，キアシオナガヒメバチ(ドロバチ・スズメバチ類の幼虫)，モンオナガバチ(キバチ類の幼虫)，コンボウアメバチ(クスサン・サクサン・ヤママユなどの幼虫)など。

②ヤセバチ科：ヤセバチ(ゴキブリ類の卵)など。

③コマユバチ科：ヒメバチ科同様，きわめて種類が多く，いずれも他のこん虫類の幼虫やさなぎ，ときには成虫に寄生する。ウマノオバチ(カミキリムシ類の幼虫)，ズイムシヤドリバチ(ニカメイガの幼虫)，アオムシコマユバチ(モンシロチョウの幼虫)，ブランコヤドリバチ(ブランコケムシの幼虫)，キマダラヒゲナガコマユバチ(クワノメイガの幼虫)など。

④クロタマゴバチ科：以下，タマゴヤドリコバチ科までは，コバチ上科に属し，微小な種が多いが，害虫の天敵として重要な種類が多い。ズイムシクロタマゴバチ(ニカメイガの卵)など。

⑤アシブトコバチ科：キアシブトコバチ(モンシロチョウ・ブランコケムシなど多くの鱗翅(りんし)類のさなぎ)，アカアシブトコバチ(ニクバエ類のさなぎ)など。

⑥シリアゲコバチ科：シリヤドリコバチ(ドロバチ類の幼虫)など。

⑦アリヤドリコバチ科：アリヤドリコバチ(ヤマアリの幼虫)など。

⑧マルハラコバチ科：ルリマルハラコバチ(ヤドリバエ類の幼虫)など。

⑨オナガコバチ科：トゲアシコバチ(マツケムシのさなぎ)，カマキリタマゴコバチ(カマキリ類の卵)など。

⑩カタビロコバチ科：カタビロコマユバチヤドリ(アオムシコマユバチ・ブランコヤドリバチの幼虫に二次寄生する)など。

⑪コガネコバチ科：アオムシコバチ(モンシロチョウ・アゲハのさなぎ)，コマユバチヤドリコバチ・コクゾウコバチ(いずれもコクゾウムシの幼虫に寄生する)，キョウソヤドリコバチ(カイコノウジバエの幼虫に二次寄生する)など。

⑫トビコバチ科：シロオビタマゴバチ(クスサンの卵)，ルリコナカイガラヤドリバチ・キイロコナカイガラヤドリバチ(いずれもミカンノコナカイガラムシに寄生)，ニジモンコバチ・ルビーフサヤドリコバチ・ルビーキヤドリコバチ(いずれもルビーロウカイガラムシに寄生)など。

⑬ヒメコバチ科：シルベストリコバチ(ミカンノトゲコナジラミ)，ルビークロヤドリコバチ(ルビーロウムシなどカイガラムシ類)，アオムシコマユヤドリコバチ(アオムシコマユバチの幼虫に二次寄生する)，ズイムシヒメコバチ(ニカメイガの幼虫)など。

⑭タマゴヤドリコバチ科：本科の種はいずれも卵に寄生する。ズイムシアカタマゴバチ(ニカメイガ・サンカメイガ)，キイロタマゴバチ(マツケムシ・チャノハマキ・ナシヒメシンクイなど)，ヨトウタマゴバチ(ヨトウガ)，トビイロウンカタマゴバチ(トビイロウンカ・ツマグロヨコバイ)など。

⑮コツチバチ科：以下3科は，いずれもツチバチ上科に属し，体は小形ないし中形のものが多い。ツヤアリバチ(ハンミョウ類の幼虫)，ハルクロコツチバチ(マメコガネ・スジコガネなどの幼虫)，マメコガネコツチバチ(マメコガネの幼虫)など。

⑯アリバチ科：ミカドアリバチ(トラマルハナバチ)など。

⑰ツチバチ科：オオモンハラナガツチバチ・モンハラナガツチバチ・ハラナガツチ

バチ・ヒメハラナガツチバチ(以上はいずれもコガネムシ類の幼虫に寄生)など。

⑱カギバラバチ科：葉の縁に多数の卵を産み，その卵は他の鱗翅目やハバチ類の幼虫に葉とともに食べられ，そのこん虫に寄生している他のヤドリバチの幼虫に寄生す す。マダラカギバラバチなど。

⑲アリガタバチ科：ハマキアリガタバチ(クワノメイガの幼虫)，クロアリガタバチ(クシヒゲシバンムシの幼虫)，トビイロカマバチ(セジロウンカ)など。

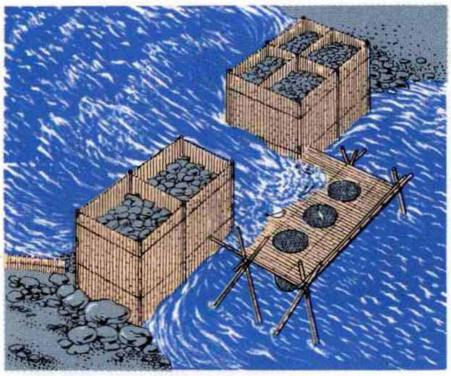
⑳セイボウ科：イラガイツツバセイボウ(イラガ類の幼虫)，ヨツバコセイボウ(ハキリバチ類・トックリバチ類)，セイボウ(トックリバチ類)など。　〔鈴木邦雄〕

やな　【簗】　魚類を捕獲するために河川に敷設する装置で，水流をさえぎるように竹や網などを八の字形に張り，中央に流水をすくう形に簀棚(すだな)を張るもの。流れを上下する魚は簀棚の上に乗せられる状態となり，捕獲される。水流を上る魚を捕える上り簗と，下る魚を捕える下り簗とがある。また形状によって，簀に穴をあけて壺(つぼ)をつけた壺簗，魚を導く樋(とい)をつけた樋簗，袋網を用いた袋簗などがあり，アユ・コイ・フナ・サケ・マスなどを対象とする。　〔石野　誠〕

やない　【柳井(市)】　山口県南東部の市。人口38,000。古くからの港町・市場町で，江戸時代には〈柳井縞(じま)〉や〈甘露じょうゆ〉の特産で知られた。1954年(昭和29)市制施行。周南丘陵を背にした瀬戸内海沿岸の低地に発達し，室津半島東半と防予諸島の平郡島も市域内に含まれる。大島瀬戸を隔てた南東方海上には大島郡に属する大島*(周防(すおう)大島)が浮かぶ。産業三大別人口比は23：25：52。商業活動が盛んで，在来工業の織物に加えて化学工業も興り，最近は日立製作所の電気機械の大工場が進出して，周南工業整備特別地域に編入されている。山陽本線・国道188号線が通じ，東隣の大畠(おおばたけ)村からは大島と結ぶ大島架橋が建設中である。東方の岸下(きしのした)に柳井港があり，付近の島々や四国の松山方面へ定期船・フェリーボートが就航する。

やないはらただお　【矢内原忠雄】　(1893～1961)　経済学者・無教会派キリスト教徒。愛媛県の生まれ。1917年(大正6)東京帝国大学経済学部を卒業し，1923年同大学教授。満州事変後，著作を通して日本の軍国主義化を批判したため迫害を受け，1937年(昭和12)辞職。個人雑誌《嘉信(かしん)》を発行し，自宅に〈土曜学校〉を開設して平和と真理のために信仰を通じて抵抗の姿勢を示した。第2次世界大戦後，東京大学に復帰し，1951年に同大学総長に就任。著書《帝国主義下の台湾》《帝国主義研究》《土曜学校講義》など。　〔石井忠厚〕

やながわ　【柳川(市)】　福岡県南部の市。人口47,000。江戸時代は柳河と書き，立花



や　な　下りやな





ヤナギ
(上)カワヤナギ
(下)キヌヤナギ

(たちばな)氏十万九千石の城下町で，明治以後は筑紫(つくし)平野南部の中心都市として発展した。1952年(昭和27)市制施行。市域は筑後川河口付近の低湿な三角州地帯に広がり，クリークが縦横に走る市街は詩情豊かな水郷風景で知られる。産業三大別人口比は31：24：45。北部の蒲池(かまち)地区は水田地帯で，イグサの栽培と加工が行なわれる。南部は有明海沿岸の広大な干拓地で，いくすじもの堤防が海岸線を走って，特異な景観をつくる。沖端(おきのはた)漁港を基地としてウナギの漁獲があり，沿岸部ではノリの養殖が盛んである。水産加工・紡績・機械などの工場があり，1964年不知火(しらぬい)有明大牟田(おおむた)新産業都市の指定を受け，最近は日鉄鉱業による有明海底炭田の開発が進んでいる。佐賀線によって長崎本線・鹿児島本線と結ばれ，西日本鉄道大牟田線・国道208号線が通じる。沖端には北原白秋*の生家と詩碑，立花家の庭園がある。

やながわ　【梁川(町)】　福島県伊達(だて)郡の町。人口23,000。福島盆地の東北隅(ぐう)を占め，北と東は宮城県に接する。中心集落は渓口(けいこう)集落として起こり，1683(天和3)～1730年(享保15)の間は松平氏の城下町であった。かつては養蚕地域の中心で，蚕種製造業者が多かったが，現在は付近農村の中心都市となっている。

やながわしゅんさん　【柳河春三】　(1832～1870)　幕末の洋学者。柳川とも書く。フランス語を修めた。1858年(安政5)和歌山藩寄合医師，1864年(元治1)開成所教授，1868年(明治1)同所頭取。その間，1867年(慶応3)日本最初の定期刊行雑誌《西洋雑誌》(西洋の自然科学関係の記事を主に，歴史・社会にわたる啓発的記事を内容とする)を，1868年《中外新聞*》を刊行した。《洋学便覧》《写真鏡図説》など多数の訳著書がある。　〔安達利夫〕

やながわせいがん　【梁川星巌】　(1789～1858)　近世後期の漢詩人。美濃(みの)(岐阜県)の人。名は孟緯(もうい)。字(あざな)は伯兎(はくと)・公図，星巌は号。幼時より学問を志し，父母の没後15歳で江戸へ出て古賀精里・山本北山らに学んだ。諸国を歴遊したのち，江戸神田に玉池吟社を開いた。のち京都に移り，菅茶山*(かんさざん)・広瀬淡窓らを門人とし，詩を教え，尊王攘夷(じょうい)の思想を説いた。著書《星巌集》などがある。なお，その妻の紅蘭(こうらん)も詩にひいでていた。　〔渡辺守邦〕

やながわなべ　【柳川鍋】　背開きにしたドジョウとささがきごぼうの卵とじ。土鍋でしょうゆ・みりん・砂糖を混ぜたしるで煮て，とき卵を流し，半熟程度の熱いところを供する。名称は，江戸末期日本橋の柳川という店の創製によるとも，福岡県柳川産の土鍋で煮た郷土料理からともいわれる。

やなぎ　【柳】　双子葉植物・ヤナギ科・ヤナギ属の総称。高木ないし低木で，世界に約350種，日本に約100種が知られる。葉は単葉で，互生まれに対生し，小さな托葉(たくよう)がある。雌雄異株で，早春，葉が出るまえまたは同時に花をつける。花序は尾状花序である。通常ヤナギという場合はシダレヤナギをさすようであるが，その他柳行李(やなぎごうり)をつくるのに用いたコリヤナギ，生け花に用いられるネコヤナギなどが特によく知られる種類である。大木になる種の材は軽いので，製図板・裁ち台などのほか，箱・碁盤・げたやマッチの軸木などに用いられる。

やなぎいちご　【柳苺】　双子葉植物・イラクサ科。暖地の海岸に近い陽地にはえる落葉低木。高さ2～3mで，小枝や葉がざらつく。葉は互生し，長さ7～15cmの披針(ひしん)形で，表面の脈がへこむためにしわが寄ったように見える。裏面は脈以外は白毛でおおわれる。3～4月，葉腋(ようえき)に

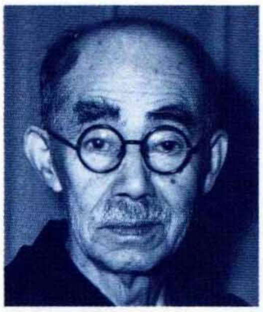
直径3～4㎜の球形の花序を1～3個ずつつける。果実は金平糖状の球形に集まって，6～7月に黄熟し，多汁(たじゅう)で甘く食べられる。

やなぎかねこ【柳兼子】(1892～　) アルト歌手。東京の生まれ。1912年(大正1)に東京音楽学校を卒業。翌年デビューして以来，演奏と教育活動を続けている。ドイツ歌曲を研究し，ウォルフの作品を日本に定着させたほか，日本人の歌曲をとりあげ，若いころに学んだ長唄(ながうた)の力を応用して，ことばを尊重する独特の歌い方を行なっている。

やなぎさわきえん【柳沢淇園】(1704～1758) 近世中期の文人。大和(やまと)(奈良県)郡山(こおりやま)藩の重臣。本姓は曾禰(そね)氏。のち主家の姓を許された。朱子学を信奉し，誠実に勤務する能吏であったが，少年時代より儒学・漢詩文に始まって三味線(しゃみせん)・香道に至る諸芸にひいでた。その多方面にわたる趣味・知識は，遊女と遊里とに関する記事とともに随筆《ひとりね》の中に開陳されている。

やなぎさわよしやす【柳沢吉保】(1658～1714) 江戸中期の政治家。初名保明(やすあき)，通称弥太郎(やたろう)，保山と号した。徳川綱吉が上野(こうずけ)(群馬県)館林(たてばやし)藩主のときから仕え，綱吉が5代将軍となってからは，将軍および生母桂昌院(けいしょういん)の絶大の信任を得，しだいに累進して側用人(そばようにん)・老中格を経て，1706年(宝永3)にはついに大老に進み，美濃守(みののかみ)吉保と称した。知行もたびたび加増されて武蔵(むさし)(埼玉県)川越七万石，さらに1704年には甲府(山梨県)十五万石に封ぜられた。1709年綱吉の死とともに隠退，在職中は権力をもっぱらにし，後世綱吉の政治に対する非難は多く吉保に向けられるようになったが，学問を奨励し，荻生徂徠(おぎゅうそらい)・細井広沢を登用するなど，幕府の文治政策を推進した。その邸内に造庭された六義園(りくぎえん)は名園として有名である。〔高崎徳次〕

やなぎだくにお【柳田国男】(1875～1962) 日本民俗学の創始者。兵庫県神崎郡に生まれる。松岡操の六男，兄に井上通泰(みちやす)，弟に松岡映丘・松岡静雄など学芸にひいでた兄弟をもつ。青年期には新体詩詩人として活躍した。1900年(明治33)東京帝国大学政治科を卒業して農商務省にはいり，内閣書記官長を最後として1920年(大正9)に官界を去る。早くから農村生活の研究に志し，日本における民俗学の体系と方法を確立していった。1948年(昭和23)，いっさいの蔵書・資料を提供して財団法人民俗学研究所を自邸に開設した。多年の先駆的業績に対して，1941年朝日文化賞，1951年文化勲章を授与された。《海南小記》《遠野物語》そのほか著書多数がある。〔直江広治〕



柳田国男



ヤナギラン

やなぎたで【柳蓼】⇨タデ

やなぎだる【柳多留】 江戸中期から後期にかけて刊行された川柳集。正しくは《誹風(はいふう)柳多留》。1765年(明和2)初代柄井(からい)川柳の門人呉陵軒可有(ごりょうけんあるべし)が，川柳の選句集からさらに秀句を約700句選んで小半紙型の冊子に刷り出版したのが初編。以後1838年(天保9)まで167編に達した。特に文学的に価値のあるのは24編までで，今日古川柳の名句と伝えられているものの多くはこの中にある。なお，《柳多留》と並んで重要なものに《誹風柳多留拾遺》がある。〔小池正胤〕

やなぎばし【柳橋】 東京都台東区の南端，隅田(すみだ)川西岸の地区。地名は，南側で隅田川に合流する神田川にかけられた同名の橋にちなむといわれる。江戸通り(奥州街道)を隔てて浅草橋と相対し，沿道には玩具(がんぐ)・模型・文房具などの問屋街がある。隅田川の河畔には大小多くの料亭(りょうてい)があり，江戸時代から花街(いろまち)として名高く，しばしば文学作品の題材となった。最近は隅田川の汚染によってかつての情緒は失われている。〔浅井得一〕

やなぎむねよし【柳宗悦】(1889～1961) 民芸運動の創始者。東京の生まれ。東京帝国大学文学部卒業。1910年(明治43)志賀直哉(なおや)・武者小路実篤(さねあつ)らと雑誌《白樺(しらかば)》を創刊。陶芸家リーチを知り，民芸運動にのちのちまで影響し合った。1924年(大正13)京城に朝鮮民族美術館を設立。1931年(昭和6)雑誌《工芸》創刊。1936年日本民芸館を開設し，館長に就任。工芸理論の第一人者であり民芸運動に理論的根底を与え，民芸の価値を一般に認識させた功績は大きく，1957年文化功労者に選ばれ，1960年朝日文化賞を受賞した。しばしば沖縄に渡り工芸・民芸の調査・収集・製作指導にあたり，またヨーロッパ・アメリカ合衆国に遊説し，日本文化を紹介した功績も大きい。〔匠　秀夫〕

やなぎやこさん【柳家小さん】 落語家。江戸落語の名跡。5世が現存する。

1 初世　生没年未詳。幕末の音曲師。

2 2世(1850～1898) 明治期の人気者で，滑稽噺(こっけいばなし)の名手。晩年禽語楼(きんごろう)小さんと名のった。

3 3世(1856～1930) 初世談洲楼燕枝(だんしゅうろうえんし)門下。味わいのある淡々とした口調で，軽い噺の名人であった。常磐津節(ときわずぶし)をも高座で演じた。

4 4世(1888～1946) 3世門下。軽妙な話術で昭和初期の代表的人気者のひとりとなった。

5 5世(1915～　) 4世門下。軽い噺を重厚な口調で演じ，独特のユーモアがある。第2次世界大戦後の代表的名手のひとり。門下が多い。〔長尾一雄〕

やなぎらん【柳蘭】 双子葉植物・アカバナ科。高原の日あたりのよい斜面に群生する多年草。茎は高さ1.2～1.5mで，枝を出さない。葉は互生し，長さ6～20cm，幅7～30㎜でヤナギの葉によく似る。裏面の中央脈に細毛があるが，北海道産のものにはないことが多い。葉縁には細鋸歯(さいきょし)があり，裏へそりかえる。7～8月，直径2～3cmの紅色4弁花を多数穂状につける。果実は長さ5～10cmの棒状の蒴果(さくか)で，かっ色に熟し，4裂して白毛のある種子を多数出す。

やなぎわらびゃくれん【柳原白蓮】(1885～1967) 歌人。東京の生まれ。本名宮崎燁子(あきこ)。佐佐木信綱(のぶつな)の指導を受け，歌集《踏絵》の情熱的作風で脚光を浴びた。二度にわたる結婚の失敗，社会運動家宮崎龍介(りゅうすけ)との結婚など，数奇な半生を送った。歌集《幻の華》《地平線》などのほか，自伝的小説《荊棘(いばら)の実》がある。

やなせ【魚梁瀬】 高知県東部，奈半利(なはり)川上流にある山間集落。地名は梁(やな)をつくって魚を捕獲したことにちなむ。行政上は安芸(あき)郡馬路村に属する。平家の落ち武者部落という伝説や遺跡があり，江戸初期に土佐藩の執政野中兼山が林制をつくり，留山として保護した。周辺山地はすべて国有林でおおわれ，スギをはじめヒノキ・ツガ・モミなどの樹種に富み，特に千本山の森林区には樹齢270年，樹高50mのスギの巨木が林立し，特別保護林となっている。営林署が置かれ，材木の運搬はかつて森林鉄道によったが，最近はトラックが利用される。年平均降水量が4,000㎜に及ぶわが国有数の多雨地帯で，1965年(昭和40)に魚梁瀬ダムが建設され，古い部落は人工湖底に没し，湖畔に新しい部落が建設され

た。〔浅井得一〕

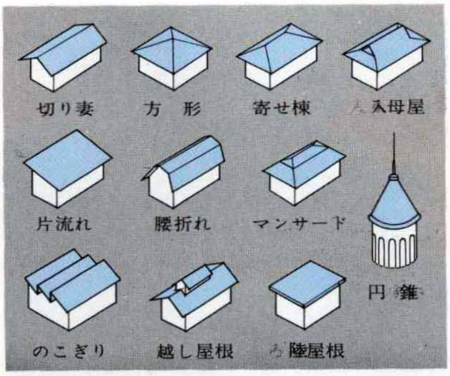
やなだぜいがん【梁田蛻巌】(1672～1757) 江戸中期の儒学者。江戸の人。彼の学問は朱子学が基礎にあるが，さらに神道(しんとう)を信じ，山崎闇斎*(あんさい)を研究し，加えて仏教，特に禅宗にも通じていた。新井白石*・室鳩巣*(きゅうそう)らと親交があった。博学多識にして詩作をよくした。一時赤石侯に仕えた。著書《蛻巌詩文集》《蛻巌答問書》など。

ヤナチェック［Leoš Janáček］(1854～1928) チェコスロバキアの作曲家。貧しい教師の家庭に生まれ，プラハのオルガン学校を出てから，ブルノの師範学校で教師となった。先輩の影響でモラビア民謡の収集をはじめ，これが彼の音楽語法の特色をうむことになる。1879年にウィーンとライプチヒに留学したが1年ほどで帰り，1881年にブルノにオルガン学校を開設し，その校長となった。1919年にプラハ音楽院の分校としてブルノ音楽院が新設された際，作曲家教授となり，1925年までその職にあった。彼の作品としてはオペラに《イェヌーファ(エヌファ)》《カーチャ-カバノバ》《狡猾(こうかつ)な小ぎつね》《死の家の記録》などがあり，器楽曲では《タラス-ブーリバ》《小交響曲》などオーケストラ曲をはじめ，弦楽四重奏曲第2番《内緒の手紙》などが名高い。チェコスロバキアの作曲家の中でもモラビアを代表する特異な存在であり，民謡を取り入れた点でバルトーク*らの先駆者でもある。〔向坂正久〕

やなはら【柵原(町)】岡山県久米(くめ)郡の町。人口8,000。県東部，吉井(よしい)川中流域に位置する。1955年(昭和30)飯岡(ゆうか)など3村が合併して発足した。品位の高い硫化鉱床で知られる柵原鉱山があり，鉱石は片上鉄道で備前町片上港に運ばれる。飯岡に月ノ輪古墳がある。

やにょうしょう【夜尿症】膀胱(ぼうこう)に尿を保持できるにもかかわらず，無意識のうちに排尿が起こる場合を遺尿というが，これが昼間に起こるものを昼間遺尿症，夜間に起こるものを夜尿症という。夜尿症は膀胱の括約筋および排尿筋の緊張の異常によるもので，一般に副交感神経の緊張度の高い人で特に睡眠の深い人に起こる。治療法としては生理食塩水の尾骨部硬膜外注射や超短波照射療法，または暗示療法などが効を奏することがある。〔藤井和明〕

ヤニングス［Emil Jannings］(1886～1950) ドイツの俳優。アメリカ人を父にニューヨークに生まれ，スイスで育った。船員生活の後，1916年ルビッチ監督の勧めで映画界にはいり，《カリガリ博士》《最後の人》《バリエテ》などに主演，特異な個性と重厚な演技でクラウスと二分する人気を獲得した。1929年にはアメリカ映画《肉体の道》でアカデミー主演男優賞を受賞。トーキー時代の到来とともに帰国，ディートリヒと組んだ《嘆きの天使》で一世の名演をうたわれた。第2次世界大戦中ナチスの国策映画に協力したため戦後追放，寂しく死んだ。〔大島　勉〕



屋　根　屋根の種類

ヤヌス［Janus］古代ローマの神。〈神の中の神〉と称された。門の守護神で，前後を見張る者としてつねに双頭の姿で表わされる。この双頭は過去と未来を見通す知恵，さらにあらゆる物事の初めと終わりをつかさどる能力の象徴とされた。ここから彼は1日の最初の時間，1年の最初の月の神に発展した。この神を祭るヤヌス神殿の二つの戸は戦時にはあけられ，平和になると閉ざされた。

やね【屋根】建物の最上部に位置するおおい。雨露をしのぐとともに，軒によって壁・開口部を保護し，日照調節の役目をする。屋根ぶき材・屋根下地・小屋組みが三者一体となって耐力性・雨仕舞・断熱性・遮音(しゃおん)性などの性能に対処する。屋根は形態別に分類すれば，勾配(こうばい)屋根・陸屋根(ろくやね)とに大別され，陸屋根は屋根面が平らなので屋上を使用することができる。一般に，木造・鉄骨造は勾配屋根，鉄筋コンクリート造は陸屋根である。勾配屋根はもやの上にたる木を打ち野地板を張り，この上にふき材よりの漏水に備えてこけら板あるいはアスファルトフェルトなどを下地として，この上にかわら・金属板などをふく。石綿セメント板などは直接もやに取り付けられる。屋根勾配はふき材によって定まっている。陸屋根は勾配がゆるいので，防水層を設けて完全に水密性を保たせる。勾配屋根の形態は切り妻・方形・寄せ棟(むね)・入母屋(いりもや)・片流れ・腰折れ・マンサード・のこぎり屋根・越し屋根・円錐(えんすい)屋根・円蓋(えんがい)屋根・ボールトシェルなどあり，シェルのような曲面をもったものは屋根と壁の区別が判然としない。材料には日本がわら・洋がわら・天然スレート・セメントがわら・金属板・石綿セメント・プラスチック・ガラスなどが平板・波板の形で用いられ，陸屋根の防水層としてアスファルトルーフィングのほかにシート状，塗布用の合成樹脂系防水層がある。特殊のものとして檜皮(ひわだ)・杉(すぎ)皮・こけら板・かや・わらなどがある。〔神山幸弘〕

やのね【矢の根】歌舞伎(かぶき)狂言。歌舞伎十八番*の一。1729年(享保14)正月に《扇恵方曾我(すえひろえほうそが)》の一番目として，2世市川団十郎が初演。曾我五郎が父の敵(かたき)工藤祐経(すけつね)を討とうと矢の根を研(と)いでいるところへ，大薩摩(おおざつま)の太夫(たゆう)が年始に来る。宝船の絵をまくらの下に入れてうたた寝のうち，夢枕(ゆめまくら)に兄の十郎が立ち救いを求める。五郎は裸馬に乗り大根を鞭(むち)にして工藤の館(やかた)へ駆けて行く。荒事*の典型的な演技で，1年の安全を祈る初春の祝言的色彩が濃い一幕物である。〔服部幸雄〕

やのねかいがらむし【矢根介殻虫】こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・マルカイガラムシ科。ヤノネナガカイガラムシともいう。雌成虫の介殻は細長く，長さ2.8～3.5mm，濃かっ色で周縁には灰白色の縁があり，背面中央にはきわめて顕著な縦走する隆起線があって矢の根(やじり)状を呈する。前端に黄かっ色の殻点(かくてん)があり，虫体は介殻の下にあって長楕円(ちょうだえん)形で橙黄(とうおう)色。雄幼虫の介殻は細長く，長さ1.25～1.50mm，背面に顕著な3本の縦走する隆起線がある。雄成虫は，体長0.8mm内外，橙黄色で，翅(はね)は透明，翅を広げた長さは1.7mm内外。中国原産で，日本では1888年(明治21)ごろ長崎県下ではじめて発見されて以来，日本全国に分布が広がった。1年に3回発生をくり返し，冬は受精した雌成虫態で樹上で越すが，幼虫態で越すものもある。ミカン類の最も重要な害虫の一つで，幼虫・成虫ともに，寄主植物の葉・枝・果実に寄生して，吸汁(きゅうじゅう)加害する。本種の加害を受けた木は樹勢が衰え，減収をきたし，はなはだしいときは枯死することがある。〔鈴木邦雄〕

やのりゅうけい【矢野龍渓】(1850～1931) 明治時代の政治家・ジャーナリスト・小説家。本名文雄。豊後(ぶんご)(大分県)佐伯(さいき)藩士の子。慶応義塾(ぎじゅく)卒業。1876年(明治9)《郵便報知新聞*》の副主筆として民権論を説き，1878年大隈重信(おおくましげのぶ)のもとに仕官。明治十四年の政変*で大隈とともに下野し，1882年立憲改進党(→改進党)の結成に参画，同年《郵便報知新聞》を買収して社長となり，同紙を立憲改進党の機関紙とした。また1883年には民権派政治小説《経国美談*》を著わして成功を収めた。1884～1886年ヨーロッパ・アメリカ合衆国などの新聞事情を視察し，帰国後《郵便報知新聞》を大衆新聞に改革。その後，宮内省式部官・駐清(しん)公使を経て，1906年大阪毎日新聞社に招かれ，1924年(大正13)副社長となった。作家としても有名で，主著に《浮城物語》《新社会》などがある。

やはぎがわ【矢作川】愛知県中部を南西に流れて知多湾に注ぐ川。流程137km。水源は長野県南端の木曾(きそ)山脈で，西流

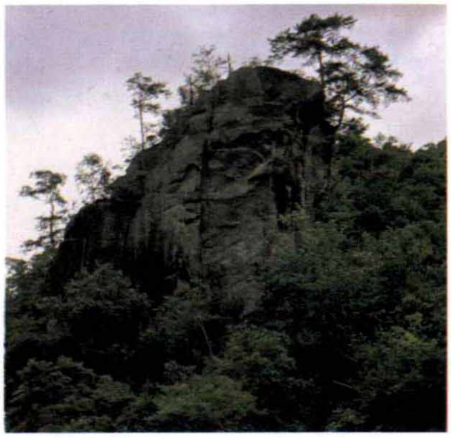
して岐阜・愛知両県境をなすがまもなく愛知県にはいり，美濃三河(みのみかわ)高原を横切り，足助(あすけ)川・大平川などの支流を合わせ，岡崎(おかざき)平野南部の沖積(ちゅうせき)地をつくる。下流には，途中から南下して三河湾に注ぐ分流の矢作古川がある。下流右岸の安城市を中心とする一帯はかつて不毛の地であったが，1881年(明治14)矢作川から取水した明治用水が完成すると，わが国の代表的な多角経営の農業地帯に発展し，日本のデンマークとよばれるようになった。また，上流部の岐阜県串原(くしはら)村には，多目的ダムの矢作ダムが建設され，発電・灌漑(かんがい)・上水道・洪水(こうずい)調節に利用されている。　〔長津一郎〕

やばけい　【耶馬溪】　大分県北西部，山国川とその支流が耶馬溪溶岩台地を刻んでつくった岩石・森林・溪流美がそろった景勝地。深耶馬溪・羅漢寺(らかんじ)耶馬溪・裏耶馬溪・本耶馬溪・奥耶馬溪などの10溪からなっている。本耶馬溪は山国川本流の溪谷で，菊池寛の短編小説《恩讐(おんしゅう)の彼方(かなた)に*》の素材となった僧禅海の鑿(のみ)による青ノ洞門(あおのどうもん)付近は羅漢寺耶馬溪とともに，おもに集塊岩よりなり，旧耶馬溪式風景をなし，節理*や層理*に沿っての選択的侵食により，あちこちに奇岩秀峰がみられ，岩面の蘚苔(せんたい)地衣類の着生による変化に富んだ色と形は南画的風景を呈している。上流の深耶馬溪・裏耶馬溪などは新耶馬溪谷のつくった両岸の切り立った狭い峡谷をなし，直立節理による石柱が林立し，新耶馬風景の特色をなしている。この付近一帯は日本最初の国定公園に指定されたところで，耶馬日田英彦山(ひこさん)国定公園*となっている。　〔味沢成吉〕

やはずそう　【矢筈草】　双子葉植物・マメ科。野原・道沿い・土手などの陽地に見られる一年草で，群生する。茎は細く，直立して高さ20～40cmほどになり，枝を平面的に出し，下向きの白い毛がある。葉は長さ10～17mm，幅3～7mmの長倒卵形の小葉3枚からなり，互生する。8～10月，葉腋(ようえき)に長さ約5mmの淡紅色の蝶(ちょう)形花をつける。川原の砂地にはえるマルバヤハズソウは枝に上向きの毛がはえ，小葉が広くて頭がへこんでいる。

やばせゆでん　【八橋油田】　秋田市内の八橋を中心に外旭(そとあさひ)川から新屋(あらや)に至る南北13km，東西500mの範囲にある油田。主要油層は深度約1,000mの凝灰岩層で，1933年(昭和8)日本鉱業によって開発され，採油井471，そのうち自噴井が半数以上を占め，最盛時には年産約25万klの生産をあげていた。しかし，長らくわが国第1位の座を占めてきたこの油田もしだいに老化し，現在では年産30,000kl程度を産出するにすぎない。採油井は231，うち自噴井は74。経営は帝国石油。　〔竹内淳彦〕

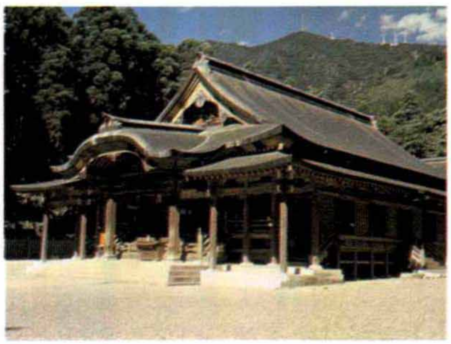
やはた　【八幡(区)】　福岡県，北九州市



耶馬溪　山国川の河谷に展開する耶馬溪の景勝。集塊岩や安山岩が複雑な侵食を受け，奇岩秀峰が続く



ヤハズソウ



弥彦神社

南西部の区。1974年(昭和49)東西2区に分区設置。東区面積36,29km²，人口10万8,000。西区面積83.74km²，人口24万4,000。江戸時代は小さな農漁村で，明治後期に枝光(えだみつ)・大蔵・尾倉3村が合併し，八幡神社を産土神(うぶすながみ)としていたことで八幡村を形成。1901年(明治34)に官営八幡製鉄所が生産を開始して以来，鉄鋼中心の重化学工業が発達し，北九州工業地帯の中核となった。1917年(大正6)単独で市制を施行，第2次世界大戦中，戦災で市街地の大半を焼失したが，戦後近代的なモデル工業都市として復興，1963年(昭和38)隣接する門司(もじ)・小倉・戸畑・若松の4市と合体して北九州市を形成した。区域は洞海(どうかい)湾の南岸にあって，背後には中生層，一部がカコウ岩からなる皿倉(さらくら)山(622m)・帆柱山(487m)などの福智(ふくち)山地があり，西部および北東端の枝光地区に石炭を含む古第三紀層の低い丘陵がゆるやかに起伏して，平地には乏しい。洞海湾岸に新日本製鉄・旭硝子(あさひガラス)・黒崎窯業・安川電機・三菱(みつびし)化成などの大工場が立ち並び，煙・粉塵(ふんじん)・ガスなどの公害が激しい。住宅地区は南西部の山麓(さんろく)部から100m近くも高い山腹部にまで広がる。工場地区と住宅地区の間には東から荒生田(あらうだ)・中央町・黒崎などの商店街が発達し，特に第2次世界大戦の戦災を免れた黒崎は最近めざましい発展を遂げているが，新日本製鉄などの厚生施設が発達しているので人口に比して商店街の規模は大きくない。西端の折尾は鹿児島本線と筑豊(ちくほう)本線の交わる交通の要地で，周辺丘陵地の住宅地化や洞海湾頭部埋め立て地の工場用地化が進んでいる。八幡大学・九州共立大学・TNCテレビ局・桃園球場などの文化施設や，溶鉱炉を模した記念碑がある高炉台公園，ケーブルカーの通じる皿倉山，河内(かわち)貯水池などの行楽地に富む。　〔浅井得一〕

やはたせいてつ　【八幡製鉄】　⇨新日本製鉄

やばひたひこさんこくていこうえん　【耶馬日田英彦山国定公園】　福岡・大分・熊本の3県にまたがり，耶馬溪*(やばけい)・日田・天瀬(あまがせ)・英彦山*(1,200m)・万年(はね)山*(1,140m)を中心とする面積1,088km²の地域で，1950年(昭和25)に指定された。一帯は日本最大の溶岩台地で，山国川*・筑後(ちくご)川およびその上流の玖珠(くす)川の侵食によって，複雑な溪谷美と変化に富む火山地形をもち，鴫良(しぎら)・壁湯(かべゆ)・宝泉寺・杖立(つえたて)など良質の温泉が多い。耶馬溪は山国川本流の本耶馬溪や羅漢(らかん)寺・青ノ洞門*(あおのどうもん)などの名勝地があり，日田地方の三隈(みくま)川では鵜飼(うかい)・舟遊びができ，付近には公園や温泉も多い。英彦山には英彦山神社があり，山麓(さんろく)には重要文化財の鳥居や奉幣殿が建てられている。　〔木村東一郎〕

やひこじんじゃ　【弥彦神社】　新潟県西蒲原(にしかんばら)郡弥彦村にある。祭神は天香山命(あめのかぐやまのみこと)。アメノカグヤマノミコトはアマテラスオオミカミの曾孫(ひまご)にあたり，神武東征に従軍してのちこの地に至って製塩の法，農漁の法を伝えたという。1912年(大正1)に類火で社殿は全焼し，現社殿はその後の造営である。2月2日の例祭のほか，元旦(がんたん)から3日にかけて行なわれる夜宴神事，7月25日に行なわれる燈籠(とうろう)神事には近郷からの参詣者(さんけいしゃ)でにぎわう。　〔佐野文哉〕

やひこやま　【弥彦山】　新潟県中央部，日本海岸にそびえる火山で，弥彦山塊の主峰。標高638mで，東側は断層崖(だんそうがい)で急傾斜して新潟平野*に臨む。古来地元住民の信仰が厚く，東麓(とうろく)に越後(えちご)一ノ宮の弥彦神社*があり，毎年大晦日(おおみそ

か)から元旦(がんたん)にかけての〈二年参り〉には参拝人でにぎわう。山頂までロープウエーがあり，また西側山腹に弥彦有料道路が通じ，山頂からの展望はすばらしい。佐渡弥彦国定公園*に含まれる。〔高野　繁〕

やぶいり　【藪入り】　正月および7月16日に，奉公人が主家から休暇をもらって生家に帰ること。また，嫁が里方に帰ることをもいう。藪入りの語源についてはまだ定説がなく，関西地方では古く〈おやげんぞ〉(親見参)と称したところから，〈養父入〉に由来するものという説もある。なお，静岡・奈良・和歌山などの各県の山村では，焼き畑にするために山の木を切ることを〈やぶきり〉といい，嫁に行った娘が夫とともに実家に帰ってその仕事を手伝うことを〈やぶいり〉と呼んでいる。これは，正式な訪問として相互の贈答をともなっており〈親見参〉とも意味が近く，おそらく上記の〈やぶいり〉が一般化したものと思われる。江戸時代の藪入りは丁稚(でっち)や女中の宿下りで，盛り場は非常なにぎわいを呈した。現在でも，都市ではこの日が店員・工員などの休日になっているところが多い。〔直江広治〕

やぶか　【藪蚊】　こん虫類・双翅(そうし)目・カ科のうち，ヤブカ属とシマカ属に属する種類の一部の総称。一般に，やぶなどの中に生活し，昼間吸血する習性のあるカ類で，特定の種類や群をさすわけではない。ヤブカ類の中には，フィラリア病やデング熱などの病原体の中間寄主としてその媒介をする重要な衛生害虫も多い。日本に産する代表的な種類をあげると次のようである。オオクロヤブカは，日本に産する唯一のヤブカ属の種で，体長7.5mm内外の大形種，本州・四国・九州に産し，肥料溜(だまり)など有機物の多い汚水に発生し，ヒト以外にウシ・ウマ・ヤギなどからも吸血する。セスジヤブカは，体長6mm内外，黄白色に茶色の斑紋(はんもん)があり，日本全土に分布する。シロカタヤブカは，体長6mm内外，黒色で，前胸背に1対のレンズ状の顕著な白色斑紋があり，日本全国に分布し，特に西南日本に多い。トウゴウヤブカは，体長6mm内外，前胸背に数条の黄金色の縦線があり，日本全国に分布する。ヤマトヤブカは，前種に似るが，腹部背面の白色斑紋が前種のように帯をなしていない点が異なり，やはり日本全国に分布する。ヒトスジシマカは，体長4.5mm内外，前胸背に鮮やかな銀白色の正中線とW字形の銀白色紋があり，東北地方以西の日本全国に分布する。キンイロヤブカは，体長6mm以下で，黒かっ色に黄かっ色の斑紋があり，日本全国，特に東北地方や北海道に大発生する。これらヤブカ類は，溜水・水田・池沼や海岸の海水だまりなど種々の陸水に発生する。上記のほか，ネッタイシマカ・エゾヤブカ・ヤマダシマカなどがある。➔カ　〔鈴木邦雄〕

やぶからし　【藪枯】　双子葉植物・ブドウ科。やぶに多いつる性多年草。地下茎を長く引き，ところどころから茎を出す。茎は角張り，ところどころ葉と対生の位置にある巻きひげで他の植物にからみつく。葉は5小葉からなる掌状複葉で，各小葉は長さ4～10cm，幅2～5cmの長卵形または卵形，あらい鋸歯(きょし)がある。7～8月，葉と対生の位置に花柄を伸ばし，淡緑色の小花を多数平面につける。花は1～2輪ずつ咲き，花盤の朱色が目だつ。果実は球形で黒熟するが，ふつう実らない。

やぶかんぞう　【藪萱草】　⇨カンゾウ

やぶきり　【藪螽蟖】　こん虫類・直翅(ちょくし)目・キリギリス科。中形のバッタで，翅端までの体長45～50mm。緑色型と暗かっ色型の2型がある。頭頂は丸く，背面は栗色(くりいろ)。前翅の先端は，後脚の腿節(たいせつ)端を越える。雌の産卵管は後脚の腿節よりも長く，直線状でとがる。本州・四国・九州に分布し，成虫は6月ごろより出現し，各地に普通で，初秋まで見られる。樹上で〈シリシリ，シリシリ〉と連続した高い声で鳴く。



ヤブガラシ



ヤブコウジ

やぶこうじ　【藪柑子・紫金牛】　双子葉植物・ヤブコウジ科。林下にはえる常緑低木。地下茎は直立して高さ10～20cmとなり，ほとんど分枝しない。葉は茎の上部に3～5枚輪生状に2～3段つく。葉は長さ6～10cmの長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，縁に小さな鋸歯(きょし)がある。7～8月，葉腋(ようえき)に白色ないし紅色の5裂したさら状の花を2～5個つける。果実は直径5～6mmの球形で，秋から冬に赤熟し，いつまでも落ちないので観賞のために栽培される。斑(ふ)入り，葉変わりなど多くの品種がある。

やぶさめ　【藪鮫・藪雨】　鳥類・ヒタキ科。全長10～11cm。上背面はくすんだ緑かっ色，下面は灰色で，黒色の過眼線と淡黄色の眉斑(びはん)が目だつかわいい小鳥。しかし，林の下層木をすみ場としているので，姿はあまり目に止まらない。夏鳥として，北海道・本州・四国などの山地の細い沢沿いや，地表に凹凸(おうとつ)の多い暗い森林内で繁殖する。虫の声のような，〈シシシ，シシシ〉というさえずりをするので，この名があると思われる。

やぶさめ　【流鏑馬】　騎射(うまゆみ)の一種で，120間(約218m)の直線馬場の左側に一尺八寸(約54.5cm)角のヒノキの板的を竹のくしにさして3か所立て，疾走中の馬上から鏑矢(かぶらや)でこれを射る競技。流鏑馬は平安時代に始まり，端午の節供(せっく)に行なわれたが，鎌倉時代になると武術を練摩する必要上から盛行し，室町末期に一時衰えたが，江戸時代中期に8代将軍徳川吉宗(よしむね)によって再興された。現在では年占*の行事として日光の二荒(ふたら)山神社，鎌倉の鶴岡八幡宮(つるがおかはちまんぐう)をはじめ諸所の神社で行なわれている。〔直江広治〕

やぶじらみ　【藪虱】　双子葉植物・セリ科。山野のやや日陰に自生する一年草ないし越年草。高さ50～100cmになり，全草かたい毛におおわれる。葉は互生し，長さ5～

流鏑馬　中世に武士の戦闘訓練として盛んに行なわれた日光東照宮



10cmで２～３回羽状に細裂する。６～７月，枝先に複散形花序をなして白色５弁花を４～12個ずつつける。果実は長さ2.5～４mmの卵状楕円(だえん)形で，刺毛が多い。近縁のオヤブジラミは全草紫色をおび，花弁に赤みがあり，果実はヤブジラミよりも大きい。

やぶそてつ　【藪蘇鉄】　シダ植物・ウラボシ科。林の下や石がきなどにはえる多年生常緑シダ。塊状の根茎から１回羽状の複葉が束になって出る。羽片は６～30対あり，頂羽片は３裂する。葉柄には黒かっ色の鱗片(りんぺん)がつく。胞子嚢(ほうしのう)は裏面全体に生じ，包膜は円形である。

やぶたばこ　【藪煙草】　双子葉植物・キク科。山野の林床に自生する越年草で，全草に独特のにおいがある。茎の高さ50～100cmになり，上方で枝を出す。葉・茎ともに細毛におおわれる。根出葉はタバコの葉に似るが，花どきにはない。下方の茎葉は長さ20～28cm，幅8.5～15cmの広楕円(こうだえん)形ないし長楕円形で，翼のある柄で互生する。上方の葉は小形で無柄。９～11月，枝先の葉腋(ようえき)に１個ずつ黄色の頭状花をつける。果実は長さ３～４mmの痩果(そうか)で，粘液を出し，他物に付着して運ばれる。葉の絞りじるは腫(は)れ物・打ち傷に使われる。

やぶつばき　【藪椿】　⇨ツバキ

やぶでまり　【藪手毬】　双子葉植物・スイカズラ科。山野に自生する落葉低木で，高さ３ｍになる。葉は長さ５～９cmの広楕円(こうだえん)形であらい鋸歯(きょし)があり，対生する。５～６月，枝先に花茎を出し，散房花序をつける。中央部に両性花，周辺部に大きな中性花(修飾花)がある。花冠は白色で５深裂する。花後，ガマズミに似た長さ５～６mmの石果が赤熟する。オオデマリ(テマリバナともいう)は花序が中性花だけからなり，庭に植えられる。

やぶにっけい　【藪肉桂】　双子葉植物・クスノキ科。暖地の山野に普通の常緑高木で，高さ15ｍに達する。ニッケイに似るが，枝を折ってもにおいが薄い。葉は長楕円(ちょうだえん)形で先がとがり，革質，全縁，光沢があり，３本の主脈が基部から５～15mm上で分かれる。５～６月，葉腋(ようえき)に淡黄色の小花を集散花序につける。果実は長さ10～13mmの楕円形で秋に黒熟する。

やぶのうちりゅう　【藪内流】　茶道*の流派の一。三千家*の系統を上流といったのに対して，下流とよばれた。千利休*に茶を学んだ藪内剣仲紹智(けんちゅうじょうち)を初世とし，現在12世紹智に至る。遠祖に室町末期から江戸初期に至る堺(さかい)の茶人藪内宗和・道和・宗巴(そうは)があり，その茶会記が《津田宗及茶湯日記》に見える。初世剣仲紹智のとき，京都に移住したと推測されるが，明らかでない。藪内流は，京都の西本願寺の勢力を背景に栄え，現在は大阪方面にも普及している。　〔桑田忠親〕



ヤブジラミ



ヤブデマリ



ヤブマオ



ヤブレガサ　若葉はすぼめた傘を思わせる

やぶまお　【藪苧麻】　双子葉植物・イラクサ科。原野に普通の多年草。茎は叢生(そうせい)して高さ約１ｍになり，茎や葉がざらつく。葉は対生し，長さ10～20cmの卵円形で，質はかたく，縁にあらい鋸歯(きょし)がある。８～10月，上部の葉腋(ようえき)から長さ10～15cmのひものように見える雌花序を，下方の葉腋から雄花序を立てる。近縁のメヤブマオは葉の先が多くのものでは３尖裂(せんれつ)する。

やぶまめ　【藪豆】　双子葉植物・マメ科。山野の日あたりのよいところに自生するつる性の一年草。全草に下向きの毛がある。ツルマメ・ノササゲなどに似て，葉は長さ３～４cm，幅1.5～４cmの広卵形の３小葉からなる。９～10月，葉腋(ようえき)から長さ10～15cmの花柄を出し，円錐(えんすい)状の花序をつける。花は長さ約１cmの青紫色の蝶(ちょう)形花である。また，茎の基部から地下茎を出して閉鎖花をつけ，ナンキンマメのように地下で球形の果実をつける。

やぶれがさ　【破れ傘】　双子葉植物・キク科。丘や低山の林床に自生する多年草。葉は直径35～40cmの円形で，掌状に７～９深裂し，各裂片は１～２回裂け，長い柄が葉身の中心につく。７～10月，高さ50～100cmの花茎を伸ばし，円錐(えんすい)状に頭状花をつける。頭状花は管状花からなり，紅色をおびる。

ヤブロノイ(山脈)　［Yoblonoi］　ソ連，東シベリアのバイカル湖東方を北東から南西に走る山脈。北東部はスタノボイ山脈と対し，南西部はモンゴル高原と接する。全長約650km，最高点は1,773ｍ。カコウ岩・結晶岩よりなる地塁性の山脈で，森林は1,000ｍぐらいまで繁茂している。鉱物資源に富むが，開発は遅れている。

やべがわ　【矢部川】　福岡県南部，筑紫(つくし)平野南部を西流して有明海に注ぐ。水源は大分との県境近くの山地にある釈迦ケ岳(しゃかがたけ)(1,231ｍ)で，上流山間部は渓谷美(けいこくび)をうたわれ，日向神(ひゅうがみ)渓谷として名高い。この一部に福岡県営の多目的ダムの日向神ダムがあり，発電・灌漑(かんがい)に利用されている。下流の船小屋温泉付近のゲンジボタルは有名で，天然記念物に指定されている。

やほう　【野砲】　野戦砲の一つで，その中堅的地位を占める。口径は75～100mm，カノン砲を主とし，前線の後方から敵の陣地や後方の施設を攻撃する。航空機の進歩により，昔ほど重要視されなくなったが，航空機に比べて経済的には効率的なため，現在でも広く装備されている。➔大砲

やまあい　【山藍】　双子葉植物・トウダイグサ科。山の林床に見られる多年草。地下茎は白色で長く地中をはい，傷ついたり乾燥すると藍色に変わる特性がある。茎は四角柱で高さ30～40cm。葉は長さ５～12cm，幅2.5～４cmの長楕円(ちょうだえん)状披針(ひしん)形で鋸歯(きょし)があり，長さ１～３cmの柄で対生する。３～６月，上方の葉腋(ようえき)から穂状花序を立て，緑色の小花を雌雄異株につける。葉を発酵させて藍*の染料として古くから用いられた。

やまあじさい　【山紫陽花】　双子葉植物・ユキノシタ科。山地に自生する高さ１ｍほどの落葉低木。谷沿いに多いのでサワアジサイともいう。枝は細長く，かっ色。葉は

対生し，長さ5～15cmの長楕円(ちょうだえん)形ないし卵形で，先はとがり，質は薄くてつやはなく，縁に鋭い鋸歯(きょし)があり，両面にまばらに毛がつく。6～8月，小枝の先に小さな花が集まって咲き，花序の周辺には青または白色の花弁状の大きながく片の修飾花をつける。北海道・裏日本に生育する濃青色の花をつけるエゾアジサイは，本種の亜種とされている。

やまあらし　【山荒・豪猪】　哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ヤマアラシ科の総称。多くは尾が短くて木に登らず，足の底には毛がなく，尾で物を巻くことができない。アジア・ヨーロッパ・アフリカに分布する。森林・荒地・草原などいろいろの環境にすみ，夜行性。ふつう，くびから背にかけて長いとげがあり，敵に会うとさか立てて後ろ向きとなって身を守る。木登りのできるアジアフサオヤマアラシ(頭胴長53cm，尾長24cm)，くびに長いとげのないヒマラヤヤマアラシ(頭胴長62cm，尾長8cm)，りっぱなたてがみのあるタテガミヤマアラシ(頭胴長70cm，尾長10cm)などいくつかの種類がある。アメリカ大陸には尾を枝などに巻きつけるキノボリヤマアラシ科が分布し，カナダヤマアラシ(頭胴長75cm，尾長20cm)，ブラジルキノボリヤマアラシ(頭胴長62cm，尾長44cm)などがある。　〔今泉吉典〕

やまいぬ　【山犬】　⇨オオカミ

やまいのそうし　【病草紙】　さまざまな奇病に悩む男女の容体を描いた絵巻。もとは1巻(詞・絵各15段)の巻き物であったが，現在は分断されている。鎌倉初期の制作と考えられ，当時の動乱の世相を背景に，人間の醜い現実を暴露的に表わしたものとみられ，また《地獄草紙》《餓鬼草紙》など一連の六道絵の一種と考える説もある。伸びのある描線を自由に駆使した描写は当代大和絵(やまとえ)中の傑作である。

やまいも　【山芋】　⇨ヤマノイモ

やまうば　【山姥】

1 能の曲名。作者不明。五番目物。能では〈やまんば〉とよぶ。〈山姥の曲舞(くせまい)〉を得意とする百万(ひゃくま)山姥という名の遊女が，従者を連れて善光寺参詣(さんけい)の途中，山路で中年の女に会い，〈山姥の謡をうたってくれ〉と言われる。この女は実は上路(あげろ)の山に住む山姥で，その後本体を現わし，山深くにいて，ときには人間世界に交わるありさまを述べ，春夏秋冬に山を巡り歩くさまなどを演じて立ち去る。シテは山姥，ワキは遊女山姥の従者。遊女山姥はシテヅレがつとめ，山の案内人を間狂言(あいきょうげん)がつとめる。歌舞伎(かぶき)・人形浄瑠璃(じょうるり)などに与えた影響が大きい。
〔長尾一雄〕

2 日本舞踊・常磐津節(ときわずぶし)・富本節(とみもとぶし)・清元節の曲名。能を基にした近松門左衛門(もんざえもん)作《嫗山姥(こもちやまうば)》が原拠。顔見世狂言*に含まれる舞踊として多数の作品がある。常磐津節《四天王大江山入》(古山姥)・清元節《月花茲友鳥(つきとはなここにともどり)》を経て集大成された1848年(嘉永1)初演の常磐津節《薪荷雪間(たきぎおうゆきま)の市川》(新山姥)が特に有名。山姥の子怪童丸(のちの坂田公時(きんとき))が山賤(やまがつ)の推挙で源頼光*(よりみつ)の家臣に取り立てられるという内容で，親子の情愛や山姥の〈山めぐり〉の踊りが見どころである。別に地歌・荻江節(おぎえぶし)にも作品がある。
〔如月青子〕





ヤマアラシ　(上)タテガミヤマアラシ　(下)キノボリヤマアラシ

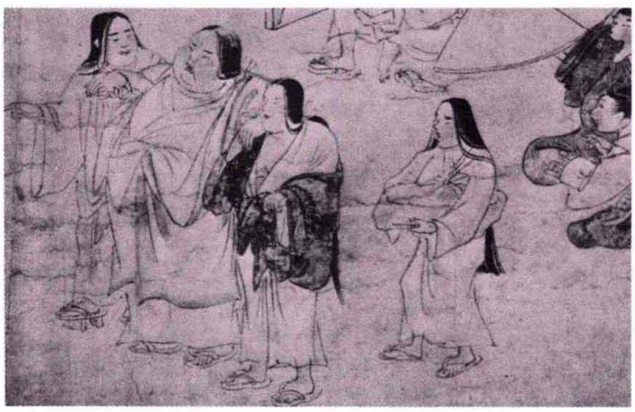


ヤマウルシ　紅葉

やまうるし　【山漆】　双子葉植物・ウルシ科。山林に自生する落葉高木で，高さ3～8m。茎や葉を切ると乳白色のしるが出て，かぶれることがある。葉はウルシ*よりも小さく，5～10対の小葉からなる奇数羽状複葉で，秋に紅葉して美しい。葉の両面に短毛がはえ，ざらつく。雌雄異株で，5～6月，葉腋(ようえき)に黄緑色の小さな5弁花を複総状花序につける。雄花には花弁よりも長いおしべ5本があり，雌花には短いおしべと花柱が3本のめしべ1本がある。果実は長さ5～6mmの扁球(へんきゅう)形で，黄色の剛毛がはえる。

やまおかてっしゅう　【山岡鉄舟】　(1836～1888)　幕末・明治時代の政治家・剣客。本名高歩(たかゆき)，通称鉄太郎。鉄舟は号。旗本(はたもと)小野家に生まれ，山岡家を継いだ。千葉周作*に剣を学び，無刀流を創始，のち講武所剣術心得となった。1862年(文久2)浪士取締役，戊辰(ぼしん)戦争のときには，勝海舟*の使者として単身駿府(すんぷ)(静岡市)の東征総督府におもむき，西郷隆盛*(たかもり)と会見，江戸城無血開城の基をつくった。明治維新後新政府に仕え，侍従・宮内少輔(しょうゆう)などを歴任した。禅を修め，書道にもすぐれていた。　〔高崎徳次〕

やまが　【山鹿(市)】　熊本県北部の市。人口33,000。古くから〈山鹿千軒たらいなし〉の俚諺(りげん)で知られる〈湯の町〉で，地名は，平安後期に京都から下向した宇野親治(ちかはる)が山狩りのとき溪谷(けいこく)にシカの群れ伏すのを見て温泉を発見したという故事にちなむ。1954年(昭和29)市制施行。市域は菊池川中流の盆地西端に位置し，中心に山鹿温泉がある。産業三大別人口比は32:19:49。米・麦・タバコ・ミカンなどを産し，乳牛・肉用牛も飼育される。国道3号線に沿い，バス交通が発達し，北九州・



病草紙　〈肥満の女〉，詞書に〈家富み，食豊かなるがゆえに，身こえ，肉あまりて行歩たやすからず〉とある



山岡鉄舟

福岡・熊本の各市から湯治客を集める。鍋田(なべた)横穴(浮き彫り)・弁慶ケ穴(彩色)・チブサン(彩色)などの装飾古墳群や，日輪寺などの史跡に富む。郷土芸術品として和紙でつくる山鹿燈籠(どうろう)があり，年中行事の山鹿燈籠祭(8月16日)が名高い。

やまかがし 【山楝蛇】 爬虫(はちゅう)類・ナミヘビ科。体長80～100cmのヘビで，最大1.2～1.4mに達する。本州以南，朝鮮・中国東北部などに普通に見られる。平地や丘陵地の水田や水辺にすみ，もっぱらカエルを食べ，他のヘビが口にしないヒキガエルをも捕食する。昼行性で，頸部(けいぶ)皮内には正中線に沿った10～15対の頸腺(けいせん)があり，この部分を強く圧迫すると黄色の毒液が噴出する。これは動物の粘膜を強く刺激し，自衛の武器となる。春秋2度の産卵期がある。 〔松井孝爾〕



ヤマカガシ

やまかじ 【山火事】 森林火災ともいい，山林・原野の地被物や樹木などが焼け損ずること。燃える部分によって四つに分ける。①地中火：土火ともいい，地中の泥炭(でいたん)や有機物が燃えるもの。速度はおそく(時速4～5km)，発見も困難である。北海道の泥炭地に多い。②地表火：地表の地被物や低木が燃えるもので，幼齢林は全滅する。③樹冠火：地表火から燃え移るもので，針葉樹林に生ずる。④樹幹火：湿度が極度に低いときに生じ，幹が燃えるもの。山火事はたきび・たばこの吸いがらやマッチ，造林地の火入れなどが原因の大半を占める。山火事は春さきの芽の出るころに多く，関東以西では3～4月，東北では4～5月，北海道では5～6月が危険である。湿度が60%以下になると出火しやすく，40%以下になると大火になりやすい。冬型の気圧配置のときは表日本で，また低気圧が日本海を通るときは裏日本にフェーン現象を生じ大火になりやすい。延焼速度は風速や林齢によって異なるが，強風のとき，幼齢林では時速7km，完成した造林地ではその半分以下に落ちる。火災の危険の程度は空気の湿度と風力によって表わされ，風速7m以上，実効湿度70%，湿度が40%以下になると警報が発せられる。火災危険期間中は予防のために見張り所・見張り員を配置し，早期発見に努める。また，林内には延焼防止のために幅10m以上の防火線を設ける。 〔中村克哉〕

やまかぜ 【山風】 夜間に山のほうから平地に向かって吹き降りてくる風。山の斜面は夜間には放射により冷えるので，これに接している空気も温度が下がる。この空気は密度が大きくなっているので，斜面に沿って流れ下って山風となる。→山谷風

やまがそこう 【山鹿素行】 (1622～1685) 江戸前期の古学派*の儒学者。武士道の大成者。名は高祐，通称甚五左衛門(じんござえもん)。素行は号。会津の人。6歳で経書を読みはじめ，9歳で林羅山(らざん)に入門して朱子学を学び，また小幡景憲(おばたかげのり)・北条(ほうじょう)氏長に兵学を学ぶ。41歳のとき朱子の《近思録》を読んで，それに仏教の影響があることを看取し，孔子・孟子(もうし)の教えを理解するには後世の学者の説にとらわれず，直接に〈四書五経〉に接しなければならない，とする古学を主張。その立場を45歳のとき《聖教要録*》として刊行し，当時の官学である朱子学を批判した。そのため罰せられ，播州(ばんしゅう)(兵庫県)赤穂(あこう)の浅野家に預けられた。その9年間に日本的なものに開眼し，また古文書を利用した独特の歴史研究を進めて《中朝事実》などを著わす。有名な赤穂義士*にはこの間の彼の影響が大きい。許されて江戸に帰ったのちも研究・講義に努めた。彼の古学の特色は儒教を仏教・道教などの影響から解放することによって，その人倫の教えとしての本質を明らかにし，武士階級の意識形態として活用した武教的実践主義にある。 〔熊谷保孝〕



山鹿素行

やまがた 【山形(県)】 東北地方南西部の県。西は日本海に面し，北は秋田，東は宮城，南は福島・新潟の各県と接する。羽前国の全域と羽後国の一部を占め，面積9,325.20km²。人口125万5,000。1km²あたりの人口密度は135人。県花はベニバナ，県木はサクランボ，県鳥はオシドリ，県獣はカモシカ。県庁のある山形以下13市と9郡(27町4村)に分かれる。

〔自然〕北は出羽山地，東は奥羽山脈，南は越後(えちご)山脈などの山並みに囲まれ，最上(もがみ)川が福島県境の吾妻(あづま)山(2,024m)の北麓(ほくろく)を発して北流する。上・中流の流域には米沢(よねざわ)・長井・山形・新庄(しんじょう)の各盆地が開け，酒田(さかた)市で日本海へ注ぐ下流部には県下最大の庄内平野が広がる。出羽山地には鳥海火山帯，奥羽山脈には那須(なす)火山帯が重なって県域内には火山が多い。秋田県境にそびえる鳥海山(2,230m)は東北地方の最高峰で，日本海に浮かぶウミネコ繁殖地の飛島を含めて，周辺部は鳥海国定公園に指定されている。また，宮城県境にそびえる蔵王(ざおう)山はお釜(かま)とよばれる火口湖や冬の樹氷で知られ，周辺一帯は蔵王国定公園の区域である。県域の中央からやや西寄りには月山(がっさん)(1,980m)があり，その南斜面中腹の湯殿山(1,504m)および北麓の羽黒山(419m)を合わせて〈出羽三山〉として昔から信仰による登山者が多い。新潟県境には越後山脈の北端にあたる朝日連峰があって，大朝日岳(1,870m)を主峰として多くの支脈をもつ山岳地帯を形成する。ブナの密林やミヤマウスユキソウ・ヒナザクラなどの高山植物の群生，野生のクマやカモシカなどの生息地として知られ，北の月山や南の飯豊(いいで)山(2,105m)とともに磐梯(ばんだい)朝日国立公園の一部をなしている。温泉はきわめて豊富で，湯野浜・温海(あつみ)・瀬見・上山(かみのやま)・蔵王・五色・赤湯などをはじめ，60を数える。気候は，気温の年較差が大きいこと，冬の積雪量が多いことに特色がある。積雪は新庄盆地が最も多く，庄内平野・山形盆地・米沢盆地はやや少ない。年降水量は庄内平野が最も多く1,900mm内外に達し，内陸部にはいるにつれて少なくなり，山形盆地では約1,200mmを記録する。冬の北西季節風も庄内平野や新庄盆地で強く吹き，内陸部にはいると弱くなる。盆地ではフェーン現象によって夏にきわめて高温となることがある。山形市では，1933年(昭和8)7月25日に40.8℃を記録したが，これは日本の最高気温の記録である。山形市の年平均気温は11.0℃，最低は1月の－1.2℃，最高は8月の24.5℃，年平均降水量は1,210mmである。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は21:28:51。主産業は農業で，近代工業の発達は遅れており，県民1人あたりの年間所得は110万円(1977)で，全国では第39位を占める。

《農林水産業》 農家総数は11万0,560，兼業農家率は88%で全国平均を上回り，耕地は15万3,900ヘクタール，総面積の16%強を占める。水田率は72%，米の平年収量は53万6,100tで，北海道・新潟・秋田・宮城に次ぎ，全国第5位を占め，東京・大阪などへ約半分を移出する。米作の中心は庄内平野で，良質米のササニシキが知られ，県内の約40%を生産し，村山・置賜(おきたま)・最上の各地域がこれに次ぐ。水田の裏作は山形盆地でわずかに行なわれているにすぎない。畑作はかつてはクワ畑が主であったが，最近は果樹園が増加し，オウトウ・リンゴ・西洋ナシ・カキ(庄内ガキ)・ブドウ・イチジク・モモなど多種類のくだものが栽培されている。オウトウの年間生産量は

10,500 t（1970）（全国の80％），西洋ナシは10,700 t（全国の57％），カキは30,300 t（全国の8.8％）で全国第1位，ブドウは全国第2位，リンゴ・モモは全国第3位を占める。ホップやタバコなどの工芸作物の栽培も行なわれ，ホップの年間産量は全国一である。牧畜は〈米沢牛〉として知られる肉牛の飼育が盛んで，本場の西置賜郡飯豊町では年6回のせりが行なわれる。最近は山形盆地を中心に酪農経営も進んでおり，ニワトリ・ブタ・メンヨウなどの飼育もしだいに増加している。林野面積は65万5,000ヘクタールで県域の53％を占め，アカマツ・クロマツなどの天然針葉林が多く，朝日・飯豊山地にはブナの原始林がみられる。林野副産物としてナメコの特産があり，かんづめに加工して出荷される。海岸線が単調で良港に乏しく，冬の季節風の影響を受けるために水産業は不振で，年間漁獲高は17,451 t（1970）にすぎず，内陸県を除いて全国最下位である。鼠ケ関（ねずがせき）・飛島・酒田などがおもな漁港で，ハタハタ・サケ・マス・サメ・カレイ・ヒラメなどの水揚げが多い。

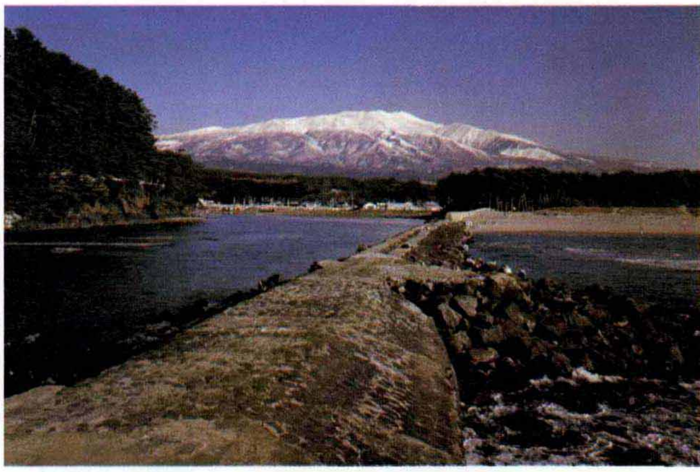
〈鉱工業〉 地下資源の種類は豊富であるが，亜鉛・亜炭・石油・イオウが目だつ程度で，金・銀・銅・硫化鉄鉱・天然ガスなどの生産量はいずれも少ない。亜炭は最上郡舟形町を中心に全国でも有数の生産量があり，亜鉛は新庄・米沢両市周辺，イオウは蔵王山・西吾妻山周辺を主産地とする。石油は第2次世界大戦中活発に産油していた鳥海油田が衰え，余目（あまるめ）を中心とする庄内油田がこれに代わっている。年間産油量は23,400kl（1970）で，新潟・秋田の両県に次ぎ全国第3位であるが，首位の新潟県の3.4％程度にとどまる。水力発電では，1957年赤川上流の八久和川に築堤した八久和ダム（最大出力20,000 kW）や，1967年発電を開始した最上郡真室川町の高坂ダム（最大出力5,000 kW）がある。工業は食料品・繊維・木材木製品業などが主で，工業製品の年間出荷額は2,422億円（1969）で，東北地方では第3位である。近代工業の発達は遅れているが，化学工業を主とする酒田臨海工業地帯の発達が期待されている。米沢織は江戸時代以来の伝統をもっているが，今日では人絹・合成繊維・毛織物・綿織物に中心が移っており，絹織物は鶴岡（つるおか）市が主産地で輸出に向けられている。山形市の鋳物業は伝統の鉄びん製造から近年は機械鋳物の大形工作機械・精密機械の生産に発展しており，将来の発展が注目される。特殊な郷土産業としては天童市の将棋の駒（こま）が名高く，全国の90％にあたる年間約400万組をつくり，1億円の生産をあげている。大正末期に中国から技術を導入して興った東村山郡山辺（やまべ）町のじゅうたん製造も広く知られる。

〔交通・都市〕 東部の米沢・山形・新庄の盆地列を貫く奥羽本線，西の日本海沿岸沿いを走る羽越本線が県域を南北に縦断する二大動脈となる。北部では陸羽西線，南部では米坂線がこの2幹線を結んで東西に走る。陸羽東線と仙山（せんざん）線は奥羽山脈を越えて東方を走る東北本線と結んでいる。私鉄は山形交通・庄内交通の2系統があるだけで，その延長は合わせて37kmにすぎない。バス網は盆地や平野の中心都市である米沢・山形・新庄・酒田・鶴岡から放射状に発達し，また，これらの都市間を結んでおり，山形～東京間の長距離バスも開通している。国道は羽越本線沿いに7号線，奥羽本線沿いに13号線があるほか，酒田～新庄間に47号線，天童～仙台間に48号線が走る。観光道路としては上山から蔵王山を経て宮城県の白石へ至る蔵王エコーライン（有料道路）が1962年に開通し，鳥海山の二つの登山口，吹浦と象潟（きさかた）（秋田県）を結ぶ鳥海ブルーライン（有料道路）も1970年7月に開かれた。航空路としては，1964年東根市内の神町に山形空港が完成し，全日空の定期便が東京との間を1日1往復している。人口密集地域は東部の盆地列と西部の平野部に集まる。山形・米沢・鶴岡・新庄などの主要都市は，すべて江戸時代の城下町で，酒田は江戸初期までは城下町，それ以来は港町として栄えた。寒河江（さがえ）ははじめ城下町，のちに市場町として発展し，上山・天童は江戸時代を通じて城下町，長井は戦国時代の城下町，村山や東根も江戸初期まで城下町であった。このように県内に多くの城下町があったのは，室町時代から戦国時代にかけて群雄が割拠し，江戸時代になっても大小各藩が分立していた歴史的事情による。これらの藩の間には江戸幕府の直轄領も散在しており，尾花沢は幕府代官所の所在地，宿場町であった。県下13市のうち，寒河江・上山・村山・長井・天童・東根・尾花沢の7市は1953年町村合併促進法施行以降の新市である。

〔歴史〕 縄文（じょうもん）式土器の出土は多いが，弥生（やよい）式土器は少ない。古くから蝦夷（えぞ）の居住地で，7世紀の中ごろに阿倍比羅夫（あべのひらふ）が蝦夷討伐のために水軍を



山形県



山形県　秋田県境に近い吹浦の海岸から望む晩秋の鳥海山。砂丘の松林の背後には羽越本線が通っている

率いて進出した記録が残されている。当時まで東北地方全域は陸奥(むつ)国に属していたが，712年(和銅５)日本海沿岸に出羽国が新設されて，県域もこれに含まれた。庄内地方には蝦夷に備えるために出羽柵(でわのさく)が設けられ，東海・東山・北陸方面から1,300戸の農家が移住して屯田兵(とんでんへい)的な役割を果たしたが，733年(天平５)に出羽柵は秋田へ移った。平安時代には貴族の荘園(しょうえん)が各地に設けられたが，平安後期以来は奥州の藤原氏の支配下にはいった。鎌倉時代には大泉(いまの鶴岡)・寒河江・長井などに地頭が置かれ，南北朝時代から室町時代にかけては群雄割拠の状態となって戦国時代を迎えた。関ケ原の役以後は最上義光(よしみつ)が山形を本拠として五十七万石の大大名となり，現在の県域の大半を占めるに至った。しかし，最上氏は1622年(元和８)に家臣の不和によって改易となり，その後は鶴岡の酒井氏(十四万三千石)，米沢の上杉(うえすぎ)氏(三十万石，のち十五万石)を除いて多くの小藩が分立した。山形も鳥居氏二十四万石が一時最上氏のあとを継いだが，以後は江戸時代を通じて五万石前後の大名が15回も交替した。また，寒河江・尾花沢・添山は幕府の直轄領で，代官所が置かれた。江戸時代にはベニバナと青麻(あおそ)(カラムシ)が特産で，これらの売買によって多くの富商が生まれ，また，酒田の本間家のように回船業者から転じて日本一の地主となった者もあった。ベニバナ商人も田地を求めて地主となり，水田の半分はこのような地主の手に移った。1871年(明治４)の廃藩置県に際して，旧藩領に大泉(酒井藩)・松嶺(まつみね)(酒井支藩)・新庄(戸沢藩)・天童(織田藩)・山形(水野藩)・上山(松平藩)・米沢(上杉藩)の７県が置かれたが，まもなく酒田・山形・置賜の３県に統合され，1875年には酒田県が鶴ケ岡県と改称，1876年に３県が合体して現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

やまがた【山形(市)】 山形県の中東部，県庁のある市。人口23万1,000。14世紀のころ，出羽国の按察使(あぜち)斯波兼頼(しばかねより)が館(やかた)を構え，その子孫の最上義光(もがみよしみつ)が関ケ原の役の戦功により五十七万石の大大名となり，市街には羽州・笹谷(ささや)・六十里越の諸街道も交わって繁栄した。江戸初期に最上氏が内紛のために改易されて以後は，江戸時代を通じて領主が15回も交替し，幕末には水野氏五万石が領するなど，政情は不安定であったが，ベニバナや青麻(あおそ)の交易が盛んで，経済的に活況を呈した。1876年(明治９)県庁の所在地となり，1889年市制施行。市域は山形盆地の南部，最上川の支流馬見ケ崎(まみがさき)川の扇状地上に発達している。産業三大別人口比は13：27：60。盆地の米やブドウ・オウトウ・リンゴなどを集散し，一時化学製品におされていたベニバナの生産も復活している。機械・金属などの近代工業が発達し，ミシン・医療器具・合金鉄・アルミニウム・鋳物などを生産している。木工業や食料品工業もよく発達し，くだものやナメコのかんづめが移出される。平清水(ひらしみず)焼・鉄びん・梵鐘(ぼんしょう)・仏壇・こけし・いずめご人形などの伝統的な工芸品があり，桐油(とうゆ)紙は全国の90％の生産をあげている。奥羽本線から左沢(あてらざわ)線・仙山(せんざん)線を分岐し，国道13号線・同バイパス・48号線・112号線・113号線が集まる。将来は東北横断新幹線・東北横断自動車道が通じる予定である。山形大学をはじめ文教施設も多い。市域内の蔵王(ざおう)山の北西斜面には蔵王温泉や蔵王スキー場がある。仙山線山寺駅の北にある立石寺は，芭蕉(ばしょう)の〈閑(しず)かさや岩にしみいる蟬(せみ)の声〉の句で知られる宗教観光地である。古くから盆地の村々で踊り継がれてきた《花笠音頭(はながさおんど)》は，いまでは全市をあげての〈花笠祭〉(８月５～８日)となり，東北四大祭りの一つとされている。〔浅井得一〕



山県有朋

やまがたありとも【山県有朋】(1838～1922)　明治・大正時代の軍人・政治家。長州藩出身。通称狂介(きょうすけ)。松下村塾(そんじゅく)に学び，幕末には奇兵隊*の軍監・総監として活躍した。明治維新後ヨーロッパに渡り，帰朝後徴兵令*の施行など新陸軍兵制の確立に尽力した。1873年(明治６)陸軍卿(きょう)となり，伊藤博文*(いとうひろぶみ)と並んで最高指導グループを形成して藩閥政治*の基礎を固め，その後内務卿・内相・農商務相を歴任し，軍人勅諭*の発布，地方自治制度の制定，警察制度の改革にあたった。1889年第１次山県内閣を組織，枢密院議長・第２次伊藤内閣法相を経て，日清(にっしん)戦争には第１軍司令官・陸相として戦争遂行を指導し，1896年には全権大使としてロシアを訪れ，山県・ロバノフ協定を締結した。1898年元帥となり，同年第２次山県内閣を組織。1904年日露戦争にあたっては参謀総長をつとめ，戦後枢密院議長となった。伊藤博文死後は独裁者として絶対的な権力を握り，終始政党を憎悪(ぞうお)して官僚政治の保守に努めた。〔安達利夫〕

やまがただいに【山県大弐】(1725～1767)　江戸中期の尊王論者。名は昌貞(まささだ)，号は柳荘，大弐は通称。甲斐(かい)(山梨県)の医師の家に生まれ，和漢儒仏に通じ，神道(しんとう)学説の影響から尊王斥覇(せきは)の思想を抱くようになった。一時大岡忠光(ただみつ)に仕えたのち江戸に出て家塾(かじゅく)を開き，兵学を講じた。宝暦事件*に際しては《柳子新論》(1763年成立。朱子学*的大義名分論に貫かれ，幕府を尊王斥覇として批判した書)を著わして幕政を攻撃した。1767年(明和４)明和事件*に連座し，言論不敬の罪に問われて藤井右門とともに処刑された。〔高崎徳次〕

やまがたばんとう【山片蟠桃】(1748～1821)　江戸後期の経済思想家。本名長谷川有躬(はせがわありみ)。播磨(はりま)(兵庫県)の人。大阪に出て豪商升屋(ますや)に奉公し，その経済的手腕を認められた。懐徳堂*で中井竹山・履軒兄弟に儒学を学び，また麻田剛立(ごうりゅう)に天文学・蘭学(らんがく)なども学んだ。主著《夢の代*》で町人としての経済思想と科学的精神(無神論・地動説など)を説き，日本思想史上ユニークな存在であった。

やまがたぼんち【山形盆地】 山形県東部，東は奥羽山脈，西は出羽(でわ)山地に限られ，北部に尾花沢，南部に上山(かみのやま)の副盆地をもつ南北に長い盆地。上山盆地は最上(もがみ)川の支流の埋積(まいせき)作用によってつくられ，須(す)川が北流している。東西とも山地とは断層崖(だんそうがい)で限られ，西部には寒河江(さがえ)川の扇状地が，東部に

は馬見ケ崎(まみがさき)川・立谷(たちや)川・乱(みだれ)川などによりみごとな扇状地が形成され，北流する最上川を西側に押している。気候は内陸性で，フェーン現象の多発地，1933年(昭和8)夏に日本最高気温40.8℃を記録した。最上川沿いの盆地底は水田地帯で，県下有数の穀倉地帯をなし，周辺の扇状地面はおもに果樹園で，リンゴ・モモ・ブドウ・オウトウなどが栽培されている。盆地の中心は山形市。〔味沢成吉〕

やまがら【山雀】鳥類・シジュウカラ科。全長約14cmで，シジュウカラとほぼ同大。頭が大きく，からだつきは丸みがある。頬(ほお)・後頭部・胸腹は栗色(くりいろ)，のどと頭の大部分は黒色，背面は灰色。サハリン(樺太(からふと))から日本列島・中国大陸東部・台湾にかけて分布し，日本各地の平地から低山帯にかけて広くみられる。シジュウカラに比べると分布は南方によっている。どちらかというと常緑広葉樹林を好み，冬季もシジュウカラに比べると，開けたところにある林や民家の庭などに出てくることは少なく，山にすむ性質が強い。人間によくなれ，好奇心があり，脚趾(あしゆび)を使う習性がすぐれているので，古くから大道芸の御神籤(おみくじ)引きに使われている。〔安部直哉〕


ヤマガラ


ヤマキチョウ

やまがわ【山川(町)】鹿児島県揖宿(いぶすき)郡の町。人口14,000。薩摩(さつま)半島の東南端にある山川港を中心に展開し，指宿枕崎(いぶすきまくらざき)線が通ずる。山川港はカツオ・マグロ漁業の根拠地として知られ，大隅(おおすみ)半島の佐多港との間に錦江(きんこう)港フェリーがある。サツマイモ・ダイコン・花卉(かき)などの農産があり，酪農も盛んである。

やまかわイズム【山川イズム】1922年(大正11)から1926年ごろ，日本共産党に指導性をもっていた山川均(ひとし)の理論体系。《前衛》に発表した〈無産階級運動の方向転換〉で，運動の大衆化，政治闘争への進出を説き，成立直後の日本共産党に決定的な影響を与えた。1925年普通選挙法の公布にもかかわらず，解党という状況に直面し，いわゆる協同戦線的無産政党論を展開したが，これは組織には触れずに解党主義的傾向をもつものであった。この欠点が福本和夫(かずお)(→福本イズム)に指摘され，さらに〈二十七年テーゼ〉(1927年コミンテルンで採択された〈日本問題にかんするテーゼ〉)で福本イズムとともに批判されたため影響力を失った。山川のこの理論は以後労農派によって受け継がれた。〔溝口　潔〕

やまかわすてまつ【山川捨松】⇨大山捨松

やまかわひとし【山川均】(1880～1958) 明治・大正・昭和期の社会主義者。岡山県の生まれ。同志社大学中退。キリスト教から社会主義に転じ，1906年(明治39)日本社会党に入党。1908年赤旗事件で懲役刑を受け，1910年大逆事件で帰郷，1916年(大正5)上京して売文社に入社し，社会主義運動の中心として活躍した。1922年日本共産党の創立に参画。指導理論であった山川イズムは，〈二十七年テーゼ〉によって右翼日和見(ひよりみ)主義と批判された。労農派の中心的理論家として活躍したが，1937年(昭和12)人民戦線事件で検挙された。1946年民主人民戦線結成を提唱，以後日本社会党左派の理論的指導者であった。〔安達利夫〕

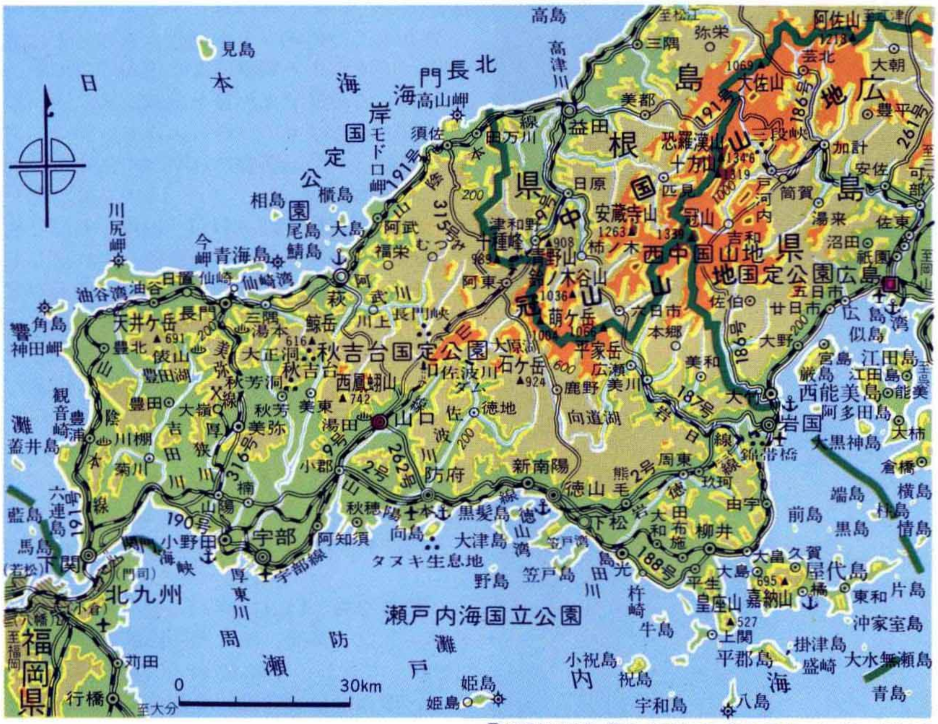
やまきちょう【山黄蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シロチョウ科。翅(はね)を広げた長さ65mmほどで，前翅の先端はかぎ状に伸びている。雄は黄色で前後翅とも中央付近に橙赤(とうせき)色の紋がある。雌は青みをおびて白い。発生は年1回で，7～8月に見られ，本州中部から東北地方に分布する。幼虫はクロウメモドキ科のクロツバラを食べる。スジボソヤマキチョウは前翅の先端がより強く突出する。本州・四国・九州に分布し，6～7月に姿を見せ，7～8月は夏眠して，9月に再び現われる。

やまぎわかつさぶろう【山極勝三郎】(1863～1930) 病理学者。本姓山本。信濃(しなの)(長野県)上田の生まれ。1879年(明治12)東京へ出て医師山極吉哉(よしや)の養子となった。1887年東京帝国大学医科大学を卒業，病理学教室へはいる。1892年ドイツへ留学し，フィルヒョウらについて病理学を学んだ。1894年帰国，翌年東京帝国大学医科大学教授に任ぜられ，病理学第二講座を担当。病的材料示説を日本で最初に行ない，腫瘍(しゅよう)・脚気(かっけ)その他日本の地方病に関する研究・講義を試み，草創期の日本病理学の育成，発展に努力した。1914年(大正3)イエウサギの耳にタールをくり返し塗り人工的に癌(がん)を発生させることに成功。1919年この業績により協力者市川厚一とともに帝国学士院賞を受賞，また1928年(昭和3)にはドイツからノルドホフ-ユング賞が贈られた。著書に《病理総論講義》《ペスト病論》など。〔大島蘭三郎〕

やまくずれ【山崩れ】山地の斜面の表層部が不安定になって急激にくずれ落ちる現象。原因は，豪雨，ことに集中豪雨や雪どけなどで基盤の上の表層が水を多量に含むことや，地震によって受ける衝撃などであるが，岩石の種類・硬軟，破砕の程度，地形の傾斜度，山脚の様相などにも関係する。山くずれによって生じた岩塊・礫(れき)・砂・どろなどは地表の樹木などとともに水に混ざって土石流(山津波)となり，下に押し出されて災害を起こすことが多い。〔平山　健〕

やまぐち【山口(県)】中国地方西端の県。北は日本海，南は瀬戸内海の周防灘(すおうなだ)に面し，東は島根・広島の両県と接し，南西端は関門海峡を隔てて北九州市と対する。周防・長門(ながと)両国の全域を占め，面積6,090.89km²。人口157万9,000。1km²あたりの人口密度は259人。県花はナツミカン，県木はアカマツ，県鳥はナベヅル，県獣はシカ。県庁のある山口以下14市と11郡(37町5村)に分かれる。

【自然】中国山地の西端部が県域におおいかぶさり，平地に乏しく，小さな山地・丘陵・盆地・海岸段丘などが入り交じった地形である。東部の寂地・羅漢(らかん)の両山脈には高さ1,000m内外の山々が連なり，その西や南には周防山地や長門山地などの低い丘陵性台地がある。長門山地の中央には秋吉台(あきよしだい)のカルスト台地があり，地下に発達した石灰洞(せっかいどう)の秋芳洞とともに奇観を呈し，秋吉台国定公園に指定されている。錦(にしき)川をはじめ佐波川・椹野(ふしの)川・吉田川などの諸河川は瀬戸内海に注ぎ，阿武(あぶ)川は日本海に注ぐが，大きな河川はない。広い平野も少なく，海岸部や山間部に岩国平野や山口盆地をはじめ小さな平地が点在するにすぎない。北は日本海に面し，西はその一部の響灘，南は瀬戸内海の西端にあたる周防灘と，三方を海に囲まれている。日本海側は対馬(つしま)暖流の洗う深くて広い外海で，沈降海岸が多く，青海(おうみ)島から北東へかけての海岸線はすぐれた風光を呈し，北長門海岸国定公園に指定されている。瀬戸内海側は浅くて潮の満干の大きい内海である。海岸線が長く，浦々には多くの港が発達し，南西端の下関(しものせき)は関門海峡を隔てて北九州市と接している。気候は一般に温暖で，南北をさえぎる高い山脈がないため，瀬戸内と日本海側の気候差は少ない。内陸から山陰にかけては，高冷多雨で降雪が多く，日本海沿岸では冬季に北西の季節風が強く



山口県

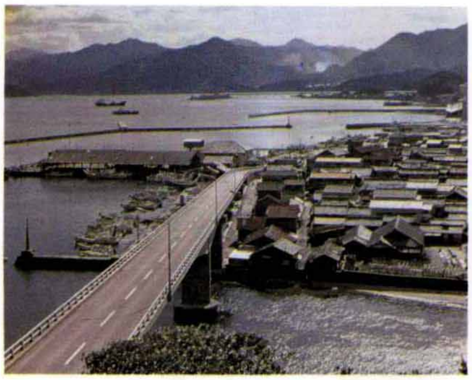
吹く。瀬戸内海沿岸は温暖であるが，夏季に夕なぎが著しく，干害を受けることも多い。下関の年平均気温は15.4℃，最高は8月の26.7℃，最低は1月の5.5℃，年降水量は1,724mmである。

〔産業・経済〕産業三大別人口比は13:32:55。主産業は工業と水産業で，県民1人あたりの年間所得は120万7,000円(1977)，全国で第25位を占める。〈農林水産業〉農家総数は10万4,480戸，兼業農家率は83%，山がちのため耕地は狭く82,400ヘクタールで，総面積の13%強にすぎない。水田率は79%で，主要農産物は二毛作による米と裸麦などの麦類であり，米の平年収量は21万8,000t(1970)である。瀬戸内海に面する山地の斜面ではサツマイモ・ジャガイモなどのイモ類や菜種が多くつくられる。宇部(うべ)周辺のダイコンや岩国川上流部のワサビ・コンニャクイモは特産として知られる。くだものでは萩(はぎ)を中心とするナツミカン，瀬戸内海の島々のウンシュウミカンの栽培がよく知られる。畜産業は，ウシ・ブタ・ニワトリなどがおもに飼育される。山地を主として役肉用牛33,800頭が，おもに山口・柳井などの近郊農村地域で乳牛約11,800頭(1970)が飼育されるが，全国的には多いほうではない。古くから肉牛として知られる都濃(つの)牛や，日本唯一の純粋和牛である見島牛，外国牛との混血によって生まれた無角牛などの特産がある。ブタは61,400頭，ニワトリは約370万羽が飼育され，最近は増産の傾向を示している。林野面積は44万ヘクタールで県域の71%を占め，樹種はアカマツ・クロマツ・スギ・ヒノキなどの針葉樹林が多く，特にアカマツは杭木(こうぼく)・パルプの原材として盛んに切り出される。岩国川や阿武川の上・中流流域にはスギの美林が見られ，長門山地には竹材やたけのこの産が多い。東部の周防山地にはマツタケの特産がある。水産業はきわめて盛んで，年間漁獲量は30万2,957t(1970)に及び，中国地方で第1位，全国でも北海道・東京・宮城・青森・福岡の各都道県に次ぎ，第6位の水産県である。対馬海流・リマン海流の暖寒両流が流れる日本海海域と瀬戸内海海域とに面するために魚種に恵まれ，カレイ・ヒラメ・アジ・サバ・イワシなどの水揚げが多い。下関や仙崎(せんざき)(長門市内)は黄海や東シナ海方面へ出漁する漁船の基地となり，徳山・下関の周辺海域にはフグの特産がある。最近は秋穂(あいお)町(吉敷郡)の水産種苗センターを中心にフグ・クルマエビの養殖施設も増加している。かつては瀬戸内海沿岸で製塩が盛んであったが，現在はほとんど消滅してしまった。〈鉱工業〉地質構造が複雑で変化に富み，石炭をはじめ石灰石・硫化鉱・ロウ石・銅・タングステン・ケイ石などの地下資源に恵まれている。石炭の生産は不振で，宇部の有煙炭田は閉山し，大嶺(おおみね)の無煙炭田のみがわずかに残っている。秋吉台周辺部には石灰石の産出が多い。秋吉台の南西端にある美禰(みね)は石灰石・大理石・無煙炭の埋蔵が多く，大理石は全国の80%を産出する。北東部の河山(かわやま)鉱山では硫化鉄と銅を産し，下松周辺ではマンガンの産出がみられる。近代工業が発達し，工業製品年間出荷額は1兆0,553億円(1969)で，全国第14位を占める。瀬戸内海沿岸部は埋め立てによる用地の造成，海陸の交通，電力・用水・労働力などの条件に恵まれ，早くから大企業が立地していたが，第2次世界大戦以後は旧軍用地の平和産業への転換も行なわれて，北九州工業地帯の延長として新しい工業地帯を形成している。特に岩国を中心とする東部臨海工業地域には石油コンビナートの形成による重化学工業地帯の発展が期待されており，徳山を中心とした周南工業地帯では中小企業の整備が進んでいる。西部臨海地域の宇部・小野田・下関を結ぶ地域では，付近に産する石炭や石灰石を利用して，ソーダ・セメント・石油精製・石油化学・化学肥料・化学繊維などの近代工業地帯が形成されている。豊富な水産物を原料とする水産加工業も県下各地で盛んで，下関のウニ，仙崎のかまぼこなどは特産として全国に知られる。伝統的な家内工業としては，朝鮮の高麗焼(こうらいやき)の技法を受け継ぐ萩焼が名高く，岩国縮・柳井縞(やないじま)・関戸がやなどの伝統的な機業も行なわれる。

〔交通・都市〕古くから大陸への交通の拠点であったことが知られるが，今日でも海陸ともに交通の要路として重要な役割を果たしている。陸上交通では山陽本線と国道2号線が瀬戸内海沿岸を，山陰本線と国道9号線・191号線が日本海の沿岸部をそれぞれ走って下関に集まり，関門トンネル・関門国道トンネルによって北九州と直結する。瀬戸内海沿岸部には山陽新幹線の工事も進行しており，県内に御庄(みしょう)(岩国市内)・徳山・小郡(おごおり)・長門の4駅が設けられるはずで，1975年(昭和50)の開業をめざしている。そのほか，山口線・美禰線・国道187号線・262号線は中国山地を縦断して県の南北をつないでいる。バス交通も最近著しく発達して，国道や主要県道を利用して県内主要都市を結ぶ路線のほか，福岡や広島と結ぶ長距離バスも運行されている。海上交通では，下関をはじめ，瀬戸内海に面する徳山・下松・岩国・宇部・小野田・柳井などの各港があり，日本海沿岸には萩・仙崎の2港があって，いずれも港湾施設が整備され，重要港湾に指定されている。航空路では岩国空港から国内各地へ定期便が通じ，また1965年には民間空港の宇部空港が完成した。人口の密集地域はおもに瀬戸内海，日本海の沿岸部に集まり，山間部には県の行政の中心である山口と石灰工業の盛んな美禰の2市があるが，一般に人口は少ない。瀬戸内海沿岸部には東から岩国・柳井・光・下松・徳山・防府(ほうふ)・宇部・小野田・下関の各都市が立地しており，商工業都市と漁業都市の両面の性格を兼ね備えているが，最近はいずれも臨海工業都市の傾向を強めている。日本海沿岸には萩・長門の2都市があり，いずれも古くから発達した山陰地方の要地として知られる。県下14市のうち，柳井・長門・美禰の3市は1953年町村合併促進法施行以後の新市で，新南

陽はいわゆる〈三万人市〉である。
〔歴史〕開発の歴史は古く，熊襲(くまそ)征伐の際，仲哀天皇が穴戸(いまの下関市長府)に行幸したと伝えられる。大化改新に際して，周芳(すおう)(のちの周防)・穴戸(のちの長門)の2国が設置された。平安時代には和銅開珎(わどうかいほう)・皇朝十二銭などの貨幣がこの地で鋳造されており，大陸交通の要地としても栄えた。鎌倉時代には佐佐木高綱が長門の守護となり，室町末期の大内氏に至るまで，代々守護の勢力下に置かれた。大内氏は南北朝時代からこの地で勢力を伸ばし，大内弘世(ひろよ)が山口に築城して周防・長門・石見(いわみ)の豪族をおさえ，守護職についた。その子義弘(よしひろ)の代には中国地方や北九州地方にまで権勢をふるうようになった。大内氏は学問や芸術の興隆にも力を注ぎ，仏教の経典を輸入し，織物・漆器などの特産物を輸出して，中央文化の摂取とともに大陸文化の輸入にも努めた。当時の山口は〈西の京都〉といわれて地方文化の中心地となり，義弘の子義隆(よしたか)の代にはフランシスコ-ザビエルもキリスト教の布教のために同地にとどまったことが知られる。1543年(天文12)大内氏は家臣の陶(すえ)氏のために滅ぼされ，同時に山口も焼失したが，陶氏もまた毛利氏によって滅ぼされ，毛利氏がその後中国地方を統治することになった。戦国時代に豊臣秀吉(とよとみひでよし)が天下を統一すると，毛利氏はその配下の大大名となったが，1600年(慶長5)の関ケ原の役で西軍にくみして敗れ，領地を周防・長門の2国に削られた。江戸時代には毛利氏が長州藩三十六万九千石を領有し，米・塩・紙・ロウの4白による産業振興政策を行なって繁栄した。幕末には薩摩(さつま)藩と並んで尊王討幕の主導権をとり，松下村塾(そんじゅく)で知られる吉田松陰をはじめ，高杉晋作(たかすぎしんさく)・前原一誠など多くの志士が活躍した。禁門の変，アメリカ・イギリス・フランス・オランダ4か国連合艦隊の下関砲撃，長州征伐などの大事件を経て，1867年(慶応3)徳川慶喜(よしのぶ)の大政奉還に至るまで，長州藩が幕末史に果たした役割は大きい。1869年(明治2)毛利氏は他藩にさきがけて版籍を奉還し，1871年の廃藩置県に際しては山口県となり，現在に及んでいる。幕末に活躍した志士のうちには，伊藤博文(いとうひろぶみ)・井上馨(かおる)・桂(かつら)太郎・木戸孝允(たかよし)・品川弥二郎(やじろう)・大村益次郎(ますじろう)・山県有朋(ありとも)のように明治以後も新政府の要職についた者が多く，伊藤博文から佐藤栄作に至るまで7人の首相を出しているのも他府県にみられない。軍人としては乃木希典(のぎまれすけ)・寺内正毅(まさたけ)をはじめ，陸軍に多くの人材を出した。〔浅井得一〕

やまぐち【山口(市)】山口県のほぼ中央部，県庁のある市。人口10万8,000。14世紀に大内氏が京都を模して城下町をつくって以来〈西の京都〉とよばれ，大陸貿易の中心地として発展し，当時の人口は約10万と推定される。戦国戦代には陶(すえ)氏・毛利氏がこの地を統治し，江戸時代には毛利氏三十六万九千石の城下町となった。1929年(昭和4)市制施行。市域は，椹野(ふしの)川中流域に沿う山口盆地を中心にほぼ南北に延び，北部は周防(すおう)山地と接し，南部は周防灘(すおうなだ)沿岸に及ぶ。産業三大別人口比は19：17：64。盆地の大半は農耕地で，山地では木材・木炭を産する。印刷・精密機器・食品・製材などの工業が行なわれるが，その規模は小さい。消費都市の性格が強く，山口大学をはじめ文教施設が集まり，南西部には湯田温泉がある。山口線に沿い，国道9号線・190号線・262号線が通じ，秋吉台(あきよしだい)・秋芳洞(しゅうほうどう)・長門(ながと)峡の観光基地となる。フランシスコ-ザビエルの旧跡，大村益次郎(ますじろう)の墓，雪舟作と伝えられる常楽寺庭園などの史跡に富み，ゲンジボタル発生地の坂川，平川の大スギ，龍蔵(りゅうぞう)寺のイチョウなどの天然記念物がある。1966年平川吉田(よしだ)地区で，静岡県の登呂(とろ)に匹敵する大規模な集落遺跡が発見され，現在本格的な発掘が進んでいる。特産は，大内塗・大内人形など。
〔浅井得一〕



山口県 日本海側の仙崎湾。本土と青海島とを結ぶ青海大橋がかかり，島の北岸の名勝地へ通じている



県の北端，北長門海岸国定公園須佐湾の景勝。接触変成岩(ホルンフェルス)が鮮やかな縞目をつくる

やまぐちかつひろ【山口勝弘】(1928〜) 彫刻家。東京の生まれ。日本大学卒業後，実験工房に参加，抽象彫刻によって現代彫刻の方向を示した。多様な材料，光を用いて立体作品をつくる代表的な前衛作家である。

やまぐちせいし【山口誓子】(1901〜) 俳人。本名新比古(ちかひこ)。京都の生まれ。東京帝国大学法学部卒業。在学中より高浜虚子*に師事して，水原秋桜子*らと東大俳句会を結成。新興俳句運動に身を置き，《馬酔木*(あしび)》客員となる。1948年(昭和23)《天狼(てんろう)》を創刊・主宰，現代俳句の前進に努めた。句集に《凍港》《黄旗》《激浪》《晩刻》など。

やまぐちそどう【山口素堂】⇨素堂

やまぐちちょすいち【山口貯水池】⇨狭山湖(さやまこ)

やまぐちほうしゅん【山口蓬春】(1893〜1971) 日本画家。北海道の生まれ。東京美術学校西洋画科と日本画科を卒業。松岡映丘に師事，新興大和絵(やまとえ)運動に参加し，中村岳陵らと六潮会を興した。1950年(昭和25)日本芸術院会員。1965年文化勲章を受賞。大和絵をはじめ各派の画風を摂取し，また洋画ふうの技法をも追究。美しい色彩と技巧の妙を示している。

やまぐにがわ【山国川】大分県北西部の英彦(ひこ)山に発し，北流して中津市で周防灘(すおうなだ)に注ぐ。流程54km。上流・中流一帯は溶岩・集塊岩が侵食されて，渓谷美(けいこくび)で有名な耶馬渓*(やばけい)がある。下流は福岡との県境をなし，中津平野を下る。

やまぐるま【山車】双子葉植物・ヤマグルマ科。暖地の山地に自生する常緑高木で，高さ10〜15mに達する。太い枝が輪状に出，小枝の先に葉が密につく。葉は長さ6〜12cm，幅2〜5cmの倒卵形ないし菱形(ひしがた)で先は急にとがり，表面に光沢があって，縁に低い鋸歯(きょし)がある。5〜6月，10〜20個の黄緑色の花が枝先に集まって，総状花序につく。花には花被がなく，めしべ5〜10本，おしべ多数。果実は袋果で，5〜10本の花柱がついており，熟すと花柱と同数の裂け目ができる。木の皮を水につけて腐らせ，鳥黐(とりもち)をつくるので，トリモチノキともいう。材がシダ植物・裸子植物と同じように，全部が仮道管からなり，道管がない。〔加藤僖重〕

やまぐわ【山桑】双子葉植物・クワ科。野山の雑木林にはえる落葉高木。葉は互生し，長さ7〜18cm，幅5〜15cmの卵円形状，表面がざらつく。雌雄異株であるが，同株のものもある。4〜5月，葉腋(ようえき)に長さ1〜2.5cmの雄花序および雌花序をつける。花は花弁を欠いてがく片4枚があり，雄花はおしべ4本，雌花には花柱の先が2裂しためしべ1本がある。果穂はいわゆるクワの実で，瘦果(そうか)が多肉質になった宿存がくで包まれ，はじめ赤色であるがのちに黒熟し，食べられる。葉はカイコのえ

さに用いられる。材は家具・細工物に用いられる。→クワ

やまこうもり　【山蝙蝠】　哺乳(ほにゅう)類・翼手目・ヒナコウモリ科。頭胴長9.8cm，前腕長6.1cmほど。体はがんじょうで耳が丸く，体背面は赤ぐり色，腹面は黄かっ色で，両面とも光沢がある。ヨーロッパ・中国・朝鮮・日本に分布し，日本には1亜種ニホンヤマコウモリを産する。平地から低山の森林にすみ，ふつう大木の樹洞(じゅどう)内に群れをなす。夕刻明るいうちに飛び出し，コガネムシなどの甲虫類を主食とする。アマツバメのように高空を直線状に高速で飛翔(ひしょう)する。　〔今泉吉典〕

やまごぼう　【山牛蒡】　双子葉植物・ヤマゴボウ科。中国原産の多年草。人家に植えられるが，野生化もしている。根は太くゴボウ状。茎は高さ1.2～1.5mで全草無毛である。葉は互生し，長さ10～20cmの長楕円(ちょうだえん)形で先はとがる。6～9月，長さ6～12cmの総状花序が葉と対生につき，白色花を多数つける。花弁はなくがく片5枚，おしべ8本で桃色の葯(やく)があり，めしべは8本。果実の房は直立したままで黒紫色に熟す。有毒植物であるが，若葉は食べられ，また根は商陸といって利尿剤とされる。ヨウシュヤマゴボウ(アメリカヤマゴボウともいう)は，茎が赤く，果実は赤紫色に熟す。また，花序はたれ下がり，各花はおしべ10本，めしべ10本ある。なお，みそづけなどでヤマゴボウといわれるものはモリアザミ(ゴボウアザミ)の根である。　〔加藤僖重〕

やまごや　【山小屋】　登山者の宿泊と休養・避難のため山中に建てられた小屋。ヒュッテともいう。本来は山で働く者が臨時の住居とする小屋のことで，またぎが使う狩り小屋，焼き畑の際の作小屋，猟師・きこりたちの避難小屋などがあったが，現在では登山・ハイキングなどに利用する施設をよぶ。種類は営利が目的のもの，公共施設で管理人のいるもの，避難小屋，学校やクラブなど団体所有のものなどがある。

やまざき　【山崎(町)】　兵庫県宍粟(しそう)郡の町。人口28,000。県南西部の揖保(いぼ)川流域にあり，1955年(昭和30)旧山崎町と周辺6か村が合併して発足。中心地区山崎は因幡(いなば)街道に沿う城下町で，農村部は酒造用の米の産地として知られ，木材・ウシの産もある。中国縦貫道路のインターチェンジの予定地とされている。

やまざきあんさい　【山崎闇斎】(1618～1682)　江戸初期の儒学者・神道(しんとう)学者。垂加神道の大成者。名は嘉，字(あざな)は敬義(もりよし)。神道家としての号は垂加(しでます)。京都の人。はじめ比叡(ひえい)山・妙心寺で仏教を学び，19歳で土佐(高知県)の吸江寺に移り，そこで谷時中を知って朱子学を学ぶ。宗教的情熱をもって朱子に帰依し，25歳で還俗(げんぞく)して仏教を批判した。38歳のとき京都で開塾(かいじゅく)，のち江戸に出て保科正之(ほしなまさゆき)らの侍講をつとめた。52歳で度会延佳(わたらいのぶよし)より伊勢(いせ)神道の伝を受け，54歳で吉川惟足(よしかわこれたる)より吉田神道の伝を受け，以後没するまで神道の研究に情熱を注ぎ，垂加神道を大成。この神道説は彼の遍歴した思想のうち，主として朱子学・伊勢神道・吉田神道を中心に理論化したものであるが，従来の儒家神道のように神道を儒教の立場から見るのではなくて，神道自身から理解しようとしたところに特色がある。天道＝神道＝人道とする天人唯一の説，天皇を造化神の子孫とする人体神の概念は従来の尊王思想を理論的に深めたもので，これは幕末の尊王討幕思想に大きな影響を与えた。〔熊谷保孝〕





ヤマゴボウ
(上)ヤマゴボウ
(下)ヨウシュヤマゴボウ



山崎朝雲《大葉子》1908　東京国立近代美術館蔵

やまざきそうかん　【山崎宗鑑】　室町後期の俳人。最初の俳諧撰集(はいかいせんしゅう)とされる《犬筑波集(いぬつくばしゅう)》の撰者として知られるが，氏名・生没年など不詳。晩年，山城(京都府)山崎の酬恩庵(しゅうおんあん)対月軒に住したことから山崎の名を冠してよぶ。宗鑑流とよばれる書で名があり，筆料によって生計を潤していたらしい。連歌では名がないが，本領の俳諧では，宗長と同座してできばえを競ったり荒木田守武(もりたけ)らとの句のやりとりがあり，そのような中で広く句を集め《犬筑波集》が編まれたとみてよい。また，《竹馬狂吟集》があったとするが伝わらない。　〔奥野純一〕

やまざきちょううん　【山崎朝雲】(1867～1954)　彫刻家。福岡市の生まれ。高村光雲に師事し，よく日本木彫の正風を伝えた。明治以降の木彫界の重鎮として知られる。代表作に《大葉子》などがある。

やまざきなおまさ　【山崎直方】(1870～1929)　地理学者。高知県の生まれ。東京帝大国学地質学科を卒業。ドイツ留学を経て東京高等師範学校教授・東京帝国大学教授となる。日本各地の火山の研究や，日本にもかつて氷河時代があったことを実証し，関東大震災後は地震の原因を追究した。東京帝国大学地理学科および日本地理学会を創設し主宰した。著書に《大日本地誌》10巻，《山崎直方論文集》などがある。

やまざきのたたかい　【山崎の戦い】　1582年(天正10)6月，羽柴(はしば)(豊臣(とよとみ))秀吉(ひでよし)が山城(京都府)乙訓(おとくに)郡大山崎村で明智光秀(あけちみつひで)を破った戦い。本能寺の変後，毛利氏と対陣中の秀吉は，直ちに毛利輝元(てるもと)と講和し，軍を返して京都へ進軍した。光秀はこれを山崎で迎撃したが敗れ，敗走する途中，小栗栖(おぐるす)で土民に殺された。この戦いで光秀の中央制圧は本能寺の変後わずか11日で終わり，秀吉は織田信長(のぶなが)の地位を獲得して事業を後継した。　〔高崎徳次〕

やまざくら　【山桜】　双子葉植物・バラ科。平地から低山の林にはえる落葉高木で，高さ10m以上になる。樹皮は暗かっ色で横に裂ける。若葉は赤茶色の倒卵形ないし長楕円(ちょうだえん)形で長さ10cm内外，先が鋭くとがり，縁に細かい鋸歯(きょし)がある。4月，直径2～3cmの微紅色でソメイヨシノに似た花をつけるが花柄・がく片・花柱に毛がない。果実は球形の液果で，5～6月に黒熟するが苦味が強い。

やまじあいざん　【山路愛山】(1865～1917)　歴史家・ジャーナリスト。東京の生まれ。本名弥吉(やきち)。1864年生まれともいわれる。1889年(明治22)東洋英和学校卒業後キリスト教伝道に従事し，1893年《護教》主筆。まもなく《国民新聞》の記者となり，同紙と雑誌《国民之友》に政治評論・史論・文学論を発表，北村透谷や高山樗牛(ちょぎゅう)との論争で文名を高めた。1899年《信濃(しな

の）毎日新聞》の主筆となり，民衆啓蒙（けいもう）に努めた。1903年《独立評論》を発行，以後独特の国家社会主義を主張。1905年斯波（しば）貞吉らと国家社会党を結成。《新井白石》《足利尊氏（あしかがたかうじ）》《現代日本教育史論》など著書多数がある。〔安達利夫〕

やましぎ【山鷸・山鴫】鳥類・シギ科。全長35cm前後で，くちばしは長く7～8cm。全体にかっ色で，肥えた感じの丸っこい体つきをしている。シベリアからヨーロッパにかけて広く分布し，日本では本州・北海道・伊豆（いず）七島で繁殖する。繁殖期には夕方〈キチッ，キチッ，キチッ〉といって飛び回るのがよく見られるが，日中は林内にとどまり，あまり人目につかない。長いくちばしを地中に差し込んで探り，水田・湿地や川の州などで地中のこん虫の幼虫やミミズなどをおもに食べる。〔安部直哉〕

やましたしんたろう【山下新太郎】（1881～1966）洋画家。東京の生まれ。東京美術学校西洋画選科に入学，黒田清輝の指導を受け，1904年（明治37）に卒業した。翌年フランスに渡り，コラン・コルモンらに師事，1910年に帰国した。後期印象派ことにルノアールの感化を受けている。1937年（昭和12）には一水会の創立に参加した。

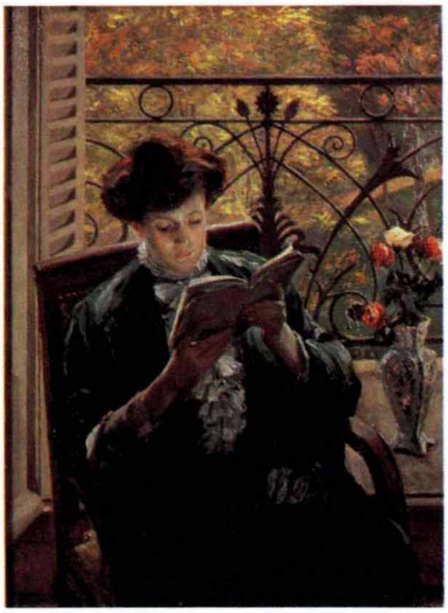
やましたともゆき【山下奉文】（1885～1946）軍人，陸軍大将。高知県の生まれ。陸軍大学校卒業。歩兵第3連隊長などを経て，1940年（昭和15）航空本部長兼航空総監となり，空軍力増強を主張。第2次世界大戦ではマレー作戦を指導し，シンガポールを攻略した。満州第1方面軍司令官を経て，1944年フィリピン第14方面軍司令官をつとめたが，戦後マニラの軍事裁判で戦犯として処刑された。終始東条英機（ひでき）ににらまれ不遇であった。〔安達利夫〕

やましな【山科】京都市東山区の東部地区。東山と醍醐（だいご）山地に囲まれた小断層盆地で，古来京都の東の玄関口として交通・軍事上の要地であった。いまは住宅地としての性格が強く，東海道本線・京阪（けいはん）電鉄京津線・国道1号線（東山バイパス）が通じ，東部には名神高速道路の京都東インターチェンジが設置され，西部に東山道路（有料道路）が走る。天智（てんち）天皇陵や蓮如上人（れんにょしょうにん）創建の山科御坊，安祥寺などの旧跡に富み，大石良雄（よしお）の閑居の地としても知られる。〔浅井得一〕

やましなときつぐ【山科言継】（1507～1579）室町末期の公卿（くぎょう）。正二位。権大納言。言綱の子。皇室経済の維持に尽力し，また有職（ゆうそく）の学に長じていた。その日記《言継卿記》（原本37冊）は1527～1576年（大永7～天正4）までに及び，皇室経済・有職故実・文学・芸能・医薬などのほか，武将との交渉も記され，戦国時代の重要史料となっている。



ヤマシギ



山下新太郎《読書》1908 ブリヂストン美術館蔵

やましろ【山城（国）】京都府の東南部，京都盆地を中心とする地域の旧国名。城州。畿内（きない）に属する。701年（大宝1）以降，葛野（かどの）・愛宕（おたぎ）・乙訓（おとくに）・紀伊（きい）・宇治・久世（くぜ）・綴喜（つづき）・相楽（さがらか）の8郡があった。国府は現在の乙訓郡大山崎町（河陽離宮跡），国分寺は相楽郡加茂町。古代の政治の中心地大和（やまと）からみて奈良山の背後にあるので，もと山背と書いた。740年（天平12）聖武（しょうむ）天皇は相楽郡恭仁京（くにのみや）に遷都，784年（延暦3）桓武（かんむ）天皇は乙訓郡長岡京に，次いで794年には葛野郡の平安京に遷都したが，このとき平安京は山河襟帯（きんたい）してみずから城をなすとの理由で，山背を山城と改称。以後明治維新まで1,000年余帝都の所在国として，政治・経済・文化の中心となった。平安京には左右の京職をおいて市政を分担したが，鎌倉時代には京都守護次いで六波羅探題（ろくはらたんだい）が置かれ，京都の警備と朝廷・公家（くげ）の監視にあたった。室町時代には幕府が京都に開かれ（→室町幕府），守護には山名・畠山（はたけやま）・結城（ゆうき）・京極・高・一色・赤松・伊勢（いせ）・細川・大内らの諸氏が任ぜられたが，応仁（おうにん）の乱以後は混乱が続いた。戦国の世を統一に導こうとしてまず上京したのは織田信長（のぶなが）であったが，その業は部下の豊臣秀吉（とよとみひでよし）によって達成され，京都も荒廃から立ちなおることができた。江戸時代には京都所司代が置かれて朝幕間の交渉と公家の取り締まりにあたったほか，数藩が置かれたが，のち淀（よど）藩のみとなった。幕末，王政復古の大号令が出ると京都市中取締所が置かれ，次いで廃藩置県でできた淀県のほか丹波・丹後の数県を合わせ，1871年（明治4）京都府が置かれた。〔黛　弘道〕

やましろおんせん【山代温泉】石川県加賀市山代町にある温泉。泉温48～66℃，泉質は含石膏（せっこう）食塩芒硝（ぼうしょう）泉で，中風・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。山中温泉とともに北陸の名湯で，加賀温泉郷をなす。僧行基の発見と伝えられ，共同浴場の総湯を囲んで古風な旅館がある。交通は北陸本線動橋（いぶりばし）駅。

やましろのおおえのおう【山背大兄王】（？～643）聖徳（しょうとく）太子の子。母は蘇我（そが）馬子の娘刀自古郎女（とじこのいらつめ）。628年（推古36）推古天皇の没後皇位を望んだが田村皇子（舒明（じょめい）天皇）を推す蘇我蝦夷（えみし）に妨げられて果たさず，また舒明天皇没後も皇后が即位して皇極天皇となったので志を遂げることができず，そのため蘇我氏に恨みをいだいた。643年（皇極2）蘇我入鹿（いるか）に攻められてのがれるすべなく，子弟妃妾（ひしょう）とともに斑鳩宮（いかるがのみや）で自殺した。ここに聖徳太子の子孫は全滅した。〔黛　弘道〕

やましろのくにいっき【山城国一揆】戦国初期，山城（京都府）の南部に起こった国衆を中心とする一揆。応仁（おうにん）の乱後，畠山政長（はたけやままさなが）と義就（よしなり）がこの地方で戦いを始めたため，1485年（文明17）国衆を中心に一般農民も加わって一揆を起こした。両軍の国外退去，寺社本所領の復旧，新関廃止の3か条を決議し，その団結力により両軍を南山城から退去させた。翌年2月国衆は宇治平等院に集会を開いて掟（おきて）を定め，前後8年間自治支配を行なった。その間国衆の中から三十六人衆（一揆指導者）が選ばれ，月番で月行事が掟を執行したが，国衆の多くは畠山・細川氏らの大名勢力と被管関係にあったことから，一揆内に分裂・対立を生じ，ついに，1493年（明応2）伊勢貞宗（いせさだむね）を山城守護に承認して一揆は解体した。〔高崎徳次〕

やましろやわすけじけん【山城屋和助事件】1872年（明治5）起こった陸軍省内部の汚職事件。長州士族出身で陸軍省の御用商人となった山城屋和助は，長州閥の陸軍大輔（たいゆう）山県有朋（やまがたありとも）の口ききで借り出した公金65万円を生糸相場で失った。司法卿（きょう）江藤新平はこれを口実に山県ら長州閥に攻撃を加えたが，山城屋が責任を一身に負って陸軍省構内で割腹自殺を遂げたため事件はいちおう終わった。しかし山県は，江藤のその後の追及で陸軍大輔を辞任した。〔応和邦昭〕

やませ【山背】山脈を吹き越す風のこと。風向きは，それぞれの地方によって一定しないが，フェーン*の性質があって乾燥している。日本海で，低気圧が発達して，日本一帯に南風が吹くとよく起こる。1934年(昭和９)３月21日函館(はこだて)(北海道)の大火は山背によるもので，三陸地方の山背は夏季の冷たい東風で稲作の冷害を起こす。

やませみ【山翡翠・鹿子斑翡翠】鳥類・カワセミ科。全長40cm前後で，大形のカワセミの一種。上背面は灰色と白色の細かな斑状(まだらじょう)で，いわゆる鹿子(かのこ)斑をなし，下面は白色の地に，雄では淡かっ色の，雌では灰色の横帯がある。冠羽もりっぱでみごとな鳥。北海道・本州・四国・九州の山間渓流(けいりゅう)をすみ場とし，水中に突っ込んで魚を捕える魚食性である。



ヤマセミ

やまぜり【山芹】双子葉植物・セリ科。山野の湿地に自生する多年草。シラネセンキュウに似て高さ60～120cmで，茎は円柱で中空。葉は２回羽状複葉で，各小葉は卵形で切れ込みの浅いあらい鋸歯(きょし)がある。７～10月，枝先に多数の白色５弁花をつける。果実は卵状楕円(だえん)形で光沢がある。

やまだ【山田(市)】福岡県中部の市。人口16,000。筑紫(つくし)山地北東部の一寒村であったが，明治中期以降筑豊(ちくほう)炭田の開発によって急激に発展し，1954年(昭和29)市制施行。遠賀川支流の山田川上流部に沿い，南端の熊ケ畑(くまがはた)山(533m)と北東の摺鉢(すりばち)山(214m)が田川郡との境をなし，南西に大隈(おおくま)丘陵があって嘉麻(かま)川河谷と分けられる。高さ100～200mの炭層を含むゆるやかな起伏の古第三紀丘陵が市域の大半を占め，中央を流れる山田川の浅い谷に細長い市街地があり，上山田・下山田の両地区に分かれる。産業三大別人口比は５：35：60。古河(ふるかわ)鉱業や三菱(みつびし)鉱業の中小炭鉱が多いが，近年は不況のため休閉山が続出し，人口も1965～1970年に24.2％も減少して全国でも最少となり，深刻な影響を受けている。上山田線・漆生(うるしお)線が通じ，南西を国道211号線が走る。

やまだい【山台】日本舞踊の音楽で，舞台の上に現われて演奏する人を出語*(でがたり)といい，出語する人の乗る台をいう。普通は赤毛氈(あかもうせん)を敷く。

やまたいこく【邪馬台国】《魏志倭人伝*(ぎしわじんでん)》にみえる古代日本の女王国の名。正しくは〈やまと〉(邪馬台)と読む。《魏志倭人伝》の記すところによれば，朝鮮の帯方郡から不弥(ふみ)国(福岡県粕屋(かすや)郡宇美町)までは現在の地理と合うが，その先はまったく合わず，邪馬台国の位置につき九州説と大和(やまと)説の対立を生んでいる。この国は２世紀後半内乱に陥り，これを収拾するためはじめて女王卑弥呼*(ひみこ)を立てたという。卑弥呼は巫女(みこ)的な君主で，呪術(じゅじゅつ)をもって国を治め，配下に30近くの国々(いずれも王をいただく)をもっており，239年には魏(ぎ)に使者を派遣し，親魏倭王の称号と金印，それに銅鏡100枚のほか多くの下賜品を得て，王権の強化を図っている。この国にはすでに階級の分化がみられ，統治組織もかなり整っていたらしい。卑弥呼の死後再び男王が立つとまた国内が乱れたので，卑弥呼の血縁の壱与(いよ)を女王として事態を収めることができたという。ここに王権世襲の萌芽(ほうが)を認めることができるのではなかろうか。また女王国の南には狗奴(くな)国があり，対立抗争していたというから，日本全土の統一はまだ達成されていなかったらしい。したがって大和朝廷(大和〔奈良県〕を本拠とする日本最初の統一政権)が４世紀中ごろまでに全土を統一した事実と邪馬台国の存在はどう関連するのか，大和朝廷即邪馬台国の後身といえるかどうかは国家成立史上の大問題である。〔黛　弘道〕

やまだいすず【山田五十鈴】(1917～　)映画女優。本名美津(みつ)。大阪の生まれ。新派の山田九州男の娘で，女優瑳峨美智子(さがみちこ)の母。1930年(昭和５)日活に入社，《国士無双》《浪華悲歌(なにわエレジー)》などでその日本的美貌(びぼう)を買われて人気を得た。のち東宝に移り，《鶴八(つるはち)鶴次郎》などでおもに長谷川一夫*(はせがわかずお)の相手役をつとめ第一線の女優として活躍。第２次世界大戦後も《女ひとり大地をゆく》などに出演し，演技派として長い女優生命を保つ。〔波多野哲朗〕

やまだけんぎょう【山田検校】(1757～1817)山田流*箏曲(そうきょく)の始祖。能楽師の子として江戸に生まれた。江戸の三味線(しゃみせん)音楽に通じ，特に河東節*を得意とした。謡曲と江戸浄瑠璃(じょうるり)をもとにして，上方とは異なる箏曲をつくったが，それは声を中心にすること，三味線音楽に共通するパターンを使用して当世ふうにすることであった。作品には，最初の《江の島》をはじめ，四つ物として重視されている《小督*(こごう)》《熊野(ゆや)》《葵(あおい)の上》《長恨歌》がある。〔徳丸吉彦〕

やまだこうさく【山田耕筰】(1886～1965)作曲家。東京本郷の医師の家庭に生まれた。幼少より讃美歌(さんびか)などを通して音楽に接触し，義兄の英語教師ガントレットにオルガンやピアノの初歩を学んだ。そして本格的に音楽の道に進むため，東京音楽学校声楽科に入学(当時作曲科はなかった)，卒業後ドイツに渡ってベルリン高等音楽学校に入学して，ブルッフ*とオルフ*に師事して作曲を学び，楽劇《堕(お)ちたる天女》，交響詩《暗い扉(とびら)》などを作曲した。帰国後は，日本の最初の交響楽団である東京フィルハーモニー管弦楽団を結成し，自作の作品を多数演奏した。山田はかなりの多作家で，生涯(しょうがい)に残した作品は1,500曲以上にものぼるが，最も重要な作品は歌曲にあり，日本語の特質をみごとにとらえたユニークな芸術歌曲を残した。《からたちの花》《この道》《野ばら》などは，多くの人に親しまれている。またこのほか，日本で最初の本格的なオペラ《あやめ》《黒船》，交響曲《かちどきと平和》などの傑作を書いている。〔船山　隆〕

やまだしょうたろう【山田抄太郎】(1899～1970)長唄三味線(ながうたしゃみせん)の演奏家。杵屋(きねや)六四郎(浄観)に学び，稀音家(きねや)六治の名でも活躍した。1943年(昭和18)から東京音楽学校の，1950年に同校が東京芸術大学と改まってからも邦楽科の教授として，演奏と教育に従事した。演奏はニュアンスが細かく，他の流派を知りながら，よく長唄の特徴を生かしたものであった。作曲も，伝統的な語法を生かしながらすぐれた作品を書いており，特に《黎明(れいめい)》《橡(とち)の木》は有名。ほかに小唄の作品もある。〔徳丸吉彦〕

やまだせん【山田線】盛岡～宮古～釜石(かまいし)間および貨物支線１本よりなる国鉄路線。営業キロ数157.5(ほかに支線2.0km)。1923～1939年(大正12～昭和14)開業。北上山地を横断する鉄道の一つで，三陸海岸地方と盛岡とを結ぶ。

やまだながまさ【山田長政】(？～1630)江戸初期，シャム(現在のタイ)の南洋日本町*で活躍した海外邦人。通称仁左衛門(じんざえもん)。駿河(するが)(静岡県)の人。1611年(慶長16)ごろ朱印船でシャムに渡り，頭角を現わして首都アユチャの日本町の頭(かしら)となり，日本町を背景に日本人を率いて内戦・外征に活躍して武勲を立て，またシャムと日本との国交親善にも努めた。国王の信任を得て王女と結婚，累進して最高の官爵に達した。1628年(寛永５)王の没後，王族から敬遠されて六崑(リゴール)太子に封ぜられ，1630年任地でパタニの侵入軍と交戦中負傷し，シャム人に患部に毒を塗られて死んだ。長政の死をきっかけに日本町もシャム軍に焼き打ちされ衰亡した。〔高崎徳次〕

やまたにかぜ【山谷風】日中山腹に沿って谷から頂上に吹き上げる風が谷風*，夜，逆に吹き降りる風が山風*で，両者を合わせ

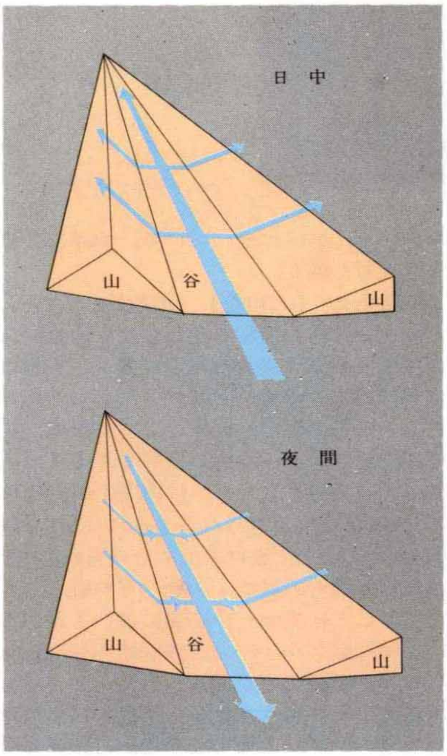
たこの風系を山谷風という。局地風であって，範囲も数十キロメートル程度，時間も数時間続く程度のものである。農作物や日常生活などに影響がある。

やまたのおろち 【八岐大蛇】 日本神話に出てくる大蛇(だいじゃ)。スサノオノミコトが出雲(いずも)(島根県)の簸川(ひのかわ)(現在の斐伊(ひい)川)の上流でクシイナダヒメを救うために切った大蛇で，身が一つで頭と尾がそれぞれ八つあった。大蛇は簸川の水神であり，農民の神と説かれ，また大蛇が身一つで頭八つ尾八つとなったのは，大八洲(おおやしま)の諸国の国神である蛇神を一体に総合したからと説かれている。水田耕作のわが国では，土地の神に先だって水の神が土地の主と考えられていたが，神の人格化はやがて蛇神を排撃するに至り，蛇神の人格化がまたスサノオノミコトの人格神を生み，かつての蛇体を否定させるに至った。
➔草薙剣(くさなぎのつるぎ) 〔宮井義雄〕

やまだびみょう 【山田美妙】 (1868～1910) 小説家・詩人・国語学者。本名武太郎。東京の生まれ。1885年(明治18)尾崎紅葉らと硯友社(けんゆうしゃ)をつくり《我楽多(がらくた)文庫》を創刊。小説では言文一致体を標榜(ひょうぼう)し《武蔵野(むさしの)》《夏木立》などで文壇へ出た。その後文芸誌《都の花》主幹などもつとめたがしだいに名声を落とした。詩では《新体詞選》などの編著があり，評論《日本韻文論》を経て《日本大辞書》などの辞典編纂(へんさん)に至った。ほかに小説《蝴蝶(こちょう)》《平清盛》などがある。〔金子　博〕

やまだよしお 【山田孝雄】 (1873～1958) 国語学者。富山市の生まれ。富山中学中退後，独学で各種教員免許状を得て，1929年(昭和4)学位を受ける。東北帝国大学教授・神宮皇学館大学学長・国史編修院院長を歴任。貴族院議員。江戸以来の文法研究の成果をふまえ，ヨーロッパの言語理論を十分に消化して，《日本文法論》によって整然たる文法理論を樹立した。また，この理論に基づいて各時代の文法を記述した《奈良朝文法史》《平安朝文法史》《平家物語の語法》などは，独創的な業績であり，現在もなお指針になっている。研究領域は，文法学にとどまらず，多数の古典の注釈・研究や書誌学，日本における漢字・漢語の研究にも及び，国学的立場から日本精神の諸顕現を論じた著述は，彼の学問の真髄を示すものとして注目される。著書《日本文法学概論》《国語学史》《五十音図の歴史》《古事記概説》《万葉集講義》《連歌概説》《俳句文法概説》《国語の中に於(お)ける漢語の研究》《国学の本義》《平田篤胤(あつたね)》《国語尊重の根本義》など。1957年文化勲章を受章。〔寒河江実〕

やまだりゅう 【山田流】 山田検校(けんぎょう)によって始められた箏曲(そうきょく)の流派。江戸(東京)が発生以来の中心地である。生田流と異なり，山田流の曲は，一中節・河東節・富本節(とみもとぶし)の影響が強く，それらを移したもの，たとえば《松の羽衣》などやそれらと掛け合いのもの，たとえば《七福神》などがあり，浄瑠璃(じょうるり)的に声を前面におく傾向が強い。いっしょに奏する三味線(しゃみせん)も撥(ばち)も，山田流本来の曲の場合には長唄(ながうた)のように細いものを使用する。箏の爪(つめ)は生田流のように四角くなく，丸いものを用いる。〔徳丸吉彦〕



山谷風

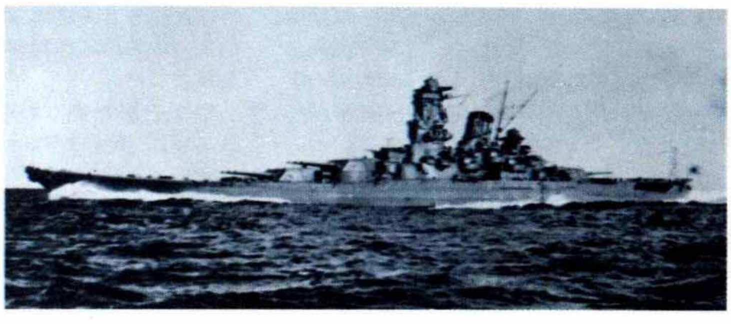

ヤマツツジ

やまつつじ 【山躑躅】 双子葉植物・ツツジ科。山野に自生するごく普通のツツジで，庭にも植えられる。高さ1～3mの半落葉低木。枝に平たいかっ色のかたい毛がある。葉は枝先に集まって互生し，春に出る葉は楕円(だえん)形ないし広卵形で先がとがり長さ3～5cm幅1～2.5cm，秋に出る葉は倒卵形鈍頭で春葉に比べて小さく，輪状につき越冬する。葉の両面，特に下面にかたい毛がはえている。花は4～5月に枝先に2～3個つき，直径4～5cm，おしべ5本，めしべ1本，花柱に毛がないが子房にはある。花糸の花部には粒状の毛がある。花色は赤・紫紅・朱紅色など変化が多い。果実は円錐(えんすい)形の蒴果(さくか)で，あらい毛がある。〔加藤僖重〕

やまでら 【山寺】 ⇨立石寺

やまと 【大和】 第2次世界大戦中，日本海軍が保有した世界最大の戦艦。同型艦に武蔵(むさし)がある。ワシントン条約の期限明けとともに，諸外国，特にアメリカ合衆国の量的優勢に質をもって対抗するべく建造されたもので，4年の歳月を費やし，1941年(昭和16)12月16日，呉(くれ)海軍工廠(こうしょう)で竣工(しゅんこう)したが，戦闘の様相はすでに大艦巨砲主義から航空主兵の時代に移り，たいした活躍もできないうちに，1945年4月，沖縄の特攻作戦に出撃してアメリカ艦載機の攻撃を受け，沈没した。基準排水量64,000トン，口径46cmの主砲9門を搭載(とうさい)，主機タービン15万馬力，速力27ノット，航続距離13,000km。〔藤井冬木〕

やまと 【大和(国)】 奈良県の旧国名。和州。畿内(きない)に属する。倭・大倭・大養徳とも書かれた。もと大倭・葛城(かつらぎ)の2国造(くにのみやつこ)のほか，各地に県主(あがたぬし)と称する土豪が割拠したが，それらを統合して大和国が成立した。時期は明らかでない。もと添上(そうのかみ)・添下・平群(へぐり)・広瀬・葛上(かずらきのかみ)・葛下・忍海(おしうみ)・宇智(うち)・吉野(よしの)・宇陀(うだ)・城上(しきのかみ)・城下・山辺(やまのべ)・十市(とおち)・高市(たけち)の15郡。国府は現在の大和郡山(こおりやま)市今国府町，国分寺は奈良市雑司町の東大寺。伝説時代はさておき，確かなところでも5世紀後半以降の皇居は，おおむね大和国に定められたが，特に694年(持統8)の藤原宮，710年(和銅3)の平城宮の営造は


大　和



大和絵《都久夫須麻祭礼図屏風》(部分)東京国立博物館蔵

特記に値する大事業であった。平城京は784年(延暦３)桓武(かんむ)天皇が都を山城国長岡に移して以後急速に荒廃したが，興福寺*・東大寺を中心に門前町としてそのおもかげをとどめ，京都に対して南都・南京とよばれた。中世を通じて守護が置かれず，興福寺が圧倒的な勢威をふるった。その間在地豪族が台頭して互いに争い，戦国末期にはついに織田信長(のぶなが)に屈服した。次いで豊臣秀吉(とよとみひでよし)の弟秀長の支配を経て近世に至り，奈良を天領(幕府領)としたほかは郡山以下10数藩が置かれた。廃藩置県により奈良県，次いで1876年(明治９)堺(さかい)県となり，1887年再び奈良県を分置して現在に至る。〔黛　弘道〕

やまと【大和(市)】神奈川県中部の市。人口16万5,000。鎌倉時代には鎌倉と北関東を結ぶ鎌倉街道，江戸時代には北部を東海道の脇往還(わきおうかん)矢倉沢街道，南部を中原街道が走っていたが，宿場集落は発達せず，鎌倉街道沿いに農業集落が点在するにすぎなかった。第２次世界大戦後，交通網の整備によって新興の内陸工業都市・住宅都市として急速に発展している。1959年(昭和34)市制施行。市域は相模原(さがみはら)台地の東部に位置し，南北に長く，東側に境川，西側に引地川がそれぞれ南流する。中心市街は小田急電鉄江ノ島線と相模鉄道厚木線の交わる大和駅付近に発達する。産業三大別人口比は１：46：53。平坦(へいたん)な台地上は高座ブタや野菜の産地で，最近は自動車工場なども進出して，工業化が進んでいる。中央部に旧海軍施設を引き継いだアメリカ軍基地があり，軍専用の厚木飛行場付近は〈基地の町〉の色彩が強い。京浜地区の郊外住宅地化が著しく，北部を横断する東京急行電鉄田園都市線は小田急線の中央林間駅に乗り入れる予定で，その沿線にはニュータウンの建設が進められている。

やまと【大和(町)】福岡県山門(やまと)郡の町。人口20,000。県南部，有明海に臨み，西日本鉄道大牟田(おおむた)線が通じる。町域は，古くからの干拓地と新しい干拓地からなるが，いずれも機械化の進んだ反収の高い水田地区になっている。海岸部ではノリ養殖が盛ん。

やまとえ【大和絵】〈倭絵〉とも書き，いわゆる日本的絵画を呼称した。10世紀末の文献にその用語例がみられるが，実際には９世紀末から用いられていたものと思われる。平安中期から盛んとなった国風文化の傾向とともに，絵画の世界でも従来の中国ふう一辺倒からしだいに和様化が行なわれ，両者の区別がみられるようになった。これらは，主として題材の上で分けられ，大和絵は日本固有の風景・人物などを扱ったもので，ことに文学との関係の深いものが多い。障屏画*(しょうへいが)では四季絵・月次絵(つきなみえ)・名所絵などが盛んにつくられ，その色紙形にうたわれた和歌を題材として描かれる場合が多く，また絵巻物*は日本固有の物語や説話に取材し，ともに大和絵育成に努めるとともに，独自の発展をなした。鎌倉以後中世にはいると，おもに様式・技法の面で和・唐二者の類別が行なわれるようになり，宋(そう)・元からもたらされた中国ふうの絵画を唐絵(からえ)(漢画)，日本的な作風によるものを大和絵と称した。〔村重　寧〕

やまとがく【大和楽】新音楽の一派。昭和初期，実業家で尺八を改良してオークラウロをつくったことでも知られる大倉喜七郎が始めた。大倉自身が一中節*の出であったため，大和楽をつくる際にも，一中節を中心にして，河東節*・宮薗節*(みやぞのぶし)・荻江節*(おぎえぶし)などを加えたといわれる。三味線(しゃみせん)音楽がジャンルを越えて共通にもっているものを取り出したり，また逆に，ジャンルによって固定した節の終わり方を自由に使うことによって，第２次世界大戦前に，のちの新作邦楽の先駆としての役割を果たした。〔徳丸吉彦〕

やまとがなありわらけいず【倭仮名在原系図】義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。５段の時代物。浅田一鳥・浪岡(なみおか)鯨児らの合作。1752年(宝暦２)豊竹座*(とよたけざ)初演。通称《蘭平物狂(らんぺいものぐるい)》。松風・村雨(むらさめ)の恋物語に惟喬(これたか)・惟仁(これひと)両親王の皇位継承争いをからませた話。翌年歌舞伎(かぶき)に移され，その立ち回りは歌舞伎の立ち回りの代表的なものとされる。

やまとがわ【大和川】奈良県東部に源を発し，西流して堺(さかい)市で大阪湾に注ぐ。流程52km。奈良盆地を巡る山地を水源とする佐保川・龍田(たつた)川・初瀬(はせ)川・飛鳥(あすか)川・葛城(かつらぎ)川などを集め，生駒(いこま)・金剛(こんごう)両山地を横切って大和川となって大阪平野に出る。古くは大阪平野を北上して，淀(よど)川に合流し，流域や合流点付近には低湿地や沼沢地が多く，洪水(こうずい)の際には大阪にしばしば被害を与えたので，1703年(元禄16)江戸幕府の手で工事を起こし，柏原(かしわばら)より西へ導水し，現在の河道となった。〔長津一郎〕

やまとぎきょ【大和義挙】⇨天誅組(てんちゅうぐみ)の乱

やまとこおりやま【大和郡山(市)】奈良県北西部の市。人口81,000。1580年(天正８)筒井順慶が大和を領して郡山にはいり，1585年(天正13)豊臣秀吉(とよとみひでよし)の弟秀長が大和・紀伊(きい)・和泉(いずみ)の領主として封ぜられ，大規模な築城を行なった。江戸時代には藩主がしばしば交替し，1724年(享保８)以来柳沢氏十五万石の城下町となった。1954年(昭和29)市制施行。市域は奈良盆地の北部と西ノ京丘陵の南部に広がり，北は奈良市，東は天理市と接し，南西には矢田丘陵が走って生駒(いこま)郡とを隔てる。産業三大別人口比は10：39：51。市域の大半は農村地帯で，園芸農業が発達し，促成イチゴのビニル栽培，モモ・カキなどの栽培が盛んである。特産のキンギョは250年の伝統をもち，金魚池が市内各所に分布し，年産１億尾を数えて日本最大の産地となり，海外へも輸出される。奈良県工業団地に指定され，南部の筒井地区を中心に造成された昭和工業団地には無公害をモットーとして松下電器などの工場群が進出している。関西本線・近畿(きんき)日本鉄道橿原(かしはら)線・奈良電鉄が通じ，国道24号線・25号線が集まる。矢田丘陵南部の松尾山(316m)に厄(やく)よけ観音として名高い松尾寺，その北東に矢田地蔵と称される金剛山寺がある。〔浅井得一〕

やまとごきぶり【大和蜚蠊】こん虫類・直翅(ちょくし)目・ゴキブリ科。雄は体長25mm内外，翅(はね)はよく発達して長さ23mm内外で，腹端をはるかに越える。全体茶かっ色で，背面には不規則な凹陥(おうかん)部がある。雌は体長20mm内外，前後翅ともに短く，前翅端が腹部の中央付近までしか達しないため，雄とは別種のような外観を示す。本州に広く分布するが，近畿(きんき)地方や中国地方では少ない。都市の家庭の台所や農家の台所のかまどの周囲などに群生し，夜間活動して種々の食品を食害する。また，野外の朽ち木中などにも生活する。〔鈴木邦雄〕

やまとこっか【大和国家】日本において，律令(りつりょう)国家が成立する前段階の大

和朝廷を中心とする古代国家。その起源については，邪馬台国*(やまたいこく)をその前身と考えればすでに3世紀中ごろには成立したことになるし，両者を無関係とみれば約1世紀後となり，いまだ定説がない。

大和国家の中心となる政治組織は大和朝廷である。大和朝廷は大王(おおきみ)(7世紀初頭からは天皇とよばれた)を盟主とし，後世の大和(奈良県)やその周辺の各地を地盤とする豪族によって形成された政権で，前代以来，各地に成立しつつあった毛野・吉備(きび)・出雲(いずも)などの地方政権を制圧して中央政権へと成長していった。朝廷では大臣*(おおおみ)・大連*(おおむらじ)が政権を握り，天皇権力は必ずしも強力とはいいがたい面があった。朝廷には各種の技術者集団が直属しており，これを品部*(ともべ)といい，その管理者を伴造*(とものみやつこ)とよんだ。彼らのもつ技術やその製品は朝廷に参加する豪族の共有であり，必要に応じて適宜分配されることもあった。朝廷の経済的基盤にはまた屯倉*(みやけ)とよばれる直轄領があった。一方，天皇を家父長とする有力家族を皇室というが，皇室も屯倉をもち，また名代*(なしろ)・子代*などの直属農民を支配した。地方にも豪族が割拠しており，これらは種々の契機により大和朝廷に服属していった。大和朝廷はこのような地方豪族に対しておおむね従来の支配権を認めた。ある者は国造*(くにのみやつこ)とよばれ，またある者は県主*(あがたぬし)とよばれ，その性格は一様ではないが，概して朝廷の統制はゆるやかであり，その意味で大和国家は完全な中央集権的統一国家とはいいがたい。なお，大和国家においていわゆる帰化人が政治・経済・社会・文化・思想・宗教などの各方面において果たした役割の大きさは，日本古代文化の創造そのものとして高く評価されなければならない。

4世紀後半には早くも朝鮮半島の百済*(くだら)と同盟を結び，任那*(みまな)諸国を直轄植民地として北方の高句麗*(こうくり)や東方の新羅*(しらぎ)と抗争したが，5世紀にはいるとしだいに押されぎみとなり，これを挽回(ばんかい)するため，〈倭(わ)の五王*〉は中国南朝の宋(そう)に遣使し，その承認を得て朝鮮に威圧を加えようとした。その目的はほとんど達することができなかったが，南朝との通交に伴って江南の文化が伝えられたことは帰化人問題とも関連して，日本の古代文化の発達に寄与するところ大であった。〔黛　弘道〕

やまとごと【大和琴】⇨和琴(わごん)

やまとさんざん【大和三山】奈良盆地南部，飛鳥(あすか)地方にある耳成(みみなし)山*(140m)・畝傍(うねび)山*(199m)・天香久(あまのかぐ)山*(148m)をいう。約2.5kmの距離をおいて，ほぼ正三角形の各頂点に位置し，比高は盆地底から100m前後でそびえる。耳成山と畝傍山は黒ウンモアンザン岩からなる古い火山，天香久山はハンレイ岩の残丘である。独立丘陵のため各地からながめられる。《万葉集》にもよまれ，多くの伝説をもち，周辺には藤原京・飛鳥宮の史跡や橿原(かしはら)神宮*などがある。〔高野　繁〕

やまとしじみ【大和小灰蝶】こん虫類・鱗翅(りんし)目・シジミチョウ科，翅(はね)を広げた長さ30mmほど。雌雄・季節(春型と夏型がある)により色彩が異なる。雄は青紫色で前翅の外縁と後翅の前縁は黒く縁どられる。雌は黒かっ色で，春と秋に出現する個体は基部付近が青紫色となる。裏面は雌雄ともにかっ色をおびた灰色で，外縁に沿って3列の小黒点が並び，基部付近にも数個の小黒斑(はん)がある。きわめて普通の種で，4～5月から11月ごろまで年4～6回の発生をくり返す。成虫はつねに地上低く飛び，カタバミなどの路傍の花を訪れる。幼虫はカタバミを食い，緑色で腹部第7節に蜜腺(みつせん)があり，アリはこの幼虫を訪れて蜜をなめる。幼虫で越冬し，食草の葉裏または地上でさなぎとなる。関東以南では普通であるが，東北では南部平地に産し，北海道には分布しない。国外では中国・台湾・朝鮮・フィリピン・インドなどに知られる。〔多々内修〕

やまとしろあり【大和白蟻】⇨シロアリ

やまとせつげん【大和雪原】南極大陸西南部，ロス海沿岸一帯の雪原をさし，1912年(明治45)に白瀬矗*(のぶ)を隊長とする日本の探検隊によって命名された。イギリスの探検家J.C.ロスが発見したロス海は，南極大陸に接岸する探検家がしばしば利用した湾入であり，1912年白瀬隊もロス海の東部から接岸し，大和雪原とともに，付近の湾入も開南湾・大熊(おおくま)湾と名づけた。

やまとたかだ【大和高田(市)】奈良県北西部の市。人口61,000。古くから初瀬(はせ)街道と下街道の交差する交通の要地で，江戸時代には特産の大和もめんの交易が行なわれた。明治以後は在来工業を引き継いだ綿紡績業が興り，県下第1の商工業都市として発展している。1948年(昭和23)市制施行。市域は，奈良盆地の南西部，大和川の支流高田・葛城(かつらぎ)両川流域の沖積地(ちゅうせきち)上に発達し，東は橿原(かしはら)市と接する。土地が低平なので，天井川*をなす高田川を西方に付け替え，川筋は南北縦貫道路に利用されている。産業三大別人口比は4：46：50。商業活動が活発で，くつした・メリヤスなどの繊維工業が発達し，くつしたの生産は全国有数である。ゴム・ボタンなどの特殊工業が発達し，わが国最初のゴムぐつ生産地で，第2次世界大戦後は食料品・鋳鋼などの工業も興っている。周辺部では園芸農業が行なわれ，ダイコン・キクなどの特産があるが，近年は通勤者住宅がふえ，専業農家が激減している。和歌山線と桜井線の分岐点で，近畿(きんき)日本鉄道大阪線・南大阪線が通じ，国道24号線・166号線・168号線・169号線が集まる。

やまとたけるのみこと【日本武尊】日本神話の英雄。〈記紀〉の伝えるところでは，ヤマトタケルノミコトは景行天皇の皇子で，本名をオウスノミコトという。童名をヤマトオグナと称し，天皇から熊襲(くまそ)の征討を命ぜられたときミコトは女装してクマソタケルに近づき，これを刺してヤマトタケルの称号を得た。東国の蝦夷(えぞ)征討の途次，ミコトの叔母(おば)のヤマトヒメノミコトから天叢雲剣(あめのむらくものつるぎ)を授けられ，相模(さがみ)(神奈川県)にはいると，その国造(くにのみやつこ)に欺かれて，草原で焼き打ちにあい，草をないで向かい火をつけて難をのがれたので草薙剣*(くさなぎのつるぎ)と名づけた。相模から走水海(はしりみずのうみ)(浦賀水道)を渡ろうとしたとき海が荒れ，そのため妃のオトタチバナヒメは入水(じゅすい)して荒波を静めたが，蝦夷を平定して帰る途次，碓氷(うすい)坂からオトタチバナヒメをしのんで〈吾妻(あづま)はや〉と叫んだところから，吾嬬(あづま)の国号が興ったという。その後，甲斐(かい)(山梨県)・信濃(しなの)(長野県)を経て熱田(愛知県)のミヤズヒメノミコトと結婚し，ヒメのもとに草薙剣をとどめたのち，近江(おうみ)(滋賀県)伊吹(いぶき)山に向かい，山神の化せる大蛇(だいじゃ)の妖気(ようき)にあてられ，伊勢(いせ)(三重県)の能褒野(のぼの)に至って没した。遺骸(いがい)は能褒野陵(亀山市田村町)に葬られ，御魂(みたま)は白鳥となって西に飛び，河内(かわち)(大阪府)の志幾にとどまって白鳥陵(大阪府羽曳野(はびきの)市)がつくられたが，御魂はまた天かけて飛び去ったと伝えられる。〔宮井義雄〕

やまとちょうてい【大和朝廷】⇨大和国家

やまとのあやし【東漢氏】倭漢氏とも書く。秦(はた)氏*と並ぶ古代帰化系大氏族。漢の高祖の後裔(こうえい)阿知使主*(あちのおみ)・都加(つか)使主を祖とすると伝えるが，事実は5世紀ごろ渡来した楽浪*の漢人の子孫であろう。朝廷の財政管理にあたり，その指揮者蘇我(そが)氏*との結びつきを深め，のちにはその武力的背景ともなった。一族は大いに広がり，多数の分派を生じたが，8世紀後半からは坂上氏が頭角を現わした。本拠の大和(やまと)(奈良県)高市郡では全人口の大部分を占めたといわれる。➔漢氏

〔黛　弘道〕

やまとひめのみこと【倭姫命】生没年不詳。垂仁(すいにん)天皇の皇女。母は皇后日葉酢媛命(ひばすひめのみこと)と伝える。垂仁天皇の命により天照大神(あまてらすおおみかみ)を鎮座させる地を求め，諸方を経歴して伊勢(いせ)(三重県)の五十鈴(いすず)川のほとりに祠(やしろ)を建てた。これが伊勢神宮*の起源であると伝える。また，倭姫命は斎王としてこの地にとどまり，景行天皇の時代には日本武尊(やまとたけるのみこと)に草薙剣*(くさなぎのつるぎ)を授けたという。〔黛　弘道〕



ヤ マ ド リ　雄は尾が長く，1mにも達する



山 中 湖　冬の山中湖と富士山。湖上はスケートを楽しむ若者たちやワカサギつりのつり人たちでにぎわっている

やまとぶえ　【和笛】　⇨神楽笛(かぐらぶえ)

やまとものがたり　【大和物語】　平安中期の歌物語。10世紀中ごろ成立。作者は在原滋春(ありはらのしげはる)・花山院・後宮女房など諸説あるが未詳。173段の和歌説話からなり，陽成・宇多・醍醐(だいご)天皇を中心に，その周辺の人物140余人の歌を含んだ説話の集成である。古来《伊勢(いせ)物語》と並称されながらも，全体を一貫する構成をもたず，その点で劣るとされてきた。内容は男女の恋愛の葛藤(かっとう)のほかに，官位昇進の遅れを嘆き，あるいはなき人をしのび，子を思う親の気持ちなどの歌語り，後半にはおとめ塚(づか)・芦刈(あしかり)・おば捨てなどの口碑伝説をも収める。おもに人生の悲哀からにじみ出る〈あはれ〉が作品全体を濃くいろどり，《後撰(ごせん)和歌集》撰進当時の人々の生活意識を反映したものとみられる。〔新藤協三〕

やまともんしでむし　【大和紋埋葬虫】　⇨シデムシ

やまどり　【山鳥】　鳥類・キジ科。キジよりも一回り大形で，銅かっ色の美しい鳥。雄の尾は1mにもなるものがあり，濃かっ色の節状横帯が11ある。日本特産種で，本州・四国・九州にのみ分布し，5亜種からなる。このうち，九州に生息する亜種コシジロヤマドリとアカヤマドリは特に美しい。よく，〈山鳥の鳴く声〉といわれて，この鳥が鳴くようにいわれているが，キジのような顕著な鳴き声はない。

やまなうじきよ　【山名氏清】　(1343ごろ～1391)　南北朝時代の武将。時氏の子。3代将軍足利義満(あしかがよしみつ)に仕え，民部少輔(しょうゆう)と称した。丹波(京都府・兵庫県)その他の守護を兼ね，1378年(天授4・永和4)南朝方討伐の功によって和泉(いずみ)(大阪府)の守護職をも与えられた。当時山名氏は一族で11か国の守護職をもち〈六分一殿〉といわれて強大であった。1390年(元中7・明徳1)但馬(たじま)(兵庫県)にあった山名時熙(ときひろ)は専横をきわめ，義満の命に従わなかったため，氏清は義満の命によって，甥(おい)の満幸(みつゆき)とともに時熙を討ち，この功によって丹後(京都府)・但馬の守護職を加えられた。しかし，翌年時熙らが許されたのを不満として挙兵し，京都で戦死した。➔明徳の乱　〔村尾元忠〕

やまなか　【山中(町)】　石川県江沼郡の町で，一郡一町をなす。人口13,000。県南部，大聖寺(だいしょうじ)川の流域に位置し，北陸の代表的温泉である山中温泉をもつ温泉町である。北陸本線大聖寺から北陸鉄道が通じている。民謡《山中節》でも知られ，また九谷地区の九谷焼や，山中塗の特産がある。

やまなかおんせん　【山中温泉】　石川県江沼郡山中町にあり，泉温33～52℃，泉質は含セッコウ芒硝泉(ぼうしょうせん)で，皮膚病・痔病(じびょう)・外傷・リウマチなどにきくといわれる。大聖寺(だいしょうじ)川の渓谷(けいこく)に沿う河岸段丘上に湧出(ゆうしゅつ)する。加賀温泉郷の代表的な温泉で，行基の発見と伝える。芭蕉(ばしょう)ゆかりの名湯で，民謡の《山中節》でも知られる。付近にはこおろぎ橋・九谷焼窯元(かまもと)・医王寺・長谷部(はせべ)神社などの名所やスキー場がある。北陸本線大聖寺駅乗り換えで北陸鉄道が通じる。〔木村東一郎〕

やまなかこ　【山中湖】　山梨県東南部，富士山麓(さんろく)にある富士五湖の一つで，最も東に位置する。面積6.5km²，水面標高982m，最深点13.2m。富士山の溶岩流による堰止湖(せきとめこ)で，湖水は西北部から流出して忍野(おしの)を通り，桂(かつら)川となる。湖畔は平坦(へいたん)なカラマツ林に囲まれ，夏のキャンプ，冬のスケート・ワカサギつりなどで行楽客が多い。フジマリモの生息地があり，天然記念物に指定されている。富士箱根伊豆(いず)国立公園に属する。湖岸を国道138号線が通じ，富士吉田(ふじよしだ)・御殿場からバスの便がある。〔長津一郎〕

やまなかさだお　【山中貞雄】　(1909～1938)　映画監督。京都の生まれ。京都市立第一商業学校を卒業後，マキノ映画を経て嵐(あらし)寛寿郎プロで監督となり，新鮮な感覚の時代劇映画を次々に発表，天才とうたわれたが中国の戦地で夭折(ようせつ)した。代表作に《盤嶽(ばんがく)の一生》《河内山宗俊(こうちやまそうしゅん)》《人情紙風船》などがあり，そのリズミカルな笑いと哀感にあふれた作風は，多くの映画ファンに歓迎された。

やまなかしかのすけ　【山中鹿之助】　(?～1578)　戦国末期の武将。名は幸盛(ゆきもり)。尼子氏の家臣で尼子十勇士のひとり。尼子晴久(はるひさ)の二男義久(よしひさ)に仕え，1566年(永禄9)尼子氏が毛利元就(もとなり)に下ったのち京都にのがれて主家の再興に奔走し，しばしば毛利の軍と戦った。1577年(天正5)羽柴(はしば)(豊臣(とよとみ))秀吉(ひでよし)の中国征伐に尼子勝久を擁して戦い播磨(はりま)(兵庫県)上月城を守ったが，翌年毛利氏に攻められ，捕えられて備中(びっちゅう)(岡山県)合の渡で切られた。主家への忠義と戦場での豪勇で知られる。〔村尾元忠〕

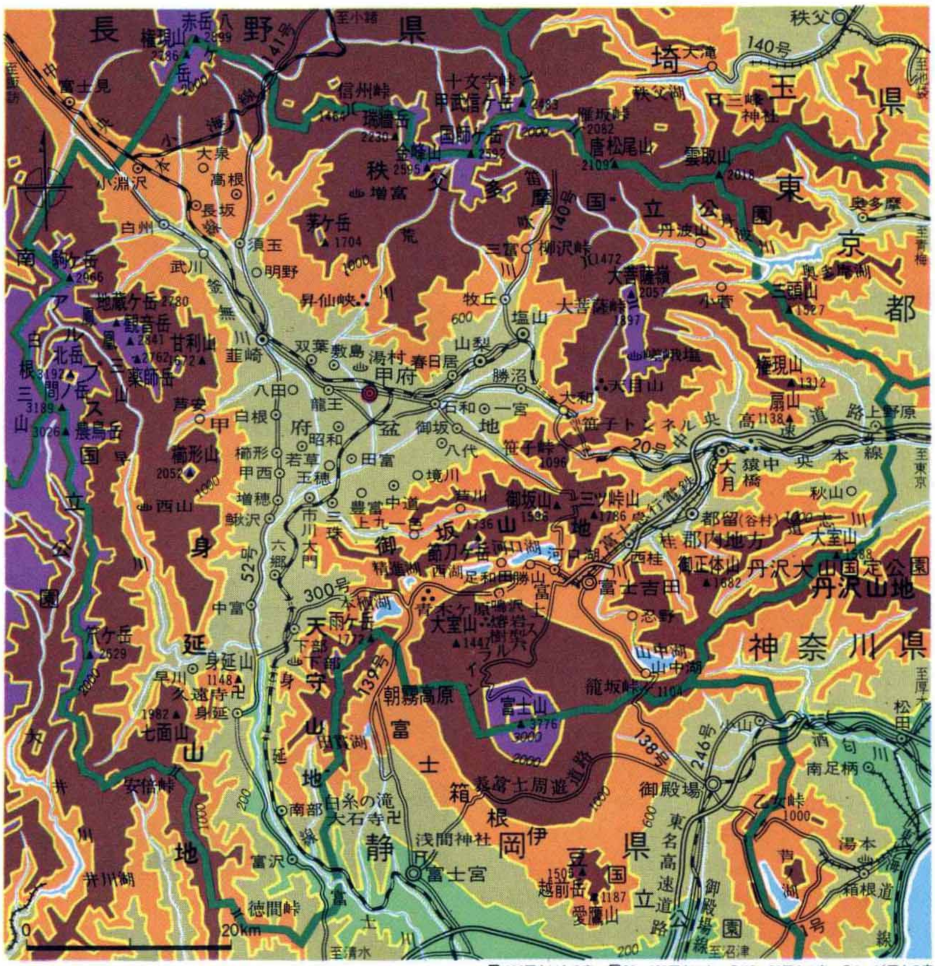
やまなかみねたろう　【山中峯太郎】　(1885～1966)　小説家。大阪の生まれ。陸軍大学校中退。孫文の第2・第3革命に参加，帰国後実録読み物を執筆。以後文筆活動にはいり，特に《敵中横断三百里》《亜細亜(アジア)の曙(あけぼの)》など，中国体験をもとにした少年冒険小説でナショナリズムを鼓吹し，青少年に多大の影響を与えた。

やまなし　【山梨】　双子葉植物・バラ科。ヤマリンゴ・オオズミともいう。山地に自生する落葉高木で，高さ15m以上になる。葉は互生し，長卵形で縁に重鋸歯(じゅうきょし)がある。4～5月，新枝の先に白色まれに淡紅色の5弁花を数個つける。秋，直径3cm前後の球形で黄色ないし紅色の漿果(しょうか)をつけ，ナシに似た味があり，生食される。

やまなし　【山梨(県)】　中部地方南東部の県。北から西へかけては長野県，南は静岡県，東は関東地方の埼玉県・東京都・神奈川県と接する内陸県である。甲斐(かい)の全域を占め，面積4,245.01km²。人口80万9,000，1km²あたりの人口密度は191人。県花はフジサクラ，県木はカエデ，県鳥はウグイス，県獣はカモシカ。県庁のある甲府以下7市と8郡(36町21村)に分かれる。

〔自然〕東西および南北の最長部が約90kmにすぎない小県で，四角形に近い。中央高地の南東部に位置し，一般に山がちで平地が少ない。中央に甲府盆地が開けて県民の主要生活舞台となり，周辺部を含めて国中地方とよばれる。盆地の南方にはほぼ東西に走る御坂(みさか)山地を隔てて，日本最高峰の富士山(3,776m)が静岡県境にそびえ，富士山と御坂山地の間には富士五湖(山中湖・河口湖(かわぐちこ)・西湖・精進湖(しょうじこ)・本栖湖(もとすこ))がある。周辺一帯は県下第1の観光地域で，富士箱根伊豆(いず)国立公園の一部に編入されている。盆地の西方には巨摩(こま)山地を経て赤石山脈がほぼ南北に走る。赤石山脈は南アルプスともよばれ，北から駒ケ岳(こまがたけ)(2,966m)・仙丈ケ岳(せんじょうがたけ)(3,033m)・白根山(北岳ともよぶ，3,192m)・塩見岳(3,047m)・荒川岳(3,146m)・赤石岳(3,120m)など，3,000m級の高峰が長野県境にそびえ，南アルプス国立公園に指定されている。盆地の北方には長野・埼玉両県と東京都の境にかけて秩父(ちちぶ)山地がほぼ北西から南東へ走る。秩父山地は主としてカコウ岩からなり，主峰の金峰

(きんぷ)山(2,595m)をはじめ，国師ケ岳(2,592m)・甲武信ケ岳(こぶしがたけ)(2,483m)・雲取山(2,018m)など，2,000mをこす山々が連なる。周辺には大菩薩(だいぼさつ)峠・昇仙峡・増富ラジウム鉱泉などの観光資源に富み，秩父多摩国立公園に指定されている。盆地の東方には神奈川県との境に丹沢山地があり，秩父山地とともに関東山地を形成する。これらの山地から発する諸河川は甲府盆地に流入して，複合扇状地をつくるが，一般に河床が急勾配(きゅうこうばい)で高く，流れが速いために古くから大水による災害を盆地住民にもたらしている。県下の最大河川は日本三急流の一つといわれる富士川で，甲府盆地を貫流する笛吹川・荒川・釜無(かまなし)川，御坂山地を流れる芦(あし)川，赤石山脈から発する早川などの水を集め，南流して駿河(するが)湾へ注ぐ。その他の河川には北部に秩父山地に源を発する多摩川の上流部，東部に山中湖に源を発する相模(さがみ)川上流部の桂(かつら)川がある。両河川の流域には山地が多く，住民の生活舞台は広い富士山のすそ野や発達した河岸段丘面に限られており，国中地方に対して郡内地方とよばれる。気候は典型的な内陸性気候であるが，地域差が大きい。甲府盆地は年降水量1,000mm内外の雨の少ない地域で，甲府市では，1,129mmであり，また甲府市の年平均気温は13.6℃，最低の1月は－1.6℃，最高の8月は25.7℃を記録し，その差は27.3℃に達する。郡内地方は甲府盆地より降水量が多く，富士川流域では南下するにつれて表日本式気候を呈する。北部の八ケ岳，南部の富士山の山麓(さんろく)部は気温が著しく低くなり，高冷地気候を示す。



山梨県

[凡例] 100万人以上の市 30～100万人の市 10～30万人の市 5～10万人の市 5万人未満の市 町名 村名 字名 地方庁所在地 油田 商港 漁港

〔産業・経済〕 産業三大別人口比は18:34:48。主産業は農業で，近代工業はあまりふるわず，県民1人あたりの年間所得は112万円，全国で38位にあたる。〈農林水産業〉農家総数は72,400戸，兼業農家率は82％で，耕地は46,900ヘクタール，総面積の10.5％にすぎず，水田率は35％で，桑園・果樹園などの樹園地が47％，その他は普通の畑である。水田は甲府盆地の沖積地(ちゅうせきち)に分布し，米の平年収量は54,300t(1970)で，全国でも東京都・神奈川県に次ぐ低位である。くだものではブドウ・モモ・カキ・リンゴ・メロン・オウトウなどがつくられ，ブドウは54,600t，モモは67,400tを産し，いずれも日本最高で，京浜地方に多く出荷される。ブドウは甲府盆地東部の勝沼・石和(いさわ)・塩山および山梨・甲府両市の扇状地を中心とした山麓の傾斜地，モモは東部の金川扇状地，西部の御勅使(みだい)川扇状地が主産地である。八ケ岳山麓ではハクサイ・カンラン・レタス・種バレイショなどの高原野菜の生産と酪農を中心とした高冷地農業が盛んである。郡内地方では段丘面に古くからクワ畑が多くつくられ，収繭量は年産12,298t(1970)に達し，群馬・長野の両県に次ぎ全国第3位である。林野面積は32万9,000ヘクタールで県域の73％を占めるが，奥地林や風致保安林が多く，林業は八ケ岳の山麓や野呂(のろ)川の流域を除いては一般に不振で，素材生産量は50万2,000m³にすぎない(1970)。木炭・シイタケの産もある。〈鉱工業〉鉱産資源はかつては金や水晶の産出で知られたが，いまはまったく衰え，少量の硫化鉄・マンガン・ゲルマニウムなどを産出する程度である。平地に乏しく，周辺を山に囲まれた内陸県のために近代工業は立ち遅れ，工業製品年間出荷額は1,644億円(1969)で，全国第43位の低位にある。古くから郡内地方の養蚕業を基盤として，富士吉田(ふじよしだ)・大月・都留の各市で繊維工業が行なわれ，甲斐絹(かいき)の特産をはじめ，裏地類・朱子・洋がさ地を産するが，いずれも規模の小さい家内工業的な性格である。最近は甲府を中心に食品・木工・精密機械・電気機器などの工場が進出している。在来工業としては，そのほか，甲府の水晶細工，西八代(にしやつしろ)郡市川大門町の和紙，同郡六郷町の印章などがある。

〔交通・都市〕 山がちのために交通の発達は一般に遅れているが，江戸時代以来甲府盆地には多くの街道が通じ，近県各地と結ばれていた。関東平野とは甲州街道や青梅(おうめ)街道，秩父盆地とは秩父往還，佐久盆地とは佐久往還，諏訪(すわ)盆地とは信州往還，駿河湾沿岸地区とは甲駿(こうしゅん)街道・甲駿中道・沼津街道によって結ばれ，富士川の水運は重要物資の輸送に利用されていた。明治以降は，1904年(明治37)に県域を北西から南東へ貫く中央本線が開通して交通の大動脈となり，1965年(昭和40)には松本(長野県)まで電化され，東京と甲府の間は複線化した。1920年(大正9)には富士川沿いに身延線が通じ，東海道本線と中央本線を結ぶ役割を果たしている。長野県境にある小淵沢(こぶちざわ)からは八ケ岳南麓を走る小海線が小諸(こもろ)(長野県)へ通じる。大月からは富士急行電鉄が桂川沿いに河口湖へ通じ，観光シーズンには新宿から河口湖へ直通している。国道は，中央本線に沿う20号線をはじめ，52号線・137号線・138号線・139号線・140号線・141号線がかつての街道沿いに各地に通じる。バス交通も甲府を中心に放射状に延び，静岡・小諸・諏訪など近県各都市と結ばれる。1958年には国道20号線沿いの笹子(ささご)峠に笹子トンネル(有料道路)が開通して東京との時間を短縮し，中央高速道路は東京から相模湖や大月・都留・富士吉田の各市を経て河口湖に達する。そのほか，富士スバルラインや御

坂トンネル，富士山浅間神社裏から馬返へ通じる有料道路などがあり，観光開発の役割を果たしている。国中地方には甲府・韮崎(にらさき)・塩山・山梨の4市をはじめ，人口が多く集まって，県の中枢部を構成する。甲府は戦国時代に武田(たけだ)氏の城下町としての起源をもち，江戸時代以来は諸街道が集まり，明治以降も県の政治・経済・文化の中心都市として発達している。韮崎は甲州街道と佐久・駿信両往還の交点で，富士川水運の河港としても古くから繁栄した。塩山・山梨の両市は青梅街道の宿場町に起源をもつ盆地北東部の中心都市である。郡内地方には富士吉田・大月・都留の3市があり，古くから機業が盛んで〈郡内織〉の産地として知られ，富士山と富士五湖その他の景勝に恵まれた観光地域としても最近めざましく発展している。県下7市のうち，甲府は1889年の市制施行以来，1951年に富士吉田が市制を施行するまで県下唯一の市であった。その他の都市はいずれも1953年町村合併促進法施行以後の新市である。

〔歴史〕 縄文(じょうもん)文化の遺跡は，韮崎市藤井の坂井遺跡をはじめ，県内の各地で発掘されている。弥生(やよい)文化の遺跡も各地に分布しており，甲府市増坪の住吉(すみよし)遺跡のように盆地底にも発見されている。甲府盆地にはまた古墳群も多く，特に盆地南端の洪積(こうせき)台地の曾根(そね)丘陵には，前方後円墳の銚子塚(ちょうしづか)をはじめ多くの古墳がみられる。大化改新に際して甲斐国が設置され，その領域は現在の県域とほぼ一致する。甲斐とは〈峡(かい)〉，すなわち山あいの土地を意味する。甲府盆地の東部に国府(いまの東八代郡御坂町)や国分寺(同郡一宮町)が置かれ，当時の政治や文化の中心であった。鎌倉時代以後は武田氏が甲斐の守護となり，水田の開発が進み，茅ケ岳(かやがたけ)山麓の穂坂牧付近に浅尾堰(あさおせき)・穂坂堰，甲府盆地西部に徳島堰がつくられた。戦国時代には武田信虎(のぶとら)・晴信(はるのぶ)・勝頼(かつより)の3代によって統治され，中でも晴信(信玄)は政治的・軍事的才能を発揮して，一代で戦国大名の雄となった。信玄が釜無川に築いた堤防は川の氾濫(はんらん)を防ぐと同時に灌漑(かんがい)水路の開発にも役だって，いまも信玄堤とよばれている。江戸時代には江戸防衛の要衝として1724年(享保9)以後幕府の直轄領となり，甲府に幕府の甲府勤番や金座が置かれ，甲州街道や富士川の水運が開発された。かつては水不足で牧草地となっていた地域には多くの用水路が引かれて耕地化し，農業生産力も向上した。1868年石和・市川・府中の3県が置かれたが，まもなく3県が統合されて甲斐府となり，翌1869年甲斐県と改称，1871年の廃藩置県によって山梨県となり，現在の県域が確定した。〔浅井得一〕

やまなし 【山梨(市)】 山梨県中部の市。人口31,000。中心市街の日下部(くさかべ)は古くから青梅(おうめ)街道の宿場町として開け，加納岩(かのいわ)は明治後期に中央本線が開通以来の新興市街地である。1954年(昭和29)東山梨郡日下部・加納岩の2町と周辺5村が合併して市制施行。市域は甲府盆地の東部に位置し，中央を笛吹川が流れ，東側は扇状地から沖積原(ちゅうせきげん)へ移行し，西側の大半は山地である。産業三大別人口比は33：27：40。笛吹川流域の平地部では米・ブドウ・モモなどの産が多く，最近は特に果樹園の増加が目だち，山地寄りでは養蚕も盛んである。加納岩にはカーボン・電解製銑・ぶどう酒醸造などの工場がある。中央本線・国道140号線に沿い，南部を国道20号線が走る。北東部の日下部遺跡には竪穴(たてあな)住居跡が多く，南東部にある清白寺の仏殿は鎌倉末期の建立(こんりゅう)で国宝に指定され，本殿・神門は室町中期の作で重要文化財に指定される。最近はブドウ園観光客が多く，西部には岩下温泉がある。



山梨県 勝沼のブドウ園。ブドウ園は都会からブドウ狩りに訪れる人々のため観光用に開園されているものが多い



ヤマネ

やまなし 【山名氏】 室町時代の守護大名。清和源氏。室町幕府四職家の一。新田義重(にったよししげ)の子義範(よしのり)が上野(こうずけ)(群馬県)新田郡山名を領して，山名三郎と称したのに始まる。時氏のとき，2代将軍足利義詮(あしかがよしあきら)から因幡(いなば)・伯耆(ほうき)(ともに鳥取県)・美作(みまさか)(岡山県)・但馬(たじま)(兵庫県)・丹波(京都府)の守護職を安堵(あんど)され，のち一族で全国の6分の1にあたる11か国の守護職を兼帯し，世に〈六分一殿〉とよばれた。明徳の乱で一族が争って分裂し，因幡・伯耆のみとなったが，持豊(もちとよ)(宗全)のとき，嘉吉(かきつ)の乱で赤松満祐(みつすけ)を討って再び勢力を回復。応仁(おうにん)の乱では西軍の領袖(りょうしゅう)となって細川勝元と争った。乱後衰退したが，豊国のとき徳川家康(いえやす)に仕え，六千七百石を与えられた。〔松尾元忠〕

やまなそうぜん 【山名宗全】 ⇨次項

やまなもちとよ 【山名持豊】 (1404～1473) 法名は宗全。室町時代の但馬(たじま)(兵庫県)・備後(びんご)(広島県)などの守護大名。父は時熙(ときひろ)。明徳の乱で失った領国を嘉吉(かきつ)の乱で赤松氏より奪い，その旧領播磨(はりま)(兵庫県)を合わせて山名氏を再興した。1440年(永享12)侍所所司となり，1450年(宝徳2)家督を子の教豊(のりとよ)に譲って落飾した。その後，応仁(おうにん)の乱には足利義尚(あしかがよしひさ)を支持して総帥となり，細川勝元と争った。〔村尾元忠〕

やまならし 【山鳴】 双子葉植物・ヤナギ科。ハコヤナギともいう。山地に自生する落葉高木で，高さ5mに達する。葉は互生し，長さ4～8cmの広卵形で，先は急にとがる。葉柄が縦に平たいため，わずかな風にも揺れてかさかさと音をたてるのでこの名がある。雌雄異株で，3～5月，葉の出るまえに赤かっ色の長さ5cmほどの雄尾状花序，10cmほどの雌花序をつける。果実は熟すと裂けて白い毛のある種子を飛ばす。街路樹・防風樹に，また材は家具材に用いられる。

やまね 【山鼠】 哺乳(ほにゅう)類・齧歯(げっし)目・ヤマネ科。頭胴長8.1cm，尾長4.9cmほど。体は淡いバフ色で，頭部から背の正中線に黒茶色の1本のしまがある。ヤマネ類は旧大陸に分布するが，ヤマネは日本特産の1属1種で，本州・四国・九州に分布する。山林に生息し，夜行性で果実・種子・こん虫を好み，大形の甲虫やセミなどをも食う。寒くなると樹洞(じゅどう)，屋根の下などに枯れ葉で円形の巣をつくり，ボールのように丸くなって冬眠し，春に目ざめて活動する。木登りがうまく，夏は鳥用の巣箱をしばしば巣とする。〔今泉吉典〕

やまねこ 【山猫】 哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科・ネコ亜科の体が小形か中形の野生のネコ類の総称。尾は長く，頭胴長の半分かあるいはそれ以上ある。瞳孔(どうこう)は明るい所では縦に細長くなる。中近東からインド・東南アジアなどに分布するジャングルキャット，モンゴルおよび中国の甘粛省・四川省のハイイロネコ，南アフリカの半砂漠(さばく)にすむクロアシネコ，サハラ砂漠などにすむスナネコ，ヨーロッパのヨーロッパヤマネコ，アメリカのジャガランディ・オセロットのほか，カラカル・ボブキャット・マヌルネコなど多くの種類が知



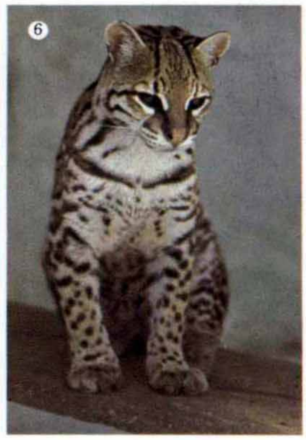






ヤマネコ　①ボブキャット　②ジャングルキャット　③ベンガルヤマネコ　④イリオモテヤマネコ　⑤カラカル　⑥オセロット





られる。日本には対馬(つしま)にツシマヤマネコ，琉球(りゅうきゅう)の西表(いりおもて)島にイリオモテヤマネコの2種を産する。いずれも夜行性で，小形哺乳類・鳥類から魚・こん虫などを捕食する。半砂漠地帯に生息するものの足の裏には毛がはえ，砂地での生活への適応がみられる。性質は荒く，一般に人間になれにくい。　〔今泉吉典〕

やまねこそうぎ【山猫争議】 ワイルドキャット-ストライクの訳。山猫ストともいう。労働組合員の一部が組合の総意に反し，独自の要求を掲げてストライキ・サボタージュその他の争議行為を行なうこと。労働組合の支部・分会などの下部組織が，本部の承認を受けることなしに，あるいはその指令に反して争議行為を行なう非公認ストもこれに含まれる。組合内の統制上の責任問題を生ずる場合が多い。

やまのいも【山の芋】 双子葉植物・ヤマノイモ科。ジネンジョ(自然生)ともいう。山野に自生するつる性多年草。根は太い円柱状で地下深く伸びる。茎は他物にからみつきながら伸びる。葉は対生し，長さ5～10cm，幅2～5cmの長卵状披針(ひしん)形で基部は心形，3本の脈が目だつ。葉腋(ようえき)にジャガイモを小さくしたような芋状のむかごができる。雌雄異株で，8月，雄花序は密に花をつけて直立し，雌花序はまばらに花をつけてたれ下がる。花被片は6枚で，雄花には6本のおしべと退化しためしべ1本，雌花には1本のめしべと仮雄蕊(ゆうずい)6本がある。果実は3個の翼のある広楕円(こうだえん)形で，種子は周囲に薄い膜がある。根をすりつぶしたものを〈とろろ〉といい，食用にする。ナガイモは本種によく似るが，葉が厚くて広く，基部が耳形に開き，紫色をおびるもので，ヤマイモといって食用にされる。畑に栽培されるが，野生化もしている。ヤマイモ・ナガイモの根は山薬・薯預(しょよ)とよばれ，滋養強壮薬・止瀉(ししゃ)薬とされる。ヤマノイモ科は熱帯ないし温帯に約650種あり，塊茎や根にデンプン・グロブリンタンパク質を含み，栄養価の高いものが多い。　〔加藤僖重〕

やまのうえそうじき【山上宗二記】 茶書の一。千利休*の高弟山上宗二が門弟の板部岡(いたべおか)江雪斎融成に授けた珠光流茶道の秘伝書。1巻。1589年(天正17)2月，宗二が江雪斎にあてた奥書きがある。内容は《珠光一紙目録》を主体とし，それに，武野紹鷗*(たけのじょうおう)・千利休らが補足した覚え書きを紹介し，宗二が注解し，批判を加えたもの。巻末に茶室の故事を付記している。室町時代から伝来された名物茶器の解説を主としている。利休流茶道の秘伝書でもあり，別本が諸種ある。　〔桑田忠親〕

やまのうえのおくら【山上憶良】 (660～733？) 奈良前期の歌人。702年(大宝2)遣唐少録(四等官)として唐に渡り，704年(慶雲1)帰朝，716年(霊亀2)伯耆守(ほうきのかみ)，721年(養老5)東宮(のちの聖武(しょうむ)天皇)侍講となる。726年(神亀3)から筑前守(ちくぜんのかみ)として6年余九州に滞在，当時大宰帥(だざいのそち)であった大伴旅人*(おおとものたびと)と親交があり，歌作に努めた。《万葉集*》には，長歌10首，旋頭歌(せどうか)1首，短歌51首が収められているほか，2首の漢詩と歌序その他数編の漢文もみえる。また，《類聚(るいじゅう)歌林*》を編集し，《万葉集》編纂(へんさん)の資料の一つとして用いられたとあるが，いまは伝わらない。弱小氏族出身で老齢まで地方官をつとめ，また老荘儒仏思想に深く傾倒していた彼は，人生や社会へ深い関心をもち，妻子への愛情や貧老病弱死の苦悩など，人生的・現実的なテーマを積極的に取り上げ，その歌に豊かな思想性と社会性を示した。中でも〈子等(ら)を思ふ歌〉や〈貧窮問答歌〉などの代表作は，《万葉集》中に異彩を放っている。　〔大久保広行〕



ヤマノイモ



山上憶良　慶長ごろの刊本(無訓本，全20巻，大東急記念文庫蔵)《万葉集》巻五の〈貧窮問答歌〉の一節

やまのうちおんせんきょう【山ノ内温泉郷】 長野県高井郡山ノ内を中心とする一大温泉郷をいい，志賀高原から流れ出る横湯川と角間川の流域に湧出(ゆうしゅつ)する湯田中・新湯田中・星川・安代・渋・穂波・角間・上林(かんばやし)・地獄谷の9湯と，志賀高原*の木戸池・熊ノ湯(くまのゆ)・発哺(ほっぽ)・

丸池の４湯を合わせた13湯の総称。泉温27～99℃，泉質は単純泉・弱食塩泉が主で，そのほか硫化水素泉・セッコウ泉もある。志賀高原へのハイキング・スキーなどの基地となる。〔木村東一郎〕

やまのうちかずとよ【山内一豊】（1546～1605）安土桃山時代の武将。初代の土佐藩*主。通称猪右衛門（いえもん）。尾張（おわり）（愛知県）出身。はじめ織田信長（のぶなが），1570年（元亀１）より豊臣秀吉（とよとみひでよし）に属して戦功を立て，加増されて1590年（天正18）遠江（とおとうみ）（静岡県）掛川五万石に封ぜられた。1600年（慶長５）関ケ原の役*には徳川方に属して戦い，戦後土佐（高知県）二十万余石に封ぜられ，土佐藩の始祖となった。信長に仕えたころ，馬ぞろえに妻が金を出してウマを買った内助の功の話は有名。〔高崎徳次〕

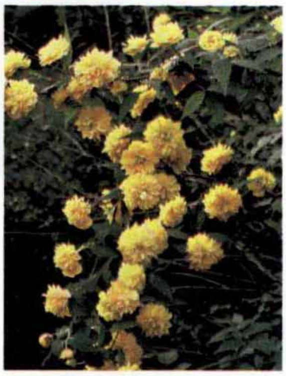
やまのうちとよしげ【山内豊信】（1827～1872）幕末の土佐藩主。容堂と号した。1848年（嘉永１）15代藩主となり，吉田（よしだ）東洋を登用して藩政改革を断行し，みずからは幕政の改革を志した。しかし1858年（安政５）将軍継嗣問題*では松永慶永（まつながよしなが）・伊達宗城（だてむねなり）らとともに一橋（徳川）慶喜（よしのぶ）を推し，かえって大老井伊直弼（いいなおすけ）に隠居・謹慎を命ぜられた。1862年（文久２）幕政参与となり，翌年の八月十八日の政変*後は朝議参与に任ぜられたが，雄藩主会議で幕府保守派の意見と対立，解散して帰国した。この間藩内の勤王党首領武市瑞山*（たけちずいざん）らを弾圧・処断した。1867年（慶応３）後藤象二郎・坂本龍馬（りょうま）の献策により，将軍慶喜に大政奉還*を建白し，徳川氏を中心とする公議政体の実現を図った。次いで王政復古とともに議定となり，小御所会議*では慶喜の辞官・納地を主張する岩倉具視（ともみ）・大久保利通（としみち）らと対立した。〔高崎徳次〕

やまのかみ【山の神】山を支配する神。農民の信ずる山の神は，春には里に降って田の神*となり，秋の収穫後には再び山に帰って山の神になると伝えている。これに対して，猟師や炭焼き・木地屋など山かせぎをする山民の信ずる山の神は田の神とは関係がなく，四季を通じて山に鎮座する。また同じ山の神といっても，木地屋の信ずる山の神は夫妻神とされ，猟師のは土地によって男神とも女神とも伝える。山の神を女性神とみる地方では，山の神の祭りに女性が関係することを忌む例が多い。山の神をオオヤマヅミノカミあるいはコノハナサクヤヒメとする土地もあるが，これは有識者の解説による呼称と考えられる。山の神を祭るのに常設の祠（ほこら）のあるものも少なくないが，山中の任意の場所もしくは告方の地，あるいは神の木と伝えられる古木を依代*（よりしろ）として祭る場合も多い。なお，山の神はオコゼをとくに好むとして，山の神の祭りにこの魚を供える習俗も広く全国



山開き 毎年７月１日に行なわれる富士山５合目の小御岳神社の山開き





ヤマブキ
下は八重咲き

にわたって行なわれている。〔直江広治〕

やまのてせん【山手線】東京の田端（たばた）～池袋～品川間の国鉄路線。営業キロ数20.6。1885（明治18）～1903年開業。日本鉄道（現在の東北本線）と官設鉄道（現在の東海道本線）の連絡線としてつくられ，1972年（昭和47）７月までは現在の赤羽線（赤羽～池袋間）を含んでいた。現在も東北・常磐（じょうばん）線方面と東海道・中央線方面とを結ぶ貨物線として重要であるが，現在建設中の東京外環状線（武蔵野（むさしの）線）が完成すれば，その機能を譲ることとなる。全線電化（直流）。なお，山手線の名称は，同線・東北本線・東海道本線とを結んで構成されている東京環状運転電車の通称としても用いられ，東京では最もなじみ深い国電名である。〔青木栄一〕

やまばかま【山袴】⇨もんぺ

やまはっか【山薄荷】双子葉植物・シソ科。山野に自生する多年草。茎は四角形で高さ40～80cmになり，上方で枝分かれする。葉は長さ３～６cm，幅２～４cmの三角状広卵形で，鈍い鋸歯（きょし）があり，翼のある葉柄で対生する。９～10月，各節から集散花序を出し，小さな紫色の唇形（しんけい）花をつける。

やまばと【山鳩】⇨キジバト

やまばといろ【山鳩色】ヤマバトの羽毛のような色。緑みをおびた灰黄緑色。《延喜式》に見える青白橡（つるばみ），天皇の袍（ほう）の色として知られる麹塵（きくじん）と同じ色で，紫根の紫色とカリヤスの黄色で染め出された複雑な色調をもつ。

やまはね【山はね】地下深くに開削された空洞（くうどう）の岩壁が，突然爆発的に崩壊する現象。岩はねともいう。堅固な岩盤で，数百メートル以上もの深い坑内で強大な地圧が生ずる場所でみられる現象で，わが国では，２，３の鉱山やトンネルでまれに観測される。保安上はきわめて危険な現象であるが，その機構については定説がない。対策もこれといったことが知られていない。

やまはんのき【山榛の木】双子葉植物・カバノキ科。谷沿いに自生する落葉高木で，高さ15ｍほどになる。水田のあぜに刈り取ったイネを掛けるために植えられる。枝は灰かっ色。葉は互生し，広楕円（こうだえん）形ないし円形で長さ５～10cm，縁に低い鋸歯（きょし）がある。３～４月，葉の出るまえに花を咲かせる。雌雄同株で，雄花序は枝先に下垂し，雌花序はそれより下に出て上を向く。果穂は松かさ状で長さ約２cm，各包片の上に平たい小堅果を載せる。葉の両面に密毛のあるものをケヤマハンノキという。

やまびらき【山開き】登山シーズン（５～７月）到来とともに各地の山岳またはその山麓（さんろく）で行なわれる行事。本来は山岳宗教（→山岳信仰）の行事の一つで，諸山が〈結界*〉により一般人の立ち入りを禁じ，ある一定期間だけ山を俗人に開放して登山を許す慣例があり，これを〈山開き〉といった。現在では，山岳地帯への交通機関が再開された日，あるいは残雪も消えて一般の登山者も登れるようになる時期に，一部宗教的行事を加えて行なわれるのが一般的で，多分に観光行事的要素が強くなっている。代表的なものは富士山（７月１日），谷川岳（７月第１日曜），上高地（４月27日），白山（７月１日）などがある。〔節田重節〕

やまびる【山蛭】環形動物・ヒル綱・ヤマビル科。体は長さ２～３cmの円筒状で，腹面はやや扁平（へんぺい）になる。皮膚には多数の小突起がある。背面は黄かっ色で暗かっ色の縦線がある。また不規則な小斑点（はんてん）をもつこともある。眼点はやや大きく，球形で５対ある。体の前後端に吸盤をもち，前端は口部となって鋭い歯をもつ。本州・四国・九州・南西諸島の山地にすみ，ヒトや獣の血を吸う。

やまぶき 【山吹】 双子葉植物・バラ科。山野に自生する落葉低木で，庭などにも植えられる。茎は細く緑色で束生し，高さ1〜1.2m。葉は互生し，長卵形で先がとがり，縁に大きな鋸歯(きょし)がある。4〜5月，直径3〜5cmの黄色の5弁花が小枝の先に1個ずつつく。果実は扁球(へんきゅう)形の痩果(そうか)で，もともとは5個であるが2〜4個しか熟さないことが多い。八重咲きのものは園芸種のヤエヤマブキで実はならない。また，花が白色の変種をシロバナヤマブキという。シロヤマブキは別種で，葉は対生し，白色花は花弁4枚。➔前ページ(写真)

やまぶきいろ 【山吹色】 ヤマブキの花のような色。黄みをおびたあざやかな黄赤色。黄金の色に似ているところから黄金色(こがねいろ)・金色と称されることもあるが，日本工業規格(JIS)慣用色名では金色と区別しており，〈山吹色〉は色相10.0YR，明度7.5，彩度12.5と規定されている。一方，金色は同規格の慣用色名とはされているが，三属性による表示記号の規定はない。

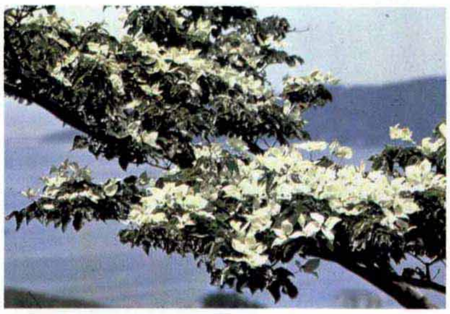
やまぶし 【山伏】 ⇨修験道(しゅげんどう)

やまぶどう 【山葡萄】 双子葉植物・ブドウ科。山地に自生する落葉性つる植物。若枝にはかっ色の毛がある。葉は太く長い柄で互生し，巻きひげと対生する。葉身は径10〜30cmの丸い五角形で基部は心形になり，縁に鋸歯(きょし)がある。裏面には赤かっ色の綿毛が密生する。秋に紅葉する。5〜6月，葉に対生して長さ20cmほどの円錐(えんすい)花序がつき，黄緑色の小さな5弁花を多数つける。5枚の花弁はその頂で合一し，下のほうは分かれている。果実は径8mmほどの球形で，ふさになってたれ下がり紫黒色に熟して食べられる。

やまべ 【山辺】 北海道・東北地方ではヤマメ*のことをいい，関東一帯のつり人たちはオイカワ*のことをさす。

やまべのあかひと 【山部赤人】 奈良時代の歌人。生没年未詳。姓(かばね)は宿禰(すくね)。大伴旅人*(おおとものたびと)・山上憶良*(やまのうえのおくら)・高橋虫麻呂*(むしまろ)らとその個性を競い，《万葉集*》全盛期を現出した。《古今和歌集*》の仮名序には，紀貫之*(つらゆき)が〈人麿(ひとまろ)は赤人が上に立たむことかたく，赤人は人麿の下に立たむことかたくなむありける〉と述べており，古くから柿本(かきのもと)人麿*と並び称されている。その歌は，《万葉集》に，長歌13首，短歌37首(うち異伝1)，計50首が収められているが，その作製年時はすべて聖武(しょうむ)天皇の御代(みよ)(724〜749年)に限られる。長歌は人麿に比べて平明短少だが，短歌にみられる景情一致，静と動とをみごとに調和する自然観照の冴(さ)えは，叙景歌中の名歌と賞賛されている。赤人は，清きもの，優しきもの，静かなものとしての自然を発見した，すぐれた自然歌人であった。 〔鈴木一雄〕


山部赤人


ヤマボウシ


ヤマボクチ


ヤママユガ

やまぼうし 【山法師】 双子葉植物・ミズキ科。比較的高い山地に自生する落葉高木。幹は直立して高さ7〜10mになり，小枝は対生する。葉は対生し，長さ6〜10cmの楕円(だえん)形で先がとがり，縁は波打つ。裏面に白色の細毛が全面にあり，脈腋(みゃくえき)には茶色い毛がある。6〜7月，枝先に花弁状の白色の総包4枚が開き，中に球形に小さな淡緑色の4弁花が集まってつく。果実は石果で球形に癒合(ゆごう)し，直径1.5cmで，赤熟して食べられる。庭木・公園樹に用いられるアメリカヤマボウシ(ハナミズキ*)は北アメリカ原産のもので，葉の裏がずっと白く，総包片の先には丸いへこみがある。

やまぼくち 【山火口】 双子葉植物・キク科。山野の陽地に自生する多年草。茎は高さ70〜100cmで，紫色をおびる。葉は長さ15〜23cmの卵形ないし広楕円(こうだえん)形で，裏に白毛を密生させる。10月，直径2〜3cmの卵状球形で紅紫色の頭状花をつける。葉が羽状に裂けるものをキクバヤマボクチという。近縁のオヤマボクチは葉の基部が心形になり，球状の頭花である。ハバヤマボクチは葉が三角状鉾形(ほこがた)。

やまぼこ 【山鉾】 祭礼のとき引き出す山車*(だし)の一種。山車の上に家をつくり，その屋根の上に飾り物をつけたものをいう。京都の祇園(ぎおん)祭*に出る山鉾が最も有名。

やままゆが 【山繭蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科の総称およびそのうちの一種。翅(はね)は大形で幅広く，この科の中には世界最大のガであるヨナクニサン*を含む。世界から約800種が発見され，新熱帯区(➔動物地理区)とエチオピア区に最も多く，新北区や旧北区では少ない。日本では約10種が知られている。成虫は大部分が夜行性で，口吻(こうふん)は退化し，単眼をもたない。幼虫は大形で緑色をしており，主として樹木の葉を食べる。繭から絹糸をとるために飼育されている種類も多い。この科の代表種としてヨナクニサン・オオミズアオ*・ヤママユガ・クスサン*・ウスタビガ*などがある。このうちの一種であるヤママユガは，体長30〜38mm，翅を広げた長さ115〜150mm。雄の触角は羽毛状，雌は櫛歯(くしば)状。翅の色彩には変異があり，赤かっ色・黄かっ色・暗かっ色のものなどがある。前後翅とも中央部に大きな円紋があり，中心は透明で周囲は外半部が黄色と黒色の，内半部は白色と紅色の細い線によって囲まれる。また前後翅とも外縁に沿って赤かっ色ないし暗かっ色の線が走り，その外側に灰白色の線がある。成虫は年1回，7〜9月に出現する。幼虫はクヌギ・コナラ・シイ・カシワ・クリなどを食べ，老熟すると70〜90mmに達する。頭部は緑色，胴部は淡緑色で黄色い気門線が走る。繭は楕円(だえん)形で，葉を寄せ集めてつくられ，黄緑色で，これから天蚕糸(てぐす)をとる。絹糸は良質で中国・インド・ヨーロッパでは日本から輸入飼育されている。卵で越冬し，日本全土のほか朝鮮に分布する。 〔多々内修〕

やまむらぼちょう 【山村暮鳥】 (1884〜1924) 詩人。本名土田八九十。群馬県の生まれ。東京築地(つきじ)の聖三一神学校を卒業後，牧師として東北地方で伝道に従事した。浪漫的な処女詩集《三人の処女》を経て，1915年(大正4)の詩集《聖三稜玻璃(せいさんりょうはり)》で象徴詩へ移行。難解な詩風であったが，やがて人道主義の影響などで牧歌的なものに向かった。ほかに詩集《風は草木にささやいた》《雲》などや，多くの童

話集・童謡集がある。〔金子　博〕

やまむらりゅう　【山村流】　日本舞踊の流派の一。文政・天保(てんぽう)(1818～1843)のころ京阪(けいはん)の名振り付け師山村友五郎(のち舞扇斎吾斗(ぶせんさいごとう))が興し，一代で基礎を築いた。上方舞*を基礎とした舞台舞踊であったが，初世・2世の係累者が芸風を伝えているうちに座敷舞としての地唄(じうた)舞を完成した。流派間の争いがあって，現在はっきりした家元はいない。

やまむろぐんぺい　【山室軍平】　(1872～1940)　日本救世軍の設立者。岡山県の農家に生まれ，上京して印刷工となる。1887年(明治20)路傍の伝道を聞いて入信し，新島襄*(にいじまじょう)を慕って同志社に学ぶ。救世軍*が来日すると直ちにこれに参加し，以来その生涯(しょうがい)を伝道にささげ，1926年(大正15)東洋で最初の司令官となった。彼の一生はそのまま日本救世軍の歩みであり，大衆伝道，貧民救済，廃娼(はいしょう)運動，職業紹介所設立，労働者木賃宿の設置，病院・療養所の開設，児童虐待防止運動などに業績をあげ，彼の発案になる社会鍋(なべ)は今日も行なわれている。主著《平民の福音》。〔堀越知巳〕

やまめ　【山女】　硬骨魚類・サケ科。体長30cmに達する淡水魚。本種はサクラマス*の陸封型で，河川矮小(わいしょう)型である。走海型のサクラマスは成長とともに幼形に見られる小判状斑紋(はんもん)が消失し，背びれに1黒斑があるのに対し，本種は成長しても幼形の斑紋が残り，また背びれに黒斑がない。北海道と東北地方の河川に多く，南限は太平洋側では相模(さがみ)川，日本海側では島根・鳥取両県にわたる。食用魚。

やまもがし　【山もがし】　双子葉植物・ヤマモガシ科。暖地の山地に自生する常緑高木で，高さ6m内外。葉は有柄で互生し，長さ5～15cmの長倒卵形で先端はとがり，上半分にあらい鋸歯(きょし)がある。6～7月，葉腋(ようえき)に10～15cmの総状花序を出し，白色花を多数つける。観賞用として栽植もされる。

やまもといそろく　【山本五十六】　(1884～1943)　海軍軍人。新潟県出身。海軍兵学校・海軍大学校卒業。駐米武官・ロンドン軍縮会議随員などの経験から海外事情に精通し，近代的軍事思想を所持した。1935年(昭和10)海軍航空本部長，次いで米内光政(よないみつまさ)海相の次官となり，2年半海軍部内統一を促進し，日独軍事同盟の阻止に努力した。1939年連合艦隊司令長官となり，希望しなかった太平洋戦争に臨むこととなった。卓越した判断力は真珠湾の奇襲で成功したが，ミッドウェー海戦では失敗した。1943年ブーゲンビル島上空で乗機が撃墜されて戦死。〔安達利夫〕

やまもときゅうじん　【山本丘人】　(1900～　)　日本画家。東京の生まれ。東京美術学校卒業。松岡映丘に師事，はじめ官展に活躍して日展審査員になったが，1948年(昭和23)新日本画運動として創造美術協会を結成。1951年新制作協会に合流，現在同会会員である。北海や山岳風景に重厚壮大な秀作が多い。



ヤ　マ　メ



山本五十六



山本周五郎

やまもとごんのひょうえ　【山本権兵衛】　(1852～1933)　海軍軍人・政治家。薩摩(さつま)藩出身。海軍兵学寮卒業。ドイツ留学後，艦隊勤務・海軍省勤務を経て，1898年(明治31)第2次山県(やまがた)内閣海相となり，第4次伊藤(いとう)・第1次桂(かつら)内閣にも留任し，7年余その座にあった。この間海軍拡張計画を推進し，日露戦争の遂行に尽力した。1906年軍事参議官。1913年(大正2)大正政変*で第3次桂内閣倒閣後，政友会と結んで組閣し，軍部大臣現役武官制*の廃止など試みたが，1914年ジーメンス事件*の暴露と予算不成立のため総辞職。陸軍と内務省を握って君臨する長州閥に対して，終始海軍と薩摩閥をバックとして対抗した。1923年関東大震災後第2次山本内閣を組閣したが，同年末に起こった虎(とら)ノ門事件*で総辞職した。〔安達利夫〕

やまもとしゅうごろう　【山本周五郎】　(1903～1967)　小説家。山梨県の生まれ。本名清水三十六(しみずさとむ)。正則英語学校中退。雑誌記者を経て作家生活にはいった。はじめは少年小説を書いたが，のち時代小説に転じ，現代人の庶民感覚を時代小説に盛り込むことに成功，一時期を画した。《樅(もみ)ノ木は残った》《赤ひげ診療譚(たん)》《ながい坂》《青べか物語》など作品は多い。なお，虚名をきらい，直木賞などすべて辞退した。〔真鍋元之〕

やまもとせんじ　【山本宣治】　(1889～1929)　生物学者・社会運動家。京都府出身。宇治の料亭(りょうてい)に生まれ，少年時代にアメリカ合衆国に渡り，青年期をカナダで過ごし苦学した。帰国後東京帝国大学動物学科を卒業し，同志社大学と京都帝国大学で進化論・人生生物学を講義するかたわら，産児制限運動や労働者教育運動に献身。1925(大正14)～1926年学連事件*で両大学の講座を追われてからは無産運動に専念し，1928年(昭和3)総選挙で労働農民党から出馬して当選。第56議会での治安維持法*改正に反対して果敢に戦ったため，1929年3月右翼の七生義団員黒田保久二に暗殺された。主著に《無産者生物学》《性教育》などがある。〔安達利夫〕

やまもととうじろう　【山本東次郎】　(1898～1964)　能楽師。大蔵流狂言方。先代東次郎則忠(のりただ)の養子。前名，河内晋(こうちすすむ)。実名，則重(のりしげ)。山本家は，祖父東次郎則正(のりまさ)(東(あずま))以来第2次世界大戦の終戦直後までは東京在住唯一の大蔵流名家であり，ことに則忠からは能に近い正硬な芸を特色とする。戦後は学校巡演を通じて狂言の普及に尽力した。なお，1972年(昭和47)長男の則寿(のりひさ)が襲名した。〔小林　責〕

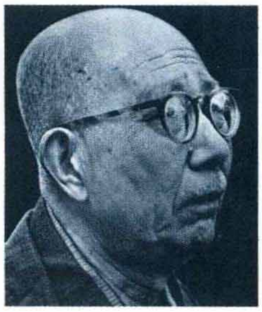
やまもととよいち　【山本豊市】　(1899～　)　彫刻家。東京の生まれ。太平洋画会研究所にはいり，戸張孤雁(こがん)の指導を受けた。1924年(大正13)フランスに留学，マイヨールに師事。帰国後は日本美術院同人となった。1953年(昭和28)東京芸術大学教授。叙情的な作品に佳作が多い。

やまもとほうすい　【山本芳翠】　(1850～1906)　洋画家。岐阜県の生まれ。はじめ京都で南宗画を学んだが，1876年(明治9)工部美術学校に入学，フォンタネージの指導を受けた。翌々年フランスに留学，帰国後の1889年明治美術会の創立に参加した。なお，白馬会創立にかかわる背後での尽力は大きい。アカデミックな作風で，代表作には《西洋婦人像》などがある。

やまもとほくざん　【山本北山】　(1752～1812)　江戸中期の折衷学派の儒学者。名は信有，通称喜六。江戸の生まれ。15歳で《孝経》を学び，以後独学で〈四書五経〉に通じる。はじめ古義学・古文辞学を修めたが，のちそれらを排斥し，井上金峨(きんが)の影響を受けて折衷学を唱えた。特に詩文に長じ，江戸の詩文壇の盟主として活躍。寛政異学の禁*のときはこれに強く反対して市川鶴鳴(かくめい)らとともに〈異学五鬼〉と称せられた。〔熊谷保孝〕

やまもとゆうぞう　【山本有三】　(1887～1974)小説家・劇作家。本名勇造。栃木県

の生まれ。東京帝国大学独文科卒。第一高等学校在学中に知った菊池寛*・芥川龍之介*(あくたがわりゅうのすけ)・久米正雄*(くめまさお)および豊島与志雄*(とよしまよしお)らと第３次《新思潮*》を創刊，劇作家として出発した。《嬰児(えいじ)殺し》《生命の冠》《海彦(うみひこ)山彦》など，理想と現実の相克を描く数多くの戯曲がある。1926年(大正15)の長編小説《生きとし生けるもの》以後，小説に力を注ぎ，《波》《女の一生》《真実一路*》《路傍の石*》など，人道主義的な理想主義にささえられた作品を発表。執筆活動のほか，文芸家協会結成，国語問題への尽力，1947年参議院議員当選など，幅広い活躍を示した。また少年少女のための《日本少国民文庫》編纂(へんさん)事業もある。〔金子　博〕



山本有三

やまもみじ　【山槭樹・山紅葉】　双子葉植物・カエデ科。中部以北のおもに日本海側の山地に自生する落葉高木で，高さ10mほどになる。葉は長柄で対生し，長さ６～８cmで７～９中裂して掌状となる。各裂片は卵形で先がとがり，縁に鋭い鋸歯(きょし)がある。秋に紅葉する。３～４月，葉に先だって枝先に円錐(えんすい)花序をつけ，雄花と両性花がある。花には濃紅色のがく片５，淡紅色の花弁５，おしべ８，めしべ１がある。果実は大形の翼果で，長さ２cm以上。変異が多く，たくさんの園芸品種がある。



ヤマモモ

やまもも　【楊梅・山桃】　双子葉植物・ヤマモモ科。暖地の海岸に近い山に自生する常緑高木で，人家にも植えられる。幹は直立して多く分枝し，高さ15mに達する。葉は枝に密に互生し，長さ５～10cmの倒披針(とうひしん)形で先が鈍くとがり，革質である。雌雄異株で，３～４月，葉腋(ようえき)に黄かっ色の花穂をつける。果実は球形の石果で，直径12～18mmあり，多汁(たじゅう)質の突起に包まれて暗紅色に熟し，甘くて食べられる。樹皮にはタンニンが多く含まれ，煎汁(せんじゅう)は漁網などを染めるのに用いられる。高知県の県花である。



ヤマユリ

やまゆり　【山百合】　単子葉植物・ユリ科。近畿(きんき)地方以東の山野に自生する日本特産の多年草で，観賞用に栽植もされて，九州・四国・北海道にも野生化したものがある。鱗茎(りんけい)は径10cm内外の大形の扁球(へんきゅう)。鱗片は卵状披針(ひしん)形で厚く，黄色，茎は直立して高さ１～1.5mほどになる。葉は茎に散在し，短柄のある長さ10～20cmの卵状披針形で先がとがり，質は厚く平滑。６～８月ごろに茎頂に１～数個の白色の大形花をつける。花は径15～25cmの広漏斗状で，花冠の内部に赤かっ色の細点が多数ある。６枚の花被片は卵状披針形で，先がそりかえり，おしべは６本で葯(やく)は暗紅紫色。園芸品に花被片の先が紅色のクチベニユリ，花被片の中央が紅紫色のベニスジなどがある。〔横井朝子〕

やまよい　【山酔い】　⇨高山病

やまよもぎ　【山艾】　双子葉植物・キク科。オオヨモギともいう。山野の陽地に自生する多年草。高さ1.5～２mに達する。葉はヨモギに似るがそれよりも大きく，深裂して，裏面は白毛におおわれる。７～８月，茎の先に多数の枝を出し，径0.5～１cmの黄色頭花を多数つける。ヨモギとともに葉は艾(もぐさ)の原料とされる。

やまわきとうよう　【山脇東洋】　(1705～1762)　江戸時代中期の医学者。本姓清水(しみず)。名は尚徳，字(あざな)は玄飛・子飛・移山，東洋と号す。京都の生まれ。1726年(享保11)宮中の医官法眼(ほうげん)山脇玄脩(げんしゅう)の養子となり，1729年に法眼に叙せられた。はじめ養父について道三流の医学を学んだが，のち古医方派に転じ，ついに古医方の四大家のひとりに数えられるに至った。1746年(延享３)唐の王燾(おうとう)が著わした《外台秘要方》の復刻を試みて，古医方家としての声価はますます高まった。また人体内部の構造についての従来の言説を疑い，1754年(宝暦４)京都の西の刑場で死刑囚の解剖が行なわれたとき，小杉(こすぎ)玄適らとともに陪席を許され，念願の人体内部の構造をつぶさに観察，古くから日本で行なわれてきた人体解剖説が誤りであることを悟った。1759年に著わされた《蔵志》はそのときの記録で日本ではじめての人体解剖記録として貴重である。〔大鳥蘭三郎〕

ヤミぞく　【ヤミ族】　台湾南端から東南方約80kmの紅頭嶼(こうとうしょ)(蘭嶼(らんしょ))に住むインドネシア系原住民。人口1,407人(1954)。フィリピン最北のバタン諸島島民と文化的関連をもつ。タロイモの水田栽培で特色づけられる。ヤミ文化は東南アジアからオセアニアに波及した相当古い文化のある相を示すものとみられる。

やみぞさんち　【八溝山地】　福島県南部から茨城・栃木の北部県境にかけて，ほぼ南北に走る山地。東側は久慈川の谷によって阿武隈(あぶくま)山地と境し，西側は那珂(なか)川上流の低地でくぎられ，南は筑波(つくば)山に至る。北部の３県境にある八溝山(1,022m)が最高峰で，その山麓(さんろく)はスギの美林とコンニャクの栽培で知られる。

ヤムイモ　熱帯・亜熱帯地域に産する食用植物の一。根を食用とするもので，ヤマノイモ科に属し，インドシナ半島が原産地とされ，ここから東南アジア，太平洋諸島に広く伝播(でんぱ)した。

やむし　【矢虫】　⇨毛顎(もうがく)動物

やめ　【八女(市)】　福岡県南部の市。人口40,000。中心地区の福島は1601年(慶長６)以来田中氏三万石の城下町で，1620年(元和６)の廃城後は九斎市の開かれる市場町として栄えた。1954年(昭和29)市制施行。市域は筑紫(つくし)平野の南東部，矢部(やべ)川中流の扇状地に位置する。産業三大別人口比は21：30：49。水田が広く開け，麦・ダイズ・イモなどの畑作物も多い。木工品・竹細工・和紙などの家内工業が発達し，福島燈籠(とうろう)人形をはじめ，仏壇・ちょうちんの特産がある。鹿児島本線筑後羽犬塚(ちくごはいぬづか)駅から分岐する矢部線が通じ，国道３号線が走る。長峰地区には，九州最大の前方後円墳である岩戸山古墳や装飾古墳の乗馬古墳がある。

やもうしょう　【夜盲症】　光神(明るさ・暗さを識別する網膜の機能)が減弱し，暗順応*の遅延する状態。俗に鳥目という。網膜には，形態感覚をつかさどる錐状体*(すいじょうたい)と，光神をつかさどる桿状体(かんじょうたい)の二つの視細胞*があるが，夜盲症は後者の桿状体機能障害によるものである。先天性と後天性がある。先天性夜盲症は，視力・視野ともに冒されない先天停止性夜盲症，眼底が金色に輝いて見える小口(おぐち)病，また10代ないし20代から発症・進行して失明に至る網膜色素変性，先天性梅毒網脈絡膜萎縮(いしゅく)などがあるが，これらはいずれも桿状体機能不全からくるものである。後天性夜盲症は，特発性夜盲症・緑内障*などがあげられるが，中でも特発性夜盲症は，ビタミンＡ欠乏からくる栄養障害性夜盲症として，以前は重要な疾患の一つであった。ビタミンＡは光神をつかさどる桿状体視紅

色素の合成にあずかるが，これが不足すると，その合成遅延とともに夜盲症が起こってくる。治療は，先天性のものには確実な方法はないが，後天性のものは原因を除くと軽快する場合が多い。〔納富教雄〕

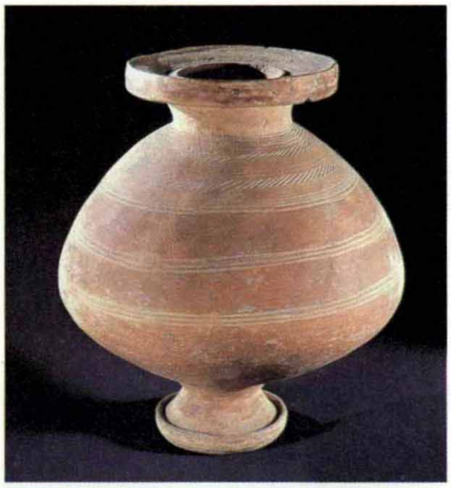
やもり【家守】爬虫(はちゅう)類・有鱗(ゆうりん)目・ヤモリ科およびそのうちの一種。80属700種を含む大きなトカゲ亜目のグループで，全世界の熱帯・亜熱帯および一部の温帯地方に広く分布し，日本には3属8種を産する。原始的な要素と特殊化した形態をもち，ほとんどが小形で，最大はオオヤモリの30cm。皮膚は柔らかく，頭部から胴部にかけて顆粒(かりゅう)状の細鱗におおわれる。トカゲモドキ亜科以外はまぶたが動かない。そのうちの一種であるヤモリは，本州以南，台湾・朝鮮・中国中部に広く分布し，本州では東北地方南部が北限。体長5～6cmで，人家や倉庫の板べいや付近の樹木のすきまにすみ，昼間は暗い場所に潜む。夜間には燈火の周囲に集まるこん虫類を捕食する。上下のまぶたは固着して動かず，透明な1枚の鱗(うろこ)におおわれる。瞳孔(どうこう)は縦形で明るい場所では細く閉じ，4個の小孔に絞る。四肢(しし)の各ゆびの裏側は幅広いひだ状の鱗板が平行に並び，吸盤の働きをするので，ガラス面でも容易に運動できる。性質はおとなしく，まったく無害。卵性。〔松井孝爾〕

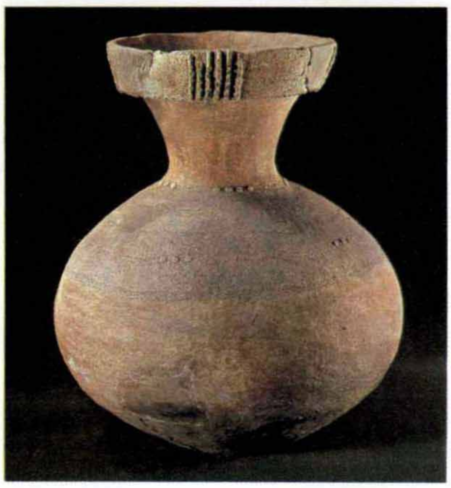


ヤモリ

やゆう【也有】(1702～1783) 江戸中期の俳人。本名横井時般(ときつら)。号は知雨亭(ちうてい)・暮水・半掃庵(はんそうあん)など。尾張(おわり)藩の重臣として千二百石を拝領，1754年(宝暦4)致仕して草庵生活にはいり，晩年の30年間は自由清閑な生活を送った。俳諧(はいかい)のほか，武道・詩歌・狂歌・書画・謡曲・平曲など多芸にひいで，特に俳文にすぐれ，俳文集に《鶉衣*(うずらごろも)》があり，著書も多い。

やよいしきどき【弥生式土器】BC300～200年からAD300年ごろまで日本でつくられ用いられた土器*。縄文式(じょうもんしき)土器*に続いて出現した。1884年(明治17)東京本郷の弥生町の貝塚(かいづか)で発見されたので出土地にちなんでこの名称が用いられている。北九州で発見された板付式土器は最古の弥生式土器で，終末期の縄文式土器である夜臼式(やうすしき)土器と伴出していることから，弥生式土器は北九州を起点として中国・四国・近畿(きんき)地方，さらに東日本へと波及して，全国的に縄文式土器に代わったことが知られる。高温で焼かれ淡かっ色の明るい色を呈し，薄手でややかたく，縄文式土器に比べて器形・文様が画一的で簡明である。器形は貯蔵用の壺(つぼ)，煮たき用の甕(かめ)・甑(こしき)，食物を盛る鉢(はち)，高坏(たかつき)など用途によって違っており，農業を基盤とした生活を反映している。そのうち甕・鉢はあまり文様が施されていないが，一般に文様は羽状文・並行線文のような簡単な幾何学文様が施されている。中期になると近畿・中国・四国地方を中心に櫛目文(くしめもん)土器*がみられるようになるが，同じころ九州では文様はなく，突帯を巡らした壺が盛行し，東日本では縄文式土器の伝統の濃い弥生式土器がつくられており，多様な地方差を示している。後期にはいると櫛目文が全国的に影響を及ぼし，やがて一帯に無文土器となり，それが土師器*(はじき)へと移行して次の古墳時代に継承された。〔高崎徳次〕





弥生式土器　壺形土器　(上)名古屋市高倉貝塚出土(中期)　東京国立博物館蔵　(下)東京都成増遺跡出土(後期)　明治大学蔵

やよいじだい【弥生時代】日本において弥生式土器*を用いたほぼBC300年からAD300年の時代をいう。前期(BC300～BC100)・中期(BC100～AD100)・後期(AD100～AD300)の3期に分けられ，前期は縄文(じょうもん)時代*に続き，後期は古墳時代*に先行する。前期には東南アジアを原産地とするイネが南シナから南朝鮮を経て北九州に伝わり，水稲栽培が西日本一帯からさらに中期には東日本に波及し，AD300年ころまでには東北地方にも進み，いままでの自然採集経済から全国的に生産経済へ移行した。中でも大和(やまと)地方(奈良県北部)は最も水稲栽培が発達した地域で，北九州と並んで弥生文化の中心となった。前期の農耕には石包丁のような石器*のほか，鉄製工具で加工された木製品がしばしば発見されるので，すでに大陸から鉄器*が伝来していたと推定され，また紡錘車*の発見からそのころに紡織技術も始まっていたと推定される。中期になると青銅器*が大陸から伝来されるようになった。そのうち細形の銅剣*・銅鉾*(どうほこ)・銅戈(どうか)が北九州の各地から多数出土するが，これらは実用品として用いられたのではなく，被葬者たちが生前その権威を象徴する宝器として使用したものであろう。なお，わが国には独立した青銅器時代*は存在せず，生産や生活には鉄器と石器が用いられ，弥生時代は金石併用時代と称されている。後期になると北九州を中心に広形の銅剣・銅鉾・銅戈が，近畿(きんき)を中心に銅鐸*(どうたく)が国産されるようになり，石器は減じ，鉄器が普及するようになった。

弥生時代の農耕集落としては，唐古(からこ)遺跡*・登呂(とろ)遺跡*が発掘され，ことに登呂遺跡では大規模な水田跡が発見されて，当時の農耕の状態が明らかにされた。人々は谷間や低湿地に水田を開き，その付近に定住するようになり，収穫した稲は集落の中に高床倉庫を設けて保管した。農耕の発達に伴って，人々の間には貧富の差が発生し，農耕儀礼の司祭者を首長として社会に階級・身分の分化がみられるようになった。AD100年前後にはわが国に100余の小国家が存在していたことが《漢書》の地理志に記され，これら小国家の国王の中には北朝鮮の楽浪郡*に入貢する者もいて，わが国と大陸国家との交渉が始められていた。弥生時代末のわが国情については《魏志倭人伝*(ぎしわじんでん)》にかなり詳しく伝えられている。同書によると，AD200～300年ごろには小国家の間に統合の気運が生じ，その統合体である邪馬台(やまたい)国*にはかなりはっきりした階級社会が成立していたようである。しかし銅鐸分布圏の中心であった近畿地方の政治状態から，やがて次代の大和国家*へ発展していった政治過程については，現在のところまったく明らかにされていない。〔高崎徳次〕

やようし【耶揚子】⇨ヤン-ヨーステン

やり【槍】鑓・鎗とも書き，刺突をもっぱらとする武器。古代の鉾(ほこ)から進化したらしいが，刀剣と同じく茎(なかご)を有

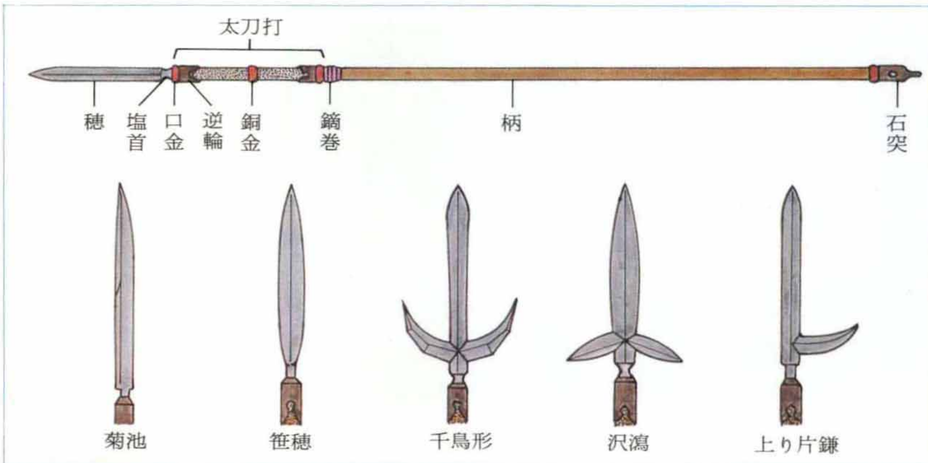
して柄に差し込む点，それのない鉾と相違する。

【種類】身や柄の特徴によって数種類に分かれた。身は片面だけでなく，両面に鎬(しのぎ)を立てたひし形のもの，穂先を鋭角にせず，鈍角につくった〈銀杏穂(ぎんなんぼ)〉というのもある。穂の長さは約6～18cmから約90cmに及ぶものもあるが，ふつう刃の長さは約18～21cmである。この単純な一本身のものを〈素槍〉といい，穂の長いのを〈大身の槍〉といった。素槍のほか，相手の得物をからめるため，けらくびに近く横手を出して身と十文字をなしたものは〈十文字槍〉といい，その横手を鎌(かま)のように湾曲させたのを〈鎌槍〉といった。鎌型の片方だけのもあり，これは〈片鎌槍〉といった。しかし十文字槍は敵を突くのにじゃまなので，身は素槍のままで柄の銅輪のところに鉄製の鈎(かぎ)を，十手のようにつけた〈鈎槍〉がある。柄はアカガシなどかたい木を用い，あるいはまた割り竹を魚膠(にれ)で練りつけた〈打柄〉をも用いた。長さは身を入れて約1.8～2.1mのものを〈手槍〉〈物見槍〉といい，約3.6～5.4mに及ぶものを〈長柄槍〉，略して〈長柄〉といった。

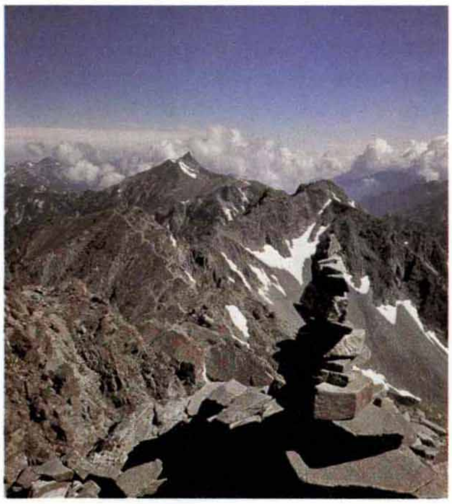
【槍の格式】槍は1335年(建武2)三井寺合戦(がっせん)のときにはじめて用いられ，応仁(おうにん)の乱で足軽が徒歩戦の主役になると，有力な武器として普及した。特に戦国末期の集団戦闘ではそろいの長柄を持つ足軽組が戦勢を決した。騎馬武者も槍を使ったとみえ，《雑兵物語》には槍持ち足軽の記述がある。江戸時代には槍が代表的武器に昇格し，〈道具〉の称は槍をいうものとされた。また鞘(さや)を黒塗りや鳥毛・虎皮(こひ)で飾り，それを諸家の格式や標識とした。なお，槍術(そうじゅつ)には念流・新陰流・宝蔵院流など数十がある。〔稲垣史生〕

やりいか【槍烏賊】軟体動物・頭足類・ジンドウイカ科。胴長45cm，幅6cmほどのイカ。胴は細長い円錐(えんすい)形で，後端は鋭くとがる。背側のひれは広い三角形で胴の3分の2を占める。また腹側正中線には稜(りょう)がある。頭は小さい。腕も短く胴長の4分の1にすぎない。北海道から九州，さらにインドネシアまで分布する。春季，産卵のため沿岸に接近して漁獲され，水産上重要な種である。卵は長径3mmで，30～60個を長い寒天質の卵塊として海藻(かいそう)に付着させる。生食のほか，するめにする。ササイカ・サヤナガテッポウ・ツツイカ・シャクハチイカ・テナシなどの方言がある。〔波部忠重〕

やりがたけ【槍ケ岳】長野・岐阜の北部県境，飛騨(ひだ)山脈(北アルプス)中央やや南寄りにそびえる。標高3,180m。鋭いピラミッド形の尖峰(せんぽう)はわが国高山の代表として，日本アルプスの象徴となっている。山頂から四方に北鎌(きたかま)・西鎌・南鎌・東鎌の各尾根が延びて，北アルプス主要縦走路の十字路となり，特に東鎌尾根は最も一般的な縦走路として，〈アルプス銀座〉ともよばれる。山頂部の標高約2,500m以上には氷食地形が発達し，槍沢(梓(あずさ)川)，天上沢・千丈沢(高瀬川)，蒲田(かまた)川右俣(みぎまた)(高原川)などの氷食谷がある。中部山岳国立公園に属する。〔高野　繁〕



槍



槍ケ岳　穂高連峰からの槍ケ岳遠望。槍ケ岳の尖峰から手前へ，中岳・南岳・北穂高岳へと続く。遠景左は立山・剣岳方面



やり投げ　助走の勢いを殺さないようにして投げきる　1972　第56回日本陸上競技選手権大会

やりつあほき【耶律阿保機】(872～926) 中国，遼(りょう)の創建者。太祖。契丹(きったん)族，迭剌(てつらつ)部の出身。在位は916～926年で，この間に外モンゴルから東トルキスタンまでの諸部族を平定し，中国征服の基礎をつくった。

やりつそざい【耶律楚材】(1190～1244) モンゴル帝国創業期の功臣。契丹(きったん)人でさきに金朝に仕え，中国的政治・文化に通じ博学であった。彼は遊牧国家と農耕国家の特質をよくわきまえ，中国本土が牧地になるのを防ぐとともに，税制を整備して多大の国家収入を確保した。ジンギス汗・オゴタイ汗の2代にわたり信任された。

やりつたいせき【耶律大石】(？～1143) 西遼(せいりょう)の創建者。在位1132～1143年。中国を支配したモンゴル系の遼朝が滅亡する際に，王族の耶律大石は西へのがれ，西遼国(カラ-キタイ朝)を建てた。チュー河畔を根拠に西トルキスタン諸国に戦勝し，イスラム勢力に対抗した。彼の西進はのちにみられるモンゴル族の西方拡大の先駆といえる。

やりなげ【槍投げ】陸上競技の投擲(とうてき)競技の一。その起源は非常に古く，古代オリンピックでも行なわれた。30～36.5mの助走路を走って肩か腕の上からやりを投げ，飛距離を競う。やりは金属製の穂先，金属製または木製の柄からなり，男子用が長さ2.6～2.7m，重さ800g以上，女子用が2.2～2.3m，600g以上となっている。投法には北ヨーロッパ型・クロス型・ホップ型などがあるが，背面が投げる方向に向くように身体を完全に回転させることや，振り回して投げることは禁じられている。伝統的にフィンランドが強く，最近では，ソ連・ノルウェー・アメリカ合衆国からも好選手が輩出している。〔伊東春雄〕

ヤルタ［Yalta］ソ連，ウクライナ共和国南部にある港市。人口54,000(1965)。クリミア半島の南端に位置し，温暖な地中海的気候下にある。醸造・魚肉かんづめなどの工業や撮影所がある。ソ連の代表的な保養地として知られ，サナトリウム・ホテル・



ヤルタ会談　左から チャーチル・ルーズベルト・スターリン

医療関係の研究所などがある。ギリシアの植民地に起源をもつ古い町で，1945年２月，南郊のリバデアで，ルーズベルト・チャーチル・スターリンらによる第２次世界大戦終結のための〈ヤルタ会談*〉が開かれた所として有名。〔斎藤晨二〕

ヤルタかいだん　**［ヤルタ会談］**　1945年２月，クリミア半島のヤルタでルーズベルト・チャーチル・スターリンのアメリカ・イギリス・ソ連の３国指導者間で行なわれた会談。国際連合の設立と安全保障理事会での投票様式(拒否権)，ドイツの無条件降伏と第２次世界大戦の戦後処理(分割占領・軍備撤廃・賠償，戦犯の処理)を討議し，また，秘密協定でドイツ降伏後３か月以内にソ連が対日参戦すること，南サハリン(樺太(からふと))・千島のソ連帰属，大連(現在旅大)の国際化，旅順の租借権返還，満州における中国の主権承認，モンゴル人民共和国の現状維持・永久独立などが決定された。〔折井一彦〕

ヤルート(島)　［Jaluit］　中部太平洋，マーシャル諸島中の最大の島。面積約10km²。人口約1,300。長さ60km，幅34kmの大サンゴ環礁で，約50の環状に並んだ岩礁からなり，南東部に良港のジャボールがあり，住民もここに集中している。住民はカナカ族。コプラが主産物である。現在はアメリカ合衆国の信託統治領。

ヤロスラフ(１世)　［Yaroslav］(978～1054)　ロシアのキエフ公国の大公。在位1019～1054年。ウラジーミル１世の三男で，賢公とよばれた。父の在世中からロストフ・ノブゴロドを治め，大公としては領土の拡大に積極的で，1043～1046年ビザンチン帝国と戦った。外交上ビザンチンの影響から脱却，キエフ公国の地位を向上させ，ヨーロッパ有数の地位を占めた。キリスト教化の進行とともにビザンチン文化の影響が強まり，文化の高さと強大さにおいてキエフ公国の位置は飛躍的に高まった。彼によりロシア法典《ルースカヤ-プラウダ》の最古の部分が編集され，封建秩序の骨格が定まった。〔山県弘志〕

ヤロスラブリ　［Yaroslavl']　ソ連，ヨーロッパ-ロシアの北部にあるヤロスラブリ州の州都。人口51万7,000(1970)。モスクワの北東，ボルガ川上流の河港で，鉄道・道路の交差する交通の要衝である。自動車・紡績・機械・ゴム・皮革などの工業が盛ん。農業・工業・医学などの単科大学がある。1024年に建設の起源をもち，市内には多くの歴史的建造物が残っている。

やわた　**［八幡(市)］**　京都府綴喜(つづき)郡の市。人口64,000。木津川・宇治川・桂(かつら)川が合流して淀(よど)川となる地域の南岸に位置する。石清水八幡宮*(いわしみずはちまんぐう)の鳥居前町として古くから栄えた。京阪(けいはん)電鉄・国道１号線・枚方(ひらかた)バイパスが通り，京都と大阪の中間として宅地化が急速である。産業三大別人口比6:37:57。

やわたはま　**［八幡浜(市)］**　愛媛県南西部の市。人口44,000。戦国時代には宇都宮房綱(うつのみやふさつな)の萩ノ森(はぎのもり)城があり，江戸時代は近海漁業の基地となり，明治以後は繭・生糸の集散地として活況を呈した。1935年(昭和10)市制施行。西は宇和海に面し，三方を山地に囲まれる。産業三大別人口比は25：24：51。八幡浜港は溺(おぼ)れ谷*による天然の良港で，トロール漁業の基地となり，タイ・ハモ・アジなどの水揚げが多く，かつお節・するめ・煮干し・かまぼこ・ちくわなどの水産加工が盛んである。製糸・織布・染色などの繊維工業が発達して南予機業の中心地となる。周辺山地では，ミカン・ナツミカンなどのくだものも栽培される。予讃(よさん)本線・国道56号線・197号線に沿い，対岸の大分県別府・臼杵(うすき)とそれぞれフェリーボートが通じる。1968年には佐田岬(みさき)半島西端の三崎と対岸の大分県佐賀関(さがのせき)を結ぶフェリーボートも開通した。大島海浜公園・愛宕(あたご)公園・出石(いずし)寺などの名所史跡があり，佐田岬半島の観光基地となる。

ヤング　［Thomas Young］(1773～1829)　イギリスの医者・物理学者・考古学者。ミルバートンの生まれ。ロンドン・エジンバラ両大学で古典語・古代東方学・数学・自然科学を修めた。のち医学を志し，1796年ゲッチンゲン大学に学んだ。1799年ロンドンで医師を開業するとともに，1801年より王立研究所の自然哲学教授。著書《自然哲学講義》(1807)はその際の講義をまとめたものである。医師としての感覚生理的研究から音や光の研究に向かい，ニュートンの理論と矛盾しないことを強調しつつ，光の波動説を主張。さらに光が横波であることをはじめて唱え，光の本性の研究に貢献した。また，1807年弾性*体についてのヤング率を定義し，エネルギーという語をはじめて使った。このほか，生物発光現象・乱視の発見などの研究もある。考古学者としてエジプト学の研究にも通じ，1814年ロゼッタ石を完訳して象形文字・アルファベットの解釈に大きな進歩をもたらした。晩年は生命保険の仕事に従事。〔藤村　淳〕

ヤング　［Victor Young］(1900～1956)　アメリカの作曲家・指揮者。シカゴの生まれ。幼いときヨーロッパに渡りワルシャワ音楽院で学び，バイオリニストとなった。1920年帰国，無声映画の伴奏，放送などで活躍したのち，自分の楽団を結成。1935年親友ビング-クロスビーの主演映画《海は桃色》の音楽を担当してから，映画音楽の巨匠となり，300余作品を手がけた。雄大で甘いメロディーとムードが特徴で，遺作《80日間世界一周》はアカデミー映画音楽賞を受賞。指揮者としても《エデンの東》はじめ好盤を多数残している。〔鈴木道子〕

ヤングあん　**［ヤング案］**　第１次世界大戦後のドイツの賠償問題に関する解決案の一。ドーズ案*の成立以来，ドイツは年々賠償支払いを実行してきたが，外債の増加に伴いドーズ案も行きづまった。そこで1929年アメリカ合衆国のヤングを委員長とする専門委員会がドーズ案を修正して本案を立案したもので，翌年正式に採択された。その結果，ドイツの賠償額は一挙に358億金マルクに引き下げられたが，たまたま起こった世界恐慌によってこれも実行不能に陥り，1932年のローザンヌ会議*でさらに修正を余儀なくされ，賠償額は大幅に削減された。〔松　俊夫〕

ヤングズタウン　［Youngstown］　アメリカ合衆国，オハイオ州東端の工業都市。人口16万5,000(1966)。マホニン川に臨み，鉄鉱・石炭・石灰石の豊富な産地を背景として，鉄・鋼・機械工業が盛ん。

ヤングのじっけん　**［ヤングの実験］**　1801年光の干渉性を示すためにT.ヤング*が行なった実験。不透明な薄板に接近した二つのピンホールをあけ，これに点光源からの光をあてると，後方のスクリーン上にピンホールから出た光が干渉し合って生ずる縞(しま)模様を観察したもの。光の波動性を立証した実験として有名。

ヤングりつ　**［ヤング率］**　⇨弾性

ヤンシャオいせき　**［仰韶遺跡］**　⇨ぎょうしょういせき

ヤンソン　［Tove Jansson］(1914～　)

フィンランドの童話作家。悲しみをおびたユーモラスなトロール(北ヨーロッパの妖精(ようせい))のムーミン一家を中心とする一連の幻想物語によって世界的な人気作家となる。スウェーデン系。ヘルシンキの芸術家夫妻の家に生まれ，画家として出発，絵本《小さなトロールと大洪水(こうずい)》(1945)の出版からさし絵を自身で描く作家となった。絵本《さて，それから？》でニールスホルゲルソン賞(児童文学賞)を，《トロールの冬》のさし絵でエルサーベスコウ賞(童画家)を受け，一連のムーミン物語で国際アンデルセン大賞(過去2年間における世界の最優秀児童図書に与えられる賞)を受けた。〔鈴木徹郎〕

ヤンチン【洋琴】 チター系の弦鳴楽器。中国の楽器であるが，朝鮮の洋琴(ヤンカム)，日本の明清楽(みんしんがく)における洋琴のほか，モンゴルなど東アジア一帯にも広く分布する。台形の平たい箱の上に，大形では76本，小形では14本など種々の弦数の金属弦を取り付けて駒(こま)を立て，しなやかな2本の竹棒で打って鳴らす。アラビアのカーヌーン，ペルシアのサントゥール，ヨーロッパのダルシマーそのほか類似の楽器が多い。〔山口　修〕

ヤンパン【両班】 朝鮮，高麗(こうらい)および李朝(りちょう)で文武の官僚に任ぜられた特権階級。ヤンパンは朝鮮音で，〈りょうはん〉ともいう。文班(東班)と武班(西班)とに分かれ，地方では留郷所，中央では京在所を組織して，高位高官を専有した。彼らはまた広大な荘園(しょうえん)をもつ不在地主で，常民および賤民(せんみん)にその土地を耕作させた。両班と常民の間に位する階級を中人という。

やんま【蜻蜓】 こん虫類・トンボ目・不均翅(ふきんし)亜目のうち，ヤンマ科とオニヤンマ科に属するトンボの総称。いずれも大形の種類ばかりを含んでいる。ヤンマ科は全世界に約250種が知られ，日本には約20種が分布する。体の色彩は変化に富み，しばしば光沢の強い青・緑・黄色などの斑紋(はんもん)をもつ。成虫は昼間池沼など水辺で活発に飛翔(ひしょう)するものや，夕暮れや早朝に活発に活動するものがあり，また平地に多いものや山地の渓流(けいりゅう)に多いもの，高地の湿地に生活するものなどがある。幼虫はいずれもそうした地域の水中に生活する。日本に産する代表的な種類には，ギンヤンマ・クロスジギンヤンマ・カトリヤンマ・コシボソヤンマ・ミルンヤンマ・ルリボシヤンマ・ヤブヤンマなどがある。オニヤンマ科は全世界から約30種が知られ，特に熱帯地方に種類が多く，日本には，オニヤンマ・ミナミヤンマなど3種が分布するにすぎない。いずれも体は黒地に黄色の斑紋がある。オニヤンマは日本産ヤンマ類中最大の種で，体長90mm，翅(はね)を広げた長さ150mm内外に達するものがあり，夏季森林地帯の林道上を往復するものが多くみられる。なお，ヤンマ類は，初夏から初秋にかけて出現する種類が多いが，クロスジギンヤンマのように4～6月の春季にだけ出現するものもある。また，休止時に樹陰などの突出した枝などに下垂するのは，他のトンボ類と異なるヤンマ類の特徴である。また，1世代に数年を要する種類が多い。➔ギンヤンマ　➔カトリヤンマ〔鈴木邦雄〕





ヤンマ ①ヤブヤンマ ②オニヤンマ ③ギンヤンマ ④オオルリボシヤンマ





ヤン-ヨーステン［Jan Joosten van Lodensteyn］(1557ごろ～1623) オランダ人船員。1600年オランダ船リーフデ号に乗ってW.アダムズ(日本名，三浦按針(あんじん))らとともに豊後(ぶんご)(大分県)に漂着し，以後日本にとどまり，江戸幕府から江戸・長崎に宅地を賜わって外交関係の顧問役となった。イギリス・オランダが平戸に商館を開設するとその貿易にも関与し，また幕府から朱印状を得てシャム・パタニ・交趾(こうし)・トンキン・カンボジアなどとも交易した。のち帰国を志し，1622年，いったんバタビアに渡ったが目的を達しえず，日本へ帰航の途中難破して没した。〔船越昭生〕

ゆ

ゆあさ【湯浅(町)】 和歌山県西部，有田郡の町。人口17,000。紀伊(きい)水道の湯浅湾に臨む。江戸時代は港として栄えたが，紀勢本線が通じてからはその機能を失った。ミカンの栽培としょうゆ醸造業が盛ん。

ゆあさじょうざん【湯浅常山】 (1708〜1781) 江戸中期の儒学者。備前(岡山県)の人。名は元禎(もとよし)，字(あざな)は士祥，通称新兵衛。幼少のころ《源平盛衰記》《太平記》など戦記文学を耽読(たんどく)し，江戸に出て徂徠(そらい)派の儒者服部(はっとり)南郭・太宰(だざい)春台に学ぶ。24歳のとき家を継ぎ池田侯に仕えて岡山藩政の要職を歴任したが，生来潔癖で直言をはばからず厳正であったため，62歳ついに蟄居(ちっきょ)の身となり，以後著述に専念した。国文・国史・兵法にも通じ，特に武術を愛好した。著書《常山紀談*》《文会雑記》。〔小田 博〕

ゆあさはんげつ【湯浅半月】 (1858〜1943) 詩人・聖書学者。本名吉郎。群馬県の生まれ。同志社神学部卒業。学友の池袋清風について和歌を学び，1885年(明治18)卒業式席上で朗読した新体詩《十二の石塚(いしづか)》が著名。その後アメリカ合衆国へ渡り，ヘブライ語を学び，帰国後同志社大学教授，牧師などを歴任。わが国の近代図書館学の先駆としての役割も果たした。詩集《半月集》がある。

ゆい【結】 各家間で結ばれる労力の交換。催合(もやい)がおもに漁村で行なわれる協働形態であるのに対し，これは農村で田植えや収穫・屋根替えなど，一家独力では困難な仕事の際に結ばれる。これを結ぶのは隣近所など地縁関係が多いが，本来は族縁関係に起こったと考えられる。地方により〈いいこ〉〈いい〉〈ええ〉などという。

ゆい【由比(町)】 静岡県中東部，庵原(いはら)郡の町。人口12,000。駿河(するが)湾に臨む。江戸時代には薩埵(さった)峠東麓(とうろく)の東海道の宿場町として栄えたが，東海道本線が開通してからは衰えた。現在はミカン・ビワの農産とサクラエビの水産があり，食品加工も行なわれる。

ユイグ［Revé Huyghe］ (1906〜) フランスの美術批評家・美術史家。ルーブル美術館の専門技官としての豊かな実地研究と明晰(めいせき)な分析的論理の総合の上に，独自の〈造形芸術心理学〉を構築している。特にフランス近世・近代絵画の権威でもある。ルーブル美術館名誉部長，アカデミー=フランセーズ会員。著書に《見えるものとの対話》《芸術と魂》などがある。

ゆいごんししゅう【遺言詩集】 ビヨン*の詩集(1462)。なかば無頼漢同然であった詩人が，苦しい人生経験に基づく怨恨(えんこん)・屈辱・失恋の情などを哀切な調べで告白したもので，中世叙情詩の傑作とされる。鋭い映像喚起力で，死の観念へのおそれと人間の宿命への深い洞察(どうさつ)が歌われ，過ぎし日の美女を歌ったバラードの中のくり返し句〈去年(こぞ)の雪，いまは何処(いずこ)〉は特に名高い。

ゆいしき【唯識】 すべての実在は，心の本体の動きを離れてはないという仏教の重要な一学説。仏教は，煩悩(ぼんのう)が心の無知から生じるもので，それを断って悟りを求めることを目的としており，本来唯識的であるが，この学説は特に細かに識の作用を理論づけるので，唯識といわれ，法相宗の教義となっている。心の本体が働くとき，三種の姿が考えられる。第1の根本となるものを阿頼耶識*(あらやしき)とし，すべての迷悟を生じる潜在要素がある。第2に，さらにその阿頼耶識から，迷いの我執を起こす心の作用である末那識(まなしき)がある。第3は，日常の心の作用で，眼識・耳識・鼻識・舌識・身識・意識*の六で，それぞれ，色・声・香・味・触・法の対象を認識する。この第3の心の認識するものを，第2の迷いの認識が誤ってとらえ，第1の根本識により，虚構や主観・客観を対立させたり差別するなどの迷いの世界と認識される。しかし，その根源は第1の根本識であるから，迷いの認識を離れ知性に帰れば，根本識は智(ち)に働いて悟りへと進む。唯識説は，これを目的とする。〔真野龍海〕

ゆいしきさんじゅうじゅ【唯識三十頌】 5世紀ごろバスバンドゥ*(世親)の著になる仏典。1巻。唯識説の大綱を30の詩偈(しげ)にまとめたもので，《唯識二十頌*》とともに唯識説の基本的哲学書。〈世界は観念(阿頼耶識*(あらやしき))だけで外界は実在しないのに，なぜ外界が現われるのか〉という疑問に答えて，阿頼耶識の転変の状態を述べ，暗い分別を捨てて，いっさいは唯識であると悟る実践法を説いたもの。著者自身によって多くの注釈が付せられているが，後代の安慧*(あんね)と護法*の注釈が重視されている。〔大南龍昇〕

ゆいしきにじゅうじゅ【唯識二十頌】 5世紀ごろ，バスバンドゥ*(世親)の著になる仏典。〈唯識二十論〉ともいう。1巻。インドの唯識学派の哲学を20の詩偈(しげ)にまとめたもので，《唯識三十頌*》と表裏をなす。〈世界はすべて観念のみである(三界唯識)〉と主張し，認識の対象である外界が実在するとする諸説を批判している。自説に対する小乗仏教あるいは仏教以外の学派からの反論・疑問を予想し，それに答える形式で書かれ，さらに著者自身の簡潔な注釈が付されている。〔大南龍昇〕

ゆいしょうせつ【由井正雪】 (1605〜1651) 江戸初期の軍学者。由比とも書く。駿河(するが)(静岡県)由比の生まれという。楠木正成*(くすのきまさしげ)の子孫と称し，江戸に出て軍学の塾(じゅく)を開いたが，その前半生は明らかでない。軍学者として名声があがり，多くの旗本(はたもと)・藩士を集め，また大名の中には招いてその講義を聞く者もいた。1651年(慶安4)3代将軍徳川家光(いえみつ)の死を機として，丸橋忠弥*(ちゅうや)らの弟子(でし)と幕府転覆を図ったが(→慶安事件)，計画は事前に発覚し，挙兵の総指揮をとるため駿府(すんぷ)(静岡市)に止宿中，幕吏に包囲されて自殺した。〔高崎徳次〕

ゆいしんろん【唯心論】 世界の根源は本質的には精神的なもの(霊魂・精神・理性・意志)であるとする学説。認識論上の観念論*が形而上学(けいじじょうがく)的な意味に用いられる場合に唯心論とよばれ，唯物論*に対立する。プラトンのイデア*論，プロチノスの〈一者〉からの万物の流出，教父哲学，スコラ哲学，ライプニッツのモナド*，ドイツ観念論，メーヌ=ド=ビランの意志，ラベソン=モリアンの生気，ベルグソンのエラン=

ビタール，朱子学の大極すなわち理，陽明学の理気合一論など，種々の傾向がある。なお，これはさらに主知主義と主意主義とに分けられる。〔中川　誠〕

ユイスマンス［Joris Karl Huysmans］(1848～1907)　フランスの小説家。自然主義小説《マルト》によってゾラに認められたが，やがて《さかしま》《彼方(かなた)》によって人工美から悪魔主義へと転じ，さらにキリスト教に改宗，《大伽藍(だいがらん)》などを書いた。また美術評論でも特異な才能を発揮。《さかしま》は象徴主義の開花を準備したことで知られる。

ゆいのう【結納】 新しく婚姻関係を締結するにあたって，共同飲食することおよび共同飲食の品をいう。本来の意味は結の物(ゆいのもの)すなわち，婚姻両家が新しく姻戚(いんせき)としての生活関係を取り結び，共同飲食のための酒肴(しゅこう)のことである。婿が結納品を嫁方に贈るのが現代のならわしとなっており，品物を贈る場合には5品とか7品とか，めでたい意味をもつこんぶ・するめ・塩鯛(しおだい)・串鮑(くしあわび)・カツオ，および酒などがその品物の内容とされる。また結納金を納めるという地方も多い。嫁方では婿方にその半額，あるいは若干の品物(羽織・袴(はかま)など)を贈る地方も少なくない。これは結局，婚約を意味しており，これによって公然と男女の交際をすることが認められる。現在は婚約指輪を男性から贈るなどして，婚約の印とする例がふえてきた。〔渡辺欣雄〕

ゆいびしゅぎ【唯美主義】 美を唯一・最高の目的とする態度。耽美(たんび)主義ともいう。芸術思想としては，芸術至上主義の一つとして19世紀後半に起こった。ヨーロッパでは，ポー・ボードレール・ゴーチエ・ワイルドらをその代表者とする。精神よりは官能を，自然よりは芸術を，内容よりは形式を重視し，美を真実・善よりも高いものとみなし，しばしば異常を尊んだ。そのため享楽主義・悪魔主義に傾くことが多い。日本では，明治30年代よりヨーロッパの影響下に，美を至上とする芸術家とその作品が現われ，《明星》《スバル》などの雑誌を中心に，北原白秋・木下杢太郎(もくたろう)・吉井勇(よしいいさむ)らの活動がある。上田敏の小説《うづまき》は，日本の唯美主義の理論を説くもので，また永井(ながい)荷風・谷崎潤一郎の作品は，唯美主義の代表的なものとされる。〔田島　修〕

ゆいぶつしかん【唯物史観】 ⇨史的唯物論

ゆいぶつべんしょうほう【唯物弁証法】 ⇨弁証法的唯物論

ゆいぶつろん【唯物論】 ドイツ語のマテリアリズムの訳。存在論的には，〈精神と物質のどちらが根源的な実在か〉という問いに対して物質をとる立場をいい，精神を根源的実在とする観念論と対立する。認識論的には，物質がわれわれの意識から独立に存在し，われわれの認識は精神の自由な創造ではなく頭脳が客観的実在である物質的世界を反映・模写することによって成立するとする立場である。したがってより一般的にいえば，人間精神および意志，人間歴史の経過をも含めて，あらゆる事実の原因は物質的諸過程による，あるいはそれに還元できるとする考え方。さらに拡大すれば人生における究極的なものを物質的なものとする世界観である。ごく通俗的な〈唯物(ただもの)主義〉ともいうべき低次のものからマルクス主義の背柱をなす弁証法的唯物論までその諸次元と歴史的諸相がある。

タダモノ主義は倫理的唯物論ともいい，物質的欲望の充足を人生のすべてと考え，個人的幸福の達成のために暖衣・飽食・肉欲・虚栄・金銭などの感覚的欲望を追い求める立場で，しばしば哲学的唯物論がこのような低次なものと混同されることがある。哲学的唯物論は，歴史的にはすでに古代ギリシアにタレスが〈万物は水である〉といい，ヘラクレイトスが〈火〉というとき，その萌芽(ほうが)がみられる。デモクリトスに至って〈アトム論〉として一つの体系的唯物論となり，エピクロスもこの立場に立った。しかし，古代ギリシアの哲学には思惟(しい)と存在との対立はなく，近代的唯物論とは異なるところから〈素朴(そぼく)唯物論〉とよばれる。中世ではキリスト教会の支配の下に唯物論は影を潜めたが，中世末期にはイデア(一般概念)の実在性についての唯名論と実在論との対立論争(→普遍論争)において，イギリスのスコラ哲学の唯名論者が唯物論的な立場をとった。近世唯物論はイギリスのF.ベーコンをもって始まり，ホッブズ・ロックを経て思惟と感覚の分裂を含みながら内容を深めつつ展開し，イギリス経験論をなした。一方フランスでは，近代唯物論はデカルトの身心二元論にその起源をもち，スピノザもその神学的表皮を奪ってみれば，その汎神(はんしん)論はデカルトの唯物論的展開として考えられる。この大陸の合理論的系譜の発展とイギリス経験論との合体によってフランス唯物論が形成され，後者の強い影響をうけたものは政治的な活動としてドルバック・エルベシウスへと連なり，また前者の影響の下には〈機械的唯物論〉として，当時のフランス自然科学と結合してラ・メトリ・ディドロらのいわゆる百科全書派を形成した。イギリスの経験論者が種々の理由から宗教に対して妥協的であったのに対して，フランスの唯物論者は一般にはるかに徹底して無神論的であって，人間も他の生物や無生物と同じく物質的機械と考え，人間活動の全分野を数学と力学によって説明しようとした。19世紀半ばに至って，このフランスの機械的唯物論をダーウィンの進化論によって修正したと称するフォークトや，思惟は客観的存在の反映ではなく頭脳の分泌物であるとするモレスコット・ビューヒネルらの主としてドイツの医師・動物学者らによる〈下半身だけの〉唯物論が主張された。これは機械的唯物論に対して，〈生物学的唯物論〉とよばれている。これと異なり，これに少し先だってフォイエルバッハはヘーゲルの観念論哲学を批判して〈前弁証法的〉唯物論を主張，絶対精神の外化としての自然ではなく，客観的で感性的直観の対象としての自然を考え，人間を単に理性的存在としてのみではなく，全体性においてとらえることによって唯物論の発展に大きな寄与をした。さらにマルクス・エンゲルスは社会科学の発達を背景にして，このフォイエルバッハの唯物論から形而上(けいじじょう)学的性格を払拭(ふっしょく)し，ヘーゲルの弁証法の観念論的形態を打破して，今日のマルクス主義の世界観・哲学である〈弁証法的唯物論〉を形成した。〔豊福英利〕

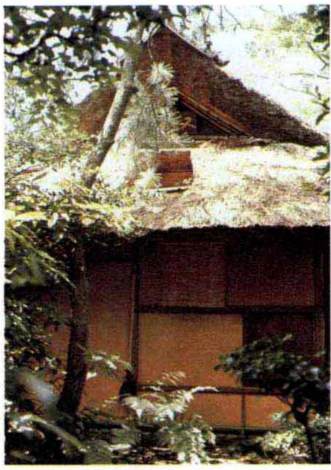
ゆいまぎょう【維摩経】 初期大乗経典の一。維摩居士(こじ)が主人公である。彼はインドのバイシャーリーに住む在家の仏教者であるが，大乗仏教の空・不二の思想を体得しており，その舌鋒(ぜっぽう)の鋭さによって伝統説を固執するブッダの高弟たちを震え上がらせた。サンスクリット原典は失われたが，チベット訳や漢訳があり，漢訳の中では鳩摩羅什(くまらじゅう)訳の《維摩詰所説経》が最もよく読まれた。注釈書も多く書かれたが，聖徳太子の撰述(せんじゅつ)とされる《維摩経義疏(ぎしょ)》が有名。〔岡部和雄〕

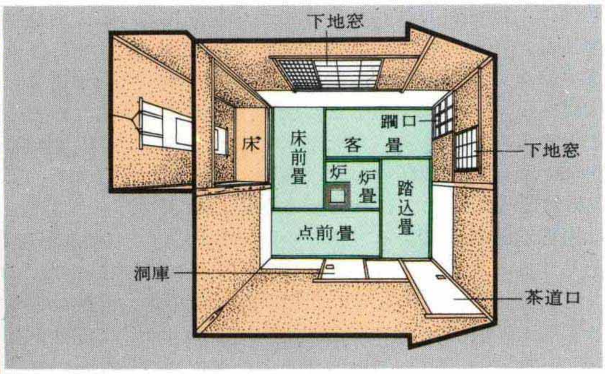
ゆいめいろん【唯名論】 ⇨普遍論争

ゆいわた【結綿】 未婚女性の日本髪の髪形。結綿(真綿の中央を結びたばねたもの。祝い物に用いた)の形に似ているのでこの名がある。18～19歳の娘が結う髷(まげ)で，島田髷に赤い鹿(か)の子絞りの手絡(てがら)をかけたもの。江戸末期，つぶし島田に緋縮緬(ひぢりめん)をかけるのが流行し，町家の娘から遊芸関係の女性にまで広まったが，明治以降は若い娘，ことに下町娘に愛用された。

ゆうあいかい【友愛会】 1912年(大正1)8月鈴木文治ら15名の労働者によって結成された団体。機関紙《友愛新報》を発行し，大逆事件以後沈滞していた労働・社会運動再開の役割を果たした。当初はキリスト教的人道主義に立って労使協調の色彩が強かったが，1913年以降労働争議の続発する中で，しだいに性格を変えていった。1918年には会員30,000，支部数約120の全国組織となり，1919年7周年記念大会で大日本労働総同盟友愛会と改称，理事合議制を確立して労働非商品の原則，労働組合の自由，8時間労働制などを主張し，本格的労働組合として発足した。1921年日本労働総同盟(総同盟)に発展。〔応和邦昭〕

ゆういん【又隠】 名茶席の一。京都市裏千家の家元邸内にあり，今日庵(こんにちあん)とともに同家の代表的茶室。不審庵を隠退した千宗旦(せんのそうたん)が，その横に今日庵を





又　隠　(左)躙口側(ひさし中央は突き上げ窓)　(右)茶室各部の名称

結び，さらに，それを四男仙叟(せんそう)に譲って，利休好みの四畳半を基本として建てたものといわれる。葛屋葺(かつらやぶき)で，庇(ひさし)に突き上げ窓を見せ，内部は四畳半本勝手・洞庫(どうこ)つき，躙口(にじりぐち)から正面に床を構え，天井は野根網代(のねあじろ)張り篠竹(しのだけ)押えと，化粧屋根裏の構成である。点前畳入隅(てまえだたみいりずみ)は楊枝(ようじ)柱(上部だけ現われ，下方を塗り回した柱)になっている。〔桑田忠親〕

ゆういんぶっしつ　**【誘因物質】**　⇨フェロモン

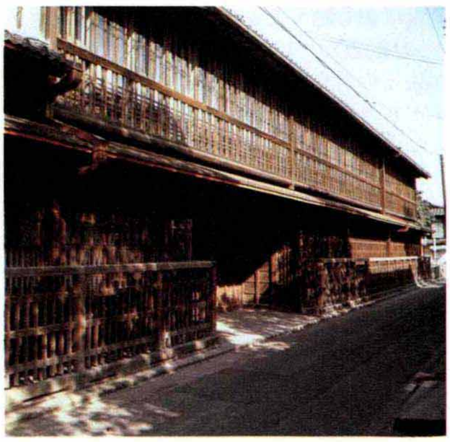
ユウェナリス［Decimus Junius Juvenalis］(60ごろ～130ごろ)　ローマの風刺詩人。ラチウムのアクイヌムに生まれたが，以後の経歴は不詳。《風刺詩集》16巻で大都市の退廃的な政情・物情に対する憤りを激越な調子で表現。特に成金商人や，古来のローマ的徳性を窒息させて軽薄と堕落の教師となりがちなギリシア人たちをやりだまにあげた。

ゆうかい　**【融解】**　固体が，熱せられて液体になる変化。結晶性固体の構成原子は規則的に配列しているが，温度が高くなるにつれて，原子の熱運動が激しくなり，ある温度に達すると規則的配列が破れ，流動性のある状態(液体)となる。このときの温度を融点という。融点は圧力に依存するが，その度合いは小さい。また液体の温度を下げると融点において凝固*し固体となるので，融点と凝固点とは等しい。融点において物質1gが融解するのに必要な熱量*を融解熱という。氷の場合，1気圧のもとで融点は0℃，融解熱は80calである。〔中野藤生〕

ゆうかいざい　**【誘拐罪】**　人を略取・誘拐する罪(刑法224～229条)。〈略取・誘拐〉とは，人を保護されている状態から引き離して，自己または第三者の事実的支配のもとに置くことで，暴行・脅迫を手段とする場合が略取，誘惑を手段とする場合が誘拐である。次の種類に分かれる。①未成年者拐取罪：未成年者を略取・誘拐する罪で，3月以上5年以下の懲役。②営利拐取罪：営利・猥褻(わいせつ)または結婚の目的で略取・誘拐する罪で，1年以上10年以下の懲役。③身代(みのしろ)金誘拐罪：身代金目当てに誘拐する罪(1964年新設)で，3年以上の懲役。④国外移送拐取罪・人身売買罪：前者は日本国外に移送する目的で人を略取・誘拐する罪，後者は日本国外に移送する目的で人を売買し，または被売者などを日本国外に移送する罪で，いずれも2年以上の懲役。⑤事後幇助(ほうじょ)罪：前各号の罪を幇助する目的で被拐取者・被売者を受け取ったり隠したりなどする罪で，3月以上5年以下の懲役。ただし身代金誘拐者を幇助した者は，1年以上10年以下の懲役。⑥被拐取者収受罪：営利・猥褻の目的で被拐取者・被売者を収受する罪で，6月以上7年以下の懲役。この場合身代金目当てで収受したときは，2年以上の懲役。未遂罪は，すべて罰せられるほか，特に身代金誘拐罪の予備は罰せられる。〔井上公耳〕



ユウガギク



遊　郭　京都島原の遊郭跡　京都市下京区

ゆうかいねつ　**【融解熱】**　⇨融解

ゆうがお　**【夕顔】**　双子葉植物・ウリ科。アフリカないしアジア熱帯原産のつる性の一年草で，全草，毛におおわれる。葉は心形で浅く掌状に裂け，互生する。7～8月，葉腋(ようえき)から花柄を伸ばし，白色花を1個つける。花が夕方から咲きはじめて翌朝閉じるのでこの名がある。果実は長さ50cmの円柱形で食用にする。果実が卵球形になる品種をフクベといい，径30～40cm，重さ10～20kgになる。果肉はかんぴょうとする。ヒョウタンは本種の変種である。

ゆうがお　**【夕顔】**　地歌・箏曲(そうきょく)の曲名。菊岡検校*(けんぎょう)の作曲した地歌曲を八重崎検校*が箏曲に合奏曲として編曲。今日では，地歌としても，三曲合奏としても演奏される。《源氏物語》第4帖(じょう)の〈夕顔〉を題材に短い歌詞にまとめたもので，手事が1回挿入(そうにゅう)されている。

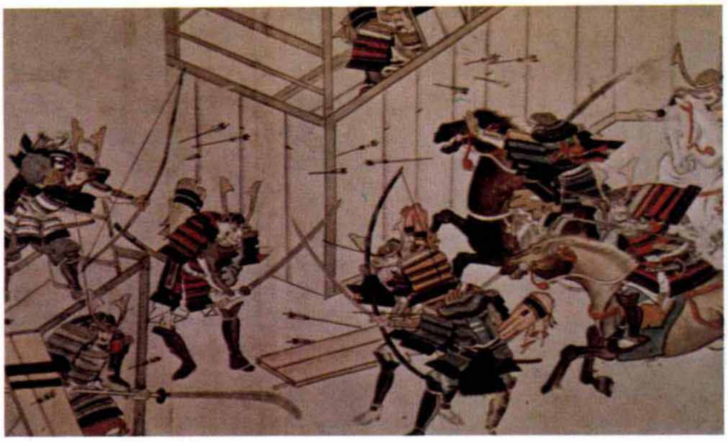
ゆうがぎく　**【柚香菊】**　双子葉植物・キク科。山野の陽地に自生する多年草で，伏枝をよく伸ばして繁殖する。茎は高さ40～150cmで，上部で分枝する。葉は互生し，長さ7～8cm，幅2～4cmで羽状に裂ける。7～10月，茎や枝先に径2～3cmの頭花をつける。舌状花は白・青・紫色で，筒状花は黄色である。

ゆうかく　**【遊郭】**　遊女屋が集団的に一郭をなしている場所。遊里・廓(くるわ)ともいう。ここには多くの遊女がいて都市生活の男たちの遊び場として栄えた。遊郭を一般都市社会から隔離するのは，治安風俗の取締りと私娼対策を便利にするもので，わが国では，中世末期に小規模な遊郭制がはじまり，江戸幕府にいたっていちおう整備された。幕府の公認遊郭として代表的なものは江戸吉原・京都島原・大阪新町・長崎丸山などがあり，また江戸品川などの宿駅は飯盛旅籠(めしもり はたご)屋として営業を認められていたが，それらの中でも規模の大きなものは一般に遊郭とみなされていた。そのほか私娼地(江戸では岡場所，大阪では島)でも，江戸深川や大阪島之内などの繁盛は公認遊郭に劣らず，等しく遊郭視された。

明治になると1873年(明治6)に発令した〈貸座敷渡世規則〉によってその営業は貸座敷営業指定地内に限ることとなり，従来の公認遊郭・飯盛旅籠屋・私娼街などはこれに移行した。この指定地は遊郭と俗称されたが地内に待合*(まちあい)を開くことは許されず，他の密売春地帯と区別された。昭和になると1946年(昭和21)の公娼廃止指令によって表面上は消滅したが，実際には，特殊飲食店などのいわゆる赤線地帯は旧遊郭と変わらなかったが，1958年の〈売春禁止法〉

の施行によって解消した。　〔合田　濤〕

ゆうかしょうけん【有価証券】私法上の財産権を表彰する証券で，その権利の利用（移転・行使）には証券をもってしなければならないもの。証券と権利の結合によって権利の利用を円滑安全にし，証券の流通性を高めることを目的とする。証券に表彰されている権利によって債権証券・物権証券・社員権証券などに分けられ，また権利者の表示方法によって記名証券・指図証券・無記名証券・選択無記名証券に分けられる。なお，証券取引法にいう有価証券は，国債証券・地方債証券・出資証券・株券などをさす（２条）。



結城合戦
《結城合戦絵詞》
（部分）

ゆうがとう【誘蛾燈】光により害虫を誘い，殺すことを目的とする防除装置。光源としては白色電球・螢光燈（けいこうとう）・水銀燈などを用い，その下に水を入れた水盤を置く。イネのニカメイチュウなどに対して使用されたが，農薬の進歩により今日ではまったく影を潜めた。しかし，光を利用する防除法は化学的防除法とは異なり，その限界を補う新しい観点にたった方法として，新技術の開発が期待される。

ゆうき【結城（市）】茨城県西部の市。人口50,000。治承年間（1177～1180）結城朝光（ともみつ）が築城して以来都市化が進み，江戸時代は水野氏一万八千石の城下町で，1000年余の伝統をもつ結城紬*（つむぎ）の特産で知られる。1954年（昭和29）市制施行。市域は関東平野の北部，鬼怒（きぬ）川西岸の平坦（へいたん）な沖積地（ちゅうせきち）と南部の結城台地を含み，南北に長い長方形で，北から西へかけては栃木県小山市と接する。産業三大別人口比は29：37：34。東部の鬼怒川・田川の合流点周辺に水田地帯が開け，台地上は，農家の副業として発達した養蚕が古くから盛んで，また全国一の桑苗の産地である。結城紬は年産約30,000反，その製法技術は重要無形文化財に指定されている。台地上にはハクサイ・カンピョウの生産も多い。そのほか，製糸・皮革などの工場があり，桐（きり）だんす・うどんなどの特産がある。水戸（みと）線・国道50号線が通ずる。

ゆうぎ【遊戯】一般に遊びといわれる活動それ自体を目的とする活動の総称。身体活動を含む遊戯は，子どもの活動欲求に満足を与え，筋肉を増強し，必要な運動の調整をもたらすとともに，内臓器官にも好影響を与える。また，子どもを社会化し，同志的感情を養う。すなわち，仲間とともに遊戯することにより，他人と自己との関係たとえば自分と仲間との類似や差異を知り，集団内でのみずからの位置と役割を認識し，帰属意識ないし所属感をもつようになる。また，絶対に自由であることの不可能を学び，満足な生活に対する協同の意義を教えられる。このような，遊戯のもつ教育的価値のために，各国において遊戯は重要な体育教材の一つとして，あるいは音楽教育や学校行事などにとり入れられている。〔河口道朗〕

ゆうきあいそうか【結城哀草果】（1893～1974）歌人。本名光三郎。山形県の生まれ。農耕生活のかたわら《文章世界》《生活と芸術》に短歌を投稿，《アララギ*》同人となる。歌風は質実，素朴（そぼく）で健康な生活歌を特色とする。1949年（昭和24）歌誌《山塊》を創刊・主宰。現在は《赤光》に力を注ぐ。歌集は《山麓（さんろく）》《すだま》《群峰》など。

ゆうきえんそざい【有機塩素剤】広義には，農薬のうち塩素原子の結合した有機化合物を総称するが，一般には殺虫剤をさす。代表的なものにDDT*・BHC・D-D*・ドリン剤（エンドリン・ディルドリン・アルドリンなど）などがあり，広義には2・4-D*なども含まれる。最も一般的に普及している農薬であるが，最近抵抗性害虫の出現や，残留毒性の問題が世論の関心を集め，使用が禁止あるいは制限されたものも多い。

ゆうきかがく【有機化学】有機化合物の性質・構造・製造法・反応などを研究対象とする化学の一分野。無機化学と対比して取り扱われてきた。自然界には無数の有機化合物が存在するが，有機化学はそれらの天然有機化合物を純粋に単離精製し，その構造を決定すること，および構造が決定された有機化合物を化学的に合成することに始まった。前者が今日でいう有機分析化学，後者が有機合成化学であり，有機化学の二つの大きな流れをなしている。特に有機合成化学の最近における進歩は著しく，天然有機化合物を利用するよりも安価で，しかも高純度のものが合成されるようになった。低級アルコール類などはその好例である。同時に多数の人工的有機化合物も知られるようになり，それらを用いる合成化学工業の進歩はめざましく，ことに有機合成化学繊維などにおいて著しい。他方，種種の有機化合物の構造や物理的化学的性質などが明らかにされるにつれ，その構造と諸性質の相関性を研究する有機化学構造論が行なわれるようになった。中でも有機化合物の立体構造を研究する立体化学は，最近における有機化学のきわめて重要な分野である。そのほか，物理化学的手段によって有機化学反応の機構を研究する有機反応論，また有機化学反応は各化学結合に関与する電子の移動によって起こるという考えにたって，有機化合物の電子状態と反応の関係を研究する有機電子論，あるいは生化学反応の過程を物理有機化学的手法によって研究する生物有機化学などの諸分野が知られている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

ゆうきかがくこうぎょう【有機化学工業】有機化合物を分離あるいは合成する化学工業。石炭化学工業・石油化学工業・ガス化学工業・染料化学工業・プラスチック工業などがこれに属す。無機化学工業とともに化学工業を二分する基礎的分類であるが，両者の境界は厳密ではなく，特に技術的進歩の著しい今日では，各種の化学工業分野が多種多様に交錯して企業体を形成するため，必ずしも実際的分類ではない。

ゆうきかごうぶつ【有機化合物】炭素を成分とする化合物の総称。無機化合物に対する語で，有機物ともいう。ただし炭素の酸化物（一酸化炭素・二酸化炭素など），炭酸塩（炭酸カルシウムなど），炭化物（炭化カリウムなど），シアン化物（シアン化カルシウムなど）は無機化合物に含める。従来，生命力によってのみ生成されると考えられていたが，1828年F.ウェーラー*によって無機化合物であるシアン酸アンモニウムから有機化合物である尿素が合成されて以来，本質的には無機化合物と区別されなくなった。現在ではきわめて多くの有機化合物が合成されている。有機化合物の多くは炭素・水素・酸素・窒素の４元素から構成されており，そのほかイオウ・リン・ハロゲン元素・金属・ケイ素などが含まれるが，特に炭素と金属の結合をもつものを有機金属化合物，炭素とケイ素との結合を含むものを有機ケイ素化合物という。現在知られている有機化合物の数は数十万～100万といわれ，無機化合物よりはるかに多く，かつ性質も著しく異なるが，これはおもに炭素原子が，共有結合によって鎖状（鎖状化合物*）あるいは環状（環状化合物*）のさまざまな構造の化合物をつくるという特質に起因する。

有機化合物の多くは，有機溶媒にはとけやすいが水には不溶で，水溶液中でも電離しない。また，概して揮発性で，融点も低い。〔大岡二郎〕

ゆうきかっせん 【結城合戦】 1440年(永享12)下総(しもうさ)(茨城県)結城城主結城氏朝(うじとも)(1402〜1441)が，鎌倉公方(くぼう)足利(あしかが)持氏*の遺子を擁立して室町幕府に抗した戦い。永享(えいきょう)の乱*後，関東の実権は持氏を倒した上杉憲実*(うえすぎのりざね)が握ったが，もともと反上杉派であった氏朝は，持氏の遺子春王丸・安王丸兄弟が下野(しもつけ)(栃木県)茂木(もてぎ)城に挙兵すると，これを結城城に迎えて挙兵した。幕府は憲実・上杉清方を派遣，1441年(嘉吉1)氏朝は敗れて自殺，春王丸・安王丸も捕えられて殺された。➜前ページ(写)〔高崎徳次〕

ゆうききんぞくかごうぶつ 【有機金属化合物】 金属に有機化合物が配位してできる化合物のうち，金属-炭素の結合を少なくとも一つはもっているものの総称。これには，①グリニャール試薬*のマグネシウムやチーグラー触媒*のアルミニウム，またアンチノック剤の四エチル鉛における鉛のように，炭素との結合がσ結合であるものと，②ツァイゼ塩$[(CH_2=CH_2)PtCl_3]^-$や，サンドイッチ化合物(たとえばフェロセン$(C_5H_5)_2Fe$)のように，金属と炭素との結合がπ結合であるものとがある。有機金属化合物は，チーグラー触媒やアセトアルデヒド合成に用いられるメチル水銀触媒のように，有機合成反応において有能な触媒となるものが多く，近年急速に研究が進展し，実用化も進んでいるが，これらの化合物は生体に対して強烈な健康破壊をもたらすものが多く，いわゆる公害として深刻な社会問題を起こしている。〔三輪　誠〕

ゆうきけはっと 【結城家法度】 1556年(弘治2)下総(しもうさ)(茨城県)結城の領主結城政勝(まさかつ)が制定した分国法*。1巻(写本)。結城家新法度ともいう。現存のものは106条。分国法として質量ともに塵芥集*(じんかいしゅう)に次ぐ。内容は刑事・民事関係の訴訟裁判手続き，軍事・警察の事項をはじめ諸般にわたっているが，特に強力な家臣統制や商人・下人に関する規定が多い。

ゆうきさん 【有機酸】 酸性を示す有機化合物の総称。無機酸と対比して用いられる。官能基別には次のように分けられる。①カルボン酸R-COOH: 古典的意味での有機酸で酢酸・シュウ酸・安息香酸など。②スルホン酸$R\text{-}SO_3H$。③スルフィン酸$R\text{-}SO_2H$。④フェノールArOH。⑤エノール型化合物$R{-}CH_2{-}CO{-}R' \rightleftarrows R{-}CH{=}C(OH){-}R'$。⑥イミド型化合物R—CO—NH—COR′。⑦オキシムR—CH=NOH。⑧芳香族スルホンアミド$ArSO_3NHR$。⑨チオフェノールArSH。⑩擬酸：第一級および第二級ニトロ化合物$R{-}CH_2{-}NO_2$, $RR'\text{-}CH{-}NO_2$。狭義にはカルボン酸をさしていうこともある。〔石戸良治・荒木洋之助〕

ゆうきさんはっこう 【有機酸発酵】 微生物が増殖する際に生産する物質の中で，有機酸の比率の大きい場合の総称。主たる有機酸の種類，微生物の種類によって分類される。たとえば，細菌によるものでは酢酸・α-ケトグルタル酸・乳酸・酪酸，かびまたは細菌によるものではグルコン酸・クエン酸，かびによるものではイタコン酸・麹酸(こうじさん)・フマル酸などがある。このうち乳酸・酪酸などは酸素欠乏状態(嫌気(けんき)性)で生産されるが，その他は酸素の供給が必要(好気性)で，工業的には多くの場合，菌を接種した培養液に空気を吹き込んで発酵させる。〔白土志郎〕

ゆうきしつひりょう 【有機質肥料】 肥料成分を有機化合物の形で含有する肥料。給源が動植物界にある場合が大部分である。昭和初期まで販売肥料の主要部分を占めていたが，現在は化学肥料の生産が急増したため，占有率は少ない。主要なものは魚肥類・植物油粕(かす)類・骨粉類などである。

ゆうきそめい 【結城素明】 (1875〜1957) 日本画家。東京の生まれ。はじめ川端(かわばた)玉章門にはいり，次いで東京美術学校日本画科に入学，同科卒業後さらに西洋画科に学んだ。1899年(明治32)自然主義を標榜(ひょうぼう)して平福百穂らと无声会(むせいかい)を結成。1916年(大正5)には鏑木(かぶらぎ)清方らと金鈴社を創立した。東京美術学校の教授をつとめ，1947年(昭和22)日本芸術院会員に推された。写実的で穏やかな作風で知られる。

ゆうきつむぎ 【結城紬】 茨城県結城市を中心とした地区，栃木県小山市一円で織り出される織物。紬糸を用いて平織とした，絣(かすり)および縞(しま)の着尺地である。名称の起源は，鎌倉時代にこの地が結城氏の居城であったことに由来するが，紬織そのものは鎌倉時代以前にさかのぼる。現在，重要無形文化財に指定され，また，ざっくりした堅牢(けんろう)さと渋い風合いが好まれ，紬の王座を占めている。

ゆうきとよたろう 【結城豊太郎】 (1877〜1951) 財政家。山形県の生まれ。東京大学法科卒業。日本銀行にはいり，第1次世界大戦後の反動恐慌で手腕をふるった。1921年(大正10)日銀を退職し，高橋是清(これきよ)蔵相の勧めで安田財閥*に参与。1930年(昭和5)には日本興業銀行総裁となって積極的貸し付けで業績をあげた。1937年林銑十郎内閣の蔵相，次いで第15代の日銀総裁として1944年まで戦時経済・金融の指導にあたった。〔安達淑子〕

ゆうきはんどうたい 【有機半導体】 π電子による電気伝導を行ない，半導体的な性質を示す有機化合物。たとえば，次に示すような共役二重結合をもつ炭化水素の分

$$H_2C{=}\overset{\displaystyle H}{\overset{|}{C}}{-}\overset{\displaystyle H}{\overset{|}{C}}{=}CH_2$$

子では，炭素原子の4個の価電子の1個は，この分子面に垂直な軌道にあり，隣の分子面からの同様な価電子とともに結合を形成する。このような結合をπ結合といい，結合にあずかる電子をπ電子という。π電子は分子内の結合に関与せず，分子中はもちろん，他の分子へも移動することができ，この結果電気伝導を生ずる。〔伊藤糾次〕

ゆうきゅうきゅうか 【有給休暇】 雇用労働者に対して，賃金(給与)を減額することなく与えられる休暇。一般に休暇をとれば賃金を請求できないが，慶弔その他一定の理由で休暇をとるときは，就業規則*などによって出勤と同じ扱いをすることが定められている。労働基準法39条は，1年間継続勤務し全労働日の80%以上出勤した労働者に対しては継続または分割した6労働日を，2年以上継続勤務した労働者に対しては1年をこえる継続勤務年数1年について1労働日を加算し，最高20日の有給休暇を与えなければならないことを使用者に命じている。またその時期は，労働者の請求する時期を原則としている。労働者が有給休暇をとる目的は問題とされず，これを自由に利用できるというのが一般的な考え方である。〔河井研一〕

ゆうぎり 【夕霧】 大阪の遊女夕霧(1678年に27歳で死んだといわれる)を主人公にした日本伝統音楽の曲名。彼女は近松門左衛門(もんざえもん)の脚本による歌舞伎(かぶき)に使われて有名となった。近松は義太夫節(ぎだゆうぶし)のためにさらに《夕霧阿波鳴渡(あわのなると)》(1712)を書き，その後，この題材がさまざまなジャンルで使われた。《廓(くるわ)文章*》の題をもつ義太夫節や新内節の曲も同じ題材である。有名なものでは，宮薗節(みやぞのぶし)の《夕霧由縁(ゆかり)の月見》，常磐津節(ときわずぶし)《其扇屋浮名恋風(そのおうぎやうきなのこいかぜ)》，富本節(清元節にもある)の《春夜障子梅(はるのよいしょうじのうめ)》などが，《夕霧》の名で親しまれている。〔徳丸吉彦〕

ゆうぎりょうほう 【遊戯療法】 遊びを治療の手段，コミュニケーションの媒体として利用する児童の精神療法のこと。子どもにおもちゃを与えて自由に遊ばせ，その遊びの中で象徴的に表現される隠された不安や願望・愛憎を治療の手がかりとする。1920年代に創始され，体系づけられた。

ゆうきりんざい 【有機燐剤】 リンを含む有機殺虫剤。パラチオン・マラソン・スミチオンなどが代表的なもので，いずれもすぐれた殺虫力をもつ。その欠点は毒性が強すぎることにあるが，最近ではきわめて低毒性で，家庭内で安心して使用できるものも創製されている。また有機リン剤に対する抵抗性害虫の出現により，その効力をまったく失ってしまったものもある。

ゆうけいぶんかざい 【有形文化財】 文化財の一種。文化財保護法(1950)は，建造物・絵画・彫刻・工芸品・書跡・典籍・古

文書その他の有形の文化的所産で，わが国にとって歴史上または芸術上価値の高いものおよび考古資料を有形文化財と規定し(２条１項の一)，また，文部大臣は有形文化財のうち重要なものを重要文化財*に指定できることを規定している(27条１項)。➔文化財

ゆうげきせん　【遊撃戦】 ⇨ゲリラ戦

ゆうげん　【幽玄】 歌論・連歌論・能楽論の用語。もとは〈よく見えない暗さ〉という意味の漢語。中国では〈かすかさ〉〈はかりがたさ〉〈奥深くてきわめられぬもの〉〈神秘的な境〉などの意味で仏教教理をはじめ，ものごとの深遠さを表わす語として用いられ，わが国の平安前期にもほぼ同じ意味で用いられた。しかし時代とともに変容し，平安後期の藤原俊成*(としなり)に至って，優艶(ゆうえん)を基調とし，奥深い感じを伴って，表現の外に無限に広がる情趣・余情(よせい)を表わすものとして，和歌の最高理念とされるようになる。この理念は同時代の鴨(かも)長明に受け継がれ，また藤原定家*には発展的に継承され，中世のあらゆる文芸理念の基底となった。能楽では，優美さをさし，紅顔の少年の姿態・音声にみられる美のような具体的なものをいうとともに，理念化された美をもいう。この能楽における幽玄美は，室町初期，観阿弥(かんあみ)・世阿弥父子による能楽大成のときに性格づけられた。〔佐藤恒雄・片桐登〕

ゆうげんがいしゃ　【有限会社】 商行為その他の営利行為を目的として有限会社法(1938)により設立された社団法人*(有限会社法１条)。多数の均等額の出資(持分は一口1,000円以上)からなる資本(資本総額10万円以上)を有し，全社員が資本に対する出資義務を負うだけで，会社債権者に対してはなんら義務を負わない(有限責任)。有限会社の特質は，①閉鎖性：社員総数が50人以下で，社員の持分の譲渡が制限されている(有限会社法19条)，また貸借対照表の公告はいらない(有限会社法46条)など。②組織の簡易性：取締役の人数に制限がなく，取締役会*が採用されず，監査役*はおいてもおかなくてもよい(有限会社法33条)など。すなわち有限会社は，設立手続き・組織などが簡素化し，公示主義も緩和された会社であり，当然に非公衆的・閉鎖的なものとなるので，比較的少人数による小規模の中小企業の経営に適する。〔松本治雄〕

ゆうこうじゅよう　【有効需要】 政府の経済活動および外国貿易を捨象すれば，国民生産物に対する社会の総需要は，消費財需要と投資財需要の二つによって構成される。経済学では，この総需要と企業が供給しようとする国民生産物の総供給とが均衡して決定される均衡国民生産物に等しい総需要を有効需要という。ケインズ*の用語でいえば，彼の定義する総供給関数と総需要関数の交点における総需要関数の値である。このように社会の総需要に等しい水準に国民所得が決定されるという理論を有効需要の原理という。ケインズは1930年代の慢性的な大量失業に理論的解明を与えようとし，この有効需要によって決定される均衡国民所得水準は必ずしも完全雇用を保証せず，失業を含んだ過少雇用均衡が成立しうることを論証しようとした。彼は，彼以前の経済学を〈古典派〉とよび，〈供給はそれみずからの需要をつくりだす〉というセーの法則*を基礎とし，つねに完全雇用均衡が保証されるとする古典派理論を批判した。〔富田重夫〕

ゆうこうじょうちゅう　【有鉤条虫】 扁形(へんけい)動物・ジョウチュウ科。鉤(かぎ)をもつのでカギサナダともいう。ブタを中間宿主とし，成虫はヒトの腸内に寄生して，体長数メートルに達する。形・大きさや生態はムコウジョウチュウに似るが，頭節には４個の吸盤のほかに20数本の鉤がある。人体から出た卵をブタが取り込むとその体内で孵化(ふか)し，筋肉・内臓などの組織内で嚢虫(のうちゅう)に育つ。嚢虫はダイズ大の白色球状体である。人体へは，豚肉を生食することによって寄生するが，ムコウジョウチュウと異なり，卵を取り込んだ場合にも，それが脳や内臓・筋肉中などで発育して嚢虫となるので危険である。糞便(ふんべん)中に体節片が見られることによって，寄生を診断することが多い。腸内の成虫の駆除法は一般の条虫と同様であるが，組織内の嚢虫は外科的に取り除くしかない。予防としては，豚肉を生食しないこと，食肉検査，糞便の合理的処理などがあげられる。➔条虫➔無鉤条虫

ゆうこうすうじ　【有効数字】 測定値や近似値で，大きさを示すのに有意義な桁数(けたかず)だけとった数字。いま，ある物体の重さを w g とし，w が $319.5 \leqq w < 320.5$ の範囲にあるものとする。この物体の重さをはかるのに，１g 未満を四捨五入したとすれば，測定値は320g となる。この場合の３個の数字３，２，０は，w が上の範囲にあることを指示するから，どれも有意義である。また，10g 未満を四捨五入してこの物体をはかっても，測定値としては同じく320gを得るが，この場合には w が $315 \leqq w < 325$ の範囲にあることを示すから，３，１は有意義であるが，０は位取りを示すのに役だつだけで大きさをなんら指示していない。有効数字を明確に表現するには，3.20×10^2 とか 3.2×10^2 などと表わして，それぞれ有効数字が３桁または２桁であることを示す。〔菊池兵一〕

ゆうこうちゅう　【有孔虫】 原生動物・根足虫綱・有孔虫目。大部分は海産であるが，淡水にもわずかながら見られる。偽足は細長く伸長し，網目状になり，内部に顆粒(かりゅう)を有する。多くは石灰質・キチン質などの殻(から)を分泌し，殻はらせん状・円盤状・つぼ状などの形を呈する。単細胞生物で，一般には１mm前後のものが多いが，数ミリメートルの大きさになるものもある。細胞内には多数の核をもつものが多い。一般に，無性分裂によってふえる。殻は化石としてよく見出され，古生物学上重要な動物群であり，地質年代推定にも使われる。底表性のものが多いが，岩石や海藻(かいそう)上にも多く見られ，プランクトンとしても知られる。太平洋深海底には浮遊性有孔虫類の死殻による軟泥(なんでい)の存在も知られる。〔向井　宏〕

ゆうしつどうぶつ　【有櫛動物】 古くから腔腸(こうちょう)動物門の中に含められてきたが，現在では独立の門を形成する動物群とされている。ふつうクシクラゲ類といわれているように，体は寒天質でできており，八方に櫛(くし)のような運動器官をそなえている。これは纖毛が多数集合してできたもので，櫛板という。口は下端にあり，肛門(こうもん)はない。また多くのものは２本の長い触手をもっているが，ウリクラゲ目では触手を欠く。体長は数センチメートルのものが多いが，オビクラゲのように１mに及ぶものもある。終生浮遊生活を送り，ポリプにはならない。

ゆうしほうげん　【遊子方言】 江戸中期の洒落本*(しゃれぼん)。1770年(明和７)ごろの刊。田舎老人多田爺(いなかろうじんただのじじい)作。通人ぶった男がきまじめなむすこを連れて吉原(よしわら)に遊び，男はうぬぼれを遊女にきらわれ，むすこが大いにもてるという物語。当時の半可通を描きながら，遊里の情景，人物の容姿，特殊な言語を細かく表現し，洒落本の写実的な描写を確立させた。

ゆうしょうりゅう　【湧昇流】 海水の鉛直上方への運動。北半球では，海上において海岸線を左手に見て(南半球では右手に見て)これに平行に風が吹くと，表面海水は転向力*のために海岸より沖に輸送され，表面下の栄養塩に富んだ海水が海岸近くにわき上がる。湧昇流域は良好な漁場となり，カリフォルニア沖・ペルー沖・アフリカ西岸沖・千島東沖などが有名である。

ゆうずうてがた　【融通手形】 単に他人に信用を利用させる目的で，振り出し・裏書き・引き受けなどがなされた手形*。好意手形ともいう。実際には，手形を振り出すべき原因関係がないが，他人に自分の振り出した手形を貸与しこの交付を受けた者は，手形を割り引いてお金を得るなどのように利用される。２人あるいは３人ぐらいが，相互に手形を振り出し合って利用するといった方法で使われる例が多いが，この種の手形は期日までに決済される見込みが少ないので，銀行はその割引を回避しようとする。〔松本治雄〕

ゆうずうねんぶつえんぎ　【融通念仏縁起】 融通念仏宗の開祖良忍*の一生と同宗興隆の事跡を描いた絵巻。1314年(正和

3)に製作されたのをはじめ，鎌倉末期から室町期にかけて盛んにつくられた。遺品では，大念仏寺の1391年(元中8・明徳2)の墨刷版画による2巻本が有名で，これは版画史の上でも貴重である。このほか，1414年(応永21)の六角寂済・土佐行広ら6人の絵になる清涼寺本や禅林寺本が知られる。

ゆうずうねんぶつしゅう【融通念仏宗】 日本十三宗の一。良忍を開祖と仰ぐ一宗。融通大念仏宗・大念仏宗ともいう。融通念仏とは自分の修した念仏の功徳は他のいっさいの人々の功徳となり，また他のいっさいの修した念仏の功徳は自分にも及ぶという趣旨にたつ念仏であり，天台流念仏の影響が少なくない。教義の中心は1117年(永久5)良忍が修行中に感得した〈一人一切人 一切人一人 一行一切行 一切行一行 是(これ)を他力往生と名づく〉という偈(げ)文に尽くされるという。その法流は良忍ののち厳賢・明応・観西・尊永・良鎮と継承されたがふるわず，良鎮はやむなく融通の印符などを石清水八幡宮(いわしみずはちまんぐう)に納めたという。その後百数十年，法明は夢告をこうむって印符を伝承して一宗の復興につとめ，さらに46世大通融観に至り，宗義もようやく確立してその宗風は大いに振興した。1874年(明治7)に一宗として公許されて今日に至っている。大阪住吉(すみよし)の大念仏寺は本宗の総本山である。〔大谷旭雄〕

ゆうすげ【夕菅】 単子葉植物・ユリ科。山地の日あたりのよい草地などにはえる多年草で，キスゲともいう。根は多数束生し，太く長いが，ヤブカンゾウのように紡錘形にふくれない。葉は2列に出て扇状に開き，長く50～70cmの細い線形で，中肋(ちゅうろく)で二つ折りになり，かたく，黄緑をおびる。7～8月，葉間から先がまばらに分枝した長さ1mほどの花茎を伸ばし，淡黄色の花を数個横向きにつける。花は細い漏斗状で長さ8～10cm，茎部は細長い花筒になる。花被片は6枚で先は反曲しない。夕方に開いて，翌朝まで咲く。果実は広楕円(こうだえん)形の蒴果(さくか)で先がへこむ。種子は黒色。

ゆうせい【遊星】 ⇨惑星

ゆうせい【優性】 有性生殖を行なう2倍体の生物で，ある遺伝子座について異型接合(ヘテロ接合)であるとき，表現型として現われる対立遺伝子を優性であるといい，同型接合(ホモ接合)にならぬと表現しない対立遺伝子を劣性という。厳密には，AaとAAが区別できないとき，Aはaに対し優性であるという。特に人類遺伝学では，ヘテロ接合で効果のあるような遺伝子は，すべて優性であるという。

ゆうぜい【疣贅】 ⇨いぼ

ゆうせいおん【有声音】 言語音の一種。発音に際して声帯の振動(つまり声)を伴う音。無声音に対する。母音と響き音(〈m〉〈n〉〈ŋ〉などの鼻音，〈l〉〈r〉などの流音，〈j〉〈w〉などの半母音)はふつう有声音である。妨げ音は多くの言語で無声音と有声音とが〈p〉:〈b〉，〈t〉:〈d〉，〈k〉:〈g〉，〈s〉:〈z〉などのように対立の組をつくっている(それぞれ，あとのほうが有声音)。



ユウスゲ

ゆうせいがく【優生学】 人類における将来の世代の遺伝的素質を，社会的な制御によって向上させることを目的とした学問。イギリスのゴールトンによって始められた。優生学には，人類集団中の劣った人を減らす消極的優生策と，優秀な人材を増すことに重点を置く積極的優生策があり，効果を上げるには両方を並行して実施する必要がある。原始社会では，人類にも相当強い自然淘汰(とうた)が働いていたことは容易に想像されるが，医学の進歩と生活の向上によって，現在の社会では，人類における自然淘汰は，遺伝的素質の改善にはきわめてわずかな効果しかない。単純優性の有害遺伝子に支配される病気の場合，患者のすべてに断種手術を施し，この遺伝子が次代に伝わることを完全に防いでも，くり返し起こる自然突然変異によって次代には新しく患者が生まれてくる。また劣性遺伝子によって起こる病気では，劣性ホモ個体よりもはるかに多くのヘテロ個体が存在し，ヘテロ接合同士の結婚により，たくさんのホモ個体を生ずる。積極的優生策として，人工受精などの方法もあるが，いずれの場合も寿命が長く家族あたりの子どもの数の少ない人類では，優生学的方法による効果が現われるには長い時間がかかる。またどの優生学的手段を採用するについても社会的問題がからんでいて，問題の解決は簡単ではない。〔北川 修〕

ゆうせいしゅじゅつ【優生手術】 優生保護法によって認められた生殖を不能にする手術。生殖腺(せいしょくせん)を除去することなしに，断種または不妊手術を行なう。その該当者は，①本人もしくは配偶者が遺伝性精神病質・遺伝性身体疾患あるいは遺伝性奇形を有するか，または配偶者が精神病もしくは精神薄弱の場合，②本人または配偶者の四親等以内の血族に上記疾患のある場合，③本人または配偶者が癩(らい)疾患にかかり，かつ子孫に伝染するおそれのあるもの，④妊娠または分娩(ぶんべん)が，母体の生命に危険を及ぼすおそれのある場合，⑤現に数人の子を有し，かつ分娩ごとに母体の健康度を著しく低下するおそれのある場合。これらの場合に，医師が一定の手続きをとり，手術を行なうことができる。実際に届け出られる優生手術の件数は，最近では年間20,000～30,000であるが，そのおもな理由として，経済的理由，あるいはこれ以上子どもが欲しくないというものが多いとみられる。➔優生保護法 ➔人工妊娠中絶 ➔不妊〔金子義徳〕

ゆうせいしょう【郵政省】 郵政・電気通信に関する事務をおもな任務とする行政機関。1949年(昭和24)6月従来の逓信省が解体されて電気通信省とともに設置された(電気通信省はさらに日本電信電話公社に改組)。郵政大臣を長とする。主要な所掌業務は，①郵便事業，郵便貯金・郵便為替(かわせ)・郵便振替貯金事業，簡易生命保険・郵便年金事業，②電気通信事業，③日本電信電話公社・日本放送協会・国家公務員共済組合，その他公社などの共済組合から委託された業務，④年金・恩給などの支給，国庫金の受け入れ業務などである。内部部局として大臣官房のほか，郵務・貯金・簡易保険・電波監理・人事・経理の6局，付属機関に電波研究所・通信博物館・郵政審議会などがあり，地方支分部局として，各地に地方郵政監察局・地方郵政局・地方電波監理局・郵便局などを置く。〔寺尾方孝〕

ゆうせいせいしょく【有性生殖】 ⇨生殖

ゆうせいほごほう【優生保護法】 〈優生上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに，母性の生命健康を保護すること〉(第1条)を目的とする法律。1948年(昭和23)7月に公布され，1952年5月改正。優生手術・人工妊娠中絶・受胎調節指導・優生保護相談所に関する種々の規定を含む。この法律でいう優生手術とは，生殖腺(せいしょくせん)を除去しないで生殖を不能にする手術である。この法律のねらいは，劣悪な形質の遺伝を阻止し，遺伝素質の改善を図り，社会全体の向上をめざすものである。したがって，本法の適用を受ける者は遺伝性疾患(精神分裂症・精神薄弱・全色盲・奇形など)がそのほとんどを占める。また，母性保護の立場からは，母体に対して妊娠・出産が障害を与える場合にも適用される。➔優生手術〔金子義徳〕

ゆうせつどうぶつ【有櫛動物】 ⇨ゆうしつどうぶつ

ゆうせんかぶ【優先株】 会社の発行する株式で，利益の配当，残余財産の分配について普通株に優先する権利の認められているもの。会社が優先株を発行する場合には，定款に優先株の内容，株数を定めなければならない。一般に普通株の発行による増資がむずかしいときに発行される。

ゆうぜんぎく【友禅菊】 双子葉植物・キク科，北アメリカ東部原産の多年草で，

明治のはじめに渡来し，庭に栽培される。茎は高さ40～100cmになる。葉は長さ5～15cm，幅1～2.5cmの披針(ひしん)形で，上部の葉は茎を抱く。9～10月，径2.5cmほどの頭花が散房状につく。舌状花は紫色で15～25個あり，筒状花は黄色である。

ゆうせんくつ 【遊仙窟】 中国，唐代の小説。張文成(657ごろ～730)の作という。張文成は当時よく知られた文士。主人公が使命をおびて黄河の源へ旅した途中，十娘(じゅうじょう)・五嫂(ごそう)の2女性に会い，その邸に泊まり，詩文を贈答し，十娘とちぎりを結んで去る話。文章は四六文でときどき俗語を交えている。唐代，仙とは妓女(ぎじょ)・女道士をさし，窟とはその種の女たちの住む場所をさす用法があるから，この作品は遊里を背景にしてできたものだろう。本書は中国では早く失われ，日本に伝えられて残っていた。奈良・平安時代に広く愛読された。〔今村与志雄〕

ゆうぜんぞめ 【友禅染】 模様染の一。本来は筆や刷毛(はけ)で色差し・描絵などをして，絵画的なはなやかな模様を染め出す方法であるが，明治以後捺染(なっせん)や板締法によっても製作されるようになったので，それらに対して描染法によって染めたものを本友禅または描友禅という。宮崎友禅の創案と伝えられるが，友禅の事跡については史料が乏しく，明確でない。







友禅染 上段(いずれも東京国立博物館蔵)(左)《琵琶湖風景文様友禅染裂》(右)《御座船文様友禅染裂》 下段(左)《束熨斗文様友禅染振袖》友禅史会蔵 (右)勝川春章下絵による《曳船文様小袖》 丸紅株式会社蔵

ゆうせんほうそう 【有線放送】 有線電気通信設備による放送。無線通信によるラジオ・テレビ放送に対していう。一般的には比較的限定された区域内において，有線電気通信設備によって連結された公衆に音声や映像を送信する形式をとる。無線による放送を再送信する共聴設備による放送もこれに含まれる。また，道路・公園などの公衆に対する街頭放送も有線放送の一つである。有線放送は電波を使用しないから局数に制限はないが，影響度の大きいこと，ならびに既存の放送局の権益を守る立場から，1951年(昭和26)〈有線放送業務の運用の規制に関する法律〉が制定された。有線放送は大都市において著しく発展すると同時に，農村・山村・漁村においても有線放送と通話の両方ができる〈有線放送電話〉が普及し，また最近は有線テレビ放送が各地で出現している。なお，有線放送業務を行なうには，臨時のもの，学校・駅など一構内に限るものを除き，郵政大臣への届け出を要する。〔飯田良明〕

ゆうそうるい 【有爪類】 節足動物・原気管綱に属する小動物群。爪足類・軟脚類などともよばれる。体は円筒状で蠕虫(ぜんちゅう)形であるが，体節構造ははっきりしない。付属肢(ふぞくし)も他の節足動物ほどはっきりせず，疣足(いぼあし)状である。各付属肢の先端には鉤爪(かぎづめ)をもつ。原始的な気管を有しており，環形動物から節足動物に進化する途中の形態とする説もある。節足動物中では最下等とされるが，正しい分類学的位置は不明のままにおかれている。熱帯の陸上に産し，日本には分布しない。

ゆうそくこじつ 【有職故実】 有職と故実とをあわせた語。有職は平安時代には有識と記し，有は保有，識は知識のことで，博識の義である。俗にいう物知りにあたる。平安時代には物知りというと和漢の文学・歴史に精通することであったが，鎌倉時代以後はその内容が限定され，宮廷の官職その他の公事(くじ)の儀式上の法式そのものをさすこととなり，これに通ずる者を職者というようになった。故実は，典故と類似の語で，古例に用いられたが，平安中期ごろには制度や儀礼上の古事旧例をさし，鎌倉時代以後すなわち武家時代には公家の故実に対して武家の故実が生じ，公家故実と武家故実の二面が成立するようになり，しだいに有職故実という語が現われるようになった。有職故実の学問は時代によって消長はあったが，江戸時代にはいってから多くの学者が現われ，その研究は盛観を呈した。ここにおいて有職故実学の根底は固まり，その研究範囲がほぼ一定した。儀式典礼・官職位階・殿車輿車(よしゃ)・調度・甲冑(かっちゅう)武具・書札礼節・飲食などである。明治以後は史学の進歩につれ有職故実の研究範囲は縮小され，書札礼節は古文書学の分野となった。なおこの研究は江戸時代では礼節作法のためであったが，現代においては神社有職のほかは礼節作法と関係なく，古典研究の補助学科となっている。〔河鰭実英〕

ゆうそくもん 【有職文】 有職故実*のうち，服飾・調度などに用いられた文様。平安時代に，藤原氏一門の栄華をきわめた生活の美的感覚によって生まれたもので，男子の正装である束帯，女子の唐衣裳(からぎぬも)などの服飾をはじめとして，当時完成した寝殿造りの建物の内部の帳台・八重畳・屏風(びょうぶ)・几帳(きちょう)・壁代(かべしろ)などを飾っていた。これらが時代を経て，ことに着装法の面での定式ができ，束帯の袍(ほう)などの場合にみるように，位階・家がらによって特定の文様が用いられるようになった。しかし，現在伝承されている文様のうちには鎌倉期以後に生じた文様もあるようである。以下，文様の各種をあげる。①襷文(たすきもん)：多くの直線が交差している文様で，菱(ひし)襷・鳥襷・松葉襷などがある。②菱文：襷文が線を中心として見たものであるのに対し，区画された面を中心に見たものである。入子(いりこ)菱・四つ菱・幸菱などがある。③立涌文(たてわくもん)：波状の線が規則正しく並ぶ。④唐草文。⑤小葵文。⑥亀甲文(きっこうもん)。⑦桐竹鳳凰文(きりたけほうおうも

ん)。⑧石畳文。⑨輪違文。⑩丸文：フジ・ツル・チョウ・波・唐花(からはな)などを円形に意匠したもの。その他，霞(かすみ)形などのように女装や几帳などに多用される文様もある。〔毛利　登〕

ゆうそんしゃ　【猶存社】　大正後期の右翼団体。1919年(大正８)中国から帰朝した北一輝*が老荘会右派を母体として結成。大川周明*・満川亀太郎らを中心に西田税(みつぐ)・鹿子木員信(かのこぎかずのぶ)らの急進的国家主義者が参加した。日本帝国の改造とアジア民族の解放をスローガンとし，北の《日本改造法案大綱》が思想的経典となった。1920年には機関紙《雄叫(おたけび)》を発刊して宣伝活動に努めたが，北と大川との対立から，1923年解散。しかしその活動は行地社*・神武会*に発展して，五・一五事件*など昭和初期のファシズム運動に重要な役割を演じた。〔高崎徳次〕

ゆうたいるい　【有袋類】　哺乳(ほにゅう)類・有袋目の総称。単孔類(カモノハシ・ハリモグラ)を除く獣類は，有袋目のみからなる後獣類と，他のすべての目を含む真獣類とに分けられるほど特殊な動物群である。膣(ちつ)・子宮とも２本に分かれ，二子宮類ともいう。子は発育不全の状態で生まれ，ふつう雌の下腹部にある育児嚢(いくじのう)の中で育てられる。形態・習性には著しい分散がみられ，モグラやオオカミに似たものなどさまざまである。オーストラリア・ニュージーランド・ニューギニア・南北アメリカなどに分布する。フクロネズミの異名をもつオポッサム科，食肉類に似たものが多いフクロネコ科，ウサギに似たバンディクート科，リス類に似たクスクス科，独特の形態をしたケノレステス科・ウォンバット科・カンガルー科などがある。〔今泉吉典〕

ゆうだち　【夕立】　おもに盛夏に発達した積乱雲に伴って激しく降る大粒の雨。雷を伴うことが多い。地域的には，積乱雲の通過する狭い領域に限られる。夏の小笠原(おがさわら)高気圧*が，多少退いて大陸から冷たい気団が南下したときの不連続線に沿って発生しやすい。

ゆうづる　【夕鶴】　木下順二*の戯曲。1949年(昭和24)１月《婦人公論》に発表，同年10月〈ぶどうの会〉が初演し，同年度毎日演劇脚本賞を受けた。歌劇初演は1952年１月，〈能様式による夕鶴〉初演は1954年。鶴の恩返しの民話を素材に，一連のいわゆる木下民話劇の最初の作品であり，名作とされ，しばしば各地の演劇サークルで上演されてもいる。なお，台本木下順二，作曲団伊玖磨(いくま)になる同名のオペラ(1952年１月初演)がある。

ゆうているい　【有蹄類】　哺乳(ほにゅう)類のうちいわゆる蹄(ひづめ)をもっているものの総称。蹄の原始的なものは管歯目のツチブタおよびイワダヌキ目のハイラックスにみられる。また，長鼻目のゾウでは数個の



有　袋　類

蹄が発達する。さらにクジラに似た水生の海牛類(ジュゴン・マナティ)も，ひれ状に特殊化した前足の先端に，数個の蹄を見ることができる。指の数がふつう奇数の奇蹄類(ウマ・バク・サイ)および偶数の偶蹄類(イノシシ・ペッカリー・カバ・ラクダ・マメジカ・シカ・キリン・プロングホーン・ウシ)では蹄がよく発達している。ツチブタを除けば草食性であり，一般に体は大形である。〔今泉吉典〕

ゆうてん　【融点】　⇨融解

ゆうてん　【祐天】　(1637〜1718)　江戸中期の浄土宗の僧。字(あざな)は愚心，号は明蓮社顕誉(みょうれんしゃけんよ)。磐城(いわき)(福島県)の人。江戸に上り増上寺で出家・修行に励んだが，名利を求めず，相模(さがみ)(神奈川県)牛島に隠退した。のち下総(しもうさ)(千葉県)の大巌(だいがん)寺・江戸小石川の伝通院などの住持を経て増上寺36世となり，将軍徳川家宣(いえのぶ)・家継をはじめ，一般庶民の厚い帰依をうけた。晩年は目黒に庵(いおり)を営み，のち弟子(でし)祐海(ゆうかい)がここに祐天寺を建てて師を開山に迎えた。

ゆうでんたい　【誘電体】　電場内においたとき誘電分極*を生じる物体。1837年にファラデーが，コンデンサーの極板間に絶縁体を入れたとき，その電気容量が増すことを発見して以来，その機構が明らかにされるのにつれて，絶縁体をこの観点からみた場合のよび方として使用されるようになった。誘電体は誘電率と誘電損失によって特徴づけられる。コンデンサーの極間の絶縁性を高め，容量を増すために用いられるが，おもなものはウンモ・パラフィン・ガラス・酸化チタン磁器・合成樹脂などである。

ゆうでんぶんきょく　【誘電分極】　絶縁体に外部から電界が作用すると，絶縁体内部の電荷が変位をうけ，各部分に電気双極子*が方向性をもって配列し，全体が電気的な性質をおびること。このことから，絶縁体をまた誘電体ともよぶ。原子・分子や無極性分子の原子内の電子は，原子核に弾性的に拘束されており，普通は電子全体として中性である。しかし，これに外から電界が作用すると，電子は電界と反対の向きにわずかに移動し，原子は電気双極子を形成する(原子核はほとんど動かない)。電界の適用をやめればただちにもとの状態に復元する。このように分極がおもに電子の移動に基因する場合には，特に電子分極という。誘電体によっては，電界が働けば分子内の原子が移動して，分子が電気双極子を形成するものがある。これを原子分極と称する。また有極性分子(塩化ナトリウムなど)では，分子内の正および負の電荷をになう原子または原子のかたまりが対立して，分子ははじめから電気的双極子を形成しているが，これらが乱雑に分布しているため，普通は電気的に中性となっている。しかし，これが電界の作用を受けると，電気双極子性分子の向きが統計的にそろい，全体として電気的性質をもつ。これを有極分極という。〔堀内和夫〕

ゆうでんりつ　【誘電率】　誘電体*の誘電性を示す物質定数。通常εで表わされる。電界の強さ*をE，電気変位*をDとすれば，一般に$D=\varepsilon E$なる関係がある。誘電率は，外から加えられた電界が物質内に電荷のかたよりを誘起する性質(誘電性)を代表しているものと考えることができる。真空中でも$D=\varepsilon_0 E$と表わせる定数ε_0があり，これを真空の誘電率という。ε_0はesu単位系では１であるが，MKS有理単位系では$10^7/4\pi c^2$である。ただし$c=3\times10^8$m/s(光

速)。物質の誘電率εを$\varepsilon=\varepsilon_0\varepsilon_s$と表わして，$\varepsilon_s$をその物質の比誘電率とよぶ。誘電体の比誘電率はただの数値で，コンデンサーの電極間を，対象とする誘電体で満たした場合の静電容量と，真空にした場合の静電容量との比から求めることができる。〔堀内和夫〕

ゆうどうかねつ【誘導加熱】⇨高周波加熱

ゆうどうきでんりょく【誘導起電力】相互誘導・自己誘導によって発生する起電力。

ゆうどうこうそ【誘導酵素】特定の基質または基質類似物質を生物体に与えることにより，はじめて生物体によって生産される酵素。たとえば，大腸菌を乳糖またはその類似化合物を炭素源として培養すると，乳糖を加水分解する酵素ラクターゼ(一般的にはβ-ガラクトシダーゼ)が誘導酵素として生産される。誘導酵素に対し，生物がはじめから所有している酵素は構成酵素とよばれる。ある抗生物質を分解する酵素の誘導など，微生物については多数の誘導酵素の例が知られている。一般に酵素の誘導は遺伝するから，誘導酵素の出現は生物における少なくとも部分的なタンパク質の生合成の様式の遺伝的変化を意味し，微生物遺伝の面からも興味深い問題を提供する。高等生物における誘導酵素の例はあまり知られていない。しかし，DDTに対して抵抗性を示すようになったこん虫が，DDTを分解する酵素を所有するようになるという事実は，酵素誘導の一例であろう。〔秋野美樹〕

ゆうどうじんもん【誘導尋問】証人を尋問する者が，希望する答えがなんであるかを暗示するような方法で誘導していく質問方法。主尋問(証人尋問を請求した者の尋問)の場合，証人は通常尋問者側に有利な証人であり，好意をもっていることが多い。このため尋問者がこのような方法で質問をすると，証人が暗示によって誤った証言をするおそれがある。このような点から主尋問においては，原則として誘導尋問は禁止されている(刑事訴訟法規則199条の三)。これに反して相手方の行なう反対尋問の場合は，そのおそれがないので誘導尋問も許される。➔尋問〔井上公耳〕

ゆうどうたい【誘導体】主として有機化学で使われる術語。ある化合物の分子内の一部を変化させることにより新たに生成される化合物。分子内の水素原子あるいは官能基について置換反応を行なって生成される化合物などはその例で，クロルベンゼン・ニトロベンゼンはベンゼンの誘導体である。広義には付加反応による生成物や分子化合物を含めることもある。

ゆうどうたんい【誘導単位】⇨単位

ゆうどうでんりゅう【誘導電流】相互誘導・自己誘導によって流れる電流。

ゆうどうはつでんき【誘導発電機】⇨発電機

ゆうどうろ【誘導炉】装入物に二次電流を生じさせて，自己発熱させる方式の溶解炉または加熱炉。加熱に要する時間が短い，温度調節が容易，よごれが少ないなどの利点がある。誘導炉には高周波炉と低周波炉があり，前者は周波数1,000 Hz(ヘルツ)以上の電流を用い，金属を入れる容器の周囲に一次コイルを巻きつけるるつぼ型で，熱損失が少ないうえに，化学的に均一な所要組成の合金を得やすい。後者は60 Hz以下の交流を用いる。この場合，鉄心を囲む一次コイルの外周に装入物を置く方式が従来使われてきたが，比較的熱損失が大きいうえ，偏析が生じやすいため，最近ではるつぼ型が多くなった。後者では周波数が2〜3倍のものも使われるようになった。〔秋枝哲児〕

ゆうなぎ【夕凪】⇨朝なぎ

ゆうはいるい【有肺類】軟体動物の腹足類のうち，主として陸上や淡水にすむもので，カタツムリ・モノアラガイ類が含まれる。ふつう殻(から)は薄質で巻いているが，ナメクジのように殻を失ったものもあり，蓋(ふた)を欠く。軟体は雌雄同体で，雄は陰茎を体内に収める。交接は互いに精子を交換し，どの個体も産卵する。外套腔(がいとうこう)にはえらを欠き，外套腔壁が肺の作用をするため，有肺類とよばれる。頭部には触角があり，眼はその基部または先端にある。中生代白亜紀に出現し，現生約20,000種で，日本には約700種を産する。

ゆうばり【夕張(市)】北海道中央部の市。人口44,000。1888年(明治21)に炭鉱が発見されてから発展し，1943年(昭和18)市制施行。市名はアイヌ語の〈ユーパロ〉(鉱泉がわき出る所の意)がなまったものである。市域は夕張山地の西方，馬追丘陵の斜面に広がり，その大半は山林で，市街地は夕張川の本支流の上流部に沿って発達する。産業三大別人口比は6：53：41。典型的な炭鉱都市で，石狩炭田中最大の夕張炭田をもち，優良な原料炭である強粘結瀝青炭(れきせいたん)を出し，人口の70％が石炭産業に関係していた時代もあったが，最近の石炭不況で，多くの中小炭鉱が閉鎖し，繊維工場などを誘致して工業都市への転換が図られている。南西部の谷では野菜類が栽培され，アスパラガスの特産がある。室蘭(むろらん)本線の追分駅から支線夕張線が夕張駅まで延びて石炭輸送の役割を果たすほか，三菱(みつびし)鉱業の大夕張鉄道・夕張鉄道が通じる。

ゆうばりさんち【夕張山地】北海道中部の脊梁(せきりょう)山脈の南半のうち西部を占める山地。ほぼ南北に走り，芦別岳(あしべつだけ)(1,727 m)・夕張岳(1,668 m)がある。山地の東側は急傾斜して富良野(ふらの)盆地に面し，北はこの盆地から流れ出る空知川の横谷で区切られる。西側は芦別川・夕張川などの谷で細かく刻まれ，ここに石狩炭田の諸炭鉱が分布し，その西は石狩平野の低地に続く。

ゆうばりてつどう【夕張鉄道】北海道夕張線鹿ノ谷(しかのたに)と函館(はこだて)本線野幌(のっぽろ)間を結ぶ地方鉄道。現在は，旅客輸送は野幌〜栗山(くりやま)間に限定しほかはバスに移行，栗山〜鹿ノ谷間は貨物輸送に使用される。1926年(昭和1)の開業。

ゆうひつ【右筆】本来は執筆と同じ意味であるが，書き役の意で，書札(書状)を含めて文書を書く者をいう。祐筆と書くのは誤りといわれる。この称は鎌倉幕府で職名となり，引付衆(ひきつけしゅう)の下に置かれた書記役をいい，室町幕府にも受け継がれた。戦国大名もこれを置き，江戸幕府では5代将軍綱吉(つなよし)のとき，老中に属して機密文書を扱う奥右筆と，広く一般文書をつかさどる表右筆とをおいた。なお，公家(くげ)の場合は文書ごとに書札は自筆であるのが本則であったが，武家の場合では右筆が書くのが一般的であった。〔岡山泰四〕

ゆうびん【郵便】通信の一形態で，電報・電話と同じように意志の伝達，情報伝達のための手段。電気的作用によって伝達される電報・電話に対し，郵便は記載された紙その他の物質をそのまま送達する点において異なる。形式的には〈郵便法令に定められた物体を郵便事業の組織によって送達する業務〉であるとされているが，実体的には通信業務と輸送業務とを合わせ備えたものであるということができる。

〔郵便の歴史〕BC550年ごろペルシアのキュロス2世は強大な帝国をつくりあげるために駅制を設けることを考案した。中国の駅制の歴史はさらに古く，周の時代から始まったといわれ，唐代に至って大々的に整備された。これら古代の駅制は，すべて統治者が政治上・軍事上，交通通信の必要が起こり，その目的のためにつくり出したものであった。ローマ時代になると，りっぱな軍用道路がつくられ，飛脚・駅馬・馬車などが用意されたがそのほとんどは国家と皇族と高位の家来のためのものであった。ヨーロッパでは大ローマ帝国が滅びて群小の国々に分かれてから，僧院・大学・商人・騎士および各都市などの間に飛脚の制が生まれ，16世紀には神聖ローマ帝国皇帝から郵便事業独占を許されて，ドイツのタキシス家による新しい郵便組織が全ヨーロッパに広がった。しかし18世紀中ごろからタキシス家の郵便も衰えはじめ，19世紀になってイギリスのローランド-ヒルの提唱によって全国均一郵便料金制が生まれた。これが今日の郵便制度のはじまりで，郵便は全国均一の低料金でだれでも差別なく利用できるようになった。また料金前納の方法として郵便切手が発行され，以後この制度は世界各国にとり入れられるようになった。

わが国では大化改新ころ唐制にならって

駅制が整い，以後奈良時代までにいちおう完成されたが，平安時代にはいると，その中央政権の統制力の衰微とともに崩壊の一途をたどった。これが再建されたのは鎌倉幕府成立以降である。従来の伝馬*(てんま)の制のほかに，人間の脚力による通信手段を創設したが，鎌倉幕府の衰滅とともにその駅制もまた弛緩(しかん)し，戦国時代には地方豪族の一部が伝馬・篝火(かがりび)などの通信設備を有するほかは，全国的な駅制はとうてい存在の余地はなかった。それが再び整備されたのは，豊臣秀吉(とよとみひでよし)・徳川家康(いえやす)によって全国が統一され，中央政権が確立された以後のことである。戦国時代には駅伝朱印，江戸時代には継飛脚(つぎびきゃく)，各藩の大名飛脚があったが，江戸時代に至るまでの通信設備は，もっぱら官用通信に供される為政者のためのものだけであった。しかし，民間にも通信需要がしだいに高まって自然発生的に飛脚が生まれた。これが三度飛脚・町飛脚である。この飛脚制度は明治初年の郵便創設に至るまで活躍を続けた。

日本の近代郵便制度は，1871年(明治4)3月前島密*(ひそか)が東京・大阪間に新式郵便を開設したのに始まる。〈郵便〉ということばもこのときつくられ，郵便切手もはじめて発行され，以後全国に取り扱い地域を広げ，1873年には均一料金制を採用，民間の飛脚業を禁止した。1877年には万国郵便連合*に加盟，1885年には逓信省*が創設されてこの所管にあたり，1892年には小包郵便*制度も設けられた。また経営上では，1934年(昭和9)通信事業特別会計が設けられ，以後独立採算制がとられている。1949年逓信省解体以後は郵政省*が所管している。

【郵便の制度】 内国郵便と外国郵便*に大別され，郵便物は通常郵便物と小包郵便物(→小包郵便)に分けられる。

〈通常郵便物〉 第一種から第四種までの4種類に分けられている。①第一種郵便物：定形郵便物・定形外郵便物・郵便書簡*および市内特別郵便物がある。定形郵便物とは，長さ14cmから23.5cmまで，幅9cmから12cmまで，厚さ1cmまでのもので，重量が50gまでのものをいい，郵便物の外部に差し出し人・取り扱い人の住所氏名のほか，所定の事項以外の事項が記載されていないこと，受け取り人の住所氏名の全部または大部分をかなの活字で記載するものは，所定の記載方がしてあることなどを具備していなければならない。定形外郵便物とは，これ以外の郵便物をいう。市内特別郵便物とは，重量100g以下，大きさが長さ27cm，幅20cmを越えないもので，同一郵便区内，六大都市，北九州市の同一区内のみに発着するもの。また同一差し出し人が形状・重量および受け扱いが同一のものを同時に100通(六大都市および北九州市の同一区内は200通)以上を料金別納*，料金計器別納*および料金後納*として差し出すものをいう。これは特に料金が安い。②第二種郵便物：通常はがき・往復はがき・小包はがきの別があり，郵政大臣が発行する官製のもののほか，通常はがき・往復はがきは一定の私製も認められている。③第三種郵便物：月3回以上発行する新聞・官報・公報で，発行人または売りさばき人が出すものと，その他の定期刊行物がある。④第四種郵便物：通信教育の教材・答案など，盲人用点字，郵政大臣の指定を受けた施設の発受する録音物・点字用紙・農産物種子，食糧の標本など，学術刊行物がある。

郵便物は，取り扱い方法によって普通扱い・特殊扱いに分けられる。特殊扱いに，書留(→書留郵便)，速達(→速達郵便)，引き受け時刻証明，配達証明*，内容証明(→内容証明郵便)，代金引き換え，特別送達，年賀特別郵便(→年賀郵便)がある。内国郵便の通常郵便物は全国均一制，小包郵便物(書籍小包を除く)は，送達距離によって，第1，第2，第3地帯に区別した地帯別料金制をとっている。また信書を主たる内容とする通常郵便物の料金，およびこれと密接な関係のある特殊取り扱いなどの料金は法定され，小包郵便物の料金は他の物品運送事業との関連から政令により定められている。料金の納付は郵便切手による前納が原則であるが，料金別納・料金後納・料金計器別納・料金受け取り払い*の場合は，現金で一括納付することもでき，また第一種(郵便書簡・市内特別郵便を除く)・第二種(官製および選挙用はがきを除く)郵便物で，形状・重量・取り扱いが同一のものを同一差し出し人から同時に3,000通以上，料金別納・料金後納・料金計器別納で，府県・市町村ごとに区分して告示により郵政省の指定した郵便局へ差し出す場合は，10％以内料金が減額される。非常災害の際，災害救助法が発動されて郵政大臣が必要と認めたときは，被災者の救助活動を行なう地方公共団体または日本赤十字社あての救助小包は料金を免除される。なお，料金が無料となっているものに，通信事務用郵便物・選挙郵便物・捕虜郵便物・盲人用郵便物がある。

〈郵便物差し出し上の注意〉 郵政省令によって郵便禁制品・郵便禁止品が規定されている。①郵便禁制品：爆発性・発火性その他の危険性のある物，毒薬・劇薬・毒物・劇物(官公署・医師・薬剤師などが差し出すものを除く)，生きた病原体および生きた病原体を含有しまたは生きた病原体が付着していると認められるもの(官公署・細菌検査所・医師などが差し出すものを除く)，法令により移動または頒布を禁止された物(私製タバコ・非売渡塩・猥褻(わいせつ)文書など)。②郵便禁止品：人に危害を与えるおそれのある動物(マムシなどの毒ヘビその他)。

〈郵便事業〉 郵便事業は，全国的な組織を必要とし，膨大な資本を必要とすること，また，郵便は外国とも交換するものであるので，事業の経営者は外国の経営者と緊密に連絡・折衝しうる適格性を有することが要求されることなどから，世界各国とも国営(イギリスでは公社で運営)で運営されている。しかし，近時，主要各国およびわが国でも事業の合理的・能率的運営を図ることによって郵便サービスの質を向上させるため，最も理想的な経営形態とする必要が叫ばれ，公社化の検討も進められている。現在，郵政省の所管のもとに，管理機関として全国に10地方郵政局，現業機関として各地に郵便局*を設置している。ポストや郵便局の窓口に差し出された郵便物は，集配郵便局に取り集められ，あて先の集配郵便局ごとに定められた郵便番号別に仕分け区分して郵袋に入れ，あて先の郵便局に送られる。集配局相互間の郵便物運送の経路は一定されており，これを郵便線路という。運送には鉄道・船・自動車・航空機などあらゆる運輸機関が利用され，あて先に到着した郵便物は，配達区ごとに区分され，戸別・道順に組み立てられて配達員が配達する。郵便局留置の表示のあるもの，代金引き換え郵便物，外国からの税つき郵便物などは受け取り人の出局を待って交付され，郵便私書箱*あての郵便物は到着のつど私書箱に配達される。郵便の利用上損害が生じた場合について賠償の規定が設けられ，また事故申告制度がある。なお，郵便犯罪については罰則が設けられている。これらを管轄処理する機関として全国の郵政局所在地に地方郵政監察局が設置されている。

わが国の郵便取り扱い数は，第2次世界大戦前の1936年には通常郵便47億通に達し，終戦直後は戦前水準の半分まで激減したが，国民生活の安定，経済の復興とともにしだいに回復して，1955年には戦前の水準を越え，その後も毎年6～8％の増加を示した。一時期，経済の不況，料金改正による影響のため，延びが鈍化した年もあったが逐年増加の傾向は変わらず，1967年度には100億通を突破し，総物数では世界第3位となった。なお，1979年度には約153億通に達している。〔高橋譲二〕

ゆうびんかわせ【郵便為替】 郵便を通じて行なわれる簡易で確実な送金方法。だれでも利用できる制度で，銀行の為替業務が銀行相互間ないし大口送金を中心に行なわれているのに対し，郵便為替は全国に設置されている郵便局で取り扱われる点に特色がある。内国郵便為替・外国郵便為替がある。内国郵便為替は，普通為替・定額小為替・電信為替の3種があり，普通為替は為替証書を原則として送金人が郵便で送るもので，証書1枚の最高額は10万円，有効期間は証書発行の日から2か月となっている。定額小為替は少額を送金する場合に料金が安くなっているもの，電信為替は至急

に送金する場合(送金額の制限はない)，受取人の居住地の郵便局まで電報で通知し，ただちに速達郵便で配達するものをいう。外国郵便為替は，万国郵便連合*の郵便為替に関する約定または特定国との間の二国間約定に基づいて業務が行なわれているもので，通常為替・電信為替・通常払込為替・電信払込為替の４種があり，交換方式としては，カード式と目録式の別がある。
〔高橋譲二〕

ゆうびんきって　【郵便切手】　郵便に関する料金を納付した証として郵政大臣が発行する証票。様式は，郵政省により告示され，郵便局や郵便切手類売りさばき所で発売されている。

【歴史】郵便切手が考案されるまでは，各国とも料金の取りたてには苦労し，現金で支払わせたり，配達のとき受け取り人から徴収したり，封筒に特別の印章を押したり，捺印(なついん)済みの封筒やびんせんを発売するなどの方法がとられていた。世界最初の切手は，1840年当時のイギリス郵政長官で，近代郵便の父といわれているローランド-ヒル*により採用・発行された。黒地にビクトリア女王の肖像を描いた１ペニーのもので，ペニー-ブラックまたはブラック-ペニーといわれている。郵便切手の大きな特色は差し出し人が料金を前払いすること，一定の重さの郵便物であれば全国どこに出しても同じ料金にすることであった。このため偽造困難な小形の証票をはる方法が考案されたのである。この方法は大成功を収め，以後各国で発行されるようになった。

わが国では1871年(明治４)東京～大阪間に新式郵便制度が創設されたときはじめて切手が発行された。このときの切手は，48文・100文・200文・500文の４種で，龍(りゅう)の模様があるので龍切手とよばれた。全世界で今日までに発行された切手は約30万種類に及び，わが国でも龍切手以後約1,100種類余りが発行されている。

【切手の種類】郵便料金納付の目的以外に特別の意義をもたない通常切手と，発行について特別の意義をもつ特殊切手とがある。

①通常切手：現行の郵便料金を納付するのに必要なすべての金額のものが，数量に制限なく，常時需要に応じて発行される。わが国の通常切手は現在までに350種類余り発行され，初期にはその図案はいわゆる手彫り時代の龍・桜・鳥などの切手であったが，その後製版技術が輸入されてから発行された小判形の輪郭のある小判切手と代わり，大正時代には田沢形切手(田沢昌行の図案)や，富士山・シカ・名古屋城・陽明門などを描いた風物切手が発行された。昭和になって，第２次世界大戦前はいわゆる第１次昭和切手として歴史・文化・風物など多方面にわたる図案が取り入れられ，戦時中は戦時色の濃い画題となり，戦後はそれまでの〈大日本帝国郵便〉という表示を〈日本郵便〉と改め，また，日本の切手のシンボルであった皇室の〈菊の御紋章〉を図案から取り去るなど，新しい姿に代わった。また画題も産業復興をうたったものをはじめ，動植物や重要文化財などを描いたものが多く発行されている。

②特殊切手：各種の行事その他を記念して発行される記念切手や，わが国の自然や文化を紹介する目的をもつ切手，あるいは福祉事業への寄付金など付加金つきの切手などがこれで，ふつう１回限り特別に発行されるため，発行数量が限定される。1887年，イギリスのビクトリア女王即位50年を記念して発行されたのが，この種の切手の最初で，わが国では1894年３月明治天皇の銀婚式慶祝のため，２銭・５銭の２種の記念切手が発行されたのがはじまりである。付加金つき切手は，1937年(昭和12)６月民間航空事業の発達に資するため，愛国切手の名のもとに２銭・３銭・４銭の３種が発行され，それぞれ２銭を付加して，これを帝国飛行協会に寄付することとしたのが最初で，最近では東京オリンピック大会の資金財団への寄付金つき20種，がん征圧寄付金つき２種，日本万国博覧会寄付金つき２種などがある。そのほか一定のテーマを追い，継続して発行されるものには，文化人切手・国立公園・国定公園などの風景切手，季節の行事・花・鳥・祭り，魚・名園・現代画・国宝などのシリーズ切手がある。また毎年定期的に発行される切手としては，新年にちなむ年賀用切手，４月の切手趣味週間切手，10月の国際文通週間切手があり，いずれもわが国独特の美術などを内外に広く紹介するため，浮世絵・絵巻物・近代日本美人画や，広重(ひろしげ)・北斎の版画などをテーマとして多色刷りとなっている。現在まで約760種が発行されている。

【切手の発行】郵便切手は多くの郵便物にはられて，国内はもとより世界の各地に運ばれ，多くの人の目にふれるため，各国とも図案・色彩・印刷など，競って精巧なものをつくっており，また，それぞれの国がらの特色を表わすものを発行している。わが国の切手は郵政省が発行するが，印刷は大蔵省印刷局が行なっている。切手の発行は毎年，郵政省の郵政審議会専門委員会で決定され，図案は民間の図案専門家や学者なども参加し，郵便切手図案審査委員会で決められる。郵便切手の印刷には凹版(おうはん)印刷・グラビア印刷・オフセット印刷が用いられ，印刷とともに切手を１枚ずつ切り離すため目打ち(パーフ)とよぶ穴の線をつけ，裏面にはゴムのりが引かれる。通常切手は100枚(または50枚)，特殊切手は20枚(または10枚)で１シートとするが，携帯用には10円・20円の切手をつづって小形の冊子とした切手帳とよばれるものがある。また，自動発売機用に20円切手1000枚を縦１列に印刷したコイル切手があり，これには左右の目打ちがない。このほか記念切手などでは，いく種類かを１枚に刷り会わせた小形シートとよばれるものも発行されている。すでに発行された切手を，違う目的で使うためにあとで絵または文字を刷り加えたものを加刷という。わが国では，1919年(大正８)の郵便試験飛行記念に，飛行機の絵を通常切手に加刷したもの，1910年から1930年代にかけて出征中の軍人用の切手に〈軍事〉の文字を加刷したもの，1900年から1910年代にかけて朝鮮・中国に開設された日本の郵便局で使用するため，日本の切手に〈朝鮮〉〈支那〉の文字をそれぞれ加刷したもの，1949年の総選挙に際して発行された〈選挙事務〉の文字入りのものなどがある。また，関東大震災により焼失したため不発行となった切手，第２次世界大戦後はＧＨＱの指令で軍国主義・国家主義あるいは神道(しんとう)に関する図案のものは追放され，いわゆる追放切手といわれて発行・使用が禁止されたものもある。

【切手の収集】郵便切手は発行後まもなく趣味として収集が行なわれるようになり，現在では切手収集趣味が全世界に普及している。切手収集は，大衆的な趣味で，性別・年齢・国などを越えてだれでも楽しむことができ，地理・歴史・科学・美術・語学などの知識を深めるのに役だつ。切手の収集には，すべての切手を対象とするゼネラルコレクションと，年代・地域・国別や図案(動物・植物など)などで分けるスペシャライズドコレクションがあるが，発行目的別に分けて収集するのが，わが国では普通になっている。切手を求めるには一般には郵便局で買えばよいが，東京中央郵便局の切手普及課では通信販売も取り扱っている。また，全日本郵便切手普及協会では機関紙で新切手のニュースを発表するほか，初日カバー・マキシマムカードなどの販売を行なっている。このほか，使用済みの切手を自分で集める，あるいは愛好者仲間で交換を行なう，また専門の切手商やデパートなどで求めるなど，いろいろな方法がある。
→次ページ(写真)　〔高橋譲二〕

ゆうびんきょく　【郵便局】　郵政省の地方機関の一。郵便物の引き受け・配達などの郵便事務，郵便貯金*・郵便為替*(かわせ)・郵便振替*・簡易生命保険*・郵便年金*などの現業事務を中心に，日本電信電話公社・ＮＨＫ(日本放送協会)などから委託された業務，収入印紙*の売りさばき，恩給・年金の支給，その他国庫金の受け払い業務などを取り扱う。このほか，郵政省の直轄の機関ではなく，農山漁村で，簡易郵便局法により地方公共団体，農業・漁業・消費生活協同組合が委託されて，郵便その他の窓口業務を行なう簡易郵便局がある。郵便局の名称は，近代郵便制度が創始された1871年(明治４)当時は，郵便役所・郵便取扱所と称していたが，1875年郵便局と改称された。

郵便切手



①イギリス　現行通常切手　(1969)

②日本　最初の切手〈竜48文〉(1871)

③オランダ　児童福祉切手　(1964)

④日本　現行最高額面500円切手(1969)

⑤スイス　シンプロン-トンネル記念　(1956)

⑥日本　国際文通週間 広重筆《蒲原》(1960)

⑦イギリス領喜望峰　三角切手(1863)

⑧日本　古典芸能シリーズ〈助六〉(1970)

⑨フランス　美術シリーズ〈ロートレックの英国婦人〉(1965)

⑩日本　第16回万国郵便連合記念写楽筆《都伝内》(1969)

⑪琉球　全国造形教育研究大会記念　(1969)

⑫西ドイツ　札幌オリンピック記念　(1971)

⑬チェコスロバキア　著名人シリーズ〈横山大観〉(1968)

⑭ソ連　アルミ箔切手　ソ連共産党大会記念　(1961)

⑮リベリア　万国博記念〈佐渡おけさ〉(1970)

⑯日本　国宝シリーズ〈普賢菩薩〉(1968)

⑰日本　切手趣味週間〈築地明石町〉(1971)

⑱トンガ　汎太平洋および東南アジア婦人会議記念　(1964)

⑲チェコスロバキア　ピカソ筆《ゲルニカ》(1966)

⑳日本　郵便週間　広重筆《月に雁》(1949)

㉑シェラレオネ　ダイヤとネックレス　(1965)

㉒シェラレオネ　鳥型切手　(1967)

㉓トンガ　汎太平洋および東南アジア婦人会議記念　(1964)

㉔バハマ　コイン切手　(1968)

㉕トンガ　国王記念　(1967)

㉖ポーランド　絹製切手小形シート　郵便400年記念　(1958)

注　(　)内は発行年

一方，1941年(昭和16)まで局規模に応じて，1等・2等・3等郵便局の等級種別が設けられていた。1・2等郵便局は，郵政省直轄で，3等郵便局は，局長の請負経営によるものであった。現在は，普通郵便局と特定郵便局の2種に区分されている。普通郵便局は，局長の任用が一般官吏の例に準じるもので，比較的大規模の郵便局であり，これに対して特定郵便局は，局長の任用が自由任用制で，局規模が小さい郵便局をさすが，制度的には普通郵便局とほとんど差がない。

郵便物の取り集めと配達を行なうかどうかによって集配郵便局と無集配郵便局とに分かれる。そのほか，特殊な郵便局として，鉄道・船舶による郵便物運送などのために設置された鉄道郵便局，船舶郵便局があり，また東京その他の大都市で，小包や大形郵便物などを集中して取り扱う集中処理局，外国郵便物専門の国際郵便局，毎年季節を限って開設される定期開設局，大規模な催し物などに際して開設される臨時郵便局がある。それぞれの局のもつ機能から統括局・指定局・外国郵便交換局などと区別することもある。なお，1979年11月現在の全国郵便局数は22,810，内訳は，普通郵便局1,186，特定郵便局17,455，簡易郵便局4,169である。〔高橋譲二〕

ゆうびんししょばこ　【郵便私書箱】　郵便局に設置された受取人の私用郵便受箱。1872年(明治5)東京・横浜に設置されたのがはじまり。郵便私書箱の使用者にあてられた郵便物は，郵便局に到着しだいすみやかにその私書箱に配付され，使用者が適当な時刻に郵便局へ出向いて，あらかじめ郵便局から貸与されているかぎで郵便私書箱を開き，郵便物を受け取る制度である。この制度を利用するためには，郵便局長の承認を受け，また所定の使用料を要することとなっている。なお，1日平均50通以上の郵便物の配達を受け，郵便局長の勧奨によって私書箱を使用する者で，その局の配達区域内に居住する者に対しては使用料が免除されることとなっている。〔高橋譲二〕

ゆうびんしょかん　【郵便書簡】　一定の規格により作成された封筒兼用びんせんの用紙。通信文を書いて折りたためば，そのまま郵便物として差し出せる。郵政省が発行するもので，料金は，定形郵便物の基本料金(60円)と同じである。重さ10gを越えなければ，写真・紙片などの薄い物の封入が認められる。古くは，1873年(明治6)封緘(ふうかん)はがき，1948年(昭和23)簡易手紙が売り出されたが，現在のものは1966年7月から売り出されたものである。なお，1967年6月からはこれを〈ミニレター〉という愛称でよんでいる。〔高橋譲二〕

ゆうびんちょきん　【郵便貯金】　郵便局で扱う国営貯金。1875年(明治8)5月2日に始められ，郵政省が全国の郵便局を通じて，国民に簡易で確実な貯蓄の手段を提供してその経済生活の安定を図るとともに，吸収された資金を資金運用部*を通じて，国家社会の福祉増進に活用することを目的としている。取り扱いが簡易で，安全かつ利率がよく，利子に税金がかからないことも大きな特徴となっている。また，貯金総額制限額は，1預金者につき300万円となっている。通常・積立・定額・定期・住宅積立など7種がある。①通常郵便貯金：1回の預け入れ額は10円以上で随時預け入れ，払いもどしができ，利率は年3.60%。②積立郵便貯金：一定の金額を毎月1回積立，利率は年4.44%。③定額郵便貯金：半年すえ置きで，以後払いもどし自由，利率1年未満4.75%，1年以上1年6か月未満5.25%，1年6か月以上2年未満6.00%，2年以上3年未満6.25%，3年以上6.50%。④定期郵便貯金：預け入れ期間1年，利率年6.25%。⑤住宅積立貯金：毎月5,000円以上を積み立て，郵政省が住宅金融公庫に住宅建設資金の融資を斡旋するもの。利率は3年が年利6.00%，4年が6.24%，5年が6.48%。なお，1980年(昭和55)12月現在，郵便貯金高は60兆円を越えている。〔高橋譲二〕

ゆうびんねんきん　【郵便年金】　郵便局を通じて行なわれる手続きが簡便で，かつ国民のだれもが容易に加入できる年金制度*。1926年(大正15)10月創始されたもので，老後に対する準備のほか，子女の教育資金などを安全に確保することを目的とし，簡易生命保険*と同様，郵政省が営利を目的としないで経営している。保証期間付即時終身年金・保証期間付据置(すえおき)終身年金・定期年金の3種がある。保証期間付即時終身年金は年金契約の効力が発生した日から，保証期間据置終身年金は年金受取人が年金支払い開始年齢に達した日から，ともに死亡するまで年金が支払われ，一定の期間内に年金受取人が死亡した場合は，残りの期間中，年金継続受取人に年金が支払われる。定期年金は年金受取人が年金支払開始年齢に達した日から一定の期間，年金受取人の生存中に限り支払われる。〔高橋譲二〕

ゆうびんはがき　【郵便はがき】　通常はがき(40円)・往復はがき(80円)・小包はがき(40円)の3種があり，わが国では1873年(明治6)11月はじめて発行された。通常はがき(横10cm，縦14.8cm)と往復はがき(通常の2倍の大きさ)には，郵政省で発行する官製はがき(郵政大臣発行)のほか，一定の規格・様式の制限(横9～10.7cm，縦14～15cm，重さ2～6g)のもとに一般民間で調製できる私製はがきが認められている。特殊はがきとしては，年賀用のお年玉つきはがき(寄付金つきもある)，暑中見舞用はがき，各種記念用のはがきのほか，外国郵便用のはがき(通常・往復)がある。なお，外国郵便用の万国郵便連合はがきは，均一料金(ただし船便の場合)で通常はがき40円と60円の2本立てである。〔高橋譲二〕

ゆうびんばんごう　【郵便番号】　郵便局の受け持ち配達区域ごとに(郵便送達の経路にしたがって)系統的につけられた一連の番号のこと。1968年(昭和43)7月1日から，郵便物のあて名書きの際利用者に記載してもらうこととなった。この目的は，郵便物の機械区分の採用と，人手区分の効率化を図ることにより郵便物送達速度の向上と安定，作業要員増加の抑制などがあげられている。1971年11月現在，郵便番号自動読取区分機は35局54台配備されているが，郵便番号記載率の向上は，利用者の協力の有無如何(いかん)にかかっている。郵政省は記載の利便を図るため，郵便番号簿を全国各世帯や事業所に配布している。なお，イギリスは1959年，ドイツ連邦共和国(西ドイツ)は1962年，アメリカ合衆国は1963年から実施して効果をあげている。〔高橋譲二〕

ゆうびんふりかえ　【郵便振替】　国民に簡易で確実な送金と，債権・債務の決済手段を提供してその経済活動を円滑にすることを目的として設けられた国営の振替制度。その業務は郵便局と全国28の地方貯金局に置かれた郵便振替口座を通じて取り扱われている。郵便局へ申し込み，承諾の手続きを経たのち口座が開設されると郵便振替の加入者となることができる。口座への払い込み方法は，通常払い込みと電信払い込みの2種があり，口座振替には，通常振替・電信振替・定期継続振替がある。加入者口座からの払い出し(1件につき限度額10万円)の取り扱いには，現金払い・簡易払い・小切手払いの方法がある。このほか，外国郵便振替の制度があるが，これは万国郵便連合*の郵便振替に関する約定に準拠して，ヨーロッパの14か国との間で業務が行なわれている。なお，日本では1906年(明治39)創設され，1966年(昭和41)までは郵便振替貯金といった。〔高橋譲二〕

ゆうびんほうちしんぶん　【郵便報知新聞】　1872年(明治5)6月東京の報知社から創刊された日刊新聞。駅逓頭(えきていのかみ)前島密*(ひそか)が制定した〈新聞原稿無料通送〉を実効に移すため，小西義敬(よしたか)を中心に発行された。特に郵便との関連から地方記事には生彩を放った。1874年栗本鋤雲*(くりもとじょうん)を迎えて自由民権派の政論新聞に発展，前島とは離れた。栗本は福沢諭吉に共鳴し，福沢門下の投稿を紙上に掲載したことから，以後慶応義塾出身者の拠点の観を呈した。1882年矢野隆溪*(りゅうけい)が社長になると，福沢・大隈重信(おおくましげのぶ)の提携にしたがって立憲改進党(→改進党)の機関紙となった。立憲改進党没落とともに不振に陥り，1894年三木善八が社主となり，《報知新聞*》と改題して再出発した。〔前納弘武〕

ゆうべつがわ　【湧別川】　北海道北東部の川。石狩山地北東部天狗岳(てんぐだけ)に発し，北見山地南部を横切り北流して湧別町

でオホーツク海に注ぐ。流程130km。下流はハッカの産で知られ，上流は林業が盛ん。

ゆうほおんがくかい 【遊歩音楽会】 聴衆を一定の場所に固定させずに，自由に動き回りながら聞くことができるようにした音楽会。最も単純な場合は，普通の音楽会と曲目は変わらない。しかし，最近は，会場をいくつか用意し(遠い場合は車で移動)，それらの間を自分の選択で動いたり，同一会場内に音源をいくつか置いて，聞き手の移動によって響きが異なるようにしたものもある。

ゆうぼく 【遊牧】 牧畜の原始的な形態で，天然の牧草を求めてヒツジ・ヤギ・ウマ・ウシ・ヤク・ラクダ・トナカイなどを放し飼いにし，牧草がなくなると新しい土地へ移動するもので，その土地の使い方はきわめて粗放的であり，一般に旧大陸に限られ，遊牧地域は地球上の陸地の１割に達するが，それに従う人口はおよそ二千数百万にすぎない。遊牧地域はユーラシア大陸の北極海沿岸のトナカイの遊牧と，中央アジアから北アフリカにかけた乾燥地帯に見られるヒツジその他の遊牧の二つに分けられるが，重要なのは後者である。また肉・皮・毛・乳などの畜産品は商品としてよりも自給用として消費されることが多い。ヒツジやヤギを除けば，家畜は一般に乗用や荷駄(にだ)用としても使われる。遊牧の道すじはだいたい決まっており，モンゴル人の場合は春になって草の芽がもえはじめると南から家畜を連れてしだいに北上し，秋には南下して帰り，１年に300～400kmを移動する。遊牧地域の年降水量は250mm以下が普通で，ステップや半砂漠(はんさばく)になっており，オアシスが遊牧民のいこいの場所であり，家はモンゴル人の包*(パオ)のように組み立てのできるテントであるが，冬は固定した住居に住む。最近は遊牧の主要地帯になっているステップ地帯が，しだいに灌漑(かんがい)によって農地となりつつあり，遊牧民の生活も変化して，定着化と集団化が企てられている。遊牧民の財産である家畜は旱魃(かんばつ)や酷寒などのために全滅することがあり，財産としてはきわめて不安定な存在で，そのため昔から遊牧民は近くの農耕地帯への侵入をくり返し，モンゴル人のヨーロッパ遠征はその大規模な例ともいえる。しかし遊牧民はその行動の範囲が広いために，世界の交通がまだ発達していなかった時代には，東西文化の融合者としての大きな役割を果たしてきた。〔浅井得一〕

ゆうぼくみんぞく 【遊牧民族】 牧畜の一種である移動性牧畜(遊牧*)に従事する民族。サハラ・エジプトからアラビアに至り，黒海・カスピ海・アラル海北岸からカザフスタン・ジュンガリアを経てモンゴルに達する乾燥地帯に分布する。遊牧は，乾燥地帯において，集合本能をもつ有蹄(ゆうてい)類(ウマ・ウシ・ヒツジ・ヤギ・ラクダなど)の飼養を主要な経済手段とする生活様式である。しかし，家畜の飼養だけの経済に依拠することは，少なくとも効率が低く，また場合によっては災害によって突然に多くの家畜を失うなど，遊牧のみによる生活は不安定でもある。そのため遊牧民は多くの場合は農耕・狩猟・交易・略奪などを季節的・副次的な職業としていた。要するにきわめて粗放・無計画な生産形態であり，生産力の発展にも一定の限度があった。したがって，古い社会集団である氏族が長い間温存され，その上に形成される国家にも古い血縁的要素がつきまとった。史上最も活躍したのはモンゴル・トルコ・アラビア民族である。中でもモンゴル族が遊牧の全歴史において占める位置は，非常に重要であり，13世紀におけるモンゴル遊牧民の活動は，単にモンゴル帝国の全盛時代であるばかりでなく，史上の遊牧民の活動の絶頂を示し，それ以後，遊牧社会は下降線をたどる。今日では，いずれの遊牧民族も定着化の傾向にあり，遊牧社会は急速に消滅しつつある。〔若松　寛〕

ゆうもん 【幽門】 胃の出口で十二指腸に続く部分。十二指腸内容物の酸性度によって幽門括約筋が収縮したり弛緩(しかん)したりして，幽門口が閉じたり開いたりする。こうして胃内容物が腸へ出るのを調節する。

ゆうもんきょうさく 【幽門狭窄】 胃の幽門部の内腔(ないこう)が狭くなった状態。原因は幽門括約筋の痙攣(けいれん)性収縮，十二指腸潰瘍(かいよう)・胃幽門部潰瘍の瘢痕(はんこん)収縮による場合(良性狭窄)と，幽門部の腫瘍(しゅよう)特に癌腫(がんしゅ)による場合(悪性狭窄)とがある。嘔吐(おうと)が主徴であるが，吐物の中に古い食物を認めるのが特徴である。すなわち初期には胃の排出運動が亢進(こうしん)し，狭窄に打ち勝って内容物を腸へ押し出している間は嘔吐を認めないが，狭窄の程度が強くなったり胃の排出力が衰えると胃内容物が貯溜し，胃は拡張して嘔吐を認めるようになる。その他，食欲不振・脱水・貧血などの症状も現われる。診断は，胃Ｘ線検査が主であるが，胃内視鏡・胃液検査なども大いに参考となる。治療は原因療法が第一であるが，外科的治療を要する場合が多い。〔佐野隆志〕

ゆうやけ 【夕焼け】 薄明現象の一。太陽が西の地平線(水平線)下に沈んでから，西空が赤く染まること。厚い空気層を光線が通過するとき，大気の粒子や浮遊微粒子による散乱・乱反射によりすぐに暗くならず，波長の短い青色光が吸収されて長波長の赤・橙(だいだい)・黄色光のみが透過することによる。地平線下4°くらいに太陽があるときが最も明るい。中緯度地方では，天気が西から東に移るので，夕焼けは晴天のきざしといわれる。なお，朝焼けは日出のときに生ずる現象で，原理は夕焼けと同じである。〔相原正彦〕

ゆうようざっそ 【酉陽雑俎】 中国，唐代の物語集。20巻，続集10巻。段成式(？～863)の作。作者は当時有名な博学多才の人物で，通人でもあったから，本書は道術や喪葬，入れ墨，動植物，民話の考証，怪異談，タカの飼育法，さては都の寺院の縁起，金剛経にまつわる説話など，多方面にわたって記載し，広く愛読されている。

ゆうらくざ 【有楽座】 1908年(明治41)東京数寄屋橋(すきやばし)近くに開場した日本最初の洋風劇場。自由劇場*・文芸協会・芸術座*などの新劇の劇団があいついで出演し活況を呈したが，関東大震災で焼失。洋画封切館である現在の有楽座は，1935年(昭和10)東宝により，演劇興行の目的で日比谷寄りの地に新築開場されたもの。

ゆうらくちょう 【有楽町】 東京都千代田区南東部の町名(１～２丁目)，または国電有楽町駅周辺部の通称。地名は江戸時代初期に織田有楽斎(うらくさい)の屋敷があったことにちなむ。東は銀座，西は皇居・日比谷(ひびや)公園に接する繁華街で，デパート・商店街・映画館・劇場などが集まる一方，新聞社や多くの会社・商社などが立地してビジネスセンターともなっている。もと数寄屋(すきや)橋*が架橋されていた。江戸城の外濠(そとぼり)跡は埋め立てられて高速道路８号線が走り，橋のあとには数寄屋橋公園があり，高速道路の下には数寄屋橋ショッピングセンター・フードセンター・西銀座デパートなどの２階建てのビルが立ち並び，これらの地区は〈有楽町ゼロ番地〉と通称される。国電山手(やまのて)線・京浜東北線が通じる有楽町駅と，地下鉄日比谷線・千代田線・有楽町線が通ずる日比谷駅と有楽町駅がある。〔浅井得一〕

ゆうりき 【遊離基】 １個ないしそれ以上の不対電子を有する分子あるいは原子。フリーラジカルあるいは単にラジカルともいい，$\dot{R}$のように表わす。化合物中の基は遊離して存在しないのが普通であるが，特殊な場合遊離基として存在する。1900年トリフェニルメチル遊離基がM.ゴンバーグによりはじめて発見され，その後気相中だけでなく溶液中でも存在が確認された。きわめて活性に富み不安定で，短寿命である。遊離基は下記のように種々の方法で生成され，さまざまな反応機構に関与する。①電子の移動による。$RX+Na \rightarrow \dot{R}+NaX$ ②光分解による。$HBr \rightarrow \dot{H}+\dot{B}r$, $(CH_3)_2CO \rightarrow \dot{C}H_3+CH_3\dot{C}O$ ③放射線分解による。④$(RCOO)_2 \rightarrow 2RCO\dot{O}$，$(CH_3)_4Pb \rightarrow 4\dot{C}H_3+Pb$ ⑤生成遊離基の二次反応(転移・分解)による。$C_6H_5CO\dot{O} \rightarrow \dot{C}_6H_5+CO_2$ 〔竹下三吉〕

ゆうりしき 【有理式】 $\frac{1}{2}a+bc$, $\frac{1}{m}+\frac{1}{n}$, $\frac{10xy}{\sqrt{2}x+\sqrt{3}y}$などのように，いくつかの文字に加減乗除の演算だけを施してできている式。数は有理数・無理数のどれを含んで

いてもよい。有理式は分母に文字を含むか否かによって分数式と整式とに分けられる。

ゆうりすう 【有理数】 二つの整数 a, b($b \neq 0$)によって，分数$\frac{a}{b}$の形に表わされる数。整数 n は，$\frac{n}{1}$のように表わせるので，有理数である。また，$\frac{3}{2}$や$-\frac{2}{3}$なども有理数である。有理数は小数で表わすと，有限小数(整数も含める)か循環小数かのいずれかになる。逆に，有限小数や循環小数は有理数である。たとえば，0.12や$0.\dot{3}\dot{4}$は有理数である。

〈有理数と四則計算〉任意の二つの有理数に四則計算(加減乗除のこと，ただし，0で割ることは除外する)を施した結果は，再び有理数になる。数の範囲は，有理数全体にまで広げることにより，はじめて，普通の四則計算が自由にできるのである。それより狭い範囲，たとえば自然数全体，整数全体，正の有理数全体などの範囲では，四則計算は自由にはできない。実は，有理数全体は，加法・乗法に関して体(→群)をつくるので，有理数体ということがある。

〈有理数系の稠密(ちゅうみつ)性〉任意の二つの有理数の間には，少なくとも一つの有理数，したがって無数の有理数が存在する。この性質を，有理数系の稠密性という。おおまかにいえば，一つの有理数の近くには，有理数はいくつもあるが，いちばん近い有理数はないということである。〔杉岡司馬〕

ゆうりゃくてんのう 【雄略天皇】 生没年不詳。《日本書紀》によれば418～479年。在位456～479年。父は允恭(いんぎょう)天皇，母は忍坂大中姫(おしさかのおおなかつひめ)皇后。兄安康天皇が眉輪(まゆわ)王に殺されたあと，これを討って即位。478年中国南朝の宋(そう)に上表した〈倭王(わおう)武〉は，雄略の諱(いみな)大泊瀬稚武(おおはつせわかたけ)の武にちなむといわれる。この時代は大和(やまと)朝廷の隆盛期であるが，半島の形勢はしだいに悪化しつつあった。陵墓は大阪府羽曳野(はびきの)市の丹比高鷲原(たじひのたかわしはら)陵。〔黛　弘道〕

ゆうりょうどうろ 【有料道路】 通行する際料金を徴集する道路。ヨーロッパやアメリカ合衆国では古く馬車交通時代に有料道路が存在したが，現在はおもに自動車交通を対象としたものである。有料道路はそれにほぼ平行した他の道路があるが，有料道路の設置により利用者が著しい利益を受ける場合，あるいは全然道路のない所でおもに観光に供する場合につくられる。有料とするのは道路のすみやかな整備を促進し，交通により受ける利便の増進を図るためである。有料道路には高速自動車国道の全部，一般国道および都道府県道の一部(以上は道路公団・首都および阪神(はんしん)高速道路公団が管理)，その他自動車運送事業者がつくり，管理している一般自動車道が含まれる。〔森　麟〕



幽　霊
①安藤広重筆
②飯島光峨筆
③林静筆

ゆうりんるい 【有鱗類】 哺乳(ほにゅう)類・有鱗目の総称で，センザンコウ科だけからなる。→センザンコウ

ゆうれい 【幽霊】 死者の霊が，恨みを報復するためあるいは願いごとを果たすために，特定の人間の眼前に姿を現わす信仰現象をいう。形状は民族によってさまざまであるが，日本の幽霊は元来は生前のままの，足がついた姿で出現し，しだいに一定の型に統一されていった。しかし江戸中期以後は絵や怪談劇にみられる足のない，乱れ髪の定型となり，出現の時刻は草木も眠る丑三つ時(うしみつどき)，場所は柳の木の下というように決まってきた。これは恨みをはらそうとする相手がどこへ逃げようが，自由に空間を飛行して追いかけてゆくためには，足のない姿のほうがつごうがよいし，すごみもあってぐあいがよかった。水死人の霊と考えられている船幽霊*は，海上の共同幻覚として各地に経験談が残っている。幽霊は，日本人の御霊(ごりょう)信仰・死霊観を基底としてつくられた信仰上の産物と考えられる。なお，幽霊は経文の法力によって済度されるという。〔直江広治〕

ゆうれいたけ ⇨ギンリョウソウ

ゆうわせいさく 【宥和政策】 アピーズメントともいう。一般には，国際関係の現状を打破するために侵略などの積極的対外政策をとる国に対して，決定的な現状破壊をもたらさない限り，その要求を是認する妥協的政策をいう。歴史上，特に第２次世界大戦前，ドイツのナチス政権の侵略政策に対するイギリスの外交政策をさす。1938年，イギリス首相N.チェンバレン*はミュンヘン会談*でナチスの主張を認めてチェコスロバキアからズデーテン地方を割譲することに同意し，戦争の危機を回避しようとした。しかし，ナチスはこれに乗じてさらに膨張政策をとり，第２次世界大戦となった。〔板橋重夫〕

ユエ ［Hue］ インドシナ半島東岸中部，南ベトナム北部の都市。人口10万3,000(1966)。かつてのアンナン王国の首都で，ベトナム民族の南進に伴い，15世紀からその拠点となった。市内にはフォンザン(香江)川が流れ，北岸には城壁を巡らした中国式都城の王城をはじめ遺跡が多い。1883年にはフランスに占領され，ベトナム戦争では戦場になり，市街は大きな被害を受けている。

ユーエイチエフ ［ＵＨＦ］ ⇨電磁波

ユーエイチエフほうそう 【ＵＨＦ放送】 ＵＨＦ(→電磁波)による放送。極超短波放送ともいう。300～3,000MHz(メガヘルツ)の周波帯を使った放送で，おもにテレビ放送に使われる。1952年アメリカで最初に放送された。ＶＨＦ放送(周波数30～300MHzの超短波を使った放送)よりも，さらに電波の直進性が強く，サービス-エリアは狭くなるが，他の電波との混信がなくきれいな画像が受信できる。ＶＨＦテレビジョンは12チャネルしか収容できず飽和状態になっているので，日本でも1979年までに45チャネル以上とれるＵＨＦ帯に切り換えることになっており，このうち民間放送には19チャネルが予定されている。また，現在でも難視地域にはおもに周辺地区にＵＨＦテレビ局が開設されている。なお，ＶＨＦからＵＨＦに移行する期間内は，従来のテレビ受像機にコンバーター(周波数切替装置)を取りつければ，どちらも受信可能である。〔飯田良明〕

ゆえき 【輸液】 人工溶液を静脈点滴または皮下補液する治療法，あるいはその人工溶液のこと。浸透圧が血液と等しく，使用目的によって給水輸液・栄養輸液・補血輸液などに大別される。給水輸液は水分と電解質*を補給するもので，水分の異常喪失やショックなどの際に用いられ，リンゲル液・タイロード液・ハルトマン液などの生理食塩液がある。栄養輸液は栄養低下や低タンパク時に用いられ，アミノ酸液・ブドウ糖液・果糖液・プラスマネートなどがある。補血輸液は出血・ショック・ネフローゼなどで血圧が維持できないときに用いられ，血液の代用としてデキストラン・ＰＶＰ(ポリビニルピロリドン)・プラスマ(乾燥



ゆかた
(左)江戸後期
(喜多川歌麿画)
(右)現代　注染差し分け中形ゆかた

血漿(けっしょう))溶解液，酸素補給用として人赤血球浮遊液などがある。多用目的にはこれらのいくつかが混用・併用される。輸液の対象は，経口摂取不能のほか，脱水症・消耗性疾患・糖尿病・肝臓障害・自家中毒症・消化不良などであるが，大手術の前処置としてもしばしば行なわれる。➔溶液
〔玉城　巌〕

ユーエスエー【USA】ドス-パソスの小説(1937)。《北緯42度線》《1919年》《ビッグ-マネー》からなる三部作。20世紀初めの30年間のアメリカ社会を背景に，そこに生きる人々を中心に展開される大パノラマ小説。資本主義と労働搾取を基盤とするアメリカ文明の中で進行する退廃・不毛を鋭くついている。斬新(ざんしん)な技巧として，物語の間に〈ニューズリール〉と名づけて新聞記事・広告文・流行歌などを挿入(そうにゅう)したり，その時代の著名人の簡潔な伝記を書き込んだり，〈カメラ-アイ〉として作者の視点を述べたりしている点で，20世紀文学の代表作ともされる。〔須山静夫〕

ユーエス-スチール【USスチール】United States Steel Corp. 世界最大の総合鉄鋼メーカー。1901年カーネギー製鋼，モルガン財閥のフェブラル製鋼などアメリカの主要鉄鋼メーカー10社の大合同によって成立。アメリカ合衆国の鉄鋼生産の70%以上を独占していた。鉄鋼のほか鋼構造物の製作・建設やセメント，石炭系の化学品も生産している。鉄鋼の年生産高は2,469万t(1971)で，新日本製鉄に次いで世界第2位。製鉄所はシカゴ・ピッツバーグなど。年間売上高49億3,000万ドル(1971)。

ユーエス-ライン【USライン】United States Lines Co. アメリカ合衆国最大の海運会社。おもに大西洋航路で旅客・貨物輸送を行なっている。近年北大西洋におけるコンテナーの可能性が開かれ，ヨーロッパ大陸・極東・イギリス・アイルランド間を40フィートコンテナ・冷凍コンテナ・シャシーなどを使ってコンテナサービスを行なっている。1969年1月コングロマリット(複合企業)として有名なアメリカのウォルター-キディ社に株式買い占めのすえ，正式に合併された。なお1970年11月以降レイノルズ-タバコ社との間に買収契約が結ばれたが，現在訴訟中である。わが国では東京に極東事務所があり，横浜・神戸(こうべ)・大阪に支店がある。本社ニューヨーク。
〔氏家　尚〕

ゆえつ【兪樾】(1821～1906) 中国，清(しん)末の経学者。号は曲園。浙江(せっこう)省の人。河南の学政になったが37歳で退官し，30余年間杭州詁経精舎(こうしゅうこけいせいしゃ)を主宰した。王念孫・引之(いんし)父子の学を継承した考証学の大家で，《古書教義挙例》《群経平議》などを著わし，また出版事業にも尽力した。章炳麟(しょうへいりん)の師であり，日本人の弟子(でし)もいた。

ゆえん【油煙】ガス・油が不完全燃焼するときに発生する微細な炭素粉。ランプブラックともいう。油質不純物を除去し，印刷用インキ・塗料などに用いる。なお，日本では古くから墨の製造用に生産されてきた。

ゆかうんどう【床運動】⇨体操競技

ユカギールぞく【ユカギール族】古アジア諸族の一つで，シベリアのヤクート自治共和国に住む。ツンドラのユカギールはトナカイ牧養に狩猟・漁労をあわせ行なっているのに対し，南方コリマ川沿いのものは狩猟・漁労のみにたより，トナカイはまったくもたない。人口は1859年に2,350人，1897年には1,500人，現在は約400人と，減少の一途をたどっている。

ゆがしまおんせん【湯ケ島温泉】静岡県田方郡天城(あまぎ)湯ケ島町にある温泉。泉温45～62℃，泉質は重炭酸土類泉で，切り傷・婦人病などにきくといわれる。伊豆(いず)半島のほぼ中央，狩野(かの)川と猫越(ねっこ)川が合流する近くにあり，西平・新宿(にいじゅく)・世古・木立の4か所を含む。山中の静かな温泉で，湯量も多く露天風呂(ぶろ)・温泉プールがある。付近には浄蓮(じょうれん)の滝・八丁池・世古滝などがある。伊豆箱根鉄道・修善寺駅からバスの便がある。
〔木村東一郎〕

ゆかた【浴衣】湯帷子(ゆかたびら)の略。近世初期から，入浴の際に身体をふき，汗や湯げを吸わせるために着た麻布の単衣(ひとえ)。藍(あい)一色の大がらな型染めで，中くらいの大きさのがら(一送りの型紙の長さが14～28cm)が流行したことから，中形ゆかたまたは略して中形ともよび，ゆかたの総称となった。江戸中期には，木綿(もめん)布が使われ，庶民の男女が昼間もふだん着としても着用した。色は白地のほかに茶・ねずみ・紺地もあり，また白地・紺地の絞り染めもつくられ，鳴海(なるみ)絞り(有松絞り)・博多(はかた)絞りが流行した。生地は平織り晒(さらし)木綿の真岡(もおか)木綿(栃木県)が多く使われ，その後知多木綿(愛知県)が使われた。前者は現在でも岡木綿・特岡の名で用いられ，織り糸の細い密な晒木綿が一般的となった。江戸時代には広そでが普通で，女物はそで口下をかがったりとじたりしたが，明治以降ふだん着には男女とも普通のそでになった。

【染め方の種類】①長板木藍染め中形：生地を半反の長さの型付け板に張って型付けし，呉汁(ごじる)を引いて防染とし，藍瓶(あいがめ)に入れて数回くり返して染める。布の裏にも同じ型を合わせて染める。技術は熟練を要し，生産量はわずかで高価。②注染中形(手ぬぐい中形・折り付け中形)：東京本染めゆかたと称するものが代表的で，ゆかたの大部分はこれである。手ぬぐいの染め方を応用し，生地は晒木綿に限る。生地を屏風(びょうぶ)だたみに折って防染し，その上に熱した染料液を注ぎ，真空装置で液を下に吸い取る方法による。堅牢(けんろう)な化学染料で，一度に布の表裏を染められる。現在は差し分け(多種の色を部分的に差して染める)もできる。生産は浜松・大阪が多い。③捺染(なっせん)ゆかた：少数であるが，ロールに型を彫り，印刷するように染める。片面染めで安価。〔堀越すみ〕

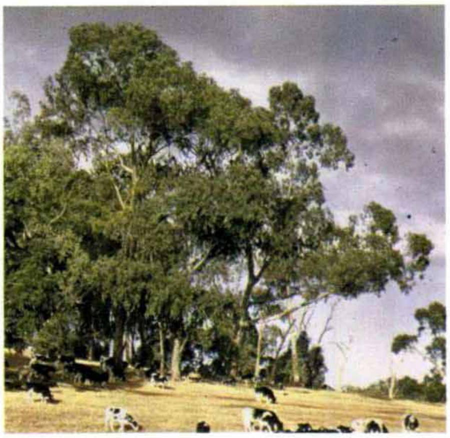
ユカタン(半島)［Yucatán］メキシコ南東部で北東に突出する半島。東方にキューバ島があり，同島を隔てるユカタン海峡を境に，カリブ海とメキシコ湾を分けている。面積約18万km²。半島の北部を中心に大半がメキシコ領であるが，頸部(けいぶ)の東部はイギリス領ホンジュラス，中央部はグアテマラ領になっている。内陸は丘陵性の山地をなすが，大部分は低湿地で，海岸は砂丘が発達し砂嘴(さし)やラグーンが多い。海岸部には密林が見られるが，内陸はサバナで乾燥している。サイザルアサやサポジラ栽培の中心地帯で，トウモロコシ・サトウキビ・タバコ・綿花・コーヒーも産している。古代マヤ帝国の中心地域で，神殿の石造建築物など多くの遺跡があり，中でも半島先端部のメリダ周辺のウシュマル・チチェンイッツァなどは有名。〔長津一郎〕

ゆがのおんせん　【湯ケ野温泉】　静岡県賀茂郡河津(かわづ)町にある温泉。泉温46～54℃，泉質は石膏(せっこう)泉で，神経痛・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。天城(あまぎ)峠の南麓(なんろく)河津川の上流にあり，古風な温泉情緒で知られ，川端康成(かわばたやすなり)の小説《伊豆(いず)の踊り子》の舞台となった。最近は団体客用の旅館も建ち行楽客も多い。交通は伊豆箱根鉄道修善寺駅からバスの便がある。

ゆがみしゅうさ　【ゆがみ収差】　⇨ザイデルの５収差

ユーカリのき　【ユーカリの木】　双子葉植物・フトモモ科。オーストラリア原産の常緑高木で，高さ100mにも達するものがある。木はだはなめらかで美しい灰色。葉は長さ10～30cmの披針(ひしん)形で互生するが，若枝の葉は卵形・無柄で対生する。日光に透かすと油点が見える。10～３月，葉腋(ようえき)に径３～４cmの緑白色の花を１～２個ずつつける。果実は径２～３cmの倒卵形である。ユーカリからとれる油(ユーカリ油)は去痰薬(きょたんやく)・消炎薬・香料に用いられる。本種の仲間は気候・風土の関係であまり日本では栽培されていないが，オーストラリアを中心に，世界に約300種が知られている。

ゆかわひでき　【湯川秀樹】　(1907～1981)　理論物理学者。東京麻布(あざぶ)の生まれ。1926年(大正15)京都帝国大学理学部物理学科に入学し，量子力学を専攻。原子核および場の量子論の研究を行なう。京都帝国大学理学部講師を経て，1933年(昭和８)大阪帝国大学助教授。旧姓小川，結婚して湯川姓となる。1940年に京都帝国大学教授となる。1933年ごろから核内電子について研究をはじめ，1934年核力を媒介とした新粒子の存在を規定する理論(中間子論)を立てた。この理論は，その後1937年，アンダーソンを中心とするアメリカの実験グループが宇宙線中に同程度の質量をもった粒子を発見したことにより，一躍世界的脚光を浴びた。これに勢いを得て彼は，坂田昌一(しょういち)・小林稔(みのる)・武谷三男(たけやみつお)らと協力して中間子理論の発展に努め，日本の素粒子論を確立した。その後も，〈非局所場の理論〉(1947)，〈素領域の理論〉など，すぐれて独創的な研究を続け，学界へ大きく貢献した。第２次世界大戦後アメリカ合衆国に渡りプリンストン高等研究所の客員教授をつとめた。1953年京都大学基礎物理学研究所長に就任，後進の指導に努めるかたわら素粒子論の研究を続けた。日本の理論物理学の先達として指導的役割を果たす一方，アインシュタイン・ラッセル声明にこたえ科学者京都会議を主宰するなど，平和運動にも貢献。自伝・随筆をはじめとして専門以外の著作も多い。学士院恩賜賞(1940)・文化勲章(1943)を受賞。1949年ノーベル物理学賞を，日本でははじめて受賞した。



ユーカリノキ



湯川秀樹

〔藤村　淳〕

ゆがわら　【湯河原(町)】　神奈川県南東端，足柄下郡の町。人口25,000。町域は箱根火山の外輪山の南東斜面に広がる。古くから湯河原温泉*で知られる。千歳(ちとせ)川とその支流藤木(ふじき)川の合流点付近が温泉街の中心で，藤木川の上流に奥湯河原温泉があり，ここから箱根の鞍掛(くらかけ)山下へ湯河原パークウエーが通じている。相模(さがみ)湾岸には吉浜(よしはま)の海水浴場がある。ミカン栽培も盛んで耕地の95％を占め，また福浦には漁港がある。

ゆがわらおんせん　【湯河原温泉】　神奈川県足柄下郡湯河原町から千歳(ちとせ)川の南岸の静岡県熱海(あたみ)市泉区にまたがる温泉。泉温38～92℃，泉質は弱食塩泉・単純泉・含石膏(せっこう)弱食塩泉などで，切り傷に特効あるといわれるほか，やけど・打撲傷・関節痛・痔病(じびょう)・胃腸病などにもきくといわれる。箱根山南東斜面の相模(さがみ)湾西岸に位置し，箱根・熱海(あたみ)とともに名高い温泉郷。付近には万葉植物園・動物園，国木田独歩の碑，城願寺・天照山などがある。東海道線湯河原駅からバスの便がある。　〔木村東一郎〕

ゆかん　【湯灌】　死体を棺に収めるまえに湯水で洗い清めること。この役にあたる者は忌みがかりする血族で，子ならば親が，親ならば子がこの役にあたることが多く，地方によっては近親者数人で，縄帯(なわおび)・縄だすきの姿で洗う所もあり，日常まとっている服装とは違った姿で行なう。湯灌に使う水のくみ方や使った湯の捨て方には一定の作法があって，水くみに行った者を必ず呼びに行くとしている地方もあり，また水のくみ方，沸かし方，くむ方向，湯と水の混ぜ方など，細かく規定したり，使った水は日のあたらない場所に捨てるなどの地方もある。また湯灌に際してはことさら，忌みことばや反対の行為・動作をして，日常生活とまったく違った状況にいることを強調しようとする。　〔渡辺欣雄〕

ゆき　【雪】　大気中に浮遊する氷の結晶。とけては雨滴になり，積もっては積雪になる。雪の結晶を最初に認識した人は，ドイツの自然科学者アルベルタス-マグヌスといわれ，1250年代のことである。下総(しもうさ)(茨城県)古河の城主土居利位(としつら)の《雪華図説》(1833)やベントレーの華麗な顕微鏡写真集《雪の結晶》(1931)が有名である。わが国における最初の雪の結晶の物理学的研究は，北海道大学教授中谷(なかや)宇吉郎によってなされ，その業績は雪の研究の基礎となっている。

【雪の結晶の観測】そでに降り注いだ雪の結晶は虫めがねでも観測できる。また，普通のカメラに接写装置をつけただけでも撮影できるが，細かい点まで見たければ顕微鏡にたよるしかない。この際10～20倍ぐらいの低倍率レンズのほうが好つごうである。顕微鏡撮影では結晶がとけやすいので，０℃以下の寒さが必要である。顕微鏡を立て型の冷蔵庫に入れたまま撮影すると便利である。偏光顕微鏡で撮影すると雪の結晶の軸の方向や厚さによって色が違うのでカラー写真がとれる。写真①～⑫はこの方法で撮影した雪の結晶である。バックが赤紫色になっているのには特別な意味はない。雪の結晶を記録するには，ポリビニルフォルマルをエチレンダイクロライドに約１％の割合でとかした液が便利である。この液をガラス板に薄く塗って結晶を載せてかわかすと克明な雪の結晶のレプリカがとれる。

【雪の結晶の分類】雪の結晶は水晶と同様に六方晶系に属し，図-1のように３本のa軸と，これに直角なc軸をもっており，a軸を含む基底面，c軸に平行な側面(柱面ともいう)，斜めのピラミッド面と３種類の面をもっており，これらの面の大小やくり返しによって千差万別の外形を見せる。顕微鏡で観測すれば一つとして同じものはないが，図-2のように針状結晶・角柱状結晶・板状結晶，角柱・板状組み合わせ，側面結晶・雲粒付き結晶・不定形および初期結晶の８種に大別され，それぞれの種にも同図のようにいろいろな形がある。

《針状結晶》　c軸方向(縦方向)に柱面だけが極端に成長したもの。一見して針のように見え，写真の①のように先が鋭くとがったものや写真の②のように直角に切れたものがあり，これらが束になったりX字状に交差したまま降ってくることもあるが，もともとは一つの結晶である。

雪

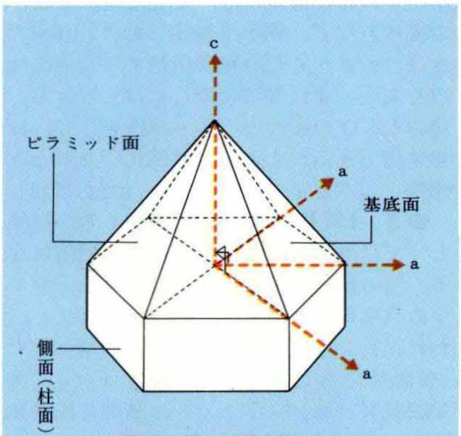


図-1　雪の結晶の軸と面

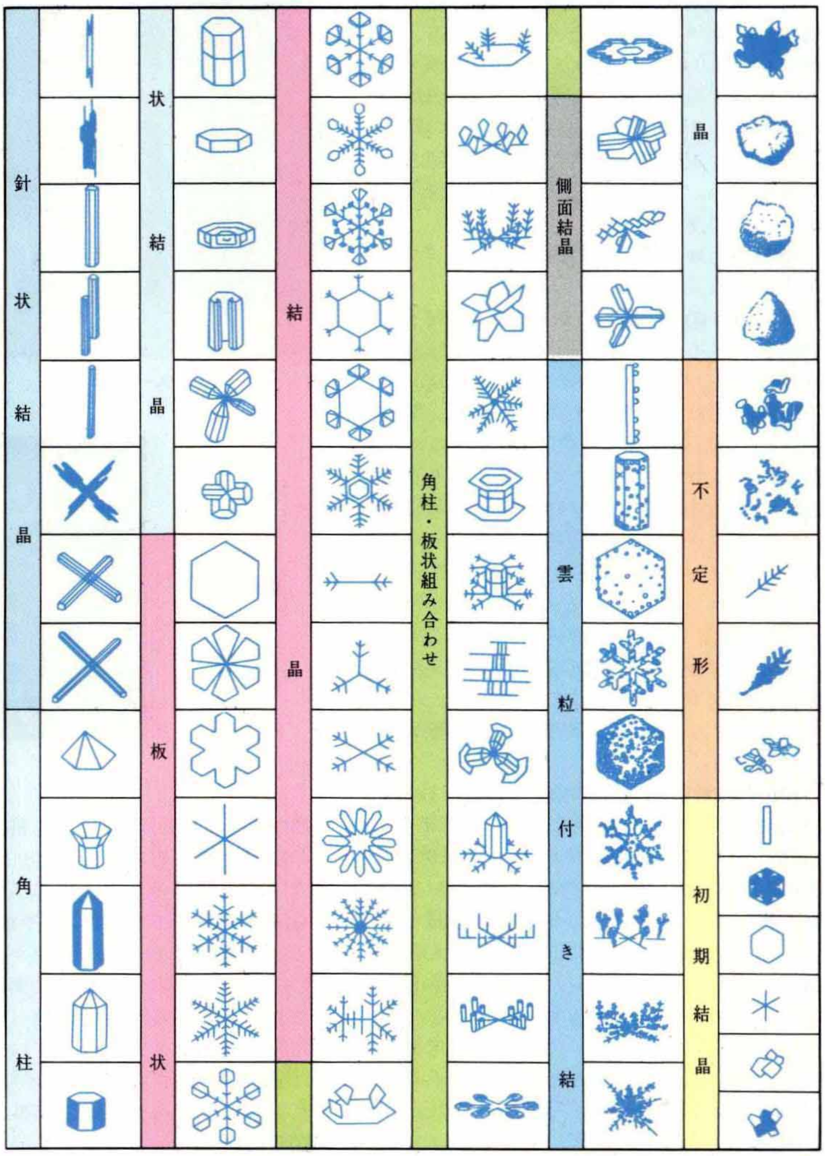
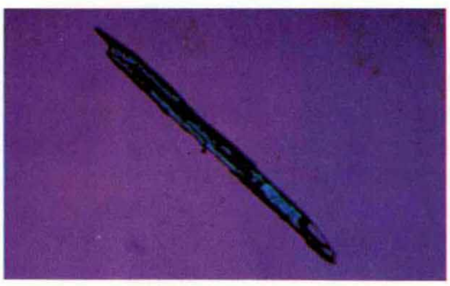


図-2
雪の結晶の
いろいろ

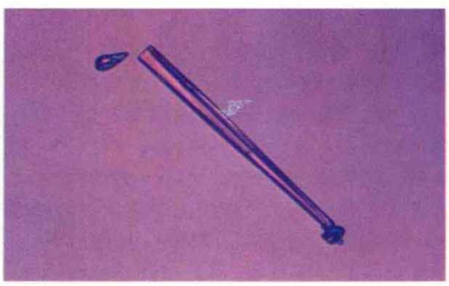
〈角柱状結晶〉 針状結晶よりは短くて太く，中空のものもあれば中身の詰まった無垢(むく)のものもある。また，写真の③のように，角柱の末端にピラミッドをつけた砲弾形をしたものや，砲弾の先端部がくっつきあった形のものもある。これはもともとくっつきあったものが原形で，これがこわれて写真の③の形ができるのかもしれない。

〈板状結晶〉 柱面よりも基定面のほうがより発達したものを板状結晶と総括しているが，種類としてはこの種のものが最も多く，日本ではいちばんなじみの多い種である。簡単な六角板状から，切り込みの多い扇形状を経てより複雑な樹枝状(写真の⑤)までいろいろの形があり，写真の⑥のように12本の枝をもったものもある。雪の結晶は6本の枝をもつものが基本形であり，2本と

雪　いろいろな結晶の顕微鏡写真



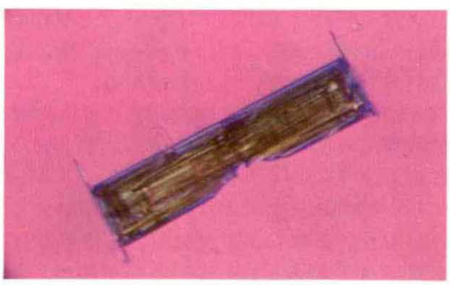
①針状結晶ー針



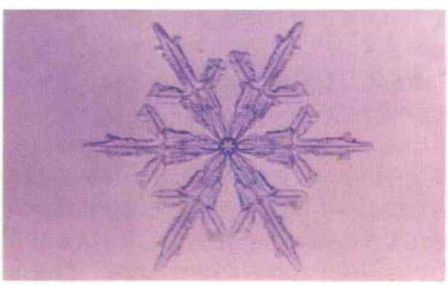
②針状結晶ー鞘



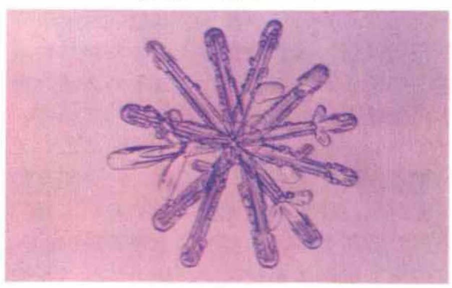
③角柱状結晶ー砲弾



④角柱状結晶ー中空角柱



⑤板状結晶ー樹枝



⑥板状結晶ー十二枝

か4本枝のものは結晶が落下の際にちぎれたものであり，12本枝は二つの核から成長したふたごと考えられる。

〈角柱・板状組み合わせ〉 雪の結晶の基底面に過冷却した雲粒が凍りつくと，そこから写真の⑦のように枝が立体的に伸び始めたり，枝が放射状(写真の⑧)に成長したものもある。また角柱の上下端に板状の枝が伸びて鼓形(写真の⑨)になったものや，板状結晶の枝の端のほうが縦に伸びたものもみられる。これらの枝の縦や横に伸びる原因は，後述の図-3にみられるように温度などの成長条件の差によるものである。

〈側面結晶〉 写真の⑩のように基底面・柱面，およびピラミッド面では説明できないような面をもった結晶がまれにみられる。これは側面の部分が異常に成長したものと思われるので側面結晶とよばれ，高くて薄い雲から降ることが多い。

〈雲粒付き結晶〉 過冷却した雲粒が落下中の結晶と衝突すると，そのまま凍りついて結晶全体が写真の⑪のように厚くなり，ついには霰(あられ)になってしまう。

〈不定形〉 雪の結晶には，以上のように分類してもなおいずれにも入れられないものがあり，一括して不定形と称しているが，枝のちぎれたものも含めると天然には案外と多いものである。

〈初期結晶〉 高山や航空機で観測すると，写真の⑫のように雪の結晶の初期と思われる微小な氷晶が見られる。絹雲の中身もこの種の雪であり，地上ではダイヤモンドダスト，または氷霧がこれに相当する。

［雪の結晶の成長］ 分類で例示したように，雪の結晶は華麗かつすこぶる多様であるが，その成長過程は中谷らの実験的研究によって次のように明らかにされた。温度の低い雲の中で，大気中の微粒子(氷に似た結晶性の鉱物微粒子または凍った雲粒)を核と

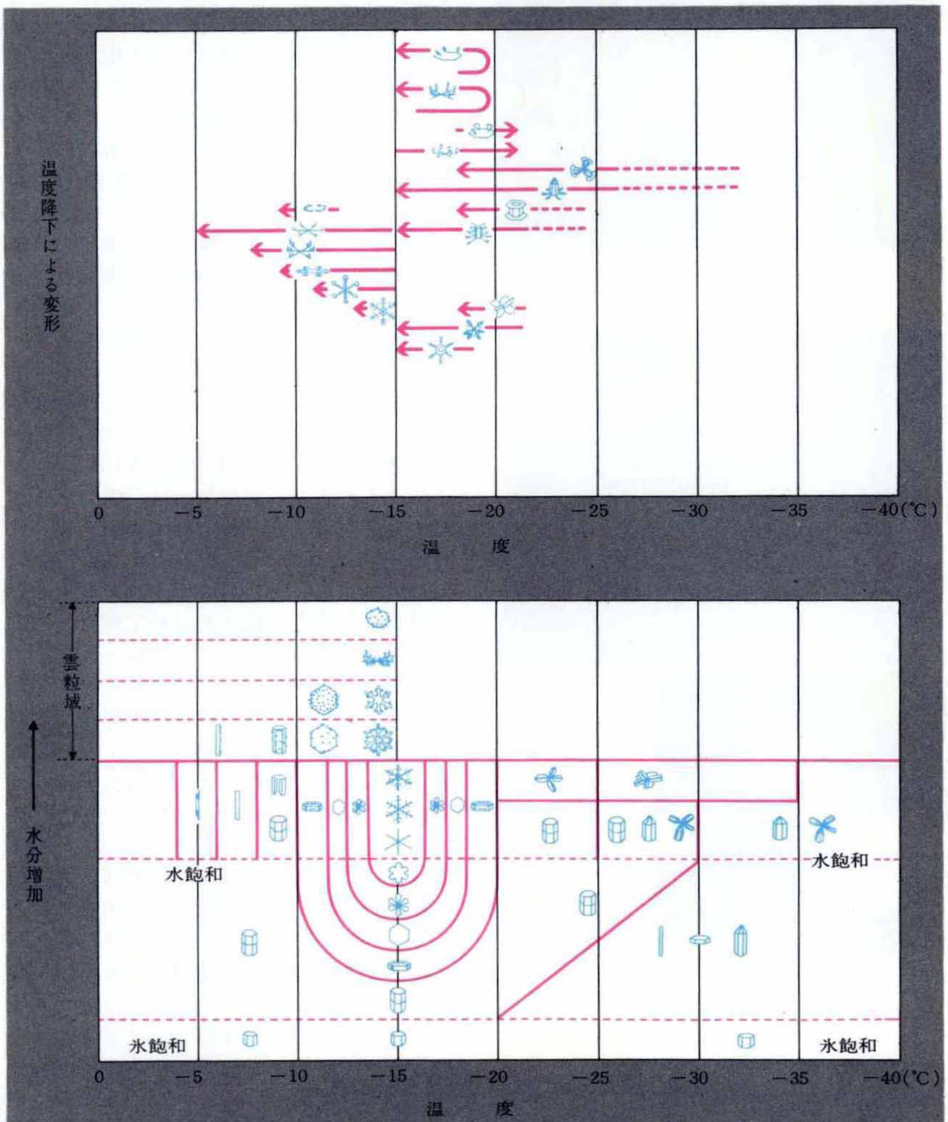
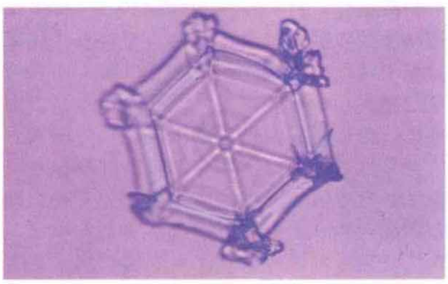
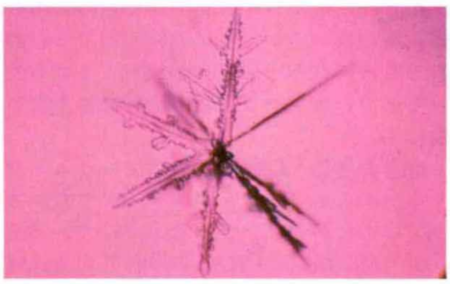


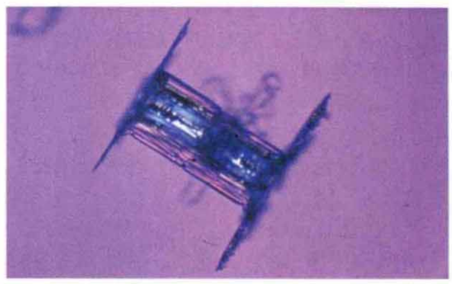
図-3 雪の結晶の成長条件



⑦角柱・板状組み合わせ—立体角枝



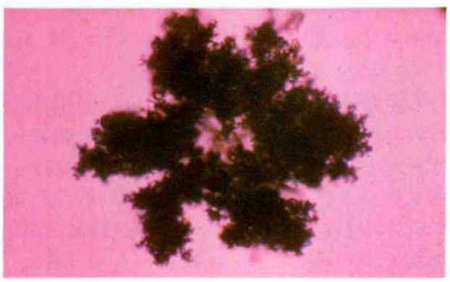
⑧角柱・板状組み合わせ—放射



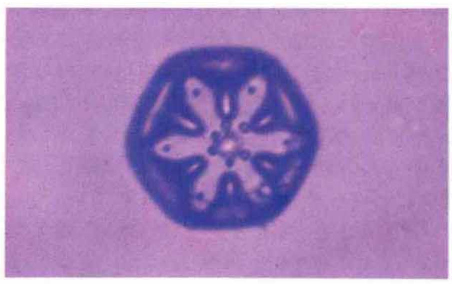
⑨角柱・板状組み合わせ—鼓形



⑩側面結晶



⑪雲粒付き結晶—霰状雪



⑫初期結晶

して小さな氷晶(たとえば写真の⑫)が発生し，それが温度によっていろいろな形の雪の結晶に成長する。そのときの温度条件を図-3の下半に示す。横軸が零下の気温で縦軸は水蒸気の度合いを表わす。太い直線で囲まれた部分がその結晶形に成長する条件である。たとえば，－15℃付近で水飽和(湿度100％)以上になると板状結晶の樹枝状に成長する。これより低温でも高温でも，また水蒸気量が小さくても結晶は角板状から角柱状にと変化する傾向がある。雲粒が多くなると雲粒付き結晶になる。

雪は高層(気温が低い)から下層(気温が高い)に降ってくるので，落下するにしたがい温度条件が変わってくる。この変化に応じて結晶形も変わってくる状態を図-3上半に矢印で示してある。たとえば，－20℃，－30℃のような低温から－15℃付近の層に降ってきた雪の結晶は，角柱の端の部分が板状に伸びて鼓形となり，また－15℃付近で発生した板状の雪が－5～－10℃の暖かい層に降り込むと，枝先が縦方向に伸びたり厚くなる傾向がある。なお，これと逆に，雪の結晶形の変化をみて，その雪の通ってきた経路の温度変化を推定することもできる。

〔降雪〕 雪の結晶は－10～－20℃の範囲内でいちばん速くまた多く成長する。したがって，雲の高さがこの温度の層まで伸びていれば降雪が発生する。雪の結晶は0℃より暖かい下層に降り込めば雨滴に変わる。当然のことながら雪として地上まで降るためには，地上の気温が0℃近くまで下がっていなければならない。わが国で雪が降るのは，冬の低気圧に伴う場合と，冬の季節風による場合がある。低気圧の場合は風向によっては表日本にも雪が降り，この場合は裏日本は降らないことが多い。冬の季節風の場合は，シベリア大陸から吹き出した寒気に，暖かい日本海面から水蒸気が供給されて海上で雲が発生し，高さが－15℃層以上に達すると，海上で雪が発生して日本海沿岸に運ばれてきて降る。これが里雪とよばれるもので平野部の降雪に多い。雲の高さが－15℃層にまで達しない場合は，季節風が山脈に沿って上昇するときに冷却してはじめて雪になるので，山地のほうに雪が多く山雪とよばれる。〔孫野長治〕

ゆき【雪】 地歌の曲名。峰崎勾当*(こうとう)によって18世紀後半に作曲された。歌詞は，浮き世を捨てた女の心の寂しさを歌ったもので，大阪の芸妓(げいぎ)そせきのことを盛り込んで，大阪の流石庵(りゅうせきあん)羽積が書いたもの。〈心も遠き夜半(よわ)の鐘〉に続く合いの手は，本来は鐘の音を示したものであったが，今日では雪の描写として，歌舞伎(かぶき)や文楽でも用いられている。

ゆきうさぎ【雪兎】 哺乳(ほにゅう)類・ウサギ目・ウサギ科。頭胴長55cm，尾長5cmほど。夏毛はかっ色であるが，冬にはふつう耳端の黒色部を除き全身白色となる。ヨーロッパ・アジアの北部に分布し，日本には北海道に一亜種エゾユキウサギがある。北海道では平地から山地の草原や林に多く，ふつう夜行性で日中は草やぶや岩陰に潜む。植物質を食べるが，冬に食物が雪でおおわれるころになると樹皮や若枝をもっぱら食べるので，カラマツなどの造林地に大害を及ぼす。



ユキウサギ　エゾユキウサギ





雪　男
(上)ヒマラヤのゴジュンバ氷河(標高5,300m)付近にあった足跡
(下)ネパールのパンボチェ寺院に保存されている雪男の頭皮

ゆきおとこ【雪男】 東はアッサム・ブータンからネパール・インド・アフガニスタンにまたがるヒマラヤ全土の4,000～6,000mの高山地帯に住むといわれている正体不明の怪獣。チベット系住民はこの怪獣を〈イエティ〉とよぶ。イエティには大小2種類あって，2m近いものをチュティ，1.4mぐらいの小さいものをミティという。いずれも全身赤かっ色または黒かっ色の剛毛でおおわれているが顔には毛がなく，頭の先はとがっているといわれる。イエティは1匹または2匹で住み特に岩場にかわいた草や低木を敷いて巣をつくり，声は鋭い口笛を吹くように〈ヒューッヒューッ〉と呼ぶ。チュティは石の下のアリやこん虫類・ノネズミ・ウサギなどの小動物，ヤクなどの大動物も食べ，ミティは獰猛(どうもう)で人間を襲って食べることがあるという。またイエティは〈神の獣〉と恐れられ，イエティを見た者は必ず病気や災難にあうと現地人には信じられている。雪男がはじめて文明社会に紹介されたのは19世紀末で，イギリス人のワッテル大佐の著書《アマング-ザ-ヒマラヤ》によってである。しかし世界的に有名になったのは，1951年イギリスの登山家シプトンが撮影した人間に近い雪男の足跡の写真による。その後各国の雪男探検隊がヒマラヤ山中で調査しているが，いまだに正体は明らかにされず，サル説，クマ説，新種の類人猿(るいじんえん)説，北京(ペキン)原人生き残り説，ミッシングリンク説など諸説がある。〔谷口正彦〕

ゆきおんな【雪女】 雪の夜に出現すると伝えられる女の妖怪*(ようかい)。雪女郎・雪娘ともいうが，ある地方では老婆が現われるので雪婆(ゆきばばあ)とよぶ。岩手県遠野地方の雪女は，正月15日の小正月*の夜や冬の満月の夜，多くの童子を連れて雪の野に出て遊ぶといい伝えている。青森・秋田・山形県などでは，雪女はいずれも子持女で，村の泣く子をさらっていってわが子に食わせるとか，通行人に子を抱かせようと試みるとかなどと伝える。また，雪女が望んで男の嫁になるが，ふろに入れたら姿がとけてなくなったと語る地方もある。雪女の原像は，山の神*もしくは年神*の信仰に関係があるのではないかとの見方がある。〔直江広治〕

ゆきがガんぼ【雪大蚊】 こん虫類・双翅(そうし)目・ヒメガガンボ科。ニッポンユキガガンボともいう。体長6mmほど。体は一般のガガンボ類と異なってはるかに太く，かっ色で，雌雄とも翅(はね)が完全に退化するため一見クモ類に似るが，平均棍(こん)はよく発達している。脚はがんじょうで，短毛が密生し，黄かっ色。腿節(たいせつ)は太く，特に後脚の腿節はよく発達している。腹部は雌ではやや細長いが，雄では短く，強大な肥握器(はあくき)がある。北海道と本州の山地に分布し，成虫は冬季に出現して積雪上に見られる特異な種類である。冬季から早春にかけて積雪上に，また夏季でも高山地の雪渓(せっけい)上などに出現するこん虫は，同じ双翅目のガガンボダマシ科に属するものや，カワゲラ類のセッケイカワゲラ(セッケイムシ)などが知られているが，いずれも無翅であることは興味深い。➔ユキムシ　〔鈴木邦雄〕

ゆきぐされびょう【雪腐れ病】 ムギが積雪下で5種類の病原菌の寄生により腐る病気の総称。雪がとけたあと，葉はゆでたように腐り，かわくと灰白色の紙のように地表に張りつく。菌核や子嚢殻(しのうかく)が畑で越夏し，秋に発芽した菌糸・胞子がムギに侵入する。抵抗性品種の栽培，適期に播

種(はしゅ)，積雪までに均衡のとれた施肥を行ない，生育を促進することなどで予防する。

ゆきぐに 【雪国】 川端康成*(かわばたやすなり)の長編小説。1935年(昭和10)より1947年まで《文藝春秋》などに分載。舞踊研究家島村は非現実的な雪国の世界で，駒子(こまこ)や葉子の織りなす無償の愛に徒労を感じつつも，純粋でひたむきなその美しさにひかれて見つめ続ける。感覚的技巧のさえきった日本的叙情文学の名作。

ゆきじるしにゅうぎょう【雪印乳業(株)】 乳製品の最大手会社。おもに乳製品・市乳・アイスクリームなどを生産している。1950年(昭和25)北海道酪農協同組合が分割され，その第2会社としてクロバー乳業とともに設立された。1958年クロバー乳業を吸収，1961年札幌(さっぽろ)酪農牛乳も合併，乳業王国を築いた。乳製品は売り上げの約4割を占め，バター・チーズ・マーガリンなどの市場占拠率は5割をこえ，市乳を除くと製品はいずれも業界のトップを占める。前身が協同組合のため，牛乳生産者との協調が強く，北海道内では強固な地盤をもち，原料乳の集荷能力は業界一である。本社札幌，工場は東京・大阪・札幌・名古屋など75か所，ほかに集乳工場が84ある。資本金127億円，年間売上高4.106億4.000万円，従業員数9,890(1980年9月)。

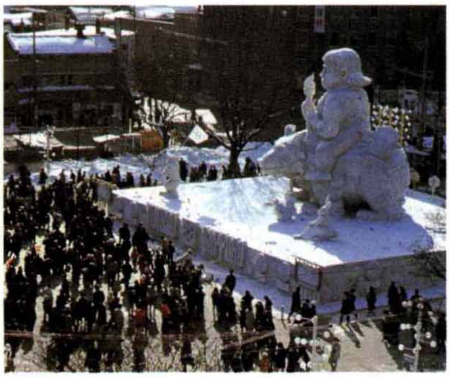
ゆきつばき 【雪椿】 双子葉植物・ツバキ科。本州日本海側の多雪地帯の山地に群生する常緑低木。ヤブツバキによく似るが，幹は地面を伏生することが多く，葉は少し細くて鋸歯(きょし)は開出し，葉柄にはまばらに伏毛があり，花は全開して花弁は浅裂し，おしべの下部3分の1は合生しているなどの相違点がある。

ゆきのした 【雪の下】 双子葉植物・ユキノシタ科。暖地の湿った岩上にはえる多年草であるが，庭などによく栽培されている。全草，長毛におおわれ，走出枝を伸ばしてふえる。葉は長さ3～5cm，幅3～9cmの円腎(えんじん)形で，厚いが柔らかく，暗緑色で白斑(はくはん)があり，裏面は暗紅色である。5～6月，高さ10～20cmの花茎を伸ばし，円錐(えんすい)形の花序をなして，径1～2.5cmの白色5弁花を横向きにまばらにつける。上向きの3枚の花弁は長さ3mmの卵形で赤斑があり，下向きの2枚の花弁は長さ10～20mmの披針(ひしん)形でたれ下がる。民間では葉の絞りじるを耳だれ・百日咳(ひゃくにちぜき)や小さな傷などに用いる。また葉はてんぷらにして食べられる。〔加藤僖重〕

ゆきまつり 【雪祭り】 長野県下伊那(しもいな)郡阿南(あなん)町，新野(にいの)伊豆神社で1月14日から15日の朝まで徹夜で行なわれる祭り。雪を豊年の予兆とみて，神前に雪を供え，神楽(かぐら)殿や拝殿で田楽・万歳などが舞われて，舞人が〈大雪でござります〉と唱え，周囲の者が雪を投げ散らす



ユキノシタ



雪祭り　観光的にショー化した札幌大通り公園の雪祭り



ユキワリソウ



ミスミソウ

ユキワリソウ

風習がある。そのほか，1950年(昭和25)から毎年札幌(さっぽろ)市で2月第1日曜日を中心に開催される雪祭りがあるが，これは観光的なもので，大小さまざまの雪像が造形美を競うことで有名である。

ゆきむし 【雪虫】

1冬季から早春にかけて積雪上に出現する好氷雪性こん虫の総称で，カワゲラ類・トビムシ類・ユスリカ類・ガガンボ類など多くの群を含んでいる。それらの多くは，夏季に高山帯の雪渓(せっけい)上にも出現し，また南極圏やアルプス・ヒマラヤなどの氷河に見られる種類もある。日本に産する代表的なものは，カワゲラ目・クロカワゲラ科のセッケイカワゲラ(セッケイムシ)，トビムシ目・ツチトビムシ科のクロユキノミやマルトビムシ科のコシジマルトビムシ，双翅(そうし)目・ユスリカ科のアルプスケユキユスリカやガガンボダマシ科のイマニシガガンボダマシ・ニッポンフユガガンボ，ヒメガガンボ科のユキガガンボなどがある。

2晩秋から初冬にかけ，雪の降りはじめるころに出現するこん虫の俗称で，地方によってさすこん虫が異なる。普通は半翅目・同翅亜目・ワタアブラムシ科に属するリンゴワタムシなど，晩秋に出現する有翅虫が体に白色のろう質物質を線状に分泌するため，飛行中に一見雪が降るように見える種類をさす。〔鈴木邦雄〕

ゆきめ 【雪目】 紫外線の影響によって起こる眼炎で，太陽に照らされた雪の野山を長時間見ているときに起こる。雪盲・雪眼炎ともいう。電気火花・太陽燈(電気性眼炎)，烈日下の航海(潮負け)によっても起こる。症状は目の異物感・疼痛(とうつう)・流涙・視力低下・夜盲などで，角膜表面の混濁，網膜のむくみをみることもある。重症の場合にはアドレナリン・コカイン点眼，冷罨法(れいあんぽう)を行なう。

ゆきやなぎ 【雪柳】 双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉低木で，庭などによく植えられる。茎は細く，多数の枝がむらがって出て，高さ1～2mになる。葉は長さ2～4cm，幅3～6mmの披針(ひしん)形で，互生する。3～4月，新葉と同時に直径5～8mmの白色5弁花をつける。コデマリは本種によく似る中国原産の落葉低木であるが，花が球状に集まって咲く。

ゆぎょうじ 【遊行寺】 神奈川県藤沢市西富にある時宗の総本山。清浄光(しょうじょうこう)寺の別称で，藤沢道場ともいう。1324年(正中1)4世呑海(どんかい)が創建。その弟子(でし)安国のとき総本山となり，以後，足利(あしかが)・上杉(うえすぎ)・武田(たけだ)・北条(ほうじょう)・徳川諸氏の外護を受けた。しばしば火災に会ったが，そのつど復興され現在に至っている。

ゆきわりそう 【雪割草】 双子葉植物・サクラソウ科。高山に分布する多年草。葉は根出し，長さ3～6cm，幅1～1.5cmの倒披針(とうひしん)形で，裏面には黄白色の粉がふいているのが特徴である。葉縁は裏に曲がり，鈍い鋸歯(きょし)がある。5～7月，高さ7～15cmの花茎を伸ばし，3～10花を先端につける。花冠は径1～1.5cmで，淡紅色である。東北地方・北海道・千島などに見られるユキワリコザクラは，本種によく似るが，葉身が広卵形で基部は細く，鋸歯

が目だたぬ変種である。

キンポウゲ科のミスミソウもユキワリソウとよばれることがあり，これは山林の陰地に自生する多年草で，地下茎は節が多くじょうぶな根を出す。根出葉は叢生(そうせい)し，冬も枯れず，長い柄の先に長さ3～6.5cmの三角形の葉をつける。葉身の基部は心形で先は3中裂し，各裂片の先はとがる。表面に光沢があり，縁に毛がある。2～5月，白色または淡紅色の花をつける。スハマソウはミスミソウによく似るが葉の裂片の先は鈍頭または円頭である。

ユーグ-カペー [Hugues Capet] (938ごろ～996) フランスの王。カペー朝*の始祖。在位987～996年。父はパリ伯兼フランス公大ユーグ(ロベール家出身)，母はドイツ王オットー1世の姉妹。956年父のあとを継いだが，はじめは一封建領主にすぎず，カロリング家の直系が絶えるに及んで，後継を主張するロレーヌ公シャルルを排してノワイヨンで王位についた。ユーグは王位確保のため選挙制による継承を廃し，直系男子相続制を確立，王領の拡大などにより王権確立に努めた。〔喜多迅鷹〕

ユグノー [Huguenot] 16世紀後半からフランスに広まった新教徒カルバン派の通称。旧教徒がけいべつを含んでよんだ。カルバン主義を奉ずる者は手工業者・法律官・行政官・医師・下級貴族に多く，また地域的にはフランス南西部に多かった。新旧両派の争いは政治問題化し，宗教戦争(ユグノー戦争*)にまで発展したが，アンリ4世のナントの勅令*で一時収まった。しかしルイ14世時代廃止され，ユグノー12万人が亡命，フランス産業は大きな打撃を受けた。〔喜多迅鷹〕

ユグノーせんそう 【ユグノー戦争】 1562～1598年の約30年に及ぶフランスの宗教的内乱。宗教改革を背景として起こったユグノー*(カルバン派新教徒)とカトリック教徒との宗教的対立に，権力争いがからんで血なまぐさい政治闘争が展開した。カルバン派は弾圧を受けながらもナバール王のブルボン家を中心とし南西フランスや都市などを固め，宮廷のコリニー*を支持し，権勢を誇る狂信的なカトリックのギーズ公らの貴族や僧侶(そうりょ)と対立した。両者の間に立って策動したのが，フランソア2世・シャルル9世の母后・摂政のカトリーヌ-ド-メディシスであり，この対立は激化しついに内乱となった。国際的にはオランダ・イギリスは新教徒を，スペインは旧教徒を支持した。1572年のカトリーヌによるユグノーの大量虐殺事件(聖バルテルミーの虐殺*)以後，内乱は全国土に広がり，悲惨な状況となる。その後ギーズ公・アンリ3世ともに暗殺され，次いで即位した新教徒のアンリ4世はカトリックに改宗し，1598年ナントの勅令*によって新教徒に信仰の自由を認め，ようやく内乱は終息した。〔喜多迅鷹〕

ゆくはし 【行橋(市)】 福岡県中東部の市。人口62,000。江戸時代は長峡(ながさ)川をはさんで北岸の行事が宿場町，南岸の大橋が市場町として栄えた。1954年(昭和29)両地区が合体して市制施行。周防灘(すおうなだ)に面する行橋平野の中心部を占め，南部に洪積(こうせき)台地の新田原(しんでんばる)があり，西部にはカルスト地形の平尾台がそびえる。陸繋(りくけい)島の蓑島(みのしま)も市域内に含まれる。産業三大別人口比は17：32：51。沿岸部に文久新開などの干拓地が広がって米・麦の生産が多く，新田原では野菜の促成栽培やナシ・モモなどの果樹栽培，酪農が盛んで，これらはおもに北九州市へ供給される。日豊本線・田川線が通じ，自衛隊の築城(ついき)飛行場がある。国道10号線・201号線が集まってバス交通が発達し，北九州市の衛星都市的な性格が強い。平尾台の観光基地となり，白砂青松の蓑島や長井海岸は海水浴場としてにぎわう。

ユークリッド [Euclid] (BC330ごろ～BC275ごろ) 古代ギリシアの数学者。エウクレイデス(Eukleides)の英語名。《ストイケイア*》全13巻の著者。その生涯(しょうがい)については不詳。《ストイケイア》により，ギリシアの幾何学はユークリッド幾何学*として大成され，19世紀の非ユークリッド幾何学*の出現まで唯一の幾何学体系と考えられた。ほかに天文学・光学・音楽などの著作がある。

ユークリッドきかがく 【ユークリッド幾何学】 〈直線外の1点を通って，その直線に平行な直線は1本だけある〉という平行線の公理に従う幾何学。BC300年ごろ，ユークリッドは，それまでの数学を体系づけるのに，その理論の前提とする事項を公理や公準として明示した。平行線の公理はその一つである。しかし，19世紀になって，平行線の公理に従わない幾何学が発見されたので，平行線の公理に従う幾何学をユークリッドの幾何学とよぶようになった。三角形の内角の和が180°であるというのはユークリッド幾何学における定理である。非ユークリッド幾何学*ではこの定理はなりたたない。〔小西勇雄〕

ユークリッドのごじょほう 【ユークリッドの互除法】 素因数分解*によらないで，最大公約数*を求める方法。ユークリッドの《幾何学原論》に記載されているのでこの名がある。単に互除法ともいい，連除法ともいう。二つの自然数a, b($a>b$)において，aをbで割った整商をq，余りをrとすれば，qもrも自然数で，次式がなりたつ。

$$a=bq+r \qquad 0 \leq r < b$$

この式において，a, bの最大公約数はb, rの最大公約数に等しい。aがbで割り切れて，$r=0$ならば，bがa, bの最大公約数である。$r>0$ならば，bをrで割って，整商をq_1，余りをr_1とし，$r_1>0$ならば，さらにこれをくり返せば，$a>b>r>r_1>\cdots\cdots$であるから，ある回数nにおいて$r_n=0$となる。このとき $r_{n-2}=q_n r_{n-1}+0$。r_{n-1}はa, bの最大公約数である。この方法で最大公約数を求めたとき，最小公倍数*を求めるには，2数の積をその最大公約数で割って得られた商が最小公倍数である。912と168の最大公約数は24であるから，最小公倍数は912×168÷24=6384である。下表に，ユークリッドの互除法を用いて，912と168の最大公約数を求める計算方法を示す。〔青柳雅計〕

①		912	168		
②	5	912	168		
		840	……168×5		
		72	……912−840		
③	5	912	168	2	
		840	144		……72×2
		72	24		……168−144
④	5	912	168	2	
		840	144		
	3	72	**24**		……最大公約数
		72	……24×3		
		0	……72−72		

ユグルタせんそう 【ユグルタ戦争】 BC110～BC106年，ローマ共和政末期の戦争。北アフリカのヌミディア王ユグルタが不正な手段で王となったので，ローマは鎮圧軍を送ったが，ローマ元老院は腐敗していたため，ユグルタのわいろでうやむやになった。将軍マリウスが執政官となるや武将スラ*はユグルタを破り，ローマの捕虜とした。ユグルタはローマで獄死した。

ユーグレナ ⇨ミドリムシ

ゆげしま 【弓削島】 愛媛県越智(おち)郡に属する島。南西の佐島や北東にやや離れた豊(とよ)島とともに弓削町を形成している。面積9.65km²，人口約5,000。一般に山がちで，ミカンを栽培し，石灰岩を採掘しているが，北西に広島県に属する因島(いんのしま)があり，その造船所への通勤者が多い。また(国立)弓削商船高等専門学校があって，島民からも多くの船員を出している。また道鏡*にまつわる伝説があり，彼を祭る道鏡神社がある。〔浅井得一〕

ゆけつ 【輸血】 健康者から採取した血液を患者の血管内に注入する治療法。輸血は出血あるいは貧血に対する血液補充のほか，血液疾患に対する造血臓器の刺激作用や止血作用，免疫体の供給，毒素の中和などを目的として行なわれる。また衰弱した患者の手術前準備および後療法にも広く用

いられ，一般に静脈内に注入する。輸血には新鮮血輸血と保存血輸血があるが，新鮮血輸血は特殊な場合にのみ行なわれる。輸血の際は，マラリア・梅毒・肝炎などの伝染病を除外しなければならず，供血者の選択を要し，また一定の検査と時日を要するので，保存血輸血のほうが安全である。わが国でも血液銀行*などによる保存血輸血が常識となっている。

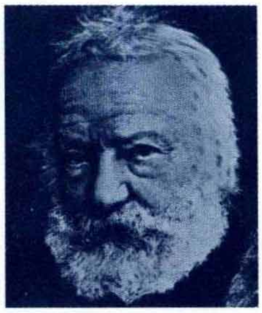
輸血量はその目的により一定しないが，貧血には100～200 ccを毎日輸血し，急性の出血では少なくとも出血量だけは急速に補充すべきであって，大出血の際には圧を加えて2,000～3,000 ccを1回に注入することもまれではない。輸血の副作用としては，溶血*反応・発熱反応・アレルギー反応などがあり，不適合輸血による溶血が最も危険である。救急処置のみならず，大量出血を伴う脳・心臓・血管などの手術には必須(ひっす)で，この方面の外科の進歩は輸血に負うところが大きい。➔血液型　〔三島好雄〕

ゆげのどうきょう【弓削道鏡】⇨道鏡

ユゴー［Victor Hugo］(1802～1885) フランスの詩人・小説家・劇作家。ロマン主義の主導者。処女詩集《オードと雑詠》や《東方詩集》で文壇に登場。詩・小説・戯曲など盛んな文学活動を行ない，戯曲《クロムウェル》の序文では文学的自由を宣言，そのロマン主義に基づいて《エルナニ》上演の際には古典主義派と戦った。政治活動にも参加したが，1851年のナポレオン3世によるクーデターには反対し，国外に亡命，帝政が倒れてのち帰国した。小説家としては，《ノートルダムのせむし男*》《レ・ミゼラブル*》で正義と人類愛をうたって文名を得た。ほかに《秋の木の葉》《薄明の歌》《光と影》《静観詩集》などの詩集があり，近代詩の端緒を切り開いた。　〔井上輝夫〕

ゆごい【湯鯉】硬骨魚類・ユゴイ科。体長12cmほどの汽水魚。種子島(たねがしま)でミコ，奄美(あまみ)大島・沖縄でミキュウなどとよばれる。背びれ10棘(きょく)11軟条，臀(しり)びれ3棘11軟条。体は楕円(だえん)形でやや長く，側扁(そくへん)する。背びれ・臀びれ両軟条部および尾びれに幅広いかっ色帯があるが，この斑紋(はんもん)は雌雄により異なる。熱帯地方の淡水と海水の混じった池沼に多く，東京付近にはいないが，静岡県伊東(いとう)市の浄の池に産する。南方諸地域では食用にする。

ユーゴスラビア(社会主義連邦共和国)［Socialist Federal Republic of Yugoslavia, Socijalistička Federativna Republika Jugoslavija］ヨーロッパ南東部，バルカン半島の北西部を占める社会主義連邦共和国。セルビア・クロアチア・ボスニア・ヘルツェゴビナ・スロベニア・マケドニア・モンテネグロの6共和国からなる。面積25万6,000km²。人口2,216万(1978年推)。首都ベオグラード。



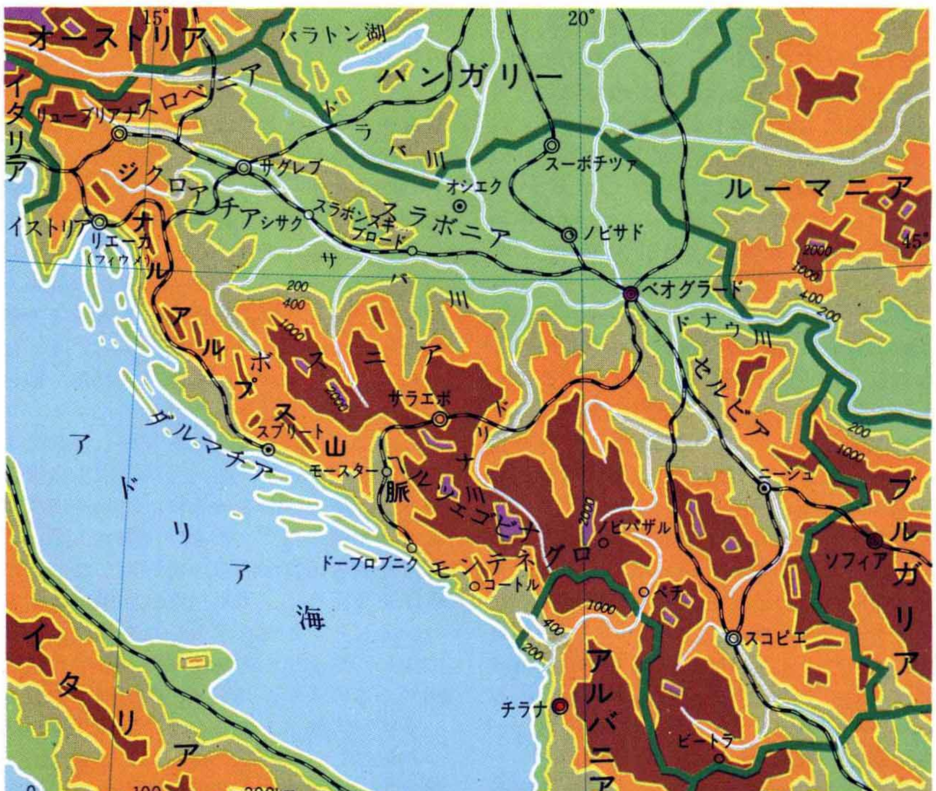
ユゴー



ユゴイ

〔自然〕アルプス山脈の支脈ジナル-アルプスがアドリア海岸沿いに走り，中南部は広い高原状の山地が占め，北部にドナウ川とその支流が潤すパンノニア平野がある。西端のイストリア半島から南隣国アルバニアに細長く延びたジナル-アルプスは標高約1,500 mの石灰岩のカルスト台地であり，ヨーロッパでも最も雨の多い地域であるが，農業には不適である。川は大部分地下水流となり，荒涼とした地域で，アドリア海沿いのダルマチア海岸と内陸との交流を妨げている。ダルマチア海岸は平地部が少なく，沿岸には多数の島がある。ジナル-アルプス北方のスロベニア地方は地形・気候・文化ともにオーストリアに近く，木材が豊富であり，盆地では酪農が盛んである。中南部の高原はドリナ川・モラバ川や南流するバルダル川によっていくつかの小高原に分かれるが，盆地以外は森林におおわれている。北部のパンノニア平野はハンガリー南部に続く平野で，最も肥沃(ひよく)な農業地帯であり，この国の経済の中心部をなす。ドナウ川とその支流は排水・水運用の水路で相互に結ばれている。アドリア海沿岸部は地中海性気候でスプリートでは7月の気温26℃，1月8℃，年平均気温16℃，年降水量820mmであるが，他は大陸的となり，ことにジナル-アルプスでは冬の寒さがきびしい。平野部のベオグラードでは7月の気温23℃，1月0℃，年平均気温12℃，年降水量700mmである。

〔住民〕ヨーロッパで最も複雑な民族構成の国で，連邦を形成する6共和国はそれぞれの民族集団からなっている。ユーゴスラビアは第1次世界大戦後，旧セルビア王国を中核として，スラブ諸族の居住地域を統合して建国したため，その構成民族も，セルビア正教を信ずる農耕民セルビア人，これより文化的にすぐれるカトリック教徒のクロアチア人・スロベニア人のほかにモンテネグロ・マケドニア・マジャールなどと多様である。公用語もセルボ-クロアート語・



ユーゴスラビア

スロベニア語・マケドニア語の3言語が用いられている。宗教はセルビア正教徒が最も多く，国民の41%，次いでカトリックの32%，ボスニア地方を中心としたイスラム教徒が12%いる。このような複雑な状況は，しばしば〈一つの国，二つの文字，三つの宗教，四つの言語，五つの民族，六つの共和国〉と表現され，民族問題はユーゴスラビア内政第一の悩みとされている。

【経済】就業者の57%が農林業に従事する農業中心の国である。国土の40%が耕地，20%が牧草地に利用されている。作付けの多いのはトウモロコシの240万ヘクタール，小麦の200万ヘクタールで，おもにパンノニア平野で生産される。果樹栽培も平野近くの丘陵地で盛んで，特にプラムは有名である。なお，1953年に私有地の面積は10ヘクタールを限度とした。一方，森林は国土の30%をおおい，林業・パルプ工業は重要な産業であり，木材は外貨獲得源の一つである。また多種類の鉱物資源にも恵まれ，主要輸出品となっている。ベオグラード南東部の銅やボスニア・ヘルツェゴビナなどの鉄鉱，イストリア半島の水銀などである。1969年の輸出額は木材15.7億ジナール，非鉄金属25.4億ジナール，畜産品22.2億ジナールである(1ジナールは邦貨約29円)。輸入のおもなものは機械・化学製品・繊維・鉄鋼である。輸出ではソ連が16%を占めて筆頭であるが，西ドイツ・イタリアとの取引も特に輸入取引では多い。しかし貿易収支は慢性的赤字であり，経済はインフレに悩み，失業者は50万人近くになっており，近年西ヨーロッパ諸国へ出かせぎに行く労働者もふえている。〔梶川勇作〕

【歴史・政治】第1次世界大戦を機に世界各地で起こった民族自決の運動が波及し，1918年セルビア国王ペタル1世(在位1903～1921年)をいただく，セルブ-クロアト-スロベーン王国として発足した。パリ平和会議で各国に承認されたが，国名のとおり南スラブ系諸民族の統合国家という多民族性や，ギリシア正教とカトリック教という宗教的対立など，独立当初から内紛に悩まされた。さらに中央集権を強化しようとする国王側と，クロアチア地方の農民との対立も深刻で，ついに，1929年国王アレクサンデル(在位1921～1934年)の下で軍事独裁政治に移行し，国名もユーゴスラビア王国と改められた。1934年の国王暗殺事件のあと，民主政へ漸進していったが，今度はナチス-ドイツの圧力や，それに反発するクーデターなど政情は安定しなかった。1941年，ドイツ・イタリアに占領されて王国は解体した。そこで共産党のチトー*の率いるパルチザン戦や，ロンドンの亡命政府など抵抗闘争が行なわれ，1943年には，チトーを首班とする臨時政府(ユーゴ解放人民委員会)が創設された。翌年，ソ連軍と共同して国土を解放し，1945年の総選挙で，共



ユーゴスラビアの国旗　ロシアの近代化を志したピョートル大帝はオランダ国旗にヒントを得てロシア国旗を白・青・赤の横三色旗とした。ロシアの影響を強く受けて独立したユーゴスラビアは，1917年にロシア国旗と自由の先導者フランスの三色旗の色をもとに国旗を制定したが，1946年社会主義国に共通の星を中央につけ加えて現在のものとなった



ユーゴスラビア　首都ベオグラードのセルビア国立劇場。広場にたつ銅像はセルビアの勇士ミハイロ-オブレノビッチの騎馬像

産党やクロアチア農民党など民主政党による人民戦線が勝利して人民共和国となった。

1946年，ユーゴスラビア連邦人民共和国憲法を制定して，ソ連をモデルとした社会主義国の建設に乗り出した。農地改革や産業の国有化を進めるとともに5か年計画を開始したが，ソ連に経済的に従属する形勢となったため，ソ連への反発が起こり，1948年コミンフォルムから除名された。独自の社会主義化の道を歩みはじめたユーゴスラビアは，1952年共産党を改称した共産主義者同盟のもとで，連邦会議と民族会議という二院制の議会を頂点に，連邦を構成する6共和国の自治，あるいは産業企業における労働者の自治的管理を採用した。また憲法を改正して，市町村を政治単位とするコンミューン制度を導入したりしたが，1963年に任期4年の連続再選できない大統領制であるにもかかわらず，例外規定でチトーを終身大統領とするなど，各共和国の統一が依然として課題であった。このため，1971年ついに複数大統領制をとって1年ごとの持ち回り就任とし，各共和国の自治権をさらに拡大せざるをえなくなった。なお，政党ではないが社会政治団体として勤労人民社会主義同盟や青年同盟，あるいは労働組合同盟の影響力も大きい。〔桜木　庚〕

ユーコン(川)　［Yukon］　北アメリカ北西部の川。ロッキー山脈北部，カナダのユーコン地方南西部に発して北西流し，アラスカを横断してベーリング海に注ぐ。全長約3,600km。1897～1898年にかけてユーコン地方，次いでアラスカの本・支流から多量の砂金が発見されてゴールド-ラッシュをよんだことから有名になった。

ゆざわ　【湯沢(市)】　秋田県南部の市。人口38,000。中世以来の古い城下町で，江戸時代には佐竹氏の重臣一万石の小城下町であった。1954年(昭和29)市制施行。市域は，横手盆地の南部に北西から南東へかけて細長く延び，市街地は雄物川上流の東岸段丘上に発達している。産業三大別人口比は32：22：46。良質米の産地として知られ，リンゴ・野菜などの産も多い。米と水のほか，たる材の秋田スギにも恵まれ，350年の伝統を誇る日本有数の酒造地で，〈東北の灘(なだ)〉とよばれる。輸出向けの曲木(まげき)細工として，いす・洋家具・建築用材などの生産も多い。奥羽本線・国道13号線が通じる。南部の須川(すかわ)地区にある泥湯(どろゆ)温泉周辺は観光地としての今後の開発が期待されている。

ゆざわ　【湯沢(町)】　新潟県南部，南魚沼郡の町。人口8,800。1955年(昭和30)旧湯沢町が周辺4村を合併して発足。古くから越後(えちご)湯沢温泉で知られる温泉町で，1931年清水(しみず)トンネルが開通して上越線で関東地方と結ばれてから急速に発展した。また岩原・湯沢・苗場など全国的に知られるスキー場があり，上信越高原国立公園の観光基地ともなっている。国道17号線が通じる。

ゆざわおんせん　【湯沢温泉】　⇨越後(えちご)湯沢温泉

ユーザンス　［usance］　元来，手形の支払い期間を意味する語であるが，実際には，債権者が債務者に対して債権の取り立てを一定期間猶予する意味に用いられる。貿易金融においては輸入者に対して，一定期間輸入手形代金の支払いを猶予する方式をユーザンス，あるいは輸入ユーザンスとよんでいる。輸入ユーザンスを供与する者が輸出業者である場合と金融機関である場合とがあり，前者はシッパーズ-ユーザンス，後者は銀行ユーザンスとよばれている。一般にはユーザンスという場合には後者の銀行ユーザンスを意味する。〔安井孝治〕

ゆし　【油脂】　脂肪酸類のグリセリンエステル(グリセリド)。動植物界に広く存在し，植物油脂と動物油脂に大別される。両者にはほとんど本質的な相違はなく，含まれる微量成分・不純物などに多少の差がある程度である。常温で液体のものを脂肪油，固体のものを脂肪といい，植物油脂には脂

肪油が多く，動物油脂には脂肪が多い。ただし脂肪油と脂肪とにははっきりした区別はなく，多くは習慣によってよぶ。やし油・パーム油などは日本では常温で脂肪といえるが，実際は油とよばれている。脂肪油の中で，薄層にして空気中に放置すると酸素を吸収し，粘着性を失って乾燥固化し，かたい塗膜をつくるものを乾性油，多少乾燥性をもつが塗膜をつくらないものを半乾性油，乾燥性のないものを不乾性油という。陸産動物油脂の大部分は脂肪で，水産動物油脂のほとんどは脂肪油である。

〔成分・性状〕 油脂の主成分はC_4～C_{30}の飽和脂肪酸および偶数個の炭素原子をもつ不飽和脂肪酸のグリセリンエステルで，飽和脂肪酸としてはおもにパルミチン酸とステアリン酸，不飽和脂肪酸としてはオレイン酸・リノール酸・リノレン酸などである。これらのグリセリンエステルの純粋物は，無色・無臭・無味の中性物質で水には不溶，エーテル・ベンゼンなどにとける。また微量成分としてはステリン・ビタミンなどがある。油脂の乾燥性は不飽和結合によるもので，不飽和脂肪酸の含有率の高いほど乾燥性がよい。これの一基準としてヨウ素化があり，乾性油は約130以上，半乾性油は約100～130，不乾性油は約100以下である。

〔採取・精製〕 油脂はおもに溶出法・抽出法・圧搾法により採取され，溶出法にはさらに湿式法と乾式法とがある。溶出法はおもに動物性原料を加熱して油脂をとかし出す方法。抽出法は油脂を有機溶剤で抽出する方法，圧搾法は原料を加圧して油脂を絞り出す方法である。脱色・脱臭は活性炭および白土による吸着や減圧蒸留などによって行なわれる。

〔用途〕 用途は種類によって多種多様である。せっけん原料として牛脂やや し油などがあり，薬用としてはひまし油・オリーブ油などが使われる。食用には大豆油・ごま油・綿実油・カカオ脂・豚脂などが，亜麻仁油(あまにゆ)・桐油(とうゆ)などはペイント・ワニス・印刷インキに，パーム油は減摩潤滑油・切削油用に，製革用に牛脂・豚脂などが使用される。〔岡部平八郎〕

油脂の分類

- 植物油脂
  - 植物油
    - 乾性油(亜麻仁油・桐油・大豆油など)
    - 半乾性油(菜種油・ごま油・綿実油など)
    - 不乾性油(オリーブ油・落花生油・ひまし油など)
  - 植物脂(木ろう・漆ろう・カカオ脂など)
- 動物油脂
  - 動物油
    - 陸産動物油
      - 哺乳動物(牛脚油など)
      - 鳥類(きじ油など)
      - 昆虫類(いなご油など)
      - 爬虫類(とかげ油など)
      - 両生類(食用がえる油など)
    - 水産動物油
      - 魚油(いわし油・にしん油など)
      - 肝油(さめ肝油・えい肝油など)
      - 海獣油(ながす鯨油・あざらし油など)
      - 貝油(かき油・はまぐり油など)
  - 動物脂
    - 体脂(牛脂・豚脂など)
    - 乳脂(牛酪脂など)

ユージノサハリンスク ［Yuzhno-Sakhalinsk］ ソ連の極東，サハリン(樺太(からふと))州の州都。人口93,000(1968)。日本の領土であった1905～1945年(明治38～昭和20)には豊原(とよはら)とよばれ，樺太庁が置かれていた。日本領有以前の名称はブラジミロフカ。西岸のホルムスク(旧日本名，真岡)へ通ずる鉄道・道路の分岐点にあたり，機関車・鉱山用機械などの修理工場のほか，紙・パルプ・漁具・建設資材・毛皮・製糖などの工業がある。また，テンサイ・ジャガイモなどが栽培され，サハリン南部の農・牧業地域の中心都市である。〔斎藤晨二〕

ゆしま 【湯島】 有明海の入り口にある小島。島原半島と大矢野島にはさまれ，熊本県天草郡大矢野町に属する。面積0.17km²。住民は零細な漁業に従事し，また出かせぎも多い。島原の乱のとき天草四郎らがここで謀議したというので談合島ともいう。

ゆしゅつくみあい 【輸出組合】 1952年(昭和27)制定の輸出入取引法に基づき設立された商品別輸出業者の組合で，不公正な輸出取引の防止を目的としている。これは①協同組合の性格をもつ法人であるから，営利を目的としない，②組合員は任意に加入しまたは脱退することができる，③組合員の議決権や選挙権は平等であることなどが設立の要件とされる。この組合はおもな輸出産業の各商品別に，全国で一つの組織をもつことが原則とされるが，ただ雑貨など取り扱いの品種の複雑なものには，地区別(関東・関西のごとき)の組合が認められている。また独占禁止法の関係から，各商品別の組合が，同一外国市場に対し合同組織をつくることは許されないが，第三国が貿易カルテルをつくって競争するときは，これに対抗するため輸出協定を行なうことができる。〔上坂酉三〕

ゆしゅつけんさ 【輸出検査】 輸出貿易の健全な発達を図るため，輸出品の品質や包装につき，所定の検査を行なうこと。輸出品の検査は，第2次世界大戦後〈輸出品取締法〉(1948)により，業者の責任による自治検査を原則としたが，1957年(昭和32)新たに〈輸出検査法〉を公布し，法令によって輸出検査を必要とするものの輸出については その声価の維持向上を図るため，官公設の検査機関で検査・証明させている。検査を要する物品は検査品目令に具体的に掲げられ，品質に関しては材料や製造につき，また包装に関しては包装材料につき，検査機関を指定して検査させる。〔上坂酉三〕

ゆしゅつてがた・ゆにゅうてがた 【輸出手形・輸入手形】 貿易取引に使われる荷為替(にがわせ)手形の別名。貿易取引を決済するため，輸出者は，外国輸入者あての荷為替手形を振り出し，これを輸出地の為替銀行に買ってもらって代金を回収する。この手形が，輸出地銀行から輸入地銀行に送られ，そこで輸入者から手形金が支払われて，輸入代金の決済が終わる。この1枚の手形が輸出者からみれば輸出手形であり，輸入者からみれば輸入手形である。しかしその貿易効果には大きな相違があって，前者は外貨を受け取る働きをし，後者は外貨を支払う働きをする。これを，為替銀行の立場からみると，輸出手形は銀行の買い手形となり，輸入手形は銀行の売り手形となる。日本貨幣と外国貨幣との換算に使う為替相場も，前のは買い相場，あとのは売り相場が用いられる。〔上坂酉三〕

ゆしゅつにゅうとりひきほう 【輸出入取引法】 わが国の輸出入貿易に関し，取引の秩序を確立し，その健全な対外発展を図る目的でつくられた貿易立法。1952年(昭和27)に輸出組合を認めた輸出取引法，1955年に輸入組合を追認した改正法，1956年これらを統合して新たに現行法としたもの。内容としては，輸出取引の原理，輸出および輸入に関する協定，輸出組合と輸入組合，輸出入組合と輸出入調整などにつき，原則的な規定が決められている。〔上坂酉三〕

ゆしゅつにんしょう 【輸出認証】 輸出者の行なう輸出が，現行の管理法規にかなっているかどうかを調べ，これに承認を与える制度。現行法では，通産大臣は外国為替(かわせ)銀行に，輸出代金としての外貨が確

かに支払われるかどうかを審査させ，承認・証明させる。この認証は，通産省に代わる外国為替銀行が行なうので銀行認証とよばれ，銀行は輸出者の提出した書類を十分に審査したうえ，輸出者が税関に差し出す輸出申告書に認証する。輸出者はこの〈認証済みの申告書〉で，税関に対し輸出の申告をする。〔上坂酉三〕

ゆしゅつほけん【輸出保険】 輸出振興政策の一環であり，輸出業者を保護することを目的とする制度。技術の輸出をも含めて輸出貿易には，取引先の契約不履行・支払い不能・破産などの信用危険，輸入制限，輸入禁止，戦争，企業の国有化，モラトリアム*，為替(かわせ)制限などの非常危険，販路拡張のために海外宣伝費用を投じたが期待どおりに輸出が増加せず，そのために代償を得られないなどの企業危険，為替変動による為替危険などが伴い，これらが業者の輸出意欲を阻害するが，これを保険で救済し，輸出の振興を図ろうとするものであり，通常国家が行なう。わが国では輸出保険法(1950)に基づき，普通輸出保険・輸出代金保険・輸出手形保険・輸出金融保険・委託販売輸出保険・海外広告保険・海外投資元本保険・海外投資利益保険の8種類があり，輸出業者をはじめ，輸出品生産者，輸出のための資金を融通する金融機関も保護されている。〔庭田範秋〕

ゆしん【庾信】(513～581) 中国，南北朝時代の詩人。その父の庾肩吾(490ごろ～552ごろ)は南朝の梁(りょう)に仕え，宮体詩の詩人として有名。父とともに梁の宮廷に仕えて，詩文をもって知られた。555年使命を奉じて西魏(せいぎ)におもむき，長安に至ったが，そのまま西魏に抑留され，それから西魏・北周と北朝の各王朝に歴仕した。しかし，郷里の南方を思う情は押えがたく，その苦悩を《哀江南賦》などの賦や，《咏作(えいさく)二十七首》などの詩にうたった。〔今村与志雄〕

ゆず【柚】 双子葉植物・ミカン科。中国，揚子江流域原産の常緑小高木で，高さは4～6mになり，小枝にはとげがある。葉は互生し，長さ6～9cmの卵形で先が少しへこむ。5～6月，葉腋(ようえき)に白色5弁花をつける。液果は径4～7cmで，表面に凹凸(おうとつ)があり，非常に酸味が強いが，特有のかおりがある。果実の皮やしるを料理に用いたり，他のミカン類のつぎ木の台木にしたりする。

ユスキュダル［Üsküdar］ ウスクダルともいう。トルコ北西部，小アジア半島北西端のボスポラス海峡の東岸に位置するイスタンブールの1地区。ヨーロッパ側にある市の中心とは海峡によって隔てられるが，定時渡船によって結ばれている。地名はペルシア語で〈飛脚〉の意で，古くは小アジアから西方へ向かう隊商路の起点をなし，イスラム教のモスクや古い建造物も残っている。商工業が盛んで，トルコの首都アンカラやイラクのバグダッドへの鉄道の起点でもある。クリミア戦争の際はイギリス軍の基地になり，従軍した看護婦ナイチンゲール*はここの野戦病院で超人的な活躍をした。旧名スクタリ。〔今井留吉〕



ユ　ズ



ユスラウメ

ユスチニアヌス(1世)［Justinianus］(483～565) 東ローマ帝国(ビザンチン帝国)初期の代表的な皇帝。在位527～565年。大帝とよばれる。イリリクム地方の生まれ。皇帝ユスチヌス1世の甥(おい)でそのあとを継いで即位。舞姫テオドラ*を妃とする。治世のはじめニカの乱に苦しんだ。旧ローマ帝国の西方領土の復活を志し，ベリサリウス，次いでナルヤスを派遣して北アフリカのバンダル王国，イタリアの東ゴート王国を滅ぼし，さらに南部スペインも占領した。2度にわたりペルシアと戦う。国内に多くの建造物を建てたが，特に都コンスタンチノープルのアヤ-ソフヤ*，ラベンナの聖アポリナレ，聖ビターレの各教会堂は著名。トリボニアヌスらの法律家に命じて《ローマ法大全*》を編集させた。彼の業績と宮廷に関する史料としては，彼の部下のプロコピウスの《戦火》7巻，《秘史》が有名である。〔兼岩正夫〕

ユスチニアヌスほうてん【ユスチニアヌス法典】 ⇨ローマ法大全

ユースホステル［youth hostel］ 青少年の旅を安全に，有意義に，安くかなえさせるための宿泊施設およびその運動。1909年ドイツの小学校教師リヒアルト-シルマンが，ルール地方のアルテナの小学校を青少年のための宿泊施設として利用したのがはじまり。1932年国際ユースホステル連盟が結成され，本部はデンマークのコペンハーゲン。

日本では1951年(昭和26)日本ユースホステル協会が結成され，1954年国際ユースホステル連盟に加盟。個人の住宅や，寺社・旅館・山小屋，さらには各団体や地方公共団体所有の施設などと契約したもの，建設にあたって国庫補助を受けた地方公共団体所有のもの，および日本ユースホステル協会直営のものなど全国に563か所(1971)ある。ユースホステルを利用するには，日本ユースホステル協会に申し込み，登録を受け，その指導を受ける。〔豊川　洋〕

ゆすらうめ【梅桃】 双子葉植物・バラ科。中国原産の落葉低木で，家庭果樹として植えられる。枝を多く出し，若い枝にはちぢれた毛がある。葉は互生し，長さ5cmほどの倒卵形で先は急にとがり，葉縁には鋸歯(きょし)があって，葉面には細毛を密生する。春，白色ないし淡紅色の径1.5cmほどの5弁花を多数つける。果実は球形で6月ごろに赤熟し，甘酸味があって食用にされる。

ゆすりか【揺蚊】 こん虫類・双翅(そうし)目・ユスリカ科の総称。体長は1mm内外の微小種から10mmに達する大形種まで変化に富む。体は一見カ類に似る。全体弱々しく，頭部は小さく，触角は細く5～14節で雄は羽毛状を呈する。口器は短い口吻(こうふん)となっているが，吸血はしない。幼虫は水生または陸生。水生のものは，静水または流水中に生活し，池沼・湖・水槽(すいそう)などに多数見られ，自由生活者で，水表に生活するものや，岩石その他の物体上に付着している塵芥(じんかい)や小石などで巣をつくるものなどがあり，塩水湖や海水中に生活する種類もある。また，陸生種は，腐敗植物質や糞(ふん)・菌類・蘚苔(せんたい)類などの中や表面に生活し，樹皮下や土中に生活する種類もある。幼虫の体は，細長い円筒形であるが，生活環境に応じて種々の適応的形態が見られる。全世界から約2,000種類が知られ，6亜科に分類されている。日本にも多数の種が分布しているが，まだ詳しい調査研究が行なわれていない。日本に産する代表的な種には，海浜性で幼虫が海水中に生活するヒメウミユスリカやヤマトイソユスリカ，高山性で春季雪渓(せっけい)上に多数見られ幼虫が渓流中に生活するニッポンヤマユスリカ，翅(はね)に多数の暗色斑紋(はんもん)があり夏季燈火によく飛来するカスリモンユスリカやダンダラヒメユスリカ，幼虫がつり餌(え)用にアカムシとよばれて珍重されるアカムシユスリカやオオユスリカ，幼虫がハスの浮葉に潜入して葉肉を食害するハスモグリユスリカ，幼虫がアカボウフラとよばれて魚のえさにされるセスジユスリカ，幼虫が山地の渓流に生活し多角円柱状の巣をつくるカクスナガレユスリカ，潮だまりに多数発生して雄成虫が日没後に海

面を活発に滑走するセトオヨギユスリカなどがある。〔鈴木邦雄〕

ゆずりは【譲葉】双子葉植物・トウダイグサ科。暖地の林にはえる常緑高木で，高さ10mに達する。葉は長さ13～20cm，幅4～7cmの倒卵形で光沢があり，あらい鋸歯(きょし)がある。裏面は緑白色。葉柄は長さ3～4cmで赤みをおびる。雌雄異株で，4～6月，葉腋(ようえき)から長さ5～10cmの花序を出し，淡黄色の小花をつける。花はがく片・花弁を欠く。果実は長さ1cmの楕円(だえん)形の石果で，青黒く熟す。ヒナユズリハ(エゾユズリハ)は裏日本に分布する高さ1mの低木で，ヒメユズリハは暖地の海岸林に分布する葉柄が赤くならないものである。庭木として用いるほか，材は箱材にする。また，葉は正月の飾りに用いられる。

ゆせい【油井】原油を生産する坑井。油層の多く存在する深度は世界的にみて600～2,700mの間といわれており，油井の深さもこれくらいが多い。中には6,000mをこすものもある。ビット*で穴をあけながら地下水からの保護や地層がくずれるのを防ぐため鉄管(ケーシング)を入れ，セメントで固定していく。油層に達したらそこでもケーシングを入れ，セメントで固定し，火薬で油が地層からケーシング内に流れてくるように小孔を多数あける。最終の坑径は20cm，ケーシング径は14cmぐらいが多い。この中に5cm径ぐらいの細い鉄管(チュービング)をおろし，油はこの管を通して採収するのが普通である。〔今井秀喜〕

ゆせいかん【輸精管】⇨精管

ゆせいとりょう【油性塗料】かた練りペイント・種ペイント・調合ペイントなどの油性ペイントおよび油性エナメル・油性さび止め塗料・油性下地塗料などのボイル油および油性ワニスを用いた塗料の総称。薄め液にはボイル油・プリマ油・塗料用シンナーを用い，塗膜の乾燥は酸化重合による。油性塗料は乾燥性・光沢保持性・耐候性などにすぐれた合成樹脂塗料の出現により1965年(昭和40)ごろから塗料中に占める比率は低下したが，はけさばきがよくて使いやすく，素地に対するなじみおよび付着性も良好で，塗装環境に対して鈍感で，かつ，長年月に何回も塗装された多層塗膜としての耐久性がよいなどのすぐれた特性がある。〔鈴木荘司〕

ゆせいペイント【油性ペイント】⇨油ペイント

ゆぜおんせん【湯瀬温泉】秋田県鹿角(かづの)郡八幡平(はちまんたい)村にある温泉。泉温64～71℃，泉質は単純硫化水素泉・単純イオウ泉で，皮膚病・胃腸病・リウマチなどにきくといわれる。米代(よねしろ)川上流の峡谷に臨み，東北屈指の近代的設備の温泉で，十和田湖・八幡平探勝の基地となる。交通は花輪線湯瀬駅下車が便利。

ゆせん【湯煎】調理法の一種。外なべに湯を沸かし，材料を入れた別の容器(内なべ)をこの中に入れて，間接的に加熱する方法。100℃をこえることがないので，材料の変色・変質などを防ぐことができ，卵や牛乳・バターを用いた焦げやすい料理や急に加熱すると固まりやすいものなどに行なわれる。



ユズリハ



ヒナユズリハ

ユ ズ リ ハ

ゆそうせん【油槽船】⇨オイルタンカー

ゆそでん【輸租田】律令(りつりょう)制度上，田租を納める田をいう。田租を徴収しない田を不輸租田と称した。不輸租田は神田・寺田・公廨田(くがいでん)など特定の田地に限られ，それ以外の田は口分田*をはじめすべて輸租田であった(租は庸・調と並んで国家の税の根幹をなすものであった)。743年(天平15)墾田永代私有法*が発布されてから荘園*(しょうえん)の発達をみるに至ったが，荘園も本来輸租田であった。しかしやがて律令制の衰退と荘園の盛行に伴い，寺社や有力貴族は政治上の権力を利用して，自己の荘園の不輸租化を図るようになった。➔不輸・不入〔高崎徳次〕

ユタ(州)［Utah］アメリカ合衆国西部の州。面積21万9,000km^2，人口105万9,000(1970)。州都ソルトレークシチー。1896年1月合衆国45番めの州となる。州名はインディアン語の〈高い所〉の意。州域の大部分は山地で，ワサッチ山脈が州の中央をほぼ南北に走り，平均標高も2,000m前後という山岳州である。ところどころに肥沃(ひよく)な谷と砂漠(さばく)があり，北部にはグレートソルト湖がある。19世紀の中ごろ，モルモン教徒によって開拓された地域で，人口の過半数がモルモン教徒である。灌漑(かんがい)農業と牧畜業が盛んで，小麦・テンサイ・肉牛・羊肉などの産がある。鉱物資源も豊富で，金・銀・銅・アスファルト・モリブデン・マグネシウムの産出は全国第2位，鉛・バナジウムなどは第3位，ウラニウムは第4位である。工業は農・鉱業をしのぐ州随一の産業で，またミサイル・ロケット・高速航空機などの軍事産業とその調査研究の中心地としても世界的に知られる。主要都市，ソルトレークシチー・オグデン。〔桕村大彬〕

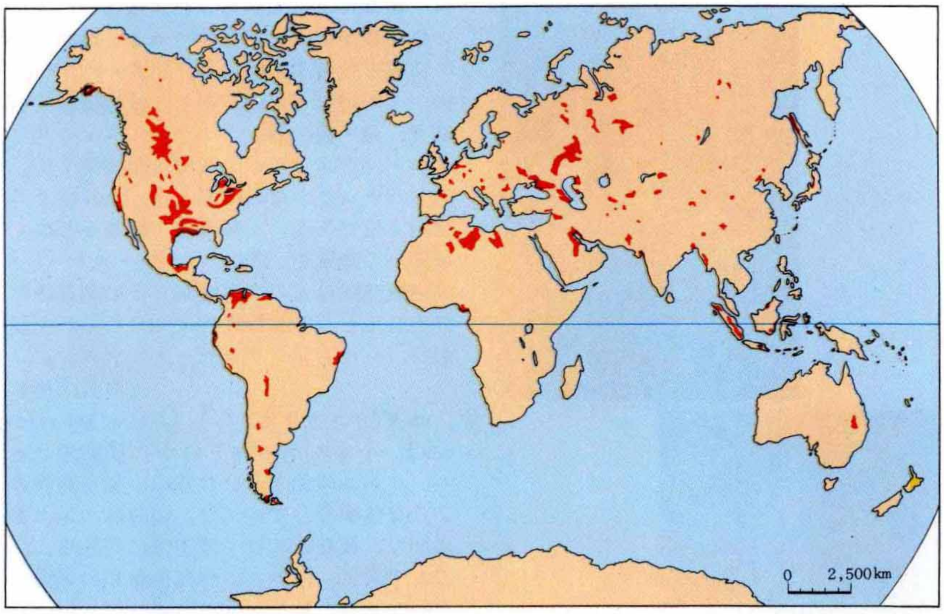
ユダ(イスカリオテの)［Judas Iskariotes］イエス-キリストの十二使徒のひとり。イエスの弟子(でし)たちの中で会計係のような仕事をしていたが，のちにイエスを裏切り，彼を銀30枚で祭司長に売り渡したことで有名。イエスの刑死後激しい後悔にさいなまれ，首をつって自殺したといわれる。

ゆだおんせん【湯田温泉】山口県山口市にある温泉。泉温25～80℃，泉質は単純泉・硫化水素泉・放射能泉で，皮膚病・神経痛・リウマチなどにきくといわれる。田園風景の展開する平地の温泉で，永正年間(1504～1520)寺の池にキツネがはいるのを見て発見したと伝えられる。明治維新の際三条実美(さねとみ)ら都落ちした7卿(きょう)が滞在した。秋芳洞(しゅうほうどう)など探勝の基地にもなっている。交通は山口線湯田温泉駅下車が便利。

ゆだがわおんせん【湯田川温泉】山形県鶴岡(つるおか)市にある温泉。市街の南西9km，金峰山山麓(さんろく)にあり，泉温39～45℃，泉質は含芒硝石膏(ぼうしょうせっこう)泉で，神経痛・リウマチなどにきくといわれる。和銅年間(708～714)に発見したと伝えられる古い温泉である。昔から金峰山に登山する行者や酒井藩主の湯治場で，いまでも近在の人の湯治場に利用され，民謡《庄内(しょうない)おばこ》の発祥地でもある。付近には植物園・スキー場がある。羽越本線鶴岡駅からバスの便がある。

ゆだダム【湯田ダム】岩手県和賀郡湯田町，北上川の水系和賀川上流にある多目的ダム。1965年(昭和40)に完成した。重力式アーチダムで，高さ88m，総貯水量1億1,400万m^{3}で，水力発電・灌漑(かんがい)・洪水(こうずい)調節を目的として建設省が建造した。仙人(せんにん)発電所の最大出力は37,600kW，和賀川発電所は15,500kWである。

ゆだなかおんせん【湯田中温泉】長野県下高井郡山ノ内町にある温泉。泉温44～97℃，泉質は含食塩石膏(せっこう)泉・イオウ泉で，神経痛・皮膚病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。山ノ内温泉郷の入り口に位置し，星川(夜間瀬川)に沿い温泉街が発達している。天智(てんぢ)天皇の時代の発見と伝えられる古い温泉で中央に大湯



油　　田　世界の油田・ガス田の分布図

があり，鶴(つる)・錦(にしき)など共同浴場がある。志賀・草津・万座方面への交通の要地である。交通は長野電鉄湯田中駅下車が便利。　〔木村東一郎〕

ユダヤおうこく　**【ユダヤ王国】**　BC922～BC587年の間存続したパレスチナ南部の王国。ユダ王国・ヘブライ王国ともいう。ソロモン*の栄華で知られる統一王国が分裂し，北半部がイスラエル王国*，南半部がユダヤ王国となった。エルサレムを首都とし，初代王はソロモンの子レハベアム。エジプト・アッシリアの二大強国にはさまれ，またイスラエル王国とも抗争を続けて，政情は不安定であった。イスラエル王国がアッシリアに滅ぼされてのちも存続したが，アッシリアに代わった新バビロニア王国によって，BC587年ついに滅ぼされ多くの民がバビロンに連れ去られた。➔バビロン捕囚

ユダヤおんがく　**【ユダヤ音楽】**　ユダヤ民族の歴史的伝統と地理的拡散の中に保持されている音楽。古代ユダヤ音楽についての部分的な資料は聖書などから得ることができ，パレスチナ周辺で宗教儀礼歌や世俗的民謡が，リラ・縦笛・手太鼓・オルガンなどを伴奏にして歌われたこと，ショファル(角笛)・トランペット(銀製)を使った半ば音楽的な信号音，職業化した泣き女の存在などが知られている。またシナゴーク(礼拝堂)で歌われた聖歌は，単声的・メリスマティックで，グレゴリオ聖歌*とも関連があるといわれる。過去1,000年の間に拡散したユダヤ民族の音楽は通常3系統に分けられている。それは，オリエント一帯の多声音楽を中心とするもの，南ヨーロッパおよび東ヨーロッパのいわゆるセファルディム系ユダヤ音楽，そして西ヨーロッパを中心とするいわゆるアシュケナジム系ユダヤ音楽で，宗教歌ばかりでなく世俗歌にも民族性を強力に保ち続けている。〔山口　修〕

ユダヤきょう　**【ユダヤ教】**　ユダヤ人(ヘブライ人)の宗教。信仰対象は唯一神ヤーウェ*。モーゼ*の律法*が信仰と儀礼の中核をなす。神の性格は聖・愛・義・仁慈・寛容など。この神に対する義務は〈力を尽くして神を愛せよ〉〈神は聖であるから，あなたがたも聖であれ〉に集約され，人と人との倫理は〈自身を愛する如(ごと)く隣人を愛せよ〉に示される。《旧約聖書》を聖典として共有するキリスト教とは，主として律法に関する解釈の相違，イエス-キリストを救世主とするか否かなどの点で，たもとを分かった。

〔歴史〕 族長時代は萌芽(ほうが)期で，バビロン捕囚*からエズラ・ネヘミヤらがエルサレムに帰り，神殿が再興された時代(紀元前5世紀半ば)に，ユダヤ教は成立した。モーゼ以来の唯一神信仰は続いたが，国力の衰微に伴い信仰が個人化していった。AD70年ローマ軍の神殿破壊により，ユダヤ人は祖国を去って離散した(ディアスポラ*)。以後，神殿祭儀の代わりに会堂礼拝によって各地で信仰を続けた。中世には，キリスト教とイスラム教からの接近があったが，いずれに対しても排他的・対立的であった。哲学者イブン-マイムーン*(マイモニデス)が《タルムード》の研究により大きく貢献したのは12世紀である。長い流亡のあと，19世紀，ユダヤ教を原動力とする組織的な祖国復活運動(➔シオニズム)が始まり，1948年にその悲願は成就した。現代のユダヤ教は若干の分派によって構成されるが，いずれも他宗教に対して寛大である。

〔経典〕 《旧約聖書》を聖典とし，特に〈モーゼ五書*〉(律法)を重視する。他に代々伝えられてきた口伝律法がAD200年ごろ〈ミシュナ〉の名称で集大成され，これに注釈が加えられた。〈ミシュナ〉とその注釈を編纂(へんさん)してできたのが《タルムード》で，パレスチナ本は4世紀末，バビロニア本は5世紀末に完成し，第2の聖典となった。経典ではないが，イブン-マイムーンの《ミシュネ-トーラー》はユダヤ教を体系化した著作で，一方の〈神学大全〉とうたわれる。〔松田　治〕

ユダヤれき　**【ユダヤ暦】**　ユダヤ民族が使用している太陰太陽暦*。ユダヤ民族がカナンの地に居住し，紀元前6世紀の終わりまで使用した古ユダヤ暦については，詳しいことはよくわかっていない。現在のユダヤ暦が確立されたのは4世紀ごろと考えられている。ユリウス暦*BC3761年10月7日を創世紀元と定め，この日に始まる1年を元年として年号をつける。朔(さく)のあとはじめて月の形を認めた日を月の初めとし，年は秋分のころの新月から始まる。創世紀元年数を19で割った余りが，0,3,6,8,11,14,17の年を閏年(うるうどし)，他を平年として閏月を6月の次においた。したがって，平年12か月，閏年13か月で，1年の日数は平年が353,354または355日，閏年は383,384,または385日となり，各月の日数(29日または30日)は1年の日数に応じて一定の規則に従って定められている。　〔木下　宙〕

ユッカ　［*Yucca*］　単子葉植物・ユリ科の一属でイトラン属ともいう。北アメリカ南部および中央アメリカに約30種を産する。乾燥砂漠(さばく)地帯に自生し，小高木状の茎をもつか無茎。葉は常緑で，長くて先端はとがる。花序は大きくて直立し，頂生円錐(えんすい)花序，まれに総状花序をなす。花は白色ないし乳白色の鐘状で下垂する。イトラン・キミガヨラン・センジュランなどがこれに属し，庭木として植栽される。繁殖はふつう株分けによる。日あたりと排水のよい場所を好む。強健で，栽培は容易。

ゆづきのきみ　**【弓月君】**　応神天皇の代に百済(くだら)から来朝し，帰化したという伝説上の人物。《新撰姓氏録*(しんせんしょうじろく)》では，秦(しん)の始皇帝の子孫とされており，融通王ともいわれる。《日本書紀》によれば，百数十県の人民を率いて来日しようとしたが新羅(しらぎ)にはばまれたので，応神天皇は平群木菟(へぐりのつく)を送り，新羅を討って弓月君と人民を来日させた。また，《古事記》には弓月君の来朝を秦造(はたのみやつこ)の祖の来朝とのみしるし，その名を示していないが，続いて漢直(あやのあたえ)の祖阿知使主(あちのおみ)も来朝したと伝えられる。秦氏は綾(あや)織より素朴(そぼく)な機織の技術を伝えた帰化人であり，漢氏(綾織を伝えた帰化人)より古いという意味を潜めて〈はた〉に〈秦〉をあてたものと解せられる。〔宮井義雄〕

ゆでん　**【油田】**　経済的に採算のとれる程度に多量の石油がたまっている最も簡単な単位を石油鉱床とよび，いくつかの石油鉱床が単一の地質構造(例：背斜構造)中に

存在する場合，その全体を油田とよぶ。厳密にいえば，現在採油事業が行なわれ，石油を産出している地域をいう。また，過去に生産したり，近い将来確実に生産すると思われる地域にも使用される。油田は一般に天燃ガスをも産するが，ガス量が石油生産量に比して特に多い場合はガス田とよぶ。

【油田の地下構造】石油やガスは不透水性の泥岩(でいがん)層にはさまれた多孔質な地層(例：砂岩層)の孔隙(こうげき)中に含まれる。経済的に稼行(かこう)できるほど多量に石油がたまるためには，地質構造が背斜構造・ドーム構造・断層による類似構造をしている必要がある。泥岩中にはさまれた砂岩層が上方に向かって先細りする場合や傾斜した砂岩層が不整合に上位の地層でおおわれる場合にも石油を産することがある。

【油田の型】地理的分布と集油構造により油田は褶曲(しゅうきょく)山脈型と大陸型に大別される。①褶曲山脈型：地向斜の比較的深い部分に，厚く堆積(たいせき)した地層が造山運動によって褶曲山脈をつくる場合，その中心部を離れた比較的変動の弱い前山地帯のおもに背斜構造に生じた油田である。第三紀前後のアルプス造山運動によって生じた油田が主である(例：日本・東南アジア・イラン・イラク・アメリカ合衆国カリフォルニア州)が，古生代末のバリスカン造山運動による油田もある(例：アメリカ合衆国のアパラチア油田)。②大陸型：先カンブリア紀の地殻(ちかく)変動によって生じた，非常にかたく安定した大陸基盤の上に堆積した地層が，基盤の差別昇降によって大規模でゆるやかな背斜構造・断層・不整合を生じ，また岩塩体が上位の地層中に貫入してドームをつくる。これらの構造部に生じた油田を大陸型という(例：アメリカ合衆国の中央平原からメキシコ湾岸に至る油田，アラビア半島からペルシア湾の油田，北西ドイツの油田)。含油層はほとんどすべて古生層・中生層である。〔内尾高保〕

ユードクソス［Eudoxos］(BC408ごろ～BC355) ギリシアの数学者・天文学者。アルキュタスやプラトンに幾何学・哲学などを学んだ。ピタゴラス学派が整数の比のみを考えたのに対し，一般の無理数にまで比の概念を拡張，ユークリッドの比例論の基礎を与えた。また積尽法の厳密な基礎づけを行ない，錐体(すいたい)・柱体・球などの求積問題を解いた。天文学上では同心天球説を唱え，科学的天文学の創始者ともいわれる。

ゆどのさん【湯殿山】山形県中部，月山(がっさん)の南西にある山。標高1,504m。月山・羽黒山とともに出羽三山の一つに数えられ，古来修験道の山として知られる。月山・羽黒山の奥の院としての湯殿山神社があり，南麓(なんろく)の六十里越街道(国道112号線)から湯殿山ドライブウエーが通ずる。磐梯(ばんだい)朝日国立公園に含まれる。



ユトリロ《ラパン-アジール》1911

ゆどのさんじんじゃ【湯殿山神社】⇨出羽三山神社

ゆどののちょうべえ【湯殿の長兵衛】⇨極付幡随長兵衛(きわめつきばんずいちょうべえ)

ユートピア［utopia］現在の状況を越えて構想される人類の未来社会。通常は，どこにも存在しない理想郷・理想国のことをいう。トーマス-モア*によってつくられた用語で，ギリシア語の〈ない〉と〈場所〉とを結合し，同時に〈よい〉場所という連想をも与えたものである。

プラトンが理想国家について考えたユートピア像をはじめ，古来さまざまなユートピア的観念は生まれてきた。この観念は，M.ブーバー*によると人間のうちに潜む願望，未来の共同社会のうちにおいてのみ実現されうるとする〈正しきもの〉などへの渇望などに由来する。これらは過去および現在を拒否して自由な主体者によって構成される普遍的な人類共同体のイメージを描き，そこから現実への強烈な批判精神を生み出した。ヨーロッパでは16～17世紀にかけて，トーマス-モアの《ユートピア》(1516)をはじめとして，カンパネラ*の《太陽の国》(1623)，ベーコンの《ニュー-アトランチス》(1627)など，数多くのユートピア思想が現われた。中でもトーマス-モアの《ユートピア》は，イギリス絶対君主制下の社会状況を批判したものとして有名である。その〈ヒツジが人を食っている〉という文章は当時のエンクロージャー*を巧みにとらえたものであるが，モアのこの批判的精神は伝統的な思考にとらわれない独立した思惟(しい)の確立をもとにして新しい現実をつくり出すことに独創があった。新しい現実の構想力は未来社会の緻密(ちみつ)な見取り図を具体的に示すことであり，この知的伝統が19世紀のユートピア社会主義(→空想的社会主義)の誕生を基礎づけた。オーウェン*・フーリエ*・サン-シモン*らがそうである。新社会の実験をオーウェンは実際に行ない，マルクス*・エンゲルス*はこれを批判的に摂取した。日本ではこのようなユートピア思想は生まれていないが，わずかに幕末に渡辺崋山*(わたなべかざん)・高野長英*の関係した尚歯会*(しょうしかい)の中に，近代社会のユートピア像がみられる。〔溝口　潔〕

ユトランド(半島)［Jutland］ヨーロッパ北部，大陸から北方へ突出する半島。東はカテガト海峡，北はスカゲラク海峡を隔て，ともにスカンジナビア半島に対し，西は北海に面する。面積約39,000km²。洪積世(こうせきせい)の大陸氷河に削られた低い波状地形をなし，西岸から北岸にかけては砂嘴*(さし)やラグーンが多く，砂丘が発達している。そのため，西岸は単調な海岸線となり，きびしい気候で原野が広がり，不毛の土地が多い。東岸はフィヨルド*が発達しており，オルスース・フリズリシア(デンマーク)，フレンスブルク・キール(ドイツ)などの港市があり，西岸にはエスビャルク(デンマーク)がある。南東部は高緯度のわりに気候は穏やかで，酪農地帯になっている。中部以北はデンマーク領で，狭義にはこの部分をユトランド半島とよぶが，一般には頸部(けいぶ)のドイツ領であるシュレスウィヒ-ホルシュタイン州の北半を含めてよんでいる。頸部にキール運河(北海バルト海運河)があり，北海岸のエルベ川河口とバルト海岸のキール湾を結んでいる。第1次世界大戦では，スカゲラク沖でドイツ軍とイギリス軍との間で海戦が行なわれた。〔長津一郎〕

ユトリロ［Maurice Utrillo］(1883～1955) フランスの画家。ドガ・ルノアール・ロートレックらのモデルをし，やがて女流画家として立ったシュザンヌ-バラドンを母として生まれた。彼は，18歳ですでにアルコール中毒になり，気晴らしのため絵筆を握るようになったが，最初から詩情に富むすばらしい作品を生み出した。ピサロやシスレーの影響で印象派ふうの作品を描いたが，1908年ごろから〈白の時代〉とよばれる作風に達する。白壁の描写に石膏(せっこう)を混ぜて独特の効果をあげた。1927年ごろからは〈多彩時代〉が始まる。モンマルトルの街景を好んで描き，叙情的な独特の画風を打ち立てた。〔島田紀夫〕

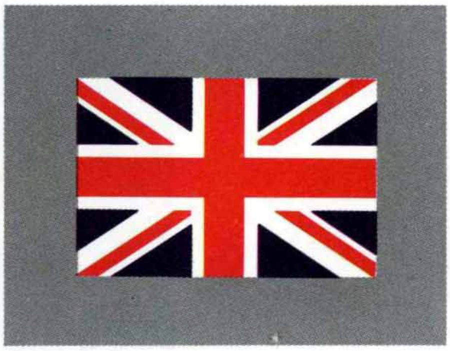
ユトレヒト ［Utrecht］ オランダ中部にある都市。人口27万4,000(1968)。9世紀に商業の中心地となり，商人と教会の争いは16世紀まで続いた。また1579～1581年のスペインからの独立戦争にあたって，北部諸州のリーダーシップをとった(ユトレヒト同盟)。市街は運河を巡らし，ドムケルク教会・マルチン教会など13世紀の建造物が残り，1636年創立のユトレヒト大学がある。毎年，国際見本市が開かれる。

ユトレヒトじょうやく 【ユトレヒト条約】 1713～1715年，オランダのユトレヒトで締結されたスペイン継承戦争の講和条約。フランス・イギリス・オランダ・サボイ・ポルトガル間に結ばれ，翌年のプロイセン・フランス間のラシュタット条約でこの条約を承認して戦争は終わった。これによって，列国はフランスとスペインが合併しないことを条件にフェリペ5世のスペイン王位継承を承認し，イギリスはフランスからニューファンドランドとハドソン湾などを，スペインからジブラルタル・ミノルカ島を獲得，オーストリアはスペイン領ネーデルラント・ミラノ・サルジニア島を獲得した。この条約はフランスの植民地拡大の野心を挫折させ，イギリスの優位を確定した。 〔喜多迅鷹〕

ユトレヒトどうめい 【ユトレヒト同盟】 1579年，オランダ独立戦争に際し，ネーデルラントの北部7州がホラント州を中心に結んだ同盟。ネーデルラントの激しい抵抗を受けたスペインはネーデルラントの南北離間策をとり，その結果南部10州(現在のベルギー)はスペインと妥協して抵抗をやめた。これに対して北部7州はユトレヒト同盟を結んでますます結束を固め，オラニェ家ウィレムを総督に推して，1581年ネーデルラント連邦共和国(現在のオランダ)として独立を宣言し，1648年ウェストファリア条約で正式に認められた。〔松　俊夫〕

ユナニミスム ［unanimisme］ ジュール-ロマンによって唱えられた思想で，〈一体主義〉と訳されるフランス語。体系的思想というより，むしろ一つの感情に根ざした文学論で，ヒューマニズムの一種といえる。あらゆる集団には個人を越えた感情があり，個人はその共通の感情によって強く結ばれ，一体的意識を共有するという考え。ロマンの《更生の町》がその代表作品である。

ユニオン-カーバイド ［Union Carbide Corp.］ アメリカ合衆国第2位の化学工業メーカー。1890年代にカーバイドの発見者ジェームズ-ターナー-モアヘッドがユニオン-カーバイド社を創立，1917年に合金鉄・アセチレン・酸素・電極乾電池の四つの会社を傘下(さんか)に収め，ユニオン-カーバイド-アンド-カーボン社と改称，1957年に現社名になった。製品は合成有機工業薬品を主に，プラスチック・合成繊維・炭素製品・合金・工業用ガスも生産する。海外進出に意欲的で海外33か国に60の子会社をもち，海外売上高は総売り上げの26％を占めている。わが国では鐘淵(かねがふち)化学工業・電気化学工業などが技術導入をしているほか，三菱レイヨンと合弁の日本ユニカーが高圧ポリエチレンを生産している。本社ニューヨーク。年間売上高30億4,000万ドル，従業員数10万4,000(1971)。 〔氏家　尚〕



ユニオン-ジャック



ユニバーシアード アジアで最初に行なわれた東京大会(1967)の5,000m決勝。ゼッケン(223)は日本の沢木選手

ユニオン-ジャック ［The Union Jack］ イギリス(グレート-ブリテンおよび北アイルランド連合王国)の国旗。現在のイギリスを構成するイングランド・スコットランド・アイルランドの旧3王国の国旗を組み合わせたもの。イングランドは白地に赤十字の〈聖ジョージの旗〉，スコットランドは青地に白の斜め十字の〈聖アンドリューの旗〉，アイルランドは白地に赤の斜め十字の〈聖パトリックの旗〉で，アイルランド王国がグレート-ブリテン王国に併合されたのち，1803年に制定された。〔吹浦忠正〕

ユニオンショップ ［union shop］ 労働者が雇用されたときは労働組合に加入しなければならず，脱退・除名されたときは解雇されるという労働協約上の規定。組合の団結を強めるために認められた組織強制の一つで，クローズドショップとオープンショップの中間の形態。日本の労働協約のほとんどはユニオンショップの協定を結んでいるが，脱退・除名のときに〈解雇にあたっては会社と組合が協議する〉と定めているため，完全な形のユニオンショップはまれである。 〔河井研一〕

ユニセフ ［UNICEF］ 国際連合児童基金(United Nations Children's Fund)のこと。1946年12月国際連合総会の決議で設置された国連国際児童緊急救済基金(United Nations International Children's Emergency Fund，略称ユニセフ)の後身。1953年現在の名に改称されて国連の常設機関となったが，略称のユニセフの名はそのまま継承されている。世界の児童を健康で有能な市民に育てるよう直接の援助を与えることを目的とし，薬品・ワクチン・抗生物質などの供与，保健センターの設立，教職員の養成や教材供与，職業訓練計画の援助，児童のための福祉事業，などを行なっている。当初，この援助は戦争の犠牲国に対して優先的に与えられたが，1949年以降はドイツと日本にも与えられ，現在は開発途上国に向けられている。なお，運営は30か国代表からなる執行委員会が行ない，活動はおもに各国政府や民間からの自発的醵出金(きょしゅつきん)や物資などによって行なわれている。事務局はニューヨーク。1965年ノーベル平和賞を贈られた。〔広部和也〕

ユニチカ 毛・綿・合成繊維・レーヨンなどの総合繊維会社。1889年(明治22)資本金50万円で有限責任会社尼崎(あまがさき)紡績として創立，1903年株式組織に改め，1918年(大正7)摂津紡績を合併し大日本紡績と改称，その後宮川毛織ほか4社を合併，1964年(昭和39)社名をそれまでの略称だったニチボーと改め，さらに1969年10月日本レイヨンと合併，現社名となった。本社大阪，工場は宇治(京都府)・岡崎・坂越(兵庫県)・貝塚(かいづか)など全国20か所にある。資本金237億9,800万円，年間売上高1,810億9,700万円，従業員数6,476(1979年9月)。

ユニテリアン ［Unitarians］ キリスト教教義の中心をなす三位一体論を否定し，神の単一性を主張する教派。この名称は古く16世紀中ごろのハンガリーに現われているが，1774年ロンドンでユニテリアン教会が設立されてから，近世の経験主義と並行して，しだいにイギリス宗教改革派の諸教会に浸透していった。19世紀にJ.マーティノーの指導によって単なる合理的神学運動から脱皮し，信仰の純化と深化を獲得して，自由主義に影響を与え，またアメリカにおいてもW.チャニングという傑出した論陣を得て教勢を増した。日本におけるユニテリアン教会は1887年(明治20)宣教師A.ナップを中心とする自由キリスト教運動に始まる。同派はやがて社会主義的政治活動に傾斜していき教会運動は衰えたが，安部磯雄(あべいそお)らは日本における社会主義運動に先駆的役割を果たした。 〔堀越知巳〕

ユニバーシアード ［Universiade］ 国際大学スポーツ連盟(FISU)が主催する国際学生競技大会。1921年から世界大学スポーツ大会がフランスで催されていたが，第2次世界大戦後に東西に分裂し，1957年に

は再統一されて，パリで国際スポーツ連盟が創設された。1959年イタリアのトリノで第１回大会が行なわれ，以降隔年に夏冬両大会が行なわれている。参加資格者は大学またはそれに準ずる学校の在学生および大会年のまえの２年以内の大学卒業者までで，大会年の１月１日に17歳を越え，28歳に達しない者と決められている。

競技種目は夏季(競技期間は10日間)では，陸上・水泳(飛び込みを含む)・バスケットボール・フェンシング・体操・テニス・バレーボール・水球の８種目，冬季(７日間)はスキー・フィギュアスケート・アイスホッケーの３種目で，そのほか開催国はその国の希望種目を提案できる。

わが国では1928年(昭和３)の冬季大会(コルチナダンペッツォ)に初参加，1967年夏季大会が東京で開催された。〔藤岡　端〕

ゆにゅうきょかせい　【輸入許可制】　輸入業者の申請に応じて政府が輸入承認を与える制度。一定額の取引について包括的に与える許可と，個々の取引ごとに与える許可とがある。輸入許可制は，同じく輸入制限の一つである輸入割当制*と合わせて実施される場合が多い。許可制は，1934年にドイツが実施して以後，第２次世界大戦中に一般化した。戦後日本でも，貿易自由化の実現まではこの制度が普遍的であった。

ゆにゅうじどうしょうにんせい　【輸入自動承認制】　略称AA(automatic approval)制。外貨予算制度の廃止に伴い，通産省の数量割り当てを必要としないで，外国為替(かわせ)銀行で自動的に輸入承認が与えられる。

ゆにゅうせいげん　【輸入制限】　国内産業の保護や国際収支の不均衡を是正するために，個々の品目について輸入品を規制しようとしてとられる措置。通商的統制として数量制限・関税割り当てがあり，貨幣的統制として為替(かわせ)管理・複数為替相場がある。数量制限は個々の品目の輸入を価額あるいは数量に関して直接的に制限するもので，輸入許可制*・輸入割り当て制*・輸入禁止などの方法がある。関税割り当ては品目によってはある額までを低税率または無税にしておき，その限度をこえると高税率を課するものである。低税率・無税の品目ないしその限度額までは輸入が促進され，そのほかに対しては抑止的効果をもつ。為替管理は，一国の対外取引で獲得された為替のすべてを政府当局が強制的に買い上げ，それを輸入業者に，単一の相場で割り当てるもので，支払いの側面から個々の品目の輸入を制限することになる。複数為替相場は輸入品目に優先順位をつけ，一国にとって重要な輸入品を扱う業者には割安な相場で，反対に優先度の低い品目を扱う業者には割高な相場で外国為替を割り当てる制度であり，優先度の低い品目の輸入制限的効果をもつ。開発途上国，特にラテンアメリカ諸国で多く採用している制度である。

〔唐木圀和〕

ゆにゅうとうせい　【輸入統制】　⇒輸入制限

ゆにゅうわりあてせい　【輸入割り当て制】　IQ制ともいう。外貨資金割り当て制とよばれていたが，外貨予算制度の廃止によって外貨基準の輸入割り当てから数量基準に代わり，輸入割り当て制(IQ制)となったが，その実質は変わらない。まだ自由化にならない少種の品目はこの制度によらざるをえないが，数量割り当ての原則が技術的に困難または不可能なときは，価格に基づいて割り当てることが例外的に認められる。今日わが国輸入の大半は，自由化政策により自動承認制(AA制)または自動割り当て制(AIQ制)となっているが，それらに漏れた特殊品目だけが，この輸入割り当て制として残されている。　〔上坂酉三〕

ゆにょうかん　【輸尿管】　⇒尿管

ユニリーバ　［Unilever Ltd.］オランダとイギリスに本社(持ち株会社)をもつ世界最大の食品・油脂メーカー。ロイヤル-ダッチ-シェル-グループ*と並ぶ代表的な世界企業。1885年W.リーバがリーバ-ブラザーズ社を設立，やし油からつくったせっけんを売り出し，1929年にはオランダのマーガリン-ユニー，イギリスのマーガリン-ユニオンを吸収合併，ユニ-リーバとなった。主製品は食用油・マーガリン・洗剤・せっけん・化粧品・化学品・飼料・紙・包装・肉・包装食品など，世界60か国に600の子会社と250の直営工場をもつ。また，油脂の原料のココ油やパーム油の収穫のためボルネオに広大なヤシ園をもっている。わが国では当社と豊年製油(株)の合弁会社，豊年リーバ(株)がマーガリン・ショートニングを生産している。年間売上高68億8,000万ドル，従業員数33万3,000(1970)。

ユネスコ　［UNESCO］ United Nations Educational, Scientific and Cultural Organizationの略称。国際連合教育科学文化機関のことで，国際連合専門機関の一。1945年11月ロンドンで44か国参加のもとに，〈戦争は人の心のなかではじまるものであるから，人の心のなかに平和のとりでを築こう〉で始まるユネスコ憲章が採択され，翌年11月４日発効，成立した。教育・科学・文化を通じて諸国民間の理解と認識を深め，協力関係を促進することによって，国際間の平和と安全を確保することを目的とする。この目的実現のためにユネスコは次のことを行なう。①映画・新聞・テレビジョン・ラジオなどのマスコミュニケーションによって，諸国民の相互理解の促進に協力する。②加盟国の教育活動に協力するなどの形で，民衆教育と文化の普及に新鮮な刺激を与える。③図書・芸術作品・歴史的記念品などの保存と保護を図り，また各分野の人的資源の国際的交流，科学資料・出版物の交換などによって知識を維持・増進し，かつ普及する。以上のような活動は全加盟国で構成される総会によって決定される根本方針と事業計画に基づいて行なわれる。

機関は総会・執行委員会・事務局から構成され，本部はパリ。1972年２月１日現在当事国数125。日本は1951年(昭和26)加盟。

〔広部和也〕

ユノ　［Juno］ローマ神話の女神。ジュピター*と対をなす最高位の女神。婚約・結婚・出産などをつかさどり，女性の生活を保護するものとされた。ギリシア神話のヘラ*と同一視される。

ゆのかわおんせん　【湯ノ川温泉】　湯川とも書く。北海道函館(はこだて)市にある温泉。泉温56～75℃，泉質は含石膏(せっこう)土類食塩泉で，皮膚病・胃腸病・リウマチなどにきくといわれる。津軽海峡に面し，松倉川をはさんで西に湯ノ川，東に根崎の両温泉が向かい合っており，旅館の設備もよく，湯客でにぎわう。付近にはトラピスト修道院・五稜郭(ごりょうかく)公園などもある。交通は函館本線函館駅から市電・バスの便がある。　〔木村東一郎〕

ゆのこ　【湯ノ湖】　栃木県北西部，中禅寺湖北方にある湖。面積0.33km²。水面標高1,478m，最大深度13.5m。日光火山群の一つ三つ岳の溶岩流による堰止湖(せきとめこ)で北東隅(ぐう)湖中に温泉がわき，付近の水が白濁しているのでこの名がある。南東隅より排水して日光の名瀑(めいばく)の一つ，高さ45mの湯滝となり，湯川となって中禅寺湖へ流れる。ニジマス・コイを産する。東岸に突出した半島はかつて原生林におおわれ，高層湿原と浮き島とがあったが，遊歩道ができて訪れる人が多くなってからは荒廃してしまった。日光湯元温泉は北岸にあり，夏の避暑や春秋の行楽，冬のスキーで，来訪客が多い。日光国立公園に属する。

〔長津一郎〕

ゆのごうおんせん　【湯郷温泉】　岡山県英田(あいだ)郡美作(みまさか)町にある温泉。泉温14～43℃，泉質は含食塩塩化土類泉で，皮膚病・婦人病・胃腸病などにきくといわれる。那岐山(なぎせん)の南麓(なんろく)にあり，美作三湯の一つをなす。中央に共同浴の鷺(さぎ)の湯があり，付近には安養寺・海田茶園もある。交通は姫新(きしん)線村野駅からバスの便がある。

ゆのこおんせん　【湯ノ児温泉】　熊本県水俣(みなまた)市にある温泉。泉温40～52℃，泉質はアルカリ泉・含食塩重曹(じゅうそう)泉で，胃腸病・皮膚病・神経痛・リウマチなどにきくといわれる。八代(やつしろ)湾に臨む海岸台地上に位置し，天草・雲仙(うんぜん)も望める景勝の地で，海水浴・海づりが楽しめ，水族館もある。交通は鹿児島本線水俣駅からバスの便がある。

ゆのはな　【湯の華】　⇒温泉

ゆのはまおんせん　【湯野浜温泉】　山形

県鶴岡(つるおか)市にある温泉。泉温28〜62℃，泉質は含塩化土類弱食塩泉で，胃腸病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。日本海に臨む海岸の温泉で奥羽三楽郷の一つに数えられる。海水浴場や娯楽施設も整い行楽客でにぎわう。交通は鶴岡駅から庄内(しょうない)交通の電車とバスの便がある。

ゆのみねおんせん　**【湯峰温泉】**　和歌山県東牟婁(ひがしむろ)郡本宮町にある温泉。泉温81〜91℃，泉質は含重曹(じゅうそう)硫化水素泉で，皮膚病・胃腸病・リウマチにきくといわれる。十津(とつ)川の支流湯の峰川の渓谷(けいこく)に湧出(ゆうしゅつ)し，発見の歴史は成務天皇の時代と伝えられる。光明の湯・玉の湯・小栗(おぐり)の湯などがあり，熊野本宮・瀞峡*(どろきょう)巡りのコースとなっている。交通は紀勢本線新宮駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

ゆのやまおんせん　**【湯の山温泉】**　三重県三重郡菰野(こもの)町にある温泉。鹿(しか)の湯・菰野温泉ともいう。泉温26〜29℃，加熱。泉質は単純放射能線で，胃腸病・婦人病・リウマチなどにきくといわれる。御在所山麓(さんろく)の三滝川の渓谷(けいこく)に湧出(ゆうしゅつ)し，養老年間(717〜723)に発見されたと伝えられる。温泉から御在所山へはロープウエーが通じユースホステルもある。交通は近畿(きんき)日本鉄道湯の山線湯の山駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

ゆば　**【湯葉】**　豆乳*を原料としたダイズ加工品の一種。豆乳を銅製の平なべで静かに加熱し，表面にできる皮膜をすくい上げて，炭火で乾燥してつくる。すくい上げたのを生湯葉，乾燥したのを干し湯葉ともいう。残った液をさらに加熱すると，再び皮膜ができ，数回取ることができるが，最初のものが最も良質である。タンパク質と脂肪とに富み，消化もよく栄養価は高い。ふつう平らな薄い紙状であるが，形によって渦巻(うずまき)湯葉・島田湯葉・結び湯葉など種類が多い。精進料理*に多く用いられるほか，なべ物や中国料理にも使われる。黄色でしわがあることが老女(姥(うば))を連想させ，古くはうばとよんだともいう。京都・栃木県日光地方が主産地。〔佐藤友太郎〕

ゆばらおんせん　**【湯原温泉】**　岡山県真庭郡湯原町にある温泉。泉温41〜53℃で泉質は単純泉で皮膚病・神経痛・リウマチなどにきくといわれる。旭(あさひ)川をせき止めた湯原湖の下流の峡谷に湧出(ゆうしゅつ)し，美作(みまさか)三湯の一つに数えられ，露天ぶろの砂湯が名物である。付近には天然記念物のオオサンショウウオの生息地があり，蒜山(ひるぜん)高原への基地になっている。交通は姫新(きしん)線中国勝山駅からバスの便がある。〔木村東一郎〕

ゆび　**【指】**　脊椎(せきつい)動物の四肢(しし)末端部の分かれた部分。動物によって前肢は指，後肢は趾(あし)とよぶことがあるが，ヒトの場合には趾とはいわない。多くの動物は5本に分かれているが，ウマは第3中手骨だけが発達した場合で，第2・第4はわずかに認められるが，第1・第5の中手骨は欠いている。また動物によって前肢と後肢で数が異なる場合や，2・3・4本の指をもつものもある。指は橈骨(とうこつ)側から順に第1指(拇指(ぼし)・母指・親指)，第2指(示指・人さし指・食指)，第3指(中指)，第4指(環指・無名指・薬指・紅さし指)，第5指(小指)とよばれている。指には神経や血管が豊富で，皮下脂肪が少ないため触覚や圧覚が鋭敏である。指の先端には爪*(つめ)があり，その反対側には指紋*とよぶ構造が認められる。〔高野一雄〕



ユビナガコウモリ

ユーピーアイ　［UPI］　United Press International の略称。アメリカ合衆国の代表的国際通信社。1907年6月ニューヨークに設立されたUPが前身で，初期には夕刊専門の商業通信社であったが，第1次世界大戦前後から急速に発展して国際通信社となった。1958年5月多彩な報道で知られたINS(1909年設立)を合併してUPIと改称し現在に至っている。センセーショナルでスピードのある報道で知られ，AP*と激しい競争を演じ，国外に約260の支社をもつ。〔飯田良明〕

ユビキノン　［Ubiquinone］　補酵素Q(コエンザイムQ)ともいう。ミトコンドリアにおける電子伝達系*に介入する化合物。化学的にはベンゾキノンの誘導体で，側鎖(イソプレノイド)のnの数によっていくつかの種類がある。一般に高等動植物にはn＝10のユビキノンが存在し，下等生物ではn＝6〜9のものが多いとされる。

ゆびざる　**【指猿】**　⇨アイアイ

ゆびそおんせん　**【湯檜曾温泉】**　群馬県利根(とね)郡水上(みなかみ)町にある温泉。泉温40〜70℃，泉質は含食塩重炭酸泉で，胃腸病・神経痛・婦人病などにきくといわれる。利根川の支流湯檜曾川に臨み湯量も多く，水上温泉郷の一湯をなす。経営者が安倍貞任*(あべのさだとう)の子孫と伝えられる旅館がある。谷川岳登山の基地で，近くに大穴スキー場があり冬はスキー客でにぎわう。交通は上越線湯檜曾駅下車が便利。

ユピテル　⇨ジュピター

ゆびながこうもり　**【指長蝙蝠】**　哺乳(ほにゅう)類・翼手目・ヒナコウモリ科。頭胴長6.2cm，前腕長4.7cmほどで，第3指の第2指骨が著しく長い。背面は暗かっ色で，腹面は灰色をおびる。南部ヨーロッパ・アルジェリアからニューギニア・オーストラリア・東南アジア・日本に広く分布する。暖地にすみ，多くは海岸の洞窟(どうくつ)内に大群をなして生活し，その数は10,000頭以上に達することもある。夕刻より飛び出し，こん虫を捕食する。飛翔(ひしょう)は速く，ツバメに似ており，高空を飛ぶ。

ユーピーユー　［UPU］　⇨万国郵便連合

ユビュおう　**【ユビュ王】**　ジャリ*の戯曲(1896)。愚鈍で醜悪なユビュが妻にそそのかされて王位を奪い，残忍非道の限りを尽くすが，最後には追放される。この単純な物語を，作者は奇妙でグロテスクな台詞でつづり，ユビュという典型を通してブルジョア社会を風刺した。フランス近代演劇に一大衝撃を与えた作品で，ダダ*・シュルレアリスム*の先駆をなす。

ゆびわ　**【指輪】**　手の指にはめる装身具。リングともいう。今日では婚約・結婚指輪を除いてアクセサリーとしてのみ用いられるが，古い時代にはさまざまの象徴的・実用的な意味をもっていた。すなわち，指輪の甲に持ち主の記号を彫って認め印としたり，地位や財産の象徴ともなった。起源は古くエジプト時代からあり，今日のような指輪は第18王朝の発掘品にみられ，金・銀・青銅・ガラス・コハクなどに浮き彫りし，威信を示すものとして用いられた。ローマ時代は宝石服飾の全盛時代でもあり，指輪は特権のしるしとして多く用いられ，印章・結婚・教皇・祈禱(きとう)・まじない用など，種類も多く現われた。当時は，中指を除く他の指全部に，あるいは1本の指に2個ずつはめたという。中世には純金製が一般化し，ダイヤもこのころからおもに魔よけを目的として使用されはじめた。17世紀になると，かなり装飾的になり，精巧なものがつくられ，19〜20世紀にかけては細くスマートになり，つめ形で石を取りつけるようになった。19世紀末ごろから人造宝石が大量に生産されはじめて大衆的になり，今日では女性の服飾品として必需品となっている。〔小池千枝〕

ゆふいんおんせん　**【湯布院温泉】**　大分県大分郡湯布院町にある湯泉。泉温29〜98℃，泉質は単純泉・重曹(じゅうそう)泉・弱食塩泉で，胃腸病・皮膚病・神経痛などにきくといわれる。由布岳の南西麓(ろく)標高480mの盆地に湧出(ゆうしゅつ)し，金鱗湖(きんりんこ)・銀鱗湖を中心に350をこえる源泉をもち，湯量が豊富で，砂湯・蒸(ふけ)湯・天人風呂(ぶろ)などがある。夏は涼しく避暑客も多い。交通は久大本線由布院駅下車が便利。

ゆふだけ　**【由布岳】**　大分県中部，別府市の西部にそびえる鐘状火山。標高1,584m。西側は由布院盆地に臨み，東側は鶴見岳(つるみだけ)などの火山群に接する。山頂部は双頭で，山容から豊後(ぶんご)富士ともよばれる。別府から湯布院へのバスは南麓(なんろく)の標高800mの地点を通るので，登山

は比較的容易。阿蘇(あそ)国立公園に含まれる。

ユーフラテス(川)　⇨チグリス-ユーフラテス川

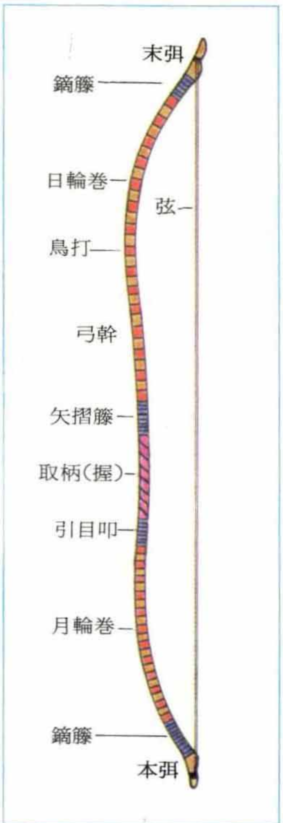
ゆべし　**[柚餅子]**　蒸し物菓子の一種。各種の地方名産がある。新潟県西蒲原(にしかんばら)郡福井のは，1829年(文政12)の創製といわれ，うるち米の粉に砂糖とみそとを加え，ユズのしるを混ぜて練り，蒸し固めたもの。石川県輪島市には，練り合わせた材料をタケの皮に包んだ長ゆべしと，ユズの皮の中へ詰めた丸ゆべしとがある。柚干(ゆべし)の発達したものといわれ，江戸中期の《料理綱目調味抄》には，中の実を除いたユズに各種材料を入れ，蒸して天日乾燥させると書かれている。　〔塩川ふみ〕

ゆぼけつがん　**[油母頁岩]**　黒っぽくて，二硫化炭素にとけにくい，固体状の炭水化物を多量に含んでいるケツ岩。油質ケツ岩・歴青質ケツ岩・オイルシェールなどともいう。約350℃で乾留するとケツ岩油がとれ，これを加工すれば種々の石油系の燃料が得られる。石油の供給が十分な間は潜在資源に過ぎないが，原油に続く有力な化石燃料資源として世界的に注目されている。かつて撫順(ぶじゅん)の石炭層の上盤にあった油母ケツ岩が利用されたことがあった。

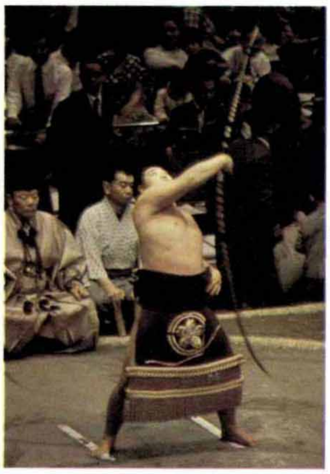
ユマニスト　[humaniste]　人文学者・人文主義者と訳される。ルネサンス期にギリシア・ローマの古典研究を通して，人間の人間であるゆえんを探究した一群の文人・学者。その根底には中世の神中心・教会中心の人間観に対する挑戦(ちょうせん)があるが，必ずしも宗教そのものを否定するのではなく，教会が権威の名の下に一方的に強制する聖書解釈などに対して批判した。代表的人物としてペトラルカ・ボッカッチョらがおり，彼らはすでに制度や観念の奴隷ではなく，判断の主体としての自由な人間像を有していたといえる。　〔石井忠厚〕

ユマニテ　[L' Humanité]　フランス共産党の中央機関紙。朝刊。パリで発行。1904年4月ジョレスが社会主義思想を普及するために創刊。1911年社会民主党の機関紙となったが，党分裂のため，1920年12月共産党機関紙となった。フランス共産党の発展と反戦・反ファシズム運動に大きな功績を残したが，第2次世界大戦直前の1939年8月，政府の共産党弾圧により発行が禁止された。1944年8月23日のパリ解放まで非合法の地下出版を続けて，レジスタンス運動に協力した。自由主義諸国の共産党機関紙の中でも，イタリアの《ウニタ》と並んで権威のある高級紙として知られる。発行部数約15万(1980)。　〔飯田良明〕

ゆみ　**[弓]**　竹や木をたわめて弦(つる)を掛け，その弾力によって矢を飛ばす攻撃用具。人類がはじめて弓矢を用いたのは20,000年前で，狩猟や闘争に利用されたが，日本では縄文(じょうもん)時代には短弓が用いられ，弥生(やよい)時代になると，東南アジア系の長



弓　弓の部分名称(重籐)



弓取り式

弓が普及した。元来，弓には縦横自在の大陸系の短弓と，縦様式の島嶼(とうしょう)系の長弓とがあり，いずれも直弓と彎(わん)弓とがある。直弓は棒状の単一弓であるが，彎弓は反対側に反(そ)りのある合成弓である。

日本の古代弓は直弓の単一弓で丸木弓といい，梓(あずさ)・檀(まゆみ)・槻(つき)(ケヤキの変種)・榧(かや)などを素材とし，長短両様があるが，《魏志倭人伝(ぎしわじんでん)》には，上長下短の木弓と竹矢・鉄鏃(てつやじり)が日本民族の象徴として記されている。4～5世紀には長弓が圧倒的に多く，正倉院や春日(かすが)大社に現存する木弓は，7～8世紀の代表的長弓で，2.2ｍ以上あって日本弓の基準となっているが，現在では2.21ｍが定尺となっている。

弓の形状は上下を凸字(とつじ)形に削って弦を掛ける弭(はず)をつくり，上を末弭(うらはず)，下を本弭(もとはず)という。弓全体は弓幹(ゆがら)といい，握り部を取柄(つか)とよび，長弓は下からほぼ3分の1の部分にある。原始的な木弓は枝を利用したが，現存弓は木幹の木目を利用した削り丸木弓で，上下の弾力を調整するために，下部の内側に浅い溝(みぞ)(樋(ひ))をつくっている。素材のままの弓は白木弓というが，気温・乾湿により折損変化しやすいので，赤または黒の漆塗りとし，ところどころに樺(かんば)皮・籐(とう)などを巻いて，補強と装飾の両効果を兼ねた塗弓も現われた。

奈良・平安時代には狩猟や戦陣用のほかに，射礼(じゃらい)その他の宮廷行事として儀礼化された弓射が盛んとなった。そのために弓も美麗となり，糸包弓・重籐(しげとう)・本(もと)重籐・末重籐・二所籐・三所籐・笛籐などが現われ，弣には革(なめしがわ)を巻き，儀式用には錦(にしき)・綾(あや)切れで包んだ。平安時代末には木の外側にマダケをはった木竹合成の伏竹弓ができ，いっそう弾力を増したが，さらに内側にも竹をはった三枚打が現われ，室町初期には四方に竹をつけた四方竹弓があり，室町中期以後には薄い竹片(ひご)を心にしたひご入合成弓ができ，現在のような半彎弓となった。これらは白木・塗弓ともにつくられ，的前や実戦に用いられた。また三十三間堂の通し矢では差矢弓が用いられた。なお古くから遊戯用として楊(よう)弓・半弓などがある。
〔石岡久夫〕

ゆみとりしき　**[弓取り式]**　本来は千秋楽の結び(最後)の一番に勝った力士に〈大関にかなう〉として弓を授け，これを代理の幕下力士が勝ち舞の弓を振る儀式であったが，1952年(昭和27)からは相撲(すもう)興業中毎日行なうようになった。俗説では織田信長(のぶなが)の時代に始まるとされているが，史実にはなく，記録としては，江戸寛政期に谷風梶之助(かじのすけ)が最初に行なった。平安時代の相撲節会(すまいのせちえ)のとき，取組が終わったあと，舞人が出場して〈立合舞〉を演じたことが，のちの弓取り式の故実といわれる。　〔池田雅雄〕

ゆみのこばん　**[弓鋸盤]**　工具鋼または高速度鋼でつくったハクソーとよぶ鋸刃を弓状のわくに取りつけ，クランク装置によって往復運動をさせて金属材料を切断するようにした工作機械。送りは，簡単なものは重力によって自然に行なわれるようにしているが，ばね・油圧などによって強制的に一定の送りをかけるようにしたものも多い。

ゆむし　**[螠]**　環形動物・ユムシ科。体は淡赤色ないし乳白色の紡錘形で，柔らかい。吻(ふん)は短く，ボネリムシなど他の多くのユムシ類と異なり，本体と吻の区別がはっきりしない。体長は10～20cmで，体表に

は小さな乳頭状突起がある。吻の基部に一対の鉤毛(こうもう)があり，体の後端にある肛門(こうもん)の周囲には棘毛(きょくもう)が１列環状に並ぶ。潮間帯下部付近の泥底(でいてい)に，U字形の穴を掘って中に潜む。穴の入り口付近には弾丸状の糞塊(ふんかい)があり，容易にそれと知れる。北海道から九州までの沿岸・内湾に普通に産するが，瀬戸内海・有明海には特に多い。古くから，タイ・クロダイ・カレイなどのつり餌(え)として利用されてきた。〔向井　宏〕

ゆむらおんせん【湯村温泉】 山梨県甲府市にある温泉。泉温32～51℃，泉質は食塩泉で，胃腸病・神経痛・皮膚病などにきくといわれる。昇仙峡(しょうせんきょう)の入り口に位置する田園風景の展開する温泉郷で，古くは近在の人々の療養温泉であったが，昭和初期に高温の泉源が開発され，行楽向きの温泉場となった。交通は甲府駅からバスの便がある。

ゆめ【夢】 睡眠中の感覚(特に視覚像)や体験を覚醒(かくせい)後に想起したもの。無意味で脈絡を欠いた断片的なものから，現実感の強いもの，一連の複雑な内容のものまであり，不安・驚愕(きょうがく)・充足感その他の感情を伴うことが多い。

〔夢の生理〕 最近の脳生理学の実験によれば，夢を見るのは，脳波におけるパラ睡眠時(睡眠の経過中，よく眠っているにもかかわらず，覚醒期にみられる低振幅速波を示す時期。逆説睡眠ともよばれ，１晩に３～５回規則正しく出現する)に最も多く，約80％，そうでないとき，つまり徐波を主体とする普通の睡眠期に約20％ぐらいの割合で見られている。徐波睡眠時では，断片的・感覚的なのに対し，パラ睡眠時ではより統一性があり，思考的な傾向が強い。パラ睡眠時に夢の表象がひんぱんにみられるのは，急速な眼球運動や四肢(しし)の運動，自律神経機能の特異な変動があり，大脳皮質や辺縁系が覚醒中に近い活動水準にあるからと考えられている。しかし，夢そのものの発生に関する脳の生理機構は，まだ，ほとんど不明である。

〔夢と類似する心的現象〕 次のようなものがある。**〈入眠時幻覚〉** 半ば眠り，半ば目ざめた入眠時には，夢に類似した一過性の断片的な表象や感覚が生ずる。**〈白昼夢〉** 覚醒時に現実を忘れて空想にふけっている状態。子どもや空想性の高い成人にみられる。**〈催眠性トランス〉** 催眠法によって被暗示性の高進した状態。暗示によって夢に類似した空想・回想・感覚などが体験される。**〈幻覚・妄想(もうそう)〉** しばしば夢と比較されるが，睡眠とは区別される。意識障害または精神病者の覚醒状態で生ずる。

〔夢解釈〕 夢判断や夢占いは，夢がなんらかの予言やお告げを伝えるという見地から夢を解釈しようとする試みで各社会・文化・民族特有の解釈法があり，それぞれの社会・文化・民族の神話や象徴と深く結びついている。また，未開人には夢と現実を同じものと考えたり，夢を通して霊界との交流が可能と信じる段階があり，小児にも同様の心理がみられることがある。20世紀の初頭に至って，このような神秘主義や迷信的な夢占いに代わって，心理学的な夢解釈の方法が，フロイト*の精神分析によってもたらされた。そして現代の夢解釈はそのほとんどが，このフロイトの方法を基礎としている。

〔フロイトの夢解釈〕 夢は本来，睡眠中の精神活動であり，睡眠によって覚醒時の自我活動が低下し，意識過程から無意識過程への退行が起こる。そこで無意識過程における精神活動がそのままの形で意識に上ろうとする。しかし，この無意識過程がそのままの形で意識化されることは，超自我*の禁止を誘発し，不安を生じ，睡眠を妨害するに至るので，自我は夢を変形し，意識可能な形に加工する。これが夢の仕事である。この場合，加工される以前の夢の内容を〈潜在思考〉とよぶ。日常，一見無意味なものにみえるのは，この顕在夢であって実は無意識界にあるこの〈潜在思考〉が夢の機制によって，変形されたものである。

〈潜在思考〉 は，超自我に発する夢の検閲作用によって批判され，無意識的な一連の願望・欲求・思考はそのままの形で意識されないように圧力を加えられる。このような加工の素材としては覚醒時の日常体験が用いられる。さらに夢からさめたあと，本人は夢の中の不可解な部分を除去したり忘れたりし，矛盾した部分を合理化したり，夢の一定部分や特徴に一定の意義づけを試み説明しようとしたりするなどの第２次加工を加える。

本来夢は願望充足を意味し，精神活動の退行的形態なのであるが，以上述べたような加工によって直接的にはその意味が，あいまいになっている。フロイトは，夢の分析法として，その個々の断片的要素それぞれについて自由連想を試みて，その全体を再構成する方法と定形夢の解明から，その象徴的意味を把握(はあく)する象徴解釈の一般的方法を組織づけている。

純定型夢としては〈裸で困惑する夢〉〈近親者の死の夢〉〈試験で苦しむ夢〉〈汽車の発車にまにあわない夢〉を，準定型夢としては象徴を含む夢，たとえばこわいものの出現，追跡・落下・ヘビ・火事・飛行，水泳中おぼれる，抜歯などの主題を含む夢や，さらに〈狭い路地を通っていく夢〉〈へやがたくさん並んでいる前を歩いて行く夢〉〈泥棒(どろぼう)侵入の夢〉〈野獣(雄ウシ・ウマ)に追いかけられる夢〉〈小刀・短刀・槍(やり)などでおどされる夢〉などがあげられる。

夢の解釈上，これらの定型夢は，いずれも〈不安夢〉であり，多くの場合本人は恐怖・不安の感情をもって覚醒するのが常である。

なお，フロイト以後ユング，ネオ-フロイト派(フロム*ら)，現存在分析派(ボスら)などが，それぞれの立場からの夢解釈を発展させている。〔小此木啓吾〕

夢を神のお告げまたはなにか事件の起こる前兆とする態度は，古く一種の神託をこう手段であったが，現在でも〈夢のつげ〉などという語が広く用いられている。夢の基本的な型としては先祖が夢枕(ゆめまくら)に立って，祭り方が足らないと告げたという話が多い。これは家の運命に関する託宣が告げられたり，神仏が丁重に祭られんことを要求したりするものであり，また土中に埋もれた仏像などがその所在を知らせるために枕がみに立ったという例もある。その他枕がみに立った神仏の教えによって種々の奇瑞(きずい)が現われたという例もある。しかしこれら受動的なもののほかに，古くはある結果の原因を知るために，忌みごもって特に神託をこうべく夢をみようとする手段があった。また夢によって自己の将来の運命や寿命を占なおうとする試みも古来多く行なわれてきたが，これにもその場その場で夢判断をするものと，すでに判断が確定してことわざ化しているものとがある。また夢判断には逆(さか)夢と正(まさ)夢とがあり，逆夢は事実の正反対を予想し，正夢は実際のできごとと近い内容の夢をみることである。たとえば，切られた夢をみると金がはいる，水に流される夢をみると火事にあう，嫁入りの夢をみると死ぬなどといったのが逆夢であり，また一大事を前に，神仏に祈願し一念を込めて夢をみると，神霊の意志が夢の中に現われるなどは正夢である。

〔合田　濤〕

ゆめどの【夢殿】 奈良県生駒(いこま)郡斑鳩(いかるが)町にある法隆寺東院伽藍(がらん)の中心となる建物。国宝。聖徳(しょうとく)太子の斑鳩宮*跡に，739年(天平11)行信が建立(こんりゅう)した上宮王院の本堂で，石造二重基壇の上に建てた八角円堂。屋根の中央露盤の上に宝珠を置き，堂内には本尊秘仏の救世観音像(木彫・金色)のほか，行信・道詮(どうせん)の肖像彫刻を安置する。夢殿を中心とする東院伽藍の下には発掘調査の結果，数次にわたる建物群の存在が知られている。

➔法隆寺　〔黛　弘道〕

ゆめのきゅうさく【夢野久作】(1889～1936) 小説家。本名杉山(すぎやま)泰道。福岡県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学文学部中退。陸軍少尉・農園経営・僧侶(そうりょ)・謡曲教授・新聞記者などを経て作家となる。《あやかしの鼓》《押絵の奇蹟(きせき)》《氷の涯(はて)》《ドグラマグラ》など，奔放な空想力と説話的文体を駆使した特異な小説世界を展開した。

ゆめのしろ【夢の代】 山片蟠桃*(ばんとう)の著。12巻。1820年(文政３)脱稿。蟠桃が師中井竹山・履軒より聞いたところを子孫の教戒にと記したもので，内容は天文・地理・

神代・歴史・制度・経済・経論・雑書・異端・無鬼・雑論の11部に分かれ，社会経済的考察をなしている。ことに天文は地動説の主張であり，無鬼は哲学的無神論として注目すべきものであり，歴史はその理想に《保建大記》《靖献(せいけん)遺言》をあげている。全巻にみなぎる合理精神は幕府の禁圧を懸念してか，書名に苦心がうかがえる。

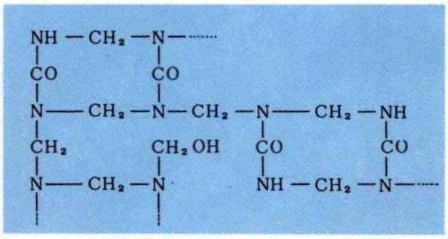
ゆや 【熊野・湯谷】 能の曲名。作者不明。三番目物。遠江(とおとうみ)(静岡県)池田の長(一種の遊女)熊野は，平宗盛(むねもり)に引き止められて都に滞在しているが，老いた母が病気なので帰国したいと思っている。宗盛がそれを許さないでいると，池田から朝顔という女が母の手紙を持って来る。熊野はそれを宗盛に読み聞かせる(または宗盛とともに読む)が，宗盛はさらに許さず，ともに花見に出かける。花見の宴で熊野が中之舞を舞うとき，雨が降ってきて花が散るので，熊野はそれを機会に歌をよみ，重ねて帰国の許しを請う。宗盛も心を動かされ，熊野はその場で許されて喜びながら帰国の途につく。シテは熊野，ワキは宗盛。朝顔はシテヅレが，宗盛の従者をワキヅレがつとめる。〔長尾一雄〕

ゆやおんせん 【湯谷温泉】 愛知県南設楽(みなみしたら)郡鳳来(ほうらい)町にある温泉。泉温19～24℃，加熱。泉質は重曹(じゅうそう)泉で，外傷・神経衰弱・皮膚病・リウマチなどにきくといわれる。三輪川(板敷川)渓流(けいりゅう)沿いにあり，付近には鳳来寺・鳳来峡・馬の背岩・不動滝などの名所地がある。交通は飯田(いいだ)線湯谷駅下車が便利。

ゆやまとうげ 【湯山峠】 熊本・宮崎の南部県境にある峠。標高948m。球磨(くま)川と一ツ瀬川の分水界にあたる。九州山地を越える道路が通っていて，熊本県側に下ると湯山温泉を経て人吉(ひとよし)市に至り，宮崎県側に下ると椎葉(しいば)・米良(めら)を連ねる九州縦貫自動車道(未完成)に合する。

ゆら 【由良】 京都府宮津市の北東部地区。由良川*河口の西岸に位置する。江戸時代までは由良の門(と)と称し，福知山からの由良川下りの船でにぎわった港町で，山椒太夫(さんしょうだゆう)の豪壮な邸宅があったことでも知られる。明治以後は加佐郡由良村となり，砂州の発達によって河口が埋まり，内陸水運も衰えたため半農半漁の集落となり，1956年(昭和31)宮津市に編入された。宮津線・国道178号線が通じる。周辺の海岸風景は若狭(わかさ)湾国定公園の中でも特に美しいとされる。〔浅井得一〕

ゆら 【由良】 兵庫県淡路島，洲本(すもと)市の南部地区。諭鶴羽(ゆづるは)山地東端が紀淡海峡に陥没する地点に立地し，海峡を隔てて和歌山市の友ケ島と対する港町である。江戸時代には紀州から阿波(あわ)へ渡る表玄関口として成山(なるやま)に徳島藩の家老の城が築かれて栄えたが，1642年(寛永19)幕府が一国一城の制をとったため由良城は廃城となり，いわゆる〈由良引け〉によって洲本へ城下町が移転してからさびれた。明治以後は津名郡由良町となり，第2次世界大戦までは要塞(ようさい)地帯であったが，戦後は瀬戸内海国立公園の区域内に含まれ，南端の生石鼻(おいしのはな)から紀淡海峡を見おろす景観がすばらしい。由良港は天然の良港で，ハマチの養殖が行なわれる。1955年(昭和30)洲本市に編入された。〔浅井得一〕



ユリア樹脂

ゆらがわ 【由良川】 京都府北部を北流して宮津市の東方で若狭(わかさ)湾の支湾栗田(くんだ)湾に注ぐ。流程140km。丹波山地に発し，上流を大野川といい，西流して福知山盆地にはいる。福知山から河口の由良港までは，かつて舟運が開け，日本海と京阪(けいはん)地方を結ぶ重要なルートであった。またかつてはサケの遡行(そこう)がみられたが，いまはアユで知られている。

ユーラシア ［Eurasia］ ヨーロッパ大陸とアジア大陸を合わせた範囲をいう。ヨーロッパを別の大陸としたのは，自然地理的な意味ではなく，文化的・民族的な意味合いからであり，ヨーロッパはアジアの一大半島にすぎないという見方もある。面積は5,490万km^2で，世界の陸地の約40%，人口は約25億で，世界のおよそ4分の3にあたる。

ユーラトム ⇨ヨーロッパ原子力共同体

ゆらんかん 【輸卵管】 ⇨卵管

ゆり 【百合】 単子葉植物・ユリ科・ユリ属。96種からなり，アジアに最も多く59種が分布する。北アメリカは25種でこれに次ぎ，ヨーロッパには12種を産する。日本にも15種が自生する。ウィルソンはこの属を4節に分けた(1925)が，現在ではこれをテッポウユリ亜属(23種)・ヤマユリ亜属(2種)・スカシユリ亜属(9種)・カノコユリ亜属(62種)というように亜属として取り扱っている。これらのうち園芸上重要な種類は次のようである。①テッポウユリ亜属:タカサゴユリ(台湾の山地にはえる)・ササユリ*・テッポウユリ*・リーガルリリー(中国四川省の高地の原産)・オトメユリ(ヒメサユリともいい，宮城・山形・福島県の山地にはえる)。②ヤマユリ亜属：ヤマユリ*・サクユリ(ヤマユリの変種で，伊豆(いず)半島・伊豆七島などに自生し，ハチジョウユリともいう)。③スカシユリ亜属：ヒメユリ・スカシユリ(イワトユリ)・エゾスカシユリ(スカシユリの亜種)。④カノコユリ亜属：ノヒメユリ(九州・沖縄・台湾・中国のがけに自生する)・マツバユリ・タケシマユリ(朝鮮鬱陵(うつりょう)島の原産といわれる)・キカノコユリ(中国の原産)・オニユリ*・キバナオニユリ(長崎県平戸島に自生するといわれるコオニユリの変種で，キヒラトユリともいう)・クルマユリ*・カノコユリ*など。これらの自然交雑や人工交配による種間雑種が数多く作出されている。タツタユリは徳川時代から栽培されているが，オニユリ(またはコオニユリ)にスカシユリが交雑したものと考えられている。シンテッポウユリはタカサゴユリ×テッポウユリによって作出されたもので，切り花用として重要視されている。繁殖は分球，鱗片(りんぺん)ざしなどにより行なうが，実生による種類もある。➔次ページ(写真)〔小杉 清〕

ゆり 【揺り】 日本伝統音楽の旋律装飾の一。文字どおり揺らすようにすることであるが，その揺らし方の幅・回数・場所などはジャンルによってかなり厳密に規定され，名称も種々ある。催馬楽*(さいばら)・声明*(しょうみょう)では音階上の主要な2音につくのが普通である。能楽では謡・能管に，また近世邦楽では三味線(しゃみせん)・箏(そう)・尺八の音楽などで流派ごとにそれぞれ固有の装飾がつけられる。

ユーリー ［Harold Clayton Urey］ (1893～) アメリカの化学者。モンタナ・カリフォルニア大学で動物学・化学を学ぶ。1923年コペンハーゲン大学に留学し，ボーア*の指導を受ける。帰国後，コロンビア大学などを経て1945年シカゴ大学教授。1932年重水素を分離し，ラザフォード*が予言した水素の同位元素であることを発見。このほか気体のエントロピー，分子構造，吸水スペクトルなどの研究を行なった。1934年ノーベル化学賞を受賞。

ユリアじゅし 【ユリア樹脂】 尿素とホルマリンとの付加縮合反応で生成する熱硬化性樹脂。生成反応は基本的にはフェノール樹脂やメラミン樹脂と同様に付加反応と縮合反応からなりたつが，詳細については不明の点が多い，反応の条件が酸性かアルカリ性かによって反応の過程は異なるが，加熱硬化されたものはいずれも図のような構造をしている。1920年代から工業生産され，その後生産量は急増している。成型用には無色透明，無臭，比重約1.5の固体が用いられ，ビン類のキャップ，食器，ボタンその他雑貨品がつくられる。また繊維や紙の樹脂加工用や接着剤としての利用も多い。樹脂からホルマリンが分解して出てくるのを防ぐためブタノールなどを添加して重合を行なわせたもの(変性ユリア樹脂)もある。

ユリアヌス ［Flavius Claudius Julianus］ (332～363) 古代ローマ皇帝。在位361～363年。コンスタンチヌス大帝の甥(おい)。副帝としてゲルマン人のアラマン族を討ちガリアを征し，軍隊から推されて皇

ユ　リ

①テッポウユリ　②オトメユリ　③ヤマユリ　④チョウセンヒメユリ　⑤エゾスカシユリ　⑥タケシマユリ　⑦キカノコユリ　⑧オニユリ　⑨クルマユリ　⑩マルタゴンリリー　⑪リリウム-スーペルブム　⑫サーモン(オーレリアンハイブリッド)　⑬ロイヤルゴールド(リーガル系)　⑭オニヒカリ(オニユリ-スカシユリ系)　⑮ムーンライト(デスチニー)　⑯千種(スカシユリ系)

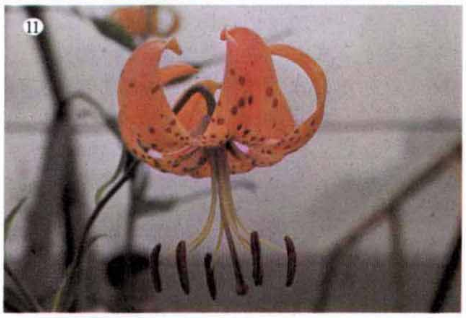

















帝となった。アテナイで新プラトン派哲学を学びギリシア文化に心酔し，キリスト教を離れ，キリスト教に多くの制限を加えたので〈背教者〉とよばれた。ササン朝ペルシア遠征中に戦死した。

ユリウス(２世) ［Julius］ (1443～1513) ローマ教皇。在位1503～1513年。教会国家の再建をめざし，ベネチアをおさえて北イタリアに領土を拡大，またイタリアからフランス勢力の追い出しに成功した。その時代はルネサンス期にあたっており，ミケランジェロ・ラファエロらを保護し，サン-ピエトロ寺院を再建した。

ユリウスび 【ユリウス日】 BC4713年1月1日から通算して数えた通日。グレゴリオ改暦の行なわれた1582年に，ヨゼフ-スカリゲルが考案したもの。それ以後，年代学や天文学の観測(たとえば変光星・連星)において大いに使われており，いろいろな暦の複雑さに煩わされることなく，ある事件の起こった正確な日時を指定でき，また事件と事件間の時間が簡単に計算できて便利である。天文暦や理科年表にユリウス日の算出表が載せられている。たとえば，1969年５月３日(憲法記念日)のユリウス日は2440345日である。 〔木下　宙〕

ユリウスれき 【ユリウス暦】 ユリウス-カエサルが，当時の不完全なローマ暦を改良するため，BC46年にアレキサンドリアの天文学者ソシゲネスの協力によって制定した太陽暦。１年の日数を365日として，４年ごとに１日の閏日(うるうび)を２月23日と24日の間に置き366日とした。制定当初，置閏(ちじゅん)を誤り混乱があったが，８年以後は正しく行なわれた。月名はローマ暦とそっくり同じで，年初がローマ暦の11月１日と定められたので，10番めの月を意味していたDecemberがユリウス暦では12月となってしまった。さらに，７月はBC44年にカエサルを記念してJulius，８月はBC８年に皇帝アウグストゥスの名をとってAugustusと改称された。月名とその順序，日数は現在のグレゴリオ暦とまったく同じである。ユリウス暦の１年の平均長さは365.25日で，１太陽年よりもほぼ0.0078日多く，約128年に１日の割合で季節と日付けがずれていくことになる。しかし，この暦法は簡単な割には正確なので1582年のグレゴリオ改暦まで広くヨーロッパで使用された。

１日の初めは朝で，１日を昼12時，夜12時の24時に分け，日出のときを昼１時，正午を昼７時，日没を夜１時とした。したがって，季節によって１時間の長さは伸縮した。ローマにおける週には８日週と７日週があった。８日週は，ローマでは８日ごとに市が立つことから発生し，７日週は，ユダヤ暦からきたもので一般民衆に広く普及し，紀元前３世紀の終わりごろにはキリスト教会でも用いるようになった。321年にコンスタンチヌス大帝が勅令によって，日曜日に農業以外の労働を禁じたため，７日週はユリウス暦と固く結合し，グレゴリオ暦にも引き継がれていった。 〔木下　宙〕



ユリカモメ



ユリノキ

ゆりかもめ 【百合鷗】 鳥類・カモメ科。全長40cm前後でウミネコよりもかなり小形のカモメの一種。くちばしと脚は赤色。冬羽は全体に灰白色に富み，夏羽では頭部が面をかぶったように黒かっ色になる。本州以南の各地の沿岸，特に漁港や河口に多数越冬する。《伊勢(いせ)物語》で在原業平(ありわらのなりひら)が〈名にし負はばいざ言問はむ都鳥わが思ふ人はありやなしやと〉とよんだ鳥は，和名のミヤコドリではなく本種である。

ゆりきみまさ 【由利公正】 (1829～1909) 明治時代の政治家。福井藩出身。旧姓三岡。横井小楠(しょうなん)に学び，藩主松平慶永(よしなが)に重用されて福井藩の軍政改革に努め，橋本左内らと尊王攘夷(じょうい)運動に活躍し，また養蚕などの殖産事業にも貢献した。明治新政府では五箇条の御誓文の原案起草に参画。その間1868年(明治１)には金融政策に干与した。1871年東京府知事，1872年岩倉遣外使節に随行してヨーロッパ・アメリカ合衆国などを視察，1874年民選議院設立建白書に関係し，1875年には元老院議官，1890年さらに貴族院議員となった。 〔安達利夫〕

ユリシーズ ジョイスの長編小説(1922)。ホメロスの《オデュッセイア》の物語展開の形を借り，現代都市ダブリンを舞台に精神的放浪を続ける人々を描くもの。精神的な父親像を求める青年ディーダラス，好色な中年男ブルームなど多彩な人物が登場し，その意識・精神の深層が〈意識の流れの文学〉の手法で描かれる。全体は18の挿話(そうわ)よりなり，それぞれ異なった文体・手法が用いられ，句読点のまったくない部分もある。1918～1920年アメリカの雑誌に発表，1922年にフランスで出版されたが，アメリカでは1933年まで猥褻(わいせつ)性の疑いで発禁処分となった。作品の主題・手法ともに，19世紀的リアリズムを越えるものとして，20世紀文学の最高傑作の一つに数えられる。 〔奥山康治〕

ゆりのき 【百合樹】 双子葉植物・モクレン科。北アメリカ東部原産の落葉高木で，高さ20ｍ以上に達する。別名をハンテンボクというが，これは葉が長さ・幅ともに7～15cmで，先端が少しへこみ，ちょうどはんてんを物干しざおに掛けた形に似ることに由来する。葉は長さ５～10cmの柄で互生し，秋に黄葉する。５～６月，枝先に直径６～８cmの花を１個つける。花の形がチューリップの花のように見えるので，英名をチューリップツリーという。

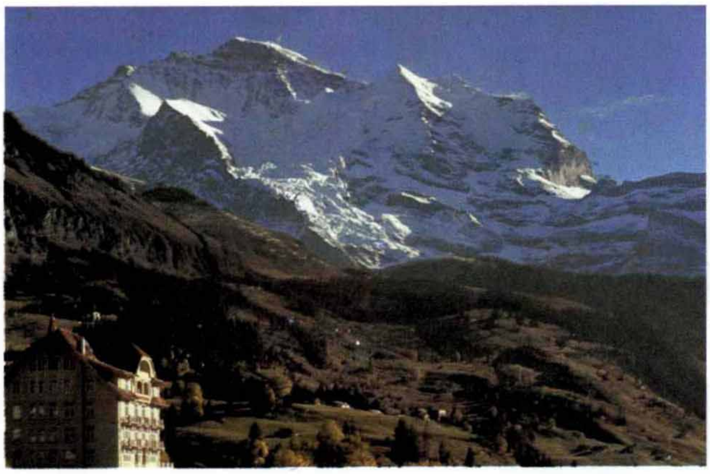
ゆりょうさくもつ 【油料作物】 工芸作物分類中の一。油脂を生産するために用いる植物で，主として子実より搾油する。乾性油を生産するものにアマ・タイマ・エゴマ・ヒマワリ・ケシ・キリ・ベニバナなど，半乾性油を生産するものにダイズ・ワタ・トウモロコシ(胚芽(はいが)に油分がある)・ゴマ・ナタネなど，不乾性油を生産するものにラッカセイ・ヒマ・オリーブ・ツバキなど，脂を生産するものにココヤシ・アブラヤシなど，ろう[illegible]生産するものにハゼがある。 〔金木良三〕

ゆりわかでんせつ 【百合若伝説】 北九州をはじめ，ほぼ全国に分布する伝説。家臣の裏切りで，孤島に残された百合若は，妻の放った愛鷹(あいよう)緑丸のたよりに励まされ，やがて都に帰り，謀叛(むほん)の者らを征して栄えたという筋のもの。元来は北九州を舞台とする説話であるが，早くから幸若舞にとられ，類話は各地に伝承している。

ゆりわさび 【百合山葵】 双子葉植物・アブラナ科。山林内の湿ったところにはえる多年草。葉は，卵状腎臓(じんぞう)形ないし円状腎臓形で，長さ５～10cm，長い柄で根出する。４月，高さ10～20cmの花茎を伸ばし，先に白色４弁花を総状につける。葉のつきぐあいがユリの鱗茎(りんけい)に似ており，またかおりがワサビに似ているのでこの名がある。しかし，ほんとうのワサビのような太い地下茎はつくらない。 →ワサビ

ゆれも 【揺藻】 藍藻(らんそう)類・ユレモ科・ユレモ属の総称。淡水・海水・温泉中に広く分布し，ふつう泥(どろ)・石その他のものの表面をおおう。ときにプランクトンともなる。体は分枝しない糸状体で，円盤ないし円柱形の細胞からなる。糸状体の末端が左右に振れる運動を行なう。また糸状体が密に並ぶときは互いにすべり動くのが見られる。走光性を示し，明るいところへ集まり広がる。

ユーロ-ダラー ［euro-dollar］ アメ



ユングフラウ山　ベンゲン付近から見た白雪に輝くユングフラウ山。クライネシャイデックを経てユングフラウヨッホに至る登山電車が通る

リカ以外の銀行，主としてヨーロッパ諸国の銀行に預けられているドル資金。ロンドン金融市場を中心にして，ヨーロッパ諸国に預金の形で短期投資されており，ヨーロッパ各地の金利差を求めて浮動する。このため，国際通貨危機などに際しては国から国へと投機的に移動，関係国の国際収支に悪影響を及ぼす。

ユーロピウム　［europium］　周期律表第Ⅲ族，ランタニド元素の一。記号Eu，原子番号63，原子量151.96。1901年A.ドマルセイによって発見された。通常３価および２価の化合物をつくる。３価イオンは淡紅色，２価イオンは無色である。モナズ石・ガドリン石などに含まれる。塩化ユーロピウムを電解するか，アルカリ金属で還元すると得られる。

ユーロービジョン　［Eurovision］　西ヨーロッパ諸国の国際放送組織であるヨーロッパ放送連盟*(EBU)によって運営されているテレビ番組の国際中継組織。1954年発足。北ヨーロッパ・西ヨーロッパ諸国間で互いに受信し，アメリカ合衆国，または東ヨーロッパ諸国の国際放送機構(OIRT)が運営しているインタービジョン(1960年発足)などに対抗して放映されていたが，1961年からは相互中継も行なわれている。

ゆわくおんせん　**【湯涌温泉】**　石川県金沢市南東部にある温泉。泉温40～45℃，泉質は含石膏(せっこう)弱食塩泉で，皮膚病・外傷・やけどなどにきくといわれる。津野川上流の山間にあり，冬は暖かく，夏は涼しい。旅館の設備も豪華でプールやゴルフ場などもある。付近には康楽寺・玉泉湖がある。交通は北陸本線金沢駅からバスの便がある。

ユンカー　［Junker］　18～19世紀のプロイセンの貴族をいう。中世高地ドイツ語のユンク-ヘレ(貴族の若者の意)から出たもので，のち一般に用いられるようになった。グーツヘルシャフト*を経営した領主とはいちおう区別され，資本主義的性格をもつようになった彼らの後身たちをさすのが普通である。彼らは隷属的な農業労働者を使役して大農経営を行ない，社会的にも軍部や高級官僚の地位を独占し，自由主義的勢力とはつねに対立した。ビスマルク*はその典型である。ドイツ革命*後もなおかなりの勢力を維持したが，第２次世界大戦後の東ドイツの農業改革によってようやく消滅した。〔松　俊夫〕

ユンガーきょうだい　**【ユンガー兄弟】**　いずれもドイツの現代小説家。兄のエルンスト(1895～　)はむしろ思想家で，第１次世界大戦の勇士。《鋼鉄の嵐(あらし)の中で》(1920)において戦争を民族の試練とみなして肯定し，《総動員》《労働者》によって近代戦の火力と機械化を重視，しかし，《大理石の崖(がけ)の上で》を通じてナチスの台頭後にはその暴虐を批判，第２次世界大戦末期にはひそかに筆写流布された《平和論》を書いた。戦後の著作には構想雄大な未来小説《ヘリオ-ポリス》とニヒリズムの超克を論ずる《線を超(こ)えて》などがある。弟のフリードリヒ(1898～　)は叙情詩人として出発し，戦後には小説も書き，短編集《ダルマチアの夜》《くじゃく》など佳品が多い。思想的基盤は兄エルンストに共通し，戦時中に著わした文化評論的随筆《技術の完成》は機械文明を批判したので発禁処分を受けた。〔吉田　孚〕

ユング　［Joachim Jung］（1587～1657）ドイツの生物学者。リューベックに生まれイタリアのパドバで学ぶ。のちハンブルクでギムナジウムの校長として生活しながら植物学を研究。花を規準として分類を行ない，二名法に近い表現を採用した。

ユング　［Carl Gustav Jung］（1875～1961）スイスの精神医学者。チューリッヒ大学医学部の精神科教室でブロイラー教授のもとで研究。1907年フロイト*と出会ってその精神分析を学び，精神分析運動の指導者となったが，1911～1913年ごろしだいにフロイトから独立して独自の分析的心理学を発展させた。彼は無意識の創造性を重視し，むしろ人間の心は意識と無意識の相補作用による自動調節体系であると主張する。そして意識の中心点を自我，人間の心の中心を自己とよび，その心の外的な現われをペルソナ*(仮面)とよび，それは自己の適応的な人格の仮面であるという。さらに無意識は個人無意識と集合無意識に分かれ，人間の無意識には個人を越えた民族的・人類的なものがあり，個々人の精神活動はこの無意識から生命エネルギーを得て創造性を発揮するという。このような彼の理論は，さらに〈アニマ・アニマス〉の理論に発展するが，一方で彼は今日心理学で一般に用いられている〈内向・外向〉の概念をはじめて用いた学者として記憶され，現在もなおその影響は大きい。〔小此木啓吾〕

ユングフラウ(山)　［Jungfrau］　スイス南部，ベルナーアルプスの高峰。標高4,158m。山頂からは南東側にアルプス最大のアレッチ氷河が流れ，南にアレッチホーン山，東北にメンヒ山・アイガー山が接する。メンヒ山との鞍部(あんぶ)にユングフラウ鉄道の終点ユングフラウヨッホ駅(3,454m)があり，駅からユングフラウの山頂までは，雪と氷の上を徒歩で約４時間を要する。初登頂は1811年。なお，この鉄道は1896～1912年に建設されたアプト式で，全長9.4km，最大勾配(こうばい)25%，始発駅のクライネシャイデック(2,061m)から終点まで約50分かかり，途中に三つの駅がある。〔大石堪山〕

ゆんた　八重山群島の代表的な歌謡の形式。本来は農耕の際の無伴奏の作業歌だったといわれるが，現在は三線*(さんしん)を伴って，遊びのために歌われる。《安里屋(あさどや)ゆんた*》《崎山ゆんた》《まやゆんた》などがある。

よ

よあけまえ　【夜明け前】　島崎藤村*の長編小説。1929年(昭和４)から1935年にかけて《中央公論》に発表。中山道(なかせんどう)の要衝木曾馬籠(きそまごめ)の本陣・庄屋(しょうや)を兼ねる青山半蔵を主人公とし，明治維新の転換期を生きる知識人の苦悩多い生涯(しょうがい)を描いた作。半蔵には藤村の父正樹(まさき)の生涯が投影されており，彼が平田派の国学に時代の理想をみ，王政復古に狂喜したのもつかのま，文明開化の現実に裏切られ，狂人として座敷牢(ざしきろう)でその生を終えるという筋には，昭和初期の時流をふまえた近代日本文明の根源への追求と，作者自身の暗い血の宿命に対する遡源(さくげん)が示されている。そこに，この作の歴史小説としての生命と，藤村の自伝文学の最後の到達点としての位置がある。〔小泉浩一郎〕

よいどれぶね　【酔いどれ船】　ランボー*の韻文詩(1871)。全感覚の合理的錯乱によってみずからを〈ボワイヤン(見者)〉に仕立てあげようとする詩人の壮大華麗な幻想が，爆発的に噴出した作品。大河を下って大海原の怒濤(どとう)を疾駆する船に自分自身を見立てて，移動する視点からみた世界を100行の雄編に定着しようとした。象徴主義*の傑作とされる。

よいのみょうじょう　【宵の明星】　太陽の東側にあって，日没後の西空に輝いているときの金星をいう。明(あけ)の明星*に対することばである。

よう　【庸】　⇨租・庸・調

よう　【癰】　癤(せつ)が１か所に多数集まったもの。直径数cmにわたってかたくはれあがり，痛みが激しく発熱することもある。熟してくると，その面内に点々と膿点(のうてん)を生じ，押すと篩状(ふるいじょう)に穿孔(せんこう)して，そのおのおのから膿が出てくる。うなじや背部にできやすい。顔面にできたもの，糖尿病に併発したものは注意を要する。安静にして医師の治療を受けることが必要。➜癤

ようイオン　【陽イオン】　⇨イオン

ようえき　【徭役】　律令(りつりょう)制における力役のこと。歳役・雑徭*(ぞうよう)・雇役の総称。大宝令・養老令では，歳役は10日分の労働の代納物として庸布２丈６尺約(７m88cm)を納めさせ，これを中央政府の財源とし，これをもって畿内(きない)の民を強制的に雇役した。雑徭は年間最大限60日までの労役で，地方政府に駆使された。これら徭役は兵役・仕丁*の労役とともに人民を圧迫し，律令制崩壊の一因となった。➜租・庸・調

ようえき　【用役】　通常サービスといわれているが，サービスが無料の奉仕を意味する場合が多いのに対し，経済学で用いられる用役あるいはサービスとは無形の財としての性質を有している。したがって，それは有形財と同様にその提供に対して対価を要求することになる。無形財としての用役の代表的なものは労働である。この労働の中には工場で働く労働や，レジャーその他のサービス産業で働く労働も含まれている。そのほか有形財がもたらすさまざまな利用能力も用役という場合がある。このように経済学でいう用役とは財貨の利用能力をさしている。〔藤枝省人〕

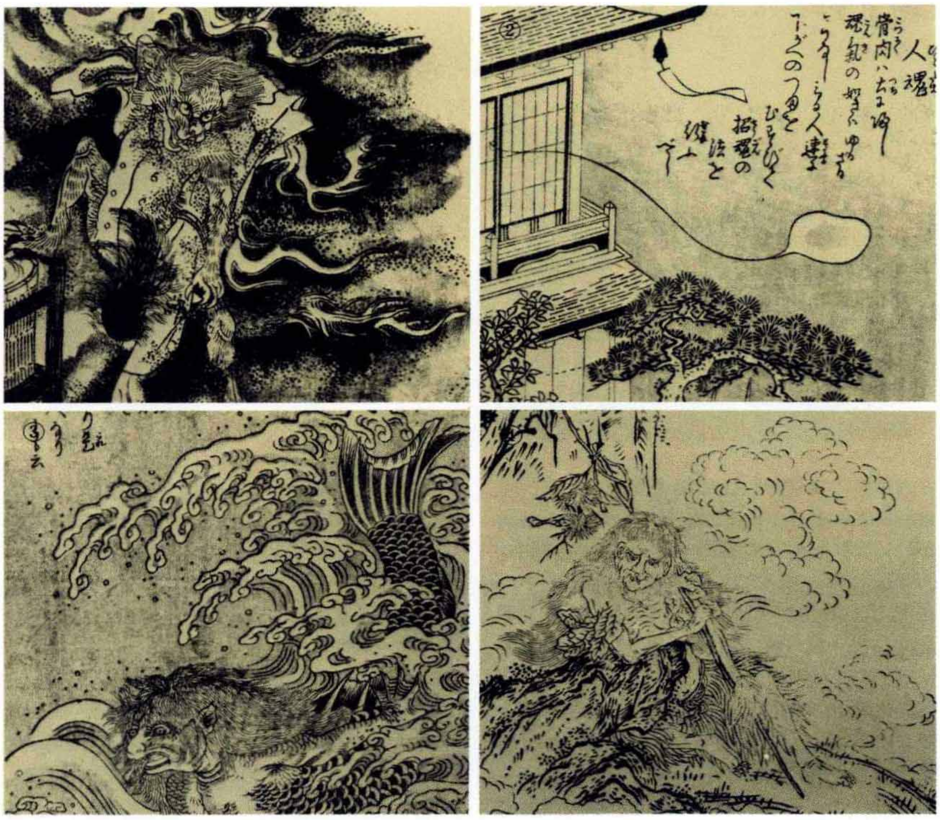
ようえき　【溶液】　均一な液相をつくっている混合物。組成物質の量がある範囲内で連続的に変わりうる点で化合物と異なる。液体に固体がとけている場合は，前者を溶媒，後者を溶質という。一般には主要成分を溶媒といい，その名まえをとって水溶液・アルコール溶液などとよぶ。溶質の濃度が溶解度に達しない溶液は不飽和溶液といわれる。溶液の蒸気圧は純溶媒より低下し，その度合いはモル分率に比例する。このため，溶液の沸点は上昇し，凝固点は降下する。溶媒1,000ｇに１モルの溶質がとけている溶液の沸点上昇を分子上昇，凝固点降下を分子降下といい，溶媒に固有の値で，これを利用して溶質の分子量を測定することができる。広義には固溶体*を溶液に含めることがある。〔竹下三吉〕

ようえきち・しょうえきち　【要役地・承役地】　地役権*の設定によって便益を受ける土地を要役地といい，それによって制限を受ける土地を承役地という。たとえば，甲地のために乙地を通行したり，あるいは甲地のために乙地から水を引いたりする場合，甲地を要役地，乙地を承役地という。

ようえきぶっけん　【用益物権】　他人の土地を一定の目的のために利用する物権*をいう。担保物権*とともに，制限物権として所有権*と区別して考えることのできる物権である。民法上，建物の築造や竹木の植栽のための地上権*，耕作や牧畜のための永小作権*，特定の土地の便益を図るための地役権*，一定地域の住民が山林原野に立ち入って燃料・家畜飼料・肥料用の草木を採取する入会(いりあい)権*の４種がある。その他特別法によって認められている鉱業権や漁業権などもこれと法的性質を同じくする。〔黒木三郎〕

ようおん　【拗音】　日本語でかな表記で小さく〈ャ〉〈ュ〉〈ョ〉を添えて表わされる音節。〈キャ〉〈チュ〉〈ミョ〉など。かな文字１字で表わされる直音(ただし，〈ン〉〈ッ〉を除く)に対する。また，〈シェパード〉〈チェス〉〈ジェット機〉などの〈シェ〉〈チェ〉〈ジェ〉も拗音の一種といえる。拗音はほぼ母音のｉを発するときの口の構え(特に前舌を上あごに向けて持ち上げる)をして子音を発音し，あとへ母音〈ａ〉〈ｕ〉〈ｏ〉(〈シェ〉〈チェ〉〈ジェ〉の場合は〈ｅ〉)をつけて発音することによってつくられる。〔上村幸雄〕

ようかい　【妖怪】　一般に〈ばけもの〉〈おばけ〉とよばれ，古い時代の神々の零落した姿であると解釈される。人間の知識が進んで，しだいに神の領分を侵すようになると，神はその神威を再び人間に認めさせようとして，具象化した姿をとって人間の眼前に出現するようになった。それが妖怪であると考えられる。妖怪はしばしば幽霊*と混同されがちであるが，次のような諸点で幽霊と区別される。①妖怪は出現する際になき声や怪音を発して人間に警告を与える。②妖怪は特定の人間に対して恨みをいだいているわけではないので，人間のほうで妖怪の出現する場所・時刻を避ければ，無関係でいられるなどである。日本の各地に伝えられる種々の妖怪は，ほぼ次のように分類される。①山の妖怪：天狗(てんぐ)・鬼・山童(やまわろ)・山姥(やまうば)・山彦(やまびこ)など。②路傍の妖怪：見越(みこし)入道・産女(うぶめ)・ひだる神など。③木の妖怪：木心坊(きしんぼ



妖　怪　①火車　②人魂　③人魚　④山姥

う)・こだまぬき・きじむんなど。④家・屋敷の妖怪：座敷童子(ざしきわらし)・納戸婆(なんどばば)・くらぼっこ・一つ目小僧など。⑤川の妖怪：河童*(かっぱ)・瀬坊主・瀬女など。⑥海の妖怪：海坊主・磯姫(いそひめ)・海女(うみおんな)など。⑦雪の妖怪：雪女*・一本足など。⑧火の妖怪：狐火(きつねび)・イタチの火柱など。⑨動物の妖怪：鎌鼬(かまいたち)・野槌(のづち)など。日本人と妖怪との交渉には，ほぼ3段階の変遷があったと考えられる。第1段階では，人間は妖怪の出現を敬して遠ざけた。第2段階では，人間が妖怪に挑戦(ちょうせん)していった。しかしまだ妖怪の霊力が強く，人間のほうが翻弄(ほんろう)された。第3段階では，神仏の援助や策略に富んだ人間の知恵によって妖怪を懲らしめ，その出現を許さぬようになった。各種の妖怪譚(たん)や昔話・伝説には，この3段階が錯綜(さくそう)して語られているが，その間に共通して認められることは，妖怪のほうで積極的に人間に対して悪事を働くことがないという点である。日本の庶民がいだいてきた妖怪像は，このように善魔的要素の濃いものであった。〔直江広治〕

ようかいち　【八日市(市)】　滋賀県南東部の市。人口37,000。中世以来延暦(えんりゃく)寺や佐々木氏の保護を受けて市場町となり，江戸時代は毎月2・8の日に，明治以後は2・5・8の日に市が開かれて繁栄した。1954年(昭和29)市制施行。湖東地方のほぼ中央，愛知(えち)川南西岸にあり，市域の大半は愛知川の旧流路によって堆積(たいせき)された洪積層(こうせきそう)の平地である。産業三大別人口比は18：37：45。商業活動が活発で，商圏は周辺の愛知・神崎・蒲生(がもう)の3郡に及び，帯地・メリヤスなどの繊維工業が盛んである。彦根(ひこね)から近江(おうみ)鉄道が通じ，同支線で東海道本線近江八幡(おうみはちまん)駅と結ばれる。東部には名神高速道路と国道307号線が走り，八日市インターチェンジ付近には新興工業地帯が開けている。西部にある太郎坊宮は厄除(やくよけ)開運の神として参詣(さんけい)客が多く，北部から東部にかけては湖東三山に数えられる天台宗の西明寺・金剛輪寺・百済(くだら)寺がある。特産は政所(まんどころ)茶。

ようかいちば　【八日市場(市)】　千葉県北東部の市。人口32,000。江戸時代には毎月8の日に市が開かれ，もめんや繭を集散する市場町で，周辺部は1670年(寛文10)に椿海(ちんかい)の干潟(ひがた)八万石が水田化された農業地帯であった。1954年(昭和29)市制施行。市域は九十九里浜平野の北部に位置し，南東の九十九里浜沿岸部から北の下総(しもうさ)台地まで広がる。産業三大別人口比は43：17：40。平野部では大利根(おおとね)用水を取り入れて米・麦・サツマイモ・野菜・苗木類などが栽培され，レンコンの特産がある。南部にはデンプン工業や養豚業が盛んで，最近は果菜類づくりも行なわれる。総武本線・国道126号線(銚子(ちょうし)街道)が通じ，八日市場駅前にはバスセンターがあって，九十九里浜や両総台地の奥地までバス路線が延びている。

ようかいど　【溶解度】　ある温度における飽和溶液*に含まれている溶質の濃度(飽和濃度)。普通は溶媒100g中に溶解する溶質のグラム数で表わし，Sで表示するが，溶液100g中の溶質のグラム数(S'で表示)で表わすこともある。後者は重量百分率表示である。溶解度は温度とともに変化するが，この関係を図示したものが溶解度曲線で，状態図の一つである。溶解度の温度による差を利用して溶質を再結晶させて精製する方法は広く行なわれている。また溶液中に数種の溶質が含まれる場合，温度変化やその他の溶媒・試薬などを添加し，相互の溶解度の差を利用して溶質を分離する方法として，分別結晶・分別沈殿・分別溶解がある。なお，固体・液体の溶解度は圧力によってあまり差を受けないが，気体の液体に対する溶解度は，その気体の分圧に比例するため，1気圧の気体と平衡状態にあるときの値を容積比で表わすのが普通である。〔竹下三吉〕

ようかいねつ　【溶解熱】　物質が溶媒にとけるときに発生または吸収する熱量。混合熱の一種で，発熱の場合を正，吸熱の場合を負で表わす。塩類の溶解に際しては吸熱の場合が多く，水と塩類による寒剤はこの冷却効果を利用する。また塩化カルシウムを水に溶解する場合のように，溶質が強く水和する場合は発熱する。

$$CaCl_2 \longrightarrow CaCl_2 \cdot 6H_2O$$

溶質1モルについての溶解熱を分子溶解熱という。

ようかいパルプ　【溶解パルプ】　化学的に特別に精製されたパルプ。未さらし化学パルプにさらに塩素化・アルカリ抽出・次亜塩素酸塩・二酸化塩素処理などを行なって製造する。主成分はαセルロース。おもに薬品に溶解して使用し，レーヨン・ステープルファイバー・セロハンなどの原料に用いられる。日本ではパルプ全生産量の約10％が溶解パルプである。パルプ化は主として亜硫酸法によって行なわれる。

ようかいろ　【溶解炉】　金属などを溶解するために用いられる各種の炉。加熱源としては電気・ガス・重油・コークスなどが用いられている。炉は一般に耐火れんがなどでつくられているが，場合によっては，るつぼを用いて溶解することもある。

ようかカリウム　【沃化カリウム】　⇨ヨードカリ

ようかカリウムでんぷんし　【沃化カリウム澱粉紙】　沃化カリウム中のヨウ素イオンが酸化されるとヨウ素になり，これとデンプンとが反応すると青色に発色することを利用してつくられた試験紙。ヨウ化カリウムとデンプンをとかした溶液に濾紙(ろし)を浸し，これを光をさえぎって常温で乾燥する。微量の酸化剤で発色するので，酸化還元滴定における試験紙として用いられることがある。

ようかぎん【沃化銀】 AgI 黄色・無臭，等軸晶系の結晶。比重5.67，融点552℃，沸点1,506℃。α，β，γの3態があり，常温ではγ型で安定，137℃，145.8℃で転移し，β型・α型となる。水には不溶性であるが，シアン化カリウム・チオ硫酸ナトリウムなどにはとける。感光性があり，光により暗色に変ずる。銀とヨウ素の直接作用によるか，銀塩の溶液にヨウ化アルカリを加えてつくる。医薬および写真用に用いられるほか，人工降雨の凝結核として使われる。乾板やフィルムの感光乳剤は通常微量のヨウ化銀を含む。〔鈴木 篁〕

ようがく【洋学】 江戸時代から明治時代初期に研究・採用されたヨーロッパ学術をいう。ヨーロッパ近代科学の移入は《解体新書*》の翻訳刊行以来，明和・安永・天明期(1764～1788)を通じて興隆し，医学のみならず自然科学諸部門に及び，蘭学(らんがく)とよばれた。寛政期(1789～1800)ごろよりの対外問題の緊迫に伴い政治的・社会的批判を行なう近代合理的精神を育て，蛮社の獄*などの幕府の弾圧にもかかわらず，幕府および諸藩は軍事・殖産興業の見地からその振興を図った。安政の開国後，イギリス・フランス・ドイツなどの諸学が盛んに研究採用されるに及び，これらを総称して洋学と称するようになった。そして学問分野が思想・経済・政治などの人文科学に及び，幕藩体制を否定し，明治維新を遂行する原動力となった。〔中西正幸〕

ようがし【洋菓子】 ⇨菓子

ようかすいそ【沃化水素】 HI ヨウ化物に濃リン酸を加えて静かに加熱すると発生する無色の刺激臭のある発煙性の気体。融点－50.8℃，沸点－35.4℃。水によくとけてイオン化するが，炭化水素にとける場合はイオン化しない。また酸素を含む溶媒にとけるとオキソニウムイオンを生ずる。酸素とは，加熱または光線の作用によって反応し，水とヨウ素になる。フッ素あるいは塩素と反応すると，ヨウ素のフッ化物あるいは塩化水素とヨウ素を生ずる。酸化されやすく強い還元剤である。熱により解離し，300℃で19％，1,000℃で33％がヨウ素と水素になる。水溶液はヨウ化水素酸とよばれ強い一塩基酸である。多くの金属・酸化物・水酸化物と反応してヨウ化物を生ずる。化学分析の試薬として用いられる。〔竹下三吉〕

ようかぶつ【沃化物】 ヨウ素とほかの元素との化合物。ヨウ化水素酸の塩とみられるものもある。ヨウ素は金属元素および非金属元素の一部とヨウ化物をつくる。金属の場合，金属またはその水酸化物とヨウ素との反応で生成するが，ヨウ化水素酸に金属またはその酸化物をとかしても得られる。非金属のヨウ化物は元素間の直接の反応によるか，他のヨウ化物から誘導して得られる。金属のヨウ化物は塩化物・臭化物に比べて加水分解しにくい。濃硫酸または濃硝酸と熱するとそれぞれ二酸化イオウ・二酸化窒素を発生しヨウ素を遊離する。ヨウ化物の水溶液は，硝酸銀によりヨウ化銀の黄色沈殿を生じ，またヨウ素をとかしてポリヨウ化物を生ずる。〔竹下三吉〕

ようかん【羊羹】 和菓子の棹物(さおもの)の一種。前身は中国から遣唐使が伝えた羹(あつもの)(鳥獣魚介の肉を使う料理)である。わが国へ伝来してからおもに植物性材料が使われ，小麦粉・あずき粉・くず粉・ヤマイモなどを混ぜてこね，蒸してヒツジの肝形に切ったのを羊羹，鼈甲(べっこう)形のを鼈羹などとよび，汁(しる)の浮き実に用いた。室町時代には茶とともに点心*として用いられ，汁を省いて蒸し物だけを供し，のちに砂糖を加えて蒸し羊羹がつくられた。これにさらに甘味を加えて保存性をもたせたのが練り羊羹(寒天・砂糖・あずきあんに水を加え，練りながら煮つめてつくる)で，1589年(天正17)に京都伏見の駿河屋(するがや)岡本善右衛門が創製したといわれ，1792年(寛政4)に江戸に伝わり，固練りに改良された。現在では製造工程はすべて機械化され，アルミ箔(はく)の容器に直接流し込んでつくるものが多い。〔塩川ふみ〕

ようがん【溶岩】 マグマ*がとけたままの状態で地表に流れ出たもの。また，それが冷却固化してできた岩石，あるいはその岩石で構成された岩体をさすこともある。溶岩が地表に現われたときの温度は，普通1,000～1,200℃であるが，そのときの粘性は溶岩の種類によりまちまちである。玄武岩のような塩基性岩の溶岩は一般に粘性が低く，水のようにさらさらと流れるが，流紋岩のような酸性岩の溶岩は粘っこくて，むくむくと盛り上がるだけでほとんど流れないものもある。玄武岩質の溶岩では，周囲が冷却して固まったあとにも，中心部ではまだとけた状態で流れており，それが最後に末端から流れ出してしまって空洞(くうどう)が残ることがある。これを溶岩トンネルとよぶ。また，先に固化した部分が破砕されていっしょに流れると，大小の岩塊が寄り集まった形の塊状溶岩になる。比較的細かいコークス状の塊を下に敷き，表面もそれにおおわれているような溶岩を，ハワイの土語でアアとよび，表面がなめらかで流れながら固まったままの形を呈する溶岩をパホイホイとよんでいる。マグマはつねに多少のガスをとかしており，それが冷却に伴って分離してくるので，気泡(きほう)の跡が残っていることが多く，表面に近いところではコークス状になることもある。しかし，厚い溶岩の中心部は一般に緻密(ちみつ)である。〔片山信夫〕

ようがんトンネル【溶岩トンネル】 ⇨溶岩

ようきひ【楊貴妃】 (719～756) 中国，唐玄宗の妃。本名楊玉環(ようぎょくかん)，太真妃ともよばれる。蜀州(しょくしゅう)司戸参軍の楊玄琰(ようげんえん)の四女に生まれ，父なきあと叔父(おじ)楊玄璬(ようげんきょう)の養女となり，735年玄宗の第18皇子寿王瑁(じゅおうまい)の妃に選ばれた。玄宗の妃武氏が死んだのち，玄宗の命により女冠太真となり，744年正式に後宮に迎えられ貴妃に立てられた。以後玄宗の愛をほしいままにし，一族は権勢を誇った。755年安史の乱が起こり，翌年蜀へのがれる途中，馬嵬駅(ばかいえき)(陝西(せんせい)省)で高力士に縊殺(いさつ)され，一族もすべて殺された。〔藤善真澄〕

ようきゅうしけん【溶球試験】 金属の定性分析における予備実験の一。白金線の環，または細くしたガラス棒の先端に，ホウ砂またはリン塩をつけてしだいに強く熱すると，脱水してガラス状の溶球ができる。これに固体試料の少量をつけて再び強熱すると各金属に特有な色に着色する。それぞれホウ砂球反応・リン塩球反応といい，あわせて溶球反応という。溶球試験はこの性質を利用したもので，加熱の際，酸化炎によるか還元炎によるかにより，また熱いときと冷たいとき，ほかの金属の存否により，多くの場合色が異なる。下にいくつかの例を表示する。〔三輪誠・青木勝〕

溶球試験の例

試験法＼金属	ホウ砂球				リン塩球			
	酸化炎		還元炎		酸化炎		還元炎	
	熱時	冷時	熱時	冷時	熱時	冷時	熱時	冷時
マンガン	紫	紫	無	無	紫	紫	無	無
鉄	黄	黄	緑	緑	黄	淡かつ	黄	かつ
コバルト	青	青	青	青	青	青	青	青
ニッケル	紫	かつ	灰	灰	灰緑	かつ	灰	灰
クロム	橙赤	緑	緑	緑	赤→緑		緑	緑

ようぎょう【窯業】 陶磁器・耐火物・ガラス・ほうろう・セメント・研削材・炭素製品などの製造工業の総称。通商産業省の工業統計表では，窯業・土石製品として上記のほかに岩綿・石綿・ケイソウ土・石工品を加えている。アメリカ合衆国でもほぼこの範囲を包括するが，ヨーロッパではいわゆる焼成・焼結による製造工業のみを意味し，ガラス・セメントは含めないのが普通である。製造に際しては窯炉*を用いて1,000℃前後あるいはそれ以上の高温処理を必要とする。主原料がケイ酸・ケイ酸塩・アルミナ・マグネシアなどであり，ケイ酸塩工業ということもある。1970年度(昭和45)の日本における窯業製品総販売額は約1兆1,600億円。

ようぎょうげんりょう【窯業原料】 窯業の原料として利用される鉱石。金属鉱石と異なり，一般の造岩鉱物であることが多



養　鶏　①ブロイラー飼育　②平飼い　③ケージ飼育

いが，特に純度が高い，有害な不純物が少ない，あるいは特定の物理的性質を備えるなど，それぞれの用途に応じた品質が要求される。おもな例は次のとおりである。白ケイ石(ガラス・陶磁器)，炉材ケイ石(耐火れんが)，軟ケイ石(セメント)，ケイ砂(ガラス・耐火れんが)，チョウ石(陶磁器・ガラス)，粘土(土木建築用窯業原料)，耐火粘土(耐火れんが)，カオリン(陶磁器)，泥岩(でいがん)・粘板岩(セメント・軽量骨材)，ろう石(耐火れんが)，陶石(陶磁器)，石灰石(セメント)，ドロマイト(耐火材料・ガラス・陶磁器)，マグネサイト(耐火材料・耐火れんが)，セッコウ(セメント)，クロム鉄鉱(耐火れんが)，ボーキサイト・ダイアスポア(高級耐火れんが・坩堝(るつぼ))，ランショウ石・ケイセン石・コウチョウ石(特殊耐火材料)など。〔片山信夫〕

ようきょく　【陽極】　⇨電極

ようきょく　【謡曲】　音曲としての謡をさす場合と，その謡の文句を意味する場合とがあるが，このごろは後者の意味に使われることが多い。この語は，18世紀半ばごろから使用されはじめ，明治になってから一般化されたもので，それまではもっぱら〈うたい〉といわれていた。➜能

ようきょくせん　【陽極線】　広義には陽イオンの流れをいうが，厳密には真空放電の際陽極から陰極に向かって走る正電気をおびた粒子線をいう。これは陽極電位降下によって陰極線などが加速されて陽極に衝突し，陽極物質が陽イオンとして飛び出したもの。1886年ゴルトシュタインが放電管の陰極にあけた細孔(カナル)から飛び出す放射線として発見，命名したカナル線は，放電管中の気体の陽イオン化された流れであるが，これも陽極線の一種である。

ようぎん　【洋銀】　洋白ともいう。銅45～63％，ニッケル5～35％，亜鉛15～35％からなる銅-ニッケル-亜鉛合金の総称。銀白色でかたく，耐食性にすぐれ，銀の代用として食器・装飾品のほか，ばね材料・抵抗材料として使用される。

ようぐんがん　【羊群岩】　氷食によって削り取られる丸みをおびた基盤岩の波状小起伏突起群。羊背岩ともいう。断面は上流側に緩傾斜，下流側に急傾斜を示し，洋群岩間の凹地(おうち)には小池も見られる。

ようけい　【養鶏】　肉・卵を得る目的でニワトリを飼育すること。昔から日本人に親しまれてきた畜産物は鶏卵と鶏肉のみといわれるが，それらも産業的に生産されたものではない。産業養鶏は明治時代以後，愛知県において東京・大阪の中間にある経済的有利性と，山間部の雑穀や漁村の魚粗(あら)を利用する好条件とを生かして成立した。その後，第2次世界大戦による飼料不足から，比較的飼料自給度の高い，農家における小羽数飼育に移ったが，1960年(昭和35)ごろから再び多羽数飼育が盛んとなった。全国的には100羽未満の飼養農家数が全飼養農家数の93％(1965)を占めるが，逆に500羽以上飼養農家によって所有される羽数は，全羽数の43％に達する。中には3,000～5,000羽あるいは10,000～10万羽の企業的養鶏経営もある。飼養農家あたりの羽数が多いのは大阪・神奈川・東京の順であり，一般に多羽数専業経営は四大工業地帯周辺で発達している。現在，鶏卵の生産額は全畜産物生産額の約半分を占め，農産物全体では米に次いで2位である。また近年の大きな変化として，1960年ごろから生産が開始されたブロイラー(肉用のみを目的として肥育する雛(ひな))飼育がある。その後これは専用品種の利用などに伴って急速に発展し，1飼養農家あたり年間出荷羽数は4,800羽，専業経営では44,000羽に達し，1966年にはついに鶏肉生産量は牛肉を上回った。養鶏経営の特徴は種鶏・孵卵(ふらん)・採卵・採肉，さらに最近では育雛(いくすう)にも別経営の例がみられるなど，経営が専門別に細分化されていることである。養鶏の要点には次のようなことが考えられる。まずニワトリに歯がなく腸が比較的短いため，栄養に十分注意を払う必要があることで，この点からニワトリの飼養標準の研究はきわめて進んでおり，今日では飼料を各経営農家で配合することはほとんどなく，もっぱら市販の配合飼料が用いられる。次に，資本効果の面から多羽数を小面積で飼育するため，鶏舎内の空気が悪化しやすく，また寒さに弱いこともあって，鶏舎内の環境を人為的に制御することが必要となる。このため，ウインドレス鶏舎も用いられはじめている。さらに，ほぼ同じ遺伝的素質をもつニワトリが同一条件で飼育されるため，同じような体質が形成されやすく，1羽が伝染病にかかると，全羽数に伝染する可能性が非常に大きいことで，多羽数飼育では伝染病予防が経営上重要な問題となっている。なお多羽数飼育に伴い，労力節約の重要性が考慮され，現在では，あらゆる作業を電動機械によって行ない，その結果，1人で10,000羽を飼育することも可能となっている。〔森田琢磨〕

ようけつ　【溶血】　赤血球が崩壊して血色素の遊出する現象。生理的には赤血球が老化して，脾臓(ひぞう)や肝臓などにある網内系の細胞に食べられ，崩壊処理されて溶血が起こるが，量的には少ない。ヒトの平均赤血球寿命は約120日である。溶血は，生体内では免疫抗体の作用や赤血球自体の内因性欠陥によって亢進(こうしん)するが，物理化学的にも非特異的に起きる。免疫抗体による溶血は，感作*された赤血球が補体の存在のもとで溶血素などと反応して起きるもので，免疫機序の上からは自己免疫と異種免疫とがある。赤血球自体の異常によるものには，赤血球膜の異常，血色素の異常，赤血球中の諸酵素の欠乏によるものなどがあり，これらのほとんどは先天性・遺伝性にみられるものである。物理化学的な溶血には，振盪(しんとう)・加熱・低温・高張(または低張)浸透圧などの物理的影響，酸・アルカリ・サポニンなどの化学薬品によるものがあるが，またヘビ毒などの動物毒素，リチンなどの植物性毒素，連鎖状球菌のストレプトリシンなどの細菌性毒素によるものもある。生体内で溶血が生理的以上に起こると，平均赤血球寿命は短縮し，黄疸(おうだん)と貧血がみられる。〔三好和夫〕

ようけつぎょうかいがん　【溶結凝灰岩】　地表に堆積(たいせき)した火山砕屑(さいせつ)が，高温と自重のため一部変形し，ガラス質粒子が溶着して一体となってしまった火砕岩。組織・成分・色などの違った部分が互いに平行なレンズ状または帯状に並んだ構造を示す。堆積時の高温を比較的長く保ちやす

い大規模な火砕流堆積物の内部にでき，上下に溶結していない部分を伴っている。火口の近くでは，降下火砕堆積物が溶結することもある。まれには，既存の凝灰岩が後期の溶岩流に触れ，加熱されて溶結したものもある。〔堀福太郎〕

ようけつれんさきゅうきん【溶血連鎖球菌】⇨溶連菌

ようけん【楊堅】(541〜604) 中国，隋(ずい)の初代皇帝。在位581〜604年。文帝。魏晋(ぎしん)南北朝の360年に及ぶ政治的分裂に終止符を打って中国を統一した。楊氏は北朝の名族で，みずから北周の宰相として名声を博し,581年周の官僚に推されて帝位についた。589年南朝を併合，595年科挙*を創設して政治体制を整備したほか，大興城の造営，大運河の開削，北方民族の服属，仏教の保護に成果をあげた。子の煬帝*(ようだい)に毒殺されたとの説が定まっていたが，近年これを否定する者もいる。〔勝村哲也〕

ようげん【用言】単語を文法上の性質から分類したうちの一種。各品詞よりは上位の分類。体言*に対する語で，その性質は自立語で，活用があり，単独で述語になりうることである。事物の動作・作用・存在・性質・状態などを表わす。動詞・形容詞・形容動詞が用言である。他の語について，補助的な意味を添える用言を，補助用言とよぶ。補助用言には，補助動詞(〈〜である〉〈〜している〉〈〜してみる〉など)と補助形容詞(〈〜でない〉など)がある。〔市川　孝〕

ようこうろ【溶鉱炉】鉄・銅・鉛などを鉱石から精練して目的の金属あるいはその半製品をつくるための溶解用立て形炉。製鉄の場合高さが大きく高炉*ともいうが，これ以外では比較的小形のものが多く，目的によって炉容・構造をことにする。銅精練の溶鉱炉は横断面の長い矩形(くけい)で，1日300〜500t生産する。精練法は酸化銅鉱・石灰石およびコークスを装入して鉱石を還元し，鈹*(かわ)または粗銅をつくる還元吹き，硫化銅鉱を酸化して鈹とし銅を回収する酸化吹き(生鉱吹きともいう)，両者を併用した半生鉱吹きの3種類がある。鉛の精練法は環元吹きで，粗鉛をつくる。〔草川隆次〕

ようごがっこう【養護学校】盲学校・聾(ろう)学校とともに特殊教育諸学校の一つである。学校教育法によれば，精神薄弱者・肢体(したい)不自由者もしくは病弱者(身体虚弱者を含む)に対して，幼稚園・小学校・中学校または高等学校に準ずる教育を施し，あわせてその欠陥を補うために，必要な知識・技能を授けることを目的とするとある。現在，各障害ごとに設置され，その教育課程はおのおの別に公示されている。

ようごきょうゆ【養護教諭】学校教育法の規定により，小学校・中学校・高等学校・盲学校・聾(ろう)学校などに配置され，児童・生徒の健康の保持・増進など，学校保健に関する業務を行なう教育職員。学校への配置は義務づけられてはいるが，その実施の期日は決められていない。養成機関には1級・2級の免許を与える大学の課程などがある。

ようこくちゅう【楊国忠】(?〜756) 中国，唐玄宗朝の宰相。楊貴妃*(ようきひ)の再従兄(ふたいとこ)にあたる。本名楊釗(ようしょう)。無学文盲で蜀(しょく)に従軍後,楊貴妃の縁故によって監察御史を授けられ，宰相李林甫(りりんぽ)と結び，また財政手腕を認められ，しだいに頭角を現わした。のち李林甫と争い752年その死後に宰相となり，楊貴妃姉妹とともに権勢をほしいままにしたが，安禄山*(あんろくざん)と対立したため,755年安史の乱が起こると憎悪(ぞうお)を一身に浴び,翌年四川へのがれる途中，馬嵬駅(ばかいえき)(陝西(せんせい)省)で貴妃らとともに殺された。〔藤善真澄〕

ようさい【洋裁】和裁*に対するもので，洋服製作のための裁縫。今日では和裁を裁縫とよび，洋裁と区別することが多い。

〔歴史〕古代から熱帯地方では裁縫を必要としない袈裟(けさ)式衣を着用し，これから直線裁ちの貫頭衣が生まれて頭を通す穴をあける裁断技術を生じ，続いて縫う技術が生まれた。一方，寒冷地では皮革を体に合わせて縫合するようになり，これが体型に合わせて裁断する西洋服の技術の発展につながった。ヨーロッパでは，中世中ごろには洋服の裁断が行なわれ，人体に即した形の衣服をつくる技術が，しだいに現在のような洋服の考え方やカッティングへの発達を促した。現在のような洋裁は，17世紀後半バロック時代の末期に始まった。当時の衣服の裁断・構成の方法は，今日とほとんど同じものであった。やがて衣服の需要も増し，各種の衣服が分化し，洋服の仕立ても男子物(テーラード仕立て)と婦人物(ドレスメーカー)と異なるようになった。テーラード仕立ては，しっかりした布地を用いたかたい仕立てで衣服の必要部分をつくり上げ，最後に組み立てて縫い合わせる方法で，14世紀以後の方式であり，テーラードの名称はそれよりかなりあとの時代に生まれた。18世紀末に，スーツ*が婦人物として着用されはじめた。ドレスメーカー仕立ては，婦人用の柔らかい布地を対象に，柔らかい仕立てを目的としてできた。19世紀中期には裁縫ミシンもつくられ，今日の衣服構成技術の基礎が築かれて，その技術は著しく進歩した。19〜20世紀には洋服の需要もさらに増大し，既成服工業の初期を迎えて大量生産が始まり，縫製技術は能率的な分業生産方式となった。元来商品としての衣服は，中世以来注文服とともに流通したが，大量に安価に売られたのは19世紀になってからである。最初は軍服・労働服の需要が多かった。個々人の服の縫製はデザイン・採寸・作図・裁断・仮縫い・本縫いの順序でつくられるが，量産体系における生産工程は，企画・デザイン・サンプル製作・マスターパターン・グレーディング・図入れ・裁断・縫製・仕上げ・検品などに分けられ，それぞれの工程に専門の職人があたり，縫製工程の中でも，いくつかに細分化されている。このような過程では，技術者は一貫した技術の習得者でなくても，量産体系内での一部分の熟練者であれば足りる。

20世紀になって，婦人の社会的進出・活躍に伴って，その服装も従来の装飾的なドレス類に代わって男子物のテーラード仕立てが導入され，ドレステーラード(今日のスーツ)が婦人服として登場したことは，婦人服界にとって，画期的なことであった。ドレステーラードも当初はほとんど男性物で，近年になって範囲が広くなり，かなり柔らかい感じのものまでも扱い，他方男物もソフトテーラードになり，婦人物との差が少なくなった。

〔日本の洋裁〕わが国の洋裁の歴史は，明治初期に洋服が輸入されて以後である。江戸時代からのたび屋は，以前から和裁の直線裁ちとは別に曲線裁ち(立体的な裁縫)を行なっており，洋裁技術の移入と同時にそれらを受け入れて洋裁仕立て業を始め，これがわが国の洋裁のはじめになったと思われる。その後，警察官などの制服が洋服化され，男子服(テーラード仕立て)が盛んになった。婦人服の洋服化は鹿鳴館(ろくめいかん)時代(1883〜1889)からで，ドレスメーキングの仕立て法も輸入され，今日までの基礎が築かれた。1880年代には《男女洋服裁縫仕立方》などが刊行され，明治末期から大正時代は洋服の台頭期にあたり，和服の欠点が改良されたり，裁縫女学校で洋裁教育が始められたりした。今日のように洋裁が盛んになったのは，1923年(大正12)関東大震災後，洋服が婦人に一般化してからで，洋裁塾(じゅく)も全国的につくられた。第2次世界大戦後は世界でもまれなほど多くの洋裁学校が設立された。国内の繊維産業も躍進し，戦後のアメリカンスタイルからフランスのC.ディオール*の出現により，日本の洋裁界もフランスの伝統的な高い洋服技術に触れ，技術革新に傾倒し，一段と飛躍した。現在は外国デザイナーとの提携や型紙*(パターン)買いつけなどをはじめとして，各種の技術導入も行なっている。また近年はオートクチュール*はもちろん，量産の下着に至るまで，立体裁断が取り入れられ，その技術もヨーロッパやアメリカ水準にまで達している。

洋裁技術の習得は，今日ではほとんど洋裁学校または家政科系の大学で行なわれる。そこでは婦人服・子ども服および紳士服などの裁断・裁縫技術を教えることが主体であるが，そのほか教科課程として関連学科すなわち洋裁上の常識，人体の研究，服飾美学，材料の知識などの分野も教授され，学生の将来の進路と社会の要求に応じた洋

裁教育が行なわれている。

【今後の課題】洋服は，和服と違って立体的なものであり，個人別にデザインされ，採寸され，体型別に補正を必要とする。さらにそれらの条件により，布の使用量が異なるなど，和裁との違いが多い。したがって人体についての完全な把握(はあく)のために，骨格・筋肉や身体各部の運動の方向や量などの解剖学的知識，服種による動態調査など，人間工学的な研究も必要である。今後は，大量生産によって比較的安価に求められる既製服がますます量産され，発展するであろう。これらのもとである型紙は，より合理的・科学的に製作され，能率的な縫製技術なども社会的に組織的に研究されなければならない。これらの量産体系に対して，オートクチュール系統および個人対象の洋裁も貴重な存在であることはいなめない。婦人服の独特な魅力は既製を主とする世界ではかなり出しにくく，したがって個々の趣味性のよい衣服をつくり出す面での技術もたいせつに育てなければならない。〔小池千枝〕

ようざい 【溶剤】 溶質をとかすのに用いる物質。溶媒ともいう。溶質と溶剤とが決定しにくい場合は，普通は多量に存在するほうを溶剤とみなす。溶剤が2種以上の混合物の場合は混合溶剤という。水は多くの電解質を溶解する溶剤である。ベンゼン・リグロインなどは無極性溶剤で，多くの有機化合物を溶解する。アルコール・アセトンなどは有極性溶剤で，水と無極性溶剤の中間の性質をもち，誘電率が大きく，水とよく混合する。溶液をつくるには，目的によって適当な溶剤を選ぶことが重要であり，その作用に応じて抽出剤・吸収剤・洗浄剤などとよぶ場合もある。よく使用される溶剤には，石油軽蒸留分・アルコール・ベンゼン・エーテル・アセトン・フェノール・テレピン油・ハロゲン化炭化水素などがある。〔竹下三吉〕

ようさいるい 【葉菜類】 野菜のうち，主として葉を利用するものの総称。ハクサイ・キャベツ・ホウレンソウ・レタスなどがその代表的なもの。果菜類・根菜類以外の野菜を葉茎菜類とよぶこともある。なおハナヤサイなどを花菜類，ネギなどをネギ類，サラダ用の野菜を生菜類などと区別することもあるが，おもに学問上の分け方であり，一般には用いられない。

ようさん 【葉酸】 細胞の核タンパク質の代謝に重要な役割を果たすビタミン。肝臓・酵母エキスなどから発見・分離され，1946年に合成された。貧血・白血球減少や微生物の発見に効果がある。黄色ないし橙黄(とうおう)色の結晶で水にとけにくいが，アルカリ水溶液にはとける。遊離の型またはグルタミン酸と結合した型で，酵母・糸状菌・肝臓・卵・アスパラガス・ホウレンソウ・チシャなどに広く分布している。葉酸が不足すると，細胞分裂は中期で停止する。このため生体の組織細胞の発育および機能の正常化には必須(ひっす)なものであり，特に赤血球・白血球の正常な形成にも必要である。アスコルビン酸(ビタミンC)と密接な関係をもっていて，アスコルビン酸欠乏時のアミノ酸代謝異常を回復させる。また葉酸の生物学的活性体の形成にはアスコルビン酸が必要であるとされている。栄養失調性および妊娠性貧血・悪性貧血・放射線療法の際に起こった白血球減少症などの治療に使用する。1日必要量は0.5mgであるが，治療の目的には5～20mgが使われる。〔谷村顕雄〕



養　蚕 人工飼料によるカイコの飼育

ようさん 【養蚕】 カイコを飼育して繭を生産すること。有史以前から中国で野生のクワゴ*を飼い始められたとされる。わが国では《古事記》に養蚕や繭のことが書かれ，正史には，いまから1700年前，仲哀天皇の時代に功満王が中国から蚕種をもたらしたという記録がある。

養蚕には生糸用の繭をとることを目的とする糸繭養蚕と，蚕種用の繭をとることを目的とする種繭養蚕とがあるが，普通は前者をさす。日本は世界最大の産繭国で，第2次世界大戦後，生糸の需要減少とともに著しく後退したとはいえ，依然として世界生糸生産量の半分以上を産する。日本以外では中国・朝鮮・ソ連・インド・東南アジア諸国・イタリアなどで盛んである。わが国における養蚕は全国各地で行なわれているが，特に関東内陸部と東北の南半部において盛んである。養蚕の技術は，最近の50年間に学問的な研究や技術の改良などに伴い長足の進歩を遂げた。すなわち，生糸1俵(60kg)を生産するために，現在では50年前に比べると，桑園で約4分の1，蚕種では7分の1，繭では約2分の1で足りるようになった。このような飛躍的な発展を遂げた技術の進歩は，農学の分野においては他に例をみない。カイコは，以前は春季に1回だけしか飼育できなかったが，現在ではクワさえあればいつでも飼育でき，また最近人工飼料による飼育技術の研究が進んでおり，これによると将来カイコがいつでも容易に飼育できるようになると考えられる。

現在，卵から孵化(ふか)したばかりの毛蚕(けご)とよばれる幼虫を蚕座に移し，クワを与えて飼育を始める，いわゆる掃き立てには，クワの発育状態により春蚕(5月上旬)，夏蚕(6月下旬～7月上旬)，初秋蚕(7月下旬～8月上旬)，晩秋蚕(8月下旬～9月上旬)などがある。繭の収穫量は春蚕が最も多く，これだけで収益の大半をあげる農家も多いが，クワおよび労力のつごうがつけば，初秋・晩秋と年3回の飼育をする場合が多い。飼育量は，1箱の卵の数が20,000粒と規定されている〈蚕種の箱〉が単位になっている。蚕種1箱から収穫される繭の量は，春蚕で約33kg，夏蚕および秋蚕で約29kgぐらいである。

カイコの飼育方法や形式は数多いが，一般的なものとしては，稚蚕共同飼育と壮蚕条桑育との組み合わせが普及している。稚蚕共同飼育は，養蚕家が何戸か共同して集団的に稚蚕(1～2齢，ときには1～3齢のカイコ)の飼育を優秀な飼育技術者に任せる方法で，飼育に必要な諸経費が少なくてすむうえ，カイコの発育生理にとって重要な時期の飼育がすぐれた環境のもとで行なわれるので，形状や大きさのそろった良質の繭が得られるため，この方法の有利さが認識され広く普及するようになった。壮蚕(4～5齢のカイコ)の飼育は，クワの葉のついた枝のまま与える条桑育および蚕箔(さんぱく)でクワの葉のみを与える普通蚕箔育がよく普及している。

カイコの飼育にあたり，最も望ましいことは，全部のカイコがそろってクワを食いそろって脱皮することで，このように斉一(せいいつ)な発育をすると，カイコも健康で，繭の収量も多い。このためには，いくつかの飼育上の注意すべきことがある。まず，蚕種は適当な温度・湿度・明暗の場所に保護し，予定の期日に孵化がいっせいに行なわれるように注意する。これを催青といい，種々の方法があるが，要は蚕種を痛めないように急激な変化を避け，20～25℃の範囲に置くことで，これにより10～20日ぐらいで孵化する。これを羽ぼうきで掃き集め，焼きぬかを散布してカイコを痛めないように注意しながら適当な面積に均等に分布し，細かく刻んだクワを与える。この給葉は，以前1日7～8回行なったが，現在では乾燥を防ぐため，またクワも大きく刻むため，1日3～4回が普通である。カイコが大きくなり，蚕座も広くなって1箔に納まらなくなれば2箔に分ける(分箔)。飼育の温度は，1齢25～28℃，2齢24～26℃，3齢23～25℃，4～5齢22～24℃で，湿度は70～80%が適当である。卵から孵化した幼虫が繭をつくり始めるまでには，4回脱皮し，22～25日ぐらいかかる。成熟して糸を吐く

まえのカイコ(熟蚕)はクワを食べなくなり，体がほぼ透明になる。熟蚕を拾い取って別に用意した蔟(まぶし)に入れる(上蔟(じょうぞく))と，2昼夜で繭をつくり，さらに2日過ぎるとさなぎになる。さなぎになった直後の皮膚は弱く傷つきやすいため，蔟に入れてから5～8日後に蔟から繭を収穫する(収繭・繭かき)。繭はその良否によって，上繭・中繭・下繭・同功繭に区別される。

〔赤井　弘〕

ようし【羊脂】　ヒツジの脂肉からとれる半固体の油脂。性状は牛脂に似ているが，融点はやや高く約50℃で，飽和脂肪酸約60％と不飽和脂肪酸約40％とからなる。羊毛からとれる羊毛脂(ろうの一種)とは成分はまったく異なる。食用やせっけん製造などに用いられる。

ようし【洋紙】　木材パルプ・わらパルプなどを主原料とし，塡料(てんりょう)などを加えて抄紙機ですいた紙の総称。本来手すきの和紙*に対する語であるが，現在の和紙には木材パルプを原料とするものや，機械すきのものなどがあり，その区別はあいまいである。しいて分ければ，紙すきの際に〈たも〉あるいは〈ねり〉と称する植物粘液を使用するものを和紙とし，それ以外を洋紙に分類する。洋紙は，用途によって印刷用紙・筆記用紙・図面用紙・包装用紙などに分類される。

ようし【陽子】　プロトンともいう。水素原子の原子核で質量数1，正の電気素量をもち，中性子とともに核子とよばれ，原子核を構成している素粒子の一。陽子の重さ(質量)は種々の単位で求められ，1.67261×10^{-24} g，1.0072766原子質量単位，938.256 MeV(メガエレクトロンボルト，1 MeV＝10^6 eV)，電子質量の1836.10倍である。スピンは½(単位は$h/2\pi$，hはプランク定数)，磁気モーメントは2.792763±0.000030核磁子(核磁子＝$eh/4\pi Mc$，Mは陽子質量，cは真空中の光の速さ)という性質をもち，フェルミ統計に従う。自由な状態では安定であるが，原子核内あるいは核反応(束縛状態)では陽電子と中性微子(ニュートリノ)を放出して中性子に変換する。

$$p \rightarrow n + e^{+} + \nu$$

陽子・中性子は核力によって原子核を構成し，ほぼ安定な核子を形成する。陽子はときには実在の粒子として正のπ中間子を放出して中性子に変換し，また中性子は負のπ中間子と陽子に変換する。

$$p \rightarrow \pi^{+} + n,\quad n \rightarrow \pi^{-} + p$$

このように陽子・中性子は素粒子とよばれるにもかかわらず崩壊や他の粒子に変換するため，複合粒子ではないかという疑問も生ずるが，このような変化は粒子のエネルギー状態にのみ関係するもので，基本的という物理学上の意味では陽子・中性子は対等であり，核子という一つの粒子の異なった状態と考えるほうがより普遍的である。もっとも，最近の研究では陽子・中性子自体それぞれ構造をもっているらしいことがわかってきている。陽子は水素原子の原子核で，これは比較的容易に取り扱うことができるため，これを用いて原子核や素粒子に関する研究が行なわれている。歴史的には〈コッククロフト-ウォルトンの実験〉が最初であるが，サイクロトロンやシンクロトロンなどの粒子加速器で高速度(高エネルギー)にした陽子を他の原子核に反応させて核の構造や核力について研究し，また直接水素原子に反応させて陽子-陽子間相互に関係する知識や，π中間子・ハイペロンなどの素粒子をつくり出して素粒子についての研究をするなど，原子核物理学・素粒子物理学における重要な粒子である。また陽子は1次宇宙線の主要成分で，星の爆発や超新星などで発生し宇宙空間で加速されて高エネルギー状態にあるものや，太陽から放出される比較的低エネルギーのものなどがあるが，空気との核反応により中間子などの2次粒子となったり，大気中に吸収されたりして直接には地表に到達しない。

〔福井崇時〕

ようし【養子】　養子縁組みによって養親の嫡出子と同じ身分が付与された子をいう(民法809条)。養子制度はかなり古くから存在するが，それはけっして養子自身の利益を目的としていたものではなかった。すなわち，家族共同体の労働力を確保し，または〈家〉の後継者をつくろうとする〈家のための養子〉であり，あるいは，子のない親の慰めとし，老後の生活扶養をさせようとする〈親のための養子〉であった。近時になって，親のない子に親を与え，同時に孤児や浮浪児に家庭的環境を与えようとする〈子のための養子〉が養子制度の意義として考えられるようになり，現行民法も養子の保護・利益に重点を置いている。しかし，必ずしも〈子のための養子〉のみが現実に行なわれているわけではない。養子縁組みは養親と養子との合意に基づき，戸籍上の届け出によって成立する(民法799条)。養子となる者が15歳以上であれば自己の意思表示で養子となることができるが，15歳未満の子については法定代理人*が代わって縁組みの承諾をすることができる(民法797条)。これを代諾養子という。養子は養親に対して尊属または年長者であってはならない(民法793条)。養子をすることができるのは成年に達した者に限られ(民法792条)，配偶者のある者が養子をするにはその配偶者とともにしなければならない(民法795条)。ただし，夫婦の一方が他方の子(前婚の子)を養子とする場合は共同に縁組みをする必要はない(民法795条)。養子縁組みはまた，本人の意思を絶対的要件とするところから，禁治産者も意思能力さえもっていれば後見人の同意を得なくても縁組みをすることができる(民法799条)。養子縁組みの意思は真に親子関係をつくろうとする意思のことであるから，もっぱら労働力を確保する目的や芸妓(げいぎ)・娼妓(しょうぎ)稼業(かぎょう)をさせることを目的としてなされる縁組みは公序良俗に反し無効である。養子縁組みの効果としては，養子は縁組みの日から養親の嫡出子たる身分を取得し，養子と養親の間に親子関係を生ずることである(民法809条)。しかし，実親との親子関係が消滅するわけではない。養子は養親の戸籍にはいり，養親の氏を称する(民法810条)。親権は実親から養親に移転する。なお，未成年者*を養子にするときには家庭裁判所の許可を必要とし，代諾養子の場合でも同様である(民法798条)。親が子を食いものにすることを禁止するためである。後見人が被後見人を養子にする場合も家庭裁判所の許可を得なければならない(民法794条)。後見人が被後見人の財産に対して不正を行なうことを防止するためである。

〔黒木三郎〕

ようじ【楊枝】　楊子とも書く。歯をそうじする用具。一般には爪(つま)ようじをさすが，同じ用途であるため，歯ブラシのこともいう。中国ではおもに楊柳でつくられ，楊枝の語が生まれた。わが国へは6世紀に伝来したといわれ，平安時代には貴族・僧侶(そうりょ)に用いられた。江戸時代から庶民の間にも普及し，当時は先端を砕いて総状(ふさじょう)にした総ようじ，平ようじ・小ようじなどがあった。材料にはヤナギ・スギ・タケ・クロモジなどが用いられ，現在は材料名からくろもじともよばれる。

〔船石清香〕

ようじ【幼児】　生後1年以上，満6年未満の子どもをいう。身体的にも精神的にも急激な発達を遂げ，小児の基礎ができるたいせつな時期である。

〔発育〕身体の発育は乳児期に次いですみやかで，出生時に比較して身長は満5年で約2倍，体重は3年で約4倍，5年で約5倍となる。乳児期から幼児期の初めには胸囲より頭囲が大きいが，その後胸囲の発達がよりすみやかになり，1年6か月で両者は同じになり，その後は胸囲のほうが大きくなる。骨格の発達も進み，1年半で大泉門(→泉門)が閉じる。乳歯も次々とはえそろい，生後2年半くらいで上下左右20本の乳歯が完成する。6年ごろには永久歯の生歯が始まり，まず第1大臼歯(だいきゅうし)がはえはじめる。運動の機能もしだいに発達し，1年3か月でひとり歩き，1年6か月からは走って歩くようになる。3歳からは階段を上り，はしやはさみも使えるようになる。精神や情緒も急に発達してことばの数もふえ，1年では2～3語を発するだけであるのが，2年で約300語，4年で1,700語，6年で2,300語ぐらいになる。意志的行動もはっきりしてきて独立心も生まれ，母や保育者の干渉をいやがるようになってくる。その傾向は2～3年ごろに非常に強く，おと

なの命令に反発するようにさえなる。すなわち反抗期である。しかし4年過ぎると社会性を意識しはじめ，友人ともよく遊び，おとなのいうこともきくようになる。

〔生理〕身体の形態的発達に伴い，循環器・呼吸器・消化器などの機能もしだいに発達してくる。心臓や血管機能は充実してだんだん成人に近づき，脈搏(みゃくはく)数は2～4年で1分間に100～120，呼吸数は25～30と，乳児のときよりかなり減ってくる。消化器の機能もかなり成人に近づくが，肝臓の機能はまだ未熟なため解毒作用などが不完全で疫痢などの急性中毒症を起こしやすい。伝染病に対しての先天免疫はほとんど消失し，はしか・ジフテリア・日本脳炎・急性灰白髄炎などにかかりやすい。一般的体質もまだ弱く，皮膚病や呼吸器病などを起こしやすく，いわゆる異常体質やそれに近いものが多いが，これも4年以上になるとしだいに消えていく。しかしそれに代わってリンパ節の肥大や増殖が起き，伝染病に対し抵抗力ができていく。ただしその肥大が過度になると扁桃(へんとう)肥大やアデノイドとなることもある。神経系もしだいに成熟していくが，その速度は非常に速く，大脳の重量は幼児期のうちに成人の約90％が完成する。重量に伴って内容も発達し，神経細胞の形態や機能も成人型に近づく。重要な神経繊維の髄鞘(ずいしょう)形成もだいたい幼児期に完成される。しかしそれが完成されるまでは神経の作用は鈍く，感覚も鋭敏ではない。また神経の機能異常も起こしやすく，高熱によって痙攣(けいれん)を起こすようなことも多いが，4～5年以後はほとんどなくなる。乳児期では昼も夜も眠っていることが多いが，幼児期になると夜はもちろん，昼も昼寝として，はっきり睡眠の時間が決まってくる。2～3年までは1日1～2回昼寝をするが，4年過ぎるとあまり昼寝もしなくなる。

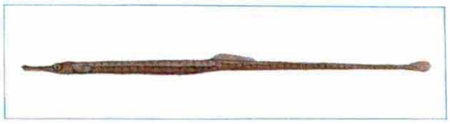
〔栄養〕原則として主食は成人の食事とほとんど同じで1日3回，その間に1～2回の間食を与える。幼児期の食品としては発育が盛んな時期であるから，できるだけ動物タンパク，脂肪，各種のビタミン，無機質を多く与えるように留意する。そのために牛乳や乳製品を毎日与えるのがよい。この時期にはまたしばしば偏食を起こしやすいので，できるだけ代替品を考えて，各栄養素の不足をきたさないように注意しなければならない。

〔養護〕一般生活指導上たいせつな点は，できるだけ自然に親しませ，日光や新鮮な空気にあて，戸外運動をさせる。最近都会では運動不足のために太り過ぎの幼児が目だっているので注意を要する。外遊びが不可能なときは幼児体操などで補う。なお室内でテレビなどばかりを相手にしていると，身体のみならず情緒の発達にまで障害をきたすことがある。衣服は運動しやすい形で，じょうぶな伸縮性のある質のものがよい。はきものは足の発達の障害にならないように，足の形，発育度・運動機能・危険性などをよく考えて選ぶことがたいせつである。そのほか早寝早起きをさせて睡眠のよい習慣をつける。排尿・排便のしつけでは，おむつをはずせるのは昼間は2歳前後，夜間は2歳半ぐらいからである。

〔病気とその予防〕幼児の死亡で最も多いのは事故によるもので，次いで肺炎・下痢症である。歩きはじめは特に事故が多いので注意しなければならない。なお，病気については早期診断と早期治療が必要で，予防のためには予防接種はすべて受けておく。またつねに栄養に注意して，体力を養い，病気になっても重症化を防ぐようにする。

〔宇留野勝正〕

ようじうお【楊子魚】硬骨魚類・ヨウジウオ科。体長30cmに達する海産魚であるが，ふつう見られるものは12～15cmほどのものが多い。広島では，タケウマという。体は細長く，棒状で，体表はかたい骨板でおおわれる。吻(ふん)は著しく長くて，口は小さく，プランクトンなどの小動物を食べる。尾びれがあり，尾で物に巻きつくことができないのが著しい特徴で，近似のタツノオトシゴ*と区別できる。背びれは35～41軟条。雄には尾部の前部腹面に育児嚢(いくじのう)があり，卵はこの中で子魚となって，放出されるまで保護される。日本各地沿岸，



ヨウジウオ

幼児の身体発育値（平均値）

年月齢	身長（cm）		体重（kg）		胸囲（cm）		頭囲（cm）	
	男	女	男	女	男	女	男	女
1年0～1か月	75.4	74.2	9.5	9.1	46.9	45.7	46.5	45.5
1～2	76.5	75.2	9.7	9.2	47.1	45.9	46.7	45.7
2～3	77.6	76.1	9.9	9.4	47.3	46.1	47.0	45.8
3～4	78.5	77.0	10.1	9.5	47.5	46.4	47.2	46.0
4～5	79.3	77.9	10.3	9.7	47.7	46.6	47.5	46.2
5～6	80.1	78.7	10.4	9.9	47.9	46.8	47.6	46.3
6～7	80.8	79.5	10.6	10.0	48.2	47.0	47.8	46.5
7～8	81.6	80.2	10.9	10.2	48.5	47.2	48.0	46.7
8～9	82.4	80.9	11.1	10.4	48.8	47.5	48.1	46.9
9～10	83.2	81.8	11.3	10.7	49.1	47.8	48.3	47.1
10～11	84.1	82.7	11.5	11.0	49.4	48.1	48.5	47.2
11～12	84.9	83.7	11.6	11.3	49.6	48.4	48.8	47.4
2年0～6か月	87.1	86.1	12.3	11.7	50.1	48.9	48.9	47.8
6～12	90.8	89.5	13.2	12.6	50.9	49.6	49.4	48.2
3年0～6か月	94.4	93.0	14.1	13.4	51.8	50.4	49.8	48.5
6～12	97.8	96.4	15.0	14.3	52.6	51.1	50.1	48.9
4年0～6か月	101.2	99.8	15.8	15.2	53.4	51.9	50.4	49.3
6～12	104.3	103.1	16.6	16.1	54.2	52.7	50.6	49.6
5年0～6か月	107.1	106.2	17.4	17.0	54.9	53.5	50.8	49.9
6～12	109.6	109.1	18.2	18.0	55.6	54.4	51.0	50.1

厚生省　1970年調査

幼児の基本的習慣の自立の標準

年月齢	基本的習慣
1年 1年6か月	排便を知らせる スプーンを使う，茶わんを持って飲む，便意を予告する
2年 2年6か月	ひとりで服を脱ごうとする スプーンと茶わんを両手で使う 夜のおむつが不要になる くつをはく，手を洗う
3年 3年6か月	食事のあいさつをする はしを使う 食事を完全にひとりでする 昼寝をしなくなる 小便をひとりでする ひとりで服を着ようとする
4年 4年6か月	寝る前にあいさつする 大便をひとりでする 前ボタンをかけ，パンツをはく 洗面や歯みがきをする 大便を紙を使ってひとりでする 両そでを通す，くつ下をはく， はなをかむ
5年	ひもを堅結びする，ひとりで服を脱ぐ，髪をとかす
6年	ひとりで服を全部着る

山下俊郎《改訂幼児心理学》による

特に内湾の藻場(もば)に多く見られ，幼魚はしばしば流れ藻につくことがある。産卵期初夏。食用にはされず，水族館の小さい水槽(すいそう)にタツノオトシゴなどといっしょに観賞用に飼育される。〔安田富士郎〕

ようしえんぐみ【養子縁組み】⇨養子

ようじき【幼児期】1歳ごろから5～6歳ごろまでをいう。母乳または人工乳による特殊な栄養物を摂取し，きわめて限局された生活の時代である乳児期に続く幼児期は，離乳が完了し，多様な食物から栄養をとるようになり，直立歩行によって生活空間は急速に拡大，手を用いて自由に事物を取り扱えるようになる，またことばを通じて他人とのコミュニケーションも可能になる，というように，人間としての基本的な能力を多方面にわたって獲得していく時期といえる。

身体的には，乳児期ほどではないが身長・体重とも発育がめざましく，幼児期の終わりごろには，身長が成人の約3分の2，体重では約2分の1，脳重量では成人の90%にまで達する。運動能力は，つかまり立ちから，ひとり歩き，ころばずに走る，両足をそろえてとぶなどの時期を経て自由自在に駆け回り，とびはね，よじのぼり，片足立ちができるようになる。また，生後まもないころは興奮とか快・不快程度の区別しかない未分化なものであった情緒が，急速に分化し，幼児期の終わりごろまでには羞恥(しゅうち)・恐怖・心配・嫉妬(しっと)・憤怒・羨望(せんぼう)・失望・不満足・嫌悪(けんお)・愛情，仲間や両親への愛情・希望・喜悦・自己高揚など多種多様の感情を示すようになる。話しことばについては，一語文の時期から二語文に移り，名詞以外に動詞が使えるようになり，さらに過去・現在・未来形を自由に使いこなす。そして品詞の種類もふえ単語も増大し，ついには話し相手によって話題も区別されるようになり，話しことばの基本はほとんど完成する。他方，知的な面での発達は不十分である。思考様式としては自己中心的傾向が強く，現実と想像との区別がつけにくく物活論的・汎心論(はんしんろん)的な考え方をする。また行動と思考とが未分化で，行動を伴わずに考えだけを進めることはほとんど不可能である。思考内容も具体的事物に即したものに限られ，抽象的思考は不得手である。社会的行動の発達の面でも，遊びなどを通じしだいに社会性を身につけてはいくが，やはり自己中心的傾向が強く，他我を認めたうえでの道徳的判断はほとんど不可能である。おとなとの関係も，3～4歳ごろの第1反抗期を通じ自主性がめばえはするが，安定した自我意識の上に立っておとなの権威を認め，それに従うようになるのは児童期にはいってからである。〔斎藤幸一郎〕

ようじご【幼児語】幼児はふつう，生後1年近くで片言を話しはじめるが，1～1歳半は〈ウマウマ〉〈ワンワン〉のような一語文を話す時期で，それはなんらかの情意的欲求を表わす文に相当することが多い。1歳半から2歳の時期はものがみな名まえをもつことを知ってよく質問し，語彙(ごい)が急激にふえる。また，名詞以外のいろいろな品詞も使うようになる。2～2歳半には，〈イッタ〉〈イコウ〉のような，時などに応じた表現ができるようになる。しかし，文章はまだ単純な単文の羅列(られつ)が多い。2歳半以後になると，接続詞・助詞を使って複雑な文章が話せるようになり，3～4歳の間に日常の話しことばはひととおり完成する。また，舌の回らないために起こる幼児音は4～5歳ごろにはなくなるのが標準である。

なお，〈オテテ〉〈ネンネ〉〈バッチイ〉のように，幼児が，また幼児に対して使う特有の単語を特に幼児語とよぶこともある。〔西尾寅弥〕

ようじせいよく【幼児性欲】幼児期の性的活動を幼児性欲あるいは小児性欲などという。精神分析*では，出生から5～6歳までの乳幼児期に性的な快感を求める行動が見られるとし，この行動は生物学的な衝動に源泉をもち，これに伴う情動的興奮として現われ，身体の粘膜部位に性感帯をもつとする。その性感帯は発達的に推移し，口唇(こうしん)・肛門(こうもん)・尿道・男根が次次にこの役目を果たす。この性感帯に応じて，口唇愛期・肛門愛期・男根愛期などの段階に分けられる。これらの幼児性欲の活動は，エディプス-コンプレックス*の抑圧とともに潜伏期にはいって個体の意識から忘却され，やがて思春期における成人の性的活動(第二次性徴)が始まるときに，性器愛の部分的構成要素として再び活動する。しかし，幼児性欲は，成人と異なり，性器による性行為に至らず，吸乳や排泄(はいせつ)などの生理活動と密接に関連し，また両親との人間関係に密接に結合していると考えられている。〔乾 吉佑〕

ようしゅ【洋酒】西洋から伝来した酒の意。たとえばウイスキー・ブランデー・ウオツカ・ワイン・リキュールなどのほか，メキシコのテキラ，南洋のアラックなどもいうが，ふつうビールは含まない。これらは現在，国内でも製造される。

ようしゅ【楊朱】(BC395?～BC335?) 中国，戦国時代の道家的立場に立つ思想家。楊子居などの異名がある。《孟子(もうし)》などによると，楊朱は〈為我〉の主張をして，〈自己の性〉をたいせつに，ほかのなにものの犠牲にもしないことを願い，それは当時，墨子*の兼愛説と対照的だったという。ただし，その〈性〉がいかなる内容のものかは明らかでないが，現存《列子*》の楊朱編によると，享楽的生を社会・政治・道徳の侵害・束縛から守るの意であることが知られる。➔諸子百家〔西 順蔵〕

ようじゅ【陽樹】⇨陽性植物

ようしゅう【揚州】ヤンチョウ 中国，江蘇(こうそ)省の都市。揚子江の北，大運河の西岸に臨む。旧名江都。人口約30万。もと揚州の名は江蘇・安徽(あんき)両省とその一帯を広くさす地名であったが，隋(ずい)代に江都県を揚州の中心としてから揚州とよばれるようになり，以来江南の租米はすべてここを経由して北方へ運ばれ，急速に繁栄した。元代には江南行省の中心となり，当時中国を訪れたマルコ-ポーロ*の紀行記にもみえている。明(みん)代以後，特に塩の取引をはじめ米・雑穀の集散地として繁栄し，漆器・ししゅう・彫刻などの工業も大いに発達した。近年は製鋼工場が建設され，工業都市への発展が著しい。日本に律宗を伝えた鑑真*(がんじん)のいた大明寺はじめ，史跡も少なくなく，付近からは第2次世界大戦後，周・漢代の遺跡も発掘されている。〔船越昭生〕

ようじょうくん【養生訓】貝原益軒*の著。8巻。1713年(正徳3)刊。益軒84歳のときの著で，《楽訓》《君子訓》《家道訓》《武訓》《文訓》《初学訓》《和俗童子訓》《大和(やまと)俗訓》《五常訓》と並ぶ益軒十訓の一。益軒の修養主義の具体化としての社会教育論書で，平易な文章で説かれている。

ようじょうしょくぶつ【葉状植物】葉状体をもつ植物をいい，多くの菌類，藻(そう)類およびコケ類がこれに属す。茎葉植物*に対する用語で茎葉の区別なく，維管束をもたない体制をもつものである。エントリッヒャーは蘚(せん)類を茎葉植物に入れたが，茎葉の分化は見かけだけであるので葉状植物に入れるべきであろう。また，菌類のような疑似組織をもつものも別に扱うほうがよいと考えられる。

ようしょく【養殖】⇨次ページ

ようしょしらべしょ【洋書調所】⇨蕃書(ばんしょ)調所

ようじんけっせつ【謡人結節】両側の声帯*の前3分の1と中3分の1の境界部にできる灰白色の小さな結節。歌手結節・結節性声帯炎ともいう。発声したとき，声帯が完全に閉鎖しないため嗄声(させい)となる。教師・弁護士・歌手などの職業上音声を過度に使用する人や，大声でしゃべる小児などにみられる。治療はできるだけ声を使わないように努め，大きいものは切除する。

ようしんねい【揚振寧】ヤン-チェン-ニン (1922～) 中国の物理学者。安徽(あんき)省に生まれ北京(ペキン)で育った。西南連合大学に学び，1945年アメリカ合衆国に渡りシカゴ大学でフェルミ*の指導を受けた。その後プリンストン高等研究所にはいり，1955年同教授。さらに1966年ニューヨーク州立大学教授。統計物理学・対称原理の研究など理論物理学の広い分野にわたってすぐれた業績をあげた。特に李(り)政道*と共同してパリティ非保存の理論を提唱し，1957年，

養　殖

有用水産生物の生産を増すために行なう人為的手段のうち，水産生物の生活史の全過程あるいは一部成長期だけを管理して，重量・個体数を増大させて収獲すること。ふつう個人または私企業の営利を目的として経営される。これに対して，漁業経営の一部として多くは漁業協同組合の管理のもとに，水産生物の生活史の一部分だけを管理して，生物資源の維持・繁殖を図ることを〈増殖〉とよぶが，両者は明確には区別しがたい。養殖と増殖，あるいはこの両者に〈繁殖保護〉を加えて，一般に水産増養殖または水産増殖ともいう。なお最近では増殖段階の手段を広範囲の海面に適用して，水産生物の生産管理を行なうことを，特に栽培漁業*とよんでいる。

〔種類〕 養殖の方法からは，図のように分類される。今日養殖されている水産生物は，魚類・貝類・甲殻(こうかく)類・海草類など多種類にわたり，そのほかにも養殖としては成立していないが，養殖可能な対象生物は100種にも達する。養殖技術や生産量の面で代表的なものとしては，ウナギ・コイ(食用ゴイは群馬・長野・山形が盛ん)・ニジマス・アユ・ハマチなどの魚類，カキ・アコヤガイ(真珠貝)・ホタテガイなどの貝類，クルマエビの甲殻類，ノリ・ヒトエグサ・ワカメなどの海草類などがあげられる。これらの養殖は，需要度が高く，成長速度が大きく，収益率もかなり高い。このうち，ウナギの養殖は現在内水面池中養殖業のうちで最大の生産量をあげており，東海3県(静岡・愛知・三重)で全体の約90％を生産している。またハマチの養殖は海面域における魚類養殖の代表的なもので，瀬戸内海を中心に近年急速に発達した。湾口部を網または築堤で仕切った大規模なものと，風波の穏やかな沿海に網いけすを設けて行なう小規模な方式とがあり，いずれも海水の交流の盛んな海面が選ばれる。

一般に魚類など移動性の大きい動物は，池または網で仕切られた一定水面で飼育されるが，固着性の貝類や海草類は，着生基盤としての養殖施設を開放された水域に設置して養成される。人為的な管理のもとでの養成は，種苗すなわち飼育養成のできるまでに発育した稚魚・稚貝・種子・幼芽などを池や海で飼育，あるいは栽培する。種苗のつくり方にも，たとえばニジマスのように採卵・受精・孵化(ふか)から孵化後の稚魚の飼育まで完全に人工的につくるもの，ウナギ・アユ・ハマチなどのように天然産の稚魚を採集して種苗とするものなど，対象生物の習性や種苗の育成技術によって種種の方法や段階がある。コイでは人工採卵でなく，自然に産卵された受精卵を飼育・孵化させて種苗をつくる。カキ・アコヤガイ・ホタテガイなどでは，自然に産卵された受精卵の発育が進んで付着期に達した稚子を，あらかじめ海中に設置した付着基材に着生させ，発育させて種苗をつくる。またクルマエビは，採卵から稚子の飼育まで，すべて人工で種苗をつくることもできるが，天然産の稚子も種苗として用いられる。アワビ・サザエ・イセエビ・フグ・ガザミなどではほとんど成体に達したものをいけすの中で餌料(じりょう)を与えて養成するが，このような方法を蓄養とよぶ。ノリ・ワカメでは母体は世代をことにするので，その母体となる世代の体を培養し，それから放出される胞子を着生基材に付着させ，発芽管理して種苗をつくる。

孵化および稚子の養成は，比較的高密度の放養量で開始される。稚子が生成するにつれて，放養量を減少させると同時に，飼育池の面積を増大させる必要がある。また，養成期間中に個体に成長差を生じ，ふぞろいになることも多く，ウナギ・コイなどその現象の著しい種類は，養成期間中に数回の選別と分養が行なわれる。多くの動物の養殖では，それぞれの食性に応じた餌料を与えるが，餌料は天然餌料と人工餌料に大別される。後者を飼料ともいい，動物質では生鮮魚・魚粉，各種の内臓，さなぎ，フィッシュソルブルなど，植物質では綿実粕(かす)・ぬか・砕麦・大豆粕・小麦粉・酵母などが，そのままか配合して使用される。ニジマス・コイ・ウナギなどでは高い効率の配合餌料がつくられている。カキ・アコヤガイ・ホタテガイなどは浮遊するプランクトンや有機懸濁物などに依存しており，養殖場に自然に発生する餌料生物によって成長する。ノリ・ワカメの成長は，養殖場の自然の生産力によって維持されるが，栄養塩類の補給のために施肥することもある。

〔増殖〕 サケ・マス・ワカサギ・アワビ・クルマエビ・ガザミの人工孵化放流やアユ・ヒメマス・ワカサギ・ホタテガイ・チョウセンハマグリ・ウニなどの移植放流などのように，湖沼・河川，開放された海面に，人工孵化育成した種苗または天然産種苗を

養殖方法の分類

淡水(内水面)養殖	池中養殖(集約的)	流水式(コイ・ニジマス・ウナギ〔土管式〕) 半流水式(ウナギ) 止水式(コイ・キンギョ・ウナギ)
	稲田養殖	止水式(コイ・ドジョウ)
	ため池・干潟池養殖(粗放的)	止水式(コイ・ボラ) 半流水式(ボラ川養殖)
海面養殖	池中養殖(陸上施設)	流水式(クルマエビ) 半流水式一廃止塩田利用池(クロダイ・ボラ)
	区画養殖	堤防区画池(ブリ・マダイ) 網仕切り水面(ブリ・フグ) 箱・網いけす(タコ・ブリ)
	無区画養殖(区画漁業権水面)	いかだ(カキ・アコヤガイ・ワカメ) 網・そだひび建て(ノリ・カキ) 干潟・浅海面利用(アサリ・モガイ)

李とともにノーベル物理学賞を受賞。
〔藤村　淳〕

ようすい　【羊水】 羊膜腔(ようまくこう)を満たす無色透明の生臭い液体で，羊膜から分泌されると考えられる。妊娠末期になると胎児の胎脂・皮膚上皮・生毛などが混ざって淡黄色をおびる。末期の羊水の量は約500～1,000mℓ。妊娠中には胎児・胎盤・臍帯(さいたい)などが子宮壁から圧迫されるのを防ぎ，胎児の運動を自由にして四肢(しし)の発育を助ける。分娩(ぶんべん)時には胎胞をつくり，子宮頸管(けいかん)を開き，胎盤の早期剝離を防ぐのに役だつ。➔分娩〔木川源則〕

ようすいかたしょう　【羊水過多症】 羊水*の量が生理的限界を越えて増量し，妊娠分娩(ぶんべん)に障害をきたすもの。羊水の量は妊娠月数によって異なるので，過多とする量を決定することはむずかしいが，一般には1.5～2.0ℓ 以上のものを過多症とよぶことが多い。急性に羊水が増すこともあるが，慢性に徐々に増すことが多い。胎児奇形・多胎妊娠・血液型不適合妊娠などの場合に多くみられる。

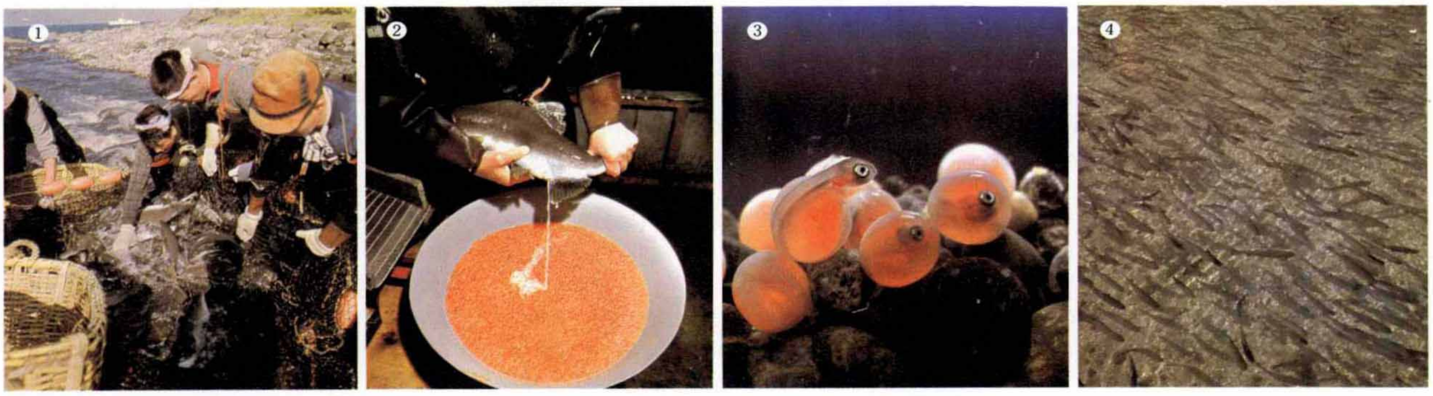
ようすいしきはつでんしょ　【揚水式発電所】 豊水期あるいは深夜軽負荷時の供給余力を利用してポンプを運転し，揚水や貯水をしてこの水を必要に応じて重負荷時に発電に利用する方式の水力発電所。最近急激にこの方式の計画が多くなり，実現している。この理由は，①有利な水力開発地点の枯渇化のため，単に河川流量の調整のみでは大規模化ができず，経済性が得られないこと，②新鋭大容量火力が系統に多数投入され系統中で火力の占める比重が高まり，それらが熱効率向上のため常時高負荷運転を必要とするため，系統の軽需要時に揚水用電力資源が得られやすくなったこと，③上記火力は負荷の急激な変動が困難であり，また部分負荷運転にも限度があるため，



ニジマス養殖(静岡県) ①採卵(11～3月，卵は直径5㎜前後) ②養成池(水温は12～18℃)



ハマチ養殖(高知県) ①網いけすを設けた養殖場 ②収獲(8～11月，体重は稚魚の10倍前後)



サケ増殖 (北海道) ①河川をさかのぼる親魚の捕獲 ②採取した卵の人工受精 ③受精卵の発眼・孵化 ④放養された幼魚

放流し，その水域の生産力によって成長させる。人工孵化放流や移植放流は，需要度の高い水産生物であって，種苗の生産は容易だがそれ以後の養成管理が困難なもの，養成管理が容易でも成長速度が小さいもの，あるいは種苗の生産は困難だが天然種苗の豊富なものを対象として行なわれる。

一方，増殖を対象とする生物の習性に応じてその生活環境を改善し，増殖維持を図る方法がある。たとえば，コンクリートブロック・割り石・鋼管・エキスパンドメタル・廃船などを海底に沈設し，魚類・貝類などの生息場所をつくるのもその一例である。その場合，特に集魚効果を目的とするものを人工魚礁といい，マダイ・クロダイ・イシダイ・カワハギ・スズキ・アイナメ・ヒラメ・カレイ・フグ・イサキ・マアジ・サバ・ムツなどが多く集まる。アマモ・ホンダワラ類などの密生する場所(藻場(もば))には，スズキ・カワハギ・メバル・アイナメなどの稚魚が生育するので，藻場の保護や造成も行なわれる。また，アユ・コイ・フナ・ワカサギ・ハマグリ・マダコなどについて，それらの産卵習性にしたがって河川や海面の特定の場所に産卵場を造成することも行なわれる。テングサ・コンブ・ワカメ・アラメ・カジメ・ヒジキ・イワノリ・オゴノリ・マツモ・フノリ・ツノマタなどの有用海草の増殖のためには，投石・磯(いそ)そうじ・岩礁爆破，人工着生面の造成などの方法で，着生面積を広げたり，新たにつくったりしている。内湾浅海干潟(ひがた)で生育・繁殖するアサリ・ハマグリ・ノリの増殖のために，整地したり澪(みお)(導水路)つくり，客土・耕耘(こううん)などが行なわれる。整地は，海底地盤をノリの胞子，アサリ・ハマグリの稚貝の発育に適する高さに整地して，養殖場の面積を拡大するもので，澪つくりは，海水の交換をよくして水質の改善を図り，客土・耕耘は底質を改善するために行なわれる。➜真珠 ➜ノリ養殖 〔三浦昭雄〕

需要上，変動負荷に対応しうる大容量水力供給が必要であること，④原子力発電所の開発進展に伴いますます上記の傾向が強まることが予想されること，⑤火力事故などの需給不均衡時に必要となる速応性のある運転予備力として，揚水発電所はキロワットあたりの建設費が比較的安く，この目的に適していることなどによっている。貯水方式によって，自流併用揚水式・純揚水式・海水揚水式などに分類され，総合効率は65～70%である。 〔田村康男〕

ようすこう 【揚子江】 ヤンツー川 中国中部を東流する中国最大の川。青海省西南部の山地に発源し，8省を通過して東シナ海に注ぐ。全長5,530km。中国では一般に長江といい，古くはただ江といった。揚子江の名は，江蘇(こうそ)省の揚州付近で用いていたのを，清朝(しんちょう)以後ヨーロッパ人によって全体の名称とされたものである。支流はきわめて多く，水量は豊富で，四川・湖北両省間の三峡の険のほかは水運の便にも恵まれ，増水時には河口から1,100kmの武漢まで，外洋船が遡航(そこう)できる。洪水(こうずい)の際には，洞庭湖(どうていこ)や鄱陽湖(はようこ)などが自然の貯水池として，水位の調節の役を果たし災害の防止に役だった。下流には広大な沖積(ちゅうせき)平野が形成され，4～5世紀以後しだいに中国第1の生産地帯として発達し，経済・文化の中心地となった。 〔日比野丈夫〕

ようせい 【幼生】 後生動物が個体発生をするとき，成体になるまえに，胚(はい)と成体との中間でそのいずれとも著しく形態が異なる時期があって，しかもそれが独立して生活することがあり，このような時期にあるものを幼生とよんでいる。特にこん虫などの幼生は幼虫*とよぶことがある。無翅(むし)類のこん虫でトビムシ・シミのように変態しない幼生は特に若虫とよぶが，幼

虫ということもある。また，ダニなどでも幼虫とよぶことがある。もっとも，魚類やエビ・ヒトデなどの場合は幼生といっても幼虫ということはない。種類によって幼生には特別な名まえのつけられていることが多い。たとえば，ベリジャー(二枚貝)・ゾエア(カニ)・メガロパ(カニ)・ノープリウス(橈脚(とうきゃく)類)・ミュラー(ウズムシ)・ピリディウム(ヒモムシ)・アクチノトロカ(ホウキムシ)・トロコフォラ(軟体動物)・トルナリア(ギボシムシ)・オタマジャクシ(カエル)などよく知られている。幼生の形態は非常に変わったものが多く，それを見た限りでは変態してどのような成体になるのか見当もつかないものがある。そのため，ウナギの幼生であるレプトセファルスのように，以前には別の動物と考えられていたこともある。しかし，幼生の形態はその動物の祖先形を示すものとして，系統を確立するために重要な意味をもっている。幼生と成体の形態に著しい違いのある原因の一つは，幼生がそのまま成体になるのではなく，幼生のときにだけあって変態に際して見られなくなる器官があることである。また，特別な原基が幼虫のときに存在しており，変態とともに急速に発達するためである。前者の例は幼生器官といい，こん虫の場合特に幼虫器官ともいう。オタマジャクシの尾やえら，環形動物のトロコフォラ幼生にある繊毛環，甲殻(こうかく)類ノープリウス幼生のノープリウス眼，こん虫の幼生にある腹脚・気管鰓(きかんさい)など，いくつもの幼生器官の例がある。幼虫にある原基のことを成虫芽といい，様式はこん虫の種類によってもさまざまであるが，成体における肢(あし)・翅(はね)などの原基が，すでに幼虫のうちにつくられていて，変態とともに発達して成虫型となるなどが後者の例である。〔蒲原春一〕

ようせいしょくぶつ【陽生植物】 陰生植物の対語。陰生植物の補償点が300～1,000ルクスであるのに対し，800～2,000ルクスとそれより強い光でなければ補償点に達せず，光合成量が飽和に達する(光飽和)にも陰生植物の10数倍の光を要す植物群。陽生植物は林床など他の植物の下層や陰地では生存しにくく，林地の最上層木や草地，まばらな林に優先する。樹木を陽樹といい，その森林は稚樹がみずからの下層木となるため生長を妨げられ，陰樹林に比して安定性を欠く。ススキなどのイネ科植物やクロマツ・クス・タブなどが陽生植物の例である。

ようせいせいしょく【幼生生殖】 生殖細胞は個体が成長してはじめてその体内にできるものであるが，成体になるまえの幼生の時期にその体内に生殖細胞ができ，受精することなしに単為生殖的に発生するものがあり，このような生殖法を幼生生殖といっている。吸虫類の二生類に属するカンテツ(肝蛭)は，両性生殖と幼生生殖の両方を交互に行なっている。両性生殖によって宿主(ウシ・ヒツジなど)の体内で受精卵を産み，これが宿主体外に出ると，水中で第１代の幼生であるミラキディウムとなる。これが中間宿主のヒメモノアラガイに寄生するとスポロキストとなり，その体壁に生じた胚(はい)細胞が単為生殖的に発生してレディアとなる。レディアの体内には同じようにケルカリアができるが，このようにレディアとケルカリアのできるのが幼生生殖である。〔蒲原春一〕

ようせいてい【雍正帝】 (1678～1735) 中国，清朝(しんちょう)第５代の皇帝。在位1722～1735年。姓は愛新覚羅(あいしんかくら)，名は胤禛(いんしん)。おくり名は憲皇帝，廟号(びょうごう)は世宗，雍正はその年号である。康熙帝(こうきてい)の第４子で，康熙60年の治世のあとを受けて清朝支配の基礎を固めた。帝は独裁君主の典型といわれるように，親展状の往復によって地方大官に直接の指示をし，中央朝廷でも軍機処を設けて権力をいっそう皇帝に集中した。一方，外征にはあまり積極的でなく，宮廷奉仕者以外の外国人宣教師を澳門(マカオ)に追放して，鎖国的体制による支配を行なった。〔狭間直樹〕

ようぜいてんのう【陽成天皇】 (868～949) 在位876～884年。諱(いみな)は貞明(さだあきら)。清和天皇の第１皇子。母は関白藤原基経(もとつね)の妹高子。869年(貞観11)立太子，876年即位したが，性格が荒く乱行が多かったので基経に退けられた。退位後も放埒(ほうらつ)な生活を送り，世人の災いとなることも多かったという。基経は血縁の甥(おい)であったが，天皇を廃して光孝天皇を立て，その公平を称せられた。陵墓は京都市左京区の神楽岡(かぐらおか)東陵。〔黛　弘道〕

ようせいりんぴ【溶成燐肥】 リン鉱石の溶融方式による乾式リン酸肥料の総称。通常わが国ではリン鉱石にジャモン岩を加えて溶融・急冷したものをいう。灰緑色のガラス状粉末または粗粒の塩基性肥料。リン酸18～21％，石灰約30％，苦土15～18％，ケイ酸23～27％を含む。不良酸性土壌(どじょう)・火山灰土壌・苦土欠乏土壌の多いわが国では酸性矯正(きょうせい)・有効リン酸補給・マグネシウム補給などの意味で重要である。従来電気炉製造が主体であったが，最近は重油加熱方式による平炉法が採用されている。〔早瀬達郎〕

ようせき【容積】 ⇨体積

ようせきトンすう【容積トン数】 船内の容積をはかる単位。すべて船室の内のりではかり，1,000立方フィート($1,000/353m^3=2.83m^3$)を１トンとする。商船の大きさを表わす総トン数*(GT)がこれで，ほかに純トン数(NT)と甲板下トン数とがある。➔トン

ようせつ【溶接】 金属材料を接合する方法。広義には，ガラス・プラスチックなどの接合を含める場合もある。溶接は金属と金属を十分に接近させ，原子間引力を利用して接合させる冶金(やきん)的接合法で，融接・圧接・ろうづけに大別される。融接は，母材をとかし，そこへ溶融金属を流し込み接合する方法，圧接は接合部を加圧し，常温または加熱によって接合する方法，またろうづけは母材をとかさず，接合面のすきまへ溶融金属を流し込んで接合する方法である。溶接の利点としては，重量の軽減，材料の節約，工数の減少，性能と寿命の向上，高い継手効率，油密・気密・水密性の十分な保持，木型・鋳型が不要，異種材料の組み合わせが可能，補修が容易，複雑な形状のものができるなどがあげられるが，反面，変形・残留応力の発生，溶接欠陥が生じやすい，検査が困難，十分な施工設計が必要などの欠点をもつ。今日では，溶接はあらゆる産業界に広く用いられ，金属の接合は溶接によるのがほとんど常識のようになっているが，実際に行なうには材料・溶接法・管理などに十分な知識と経験が必要である。〔内田信邦〕

ようせつぼう【溶接棒】 溶接*に際して，接着部を形成させるためにとかして用いる金属材料。手アーク溶接用の被覆棒，半自動および自動溶接用ワイヤ，ガス溶接用の裸溶接棒などがあるが，一般には手アーク溶接用をさす。これらはまた材質から軟鋼用・高張力鋼用・ステンレス鋼用などに分けられ，たとえば軟鋼用では，低炭素の軟鋼を心線材に使用し，これに各種の被覆剤を塗って作業性や機械的性質の向上を図る。被覆剤の種類によって溶接棒の種類が異なる。

ようせん【用船】 海運業者が他人から船舶を借りて運航すること。チャーターともいい，次のような種類がある。①定期用船：船舶運航会社が他の船主から一定期間船員つきで用船契約(チャーター-パーテー)して，定期または不定期の航海に自由に配船できる。②裸用船：船主から船舶だけを借りて船の所有権を獲得し，用船者が船長・船員を雇い入れて運航する。したがって用船者は船舶の運航に要する費用のほか，船員の給食費・諸手当，船舶保険料，修繕費その他すべての費用を負担する。③船腹用船：全船腹貸し切りで，一航海あたりの運賃を契約する。材木など，正確な検量ができない貨物にこの契約を行なう。④日貸し用船：用船料を１日単位で定め，本船の引き渡し日より返却日までを日割で計算する。⑤一部用船：船腹の一部分を荷主が借りて運航する。植物油・糖蜜(とうみつ)・青果・魚類などの特殊貨物について行なわれる。⑥航海用船：石炭・穀類・木材のような原料品の輸送の場合，荷主が不定期運航会社との間に全船腹を使用する際，航海単位で積み高・揚げ高の貨物量によってトンあたり運賃を支払うもので，運賃積み契約ともい

う。なおこれらの用船料は運賃市況によって当然左右されるが，一般に将来の変化を見越して，おもわく的に騰落させる傾向がある。〔飯島幸人〕

ようそ【沃素】 周期律表第Ⅶ族のハロゲン族元素の一。記号Ｉ，原子番号53，原子量126.9045。1811年フランスのB.クールトア(1777～1838)が海藻(かいそう)を焼いた灰の中から発見した。鹹水(かんすい)や海藻中に含まれ，またチリショウ石中にヨウ素酸塩として含まれ，その母液に亜硫酸塩を作用させると得られる。金属光沢をもつ黒紫色の板状結晶で，蒸気は特有の臭気をもつ。融点113.6℃，沸点184.4℃。ハロゲン族元素の特性を有するが，反応性は弱い。クロロホルム・二硫化炭素・エーテル・アルコールなどには溶解する。水には難溶だが，ヨウ化物水溶液には錯イオンとなって溶解する。またデンプンにより深青色を呈する(ヨウ素デンプン反応*)。ヨードチンキなどの医薬品として利用される。〔竹下三吉〕

ようそう【洋装】 ⇨洋服

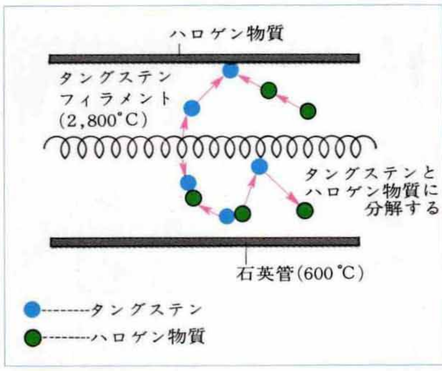
ようそか【沃素価】 一般には脂肪または脂肪油100ｇ中の不飽和化合物に結合するヨウ素のｇ数。試料に結合したハロゲンの量をヨウ素の量に換算し，試料に対する百分率で表わす。求める方法には，ウィイス法・ハヌス法などがある。この値が大きいものは，不飽和脂肪酸の含有量が大きいことを示し，乾性油・半乾性油・不乾性油の分類の基準となる。ヨウ素価はオリーブ油で75～90，大豆油で114～138，亜麻仁(あまに)油で114～138である。〔岡部平八郎〕

ようそてきてい【沃素滴定】 酸化還元滴定法の一。

$$I_2 + 2e \rightleftarrows 2I^-$$

この反応は可逆反応であるため，酸化電位がこの系より低い物質は，ヨウ素I_2により酸化されるので，ヨウ素標準溶液で滴定することができる。これをヨウ素酸化滴定あるいはヨーディメトリーという。また，逆の場合はヨウ素イオンI^-は還元剤として働き，その結果生じたヨウ素をチオ硫酸ナトリウム$Na_2S_2O_3$標準溶液で滴定する。これをヨウ素還元滴定あるいはヨードメトリーという。呈色指示薬としてデンプン溶液を併用するのが普通である。〔三輪誠・青木勝〕

ようそでんきゅう【沃素電球】 一般に，電球ではタングステンが蒸発して黒化をひき起こし，しだいに明るさが低下する。ヨウ素電球は100Ｖ500Ｗ～200Ｖ1,500Ｗのペンシル形で，微量封入したヨウ素が，高温中に管壁に付着したタングステン分子と結合して，蒸発しやすいヨウ化タングステンとなり，管壁からフィラメント近傍に移動，その高温でヨウ素とタングステンに分解し，タングステン分子は再びフィラメントに付着し，ヨウ素はまた管壁に移るといったヨウ素サイクルを形成する。このように，電



ヨウ素電球　ヨウ素サイクルの説明図

球内容積が1／100以下と小さく，明るさの低下がなく，かつ２倍の寿命が得られ，投光照明に広く用いられてきた。なお，最近臭素封入の片口金ハロゲン電球100Ｖ100～1,000Ｗが開発され，ますます点光源としての特性が生かされるようになってきた。〔伊東　孝〕

ようそでんぷんはんのう【沃素澱粉反応】 デンプンがヨウ素によって冷時青紫色を呈する現象。きわめて鋭敏な呈色反応である。微量のヨウ素またはデンプンの検出に用いられ，特にヨウ素滴定法ではデンプン試液を終点指示薬として用いる。加熱すると色は消失し，冷却すると再び呈色する。デンプンの種類によって多少異なり，おもに直鎖状構造からなるアミロースは青色，分枝構造の多いアミロペクチンは赤色を呈する。D-グルコース連鎖の長さ，すなわち分子量によっても呈色は変化する。低分子量になるにしたがって青・紫・赤と変わり，D-グルコースの六個連鎖以下では無色となる。この呈色機構は完全には解明されていないが，D-グルコース分子六個を一巻きとするらせん構造のデンプン分子に，ヨウ素分子が包摂されることによると考えられている。〔石戸良治・荒木洋之助〕

ようだい【煬帝】 (569～618) 中国，隋(ずい)の第２代皇帝。文帝楊堅*(ようけん)の第２子で，名は広。581年隋の建国とともに晋王(しんおう)となり，589年に南朝の陳を平定した。604年即位ののちは内政・外交とも積極策をとった。江都(揚州)の建設，洛陽(らくよう)城の修築，大運河の開削に数百万人の成人男子を徴発して完成させたことは特に有名。対外的には西域や東南アジア諸国を征服し，607年に聖徳(しょうとく)太子が派遣した小野妹子(おののいもこ)を迎えている。しかし，611年から３度にわたる高句麗(こうくり)遠征に失敗，農民反乱が続発し，江都で臣下の宇文化及に殺された。なお，即位の事情をめぐって，兄の皇太子をおとしいれてこれに代わり，次いで文帝を謀殺したという定説があるが，近年これを否定する説もある。〔勝村哲也〕

ようちえん【幼稚園】 幼児集団を対象とする教育機関の一。それは，保育とよばれているように，幼児に適当な環境を与えて，これを保護・育成するのであるが，日常の生活習慣の形成と同時に，ことばや数の概念形成，体育・自然や社会についての初歩的な観察と知識の教育，また造形や音楽の指導などの就学前の準備的な教育機能をも有している。幼稚園の創設は1837年ドイツのブランケンブルクにおけるフレーベル*のそれに始まるが，世界的に普及したのは1860年前後で，保育・指導方法の違い・特色から，①フレーベル式幼稚園，②モンテッソリ*式幼稚園，③進歩的幼稚園の三つの流派が生まれた。わが国の場合は，一般に，1875年(明治８)京都市柳池小学校内に設けられた〈幼稚遊戯場〉にその起源をたどりうる。しかし，すでに1872年の〈学制*〉に幼稚小学の名称はあがっていた。さらに，1900年には〈幼稚園保育及び設備規定〉，1926年(大正15)の〈幼稚園令〉を経て，それは一定の水準に達していたとみられるが，実質的には，その対象は都市を中心とする有産階級・知識人層の子どもに限られ，内容的には，就学前の準備教育の傾向の強いものであった。1947年(昭和22)の〈学校教育法〉によって，いわゆる民主教育体制のもとで，幼稚園も学校制度の一部となり，広く社会に開かれたものになった。しかし，小学校への入学準備教育の傾向は払拭(ふっしょく)されたわけではなく，その独自性を，理論的にも実践的にも，主張できるまでにはなっていない。ただ，働く主婦の家庭教育の代行としての託児所が保育園となって，その影響で，幼稚園の保育園化が進み(同時にその逆もみられる)，就学前教育としての幼稚園の独自性が主張される一方，幼稚園，あるいは保育園における教育と小学校低学年のそれとを一括して行なう幼年教育*の提唱もみられるに至った。現在，この幼年教育はごく一部でしか実践されてはいないが，これからの幼稚園教育のあり方に対する質的転換を要請するものと考えられている。〔河口道朗〕

ようちさんぎょうほごろん【幼稚産業保護論】 天然資源・立地・人口・経済的資源などについて潜在的優位を有しているが，現在は資本不足，労働の質の悪さ，技術の低水準によって発達が妨げられている産業を，保護関税*を課し輸入品を減少させることをはじめとする諸政策によって保護育成しようというもので，保護貿易*主義の一つの根拠になっている。代表的論者としては，A.ハミルトン・F.リスト*・セー*・シジウィクらがいる。〔唐木圀和〕

ようちゅう【幼虫】 狭義には完全変態をする内翅(ないし)類こん虫の幼生のことをいい，青虫・ぼうふら・地虫・うじ・いも虫などが含まれる。不完全変態の外翅類こん虫であるバッタ・トンボなどや，変態しない無翅類の場合はその幼生を若虫と特によんで区別することもあるが，広義の幼虫

に含めることもある。英語ではlarvaで，幼生と幼虫の区別はない。若虫はnymphという。

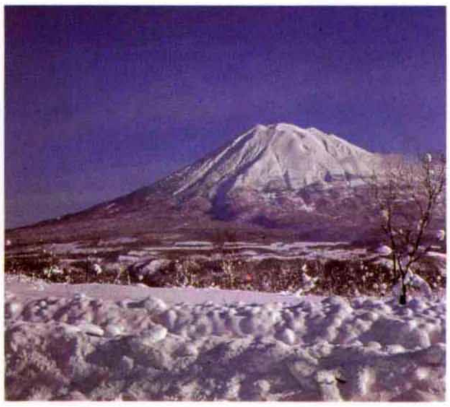
ようついせんし【腰椎穿刺】 脊髄(せきずい)のクモ膜下腔(かこう)に針をさし込み，脳脊髄液の採取や圧測定，薬剤注入などを行なうこと。患者を側位に横臥(おうが)させ，さらに両脚を曲げ腹部に接するようにして脊髄を強く屈曲させ，第3～第4腰椎を穿刺する。特に神経系統の疾患の診断に役だつ。薬剤注入ではビタミン剤・抗生物質・造影剤などが用いられる。

ようつう【腰痛】 腰部の痛みの総称。腰痛の原因疾患は全身病である糖尿病・慢性鉛中毒・水銀中毒・ヒステリーなどや，胆石症(たんせきしょう)・胃潰瘍(いかいよう)・十二指腸潰瘍・癌(がん)・子宮後屈・腎結石(じんけっせき)などの内臓器疾患でも起こるが，一般には脊椎(せきつい)疾患・脊髄疾患による場合(変形性脊椎症・脊椎分離辷(すべ)り症・椎間板ヘルニア・脊椎カリエス・限局性癒着性(ゆちゃくせい)脊髄膜炎など)が最も多い。腰筋膜炎は捻挫(ねんざ)でも起こり，かぜのときにウイルス性の炎症が起こって腰痛を訴えることもある。それぞれ治療法は異なるが，一般に原因療法とともに抗神経剤の投与や理学療法を行なう。〔山中英夫〕

ようていざん【羊蹄山】 北海道南西部，倶知安(くっちゃん)町南東にある成層火山。南東の尻別岳(しりべつだけ)(1,107m)を前方羊蹄山というのに対して後方羊蹄山といい，マッカリヌプリ・蝦夷(えぞ)富士ともいう。標高1,893m。完全な独立峰で，山容は端麗で美しく侵食もあまり進んでいない。頂上に径約300mの火口があり付近には高山植物が生育し，山体はエゾマツ・トドマツにおおわれる。登山口には，倶知安口・比羅夫(ひらふ)口・真狩別口などがある。支笏洞爺(しこつとうや)国立公園に属す。〔高野 繁〕

ようでんし【陽電子】 電子の反粒子。ポジトロンともいう。電子とは逆符号の正の荷電をもち，スピンは½，質量は電子の質量と同じである。電子と衝突すると光子を放出して消滅する。1931年P.A.M.ディラック*によりその存在が予言され，翌年C.D.アンダーソン*の実験で宇宙線中に発見された。これは反粒子とよばれるものの最初の発見である。陽電子は電子と電気的に互いに引き合い，電子・陽電子からなる不安定な結合系をつくることができる。このような結合系はポジトロニウムとよばれる。〔大貫義郎〕

ようとん【養豚】 ブタを飼育し，食用その他の人間生活に役だてること。わが国の食肉消費の約半分は，今日では豚肉によって占められているが，明治時代中期までは，長崎での中国人向けの飼育や，南九州での沖縄渡来の黒豚の飼育が見られる程度であった。明治中期以後，関東・東海地方で，畑作農家に普及しはじめ，第2次世界



羊蹄山 雄大な裾野を長く引いてそびえ立つ冬の羊蹄山。雪におおわれた山ひだが陽光を浴びてくっきりと浮かび上がっている

大戦前にはニワトリとともに戦前の畜産を代表するまでになった。ブタは濃厚飼料を多食する家畜であり，飼料事情の悪化した1946年(昭和21)には，明治中期の水準にまで縮小したが，国民所得の向上と食習慣の変化に伴い，1953年には戦前の最高水準にまで回復し，また1963年ごろからは飼育戸数が減少する一方，飼育頭数が増加し，いわゆる多頭飼育・専業化の方向に進みつつある。近年における養豚の技術面での特徴は，品種の変化である。1963年ごろまではほとんど中ヨークシャー種の純粋種であったが，このころから各種の品種間の一代雑種の利用が盛んとなった。これは，従来おもに料理用であった豚肉に対して，加工用の需要が増加し，ハム・ベーコン部分の多い大形品種の飼育が好まれだしたことと，大形種との一代雑種の成長が早いことがわかったためである。ブタの特徴は，1年に2回は分娩(ぶんべん)し，かつ，産子数が多いので，親の遺伝的能力が早期にわかりやすく，かつ，養鶏のように分業化していないため，繁殖しつつ育種できる点である。同時に肥育の良否が子畜の良否により左右されやすく，病気予防の点などから，繁殖・肥育をともに行なう一貫経営が有利で，養豚で成功している経営には，この型のものが多い。一方，養豚の多頭化・専業化のための障害の一つは糞尿(ふんにょう)の処理である。ブタ1頭の糞尿はほぼヒトの20人分に相当し，その処理施設には多額の費用を要するために経営上の重要問題となっている。〔森田琢磨〕

ようにん【遙任】 在京のまま国司(地方官)に任命すること，またはその人をさし，また国司に任じられても赴任しないこと，またはその人をいう。律令(りつりょう)制では，国司にさまざまな経済的特権を与えたが，律令政治の衰退とともに貴族の間に国司の任を望む傾向が強まった。彼らは収入だけを目的としたため，中央にとどまって現地に赴任しない者も多かった。この場合，地方の国衙(こくが)には代官(目代*)が派遣され，国衙領はさながら国司在任中の荘園*(しょうえん)と化した。このため国司の任は売官*・成功(じょうごう)のおもな対象となり，こうして地方政治はいよいよ乱れ，律令制の崩壊は決定的となった。➔受領〔黛 弘道〕

ようねんき【幼年期】 ⇨幼児期

ようねんきょういく【幼年教育】 幼稚園の4～5歳児と小学校低学年の6～7歳児，つまり低学年期・幼稚園期・保育期を一括して幼年期としてとらえ，この発達段階期に適応した独自性をもつ教育の構想をいう。

幼年教育の構想は，1952年(昭和27)の日本教職員組合の教育研究集会第2回全国大会において，育児・保育・幼児教育のほかに小学校の低学年2年間を加え，それを社会の教育的行為の基底として，一つの単位として，確立しようとする考えのもとに，つまり4歳から7歳までの成長段階の一区画を一つの教育でまとめる，という形で提唱された。それは，小学校をただ一つの尺度として幼年者の教育を考えるという，これまで自主性に乏しい，動きのない教育観への決別であり，当時の高揚した民主教育運動の一つの成果とみることもできる。そして，その骨格は以下のようなものであった。①幼児の身体的・精神的発達の段階の実態に立ってみるとき，幼年期の教育はきわめて重要な意味をもつ。②幼年教育は，幼児指導とか保育とかではなく，一個の独立した教育でなければならない。③幼年教育は，小学校への入学準備教育ではない。④幼年教育は，幼児が生まれながらにもっている人間の心の自由・独立あるいは善意などの素質を引き出し守っていくものである。そして，これは平和教育の根底につながりをもっている。⑤幼年教育の効果は，その教育期間にあるいはその直後にすぐ現われるものではない。人間形成の過程でおのずから現われてくるものである。⑥幼年教育の立場から，幼稚園と保育所はおのおのの設立の目的に基づいて拡充されなければならない。このような，幼年教育の提唱は，少なからず従来の教育行政・保育行政に対する批判を含んでおり，就学前教育の建てなおしを意味する。したがって，それは，政治・経済・社会・思想・文化など全般にわたる市民的・社会的な運動と根本において結びついているといえよう。〔河口道朗〕

ようばんり【楊万里】 (1124～1206) 中国，南宋(なんそう)の詩人。誠斎と号した。はじめ，江西詩派*の詩風を学んだが，のちそれを捨てて独自の風格をつくり出した。中でも自然の風物を描いた作品にすぐれたものが多く，社会生活の現象は，その詩の世界では自然の風物の飾りになっていると評されるほどである。尤袤(ゆうぼう)(1127～1194)，范成大*(はんせいだい)・陸游*(りくゆう)らととも

に南宋〈中興四大詩人〉といわれている。

ようひし 【羊皮紙】 ⇨パーチメント

ようふく 【洋服】 和服*に対するもので，西洋服の略称。特に明治時代に欧米諸国から移入されて，しだいにわが国の日常生活に定着した服装。男子服・婦人服・子ども服があり，用途によって平服をはじめ礼服*・制服*など，多くの種類がある。

〔歴史〕16世紀中ごろヨーロッパとの交通が開かれて，キリスト教宣教師や貿易商人が来航し，この外来の服装が南蛮風俗や宗教服として一部の者に着用された。しかし江戸幕府の鎖国により，ヨーロッパ人の渡来がとだえ，洋服への関心も薄れた。当時着用された合羽*(かっぱ)は南蛮服の機能を和装に取り入れたものである。江戸末期には再びヨーロッパとの交流が行なわれ，西洋文明とともに洋装も流入してきた。まず幕末に軍隊がはじめて軍服として洋服を取り入れ，これを戎服(じゅうふく)とよび，また官服や一般勤務服なども洋服に定められた。さらに洋風の髪形をつくる散髪屋が開業し，こうもりがさ・とんび・くつなどの洋装品が出回り始めた。はじめ女性の洋装化には社会的抵抗がかなり強かったが，鹿鳴館(ろくめいかん)が基点となって，貴族・上流階級の女性からまず洋装が取り入れられ，社交服として豪華なデザインの高価な洋服が着られた。また一方では婦人の労働服として看護婦服が採用され，民間では女子師範学校の制服が洋装化されたり，大きな呉服屋が外国人を雇って洋服仕立てをしたりして，洋服の普及が進んだ。

大正時代には，女性の生活は家庭内にとどまらず，男性と同様な社会生活も営むようになってきた。そこで和服の欠点が指摘され，衣服の改良運動が起こり，服装は合理的・機能的に改善され，特に職業婦人への洋装の進出はめざましかった。関東大震災後には，道路の舗装も進んで，げたからくつへの移行も始まった。1931年(昭和６)白木屋の火災事件を契機として，近代的な高層建築の中で働く人々の洋装化が叫ばれ，一般日常着にも洋服が普及した。このため特に女性は伝統的な和装と洋装との二重生活が始まり，このころから断髪にパーマネント姿が広がり始めた。男子の洋服は勤務服としては大正時代になってから普及したが，商人は依然として和服姿が多かった。第２次世界大戦中は男女の日常服も変わり，国家統制のもとにほとんどが国防服・国民服・標準服となり，婦人は，もんぺ*やズボン姿が多かった。

〔今日の洋服〕大戦後はアメリカ文化が流入し，服装をはじめとして生活のあらゆる面に洋風化が進んだ。労働着として取り入れた洋服は日常着として定着し，今日では完全にわが国の服装として同化している。しかし，大戦直後は衣料不足のため，和服地などからの更生服が多かった。やがて洋裁学校も盛んにつくられ，またディオール*がニュールックとして発表したロングスカートが流行したり，職業的モデルが登場し，同時にファッションショー*も盛んに催されたりして，流行を多くの人に伝えるようになった。このように1953～1955年ごろには，アメリカに代わってヨーロッパ，特にフランスのモードが導入されるようになった。すなわちＨライン・Ａライン・Ｙラインなどのシルエットをもつ一連のいわゆるアルファベットラインが次々と紹介され，日本の洋装界も大いにその感化を受けた。最近では1962年フランスのクレージュやイギリスのマリークアントのミニスタイルの革命的なドレスなど，画期的な流行として若い人々に取り入れられている。さらに技術指導の海外交流などがあり，技術・研究面にも著しい進歩がみられ，特に女子一般の洋装の進展はめざましく，自由に各自の生活環境にふさわしい服装を取り入れるようになった。また繊維産業の発達に伴って各種合成繊維が開発されて衣服面へ導入されている。今日では高級な服装が求められると同時に，その反面，ますます即時性も要求されて，既製服の多量の需要も生じている。現代の洋服は，身分・階級などを越えて，世界各国の人々に平等に着用され，世界共通の服装となっている。今後は変転する生活に適応するように，さらに機能的で活動的なライトウエアが好まれ，要求されるであろう。また交通機関・情報組織の発達によって，洋装界も他の分野と同様に各国との距離はせばめられ，欧米諸国の流行は直ちに世界じゅうに広がっていく。しかし単なる導入・模倣のみで終わることなく，日本人の服装として独自に消化することが必要であろう。 〔小池千枝〕

ようふようせつ 【用不用説】 ラマルク*が唱えた生物進化に関する学説で，獲得形質や用不用の影響が遺伝されるという考え方。よく運動をして強い筋肉の発達した動物は，子どもも強い筋肉をもち，使われなかった器官は萎縮(いしゅく)して次代には小さくなるというような前進的な進化の起こることが期待される。ラマルクの用不用説が長い間支持されたのは，動物や植物の適応を説明するのにつごうがよかったからである。しかし，過去50年間に行なわれた数多くの実験の結果は，例外なく獲得形質の遺伝を否定するものであった。この説の難点は，表現型が目的に合うように生殖細胞を変えていく生理的な機構などが考えられないことである。 〔北川　修〕

ようへき 【擁壁】 山を切り取った部分や，道路や鉄道の築堤のように土を盛った面がくずれないように，その前面に石を積んだりコンクリート造や鉄筋コンクリート造の壁をつくって，土をささえる構造物。川の護岸や海岸線の防潮堤，橋梁(きょうりょう)の橋台などは擁壁の役目も兼ねている。

ようほう 【養蜂】 ミツバチを飼って，蜂蜜(はちみつ)・蜜蠟(みつろう)・王乳(ローヤルゼリー)を生産したり，果樹・牧草などの花粉媒介に利用する産業。巣箱の中に10～30枚程度の巣板を入れて飼う場合が多い。日本で重要な蜜源植物は，アブラナ・レンゲ・ミカン・ニセアカシア・トチノキ・シナノキ・ハギ・ソバなどで，外国ではクローバー・アルファルファ・ユーカリなどである。世界で最も多く飼われているミツバチはヨーロッパ種のイタリアン・カーニオラン・コーカシアンなどで，ソ連で約1,000万群，アメリカ合衆国で約500万群，日本では約20数万群が飼われている。１群のミツバチから１年間にとれる蜂蜜の量は５～200kg，蜜蠟は１kg内外，ローヤルゼリー0.5kg程度である。ミツバチを同じ場所で飼うものを定地養蜂，花を追って移動するのを移動養蜂とよぶ。日本のように気候や花が南北によって非常に違う国では移動養蜂が盛んである。花の多い流蜜期には，巣板に蜜が多くたまるので，まず巣板から蜂を払い落とし，蜜分離器にかけて蜜を採取する。春の繁殖期には次代の新女王蜂が生まれ，親の女王蜂は半数近くの働き蜂とともに巣から飛び出し，巣分かれ(分封)をし，新しく営巣する。分封のときには働き蜂が空中を乱れ飛ぶが，多くは20分くらいで木の枝などに固まるので，分封群は容易に収容できる。➔ミツバチ 〔岡田一次〕

ようまく 【羊膜】 胚膜(はいまく)のうち最も胚に近い膜で，脊椎(せきつい)動物の羊膜類(爬虫(はちゅう)類・鳥類・哺乳(ほにゅう)類)にみられる。胚との腔所(こうしょ)を羊膜腔といい，羊水*で満たされて胚を保護している。発生的には胚の周辺の羊膜褶(ようまくしゅう)というひだが持ち上がって，胚の上で癒合(ゆごう)し，その部位の隔壁が消失して内外２層の膜となり，その内側の膜が羊膜に，外側が漿膜*(しょうまく)になる。のちに羊膜と漿膜の間に尿膜*が広がる。

ようみゃくせんい 【葉脈繊維】 細長い植物の葉のすじを採取した繊維の総称。マニラ麻・サイザル麻・ニュージーランド麻などがある。マニラ麻はバショウ科の植物の葉脈からとる繊維で，アバカとも称せられる。サイザル麻はヒガンバナ科の葉脈繊維，ニュージーランド麻はユリ科植物の葉脈繊維である。いずれもやや太く長く，粗剛，強力であり，ロープ・袋物・手芸品・帽体などに使われる。沖縄の芭蕉布(ばしょうふ)も，イトバショウの葉脈繊維からつくった織物で，かたく防暑衣料として適する。 〔小川安朗〕

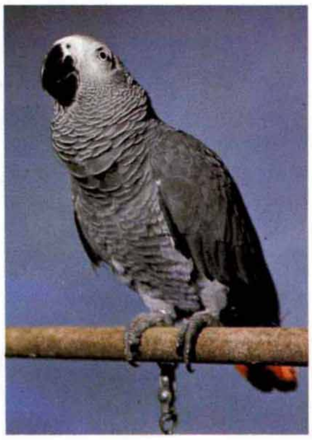
ようむ 【洋鵡】 鳥類・オウム科。カラス大で，物まねがうまいことで一般によく知られている。羽色は全体に灰色をしており，顔・腹部などでいくぶん淡い。くちばしを使って枝をよじのぼる。じょうぶで，飼いやすく人によくなれる。アフリカの熱

帯地方に広く分布し，おもに森林に大群で生活する。

ようむうんどう【洋務運動】 中国で，アロー戦争の敗北から日清(にっしん)戦争の敗北までの35年間に行なわれた富国強兵運動。これは，ヨーロッパ・アメリカ合衆国など列強の軍事的優位を認識した清朝支配階級が軍事工業を中心に機械技術の採用を図ったもので，初期には曾国藩(そうこくはん)・李鴻章(りこうしょう)・左宗棠(さそうとう)らがその主要なリーダーであった。1865年から1889年にかけて造船所・武器製造所・製鉄所など数多くの官営・官民合営企業が建設され，半植民地中国での資本主義的生産の発端ともなった。しかし，その最大の成果として誇示された北洋海軍が日清戦争で壊滅的打撃を受けたため，洋務運動は破産を宣告され，〈中体西用論〉に基づく洋務論に代わって，新たに政治制度の改革を要求する変法論が台頭するに至った。〔狭間直樹〕

ようめいがく【陽明学】 中国，明(みん)代の王陽明が唱えた儒教学説，またその学派。当時の正統学説であり，王陽明がそれに対する批判から出発したところの朱子学と，対立的に並称され，明末まで精神界に大きな力をもった。当時，朱子学は科挙の勉強の材料になってしまっていたし，またその主知的な理の学説自体が明の社会の拡大した矛盾をおおいきれなくなっていた。これに対して，王陽明は主観的な心の〈良知〉を起点とする知行合一説により，儒教の実践的活動力を回復しようとして心の学説を唱えたのである。この点で，陽明の学は宋(そう)の陸象山の心即理の説の系譜を継ぐものであり，陸王学という名も生まれている。心の良知とは道徳的主観で，ここを起点とする道徳は主体的・自発的でありえたが，一方それが儒教であるためには，道徳内容として，心の外にある経書の教えの理を前提にしている。学説のはらんでいたこの二元性が，陽明学の展開にしたがって多様な学派の分岐をもたらしたが，概していえば正統陽明学と王学左派とになる。正統派は道徳的虚無を警戒して経書の教えを尊重した。左派は道徳の他律性を拒否して良知の自発性を純粋に追求したが，そのため禅などに接近し，現実の教学としての儒教のわくを突破して，人間的自由の主張にまで先鋭化し，さらに行動にまで現われて，ついには権力による弾圧を受けるに至った。2派の分岐は王陽明の生存中にすでにみえるが，主要系譜をたどると，正統派は銭緒山から清(しん)初の黄宗羲(こうそうぎ)に至る現実派，左派は王龍溪(おうりゅうけい)から王心斎，さらに明末の獄死した李卓吾(りたくご)に至る徹底思想家らということになる。

日本でも江戸時代の思想界の一部を占めて，中江藤樹・熊沢蕃山(くまざわばんざん)・大塩平八郎の実践的儒者の思想となった。➔中国哲学〔西 順蔵〕



ヨウム

ようめいてんのう【用明天皇】（？～587） 在位585～587年。欽明(きんめい)天皇の皇子。母は蘇我稲目(そがのいなめ)の娘堅塩媛(きたしひめ)。諱(いみな)は橘豊日(たちばなのとよひ)。仏教の信仰を表明した最初の天皇。しかし，そのため蘇我氏と物部(もののべ)氏に代表される崇仏・排仏両派の争いはさらに激化した。皇后間人(はしひと)皇女との間に生まれた皇子が聖徳(しょうとく)太子である。陵墓は大阪府南河内(みなみかわち)郡の磯長(しなが)中陵。

ようめんさんぷ【葉面散布】 農薬（殺菌剤・殺虫剤）や肥料を作物の葉面に散布すること。一般には後者の場合を意味し，根の養分吸収力の衰えなどを補うため，葉から直接作物体に吸収させようとするものである。窒素肥料として尿素を展着剤とともに用いることが多く，その0.5％ぐらいの溶液を果樹・蔬菜(そさい)あるいはバラのような花木に散布すると肥効を現わす。このほかリン酸肥料としてのリン酸アンモニウムや，鉄・亜鉛などの微量要素を施す場合もある。〔深谷昌次〕

ようもう【羊毛】 緬羊(めんよう)の獣毛。年1回春期に冬毛を刈り取る。原毛は脂付(やにつき)羊毛といわれ，脂肪・土砂・植物細片が付着している。原毛を工場で洗ったものを洗い上げ羊毛といい，約半量の純毛となる。1頭の緬羊からおよそ2～5kgの羊毛がとれる。羊毛の種類は緬羊の種類によって種々あり，量も細く，やや短いメリノー羊毛，やや太く長いリンカーン羊毛・レスター羊毛，これら短毛種と長毛種の交配による雑種羊毛などがある。主産地はオーストラリアで，ニュージーランドがこれに次ぎ，そのほかヨーロッパ各国，南アメリカ・南アフリカに産する。羊毛の長さは，メリノー羊毛5～8cm，リンカーン羊毛20～30cm，太さは前者15 μ内外，後者40 μくらいである。表面に鱗片(りんぺん)状のスケールがあり，螺旋(らせん)状の縮れ（捲縮(けんしゅく)・クリンプ）がある。羊毛は強さは大ではないが伸びは大きく，弾力に富み，吸湿性は大で，酸には抵抗力があるがアルカリには弱い。せっけん液などをつけてもむと，フェルトする特性がある。またアイロンがけによって一定の形を保つ。毛を食う虫に食害される。羊毛は毛糸・毛織物・毛メリヤスなどにつくられ，柔軟で弾力があり，かさ高く軽い製品となり，保温性に富むため，装飾的な衣料や防寒的な被服類に利用される。わが国では，明治以後になって毛織物工業が興り羊毛製品が一般に普及した。ただし国内では羊毛の生産はきわめて小量で，大部分はオーストラリア・ニュージーランドなどから輸入している。〔小川安朗〕

ようもうざい【養毛剤】 頭髪の発毛・発育を促すための薬剤（毛はえ薬）・化粧料。一般にアルコール分・オリーブ油などに，カンタリスチンキ・女性ホルモン・ビタミン類を添加したもので，オーデキニーネ・ヘアトニック・ヘアクリームなどがある。

ようゆう【揚雄】（BC53～AD18） 中国，前漢末の学者で文章家。字(あざな)は子雲。揚子ともいう。四川省成都の出身。賦にすぐれ司馬相如と並んで〈揚馬〉と称され，《甘泉の賦》《羽猟の賦》などの美文を残す。また，《論語》に擬して《法言》13巻を，《易》に擬して《太玄経》10巻をつくった。のち王莽(おうもう)に仕えたので，宋(そう)以後の儒学者には無節操な人物として評判が悪い。

ようゆうえんでんかい【溶融塩電解】 金属の電解製錬法の一。酸化物または水酸化物の溶融塩を電解して金属を得る。塩化物・フッ化物，あるいは両種の混合物が用いられる場合が多い。アルカリ金属・アルカリ土類金属・希土類元素，およびアルミニウムなどに用いられる。製錬にあたっては，電解質と析出金属の比重に差があるようにして分離しやすくしたり，また電解質の融点を下げて析出金属の蒸発を防いでいる。

ようらくくらげ【瓔珞水母】 腔腸(こうちょう)動物・ヒドロ虫綱・クダクラゲ目・ヨウラククラゲ科。体幹は細長い円筒状となる。泳鐘部は左右交互に2列をなして並び，幾何学的模様をつくる。幹には保護葉と感触体があり，さらに栄養体・触手・生殖体などもみられる。触手は伸長して，外に長くたれる。瓔珞は仏教用語で，珠玉や貴金属で編んだ装飾具のことをいい，この動物のつくりが精巧な作り物のようであることからこの名まえがつけられた。日本の太平洋岸では普通に見られる。

ようりくかんてい【揚陸艦艇】 上陸作戦に必要な各種の任務を行なう艦艇。第2次世界大戦以来重要視されてきた艦種で，兵力の展開，輸送や水陸両面作戦を迅速かつ効果的に行なうため特殊な構造・性能をもつ。特に海外に多くの基地をもち，兵力の迅速な移動と集中を必要とするアメリカ合衆国での発達が著しい。種類は，ヘリコプターで兵員を揚陸させる強襲揚陸艦（LPH），上陸用舟艇や輸送ヘリコプターを搭載(とうさい)した揚陸輸送艦（LPD），戦車・車両・兵員を直接上陸させるLST・LSM・

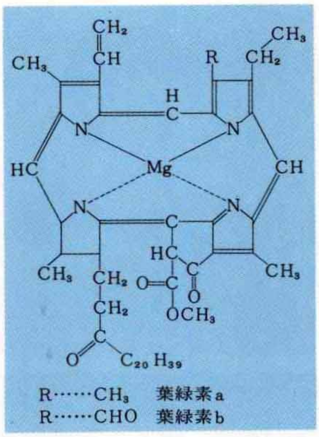
LCU，これらを指揮する揚陸指揮艦などがある。〔藤井冬木〕

ようりょう　**【容量】**　⇨静電容量

ようりょうぶんせき　**【容量分析】**　化学分析による定量分析法の一。あらかじめ精密に濃度を測定してある標準溶液を用いて滴定操作を行ない，反応終結点までに要した標準溶液の容積(体積)を測定し，当量関係から試料溶液中の成分量を決定する。標準溶液としては正確に秤量(ひょうりょう)した標準試薬を一定の方法によって調製した，限定されたものが用いられる場合が多く，一般には数回にわたって標定をくり返し精度を高める。この際，希釈・調製に用いる蒸留水も十分に煮沸したのち冷却したものを使用する。容量分析に利用される反応にはいろいろなものがあるが，反応速度が十分に大きく，反応が定量的に進行して副反応を伴わず，反応終結点が明瞭(めいりょう)にわかる溶液反応が用いられ，どのような反応を用いるかによって中和滴定，沈殿および錯(さく)イオン生成滴定，酸化還元滴定の三つに大別される。反応の終点は指示薬あるいは溶液自身の色の変化，または電気伝導度や電位などによる電気的方法などで知る。容量分析は重量分析に比べて操作が簡単でかつ迅速なため，工業分析などに広く用いられている。〔吉村二郎〕

ようりょくそ　**【葉緑素】**　クロロフィルともいう。植物が光合成を行なう基本単位である葉緑体*中に含まれ，植物が空気中の炭酸ガスを有機物に転化するのに要する光のエネルギーを，吸収捕捉(ほそく)するために不可欠な色素である。葉緑素は，動物におけるヘモグロビンの色素部分と同じ系統のピロール色素であり，葉緑体中ではヘモグロビンと同様に一種のタンパク質と結合している。この色素タンパク質はフィロクリンとよばれるが，葉から浸出するとこの結合は離れて葉緑素のみが得られる。葉から抽出した葉緑素は，クロマトグラフィーや溶剤による分別で2種に分けられる。つまり青緑色の葉緑素 a($C_{55}H_{72}O_5N_4Mg$)と黄緑色の葉緑素 b($C_{55}H_{70}O_6N_4Mg$)であり，高等植物ではふつう 3：1の比率で含まれている。葉緑素分子は4個のピロール核が炭素によって環状に結合したポルフィリンとよばれる構造をもち，その中心に1個のマグネシウム原子が存在する。それぞれのピロール核には側鎖がついているが，そのうちの一つにフィトールとよばれる炭素数20個の長い鎖状のアルコール基が結合している。葉緑素 a ではピロール核についた側鎖の一つがメチル基($-CH_3$)であり，葉緑素 b ではそれがアルデヒド基($-CHO$)になっているという相違がある。なお，被子植物を暗所で生長させると，その幼植物は一般に白色ないし黄白色となる。この状態では植物中には葉緑素の前駆(ぜんく)物質であるプロトクロロフィルが存在している。これは葉緑素のピロール環の水素原子が2個欠けた構造をもち，光をあてると還元を受けて数分内に葉緑素 a に変えられる。そして次々と後続の葉緑素もつくられて植物体は緑色を呈するようになる。〔南川隆雄〕

葉緑素



ようりょくたい　**【葉緑体】**　おもに植物葉の柔組織の細胞質に存在し，光合成*の行なわれる基本的な構造単位である。葉緑体は葉緑素*のほかカロチノイド*を含む色素体で，ふつう緑色をしている。通常その大きさは3～10 μ内外，外形は高等植物では球形・楕円(だえん)形・凸(とつ)レンズ形が多く，1個の細胞中に多数含まれている。藻類(そうるい)のような下等植物の葉緑体は種によって特異的な形状をしており，星形・板状・らせん状・網状のものがあって，1個の細胞中に1個ないし数個が存在する。一般に細胞中では葉緑体は葉緑体膜といわれる2枚の薄い膜で包まれており，その内部では葉緑素は他の色素やタンパク質・脂質とともにラメラという薄片状の基本構造をつくっている。このラメラはふつう数枚が重なった形をとっており，シダ植物以上の高等植物ではラメラが層状に密着して径1 μ前後の円筒状の緊密な堆積(たいせき)となっている。このラメラの堆積をグラナといい，葉緑体中に通常数十個含まれている。ここが光合成の明反応*を行なう主要な場である。グラナには葉緑素のほかに乾燥量として約40～50%のタンパク質，約30%の脂質，約1～2%のカロチノイド色素など種々の物質が含まれているが，このうちタンパク質はグラナ構造の骨組みをなしているほか，そのうちには光合成に関与する酵素群も含まれている。ラメラ構造の間隙(かんげき)を満たしている部分はストロマといい，この中には核タンパク質や炭酸固定反応に関与する酵素を含む顆粒(かりゅう)，同化されたデンプン粒などが散在している。〔南川隆雄〕

ようりん　**【溶燐】**　⇨溶成燐肥

ようれんきん　**【溶連菌】**　溶血性連鎖球菌ともいう。顕微鏡下で連鎖状を呈する連鎖球菌のうち，血液寒天上に培養した場合に，透明な溶血環に囲まれた集落をつくるものの総称で，連鎖は多く8個以上と比較的長い。液体培地中では沈殿して発育する。球菌は径0.5～1.0 μで，グラム陽性，運動性を欠く。新鮮分離株には莢膜(きょうまく)があり，菌体多糖体の抗原性で群に，莢膜のタンパク質(Mタンパク)の沈降反応や殺菌反応で型に分ける。A群はヒト，B群はウシ，C群はヒトその他の動物から分離されることが多い。特にA群は化膿(かのう)性疾患のほか，猩紅熱*(しょうこうねつ)を起こし，また，リウマチ・腎炎(じんえん)の原因の一つともなる。近年，心臓その他の臓器と溶連菌を構成する物質の間に抗原的な共通性が見いだされ，自己免疫病との関係を論じられるようになった。〔和気　朗〕

ようろ　**【窯炉】**　目的物を加熱するための工業用装置。炉と窯(かま)に大別する場合もあるが，両者の区別は厳密ではなく，単に炉ということも多い。耐火物を張った内部空間に熱を供給する形式が普通であるが，さまざまの工業分野で発達したため，各種のものがある。熱源によって分類すると，石炭窯(がま)・ガス炉・重油炉・電気炉さらに特殊なものとして太陽炉・アークイメージ炉などがある。石炭窯・ガス炉・重油炉などは燃料の燃焼熱で加熱する形式で，一般に燃焼装置・燃焼室・加熱室・煙道・煙突からなり，煙道の一部に蓄熱室などの熱回収装置をつけて熱効率の向上を図る場合が多い。伝熱方式による分類では，直火式窯・マッフル炉(被熱物に炎や燃焼ガスが直接に触れない)，形状による分類では，角窯・丸窯・立て窯・輪窯・トンネル窯・平炉・反射炉・転炉・回転炉など。また用途によって融解炉・焙焼炉(ばいしょうろ)・煆焼炉(かしょうろ)・溶鉱炉・熱風炉・均熱炉・焼結炉などに分けられる。〔川久保正一郎〕

ようろう　**【養老(町)】**　岐阜県南西部，養老郡の町。人口31,000。町域は養老山地北部の東斜面とその山麓(さんろく)の扇状地を占める。1954年(昭和29)高田町を中心に8村が合併して発足した。養老滝*で名高い養老公園があり，訪れる観光客が多い。近畿(きんき)日本鉄道養老線が通じる。繊維・運動具・酒造などの工業もみられる。

ようろういん　**【養老院】**　⇨老人ホーム

ようろうのたき　**【養老滝】**　岐阜県養老郡養老町，養老山地北部の東斜面にかかる滝。高さ約32m，幅約4m。滝の前には養老神社があり，境内には孝子源丞内(げんじょうない)の伝説で知られる掬水泉(きくすいせん)がある。付近一帯は養老公園に指定され，また眺望(ちょうぼう)にもすぐれることから多くの観光客を集める。

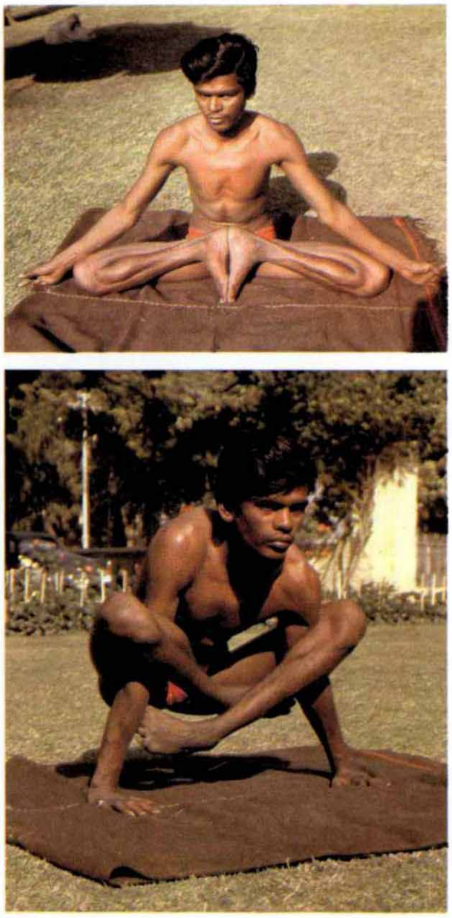
ようろうほけん　**【養老保険】**　被保険者すなわち保険の対象となる者が，保険期間中に死亡したとき，または満期まで生存したときに保険金が支払われる保険。死亡保険と生存保険を組み合わせたもので，生死混合保険ともいわれる。わが国では，現在でも生命保険の大部分はこの形態をとって

いるが，諸外国ではこの保険は比較的少ない。

ようろうりつりょう【養老律令】718年(養老2)藤原不比等*(ふひと)を総裁として編まれた古代国家の基本法典。律*・令*各10巻。701年(大宝1)の大宝律令*を部分的に改訂し，条文に多少の増減を施したもので，根本的な差違はない。大宝律令編纂(へんさん)総裁が忍壁(おさかべ)親王*であったことに不満の不比等が，中国で皇帝の代替わりごとに律令がつくりなおされるのにならい，律令編纂の功をねらったのが養老律令作成の動機であろう。それゆえに実質的な改訂はほとんどなく，その施行も彼の孫仲麻呂(なかまろ)が祖父顕彰を図った結果で，作成時より実に40年ものちの757年(天平宝字1)のことであった。今日，律はごく一部が，令は大部分が残存している。〔黛　弘道〕

ヨーガ［Yoga］神秘的境地に到達するために，古来インドで行なわれる修行法，およびその実践によって解脱に達することを教える哲学学派の名。瑜伽(ゆが)と音訳される。その起源はおそらくＢＣ2000年を中心に栄えたインダス文明時代の原住民の中に求められる。体系が成立したのは後代のことであり，この学派の根本経典《ヨーガ-スートラ》は400～450年ごろ現形のように編纂(へんさん)されたと推定され，開祖はパタンジャリとされる。仏教の影響も認められるが，形而上学(けいじじょうがく)に関しては，有神論の立場に立つ点を除いて，姉妹学派サーンキヤ派とほぼ同じである。その特徴はヨーガの実修を強調する点にある。ヨーガとは〈心の作用の止滅〉と定義され，実践の基本は，倫理的諸訓練から心を集中して三昧(さんまい)に至る次のような８段階の実修法にある。①不殺生・真実・不盗・不淫(ふいん)・無所有を要求する制戒。②内外の清浄・満足・苦行・学習・最高神に専念することを内容とする内制。③身体を不動にする坐法(ざほう)。④呼吸を整える調息。⑤感官を対象から離す制感。⑥心を一か所に集中する総持。⑦念ずる対象と観念が一致する静慮。⑧対象のみが輝く三昧。三昧には対象の意識を伴う有想三昧と対象の意識を伴わず心作用がまったく滅した無想三昧の区別があり，後者が真のヨーガとされる。この境地は，インド哲学*の諸学派の説く解脱の境地とほぼ一致するので，諸学派はこれを実践法として採用している。ヨーガの実修者はヨーガ行者とよばれる。〔前田専学〕

ヨーカイ［Jókai Mór］(1825～1904)ハンガリーの小説家。コマーロムの生まれ。はじめ父の職業の弁護士を継ぐため幾つかの地方町で学生生活を送ったが，やがて文才を認められて文筆生活にはいった。1848～1849年の独立戦争に参加したが，敗戦後も盛んな文筆活動を行ない，多数の長編を書いて国民的な人気作家となった。また長く国会議員として政界にも活躍した。彼の



ヨーガ　心身の鍛練と平衡を保つ行法２種

作品は明るいロマンチシズムと巧みな話術を特色とし，その内容も社会小説・歴史小説など多種多様である。代表作には，19世紀のハンガリー社会を題材とした《ハンガリーの大尽》，《新地主》などの長編小説がある。〔徳永康元〕

よかつ【余割】三角関数*の一。コセカントともいう。記号 cosec は cosecant の略。平面上に直交座標を設け，原点を通り x 軸と角 θ をなす動径が，原点を中心として半径 r の円と交わる点の座標をＰ(x, y)とするときの比 y/r をいう。$\mathrm{cosec}\,\theta=y/r$ で表わす。

よかれん【予科練】かつての日本海軍飛行予科練習生の略。1929年(昭和4)以来，少年の飛行兵養成に努めていたが，1937年にさらに採用範囲を広げて，甲種練習生制度を設け，従来の練習生は乙種と改称した。ともに海軍航空機搭乗(とうじょう)幹部養成を目的とし，少年時代に技術を習得させるのをねらいとした。土浦海軍航空隊で２年半の教育を行ない，三等飛行兵曹(へいそう)として各隊に配属した。第２次世界大戦では，その優秀な技能を発揮し，大きな功績を立てた。〔森田　哲〕

よかわほうご【横川法語】源信*の撰述(せんじゅつ)になる書。1巻。念仏法語・法語ともいう。わずか491字の和文体の法語であるが，きわめて端的に迷える人の往生を述べ，妄念(もうねん)にとらわれた人であっても，本願の念仏を頼んで，志を深くしてつねに名号を唱えよと教えている。法然*や親鸞*(しんらん)の念仏の母体となった。

よぎ【夜着】掛けぶとんの一種で，綿を厚く入れた広袖(ひろそで)の長着形の寝具。古くは日常着ていた袿*(うちき)・小袖を掛けて寝たが，真綿を厚く入れたり，寸法を大きくしたりするようになり，夜具専用となった。近世以降はもめん綿を厚く入れ，15cm角の燧布(ひうちぬの)を袖下・袖付けに縫い付けて，平らに開きやすくしたり，袖口・裾(すそ)・衿先(えりさき)にふきを太く出し，特に背入れ夜着といって背縫いに並み幅の半幅を加えて，幅広くし，全体に大きく仕立てるものもあり，大夜着・中夜着・小夜着・掻巻*(かいまき)の種類があった。肩あてに美しい友禅裂(ゆうぜんぎれ)を使い，掛け衿に黒・紺などのビロードをつける。近年，仕立てと材料を多く要するので，すたれた。➔ふとん〔堀越すみ〕

よきん【預金】銀行その他の金融機関が預金者から資金を一定の期間預かる場合，その預けられた資金をいう。預金は全額が一時に払いもどされる場合はほとんどないので，金融機関はその一部を準備金として残し，他の部分を貸し出しや証券投資に振り向けることによって収益を得ることができる。金融機関の経営費用と利潤は，この貸し出しおよび証券投資による収益と預金者への支払い利息の差額である利ざやによって主として運営される。預金者が預金を預けるのは，それによって利子*ないしなんらかのサービスを得ることができるからである。通貨性の預金では利子が支払われないが，小切手振り出しの便宜があり，また貯蓄性の預金では原則として小切手振り出しの便宜は認められないが，利子が支払われる。また郵便貯金*も貯金という語を使用しているが内容は預金である。①当座預金：預金通貨の代表的なもの。要求払い預金ともよばれ，無利子であるが若干の手数料ないし無料で小切手振り出しが認められる。また金融機関との契約の範囲内で当座貸し越しが認められる。②普通預金：小切手振り出しはできないが，いつでも引き出せる通貨性の預金。③通知預金*：国によってその条件は異なるが，わが国では預け入れ後１週間すえおきで，２日前の告知によって払いもどしできる。④定期預金：長期の貯蓄性預金。一定の期間払いもどさなければ所定の利子が支払われる。なお途中解約すると日割り計算で普通預金程度の利子が支払われる。その他，一定の金額を一定の期間にわたって逐次積み立てる定期積金，納税の目的で税法上優遇される納税準備預金，別段預金などがある。〔速水　保〕

よきんじゅんびりつ【預金準備率】預金支払い準備率・現金準備率ともいう。金融機関が，その債務である預金の払いもど

し請求に応ずるための準備として保有する現金を預金準備，または現金準備といい，預金準備の預金に対する割合を預金準備率という。この場合現金とは，金融機関の手もと現金だけでなく，金融機関の中央銀行預け金も算入するのが通例である。預金準備のうち法律でその保有が規定されている部分を法定準備，法定準備以上の部分を超過準備という。➔準備預金制度 〔速水 保〕

よきんつうか 【預金通貨】 銀行の当座預金・普通預金，一部の通知預金，振替預金，郵便局の通常郵便貯金・郵便振替貯金は交換手段としての機能をもつので預金通貨とよばれる。預金通貨は銀行券・政府通貨などの現金通貨に対して用いられることばで，現金通貨のように法貨としての債務の最終決済手段ではないが，現金通貨に容易に転換しうるのでそれ自身で交換手段の機能を果たす。なお，小切手は当座預金の移転を表わす手段にすぎず，通貨ではないとする立場が多い。現金通貨が実際には少額取引に用いられるのに対して，預金通貨は高額取引に用いられる。その理由は運搬および保管に便利であること，盗難による被害を小さくすることができること，当座貸し越しの便宜があることなどがあげられるが，取り立てや処理に手数がかかることなどが欠点である。 〔速水 保〕

よきんふうさ 【預金封鎖】 ⇨モラトリアム

ヨーク ［York］ イギリス，イングランド北東部ヨークシャーの中心都市。人口10万8,000(1969)。ハンバー川の支流ウーズ川に沿う起源の古い都市で，中世のおもかげをとどめる。古くはエボラクムとよばれ，ローマ領ブリタニア第1の都市であった。7世紀にはカンタベリーと並んで，ヨーロッパの宗教・学問の中心となったが，9世紀以降デンマーク人の侵入によって中心性を失った。ヨークシャー農業地帯の中心で，チョコレートやココアの製造，皮革・ガラスなどの工業が行なわれる。〔梶川勇作〕

ヨーク(半島) ［York］ オーストラリア北東部，北方に突出した半島。ヨーク岬(みさき)半島ともいう。北端にヨーク岬があり，トレス海峡を隔ててニューギニア島と対する。東岸にはグレート-バリアリーフ(大堡礁(だいほしょう))とよばれる大サンゴ礁が続き，西岸はカーペンタリア湾の湾入がある。半島東部寄りには，大陸東岸沿いに走る大分水嶺(だいぶんすいれい)山脈の北端が達している。なお，ヨーク岬の近くには木曜島があり，北西には真珠貝(➝シロチョウガイ)の宝庫であるアラフラ海が開け，かつては日本人漁夫が活躍した。 〔長津一郎〕

よくあつ 【抑圧】 フロイトが明らかにした精神分析の基本概念の一。意識に受け入れがたい不快な過去の記憶，反道徳的な願望や衝動などを意識内から追い出し，無意識に閉じ込めておこうとする自我の無意識的な心理作用のこと。抑圧には，観念や欲求を最初に無意識へ追い出す働き(第1次抑圧)と，その無意識内容が再び意識に侵入するのを防ぐ働き(後抑圧)とがある。抑圧の結果，観念や欲求は忘却されるが，無意識の内に残って人間の行動を支配し，夢として現われたり，神経症の原因になったりする。 〔片山義郎〕

ヨークけ 【ヨーク家】 イギリスの王家。プランタジネット家の支流で，エドワード3世*の末子エドモンド-オブ-ラングリを祖とする。白バラを家紋とし，バラ戦争*でヨーク家のエドワードはランカスター家*のヘンリー6世を破ってエドワード4世として即位した。以後，エドワード5世，リチャード3世と続いたが，リチャードはランカスター家の流れをくむヘンリー-チューダー(➝チューダー朝)に敗れ，ヨーク家の支配は終わった。 〔板橋重夫〕

よくさいるい 【翼鰓類】 原索動物・擬索綱・翼鰓目。羽鰓類ともいう。体は頭盤・頸部(けいぶ)・軀幹(くかん)の3部に分かれる。頭盤は扁平(へんぺい)円盤状。頸部は短く，4対の腕をもち，各腕は長く伸びて羽状の触手をつくる。軀幹の下部は細長くなって柄となり，他の個体と連なる。柄の部分で，出芽生殖し，多数個体で群体を形成して，海底の他物に付着生活する。日本近海ではエノコロフサカツギが知られている。分類上の位置は不明な点も多いが，現在ではギボシムシなど腸鰓類と合わせて，擬索綱としている。

よくさんせいじかい 【翼賛政治会】 1942年(昭和17)5月東条英機(ひでき)内閣のもとで結成された政治団体。初代総裁阿部信行*(あべのぶゆき)。1942年4月翼賛選挙*に推薦団体として多くの候補者を当選させた翼賛政治体制協議会が，挙国一致の政治体制を強化するため，貴族院議員・衆議院議員および各界の代表者を包括する形で結成した。大東亜共栄圏建設・翼賛議会確立・国民結合などを掲げたが，1945年1月地方支部獲得のため大政翼賛会*との合同を前提に解散し，同年3月小磯国昭(こいそくにあき)内閣のもとで大日本政治会となった。しかし，大日本政治会もその主張に新味はなく，同年9月には解散した。 〔安達淑子〕

よくさんせんきょ 【翼賛選挙】 1942年(昭和17)4月実施された第21回衆議院議員選挙。東条英機(ひでき)内閣はこの選挙に際して候補者推薦制度を採用し，翼賛政治体制協議会を結成して候補者466人を推薦した。東条は臨時軍事費を流用してこれを応援し，非推薦の候補者を圧迫した。この結果，当選者は推薦381人，非推薦85人となった。➔翼賛政治会

ヨークシャー ⇨ブタ

ヨークシャー ［Yorkshire］ イギリス，イングランド北東部の地方名。面積16,000km²，人口472万6,000(1967)。行政上は北・東・西ライデングの3州に分かれる。東は北海に面し，西はランカシャーに接する。北限はチーズ川，南限はハンバー川。中央部はウーズ川沿いの低地で農業が盛んであるほか，西部にドンカスターなどの炭田，北部にクリーブランド鉄鉱山があり，鉄鋼業のシェフィールド・ミドルズブラ，羊毛工業のリーズ・ブラッドフォード・ハリファクスなど工業都市が多く発達している。肉用豚として知られるヨークシャー種の原産地である。 〔梶川勇作〕

ヨークシャー-テリア ［yorkshire terrier］ 約100年前，イギリスのヨークシャー地方で作出された愛玩(あいがん)犬。被毛は頭部が黄かっ色のほか，スチール-ブルーの長毛が体の両側にたれている。体重が1.8～2.3kgくらいのものが好まれる。

よくしゅるい 【翼手類】 哺乳(ほにゅう)類・翼手目の総称で，コウモリ類ともいう。➔コウモリ

よくせいさいばい 【抑制栽培】 野菜の栽培法の一。促成栽培*が早出しの栽培法であるのに対し，おそ出しの栽培法で，春夏野菜を普通の露地栽培よりおそく植えつけ，初秋から冬にかけて収穫する。これには2通りあり，一つは夏の涼しい高冷地や寒冷地で初夏に種子をまき，初秋から中秋にかけて収穫・出荷する方法で，トマト・キュウリなどがこれによる。他の一つは主として暖地で，夏の終わりに種子をまき，ビニルハウスなどに植えつけ晩秋から冬にかけて出荷する方法で，10～12月ごろに市場に出回るトマト・キュウリなどがこれによる。抑制栽培に続いて促成栽培による作物が出荷されるのが普通である。 〔松本正雄〕

よぐそみねばり 【夜糞峰榛】 ⇨アズサ

ヨークタウンのたたかい 【ヨークタウンの戦い】 アメリカ独立戦争における事実上最後の戦闘。1781年コーンウォリス将軍指揮下のイギリス軍は敗退を続け，3月バージニア州チェサピーク湾頭のヨークタウンに籠城(ろうじょう)，本国からの援助を待ったが，アメリカ・フランス連合艦隊に包囲され，補給路を絶たれた。当時北部方面にいたワシントン*・ロシャンボー両将軍は急ぎ南下して，10月5日から攻撃を開始，10月19日イギリス軍を下した。これにより独立戦争は実質的に終結した。〔折井一彦〕

ヨークちょう 【ヨーク朝】 ⇨ヨーク家

よくぼうというなのでんしゃ 【欲望という名の電車】 T.ウィリアムズ*の戯曲(1947)。転落した南部没落農園の娘ブランチが，ニューオーリンズの貧民街に住む妹夫婦をたよって訪れるが，南部的な美しい夢を捨てきれず，現実の無惨さとの相克の果てに狂気に落ちていく。第2次世界大戦後のアメリカ演劇の最高傑作。1947年度ピュリッツァー賞受賞。

ヨーグルト ［yogourt］ 脱脂乳・全乳・

還元牛乳などを原料とし，これを殺菌したのち，スターターの乳酸菌を加えて発酵させたもの。乳酸菌が生み出す酸によって牛乳中のタンパク質が凝固し，豆腐状になる。適度の酸味となめらかな食味があり，また活性乳酸菌および乳酸によって，整腸効果がある。なおヨーグルトの名称は，乳酸発酵した牛乳に対するトルコ名で，国によって呼称は異なる。

よげん　【余弦】　三角関数*の一。コサインともいう。記号cosはcosineの略。平面上に直交座標を設け，原点を通りx軸と角θをなす動径が，原点を中心として半径rの円と交わる点の座標をP(x, y)とするときの比x/rをいう。$\cos\theta = x/r$で表わす。

よげんこうしき　【余弦公式】　余弦定理ともいう。三角形ＡＢＣの内角をA，B，C，対辺の長さをそれぞれa，b，cとするとき，

①三角形ＡＢＣが平面上の三角形ならば，

【第１余弦公式】

$a = b\cos C + c\cos B$

$b = c\cos A + a\cos C$

$c = a\cos B + b\cos A$

【第２余弦公式】

$a^2 = b^2 + c^2 - 2bc\cos A$

$b^2 = c^2 + a^2 - 2ca\cos B$

$c^2 = a^2 + b^2 - 2ab\cos C$

②三角形ＡＢＣが球面三角形ならば，

$\cos a = \cos b\cos c + \sin b\sin c\cos A$

$\cos b = \cos c\cos a + \sin c\sin a\cos B$

$\cos c = \cos a\cos b + \sin a\sin b\cos C$

〔青柳雅計〕

よげんしゃ　【預言者】　神託*を語る者。《旧約聖書》の世界では，紀元前11世紀イスラエルの危機に際して初代王サウルを助け，民衆を指導したサムエルを最初とする。彼の宗教的立場からの政治批判は以後の預言者たちに継承された。紀元前10世紀末の王国分裂後は，民族の運命をつかさどる神のことばを民に伝える者として活動。紀元前８世紀以後のおもな預言者に，アモス・イザヤ・エレミヤ・エゼキエル・第２イザヤ・ハガイ・ゼカリヤらがいて，《旧約聖書》の預言書*に名を残している。彼らは神ヤーウェ*の意志を伝えるという使命を自覚して行動し，神はイスラエルの歴史を支配するのであるから，過去も未来もその行為として解釈し予告した。その預言が現象的には必ずしも成就しないこともあり，けいべつされたり迫害されたりするが，屈することなく使命に徹して民をとりなし続けた。

〔松田　治〕

よげんしょ　【預言書】《旧約聖書》のうち，紀元前８世紀以後に活動したイスラエルの預言者*たちの名を冠せられている書の総称。ヘブライ語原典は，〈ヨシュア記〉〈士師記〉〈サムエル記〉〈列王記〉を前預言書，〈イザヤ書〉〈エレミヤ書〉〈エゼキエル書〉〈十二小預言書〉を後預言書として区分するが，ふつう，後預言書のことをいう。ギリシア語訳では，この後預言書に〈哀歌〉と〈ダニエル書〉を加えて預言書とする。韻文が多く，預言者に与えられたとする神託を主内容とし，彼らの自伝・伝記や歴史記録などを含む。民族の歴史を支配する神ヤーウェ*のことばとして重んじられ，救済史観・終末思想などによって《新約聖書》への影響も大きい。　〔松田　治〕

よげんていり　【余弦定理】　⇨余弦公式

よこあな　【横穴】　古墳時代の墓葬形式で，横穴古墳ともいう。自然の丘陵を利用して斜面に横から穴を掘ったもので，６～７世紀に全国的につくられた。形状には地方的特色があるが，一般に広くて高い玄室と，狭くて低い羨道(せんどう)とをもつ。羨道は横穴式石室より短い。東京・神奈川・埼玉・島根・熊本・宮崎などの各県に多く，南九州には地下式横穴(平地に竪穴(たてあな)をあけて，その坑底から横穴を掘ったもの)が見られる。　〔高崎徳次〕

よこあなしきせきしつ　【横穴式石室】⇨石室

よこいしょうなん　【横井小楠】　(1809～1869)　江戸末期の思想家。肥後熊本藩士。藩校時習館に学ぶ。32歳ごろ藩内の改革運動に参加して敗れ，九州・北陸など各地を遍歴したのち，1858年(安政５)越前(えちぜん)福井藩主松平慶永(よしなが)の政治顧問に招かれて幕政改革(公武合体運動)に協力した。やがて失脚し浪士となったが，富国強兵策に基づく開国論を唱えて早くから知られ，勝海舟・坂本龍馬(りょうま)らとも親交を結んだ。明治維新後は政府に用いられたが，攘夷(じょうい)論者に暗殺された。〔小田　博〕

よこいときよし　【横井時敬】　(1860～1927)　明治時代の農学者。熊本藩士の四男として生まれる。1880年(明治13)駒場(こまば)農学校を卒業し，兵庫県師範学校・福岡県農学校長，福岡県勧農試験場長・農務省第一課長・帝国大学農科大学(現東大農学部)教授などを歴任。日本における栽培学・育種学・農業経済学の基礎を築いた。《塩水選種法》《農学汎論(はんろん)》など多くの著書がある。

よこいやゆう　【横井也有】　⇨也有

よこえび　【横蝦】　甲殻(こうかく)類・端脚目・ヨコエビ亜目。陸水・海洋に見られ，特に沿岸の岩礁地や海藻(かいそう)上に多い。まれに陸上の落葉の下などにも知られる。体は多くが左右に側扁(そくへん)し，採集したときは海水表面に横になって浮かぶためこの名がある。しかし，ドロクダムシ科のものでは体は背腹に扁平になり，等脚類*に似る。一般に雄の顎脚(がくきゃく)は大きくなり，雌を捕捉する器官となる。棲管(せいかん)をつくるものも多い。おもに有機物微粒を食べるが，腐肉食や植物食のものも知られる。魚類の餌料(じりょう)として重要と考えられている。➔端脚類　〔向井　宏〕

よこかわきゅうちゅう　【横川吸虫】　扁形(へんけい)動物・吸虫綱の一種で，1911年(明治44)横川定によって発見されたのでこの名がある。日本を含むアジア各地に分布。成虫は体長１～２㎜の卵形で，ヒトその他の魚食哺乳(ほにゅう)類の小腸に寄生する。卵は糞便(ふんべん)とともに排出され，水中で第１中間宿主のカワニナに取り込まれると，その体内で増殖してミラシジウム→スポロシスト→レディア→娘レディア→セルカリアとなる。セルカリアは水中に泳ぎ出して，第２中間宿主であるアユ・フナ・タナゴなどの淡水魚に侵入してメタセルカリアとなる。これらの魚を生食することによって感染し，多数寄生すると腹痛・下痢・血便などを起こす。最近の研究では，アユが最も重要な第２中間宿主とされる。治療には四塩化エチレン・カマラなどが用いられる。予防としては，上記の魚，特にアユを生食しないことである。　〔山本　久〕

よこすか【横須賀(市)】神奈川県南東部の市。人口42万0,000。幕末までは一漁村にすぎなかったが，1866年(慶応２)浦賀に幕府経営の造船所がつくられ，1884年(明治17)に横浜から海軍鎮守府が移されて以来軍港として発展し，軍需工業も栄えた。第２次世界大戦後は軍施設の大半がアメリカ軍に接収されて第７艦隊の基地となり，海上自衛隊も駐屯(ちゅうとん)して〈基地の町〉となった。防衛大学校がある。東京の衛星都市，観光都市としての機能も強まっている。1907年市制施行。市域は三浦半島中央部を占め，東は東京湾，西は相模(さがみ)湾に臨む。丘陵性の山地が起伏して平地は少なく，役所・会社・商店街などは谷戸(やと)とよばれる谷沿いに発達し，住宅街は山腹の傾斜面に多い。産業三大別人口比は２：34：64。消費都市的な性格が強いが，古い伝統をもつ浦賀の造船業や新しい追浜(おっぱま)の自動車工業があり，かつて軍港のあった長浦湾周辺では1973年(昭和48)の完成をめざして横須賀新港の建設工事が進んでいる。東部の久里浜には東京電力の火力発電所を中心に工場団地が造成され，日立・東芝とアメリカ合衆国のゼネラル-エレクトリック社との共同出資による，発電用原子燃料製造工場の建設が予定されている。横須賀線・京浜急行電鉄・国道16号線が東海岸を，国道134号線が西海岸を走って，最近は京浜地区への通勤者住宅が増加している。横須賀港と房総半島の富津(ふっつ)の間に定期航路が通じ，久里浜と金谷(かなや)間にはフェリーボートが就航する。三浦按針(あんじん)の墓のある塚山(つかやま)公園，日露戦争当時の戦艦三笠(みかさ)のある三笠公園，風景のよい猿島(さるしま)，三浦一族の城跡のある衣笠(きぬがさ)公園，ハイキングコースの大楠(おおくす)・鷹取(たかとり)山，馬堀(まぼり)海水浴場，日本最古の洋式燈台と自然博物館のある観音崎，ペリー上陸記念碑と博物館のある久里浜，ハ

マユウの自生北限地天神ケ島など，美しい自然と豊富な史跡に恵まれる。アメリカ軍の観音崎艦船監視所の返還後は付近に都市公園をつくる計画も立てられている。
〔浅井得一〕

よこすかぞうせんじょ　**【横須賀造船所】** 1865年(慶応1)江戸幕府がフランス人技師ウェルニーを招いて建設した横須賀製鉄所を前身とし，明治政府が引き継いで，1871年(明治4)完成，改称した造船所。長崎造船所*とともにわが国の代表的な造船所となり，優秀艦船を建造した。1897年に海軍造船廠(ぞうせんしょう)，1903年に海軍工廠と改称。第2次世界大戦終結後はアメリカ軍・自衛隊が一部使用し，他は民間企業に払い下げられた。
〔応和邦昭〕

よこせやう　**【横瀬夜雨】**　(1878〜1934) 詩人。本名虎寿(とらひさ)。茨城県の生まれ。幼時に脊椎(せきつい)を病み歩行の自由を失う。17〜18歳ごろから詩作し，河井酔茗(かわいすいめい)に認められ，以後雑誌《文庫》に作品を発表，酔茗・伊良子(いらこ)清白*らと並んで文庫派の代表的詩人となった。その詩は七五調に一貫し，不幸な境遇を反映して幽遠で哀切である。詩集は《夕月》《花守》《二十八宿》など。

よこづな　**【横綱】** 相撲(すもう)番付の最高位の階級または横綱力士の略称。学生相撲の選手権者を意味する大学横綱・高校横綱。横綱の意味は時代によって，その内容がまったく異なり，次の三つに大別できる。①相撲興行に関係なく，地鎮祭(地固め式)に出場する力士の儀式作法の伝授免許(1624〜1780)。②注連縄(しめなわ)を締めて土俵入りを1人で行なう資格の免許で，綱の名称であった。③大関力士で優秀な成績をあげた最強者に免許する最高地位(1896〜　)。横綱がいまのような土俵入りの形式で行なうようになったのは，勧進相撲の制度組織が確立して，江戸相撲が全国の中心化した江戸中期の1789年(寛政1)に，谷風梶之助(かじのすけ)・小野川喜三郎の両力士に〈横綱之伝〉を免許してからである。それまで横綱に関する儀式は，神社仏閣，城や邸宅を建てるときの地鎮祭に，当時の最強力士が招かれ，綱(注連縄)を締めて，しこを踏み〈おはらい〉を行なうのが慣例であった。この儀式作法を，徳川将軍の上覧相撲に備えて，土俵上に演出することを考案したのは，熊本藩細川家の家臣吉田(よしだ)追風(司(つかさ)家)である。明治時代になって，天覧相撲のとき免許するようになったが，1890年(明治23)はじめて番付に横綱を記したことが階級化の前提となり，1896年には成績を基準とした横綱免許が行なわれ，1909年相撲協会は横綱が大関の上位に置かれる最高階級であることを成文化して現在に及んでいる。なお横綱の代数は，1900年に建立(こんりゅう)された個人の私案による〈横綱力士碑〉(東京深川富岡八幡宮(とみおかはちまんぐう)境内)に記載されている代数によって数えられている。
〔池田雅雄〕



横綱　横綱制ができてからの始祖といわれる谷風梶之助　勝川春亭画　相撲博物館蔵

よこて　**【横手(市)】** 秋田県南東部の市。人口45,000。中世以来城下町として開け，江戸時代には佐竹氏の城代戸村氏が統治し，市も開かれた。1951年(昭和26)市制施行。市域は横手盆地*東縁のほぼ中央部を占め，雄物川の支流旭(あさひ)川が流入し，東部山地の一部も含まれる。産業三大別人口比は26：16：58。県南第1の商業都市で，盆地内の米・リンゴなどを集散し，毎日開かれる朝市が名高い。木材加工や紡織などの工場もあるが，その規模は小さい。奥羽本線と北上線・私鉄羽後交通の分岐点で，国道13号線・107号線が集まる。年中行事の〈かまくら*〉(1月15日)は広く全国に知られ，最近始まった〈雪の芸術〉などとともに観光客を集める。横手公園からの鳥海山の展望もすばらしく，石坂洋次郎の《山と川のある町》の舞台となっている。東方の山地一帯には原始集落の遺跡が多く，北東部に後三年の役*の古戦場金沢柵(かなざわのさく)跡がある。

よこてぼんち　**【横手盆地】** 秋田県南東部，雄物川の上・中流に形成された盆地。東は奥羽山脈と真昼山地断層崖(だんそうがい)に限られ，西は出羽山地に限られている。東の山地からは成瀬川・皆瀬川・旭(あさひ)川・鞠子(まりこ)川・川口川・斉内(さいない)川などが流入し，盆地東部に複合扇状地を形成し，西部はこれらの支流を集めた雄物川が網状流路をなし，中央部で南流してきた玉川と合流し，出羽山地を横断して秋田平野に流れている。盆地内には分離丘陵が島のように散在している。盆地床は水田化され，扇状地の特に扇央はおもにリンゴ・ブドウ・カキなどの果樹園になっている。大曲・横手・湯沢市が盆地の中心をなす。
〔味沢成吉〕

よごと　**【寿詞】** 賀詞・吉言とも書く。天皇の治世の長久・平安を祈念し祝うために奏上することば。神に奏上する祝詞*(のりと)に対し，古代の言霊*(ことだま)信仰から出たものである。寿詞の実例としては大嘗祭*(だいじょうさい)に中臣氏の奏する〈中臣寿詞〉，出雲国造(いずものくにのみやつこ)が天皇に臣従を誓うため，代替わりごとに上京して奏上する〈出雲国造神賀詞(かんよごと)〉などがある。

よこなみ　**【横波】** ⇨波動

よこね　**【横根】** 横痃(おうげん)の俗称。鼠径(そけい)部(股(もも)の付け根の部分)のリンパ節*が腫脹(しゅちょう)したもの。性病に伴う場合が多い。軟性下疳*(げかん)・鼠径リンパ腺(せん)肉芽腫*(第四性病)の際には有痛性横痃とよばれ，鶏卵大以上に腫脹して局所に疼痛(とうつう)があるが，梅毒*感染のときは無痛性横痃とよばれ，母指頭大ぐらいの腫脹で疼痛がない。このようにリンパ節の腫脹は共通してあるが，発赤・化膿(かのう)の状態，周囲との癒着(ゆちゃく)の有無，単発あるいは多発の相違は罹患(りかん)した感染症の種類によって異なる。このほかペスト*感染の際は，ペスト横痃ということもある。
〔藤井和明〕

よごのうみ　**【余呉湖】** 滋賀県北部，琵琶湖(びわこ)北隣の小盆地にある湖。面積2 km²，水面の海抜高度134 m，最大深度13 m。東部より排水して琵琶湖に注ぐ。湖南には〈賤ケ岳(しずがだけ)の戦い*〉の古戦場で名高い賤ケ岳(423m)がある。琵琶湖国定公園に属する。

よこばい　**【横這】** こん虫類・半翅(はんし)目・同翅亜目・ヨコバイ科の総称。広義にはヨコバイ上科に属するオオヨコバイ科・ヒラタヨコバイ科・ミミズク科・カンムリヨコバイ科・ヒメカンムリヨコバイ科・ホソサジヨコバイ科・ヨコバイ科・ヒロズヨコバイ科・ヒメヨコバイ科などの諸科を総称する。いずれも体はセミを小形にしたような形をしており，小形で体長2〜10㎜ほどで5㎜内外の種類が最も多いが，ミミズク科には約20㎜に達する大形種もある。一般に頭部は大きく，幅が広い。体の後方はさまって逆三角形状を呈する。幼虫・成虫ともに，植物体の葉や茎などから吸汁(きゅうじゅう)するため，各種農作物や果樹などの害虫が多い。また，各種のウイルス病を媒介する種類も多数知られている。多くの種類は夏から秋にかけて出現するが，成虫越冬する種類も少数ある。成虫は燈火によく飛来し，また活発に跳躍する。幼虫・成虫ともに横に歩行する習性があるためこの名が生じた。卵は，一般に植物の組織中に産下される。不完全変態で，幼虫は数回の脱皮を経て成虫になり，1年に数世代をくり返す種類が多い。代表的な種類と寄生植物には，オオヨコバイ(各種農作物や果樹類)，ツマグロヨコバイ・イナヅマヨコバイ・フタテンヨコバイ・ヨツテンヨコバイ(以上4種はいずれもイネを加害し，特に前二者は代表的なイネの害虫で，イネ萎縮病(いしゅくびょう)の媒介者としても知られる)，ヒシモンヨコバイ(クワなど)，リンゴマダラヨコバイ(バラ科の果樹類)，ミドリヒメヨコバイ(果樹類や各種蔬菜(そさい)類)などがある。



横浜市

ヨコバイ類には雑食性の種類が多いので，多少とも農作物や果樹などに加害する種類は非常に多い。→オオヨコバイ →イナズマヨコバイ →ツマグロヨコバイ →ミミズク 〔鈴木邦雄〕

よこはま 【横浜(市)】 神奈川県の東部，県庁のある市。人口275万5,000。江戸時代には，東海道沿いの神奈川・保土ケ谷(ほどがや)・戸塚(とつか)の三つの宿場町と，神奈川・金沢の二つの港があり，現在の横浜港周辺は本牧岬(ほんもくみさき)から突出した砂州上の一漁村にすぎなかった。幕末に日米和親条約・日米修好通商条約が結ばれ，1859年(安政6)に横浜港が開かれると，砂州の内側の大岡川沿いに掘割(ほりわり)が設けられ，港との間の関内地区に商館・外人居留地がつくられた。1872年(明治5)に東京との間に鉄道が開通すると，横浜港は日本の表玄関となって文明開化の先端をきり，西の神戸(こうべ)と並ぶ代表的な国際的港湾都市として発展した。第1次世界大戦後は隣接する川崎に続く臨海地区が埋め立てられ，重化学工業を主とする大工場群が立地して京浜工業地帯の中核となった。関東大震災や第2次世界大戦の戦災により大きな被害があったが，戦後の復興も著しく，わが国第3の大都市として繁栄している。1889年市制施行。当時の市域は現在の中区のうち，本牧・根岸を除いた地域で，面積5.4km^2，人口11万6,000余を数えるにすぎなかった。以後，数次の拡張を経て1927年(昭和2)面積133.88km^{2}の新市域に区制を施行，鶴見(つるみ)・神奈川・中・保土ケ谷・磯子(いそご)の5区に分かれた。その後もさらに数次にわたる拡張があり，1939～1948年の間に港北・戸塚・南・西・金沢の5区が新しく加わって現在の市域に拡大した。第2次世界大戦後は南・保土ケ谷・港北・戸塚の内陸4区が住宅地区として発展したため，1969年それぞれの区域を二分して，港南・旭(あさひ)・瀬谷・緑の4区が新設され，14区となって今日に至っている。面積419.41km^2。市域には，東京湾に臨む沖積(ちゅうせき)低地と，多摩丘陵の南東部にあたる丘陵地が含まれ，北東は川崎市をはさんで東京都と相対する。外人商館や各種の役所や会社が集まる関内，浜の銀座といわれる伊勢佐木(いせざき)町の商店街，中華街のある山下町などの中心地区が海岸寄りの低地に発達し，丘陵地には住宅街や学校街がある。第2次世界大戦後，野毛の台地上にも商店街が発達し，最近は横浜駅西口にデパートの高島屋を中心とするターミナルセンターがつくられている。住宅街が郊外へ移るにつれて，藤棚(ふじだ

な)・大口通り・弘明寺(ぐみょうじ)などにも新興商店街が発展し，港北区には港北ニュータウンの新しい市街地づくりが進んでいる。横浜港は，中心地区に近く，日本最初の洋式桟橋(さんばし)で，メリケン波止場とよばれる大桟橋・新港埠頭(ふとう)・山下埠頭・瑞穂(みずほ)埠頭をはじめ，高島・出田町・山ノ内の埠頭があり，岸壁の長さは総計約5,000mに達する。産業三大別人口比は 1：40：59。貿易と工業が主産業で，貿易は明治以降，生糸・茶・絹製品の輸出，綿製品・砂糖・機械の輸入が行なわれたが，第２次世界大戦前までは，生糸の輸出と綿花の輸入が圧倒的に多かった。戦後から今日にかけては，石油・小麦・ダイズ・粗糖・羊毛の輸入，生糸・魚介類・鉄鋼・衣類の輸出が行なわれ，特にハンカチーフ・ネッカチーフなどの特産絹製品の輸出が多い。貿易の発達とともに，造船・製茶・染色などの工業も興った。明治末期には東京湾沿いの神奈川区，大正初期からは鶴見地区の埋め立てが行なわれ，昭和にはいって工事が完成した。これらの埋め立て地区には，鉄鋼・機械・造船・石油化学・食料品などの近代工業が発達し，大小200余りの工場もあって，京浜工業地帯の中心をなしている。工業製品年間出荷額は２兆1,327億円(1970)に達し，全国の都市中東京・大阪・川崎に次いで第４位を占める。最近では，保土ケ谷・戸塚方面にも大工場が建設され，1964年磯子区の根岸湾を埋め立てた工業用地には，日本石油・日清(にっしん)製油・石川島播磨(はりま)などの大工場が操業を開始し，日本最大の石油コンビナートを中核とする重化学工業地帯が発展し，隣接する本牧地区には，日本最大の埠頭建設が行なわれている。東海道本線・同新幹線・横浜線・国電京浜東北線・根岸線・鶴見線・私鉄京浜急行電鉄や東京急行電鉄東横線・相模(さがみ)鉄道などが市域内を通り，市の中心部と郊外地区を直結する地下鉄の４路線も建設中であるが，３号線の山下町～横浜駅間は1971年４月開通，上大岡～尾上町間の開通も近い。道路交通では国道１号線・16号線・246号線が市域を貫通するほか，北西部に東名高速道路の横浜インターチェンジがあり，第３京浜道路が東京との間を直結し，戸塚と保土ケ谷の間には横浜新道も通ずる。名所としては，山手(やまのて)の外人墓地と山下町の中華街に異国情緒があふれ，山下公園や港の見える丘公園は港風景で知られる(いずれも中区)。また，野毛(西区)周辺には音楽堂・図書館などの文化施設や動物園・遊園地がある。そのほか，純日本式庭園の三溪園(さんけいえん)(中区)，サイクリング-ロードなどの新しい施設をもつ本牧中央公園(中区)，曹洞宗(そうとうしゅう)総本山の総持寺(鶴見区)，古い歴史をもつ称名寺・金沢文庫(ともに金沢区)などが知られ，北西端の〈こどもの国〉(緑区)，南西端のドリームランド(戸塚区)は家族づれの行楽客でにぎわう。年中行事では〈港祭り〉(５月第２土曜日)があり，そのときに行なわれる国際仮装行列が名高い。

〔浅井得一〕



横浜市　横浜港の大桟橋埠頭。遠景の対岸は，鶴見区から川崎市に接続する京浜工業地帯の中核地区にあたる



山下公園の背後の丘陵地にある外人墓地。ここから横浜港が一望のもとに収められる。紅白の塔は展望台のあるマリーンタワー

よこはまこくりつだいがく　**【横浜国立大学】**　国立大学。1949年(昭和24)，国立学校設置法により，横浜経済専門学校・横浜工業専門学校・神奈川師範学校・神奈川青年師範学校を母体として編成・創立された。現在，教育・経済・経営・工の各学部と，大学院修士課程としての工学研究科が設置されている。本部は横浜市南区大岡町702。

よこはまじけん　**【横浜事件】**　太平洋戦争中に起こった神奈川県特別高等警察による一連の言論弾圧事件。泊事件ともいう。1942年(昭和17)雑誌《改造》8・9月号に掲載された〈世界の動向と日本〉が，共産主義に基づく敗戦思想の宣伝であるとして，筆者の細川嘉六(かろく)が逮捕され，《改造》は発禁処分を受けた。さらに別事件関係者の押収品に，細川が以前郷里富山県泊町(現在の下新川郡朝日町)に改造社・中央公論社の社員を招いた際の写真があったことから，これが共産党再建の会合とされてジャーナリスト７名が逮捕された。これが発展して1944年中央公論社・改造社・日本評論社・岩波書店などの関係者30余名が逮捕されて，治安維持法違反で起訴され，《中央公論》《改造》両誌は同年７月廃刊させられた。取り調べは激しい拷問で知られ，死者３名を出した。裁判は第２次世界大戦後に至ってはじめて行なわれ，1945年全員釈放された。

〔応和邦昭〕

よこはましょうきんぎんこう　**【横浜正金銀行】**　1880年(明治13)外国銀行・外国商社に対抗して設立された外国為替(かわせ)銀行。国立銀行条令に基づいて設立許可され，当初の資本金300万円のうち100万円を政府が出資した。1884年ロンドン，1886年ニューヨークに支店を設け，1887年横浜正金銀行条例により，外国為替業務を専門とする特殊銀行となり，貿易金融に活躍した。日露戦争以後，満州の中枢的金融機関として支店網を拡大し，太平洋戦争勃発(ぼっぱつ)まで植民地金融全般を担当した。1947年(昭和22)GHQの政策に従い，東京銀行*に改組されて普通銀行となった。　〔応和邦昭〕

よこはままいにちしんぶん　**【横浜毎日新聞】**　1870年(明治３)12月，横浜で創刊されたわが国最初の本格的日刊紙。神奈川県令井関盛良が企て富商島田豊寛を社長として発行。政論新聞時代には民権派の立場から肥塚龍(こえづかしげみ)・塚原渋柿園(つかはらじゅうしえん)・島田三郎らの嚶鳴社(おうめいしゃ)メンバーを中心とし筆陣を張った。1879年嚶鳴社盟主沼間(ぬま)守一が買収，東京に移転して《東京横浜毎日新聞》と改題，のち立憲改進党の機関紙となった。1886年５月《毎日新聞》と改題。日露戦争にあたって《万朝報*(よろずちょうほう)》とともに非戦論を主張しながらのち開戦論に転向。1906年《東京毎日新聞》と改題，以後紙勢低迷を続け，関東大震災後は政友会系紙となったが，1940年11月《帝都日日新聞》に吸収されて廃刊となった。〔前納弘武〕

よこみぞせいし　**【横溝正史】**（1902～　）小説家。神戸(こうべ)市(兵庫県)の生まれ。大阪薬学専門学校卒業。薬種商や《新青年》などの編集ののち推理小説作家として立つ。初期作品は機知とペーソスを主調としたが，やがて《鬼火》など浪漫的色彩の濃い作風に移り，第２次世界大戦後は《本陣殺人事件》《蝶々(ちょうちょう)殺人事件》で本格推理物の第一人者となり，以後《八つ墓村》《悪魔が来(きた)りて笛を吹く》などを発表。ほかにシリーズ《人形佐七捕物帳》がある。

〔中島河太郎〕

よこみつりいち　**【横光利一】**（1898～1947）　小説家。福島県の生まれだが本籍は大分県。早稲田(わせだ)大学英文科中退。1923年(大正12)菊池寛*の《文藝春秋*》の同人となり，《蠅(はえ)》《日輪》で新人作家として注目された。翌年10月川端康成*(かわばたやすなり)らと《文芸時代》を創刊し，同誌に発表した短編《頭ならびに腹》に対する千葉亀雄(かめお)の



横光利一



与謝野晶子

評言によって新感覚派とよばれた。当時の代表作に《園》《ナポレオンと田虫》《春は馬車に乗って》などがある。1928年(昭和３)から1931年にかけて長編《上海(シャンハイ)》を発表，のち視野をしだいに政治・社会に向け，《機械》《寝園》《紋章》などを発表。当時の自意識過剰の知識人の問題を心理的側面から追求した。また《機械》は新心理主義への転回点となった。晩年の作に長編《旅愁》がある。ほかに評論《純粋小説論》，日記《夜の靴(くつ)》など。　〔上田正行〕

よこやまげんのすけ　【横山源之助】(1870～1915)　ジャーナリスト・社会問題研究家。富山県出身。英吉利(イギリス)法律学校(中央大学の前身)卒業。天涯茫々生(てんがいぼうぼうせい)などの筆名がある。1894年(明治27)毎日新聞社に入社，島田三郎らの影響を受け下層社会や労働者の実態調査に着手，退社後も一生を通じてこの仕事に従事した。1898年刊行の《日本之下層社会》はその集大成であり，官製の《職工事情》に比肩しうる客観的調査として有名である。ほかに《内地雑居後之日本》《明治富豪史》《南米ブラジル》などの著書がある。　〔安達利夫〕

よこやまたいかん　【横山大観】(1868～1958)　日本画家。茨城県水戸(みと)の生まれ。東京美術学校の第１回卒業生である。岡倉天心・橋本雅邦の薫陶を受け，1896年(明治29)同校助教授となった。しかし，1898年天心・雅邦の辞任に殉じて退職，日本美術院の創立に参加，正員・評議員になる。1914年(大正３)下村観山・安田靫彦(ゆきひこ)らと日本美術院を再興し，経営者として院を統率，その興隆に努めた。機鋒(きほう)鋭い表現と巧みな構図による精神主義的な秀作を多く残した。代表作に《流燈》《山路》《瀟湘(しょうしょう)八景》《生々流転》《游刃(ゆうじん)有余地》などがある。1937年(昭和12)竹内栖鳳(せいほう)らと第１回文化勲章を受け，帝国芸術院会員となる。　〔匠　秀夫〕



横山大観　《流燈》1909　永青文庫蔵

よこやまちょう　【横山町】　東京都中央区北部にある日本橋横山町の通称。江戸通りと清洲(きよす)通りにはさまれた南北に細長い町域で，江戸通りを隔てた北側の日本橋馬喰(ばくろう)町とともに，メリヤス・洋品雑貨・小間物・袋物・化粧品・文房具・既製服をはじめ，各種の繊維製品などの問屋が集まり，東京の代表的な問屋街を形成する。南部に都営地下鉄１号線の東日本橋駅，北東に国電総武線の浅草橋駅がある。

よこやまりゅういち　【横山隆一】(1910～　)　漫画家。高知市の生まれ。岡本一平に師事し，ナンセンス漫画・連続漫画に新しい境地を開いた。代表作《フクちゃん》は《東京日日新聞》の《江戸ッ子健ちゃん》のわき役で，のちに独立したもの。なお，弟の横山泰三も漫画家。

よさこいぶし　【よさこい節】　土佐(高知県)の代表的な民謡。安政年間(1854～1859)に現地で流行し，のちにお座敷歌として日本全国に広まった。第２次世界大戦後それがさらに歌謡《南国土佐を後(あと)にして》に取り入れられていっそう有名になった。坊さんの恋愛をうたった歌詞と，高音フレーズと低音フレーズの旋律に特徴がある。

よさのあきこ　【与謝野晶子】(1878～1942)　歌人。旧姓鳳(ほう)。堺(さかい)(大阪府)の生まれ。堺女学校卒業。1897年(明治30)ごろ《読売新聞》に載った与謝野鉄幹の歌をきっかけに歌作にはいり，1899年《よしあし草》誌に作品を発表。1900年新詩社にはいり，翌年家を捨てて上京，第１歌集《みだれ髪》を刊行，鉄幹と結婚した。奔放濃艶(のうえん)な空想と情熱あふれる唯美的・主情的歌風は明星派をつくり，新詩社はもちろん，世にも大きく影響を与えた。1904年９月反戦的な詩《君死に給ふこと勿(なか)れ》を発表し話題を呼ぶ。歌集は《小扇》《恋衣》(山川登美子(とみこ)・増田雅子(まさこ)との合著)《舞姫》《常夏(とこなつ)》《佐保姫》など20余，作歌50,000に及ぶ。評釈《和泉式部(いずみしきぶ)歌集》《新訳源氏物語》などもある。　〔上田正行〕

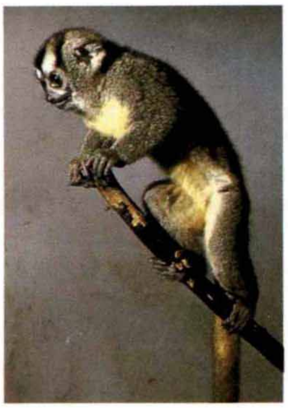
よさのてっかん　【与謝野鉄幹】(1873～1935)　歌人・詩人。本名寛(ひろし)。京都の生まれ。20歳のときに上京し，落合直文に師事。《二六新報》学芸部主任となり，同紙に歌論《亡国の音》を連載，短歌革新運動の先頭に立つ。1896年(明治29)処女詩歌集《東西南北》を刊行，その男性的気概から虎剣(こけん)調とよばれた。1899年新詩社を創設。翌年《明星》を創刊。妻晶子(あきこ)とともに明星派として大きな位置を占める。

よさはんとう　【与謝半島】　京都府の北部，日本海へ北東方向にほぼ台形状をなして突出する半島。奥丹後半島ともいう。海岸はおもに岩石海岸で，河川に沿った小規模な平地が見られるのみで，沖積(ちゅうせき)平野に乏しくカコウ岩・第三紀層からなる海抜500～700ｍの山地が広く分布し，これらの山地は多くの断層によって切られており，1927年(昭和２)３月７日の奥丹後地震によって形成された半島基部付近にある郷村断層は天然記念物に指定されている。半島基部付近を国鉄宮津線が走っているのみで，交通は不便で山がちであるため主産業である農業もふるわず，山間部では近年，離村が増加し，そのため廃村となったところもある。古くから農家の副業としていた丹後縮緬(ちりめん)の生産は，峰山・網野で盛んである。また，若狭(わかさ)湾に面した伊根(いね)は半島唯一の漁港をなしている。半島の海岸一帯は若狭湾国定公園に属す。　〔味沢成吉〕

よさぶそん　【与謝蕪村】　⇨蕪村

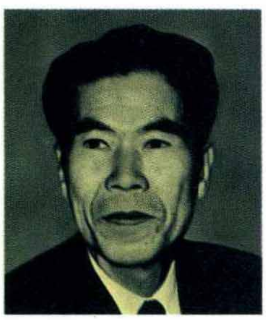
よざる　【夜猿】　哺乳(ほにゅう)類・霊長目・オマキザル科・ヨザル亜科。南アメリカにすむ新世界ザルで，頭胴長30～40cm。大きな丸い目とともにフクロウのような顔つきをしている。体色は灰かっ色に黄か赤が混じる。昼は木の洞(ほら)で眠り，夜活動する。雑食性で，果実・こん虫・小動物を食う。雄と雌の家族的な群れをつくる。

よさん　【予算】　⇨490ページ


ヨザル


ヨシ


吉井 勇


吉川英治

よさんいいんかい 【予算委員会】 衆参両院に設けられた常任委員会の一。本会議での審議を能率的かつ迅速に行なわせるために，前もって予算*に関する事項を審査する目的で設置されている。衆議院では50人(衆議院規則92条)，参議院では45人(参議院規則74条)によって構成され，権限については他の議会(常任)委員会と変わりがないが，特に〈総予算及び重要な歳入法案については，公聴会*を開かなければならない〉(国会法51条2項)とされている。審議は総括質問・一般質問・分科会などからなり，総括質問の際には，内閣総理大臣以下，国務大臣全員出席するのが慣例である。なお，予算の議決については，衆議院に予算案が先に提出され，参議院に5日以内に同一議案が提出され，予備審査を受けることになっている。 〔吉田善明〕

よさんとうせい 【予算統制】 予算制度を利用して企業の経営活動を全般的に管理する方式。具体的には利益計画を基礎にして予算を編成し，それに基づいて各経営部門の活動を総合的に調整し，さらに予算と実績との比較およびその差異の分析を通して，各部門管理者の責任を明らかにしようとするものである。したがって予算統制に必要な手続きには，①予算の編成，②予算の実施による部門活動の調整，③予算と実績との差異の分析などが含まれる。 〔森川八洲男〕

よさんほんせん 【予讃本線】 高松～宇和島間および貨物支線2本よりなる国鉄路線。営業キロ数297.5(ほかに支線5.1km)。1889(明治22)～1945年(昭和20)開業。四国の瀬戸内海岸を東西に走る幹線鉄道で，香川・愛媛両県を結び，沿線に高松・新居浜(にいはま)・今治(いまばり)・松山などの都市がある。

よし 【蘆・葭・葦】 単子葉植物・イネ科。アシ・ハマオギともいう。水湿地に群生する多年草で，アジア・アフリカ・オーストラリアの温帯から暖帯に広く分布する。根茎は泥(でい)中を横走し，黄白色で扁平(へんぺい)，節からひげ根を群出する。茎は根茎から出て直立し，高さ1～3mで中空。茎は1年で枯れる。葉は茎の節から出て2列に互生し，広線形で長さ20～50cm，幅2～4cm，質はかたく，葉面はざらつき，粉白緑色。夏から秋，茎頂に汚紫色の円錐(えんすい)花序をつける。花序は長さ15～40cmの広卵形。小穂は長さ1～1.5cmで，2～5個の小花をつける。花軸には絹毛が多数密生する。茎は簀の子(すのこ)・簾(すだれ)・葭簀(よしず)に編む。また，茎や葉は屋根をふいたり，パルプの原料にする。根茎は蘆根(ろこん)といい，消炎・利尿薬にされる。〔横井朝子〕

よしいいさむ 【吉井勇】 (1886～1960) 歌人・劇作家。東京の生まれ。早稲田(わせだ)大学政経科中退。はじめ《明星*》に歌を発表，のち北原白秋らと脱退して《スバル*》に加わる。1910年(明治43)の歌集《酒ほがひ》は頽唐(たいとう)享楽の歌風で一躍その歌名を高めた。情痴と酒の世界を描き，鎌倉と祇園(ぎおん)をよみ，平明で濃い情緒をめざした。歌集に《祇園歌集》《人間経》などがある。市井劇にも才を示し，戯曲集に《午後三時》がある。 〔上田正行〕

よしいがわ 【吉井川】 岡山県北部の中国山地に発し，岡山県東部を南に流れて児島(こじま)湾口で瀬戸内海に注ぐ。流程117km。上流山間部の峡谷には奥津渓(おくつけい)などの景勝地がある。下流の西大寺市一帯の平野は米・果樹・イグサの産で知られる。

よしえたかまつ 【吉江喬松】 (1880～1940) 詩人・評論家・フランス文学者。孤雁(こがん)と号した。長野県の生まれ。早稲田(わせだ)大学に学び，坪内逍遙(しょうよう)に師事した。浪漫的な自然詩人として名を成し，1915年(大正4)早大教授，1916～1920年の間パリ大学などに留学，帰朝後早大に仏文科を創設した。のち創作より文学研究に進み，農民文学・海洋文学研究の重要性を提唱。《仏蘭西(フランス)古典劇研究》で学位を得た。

よしがも 【葭鴨】 鳥類・ガンカモ科。全長45～50cmの中形のカモ。雄は頸部(けいぶ)は白色，顔頭部は光沢のある緑・かっ色で，すっぽりと鍋(なべ)をかぶったように見えるので，俗に〈鍋かぶり〉とよばれる。冬季にはシベリア大陸から多数渡来し，おもに内陸の水面にみられる。北海道で少数が繁殖する。➔カモ

よしかわえいじ 【吉川英治】 (1892～1962) 小説家。横浜の生まれ。本名英次(ひでつぐ)。高等小学校を中退後，店員・少年工・日雇いなど各種の職業を経て1911年(明治44)に上京，象眼細工に従いながら川柳に頭角を現わし，《大正川柳》同人となった。その後講談社の懸賞小説に3編同時入選したりしたが，東京毎夕新聞社に勤務，処女長編《親鸞記(しんらんき)》を連載，1925年(大正14)《キング》創刊号から執筆した《剣難女難》やそれに続く《鳴門秘帖(なるとひちょう)》で一躍花形作家になった。1931年(昭和6)ごろより新たな模索期にはいり，1935～1939年の《宮本武蔵*(みやもとむさし)》でその方向を確立，《新書太閤記(たいこうき)》《三国志》，さらには第2次世界大戦後の《新平家物語》《私本太平記》で国民文学の可能性を示した。 〔尾崎秀樹〕

よしかわこれたる 【吉川惟足】 (1616～1695) 江戸初期の神道家(しんとうか)。江戸の生まれ。壮年に至るまで歌道に専念した。のち吉田家の一族萩原兼従(はぎわらかねより)に学び，吉田神道*の奥儀を伝授された。将軍徳川綱吉のとき，公儀神道方に任ぜられ，子孫がこれを世襲した。その神道説は，仏教臭の残る吉田神道の行法を捨て去り，もっぱら理論的研究を重視して〈理学神道〉と称したが，朱子学の理気説に影響された点が多い。著書《神道大意註(ちゅう)》《神代巻惟足抄》など。➔次項 〔中西正幸〕

よしかわしんとう 【吉川神道】 江戸初期に吉川惟足*(これたる)の樹立した神道説。惟足は吉田神道*の道統に立つが，仏教色を排して独自の神道説を唱えた。従来の祭祀(さいし)行為を重視する神道を社人(行法)の神道とし，これに対して理によって天下を治める理学神道を提唱・強調した。その学問的裏づけには宋(そう)学があり，彼のいう

→491ページ

予　　算

国の歳入・歳出に関する予定計画をいう。地方公共団体・企業・家計などの収支計画も予算ということがあるが，一般には国の場合をさす。国の予算は，一定期間における国の収入・支出に関する計画を示したものであるが，政府がこれを作成し，国会に提出して，その承認を得なければならないことになっている。わが国の場合は，4月1日から翌年3月31日までの1年間を会計年度といい，この間における収入と支出を対象としているので，これを歳入・歳出とよんでいる。会計年度の始期は国によって異なっている。たとえば，日本・イギリスは4月から翌年3月までであるが，アメリカ・イタリアは7月から翌年6月まで，フランス・西ドイツ・ソ連は1月から12月までである。国の予算のうち歳入予算は，単なる見積もりにすぎないが，歳出予算などについては，国会の政府に対する支出または債務負担の権限付与の一形式であるという性格をもっている。国の活動のほとんどすべては，直接間接に収入や支出を伴うから，それらはおのずから予算に反映されているとみられる。また，国民は国会での予算審議を通じて，国の活動一般について深く関与しているとみることができる。

【予算制度の沿革】予算あるいは予算制度は，近代社会ないし資本主義の発展とともに発達してきたいわゆる歴史的産物である。わが国における予算制度は，明治維新を経て近代国家がいちおう形成されて以来，しだいに近代的予算制度の様相を整えるようになった。1873年(明治6)にはじめて《歳入歳出見込み会計表》がつくられ，太政官(だじょうかん)達をもって公布されたが，これはまだ近代的予算の性格をもつものではなかった。1881年に会計法が制定され，これによって統一された収支計画表としての予算がつくられるようになった。しかし近代的予算制度の成立は，やはり1889年の議会制度成立以降である。これにより，①毎年度の予算は内閣により作成され事前に国会に提出されてその審議承認を受けなければならないこと，②新たに租税を課したり税率を変更したり，あるいは国債の発行や予算外国庫負担契約をする場合には議会の議決を要すること，③衆議院の貴族院に対する予算先議権など，近代的予算制度のいちおうの形式が整えられた。1947年(昭和22)大日本帝国憲法に代わって新憲法が発布され，旧来の天皇主権に代わって国民主権の統治機構が確立された。予算制度の面においても，憲法の諸条項の規定とこれを受けた財政法・会計法などの諸規定を通じて，財政民主主義の原則が貫かれることになった。

【予算原則】予算ないし予算制度については，そのあるべき姿について古くから論議されてきたが，民主主義の理念と技術的合理性の見地から当然要請されるいくつかの原則がある。これを〈予算原則〉とよんでいる。①公開の原則：予算は公開され，国会を通じて国民の批判と承認を受けなければならない。②明瞭(めいりょう)の原則：予算は一定のシステムのもとに収支が明瞭に示され，わかりやすいものでなければならない。③予算統一性の原則：すべての収入は一つの一般的基金に繰り入れられ，すべての支出はこの基金から行なわれなければならない。特別の場合を除いて，特定の支出と特定の収入とを結びつけるべきではない。④明細の原則：予算の収支は具体的かつ明細に示され，特定の場合以外は，費目の流用を許してはならない。⑤事前承認の原則：予算はあらかじめ議会による審議・議決を受けなければならない。⑥会計年度独立の原則：予算は会計年度ごとに限定して与えられるべきである。⑦厳密の原則：予算の見積もりはできるかぎり正確でなければならない。

以上がおよそ伝統的な意味での予算原則であるが，現実にはこのような原則を貫くことには多くの矛盾と抵抗がある。しかも，財政の機能が以前と比べて著しく増大してきている今日，議会が政府を統制するという見地から，予算の原則を考える従来の予算原則では十分ではなく，行政運営上の要請を十分に考慮した形のものに書き改められる必要がある。たとえば，行政当局がその運営上の効率を増大させることができるよう，また経済活動の変化に対応して弾力的に機能しうるよう，幅広い〈裁量〉の余地を与える原則を付加する必要があろう。これら原則はおそらくさきの予算統一性の原則，会計年度独立の原則，明細の原則などと矛盾した形のものとなろうが，相互に矛盾した原則の調和の上に立ってその時代の要求を反映した形で構成されるのが予算ないし予算制度の真の姿であろう。

【予算の種類】国の予算は，さまざまな観点から，その種類を次のように区分されている。一つは一般会計*予算・特別会計*予算・政府関係機関予算の区分であり，もう一つは当初予算・補正予算・暫定予算の区分である。

①一般会計予算・特別会計予算・政府関係機関予算：国の予算という場合，この3種類の予算を総括してよんでおり，これらはすべて国会に提出され，その審議・承認を受けなければならないことになっている。予算統一性の原則からすれば，国のあらゆる収支は総合的・統一的に管理されることが予算運営上望ましいわけであるが，実際問題として国の活動にはさまざまなものがあり，これらを一般行政活動と同じに一括して処理したのではかえって混乱を招き，非能率となるおそれがある。一般会計予算から切り離して特別会計予算や政府関係機関予算を設けているのはそのためである。一般会計予算は国の主要な収入・支出を総合的に管理しているもので，国のさまざまな一般行政活動をここで一括処理している。特別会計予算は特定の収支を切り離して経理するために，必要に応じて設けられているもので，食糧管理・外国為替(かわせ)資金・資金運用部・厚生保険など，現在43の特別会計予算がある。政府関係機関予算には，日本国有鉄道・日本電信電話公社・日本専売公社の3公社，住宅金融公庫など9公庫および日本開発銀行・日本輸出入銀行が含まれ，これらの予算は国会審議の対象となっている。これら諸機関の資本金は全額政府出資であるが，同じ全額政府出資の機関であっても，公団*・事業団*などはこの範疇(はんちゅう)に含まれず，したがってそれらの予算は国会審議の対象とされていない。

②当初予算・補正予算・暫定予算：毎年新会計年度が始まるに先だって，その年度を通じての国の活動のために必要な経費と収入を総合的に盛り込んで決定された予算が，当初予算ないし本予算とよばれるものである。これに対し，当初予算が決定されたあとで，さまざまな事情によりこれに修正ないし追加を施さなければならないことがある。これが修正予算ないし追加予算といわれるもので，この両者を合わせて補正予算とよんでいる。新年度が始まるまでに予算が成立しそうもないとき，短期間の予算を作成して，国会の審議・承認を受けることになるが，これを暫定予算とよんで，のちに本予算が成立したとき，この暫定予算は本予算に吸収される。

【予算の内容】予算の形式的内容は，予算総則・歳入歳出予算・継続費・繰り越し明許費・国庫債務負担行為の五つの部分からなっている。①予算総則：予算書の冒頭に掲げられた総括的規定で，その年度の予算に関する総括的事項，公債および借入金の限度額，公債または借入金によってまかなう公共事業の範囲，大蔵省証券の発行あるいは日本銀行からの一時借入金の限度額，災害復旧その他緊急の必要がある場合の国庫債務負担行為の限度額など，予算の実行のために必要な事項を規定している。②歳入歳出予算：予算の基本的内容をなすもので，歳入と歳出の内訳が述べてある。歳入予算は税法の規定その他にしたがって国庫にはいるべき収入の単なる見積もりであるが，歳出予算は単なる見積もりではなく，政府はこれによって支出の目的と金額のわくを与えられ，拘束される。③継続費：完

成までに数年を要する工事・事業で，特に必要がある場合には，初年度を含め５年以内の数年度分の総費総額および年度割額を見積もって，あらかじめ国会の承認を得ておくことがあるが，これを継続費という。④繰り越し明許費：当年度の歳出予算額はその年度内に使用されるのが原則であるが，特別の場合には翌年度に繰り越して使用されることができる。この例は土木関係費・補助金などに多い。繰越額は次年度予算に含めて国会の承認を必要とする。⑤国庫債務負担行為：国が債務を負担するについては，すべて国会の議決を経なければならないが，その債務負担が歳出予算の金額・継続費の総額の範囲内，あるいは法律に基づく場合ならば問題はない。ここではこれら以外で，工事費や出資の契約による場合あるいは災害復旧その他緊急の必要の場合に，国会の承認を経た金額の範囲内で，債務を負担することができるものをさす。次年度以降の支出については，あらためて国会の承認が必要である。

【予算過程】予算過程というのは，予算案が作成され，国会の審議・承認を経て，実行に移され，そして決算となる過程をいう。

①予算案の作成：毎年度の予算案は各省で原案がつくられ，大蔵省がこれをもとにして国全体の予算案をまとめあげるという順序で行なわれる。まず前年の５～６月ごろから各省の内部で予算案編成の作業が始まる。８月末までに各省における概算要求書が内部でまとめあげられ，大蔵大臣に提出される。一方，大蔵省でも，前年の５～６月ごろから各省における作業と並行して準備が進められる。予算の収入面については主税局が中心となり収入見積もりの作業が行なわれ，支出面については主計局が中心となり支出計画および査定のための参考資料を準備する。８月末までに大蔵大臣に提出された概算要求は，大蔵省の側で準備した参考資料と対比され，審査を受ける。10～12月には大蔵省内で査定の会議が開かれ，最終的には大蔵省議の決定を経て，新年度予算についての大蔵省原案が決定される。この大蔵省原案に対し，各省から復活要求が開始される。復活折衝が終わると，予算案は閣議に提出され，閣議決定をみることになる。

②予算の審議：予算案が作成されると，内閣はこれを国会に提出する。提出された予算案は，国会において法律で定められた一定の手続きに従って審議される。国会での審議はまず衆議院から行なわれるが，本会議での審議に先だって，その予算案が予算委員会に送付され，専門的・実質的な審議が，この予算委員会において行なわれる。予算委員会での審議が終わると，その結果が予算委員長より本会議に報告され，これに基づいて本会議での予算審議が行なわれる。本会議での審議は，この予算委員会での審議に比べるとかなり形式的であり，最終的には採決によって予算審議が終了することになる。このようにして衆議院における審議が終わると，次に参議院での審議に移るわけであるが，実際には予備審議という形で，衆議院での審議と並行して参議院での審議も開始されている。参議院での予算審議の手続きは，衆議院の場合とまったく同様で，実質的には予算委員会での審議が中心となる。衆議院と参議院とで議決が異なるときは，衆議院の議決が優先され，それが国会の議決となる。

③予算の実行：予算が成立すると，内閣は各省庁の長に対して，それぞれが実行すべき歳入歳出予算・国庫債務負担行為などについて配分を行なう。歳入予算については大蔵大臣に一般的な責任があるが，歳出予算については，各省庁の長は配賦された予算の範囲内で支出負担行為に関する実施計画書をつくってこれを大蔵大臣に送付し，その承認を求める。大蔵大臣は各省庁の支払い計画を審査し，国庫金・歳入・金融事情などを考慮した上でこれを承認する。そしてさらにこれは閣議の承認を受けたのち，関係各省庁・会計検査院・日本銀行に通知され，予算が実行されることになる。予算の実行は㋑支出負担行為，㋺支出，㋩現金支払いの３段階に分かれている。支出負担行為というのは，歳出予算・継続費・国庫債務負担行為に基づいて支出の原因となる契約その他の行為を行なうことをいう。支出負担行為が行なわれると，それに基づいて支出がなされる。支払いについては国庫統一主義が採用されているから，国庫金の受け払いは原則として日本銀行の預金口座を通じて行なわれる。したがって，支払いは通常日本銀行を支払い人とする小切手の振り出しによってなされる。

④決算：予算の実行が終わると，各省庁の長はそれぞれの歳入・歳出の決算報告書および国の債務についての計算書をつくって，それを大蔵大臣に送付する。大蔵大臣はこれをもとにして歳入歳出決算をつくり，これに歳入決算明細書，各省庁の歳出決算報告書，継続費決算報告書，国の債務についての計算書を添えて，翌年度の11月30日までに会計検査院に送付する。会計検査院はこれを検査し，検査報告書を作成したうえで，さきの各種書類と合わせて次の通常国会に提出する。➔財政　➔一般会計

〔西野義彦〕

〈理〉は宗教的価値を直観的に把握(はあく)する手だてであるが，単なる抽象論に走らず，現実に即した神道説を展開した。

〔田上光治〕

よしきり【葭切・葦切】鳥類・ヒタキ科・ウグイス亜科のうちヨシ原を好んで繁殖する鳥の総称。その多くのものは12種からなるヨシキリ属の鳥であり，ユーラシア大陸・オーストラリアに広く繁殖・分布している。オオヨシキリは，全長17～20cm，くちばしと脚はしっかりとして強く，上面はくすんだ黄かっ色，下面は淡黄白色。夏鳥として日本各地の湖沼・河川や海岸のヨシ原に繁殖する。ヨシの先やカワヤナギの上に出て〈ギョギョシ，ギョギョシ，ケチケチケチ〉とさえずる。このため俳句などで〈行々子〉とよまれている。コヨシキリは羽色はオオヨシキリに似るが，体は全長12～14cmとはるかに小さい。ヨシ原にもすむが，ヨシが点々と混生するような高原の草原も好み，夏鳥として本州・北海道で繁殖する。さえずりはオオヨシキリのさえずりにある行々子と聞こえるものは不明確で，また途中にキセキレイやビンズイの声質に似た鳴きを入れる。〔安部直哉〕


ヨシキリ

よしきりざめ【葦切鮫】軟骨魚類・メジロザメ科。アオブカ・ミズブカ・アオナギなどの地方名がある。体長６mほどに達し，体は紡錘形で吻(ふん)はとがり，背側は暗青色で腹側は白い。胸びれは長く，第２背びれと臀(しり)びれが対在する。暖海に広く分布し，表・中層にすむ。はえなわで魚獲され，肉はかまぼこなどの練製品に，ひれは〈ふかひれ〉として利用される。

よしごい【葭五位・葦五位】鳥類・サギ科。ヨシ原にすむ小形のサギの一種。全長35cm前後。全体に黄かっ色で，頭上と風切り羽は黒色で飛んだときには目だつ。夏鳥として各地のヨシ原に繁殖し，巣に外敵が近づくと，上方にくびをぐっと伸ばし，周囲のヨシに身を擬して危険を避ける習性がある。➔次ページ(写真)

よしこのぶし【よしこの節】徳島県の民謡。《阿波(あわ)よしこの》《徳島盆踊り(歌)》ともいう。集団で熱狂的に歌い踊るので《気ちがい踊り》とよばれたりもする。速いテン

ポの三味線(しゃみせん)にのせてメリスマ*の多い歌と，こっけいな囃子(はやし)ことばを交互に歌う。

よしざわあやめ　【芳沢あやめ】(1673～1729)　元禄(げんろく)期の上方歌舞伎(かぶき)を代表した名女方。若衆方から立ち役*へ，さらに若女方に転じた。1698年(元禄11)の《傾城浅間嶽*(けいせいあさまがたけ)》において演じた傾城三浦の役が出世芸となり，1717年(享保2)には俳優の最高位の称である〈三ケの津総芸頭〉とたたえられた。彼は女方は平生も女になって暮らすべきだといい，写実的な女方芸の基礎を確立した。芸談を筆録した《あやめ草》がある。〔服部幸雄〕

よししげのやすたね　【慶滋保胤】(934?～997)　平安中期の漢学者・漢詩人。本姓は賀茂(かも)。早く文章博士(もんじょうはかせ)菅原文時(すがわらふみとき)(道真(みちざね)の孫)の門にはいり，文学にひいで，七位で内記に任ぜられた。幼少のころから信心深く，30歳代には勧学会(かんがくえ)を結成して漢詩と講経の指導者となった。53歳で出家して寂心と称し，増賀・空也(くうや)の弟子(でし)となる。多くの詩作品のほか《池亭記(ちていき)》《日本極楽往生記》などを著わした。〔木越　隆〕

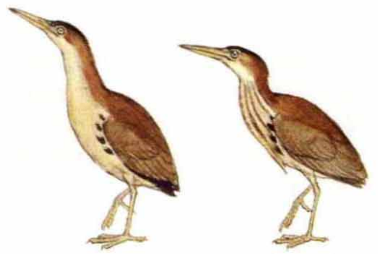
よしずみこさぶろう　【吉住小三郎】長唄(ながうた)唄方の芸名。元禄(げんろく)生まれの初世から現在まで5世を数える。著名なのは4世(1876～1972，のち慈恭と改名)で，彼は稀音家(きねや)浄観*と組んで長唄研精会を開き，また東京音楽学校の初代教授となるなど，劇場と離れて長唄の演奏・教育に努力した功績は大きい。作曲に《鳥羽(とば)の恋塚(こいづか)》，共作に《紀文大尽》ほかがある。

よしだ　【吉田(町)】愛媛県北宇和郡の町。人口16,000。県の南西部に位置し，宇和海に臨む。1955年(昭和30)旧吉田町と付近の5村が合併して発足。県の柑橘(かんきつ)類栽培の発祥地で，現在もウンシュウミカンの産地として名高く，近隣の町や大分県杵築(きつき)市にも出作りしているミカンの町である。

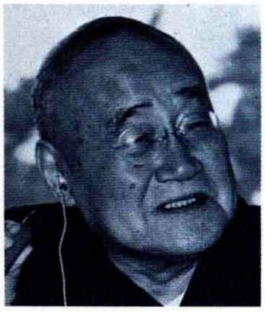
よしだいっすい　【吉田一穂】(1898～1973)　詩人。本名由雄(よしお)。北海道の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科中退。1926年(昭和1)詩集《海の聖母》を刊行して認められた。叙情詩から散文詩・詩論へと移っていくとともに，フランス象徴主義の影響のもとに詩における絶対純粋性を求め，三行形式の詩を試みた。詩集《稗子伝(はいしでん)》《未来者》は，そうした幾何学的精神の到達点を示すものである。ほかに童話集もある。

よしだえいざ　【吉田栄三】人形浄瑠璃(じょうるり)の人形つかい。

[1]初世(1872～1945)　本名柳本栄次郎。大阪の生まれ。1883年(明治16)初舞台。生涯(しょうがい)定まった師につかず努力を続け，彦六座(ひころくざ)・稲荷座(いなりざ)を経て1898年から御霊(みたま)神社境内の文楽座に入座，



ヨシゴイ　雄は左



吉田　茂

1927年(昭和2)以後人形座頭(ざがしら)となる。はじめ女方をつかったが，のち立ち役に転じ，荒物などを手がけた。理知的で渋く，格調高い芸風で知られた。

[2]2世(1903～1974)　初世の門人で1949年栄三襲名。〔前田慎一〕

よしだけんこう　【吉田兼好】⇒兼好

よしだげんじろう　【吉田絃二郎】(1886～1956)　小説家・戯曲家・随筆家。本名源次郎。佐賀県の生まれ。早稲田(わせだ)大学英文科卒。青年時代の体験をもとに《島の秋》を書き，出世作となった。以後，感傷的な筆致で自然と人生の情趣を説いた小説や感想随筆集などで読者を魅惑した。小説《清作の妻》《ダビデと子たち》《芭蕉(ばしょう)》のほか，戯曲《大谷刑部(ぎょうぶ)》などがある。

よしださだふさ　【吉田定房】(1274～1338)　鎌倉末期・南北朝時代の公卿(くぎょう)経長(つねなが)の子。後醍醐(ごだいご)天皇に重用され，万里小路宣房(までのこうじのぶふさ)・北畠親房(きたばたけちかふさ)とともに〈後の三房〉と称された。元弘(げんこう)の乱に際しては，討幕計画を事前に幕府に密告したこともある。乱後一時光厳(こうごん)天皇に仕えたが，建武新政権にも再び重用されて内大臣となった。1336年(延元1・建武3)足利尊氏(あしかがたかうじ)の軍が上京したときは，三種神器*を奉じて延暦(えんりゃく)寺の行在所におもむき，後醍醐天皇が吉野に行幸したのちは一時北朝*に仕え，やがてまた南朝*に仕えた。〔高崎徳次〕

よしだしげる　【吉田茂】(1878～1967)　外交官・政治家。東京の生まれ。土佐自由党竹内綱の第5子。牧野伸顕(のぶあき)の女婿。東京大学政治学科卒業後，外務省にはいり，天津(てんしん)・奉天総領事，スウェーデン公使，イタリア・イギリス大使を歴任したが，親英米派と目され，軍部独裁体制が進むにつれて軍部から排斥され，1939年(昭和14)退官。第2次世界大戦末期に和平論者としての動きを追求され，憲兵隊に拘置された。1945年東久邇(ひがしくに)内閣の外相，幣原(しではら)内閣にも留任。終戦連絡中央事務局総裁を経て，1946年5月鳩山(はとやま)一郎のあとをうけて自由党総裁となり，第1次吉田内閣を組織した。翌年二・一ストを頂点とする労働攻勢に対し，占領軍に守られて天皇制保守体制の防衛に努めた。1947年総選挙に敗れて退陣。1948年昭和電工事件で倒れた芦田均(あしだひとし)内閣のあとをうけて第2次内閣を組織，1949年総選挙で絶対多数を獲得して保守永久政権の基を開き，第3次内閣を組織した。1951年サンフランシスコ会議の首席全権として対日講和条約*・日米安全保障条約*に調印。1952年第4次，1953年第5次内閣を組織したが，1954年反吉田勢力を結集した日本民主党*の成立により総辞職した。以後池田勇人(はやと)・佐藤栄作らの後継者を通じ，大御所として君臨した。〔安達利夫〕

よしだしょういん　【吉田松陰】(1830～1859)　江戸末期の勤王派の志士。長門(ながと)(山口県)萩(はぎ)の人。長州藩士杉百合之助(すぎゆりのすけ)の次男。6歳のとき兵学師範吉田大助の養子となり家学を継いだ。学業優秀で19歳のとき独立の師範となった。21歳で九州各地に遊び，22歳のとき兵学研究のため藩主に従って江戸に出，佐久間象山*に入門した。まもなく藩に無断で東北各地を巡歴したため罪に問われ，士籍と世禄(せろく)を奪われたが，1853年(嘉永6)許可を得て諸国を回り再び江戸にはいった。このときペリーの浦賀来航を知り攘夷論(じょういろん)を唱えて幕政を批判し，以後海外渡航を企てて，翌年ペリー再航の際アメリカ艦におもむいたが果たさず，幕府に自首して捕われた。郷里の杉家に禁錮(きんこ)中私塾(しじゅく)(→松下村塾)を開き，高杉晋作*(しんさく)・伊藤博文*(いとうひろぶみ)・山県有朋*(やまがたありとも)ら多くの門弟を養育しつつ，討幕運動を画策した。1859年(安政6)安政の大獄*で再び捕えられ，江戸で刑死した。著書《講孟(こうもう)余話》《幽囚録》《留魂録》など。〔小田　博〕

よしだじんじゃ　【吉田神社】京都市左京区吉田神楽岡(かぐらがおか)町にある。祭神は健御賀豆智命(たけみかずちのみこと)・伊波比主命(いわいぬしのみこと)・天之子八根命(あめのこやねのみこと)・比売神(ひめかみ)。貞観年間(859～876)に藤原山蔭(やまかげ)が奈良の春日(かすが)明神を移祭したに始まる。以来，占部(うらべ)氏(吉田家)が神祇(じんぎ)官として当社に仕え，室町時代以降は卜部兼倶*(かねとも)が吉田神道(しんとう)を唱えて全国の神道家を支配したこともあった。4月18日の例祭のほか，節分祭は疫神(えやみのかみ)・追儺(ついな)の火祭りとして有名。→次項〔佐野文哉〕

よしだしんとう　【吉田神道】神道の一

流派。唯一神道・卜部(うらべ)神道ともいうが，正しくは元本宗源神道・唯一宗源神道という。鎌倉時代のころより京都の吉田家に伝来した神道説を室町時代後期に出た卜部兼俱(かねとも)が大成し唱導したもの。従来の神道を，①本迹(ほんじゃく)縁起神道(神社の縁起・ゆいしょを中心としてたてた神道)，②両部習合神道(真言宗と結合して発達した神道であるが，ここでは本地垂迹説の代表としてこれをあげる)，③元本宗源神道の3種に分類し，第3の元本宗源神道こそ天地開闢(かいびゃく)以来の唯一の神道であるとし，唯一なる神とその道の根本を守って神明の本誓にあがめることを説く。これは，儒教・仏教・道教・陰陽道(おんみょうどう)などの思想を融合・混淆(こんこう)しているが，その中心には神道をおいており，平安時代以来の本地垂迹説・仏主神従といわれる神道説に対して，反本地垂迹説・神主仏従の立場に立ち，自主的・自覚的精神に富んでいる。この神道説により，吉田家は江戸時代の終わりまで全国の神職界に大きな勢力をもった。➔前項　〔熊谷保孝〕

よしだにくしゅ【吉田肉腫】 1943年(昭和18)病理学者吉田富三(1903～1973)が発見したシロネズミの悪性腫瘍(しゅよう)(腹水腫瘍)。シロネズミにo-アミノアゾトルエンを3か月間経口投与し，次いで0.5%亜ヒ酸アルコール溶液を皮膚に塗り続け，223日めに腹腔(ふくこう)内に発生させた。腫瘍細胞が腹腔液中で個々に遊離した状態で増殖するのが特徴である。悪性腫瘍の生物学的・生化学的研究に広く用いられている。

よしだぶんごろう【吉田文五郎】 人形浄瑠璃(じょうるり)の人形つかい。初世・2世は伝不詳。3世(1869～1962)は，本名河村巳之助(かわむらみのすけ)。大阪の生まれ。1883年(明治16)初世玉助の門弟となり，1909年文五郎を名のる。明治・大正・昭和の3代にわたり女方の人形をつかい，濃厚で官能美に満ち，奔放な舞台をつとめた名人で，吉田栄三(えいざ)の芸風と対照的であった。《酒屋》のお園，《寺小屋》のお千代があたり役。

よしだぶんざぶろう【吉田文三郎】 人形浄瑠璃(じょうるり)の人形つかい。

1 初世(？～1760)　竹本座の人形つかい吉田三郎兵衛(さぶろべえ)の子で，竹本座での初舞台《国性爺合戦(こくせんやかっせん)》以来すぐれた演技を見せた名人。人形の三人つかい形式の完成者といわれ，人形のしかけや衣装などに創意くふうを凝らした。吉田冠子の筆名で台本の合作も行なった。

2 2世(1732～1790)　初世の子で名人といわれた。

3 3世(？～1829)　1世の門人。〔前田慎一〕

よしだみつよし【吉田光由】 (1598～1672)　江戸時代初期の数学者。通称七兵衛(しちべえ)，久庵(きゅうあん)と号した。京都嵯峨(さが)の角倉(すみのくら)家一族。はじめ毛利重能(しげよし)に学んだ。のち角倉了以の子素庵について中国数学書を研究，程大位の《算法統宗》を手本に，1627年(寛永4)《塵劫記(じんこうき)》を著わした。これは明治初期まで庶民の間で広く利用された。このほか《古暦便覧》《和漢編年合運図》などの著書がある。〔下平和夫〕

よしだや【吉田屋】 ⇨廓文章(くるわぶんしょう)

よしつねせんぼんざくら【義経千本桜】 義太夫節(ぎだゆうぶし)の曲名。5段の時代物。略称《千本桜》。竹田出雲(いずも)・三好松洛(みよししょうらく)・並木千柳(宗輔(そうすけ))合作。1747年(延享4)竹本座初演。源平合戦の後日の世界に材をとり，時代物であるが世話場にすぐれている。義経を描いた浄瑠璃(じょうるり)中の傑作で，《菅原伝授手習鑑(すがわらでんじゅてならいかがみ)》《仮名手本忠臣蔵》とともに日本演劇の三大名作とされる。この3作が，1746・1747・1748年と続いて初演されていることは興味深い。話は，平家の没落後，その再興を図る知盛(とももり)・維盛(これもり)・教経(のりつね)の挿話(そうわ)に，義経の堀川(ほりかわ)夜討・大物浦(だいもつのうら)・吉野落(よしのおち)伝説をからませたもの。4段目の〈道行初音旅〉は華麗なふんい気とキツネと忠信(ただのぶ)の早変わり，2段目の〈渡海屋(碇(いかり)知盛)〉，3段目の〈鮨屋(すしや)〉，さらに道行のあとの〈川連館(かわつれやかた)〉などとともに，今日までたびたび上演されている。1748年(寛延1)には歌舞伎(かぶき)化され，伊勢(いせ)の芝居で初演，さらに江戸中村座で上演されて大あたりを取った。歌舞伎では〈道行〉を清元節と常磐津節(ときわずぶし)の掛け合いで演じ，また富本節(とみもとぶし)にもつくられており，独立した舞踊劇としても盛んに演じられている。〔前田慎一〕



義経千本桜　(上)〈鮨屋〉の場　無頼漢権太(実川延若)は悔悟して自分の女房・子どもを身替わりにたてる　(下)〈道行初音旅〉の段　義経を尋ねて静御前の道行(文楽の舞台より)

よしの【吉野(町)】 奈良県吉野郡の町。人口16,000。紀ノ川上流部の吉野川流域に位置し，1956年(昭和31)旧吉野町を中心に上市などの5村が合併して発足。吉野川沿いの段丘上では農業が行なわれ，山地では林業が盛んである。製材・木材加工業が上市付近に多い。南部の吉野山はサクラと南朝の史跡で名高く，訪れる人が多い。近畿(きんき)日本鉄道吉野線が通ずる。

よしのがわ【吉野川】 ⇨紀ノ川

よしのがわ【吉野川】 四国地方第一の長流。流程1,94km。別名〈四国三郎〉。石鎚(いしづち)山東方の瓶ケ森(かめがもり)(1,897m)を発して高知県北部を東流，北転して徳島県にはいると大歩危・小歩危(おおぼけ・こぼけ)の峡谷によって四国山地を横断し，中流部の池田町から中央構造線沿いに東流して下流部に徳島平野をつくり，紀伊水道に注ぐ。河口の徳島市周辺は低湿地で藩政時代に新田開発が行なわれ，1963年(昭和38)に新産業都市に指定された。支流の祖谷(いや)川上流部に秘境として知られる祖谷がある。

よしのくまのこくりつこうえん【吉野熊野国立公園】 三重・奈良・和歌山の3県にまたがり，吉野・那智(なち)・本宮，大台ケ原一帯，北上川・熊野川の流域，熊野灘(くまのなだ)の南東端部などを中心とし，1936年(昭和11)に指定された。面積559km²。山



吉野熊野国立公園　(左)空から見た瀞八丁付近。熊野川の支流北山川は紀伊山地を蛇行して侵食し，深い峡谷をつくっている　(右)串本の名勝橋杭岩。かたいセキエイ粗面岩の岩脈が海食によって残されたもの。本土側から対岸の大島に向かって延びる



吉野熊野国立公園

岳部は温暖多雨のためスギ・ヒノキなどの森林に恵まれて渓谷(けいこく)・海岸の景観にもすぐれ，吉野・熊野の南朝の史跡や古社寺，大峰山の修験場の霊場など山岳宗教の地としても名高い。植物の宝庫ともいわれ，コメツガ・トウヒ・コウヤマキなど種類も多く，動物ではカモシカ・ツキノワグマも生息している。那智滝*や峡谷の瀞八丁(どろはっちょう)をはじめ洞天門(どうてんもん)・夫婦(めおと)岩などの奇岩が並び，海岸の鬼ケ城は奇岩と洞窟(どうくつ)で有名で，温泉は沿岸部に勝浦・湯川温泉，奥熊野に川湯・湯峰温泉などがある。〔木村東一郎〕

よしのさくぞう 【吉野作造】（1878～1933） 政治家・政治学者。宮城県の生まれ。東京大学卒業。キリスト教を信仰して安部磯雄(あべいそお)・木下尚江(なおえ)らと交わって，キリスト教社会主義に共鳴した。ヨーロッパ・アメリカ合衆国に留学し，1914年(大正3)東大教授となった。《中央公論》などに政治評論の論陣を張り，シベリア出兵*・帷幄(いあく)上奏に反対，普通選挙・貴族院改革などを主張して大正デモクラシー*のイデオローグになった。1918年黎明会(れいめいかい)新人会結成を指導し，1924年朝日新聞社に入社直後筆渦事件で退社した。1926年には社会民衆党結成を援助。森戸事件*・学連事件などでも終始抵抗の姿勢を堅持した。〔安達利夫〕

よしのしゅうい 【吉野拾遺】 室町期の説話集。その奥書きに，隠士松翁が1358年(正平13・延文3)に書いたとあるが，年代の合わない点もあり，《神皇正統記*》《太平記*》を資料とした偽書であろう。作者・成立年未詳。1336年(延元1・建武3)から1358年にかけての，南朝を中心とする人々の逸話を収めている。政治的な話題は少なく，歌物語的性格が濃い。

よしのじんぐう 【吉野神宮】 奈良県吉野郡吉野町の吉野山中にある。祭神は後醍醐(ごだいご)天皇。1339年(延元4・暦応2)吉野の行宮で没した後醍醐天皇は塔尾山に葬られ，御影(みかげ)は後村上天皇によって吉水院(のち吉水神社と改称)に奉安された。1892年(明治25)の創建ではじめ吉野宮と称されたが，1918年(大正7)に現社名となった。境内摂社に南朝の忠臣の霊を祭る御影神社・船岡神社・滝桜神社がある。例祭は9月27日。〔佐野文哉〕

よしのちょうてい 【吉野朝廷】 ⇨南朝

よしのひでお 【吉野秀雄】（1902～1967） 歌人。群馬県の生まれ。慶応義塾(ぎじゅく)大学中退。正岡(まさおか)子規*の作品に啓発され，作歌と国文学を独学。会津八一*に師事した。歌風は万葉をふまえた写実性が根底をなして格調高く，病中吟・亡妻挽歌(ばんか)・自然詠などに秀歌が多い。良寛を深く敬愛し，《良寛歌集》《良寛和尚(おしょう)の人と歌》などの著書がある。

よしのぼり 【葦登】 硬骨魚類・クモハ

ゼ科。体長8cmに達する淡水魚。長野県でヨナ・ヨナッペ・スイツキ，石川県でカワラゴリ・ツユゴリなどという。頭部は縦扁(じゅうへん)し，第1背びれ6棘(きょく)，第2背びれ9軟条，臀(しり)びれ9軟条。左右の腹びれは合わさって吸盤となっている。生時では赤や青の色彩があって美しく見える。日本の淡水魚としては多くみられる種類で，各地の淡水域にごく普通に産する。食用魚。

よしのやま 【吉野山】 奈良県のほぼ中央，吉野川左岸にあり，紀伊(きい)山地北部の大峰山地北端に位置する。標高455m。古来修験道(しゅげんどう)山伏の大峰山の入り口にあたって集落が発生し，サクラと南朝の史跡が全国的に知られる。サクラは下・中・上・奥の4か所の一目千本に分かれ，また吉野神宮・蔵王堂(ざおうどう)(金峰山寺(きんぷせんじ)本堂)・吉水神社・如意輪寺のほか，吉野皇居跡・後醍醐(ごだいご)天皇陵などの史跡がある。近鉄吉野線が通り，山頂へはケーブルカーが通じている。特に春には京阪神(けいはんしん)からの花見客でにぎわう。吉野熊野(くまの)国立公園の一部をなす。 〔高野 繁〕

よしのやまみちゆき 【吉野山道行】 日本舞踊・義太夫節(ぎだゆうぶし)・常磐津節・富本節・清元節の曲名。道行き物。人形浄瑠璃(じょうるり)《義経(よしつね)千本桜》の4段目《道行初音旅(はつねのたび)》を豊後節(ぶんごぶし)に移した作品がいくつか生まれた。吉野にいる義経を尋ねていく静御前と佐藤忠信(ただのぶ)(実はキツネの化身)との道行きで，忠信の屋島のいくさ物語が見所。

よしのりきゅう 【吉野離宮】 古代に大和(やまと)(奈良県)吉野郡に置かれた離宮。応神・雄略朝のそれは伝説的で確実とはいえないが，斉明(さいめい)・天武・持統・文武・元正・聖武(しょうむ)朝にはしばしばこの地に行幸があり，《万葉集》にもその際の歌が収録されている。宮跡は奈良県吉野郡吉野町宮滝の地と推定される。

よしますとうどう 【吉益東洞】 (1702～1773) 江戸中期の医者。名は為則(ためのり)，字(あざな)は公言，通称は周助，号は東庵(とうあん)・東洞。広島の生まれ。19歳のときにはじめて医学を学び，古今の多くの医書を読破して古医方によるべきことを主張。1738年(元文3)京都に移り大いに自説を鼓吹したが，時流に合わず困窮をきわめた。しかし，たまたま古医方四大家の一人，山脇(やまわき)東洋に認められたことが機縁となり，世人に知られるようになった。〈万病一毒〉ということを信条として診察を精密に行ない，また反応の強い薬を好んで治療に用いた。著書に《類聚方(るいじゅうほう)》《方極》《薬徴》などがある。 〔大鳥蘭三郎〕

よしみひゃっけつ 【吉見百穴】 埼玉県比企郡吉見村にある古墳時代末ごろの横穴古墳群。江戸時代から発見され，現在ではその数は230個に達している。市ノ川に沿



ヨシノボリ

った凝灰岩・砂岩からなる丘陵斜面に散在し，横穴は玄室(遺骸(いがい)や副葬品を納めるへや)・羨道(せんどう)(玄室に至るまでの道)・羨門よりなっている。横穴からは人骨のほか勾玉(まがたま)・管玉(くだたま)・耳輪・直刀・刀子・鏃(やじり)・埴輪(はにわ)・須恵器(すえき)などが出土。1922年(大正11)史跡に指定された。 〔高崎徳次〕

よしむらいじゅうろう 【芳村伊十郎】 長唄(ながうた)唄方の名家。元来は伊三郎が芳村家の代表(他の名を経て最終的に伊三郎になる)であったが，6世(1858～1935)と7世(1901～)以後，伊十郎が元老的存在になっている。

よしむらきみさぶろう 【吉村公三郎】 (1911～) 映画監督。滋賀県の生まれ。中学卒業後，松竹に入社，島津保次郎(やすじろう)の助監督を経て監督となる。早くからその斬新(ざんしん)な演出と画面構成は評価され，《暖流》《西住戦車隊長伝》で有能な若手監督として脚光を浴びた。第2次世界大戦後は《安城家の舞踏会》《わが生涯(しょうがい)の輝ける日》などで名実ともに第一線の監督となり，1950年(昭和25)新藤兼人(かねと)らと近代映画協会を設立。その後は《偽れる盛装》《夜の河(かわ)》など，現代京都風俗の描写にすぐれ，しだいに伝統的風俗のドラマへと傾斜した。 〔波多野哲朗〕

よしむらふゆひこ 【吉村冬彦】 ⇨寺田寅彦(とらひこ)

よしやのぶこ 【吉屋信子】(1896～1973) 小説家。新潟県の生まれ。はじめ少女小説に従事して，後年まとめた《花物語》の諸編を書いたが，《大阪朝日新聞》の懸賞当選作《地の果まで》以後家庭小説の代表作家となり，清純な理想主義的作風の美文調で《海の極(きわ)みまで》《女の友情》《良人(おっと)の貞操》などを発表，人気を博した。

よしょく 【余色】 ⇨補色

よしわら 【吉原】 東京都台東区の北部，千束地区の旧称で，江戸時代以来栄えた遊郭町の呼称。遊郭町の起源は1617年(元和3)，江戸幕府の公認で，従来市中に散在していた遊女屋が日本橋葺屋(ふきや)町(いまの中央区日本橋人形町付近)の一角に集まったことに始まり，地名は当時ヨシが繁茂していたため葭原(よしわら)とよばれていたことにちなむ。1657年(明暦3)の江戸の大火で同地域が全焼したために，幕府から引っ越し料をもらって現在地へ移り，以前の地を元吉原，移転地を新吉原とよんだが，のちには吉原といえば後者をさすようになった。濠(ほり)に囲まれた7町からなり，数千人の遊女をかかえた大小の妓楼(ぎろう)が軒を連ねて江戸市民に親しまれ，町人文化の開花にも大きな役割を果たした。明治以後も売春街として存続し，第2次世界大戦以後は特殊飲食店街となったが，1958年(昭和33)の売春防止法施行によって遊郭としての長い歴史に終止符を打った。その後一部の業者は旅館・娯楽場・トルコぶろなどに転業して今日に至っている。 〔浅井得一〕

よしわら 【吉原】 静岡県富士市の東部地区。江戸時代は東海道の宿場町で，駿河(するが)半紙を特産し，明治以後は近代的な洋紙工業が発達して〈製紙の町〉として知られた。1948年(昭和23)単独で市制を施行し，1966年富士市・鷹岡(たかおか)町と合併して富士市となる。大小100数社の製紙工場があり，自動車部品・機械・化学などの工場も進出し，岳南工業地域の中心地区をなす。市街地と東海道本線吉原駅の間は岳南鉄道で結ばれ，国道1号線・139号線が通じる。吉原駅西方，沼川河口にある田子ノ浦港は掘り込み式の人工港として1962年に開かれ，1966年には国際貿易港に指定されたが，最近ヘドロの公害が大きな社会問題となっている。 〔浅井得一〕

よしわらすずめ 【吉原雀】 日本舞踊・長唄(ながうた)・清元節の曲名。顔見世物。長唄は本名題《教草吉原雀》で，1768年(明和5)初演。顔見世狂言《男山弓勢競(おとこやまゆんぜいくらべ)》の大切りの所作事で，もとは複雑な筋がからんでいたが，現在は遊里吉原を背景に，男女の鳥売りが放生会の由来や廓(くるわ)話などを見せる。本名題《筐花手向橘(かたみのはなたむけのそでのか)》の清元曲は，長唄曲に加筆したもので，1824年(文政7)初演。男女の鳥売りから引き抜いて男達(おとこだて)と局(つぼね)女郎になるものだが(→引き抜き)，現在はふつう鳥売りだけで終わる。長唄曲は音楽的には，鼓唄(つづみうた)・伊勢音頭(いせおんど)・投げ節などはなやいだ節をたくさん用い，気分に応じて三味線(しゃみせん)も調弦を変え，速いテンポの菅垣(すががき)も使っている。 〔徳丸吉彦〕

よしん 【余震】 ⇨地震

よせ 【寄席】 落語・講談・浪曲などを上演する演芸場。人寄せ場の意味。講談では1700年(元禄13)名和清左衛門(せいざえもん)が浅草見付わきに，落語では1798年(寛政10)江戸で岡本万作が神田藁店(わらだな)に，大阪では初代桂(かつら)文治が座摩神社境内に創設したのに始まる。

よせぎざいく 【寄木細工】 種々の色目の木材や竹の細片などを接合したり，埋め込んだりして，表面に文様を表わす細工。わが国では天平時代に木画と称して行なわれ，その巧緻(こうち)な遺品は正倉院に伝えられている。しかし，木画は一時中絶し，江戸時代になって中国から同技法が伝えら



ヨセミテ国立公園　氷食を受けたカコウ岩は雄大なU字形の峡谷をつくる。写真はヨセミテ谷のグレーシアー－ポイントの奇景

れ，長崎を中心に行なわれて各地方に伝わり，箱根細工などを生んだ。近年は手芸として装身具などもつくられている。

よせぎづくり　【寄木造】 木造の仏像彫刻の技法の一。一木造に対し，像身の各部を細い材を用いて寄せてつくったものをいう。わが国では7世紀から行なわれたが，技法が定着したのは11世紀にはいってからで，藤原時代の造仏の盛行と巨像制作の需要が，この新技法を生み，定朝が現われてこの技法に一定の法則を見いだした。定朝作の平等院鳳凰堂(ほうおうどう)の阿弥陀(あみだ)如来座像は，40数個の材からなっている。

よせつ　【余接】 三角関数の一。コタンジェントともいう。記号cotはcotangentの略。平面上に直交座標を設け，原点を通りx軸と角θをなす動径が，原点を中心として半径rの円と交わる点の座標を$P(x, y)$とするときの比$\frac{x}{y}$をいう。$\cot\theta=\frac{x}{y}$で表わす。

よせなべ　【寄せ鍋】 鍋料理の一種。魚介・野菜などを取り合わせ，だしで煮ながら食べる。材料は淡泊な味のものを用い，鳥肉，タイまたは白身の魚，エビ・半ぺん・ハクサイ・ネギ・マツタケ・セリ・春雨・麩(ふ)・ぎんなん・湯葉や貝類など，季節のものを一口大に切って盛る。煮えにくい材料は下ゆでしておく。煮汁(にじる)は煮出し汁にしょうゆ・みりん・塩を加え，吸い物より濃いめに味つけする。汁も器に取り，煮えた材料から順に食べる。香味にはユズ・七色とうがらしを添える。　〔塩川ふみ〕

ヨセフ　［Joseph］《旧約聖書 創世記》に記される人物。族長ヤコブ*の11番めの子。父の愛を一身に集め，夢判断で兄たちを怒らせたりしたため，彼らの計略によってエジプトへ行く商人に売り渡される。奴隷になるなど異郷で苦労を重ねるが，あるとき王の夢を解き明かし，王国の8年後からの危難を予言して認められ，宰相になる。7年たって大飢饉(だいききん)となるが，王国は彼の備荒策で救われる。やがて，故郷から食糧を求めにきた兄たちと再会して彼らを助け，父とその一族をエジプトへ呼び寄せた。信仰あつく，行政実務にもすぐれていた。　〔松田　治〕



ヨ タ カ

ヨセフ　［Joseph］《新約聖書》の人物。イエスの母マリア*の夫。婚前にマリアがイエスを身ごもったので悩んだが，天使によって夢の中で，マリアの胎児は聖霊*によると告げられ，直ちにマリアと結婚したと伝えられる。イエスが公生活にはいったころは生存していたらしいが，十字架にかけられたころにはすでに故人であったらしい。

ヨゼフ（2世）［Joseph］（1741～1790）神聖ローマ皇帝。在位1765～1790年。マリア-テレジア*の長子で，代表的な啓蒙(けいもう)専制君主のひとり。父の死後，母の共同統治者となり，1780年母の死後に親政を行ない，中央集権的諸改革を実施した。特に教会勢力の抑制，農奴解放，重商主義に基づく商工業の育成などは注目すべき試みであった。対外的にはロシアのエカテリナ2世*と結んでプロイセンに対抗し，またトルコとも開戦したが敗れ，その中央集権的政策に対する反対も強く，しかも領内異民族の反抗に直面し，また1789年にはフランス革命に遭遇して，諸改革は十分な成果を収めることなく終わった。　〔松　俊夫〕

ヨセミテ（国立公園）［Yosemite］ アメリカ合衆国カリフォルニア州にある国立公園。1890年指定。面積約3,080km²。広く知られるのは，南西部にある氷食を受けたU字谷のヨセミテ谷で，長さ9kmにもわたり，両側は切り立った絶壁で，途中にヨセミテ滝をはじめ大小無数のみごとな滝がかかる。東部一帯にはシエラネバダ山脈の山山が連なり，公園の西・南の入り口付近には巨大なセコイアの木々がおい茂る。

よたか　【夜鷹】 鳥類・ヨタカ科の総称およびそのうちの一種。ニュージーランドと大洋区を除き，広く世界の温帯と熱帯に約70種が分布する。大部分のものが全身にかっ色と黒色の斑(まだら)のある羽毛をもち，日中は樹上や地上に休んでいる。夕方から夜間に飛び回り，大きな口をあけてこん虫類を食う。深い森林よりもむしろ疎林・草原や低木が点々とあるような草原などにすむ。脚は短く，歩くのはいたってまずい。地上にじかに産卵する。アフリカに分布するラケットヨタカとフキナガシヨタカは雄の風切り羽が左右1本ずつ長く伸び，またオナガヨタカの雄では中央対羽が長く伸びた特異な羽毛をしており，繁殖期にこの羽毛を示してディスプレー*を行なう。

この科の一種であるヨタカは，全長28～30cmで，全身黒かっ色の斑状。雄はのど・翼・尾に白斑(はくはん)がある。夏鳥として北海道・本州・四国の平地から山地帯にかけて繁殖する。枝に止まるときには，必ず枝の方向に止まって枝の上に乗っかるようにしていることと，羽毛が隠蔽(いんぺい)色で近寄ってもなかなか飛びたたないことから，人目につきにくい。夕方から夜間に〈キョッ，キョッ〉と特徴ある鳴きをする。それがちょうど鱠(なます)をつくるときの包丁の音のようなので，俗に〈鱠たたき〉とよばれる。　〔安部直哉〕

よだれ　【涎】 唾液(だえき)が口腔(こうこう)外に流れ出たもの。病的なものは流涎症(りゅうえんしょう)といい，唾液腺(せん)分泌亢進(こうしん)の状態である。正常時の唾液分泌量は1～1.5lであるのに対し，流涎症では3～4l，ときには10lにもなる。口腔内の炎症，薬物・毒物，胃・肝臓・膵臓(すいぞう)・子宮・性器などからの反射的刺激，あるいは脳炎後遺症などが流涎症の原因となる。

よっかいち　【四日市(市)】 三重県北東部の市。人口25万3,000。室町時代からの市場町で，江戸時代は東海道の宿場町，熱田神宮への渡船場として栄えた。四日市港は明治初期に稲葉三右衛門(さんえもん)が港湾修築を行なって以来，貿易港の機能を備え，1899年(明治32)には東海道唯一の物資集散港となった。1897年市制施行。市域は東は伊勢(いせ)湾に臨み，西は鈴鹿(すずか)山脈と接して，朝明(あさけ)・海蔵・三滝・内部(うつべ)・鈴鹿の諸河川がつくる伊勢平野北部の扇状地と河口付近の三角州地帯に広がる。産業三大別人口比は 7：45：48。明治以来，工業都市として順調な発展を遂げ，海外原料にたよる紡績・羊毛・板ガラス・肥料などの軽工業が中心で，伝統の万古焼などの陶磁器の生産も盛んであった。第2次世界大戦中は海軍の軍事基地となり，爆撃によって大きな被害を受けた。戦後は旧海軍燃料工廠(こうしょう)跡に進出した昭和四日市石

油を中心に重化学工業化が進み，1957年(昭和32)には石油化学コンビナートが建設された。石油化学製品のほか繊維・ガラス・化学肥料などの生産が多く，三重県の工業出荷額の40%を占め，万古焼や漁網は重要輸出品である。関西本線・近畿(きんき)日本鉄道名古屋線・国道1号線・名四道路(1号線)・23号線が通じ，西部には東名阪(とうめいはん)高速道路が建設中で，四日市インターチェンジも置かれる予定である。大気汚染などの公害が，わが国でも最初に問題となった所で，その対策のためにニュータウンの建設も計画されている。西郊に湯ノ山温泉があり，御在所山へロープウエーが通ずる。〔浅井得一〕

よつかいどう 【四街道(市)】 千葉県北西部の市。1981年市制施行。人口59,000。千葉市と佐倉市の中間に位置する。地名は，成田街道と佐倉街道がここで交差することから名づけられた。1955年(昭和30)四街道を含む千代田町と旭(あさひ)村が合併したときに，四街道を町名として採用した。市域は両総台地と鹿島(かしま)川の低地からなり，台地に水田が分布する農業地帯である。第2次世界大戦中まで陸軍下志津原演習場があったが，現在は自衛隊が駐屯(ちゅうとん)している。最近は千葉市から住宅と工場が進出し，工業団地も造成されている。

よっきゅうふまん 【欲求不満】 欲求や願望の充足が内的または外的な原因によって阻止され，達成できずにいる状態。フラストレーションともいう。はじめフロイト*が精神分析学の立場から用いたことばであるが，単に欲求が阻止されるだけでなく，それによって情動的緊張が高まった状態をいう場合が多い。ある条件の下で欲求不満に陥るかどうかは，個人の欲求状態や願望の強さ，妨害の受け取り方などによっても異なる。情緒的に安定し，欲求不満に対する耐久力(フラストレーション耐性)が強く，精神的成熟度が高いほど，より強い妨害に耐えうるし，葛藤*(かっとう)状態をきたさないような方法で不満を解決することができる。逆に，情緒が不安定で不満を感じやすい人や子どもなどでは，適切な解決ができず，フラストレーション状態に直面したとき，妨害物(人・事情)に怒りや恨みをもったり，攻撃的な態度をとる，あるいは退行*行動を起こしたり，不満は解決した，という空想に逃げ込むなどの未熟な解決法を示すことがある。〔深津千賀子〕

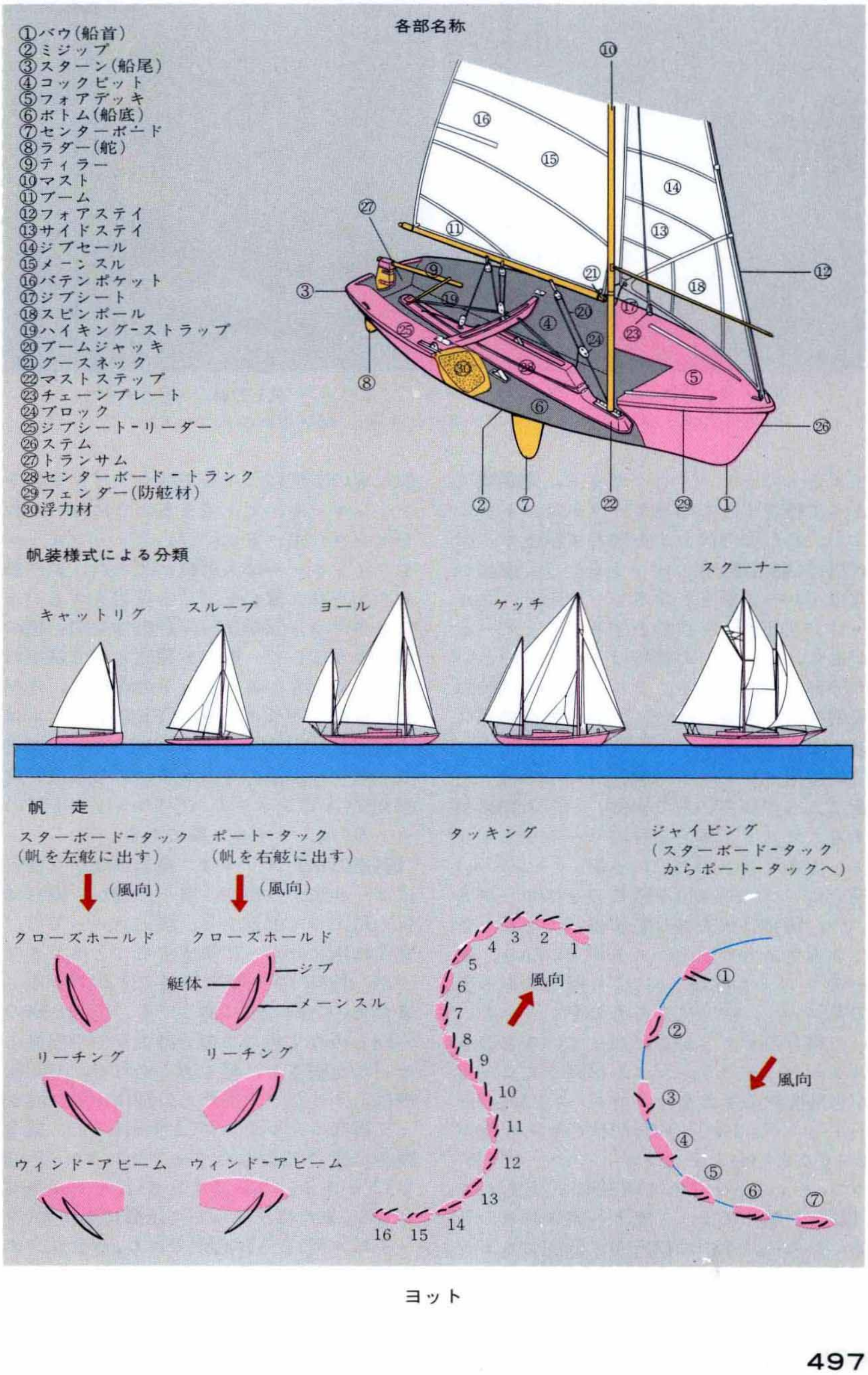
よつだけ 【四つ竹】 楽器の一。太いモウソウチクを四つに割って平らに削ったもので，両手に2枚ずつ握って，カスタネットのように打ち合わせて音を出す。江戸時代から民俗芸能や大道芸で使われていたものらしく，特に文化年間(1804～1817)には，〈四竹節〉といわれる大道芸が流行した。歌舞伎(かぶき)の下座音楽では，門づけ芸人や大道芸人の効果のためによく使われるが，《東海道四谷(よつや)怪談》の例に代表されるように下層生活の描写と結びつき，明るさはない。〔徳丸吉彦〕



四 つ 手 網

よつであみ 【四つ手網】 しで網ともいう。底敷き網の一。方形網地の四隅(よすみ)を竹や木のわくで張り，形を保たせた小形の網。一辺が10mに達する一般漁業用の大形の網もある。網を張り出し竹に結びつけて水中に設置し，この上に自然に，またはえさをまいて魚群が集まったところを急いで網を上げる。河川・湖沼で多く用いられ，コイ・フナ・ボラなどを漁獲対象とする。

ヨット ［yacht］ 個人またはクラブで所有している娯楽用の豪華な船の総称。帆



ヨット



ヨット　①キャットリグ(A級ディンギー)　②スループ(FD級)　③カタマラン(ホビー16)　④クルーザー(エクメドメール型，全長7.9m，6バース)

走するものをセーリングヨット，発動機によって機走するものをモーターヨットとよぶが，わが国では大小を問わず帆走する洋式帆装(縦帆様式)のボートをいう。用途からは，レースを主とするレーサーと，クルージング(巡航)を目的とするクルーザーとがあり，レーサーの種類はクラス(級)という呼称で表わされる。クルーザーには航海設備や居住設備のほかに，補助推進機関なども備えている。

〔帆装様式〕 マストや帆*(セール)の数・位置によっていろいろな帆装(リグ)の種類がある。マスト1本で1枚のセールをキャット，1本マストの後方に主帆(メーンスル)，前方にジブ(三角帆)を張るのをスループといい，後者は代表的な帆装様式である。また2本マストで前のマストが主になり，後ろのマストが舵軸(だじく)より後方にあるものをヨール，前方にあるものをケッチといい，後方のマストが主になっているものをスクーナーという。マストが高くてセールが三角形状のものをマルコニー-リグ(バーミューダ-リグ)，四角形状のセールをガフ-リグといい，マルコニー-スループとかガフ-キャットとよんで帆装様式を表わす。

〔艇体〕 風圧によって風下へ流されるのを防ぐために，水中に横方向に抵抗するような構造を設けてある。艇体を狭くとがらせて深くしたものをディープキール，それに似たものを別につくって取りつけたものをフィンキール，上下できるようになった板をセンターボードという。ディープキールやフィンキールは大形艇に使われ，鉛や鉄でつくられ，重心を下げる役目もする。またカタマラン(双胴艇)の各艇体を飛行機の翼のようにして，揚力を発生させて横流れを防ぐものもある。ヨットの艇体は，木材または強化プラスチック(FRP)，マストは木材または耐食アルミニウム，セールはポリエステル繊維のものが多い。なお追い風専用のスピンネーカー(パラシュート状のセール)は，ナイロン製である。

〔帆走方法〕 ヨットは，風上に向かう場合はセールによる揚力，風下に向かう場合は抗力によって前進する。風上といっても，完全に風に向かって帆走することはできないが，約45°の角度で走ることができる。またどの方向の風に対しても，風向と艇の方向とのなす角の二等分線よりやや内側にセールを張ると，最も速く走れる。方向転換は，ティラーの操作とは別に，風に向かって行なうタッキング(上手回し)と，風を後ろに受けて行なうウェアリング(下手回し)とがある。ウェアリングは，セールを右から左，または左から右に急激に動かす(ジャイビング)ことが必要であり，バランスに注意しないと転覆する。風下に走る場合は目標に直進できるが，風上に向かうにはタッキングをくり返しながらジグザグコースを走らなければならない。なおヨットを桟橋(さんばし)やブイから発着させるには，つねに風や水の流れに艇首を向けて行なうのが原則である。　〔戸田孝昭〕

ヨットレース [yacht race] 定められたコースを帆走し，所要時間を競う競技。コースは海面上にマークを設置・指定し，マークを回れば自分の判断でコースを自由に選んでよく，レース中に他艇に攻撃をしかけたり，防御したりするといったテクニックを要する。

〔歴史〕 世界で最初のヨットレースは17世紀の初め，オランダの貴族の間で行なわれた艤装(ぎそう)の艇(ヤット)によるレースといわれている。ヤットはやがてイギリスにわたりヨットと呼称されるようになり，富裕の人々の間に流行し，1661年にはイギリス製ヨットで国王チャールズ2世と王弟ヨーク公とがイギリスで最初のレースを行なっている。その後アメリカにもわたり，ヨット愛好の層を広くし，19世紀後半には本格的レーシングヨットが建造されはじめ，1907年には国際ヨット競技連盟(IYRU)が組織され，競技規則を国際的に制定し，国際レースを統轄している。

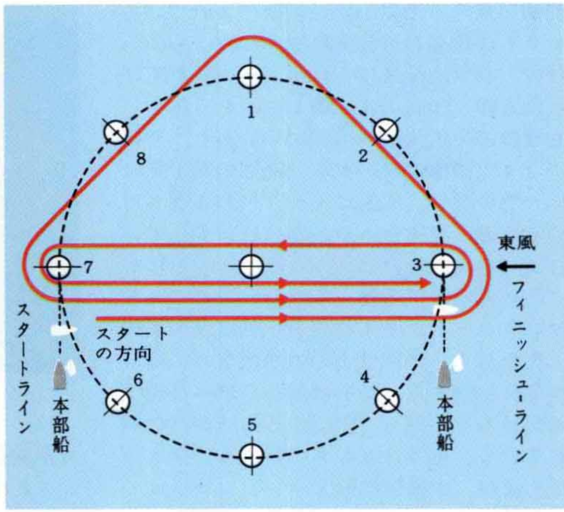
わが国にスポーツとしてヨットがとり入れられたのは明治初年で，神戸(こうべ)・長崎など外人が居留している都市に，外人を主体としたヨットクラブが組織され，それが刺激となってしだいに学生を中心としたヨット競技が行なわれるようになり，1932年(昭和7)日本ヨット協会が創設された。オリンピックには1936年の第11回ベルリン大会から参加した。オリンピック種目としては大会ごとに国際ヨット競技連盟が決定をする。東京オリンピック大会ではフィン級(1人乗り)，フライングダッチマン級(2人乗り)，スター級(2人乗り)，ドラゴン級(3人乗り)，5.5m級(3人乗り)の5種目が行なわれた。

〈競技〉 レースはオリンピックコースを例にとれば図のような配置となり，スタート→③→②→①→⑧→⑦→③→⑦→フィニッシングラインまでの所要時間で順位を決定する。スタートラインは風向きに直角とし，風上の標識を時計と反対回りに回る。ヨットはまっすぐ風上には進めないので，標識を回る場合，風力・潮流などの関係から各艇は乗員の経験と判断で帆走するのでコースはそれぞれ違う。艇はレース中衝突を避けるため次の規定がある。左舷(さげん)開きのヨットは右舷開きのヨットを避けること，風上のヨットは風下のヨットを避けること，追い越すヨットは追い越されるヨットを避けることなどで，これを守らぬ場合は失格となる。

外洋レースのように艇の種類が異なっているヨットレースを行なう場合(レーティングクラス)，艇の長さ・幅・重さ，帆面積



各艇はコースがそれぞれ違い，標識を回るときはじめて優劣がわかる



競技場　オリンピック-コース

ヨットレース

などを一定の式の中で計算し，同じ数値を得る艇種を定めて競走させることが多くなった。次の式，$R=\dfrac{L+2d+\sqrt{S}-F}{2.37}$（$L$は長さ，$d$は艇の肥瘦(ひそう)，$S$は帆面積，$F$は乾舷高にそれぞれ関係のある数）は,国際レーティング級を計算する式で，Rの値が違うものの競走は，そのRの値にしたがってハンディキャップをつける。なお，国際レースとして有名なのは，イギリス・アメリカ間で1857年に第１回レースを行なったアメリカンズカップ-レースである。そのほかのレースとして,バーミューダ-レース，ファーストネット-レース,シドニーボバート-レースの世界三大レースが有名である。〔五島徳雄〕

よつばしおがま　【四葉塩竈】　双子葉植物・ゴマノハグサ科。高山にはえる多年草で，高さ20～30cm。葉は長さ５～７cmで，深く羽状に裂け，４輪生する。８～９月，茎頂に紅紫色の花を多数つける。本種の仲間は世界に500種，日本には約20種ある。シオガマギクは山の陽地にはえ，長楕円状(ちょうだえん)披針(ひしん)形の葉を互生する。エゾシオガマギクは淡黄色の花をつける種で，本州中部以北の高山に生ずる。ミヤマシオガマは高山の岩地に生ずる種で，羽状複葉の葉を数枚根出させる。



ヨツバシオガマ

よつぼしけしきすい　【四星出尾虫】　こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ケシキスイ科。体長7.5～13.5mm。体は細長く，光沢のある黒色で，鞘翅に４個の赤色の斑紋(はんもん)がある。頭部は大きく，大顎(おおあご)は著しく発達して，その末端は又状に分枝している。触角は赤かっ色。前胸背板はやや横長の四辺形。鞘翅は腹端をおおわない。背面は全体点刻がやや密にある。日本全国のほか，台湾・朝鮮・中国に分布し，春・夏のころにクヌギ・コナラなどの樹液に好んで集まる。

よつめじか　⇨キョン

よつや　【四谷】　東京都新宿区の東部にあり，広くは旧四谷区全域，狭義には国電中央線の四谷駅から国道20号線（旧甲州街道）沿いの地域をさし，四谷１～４丁目が町名として残っている。江戸時代には現在の四谷駅付近に四谷見付が置かれ，西方の武蔵野(むさしの)台地へ続く広野を甲州街道が走り，四谷４丁目には，荷駄馬(にだば)送りの米などを検問した大木戸が1616年（元和２）以来置かれていた。明治以後は新宿の発展につれて，新宿と都心を結ぶ交通の要地となり，四谷通りは山手(やまのて)一流の商店街に発展した。〔浅井得一〕

よていせつ　【予定説】　歴史におけるいっさいのできごとは神によってあらかじめ定められ，神の意志にまったく支配されるという考え。神の絶対性と神の前における人間の無力さの自覚が背後にあり，それはまた全能神への心からなる帰依と敬虔(けいけん)とを生む。キリスト教神学では恩寵*(おんちょう)の選び，教育の確かさについての問題として論ぜられ，パウロ・アウグスチヌスを通してしだいに明瞭(めいりょう)な形を整え，ルターのいっさいの自力性を排した〈人は信仰によってのみ義とされる〉の宣言とともに予定説は最も深い意味を獲得した。カルバン*がそれを継承して，思想的にきわめて整合した表現を与えたが，同時に，あまりに決定論的となり，人間の自由意志の存在が説明困難になった側面もある。予定説の厳粛な神観は近代プロテスタント精神の核心にあり，西洋社会に及ぼした影響力は大きい。〔石井忠厚〕

よていびちょうかぶんべん　【予定日超過分娩】　最終月経の第１日から数えて42週（294日）を超過して起こる分娩。晩期産ともいう。月経が順調な婦人の分娩で，予定日超過になる頻度(ひんど)はおよそ10％である。正期産（38～42週の分娩）に比べ，子宮内胎児死亡をきたすことがやや多い。胎児死亡は胎盤の機能が低下するために起こると考えられている。予定日を過ぎても分娩が発来しない原因は不明。➔分娩

ヨーデル　［yodel］　胸声とファルセット*とを急速に交互使用して歌う声楽技法。狭義のヨーデルはスイスやオーストリア（チロル地方）の民謡に使われるものをいう。普通，胸声による低い音をアとオの母音で歌い，ファルセットによる高音をエとイの母音で歌う。その音程関係は比較的広い４度，６度，10度などで，効果的に歌い分けられる。なお，広義のヨーデルはアフリカ・メラネシアにもある。

よど　【淀】　京都市南端の伏見(ふしみ)区の南西地区。宇治川と木津川にはさまれた低湿地帯で，古来河港として栄え，1589年（天正17）豊臣秀吉(とよとみひでよし)が淀殿*のために淀城を修築して以来城下町となった。いまは野菜・果樹の栽培が盛んな農業地で，京都市民の住宅地帯として発展している。京阪(けいはん)電鉄が通じ，京都競馬場がある。

よとうが　【夜盗蛾】　こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤガ科・ヨトウガ亜科の総称およびそのうちの一種。成虫は中形でじみなガが多く，複眼には毛がある。幼虫も色彩はじみで，夜間に活動するが，表面はなめらかで毛はない。腹脚は４対でよく発達し，土の中でさなぎとなる。ヨトウガのような重要害虫，早春のみに出現するキリガ類，

前翅が黄かっ色で小黒点が散布されているキヨトウ類などが含まれる。このうちの一種ヨトウガは体長18～25mm，翅(はね)を広げた長さ40～50mm。体・翅とも暗かっ色で，前翅の中央に淡色の円紋が3個あり，外縁に沿って淡色の帯が走る。後翅の基半部はやや色が薄い。成虫は4～5月および8月の年2回の発生をみる。幼虫はヨトウムシとよばれ，若齢のときには緑色，のちにかっ色に変わり，老熟すると40mmほどになる。エンドウ・ハクサイなど100種以上の植物に害を与え，昼間は土の中や根ぎわに隠れ夜間に加害する。幼虫は畑から畑へ移動するためみぞを掘って防止する方法が行なわれている。越冬はさなぎで行なう。日本全土のほか，中国・朝鮮・インド・ヨーロッパに分布する。〔多々内修〕

よとうむし【夜盗虫】⇨ヨトウガ

ヨードカリ［Jodkalium］ KI ヨウ化カリウムのこと。無色，等軸晶系の結晶。比重3.13，融点723℃，沸点1,330℃，水によくとける。ヨウ素を温水に懸濁させ，これに鉄粉および炭酸カリウムを加えてヨウ化カリウム溶液を得，その濾液(ろえき)を煮詰めて得る。化学的性質は臭化カリウムに類似。医薬・分析試薬その他のヨウ化物製造などに用いられる。

よどがわ【淀川】 大阪平野を南西に流れ，大阪湾に注ぐ川で，京都盆地南西部で宇治川・桂(かつら)川・木津川が合流する地点から河口までをいう。流程35km，水源の琵琶湖(びわこ)からの延長79kmに及ぶ。河口近くでは，尼崎(あまがさき)市で海に注ぐ神崎川など，多くの分流を生じている。本流は大阪市内を曲流し，中之島をはさんで堂島川と土佐堀(とさぼり)川に分かれ，すぐに合流し，再び分かれて安治(あじ)川・尻無(しりなし)川・木津川となり，大阪湾に注ぐ。増水による大阪市内の洪水(こうずい)を防ぐため，北部に放水路の新淀川が開かれている。豊富な水流は工業用水としても利用され，かつて鉄道開通以前は，京都盆地と大阪平野の連絡路として，重要な水路であった。〔長津一郎〕

ヨードチンキ［Jodtinktur］ 沃度丁幾とも書き，ヨード精ともいう。ヨウ素およびヨウ化カリウムを70％エタノールにとかした液で，暗赤かっ色を呈し，ヨウ素のにおいがある。殺菌・消毒および局所刺激剤で，手術時の手術部位，手術者の皮膚・手指の消毒に常用される。また強い局所刺激作用があるため，リウマチ・関節炎・痛風・凍傷・筋痛などの患部に塗布するほか，子宮・膣(ちつ)・肛門(こうもん)・歯根・歯間の炎症にも用いる。このほか細菌類または真菌類による皮膚炎にも用い，その用途は広範にわたっている。まれに鎮吐剤として2～4滴をコップ1杯の水に滴下して内用する。ヨードチンキはヨウ素を6％含み劇薬に属する。ヨードチンキをエタノールで希釈し，



ヨナクニサン

ヨウ素含量を2％にしたものを希ヨードチンキといい，これは普通薬で，家庭においても創傷の殺菌・消毒に用いられている。〔鈴木郁生〕

よどどの【淀殿】(1567～1615) 豊臣秀吉(とよとみひでよし)の側室。近江(おうみ)(滋賀県)小谷城主浅井長政(ながまさ)の長女。母は織田信長(のぶなが)の妹お市の方*。淀君・ちゃちゃともいう。浅井氏滅亡後母が柴田勝家*に再嫁したので，母に伴われて越前北荘(えちぜんきたのしょう)(福井市)に移った。勝家滅亡後秀吉に保護され，やがて秀吉の側室となり，1589年(天正17)淀城を与えられて淀殿とよばれ，長男鶴松(つるまつ)を生んだ。鶴松は幼くして死んだが，1593年(文禄2)秀頼(ひでより)を生み，秀吉死後伏見城から大阪城に移った。以後秀頼を擁して徳川家康(いえやす)と対抗した。1615年(元和1)大阪の陣*(夏の陣)で敗れて秀頼とともに自刃。なお，淀君は後世につけられた呼称である。〔高崎徳次〕

よどのつかい【四度使】〈しどのつかい〉とも読む。律令(りつりょう)制において地方国衙(こくが)(政庁)から中央政府につかわされ，地方の政務を報告する4種類の使者のこと，すなわち朝集使・大帳使・正税使・調使の総称。朝集使は朝集帳を持参して地方政治一般に関して報告し，大帳使は計帳*により調・庸(➙租・庸・調)の総計を報告する。正税使は正税帳をもって各国の年間収支を報告し，調使は調帳により調・庸物に関して報告する。これらの使者は国司(地方官)の中から交替で選ばれたが，上京の際には多くの枝文(付属帳簿)をあわせ持参した。〔黛　弘道〕

ヨードホルム［Jodoform］ CHI_3 トリヨードメタンともいう。アルカリの共存下で，エタノールあるいはアセトンにヨウ素を作用させると得られ，特有な臭気を有する黄色板状結晶。分子中にCH_3CO-あるいは$CH_3CH(OH)-$の構造を有する化合物はヨウ素とアルカリによってヨードホルムとカルボン酸塩を生成するが，この反応は非常に鋭敏で上記の構造を分子中にもつ化合物の検出に使われる(ヨードホルム反応)。防腐・制臭・分泌抑制作用や，軽度の鎮痛作用もあり，化膿症(かのうしょう)や火傷(やけど)などの創傷部に用いられる。ただしその効力はヨードホルムそのものによるものではなく，遊離したヨウ素その他による。ヨードホルムを溶剤にとかし，ガーゼにしみこませたヨードホルムガーゼも傷の治療に用いられる。劇薬。〔石戸良治・荒木洋之助〕

よどやたつごろう【淀屋辰五郎】 生没年不詳。江戸中期の大阪の豪商。1705年(宝永2)その豪奢(ごうしゃ)な生活が町人の分限を越えるとして，幕府により闕所(けっしょ)(財産没収)に処せられ廃絶した。淀屋は代々三郎右衛門(さぶろうえもん)と称し，初代は大阪の陣*で材木商として徳川氏の信任を得，以来糸割符*(いとわっぷ)の権利を獲得し，蔵元*として蔵米を売って巨利を得た(➙堂島米会所)。辰五郎は5代め三郎右衛門の俗称または幼名と推定されている。この闕所事件は近松門左衛門(もんざえもん)の《淀鯉出世滝徳(よどのこいしゅっせのたきのぼり)》の題材となった。〔高崎徳次〕

よないみつまさ【米内光政】(1880～1948) 海軍軍人・政治家。岩手県の生まれ。海軍兵学校卒業。海軍の要職を経て1936年(昭和11)連合艦隊司令長官，1937年林内閣の海相となり，続いて第1次近衛(このえ)・平沼内閣に留任し，山本五十六*(いそろく)次官と組んで陸軍の主戦派に抵抗した。1940年親英米的性格の強い米内内閣を組閣したが，陸軍の反対で半年で倒れた。第2次世界大戦末期に現役として再登場し，小磯(こいそ)・鈴木・東久邇(ひがしくに)・幣原(しではら)各内閣の海相をつとめた。

よなおし【世直し】 幕末・明治初年に封建制打破を含む社会改革を意識して，民衆の間で唱えられたことば。世均(なら)しともいう。江戸中期から周期的に起こったお蔭参(おかげまい)り*の熱狂に世直しの意識がみられるが，長州征伐のころ世直し一揆(いっき)が都市の打ちこわし*に呼応するように連鎖反応的に農村に頻発(ひんぱつ)した。世直し一揆は貧農や小作人を中心とした年貢(ねんぐ)減免などの反封建闘争でもあるが，さらに村落の民主化，小作農や貧農を中心とした小作地・質地の返還，小作料の減免などを要求する村役人・富農層を相手とする社会改革を指向した。また1867年(慶応3)秋から翌年にかけて起こった世直し踊りと称する〈ええじゃないか*〉の乱舞が，名古屋・東海・近畿(きんき)・東北・四国に波及し，これは討幕運動*を有利に展開させた。政治意識の未熟な民衆の間で，世直しは反封建闘争にとどまらず，地主制発生期における貧富の世均しをめざし，民衆の暴動となって爆発したのである。明治初年には戊辰(ぼしん)戦争の戦場となった東北・上越地方に世直し一揆が起こり，明治新政府に衝撃を与えた。〔高崎徳次〕

よなくにさん【与那国蚕蛾】 こん虫類・鱗翅(りんし)目・ヤママユガ科。体長31～34mm。翅(はね)を広げた長さ，雌は170～230mm，雄は180～250mm。雌の触角は櫛歯(くしば)状，雄

は羽毛状。体と翅が赤かっ色の巨大なガで，前翅の翅端は突出する。前後翅とも中央部に大きな三角形の透明紋があり，黒く縁どられる。成虫は，与那国島では6月下旬～7月上旬と8月中旬～8月下旬の年2回の発生をみる。幼虫は老熟すると90mmに達し，モクタチバナ・フカノキ・ヤブニッケイなどの葉を食し，繭もこれらの植物の葉表につくられることが多い。沖縄の石垣(いしがき)島・西表(いりおもて)島・与那国島に分布し，国外では台湾・マレーシア・インドネシア・インドなどから知られている。与那国町では本種の保護を目的として，1963年(昭和38)から文化財保護条令を制定している。〔多々内修〕

よなぐにじま【与那国島】 沖縄県八重山諸島の最西端にある島。島の西端122°56′Eは日本の西端でもあって，晴れた日には約70km離れた台湾の山々が見える。全島が八重山郡与那国町を形成し，面積31.5km²，人口2,100。1965(昭和40)～1970年の人口減少率は－20.6％で，過疎化が激しい。第三紀層の石灰岩からなり，最高点は宇良部岳(うらぶだけ)，海岸は断崖(だんがい)をなしている。水田が比較的多く，畑にはサトウキビを栽培し，カツオなどの漁業も行なう。中心集落は北岸の祖納(そない)で，石垣(いしがき)島への航路があり，また祖納の西方に空港があって，石垣・宮古を経て那覇(なは)への定期便が出ている。世界で最も大形のガであるヨナクニサン*が生息するが，最近は減少している。〔浅井得一〕

よなご【米子(市)】 鳥取県北西部の市。人口12万6,000。中世までは加茂とよばれる小漁村にすぎなかったが，1601年(慶長6)に中村一忠(かずただ)が伯耆(ほうき)十八万石の湊山(みなとやま)城主に封じられて以来，城下町として整備された。中村氏に代わった加藤氏が1617年(元和3)に改易となり，米子は鳥取池田藩の治下にはいって一時さびれたが，江戸中期以降は日野の鉄，夜見ケ浜のもめんを集散する市場町となり，〈山陰の大阪〉とよばれるほど活況を呈した。1927年(昭和2)市制施行。市域は，日野川下流流域に広がる米子平野一帯と夜見ケ浜半島の南半部からなる。産業三大別人口比は12：25：63。食品加工・金属・機械・紡織などの工場がある。最近では，中海(なかのうみ)干拓による臨海工業地帯の造成が進み，機械・化学・窯業などの工場が進出している。周辺部では，農産物のほか，養蚕や葉タバコの栽培が盛んである。山陰本線が通じ，境線や私鉄法勝寺(ほっしょうじ)線の起点となり，市域東部の伯耆大山(だいせん)駅から伯備線を分岐する。国道9号線・180号線・183号線が通じ，中海に臨む米子港があり，米子空港にも近い交通の要地である。市域内には夜見ケ浜や皆生(かいけ)温泉・米子城跡などの観光地があり，大山道路(大山高原ライン)の開通によって大山隠岐(おき)国立公園



米子市 南方上空から見た米子市と夜見ケ浜半島。右側に夜見ケ浜が美しい弧を描き，その前方に島根半島の山々が起伏する

の探勝基地ともなる。特産は二十世紀ナシ・スイカをはじめ，白ネギ・伯州綿・浜絣(がすり)など。〔浅井得一〕

よねさかせん【米坂線】 米沢～坂町間の国鉄路線。営業キロ数90.7。1926(大正15)～1936年(昭和11)開業。奥羽地方の横断鉄道の一つで，出羽山地を越えて荒川の流域と最上(もがみ)川上流部(米沢盆地)を結び，羽越本線と奥羽本線を短絡する。

よねざわ【米沢(市)】 山形県南部の市。人口92,000。1601年(慶長6)以来幕末まで，上杉(うえすぎ)氏の城下町(はじめ三十万石，のち十五万石)として発展した。第10代藩主上杉治憲(はるのり)(鷹山(ようざん))によって奨励された米沢織の特産が名高い。1889年(明治22)市制施行。市域は米沢盆地*から南の吾妻(あづま)火山群一帯まで広がり，東と南は福島県に接し，中心市街は大樽(おおたる)川の河岸段丘上にある。産業三大別人口比は15：39：46。主産業は古い伝統と近代的設備をもつ織物工業で，最近は工場誘致によって電気・機械・食料品・木材・木製品などの諸工業も興っている。米沢織は約400の中小工場で生産され，年間産額150億円に達し，最近は輸出向きの合繊織物の生産が増加している。ここにある山形大学の工学部は染織学科に特色をもっている。伝統の家内工業としては，米沢牛肉(特に牛肉かすづけ)・笹野(ささの)彫・こけしなどがある。奥羽本線から米坂線を分岐し，国道13号線・121号線が通じる。国道13号線は1966年(昭和41)に栗子(くりこ)トンネルが通じて福島市と40分で結ばれる。湯ノ沢・五色・小野川・白布高湯などの温泉群やスキー場もあり，磐梯(ばんだい)朝日国立公園の観光基地となる。〔浅井得一〕

よねざわはん【米沢藩】 江戸時代，出羽(山形県)米沢地方を領した藩。外様(とざま)大名。米沢地方は，はじめ鎌倉幕府の地頭長井(大江)氏，南北朝時代には伊達(だて)氏が領し，以来210余年間伊達氏の支配下にあったが，1590年(天正18)以後は蒲生(がもう)氏一族により分割領有された。1598年(慶長3)上杉景勝(うえすぎかげかつ)の所領の一部となり，家老直江兼続(かねつぐ)の知行地となった。1601年上杉景勝が三十万石に減封されて入封。1664年(寛文4)には十五万石に削封された。明和・寛政年間(1764～1800)上杉治憲(はるのり)(鷹山(ようざん))は，藩運をかけた改革を行ない，ほぼ成功を収めたが，幕末までばくだいな借財に苦しんだ。戊辰(ぼしん)戦争には新政府に対抗して敗れ，十四万七千石に削封されて廃藩置県に至った。〔岡山泰四〕

よねざわひこはち【米沢彦八】 生没年未詳。落語家。別号豊笑堂・軽忽庵(きょうこつあん)。元禄(げんろく)年間(1688～1703)に大阪の生玉(いくたま)神社境内で辻噺(つじばなし)を創始し，笑話本《軽口男》《軽口御前男》などを著わしたことがわずかに知られている。彦八の名は4世で絶えたが，その名は辻噺家の通称を〈彦八〉とよぶほどに普及した。

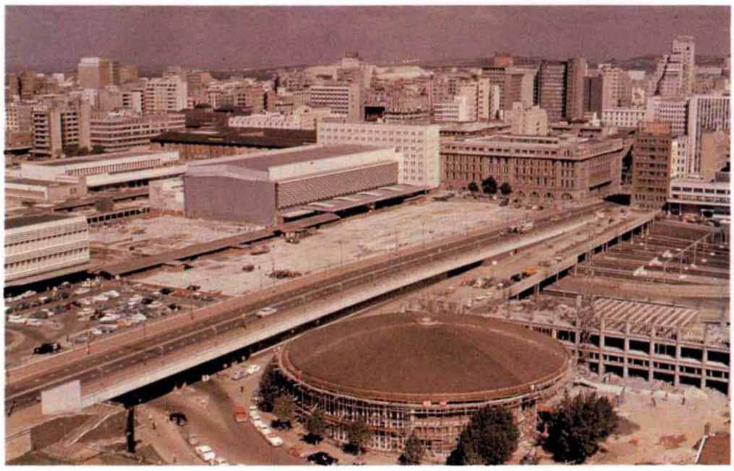
よねざわぼんち【米沢盆地】 山形県南部，最上(もがみ)川上流，東は奥羽山脈に，南は吾妻(あづま)火山群に限られた陥没盆地。東から屋代(やしろ)川・和田川・梓(あずさ)川，南から松川・鬼面(おもの)川が，北から吉野川が流入し，それぞれ山麓(さんろく)に扇状地を形成している。これらの川は盆地中央部で合流して松川となり，盆地北西部から流出し，西に隣接する長井盆地の西端に流入して白川と合流し，最上川となって北流している。盆地底ではおもに米作が行なわれているが，周辺部ではリンゴ・洋ナシ・ブドウなどの栽培が盛んである。米沢市をはじめ，南陽市が盆地の中心をなしている。〔味沢成吉〕

よねしろがわ【米代川】 秋田県北部を西流して，能代(のしろ)市で日本海に注ぐ。流程137km。岩手県北西部の奥羽山脈に発し，秋田県にはいり，花輪・大館(おおだて)・鷹巣(たかのす)の各盆地を経て，能代平野*に出る。上流の山地一帯は，秋田スギの産地として知られ，鉄道開通以前には木材輸送に利用された。

よねやま【米山】 新潟県中部の日本海岸近くに位置する山。標高993m。柏崎(かしわざき)市と柿崎(かきざき)町の間にあり，頂上からは日本海・佐渡・上信越の山々が望まれる。平野にそびえ立ち，古くから土地の人人の信仰が厚く，山頂には米山薬師*がある。民謡〈米山甚句(じんく)〉の山としても有名。

よねやまじんく【米山甚句】 新潟県の民謡。江戸の米山という力士が歌いはじめた曲ともいわれる。いずれにせよ現在歌われているものは，米山にある薬師堂を歌った7・7・7・5調の歌詞をもっている。

よの【与野(市)】 埼玉県南東部の市。人口71,000。古くから鎌倉街道に沿う宿場町で，江戸時代には4・9の日に市が開かれた。1958年(昭和33)市制施行。市域は大宮台地のやや南部に位置し，中央部の侵食



ヨハネスバーグ　世界第一の金鉱地帯の中心ヨハネスバーグの市街。新しい近代的な高層ビルが多く，建築中の建物も目だつ

谷の低地をはさんで，東と西に台地がある。北は大宮市，南は浦和市と接し，市街地は両市と続いている。産業三大別人口比は1：39：60。東部の台地上を南北に走る国電京浜東北線・国道17号線沿いに工業地区が発達し，機械関係の工場が多い。与野本町のある西部の台地は古くから開けていたが，いまは住宅地として発展している。中央低地はかつて水田地帯であったが，ここもいまは埋め立てによる宅地造成が行なわれている。南西部の鈴谷(すずや)地区にある妙行寺には樹齢2,000年のカヤの大木があり，天然記念物に指定されている。

ヨハネ　[Johannes]　十二使徒のひとり。ガリラヤの漁師ゼベダイの子。《新約聖書》の〈ヨハネの福音書〉〈黙示録〉の著者とされる。ヤコブ*(大)とは兄弟で，この兄弟とペテロの3人をパウロは教会の柱とよんでいる。

ヨハネ(バプテスマの)　[Johannes Baptista]　《新約聖書》の人物。司祭ザカリアとエリザベトの子。29年ごろ，荒野でやがてメシアが現われると予言し，その備えとして悔い改めを説き，悔い改めの印としてヨルダン川の水で洗礼を施した。イエスも若いとき，ヨハネ教団に身を置いたと推定される。ガリラヤの領主ヘロデ-アンチパスとその妻ヘロデヤの不倫を激しく糾弾したため捕えられ，処刑された。

ヨハネス　[Johannes]　ローマ教皇。

1 12世(938ごろ～964)　在位955～964年。イタリア王を名のるベレンガリウスと争ってドイツ王オットー1世*に助力を求め，同王を962年，神聖ローマ皇帝として戴冠(たいかん)した。神聖ローマ帝国はここに始まる。

2 22世(1249～1334)　在位1316～1334年。アビニョン幽囚時代の教皇で，フランスの利益を図ったため神聖ローマ皇帝と対立，皇帝ルードウィヒを破門した。教皇庁の整備，教会税制を確立した。

3 23世(1881～1963)　在位1958～1963年。1962年バチカン会議*を召集，また回勅を出して世界平和・教会合同を呼びかけた。

ヨハネスバーグ　[Johannesburg]　南アフリカ共和国北部，トランスバール州の都市。人口64万3,000(1972)。1,900mの高原上に位置して，付近には豊富な金鉱があり，その開発基地として1886年に建設された。海抜高度が高いため，気温の年較差・日較差は大きいが，ヨーロッパ人の居住には適した気候であり，金鉱が世界最大の富鉱であることから，20世紀にはいって近代都市として大発展を遂げた。大学・図書館・博物館などの文化施設も整い，同国の文化の中心をなしているが，人種差別のきびしい国のため，原住民は郊外の居留区で生活させられている。　〔小栗　宏〕

ヨハネのふくいんしょ　【ヨハネの福音書】　⇒福音書

ヨハンゼン［Wilhelm Ludwig Johannsen］(1857～1924)　デンマークの植物学者・遺伝学者。コペンハーゲンの生まれ。コペンハーゲン・チュービンゲン両大学で植物学を学ぶ。のちコペンハーゲン大学で教鞭(きょうべん)をとり，1905年からは同大学教授。統計学の方法を用いて，1903年純系説*を唱え，純系内の彷徨(ほうこう)変異*は遺伝しないことを明らかにした。

よびひ　【予備費】　予見しがたい予算の不足にあてるため，国会の議決に基づいて設けられる経費。形式上は歳入・歳出予算に計上されているが，予備費そのものとして支出されるものでないから，実質上は予算ではなく，事情によって用いられる使途未定の財源である。大蔵大臣が管理し，内閣が必要と認める経費に使用することができるが，事後に内閣は国会の承諾を得なければならない(憲法第87条2項)。旧憲法では義務的規定として〈予備費を設くべし〉としていたが，現行憲法は〈設けることができる〉として必ずしも義務的なものになっていない。　〔吉田善明〕

よびみずせいさく　【呼び水政策】　1930年代資本主義経済が深刻な不況にあえいでいた際，公共投資*の〈呼び水〉作用を通じて，不況からの回復を図る処置としてとられた財政政策の一種。アメリカ合衆国のニュー-ディール*政策，ナチス-ドイツの景気振興策，わが国の時局匡救策(きょうきゅうさく)などは，この呼び水政策の考え方を基礎としている。呼び水政策の考え方には，資本主義経済のもつ自律的回復能力ということが前提にあり，大不況により確かに一時その自律的回復能力が阻害されてはいるが，再び国が公共投資という呼び水を与えて軌道にのせてやれば，あとは自動的に進行していくとみる。　〔西野義彦〕

ヨヒンビン　[johinbin]　アメリカ南部に分布するアカネ科の常緑高木であるヨヒンベの葉および樹皮に含まれるアルカロイドで，レセルピン*と類似した構造をもち，針状結晶である。ヨヒンベの樹皮を乾燥したものはヨヒンベ皮とよばれ，現住民が古くから催淫(さいいん)剤として用いていた。ヨヒンビンはレセルピンとやや異なって中枢神経抑制作用および平滑筋に対する作用は弱く，連用すると泌尿器(ひにょうき)系に充血をもたらすので催淫剤として用いられることもある。副作用はめまい・痙攣(けいれん)・呼吸麻痺(まひ)などがある。　〔鈴木郁生〕

ヨブき　【ヨブ記】　《旧約聖書》の第18書。知恵文学の一つで，〈諸書〉に属する。BC200年ごろまでには今日の形に整えられたらしい。ウズ地方の族長的人物であるヨブは，ノア同様神をおそれる義人であるが，人間の心底を疑うサタンによって試練を与えられる。財産・家庭・健康を奪われ，彼は神に対する自分の正義を主張する。その苦しみの理由がわからず思い悩んでいるうち，神の声に接して悔い改め，その絶対性を悟る。本書は，なにゆえ正しい者が苦しまねばならないかという問いに，すべては神の意志と愛にあるとの答えを与える。　〔松田　治〕

よぼういがく　【予防医学】　治療医学に対する語で，疾病(しっぺい)の予防，健康の保持・増進を目的とする医学の一分野。健康者を対象とするところに本質的な立場がある。1866年ペッテンコーファー*によって衛生学が樹立されて以来，環境の浄化や伝染病の追放を図ることが予防医学の目標であったが，最近では，慢性疾患の予防，さらに社会福祉・社会保障の問題を加えた総合的見地からの予防が取り上げられ，近時注目されている。

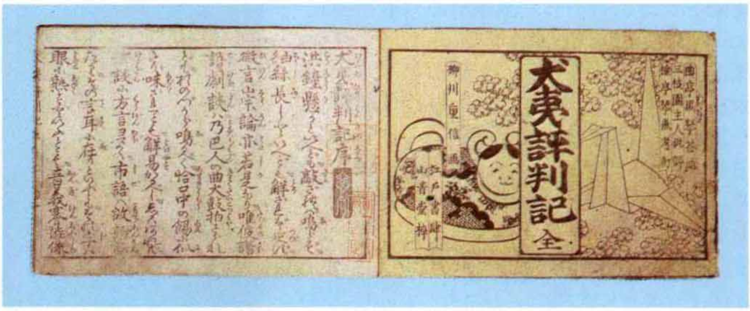
よぼうせっしゅ　【予防接種】　伝染病を予防するために，ワクチン*・血清*などを人工的に人体に与え，免疫をつくらせる手段。伝染病の発生や蔓延(まんえん)を防止するために行なわれる。1948年(昭和23)に定められた予防接種法に準拠し，表(→次ページ)に示すような定期接種のもののほか，流行時に必要と認められた場合に任意に接種を行なうものとして，発疹(はっしん)チフス・コレラ・ペスト・日本脳炎・インフルエンザ・麻疹(はしか)・破傷風および腸チフス・パラチフス混合ワクチンがある。

予防接種では，体内で免疫性を産生する

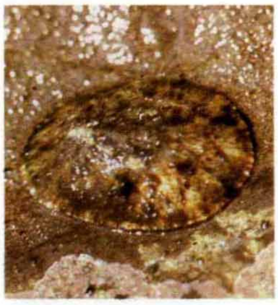
のに必要かつ最適な接種時期と回数が，疫学的に裏づけられているので，規定どおりの接種を受けて完全に有効なものとしなければ意味をなさない。予防接種はできるだけ多くの人が受けることが望ましいが，受ける人が下痢・発熱などのとき，あるいはアレルギー体質などの異常状態にある場合には，必ず医師に申し出て指示を受けるべきである。ワクチンなどの性質によっては，発熱・腫脹(しゅちょう)などの副作用の避けられないものもある。　〔金子義徳〕

ヨーマン　[yeoman]　14世紀以降封建的束縛から解放されたイギリスの農民。独立自営農民と訳され，その階層をヨーマンリーという。狭義には年収40シリングの地代を支払う自由な土地を保有する農民であり，身分的にはジェントリー(→ジェントルマン)と零細農との中間に位置する層である。広義には富裕な農民一般をさす。16～17世紀には中産的生産者層としてイギリス社会の中核をなし，産業資本形成の主体となったが，18世紀後半には農業革命の進行にしたがい没落した。　〔板橋重夫〕

よみうりしんぶん　【読売新聞】《朝日新聞》《毎日新聞》と並ぶ日本の三大新聞の一。前二紙が大阪を発祥地とするのに対し，《読売新聞》は東京の印刷所日就社を発行所とし，1874年(明治７)11月語学者子安峻(たかし)・本野盛亨(もりみち)・柴田昌吉(しばたしょうきち)らによって創刊された。布告・雑報を主とし，総振りがなつき，口語体の記述を用いた本格的な小新聞の体裁をとって出発した。政論新聞時代には，のちの早稲田(わせだ)大学学長高田早苗(さなえ)を主筆に迎え，1882年ごろより立憲改進党系の大新聞に成長，1887年坪内逍遙(しょうよう)が主筆となるに及んで文芸面に多くの紙面をさき，幸田露伴・尾崎紅葉ら硯友社(けんゆうしゃ)系文学者の小説を連載した。関東大震災に全焼，その痛手から回復できず，1925年(大正14)２月後藤新平の資金援助のもとに正力松太郎が経営権を握った。以後囲碁・将棋欄の拡張，全



読　本



ヨメガカサガイ

米選抜職業野球団の招待などの企画で大衆の関心を獲得し，退潮一途にあった《読売新聞》を再建した。1942年(昭和17)《報知新聞》を合併，《読売報知》となったが，第２次世界大戦後《読売新聞》に復帰，1952年《大阪読売新聞》を創刊し，全国紙としての地位を固めた。東京・大阪・北九州に本社を置き，北陸・北海道にも発行所をもつ。1980年10月現在の発行部数は，朝刊約839万，夕刊約491万。　〔前納弘武〕

よみうりにほんこうきょうがくだん　【読売日本交響楽団】　日本の代表的なオーケストラ。1962年(昭和37)に読売新聞社を中心にして創設され，初代常任指揮者はウィリス－ページ，２代めはオットー－マッツェラート。しばらく常任指揮者を置かなかったが，1972年に若杉弘(わかすぎひろし)を常任指揮者にし創立10周年のシリーズをゆだねた。楽員数は約90名で，1967年アメリカに渡り，1971年ヨーロッパに渡った。定期公演は年間10回であるが，客演の多彩さが目だつ。　〔向坂正久〕

定期予防接種

	初回接種	追加接種
百日咳ワクチン	生後３～６か月 ３～４週間隔で３回	初回後12～18か月後
ジフテリア-トキソイド	生後３～６か月 ３～４週間隔で３回	①初回後12～18か月後 ②小学校入学前６か月以内 ③小学校卒業前６か月以内
種　痘	生後２～12か月	①小学校入学前６か月以内 ②小学校卒業前６か月以内
経口生ポリオワクチン	生後３～18か月 ６週以上の間隔で２回	なし
BCG	０歳	１～30歳　ツベルクリン反応陰性・疑陽性者のみに行なう

ただし，百日咳・ジフテリアについては初回および追加１回めは混合ワクチンで行なう。

よみがはま　【夜見ヶ浜】　弓ヶ浜ともいう。鳥取県北西部，日野川河口と島根半島の間に突出し，西の中海(なかのうみ)と東の美保(みほ)湾を分ける大砂嘴(さし)で，南北約18km，幅1.5～２kmにも及ぶ。内浜沿いの海抜21ｍにも達する砂丘と数列の砂堆(さたい)列からなり，《出雲風土記(いずもふどき)》には〈夜見ヶ島〉とあり，後氷期の海面低下により形成された。縄文(じょうもん)・弥生(やよい)期の遺物が出土し，江戸中期には米川(よなかわ)用水が完成し，かつてはワタ作や養蚕が，現在は野菜やタバコの栽培が行なわれている。また北東は境港市に，南東は米子(よなご)市に属し，境線が貫通し，1966年(昭和41)には中海新産業都市に指定されて工業化が進められている。　〔味沢成吉〕

よみほん　【読本】　江戸時代の小説の一種。絵草紙・語り本・謡本などに対して，読む本をさした。中国文学や日本の史実や伝説に材をとり，複雑な筋立て，構成の雄大さ，空想力の駆使，雅俗折衷の文体を特色とし，内容的には仏教的因果観に基づいたものが多い。代表的な作者に上田秋成・山東京伝・滝沢馬琴らがあげられ，《雨月物語》《南総里見八犬伝》は，読本の代表的な作品と称されている。

よめいりこん　【嫁入り婚】　夫婦生活の場所を婿方に置く婚姻形式。婿入り婚に対立し，ともに日本婚姻史における基本的な類型であり，現在最も普及した婚姻方式である。すなわち仲人(なこうど)を介して相手方の承諾を求め，結納をかわし，婚礼の日を定めて，婚家において婚儀を取り行なう形式である。嫁入り婚の形式は中世武家階級の成熟によって形式が整えられ，しだいに庶民の間にも普及し，近世以降には婿入り婚に代わって支配的婚姻方式となり，現在に至っている。

よめがかさがい　【嫁ヶ笠貝】　軟体動物・腹足類・ツタノハガイ科。ヨメガサラともいう。殻(から)は笠形で楕円(だえん)形，殻高(かくこう)１cm，殻口長５cm，殻口幅3.5cm。殻頂は前方に寄り，そこから多くの放射肋(ほうしゃろく)が出る。また殻色は黄・青・黒・かっ色など変異が多く，これらが斑(まだら)や放射帯になる。足は大きくて岩に付着することができる。北海道南部から九州，さらに

東南アジアに分布し，潮間帯の岩礁や礫底(れきてい)にすむが，外洋に面した所にすむ個体は内湾にすむ個体よりも殻が厚くふくらみが大きい。〔波部忠重〕

よめな【嫁菜】双子葉植物・キク科。田や川岸など湿地に多い多年草で，根茎を伸ばして繁殖する。茎は高さ40～150cmで，上部で分枝する。葉は互生し，長さ８～10cm，幅２～３cmの卵形ないし長楕円(ちょうだえん)形で，あらい鋸歯(きょし)がある。７～９月，枝先に直径３cm前後の頭花をつけ，筒状花は黄色，舌状花は淡紫色である。若葉は浸し物として食用にされる。古く万葉時代から知られ，ウハギ・オハギなどとよばれた。カントウヨメナは葉が薄く鋸歯の深い種である。

よもぎ【艾】双子葉植物・キク科。山野に最も普通に見られる多年草。モチグサともいい，若葉は草もちに入れられる。茎は高さ50～100cmになり，多く分枝する。葉は互生し，長さ６～12cmの楕円(だえん)形で羽状に分裂し，裏面に白毛を密生する。８～10月，管状花からなる淡かっ色小形の頭花を数多くつける。葉を艾葉(がいよう)といい，止血の効がある。本種および近縁のオオヨモギの乾燥葉をつき砕き，毛を集めたものが，艾(もぐさ)で，灸(きゅう)に用いる。

よもぎはむし【艾金花虫】こん虫類・鞘翅(しょうし)目・ハムシ科。体長７～９mm。体は卵形で，背面は強く隆起する。全体黒銅色または青藍(せいらん)色で光沢があるが，紫色をおびた個体や黒色のものもまれに見られる。前胸背板には，大小の強い点刻が不規則にあり，両側部には縦溝(じゅうこう)があって皺状(しわじょう)の大きい点刻がある。鞘翅の点刻は不規則。日本全国のほか，台湾・朝鮮・中国・モンゴル・サハリン(樺太(からふと))・東シベリアに広く分布する普通種で，日本産のものは大陸のものの亜種とされる。成虫は，６月ごろから出現し，11月ごろまで見られ，成虫で越冬する。ヨモギ類やヤマシロギクなどを食べる。近似種が数種ある。〔鈴木邦雄〕

よものあから【四方赤良】⇨蜀山人(しょくさんじん)

よやくかいつけせい【予約買付制】⇨食糧管理制度

よりあい【寄合】一般的には，人々が寄り集まって会合すること。①主として中世・近世における農民の自治的会合をさし，中世には総寄合，近世以降には村寄合*とよばれた。また近世の茶会は茶寄合といい，江戸の商人の商議も寄合といった。②武家の職制的な意味としては，鎌倉時代において，重臣による幕政についての合議を寄合と称し，その重臣らを寄合衆といった。江戸幕府では，三千石以上の旗本(はたもと)のうち，無役の者を御寄合(およりあい)といい，若年寄支配であった。〔岡山泰四〕

よりい【寄居(町)】埼玉県北西部，大



ヨメナ



ヨモギ



ヨルガオ

里郡の町。人口28,000。荒川が秩父(ちちぶ)山地から関東平野に出るところに発達した渓口(けいこう)集落で，４と９の日に市が立ち，絹や穀類が取引された。1590年(天正18)豊臣(とよとみ)氏に滅ぼされるまで西部の末野に花園城があり，地名はその城下の意である。畑作農業が主で，ダイコンを多くつくり，また酪農が盛んで乳業工場があり，養蚕と製糸も行なわれる。花園城とともに落城した鉢形(はちがた)城跡や玉淀(たまよど)ダムなどの観光地があり，また八高線・東武鉄道東上線・秩父鉄道の集まる交通の要地である。

よりおや・よりこ【寄親・寄子】保護・被保護の関係を同族的な血縁関係に擬制したもの。保護する主人や有力者を寄親，被保護者を寄子という。戦国時代，大名は有力武将を寄親に，下級武士を寄子として組織化し，厳重な家臣統制を敷いた。地方によって寄親を〈指南〉，寄子を〈寄騎(与力)〉〈同心〉ともいった。近世都市では，出かせぎ奉公人の身元保証・就職周旋の必要から寄親制が生じ，寄親は若干の周旋料を徴収した。村落では他所者が土着する場合，土地の有力者を寄親(わらじおや)に立て，村人の仲間入りをする慣習があった。〔高崎徳次〕

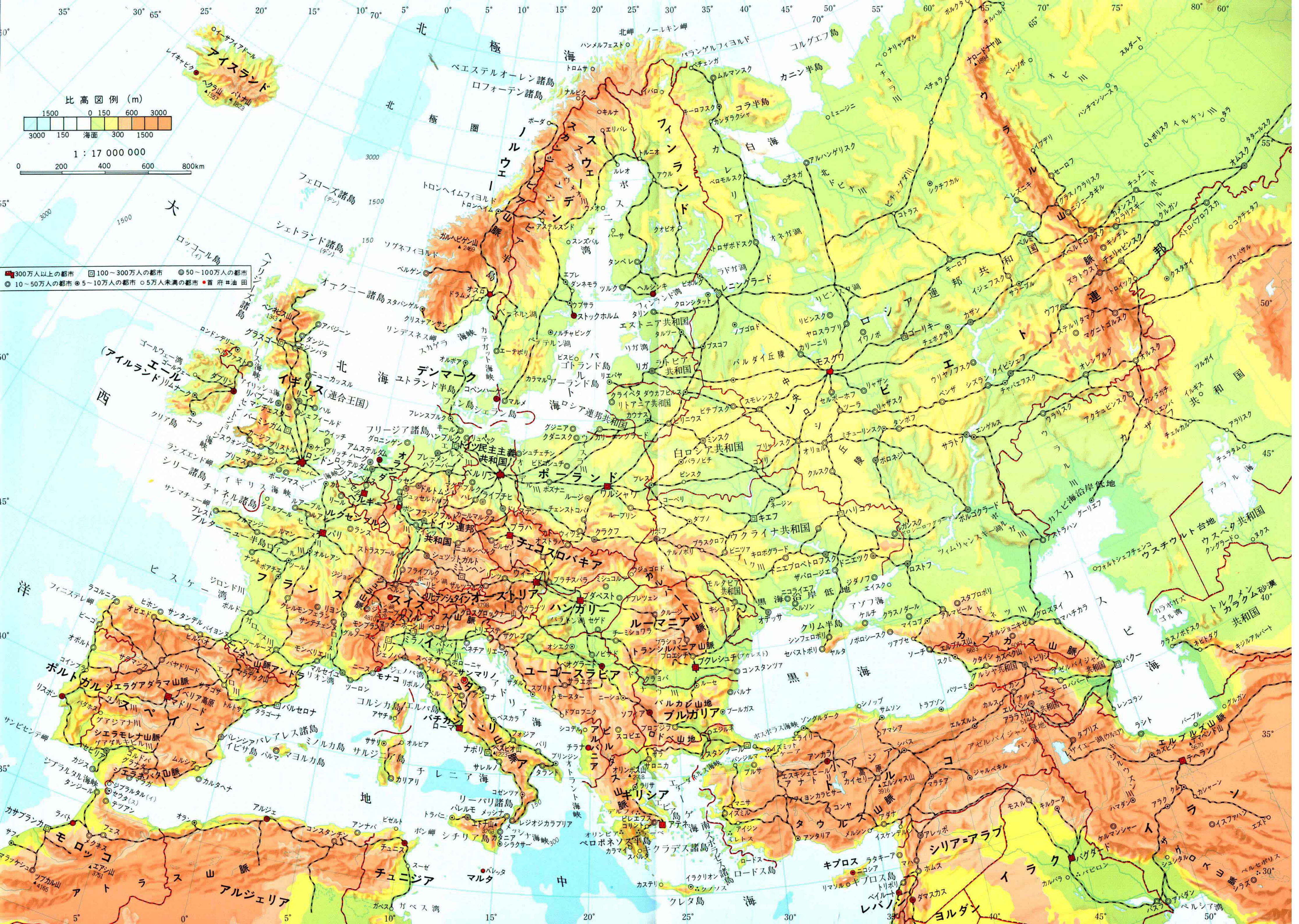
よりき【与力】本来の語義は，力を合わせて与(くみ)し加勢すること，またはその人をさす。平安末期から鎌倉時代にかけては，単に加勢する者の意に用いられた。その後大名や武将に従う下級武士を称するようになり，戦国時代には寄子(よりこ)と同じ意味に用いられた場合が多いが，より有力な大名に加勢するためにつけられた与力大名のような例もあった。江戸幕府の職制にも与力制度がみられ，町奉行*(まちぶぎょう)・普請奉行・所司代・城代などに付属して与力が置かれた。中でも町奉行配下の町与力が著名で，同心*とともに町奉行を助け，江戸市中の行政・司法・警察などの任にあたった。〔岡山泰四〕

よりしろ【依り代】神の降臨の目印をいう。祭りの本義は神の降臨を迎えて，神人和合の実をあげることにある。その場合には必ず神の憑依体(ひょういたい)としての媒介物，つまり依り代が必要であった。憑依体としてはふつう樹木・岩石・山・動物などがある。そのうち日本では樹木が最も多く，特に常緑樹が重んぜられた。季節の草花を依り代とすることも広く行なわれてきた。そのほか御幣・旗・幟(のぼり)・人形(ひとがた)・山車(だし)・鏡などがある。なお，憑依体としての巫女*(みこ)は通例〈依りまし〉とよばれる。〔宮本袈裟雄〕

よりゅうど【寄人】①平安時代以降，宮中の御書所・記録所・和歌所などに置かれた職員。中世では鎌倉・室町両幕府の政所*(まんどころ)・侍所*・問注所*などの職員。本来は他に本務をもつ者が便宜上身を寄せている(兼任している)意で，それぞれの事務に通暁した有能の士が選任された。和歌所については和歌の選定に携わり，召人(めしうど)ともよばれた。②平安時代の荘園*(しょうえん)で，Ａの荘園の農民がその身をＢの荘園に置き，Ａの荘園に年貢(ねんぐ)を納め，Ｂの荘園に雑役を奉仕するような例がある。この場合この農民をＢの荘園の寄人とよぶ。荘園制の発展につれて消滅した。〔簗　弘道〕

よるがお【夜顔】双子葉植物・ヒルガオ科。ユウガオ・ヤカイソウ(夜会草)ともいうが，かんぴょうをとるウリ科のユウガオと混同するので注意を要する。熱帯アメリカ原産のつる性の一年草で，庭によく栽培される。葉は長さ10～15cmの心形で，互生する。７～８月，葉腋(ようえき)から花柄を伸ばし，先端に１～６個の直径約10cmの白色花をつけ，夕方に開いて翌朝しぼむ。

ヨルゲンセン〔Jens Johannes Jorgensen〕(1866～1956) デンマークの詩人。ブランデス*の急進思想の影響を受けて出発，1893年，詩誌《塔》を主宰，象徴派を名のって唯美主義の詩人として名をなしたが，や



比高図例（m）
1500 0 150 600 3000
3000 150 海面 300 1500
1：17 000 000
0 200 400 600 800km
300万人以上の都市
100～300万人の都市
50～100万人の都市
10～50万人の都市
5～10万人の都市
5万人未満の都市
首府
油田
北極海
大西洋
北海
地中海
黒海
カスピ海
アイスランド
ノルウェー
スウェーデン
フィンランド
デンマーク
イギリス（連合王国）
エール（アイルランド）
オランダ
ベルギー
ルクセンブルク
フランス
ドイツ民主主義共和国
ドイツ連邦共和国
ポーランド
チェコスロバキア
オーストリア
スイス
ハンガリー
ルーマニア
ユーゴースラビア
ブルガリア
アルバニア
ギリシア
イタリア
スペイン
ポルトガル
トルコ
キプロス
シリア＝アラブ
レバノン
ヨルダン
イラク
イラン
モロッコ
アルジェリア
チュニジア
マルタ
ソビエト連邦
ロシア連邦共和国
エストニア共和国
ラトビア共和国
リトアニア共和国
白ロシア共和国
ウクライナ共和国
モルダビア共和国
カザフ共和国
ウズベク共和国
トルクメン共和国
ロンドン
パリ
ベルリン
モスクワ
ローマ
マドリード
ウィーン
ワルシャワ
プラハ
ブダペスト
ベオグラード
ブクレシチ
ソフィア
アテネ
イスタンブール
アンカラ
テヘラン
バグダード
ダマスカス
ストックホルム
オスロ
ヘルシンキ
コペンハーゲン
レニングラード
キエフ
ウラル山脈
カフカス山脈
アルプス山脈
ピレネー山脈
アトラス山脈
カルパート山脈
スカンジナビア山脈
バルダイ丘陵
中央ロシア高地
カスピ海沿岸低地
ウスチウルト台地
カラクム砂漠
クリム半島
コラ半島
カニン半島
バルカン山地
ピンドス山脈
タウルス山脈
エルブルズ山脈

原书缺页

原书缺页

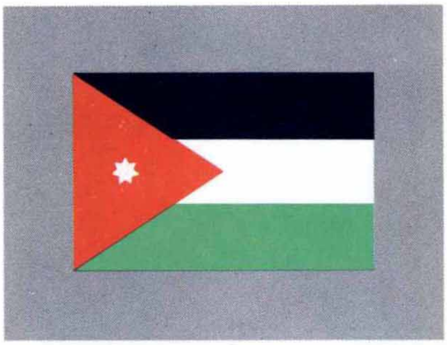
がて熱心なカトリック教徒となり，その教義に基づく作品を多数発表，カトリック作家として人気を得た。《巡礼の書》《アッシジの聖フランシス》などの旅行記，《告白》《花と果実》などの詩集のほか，自伝《わが生涯(しょうがい)の物語》(7巻)が代表作。
〔鈴木徹郎〕

ヨルダン・ハシェミット(王国) [Hashemite Kingdom of Jordan] アラビア半島北西部にある王国。イスラエル・サウジアラビア・イラク・シリア-アラブと国境を接し，わずかに紅海の北から入り込むアカバ湾によって，南端が海に面する。面積97,740km²，人口309万(1978年推)。首都アンマン。

〔自然〕 ヨルダン川*・死海・紅海から東アフリカに延びるヨルダン地溝帯(ちこうたい)が，西部のイスラエル寄りを南北に走り，ヨルダン川とヨルダン川が流入する湖面標高海面下392mの死海によって，地形は東西に分断されている。東部は600〜900mの高原であり，西部はアンチレバノン山脈の丘陵地になっているが，国土の6分の5は不毛な砂漠(さばく)である。気候は，全般的に乾燥気候であるが，ヨルダン川上流の高地は内陸的で，年間雨量は45〜100mm程度である。住民は，大部分がアラブ人で，イスラエルからのがれてきたアラブ難民，遊牧生活のベドウィン族，ミルカシアン人もいる。宗教は大半がイスラム教徒で，公用語はアラビア語であるが，文盲率は高い。

〔産業・経済〕 主産業は農業と牧畜で，有業人口の80%以上が従事している。しかし，灌漑(かんがい)施設も整わず大きなオアシスも少ないため，農業は雨に恵まれたヨルダン川以西に限られ，そこでは雑穀・オリーブ・イチジクなどの果実・野菜などを産しているが，ヨルダン川以東では牧畜，ヒツジの遊牧などを行なっている。鉱産物にはリン酸塩があるが，工業ではセメントが目につく程度で，リン酸塩・果実・野菜を輸出しているものの日用雑貨品まで輸入しなくてはならないため，貿易収支は大幅な赤字になっている。交通は，ヨルダン川東岸を鉄道が南北に走り，首都アンマンからイスラエルへ通ずる観光自動車道路も開けている。

〔歴史・政治〕 周辺国家の付属領として支配されていた時期が長く続き，第1次世界大戦後も，イギリスの委任統治領パレスチナの属域に含められていた。1921年のカイロ会議で，イスラム教教主ハシム家のアブダラーが支配することに決まり，1928年にトランスヨルダンとして独立し，のちに王制を宣して1949年に現名のヨルダン王国になった。1948年に他のアラブ諸国とともにパレスチナへ侵入し，ヨルダン川以西を領土としたが，1967年イスラエルとのいわゆる中東戦争によって，拡大した領土はすべてイスラエルに占領され，現在に至っている。政体は，ハシム王朝による立憲君主制で，憲法は1946年に制定され，1952年に修



ヨルダンの国旗 1926年制定。黒・白・緑はアッバス・ウマイヤ・ファーティマのイスラム古王朝を表わし，赤は大アラブ革命の象徴とされている。白い7稜星は，1926年にヘジャズ地方がサウジアラビアに含まれて新しいアラビアの秩序ができたときにつけ加えられたもので，七つの稜は《コーラン》第1章の最初の7行を表わす



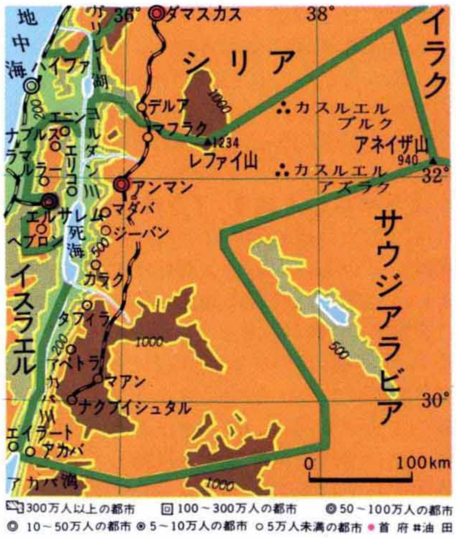
ヨルダン 首都アンマンの市街の中心部。町を取り囲む丘の上にも住宅地が広がり，商業街では車や人の往来が激しい



ヨルダンス 《画家の家族》 プラド美術館蔵

正されている。国会は二院制で，下院は民選議員で任期4年，上院は勅選議員で任期は8年であるが，4年ごとに半数改選を行なう。しかし政情は，中東戦争の敗北によって難民が激増し，またアラブ-ゲリラの主要基地となって，きわめて不安定である。
〔今井留吉〕

ヨルダン(川) [Jordan] 西アジア，イ



ヨルダン

スラエルとヨルダンを流れる川。全長約300km。水源はシリア南部のヘルモン山。レバノンを流れる四つの川がイスラエル最北部で合流してヨルダン川となる。海面下の低地である大地溝帯(ちこうたい)を南流したのち死海に注ぐ。流域一帯は乾燥地域のため，水資源利用について周辺諸国の間に紛争が絶えない。

ヨルダンス [Jacob Jordaens] (1593〜1678) フランドルの画家。ルーベンスから深い影響を受け，民族性に基づく民衆的な作品を奔放な表現で描いた。カラバッジョふうの，強い光の微妙な変化が画中の人物に反映している。風俗画のほか諺(ことわざ)や神話を好んで題材とした。代表作に《酒神バッカス祭》《最後の審判》などがある。

よろい 【鎧】 大鎧の通称。広義には胴丸*・腹当・腹巻，それに具足*・小具足までを総称していう。古代の鎧は短甲*といい，鉄板をはぎ合わせて体の前後を守った。騎馬戦の発達とともに鉄片・革片の札(さね)をつづった挂甲*(けいこう)に変わったが，これは短甲より馬上で体の自由がきくからである。10世紀ごろこの札形式を基に，日本独特の大鎧ができた。形や色彩に堅牢(けんろう)・優美さを誇り，〈式正の鎧〉として長く鎧の理想形式となり，大形であるため一名〈著長(きせなが)〉ともいった。13世紀に戦闘方法が従来の個人戦から集団戦へ，平地戦から山岳・渡河戦へと変わって，鎧は軽快で活動的なものが喜ばれた。そこで大鎧を省略した胴丸，胸腹部だけおおう腹巻の二つが鎧の主力となった。とはいえ，大鎧が〈式正の鎧〉として，大将の象徴だったことに変わりない。16世紀に戦いの規模が拡大，太刀(たち)打から長柄槍(やり)に戦法が変わると，その穂先を通さぬよう鉄板を合わせ蝶番(ちょうつがい)にした鎧が出現。さらにこの世紀の中ごろ，鉄砲の伝来と西洋鎧の模倣により，〈南蛮胴〉〈鳩胸(はとむね)胴〉〈鉄胴(かなどう)〉など実戦本位のものが流行した。これらは威嚇

と堅牢だけを目的とし，そのうえ洋風をとり入れたため異様な形となり，〈当世鎧〉の名を生んだ。一般に〈具足〉ともいい，やや鎧の観念を変えたが，しかしこの段階でも，なお大鎧は大将のはれの物具として消滅することはなかった。➔甲冑　〔稲垣史生〕

よろずちょうほう　**【万朝報】**　1892年(明治25)11月黒岩涙香*によって創刊された新聞。社会悪に対しては徹底的に追求するという姿勢と，涙香の翻訳小説により急速に発展し，1893年《絵入自由新聞》を併合。明治30年代には内村鑑三(かんぞう)・幸徳秋水・堺利彦(さかいとしひこ)らの人材を集めて社会主義的主張を支持し，最も進歩的な有力紙となった。帝国主義的論潮に反対し，日露戦争に対しては非戦論を唱えて反対した。しかし，黒岩が開戦論に転じたため，1903年10月内村・幸徳・堺らは退社。1914年(大正3)第2次大隈(おおくま)内閣を支持してからしだいに紙勢を失い，さらに1920年黒岩の死，1923年関東大震災によりいっそう衰退した。1940年(昭和15)9月《東京毎夕新聞》に併合された。　〔須藤泰秀〕

よろずてつごろう　**【万鉄五郎】**　(1885～1927)　洋画家。岩手県の生まれ。はじめ白馬会研究所に学び，1907年(明治40)東京美術学校に入学。卒業後1912年に岸田劉生(りゅうせい)らとフュウザン会を組織した。その後二科会に出品し，フォーブふうや立体派ふうの作品で注目された。1923年(大正12)春陽会の創立に関与し，以後は同展に作品を発表した。



万鉄五郎《裸婦(ほお杖の人)》 1926 東京国立近代美術館蔵

ヨーロッパ　［Europe］　ユーラシア大陸西部を占め，北は北極海，西は大西洋，南は地中海，東はウラル山脈・カフカス山脈・黒海に囲まれた大きな半島状の部分を占める地域。総面積493万4,000km²，人口6億4,000万で，世界人口の約19％を占めるが，1km²あたりの人口密度は93人に及び，世界の大陸の中では最も多い。ヨーロッパという名称の起源については諸説があるが，最近では，古代ギリシアの北部をさした地域名が拡大されてその広大な後背地一帯をさすに至ったものといわれている。ヨーロッパを自然的・民族的・文化的にさらに類別すると，地中海に臨む南ヨーロッパ，アルプス山脈以北の北西ヨーロッパ，バルカン半島北部からウラル山脈以西のヨーロッパロシアに至る東ヨーロッパの三つの大きな地域に区分できる。

〔自然〕ヨーロッパの地形は多数の半島や内海の存在が目だち，複雑である。北部のスカンジナビア半島は，本土との間にボスニア湾・バルト海を抱き，南部ではイベリア・イタリア・バルカンの3半島が地中海・黒海に突出している。周辺にはイギリス諸島・アイスランド・サルジニア・コルシカなどの大きな島や，エーゲ海諸島のような小さな島々が散在するなど，面積に比した海岸線の出入りは，世界の大陸中で最も著しく，海上交通面できわめて有利な条件になっている。内陸の地形も複雑で，南部では，若い褶曲(しゅうきょく)山脈であるアルプス・ピレネー*・シナル-アルプス*などの高い山脈が連なり，アジアとの境界にはウラル・カフカスの両山脈があり，大陸内部にはボージュ・カルパート・トランシルバニア・バルカンなどの山地が連なる。また北ヨーロッパやアルプスには氷河地形の発達も著しい。これら山地の間には北フランス・北イタリア・ハンガリーなどの平原，スペイン高原・ボヘミア盆地が点在し，一方北ドイツ以東は低平な地形が広がってヨーロッパロシアの大平原に連なる。このようにヨーロッパの内部は地形的にいくつかの細かいブロックに分かれ，種々な民族が割拠するのにこうつごうであった。またヨーロッパは多くの大河に恵まれており，西方にはライン・ドナウをはじめ，ポー・セーヌ・ローヌ・エルベなど，東方にはボルガ・ドン・ドニエプルなどがあり，いずれも水量は多く，特に高い山地を除けば一般に分水嶺(ぶんすいれい)は低く，二つの川を運河で結合させることも容易である。北海に注ぐライン川は，河口から350km上流のローレライ付近でもなお水深は30mに達し，ヨーロッパ内部に食い込んだ内海的な役目を果たしている。ヨーロッパの気候は，海洋性気候が卓越しており，特に大西洋に面する地域ではその傾向が強く，アジアのカムチャツカ半島南端と同緯度にあるリバプール(イギリス)の年平均気温は9.4℃，最寒月(1月)で4.1℃，最暖月(7月)も15.6℃である。しかし内陸では，大陸度の増大に伴って，冬の寒さと夏の暑さはともにきびしくなり，モスクワの気温年較差は27℃にもなる。降水量も一般に少なく，年降水量が1,500mmをこえるのはアルプス地域・スカンジナビア半島南西部・イギリス西海岸・イベリア半島北西部などに限られ，750mm以下のところが多い。地中海地方は冬に降雨が集中するいわゆる地中海性気候型である。これは，この地域が夏には中緯度高圧帯の支配下にあって晴天が続き，ほとんど雨をみないのに対し，秋から冬にかけては高圧帯の南下に伴って低気圧が発生するためである。一方，植生は，気候や地形の影響によって帯状の分布を示している。北ヨーロッパには常緑の針葉樹林帯があってシベリア地方のタイガに連なり，最北部の樹木限界を越えた地域ではツンドラ帯になる。中部ヨーロッパには落葉の広葉混交樹林が展開し，南ヨーロッパの地中海岸ではその特殊な気候に適したオリーブ・コルクガシなどの硬葉樹林帯がある。東ヨーロッパ南部では内陸の乾燥に応じたステップ的植物帯が見られる。一般にヨーロッパは開拓の歴史が古いため，針葉樹林帯を除くと原生林は少なく，また動物も，他の大陸と異なって猛獣類のいないことが特色になっている。

〔住民〕民族分布はきわめて複雑であるが，ヨーロッパ本来の民族としては，基本的にはラテン系・ゲルマン系・スラブ系の三つに大別される。このうちラテン系民族はおもにイタリア・スペイン・ポルトガルなどの南ヨーロッパおよびフランスに居住し，ゲルマン系民族はスカンジナビア半島・ドイツ・オーストリア・イギリスなどの北西ヨーロッパに多く，スラブ系民族はソ連をはじめポーランドやバルカン半島などを中心に居住している。これらの諸民族は性格にもそれぞれの特色がみられ，ラテン系民族は感情が豊かで芸術方面にすぐれ，ゲルマン民族は理性的であり，スラブ民族は粘り強さをもっているなど，それぞれの文化に差異を与える基本的条件の一つとなっている。アイルランドの住民はヨーロッパ人の中でも別の系統に属し，また歴史時代にアジアからはいってきた民族にはハンガリーやフィンランドの住民，またバルカン半島南部に居住するトルコ人などがいる。同時に長い歴史の間には，これら各種の民族が互いに混血して新しい民族も生まれている。たとえばイギリスは，ケルト族が先住民であったが，ローマ人がはいり，さらにゲルマン系のアングロ-サクソン人が移住融合して，現在のイギリス人を形成している。またスペイン南部には，中世にここを支配したアラビア系民族との混血も多い。

〔言語・宗教〕複雑な民族分布と歴史とは，言語においても著しい地域差を生じている。ゲルマン民族の居住地域ではいわゆるチュートン語系が支配的であるが，その中にも英語・ドイツ語・オランダ語・デンマーク語・スウェーデン語などの区分がある。ラテン系民族の分布地域ではイタリア語・フランス語・スペイン語に分かれ，スラブ系民族地域でも東スラブ語(ロシア語)・西スラブ語(ポーランドやスロバキア語)・南ス

ラブ語(クロアチアやブルガリア語)に区分できる。これらはいずれもアーリア語系に統一できるが，非アーリア語系ではトルコ語・フィン語・マジャール語(ハンガリー)・バスク語などがある。さらに同じフランス語でも北部と南部ではかなりの差異があるように，ヨーロッパの言語地図はまことに複雑である。民族の複雑性は，また宗教の分布にも反映している。ヨーロッパは古代に西アジアから起こったキリスト教が全域的に広まったところであるが，その宗派は著しい地域性を示している。最も古くから勢力のあったカトリックは現在もローマのバチカンに中心を置き，主としてラテン系民族の間で信仰されているが，のちにこれから分かれたプロテスタント(新教)の信者にはドイツ・オランダ・イギリス・スカンジナビア半島などゲルマン系民族が多い。またこれも古くカトリックから分かれたギリシア正教は，かつて東ローマ帝国がその中心であったことから，ギリシア・バルカン半島から東ヨーロッパにかけて多くの信者をもっている。このように宗派の差異はあるものの，キリスト教本来の精神には変化はなく，ヨーロッパ諸民族の考え方や慣習・道徳などにもキリスト教的考え方がその根底にあり，キリスト教はヨーロッパ文化を理解するうえで重要な要因となっている。このほか，かつてトルコに支配されたバルカン半島には，現在でも若干のイスラム教徒が残っており，中でもアルバニアは国民の70%近くがイスラム教徒で，ヨーロッパでは特異な存在になっている。

〔政治〕ヨーロッパは古代ギリシア・ローマの文化的伝統を継承し，政治的にも多くの指導的な国家を生んできたが，特に近世以降は世界各地にわたって広大な植民地の獲得，産業革命の達成などによってその勢力はほとんど全世界に及んだ。中でも17世紀以来のイギリス・フランス・ドイツの発展は急激であったが，同時にこうした発展は諸国間の対立・抗争を生むに至った。ナポレオン戦争におけるイギリス対フランス，普仏戦争におけるプロシア対フランスの抗争は，やがて新しい諸国間の抗争を軸とする第1次・第2次世界大戦にまで広がり，ヨーロッパはその主戦場となって甚大(じんだい)な被害をこうむった。この間には新興勢力のアメリカ合衆国さらにソ連の発展も加わってヨーロッパの政治的指導力は相対的に低下し，経済的にも鉄・石炭その他の重要生産物ではアメリカ合衆国・ソ連その他の国々に追い越されてしまった。ここに現代ヨーロッパの苦悩があるといえよう。現在，ヨーロッパには30余の国家があるが，かつてこれらのうちの大国をささえてきた海外植民地はほとんど失われており，それだけに経済的利権の確保と回復は主要政策の一つになっている。ヨーロッパの歴史は分裂と統一のくり返しであったといえ，古代ローマ帝国の拡大，キリスト教や資本主義の発達などは統一化の，ローマ衰亡後の各国家の形成やキリスト教の分裂などは多元化の例であった。第2次世界大戦後は，いわゆる自由主義圏と共産主義圏との分裂の中で，統一への歩みが進められている。自由主義圏諸国はアメリカ合衆国を加えて集団防衛の北大西洋条約機構(NATO)を結成し，さらに西ドイツ・フランス・オランダ・ベルギー・ルクセンブルク・イタリアの6か国はヨーロッパ共同体(EC)を組織して経済的な一元化を図っている。一方，共産圏ではソ連・東ドイツ・ポーランド・チェコスロバキア・ハンガリー・ルーマニア・ブルガリアなどの諸国で集団防衛機構のワルシャワ条約と経済相互援助会議(COMEKON)を組織して一体化を強めている。こうした動きの中で，現在のヨーロッパにはなお解決されていない多くの政治的な問題がある。東西ドイツと東西ベルリンの分離，ユーゴスラビアなどにみられる独自の共産主義路線，北アイルランドにおける宗教的対立と騒乱，フランコ独裁政権の続くスペインとその将来など，いずれもその中にヨーロッパを揺り動かす問題を秘めているといえる。

〔産業〕〈農牧業〉ヨーロッパの農業は歴史的には地中海沿岸から発展して北西方へ及んでいったが，種々な自然条件あるいは伝統によっていくつかの農業地帯に区分される。①酪農地帯：西岸海洋性気候でやわらかい牧草の生長，飼料としての根菜類，穀物の生長に適した地域で，北海沿岸・アイルランド・北フランスなどがその中心をなしている。②トウモロコシ・小麦地帯：夏の高温に恵まれたハンガリー・ルーマニアの平野を中心とするが，自給を主としてきたため作物の栽培技術は遅れている。③地中海式農業地帯：小麦と果樹栽培が盛んである。④小麦地帯：ソ連のウクライナからポーランド南部にわたる黒土地帯が中心で，テンサイがこれに加わり，世界の穀倉の一つになっている。⑤ライ麦地帯：中部ヨーロッパからソ連北部にかけては気温低下のためライ麦が主作物となり，またジャガイモやテンサイのしぼりかすを飼料にして家畜を飼う。⑥小麦・ブドウ・果樹地帯：ライン川流域・パリ盆地・オランダなどが中心で，集約的な園芸農業地帯になっている。生産品目では，ヨーロッパは世界の小麦生産高の約2分の1，ライ麦の80%，てんさい糖の60%を占める。就業人口における農民の占める割合は，東ヨーロッパではなお過半数に達しているところが多いが，西ヨーロッパではフランスで20%，西ドイツが10%，イギリスでは3.8%にすぎない。**〈鉱工業〉**ヨーロッパ北西部や東部は，石炭・鉄などの地下資源が豊かで，近代工業発展の原動力となった。炭田はドイツのザール・シュレジエン・ルールなどからイギリスのカージフ方面に連なる一帯と，ソ連のドネツ・ウラルの両炭田が中心であり，鉄鉱はイギリス(クリーブランド・ミッドランド)・フランス(ロレーヌ)・スウェーデン(キルナ)・スペイン(ビルバオ)などが著名であり，ソ連ではクリボイログ鉱山が豊富な埋蔵量を示す。石油は，西ヨーロッパでは産額が少ないが，東ヨーロッパではルーマニアとソ連が豊富である。水力発電はスカンジナビア半島，アルプス山系の周辺地域，ソ連などで大いに開発されている。こうした有利な立地条件によってヨーロッパでは各地に工業地帯が形成されているが，西ヨーロッパでは鉄鉱産地と石炭産地の結合による鉄鋼業が基幹となっており，イギリス南部から北フランス・ライン川流域・ベネルクス・スイス・北イタリア・スウェーデン南部などにそれぞれ専門化した大工業地帯が展開している。またソ連では計画経済による重化学工業が各地のコンビナート建設となって現われ，エネルギー資源と原料産地の結合により大きな成果をあげている。東ドイツ・ポーランド・チェコスロバキアなどでも工業の発達はめざましい。これらの結果国内総生産に占める工業生産の割合は高く，西ドイツでは52%，イギリスは43%に及んでいる。

〔交通・貿易〕道路網は近世以来整備され，自動車交通の発展とともにハイウエーが各地を結んでいる。また鉄道も，密度は他の大陸と比しても西ヨーロッパ地域が最も稠密(ちゅうみつ)であり，各国の首都がその国の鉄道網の中心となっている。国境を越えた国際列車も運転されている。内陸水路網は世界で最も発展し，多くの河川が運河で結ばれ貨物輸送の動脈になっている。海上交通も多数の良港があり，経済活動の盛んなことを反映しており，イギリスをはじめノルウェー・ソ連・西ドイツ・オランダ・ギリシア・イタリアなどは世界有数の商船保有国になっている。航空路でも北西ヨーロッパを中心に稠密な路線網を示し，ロンドン・パリ・フランクフルト・ローマ・モスクワなどは世界の主要航空路線の中心をなす空港をもっている。このような交通の状態は，ヨーロッパの貿易と密接な関係をもち，第2次世界大戦後，西ヨーロッパは復興のため大量の物資輸入を必要としたが，近年は経済自立の成果があがるにつれて輸出も再び盛んになり，広域間貿易が促進されている。貿易額では，西ドイツが首位を占め，次いでイギリス・フランス・ソ連・イタリア・オランダ・ベルギー・スウェーデン・スイス・東ドイツ(1967)と続いており，一方自由主義圏と共産主義圏との間の貿易も年々増加しつつある。〔別技篤彦〕

ヨーロッパうちゅうけんきゅうきかん
【ヨーロッパ宇宙研究機関】 European Space Research Organization 略称ESRO(エスロ)。ヨーロッパの各国が共同

で，平和目的の宇宙研究を推進するために1962年設立した組織。参加国はイギリス・フランス・ドイツ連邦共和国(西ドイツ)・オランダ・イタリアなど10か国。まず観測ロケットによる実験を行ない，1967年からアメリカ合衆国のロケットを用いてエスロ製の人工衛星を打ち上げはじめた。エスロ2号A(1967年5月)は失敗したが，2号B(1968年5月)，1号A(1968年10月)とあいついで成功，極軌道に乗った。重さは前者が74kg，後者が84kg。エルド(ヨーロッパ宇宙ロケット開発機関*)開発の宇宙ロケット(ヨーロッパ2号)による科学衛星の打ち上げも計画されており，実用衛星のシステムの研究も始められている。〔新羅一郎〕

ヨーロッパうちゅうロケットかいはつきかん　【ヨーロッパ宇宙ロケット開発機関】 European Launcher Development Organization 略称ELDO(エルド)。イギリスの惑星間協会が提案，1962年ヨーロッパ諸国の国際協力機構として発足した。エスロ(ヨーロッパ宇宙研究機関*)に必要なロケットや人工衛星の開発を主目的とするが，誘導ステーションや，追跡装置などの開発も各国分担で受け持たれている。

ヨーロッパきょうどうしじょう　【ヨーロッパ共同市場】 ⇨EEC

ヨーロッパきょうどうたい　【ヨーロッパ共同体】 ⇨EC

ヨーロッパけいざいいいんかい　【ヨーロッパ経済委員会】 Economic Commission for Europe 略称ECE。国連の経済社会理事会*の下部機関である四つの地域経済委員会の一。1947年設立。加盟国はヨーロッパ諸国とアメリカで，31か国。ヨーロッパの経済発展とヨーロッパ諸国間および他の大陸間との経済関係の調整・維持，経済協力の推進，情報・統計の収集・分析などを行なう。ソ連圏諸国も参加し，東西貿易*の問題をも検討している。本部はスイスのジュネーブ。総会のほか，農業・石炭・電力・住宅・労働力・貿易促進などの小委員会がある。〔深海博明〕

ヨーロッパけいざいきょうどうたい　【ヨーロッパ経済共同体】 ⇨EEC

ヨーロッパげんしりょくきかん　【ヨーロッパ原子力機関】 European Nuclear Energy Agency 略称ENEA。1957年経済協力開発機構(OECD*)の下部組織として設立された。本部はパリ。西ヨーロッパ諸国間の原子力開発の分野における相互協力と平和利用とを目的とし，共同事業・科学協力・情報交換などを行なっている。OECD加盟国が運営。日本は1964年(昭和39)加盟。

ヨーロッパげんしりょくきょうどうたい　【ヨーロッパ原子力共同体】 European Atomic Community 略称EURATOM(ユーラトム)。1957年3月EEC*(ヨーロッパ経済共同体)条約とともに調印され，フランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクの6か国間で1958年1月に発足。原子力平和利用のため，超国家的な管理を行ない，核分裂物質の独占的所有権をもち，これを加盟国に供給し，また原子力開発の共同施設の建設を行なう。現在は，EEC・ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体*とともに，EC*(ヨーロッパ共同体)を結成している。〔深海博明〕





ヨーロッパ国際特急列車　(上)西ドイツのTEE(パリ北駅，左はフランスのTEE)　(下)ミストラル号(フランス)のビュッフェ

ヨーロッパこくさいとっきゅうれっしゃ　【ヨーロッパ国際特急列車】 ヨーロッパ西部の各国を貫いて運転される高速旅客列車。一般に汎欧(はんおう)特急あるいはTEE(Trans Europe Expressの略称)とよばれる。自動車と航空機の著しい進出に対抗するため，豪華で安楽なふんい気と設備を提供し，高速でしかも安価に旅行を楽しむことを目的とし，オランダ国鉄の提唱によって，1957年から運転が開始された。スペイン・オランダ・ベルギー・フランス・ドイツ連邦共和国(西ドイツ)・スイス・イタリアなど9か国を結び，約10,000kmに達する鉄道網を構成している。最高時速150km以上で，専用の改札口や案内所を設けるなどの優先的な扱いをし，国境での税関検査を進行中の列車内で済ませられるなど，国境を意識せずに気軽に旅行できるよう配慮されている。車両は電車・ディーゼル動車を主体とし，愛称のつけられた約20の特急列車がある。〔宍塚正幸〕

ヨーロッパしはらいどうめい　【ヨーロッパ支払い同盟】 European Payment Union 略称EPU。1950年9月にヨーロッパ経済協力機構(OEEC)加盟18か国によって調印されたヨーロッパの地域的多角決済機構。実際にはEPUは調印に先だつ1950年7月より発足し，ヨーロッパ主要諸国の通貨の交換性の回復が実現された1958年12月まで存続し，その後は自動的にヨーロッパ通貨協定*に移行した。EPU設立の目的としては，加盟国共通の無差別原則に基づく貿易自由化措置の促進，対外援助から独立した加盟国の自立体制の確立，加盟国通貨の安定ならびに各加盟国の通商および雇用の高水準の達成維持，各加盟国の金外貨準備の充実ならびに通貨の一般的交換性回復への努力などが規定されている。これはそれまでに実施されてきた数次にわたる諸協定の双務主義的な欠陥を除去して，多角的相殺機構において，各加盟国相互間の債権債務が代行機関である国際決済銀行*によって完全に多角的に相殺され，各加盟国の他のすべての加盟国に対する純債権もしくは純債務が算出される。決済機構においては，多角的決済機構で算出された各加盟国の他のすべての加盟国に対する純債権もしくは純債務に振り替えられ，各加盟国と同盟との間で決済されることになる。決済は一部は金，一部はクレジットで行なわれる方式がとられた。〔安井孝治〕

ヨーロッパじゆうぼうえきれんごう　【ヨーロッパ自由貿易連合】 European Free Trade Association 略称EFTA。EEC*(ヨーロッパ経済共同体)の成立に対抗して，イギリスが中心となり1960年5月に結成された自由貿易地域。最初は，イギリス・デンマーク・ノルウェー・スウェーデン・スイス・オーストリア・ポルトガルの7か国が参加したが，その後アイスランドが加盟し，フィンランドも準加盟国となった。工業品を中心に関税その他貿易障壁を撤廃し，予定の10年よりも3年早く，1967年1月に自由貿易地域を完成させている。しかし，農業品は特別扱いとしており，対外共通関税も設定せず，政治統合の性格をもたないEECよりもはるかに統合度の低い存在である。1972年にイギリス・ノルウェー・デンマーク3か国の1973年1月からのEC*(ヨーロッパ共同体)加盟が決定したのを契機として，EFTAは弱体化し，崩壊の危機にさらされており，1972年7月，拡大ECとEFTA残留国との16か国で，自由貿易圏をつくる協定が正式に調印され，新しいヨーロッパ経済統合が進展していくことになるであろう。〔深海博明〕

ヨーロッパせいじきょうどうたい　【ヨーロッパ政治共同体】 European Political Community 略称EPC。フランス外相シューマンによって提案されたヨーロッパの政治的統合(憲法制定，議会・政策運営機関の設置)構想。1952年9月シューマン－プラン*加盟6か国会議で正式に取り上げられたが，ヨーロッパ防衛共同体*条約が流産

となったため，1954年消滅。

ヨーロッパせきたんてっこうきょうどうたい【ヨーロッパ石炭鉄鋼共同体】 European Coal and Steel Community 略称ECSC。1951年4月，西ヨーロッパ諸国が石炭・鉄鋼の共同管理のため結成した機構。1949年4月28日に調印されたルール国際機関協定により，基幹産業を国際化，その手始めに石炭・鉄鋼を対象としたもので，フランス外相シューマンが提案したのでシューマン-プラン，または実際の立案者ジャン-モネ国家復興計画委員長の名をとってシューマン-モネ-プランともいう。フランス・西ドイツ・イタリア・ベルギー・オランダ・ルクセンブルクが加盟，1951年4月18日条約に調印，1952年7月発足した。実際に共同市場が開設されたのは，石炭が1953年2月10日，鉄鋼は4月10日，期限は50年。加盟国間の関税障壁の撤廃，生産・販売・価格・労働者待遇などの共同管理により，経済的にヨーロッパ統合を促進，ヨーロッパ経済共同体(EEC*)の母体となった。1967年7月以来，EEC・ヨーロッパ原子力共同体*と執行機関・理事会は統合され，ヨーロッパ共同体(EC*)を形成している。〔折井一彦〕

ヨーロッパつうかきょうてい【ヨーロッパ通貨協定】 European Monetary Agreement 略称EMA。1958年12月ヨーロッパの主要諸国通貨の経常勘定における対外的交換性の回復によってヨーロッパ支払い同盟*(略称EPU)が解散されると同時に発足した協定。全加盟国が完全な自由交換性の回復を実現するまで，加盟諸国の相互協力を維持する目的で設立されたもので，主要機能は信用供与と多角的決済である。EMAでは各加盟国の醵出(きょしゅつ)によりヨーロッパ基金と称せられる基金が構成され，この基金から貸し付けの方式で加盟国に対して信用の供与が行なわれる。多角的決済は代行機関である国際決済銀行*によってほぼEPUと同様な方式で行なわれる。EPUにおいては信用の供与と多角的決済という二つの機能が有機的に結合され一体となって営まれていたが，EMAにおいてはこれら二つの機能が分離され，別個に営まれることになっている。EMAを運営する機関にはOEEC理事会，EMA理事会および国際決済銀行がある。OEEC理事会は運営上の最高方針を決定する最高機関であり，EMA理事会は運営上の具体的措置を決定する執行機関であり，さらに国際決済銀行はEMAの業務代行機関である。〔安井孝治〕

ヨーロッパとうごううんどう【ヨーロッパ統合運動】 ヨーロッパ地域の政治的・経済的・文化的統合を実現しようとする運動。第1次世界大戦後，オーストリアの政治学者クーデンホーフェ-カレルギ*やフランスの政治家ブリアン*により提唱されたが，発展をみなかった。第2次世界大戦後再び登場したが，アメリカ合衆国とソ連の対立の激化で全ヨーロッパの統合を図る運動は停滞した。しかし，マーシャル-プラン*や北大西洋条約機構*(NATO)成立に刺激されて，西ヨーロッパ大陸諸国はヨーロッパ石炭鉄鋼共同体*(ECSC)，ヨーロッパ経済共同体(EEC*)，ヨーロッパ原子力共同体*(ユーラトム)などの統一機構を形成，大陸からはずれたイギリスやスカンジナビア諸国もヨーロッパ自由貿易連合*(EFTA)を結成している。しかし，ヨーロッパ合衆国を設立し各国の主権をこれに委譲しようとする連邦主義に立つ大陸諸国と，主権は温存して提携強化をめざす機能主義を主張するイギリス・スカンジナビア諸国の間には対立があり，西ヨーロッパの統合をはばんでいる。一方，ワルシャワ条約機構諸国は東ヨーロッパ経済相互援助会議(コメコン*)を結成しているが，これはしだいにソ連を代弁する機関と化しつつある。〔折井一彦〕



与論島 島は低くゆるやかに起伏する隆起さんご礁の台地が広がり，台地上は一面に緑のサトウキビ畑になっている

ヨーロッパとうしぎんこう【ヨーロッパ投資銀行】 EEC*6か国が締結したEEC条約の第129～130条に基づいてベルギーのブリュッセルに設立され，1958年1月1日EEC条約の発効と同時に営業を開始した。EEC内部における経済発展段階や資本蓄積の地域的な相違を緩和し，EECの均衡のとれた円滑な発展を促進することがこの銀行の設立目的であった。資本金は総額10億ドルで関係6か国に金額が割り当てられており，銀行は必要に応じて加盟各国で起債を行なって資金を調達している。融資対象は，域内低開発地域計画，企業の近代化・転換・新活動計画，加盟国全体の共通利益に関する計画などである。〔安井孝治〕

ヨーロッパぼうえいきょうどうたい【ヨーロッパ防衛共同体】 ヨーロッパの反共防衛体制強化のため，フランス・イギリス・ドイツ連邦共和国(西ドイツ)・ベネルクス3国などが結成した軍事同盟。アメリカ合衆国の提案にしたがい，フランスのプレバンが立案，交渉難航の末1952年5月パリでヨーロッパ防衛共同体が締結された。朝鮮戦争後アメリカ合衆国は西ドイツの再武装を決意し，新設のヨーロッパ政治共同体(EPC)の管理下に西ヨーロッパ統一軍を設置，これを北大西洋条約機構(NATO)軍に編入することが規定された。しかし，西ドイツの再軍備を恐れるフランスは，1954年8月その批准を拒否したため，本条約は発効をみず，この構想は1954年10月西ヨーロッパ連合へ発展した。〔折井一彦〕

ヨーロッパほうそうれんめい【ヨーロッパ放送連盟】 European Broadcasting Union 略称EBU。1950年2月設立された世界最大の規模をもつ放送団体の国際組織。ヨーロッパ放送団体を中心とし，放送関係の諸団体の利益擁護，放送関係の諸問題の研究・促進，国際協力による諸困難の解決などを目的とする。西ヨーロッパ諸国の放送団体を会員とし，25か国，28放送団体が加盟している。日本ではNHKと日本民間放送連盟が準会員となっている。一般本部はジュネーブ，技術本部はブリュッセル。北・西ヨーロッパ諸国にユーロービジョン*を運営している。〔飯田良明〕

よろぼうし【弱法師】 能の曲名。四番目物。観世信光*(のぶみつ)の作であるが，現在演じられているのは後世の改作。河内(かわち)(大阪府)の高安に住む左衛門尉通俊(さえもんのじょうみちとし)は，その子俊徳丸を人の告げ口によって追い出してしまったが，後悔して天王寺で7日の間貧しい人にほどこしをする。そのとき集まった人の中に弱法師(よろぼし)という盲目のこじきがいて，梅の花のにおう中で天王寺の由来を述べる。通俊が見ると，これがわが子の俊徳であった。西門の石の鳥居の向こうに入り日の見える時刻に，日想観(じっそうがん)(日輪を見て極楽の東門に思いをこめる行)を行なうと，弱法師の目にはかつて見たあたりの風光がありありと映ずる。夜にはいってから，通俊は弱法師に向かってわが名を名のり，ともに高安に帰る。シテは弱法師，ワキは通俊。ほかに通俊の従者を狂言方がつとめる。原作では弱法師の妻が登場して舞台面はさらにはなやかであったらしい。〔長尾一雄〕

よろんじま【与論島】 〈よろんとう〉と



与話情浮名横櫛〈源氏店〉の場 〈しがねえ恋の情が仇……〉のせりふで知られる名場面のお富〈尾上菊之助〉と与三郎(市川海老蔵)



ヨンキント《月光》
1845 アムステルダム王立美術館蔵

もいう。鹿児島県奄美(あまみ)諸島南端の島。北緯27°02′，東経128°26′に位置し，沖縄が返還されるまでは，日本の行政権の及ぶ最南端の島であった。全島が大島郡与論町で，面積20.8km²，人口7,500。低い隆起サンゴ礁の島で，最高点は94m。サトウキビ・サツマイモ・ダイズ・バナナなどをつくり，天水田での米の収穫は不安定である。中心集落茶花から鹿児島へ定期航路が通じている。〔浅井得一〕

よわなさけうきなのよこぐし【与話情浮名横櫛】 歌舞伎(かぶき)の脚本名。通称〈切られ与三〉。3世瀬川如皐*(じょこう)作。1853年(嘉永6)中村座初演。実在した長唄(ながうた)の芳村伊三郎(よしむらいさぶろう)の体験譚(たいけんたん)に取材した世話物。伊豆屋(いずや)の若旦那(わかだんな)与三郎が他人の妾(めかけ)お富と密通した罰でからだじゅうに疵(きず)を受け，〈切られ与三郎〉というならず者になって流浪する物語。実在の妾宅(しょうたく)街玄冶店(げんやだな)をもじった〈源氏店〉の場面で，与三郎がお富と再会するところは特に有名で，よく独立して上演される。近世では15世市村羽左衛門(うざえもん)の当たり芸だった。〔松井俊諭〕

よわのねざめ【夜半の寝覚】 平安後期の物語。《夜の寝覚》ともいわれる。中間と最後の巻が欠け，全貌(ぜんぼう)は伝わっていない。成立年代・作者ともに未詳。《更級(さらしな)日記*》の奥書きから菅原孝標女*(すがわらたかすえのむすめ)の作という説があるが，不確定である。内容は《源氏物語》，特に〈宇治十帖*(じょう)〉の影響をうけている。女主人公中君(寝覚の上)が15歳の秋，夢の中で天人から数奇な運命をたどることを予言され，ふとしたことから姉大君の結婚相手中納言と契ってしまい懊悩(おうのう)の身となり，左大将との結婚，出産(中納言の子)など，宿命の波にもてあそばれる。その他生霊・偽死事件などがあり，子どもたちの恋の成就に光明を託すというもの。この物語の傑出点は，登場人物の心理が克明に記されていることであり，絶望のふちにいる女主人公の心がひしひしと伝わってくる。同じ平安末期に書かれ，《源氏物語》の影響をうけているものに《浜松中納言物語*》《狭衣(さごろも)物語*》などがあるが，この物語がはるかにすぐれている。〔平野孝子〕

よんいちろくじけん【四・一六事件】
⇨しいちろくじけん

ヨンカーズ［Yonkers］ アメリカ合衆国ニューヨーク州，ニューヨーク市北東に隣接する工業・住宅都市。人口20万6,000(1967)。ハドソン川左岸に臨み，敷物・衣料工業が盛んである。

ヨンキント［Johann Barthold Jongkind］(1819～1891) オランダの画家。主としてフランスで活躍し，風景・海景を好んで描いた。彼は，微妙に移りゆく光の効果をカンバスにとらえることに関心をもち，色調分割の手法を採用し，印象主義的技法の先駆者のひとりとなった。モネ・ピサロ・シスレーなどに与えた影響は大きい。

よんサイクルきかん【4サイクル機関】
⇨内燃機関

ヨーンゾン［Uwe Johnson］(1934～) ドイツの小説家。現ポーランド領のカミーン出身。ナチスの寄宿学校で第2次世界大戦の敗戦を迎え，戦後東ドイツの大学に学んで小説を書いたが発表を許されず，1959年西ベルリンに移住して，《ヤーコプに関する推測》を公刊。これは，ドイツの東西二分という政治状況が個人の生に及ぼす圧力と真正面から取り組んだ力作として話題を呼んだ。その後も長編《アヒムに関する第三の書》《二つの見解》，短編集《カルシュ》などで同一主題を執拗に追究している。〔藤本淳雄〕

ら

ら【羅】 絹織物の一種。〈うすもの〉あるいは〈うすはた〉と読まれ，織りは紗(しゃ)や絽(ろ)と同様な綟織(もじりおり)によっている。羅の織技は中国前秦(ぜんしん)時代に存していたとされるが，遺品は漢代のものが発掘されているのみである。これは，文様が菱文(ひしもん)あるいは立菱文で，経糸(たていと)が緯糸(ぬきいと)一越(ひとこし)ごとに織り進められる密な組織で，地はこれが一越おきにはずされ，籠(かご)状のまばらな織り方である。

ラー［Ra］古代エジプトの太陽神。イウヌウ(ギリシア名ヘリオポリス，ヘブライ名オン)市の守護神。第4王朝より有力となり，第5王朝の成立(紀元前25世紀)とともに王朝神・国家神の地位につき，〈ラーの子〉がファラオ*の正式な称号の一つに加えられた。宇宙の創造者として万物に生命・豊饒(ほうじょう)を与え，世界の秩序を維持する最高裁判官とされた。他の大神たちは，たとえばアモン－ラーのようにラーと習合することによりその属性を受け，神々の王と称することができた。オベリスク*はその祭祀(さいし)のシンボル。絵画・浮き彫りでは日輪を頭上にいただくハヤブサ頭の人物として表現されている。〔屋形禎亮〕

ライ［RAI］Radio Televisione Italianaの略称。イタリア放送協会。イタリア政府設立の産業復興機構が，同協会の株の過半数を所有している特殊な株式会社で，イタリアのラジオ・テレビジョンの放送権を独占している。ラジオ放送は1924年，テレビジョン放送は1954年から開始され，運営財源の約70％は受信料，あとの大部分は全放送時間の5％以下という制限のもとに広告放送の収入によっている。

らい【癩】 癩菌*(1871年ノルウェーのハンセンが，レプラ病原体と決定した細菌)の感染によって起こる慢性伝染病。ハンセン病・レプラともよばれる。潜伏期は数か月から10年くらいが多く，皮膚の外傷や鼻粘膜から伝染する。熱帯・亜熱帯地方の低開発国に多い。日本では1953年(昭和28)らい予防法が公布されてから，患者の90％以上(約10,000人)が国立11，私立3か所の療養所に収容され，すべて国費の補助で療養している。癩は古くから神経癩・斑紋(はんもん)癩・結節癩に分けられてきたが，1953年マドリードで開催された国際癩会議で癩腫(らいしゅ)型・類結核型および未定群・境界群の2型2群に分類された。①癩腫型：皮膚に癩腫とよばれる紅かっ色の結節を生ずるもので，顔面では額・頬(ほお)に浸潤面を生じ，鼻や口唇(こうしん)も肥厚していわゆる獅子(しし)面とよばれる状態になる。癩腫ははじめ知覚過敏となることもあるが，のちに麻痺(まひ)する。皮膚のほかにリンパ節がはれ，粘膜・神経・目が冒され，重症では肝臓・脾臓(ひぞう)・睾丸(こうがん)・卵巣・骨などにも及ぶ。癩腫の中には癩菌がたくさんいて伝染源となりやすい。②類結核型：全身各所に種々の大きさのかっ紅色の斑紋を生ずるもので，冒された皮膚には結核様の類上皮細胞とよばれる細胞が集まっている。皮疹(ひしん)の場合は，はじめ知覚過敏や蟻走(ぎそう)感などがあるが，やがて知覚麻痺に陥り，斑紋の消失後に色素沈着や白斑を残すことがある。神経は冒されるが内臓は冒されず，病巣には癩菌が少ないので伝染源となる危険性は少ない。神経障害の強いものは神経癩ともよばれ，皮膚知覚障害・神経肥厚・皮膚栄養障害をきたす。一般にまず温覚と冷覚が冒され，のち痛覚・触覚が冒される。皮膚栄養障害のため，大きな水疱(すいほう)や潰瘍(かいよう)を生じたり，指趾(しし)が脱落するほか，筋肉の萎縮(いしゅく)をきたす。

診断・治療にあたっては，光田(みつだ)反応(レプロミン反応)とよばれる皮内反応を行なう。癩腫型では陰性，類結核型および健康者では陽性である。癩腫型でも治療して軽快すれば陽転する。皮疹の一部を試験切除して病理組織標本を作製して顕微鏡で調べたり，その塗抹(とまつ)標本から癩菌の証明を行なう。プロミン・プロミゾール・ダイアゾン・プロマセチン(サルファ剤)が著効で，ストレプトマイシン・チビオン・セファランチンも多少の効果がある。〔田嶋公子〕

らいう【雷雨】 電光と雷鳴を伴う激しい対流性の驟雨(しゅうう)。雷雨には，降水と放電の二つの現象があり，発生原因によって3種類に分けられる。①前線性雷雨：湿った暖気が前線上を滑昇するときに起こるもの。界雷ともよばれる。強い寒冷前線が日本を通過するとき，全国的に雷雨が発生し，降雹(こうひょう)などで農作物に被害を与える。②気団性雷雨：局地的な加熱による対流で起こるものが多く熱雷ともよばれる。夏の夕立がその例である。盆地によく発生し，わが国では中部・関東地方に多い。③前線状雷雨：最近のレーダー観測によると，前線性でない雷雨が線状に並んで発生することがある。低気圧の暖域内で起こることが多い。梅雨末期の集中豪雨のとき発生することが多く，普通の前線と離れて，下層風の方向に並んでいて短時間に発生し，激しい雨を降らせる。〔相原正彦〕

ライエル［Clarles Lyell］(1797～1875) スコットランドの地質学者。富裕な地主の10人兄弟の長男として生まれる。オックスフォード大学を卒業後，ほとんど職につくことなく地質学の研究や地質調査旅行を行なう。《地質学原理》(1830～1833)を著わし，はじめて地質学の科学としての体系を確立し，〈地質学の祖〉といわれる。ダーウィンと親交があり，書簡をかわして科学上の考えを交換した。ダーウィンの《種の起源》の中の地質学に関する考え方はライエルに負うところが大きいといわれるが，彼はついにダーウィンの進化学説を理解することができなかった。〔大森昌衛〕

ライオン［lion］哺乳(ほにゅう)類・食肉目・ネコ科。頭胴長1.8～2.4m，尾長60～90cm，肩の高さ80～100cm。ふつう雄にはたてがみがある。尾の先端には毛のふさがあり，体に斑紋(はんもん)がない。夜行性で，アフリカでは岩山やサバナにすみ，砂漠(さばく)や密林にはいない。シマウマ・レイヨウを待ち伏せ，獲物が接近すると全力で飛び出し，背に飛びついて倒す。飼育下ではトラと異なり，比較的子を産むことが多い。インドライオンはインド西部のカジャラート州のガー森林に生息する一亜種で，アフリカ産のものに比べてやや小形。なお，雌ライオンと雄トラの雑種をライガー，その逆をタイゴンという。雌ライオンと雄ヒョウの雑種をレオポン，その逆をライパードと

いう。いずれも繁殖力はない。〔今泉吉典〕

らいかん　【雷管】　爆発の起爆や点火に用いられる火工品。銅またはアルミニウムの管に雷汞*(らいこう)(雷酸水銀)をつめたもので，工業用雷管・電気雷管・軍用雷管などがある。工業用・軍用とも爆破用のものは雷汞に塩素酸カリウムを配合した粉末がはいっている。点火用の雷管は小形で，小銃・機関銃の発火薬として使われ，雷汞のほかに塩素酸カリウム・硫化アンチモンやガラス粉などが混入されている。

らいき　【礼記】　儒教の経典の一。礼*の規定や意義に関する戦国時代から漢初にかけての記述を，漢初の戴聖(たいせい)が選択・整理したもの。49編。同じ材料からその伯父(おじ)の戴徳が編集した《大戴礼記》に対しては《小戴礼記》という。唐の太宗のとき，科挙の標準書として《五経正義*》がつくられて以来，その五経の一つとして特に通行した。なお，のちの四書の中の《大学》《中庸》も，それぞれこの《礼記》中の１編である。

らいぎょ　【雷魚】　硬骨魚類・タイワンドジョウ科。体長40cmをこえる淡水魚。タイワンドジョウともいい，一般にカムルチーと混称してライギョといっている。体は棒状で，背びれ40〜44軟条，臀(しり)びれ26〜28軟条。空気呼吸も行なう。水面に水草を集めて巣をつくり，夏に産卵する。繁殖力が強く，一度繁殖すると容易に駆除できず，魚やカエルを暴食する害魚である。台湾・海南島・中国南部・フィリピンに分布し，台湾では重要な食用魚。日本へははじめ奈良・兵庫県に移入された。カムルチーは前種に比べて北方に分布し，シベリアから中国東北部・朝鮮を経て揚子江の淡水にすむ。前種に比べてうろこはやや小さい。肉は美味であるが，有棘顎口虫(ゆうきょくがくこうちゅう)の第２中間宿主であり，生食は危険。

らいきん　【癩菌】　癩の原因菌で，発見者の名をとってハンセン菌ともいい，またレプラ菌ともいう。形態は結核菌によく似るが，一般にやや細めである。抗酸性は結核菌よりは一般に弱いが，非病原抗酸菌よりも強めである。人体の神経細胞とあまりにも深い関係をもって増殖するため，培養は困難と考えられている。ごく最近に，ラットの足蹠(そくせき)などを用いて動物実験に成功した例があるが，試験管内で人工培養に成功したと確信されている報告はない。

らいこう　【雷汞】　雷酸第二水銀Hg(ONC)$_2$の通称。水銀を硝酸にとかしこれにエチルアルコールを加えてつくる。白色斜方晶系結晶。打撃や摩擦にきわめて敏感で，そのまままたは塩素酸カリウムを20％くらい加えて起爆薬*として用いられる。雷酸銀も同様起爆薬となる。

らいごう　【来迎】　仏・菩薩(ぼさつ)がこの世に来現して，浄土に生まれようと願う人を迎えて浄土に導くこと。来応・迎接(ごうしょう)・聖衆(しょうじゅ)来迎・来迎引接(いんじょう)



ライオン　上から雄，雌，インドライオン



ライギョ



来迎図　〈山越阿弥陀図〉　禅林寺蔵

などともいう。来迎は他の諸仏にもみられるが，阿弥陀(あみだ)仏*の来迎が最も一般に知られている。《無量寿経》に説く第十九願は臨終の来迎を約束した阿弥陀の誓願であり，《観無量寿経》をはじめ浄土教典にはしばしば阿弥陀仏や聖衆の来迎が説かれている。この来迎のようすを図したものを〈来迎図〉〈迎接曼荼羅(まんだら)〉といい，儀式化されたものを迎接会・迎講(むかえこう)などといっている。〔大谷旭雄〕

らいごうず　【来迎図】　浄土教絵画の一。平安中期ごろから栄えた浄土信仰に基づき，人の臨終の際は西方より阿弥陀(あみだ)如来が迎えに現われるという情景を描いたもの。中国ではすでに隋(ずい)・唐のころから行なわれ，また敦煌(とんこう)・西域にも遺品が見られる。わが国では，奈良時代の《綴織当麻曼荼羅(つづれおりたいままんだら)図》(国宝)の周縁に描かれたものが最古の遺品である。また，平安時代では法華(ほっけ)寺の《絹本著色阿弥陀三尊及童子像》(国宝)，1053年(天喜１)につくられた平等院鳳凰堂(ほうおうどう)の壁画などが有名である。鎌倉時代になると，現実的な表現をとった諸形式のものが現われ，禅林寺の《絹本著色山越阿弥陀図》(国宝)や速度感を示した知恩院の《絹本著色阿弥陀二十五菩薩(ぼさつ)来迎図(早来迎)》(国宝)などを見ることができる。〔村重　寧〕

らいさんよう　【頼山陽】　(1780〜1832)江戸後期の漢学者・詩人。名は襄(のぼる)。通称久太郎。父春水は安芸(あき)藩浅野侯の儒官。大阪に生まれ，広島で成長。18歳で江戸に遊学し尾藤二州(にしゅう)に学ぶ。21歳のとき脱藩して邸内幽居を命ぜられ，その間学問と著述に精進し，《日本外史*》初稿を完成。30歳のとき備後(びんご)(広島県)神辺の菅茶山(すがさざん)の塾(じゅく)に迎えられたが，２年後京都で開塾。文名は江戸の佐藤一斎とともに知られ，史学に詳しく詩・書もよくした。主著《日本外史》のほか《日本政記》《山陽詩鈔(ししょう)》などがある。〔小田　博〕

ライシャワー　［Edwin Oldfather Reischauer］　(1910〜　)　アメリカの外交官・学者。東京の生まれ。1932年ハーバード大学卒業後，同大学講師。1941年国務省にはいり，極東問題を担当。1946年母校にもどり，1956年極東語学部副部長兼燕京(えんきょう)研究所長。この間アメリカ文化科学使節団のメンバーとして来日。1961年(昭和36)ケネディ政権の下に日本大使に任ぜられたが，ジョンソン政権との意見のギャップから1966年辞任。現在母校に在職するほか，国務省アジア・太平洋問題諮問委員長として活躍。なお，ハル夫人は明治の元勲松方正義(まさよし)の孫。〔折井一彦〕

らいしゅうはんとう　【雷州半島】　レイチョウ半島　中国，広東(カントン)省南西部の半島。瓊州(けいしゅう)海峡を隔てて海南島と相対し，南シナ海とトンキン湾の間に突出している。延長約150km，幅約50kmで，海岸線

は比較的単調である。中央を山脈が南北に走るが，高峻(こうしゅん)な山はない。北部と南部は玄武岩の溶岩流，中部は洪積層(こうせきそう)からなる。主要都市には海康や湛江(たんこう)があり，近年は半島北部にダムや運河が建設され，さらに半島基部東方の茂名では人造石油基地が建設された。〔千田　稔〕

ライスウィックじょうやく 【ライスウィック条約】 1697年ライスウィック(ライスワイク，オランダのハーグの南)で結ばれたアウグスブルク同盟戦争*後の講和条約。スウェーデンが仲介となり，フランス・イギリス・ドイツ・スペイン・オランダ間に締結。フランスは，ナイメーヘンの和約以後獲得した占領地の大部分を返還したがアルザス・ポンディシェリーを獲得し，ウィリアム3世をイギリス王として承認した。イギリス・フランスの植民地争奪戦がこの時期から開始された。〔喜多迅鷹〕

ライスセンター 稲作の最終段階であるもみを集荷・調製し玄米にして貯蔵する施設。カントリエレベーター*と並ぶ稲作の近代施設。ライスセンターの機能は次の順になる。もみ受け入れ(計量機・もみ精選機)・もみ乾燥(乾燥機)・もみすり(もみすり機)・俵装(計量俵装機)・貯蔵(貯蔵庫)。もみの受け入れから貯蔵まで，その移動はエレベーターや各種コンベヤーなどを用いた流れ作業である。したがって施設の建設には数千万円を要し，稲作の生産性向上には威力がきわめて大きい反面，経済的運営は非常に困難であり，建設された多くの施設が負債に苦しんでいるのが現況である。現在，機械技術・経営技術の改善のための努力が図られており，近い将来採算のとれる施設の出現が期待されている。〔田原虎次〕

らいせ 【来世】 死後に来るべき未来の世で，一般にいうのちの世。次生・後生・来生・来葉・後世などともいう。次の次の生を来来生というのに対して，すぐ次の生を順次生という。

らいちょう 【雷鳥】 鳥類・ライチョウ科の総称およびそのうちの一種。ユーラシア大陸と北アメリカ大陸の中高緯度地帯と北極圏の島々の森林・草原・山岳地帯などに18種が分布するキジ科と近縁の鳥である。全長は30～90cm大。最大のものはユーラシア大陸の中高緯度地帯の針葉樹林にすむオオライチョウで，雄は全長90cm，体重7kgもあり，全身黒紫紺色で美しい。雌はかなり小形で羽毛はかっ色。婚姻様式は一夫多妻のものが多く，北アメリカ産のエリマキライチョウやソウゲンライチョウの雄には，のどに袋状の共鳴器官があり，特殊な共鳴声を出したり，足踏みしたりしてディスプレー*を行なう。また，特定の場所に数羽から数十羽の雄が集まってディスプレーを行ない，そこに雌をひきつけて交尾をする習性もある。いずれも植物食性であり，木の芽か果実を主食としている。肉は美味なので，重要な狩猟鳥になっているものもある。





ライチョウ　(上)夏羽　(下)冬羽





雷電為右衛門
勝川春亭による相撲絵(上)と手形(下)
相撲博物館蔵

そのうちの一種であるライチョウは北極圏の島とユーラシア大陸の高緯度地域に広く分布しており，日本アルプスの高山に生息するわが国のライチョウは，氷河期に南方にまで分布していたこの種が，氷河の後退後も高山という環境下に生き残ったものと考えられている。羽毛は，冬季には白色，春季・夏季にはかっ色，秋季には灰色を交えたかっ色にと，3回も生息環境の背景に似た羽色に換羽し，外敵の捕食を避ける。

ライデン ［Leiden］ オランダ西部の都市。人口10万3,000(1968)。ハーグの北東方，北海と低湿地の間の砂丘上にあり，オランダ最古のライデン大学(1575年創立)の所在地，画家レンブラントの生誕地として知られる。かつて毛織物業で繁栄し，17世紀にすでに人口10万をこえていた。16世紀にスペイン軍の侵略を阻止したところとしても有名。ここから北のハーレムまでがチューリップ栽培の盛んな地帯である。

らいでんためえもん 【雷電為右衛門】 (1767～1825) 江戸時代の強豪力士。本名関太郎吉。信濃(しなの)(長野県)大石村(現小県(ちいさがた)郡東部町)の生まれ。1784年(天明4)江戸相撲(すもう)年寄浦風に入門，1790年(寛政2)に初土俵。谷風梶之助(かじのすけ)の死後大関に進んだ。身長197cm，体重169kgの巨人で怪力のため，張り手・鉄砲(突張り)・かんぬきの3手を禁じられた。総成績254勝10敗で，勝率96.2%。優勝は25回，連続優勝7場所は古今第1位である。

ライデンびん 【ライデン瓶】 オランダのミュセンブルークが1746年に発明した蓄電器。円筒形のガラスびんの内外にスズ箔(はく)をはり，びんのふたの中央は金属鎖をもった金属棒によって貫かれている。金属鎖は，びんの内側のスズ箔と接触している。電荷をたくわえるときには，外側のスズをアースし，内側を電源に結ぶ。

ライト ［Frank Lloyd Wright］ (1869～1959) アメリカの建築家。近代建築の開拓者のひとり。アメリカ中西部で教育を受け，建築家としての初期の活動もその地方に限定されていたために，彼の時代に流行していたスタイルに強い影響を受けることなく，独自の技法と美学を発展させることができた。農夫のむすこであったライトは，建築物はその敷地からはえ出たように，有機的な感じをもたなければならないと主張した。この主張はル-コルビュジエやミース-ファン-デル-ローエ・グロピウスらの無機的な都市建築の傾向と鋭く対立した。しかし，彼はきわめて強烈な個性をもち，かつ多作家でもあるので，一面的に定義することは困難である。作品の特徴として最も著しいのは，低く水平的にのびて安定した感じのある単純な強い線である。代表作はカウフマン邸・グッゲンハイム美術館・旧帝国ホテルなど。〔吉田玲子〕

ライト ［Sewall Wright］ (1889～　) アメリカの遺伝学者。マサチューセッツ州のメルローズに生まれる。ロンバード・イリノイ・ハーバードの各大学で学び，シカゴ大学を経てウィスコンシン大学教授。はじめモルモットの同系交配について研究していたが，進化における同系交配の役割に関する興味から集団遺伝学を始め，小集団では適応形質が消失しやすいことを示すライト効果を1921年に発表するなど，この分野で多くの貢献をなした。集団遺伝学の創始者のひとり。〔中村禎里〕

ライト ［Richard Wright］ (1908～

1960) アメリカの黒人作家。ミシシッピ州の貧農の子に生まれ，1930年代共産党に入党(のち離党)，1940年まちがって白人の娘を殺した黒人青年の物語《アメリカの息子(むすこ)》で作家としての地位を確立，いわゆる〈抗議小説〉派の雄となり，アメリカ黒人文学の声価を世界的なものにした。短編集《アンクル-トムの子供たち》，自伝的小説《ブラック-ボーイ》や評論集・旅行記などがある。

ライトきょうだい 【ライト兄弟】 Wilbur Wright (1867～1912), Orville Wright (1871～1948)。アメリカの飛行機製作者。自転車屋だったが，リリエンタール*のグライダー飛行に刺激されて飛行機の研究を始めた。兄弟で凧(たこ)やグライダーによる実験を積み重ね，1903年12月17日，ノースカロライナのキティホークにおいて，複葉グライダーに発動機とプロペラを備えて人類最初の飛行に成功した。最初はわずか12秒の飛行であったが，改良を重ね，ヨーロッパ各地で飛行を公開した。1909年アメリカ陸軍のテストに合格し，同年ライト飛行機製作会社を設立した。ウィルバーは航空力学に通じ，オービルも1924年に下げ翼を発明している。 〔加藤邦興〕

ライトバン ［light van］ 固定された屋根をもち，運転室と荷物室が一体となっている小形のトラック*。外観の形状からはボンネット形とキャブオーバー形(ボンネットの突出がなく，運転席が車体の最前部にあるもの)に大別でき，荷物を主体に運搬するものは運転室と荷物室の間に簡単な仕切り棒を設けてある。貨客兼用車では，荷物を運搬する際に前後2列ある座席のうち後席を倒し，容積を広げられる構造になっている。水やほこりを避けなければならない商品の運搬や宣伝車・行楽用として用いられている。 〔成田武男〕

ライヒ ［Wilhelm Reich］ (1897～1957) オーストリアの精神分析学者。フロイト*の古典精神分析から，現代精神分析への転回を方向づけると同時に1920～1930年代に，ウィーンでマルクス主義と精神分析の統合を試みて活躍した。ナチスに追われてアメリカに亡命後は，性と文化の革命を唱え，現代における性の解放思想や新左翼運動に多大の影響を与えている。しかし，アメリカ移住当時から精神に異常をきたしたといわれ，メイン州に居住中に彼の提唱するオーゴン療法の禁止を受け，法廷侮辱罪で投獄され，ペンシルベニアの医療刑務所で死去した。名著《性格分析》は精神分析の必読の書とされ，他に《ファシズムの集団心理》などがある。 〔小此木啓吾〕

ライヒス-アウトバーン ⇨アウトバーン

らいびょう 【癩病】 ⇨癩

ライフ ［Life］ アメリカの週刊グラフ雑誌。1923年すでに《タイム》を創刊して，〈読む雑誌〉に成功したヘンリー-ルース(1898～1967)はさらに〈見る雑誌〉をも企画して1936年11月この雑誌を創刊した。カメラの技術・技法の発展を背景に優秀な記者とカメラマンを集め，迫真力豊かな写真による〈世界の解説〉を掲載し，出版界・写真界に大きな影響をもたらした。最近はやや業績不振で，1970年末に本国版2冊分をまとめて，隔週発行していた海外版を廃止したが，なお，発行部数約850万を維持している。 〔飯田良明〕



礼　服



ライプチヒ　市の中心部にある旧市庁舎(16世紀中ごろの建物)とマルクト広場。建物には中世のライプチヒの栄光がしのばれる

らいふく 【礼服】 奈良時代以降，天皇即位のときや正月の朝賀のときのような大儀に着用した礼装。ただし平安時代以降は天皇即位のときのみに着用し，孝明天皇まで用いられた。中国，唐の服制を継承したもので，天皇・皇后・皇太子の御礼服，文官・武官の礼服などがある。天皇の御礼服は袞冕(こんべん)という。袞は巻くという意で，その表衣の袖(そで)にある首の曲がった龍(りゅう)の文様による。冕は冕冠で，上面に付けられた冕板という長方形の板に飾りをたれ下げた冠である。なお皇太子の礼服も天皇のそれと同じだが，礼冠からたれている飾りの糸の数が天皇のそれより少ない。親王以下諸王諸臣の礼服姿の構成は礼冠・大袖・小袖・裳(も)・単(ひとえ)・表袴(うえのはかま)・大口・綬(じゅ)・玉佩(ぎょくはい)・牙笏(げのさく)・襪(しとうず)・烏皮舄(くりかわのくつ)である。礼冠とは金物を用いた円形のかぶり物で種々の玉の飾りを加え玉冠ともよんだ。平安朝以降上級の武官の料には武礼冠(むらいかん)という箱形を加えた冠が存在したが，近古の制では大将代のもののみに限った。大袖は表衣で袖口が広いところから名づけたものである。また礼服の色は天皇・皇太子の御料は赤であるが，親王以下諸臣の一位以上は紫，五位以上は緋(あけ)であったが，のちには親王は紫，侍従は麴塵(きくじん)(青色)，典儀は蘇芳(すおう)色である。なお武官の礼服には特定のものはなく，朝服に武礼冠(上級の者のみ)・裲襠(りょうとう)(貫頭衣)・腰帯を付けたもので，表衣は襖(あお)で，太刀(たち)・靴(かのくつ)を加えている。女子の礼服姿の構成は宝髻(ほうけい)(飾りを加えた髻(もとどり))・大袖・褶(ひらみ)・裙(うわも)・帯・襪・舄(くつ)からなる。 〔河鰭実英〕

ライプチヒ ［Leipzig］ 東ドイツ南部，ザクセン地方の都市。東ベルリンを除き，同国最大の都市。人口58万6,000(1969)。褐炭(かったん)の産地にあり，鉄鋼・機械・化学など種々の工業が行なわれ，古くから春と秋に国際工業見本市が開かれる。第2次世界大戦前には中部ヨーロッパの鉄道交通の最大の中心であり，世界的な印刷出版業で知られた。古くより音楽の都として知られ，1409年創立のドイツで2番めに古い大学もあり，学術・文化の中心でもある。1813年のナポレオン軍と連合軍との激戦地としても知られる。 〔梶川勇作〕

ライプチヒ-ゲバントハウスかんげんがくだん 【ライプチヒ-ゲバントハウス管弦楽団】 東ドイツのライプチヒにあるオーケストラ。1743年に創立され，1781年に演奏会場をゲバントハウスに移して，現在まで引き継がれている。世界で最も歴史の長いオーケストラである。1835年にメンデルスゾーン*が常任指揮者となって以後，名声があがり，歴代指揮者にはニキシュ*・フルトベングラー*・ワルター*らがある。1961年(昭和36)来日の際はバーツラフ-ノイマン，1971年の来日ではクルト-マズーアが常任指

揮者をつとめた。〔向坂正久〕

ライプチヒだいがく【ライプチヒ大学】東ドイツのライプチヒにあり，1409年ローマ教皇アレクサンデル５世の教書により設立され，ハイデルベルク大学に次ぐ伝統をもつ。17世紀まではドイツ最大の大学として発展した。宗教改革では反ルーテル主義の立場で旧教の伝統を守ったが，その後根本的に改革され，新教に基づく大学となった。第２次世界大戦後はドイツ民主共和国のもとで，カール-マルクス大学と改称。

ライプチヒとうろん【ライプチヒ討論】1519年ルターがインゴールシュタット大学の神学教授ヨハン-エック（1486～1543）の挑戦(ちょうせん)を受けて行なった神学上の公開討論会。席上ルターはエックの誘導によってフスを擁護せざるをえなくなり，さらに聖書が信仰の唯一の基礎であること，宗教会議も誤りを犯す場合があることなどを主張し，その結果，ローマ教会との対立は決定的なものとなった。翌年ルターは三大論文を発表して改革者としての立場を明らかにした。〔松　俊夫〕

ライプチヒのたたかい【ライプチヒの戦い】1813年10月16～19日，ライプチヒにおいて，プロイセン・オーストリア・ロシアの同盟軍が，ナポレオン１世のフランス軍を撃破した戦い。解放戦争中の頂点をなすもので〈諸国民の戦い〉ともいわれる。同盟軍約33万，フランス軍15万で，途中ザクセン軍が同盟軍に寝返りを打って戦局は決定した。双方それぞれ60,000人の死者を出した。当時すでにウェリントンはイベリア半島を解放，翌年同盟軍はフランスにはいって，パリを占領，ナポレオンは退位した。〔喜多迅鷹〕

ライプニッツ［Gottfried Wilhelm Leibniz］（1646～1716）ドイツの哲学者・数学者。ライプチヒの生まれ。彼は哲学・数学・神学をはじめ，あらゆる文化・自然科学の領域に卓越した学識をもち，微積分法の発見や計算機の発明など多彩な業績を残したが，同時に自己の理想を実現するためにマインツ選帝侯・ハノーバー侯などのドイツ諸侯に仕え，カトリック・プロテスタント両教会の再統合に終生努力した実践家でもある。また諸国にアカデミー建設を強く勧め，ベルリンに科学協会を設立してその院長となった。彼の哲学は〈調和の体系〉といわれ，つねに普遍的・調和的立場に立って，新旧両教の統一，近代の機械論哲学と古代・中世の目的論哲学との和解を，力学や数学の新しい研究成果の上に試みている。彼は，物体の本性をデカルトのように広がりにではなく力に求め，また数学や幾何学のような矛盾律に基づく永遠真理のほかに，充足理由律に基づく事実真理を認めて，独自の個体論を示した。そして，すべては神の普遍的調和のもとに包括され，この世界はありうべき世界のうちで最善のものであるという思想を展開している。彼には体系的主著というものはないが，晩年の《モナドロジー（単子論）》（1714）はそれまでの彼の思想の集約として，一なるモナド（単子）の根源的な表象の力と，モナド相互の調和を図る神の予定調和とによって宇宙の統一を説明している。他に《形而上学(けいじじょうがく)叙説》《人間悟性新論》など多数の著作がある。〔飯塚勝久〕

ライプニッツ-ウォルフがくは【ライプニッツ-ウォルフ学派】C.ウォルフが通俗化したライプニッツの哲学を唱える人々をいう。ウォルフのほかに，ビルフィンガー・バウムガルテンらがいる。もともとライプニッツの哲学は，数学や物理学の成果に基づいた深い思索を，新旧両教の再統合というような一定の目的をもって，しかも具体的な思想家を対象に書かれたものが多く，体系的な形に整えられていない。それを組織しなおして体系化したのがこの派の哲学である。しかし，それによって当然ライプニッツの精神は歪曲(わいきょく)される結果になった。たとえば，充足理由律は矛盾律に還元されて理性認識のみが強調され，また予定調和の説も身心関係のみに限定されてしまう。それゆえ，ライプニッツの精神により忠実であったハンシュらの反対を受けたが，その徹底した論理性・通俗性のためにカント以前のドイツ哲学を支配し，啓蒙(けいもう)主義の代表的な思想を形成した。〔飯塚勝久〕

ライフルきょうぎ【ライフル競技】⇨射撃競技

ライフルじゅう【ライフル銃】銃腔(じゅうこう)の２分の１以上にわたって２本以上の腔線（ライフル）がらせん状に刻まれている主として単一の実弾を発射するための銃。したがって銃口部までライフルの刻まれていないものもある。腔線数は銃によってさまざまであるが，実用面からみれば２本でさしつかえなく，数の少ないものはみぞを深くし，多いものは浅くされる。浅いものは摩滅が早い。腔線の回り方には，銃口部まで同率で回る等斉纏度(てんど)と，しだいに旋回度の増す漸増纏度とがあり，一般に緩燃性火薬を使用する銃は前者を，急燃性火薬を使用する銃は後者をとるが，後者は製作に手数がかかるため，高級品以外はあまり採用しない。腔線は弾丸が銃腔を通過する際，弾丸の被甲に食い込ませて導帯をつくり，弾丸を回転させて弾道の安定をはかるためのもので，みぞの形状に種々の考案がみられる。

ライフル銃の口径は，通常，銃腔の狭径（みぞでないところ）の基準寸法をインチまたはmmで表わす。たとえば口径30とは狭径が100分の30インチ（口径300は1,000分の300インチで30と同じ）であるが，ときには広径で表わすこともあり，たとえば口径308とは1,000分の308インチで，狭径で表わせば300である。mmで表わす場合は狭径の実測値によるが，その銃に使用する弾頭の外径でよぶ国（ドイツ）もある。イギリス・アメリカなどではインチ単位，ドイツ・オーストリア・ソ連などではmm単位を採用している。狩猟用ライフル銃の口径は22口径から600口径まであるが，そのうち22口径と6.5～７mm口径，30～375口径が一般的で，22口径は小形獣，6.5～７mmは中形獣（シカなど），30～375口径はそれ以上の大形獣類に用いられる。

ライフル銃の機構は散弾銃と根本的には同一で，特別な機構が採用されているわけではないが，一般に堅牢(けんろう)に製作されており，かつ正確な照準装置がつけられている。これは，実包の圧力が高いためと，単一の弾丸に良好な精度を与えるためである。ライフル銃の弾丸は種類が多く，同口径であっても必ずしも同威力ではない。弾頭重量を重くしたり，命中したとき弾頭がつぶれて面積を増し，獲物に大きなダメージを与えたり，装薬量や装薬の種類によって，腔内圧力の増減をしたり，さまざまの考察が試みられているからである。したがって，同口径で中形獣類向けのものもあり，猛獣向けのものもあるし，同一の銃でも実包を変えることにより，ふつう小形・中形・大形動物，軟皮獣，硬皮獣向けに，また近射・遠射などの各用途に使いわけができる。狩猟用・漁労用・軍用・警備用などに多用されているが，狩猟用ライフル銃は乙種狩猟免状の所有者だけに使用が許される。なお，ライフル銃での鳥猟は禁止されている。〔白井邦彦〕

ライヘンバッハ［Hans Reichenbach］（1891～1953）ドイツ生まれのアメリカの哲学者。確率論・帰納法の研究，および空間・時間の哲学や量子論の基礎に関する研究など，科学の内容と直接結びついた認識論上の業績がある。論理実証主義に近いが，実証性によって人間の認識の絶対的な確実性を求める立場を否定し，あらゆる認識の蓋然(がいぜん)性を強く主張する。ベルリン大学・カリフォルニア大学で教えた。主著《科学哲学の形成》。〔寺中平治〕

ライマンけいれつ【ライマン系列】水素原子の出すスペクトルの一系列。波長の長いほうからL_α，L_β…と名づける。ライマンが1906年非常に波長の短い紫外部に発見した。これは，水素原子が種々の励起準位から最も下の準位へ落ちるとき放出されるもので，その波数$\tilde{\nu}$は，$\tilde{\nu}=R(\frac{1}{1^2}-\frac{1}{n^2})$で表わされる。$R$はリュードベリ定数，$n$は２以上の整数。

らいみきさぶろう【頼三樹三郎】（1825～1859）幕末の尊攘派(そんじょうは)志士・儒者。山陽の子。名は醇(じゅん)。三樹三郎は通称。鴨厓(こうがい)・古狂生などと号した。儒学を修め，江戸に出て昌平黌(しょうへいこう)に学んだ。父の影響により勤王を志し，梁川星

巌（やながわせいがん）・梅田雲浜（うんぴん）らと尊王攘夷運動に奔走。将軍継嗣問題では一橋（徳川）慶喜（よしのぶ）擁立派と結んで朝廷に働きかけたが，安政の大獄で捕えられ，吉田（よしだ）松陰らとともに小塚原（こづかっぱら）で斬首（ざんしゅ）された。　〔高崎徳次〕

ライム　［lime］　双子葉植物・ミカン科。マライ・インド原産の常緑小高木で，高さ2～7m。葉は6cmほどの卵形で，小さな翼がある。7～8月，葉腋（ようえき）に小さな白色5弁花をつける。果実も小さく，直径5cmほどで，表面は黄色。果肉は緑色で，柔らかく多汁（たじゅう）であるが，酸味が強く，香気が高い。香料柑橘（かんきつ）として用い，また，クエン酸の原料やジュースにされる。栽培ミカン類のうちでは最も原始的なもので，耐寒性はきわめて弱い。

ライむぎ　【ライ麦】　単子葉植物・イネ科。黒麦ともいい，英名はライ（rye）。ヨーロッパ南東部から中央アジア原産の越年草で，コムギに近縁の作物。東ヨーロッパ・スペイン・フランス・ソ連で広く栽培され，日本へは明治初年に渡来した。茎は高さ1.3～2mほどになり，葉はコムギより短くて幅広く，幼葉の表面はビロード様の毛でおおわれる。花穂は茎頂につき，コムギよりも長く，穂の扁圧（へんあつ）された面に小穂が互生する。小穂は3花からなり，そのうち1花は実らない。穎果（えいか）は帯緑かっ色または紫色をおびる。夏に冷涼なところを好み，耐寒性が強く，酸性土壌（どじょう）にもわりあいに強い。自家不稔（ふねん）性が強く，風媒花のため，品種の純系が保ちにくい。果実は黒パン・ウイスキー・ウオツカ・しょうゆなどの原料，茎葉は青刈り飼料・緑肥にする。また，子房に麦角菌が寄生したものは麦角といい，薬用にされる。〔横井朝子〕

ライむぎばたけでつかまえて　【ライ麦畑でつかまえて】　サリンジャーの小説（1951）。クリスマスの休暇直前に高校を退学した少年ホールデン-コールフィールドの2日間のできごとを，一人称の軽快な文体で描く。汚れない少年の目を通して見たおとなの社会のまやかし・いやらしさへの批判が1950年代の若者の共感を呼び，《ハックルベリ-フィンの冒険》と並ぶ傑作として第2次世界大戦後のベストセラーとなった。

ライラック　［lilac］　双子葉植物・モクセイ科。リラ・ムラサキハシドイともいう。バルカン半島からクリミア半島原産の落葉低木。根もとから多数の幹が伸び，高さ4～7mほどになる。葉は対生し，長さ5～12cm，幅3.5～5cmの卵形ないし広卵形で先がとがり，光沢がある。4～5月，枝先に円錐（えんすい）花序をつけ，ふつう紫色のかおりのよい合弁花をつける。花冠はらっぱ状で，先が4裂する。花色には赤・白・クリーム色などもあり，八重咲きもある。日本には明治中ごろに渡来し，庭に栽培される。札幌（さっぽろ）市では市木とされている。



ライムギ　麦角菌の寄生によって，紫灰色の麦角ができる



ライラック



ライン川　丘陵地に深い谷を刻んで流れるライン川。ローレライのやや下流ザンクトゴアール付近。対岸の城はカッツ城



ラインハルト

ライル　［Gilbert Ryle］（1900～　）イギリスの哲学者。オックスフォード大学教授。日常言語学派で指導的な役割を果たしている。彼によれば，哲学的な問題は，ある概念が本来属さないカテゴリーにおいて使用されるという〈カテゴリーのまちがい〉から生じるものであり，そのまちがいを取り除くために日常言語を組織的に研究することが重要であるという。このような哲学観に基づいて心という概念を分析した《心の概念》は，第2次世界大戦後イギリス・アメリカ哲学界に大論争を巻き起こした。その他《ジレンマ》がある。　〔米沢克夫〕

ライン（川）　［Rhein］　ヨーロッパのスイス・西ドイツ・オランダを流れる川。全長1,320km。スイス南東部のアルプス山中に発して北流し，ボーデン湖を経たのち，スイスと西ドイツの国境をなして西流。バーゼル付近で北に向きを変え，フランスと西ドイツの国境をなして約180kmほど流れたのち，西ドイツ西部を貫流する。マインツから下流のボン付近までは，沿岸に奇岩ローレライや古城も多く，また両岸の丘陵地にブドウ畑が連なるなど風光にすぐれ，ライン川の最も美しいところとされる。ボンを過ぎると川は低地を北流してオランダにはいり，西へ転じて多くの支流に分かれ，下流部に複合デルタを形成しながら北海に注ぐ。ライン川は古来重要な交通路として利用されてきたが，1868年沿岸諸国の協定により航行自由な国際河川となった。また，19世紀末以来運河による各河川との水運も開かれ，上流部ではフランスのソーヌ・ローヌ両河川と結ばれ，マイン川を経てドナウ川とも通じた。下流部でも多くの運河がルール工業地帯を抜けてドイツの内陸部と結ばれ，オランダではロッテルダムやアムステルダムの港がライン川によって連絡している。また上流部は急流や滝が多く，発電に利用されるなど，世界で最も利用度の高い河川となっている。　〔大石堪山〕

ライン-アンド-スタッフそしき　【ライン-アンド-スタッフ組織】　ラインは第一線の戦闘部隊を，スタッフは参謀ないし補助部隊を意味する軍隊用語。経営管理組織では，ラインは組織体の基本的機能を担当する人間ないしは部門を意味し，スタッフはラインの業務を援助する機能またはそれを担当する人間や部門を意味する。企業規模の拡大，作業内容の複雑化，技術の高度化は補強制度としてのスタッフの出現をみるようになった。　〔清水　晶〕

ラインどうめい　【ライン同盟】　⇨ライン連邦

ラインとしどうめい　【ライン都市同盟】　1254年，マインツ・ウォルムス・ケルンなど100余の都市と30余の諸侯の間に成立した同盟。その目的は，領邦の分裂化に反対して国家の統一を行ない，平和を維持して経済の発展を図ろうとするものであったが，わずか4年3か月で解体した。1381年に復活し，シュワーベン都市同盟と合体したが1388年諸侯勢力と戦い撃破されて解消した。

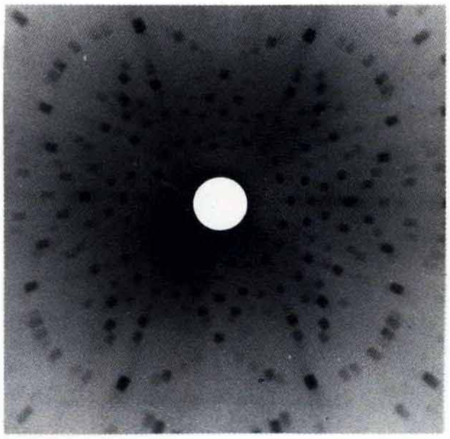
ラインハルト　［Max Reinhardt］（1873～1943）　オーストリアの俳優・演出家。

本名ゴルドマン。1893年からウィーン・ベルリンで俳優として活躍，特に老(ふ)け役を得意とする特異な俳優として知られた。1903年以降は演出に転じ，ウィーン・ベルリン・ロンドンなどをはじめヨーロッパ各都市で，《オイディプス王》《奇蹟(きせき)》などの大規模なスペクタクル演出で一世を風靡(ふうび)した。1920年にはザルツブルク演劇祭を創始，またベルリンの大小三つの劇場を主宰し，ギリシア劇・シェークスピア劇から表現派までの幅広いレパートリーをこなし，またヨーロッパ各地に招かれて演出を行なうなど，今世紀最大の演出家とうたわれた。ナチス政権後は，そのユダヤ人の血のためドイツを離れ，アメリカで《真夏の夜の夢》の映画制作など行なったが，不遇のうちに客死した。　〔大島　勉〕

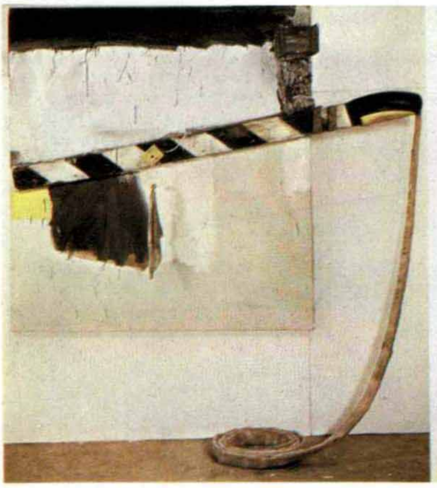
ラインれんぽう　【ライン連邦】　1806年ナポレオン1世*がオーストリア・プロイセンに対抗するものとして西南ドイツ諸邦を保護下において結成させた連邦。この結果，神聖ローマ帝国*のほぼ西半分が帝国から離脱し，皇帝フランツ2世は帝国の解体を宣言した。連邦諸国ではナポレオン法典の導入など改革が行なわれたが，1813年ナポレオンの没落とともに連邦も消滅し，ウィーン会議*の結果，新たに成立したドイツ連邦に吸収された。　〔松　俊夫〕

ラウエ　［Max Theodor Felix von Laue］（1879～1960）ドイツの物理学者。コブレンツの近郊ファッヘンドルフの生まれ。ベルリン大学でプランクに師事。チューリヒ・フランクフルト・ベルリン各大学の教授。光学・熱学・相対論など多くの分野に関する研究があるが，特にX線回折の研究が著名で，X線の結晶による回折現象の可能性を予想し，その計算を行なった(ラウエの斑点*(はんてん))。この事実はまもなく確かめられ，X線が電磁波の一種であることが確立された。このほか超伝導*の研究もある。1914年ノーベル物理学賞を受賞。　〔藤村　淳〕

ラウエのはんてん　【ラウエの斑点】　単結晶によるX線*の回折*像。1912年ラウエらは，白色X線を単結晶にあてるとX線の回折が起き，そのため斑点(ラウエの斑点)からなる回折図形のX線写真*がとれることを発見した。この実験は結晶の格子*(こうし)が三次元の回折格子とみなされ，X線が波であるとすればその波長は結晶の単位細胞の寸法と同程度と推定されたことによって行なわれた。回折が起きるための条件はブラッグ条件*と同等であり，この条件を満たすX線の波長が白色X線の連続スペクトル*に含まれている必要がある。結晶内には種々の方向の鏡(網平面)があり，これに光線をあてたときの反射光線がラウエの斑点をつくるとみなされる。ラウエの斑点は結晶構造の対称性や結晶試料の方位の決定に利用される。　〔飼沼芳朗〕



ラウエの斑点　リン酸二水素アンモニウム



ラウシェンバーグ《通路》1961



ラオコーン　ミケランジェロ《ラオコーン》バチカン美術館蔵

ラウシェンバーグ　［Robert Rauschenberg］（1925～　）アメリカの画家。初期の作品は，新聞紙などを材料に，コラージュに似た技法で制作していたが，のちに立体的なオブジェも使用したアッサンブラージュに転じた。1964年ベネチア-ビエンナーレで大賞を受賞。以来，ポップ-アートの先駆者として，現代芸術の可能性を探究する芸術家として，高い評価を受けている。

らうすだけ　【羅臼岳】　北海道知床半島*南部にある火山。標高1,661m。知床半島は大部分が第三紀層からなるが，その上に噴出したいくつかの火山が分水嶺(ぶんすいれい)をなし，羅臼岳はその最高峰である。山頂に近い羅臼平は高山植物のお花畑があり，南東麓(なんとうろく)には温泉数か所がある。なお，原生林におおわれる半島一帯は知床国立公園に指定されている。

ラウール　［François Marie Raoult］（1830～1901）フランスの物理化学者。1870年グルノーブル大学教授。電池の起電力を研究し，反応熱は化学的親和力を現わさないことを明らかにした。希薄溶液の氷点降下がその濃度に比例することを発見し，次いでその法則が電解質水溶液では成立しないことを示した。さらに希薄溶液では溶媒や溶質の種類に関係なく，蒸気圧・降下率は溶質のモル分率に等しいこと(ラウールの法則)を発見した。

ラエ　［Lae］　ニューギニア東部，テリトリー-オブ-ニューギニア(オーストラリア信託統治領)の統治の中心地。人口16,000(1967)。フオン湾に臨む良港をもち，また内陸高原への交通の門戸でもある。第2次世界大戦中，日本軍とアメリカ軍が激突したため，大きな戦禍を受けたが，その後復興した。1927年創建。鉱業・林業が盛ん。

ラエンネック　［René Théophile Hyacinthe Laënnec］（1781～1826）ラエネクとも読む。フランスの医学者。カンペールの生まれ。パリのシャリテー病院学校で医学を学び，1804年に卒業。1806年ボージョン病院の医師となり，診療のかたわら病理解剖学的研究を行なう。1819年，聴診器を考案し，心臓と肺の診断法について詳しく説明した《間接聴診法，肺臓と心臓の病気の診断法》(1819)を出版，物理的診断法に新生面を開いた。

ラオカイ　［Laokay］　インドシナ半島北東部，北ベトナム北部にある都市。ソンコイ川に臨み，中国の雲南省との国境付近に位置する。良質のリン鉱石を産する。鉄道がハイフォンからここを通り，雲南省の昆明(こんめい)に通じている。

ラオコーン　［Laokoon］　ギリシア神話でトロヤの予言者，またアポロンの神官。トロヤ戦争末期，ギリシア軍はオデュッセウスの計略で，戦士たちを中に隠した巨大な木馬を浜べに残し，撤退したように見せかけた。トロヤ人たちは戦利品として木馬を城内へ入れようとしたが，ラオコーンは策略を見抜き反対した。そのとき海から巨大な2匹のヘビが現われ，彼と2人のむすこを殺したという。彼ら父子の死は文学のみならず美術の主題としても好まれ，1世紀後半のロドス派のアゲサンドロス・アテノドロス・ポリュドロスの合作とされる群

像がバチカン美術館にある。〔左中庸博〕

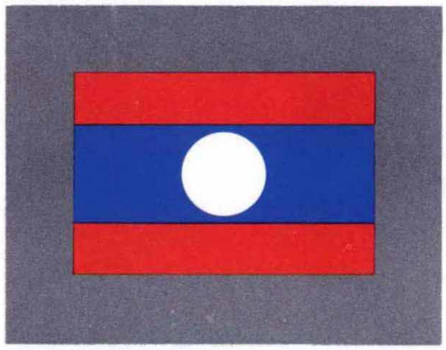
ラオス(人民民主共和国)［Lao Peoples Democratic Republic］ 東南アジア，インドシナ半島東部にある人民民主共和国。ベトナム・カンボジア・タイ・ビルマおよび中国(雲南省)と国境を接する内陸国。面積23万6,800km²，人口372万(1978年推)。首都ビエンチャン。

【自然・住民】北部は，高峻(こうしゅん)なインドシナ山脈が複雑な地形をなして高地ラオスを形成しており，最高峰は標高2,817 mのビア山。山は密林におおわれるが，ジャール平原などの盆地があり，その間を流れるいくつもの河川は西部を南流するメコン川に注いでいる。高地ラオスの山地は，北緯18°あたりから高度を減じてカンボジア国境方面に向かい，ボロベン高原を含む低地ラオスを形成する。この地域とタイとの国境はメコン川によって限られている。メコン川流域一帯は，山岳国ラオスにとって唯一の民族活動の舞台でもある。気候は，高温多湿であるが，高原では比較的しのぎやすく，乾・雨季の区分もはっきりしている。住民も地形状況を反映して複雑であり，約100万のラオ族をはじめとしてヤオ族・カー族など約30の少数民族に区分される。ラオ族はこの国の指導的民族で，タイ族の一派である。公用語はラオ語。宗教は小乗仏教が国教になっている。

【産業・経済】山がちな地形のため耕地は全土の約8％にすぎず，主要農産物である米の年産量も約60万t程度で，自給は不可能であり，主としてタイから輸入している。低地に住むラオ族は水田耕作を行なうが，山地の少数民族の中にはまだ焼き畑*を行なっているものも多い。米のほかにはトウモロコシ・茶・ワタ・タバコ・コーヒーなどを生産するが収量は低く，近年は日本をはじめ各国からの農業技術指導が行なわれている。地下資源には銅・鉄・マンガン・スズなどの埋蔵があるが未開発である。また国土の3分の2をおおう森林も有望な資源といえるが，交通の便が悪いため開発は進んでいない。畜産は比較的盛んで，スイギュウ・ウシ・ブタなどを飼育する。経済開発推進のためにはメコン川の水害防止，灌漑(かんがい)用水の設備が重要で，近年，国際連合の指導を受けて，流域に多目的ダムを建設する計画が進められている。貿易はふるわず，鉱産物・木材などを輸出しているが，輸入の10分の1以下という状態である。近年，生産増大を目的に農業の集団化に取り組んでいるが，効果があがっていない。

【歴史・政治】14世紀にラオ族はこの地域にラオサン国を建てたが，17世紀にはルアンプラバン・ビエンチャン・チャンサバックの3王国に分裂した。しかし，19世紀には3王国ともタイの勢力下に置かれ，さらに19世紀末には侵入してきたフランスの保護国となった。しかし，フランス領時代に





ラオスの国旗 1976年1月，新国名のカンボジア民主国と共に，新たに制定されたもの。赤は人民を，青は国土を表わしている



ラオス 首都ビエンチャンの中心街ランサン通り。正面にパリに模してつくられた凱旋門が見える。その向こうに国会議事堂がある

はほとんど経済的開発は行なわれなかった。第2次世界大戦直後，1945年10月には独立を宣言し，国王を追放したが，翌年には国王が復帰して統一立憲王国となり，ルアンプラバンが王都，ビエンチャンが首都となった。インドシナ半島に占めるこの国の戦略的な位置は重要で，そのため外国勢力が浸透し，国内は左派(パテト-ラオ)・右派・中立派の三つに分裂し，対立抗争がくり返された。1973年2月，ラオス和平協定が成立して停戦が実現，74年4月協定にもとづき臨時民族連合政府が樹立された。しかしラオス人民革命党の呼びかけで反右派・反米闘争が進み，ついに1975年12月，王制を廃止して人民民主共和国が成立した。1980年および82年には，メコン川沿岸でタイとの国境紛争が発生，一時国境が封鎖された。近年，ベトナム・ソ連との結びつきを強めている。〔別技篤彦〕

ラーガ ⇨インド音楽

ラガシュ ［Lagash］ チグリス河口にあった古代シュメール人の都市国家。1877年フランス人サルザクが発掘に着手し多数の資料・遺物が出土した。1938年までに初期王朝(BC2500ごろ～BC2300ごろ)時代の資料により，青銅器の使用はアッカド朝からと思われる。

らかんじ **【羅漢寺】** 大分県下毛郡本耶馬渓(ほんやばけい)町にある曹洞宗(そうとうしゅう)の寺。山号は耆闍崛山(ぎしゃくっせん)。1338年(延元3・暦応1)円龕(えんがん)昭覚がブッダ説法の地耆闍崛になぞらえようと山麓(さんろく)に十六羅漢の画像を安置して，智剛(ちごう)寺を創立したことに始まる。その後1359年(正平14・延文4)逆流建順とともに五百羅漢などの石像をつくり，無漏崛と称し，寺号を付した。足利義満(あしかがよしみつ)が深く帰依し，伽藍(がらん)を造営し，寺領を寄せたと伝わる。また，江戸期の諸大名も寺領・寺田を施入，あつく保護した。付近には禅海が開削した青ノ洞門*があり，風光明媚(めいび)なことで知られる。〔永井信一〕

らかんちゅう **【羅貫中】** (1330ごろ～1400ごろ) 中国，元末明(みん)初の人。羅本ともいう。山西の人。《三国志演義*》をはじめとして，《隋唐(ずいとう)両朝志伝》《残唐五代史演義》《平妖伝(へいようでん)》などの小説や，雑劇の《宋(そう)太祖龍虎(りょうこ)風雲会》の作品を残した。

らかんまき **【羅漢槇】** 裸子植物・マキ科。マキの変種で暖地のジャモン岩地に自生するが，庭木としてもよく栽培され，高さ18～20mにも達する。葉は互生し，長さ10～15cm，幅1～1.5cmの線形で，表面は暗緑色，裏面は青白色。マキの葉は下を向くが，本変種は上を向く。5月，葉腋(ようえき)に花をつけるが，雌花は1個ずつ，雄花は2～3個が穂状につく。果実は緑色の球状で10月ごろに熟し，その際花托(かたく)は赤色にふくらんで食べられる。

らくいち・らくざ **【楽市・楽座】** 戦国大名が，販売特権をもつ商人の市場独占権を打破し，閉鎖的な座*を解放させて自由に取引できる市場をつくったこと。中世を通じ座商人は朝廷・公家(くげ)・社寺などに貢納し，その保護を仰いで種々の特権を得ていたが，応仁(おうにん)の乱*以後新興商人の進出に脅かされて，ますます閉鎖的傾向を強めた。その結果，商工業の自由な発展が妨

げられたので，戦国大名の中には領国経済の発展，城下町の育成のため，座の特権を奪い，新興商人が自由に営業できるように楽市・楽座の政策をとるものが多くなった。1549年(天文18)近江(おうみ)(滋賀県)の六角氏が城下町石寺に楽市を，1576年(天正４)柴田(しばた)勝家が越前(えちぜん)(福井県)北庄(きたのしょう)に楽座を行なったのが文献上の初見である。のち織田信長(のぶなが)・豊臣秀吉(とよとみひでよし)はその統一事業を進めるにあたり，楽市・楽座令を各地に出して先進商工業地帯の諸座を解体し，中世的諸勢力に打撃を与えた。しかし楽市・楽座は商工業者を自由に放任したのではなく，彼らを近世封建領主の新しい統制下に置き，特権と保護とを与えることとなった。〔高崎徳次〕

らくがん【落雁】 干菓子の一種で打ち菓子。精白したもち米を蒸して干し，石うすでひき割って粉末状にしたものを種とする。これに砂糖と少量の水，粉を加えて混ぜ，文様のある木型に押し込んで取り出し，焙炉(ほいろ)に入れて乾燥させる。これが市販の落雁(固い落雁)で，このほか材料にうるち米・麦・クリ・ダイズ・アズキ・ソラマメを用いたものもある。名称は，中国菓子の軟落甘にちなむとも，また黒ごまを散らしたのが水墨画のガンの落ちる図に似ているからともいわれる。〔塩川ふみ〕

らくご【落語】 こっけいな話で聴衆を笑わせ，終わりに〈落ち〉をつける話芸。はじめ〈はなし〉といわれたが，天和(てんな)・貞享(じょうきょう)年間(1681～1687)以後は，上方を中心に〈軽口〉または〈軽口ばなし〉とよばれ，その後江戸小咄(こばなし)時代になると，〈落し咄〉というようになった。〈落語〉の字が使用されたのは天明年間(1781～1788)からだが，〈らくご〉とは言わず〈おとしばなし〉とよばれていた。〈らくご〉と音読みされたのは1887年(明治20)ごろからである。

〔歴史〕 落語家の源流は，室町末期の御伽衆(おとぎのしゅう)と考えるのが妥当のようである。御伽衆の笑話を編集した《戯言養気集》がそれを立証している。徳川氏が政権を握った元和・寛永年間(1615～1643)にはいると，京都在住の御伽衆による《きのふはけふの物語》が人気を得た。武将本位の《戯言養気集》と違い各階層を主人公にした幅広い題材と平和な時代にふさわしい明朗な笑いのためと思われる。これと並んで《醒睡笑(せいすいしょう)》も当時の御伽衆の姿を伝えていた。これは安楽庵(あんらくあん)策伝が，京都所司代板倉重宗(しげむね)の御前で話した咄を筆録したもので，〈咄〉の趣味の普及に役だった。1659年(万治２)，《百物語》《私可多咄》が刊行されるころは，しゃべり方のくふうもなされるようになり，〈しかた〉という立体的演出も行なわれるようになった。その後，〈はなし〉を架空の笑話と規定し，咄のおもしろさを終局において効果的に結ぶ〈落ち〉の技術もみがかれた。このように落語が進



ラグーザ《娘の胸像》1880 東京芸術大学蔵

歩したのは，延宝・天和年間(1673～1683)ごろから京都で辻咄を始めた露の五郎兵衛(つゆのごろべえ)や江戸の鹿野武左衛門(しかのぶざえもん)，貞享年間(1684～1687)ごろから大阪で辻咄を始めた米沢彦八(よねざわひこはち)などといった職業的落語家の功績であった。

18世紀末ごろから江戸では，洒落本(しゃれぼん)・黄表紙・川柳・狂歌などの笑いの文学が栄え，落語では江戸の狂歌師烏亭焉馬(うていえんば)が中心になって自作自演の小咄の会が生まれ，これがきっかけとなって江戸市民社会に〈咄〉の趣味が流行した。1798年(寛政10)には，辻咄の伝統の栄えた大阪で初世桂(かつら)文治が寄席(よせ)をひらき，江戸でも大阪下りの落語家岡本万作，初世三笑亭(さんしょうてい)可楽があいついで寄席をひらいた。夕方から約３時間の上演で客の注文に応じ小咄は長咄となり，興行形態も確立し，鳴り物入り芝居噺(しばいばなし)の祖三遊亭円生，人情噺の祖朝寝坊むらく，怪談噺の祖林屋正蔵，音曲(おんきょく)噺の祖船遊亭扇橋などが江戸で活躍した。一方，上方では，江戸に呼応して台頭した桂派に続いて，文政年間(1818～1829)の末ごろ初世笑福亭吾竹(ごちく)一派が登場し，幕末には林屋正翁一門が中心となった。江戸末期から明治20年代にかけての江戸には江戸落語を集大成し，近代落語の基礎をつくった三遊亭円朝が出た。円朝と同時代には人情噺の名人柳亭燕枝(えんし)，花柳物の名手４世桂文楽，人情噺の名手春錦亭柳桜(しゅんきんていりゅうおう)，滑稽噺(こっけいばなし)の名手禽語楼(きんごろう)・小さんなどがいたが，異彩を放ったのは〈すててこ踊り〉の三遊亭円遊だった。彼は人情噺中心の東京落語界にナンセンスによる笑いを提供したが，それは新時代の観客の要求でもあった。上方では，幕末，上方落語界の中心だった林屋派に対して桂派が台頭し，また文枝襲名の争いから文都中心の浪花(なにわ)三友派と２世文枝中心の桂派が対立し，黄金時代を迎えた。

1900年(明治33)に円朝を失った東京落語界は大阪の隆盛に対抗するため，1905年いっそうの芸道精進の必要から第一次落語研究会を結成した。その結果，三遊亭円喬(えんきょう)，３世柳家小さんなどの名人を輩出した。明治から大正にはいると，映画・オペラなどにおされて落語は不振となったが，その中で狂馬楽，盲小せんなど反時代的芸人，英語交じりの時代迎合型の柳家三語楼などが特色を発揮した。

大正から昭和にかけての上方落語は衰退の一途をたどった。それは上方弁が方言化して咄の鑑賞を妨げ，わかりやすい上方弁の漫才に追い抜かれたためだった。当時，上方では桂派の枝雀(しじゃく)・枝太郎・２世三木助・春団治などが活躍し，現在では，枝鶴(しかく)・米朝などが努力している。

昭和初期の東京落語界には，兵隊物を手はじめに多くの新作物で売り出した金語楼，精細な演出の５世円生，渋い６世可楽，枯淡な味の４世小さん，重厚な８世文治らがいたが，全盛期は，戦後の民間放送発足以後で，現在は，落語協会・芸術協会の２団体に分かれ，三遊亭円生・春風亭柳橋のほか，８世正蔵，５世小さん，５世古今亭今輔(いますけ)，４世円遊などが中心になっている。〔興津 要〕

らくさ【落差】 水流の二つの地点における水位の差。水力発電などでは，落差に応じた水のエネルギーを電気エネルギーに変えて取り出す。取水河川から放水河川への高低差を総落差という。また水路の傾斜，摩擦などによって生じる利用できない落差を損失落差，両者の差を有効落差という。

ラグーザ［Vincenzo Ragusa］(1841～1927) イタリアの彫刻家。イタリア政府の日本派遣彫刻教師選抜競技会で首席となり，工部美術学校教授として1876年(明治９)に来日した。以後５年間にわたって本格的洋風彫刻術をもたらし，大熊(おおくま)氏広らの門下を出した。1882年帰国し，のちパレルモの美術工芸学校で彫刻を指導した。

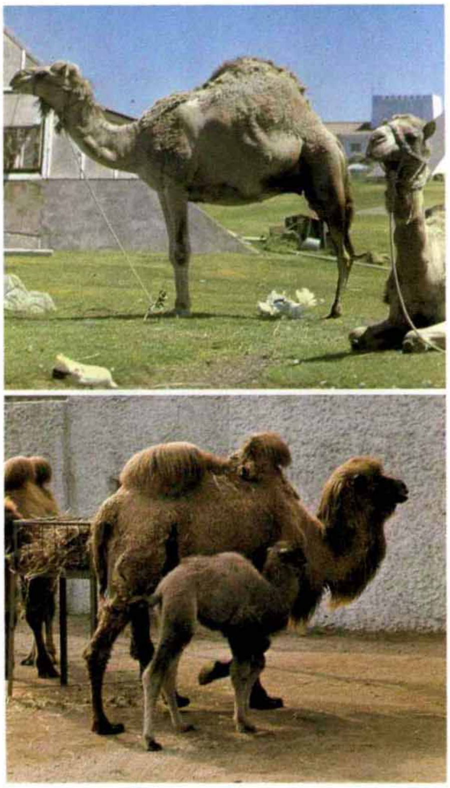
らくさん【酪酸】 低級脂肪酸の一。n-酪酸$CH_3(CH_2)_2COOH$とイソ酪酸$(CH_3)_2CHCOOH$の２種の異性体が知られるが，単に酪酸といえば前者をさす。n-酪酸は腐敗臭のある液体で，融点－5.7℃，沸点163.5℃。グリセリンエステルとしてバター中に４～５％含まれ，その他ウシやヤギなどの乳脂中にも少量含まれる。酪酸菌による炭水化物や乳酸の発酵によって得られるが，化学的に合成することもできる。そのエステル類は香料として用いられる。イソ酪酸は遊離またはエステルとして植物中に含まれるが，発酵によっては生成しない。〔石戸良治・荒木洋之助〕

らくさんはっこう【酪酸発酵】 炭水化物を含むものに微生物が増殖して酪酸を生ずる現象。各種微生物が酪酸を生成するが，その生成経路の詳細は不明である。ただし

脂肪酸合成系が関与し，また酢酸・水素などの副産物から推してヒドロゲナーゼ作用も関係していると考えられている。最も代表的な菌はクロストリジウム*属で，これは桿状(かんじょう)でべん毛を多数備え，運動性があり，耐久性の芽胞を形成する。ふつう，土壌(どじょう)，トウモロコシなどの穀類に存在し，無酸素状態でのみ増殖可能なグループ(偏性嫌気(けんき)性)と，酸素の存在下でも増殖可能なグループ(通性嫌気性)がある。培養液は水素ガス発生によって発泡(はっぽう)し，特有の悪臭を発する。炭水化物から主として酪酸・酢酸などをつくるもの，これらの還元物であるブタノール・エタノールをもつくるもの，後者のほうが多いものなどさまざまである。酪酸自体はほとんど工業的製造の対象とならないが，ブタノール・アセトンなどを高収率につくるものは，第2次世界大戦までは大規模な工業的生産に用いられた。また，この属の細菌には，人間の深傷内で増殖しガス壊疽(えそ)の原因となるものもある。〔白土志郎〕

らくだ【駱駝】哺乳(ほにゅう)類・偶蹄(ぐうてい)目・ラクダ科。肩の高さ1.6m以上に達し，耳介は小さく，尾はやや長く先に毛のふさがある。足の底は幅広く，2本の指はほぼつながって，砂地での生活に適する。背には1～2個の大きなこぶがあり，体の脂肪がここに集められている。脂肪のない部分は熱くなった体を冷やしやすい。汗をほとんどかかないため水分を失うことが少なく，水を飲まずに砂漠(さばく)を旅することができる。このほか赤血球・まつ毛・鼻孔なども砂漠生活に非常に適したしくみになっている。ヒトコブラクダ・フタコブラクダの2種があり，前者は野生種は知られず，家畜として古くからインド・北アフリカ・ヨーロッパ南部で飼われている。後者は野生種が知られ，ゴビ砂漠に少数が生存する。家畜のものはイランから中央アジア・中国北部でみられる。〔今泉吉典〕

らくたい【落体】重力の作用を受けて空間を自由に落下する物体。落体の運動は，空気の抵抗とコリオリの力*を無視すれば鉛直下向きの等加速度運動で，放物体の運動の特別な場合である。落体の加速度は場所によって多少の差はあるが，物体の質量によらず，およそ9.8m/秒^{2}の一定値をもつ。これを重力加速度とよび，gで表わす。静止状態から落下を開始した物体の速さvは経過時間tに比例し$v=gt$，落下距離sはtの2乗に比例し$s=1/2\times gt^2$となる。落体の運動に関する研究は古くから行なわれている。アリストテレスは，物体にはすべて存在すべき場所が定まっており，ほかの場所にある物体はそこへ移動しようとする性質があり，落下運動もそのために起こると考えた。これに対しガリレイは，自由落下する物体は等加速度運動をすることを実験的に確かめた。



ラクダ (上)ヒトコブラクダ (下)フタコブラクダ

落体に対する空気の抵抗を無視できない場合も少なくない。空気抵抗は，主としてその粘性によるため，物体の速さに比例して増大し，これが重力と等しくなれば落下速度は一定となる。このときの速度を終端速度という。雨滴が地上に落下するときはほぼ終端速度に達している。〔有山正孝〕

ラグタイム [ragtime] ジャズの前身の一つとされるピアノ音楽で，リズムが今日のジャズのようにシンコペイテッド(切分音化)されている。ラグとは〈ずれた〉とか〈はずれた〉という意味で，ヨーロッパの音楽に比べてアクセントがずれているので，この名がある。19世紀末から20世紀初頭にかけて世界的に流行したが，今日のジャズのようにアドリブ(→即興演奏)は許されず，譜面どおりにひくのがならわしであった。ラグタイムの名手にスコット-ジョプリン・ジェームズ-スコットらがおり，ジェリー-ロール-モートンはラグをアドリブ化した。《タイガー-ラグ》《ザ-キャスケード》などが代表的なラグ曲である。〔岩浪洋三〕

ラクターゼ [lactase] 乳糖をブドウ糖とガラクトースに加水分解する酵素。ヒトの母乳には乳糖が多く，乳幼児の腸液中にはこの酵素が多く存在する。ガラクトースはブドウ糖よりも腸からの吸収が速く，乳幼児の栄養上からも合理的である。

らくだむし【駱駝虫】こん虫類・脈翅(みゃくし)目・ラクダムシ科。体長は，雄7～8mm，雌10～20mm，翅(はね)を広げた長さ雄15mm内外，雌20mm内外。特異な形態のこん虫で，体は細長く，黒色。頭部はやや角張った卵形で扁平(へんぺい)，単眼はなく，複眼はやや突出する。前胸は細長く，脚は黄かっ色。翅は透明で翅脈は黒色で，暗かっ色ないし黒かっ色の縁紋がある。腹部の両側と腹面各節の後縁は細く黄色。雌は腹帯に長い暗かっ色の産卵管をもつ。日本全国のほか，サハリン(樺太(からふと))・朝鮮・シベリアを経てヨーロッパまで広く分布する。成虫は4～7月に出現し，林間の葉上や樹幹に見られ，燈火にも集まる。幼虫は，はがれかかったような樹皮下に生活し，他の小さな軟体のこん虫類を捕食する。

ラクダムシ科は，近縁のキスジラクダムシ科とともに独立の目として扱われることもあり，ウスバカゲロウなど他の脈翅目のこん虫とはかなり種々の点で異なる特徴をもつ原始的な群である。キスジラクダムシ科は，単眼をもつ点でラクダムシ科と区別され，日本にはキスジラクダムシが本州に分布している。ラクダムシ類は，小さな群で，全世界から約60種類が知られているにすぎず，大部分の種は北半球の北部に分布する。この類はこん虫類中でも古い群と考えられ，トルコのジュラ紀(約1億7,000万年前)の地層からこの類の祖先型の化石が発見されている。〔鈴木邦雄〕

らくちゅうらくがいず【洛中洛外図】京都市中・郊外の景観を一望のもとに写した風俗画で，近世初期風俗画の主要な画題の一。多くは屛風(びょうぶ)一双に描かれ，その成立は室町末期にさかのぼる。宮殿・城郭・有名寺社などの建造物や名所旧跡を整然と描き，その間に各種階層の風俗がいきいきと描写されていて，風俗史上の画証史料としても貴重である。金箔地(きんぱくじ)の上に濃彩細密技法で描かれ，江戸初期まで盛行した。代表作に，文化庁本(旧町田本)・狩野(かのう)永徳筆上杉(うえすぎ)本・東京国立博物館本(旧舟木本)などがある。〔小林 忠〕

らくてんしゅぎ【楽天主義】オプティミズムの訳。〈最善〉を意味するラテン語オプティムムに由来し，厭世(えんせい)主義*に対する。一般には，この世のあらゆるできごとにあるよい結末を期待・確信する人生観で，その根拠としては現前する世界はあらゆる可能な世界のうちで最もよいものであるとみる立場である。いわゆる進歩の思想，すなわち歴史的できごとは善でまた理性的・道徳的な理想的状態がいつかは現実化する過程であるとする考え方に基づく態度でもある。それぞれ相違はあるが，プラトン・アリストテレス・プロチノス，スコラ派の哲学，ニコラウス-クサヌスらの世界像が楽天的な世界観とみなされる。西洋の楽天主義の理論的根拠はライプニッツの《弁神論》，すなわち〈世界は悪くありようがない。なぜなら神のつくりたもうたものであるから〉という考えに端的に表わされている。〔豊福英利〕



洛中洛外図（部分） 中ノ町あたりの景　東京国立博物館蔵

らくとうこう【洛東江】 ナクトン川　朝鮮半島南部を流れる川。全長525km。太白山脈に源を発し，小白山脈との間，朝鮮半島東南部のほとんど全域を流域とする。流域面積23,860km²。中流以下は丘陵地帯をゆるやかに流れ，沿岸に安東・大邱(たいきゅう)・倭館(わかん)・三浪津(さんろうしん)などの都市があり，釜山(ふざん)近くで朝鮮海峡に注ぐ。河口から344km上流付近まで舟運の便がある。

ラクトース ⇨乳糖

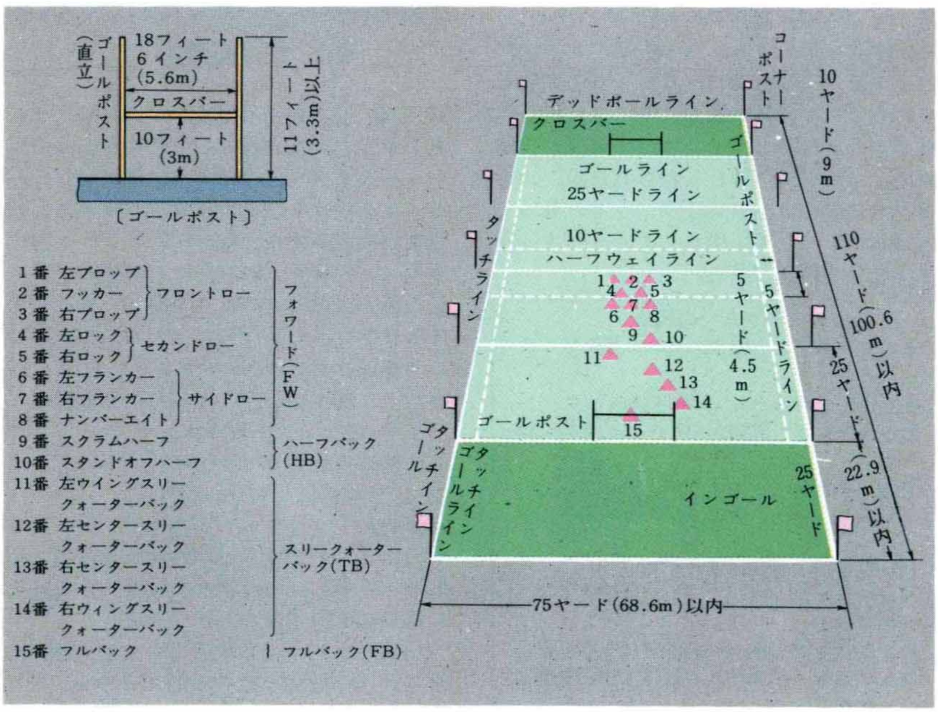
らくのう【酪農】 乳牛を飼い，乳製品を生産する農業経営。酪農の起源は畜産物を日常の食品としていたヨーロッパにおいては古く13～14世紀オランダを中心に発達したが，本格的酪農は，17～18世紀の農業革命以後である。わが国でも古く乳牛飼育は行なわれたが，これらはやがて消滅し，近代的な酪農は明治以降始められた。明治初期には，欧米式の大規模牧場経営が奨励されたが，乳製品に対する嗜好(しこう)の未発達や飼育管理の不慣れなどから北海道を除いてはほとんど失敗に終わった。明治中期以降，都市近郊の搾乳業者によって，ホルスタイン種の飼育が盛んとなり，またこれらの搾乳業者が乾乳期の乳牛を子牛の育成と兼ねて野菜の豊富な千葉県安房(あわ)郡や淡路島などの大都市近郊の農村に委託したため，しだいにこれらの地方でも農家による搾乳が始められた。ホルスタイン種は乳脂率は低いが乳量が多くて飲用乳生産に適するため，今日までわが国の乳牛のほとんどはこの品種である。酪農は，第2次世界大戦前までは，普及したとはいえ最高でも17万頭にすぎず，真に普及したのは戦後である。すなわち濃厚飼料の不足によるブタ・ニワトリ飼育の衰退，生糸生産の後退による桑跡地の利用や馬産地帯の転換から，それまで飼育されなかった地方にも浸透し，また一方では，牛乳飲用の増加から，四大工業地帯を含む9都府県での大規模経営も盛んとなった。酪農は牛乳の生産により行なわれるが，乳の分泌は子牛の分娩(ぶんべん)に伴う生理現象であり，酪農経営では，繁殖障害を起こさないことがまず経営上の要点となる。また，乳牛は繁殖可能になるまでに1年半もかかり，それまでの育成にも多くの費用がかかるので，耐用年数が短い場合は牛乳生産費が高くなる。このため耐用年数を長くし，繁殖障害を起こさないように，また，飼料費を安くするためにも，良質の飼料作物を生産することが経営上重要となる。わが国では耕地の国土に対する割合はけっして少ないとはいえないが，採草地・放牧地を含めた農用地の割合は世界的にきわめて小さく，草地の造成が現在急速に進められている。なお，乳牛は乳量増大を目的として育種されてきたため，ほかの家畜に比し難産しやすく，平常から運動などに対する注意が必要である。　〔森田琢磨〕

らくばん【落盤】 鉱山や建設工事などで地下につくられた空間で，天井の岩盤がこわれて落下すること。鉱山の労働災害のうち最も多いのが，落盤による事故である。しかし，あらかじめ危険な割れ目のはいった石を除去したり，注意深く支保*を施工しておけば，ほぼ確実に防ぐことができるので，落盤事故は年々減少しつつある。

ラグビー［rugby］ 15人からなる2チームの間で，1個の楕円(だえん)形のボールを相手陣地に送り込んで得点を争う競技。正式にはラグビー-フットボールとよぶ。

〔沿革〕1823年ラグビー校でのボールゲームで，エリスという少年がルールを無視しボールを手に相手ゴールめざして走り出した。その強い印象が契機となって，後年ラグビーが生まれたといわれる。しかし，実際にボールを手に走ることが許される競技が普及したのは1839年で，1841年にはケンブリッジ大学に最初のラグビークラブが結成された。その後，1871年イングランドラグビー(協会)が設立され，エリス少年以来ラグビーを推進したラグビー校にちなんだ競技名でよばれることになった。1877年ルール改正が行なわれ，それまでの1チーム20人編成が15人に減らされ，近代ラグビーが確立された。1886年イギリス内の4協会がインターナショナル-ラグビー-フットボール-ボードを結成，ルールの確立・統一と紛争解決にあたることになり，のちにはオーストラリア・ニュージーランド・南アフリカが加わって現在に至っている。

日本にラグビーが伝えられたのは1899年



ラグビー

(明治32)で，イギリスから招かれたクラークと田中銀之助によって慶応義塾(ぎじゅく)大学で始められた。最初のゲームは1900年の対横浜外人クラブであった。その後，同志社大学・早稲田(わせだ)大学・東京帝国大学・京都帝国大学・明治大学と実施校が広がり，大正末期の関東・関西両ラグビー-フットボール協会の設立に次いで，1928年(昭和3)日本ラグビー-フットボール協会が誕生，現在加盟チームは2,000をこえている。

【競技の方法】競技場は別図参照。

〈競技の概要〉双方15人以内の編成で，試合時間は80分以内で前・後半に分かれ，その間5分以内のハーフタイムがある。チーム編成は自由だが，通常前線でボールを争奪し合うFW(フォワード)8人，FWがスクラム・ラック・モール・ラインアウトなどで出したボールを後陣にパス・キック攻撃をかけるHB(ハーフバック)2人，攻撃の中心として相手ゴールラインに走るTB(スリークォーターバック)4人，最後の守りを固めるFB(フルバック)1人の布陣が常識的である。ゲームはトスによって決められた攻撃側のキックオフで開始され，ボールを手にした競技者はみずから走り，あるいはあとにいる競技者にパス・キックによって前進をはかり，相手のインゴールにボールを持ち込んでおさえることによって得点が与えられる。その得点をトライ(3点)といい，その場合プレースキックによるゴールの権利を与えられ，プレースキックがクロスバーをこえれば得点は2点追加される。そのほか，自由な地点からゴールをねらってキックするDG(ドロップゴール)は3点，相手の反則によるPG(ペナルティゴール)は3点の得点となる。防御側はボールを持っている相手競技者のみにタックルしてその前進を阻止する。タッチラインに出たボールは，出した側の反対チームの競技者が，5ヤード内側に並んだラインに投げ入れてゲーム再開となる。また防御側が攻撃側によって自陣にけり入れられたボールをおさえた場合は，ドロップアウトとなって，自陣25ヤードライン内からドロップキックを行なって再開される。

ラグビーの用語

インターセプト　相手のパスを横どりすること。
オブストラクション　妨害行為。
カットアウト　外側をついて相手を抜く技術。
ショートパント　小さく短いキック。
ドリブル　ボールをけりながら前に運ぶこと。
ノーサイド　試合終了のこと。
バックライン　バックメンが構成する攻防布陣線。
ハンドリング　ボールの手さばきのこと。
フェイント　ごまかしの動作で相手を惑わす技術。
ブレーク　FWがスクラムを解くこと。





ラグビー　(上)スクラム　(下)ラインアウト



楽　焼《里楽瓢形茶入》

〈反則〉①次のような重い反則にはペナルティキックが課される。㋑スクラム内のボールを手で扱う，㋺密集内に倒れ込む，㋩ボールを持たない選手をタックルする，㊁危険な競技をする，㋭HBがスクラム内の中央にボールを入れないなどである。②下記の軽い反則はスクラムを課し，相手側のHBの手でボールが投げ入れられる。㋑ボールを前に落とす(ノックオン)，㋺ボールを持った選手が自分より前にいる競技者にパスする(フォワードパス)，㋩ラインアウトの投げ入れがラインの中央からはずれる(ナットストレート)などである。

〈審判〉レフェリー1人，タッチジャッジ2人によって構成され，競技中に悪質の反則をくり返したり乱暴な行為をした競技者には退場を命ずることができる。

〈用具〉ボールは4枚張りの皮製で楕円形，長さ26.6～28cm，縦の周囲76～79cm，重さ13.5～15オンス。〔池口康雄〕

らくひんおう【駱賓王】(?～684ごろ)中国，唐代初期の詩人。王勃*(おうぼつ)・楊炯(ようけい)(650～?)・盧照鄰(ろしょうりん)(650?～690?)とともに初唐の四傑といわれる。盧照鄰と同じく歌行体にすぐれ，その《帝京篇(へん)》は都長安の文物の繁華をうたった傑作である。則天武后に対する徐敬業の反乱に参加したが，失敗して失踪(しっそう)した。

らくやき【楽焼】京都楽窯(らくがま)の手揑(てづく)ねの低火度陶器。茶器として名高く，製品も茶碗(ちゃわん)を主として赤・黒の2種がある。その創始は安土桃山時代といわれ，帰化人の飴也(あめや)が製陶に従事し，千利休の指導を受けたといわれる子の初代長次郎が業を継いだ。楽の名は2代常慶が豊臣秀吉(とよとみひでよし)から受け，〈のんこう〉の異名ある3代道入のころから使用されるようになった。楽窯では，長次郎を祖とする代々を本窯とよび，他は脇窯(わきがま)と称されている。なお，一般に楽焼と称されるものは，成形・焼成に大がかりな道具を要しないために，現在手工芸として広く行なわれ，茶碗・菓子皿(かしざら)などがつくられている。

らくよう【落葉】高等植物の葉が枯れ落ちる現象。木本では落葉期になると葉の養分が幹のほうへ転流し，葉緑素が分解してカロチノイドやアントシアンが顕著となって黄葉または紅葉となり，葉身または葉柄の基部に離層が生じ，そこから葉が折れて落ちる。タバコ・ヒマワリなどの草本では茎の生長にしたがって基部の古い葉から順に枯れて落ちる。一般に落葉には，寒さに対する環境への適応という現象のほかに，葉にたまった不用物の排出という生理的な意味ももっている。

らくよう【洛陽】ローヤン　中国河南省の省轄市で，長安とともにしばしば国都となったことで有名。人口約42万。最初に国都となったのは周の成王のときで，その位置は洛陽西郊，邙山(ぼうざん)と洛河の中間で，澗水(かんすい)の東寄りの場所と推定される。その後，BC720年，鎬京(こうけい)から平王が遷都して以来，12代の間王城の地となった。BC519年，敬王の時代に瀍水(てんすい)の東の下都に移り，赧王(だんおう)の時代，一時王城に復帰したこともあったが，周末まで周の国都は下都にあった。下都は王城の東20kmの位置にあり，成王が殷(いん)の遺民を住まわせた成周にあたるという。前漢時代王城は河南県となり，下都は雒陽(らくよう)県となっていた。後漢になって，雒陽を洛陽と改めて国都としたとき(AD25)，南北9華里(1華里は約500m)，東西6華里の都市の規模であったので，九六城とよばれた。三国時代になると魏(ぎ)・西晋(せいしん)がともに国都としたが，4世紀初め，五胡(ごこ)の乱が始まるとともに衰微に向かい，やがて北魏が華北を平定するとともに孝文帝は493年，大同から遷都した。そして九六城を中心に市域の拡大を図り，東西20華里，南北10華里の広大な都城をつくりあげ，戸数11万，

仏寺1,367にのぼる大首都であったという。隋(ずい)が南北を統一すると北魏洛陽城と同規模の新城を西方15kmに築いて東都と名づけた。すなわち，現在の洛陽の前身にあたり，以後，唐もこれを踏襲して東都河南府と称し，政治都市長安に対して，大運河によって江南の物資が盛んに運び込まれてくる経済都市として活況を呈した。しかし，安禄山(あんろくざん)の乱後は急速に衰微し，そののち五代のとき国都とはなったものの以前に比べると都市の規模は小さくなった。北宋(ほくそう)では西京とよばれる準国都とされたが，以後1933年に国民政府が一時南京(ナンキン)から遷都したのを除いては，ついに地方都市として終始した。付近は白馬寺・天津橋(てんしんばし)など古跡が多く，南方20kmにある龍門石窟*(りゅうもんせっくつ)は美術史上有名である。

新中国になって，華北平原の大工業都市として発展しつつあり，トラクター製造工場・鉱山機械工場・軸受け工場・紡織工場などの巨大工場が建設されて操業している。付近一帯は有名な綿花地帯で，さらに石炭・金属資源・建築材料にも富み，そのうえ，新しく開発された三門峡*の豊富な電力によって工業を発展させる条件を備えている。また，軍事的にも重要で，ミサイル基地や航空基地があるといわれる。〔船越昭生〕

らくようがらんき【洛陽伽藍記】 中国，北魏(ほくぎ)の楊衒之(ようげんし)の著。5巻。洛陽は北魏の都として栄え，仏寺も一時は1,000寺をこえたが，北魏末の永熙(えいき)の兵乱によってその多くは焼失した。本書は，この荒廃した都を見て感慨を催した楊衒之が，追憶によってつづった都城と寺院の記録である。旧聞・古跡を叙述する文章が美しく格調高いので知られるが，北朝における仏教信仰とその思想，宋雲(そううん)・恵生(えしょう)らの西域旅行をはじめ，当時の政界の事情を知る上で史料的価値が高い。〔勝村哲也〕

らくようじゅ【落葉樹】 常緑樹の対語で，1年のうちの一定期間にすべての葉を失う樹木の総称。常緑樹が毎年全葉量のうち数分の一の新葉を形成するだけであるのに対し，落葉樹は毎年全部の葉を新たに形成することになる。落葉は凍結・過蒸散を防ぐ耐寒・耐乾の適応現象である。わが国の落葉樹種は冬の寒さに耐えるために落葉するので夏緑林といわれるのに対し，ベトナム・タイなどの乾雨季をもつ地域では乾季に備えて落葉するため雨緑林とよばれる。わが国では冷温帯(温帯)地域にブナを主とする落葉広葉樹林帯を，その南の暖温帯(暖帯)との漸移帯にクリ・ミズナラを主とする落葉広葉樹林帯を有している。また二次林としてカラマツの落葉針葉樹林が見られる。〔船越真樹〕

らくらい【落雷】 雷雲の底部にある電気と，地面に誘導されている電気とを電極として起こる電光。雷雲の底と地上との間に，約10億Vぐらいの電位差を生じると，最初に雲から地上へ，ある場合には，地上から雲へ放電が起こる。雷による被害は，落雷による生物の殺傷，建造物の破壊や火災，および電気関係の損害である。雷害を避けるには高い建物や家には避雷針*をつけ，電気機械には避雷器を設備する。

ラグランジェ［Joseph Louis Lagrange］(1736～1813) フランスの数学者。イタリアのトリノの生まれ。17歳で同地の陸軍学校教官となった。1766年フリードリヒ2世(大王)に招かれ，オイラーの後任としてベルリン学士院数学部長。1787年大王の死後パリへ移り，1789年の革命後，革命政府の下で度量衡改正委員長をつとめた。1795年新設のエコール-ノルマル教授，1797年エコール-ポリテクニク初代学長を歴任。研究の初期には等周問題をきっかけに変分法の基礎を確立，また一般座標を導入して解析力学を創設し，ラグランジェの運動方程式を導き出した。その著《解析力学》(1787)は力学史に新段階を開いたものとして知られる。このほか，平方剰余，代数方程式の解法，微分方程式など数学の各分野に貢献した。また天文学における三体問題の研究も有名である。〔下平和夫〕

ラクロ［Pierre Choderlos de Laclos］(1741～1803) フランスの小説家。砲兵将校として長年軍隊生活を過ごし，その間，詩や婦人論などを書いた。その文名を不朽たらしめたのは軍務の余暇に書いた書簡体小説《危険な関係*》で，複雑な恋愛関係の心理描写，フランス革命前夜の上流階級の生態の記録として名高い。

らくろうぶんか【楽浪文化】 中国，前漢の武帝はBC108年に朝鮮に4郡を設置して植民地政策を行なったが，特に現在の平壌(へいじょう)付近に置かれた楽浪郡を中心にすぐれた漢文化が移植され，周囲の土着民族に大きな影響を及ぼした。当時の漢人楽浪文化は，その土城跡の建築遺構や漢人墳墓の発掘(王光墓・彩篋塚(さいきょうづか)など)によって明らかにされるが，郡治下の県名を印した多数の封泥(ふうでい)が発見されたことも注目される。楽浪郡は313年に新興の高句麗(こうくり)によって滅ぼされた。〔小谷仲男〕

ラーゲルクビスト［Pär Lagerkvist］(1891～1974) スウェーデンの小説家・劇作家。ストリンドベルイ*に続く表現派的手法の名手として小説《侏儒(こびと)》で直截(ちょくせつ)な文体を確立し，1951年に《バラバ》でノーベル文学賞を受賞して世界的名声を得た。主題は終始〈悪〉に対する探究で，初期には悪を外在するものと考えたが，第2次世界大戦勃発(ぼっぱつ)に至る全体主義的政治体制が濃厚になるにつれ，人間に内在する悪に気づき懊悩(おうのう)した。やがて悪を制御し，乗り越えるものとしての人間の力を信ずるに至る。戯曲ではイプセン*的な平面的舞台の手法を排撃し，ストリンドベルイの立体的象徴手法を提唱，《哲学者の岩》《工場の真夏の夢》《人間に生を》など数多くの近代戯曲への実験を試みた。〔鈴木徹郎〕

ラーゲルレーブ［Selma Lagerlöf］(1858～1940) スウェーデンの女流小説家。風光明媚(めいび)なベルムランド地方の名家に生まれ，教師をしながら書いた叙事詩的小説《イェスタ-ベルリング物語》(1891)で世に出た。郷土の自然と人々を，深い愛情をもって素朴(そぼく)に描いた作品が多く，また民話・神話的世界を豊かな空想力を駆使して表現した。《地主の家の物語》《エルサレム》などのほか，童話《ニルスのふしぎな旅》は世界的に有名。1909年女性で初のノーベル文学賞を受賞，5年後にはスウェーデン-アカデミーの会員となるなど生前に多くの栄誉を受けたが，その作品は近代文学史の流れとは隔絶した孤高の世界を構築している。〔鈴木徹郎〕

ラゴス［Lagos］ ナイジェリアの首都で，ギニア湾に臨む港市。人口90万1,000(1969)。市名はポルトガル人の命名によるもので，〈湖沼〉の意。古くは奴隷貿易の中心であったが，現在は近代的な港湾施設をもち，カカオ・やし油・綿・木材・天然ゴムなどの農林産物やスズ・石油などの鉱産物を積み出し，同国の貿易額の約70%を扱っている。また内陸の中心都市カーノまで通ずる鉄道の起点でもある。1962年創立の大学がある。〔小栗　宏〕

ラコルーニア［La Coruña］ スペイン北西端，大西洋岸の港市。人口19万5,000(1968)。西ヨーロッパと南アメリカとを結ぶ航路の寄港地で，イワシ・タラ漁業の基地でもある。フェニキアの植民地として興り，小半島突端にはその遺跡エルクレスの塔があり，市内には11～12世紀建造の寺院が残っている。旧市街は城壁で囲まれている。1月の平均気温10℃，8月のそれは19℃で，年じゅう温暖で過ごしやすい気候に恵まれている。1588年スペイン無敵艦隊の出航地として知られる。〔梶川勇作〕

ラサ【拉薩】 中国西部，チベット自治区の主都。人口約40万。ツァンポ(ブラマプトラ)川の支流ラサ川に臨み，標高約3,600mの高原に位置する。肥沃(ひよく)な河谷の中央にあり，自治区の政治・経済・文化の中心都市をなしている。インドとの交通が容易であるが，青海～ラサの青蔵公路，四川～ラサの康蔵公路によって，青海・四川省方面に通じている。1965年ダライ-ラマがインドに亡命するまではラマ教の中心地であった。歴代ダライ-ラマの居城であったポタラ宮は，17世紀に建造されたもので，120mの丘の上にあり，現在も残されている。近年，市内外で近代工業が行なわれている。〔船越昭生〕

ラサじょうやく【ラサ条約】 英蔵条約

ともいう。1903年イギリスのインド総督カーゾンの派遣したヤングハズバンド大佐とチベットのラサのガンデン寺の管長，諸大臣との間に結ばれた条約。この条約によって，チベットの内政，領土の処分，外国への権益供与などについてイギリス政府の同意を必要とすることが規定された。

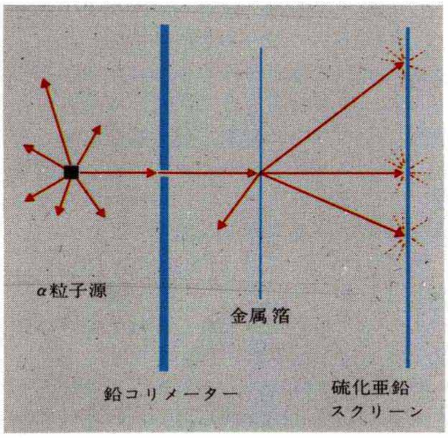
ラサとう　**【**ラサ島**】**　⇨大東諸島

ラザフォード　［Ernest Rutherford］(1871～1937)　イギリスの実験物理学者。ニュージーランドのネルソンの生まれ。ニュージーランド・ケンブリッジ大学に学ぶ。1895年キャベンディッシュ研究所でJ.J.トムソンの指導を受け，放射線物理学の道に進む。モントリオールのマクギル大学を経て，1906年マンチェスター大学教授。その後，1909年トムソンのあとをうけてキャベンディッシュ研究所所長，次いで王立研究所物理学教授を兼任。マクギル大学在任中，ソディ(1877～1956)と共同して誘導放射能を調べ，1902年トリウムに始まる崩壊系列を確立，続いて，1903年物質の〈放射性変換説〉を提出した。マンチェスター大学ではH.ガイガー*と共同してα線の研究にはいり，比電荷の測定，計数管の開発などを経て，α線の本体がヘリウム原子核であることを明らかにした。1911年さらにα線の散乱実験から大角度の散乱を確認，原子核の存在を結論し，これはラザフォード-ボーアの原子模型として実った。その後窒素原子核の人工破壊にも成功，新しい物理観への道をひらいた。1908年ノーベル化学賞を受賞。〔藤村　淳〕

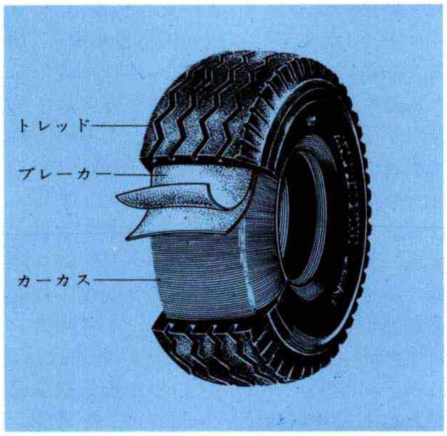
ラザフォードのじっけん　**【**ラザフォードの実験**】**

①ラザフォード*・ガイガー*・マースデンらが1910年ごろ行なったα線の散乱実験。実験の結果，原子は中心に小さい原子核があり，そのまわりを電子が回っているというラザフォード模型の正しいことが明らかにされた。α線を金属箔(はく)にあててその散乱を調べると，原子のトムソン模型をもとに計算したものよりも，大きな角度で散乱されるα線がはるかに多いことが，ガイガーの実験で確かめられた。そこで，ラザフォードは自分の提出した原子模型に基づいて散乱の角度分布その他を計算し，有名なラザフォードの式を提出した。これによると，㋑散乱角をϕとして散乱の角度分布は$1/\sin^4(\phi/2)$に比例する。㋺散乱数は厚さに比例する。㋩原子番号の平方に比例する。㊁α粒子の速度の4乗に逆比例する。この実験はある意味で現在の原子物理学の源ということができる。〔吉原邦夫〕

②人工的に原子核壊変を起こさせることを可能にした最初の実験。1919年にラザフォードによって確認された。気密な箱の中にα線を出す放射性元素*(RaC＋C′)を入れ，空気を満たし，薄い膜で箱にふたをし，全体に磁場をかけてβ線を取り除いておき，



ラザフォードの実験



ラジアルタイア

螢光(けいこう)物質(ZnS)を塗ったスクリーンを顕微鏡でのぞいた。実験によると，長い飛程をもつ粒子が現われた。研究の結果，これは空気中の窒素に原因し，粒子は陽子であることがわかり，α線の衝撃により窒素核から陽子がたたき出されたものと結論した。のちにブラケットは霧箱の写真によりラザフォードの最初の推論が一部正しくないことを確かめた。すなわちα粒子により単に陽子をたたき出すのではなく，α粒子は核に吸収されて，結果として窒素核より原子量が3大きく荷電が1大きい核と陽子をつくるということである。すなわち

$$^{14}_{7}N + ^{4}_{2}He \rightarrow ^{17}_{8}O + ^{1}_{1}H$$

の反応であることがわかった。〔福井崇時〕

ラサリーリョ-デ-トルメスのしょうがい　**【**ラサリーリョ-デ-トルメスの生涯**】**　スペインの小説。作者不明。ピカレスク小説*の最初の作品で，現在知られている最古の版は，1554年。悪辣(あくらつ)な盲人，けちなこじき坊主などの主人に仕えながら各地を遍歴する，ラサロという少年の苦い体験を物語る自伝体小説で，暗い庶民生活が陰惨に堕することなく冷笑的に描かれている。当時流行していた〈騎士道物〉に対する強烈なパロディとしてこの作品が現われるやたちまち評判となり，その後同種の小説の流行をもたらし，全ヨーロッパ的に影響を残した。〔牛島信明〕

ラージー　⇨ラーゼス

ラジアルタイヤ　［radial tire］　バルーンタイヤ*の一種。カーカスのコード角がタイヤの進行方向に直角に配列され，これを樽(たる)のたがのようにブレーカーでタイヤの円周方向に締めつけ，扁平(へんぺい)化したタイヤ。ヨーロッパ，特にフランスで早くから採用され，次の特徴をもつ。①ハンドルの切れがシャープで，カーブの際の地面との粘着性にすぐれる。しかしこのことは逆にハンドル操作を重くする。②高速回転による高い遠心力にも強い。③ころがり抵抗が小さく，燃料消費量が小さくてすむ。④一定限界を越えた急カーブを回ると，極端に粘着性がなくなり，コース外に飛び出す危険をもつ。⑤凹凸(おうとつ)の多い道路の走行や道路の縁石に接触した場合に裂傷を生じやすい。近年はわが国でも高速道路を走るスポーツタイプの乗用車に多く使用されている。➔タイヤ　〔成田武男〕

ラジアン　［radian］　角の単位。弧度ともいう。角の頂点を中心とし，単位の長さを半径とする円を考えて，その角が切り取る弧の長さで角の大きさを表わす。たとえば，1回転の角360°は2πラジアン，90°はπ/2ラジアンと表わされる。したがって，

$$1\text{ラジアン} = 180°/\pi = 57.2958° = 57°17'44.8''$$

である。ラジアンは，三角法などの理論上の研究におもに用いられる。たとえば，等速の円運動をする点の位置を表わすときなど，角の単位として度を用いるより，πをそのまま記号で表わしてラジアンを用いるほうが便利である。〔富田芳秀〕

ラジウム　［radium］　周期律表第II族，アルカリ土類金属に属する放射性元素。記号Ra，原子番号88，原子量226.0254。1898年キュリー夫妻*によってピッチブレンド中から発見された。これはウランの発見とともに，放射能科学発展の端緒としてきわめて重要な意義をもつ。ラジウムはウラン崩壊生成物であり，ピッチブレンドなどの放射性鉱物中に含まれ，きわめて微量ながら広く岩石圏に分布する。半減期は1622年で，α線を放出してラドンに変わる。ピッチブレンドなどでウランと平衡にある場合のラジウムの量は，ウラン1に対して3.4×10^{-7}である。金属は塩化ラジウムを水銀電極で電解してアマルガムとし，減圧した水素中で蒸留して得られる。銀白色で，融点960℃，沸点1,140℃，比重6。通常は臭化ラジウムまたは硫酸ラジウムとして保存される。化学的性質はバリウムに類似するが，作用はより活発である。空気中では直ちに酸化し，水を激しく分解して水素を発生する。炎色反応は真紅色を呈する。従来，悪性腫瘍(しゅよう)や癌(がん)細胞に放射線を照射するラジウム療法には天然ラジウムが用いられたが，最近では安価で，大量に得られる人工放射

ラジオ

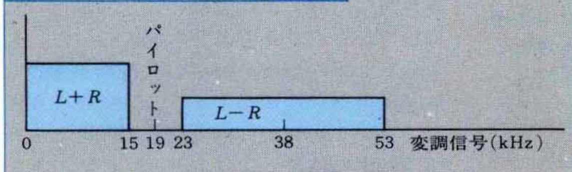


図-1　FM放送の周波数図

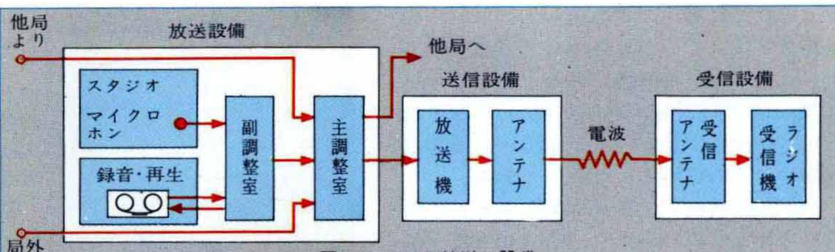


図-2　ラジオ放送の設備

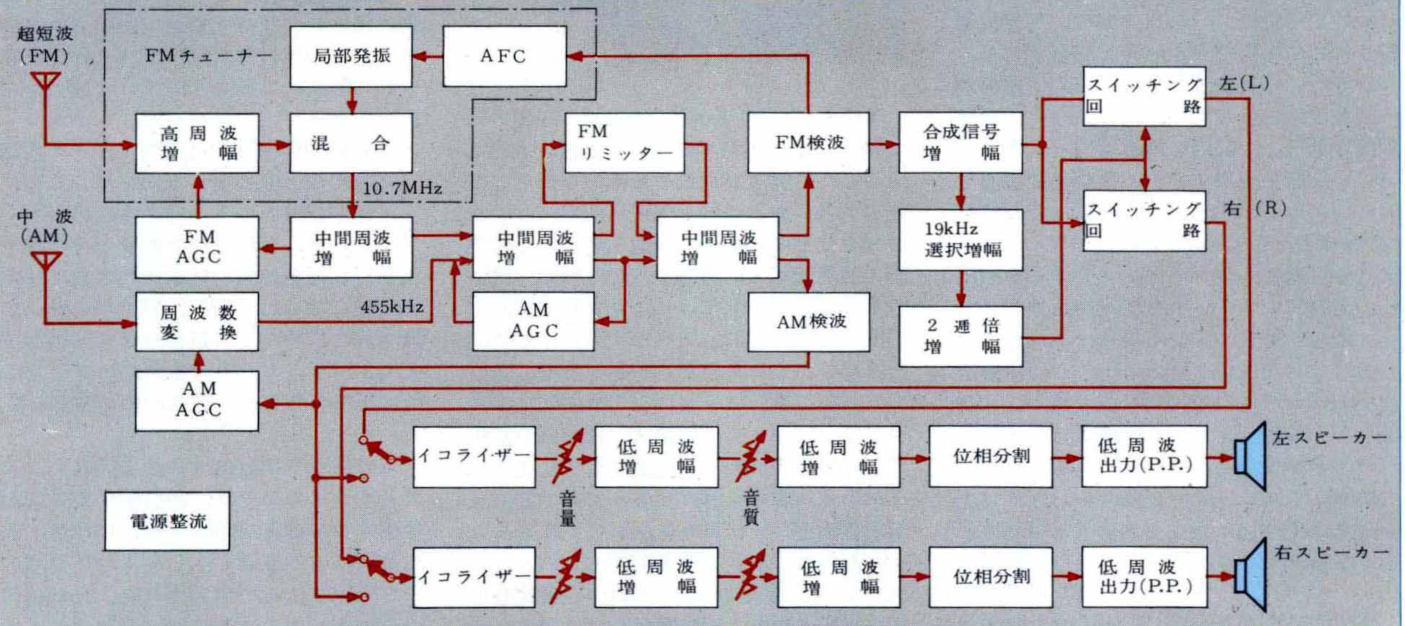


図-3　AM・FMステレオ受信機系統図

性元素が用いられるようになった。

〔古屋　弘〕

ラジエーター　[radiator]　放熱器。ガソリン機関・ディーゼル機関などの内燃機関では，燃料の燃焼熱はサイクルの平均で約500℃にも達する。このためシリンダー・ピストンなどが非常な高温となり，正常な運転を妨げるので，シリンダーの周囲に水を巡回させ，熱せられた水をラジエーターに導いて空気で冷却する。ふつう上部タンク・下部タンクとその間をフィン(ひれ)つきの多数の水管で連結した構造をもつ。材料には，熱伝導率がよくしかもさびにくい黄銅が用いられる。→自動車(図)

〔成田武男〕

ラジオ　[radio]　本来は放射線・電波の示す一般用語であるが，わが国では電波による音声無線放送すなわちラジオ放送*，およびラジオ受信機をさす場合が多い。ここでは，おもにラジオ放送における使用電波周波数および受信機について触れる。

〔使用電波周波数〕 わが国におけるラジオ放送は，標準放送とよばれる振幅変調の中波放送(中心周波数540〜1,600kHz，10kHz置きに割り当て)が国内放送の主力で，日本放送協会(NHK)の第1放送・第2放送の2系列に加えて多数の民間放送局がある。放送周波数の割り当ては，出力によって三つに分けられ，全国的チャネル(出力10〜100kW)は主要都市に置かれ，放送周波数は10kHzの奇数倍である。地方的チャネル(出力0.5〜5kW)はその他の都市に置かれ，10kHzの偶数倍の周波数で放送する。これらの放送局でカバーできない僻地(へきち)には局地的チャネル(出力0.1kW以下)で多数の放送局に同一周波数を割り当て，全国のどんな地点でも放送が聴取される。

隣接諸国からの電波混信や人工雑音の影響を受けやすい中波放送の代わりに，周波数変調を用いた超短波放送(FM放送*，76〜90MHz，100kHz置きに割り当て)が最近発達してきた。FM放送は使用電波の性質上，見通し地点以外には到達しないので，受信できる地域は送信所の近くに限定されるが，隣接放送の影響を受けにくく，また雑音の影響が少ない，音質がよい，ステレオ放送が可能などの利点があり，国境が複雑なヨーロッパで始まった放送であるが，わが国でも今後ますます普及するものと思われる。ステレオ放送は，FM放送の周波数帯域が広いことを利用して，左右2個のマイクロホンで受けた信号を別々に伝送し，それぞれ左右2個のスピーカーを別個に駆動して立体音感を聴取者に与える放送方式であって，FM放送の音楽番組はほとんどステレオで送られている。わが国におけるFM放送の周波数図を図-1に示す。モノラル受信機でもステレオ放送が受信できるように，左の信号Lと右の信号Rとの和$L+R$および差信号$L-R$を38kHzで振幅変調し，その搬送波を除去し，パイロット信号として19kHzを加えたものをFM変調として送るようになっている。中波・超短波のほかに，主として海外向けのラジオ放送(NHKが実施)に使用される短波放送があり，全世界に向け地域別に外国語や日本語で放送し，使用周波数は国際規約で5.95〜26.1MHzの間に定められている。短波放送の一部は，国内向け(民放)や中継に利用される。

ラジオ放送の設備は，図-2に示すように放送番組を制作する放送設備，放送番組信号で変調した電波を放射する送信設備および放送電波を受信して放送番組を聴取する受信設備に分けることができる。

〔受信機〕 ラジオ受信機は，到来した放送電波を受信アンテナで受けて高周波電流に変換し，目的の放送信号を取り出してスピーカーを駆動し番組を再生する装置である。高周波電流の増幅*や検波*・整流*などに，以前は真空管を使用したので大形で重かったが，現在ではすべて半導体*化されてトランジスター*や集積回路*(IC)を使用し，軽量小形になっている。

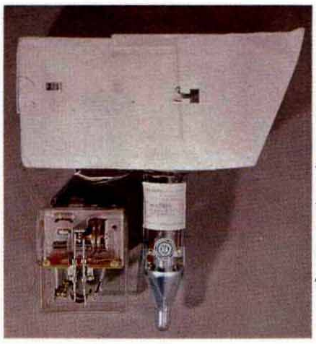
また，選局性や感度を高めるためスーパーヘテロダイン方式(→変調)の受信機が大部分を占めている。放送の種類が多いので，受信できる周波数帯が，中波・短波・超短

波にそれぞれ専用の受信機およびこれらの全部またはいくつかを兼用して受信できるオールウエーブ受信機がある。利用できる電源の種類は，商用周波交流(わが国では50および60Hz，100V)・乾電池・自動車用蓄電池などの専用または兼用である。

FM受信機はモノラル専用とステレオと兼用できるものとがあり，図-3にAM・FMステレオ受信機の系統図を示す。FM電波は中波とは別のアンテナで受け，高周波増幅されたのち局部発振信号と混合されて，10.7MHzの中間波信号をつくる。中波は別の回路で455kHzの中間周波信号に周波数変換される。中間周波増幅は両者に対して同一の回路を使用するが，増幅段数が異なっていることに注意してほしい。FM信号はFM検波されたのち，19kHzのパイロット信号の有無でステレオかモノラルかを検出し，自動的にスイッチを切り換える。ステレオ放送を受信している場合は，パイロット信号を2逓倍した差信号($L-R$)用搬送波38kHzを用いて差信号を取り出し，和信号とともにスイッチング回路に与えて左と右の信号をつくり，左右のチャネルを別々に増幅してスピーカーを鳴らし，ステレオ番組を再生する。モノラルおよびAMのときは左右両チャネルを同一信号で駆動する。〔小原啓義〕

ラジオアイソトープ [radio-isotope] 放射能をもつ同位元素。放射性同位元素または放射性同位体ともいう。自然界に存在する自然放射性同位元素と，原子核反応を人工的に行なってつくられる人工放射性同位元素に大別され，どの元素についても数個のラジオアイソトープが知られている。近年原子炉その他の強力な原子核破壊装置によりきわめて多くの人工放射性同位元素がつくられるようになった。その利用面も広く，たとえばトレーサー(追跡子)は放射性同位元素が安定同位元素と化学的にほとんど同じ性質をもつことを利用したもので化学・生物学・農学・医学・工学など広く利用されている。化学反応用・医療用・材料検査用などの放射線源としてはコバルト60 ^{60}Co・セシウム137 ^{137}Csなどが使われている。特に医療用として癌(がん)などの治療に身体の外から放射線を大量に照射する遠隔照射や管や針などの中に入れて癌組織を破壊する方法がある。さらにラジオアイソトープ独特の治療法として，内服や注射による体内照射も行なわれる。また学術上の年代推定にも使われており，炭素14 ^{14}Cを使って，生物の生存年代や，泥炭(でいたん)層の生成年代などを測定することができる。反面，核爆発の際できる死の灰の中に多量に含まれるなど，原子病などの放射線障害の原因となるのは，このようなラジオアイソトープであり，使用あるいは廃棄に際しては特に注意が必要である。〔福井崇時〕

ラジオせい 【ラジオ星】 ⇨電波星



ラジオゾンデ 左下には各種測器が詰め込まれていて，電池とともに上部の箱に納められる。箱の突起部は発信機

ラジオゾンデ [radiosonde] 高層大気の気象要素を観測するための器械。気球につるして上昇させ発振する電波を地上で受信して各高度の気温・気圧・湿度，また雲の厚さなどをはかる。日射・オゾン・紫外線・放射線などの観測を行なう特殊の構造のものもある。気温はバイメタル温度計，湿度は毛髪湿度計，気圧はアネロイド気圧計を用い，これらの変化を送信する。送信方式としては，モールス符号の変化による符号式・パルス時間間隔式，周波数の変化による可変周波数式・変調周波数変化法などがある。求められた気温・気圧の各値を断熱線図というグラフに記入して高さと気圧の関係式より，高度を図的に求めることができる。観測結果は，大気の成層状態を知る資料となり，雷や驟雨(しゅうう)発生を判断する材料などに使われる。〔相原正彦〕

ラジオたいそう 【ラジオ体操】 ⇨体操

ラジオビーコン [radio beacon] 短波や中波の電波を用いて，航空機・船舶などが進路を決める電波航行援助方式の一。一般に，方位により変化しない特性の電波を発射し，移動体はアンテナの指向性を利用して電波の到来方向を探知し，ラジオビーコンへの帰還および移動体自身の位置測定を行なう。移動体側は無線方位測定機を備えている。

ラジオブイ [radio buoy] 海洋観測用ブイ・遭難信号自動発信器などをいう。いずれも電波発信器を備える。海洋観測用は，水温，海流の流速，波浪などの長期にわたる観測を行なう場合に，洋上にこれらの観測装置をつけたブイを流し，観測データを陸地に設けた受信局に無線で伝送するようになっている。遭難信号用は，船舶救命設備規則によっていかなる船もその設置を命ぜられており，遭難時にその地点に投下して浮標させ，電波自動発信器により陸地あるいは航行中の船舶に遭難を知らせるものである。〔船越　泉〕

ラジオほうそう 【ラジオ放送】 音声(響)を使った放送。1920年アメリカのウェスチングハウス-エレクトリックがピッツバーグにKDKA局，デトロイトにWWJ局を設立し，イギリスのマルコーニ会社がケムスオード局を設立したのに始まる。もっともラジオ放送には，その前史とでもいうべき無線電信の発明がある。1888年ヘルツが電波を発見，1895年マルコーニが無線電信を発明し，1901年に無線の大西洋横断に成功してからラジオ放送が可能となった。しかしラジオの発達に決定的な役割を果たしたのは真空管の発明である。1904年イギリスでフレミングが二極真空管を発明，さらに1906年にはアメリカのド-フォレストが三極真空管を発明した。1920年ごろこれが実用化されてラジオ放送が開始されたのである。1920年11月2日，KDKA局から発射された電波による最初のラジオ放送は音楽放送であった。またハーディング対コックスの大統領選挙戦の結果のニュース放送は，人々の興味と関心をかきたてた。ここにニュースと音楽というラジオ放送のパターンがつくられ，これまでの新聞では伝達できなかった社会現象や特定の行事の中継放送も可能になった。翌年，翌々年と続いて中継されたボクシング試合やオペラの実況放送によって，これらの古典的パターンは現代に至るまでラジオ放送の中に定着している。

その後ラジオ放送は急速に発達し，まずアメリカにおいては，1921年にすでに30局に達する放送局が開設され，1922年には広告番組による放送もニューヨークのWEAFの開局によって開始された。1926年に議会を通過したラジオ法が1927年に公布されて，この法律に基づいてFRC(連邦無線委員会)が組織され，その監督のもとに商業放送による放送形態の基礎ができた。FRCはその後FCC(連邦通信委員会)の母体となった。またイギリスにおいては1922年にイギリス放送会社が設立され，同年のサイクス委員会および1925年のクロフォード委員会の勧告に従って，ラジオ放送は公共企業体によって独占されることとなり，1927年にBBC(イギリス放送協会)が設立された。

日本では1921年(大正10)東京で実験放送が，1922年には東京・大阪の新聞社によって試験放送がそれぞれ行なわれた。さらに1923年無線電信法に基づいて〈放送用私設無線電話規則〉が制定され，アメリカ型の民間企業によってラジオ放送が運営されることとなった。しかし営業許可申請に混乱がみられたため，1924年公益法人による放送形態に改められ，東京・大阪・名古屋にそれぞれ1局開設が許可された。1925年3月1日社団法人東京放送局が東京芝浦で第一声をあげ，翌1926年既存の3局を一本化して，社団法人日本放送協会(NHK)が組織されて独占的に運営されることとなった。第2次世界大戦後，1950年(昭和25)電波法・放送法・電波管理委員会設置法が成立公布されて従来の社団法人日本放送協会は発展的に解消し，新たに特殊法人日本放送協会に改組されるとともに民間企業による民間放送局の設立が認められ，1951年9月1日

名古屋の中部日本放送，大阪の新日本放送が誕生した。次いで朝日放送・ラジオ九州・京都放送，そして12月25日ラジオ東京が全国で6番め，東京で最初の本放送を開始した。1971年現在では民間放送のラジオの会社数は48社，NHKの放送は第1・第2とも中央放送局8，放送局56となった。

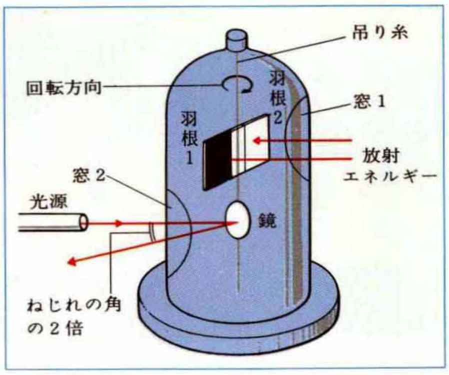
スポーツ・芝居なども家庭で楽しめるところにラジオの魅力がある。しかし，テレビジョンの出現はラジオへの接触のチャンスを希薄にし，ことに情報化社会といわれる現代社会にあっては，今後新しいメディアの出現も予想されることもあって，ラジオの将来は必ずしもいっそうの発展が期待されるとはいえない。〔飯田良明〕

ラジオメーター ［radio meter］ エネルギー放射の強度測定装置。放射計ともいう。空気を希薄にした（気圧10^{-2}mmHg程度）ガラス容器内に，図のように，糸で薄い金属製の羽根板1・2と，鏡をつるす。2枚の羽根板はそれぞれ片面を黒く塗り他面をみがく。右側の窓1から入射した放射エネルギーは羽根の黒い面では吸収され，みがいた面では反射される。このため黒い面の温度はみがいた面の温度より高まり，希薄ながら存在する容器中の空気分子のうち黒い面にぶつかるものはみがいた面にぶつかるものよりも大きいエネルギーを羽根からもらってはね返る。その反作用として，黒い面はみがいた面よりも大きい圧力を受け，羽根は全体として垂直軸のまわりで回転し，つり糸はねじれる。このねじれの角は黒い面で吸収されるエネルギーの量に比例するので，図の左側の窓2から光線を鏡にあて，その反射光が入射方向からどれだけずれるかをはかって糸のねじれの角を求めれば放射エネルギーの強度が知られる。〔中野藤生〕

ラジカリズム ⇨急進主義

ラジーシチェフ ［Aleksandr Nikolayevich Radishchev］ （1749～1802） ロシアの小説家。貴族の生まれ。ドイツに留学し，フランス自由思想の影響を受けた。帰国後，ロシア農奴制を徹底的に批判した《ペテルブルグからモスクワへの旅》を発表，流刑に処せられた。のちに釈放されたが自殺。ロシアにおける人道主義の祖とされている。

らししょくぶつ 【裸子植物】 種子植物のうちで，最も原始的な植物群。系統的には，シダ植物と被子植物の中間にあたる。最も重要な特徴は，胚珠（はいしゅ）が子房に包まれず，果実はできないで，種子だけができることである。すべて木本で，維管束には道管を欠いて仮道管がある。花は単性花で，すべてが風媒花である。古生代（約3億年前）に出現し，中生代（約2億年前から8,000年前）には全盛をきわめたが，新生代には衰微して種類数が少なくなり，現在ではイチョウ科・ソテツ科・スズ科・マツ科・ヒノキ科・マキ科・イヌガヤ科・ナンヨウスギ科・イチイ科・マオウ科・グネツム科・ウェルウィッチア科などに属するものが，世界に約700種，日本には約40種があるにすぎない。〔加藤僖重〕



ラジオメーター

ラシーヌ



ラシード-ウッディーン ［Rashīd al-Dīn］ （1247ごろ～1318） イラン，ハマダン生まれの政治家・歴史家。はじめイル汗国に医師として仕えたが，第7代君主のガザン汗に抜擢（ばってき）され，宰相の位につき，よく君主を助けて統治機構・税制の改革に力を尽くし，国家財政を豊かにするなど，すぐれた政治手腕を示した。また，彼は同じガザン汗の命令を受けてモンゴル族を中心とする世界の歴史を著述し，これは《ジャーミ-ウッタワーリーフ（集史）》（1310～1311）の名で今日に知られ，広範囲な知識と批判的な目で書かれ，現在モンゴル史研究の貴重な史料となっている。晩年は不幸で，政敵の陰謀にあい，父子ともに極刑に処せられた。〔小谷仲男〕

ラシーヌ ［Jean Racine］ （1639～1699） フランスの劇作家。役人の家に生まれたが，幼くして両親を失い，ポール-ロワイヤル修道院で育てられ，きわめて宿命的な人間観とギリシア語の素養を身につけた。やがて1660年代，ボワロー・モリエール・ラ-フォンテーヌらとともに古典主義文学の論客として活躍，1667年に悲劇《アンドロマック》で劇壇にデビューした。以後，《ブリタニキュス》《ベレニス》《イフィジェニー》《フェードル》などの名作を発表した。しかし，1677年，《フェードル》発表の年に劇界から引退した。これは，国王の修史官に選ばれたことや私行上の原因なども考えられる。ラシーヌが劇作に専念したのは10年余にすぎないが，その間，宿命的な情熱によって破滅していく人間像を描き，情念を意志によって乗り越えようとするコルネイユの人物とつねに比較対照される。なお，晩年に《エステル》《アタリー》の宗教劇2作がある。〔小松英輔〕

らしゃ 【羅紗】 紡毛織物の一種。ポルトガル語のラシャから転化した語。16世紀にわが国に渡来し，陣羽織・火事装束・袋物などに賞用されたが，当時は一部の人々の間で愛用されたにすぎなかった。明治以後，日本で毛織物が生産されはじめたその最初のものが羅紗で，軍服や官服の需要によるものであった。生地はフェルト（縮絨（しゅくじゅう））されて，組織は見えなくなり，無地または霜降りで，厚地で耐久性があり，保温性に富む。近来はこの種の紡毛織物の需要は減少しつつある。〔小川安朗〕

ラジャスタン ［Rajasthan］ インド北西部の州。人口2,015万（1961）。州都ジャイプール。パキスタンとの国境付近には広大なタール砂漠（さばく）が広がり，気候も乾燥している。農民は人口の約80％に達するが，耕地は比較的少ない。高原作物はバジゴラ（ヒエの一種）・トウモロコシ・小麦である。鉱産物は豊富でウンモ・岩塩などを産するが，その他の産業は発展が遅れている。

らしゃとししゃ 【裸者と死者】 メイラーの小説（1948）。太平洋の架空の島アノポペイを，日本軍から奪取するアメリカ軍の一小隊の兵士たちの心理と行動を，実験的な技法を試みながら描き，1930年代の不況期から戦争に至るアメリカ社会の退廃を暴露する。第2次世界大戦を扱った戦争小説の白眉（はくび）として世界的に有名。

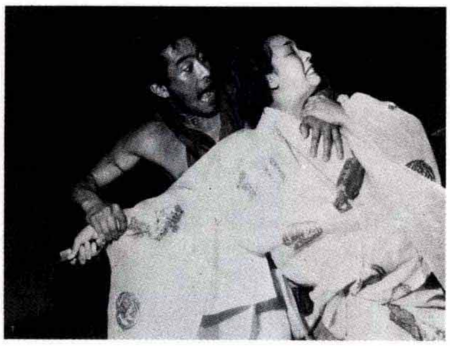
らじゅう 【羅什】 ⇨鳩摩羅什（くまらじゅう）

ラシュタットじょうやく 【ラシュタット条約】 1714年西南ドイツのラシュタットで結ばれたスペイン継承戦争終結のフランス・オーストリア間の条約。広義のユトレヒト条約に含まれる。これによって前年のユトレヒト条約を確認，オーストリアは，フランスのフィリップ5世のスペイン継承を承認する代償として，スペイン領ネーデルラント（ベルギー地方）・ミラノ・ナポリ・サルジニア島を獲得し，地盤を強化した。その半年後にはドイツ帝国はフランスとバーデン条約を結んだ。〔喜多迅鷹〕

ラシュリエ ［Jules Lachelier］ （1832～1918） フランスの哲学者。カント・ラベソン-モリアンの影響を受け，フランスに反省的方法の概念を導入，唯心論的実在論の立場に立って，クーザン学派の折衷主義に反対した。彼は世界がいかにして思惟（しい）の対象となるかを問い，実在が思惟の中に含まれなければ確実性は存在しないと主張。しかし，彼のいう思惟は認識の条件以上のもの，存在の根源であり，そこから神への移行が可能となる。彼の思想はブトルー・ベルグソンらに大きな影響を与えた。

主著は《帰納法の根拠について》《心理学と形而上学(けいじじょうがく)》など。〔飯塚勝久〕

らしょうもん【羅生門】黒沢明*監督の映画(1950)。芥川龍之介*(あくたがわりゅうのすけ)の短編小説《藪(やぶ)の中》を橋本忍・黒沢明が脚色，大映で製作された。王朝時代の物語で，藪の中で死んでいる1人の武士をめぐって，盗賊・武士・その妻・目撃者の4人がそれぞれ異なる証言をするというもの。人間のエゴイズムの葛藤(かっとう)を熱っぽい強さで描いた傑作で，1951年ベニス国際映画祭でグランプリを受賞。



羅生門

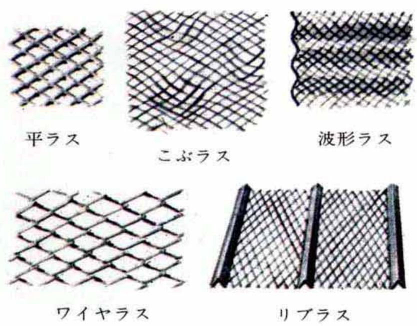
らじょうもん【羅城門】平城京*・平安京*の外郭南面の中央，すなわち朱雀大路(すざくおおじ)の南端にあった楼門。もとくらせいもん〉と読み，〈羅生門〉の字をあてたことからくらしょうもん〉ともいうようになったと推測される。平安京の羅城門は南北2丈(約6m)，東西9丈の重層瓦葺(かわらぶき)門で，閣の中央に門額を掲げ，京内最大の門であった。816年(弘仁7)大風のため倒れ，のち再建されたが右京の衰退とともに荒廃し，盗賊や浮浪者の巣窟(そうくつ)となった。平城京の羅城門跡は佐保川改修工事のおりその礎石が発掘されたので明らかとなった。なお，その近くの〈来世〉の地名は〈らせい〉のなまったものといわれる。〔黛　弘道〕

らしん【羅津】ナチン　朝鮮半島北部，咸鏡(かんきょう)北道北東部にある港市。人口約40,000。1930年代に日・満間の連絡港として建設され，急速に発展した都市で，清津方面とは1965年に開通した鉄道で結ぶ海陸交通の要地である。湾内の水深は深く，大草島・小草島が湾口に位置して自然の防波堤をなす良港で，港は不凍である。近海はタラ・メンタイ・サバなどの豊富な漁場で，水産基地としても活況を呈している。造船・食品・紡績などの工業も盛ん。〔船越昭生〕

らしんぎ【羅針儀】方向を測定するための装置。コンパス・羅針盤ともいう。磁気コンパスとジャイロコンパスに大別される。前者は磁石が地磁気の方向をさすことを利用したもので液体コンパスがあり，後者は磁気コンパスが高緯度地方では指北力が弱くなり，また地磁気の垂直磁力のため方位盤が傾いて使用できなくなるので，その代わりとして考案されたものである。すなわち，ジャイロコンパスは，ある一定の条件を備えたこまの回転軸に地球自転の力が作用すると，こまの軸が地球の北をさすという指北原理を利用したものである。➔磁気コンパス　➔ジャイロコンパス

〔飯島幸人〕

らしんぎょく【羅振玉】(1866～1940) 中国の学者。清朝(しんちょう)末に考証学を修めたが，おりしも河南省殷墟(いんきょ)から甲骨文，敦煌(とんこう)石室から古写本類の発見が続き，彼は該博な知識で整理・研究にあたり，大きな功績を残した。辛亥(しんがい)革命の際，一時日本に亡命していたが，そのときに出版した《殷墟書契》やその《考釈》は甲骨文解読の基礎的研究である。帰国後，清朝内閣大庫の官文書(檔案(とうあん))の保存に尽くした業績も忘れることができない。



ラ　ス

らしんばん【羅針盤】⇨羅針儀

ラス［lath］内外壁・天井にモルタルなどの左官材料を塗るとき，その下地への付着をよくするために，前もって木骨や鉄骨に張りつける金網状のもの。ワイヤラスとメタルラスに分けられる。ワイヤラスは針金をひし形・甲形および丸形に編んだものである。下地用のワイヤラスは亜鉛めっきを施していない。メタルラスは，0.7mm程度の厚さの薄い鉄板に多くの切れ目を千鳥(交互)に入れて，これを切れ目方向と直角に引き延ばしたものが普通で，エキスパンデットメタルラスともよばれる。一定の間隔で力骨となる折り曲げ部分を残し，その間を引き延ばしたものはリブラスといわれ，剛性があり下地を構成する間柱，胴ぶち代わりになる。ワイヤラス・メタルラスともに二またくぎを使うか，または普通のくぎを途中まで打ち込み折り曲げて部分的に下地にとりつける。ラス下には防水層としてアスファルトフェルトなどをあらかじめ張り込んでおく。〔難波蓮太郎〕

ラスキ［Harold Joseph Laski］(1893～1950) イギリスの政治学者。1914年オックスフォード大学を卒業。《デーリー・ヘラルド》紙の論説記者となる。1916年から4年間，ハーバード大学で近代史を講義。1920年からロンドン大学教授として政治学を担当した。政治史の豊富な知識と鋭い理論的認識により，伝統的な国家主権説を批判し，多元的国家論を主張した。また理論と実践の統一を重視し積極的な社会運動・政治活動に身を投じた。1936年労働党の執行委員，1945年以降同執行委員長となり，労働党の理論的支柱となる。1950年の総選挙に病をおして遊説し，このため病勢高じて死去。主著に《政治学大綱》《近代国家における自由》などがある。〔板橋重夫〕

ラスキン［John Ruskin］(1819～1900) イギリスの美術批評家・社会改良家。ターナー擁護の論文をきっかけに成立した《近代画家論》において，芸術は民族と個人の道徳的誠実さに基づく，という見解を確立，この見解から〈ラファエル前派*〉の運動を擁護した。同時に近代機械文明を批判，1870年以降はもっぱら社会・経済問題に向かった。ほかに《建築の七燈》《ベニスの石》《百合(ゆり)と胡麻(ごま)》などの著作がある。

ラスク［rusk］洋風干菓子の一。粉砂糖に卵白を入れてよく混ぜ，パン(食べよい大きさの長方形で厚さ5mmに切ったもの)の表面に塗ってオーブンで焼く。水分が少なく保存がきき，また消化もよいので幼児食などにもよく利用される。パンはふくらんだ細胞組織の細かくそろっているものがよい。

ラスク［Emil Lask］(1875～1915) ドイツの哲学者。西南学派*に属し，ウィンデルバントや師リッケルト，さらにボルツァーノの影響を受けて，超価値対立的な価値を認め，新カント派の認識論を客観主義の方向へ徹底させた。主著《法哲学》《哲学の論理とカテゴリー論》など。

ラスク［Dean Rusk］(1909～　) アメリカ合衆国の政治家。ジョージア州の生まれ。カリフォルニア・オックスフォード・ベルリン各大学で政治学を修めた。第2次世界大戦に陸軍情報将校として従軍，ビルマ作戦軍副参謀長となり，1946年国務省にはいり，国連および極東問題を担当。1951年対日講和では大統領特使ダレスを補佐し，1952年日米行政協定の付属文書として岡崎・ラスク交換公文を起草するなど，アメリカの戦後対日政策立案者のひとりとして活躍。同年ロックフェラー財団理事長となるが，1961年ケネディの国務長官に就任，ジョンソンの下でも留任，キューバ危機やベトナム戦争を担当。1968年12月辞任し，現在ジョージア大学教授。〔折井一彦〕

ラスコーどうくつ【ラスコー洞窟】フランスのドルドーニュ地方にある洞窟で，旧石器時代後期の岩壁画がある。1940年に土地の少年によって偶然に発見された。洞窟内部は主洞・奥洞・支洞に分かれ，内壁にウシ・ウマ・ヤギ・ビゾン・シカ・人物など100点以上の彩画・刻画が描かれている。動物像の大きさは種々であるが，黒色の大牛は550cmに達するものがある。これらの壁画は大別して四つの時期に描かれた

が，一部のオーリニャック期のものを除き，大部分はマドレーヌ期の製作にかかる。当時の人たちは，野生動物の狩猟によって生をささえたが，この洞窟はベーゼール川に面し，恰好(かっこう)の猟場であった。壁画は獲物の豊猟を願う呪術(じゅじゅつ)的目的から描かれた。〔木村重信〕

ラズノチンツィ［Raznochintsy］ロシア語で雑階級人。18世紀末～19世紀に商人・農民・僧侶(そうりょ)・官吏・没落貴族などの出身者によって形成され，貴族の特権を守ろうとするツァーリ政府の意図をよそに，ロシア資本主義の発展の中で専門的・知的労働への要請が高まることによって発生したインテリゲンチア層。1840～1850年代のラズノチンツィは自由主義的・民主主義的ブルジョアジーを代表して社会生活と文化に影響力をもち，政治的には民主主義者であった。1861年の改革以後，チェルヌイシェフスキー*に代表されるラズノチンツィは農奴制と専制に対する戦いの重要な一部を構成した。ナロードニキの大部分もラズノチンツィであった。19世紀末解放運動のにない手がプロレタリアート・マルクス主義者に移るとラズノチンツィの一部はマルクス主義に接近し，大部分は自由主義ブルジョアジーあるいは小ブルジョアジーの党に加わった。〔山県弘志〕

ラスパルマス［Las Palmas］アフリカ大陸北西岸，大西洋上に位置するスペイン領カナリア諸島の最大の港市。人口26万3,000(1968)。グランカナリア島の北東岸にあり，漁業が盛んで，港からはバナナ・トマト・タバコなどを積み出す。カナリアサックとよばれるぶどう酒の特産がある。15世紀末建立(こんりゅう)のサンタ-アナ教会は南アメリカからスペイン人が持ち帰った美術品を有し，多くの観光客を集めている。1492年コロンブスがアメリカ大陸への航行中に寄港している。〔梶川勇作〕

ラスプーチン［Grigorii Efimovich Rasputin］（1872～1916）ロシア最後の皇帝ニコライ2世*と皇后の寵臣(ちょうしん)で宮廷の黒幕。シベリアの農民出身で教育もない修道僧だったが，30歳ごろから各地を放浪，予言者となり，のちペテルブルグの上流社会の一部でもてはやされるようになった。1907年に宮廷に迎えられ，ロシア宮廷の特殊な環境の中で皇帝・皇后の絶対的信頼を得，とくにツァーリ体制の末期（1914～1916）にはその影響力を利用してゴレムイキン・マクラーコフら反動的側近が国政を動かした。第1次世界大戦の戦局悪化の中で，ドイツのスパイといううわさが広がり，1916年12月ユスポフ公・ドミトリー-パブロビチ大公ら君主主義者の手で暗殺された。〔山県弘志〕

ラスベガス［Las Vegas］アメリカ合衆国，ネバダ州南部にある商業・観光都市。人口64,000(1960)。地名は〈肥沃(ひよく)な地〉



ラスコー洞窟　壁面に描かれたトナカイと矢



ラスベガス　賭博と歓楽の町ラスベガス。日没後ネオンが輝き，賭博場も歓楽場も人でうずまり，町は異常な活気を呈する



ラセイタソウ

の意で，スペイン人によって命名された。1936年フーバー-ダムの完成によって観光都市として急速に発展した。州営の賭博(とばく)場，ナイトクラブなどの観光施設が多く，観光収入は州の大きな財源となっている。付近では，金・銀の採鉱と放牧が盛ん。また6週間滞在することで市民権が得られ，離婚手続きが簡単にできることでも知られている。〔相村大彬〕

らせいたそう【羅背板草】双子葉植物・イラクサ科。海岸の岩の間にはえる多年草。茎は群生して分枝せず，高さ50cmほど。葉は対生し，長さ8～15cmの広卵形または卵円形で，縁に鋸歯(きょし)があり，質は厚く，表面はざらつく。雌雄同株で，夏，葉腋(ようえき)に穂状の花序を出す。雄花序は黄白色で茎の下部につき，雄花はふつうがく片4枚，おしべ4本。雌花序は淡緑色で，茎の上部につく。

ラーゼス［Rhazes］（865～925）アラビアの医学者・錬金家。アラビア名アル-ラージー。経験と実験に基づいた多数の著作で，化学的実験設備についても記し，実証的ではあったが錬金術理論を固守していた。イスラム医界で最も独創的な人といわれ，物質を動・植・鉱物に3大別した。錬金術書のうち《秘伝書》，医学の集大成《包括》などはラテン世界へ伝えられ，大きな影響を与えた。また，痘瘡(とうそう)・麻疹(ましん)に関する著作もある。錬金術の実験に失敗して，失明したと伝えられる。

らせつ【羅刹】インドの伝説上の悪鬼。梵語(ぼんご) Rākṣasa（ラークシャサ）の音写で，可畏・速疾鬼・護者などと訳される。仏典には荒々しい悪鬼で，男は醜く女は美しく，ともに人の血肉を食べるといい，また地獄で罪人を責める獄卒とも伝える。《ラーマーヤナ》に起源をもつとされる羅刹女国の物語も，羅刹女が美しく装い，歓楽と色香で旅人を欺き，彼らを食べたという教誡(きょうかい)として伝えられている。

ラセミたい【ラセミ体】光学異性体における各対掌体の等量混合物で，光学的に不活性な物質。その性状によりラセミ化合物・ラセミ固溶体・ラセミ混合物に分けられる。各対掌体を等量混合した溶液から結晶化させたり，光学活性体をラセミ化させたり，あるいは不整構造を有する化合物を化学的に合成したりして得る。また，逆に適当な方法によって光学分割すれば光学的に純粋な対掌体がラセミ体から得られる。ラセミ体は(±)-，*dl*-，*rac*-あるいは*r*-などの接頭語をつけて表わされる。〔石戸良治・荒木洋之助〕

らせんきん【螺旋菌】細菌を形態によって区別する場合に，球菌・桿菌(かんきん)と並んで螺旋状の細長い形で特有の固有運動をする微生物を螺旋菌とよんだが，前2者が分裂菌に属するのに対し，螺旋菌はスピロヘータと称し，細菌と原虫の中間に位置する。原虫とは明瞭(めいりょう)な核がなく生殖型が存在しないこと，細菌とは運動の方法とべん毛をもたずに運動することで区別される。→スピロヘータ

ラダクリシュナン［Sarvepalli Radhakrishnan］（1888～1975）インドの政治家・哲学者。南インドの生まれ。マドラスのキリスト教系大学で特にベーダーンタ学派*の哲学を研究し，プレジデンシー大学・マイソール大学・カルカッタ大学，さらにオックスフォード大学の哲学教授をつとめた。インド独立後，1952年に副大統領，さらに大統領（在任1962～1967年）に選ばれた。主著《インド哲学》2巻。

ラダーポリマー［ladder polymer］はしご状高分子化合物。構成する分子鎖がはしご状構造をしているもので，熱可塑性樹脂にみられる線状高分子と熱硬化性樹脂*にみられる網状高分子の間に位置づけされる。

線状高分子の特徴である，すぐれた溶解性や加工性を備えながら，網状高分子における耐熱性も兼備させる目的で合成が試みられたもの。ポリアクリロニトリルを繊維の状態で加熱すると2,000 ℃くらいまでの耐熱性をもった黒鉛繊維が得られるが，これははしご状構造をとっているものと考えられる。このような例はほかにも多く，最近の耐熱プラスチックに関する活発な研究により，新しいラダーポリマーが続々と出現している。重縮合法によるパイロン(商品名)やシリコーン樹脂，さらにポリブタジエンの熱処理物(商品名プルトン)などはすでに工業生産されている。〔伊藤　卓〕

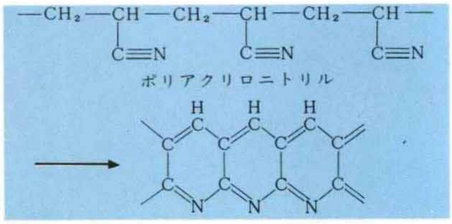
ラダマンテュス　[Rhadamanthys]　ギリシア神話でゼウスとエウロペの子。ミノスの兄弟。のちにエウロペがクレタ王の妻となったためクレタ島で育ち，正義と知恵の人として知られ，クレタ島の立法者となった。その立法はギリシア諸都市の模範とされた。死後，ミノスおよび同じゼウスの子アイアコスとともに冥界(めいかい)の裁判官となり，死者を裁くという。

ラチウム　[Latium]　イタリア中央部の西海岸，チレニア海に臨む地方名。北はトスカナ，南はカンパーニア，東はウンブリア・アブルッツェの各地に囲まれ，面積17,203km²，人口392万3,000(1961)。主都ローマ。BC1000年ごろ南下したラテン人が定住し，古代ローマ発祥の地となった。小麦・オリーブ・ブドウ・オレンジを産する。イタリア語名はラツィオ。

らっか　【落果】　植物の果実が落ちること。果樹では早期落果と6月落果および後期落果に分けられる。早期落果はオーキシンの生産が不十分の場合と考えられ，6月落果はなりすぎの場合で自然的である。後期落果は果柄の離層の老成に起因する。

らっか　【落花】　花が開花後落ちる現象。機械的落花と生理的落花がある。前者は虫害や強風などによって落花する場合である。後者は主として栄養の関係で，いわゆる素性の悪い花が落花する。開花授精後の落花は花粉ホルモンか，種子からのホルモンの欠如で生ずると考えられる。最近は人為的落花(摘花)も行なわれる。必要以上の着花は，果実生産に不利なためで，摘花剤の開発が急がれているがまだ確実なものはほとんどない。〔金木良三〕

ラッカー　[lacquer]　広義には溶剤の揮発によって乾燥して塗膜を形成する塗料の総称で，溶剤にとける繊維素誘導体あるいはこれと樹脂とを塗膜形成主要素とし，これに可塑剤・顔料などを加えたものである。狭義にはニトロセルロースラッカーをさし，その他のラッカーはアセチルセルロースラッカー・アクリルラッカーなど，使用する繊維素誘導体あるいは合成樹脂の名称を冠する。また，ニトロセルロースラッカーにアルキド樹脂を多量に加えた塗料を



ラダーポリマー



ラッキョウ

ハイソリッドラッカーという。ラッカーはスプレー塗装・静電塗装などによって塗装し，乾燥がきわめて速く塗装が能率的である。塗膜はかたく，光沢があり，耐摩耗性・保色性・耐水性・耐薬品性にすぐれ，特にハイソリッドラッカーは，肉もち・光沢・たわみ性・密着性・耐候性などの性質もすぐれている。溶剤は乾燥速度，かぶり，表面の平滑性，光沢などに影響を与えるので低沸点・中沸点の溶剤および希釈剤を，適当に組み合わせて均一に溶解し，つねに溶剤平衡を保つような混合溶剤を用いる。ラッカーエナメル，金属用・木材用・下地用各種のラッカーがあり，自動車・車両・電気器具・家具などをはじめ，金属・木材・皮革・紙などの素材に対する透明および着色塗装に広く用いる。〔鈴木荘司〕

らっかさん　【落下傘】　⇨パラシュート

ラッカジブ(諸島)　[Laccadive]　インド西南部，マラバル海岸の西方約300kmのアラビア海上にあるサンゴ礁群。人口24,000(1961)。インド領。14島からなるが，住民は九つの島にだけ居住し，その大半はイスラム教徒の漁民である。主産物はコプラと魚類。9世紀にインド人が植民し，10世紀にはアラビア人が植民した。1499年にポルトガル人に占領されたが，その後インドの土侯による支配が続いた。

らっかせい　【落花生】　⇨ナンキンマメ

らっかせいゆ　【落花生油】　ラッカセイ(ナンキンマメ)の種子から圧搾法によって採取した食用油。淡黄色を呈し，美味で特有の芳香をもつ。サラダ油・フライ油や油づけ用に用いられるほか，マーガリンの原料にも使われる。

らっかん　【落款】　書画の上に，作者の姓名・字(あざな)・号，年月日，干支および制作に関する事由をしるし，ときに印章を併用したもの。もと古器物の款識(かんし)(銘のうち，陰文を款，陽文を識という)から出て，のち書画に記入した作者の署名の多様化したもので，時と場合により，また個人によっていろいろな記載法がある。

らっきょう　【薤】　単子葉植物・ユリ科の多年生草本。茎は短く根出葉はネギの葉と似ているがきわめて細い。冬は枯れずに夏休眠し，秋末から花茎を抽出して薄紫の小花を散形花序につける。葉鞘(ようしょう)部が肥大して鱗茎(りんけい)となり，これを食用に利用する。中国原産で，わが国では古くから薬用として利用されたが，明治以後は生食またはつけ物としての利用が盛んになった。ふつう初秋に種球を植え付け翌年初夏に収穫する。火山灰土では収量多く，砂地で良品が生産される。〔松本正雄〕

ラックスネス　[Halldór Kiljan Laxness]　(1902～　)　アイスランドの小説家。青年期にハムスンの影響を受け，17歳で《自然の子》を発表。のちにカトリック教徒となり，25歳でアメリカに渡り，社会主義者となった。代表作は，《サルカ・バルカ》《独立の民》，また〈サガ〉ふうの独特のスタイルをもつ《英雄物語》など。アイスランド駐留のアメリカ軍を扱った問題小説《原爆基地》では，反米思想も示している。1955年ノーベル文学賞を受賞。〔鈴木徹郎〕

ラックスマン　[Adam Kirilovich Laksman]　(1766～1796？)　帝政ロシア最初の日本派遣使節。陸軍中尉。1792年(寛政4)，エカテリナ2世の使節として，大黒屋幸太夫(こうだゆう)ら2名の漂流民送還を名目として根室に来航，国交を要求した。幕府の指令に従いあらためて翌年長崎に入港したがその要求は拒絶され帰航した。おりから海防を唱えた林子平を処罰した直後であったが，ラックスマンの来航を機に幕府および識者の間で海防問題がにわかに議せられるようになった。著書に《航海日記》などがある。〔高崎徳次〕

ラックナウ　[Lucknow]　インド北部，ウッタルプラデシュ州の州都。人口65万6,000(1961)。ガンジス川の支流グムチ川に臨む交通の要点である。ムガール帝国時代に栄えた都市で，多くのイスラム文化の遺跡に富んでいる。セポイの乱の際はイギリス・インド両軍の激戦地であり，反乱軍の拠点でもあった。大学・研究所，さらにインドの三大植物園の一つといわれる植物園もある。穀物・サトウキビの集散をなし，各種の伝統的工業も行なわれる。

らっこ　【猟虎】　哺乳(ほにゅう)類・食肉目・イタチ科。頭胴長1～1.5m，尾長25.5～28cm。尾は円筒形で，後3足は長くひれ状。体は濃かっ色であるが，毛の先端が灰色なので霜降り状となる。カワウソよりさらに水生の度合いが強く，ほとんど陸に上がらず，海上に群生する。北太平洋に分布し，潜水し

てアワビ・カニ・ウニなどを食べる。毛皮は最高級品のため，乱獲されて激減したが，保護の結果絶滅は免れた。

ラッサール　［Ferdinand Lassalle］（1825～1864）　ドイツの社会主義者・労働運動指導者。1848年の三月革命に参加し，マルクス・エンゲルスの《新ライン新聞》に協力した。1863年全ドイツ労働者同盟を創立。これはのちに社会民主党と合体してドイツ社会主義労働党となった。彼は労働者階級の組織と団結とに必要な資本と能力とを獲得するために，国家意志を労働者階級の手中に握らなくてはならないとして国家社会主義を主張し，その方法として，労働者階級が普通平等直接選挙制を勝ち取る必要を説いた。著書《資本と労働》など。　〔仲村計美〕

ラッシュせん　【ラッシュ船】　コンテナー*の代わりに，貨物を積んだはしけ*(箱形のバージ)をそのまま積み込んで輸送する船。LASHはlighter aboard ship の略称。岸壁を使わずに貨物の積み降ろしができるので，荷役・滞港時間が最少限ですみ，川・運河・港内外の荷役施設のない場所からも荷物を運べるという利点をもつ。コンテナー船*と共通する特性も多いが，コンテナー船が貨物の集配に関して，港と後背地間の輸送を鉄道・道路に依存するのに対して，その依存度合いがきわめて小さい点が異なる。1969年(昭和44)には世界最初のラッシュ船(43,000DWトン)がわが国で建造され，輸出されて北アメリカ～ヨーロッパ間に就航している。　〔飯島幸人〕

ラッセル　［Bertrand Russell］（1872～1970）　イギリスの数学者・哲学者・社会思想家。マンモスシャーのトレロックに貴族の子として生まれる。祖父ジョン-ラッセルは首相をつとめた。ケンブリッジ大学で数学・哲学を研究し，最初は数学者として出発して，数学基礎論*の面で論理学から数学の体系を導こうとする論理主義の立場を確立し，ホワイトヘッド*とともに現代数学の金字塔といわれる《数学原理*》を著わした。また哲学の方面では，数学の基礎の研究から得た記号論理学の成果をもとに，論理学・認識論・科学哲学の上での業績のほか，哲学全般にわたって多くの仕事をしている。その特徴は，論理学を哲学の中心に置き，それにイギリスの伝統的な経験論を受け継いだものである。思想上いくつかの変遷があるが，今世紀イギリスで最高の哲学者のひとりである。また社会思想家として社会改造に関する著作があり，単なる理論家にとどまらず，第1次世界大戦では非戦論を唱えて投獄された。主著《外界についてのわれわれの知識》《社会改造の原理》ほか多数がある。1950年度ノーベル文学賞を受賞。　〔寺中平治〕

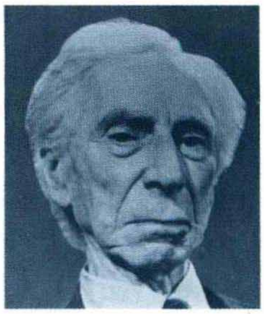
ラッセル　［Henry Norris Russell］（1877～1957）　アメリカの天文学者。ニューヨーク州の生まれ。プリンストン大学でヤングに師事して天文学を学んだ。1902年イギリスに渡りケンブリッジ大学でロバート-ボールのもとで天文台の実務を学んだ。帰国してからはヤングのあとを継いでプリンストン天文台台長，その間プリンストン大学教授をつとめ，またウィルソン山天文台の研究員としておもに恒星天文学を研究した。1913年に恒星のスペクトルと絶対等級の間にある密接な関係を見いだしたことは業績中最も有名で，この関係を示す図はラッセル図(ヘルツシュプルング-ラッセル図)とよばれる。これをもとに恒星が巨星として生まれ，矮星(わいせい)として死滅するという恒星進化論を唱えた。このほか，天体物理学上の研究が多く，著書《天文学》は名著として知られる。　〔根本順吉〕



ラッコ



ラッシュ船　第一船のアカディアーフォレスト号(370ｔ積みのバージを73隻積める)



ラッセル



ラッパウニ

ラッセルしゃ　【ラッセル車】　⇨除雪車

ラッソ　［Orlando di Lasso］（1532ごろ～1594）　ドイツの作曲家。ラッススともいわれる。ネーデルラント出身で，生地モンスの少年聖歌隊にはいり，以後イタリア各地で音楽の修業を続けた。1556年ミュンヘンに行き，バイエルン公爵アルブレヒト5世に仕え，以後没するまでこの都市で作曲活動に従事した。彼の作品は，当時の世俗曲や宗教曲のあらゆるジャンルに及び，その数も2,000曲をこすといわれているが，最も重要な作品は，7巻からなる《ドイツ-リード》集である。　〔船山　隆〕

ラッダイトうんどう　【ラッダイト運動】　19世紀初頭のイギリス北部・中部における手機織布工たちの機械破壊運動。産業革命*による機械の導入と対フランス戦争による経済的不況で失業者が増大し，さらに穀物価格の上昇により，彼らの生活はいっそう窮迫化した。1811年，彼らは失業や生活の困窮が機械の使用にあると考え，キング-ラッドまたはネッド-ラッドというなぞの人物を指導者として機械の破壊を始めた。翌年この運動は産業地帯各地に広がったが，軍隊の出動により1813年にはいちおう鎮圧された。しかし，1818年に至るまで断続的に各地で勃発(ぼっぱつ)した。　〔板橋重夫〕

ラッツェル　［Friedrich Ratzel］（1844～1904）　ドイツの地理学者。ハイデルベルクとイエナの大学で地質学・生物学を修め，卒業後ケルン新聞の自然科学記者・旅行通信員として地中海の各地，アメリカ大陸を旅行した。以後ライプチヒ大学教授となり地理学の研究に努め，人類の歴史はその生活舞台としての自然環境と関係が深いこと，またよりよい生活空間を求めてたえず移動をくり返してきたという〈環境論〉とよばれる学説を立てた。著書に《人類地理学》《政治地理学》《民族誌》などがある。　〔大崎　晃〕

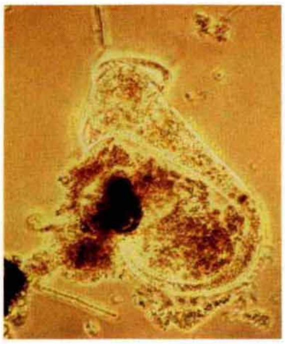
らっぱ　【喇叭】　金管楽器の総称。〈口を開く〉の意をもつ梵語(ぼんご) rappa(ラッパ)に由来するといわれるが，中国ではこの漢字により，管楽器(木管)を示した。日本では江戸末期の西洋式軍楽の輸入時代から，金管楽器をよぶのに用いられた。第2次世界大戦前の軍楽では，軍隊の信号に使うバルブのないトランペットが特にらっぱの名で親しまれて，この種の大小のらっぱや太鼓類による合奏も行なわれた。

らっぱうに　【喇叭海胆】　棘皮(きょくひ)動物・ウニ類・ラッパウニ科。直径10cmをこえる大形のウニで，殻(から)は円形であるが多少五角形になる。背側の歩帯および間歩

帯の中央は裸出している。口側には歩帯・間歩帯に大形の疣(いぼ)が密生している。棘はきわめて短く，先端は丸くなって白色を呈するが，淡赤色の横帯がある。叉棘(しゃきょく)は特異な形をして花弁状になり，先端は三角形で紫色となる。本州南部以南の太平洋岸に分布し，浅い岩礁地に多い。

らっぱかん　【喇叭管】 ⇨卵管

らっぱむし　【喇叭虫】 原生動物・繊毛虫類・ラッパムシ科。有機物で汚濁した小さな池沼や排水溝(はいすいこう)などに普通に見られ，海産の種も知られている。体は1㎜前後の倒円錐(とうえんすい)形でラッパ状。口は前端にあり，その周囲を数列の繊毛帯(口帯)がらせん形に取り巻き，口に巻き込まれている。口帯を動かして水流を起こし，有機物などのえさを口にとり込む。また泳ぐときにも用いられる。大核は多数の球体でじゅず状に連なっている。



ラッパムシ

ラッピング　[lapping] 金属などの精密仕上げ法の一。加工面とラップ工具との間にラップ剤を入れ，相対運動を行なわせて加工する。ラップ剤は炭化ケイ素・酸化鉄・酸化クロム・酸化鉛などの微粉に潤滑油(ラップ液)を加えたもの。ラップ工具には鋳鉄・黄銅・鉛などを用いる。ラップ剤の粒子は加工面上を転動する一方，柔らかいラップ面にめりこんだ状態で，かたい加工面を削り，仕上げる。加工の初めはラップ液の多い湿式ラッピングで加工し，仕上げ時には液の少ない乾式ラッピングにすると，光沢のよい仕上げになる。精密部品の円筒面・平面・歯車・鋼球などの金属のほかに光学ガラスの仕上げにも用いられる。〔葉山房夫〕

ラップ　[RAPP] ロシア-プロレタリア作家連盟の略称。1925年に結成され，社会主義建設の時代の要請にこたえるべき文学の創造と，マルクス主義的唯物論による創作方法の採用を主張した。機関誌《ラップ》《文学哨所(しょうしょ)》など。しかし〈味方か敵か?〉を官僚的に唱えて，いわゆる同伴者作家*まで敵に回し，その極度に党派的な組織論がソビエト文学の発展を阻止するものとして，1932年に解体させられ，やがて1934年には，新たにソビエト作家同盟*が組織されるに至る。中心となった文学者に，アウエルバッハ・ファデーエフ*らがいる。➔ロシア-ソビエト文学　〔川端香男里〕

ラップじん　【ラップ人】 ノルウェー(20,000人)・スウェーデン(8,500人)・フィンランド(2,300人)，コラ半島(1,800人)などの北部に住むフィン-ウゴール族*トナカイ遊牧民。自称はサーメ。ロシア人・フィン人などの圧迫により北上した。人種的にはモンゴロイド*の特徴が強いが，目に蒙古皺襞(もうこすうへき)がない。大部分がルーテル派キリスト教徒。

ラップばん　【ラップ盤】 工作物とラップ板との間にラップ剤を入れて，互いに押しつけながら相対運動をさせて，きわめてなめらかでかつ精密な仕上げをするための工作機械。ラップ板は鋳鉄製のものが多い。ラップ剤としては，粒度の細かい砥粒(とりゅう)，酸化クロム・酸化鉄などが用いられ，湿式法の場合はこれに石油・軸油などの工作液を加えて用いる。加工速度は速いが，仕上げ面は梨地面(なしじめん)となる。乾式法は工作液を用いず，仕上げ面は美しい光沢面となる。〔稲田重男〕

ラッフルズ　[Thomas Stamford Raffles] (1781〜1826) イギリスの植民地行政官。1809年東インド会社にマラッカの重要性を強調し，その放棄を撤回させた。1811年ミント卿(きょう)の率いる遠征隊に参加し，バタビアを占領，1819年にはシンガポールを建設し，東南アジアにおけるイギリスの根拠地とした。著書に《ジャワ史》がある。

ラディゲ　[Raymond Radiguet] (1903〜1923) フランスの小説家・詩人。詩集《燃える頬(ほお)》，小説《肉体の悪魔*》によって，ランボー*に比すべき早熟の天才として文壇に登場。コクトー*・アラゴン*らと交わったが夭折(ようせつ)した。遺作《ドルジェル伯の舞踏会》は，人間関係と心理分析の描写のみごとさによって，フランス心理小説の一規範とされる。

ラディッシュ　⇨ハツカダイコン

ラティフンディウム　[latifundium] ラトゥス(広い)と，フンドゥス(土地)の合成でつくられたラテン語で，大土地所有制を意味する。ヨーロッパの史家はローマの奴隷制大農場をさすのに用い，ソ連の史家はむしろ小作制の大土地所有をさすのに用いる。奴隷制大農場のことをビラとよぶ。しかし本来この語にはこのような経営形態の意味はなく，奴隷制の直営農場も小作制の託営農地も含まれる。ローマにおける大土地所有の発展は，公有地について資力あるものの占有開発を許したことが出発点となり，戦争と征服の進展に伴って拡大した公有地を，同じく戦争と征服で富裕化した者たちが占有し，安価な奴隷を投入して開発した。彼らは農民の私有地をも買い集めたため，農民の没落が起こり，グラックス兄弟*の改革運動から始まる共和政末期の内乱の経済的原因となった。こうした弊害から大土地所有の経営形態はしだいに小作制に力点が置かれるようになり，今日に残っている紀元前2世紀のカトー，紀元前1世紀のウァロ，紀元1世紀のコルメラの三つの農業書を比べてみると，あとのものほど小作制の占める割合が大きいことがわかる。しかしこの時期のイタリアの奴隷制農場にあっては，ぶどう酒やオリーブ油の市場向け生産が恒常化しており，この点が世界史的に珍しい例として注目される。帝政期が進むと皇帝領が最も重要な大土地所有となり，その経営も一部に奴隷制を残しながら，総請作制と分割小作との組み合わせがみられるようになる。後期ローマ帝国では，皇帝領のほか皇帝下賜地を中心に形成された元老院貴族などの大土地所有と並んで教会領がしだいに重要となる。〔弓削　達〕

ラテックス　[latex] ゴム植物の樹皮に傷をつけて流出させた白い乳状の液。その組成はゴム植物の種類，切りつけ方法，樹齢などによって異なるが一例を表に示す。漿液(しょうえき)(スキム)とよばれる水溶液中に，大きさ0.5〜6.0μのナシ形をしたゴム粒子が浮遊した，一種の疎水性コロイド。このゴム粒子は1ml中に約2,000万個存在するが，そのおのおのは，さらに小さいゴム粒子の集合体である。ラテックス中に少量含まれるタンパク質は，ゴム粒子の分散の安定剤として，また脂肪酸類は酸化防止剤として重要な役割を果たしている。ラテックスに酢酸またはギ酸を加えて酸性にするとゴム成分は凝固して生ゴムを生成する。ゴム工業では，このように生ゴムとしてから生ゴムのシートとして用いる場合が多いが，ラテックスのまま使用することもある。この場合はゴム分60%くらいまで濃縮したものを原料に用い，配合・加硫操作を施してゴム製品とするが，生ゴムを原料とした場合に比べて，厚みのある製品がつくれないので，もっぱら，手術用ゴム手袋・風船・ゴム糸などに用いられる。また，フォームラバーのような多孔性ゴム，ゴム引き布・擬革・接着剤などにも用いられる。なお，合成ゴムでも，同様な性状をもつラテックスがつくられることもあり，塗料・接着剤などに利用される。〔伊藤　卓〕

ラテックスの組成の一例

ゴム	35〜40%
タンパク質	2
脂肪酸・せっけんなど	1
糖類	1
無機物	0.4
酵素その他	微量
水	55〜60

ラーテナウ　[Walther Rathenau] (1867〜1922) ドイツの実業家・政治家。ドイツ電気工業の祖といわれるE.ラーテナウ(1838〜1915)を父として生まれ，その創立した電機会社(AEG(アー-エー-ゲー))を受け継ぎ社長となった。第1次世界大戦には不足が

ちな戦時原料供給の円滑化に努力し，戦後は理想主義をかかげ，ドイツ民主党の創立に尽くし，社会主義と資本主義の協調を説いた，さらに再建相・外相を歴任，ドイツ経済再建に手腕を発揮，ドイツ・ソ連間の友好を図るなど，敗戦後の難局打開につとめたが，極右によって1922年ベルリンで暗殺された。著作も多い。〔片岡一郎〕

ラ-テーヌぶんか【ラ-テーヌ文化】ヨーロッパ鉄器時代後半期の文化。スイスのヌーシャテル湖東端の遺跡に由来。ハルシュタット期に次ぐものと考えられ，紀元前5世紀から紀元前後ごろまでのものと思われる。鉄剣・馬具・装身具・銀貨・青銅貨・ガラスの腕飾，土器などが出土。文化のにない手はケルト人だが，ギリシアやローマの影響を強くうけている。戦車をもった騎馬民族の文化遺跡である。

ラテライト［laterite］鉄・アルミニウムの水酸化物を主成分とする土壌(どじょう)。紅土ともいう。鉄に富んだ岩石が，熱帯の高温・多湿の酸化環境で風化すると，構成鉱物は分解し塩基やケイ酸は流出する。あとに，鉄・アルミニウムの水酸化鉱物であるハリテッ鉱・ギブス石・ダイアスポアなどが残り，赤い多孔質の土壌ができる。インドでれんが状に切って建築材料に用いたので，ラテン語のれんがlaterから命名。

ラテラノじょうやく【ラテラノ条約】1929年ムッソリーニ-ファシスタ政権とローマ教皇の間に結ばれた条約で，コンコルダート*の一つ。1870年イタリア王国の教皇領占領以来，両者は絶縁状態にあったが，ムッソリーニ政権はイタリア国民の大部分を占めるカトリック教徒の人気を獲得するため和解を企て，ラテラノ条約を結んで，教皇庁を中心としたバチカン市国の独立とイタリア王国の存在を相互に承認した。この条約はファシズム崩壊後も存続している。〔大野真一郎〕

らでん【螺鈿】漆工芸における加飾の一技法をいう。夜久貝や鮑貝(あわびがい)の殻(から)の青や赤に光る部分を薄く研(と)ぎおろし，文様に切り透(すか)して，漆で張りつけて装飾とする方法である。奈良時代に中国から技法が伝えられ，箱や鏡背の華麗な装飾に用いられた。その後，太刀の鞘(さや)・鞍(くら)・箱類，その他の武具・調度などの装飾に盛んに用いられ，平安時代には衣服の装飾にも用いられた。また，螺鈿の太刀については中世の文献や有職(ゆうそく)故実の書物にしばしば散見される。しかも，それは時代によって異なり，着装者の身分や階級たとえば公卿(くげ)と衛府(えふ)の将とでは異なり，複雑な規定があった。〔北村哲郎〕

ラテンアメリカ［Latin America］中央アメリカと南アメリカを合わせた地域で，日本では中南米ともいう。アングロアメリカ*に対することばとして用いられる。ラテン系のスペイン人およびポルトガル人



螺　鈿《丸紋螺鈿箪笥》(蓋表部分) 南蛮文化館蔵

がおもに開拓した地域であるが，ポルトガル人が建てた国はブラジルだけなので，ブラジルを除いてスパニッシュ-アメリカともいう。スペイン系の白人のほか，アメリカインディアン・黒人，日本人などのアジア人が住み，混血も多い。面積2,057万km²，人口3億(1972)。〔浅井得一〕

ラテン アメリカけいざいいいんかい【ラテン アメリカ経済委員会】Economic Commission for Latin America 略称ECLA。国連の経済社会理事会*の下部機構である四つの地域経済委員会の一。1948年設立。加盟国はラテン-アメリカ24か国とアメリカ・イギリス・フランス・オランダ・カナダの合計29か国。ラテンアメリカ諸国の経済発展と加盟国間の経済協力の促進を目的とし，研究調査・統計作成・情報収集などを行なっている。本部はチリのサンチアゴ。〔深海博明〕

ラテン アメリカじゆうぼうえきれんごう【ラテン アメリカ自由貿易連合】Latin America Free Trade Association 略称LAFTA。モンテビデオ条約に基づき，1961年6月にアルゼンチン・ブラジル・チリ・パラグアイ・ウルグアイ・ペルー・メキシコの7か国で発足した自由貿易地域。中米共同市場*とともに，発展途上国地域統合の代表例である。その後ベネズエラ・コロンビア・エクアドル・ボリビアが加盟し，現在は11か国よりなる。加盟国の経済開発を促進し，国民生活水準の向上を図るため，域内の関税・課徴金・数量制限などの貿易障壁を撤廃し，1973年までに自由貿易地域を完成することを目標としていたが，実際の進展ははかばかしくなく，過渡期間は1980年まで延長された。ほかに，域内工業部門の分業体制確立のための手段としての相互補完協定がある。しかし，域内における先進大国(アルゼンチン・ブラジル・メキシコ)と後進小国との対立が生じており，1969年5月には，コロンビア・チリ・ペルー・ボリビア・エクアドルの5か国がアンデス地域統合協定(アルタヘナ協定)を締結するなど，今後にまだ多くの問題を残している。〔深海博明〕

ラテンご【ラテン語】ローマ帝国の言語。系統的にはインド-ヨーロッパ語族イタリック語派の一言語。最初は，ローマ付近だけに話されていたが，ローマの領土がイタリア全体，さらにはライン川・ドナウ川までの西ヨーロッパに広まると，ラテン語特にその日常の言語(俗ラテン語)が土着の言語を押しのけて，それらの地方の言語になってしまった。ローマの勢力は，一時はドナウ川を越えて，現在のルーマニアにも達したが，ギリシアは高い文化をもっていたため，ローマに征服されたもののギリシア語は滅ぼされなかった。現在のハンガリー・ユーゴスラビア・アフリカ北岸にもかつてはラテン語が行なわれていた。ローマ帝国が解体して，そこにいくつかの近代国家が生まれ，近代のロマンス諸語が発達した。中世紀以来，カトリック教会の公用語はラテン語(文語)であり，動物・植物の学名もラテン語。文字はローマ字*である。品詞は8。名詞は性・数・格の変化を，動詞は人称・数・法・時・相の変化をする。〔川崎直一〕

ラテンじん【ラテン人】インド-ヨーロッパ系のイタリア人の一部族。BC1000年ごろイタリア半島に南下し，やがてラチウムに居を定めた。彼らは多くの共同体に分かれていたが，同族意識を失わなかった。紀元前7～紀元前6世紀ごろ彼らの一部によりローマが建国され，やがてエトルリア人の支配下にはいって都市国家の形態をつくりあげた。紀元前6世紀初頭独立を回復し，紀元前4世紀末までには他のラテン人を征服，ラテン人はローマ人により統合されるに至った。〔大野真一郎〕

ラテンていこく【ラテン帝国】第4次十字軍によりコンスタンチノープルを都に成立した国(1204～1261)。第4次十字軍はベネチアの統領ダンドロ(1108ごろ～1205)によりビザンチン帝国に向けられ，コンスタンチノープルを占領してラテン帝国を建てた。その領土はマルモラ海，エーゲ海地方からギリシア本土を含み，主要な地域をベネチアが占拠。これによりベネチアは強大な海上勢力となった。最初の皇帝は，1205年フランドル伯ボードワンが推されてバルドゥイヌス1世として即位。彼はギリシア人と戦って捕われ殺された。この国は封建制に基づいてつくられ，バルカン半島には十字軍の指揮者たちにより皇帝の封土としていくつかの公国が置かれ，ギリシア教会から没収した財産でラテン教会が建てられた。しかしこの国家は短命で，1261年ビザンチン皇帝ミハイル8世(在位1259～1282年)によって滅ぼされた。〔兼岩正夫〕

ラテンぶんがく【ラテン文学】ラテン語による古代ローマの文学。およそ紀元前3世紀から紀元4世紀にかけて隆盛であった。ラテン語はローマ発祥の地ラチウムの

住民の言語で，彼らは長い間農耕・領土守備に専念し，自己発生的な文学を所有するに至らなかった。他のイタリア住民との交流も言語の障壁によりラテン文学の土壌(どじょう)を培うこともなく，ギリシア人との接触も単に通商に終始した。この時代の所産は儀式・祭礼用の歌，式文，無味乾燥な法律文，ドゥエノス碑文のように，ラテン語で書かれてはいるがきわめて難解なため，数多くの解釈を招くといったたぐいのものしかなく，文学とは称しがたい。ギリシアとの政治的接触を機に，のちにホラチウスが言ったとおり，被征服者(ギリシア)が勝者(ローマ)を征服するという形で，紀元前３世紀半ばラテン文学が始まる。リウィウス-アンドロニクス*は創始者として象徴的地位にある。同時期のエンニウス*やナエウィウスがギリシアの叙事詩や悲劇を翻訳・模倣した。以後この文学の発展はギリシアの諸種のジャンルを組織的にラテン語で取り入れる形で進められた。叙事詩はエンニウスらに始まり，ルカヌス*・S.イタリクスらに至るが，単なる伝説記述から国家的様相をおびたものになり，やがてこの２面はウェルギリウス*によって統一された。悲劇は劇場で競演される一方，セネカ*の作品のように読む劇として出版された。プラウトゥス*やテレンチウス*が喜劇を代表するが，のちには通俗的な人気を集めたレビュー形式の茶番やパントマイムが台頭した。風刺詩はルキリウスらにあってはまだ雑文の趣が大きいが，ホラチウス*を得て批評の域に達した。下ってペルシウス・ユウェナリス*・マルチアリス*らは罵倒(ばとう)しつつさとすという傾向の作品を残した。ホラチウスが野心的に取り組んだ叙情詩は小品に限られたが，しばしばプロペルチウスやティブルスらの感傷的なエレゲイア*に通じるものがある。またアレキサンドレイア派の作風はカトゥルス*・ウェルギリウスの牧歌，オウィディウス*の幻想詩，スタチウスらの発想の源泉となった。韻文の世界でひとり超然としているのは哲学詩人ルクレチウス*である。

散文では歴史と雄弁術が主流を占めた。歴史家は特にギリシアのポリュビオス*とツキジデス*に啓発された。カエサル*の戦記，サルスチウス*の単一事件史，ネポス・スエトニウス*らのこぼれ話的歴史，リウィウス*の大絵巻，タキトゥス*の倫理的・政治的歴史などが代表的である。一方雄弁術はキケロの政治的運用により頂点に達する。理論家としてクインチリアヌス*が活躍したが，帝政の言論圧迫によって一時衰えた。書簡も重要で，キケロは800通近い手紙を残し，史料としても貴重なものである。プリニウス*(小)は最初から読者に読まれることを意識して美文を連ね，セネカは教育的に利用した。ギリシアの哲学・思想はキケロ・セネカの手でローマ世界に継承された。小説はペトロニウス*・アプレイウス*に代表される。最後にローマ人の考証志向・百科全書的精神の産物がある。これは文学の境界にあるが，カトー*の《農業論》，ワロー*の《言語論》などからセネカ，さらにプリニウス*(大)の《博物誌*》などに至る流れである。法律の分野で蓄積された文献については付言するまでもない。キリスト教の伝播(でんぱ)によりいわゆる異教文学としてのラテン文学は４世紀に終止符を打たれたが，古典文学はテルトゥリアヌス*・ラクタンチウス・プルデンチウスらを経て新しい信仰の世界でも脈脈と生き続けた。〔松田　治〕



Q.ラトゥール《ダランベールの肖像》1753 ルーブル美術館蔵

ラード［lard］豚脂ともいう。元来はブタの腎臓(じんぞう)からとった脂肪であるが，今日では腎臓に限らずブタから得られる脂肪をさす。すぐれた食用油脂で，部位によって得られる脂肪の性質は異なり，腎臓・背部から得られる中性ラードが最高級品である。また製造方法によって釜製(かませい)ラードやスチームラード(高圧下で抽出したもの)の別がある。ヘット*(牛脂)よりも不飽和酸の量が多いため軟質で，白色で風味のよいものが良質。食用油として多用されるほか，マーガリンなどの原料ともなる。〔佐藤友太郎〕

ラトゥール［Georges de La Tour］(1593～1652)　フランスの画家。ロレーヌに生まれ，生涯(しょうがい)をリュネビル中心の地方作家として過ごした。ロレーヌ公の庇護(ひご)を受け，のちにルイ13世の厚遇を受けた。死後忘却のうちにうずもれ，20世紀にはいってから独特の光線法や単純化された立体性の描写などによって，多くの画家に影響を与えた。代表作には，《マリア・マグダレーナ》《キリスト生誕》などがある。

ラトゥール［Maurice Quentin de La Tour］(1704～1788)　パステル画にすぐれたフランスの画家。ルイ15世の宮廷画家であったが，単に宮廷人のみならず，あらゆる階層の人々の内面性・社会性を巧みに描き出した。ロココふうの優雅さと的確な人物描写によってユニークな地位を占めたが，晩年，神秘主義に傾き狂死。ディドロ*・J.J.ルソー*らの肖像画が有名である。

ラドガ(湖)［Ladoga］ソ連西部，フィンランドとの国境近くにある湖。面積18,390 km²，最大深度225 m。かつての大氷河によってできた湖で，フィンランド湾から続く低地帯に位置し，湖面標高も５ｍ。東方のオネガ湖，フィンランド領のサイマー湖の水が流入し，南岸からネフ川が流出しフィンランド湾に注いでいる。魚類も豊富である。レニングラード，白海，ボルガ川への重要な交通路であるが，１年の３分の１は凍結する。古くはこの湖がソ連とフィンランドとの国境をなしていたが，1940年カレリア地峡部がソ連に割譲されて，現在のようになった。北岸には中世のバラーム修道院がある。〔長津一郎〕

ラドクリフ-ブラウン［Alfred Reginald Radcliffe-Brown］(1881～1955)　イギリスの社会人類学者。ケンブリッジ大学卒業後，アンダマン諸島の実態調査をした。その後，オーストラリア・アフリカ・アメリカの原住民の調査をした。機能主義を提唱し，デュルケーム学派の影響を受け，文化・習俗とその社会構造との関連を強調した。主著《アンダマン島人》(1922)，《オーストラリア諸民族の社会組織》(オセアニア誌１，1930)，《原始社会における構造と機能》(1952)など。〔牛島　巌〕

ラトビア(共和国)［Latviiskaya S.S.R.］ソ連を構成する共和国の一。ソ連北西部にあり，西はバルト海に面し，北はエストニア，南はリトアニアの両共和国に接する。面積63,700km²。人口229万8,000(1968)。主都リガ。

〔自然・住民〕地形は全般に低平で，東部に丘陵地があるが最高所でも海抜310ｍにすぎない。中央部を西ドビナ川やリエルネ川が流れ，バルト海のリガ湾に注いでいる。また国土全域に氷堆石丘(ひょうたいせききゅう)の列や氷河湖が多い。気候は比較的湿潤で総面積の40％が混合樹林，20％が草地である。住民はラトビア人(62％)・ロシア人(26.6％)のほか，白ロシア人・ポーランド人・ユダヤ人などが住む。

〔産業・経済〕酪農・肉牛飼育が盛んであるが，主産業は工業で，特に車両・金属加工・電機・紙・製材・肥料などの工場がリガとその周辺に集中している。また褐炭(かったん)による発電も知られている。

〔政治・歴史〕10世紀ごろラトビア人が定住したが，以後ロシア領となり，次いでドイツ貴族による領有が続いた。1919年にリガに社会主義政権が成立し，1922年には共和国になったが，ドイツ・ポーランド軍に倒された。1940年ソビエト連邦に加入したが，第２次世界大戦で再びドイツに占領さ

れ，1944年に解放されて，現在の共和国となった。〔斎藤晨二〕

ラドルクス ⇨光束発散度

ラドン ［radon］ 周期律表第0族，希ガス類元素に属する放射性元素。記号Rn，原子番号86。86番元素の天然産同位元素には,ウラン系に属するラドン(ラジウムエマネーション),トリウム系に属するトロン(トリウムエマネーション)およびアクチニウム系に属するアクチノン(アクチニウムエマネーション)の3種があるが,ラドンが最も長寿命である。総称してエマネーションとよぶこともある。ラドンはラジウムの壊変生成物で半減期3.825日，α放射性。1gのラジウムと平衡にあるラドンの量は，約6×10^{-9}g，気体の体積で約0.6mm^3にあたる。放射性鉱物中に含まれ，温泉中や地下水にも溶解している。常温では無色の気体，水に可溶で比較的液化しやすく，融点−71℃，沸点−62℃，比重は気体で9.96g/l。化学的にはまったく不活性である。〔古屋　弘〕

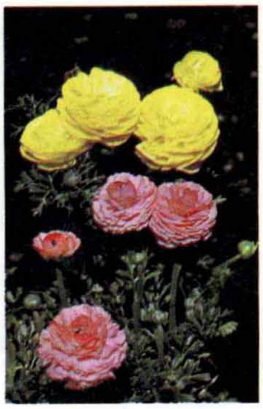
ラナンキュラス ［*Ranunculus*］ 双子葉植物・キンポウゲ科の一属。キンポウゲ属ともいう。250～300種が含まれ，北半球に広く分布する一年草または多年草。葉は全縁あるいは種々に切れ込む。花は白・黄・赤色などで，単生または穂状となる。多くは山草として栽培されるが，球根として花壇用あるいは切花用として栽培される種類(ラナンキュラス-アジアティクス*R. asiaticus*)もある。この種類は，ヨーロッパ東南部から西南アジアに原産し，園芸上の系統や品種ができている。繁殖は分球または実生(秋まき)による。日当たり・排水のよい所を好む。日本には本属に属するものとしてキツネノボタン(*R. quelpartensis*)・ウマノアシガタ(*R. japonicus*)・タガラシ(*R. scleratus*)などがある。

ラニバード ［Lany Bard］ 太平洋上空に固定する静止衛星として，1966年10月に打ち上げられたインテルサット2号の通称。大西洋上空のインテルサット1号(アーリーバード)と同様,本格的な商業通信衛星である。円軌道に乗せることに失敗，楕円(だえん)軌道を回ることになったが，これによって日本・フィリピンなど東南アジア諸国間のテレビ中継が可能となった。

らば **［騾馬］** 哺乳(ほにゅう)類・奇蹄(きてい)目・ウマ科の家畜で，雄ロバと雌ウマの交雑によりつくり出された雑種。耐久力があり，おとなしいので役用に適する。ふつう生殖能力はない。別名ミュール。なお，雌ロバと雄ウマの雑種をケッテイ(駃騠)またはヒニーというが，体は弱く，あまりつくられない。

ラバウル ⇨ニューブリテン島

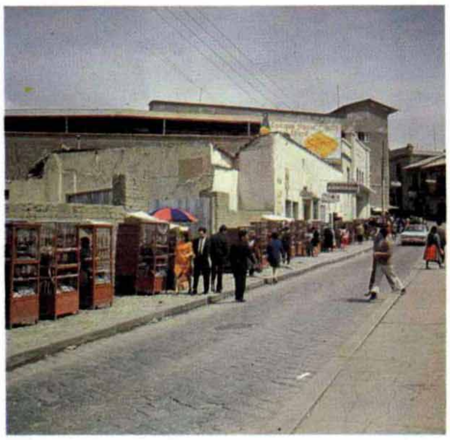
ラパス ［La Paz］ 南アメリカ，ボリビアの事実上の首都。人口52万5,000(1972)。標高約4,000mの高原の盆地に位置し,熱帯にあるが，一年じゅう冷涼である。1548年



ラナンキュラス



ラ　バ



ラ パ ス　ラパス市内の市場の前に並ぶ金・銀細工の露店。ガラスの陳列棚にはブローチやネックレスが並べられている。

にスペインの鉱山都市(金鉱)として建設されたが，今日ではアンデス山地の交通の中心地として発展しており，太平洋岸のチリやペルーの諸都市と鉄道で連絡している。議事堂・大統領官邸，1830年創立の大学がある。

ラバト ［Rabat］ アフリカ，モロッコ王国の首都。人口64万(1973)。同国北西部，大西洋岸に位置する。国王の宮殿・政庁・大学などがある。起源の古い美しい都で，史跡も多い。また貿易港でもあり，オリーブ・ブドウ・羊毛・皮革を積み出し，市内では毛織物類の手工業が盛んである。東部と南部に鉄道が延び，交通の中心でもある。1912年フランス領モロッコの主都となった。

ラバーブ ［rabāb］ アラビア起源の擦弦楽器。ルバーブともいう。その分布は広く，西はヨーロッパ・北アフリカ，東は南アジア・東南アジアにまで至っている。胴の形は地域によって舟型・梨型(なしがた)・角型などいろいろであるが，弦はたいてい3本である。それぞれの場所で合奏・独奏に使い分けられ,持続音と微妙な音程(微小音など)の可能な旋律楽器として重要視されている。なお，インドネシア・アラビアのものは2弦であり，ガムラン音楽*・アラビア音楽*の主導的な楽器である。〔山口　修〕

ラバル ［Pierre Laval］ (1883～1945) フランスの政治家・首相。独学で弁護士となり，パリで開業。1914年社会党から下院議員となり，第1次世界大戦後の1924年共和党に転じ，次いで1925年から公共事業相・法相・労働相を歴任，1931年・1935年首相となり，世界恐慌に対処したが成功しなかった。この間に右翼の領袖となり,第2次世界大戦中はビシー政府首相(1942～1944)となり，対独協力を推進，解放後はそのため戦犯として銃殺された。〔喜多迅鷹〕

ラバン ［Rudolf von Laban］ (1879～1958) ハンガリー(現在のチェコスロバキア)生まれの舞踊家・舞踊理論家。おもにドイツで活躍した。1910年，ミュンヘンに舞踊学校を，1927年にはベルリンにラバン舞踊研究所を開設し，ドイツ-モダン-ダンスの研究と普及に貢献した。弟子(でし)にヨース・ビグマン*・クロイツベルクらがいる。イユサイダーという空間運動を記す球形の器械の考案やラバノテーションとよばれる舞踊譜を考え出すなど舞踊の動きを後世に記録する貴重な業績を残した。著書に《舞踊方法論》《舞踊家の世界》など多数がある。〔高橋孝一〕

ラピスラズリ ［lapis-lazuli］ 深青色のテンラン石の微晶の間に，黄白色の金属光沢のオウテッ鉱が散りばめられている飾り石。その色の対照が美しい。数種の鉱物の混合物で，硬度が約5.5と低いのが欠点である。主産地はアフガニスタン北東部で，その他，バイカル湖西岸，チリのアンデス山中などの変成を受けた石灰岩中に産出する。ラピスラズリは，合成スピネルを使って模造されている。

ラビュリントス ［Labyrinthos］ ギリシア神話で怪物ミノタウロス*が閉じ込められていた迷宮。クレタ王ミノスのため名匠ダイダロス*が建てたもの。いったんはいると出口がわからなくなり，けっしてもどれないといわれた。ミノタウロスを退治しに来たテセウス*は，王女アリアドネ*に糸玉を使う方法を教えられ，怪物を退治したのち，糸を手繰りながら無事に外へ出ることができた。

{
  "before_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkxMDAuemlw",
    "filename_decoded": "40439100.zip",
    "filesize": 260612979,
    "md5": "e4fa185d313e22894b3bea3c3564b90e",
    "header_md5": "5c6d1e23d649917f41dfe4479950f901",
    "sha1": "2a33b056a038718ba1100afe3293cae471c7c658",
    "sha256": "5e5880871ee712a2a3025a9541940434edb815a1dd47a1775287bc866ea102b3",
    "crc32": 1035866029,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 266449640,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 539,
    "pdg_main_pages_max": 539,
    "total_pages": 543,
    "total_pixels": 2852539122
  },
  "after_pdg2pic_conversion": {
    "filename": "NDA0MzkxMDAuemlw",
    "filename_decoded": "40439100.zip",
    "filesize": 260596358,
    "md5": "1187f999a35d2dc313783435e6d5e1a7",
    "header_md5": "19337398243d830c921aabf8d2c4f88c",
    "sha1": "618f63778469530adfacc3f8a2999030cfae4fa3",
    "sha256": "642e23126dc1ea5e17092ce3ba20b456c892263b6d34c6d3ff2106f0e548f278",
    "crc32": 975939064,
    "zip_password": "",
    "uncompressed_size": 266439180,
    "pdg_dir_name": "",
    "pdg_main_pages_found": 539,
    "pdg_main_pages_max": 539,
    "total_pages": 543,
    "total_pixels": 3575548332
  },
  "pdf_generation_missing_pages": false
}